ENCYCLOPAEDIA JUPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

4

キンターコクラ



世界文化社



世界文化大百科事典
《ジュピター》

4

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→トウキヨ
ヨーロッパ──→ヨロツハ

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　［NHK］
インキ　［ink］

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みで本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　［whisky］

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　［*Aloe*］

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

{ **しんくう**　【真空】
{ **しんぐう**　【新宮(市)】
{ **じんぐう**　【神宮】

{ **はい**　【肺】
{ **ばい**　【蛽】
{ **パイ**　［pie］

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

{ **じゅう**　【銃】
{ **じゆう**　【自由】

3　長音の〈－〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん　【阿片】
アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

あか　【赤】　⇨色
あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

じゅんし　【殉死】
じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100の位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1974年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名表記は，本文の地名表記の基準に従った。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】　⇨方言

しょせき　【書籍】　⇨図書

サイン　⇨正弦

ジンフイズ　⇨カクテル

→ ➔　解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(→アブストラクト-アート)は，

従来の漢方(→東洋医学)を背景としたもの

あいいろ　【藍色】　……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】　中性の火山岩*。

いほうじん　【異邦人】　カミュ*の小説。

【 】〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合

【名称・歴史】

【生活】

【衣食】

【住居】

【風俗習慣】

【音楽】

貨幣の場合

【種類】

【制度】

【歴史】〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉　引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第９条に〈日本国民は，正義と ……

戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》　書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》

《カルメン》

( )　語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)

慶長年間(1596～1614)

1872年(明治５)

( )　読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)

伊豆(いず)半島

香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	° ′ ″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第4巻

きんた

きんだいオリンピック　【近代オリンピック】　⇨オリンピック

きんだいおんがく　【近代音楽】　非常にあいまいな概念で，最近では現代音楽と区別なく使う傾向が現われているが，日本の慣習では，後期ロマン派から20世紀の現代的技法が生まれるまでの間の数十年をさすのに用いられている。その中には，シベリウスのような国民楽派*の残り，フランスのドビュッシーやラベルの印象主義音楽*，あるいはシェーンベルクに代表される表現主義音楽*などが含まれる。これらに共通する特徴は，その後の音楽に比べると伝統的な要素が残っていて，調性は拡大されてはいるが，完全な崩壊や調性に代わる新体系が打ち出されるほどではない点にある。➔現代音楽　〔徳丸吉彦〕

きんだいけいざいがく　【近代経済学】　経済学の領域で広く通用している慣例では，スミス*・マルサス*およびリカード*からJ. S. ミル*に至る古典学派*の体系と，マルクス経済学*を含めた〈古典経済学〉に対置して，それ以降の経済学全般をさして近代経済学とよぶ。近代経済学ははじめ限界効用*という新しい一つの原理に基づいて経済理論を打ち立てた，いわゆる限界革命に始まる経済学体系である。1870年代の初めに，ジェボンズ*・メンガー*やワルラス*らが，それぞれ独立に限界効用原理を発見し，同じ分析手法が1890年代に限界生産力説*を生み出した。これらの理論体系は，経済変数の限界値の分析から構成されているために，限界原理あるいは限界革命とよばれる。古典学派やマルクス経済学は労働価値の原理に立脚していたが，限界革命に始まった近代経済学はまったく新しい人間の財に対する効用＝欲望にその出発点を求めた。近代経済学は基本的には，一方ではこの限界原理に基づく経済主体の行動パターンの分析と，他方では市場における財貨の需要と供給のメカニズムの上に経済理論を築きあげるものであるということができる。近代経済学の発展は，多くの分野できわめて多くの問題が，多くの方法によって取り扱われ，多くの学説を生み出した。オーストリア学派*・ローザンヌ学派*・ケンブリッジ学派（→新古典学派）・ケインズ学派*・スウェーデン学派*などの諸学説はその発展過程で生み出されたものである。

マルクス経済学以外の現代の経済学はこれらの近代経済学のいずれかの潮流に属するものである。近代経済学は研究対象の観点から微視的経済学（→微視的分析）と巨視的経済学（→巨視的分析），あるいは経済静学と経済動学に二分することができる。微視的経済学は，国民経済を構成する経済主体を機能によって家計・企業に分類し，その相互関係を研究する。これに対し，巨視的経済学は，国民所得・雇用・投資・貯蓄などの国民経済全体の総計としての経済諸量の分析を行なう。　〔藤枝省人〕

きんだいげき　【近代劇】　一般に西洋における近代劇のはじまりは，19世紀後半イプセン*・ストリンドベリ*・チェーホフ*らによって確立された写実的な市民劇とされる。源流をなすのはルネサンス時代の戯曲であるが，緻密(ちみつ)な劇構成と客観的描写を通じて作家の思想を表現しようとしたのは，19世紀後半になってからであるといえる。パリの自由劇場*をはじめベルリンの自由舞台，ロンドンの独立劇場，ロシアのモスクワ芸術座*などが次々に設立され，〈近代劇運動〉の名でよばれる演劇運動の口火を切った。アイルランドに起こった国民演劇運動や，日本の自由劇場などもその影響によるといえる。近代劇の主要テーマである家庭や社会の問題を追究したイプセンの《人形の家*》《幽霊》やストリンドベリの《令嬢ジュリー》は，近代劇を代表する作品として注目された。写実主義演劇は，しかしながら，すぐさま解体に向かった。ストリンドベリ自身，《夢の戯曲》に代表される反写実的戯曲を書きはじめ，その傾向をくんだ表現主義演劇がドイツを中心に起こってきた。また第1次世界大戦後，プロレタリア演劇*や詩的な演劇など，内容・形式における多様性が目だちはじめ，それは第2次世界大戦後の現代劇において，ますます助長されてきている。　〔毛利三弥〕

きんだいけんちく　【近代建築】　〈現代建築〉とほぼ同義で，19世紀後半の一部と20世紀の大部分の建築をいう。その発展過程は，おおむね次の5期に分けることができる。

《第1期》19世紀後半から19世紀末までの間で，新材料・新構法の導入期である。産業技術の発達は工場・倉庫などの建設を促し，建築に対する社会的要求を変化させた。工業生産物としての鉄・ガラス・コンクリートなどの新材料の出現は，それまで2,000年間西洋建築を支配してきたアーチ構造*に基づく組積式造り*とはまったく異なる架構法を可能にした。しかし，新材料・新構法の導入を推進したのは技術者（エンジニア）で，建築家はそれらを構造の一部に使用する程度にすぎず，様式はほとんど以前のものを踏襲した。新たな様式表現が試みられたのは，工場・駅など産業・公共施設や万国博覧会の場合で，鉄の骨組みにガラスをはめこんだ水晶宮（1851年，ロンドン万国博覧会）や，エッフェル塔*（1889年，パリ万国博覧会）などがあった。これらの建築にあたって，技術者たちは新たな美を意識したわけではないが，その際とられた形態を追究する合理的態度は，新たな美意識を生み出す源泉となった。

《第2期》20世紀初頭から第1次世界大戦までの間で，近代建築運動が興り，建築家が新材料・新構法を使用して，新たな形態を追究した時期である。各国にアール-ヌーボー*（フランス・ベルギー）・ユーゲント-シュティール（ドイツ）・セセッション*（オーストリア）などの運動が興ったが，彼らに共通する態度は過去の権威や様式を否定し，みずからが新たにそれらを確立しようとするもので，この態度が近代建築家に共通した〈近代主義〉である。アール-ヌーボーやユーゲント-シュティールは鉄を使用して過去とはまったく異なった曲線様式をつくり出したが，自由さがある反面では論理性に乏しく，新たな時代様式とはならずに短期間で消滅した。一方セセッションは，過去の様式からの〈分離〉を意味し，オーストリアの建築家O. ワーグナーの〈合目的性・経済性を考慮したうえで形態を決定する〉という機能主義的建築理論を基盤とした。この系統にはベーレンス*・グロピウス*らがおり，20世紀初頭には理論・様式において近代建築のさきがけとなった。また，鉄筋コンクリートが実用化されて新たな空間表現が可能になったのもこのころである。

《第3期》第1次世界大戦後から1930年ごろまでの間で，国際建築*としての近代建築の理論・様式がいちおう完成された時期である。大戦後の混乱期には，感覚的造形空間を追究する表現派（ドイツ）・構成派（ソ連）など，ドイツを中心とし表現主義の多くの流派が現われたが，いずれも社会の要求に十分答えられず，単に造形空間表現の可能性を追究したにとどまった。これに対し，大戦以前からの機能主義建築の系統には，デ-スティール*（オランダ）・バウハウス*（ドイツ）・エスプリ-ヌーボー（フランス）などの流派があった。彼らの主張は社会の要求とも合致し，ここに近代建築の様式的特徴である直方体やガラス面などの構成によって，国際様式とよばれる幾何学的形態が成立した。また，建築家の国際交流も盛んになり，CIAM（シアム，近代建築国際会議，1928）が結成され，建築家が直面する住宅問題・都市問題などの解決に協力して取り組んだ。

《第4期》1930年から第2次世界大戦までの間で，近代建築の各国への浸透と反国際主義の台頭の時期である。国際建築は発達した工業生産を前提とした理論であるが，工業の発達段階や国際建築に対する国民感情などは各国で異なるため，国際建築の定着のしかたもまちまちであった。イギリスでは工業が発達していたにもかかわらず，保守的な国民性のために十分には浸透しなかった。北欧では工業が未発達ではあったが，木材を豊富に産出し，職人技術も高度

近代建築





(左)クリスタルパレス(焼失) イギリス，ロンドン 設計 パックストン 1851
(右)セセッション館 オーストリア，ウィーン 設計 オルブリッヒ 1899





(左)A.E.G.タービン工場 西ドイツ，ベルリン 設計 ベーレンス 1909
(右)ランシーのノートルダム教会堂 フランス，パリ 設計 ペレ 1923



デッサウのバウハウス 東ドイツ，デッサウ 設計 グロピウス 1926



サナトリウム フィンランド，パイミオ 設計 アールト 1933



国連事務局ビルと総会用ホール アメリカ，ニューヨーク 設計 ハリソンほか 1952





(左)スイス学生会館 フランス，パリ 設計 ル-コルビュジエ 1932
(右)グッゲンハイム美術館 アメリカ，ニューヨーク 設計 ライト 1960

であるため，国際建築の様式にとらわれない風土主義的で人間みのある近代建築を創造した。しかし，各地に台頭した民族主義は，民族の伝統を固守しようとする意味で反国際主義的立場をとり，特にドイツではバウハウスが閉鎖され，国際建築の中心は多数の建築家とともにアメリカへ移った。そこでは当時，工場・倉庫などの産業施設や摩天楼などの商業的建築がつくられており，国際建築はその高度な工業生産を基盤として急速に発展した。

〈第５期〉第２次世界大戦以後現在までの間で，工業主義と有機主義・人間主義とが調和をめざしている時期である。大戦後アメリカを中心とした工業主義が世界じゅうに広まるにつれて，工業主義的建築は共産圏を除く各国の共通様式となったが，機能性・合理性を極度に追究するあまり，単純で画一的な抽象形態をとり，その冷たさや親しみにくさが人々に疎外感を与えた。この傾向を批判し，かつては国際建築の強力な推進者であったル-コルビュジエ*は，戦後には造形性を尊重する立場をとり，アメリカではライト*が有機主義建築を主張した。工業主義の行きすぎを是正しようとするこれらの傾向は，戦後の建築界を特徴づけるものである。〔渡辺保忠〕

きんだいごしゅきょうぎ【近代五種競技】性質の異なる５種目のスポーツ（馬術競技・フェンシング・ピストル射撃・水泳・クロスカントリー）をひとりで１日１種目，５日間に行ない，その合計得点で順位を決める混成競技。クーベルタン*の発案で1912年のストックホルム大会からオリンピック種目に加えられ，以後主要種目の一つとされているが，競技の内容から優勝はほとんど軍人によって占められている。➔五種競技

きんだいこっか【近代国家】中世末以降成立した独立の主権国家を母体に生まれた国民国家，すなわちブルジョア国家をいう。主権国家は最初は中世から近代への過渡期である絶対主義期に絶対王制*として成立するが，それは宗教的権威と闘争しつつローマ教会から独立することで成立したものであり，中世の多元的社会構成を否定しつつ，絶対君主の手中にすべての権力手段を集中した中央集権*国家であった。そこでは専門的官僚と常備軍が育成された。絶対王制を打倒するブルジョア革命*によって成立する近代国家としての国民国家は，宗教的権威の拒否と中央集権化という絶対王制の国家的特徴を保持しつつ，人民主権国家として成立する。それは近代民主主義国家にほかならない。近代国家は独立した主権国家であり，民主主義国家なのである。近代国家の一般的特徴には，主権在民・共和制*・代議制*・三権分立*・立憲主義*などがあげられる。その典型は大革命後のフランスにみられる。➔主権〔西尾孝司〕

きんだいしそう【近代思想】1912年（大正１）10月１日，大杉（おおすぎ）栄*と荒畑寒村*によって発行された社会主義運動の機関誌。寄稿家は，堺利彦*（さかいとしひこ）・高畠素之*（たかばたけもとゆき）・土岐善麿*（ぜんまろ）・若山牧水*ら多彩であり，思想上の一致はなかったが，大逆事件*以後，沈黙・雌伏をしいられていた社会運動家のエネルギー発散の場であった。特に大杉栄は，この雑誌によって新進評論家として認められるようになった。２年後の1914年９月廃刊，その後は月刊《平民新聞*》に引き継がれた。〔前納弘武〕

きんだいしほうのげんそく【近代私法の原則】近代市民社会は資本制経済によって基礎づけられた商品交換社会であるが，それには個人の自由・平等・独立という法的人格が確立されていることを前提とする。そうした個人主義は資本制社会構造を基盤として，次の三大原則によって具体化される。①所有権絶対尊重の原則：資本制経済においては，すべて物*は商品として交換されるため，あらゆる財貨の上に，完全排他的支配権である所有権*が成立する。したがって人々は，このような権利を相互に尊重して侵さないようにしなければならないというのがこの原則で，資本制経済における第１次的要件である。②契約自由の原則：資本制経済を媒介とする商品交換社会では，人は封建的身分関係から解放された独立の法的人格を有するのであり，個人相互の間では自由な意思の合致によって法律関係を形成しうるのであるから，これを認めようとするのがこの原則である。契約の自由とは，契約を締結するとしないの自由，契約の相手方の選択の自由，契約内容の自由および契約方式の自由などを含む。近代資本制社会は，先の所有権絶対尊重とこの契約自由の両原則を支柱として発達してきたといってもよい。③過失責任主義の原則：近代社会においては，人はその人個人の自由な意思によって行為しうるのであり，自由意思に反して他人の強制や命令によってはいかなる行為もなされえない。したがって，個人の自由意思によってなした行為についてはみずからその責任を負わなければならないのであるが，それが故意または過失に基づく違法な行為によって他人に損害を与えた場合に限り賠償しなければならない。この原則によると，個人は自己の行為についてのみ十分に注意しておりさえすれば責任を負う心配はないことになり，企業の発展をささえるのに好都合な原理となったのである。

以上の三大原理を〈近代私法の原則〉といい，これらは資本制経済の発展を大いに助ける原理となった。しかしながら，資本制経済の発展はおのずと経済的強者と弱者との階級的対立を生み出し，その内在的矛盾を激化させるに至ったため，これらの原則に修正が加えられなければならなくなった。すなわち，第１に所有権絶対尊重の原則は，少数の者に財産の集中をもたらし，しかもその財産がそれを他人に利用させる債権契約と結びつくことによって事実上多数の無所有者を支配することになった。そこで，自己の労働力を売ってしか生活を維持しえない大多数の無所有者を保護する必要上，所有権は〈公共の福祉〉のために利用しなければならないという制限を設けるに至った。第２に契約自由の原則においても，社会的事実は契約当事者はけっして対等な社会関係にあるのではないから，経済的強者の一方的な意思表示により，経済的弱者は半強制的に契約が締結されることになる。そこで，経済的弱者を保護するための労働の諸権利が確立され，あるいは借地法・借家法などの特別諸立法が図られ，契約自由の原則に一定の制限を課するようになった。第３の過失責任の原則においても，資本制経済の発展による大企業の発達によって，故意または過失がなくとも他人に損害を与える場合が多くなった。それにもかかわらず，過失責任の原理により損害賠償の責任がないものとして，ひとり資本主義的生産による利潤を独占することは著しく社会的不公平となる。そこで，過失責任の原則のもとに，故意または過失の有無にかかわらず損害賠償責任があるとする例外的な無過失責任*が認められるようになったのである。

これら三大原則に修正が余儀なくされたのは，近代市民法が個々の人間を自由・平等・独立の法的人格として形式的にとらえ，所有者（資本家）と無所有者（労働者）との実質的不平等の存在に目を向けようとしなかったからである。しかし，三大原則ははじめから無制限に放任されていたのではなく，それは社会全体の安全・秩序との間に調和が保たれる範囲内においてであった。〈公序良俗*〉〈取引の安全〉と一般にいわれているものが，その具体的な法的価値判断の基準である。そして，資本制経済の発展によって三大原則の弊害・矛盾が増大・激化するにつれ，これら公序良俗，取引の安全がしだいに三原則と並列ないしは上位の原則と考えられるようになった。〔黒木三郎〕

きんだいしゃかい【近代社会】市民社会ないし近代資本制社会のこと。市民革命と産業革命によって，封建的な政治・経済，社会構造を打破し，産業資本の勝利とそれを保障する法と国家を形成した社会をさす。封建社会*との相違点は，①土地と身分の緊縛に対して資本と労働を解放した点，②封建的・地方分権的領主制支配に対する民族主権・人民主権の成立（その制度的表われとしての，国民代表原理・権力分立理論・基本的人権論），③農村ないし都市における封建的共同体（村*やギルド*など）を解体し，私有財産に基づく商品貨幣経済と自由競争の原理を導入した点，④伝統主義や慣習の支配に対し，理性と技術の発展を対置した点，

⑤封建的無権利に対し，自由と人権を擁護した点，などに求めることができる。しかし，資本主義の発展に伴って，労使の実質的不平等が拡大し，階級*対立が激化すると，近代社会の諸原理の諸矛盾が拡大する。自由とは実際には，資本の自由であり，平等とは実質的な社会的・経済的不平等を隠す法の前の平等であり，友愛は労使協調のスローガンであり，人民主権が議会主権に転化するなどの諸点である。これらの諸矛盾は，必然的に近代社会の諸原理に対する批判，克服する勢力・運動・思想を生み出した。社会主義*・人民民主主義*がそれである。〔高木富士男〕

きんだいしゅうか【近代秀歌】藤原定家*の歌論書。1209年(承元3)将軍源実朝(さねとも)に書き送った作歌指導書であるが，のちに冒頭部分と秀歌例を改定し，その自筆本が残っている。寛平年間(889～897)以後の歌を理想とすべきことや本歌取り*の方法などを具体的に教えるとともに，自身の体験に根ざした歌作に対する鋭い観察が述べられており，中世を通じて最も権威ある歌論書として尊重された。

きんだいしゅぎ【近代主義】⇨モダニズム

きんだいせいしん【近代精神】宗教的・社会的・政治的権力に対抗して，意識的な〈自由〉獲得のための努力，自己本来の意志による思想の形成を特徴とする。中世から近代への問題意識(信仰と知の宥和(ゆうわ))は連続しており，一般にルネサンスを中世から断絶した輝かしい時代とする説は誤りである。中世の思考と区別される近代の特徴は，〈新しさ〉に求められる。世界観・宗教観のこの〈新しさ〉はすでに中世にみられ，14世紀に決定的となる。経験論に立つオッカム*と唯名論者(ノミナリスト)たちの信仰からの人間知の解放(パリ大学のオッカム学派にはすでに近代科学の萌芽(ほうが)があった)，エックハルト*やニコラウス-クサヌス*のドイツ宗教神秘主義，さらにパリ大学でスコラ哲学者と対決したドン-スコトゥス*らは代表的である。国家・民族の成立により，理論理性と実践理性，知と信仰，宗教と形而上学(けいじじょうがく)，政治と道徳が分かれ，問題・方法・理論が多数提起され，〈思想の分裂〉の状態を呈した。さらに宗教改革，合理主義啓蒙(けいもう)運動，ロマンチックな国家主義により，〈文化の非宗教化〉が起こり，高い経済生活を求める精神なき享楽人が生じ，この傾向は増大しつつある。文化の非宗教化に抗して人間の内面性，真実への意志は〈実存*〉を求める。しかし人間の主体的・客観的現実は，単に実存では解決されず，さらに高次の立場が求められねばならない。➜近代哲学〔中川　誠〕

きんだいちきょうすけ【金田一京助】(1882～1971) 言語学者・国語学者。盛岡市生まれ。第二高等学校を経て東京大学言語学科に進む。アイヌ語の研究を志し，在学中から単身サハリン(樺太(からふと))に渡りアイヌ民族の叙事詩《ユーカラ》の筆録に専念した。国学院大学教授。その著《アイヌ叙事詩・ユーカラの研究》2巻によって1932年(昭和7)帝国学士院恩賜賞，1954年文化勲章を授与された。著書に《国語音韻論》《国語学入門》など国語学関係の研究があり，随筆家としても著名で，歌人石川啄木(たくぼく)との交友も深かった。〔寒河江実〕

きんだいてつがく【近代哲学】アッシジの聖フランシス(1182～1226)のイエスを〈実例〉とする宗教体験は，フランシスコ派修道院の〈経験〉重視の基調となった。13世紀以来オックスフォード大学はプラトン哲学を擁護したフランシスコ派修道僧による経験論の牙城(がじょう)であり，14世紀に至り経験論はパリ大学のスコラ哲学*を圧倒する。R. ベーコン*(1212ごろ～1292)の実験的方法，ドン-スコトゥス*やオッカム*の主意的経験論は近代の傾向となった。近代的なものは経験的なもの，〈人間学〉であり，人間中心的，ヒューマニズムであり，地上の感性がよりどころとなり，帰納法に立つ。政治学・経済学は人間主義的実践哲学であり，倫理学の基底には経験論がある。

イタリア-ルネサンスは近代哲学の積極的な初めではない。中世と近代の問題は連続しており，イタリア-ルネサンスの哲学はそれ自体は貧しく，たかだか〈個人の発見〉(ブルックハルトのことば)にすぎない。ルネサンス哲学の最高峰とされるブルーノ*の自然哲学は，3人のドイツ人(コペルニクス*とふたりの神秘主義者パラケルスス・ニコラウス-クサヌス*)に負っている。ルネサンスの意義は宗教改革と結合して啓蒙(けいもう)主義(➜啓蒙思想)を形成した点にある。イギリス経験論は，本来内的体験の経験主義であり，神秘主義・超越論と結合する。その人間主義は理想主義的・宗教的・実践的・自然的プラトニストの性格をもつ。プラトニズムはヨーロッパの学問の性格である。デカルト*は唯名論的に〈コギト-エルゴ-スム(われ思う，ゆえにわれあり)〉から出発しながら，結局は中世哲学の神に帰った。彼は精神・物体の本性を意識・延長ととらえ，世界は主観―客観の機能論的認識関係におかれた。ライプニッツ*によって実体は主体となり，デカルトの延長の論理学はモナド*の論理学となり(無限小を把握(はあく))，位置の幾何学(位置解析)となる。カント*によって意識は意識一般＝先験的意識となり，客観は純粋意識の構成するものとなる。カントの人格*は倫理的表現であり，理念は主観における内的確実性，有限における無限の内在を示す。ここに世界(真の存在)は無限として把握され，純粋思惟が世界を構成する。ドイツ観念論はカント哲学の体系的発展であるが，ヘーゲル*に至って個体が神となり，近代哲学は限界に達する。また，自然科学の成立は近代哲学の成果である。17～18世紀に自然科学が発展したのは近代哲学の〈自然〉の概念による。エックハルト*の神は無から創造され，世界が無限となる。近代科学は神秘主義を源泉とする。自然的魔術は因果法則に立脚する実験的方法となる(機械は〈魔術〉の意図を実現したもの)。科学的真理は実験を伴ってはじめて保証され，科学的方法は客観を客観として摘出し，形成する。そのためには自然が物質・運動としてとらえられ，実体は関係・関数概念・力の場に還元されねばならない。ライプニッツ・カントによって，形而上学(けいじじょうがく)・科学・数学が分化した。近代自然科学の成立には観察・実験にプラトニズムの数学的理想主義が必要であった。➜近代精神〔中川　誠〕

きんたいばし【錦帯橋】山口県岩国市を流れる錦(にしき)川(岩国川)にかかる木造橋。五つのそり橋(太鼓橋)を連ねた珍しい構造をもつ。長さは直線距離で196m，そっている面ではかると210m，橋台の高さは6m。両端の二つの橋には橋脚があるが，中の三つの橋には橋脚がない。1673年(延宝1)，岩国城主の吉川広嘉(きっかわひろよし)によってかけられたが，その翌年洪水(こうずい)のために流失，すぐにまたかけ替えられた。その後も20年ごとにかけ替えられていたが，1950年(昭和25)のキジア台風のために流失，1953年に現在の橋が完成した。新しい橋は，橋台をコンクリートで固め，高さももとの5mより1m高くなっているが，そのほかは細部までもとの姿を復元している。橋体は木と木の組み合わせによってつくられ，巻き金とかすがいのほかは1本のくぎも使っていない。北西の城山には，復元された岩国城の天守閣があり，夏には錦川で鵜(う)飼いが行なわれて，橋上は見物客でにぎわう。〔浅井得一〕

きんだいぶんがく【近代文学】近代社会の精神を具現した文学。世界文学史的にはルネサンス以後の文学をさすが，日本では明治維新以後に政治・経済の近代化に伴って生まれた近代市民社会に基づく文学を総括していう。すなわち，個人主義・自由主義に立脚し，自我の覚醒(かくせい)，個性の尊重を基礎として，より豊かな人間性を真摯(しんし)に追究する文学で，小説が中心的ジャンルを占めつつも，複雑な思想性を反映して，評論が独立したジャンルとして認められるようになった。しかし，明治維新は一方では絶対主義的傾向が強かったため，そのような近代市民文学が必ずしも順調な発展を遂げたとはいえない。坪内逍遙*(しょうよう)の《小説神髄*》とそれに呼応した二葉亭(ふたばてい)四迷*の《浮雲*》などにみられる写実主義の現実凝視の姿勢を出発点に，《文学界*》《明星*》などの雑誌を中心とした個我の解放を謳歌(おうか)する浪漫主義，島崎藤村*・田山花袋*らの自我と社会への批判をもくろむ自

然主義などは，いまだ封建的倫理を打ち破る苦闘を続けた。そして，大正期のいわゆる民本主義のもとに発刊された《白樺*(しらかば)》のありうべき人間再建をめざす理想主義や，《新思潮*》などの主知的な現実批判に基づく新現実主義の登場に加え，森鷗外*(おうがい)・夏目漱石*(そうせき)が独自な筆をふるうことによって，市民文学はいちおうの達成をみたのである。昭和期にはいると，階級的社会観によるプロレタリア文学*と，物質と直観を重視する新感覚派*などのいわゆるモダニズム文学とが対立するが，やがて第2次世界大戦へと向かう時代の流れの中でファシズムによって弾圧された。第2次世界大戦後は，プロレタリア文学の再生をめざす民主主義文学，現実批判のリアリズムの深化をはかる戦後文学派などの台頭に既成の作家も復活して，市民文学の真の展開を始めつつある。〔源　五郎〕

きんだいぶんがく　【近代文学】　文芸雑誌。1946年(昭和21)1月から1964年8月にかけて刊行，全158冊。荒正人*(まさひと)・小田切秀雄*(ひでお)・佐々木基一・本多秋五*・山室静・埴谷雄高*(はにやゆたか)・平野謙*らが創刊同人。第2次世界大戦前のマルクス主義文学運動の反省から，個人主義の確立を主張，新日本文学会の中野重治*(しげはる)らと政治と文学論争を展開。のち，野間宏*(ひろし)・武田泰淳*(たけだたいじゅん)・中村真一郎*・梅崎春生*(はるお)・椎名麟三(しいなりんぞう)・安部(あべ)公房*・三島由紀夫*(ゆきお)らも参加，戦後文学の主導的位置を占めた。〔源　五郎〕

きんだいぶんがくかん　【近代文学館】　⇨日本近代文学館

きんたろう　【金太郎】　怪力無双の英雄のおいたち物語。神奈川県足柄山の山中で山姥(やまうば)に育てられた怪童が，クマ・シカ・サルなどとともに暮らし，成人して京都の武将源頼光*(よりみつ)に仕え，坂田金時と名を与えられた。大江山の酒呑童子(しゅてんどうじ)征伐などで武功を立て，源頼光の四天王のひとりとして有名になったという物語。室町時代の成立と考えられるが，山中に誕生した英雄のおいたちに山姥伝説が付加されたものである。〔山路勝彦〕

きんだんげんしょう　【禁断現象】　薬物の常用による慢性中毒者が，その薬物を断った場合に起こす心身の異常反応。禁断症状ともいう。一般に，慢性中毒を起こす類の薬物を常用していると，生体には耐性(なれ)が生じるが，薬物を禁断すると，この2次的に成立していた全体の均衡に破綻(はたん)が生じて異常な反応が起こる。禁断現象の強い薬物はアルコール*・麻薬*で，慢性アルコール中毒の場合は，振顫(しんせん)・発汗・不眠・食欲不振・下痢・不安・抑うつなど，麻薬(モルヒネ)中毒の場合は，禁断後数時間～十数時間で，あくび・くしゃみ・発汗・下痢・悪感(おかん)，たえがたい不快感・疼痛(とうつう)がみられ，不眠・不安・苦悶が4～7日間続く。バルビタール*系催眠剤，メプロバメート(アトラキシン)系の精神安定剤でも，程度はより軽いが，やはり禁断によってふるえ・やせ・食欲不振・不安・不眠が起こり，いずれの薬物の場合にも，この禁断現象に耐えがたいため，どのような手段を用いても薬物を入手しようと，反社会的行動に走ることが多く，また，この禁断現象がこれらの中毒の治療をより困難ならしめている。薬物依存あるいは嗜癖(しへき)とは，摂取を止めるとこれらの禁断現象を生じる状態に陥った場合をいう。同じ薬物中毒でも，その薬物の直接の中毒作用による心身の障害と，禁断現象が強いために常用を止められぬために起こる反社会的行動による弊害の両面がある。〔小此木啓吾〕

きんたんどう　【金丹道】　金は焼いても変化せず，かつ貴重なもの，丹は辰砂(しんしゃ)(硫化第二水銀)のことで，焼くと水銀に変化する。中国ではこれらを不老不死の霊薬の典型とし，霊薬をつくることを煉丹(れんたん)と称した。金丹道とは薬物による不老不死の術である。➔神仙(しんせん)思想

きんちさんしゃ　【禁治産者】　心神喪失の常況にある者で，しかも一定の者の請求によって家庭裁判所から〈禁治産宣告〉を受けた者をいう(民法7条)。心神喪失の常況とは，終始心神喪失の状態にあることを要しないが，判断能力をはなはだしく欠くのを普通の状態としているものをいう。禁治産宣告の請求権者は本人(判断能力回復中の場合)，配偶者，4等親内の親族，後見人，保佐人*または検察官で，宣告の手続きについては家事審判法・家事審判規則に詳細な規定がある。禁治産の宣告がなされれば，必ず後見人をつけて，本人の財産の管理処分の任にあたらせなければならない(民法8条)。禁治産者が単独で行なった財産上の行為はつねに取り消すことができ(民法9条)，後見人によってあらかじめ同意が与えられていた場合であっても同様である。もっとも，身分上の行為についてはそれが本心に復している間に行なわれたものであれば，単独で行なっても有効である。なお，禁治産者は，意思能力を回復し，しかも宣告の請求ができる者の請求によって，家庭裁判所が禁治産の宣告を取り消すことによって能力者となる(民法10条)。➔準禁治産者〔黒木三郎〕

きんちてん　【近地点】　⇨遠地点

きんちゃく　【巾着】　火打ち袋から変化した腰から下げる袋物の一種。江戸時代から大正時代にかけて普及し，お守りを入れたり，金銭を入れたりするのに用いられた。はじめは皮製であったが，のちには織物や羅紗(らしゃ)でつくられるようになり，円形のものが多かった。江戸末期になると女夫(めおと)巾着が考案され，婦女子の間で流行した。明治時代になると，がまぐち・さいふ*などの普及に伴いしだいにすたれた。なお，小銭を入れた巾着をすり取る者を巾着切りという。〔渡辺欣雄〕

きんちゃくあみ　【巾着網】　揚繰(あぐ)り網*とほぼ同形同種の巻き網類。揚繰り網では〈吹き出し〉と称するたるみがあるが，巾着網の場合はだいたい長方形の網形をしていてたるみがない。操業方法も揚繰り網と同様であるが，巾着網のあるものでは，網すその環を締める際に，分銅を使用する場合もある。

きんちゃくそう　【巾着草】　双子葉植物・ゴマノハグサ科の一年草。花屋などでは属名であるカルセオラリア*の名でよばれることが多い。

きんちゅうならびにくげしょはっと　【禁中並公家諸法度】　徳川家康*(いえやす)が朝廷および公家を統制するため制定した法令で，1615年(元和1)大阪夏の陣の戦勝後公布された。原名は禁中方御条目。17か条からなり，天皇の修むべき学問・教養や皇族・公家の席次・叙任について規定し，官位の授与についても幕府の内意を得させるなど，朝廷側に政治活動の余地のないよう定められている。幕府の全期にわたって全条文は変更されず，対朝廷の基本的規定となった。〔高崎徳次〕

きんちょうびょう　【緊張病】　⇨精神分裂病

きんつば　【金鍔】　焼き菓子の一種。微温湯でこねた小麦粉を薄く伸ばしてあんを包み，ごま油でふいた平なべで焼いたもの。天和(てんな)・貞享(じょうきょう)年間(1681～1687)京都でつくられ，当時はうるち米の粉で皮をつくり，刀のつば形にして花模様や色づけをしたので〈銀つば〉とよばれた。享保(きょうほう)年間(1716～1736)には江戸に移って江戸名物の一つとなり，小麦粉の皮にかえられ，名まえも現在のものになった。もと，なべの上で指で押し型をつけながらつば形に焼き上げたが，現在は四角に切ったあんをといた小麦粉につけて鉄板で焼くだけの簡単なものが多い。〔塩川ふみ〕

きんていえいやくせいしょ　【欽定英訳聖書】　1611年，イギリス国王ジェームズ1世*のもとで47名の学者によって完成されたイギリス最初の標準訳聖書。ドイツ語のルター訳聖書と並ぶ名訳とされ，文学的にも高く評価されている。

きんていけんぽう　【欽定憲法】　勅定憲法ともいう。国民の代表者の参加なしに，君主が一方的に制定し公布する憲法。その際君主の命を受けた少数の官僚が極秘のうちに起草し，君側の重臣・大官僚だけの会議で決め，君主の名で公布されるのが普通である。明治憲法がその例。19世紀には，君主の権力の強い君主制国家で行なわれたが，今日では国民の選んだ憲法制定会議で制定される民定憲法*が普通である。➔憲法

きんてん　【近点】　最大の調節を行なった目ではっきり見える最短距離の点。物体

を目にしだいに近づけていくと，眼前のある一定距離までは焦点が合ってはっきり見えるが，それよりも近くなると焦点が合わなくなり，はっきり見えなくなる。この点をいう。近点は正視眼では10～15cmである。反対に，調節を行なっていない目で物体がはっきり見える点を遠点といい，正視眼では無限遠方の点である。近点・遠点は調節力に関係しており，調節力＝1/近点距離（m）－1/遠点距離（m）で表わされる。　〔氏原　弘〕

きんてんかん　【欽天監】　中国，明(みん)・清(しん)時代の国立天文台兼気象台。科学的な天文観測，暦の作製，時刻の測定などのほか，広く天災地変に注意し，国家の安危を占い，土木工事・祭礼などの際に方位・日時を選定するなどの職務があった。同種の役所は古くからあったが，1370年からこの名称が使われ，清朝に継承された。

きんてんげつ　【近点月】　月が近地点*を通り過ぎてから再び近地点にくるのに要する時間。1近点月の平均の値は27.554551日＝27日13時18分33秒である。近地点は，おもに地球の赤道面のふくらみと太陽の影響によって8.84732年の周期で西から東へ移動するので，恒星月*より約5時35分23秒だけ長い。

きんでんず　【筋電図】　EMG(electromyogram の略称)ともいう。筋肉に同心電極を差し込んで活動電位を導き，神経筋単位の活動電位を記録したもの。1本の運動神経は数本ないし数十本の骨格筋繊維を支配し，これが筋肉運動の機能単位と考えられるので，神経筋単位またはNMU(neuromuscular unit の略称)という。筋肉が完全に弛緩(しかん)しているときは活動電位は現われないが，収縮すると反復するパルス状のスパイク電位が現われる。スパイクの頻度(ひんど)は収縮が強くなるほど増加する。筋肉生理の研究に利用し，また末梢(まっしょう)の運動系に障害があると，筋電図上に異常発射として認められるので，運動系疾患の診断に利用される。なお，心臓の筋肉の場合は心電図という。　〔平野修助〕

きんでんせい　【均田制】　土地兼併を防止し，農民を土地に定着させて国家の租税を確保しようとする中国の土地制度。北魏(ほくぎ)の孝文帝のとき(485)に始まり，北斉(ほくせい)・北周・隋(ずい)を経て唐の中期(780)に両税法*が断行されるまで続いた。この間各朝によって多少の差はあるが，北魏では15歳以上の男子には露田(穀田)40畝と桑田(そうでん)20畝(または麻田10畝)，女子は露田20畝と麻田5畝，奴婢(ぬひ)は良人と同等，ウシは4頭まで各露田20畝を給した。死亡または老年(56歳)になると還付するが，桑田は世業であった。唐では丁男(21～59歳)・中男(16～20歳)には永業田20畝と口分田(くぶんでん)80畝，老男(60歳以上)・篤疾(とくしつ)・廃疾者には口分田40畝，寡妻妾(かさいしょう)には口分田30畝，丁男・中男以外の戸主には永業田20畝と口分田30畝を給した。そのほか，官吏には職田を給するほか，工商・僧道・賤民(せんみん)にも給田の規定があった。
➔班田収授法　〔米田賢次郎〕



キントキダイ

きんてんねん　【近点年】　地球が近日点*から出発して再び近日点に来るまでに要する時間。近点年の平均値は365.25964134日である。この値は1,900.0年における値であって一定ではなく，100年間に3.04×10^{-6}平均太陽日すなわち1,000年間に約2.6秒だけ1近点年は長くなる。近日点は他の惑星の影響を受けて年々11″ずつ西から東へ移動するので，1恒星年より1近点年は約4分43秒だけ長い。　〔木下　宙〕

きんとう　【近東】　英語のニヤー-イーストの訳で，ヨーロッパ人からみてヨーロッパに近い東洋をさしたことば。その範囲は時代とともに異なって明確でなく，古くはバルカン半島の国々をさしていたのが，しだいに小アジア・アラビア半島・エジプトをも含めるようになり，17世紀ごろ最大の版図を有したオスマン-トルコ帝国*の領土をさすまでに拡大された。現在イギリス政府ではイランあたりまでを含めることがあり，アメリカ合衆国の国務省は，西はリビアから東はアフガニスタンまでをも含めている。このように，最近では中東*の地域までも含めて使用することが多くなり，中近東*ということばも生まれている。　〔浅井得一〕

きんときさん　【金時山】　箱根外輪山の最高峰で，最北に位置する山。標高1,213m。神奈川・静岡の県境にあり，南麓(なんろく)の外輪山内側に仙石原(せんごくはら)の火口原が広がる。山頂から南西へは長尾山・乙女(おとめ)峠へ連なり，南東へは明神ケ岳・明星ケ岳へと連なる。また北へ延びる尾根には，金太郎(のち坂田金時)の物語で名高い足柄峠(759m)がある。

きんときだい　【金時鯛】　硬骨魚類・キントキダイ科。全長30cmほどになる海産魚。体は薄く長楕円(ちょうだえん)形で，目が大きい。うろこは小さいが突起のある櫛鱗(せつりん)なので，皮膚をさわった感じはざらざらしている。胸びれより腹びれが大きい。全身鮮紅色。中部日本以南からオーストラリア北岸・アフリカ東岸にまで分布している。食用になる。

きんとん　【金団】　サツマイモやヤマノイモを煮て，裏ごししてから砂糖を加えて練り上げたものに，甘く煮含めたクリ・クワイ・インゲンマメなどを加えてあえたもの。くりきんとん・豆きんとんなどという。主として料理の口取り*に用いられる。古くはアワを蒸し，砂糖を包んでつくったもので，アワの黄色にちなんできんとんとよばれた。

きんにく　【筋肉】　収縮によってからだを動かし，熱を発生する組織または器官。働きの上から随意筋*と不随意筋*(内臓筋)の別があり，前者は脳脊髄(のうせきずい)神経に，後者は自律神経の支配を受けている。組織学的には筋繊維(筋細胞)の束からなるが，各繊維の構成要素である筋原繊維に横紋のある骨格筋*と心筋(➔横紋筋)および横紋のない平滑筋*とに分かれる。横紋筋は，電子顕微鏡*で観察したところでは，筋原繊維がさらに細いフィラメント*から構成される。このフィラメントはアクチン*とミオシン*という鎖状のタンパクが部分的に重なり合っているので，単屈折して明るい部分と複屈折して暗い部分ができ，そのために横紋が生ずるのである。一般に，筋には筋原繊維の多い白色筋と，筋原繊維が少なくて筋形質に富む赤色筋とがある。前者の運動は敏速だが疲労しやすく，後者の運動は緩慢だが持続性がある。ウサギではこの2種類の筋がはっきり区別されているが，ヒトでは両者が混合している。赤色筋の赤いのは，筋形質に含まれているミオグロビン*という色素タンパクのためである。筋の収縮のエネルギーはATP*(アデノシン三リン酸)の分解によってまかなわれるが，収縮の理論についてはすべてが明瞭(めいりょう)になったとはいえない(➔筋収縮)。

骨格筋*の総数は約400個で，主として骨から始まり，腱*(けん)となって骨に付着している。たとえば肩の三角筋，大腿(だいたい)から下腿にかけての大腿四頭筋のように，四肢(しし)では筋肉が関節を越えて骨から骨についているので運動が起こるのである。また，顔面筋のように表情を現わすもの，咀嚼(そしゃく)を営むもの，喉頭(こうとう)の軟骨を動かして発声機能を果たすもの，横隔膜や肋間筋(ろっかんきん)のような呼吸作用を営むものがある。

平滑筋は血管・消化管・呼吸器・泌尿器などにあり，自律神経の支配下にゆるやかな不随意運動を起こし，消化・吸収・呼吸・排尿・排便などの機能を行なっている。一方，心筋は心臓という血管系に属し，一般血管が平滑筋であるのに反し，特殊な分化を遂げて横紋のある筋繊維からできている。心室(➔心臓)特に左心室は非常に厚く，血液を移送するためのポンプの働きをしている。また，いわゆる心臓の興奮源(ペースメーカー)の働きをする心臓の上部にある洞

結節(どうけっせつ)や房室結節，さらにその興奮を全心臓の心筋に伝える刺激伝達系(➙心臓)では心筋がさらに特殊化した構造をもち，心臓の自動的な運動を一生涯(いっしょうがい)休むことなく続ける。筋肉は神経末端からの刺激によって運動を営むので，末梢(まっしょう)神経，たとえば座骨神経・橈骨(とうこつ)神経・尺骨神経・正中神経の麻痺(まひ)によって筋肉はその働きを失い，仕事も歩行も困難になる。また，中枢神経の麻痺たとえば脳卒中*やポリオウイルス*罹患(りかん)によって起こる脊髄前角炎，原因不明の進行性筋萎縮症*(いしゅくしょう)によって運動機能が障害を受ける。〔蟠井　勉〕

きんにくちゅうしゃ　【筋肉注射】　筋肉内に薬液を注射する方法。臀筋(でんきん)の一定部位や上膊部(じょうはくぶ)の筋肉内に注射するのが普通である。皮下注射*をするには量が多かったり，また刺激の強すぎる場合などに行なう。また，油製剤のように静脈注射*のできないものについても行なう。

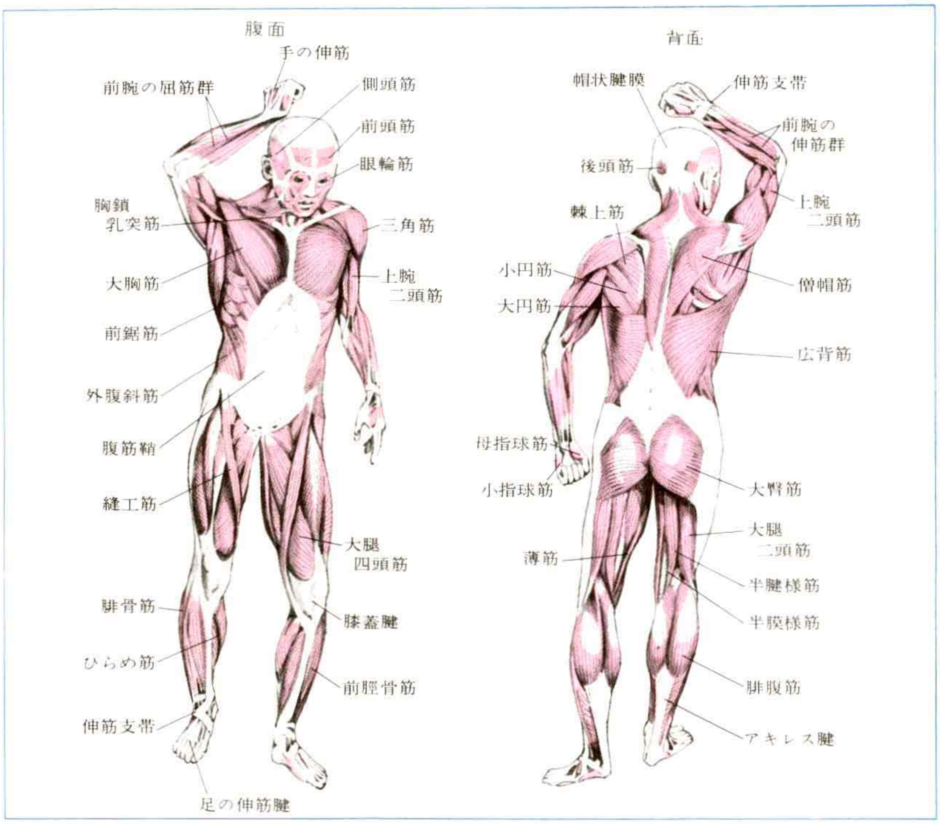
きんにっせい　【金日成】　キムイルソン(1912～　)朝鮮民主主義人民共和国の首相。平壌(へいじょう)市万景台区域万景台理の生まれ。1925年に中国東北部に渡り，1927年吉林で共産主義青年同盟を組織。1932年抗日遊撃隊を組織し，1936年祖国光復会を創建した。同地において抗日武装闘争を展開し，1937年はじめて朝鮮に進撃し，咸鏡(かんきょう)北道の普天堡(ふてんほう)で行なった抗日戦は特に有名である。1945年10月，朝鮮共産党をつくる。1948年9月9日に朝鮮民主主義人民共和国を創建し，その首班に任命される。1949年6月，南北朝鮮労働党の合党のとき，その委員長となる。

きんにっせいそうごうだいがく　【金日成総合大学】　平壌(へいじょう)にある朝鮮民主主義人民共和国の最大の大学。1946年10月1日創立。自然科学系6学部，社会科学系6学部からなり，ほかに10の科学研究所がある。教員・研究士700余名，昼間学生約7,000名，通信・夜間学生約5,000名。図書館には100余万巻の図書を蔵している。

ぎんねず　【銀鼠】　色名。明るい鼠色。シルバー-グレイともよばれるが，特に銀のような金属的光沢は必要ではない。日本工業規格(JIS)慣用色名〈銀ネズ(シルバーグレイ)〉は，色相N，明度6.5，彩度0の色と規定されている。➙色

きんねつろ　【均熱炉】　溶解炉から鋳型に鋳込む間に，溶湯をためて組成の調整と鋳造温度を保持するために用いられる炉。または，鋼塊の加工および成形を容易にするために，鋼塊の内部と表面部の温度の均一を図るために加熱する炉。

きんのう　【金農】　(1687～1764)　中国，清(しん)代の文人。号は冬心。学問好きで，詩と古文がじょうずだったが，金石学に詳しく，書と篆刻(てんこく)にすぐれていた。役人になることを避け，文筆で生計を立てて



筋　肉　人体の筋肉



金日成

いた。著書《冬心先生集》がある。

きんのうろん　【勤王論】　➩尊王思想

ぎんぱいそう　【銀盃草】　双子葉植物・ナス科。南アメリカ原産の多年草で，明治の末に日本にはいった観賞用植物。茎は20cmくらいで細く，地面をはう。葉は長楕円(ちょうだえん)形。6月ごろ，直径3cmほど，白色で杯形の花をつける。正式にはギンサカズキという。

きんばえ　【金蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・クロバエ科。体長6～12mmで，個体による体の大きさの変化が著しい。体色も変異が多く，黄緑色の個体が最も多くみられるが，黄赤色・青緑色・青藍(せいらん)色の個体もあり，いずれも強い金属的光沢をおびる。複眼は明るい赤色。翅(はね)は黄色みをおびる。日本全土のほか，朝鮮・中国・シベリア・ヨーロッパ・アフリカまで広く分布する。近似種のミドリキンバエは体長6～10mm，雄の複眼が互いにやや離れていることなどで区別される。世界共通種で，日本では平地の人家の周辺にきわめて普通にみられる。このほかオビキンバエ・ルリキンバエ・クロキンバエ・コガネキンバエ・ヒツジキンバエなどもキンバエとよばれ，幼虫はいずれも動物の死体や人畜の糞(ふん)・ごみためなどに発生し，成虫はしばしば種種の伝染病を媒介する。〔鈴木邦雄〕

きんぱく・ぎんぱく　【金箔・銀箔】　金・銀をロールで厚さ30μ程度の帯板にし，次いでこれを小牛皮にはさんでつちでたたき，紙状にした箔。厚さは金箔10mμ，銀箔200mμ。ふつう，10cm四方ぐらいのものを何枚も並べてはる。中国，六朝(りくちょう)時代から始められ，わが国でも古くから仏像の表面などに用いられた。のち，扇面やびょうぶ・ふすまなど絵画の画面に使う場合が多く，これらを金(銀)地とよぶ。特に障壁画*には欠かせぬものである。〔村重　寧〕

きんぱくじだい　【金箔時代】　アメリカ史上，1865年の南北戦争*終結以降，1873年恐慌までの時期。〈金箔時代〉の呼称はマーク・トウェーン*・チャールズ-ウォーナー共著の小説(1873年刊)の題からとったもの。紙幣の乱発，政府支出の急増，高関税による実業界の好景気と，戦時の緊張からの解放，金銭に対するふしだら，資本の圧力による政府の道徳的弛緩(しかん)の結果，通貨インフレーション，投機の過熱化，実業界・政界の腐敗堕落が発生した。しかし，この時代は，産業資本が急速に発展し，地域的には中西部・極西部が飛躍的に成長した時代でもあった。〔折井一彦〕

ぎんばと【銀鳩】鳥類・ハト科のジュズカケバト*の白変したもので，全身が白く，くちばしと脚が紅色をおびる。体形はジュズカケバトよりもいくぶん小形で，性質はおとなしく，禽舎(きんしゃ)内での巣引きも可能である。

きんぱら【金腹】鳥類・キンパラ科。インド・セイロン島・ビルマ・マライ諸島に産する小鳥。わが国には徳川時代に渡来し，現在もたくさん輸入されている。大きさはジュウシマツと同程度で，色彩は頭部と胸の上部が黒色，その他の部分は茶かっ色を呈する。雌雄同色だが，雄は止まり木の上ではねながらしゃがれ声で鳴くので見分けられる。じょうぶでおとなしく，他鳥との雑居もさしつかえない。現地から安価に輸入されるため，巣引きをする人は少ない。〔石島芳郎〕

ぎんぱら【銀腹】鳥類・キンパラ科。南インド・セイロン島・ジャワ島に産する小鳥。わが国への渡来は比較的新しい。大きさはキンパラ*と同じ。羽色は，胸腹部が白いほかはキンパラに似ている。じょうぶでおとなしい。

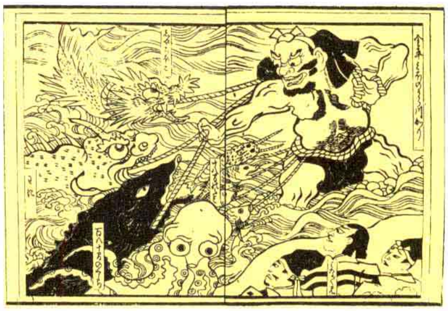
キンバライト［kimberlite］南アフリカのダイヤモンド鉱床になっている超塩基性岩*の一種。パイプ状の岩体として産し，その岩体の中は複雑な破砕構造を示し，かつ多くの捕獲岩を伴っている。主成分鉱物はカンラン石*・ジャモン石*，種々の炭酸塩鉱物・クロムテッ鉱*・ザクロ石*・チタン鉱物などである。全体として緑青色を呈するので，ダイヤモンド鉱山の現場では〈青地〉とよんでいる。

きんばらめいぜん【金原明善】(1832～1923) 明治・大正にかけての実業家・社会事業家。静岡県出身。大地主の家に生まれ，郷党*を指揮して養蚕・植林・牧畜を奨励し，家財を投じて天龍(てんりゅう)川治水工事を手がけ，苦心のすえ成功を収めた。その褒賞金(ほうしょうきん)で官私有地2,000ヘクタールの植林事業に着手しさらに私有植林地を提供して，天龍川の分水灌漑(かんがい)のために金原疎水財団を設立するなど，91歳で没するまでその一生を公共事業・社会事業にささげた。その他機械・製材・運輸などの事業を営み，金原銀行(のち三菱(みつびし)銀行に合併)を創立し，多角的な事業経営を行なった。〔片岡一郎〕

キンバリー［Kimberley］アフリカ大陸南部，南アフリカ共和国ケープ州北部にある鉱山都市。人口10万4,000(1970)。世界最大といわれるダイヤモンド鉱山に隣接し，1871年の開坑以来ダイヤモンド鉱業の中心都市として発展した。その露天掘りのあとはビッグ-ホールとよばれ，観光地になっている。周辺からはマンガン・アスベスト・セッコウなどの産出もあって，その精錬加工工業も発達している。ケープ州の中心都市の一つで，交通の要地であり，空港がある。〔小栗　宏〕



ギンパラ



金平浄瑠璃

きんはんげんのげんそく【禁反言の原則】英米法の重要な原則。甲が乙の表示を信じ，この表示に基づいて行動したとき，乙はのちになってその表示は事実に反していたのだということが主張できなくなる原則をいう。会社が代表取締役でもない者に，その肩書きを許していた場合，肩書きを信じて取引した第三者に対して会社は責任を負わなければならない(商法262条)，というのがこの例である。取引の安全を図るうえで重要な作用を営む。〔松本治雄〕

きんぴらごぼう【金平牛蒡】千切りにしたゴボウ*をゴマ油でいためてからしょうゆ，みりんまたは砂糖，酒でからめに調味し，しるがなくなるまでいり煮にしたもの。煮上がりに赤唐辛子を刻んで加える。酒のさかな，茶づけの菜に喜ばれる。元禄(げんろく)年間(1688～1703)につくり出されたもので，辛さが強いということから，伝説の豪傑坂田金平(金時の子)にちなんで名づけられたという。

きんぴらじょうるり【金平浄瑠璃】古浄瑠璃の一流派。明暦年間(1655～1657)のころ江戸の和泉大夫(いずみだゆう)が語り，大いに流行した人形浄瑠璃で，金(公)平節ともいう。正義感の強い豪傑，坂田金平(金時の子)を主人公にした武勇物語が多いため，この名がある。2尺に及ぶ鉄棒で拍子をとりながらの語り口はきわめて激しく，初世市川団十郎*はこれにヒントを得て，荒事*を創始したといわれる。→人形浄瑠璃

きんぷさん【金峰山】〈きんぷせん〉〈きんぽうざん〉ともいう。甲府市北方，山梨・長野県境にそびえ，標高2,595m。信州峠以東の関東山地の最高峰である。北側は千曲(ちくま)川上流，南側は富士川支流の荒川に刻まれ，東へは国師ケ岳・甲武信ケ岳(こぶしがたけ)へと続く。古くからの信仰の山である。秩父(ちちぶ)多摩国立公園に属し，ハイカーたちに親しまれている。

きんぷせんじ【金峰山寺】奈良県吉野(よしの)郡吉野町金峰山にあり，金王輪寺ともいう。修験道*(しゅげんどう)の開祖とされる役小角*(えんのおづぬ)の創建と伝えられ，大峰修験宗の総本山。もと大峰山脈の山上ケ岳(山上)から吉野山(山下)にかけて営まれた伽藍(がらん)・僧坊の総称であったが，天平(てんぴょう)年間(729～748)に山上ケ岳頂上の蔵王堂(ざおうどう)を現在の地に移して本堂とし，金峰山寺と称した。古来，山上ケ岳から吉野山にかけての一帯は神呪(しんじゅ)の霊山として尊崇され，金峰修験道第1の行場として発展してきた。南北朝戦乱時代にはその僧坊は100か所を越す規模となり，僧徒は吉野大衆とよばれてしばしば京師に強訴を企てるなど，南朝と呼応してその勢力を誇った。1348年(正平3)，おりから寺中に置かれていた後醍醐(ごだいご)天皇の行在所が高師直*(こうのもろなお)らに襲われ，堂宇は戦火で失われた。現在の本堂は1455年(康正1)の再建で東大寺大仏殿に次ぐ規模をもち，二王門とともに国宝に指定されている。本尊の蔵王権現像は開祖役小角が山上ケ岳頂上で感得した山神化現の像と伝えられる。ほかに寺宝として金銅の経函(きょうばこ)，千手千眼観音像などがある。

金峰山寺を総本山とする修験道場の規模はわが国第1で，金峰・大峰・熊野(くまの)の3道場を総括して75か所の行所をもつ。この行所を大峰七十五靡(なびき)といい，熊野から吉野に行ずるのを順峰と称して本山派山伏の順路とし，その逆を逆峰といって当山派山伏の順路とするのが正法であったが，現在はともに逆峰を順路としている。この七十五靡の行は，5月8日の山開きから9月27日の戸閉(じ)めまでの期間に行なわれる。〔佐野文哉〕

きんプールせい【金プール制】各国の中央銀行が金を拠出してプールしておき，金の市場価格が変動する場合にこれを使用して金市場に介入し，金価格の安定を図ろうとする制度。1960年以降のドル不安の発生に伴ってしばしば金投機が発生し，ロンドン自由金市場における金の市場価格はつねに投機的・攪乱(かくらん)的変動にさらされ，きわめて不安定になった。このためアメリカの提案に基づき，アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・イタリア・スイス・ベルギー・オランダの8か国の中央銀行間でこの制度が取り決められた。市場操作は代理管理機関であるイギリスのイングランド銀行*が行なう。金プール制が最初に市場に介入したのは1961年11月であるが，1967年11月のポンドの平価切り下げを契機として発生したゴールド-ラッシュが数次にわたって急激かつ大規模であったため，金プール

制はこれに対処することができず，1968年3月に停止され，これに代わって金の二重価格制がとられるようになった。➔金価格
〔安井孝治〕

きんぶんがく【今文学】 今文で書かれた経書を奉ずる儒教の一派。古文学に対していう。今文とは漢代の通用文字であった隷書のことである。秦(しん)の焚書(ふんしょ)（書物焼却令)ののち口頭で伝えられた経書を，漢になって書き写したのを今文経，少し遅れて発見された漢以前の文字で書いたのを古文経という。その後，今文・古文のいずれが孔子の真意を伝えるかで学説が分かれ，学派の対立を生じた。両派は時代により盛衰があったが，清(しん)末には今文系の公羊(くよう)学派が近代思想と結びついて勢力を得た。〔日比野丈夫〕

きんぶんそうぞく【均分相続】 数人の相続人が共同して相続する場合，その相続分が等しいことをいう。すなわち，配偶者は特別な取り扱いを受けるが，そのほか同順位にある相続人は男女・長幼の区別なく平等に遺産を分割相続できることをいう(民法900条)。均分相続制は近代諸国の相続形態の原則となっており，かつての長男子単独相続制を定めた家督相続と対比される。しかし，これは事実上の相続分を均等にしなければならないのではなく，同一順位の相続権者は平等に相続しうるという原則を定めたものにすぎないから，現実には相続放棄や遺産分割協議書，または民法703条の特別受益者などの制度を利用したり，遺贈などによって不均等な相続が行なわれたりするのが普通である。➔単独相続
〔黒木三郎〕

きんぺいばい【金瓶梅】 中国，明(みん)代の長編小説。100回。作者不明。現存最古の刊本《金瓶梅詞話》には1617年の序文がある。《水滸伝(すいこでん)》の一節，武松と西門慶(せいもんけい)との挿話(そうわ)を敷衍(ふえん)したものである。豪商西門慶が，武松の兄武大の妻，潘金蓮(はんきんれん)と通じ，武大を毒殺して女を妾(めかけ)とし，友人の妻李瓶児(りへいじ)を手に入れたり，あるいは潘金蓮の女中春梅ものにしたり，そのほか不正手段を弄(ろう)して金をもうけたりする，色欲と金に明け暮れする生活絵図を繰り広げていく。本書は明代に勃興(ぼっこう)した商人の生態を写実的に描き，時代の暗黒面と人間の業(ごう)の深さを容赦なくさらけ出して，ときにはだ寒いものを感じさせる。〔今村与志雄〕

キーンベックびょう【キーンベック病】 手のひらのつけ根にある手根骨の一つ，月状骨の軟化症。20〜30歳代の手仕事をする人がかかりやすく，右手に多い。原因は不明であるが，外傷性の既往症をもつことが多い。症状は手関節の腫張(しゅちょう)・疼痛(とうつう)・運動制限で，慢性に経過する。

ぎんぽ【銀宝】 硬骨魚類・ニシキギンポ科。全長約20cmに達する海産魚。頭が小



ギンポ



キンポウゲ　ウマノアシガタ

さく，胴体は薄くて細長い。鋭い棘条(きょくじょう)のある背びれがほぼ背部の全域に連なっていて，うっかりさわると手を切ることがあり，カミソリウオの異名もある。全身茶かっ色，うろこは細かい。日本全土・朝鮮・千島に分布し，干潮線付近の石の間にすむ。東京ではてんぷらの材料として珍重され，生きたまま市場に出る。春先が最も味がよい。

きんぽうげ【金鳳花】 双子葉植物・キンポウゲ科。ウマノアシガタともいう。日あたりのよい山などに普通に見られる多年草。根茎は短く，そこから長い柄のある葉を多数出す。葉は三つに切れ込み，縁に鋸歯(きょし)がある。夏，40〜60cmの茎を出し，先に直径2cmほどの黄色の花をつける。めしべが多数あり，果実は金平糖状。葉は有毒で，うじを殺すのに使われる。なお，八重咲きのものを特にキンポウゲ，他をウマノアシガタとよぶこともある。キンポウゲ科は約1,500種よりなり，おもに北半球の温帯・亜寒帯に広く分布する。多くは草本だが，つる性の木本もある。花びらはないものもあり，おしべは多数でらせん状に並び，めしべも多数あり，双子葉植物の中で原始的なものの仲間とされている。日本にはキンポウゲのほか，オキナグサ・カラマツソウ・トリカブト・オウレンなどがあり，観賞用としてフクジュソウ・ボタン・シャクヤク・オダマキなどが栽培されている。
〔小清水義隆〕

きんぽうざん【金峰山】 熊本市の西郊にそびえ，標高665m。一ノ岳ともいう。山体はトロイデ型で第四紀の新期角閃(かくせん)安山岩からなる。北の二ノ岳(熊ノ岳)，三ノ岳(那智(なち)ノ岳)とともに火山群をなし，白山火山帯に属する。山頂近くに夏目漱石《草枕》ゆかりの峠の茶屋，宮本武蔵(むさし)修行の洞窟(どうくつ)があり，有明海に面する西麓(せいろく)にはミカン園がひらける。

きんぼうすい【筋紡錘】 筋肉の内部にあって，筋肉の知覚を感受する装置。これによって感受された深部知覚は小脳や大脳に運ばれ，また脊髄(せきずい)や脳幹部で反射路を介して運動神経に刺激が伝えられる。

きんぽくざん【金北山】 新潟県，佐渡島北部の大佐渡山地にあり，佐渡の最高峰で標高1,173m。頂上に金北山神社があり，自動車道路が開けている。山頂部はシャクナゲの群生で知られている。

きんほんいせいど【金本位制度】 貨幣の単位の価値が一定量の金の価値と等価であるように維持される貨幣制度。1816年のイギリスの貨幣法に始まり，1844年のイングランド銀行条例(ピール条例)によって完成されたイギリスの金本位制度は，その典型である。その後，当時の金生産増大に裏づけられ，世界の主要諸国がそれに追随し，第1次世界大戦まで国際的な金本位制度の時代を現出した。わが国は1897年(明治30)に，アメリカは1900年にこの制度を採用した。

典型的な金本位制度では，一定の純分をもつ金の一定量によって額面価値と素材価値の等しい金貨が鋳造され流通する。しかし，鋳造技術の上の誤差や流通過程での摩損は免れがたいから，ある狭い範囲の公差と最軽流通量目が許容されている。これは本位貨幣であるから，無制限法貨であって，その額面価値よりも低い素材価値をもつ銀貨や白銅貨などの補助貨や紙幣のように，法貨としての通用額が制限されるということはない。貨幣単位と金の一定量の等価関係を維持するために，金貨の鋳造と金貨の溶解が自由に許可される。そこでかりに金貨の価値が地金の市場価値より高くなれば，地金を提示して金貨の鋳造が請求され，反対に金貨の価値より地金の市場価値が高くなれば金貨は溶解される。こうして貨幣の単位と金の一定量の価値は等価に維持される。しかし実際には金貨の鋳造費あるいは手数料がかかるから，きわめて狭い範囲で，両者の差は残る。また，金の輸出入は自由に許されており，金の国内外への流入出によって国内の金価値は外国の金の価値と国際的にも平準化する。ただし，この場合も金の輸出費用だけの差は残る。補助貨・紙幣・銀行券などは，この金貨と交換されることを通じて，金の一定量との等価関係が維持される。そして銀行券の金兌換(きんだかん)を確保するために，銀行券発行について制限制度が設定され，それが金本位制度の重要な一環となる。金本位制度をとる諸国の相互間の為替(かわせ)相場は，各国の貨幣単位に等しい金量の相互比較から計算される金平価を中心に変動し，それは金輸送の諸費

用を加えた上下の限界を越えない。それは国際収支が赤字になって為替相場が下がると，むしろ金を現送して決済することが有利になるからである。このように為替相場の安定することが金本位制度の利点である。輸入超過によって金が流出すれば，銀行券の発行高は縮小し，物価は下がって輸出は増加し輸入は減少する傾向が生じ，国際収支は自動的に均衡を回復すると主張された。

第1次世界大戦によって金本位制は停止され，その後は世界経済の発展に比較して金の生産が追いつかなかったこと，また戦後の世界経済の事情から金がアメリカ・フランスなどに偏在したことから，戦前の型の金本位制度，いわゆる金貨本位制度にもどることが困難となり，その国際的な局面における利点だけを生かすために，国内的な局面では，金貨の流通を廃止し，金は中央銀行または政府機関に集中し，国際間の決済のためにだけ，地金を兌換あるいは買い入れることにした。これは金地金本位制とよばれる。また，国際金融の中心にある金本位国の外国為替を一定の価格で(厳格にはある狭い限界の中での変動を認めて)売買することによって，貨幣単位と金の一定量との等価関係を維持しようとするのが金為替本位制度*である。金保有の乏しい国が金を節約しながら，金本位制度の国際的局面の利点を生かすのが目的である。金地金本位制度と金為替本位制度は合わせて，金核本位制度*とよばれる。〔小泉　明〕

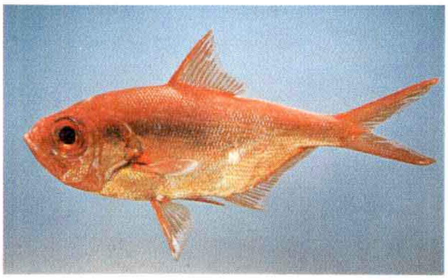
ぎんほんいせいど【銀本位制度】 銀を本位貨幣*とする貨幣制度。歴史的には銀の産出が少なく，銀の価値が比較的高かった中国などの東洋諸国で行なわれていたが，17世紀ごろから世界の銀生産高が著しく増加したため，銀の価格が低落し，19世紀には金本位制度*に圧倒されるようになった。また，19世紀には金保有量の比較的少ない諸国で金銀複本位制度がとられたが，これも短命に終わった。すなわち，1865年にフランスを中心とするラテン貨幣同盟が結成され，これらの諸国で金銀複本位制度がとられたが，カリフォルニアなどの金鉱発見で世界の金生産が増加し，金に比べて銀の市場価格が騰貴したため，フランスでは銀兌換(きんだかん)を中止し，金本位の採用を余儀なくされた。今日では銀本位制度はまったく行なわれていない。〔速水　保〕

ぎんます【銀鱒】 ⇨ギンザケ

きんまぬり【蒟醤塗】 網代(あじろ)編みの籃胎(らんたい)漆器。キンマはコショウ科のつる性植物で，同時に東南アジアの熱帯地方を中心に行なわれる，芳香のあるこの葉でビンロウの実と石灰などを包んで咀嚼(そしゃく)を楽しむ嗜好品(しこうひん)の名称であるが，わが国ではその容器の表面を飾る漆芸技法をさすようになった。漆面に三角刀でタイ独自の文様を刻し，その刻線内に赤・緑・黄などの色漆を充塡(じゅうてん)してとぎだす。



キンミズヒキ



キンメダイ

江戸末期，堆朱(ついしゅ)・堆黒の名手玉楮象谷(たまかじぞうこく)が，タイの伝統的漆芸技法に改良を加え，わが国独自の蒟醤塗を完成した。現在は香川県が特産地である。

きんみずひき【金水引】 双子葉植物・バラ科。山や野原に多く見られる多年草。茎は直立し，高さ40〜100cm，葉とともに粗毛がある。葉は互生し，羽状に分かれた複葉で，小葉は長楕円(ちょうだえん)形，縁に鋸歯(きょし)がある。夏〜秋に茎の上部が枝分かれし，直径7mmほどの黄色い花を穂のようにつける。果実にかぎ状の毛があり，他物につく。開花期に全草を干したものは龍牙草(りゅうげそう)といい，タンニンを含み，せんじて下痢止めに使われることがある。

きんむひょうてい【勤務評定】 公教育の人事の公正と，職務の能率増進を期して行なう勤務成績の評価。広くは，各職場において監督者が行なう一定基準に基づく評定をもいう。顕著な問題となったのは，1957年(昭和32)教職員に対しての実施時で，日教組*が文部省・教育委員会に対して，教育の場における勤務評定の実施は，人事権を介して教育内容・方法の国家統制の強化を意図するとして，全国的な反対運動(勤評闘争)を展開したことによる。反対の根拠は，学問・研究の自由，思想の自由などの憲法上の自由権にあった。〔山崎昌甫〕

きんむりょくしょう【筋無力症】 神経と骨格筋の接合部の障害による運動障害で，疲れやすく，休養によって回復する特徴を有する疾患。若い女性に多くみられ，眼瞼(がんけん)下垂・複視(物が二つに見える)・構語障害・四肢(しし)脱力を呈し，重症では呼吸困難を訴える。胸腺腫(きょうせんしゅ)を伴うことが半数くらいの患者にあり，これを取り除くことによって軽快することが多い。原因は不明であるが，内分泌障害・自己免疫などの説がある。刺激伝達に関与するアセチルコリンの分解酵素を抑制すると症状が劇的に軽快するので，ワゴスチミンやその近縁薬物などの抗コリンエステラーゼ剤が診断や治療に用いられる。〔井形昭弘〕

きんめいちく【欽明竹】 単子葉植物・イネ科。マダケ*の一変種で，茎が黄色をし，毎節間に交互に緑色の縦筋が通る。美しいので観賞用とされる。

きんめいてんのう【欽明天皇】 (？〜571) 継体天皇の第3皇子。名は天国排開広庭尊(あめくにおしはらきひろにわのみこと)。母は仁賢(にんけん)天皇の皇女手白香(たしらか)皇女。531年即位。539年まで庶兄安閑・宣化朝と併立したと考えられる。欽明の初世に大伴金村(おおとものかなむら)は失脚，蘇我(そが)・物部(もののべ)両氏の対立が仏教受容の可否ともからんで激化し，対外的には562年任那*(みまな)の日本府が滅亡するなど波乱の時期であった。陵墓は奈良県高市郡の檜隈坂合陵(ひのくまのさかあいのみささぎ)にある。〔黛　弘道〕

きんめだい【金目鯛】 硬骨魚類・キンメダイ科。全長50cmほどに達する海産魚。頭が大きく，体は薄い。体色は全身鮮紅色。大きな目が金色に輝くのが名の由来であるが，背びれが1基しかなく，マダイなどのタイ科の魚とは分類学上縁が薄い。茨城県以南の本州太平洋側，大西洋・メキシコ湾などの深所に分布する。白身の魚で，冬にあぶらがのり，ちりなべなどにして美味。

ぎんめだい【銀目鯛】 硬骨魚類・ギンメダイ科。全長約50cmに達する海産魚。フナに似た形と色をしているが，目が大きく，下顎(かがく)に1対のひげがある。本州中部以南，フィリピン・ハワイに分布。砂底を好む。食用。フナにもタイにも縁が遠く，キンメダイに近い魚である。

きんめっき【金めっき】 表面を金で被覆する方法。古くは金アマルガムを塗布し，加熱して水銀を蒸発させ(滅金)，金の被覆(塗金)を行なった。金と素材とを張り合わせて圧延する金張りは現在も〈合わせ圧延〉として行なわれているが，今日では電気めっき*が普通である。めっき浴は①低温シアン化アルカリ浴，②中性浴，③有機酸を用いる弱酸性浴がある。金めっきは装飾品・美術工芸品に広く用いられていたが，近年では，電気・電子機器や航空機・ミサイル・化学工業などで工業的用途が拡大し，金使用量の大半を占めている。〔上田重朋〕

ぎんめっき【銀めっき】 表面を銀で被覆する方法。古くは銀アマルガムによるめっきが行なわれた。今日では銀張りという〈合わせ圧延〉も行なわれているが，シアン化アルカリ浴による電気めっき*が普通である。銀めっきは洋食器・装飾品・工芸品に広く適用されているが，銀は電気抵抗が少なく比較的に安価なので，近年接点などの

電気・電子部門に利用されている。大気あるいはイオウを含むふんい気で変色するので，さらに透明塗料やロジウム・パラジウムなどの薄いめっきを施す必要がある。〔上田重明〕

きんもくせい 【金木犀】 双子葉植物・モクセイ科。中国原産の常緑小高木で，庭樹として植えられる。高さ4mになり，幹は太くよく分枝する。葉は対生し，広披針(こうひしん)～長楕円(ちょうだえん)形，革質で，表面は緑色，裏面は帯黄緑色。10～11月葉腋(ようえき)に強い芳香のある橙黄(とうおう)色の小花を多数束生する。花冠は4深裂し，花弁は厚い。雌雄異株で，日本には雄株しかなく，実を結ばないといわれている。花色が淡黄色で，葉がやや細長いものをウスギモクセイという。〔横井朝子〕

ぎんもくせい 【銀木犀】 双子葉植物・モクセイ科。中国原産の常緑高木で，わが国でもよく栽培される。キンモクセイ*によく似ているが，葉が広楕円(こうだえん)形で，花色は白。雌雄異株で，わが国のものはすべて雄株であるため結実しないといわれる。

きんモール・ぎんモール 【金モール・銀モール】 経(たて)は絹糸で，緯(ぬき)は金糸を織り込んだモール織*を金モール，緯に銀糸を織り込んだモール織を銀モールという。わが国には慶長年間(1596～1614)にインド・オランダから輸入され，その後製作されたものは，繻珍織*(しゅちんおり)のように別搦(べつがらみ)経で表裏の紋糸をおさえたもので，江戸時代末期には女帯地などに用いられた。また，糸状の金糸・銀糸も，金銀モールと称され，ししゅうその他の装飾品に用いるが，厳密にはモール織ではない。〔勝呂小枝〕

きんもんが 【金紋蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ツバメガ科。翅(はね)を広げた長さは36～40mm。体・翅の地色は黒色で，体の腹面は黄色。前翅には基部から中室の中央付近に至る細長い三角形の黄色部があり，その外方にさらに1個の広い黄色部があり，外縁近くにも数個の黄色紋が並ぶ。後翅は基部から中央部にかけて長方形の大きな黄色部があり，外縁近くに黄色の波状線がある。本州・四国・九州に分布し，山地の草むらに多い。

きんもんきょう 【金門橋】 ⇨ゴールデンゲート-ブリッジ

きんもんごさんのきり 【金門五三桐】 歌舞伎(かぶき)脚本。時代物。5幕。別名題《楼門五三桐(さんもんごさんのきり)》。通称《山門》。初世並木五瓶*(ごへい)作。1778年(安永7)大阪中の芝居初演。盗賊の石川五右衛門(ごえもん)に関する俗説を扱った最初の作。〈山門〉の場だけが今日独立して上演される。この場は，明(みん)の宋蘇卿(そうそきょう)の遺児である五右衛門が南禅寺の山門に隠れ住み，サクラの景をめでるところに，父親のかたきである真柴久吉(ましばひさよし)が巡礼姿で登場して対面するというだけの短い一場。絢爛(けんらん)豪華なサクラの背景と山門の大道具，そのせり上げ，〈絶景かな〉のせりふなど歌舞伎の様式美の極致とされる。〔服部幸雄〕

きんもんとう 【金門島】 チンメン島　中国福建省廈門(アモイ)島の東方約10kmにある島。人口約10万。金門島・小金門島など合計12の島を総称して金門島とよぶ場合があり，その総面積は178km²。馬祖島とともに全島が中華民国の軍事基地化し，将兵50,000が駐屯(ちゅうとん)している。1958年8月，中華人民共和国軍から砲撃され，その救援のためアメリカ合衆国第7艦隊が戦力を集結した。

きんもんのへん 【禁門の変】 蛤(はまぐり)御門の変，元治甲子(かっし)の変ともいう。1864年(元治1)京都で起こった戦い。前年の文久3年8月18日の政変*で京都を追われた長州藩は，京都での地位の回復と藩主父子の雪冤(せつえん)，尊攘派(そんじょうは)公卿(くぎょう)7名の赦免を願ったが許されなかった。さらに1864年6月池田屋騒動*で藩士が新撰組(しんせんぐみ)に殺され，藩内には京都出兵を唱える者が多く，ついに福原越後(えちご)・国司信濃(しなの)・益田右衛門介(ますだうえもんのすけ)の3家老，久坂玄瑞*(げんずい)・来島又兵衛(またべえ)・真木和泉守(いずみのかみ)(久留米(くるめ)水天宮祠官(しかん))らが藩兵を率いて上京した。7月19日会津・薩摩(さつま)両藩の兵と蛤御門付近で戦ったが，長州勢は完敗して久坂らは戦死し，福原らは敗兵をまとめ帰国した。これが第1次長州征伐の発端である。なお，この戦いで京都は焼け野原となった。〔松尾　涼〕



キンモクセイ

きんやっかん 【金約款】 貨幣価値の暴落や，平価の切り下げなどの貨幣価値の変動による損害を防止するため，金銭債権につけられる約款。たとえば10万円の債務を前済期における10万円の金貨で支払うことを約束する〈金貨約款〉と，10万円の債務を1gA円の割合で計算した金Xgを含む金貨，またはこれと同一価値をもつほかの通貨で支払いをすることを約束する〈金価値約款〉との二つがある。しかし，金本位制度*の行なわれていない現在では，世界的通貨として自由兌換(だかん)性をもっている米ドルをもって債務の支払いをする旨約束する〈ドル約款〉が国際間の金銭貸借では多く用いられている。〔松本治雄〕

ぎんやんま 【銀蜻蜓】 こん虫類・トンボ目・ヤンマ科。腹長50mm，後翅(こうし)長53mm。体の地色は黄緑色で，腹部背面はかっ色。雄では腹部第2節の背面が美しい水色。翅(はね)は透明だが淡黄色をおびることが多く，特に成熟した雌では翅の全面が濃かっ色をおびることがある。日本全土・台湾・朝鮮・中国に分布し，春から秋まで沼地などに見られるが，生息地の人為的破壊によって著しく減少している。近縁のクロスジギンヤンマはやや小形で，胸部が鮮緑色の地に明瞭(めいりょう)な2本の黒色条線があり，成虫は4～6月に出現する。

きんゆう 【金融】 ⇨次ページ

きんゆうぎょう 【金融業】 預金の受け入れ，資金の貸し出し，為替(かわせ)業務などの金融に関する業務を営むもの。狭義には質屋*・貸金業者などの個人的な金融業者をさす場合がある。これらは銀行・相互銀行・信用金庫・保険会社・証券業者・短資業者などの金融機関とは性格をことにし，預金の受け入れができないほか，営業には届け出制などの法的規制を受ける。



禁門の変　兵火に逃げまどう京都市民と傷兵たち　《甲子兵燹図》　京都大学蔵

金融

資金を融通すること。つまり資金の不足する者が資金の余剰のある者から資金を借りること，相手側からいえば資金を貸すことである。資金の貸借にあたって，借り手は貸し手に対して一定期間ののちに元金を返済すること，またその期間について利子*を支払うことを約束する。貸し手の供給する資金量と借り手の需要する資金量は，基本的には，金融市場において，金利*の変動を媒介として調節され，さらにこれに金融政策が加えられて調整される。

今日の資本主義体制をとる国民経済の基本的な経済単位は家計と企業であり，それに政府という単位が加わり，さらに，全体としての国民経済は海外部門と取引している。家計は，労賃・俸給(ほうきゅう)などで得た所得から消費した残りを貯蓄し，他方では住宅などの実物投資をする。個々の家計についてみるとさまざまであるが，全体としての家計部門をみると，実物面では貯蓄*が投資*を超過している。また，企業は売上金額から原材料費・労賃その他の諸経費を差し引いた企業の所得，つまり粗利潤の中から固定資本の減価償却費*や社内留保などの企業貯蓄を行ない，残りを配当その他として支出する。そして他方では設備投資*・在庫投資*を行なう。個々の企業では投資が貯蓄を超過している企業があり，逆に貯蓄が投資を超過している企業もあるが，全体としての企業部門をとると実物面では投資が貯蓄を超過している。このように各部門ごとの投資・貯蓄のギャップは，各部門間の金融取引によって調整される。実物面での投資超過部門は金融面からみれば資金不足部門であるから，投資超過に見合うだけの資金を外部から調達する。反対に実物面での貯蓄超過部門は金融面からみれば資金余剰部門であるから，貯蓄超過に見合うだけの資金を運用する。一方で資金の貸し付けがあれば他方には資金の借り入れが必ずあるはずであり，国民経済全体としては事後的には各部門の資金余剰額と資金不足額は等しい。国全体としての資金不足が海外部門からの資金借り入れによって調整される場合があるが，世界経済全体としてみればやはり資金の貸出額と借入額は等しい。

〔直接金融と証券市場*〕金融市場は資金の貸し手と資金の借り手を結びつけ，資金需給を調整する場である。この場合，資金の借り手である企業はその資金不足を補うために，株式*・社債*などの有価証券を発行し，資金の貸し手である家計はその資金余剰を運用するためにこれらの有価証券を購入する(日常用語では株式・社債の購入も投資とよんでいる。しかし今日の経済学の用語では，一般に機械設備・商品在庫・住宅などの実物資産の増加をもたらす経済活動を投資という。株式・社債など有価証券の購入は〈金融的投資〉という用語で区別する)。このような資金不足部門と資金余剰部門との直接的な資金調整を直接金融という。ここで民間経済に対して外部経済である政府部門を考えに加えると，中央政府および地方自治体の主たる収入は家計部門および企業部門からの租税であり，これを財源として公共目的のために支出する。財政収支は収入が支出を超過して資金余剰を生ずる場合もあり，反対に収入が支出に及ばず資金不足となる場合もある。資金不足の場合には，短期政府証券，または長期公債などの本源的証券を発行して，証券市場を通じて民間部門の資金余剰を吸収する。

〔間接金融と金融機関〕直接金融のほかに間接金融というルートがある。これは資金不足部門と資金余剰部門との間に金融機関が介在して行なわれる。すなわち，金融機関は一方では資金不足部門の発行する本源的証券，すなわち株式・社債の購入，または借り入れ証書と引き換えの貸し付けによって資金を供給し，他方ではそれ自身が預金証書・金融債などの間接証券を発行して資金余剰部門から資金を調達する。したがって，資金不足部門は資金余剰部門から金融機関を仲介として資金を調達することになる。そして資金不足部門は本源的証券を発行するか，金融機関からの資金借り入れに依存するかという選択を行なうことになる。また，資金余剰部門はその資金運用にあたって本源的証券か間接証券かという選択をすることになる。ところで金融機関は通貨という特殊の金融資産を供給する通貨創造機関と，それ以外の間接証券を供給する信用仲介機関に分けられる。

信用仲介機関の供給する間接証券には信託銀行の貸付信託証書や金銭信託証書，長期信用銀行の金融債，投資信託会社の投資信託証券などがある。信用仲介機関はこれらの間接証券を発行して，資金余剰部門から資金を吸収し，これを資金不足部門に貸付証書と引き換えに，あるいは株式・社債の購入によって，資金を供給するのである。ところが通貨創造機関である商業銀行*は，資金余剰部門から通貨を預託されて，当座預金*・普通預金*などの特別の間接証券を発行するばかりでなく，資金不足部門である企業の発行する本源的証券を基礎にして，すなわち手形貸し付けあるいは手形の割り引きによって資金を供給し，これを当座預金に振り込むという方法で，当座預金を創造することができる。当座預金はもともとはそれと引き換えに現金を引き渡すという債務証書である小切手の振り出しを可能にするものであるが，小切手は今日では通貨それ自身の役割を果たしているので預金通貨といわれる。そしてこれは振替決済が可能であり，必ずしも全額の現金準備を必要としないから，このように信用創造による通貨供給がある限度まで可能になったのである。また，預金通貨の基礎になる現金通貨の主要部分は中央銀行の発行する銀行券*であるが，かつて金本位制度*のもとではそれと引き換えに金を渡すという債務証書であったものが，現代の管理通貨制度*のもとでは債務証書それ自身が通貨の役割を果たしている。

銀行券の発行は，①金外貨の購入のほかに，②政府部門の発行する公債・短期証券の購入あるいは貸し付け，③民間金融機関への貸し付け，手形の再割引などによって行なわれる。通貨は取引のための交換手段としてばかりでなく，価値保蔵手段として貯蓄の一部の保有形態ともなっている。また，国民経済の外部にある海外部門との間に，貿易の決済のためにあるいは内外金利差や投機的利益の追求のために短期資金の流出入があり，また，事業投資・証券投資など長期資金の流出入がある。

資金の流れを概観するために資金余剰部門と資金不足部門を結ぶ金融取引から述べたが，なお，各部門内における金融取引もみのがせない。すなわち企業部門の内部でも，ある企業が他の企業の発行する株式・社債を購入することがあり，また企業が他の企業に対する売り上げ代金を売掛金*という債権にし，一定期間後まで現金の受け取りを延期し，いいかえれば資金を貸し付ける場合があり，これを企業間信用*という。企業が以上の諸方法によって投資資金で調達することを外部金融といい，減価償却積立金・社内留保などの自己資金によるものを内部金融という。家計部門は全体としてみれば資金余剰部門であるが，個々の家計についてみると資金不足のため借り入れを行なう場合がある。特に最近発達しつつあるのは消費者金融であるが，これは住宅建築資金，自動車など耐久消費財の購入資金を借り入れるものである。→消費者金融

〔短期金融市場と長期金融市場〕このような資金の貸し手と借り手との間の資金調整の場が金融市場であり，その需要は利子率いいかえれば金利の変動によって調整される。ところで前に述べたように，金融市場は単一のものではなく，したがって金利も単一ではなくて多様であり，一つの体系をなしている。

そこで金融市場は短期金融市場と長期金融市場とに分けられる。前者は短期資金の需給調整の場であり，後者は長期資金の需給調整の場である。企業の運転資金*は短期金融で，設備資金*は長期金融で調達されるのが原則であるが，実際にはこの両者は厳

金融機関の分類

日本銀行	
全国銀行	銀行勘定(都市銀行15・地方銀行61・信託銀行7・日本興業銀行・日本長期信用銀行・日本不動産銀行)
全国銀行	信託勘定(都市銀行のうち1行の信託勘定，7信託銀行の信託勘定)
中小企業金融機関	相互銀行・全国信用金庫連合会・信用金庫・商工組合中央金庫・全国信用協同組合連合会・信用組合・労働金庫連合会・労働金庫
農林水産金融機関	農林中央金庫・信用農業協同組合連合会・農業協同組合・信用

農林水産金融機関	漁業協同組合連合会・漁業協同組合・全国共済農業協同組合連合会・共済農業協同組合連合会
証券金融機関	証券金融会社・証券会社
保険会社	生命保険会社・損害保険会社
政府金融機関	日本開発銀行・日本輸出入銀行・国民金融公庫・住宅金融公庫・農林漁業金融公庫・中小企業金融公庫・北海道東北開発公庫・公営企業金融公庫・中小企業信用保険公庫・医療金融公庫・環境衛生金融公庫
政府	資金運用部・郵便貯金・簡易生命保険・郵便年金

(1970年末)

密に対応しているわけではない。長期資金を短期資金の借款の連続によって調達したり，その逆が行なわれることもある。一般的にいって資金の借り手は短期資金よりも長期資金を需要し，逆に資金の貸し手は長期資金よりも短期資金を供給しようとする。ここにおのずから，短期金利よりも長期金利がより高いという傾向が生まれてくる。短期金利と長期金利の開きをみて，借り手は長期の借り入れと短期の借り入れを選択し，同様に貸し手は短期の貸し付けと長期の貸し付けを選択する。

短期金融市場では，企業の運転資金，またその中の特定のものとして商社の運転資金が手形割引や手形貸し付けなどの方法によって供給される。また，金融機関相互の資金過不足の調整がコールローン*などによって行なわれる。そこに割引市場・コール市場が形成される。コール市場は短資市場ともよばれ，本来は必要に応じて迅速に回収できるコール資金の取引市場である。これらの市場には商業銀行・割引商・短資業者が参加する。このほか，広義の商業金融のうちで外国貿易取引に必要な資金の供給が貿易金融*とよばれる。これは輸出金融と輸入金融とに分かれ，また，自国通貨と外国通貨とを交換する必要が伴うから，外国為替(かわせ)金融という特別の金融取引が発生する。また，政府の必要とする短期資金の金融は大蔵省証券(政府短期証券*)・食糧証券などの発行・売買によって行なわれる。

長期金融市場では，主として企業の設備資金ならびに政府の必要とする長期資金が調達される。長期金融市場は長期貸し付け市場と証券市場に分けられる。長期貸し付け市場における資金供給は，長期信用銀行*・不動産銀行*・信託銀行*などによる長期の年賦償還貸し付け・定期貸し付けなどの方法で行なわれ，多くの場合，土地・建物・工場などが担保にされる。これらの金融機関の資金源泉は，金融債・貸付信託*など長期の資金の吸収によっている。証券市場*はすでに述べたように株式・社債・公債*などの市場であるが，発行市場と流通市場に分けられる。発行市場は企業が株式または社債を発行し，証券会社およびその他の金融機関が引き受けまたは応募する市場である。また，その中で公債・地方債・金融債などの発行をめぐって成立する市場を起債市場*という。これに対して既存の証券の売買の行なわれる市場を証券流通市場，または狭義の証券市場という。これは証券取引所を中心に発達している。これらの株式・社債・公債などは長期資金を供給するための要具であるが，証券流通市場が発達するといつでもこれを売買することが可能であるから，短期資金をもってこれを購入し，短期間ののちに売却して資金を回収することができる。このため，証券市場は短期資金と長期資金の交流の場となっている。➔証券市場

【民間金融機関と政府金融機関】日本銀行*はわが国の中央銀行として三つの機能をもっている。第1に発券銀行として，銀行券の独占的発行権をもつ。第2に銀行の銀行として，普通銀行はじめ市中金融機関の支払い準備機関ならびに集中決済機関としての機能をもっている。第3に政府の銀行として，政府預金の受け入れ，政府への貸し付け，国債の応募・引き受けなどを行ない，また，国庫金の出納，国債の発行・償還などの事務を取り扱う。そして後述のように金融政策の中心となっている。

次に各種の民間金融機関は短期金融機関と長期金融機関の二つに区分される。これは前述した通貨創造機関と信用仲介機関という区別にほぼ照応する。しかし，わが国ではこの両者は厳格に区分されてきたわけではない。普通銀行*(都市銀行*と地方銀行*)が主要な商業銀行*であるが，これらは短期金融だけではなく，明治初期以来中・長期金融にも進出しており，それが後進国であるわが国の産業の発達を助けたことは否定できない。また，日本の経済構造の中で近代化の遅れた部面である農業と中小企業のためには特殊の金融制度が設けられているが，相互銀行*・信用金庫*・信用協同組合*のような中小企業金融機関*および農業協同組合*のような農業系統金融機関も長・短両金融を取り扱っている。生命保険会社は保険料によって吸収した資金によって，長期金融機関として活動している。証券金融については証券金融会社*が専門であり，都市銀行もこれに参与している。外国為替については外国為替専門銀行*があり，ほかに都市銀行・長期信用銀行・地方銀行・信託銀行の中の特定のものが外国為替銀行として認可されている。以上のような民間金融機関と並んで，政府金融機関がある。これらは政策金融を目的としている。

第1には，国民経済的には重要でありながら，私経済的計算からは民間金融機関の融資を期待しえない場合，第2に道路・港湾・運輸・住宅などの公共事業への財政支出を補完するため，第3には大企業に対する融資に比較し，恵まれない中小企業分野や，農林漁業部門に対する融資などを目標としている。郵便貯金制度は明治以来の歴史をもつが，現在の政府金融機関には日本開発銀行*・日本輸出入銀行*などがあり，前者は地域開発など，後者は輸出入金融の補完を任務としている。また，国民金融公庫*・住宅金融公庫*・中小企業金融公庫*・農林漁業金融公庫*・北海道東北開発公庫*・公営企業金融公庫*・中小企業信用保険公庫*・医療金融公庫*・環境衛生金融公庫*があり，それぞれ中小企業・農業・住宅建設・庶民金融などを目的としている。これらの政府金融機関の資金源資は政府の財政投融資*による。

【金融政策】以上のような金融活動に対して，政府は貨幣供給量を調節し，直接あるいは間接に一国全体の有効需要の水準とその流れに働きかけ，物価の安定，国際収支の均衡，完全雇用の実現あるいは成長の持続というような諸目標を達成しようとする。ここで間接にというのは金利水準と金利体系の変化を媒介とすることをさしている。しかし，金融政策だけで以上の諸目標の達成が可能なのではなく，他の経済政策，特に財政政策との協調が必要である。中央銀行は商業手形の再割引をする条件，すなわち公定歩合とよばれる再割引率と，再割引適格手形の範囲を動かして商業銀行の信用創造力を調節する。わが国では金利水準をなるべく低位におくため公定歩合の引き上

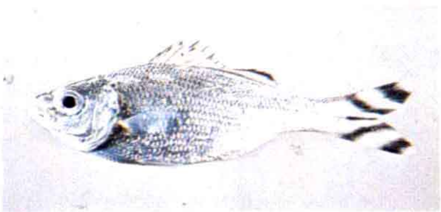
げをある限度にとどめて，それを補うために高率適用制度がとられた。これは日本銀行が取引先の金融機関ごとに一定の基準に基づいて貸し出しの限度を定め，その限度を越えるときに公定歩合よりも高率の割引率を適用する。また，これを補佐する意味で窓口指導とよばれる取引先金融機関に対する資金繰りその他の指導が行なわれる。

公開市場操作とは，中央銀行が公社債市場で政府短期証券や国債を売買し，その結果として銀行の支払い準備金を増減させ，銀行の信用創造力に影響を及ぼす政策である。公開市場操作は金利政策が受動的であるのに比較して中央銀行の主動性があるが，中央銀行と市中金融機関が操作に必要なだけの公債を保有していることが前提になる。日本銀行も公債の売買操作によって金融調節を行なうが，公社債市場が十分に発達していないので，公開市場ではなく，取引先金融機関との相対売買であり，したがってその売買価格は必ずしも市場の需給の実勢を反映していないという欠陥がある。銀行がある額の支払い準備を保有していることが，その信用創造活動の前提条件であるが，これを中央銀行に対する預け金として集中し，市中銀行の預金の中央銀行預け金に対する割合，すなわち，支払い準備率を法定し，これを変動させることによって市中銀行の顧客に対する信用保存を調節するのが支払い準備率制度である。本来は預金者保護を目的としたものであるが，今日ではむしろ金融政策の有力な手段として用いられている。わが国では準備預金制度とよばれている。また，戦時下などでは資金計画による金融統制が行なわれる。➔金利政策　➔割引政策　〔小泉　明〕

きんゆうきょうこう　【金融恐慌】　経済恐慌が特に金融面に集中して銀行預金の大量取り付けをひき起こし，支払い不能のために金融界が大混乱状態に陥ること。一般には1927年(昭和２)の金融恐慌をさしていう。第１次世界大戦中膨張したわが国産業界の経営内容は，戦後いっせいに悪化し，さらに1923年(大正12)の関東大震災は日本経済に甚大(じんだい)な打撃を与えた。1927年若槻(わかつき)内閣は企業および銀行の金融難から不良手形化しようとしている震災手形を処理するため，議会に震災手形処理に関する２法案を提出したが，その法案審議中，片岡蔵相の行なった不用意な答弁は，国民の間に金融界への不信を激発し，市中銀行の預金取り付け騒ぎとなり，たちまち金融界は混乱に陥った。政府は日本銀行の非常貸し出しと法案の議会通過でやっとその混乱をしずめることができたが，引き続き鈴木商店とその最大の貸付銀行となっていた台湾銀行の経営悪化が表面化したため，政府は緊急勅令をもって台湾銀行の救済を図ろうとした。しかし枢密院本会議で勅令法案は否決され，若槻内閣は総辞職。世情不安の中で，大命を拝して組閣した田中義一内閣は，勅令で３週間のモラトリアム(支払い猶予令)を敷き，その間適切な財政措置を進めて金融恐慌を切り抜けることに成功した。恐慌後預金は大銀行に集中し，弱小企業や銀行を整理しつつ金融界は再編成され，金融独占資本の支配が確立した。　〔高崎徳次〕

きんゆうこうこ　【金融公庫】　⇨公庫

きんゆうさい　【金融債】　金融機関の発行する債券。預金と並ぶ金融機関の資金調達手段であるが，長期金融を行なう機関によって発行される場合が多い。わが国で金融債を発行している機関は，日本興業銀行・日本長期信用銀行・日本不動産銀行・東京銀行・農林中央金庫・商工組合中央金庫などである。種類は大別して割引金融債と利付き金融債があり，割引金融債は満期１年で個人の消化が多く，年利8.34％程度で，利付き金融債は他の金融機関による消化が多く，年利8.76％程度である。〔速水　保〕



ギンユゴイ

きんゆうしじょう　【金融市場】　⇨金融

ぎんゆうしじん　【吟遊詩人】　中世フランスで，各地に自作の詩曲を吟遊した詩人音楽家たち。南フランスではトルバドール，北フランスではトルベールとよばれ，いずれもトルブール(発明者)から派生した名称。前者は，当時の南仏方言オック語で主として恋愛詩・牧歌のたぐいを，後者は北仏方言オイル語で叙事詩・叙情詩を，手風琴に似た小楽器の弾奏にのせて披露(ひろう)して回った。中でも南フランスの神秘的な恋愛詩は，広くのちに影響を及ぼし，ダンテもその影響の下にあった。　〔山口佳巳〕

きんゆうしほん　【金融資本】　資本主義経済が発達すると，生産の集中・集積から独占体が成長する。これに対応して，銀行業においても資本の集積が進み，独占的協定が結ばれ，銀行の独占的地位が強化される。一方，産業は増大する固定設備をまかなうために銀行から多額の長期融資を受けなければならなくなる。これが銀行と産業との融合の歴史的契機であり，銀行は積極的に産業に介入し，産業との結合・癒着(ゆちゃく)関係を強化していく。具体的には銀行から産業への融資，株式の所有，重役派遣による人的結合などの方法による。資本主義の独占段階におけるこのような巨大銀行資本と巨大産業資本の融合によって成立した独占資本を金融資本という。金融資本を独占資本主義段階の新しい資本の形態として最初に規定したのは，《金融資本論》を書いたヒルファーディングであり，彼は1870年代以降の帝国主義段階におけるドイツにその典型を見いだしている。

しかし，金融資本を単に銀行と産業との癒着・結合といった形態論からのみ把握(はあく)すべきでない。資本蓄積過程に内在する機能資本と貨幣資本との対立を独占資本主義体制的に克服し，交換のオールマイティーとしての貨幣の独占＝金融の独占によって個々の生産部門別独占の物的生産にまつわる生産物的限界を揚棄している点に金融資本概念の面目がある。最近のアメリカの独占的巨大企業にみられるように，設備投資資金の多くが自己金融に基づいていて銀行からの融資依存度は少ない，といったことから，金融資本概念を否定し，金融資本を単なる独占資本概念に矮小(わいしょう)化しようとするのは浅薄であろう。その自己金融的独占企業自体が銀行的機能を内包しているとみるべきだし，かつてヒルファーディングがドイツについて考察した古典的形態とは異なってはいるが，自己金融の地盤の上に国債や株式などの有価証券保有を軸とした銀行と産業との新しい結合形態が生じてきていることも忘れてはならない。　〔常盤政治〕

きんゆうせいさく　【金融政策】　⇨金融

きんゆうとうけい　【金融統計】　金融市場に関する諸統計の総称。通貨(現金通貨・預金通貨)，貨幣市場(日銀貸し出し・コール資金)，資本市場(公社債市場・株式市場)，金利(公定歩合・預金金利・貸し出し金利・公社債利回りなど)，企業(産業資金)，外国為替(かわせ)相場，国際金融などに分かれる。このうち，日本銀行の発表する現金(日銀券)需給バランス・マネー-サプライ分析(通貨増減要因分析)などは，短期の金融市場の動きをみるうえで特に重要である。　〔速水　保〕

ぎんゆごい　【銀湯鯉】　硬骨魚類・ユゴイ科。全長30cmほどに達する海産魚。体はやや細長くて薄く，うろこは大きい。背はやや青く，他は全身銀白色に輝く。尾びれに黒色の斜めじまが鮮明。熱帯性で，中部日本・沖縄から，ミクロネシア・ポリネシア・ガラパゴス諸島・メキシコ沖などに広く分布する。３～10cmほどの幼魚は，夏季に中部日本以南の潮干帯にごく普通に見られる。

きんゆほう　【均輸法】　中国，漢代と宋

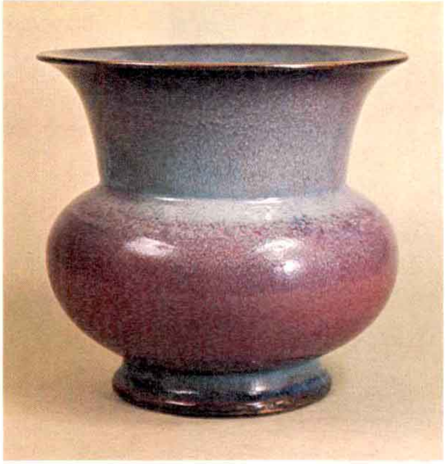
(そう)代に行なわれた経済政策。①前漢武帝のBC110年桑弘羊(そうくよう)によって実施。内容的には次の二つの側面をもっていた。㋑郡国諸侯から貢献される地方特産物は，品物の必要度や輸送の難易などによって負担が不均等であり，弊害が多かったので，それを是正するため比較的均等な布帛(ふはく)などを生産させ，それに換算して納入させる。㋺そうした商品物貨を不足している地方へ転売して，その利潤を国庫に入れる。この法は後漢の初めまで形の上では残っていた。②宋の王安石*によって1069年に新法の一つとして実施。国都へ納入する膨大な物貨は品目・数量がしだいに固定化し，その徴収・運搬・消費について寄生的大商人の私腹を肥やすことになった。王安石は国都と揚州(江蘇(こうそ)省)の発運使(出先官庁)に密接に連絡をとらせ，中央の消費と江南の生産の均衡をとり，余分の物貨は地方に回して商品流通を図った。しかし，大商人の反対を受けてまもなく廃止された。〔梅原　郁〕

きんよう　【均窯】　中国，宋(そう)代に河南省臨汝(りんじょ)県にあったかまで焼かれた陶芸。宋代諸窯のうち世界的に最も有名なものの一つで，厚い素地に失透性で天青色の釉(うわぐすり)が厚くかかり，東洋では珍しくはでな作風を示す。釉は青藍(せいらん)色のほか，青白色・青色・黄かっ色・暗かっ色と変化し，これに紫・赤・藍(あい)などの斑文(はんもん)が加えられている。

ぎんようじゅ　【銀葉樹】　双子葉植物・ヤマモガシ科。南アフリカ原産の常緑高木。はち植えにして観賞し，冬は温室で栽培。高さは5～7m。葉は互生し，披針(ひしん)形，革質で，枝に密生する。葉の両面に銀白色の絹毛が密生。雌雄異株。花は黄色の小花で，枝先に松かさ状に密生する包に1花ずつ包まれる。花弁はない。観賞用のほか，乾燥した葉を装飾用とする。

きんようわかしゅう　【金葉和歌集】〈八代集*〉の一。第5番めの勅撰(ちょくせん)和歌集*。10巻。白河(しらかわ)法皇の命により，源俊頼*(としより)が撰進。3度の奏覧を経て，ようやく1126～1127年(大治1～2)に嘉納(かのう)された。最初の本を初度本，次を二度本，3度めを三奏本というが，もっぱら二度本が普及している。二度本の歌数は短歌659首・連歌18首。革新的な歌人俊頼の個性を反映して，斬新な技巧を駆使した清新で印象的な歌風を特徴とする。連歌部の新設も勅撰集初の試みであった。〔加能重文〕

きんよくしゅぎ　【禁欲主義】　肉体的欲望を悪の根源または悪自体と考え，欲望をできるだけ抑制して道徳的理想や宗教的理想に到達しようとする思想。古代ギリシアのピタゴラス派・キュニコス派*・ストア派*などのほか，仏教やキリスト教などにもみられる。宗教的立場から魂の浄化を教えたピタゴラス派に対し，キュニコス派では，倫理的観点から，強い意志で欲望を抑制することによってなにものにもとらわれない有徳の生活，すなわち，幸福な生活が実現されるとし，社会を離れて自然に従った生き方を理想とした。ストア派でも，人間は宇宙のロゴス(理性)を内に分有しているのであるから，欲望や快楽を意志によっておさえ，ロゴス(理性)に従って生きる生き方こそ賢者にふさわしいと説いた。仏教の八正道やキリスト教の修道院の戒律も肉体的欲望の抑制や解脱によって真の浄福に至ることを教えている。〔本橋正義〕



均　窯《紫紅釉花盆》



キンラン

きんらいふうたいしょう　【近来風体抄】　二条良基*(よしもと)の歌論書。1387年(元中4・嘉慶1)松田丹後守(たんごのかみ)貞秀(さだひで)に与え，さらに翌年弁内侍(べんのないし)(→弁内侍日記)にも贈ったもので，書名は藤原俊成*(としなり)《古来風体抄》に対した。当時の代表歌人，為明・為忠(ためただ)・為秀・頓阿*(とんあ)・慶運・兼好*らの歌壇活動や歌風を評し，本歌取り*・題詠・制詞を説くが，その所説には頓阿の影響がうかがえる。細川幽斎が本書を尊重したので，後世に広く流布した。〔奥野純一〕

きんらん　【金蘭】　単子葉植物・ラン科。山や丘陵地の木陰にはえる多年草。茎は40～60cmで直立。葉は長楕円(ちょうだえん)状披針(ひしん)形。花は黄色で4月末～6月初めに咲き，3～12個が横向きにつく。

ぎんらん　【銀蘭】　単子葉植物・ラン科の多年草。山の木陰にはえ，茎は直立し，20～40cm。葉は楕円(だえん)形。5月に白い花が3～10個茎頂につく。ササバギンランは包が線形で，下部の1～2個は一般に花序より長くなる点がギンランと異なる。

きんらん・ぎんらん　【金襴・銀襴】　金糸または銀糸を織り込んで文様を表わした織物。地組織には平地・綾地(あやじ)・繻子地(しゅすじ)などがある。金銀糸には平金銀糸と撚(より)金銀糸とがあり，前者は漆を引いた紙に金銀箔(きんぎんはく)をはって細く切ったもの，後者は絹糸をしんにして金銀線あるいは平金銀糸を巻きつけたものをいう。ヨーロッパの金銀糸が金銀の薄板を細く切っただけであるのに対し，台に紙を用いる技法は中国で始められた技術と考えられている。金糸を織り込んだ綴錦(つづれにしき)の遺品は正倉院御物の中にもみられる。金銀糸を織物に使用することは，少なくとも唐代に始まっていると考えられるが，主として金糸によって文様を織り出す，いわゆる金銀襴は宋(そう)代に織り始められたものと考えられている。わが国の外来染織品である名物裂*(めいぶつぎれ)の中には宋・元以後のすぐれた製品が数多くみられる。金銀襴は地組織によって区別されるほか，地絡(じがら)み・別絡みの違いによっても分類され，さらに地緯(じぬき)一越おきに金銀糸が織り込まれた全越(まるこし)と，地緯二越おきに金銀糸のはいった半越との別がある。金銀襴では，一般に三枚綾地・地絡み・全越のものが時代が古いとされている。〔勝呂小枝〕

きんらんちょう　【金襴鳥】　鳥類・キンパラ科。アメリカ合衆国東北部から西部地方にかけ分布する小鳥。わが国には大正時代に輸入され，巣引きの記録もある。大きさはカナリア大。繁殖期の雄は，くちばしから頭部にかけてと，胸の下方，腹部が黒色を呈し，その他は濃い黄赤色のはでな色彩になる。非繁殖期は野生のヒバリに似る。尾は短い。粒餌(つぶえ)を中心に飼うが，生のえさを好み，ときどき虫を給与する必要がある。繁殖させるには広い禽舎(きんしゃ)に収容し，虫を多給しなければならない。〔石島芳郎〕

きんらんで　【金襴手】　陶磁器の装飾技法の一。上絵付(うわえつけ)を施した器表に，さらに金箔(きんぱく)を置いて文様を焼き付けたもの。名称は，上絵の絵の具と金箔との配色が金襴*に似ていることに由来する。中国では戧金(そうきん)といい，宋(そう)代に遺例がみられるが，明朝(みんちょう)嘉靖(かせい)期の金襴手は，薄手の精巧な地文様，あるいは華麗で色彩のはでな色地の上に繊細な金箔を施して気品が高い。わが国では京焼*や九谷焼*(古九谷)に行なわれた。〔矢部良明〕

きんり　【金利】　実物資産の収益率である実物利子率に対して，貨幣資産を含む金

融資産の収益率である貨幣利子率をいう。ケインズ*の流動性選好説*によれば貨幣を手放して債券を保有する代償として貨幣利子が与えられるとしているが，一般にはあらゆる資金の利子率の意味に用い，したがってあらゆる金融資産の収益率の意味に用いる。この意味では資金(貨幣)を一定期間貸し付けて，その代わりに金融資産を買い入れれば，その代償として与えられるものが金利である。この金利は金融市場で公定歩合*，コールレート，商業手形の割引歩合，預金金利，貸し出し金利，債券および株券の利回りなどの形で一つの体系をなしていて，それらの金利の高さの差は，それらの金融資産の取引費用と危険費用の差を表わしている。なお，公定歩合・標準金利*・国債利回りなどの一国の代表的な金利を基準金利という。

現在，わが国の市中金融機関の金利は1947年(昭和22)12月に制定された臨時金利調整法によって規制されている。それ以前は，法律上は利息制限法(1877年制定)があるのみで，銀行間の自主的協定として現金金利協定・貸出金利協定があったが，第２次世界大戦後私的独占の禁止および公正取引の確保に関する法律が施行され，同法違反の疑いが強く(独占禁止法*)金利協定は廃止され，臨時金利調整法が制定された。規制される金利の範囲は，預金・貯金の利子，定期積み金・無尽掛け金の利回り，法定金銭信託の予定配当，貸し付けの利率，手形の割引率，当座貸し越しの利率，コールレートおよび有価証券の引き受け料・もどし料，その他これに準ずるものである。ただし，現在は期限１年以上の貸し出し，１件100万円以下のものには適用していない。大蔵大臣は必要と認めるとき日本銀行政策委員会にこれらの最高限度を設定・変更または廃止させることができる。

〔小泉明・速水保〕

きんりせいさく　【金利政策】　中央銀行や大蔵省などの金融政策当局が，金利水準あるいは金利体系を政策的に変更することによって，通貨の供給量あるいは流動性の量に影響を与え，その結果として有効需要の水準やその各構成部分に変化を与えて，物価の安定，国際収支の均衡，完全雇用の実現，高度経済成長の持続など，与えられた目標を達成しようとするものである。狭義では中央銀行が市中機関に対して手形再割引や手形貸し付けなどを行なうときに適用される金利，いわゆる公定歩合*を変更する政策，すなわち公定歩合政策をさす。中央銀行の貸し出しは商業手形の再割引が中心であったから，割引政策または再割引政策ともよばれる。

〔低金利政策〕有効需要が不足し，生産設備の稼働率(かどうりつ)が下がり，失業が発生しているような時期に，公定歩合の引き下げ，買いオペレーション，法定支払い準備率の引き下げなどによって，民間投資を刺激しようとするもの。また，公債の利子負担軽減を目標として政府が推進する場合もある。わが国が第２次世界大戦後とってきた低金利政策は企業の金利負担を軽減し，国際競争力を強化するのが目標で，政策的に資金の割り当てが行なわれた。日本銀行の窓口指導もその一環であった。わが国の高度成長は低金利政策と財政均衡主義ないしは財政黒字主義によってささえられてきた。

〔高金利政策〕過度の投資や投機が行なわれ，物価が上昇し，インフレーションの進行の危険がある場合にこれを抑制するために，政策当局が公定歩合を引き上げ，売りオペレーション，法定支払い準備率の引き上げなどの政策を行ない，有効需要の増大をおさえる。この有効需要の増大を抑制する結果は国際収支の変化を防ぐばかりでなく，国際的に金利が割高になると短期資金が流入して国際収支も改善される。しかし，場合によってはそれが国内の金融を緩和し，金融引き締めという政策目標を乱すおそれもある。この意味でも景気抑制には高金利政策よりも，財政黒字政策をとるべきだという主張もある。この場合には為替(かわせ)相場の切り上げも考慮すべきであろう。

〔小泉　明〕

きんりゅう　【禽龍】　⇨イグアノドン

きんりょうき　【禁漁期】　主として資源保護の目的から，ある特定水産生物の漁獲を禁ずる一定の期間。この目的が効果的に達成されるためには，禁漁期以外の期間でも，漁船数や漁具数が増加しては意味がなくなる。したがって，総漁獲高の制限といった規制と合わせて実施することによって効果が得られる。一般に，資源の再生産と関連して，その種の産卵期を禁漁期にあてたり，目的物の成長の度合いと見合う禁漁期を設定する場合が多い。　〔石野　誠〕

きんりょうく　【禁漁区】　資源を保護するなどの目的で，ある特定の海域での，水産生物の採捕を禁じている海域。漁業規制をする場合，その水産生物の産卵期，あるいは稚子期を選ぶことは効果的である。禁漁区の設定は，かなり長期間にわたる場合もあるが，年間数回に分けて実施する場合，さらに，年によっては禁漁区を設けない場合もある。南氷洋捕鯨業の例，北洋サケ－マス漁業の例にみるように，国際的に禁漁区が設定されることもある。〔石野　誠〕

きんりょうく　【禁猟区】　1963年(昭和38)に廃止された野生鳥獣の保護区域。1897年(明治30)に制定・公布された狩猟法(現在の〈鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律〉の前身)に基づいて設定され，1963年まで67年間国民と関係の深い区域であった。1950年に制定された鳥獣保護区*に引き続き，1963年に休猟区*が制定されるに及び廃止された。



ギンリョウソウ

ぎんりょうそう　【銀龍草】　双子葉植物・イチヤクソウ科。ユウレイタケともいう。山の木陰にはえ，腐ったものから菌根*で養分をとって生活する腐生植物。全体が銀白色で葉緑素がなく，かわくと黒色になる。高さ10～20cm。うろこ状の葉があり，夏に茎の先に下を向いた花を一つつける。

きんりょくせき　【金緑石】　クリソベリルともいい，黄色または緑色の宝石。$BeAl_2O_4$　斜方晶系。比重3.7～3.8，硬度8.5，屈折率1.74～1.75，劈開*(へきかい)明らか。六角板状の結晶で偽六方の双晶をなすことが多い。ダイヤモンド・コランダムに次いでかたい。曇って，乳光を呈し，暗やみでネコの目が光るように帯状に光るものがある。この曇りは微細な空洞(くうどう)が数多く存在するためである。ブラジル・セイロンなどが主産地で，砂鉱やペグマタイト・結晶片岩中に産する。猫目(ねこめ)石*・アレキサンドライト*はそれぞれ特徴のある宝石で，ともにキンリョク石に属する。〔加藤敏郎〕

きんりんきゅうぼうかせいさく　【近隣窮乏化政策】　国際収支の改善，雇用水準の維持または増進を図るために自国の輸出促進・輸入削減を実施し，他国の内外均衡については考慮を払わない政策のこと。具体的には平価切り下げ，高率輸入関税の賦課，為替(かわせ)管理，輸入割り当て制などの政策が実施される。自国にとっては，輸出の増大によって有効需要を増進することができるが，それは他国の犠牲において行なわれる非善隣的な政策である。このため，必ず他国の報復的政策をひき起こす。その結果，貿易障壁が増大して国際貿易の規模の縮小を招き，結局有効需要水準も自由貿易が実施された場合に比して全体的に低くなる。1930年代の世界的不況期に，不況を切り抜けるために各国で一国内均衡実現を中心に実施されたが，結果的には国際貿易の縮小，不況の拡大を招いた。　〔唐木圀和〕

きんるい　【菌類】　広義には細菌類*・変形菌類*・真正菌類*が包括される。狭義には真正菌類のみをさす。この三者は，それぞれ形態的にも生活様式でも多様性があって定義づけることはむずかしいが，いずれも他養的な生活をすることが一致する(細菌類の一部を除く)。すなわち，それら自身で

は有機物を合成することなく，他の生物体の生体・死体・排泄物(はいせつぶつ)を摂取して生活する。活物寄生生活型・腐生生活型・共生生活型がある。真正菌類は一般にいうかび・酵母・きのこをさし，分類学的には藻菌(そうきん)類・子嚢菌(しのうきん)類・担子菌類・不完全菌類をいい，おおよそ50,000種が含まれる。形態的には多様な有性器官・無性器官があり，それによって形成されるさまざまな形の胞子によって繁殖する。生活様式は上記のように多様性があり，生態分布の面からみても，熱帯地方・極地・空中・水中・土中ときわめて広範囲である。人に直接・間接に利用されるもの，有害なものなどいろいろの種類がある。〔曽根田正己〕

きんれいちょう 【金鈴鳥】 ⇨ゴシキヒワ

きんれんか 【金蓮花】 双子葉植物・ノウゼンハレン科。南アメリカ原産のつる性多年草で，園芸上では一年草として栽培される。➔ノウゼンハレン

きんれんじ 【金蓮寺】 ⇨こんれんじ

きんろうかんしゃのひ 【勤労感謝の日】 国民の祝日*の一。11月23日。〈勤労をたっとび，生産を祝い，国民が互いに感謝し合う〉という目的で，1948年(昭和23)の〈国民の祝日に関する法律〉で定められた。以前は，この日を新嘗祭*(にいなめさい)といい，天皇が新穀を天神地祇(ちぎ)に勧める祭りが行なわれ，また新穀を食される儀式が行なわれ，旧制祭日の一として国民も休業して祝意を表わした。

きんろうけん 【勤労権】 労働権ともいう。労働能力をもち，その意志のある者が必ず就労することのできる権利であり，もし就職できない場合は労働の機会の提供もしくは相当の生活費の給付を国に対し要求できる権利をいう。勤労権の完全な保障は社会主義国家のもとでのみ可能であるとはいえ，勤労権を保障する日本国憲法27条を単なる政治綱領を示す〈プログラム規定〉と解し，その裁判規範性を否定するのは正しくない。その規範内容にふさわしい社会施策の実施を保障する立法を要求することのできる具体的な法的権利といえよう。

〔大須賀明〕

きんろうせいしょうねんきょういく 【勤労青少年教育】 現に職業についている青少年に対する教育。定時制高等学校・勤労青年学級，同業組合・青年団体などの実施する講座・講習会・学習会が広範な教育内容を多様な教育方法・場所で行なっている。これらの機関・組織・集団の教育・学習活動をことさらにこのことばで包括的に表現するのは，勤労青少年の動向がわが国の経済政策，特に労働力政策と深いかかわりをもつところからである。これと類似の傾向は，第2次世界大戦前において，実業補習学校が小学校卒業後の12歳から15歳までの勤労少年に公民・職業教育を，次いで16歳から20歳までの勤労青年に，軍事的要請と思想善導の必要から青年訓練所が公民・職業教育，さらに軍事教練を，そして1935年(昭和10)以降これらの二つの教育機関の役割と施設を統合して，義務制の青年学校*を設置し，教育の国家主義的・軍国主義的再編成を推し進めていった歴史にみることができる。

なお，現在の勤労青少年教育の問題は，①産業構造の再編成計画を基底とした労働力の流動化政策の必要，②技術革新に伴う技術水準の高度化，それぞれの職業に必要な情報量の増大に伴う企業の側からの職業技術教育への要求，③勤労青少年の離転職率の増大，④青少年非行や逃避的・退廃的現象の一般化に対する危機意識などから生まれてきたということができる。このような状況をふまえて，勤労青少年教育政策としては，後期中等教育制度を再編成することによって，すべての勤労青少年をいずれかの教育機関になんらかの方法で義務就学させようと意図している。 〔山崎昌甫〕

きんろくこうさい 【金禄公債】 明治維新以来華族*・士族*および平民の一部に支給した家禄(➔家禄制度)・賞典禄*(維新功労者に支給)を公債*にかえて一時に交付するため，1876年(明治9)8月5日明治新政府は金禄公債証書発行条例を公布，これに基づいて1877年発行した公債。家禄・賞典禄ははじめ米で支給されたが，1875年以降は貨幣で支給する金禄制に改めた。しかし，金禄となってもその支給額は政府歳出の3分の1から4分の1を占めたため，この封建的禄制の廃止は緊急必要事であった。条例によれば，家禄の種類(永世禄・終身禄・年限禄)により，また家禄の多少に応じて数年から10数年分に相当する金額を額面として表示し，償還方法は元金5年間すえ置き，6年めから毎年抽選で償還するが，完了は30年後(1906年完了)，利子は5分から7分で高禄者ほど低く小禄者ほど高かった。

政府は同日第109号の布告で，金禄公債を抵当や質に入れること，売買することを禁止したが，低額公債を受け取った者はまもなくこれを手放して没落し，高額受給者はこれをもとに諸企業の創立に参加するなど，日本における資本の原始的蓄積に大きく関係した。受給者約31万3,000人，金額は約1億7,400万円で，当時の歳出の3倍以上であった。交付された公債に関して，政府に不服の申し立てをしたものは，償還完了の前年の1905年までに12万2,000件以上もあった。金禄公債による秩禄処分*は，帯刀禁止令*とともに士族の封建的特権をまったく奪い，失意の不平士族を神風連の乱*，萩の乱*，秋月の乱*，西南戦争*など一連の反乱や自由民権運動*に走らせた。 〔千野境子〕

く



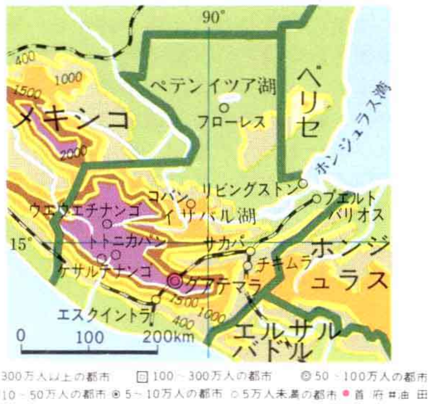
グアダラハラ　市の中央広場にあるカトリックの寺院。スペイン文化を伝える建築や彫刻のすぐれた寺院が多い

く　【区】　地方公共団体で一定限度の自治権が認められる自治区と，行政事務処理のために地方自治法によって設定された単なる行政区画にすぎない行政区とがある。自治区に属するものとしては，特別区*のほかに財産区*がある(いずれも特別地方公共団体)。行政区に属するものとしては指定市とよばれる大阪・京都・名古屋・神戸(こうべ)・横浜・北九州・札幌・川崎・広島の9市があり，それぞれ区が設けられている。

く　【句】　言語単位の一種。①山田孝雄(よしお)の文法論で，文の要素としての単位。句が実際に適用されて文となる。1個の句からなるものを単文，2個以上の句からなるものを複文とよぶ。②時枝誠記*(もとき)の文法論で，詞・辞の結合したものを句とよぶ。これは結果的には，文節・連文節に相当する(→詞・辞)。③英文法におけるフレーズの訳語。文を構成する一部分であるが，節*(クローズ)が，その内部に主語・述語の関係を含むものをさすのに対して，そのような関係を含まないものをいう。なお，句は，文法用語としてでなく，一般的に，次のようにも用いられる。④日本の韻文で，5音節または7音節の一まとまり，または，その組み合わせ。〈第1句〉とか，〈下(しも)の句〉などのようにいう。⑤2語以上が連なってまとまった意味を表わすものの総称。慣用句・対句などはその用例。〔市川　孝〕



グアテマラの国旗　1871年制定。かつて所属していた中央アメリカ連邦の青・白・青の帯を用い，青は理想，白は平和を表わす。中央の紋章には〈1821年9月15日独立す〉ということばと，剣と銃の上に捕えられるとすぐ死ぬといわれる国鳥ケツァールが自由のシンボルとして描かれている



グアテマラ

く　【苦】　身心を悩ます状態。梵語(ぼんご) duḥkha(ドゥフカ)の訳。仏教の根本真理である四諦(したい)の中心概念とされる。のちに生・老・病・死の四苦，愛別離苦・怨憎会苦(おんぞうえく)・求不得苦(ぐふとくく)・五陰盛苦(ごおんじょうく)の四つを加えて八苦などが数えられた。→四諦(したい)　八正道

く　【矩】　月または惑星が，地球から見て天球上で太陽より90°離れたとき，正確にいえば月または惑星と太陽の黄経の差が90°または270°になったときをいう。地球の軌道の内側を公転する内惑星*には，矩は起こらない。→上矩　→下矩　→合

クァジーモド　［Salvatore Quasimodo］(1901～1968)　イタリアの詩人。はじめ土木建築関係の仕事に従事したが，その後高校の文学教師などをつとめながら詩作に転じた。中期の詩集《そしてもうすぐ夕暮れがくる》には神秘への憧憬(どうけい)が強いが，第2次世界大戦後，戦争の悲惨の凝視から抵抗詩・社会詩へと進み，《来る日も来る日も》などを書いた。戦闘的詩論集に《詩人と政治》がある。1959年ノーベル賞を受賞。

グアダラハラ　［Guadalajara］　メキシコ中部，標高約1,500mの中央高原の都市。人口145万6,000(1970)。メキシコシチーに次ぐこの国第2の都市で，スペインの植民地時代に銀の鉱山都市として発達した。現在は付近の農産物の集散地として栄え，中部高原の交通・商業の中心地。ガラス工芸・陶器などの手工芸は古くから有名であるが，今日では近くのファナカトラン滝を利用した水力発電所の電力を得て，製粉・織物などの工業都市としても発展してきた。
〔小栗　宏〕

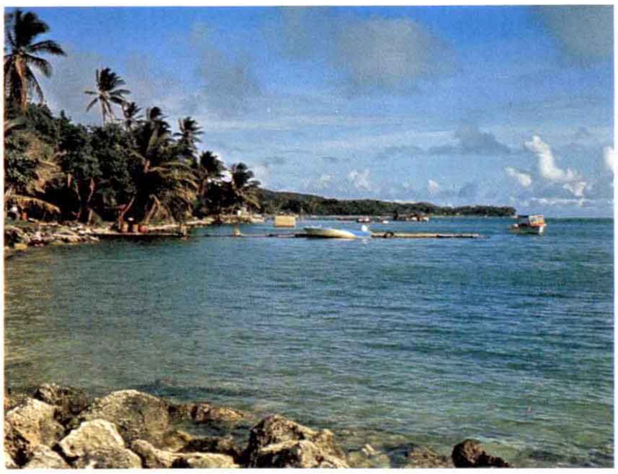
グアダルキビル(川)　［Guadalquivir］　スペイン南部，アンダルシア地方を貫流する川。全長約600km。スペイン南部のサグラ山に発し，西流してカジス湾に注ぐ。農業用水としてよく利用され，アンダルシアの肥沃(ひよく)な沖積(ちゅうせき)平野を潤すほか，上流の山中では発電にも利用されている。大形の汽船はセビリアまで，小舟はさらに上流のコルドバまで航行している。

グアテマラ(共和国)　［Republic of Guatemala, República de Guatemala］　中央アメリカにある共和国。北・西はメキシコ，東はベリセ・ホンジュラス・エルサルバドルに接する。首都グアテマラ。面積10万8,889km²，人口705万(1979年推)。

〔自然・住民〕国土の大部分は北方のユカタン半島から続く低い台地で形成され，東部はわずかにカリブ海に面し，中部はロッキー-アンデス山系が東西に走ってその中に高原・盆地をいだき，南部は太平洋に面して海岸に平野がある。年降水量は900～1,300



グアテマラ　(左)グアテマラ政庁とその前の広場。首都の中心部は街路も広く，よく整備されて，中央官庁が建ち並ぶ　(右)首都グアテマラの市場風景。近郊の農村から野菜やくだものが運び込まれ，客をよんでいる。色どりのあざやかな民族衣装もおもしろい



グアム島　メリゾ公園の海岸。全島の海岸は隆起サンゴ礁に取り巻かれて美しく，観光客や海水浴の客でにぎわう

mm前後あり，低地が暑く住みにくいこともあって，住民は高原の盆地に集中している。南部の海岸平野は熱帯森林におおわれる。住民の3分の2をインディアンが占め，ほかにヨーロッパ人とその混血がいる。国語はスペイン語，宗教はカトリック。国民の62%は文盲。

〔産業・経済〕国土の4分の3は森林なので農耕地は14%にすぎず，その大部分は南部の高原に集中し，自給作物のトウモロコシと，国家の輸出総額の70%を占めるコーヒーがつくられる。北部海岸低地の熱帯森林では，原住民がチューインガムの原料となるチクル(→サポジラ*)などの林産物を採集しているにすぎないが，南部平野では森林を開拓してバナナのプランテーションがつくられ，アメリカ合衆国の果実会社が経営している。南部には一部に熱帯草原気候を示す所があり，そこではウシの放牧が行なわれる。プランテーションの中には第2次世界大戦後，アバカの栽培に切り替えられた所もある。

〔歴史・政治〕6～10世紀にはマヤ文明*が栄えたが,16世紀から約300年にわたってスペインに支配された。1821年中央アメリカ連邦がこの国を中心に結成されて，スペインから独立したが，1838年連邦を解体して各国が独立するとともに,この国も単独で共和国となった。大統領を元首とする共和制をとり，一院制の議会をもつが，1963年軍部のクーデター以後憲法は停止されている。再三にわたる軍部のクーデターが元首を交替させ，政情は不安定な状態が続いている。〔小栗　宏〕

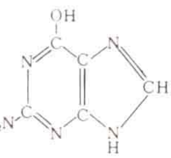
グアテマラ [Guatemala] グアテマラ共和国の首都。人口73万(1970)。同国の政治・経済・文化の中心地。熱帯に位置しているが，市街は1,300mの高原にあり，1年じゅう涼しくて過ごしよい。周辺はこの国の主要な農業地帯で，コーヒーをはじめ，果実・トウモロコシを多く産出し，その集散地となっている。また農産加工・皮革・繊維・セメントなどの工業を行なうこの国第1の工業都市でもある。パンアメリカンハイウエーが通過し，近郊の国際空港とともに，国際交通の要衝である。1917～1918年の大震災では市街の大部分が破壊されたが，その後復興されて美しい近代的なビルが建ち並んでいる。〔小栗　宏〕

グアドループ(島) [Guadeloupe] 西インド諸島東部，リーワード諸島中の島。フランス領。総面積1,778km²，人口32万3,000(1969)。リーブル-サレ海峡で隔てられた二つの島からなる。西のバステール島は多雨で密林におおわれ，休火山サフリール山(1,474 m)がある。海岸の平地でバナナ・コーヒー・サトウキビ・カカオを産する。東のグランテール島はサンゴ礁の石灰岩台地で，乾燥し，サトウキビと果実酒を産する。住民はフランス系の白人と黒人の混血のムラート。1493年にコロンブスが発見し，1816年からフランス領になっている。〔大崎　晃〕

グアナコ [guanaco] 哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ラクダ科。肩高95cmほどで，四肢(しし)や首は細長い。体は羊毛状の毛でおおわれ，背面は暗い黄かっ色，腹面は白色。南アメリカのペルーからパタゴニアまでの山地や半砂漠(さばく)地帯に生息し，おもに草を食べる。従来，アルパカ*の野生種とされたが，別種である。

グアニルさん【グアニル酸】 GMP(guanosine monophosphateの略)ともいう。グアニン*にリボースがついたグアノシンのリン酸エステル。核酸の構成成分の一。しいたけのだしじるのうま味の主成分とされ，そのナトリウム塩が総合調味料に混ぜられて市販されている。

グアニン [guanine] 2-アミノ-6-オキシプリン。核酸の構成塩基であるプリン塩基の一。19世紀中ごろにグアノ*中より発見され，その後核酸の加水分解物中に見いだされた。



グアノ [guano] 鳥やコウモリの糞(ふん)が堆積(たいせき)したもの。乾燥地方ではばくだいな量に達することがあり，ペルー沖の島では20年間に900万tに達したという。リンや窒素などの肥料分に富むので，肥料として利用される。降水量の多い地方では分解されてリン分だけが残り，サンゴ礁島などではそれが石灰分と結合して大量のリン鉱*を形成していることがある。

グアム(島) [Guam] 西太平洋，マリアナ諸島*中最大の島。北緯13°26′,東経144°43′に位置し，アメリカ合衆国領。面積541km²。人口87,000(1970)。貿易風帯にあり，夏は高温多雨で，台風が多い。トウモロコシ・サツマイモ・タロイモ・キャッサバ・バナナ・メロン・パパイア・パイナップルを産する。住民はミクロネシア人のチャモロ族で，スペイン人やフィリピン人との混血が多い。1521年マゼランが発見した。1565年マリアナ諸島のほかの島々とともにスペイン領となり，1898年のアメリカ-スペイン戦争*後アメリカに譲られた。第2次世界大戦中の1941年(昭和16)12月には日本が占領したが，1944年7月アメリカ軍によって

奪回された。全島の3分の1がアメリカ空軍の基地になっている。〔大崎　晃〕

グアヤキル［Guayaquil］エクアドル共和国西南部の港市。人口86万1,000(1972)。この国最大の都市で商工業の中心をなし，首都キトの外港でもある。カカオ・コーヒー・綿花・サトウキビなどの農産物の加工が盛んで，皮革工業がこれに次いでいる。かつて黄熱病*の多い地域であったため，野口英世(ひでよ)もここを研究地にしていたが，いまではほとんど消滅した。

グァラーチャ［Guaracha］キューバに生まれたダンス音楽の一。起源は19世紀初めにあるといわれるが，1940年代からキューバで最も好まれるダンス音楽となった。リズムは2分の2拍子で黒人色が強く，テンポは速め。一般に，終曲部で同じフレーズ，同じ歌詞が何度もくり返される。演奏や三重唱で演じられ，代表的な楽団はソノーラ-マタンセーラ，曲目では《エル-クンバンチェロ》が有名。

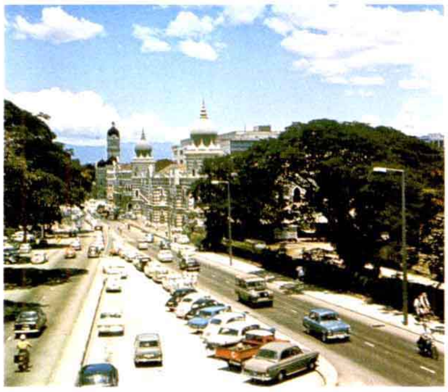
クアラルンプール［Kuala Lumpur］マレーシア連邦の首都。人口45万2,000(1970)。マライ半島西岸に位置し，政治・経済・文化の中心地である。市街は熱帯植民都市の典型で美しく，マライ人・華僑(かきょう)・インド人・ヨーロッパ人などがそれぞれ別個の居住区域を形成し，複合都市の特色をよく示している。郊外ではゴム栽培が盛んであり，また近くにスズ鉱山がある。

グアリニ［Guarino Guarini］1624～1683）イタリアの建築家。その建築は盛期バロックの後期に属し，ベルニーニ*・ボロミーニによって展開されたイタリア-バロック様式を頂点に導いた。

グアルディ［Francesco Guardi］(1712～1793）イタリアの画家。ティエポロ*の影響を受け，はじめは宗教画・風俗画の小品を描いたが，その本領は師のカナレット*と同様に水郷ベネチアの景観を数多く描いたことにある。大気や光のうつろいを画布に写すその印象主義的手法は，イギリスの風景画家コンスタブル*・ターナー*らの先駆とされる。



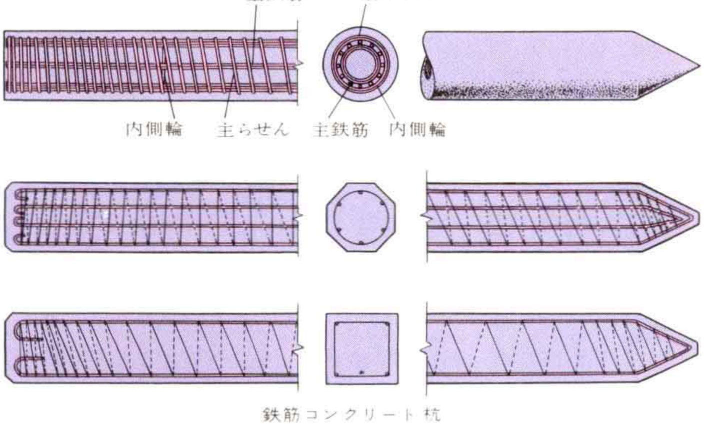
グアヤキル　赤道に近く，低地でもあるので平均気温はきわめて高い。交通巡査も日よけをして立っている



クアラルンプール　緑濃い街路樹の続く市の中心部。イスラム式の建物は政庁。この付近にクアラルンプール駅もある



グアルディ《ブチントーロ風景》



杭
断面構造図

鉄筋コンクリート杭

グァルディーニ［Romano Guardini］(1885～1968）イタリア生まれのカトリック司祭・宗教哲学者・評論家。おもにドイツで活動。ベルリン・チュービンゲン・ミュンヘン各大学教授を歴任。カトリック青年運動・典礼運動を通じて，ドイツ-カトリック界に貢献した。著書に《礼拝の精神》《現代の終末》のほか，ソクラテス・ダンテ・ドストエフスキー・リルケらについてすぐれた評論がある。

クァルテット　⇨四重奏

グアレスキ［Giovanni Guareschi］(1908～1968）イタリアのジャーナリスト・ユーモア作家。雑誌編集者として活躍しながら，ユーモアに満ちた牧歌的な短編小説などを書いた。特にドン-カミロを主人公とする作品は多くの読者を得て，映画化もされた。

くあわせ【句合】俳諧用語。発句合ともいう。歌合*にならい，発句を左右幾番かにわかち，その優劣を定めること。判者が句の優劣を定めて判詞(優劣の判定を述べた詞)を添える本判，連衆が会合して論議批判する衆議判，左右の作者が互いに難陳をかわし判者が裁定する即興判，などがある。

グアンタナモ［Guantanamo］キューバ共和国東南端にある港市。人口13万5,000(1969)。背後にサトウキビ・コーヒー・カカオなどの産地を控え，その取引を行なうとともに，また，それらの加工工業も盛んである。アメリカ-スペイン戦争*の結果，1903年以来，港の一部はアメリカ海軍の基地になっており，カストロ政権樹立後のキューバ政府からのたびたびの返還要求にも応じていない。

くい【杭】構造物の下の地中にあって，上部構造物からの荷重を支持する棒状の部材。荷重の支持を目的としない，地中に打ち込んだ棒状材をいうこともある。杭と土との間の摩擦抵抗で荷重をささえるものを摩擦杭，杭の先端を強固な岩盤などまで到達させ，その先端の抵抗力で荷重をささえるものを先端支持杭という。杭の材料は木・鋼・コンクリートで，重要な基礎補強工事には鋼・コンクリートが用いられる。鋼製杭には鋼管やH形鋼などがあり，定尺物を杭打ち機*で打ち込み，長さが不足のときは溶接して継ぎ足す。鉄筋コンクリート杭(略称RC杭)には，工場であらかじめ製作した既製品と，現場で穴を掘り鉄筋を挿入(そうにゅう)したのちにモルタルまたはコンクリートを投入，あるいは注入する場所打ち杭とがある。また，コンクリート杭にはプレストレスコンクリート杭(略称PC杭)があり，太い径の杭に用いられる。場所打ち杭は施工時の騒音が少ないので，都市および都市近郊の工事に用いられる。その多くは特許工法である。〔神山　一〕

くいあらため【悔い改め】⇨懺悔(ざんげ)

くいうちき【杭打ち機】木製杭・工場製コンクリート杭・鋼製杭を地中に打ち込むための機械。ドロップハンマー・スチームハンマー・ニューマチックハンマー・ディーゼルハンマーがある。ドロップハンマーは，人力あるいはウインチで引き上げた重錘を杭頭(こうとう)に自然落下させて打ち込むもので，装置は簡単だが，速度がおそく，硬質地盤では不適当。スチームハンマー・ニューマチックハンマーは，重錘を引き上げるのに蒸気あるいは圧搾空気を利用したもので，シリンダー内でピストンを上下させて杭を打つ。ディーゼルハンマーはそれ自体一つのディーゼルエンジンで，重油の爆発力によってシリンダー中のピストンを押し上げて杭頭に落下させる。毎分60〜100回の連続打撃ができるので能率がよいが，大きな騒音を生ずるのが欠点である。ほかに硬質な地盤のために，射水管で射水し，あるいは杭の先端から射水して地盤をゆるめながら杭打ちをするジェット杭打ち機，騒音を排除するために実荷重を加えるもの，ウインチやオイルジャッキで杭を押し込む圧入機などがある。〔神山幸弘〕

くいぞめ【食い初め】生児にはじめて飯を食べさせ，その成長を祈る儀式。箸(はし)初めともいう。生誕後100日前後に行なわれることが多く，《吾妻鏡(あづまかがみ)》には源実朝*(さねとも)の生後110日めに御五十日百日(ごかももか)の儀を行なったことが記されている。地方によっては食ぜんに赤飯・焼魚を載せ，小石を添える。赤飯は，もちろん食べるまねをさせるだけだが，乳食から粒食へと成長過程における大きな転機を意味し，小石は生児の頭や歯がかたくなるようにと説明されているが，元来の意味は産神(うぶがみ)の依り代*(よりしろ)と解される。関西地方ではこの日を〈ももか〉といい，あずき飯を親類・知人に配る習俗がある。〔直江広治〕

くいちがいのへん【喰違の変】1874年(明治7)1月14日，右大臣岩倉具視*(ともみ)が赤坂仮皇居からの帰途，赤坂喰違(現在の東京都千代田区紀尾井町)で刺客に襲われた事件。岩倉は馬車からみぞへ転落して微傷を負っただけであったが，ほどなく高知県士族武市熊吉(たけちくまきち)ら9名が逮捕された。征韓論*(せいかんろん)の閣議決定を非征韓派の議長岩倉が独断でくつがえしたことへの憤りが原因であった。同年7月，9名とも斬罪(ざんざい)に処された。〔千野境子〕

クイックサンド［quick sand］細砂または微細砂の地盤に地下水などの浸透水が底部から地表に向かって上昇して流れる場合，この上昇流の速度がある限界以上に達して砂が沸き上がって液状になった状態。建築現場で地下室の掘削をしている場合や，水位がきわめて上がった河川堤防の基部付近などで生じることがある。このときには砂地盤の支持力は失われ，砂が流出するので，事故が発生しやすい。



杭打ち機　ディーゼルハンマー型の杭打ち機



クイナ　湿地を歩くのに適した長い足指をもつ

なおきわめてゆるい細砂や微細砂が水で飽和している状態をさすこともある。この種の砂地盤は強度が小さいので，問題が多い。〔森　麟〕

クイック-リリーズ［Quick Release］アメリカ陸軍が1964年1月25日から実施した太平洋横断の緊急輸送演習。ハワイ駐留の陸軍部隊を沖縄に空輸し，同時にフィリピンから兵器を海上輸送した。海外基地の兵力を減らし，事が起これば随時そこへ増援を送る態勢をとっておくという新戦略によるものである。1963年秋に実施した大西洋横断のビッグ-リフト演習も同じものである。

くいつみ【食い積み】⇨蓬萊(ほうらい)飾り

くいな【水鶏】①鳥類・クイナ科の総称。132種からなる。クイナ科の多くの化石は約7,000年前のものとされ，また，両極圏を除く地球上に広く分布すること，多くの島に特産種が生息していることなどは，この科の歴史の古いことを物語っている。長距離の渡りをするものも知られるが，島産のものには飛行力がなくなっているものが多い。人間の生活域の拡大により，飛行力を失っているもののうち15種もがすでに絶滅しているが，なかにはニューギニア特産のノトルニスのように，一度は絶滅したと考えられたが少数が生残していることがわかって，保護のもとに生き続けているものもある。一般に湿地・湖沼やその周辺の草生地に生息し，このようなところを歩くのに適した非常に長い足指をもつ。体は，縦に扁平(へんぺい)なものや，遊泳・潜水に適した体のものがある。全長25cm弱の小形のものから，約50cmに達するノトルニスのようなものまである。また，羽毛は全体にじみなものが多いが，ノトルニスやセイケイのように美しい青紫色のものもある。えさは，魚類，各種の水生動物・水生植物など。わが国には8種が生息する。

②クイナ科の1種。アジア東・中部(わが国では北海道)で繁殖し，本州以南では冬鳥。全長27〜31cm，嘴長(しちょう)3〜4cm，すねの長さとほぼ同長の3〜4cmの足指をもつ。羽毛はかっ色と灰色で全体にじみ。湿地や沼の草生地に潜んでいることが多く，あまり人目につかない。〔浦本昌紀・安部直哉〕

くいぬきき【杭抜き機】打ちこんだ杭，または鋼矢板*を引き抜くための機械。杭打ちハンマーを逆に取り付けて打撃し，これに振動を与えながらウインチで巻き上げて引き抜くものと，水圧あるいは油圧によって引き抜くものと2種類ある。一般には経済性・能率の点でウインチ式が用いられている。

クイビシェフ［Kuibyshev］ソビエト連邦，ヨーロッパ-ロシアの同名州の州都。人口109万4,000(1972)。ボルガ川とその支流サマラ川の合流点にある。沿ボルガ地区最大の都市で，重工業の中心地。大形機械類・車両・石油精製・食品加工・繊維などの工業が盛んで，第2次大戦中に大きく発展した。水運・鉄道の要衝で，保養地としても知られる。近くにソ連最大級のクイビシェフダムがある。都市は1586年に要塞(ようさい)として建設され，サマラとよばれてボルガ流域の交易都市として発達したが，10月革命の指導者クイビシェフにちなんで1935年に改名された。〔斎藤晨二〕

グイラルデス［Güiraldes Ricardo］(1886〜1927) アルゼンチンの小説家・詩人。前衛派の詩人として出発したが，のち小説家に転じて成功した。農場主の伝統的生活を隠喩(いんゆ)と奇想に満ちた詩的な文体で描いた《ドン-セグンド-ソンブラ》は〈ガウチョ(牧童)小説〉の傑作である。

クイーン［Ellery Queen］アメリカの推理小説作家。クイーンは筆名で，マンフレッド-B-リー(1905〜1971)とフレデリック-ダネイ(1905〜　)という従兄(いとこ)の合作。クリスティ*およびジョン-ディクスン-カーと並ぶ推理小説の元老的存在。また，ふたりは世界的な推理小説研究家でもあり，1941年から推理小説専門誌《エラリー-クイーンズ-ミステリ-マガジン》を発行している。代表作は《Xの悲劇》《Yの悲劇》《エジプト十字架の謎(なぞ)》など。〔福田生雄〕

クイーンエリザベス(諸島) [Queen Elizabeth] 北極海，カナダ北岸にあるほとんど無人の群島で，アクセルハイバーグ島・バサースト島・エルズミーア島・メルビル島などからなる。カナダ領で，そのフランクリン地区に属している。総面積50万km²。1616年W.バフィンによって探検されたが，全島が氷におおわれ，現在も不明な点が多い。白人最初の渡来者は，中世にグリーンランドを経てきたバイキングといわれている。 〔大崎 晃〕

クイーン-エリザベスごう 【クイーン-エリザベス号】

1 1940年，イギリスのキューナード社がクイーン-メリー号*の僚船として建造した世界最大級の客船。全長309m，総トン数83,673トン，速力28.5ノット，定員旅客2,260人，乗組員1,296人である。1936年建造に着手されたが，第2次世界大戦のためニューヨークに回航されて装備を完了した。1968年末廃船。

2 クイーン-エリザベス 2。1969年，イギリスのキューナード社が建造した世界最大級の豪華客船。10数年間に計画が再三改変され，流産の危機にもさらされる状況にもかかわらず，最も合理的な大客船として生誕し，イギリス海運の心意気を示した。総トン数65,863トン，速力28.5ノット。船客定員は2,025。出力110,000軸馬力，燃料費とエンジン・ボイラーのスペースが大幅に節減されている。 〔飯島幸人〕

クインケふしゅ 【クインケ浮腫】 急性限局性皮膚浮腫ともいう。1882年にドイツのクインケによってはじめて記載されたもの。皮膚や粘膜に発作性に浮腫性腫脹を生じ，その部分は蒼白(そうはく)で軽いかゆみや灼熱感(しゃくねつかん)がある。口唇(こうしん)・眼瞼(がんけん)・手足に多く，数分から数時間で自然に消失するが，再発性である。血管神経性の浮腫で，血管の透過性亢進(こうしん)による漏出に起因するといわれている。治療には抗ヒスタミン剤などが用いられる。

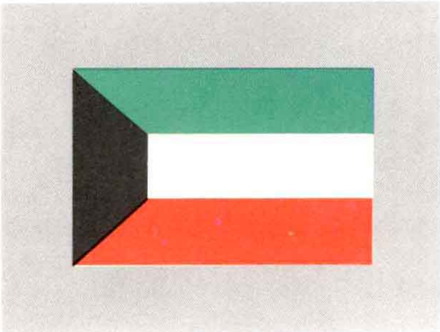
クイーンズ(区) [Queens] アメリカ合衆国，ニューヨーク市の五区の一。市の北東部を占め，人口196万4,000(1970)。ロングアイランド島の北西端部にあり，工業・住宅区をなす。ニューヨーク国際空港(ケネディ空港)やラガーディア空港が広い地域を占め，特にケネディ空港は世界一の規模と設備を誇っている。

クインズランド(州) [Queensland] オーストラリアの北東部を占める州。面積173万4,000km²，人口189万8,000(1972)。州都ブリスベーン。東部には南北方向に大分水嶺山脈が走り，西部には大鑽井(だいさんせい)盆地が広がっている。全般的に熱帯・亜熱帯的な気候を示すが，降水量は西に行くほど少なくなる。したがって，山脈の東部には熱帯雨林がみられるが，西部は北側が熱帯草原・砂漠(さばく)，南側がステップとなる。東部ではサトウキビ・パイナップル・バナナを産出し，西部では牧牛・牧羊のほか小麦を栽培している。産業は農牧業が中心で，その生産額は工業生産額の2倍にあたる。東岸に沿うグレートバリアリーフ*(大堡礁(だいほしょう))は，世界最大のサンゴ礁で，観光開発が行なわれている。 〔小栗 宏〕



クイーン-エリザベス 2 試運転で全速航走中のクイーン-エリザベス 2





クウェートの国旗 1961年制定。白は徳，赤は戦場での勇気，緑は緑野，黒はクウェート人の騎兵の砂煙を表わしている

クウェート

クインチリアヌス [Marcus Fabius Quintilianus] (35ないし40～100ごろ) 紀元1世紀の後半に活躍したローマの弁論家。弁論家を父としてスペインに生まれた。幼少のおりからローマで弁論術を学び，70年ごろウェスパシア学園の教授となる。生徒に小プリニウスがいた。20年間教職を奉じたのち90年に退官。ドミチアヌス帝の甥(おい)の教育にあたったりしたが著述に力を注いだ。現存する作品で代表的なものは，95年ごろ出版された《弁論術入門》10巻である。

クインテット ⇨五重奏

クイーン-メリーごう 【クイーン-メリー号】 1936年，イギリスのキューナード社が建造した世界最大級の客船。のちに建造されたクイーン-エリザベス号*の僚船。総トン数81,237トン，速力29ノット，旅客2,038人。これは，フランスのノルマンジー号(83,423トン)に対抗して5か年，480万ポンドを費やして建造された。大西洋横断3日23時間，平均30.63ノットの記録を立ててノルマンジー号の記録を破った。その後さらに記録を更新して31.69ノットとし，アメリカのユナイテッド-ステーツ号の35.59ノットが出現するまでは大西洋横断最短時間記録を保持した。1967年末廃船。 〔飯島幸人〕

くう 【空】 仏教のものの見方を表わすことばで，存在するものすべてに主体・実体がないことをいう。特に大乗仏教，中でも《般若経*(はんにゃきょう)》の中で主張された。すべては，縁起*，すなわち時間的には原因・結果，空間的には相互関係というかかわりあいの上で存在するにすぎないから，そのもの自体には不変で永遠な独存性はない。この考えを空観(くうがん)という。この観点から再びすべてをみるとき，ものや人生はほんとうの存在価値を示す。この考えを真空妙有(しんくうみょうう)といい，ここに空の意義がある。したがって，空は虚無とかからっぽという意ではない。 〔真野龍海〕

くううん 【空運】 ⇨航空業

クウェッタ [Quetta] 西パキスタン西部の都市。人口15万6,000(1972)。バルチスタン地方の中心をなし，交通の要地で，アフガニスタン・イラン・中央アジア方面との交易が盛んである。盆地にあり，ボラン峠・コジャク峠などを制する。かつてイギリスの軍事基地があった。

クウェート [State of Kuwait, Qawlat ol-Kuwait] ペルシア湾奥の西岸にある立憲君主国。面積15,500km²，人口136万(1978年推)。国語はアラビア語，首都クウェート。

【自然・住民】 メソポタミア平野東南端にある平坦(へいたん)な砂漠(さばく)で，年降水量は25～175mmにすぎず，オアシスにも恵まれていない。気温は冬は快適だが，夏は日陰でも44℃以上に上ることがある。住民は近年まで15万人前後で，アラビア人が大部分を占めていたが，1946年に石油が発見されてから石油関係者を主とする諸外国人が急増している。

【産業・経済】 産業は水に恵まれないため農業も牧畜も制約され，長い間，天然の良港を利用した海運業や漁業・真珠採取業など，海に依存した生活をしてきた。しかし，油田が発見されてからは，経済のすべてが石油にかかり，1965年の原油生産量は世界の8%を占める129万 kl に達している。1966年度予算では収入の94.3%を石油からの

収入が占め，同年の国民１人あたり所得は115万円で世界第１位であった。

〔歴史・政治〕オスマン帝国時代のクウェート侯はバスラ県知事管下の郡長であった。ロシア帝国は良港クウェートに目をつけ，ドイツもここをバグダット鉄道の終点候補地とした。1899年イギリスはこうした脅威からインドを守るため，ここを保護領とした。1961年に独立し，1963年国連に加盟した。立憲君主政体で，国会は４年改選の一院制(50名)。〔今井留吉〕

クウェート ［Kuwait］ ペルシア湾奥にある立憲君主国クウェートの首都。人口８万(1970)。天然の良港に恵まれ，中継貿易基地として，また漁港・真珠採取地として知られていたが，中東最富のブルガン油田発見後は高層ビルの林立する近代都市に一変し，地価・物価ともニューヨークより高いといわれる。

くうかい **【空海】** (774～835) 真言宗の開祖。最澄と並ぶ平安仏教の指導者。讃岐(さぬき)(香川県)の豪族佐伯直田(さえきあたいた)の三男。幼名を真魚(まお)，灌頂号(かんじょうごう)を遍照金剛，諡号(しごう)を弘法(こうぼう)大師という。はじめ阿刀大足(あとのおおたり)に学び，上京して大学で勉学して，797年(延暦16)に儒仏道の３教の思想を比較・批判した《三教指帰(さんごうしいき)》(はじめ《聾瞽指帰(ろうこしいき)》という)を著わし，仏道にはいった。804年遣唐使に従って長安に行き，恵果に師事して真言密教を学び，３年後帰国した。やがて嵯峨(さが)天皇の勅命によって高雄山寺で密教の修法を行ない，816年(弘仁７)高野山を賜わって金剛峯(こんごうぶ)寺を開いた。さらに823年には東寺を賜わり，ここを真言密教の根本道場とすると同時に，綜芸種智院(しゅげいしゅちいん)を開設して庶民教育に尽くし，また，治水などの社会事業も行なった。彼の思想は宇宙の大生命の世界を感得することにあり，そのために自己の心のあり方を見つめ，自己を完全にすることにある(即身成仏)とする。その実践目標は，人間としての最高の自覚に到達して，現実にこの肉身のままで絶対の宗教的人格を得ることである。著書には，教義的なものとして《秘蔵宝鑰(ひぞうほうやく)》３巻，《十住心論》10巻，《即身成仏義》《般若心経秘鍵(はんにゃしんぎょうひけん)》など，文学論として《文鏡秘府論》《性霊集(しょうりょうしゅう)》10巻などがあり，ほかに《篆隷万象名義(てんれいばんしょうみょうぎ)》というわが国で最初の辞典もつくり，多彩な文芸活動を行なった。また，密教美術の理論化に努め，仏教美術に大きな影響を与えた。〔石上善応〕

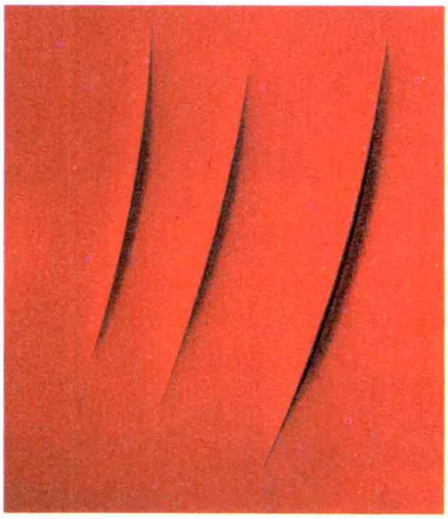
また，空海はわが国第１の書家で，三筆のひとりとして知られる。篆書・隷書・楷書(かいしょ)・行書・草書の５体以外に，飛白・破体も書いた。書風は中国ふうであるがかなり日本化しており，用筆は巧妙で筆力が強く，筆勢が鋭くよく洗練され，上品である。その書風は後世大師流といわれた。入唐前の《聾瞽指帰》，在唐中の《三十帖(じょう)策子》，帰国後の《風信帖》《灌頂歴名》《金剛般若経》などの筆跡が残っている。〔春名好重〕



クウェート　首都クウェートの市内にある国会議事堂の超現代的な建物。町の近代化が急速に進められている



空　海　《弘法大師画像》　龍光院蔵



空間主義　フォンタナ　《空間概念(期待)》1952

くうかん **【空間】**

①数学：ふつう，常識的には，直方体や球などの立体図形を考える場所，すなわち，点が前後左右あるいは上下の方向に動きうる場所を空間といっている。しかし，平面幾何では一定の平面上の図形だけを考えるので，その平面が考察の場であり，この平面がその場合の空間であるといえる。また，直線上で点や線分の位置関係を考えるとき，その直線上の点の全体が考察の対象であり，この直線がその場合の空間である。直線上では，点の位置は１個の数で表わされ，２点P(x)，P′(x')の距離は$\sqrt{(x-x')^2}$で表わされる。また，平面上の点の位置は２個の数の組で表わされ，２点P(x, y)，P′(x', y')の距離は$\sqrt{(x-x')^2+(y-y')^2}$で表わされる。一般に，n個の実数の組P(x_1, x_2, ……, x_n)を点と考え，点PとP′(x_1', x_2', ……, x_n')の距離を

$$\sqrt{(x_1-x_1')^2+(x_2-x_2')^2+\cdots\cdots+(x_n-x_n')^2}$$

と定めたとき，このような点の全体をn次元ユークリッド空間という。上記のように，直線は１次元ユークリッド空間であり，平面は２次元ユークリッド空間である。ふつう空間とよんでいるのは，３次元ユークリッド空間である。しかし，空間の概念は，解析学の対象を幾何学的に表わす必要から著しく拡大され，それはユークリッド空間だけにとどまるものではない。一般に，ある集合Xを定め，その元や部分集合のみを考えるとき，これを空間とよぶ。そして，空間の元を点といい，２点間の距離が定められた空間を距離空間という。この場合，距離の定め方は必ずしも上記のような式による必要はない。球面も一つの距離空間であるが，これはユークリッド空間ではない。〔小西勇雄〕

②物理学：人間が知覚・認識しうる空間は三次元ユークリッド空間である。19世紀末までの物理学ではこの空間は絶対的なもので，その中に存在する物質に影響されることなく，無限の過去から無限の未来に至るまで不変であり，いたるところ一様で無限に広がっているものと考えられていた。われわれが日常身辺の現象を理解するにはこの考え方で十分である。しかし，このような考え方を乗り越えなくては説明のできない現象が実験的に見いだされるようになり，これに基づいて20世紀の初めにアインシュタインが相対性理論をつくりあげた。この理論では，三次元の空間に時間を加えた四次元空間が用いられる。→相対性理論〔有山正孝〕

くうかんしゅぎ **【空間主義】** 第２次世界大戦後イタリアで興った最も重要な芸術活動。フォンタナが未来派にならってミラ

ノで提唱したもので，〈第一宣言〉〈空間主義の技術宣言〉などがあり，〈新しい美学が形成されつつある。空間をよぎる光るフォルムがそれである〉とし，新しい〈空間概念〉を示すものとして，螢光燈(けいこうとう)などの新素材のほか，画布に穴をあけ，ナイフで切り裂くなど，暗示するのではなく，直接創造したものがあげられる。〔三木多聞〕

ぐうかんすう【偶関数】 $f(x)=x^2$ や $f(x)=\cos x$ などのように，x のとりうるすべての値に対して $f(-x)=f(x)$ がなりたつような関数*。偶関数 $y=f(x)$ のグラフは y 軸に関して対称である。➔奇関数

くうかんちかく【空間知覚】 三次元空間内の環境の認知のうち，特に事物の空間的秩序や事物間の関係などに関する知覚をいう。大別すると，①観察者と事物との関係の知覚(方向・距離など)，②観察者自身の身体に関する知覚(姿勢・垂直・水平など)，③事物相互間の空間的関係の知覚(大きさ・形・色・距離など)に分けられる。空間知覚にかかわる感覚は視覚・聴覚・触覚・運動感覚・平衡感覚などで，それぞれ視空間・聴空間・触空間などに分けられる。〔吉田俊郎〕

くうかんは【空間波】 ⇨電磁波

くうき【空気】 地球の外側の下層部に存在する気体で，主として窒素と酸素の混合物である。その組成は表のようである。なおこのほか，時と所によって，水蒸気はもちろん，亜硫酸ガス(SO_2)・メタン(CH_3)・塵埃(じんあい)などを含んでいることがある。

空気の組成

成　分		容積 %
窒　素	N_2	78.09
酸　素	O_2	20.95
アルゴン	Ar	0.932
二酸化炭素	CO_2	0.033
水　素	H_2	5×10^{-5}
ネオン	Ne	1.8×10^{-3}
ヘリウム	He	5.2×10^{-4}
クリプトン	Kr	1.0×10^{-4}
キセノン	Xe	8×10^{-6}

臨界温度(−40.7℃)以下で臨界圧(37.2気圧)以上に加圧すれば液化することができ，液体空気となる。液体空気は分留して窒素と酸素とに分けることができ，またアルゴン・ネオンなどの希ガスを分離採取することができる。液体空気から分離した酸素は溶接に用い，酸素製鋼・製鉄などにも有用である。窒素はアンモニア合成や石灰窒素製造の原料となり，また近時は石油化学工場などの保安ガスとして多く用いられている。〔鈴木　篁〕

くうきかんせん【空気感染】 肺結核・肺ペスト・インフルエンザ・ジフテリアなど，肺や気道に病変を起こす病原体が，せきや呼気とともに排出されて新しい個体に吸入され，感染することをいう。他の病原体でも，人工的に空気感染をさせることのできるものもある。浮遊させた病原体をエーロゾルとよび，生ワクチンや生物兵器に用いられる。

くうききかい【空気機械】 空気(広く気体)を駆動し，または動力源として利用する機械の総称。送風機*・圧縮機*・真空ポンプ*・空気タービン*・風車*・圧縮空気機械*などが含まれ，そのほか広く産業に用いられる。

くうきコンデンサー【空気コンデンサー】 ⇨コンデンサー

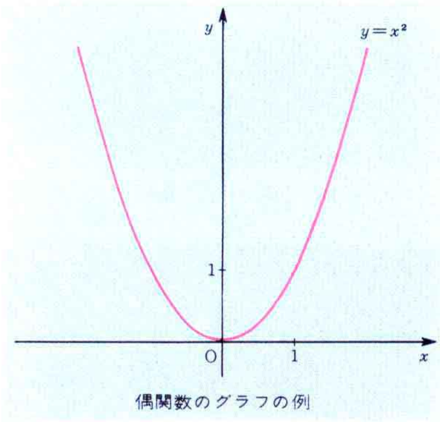
くうきシャワー【空気シャワー】 ⇨宇宙線

くうきじゅう【空気銃】 空気の圧力でコルク以外の弾丸を射出する銃器。空気の圧縮圧力を利用して弾丸を発射しようとする試みは古代から行なわれていたが，近代の空気銃としては1430年にニュールンベルクのグーテルが製作したものが最初である。これはポンプ式ともいうべき構造で，空気を圧入した小さな金属球を銃の下部に取り付け，その圧縮空気の噴出力で弾丸を放射する構造であり，ナポレオン時代にオーストリアがこれを装備した歩兵大隊を編成してナポレオン軍を悩ませたといわれる。わが国に渡来した最初の空気銃は，1640年(寛永17)ごろにオランダから将軍家に献上されたウィンドルウル(風炮(ふうほう))である。この銃は威力が弱かったため，近江(おうみ)(滋賀県)の国友藤兵衛*(とうべえ)がこれを手本にして，1818年(文政1)3月に高性能のものをつくり，気砲と名づけた。その後ヨーロッパではスプリング式の空気銃が発明され，明治初期にわが国にも輸入された。空気銃は装薬銃ほどの威力がないため，軍用からは見放されたが，ほとんど無音であること，発射が容易なこと，使用経費が安価なことなどから一般に普及している。空気銃は発明以来500年も経過しているため，おびただしい種類があるが，現在わが国で普及しているのは構造面から大別してスプリング式・ポンプ式の二つで，スプリング式はさらに中折れ式とレバー式とに分かれる。空気銃の弾丸は鉛または鉛とアンチモンの合金で，口径には4mmから6.5mmまで12種ほどあるが，22径(5.5mm)・20径(5mm)・177径(4.5mm)が普通で，177径が最も普及している。また，散弾(8号散弾を1回に60粒)を発射する空気銃や，注射筒にはいった薬液(ニコチン酸)を注射筒のまま発射して動物を麻酔させるものもある。空気銃の射撃を行なうには公安委員会*で定めた空気銃射撃場で実施することを要し，空気銃で狩猟を行なうには丙種狩猟免状を取得することが必要である。なお，空気銃を所持するには公安委員会の許可を要する。〔白井邦彦〕

ぐうきせい【偶奇性】 パリティともいう。原子・原子核または素粒子の状態を表わす波動関数* $\psi(\vec{r})$ ($\vec{r}$ は素粒子または原子・原子核の各構成粒子の，適当な点を原点とした空間座標)が，空間反転 [$\vec{r}\to-\vec{r}$] (あるいは右手系から左手系への変換)に対して，偶関数* [$\psi(\vec{r})=\psi(-\vec{r})$] であるか，奇関数* [$\psi(\vec{r})=-\psi(-\vec{r})$] であるかによって状態を区別する量。前者の場合には物理系は偶の，後者の場合には奇の偶奇性の状態にあるという。量子力学特有の概念で，古典物理学*には対応するものは存在しない。長い間，偶奇性は相互作用の前後において保存される(変化しない)量であると考えられていた。しかし，原子核のβ崩壊*などのように非常にゆっくりと相互作用が行なわれる場合には，偶奇性は保存されない(パリティ非保存)ということが，1956年，リー*とヤン*によって予言され，直ちにウー*らの実験で証明された。➔量子力学　〔高林武彦〕

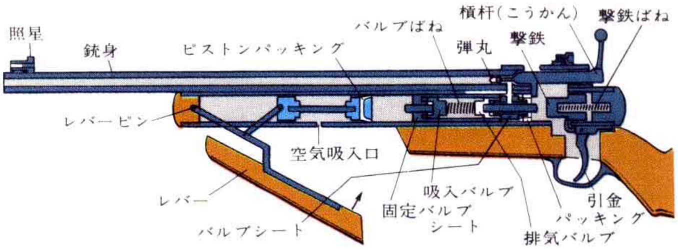
くうきせいじょうき【空気清浄機】 ⇨エアクリーナー

くうきせんず【空気線図】 空気の性質



偶関数のグラフの例

偶関数



空気銃
ポンプ式空気銃の構造

を示す線図で，空気の乾球温度・湿球温度・露点温度・相対湿度・絶対湿度・エンタルピー（含有熱量）などを１枚の線図にまとめたものである。上記の要素のうち，いずれかの二つがわかれば他の要素を知ることができる。また，空気調和*の加熱・冷却などの過程をこの線図上に描いて，途中の変化を知るのに用いる。わが国では図のような形式の空気線図が一般に用いられる。

くうきそくせん　【空気塞栓】　血管内に気泡(きほう)が存在し，血行を遮断(しゃだん)することによって起こる症状。潜函病(せんかんびょう)（ケーソン病*）がよく知られている。高気圧下で作業した人が低気圧に移行する際，徐徐に減圧しないと組織の窒素が気泡となって血中に現われ，血行を遮断する。症状は脳脊髄(のうせきずい)の虚血性の壊死(えし)で，四肢麻痺(ししまひ)をきたす。

くうきタービン　【空気タービン】　圧縮空気を大気圧まで膨張させるときに羽根車に対してなした仕事を動力として利用する機械。高速回転をそのまま利用できる軸流送風機やうずまきポンプあるいは小形機械に組み合わせられた機関として用いられる。

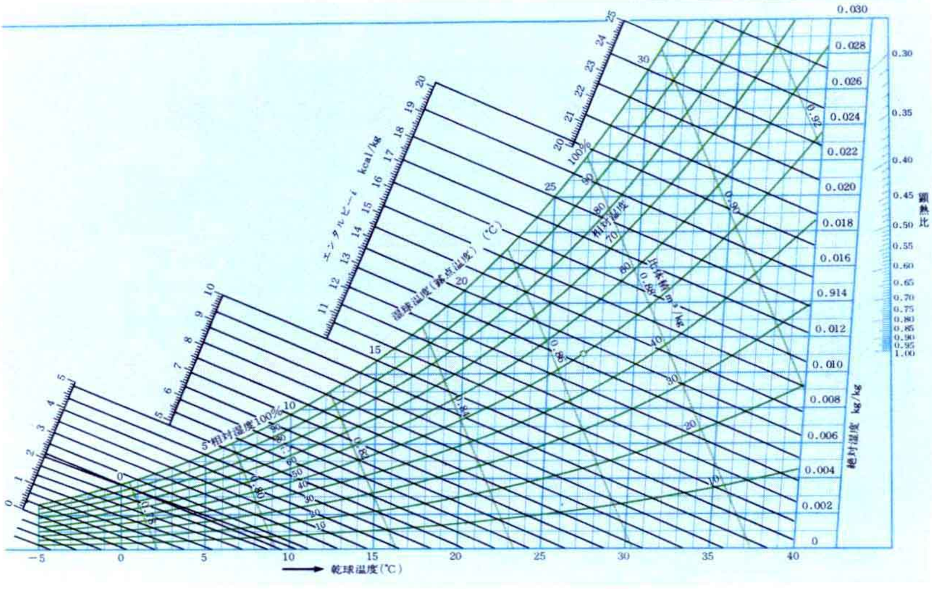
くうきちょうわ　【空気調和】　エアコンディショニングの訳語。かつては温湿度調整あるいは空気調整ともよばれていた。これを略して空調あるいは温調ともいう。一般に使われている暖冷房または冷暖房という語も空気調和と同意義に解釈してよい。

空気調和とは室内の人あるいは物品に対して，温度・湿度・気流・塵埃(じんあい)などの諸要素を最も適した状態に維持することをいう。このうち，物品を対象にした空気調和を特に産業用空気調和とよび，繊維工場・印刷工場などにおいて広く用いられている。空気調和した室内の温湿度条件は一般に夏は25℃，50％前後，冬は21℃，50％前後で，産業用空調においては業種別にそれぞれ異なる。

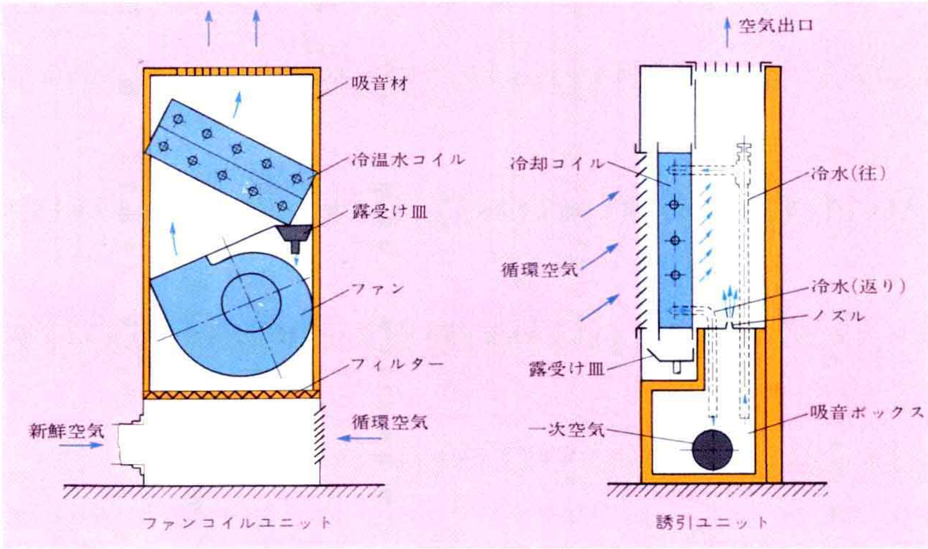
空気調和の装置は一般に，①送風空気を浄化すると同時に適当な温湿度に整えるための空気調和機（エアコンディショナー），②空気調和機に冷熱・温熱を供給するためのボイラーや冷凍機などの熱源プラント，③空気調和機と室内を結ぶダクト*，④室内の温湿度を自動的にコントロールする自動制御装置の四つからなる。なお，空気調和においても，よごれた室の空気と外気を入れ替えるために，必ず送風空気量の25～30％の外気を送風空気に混合することが必要である。

また，小形のユニットを室内に設けて室内の温湿度を調整し，換気に必要な空気（これを一次空気とよぶ）のみの温湿度を調整して送る方法もある。この際はダクトは小形ですむが，室内のユニットと熱源プラントを連結する水配管が必要となる。室内ユニットにはファンコイルユニットと誘引ユニットがある。前者は図のように内部に空気浄化のための空気濾過器*(ろかき)（エアフィルター）とファンとコイルを有し，このコイルに冬は温水，夏は冷水を通す。誘引ユニットは，１次空気を高速で吹き出すことによって室内空気を誘引作用で吸い込み，コイルを通して室内に清浄な空気を吹き出す。
〔井上宇市〕

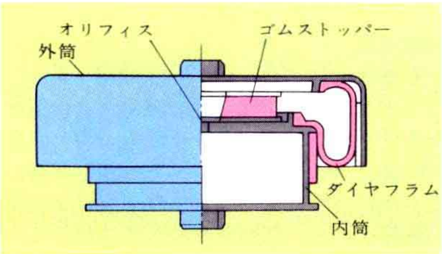
くうきでんち　【空気電池】　⇨電池



空気線図



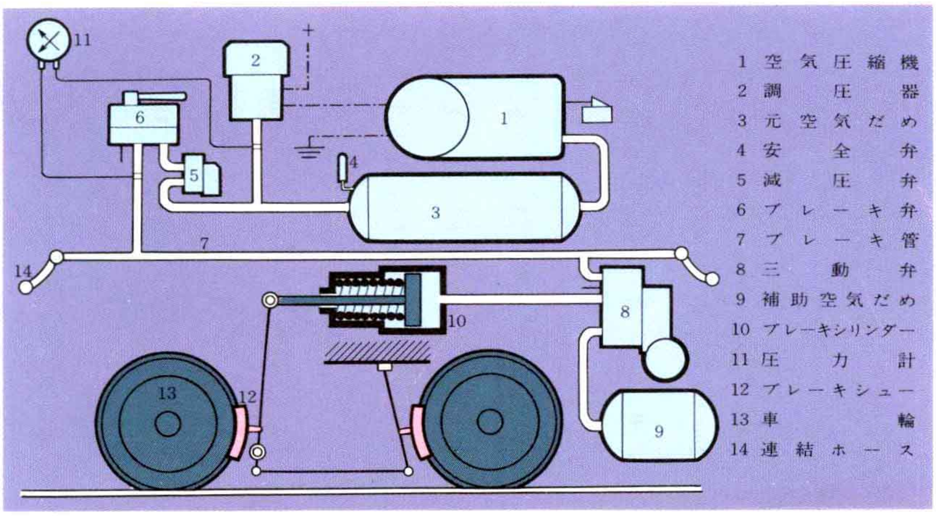
空気調和



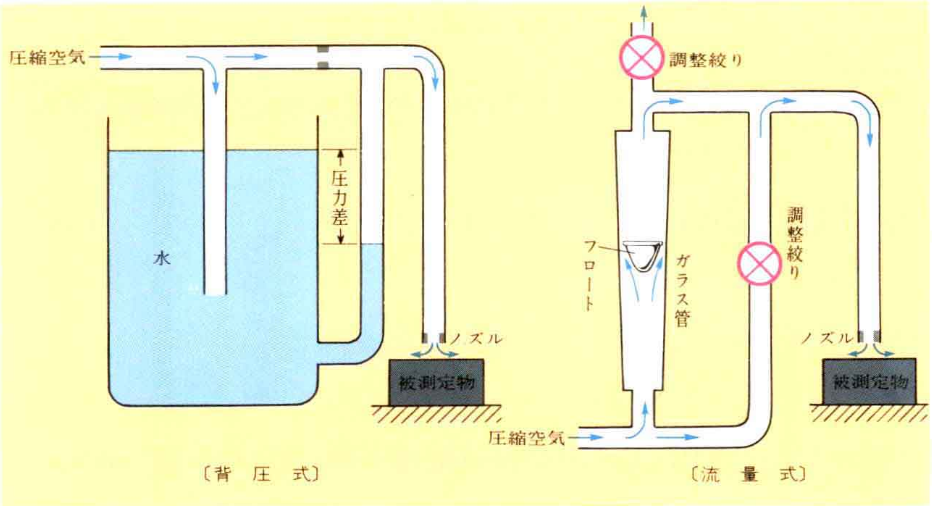
空気ばね　ダイヤフラム型空気ばね

くうきばね　【空気ばね】　鋼製のばねに変わって，路面から車体に伝わる衝撃を緩和するのに圧力空気をクッションとするばね装置。構造を大分けすると，ベローズ型とダイヤフラム型とがある。車体をつねに同じ高さに保つと同時に，空気とゴムが適当に働いて振動を吸収し，騒音がないので乗りごこちをよくする。しかし，構造が複雑なうえにローリングするのが欠点である。鉄道車両・バス・トラックなど重量車両に用いられる。
〔宍塚正幸〕

くうきブレーキ　【空気ブレーキ】　圧縮空気を用いる制動装置。最も簡単な直通空気ブレーキは，運転台のブレーキ弁を操作して空気だめから圧縮空気をシリンダーに送ってブレーキ作用を行なうものである。この方式では，鉄道車両の場合，車両の連結部が切れると空気が漏れてブレーキがきかなくなるおそれがある。自動空気ブレー



空気ブレーキ　自動空気ブレーキ



空気マイクロメーター

キは，空気パイプにあらかじめ高圧空気を満たしておき，操作弁で空気を抜いてブレーキをかけるものである。この方式では，連結が切れても空気が抜けて非常ブレーキがかかることになる。近年，さらに効率のよいブレーキ装置が開発されているが，原理的には自動空気ブレーキと同じである。〔三宅　良〕

くうきマイクロメーター　【空気マイクロメーター】　空気の流れを利用して寸法の微小変化を測定する装置。大別して背圧式と流量式とがある。圧縮空気をノズルから噴出させて品物にあてるとき，ノズルの先と品物との距離が小さければノズル内の空気の圧力は大きく，距離が大きければ空気の圧力は小さい。この空気の圧力をはかってノズル先端と品物との距離を知る。これが背圧式の原理である。また，流量式では空気がノズルにいくまえに，鉛直に置いたテーパのついたガラス管を下から上に通るようにし，ガラス管の中にフロートを入れる。ノズルの先端と品物との距離が大きくなれば，ガラス管を流れる空気の量が増し，中のフロートが上の方に押し上げられる。このフロートの位置によりノズルの先端と品物との距離を知ることができる。空気マイクロメーターでは，1 μ以下の寸法の変化を数十万倍の倍率で精度よく測定することが可能である。〔森田　鈞〕

くうきよねつき　【空気予熱器】　ボイラーで水を加熱したあとの燃焼排ガスの温度がまだかなり高いときは，そのもっている熱を燃焼用空気に与えてボイラー効率を高める。そのために用いられる熱交換器を空気予熱器という。燃料を燃焼して加熱する金属加熱炉などでもしばしば用いられる。

くうきりきがく　【空気力学】　空気の流れを取り扱う学問で流体力学の一分科。実在の空気は通常の場合，連続等方性の媒質とみなすことができる。さらに流れの速度が音速より十分低い場合には，空気の圧縮性も無視することができ，この仮定の下に構成される空気力学の分科を非圧縮空気力学，圧縮性を考慮に入れて取り扱う分科を可圧縮空気力学あるいは気体力学という。超高空(極低圧)ではもはや連続性媒体と考えられず，このような流れは希薄気体力学という。〔中口　博〕

くうきろかき　【空気濾過器】　空気調和*の装置において，空気中の塵埃(じんあい)を除去するために用いる器具。エアフィルターともいう。濾過効率は入り口空気の塵埃量に対する除去された塵埃量の比(%)で，この塵埃量の測定法は計数法・重量法あるいは変色度法などがあり，このそれぞれに対し効率が定義される。一般の空気調和に用いる空気濾過器の効率は重量法で80%前後で，特にすぐれたものには99.9%以上のものもある。〔井上宇市〕

くうぐん　【空軍】　航空機・ミサイルなど空中飛翔体(ひしょうたい)をおもな武器とする軍隊。通常は陸軍・海軍などと並立する軍種の一つをいう。広義では，独立空軍と陸海軍所属の航空部隊を総称する。独立空軍はその任務により戦略(遠距離)空軍・戦術空軍・防空空軍・輸送空軍などに，またその担任地域により戦域空軍・本土防空軍などに大別される。陸軍航空はおもに指揮連絡・観測・偵察(ていさつ)などに適する軽飛行機・ヘリコプター部隊などであり，海軍航空は敵海上部隊の攻撃，艦船護衛，対潜警戒，機雷の敷設に適する航空部隊をもつ。ミサイルについては，空軍は空対空・空対地・地対空および中・遠距離用の地対地用のものを，海軍は地対空・空対空および近・中距離用のものを，陸軍は近距離用の地対空・地対地用のものを用いる傾向にある。

【航空戦力】近時航空軍事力が国家の各分野に依存するところがきわめて大であるという認識から，航空力・航空戦力という語がよく用いられるようになった。航空力とは国の顕在的な航空関係の力の総称で，それは航空戦力，航空企業，研究開発，生産組織，訓練された要員，資源などからなる。これは国家の施策，国民の理解と支援によって維持される。航空戦力とは，国家の航空軍事力をいい，航空兵力(人員・装備)・航空支援設備・技術研究・士気など各種の要素の複合されたものである。航空戦力は航続力・速力・突破力が大であることを特色とするが，構成要素が複雑精巧であるため脆弱(ぜいじゃく)性があり，微細な局部的不完全・非能率が全般に致命的影響を与えることがある。また，一度戦力が減耗しはじめると急速度に消耗する傾向がある。

【歴史】1903年，ライト兄弟によって飛行機が発明されてから，その軍事的利用は急速に進んだ。第1次世界大戦の航空隊は，主として陸海軍作戦の補助であったが，一部で戦略爆撃の萌芽(ほうが)がみられた。スペイン内乱ではドイツをはじめ各国の航空機が活躍し，日本も日中戦争などで実施したが，それは戦術航空作戦にとどまり，日本の陸海軍航空隊が重慶・蘭州(らんしゅう)などの戦略要域を爆撃して戦略目的を達成しようとしたが，規模・効果とも貧弱なもので

あった。第2次世界大戦初期はドイツ・日本・イギリスともに航空撃滅戦と地上・海上の作戦支援を主目的としていた。1942年(昭和17)になると，連合軍は戦略空軍を増強し効果をあげた。日本も戦略航空作戦を企図したが，その能力がなかった。第2次世界大戦後は，ジェット機による戦略爆撃能力が著しく進歩したが，アメリカ・ソ連を中心とする核ミサイル・ポラリス潜水艦が戦略空軍の主任務を担当するように変わってきた。また，人工衛星の開発により宇宙の軍事的利用が重視されている。しかし戦術航空作戦任務は依然として重要であり，ミサイルを武器とする航空機の進歩は目ざましいものがある。

〔現在の空軍〕 近代国家では，陸海航空隊のほかに独立空軍をもつのが通常である。しかし小国では，財政的・技術的な面から空軍を設けていないところが多い。また，軍制上からみて空軍省をもつのはアメリカだけであり，イギリス・イタリアも空軍省を廃止して現在は国防省だけとなった。これは陸海空軍がそれぞれ単独で作戦を行なうことが少なくなったためである。アメリカでは国防省のもとに陸・海・空軍省が置かれているが，軍令については空軍参謀長が空軍長官を補佐している。ソ連は国防省のもとに陸・海・空軍司令部をもつが，これと同格の戦略ロケット軍司令部・防空軍総司令部をもつのが特色である。中華人民共和国では空軍司令部が解放軍総部に所属している。➔航空作戦　〔森田　哲〕

くうこう　【空港】 ⇨次ページ

ぐうじ　【宮司】 ⇨神職

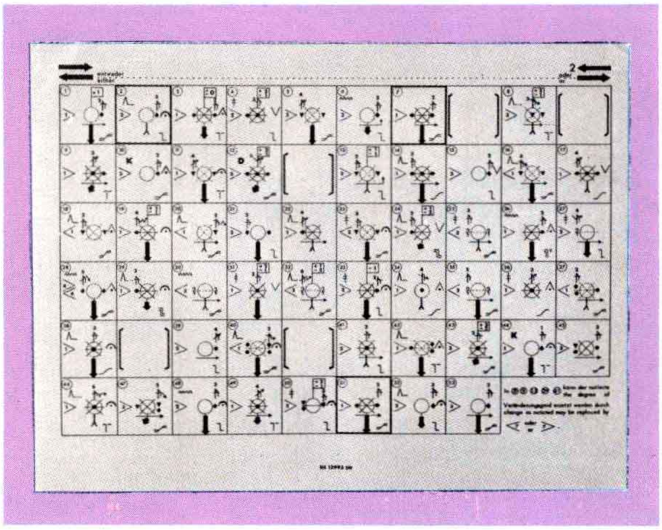
くうしゅう　【空襲】 地上や海上の目標に対して行なわれる航空機による銃爆撃の攻撃をいう。一般に，攻撃を受ける側からの呼称である。➔爆撃

ぐうすう　【偶数】 整数または自然数で，2で割り切れる数を偶数といい，2で割ると余りが1となる数を奇数という。十進法で書かれた数は，〈一の位〉の数字が偶数なら，その数は偶数である。偶数・奇数について次の関係があり，これは2を法(除数)とする剰余類の演算表ともみられる。

偶数±偶数＝偶数　奇数±奇数＝偶数
偶数±奇数＝奇数　偶数×偶数＝偶数
偶数×奇数＝偶数　奇数×奇数＝奇数

ぐうぜん　【偶然】 われわれの認識しうる法則，あるいは因果系列に適合する事態を必然というのに対し，それ以外のできごとをいう。ある事象を解明するには，それを了解するための法則ないし因果系列が必要である。そこで生起する事態のうち，法則なり因果系列を立証するのに必須(ひっす)のものを必然，派生的と思われるものを偶然とする。なにを必然としなにを偶然とするかは，どのような因果系列あるいは法則によって事象を了解するかにかかわっており，したがってその法則展開にとってプラスとなる偶然とマイナスとなる偶然がある。〔豊福英利〕

偶然性の音楽　シュトックハウゼン作曲《プラス-マイナス》 正方形の1ますが演奏の一つの単位になっている。その中の記号は解釈範囲の広い指示をもっているので，同一の楽譜からさまざまな演奏が生まれる



ぐうぜんせいのおんがく　【偶然性の音楽】 作曲家が作品のすべての部分や側面を固定せずに，偶然のはいる余地を与えた音楽。〈不確定性の音楽〉ともよばれる。18世紀の西洋音楽では，あらかじめ作曲家が多数の旋律断片をつくっておき，その結合を賽(さい)の示す数字に従わせる試みがなされた。これが，キルンベルガー・エマヌエル-バッハらによる〈さいころ(ダイス)音楽〉である。偶然性の導入がふたたび活発になり，新しい意義を与えられたのは，20世紀後半のケージによってである。最初彼は音高を規定しながら，その長さと現われる回数を偶然にまかせたが，しだいに伝統的な音楽のあり方への批判として，偶然性の役割を大きくしていった。一方，細かい規定で知られるシュトックハウゼンやクセナキスも，音楽のアスペクトに偶然の要因を導入し，また，東欧のリゲティやペンデレツキは，音高についてトーン-クラスターとよばれる音のかたまりを奏させているが，これは楽譜によっては細部まで記述できないもので，偶然性による一つの方法と考えられている。今日では，さいころ音楽の方法を含めて，こうした偶然性の方法が一般化し，声楽や日本の伝統楽器によるものにまで現われている。〔徳丸吉彦〕

ぐうぞう　【偶像】 ⇨イドラ

くうそうかがくえいが　【空想科学映画】 科学的な知識に裏づけられた空想によってつくられた劇映画。SF(サイエンス-フィクション)映画ともいう。未来の宇宙戦争などのテーマが最も多く，映画の力点は科学性より空想性に向けられていて，時間的には未来を，空間的にマクロ(極大)を志向している。しかし，過去にもどる話(《タイム-マシン》)やミクロ(極小)に向かうもの(《ミクロの決死圏》)もつくられつつある。空想科学映画は，特殊撮影の手法を駆使し，映画の最も高度な専門技術を活用するものであることから，いつの時代にもスペクタクル映画・娯楽映画の重要な一角をになってきた。古くはフランスのメリエスの《月世界旅行》(1902)があり，ドイツ表現派時代にはラングの《メトロポリス》など，未来の社会構造を空想した作品が生まれた。しかし全盛期は1950年代で，アメリカでは《地球最後の日》などの水準の高い映画が量産され，日本では《ゴジラ》(1959)の成功以来，多くの怪獣映画が現われて，高度のSF映画技術が国際的にも評価されるようになった。〔波多野哲朗〕

くうそうかがくしょうせつ　【空想科学小説】 ⇨SF

くうそうてきしゃかいしゅぎ　【空想的社会主義】 19世紀前半ヨーロッパで行なわれた社会主義思想。科学的社会主義と対比してエンゲルスが命名した。フランスのサン-シモン・フーリエ，イギリスのオーエンに代表される。彼らの活躍した時期は資本主義社会の諸矛盾は現われていたが，資本主義的生産様式はまだ十分に発達しておらず，階級闘争も未成熟であった。そのため，現実の社会矛盾とその解決について科学的分析を欠き，社会変革の主体としての労働者階級の意義も理解できずに，資本主義社会の諸矛盾の存在しない理想的社会を現実の諸条件と無関係に構想し，理性と正義によって実験的に個人的に実現しようとした。これらの実験はすべて失敗し，その思想も衰退したが，科学的社会主義の先駆的な思想体系として評価される。〔仲村計美〕

ぐうぞうはかいれい　【偶像破壊令】 8～9世紀，東ローマ皇帝が発布したキリスト像・マリア像などの聖像の崇拝禁止と破壊を命じた法令。ローマ教皇が，ゲルマン人に布教する必要から聖像崇拝を支持したのに対し，東ローマ皇帝は，理想主義的神学の立場と修道院弾圧による皇帝権強化をねらって偶像破壊令を発布した。このため西のローマ-カトリック教会と東のギリシア正教会(➔東方正教会)の分裂が起こった。

空　港

民間航空機の発着に必要な施設・組織の総称。国際航空路線を航行する航空機が多く発着するものを国際空港と称する。空港の機能は航空機を飛ばすための運航，貨客の乗り降りのための運送，航空機の整備の三つに大別できる。

〔立地条件〕空港が経済的に機能を果たすためには，都市の中心からあまり離れていてはならないが，一方，航空機発着に伴う騒音等の被害が周辺の居住者に及ばないよう，離着陸の飛行経路は居住区域から十分離れていなければならない。そのほか，安全性や運航効率確保のため，地形が平坦(へいたん)で障害物がないこと，風向きがあまり変化せず気流の乱れが少ないこと，年間を通じて視界がよく，降雨が少ないこと等が望ましい。

〔日本の空港〕公共用飛行場*は空港整備法に従って整備されているが，国際航空路線に必要な第1種空港には東京*・新東京*(1979年5月開港)・大阪*の三つの国際空港があり，主要な国内航空路線に必要な第2種空港が福岡・名古屋・那覇など25か所，地方的な航空輸送を確保するために必要な第3種空港が45か所，その他のものとして，防衛庁やアメリカ軍との共用飛行場が7か所ある。**第3種空港のうち，非公共用飛行場として，沖縄県下地(しもじ)島に民間用訓練飛行場が建設(1979年7月完成)された。**

〔運航に関する施設・組織〕直接運航に関するものには，航空機が離陸・着陸する滑走路，航空機が空港内を移動するための誘導路，航空機が待機・係留・給油のために使うエプロン，乗客や貨物を搭載(とうさい)するターミナルスポット，航空機を屋外で整備するメンテナンススポット等がある。滑走路は，就航する航空機の重量・性能に対して十分な長さと舗装(ほそう)強度を備えていなければならない。降雨時の車輪ブレーキ効果を確保するため，滑走路表面にグルーブと呼ぶ小さな溝を掘る方法が開発され，欧米の一部空港で実用化されている。寒冷地方の滑走路等の除雪は，主としてブルドーザー等の機械的な方法によるが，路面の氷を解かすのには，エチレングリコール・尿素・食塩等の化学薬品を散布する。

運航の援助施設には，空港の航空交通管制圏内を飛行中の航空機および地上の航空機の交通管制を行なう管制塔(コントロールタワー)がある。管制塔は空港の交通管制が円滑(えんかつ)に行なえるよう空港の中央部に設置され，無線・レーダー装置などの設備を集中し，空港へ進入・発進する航空機へ指示を与える。そのほか，運航のための空港施設として，空港内と周辺に設置された燈火や無線標識などの航空保安施設，気象観測および各種の情報提供施設，遠距離の航空機や各地との通信施設がある。

各国の空港と都心との距離

国名	都　市	空港名	距離 km
アメリカ合衆国	ニューヨーク	ケネディ	26
	〃	ラガーディア	13
	〃	ニューワーク	22
	シカゴ	オヘア	36
	ワシントン	ナショナル	6
	〃	ダレス	43
	サンフランシスコ		29
	ロサンゼルス		22
	ホノルル		14
イギリス	ロンドン	ヒースロー	24
		ガトウィック	43
フランス	パリ	シャルル・ドゴール	22
	〃	オルリー	14
	〃	ルーブールジェ	18
ドイツ	フランクフルト		10
	ハンブルク		15
オランダ	アムステルダム	スキポール	12
イタリア	ローマ	フミチノ	37
	〃	シャンピノ	15
日本	東京	東京国際	18
	〃	新東京国際	66
	大阪	大阪国際	13

大きな空港のエプロンには，燃料貯蔵タンクから地下配管で燃料が送られており，給油車が地下配管と航空機の燃料タンクをつないで給油を行なう。停止中の航空機へ電力・暖冷房空気・エンジン始動用高圧空気を地下配管を通して供給する形式の空港もある。

〔運送に関する設備・組織〕狭い意味でこの分野を空港と称することもあり，航空会社・官庁および付帯サービス部門が空港ターミナルビルを中心に展開している。ターミナルビルは，空港の旅客・貨物の輸送手続きサービスを行なう建物で，空港の一か所にまとめた集中方式と建物を各航空会社ごとに何か所かに分けた分散方式等がある。国際空港では出国・入国の管理を行なう法務省，税関を担当する大蔵省，伝染病の上陸を防ぐため検疫を行なう厚生省，動植物の検疫を行なう農林省，その他警察などの官庁の出先機関があり，空港全般の管理を運輸省が行なっている。航空会社は旅客の座席予約，航空券の発売，手荷物の預け入れ・引き渡し，搭乗の案内，貨物を取り扱うための施設をもつ。

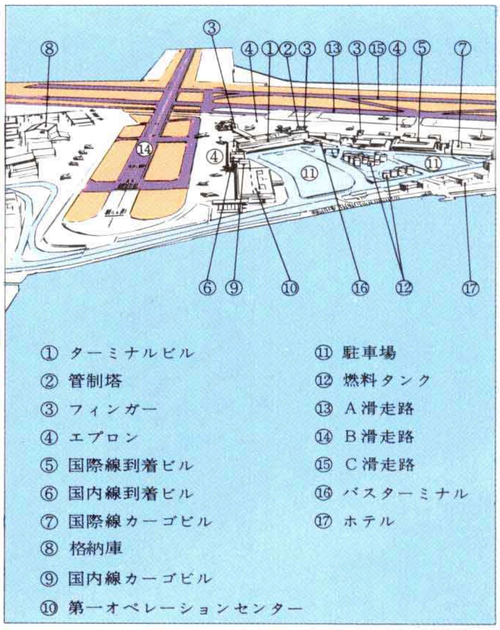
近代的な空港では，ターミナルビルと航空機の間に可動式のローディングブリッジという設備をもち，乗客待合室と航空機を直接接続しているので，悪天候に悩まされずに乗降できる。航空機の大型化と発着機数の増大のため，大きな空港ではターミナルビルの大型化や分散化により，搭乗・乗り継ぎのとき旅客の移動距離が長くなるが，この問題を解決するため〈動く歩道〉，ターミナルビルと航空機間の旅客輸送を行なう昇降式の特殊乗降用バス，ターミナルビル間を結ぶ無人運転の新交通システム等が実用化されている。

国際空港においては付帯サービス部門として，インフォメーションサービス・銀行(通貨交換)・レストラン・ホテル・売店(外国へ出発する旅客用の免税売り場を含む)・待合室・送迎場・展示場・展望台などの施設がターミナルビル内にある。ターミナルビルの周辺には，乗客や送迎人の輸送のため空港と市内の中心を結ぶ鉄道・モノレール・バス・リムジン・ヘリコプターなどのターミナル，休息・宿泊のためのホテル，機内搭載用食事の調理工場などがある。さらに国際郵便の便郵局や貨物輸送のためには小口の貨物を集めて発送を引き受ける混載業者の集散荷施設，航空会社の貨物ターミナルなどがある。

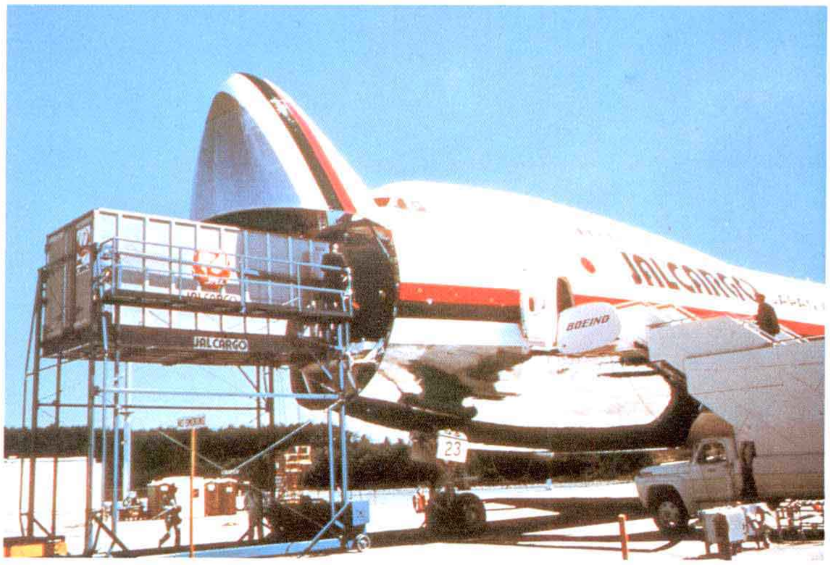
〔整備に関する施設・組織〕航空会社は空港のターミナルスポット(貨客を載せるための駐機場所)やメンテナンススポット(整備するための駐機場所)で日常運航のための点検・整備を行なっているが，オーバーホールや大がかりな改造・修理には整備地区に建てられている格納庫(ハンガー)の中に航空機を収容して整備作業を行なう。格納庫は作業を効率よく行なえるようクレーン・ジャッキ・足場・照明の設備，圧縮空気・油圧・電力などの供給設備をもち，昼夜の別なく整備作業が行なわれる。整備地区には，そのほかエンジン工場，無線機器工場，油圧気圧機器工場，車輪工場など機械の種類ごとにわかれており，航空機から取りおろされた部品のオーバーホール・修理・試験などを行なっている。航空機の外部洗浄を行なうクリーニングスポットや消音装置をとりつけたエンジン試運転場も整備地区にある。

〔空港と環境問題〕ジェット機の出現により空港周辺には騒音公害が起こり社会問題となっており，この解決のために航空機の騒音を小さくする改善が進められているが，これだけでは不十分なので空港周辺の住宅を移転させたり防音工事を施したりしている。新しく建設される空港は，極力沖合の





東京国際空港(1971年1月)



貨物搭載中のB-747(ジャンボ)　貨物専用機



税関　検疫・出入国管理とともに，国際空港では重要な役割を果たす

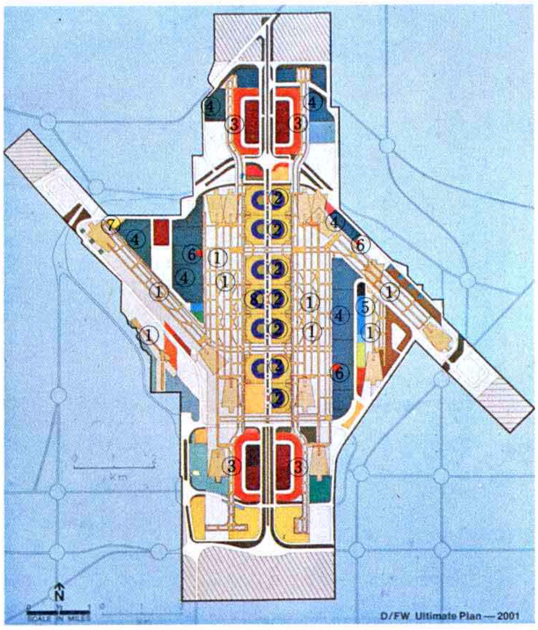




格納庫の中で大がかりな整備作業をしているB-747

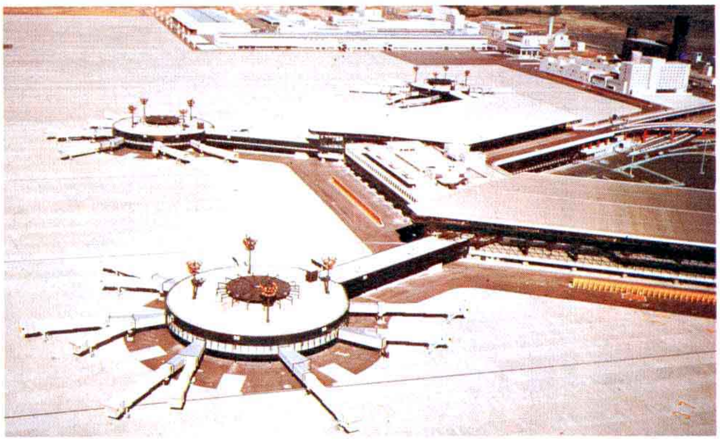


管制塔　(上)外部　(下)内部　離着陸機に対する許可や，空港周辺の航空機に対する情報・指令はここから与える

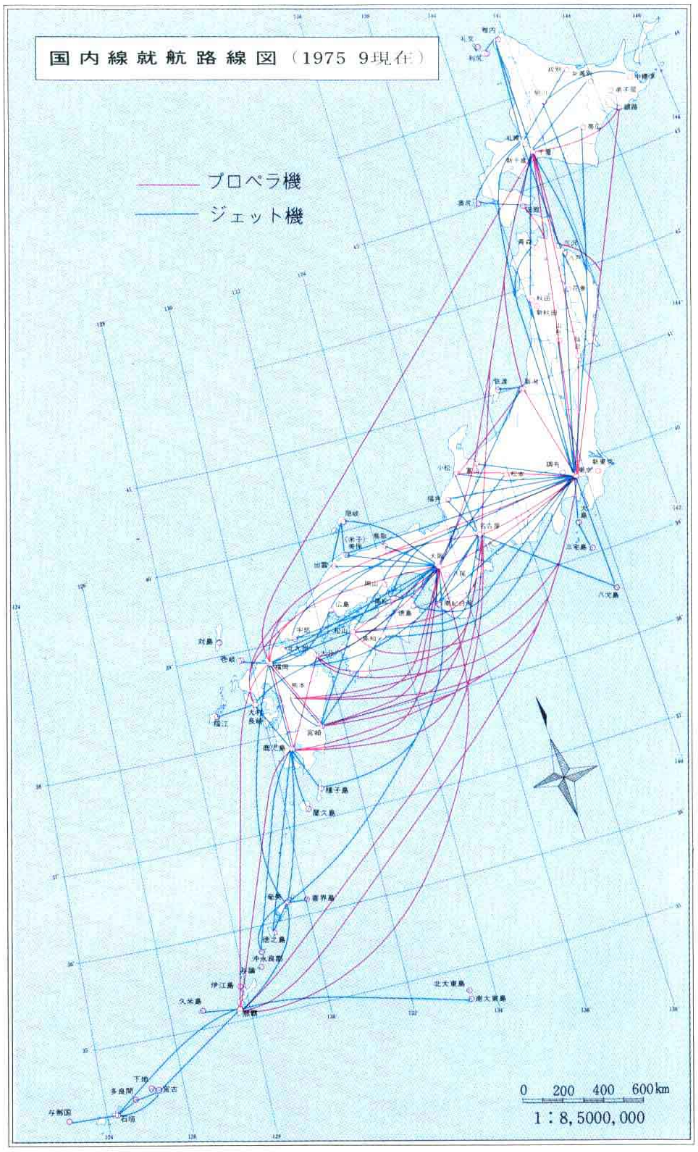


① 滑走路
② 旅客ターミナル
③ 貨物ターミナル
④整備地区
⑤ 燃料貯蔵地区
⑥ ホテル
⑦ 航空博物館
⑧ コントロールタワー

21世紀の空港　ダラス・フォートワース（アメリカ，テキサス州）（2001年　拡張完了時の平面図）



新東京国際空港（成田）のサテライト方式ターミナル。数多くのローディング・ブリッジが備えられており，1つのサテライトに，8機が停留できる



埋立地など居住区域から十分離れた場所が選ばれるようになり，内陸の空港の場合も周辺の土地利用方法を倉庫・工場等の騒音に大きな影響を受けない用途に限るよう考慮されている。そのほか，空港内部から排出される工場廃液・機内排出物・空港内生活排水なども処理施設で処理したのち排出される。

〔その他〕ハイジャック等の航空機内犯罪を防止するため，旅客の所持品や手荷物の中の武器・爆発物を検出する検査装置が設置されている。また，航空事故の際に救援・消火にあたる消防署，海上の救難にあたる海上保安庁の施設や空港内の警備にあたる警察署など種々の機関があり，空港はあたかも一つの都市を形成しているといえよう。

〔将来の空港〕将来の大量輸送時代は空港をますます巨大なものにするであろうが，日本や英国のように国土の狭い国においては周辺への騒音影響を無くすため現在の都市中心から離れた沖合の埋立地に建設されることになろう。都市と空港の間は超高速地上輸送システムで結び，空港内の交通は無人運転の新交通システムによりなされることも考えられている。海上空港の場合，航空機燃料は空港岸壁にタンカーを横づけして陸揚げされる。空港の対岸には，倉庫，流通センター，航空貨物に関連の深い産業等が集まり臨空港都市とでも呼ぶべき都市が出現しよう。周辺の都市化が進んで環境問題を抱えた現空港は莫大な費用を投じて騒音対策を行なってその機能を維持するか，近距離路線用の低騒音機，STOL（短距離離着陸機），VTOL（垂直離着陸機）の発着に限られた空港として周辺と調和しながら活用されるであろう。

〔故谷　洋五・高塚英雄〕

くうそうよりかがくへ　［空想より科学へ］　エンゲルス*の著書。正確には《空想より科学への社会主義の発展》という。1877年に書かれた《反デューリング論》から3章を取り出して加筆し，1880年出版された。空想的社会主義*から科学的社会主義*への発展経過と，資本主義社会から社会主義社会への発展の不可避性とが説明されている。《共産党宣言*》とともに社会主義の古典として広く読まれている。

くうたいくうミサイル　［空対空ミサイル］　⇨ミサイル

くうたいちミサイル　［空対地ミサイル］　⇨ミサイル

くうちゅうケーブル　［空中ケーブル］　⇨ロープウエー

くうちゅうさんぷ　［空中散布］　薬剤を空中から散布する方法で，わが国では1950年代の後半から急速な勢いで普及した。アメリカやソ連などでは飛行機による空中散布が多いが，日本ではヘリコプターが用い

られる。粉剤あるいは粒剤などを散布するのにきわめて能率的であるが，最近ではさらに微量散布法というのが普及してきた。これは原液あるいはそれに近い濃厚液を特殊の装置で空中から散布するもので，10アールあたり100cc内外の薬液を要するにすぎない。〔深谷昌次〕

くうちゅうじきたんこう【空中磁気探鉱】飛行機に磁力計を備え，空中から地表の磁気の状態を調べ，地中の磁性鉱物の存在状態を調査する方法。→物理探鉱

くうちゅうちっそこてい【空中窒素固定】空気中の遊離窒素を原料として窒素化合物をつくること。①酸素と窒素とからアーク放電により酸化窒素をつくる方法，②高温の炭化カルシウムと窒素から肥料に用いられる石灰窒素をつくる方法，③工業的に重要なもので，水素と窒素からアンモニアをつくるハーバー-ボッシュ法*などがある。なお，ある種の細菌類などが行なう空気中の窒素を同化すること(→窒素同化作用)をいう場合もある。

くうちょう【空腸】小腸の一部で，十二指腸に続く部分。その下の回腸との区別は必ずしも容易ではない。→小腸

くうていさくせん【空挺作戦】地上における戦略的・戦術的特定任務を遂行するため，味方の勢力範囲外にある重要な地域に，地上軍の戦闘部隊や必要な補給物資などを輸送(強行着陸，パラシュート*降下・投下)して行なう攻勢作戦をいう。まず空挺降下部隊がパラシュート降下または強行着陸によって空挺堡(くうていほ)を占領し，次に増援部隊(パラシュート機能をもたない空輸着陸部隊)が輸送され着陸するのが通常である。戦略的空挺作戦では長期間独立して行動することもあるが，普通は味方地上部隊がなるべくすみやかに空挺堡付近に進出して空挺部隊*が孤立化しないようにする(早期提携作戦)。《歴史》第1次世界大戦で航空機が実用化されてから各国で研究が進められた。実戦ではじめて適用されたのは1939年のソビエト-フィンランド戦のソ連軍パラシュート部隊の降下である。第2次世界大戦の前半は枢軸国(ドイツ・日本など)が，後半は連合国(アメリカ・イギリスなど)が積極的に本作戦を実施した。ドイツ軍は1940年のオランダ作戦，翌年のクレタ島作戦で成功した。日本軍は1942年(昭和17)にセレベス島のメナドに降下したのが最初の実戦であり，続いてパレンバンに降下した。アメリカ軍は1943年のシチリア島作戦を最初とし，1944年のノルマンジー上陸作戦以後，グライダーを併用する大規模な空挺攻撃を実施した。同大戦後は朝鮮戦争，スエズ・コンゴ・南ベトナムの各戦場で小規模の空挺作戦が行なわれた。《現況》近時，全地上部隊の空中機動力増強が強く要望されているとおり，空挺作戦の軍事的価値はますます増大する傾向にある。しかし本作戦の第1



空　也《空也上人像》(部分)　13世紀前半に康勝の手になった木造彩色像　六波羅蜜寺蔵

条件は制空権*の獲得にあるので，長距離の空挺作戦を実施するには，優勢な航空戦力をもつアメリカ・ソビエトのほかの国ではむずかしい。最近ヘリコプター空輸が進歩したので，各国とも局地輸送用として大量整備に努めている。→空輸〔森田　哲〕

くうていぶたい【空挺部隊】空挺作戦*において，航空機から降下あるいは着陸して地上戦闘を行なうために組織・訓練された陸上部隊をいい，空挺降下部隊と空輸着陸部隊とがある。前者はパラシュート降下あるいは強行着陸によって戦闘に参加できるように準備されているが，後者は落下傘降下能力のない部隊をいう。なお，空輸に任ずる部隊は航空部隊(空軍*)に所属するのが通常である。

ぐうているい【偶蹄類】四肢(しし)に2本または4本の指がある有蹄獣の総称で，分類上の一目，偶蹄目を形成する。有蹄類中最多種で，現在最も栄えている類。大きさは肩高30cmのネズミジカから3.6mのキリンまできわめて変化が多い。イノシシ・カバなどのように角のないもの，ウシやヒツジなどのように洞角(どうかく)のあるものなどがある。多くは草食性で，森林・草原・ツンドラ・高山など，あらゆる環境にすみ，普通は地上性であるが，カバなどのように川や沼にすむものもある。多くは群れで生活し，季節的に移動するもの，単独で生活するものなど，生活は変化に富む。偶蹄類は次の9科に大別される。イノシシ科・ペッカリー科・カバ科・ラクダ科・マメジカ科・シカ科・キリン科・プロングホーン科・ウシ科。〔今泉吉典〕

くうでん【空電】空中の帯電状態。空間電荷の分布*は地面近くで大きく，高さとともに急に減少し，一定の日変化をするが，霧・降雪・風塵(ふうじん)・雷雨などの気象現象に伴って大きく変動する。

くうどう【空洞】うつろなほら穴の意で，医学的には体の組織内に壊死(えし)・融解が起こり，組織が外に流出したり吸出されたあとにできる局限性の空間。肺結核*にみられる肺の空洞が代表的なもので，多くは上葉に現われる。

くうどうきょうしんき【空洞共振器】導波管*に管内波長λ_gの電波をのせ，その両端を$\lambda_g/2$の整数倍の長さで短絡*すると共振作用をもつようになり，強い同調電流が得られる。このような共振器を空洞共振器といい，マイクロ波回路に多く用いられる。

くうどうげんしょう【空洞現象】翼形に流体が作用するとき，翼表面から流体が離れて空洞をつくる現象。キャビテーションともいう。船のスクリューや高速液体ポンプの翼端のように，液体中を高速で運動する物体の表面には，ベルヌーイの定理*によって，ごく低圧の部分ができる。この圧力が飽和蒸気圧よりも低くなると蒸気が発生し，また液中に含まれていた気体が放出され，これらで満たされた空洞がつくられる。空洞ができると，翼の作用が悪化して機器の性能が低下する。下流で圧力が回復すると空洞は閉じるが，そのときまわりの液体がぶつかり合って局部的に高い圧力を発生し，それが原因で翼の表面が侵食される。〔内田茂男〕

くうどうびょう【空洞病】タバコ・アブラナ・ダイコンなどの茎・葉・根が侵される病気。タバコの茎では髄が軟化・腐敗して消失し，空洞となって悪臭を発する。病原細菌は土壌(どじょう)中に永存し，下葉の傷口，芽かきの切り口などから侵入することによって感染する。

くうほう【空砲】発射音だけで，弾丸が飛ばないようにした銃砲弾のこと。薬莢(やっきょう)は実弾とほぼ同じで，弾丸は紙製のものが多い。大砲の場合は，発射薬のみを用いる。礼砲用・演習用。

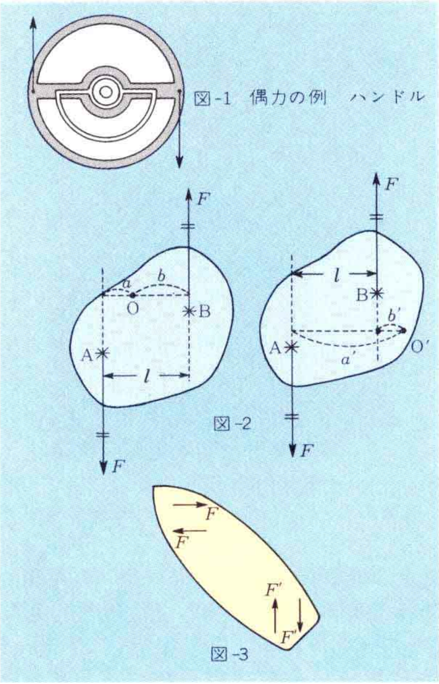
くうや【空也】(908～967あるいは903～972)　平安中期の僧。弘也(こうや)ともいい，のちに天台座主(ざす)延昌(えんしょう)に師事して光勝といった。父母，出身地は明らかでないが，皇族の出身といわれる。出家以前から各地に修行し，道路・橋梁(きょうりょう)・水路を開設し，無縁のしかばねを収拾火葬するなど幾多の社会事業をなした。20余歳で尾張の国分寺に出家，空也と名のり，陸奥(むつ)・出羽地方にも教化の足を広げた。この間，《一切経》の披閲(ひえつ)をはじめ，仏像の造立，写経の勧進をなし，各地に苦行を重ね，しばしば奇瑞(きずい)を得たという。938年(天慶1)京都に入り，つねに阿弥陀(あみだ)の口称念仏をすすめ，阿弥陀聖・市聖と称され，また穿掘(せんくつ)した井戸は阿弥陀井とよばれたという。967年(康保4)，一説に972年(天禄3)70歳の生涯(しょうがい)を閉じた。その念仏は多分に呪術(じゅじゅつ)的・修験者的であるが，後世の浄土教に与えた影響は大きく，従来，貴族中心であった口称念仏を民間にひきおろし，その具体的利他活動として社会事業を併修したことは空也浄

土教の特色である。〔大谷旭雄〕

くうゆ【空輸】 空中輸送の略。軍用語では航空機で特定の人員・物資を輸送することをいうが，一般でも遭難者の救助，医薬品や新鮮な食物の輸送などの場合に用いる。第1次世界大戦では空輸はおもに物資投下であったが，第2次世界大戦では空挺(くうてい)作戦，軍需品の補給，傷病者の後送など各種の目的に利用された。特にアメリカは大形輸送機を開発し，中国・ソ連に対し長期間大量の物資補給を実施した。大戦後もベルリン空輸(1948年7月から10か月)，朝鮮戦争時(1950〜1953)の空輸で成果をあげた。輸送機による空輸は速度・行動範囲が大であるが，1機の輸送量が少ない。したがって輸送機の高速化・大形化の傾向があるが，このために飛行場施設の制約を受ける。この欠点を補うものとして，朝鮮戦争以後ヘリコプター輸送が発達してきた。ヘリコプターは地形の制約が少ないので戦場の移動に適する。目下，速度・輸送力を増大するようにその性能の向上が図られている。〔森田 哲〕

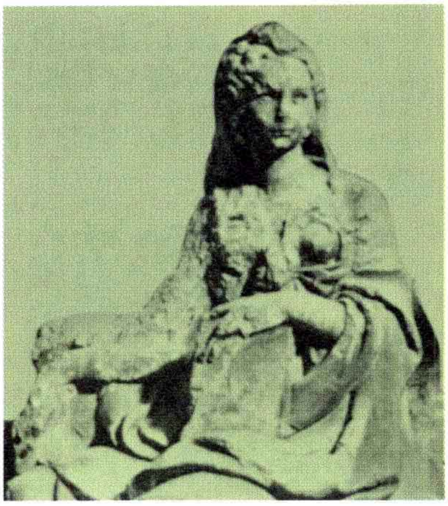
ぐうりょく【偶力】 一つの物体に働き，互いに大きさが等しく，作用線が平行で向きが反対の二つの力の組。自動車のハンドルを回すときや時計の龍頭(りゅうず)をまくときなどは，偶力が働いている(図-1)。偶力は作用線が平行であるため合力は0であるから，物体を一つの方向に引き動かす働きはなく，回転させる作用だけがある。

〔偶力のモーメント〕 物体を回転させる効果を考えるとき，力の大きさFと二つの力の作用線間の距離lの積を，偶力のモーメントといい，lを偶力の腕という。符号は反時計回りのモーメントを正としている。この偶力のモーメントは，回転軸がどこにあっても同じである。図-2のように，回転軸Oのまわりに働いているときの偶力のモーメントの和は$Fa+Fb=F(a+b)=Fl$となり，回転軸O'のまわりについても$Fa'-Fb'=F(a'-b')=Fl$となるからである。力のモーメントは定点を指定する必要があるが，偶力のモーメントではその必要がない。また，偶力はモーメントFlさえ変えなければ，その作用線の位置を任意に動かすことができる。たとえば，水面に浮かぶボートに図-3のような偶力Fを作用させる場合と偶力F'を作用させる場合，モーメントが等しい限りボートの動きはまったく同じである。このような偶力が働くとき，物体は偶力の二つの作用線のちょうど中間にあたる点を中心にして回転するように思われるが，偶力FであってもF'であっても，ボートは重心を中心として回転する。〔今淳治郎〕



偶 力


ク エ


クエルチア《寓意像》

くうれいきかん【空冷機関】 機関のシリンダーやシリンダーヘッドを空気で冷却するようにした機関。冷却効果をあげるために冷却部には冷却ひれをつけ，材料にもアルミニウムなど熱伝導のよいものを用いる。二輪車などの機関では走行の際の風を利用して冷却する自然空冷機関もあるが，出力の大きいものでは冷却ファンを用いて送風する強制空冷機関が多い。

ぐうわ【寓話】 人間以外の動物・植物などを人間のように行動させ，教訓・風刺を内容とした物語。内容が動物などに仮託されて説かれるので，広く親しまれる。ギリシアの《イソップ物語》は最も著名な寓話の一。ほかにも古代インドの仏教説話集《ジャータカ》やサンスクリットの説話集《パンチャタントラ》など，民間に流布していた寓話を集めたものがあり，これらはたがいに内容的にまじりあいつつ後代の寓話に影響を及ぼした。17世紀フランスのラ-フォンテーヌの《寓話詩》や日本に古くから伝わるおとぎ話はその例である。ラ-フォンテーヌの作品は，たんに教訓譚(たん)にとどまらず文学作品としてもすぐれている。ほかにもドイツのレッシングやロシアのクルイローフら，文学者による寓話が数多くある。〔田島 修〕

ぐうわし【寓話詩】 ラ-フォンテーヌの韻文寓話詩集(1668〜1694)。240編に及ぶ寓話詩からなり，多種多様な人間の性格に対応する数多くの動物が登場して，人生の悲喜劇を描き出している。作者みずから〈100幕の場面をもち，全宇宙を舞台にした豊かな劇〉と言っている。

くえ【九絵】 硬骨魚類・スズキ科。全長1mに達する海産魚で，ハタの一種。からだは紡錘形で，口は大きく，うろこはきわめて小さい。地色は茶かっ色で，体側に背から腹に向かって前方に傾く黒かっ色の斜走横帯がある。この横帯は途中ところどころで中断し，また，横帯と横帯の間にも，横帯と同色の不規則斑(はん)をもち，全体として複雑な模様を構成する。この模様によってたやすく他のハタ類と区別することができるが，老成すると斑紋や帯が消えて，マハタとの区別がつきにくくなる。伊豆(いず)七島などで，磯(いそ)の大物づりとして人気があり，ときに2mほどのものもあるモロコといわれる魚は，クエかマハタの老大魚であろうとされている。2〜3cmの幼魚では，背びれ第2棘(きょく)と腹びれの棘条が長く伸びている。相模(さがみ)湾以南・台湾・中国に分布する。美味。よく水族館で飼われ，長生きする。〔菅野 徹〕

くえいでん【公営田】 〈こうえいでん〉とも読む。律令(りつりょう)制における官田と官営公田の総称。私営田に対する。耕作には班田農民の徭役(ようえき)労働を徴発し，収穫は国家の収入とした。特に823年(弘仁14)大宰大弐(だざいのだいに)小野岑守(みねもり)の建議で大宰府管内に施行された田制は著名。これは従来の口分田や公田から良田を選んで農民に耕作させ，いっさいの収穫は官が取得し，食糧・耕作料・溝池(こうち)・官舎修理料などは官給，耕作者の租・庸・調も官負担であった。全収穫から官給を差し引いた巨大な残額はすべて国家収入となったので，当時困乏して庸・調を納められない班田農民の実情に即し国家収入を増加するため案出された。民間の荘園(しょうえん)経営にならったもので，その後畿内(きない)でも行なわれ，官田経営に影響を与えた。〔星野良子〕

クェーカーは【クェーカー派】 正式にはフレンド教会，日本では基督(キリスト)友会

という。プロテスタントの一派。〈ふるえる人〉を意味するクェーカーの名は宗教的体験の熱烈さに基づく。17世紀半ばイギリスのフォックス*が創始し，現在アメリカ合衆国・イギリスを中心に約20万の信徒がいる。信仰は神の力の不断の作用である各人の〈内なる光〉によって得られると説く。聖職者の存在を認めず，教会主義に反対。平和主義・人道主義を貫き，社会的・政治的活動を活発に行なっている。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

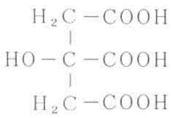
クエゼリン(環礁)［Kwazelen］ 中部太平洋，マーシャル諸島西部にあるサンゴ礁の島。環礁内は良港で，現在はアメリカ合衆国の信託統治領となり，その海軍基地が置かれている。第2次世界大戦前は日本海軍の要塞(ようさい)であった。

グエノン ⇨オナガザル

クエルチア［Quercia Jacopo della］(1374または1375～1438) イタリア，シエナ派*の彫刻家。ボローニアのサン-ピエトロ寺院の正面彫刻，シエナ大聖堂*の聖ジョバンニ礼拝堂の聖水盤周囲の高浮き彫りなどが知られる。独特の力強い量感にあふれる表現を示し，ミケランジェロ*にも強い影響を与えた。

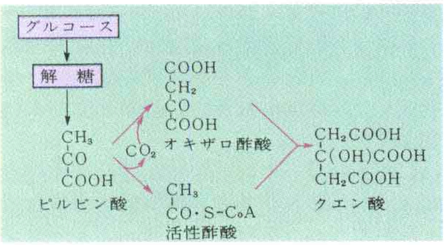
グエルチーノ［Guercino］(1591～1666) イタリアの画家。カラッチ*およびコレッジオ*の影響のもとに，ボローニア派(➡ルネサンス美術)として出発，やがて17世紀北イタリア-バロックの代表的画家となる。1621～1623年ローマのビラ-ルドビシで，はじめて独特の幻想的な絵画手法を確保したフレスコ壁画《オーロラ》を制作。その手法は，フレスコ壁画以外の宗教的・歴史的・神話的主題を扱った祭壇画や板絵にも，情趣豊かな幻覚的風景として登場している。肖像画家としても有名であった。〔松本芳夫〕

くえんさん【枸櫞酸】 三塩基性酸で，トリカルボン酸回路*の一員として，すべての生物の細胞呼吸に重要な役割を果たしている。



特に，植物の果実中に多量に含まれ，レモン・ミカンなどの主要な酸である。また，細菌・糸状菌の発酵生産物として培養液中に多量に蓄積し，工業的生産に利用される。菓子・清涼飲料の酸味剤に用いられるほか，医薬品や写真材料にも用いられる。なお，クエン酸4g は大きなレモン約1個分の酸味に相当するという。〔吉田精一〕

くえんさんかいろ【枸櫞酸回路】 ⇨トリカルボン酸回路





グエルチーノ《キルケ》ルーブル美術館蔵



久遠寺 大伽藍祖師堂

くえんさんナトリウム【枸櫞酸ナトリウム】 クエン酸のナトリウム塩で，無色または白色の結晶。水溶液は血液の凝固阻止作用があることが古くから知られている。その作用は，血中のカルシウムイオンをとらえてトロンビン*の生成を阻止するためといわれるが，濃厚溶液は反対に凝固作用を増す。一般に輸血用には10%水溶液が用いられ，赤血球沈降速度測定用には3.8%水溶液が用いられる。

くえんさんはっこう【枸櫞酸発酵】 糖類を好気的に分解してクエン酸*をつくる発酵。実際に使用されている菌は黒かびで，これは発酵時のpHが低いときクエン酸を，比較的高いときにグルコン酸・シュウ酸をつくる。したがってpH2～4で発酵を行なう。糖蜜(とうみつ)・粗糖を原料として，28～30℃で発酵を行なえば4～14日で完了する。生成機作は，グルコースが解糖されてピルビン酸となり，その一部は炭酸ガスと結合してオキザロ酢酸となり，オキザロ酢酸はピルビン酸から生成した活性酢酸と縮合してクエン酸をつくる。〔伊藤力雄〕

クェンステット［Friedrich August Quenstedt］(1809～1889) ドイツの地質学者。1837～1889年の間，チュービンゲン大学の教授として，多くの著名な地質学者・古生物学者を育てた。天性の教師で，ドイツの各地における講義を通して，地質学・古生物学の普及に貢献した。

グエン-チ-ビン［Nguyen Thi Binh］(1927～) ベトナム共和国臨時革命政府外務委員(外相)。南ベトナム解放民族戦線中央委員。パリ会談首席代表。サイゴン生まれ。パリ技術専門学校に留学。1948年パリで抗仏ベトナム人運動の闘士ド-ダイ-フォクと結婚。1950年ごろからサイゴンの反仏学生運動に参加。1951～1954年獄中生活を送り，出獄後反ゴ-ジン-ジエム*運動を指導。1960年解放戦線に参加，解放婦人連合会副会長となる。しばしばヨーロッパを訪れ，国際婦人会議などを通じて民族解放運動を展開した。1968年12月パリ会談次席代表，1969年6月外務委員，同会談首席代表となる。〔吹浦忠正〕

グエン-フー-ト［Nguyen Huu Tho］(1910～) 南ベトナム共和国臨時革命政府顧問協議会議長。南ベトナム解放民族戦線中央委員幹部会議長。ショロンの生まれ。フランスに留学して法律を学び，サイゴンで弁護士となる。1947年から反仏運動に参加し，1950～1952年獄中生活を送る。1954年解放戦線の母体であるサイゴン-ショロン地区平和委員会を設立して副議長となる。1954～1961年再び獄中生活を送り，フーエン刑務所を脱出して，翌年解放戦線幹部会議長となる。1969年6月顧問協議会議長。〔吹浦忠正〕

クォート［quart］ ヤード-ポンド法の体積または容量の単位。4分の1ガロンをいう。なお，1クォートは，イギリスでは1.136 l，アメリカ合衆国では0.946 l に相当し，一致していない。

クォー-バディス ポーランドの小説家シェンキェービッチ*の長編小説(1895)で，これにより1905年ノーベル賞を受けた。ローマ皇帝ネロの苛酷(かこく)な弾圧を受けながら，初期キリスト教徒が節を曲げず殉教し，ついには圧迫者に対する精神的勝利を得るに至ることを骨子とした歴史小説で，この史実を，迫害されるポーランド民族の励ましにしようとして書かれたもの。題名はラテン語で，〈主よ，いずこへ行きたもうや〉というペテロのことばからとっている。〔米川和夫〕

クオレ イタリアの作家デ-アミーチス*の作品で，児童文学の世界的な古典とされる。1886年刊。クオレとはイタリア語で〈心〉の意。小学校3年の男の子が日記形式で1年間の学校生活を語り，それを通して当時のイタリアの少年たちや家族などがいきいきと描かれている。中に，毎月先生が生徒に語って聞かせる愛国精神にあふれた11の物語がはいっている。

くおんじ【久遠寺】 山梨県南巨摩(こま)郡身延(みのぶ)町にある日蓮宗(にちれんしゅう)の総

本山。宗祖日蓮が晩年この山(身延山)に隠棲(いんせい)し，1281年(弘安4)西谷に草庵(そうあん)を建てたのに始まる。日蓮の没後，遺命によって遺骨を身延に葬り，のち日向が第2世となって管理した。1474年(文明6)11世日朝が現在地に移し，多くの寺堂を造営して日蓮宗の総本山とした。1706年(宝永3)には勅願所および永代紫衣(しえ)寺となったが，1824年(文政7)と1875年(明治8)の2度火災にあい，堂宇ならびに日蓮自筆の諸書を失った。現在はほぼ旧観に復し，堂塔伽藍(がらん)は身延山・寺平・梅平・西谷・東谷などの峰や谷を埋めている。〔毛利早公子〕

くおんじつじょう 【久遠実成】 ブッダがブッダガヤーのボダイジュの下で悟りを開き仏となったのは実は仮の姿で，それ以前の永遠の過去からすでに成仏し，多くの人々を教化してきたという意味。ブッダなきあと，仏弟子(でし)たちは悟りの内容である法とブッダの人格を追慕し，さらにはブッダに代わる仏を求め，その結果，種々の仏が立てられた。しかし，《法華経(ほけきょう)》において久遠実成のブッダが説かれ，これらは釈迦仏(しゃかぶつ)に帰一され，釈迦仏の永遠不滅が強調された。また，この考えは阿弥陀(あみだ)仏にも適用され，十劫(じっこう)の弥陀に対して久遠の弥陀が説かれた。〔京戸慈光〕

くかい 【句会】 俳句の会。宗匠とその補佐役の執筆(しゅひつ)，その他の連衆からなる。各人の句を無記名で袋に入れたり(袋回し)，半紙に連記したり(膝(ひざ)回し)して集め，清書・回覧・選句し，結果を読みあげる(披講(ひこう))。古くは運座ともいい，判者が採点したが，明治以降は互選して批評しあうことが一般的になった。

くかいがん 【苦灰岩】 ⇨ドロマイト

くかいせき 【苦灰石】 ⇨ドロマイト

くがいそう 【九蓋草】 双子葉植物・ゴマノハグサ科。山の草地にはえる多年草。茎は枝分かれせず，直立して50～100cm。葉は4～6枚輪生し，長楕円(ちょうだえん)形で両端がとがる。夏，茎の先に，淡紫色の先が4浅裂した筒状の小花を，密に穂のようにつける。民間では根をリウマチ・関節炎の薬として用いることがある。

くがいでん 【公廨田】 律令(りつりょう)制における職田(しきでん)の一。本来は官衙(かんが)の用にあてる田であったが，その中から官人の俸禄(ほうろく)にあてたため職田の意となった。大宝令では大臣・大納言のものを職分田，在外諸司のものを公廨田といい，養老令ではすべて職田と称した。奈良・平安時代には外官(げかん)および在京諸司田を公廨田とよんだ。いずれも不輸租田であった。

くがかつなん 【陸羯南】 (1857～1907) 新聞記者・思想家。旧姓中田，名は実。青森県の生まれ。司法省法学校中退。22歳で陸家を継いだ。1888年(明治21)新聞《東京電報》(翌年改組して《日本》)を創刊した。三



クガイソウ



クガート

宅雪嶺(みやけせつれい)・井上円了などと当時の欧化思想を批判し，国粋主義を唱えた。1906年病を得て《日本》を辞すまで，政治論説に筆をふるい，特に条約改正に関する発言は大きな影響力をもっていた。また言論統制に反対し，1900年には新聞紙条例を改正させた。〔名生尚志〕

くかくせいり 【区画整理】 ⇨土地区画整理

くかだち 【盟神探湯】 古代における神判制度の一。誓湯(うけゆ)ともいう。容疑者に熱湯の中の小石をつかみ取らせ，火傷の有無によって有罪か無罪かを判断する方法。このような神判は広く世界的に行なわれた。允恭(いんぎょう)天皇のとき，氏姓の錯乱を盟神探湯によって正したという話は有名。《隋書(ずいしょ)》の〈倭国伝(わこくでん)〉にもみえる。また継体天皇のときに毛野(けぬ)臣によって任那(みまな)で行なわれた例のように，専制的支配者の下では本来の性格を失って拷問に結びつくことを示している。中国法の伝来とともに行なわれなくなったが，室町時代になって再び同様の神判として湯起請(ゆぎしょう)が行なわれたことが《看聞御記》にみえている。〔柳雄太郎〕

クガート ［Xavier Cugat］ (1900～) ラテン音楽のバンド-リーダー。〈ルンバの王様〉とよばれる。スペインのヘローナに生まれ，幼時キューバの首都ハバナに移住。はじめバイオリン奏者となり，1915年にアメリカに渡った。1935年にダンス向きのラテン-バンドを結成して人気を高め，洗練されたスタイルで今日まで第1級の地位を保っている。1953年・1966年・1971年に来日。代表作はルンバ《マイ-ショール》。

ぐかんき 【愚管記】 〈後深心院記〉〈関白道嗣(みちつぐ)公記〉ともいう。26巻。関白近衛(このえ)道嗣の日記。1353年(正平8・文和2)から1383年(弘和3・永徳3)にわたる30年間の事実を伝える。欠失部分も多く，記事も首尾一貫していないが，室町初期の重要史料。

ぐかんしょう 【愚管抄】 慈円著の歴史書。1220年(承久2)の成立。末世的時勢観と道理の観念を基調として，神武天皇から順徳天皇に至る歴史事象の展開が叙述されている。その著作動機は，後鳥羽(ごとば)上皇の鎌倉幕府倒幕計画の諫止(かんし)にあるとされる。仮名文を用いて，〈物知れることなき人〉に乱世の真意義を正しく理解させるためと記してある。

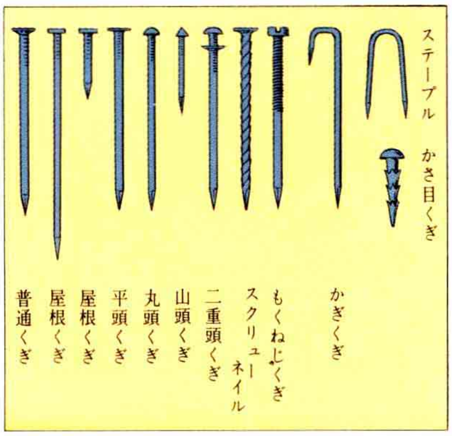
くかんせいど 【苦汗制度】 低賃金，長時間労働，不衛生な作業環境での労役制度をいう。産業革命進行中のイギリスで，家内工業や下請零細企業は失業者・婦人・少年らの不熟練労働者を，こうした劣悪な労働条件のもとで働かせていた。このため，19世紀末には大きな社会問題となり，1891年には工場法が改正され，1909年には最低賃金法が制定されるに至った。わが国でも明治以来，輸出用軽工業などの零細企業に苦汗労働がみられた。〔加藤　寛〕

くき 【茎】 維管束植物の栄養器官の一つで，胚(はい)の幼芽が上方に軸状に生長して植物体の地上部をなしているもの。枝や葉を一定の位置(節)につけ，花もつける。地下には根を生じて根と葉との間の養分・水分の通路となり，また同化物質の通路ともなっている。茎の先端には生長点があってたえず生長する。茎には上に向かって伸びていく背地性があり，また光の方向に生長する屈光性を示す。維管束の配列は植物の種によっていろいろである。一般的に茎の組織は外側から表皮・皮層・篩部(しぶ)・形成層・木部と並び，まん中に髄がある。皮層の細胞内には葉緑体があって同化組織の一部となっており，柔組織の部分は貯蔵器官となっていることがある。藻類(そうるい)・コケ類には茎は分化していない。地下茎は貯蔵器官となったり，越冬をしたり，無性生殖のために役だつ。〔高島丈三〕

くき 【久喜(市)】 埼玉県北東部の市。人口54,000。1971年(昭和46)市制施行。東北本線と東武鉄道伊勢崎(いせさき)線が交わる交通の要地。この地は中世からすでに開かれ，久喜駅の北西1.5kmにある臨済宗円覚寺派の甘棠院(かんとういん)は，古河公方(こがくぼう)足利政氏(あしかがまさうじ)の館(たて)の跡に1519年(永正16)に建てられた寺で，寺宝の貞巌(じょうかん)和尚(おしょう)画像は重要文化財に指定されている。最近は住宅や工場の進出が目だち，人口の増加が著しい。産業三大別人口比は11：33：56。

くぎ 【釘】 木材と木材とを打ちつけるのに用いる継ぎ手金物。建築部材を接合・装着するための材料としては，くぎ・ボル

ト*・かすがい*などの金物類，セメントなどの無機質物，にかわなどの有機質接着材がある。中でもくぎは，施工が簡単で，部材の大小やこれにかかる力の大きさに応じて種類・本数を任意に決めることができることから，広範囲に利用される。くぎの効果は剪断(せんだん)抵抗と引き抜き抵抗によるもので，径と長さ，表面の形状で抵抗の度合いは変わる。目的によっていろいろの形状・寸法のものがつくられ，材質も用途によって鉄・ステンレス鋼・しんちゅう・アルミニウム合金や木・竹製のものまでつくられる。鉄くぎにもユニクロム，またはクロメートめっきのものがあり，着色くぎもある。一般によく用いられるくぎは鉄丸くぎで，日本工業規格(JIS)では長さ19～178mm，径1.22～5.59mmと決められている。1たるの正味重量は60kgである。くぎは木材の種類によって保釘(ほてい)力が異なり，針葉樹ではマツ・ヒバ・ヒノキ・ツガに大きく，スギ・エゾマツなどには小さい。広葉樹は特に保釘力が大きい。くぎの径 d と取り付ける板の厚さ a の細長比 a/d が6より大きいときは板に割れがはいらない。くぎの長さ l と板の厚さ a の比 l/a が大きいほど耐力は増すが，効率のよい値は2.5～3.0である。なお，コンクリートや鉄骨に打ち込むドライブピンがあるが，これはここに示したくぎとは形状・材質をことにする。➔木ねじ
〔難波蓮太郎〕



く　ぎ

くきしゅうぞう【九鬼周造】(1888～1941) 哲学者。男爵九鬼隆一の子として東京に生まれる。第一高等学校を経て1912年(大正1)東京大学哲学科卒業。1921年10月ヨーロッパに留学してドイツのハイデルベルク・フライブルク・マールブルク各大学，フランスのパリ大学で哲学を研究，リッケルト*・フッサール*・ハイデッガー*・ベルグソン*に学んだ。特にハイデッガーにはプリンス九鬼とよばれ，サルトル*と並ぶ高弟として遇された。1929年(昭和4)帰国，同年4月から3年間京都大学講師嘱託，1932年文学博士，1933年京都大学助教授，1935年教授となり，近世哲学史を担任した。特有の繊細な感覚と明晰(めいせき)な知性を備え，解釈学的存在論の方法を用いて日本文化の存在様態を分析し，また実存哲学およびハイデッガーの哲学を本格的に紹介して，〈実存〉その他のすぐれた訳語を創案した。実存哲学・形而上(けいじじょう)学を，驚きの情や時間などの偶然性の面から独創的に展開し，また文芸の構造を哲学的に解明するなど，哲学・文学に独自の業績を残した。著書《〈いき〉の構造》《人間と実存》《偶然性の問題》《文芸論》《西洋近世哲学史稿》《現代フランス哲学講義》。また，留学中のフランス語の著作《時間論》，随筆《をりにふれて》《巴里(パリ)心景》がある。
〔中川　誠〕

くきばち【茎蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目・クキバチ科の総称。キバチ科・クビナガキバチ科とともにキバチ上科を形成し，胸部と腹部の間がくびれない広腰亜目に属する。頭部は大きく，触角は線状で多数の節からなる。腹部はいくぶん扁平(へんぺい)で，後方に向かってやや太くなる。産卵管は短く，引き込み可能。卵は植物の組織中に産下される。幼虫は淡色で，C字形に湾曲し，無脚かまたは退化した胸脚をもち，植物体の茎中を穿孔(せんこう)し，繭をつくってさなぎになる。日本に産する代表的な種には，バラに寄生するバラクキバチ，コムギ・ライムギなどに寄生するクロバクキバチなどがある。
〔鈴木邦雄〕

くぎょう【公卿】 卿相(けいしょう)・月卿・上達部(かんだちめ)ともいう。太政(だじょう)大臣・左大臣・右大臣の公(きみ)と，大納言・中納言・参議および三位(さんみ)以上の卿を合わせていう。このうち大臣・納言・参議の官にあるものを現任公卿といい，朝廷の最高機関である太政官の構成員として政務全般に参与した。なお，大臣・公卿と分けて使用する場合は納言以下をさす。

くぎょう【苦行】 精神はよいが，肉体が悪い行為をもたらしやすいと考え，その肉体的欲望を徹底的に抑制するために行なう修行のこと。それには断食・瞑想(めいそう)・不眠などの方法がある。インドでは一般に，聖なる苦行で生命を断つことは最高の行為として考えられている。しかしブッダは，極端な苦行は人間の社会性を認めず生命を軽視するものとして退け，生活を基調とするあり方を提示した。仏道を達成するための適度の苦行を認めたことになる。日本でも荒行があり，寒行*，寒念仏*，無言の行，穀類を断つ行など，各種の苦行が伝わっている。
〔石上善応〕

くぎょう【公暁】(1200～1219) 鎌倉幕府2代将軍源頼家(よりいえ)の第3子。父の死後，1217年(建保5)鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)別当*となる。北条(ほうじょう)氏の策謀にのって3代将軍実朝*(さねとも)を父の敵(かたき)と思い込み，将軍になろうとして，1219年(承久1)1月27日夜，鶴岡八幡宮における右大臣就任の式から帰る実朝を社頭で暗殺したが，北条氏と通じた三浦光村(みつむら)の部下に殺された。その死によって源家3代で血筋が絶えた。
〔鹿野賀代子〕

くぎょうぶにん【公卿補任】 神武天皇の代から1868年(明治1)に至るまでの公卿*の官位を記した職員録。1年ごとに公卿を列記し，官職や位階*の異動とその日付を細かに記している。10世紀後半に編集されてから，以後年々の記事を書き継いでいったものといわれる。

くきよしたか【九鬼嘉隆】(1542～1600) 安土桃山時代の武将。志摩(三重県)鳥羽(とば)城主。定隆の次子。織田信長(のぶなが)に仕え，1574年(天正2)長島一揆*(いっき)を攻撃し，また石山合戦*に軍船安宅丸(あたけまる)をひきいて活躍した。信長の没後は豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属し，九州征伐*や文禄(ぶんろく)・慶長の役*では水軍の将として遠征した。関ケ原の役では豊臣方に属し，敗れて自殺した。なお，嘉隆の子守隆は徳川方に属した。
〔善積美恵子〕

くぎりふごう【くぎり符号】 ⇨句読点(くとうてん)

くく【九九】 基数(1から9までの数)と基数との加法・減法・乗法などの計算を，記憶しやすいように呼び声にしたもの。

【加法九九】 寄せ算九九ともいう。〈1たす1は2〉から〈9たす9は18〉まで，81通りあり，加法の計算の基礎となる。

【減法九九】 引き算九九ともいう。〈8引く3は5〉など，基数を引いて基数の残る引き算81通りをいう。減法の計算に用いられるが，普通は加法九九で代用する。

【乗法九九】〈一 一 が 一〉〈一二 が二〉から〈九九 八十一〉まで，81通りの掛け算の呼び声で，掛け算九九ともいう。九九といえばふつう乗法九九をさす。交換の法則を適用すれば，〈九八 七十二〉など36通りを省略した残りの45通りだけでもまにあう。これを制限九九といい，これに対して，81通りのすべてを含むものを総九九という。

なお，現在〈一一 が一〉で始まる九九は，もと〈九九 八十一〉から唱えはじめていた。数学の内容を含むものとしては日本最古である文献の《口遊(くちずさみ)》(源為憲(ためのり)著，970)には，〈九九 八十一，八九 七十二，七九 六十三，‥‥，八八 六十四，‥‥，二二 四〉の順に書いてある。そのために，江戸時代の初めから〈一一 が一〉を先に唱えるようになってからも，〈九九〉の名が残っている。

【割り九九】 昔，珠算で割り算をするときに用いられた〈二一添作の五〉などの呼び声をいう。現在は，割り算の場合にも乗法九九を用いるので，ほとんど用いられない。

【平方九九・立方九九】〈一一 が 一，二二 が 四，‥‥，九九 八十一〉を平方九九といい，〈一一 が 一，二二 が 八，‥‥，九九 七百二十九〉を立方九九という。開平・開立の計算に用いられる。
〔青柳雅計〕

くぐつまわし【傀儡回】 ⇨傀儡子(かいらいし)

クー-クラックス-クラン〔Ku Klux Klan〕略称KKK。アメリカ合衆国の白人秘密結社。白覆面・白装束で，十字架を焼く秘密儀式で有名。

①南北戦争直後，白人優越の伝統にたって，みずからの失われた政治的・社会的特権の回復と，解放黒人の公民権享受阻止のために結成された組織。1867年南部に〈無形帝国〉を結成したが,政府の取り締まりや世論の反対で1868年には解体した。しかし，運動は以後も続き，南部各地でリンチ・殺人・放火などによって黒人を迫害した。

②第1次世界大戦中の1915年，ナショナリズム高揚のもとでジョージア州に復活した組織。①とは関係ない。黒人だけでなくユダヤ人・カトリック教徒・社会主義者・進化論者など，非アメリカ的要素を排斥するテロ組織として全国に広がり，最盛時の1925年には会員は500万人に達した。1928年組織は解散し，1930年以降取り締まりが強化されたため勢力は衰えたが，白人優越の人種差別主義，反動的排外主義の運動として根強い影響力をもっている。〔折井一彦〕

ククルィニクスイ〔Kukryniksy〕ソ連の代表的漫画家。作品はクプリヤーノフ(1903～　)・クルイロフ(1902～　)・ソコロフ(1903～　)の共同製作。社会主義国建設のため，また第2次世界大戦当時は対ファシズムのたたかいなどに大きな功績があり，現在でも活躍している。

くけ【絎】和裁の手縫いの一種。布の折り山や耳の内に糸をくぐらせて縫いつける方法。次のような種類がある。①三つ折りぐけ：布の端を裏に細く3枚に折って折り山をくける。表に小針が出る。②本ぐけ：2枚の折り山をくける。③耳ぐけ：布の耳を裏に折ってくける。表に小針，耳には小針が2針出る。④まつりぐけ：折り山に糸をまといつけてくける。

くげ【公家】本来は天皇・朝廷のこと。鎌倉時代に武士が政権を掌握してからは，武家衆に対して，朝廷に仕える貴族を総称して公家衆あるいは単に公家とよんだ。

くけい【矩形】⇨四角形

くげしょはっと【公家諸法度】⇨禁中並公家諸法度(きんちゅうならびにくげしょはっと)

くけだい【絎台】和裁で，布をくけるときに，布がたるまないよう一方を引っ張ってくけやすくするための台。座敷用と机用の2種類がある。座敷用は平板の端に棒が立てられるようになっており，平板をひざの下に入れてすわり，棒の上部についている布を留める器具またはひもに布端を留めて縫い進む。棒の上端には針刺しのついているものが多い。机用は金属性で机の端にねじで留めつけて使用する。小形で持ち運びが便利なので，学校用として使われていたものが一般化した。昔は針箱にセットされたくけ棒があったが，いまはあまり見られなくなった。〔小室正雄〕



クー-クラックス-クラン



区限ししゅう　基礎ステッチ





ク　コ
(上) 花
(下) 果実

くげぬま【鵠沼】神奈川県藤沢市の南西地区。一般に相模(さがみ)湾に注ぐ片瀬川西岸の砂丘上の住宅地帯をさす。明治後期ごろから別荘地として開かれ，東海道本線藤沢駅から小田急電鉄江の島線や江の島鎌倉観光電鉄線が通じて以来，隣接する片瀬*とともに湘南(しょうなん)地方の代表的な保養地・住宅地として急速に発展した。

くげれつえいずかん【公家列影図巻】藤原忠通(ただみち)以下57人の公家(くげ)の肖像を，上下2段に配して描いた絵巻。鎌倉時代に流行した似絵*(にせえ)の典型的な遺品。作者は不明であるが，藤原信実(のぶざね)らー派の作と推定される。京都国立博物館蔵。

くげん【公験】公の証験として官府から発給する証明書。奈良・平安時代には私有地の売買・譲与などによる所有権の移転を認証する文書をいい，また僧尼の身分を認証する文書をもいった。中世では領主や幕府から与えられた土地の売買・譲与の認定書をいう場合が多かった。

くげんししゅう【区限刺繡】布地の織り目を数え，規則的に刺して模様を表わすししゅう。布地は縦・横の織り目がそろったものが刺しやすく，ステッチは刺し方の性格から，サテンステッチ*・クロスステッチ*・ストレートステッチなど，布目をたどって刺すのに適した手法を選ぶ。模様は，配色やステッチの組み合わせや針目のあらさなどによって，幾何学的にも立体感のある柔らかいふんい気にも表現することができる。〔山村あい子〕

くこ【枸杞】双子葉植物・ナス科。野原や土手に自生する落葉低木。枝は淡黄色で，短枝がとげに変化している。葉は倒披針(とうひしん)形，全縁で長さ2～4cm，幅1～2cm，質は柔らかい。8～11月，淡紫色の鐘形で先が5裂した小さな花を葉腋(ようえき)に咲かせる。果実は楕円(だえん)形で赤熟する。根の皮を地骨皮，乾燥させた葉を枸杞葉といい，漢方では解熱薬として用いられる。果実は枸杞子といい，強壮薬とされ，また，しょうちゅうにつけて枸杞酒(→果実酒)にされる。

くご【箜篌】古代の東アジアにあった弦鳴楽器*。西アジア・中央アジア・南アジアから伝えられた数種のものが中国で形を整えた。ハープ系の竪(たて)箜篌および弓型箜篌(鳳首(ほうしゅ)箜篌)がその例であり，日本にも伝えられたが，それほど盛んには使用されなかった。正倉院に竪箜篌の断片が保存されている。チター系の臥(が)箜篌は中国でつくられ,朝鮮で改造されて玄琴(コムンゴ)となり，いまでも使われている。

くこはむし【枸杞金花虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。トホシクビボソハムシともいう。体長4.5～6mm，体は光沢のある黒色で銅色をおび，鞘翅は黄色ないし黄かっ色で，ふつう2～10個の黒紋がある。幼虫・成虫ともにクコの葉を食害する。卵は長径約1mm，鮮黄色で，クコの葉裏に10個内外2列に産下される。幼虫は4日内外で孵化(ふか)し，排出物を背に負いながら活動。地中で繭をつくり数日後さなぎとなり,約10日で成虫が羽化する。本州・四国・朝鮮・中国北部・シベリアに分布する。

くさ【草】茎の形成層が発達せず，木質化が弱い植物体で，草本ともいう。地上部はほとんどが1年で枯れるが，地下部は

枯れずに残るものもある。

くさ【瘡】 かさともいわれ，かさぶたを生ずる皮膚病一般をさすが，特に湿疹(しっしん)の俗称として使われている。➔湿疹

ぐさい【救済】 (1281？～1375？) 連歌師。別号侍公。善阿*(ぜんな)を師とする地下(じげ)連歌師(➔地下派)で，文保(ぶんぽう)のころ(1317～1318)北野神社*の社頭に年ごとの法楽千句を営んだ。その後，建武中興期以降にまた活発な活動を示し，二条良基*(よしもと)に協力して連歌の文芸化を進めた。良基の連歌論書である《連理秘抄*》や《応安新式(連歌新式)》などの連歌式目(連歌の作法書)の制定，准勅撰集(じゅんちょくせんしゅう)である《菟玖波集*(つくばしゅう)》の編纂(へんさん)がそれである。同集に126句を入集したほか，《文和(ぶんな)千句》《侍公周阿百番連歌合》があり，後世に連歌道の祖とされた。〔奥野純一〕

くさいち【草市】 7月12，13日ごろに立つ市で，魂祭(たままつり)に使う品物を買い求める盆市のこと。盆棚(ぼんだな)や墓に供えるキキョウ・オミナエシ・ハギなどの盆花が主として売り出されているところから，その名がついた。青森県・佐渡島・鹿児島などでは，草市に買い物に出ることを〈仏様を迎えにゆく〉という。元来，村では山へ盆花をとりに行くのが精霊(しょうりょう)を迎えることであり，町では草市で盆花を買い求めることが先祖の霊を迎えることと考えられていた。〔北見俊夫〕

くさいちご【草苺】 双子葉植物・バラ科。日本・朝鮮・中国の山野に普通にはえる小低木。ワセイチゴ，ナベイチゴともいう。高さ20～60cm。地下茎が長く伸び，ところどころから新芽を出して繁殖する。茎はとげが散生し，腺毛(せんもう)が密生。葉は互生し，奇数羽状複葉で，小葉は長卵形，縁に鋸歯(きょし)がある。春に前年の枝から側生する短枝上に数個の白色花をつける。花後，核果が集まった球形の果実になり，赤熟して甘味とかおりがあり食用となる。〔横井朝子〕

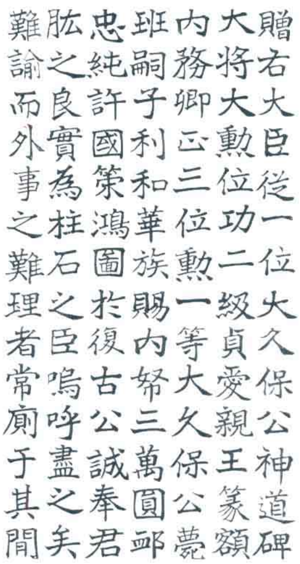
くさいろ【草色】 色名。草の葉のような色。緑みのある，ややにぶい黄緑色。萌葱(もえぎ)色に近いが，やや緑みが少なく，わずかに暗い。ときには，緑色および緑色系統の色一般を草色という。草葉色・くさみどりともいわれる。日本工業規格(JIS)慣用色名〈草色〉は，色相5.0GY，明度5.0，彩度5.0の色と規定されている。➔色

くさうお【草魚】 硬骨魚類・クサウオ科。全長45cmあまりの海産魚。頭は縦扁(じゅうへん)して大きく，尾に向かってしだいに細くなる。全体に灰色で，暗色斑(あんしょくはん)が散在し，こんにゃくのようにぐにゃぐにゃして半透明。富山湾・相模(さがみ)湾以北，千島・釜山(ふざん)などに分布する。腹びれの変化した吸盤で海底にうずくまっていることが多いが，えさが近づくと飛び上がって捕える。卵はタラバガニの甲らや貝の殻(から)の中に産みつける。このほか，クサウオ科にはアバチャン・ビクニンなど多くの種類があり，その生息圏は潮だまりから深海にまで及んでいるが，どれもよく似た姿をしている。深い海にすむ魚のこれまでの記録では，日本海溝(かいこう)北部で7,579mの深海からとられた2種の魚であるが，いずれもクサウオ科に属している。〔菅野　徹〕





クサカゲロウ
(上)成虫　(下)うどんげといわれる卵



日下部鳴鶴　大久保公神道碑拓本(部分)　宮内庁蔵

くさかげろう【草蜉蝣】 こん虫類・脈翅(みゃくし)目・クサカゲロウ科の総称，またはその一種。小形ないし中形の種類が多く，翅(はね)を広げた長さは25～65mm，全体に弱弱しい。体は黄色・灰色・緑色などの色彩のものが多く，種類によって黒色・かっ色・橙黄(とうおう)色・赤色・紫赤色・黄色などの斑紋(はんもん)がある。翅は全体透明かまたは灰色。頭部は小さく，触角は糸状でしばしば体長よりも長い。複眼は明瞭(めいりょう)で，左右が広く離れ，虹彩(こうさい)をおびた黄金色を呈する。単眼はない。翅には多数の翅脈がある。前翅と後翅の形状・構造がほぼ等しい。ある種の成虫には，特有の臭気を出すものがある。飛び方は弱々しく不規則，燈火に飛来する習性をもつ種類が多い。幼虫・成虫ともに食肉性で，小こん虫やダニ類などを捕食する。卵は細長い柄で植物体その他の物体上に産下される。幼虫は長く鋭い鎌(かま)状の大あごをもち，主としてアブラムシ類を捕えてその体液を吸う。全世界から500種内外が知られ，温帯地方に種類が多い。

クサカゲロウ科の一種であるクサカゲロウは，体長10mm内外，翅を広げた長さ25～35mm。北海道・本州・サハリン(樺太(からふと))・シベリアに分布し，夏季に山地に普通に見られる。このほかに日本はホシクサカゲロウ・ヨツボシクサカゲロウ・ヒメヨツボシクサカゲロウ・クモンクサカゲロウなどがあり，これらの卵は俗にうどんげ*といわれる。〔鈴木邦雄〕

くさかげんずい【久坂玄瑞】 (1840～1864) 幕末の志士・長州藩士。父は藩医。名は通武，通称義助，玄瑞は号。吉田(よしだ)松陰門下の秀才で，松陰の妹を妻とした。尊王攘夷(じょうい)派志士と交流，1862年(文久2)公武合体*から尊攘へ藩論を一変させた。品川御殿山のイギリス公使館の焼き打ち，1863年下関(しものせき)の外国船砲撃に参加した。1864年(元治1)禁門の変*で長州兵を指揮し，負傷して自殺。なお，兄の玄機には兵制・種痘に関する著述がある。〔松尾　涼〕

くさかべのおうじ【草壁皇子】 (662～689) 天武天皇の第2皇子。母は持統天皇。文武・元正天皇の父。日並知(ひなめし)皇子・岡宮御宇天皇ともいう。662年(天智1)九州の大津宮(博多(はかた))に生まれ，681年(天武10)天武天皇の皇太子となり，686年(朱鳥1)天武天皇没後大津皇子*の謀叛(むほん)事件があって大津は自殺し，草壁は母后とともに国政をとったが，689年(持統3)即位をみずして没した。妃はのちの元明天皇。安騎野(あきのの)(奈良県)の狩りで皇子を追慕する柿本人麿(かきのもとひとまろ)の作は万葉集の秀歌として有名。〔黛　弘道〕

くさかべめいかく【日下部鳴鶴】 (1838～1922) 明治・大正時代の書家。名は東作，近江(おうみ)(滋賀県)の人。太政官(だじょうかん)大書記官になったが，1879年(明治12)42歳のとき辞任して書家になった。1880年清(しん)人楊守敬(ようしゅけい)が来朝すると，六朝(りくちょう)ふうの書法を学び，厳正にして力強い書を書き，鳴鶴流といわれた。多数の門人を養成，書を盛んにした功績は大きい。

くさがめ【草亀】 爬虫(はちゅう)類・イシガメ科。本州・四国・九州や朝鮮・中国などに分布。甲長20～25cm，背甲は暗かっ色で，甲板の周縁は黄緑色に縁どられる。頭部の側面から頸部(けいぶ)にかけて，黒く縁ど



クサガメ　頸部には黄緑色の縦条がある

られた黄緑色の縦条が多数ある。頭頂部の後部は細鱗(さいりん)におおわれるので，イシガメ*と区別がつく。淡水性で，6〜8月ごろ，水辺の砂地に穴を掘って4〜6個の卵を産む。性質がおとなしいので愛玩(あいがん)動物に向くが，鼠蹊腺(そけいせん)などから悪臭を出すのが欠点。〔松井孝爾〕

くさぎ【臭木】 双子葉植物・クマツヅラ科の落葉低木。日本・台湾・朝鮮・中国に広く分布する。高さ1.5〜3m。上部はよく分枝し，枝葉に毛が多い。葉は対生し，広卵形で先がとがる。葉には悪臭があり，和名はそれによる。8月ごろ枝先に径2.5cmほどの白色花を集散花序に多数つける。がくは5深裂して赤緑色，花冠は筒形で先が5裂し，芳香がある。果実は球形で藍(あい)色，星形のがくが宿存する。果実を煮たしるは染料とされ，新葉は重曹(じゅうそう)を加えた熱湯でゆでてから，冷水でさらして臭みを取り，食用とする。〔横井朝子〕

くさぎかめむし【臭木亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。体長16mm内外。体は暗かっ色で，黄かっ色の不規則な点紋があるが，ときにやや赤かっ色をおびる個体が見られ，台湾に産するものには青藍(せいらん)色の光沢をおびる個体が見られる。頭部は比較的長く，前方に突出する。前胸背板前縁に近く，4個の黄かっ色の点紋が一列に並ぶ。膜質部は腹端を越え，暗かっ色で，脈は黒色で明瞭(めいりょう)。体の腹面は淡かっ色，脚も淡かっ色で腿節(たいせつ)の先半部および脛節(けいせつ)の両端部は黒色のことが多い。本州・四国・九州・沖縄・台湾・朝鮮・中国に広く分布する普通種で，クサギその他各種の低木上に生活し，果樹を害することがある。しばしば室内で成虫で越冬し，臭気が強いのできらわれる。〔鈴木邦雄〕

くさきょうちくとう【草夾竹桃】 ⇨フロックス

くさきり【草螽蟖】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。翅端までの体長40〜50mm。体色には緑色型とかっ色型と2型がある。頭頂突起は短く，末端は丸みをおびる。前胸背は短く，ときに中央に黒かっ色の細い2本の縦線が走る。雌の産卵管は直線状で長く18〜30mmで翅端を越える。本州以南インドに至るアジアの温帯から熱帯地方に広く分布し，日本では8〜9月各地の草原に普通に見られ，〈ジー〉と単調に鳴く。近似のヒメクサキリはやや小形で，頭頂が前方にやや細長く突出し，突出部が複眼間の幅よりも長い点で区別できる。これは本州以北，旧北区東部に広く分布する寒地性の種で，本州では山地帯に見られる。〔鈴木邦雄〕





クサギ
(上)花
(下)果実



クサシギ



草摺引　勇み立つ曾我五郎(4代目市川段四郎)を和田の舞鶴(6代目中村歌右衛門)が引き止める。内容は単純だが，すぐれた色彩感覚とともに春風駘蕩たるおもしろさがある



クサキリ
雌

くさしぎ【草鷸】 鳥類・シギ科。全長24cmほどで，背面は暗灰かっ色，腰と下面は白色，脚は緑かっ色。ユーラシア大陸北部で繁殖し，冬は中国南部・インド・東南アジアなどで過ごす。わが国へは春と秋に少数が渡来し，日本南部では越冬するものもある。干潟(ひがた)よりも内陸の湖沼や湿地の水辺を好む。体の大きさや色彩の似たものにタカブシギがある。

くさずりびき【草摺引】 《曾我(そが)物語*》によって伝えられる剛勇説話。曾我十郎祐成(すけなり)の愛人である大磯(おおいそ)の虎(とら)が，和田義盛(よしもり)の酒席に呼ばれ，祐成も同席する。虎が義盛に差すべき杯を祐成に差すので義盛は怒り，祐成は窮地に陥る。急を知った弟の五郎時致(ときむね)は武装して駆けつけ，障子の外で立ち聞く。義盛の子朝比奈義秀(あさひなよしひで)はこれを知り，時致のよろいの草摺を引いて室内に入れようとして力比べとなり，結局朝比奈の調停でその場は治まる。幸若舞・能・古浄瑠璃(こじょうるり)などに《和田酒盛》として脚色されている。歌舞伎(かぶき)舞踊にも草摺引物として，力比べの部分をかたき討ちに駆け出す時致を朝比奈が引き止める形に替えたりなどして，数曲が残されている。また，時致が大磯へ駆けつける場面は歌舞伎十八番《矢の根》に脚色されている。〔長尾一雄〕

くさせんり【草千里】 阿蘇(あそ)火山の中央火口丘である烏帽子岳(えぼしだけ)の北側一帯の草原。千里ケ浜ともよばれる。標高1,000mを越える火口壁を巡らし，放牧の好適地となっている。冬季にはスキー場としても知られる。

くさぞうし【草双紙】 江戸中期から後期にかけて，おもに江戸で出版された小形の絵入り小説本。赤本*(行成表紙本・赤小本・雛(ひいな)豆本を含む)・黒本*・青本*・黄表紙*・合巻を総称する。半紙半截(はんせつ)二つ折り(横約12〜13cm，縦約17〜18cm)55丁1冊が単位で，初期には2〜3冊，のちには5〜6冊がとじ合わされ，さらに年ごとに続編が出されて，100冊以上にわたる作品もあった。再生紙を使い，初期には短編が多かったからきわめて安価でもあった。また，その体裁もさし絵が主，文が従で，文章もほ

とんどかなで記され，理解が容易であったので非常に普及し，中には10,000部以上も刷られた黄表紙もあった。その出版は毎年の正月で，祝儀の贈答品，地方へのみやげ物としても利用された。赤本・黒本・青本の内容は，童話や軍記の筋を簡略化した稚拙なものが多かった。1775年(安永4)の《金金先生栄花夢*(きんきんせんせいえいかのゆめ)》以後の黄表紙は，当時の流行や好みを取り入れ，さし絵も一流の浮世絵師が描き，機知と洒落(しゃれ)をもっぱらとした通*(つう)の文学，おとなの読み物となった。その後，文化初年ごろからかたき討ちを主題にした伝奇的作品が多くなり，長編化して合巻とよばれた。読者は庶民大衆が中心で，表紙などには特に意を用い，極彩色の袋を使った特別製もあり，趣向も複雑になったが，文学的にはみるべきものが少なくなった。〔小池正胤〕

くさそてつ【草蘇鉄】 シダ植物・オシダ科。コゴミ・ガンソクともいう。林下の湿地に見られる夏緑性のシダ。地下に走枝を生じ，栄養生殖*をする。葉は鮮緑色で柔らかく，柄は10～20cm，葉身は長さ40～80cm，幅15～30cm。上方で急にとがる。葉柄基部に披針(ひしん)形膜質で全緑の鱗片(りんぺん)がある。秋に，栄養葉とは別に胞子葉が生ずるが，これは羽片が多く，直立して密生し，高さ30～60cmになる。東北地方などでは，若葉を山菜として食用にする。胞子葉は腐りにくいため，生け花によく使われる。

くさつ【草津(市)】 滋賀県南西部の市。江戸時代は東海道と中山道(なかせんどう)の交差する重要な宿場町として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。人口76,000。琵琶湖(びわこ)南東岸の平地と背後の丘陵部を含み，市街地中央に天井川*の草津川が流れる。産業三大別人口比は9：47：44。広い農業地帯を控えて商業活動が活発で，最近は各種工場や住宅団地も進出している。平野部では近郊野菜，丘陵部ではナシ・ブドウ・モモなどの果樹が栽培され，青地地区には温室栽培によるカーネーションの特産がある。湖岸部では淡水漁業が行なわれ，入り江を利用した淡水真珠の養殖も盛んである。東海道本線と草津線が分岐し，国道1号線・8号線が集まり，東部の栗東(りっとう)地区には名神高速道路のインターチェンジがある。旧本陣は史跡に指定され，江戸時代後期の鉱物学者で，化石・石器などの研究家であった木内石亭(きうちせきてい)の収集品が残されている。



草津温泉　冬の温泉街。町の中央にある〈湯畑〉から，湯が各旅館へ引かれる。湯畑では写真のように湯の花を採取している

くさつおんせん【草津温泉】 群馬県吾妻(あがつま)郡草津町にある。泉温44～66℃，泉質は含硫化水素酸性ミョウバンリョクバン泉で，皮膚病・胃腸病・神経痛・貧血症・痔疾(じしつ)・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。白根山の東斜面，標高1,200mの高原上に位置し，夏でも涼しく，古くから湯治温泉として全国にその名を知られた。開湯の歴史は古く，養老年間(717～723)に僧行基の発見になると伝えられている。町の中央には熱湯から湯の花を採取する湯畑があり，〈8代将軍吉宗(よしむね)公お汲(く)み上げ湯〉の標識が建てられている。民謡《草津湯もみ唄(うた)》で知られる〈時間湯〉は独特の入浴法で，5か所の共同浴場で1日4回湯長の指示により，湯を板でかきながら3分間ずつ入湯する方法である。白旗の湯・鷺(わし)の湯・熱の湯に分かれ，旅館70軒，国立癩(らい)療養所楽泉園があり，湯治客は全国から集まる。志賀高原方面への観光客も多く，付近には白根山お釜(かま)・殺生(せっしょう)河原・ベルツ博士の記念碑などがある。吾妻線長野原駅からバスの便がある。

〔木村東一郎〕

くさつとうげ【草津峠】 群馬県北西部，長野県との県境にあり，標高1,956m。かつて長野県側の中野と群馬県側の草津・長野原を結ぶ交通路として利用されていたが，1924年(大正13)から南の渋峠(2,172m)越えに変わったため，以後さびれた。

くさつぶし【草津節】 群馬県吾妻(あがつま)郡の草津温泉*の民謡。旋律は千葉県銚子(ちょうし)地方からの湯治客が伝えたもので，大正時代から歌われた。囃子(はやし)ことばに数種類があり，歌詞についてもいくつかの替え歌がある。これらの歌はもともと高い湯温を冷やすため，湯治客が湯もみをする際にそろって歌ったものである。《草津節》の名で知られる〈草津よいとこ一度はおいで，アドッコイショ……〉と，《草津湯もみ唄(うた)》の名でよばれる〈草津恋しや，ヨホホイ，あの湯煙によ，浮いた姿が，ヨホホイ，眼(め)に残るとかよ〉とがある。

くさなぎえんせき【日柳燕石】(1817～1868) 幕末の志士。讃岐(さぬき)(香川県)榎井(えない)の生まれ。通称加島屋長次郎。燕石は号。少年期に琴平の医師三井雪航に詩文を学び，書画もよくした。ばくちを好み，博徒(ばくと)に信頼され，榎井の大親分と慕われた。勤王の志が厚く，吉田(よしだ)松陰・久坂玄瑞(げんずい)らと交際し，中岡慎太郎・本間精一郎らを庇護(ひご)したが，高杉晋作(たかすぎしんさく)をかくまって露見し，投獄された。のち戊辰(ぼしん)戦争に従軍。越後(えちご)(新潟県)柏崎(かしわざき)で病死。〔善積美恵子〕

くさなぎのつるぎ【草薙剣】 記紀によれば，スサノオノミコト*が出雲(いずも)(島根県)簸川(ひのかわ)の川上で八岐大蛇*(やまたのおろち)を退治したときに，尾から現われた剣。大蛇のいる上につねに雲気があったので，天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)ともいわれる。スサノオノミコトはこれを私有すべからずとしてアマテラスオオミカミに献じ，アマテラスオオミカミは三種の神器*の一つと定めニニギノミコトに授けた。伊勢(いせ)神宮*にアマテラスオオミカミを祭ると，八咫鏡*(やたのかがみ)とともに本剣を御霊代(みたましろ)とした。ヤマトタケルノミコト*はこれを持って東征し，相武国造(さがむのくにのみやつこ)のため焼津(やいづ)で火攻めにあったとき，向火(むかいび)をつけて草をなぎはらい，逆に国造を滅ぼした。草薙剣の名はここに由来するという。ヤマトタケルノミコトは帰途，熱田のミヤズヒメノミコトのもとにこの剣をとどめた。これを熱田神宮*の起こりとしている。この旧事は神話学的に多くの問題を含んでいて，今後の研究に待つものが多い。〔宮井義雄〕

クサヌス ⇨ニコラウス・クサヌス

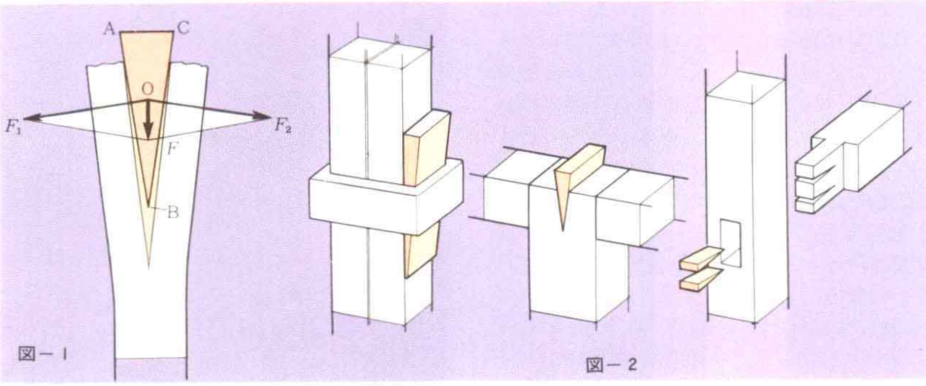
くさのおう【草黄】 双子葉植物・ケシ科。人家の近くや石がきの間などにはえる越年草。茎は高さ30～60cmで中空。葉は根ぎわに多く，羽状に切れ，裏面は白っぽい。初夏，枝の先に花びら4枚の黄色花を数個つける。茎や葉を折ると橙黄(とうおう)色のし



草千里　烏帽子岳の北西に広がる草原。正面は烏帽子岳(1337m)で，放射状の侵食谷が印象的である。阿蘇観光の一中心で，草原には牛馬が放牧されている



クサノオウ



楔

るがしみ出る。全草を乾燥したものは白屈菜といい，民間では鎮痙(ちんけい)・鎮痛薬として用いることがある。

くさのしんぺい 【草野心平】 (1903－) 詩人。福島県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)普通部中退。中国，広州の嶺南(れいなん)大学に学び，大正末期に同人雑誌《銅鑼(どら)》を出す。帰国後《学校》を主宰。第1詩集《第百階級》とそれに続く《明日(あす)は天気だ》《母岩》《蛙(かえる)》などはアナーキズム的傾向の強い詩風であったが，《絶景》《富士山》に至って芸術意識の高揚がみられる。1935年(昭和10)《歴程*》を創刊，かたわら宮沢賢治*らの紹介に努めた。〔小林敬子〕

くさのは 【草の葉】 ホイットマン*の詩集。初版(1855)は序文と12編の無題詩を収めていたが，素材や詩法が伝統詩とあまりにかけ離れていたため，当時の世間からは黙殺された。しかしその後も改版され，最後の第9版(1892)には389編の詩が収録されている。その各版は，ホイットマンの精神の変遷を反映する一種の自叙伝ともいえる。民衆の生命力をさまざまにうたい，最初のアメリカ的な詩的表現として，後世の詩人たちに深い影響を与えた。〔酒本雅之〕

くさび 【楔】 頂角の鋭い三角形の断面をもつ固い物体をすきまに押し込むことによって側方に大きな力を働かせるもの。図-1のように大きさFの力でくさびを押し込んだとき，斜面に垂直な方向の分力F_1，F_2の大きさはそれぞれ$F\times(AB/AC)$となり，∠ABCが鋭いほど大きくなる。ナイフやおのなどの刃物は，この原理を利用して切ったり，割ったりするためのものである。小刀の場合は，一辺BCがACに垂直であるから分力F_1はF_2より大きくなり，削るのにつごうがよい。紙を切るときなど小刀を押しつけるだけでなく，手前に引きながら切るのは，その刃の角を小さくして効果を大きくしているのである。なお，重いものの下に打ち込んで持ち上げたり，図-2のような使い方をして二つのものを締めつけたりするのにも使われる。〔有山正孝〕

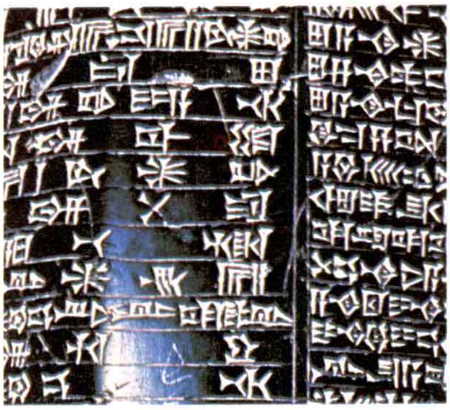
くさびいし 【楔石】 カルシウムとチタンのケイ酸塩。造岩鉱物の一。$CaTiSiO_5$ 単斜晶系。比重3.5～3.6，硬度5，劈開*(へきかい)明らか，屈折率1.84～2.11。板状で稜(りょう)が鋭い結晶として産し，形はくさびに似ている。緑色・黄かっ色・黒色，半透明で金剛光沢。分散能(物質が光を分散する能力を示す量)が高いためプリズム様の美しい光を呈するが，宝石としては柔らかすぎる。カコウ岩などの火成岩中におもなチタン鉱物として小晶で産し，その他片麻岩・片岩・結晶質石灰岩・ペグマタイト中にも産出する。〔加藤敏郎〕

くさびがたもじ 【楔形文字】 古代オリエントで粘土板(柱)に硬筆で書かれた文字。エジプトと並ぶ世界最古のシュメール象形文字が簡略化して紀元前30世紀には，単純なくさび形の筆画になっていた。バビロニア・アッシリアでは，音訓かな(音節)交じり書きもできた。やがて，ヒッタイトの音節文字(子音＋母音を示す開音節字と，母音＋子音の閉音節字を備える)にも，ウガリットのまがい字母文字(子音字だけがある)にも，古代ペルシア文字にもなった。〔日下部文夫〕

くさひばり 【草雲雀】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科。翅端までの体長7.5～8㎜。全体黄かっ色。前胸背は前方にせばまり，前脚の脛節(けいせつ)に鼓膜性の聴覚器を備える。雄の前翅は幅広く，鏡板も幅広い。後脚の腿節(たいせつ)の外面に2本の暗色縦条がある。本州・四国・九州のほか朝鮮・台湾に分布する。卵で越冬する。年1回の発生で，成虫は8月中旬ころから出現し，茂みの葉裏で〈フィリリリリ〉と連続して美しく鳴く。

くさびふぐ 【楔河豚】 硬骨魚類・マンボウ科。全長1ｍあまりの海産魚。体は長卵形で腹方に強く側扁(そくへん)し，体の後端に背びれ・尾びれ・臀(しり)びれがT字形の連なりとなってついており，マンボウ*に似る。孵化(ふか)直後はマフグ*類のような形態をしているが，著しい変態を経て成体になる。ほぼ全世界の暖かい外洋に分布する。

くさびら 【菌】 狂言の曲目。山伏狂言。和泉(いずみ)流では〈茸〉と書く。屋敷の中になにとも知れぬきのこがはえだしたので，



楔形文字　アッシリア系の文字。アルドゥクナシルの境界石(部分)　大英博物館蔵



菌
野村万蔵のシテ山伏が，鬼の姿をしたきのこに追われる結末。鬼きのこは野村万之丞

男は法を自慢の山伏(シテ)に祈禱(きとう)を頼む。ところが祈れば祈るほど数がふえ，とうとうきのこたちに追い込まれてしまう。和泉流では最後に武悪の面をかけた鬼きのこが出て〈取ってかもう〉と追い込む。いろいろな笠(かさ)や，空(うそ)吹き・賢徳・登り鬚(ひげ)・乙(おと)などと面をかけ，両手を胸につけて，しゃがんだままでちょこちょこと動き回るきのこ。ふだんは役の登場しない切り戸口から出たり，揚げ幕をくぐったりして，いつのまにかきのこがふえる演出もすぐれており，童話的な舞台面が楽しい。海外公演でも好評を得た狂言。〔増田正造〕

くさぶき【草葺】 植物の茎でふく屋根ぶきの総称。カヤ・ムギ・イネ・コザサなどが用いられ，材料の性質上(茎の中，茎と茎の間隙(かんげき)に空気層がある)断熱性にきわめてすぐれるが，腐朽しやすいなどの欠点があり，都市部では飛び火火災の危険があるので許されていない。ふき方は地方により異なるが，小舞をかいた上に軒先より穂先を上に置き，1列のふき材ごとに押え竹を使用し，野地になわで緊結しながらふきあげる。農家・茶室・数寄屋(すきや)建築に用いられるが，材料・手間などの払底により利用が少なくなった。〔神山幸弘〕

くさふぐ【草河豚】 硬骨魚類・フグ科の海産魚。全長15cm程度の小形のフグ。背は青緑色で腹は白く，尾びれの先端のオレンジ色と背の小さい白円斑(はくえんはん)が目だつ。背面と腹面に小さいとげがある。青森・釜山(ふざん)以南，沖縄まで分布し，日本各地の岸近くにきわめて普通である。産卵習性が特異で，夏，大群で浅瀬に乗りこんできて，その体が水面から出てしまうほど浅い潮間帯の小石の間などに産卵する。毒性が強く，食用として市販されることはほとんどない。

くさふじ【草藤】 双子葉植物・マメ科。草原に見られる多年草。地下茎でふえ，茎はつる状で長さ80～150cm。葉は羽状に細かく切れ込み，先端は巻きひげとなり，他物にからみつく。6月，葉のつけ根に青紫色の花をつける。

くさぼけ【草木瓜】 双子葉植物・バラ科。ジナシ・シドミ・コボケともいう。本州以西の丘陵や山地に自生する落葉小低木。高さ60～100cm，日あたりのよい所では横ばいし，山中では直立して2mくらいになる。茎にはとげ状の小枝がある。葉は倒卵形で鈍鋸歯(どんきょし)がある。早春，葉に先だって径2cmほどの赤色花を開く。花は1～4個が枝の下部に束生する。雌雄同株。果実は径2～3cmの球形で黄熟し，酸味があるが食用とする。リンゴ酸のほか少量のクエン酸・酒石酸を含み，整腸・強壮作用があるという。近縁に花が白色のシロバナクサボケがある。〔横井朝子〕

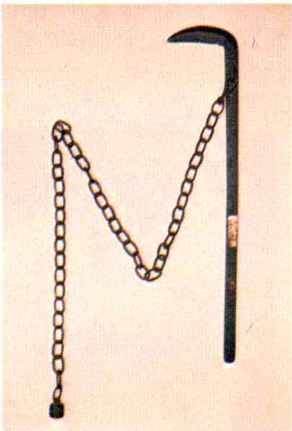
くさまくら【草枕】 夏目漱石*(そうせき)の初期の短編小説で，1906年(明治39)9月，《新小説》に発表。ある青年画家が，山間の



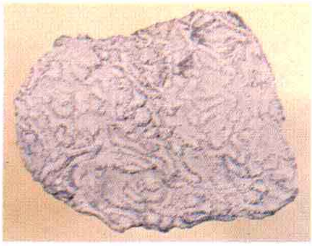
クサフグ



クサボケ



鎖鎌
明治大学刑事博物館蔵



鎖サンゴ
古生代
(イギリス)

温泉場で巡り会った才気ある美女を描こうとして交遊するうち，ついに彼女の顔に〈あはれ〉が走るのを見て絵ができあがるという筋で，〈非人情〉という，人間を自然の一景物とみる漱石の当時の美学を小説化したもの。朝日新聞社入社の機縁ともなった作品である。

くさまなおかた【草間直方】(1753～1831) 江戸後期の町人学者。通称伊助(いすけ)。10歳のとき大阪の両替商鴻池(こうのいけ)の丁稚(でっち)小僧となり，のちに尼崎(あまがさき)鴻池家の婿となる。1808年(文化5)独立して両替商を開いた。2年後隠居して茶道に親しみ，また国学も学んだ。1815年に貨幣・物価の歴史書《三貨図彙(ずい)》を完成。ほかに《茶器名物図彙》がある。

くさめ ⇨くしゃみ

くさもち【草餅】 蒸したもち米か上糝粉(じょうしんこ)にゆでたヨモギの葉を入れてついたもち。あんもちや切りもちにし，独特の香気をもつ野趣が喜ばれる。桃の節句には〈ひしもち〉にされる。起源は古く，中国の周の幽王が廟(びょう)に献じたところ国が治まって泰平になり，のちこれにならって祖霊に供えるようになったといわれる。日本には平安時代初期に伝わり，当時は春の七草の一つであるハハコグサが用いられていた。ヨモギに代わったのは室町時代のころといわれる。〔塩川ふみ〕

くさや 正しくは，くさやの干物という。ムロアジ・クサヤモロなどを原料としてつくる塩乾魚の一種。腹開きにした魚体を7～8時間食塩水に浸したのち，乾燥してつくる。使用する食塩水は，ウナギのかば焼きにつけるたれと同じく，くり返し使用するため，魚体からとけ出す可溶性タンパク質やエキス分などを含み，また，食塩濃度が10％程度なので発酵作用を起こし，強い臭気を放つ。このため，製品は特有のにおいをもつが，食べ慣れるとそこに魅力があり，江戸時代以来東京人に愛賞されている。伊豆(いず)七島の特産品で，普通のアジの塩乾物よりはかなり高価である。〔佐藤友太郎〕

くさり【鎖】 ⇨チェーン

くさりかたびら【鎖帷子】 鎖でつづったじゅばん。着込み・鎖じゅばんともいう。室町末期，当時南蛮鎖とよばれていた外国製にならってつくられた。鎖は針金でつくり，その様式によって一重鎖・二重鎖・格子鎖(こうしぐさり)・花鎖・巻き鎖などがあった。多くはよろいの下に着たが，夜討ちなど身軽に働くときにはこれのみを着て出た。のちには果たし合いなどに，着物の下に着て敵刃を防いだ。

くさりがま【鎖鎌】 かまの柄に鎖をつけ，その先端に分銅のある武器。かまの刃は3寸(約9cm)前後，鎖の長さは4尺(約1.2m)から1丈2尺(約3.6m)にも及ぶ。戦うには分銅を宙に振って防衛し，また敵の武器にからみつかせ，引き寄せると同時に踏み込んで首をかき切る。〈斜(しゃ)に構え分銅をふる鎖がま〉〈鎖がま網打ちをする姿なり〉などの川柳がよくその姿勢を写している。今川氏親(うじちか)の家臣関口刑部左衛門忠親(きょうぶさえもんただちか)の創意になるといい，戦国末期から盛んに行なわれた。武芸十八番*の一つとされ，大草流・天道流・大岸流などの諸流派を生んだ。特殊な武技だけに有利で，他の武術に脅威を与えたが，熟練を要するため実用度には限界があった。〔稲垣史生〕

くさりさんご【鎖珊瑚】 床板サンゴの一種であるハリサイテス。横断面が鎖状を示すのでこの名がある。管状のサンゴ体には並行の横隔板状の床板があるが，現在の

サンゴにみられる放射状の隔壁はない。世界各地の古生代シルリア紀石灰岩に多く発見され，わが国でも西南日本外帯や北上山地のシルリア紀の石灰岩から産出する。示準化石*として重要。

くさりへび　【鎖蛇】　爬虫(はちゅう)類・クサリヘビ科・クサリヘビ亜科の代表的な毒蛇(どくじゃ)で，台湾・東南アジア・インドから南ヨーロッパにまで広く分布。体長1.2～1.5m，鎖状の斑紋(はんもん)が並ぶ。出血毒とともに神経毒も多量に含み，インドでの被害は大きい。

くさりれんが　【鎖連歌】　初期の長連歌*の呼称。《今鏡*》に〈鎖連歌など言ふ事常にせらるるに〉として示す作品が最も古く，12世紀半ばにはすでに行なわれていた。ことさらにこうよばれたのは，全句を統一的に結びつける同じ範疇(はんちゅう)の語(黒白・源氏巻名・鳥魚など)の設定によって，短連歌が長連歌に成長したことから，それらの語を鎖の輪にたとえたものと考えられている。

くさりをはなれたプロメテウス　【鎖を離れたプロメテウス】　シェリー*の劇詩(1820)。神の火を人類に与えたため，罰として岩につながれたギリシア神話のプロメテウス*を主人公に，暴力への挑戦(ちょうせん)と愛の精神をうたい，宗教的な理想主義の世界を象徴的に描き出している。

くされだま　双子葉植物・サクラソウ科。山や野原の湿地にはえる多年草。地下茎は長く地中をはい，茎は高さ40～100cm。葉は対生または3～4枚輪生し，基部がややふくらみ，先はとがる。夏～秋，茎の先に1.5cmくらいの深く5裂した黄色い花を多数つける。和名はマメ科のレダマに似た草の意。

くさわけ　【草分け】　草深い荒れ地を切り開く意で，江戸時代には荒れ地を切り開いて新しい村落をつくること，またそれを行なった人のことをさす。〈草きり〉〈くわびらき〉〈切りあけ〉などともいった。こうした開墾に力を尽くした草分け百姓のおもな者を草分け地主といい，多く名主(草分け名主)や庄屋(しょうや)となって世襲した。町方でも新しく町を起こすことに参加した者を草分け町人といい，町役人などになった。

クーザン　［Victor Cousin］　(1792～1867)　フランスの哲学者。パリの生まれ。ソルボンヌ大学教授。七月王政の下で文部大臣をつとめた。彼はデカルト・メーヌ-ド-ビラン・ヘーゲル・シェリングやスコットランド学派の思想などを折衷し，みずから折衷主義*を称した。主著《近世哲学史講義》はフランスに哲学史という研究分野をはじめて開いたものである。ほかに《真善美について》などがある。

くし　【櫛】　髪をすいてそろえるための道具。日本最古のものとしては，縄文(じょうもん)時代の竹製漆塗りのくしが出土している。

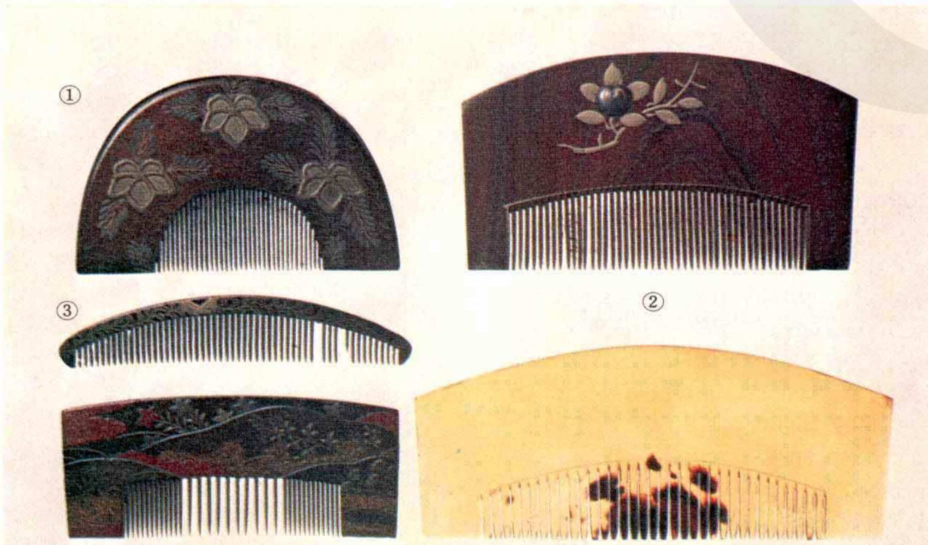


クサレダマ

これは縦長のくしで，古代エジプトやアフリカの原住民，アラスカの土民のものの中にも見られるものである。現在のような横長のくしは平城宮跡から発見されており，おもにイスノキ製のものであるが，ツゲ製のものも見られる。奈良時代，中国からの舶来品といわれるものが伝世品として残されている。光明皇后のものといわれる象牙(ぞうげ)のくし(正倉院)，菅原道真(すがわらみちざね)の遺品といわれる象牙製で棟(むね)にべっこう象嵌(ぞうがん)を施したくしなどである。平安時代のくしは，経塚(きょうづか)遺物の中に他の化粧道具類とともに納められており，和歌山県の高尾山経塚から発見されたものはツゲ製で，奈良時代のものとほぼ同じ形状をしている。平安時代以後，実用的なすきぐし(髪をすいてあかを取るための歯の細かいもの)がおもなものであったが，中国から輸入されたものの中には，螺鈿(らでん)象嵌を施した横ぐし(鬢(びん)に斜めにさして用いる)などの装飾的なものも見られた。三島大社手箱の中におしろい箱・歯黒箱とともに納められていたすきぐし・ときぐし(髪をとくための歯のあらいもの)は鎌倉時代のもので，シタンの地にウメの花を形どった貝を埋めこんである気品のある装飾が施されている。これとよく似たくしが茨城県の香取神宮にも奉納されている。

近世にはいり女性が髪を結うようになると，くしは形も材質も豊富になり，飾りぐしとときぐしとがはっきり区別されるようになった。江戸中期以後は特に飾りぐしに多彩のものが生まれた。木・象牙・べっこう・馬爪(ばづ)・ガラスなどの材料を用いて，細身・幅広・楕円(だえん)のものなどがつくられた。これらは漆・蒔絵(まきえ)・螺鈿象嵌・透かし彫り・返し文(図柄が表裏に続いているもの)などの装飾が施された。このようにくしがはでになったのは，髪形が大ぶりな髷(まげ)や鬢の流行を見るようになったためもあり，江戸の職人の精巧な技術をもつ手によるものであった。〔橋本澄子〕

くじ　【籤】　人がつくった占いの道具，および物事を選定するのにそれを用いる方法。古くは竹・木片が使われ，そのために語源は串(くし)と同じである。くじ引きは，こより*・わら・草・木片などを用いたくじの長短や特定の印を隠して同じように見せながら任意にその1本を引かせ，吉凶・勝敗・等級・順序や仕事の割り当てなどを決する。現在では本や電話帳などを任意にめくって出た偶然の数によったり，阿弥陀*(あみだ)くじの形式など，くじの形式・種類はさまざまに考案されている。くじはもともと神の意志の表示と解釈されたもので，現在のおみくじ*は神託としての古態をとどめている。また，かつての宝引(ほうびき)や江戸期の富くじ*は，現在の商店の景品，懸賞の福引き抽選，宝くじへと引き継がれている。〔今野圓助〕



くし　飾りぐし(江戸時代中期)　①天丸形　②山高形　③寛政形　④高原形　⑤利久形　東京国立博物館蔵

くじ　【公事】　①朝廷における政務，転じて朝廷の儀式をいう。②政務に奉仕することから勅役・神役・寺役・国役などの課役*をいう。③荘園*(しょうえん)における農民の負担の一。荘園の農民は荘園領主に対して年貢*(ねんぐ)と公事を負担した。公事は雑公事と賦役に区別され，雑公事は年貢以外の農産物・海産物およびその加工品などを納めるもので，賦役は領主の佃*(つくだ)の耕作や雑用に従うことである。④室町時代以降江戸時代を通じて訴訟・裁判のことをいう。江戸時代には民事訴訟を公事といい，金銭債務に関する訴訟を金公事，それ以外の訴訟を本公事といって区別した。　〔鈴木英雄〕

くじ　【九字】　密教の僧や修験道(しゅげんどう)の山伏が山にはいるとき，また護身のために唱える呪文(じゅもん)，〈臨兵闘者皆陣列在前〉をいう。中国の道教に始まり，密教にはいった。空中に指で縦に4線，横に5線引く法(縦横法)と結びつき，この呪文を唱えながら線を引くことを〈九字を切る〉という。

くじ　【久慈(市)】　岩手県北東端の市。1954年(昭和29)，久慈・長内(おさない)の2町と周辺5村が合併して市制を施行。人口41,000。太平洋岸に湾入する久慈湾に面し，久慈川河口付近の平地と背後の広い山地を含む。産業三大別人口比は31：29：40。砂鉄の産地として古くから知られ，川崎製鉄久慈工場で精錬していたが，1967年に工場を閉鎖した。海岸部では石炭を産し，山林部ではスギ・カラマツ・アカマツなどの木材や薪炭類を産する。八戸(はちのへ)線の終点で，国道45号線に沿い，漁港・商港としての港湾施設を備えた久慈港がある。南部の小袖(こそで)海岸は，海女(あま)の北限として知られる。

くしがき　【串柿】　竹ぐしに貫いた干し柿で，一列に平たく干し固める。おもに新年の飾り用・贈答品として古くから用いられている。

くしがた　【櫛形(町)】　山梨県中巨摩(なかこま)郡に属し，県の西部，釜無(かまなし)川西岸を占める。人口17,000。1954年(昭和29)小笠原(おがさわら)町と2村が合併して発足した。御勅使(みだい)川の扇状地上にあり，クワ畑とブドウ・モモの果樹園がみられる。甲州商人の発祥地として知られている。

くじかたおさだめがき　【公事方御定書】　江戸幕府の基本法典。8代将軍徳川吉宗*(よしむね)の命により評定所*が編纂(へんさん)。主任は老中松平乗邑(のりむら)，三奉行*(さんぶぎょう)(寺社・町・勘定)が編纂にあたった。1742年(寛保2)完成。上下2巻。上巻は司法警察に関する重要法令81条　下巻は〈御定書百箇条〉とよばれ，判例を中心に刑法・訴訟法に関係する規定103条を収める。多くの規定は編纂時までの慣習法を成文化したものである。この制定は当時国民経済の発達から庶民間の訴訟・裁判事項が増加したのに対応した幕府法治体制の所産とみることができる。その後幕府刑法の基準となったが，原則として三奉行のほかはその披見(ひけん)が許されなかった。　〔松尾　涼〕



久慈川　上流の大子町を流れる久慈川。左は合流する押川で，遠景左手に水郡線の鉄橋が見える

くじがわ　【久慈川】　福島県東南部より発し，阿武隈(あぶくま)・八溝(やみぞ)両山地の間を南下して茨城県にはいり，日立市の南端部で太平洋に注ぐ川。流程124km。水源は八溝山。中流の横谷をなす矢祭山付近は渓谷美(けいこくび)をもって聞こえ，矢祭山・袋田の温泉があり，つりや狩猟の場でもあるので，最近は行楽客の増加が著しい。下流の平野は肥沃(ひよく)で，古くは水戸(みと)藩の穀倉といわれ，河口から下野宮まで舟運の便があった。日立市や東海村原子力センターに上水を送っている。　〔長津一郎〕

ぐしかわ　【具志川(市)】　沖縄本島南東部の市。人口48,000。第2次世界大戦直後，美里・与那城(よなしろ)・勝連3村を含めて前原市となったが，1946年(昭和21)に解消して具志川村にもどり，その後アメリカ合衆国軍の基地が置かれて人口が急増し，1968年市制を施行した。北は金武(きん)湾，南の一部は中城(なかぐすく)湾に面し，南東には与勝半島が突出する。北西は石川市と隣接し，西部はコザ市との間に美里村をはさむ。産業三大別人口比は14：23：63。市域は新期石灰岩と第3紀泥板(でいばん)岩からなる丘陵性の台地上を占め，中心市街は平良川(たいらがわ)である。一部の露岩地域以外は耕地化されてサトウキビや野菜類がつくられ，ブタやニワトリも飼育される。軍用道路24号線に沿ってバー・飲食店が立ち並び，また水量豊富な湧泉(ゆうせん)を利用する酒造工場も多い。北部の安慶名(あげな)付近にはアメリカ合衆国海兵隊の基地がある。与勝半島の屋慶名(やけな)周辺は風光が美しく，与勝海上政府立公園に指定されていた。なお，久米(くめ)島にも同名の具志川村がある。

くしきの　【串木野(市)】　鹿児島県，薩摩(さつま)半島北西端の市。1950年(昭和25)市制施行。人口31,000。海岸部の小平野と背後の丘陵部を占め，中心市街は五反田川河口の旧砂丘付近に伸びている。産業三大別人口比は25：27：48　県下有数の漁業基地で，遠洋漁業の主体をなすマグロのはえなわ漁業が行なわれるほか，かまぼこ・ハム・しょうちゅうなどの工場がある。北東部には1660年以来の歴史をもつ串木野鉱山*があり，金・銀を産出する。鹿児島本線に沿い，国道3号線・270号線が集まり，甑(こしき)列島との間に定期航路が通ずる。

くしきのこうざん　【串木野鉱山】　鹿児島県西部の串木野市にある金山。江戸時代には島津藩によって採掘されていたが，1906年(明治39)以来三井金属鉱業が経営している。従業員328人で金917kg，銀8t406kg(1973)を産し，北海道の鴻ノ舞(こうのまい)鉱山*に次ぐわが国第2の金山である。

くしくらげ　【櫛水母】　有櫛(ゆうしつ)動物の総称で，体は寒天質からなり，浮遊生活をするものが多い。➔有櫛動物

くしこめつき　【櫛叩頭虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コメツキムシ科。体長16mm内外。体は強い光沢をおびた黒かっ色ないし濃かっ色で，黄色毛を装う。鞘翅には明瞭(めいりょう)な縦溝(じゅうこう)が走る。触角と脚は赤かっ色。日本各地のほか，千島・朝鮮・中国などに分布し，夏季に普通に見られる。同定のむずかしい近似種がいくつかある。

くしだがわ　【櫛田川】　三重県西部の高見山地に源を発し，県内を東流して松阪(まつさか)市で伊勢(いせ)湾に注ぐ。流程87km。下流は分流を生じ，広い沖積地(ちゅうせきち)をつくる。この川は構造谷*を流れ，この構造谷は西にたどれば分水嶺(ぶんすいれい)高見山地を越えて紀ノ川の流れる谷につながり，西南日本を地形上二分する中央構造線*の一部となっている。上流部は峡谷をなし，香肌峡(かはだきょう)は清流とアユ漁で知られる。

くしだたみぞう　【櫛田民蔵】　(1885～1934)　経済学者。福島県の生まれ。1912年(明治45)京都大学政治科を卒業。東京大学大学院にはいって助手となり，中央・専修両大学講師を兼任。1917年(大正6)大阪朝日新聞社の論説委員となり，のち同志社大学法学部長として学校改革にあたり，また東大経済学部講師となったが，1920年の森戸辰男(たつお)筆禍事件で教壇を去って大原社会問題研究所にはいり，マルクス主義の研究に従事し，マルクス経済学の評論に論陣を張った。労農派*に属し，地代論をめぐる野呂(のろ)栄太郎*・平野義太郎(よしたろう)らとの論争は著名。全集4巻がある。

〔安達淑子〕

クシナガラ　［Kushinagara］　インド共和国北部，ウッタル-プラデシュ州東部のゴーラクプール市付近にある仏跡。ガンジス川北岸にあり，ブッダ入滅の地として知られ，沙羅(さら)双樹の前に円塔をもつ涅槃(ねはん)堂がそびえている。ブダガヤ・ルンビニ・サルナートとともに，インド仏教の四大霊場の一つとなっている。

くしなだひめ　【櫛名田姫】　日本神話の女神。《古事記》には櫛名田比売，《日本書紀》には奇稲田媛と書かれており，稲田の神格を女性として表現したものであろう。神代史では，出雲(いずも)(島根県)簸川(ひのかわ)の上流に住んだ国津神アシナヅチ・テナヅチの末娘である。スサノオノミコト*はクシナダ姫のために八岐大蛇*(やまたのおろち)を退治し，姫と夫婦となって，出雲の須賀(すが)に宮づくりしてこもったという。

グジニア　［Gdynia］　ポーランド北部，グダニスク湾に臨む港市。人口20万8,000(1973)。バルト海沿岸最大の商港であり，漁港・軍港でもある。石炭・木材・砂糖を輸出し，鉄鉱石や肥料を輸入している。1921年に港の建設が開始されるまでは，人口3,000程度の小漁村であったが，10年後(1931)には10倍の約30,000人になった。第2次世界大戦中はドイツに占領された。商船学校・水産学校がある。

ぐしぬい　【ぐし縫い】　⇨運針

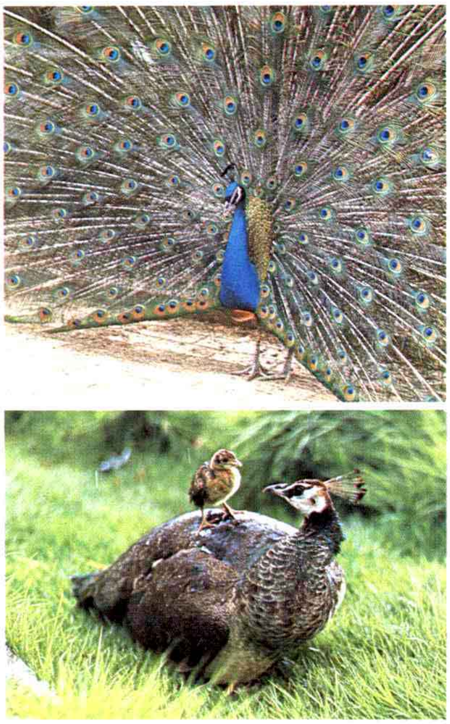
クーシネン　［Otto Vil'gel'movich Kuusinen］　(1881～1964)　ソ連の政治家。フィンランド生まれ。1905年ヘルシンキ大学を卒業し，社会民主党中央機関紙《チュオミエス(労働者)》の編集に従う。フィンランド共産党の創立に尽くしたが，1918年フィンランド革命の失敗後ソ連に亡命。1921～1939年，コミンテルン*執行委員会書記として植民地問題に関する多くのテーゼを起草した。1940年ソ連邦カレリア自治共和国最高会議幹部会議長を経てソ連共産党中央委員会幹部会員兼書記となり，中ソ論争では中国を激しく批判した。　〔山県弘志〕

くしひげしばんむし　【櫛鬚死番虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・シバンムシ科。体長2.2～3.6mmの小形種。体は黒かっ色，体背面は黒色毛と灰白色ないし灰黄色の毛が斑紋(はんもん)状に密生し，腹面には灰白色毛が密生している。触角は，雄ではくし歯状，雌では鋸歯(きょし)状を呈する。各鞘翅には5本の縦隆起線が走るが不明瞭(ふめいりょう)。幼虫は枯木の樹皮下を食害するが，日本では畳表の害虫として知られている。日本全土のほかインドネシアなどに分布。

くじほんぎ　【旧事本紀】　正しくは《先代旧事本紀》《旧事紀》ともいう。平安初期の編纂(へんさん)と推定される。古代の伝承に基づいて神代から推古天皇までの歴史を10巻にまとめたもの。序文によって聖徳(しょうとく)太子の選とされていたが，江戸時代に偽書であることが明らかにされた。しかし，巻5《天孫本紀》には，物部(もののべ)氏*の事績が多いところから，物部氏の編纂ともいわれる。巻10《国造本紀》は後世の加筆部分もあるが，他にみえない所伝を載せて貴重である。考証によると延喜年間(901～922)には本書の原形が成立したとみられる。中世の度会(わたらい)神道*(しんとう)・吉田(よしだ)神道*に影響を与えている。　〔柳雄太郎〕



ク　ジ　メ



ク　ジ　ャ　ク　(上)インドクジャクの雄　(下)インドクジャクの雌と雛

くじほんぎげんぎ　【旧事本紀玄義】　天台宗の僧慈遍の著書。全10巻(現存は5巻)。1332年(元弘2)成立。《旧事本紀*》の解釈書であるが，当時の内外の諸書を抜粋し，特に神代および神々と天皇の意義に力点を置き，必ずしも《旧事本紀》にとらわれていない。

くしま　【串間(市)】　宮崎県南端の市。江戸時代は高鍋(たかなべ)藩秋月氏の飛び領地であった。1954年(昭和29)福島町を中心に市制施行。人口30,000。志布志湾に注ぐ福島川下流の海岸部と背後山地を占め，中心市街は沖積地(ちゅうせきち)と段丘上に発達する。産業三大別人口比は43：17：40。農山村的な性格が強く，温暖な気候を利用してキュウリ・トマトなどの促成栽培が盛んである。福島・宮ノ浦などの漁港があり，イセエビ・トビウオなどを漁獲する。日南線・国道220号線が通じ，海岸部は日南海岸国定公園に属する景勝地で，南東郊の都井岬(みさき)のソテツ自生地は特別天然記念物に指定され，また，野生の馬の放牧地として知られる。東部の幸島は野生ザルの生息地として有名。

くしまき　【櫛巻き】　女子の髪形。くしに髪を巻きつけた結髪をいう。江戸中期以降のびん・たぼのある複雑をきわめた技巧的な女まげには，細工の美しいさまざまな飾りぐしが用いられたが，くし巻きの場合は，すきぐしなどを無雑作に毛先に巻きつけたり，あるいは髪の束を止めるように巻き込む簡単なもので，おもに下町の伝法な女に好まれた。洗い髪を束ねたようにすがすがしい新鮮さがある一方，あくまでふだんのくずした髪形である。〔橋本澄子〕

くじめ　硬骨魚類・アイナメ科。全長30cmほどになる海産魚。長楕円(ちょうだえん)形で暗かっ色の地色に丸い小淡色斑(はん)を密布するが，個体により多少変化する。アイナメ*に酷似してよく混同されるが，側線が1本であることと尾びれの先が丸いことによって区別できる。函館(はこだて)から長崎にかけて分布し，海岸の藻場(もば)にすむ。食味はアイナメにやや劣る。

くしめもんどき　【櫛目文土器】　櫛状の施文具で文様を施した新石器時代の土器。尖底(せんてい)土器*を標準器形とし，口縁部に突刺文様を巡らし，下方に櫛目文様など各種の幾何学的文様を描いている。バルト海沿岸に発達し，さらに同系土器はボルガ川上流地方からシベリア南部にかけて分布，バイカル湖畔に至っている。また東方では，沿海州南部・朝鮮半島・長山列島・遼東(りょうとう)半島にわたる海岸や大河畔にその土器遺跡が点在している。石器*・骨角器*を併出し，狩猟・漁労の生活を反映している。わが国の縄文(じょうもん)式土器*にも，その影響と認められるものがあるが，これらの系統とは区別される。　〔高崎徳次〕

くしもと　【串本(町)】　和歌山県西牟婁(にしむろ)郡の町。人口19,000。紀伊(きい)半島南端の町で，紀勢本線・国道42号線に沿い，中心地区串本は潮岬(しおのみさき)と本土をつなぐ砂州上に位置する。串本港はマグロ漁業，熊野灘(くまのなだ)捕鯨業の基地であり，また避難港の役割も果たしている。民謡《串本節*》は名高く，潮岬・大島・橋杭(はしくい)岩などの景観と温暖な気候があいまって，南紀の代表的な観光地となっている。

くしもとぶし　【串本節】　和歌山県西牟婁(にしむろ)郡串本町の民謡。もとの歌は《お茶やれ節》とよばれていた祭り歌で，明治初期に他の土地から海路を経て伝えられたものらしい。大正時代にお座敷ふうに編曲され，その名も《串本節》として一般に知られるようになった。

くじゃく　【孔雀】　鳥類・キジ科・クジャク属の総称。インドクジャクとマクジャクの2種があり，約2,000年前から飼育されている。インドクジャクはインド・セイロンに分布し，くびから腹部にかけて青色，後頭部の飾り羽の羽軸は白色，先は緑色の扇形である。マクジャクはインドシナ半島・ジャワに分布し，くびから腹部にかけて緑色，後頭部の飾り羽は先のとがった形で，

あまり立てていない。両種とも森林性である。動物園に飼育されているものは前者のほうが多い。動物園でときどき見られるシロクジャクはインドクジャクの突然変異による白化型である。一般に尾羽といわれる長い羽毛は，正しくは尾の前方の上尾筒羽であり，雄では著しく長く，ディスプレー*を行なうとき前方に円形に大きく広げられる。尾羽は短く，その後ろ側で広げられているが，前方からは隠れて見えない。

上記2種のクジャクに体形が似ている小形のキジ類に，ヒマラヤコクジャク・エボシクジャク・パラワンコクジャクなどがあるが，これらは別の類である。〔安部直哉〕

くじゃくおうちょう　【孔雀王朝】　⇨マウリア王朝

くじゃくしだ　【孔雀羊歯】　シダ植物・ワラビ科。クジャクソウともいう。山林の湿った岩や樹上にみられる夏緑性シダ。葉は全体が無毛で膜質，葉身は扇形で鳥足状に8～13の羽片がある。各羽片は披針(ひしん)形で，さらに羽状分裂する。中軸は紫かっ色で光沢がある。胞子嚢(ほうしのう)は小羽片の葉縁につくられている。包膜は長卵形である。

くじゃくせき　【孔雀石】　銅の原料鉱物の一。$Cu(OH)_2$・$CuCO_3$　単斜晶系。比重3.9～4.1，硬度6，劈開*(へきかい)は{010}に存在,緑色で条痕(じょうこん)は淡緑色。結晶は針状で，放射状またはしま状に集合し，もろい。アフリカ・南アメリカなどの銅鉱床の酸化帯に産出する。銅の原料鉱物のほか，飾り石・顔料・装飾用石材として用いられる。

くじゃくそう　【孔雀草】　観賞用に栽培されるハルシャギク*の別名。また，シダ植物のクジャクシダの別名。➜クジャクシダ

くじゃくちょう　【孔雀蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さは55mm内外。翅の表面は美しい赤茶色,前翅の外縁は暗色。後翅は暗色で,中央部は赤茶色。前・後翅ともにクジャクの上尾筒にあるような紋がある。裏面は黒かっ色で，黒色の細かい波状線が密に走る。北海道・本州・四国のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・ヨーロッパに広く分布し，幼虫はカラハナソウ・イラクサ・ホップなどの葉を食べる。成虫で越冬し，4～5月ごろ食草の若葉に50～100個ずつ産卵する。幼虫は全体黒色で群生するが，蛹化(ようか)のときには四散する。成虫は7月ごろから出現し，8月下旬から9月下旬にかけて最も多く見られる。サハリンから北海道・東北地方では平地にみられるが，中部地方では山地に産する。

くじゃくとうなんひ　【孔雀東南飛】　中国の長編叙事詩。作者は不明。漢代末期か六朝(りくちょう)時代につくられたものらしい。漢末の建安年間(196～220)，焦仲卿(しょうちゅうけい)の妻の劉氏(りゅうし)が夫の母のため，相思相愛の夫との仲を裂かれて実家に帰される。実家では劉氏を再婚させようとしたが，それをきらって自殺する。焦仲卿もそれを聞き，劉氏のあとを追って死ぬ。合計1,745字からなる長編の物語詩。



クジャク石　秋田県阿仁鉱山産



クジャクチョウ



孔雀明王　《孔雀明王図》(部分)　東京国立博物館蔵

くじゃくばと　【孔雀鳩】　鳥類・ハト科。インド地方で固定された観賞用のハト。この品種では尾羽が22～36枚に達し(カワラバトやドバトは12枚)，これをクジャクのように美しく広げているのが特徴。育雛(いくすう)がうまく，じょうぶで禽舎(きんしゃ)飼いに適する。最も多く飼われているのは白色のもので，くちばし・脚は肉色。

くじゃくみょうおう　【孔雀明王】　明王*の一。梵語(ぼんご)Mahāmayūrī-vidyā-rājñī(マハーマユーリ-ビドゥヤー-ラージュニー)の訳。クジャクが毒草や毒虫を食してもその毒を消し去るように，人心の害毒を消し，業障を除くことを誓願とする明王である。《仏母大孔雀明王経》に毒蛇(どくじゃ)の害を救った由来，さらに諸厄(しょやく)万病の消除，安楽の招来などの功徳が説かれている。尊像は白色，多く四臂(しひ)で慈悲相，白衣を着し,白または青の蓮華(れんげ)上に結跏趺坐(けっかふざ)し,蓮華・倶縁果(くえんか)・吉祥果とクジャクの尾をもつ。わが国にも古くから知られ，息災・祈雨などの修法の本尊とされる。室町末期から鎌倉時代にかけての画像・彫刻の名品が残っている。〔北条賢三〕

くしゃしゅう　【倶舎宗】　奈良時代に日本に伝わった仏教6宗派の一宗。バスバンドゥ*(世親)の《倶舎論*》を通じて，いわゆる小乗仏教の一学派である一切有部(いっさいうぶ)の教義を研究する学派。奈良仏教の宗派は信仰によって固定した宗団というよりは学派的な性格のものであったが，とりわけ倶舎宗は法相宗(ほっそうしゅう)に付随しており,独立した一宗とはならなかった。しかし，倶舎学は仏教の基礎学として広く各寺各宗の僧によって学ばれた。特に護命(ごみょう)・明詮(みょうせん)は倶舎学者として著名である。

〔佐藤成順〕

クシャトリア　⇨カースト

クシャナちょう　【クシャナ朝】　⇨クシャン朝

くしゃみ　【嚔】　くさめともいう。鼻神経が異物や寒さなどの刺激を受けると，その刺激を除こうとする作用が働いて，急に起こる一種の呼吸運動である。冬などで寒くて起こるくしゃみは，鼻を暖かく保てば止まる。

グジャラート(州)　[Gujarat]　インド共和国西部の州。面積約19万6,000km^2。人口2,670万(1971)。州都アーメダバード。ボンベイの北にあり，カッチ湾・カンベイ湾に面する海岸平野・丘陵とカチアワル半島とからなる。気候は乾燥し,トウモロコシ・アワ・米・ワタ・タバコなどを産する。岩塩・マンガンなどの鉱産も多い。

くしゃろん　【倶舎論】　インドの部派仏教(一切有部(いっさいうぶ)などを含む小乗二十部派)の哲学書。正しくは《阿毘達磨(あびだつま)倶舎論》という。梵語(ぼんご)でAbhidharmakośaśāstraといい,Abhidharmaは〈対法〉，kośaは〈蔵〉，śāstraは〈論〉の意で，自己と宇宙のすべての構成要素(法)を批判的・体系的に扱う。5世紀ごろ，インドの仏教哲学者バスバンドゥ*(世親)が，そのまえからあった部派仏教の大百科全書ともいうべき《婆沙論*(ばしゃろん)》を批判的に扱ってできた。

玄奘*(げんじょう)訳の30巻は仏教学の基本書となっている。〔金岡秀友〕

クシャンちょう【クシャン朝】 1世紀の初めごろアフガニスタンの北部から起こった王朝。クシャン朝勃興(ぼっこう)当時はローマとインド・中国との国際貿易が盛況に向かったときで，シルクロードの一部を占めたクシャン人は仲介者として一躍世界史上に登場した。クジュラ-カドフィセス*とビマ-カドフィセスの2王のときがクシャン朝の創成期で，ヒンズークシ山脈をまたいで中央アジアとインドへ支配権を拡張した。次のカニシカ王*・フビシュカ王・ビースデーバ王のとき最盛期を迎え，仏教が盛んとなった。ギリシア・ローマ美術とインド仏教の融合を示すガンダーラ美術*が発展するのもそのころである。中国史書ではこの王朝を大月氏*の後裔(こうえい)とするが，碑文や貨幣ではクシャンと自称し，本来東イラン系の民族であったと考えられている。〔小谷仲男〕

クシャンちょうびじゅつ【クシャン朝美術】 クシャン朝におけるガンダーラ地方とマトゥラー地方の美術の総称。注目すべきことは，はじめて仏像が制作されたことである。シュンガ・アンドラ朝においては，いわゆる無仏像の状態を固持していたが，ローマ世界とのひんぱんな交流が行なわれると，西方の文化をかなり積極的に摂取していたようである。中でも，神を人間の姿に表現する手段が紹介されてから，仏像がつくられるようになり，カニシカ王の時代になって頂点に達し，塔や寺院がおびただしく造建された。シャー-ジー-キー-デーリー・マルダン・チャルサダなどの遺跡がある。



クシャン朝美術 《釈迦坐像》 砂岩製 マトゥラー出土 2世紀 東京国立博物館蔵

くしゅう【句集】 俳諧*(はいかい)を集めた書。大別して《談林十百韻*(とっぴゃくいん)》《俳諧七部集*》のように俳諧を集録したものと，もっぱら俳諧の発句*を集録したものとがある。後者はさらに《蕪村(ぶそん)句集》のように個人の発句を集めたものと，《俳諧古選》のように複数の俳人の作品を集めたものとがある。

くじゅうくしま【九十九島】 長崎県北西部，佐世保市と北松浦郡小佐々・鹿町(しかまち)2町の沖合に散在する大小170余の島嶼(とうしょ)群で，沈水によって生じたリアス式の地形を示す。南北の延長30kmで，対岸に平戸島がある。地質は黄色の第三紀層を基礎とし，これと照葉樹林(常緑広葉樹林)を主とする林相の緑と，海の青の対称が美しい。南西端にあるキリシタンの島として知られる黒島*が最も大きく，第2は炭田のある高島で，ともに長崎市に属する。その他は養魚場のある上小高島などを除けば，ほとんどが無人島である。第2次世界大戦中までは要塞(ようさい)地帯に指定されていて，自由に観光できなかったが，現在は西海国立公園の中心となっている。佐世保市内の弓張岳・賞観岳などからの展望もよく，また佐世保市鹿子前(かしまえ)から出る遊覧船や，佐世保～平戸間の定期船を利用して，島々の間を巡るのもよい。なお，長崎県島原市の海岸にある九十九(つくも)島*は別。〔浅井得一〕



九十九島 青い海に航跡を描いて白い観光船が走る九十九島の鳥瞰写真。入り組んだ島の入り江には養殖真珠のいかだも見える

くじゅうくりはま【九十九里浜】 千葉県，房総半島北部の太平洋に面する弓形の65kmに及ぶ砂浜海岸で，その名は6町を1里として数えたことによるといわれる。北は行部岬(ぎょうぶさき)に，南は太東崎に限られ，県立九十九里浜自然公園に指定されている。浜の内側には鎌倉時代に起源をもついわゆる岡集落が並び，海岸には近世中期以降の地引き網の木戸納屋に起源をもつ納屋集落が並んでいる。かつてイワシ漁が盛んだったが，最近は不漁が続き，もとの漁村は農業に中心を移している。また，東京湾岸の海水浴場で，海水のよごれが目だってきているため，最近この浜が海水浴場として発展し，山武郡九十九里町の片貝や豊海(とよみ)が中心となっている。豊海には国民宿舎がある。〔味沢成吉〕

くじゅうくりはまへいや【九十九里浜平野】 九十九里平野ともいう。千葉県の東部にあり，東は太平洋に面し，背後は両総台地に限られ，北の行部岬(ぎょうぶさき)と南の太東崎との間に発達した弓形の狭長な海岸平野である。南北約65km，幅は最も広い中央部で10km前後で，海岸線に沿う砂丘列は9列にも及び，砂丘間は低湿地になっている。海岸線は年に数メートルずつ沖へ延び，この100年間に約200mも沖へ移動した。江戸時代初期まで北部にあった潟湖(せきこ)の椿海(つばきうみ)は干拓されてなくなり，砂丘間の低湿地とともにほとんど水田化されている。



九十九里浜 渺茫として続く弓なりの砂浜海岸。砂丘上には防砂林・道路・集落が続く。写真は片貝(九十九里町)付近

砂丘には集落が立地しているが，鎌倉時代に開発された岡集落と，その前面の江戸時代以後に開発された新田集落と納屋集落が，いまもはっきり区別できる。砂丘は畑に利用され，かつては桑園が続いて養蚕が行なわれていたが，現在はサツマイモの栽培と園芸農業が盛んである。旭(あさひ)市・八日市場(ようかいちば)市・松尾町・成東町・東金市・茂原市・一宮(いちのみや)町などがあり，総武本線・房総東線・東金線が走る。南部の茂原市には，天然ガスを原料とする化学工業がみられる。沿岸一帯は以前は地引き網によるイワシ漁業で有名であったが，いまは衰えている。〔味沢成吉〕

くじゅうこうげん　**【久住高原】**　大分県中部の九重火山群の南斜面に広がり，東西20km，南北6kmに及ぶ。眺望(ちょうぼう)雄大で，遠く阿蘇(あそ)の噴煙や，祖母・傾の連山を望むことができる。牧場が開け，春・秋にはハイカーも多く，夏にはキャンプ場でにぎわう。

くじゅうさん　**【九重山】**　大分県中部から，一部熊本県にかけて広がる火山群の総称で，九州の最高峰*久住山(1,788m)をはじめ，黒岳(1,556m)・大船山(1,787m)・三俣(みまた)山(1,745m)・湧蓋(わいた)山(1,500m)などがそびえる。円錐(えんすい)形の湧蓋山以外はすべてドーム(鐘状火山)である。火山群の北側には飯田高原，南側には*久住高原が広がり，火山群の中央を九州横断道路が通過している。阿蘇(あそ)*国立公園の一部になっている。〔高野　繁〕

くじゅうさん　**【久住山】**　大分県中部の九重火山群の主峰で，標高1,788m。九州の最高峰で，ドーム(鐘状火山)である。

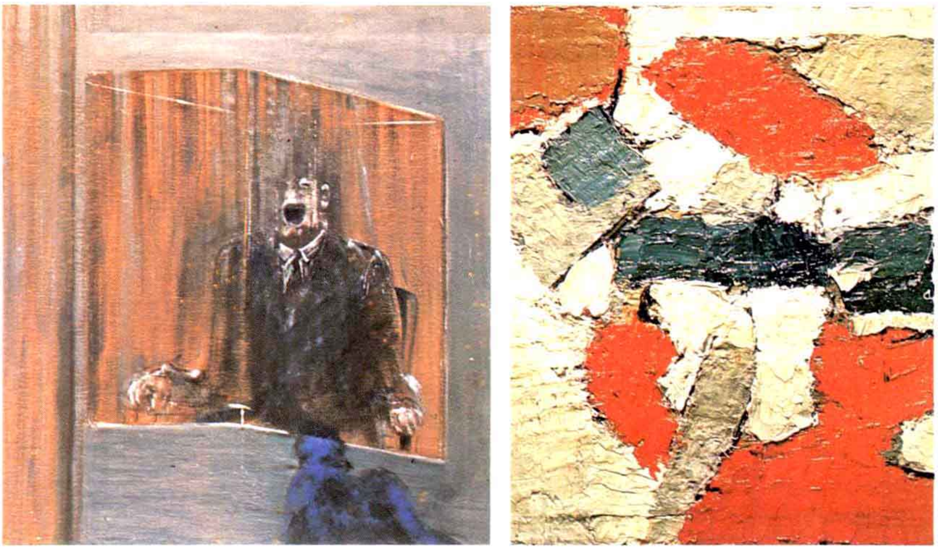
くしゅうはく　**【瞿秋白】**　チュイチウバイ(1899～1935)　中国現代の政治家・文芸評論家。*五・四運動のころロシア文学を学び，1920年，革命後まだ日の浅いモスクワに留学，同地で中国共産党に入党した。その後，党の政治指導にあたったが，1931年中央の重職から退いた。ロシア文学やマルクス主義芸術理論を紹介し，魯迅(ろじん)と相知り，その文学のよき理解者でもあった。また文字改革に関心を寄せ，漢字ローマ字化で先駆的な仕事を残した。《瞿秋白文集》がある。

クジュラ-カドフィセス　[Kujūla Kadphises]　クシャン*朝の初代王。《後漢書西域伝》には丘就卻(きゅうしゅうきゃく)と書かれている。西暦紀元の初めごろ，アフガニスタン北部の大夏(トハリスターン)地方から起こり，近隣諸王を征服してクシャン王朝をつくり，シルクロードの一部を占めた。

ぐじょうおどり　**【郡上踊】**　岐阜県郡上郡八幡(はちまん)町を中心に行なわれる盆踊り。歌は《郡上節》といい，歌い手の歌と踊り手の歌が掛合(かけあい)になっている。江戸後期に始まったと推定され，お座敷ふうの〈川崎〉という歌が最も広く知られる。民謡ふうの歌に〈三百〉〈春駒(はるこま)〉がある。



九重山　角セン石安山岩からなる数個の溶岩円頂丘の集まりで，頂上付近の凹地は火口跡，噴煙は硫気孔。鐘状火山の山容がよくうかがえる



具象主義絵画　(左)ベイコン　《青い箱の中の男》　1949　(右)スタイル　《白・青・赤のコンポジション》(部分)　バイエラー画廊蔵

ぐしょうおんがく　**【具象音楽】**　⇨ミュージック-コンクレート

くじょうかねざね　**【九条兼実】**　⇨藤原兼実

くじょうけ　**【九条家】**　五*摂家の一。平安末期，関白藤原忠通(ただみち)の三男兼実(かねざね)は，1192年(建久3)源頼朝(よりとも)の後援を得て*関白となり，はじめて九条氏を称した。兼実の孫の道家の三子である教実(のりざね)・良実(よしざね)・実経(さねつね)はいずれも*摂政・関白となり，おのおの九条・二条・一条を称したが，嫡流は兼実以来九条に住した九条家であった。以後五摂家の一つとして代々摂政・関白に任じ，江戸時代には二千石のち三千石を領し，明治に至って公爵を授けられた。なお貞明皇后(大正天皇の皇后)は九条家の出身である。〔黛　弘道〕

ぐしょうしゅぎかいが　**【具象主義絵画】**　一般にすべての再現的絵画をいうが，自然事物の描写的再現を意図したもののみをさすのではなく，初期*キュービスムの作品のように一見して抽象画ふうであっても，そのモチーフが明らかに自然の事物であれば，これをも含む。特に，具象主義絵画という場合には二つの流れが考えられる。一つは抽象絵画の出現ののち，これに対抗して意識的に具象絵画を擁護しようとした立場で，1948年パリで開催の〈目撃者(ロム-テモワン)〉展によってはじめて明確な形をとる。*ロルジュ・モッテ(1906～　)らがこれに参加，翌年から*ミノー・*ビュッフェも加わって，抽象的な前衛絵画を非難して，広範な大衆との接触と絵画の社会復帰を唱導した。この運動は第2次世界大戦後の上層階級に多くの支持を得，以来，日本・アメリカなど各国で展覧会を組織するに至っている。この保守・伝統的立場に対し，前衛派の側にあっても，対立すると考えられていた抽象・具象という二つの概念を克服したうえで具象主義絵画を生み出した。1948年から1951年までの，〈コブラ〉誌を中心にした実験的芸術国際グループに属した若い画家たちの作品，ほかに運動としてのグループ結成には至らないが，*フォートリエ・デュビュッ

フェ*を先駆とし，ド-スタール*・ベイコンらへ連なる作品群がそれである。この新しい具象は本質的に暗示的・心理的であり，幻想的なパロディ，グロテスク，フォルムの曖昧(あいまい)さ，変容への好みを共通の傾向としている。〔古川俊英〕

くじょうしょりてつづき【苦情処理手続】個々の労働者の不平不満・苦情を解決する制度。1948年(昭和23)ごろ，GHQ(連合軍総司令部)の推奨で，わが国でも取り入れられた。公共企業体(公共企業体等労働関係法12条)・地方公営企業体(地方公営企業労働関係法13条)の場合を除き，一般の場合は，苦情処理手続を定めるかどうか，その内容の如何(いかん)などすべて労働協約*に任されている。問題としては，これが労働組合の団体交渉*によらず個々の労働者と交渉することにより，労働組合と組合員を離反させ，組合を弱体化させる点が指摘されている。〔木元錦哉〕

くじょうたけこ【九条武子】(1887～1928) 歌人。京都西本願寺法主(はっす)大谷光尊の次女。長じて男爵九条良致にとつぎ，渡欧するが，翌年単身帰朝。その後の10余年間は，夫の帰国を待つかたわら社会事業・婦人運動などに貢献した。また，佐佐木信綱*(のぶつな)門下のすぐれた女流歌人として《心の花*》によった。歌集《金鈴》・歌文集《無憂華(むゆうげ)》などがある。

くじょうもろすけ【九条師輔】⇨藤原師輔

くじょうよりつね【九条頼経】⇨藤原頼経

グージョン［Jean Goujon］(1510？～1568) フランス-ルネサンス期の彫刻家。イタリアで古典彫刻を学び，のちピエール-レスコーとともにルーブル宮*の建築にあたって，装飾彫刻を制作，同宮正面彫刻やフォンテーヌ-デージノサンのニンフの浮き彫りなどが代表作。イタリアの古典に基づく，洗練された感覚による優美な作風をもつ。

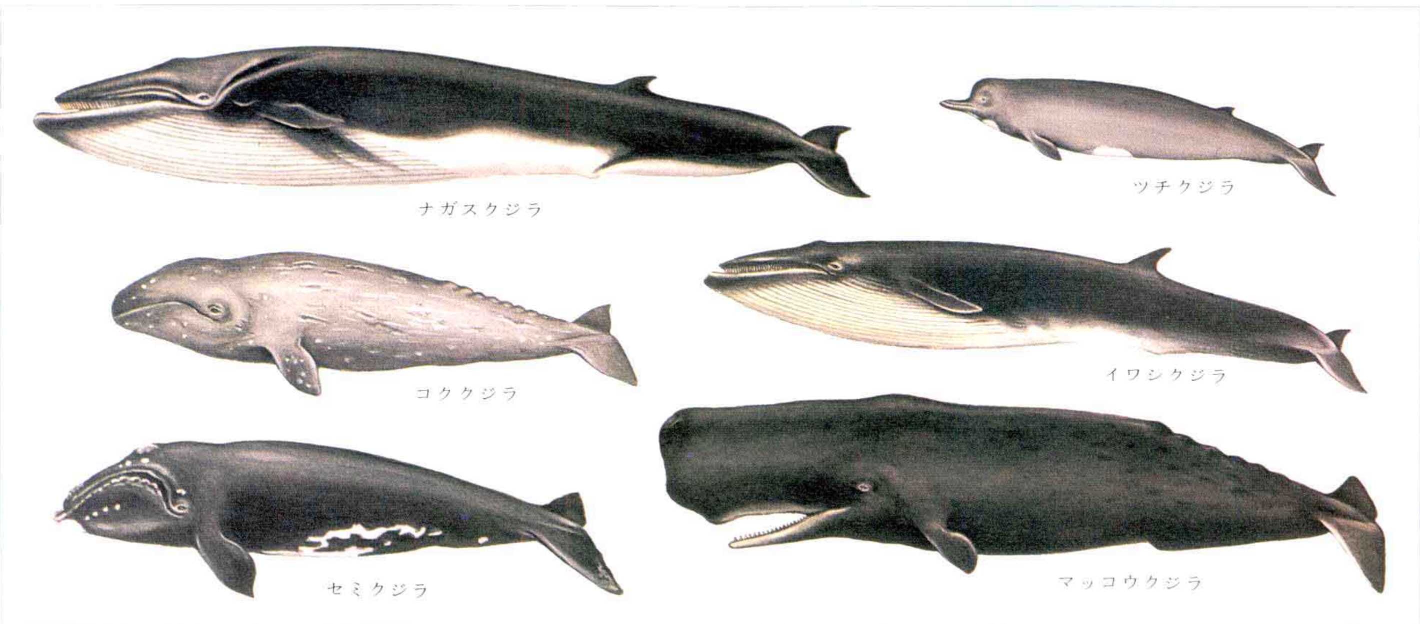
くじら【鯨】哺乳(ほにゅう)類・クジラ目の総称。水中生活に適応し，体は流線形で，前肢(ぜんし)はひれ状でつめはなく，これでかじをとり，体の平衡を保つ。後肢は退化して外部に現われない。強い筋肉質の尾は水平で尾びれとなり，上下に動かして前進し，魚類のように左右に動かすのではない。口部を除き体は無毛で，皮膚には汗腺(かんせん)・皮脂腺がなく，表皮の下は厚さ35cm以上に達する脂肪の層(脂皮)で，体温を保つのに役だつ。頭部は巨大で，しばしば全長の4分の1から3分の1に達する。目は小さく，口角の上方にあり，外部からほとんど見えない耳には耳せんが詰まっており，深く潜水したとき水圧から保護する働きがあるとされる。肺呼吸をするため，ときどき水面に鼻孔を出して空気を呼吸し，息を強く吐き出すためにいわゆる〈クジラの潮吹き〉が起こる。呼吸を止めて1時間近くも水中にもぐっていることができるものもある。声帯はないが音を出すことができる。歯はないか，あっても門歯・犬歯・臼歯(きゅうし)の分化がなく，同じような形をした歯が並ぶ同歯性である。鎖骨はなく，脊椎骨(せきつい こつ)は互いに関節しない。1産1子で，子は水中で生まれ，水中で母親の乳を飲んで育つ。乳頭は肛門(こうもん)の両側にある。



グージョン《ニンフ》1800 ルーブル美術館蔵

ムカシクジラ亜目・ハクジラ亜目・ヒゲクジラ亜目の三つに大別するが，現生のものはあとの2亜目である。

〈ハクジラ(有歯鯨)類〉 ふつう，歯は同歯性。外鼻孔は1個。盲腸はない。イカ類を好み，魚類・ナマコ・ケガニなども食べる。次の6科に分けられる。①カワイルカ科：淡水にすむ原始的なガンジスカワイルカなど。②アカボウクジラ科：各海洋に広く分布し，砂浜に乗り上げたのがよく発見されるアカボウクジラ，北太平洋に分布するツチクジラなど。③マッコウクジラ科：ハクジラ類中最大で全長20mに達し，2,000m以上の深海にもぐるマッコウクジラ，体形はマッコウクジラに似ているが，全長4mほどのコマッコウなど。④イッカク科：全身白色のシロイルカ，雄の上顎(じょうがく)の歯が長大で全長の3分の2以上に達するきば



クジラ

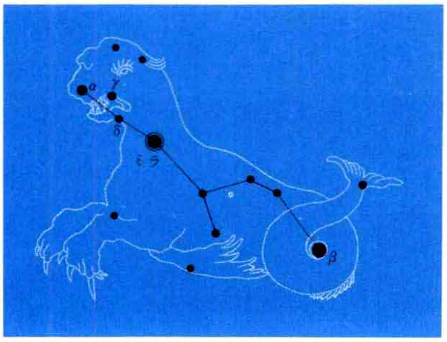
をもつイッカクなど。⑤イルカ科：水族館などでよく見られるバンドウイルカ，背びれが大きくかま状のカマイルカ，背びれが大きく垂直に立ってタラ・サケ・マグロ・クジラなどなんでも食べるサカマタ，淡水にもしばしば現われて遊泳速度が時速54kmに達するマイルカ，背びれがなく大群で生活するセミイルカなど。⑥ネズミイルカ：全長1.8mほどで数分しか潜水できないネズミイルカ，ハクジラ類中最小で全長1mほどのスナメリなど。

〈ヒゲクジラ(有鬚(ゆうしゅ)鯨)類〉 歯は胎児にしかなく，生まれてくるときには退化して，代わりに上顎に150〜400枚のクジラひげを生ずる。このひげは海水とともに主食である小甲殻(しょうこうかく)類を吸い込み，ひげで水をこして吐き出し，えさを口の中に残すのに役だつ。おもにオキアミなどを食べるが，魚類も食べる。鼻孔は2個。ふつう盲腸がある。次の3科に分けられる。①セミクジラ科：頭骨が巨大で，少なくとも全長の4分の1を占める。この科には，北半球北部特産のホッキョククジラ，最も初期に捕鯨の対象となり，その後生息数の激減をみたセミクジラなどが含まれる。②コククジラ科：コククジラ1種からなり，北太平洋に限産する。③ナガスクジラ科：地球上にこれまで出現した動物のうちで最も大きく，全長30m以上に達するシロナガスクジラ，現在日本で最も多く捕獲されているイワシクジラ，前肢が長く全長の3分の1に達するザトウクジラなどがある。

〔今泉吉典〕

くじらおび【鯨帯】⇨腹合わせ帯

くじらざ【鯨座】 秋の南天にかかる星座。うお座の南に広がって大きな領域を占め，明るい星は少ない。この星座のο星(ミラ)は最初に発見された変光星*として有名で，平均332日の周期で2等から10等まで変光する。➔星座



くじら座

くじらじゃく【鯨尺】 ものさしの一種。古来，布などをはかるのに用いたもので，もとクジラのひげ骨でつくったところからこの名がある。呉服ざしともいった。尺貫法の鯨尺の尺・寸・分の単位系の目盛りがあり，それではかった寸法をさす場合もある。かね尺に対するもので，鯨尺の1尺はかね尺*の1尺2寸5分(37.9cm)にあたる。メートル法が普及してからは，あまり使用されない。➔尺

くじらなみかいがん【鯨波海岸】 新潟県柏崎(かしわざき)市西部にある，白砂青松の遠浅海岸で，海水浴場として知られる。西方の福浦海岸，西南方の米山(よねやま)(993m)とあわせて，米山福浦八景県立自然公園に指定されている。

くじらにく【鯨肉】 わが国では，クジラは獣肉忌避時代にも〈勇魚(いさな)〉とよばれて魚類として扱われていたので，主産地の肥前(佐賀県)・長門(山口県)・土佐(高知県)・紀州(和歌山県)方面では古くから食ぜんに供され，京阪神(けいはんしん)地方でもすでに明治年間に，優良部位はむしろ牛肉以上として珍重されていた。ただし，ハクジラ類の肉は色が赤黒く味が悪いため，あまり食用に向かず，ヒゲクジラ類のナガスクジラやイワシクジラの肉は，多少特有のにおいがあるが，栄養価も高く，広く食用に供される。食用にされる部分や名称は次のとおり。①赤肉：鯨肉の大部分を占める。冷凍・塩蔵・生肉として市販されるほか，魚肉ソーセージやハムに混ぜられる。②尾の身：尾の部分にだけついている霜降り肉。脂肪が多く，鯨肉中いちばん美味である。さしみやすき焼きなどにする。③尾羽：尾の部分をいい，白色で脂肪が多い。これを薄く切って塩蔵し，熱湯に入れてから冷水でさらしたものを〈さらし鯨〉という。ゼラチン質が多く，弾力のある舌ざわりに一種の風味がある。④畝(うね)：ヒゲクジラ類の腹側にあるしま状をした切れ込みを畝といい，尾羽とともに〈さらし鯨〉とする。ほかに，背中側の黒い表皮の下にある厚い脂肪層(本皮という)や，頭にある軟骨(かぶら骨)も食用にされ，内臓は焼き鳥の原料となるなど，広く利用される。〔佐藤友太郎〕



釧路市 市の西部，新釧路川河口付近の釧路港。煙突の見える工場は十条製紙で，船が接岸している。近景の船は海上保安庁の巡視船〈えりも〉

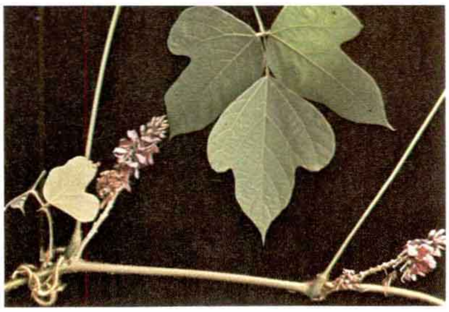
くしろ【釧】 縄文(じょうもん)時代から古墳時代にかけて用いられた腕輪。玉釧・銅釧(かなくしろ)・石釧・貝釧があり，まれにガラス釧もあったようである。正円形の銅釧や，横断面の丸いものや角形のもの，外縁に刻みのついたものなどが古墳から発掘されている。銅釧に5〜6個の鈴をつけたものは特に鈴釧という。

くしろ【釧路(市)】 北海道南東部の市で，釧路支庁の所在地。1635年(寛永12)松前藩が漁場を開き，〈久寿里(くすり)場所〉とよんだ。地名はアイヌ語のクシュル(通路)に由来するといわれる。明治中期以後炭田開発や港湾整備が進み，1922年(大正11)市制施行。人口21万5,000。市域は太平洋に注ぐ釧路川*河口付近の河岸段丘上にあり，釧路支庁のほか，多数の行政機関があって，道東行政の中心地である。産業三大別人口比は4：29：67。釧路炭田*の一角を占め，豊富な工業用水に恵まれて，パルプ・化学肥料などの大工場が設置され，水産加工の工場も多く，白糠(しらぬか)町・釧路村を含む臨海工業地帯の造成が進んでいる。根室(ねむろ)本線・釧網(せんもう)本線・雄別鉄道が通じ，国道38号線・44号線・240号線が集まる。釧路港は，北洋漁業の基地として道内最大の水揚げ高を誇り，また函館(はこだて)・小樽(おたる)に次ぐ道内第3の商港である。また，釧路空港からは東京・秋田をはじめとして道内各地を結ぶ定期便が出ている。周辺の釧路平野*は，南部の海岸砂丘地帯を除く大部分が泥炭地(でいたんち)で，夏季には海霧(ガス)が発生する。知人岬(しれとみさき)・春採湖(はるとりこ)・タンチョウヅル自然公園などの観光地があり，阿寒(あかん)国立公園の南の玄関口である。〔浅井得一〕

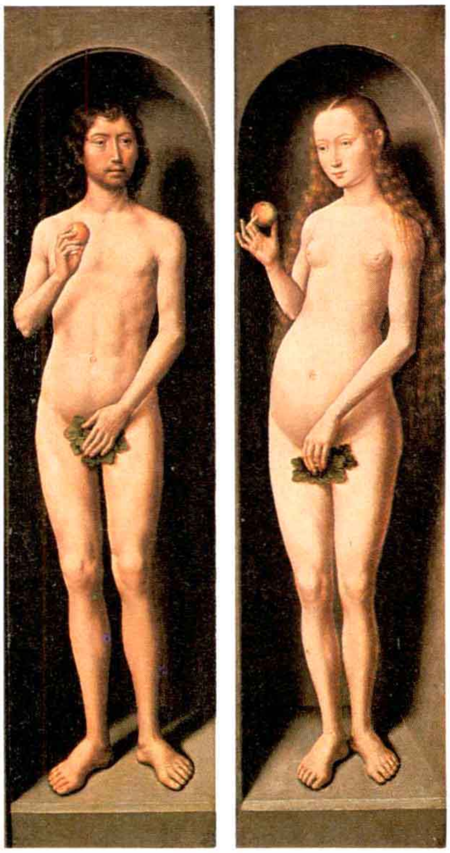
くしろがわ【釧路川】 北海道釧路支庁北部の屈斜路湖(くっしゃろこ)を水源とし，南流して釧路平野*に出，釧路市で太平洋に注ぐ。流程129km。下流の釧路平野は低湿地が多く，蛇行(だこう)の跡を残している。もと，河口近くで阿寒(あかん)川が合流していたが，いまは流路を分離した。釧路川はしばしば洪水(こうずい)を起こし，また河口の釧路港を堆積物(たいせきぶつ)によって浅くするので，1931年(昭和6)本流の西方に放水路の新釧路川が完成された。鉄道開通以前は，河口から上流の標茶(しべちゃ)まで舟運があった。

〔長津一郎〕

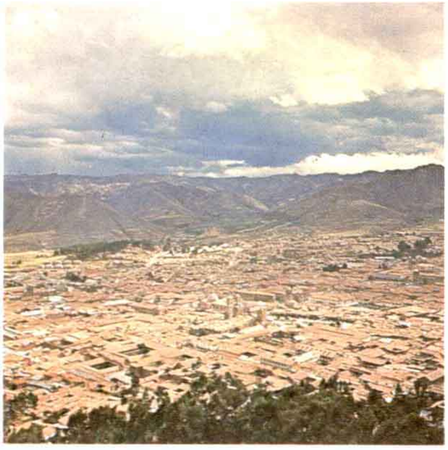
くしろしちょう【釧路支庁】 北海道庁管轄14支庁の一。道東部，太平洋に面する地域で，管内に7町2村があり，庁舎所在地は釧路市。面積5,798km²，人口92,000。東部に広大な根釧(こんせん)台地，中央部に釧路平野*がある。農業は酪農が主体で，30,000頭を越える乳牛が飼育され，林業は北部と西部の山地で営まれる。釧路平野の西部には石狩炭田に次ぐ道内第2の規模をもつ釧路炭田*があり，漁業はコンブなどの沿岸漁業ならびに釧路・厚岸(あっけし)を基地とする沖合い・遠洋漁業が行なわれる。釧路市の周辺部には製紙・食品・肥料・飼料などの工場が多く，道東における近代工業の中



ク ズ



グース《原罪》ウィーン歴史博物館蔵



クスコ 郊外の丘の上から見たクスコの市街。インカ帝国の滅亡を秘めて，市の内外にはインカおよびプレインカの多くの遺跡がある

心地帯を形成する。管内の北部は阿寒国立公園に指定されている。〔浅井得一〕

くしろたんでん【釧路炭田】北海道釧路市を中心に，厚岸(あっけし)町・阿寒(あかん)町・白糠(しらぬか)町・音別町・浦幌(うらほろ)町にわたる東西100km，南北50km，面積2,000km²の炭田。石狩炭田に次ぐ北海道第2の規模をもち，埋蔵量約20億t，主として亜瀝青炭(あれきせいたん)を産する。かつては100を越える炭鉱があったが，不況のために大部分の中小炭鉱が閉山し，現在は年180万tを産する太平洋炭礦(たんこう)の釧路炭鉱を中心に，雄別・尺別・本岐・栄和などの炭鉱が稼働(かどう)している。〔竹内淳彦〕

くしろへいや【釧路平野】北海道の東部，太平洋に面し，背後は東を根釧(こんせん)台地に，西を白糠(しらぬか)丘陵に限られた沖積(ちゅうせき)平野。海岸付近は標高約50mの隆起海食台地で，これに続いて10列にも及ぶ砂丘列があり，その内側は泥炭地(でいたんち)になっている。平野の東部を釧路川が，西部を阿寒(あかん)川が貫流する。泥炭地は大部分が未開地のまま放置されている。この地方は，夏しばしば海霧(ガス)におおわれ，気温が低下し，米作を不能にしている。平野の西部には，中心都市釧路市と，馬市で名高い大楽毛(おたのしけ)があり，東部にはタンチョウヅルの繁殖地がある。〔味沢成吉〕

くす【玖珠(町)】大分県玖珠郡の町。人口23,000。県の北西部にあり，筑後(ちくご)川の上流玖珠川の流れる玖珠盆地の西部とそのまわりの山地を占める。1955年(昭和30)森・玖珠の2町ほか2村が合併して生まれた。中心集落の森は久留島(くるしま)氏一万二千石の小城下町である。米麦中心の農業，牧牛，林業，シイタケの栽培が行なわれている。久大本線に沿い，豊後(ぶんご)森駅があるが，駅は森のはるか南方なので，現在では駅付近の帆足(ほあし)が繁栄している。

くず【葛】双子葉植物・マメ科の大形多年草。つる性で長さ10mにも及び，山野や鉄道の土手などに多い。葉は3小葉からなり，全体にかっ色の軟毛が密生する。秋，葉のつけ根に紅紫色の蝶形(ちょうがた)花を多数つける。根はデンプンを含み，クズデンプン(くず粉*)をとる。また，根のコルク皮をはいで乾燥したものを葛根(かっこん)といい，漢方では発汗・解熱・緩和薬として重要で，葛根湯(感冒で発汗しないもの，肩の凝るものなどに用いる)の成分の一つとなっている。つるからとった繊維で葛布をつくる。クズは生長が早く，牛馬の飼料ともなる。秋の七草の一。〔小清水義隆〕

グース［Hugo van der Goes］(?～1482) 初期ネーデルランド派(→フランドル派)の代表的画家。生まれはガンらしい。ギルランダイヨ*らフィレンツェ派の画家に影響を与え，大作〈ポルティナリ祭壇画〉(《牧者の礼拝》)は現在，フィレンツェのウフィツィ美術館にある。精細な自然の観察による描写と新鮮な構図が特色。1481年ごろケルンに出て，その地で精神異常のうちに没した。

くずう【葛生(町)】栃木県南西部の安蘇(あそ)郡に属し，東隣の栃木市内に羽鶴(はつる)の飛び地をもっている。人口17,000。東武鉄道伊勢崎(いせさき)線の館林(たてばやし)から出ている佐野線の終点になっている。主産業は町の北東部から栃木市にかけて分布する豊富な石灰岩を原料とするセメント工業で，また石灰岩中に含まれるドロマイト*の生産量は全国の90%を占め，マグネシウムの原料や耐火材として使用されている。ほかに町域の80%を占める山林からは木材を出している。1950年(昭和25)から翌年にかけて日本洪積世(こうせきせい)人類の一種とされている葛生人*の化石人骨が，石灰岩採掘場から発掘された。

くずうじん【葛生人】1950年(昭和25)，栃木県安蘇(あそ)郡葛生町の石灰岩採掘場から発見された上腕骨・大腿骨(だいたいこつ)・下顎骨(かがくこつ)の破片。直良信夫(なおらのぶお)によって葛生原人と命名された。洪積世(こうせきせい)人類化石といわれる。

くずおんせん【葛温泉】長野県大町市にあり，泉温50～95℃，泉質は単純硫化水素泉で，神経痛・胃腸病・リウマチにきくといわれる。槍ケ岳(やりがたけ)の北側から流れ出る高瀬川の流域に位置し，峡谷の中にあるので展望はきかないが，烏帽子岳(えぼしだけ)をはじめ，北アルプス登山の基地になっている。露天ぶろがあり，紅葉の季節にはにぎわう。大糸線信濃(しなの)大町駅からバスの便がある。

クスクス［cuscus］哺乳(ほにゅう)類・有袋目・クスクス科。カスカス・ユビムスビともいう。体長36～55cm，尾は巻きつくことができ，長さ24～43cm。雌は雄より小さい。外形は原猿(げんえん)類に似ており，頭は丸くて小さく，目が大きい。ふつう体上面は灰色で，頭から背の中央にかけて茶色のしまがあり，下面は淡い。下腹部に育児嚢(いくじのう)が発達し，内に4対の乳頭がある。モルッカ諸島・ニューギニア島・オーストラリア北部などに分布し，森林に生息する。夜行性で，樹上にすみ，樹葉や果実などを食べる。動作はナマケモノ*のようにのろく，1頭で生活し巣はつくらない。肉は美味で，原住民は食用とする。〔今泉吉典〕

クスコ［Cuzco］ペルー共和国東南部のアンデス山中，標高3,400mの高地にある都市。人口121,000(1972)。インカ*時代の首都であった。熱帯高山気候を示す。13世紀の初め，インカの初代皇帝マンコ-カパックが首都と定めて以来発展し，インカ文明を代表する壮麗な太陽神の神殿・宮殿・城壁がその盛大さを誇っていた。1533年スペインに滅ぼされて廃墟(はいきょ)となったが，今日でも当時の威容を示す石造建築などになごりをとどめている。ペルー共和国の建

国以来，毛織物工業，コーヒー・小麦など農産物取引の中心地，付近の銅・石灰鉱山の開発基地などとして発展している。鉄道で太平洋のモエンドと連絡し，また航空路も通じていて，アンデス山地の交通の要地でもある。〔小栗　宏〕

くずこ【葛粉】クズの根から製造したデンプン。昔からくず湯をつくり，また，くずざくら・くずもちなどの菓子原料として用いられる。高価なので，最近はジャガイモやサツマイモからとったデンプンを混ぜたものが多いので，自然乾燥したままの小塊状のものが喜ばれる。

くすこのへん【薬子の変】平城(へいぜい)上皇と嵯峨(さが)天皇の間に起こった朝廷内の紛争。809年(大同4)平城天皇は病弱のため退位したが，その寵(ちょう)を得ていた藤原薬子は権勢再現のため，兄仲成と上皇の復位を図った。上皇も心を動かされ，810年(弘仁1)平城京に居を移して兵をあげようとしたが未然に発覚し，このため仲成は殺され，薬子は自殺した。以後式家は衰え，北家の繁栄のもとを築いた。

くずざくら【葛桜】くずまんじゅうともいう。初夏から夏にかけて賞味されるサクラの葉で包んだ生菓子。くず粉・砂糖・水をよく混ぜて半透明になるまで煮，火からおろして湯煎(ゆせん)にかけておく。手のひらにパラフィン紙を広げてこれを流し入れ，手早くあんを包む。透明になるまで蒸し，さめてから紙をはがしてサクラの葉に包む。

くすさん【樟蚕蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科。大形のガで，体長30〜38mm，翅(はね)を広げた長さ100〜120mm。触角は，雄では羽毛状，雌では歯状。体・翅ともに灰かっ色ないし黄かっ色。前翅の中央部付近は内・外部に比べて淡色。後翅の中央部には大形の紋がある。日本全土のほか，台湾・中国・シベリア東部などに広く分布。年1回の発生で，成虫は9月ごろ出現する。幼虫はクス・クリ・クルミ・ナラ・カシ・クヌギ・リンゴ・ウメ・サクラ・カキ・クワその他多数の植物の葉を食害する。若齢幼虫は黒色であるが，老齢幼虫は淡緑色で白色長毛に包まれ，シラガタロウ・クリケムシなどとよばれる。幼虫の絹糸腺(けんしせん)からはテグス類似品がとれる。

くすし【薬師】医師の古称。まじない医や鍼灸医(しんきゅうい)など，病をいやす業に携わる者を含めて広く薬師とよぶこともあった。《和名抄》には，〈くすしは医の和名で病をおさめる工(たくみ)〉と記されている。薬師の神として，夷(えびす)と大黒天が祭られたが，中国から漢方が伝来してからは，農耕と医薬の法を始めたという伝説上の帝王である神農氏を祭るようになった。7世紀初頭，隋(ずい)に渡り，医術を学んで帰国した恵日(えにち)が，日本ではじめて薬師とよばれた。その子孫は難波連(なにわむらじ)の姓を名のり，以後医師のことを薬師とよぶようになった。〔直江広治〕

グスタフ-アドルフ［Gustav Adolf］(1594〜1632)　スウェーデン国王。在位1611〜1632年。グスタフ2世ともいう。ルター派の教育を受け，貴族勢力をおさえ，小農を保護し，国民軍を育てて絶対主義体制を確立した。デンマーク・ポーランド・ロシアと戦い，1630年ごろにはバルト海の覇権(はけん)を握った。三十年戦争には新教徒擁護の口実でドイツに出兵し，北ドイツを制圧した。リュッツェンの戦いで戦死。

グスタフ-バサ［Gustav Vasa］(1495〜1560)　スウェーデン国王。在位1523〜1560年。グスタフ1世ともいう。デンマーク・ノルウェーの連合王権から独立するため，農民を指導して反乱を起こし，1523年に成功してバサ王朝を創始した。ルター主義を採用して宗教改革を行ない，また，財政的な理由からカトリック教会の財産を没収して王権の物質的基礎を固めた。産業の近代化や中央集権化を図るなど，スウェーデン王国の基礎を固めた。

くずてつ【屑鉄】銑鉄と並んで，製鋼用の主要鉄源。くず鉄は銑くずと鋼くずに分かれる。銑くずは銑鉄製造中の発生くずおよび鋳鉄製品の廃棄くずからなる。鋼くずは，製鋼所自身から発生する自家発生くず，鉄鋼を素材とする加工工場から発生する加工くず，一般工場や家庭から発生する廃棄くずがある。製鋼用原料としては鋼くずのほうが重要であり，平炉・転炉・電気炉いずれにおいても使用される。

くずに【葛煮】くず粉を用いた煮物で，あんかけの一種。吉野(よしの)山がクズの名産地であるところから吉野煮ともいう。味のしみにくい魚貝類・野菜類の調理に用いられる。煮物の煮上がりぎわにくず粉またはジャガイモデンプンの水溶きを入れて煮上げ，とろみをつけることで味が材料全体にからまる。また，独特のなめらかな舌ざわりも喜ばれる。

クーズニツァは【クーズニツァ派】1920年代に活躍したソ連の文学集団。クーズニツァは〈かじ屋〉の意。プロレトクリトの流れをくみ，真のプロレタリア芸術を旗じるしとした。初期にはゲラーシモフなどの詩人の活躍が目だつが，1925〜1926年ごろにはグラトコーフ・リャシコらの散文作家が活躍した。内部的対立から分裂し，1930年に主流派がラップに加盟して解散した。

クズネツォフ［Vasily V. Kuznetsov］(1901〜　)　ソ連第1外務次官。1926年レニングラード技術学校卒業。1931年渡米してカーネギー大学で特殊鋼を研究し，学位を取得。1940年ゴスプラン副議長。1941年鋼鉄の研究でスターリン賞(→レーニン賞)を受賞した。1952年共産党中央委員，1953年外務次官となり，兼務のまま1955年まで駐中国大使をつとめた。1969年10月中ソ国境会談のソ連代表団長。現在ソ連外交の第一線で活躍している。〔吹浦忠正〕

クズネツク(炭田)［Kuznetsk］　ソビエト連邦，西シベリア南部にある世界的な規模を誇る大炭田。クズバスと略称することがある。アルタイ山脈とその支脈・丘陵などに囲まれた盆地一帯を占め，炭田の面積は約70,000km²，推定埋蔵量は約9,000億tといわれる。1721年に発見されたが，大規模な採炭は19世紀後半から始まり，第1次5か年計画(1928〜1932)によってウラル-クズバス-コンビナートが形成されて大展開を遂げた。現在の年間採炭量は約1億tで，その40%を西シベリアで消費する。ウラル地方やヨーロッパ-ロシア地方へも鉄道で送られる。また，この地方は重化学工業地帯でもあり，製鉄・冶金(やきん)コンビナートや石炭化学コンビナートなどを中心に，都市およびその周辺の人口は100万人を越えている。〔大石堪山〕

クズネッツ［Simon Smith Kuznets］(1901〜　)　アメリカの経済学者・統計学者。ロシアに生まれ，のちアメリカ合衆国に帰化した。コロンビア大学に学び，1930〜1954年までペンシルベニア大学，1954〜1960年の間ジョンズ-ホプキンズ大学で教鞭(きょうべん)を取り，1960年ハーバード大学の経済学教授となり，現在に至っている。1927年以来，全国経済調査会の研究会員として活躍。またアメリカ統計学会会長(1949)・アメリカ経済学会会長(1954)を歴任。景気変動・国民所得・経済成長などの研究分野において，数々の著書・論文を発表し，その実証的な研究が与えた学界への影響はきわめて大きい。〔松浦　保〕

くすのき【樟】双子葉植物・クスノキ科。高さ30m以上，径2m以上になる常緑高木。日本列島の暖地，台湾・中国に分布。樹皮は横に細かい破れ目ができる。葉は互生し，卵形で先がとがり，長い葉柄がある。葉身は革質，最下の側脈が太く，三主脈状にみえる。5月ごろ葉腋(ようえき)から長柄を出し，円錐(えんすい)花序に白色小花をつける。花はやがて黄色になる。花冠は鐘形で先が6裂する。11月ごろ径8mmぐらいの球形の果実をつけ，黒熟する。木全体によい香がある。材は装飾用建材・家具材とする。水湿に強いので昔から船材とした。また材から水蒸気蒸留によって樟脳(しょうのう)と樟脳油が得られ，昔は多く栽培されたが，近ごろはリナロール(化粧品・せっけんの香料などの原料)を含む変種のホウショウ(芳樟)が重視されている。〔横井朝子〕

くすのきまさしげ【楠木正成】(?〜1336)　南北朝時代の武将。河内(かわち)(大阪府)の在地武士であったが，しだいに勢力を得て，1331年(元弘1・元徳3)後醍醐(ごだいご)天皇の鎌倉幕府討伐計画に参画以来，赤坂城・千早城の戦いなどで武功を現わし，建武中興が確立すると，摂津・河内・和泉(いずみ)

(兵庫県・大阪府)の守護となり，河内守(かわちのかみ)に任ぜられた。1335年(建武2)足利尊氏(あしかがたかうじ)が後醍醐天皇にそむくと，これと戦って九州へ走らせたが，翌年再び上洛(じょうらく)した尊氏軍に敗れ，湊(みなと)川の戦いで戦死した。➔元弘(げんこう)の乱　〔大三輪龍彦〕

くすのきまさつら【楠木正行】(1326?～1348)　南北朝時代の武将。正成(まさしげ)の長子。父の遺志を継いで，南朝のために尽力した。1347年(正平2・貞和3)摂津南部(大阪府)で足利(あしかが)方の細川顕氏(あきうじ)・山名時氏を撃破したが，翌年四条畷(しじょうなわて)の戦いで高師直(こうのもろなお)・師泰(もろやす)の軍と戦って敗死した。出陣に先だって吉野(よしの)(奈良県)の如意輪堂の壁に〈返らじとかねて思へば梓弓(あずさゆみ)なき数にいる名をぞとどむる〉と辞世の歌を記したことは有名。　〔大三輪龍彦〕

くすのきまさのり【楠木正儀】　生没年不詳。南北朝時代の武将。正成(まさしげ)の3子。兄正行(まさつら)戦死後は一族を統率して南朝に仕えた。1351年(正平6・観応2)足利尊氏(あしかがたかうじ)・直義(ただよし)兄弟の抗争に際し，南朝と直義方との講和を斡旋(あっせん)して失敗。その後足利方と京都争奪戦をくり返した。1369年(正平24・応安2)南朝・北朝の講和を図ったがならず，一時北朝に下って南朝の吉野行宮(よしのあんぐう)を攻めたが，1382年(弘和2・永徳2)南朝に帰服した。　〔高崎徳次〕

くずのは【葛の葉】　⇨芦屋道満大内鑑(あしやどうまんおおうちかがみ)

クズバス(炭田)　⇨クズネック炭田

くずばな【葛花】　本居宣長(もとおりのりなが)の著書。2巻。1780年(安永9)脱稿。前著《直毘霊(なおびのみたま)》に対する市川匡麿(くにまろ)の反論書《まがのひれ》への再反論として書かれた。書名には，〈この葛花をなめて儒教心酔の状態から醒(さ)めよ〉という意がある。市川の反論は当時の儒者の一般的な考えであったが，宣長はその一々に反論し，日本の〈神ノ道〉と儒教との異同を明らかにし，〈神ノ道〉とはなにかを論じた。《直毘霊》の解説にもなっている。　〔小笠原春夫〕



楠木正成《大楠公》(部分)
横山大観筆　湊川神社蔵

グーズベリー［gooseberry］　双子葉植物・ユキノシタ科。セイヨウスグリともいう。ヨーロッパ・北アフリカ・西南アジア原産の落葉低木。日本には明治初年に渡来。高さ1mくらいで，群生し，横臥(おうが)するときもある。葉腋(ようえき)に1～3分した大きなとげがある。葉は互生または枝端に束生して，やや円形で3～5浅裂し，あらい鋸歯(きょし)がある。4～5月ごろ葉腋から1～2個の白色花を下垂する。果実は球形の液果で黄緑色に熟し，芳香がある。食用となる。　〔横井朝子〕

くずまき【葛巻(町)】　岩手県岩手郡にある町で，人口13,000。北上山地北部の河谷盆地に発達した集落で，馬淵(まぶち)川の上流地域の中心をなす。林業および酪農が主で，酪製品工場がある。

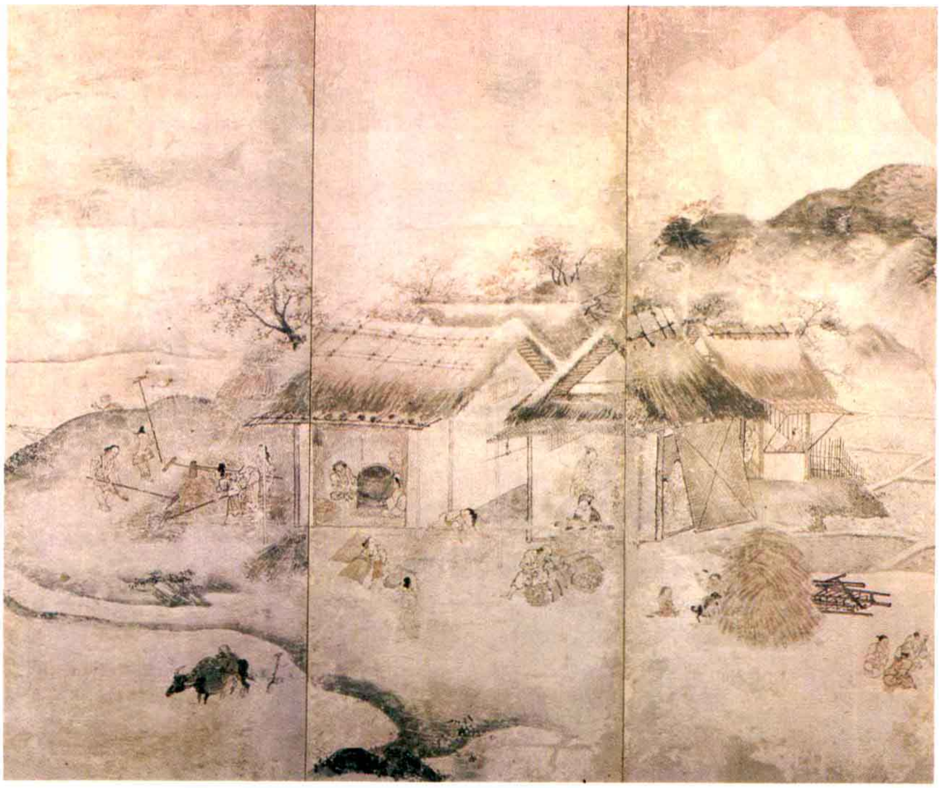
くすみもりかげ【久隅守景】　江戸時代の画家。生没年不詳。通称半兵衛(はんべえ)，無下斎(むげさい)と号した。狩野(かのう)探幽の高弟として名高いが，田園の農民風俗を軽妙な筆致で情趣深く表現し，厳格な師の画風から逸脱した部分が多い。それゆえに破門説も伝えられ，画名の高いわりに伝記はよくわからない。加賀藩に仕え，のち京都に移住し，元禄(げんろく)年間(1688～1703)に没したと伝わっている。代表作に《夕顔棚納涼図屏風(ゆうがおだなのうりょうずびょうぶ)》といくつかの《四季耕作図屏風》がある。　〔小林　忠〕

くずもち【葛餅】　くず粉に生麩(しょうふ)・小麦粉を混ぜて水でどろどろにとき，せいろで蒸したもの。冷やして三角に切り，糖蜜(とうみつ)をかけ，きなこをまぶして食べる。関東地方特有の菓子で，東京亀戸(かめいど)天神のくずもちは江戸時代から有名である。

くすやままさお【楠山正雄】(1884～1950)　児童文学者・演劇研究家。東京に生まれる。早稲田(わせだ)大学英文科卒業。辞典編集に従事するかたわら演劇評論・戯曲翻訳などの筆をとる。島村抱月の芸術座では，ツルゲーネフ《その前夜》，ハウプトマン《沈鐘》などの作品を翻訳・脚色・上演，名著と評判をとった《近代劇十二講》を著わすなどした。児童文学にも造詣(ぞうけい)が深く，翻訳・再話・創作を発表，第2次世界大戦後《世界おとぎ文庫》(24巻)執筆中病に倒れた。　〔大藤幹夫〕

くずゆ【葛湯】　くず粉に砂糖を加えて熱湯でといた飲み物。消化しやすいため主として病人食や小児のおやつとして用いられる。最近はコンスターチやかたくり粉で代用することが多い。

くすり【薬】　⇨58ページ



久隅守景《四季耕作図屏風》六曲一双右隻部分　石川県美術館蔵

くずり　【屈狸】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目イタチ科。イタチ類中最大で体長76cm，尾長14cmほどで，体はがんじょうで耳が小さく，吻(ふん)が丸くてクマの子に似る。体毛は長く，尾は房(ふさ)状で，体の上面は光沢のあるかっ色，下面と顔は黒色。ヨーロッパ北部・東部，アジア東部に分布し，平原や森林にすむ。ふつう１頭で生活し，雪上を歩くのも木登りもうまい。性質は荒く，カエルからトナカイまでいろいろの動物を食う。また，オオカミやオオヤマネコの獲物を奪うこともある。毛皮は極地での衣類・敷き物などにされる。〔今泉吉典〕

グスリ　［gusli］　ロシアを中心とするスラブ諸民族の民俗楽器。チター系の弦鳴楽器に属する。台形あるいは長方形の胴体に弦が張られ，これをはじいて奏する。吟遊詩人が叙事詩の伴奏として用いた。バルカン地方一帯で用いられる１弦の擦弦楽器グスラとは無関係である。

くすりうり　【薬売り】　売薬行商人のこと。売薬業が発達しだしたのは近世以降のことであり，それに伴い売薬行商人も発達していった。富山の売薬行商や越後(えちご)（新潟県）の毒消し売りなどが有名である。

富山の売薬は元禄(げんろく)年間（1688～1703）から始められたといわれ，配置売薬という独特の販売法と，各行商人が懸場(かけば)という販売圏をもつことで有名である。明治になって洋薬が導入されてからも，その販売組織は変わらなかった。

越後の毒消し売りは，西蒲原(にしかんばら)郡下の漁村の女の出かせぎとして発展した。この行商組織の成立は近世末，毒消し丸薬製造は慶長年間（1596～1614）に始まる。富山の売薬が個人の販売圏をもって行商するのに対し，越後の毒消し売りは師匠・弟子(でし)が一団（10～20人）となって行商に出歩いた。なお，売薬行商の発達した地方としては，そのほか奈良県丹波市（天理市）付近，岡山県総社市周辺などがあった。〔渡辺欣雄〕

くずりゅうがわ　【九頭龍川】　福井県東部の両白山地に発し，大野盆地・福井平野を流れて県北部の三国町で日本海に注ぐ。流程116km。上流は峡谷部が多く，勝原(かどはら)付近の九頭龍峡は探勝客が多い。下流の福井平野は水田が広く展開し，わが国の米どころの一つで，機業地としても知られた。河口港の三国は古くから知られ，江戸時代には沿岸航路・内陸航路で栄えたが，鉄道開通後はその活況を失った。中流から上流にかけて長野ダムをはじめとする多くのダムが設けられ，日本でも有数の電源利用の河川となっている。〔長津一郎〕

くずれ　【崩れ】　薩摩琵琶*(さつまびわ)の楽曲部分の名称。戦闘などの情景の描写を写実的に行なう器楽中心の部分で，１曲のほぼ中間あるいは後半に挿入(そうにゅう)され，クライマックスを形成する。右手の撥(ばち)さばきが技巧的で，そのため他の部分とはきわだって異なるはでな音楽的特徴をもっている。テンポは急速，拍節法は２拍子と３拍子の混在，分割的リズムと付加的リズムの交替も，シンコペーションが多い。じみな曲に対しては使われないこともある。〔山口　修〕



クズリ　鋭いかぎづめをもち，性質は凶暴



薬売り　鍬形蕙斎《近世職人尽絵詞》（部分）東京国立博物館蔵



救世観音《観音菩薩立像》法隆寺蔵

くせ　【癖】　嗜好(しこう)または言行が著しくかたよっている習性をいい，習癖ともいう。心理学的には，個人に特有の習慣もしくは傾向性をいい，発達上の他の諸特徴の発現と同様，先天的要因と後天的要因とのからみ合わせで形成される。原因は一定していないが，ある種の癖は，その人をその人らしく特徴づける個性の重要な要因をなすものである。

癖には，単純な筋肉の反射運動から，ものの考え方，生活への適応のしかたまで多様であるが，場合によっては，本人にとっても周囲の人間にも有害なものもある。このような癖は悪癖とよばれる。悪癖は，①つめかみや指しゃぶりのような無用の動作の頻発(ひんぱつ)，②まばたきをくり返したり，顔をしかめたり，貧乏揺すりをするいわゆるチック*症状，③夜尿・頻尿・夜驚などの不随意的な反応の固定，④偏食・拒食・手淫(しゅいん)などのような食欲・性欲に関係した行動，⑤盗み（盗癖）・うそつき（虚言*(きょげん)）・放火などの反社会的行動などに区別される。悪癖の原因としては，脳髄その他の器質的欠陥によるものもあるが，大部分は欲求不満*や不適当な条件づけのような心因*による場合が多い。これらは，無視することによって自然に解消してゆくものもあるが，器質的欠陥によるものは医学的処置や補助的処置が必要とされる。また，心因性のものでも，強く習慣化された悪癖は専門家による精神療法*を受けさせることが必要である。〔斎藤幸一郎〕

ぐせいなん　【虞世南】　（558～638）　中国，唐の太宗朝の名臣・書家。十八学士のひとり。隋(ずい)の煬帝(ようだい)の寵臣(ちょうしん)虞世基(ぐせいき)の弟で，はじめ夏の竇建徳(とうけんとく)，次いで唐に仕え，貞観(じょうがん)の治*の功臣となった。書家としても知られ，欧陽詢*(おうようじゅん)とともに初唐を代表する。王羲之*(おうぎし)の書法を伝え，後世に影響を与えた。著書に《北堂書鈔(ほくどうしょしょう)》160巻がある。太宗に，その徳行・忠直・書翰(しょかん)・博学・文辞を五絶と激賞されている。

ぐぜかんのん　【救世観音】　〈くせ〉〈くぜ〉ともいい，聖(しょう)観音*の別名。その代表作としては法隆寺東院夢殿の本尊（国宝）が知られる。761年（天平宝字５）の法隆寺の古記録によれば，聖徳太子と等身の大きさの像とあり，739年（天平11）行信僧都(そうず)が夢殿を再興したときに安置されたとある。クスノキの一木造りで，全体に金箔(きんぱく)が押してあり，古式の微笑をたたえ，胸前に宝珠を載せた蓮台(れんだい)をもち，透かし彫りの金銅製の宝冠には瑠璃(るり)を散りばめている。宝珠形の光背，くるみ形の蓮台など保存もよい。中国北魏(ほくぎ)の様式を踏襲した飛鳥仏(あすかぶつ)の一つで，上代彫刻の遺品の中にあって最も優秀なものといってよい。作者は不明。毎年，春と秋および法隆寺夏期大学開催中に，特に日を限って開扉(かいひ)されて一般に公開される。〔永井信一〕

薬

薬事法では，〈医薬品〉の名で薬を次のように定義している。

①日本薬局方に収められているもの。②人または動物の疾病の診断・治療・予防に使用されることが目的とされているもので，器具器械（歯科材料，医療用品および衛生用品を含む。以下同じ）でないもの（医薬部外品を除く）。③人または動物の身体の構造または機能に影響を及ぼすことが目的とされているものであって，器具器械でないもの（医薬部外品および化粧品を除く）。日本薬局方とは，繁用医薬品および治療上重要な医薬品の性状と品質を国で定めた規格書である。1971（昭和46）4月実施の第八改正日本薬局方では，第1部にアスピリン・ブドウ糖注射液などの繁用原薬および基礎的製剤が735品目，第2部にアクリノール亜鉛華軟膏（なんこう）・葛根湯（かっこんとう）・ニンジンなどの混合製剤およびその原薬が396品目ほど収載されている。医薬部外品は薬事法で次の各項を目的とし，かつ人体に対する作用が緩和な物で器具器械でないものと規定している。㋑吐き気その他の不快感または口臭もしくは体臭の防止。㋺あせも・ただれなどの防止。㋩脱毛の防止，育毛または除毛。㊁人または動物の保健のためにするネズミ・ハエ・カ・ノミなどの駆除または防止。これらの各項の具体例は㋑は仁丹類，㋺はシッカロール類，㋩は脱毛剤・養毛剤，㊁は殺虫剤・殺蛆（さっそ）剤である。

以上のような薬事法の規定によると，病気の診断・治療・予防，あるいは身体の構造または機能に影響を及ぼすことを目的としたものは，器具器械・医薬部外品および化粧品を除いて，人間に使用するものだけではなく，動物用のものも含めてすべて医薬品である。しかし，一般には人に使用する薬を医薬品といい，動物用のものは動物用医薬品とか，獣医薬と称して区別していることが多い。それゆえ，ここでは便宜上主として人に使用する医薬品の意味に用いることにする。なお，〈医薬品〉と〈医薬品以外の薬品〉の区別は，明確なものと，そうでないものとがある。前者の例はアスピリンとかペニシリンのごとく，もっぱら医薬品のみに使用するもの。後者の例はビタミンB_1などで，これは栄養剤として熟知の医薬品であるが，強化食の原料として米やパンに使用の場合は，食品添加物の扱いである。また，白糖は甘味料として家庭で常用されているが，これも矯味（きょうみ）剤として用いる場合には医薬品である。もとより，同一物でも医薬品として使用の場合と，医薬品以外に用いる場合とでは，品質が異なるのが多い。しかし，まったく同一物が医薬品であったり，医薬品以外であったりすることもあり，医薬品に該当するか否かは，物の実質によって決まるのではなく，目的あるいは用途に基づく。

医薬品を製造し，販売し，あるいは授与するためには，厚生大臣よりまず製造承認（または輸入承認）を受け，次に製造許可（または輸入許可）が必要である。このうち製造承認は有効性および安全性の見地より，当該品が医薬品として適当か否かが審査されて与えられる。また製造許可は，製造しようとする医薬品につき当該製造所に設備や人の点で十分な能力を有するか否かを審査の上与えられる。ただし，日本薬局方の収載品は製造承認は必要なく，製造年月だけでよい。なお，医薬品は自由にだれでも販売できるわけではなく，薬局または医薬品の販売業の許可を受けた者に限定されている。医薬部外品の販売は特に規制がない。この点が医薬品の扱いと大きく異なる。医薬品を購入する際には厚生大臣の許可したものにつき，薬局あるいは許可を受けた医薬品販売業者より購入することが必要である。

【歴史】古代，人間は生活をめぐるすべてのできごとを神のなせる「しわざ」だと信じていたようである。したがって病にかかり傷つくのは神のたたりとして，祈りやまじないでなおそうと努めた。しかし，人間の知恵の発達は身近にある草根木皮のある種のものが傷病に効果のあることを経験的に知り，それを用いたのが薬のはじめだと考えられる。わが国で薬を用いたという最も古い話は，神代の時代に〈オオクニヌシノミコトが傷つきたる稲羽のシロウサギに蒲黄（ほおう）を用いてはだをいやすことを教え，カミムスビノカミがハマグリとアカガイとをもってオオナムチノカミの火傷をいやし，これを蘇生（そせい）せしめた〉という《古事記》の一節である。中国ではBC2800年ごろ，神農という皇帝が庶民に薬草を教えたといわれる。西洋ではBC1600年，古代エジプトの医学全書《パピスエーベルス》に約700種ほどの薬が記されている。15世紀ごろから西洋では薬用の草根木皮が病に有効なのは，その中になにか有効なものが含まれているためではないかと考えた。そこで草根木皮を水または酒に浸し，あるいは煮沸して，その有効成分だけを取り出そうとする試みが行なわれた。18世紀に至り，あへんにすぐれた麻酔ならびに鎮痛効果のあることに着目し，その有効成分を取り出す研究が活発に進められた。その結果，1817年ドイツのフリードリッヒ-ゼルチュルナーがモルヒネを発見した。これに刺激されて有効成分の追究が一段と盛んになり，1819年にホミカ薬よりストリキニーネ（興奮剤），1820年にキナ皮よりキニーネ（マラリア治療薬），1828年に吐根よりエメチン（催吐薬）と次々に有効成分を見つけた。このように有効成分が結晶として取り出されたことは，医療の進歩を大きく促進させた。従来の草根木皮そのままでは，湿気を吸ったりして非常に変質しやすく，効力が不安定で用量を決めることがむずかしかったが，結晶だと一定の品質のものを正確に秤量（ひょうりょう）して患者に授与できるようになったからである。なお，化学の進歩が物質の構造をしだいに明確にし，さらに1828年には薬品の化学反応により人工的に有機化合物を合成できるようになった。そこで有効成分を結晶として取り出した薬は，その構造式が明らかになるとともに，それを合成でつくろうと試みたのは当然である。ドイツのクノールはキニーネの合成を企て，その研究中に1884年，アンチピリン（解熱薬）をつくった。このアンチピリンは天然物にまったく存在しないものである。したがってアンチピリンの発見は天然にないものでも，人間に有用な薬が人工的に合成できることを示したことである。

これより薬の発見は従前のごとく草根木皮だけを対象とすることなく，試験管内で化学合成されるすべての化合物まで範囲を広げた。しかし，無数の化合物の中から薬として価値あるものを見いだすには，安全性ならびに有効性について試験の方法が問題である。あへんから取り出したモルヒネ，あるいは合成したアンチピリンの薬としての最初の評価は，研究者自身または友人が危険を冒して人体実験を行なった結果による。ドイツでは1853年から動物を使って，実験的に有効性・安全性を証明する研究が進められてきた。それを応用することで，容易に種々の化合物につき，薬としての有用性のめやすをつけられるようになり，薬の発見は非常な進展をみせた。このように19世紀以降における薬の発達は，化学ならびに医学の進歩に伴うところが大きい。19世紀にパスツールは病気の原因は空気中の微生物だと考えた。同じころ，コッホは炭疽病（たんそびょう）の病原体と思われるものを試験管内で培養し，ネズミに接種して同じ病気を起こすことに成功し（1877），さらにその病原体を純粋に培養した。このような手法により1879年に癩菌（らいきん）・淋菌（りんきん），1880年に腸チフス菌，1882年に結核菌と次次に病原菌が発見された。これに伴い病気が生じないような研究が進められ，1881年にパスツールは狂犬病の病原体を少しずつ動物に注射すると，その動物は狂犬病にかからないことから，狂犬病ワクチンをつくった。ここに人類は単に病気を治療するということから，予防へと飛躍した。この病原菌研究の際，病原菌を顕微鏡ではっきりと見るため，病原菌だけを染色して他と区

別する方法が行なわれた。エールリヒはこの染色に注目し，同一色素が病原菌だけに染まり，他を染めないのは色素と染まるものとの間になにか特有の結びつきがあるためと考えた。そこで，この染料を治療に応用することを思いつき，1904年にエールリヒの弟子(てい)の志賀潔(きよし)はトリパノゾーマにより起こるウマの病気に，トリパン赤という色素が有効であることを見つけた。次いで1909年に秦(はた)佐八郎はトリパノゾーマの研究に使用した薬の606番目のものが梅毒に効果のあることを確認した。この薬はサルバルサンとよばれた。このように薬品が病原体と特異的に結びつき，病を直接的に治療する療法を化学的療法とよび，これに該当する薬を化学療法薬と称する。1932年ドマークはプロントジル赤が鎖状球菌感染の病気に有効であることを認め，ここに細菌性疾患にも化学療法が見つかり，これはやがてサルファ剤への発展の端緒となった。20世紀の初頭以来，第2次世界大戦前までの化学療法薬はサルバルサン・サルファ剤により代表される有機合成医薬品の独壇場であった。それが第2次世界大戦を機縁として登場したペニシリンにより大きく転換した。

1928年イギリスのフレミングはブドウ球菌の研究中，一つのかびのつくった集落の周囲が透明となり，その透明環中では菌が発達していないのを認め，それがペニシリウム属のかびによって起こることを発見した。しかし，その阻止物質が取り出され，ペニシリンとして精製されたのは1940年である。このペニシリンの登場はアメリカのワックスマンを刺激し，1943年にストレプトマイシンを発見させた。

このペニシリンやストレプトマイシンのように〈微生物がつくる物質で，微生物の発育などを阻止する物質〉を抗生物質と称する。その語意は病原体の生命に拮抗(きっこう)して病原体を滅ぼすということである。多種の抗生物質の出現は医療を飛躍的に進展させたので，〈医療の歴史は抗生物質の登場を境として明確に区分すべきだ〉といわれるほどである。なお，漢方薬についてであるが，漢方は中国においてＢＣ300年ごろ急速に発達し，後漢の時代に完成したとのことである。漢方の特徴は症に合わせて薬を用いることで，症に合わせるという意味は単なる対症療法ではなく，〈肩がはり，汗が出ないで，しかも体のじょうぶな人には葛根湯を用いる〉というように処方薬を決めることである。この場合，その患者は葛根湯を適当とする病気ということになり，西洋医学のように「かぜ」というような病名をつける必要はない。この漢方は朝鮮半島と交流が始まるとともにわが国にも伝わってきた。允恭(いんぎょう)天皇の病を新羅(しらぎ)の漢方医が漢方薬を用いてなおしたとの記録もある。漢方は徳川時代までわが国の医学の主流を占めていたので，薬といえば漢方薬をさしていた。しかし，明治時代になるとともに医療の形勢も一変し，長い間の漢方医学より脱却して，西洋医学が主体となった。これより，使用者も漢方薬より洋薬へと移り替わった。ところで，漢方薬の内容は主として各種の生薬(草根木皮類の意)の組み合わせである。これにより世間では生薬の類はすべて漢方薬と誤解する者もいる。漢方薬は，《傷寒論》《金匱(きんき)要略》《後世要方》などの古典に処方が記載され，長年の使用経験を有するものなのである。なお生薬のうち，日本産で日本人が独自に経験的に見いだして使用してきた薬は和薬または民間薬と称する。民間薬で現在も用いられているものにゲンノショウコ・センブリなどがある。

【薬効と副作用】医薬品はその本質から効力とともに強弱の差こそあれ，必ず副作用を有する。したがってそれが医薬品として存在価値があるか否かは，使用目的に応じ，その治療効果と副作用とのバランスで判断される。たとえば癌(がん)の治療薬は白血球の減少などの重篤な副作用を有していても，癌の治療に相当な効果をあげるかぎり，現状では医薬品としての価値をもつ。しかし，ビタミン剤で癌の治療薬と同程度の副作用を有すれば，医薬品としての存在価値はない。このように効果と副作用とのバランスを判断する場合，その医療品はなにに使用するかという目的が大きな要因となる。そこでたとえ相当の副作用が予期されるものでも，救命的な効果を発揮すれば，医薬品としての存在価値はもつ。ただ問題は使い方である。この種の医薬品は専門の医師が適正に使用すれば，副作用を最小限度におさえ，効果の十分な発揮が期待できる。一方，その医薬品を大衆が薬局などから直接購入してしろうと療法で勝手に使用するときには副作用の発見が大となり，むしろ症状を悪化させるおそれも多分にある。そこで，医薬品の製造承認は医師が使用することを前提とした医療用医薬品と，大衆が使用する一般用医薬品(いわゆる大衆薬)とに区別して与えている。ところで，新薬が出た場合，それが医薬品として適当か否かは，中央薬事審議会(厚生大臣の諮問機関で医学・薬学の専門家で構成する)で次の資料により審議された結果をもとに決められている。

①医薬品についての起源または発見の経緯および外国での使用状況などに関する資料。②医薬品についての構造決定，物理的・化学的定数およびその基礎実験資料ならびに規格，および試験方法の設定に必要な資料。③医薬品についての経時的変化など製品の安定性に関する資料。④急性毒性に関する試験資料。⑤亜急性毒性および慢性毒性に関する試験資料。⑥胎児試験(人体に直接使用しない場合を除く)その他特殊毒性に関する資料。⑦医薬品についての効力を裏づける試験資料。⑧一般薬理に関する試験資料。⑨吸収・分布・代謝および排出に関する試験資料。⑩臨床試験・成績資料(この臨床資料は5か所以上の権威ある医療機関において150例以上の例数につき精密かつ客観的な考察がなされたものであること)。なお，薬効を客観的に評価する手法の一つとしてここ数年来二重盲検法(ダブルブラインドテスト)が用いられるようになった。この方法は患者と直接診療担当する医師の両者とも，投与された薬が試験薬か偽薬かわからないように行なうことである。これにより，薬に対する患者および診療医の心理的影響をできるだけ排除し，効果を客観的に判定しようとする比較対照試験の一種で，主として鎮痛薬・催眠薬などの神経系の医薬品の薬効評価に用いている。この方法を用いなくても概して薬効が客観的に判定できる抗生物質，あるいは生命に危険性のあるような病を対象とする薬では二重盲検法はあまり用いられていない。以上のごとく，医薬品の製造承認が基礎実験および臨床試験を基にして与えている以上，臨床試験をいくら大規模に行なったにせよ，その例数は限度があって，実際に市販され多数の人々に使用されるのと比べればきわめてわずかである。したがって，臨床試験の段階において発生しなかった副作用が市販後に発生することも当然に予測される。そこで，副作用による事故を最小限におさえるため，次のような措置を講じている。①全国の大学病院(100施設)・国立病院(96施設)を対象とした副作用モニター制の実施。②新医薬品の製造承認を受けた業者は少なくとも承認後2か年間は当該医薬品の使用により発生した副作用に関する情報を収集し，当局に報告することの規定。③内外の副作用情報の収集体制の整備。このようにして収集された副作用は中央薬事審議会で審議され，その内容のいかんにより販売中止などの所要の措置が講ぜられている。たとえば，キノホルムはスモン病発生に疑いがあるということで，その因果関係が明白となるまで販売中止の措置が講ぜられた。なお，1967年10月以降に製造された新薬については，製造承認時に判明した副作用および使用上の注意事項について，できるだけ詳細に能書きに記載させることとした。また，それ以前に承認された医薬品については，逐次，使用上の注意を定めて能書きに記載させているところである。現在まで抗生物質・サルファ剤・副腎(ふくじん)皮質ホルモン剤・精神科経用剤およびかぜ薬など

につき使用上の注意事項を定めている。他方，効果の点であるが，その医薬品を承認した時点では確かに当時の医学・薬学のレベルからみて妥当な資料があったにせよ，その後の学問の進歩した時点で振り返ってみるとき，疑念の生ずることもやむをえないと考えられる。特に二重盲検法を主体とした比較試験の発展により，ビタミン剤や肝臓薬などのいわゆる大衆保健薬などの効能・効果について強い批判が向けられた。現に欧米，特にアメリカでは市販の医薬品について，薬効の再評価が大規模に行なわれているとのことである。わが国でも1970年9月より市販品の薬効を再評価すべく，品目の範囲とか方法について検討が進められている。

〔薬の現状と将来〕 近年における医薬品の進展はめざましく，ストレプトマイシン・パスなどの登場は戦前〈不治の病〉といわれていた結核の治療を可能とした。また，ペニシリンの出現が肺炎の死亡率を低下させて乳幼児の死亡を激減させ，DDT・BHCなどの殺虫薬の普及がカ・ハエを駆除し伝染病のまんえんを防止するなど，医薬品が国民の健康を守り，平均寿命を伸長させ，保健衛生の向上に大きな貢献をなしている。しかし，現在までの薬の発展を振り返ってみるとき，概して病原菌に基づく病に対しては早効のある薬が開発されてきた。しかし，他方，人間の生理・機能に起因する病に対しては，病原菌に対する薬ほど効果をあげている薬はほとんどない。特に高血圧・動脈硬化あるいは糖尿病など，いわゆる成人病に対しては，その症状を一時的に改善する薬はあっても根本的になおす薬はない。また癌治療薬ではしだいにすぐれたものが出現してきたとはいえ，癌の原因が明確でないことも原因して特効的なものはなく，その死亡率の高いこととあいまって癌といえば恐怖の念をいだかせる。したがって，今後早急に開発の期待される薬はまず癌の治療薬であり，次いで成人病関係の薬であろう。

なお，病原菌に対して，現存各種の抗生物質あるいはサルファ剤が存在するけれども，それが利用されるに伴い耐性菌（病原菌が薬剤に対し抵抗力をもち，薬剤を無効にすること）が生じてくるので安心はできず，耐性菌に効果のある薬の開発にも努める必要がある。これからの医薬品開発のためには関連科学の発達に即応して研究施設の整備や研究スタッフの強化を図るだけではなく，さらに各研究機関との協力体制を考慮することが必要であろう。現在，わが国で製造の医薬品は289,600品目で，その生産総数は世界第2位の1兆3,671億円，このうち輸出は443億円，一方輸入が1,034億円である。このことはわが国民の医薬品の使用量が多いことを意味し，中には乱用もあろう。この点，医薬品には副作用のあることを念頭におき，安易に使用することなく，必要時に必要量を正しく使用することが強く望まれる。 〔中島良郎〕

くせち 【癖地】 禁忌*を伴う土地の総称。そこに立ち入ったり，開墾・耕作もしくは所有すると不幸になるとされる山林・田畑などをいう。全国にわたって多く，山であれば位牌(いはい)山・罰(ばち)山，田であればケチ田・病田(やめだ)などとよんで警戒される土地がある。高知の神畑とか対馬(つしま)・壱岐島(いきのしま)のシゲチのように，神聖な所として汚せばばちがあたるという例があるが，そうした信仰が衰えると，魔所とか亡霊の恨みのこもった所というふうな説明が行なわれるようになる。城・社寺・屋敷・墓地跡などは一般にきらわれている。また，連作によってある作物の生育が悪く，極端に収穫が減少する忌地*(いやち)が伝説や民間信仰と結びついて癖地とされる例も珍しくない。 〔今野圓助〕

クセナキス ［Yannis Xenakis］（1922～　） ギリシアの作曲家。ギリシア人の両親のもとにルーマニアに生まれた。アテネの理工科大学で建築学を学び，第2次世界大戦中ナチスに対する抵抗運動のために数回投獄された。1947年以降パリに定住し，フランスに国籍をもつ。1948年には建築家ル-コルビュジエと出会い，以後12年間コルビュジエとともに建築の仕事をし，ブリュッセルの万国博覧会のフィリップス館などを設計している。作曲家としては，1950年からパリ音楽院でメシアン*・オネゲル*・ミヨー*らに師事。はじめは無調や12音技法による作品を作曲したが，1955年ごろからは数学の確率を応用して音群を処理していく〈ミュージック-ストカスティック（確率音楽）〉を主張し，オーケストラのための《メタスタシス》，弦楽のための《ピトプラクタ》などを発表。また，1962年ごろから電子計算機による作曲も試み，《ST 4-1，030762》などの作品を書いた。1961年（昭和36）に来日した。 〔船山　隆〕

クセノパネス ［Xenophanes］（BC570ごろ～BC480ごろ） 古代ギリシアのイオニア派*の哲学者・詩人。小アジアのコロポンの生まれ。25歳のとき郷里を離れ，以後死ぬまでギリシア各地を放浪した。また一説に，おもにシチリア島で暮らしたともいう。詩作にすぐれ，自分の思想を詩で述べたところから〈詩人哲学者〉の名もある。イオニアの自然学思想に基づき，ホメロスやヘシオドスの伝統的なギリシアの擬人的多神観をきびしく批判した。彼は一者的存在としての神を説き，それは〈全体として見，全体として考え，全体として聞く〉もの，〈みずからは少しも動くことなく，すべてのものを揺り動かす〉ものと述べている。このような伝統的宗教思想に対する批判と独自な見解は，その後のギリシア哲学の展開に大きな影響を与えた。 〔本橋正義〕

クセノポン ［Xenophon］（BC430ごろ～BC354ごろ） 古代ギリシアの歴史家・軍人。アテナイの生まれで，若いころソクラテス*の弟子(でし)となった。その後，ペルシアの王子キュロスのメソポタミア遠征に参加し，王子の死後，軍の退却を指揮した。このときの記録が有名な《アナバシス*》である。BC396年，スパルタ王に仕えてアテナイと戦ったため，祖国から追放された。晩年は没するまでコリントに住んだ。《メモラビリア（ソクラテスの思い出）》《饗宴(きょうえん)》などソクラテスに関する著書のほか，《ヘレニカ》《キュロスの教育》《家政論》など多くの著作を残した。 〔本橋正義〕

クーセビツキー ［Sergei Alexandrovich Koussevitzky］（1874～1951） ロシアに生まれ，アメリカで活躍した指揮者。モスクワ音楽院に学び，はじめコントラバス奏者として活躍した。1907年ベルリン-フィルハーモニー交響楽団を指揮してデビュー。その後ロシアで指揮者として活躍したが，革命をのがれてパリに行き，コンセール-クーセビツキーを組織した。1924年ボストン交響楽団の常任指揮者に迎えられ，25年間にわたって同オーケストラを指揮し，現代音楽の初演，紹介に努力した。またクーセビツキー基金を設けて多くの作曲家に新作を依頼し，バルトークの《オーケストラのための協奏曲》，ブリトゥンの《ピーター-グライムズ》などの傑作を生み出した。 〔向坂正久〕

くせまい 【曲舞】 久世舞とも書く。鎌倉時代後期から室町時代にかけて成立した芸能の一。白拍子*の舞の流れを引くものと考えられ，白拍子の場合と同様，拍子を打つ鼓の伴奏によって，拍節的な旋律をたてて歌ったものと考えられている。しかし，白拍子の場合と違うのは，歌詞に一貫した物語性が加えられたことである。これを専門にする男女も現われて，祇園(ぎおん)祭の車の上で舞ったり，貴族の邸を訪問して舞ったりした。世阿弥(ぜあみ)によれば，観阿弥が曲舞を取り入れ，能の形式に大きな役割を果たしている。なお，曲舞の一派に幸若舞*があり，のちには曲舞といえば幸若舞をさすようになった。 〔徳丸吉彦〕

クセルクセス（1世） ［Xerxes］（？～BC465） ペルシア帝国第4代の王。在位BC486～BC465年。即位後，父王ダレイオス1世*の末年に帝国支配から分離したエジプトを回復。続いてバビロンに大規模な

反乱が起こったが，これを鎮圧すると，バビロン市の城壁を撤去し，神殿を破壊した。父王の遺志を継いでギリシア征服を企て，BC480年，みずから兵を率いてヘレスポント海峡にかけた舟橋を渡った。このとき王が動員した帝国諸民族の軍隊は，ヘロドトスによれば，陸軍170万以上，大小の艦船は3,000隻に達したという。しかし，この数は誇張されており，陸軍は20万が限度であったと推定されている。王はアテナイを占領したが，サラミスの*海戦にペルシア軍が敗北すると，将軍マルドニオスに後事を託して帰国した。結局，遠征は失敗に終わり，ヨーロッパの領土を喪失するに至った。父王によって着手された*ペルセポリスの王宮建設事業は，この時代も盛んに進められて，有名な〈アパダーナ(謁見殿)〉や〈クセルクセスの門〉などが完成した。治世の末年になると専制政治の弊害があらわになり，宮廷陰謀によって重臣アルタバノスのために殺された。→ペルシア戦争　〔佐藤　進〕



クセルクセス(1世)　同王がペルセポリスに建てた〈クセルクセスの門(万国の門)〉

くぜん　【口宣】　口頭で勅旨を伝えること。810年(弘仁1)*蔵人所(くろうどどころ)が設置されて以来，その職事(しきじ)(蔵人頭)が口頭で勅旨を*上卿(しょうけい)に伝達した。なお，上卿に伝えるに際し，念のために書きつけとして渡した控えの文書を口宣案という。

くせんてい　【駆潜艇】　対潜警備を行なう小艦艇。潜水艦を駆逐するという意味でこの名がある。一般に小形で，港湾や沿岸航路など限られた海域で用いられるが，手ごろな大きさから連絡・輸送・救難などにも利用される。第2次世界大戦初期には唯一の対潜専門の艦艇であったことから，船団護衛など外洋行動も行なったが，より大形で装備のすぐれた*フリゲートや護衛駆逐艦が現われたので，それ以後再び局地的任務に用いられている。　〔藤井冬木〕

クソアノン　[xoanon]　古代ギリシアの彫像。はじめは棒状・板状の木彫りであったと思われるが，のち石彫りとなり，形も大きくなった。その起源は，部落の境界に立てられた柱(ここに祖先の霊が宿るとされた)に求められる。〈ニカンドラの奉納像〉(現存する最古の大理石像)には，わずかながら柱であったころのおもかげが認められる。

ぐそく　【具足】　*甲冑(かっちゅう)の付属品の完備したもの。さらに，各分野における主要な調度，すなわち射手に対する弓矢，僧に対する経文・数珠(じゅず)などをもいう。ふつう具足といえば，戦国時代以後の〈当世具足〉をさし，〈昔具足〉の対語となっている。平安末期以後，甲冑は日本独特の大よろいが用いられたが，その後武器・戦術の進歩によってしだいに軽武装に変わり，武将でも*胴丸・腹巻きを着るようになった。しかし，戦国時代に鉄砲の伝来があり，従来の札(さね)仕立てでは弱いために，鉄板打ち延べのよろいに変わった。これを当世具足といい，実戦の経験を取り入れて，堅牢(けんろう)さと軽快さを主眼としてつくられている。なお，よろいに付属する籠手(こて)・脛当(すねあて)・佩楯(はいだて)のたぐいを〈小具足〉といい，休息のため小具足のみをつけ，主要部分を脱いでいるのを〈小具足姿〉という。　〔稲垣史生〕



グソクダイ

ぐそくかい　【具足戒】　小乗律において，仏教教団にはいるにあたり，比丘(びく)・比丘尼の授受すべき戒。戒の数は律によって異なるが，一般に比丘250戒，比丘尼500戒(実際は348戒)と規定されており，戒は罪の軽重によって8種に分類されている。この戒を受けることをウパサンパダー(upasampadā)といい，入団承認の儀式が行なわれた。仏教サンガ(宗教的共同体)の会議における採決のための定足数は，一般に4人以上と規定されたが，具足戒の儀式は特に重要視されたために，10人以上の構成員をもつサンガ(辺地では5人)に限ってその採決権が認められた。入団の承認は白四羯磨(びゃくしこんま)(1回の布告と3回の採決)の作法によって行なわれた。　〔塚本啓祥〕

ぐそくだい　【具足鯛】　硬骨魚類・グソクダイ科。ヨロイダイ・エビスダイともいう。全長45cmほどに達する海産魚。*タイに似た形で，色も赤いが，かたく大きいうろこが名のように全身をおおっている。太平洋側の本州中部以南，台湾にまで分布し，日本海側でも宮津から報告されている。南日本では相当量の漁獲があり，かなり美味。調理するまえにうろこを焼くか煮るかして取り除く。マダイなどのほんとうのタイ類とは縁の遠い魚である。　〔菅野　徹〕

くそむし　【糞虫】　動物の糞(ふん)に集まるこん虫類の総称。普通は哺乳(ほにゅう)類の糞に集まり，これを食物として生活する鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科のダイコクコガネ亜科・マグソコガネ亜科・センチコガネ亜科などに属する種類をいう。大きさは最小2mm内外の微小種から50mmを越す大形種まで変化に富む。ダイコクコガネ亜科の多くの種やセンチコガネ亜科の一部では，頭胸部に角状や種々のこぶ状の突起が見られる。体色は，黒色やかっ色の種類が多いが，黄色や赤色の斑紋(はんもん)のある種類もあり，また熱帯地方には赤・緑・青・紫・金色などの美しい金属光沢をもつ多くの種類が知られている。全世界には15,000種類以上が分布している。成虫は土中に穴を掘り，糞を貯蔵して食物とするほか，球形・塊状など種々の形にしてその中に産卵して幼虫の食物とする。またこの類は前脚の脛節(けいせつ)が長く，外側に多数の鋸歯(きょし)状の突起があり，糞塊を丸めたり土を掘るのに適している。また，例外的に，マグソコガネ亜科には糞に集まらず，朽ち木中で生活する種類もある。ファーブルの《昆虫記》に登場する有名なタマオシコガネ類は，ダイコクコガネ亜科に属する一群で，中国・朝鮮・台湾まで分布しているが，日本には1種も産しない。　〔鈴木邦雄〕

くだくらげ　【管水母】　腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫類・クダクラゲ目の総称。浮遊性で，1個体のクラゲのように見えるが，1本の共同の幹に多数の個体がついた群体であり，個体が気胞体・生殖体・栄養体・感触体などに分化している。ヒトツクラゲ・ヨウラククラゲ・ボウズニラ・カツオノエボシなどがあり，深海の中層にすむもの以外は外洋の表層にすむ。

くださんご　【管珊瑚】　腔腸(こうちょう)動物・花虫類・クダサンゴ科。直径1～2mmの紅色の管状骨格が，束状に並列して群体をつくっている。個虫は緑色で8本の触手をもつ。小笠原(おがさわら)諸島・奄美(あまみ)大島以南の熱帯地方のサンゴ礁に分布している。

くだしぶみ　【下文】　古文書の一形式。上位の役所・院宮・寺社・諸家・武家などから下位のものに下された文書。*符(ふ)に代わって平安時代に現われた。平安中期の太政官(だじょうかん)の弁官下文，すなわち官宣旨(かんせんじ)(太政官から諸国・寺社に下した下文)が代表的なものであるが，それから発展して，差し出し所の別によって大宰府庁宣(だざいふちょうせん)・国司庁宣・留守所(るすどころ)下文・院庁下文・東大寺政所(まんどころ)下文・摂関家政所下文・将軍家政所下文などがある。鎌倉幕府においては*御教書(みきょうじょ)・下知状とともに政治的文書として多く用いられた。　〔飯田悠紀子〕

くだたま　【管玉】　弥生(やよい)・古墳時代の装身具。竹管状の玉類で，ふつう長さは

3～4cm程度である。弥生時代の管玉はほとんど碧玉製(へきぎょくせい)だが，古墳時代になると碧玉のほかガラス・水晶・瑪瑙(めのう)・鉄・セキエイなど多種で，遺物の量も多くなる。古代南鮮諸国からも同様の管玉が出土している。正倉院御物の中にはサンゴ・金銅製の管玉がある。

グダニスク ［Gudanisk］ ポーランド北部，バルト海に沿うグダニスク湾の港市。人口39万4,000(1973)。ドイツ領時代にはダンチヒといわれていた。ウィスラ川河口にあり，内陸のワルシャワ・クラクーフと水路で通じ，海路はソ連・イギリス・南米などを結ぶ交通・商業の中心。石炭・木材などを輸出，鉄その他の原料を輸入し，造船・機械などの工業が盛んである。長い間ドイツとポーランドの間でこの地の帰属をめぐる係争が続き，第2次世界大戦の一因をつくった。大戦前はドイツ領であったが，戦後ポーランド領となり，住民の95％を占めていたドイツ人は追放された。〔野間三郎〕

くたにやき 【九谷焼】 石川県加賀市近傍の九谷地方で焼かれる磁器。江戸時代における九谷焼は2期に分けられ，それぞれ古九谷・再興九谷とよばれて区別されている。しかし，古九谷焼についてはその実態は判然としていない。開窯の時期に関しても諸説があり，一般には，明暦(1655～1657)ごろに領主前田利治(としはる)が後藤才次郎に命じて，肥前有田の色絵磁器製造を学ばせたことに始まると伝えられている。現在，古九谷とよばれる作品は，豪快な作風，雄渾(ゆうこん)な文様，渋い色調などに特色があり，力強さを内包して，わが国の色絵磁器の代表的な存在となっている。特に，青手(あおで)とよばれる濃い緑彩を用いた作品は独特である。しかし，この古九谷窯は元禄(げんろく)期(1688～1703)にいずれの事情によってか廃窯になった。その後，幕末の全国的な興窯の際に，石川県にも窯業がはなばなしく展開したが，その一つの吉田屋窯は古九谷を慕い，はじめ九谷に，のちに山代(やましろ)に移って，青手にならって焼き，1831年(天保2)になるとこの窯は宮本屋窯となり，作風も精巧な金彩を施した金襴手(きんらんで)を焼きはじめ，のちに九谷本窯となり，再興九谷は新しい方向に展開した。

〔矢部良明〕

グタペルカ ［guttapercha］ グタペルカノキ*の分泌液の固まったもの。ガタパーチャともいう。ゴム*と同じ方法で採取される。主成分の炭化水素組成はポリイソプレンで，天然ゴムと同じであるが，天然ゴムがシス構造なのに対しトランス構造である点が異なる。この構造の違いのために，グタペルカは結晶しやすく，かたい熱可塑(ねつかそ)性樹脂で40～50℃で可塑性となり，150℃ぐらいで溶融する。比重0.97～1.08。日光・空気で酸化されやすく，もろくなるのを防ぐために水中に保存する。弾性ゴムより弾力が弱いが，高温・塩水に耐え，概して酸に侵されにくく，電気絶縁性に富む。電気絶縁材料，特に海底ケーブルの絶縁用に用い，そのほか医療器具・化学工業・ガラス製造，電気めっきの型，ゴルフ球の被覆などに用いられる。グタペルカとまったく同じ炭化水素組成で，その酸化物の樹脂分を多く含むものはバラタといい，ミムソップ属植物から産出される。〔伊藤　卓〕



九谷焼 《古九谷色絵石畳蓮葉文大皿》 出光美術館蔵



クダヤガラ

グタペルカノキ 双子葉植物・アカテツ科。スマトラ・ボルネオ・マレー半島原産の常緑高木。高さ20mになり，若枝は赤かっ色の毛が密生。葉は互生し，革質，長倒卵形で有柄。葉の表面は濃緑色，裏面は毛が密生して黄かっ色。白色で6深裂する花冠をもつ花を葉腋(ようえき)に数個ずつつける。皮部・髄に分泌組織があり，乳液を含む。この乳液のかたまりは灰赤色で，これをグタペルカ*といい，絶縁材料や医療に用いられる。原地人は木に傷をつけて，乳液がにじみ出て凝固したものを丸めて集めていたが，これは木を痛めるので，いまでは実生を育てて若枝や葉から乳液をとる。

〔横井朝子〕

くだまつ 【下松(市)】 山口県南東部の市。江戸時代には，長州藩が塩田を開発して，活発な取引が行なわれた。1939年(昭和14)市制施行。人口55,000。瀬戸内海の周防灘(すおうなだ)に面し，中心市街は下松(笠戸(かさど))湾に注ぐ末武(すえたけ)川の扇状地性三角州と干拓地上に発達した。産業三大別人口比は7：48：45で，造船・石油・車両・ブリキなどの重工業が発達し，中でも日立製作所の車両工場が大きく，ここでつくられた機関車・客車は下松港から中近東・東南アジアへ積み出される。周南工業整備特別地域の一部をなし，1964年に火力発電所も完成した。海岸沿いに山陽本線・国道188号線，南部に岩徳線・国道2号線が通ずる。下松湾は笠戸島と大島半島(徳山市)に囲まれてリアス式海岸の風光美に富み，瀬戸内海国立公園に含まれる。笠戸島には漁業集落があり，笠戸船渠(せんきょ)の造船所もある。

くだもの 【果物】 食用になり，水分の多い草木の果実の総称で，〈木の物〉の意。水菓子ともいう。ナシ・リンゴ・ミカンなどの果樹の果実のほか，野菜のうち商行為ではくだものとして扱われるイチゴ・メロンなどの果実がある。

うまいくだものの条件は，果汁(かじゅう)が豊富で，糖分が多く，酸味が調和し，肉質がよく，かおりがあって爽快(そうかい)な風味であるなどである。糖分の多少は，葉で光合成*によってつくられるデンプンの量による。梅雨時の早生のモモや長雨の年のくだものがまずいことがあるのは，日照の不足による光合成の低下が最大の原因である。木の枝の伸びがいつまでも止まらない状態も，生長に同化養分を消費することになり，果実の糖分蓄積を少なくする。

くだものをつくるとき，病虫害を防ぐために袋を掛けることがあるが，袋を掛けたくだものは掛けないものよりも，糖度が1％程度低い。袋を掛けないものは，外観は化粧をしない感じであるが本来の外観であり，自然でかつ健康色である。また，ビタミンCの含有量も袋を掛けないもののほうが高い。袋を掛けてくだものをつくるのは日本だけであるが，以前に比べてかなり減ってきている。

四季のくだものにはそれぞれの味があり，人により嗜好(しこう)も異なるが，くだものの白眉(はくび)はブドウのマスカット-オブ-アレキサンドリアの完熟したものと，西洋ナシのラ-フランスの追熟適期のものとされている。近年，日本におけるくだものの新品種の育成も進み，ブドウの巨峰，リンゴのふじ・陸奥(むつ)，和ナシの幸水・新水などが好評である。

くだものを常用すれば，血色がよく，皮膚がつややかになり，美容上によいといわれる。また，小児に与えると，栄養の平衡をとり，消化を助け，成長に効果がある。くだものは皮をむいたりしてそのまま生食することが多いが，サラダに加えたり，料理したりするのもよい。また，和洋菓子に添えたり，二，三種のくだものを同時に食べて味やかおりの調和を楽しむのもよい。果汁*としての利用もある。豚肉料理にはリンゴのおろしたもの(アップルソース)を添えると，豚肉の臭気を消す。

日本はくだもののおいしい国といわれ，四季のくだものが豊富であり，国民が大いに消費できるようになることが望まれる。

〔岩垣駛夫〕

くだやがら 【管簳魚】 硬骨魚類・クダヤガラ科。全長約15cmになる海産魚。体は

細長い筒状で，口は管状。全身茶かっ色。朝鮮の東海岸，日本の日本海沿岸全域，本州中部以北の太平洋岸の岸近くに分布する。マボヤの体内に産卵する。

くだら【百済】古代の南朝鮮の国家。4世紀半ば53か国からなる馬韓(ばかん)諸国を統一して建国，4世紀後半には東晋(とうしん)・日本に朝貢を始めた。4世紀末日本が高句麗(こうくり)と戦ったとき，百済は日本の保護国となったが，5世紀末から北方の高句麗の圧力が強まると，都を漢城から熊津(くまなり)に南遷して南下政策をとり，512年に任那(みまな)の4県を日本から割譲させた。6世紀以降東方の新羅(しらぎ)と対立して，660年唐・新羅の連合軍に滅ぼされ，救援の日本軍も白村江(はくすきのえ)の戦いに敗れた。日本は百済を通じて先進の大陸文化を積極的に輸入し，百済からの帰化人は文筆・手工業などの専門技術を伝えて，日本の古代文化の発達に貢献した。帰化人として王仁(わに)・阿知使主(あちのおみ)・弓月君(ゆづきのきみ)らが有名で，それぞれ西文首(かわちのあやのおびと)・東漢直(やまとのあやのあたえ)・秦氏(はたし)の祖と伝えられる。聖明(せいめい)王が仏像・経論を欽明(きんめい)天皇に献じた伝説も名高い。〔柳雄太郎〕

くだらおうけいふく【百済王敬福】(698～766) 百済(くだら)最後の豊璋(ほうしょう)王の弟禅広(ぜんこう)は人質のまま帰化し，百済王の号を賜わった。敬福はその曽孫(そうそん)にあたる。746年(天平18)再度陸奥守(むつのかみ)となり，749年(天平感宝1・天平勝宝1)陸奥小田郡から出た黄金九百両を献じ，功により従三位(じゅさんみ)に叙せられた。陸奥からの黄金献上は，当時造営中だった大仏の塗金に不足していたので聖武(しょうむ)天皇を驚喜させ，天平を天平感宝と改元し，特に祝賀の詔を出した。このとき大伴家持(やかもち)が詠(よ)んだ賛歌は《万葉集》に見えて有名である。生来気まえがよく，貧を告げる者があればそのたびに望外に物を与えたので，地方官を歴任したが家に余財がなかったという。〔簗 弘道〕

くだらかんのん【百済観音】法隆寺大宝蔵殿中倉に安置される観世音菩薩(ぼさつ)立像で，飛鳥(あすか)時代の作。国宝。クスノキの一木造りで，彫りは浅いが全面に彩色を施し，金銅透かし彫りの宝冠をかむり，長身のユニークな像容をもつ。当時主流をなしていた鞍作止利(くらつくりのとり)の流れをくむ仏像に比べて側面観があり，体に丸みが備わっている。両手先は格別に美しく，顔の彩色が剝落(はくらく)しているためか神秘的な印象を与える。光背の支柱は竹の形を現わし，つけ根に山岳を浮き彫りにする。百済でつくられたとする説もあるが，百済の帰化人，あるいはわが国の仏師によってつくられたと考えるほうが穏当である。最近，龍門(りゅうもん)東山の石窟(せっくつ)に，半肉彫り(→浮き彫り)ではあるが百済観音と酷似した像が確かめられている。〔永井信一〕



百済観音《観世音菩薩立像》法隆寺蔵

くだらのかわなり【百済河成】(782～853) 平安初期の画家。正史に上るわが国最初の画家で，《続日本後紀(しょくにほんこうき)》などによれば百済の帰化人の出とある。本姓は余(あぐり)。武官であったが画技によってしばしば宮中に召された。作品は伝わっていないが，きわめて高度な写実の技術を備え，肖像・山水・草木などの画に長じていたという。《今昔物語》に飛驒工(ひだのたくみ)と妙技を競う話がある。

くだん【九段】東京都千代田区，皇居の北西側の地区。地名は，江戸時代にここの傾斜地に9層の石段を築き，各段に幕府の御用屋敷を建てて九段屋敷と称したことにちなむ。明治維新後，交通の便を図って石段を除去したあとが九段坂となり，関東大震災後は改修されてゆるやかな勾配(こうばい)となった。九段坂下～国電市ケ谷(いちがや)駅の間に九段北および九段南1～4丁目があり，坂上に靖国(やすくに)神社がある。坂の上り口の左側に九段会館(旧軍人会館)，牛ケ淵(うしがふち)の堀(ほり)をはさんだ北の丸公園に日本武道館がある。靖国神社境内および付近の千鳥ケ淵(ちどりがふち)戦没者墓苑(ぼえん)にはサクラの木が多い。〔浅井得一〕

くち【口】消化管の始部で，皮膚からなる上および下唇(かしん)で縁どられた口裂とそれに続く口腔(こうこう)をいう。→口腔

ぐち 硬骨魚類・ニベ科の海産魚のニベ・イシモチの別名。→ニベ →イシモチ

グーチ［George Peabody Gooch］(1873～1968) イギリスの歴史家。近代外交史の大家。ケンブリッジ大学に学び，ベルリン・パリ各大学に留学した。1903年下院議員となり，1911年から自由主義的な《現代評論》の編集に従事した。著書は多いが，《19世紀の歴史と歴史家》(1913)は近代史前史に関する古典的名著として名高い。外交史の方面では《ケンブリッジのイギリス外交史 1783～1919》《戦争の起源に関するイギリス史料 1898～1914》の編集者となり，また《近代ヨーロッパ史 1878～1919》《戦争前，外交に関する研究》などの著書がある。さらにフリードリヒ大王・マリア＝テレジア・エカテリナ女帝・ルイ15世に関する伝記がある。外交史に関する新しい史料を多数公開するとともに，外交における寛容の精神を説き，この考え方に基づいてベルサイユ条約を批判した。〔兼岩正夫〕

くちあけ【口明け】山林原野や磯(いそ)の採取物を，保護や管理のため，一定期間に限ってある制限のもとに，村人の共同利用に任せる慣行をいう。山の口明け，アワビの口明け，ワカメの口明けなどとよぶ。何回かに分けて口明けする場合と，一度口明けするとあとは村人の自由採取を許す場合とがある。口明けの際は，あらかじめ日時を定め，ホラガイを吹いたりして村人がいっせいに出かける。1軒から出る人数を制限するなど，採取機会の公平を期する地方が多い。〔直江広治〕

くちいれや【口入れ屋】雇い人の斡旋(あっせん)業者。古くは人宿または桂庵(けいあん)ともいわれた。江戸のはじめころ，木挽(こびき)町に大和(やまと)桂庵という医者がいて，土地家屋の売買や婚姻の世話をして評判がよかったため，よろず周旋のことを桂庵といい，口入れ屋の起こりとなったといわれる。江戸の発展に伴い大量の雇い人が必要となり，その周旋と保証，住み込むまでの宿所を提供したのが〈人宿〉〈人置〉といわれた口入れ屋である。幡随院長兵衛(ばんずいいんちょうべえ)が業とした〈割元業〉も大名諸家へ人夫を周旋するもので，人宿の一種である。しかし，江戸中期からは多く遊女の斡旋をこととし，破産や病気につけこんであくどいやり方をした。遊女専門の周旋人を女衒(ぜげん)ともいい，人身売買に等しいので，幕府はしばしば取り締まりを行なっている。口入れ屋の名は明治になってからで，以後大正へかけて女中や水商売の女を扱った。長い紺のれんをつるした口入れ屋は昭和初期までよく見られたが，戦後公共の職業紹介機関ができると，しだいに影を潜めた。〔稲垣史生〕

くちえい【口永】⇨口米・口永

くちきむし【朽木虫】こん虫綱・鞘翅(しょうし)目・クチキムシ科の総称，あるいはそのうちの1種をいう。全体やや軟弱で，長卵形。大部分の種は暗色を呈する。触角はやや長く，糸状の種類が多いが，鋸歯(き

ょう)状を呈する種類もある。前胸背板は後方が幅広い。脚は細長い。幼虫は朽ち木中に生活し，成虫は各種の花上に好んで集まる。全世界から約1,500種が報告されている。その1種であるクチキムシは日本全土に分布し，体長10～12mmで，体は暗赤かっ色，背面はふつう黒かっ色を呈して弱い光沢があり，鞘翅には縦条がある。

くちくかん　**【駆逐艦】**　艦隊に随伴し，護衛・戦闘を行なう軽快な艦艇。1894年にイギリスが建造したA型が最初のもので，水雷艇の攻撃から大艦を守るために，水雷艇駆逐用のより大形で強力な艦艇としてつくられた。小口径砲のほかに魚雷も搭載(とうさい)していたから結局水雷艇の発達型ともいえるもので，水雷艇の任務も引き継いでいる。使用価値はあったが，船形が小さく外洋行動が困難であり，これを克服するために大形化して，最初の300トンが第1次世界大戦末期には1,000トンを越え，速力も27ノットから37ノットにも達した。この大戦中，艦隊戦闘や対潜作戦に活躍し，大戦後も大形艦と行動する必要からさらに大形化していった。1928年に建造された日本の吹雪(ふぶき)型は駆逐艦史に残るもので，排水量1,700トン，12.7cm砲6門，61cm魚雷発射管9門，速力38ノットという同時代の駆逐艦に比べて飛躍的に強力なもので，すでに第2次世界大戦時の駆逐艦と同じ性能をもっていた。第2次世界大戦が起こり航空機の活動が盛んになると，主砲は高角砲となり，対水上艦用の魚雷は活用の場を失って，代わりに対潜装備が強化されていった。駆逐艦は潜水艦と飛行機を駆逐するものに変わり，最近ではさらに大形のフリゲートに発展して，駆逐艦という艦種の新造は行なわれていない。〔藤井冬木〕

クチクラ　[cuticle]　角皮ともいう。生物の体表面をおおう細胞(植物の表皮細胞や動物の上皮細胞)がその外表面に向かって分泌したかたい膜様の物質の層。クチクラは生体の機械的保護に役だつばかりでなく，内部からの水の発散や外部からの物質の透過を防ぐ。動物では節足動物に著しく発達しており，こん虫類ではキチンとスクレロチンとよばれる硬タンパク質からなり，甲殻(こうかく)類ではそれにカルシウムが沈積している。植物ではクチンの骨組みの間にロウが埋まり，さらにセルロースやペクチンの層に浸潤している。平坦(へいたん)に表皮をおおっている場合と，隆起した線や突起が表面に現われる場合とがあり，さらに石灰質やケイ酸質が堆積(たいせき)しているときもある。一般に成熟した器官ほどよく発達し厚くなっている。〔吉田精一〕

クチクラじょうさん　**【クチクラ蒸散】**　高等植物の表皮細胞系で行なわれる蒸散のこと。表皮蒸散ともいう。この蒸散はクチクラとよばれるかたい膜様構造からなる表皮細胞の外表面を通して行なわれる。空気の乾燥度や風速に影響される。一般に成熟した葉はかたいクチクラの層で表皮がおおわれるのでほとんど蒸散が行なわれないが，アオキの若い葉の場合にはクチクラ蒸散と気孔蒸散の比は1：4くらいである。

くちじゃみせん　**【口三味線】**　三味線や三味線歌曲を習得するときに，記憶法の一つとして使われる方法。三味線の旋律や技法を口で唱えて歌うようにくふうされている。江戸初期の邦楽書《糸竹(しちく)初心集》にみられるのが最古であるが，流派によって多少差異がある。どの弦をひくか，バチをどのように動かすか，開放弦かそうでないかなどが即座にわかるように，タ行やラ行の文字などを使ってつくられているが，正確な音程は文字には表わされていない。〔山口　修〕

くちせん　**【口銭】**　〈くちぜに〉ともよむ。①江戸時代の付加税である口永(→口米・口永)のうち，特に銭で納めるものをいい，また口永の別称としても用いられた。②江戸時代における諸港の入津料，また通行税の総称。中世に行なわれた関税または入港税である目銭に由来するものといわれる。



駆逐艦　ダッチェス(オーストラリア)

くちだて　**【口立】**　歌舞伎(かぶき)用語。初期の歌舞伎ではきちんとした脚本はつくられず，けいこのとき俳優どうしが口頭で打ち合わせをするだけで芝居をこしらえていく方法がとられていた。この方法を〈口立〉とよぶ。のちに完全な脚本がつくられるようになってからも類型的な場面や，作者が俳優に任せる書き方をした部分では口立で行なわれたことがある。

くちとり　**【口取】**　口取肴(くちとりざかな)の略。会席料理のはじめに向付け・吸い物といっしょに出すさら盛りの料理。かまぼこ・きんとん・卵焼きなどに季節の魚・鳥・野菜類を3～9品の奇数に盛り合わせ，味付けも甘いもの，酸味のもの，辛味のものなどと変化をつける。色どりの美しい盛り合わせで目を楽しませてから，折り箱に詰めてみやげとして持ち帰ることが多かった。もとは広ぶた(長方形か正方形の大形で縁のあるぼん)が用いられていたが，明治以降，会席料理が普及するにしたがって浅い大ざらが使われるようになった。現在では儀礼などの宴会以外はあまり用いられず，代用として〈口代り〉とよばれる酒ざかなが供されることが多い。これは，海のもの，山のもの，野のものを取り合わせるが，数には必ずしも制限がなく，その場で食べきってしまうことを原則とする。なお本膳(ほんぜん)料理では，カチグリ・のしこぶを三方に盛ってはじめに供するものを口取りという。〔塩川ふみ〕

くちなし　**【梔子・山梔】**　双子葉植物・アカネ科の常緑低木。本州西南部から中国に分布し，庭木や切り花にもする。高さ2m内外。葉は対生し，革質光沢があり，長楕円(ちょうだえん)形。夏に径6～7cmの芳香のある白色花を開く。花冠は質厚く，下部は筒形，上部は6裂し，各裂片はつぼみのとき，らせん状にねじれて並ぶ。がく片は筒形で先が6裂し，果実のときにも残る。果実は倒卵形で2cmぐらい，両端がとがり6本の稜翼(りょうよく)がある。黄赤色に熟し，昔から濃黄の染料とされ，たくあんなどの着色にも用いられる。また，完熟した果実を干したものは生薬の山梔子(さんしし)で，漢方では消炎・止血・利尿・鎮静薬として用いる。〔横井朝子〕

くちのえらぶしま　**【口永良部島】**　〈くちえらぶじま〉ともいう。鹿児島県屋久島の北西方にあり，熊毛(くまげ)郡上屋久町に属する。面積37km²。霧島火山帯に属する火山島で，温泉もある。古岳(649m)と新岳(600m)があり，新岳は昭和にはいってから3回も爆発した。中心集落は北西岸の本村で，ここから鹿児島へ定期船が出ている。サツマイモ・サトウキビをつくり，新式の黒糖工場があり，ウシも飼っている。かつて2,400あった人口は，いま500を割り，人口の流出が激しい。〔浅井得一〕

くちのつ　**【口之津(町)】**　長崎県南高来



クチナシ
(左)一重咲
(右)八重咲

(みなみたかき)郡の町で，島原半島の南端にあり，島原鉄道が通じている。人口9,300。中世以降有馬(ありま)氏の領地であった。1569年(永禄12)ポルトガル船が入港して以来，南蛮貿易とキリシタンで知られ，明治以後は三池炭の積み出し港となったが,1909年(明治42)の三池築港完成後はその機能を失った。現在もわずかに貿易は行なわれており，また対岸の天草の鬼池港との間にフェリーボートが通じている。古くから酪農が行なわれ，またネーブルやオレンジの特産がある。町から多くの船員を出しているので名高い。

くちばいろ 【朽葉色】 色名。朽ちた落葉のような色。黄みのある，薄いだいだい色。朽葉色とはいうが，比較的あざやかな色といえよう。クチナシやウコンの黄染めの上に浅い紅染めでわずかに赤みをもたせた色で，平安時代の色名である。

柑子(こうじ)色や深支子(こきくちなし)などは，これと同様な染色方法によっている。朽葉色の赤みの色を赤朽葉，黄みの色を黄朽葉，青みのものを青朽葉という。

くちばし 【嘴】 鳥類の突出したあご。上嘴(じょうし)と下嘴の二部からなり，骨の上を角質のさやがおおっている。内部の骨は頭骨へつながっているが，表面は角質部と頭部の皮膚で境界がはっきりしている。上嘴には基部近くに鼻孔が開いているのが普通である。上嘴の基部はしばしば変形して奇妙な突起などを生じている。例としてはコブハクチョウやハト類の突起，バンなどの額板などがあり，中でも最も奇妙なのはサイチョウ類のつのであろう。

鳥類では前肢(ぜんし)が飛行器官となってしまったことと対応して，くちばしは手の役目を一部引き受けており,羽づくろいや巣造りや争いの際には有効に働いている。しかし，くちばしの主要な働きはもちろん採餌(さいじ)である。そしてくちばしの形は種ごとに餌(え)や採餌方法に対応してひどくさまざまに変わっている。すなわち，身体に比べて非常に長いもの(ヤマシギ・ヤリハシハチドリ)，長くて下に曲がっているもの(ダイシャクシギ)，上にそっているもの(ソリハシセイタカシギ)，右に曲がっているもの(ハシマガリチドリ)，長くて鋭くとがっているもの(サギ類)，非常に大きなもの(オオハシ類・サイチョウ類)，非常に小さなもの(アマツバメ類・ヨタカ類)，へら状のもの(ヘラサギ・ヘラシギ)，大きなさじ状のもの(ヒロハシサギ・ハシビロコウ)，下嘴が袋状になったもの(ペリカン類)，鋭い鉤(かぎ)状のもの(猛禽(もうきん)類・モズ類)，嘴縁に鋸歯(きょし)のあるもの(アイサ類)，円錐(えんすい)形のもの(イカル・シメ)などがある。さらに特殊なものにはフラミンゴ・イスカ・スキハシコウ・ハサミアジサシなどのくちばしがある。〔浦本昌紀〕

くちばすずめ 【朽葉天蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・スズメガ科。体長約50mm，翅(はね)を広げた長さ110mm内外。体・翅ともに淡かっ色。体の中央に暗かっ色の縦線が走る。前翅・後翅の後角後縁に暗かっ色の円形の紋が1個ずつある。翅の裏面は灰かっ色でややだいだい色をおびている。日本全土に分布。成虫は6～8月に出現する。幼虫はカシ類をはじめ，クリ・クヌギなどの葉を食害する。



クチベニタケ

くちぶえ 【口笛】 口をすぼめたり，指を口の中へ入れたりしてすきまをつくり，息を強く通過させて鳴らすもので発音原理はフルートや尺八と同じである。伝達の手段として使われる場合には，呼びかけ，意志表示(とりわけ拒否・けいべつ)があるが，意味内容は文化によって異なる。音楽の一部としていわば楽器的に使われる場合には，沖縄の音楽などのようにリズムをささえる役割をもつことが多い。

くちぶとかめむし 【口太亀虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・カメムシ科。体長11～16mm，体は淡かっ色ないし暗かっ色。頭部は幅広く前方に突出し，口吻(こうふん)は幅広く長い。前胸背の側部には鋭いとげ状の突起がある。小楯板(しょうじゅんばん)基部の両端に小さい淡色の斑点(はんてん)がある。半翅鞘(はんししょう)は淡かっ色，透明で光沢が強い。日本全土のほか，朝鮮・中国に分布する。幼虫・成虫ともに肉食性で，おもに鱗翅(りんし)類の幼虫を刺食する。

くちべに 【口紅】 くちびるに美しい色(主として赤系)とつやを与え，魅力的に見せるための化粧品。本来赤色に対する信仰から生まれたもので，古くエジプト時代から使われており，日本には610年(推古天皇18)高麗(こま)僧曇徴(どんちょう)によって伝えられ，江戸時代中期から一般に普及した。オリーブ油・カルナバロウ・キャンデリラロウ・固形パラフィン・脂肪酸エステル・ひまし油・蜜(みつ)ロウ・流動パラフィン・ラノリン・ワセリンなどをとかしてよく混ぜ合わせたもので，厚生省で定められた有機顔料を練り込んで型に流し，冷やして固めてつくる。リップスティックとよばれる棒状のほか，クリーム状と液状のものがある。色状は数十種類あり，パール系，シルバー・ゴールドなど，光るものもある。ツートンとよばれる黄色い変色口紅は，着色料にエシオン酸(染料)を使ったもので，くちびるにつけると唾液(だえき)によって赤く変色する。なめらかによく延びてくちびるになじみ，美しい光沢と色調の変わらないものが良品。はだ・服装の色に合わせて色を選ぶとよい。〔メイ-ウシヤマ〕

くちべにたけ 担子菌類・クチベニタケ科。夏・秋季に山地の露出した土の上に群生するきのこ。高さは2～3cm程度，頭部と茎に分かれる。頭部は球状，べっこう色で表面は白粉をはたいたようになる。頂点には小孔があって，その周囲は朱色である。日本固有の種類である。

くちぼそ ⇨モツゴ

くちまい・くちえい 【口米・口永】 江戸時代の付加税。口米の起源は明らかでないが，すでに鎌倉末期に口籾(くちもみ)と称して租税の上納のとき，その欠損を補うためにあらかじめ若干の米またはもみを加えた制度があり，その制に由来するものといわれている。豊臣秀吉(とよとみひでよし)も米1石につき口米2升と定め,江戸幕府も1616年(元和2)年貢米(ねんぐまい)1俵(3斗5升入)につき1升とした。口永(〈永〉は輸入銅貨の永楽銭*に由来し，その通用禁止後も永の名目を金と銭の換算基準のよび名として残し，金1両は永1貫文とした)は,口米の代わりに銀(口銀)または銭(口銭)で納めるもので,口永は貢米100文につき3文と定められたが,口米と同じく地域・時代により多少の差があった。口米・口永は合わせて口米永ともいい，本来は代官所の費用にあてたが，1725年(享保10)から代官所の費用は別に幕府から支給されることとなり，口米・口永はすべて幕府に納入させることとなった。1873年(明治6)地租改正*条例公布ののちに消滅した。〔岡山泰四〕

クチャ 【庫車】 中国北西部，新疆(しんきょう)ウイグル自治区の都市。天山南路に沿い，漢代以後唐・宋(そう)のころまで亀茲(きじ)の名でよばれ，仏教の東遷史上に重要な地位を占めた。市域は漢城と回城とに分かれ，商業活動が盛んである。穀類のほかブドウ・ナシなどを産し，付近には油田もある。周辺には遺跡が多く，南西方には8世紀に建てられた多くの石窟(せっくつ)寺(千仏洞(どう))がある。日本の大谷探検隊やドイツ・フランスの探検隊によって，これらの遺跡が紹介されてきた。〔千田　稔〕

くちゅうやく 【駆虫薬】 人体または恒温動物から寄生虫を駆除する目的に用いられる薬の総称。寄生虫は消化管内に寄生するものと，肝・血管およびその他の器官内に寄生するものとに大別でき，駆虫薬の種類もそれぞれ異なる。消化管内寄生虫には，直接作用して麻痺(まひ)させるものが用いられ，薬剤を腸壁からあまり吸収しないうちに下剤によって排出させる。この場合は若干毒性をもつものも用いられる。腸管内寄

生虫全般に作用するものには四塩化炭素・四塩化エチレン・β-ナフトール・ネマトールなどがある。カイチュウ類にはサントニン・カンニン酸(海人草)など，ジョウチュウ類にはザクロ・メンマ・カマラなどが特効があるといわれる。ギョウチュウは直腸に寄生するのでゲンチアナ紫を肛門(こうもん)から注腸する。

肝・血管およびその他の器官内に寄生する住血吸虫・肝ジストマ・フィラリアなどには，一般の化学療法薬と同様に，寄生虫には少量で有効であり，かつ宿主には副作用がより少ないものが選ばれ，アンチモン剤・ヒ素剤のほか，エメチン・ヘトラザン・ミラシルDなどが用いられる。〔伊藤隆太〕

ぐちゅうれき【具注暦】 暦面を上・中・下3段に分けて，暦日の下に日の吉凶，禍福，季節の変動などを詳しく記した暦。最古のものは正倉院文書746年(天平18)のものが現存している。毎年11月1日陰陽寮(おんみょうりょう)がつくり，中務(なかつかさ)省を経て内外の諸司に配布された。貴族の世界のみならず，民間にも広く行き渡った。本来，漢文で書かれたが，鎌倉時代にはいってかなで書かれ，〈かなごよみ〉として民間に用いられた。陰陽道*が盛んになってからはいろいろな俗信が暦の中に書き込まれ，明治初年まで用いられていた。〔渡辺欣雄〕

クチュク-カイナルジじょうやく【クチュク-カイナルジ条約】 第1次ロシア-トルコ戦争*の結果，1774年ロシアとオスマントルコの間で結ばれた条約。黒海北岸諸要地のロシアへの割譲，クリム汗国*の独立，トルコ領内のキリスト教徒保護，黒海とエーゲ海に対するロシアの通商航行権や賠償などが決められ，ロシアの南下政策の重要な第一歩となった。

クーチュラ［Louis Couturat］(1868～1914) フランスの論理学者・数学者。パリに生まれ，エコール-ノルマルで学ぶ。数学的論理学(記号論理学*)，ライプニッツの研究家として知られる。はじめ無限の問題から数学基礎論*を研究。ライプニッツの思想を現代の記号論理学の先駆的思想として評価し，ラッセル・ホワイトヘッドの論理主義につながる数学の基礎に関する研究を紹介するとともに，その発展に尽くした。また，エスペラントを改良した国際語イドの推進者としても知られる。主著《ライプニッツの論理学》《数学の原理》《論理代数学》。〔寺中平治〕

クチュルクかん【クチュルク汗】(?～1218) モンゴル，ナイマン部長タヤン汗の子。ジンギス汗に攻撃されてカラ-キタイ朝*(西遼(せいりょう))にのがれ，1211年これを滅ぼしたが，1218年ジンギス汗の部将ジェベに殺された。

くちよせ【口寄せ】 卜占(ぼくせん)・神遊び・寄絃(よりづる)とともに巫女*(みこ)の役割の一つである。生霊を寄せるための生口，死霊を呼び出すための死口，吉凶禍福を判断するための神口などの区別がある。死口には，忌みあけのときにする新口，彼岸やお盆，死者の忌日にする古口がある。口寄せで特にたいせつなのは〈ナナクラオロシ〉，〈ナナクラヨセ〉という死者儀礼で，不慮の災害のために横死したもの，一家の柱石と頼む人の急死，愛惜の情止みがたい人の死に対して行なう。巫女の口寄せのときの語りは，中世以来の御霊信仰*と関係があり，地方では語り物の発生に大きく関係している。また，口寄せのことを東北地方では〈いたこ*〉，関東地方では〈梓(あずさ)巫女〉，九州では〈いちじょう〉とよんでいる。〔渡辺欣雄〕



口寄せ　青森　下北半島のいたこ

クチン［cutin］角皮素ともいう。植物のクチクラの主成分で，不飽和度のかなり高いオキシ脂肪酸類の重合物質と考えられている。表皮細胞の外膜の上部はほとんどクチンからなり，内皮ではコルク化とクチン化が相伴って起こる。

クチン［Kuching］ マレーシア連邦領サラワク州の州都。人口70,000(1968)。ボルネオ島西部サラワク川の河口から16km上流にあり，ボルネオ北岸の要地。商業が盛んで，華僑(かきょう)が人口の3分の2を占める。市内にはこん虫のコレクションで有名な国立サラワク博物館がある。シンガポールとは航路・航空路で結ばれている。

くつ【靴・履】 はきものの一種。はきものは，足の甲をおおわない形式の開放性はきもの(サンダル・げた*・わらじ*・ぞうり*)と，甲を包む形式の閉鎖性はきもの(靴・履)に大別される。日本では西洋の影響を受けたものに〈靴〉を，故実のものに〈履〉の字をあてている。

〔靴の歴史〕〈西洋〉 くつの現存最古のものは，BC2000年ごろのエジプト時代に王・僧侶(そうりょ)・貴族が使用したパピルス製サンダルである。形は日本のぞうりに似ており，材料には草・皮・マット・木などを使用した。サンダルはラテン語のサンドリアンが転訛(てんか)したもので，ギリシア・ローマ時代にはさまざまのデザインが生まれ，サンダルの黄金時代を築いた。3世紀になると，最初のくつ製造ギルドがパリ郊外に出現した。9世紀にはさらに製法が発達し，このころの貴族は色皮の短ぐつを，市民階級は布・皮，貧民ははだしあるいは，なめしてない皮製のものを使用していた。イギリスのエドワード2世(1284～1327)は大麦の粒三つの長さを1インチと定め，コードウェイナー-ギルドは13インチをくつの標準とする最古のサイズを考案した。14世紀になると，つまさきが極端に30cm以上長くなったものも出現したが，15世紀後半に禁止され，16世紀にはその反動でつまさきが広く，底の厚いものが流行した。下腿(かたい)から足にかけて全部をおおう長ぐつは騎士のはきものとして戦場において欠かせないものとなり，イングランド王エドワード4世(1442～1483)時代には拍車をつけたものが流行した。イギリス王チャールズ2世(1630～1685)は甲を縁取りした長ぐつを着用し，しだいに華美なくつになった。バックル・ボタンなどが使われはじめたのもこのころで，また歩行の便宜，破損防止のほかに背を高く見せる必要から発生したと考えられるヒール(かかとつきのくつ)も出現した。今日のかかとの高いハイヒールの原形はルイ15世(1710～1794)の愛人，マダム-ポンパドール(1721～1764)のはいたもので，18世紀前半にはハイヒールが全盛をきわめた。

17～18世紀アメリカでは製靴(せいか)産業が発達し，長ぐつはつまさきが広く，拍車受けがついて現在の形に近いものであった。18世紀前半はイギリス・アメリカでつまさきのとがったくつが流行し，それまで左右同形だったくつが別々につくられるようになった。19世紀，アメリカではくつ製造を機械化して，さまざまのタイプが大量につくられるようになり，20世紀にはいるとつまさきが箱形のものが出現し，第1次世界大戦には長ぐつの変形として飛行士ぐつが生まれた。婦人ぐつは材料・色・形とも多様化しはじめ，1920年代になると軽いオペラ-パンプス(舞踏ぐつ)が流行した。第2次世界大戦以降は，それまでの流行を約10年の周期でくり返しながら今日に至っている。

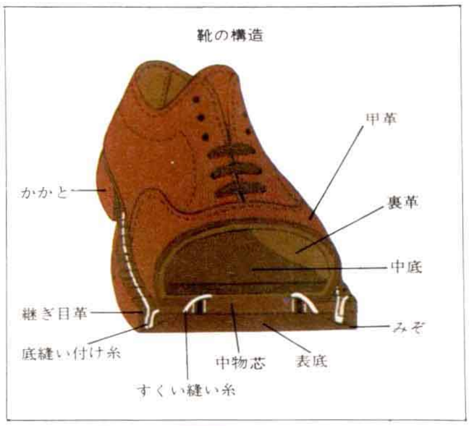
〈中国〉 木・布などを材料としたつまさき上がりの舟形のくつを古くから現在まで保持してきた。12世紀ごろから婦人の纏足*(てんそく)の習慣が始まり，布を使った柔らかい室内ばきが好まれた。現在でも，もめん・絹・皮などを材料としたスリッパふうの甲にししゅうした婦人ぐつは特に有名である。

〈日本〉 幕末から明治初期になると，兵隊の洋式訓練の必要から軍靴を輸入したのがくつを使用した最初である。当時の兵部大輔(たゆう)大村益次郎(ますじろう)は，軍事上くつの国産化の必要から，西村勝三(かつぞう)(1836～1907)に1870年(明治3)築地に造靴工場の建設を命じた。佐倉藩(千葉県)の相済社(廃藩による失業者への授産を目的とした)社員を職工として入舟町に日本最初の製靴工場伊勢勝(いせかつ)製靴工場を設立して本格

靴・履



平安時代の皇后や女官用の靴　熊野速玉大社蔵





明治初期に流行した(七つはぎ)紳士靴



西洋の靴の歴史　左より古代ギリシアの靴　18世紀中期のフランスの婦人靴　18世紀末期のフランスの長靴



明治～昭和20年まで使われた海軍軍靴





現在の紳士・婦人靴

的に国産化を図った。1872年はじめて製靴用ミシンが輸入され，1890年代には手工業者の渡米が増加し，新デザイン・新技術を取り入れて急速に欧米の水準に近づき，1900年以降は皮ぐつは手縫いから機械縫いのものが多くなり，種類も豊富になって現在は7,000万足の年産に達している。

なお，一般のくつとは発達をことにして北欧・オランダ・フランスなどで農業・低湿地帯用に使用されているサボとよばれる木ぐつがある。

〔製靴法〕くつ製法は，甲の部分を縫い合わせる作業と底材を加工して甲に取り付ける作業に大別される。結合方法には①底をくぎで打ち付ける，②甲と底を糸で縫う，③接着剤を用いて甲と底をはり合わす，④金型に合成樹脂を射出して底を成形するなどの方法がある。七分製とか九分製の呼称は手製を中心に生まれたことばで，七分製は7分を手でつくり，3分を機械で補い，九分製は機械にたよる箇所が1分で他の9分が手づくりという意味である。くつにおいての先進国アメリカでは，13世紀に堅牢(けんろう)な手縫いのグッドイヤー式が採用され，わが国に伝来したのは明治で以来手製ぐつとして脚光を浴びた。本格的にくつ製造機が導入されたのは18世紀にはいってからで，戦争などの緊急事態で急ピッチに機械化が進んだ。

1858年マッケーがリーマン-ブレイクの発明した曲がったミシン針をもつ底縫い機械を改良し，くつを大量生産化した。この製法は単式縫いといい，木型に中底(本底の内側にある)をつけ，甲皮をつりこんだのち甲皮・中底・本底を突き通して1回で縫う。くつの周囲に張り出している細皮がある場合は重量感を盛るためで，単なる飾りにすぎない。

グッドイヤーは1871年製靴機械会社を設立した。この製法は複式縫いといい，底をつける上で2回にわたってミシン掛けをする。細皮・甲皮・裏・中底を最初に縫ったのち，本底を縫う。細皮が甲と底の結合を果たしているので，くつの内側に縫い目がなく，すっきりしている。細皮に特徴があるため，俗にウエルトシューともいう。

単式縫い・複式縫いに比較して設備を要しない接着(または圧着)製法は，1866年南北戦争ののちアメリカで試作されたが，接着技術の不完全と接着剤が高価なため普及するに至らなかった。その後，第1次世界大戦ののちドイツが圧着機械を考案，本格的に生産したのは1940年以降である。のりづけでセメントシューの呼称もあるが，初期の接着剤はゴムのりであった。これは時がたつと接着力が減退するのが欠点で，のちに優秀なセルロース系ができて縫製に代わった。現在紳士ぐつの70%，婦人ぐつに至っては90%以上がこの製法である。圧着式は生産性が高く工程・設備が簡略なのでコストが安くつく。構造にも種類があって先進国では七つに分けている。わが国に圧着機が輸入されたのは1952年(昭和27)である。

さらに工程を短縮したのが合成ゴムを加硫と同時に底付けするバルカナイズ方式である。高熱処理を施すために金型を使い，甲皮・中底と強力に加硫圧着するために底はがれの心配はないが，金型が高価なのでモデルチェンジに難がある。ドイツで発達した射出成形式はインジェクションという。金型に甲をつりこみ，熱を加えてとかした合成樹脂を圧力ですきまなく底面に注入する。

〈用途別分類〉くつはフォーマル・ビジネス・リゾート用の三つに分類することができる。①フォーマル用：礼装ばき。男性ではモーニングや紺ダブル，女性ではイブニングドレス・カクテルドレスなどを着用する改まった席に臨む場合に用いる。品格を重んじるから男性用は一文字飾りのひも結びで，足もとは黒に限る。女性はパンプスが標準である。華美にならぬ程度に個性を打ち出してもよいが，選択のポイントはモダンよりもシックにある。②ビジネス用：準礼装。はでな色やデザインは品が悪くなる。近ごろはカジュアル化によって渋さが失われつつあるが，控えめなおしゃれがビジネスウエアの重要なポイントである。女性では低いヒール物，男性では短ぐつで黒色・濃茶色などが普通である。③リゾート用：くつろぐときのはきもので，前の2種とは異なり，散歩・旅行・室内と利用範囲が広い。スポンジ底のモカシン(ひものないスリッポンタイプの一種)などがふさわしい。足もとだけが極端に目だつのはじょうずなおしゃれとはいえない。形やデザイン，製法に趣味を生かし，色彩はじみにおさえ

たい。

〈材質〉皮革(ウシ・ブタ・ウマ・ワニ・ヘビ・トカゲ)・ゴム・ビニル・合成皮革・繊維製品(ナイロン・サラン・綿)などがおもに用いられている。　〔藤田　稔〕

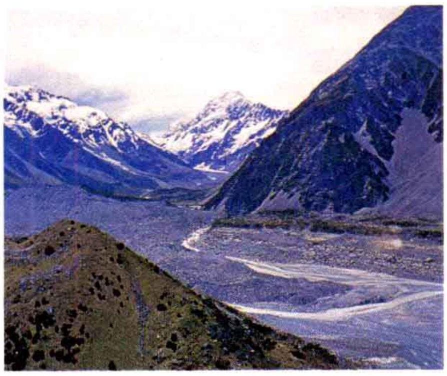
〔手入れ法〕くつの手入れは，材料によって異なる。皮ぐつでも表出し・裏出し，また表面がなめらかなもの，凹凸(おうとつ)があるものではみがき方が違う。表出しの光沢のある皮の場合，はじめに柔らかいブラシでほこりを払い，布片に乳化性クリームをつけ，よく延ばすようにして塗り，毛織布でみがき仕上げる。裏出しのスエード状のものはナイロンやワイヤーブラシで，ほこりを払い毛足をそろえる。エナメルは専用クリームを使い，使用しないときはネルの袋に入れておくとよい。布製のハイヒールパンプスはブラシでほこりを落とし，保存用の木型を入れてしまう。運動ぐつ・ゴムぐつは水洗いして陰干しする。皮ぐつは水分・火熱をきらい，雨にぬれたら日陰で風通しのよいところで乾燥させ，クリームをつけて手入れをする。➔くつクリーム

〔履〕中国伝来の有職(ゆうそく)故実としてのくつの総称。舄・鞋・沓・靴などの文字を用いることもある。古墳出土の遺物や埴輪(はにわ)人物などによって，すでに5世紀のころ金銅製のくつや動物の毛皮，藤葛(ふじかずら)の布などを縫い合わせてつくった浅沓形のくつを用いたことが知られる。《大宝律令*(りつりょう)》には衣服に関する規定があり，〈男子は礼服*(らいふく)(烏皮舄(くりかわのくつ))・朝服(烏皮履)・制服(皮履または草鞋(わらくつ))，武官は礼服(烏皮靴)・朝服(烏皮履)を着用すべし〉と記されている。〈舄〉はつま先が高く山形になっているくつで，烏皮は黒皮。〈履〉と〈鞋〉はともに浅沓であるが，履は皮でつくり，鞋は繊維製のものが多かった。構造は中国伝来の様式で，おもに上流階級に用いられた。平安時代にはいるとくつの種類は豊富になり，各階層にわたって用途に応じたくつが発達し，木製のものもできた。　〔合田　濤〕

くつかけときじろう　**【沓掛時次郎】**　長谷川(はせがわ)伸*作の戯曲。3幕11場。1928年(昭和3)帝国劇場で新国劇初演。ばくち打ち沓掛時次郎がやくざのけんかに巻き込まれて切った男三蔵から，身重の女房おきぬとむすこの太郎吉(たろきち)を託され，やくざ渡世がいやになり旅に出る話で，股旅物(またたびもの)の代表作。その人情のしがらみが庶民の哀感をよび，演劇だけではなく，再三映画化もされている。

くっかせい　**【屈化性】**　⇨屈性

クッキー　[cooky]　洋風焼き菓子の一種。アメリカにおいて用いられるよび方で，イギリスではビスケットの一種として取り扱われ，日本でも同様に扱っている。普通のビスケットに比べてバターのような脂肪分の多いのが特徴である。〈作り方〉小麦粉を主成分として，バター・砂糖・卵を混和したもの，および牛乳を添加し，こねて適当の形にして鉄板上で焼いてつくる。牛乳は自然に乳酸発酵を起こさせたものを使用すると風味があって美味なものができる。



クック山　正面奥にそびえるピラミッド形の山がクック山。氷河がかかり，その末端がとけて河流となっている

くつきまさつな　**【朽木昌綱】**(1750～1802)江戸中期の大名。丹波(京都府)福知山藩主。号は龍橋(りゅうきょう)。花鳥山水画をよくし，古銭の収集研究家として知られる。また，杉田(すぎた)玄白・大槻(おおつき)玄沢らの蘭学者(らんがくしゃ)とも交渉があった。石州流の茶道を松平不昧(ふまい)に学び，茶人としても有名。

クック　[James Cook]　(1728～1779)　イギリスの大航海家。ヨークシャーに生まれた。世界を3回も周航して数々の陸地を発見し，多くの事実を明らかにして，科学的な探検の先駆をなした。水夫から海軍士官，地図測量家になり，コロンブス・マゼラン・バスコ-ダ-ガマ・タスマンらと並び称される大探検家となった。約10年間商船に乗り組んだあと，1755年軍艦に移り，13年後に中尉に進んだ。1769年金星の太陽面通過(➔日面経過)の観測にエンデバー号を指揮してタヒチ島に行き，1771年までの2年間に第1回の世界周航を行なった。その成果はオーストラリア・ニュージーランド沿岸を測量して南緯40°22′まで下り，過去2,000年間想像されていた南方大陸(テラ-アウストラリス-インコグニタ)が存在しないことを明らかにした。第2回の航海(1772～1775)では，大西洋・インド洋・太平洋の南緯60～70°付近を周回して最初の南極圏周航を行ない，南緯71°まで陸地が見えないことを明らかにした。1776年北西アメリカ海岸の調査，ベーリング海峡の調査ののち南に向かう第3回の航海の途上，サンドイッチ諸島(現在のハワイ諸島)での土民との戦いで死んだ。ニュージーランド・ニューギニアが島であることを明らかにし，ニューカレドニア・サンドイッチ諸島・クック諸島を発見した。彼の名は，クック諸島・クック海峡などの地名として残っている。　〔野間三郎〕

クック(諸島)　[Cook]　南太平洋中部の群島。総面積218km²，人口20,000(1969)。ニュージーランド領。1773年イギリスの探検家J．クックによって発見され，この名がある。南・北二つの群島に分かれ，人口は南部に集まる。住民はポリネシア系で，オレンジ・バナナ・ココナツなどを産する。政治の中心は諸島中最大のラロトンガ島。

クック(山)　[Cook]　ニュージーランドの最高峰。標高3,764m。土民マウリ族はアオランギとよぶ。南島の中央部にあり，頂上付近は万年雪におおわれている。西側斜面にはフォックス氷河・フランツ-ヨゼフ氷河が発達している。同国の誇るウエストランド国立公園に指定され，世界各地から観光客が集まる。1894年ニュージーランドのファイフが初登頂した。

クック(海峡)　[Cook]　ニュージーランドの北島と南島との間の海峡。幅20km。発見者，イギリスの探検家J．クックの名を記念して命名された。首都ウェリントンはこの海峡に臨み，この国第1の貿易港。

くつクリーム　**【靴クリーム】**　皮ぐつの保革と，つや出しのために用いる塗料剤。JISに基づいてつくられている。通産省の家庭用品品質表示法(1962年施行)ではくつ墨という。〈種類・品質〉①乳化性クリームは，一般にびん入りのペースト状のもので，ロウ・油脂・有機溶剤との混合物を水で乳化したものである。ほかにチューブの先に塗布具をつけたソフト状のチューブ入りや，液状のものもある。②油性クリームは，ロウ・油脂と有機溶剤が主成分で，固型化したかん入り，光沢と耐水性にすぐれている。〈皮の種類別使用法〉①本染め：銀面に深みのある光沢がある。油性・乳化性クリームを併用する。ときどきクリーナーで古いクリームの層を落とし，新しいクリームをつける。②ガラスばり：銀面を薄く削ってガラスをはりつけ，顔料で着色塗装したもの。油性のクリームを塗る。③アニリン染め：薄い柔らかな皮で光沢がなく，婦人ぐつのシャンペン色・ベージュ色など色合いがソフトな感じのもの。乳化性のアニリン専用クリームを用いる。④エナメル：柔らかい皮にエナメル加工をしたもの。エナメル専用クリームを塗って，ひび割れを防ぎ，光沢を出す。⑤スエード：毛ばのある柔らかいラフな感じ。スエードインキ(液状・スプレー式)を塗り，かわいてからナイロンブラシで起毛する。⑥メッシュ：網目に編んだ夏向きのもの。液状の乳化性クリームを用いる。⑦人工皮革：天然皮革と同じ繊維層につくられた銀面。傷がつきやすいので人工皮革用クリーム(固型・液状)を用いる。なお，登山・スキー・スケート・ゴルフ用などのスポーツぐつには，耐水性・保革などのすぐれた専用のクリーム(保革油，油性・乳化性)を用いる。
〔サンエッチ(株)〕







掘削機械

(上左)パワーショベル(前進方式)
(上右)クラムシェルバケット(垂直方式)
(下)ドラグライン(後退方式)

くつげん【屈原】(BC340？~BC278？) 中国，戦国時代，楚(そ)の詩人。原は字(あざな)で，名は平。楚の三閭(さんりょ)大夫になり，懐王に仕えたが，用いられなかった。懐王が秦(しん)にとらわれて客死し，頃襄王(けいじょうおう)の代になると，郢(えい)(楚の都)から追放された。屈原は憂憤のあまり，汨羅江(べきらこう)に投身自殺したと伝えられる。不遇な生涯(しょうがい)からくる不平と憤懣(ふんまん)と，山沢が多く，森林が茂り，巫鬼(ふき)の信仰の盛んな楚の国の自然環境と，そこにかもし出される狂おしい情熱の世界を自由奔放にうたった彼の作品は，叙情性の点では古代中国文学史に比肩するものがない。作品は《楚辞*》に収められているが，偽託が多く，《離騒》《天問》《九章》《九歌》などが屈原の作品と信じられている。〔今村与志雄〕

グッゲンハイムびじゅつかん【グッゲンハイム美術館】 1959年ニューヨークに開設された現代美術館。製鉄業者のS.R.グッゲンハイムが1937年以来収集した印象派以後の非具象美術が中心で，カンジンスキー*(180点)・クレー*(170点)・ピカソ*・シャガール*・ミロ*ら20世紀の巨匠の作品が含まれている。らせん状のゆるやかな傾斜に沿って，周囲の壁面に作品が展示されている。ライト*設計の斬新(ざんしん)な円形美術館である。

くっこうせい【屈光性】 ⇨屈性

くっさくきかい【掘削機械】 土・岩石を掘るための機械の総称。一般にこの種の作業は土・岩を掘り，取り上げ，運搬するという三つの作業に分かれるが，機械自体は少なからずそれぞれの性能を備えているものが多い。種類は前進方式・後退方式・垂直方式に大別され，前進方式はパワーショベルに代表され，アームの先につけたショベルで前方にかき上げ，すくい上げながら前進していく。横・後ろにいるダンプトラックに土砂を積み込むもので，最も強力・高能率であるが，機械は必ず掘削面と同一面上になければならないので軟弱地盤の掘削，深所の掘削には不適当である。後退方式はトラックまたはクローラを用いるドラグライン，パワークレーンを用いるプルショベル(バックホー)などあるが，アームの先につけたショベルを手前に引き寄せる動作で，後退しながら掘削する。機械自体は掘削面より上部に位置するので深い所，水中の掘削も可能である。垂直方式は，クラムシェルバケットに代表され，トラックまたはクローラクレーンの先端にクラムバケット(つかみ取り具)をつり下げ，下口を開いた状態で投下して土に突き差し，刃口を寄せ合わせて土をつかみ取る。深い場所，水中の掘削に適するが，硬質地盤には不適である。〔神山幸弘〕

くつした【靴下】 つまさきから脚部をおおう被服で，多くは編み物。《種類》長くつしたのストッキング，ひざの隠れるオーバーニーソックス，ひざまでのハイソックス・ニーレングス，短いくつしたのソックスなどのほか，タイツ-ストッキング(パンティー-ストッキング)・ボディストッキングなど特殊なもの，またルームソックス(カバー)といわれるたぐいのものもある。英米では長くつしたをホーズ(hose)ともよんでいる。《歴史》起源は明らかでないが，古くは，くつやズボンと同じものであった。ビザンチン時代になると編み物によるくつしたが用いられ，14世紀には片足ずつ切り離された現在の長くつしたに相当するものとなった。15世紀になると絹製のものが現われ，16世紀にかけてはカラーストッキングやレースなどのついたものが出て，はなやかになった。1589年イギリスの牧師ウィリアム-リーが最初のくつした編み機を発明し，さらに改良を加えてストッキングの丸編み式を始めた。以後，編み物のくつしたはイタリア・スペイン・フランス・イギリスで盛んに用いられ，17世紀以後はズボンの関係で脚の下半分ほどの短いくつしたがつくられるようになった。1864年イギリスのウィリアム-コットンがフルファッション式編み機を発明し，その普及度は20世紀に急激に伸びた。日本では1870年(明治3)アメリカから編み機を輸入したのがはじまりである。19世紀後半から婦人用の長いストッキングが現われ，色もはだ色系統がしだいに多くなった。《素材》もめん・ウール・絹などに限られていたが，1936年アメリカでナイロンが発明され，くつしたに利用されてから，現在はほとんどナイロン製となっており，さらに伸縮性のある繊維のくふうがなされている。〔小池千枝〕

くっしつせい【屈湿性】 ⇨屈性

くっしゃろこ【屈斜路湖】 北海道東部，釧路(くしろ)支庁北部にある湖。〈くっちゃろ湖〉ともいう。屈斜路カルデラの火口原湖。面積78km²，水面高度121m，水深120m。水は南より流出して釧路川の源となる。湖中にある周囲12kmの中島は原生林におおわれている。湖畔には和琴・池ノ湯・砂湯・仁伏(にぶし)の温泉がわき，弟子屈(てしかが)・鐺別(とうべつ)の温泉も近い。阿寒(あかん)国立公園に所属する。

クッション［cushion］ いすの背に添えて用いる小形のふとん。もめん・絹・パンヤなどの綿，羽毛，ウレタンフォームなどを多量に入れて軽くふくらませたもので圧縮弾性に富む。いすと身体の接触を柔軟にして腰掛けの姿勢を快適な状態で保たせる働きのほか，室内装飾品としての役割も大きい。種々の布地や皮革に染色・ししゅう・アップリケなどで装飾したものが多く，その形や寸法もさまざまである。

クッシング［Harvey Cushing］(1869~1939) アメリカの外科医。クリーブランドに生まれ，ハーバード大学で医学を修め，1895年に卒業。のち同大学の外科学教授となり，1932年まで在職した。特に脳神経系

統の外科に精通し，その名にちなむクッシング病を発見。専門の学術論文を数多く発表したほか，1925年に《ウィリアム-オスラーの生涯(しょうがい)》と題する伝記を著わし，ピュリッツァー賞を受けた。

クッシングしょうこうぐん 【クッシング症候群】 体内に糖質ステロイドホルモン(糖代謝に関係が深く，副腎(ふくじん)皮質から分泌される)の過剰状態が起こることによって呈する一定の症状。アメリカの研究者クッシングの名をとってクッシング症候群という。原因としては，下垂体の副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の増加，副腎の腫瘍(しゅよう)・悪性腫瘍がACTH様ホルモンを産生する場合，治療として副腎皮質ステロイドを使用している場合などが考えられる。女性に多く，日本では副腎の腫瘍によるものが多い。肥満や高血圧症などが代表的な症状で，肥満は中心性とよばれ，軀幹(くかん)に著明である。顔面は満月様になり，にきびが多く発毛をみる。また，下腹部に紅紫色の皮膚線条が現われる。また，しばしば骨折を伴う。診断には，血液・尿中に糖質ステロイドの過剰をみることで判定する。腫瘍が原因のものは手術によって症状が減少する。 〔清水直容〕

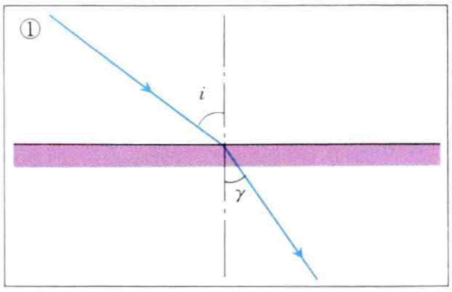
くっすいせい 【屈水性】 ⇨屈性

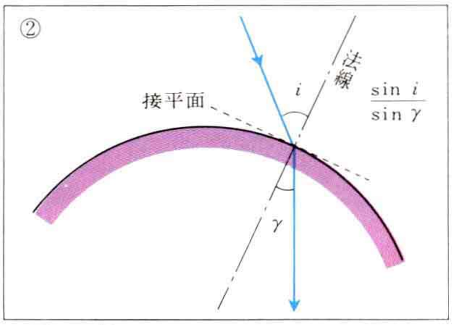
くつずみ 【靴墨】 ⇨くつクリーム

くつずれ 【靴擦れ】 くつの中で足のすれた部分の表皮と真皮の間がはがれて，そこに組織液・血液がたまったり，または破れてびらん面を生じたもの。化膿(かのう)しないように赤チンなどの殺菌剤を塗布し，滅菌ガーゼをあてておけばよい。

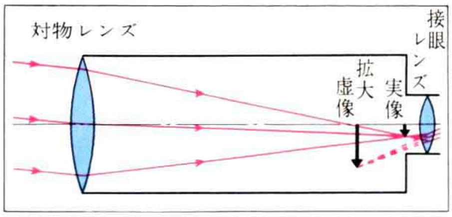
くっせい 【屈性】 高等植物のように自由に移動することのできない生物の器官が，外界から刺激を受けると刺激の方向に対して一定の方向に屈曲することを屈性といい，生長運動の一つであるものが多い。刺激のくる方向に屈曲する場合を正の屈性，その反対方向に屈曲する場合を負の屈性という。そのほか，刺激の方向に対して横または斜めに屈曲するときは横屈性・傾斜屈性という。刺激の種類によって屈光性・屈地性・屈化性・屈触性・屈湿性(屈水性)・屈電性などとよばれる。たとえば光の刺激に対して，高等植物の茎は正の屈光性(向日性)を示し，根は負の屈光性(背日性)を示す。一方，重力の刺激に対して，根が正の屈地性(向地性)を，茎は負の屈地性(背地性)を示す。光や重力の刺激に対する茎の屈性は，茎の中でのオーキシン*の分布状態が刺激で変化するためと考えられる。〔吉田精一〕

くっせつ 【屈折】 一般に一様な媒質の中を進む波動がほかの媒質の中にはいっていくとき，媒質の境界面で波の進む方向が変化する現象。屈折は境界面の両側の媒質中での波の速度が異なることによって起こる。媒質が等方的である場合には，いかなる種類の波動に対しても屈折の法則(スネルの法則)がなりたつ。➔波動 〔有山正孝〕





屈　折　①平面での屈折 $n = \frac{\sin i}{\sin \gamma}$
②曲面での屈折 $n = \frac{\sin i}{\sin \gamma}$
ただし，n は屈折率



屈折望遠鏡

【光の屈折】 入射光線と屈折光線とは同一平面内にあり，入射角(入射光と境界面上の法線とのなす角)を i，屈折角(屈折光と境界面上の法線とのなす角)を γ とすると，$\sin i/\sin \gamma = n_{12} =$ 一定　である。n_{12} を第２媒質の第１媒質に対する屈折率という。第１媒質が真空の場合のこの値を絶対屈折率という。いま二つの媒質がともに真空でなく，その絶対屈折率をそれぞれ n_1，n_2 とすると，$n_{12} = n_2/n_1$ の関係がある。

光は電磁波*であるから，以上の法則は波の法線方向についてなりたつと考えられる。第１・第２媒質中の光波の速さをそれぞれ v_1，v_2 とすると，波動論から $n_{12} = v_1/v_2$ が示される。

等方性媒質から結晶のような異方性(方向によって性質の異なること，たとえば，光の進行速度が方向によって違うことはその例)媒質に光が進む場合は，一般に光線は２本に分かれる。これを複屈折*という。〔吉原邦夫〕

くっせつご 【屈折語】 言語の形態的構造による古典的分類法の一。自律語ともいう。語が実質的意味をもつと同時に文法的機能をもおびる言語。したがって，文法的機能が変われば語形も変わる。語形はそれぞれにおいて自律的であり，そのような語形の交替を屈折という。インド-ヨーロッパ語・セム語がその代表的言語とされる。たとえば，ラテン語*の〈Patriam amō(パトリアム アモー)〉(わたしは祖国を愛する)において patriam は〈祖国を〉，amō は〈わたしは愛する〉(直接法現在一人称単数)を意味するように，それぞれがすでに〈を〉，〈わたしは〉にあたる文法的機能を含む。〈祖国〉そのものに相当する語は存在せず，辞書に出る原形 patria も実は〈祖国は(が)〉〈祖国よ〉を意味する。ゆえに Amō patriam としても意味は変わらない。また，amō を amāvī とすれば〈わたしは愛した〉(直接法完了一人称単数)の意味になるが，その場合，英語のような助動詞(I have loved)を必要としない。ラテン語・ギリシア語*などは総合的であるのに反し，英語・フランス語などは分析的言語であるともいわれるゆえんである。19世紀の主としてドイツの言語学者たち(特にA.シュライハー)は，言語の形態変化にダーウィンの進化論的考えを適用して，屈折語が孤立語*から膠着語*(こうちゃくご)を経て発展してきた言語の最上の段階であるとみなしたが，もとより行き過ぎである。屈折語的なインド-ヨーロッパ語において，英語はむしろ孤立語的様相をすら呈するに至っている。屈折語・孤立語・膠着語・輯合語*(しゅうごうご)という分類法は，いずれも言語の形態を部分的にまた皮相的にとらえているにすぎず，あくまで便宜的な方法である。 〔崎山　理〕

くっせつのほうそく 【屈折の法則】 ⇨屈折

くっせつぼうえんきょう 【屈折望遠鏡】 レンズ系を使って遠方の物体の光を集める望遠鏡。望遠鏡の筒の先に取り付けた対物レンズによって遠方の物体の像をつくり，それを直接写真に撮影するか，あるいは接眼レンズによって拡大してみる。倍率は対物レンズの焦点距離と接眼レンズの焦点距離の比で与えられる。接眼レンズに凹(おう)レンズを用いるものをガリレイ式望遠鏡*，凸(とつ)レンズを使う方式をケプラー式望遠鏡*という。現在世界で最も大きい屈折望遠鏡は，アメリカのヤーキス天文台*にあり，口径100cm，焦点距離19mである。➔天体望遠鏡 〔守山史生〕

くっせつりつ 【屈折率】 ⇨屈折

くっそう 【屈葬】 ⇨葬制

くっそくるい 【掘足類】 ⇨ほりあしるい

くったらこ 【倶多楽湖】 北海道胆振(いぶり)支庁，登別(のぼりべつ)温泉の東方にある湖。倶多楽火山の火口湖で，流出口をもたない。面積 5 km²，水面高度260 m，水深147.5 m。急崖(きゅうがい)を巡らした円形の美しい湖で，登別温泉付近の名勝の一つとされる。エゾ

サンショウウオが生息する。支笏洞爺(しこつとうや)国立公園に所属する。

くっちせい【屈地性】⇨屈性

くっちゃん【倶知安(町)】北海道，後志(しりべし)支庁のほぼ中央にあり，虻田(あぶた)郡に属する。後志支庁の所在地で，1916年(大正5)町制施行。人口19,000。付近は北海道でも有名な深雪地帯で，冬は積雪2～3mに達する。南東は羊蹄(ようてい)山，北西はニセコ火山群，北東は余市山地の山々に囲まれた盆地状の地形で，これら山地の間を西へ流れる尻別(しりべつ)川流域の沖積地(ちゅうせきち)と段丘が生活の中心である。山麓(さんろく)は酪農だが，盆地ではおもにジャガイモ・テンサイ・アスパラガスなどをやせた火山灰地を長年の苦心の土改良してつくり，段丘面には水田が開けている。東方の山地には倶知安鉱山*がある。西郊のニセコスキー場付近は温泉も多く，〈東洋のサンモリッツ〉の名で親しまれている。南北に走る函館(はこだて)本線から胆振(いぶり)線が分かれ，国道5号線が通ずる。

くっちゃんこうざん【倶知安鉱山】北海道後志(しりべし)支庁虻田(あぶた)郡倶知安町にある鉄山。推定埋蔵量は約52万t，含有鉄分53.8%の鉱石で年産37,000tを産し，日鉄鉱業の経営になる。鉄鉱石は鉄道で室蘭(むろらん)に運ばれている。

グッドイヤー-タイヤ-ゴム［Goodyear Tire & Rubber Co.］世界最大のゴムメーカーで，おもに自動車タイヤを生産している。工業用品としてVベルト・ホースなどのほかプラスチック製品・航空部品・床材・自動車用車輪なども製造している。乗用車タイヤの開発はめざましく，タイヤの製造にポリエステルコードやガラス繊維を使うことを発案し，またゴムの性能自身も光や空気によって減退されないようくふうした。売上高は業界一，ギリシア・西ドイツ・ブラジル・インドネシアなどに進出している。日本では，ブリヂストンタイヤ・日本合成ゴムが技術導入をしている。本社アメリカ，オハイオ州セントアクロン。年間売上高32億2,000万ドル，従業員数13万4,000(1969)。

グッド-デザイン［good design］工業生産のわく内で，デザイン*の諸要素が完全に融合した社会的に有用なデザイン過程またはその所産をいう。それは，日常生活環境のうちに，清新な時代精神と幸福な人間生活とを造形化することによって，生活様式を確立しようとする活動でもある。

グッド-デザインを普及させようとする運動をグッド-デザイン運動という。モリス*の美術工芸運動，北欧のデザイン運動，ドイツ工作連盟の運動などの近代デザイン運動を経て，今日，グッド-デザインを求めようとする運動が世界的に活発になってきている。わが国でも，1957年(昭和32)以降デザインの振興を目的に，通商産業省がグッド-

グッドマン





グッピー



クツワムシ
雄

デザインの普及をめざしている。通産省では，市販品の中から，特に優良なデザインの商品に，グッド-デザイン証紙(Gマーク)を貼付(ちょうふ)して販売することを認め，メーカーと消費者に対する啓蒙(けいもう)に努めている。Gマークの選定対象は，おもに工業化された一般家庭用品と一般事務用品となっている。したがって，一般的には，Gマークのはってあるものは，グッド-デザインであると考えてよい。

グッドマン［Benny Goodman］(1909～　)アメリカのジャズ-クラリネット奏者。〈スイング王〉の名で知られる。シカゴの生まれ。12歳のときプロ入りし，ベン-ポラックに見いだされて1920年代の後半は彼のバンドで演奏し，ジャズ界に知られるようになった。1934年に自己のオーケストラを率いてNBCのラジオ番組に連続出演，若者のダンス熱と結びついて大あたりし，一躍人気バンドとなって，スイング-ジャズ*の流行をもたらした。彼のバンドからはハリー-ジェームス・ジーン-クルーパらの人気者も多数生まれている。1938年にはカーネギー-ホールでの初のジャズ-コンサートが大成功を収めた。彼の全盛期は1930年代中期から1950年代前半にかけてであり，近年はあまり目だった仕事をしていない。代表的演奏に《レッツ-ダンス》《あなたの想(おも)い出》などがある。クラシックの演奏も得意にしている。〔岩浪洋三〕

グッピー［guppy］硬骨魚類・タップミンノー科の淡水魚。雌雄で大きさが著しく違い，雄は全長3cm余り，雌は5cm近い。体型はメダカとほとんど同じ。雌の体色は淡かっ色でメダカに似るが，雄はにじのような7色に輝くもの，多くの色が混じり合ったものなど多様であり，ひれの形もきわめて大きく広がったものなどがあり多様である。雄の臀(しり)びれは変形して交尾器となっている。したがって体内受精が行なわれ，卵は雌の体内で孵化(ふか)し，子魚の姿になってから生まれ出る。南アメリカのベネズエラ・トリニダード・バルバドスなどが原産地であるが，古くから観賞用熱帯魚として全世界に輸出され，日本でも最もポピュラーなものとして親しまれている。じょうぶで，観賞用の小形水槽(すいそう)の中でもよく繁殖する。品種改良が進み，ひれの形・色彩などが限りなく変化しつつある。伊豆(いず)や長野の温泉地では，温泉の廃水路で完全に越冬・繁殖している。〔菅野　徹〕

グーツヘルシャフト［Gutsherrschaft］15～16世紀以降，エルベ川以東の東ドイツで成立した土地制度。この地域は12～13世紀ごろに行なわれた東方植民によって開かれたところで，農民ははじめ比較的自由な状態に置かれていた。しかし，15～16世紀に封建領主の権力が強化されると，領主は農民保有地を取り上げて直営地に合併し，農民の賦役労働を強化して農奴化を進め，西ヨーロッパ市場を対象に穀物生産を行なう大農経営を始めた。これがグーツヘルシャフトで，農奴制が解体しつつあった西ヨーロッパとはまったく逆な傾向を示した。グーツヘルシャフトを基盤とする支配層がプロイセンの政治・軍事を独占し，保守勢力の中心となった。➔ユンカー〔松　俊夫〕

グーツ-ムーツ［Johann Christoph Friedrich Guts Muths］(1759～1839)ドイツの教育家・体育家。プロイセンに生まれ，ハレ大学を卒業。1785年ドイツの汎愛(はんあい)派教育家ザルツマン*の創立した学校の教師となる。当時の学校が身体教育のない点を指摘し，体育を学校教育体系の中に入れた先駆者。主著《青年のための体操》。

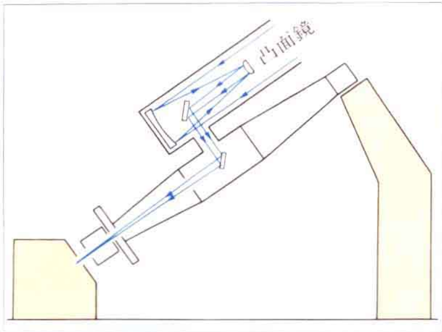
くつわ【轡】馬具の一。〈くつばみ〉〈くくみ〉ともいう。銜(はみ)という口金をウマの口にくわえさせ，その両端につけた手綱を引いて，鞍(くら)の上からウマをあやつる。銜と手綱をつなぐのに引手(ひって)という長い金具があり，別に面掛*(おもがい)を受ける金具がある。その大形のものを鏡といい，古来いろいろな装飾をつけた。鏡の形により杏葉轡(ぎょうようくつわ)・十文字轡などがあったが，室町時代からは透轡(すかしくつわ)になった。

くつわむし【轡虫】こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。大形で，翅端までの長さ50～70mm，体色には緑色型とかっ色型の2型がある。頭頂は非常に幅広く，やや前方に突出し，末端は丸い。前胸背は短

く，扁平(へんぺい)で後方が著しく幅広い。雌の産卵管は体長よりもやや短く，細く多少湾曲して先端がとがる。関東地方以西，四国・九州のほか，台湾から東洋熱帯地方に広く分布する。日本では成虫は8～9月に出現し，古くから秋の代表的な鳴く虫として庶民に親しまれてきた。その鳴き声から，俗にガチャガチャともよばれる。

グティエレス-ナヘラ ［Manuel Gutièrrez Nájera］（1859～1895） メキシコの詩人。年少より創作活動を始め，〈近代派〉の革新的な文学運動の先駆者となった。死後まとめられた《詩集》《恋と涙》などの代表作には，時代の憂愁，苦悩を繊細で典雅にうたっている。

クーデしきぼうえんきょう 【クーデ式望遠鏡】 対物レンズ(または反射鏡)で集めた光を，数枚の鏡を使って赤道儀*の極軸の中を通し，極軸の末端の固定した場所に像を結ぶ方式の天体望遠鏡。この方式を用いれば，観測しようとする天体の方向によって望遠鏡の姿勢が変わっても像はつねに同じ場所に生ずる。実験室内の大形分光器に天体の光を導く場合にはこの方式を使用する。



クーデ式望遠鏡

クテシフォン ［Ctesiphon］ パルチアおよびササン朝の首都。バグダットの東南32kmのチグリス川左岸にある。イスラムの侵入とともに廃墟(はいきょ)となり，現在では高さ37mに及ぶれんが架構のボールト建築(イワン)が残る。ホスロー1世の宮殿の一部といわれ，当時の隆盛をしのばせる。

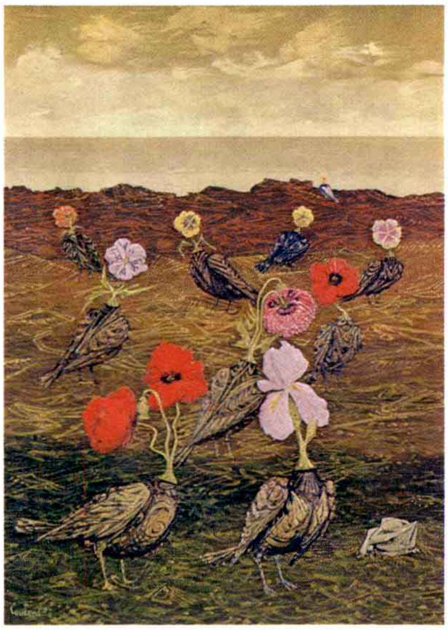
クーデター ［coup d'État］ 支配階級の一部が既存の体制内において，その権力*のわく内で非合法的に武力的奇襲によって権力を奪取することをいう。クーデターは体制変革をめざすものではない点で革命*と異なる。それは体制内における権力闘争の一種であるが，体制の危機に際してはその危機の収拾を目的として体制擁護のために行なわれる場合もある。クーデターによって実現される政権は軍政*であるのが普通であり，軍事的独裁が行なわれる。クーデターは，民主主義が確立されていない政治的に不安定な後進国に多い。 〔西尾孝司〕

くてん 【句点】 ⇨句読点(くとうてん)

くでん 【公田】 ⇨こうでん

グーテンベルク ［Johann Gutenberg］（1398ごろ～1468） ドイツの活版印刷の創始者。マインツの貴族に生まれる。1430～1444年のシュトラスブルク滞在中に印刷術の発明を始めたといわれる。金銀細工師のフストとともに印刷工場を設け，天文暦や免罪符，さらには聖書の活字による印刷を行なった。活字印刷による最初の聖書である《42行聖書》《36行聖書》は有名である。彼の事業が破産した後，フストとフストの養子のシェッフェルが，活字の鋳造法の改良にあたった。→印刷(図) 〔山崎俊雄〕

クーデンホーフェ-カレルギ ［Richard Nikolaus Coudenhove-Kalergi］（1894～1972）オーストリアの政治思想家。EECの母体ともいうべき汎(はん)ヨーロッパ主義の提唱者。日本人を母として東京に生まれた。第2次世界大戦前，ブリアン*らと汎ヨーロッパ連盟を結成して活動したが，オーストリアがナチス-ドイツに併合されたためスイスにのがれ，さらにアメリカに亡命した。第2次世界大戦後も，汎ヨーロッパ主義のもとにヨーロッパの統合を実現しようとして活躍した。



クートー《花の頭の鳥》 1958

クートー ［Lucien Coutaud］（1904～ ） フランスの画家。ニームの美術学校に学ぶ。のちパリに出て装飾美術学校，モンパルナスの自由美術研究所に通い，シュルレアリスムの運動にも接する。サロン-ド-メ創立会員。室内装飾および壁掛けの図案などにもすぐれている。

くど 【苦土】 酸化マグネシウム(MgO)の工業的名称。マグネシアともいう。白色の粉末。マグネサイト(炭酸マグネシウム)を焼成するか，海水に石灰やドロマイトの焼成物を加えて，水酸化マグネシウムを得，さらにこれを焼いてつくる。耐火物の原料や，マグネシウム化合物の原料としたり，塩化マグネシウムとともにマグネシアセメントの原料として使われる。

ぐどう 【求道】 仏教で悟り*を願い求めて修行に励むこと。〈きゅうどう〉とも読む。求道を願う心を求道心または菩提心(ぼだいしん)などという。善知識(法の上の導き手)なしで悟る場合もあるが，多くの場合人格的感化によって求道は達成される。なお，他国に遊学して法を求めることをいう〈求法〉も，同じ意味で用いられる。

くどうすけつね 【工藤祐経】（？～1193） 鎌倉(かまくら)初期の武将。伊豆(いず)(静岡県)の人。祐継の子。従兄伊東祐親(すけちか)と所領を争い，その子祐泰(すけやす)を殺した。頼朝の寵(ちょう)を受けたが，1193年(建久4)富士野の巻狩りのとき祐泰の子祐成・時致(ときむね)(曾我(そが)兄弟*)から報復を受けて殺された。和歌や舞楽に通じていた。

くとうてん 【句読点】 文の切れめや続きぐあいをはっきりさせ，文章の構造や語句の関係を明らかにし，読み誤りのないよ

句読点の種類と用法

〔主として縦書きの場合のもの〕

- 。 まる(白まる・句点)
  文の終わり(「 」や( )の中でも)のほか，〈こと〉〈もの〉〈とき〉〈場合〉などで終わる項目の列挙に用いる。ただし，題目・標語など，簡単な語句を掲げたり，事物の名称だけを列記したりする場合には用いない。
- 、 てん(読点)
  対等に列記する同種類の語句の間，文のはじめに置く接続詞や副詞のあと，叙述に限定を加え，条件をあげる語のあと，語句を隔てて限定修飾する語句，または並べた語句のあと，叙述の主題を示す〈は〉〈と〉などのあと，感動詞・呼びかけ・返事などの語のあとなどに用いる。
- ・ なかてん(黒まる)
  名詞を並べたり，日付・時刻・呼号などを略して表わしたりする場合に用いる。
- 「」 かぎ 『』 二重かぎ
  会話，または語句を引用するとき，あるいは特に注意をひく語句をさしはさむ場合に用いる。二重かぎは，かぎの中にさらに引用するとき，また書名・作品名であることを表わすのに用いる。

〔主として横書きの場合のもの〕

- . ピリオド(とめ) (。にあたる)
- , コンマ(くぎり) (、にあたる)
- : コロン(二つ点)
- ; セミコロン(大くぎり)
- “ ” 引用符 ‘ ’ 一重引用符
- ’ アポストロフィー
- ( ) 横がっこ ［ ］ 角がっこ

〔補助的なもの〕

- … 点々 …… 点線 —— 中線
- 、、、わき点 —— わき線 = つなぎ
- - ハイフン(つなぎ) — ダッシュ
- ? 疑問符 ! 感嘆符

うにするために用いられる文字以外の符号。くぎり符号ともいう。句読点とは，話すときや口に出して読むとき，息がまったく切れて，次に新たに始まる境めを〈句〉，息を休めていう便宜の途中の切れめを〈読(逗(とう))〉といい，それらを示す符号を句点(。)，読点(、)ということから出た名称である。一般にはこの二つだけをいうが，そのほかの表記上の符号，かっこ・疑問符・感嘆符・くり返し符号(おどり字)などをも含めていうことが多い。句読点の用い方が句読法である。日本語の表記では，活用語の終止形や終助詞が文末を表わし，漢字混じり文の漢字が語句のまとまりを示すので，句読点は明治以前はあまり問題にされなかったが，現代文ではかな書きの部分が多くなり，読み誤られないためにその必要が重視されるようになった。句読点の発生は，漢文訓読のため，訓点の一種としてつけられたことに始まり，もっぱら読解のためのものであったが，近年は表現にも使われるようになった。句読点は読み手が正しく，容易に読み取るためのものであると同時に，書き手にとっては読み手に正しく，やさしく読み取ってもらうためのものである。
➔表記法　➔おどり字　〔石黒　修〕

くどき【口説】 邦楽の用語。①平曲では，重要な旋律パタンの一つで，一つの核音を中心に，その4度上の音にときどき移りながら，速いテンポで歌っていくものである。1音節に1音符があてはめられることが多い。②能では，慕情や傷心の歌詞をもつ部分で，弱吟の音階，拍子合わずのリズムをもつ。③三味線(しゃみせん)音楽の聞かせどころで，だいたい曲の半ばに置かれる。能と同じく詠嘆的な歌詞をもち，しんみりと歌い，一つの音節をゆっくり延ばすことが多い。長唄(ながうた)《小鍛冶(こかじ)》の〈打つといふそれは夜さむの麻ごろも〉の箇所がその例。義太夫節(ぎだゆうぶし)では，〈さわり〉の名でよばれているものがこれにあたる。たとえば，《壺坂霊験記(つぼさかれいげんき)》の〈三つ違いの兄さんと〉など。④民謡では口説節ともいわれ，物語としてのまとまりをもつ長いものをさし，瞽女(ごぜ)の芸として今日に残っている。〔徳丸吉彦〕

くどく【功徳】 断食・祈禱(きとう)・喜捨などや，念仏・読経(どきょう)・題目を唱えたりする善行の結果，神仏から得られる果報のこと。しかし，真実の功徳は自己の行為が自然に備わって身につく結果をいうのであって，目に見える利益をさしていうのは俗な見方である。中国，梁(りょう)の武帝が，〈多くの寺院を建て,写経などをした功徳はどのぐらいか〉と達磨(だるま)に尋ねると,〈無功徳〉と答えたが,実利的なものを求める誤りを指摘した逸話として有名。〔石上善応〕

ぐとく【愚禿】 愚昧(ぐまい)な禿頭の略。愚はけんそんのことば，禿は剃髪(ていはつ)して頭髪のないさま。《涅槃経(ねはんぎょう)》では〈戒を破り法をまもらざるを禿居士(とくこじ)と名づく〉と定義している。また，親鸞(しんらん)の自称でもある。親鸞は1207年(承元1)越後(えちご)(新潟県)流罪の際，〈非僧非俗(もはや正式の僧でもなく，さればといってまったくの俗人でもない)〉と宣言し，これ以後〈愚禿釈親鸞〉と自称した。〔坂東性純〕

グードずほう【グード図法】 ⇨地図

くどづくり【くど造り】 佐賀県の南部から長崎県の東部にかけての旧鍋島(なべしま)藩領に多く見られる住家の形式で，鉤屋(かぎや)の一。草屋根がコ字状になっている形からこの名がある。中央の凹部(おうぶ)はかわらぶきになっている。ロ字状(漏斗状)になったものもあり，中央に集まった雨水は屋内を貫通した雨といで排水している。

くどひりょう【苦土肥料】 マグネシウム分の欠乏した土壌(どじょう)に用いる苦土を主体とした肥料をいう。マグネシウムは植物の必須成分であるが，わが国の耕地にはこの欠乏土壌が多く，約16万ヘクタールといわれている。一方，マグネシウムを豊富に含むジャモン岩は国内に広く分布しているが，そのままでは植物に吸収されないため，加工処理が必要である。苦土肥料のうち，ジャモン岩を原料としているものには溶成リン肥・苦土過リン酸石灰・硫酸苦土肥料・加工苦土肥料・腐植酸苦土肥料がある。また製塩副産物のにがりを利用する硫酸苦土・水酸化苦土・炭酸苦土がある。なお，溶成リン肥と同様に多量の苦土資材として扱われるものに苦土石灰や苦土含有のケイ酸カルシウムがある。わが国の苦土肥料の耕地への年間投与量は12万t程度で，今後増加する見込みである。〔早瀬達郎〕

グードルーン 中世ドイツの英雄叙事詩で，《ニーベルンゲンの歌》と並び称される。吟遊詩人が，13世紀の初めに北ドイツのヒルデ伝説を主とし，これに中部ドイツのハーゲン伝説をからませて構成したもの。ゼーラントの王子と婚約したヘーゲリンゲンの王女グードルーンは，ノルマンジーの王子に略奪されたが，13年の間操を守り通し，めでたくゼーラントのヘルウェーク王子との結婚を実現する。

グナイスト [Rudolf von Gneist] (1816～1895) ドイツの公法学者。ドイツ憲法学・行政法学の形成・発展期の代表的学者のひとりであり，特にイギリス憲法史および自治制の著書は今日でも古典的文献となっている。明治憲法制定に際して伊藤博文(いとうひろぶみ)がドイツで親しくその話を聞き，天皇主権の憲法起草に確信をもった。その後も政府当局者があいついで教えを受け，その門下のモッセは日本政府に招かれ，自治制度の創設にあたった。〔鈴木安蔵〕

グナイゼナウ [August Neithardt von Gneisenau] (1760～1831) プロイセンの軍人。イエナの戦いに敗れたのち，シュタインやシャルンホルストらとともに軍制改革を実施し，プロイセン軍の近代化を図った。1813年のライプチヒの戦い(解放戦争)で，ナポレオン1世の軍隊に痛撃を与え，さらに1815年のワーテルローの戦いにも参加して，フランス軍を撃退した。のち元帥になった。

くないちょう【宮内庁】 皇室関係の国家事務と天皇の国事行為に関する事務，および御璽(ぎょじ)(天皇の印鑑)・国璽(日本国の印鑑)の保管をつかさどる行政機関。第2次世界大戦後の新憲法下で行政組織に組み込まれ，総理府の外局となった。内部部局として長官官房のほかに侍従長以下の諸官員がおり，長官と侍従長は天皇の認証を受ける認証官である。

クーナウ [Johann Kuhnau] (1660～1722) ドイツの作曲家。美声に恵まれ,早くから音楽家を志し，オルガンや作曲を学んだ。24歳でライプチヒの聖トーマス教会のオルガニストになり，1701年同教会の合唱長になった(彼の死後この地位はバッハに引き継がれた)。また〈コレギウム=ムジクム〉という演奏団体をつくり，ここで多くの作品を指揮した。《新クラビア練習曲》《ソナタ集》《聖書ソナタ》などの作品は，バッハらのちの時代の作曲家に大きな影響を与えた。〔船山　隆〕

くなしり(島)【国後】 千島(クリル)列島最南端の島で，千島火山帯に属する火山島。面積1,550km^2。沿岸は冬季結氷し，夏季は霧が多い。南は北海道の根室湾，北東はクナシリ水道でエトロフ(択捉)島に対している。最高峰はチャチャヌプリ(茶々岳，1,822m)。ラウス(羅臼)山とトマリ(泊)山はイオウを産出する。農業は不振であるが，サケ・マス・ホタテガイの漁獲が多い。近世になって日本人出漁民が漁季にマス漁を営み，江戸時代末期には松前藩の直轄地となった。明治以後,トマリ(泊)・トウフツ(東沸)・フルカマップ(古釜府)などの集落ができた。1945年以後ソ連が占領して，サハリン州に属しているが，日本は南千島の一部に属するとして，領有を主張している。
➔千島列島　〔大崎　晃〕

クナッパーツブッシュ [Hans Knappertsbusch] (1888～1965) ドイツの指揮者。ケルン音楽院を卒業後，1913年からエルバーフェルト，1918年からライプチヒの各歌劇場の指揮者となり，1922年にはワルターの後任として，ミュンヘン歌劇場の指揮者となった。1937年以降ウィーン国立歌劇場の指揮者となり，第2次世界大戦後はザルツブルク音楽祭・バイロイト音楽祭を中心に客演指揮者として活躍した。1963年にほぼ引退した。ワーグナーとブルックナーの指揮者として名声が高い。〔向坂正久〕

くなどのかみ【岐神】 ⇨塞神(さえのかみ)

くにいっき【国一揆】 南北朝・室町時代に，国衆・国人・国民などとよばれる在地領主層が自己の領主権を守るために荘園(し

(ようえん)制のわくを越えて地域的に連合し，守護大名と抗争した一揆をいう。1353年(正平８・文和２)若狭(わかさ)(福井県)の国人が守護山名時氏を追放し，1377年(天授３・永和３)越中(富山県)の国人が守護代と抗争するなど，国人衆の勢力は事あるたびに守護大名の一国支配と衝突した。1485年(文明17)に起こった山城国一揆は当時山城で対陣していた畠山義就(はたけやまよしなり)・政長(まさなが)の軍勢を国外に追放し，８年にわたって国人の自治的な支配が行なわれた。新たに成長してきた戦国大名が，国人衆を家臣団に組織化することによって国一揆もしだいに消滅した。　〔鈴木英雄〕

くにうみしんわ　**【国生み神話】**　日本神話の一。イザナギノミコト・イザナミノミコトはオノコロ島に八尋殿(やひろどの)をつくり，天御柱を行き巡り会って唱和し，交わって大八洲(おおやしま)を生んだ。《古事記》によれば，淡路島・四国・隠岐(おき)島・九州・壱岐(いき)島・対馬(つしま)・佐渡島・本州の順に生んだという。天御柱はもと高い樹木で，大地の生産力を象徴する。古代には，地母神を代表する巫女(みこ)が男性を選び，聖木を巡らせて婚媾(こんこう)の呪術(じゅじゅつ)的祭儀を修し，これを豊饒(ほうじょう)を祈念する行事とし，これが大八洲を生んだという神話を創造したものと思われる。　〔宮井義雄〕

くにえず　**【国絵図】**　江戸幕府が諸大名に命じて作成・提出させた国単位の地図。1605年(慶長10)・1644年(正保１)・1697年(元禄10)・1830年(天保１)の４回提出させた。一国の地図の大きさはおおよそ畳６～10畳敷きくらいの大きいもので，大国は何枚かに分かれていた。国郡の境域・村里・街道・河川・山岳などを彩色で図示している。これによって国郡の境界が明瞭(めいりょう)になり，各領主の所領の範囲を確定させ，幕府の権力を全国的に浸透させるに役だった。現在，内閣文庫に元禄(げんろく)・天保(てんぽう)のときの原本が約150舗(ほ)残存する。人文地理・藩制史の貴重な資料である。　〔岡山泰四〕

くにえだかんじ　**【邦枝完二】**　(1892～1956)　小説家。本名莞爾(かんじ)。東京麹町(こうじまち)の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学・東京外国語学校をいずれも中退，時事新報社・帝劇文芸部などに勤めたのち作家となる。《お伝地獄》などエロティックな時代小説を数多く書いた。

くにえだしろう　**【国枝史郎】**　(1888～1943)　小説家。長野県茅野(ちの)市の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科在学中，数編の戯曲を発表したが，中途退学して大阪朝日新聞社に入社。のち退社して時代小説を書きはじめた。《蔦葛木曽棧(つたかつらきそのかけはし)》《神州纐纈城(しんしゅうこうけつじょう)》など，妖異(ようい)な伝奇性に満ちた作品が多い。

くにがえ　**【国替】**　江戸時代，幕府が大名の領地を替えること。転封または移封ともいった。国とは領国，すなわち領地を意味する。大名の統制策としてすでに豊臣(とよとみ)氏が行なったが，特に江戸幕府成立の初期に多く行なわれ，大名自身の希望によるものもあったが，多くは功過による賞罰として加封・減封された。除封の場合は国替とはいわず，改易といった。これらは幕藩体制の維持強化のためで，親藩や譜代大名は軍事上・経済上・交通上の要地に，外様(とざま)大名は遠隔の地に配置された。また譜代大名は比較的移封が多かったが，九州や東北の外様大名のうち島津・相良(さがら)・大村・鍋島(なべしま)・南部・津軽の諸氏などのように国替が一度もないものもあった。家臣は当然主君に随行して移動したが，百姓は移動を禁止された。なお，平安時代にも，国司の希望によってその任国を振り替えることを国替とよんだ。　〔岡山泰四〕



国木田独歩

くにかかすじんぐう　**【国懸神宮】**　⇨日前国懸神宮(ひのくまくにかかすじんぐう)

くにきだどっぽ　**【国木田独歩】**　(1871～1908)　詩人・小説家。千葉県銚子(ちょうし)市の生まれ。本名哲夫(てつお)。幼名亀吉(かめきち)。少年時，裁判所に奉職した父の転任に伴い，中国地方の町を転々とする。1887年(明治20)上京，東京専門学校(現在の早稲田(わせだ)大学)に入学，キリスト教の洗礼を受ける一方，吉田松陰などを熟読したが退学。その後は新聞記者・教師を経て，日清(にっしん)戦争の際に国民新聞の従軍記者となり，《愛弟通信》を同紙に連載，好評を得た。帰還後，佐々城信子(さざきのぶこ)と恋愛し結婚，５か月後の信子の失踪(しっそう)にいたでを受けた。その年田山花袋と知り合い，花袋らとの合詩集《抒情詩(じょじょうし)》に処女作の《源叔父(げんおじ)》を発表した。生活の辛苦は多かったが，その中で《忘れ得ぬ人々》《武蔵野(むさしの)》《牛肉と馬鈴薯(ばれいしょ)》などの名作を残している。また，《独歩集》《運命》の作品集を出版し，文壇に新生面を開くものとしてしだいに注目された。肺結核により37歳で病没。晩年の代表作に《窮死》《竹の木戸》があるが，わが国の自然主義文学の先駆としての地歩は大きい。　〔木村幸雄〕

くにさき　**【国東(町)】**　大分県北東部，東国東郡の町で，国東半島の東岸にある。人口18,000。1954年(昭和29)に，国東町ほか２町３村が合併して生まれた。米・麦・タバコ・シチトウイ(七島藺)を栽培し，最近はミカンもつくりはじめている。鶴川(つるかわ)は東国東郡の中心集落である。鉄道はなく，日豊本線の杵築(きつき)駅へバスが通じている。

くにさきはんとう　**【国東半島】**　大分県北東部，周防灘(すおうなだ)に突出する半径約20kmのほぼ円形の半島で，中心に火山である両子(ふたご)山(721ｍ)がある。両子山の斜面は開拓が進み，山頂から放射状に伸びる侵食谷は山麓(さんろく)に氾濫原(はんらんげん)をつくっており，おもに米作が行なわれている。北部の海岸には海食洞(かいしょくどう)や琵琶崎(びわざき)・亀崎(かめざき)の海食崖(かいしょくがい)などの奇勝が多く，南部の海岸は住吉浜(すみよしはま)・奈多八幡(なだはちまん)の砂浜や海岸段丘が発達している。また，両子山および北の文珠(もんじゅ)山一帯は瀬戸内海国立公園に指定されている。南東部ではシチトウイ(七島藺)が，北西部ではタバコが栽培され，最近は山麓にミカン園も造成されている。半島の基部を日豊本線と国道10号線が走り，国道213号線が海岸沿いに半島を一周し，また東部の国見町竹田津から山口県の徳山市へフェリーボートが就航している。かつてこの地は８世紀初めに天台宗による仏教文化が栄え，豊後(ぶんご)高田市にある富貴(ふき)寺をはじめ古寺が多く，また，この地独自の宝塔である石造の国東塔があり，特に北部の香々地(かかじ)には多くの塔が見られる。東部には条理制の施行されたことが推定されるところもあって，半島の歴史の古さを物語っている。いま，半島の西部には豊後高田市が，南部に杵築(きつき)市があるが，杵築市は大分新産業都市に編入されており，工業の少ない半島にあって工業都市への脱皮に力が注がれている。　〔味沢成吉〕

くにさだちゅうじ　**【国定忠次】**　(1810～1850)　江戸末期の博徒(ばくと)。1810年(文化７)上野(こうずけ)(群馬県)佐位郡国定村の中農に生まれた。本名長岡忠次郎。17歳ごろから博徒となり，近村になわ張りを広げた。1834年(天保５)賭場(とば)のいざこざから島村の伊三郎(いさぶろう)を殺し，勢力を伸ばした。1842年上州の本拠を役人に襲われたのちは，しだいに子分も散り，1850年(嘉永３)８月，中風を病んで捕われ，同年12月，犯罪地の大戸の関で磔(はりつけ)に処せられた。芝居・講談・映画に見る侠気(きょうき)のすべてを否定することはできないが，死刑時の判決文によれば，大規模なばくちや賭場荒らしをして，何度も凶状旅に出ており，忠次が農民の味方のように扱われているのはいずれも作り話である。　〔稲垣史生〕

くにしゅう　**【国衆】**　南北朝・室町時代に国人・国民などとよばれた在地領主たちの団結体。国人衆ともいう。鎌倉中期以降，農民層の成長に伴って惣(そう)が結成されるようになると，これに対応してそれまで一村一荘の中に孤立していた在地の中小領主は，地域的に結集し，また守護大名の支配

に対して一国的な規模で一揆(いっき)を起こしてみずからの領主権を確保しようとした。こうして徳政一揆・一向一揆・国一揆など下克上の勢力は大名領国制に侮りがたい脅威となったが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に始まる近世覇者(はしゃ)の検地・刀狩りによって抑圧された。〔鈴木英雄〕

クニース［Karl Gustav Adolf Knies］(1821～1898) ドイツの経済学者。ロッシャー・ヒルデブラントとともにドイツ歴史学派を代表するひとり。経済学は歴史的発展過程にある国民の経済生活を研究対象とするものであり，国民生活に関する他の学問と相互に影響し合いながら発展すべきであることを強く主張した。また経済学の理論は歴史的発展の産物であり，古典学派の説くような理論の普遍性や絶対性は承認できないとして，理論の相対性を強調し，歴史的・実証的な研究によってのみ経済学理論が構成されると説いた。このような主張は，歴史学派の経済発展段階説の基礎にある普遍性を否定するものであり，のちにドイツ新歴史学派形成の契機となった。〔松浦 保〕

くにたち【国立(市)】 東京都西部の市。江戸時代は甲州街道に沿って谷保(やほ)・青柳(あおやぎ)などの列村があり，関東大震災後，東京商科大学(現在の一橋大学)の設立をきっかけに計画的な学園都市に発展した。1951年(昭和26)に北多摩郡谷保村が町制を施行して国立町となったが，この町名は1926年(大正15)に谷保村に駅を新設したとき，国分寺駅と立川駅の中間にあるというのでつけられた中央線国立駅からとったもので，地名よりも駅名がさきというのは珍しい例である。1967年市制施行。人口63,000。多摩川中流流域の段丘上にあり，南の多摩川沖積地(ちゅうせきち)には水田地帯が広がる。国電南武線と国道20号線(甲州街道)がほぼ中央を走り，国電中央線が北端を，南部には中央高速道路が東西に走って，府中市寄りに国立府中インターチェンジがある。産業三大別人口比は1：28：71で，近代工業は電気機器や食品などの工場があるにすぎない。一橋大学のほかに国立音楽大学があり，日本住宅公団の富士見台団地をはじめ団地も多く，文教住宅都市の色彩が強くなっている。

くにたまのかみ【国魂神】 国土の精霊を神として対象化した存在。《延喜式》の〈神名帳〉によればクニタマノカミを祭る神社が諸国に存し，《日本書紀》にも大和(やまと)(奈良県)のクニタマノカミを大和神社に祭ったことが伝えられている。出雲(いずも)(島根県)のクニタマノカミは出雲大社の祭神とされ，また，オオクニヌシノカミの別名がオオクニタマノカミといわれる。これは国土の精霊であるクニタマが国土の主としての神に進化したことを裏書きするものであろう。クニタマが人格化してクニタマノカミとなり，クニヌシノカミの性格をもつに至ったと解せられる。〔宮井義雄〕



国立市 中央線国立駅と駅前から延びる放射状道路。南へ延びる街路樹のある大通りの右側の森は一橋大学のキャンパス

くにつかみ【国神】 日本神話で高天原(たかまがはら)を本居とする天神(あまつかみ)に対し，大八洲(おおやしま)，つまりこの地上を本居とする神。地祇とも書く。➔天神地祇

くにつつみ【国津罪】 ⇨天津罪(あまつつみ)・国津罪

クニッピング［Erwin Knipping］(1844～1922) 明治初年に来日したドイツ人の御雇(おやとい)外国人。日本における天気予報および暴風警報の事業を創始した。ドイツのクレフェの生まれ。オランダのアムステルダム商船学校卒業後プロシア海軍にはいり，のち汽船クーリエ号の乗組員として1871年(明治4)来日，下船して開成学校で数学を教えた。1872年より自宅で日本人を助手として気象観測をはじめ，1882年より地理局の雇として天気予報・暴風警報業務創立の事務を担当した。翌1883年2月には日本ではじめての天気図をつくり，同年5月26日にはじめて暴風警報を出した。天気予報が発表されるようになったのは翌1884年6月からのことである。1891年に満期解雇され，帰国しハンブルクの海洋気象台に助手として勤めた。1922年(大正11)11月22日キールで没した。〔根本順吉〕

くにとこたちのみこと【国常立尊】 日本神話の神。《日本書紀》では天地開闢(かいびゃく)の最初に現われる。日本国家の常住不滅を象徴する神格とみられる。しかし，クニトコタチノミコトを祭る神社はどこにもなく，この神は朝廷において観念的にのみ存在しえた神格と考えられる。

クニドス［Knidos］ 小アジア南西岸の古代ギリシア植民市。ドリア人の建設になると考えられる。海上交通の要地で，紀元前6世紀にはエジプト・南イタリアとの貿易で繁栄した。一時ペルシアの支配下にあったが，紀元前5世紀に独立してデロス同盟に加入。ローマ時代には属州アシアの自治都市となった。この間，医学・天文学・歴史学などの諸学の発達をみた。特にプラクシテレスのアプロディテ像は有名である。15世紀以降トルコ領である。〔高山高雄〕

くにとみ【国富(町)】 宮崎県東諸県(もろかた)郡の町で，宮崎市の北西に接する。人口20,000。1956年(昭和31)に本庄(ほんじょう)町と八代(やつしろ)村が合併して生まれ，1957年に木脇(きわき)村を編入した。米作を主とする農業のほか，キュウリ・トマトの促成栽培が盛んで，特産物として本庄紙がある。本庄・八代地区には古墳がきわめて多い。

くにともとうべえ【国友藤兵衛】(1778～1840) 江戸末期の鉄砲鍛冶(かじ)・科学者。号は一貫斎。近江(おうみ)(滋賀県)坂田郡国友村は室町時代から鉄砲鍛冶の村として栄え，藤兵衛家は代々年寄の次席に列する家格であった。17歳で家督を継ぎ鉄砲製作に励んだが，かたわら文政の初め空気銃を発明。また，天保(てんぽう)のころ望遠鏡をつくって天体を観測し，太陽の黒点に関する日誌を残している。

くになかのむらじきみまろ【国中連公麻呂】(？～774) 奈良時代，東大寺大仏造立の際に造仏長官として活躍した。百済(くだら)から帰化した国骨富の孫。758年(天平宝字2)居住地にちなみ国中連姓を賜わった。東大寺大仏の制作については，〈大仏師従五位上国公麿〉とその名が記されていることから，造仏者としてよりは行政官として手腕を発揮したのではないかと推測される。

くになかへいや【国中平野】 新潟県の佐渡島にあり，北は大佐渡山地，南は小佐渡山地にはさまれた長さ12km，幅8kmの地溝帯(ちこうたい)。北東部の加茂湖は1904年(明治37)に両津湾に人工的に湖口を開いた塩水湖で，湖の北側に両津市の市街地が広がり，両津港は佐渡空港とともに島の表玄関となっている。平野の中央を南西に流れる国府川は南西部の真野湾に注いでいる。平野は整然と区画された水田が開けて米の産出が多く，島内の需要を満たし，その一部は佐渡米として移出される。ここには，順徳上皇の真野御陵をはじめ多くの史跡があって，訪れる観光客も多い。〔味沢成吉〕

くにのみこともち【国司】 ⇨こくし



国吉康雄
《横たわる女》 1929
ブリヂストン美術館蔵

くにのみや【恭仁宮】 恭仁京とも書く。聖武(しょうむ)天皇が740年(天平12)～744年まで3か年余り京都府相楽郡加茂町瓶原(みかのはら)付近に定められた都。天皇は藤原広嗣(ひろつぐ)の反乱を心痛され，地方行幸中であったが，右大臣橘諸兄(たちばなのもろえ)に命じて急いで都をつくらせ，未完成のままに翌年正月，天幕のままで元日の儀式を行ない，5位以下の官吏を強制的に移住させた。さらに平城京*の市を移らせ，宮殿を移建させるなど大規模な工事を実施させたが，743年にはついに造営を中止し，紫香楽(しがらき)宮*(滋賀県)へたびたび行幸，さらに難波(なにわ)京*(大阪市)へ遷都した。746年には大極殿を山城(京都府)国分寺に施入されたが，いまその金堂と塔の跡にはりっぱな礎石が残っている。〔坪井清足〕

くにのみやつこ【国造】 律令(りつりょう)制*以前の地方官。もと独立していた地方小君主や大和(やまと)朝廷*から派遣された者が世襲的にその地位につき，国内の人民を半独立的に支配した。大化改新の際廃止されたが，多くは郡司*として旧来の地位を保った。その後も律令国造という国内の神祇(じんぎ)を祭る国造が置かれ，その代表的な家がらとして，和歌山県の紀(き)国造家，島根県の出雲(いずも)国造家がある。

くにはかせ【国博士】

1 大化改新のとき，新制度整備のために設置した政治顧問。唐から帰朝した僧旻(びん)・高向玄理(たかむこのくろまろ)が任ぜられた。

2 律令(りつりょう)制下に設けられた国学*の教官。国ごとに1名ずつ置かれ，学生の教授・課試(官吏登用試験)および外国使臣の応接にあたった。

くにびきしんわ【国引き神話】 日本神話の一。《出雲風土記(いずもふどき)》の意宇(おう)郡の条に伝わる国土創成神話。ヤツカミヅオミツヌノミコトが〈八雲立つ出雲の国は，狭布(さの)の稚国(わかくに)なるかも，初国小さく作らせり，故(か)れ作り縫はむ〉と言って，諸方の土地を〈国来(くにこ)国来〉と呼んで，出雲(島根県)の海岸域に引いてきて縫い合わせた。ヤツカミヅオミツヌノミコトはおそらく出雲の簸川(ひのかわ)の神であろう。《風土記》にみられる出雲・神門(かむど)・飯石(いいし)・仁多・大原の5郡の農民は簸川によって生活していたが，〈初国小さく作らせり〉とは簸川による国づくりを最初の国づくりと考えたのであろう。〈国引き〉は島根半島一帯の地形をながめた感じを，神の作業として説明したと解される。〔宮井義雄〕

くにまさみ【邦正美】(1908～　) 舞踊家。東京大学美学科卒。1936年(昭和11)渡欧し，ドイツ国立舞踊学校でビグマン*に学ぶ。戦後，邦正美舞踊団を組織，1947年共立講堂で第1回公演をもった。現在は，ドイツ系モダンダンスの普及に活躍しているが，理論家としてもすぐれ，《創作舞踊》《芸術舞踊の研究》など著書も多い。近年，ブラジル国立バイア大学客員教授に招かれたのをはじめ，世界各国の大学で教鞭(きょうべん)をとるなど海外での活躍が目だっている。代表作に《三つの空間詩》《青い鎖》など。〔高橋孝一〕

くにみ【国見(町)】 大分県北東部，東国東(ひがしくにさき)郡の町。人口7,800。国東半島の北部に位置する。1960年(昭和35)に，国見町と竹田津町が合併して生まれた。米・麦・タバコ・ミカンなどを栽培する農業地帯である。

くにみ【国見(町)】 長崎県南東部，南高来(みなみたかき)郡の町。人口13,000。雲仙岳(うんぜんだけ)から島原半島の北端にかけて扇形に町域が広がっている。1956年(昭和31)に，多比良(たいら)町と土黒(ひじくろ)村が合併して生まれ，1957年に神代(こうじろ)村を編入した。農業のほか，林業・漁業が行なわれ，ミカンやブドウをつくっている。多比良港から，対岸の熊本県長洲(ながす)港へフェリーボートが出ている。

くにみだけ【国見岳】 九州山地のほぼ中央，熊本・宮崎県境にあり，標高1,739m。東の宮崎県側は耳川上流の上椎葉(かみしいば)，西の熊本県側は球磨(くま)川上流の五家荘(ごかのしょう)で，両河川の分水嶺(ぶんすいれい)をなす。九州山地では祖母山(1,758m)に次いで高い。

くにもちしゅう【国持衆】 室町時代の守護大名*および江戸時代の大名で1国以上を領有する者をいう。室町幕府が，将軍の一門や，譜代の大国の守護で管領*(かんれい)や相伴衆などに補せられない者を尊称して厚遇したことに始まる。文安年間(1444～1448)に家格として定まったらしく，細川・山名・今川氏がこれで，戦国時代には六角・朝倉・織田・斎藤・武田(たけだ)・伊達(だて)氏らがこの名称を贈られた。江戸時代には国持大名(国大名・国取大名とも)とよばれ，1国以上を領有する者および1国を領有しなくても家格が高く権勢の強大な者を含み，前田氏(3か国)をはじめ島津・毛利・池田(鳥取)・蜂須賀(はちすか)氏の2か国，黒田・浅野・池田(岡山)・山内・宗氏の1か国，伊達・細川・鍋島(なべしま)・藤堂・佐竹などの1国を領有しない大身国持があり，時代により増減があり，14家ないし20家あった。なお，国持並は前代の准国持で，伊達(宇和島)・立花・丹羽の3家があり，1国を領有しながら国持並にも列しなかった者に松浦(まつら)(壱岐)・酒井(若狭(わかさ))・稲垣(いながき)(志摩)の3家があった。〔岡山泰四〕

くにやく【国役】〈こくやく〉ともよむ。平安末期・鎌倉時代には国司*が一国内に限って課した公事*(くじ)，室町時代には守護*が賦課した諸役。江戸時代には幕府が課した臨時の課役で，河川堤防の修築など大規模な普請，朝鮮使節・琉球(りゅうきゅう)人の江戸参府，将軍の日光社参，皇居造営など臨時の経費にあてるため，特定の国を定めてその国から石高百石につき金・銀・銭いくらと決めて賦課したもので，国役金(国役銀)といった。1720年(享保5)に制度化され，明治維新後も存続したが，1874年(明治7)廃止された。なお別に江戸時代，主として職人に課せられた〈国役〉がある。はじめは一定数の職人を幕府の用途に従事させたが，のちには銀納となり，その居住する町から上納させた。〔岡山泰四〕

くにゆずりしんわ【国譲り神話】 出雲(いずも)(島根県)の国土献上について伝えている神話。《古事記》《日本書紀》《出雲国造神賀詞(くにのみやつこのかむよごと)》にみえ，諸書では内容に若干の異同がある。その説話を要約すると，高天原(たかまがはら)から皇孫ニニギノミコトが天孫降臨*の際，すでに地上ではオオクニヌシノカミが出雲国を経営していた。いろいろの経過ののち，武神フツヌシノカミ・タケミカヅチノカミが高天原から派遣され，交渉ののちオオクニヌシノカミは和平のうちに国土を皇孫に譲った。その隠退後の宮殿が，島根県簸川(ひかわ)郡大社町の出雲大社*である。この神話は一般に，大和(やまと)朝廷*が国土統一を進めていたある時期に，山陰地方の出雲政権を併合した事実を反映しているものと解されているが，その時期や政治的経過や神話の成立事情については，各種の考究が試みられている。〔高崎徳次〕

くによしやすお【国吉康雄】(1893～1953) 岡山市の生まれ。1906年(明治39)に渡米。1916年アート-ステューデンツ-リーグに入学。アメリカで活躍した代表的な日本人画家。1929年〈19人の現存するアメリカ作家展〉に出品。1931年に一時帰国。1948年にホ

イットニー美術館で大回顧展が行なわれた。アメリカにおいて,フランス-モダニズムを同化した画家のひとりとされている。ニューヨークで死去。

くぬぎ【櫟・橡】 双子葉植物・ブナ科。日本・朝鮮・中国の山野に自生する落葉高木。高さ17m,径60cmほどに達し,樹皮には縦に深い裂け目ができ,若枝には軟毛が密生する。葉は互生し,狭楕円(きょうだえん)形で,針形の鋸歯(きょし)がある。側脈は明瞭(めいりょう)である。葉形はクリ*に似るが,鋸歯の先に葉緑素がないので区別される。雌雄同株で,5月ごろ雌花は上部の葉腋(ようえき)に短い穂になってつき,雄花は新枝の基部から長い穂になり下垂する。果実は大形球形で径2cmくらい。翌年の秋に熟してかっ色となり,俗にどんぐりという。殻斗(かくと)(俗にどんぐりのおわんといわれるもの)はわん形。古名をツルバミといい,実の煎汁(せんじゅう)で衣服を染めた。材は耐朽性があり屋根板・杭(くい)とするが,おもな用途は薪炭材で,よい炭やまきとなる。またシイタケ栽培の原木にも利用される。〔横井朝子〕

クヌーセン[Martin Hans Christian Knudsen](1871~1949) フィンランド生まれのデンマークの海洋学者。コペンハーゲン大学教授。海洋化学の分野で多くの貢献をしたが,中でも特に重要な業績は,海水の塩分を定義し,標準海水をコペンハーゲンの水理研究所で作成したことである。このほか,ヘランド-ハンセンらと協力して海洋観測のための《海洋常用表》を作成し,また,海水観測のための標準的な用具を考案した。〔根本順吉〕

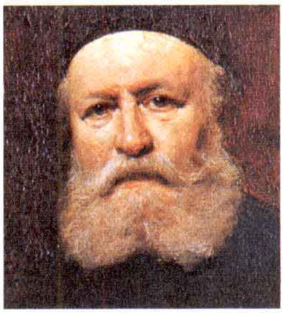
クヌート(1世)[Cnut](995ごろ~1035) カヌートともいう。イングランド国王,在位1016~1035年。デンマーク国王,在位1018~1035年。デンマーク王スベン1世の子。デーン人を率いてイングランドに侵入し全土を占領。アングロ-サクソン国会から推戴(すいたい)されてイングランド国王となり,兄の死でデンマーク国王をも兼任。北海を内海として,北ヨーロッパからイングランドに至る大海上帝国をつくりあげた。イングランド王としては,先住民の風俗・伝統を重んじるとともに,キリスト教化を図り,また,デンマークにイングランドの文物を移入した。〔高山高雄〕

くねんぼ【九年母】 双子葉植物・ミカン科。インドシナ原産の常緑低木。高さ5mくらい。葉は互生し,ミカンに似るが,やや大形で楕円(だえん)形,肉質で光沢がある。初夏,枝先に芳香のある白色花をつける。秋に果実は黄熟,球形で径6cm内外,表皮が厚く,表面は凸凹(おうとつ)に富み,果肉は離れにくい。甘味も香も強い。北アメリカで品種改良されキングオレンジとよばれる。

クノー[Raymond Queneau](1903~1976) フランスの詩人・小説家。しゃれ・造語・俗語などを多用した〈膨大なことばの遊び〉を通して,ことばの可能性をきわめようとした。《運命のとき》などの詩,《人生の日曜日》《地下鉄のザジ》などの小説には,そのような表現形式の冒険がみられ,のちの〈アンチ-ロマン*〉の先駆ともなっている。

グノー[Charles François Gounod](1818~1893) フランスの作曲家。1836年にパリ音楽院に入学し,1839年カンタータ《フェルナンド》でローマ大賞を得てイタリアに留学した。ここでパレストリーナの研究をして宗教音楽の作曲家として出発したが,1859年に歌劇《ファウスト》を発表して大好評を得た。《ロメオとジュリエット》など,ほかにもいくつかの劇場作品があるが,1870年のプロイセン-フランス戦争をのがれてロンドンに渡り,5年後帰国してからの晩年は再び宗教音楽の作曲に力を注いだ。〔向坂正久〕

くのうざん【久能山】 静岡市南東部にある有渡(うど)山塊の南に孤立する1峰で,標高308m。山頂近くに徳川家康(いえやす)を祭る久能山東照宮*があり,南面する海岸からの急崖(きゅうがい)に17曲がり1,159段の石段がある。また,日本平*からロープウエーが通じている。南向きの急斜面と海岸では,特産の〈石がきイチゴ〉をはじめ,ミカン・野菜・花などの栽培が行なわれる。なお,有渡山全体を久能山ということもある。



グノー



久能山東照宮 本殿

くのうざんとうしょうぐう【久能山東照宮】 静岡市の久能山*中腹にあり,祭神は徳川家康(いえやす)を主神に,織田信長(のぶなが)と豊臣秀吉(とよとみひでよし)。家康は1616年(元和2),駿府(すんぷ)城で没し,遺命によってこの地に葬られ,翌年12月に社殿が創建された。はじめ東照社と称されたが,1645年(正保2)宮号の宣下があり,以後東照宮と称した。宝物館には徳川15代の将軍の遺品が陳列されている。例祭は4月17日と10月17日。

くのうのなかをゆく【苦悩の中を行く】 アレクセイ-トルストイの代表的小説。三部作で,《姉妹》(1920~1921)《1918年》(1927~1928)《曇った朝》(1940~1941)よりなる大河小説。ロシア革命と内戦など,歴史的な事件を生き抜き,はじめは反革命的であるが,やがて人民の道を理解するに至る知識人の遍歴が描き出されている。

グノーシスは【グノーシス派】 2世紀後半に大きな勢力をもったキリスト教の異端派。グノーシスはギリシア語で〈知識〉の意。霊肉二元論に立ち,神の秘義の霊的直観的認識が人間の救済に直結すると説く。この場合,キリスト教の創造神は最高神の転落として低い位置を占める。キリスト観も歴史的イエス即キリストとは考えず,霊的キリストの仮現にすぎないとする。ギリシア哲学,神秘主義,東洋の異教との結合は顕著である。サトルニノス・バシレイデス・バレンチヌスらの思想が代表的。アレキサンドリアのクレメンス*・オリゲネス*らはキリスト教信仰との調和を試みたことで知られる。〔石井忠厚〕

クノッソスきゅうでん【クノッソス宮殿】 クレタ文明(→エーゲ文明)の最大の遺跡で,その海上王国の首府クノッソス(クレ



クノッソス宮殿

タ島中部北岸)に築かれた宮殿。1900年以来エバンズらによって発掘され，川に臨むケファレの小丘を占め，約160m² 余の複雑な建物が主体である。この建物には，中庭を巡って数百の小室が並び，3階・4階の翼部部分もあり，長く屈曲する廊下，多くの階段などから〈迷宮〉とよばれる。また，この宮殿には衛生設備があった。おもな室を通って長さ70cm，幅80cmの陶管を結合した下水工事が施され，水洗便所もあった。なお，宮殿はギリシア人によって，2度にわたって破壊されている。〔田島　学〕

クノープえき　【クノープ液】　植物の完全な生育に必要なリン・窒素・カリウム・イオウ・カルシウム・マグネシウム・鉄の7元素を含む塩を適当な割合で組み合わせて，ドイツの植物生理学者クノープが考案した完全培養液。生理的平衡液でもあり，植物の水栽培に用いられる。**《組成》** 硝酸カルシウム$Ca(NO_3)_2$・$4H_2O$ 1g；硫酸マグネシウム$MgSO_4$・$7H_2O$ 0.25g；リン酸二水素カリウムKH_2PO_4 0.25g；塩化カリウムKCl 0.12g；塩化第二鉄$FeCl_3$・$6H_2O$微量；水1 *l*。クノープ液に含まれる窒素・イオウ・リン・カリウム・マグネシウム・カルシウム・鉄の7元素を含む塩と空気・水から得られる炭素・水素・酸素を加えた10元素が，植物の生育に必要な元素と考えられていたが，その後，微量ではあるがマンガン・亜鉛・銅・ホウ素・モリブデンなどの元素も正常な生育に必要であることが知られてきた。〔吉田精一〕

クーバ　[Kuba]　(1914～1967)　本名クルト-バルテル。東ドイツの詩人。社会主義建設をうたう新しい詩人の代表者として知られる。社会主義文化運動・政治活動の組織者としても精力的に活躍した。人類のはじまりから未来への壮大な展望を力強くうたいあげた代表作詩集《人間の詩》で国民賞を受けた。戯曲・映画シナリオも試み，ルポルタージュ・訳詩集もある。

クーパー　[Archibald Scott Couper]　(1831～1892)　イギリスの化学者。ケクレとは別に炭素原子の四価性を提唱し，炭素どうしで結合することが，有機化合物に特性を与え，一重結合・二重結合，芳香族化合物における環状結合の仮説を発表して有機化合構造論の基礎を置いたが，彼の師ウルツに認められなかったため，ケクレに先んじられた。

クーパー　[James Fenimore Cooper]　(1789～1851)　アメリカの小説家。《皮脚絆(きゃはん)物語》5編で，アメリカの辺境を舞台に，主人公ナティ-バンポーを中心としたロマンスと冒険の歴史小説を書いた。ロマン主義的想像力を発揮した《開拓者》《モヒカン族の最後》などを含む辺境ロマンスは，素朴(そぼく)な自然人やインディアンたちの活劇を展開して，アメリカの包含する諸問題・可能性を扱い，すぐれた芸術となっている。また，変動期にある民主主義の問題を扱った評論・歴史・時評も書いた。〔鉾川　羔〕

クーパー　[Gary Cooper]　(1901～1961)　アメリカ合衆国の映画俳優。アメリカの代表的な美男スターとして数多くの映画に出演，人間味あふれる演技で人気を博した。西部劇のヒーロー役を得意としたが，晩年には円熟した人物を演じた。出演代表作に《モロッコ》《ヨーク軍曹(ぐんそう)》《真昼の決闘》《誰(た)がために鐘は鳴る》など。

くばいやく　【駆梅薬】　梅毒の治療薬の総称。駆梅薬の研究は化学療法の歴史ともいいうるほどで，多くの種類がある。かつてはヒ素剤(サルバルサンなど)と蒼鉛(そうえん)剤が併用されたが，現在用いられるのはペニシリン類や，エリスロマイシンなどの抗生物質である。しかし，梅毒の第4期には発熱療法しか有効ではない。

クーバード　[couvade]　父親が産婦に代わってお産の床に伏し，妻は出産後できるだけ早く日常の仕事に従事する習俗。〈擬産〉〈擬娩〉と訳され，インド・東南アジア・インドネシア・メラネシア・南アメリカなどに分布。南インドのエルカラバンド一族では妊婦が陣痛を覚えるとこれを夫に告げ，夫は妻の衣服をつけて産室に伏し，産婦に必要なものは父親に与えられ，儀礼的不浄期間中は産婦を取り扱う方法で父親を扱い，父親は床を離れてはならないという習俗がある。〔竹村卓二〕

くはらふさのすけ　【久原房之助】　(1869～1965)　実業家・政治家。山口県出身。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業後，藤田組へ入社。1905年(明治38)赤沢鉱山を買収，日立鉱山とし，みずから鉱山経営に乗り出して成功を収めた。1917年(大正6)久原鉱業を創立，あわせて久原商事・日立製作所などを経営，第1次世界大戦で事業を一躍拡大し，財閥にのし上がった。その後経営難に陥り，義兄の鮎川義介(あゆかわよしすけ)にいっさいを譲り，政界にはいって田中義一内閣の逓信相，政友会総裁・幹事長，内閣参議などを歴任。第2次世界大戦後は日中・日ソ国交調整国民会議代表として活躍した。〔片岡一郎〕

ぐはんしょうねん　【虞犯少年】　少年法によって，非行を〈刑罰法令に触れる行為〉と〈法令に触れるおそれのある行為〉に分類したときに，後者に該当する少年。乱暴・家出・怠学・物品持ち出し・不良交友・いたずら・盛り場徘徊(はいかい)・飲酒喫煙などの具体的な行動のほかに，保護者の正当な監督に服さず犯罪性のある者や，不道徳な者と交わり，いかがわしい場所に出入りし，自分や他人の徳性を害するような行為をする性癖があり，近い将来，刑法に触れるおそれのある少年をさす。〔小菅茂雄〕

くび　【首・頸】　頭部をさす場合もありまた頸部(けいぶ)をさす場合もある。頸部は頭部と胴体すなわち体幹を連結させる部分で，一般にややくびれているので区別できるが，くびれのまったくないものもある。その中心には羊膜類(爬虫(はちゅう)類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類の総称)では頸椎(けいつい)とよばれる椎骨があり，その数はキリンのように頸の長いものでも，またイノシシやブタなどの頸の短い動物でも7個である。この頸椎が支柱になり，ここには頭部と体幹を結ぶ重要な連絡路が上下に走っている。頸椎の前側には頭部を養う総頸動脈，内臓の働きを調節する迷走神経・交感神経幹，横隔膜の運動をつかさどる横隔神経が通り，また食物を胃に送る食道，空気を肺に送る気管もここを通っている。脊柱(せきちゅう)の中には脊髄が走り，くび以下の運動，知覚その他の反射運動にあずかっている。頸部の脊髄神経は8対で，これらは頸椎の椎間孔から出ている。これを頸神経という。脊柱のまわりの筋肉群は，くびの運動や下顎(かがく)を引き下げる運動に関与している。腹側部には甲状腺(こうじょうせん)があり，腹面はいわゆるのどである。〔蟠井勉・橋本長〕

くびかざり　【首飾り】　⇨ネックレス

くびがり　【首狩り】　未開社会において，他集団員の首を取る習俗。社会的尊敬を獲得するためにも行なわれ，台湾のタイヤル族では首狩りをした者は入れ墨を施され，はじめて成年者としての資格を得る。しかし，本来の首狩りは宗教的行為で頭蓋(とうがい)崇拝に起源をもつ。初期農耕民には近親者の頭蓋を宗教的崇拝の対象とする習俗がみられるが，この習俗が衰えたとき異族の頭蓋によって畑の豊作を祈り，宗教的効験を得んとして起こったのが首狩りである。〔竹村卓二〕

くびきゆでん　【頸城油田】　新潟県南西部，頸城平野の日本海岸に沿う油田。南北に細長いドーム状の背斜構造からなる。潟(かた)町・黒井・直江津の各油田の243の油井で，約15万klの原油とガスを産出。1960年(昭和35)から海底油田の開発も進められている。

くびきりあさえもん　【首斬浅右衛門】　江戸時代の人。山田浅右衛門の異名。江戸麹町(こうじまち)に居住し，幕末までで7代続いた。代々将軍家の刀の御様(おためし)御用を本職とした。公式の様斬(ためしぎり)では，死罪になった科人(とがにん)の死骸(しがい)で刀剣の〈ためし〉をした。私的に様斬を依頼されたり，首斬り役の町同心より特に依頼された場合，首斬り役を勤めることもあった。死人の肝を取ることがあったと伝えられ，肝取り浅右衛門ともいう。〔松尾　涼〕

ぐびじん　【虞美人】　(？～BC202)　中国，楚(そ)の項羽の寵姫(ちょうき)の虞姫(ぐき)のこと。項羽は垓下(がいか)で漢の高祖(劉邦(りゅうほう))の軍に囲まれて四面楚歌(そか)になると，虞姫をかたわらに訣別(けつべつ)の宴をはり，〈虞や虞や汝(なんじ)をいかんせん〉と慨嘆した。虞姫もこれに唱和し，ついに自害した。

ぐびじんそう 【虞美人草】 ヒナゲシの漢名。➔ヒナゲシ

くびつり 【首つり】 ⇨縊死

くびひき 【首引】 狂言の曲目。鬼狂言。播磨(はりま)(兵庫県)の印南野(いなみの)を通りかかる鎮西八郎為朝(ためとも)の前に鬼(シテ)が現われ，姫鬼に人間の食いぞめをさせようとする。為朝は力比べに負けたら食われようと言い，腕押し・すね押しをして姫鬼を負かしてしまう。次いで，ふたりの首になわをかけて首引きが始まるが，娘の不利を見た鬼は小鬼大ぜいを呼び出して加勢させる。ころあいをみて為朝はなわをはずし，鬼たちを将棋倒しにして逃げ込む。奇想天外な舞台面がおかしく，よい男と見て恥じらう姫鬼や，親鬼の愛情などが，鬼だけにかえってほほえましい。 〔増田正造〕

クビン ［Alfred Kubin］ (1877～1959) オーストリアの版画家。1903年に最初の素描集を出版し，1911年以来〈青騎士*〉の画家たちとの交流があった。デモーニッシュなものや無気味なもの，幻想的な夢などの主題を，うねるような細い線によって表現。ホフマン*・ポー*・ストリンドベリ*・ドストエフスキー*らの文学作品のさし絵も描いた。

クフ(王) ［Khufu］ 生没年不詳。古代エジプト第4王朝の王。在位は紀元前27世紀後半。ギリシア名ケオプス。イタリアのトリノ博物館所蔵の王名表によれば，23年間統治した。王の治世は，神である王を頂点とするエジプト古王国の中央集権的国家体制，いわゆる〈神王国家〉の最盛期にあたる。彼はギゼーに基辺の長さ230m，高さ147mの巨大な基礎ピラミッドを造営した。ピラミッドおよびその周囲に整然と配列された王族と高官のマスタバ墳は，このような国家体制の最も明白な表現といえる。王の事績については，ピラミッドの建造以外はほとんど不明である。 〔屋形禎亮〕

クプカ ［Franks Kupka］ (1871～1957) フランスの抽象画家。チェコスロバキアのボヘミア生まれ。プラハ・ウィーンのアカデミーで学んだのち，1894年パリに移住。最初印象派的作風にユーゲント-シュティール(➔アール-ヌーボー)の要素を取り入れていたが，やがてフォービスム*の影響を受ける。1912年オルフィスム*の運動に参加。画面にはリズミカルな曲線や弓形，斜めに切断された平面などが描かれている。

ぐふくじ 【弘福寺】 ⇨川原寺

クーブーズ ［qubuz］ リュート系の弦鳴楽器*の一。10世紀ごろ，トルコに起源をもつと思われ，アラビア音楽圏に広まった。大きな胴部をもち，5本の弦を木のつめではじいて奏した。のちに中央アジア・中国でもそれぞれ形態を変えて用いられており，ルバーブ・三弦・三線(さんしん)(蛇皮線(じゃびせん))などの類似の楽器に対する影響など，音楽文化圏の接触という点でも重要な楽器



クビン《オーレリー》 ミュンヘン市立美術館蔵



クプカ《フーガのための習作》 パリ近代美術館蔵

である。

グプタちょう 【グプタ朝】 ガンジス川中流域，マガダ地方に起こった王朝。首都パータリプトラ。創設者チャンドラグプタ1世*は，クシャン朝の衰退に乗じ勢力を拡張し，次のサムドラグプタおよびチャンドラグプタ2世の代にほぼ全インドを征服し，最大版図を現出した。グプタ朝は5世紀後半，西北からフーナ族の侵入を受け，勢力が縮小してしまう(前期グプタ)。7世紀中，カナウジのハルシャバルダナ王が再統一を成し遂げるが，その後分裂のまま，8世紀中にパーラ朝に滅ぼされる。文化史的にはこのハルシャバルダナ王朝までをグプタ朝に入れて取り扱う(後期グプタ)。グプタ朝ではインド固有の文化の発達がめざましく，サンスクリットが普及し，《ラーマーヤナ》《マハーバーラタ》の二大叙事詩が集大成され，《マヌ法典》も完備した。ヒンズー教の発展は仏教を凌駕(りょうが)するに至り，シバ神やビシュヌ神の信仰が強まった。美術の上では，彫刻や絵画が完成の域に達してグプタ様式を生み，その影響は周辺諸国に及んだ。マトゥラーやサルナートの仏教彫刻，アジャンターの壁画，エローラのヒンズー石窟(せっくつ)はその代表的なものである。 〔小谷仲男〕

グプタちょうびじゅつ 【グプタ朝美術】 グプタ朝*の美術の総称。この時代は，ヒンズー教・ジャイナ教・仏教の三大宗教，ことに大乗仏教が興隆したが，美術活動もそうした思想背景とよく呼応している。造形美術については，インド人の理想的完成美を極度に追究した点が注目され，マトゥラー博物館の仏立像やサルナート博物館の転法輪印像が代表するように，仏陀(ぶっだ)にその典型が集約されている。また，ジャイナ教の祖師像やヒンズー教の神像も制作されたが，その肉体表現の方法は一様に仏教の儀軌に則していたようである。遺品の分布からみると，造像の中心地はおおかたマトゥラー・サルナートの2都市に比定され，建築・彫刻・絵画を一堂に集めたいわゆる総合芸術がみられるようになり，とりわけアジャンターの壮麗な石窟(せっくつ)寺院は仏教美術史上の重要な遺跡として，確固たる位置を占めている。 〔西岡康宏〕

クーブ-ド-ミュルビル ［Maurice Couve de Murville］ (1907～) フランスの政治家。第2次世界大戦中にド-ゴール派に加わり，解放フランス委員会のメンバーとなる。戦後，外務省にはいり，諸国大使を歴任。1958年ド-ゴール内閣の外相となる。1968年のいわゆる〈五月危機〉後，退陣したポンピドーに代わって首相に就任した。

クープラン ［Francois Couperin］ (1668～1733) フランスの作曲家。パリのサン-ジェルベ教会のオルガン奏者の家庭に生まれた。クープラン家はドイツのバッハ家にもたとえられる音楽家の家系である。かなり早い時期からオルガン演奏の手ほどきを受け，早熟な天才ぶりを発揮し，1679年父シャルルが他界したとき，11歳でその務めを果たした。ド-ラランドと叔父(おじ)シャルルに作曲法を学び，18歳で正式に教会のオルガン奏者になり，1年に300～500回もの教会での演奏を義務づけられた。22歳のクープランは，処女作《二つのオルガン-ミサ》を作曲し，王の特権を得て出版。次いでコレルリ*などの器楽曲を研究し，《トリオソナタ》などの器楽曲を作曲した。1693年王室オルガン奏者の席が空席になったとき，後任者決定のコンクールに参加し，ルイ14世に認められ，ベルサイユ宮殿にはいった。そして貴族の子弟のクラブサン教師となり，その合い間に優雅で洗練された多くのクラブサン曲を作曲した。また王室教会のために，《テネブレの読誦(どくじゅ)》のようなすぐれた宗教音楽も作曲した。1741年ごろから健康の衰えはじめたルイ14世を慰めるために《王のコンセール》などを作曲して，王を喜ばせた。14世の死後，15世に仕えながら，《クラブサン曲集》《リュリ賛》《コレル

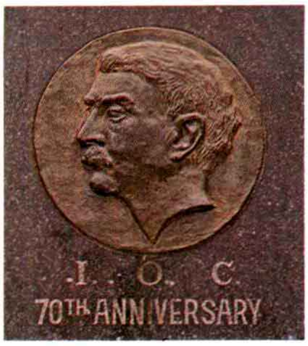
り賛》《諸国の人々》《混合趣味》などの作品を出版した。クープランの感覚的で優雅で繊細な作曲様式は，ふつう〈ロココ〉とよばれている。〔船山　隆〕

クプリーン [Aleksandr Ivanovich Kuprin] (1870～1938) ロシアの小説家。父は没落貴族，母はタタール族の酋長(しゅうちょう)の娘。士官学校卒業後，転々と職を変え，各地を遍歴した。数多い作品の中で，《生活の河(かわ)》《決闘》《ヤーマ》などが有名。腐敗した帝政末期の社会を描いた批判的リアリズムの最後の作家とされているが，長編《決闘》やいくつかの好短編を除けば，ありふれた人間習俗の醜悪な面を描写するにとどまっているものが多い。

クプレ [couplet] フランスの詩では，韻を踏んだ行ではなく，その集まりである節を意味する。17世紀のロンドでは，くり返しの部分の間に挿入(そうにゅう)されている部分，たとえばABACADなどのBCDの部分がこれにあたる。18世紀以降のジングシュピールやオペレッタでは，軽く機知に富んだ内容をもった有節歌曲をクプレとよんだ。これはヨハン-シュトラウスをはじめ,19世紀後半のポピュラー音楽や20世紀のミュージカルでも愛用されている。

くぶんきゅうせきほう 【区分求積法】 放物線や球面など，特殊な曲線や曲面に囲まれた図形の面積・体積を求める考え方の一つ。その図形をいくつかに分割し，分割した各部分の面積・体積を,既知の図形(たとえば長方形など)の面積・体積ではさみ，次に分割を限りなく細かくしたときの和の極限値として，その図形の面積・体積を計算する方法をいう。この区分求積法の考えは，定積分のもとになるものである。アルキメデス*は，この方法により放物線と弦とが囲む面積を求めた。ケプラー*はこの方法を意識的に用いて，ぶどう酒だるなど87種類の図形の体積を計算した。〔青柳雅計〕

くぶんしょゆうけん 【区分所有権】 一むねの建物が数個の部分に区分され，独立して住居・店舗・事務所・倉庫，またはそのほか建物としての用途に使用することができるとき，その区分された建物についての所有権をいう。本質的には普通の所有権と変わるものではない。住居をめぐって区分された建物の法律関係を処理するのが1963年(昭和38) 4月に施行された〈建物の区分所有等に関する法律〉である。マンションや高級アパートなどへの住居者が増大してきた今日，この法律のもつ意義は大きい。この区分所有権の目的となる区分された各室を専有部分といい，区分所有権者の独立所有の対象となるが,そうでない廊下・階段・屋上・エレベーターなどは共用部分といって区分所有者の共有*に属する。もっとも，規約で共用部分を特定の区分所有者の所有と定めてもかまわない。各区分所有者は建物の保存に有害な行為，その他建物の管理ま



クーベルタン


クボガイ

たは使用に関し区分所有者の共同の利益に反する行為をしてはならない(同5条)。共用部分を変更する場合にはその共有者全員の合意を必要とする。しかし，単に改良を目的としたり，多額の費用を要しない変更であれば，共有者の持ち分(共用部分の持ち分の割合は，専有部分の床面積の割合で定まる)の4分の3以上の多数で決めることができる(同12条の①)。共用部分の変更が専有部分の使用に特別の影響を及ぼす場合には，専有部分の所有者の承諾を要する(同12条の②)。共用部分の管理一般に関する事項は，共有者の持ち分の過半数によって定める(同13条)。共用部分に対する費用および収益はその持ち分によって負担し,収取しうる(同14条)。また,管理者(区分所有者が集会によって選任・解任する)および区分所有者の4分の1以上で，議決権の4分の1以上を有する者は集会を招集できることになっている(同27条)。〔黒木三郎〕

くぶんでん 【口分田】 律令(りつりょう)制下，班田収授法*により国民各人に支給され，終身使用・用益を許された田。令*制では，6歳以上の良民(一般民)・官戸*・官奴婢(かんぬひ)の男子が2反(約20アール)，女子はその3分の2，家人(けにん)・私奴婢は良民男女の3分の1が支給された。官戸・官奴婢の田は不輸租であるが，他はすべて輸租田であった。6年ごとに班給され，死亡すれば次の班年(6年1周期)に回収された。土地不足から班給面積・授田年齢はしだいに制限された。平安時代以後，班田制の崩壊により私田化した。〔星野良作〕

クーペ [coupé] 乗用車形式の一つで，1列の主座席をもつ2ドアの箱形乗用車。よび名は，中世の屋根つき2人乗り馬車に由来する。→自動車

クーベルタン [Pierre de Coubertin] (1863～1937) フランスの歴史学者・教育者・社会学者で，オリンピック競技大会の創始者。男爵。ドイツ発掘隊のオリンピア遺跡発掘に刺激されて1889年古代オリンピック競技大会の復活を企図し，イギリス・アメリカに同志を求めて遊説すること4年間，1894年国際オリンピック委員会*(IOC)を創立して初代会長となり，近代オリンピック競技大会(第1回は1896年のアテネ大会)を実現させた。大会の諸規則，選手宣誓，開閉会式はすべて彼の考案に基づく。1925年にIOC会長を辞任，IOCから名誉会長の称号を贈られた。墓碑はスイスのローザンヌにあるが，彼の心臓は遺志により，大会の復活を記念してオリンピアに建てられた大理石碑の下に埋められている。スポーツ界では，〈近代オリンピックの父〉とよんでいる。〔藤岡　端〕

くへんとうゆ 【苦扁桃油】 アーモンドの種子を水に浸して砕き，蒸留して得られる無色の液体。主成分はベンズアルデヒドで，水・アルコール・エーテルにとける。香料の原料として用いられる。

くぼう 【公方】 〈おおやけかた〉ともいう。朝廷のことをさすことばであったが，鎌倉末期から御家人*が将軍を敬って使うようになり，室町・江戸時代の将軍に対しても使用された。

くぼがい 【久保貝】 軟体動物・腹足類・ニシキウズ科の巻き貝。殻高(かくこう) 4cm，殻径3.5cmほどで円錐形を呈し，殻(から)は厚くかたい。ふたは円形で革質。殻表は黒かっ色で，殻の裏の中心付近はやや黄緑色を呈する。房総半島以南，台湾・中国の岩礁の潮間帯にすむ。漁村の婦人が干潮時に岩陰などで拾い集める〈磯(いそ)もの〉の一つで，小さいが美味。磯ものにはこのほかコシタカガンガラ・バテイラ・クマノコガイなどがある。

くぼかわ 【窪川(町)】 高知県の西部，高岡郡の町。四万十(しまんと)川の支流松葉川流域にある。人口19,000。山林資源に富み，国有林の面積が広く，営林署・製材所がある。土讃(どさん)本線と中村線の分岐点で，また国鉄バス窪川線は宇和島線に連絡し，交通の要地である。

くぼさかえ 【久保栄】 (1901～1958) 劇作家・演出家・小説家。札幌(さっぽろ)市の生まれ。東京大学独文科卒。築地小劇場*文芸部でドイツ演劇の研究・翻訳に従い，新築地劇団の結成に至るが，その後は東京左翼劇場文芸部に所属し，いわゆる左翼運動に対する干渉のきびしさの中にあって，演劇活動を続け，さらに新協劇団*の結成にも参加。第2次世界大戦後は東京芸術劇場を興した。1958年(昭和33)に自殺。代表作に《五稜郭(ごりょうかく)血書》《火山灰地*》《日本の気象》などがある。〔小林敬子〕

くぼたうつぼ 【窪田空穂】 (1877～1967) 歌人。芸術院会員・文化功労者。長野

県の生まれ。本名通治。松本中学から東京専門学校(現在の早稲田(わせだ)大学)文科に入学，卒業後は電報新聞社を皮切りに職場を転々としたが，その後は定年まで早稲田大学文学部で国文学を講じた。その歌は《文庫*》に投稿したことから始まり，詩や短編小説などもあるが，穏やかな歌風で《まひる野》など数多くの歌集がある。ほかに《評釈伊勢(いせ)物語》《新古今和歌集評釈》など。

くぼたまんたろう 【久保田万太郎】(1889～1963) 劇作家・小説家・俳人。1957年(昭和32)文化勲章受章。俳号暮雨，のちに傘雨(さんう)。東京浅草の生まれ。府立三中を経て慶応義塾(ぎじゅく)大学文科を卒業。在学中《三田文学*》が発刊され，同誌に小説《朝顔》を発表，また，《太陽》の懸賞に当選した戯曲《プロロオグ》は小山内薫*(おさないかおる)の認めるところとなり，以後《三田文学》に重きをなした。作風は泉鏡花*の影響が大きく，浅草を舞台に過ぎし盛時への惜別の情を基調とし，その底には作者の倫理的本質に対する希求があって，作品の平板さを救っている。代表作として，戯曲《短夜(みじかよ)》《大寺学校》，小説《末枯(うらがれ)》《寂しければ》《春泥(しゅんでい)》などがある。　〔瀬良垣宏明〕

くほん 【九品】 仏教で，極楽(ごくらく)浄土に往生を願う者についての9種類の差別をいう。《観無量寿経*》には往生を願う者の能力によって，修行の方法，修行の長短，利益などに9種の差別があるとして，これを上品上生より下品下生に分けて説かれた。この差別の解釈をめぐって，往生を願う者の能力に差別があるなら，当然，これを迎える阿弥陀(あみだ)・浄土にも同様の差別があるとみる説と，元来，浄土は平等の世界であるから，たとえ往生人の能力に差別があっても，阿弥陀や浄土に上下の差別はないとする説とがある。九品の弥陀，九品の浄土などというときは前者に属する例である。また，九品を単に九つの差別とし，〈九品感〉〈九品大衣〉という場合もある。　〔大谷旭雄〕

クーポン ［coupon］ フランス語のクーペ(切りとるの意)からきたことばで，もとは公社債などの利札をさし，債券の保有者がこれを1枚ずつ切り離して，引き替えに利子を受け取っていた。旅行会社・鉄道会社・航空会社などが発行する切り取り式の連絡切符・回遊切符などを称して旅行クーポンという。このほか，最近では商品販売の面で，販売店と契約を結んだ契約者が現金同様に用いるなど，各方面にクーポンが使用されている。

くま 【熊】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科の総称。イヌ科・アライグマ科・イタチ科に近縁な大形の哺乳類で，これら4科はイヌ上科を構成する。体は巨大でがんじょう，尾は短く，耳は小さくて丸い。四肢(しし)には5指があり，指には強力なひっこめることのできないつめがあり，これで木に登る。毛は長く厚く，体色はほとんどのものが斑(はん)をもたず，白色から黒色まで変化に富むが，ツキノワグマなどでは白斑がある。大きさの変異も大きく，全長1.2～2.7m以上のものまでいろいろある。足の裏全部を地につけて歩く蹠行(せきこう)性で，時速48kmで走ることができる。戦うときなど，よく後肢で立ち上がる。泳ぎも巧み。嗅覚(きゅうかく)・聴覚は鋭い。寒い地方にすむもの(ホッキョクグマを除く)は，冬季穴ごもりをするが，真の冬眠はせず，不規則な間隔で目をさます。雌はこの間に1～4子を産む。ふつう雑食性で，裂肉歯は発達していない。

アフリカとオーストラリア区を除いた世界じゅうに広く分布する。ベネズエラ・コロンビア・パナマなどの南アメリカに分布するメガネグマ*，アムール地方からネパール・インドシナ・日本などに広く分布するツキノワグマ*(別名ヒマラヤグマ)，ヨーロッパ・シベリア・北海道などに広く分布するヒグマ*，北極圏にすむホッキョクグマ*，ビルマ・マレー・タイなどに広く分布するマレーグマ*，インド・セイロンにすむナマケグマ*，カナダ・アメリカ合衆国に分布するアメリカクロクマ*，北アメリカ北西部に分布するハイイログマ*の8種がある。〔今泉吉典〕

なお，クマは猟獣として昔から人間生活との関連が深い。富山県の氷見(ひみ)洞窟(どうくつ)，宮城県沼津貝塚(かいづか)などからクマの歯でつくられた勾玉(まがたま)や，クマと思われる土偶も発見された。アイヌ*の土器にはクマらしい文様のついたものもあり，呪術(じゅじゅつ)的な意図をもってクマの頭蓋骨(ずがいこつ)を保存し，あがめている。またアラスカやシベリア地方の原住民と同様，アイヌは熊祭り*によってクマを供儀する。クマは月・星や水とも結合し，あるいは生殖力の象徴として宗教・神話・伝説の世界に登場している。　〔合田　濤〕

くまいちご 【熊苺】 双子葉植物・バラ科。中国・日本の山地に普通にはえる落葉低木。茎は直立し高さ1～2mで，とげが多い。葉は互生し広卵形，浅く3裂し，歯牙(しが)状の鋸歯(きょし)がある。葉脈上にだけ軟毛があり，その他は無毛。初夏，枝先に1～数個の白花をつける。果実は，小さな核果が球形に集まったもので，赤熟し食



久保田　万太郎



ハイイログマ



ホッキョクグマ



ヒ　グ　マ



ツキノワグマ



マレーグマ

ク　マ

用となる。

くまえび【熊蝦】 甲殻(こうかく)類・クルマエビ科。クルマエビ*に似た形で，体長20cmほどに達する。体色は黒に近い暗紫赤色で，脚は赤い。クルマエビには及ばないが美味。東京湾以南の日本沿岸，フィリピン・東インド諸島・インド洋水域などに分布。

くまがいいちや【熊谷一弥】(1890～1968) 日本の生んだ最大のテニスプレーヤー。宮崎県生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業。慶大時代に頭角を現わし，1915年(大正4)の第2回極東選手権大会(上海(シャンハイ))で単・複に優勝。1916年，慶大卒業と同時に渡米，ニューポート招待トーナメントで全米ランキング1位のジョンストンを破って優勝，1918年三菱(みつびし)銀行のニューヨーク勤務となり，翌年には全米ランキング3位となる。1920年，第7回オリンピック大会(アントワープ)には，単・複(柏尾(かしお)誠一郎と組み)とも銀メダルを獲得した。翌年には米国協会の世話でデビスカップ*出場のチャンスをつかみ，清水善造と組んでいきなりインド，次いでアメリカと並ぶ強豪オーストラリアを4－1で破って世界を驚かせた。決勝のチャレンジラウンドでは5－0で敗れたものの，日本庭球では最高の成績であった。のち，後進の指導とテニス界向上に努め，1958年紫綬褒章(ほうしょう)を受けた。〔伊藤春雄〕



熊谷一弥

くまがいじんや【熊谷陣屋】 ⇨一谷嫩軍記(いちのたにふたばぐんき)

くまがいそう【熊谷草】 単子葉植物・ラン科。山の木陰に群生する多年草。20～40cmの高さで，地下に細長い根茎がある。扇状の2枚の葉が対生しているかのようにつく。4～5月，葉の間から花茎を伸ばし，径8cmほどの1個の花が下垂する。がく・花片は淡緑色で，袋状の唇弁(しんべん)は淡紅紫色をおびる。和名は，袋状の唇弁を熊谷直実(なおざね)の母衣(ほろ)にたとえたもの。近似種にアツモリソウ*がある。



クマガイソウ

くまがいなおざね【熊谷直実】(1141～1208) 鎌倉初期の武将。武蔵(むさし)(埼玉県)大里郡熊谷郷の人。石橋山の戦い*では大庭景親(おおばかげちか)らとともに源頼朝(よりとも)を攻めたが，のち頼朝に属し佐竹秀義征伐の功で本領を安堵(あんど)された。平氏追討に西下し，一の谷の戦い*で平敦盛(あつもり)を討ち取った話は有名。1192年(建久3)久下直光(くげなおみつ)と所領を争った際，頼朝の裁決を不当としてみずから髪を断って出家し，源空(法然)の弟子(でし)となり，蓮生(れんしょう)と称した。〔鹿野賀代子〕

くまがいなおよし【熊谷直好】(1782～1862) 江戸末期の歌人・国学者。周防(すおう)(山口県)の人。もと岩国藩士。16歳で香川景樹*(かげき)の門に入り，1825年(文政8)上京，のち大阪に住んで歌道に専念した。桂園(けいえん)派*の重鎮で，特に学問の点では桂門第1と評された。歌風は温雅・清澄。著書に家集《浦の汐貝(しおがい)》《浦の汐貝拾遺》，神楽(かぐら)・催馬楽(さいばら)を注解した《梁塵後抄(りょうじんこうしょう)》その他がある。

くまがいもりかず【熊谷守一】(1880～1977) 洋画家。岐阜県の生まれ。1909年(明治42)第3回文展に《蠟燭(ろうそく)》を出品，褒状(ほうじょう)を受けた。第二紀会*の創立に参加したが，1951年(昭和26)退会。超俗的な生活態度と独特の素朴(そぼく)な装飾的画風で知られる。



熊谷守一《鬼百合に揚羽蝶》1959 東京国立近代美術館蔵

くまがや【熊谷(市)】 埼玉県北部の市。鎌倉時代初期には熊谷直実*(くまがいなおざね)の所領で，江戸時代には中山道(なかせんどう)・秩父(ちちぶ)街道の分岐点にあたる宿場町であった。1933年(昭和8)市制施行。人口13万5,000。荒川扇状地の末端部を占め，荒川左岸に中心市街が開ける。産業三大別人口比は11:32:57。古くからの養蚕地帯で，製糸業・染色業が栄え，第2次世界大戦では戦災を受けて灰燼(かいじん)に帰したが復興は早く，1961年には西隣の深谷市とともに工業衛星都市に指定された。もと飛行場のあった三ケ尻(みかじり)周辺には工業団地が造成され，金属・機械・セメントなどの大工場が建設され，重化学工業地帯としての発展が期待されている。高崎線・秩父鉄道・東武鉄道熊谷線・国道17号線(中山道)・125号線・140号線が通ずるほか主要な県道も集中して，バス路線が発達している。特産に銘菓〈五家宝〉がある。

くまがわ【球磨川】 熊本県東南部の九州山地に発して人吉(ひとよし)盆地周辺山地の水を集め，急流をなして八代(やつしろ)平野に出，八代海に注ぐ。富士川・最上(もがみ)川とともに，わが国三急流の一つといわれる。流程115km。人吉盆地から下流は，九州山地をきって横谷をつくり急流をなす。人吉から下流大坂間までの約20kmは球磨川下りとして知られ，遊覧船が通ずる。江戸時代には河口から人吉まで舟運の便があった。



球磨川 人吉市から大坂間まで約20kmの急流を小舟で下る名物の〈球磨川下り〉

くまけむし【熊毛虫】 ヒトリガの幼虫の俗称で，体全体黒色と赤かっ色の長毛を密生する。雑食性で，クワ・フキその他種種の植物の葉を食害する。➔ヒトリガ

くまげら　**【**熊啄木鳥**】**　鳥類・キツツキ科。翼長22～26cmの大きくみごとなキツツキ。雄は頭上から後頭にかけて赤色，雌は後頭に小さな赤色部があるだけで，他の部分は全部黒色。ユーラシア大陸北部に広く分布し，日本では北海道の巨木の多い天然林に普通に見られる。早春から繁殖にはいり，大きな声で〈キョッ，キョッ〉と鳴く。北海道のほか，秋田県八幡平(はちまんたい)でも記録がある。➔キツツキ

くまごりでら　**【**熊凝寺**】**　⇨額安寺

くまさかがい　**【**熊坂貝**】**　軟体動物・腹足類・クマサカガイ科の巻き貝。殻高(かくこう) 4 cm，殻径 7 cmほどの円錐形。殻表全体に多数の貝の死殻をつけており，この姿を盗賊熊坂長範*に見たてたといわれる。ときに小石や生きた貝をつけていることもある。房総半島からインド洋・西太平洋の水深50～200mの海底で，貝殻(かいがら)のたまったようなところにすむ。欧米では，貝殻を多くつけたものを〈貝類学者〉，小石を多くつけたものを〈鉱物学者〉とよぶ。

くまさかちょうはん　**【**熊坂長範**】**　平安末期の盗賊。いまの岐阜県地方を荒らしたというが，伝説上の人物との説が強い。俗書である《早引人物故事大成》によれば，1174年(承安 4)春，京都の豪商橘次(きちじ)(金売り吉次)が陸奥(むつ)へ下る途中，長範は多数の手下を率いて美濃(みの)の青墓宿を襲ったが，かえって橘次の同行者の牛若丸に切られたという。また略奪の目的で高野山に登ろうとしたが，ふと菩提心(ぼだいしん)を起こし，おのれの前歯を欠いて骨つぼに納め，〈高野山峰の嵐(あらし)は烈(はげ)しくとも，この歯は残れ後の形見に〉と詠じたともある。しかし，これは足利義教(あしかがよしのり)の歌と逸事の訛伝(かでん)である。謡曲《烏帽子折(えぼしおり)》《熊坂》に登場する。　〔稲垣史生〕

くまざさ　**【**隈笹**】**　単子葉植物・イネ科のササ類。西日本の山地に自生する多年草。観賞用に広く庭園にも植える。高さ30～60cm。葉は長楕円(ちょうだえん)形。洋紙状で革質。表面は深緑色，裏面は白色をおびる。冬季に縁が枯れて白くくまどる。まれに開花し，長い花柄を出して，まばらに分枝し小穂をつける。葉が美しく，かわいても巻かないため，すし屋で仕切りなどに用いられる。

くまざわばんざん　**【**熊沢蕃山**】**(1619～1691) 江戸初期の儒学者・神道学者。名は伯継(はくけい)，蕃山は号。京都に生まれ，母方の外祖父熊沢守久(もりひさ)の養子となる。中江藤樹*の門下となり，27歳で以前仕えた岡山藩に再出仕し，要職に着いた。机上の空論を排して，実学的学問を主張。《集義和書》は古学派*に影響を与えた。39歳で浪人し，京都で学を講じ《大学或問(わくもん)》を著わして経世思想を述べたが，幕府を刺激し，下総(しもうさ)(茨城県)の古河(こが)に幽閉，古河城内で病死した。彼は陽明学の道統に立ちながら朱子学の長所をも取り入れ，かつ仏教を排した神儒合一的神道説を提唱した。神道書に《神道大義》《三輪物語》などがあり，儒家・神道家に加えられる。〔田上光治〕



クマサカガイ



ク マ ザ サ

クマシ　［Kumasi］　ガーナ共和国，アシャンティ州の中心都市。人口26万(1970)。ガーナ中南部に位置し，アクラおよびタコラジと鉄道で結ばれ，カカオ・木材などを集散する。1697～1731年の間，アシャンティ‐オセイ‐ツツの建設したアシャンティ王国の首都であった。砂岩でできた王国の宮殿とイギリス植民地時代の要塞(ようさい)の遺跡，工科大学などがある。

くまぜみ　**【**熊蟬**】**　こん虫類・半翅(はんし)目・セミ科。日本に産するセミ類中の最大種で，体長40～48mm，翅端までの長さ63～65mm。体は強く光沢のある黒色で，羽化直後には金色の軟毛でおおわれる。腹部第 2 節の両側の前縁には，狭い白色帯があることが多い。翅(はね)は透明だが，ときに著しくかっ色をおびることがある。翅脈は，基半部では黄緑色および暗黄色であるが，先半部では黒かっ色を呈する。関東地方以西，四国・九州・沖縄および中国北部に分布する。成虫は 7 月下旬から 9 月にかけて最も多く，シャーシャーと鳴く。クマゼミ類は熱帯地方に多くの種が知られているが，日本にも奄美(あまみ)大島・沖縄にリュウキュウクマゼミ，八重山諸島にヤエヤマクマゼミを産する。

くまそ　**【**熊襲**】**　わが国古代，南九州に居住していた種族。南方民族系とする説をはじめ，その種族の系統について諸説があるが，〈くま〉は肥後(熊本県)球磨(くま)郡，〈そ〉は大隅(おおすみ)(鹿児島県)噌唹(そお)郡をさし，〈くまそ〉はそこに住んでいた人々で大和(やまと)朝廷*に服属しなかった種族という説が一般的である。《続日本紀》に隼人*(はやと)・曾君(そのきみ)などの名が見えることから，〈そ人〉は隼人と同じものであったともいわれる。景行・仲哀天皇の親征，またヤマトタケルノミコト*の征討などは有名であるが，熊本県下の江田船山古墳*出土の太刀(たち)銘文から，〈くま〉のこの地方が 5 世紀中ごろ大和朝廷に服属していたことが知られる。〔柳雄太郎〕

くまたか　**【**熊鷹**】**　鳥類・ワシタカ科。全長70～80cm，翼開長150cmの大きな風格のあるタカ。後頭部の羽毛は長くとがり，頸部(けいぶ)には白地にかっ色の大きな縦斑(じゅうはん)があり，下面は白色で胸にはかっ色斑がある。尾は白地に太いかっ色の横帯が数本ある。上面はかっ色。インド・東南アジアから日本にかけて分布する南方系のタカで，日本では東北地方の山地や中央アルプスのほか，近畿(きんき)・四国・中国地方などの天然林のよく残っている山地に生息し，キジ・ヤマドリ・ウサギなど大形鳥獣を地上で捕えて食べる。古来，オオタカ*とともに鷹狩りに用いられる。〔浦本昌紀・安部直哉〕

くまつづら　**【**熊葛・馬鞭草**】**　双子葉植物・クマツヅラ科。道ばたや野原にはえる多年草。茎は直立し上部で枝分かれする。高さ30～80cm，断面は四角。葉は羽状に切れ込む。夏，枝の先に紫色の 5 裂した筒状の小花を穂状につける。民間では皮膚病・腫瘍(しゅよう)に外用することがある。

くまで　**【**熊手**】**

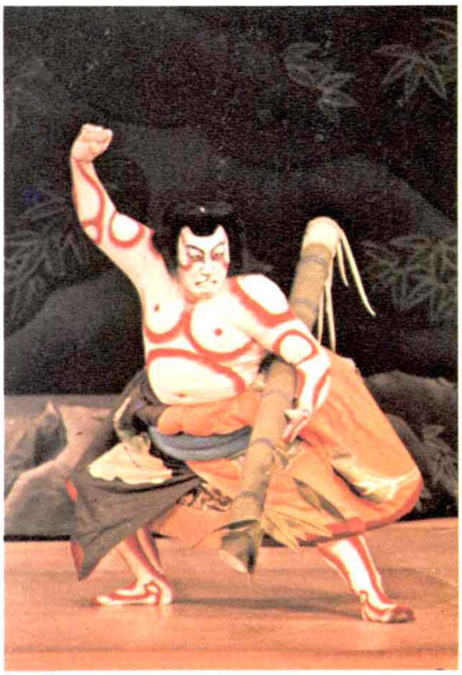
1武具の一。鉄の先端をクマのつめのようにかぎ状に曲げ，柄をつけたもので，源平時代からある。海戦では先端のかぎを敵船の舷(げん)にかけて引き寄せ，転覆させるときなどに用いられた。《源平盛衰記》の壇ノ浦の戦いでは，入水(じゅすい)した建礼門院を源五右馬允が，髪に熊手をからませて引き上げるさまが記されている。また陸戦では，敵の兜(かぶと)を引っかけて落馬させるのに用いられた。城攻めの際に城壁を乗り越えるのにも使われた。

2民具の一。形は武具の熊手とほとんど同じであるが竹製で，落葉や穀類をかき集めるのに用いられる。ここから転じて，福徳をもかき集めるものとされ，江戸時代には酉(とり)の市*でおかめの面や枡(ます)などで飾られた熊手が売られた。今日でも特に客商売の者が，客をかき集めるという縁起から買い求められている。　〔稲垣史生〕

くまとり　**【**熊取(町)**】**　大阪府泉南郡の町。人口24,000。府の南部丘陵地帯にあり，ため池灌漑(かんがい)による農業を行なっており，米・麦のほかタマネギの生産が盛んである。また隣接の泉佐野市特産のタオル工業の影響を受け，タオル・くつした・綿布などの生産も盛ん。京都大学原子炉実験所が丘陵地帯を開いて設置されている。

くまどり　**【**隈取**】**　歌舞伎(かぶき)の特殊な化粧法。顔面をいろどり，表情を誇張するもので単に〈隈〉ともいう。初世市川団十郎*

隈　取



一本隈　曾我五郎時致(寿根元曾我)　2世尾上松緑



火焔隈　狐忠信　3世市川猿之助



鯰　隈　鯰坊主　10世岩井半四郎



筋　隈　曾我五郎時致(矢の根)　2世尾上松緑



土蜘蛛隈　土蜘蛛　2世尾上松緑
目じりをさらに強めて仕上げる



亡霊隈
平知盛　3世実川延若

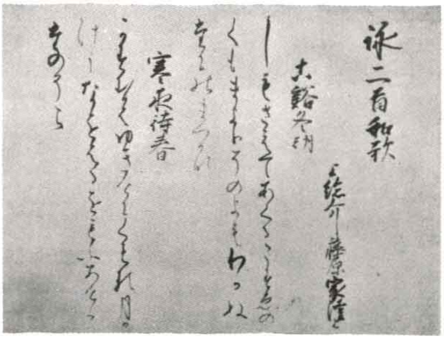


公家荒隈　暫のうけ　5世市川男女蔵

が創始し，〈荒事*(あらごと)〉の演出とともに発達した。役の性格を表現する点，中国古典劇の〈臉譜(れんぷ)〉に似ているが，仮面のように塗るのではなく，顔の骨格と筋肉に沿って線を引き，表情を生かすのが特徴。役がらに応じ，色と筋の組み合わせで，100種近くの種類があるが，大別して，正義・力・熱情などを表わす〈紅隈(べにぐま)〉と，邪悪・妖異(ようい)を表わす〈藍隈(あいぐま)〉の2系統に分かれる。紅隈系は英雄・豪傑などの役に多く，〈むきみ〉〈一本隈〉〈二本隈(筋隈)〉〈猿隈(さるぐま)〉などの種類があり，藍隈系は代赭(たいしゃ)・墨などと併用して敵役(かたきやく)・妖怪などの役に使われ，種類には〈公卿荒(くげあれ)〉〈般若隈(はんにゃぐま)〉などがある。なお，動詞では〈隈をとる〉という。〔松井俊諭〕

くまねずみ　【熊鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。外形はドブネズミ*に似るが，体長15〜23cm，尾長15〜25cmで，ドブネズミより体が細長く，尾が長く，耳が大きい。野生種はインドからインドシナ・中国南部に分布するが，人間に寄生生活をするようになり，現今では広く世界じゅうに分布する。人家の天井裏や農耕地などにすみ，動作は敏捷(びんしょう)で木登りがうまい。1産1〜10子。妊娠期間は21日。かたいものをかじるので，ガスの鉛管や電線を破壊し，思わぬ災害をひき起こすことがある。

くまの　【熊野】　紀伊(きい)半島の熊野灘(くまのなだ)に面する海岸およびその背後の山地をさし，その範囲は和歌山県の東牟婁(ひがしむろ)郡・西牟婁郡および新宮市，三重県の南牟婁郡・北牟婁郡および熊野・尾鷲(おわせ)両



熊野懐紙　藤原家隆筆　陽明文庫蔵

市を含む地域である。古くは熊野国として紀伊国とは別に扱われていたが，大化改新に際して紀伊国に統一されて牟婁郡となったが，熊野という地域名は残った。もとは〈くまぬ〉とよび，《古事記》《日本書紀》の神武東征の記事にも見える。山深く交通不便な土地であるが，奈良時代にここに本宮・新宮・那智(なち)の熊野三山*とよばれる神社がつくられ，平安時代初期からは山岳仏教の振興によっていわゆる熊野詣(もうで)が盛んになったために，現在の国道42号線の道筋にあたる熊野街道が早くから開けた。いまは紀勢本線も通じ，吉野(よしの)熊野国立公園の一部として新しく脚光を浴びている。〔浅井得一〕

くまの　【熊野(市)】　三重県南端の市。古くは熊野三山*の神領地で，江戸時代に和歌山藩領となり，木本(きのもと)に代官所が置かれた。1954年(昭和29)木本町が周辺7村を合併して市制を施行。人口26,000。市域の大半は紀伊(きい)山地に属する山林で，熊野灘(くまのなだ)に面して砂浜海岸が開ける。産業三大別人口比は25：22：53。奈良県境を流れる北山川流域の木材を集散し，製材工場が多い。耕地は少なく，米のほかミカン・ナツミカン・モモなどの果樹栽培や，トマト・レタス・スイカなどの蔬菜(そさい)栽培が行なわれている。国鉄紀勢本線に沿い，国道42号線(熊野街道)・169号線(東熊野街道)が集まる。吉野(よしの)熊野国立公園の観光基地で，大小数千個の洞窟(どうくつ)群をもつ鬼ケ城や獅子(しし)岩，新宮市まで松林が続く七里御浜(しちりみはま)(熊野浦)などの景勝地に富む。御浜から採取される装飾用の〈御浜小石〉，神川地区に産する碁石用の那智(なち)黒石などの特産がある。

くまのい　【熊の胆】　ツキノワグマ*やヒグマ*の胆汁(たんじゅう)を含んだ胆嚢(たんのう)を干したもの。長さ9〜15cm，幅7〜9cmの胆嚢にはいっている乾燥した胆汁を熊胆(ゆうたん)といい，その形は不定形で砕けやすい。破砕面はガラスのようにつやがあり，湿潤していない。外観は黄かっ色，強い特異臭があり味はきわめて苦い。古くから五疳(ごかん)強心薬として，また腹痛や強壮薬として珍重される。奇応丸・六神丸・反魂丹などの原料の一つである。〔三浦三郎〕

くまのかいし　【熊野懐紙】　後鳥羽(ごとば)院が紀伊(きい)(和歌山県)の熊野三山へ御幸される途中，供奉(ぐぶ)の廷臣と催された歌会の懐紙*。すべて2首懐紙で，自由に力強く書き，個性がよく現われている。筆者は後鳥羽院・源通親(みちちか)・藤原公経(きんつね)・



熊野川　朝もやにけぶる熊野川(中流の本宮町付近)。かつては木材のいかだ流しが盛んであったが，いまはその姿も見られなくなった

熊野三山

熊野本宮大社　山岳仏教の影響を受け，奈良初期から熊野修験道の本拠地となった





熊野速玉大社(新宮)　熊野本宮大社とほぼ同時代に創建され，三山中国宝・重要文化財が最も多い。中央の本殿は熊野造り

熊野那智大社　那智滝を控えて修験道の最高行場として栄えた。現社殿は1851年に再建されたもので，三山中最もかつての規模をとどめている



藤原家隆(いえたか)・藤原定家・寂蓮(じゃくれん)ら，13世紀初めの《新古今集》の歌人として有名な人々である。国宝。

くまのがわ　【熊野川】　奈良県南西部の紀伊(きい)山地の山上ケ岳から流れ，南下して三重県にはいる十津(とつ)川の本宮付近から下流をいい，途中和歌山・三重両県境で北山川を合わせ，県境に沿って南東に流れて熊野灘(くまのなだ)に注ぐ。十津川と合わせて流程140km。十津川・北山川ともにスギとヒノキの美林の多い紀伊山地を峡谷をつくって流れ，いかだ流しは古くから有名であったが，いまはトラック輸送の発達のため見られなくなった。河口の新宮市は木材の集散地として発達してきた。流域には峡谷が続いており，九里峡，北山川の瀞八丁*(どろはっちょう)などの景勝地が知られ，新宮市から上瀞まで熊野探勝の遊覧船ウォータージェットが通ずる。古くは本宮にある熊野大社への参道として開かれた。上流を含む流域は吉野(よしの)熊野国立公園に属し，吉野熊野総合開発地域に指定されて，北山川を含めて五つの発電用大形ダムがある。〔長津一郎〕

くまのこがい　【熊の子貝】　軟体動物・腹足類・ニシキウズ科の巻き貝。殻高(かくこう)3.5cmほどで，側面がほぼ正三角形に近く，丸みのある円錐(えんすい)形。殻表は黒く，殻裏の中心は緑色。ふたは革質。房総半島以南，台湾・中国の潮間帯の岩礁にすむ。

くまのごんげん　【熊野権現】　⇨次項

くまのさんざん　【熊野三山】　和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡にある熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智(なち)大社の総称。三所権現・三熊野ともいう。

熊野本宮大社：本宮町にあり一般に熊野本宮と称される。祭神は家津御子神(けつみこのかみ)。崇神(すじん)天皇の代(紀元前1世紀)はじめて熊野権現がこの地に現われ，これを祭ったのに由来すると俗伝されるが，太古，出雲(いずも)族がこの地に移住した際，郷土の熊野神を水をしずめる神として祭ったことに始まるといわれる。1889年(明治22)熊野川の洪水(こうずい)にあい，上流の旧社地より現在地に移祭した。例祭は4月15日。

熊野速玉大社：新宮市にあり，古くは熊野新宮と称された。祭神は速玉之男神(はやたまのおのかみ)。《神代紀》に〈唾(つわ)く神を逸玉之男という〉とある神である。太古は神蔵峰に祭られていたのを景行天皇の代(4世紀)に現在地に移祭したものという。社宝に丹塗(にぬ)りの弓，鳥頸(ちょうけい)の太刀(たち)をはじめ，蒔絵(まきえ)の櫛笥(くしばこ)，熊野速玉大神座像など多数がある。10月15日の例祭の翌日行なわれる諸手船(もろたぶね)の神事は，熊野三山の祭礼中最も著名である。

熊野那智大社：那智勝浦町にあり，古くは熊野夫須美(ふすみ)神社と称された。祭神は熊野夫須美神。《神代紀》に〈熊野櫲樟日神(くまのくすひのかみ)〉，《新抄格勅符抄》に〈熊野牟須美神(くまのむすびのかみ)〉とみえる神である。太古，那智浜に鎮座し，仁徳(にんとく)天皇の代(5世紀)に現在地に移祭したという。社殿はなく，那智滝を神霊と定めて，その前に拝殿のみを設ける。古来，飛龍(ひりょう)権現とも称されるゆえんである。社宝に牟婁郡印をはじめ，宝剣・古文書など多数がある。

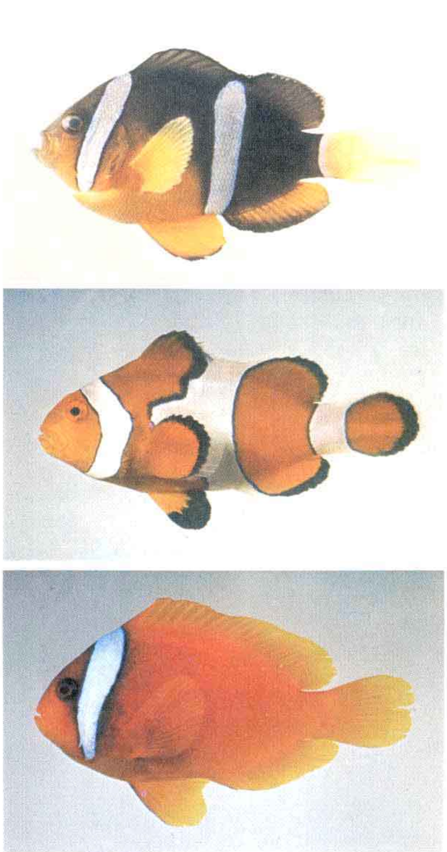
飛龍権現の信仰はきわめて古く，特に平安時代以降は，大峰・葛城(かつらぎ)の修験道*(しゅげんどう)と結びついて多くの修験者を招来し，さらに熊野本宮・新宮を経めぐる熊野三山信仰に発展して山中抖擻(とそう)の修験行場となった。その修験者は，牛王宝印

(こおうほういん)などの護符を全国的に頒布して大いに霊験を広めたため，中世には〈蟻(あり)の熊野詣(もうで)〉の語を生むほどの盛況を呈した。熊野三山を中心とする修験道はいまもなお盛んで，新宮の神倉行，那智の滝行に始まり，最も難行とされる本宮の大峰修行に終わる山中抖擻が行なわれている。この山中行はさらに，吉野(よしの)の金峰山(きんぷせん)に及ぶ一大道場をも形成し，75の行所を縦断する奥駈(おくがけ)が現在も一部の修験者の間に行なわれている。〔佐野文哉〕

くまのしんこう　【熊野信仰】　和歌山県の熊野三山に発する信仰。熊野はイザナミノミコトの他界地とする伝承もあり，古代以来神秘的な聖地と考えられた。平安初期には〈本宮・新宮・那智(なち)〉のいわゆる熊野三山の構成がなり，山岳仏教の興隆に伴い本山派(天台宗)山伏*の根拠地として，修験道*の道場となった。平安後期になると末法思想*が強く意識され，法皇・上皇・貴族たちがしきりに熊野詣(もうで)を催したので，中世になると一般庶民の熊野参詣(さんけい)も盛んとなり，〈蟻(あり)の熊野詣〉といわれたほどであった。また八咫烏*(やたがらす)の神話もあって，早くからカラスは熊野三山の神使とされ，それを図案化した牛王宝印(ごおうほういん)は，誓約や魔よけに盛んに用いられた。熊野三山に拠(よ)る修験者，御師(おし)は，全国を歩き，牛王宝印の神札を配って熊野信仰を広めた。→熊野三山　〔直江広治〕

くまのじんじゃ　【熊野神社】　島根県八束(やつか)郡八雲村にある。祭神は神祖熊野大神櫛御気野命(かぶろぎくまのおおかみくしみけぬのみこと)(スサノオノミコトの別名)。創祀(そうし)の年代は明らかでないが，《出雲風土記(いずもふどき)》に〈熊野大社〉，《神祇令(じんぎりょう)義解》に〈出雲国造斎神(いずものくにのみやつこのいつかみ)〉，《延喜式(えんぎしき)神名帳》に〈熊野坐(くまのにます)神社〉とみえており，きわめて古い。和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡本宮町の熊野本宮大社は，当社より分祭されたものといわれる。例祭は10月14日。→熊野三山　〔佐野文哉〕

くまのなだ　【熊野灘】　紀伊(きい)半島南方海域のうち，和歌山・三重両県の沖合いにかかり，中央の潮岬(しおのみさき)から東方大王崎までの140kmの間をいい，潮岬西方海域の紀州灘と相対する。沖合いを黒潮(日本海流)が流れ，ブリをはじめマグロ・カツオなどの好漁場となっており，沿岸には漁港が発達する。沿岸は，先志摩の海食台地，東部のリアス式海岸，七里御浜とよばれる熊野浦の砂浜と地形は複雑であるが，気候は8月の平均気温25～26℃，1月6℃前後ときわめて温和である。台風の経路にあたり，台風時以外の暴風日数も多いので，海上は難航路となる。古くから航路として利用されたが，江戸時代にも江戸・上方間航路の難所であった。沿岸の一部は伊勢(いせ)志摩ならびに吉野(よしの)熊野両国立公園に指定されている。〔山口恵一郎〕



クマノミ　(上)クマノミ　(中)カクレクマノミ　(下)ハマクマノミ



クマバチ　ウツギの花を訪れるクマバチ



熊祭り

くまののほんじ　【熊野の本地】　御伽草子*(おとぎぞうし)の一。本地物*。観音の利生によって懐妊した善財王の后(きさき)が，他の后999人の嫉妬(しっと)のため殺される。直前に生まれた王子は死んだ母の乳を飲んで育ち，母の兄じげん上人(しょうにん)に引き取られ，のち内裏に帰って父の病気をなおし，素姓を明かす。そしてその後，上人と父母の4人で，人心のなごやかな日本の紀州(和歌山県)熊野に垂迹(すいじゃく)し，熊野神社とあがめられた。《神道集*(しんとうしゅう)》巻1の〈熊野権現事〉と同一の説話。〔信太　周〕

くまのプーさん　イギリスのジャーナリスト・作家ミルン(1882～1956)の童話(1926)。くいしんぼうで，失敗ばかりしていて，そのくせ詩人でもあるクマのプーさんの物語で，作者が自分の子どものために書いたものだが，世界じゅうの子どもに熱狂的に読まれ，続編《プー横丁にたった家》がある。

くまのみ　硬骨魚類・スズメダイ科。全長15cmほどの海産魚。体形はタイ型。体色は暗かっ色～鮮紅色で，体側に白色の幅広い3条の横じまが目だつ。本州中部以南・インド洋西部・紅海・小笠原(おがさわら)・ポリネシア・オーストラリア北部の浅い岩礁地帯に分布する。クマノミの仲間には，このほか，暗かっ色～赤色の地色に3条の白色のしまが黒く縁取られているカクレクマノミ，クマノミと同じ地色で目の後ろに白色のしまが1本だけあるハマクマノミ，淡紅色の体色で背筋の白いハナビラクマノミなどがあり，いずれも美しくじょうぶなので観賞用によく飼われている。しかし，クマノミ以外は日本内地ではめったに採集されず，ほとんど沖縄以南から輸入されている。クマノミ類は，イソギンチャクと共生するので知られ，有毒な刺胞をもつイソギンチャクの触手の間に自由に出入りする。英語のクラウン-フィッシュ(道化魚の意で，クマノミ類)の名も使われる。〔菅野　徹〕

くまのゆおんせん　【熊ノ湯温泉】　長野県下高井郡山ノ内町にあり，泉温41～70℃，泉質は硫化水素泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。志賀高原の奥地，角間(かどま)川上流の標高1,700mの高地に位置する。佐久間象山*の発見と伝えられ，スキー客やハイカーでにぎわい，志賀四十八池巡りの観光客も多い。交通は長野電鉄湯田中駅からバスの便がある。

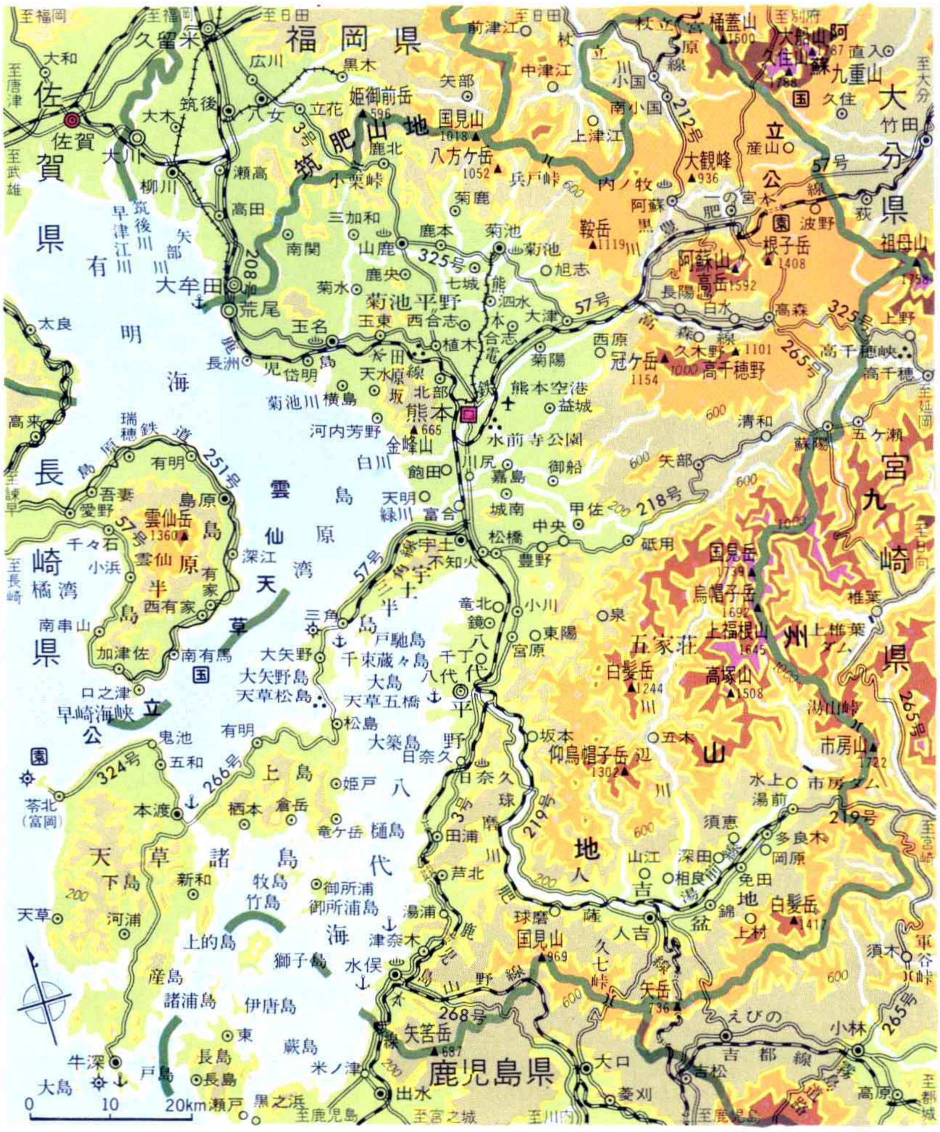
くまばち　【熊蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・ミツバチ科。体長20～24mm。体は黒色で，胸部背面・中胸側面に黄色の体毛を密生する。雌は木材，枯れ枝，人家の軒などに長い穴をあけ，中を数室にくぎって蜜(みつ)や花粉を貯蔵し，1室に1卵ずつ産下する。本州・四国・九州に分布する。クマバチ類は全世界から350種ほどが知られ，いずれも大形で頑強(がんきょう)な体をもち，熱帯地方に多くの種類が分布する。

くままつり　【熊祭り】　北方狩猟民がクマの殺害に伴って催す狩猟儀礼の一種。大別すると次の2型がある。①クマを狩りで殺した際に行なう比較的単純な儀礼。この型はユーラシア北部から北アメリカにかけ

て広く分布し，わが国のまたぎ*の慣行にもその形骸(けいがい)を残す。②子グマを捕え，2～3年飼育したのち，各地の氏族を招き，盛大な祭りを開いて殺害する型。分布はアイヌ・ギリヤーク・オロッコ・ウリチなど，北海道・サハリン(樺太(からふと))・アムール地方の諸族に限られる。いずれも動物界を支配する主，および動物が骨から再生するとする狩猟民特有の観念を背景としており，祭りの主題はクマと和解し，その魂を主へ送り返し，骨，ことに頭骨を掲揚してクマの復活を促す点にある。そのほか殺害法，死骸の小屋への搬出入法，肉や臓器の分配，クマの呼称などに種々の作法やタブーが存在する。なお，熊祭りをさすアイヌ語イヨマンテは〈それ(クマ)を(主のもとへ)行かせる〉の意。　〔和田　完〕

くまむし【熊虫】 節足動物・緩歩綱の総称で，ほとんど肉眼では見えないほどの微小動物。頭部のほかに4節の胴部があり，胴部の各節に1対のつめのあるあしをもつ。体が長楕円(ちょうだえん)形でずんぐりしているので，クマを思い起こさせる。湿気のある地表や淡水・海水にすみ，世界で300種ほどが知られる。クマムシ類を分類上独立の門として扱うこともある。

くまもと【熊本(県)】 九州地方中西部の県。北は福岡県，北東は大分県，東から南へかけては宮崎県・鹿児島県と接しており，西は有明海・島原湾・天草灘(あまくさなだ)・八代(やつしろ)海(不知火(しらぬい)海)に臨む。肥後の全域を占め，面積6,947km²，人口178万7,000，人口密度1km²あたり257人。県花はリンドウ，県木はクスノキ，県鳥はヒバリ，県庁のある熊本以下11市と12郡66町21村に分かれる。



熊　本　県

〔自然〕一般に山がちの地形で，北・東・南の三方を山地が囲み，中央に熊本・八代の両平野があり，西方には宇土(うと)半島が突出して有明海と八代海をくぎり，その南西に天草諸島が散在する。北部には丘陵性の筑肥(ちくひ)山地が福岡県境を東西に走り，北東部には霧島・白山の両火山帯が通って霧島火山帯に属する阿蘇(あそ)山(最高峰は高岳，1,592m)を中心とする阿蘇国立公園がある。東から南へかけての山地は肥後アルプスといわれる九州山地の中心部で，大分・宮崎両県境には祖母山(1,758m)・国見岳(1,739m)・市房(いちふさ)山(1,722m)などの高峰が連なる。北の阿蘇地方に源を発する菊池川・白川・緑川は西流して，下流部に九州地方第2の広さをもつ熊本平野*をつくり，菊池川中流部には山鹿(やまが)盆地がある。南の九州山地に源を発する球磨(くま)川は人吉(ひとよし)盆地を貫流して，下流に八代平野をつくり，平野東端に断層線崖(がい)を発達させる。両平野はそれぞれ有明海・八代海に沿って干拓地が多く，その面積は平野総面積の約30%に達する。南西方の天草諸島は約120の島々からなり，大半は丘陵性の山地で大きな河川はない。天草諸島は雲仙(うんぜん)天草国立公園に属し，1966年(昭和41)天草五橋が完成して交通の便が開けた。気候は一般に温暖で雨も比較的多く，北部は梅雨期に，南部は台風期に降水量が増加し，海岸部は洪水(こうずい)・高潮の害を受けやすい。平地では年平均気温が約15℃，年降水量は1,700mm前後であるが，南部山地では気温がやや低く，年降水量は2,000mmを越える。熊本平野は内陸性気候を呈し，寒暑の差は九州で最も大きく，熊本市は1月の平均気温が4.6℃，8月は27.4℃である。天草諸島は本土より気候が温暖で，亜熱帯植物が自生している。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は26：22：52。農業を主産業とし，近代工業の発達は遅れており，県民分配所得は1人あたり112万2,000円(全国35位，1977年)である。

〈農林水産業〉農業人口は約29万，水田率は53.5%で，水田の多い北九州と畑の多い南九州との中間地域の性格を示している。九州では福岡に次ぐ米産県で平年収量は31万8,000tに達する。主産地の熊本・八代・菊池などの平野部では二毛作が行なわれ，肥後米とよばれる良質の米を産し，北九州や大阪・東京方面へも移出する。裏作にはおもに裸麦・サツマイモがつくられ，機械化農業が進んで生産性が高い。阿蘇地方その他の台地ではアワ・トウモロコシなどの畑作が行なわれ，アワの生産量は全国一である。工芸作物では，八代平野を主産地とするイグサが年間33,000t(岡山県に次ぎ全国2位)，タバコが13,000t(茨城・福島両県に次ぎ全国3位)に達する(1966)。天草諸島では米の早期栽培が一毛作で行なわれ，熊本市・八代市の近郊ではキュウリ・トマトなどの半促成栽培が盛んで，県北の丘陵地帯では養蚕が行なわれる。東部の九州山地には五家荘*(ごかのしょう)のような僻村(へきそん)が点在し，かつては焼畑耕作が主であったが，最近は山林の開発が進んでいる。果樹栽培では，熊本市西方の金峰山付近にミカンの特産があるが，最近北西部の玉名市・天水町周辺の丘陵地一帯に日本一の集団産地が



熊本県
火の国熊本のシンボル阿蘇山。写真は中央火口丘，中岳の噴火口の鳥瞰。火口周辺には，不時の爆発に備えてつくられた退避壕が点々と見える

つくられた。また，有明海沿岸部から宇土半島・天草諸島にかけてはウンシュウミカン，南西部の八代市から水俣(みなまた)市にかけてはアマナツミカンのオレンジベルトが形成されている。畜産業は，阿蘇山麓(さんろく)の60,000ヘクタールに及ぶ広大な原野を中心に，役肉牛や馬の放牧が盛んで，和牛の飼養頭数は96,000頭を越えて全国一である。近年は県下全域にわたって乳牛の飼育が増加し，頭数は約44,900頭と九州で最も多く，ニワトリ・ブタも各地で飼われている。林野面積は約47万ヘクタール，県域の64％を占める全国有数の林業県で，温暖多雨の気候に恵まれて樹木の生長が早く，素材生産量は142万m³に達する(1967)。樹種は北部の小国(おぐに)地区のスギ，球磨地方のモミ・ツガ・ヒノキ，芦北(あしきた)郡の坑木用マツなどが代表的である。竹林も球磨・八代・菊池地方に広く分布し，年間竹材生産量は63万2,000束で，全国5位である(1967)。また，上益城(かみましき)や鹿本(かもと)地区ではたけのこ用モウソウダケの栽培が盛んで，また，年間60,000本を輸出するつりざおやシイタケなどの特産がある。天草諸島を中心とする海面漁業と，有明海と八代海の浅海を利用する内湾漁業が行なわれるが，その規模はいずれも小さい。天草灘ではイワシ・アジ・サバを漁獲し，有明・八代の内湾ではエビ・ボラ・カニ・タコ・アサリ・サルボウ(アカガイの近縁種)その他の魚種に富み，有明海には珍魚ムツゴロウ*の特産がある。ノリの養殖も盛んで，年間4億枚前後を産し，天草諸島では真珠やクルマエビの養殖が行なわれる。淡水魚では球磨川のアユが名高い。《鉱工業》一般に地下資源には恵まれないが，天草下島で良質の無煙炭を産し，福岡県境に近い荒尾地区には三池炭田が北から延びている。天草陶石の産出は全国一で，八代海岸や天草上島では石灰岩を産出する。市場が遠く，良港湾に恵まれないために近代工業の発達は遅れており，工業製品の年間出荷額は1,501億1,000万円で全国33位である(1966)。主要製品は食料品・化学肥料・紙パルプ・セメント・木材・木製品・繊維類などで，熊本・八代・水俣の諸都市に大規模な工場があるが，そのほかはほとんど家内工業的な性格が強い。近年不知火・有明・大牟田(おおむた)地区が新産業都市に指定され，有明・八代両地域や熊本市周辺に近代工業地帯の造成が進んでいる。八代地区では，八代港の築港工事の進行につれて，重化学工業基地の建設が行なわれ，有明地区では有明海に埋蔵された砂鉄の開発をめざして工業用地の造成が進んでいる。

〔交通・都市〕鹿児島本線が西海岸を南北に走り，肥薩(ひさつ)線(八代～隼人(はやと))が八代から人吉を経て鹿児島県へ抜け，豊肥本線(熊本～大分)は熊本から阿蘇の火口原を横切って東海岸へ通ずる。そのほか，三角(みすみ)線・山野線・高森線・宮原線などの国鉄の支線が県下各地を結んでいる。道路交通では，国道3号線が鹿児島本線とほぼ平行して西海岸を走り，かつて難所とされた赤松太郎越・佐敷(さしき)太郎越・津奈木(つなぎ)太郎越のいわゆる〈三太郎越〉には最近トンネルが通じて，八代市～水俣市間は1時間半で結ばれるようになった。そのほか熊本市から阿蘇山の火口原を経て大分市へ通ずる国道57号線，松橋(まつばせ)町で国道3号線から分岐して矢部(やべ)町を経て高千穂町(宮崎県)へ通ずる国道218号線，八代市から球磨川をさかのぼり，人吉市を経て宮崎市へ通ずる国道219号線などが県下をほぼ東西に走り，天草パールラインによって天草諸島と本土を結ぶ国道266号線とともに県下の主要道路となっている。バス交通はこれらの道路を利用して，西部では別府～阿蘇～雲仙の観光ルートを中継する重要な役割を果たし，東部山地では鉄道に代わる主要交通機関となっている。航空路では，熊本空港から東京・大阪・大村へ定期便が出ている。海上交通は，三角(みすみ)港を中心に天草・島原・長崎方面へ定期航路が通じており，長洲(ながす)港・三角港・本渡港・松島港から島原半島の多比良(たいら)港・島原外港へフェリーボートが通じている。人口は，おもに西部の熊本・八代両平野に集中し，東部の九州山地や阿蘇山周辺は人家がまばらで，五家荘*や五木(いつき)村*は秘境として知られる。平野部には，県庁のある熊本市のほか，工業都市の八代市，大牟田市に隣接する鉱業都市荒尾市，化学工業都市水俣市，養殖ノリの産地玉名市，温泉町山鹿市，米産地菊池市，小西行長(ゆきなが)の城下町であった宇土市など，南部の人吉盆地には木材の宝庫人吉市，天草諸島には行政・経済の中心地本渡市と西日本有数の漁業基地牛深市がある。玉名・本渡・山鹿・牛深・菊池・宇土は，1953年の町村合併促進法施行以後の新市。

〔歴史〕古代から火国(肥国)(ひのくに)の名で知られ，天武天皇のころ肥前(長崎県・佐賀県)と肥後に分かれた。熊本・八代の両平野には貝塚(かいづか)が点在し，阿蘇山周辺には大きな古墳がある。奈良時代・平安時代を通じて九州一の大国で，はじめ八代付近にあった中心は北上して熊本付近に移った。阿蘇神社の大宮司阿蘇氏はそれ以前から続く土豪で，菊池郡の土豪菊池氏とともに中世を通じてこれらの地方を統治し，南北朝期には南朝方の有力武将として活躍した。戦国時代には豊臣秀吉(とよとみひでよし)配下の2武将加藤清正(きよまさ)と小西行長が半国ずつを統治し，宇土を居城とした行長の下ではキリシタン文化が栄えた。行長が関ケ原の役で敗れたのちは，加藤清正が肥後一国を治めて，熊本城*の築城をはじめ，各河川流域の干拓，堤防の構築など，大規模な土木工事を行なったことが知られる。江戸時代初期に加藤家が滅亡したあと，細川氏12代が肥後五十四万石を領し，高瀬・宇土にその支藩が置かれた。1637年(寛永14)に起こった島原の乱に際しては，天草がその主戦場となり，キリシタン殉教の遺跡が各地に見られる。1871年(明治4)の廃藩置県によって熊本・人吉の両県が置かれ，その後数回の再編成を経て1876年に現在の県域が確定した。1877年に起こった西南の役では県下全域が戦場となり，熊本城や田原坂(たばるざか)などでは官軍と薩摩軍との激戦が交された。〔浅井得一〕

くまもと【熊本(市)】熊本県中西部に位置する県庁のある市。もと隈本と書き，文明年間(1469～1486)に菊池氏の一族が居城を築いた。1607年(慶長12)に加藤清正(きよまさ)が熊本城*を完成し，城下町を整備してから繁栄した。1632年(寛永9)以後，江戸時代を通じて細川氏五十四万石の城下町で，明治維新以後は鎮西探題，のち第6師団が置かれて九州の軍都となった。1877年(明治10)の西南の役のとき城と市街の大半を焼失したが，その後復興が進んで，県の政治・

経済・文化の中心地となり，1889年市制施行。人口50万3,000。熊本平野*の中央部，阿蘇(あそ)山から発する白川流域の沖積(ちゅうせき)低地と洪積(こうせき)台地を占める。産業三大別人口比は 5：21：74。熊本平野の肥後米を集散し，商業やサービス活動が盛んで，消費都市的色彩が強い。良港に恵まれず，大消費地や石炭産地から離れているため，近代工業は未発達で，紡績・農機具・食料品などの諸工業が小規模に行なわれているにすぎない。熊本大学(旧制5高・熊本医大・熊本薬専・熊本工専などの後身)や熊本女子大学などが東部に集まって文教地区を形成し，また陸上自衛隊西部方面総監部・西部方面航空隊などもあって，かつての軍都のおもかげを残している。鹿児島本線から豊肥本線・三角(みすみ)線を分岐し，熊本電鉄が菊池市と結び，かつての薩摩(さつま)・日向(ひゅうが)・豊後(ぶんご)の諸街道が国道3号線・57号線・208号線・219号線として市域に集中する。熊本空港からは，東京・大阪・大村に定期航空路が通ずる。名所史跡には，1960年(昭和35)に天守閣を復旧した熊本城跡(特別史跡)・水前寺公園・江津湖，仏舎利塔のある花岡山などがある。また加藤清正・宮本武蔵(むさし)・夏目漱石(そうせき)・森鷗外(おうがい)などにゆかりの深い寺や墓，住居跡も残る。別府～阿蘇～雲仙(うんぜん)を結ぶ国際観光ルートの中継地。朝鮮あめ・文旦(ぶんたん)づけなどの特産物がある。〔浅井得一〕



熊 本 市　南西側から望んだ市の中心部。左手に熊本城が見え，その手前右に県立病院や県合同庁舎が並び，さらに中心繁華街に続く

くまもとじょう　【熊本城】　熊本市内にある近世名城の一。銀杏(ぎんなん)城ともいう。15世紀末，菊池氏の一族出田(いずた)氏が築城して千葉城と称したのに始まる。のち，鹿子木親員(かのこぎちかかず)が別に隈本(くまもと)城を築いたが，関ヶ原の役後，肥後(熊本県)の国主となった加藤清正*(きよまさ)はこれら旧城を廃し，1601年(慶長6)その背後の茶臼(ちゃうす)山丘陵に，一の天守，二の天守，櫓(やぐら)49，櫓門18，城門29に及ぶ巨大な熊本城を築いた。1632年(寛永9)その子忠広(ただひろ)が改易となったのちは，代々細川氏が城主となり明治維新に至った。1871年(明治4)ここに熊本鎮台が置かれた。西南戦争・第2次世界大戦で大部分焼失したが，1960年(昭和35)現在の天守閣が再建された。〔高崎徳次〕

くまもとにちにちしんぶん　【熊本日日新聞】　熊本市で発行されている地方新聞。第2次世界大戦時の新聞統合により《九州日日新聞》と《九州新聞》が合併し，1942年(昭和17)4月1日創刊された。1951年1月《夕刊くまもと新聞》を吸収して，現在に至っている。発行部数は朝刊約28万(1980)。

くまもとはん　【熊本藩】　江戸時代，肥後(熊本県)に置かれた藩。藩主は外様(とざま)大名の細川氏*。1632年(寛永9)加藤家改易のあと封ぜられ，天草・球磨(くま)2郡を除いた肥後1か国と豊後(ぶんご)(大分県)の3郡を加え，五十四万石(実高七十五万石)を



熊 本 城　復興された天守閣

領し，熊本城*を居城とした。18世紀後半細川重賢(しげかた)は治水・殖産に努め，藩校時習館*を建てるなど治績をあげたが，藩の体制は後進性を脱しえず，明治維新にも大藩としての活動を示さず廃藩置県に至った。〔高崎徳次〕

くまもとへいや　【熊本平野】　熊本県西部，島原湾に面し，阿蘇(あそ)山の西麓(せいろく)に続く洪積(こうせき)台地と沖積地(ちゅうせきち)からなり，北は金峰山と山鹿(やまが)盆地との境をなす台地に限られ，南は宇土(うと)半島の山地から東に続く山々に限られる。北部を白川が，南部を緑川がそれぞれ西流して，島原湾に注いでいる。台地では麦・サツマイモ・タバコなどの畑作や養蚕が行なわれ，また開田も進められている。台地とその西の沖積地との境には水前寺公園や江津湖などの湧泉(ゆうせん)がある。沖積地はおもに水田で肥後米の産地として知られ，シチトウイ(七島藺)の栽培やビニルハウスによる野菜の促成栽培，草花栽培も盛んである。鹿児島本線が平野を南北に縦断し，中央部には熊本市があって，政治・文化・商業・交通の中心となっている。〔味沢成吉〕

くまやなぎ　【熊柳】　双子葉植物・クロウメモドキ科。日本特産のつる性の落葉低木。枝は平滑で強く，ときに紫色をおびる。葉は互生し，卵形で，表面は緑色，裏面は白色をおびる。8月ごろ小枝の先に，円錐(えんすい)花序に多数の白色花をつける。果実は翌年の夏に熟する(緑から赤色，黒色と変化する)。黒色になると甘味をもつようになり，食べられる。つるは強く，むち，まきなどを縛るために用い，また，かんじきの材料となる。

くまらじゅう　【鳩摩羅什】　(344～413)訳経僧。クマーラジーバ(Kumārajīva)の漢訳。中国二大翻訳家のひとり。西域(中央アジア)出身の僧。幼時インドに留学，のち401年，後秦(こうしん)王の招請によって長安に迎えられた。語学に卓越した能力を駆使して多くの経論を漢語に訳した。そのおもなものは，《法華経(ほけきょう)》《阿弥陀経(あみだきょう)》《維摩経(ゆいまきょう)》《十誦律(じゅうじゅりつ)》などの経典，《中論》《百論》《大智度論(だいちどろん)》などのナーガールジュナ*(龍樹)仏教系統の諸論である。廬山(ろざん)の慧遠*(えおん)と仏教学の重要な用語について問答した。弟子(でし)に僧肇(そうじょう)・道生らの秀才が輩出し，中国三論宗形成の背景をつくった。彼の訳した《法華経》は，文体が流麗なので，現在も読誦(どくじゅ)されている。〔鎌田茂雄〕

クマリンけいざい　【クマリン系剤】　一連の殺鼠(さっそ)剤で，ワルファリン・クマクロール・エンドロサイドの3種類がある。ネズミに慢性中毒作用を起こさせて死に至らせるもので，そのためには4～5日以上連続して摂取させる必要がある。途中で摂取が中断すると効果がなくなるため，野外のネズミ駆除には多少難点があるが，ネズミ以外の動物に対してほとんど危険性がなく，家屋内のネズミ駆除に適している。

くまんばち　⇨クマバチ

くみ　【組】　わが国の農山漁村にみられる地縁的な結合を示す集団。村落の中で，祭礼，道普請，火災・水害などの天災からの防衛・復興，家の建築，屋根ふき，葬式などを共同で行なう相互扶助組織である。大きな村落は二つか三つの組に分かれていることが多く，〈五人組*〉〈隣組〉などとよばれ，江戸時代の納税共同責任体制の発達したも



グ　ミ
(左)マルバグミ
(右)ツルグミ

のと思われる。生産力の低い段階で，共同体の維持・存続を実質的にささえてきた組織集団である。〔根本英美〕

ぐみ【胡頽子】 棘皮(きょくひ)動物・ナマコ類・キンコ科。腎臓(じんぞう)形で体長8cmほど。淡紅色の地色にかっ色の小斑(しょうはん)が散在する。触手は10本であるが，腹側の1対は著しく短い。相模(さがみ)湾・駿河(するが)湾などの5～50mの砂礫(されき)底にすみ，砂礫や貝殻(かいがら)などを集めて体を包んでいる。

ぐみ【胡頽子】 双子葉植物・グミ科グミ属の総称。落葉または常緑の木本で，つる性のものもある。葉は互生し，葉形は一様ではない。花は筒形で先が4裂し，果実は液果状に熟して食用となる。若枝・葉・花・果実の表面に特異の星状毛が密生する。アジア・北アメリカ・ヨーロッパ南部に60種が分布し，日本には10種がある。おもなものは夏に実るナツグミ，秋に実るアキグミ，海岸性のマルバグミ・マルバアキグミ，山地性のツルグミ，いけがきにするナワシログミなどがある。材は粘りが強く割れにくいので，農具の柄，つえなどにし，また薪材ともする。グミ属の根には放線菌の一種が共生し，マメ科の根粒菌と同様に，窒素固定を行なうらしい。〔横井朝子〕

くみあい【組合】 数人が出資して共同の事業を営むことを約する契約をいう(民法667条)。労働組合・各種協同組合など特別法の定める組合と区別するため，これを〈民法上の組合〉ともいう。各種の社団法人*が，その構成員の個人的目的を超越して団体独自の目的をもち，独立の権利主体として社会に認められるのに対し，組合は各組合員の目的のためのもので，それを超越した団体独自の目的はもたず，組合員の個人的結合が強い性格を有するため，これを同じ人的団体である社団と区別し，その結合関係を組合契約であるとする。組合契約は必ず出資しなければならないが，その種類については制限がないから，金銭にかぎらず不動産・無体財産権*・労力などなんでもよい。共同事業の種類についても制限がないから，公序良俗に反しないかぎり営利であっても親睦・娯楽などであってもよい。各組合員は業務執行権を有し，その過半数をもって組合の業務を決定する(民法670条1項)。業務を執行する組合員を組合契約で定めたときは(この場合，その委任された業務執行組合員は，正当事由がなければ辞任できないし，解任もされない)その者の過半数によって決定される(民法670条2項)。ただし，各組合員は業務執行権をもっていなくても，業務および組合財産の状況を検査することができる(民法670条3項)。組合員の損益分配の割合は各組合員の出資額に応じて定められる。利益・損失についてのみその分配の割合を契約で定めていたときには，その割合は利益および損失に共通なものと推定される(民法674条)。組合員は死亡・破産・禁治産宣告・除名(組合員全員の一致によって決定できる)による場合のほか，一定の条件の下にいつでも脱退できる(民法678条)。また組合財産については，組合は独立の法的人格を有しないから，各組合員の共有に属する(民法668条)。けれども，組合員の持ち分は組合という団体性があるために制限を受ける。すなわち組合員全員の合意で分割するのは妨げないが，組合員は請求前に組合財産の分割を組合長に請求することができない(民法676条2項)。脱退した組合員に対してはその持ち分を金銭に換算して支払うことになる。また組合員は持ち分を処分したことをもって，組合や第三者から債務を免れるための主張とはなしえない(民法676条1項)。さらに組合に対する債務者が組合員に債権をもっていたとしても，それを相殺(そうさい)することはできない(民法677条)。組合財産は個人財産とは異なるからである。このように，組合財産は組合員の共有に属するとはいえ，その法的性質は合有*であるとするのが近時の判例・通説である。
➔協同組合　➔労働組合　〔黒木三郎〕

くみあいきぎょう【組合企業】 出資者が個人的に関係ある人々に限られた，人的結合の強い封鎖的な共同企業の一。組合企業には，匿名組合*と民法上の組合がある。匿名組合は，無限責任を負う事業者と有限責任を負う匿名組合員からなり，後者は，利益配当のみ受け，業務には直接関係しない。民法上の組合は，2人以上の出資者が共同事業を意図して構成する企業であり，損益の配分は出資額に応ずる。組合企業は1回限りといった取引のため臨時に設けられることが多い。➔組合　〔清水　晶〕

くみあいこっか【組合国家】 ⇨サンジカリズム

くみあいせんじゅうしゃ【組合専従者】 労働組合の業務に専念する者。組合専従者を置くかどうか，だれを組合専従者とするかは組合が自主的に決定する。組合専従者には，雇用関係の全然ない場合と雇用関係を継続したまま会社の業務を離れ，もっぱら組合の仕事に従事する場合とがある。第2次世界大戦終結直後は，大部分の経営者が組合専従者の給料を支払っていたが，1949年(昭和24)の労働組合法の改正によって，現在では組合側負担の原則が確立している。雇用関係にある組合専従者の場合には，労使間の紛争を防止するため，通常，人員・人選・期間・職場復帰の場合の取り扱いなどは協約に任される。〔木元錦哉〕

くみあわせ【組み合わせ】 異なった n 個の要素からなる集合から r 個($r \leqq n$)の要素をもつ部分集合をつくるとき，その部分集合の個数を〈 n 個のものから r 個とる組み合わせの数〉といい，${}_nC_r$ で表わす。

$$ {}_nC_r = \frac{n \cdot (n-1) \cdots (n-r+1)}{1 \cdot 2 \cdots r} = \frac{n!}{r!(n-r)!} $$

となり，n 個から r 個とる組み合わせの数は n 個から $(n-r)$ 個残す組み合わせの数にほかならないから ${}_nC_r = {}_nC_{n-r}$。また，n 個のものから r 個とる組み合わせは，特定の要素 a に着目すれば，a を含む組み合わせ(その数は ${}_{n-1}C_{r-1}$)と a を含まない組み合わせ(その数は ${}_{n-1}C_r$)とからなるから，${}_nC_r = {}_{n-1}C_{r-1} + {}_{n-1}C_r$ がなりたつ。さらに，異なった n 個のものからくり返してとることを許せば，r 個とる組み合わせの数 ${}_nH_r$ は ${}_{n+r-1}C_r$ に等しくなる。これを〈 n 個のものから r 個とる重複組み合わせの数〉という。〔菊池兵一〕

くみあわせレンズ【組み合わせレンズ】 ⇨レンズ

くみうた【組歌】 三味線(しゃみせん)音楽の一。桃山時代から江戸初期につくられたと考えられる。構成は三味線伴奏による小歌曲をいくつか組み合わせたものである。このうち，今日最古のものと考えられているのは〈琉球組(りゅうきゅうぐみ)〉で，その最初の歌詞〈天に照る月は十五夜がさかり……〉にみられるように，八八音節の琉球の伝統をもっており，そのため，この組歌は楽器とともに日本に伝えられたという説がある。音楽的には，テンポをしだいに速くする特徴と，三味線の撥(ばち)をすくう方法の使用が目だっている。三味線組歌の影響のもとで生まれたのが箏(そう)組歌で，これは江戸初期の八橋検校(けんぎょう)の仕事と考えられている。のちには《明石(あかし)》のように，《源氏物語》によって歌詞に統一を与えた組歌も現われた。しかし，音楽的な変化に乏しく，新作もほとんどつくられなくなったため，組歌の箏曲における役割は小さくな

っていった。天保(てんぽう)以降の光崎(みつざき)検校・吉沢(よしざわ)検校によって，箏組歌の簡素な様式が復活させられた。〔徳丸吉彦〕

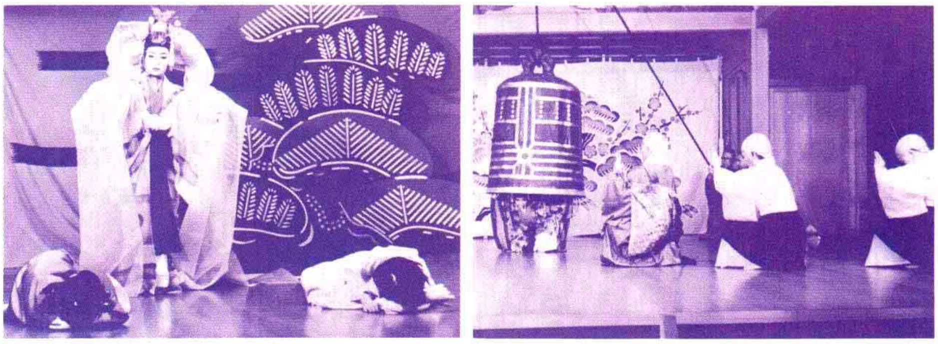
くみおどり　【組踊り】　清(しん)朝の沖縄楽劇の一。尚敬王(しょうけいおう)(1700～1751)が，封冊使(ほうさくし)(諸侯を封ずるとき天子の詔書を持参する使者)をもてなすため，宮廷の踊奉行(ぶぎょう)玉城朝薫(たまぐすくちょうくん)が，沖縄の歴史や伝説に題材を求め，また能・謡曲・狂言などをも取り入れてはじめて創作した。若衆踊り・女踊りなど，個々の踊りの端踊(はおどり)を組み合わせて劇を構成したのでこの名があり，古舞踊の総合とされている。楽器は太鼓・小太鼓・笛・胡弓(こきゅう)で，古くは役者はすべて男子で上流階級の子弟であった。音楽は地方(奏者)が幕裏に控え，演者の舞台上の動きはすべて踊りとして表現された。1871年(明治4)の廃藩置県で宮廷が崩壊するまで，200余もつくられたが，中でも有名なのは玉城作の《二重敵討》《執心鐘入》《銘苅子(めかるし)》などである。なお，封冊使の乗船を冠船といったので，冠船踊りとも称する。〔直江広治〕

くみがしら　【組頭】　与頭とも書く。

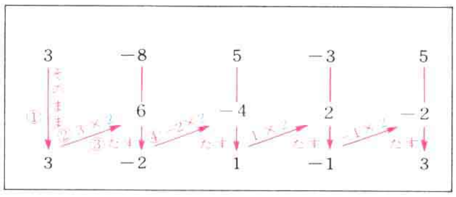
1戦国時代には軍隊編成上の組の長をいい，江戸時代では幕府・諸藩で大番・書院番・小姓組番など，番方*の組ごとの番頭下に1名ないし数名の組頭がいて番士の旗本(はたもと)を統御した。ほかに右筆組頭・御台所(みだいどころ)組頭・六尺組頭など役方の組頭があって組下の者を支配した。

2江戸時代の村役人で，名主*・庄屋(しょうや)の補佐役をいう。元来は五人組*の頭であったといわれ，1村に1名ないし数名あり，村内の富裕な百姓の中から選ばれた。藩により年寄・判頭・長百姓(おさびゃくしょう)などといった。松江藩のように他の地方の大庄屋に相当するものもあった。〔岡山泰四〕

くみきょく　【組曲】　主として舞曲などの小曲または楽章をいくつかまとめた音楽作品をさす。〈続き〉を意味するフランス語suiteに由来する。交響曲やソナタの場合に比べると，その構成部分(楽章)の独立性が強いことが多い。室内ソナタともよばれる。組曲の原形は，14～15世紀以来，同じ旋律素材によった2種の舞曲をまとめて演奏した習慣にみられる。この形がバロック時代には，アルマンド～クーラント～サラバンド～ジーグという典型的な組み合わせとなった。ここでは拍子の交替だけでなくテンポの交替が主要な原理になっている。なお，サラバンドの前後にメヌエット・ガボットなどが挿入(そうにゅう)されることが多い。19世紀以降は，オペラやバレエや劇の音楽から，性格の異なるものを数曲まとめて組曲とすることが多くなった。ビゼーの《アルルの女》が代表的なものであるが，こうした試みは，バロック時代のリュリ*やその影響下にあった作曲家の間ですでに行なわれていたものである。〔徳丸吉彦〕



組踊り　(左)銘苅子　(右)執心鐘入



組み立て除法



組み紐　左から　平打ち(高麗・笹波・御岳・冠)丸打ち(奈良・源氏)

くみざい　【苦味剤】　苦味の強い薬剤で，胃液の分泌を促し食欲を増進する。ゲンチアナ・センブリなどがあり，苦味健胃剤として食欲不振・消化不良・胃炎などに用いる。

クミス　キルギス人やタタール人が飲用するもので，馬乳を発酵したもの。馬乳を原料として，乳酸発酵とアルコール発酵を行なわせる。馬乳には糖が多いのでアルコール発酵に適しており，アルコールが2%，酸度は1%くらいである。同系統のケフィヤ*に比べてアルコール含量は多く，乳酸は少ない。

くみたてじゅうたく　【組み立て住宅】　⇨プレハブ建築

くみたてじょほう　【組み立て除法】　式の割り算を簡便に行なう方法。多項式を一次式で割って，その商と剰余を求める場合に用いる。たとえば，$3x^4-8x^3+5x^2-3x+5$ を $x-2$ で割るのに，割られる式の各項を降冪(こうべき)の順に整頓(せいとん)してから，係数および定数項だけを順に書き並べ，その右に，割る式の定数項の記号を変えて書く。計算の順序は①3をおろす，②3×2＝6，③(−8)＋6＝−2，④(−2)×2＝−4。以下この手順をくり返す。結果は商の係数および定数項と剰余を表わし，商は $3x^3-2x^2+x-1$，剰余は3になる。〔青柳雅計〕

くみたてたんい　【組み立て単位】　⇨誘導単位　⇨単位

くみチンキ　【苦味チンキ】　苦味健胃剤として賞用される内服液剤。黄かっ色の液で，特異の芳香があり，味は苦い。トウヒ(橙皮)・センブリ(当薬)・サンショウなど薬用植物の薬効成分をアルコールを用い浸出させて製する。少量を健胃剤として他の薬剤と混ぜ合わせて用いる。

くみはまこ　【久美浜湖】　京都府西北部の日本海岸にある湖。古くは久美浜湾とよばれたこともある。面積7 km²，水深20 m。砂州によって日本海と隔てられているが，北西端に狭い水道があって，海水が通う塩水湖である。砂州には美しい松林が続き，夏季は海水浴場としてにぎわう。山陰海岸国立公園に所属する。

くみひも　【組み紐】　1本～数十本の糸を1単位にした3組み以上の交差したひも状あるいは帯状のひも。織物と違って組織が右上から左下，左上から右下と交差しているのが特徴。最も初歩的なものは少女のおさげ髪にみられる三つ編みがあるが，4本，8本さらに数十本を組み合わせてつくる複雑なものもある。形には円形の丸組み，四角の角組み，扁平(へんぺい)な平組みがあり，またしんを入れるものと入れないものがある。ひもを組む際，変わり目をへらで打ち込むことから丸組み・角組みは丸打ち・角打ちともいわれる。組み方の違いにより唐(から)組み・新羅(しらぎ)・安田(あんだ)・網代(あじろ)・亀甲(きっこう)など100種近い名称がある。はじめは丸台・高台・駿河台(するがだい)(綾竹台(あやだけだい))などの器台を使って手で組んだが，江戸末期には量産を目的とする木製機械の内記打ちができた。現在では機械製のものがほとんどで，手組みのものは伝統工芸として一部に生きているにすぎない。

組みひもの歴史はきわめて古く，縄文式(じょうもんしき)土器*にひも状の圧痕(あっこん)がみら

れる。組みひもの用途は広く，古くは装束の平緒，冠の掛け緒などに用いられ，法衣・武具をはじめとして笠篌(くご)・鏡・巻き物・箱・*印籠(いんろう)などにつけられた。現在でも羽織ひも，袋のひも，帯止めなどに用いられている。また，使用原糸も絹・毛・綿・麻に代わって，各種の化学繊維のものがつくられるようになった。〔勝呂千枝〕

くみもの　**【組み物】**　方形の斗(ます)と長い水平材の肘木(ひじき)とを組み合わせたもの。斗栱(ときょう)・斗組みともいう。古代に中国から伝来した大陸式建築の著しい特色の一つで，深い軒の出をささえるために，垂木(たるき)の支持点を柱より前方にもち出すくふうとして生まれた構法である。軒裏から柱頭の間をにぎやかに構成している視覚効果から，しだいに装飾的意義が濃くなり，深い軒の出を屋根裏からささえる桔木(はねぎ)の構法が日本の中世に発明されたのちも，建物の格式を示す装飾として用いられつづけた。そのために，近世の組み物は古代建築の組み物がもっていた力強さを失い萎縮(いしゅく)した形のものになった。〔渡辺保忠〕

ぐみょうじ　**【弘明寺】**　横浜市南区弘明寺町にある古義真言宗の寺院。開基は，行基とも空海とも伝えられるが詳しいことは不明。鎌倉時代に源氏一族の崇敬が厚く，その祈願所とされた。また，小田原の北条(ほうじょう)氏や徳川家光(いえみつ)も寺田・寺領を寄進している。現在は，坂東(ばんどう)三十三所第十四番の札所として知られ，本尊の十一面観音立像は平安初期の作で，いわゆる*鉈彫(なたぼり)のすぐれた像として有名。

グミリョーフ　［Nikolay Stepanovich Gumilyov］（1886～1921）ロシアの詩人。《征服者たちの道》《真珠》《かがり火》などの詩集を通して，*アクメイズムの指導者の立場から，ニーチェ流の自由と勇気や，現代から過去へ，ロシアから異国へのあこがれを歌った。反革命に加わったという嫌疑(けんぎ)を受け，銃殺刑に処せられた。

くみんぜい　**【区民税】**　⇨住民税

クム　［Qum］　イラン中部の都市。人口16万5,000(1973)。テヘラン南方125kmにあって，テヘランと南部を結ぶ幹線道路と鉄道に沿う。古くから東西交通の要衝として知られ，農産物の集散と商業を行なってきた。しかし，この都市を有名にしたのは1956年の油田の発見であり，その噴出は川のように流れ出したといわれる。市街にはファテイマ・モスクなど多くの*モスクがあり，イスラム教徒の巡礼地となっている。

クムトラせんぶつどう　**【クムトラ千仏洞】**　西域クチャの西南にある仏教石窟(せっくつ)。クチャ周辺ではキジル千仏洞と並んで規模が大きい。日本の大谷探検隊，ドイツのグリュンベデルらの調査により，5～7世紀のキジル壁画様式の石窟群と7～8世紀の中国唐風壁画をもつ石窟群の2通りの存在が確かめられた。



組み物　醍醐寺五重塔(平安時代)　京都市

くめうた　**【久米歌】**　歌舞の一。久米歌・久米舞は東遊(あずまあそび)や大和舞(やまとまい)などとともに大陸から輸入されたものではなく，日本の伝統に根ざす古い歌舞として知られている。しかし，いまに伝えられている久米歌は本来のままではなく，平安時代に大陸の音楽舞踊法に影響されて改められた点が多い。歌詞内容は英雄叙事詩的であり，神武天皇東征のエピソードがうたいこまれており，久米舞はそれを模した舞である。歌い手数名(*音頭(おんど)は笏(しゃく)拍子を打ちながら)，篳篥(ひちりき)・龍笛(りゅうてき)・笙(しょう)・和琴(わごん)それぞれ1名，舞人4人で演奏される。曲の構成は音取(ねとり)・参入音声(まいりおんじょう)・揚(あげ)拍子・和琴独奏・伊麻波予(いまはよ)・退出音声(まかでおんじょう)の順序によっている。室町中期以降，しだいに衰えた。〔山口　修〕

くめくにたけ　**【久米邦武】**　(1839～1931)　歴史学者。佐賀藩出身。25歳で江戸に出て*昌平黌(しょうへいこう)に学び，1871年(明治4)岩倉具視(ともみ)に従って欧米を視察，帰国後《米欧回覧実記》を著わす。1879年修史館の編修官となり，1888年東京大学教授，1891年《史学界雑誌》に発表した論文〈神道(しんとう)は祭天の古俗〉が神道家の攻撃を受けて辞職，のち早稲田(わせだ)大学で古文書・古代史を講じた。国史学研究に新生面を開き，史学発展に功が多い。長男*桂一郎(けいいちろう)は洋画家として有名。〔岸野淳子〕

くめけいいちろう　**【久米桂一郎】**　(1866～1934)　洋画家。佐賀県の生まれ。1886年(明治19)渡仏，R.コランに師事，黒田清*輝と親交を結ぶ。1896年以降東京美術学校で美術解剖学・考古学などを講義，教授となり，美術教育・行政に尽力した。

くめじま　**【久米島】**　沖縄本島の南西方洋上約100kmにある火山島で，中央に大岳(326m)がある。島尻(しまじり)郡に属し，仲里・具志川の2村に分かれ，面積68km²，人口11,000。水田がよく開け，米作が盛んであったが，台風による被害が大きいので，最近はより有利なサトウキビ栽培に切り替えつつある。久米島紬(くめじまつむぎ)は15世紀のころ中国から伝えられ，のち琉球(りゅうきゅう)王朝への貢物として織られてきたもので，いまも名産になっている。那覇から南西航空の1日2回の定期便で25分，定期船で5時間で達する。サンゴ礁などの南国風景や歴史的な遺跡に富み，ホテルなどの観光施設が整い，全島をバスが通じている。〔浅井得一〕

くめのおうじ　**【来目皇子】**　(？～603)　用明天皇の皇子，聖徳(しょうとく)太子の実弟。母は穴穂部間人(あなほべのはしひと)皇后。602年(推古10)新*羅(しらぎ)征討の将軍となり，筑紫(つくし)(九州)まで出かけたが，まもなく病に臥(ふ)し，翌年筑紫で没した。一説に久米(くめ)寺の開基というのは信じがたい。

くめのせんにん　**【久米仙人】**　伝説上の仙人。大和(やまと)(和歌山県)吉野(よしの)の龍門(りゅうもん)寺で仙術を修したが，飛行中，吉野川の川べで洗たくする女の白いももを見て仙力を失い，落下した。のち女を妻とし，高市郡へ遷都の夫役に従って仙力を回復し，木材を空に飛ばし，その功によって土地を賜わった。奈良県橿原(かしはら)市久米寺はそこに開いた寺という。

くめべ　**【久米部】**　来目部とも書く。伴*造(とものみやつこ)久米直(あたい)に率いられ，大伴(おおとも)*氏に統率されていた軍事的な*部民。各地で集団農耕生活を営む一方，大伴氏・佐伯(さえき)*氏の下で天皇の親衛軍的役割を果たしていたらしいことは《日本書紀》に散見するが，早くから久米*歌・久米舞をもって宮廷儀式・饗宴(きょうえん)に仕えるようになった。有名な〈撃ちてしやまむ〉を結びとする一連の久米歌は朝廷に忠誠を誓う親衛軍としての献歌であったろう。異民族とする説もあるが明らかでない。〔北条秀司〕

くめまさお　**【久米正雄】**　(1891～1952)　小説家・劇作家。長野県の生まれ。京都大学英文科卒。はじめ俳句を志し，やがて《牛乳屋の兄弟》などの劇作で知られたが，のち小説に転じた。芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)・菊池寛らと同じ第3次・第4次《新思*潮》同人。また，里見弴(とん)らと《*人間》を創刊。一時夏目漱石(そうせき)の門下にあった。短編集《学生時代》に初期の佳作がまとめられている。自伝的長編《破船》以後，《月よりの使者》などで流行作家となった。〔岡　保生〕

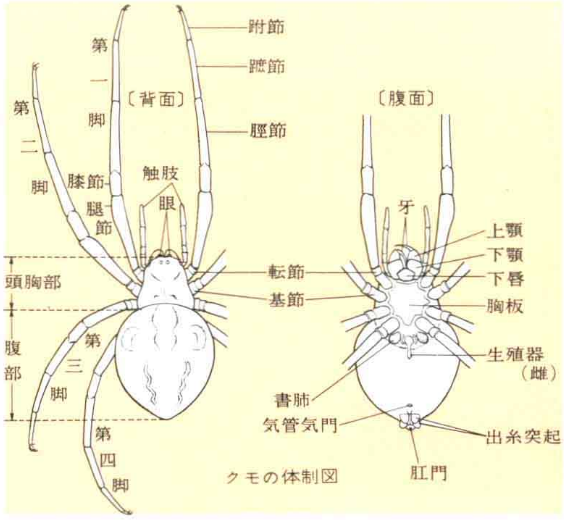
グメリン　［Leopold Gmelin］（1788～1853）　ドイツの化学者。ハイデルベルク大学教授。ゲッチンゲン大学でシュトロマイヤー(1776～1835)に学び，鉱物の分析を研究。1822年フェリシアン化カリウムを発見。胆汁酸(たんじゅうさん)の検出法であるグメリン法を発見。そのほかエステル・ケトンを命名した。主著に《無機化学全書》(1817～1819)。

クメール(共和国)　⇨カンボジア

クメールじん　**【クメール人】**　カンボジア国の主要な民族集団。メコン川流域やトンレ-サップ湖周辺の平野に居住し，水田稲作をおもな生業とする。その一部はタイ東南部，南ベトナムのメコン-デルタにも分布。人口450万以上と推定。モン-クメール語族に属し，住民の多くは小乗仏教を信奉する。西暦紀元の初めころインド系の文

化を受け入れてインドシナ半島の歴史に登場する。6世紀中ごろ真臘(しんろう)としてメコン川中流域に国家を形成し，扶南を倒して領土を拡大した。9世紀の初め強大な王権に基づくアンコール王朝を創始し，東南アジアに威を張った。13世紀末以降，タイやベトナムの侵入によってしだいに衰退し，19世紀にはいってベトナム・ラオスとともにフランスの植民地支配を受けた。第2次世界大戦後独立し，1970年に王制を廃してクメール共和国となった。　〔近藤　正〕

くも　**【蜘蛛】**　節足動物・クモ形(蛛形(ちゅけい))類に属する真正クモ類をさす。三葉虫から進化したと考えられ，古生代末期にその出現をみる。こん虫類の一群と誤解されることがあるが，こん虫とは起源も形態もまったく異なる別の群である。体は頭部と胸部の区別のない頭胸部(こん虫では頭部・胸部の区別が明瞭(めいりょう))と腹部とからなり細い腹柄でつながる。腹部は一般にはこん虫のような節はない。頭胸部前方には1対の触肢(しょくし)，4対(こん虫では3対)の歩脚がある。触肢はあしの変化したもので，こん虫の触角とは別であり，雌では先が細いが，雄ではふくらんでいて生殖器官の一部となっている。歩脚は7節(こん虫では5節)からなり先端に2～3のつめがある。眼は単眼でふつう8個あり，種類によって並び方が違い，複眼はない。口器は先にきばのある上顎(じょうがく)，下顎，下唇(かしん)からなる。腹部後端には肛門(こうもん)があり，その前方に通常6個の出糸突起があって，各突起には糸を紡出する多数の小さい管がある。腹部下面前方に呼吸器官としての書肺*，その後方に気管気門がある。雌の生殖器は書肺間にあり成熟すると複雑な構造がみえる。雄の生殖器も同じ場所にあるが外からは見えにくい。



クモの体制図





ク　モ　(右上)オオシロカネグモの丸網
(右中)オオシロカネグモ
(右下)スジボケハシリグモ

卵生で，こん虫のような変態はしないで成長し，成熟するまでに数回脱皮をする。寿命は1～2年のものが多いが，中には数年，十数年生きるものもある。

クモの生態を大きく分けると，造網性と徘徊(はいかい)性とがあり，その数はおおよそ半分ずつである。しかし網を張らない徘徊性のものでも必ず糸を出す。クモの世界では糸が彼らの全生活をささえており，歩行や降下の際に糸を引く，網をつくる，住居をつくる，産室をつくる，卵を包んで卵嚢(らんのう)に仕上げる，捕えた虫を巻くなどの広い用途があり，さらに卵からかえった子グモは空中に長く糸を流し，その端につかまって空中遊飛に旅だつ。

生息場所は広く変化に富んでおり，一般に下等なクモは地中生活をする(キムラグモ・トタテグモ・ジグモ)が，進化に伴って明るいところに姿を現わし，地表・葉間・樹上に居を構えるもの，空間に進出して大きな網を張るもの，地表・樹上・葉上を徘徊するものがあり，中には水中に居を構えるものもある。網は種類によりさまざまな形があり，円網(オニグモ・コガネグモ)，棚網(たなあみ)(クサグモ・タナグモ)，皿網(さらあみ)(サラグモ)，三角網(オウギグモ)，ドーム網(スズミグモ)，不規則網(ヒメグモ)などがある。

食物は原則として生きた小虫である。動きによって獲物を確認し，鋭いきばをつきたてる。すると，管状のきばの先から毒液が出て虫を弱らせ，口に保持している間に消化液を分泌して消化を始める。つまり胃でやる仕事をまず口外でやるわけである。あらかた消化されるとポンプ式の胃で吸い込む。このようにクモは獲物をかんで食うのでもなければ，体の汁を吸うのでもない。クモにも敵が多く，カエル・トリ・ヤモリなどのほか，クモのみをねらうベッコウバチ・ジガバチのなかまなどがいる。

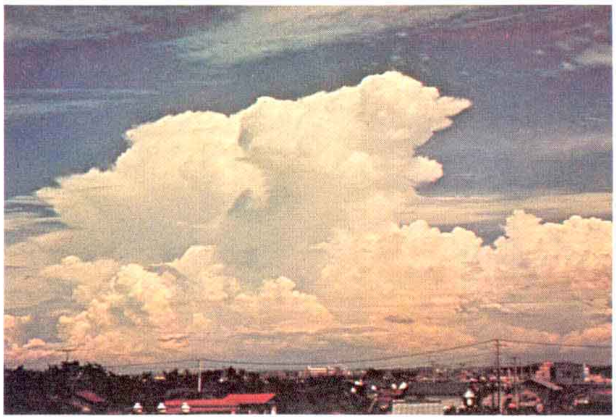
人間とは密接なつながりをもち，屋内害虫の駆除はもちろん，田畑・水田・果樹・植林などの害虫の天敵として偉大な効果があり，近時農薬に代わるべきものとして注目されている。自然界においても植生保護の面で重要な役割を果たしている。糸の強度はナイロンに匹敵し，利用価値は十分にあるが，生産方法に難点があるため大規模の産業としては成立しない。現在利用されているのは光学器械のレンズ目盛りぐらいのものである。クモの毒性については過大視されているが人間に対して毒性の強いものはきわめて少数である。熱帯地方には致命的な毒をもつものがわずかいるが，日本では比較的毒の強いものではカバキコマチグモくらいで，猛毒性のものはいない。たとえ猛毒性のクモとしても積極的に人を攻撃することはない。

クモの種類は多く，世界で30,000種近く，わが国でも約1,000種は生息している。種類の数も多く，かなり繁栄しているグループで自然界の構成の一群として，いろんな意味での重要な存在である。　〔八木沼健夫〕

くも　**【雲】**　大気中の水蒸気の凝結または昇華などによってできる水滴や氷晶*(水滴)の集まり。ただし，それが地(海)表面付近にあるときには霧*という。水蒸気を含んだ空気が大気中を上昇するとき，しだいに温度が下がり，凝結高度に達すると露点以下になって水蒸気は凝結し，水滴となって雲をつくる。このように，大気中では上昇気流に伴って雲ができやすいので，低気圧や前線など気流の収束する場所や，山岳などによっては乱される気流の中に雲ができることが多い。また，熱的不安定のために起こる対流運動によっても雲が発生する。その他，水蒸気を含んだ空気が冷たい地面や海面から冷やされて凝結することもある。このように複雑な大気の運動の中で，水蒸気が凝結して雲を形成するが，単に凝結だけでは雨を降らすような大粒の雲にはならず，このような大粒の雲ができるには，さらに複雑な過程が必要であることが知られている。

〔十種雲形〕　雲をその高さと形によって10種類の基本形に分類したものを十種雲形という。雲のできる原因にはいろいろの場合があり，それによって生ずる雲にも多くの種類があって，十種雲形にも多くの変形・変種がある。雲の分類を科学的に行なった最初の人は，イギリスのハワードで，彼は1803年に基本雲形として絹雲・積雲・層雲の三つをとり，さらにこれらの雲の中間型として絹層雲・絹積雲・層積雲・雨雲を加えて7種類に分類した。その後1894年スウ

雲　十種雲形



積乱雲　茅ヶ崎



絹　雲　横岳(北八ヶ岳)



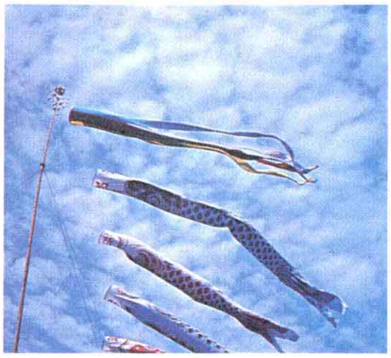
絹積雲　榛名山



乱層雲　九龍沖合い



高層雲　茅ヶ崎



高積雲　茅ヶ崎



積　雲　茅ヶ崎



絹層雲
箱根



層積雲　茅ヶ崎



層　雲　富士山五合め

ェーデンで開かれた国際会議で，ハワードの分類にさらに高積雲・高層雲・積乱雲の3種類を追加して10種類の基本雲形を決めた。その後，さらに論議され，1956年(昭和31)に定められたのが現在用いられている十種雲形である。

①絹雲：いろいろの雲の中で最も高いところに浮かび，日本付近では5～13km付近にできる。このような高所は夏でも気温が低いため，絹雲の雲粒*は氷晶になっている。羽毛状・絹糸状を呈し，形もうずまき形・放射形などいろいろあって青空に美しく去来する。不連続線や低気圧が接近する場合にも，まず絹雲が現われることが多い。

②絹積雲：魚群やさざ波を連想させる薄い繊維状の白い雲で，秋の代表的な雲である。絹雲と同じく氷晶雲で，絹雲や絹層雲に変わったり，逆にこれらの雲からできたりする。

③絹層雲：絹雲・絹積雲と同じ高さにできる氷晶雲で，薄く白っぽいベール状の雲である。この雲を通して太陽や月を見ると，それらのまわりに暈*(うん)が現われる。低気圧の中心近くにできることが多いので，この雲が現われると天気は下り坂になる。

④高積雲：雲の形や並び方は絹積雲とよく似ているが，一つ一つの雲塊はずっと大きく見え，日本付近で発生する高さは2～6kmぐらいで，水滴と氷粒の混合したものと考えられている。

⑤高層雲：絹層雲をさらに厚くしたような雲で，これを通して太陽を見ると，すりガラスを通して見るようにぼんやりとした光点になる。この雲は中層から絹雲・絹積雲・絹層雲のできる高層にまで及んでいる。したがって，雲粒は氷晶と水滴の混合したものである。全天をおおうことが多い。

⑥乱層雲：雨雲・雪雲とよばれる雲で，低気圧の中心や不連続線付近に発生する。雲の高さは2km以下で，400～500mに下がることもあり，この雲が空をおおうようになると，日中でも薄暗くなる。なお，この雲から降る雨や雪は静かに降ることが多い。

⑦層積雲：層雲とともに最も低い所に発生し，地面から2kmぐらいまでの高さに浮かぶ。各地の山々に発生し，早朝や夕方に山頂から見られる雲海は層積雲のことが多い。

⑧層雲：2km以下の高さにでき，地面すれすれに発生することも多い。霧に似ているが地面とは接していない。層雲は薄く，日射が強くなると消えてしまう。なお，乱層雲の下に発生する青黒いちぎれ雲は層雲の一種で，台風などのときは早い速度で飛びかうようになり，乱層雲の底といっしょになってしまう。

⑨積雲：天気のよい日に，日射で気温が高くなると青空のあちこちに白く浮かぶ雲塊である。午後になって大きく発達することもあるが，夕方にはいつのまにか消えてしまう。この雲は対流性の雲で，大きく発達して隣の雲と合併し，雲の峰がカリフラワーのようになった場合に雄大積雲といい，平地では薄暗い曇天となるが，山ではにわか雨になることがある。入道雲というのはこの雲の一つである。

⑩積乱雲：雄大積雲がさらに発達して，巨大な塔のようになると，天井に突き当たったようになって上昇を止め，アサガオの花のような雲やかなとこ状の雲をつくる。これを朝顔雲・かなとこ雲などとよぶ。氷晶でできた羽毛状の絹雲である。この雲から降る雨や雪は強くなったり弱くなったりすることが多い。なお，積雲・積乱雲が発達した雄大積雲は雷を発生することが多いので，雷雲ともよばれる。この雲の下半分は水滴，上半分は氷晶からできている。

〔曲田光夫〕

クモガイ



くもがい　【蜘蛛貝】　軟体動物・腹足類・スイショウガイ科の巻き貝。殻高(かくこう)17cm，殻径10cmに達する。殻(から)は紡錘形で厚く堅い。殻口のへりに7本の長い突起があるのが特徴である。殻表はかっ色地に黄白色のまだらを散らし，殻口は広く淡い肉色。紀伊(きい)半島以南，インド洋・西太平洋に分布する。

くもがたじょうぎ　【雲形定規】　⇨製図用具

くもがたひょうもん　【雲形豹紋蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ7cm内外。翅は橙黄(とうおう)かっ色で黒色のヒョウ状紋が散在する。裏面は淡黄色で，前翅端と後翅は緑色をおび，前翅中央に数個の黒色のヒョウ状紋があるが，後翅には黒紋がない。雌は大形で地色が淡く，前翅端に小三角形の白斑(はくはん)がある。日本全土のほか，朝鮮に分布し，幼虫はスミレの葉を食べる。

くもがに　【蜘蛛蟹】　甲殻(こうかく)類・クモガニ科。甲長15mm，甲幅10mmほどで，甲らの形は両側がへこんだ三角形をなし，全身赤かっ色。脚は細長く，黄色の長い剛毛を密生する。東京湾以南，インド洋・太平洋水域に広く分布し，水深50mほどの岩礁地帯にすむ。

くもざる　【蜘蛛猿】　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オマキザル科・クモザル属の総称。中南米にすむ広鼻猿。クモザル属は4種よりなり，頭胴長45～50cm，尾長60～80cm，体色はかっ色～黒色。腹がふくれ四肢(しし)が長く，手と同じ働きをする尾がある。クモに似た感じがするので，この名がついた。樹上に生活し，それに適応して第2指を欠く。食性は果実を主とした雑食。20頭余の群れをつくり，さらに2～3頭のサブグル

雲　十種雲形

日本名	学名	国際記号	俗称	高度 (km)
絹雲	Cirrus	Ci	すじぐも	上層 極 3～8 温帯 5～13 熱帯 6～18
絹積雲	Cirrocumulus	Cc	うろこぐも いわしぐも	
絹層雲	Cirrostratus	Cs	うすぐも	
高積雲	Altocumulus	Ac	うろこぐも むらくも	中層 極 2～4 温帯 2～7 熱帯 2～8
高層雲	Altostratus	As	おぼろぐも	中層に多く，上層まで広がっていることもある
乱層雲	Nimbostratus	Ns	あまぐも ゆきぐも	中層を主とし，上層・下層に広がっていることが多い
層積雲	Stratocumulus	Sc	うねぐも むらくも	下層 極 0～2 温帯 0～2 熱帯 0～2
層雲	Stratus	St	きりぐも	
積雲	Cumulus	Cu	わたぐも つみぐも	下層から中層・上層にまで達していることが多い
積乱雲	Cumulonimbus	Cb	にゅうどうぐも かみなりぐも	

ープに分かれる。群れは一定のなわ張りをもつ。性質はおとなしく人によくなつく。動物園ではチュウベイクモザル(ジェフロイクモザル)が普通。→霊長類　〔河合雅雄〕

くもずがわ　【雲出川】　三重県西部の高見山地から発して東流し，伊勢(いせ)平野の中部に大きな沖積(ちゅうせき)地をつくり，分流して伊勢湾に注ぐ。流程75km。流域の平野は肥沃(ひよく)で穀倉といわれ，古くは松阪(まつざか)木綿(もめん)の産地であった。上流には家城峡・一志峡の名勝がある。

くもすけ　【雲助】　江戸時代，街道の宿場*・渡船場などでの雇い人足，駕籠舁(かごかき)や長持ちかつぎなどの荷物運搬の人足をいう。この名は浮雲のように住所不定で暮らしていたからとも，客をとろうとクモのように網を張っていたからともいう。参勤交代*の実施などで街道の交通量が急激に増大し，宿場人足の払底したことや，助郷*(すけごう)制度の負担過重により，農民が銭を払って宿駅の事務を行なう問屋場*に代行を依頼したので，問屋場などでは人足を集めるために諸国の無宿人や浮浪人らを使用するようになった。そのため不良性をおびた無頼漢も少なくなく，往来の人々に乗り物を強要したり，酒手をねだったり，取り締まりの目の届かぬときにはいろいろ悪事を働いたりした。その生活はその日暮らしで，飲む・打つ・買うを最大の娯楽とし，仲間を呼ぶのに出生地の国名やあだ名を用い，独特の符牒(ふちょう)を使うなど，特異な風俗をつくった。また無宿の悪漢として〈護摩(ごま)の灰*〉と併称された。　〔岡山泰四〕

くもつ　【供物】　祭儀のとき神に供える飲食物のこと。神供・神饌(しんせん)ともいう。一般的には神酒(みき)をささげ，もち・飯・赤飯などを供える。中部地方には，おやすとよぶわらの容器に入れた飯を門松*に結び供える風習があるが，これも正月の若水*と同様，神に対する供物の一例である。節供ということばも節日にあたって供物を供えること，またその日を意味したのである。供物は生のものでなく火を通したものを供えるのが本来の形であり，祭りの場において，人間も神とともに飲食する直会*(なおらい)の意味をもっている。　〔山路勝彦〕



クモザル　チュウベイクモザル



雲助



雲取山　白岩山から七ツ石山に続く雲取山の連峰。山頂付近には多くの山小屋があり，連休ともなるとハイカーたちでにぎわう

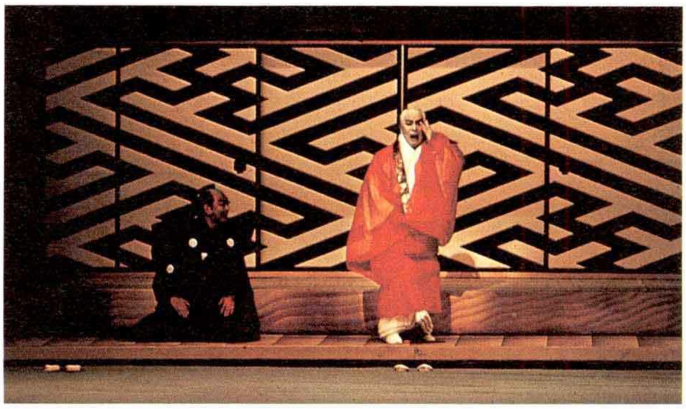
くもつぶ　【雲粒】　雲を形成している一つ一つの粒のこと。大気中の水蒸気が，浮遊している凝結核*のまわりに凝結*または昇華*してできるもので，大きさは直径0.02mm程度，重さは100万分の1gぐらいで，雨粒*に比べるとはるかに小さい。大気中で凝結核の働きをするのは，海水の飛沫(ひまつ)からできる海塩粒子・煤煙(ばいえん)，風に吹き上げられた土壌(どじょう)や火山噴出物の微粒子などで，大気中に無数に浮遊している。雲粒は気温0℃以上の低い所では水滴であるが，気温0℃以下の高い所では氷粒と混在することになり，さらに高い所では氷粒だけになる。たとえば，層雲・層積雲は水滴からできており，高積雲では水滴・氷粒が混在しており，また，絹雲・絹積雲は氷粒だけからできている。　〔曲田光夫〕

くもとりやま　【雲取山】　秩父(ちちぶ)山地にそびえ，標高2,018m。東京・埼玉・山梨3都県の境にあり，東京都の最高峰である。荒川と多摩川の分水嶺(ぶんすいれい)で，ケツ岩・角岩・石灰岩からなり，北へ向かう尾根は白岩山(1,921m)を経て三峰神社奥宮のある妙法ケ岳に至る。山頂付近には山小屋や山荘があり，ハイカーでにぎわう。秩父多摩国立公園に属する。

くもにまごううえののはつはな　【天衣紛上野初花】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《河内山(こうちやま)と直侍(なおざむらい)》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1881年(明治14)新富座初演。松林伯円*の講談《天保六花撰*(てんぽうろっかせん)》を，御数寄屋坊主(おすきやぼうず)河内山宗俊と直侍こと御家人くずれの片岡直次郎を中心に脚色した世話物*。宗俊が上野の宮の使僧に化けて松江出雲守(いずものかみ)の屋敷へ乗り込み，町家の娘を救出する場面で知られる。また直侍と大口屋の遊女三千歳(みちとせ)との情話を描いた場面も有名で，ここだけを《雪暮夜入谷畦道(ゆきのゆうべいりやのあぜみち)》の名題で上演することも多い。　〔松井俊諭〕

くものいと　【蜘蛛の糸】　常磐津節(ときわずぶし)・日本舞踊の曲名。本名題《蜘蛛糸梓弦(くものいとあずさのゆみはり)》。作曲佐々木市蔵，作詞金井三笑。1765年(明和2)初演の顔見世狂言《降積花(ふりつむはな)二代源氏》の一番目大詰めに演じられた。病中の源頼光(よりみつ)のもとへ，土蜘蛛が少女，座頭と姿を変えて現われるが，見破られて消えうせる。現存曲はここまでだが，正本ではさらに山伏となって登場し，立ち回りになる。土蜘蛛の舞踊として最古のものだが，現在は天保(てんぽう)期の作品を改作した《蜘糸宿直噺(くものいとおよづめばなし)》のほうが上演される。〔如月青子〕

くものすかび　【蜘蛛巣黴】　藻菌(そうきん)類・ケカビ目のリゾップス属をさす。食品などの上にくもの巣状にはえるかびである。匍匐(ほふく)菌糸が基質の表面上をオランダイチゴのランナーのように伸び，仮根を降ろす。この部分から胞子嚢柄(ほうしのうへい)ができ，先端に胞子嚢ができる。胞子嚢の中には多

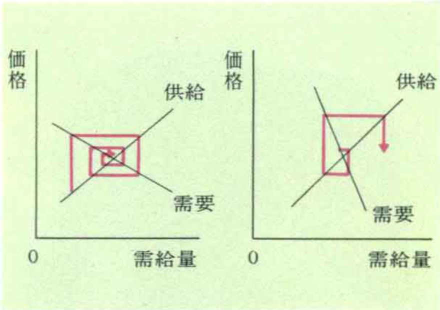


天衣紛上野初花
松江邸玄関の場(右)8世松本幸四郎の河内山(左)2世中村吉十郎の北村大膳

数の胞子嚢胞子ができる。アルコール発酵工業(アミロ法)に利用される。

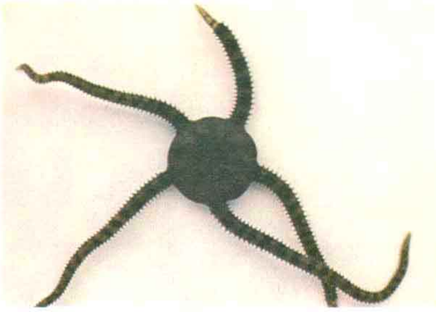
くものすしだ【蜘蛛巣羊歯】シダ植物・チャセンシダ科。暖帯から温帯にかけての岩壁・石がきの上などにはえる小形の常緑性シダ。葉は単葉で，長さ5～15cm，幅5～10mm，披針(ひしん)形で草質，上方は伸長してその上端に芽を生じ新個体をつくる。胞子嚢(ほうしのう)群は線形，中央の主脈に沿って着く。

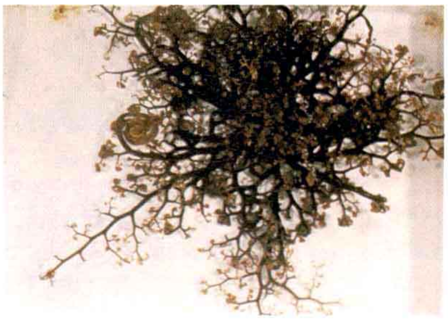
くものすりろん【蜘蛛の巣理論】価格の変化による需給間の対応関係を表わす理論。需要供給と価格の関係を図示すると，その経路があたかも〈くもの巣〉に類似してくるところから名づけられたものである。商品の価格は，その需要と供給が市場で出会うところに決まる。通常は，ある商品の需給量はその価格が変化するに従って影響を受けるものと考えられる。しかし実際には，需要量は価格が変化すれば同時に影響を受けるが，供給量は同時には影響されないと考えられる場合が多い。たとえば，価格が上昇しているときは，生産者は商品の供給を増大させようとするであろうが，実際に市場に現われるまでには時間がかかる。実際の例はブタの飼育と価格の関係や農産物の生産と価格との関係などに典型的にみられる。前者の例をとると，豚肉の市場価格が高いのをみて農家がブタの飼育をいっせいに始めたとすれば，それらの子ブタはある一定期間後，同じ時期に市場に出てくることになり，供給量が急に増大する。このため，当初のもくろみとは違って，豚肉の価格は下落するであろう。そこで農家がブタの飼育を減らすと，供給が減って価格が上昇する。価格が上昇すれば農家はまたブタの飼育を始め，以前と同様の状態が生まれる。この経路が〈くもの巣〉に類似するのでこの名がある。〔藤枝省人〕



くもの巣理論

くもひとで【蜘蛛人手】棘皮(きょくひ)動物・クモヒトデ綱(蛇尾(だび)綱)の総称。外形は五放射状でヒトデ*に似ているが，ヒトデとは異なり腕が細く，体の中央の盤とはっきり区別できる。腕の中には脊椎(せきつい)動物の脊椎骨に似た形の腕骨があり，腕の外部は背腕板・腹腕板，左右の側腕板が連なっておおうが，腕はもろく，折れやすい。腕の下面には水管系の末端である管足が1対ずつあるが，ヒトデのように先端が吸盤になっていず，岩に吸いつくことができない。このため，もっぱら腕を水平に動かすことによって移動する。口は盤の下面に開き，それに続く胃盲嚢(いもうのう)は袋状で，盤の内部の大部分を占め，肛門(こうもん)はない。生殖腺(せいしょくせん)と胃盲嚢はヒトデでは腕にも延長するが，クモヒトデ類では盤の中にだけある。海底に沈殿した有機物や，管足から出す粘液でプランクトンを粘着させたものなどを食べる。岩礁地帯・大陸棚(たいりくだな)・深海底などにそれぞれ固有な種が数多く分布し，底生動物の重要な位置を占める。このうちの1種であるクモヒトデは，関東地方以南の磯(いそ)に広く分布し，おもに岩の下に潜む。盤の直径1～2cm，腕の長さ10cmほど。腕には黒灰色の地にかっ色斑紋(はんもん)があり，比較的折れにくい。また側腕板にある腕針はきわめて短く，目だたない。ウデフリクモヒトデは盤の直径2cm，腕の長さ20cmほどで，沖縄諸島や太平洋の赤道付近に広く分布し，盤と2本の腕を岩の裂け目に入れ，3本の腕を外に出して激しく動かしている。テズルモズルの類は一般に大形で，腕が次々に分岐して樹枝状になっている。〔入村精一〕




クモヒトデ (上)クモヒトデ (下)サメハダテズルモズル(盤の直径3cm，腕の長さ25cmほど)

くもまくかしゅっけつ【蜘蛛膜下出血】脳から脊髄(せきずい)にかけての表面は2層の薄膜でおおわれており，外側にある蜘蛛膜と内側の脳軟膜との間(蜘蛛膜下腔(かこう))には脳脊髄液が満たされ，脳と頭蓋骨(とうがいこつ)との間の緩衝作用を営んでいる。この蜘蛛膜下腔に出血した状態をいう。激しい頭痛を訴え，髄液検査で髄液血性が認められれば診断が確定される。先天性の脳底部動脈瘤(どうみゃくりゅう)の破裂によることが多く，この際，血管造影で動脈瘤が確認されることが多い。そのほか，動脈硬化性動脈瘤や脳出血・脳腫瘍(のうしゅよう)・脳動静脈奇形による二次的のものも少なくない。この発作は再発することが多く，血管撮影で動脈瘤を確認すれば原則として外科的手術によって処置することが必要である。〔井形昭弘〕

くもん【公文】

①律令制における公文書の総称。諸国より朝廷に提出する大計帳・正税帳・朝集帳・調庸帳を四度公文といって特に重んじた。

②中世，荘園*(しょうえん)の事務をつかさどった荘官名の一。文書の取り扱い，年貢(ねんぐ)徴収や荘田の検注に携わった。公文には給田が与えられ，また雑事免(ぞうじめん)である公文名をもつのが普通である。

くもんじょ【公文所】

①平安時代，諸国で公文書を取り扱う役所。美濃(みの)公文所・山城公文所など。

②院庁(上皇の政務機関)・摂関家などで所領関係の書類を所蔵する役所。所領関係の訴訟をも取り扱った。文殿(ふどの)ともいう。

③鎌倉幕府の政治機関。1184年(元暦1)源頼朝(よりとも)は公家(くげ)の制にならって鎌倉に公文所を設置し，別当に大江広元，寄人(よりゅうど)に中原親能(ちかよし)・藤原行政(ゆきまさ)を任じて政務を処理させた。のちに政所(まんどころ)と改められ，政所内の文書関係を取り扱う一部局が公文所と称せられるようになった。〔鈴木英雄〕

クーヤバ［Cuiaba］ブラジルの中央部，マットグロッソ州の州都。人口62,000(1960)。ラプラタ川上流のクーヤバ川の沿岸にあり，グランチャコ平原の奥に位置する。海抜219mの所にあり，1719年に建設の起源をもつ。農産物の集散地で，金・ダイヤモンドも産する。

くよう【供養】仏教用語で，仏法僧の三宝や父母・師・先輩・死者の霊のために供物をささげること。供物の種類，供養の方法・対象については多くの分類がある。初期の仏教僧団に対する在家者の供物は，衣服・飲食・湯薬・臥具(がぐ)の四事の供養であったが，のちには祇園精舎(ぎおんしょうじゃ)のように，僧団に房舎や土地を提供する富裕な在家信者も現われ，僧団を擁護した。ところで供養は法と財の2種に大別されるが，前者は仏法を修習することで，礼拝・称賛・尊重の三業供養のような精神的供養をも含み，後者は《法華経(ほけきょう)》に説かれる十種供養のような資財の供養をいう。後世には一般に，死者に対して塔婆供養や追善供養が行なわれ，またほかに餓鬼に対する施餓鬼(せがき)供養，開眼(かいげん)供養・経供養などがある。→供物〔大南龍昇〕

くようがくは【公羊学派】漢代の《春秋》解釈の一派。公羊学を今文学*ともいうが，その特徴は実際政治のための経学*(経世致用)，経書*の文字づかいの中に重要な意味を認めること(微言大義)であった。この学風



時雨螺鈿鞍　鎌倉時代　細川護立蔵



柏木兎螺鈿鞍　平安時代末期　永青文庫蔵

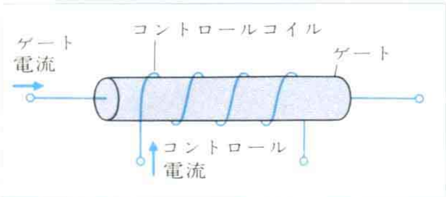
鞍

が清朝(しんちょう)末期の内外の危機に際し，清朝盛時の思想逃避の考証学*に対する批判として新しく再興した。経書を政治・道徳の実際に即して読み，その意味を現代的に発展させようとする学風である。荘存与(1719～1788)に始まって，同じ江蘇(こうそ)省常州生まれの劉逢禄(りゅうほうろく)(1777～1829)に継承され，阿片(あへん)戦争期の龔自珍(きょうじちん)(1791～1841)によって活用されたが，清末の康有為*に至って，公羊学の精神は最大に発揮され，変法自強*による立憲君主制の提唱にまで発展した。これらはしかし，儒教の権威主義と君主制のわくを出るものでなかった。➔儒教　〔西　順蔵〕

くようたつ【孔穎達】(574～648) 唐代初期の経学者。〈こうえいたつ〉〈くえいたつ〉ともいう。唐の太宗*に仕え，国子博士から国子祭酒に進んだ。魏徴(ぎちょう)とともに《隋書*(ずいしょ)》を編集し，また唐朝の国家的典礼を制定した。しかし，彼の最大の事業は《五経正義*》180巻の編修であり，多くの学者の中心になってこれを完成した。

くようでん【公羊伝】⇨春秋左氏伝

くら【鞍】馬具の一。木製でウマの背に置く。鞍の前部に山形に立つのを前輪(まえわ)といい，後部を後輪(しずわ)という。両者を結んで馬背につく部分は居木(いぎ)，この前輪・後輪・居木を総称して鞍橋(くらぼね)といった。また，しりの落ち着く居木の中央を鞍壺(くらつぼ)と称する。古代の鞍は中国伝来と思われるが，断定できない。平安時代から鞍は唐鞍(からくら)と和鞍の両様に分かれ，前者は儀式用に，後者は平常用いる水干鞍と，戦場で用いる軍陣鞍の2種類に分かれた。唐鞍は唐風の意で，玉や螺鈿(らでん)で飾られており，その形式のやや簡素化したものに移鞍(うつしくら)がある。また和鞍の中の水干鞍は，平服の水干*姿で乗るもので，公家(くげ)・武家を通じて略式の鞍である。軍陣鞍は武装を考慮して，居木は広く，後輪の山形はそらせ，全体に肉が厚くがんじょうにつくられていた。室町末期に戦闘方式が集団的となり，鉄砲の伝来があって軽武装になると，鞍もまた重い軍陣鞍の必要がなくなって，ほとんど水干鞍で代用された。和鞍には螺鈿のほか蒔絵(まきえ)を施し，また鞍の主要部分を銀やしんちゅうの薄金で包んだ鏡鞍もある。金覆輪・銀覆輪の鞍は，前輪・後輪など部分的に覆輪*にしたもので，〈白鞍〉は木地をそのまま出し，木材の良質を誇る鞍であった。　〔稲垣史生〕



クライオトロン

くら【倉】財貨を安全に貯蔵するための建物。一般的には湿気を防ぐため床を高くしたもので，建物の構造により，穴蔵・板倉・校倉*(あぜくら)・土蔵・石蔵・レンガ蔵などがある。弥生(やよい)時代の高床式の穀倉が最も古い倉の形で，登呂(とろ)遺跡*に復原されてある。奈良時代にはさらに発達した校倉があり，正倉院*の宝庫が知られる。近世には土壁の塗り込め造りとなり，土蔵とよばれた。防火に重点を置かれた土蔵は一般的なものになり，農家だけでなく，都会地にも発展していった。　〔渡辺欣雄〕

クラ(地峡)［Kra］マライ半島北部の，同半島最狭部で，東からシャム湾が，西からはアンダマン海が迫る。幅65km。政治的にはタイの領土で，古くから運河開削の候補地になっているが，実現化するにはまだ多くの曲折が考えられる。西端はビルマとの国境となっている。

グライアイ［Graiai］ギリシア神話で海の神ポルキュスとケトの娘。パンプレド・デイノ・エニュオとよばれる3人姉妹の老女怪で，生まれたときから白髪であり，3人でただ一つの目と1本の歯しかもたなかった。その目をペルセウス*に奪われたので，彼女らは姉妹にあたるゴルゴン*たちの住所を教えねばならなくなったとも，ゴルゴンたちを助けえなかったともいわれる。

クライオトロン［cryotron］物質の超電導*特性を利用した論理回路素子の一種。クライオトロンはゲート(中心導体)と，それに巻いてあるコントロールコイルとからなり，前者は小さな磁界で容易に超電導が破壊される超電導体(たとえばタンタル)でつくられているが，後者はその程度の磁界では超電導状態にあるもの(たとえばニオブ)が選ばれる。これらを液体ヘリウム温度(4.2°K)に冷却し，コントロールコイル(いつでも超電導状態にある)に流す電流を0かある一定値かのどちらかをとることによりゲートに印加される磁界を0または一定値とし，これによりゲートを超電導状態または通常電導状態にしてゲートの電気抵抗を0または一定値にする。これらの状態の一方を真理値の0，他方を1に対応させ，クライオトロンを並列または直列に接続し，適当な負荷を接続すればAND・OR・NOT・NOR・NANDなどの論理回路をつくることができる。このような巻糸形クライオトロンでは動作速度がおそいので実用には薄膜形クライオトロンを用いる。〔小原啓義〕

クライシュぞく【クライシュ族】アラビアの部族名。5世紀ごろからメッカを本拠に商業活動で有力となった。マホメットはこの中のハーシム家出身であるが，はじめはカーバの信仰をもつ同部族に迫害された。イスラム教が確立すると，イスラム特権階級となる。ウマイヤ家も同部族の出身。

クライスト［Heinrich von Kleist］(1777～1811) ドイツの劇作家。貴族の将校の子として生まれ，軍務に服したが，まもなく退役，大学で法律や哲学を学ぶ。しかし，カント*哲学に接し，人間は絶対の真理を認識することができず，仮象の世界に投げ出されたまま無意義な生の中に漂うほかないのであると考え，絶望して学業を中途で放棄，以後文学を志す。パリ・ベルリン・ケーニヒスベルクなどを転々とし，愛国的活動にも情熱を傾けたが，文学的な不遇と対ナポレオン抗争の失意から，病身で不幸な人妻とともにピストル自殺を遂げた。自身の情熱の燃焼をもって生活と行為の源泉とし，ロマン主義的な作品を書いたが，一方ではリアリズムの傑作も書いている。戯曲に《こわれがめ*》《ペンテジレーア》《ハイルブロンの少女ケートヒェン》《ホンブルクの公子フリードリヒ》，その他，小説に《ミヒャエル-コールハース》《チリの地震》などがある。〔榎本重男〕

クライストチャーチ［Christchurch］ニュージーランド，南島東岸の都市。人口16万9,000(1973)。同国第2の都市で，牧畜の盛んなカンタベリー平野の中心都市として農畜産物の集散を行ない，各種の畜産加工も盛んである。また，外港リトルトンをもち，ここから小麦・羊毛・生肉などを積み出している。鉄道はここから島内各地に延び，陸海交通の要衝となっている。1850

年英国国教会教徒によって建設され，市内には1873年創立のカンタベリー大学がある。〔小栗　宏〕

クライストロン　[klystron]　10ギガヘルツ(GHz〔1 GHz= 10^9Hz〕)程度まで使用できる超高周波用真空管。電子ビームの速度変調作用を利用している。電子ビームを送り出す電極系，電子ビームに速度変調を与える電極系(バンチャー)，速度変調を受けた電子ビームを密度変調された電子ビームに変換するためのドリフト空間，密度変調された電子ビームから出力を取り出すための電極系(キャッチャー)，および電子ビームを受け入れる陽極(コレクター)から構成されている。入力信号はバンチャーに加えられる。〔伊藤糾次〕

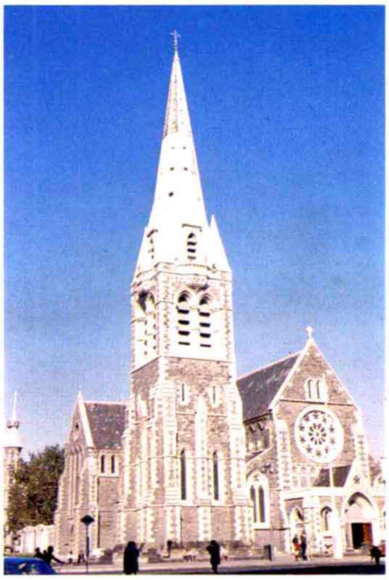
クライスラー　[Fritz Kreisler]　(1875〜1962)　ウィーン生まれのバイオリン奏者。アメリカに帰化した。ウィーン音楽院でヘルメスベルガーに学び，さらにパリ音楽院でバイオリンをマサール，作曲をドリーブに師事。13歳のときニューヨークでデビュー。一時音楽を中断して医学・美術を学んだが，1899年にベルリンで再デビューして以後，欧米各地で演奏会を開いた。日本にも1923年に訪れている。作曲家としても知られ，オペレッタも残しているが，《ウィーン奇想曲》《愛の喜び》《愛の悲しみ》などバイオリンの小品が有名。〔向坂正久〕

クライスラー　[Chrysler Corp.]　ゼネラル-モータース*(GM)・フォード*に次ぐアメリカ第3位の自動車メーカー。インペリアル・クライスラー・ダッジ・プリムスなどの乗用車をおもに生産するほか，戦車・エンジン・ミサイルブースタなどの宇宙・軍需関係にも進出している。系列のフランスのシムカ社，イギリスのルーツ社を加えると海外売上高の70％をヨーロッパで占める。カナダでは乗用車，中南米ではトラックの販売を大幅に伸ばし，アフリカでは，船舶用や産業用のエンジンを製作している。本社デトロイト。年間売上高70億ドル，従業員数23万5,000(1969)。〔氏家　尚〕

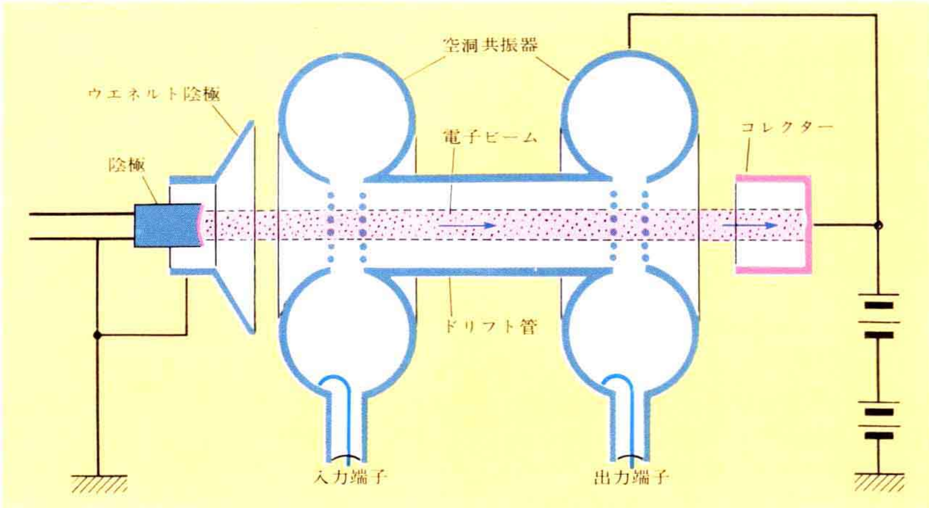
グライゼン　[greisen]　カコウ岩体の上部またはそれに接した岩石が，セキエイ*・リチウムウンモ・トパズ*などを主とし，デンキ石*・ホタル石*・スズ石*などを伴う集合体に変わっていることがある。このような鉱物の集合体をグライゼンとよぶ。気成作用*の産物と考えられ，スズの鉱床はこのグライゼンの一部に見いだされることが多い。

グライそう　【グライ層】　排水不良の土地や水田のようなところで，水の影響で酸素が欠乏して酸化還元電位が低下することにより，三価の鉄が二価の鉄に還元されて灰色を呈した土壌(どじょう)の層。➔土壌

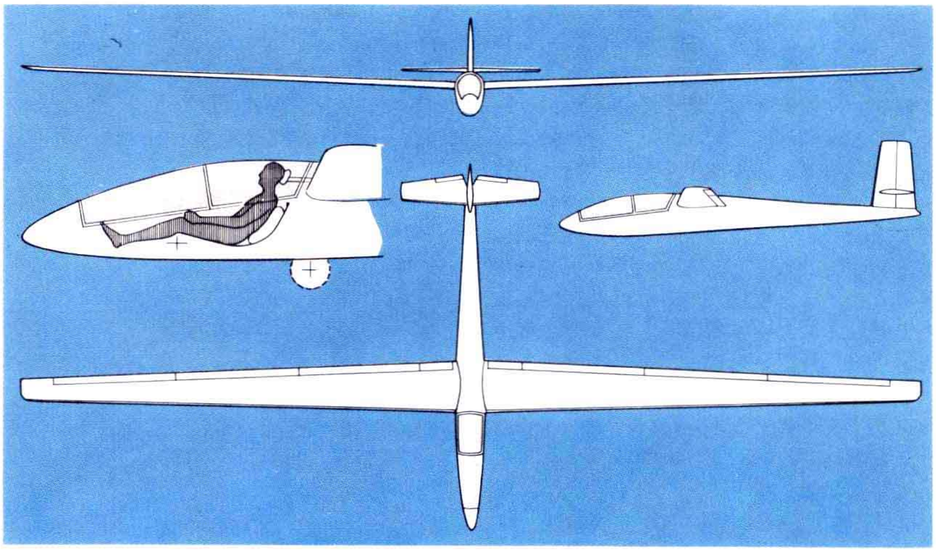
グライダー　[glider]　固定の翼に働く空気力を利用して飛行し，動力装置をもたない航空機。滑空機またはセイルプレーンともいう。推力をもたないから，グライダーに働く外力は重力と空気力だけである。したがって，静止した大気中を定常滑空するときには，グライダーの経路はつねに水平より下方に傾き，飛行方向後ろ向きに生ずる抗力と重力の前向き成分とがつりあうことになる。水平面に対する経路の傾き，すなわち滑空角の正切は機体の揚抗比*の逆数に等しい。滑空角が小さいことは，一定の高度が与えられたとき，グライダーの到着できる水平距離が大きいことを意味するから，揚抗比はグライダーの性能を決定する一つの重要な特性値である。また，一定高度から着陸までの時間は沈下速度に逆比例するから，最小沈下速度ももう一つの重要な特性値である。以上の滑空の原理は静止大気中のことで，グライダーの周囲の大気のかたまりが地表面に対して上昇していれば，グライダーが周囲の大気に対して相対的に降下していても，地表面に対して上昇することができる。実際にグライダーは，山並みを吹き渡る風によって生ずる長波や，



クライストチャーチ　市の中心部に建つイギリス国教会のカンタベリー大寺院。周囲の広場は市民のいこいの場となっている



クライストロン　複空洞クライストロンの構造

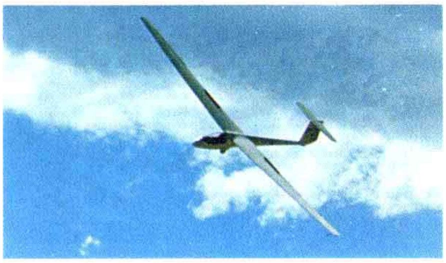


グライダー　ソアラー

グライダー



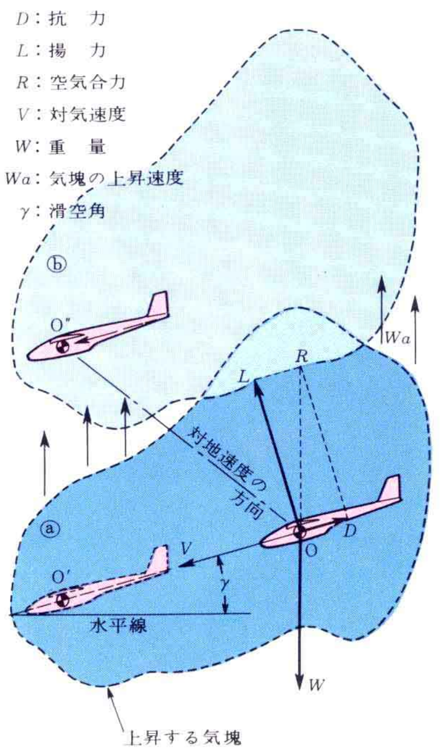
ディアマン(スイス)　強化プラスチック製。競技用高性能機



フェーブス‐C(西ドイツ)　強化プラスチック製。競技用高性能機



コブラ‐17(ポーランド)　木製にプラスチックコーティング。競技用高性能機



定常滑空の状態。機体に働く空気力の合力Rが重量Wとつりあって定常直線飛行を続ける。図から$\cot\gamma = L/D$(揚抗比)がなりたち，γが小さいほど，したがって揚抗比が大きいほど一定高度からの滑空距離が長くなる。また，対地上昇速度は$W_a - V\sin\gamma$（$V\sin\gamma$ は沈下率)で求められる

山腹を吹き上がるときに生ずる上昇気流，あるいは砂地などが太陽によって熱せられてその上空にできる熱上昇気流などに乗って，出発した高度よりはるかに高い高度に達し，そこから滑空して数百キロメートル離れた地点に到達することもまれではない。

高性能グライダーをソアラーとよぶことがあるが，このような機体では揚抗比を増すために，アスペクト比が20以上にも達する細長い主翼をもち，胴体も正面面積を極減したきれいな流線形とする。その結果揚抗比は45前後，最小沈下率は0.5ないし0.7m/秒の程度になる。グライダーは自身の力で発進することはできないから，自動車による直接曳航(えいこう)，ウインチで曳索を巻き取るウインチ曳航，あるいは飛行機による曳航などによって離陸し，所期の高度を獲得した後曳索を離脱して滑空に移る。

〔中口　博〕

グライダーきょうぎ　**［グライダー競技］**　滑空距離，獲得高度，一定距離における滑空速度などを競うスポーツ。1920年ごろからドイツでスポーツとして取り上げられ，のち全世界に普及した。使用するグライダーは最大離陸重量600kg以下と定められているが，機種は離陸法・飛行技術の差で次の3種類に大別される。①プライマリー：ゴム索発進で，地上数メートルの滑空に適する。②セコンダリー：自動車・ウインチで引航し，急旋回・8字旋回など中級飛行に適する。③ソアラー：飛行機で引航して高度をとり，宙返り・失速反転などの高等飛行に適する。

第2次世界大戦後，国際航空連盟(FAI)は1948年スイスで世界グライダー大会を開催し，距離・指定地距離・指定地往復・三角コース・高度獲得などの種目を競い，以後2年ごとに行なわれるようになった。日本では1930年(昭和5)から，各地にグライダー団体ができはじめたが，1955年学生航空連盟ができ，毎年競技会が開催されている。

〔伊藤春雄〕

公認記録　(1970年1月1日現在)

	単　座(世界)	単座(日本)
直線距離	1 153.821km (アメリカ)	483.0km
獲得高度	12 894m　(アメリカ)	3 470m
100km三角速度	155.057km/時(西ドイツ)	58.366km/時

FAI国際滑空記章試験課目

	滑空時間	獲得高度	飛行距離	目的地距離
銀　章	5時間	1 000m	50km	——
金　章	5時間	3 000m	300km	——
ダイヤモンド章	——	5 000m	500km	300km

滑空技能はFAI国際滑空記章によって表わされ，3課目の合格者には金・銀章を与えられダイヤモンド章は各課目ごとに与えられる

クライティーリオン　［Criterion］　T. S. エリオットによって1922年10月創刊され，1939年1月号をもって廃刊となったイギリスの文芸思想誌。一時月刊であったが発行期間中の大部分は季刊である。ヨーロッパ文化はその根底において同一の基盤に立つという信念によって発刊された。

クライド(川)　［Clyde］　イギリスのスコットランド南部を流れ，西岸のクライド湾に注ぐ川。全長約170km。河口からグラスゴーまで汽船の航行が可能であり，グラスゴー付近を中心とする工業地帯の大動脈となっている。上流では発電，下流では果樹園の灌漑(かんがい)などに利用されている。クライド運河によって，東岸のフォース湾と結んでいる。

クライバーン　［Van Cliburn］　(1934～　)　アメリカのピアニスト。石油業者の父とリストの孫弟子(まごでし)である母のもとに生まれ，恵まれた幼児教育を受け，1951年からはジュリアード音楽院でレビンに師事した。アメリカでは1955年からすでに一流の演奏家として活躍していたが，1958年の第1回チャイコフスキー‐コンクールに優勝して以来，その名は国際的なものとなった。彼の基金によるクライバーン‐コンクールはピアニストの登龍門(とうりゅうもん)として有名である。2回来日している。

〔向坂正久〕

クライブ　［Robert Clive］　(1725～1774)　イギリスの政治家・軍人。1744年東インド会社の書記としてインドに渡り，インドの貿易独占権をめぐるフランスとの戦闘に活躍した。1757年のプラッシーの戦い*では，フランス・ベンガル土侯国連合軍を破り，ベンガルにおけるイギリスの支配権を確立した。イギリス下院議員を経て，1765年初代ベンガル総督兼軍司令官に任ぜられたが，悪政・収賄(しゅうわい)などで世論に批判され，自殺した。

クライペダ　［Klaipeda］　ソビエト連邦西部，リトアニア共和国のバルト海に面した港市。旧名メーメル。人口15万(1972)。水産加工・造船・繊維・紙・パルプなどの工業が盛んである。第1次世界大戦後の1920年まではドイツ領メーメルラントの首都であり，一時リトアニア領内での自治を認められていた。第2次世界大戦中はドイツに返されたが，ソ連軍の進駐により，戦後再びリトアニア共和国領に復した。

クライモグラフ　［climograph］　オーストラリア生まれの地理学者グリフス‐テーラーが考案した，ある地域の気候型の表現方法。横軸に相対湿度，縦軸に湿球温度をとり，座標で月別の推移を表現したもの

で，図形から気候型を次のように分類している。

湿球温度　16～33℃ { 相対湿度20～25％焦熱 / 相対湿度70～90〃蒸熱 }
絶対温度－12～5℃ { 相対湿度20～50％酷寒 / 相対湿度70～90〃冷湿 }

これに風向や天気を記入して，総観的な効果を期待することもできる。〔小栗　宏〕

くらいりち　**【蔵入地】**　戦国・江戸時代の領主の直轄地。領地のうち直接支配してその年貢(ねんぐ)を自家の米蔵に収納する地をいい，これに対して家臣たちに知行地として給与して行政収納を任せる地を給地(または給領)といった。また，直轄地(直領)は御蔵入領・蔵納とも称し，その地の百姓を蔵入百姓とよび，給地百姓と区別した。幕府の所領七百万石のうち，御蔵入地は四百十万～四百六十万石あり，諸藩では領地の半分以下の場合が多かった。〔岡山泰四〕

クライン　［Felix Klein］（1849～1925）　ドイツの数学者。ジュッセルドルフに生まれ，ボン大学を卒業し，エルランゲン大学(1872)・ミュンヘン工業大学(1875)・ゲッチンゲン大学(1886)の各教授。幾何学者ではあるが，楕円(だえん)関数・微分方程式・積分方程式など数学の各分野に業績を残した。エルランゲン大学の就任講演は，幾何学の各分野を群論の立場から統一したもので，《エルランゲン目録》とよばれ有名である。ドイツにおける数学教育に尽くした功績も大きい。〔下平和夫〕

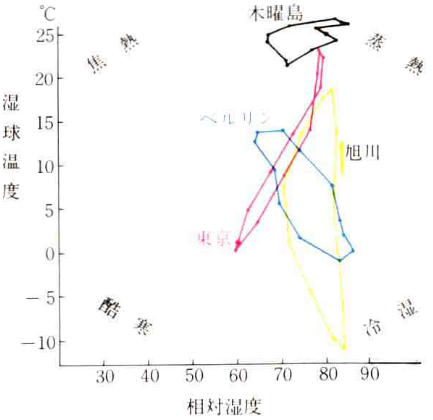
クライン　［Lawrence Robert Klein］（1920～　）　アメリカの代表的計量経済学者。1942年にコロンビア大学を卒業，1944年にマサチューセッツ工科大学の学位を取得。1944年から1947年にかけてコールズ－コミッションの研究員として活躍し，1947年にはカナダ政府の経済顧問，1950年にはミシガン大学の経済学講師となり，現在はオックスフォード大学統計研究所で研究に従事している。理論経済学の分野においては，《ケインズ革命》(1947)を発表し，ケインズ理論の理論的核心を明らかにしてその普及に貢献し，実際面では本格的な計量経済学の方法によるアメリカ経済の分析を課題とし，その研究成果は高く評価されている。〔松浦　保〕

グライン　［Jacob Thomas Grein］（1862～1935）　イギリスの劇作家・批評家。オランダに生まれ，イギリスに帰化した。1891年，アントワーヌの自由劇場*に刺激され，ロンドンに独立劇場を開設，イプセン*やショー*などの新しい問題作を上演，近代劇*の基礎を築いた。

グラインダー　⇨研削盤

クラインのくだ　**【クラインの管】**　⇨メービウスの帯

クラインフェルターしょうこうぐん　**【クラインフェルター症候群】**　性染色体異常によって起こる男性の疾患。最も多いのは，性染色体がXXYのもので，これとそのモザイクXY/XXYとを合わせ全症例の75％を占める。主症状は原発性の睾丸(こうがん)機能低下症である。身長は平均以上で，体格は細く，恥毛の発育が悪い。ときには女性化乳房をみることがある。男子不妊症の原因として重要なものであり，一般人口での頻度(ひんど)は0.2％，精神薄弱者では１％に達する。診断には口腔(こうこう)粘膜細胞の性クロマチンが，女性と同じく陽性であることが手がかりとなる。➔インターセックス〔清水直容〕



クライモグラフ

グラウィッツしゅよう　**【グラウィッツ腫瘍】**　腎臓(じんぞう)の悪性腫瘍の一。1883年グラウィッツによって記載されてから，その名をつけてよばれるようになった。当初は副腎組織が迷入，悪性化したものと考えられていたが，最近は腎臓の尿細管より発生した腺癌(せんがん)であると考えられている。成人の腎臓の癌の大部分がこの形である。初発症状は血尿であり，早期に泌尿器科専門医の検査・診断をあおぐ必要がある。リンパ管を通じて転移するとともに，周囲の組織へ浸潤して広がる。〔大田黒和生〕

クラウジウス　［Rudolf Julius Emanuel Clausius］（1822～1888）　ドイツの理論物理学者。北ドイツ(現在のポーランド)のポンメルンで生まれ，苦学してベルリン大学を終える。チューリヒ・ビュルツブルク・ボン大学教授。〈熱の動力について〉(1850)で熱力学第２法則を定式化し，またエントロピー*の概念を導入して(1865)熱力学の体系化に貢献した。他方，気体運動論でも平均自由行路の概念の導入(1858)など，統計力学への道を開いた。〈最初の理論物理学者〉と目される学風の持ち主であった。〔藤村　淳〕

クラウゼウィッツ　［Karl von Clausewitz］（1780～1831）　プロイセンの軍人。ナポレオンのロシア遠征の際，ロシア軍に参加して活躍した。のちグナイゼナウ*のもとで参謀長となり，近代戦争の作戦を科学的に体系化するとともに，プロイセン軍の近代化に努め，ナポレオン１世の打倒に貢献した。主著《戦争論》は，近代戦の特質を分析した名著として知られる。

クラウディアヌス　［Claudius Claudianus］　生没年不詳。ローマの詩人。４世紀末ごろ～５世紀前半ごろ活躍した。エジプトのアレキサンドリアの生まれ。ホノリウス帝の桂冠(けいかん)詩人。賛歌・非難詩・風刺詩・短詩などを多くつくったが，これらは詩としての価値のほか，史料としての価値も大きい。ラテン語を自由自在にあやつり，寓意(ぐうい)，神話からの引喩(いんゆ)，巧みな比喩をふんだんに用い，大胆な想像力と華麗な修辞で人々を眩惑(げんわく)した。しかし短詩は簡潔で雄勁(ゆうけい)，ローマを母なる国とたたえている。〔久保正彰〕

グラウトポンプ　［grout pump］　岩盤またはコンクリート壁面の亀裂(きれつ)部からの漏水，地中からの湧水(ゆうすい)を防止するためにセメント汁(じゅう)・モルタルあるいはグラウト材料を注入する機械。圧搾空気式のものは運転中にポンプのストローク数を任意に可変できるので注入状況に応じて吐出量を調節でき，また，注入抵抗が増すとストローク数が減じるので一定の注入抵抗が維持できる。電動機・内燃機関をポンプに直結する方式は設備費・運転費が安いのでよく用いられる。ポンプにはプランジャー形式とピストン形式があり，プランジャー形式が多く用いられる。〔神山幸弘〕

グラウバー　［Johann Rudolph Glauber］（1604～1670）　ドイツの医化学者。種々な酸類・塩類をつくったが，中でも結晶性硫酸ナトリウム(グラウバー塩)をはじめて詳しく調べ，性質・用途を教えた。化学工業の先駆者であるが，なお当時の錬金術・医化学の考え方にとらわれていた。

クラウン　［crown］　西洋の冠の意が転じて，物の頂部を示す語となり，帽子の上部，山の部分，すなわち頭にすっぽりかぶる部分のことをいう。帽子はこのクラウンとブリム(つば)の部分で形成されている。

クラウンガラス　⇨光学ガラス

クラカウ　⇨クラクーフ

くらかけとうげ　**【鞍掛峠】**　鈴鹿(すずか)山脈北部の滋賀・三重県境にあり，標高791m。三重県の桑名から藤原を経て滋賀県の彦根(ひこね)を結ぶ通路で，かつては近江(おうみ)商人がここを越えて桑名方面へ出た。現在通路は整備されておらず，自動車の通行は困難である。

クラカタウ(島)　［Krakatau, Krakatoa］　インドネシア，大スンダ列島のジャワ島とスマトラ島の間にある活火山島。マライ語ではラカータとよぶ。インドネシア領。面積31km²。1883年８月26～27日のラカータ山(800m)の噴火は，世紀最大といわれる大規模なものであり，この爆発で山の３分の２は吹き飛び，330mの火口があき，噴出物は周囲の海中に堆積(たいせき)した。高さ15mの津波がジャワやスマトラの海岸を襲って

35,000人の死亡者を出し，津波の影響はイギリス海峡にまで及んだ。火山灰は20,000mも吹き上がって世界じゅうに降り，日の出，日の入りは2〜3年後まで変化をきたしたという。〔大崎　晃〕

くらがりとうげ　【暗峠】 生駒(いこま)山地のほぼ中央にあり，標高455m。奈良県と大阪府の境をなし，生駒山(642m)の南の鞍部(あんぶ)にある。古くから奈良・大阪を結ぶ奈良街道が通じる重要な交通路としてにぎわったが，明治の中ごろ，関西本線が通じてからさびれた。現在の道路は自動車の通行が困難であるが，生駒山地の尾根伝いに信貴(しぎ)生駒スカイラインが通っている。

クラーク ［kulak］ ロシアの農村ブルジョアジー。〈富農〉と訳され，農村の資本主義的企業家，大土地所有者，雇い農・小農・中農の搾取者などをいう。19世紀後半に商品生産や資本主義の発展に伴って発生し，20世紀初頭のストルイピン反動期に地盤が確立した。クラークの農民層に占める比重は小さいが，経済的比重は大きく，革命前ロシアの商品穀物の約50%を生産していた。国内戦時代には穀物を隠匿して公然と反革命に投ずる者もあった。1920年代の新経済政策（ネップ）時代に再び台頭したが，1929年〈階級的廃絶〉政策のひき起こした激しい階級闘争でほぼ消滅した。〔山県弘志〕

クラーク ［Samuel Clarke］（1675〜1729） イギリスの神学者・哲学者。ケンブリッジ大学在学中にデカルト研究からニュートン物理学の普及に努力。卒業後，イギリス国教会の教区牧師として活動した。神の存在を数学的に論証し，そこからあらゆる存在とその属性とを確立しようとした。また，ホッブズの自然主義的倫理学に反対し，すべて存在は永久的な相互関係の中で，それぞれが独自の位置を占めているという〈自然の法則〉をたて，人間は理性に従ってこの法則を守る義務があると説いた。ニュートン物理学の反宗教性をめぐるライプニッツとの往復書簡10通は有名。〔玉井　治〕

クラーク ［William Smith Clark］（1826〜1886） アメリカの科学者・教育者。アマースト大学教授，マサチューセッツ農科大学学長を歴任。1876年（明治9）明治政府に招かれて来日，同年8月から翌年4月まで，教頭として札幌(さっぽろ)農学校（北海道大学の前身）の創設にあたり，キリスト教精神を基礎に学生を指導した。内村鑑三*(かんぞう)・新渡戸(にとべ)稲造*らは彼の感化・影響を強く受けている。別離の際には《少年よ大志をいだけ（Boys！Be ambitious）》ということばを残した。〔赤司政雄〕

クラーク ［John Bates Clark］（1847〜1938） アメリカの理論経済学者。牧師を志しアマースト大学に学んだが，のちにチューリヒ・ハイデルベルク両大学で経済学を学び，その後25年以上の間コロンビア大学に関係し，多くの要職に携わった。彼はドイツで受けた歴史学派の経済学体系に強い批判を与え，そこから限界効用・限界生産力の概念を導き出し，《分配論》（1885）で限界原理の理論を発表した。さらに《富の分配》（1899）によって分配の限界生産力説*の最も卓越した提唱者となった。また彼は動態経済学について早くから研究を進めていたことも知られている。〔松浦　保〕

クラーク ［William Mansfield Clark］（1884〜1964） アメリカの生化学者。ジョンズ-ホプキンズ大学教授。化学平衡・水素イオン濃度および酸化還元指示薬などについて研究。乳製品中細菌の生長に影響する要素について，および金属ポルフィリンについて研究した。

クラーク ［Colin Grant Clark］（1905〜　） イギリスの経済学者。オックスフォード大学に学び，1937年，オーストラリアに移住するまで，ケンブリッジ大学で教鞭(きょうべん)をとっていた。オーストラリアではクィーンスランド地方産業局長官となったが，現在はオックスフォード大学農業経済学研究所の職にある。はじめ，化学の分野で勉強をしていたが，経済学に興味をもち，その研究に従事するようになった。彼は統計学の利用にかけて高い能力を示し，世界各国の国民所得の比較分析をすることによって一国の産業構造が経済進歩の発展に応じ，第1次産業から第2次・第3次産業へと比重を増していくことを明らかにした。主著《経済的進歩の諸条件》（1940）。〔松浦　保〕

クラクション ⇨警音器

クラークすう 【クラーク数】 地殻(ちかく)中にある元素の平均重量比をパーセントで表わした数値のこと。酸素のクラーク数は46.60であり，ケイ素のそれは27.72である。少ない元素の例では，銅が0.007，金が0.0000005である。クラークというのは，今世紀のはじめ多数の分析結果を総合して，はじめて地殻中の元素の割合を算定したアメリカの地球化学者F.W.クラークにちなんだものである。

クラーク数（上位12元素）

順位	元　素		重量百分率（%）	
1	酸素	O	46.60	↑
2	ケイ素	Si	27.72	
3	アルミニウム	Al	8.13	
4	鉄	Fe	5.00	98.59%
5	カルシウム	Ca	3.63	
6	ナトリウム	Na	2.83	
7	カリウム	K	2.59	
8	マグネシウム	Mg	2.09	↓
9	チタン	Ti	0.44	
10	水素	H	0.14	
11	リン	P	0.12	
12	マンガン	Mn	0.10	

クラクーフ ［Krakow, Krakau］ ポーランド南部，ガリチア地方にあるこの国第3の都市。人口56万（1968）。1320〜1609年間は同国の主都であり，ドイツ領の時代にはクラカウとよばれていた。市街はウィスラ川上流の両岸にまたがり，首都ワルシャワやキエフ（ソ連）・ベルリンなどに通ずる鉄道に沿う交通の要衝である。製鋼・機械・化学などの工業が盛んである。1363年創立のクラクーフ大学は中部ヨーロッパ最古のものといわれ，コペルニクス*もここで学んだ。ポーランド科学アカデミーがあり，またドイツ-ロマン派の作曲家シューマン*の生地としても知られる。〔野間三郎〕

くらげ 【水母】 腔腸(こうちょう)動物のヒドロ虫綱・鉢虫(はちむし)綱の生活史のうち，一般に浮遊生活をする時期のものの総称。これに対して固着生活の時期のものを，ポリプ*という。腔腸動物のもう一つの綱である花虫類（サンゴの仲間）ではクラゲを生じない。一般にヒドロ虫類のクラゲ（ヒドロクラゲ）は，小形でつくりも簡単であり，透明なものが多い。鉢虫類のクラゲ（鉢クラゲ）では，大形でつくりが複雑なものが多い。このほかクラゲと称されているものにクシクラゲ類があるが，一般に刺胞*がなく，構造も異なるなど，前にあげた3綱と非常に違う点が多いので，現在では腔腸動物門とは別に有櫛(ゆうしつ)動物*門として独立させることが多く，ここでいうクラゲには含まれない。クラゲが遊泳生活に適応したものであり，ポリプが固着生活に適応したものであるため，クラゲとポリプは一見かなり違うもののようにも思えるが，図からわかるように，本質的には同じである。

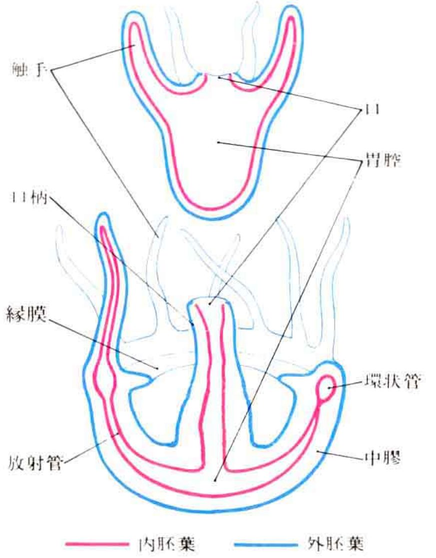
〈ヒドロクラゲ〉 典型的なものの型を述べると，傘径(さんけい)は数ミリメートル，さら形ないし鐘形で，外胚葉(がいはいよう)細胞層でおおわれる。かさの大部分は中膠(ちゅうこう)という分厚い寒天状の物質が占める。かさの縁には光を感じたり，平衡を保つための感覚器がある。また，縁からは触手が糸のように長くたれ下がっている。かさの下面の中央部には管状の口柄が下に突き出しており，その先端に口が開く。かさの縁の内側には縁膜がたなのように水平に環状に張り出して，かさの下面との間に大きなへやをつくる。縁膜には筋肉が発達しており，遊泳に関係する。かさの内部には口に続く胃腔という腔所があり，そこから放射管が派出して，その先はかさの縁を取り巻く環状管に接続している。これらは胃水管系といわれ，内胚葉細胞層でおおわれる。生殖腺(せいしょくせん)は口柄や放射管に沿って発達しており，外胚葉性である。刺胞は体表その他に広く分布するが，特に触手に目だち，えさを捕えたり害敵を防ぐのに役だつ。

〈鉢クラゲ〉 形態はヒドロクラゲと基本的にはさほど変わらないが，大形のものが多いこと，縁膜をもっていないこと，生殖腺が内胚葉起源であること，胃糸をもつこと

などで異なり，つくりの面で非常に複雑になっている。傘径10数センチメートルから30cmほどのものが多いが，ユウレイクラゲでは2mに達するものがあるといわれる。鉢クラゲでも，アンドンクラゲなどでは縁膜ではないが，それにやや似たものがみられる。胃糸は胃腔内にあって，それがもっている刺胞によって口からはいってきた餌動物(じどうぶつ)を麻酔させ，消化の働きをするといわれている。そして胃腔から放射管に海水とともに送りこまれた食物の細片は，管壁をつくる細胞に取りこまれ，さらに消化される。胃水管系はヒドロクラゲに比べてはるかに複雑で，放射管は数も多く，枝分かれも盛んで，網状になっているものも少なくないが，環状管には連絡している。筋肉もヒドロクラゲのものより発達し，かさの縁に多くみられ，その収縮によって遊泳する。生殖腺は胃腔内の床部に位置する。

ヒドロクラゲ・鉢クラゲともに呼吸器は発達しておらず，この働きは体表で行なわれる。感覚器はクラゲが遊泳生活をするということと特に関係が深く，クラゲの種類によって発達程度もさまざまで，着生生活をする十文字クラゲ類では発達が悪い。

クラゲの生活史を鉢クラゲのミズクラゲを例にして述べる。受精卵はプラヌラという顕微鏡的な幼生になって母体から離れ，海中を遊泳したのちに岩や海藻(かいそう)などに着き，ポリプとなる。発達したポリプはふつう16本の触手を備え固着生活を続け，その間，出芽によってふえる。水温の低下その他の影響を受けて，縦に伸びたポリプに横にいくつものくびれがはいり，触手を吸収して，ちょうどさらを何枚も重ね合わせたような形のストロビラになる。さらの1枚1枚はさらに発達して，おのおのが8枚の花弁をもった花のような形になって，ついに上下が逆になって次々と泳ぎ出して行く。これがエフィラ*で，クラゲ時代のはじまりにあたる。エフィラが成長して再び卵や精子をもった親クラゲとなり，卵が受精されプラヌラになる。このようにクラゲの生殖は卵と精子の受精による有性生殖と，出芽でポリプがふえるとか，1個のポリプがストロビラを経て多数のエフィラとなるような無性生殖とが交互に生活環を通じて行なわれる。すなわち世代交代*を行なうわけである。このことからクラゲの時期は有性生殖を行なうためにたいへん重要なものであることがわかるであろう。固着生活のポリプから遊泳生活のクラゲになる途中のストロビラの時期に遊泳生活には欠かせない感覚器や縁弁の開閉に必要な筋肉などが急速につくられる。ヒドロ虫類でも世代交代を行なうものが多い。ただしストロビラ・エフィラの時期はない。ヒドロクラゲ中にはポリプからクラゲが遊離しないで，子嚢(しのう)という形で生殖体が残ることがある。この場合その発達程度が種類によって違い，



クラゲ　ヒドロクラゲ(下)の上下をさかさまにしてポリプ(上)と比べたもの

ほとんどクラゲの形になりながら離れないものから，クラゲがいろいろの程度に退化し，中にはほとんど生殖細胞だけというものまである。

カツオノエボシ・カツオノカムリなどが属しているヒドロ虫類のうちのクダクラゲ類は群体をつくる。このため前に述べた単体のクラゲとは，全体の形から見ればかなり違うようにみえるが，群体は変形したポリプ型およびクラゲ型の個虫からなっており，それらが共通の胃水管系で連絡しているのである。個虫をみるとポリプ型のものではえさをつかまえるもの，消化の働きをするもの，生殖に関係するものなどがあり，クラゲ型のものでは群体全体を浮かすもの，泳ぐ役目のもの，虫体保護のためのもの，生殖に関係するものなどである。

クラゲはほとんどが海産で，内湾・外洋に広く見いだされる。淡水産のものはマミズクラゲがよく知られている。これは思いがけないような場所の池や貯水槽(ちょすいそう)などに散発的に見いだされ，ポリプも知られている。ヒドラも淡水産のヒドロ虫類であるが，クラゲの時期はまったくない。刺すクラゲとして知られるものはカツオノエボシ・ヒクラゲ・アンドンクラゲ・アカクラゲなどがある。またハナガサクラゲは美しい色彩で知られている。さらに，ミズクラゲは最も普通にみられるクラゲで，大量に集団をなして移動し，海に面した火力発電所などの大工場の冷却水取り入れ口をふさぐため，工場では大きな問題である。

食用にされるクラゲはビゼンクラゲ・エチゼンクラゲで，かさの部分を石灰とミョウバンに浸してから塩蔵した塩くらげを，塩抜きして，三杯酢や中華料理の前菜などにする。〔杉浦　靖〕

クラーゲス　［Ludwig Klages］（1872～1956）ドイツの哲学者・心理学者。ハノーバーの生まれ。ミュンヘン大学に学び，のちチューリッヒに表現学研究所を設立した。筆跡学・性格学の独自な体系の樹立者として知られる。哲学的には生の哲学*の立場に立ち，理性（精神）は生命（心）を危くするとして，身体の役割を重視した。著書《心の対抗者としての精神》《性格学原理》《表現学原論》など。

くらげだこ　【水母蛸】　軟体動物・頭足類・クラゲダコ科。ほとんど色のつかない透明なタコで，全長35cmほど。体は全体が厚い寒天質に包まれ，目が望遠鏡のように伸びている。外套腔(がいとうこう)は左右の二つの穴によって外部に開く。深海の中層で浮遊生活をしているが，完全な浮遊動物になった唯一のタコとして注目される。相模(さがみ)湾・太平洋東部・ボルネオ・インド洋・南アフリカなどの水深500～2,000mの深所からまれに採取される。

クラーゲンフルト　［Klagenfurt］　オーストリア南部，ユーゴスラビアとの国境に近い商工業都市で，ケルンテン州の州都。人口74,000（1971）。美しい湖と山に囲まれた観光地であり，冬季スポーツの中心地となる。金属・化学工業などが盛んである。毎年夏には中部ヨーロッパ第1といわれる木材見本市が開かれる。

クラサオ（島）　⇨キュラソー島

グラジオラス　［gladiolus］　単子葉植物・アヤメ科の多年草。アフリカおよび地中海沿岸に約150種が分布。古くから球根草花として栽培され，ギリシア時代にも栽培されていた。今日の園芸種は種々の原種が交配改良されてできたもので，多くの品種があり，花色も豊富。高さ1m内外の花茎を伸ばし，6弁花を穂状につけ，下から上へと咲く。ふつう3～4月に植え，6～7月に開花。球茎は年々更新して分球する。また球茎の下に多数の子球ができ，これを繁殖用に用いる。〔横井朝子〕

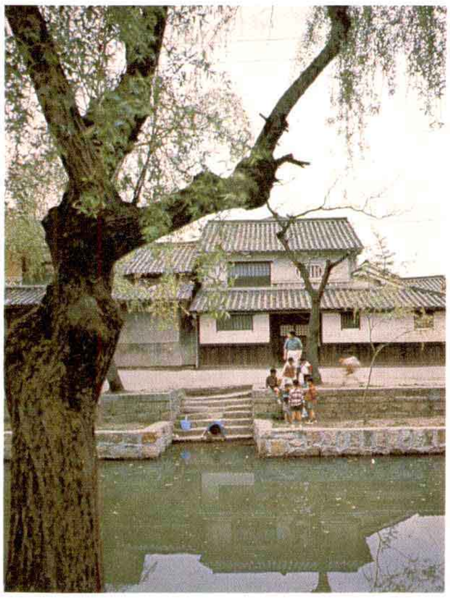
くらしき　【倉敷（市）】　岡山県南部の市。古く阿知潟(あちがた)とよばれた遠浅の海面が高梁(たかはし)川の堆積(たいせき)作用によって陸地化した土地で，中世以降河港として栄え，1642年（寛永19）には備前・備中・讃岐(さぬき)の天領六十万石を統轄する幕府代官所が置かれた。付近一帯は近世末期から綿花の栽培が盛んで，これを原料として家内工業による紡績が行なわれたが，1888年（明治21）に大原孫三郎*の父孝四郎を中心に倉敷紡績所が，1926年（大正15）に倉敷レイヨンが設立され紡績の町として大きく成長した。1928年（昭和3）市制施行，1967年に児島(こじま)市・玉島市を合併して大倉敷市をつくった。人口40万4,000。市域は岡山平野の西部と児島半島の西部を占め，瀬戸内海の水島灘(みずしまなだ)に臨む。高梁川下流の三角州上にある中心市街には白壁の土蔵ふうの軒並みや石の船着き場，掘り割りにかかるそり橋

などが残り，日本の古いおもかげを伝えている。産業三大別人口比は7:50:43。繊維・鉄鋼・機械・化学・セメントなどの工業が発達し，大工場が多い。東の岡山・玉野，北の総社(そうじゃ)を含む地域は1963年岡山県南新産業都市に指定され，高梁川河口東岸の水島地区には三菱(みつびし)グループの石油コンビナートを中心とする大型工業基地の造成が進み，今後の発展が期待される。西阿知地区では，花むしろの生産が盛んで，アフリカや南方方面へ輸出する。山陽本線から伯備線を分岐し，国道2号線が市域を貫通し，水島港・下津井港から丸亀(まるがめ)(香川県)へフェリーボートの便がある。大原孫三郎がつくった大原美術館*，岡山大学付属の大原農業研究所・倉敷考古館・倉敷民芸館・倉敷天文台などの文化機関が多い。児島半島南端には瀬戸内海国立公園特別地域の鷲羽(わしう)山があり，県下一の観光地となっている。〔浅井得一〕

クラシックおんがく【クラシック音楽】英語のクラシカル-ミュージックに対応する日本語。本来は西洋の古典派音楽をさすべきであるが，日常的には時代様式としての古典派ではなく，西洋社会において価値が固定している芸術音楽をさすのに用いられている。これは，中世のグレゴリオ聖歌*から現代の音楽までを含み，少数の社会的文化的エリートによって形成された音楽であり，民俗音楽やマスメディアと結びついたポピュラー音楽と対照をなしている。今日では，こうした発生的な分類はしだいに意味を失いつつある。過去においては，ポピュラー音楽のほうがクラシックよりも構成が簡単で，聞きとるのが容易であったが，今日では，かつてのポピュラーのジャンルとクラシックのジャンルが相互に語法を交換し，影響を与え合っているため，この種の分類がしだいに意味を失いつつある。〔徳丸吉彦〕

グラシンし【グラシン紙】きわめて緻密(ちみつ)な薄葉紙。原料に化学パルプを用い，通常の場合より叩解*(こうかい)を著しく進めたのち抄紙し，さらにスーパーカレンダーで加圧してつくる。ピンホールがなく，耐脂性がよいので，食品・薬品・金属部品などの包装に使用され，また透明性を利用して窓つき封筒の窓などにも使われる。なお，セミグラシン紙と称するかなり不透明な製品もある。

グラス［glass］ガラスから転じてガラス製飲用器のことをいう。水や清涼飲料・果実水・洋酒など用途によって形状・大小などさまざまで，また特に水飲み用その他大形カップをタンブラー(tumbler)という。わが国では通常すべてコップとよんでいる。ガラスの起源は古く，エジプト時代にすでにあり，日本にはスペイン人やポルトガル人が渡来するようになってから多く伝わり，当時はたいへんなぜいたく品であった。現



倉敷市　倉敷川(汐入川)の堀端で，昔は舟運でにぎわった。付近に美術館・考古館・民芸館などがあり，古い町並みがよく保存されている



グラスゴー　市の中央にあるジョージ広場。広場の周囲には市議会議事堂・中央郵便局などがあり，広場は市民のいこいの場となっている

在ではガラスの製法が発達して多くの食器に使用されている。グラスのおもな種類をあげると，ウイスキーグラス・ワイングラス・リキュールグラス・シェリーグラス・ホワイトワイングラス・ポートワイングラス・カクテルグラス・シャンパングラス・パンチグラス・アイスクリームグラス・日本酒グラス・ビーアグラス・タンブラーなどである。ガラスは透明なことが最もたいせつであるから，いつもていねいに手入れすることが肝要である。〔山本喜男〕

グラス［Günter Grass］(1927～　)ドイツの小説家。ダンチヒ(いまはポーランド領グダニスク)に生まれた。第2次世界大戦では捕虜生活を送り，戦後は石工，やがて彫刻家としてパリで窮乏生活を送った。1959年長編《ブリキの太鼓》で，敗戦期から戦後の混乱した世相，そこに生きる小市民の群像を，ひとりの不具者に視点を置いて戯画ふうに描き，国際的名声を得た。その他《ねことねずみ》《犬の年月》においても，ナチをささえた社会と人間の心理と対決しながら，イメージ豊かな独特の文体を展開する。1953年の東ドイツ労働者の暴動とブレヒト*の立場をモデルにした《平民が暴動を稽古(けいこ)する》などの劇作もあり，政治問題にも積極的な参加の姿勢を示している。〔藤本淳雄〕

グラスゴー［Glasgow］イギリス，スコットランド南西部の商工業都市。人口86万2,000(1972)。ロンドン・バーミンガムに次ぐイギリス第3の都市で，クライド川河口から32km上流の沿岸に発達している。港は外航船のはいる良港である。12世紀後半にウィリアムス王によって自治が認められ，17～18世紀には，アメリカ植民地との貿易(特にたばこ・砂糖)で繁栄した。アメリカ独立後一時衰退したが，産業革命とともに付近の鉄・石炭資源による造船を中心として重化学工業が発展した。紡織・醸造などの工業も盛んである。1451年創立のグラスゴー大学をはじめ，各種の教育・学芸施設をもち，エジンバラとともにスコットランド文化の中心となっている。市街に多くの公園をもつ，整然とした美しい都市として知られる。〔野間三郎〕

グラスゴー［Ellen Glasgow］(1874～1945) アメリカの女流作家。ヴァージニア州リッチモンドに生まれ，その地で生活し，南北戦争後から産業中心主義の現代へと移り変わるアメリカ南部を背景に，リアリズムに徹した作品を書いた。代表作は《不毛な土地》《温室育ち》《男まさり》など。

クラスターロケット［cluster rocket］束になったロケット。大きいロケットの開発は時間を要するので，同じ推力を得るために小さいロケットを束にする。こうすれば一つのロケットが故障しても飛行が続けられる。燃料は共通のタンクを用いる。サターン5型の第1段はFIロケット5基を束にしてある。

クラスノダール［Krasnodar］ソビエト連邦南西部，黒海の北東部にある同名地方の中心都市。旧名エカテリノダール。人口51万9,000(1973)。クバン川流域の豊かな農業地域にあり，河港・鉄道の要地でもある。機械・石油精製・食品加工などの工業がある。都市は1794年に建設され，コサックの町として栄えた。

グラズノフ［Alexander Konstantinovich Glazunov］(1865～1936) ロシアの作曲家。有名な楽譜出版社の子として生まれた。バラキレフの紹介でリムスキー-コルサコフ*に師事し，1882年《第1交響曲》を発表して，高く評価された。1884年に西欧への旅行を行ない，帰国後，活発な作曲活動にはいった。バレエ《ライモンダ》や《四季》は彼の代表作。1899年以後ペテルブルク音楽院の教授となり，革命後には同院長にも

なった。また指揮者としても大いに活躍した。1928年健康上の理由からパリに行き，同地で客死した。〔向坂正久〕

クラスノヤルスク ［Krasnoyarsk］ ソビエト連邦シベリアのエニセイ川上流域にある同名州の州都。東シベリアにおける産業・文化の中心地。人口72万8,000(1973)。シベリア鉄道が市域を東西に貫き，河港と空港をもつ交通の要衝であり，南方35kmにある世界屈指のクラスノヤルスク水力発電所から得られる豊富な電力を利用して起重機・トラクター・機関車などの機械工業，化学工業，紙・パルプ工業，テレビ受像機などの電機工業が盛んに行なわれる。都市は1628年要塞(ようさい)としてつくられたが，流刑地としてもレーニンがいたことなどで知られる。第２次世界大戦後の工業発展が特に著しい都市の一。〔斎藤晨二〕

グラスファイバー ⇨ガラス繊維

グラスマン ［Hermann Günther Grassmann］ (1809～1877) ドイツの数学者。シュチェチンに生まれ，ギムナジウムで数学・自然科学の教授となる。ハミルトンの４元数とは別個に４元数の理論を述べている。またその著《広延論》で代数学・幾何学・力学などに応用されるグラスマン代数を発表した。

グラスライニング ［glass lining］ 金属の容器やパイプの内面に，耐薬品性の強い硬質ガラスの粉末を焼き付けること，あるいはその方法。パイプに対しては，粉末でなく，ガラス管を直接に焼き付けることもある。化学工業用に広く用いられている。

くらたひゃくぞう 【倉田百三】 (1891～1943) 劇作家・評論家。広島県庄原(しょうばら)市の生まれ。旧制第一高等学校に入学，西田幾多郎の《善の研究》を耽読(たんどく)したりしたが，中退。1914年(大正３)，西田天香の一燈園にはいった。その後，同人雑誌《生命の川》を発行，同誌に《出家とその弟子(でし)》を発表し，社会的反響をよんだ。ほかに《父の心配》などの戯曲，評論集《愛と認識との出発》などがある。

グラタン ［gratin］ 焼き付け料理。フランス語のグラティネ(焦げ皮をはらせる)からきた語である。グラタンざら(特殊の陶製の焼きざらまたは銀製の深ざら)にバターを塗ってからソース(ホワイトソース・ブラウンソース)を入れ，この上に下調理した材料を載せてさらに同じソースを注ぎ，おろしチーズ・生パン粉・バターをかけてオーブンに入れ表面を光沢よく焼き上げる。ソースを材料にしみこませて焼くのが本来の目的であるから，ソースの味がたいせつである。焼きたてをグラタンざらのまま敷きざらに載せて供する。〔泉 敬子〕

グラチアヌスほうれいしゅう 【グラチアヌス法令集】 1140年ごろ，ボローニアの修道士グラチアヌス(？～1158)が，スコラ神学の立場で編集した教会法令集。各種の

倉田百三





グラーツ　市の中心部にあるハウプト広場。市役所もここにある。背後の丘はシュロスベルクの丘で，有名な時計塔が立っている

矛盾した教会法を分類し，注釈を加えている。第１部には法源，教職者の職務など，第２部で裁判における問題点と関係条文など，第３部では祭儀・典礼などについて記されている。私選の法令集であるが数世紀にわたって諸大学で講ぜられ，その権威が認められた。16世紀後半には，教皇によって《教会法大全》の一部にも収められて公的権威をもつに至った。〔高山高雄〕

グラーツ ［Graz］ オーストリア南部にある同国第２の都市。人口24万9,000(1971)。ハンガリー・ユーゴスラビアに通ずる陸路の要地で，13世紀から16世紀まではトルコに対する砦(とりで)であった。17世紀から商業が発達し，その後，石炭・鉄鉱・水力などの資源を利用する工業が，特に西郊に発展した。15世紀に建てられた後期ゴシック寺院や，16世紀の州会議事堂などの史跡に富み，1586年創立のグラーツ大学や美術館・グラーツ音楽院などの文化・教育施設をもつ。風光がよく，温泉も出るところから，避暑地としても著名。〔梶川勇作〕

クラッカー ［cracker］ 小麦粉を主原料とした一種のビスケット。クラック(砕ける)から出た名まえで，歯でかむと砕けるような感触をもつ。イーストの発酵によって膨化させ，甘味はつけず薄く堅焼きにする。主食の代用として用いられ，また料理に添えたりスープの浮き実や洋酒のつまみ物にしたりする。

クラッキング ［cracking］ 石油を熱または触媒の作用により分解して，軽質炭化水素を生成させる反応および操作の総称。たとえば，ナフサ中の一成分であるn-ペンタンを700～800℃でクラッキングすると，次式のようにエチレン-プロパンまたはエタン-プロピレンに分解する。

$$n\text{-}C_5H_{12} \longrightarrow C_2H_4 + C_3H_8$$
$$n\text{-}C_5H_{12} \longrightarrow C_2H_6 + C_3H_6$$

このようにクラッキングでは分解が主反応であるため，クラッキングを単に分解とよぶことが多いが，実際にはきわめて複雑な反応の総合されたもので，クラッキングを簡単な化学反応式で表現することはできない。工業的にはナフサの高温熱分解による石油化学工業原料のエチレン-プロピレンなどの製造，軽油の接触分解による接触分解ガソリンの製造などに応用する。〔原 伸宜〕

グラック ［Julien Gracq］ (1910～) フランスの詩人・小説家。シュルレアリスムの影響を受け，詩的散文によるロマン主義的な作品を書き，小説《アルゴールの城》《シルトの岸辺(きしべ)》，散文詩集《大いなる自由》などがある。《シルトの岸辺》でゴンクール賞に選定されたが，文学賞への不信から，これを拒否した。

グラックス(兄弟) ［Gracchus］ ローマ共和政時代の革命的政治家。コンスル(執政官)・ケンソル(監察官)にまでなった父と，大スキピオの娘であった母との間に生まれた12兄弟のうちの２人。

1 ティベリウス-グラックス Tiberius Sempronius Gracchus(BC162～BC133) BC137年スペインのヌマンティア攻略戦に従軍するためにエトルリアを通過した際，農民農地の荒廃と奴隷制農業の普及を目撃し，かつ戦闘におけるローマ軍の資質の低下を経験。護民官となるや，BC133年農地改革案を民会に提案した。この改革案は，公有地を占有する大土地所有者から一定面積以上の公有地を没収して，それを貧困市民に割り当て，その実務担当者として土地判定・割り当て三人委員を構成するというもので，慣例に従って元老院の承認を得ることなく直接民会に提出され，また拒否権を発動した同僚護民官の罷免という先例違反を犯して，民会で成立させられた。また改革案実施のための費用を，たまたまアッタロス３世によって遺贈されたペルガモン王国の現金でまかなうという案も，元老院の権限を奪って民会で強行成立された。さらにティベリウスは翌年の護民官に立候補するという制度違反も行なったため，その選挙民会で同志約300名とともに反対派の凶刃に倒れた。

2 ガイウス-グラックス Gaius Sempronius Gracchus(BC153～BC121) BC133年，兄の提案した三人委員のひとりとなって尽力したが，BC123年護民官となり，兄の改

革のいっそうの推進に乗り出した。まずローマ市の貧民に市場価格以下で穀物を配給することを定めた穀物法案を通して首都一般市民を味方につけ，ペルガモン王国の故地にたてられた属州アシアの徴税請負権と不当取得法廷の裁判権とを騎士に与える法案によって騎士を味方にしたうえで，翌年の護民官にも立候補して当選した。この立場で新たな植民地建設法案を成立させて，みずからも植民地建設準備のため北アフリカに渡ったが，るす中ローマ市の政情は逆転し，帰国後３度立候補した護民官選挙に落選し，続いて起こった混乱の中で殺された。〔弓削　達〕

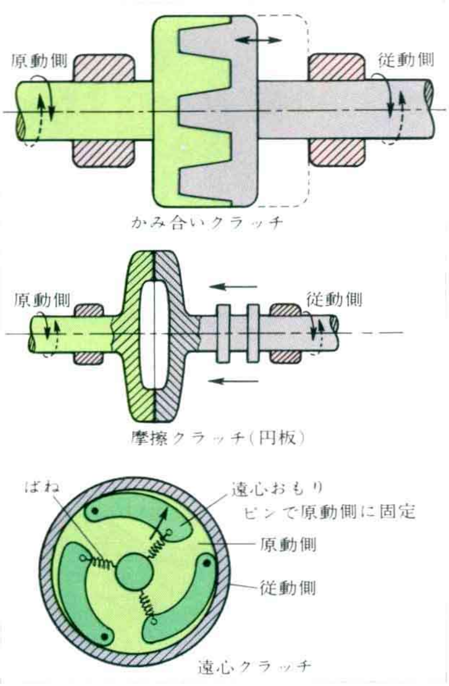
くらつくりのとり　**【鞍作鳥】**　生没年不詳。飛鳥(あすか)期の仏像製作者。鞍作止利とも書き，鳥(止利)仏師ともいう。正しくは鞍作止利(おびと)。中国から522年(継体天皇16)に帰化した司馬達等(たつと)の孫，多須奈(たすな)は父。606年(推古天皇14)に元興寺*金堂の丈六仏(釈迦(しゃか)如来坐像)を完成したことが《日本書紀》にみえる。また，太子の菩提(ぼだい)のためにつくられた法隆寺金堂の釈迦三尊像には，その光背に彼の制作銘がある。整斉(せいせい)な作風は止利様式として知られる。

くらつくりべ　**【鞍作部】**　古代において鞍(馬具)製作に従事した部*。《日本書紀》には雄略天皇のとき鞍作堅貴が渡来したとあるが，他の手工業部民と同じく帰化人*により技術が伝えられ，畿内(きない)に定着，集団をなしたものであろう。のち仏教関係に活躍する司馬達等*(たつと)・鞍作鳥*(止利(とり)仏師)らの一族は，鞍作部の伴造*(とものみやつこ)系の一族であろう。

クラッシャー　[crusher]　岩石・鉱石・石炭などをあら砕きする機械。破砕面が前後動して原料粒子をかみ砕く形式のものとしてジョークラッシャー・ジャイレートリクラッシャー・コーンクラッシャーなどがあり，その他回転するローラの間に原料粒子をはさみ込んで圧し砕く形式のクラッシングロール，高速回転する衝撃板によって原料粒子に衝撃力を与え，これを破砕する形式のインパクトクラッシャーなどがある。

クラッシュ　[crash]　やや太い麻糸の平織りの生地。白地のものが多く，淡色の無地もある。主として夏の紳士服・スポーツ服・テーブルかけ用。クラッシュタオルは，平織り・斜子(ななこ)織り・梨地(なしじ)織りなどに織って高級手ぬぐい用・さらふき用にする。

クラッスス　[Marcus Licinius Crassus]　(BC114ごろ～BC53)　ローマ共和政末期の政治家。閥族派の巨頭スラと結んで，公敵の財産没収に際して巨額の富を得た。BC72年，スパルタクスの反乱を平定して人気をあげ，BC70年ポンペイウスとともに執政官となる。BC60年，カエサル・ポンペイウスとともに第１回三頭政治*を行なった。彼らとの対抗上，はなばなしい戦功を求めてパルチアに遠征したが敗死した。



クラッチ


グラッドストン
ナショナル－ポートレート－ギャラリー蔵

クラッチ　[clutch]　機械や自動車などの原動側と従動側に設け，必要に応じて動力の伝達を断続させる装置。種類には次のものがある。

①かみ合いクラッチ：互いにかみ合う歯をもったフランジを両軸端にはめ，この歯をかみ合わせるようにしてある。回転中の接続はできないが，大きな力を伝達できる。

②摩擦クラッチ：円板を両軸端に取りつけ，押しつける力によって起こる摩擦力で動力を伝える。回転中でもなめらかな接続ができ，自動車ではほとんどこの摩擦クラッチを用いている。

③一方向クラッチ：一方向の回転のみを伝える。

④遠心クラッチ：遠心力が働くと原動軸側のクラッチが広がり，従動軸に設けられた円筒に密着し，回転力を伝える。スクーターの自動クラッチとして利用されている。〔成田武男〕

クラッドこう　**【クラッド鋼】**　極軟鋼・軟鋼，あるいは低合金鋼を母材として，その片面あるいは両面にクラッド材として耐食のよいステンレス鋼などを熱間圧延，または鍛接などにより圧着させた鋼材。片面にクラッド材を圧着したものを片面クラッド鋼，両面に圧着したものを両面クラッド鋼という。用途としては重化学工業用圧力容器・反応槽(そう)・熱交換器・貯蔵タンクなどがあるほか，造船・原子炉の一部にも使われている。なおクラッドパイプもある。〔長谷川正義〕

グラッドストン　[William Ewart Gladstone]　(1809～1898)　イギリスの政治家。1833年より下院議員となり，保守党内閣の閣僚を歴任したが，アイルランド自治問題や穀物法廃止問題をめぐって保守党を脱退し，自由党に転じた。その後も閣僚を歴任し，1868年以降，数次にわたって内閣を組織し，ディズレーリ*の率いる保守党と対決して，典型的な二大政党による議会政治を展開した。国内政策の面では，アイルランドのイギリス国教会からの解放などアイルランド問題の解決を図り，第３次選挙法改正によって選挙権を拡大するなど，自由主義的政策を実行した。対外政策の面では平和主義外交を主張したが，イギリスの国際的地位の変化と世論に動かされて，やや対外進出に転じた。〔松下京子〕

クラッドばん　**【クラッド板】**　二つの異なる金属または合金の板を接合することによって得られる材料。接合には多くの方法がある。代表的なものは，一方の金属の厚板に他方の金属を鋳造し，圧延する方法，二つの異なる金属の板を熱間で圧延する方法，同様に圧延中に電流を通して圧力を加えながら溶接する方法などである。クラッド板のおもな目的は耐食性の表面を得ることで，軟鋼を母材としてステンレス鋼をクラッドしたものはその例である。〔草川隆次〕

グラッベ　[Christian Dietrich Grabbe]　(1801～1836)　ドイツの劇作家。刑吏の子として生まれた。大学で法律を学び，弁護士や判事を勤めたが，飲酒癖と不幸な結婚で生活がすさんで退職。その後，劇評などに携わったが，やがて生活苦と病苦の短い生涯(しょうがい)を終えた。歴史上の英雄の蹉跌(さてつ)と敗北をテーマにして，《ドン－ファンとファウスト》《ナポレオン》《ハンニバル》などの戯曲を書いた。

くらて　**【鞍手(町)】**　福岡県北部，鞍手郡の町で，直方(のおがた)市の西に接する。人口20,000。1955年(昭和30)に，剣町ほか２村が合併して生まれた。鹿児島本線遠賀川(おんががわ)駅から分岐する室木線が通る。筑豊(ちくほう)炭田有数の炭鉱町であったが，現在はほとんどの炭鉱が閉山したため，町全体が大きな打撃を受けている。1960～1965年の人口減少率は，30.1％であった。

グラディアトル　⇨剣奴

クラテス　[Krates]（BC336ごろ～BC

286ごろ) 古代ギリシアのキュニコス派*の哲学者。テーベの生まれ。アテナイを訪れてディオゲネス*の影響をうけ，無名と貧困に徹して生きた。アレクサンドロス大王に祖国テーベの再建を望むかと問われ，〈別のアレクサンドロスがまた破壊するから，その必要はない〉と答えたという。

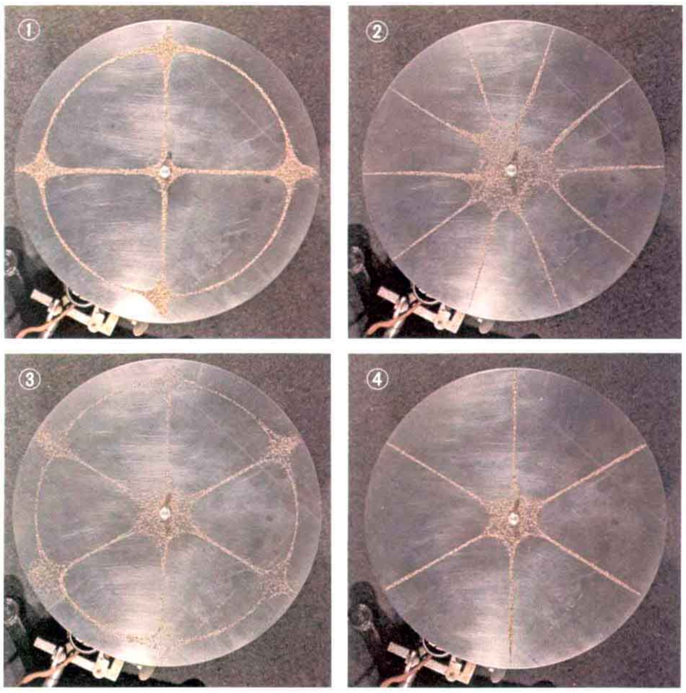
グラトコーフ ［Fyodor Vasilievich Gladkov］ (1883～1958) ソビエトの小説家。ロシア革命前より，作品を書きつつ革命運動に従事し，プロレタリア作家として名をなした。長編《セメント》は，社会主義建設の過程をなまなましく伝え，ソビエト文学初期の記念碑的作品となった。ほかに，発電所建設を扱った姉妹編《エネルギー》や，自伝的作品《幼年時代の物語》などがある。

クラドニ ［Ernst Florens Friedrich Chladni］ (1756～1827) ドイツの物理学者。ウィッテンベルクに生まれ，はじめ法律を志したがのち物理学に転じ，棒や弦のたて振動を発見した。続いて板の振動を調べ，いわゆる〈クラドニの図形*〉を示してナポレオンから賞金を受けた。また固体中や気体中の音速を測定するなど音響学の研究に専心し，世に〈音響学の父〉とよばれる。

クラドニのずけい ［クラドニの図形］ ドイツの物理学者クラドニ*が板の振動のようすを調べるために用いた，砂などのつくる模様。平板を水平にして一点で固定し，板面と垂直な方向の振動を与え，この上に細かい砂，コルク粉，石松子(せきしょうし)(ヒカゲノカズラ*の胞子でごく軽い黄色の粉末)などをまく。板がある形の振動状態で振動すれば，これらの細かい粒子は板の振動のない場所(板面である曲線をなすので節線という)に集まる。ダイナミックスピーカーのコーン紙などの振動には，石松子を使えば見やすい図形が得られ，スピーカーの周波数特性との対照が容易。 〔池谷和夫〕

くらとみゆうざぶろう ［倉富勇三郎］ (1853～1948) 政治家。久留米(くるめ)藩の儒者の家に生まれる。1879年(明治12)司法省法律学校卒業後，司法省にはいり，民刑局長などをつとめ，大審院検事，大阪および東京控訴院検事長，朝鮮総督府司法部長官，法制局長官を歴任。1914年(大正3)貴族院勅選議員，次いで枢密顧問官，1925年枢密院議長。1934年(昭和9)退官，前官礼遇となる。1926年帝室制度審査による功で男爵。

グラナ ［grana］ 維管束植物の葉緑体中に含まれる構造。光学顕微鏡では葉緑体の無色の基礎物質(ストロマ)の中に粒状に見えるが，電子顕微鏡での観察では葉緑体内のラメラとよばれる層状構造が折れ重なって見える。タンパク質と脂質が主体で葉緑素はここに集中している。光合成反応で，光のエネルギーを取り入れ二酸化炭素を固定するのに必要な化学エネルギーに変換するいわゆる明反応の行なわれる主要な場である。→葉緑体 →光合成 〔代谷 康〕



クラドニの図形
ジュラルミン製(直径35 cm，厚さ 4 mm)の円板に振動を与えたときにできる図形。①周波数1,158 c/秒，②1,083 c/秒，③1,731 c/秒，④404 c/秒



グラナダ　イスラム時代からの古い歴史をもち，市街にはアルハンブラ宮殿をはじめ多くの遺跡がある。家々の白壁が印象的

グラナダ ［Granada］ スペイン南部，アンダルシア地方にある都市。人口19万(1970)。シエラネバダ山脈北麓(ほくろく)の標高約700 mに位置する。10世紀にイスラム教徒によって建てられた都市で，古くはイスラム勢力のスペインにおける拠点であったグラナダ王国の主都として栄えた。アルハンブラ宮殿をはじめ，イスラム文化の遺産が残されており，この国の代表的な観光地になっている。産業はイスラム時代からの皮革工芸のほか，果実・蔬菜(そさい)・アマなどの栽培や，養蚕もある。〔野間三郎〕

グラナドス ［Enrique Granados］ (1867～1916) スペインの作曲家・ピアニスト。アルベニス*とともに，近代スペイン音楽の発展に貢献した。父親は軍人であったが，彼の才能を見抜き，早くからピアノと作曲の勉強を始めさせた。バルセロナ音楽院・マドリード音楽院を卒業後，パリに留学してピアノを学んだ。その後ピアニストとして，ティボー*やカザルス*とともに活発な演奏活動を行ない，〈古典演奏協会〉を結成して，指揮にも力を入れた。作曲家としては交響曲や室内楽にも手を染めたが，オペラとピアノ音楽の分野で重要な作品を残した。特にオペラ《ゴエスカス》やピアノ曲《スペイン舞曲》《スペイン民謡による小品集》などが有名である。 〔船山 隆〕



クラナハ《若い娘の肖像》ルーブル美術館蔵

クラナハ ［Lucas Cranach I］ (1472～1553) ドイツの画家・版画家。ウィーン・ウィッテンベルクなどで活躍した。初期

には風景が大きな役割を占めている宗教的主題が多いが，のち全身肖像画の領域を開き，光沢のあるマチエールと独自の官能美をもつ裸婦を描いた。M.ルター*の友人として，彼のために多数の木版宣伝画を制作したが，そこにデューラー*の影響をみることができる。ワイマールで死去。代表作に《ハインリヒ-サクソニア敬虔公(けいけんこう)》《公妃》などがある。　〔三木多聞〕

くらにしょうけん　【倉荷証券】　倉庫業者に寄託された貨物の返還請求権を表わす有価証券で，倉庫証券*の一種。この証券だけで寄託物の譲渡・質入れなどができる。特に裏書き*禁止の記載がないかぎり，その裏書きによって処分が行なわれるので，その法律的性質・効力は貨物引換証*・船荷証券*と同様である。なお，倉荷証券は運輸大臣の許可を受けた倉庫業者でなければ発行できない(倉庫業法13条)。

グラニューとう　【グラニュー糖】　精製したショ糖液を濃縮して，粒状に結晶させたもの。ザラメ糖の中で最も小粒のもので，糖度は99.8%以上の非常に純粋なショ糖である。水にとけやすく糖分が純粋なため，コーヒー・紅茶のように香気をたいせつにする飲み物に広く用いられている。

くらはしじま　【倉橋島】　広島県安芸(あき)郡に属し，広島湾口の東部にあり，北の呉(くれ)市とは音戸瀬戸で，北西の能美(のうみ)島とは早瀬瀬戸で隔てられる。付近の鹿(か)島などの2～3の付属島を含めて面積75.75 km²，人口30,000で，北の音戸，南の倉橋の2町に分かれる。全島がカコウ岩質の山地で，南部に氷(ひ)山(406 m)があり，展望がよく，瀬戸内海国立公園に属している。古くから海上交通の要地でいま倉橋町役場のある本浦は，《万葉集》に出てくる長門浦(ながとのうら)にあたり，〈わが命を長門の島の小松原幾夜を経てか神(かむ)さびわたる〉の歌が知られている。住民は漁業とミカン栽培を主とする農業を営み，カコウ岩を採掘し，また古くから木造船工業が盛んで遣唐使*の船もこの島でつくられたといわれる。1961年(昭和36)に音戸大橋が完成し，呉・広島とはバスで結ばれるようになった。　〔浅井得一〕

グラハムランド　⇨南極

くらはらこれひと　【蔵原惟人】　(1902～　)評論家。一時は代議士をつとめた惟郭(これひろ)の次男として，東京麻布(あざぶ)に生まれた。1923年(大正12)東京外国語学校露文科を卒業，翌々年ソ連に留学してロシア文学を学び，翌年11月に帰国した。その後は〈日本プロレタリア芸術連盟〉への参加などを経て，〈ナップ*〉の結成・統一に寄与し，正統的なマルクス主義の理論家として，マルクス主義文学運動に大きな足跡を残した。また，第2次世界大戦後には〈新日本文学会〉の結成にも尽力。主著に《小林多喜二と宮本百合子(ゆりこ)》など。　〔瀬良垣宏明〕



クラビコード　武蔵野音楽大学楽器博物館蔵

クラビア　[Klavier]　鍵盤(けんばん)をもつ弦楽器の総称。今日ではピアノをさすことが多いが，18世紀半ばまでは一般にチェンバロ(ハープシコード)かクラビコードをさした。有名なJ.S.バッハの《平均律クラビア曲集》はチェンバロとクラビコードのいずれで演奏されるものかはっきりしていない。

グラビアいんさつ　【グラビア印刷】　写真技術を応用して製版した腐食凹版(おうはん)によって行なわれる印刷方式。彫刻凹版に対して写真凹版ともよばれる。版面模様は網状に規則正しく並んだ凹点からなる。凹点の形はます形の正方形・長方形または円形のものなどがある。普通のグラビア版は網凹点の面積が同じで，濃淡に応じて深さが異なるが，特殊グラビア版として網凹点の深さが同じで面積を異にするもの，深さも面積も異なるものとがあり，網グラビア版として知られている。普通グラビア版の製版印刷は，1890～1893年にチェコスロバキアのK.クリッチュが考案完成したもので，網グラビア版のうち同じ深さで大小面積の凹点からなるグラビア版は，1890年ごろ，ドイツのE.メルテンスが網目凸版(とっぱん)を網目凹版に製版した方式であり，深さも面積も異なる凹点からなるグラビア版は，1930年代に発明された方法である。グラビア印刷機は，輪転式で枚葉紙を供給するものと長巻き紙を供給するものとがある。版面は版円胴に直接製版するか，平版に製版して版円胴に巻きつける。インキは流動性が大きく，粘着性が小さく，版全面に与えて微小凹点の中を容易に満たし，凹点外の土手についているインキがドクターで容易にかき取られ，印刷後すみやかに乾燥するものが使われる。グラビア印刷は雑誌・週刊誌・新聞の色刷りなどの絵画・写真を主とする大量印刷のほか，使用インキの性質からセルロイド・セロファン・ビニルなどの非吸収面印刷から化粧合板・木目板などの建材印刷まで用途が広い。　〔長野昌隆〕

クラビコード　[clavichord]　鍵盤(けんばん)楽器の一。鍵を押すと弦の下の金属片があがってきて弦を打ち，音が出る。したがって，変化の幅は狭いがタッチによって音量が変化する。また，続けて鍵をたたくと，弦の圧力が増すため一時的に音が高くなる。これはビブラートの一種で，ベーブングとよばれ，この楽器特有の表現方法である。クラビコードは，もっぱら独奏により，繊細な表現を楽しむために使われ，特に18世紀の多感様式には欠かせない楽器である。

グラビティダム　⇨重力ダム

くらびらき　【蔵開き】　正月11日に蔵あるいは物置をあけ，お神酒(みき)やもちを供えて祝う行事。江戸時代の商家ではこの日を〈帳とじ〉とよんで，一年じゅう使う帳簿をつくる日であり，仕事始めの日でもあった。また，農・漁村もこの日に仕事始めをするところが多い。

グラフ　[graph]　数量に関する資料とか，数量間の関数関係などを，視覚化して表現した図表。統計数字を図に表わしたものを統計グラフといい，数学的に定義された数量間の関係を図に表わしたものを関係のグラフという。統計グラフには，棒グラフ・線グラフ・円グラフなどがあり，関係のグラフには関数グラフ，方程式のグラフなどがある。

【棒グラフ】棒の長さで，数量の大小を比較するグラフ。いちばん多く使われる。

【線グラフ】折れ線グラフともいい，時間的経過に伴っての同一の数量の変化を表わし，線の傾きの程度によって増減の大小が示される。

【円グラフ】円全体を100%として半径で分割し，扇形部分の面積の大小によって，比率を表わす。

【帯グラフ】帯状の長方形の全体を100%として分割し，各部分の面積によって，比率を表わす。量の比を，一方の辺の長さの比で表わしているとみてもよい。これを，何本か並べることによって比率の変化を示すこともできる。

【点グラフ】点の個数によって大小を比較するグラフである。

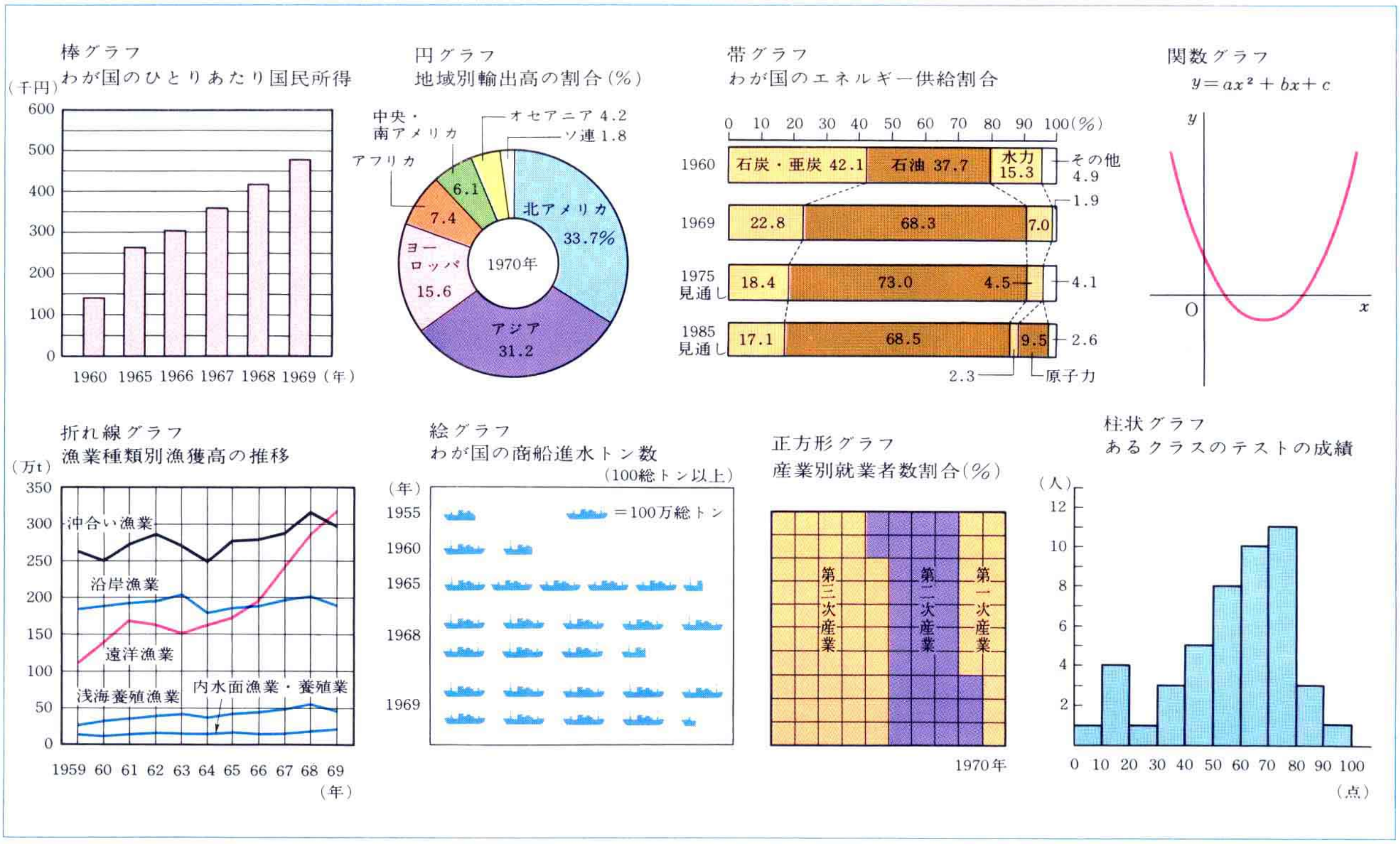
【絵グラフ】比較する量を，直接絵で表わすグラフであって，形式は一定しない。たとえば，量の大きさを，絵の数や，絵の大きさや面積などで表わす。

【関数グラフ】関数fにより定まる点$(a, f(a))$を図に表わしたもので，aに対応する$f(a)$はただ一つしかない。

【方程式のグラフ】直線や円などは方程式で表わされるが，座標平面上に描かれた，ある方程式の表わす図形を，そのグラフという。

以上のほかに，不等関係をグラフで示すと，座標平面上のある範囲にわたるといった場合もある。　〔青柳雅計〕

グラフィックディスプレー　[graphic display]　コンピューター*の出力は，必ずしも文章や数式で表わされるものだけではなく，図形として表現したほうが望ましいことが多い。この場合，図形表示装置としてテレビ受像機に使われるブラウン管(CRT)が利用され，また精密な図形を描くとき



グ ラ フ

には機械式のプロッターを使用する。これらをグラフィックディスプレーという。

グラフィック-デザイン [graphic design] 平面上に図形あるいは形態によって表現されるすべてのデザイン*をいう。視覚デザインの分野において，特に印刷という複製を目的とする手段を基本とし，その特性を活用して表現するものをさすことが多い。その機能には，新聞・雑誌広告，ポスター，パンフレット，リーフレット，ダイレクトメールなどのデザインはもちろん，書籍・新聞・雑誌などの本文・図版および表紙のデザインがその主要な部分として含まれる。また，タイポグラフィー*，イラストレーション*そのもののデザインもある。

〔日本のグラフィック-デザイン〕わが国におけるグラフィック-デザインの歴史は浅い。近年まで，この領域が〈商業美術〉の名称でとらえられていたことからも，人々の認識の程度が理解されよう。〈商業美術〉から〈商業デザイン〉へ，そして〈グラフィック-デザイン〉へと名称が変化してきたことは，デザイナー，および一般の人々がこの分野のもつ価値に対しての評価と認識の変化を表わすものとして興味深い。

日本のグラフィック-デザインは，明治期中葉から始まったとするのが妥当であろう。そして，この領域において，現代デザインにつながる基盤が確立されたと思われるのは昭和初期であり，さらに従来の絵画性を排し，みずからの足で歩をしるしはじめたのは第2次世界大戦後，それも昭和30年代(1955～1964)にはいってからであろう。1951年，日本宣伝美術会*が結成され，1952年には〈東京アートディレクターズクラブ(通称ADC)〉の前身である〈東京アド-アートディレクターズ-クラブ〉が誕生し，わが国のグラフィック-デザインの発展に大きく貢献した。また，1960年に東京で開かれた〈世界デザイン会議〉は，単にグラフィック-デザインのみでなく，すべてのデザイン分野において，その後のわが国デザインの潮流を大きく変えた点で画期的であった。その主要なテーマである〈今世紀の全体像――デザイナーは未来社会に何を寄与しうるか〉は，以後，日本のグラフィック-デザイナーの最も重要な課題となった。

〔今後の課題〕現代は情報の時代であるといわれる。1450年代におけるグーテンベルクによる活版印刷術の発明は，かつて特権階級の専有物であった文字によるコミュニケーションを市民に解放したが，近年の原色版・オフセット版・グラビア版などの印刷術の飛躍的な発達と普及は，人々に視覚によるコミュニケーションの意義を認識させつつあるといえよう。視覚による情報伝達のデザインともいうべきグラフィック-デザインが，このような状況において，ますます重要視されるに至ったのは当然である。しかしながら，コミュニケーションにおいては伝達すべき内容自体にこそ荷重があることを忘れてはならない。グラフィック-デザイナーは，単に与えられた〈もの〉を処理するのみでなく，その伝達内容を正しく理解したうえで，最善の伝達表示方法をみいだすべきである。そして，グラフィック-デザイナーとしての〈考え〉を社会全体の中でとらえて視覚化してゆくときにこそ，はじめて意義あるグラフィック-デザインが生み出されるであろう。

〔グラフィック-デザインの新側面〕最近，装飾用ポスターの例にみられるように，グラフィック-デザインがいわゆる〈商業美術〉としてではなく，一個の〈作品〉として受けとめられるようになってきた。また，さらに進んで，いわゆるファイン-アート(絵画・版画)と同じ次元で論ぜられるようになってきている。オリジナルこそ価値あるものとしてきた古い概念は打ち破られ，むしろ，印刷という複製を目的とする手段を表現のための武器とした新しい一つの魅力あるジャンルがひらかれつつあるといえよう。もちろん，芸術活動とは本来的に異なるグラフィック-デザインの名を記さぬ制作活動を〈ファイン-アート〉の一つと解するのはいささか問題があるが，制作品として評価することはさしつかえないであろう。いずれにしても，高度に技術化され，情報化され，必然的に拡大化・複雑化されつつある現代社会において，時代の寵児(ちょうじ)ともいうべきグラフィック-デザインの進路と発展は，あらゆる意味で非常に興味深いといえよう。→次ページ(写) 〔武井邦彦〕

クラフト－デザイン

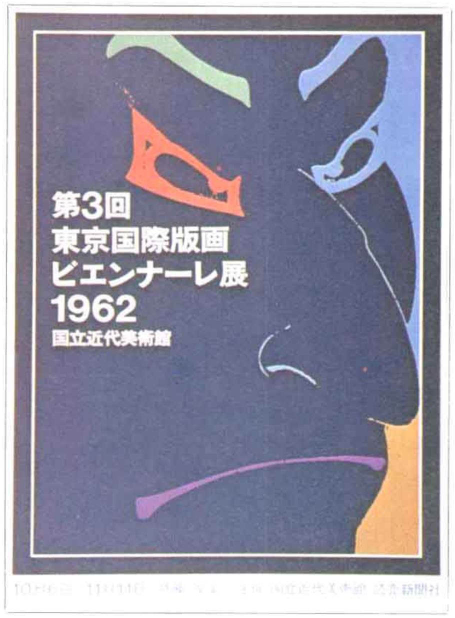


(上)マンジャロッティ　灰皿　単純な形態と質感が機能性をささえている　(下)ベニーニ　酒瓶　ガラスの色彩と光が繊細な形態に生かされ，ベネチアガラスの伝統的な技術と現代的な感覚の融合ともいえる

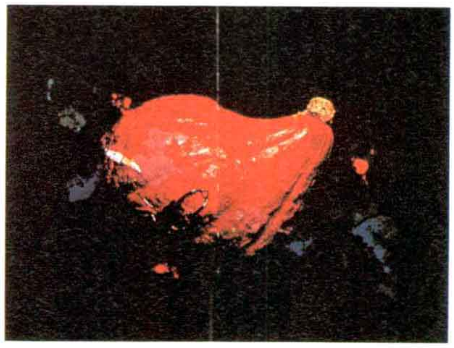




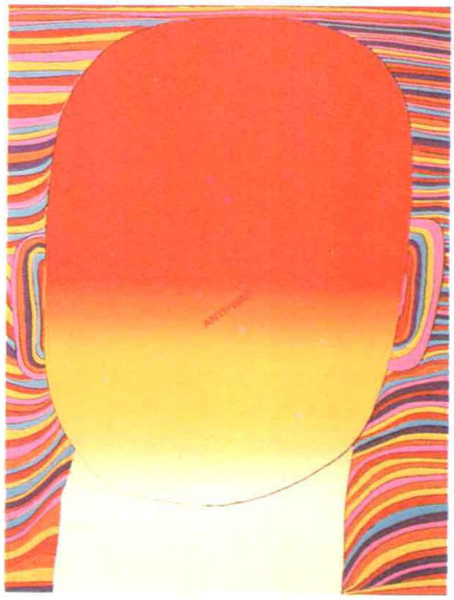
グラフィック－デザイン



❶

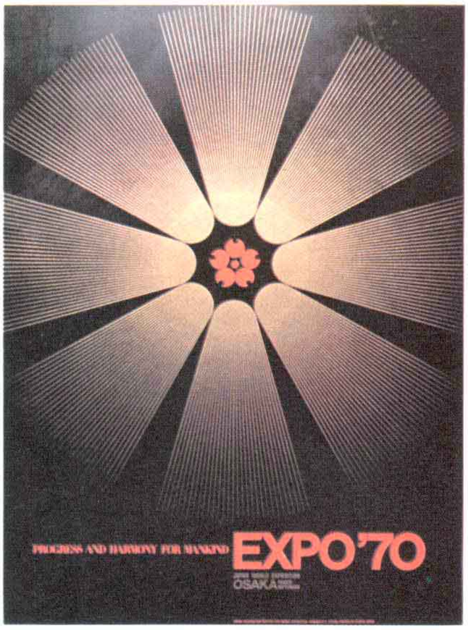


❷

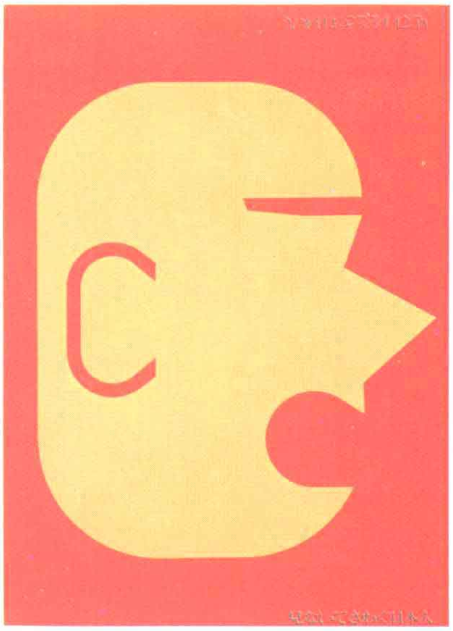


❸

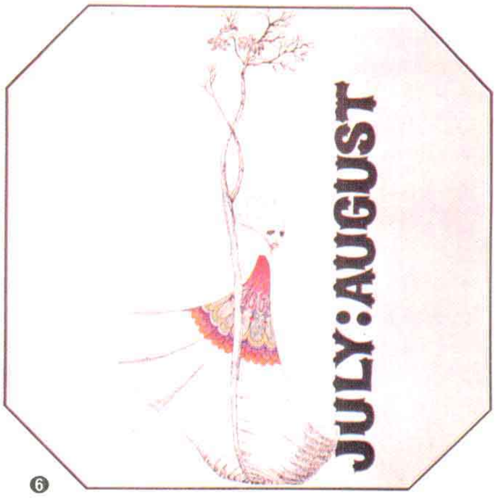
❶展覧会ポスター　田中一光　❷グラフィックアート　細谷巖　❸反戦ポスター　粟津潔　❹万博ポスター　亀倉雄策　❺公共ポスター　福田繁雄　❻イラストレーション　宇野亜喜良　❼ブックデザイン　原弘　❽カレンダー　勝井三雄　❾書籍ポスター　永井一正　❿演劇ポスター　横尾忠則　⓫反戦ポスター　木村恒久


PROGRESS AND HARMONY FOR MANKIND
EXPO'70
OSAKA

④



⑤

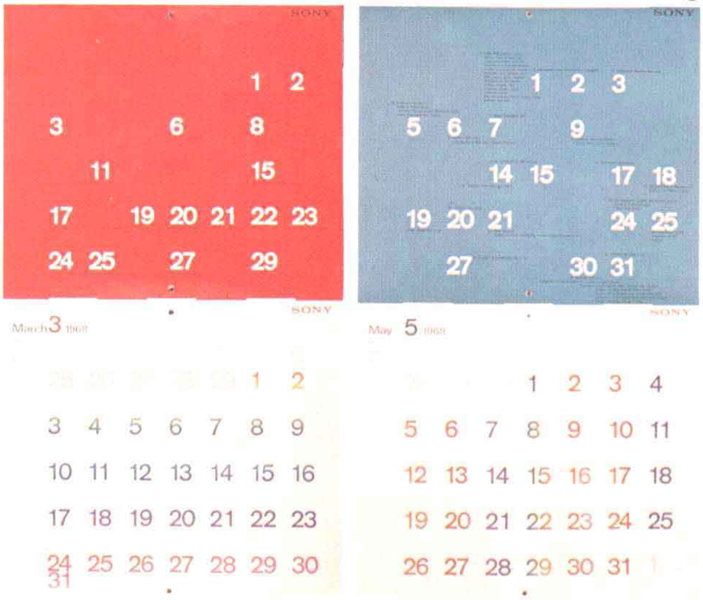

JULY:AUGUST

⑥

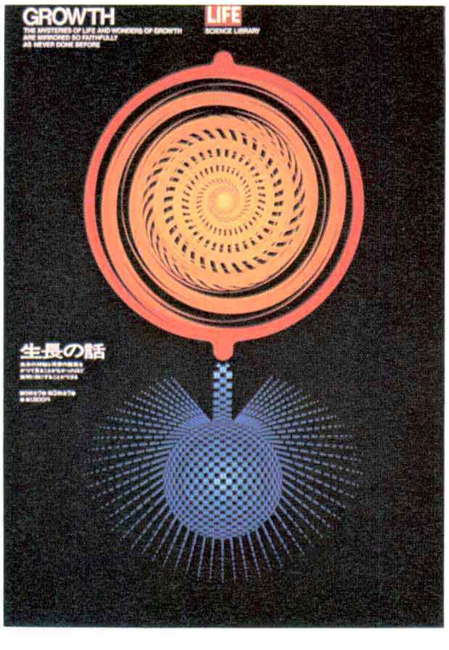
⑦


日本の広告美術 明治・大正・昭和 3
PACKAGING IN JAPAN 1868-1956

⑧


SONY
March 3 1968
May 5 1968

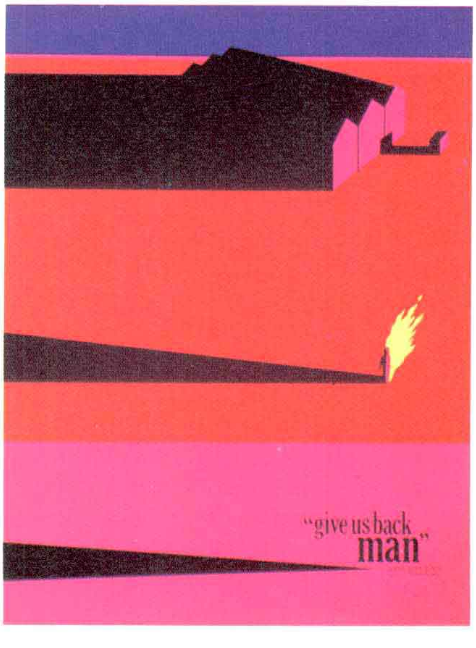
⑨


GROWTH
LIFE
SCIENCE LIBRARY
THE MYSTERIES OF LIFE AND WONDERS OF GROWTH ARE MIRRORED SO FAITHFULLY AS NEVER DONE BEFORE
生長の話

⑩


salon de friendall
劇団状況劇場
ジョン・シルバー

⑪


"give us back man"

クラブかつどう　【クラブ活動】 学校内で，興味・関心を同じにする者どうしが，所属の学級・学年を離れて集まり，みずからの手で組織運営する諸活動。特別教育活動*の一領域。児童・生徒の個性を伸ばし，社会的自覚を促すところに重要なねらいがある。活動の種類を大別すると，①文化的活動(美術・物理研究など)，②体育的活動(体操・野球など)，③生産的活動(園芸・工作など)に分けられる。

クラブサン　⇨ハープシコード

クラフト　［Adam Krafft］ (1460～1508)　ドイツ-後期ゴシックを代表するニュールンベルクの石彫家。初期の力強い表現からしだいに明確な写実へと移行した。代表作として聖ゼバルドウス教会の墓碑，聖ロレンツ教会の聖体安置塔があげられる。

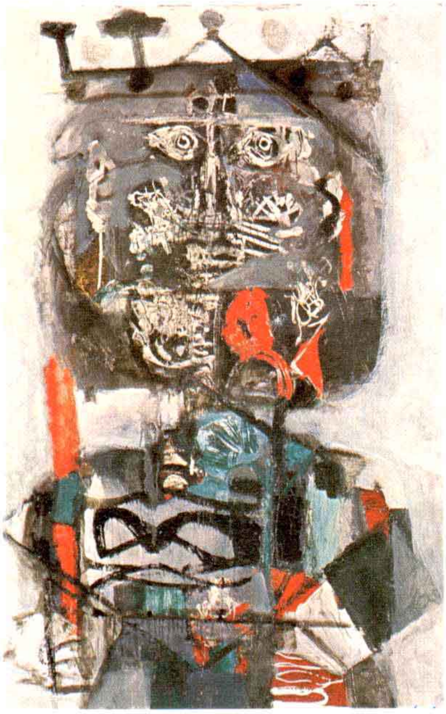
クラフトし　【クラフト紙】 紙力が強いことを特徴とする紙で，クラフトパルプから製造されるもの。おもな用途は製袋用で，大部分は未漂白パルプからつくられ，茶かっ色である。

クラフト-デザイン　［craft design］ 日常生活に必要な家具・什器(じゅうき)・食器などを機械的な生産によらずに，手作りの技能を基調とする生産によってなされる創造あるいはデザインをいい，インダストリアル-デザイン*に対位する側面をもつ。クラフトは，本来，技芸・技能をさし，一般には工芸と訳されている。しかし，この工芸がいわゆる鑑賞に供される工芸美術や手工芸的な意味に受け取られやすいため，特にクラフト-デザインの名でよばれている。ただし，この語は，時代・国・人，用いられる状況により種々の解釈がなされていて，一義的な安定した語義はもってはいない。クラフト-デザインの魅力は，人間の手指を中心にして創出される美しさという点にある。また，快い感触，使いやすい形・大きさ・重さは，われわれにクラフト-デザインのよさを認識させるともいえる。➜110ページ(写)　〔武井邦彦〕

クラフトパルプ　⇨化学パルプ

クラブント　［Klabund］ (1890～1928) ドイツの詩人・小説家・劇作家。本名アルフレート-ヘンシュケ。若いころから旅を好み，中国を訪れたこともある。その作風は，印象主義と表現主義の中間に位置し，みずからはビヨン*の後裔(こうえい)と称した。多くの詩や小説を含む作品の中では，元曲《灰闌記(かいらんき)》を翻案した戯曲《白墨の輪》が，特に有名である。

クラーベ　［Antonio Clavé］ (1913～　) スペインの美術家。バルセロナで少年時代を過ごし，建築図工となり夜学の美術学校に学ぶ。1965年パリで個展。ボナール*・ルオー*・ピカソ*らの影響を受けてから，色彩にめざめる。石版画も多い。



クラーベ《王》 ブリヂストン美術館蔵



競　馬　京都の賀茂神社で行なわれる5月5日の賀茂競馬



クラマゴケ

くらべうま　【競馬】

1神が依(よ)り憑(つ)いているウマを競い走らせ，神の啓示を判断する年占(としうら)。諸社の祭りに〈神馬十列〉が献ぜられたことが中世以降の記録によく出ているが，毛色の違った10匹のウマの到着するのを見て，月々の天候を予知しようとしたのが最初の目的であったらしい。騎手が乗尻(のりしり)とよばれているのは，人が従でウマに主眼が置かれていたことを示す。　〔直江広治〕

2奈良・平安時代の朝廷で行なわれた行事。5月5日に宮中の武徳殿で天皇の出御があり，左右各1騎ずつ出て10番の組み合わせで終わる。ウマは親王以下が献じ，勝ち方は雅楽を奏し，負け方は物を献じた。968年(安和1)五月節(さつきのせち)の停止後はこの行事もすたれた。現在，京都賀茂(かも)神社*の賀茂競馬はこの朝廷行事を模して行なわれている。

くらまい　【蔵米】 一般には江戸時代に諸藩の蔵に貢米として納入される米をさし，百姓・町人らの直接取引する商人米，いわゆる納屋米より厳選されているので，良質で値段が高かった。狭義には，①江戸時代，幕府・諸藩の米蔵に年貢(ねんぐ)として収納し，家臣に俸禄(ほうろく)として支給される米。この蔵米を切米・物成*の名で家臣に支給することを蔵米渡し，または蔵前渡しといい，蔵米を受ける家臣を蔵米取りまたは切米取りといった。②大阪・江戸・長崎などに幕府・諸藩が設けた蔵屋敷に国元から輸送されてきた年貢米を蔵米といい，蔵屋敷に到着する諸品(蔵物)のうち最上位を占めた。特に入荷量の多い筑前米(ちくぜんまい)・肥後米・中国米・広島米を四蔵米といい，諸蔵米のうちの主役を占めた。蔵米の売却は蔵屋敷で特定の米仲買に入札させ，その落札者に米切手*(蔵米切手)を発行し，その買入者に米切手と引き換えに蔵米を引き渡した。諸藩の財政が窮乏した江戸末期には蔵米はほとんど蔵元の商人の手に握られた。　〔岡山泰四〕

くらまえ　【蔵前】 東京都台東(たいとう)区南部，隅田(すみだ)川西岸に沿う地区。地名は，江戸初期に幕府の米蔵が置かれ，御蔵前(おくらまえ)とよばれたことにちなむ。元禄期(1688～1704)以来，札差*が集まって株仲間*の町を形成し，旗本(はたもと)・御家人の金融の中心地となった。都営地下鉄1号線の蔵前駅を中心に玩具(がんぐ)・文房具・造花などの卸売問屋が集まる。蔵前橋西詰には国技館があって毎年1，5，9月に大相撲(ずもう)の本場所が開かれる。　〔浅井得一〕

くらまごけ　【鞍馬苔】 シダ植物・イワヒバ科。山地の林の下や日陰にはえるこけ状の常緑多年生の小形シダで，長く地面をはう。枝はまばらにつき，葉は4列に並ぶ。葉は小さく，脈は1本，葉の縁に鋸歯(きょし)がない。胞子嚢(ほうしのう)穂は枝の先につき，長さ5～15mm，幅1mmの四角形で，大胞子嚢・小胞子嚢がある。

くらまじし　【鞍馬獅子】 富本節の曲名。顔見世狂言《児華表飛入阿紫(ちごとりいとびいりきつね)》の大詰めにある舞踊曲《夫婦酒替奴中仲(めおとざけかわらぬなかなか)》が原曲。作詞は中村重助，作曲は名見崎徳治。1777年(安永6)江戸市村座の初演。義経の死を聞き知った静御前は，形見の薙刀(なぎなた)を手に狂気して伊勢(いせ)(三重県)の御裳裾(みもすそ)川のほとりをさまよう。そこへ太神楽(だいかぐら)獅子の

角兵衛(かくべえ)，実は御厩喜三太(みうまやのきさた)がからむ。三味線(しゃみせん)は二上がり，本調子，二上がりと目まぐるしく変調し，狂女の静御前を表わす。女夫狐(めおときつね)の登場する〈下の巻〉は廃曲になっている。なお，今日では清元節に移されている。

くらまでら 【鞍馬寺】 京都市左京区鞍馬本町にあり，洛北(らくほく)の北山山地の鞍馬山中腹にある天台宗の寺院。鞍馬蓋寺(くらまかさでら)ともいう。山号は松尾山または獅子頭山(ししずせん)。開創は奈良時代に唐から鑑真(がんじん)に従って渡来した鑑禎(がんちょう)と伝えるが，796年(延暦15)藤原伊勢人(いせと)が創建したという説もある。平安京の北方約20kmの所にあり，王城鎮護の法城として毘沙門天(びしゃもんてん)を本尊として祭り，鞍馬詣(くらまもうで)とされるほどの上下の信仰を集めた。寺宝には，片手をかざし王城を望見する姿に現わした毘沙門天像，本像と一具をなす吉祥天像・善膩師(ぜんにし)童子像はいずれも藤原期の作で国宝，〈嘉禄三年〉の造像銘を有する聖観音像，〈正嘉二年〉の銘を刻んだ銅製燈籠(とうろう)，それに境内の経塚(きょうづか)から出土した多数の造物(藤原末，国宝)など貴重な遺品が多い。なお，一般に知られている鞍馬の火祭りは境内にある由岐(ゆき)神社の祭礼である。 〔永井信一〕

くらまてんぐ 【鞍馬天狗】 能の曲名。宮増(生没年不明)作。五番目物。天狗物の代表作。《平治物語》その他の源義経(よしつね)伝説による。京都郊外の鞍馬山*で，西谷の僧が稚児(ちご)たちを連れて東谷へ花見に来る。その席へ見知らぬ山伏が来るので僧たちは帰ってしまうが，稚児の中にいた牛若丸だけが残る。山伏は牛若に花の名所を見せ歩き，〈私はこの山の大天狗です。平家を滅ぼす兵法(ひょうほう)を明日教えましょう〉と言って去る。翌日牛若が身ごしらえをして待っていると，小天狗たちに続いて大天狗が本体を現わして，漢の張良*が黄石公(こうせきこう)から兵法を授かった話をし，舞働きを舞って牛若に兵法を伝授する。シテは山伏(天狗)。ワキは西谷の僧。牛若(はじめ稚児)は子方，ワキの従者がワキヅレと狂言方。また，間狂言(あいきょうげん)に小天狗が出る。 〔長尾一雄〕

くらまてんぐ 【鞍馬天狗】 大仏(おさらぎ)次郎*の小説の主人公。1924年(大正13)《ポケット》に発表した《鬼面の老女》にはじまり，長短37編の天狗ものがある。幕末の動乱を背景に神出鬼没な活躍をみせる剣の達人で，黒姫の吉兵衛(きちべえ)や角兵衛獅子(かくべえじし)の杉作(すぎさく)少年など魅力的な脇役(わきやく)も交え，広く大衆の人気を得ている。最初は尊王攘夷派(じょういは)で，のちに剣術否定の立場に行きつくその人物像には，作者の市民性が投影されている。

くらまやま 【鞍馬山】 邦楽の曲名。現在は長唄(ながうた)の曲として知られているが，元来は長唄的な要素の強い大薩摩節(おおざつまぶし)の曲である。1856年(安政3)に歌舞伎(かぶき)《娼女誠長田忠孝(じょろうのまことおさだのちゅうこう)》のだんまりの部分のために，2世杵屋(きねや)勝三郎によって作曲された。題材は牛若丸が鞍馬山で天狗(てんぐ)と木太刀(きだち)で立ち合いをするというもので，作曲者はこのかたい内容に，大薩摩四十八手をはじめ，これに類似したものを与えて，豪快ではなやかな音楽をつくっている。短いがよくまとまった作品である。 〔徳丸吉彦〕

くらまやま 【鞍馬山】 京都市の北部にあり，標高750m。南の山腹には牛若丸の物語で知られる鞍馬寺*がある。その参道は，《枕草子(まくらのそうし)》の〈ちかくて遠きもの鞍馬のつづらおり〉で知られる九十九折り坂である。毎年10月22日には有名な〈鞍馬の火祭〉がある。京都市内から京福電鉄鞍馬線が通じている。

くらまやまのだんまり 【鞍馬山のだんまり】 歌舞伎(かぶき)狂言の一種。一幕の時代物。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)作。1856年(安政3)江戸市村座*初演。鞍馬山の場で，牛若丸が木の葉天狗と試合をする場面を長唄(ながうた)《鞍馬山》を伴奏として，だんまり*の様式で演ずる。初舞台の披露(ひろう)などに口上幕として利用される。

グラミーしょう 【グラミー賞】 全米レコード芸術科学アカデミー(NARAS)が毎年，最優秀レコードに与える賞。シングル盤・アルバム・歌曲・演奏者・録音など，レコードの全ジャンルから48部門(1970年度)にわたって選出。NARASは1957年，ハリウッド商工会議所がレコード業界振興のために創設したもので，グラミーとはグラモフォン(蓄音機)の短称。受賞者には朝顔形のスピーカーのついた古い蓄音機をかたどったミニアチュアが贈られる。 〔鈴木道子〕

クラミディア [*Chlamydia*] オーム病・リンパ肉芽腫症(にくがしゅしょう)・トラコーマ・封入体結膜炎などの病原体群は，最近までウイルスとして扱われたが，性状が明らかになった現在では，むしろリケッチアに近い独立したグループとみなされ，クラミディア(属)とよばれる。この群の感染性粒子(基本小体)は直径0.3～0.4 μの球状で，細菌やリケッチアの細胞壁に特有な物質を持ち，DNA・RNAの両核酸およびリボゾームを備えていながら完全に寄生性で，宿主細胞質内でのみ増殖する。細胞内に侵入後，感染力の検出できない時期を経てから，急速に感染性粒子が生成される。しかし，表面的にはウイルスに似たこの増殖環は，ウイルスの場合と根本的に異なり，感染力の検出されない時期においても粒子構造は保持されて，粒子の2分裂によって増殖を続けている。増殖中の粒子は感染力がない。この増殖環はクラミディア特有のものである。感染性粒子は56℃，10分間の加熱ではほとんど完全に不活化され，70％アルコール，3％クレゾール，5％石炭酸消毒も有効である。また，サルファ剤やペニシリン・テトラサイクリンなどの抗生物質により，増殖が抑制される。 〔石川 彬〕

クラミドモナス [*Chlamydomonas*] 緑藻(りょくそう)類・クラミドモナス科・クラミドモナス属。清水・海水中のほか，土中・氷雪中にも分布するものがある。世界に数百種が知られる。等長のべん毛を2本もつ単細胞体で，葉緑体をもつ。また，一つの眼点*をもつ。2ないし8分裂して無性生殖をし，有性生殖は同形配偶子による。

グラム ⇨キログラム

グラーム [Martha Graham] (1900?～) アメリカの女流舞踊家。1916年デニ-ショーン舞踊学校にはいり，1923年脱退するまで，そこで活躍した。1926年独立し，ニューヨークで第1回モダンダンス*-リサイタルを開いた。以後多くの作品を発表，事実上アメリカ系モダンダンスの先駆者の役割を果たした。力学的体系に基づく技術と深い内省的思想との結合による独自の作風はわが国にも信奉者が多い。1955年に来日し公演・講習会を開いた。代表作に《夜の旅路》《心の洞穴(どうけつ)》などがある。

グラムイオン [gram ion] イオンの量を表わす単位。イオンの化学式量に等しいグラム数のイオンの質量を1グラムイオンという。1グラム分子中の分子数，あるいは1グラム原子中の原子数と同じく，1グラムイオン中のイオン数もアボガドロ数に等しい。

グラムげんし 【グラム原子】 各元素の原子量*に等しいグラム数の質量をその元素の1グラム原子という。たとえば酸素の原子量は16であるから，酸素の1グラム原子は16gである。1グラム原子中に含まれる原子数はアボガドロ数に等しい。

グラムシ [Antonio Gramsci] (1891～1937) イタリア共産党の創立者。貧しい戸籍吏の家庭に生まれた。トリノ大学在学中から労働運動に参加し，イタリア社会党に入党して工場ソビエト運動を指導した。1921年，イタリア共産党を創立し，労農同盟を提唱した。国際共産主義運動の指導に活躍したが，1926年ファシストに逮捕され，以後死の直前までの10年余り牢獄(ろうごく)生活を送った。《獄中ノート》をはじめ多数の論文や書簡があり，今日のイタリア-マルクス主義の重要な文献とされている。 〔仲村計美〕

グラムじゅう 【グラム重】 ⇨重力

グラムせんしょくほう 【グラム染色法】 細菌の染色法の一つで，1884年オランダのグラムによって考案された。細菌は，リボ核酸のマグネシウム塩とトリフェニルメタン系色素が媒染剤のもとで結合して，アルコールで脱色されない物質を表面にもつグラム陽性菌群と，それをもたないグラム陰性菌群とに大別される。グラム陽性菌とグ

ラム陰性菌は，阻害される抗生物質，毒素の発生，物理化学的作用に対する抵抗性などにおいて異なる。このためグラム染色法は，細菌を鑑別するのに重要な役割を果たす。陽性菌には炭疽菌(たんそきん)・結核菌・癩菌(らいきん)・ジフテリア菌・肺炎双球菌・ブドウ球菌・溶連菌・破傷風菌・放線菌などがあり，陰性菌にはチフス菌・赤痢菌・大腸菌・ペスト菌・コレラ菌・淋菌(りんきん)・髄膜炎菌・スピロヘータなどがある。

〈染色法〉スライドグラスに細菌を塗抹(とまつ)し，自然乾燥してから火炎固定する。それを石炭酸ゲンチアナ紫液で1分間染色したのち，染色液を捨て去り，水で洗わずにルゴール液を数回注いで約1分間作用させ，濾紙(ろし)でルゴール液を吸収する。さらに純アルコールを注ぎ，軽くゆすっては捨てて，色素がとけ出さなくなるまで数回アルコールを替える。ただし，1分間を限度とし，あまり時間をかけてはならない。これを水洗してから濾紙で水を吸収し，ビスマルクブラウン液などの赤色色素で対比染色を行なう。石炭酸ゲンチアナ紫をクリスタル紫に，ビスマルクブラウン液をサフラン液に替えるなど，各種の変法がある。グラム陽性菌は濃紫色に，グラム陰性菌は対比染色の色(たとえば，サフラン液では淡紅色)に染まる。〔和気　朗〕

クラムチャウダー　[clam chowder]　ハマグリ・ジャガイモ・タマネギ・ベーコンなどを寄せなべふうに煮込んだスープ料理。〈作り方〉ハマグリを殻(から)ごとよく洗い水を切っておく。ベーコン・ニンジン・タマネギは約1cmの賽(さい)の目に切る。小麦粉とバターでホワイトルウをつくる。なべに水とハマグリを入れて火にかけハマグリが口を開いたら火から降ろしておく。ベーコン・タマネギをいためたら，ハマグリのゆでじる，ニンジンを加えて柔らかくなるまで煮る。次に煮じるでのばしたルウを入れ，最後にハマグリと牛乳を加え塩・こしょうで味を整える。熱いうちに器に盛り，砕いたクラッカーを散らす。ハマグリは煮すぎないように注意する。〔泉　敬子〕

グラムとうりょう　【グラム当量】　化学当量に等しいグラム数の元素あるいは化合物の質量をいう。これは1グラム原子*を原子価で割った値に等しく，たとえば酸素では1グラム原子は16gであり原子価は2であるから，酸素の1グラム当量は8g(酸素2分の1グラム原子)である。当量の定義から，酸素2分の1グラム原子と化合する他の元素のグラム数としても，その元素の1グラム当量を定義できる。➔化学当量

グラムぶんし　【グラム分子】　モルともいう。物質の質量を決める単位の一つで，物質の分子量に等しいグラム数の物質の質量を1グラム分子または1モルという。たとえば酸素(O_2)の分子量は32であり，1モルは32gである。



暗闇祭り　東京都府中大国魂神社



クララ
果実(左)は細長く，長さ5～8cm

くらもと　【蔵元】　江戸時代，大阪・大津・酒田などに設けられた諸藩の蔵屋敷*で，蔵物*の出納をつかさどった者。初期には藩士である蔵役人が蔵元として蔵物を管理したが，寛文年間(1661～1672)以降，多くは町人がこれにあたった。蔵元になる町人は大商人が多く，ふつう士分に取り立てられ，扶持米(ふちまい)を与えられた。また蔵元は蔵物を売却する場合，手数料として口銭*(くちせん)を得たうえ，蔵物を操作して投機的な利益を収めることができた。蔵元が掛屋*を兼ねることも多く，中には数藩の業務を扱い巨富を得た者もいた。〔松尾　涼〕

くらもの　【蔵物】　江戸時代，幕府・大名・旗本(はたもと)らが貨幣を得るために蔵屋敷*に回送した領内の産物の総称。商人・百姓が私的に大阪に回送した納屋物*(なやもの)に対する語。蔵物の中心は年貢米(ねんぐまい)。ほかに藩営産業の奨励と国産品の専売仕法により諸藩が集積した諸国の特産物(砂糖・紙・藍玉(あいだま)・畳表など)がある。蔵物は多くは入札により払い下げられた。江戸中期以降，諸藩の財政窮乏で蔵物を担保にする大名貸*が盛行した。〔松尾　涼〕

クラーモントごう　【クラーモント号】　1807年，ロバート-フルトンがつくった世界最初の実用汽船。長さ40.5m，幅5.5m，吃水(きっすい)の深さ2.7m，総トン数120トン，機関シリンダーの直径61cm，行程122cm，外車の直径4.6m，水かき板の幅1.2m，速力は4.5ノットであった。ハドソン川でニューヨーク～オルバニー間(241km)に就航したが，この間を32時間で航行。当時は陸上交通が不便であったので，河川航行の汽船として大きな意義があった。

くらやしき　【蔵屋敷】　江戸時代，幕府・大名・旗本(はたもと)などが，金融・商業の盛んな地に年貢米(ねんぐまい)・特産物の販売のために設けた取引所兼倉庫。大阪・江戸・大津・敦賀(つるが)・長崎・酒田などにあり，特に大阪は金融・商業が盛んであったため諸藩はここに蔵屋敷を設け，延宝年間(1673～1680)に91邸，延享年間(1744～1747)に110邸，天保(てんぽう)年間(1830～1843)には124邸あった。蔵屋敷は領主から派遣された蔵役人が支配し(その重役を留守居といい，名義人を名代という)，蔵役人の下で蔵元*・掛屋*・用達(ようたし)(用聞)の諸町人が実務にあたった。蔵役人以外を総称して立入ともいう。明治初期，廃藩置県によって廃止された。➔蔵物〔松尾　涼〕

くらやみまつり　【暗闇祭り】　深夜，氏子の家々が門戸を閉じ，燈火を消して慎む中で行なわれる祭り。東京都府中の大国魂(おおくにたま)神社の5月例祭は，暗やみ祭りの代表的なものである。そのほか，京都府宇治の県(あがた)神社や兵庫県西宮の恵比須(えびす)神社などの祭りも，暗やみの中で行なわれる祭りとして有名である。地方によっては，御夜籠(およごもり)と称して，夜通し祭りに奉仕する風習がある。かつて神は暗夜に来臨すると信じられ，また司祭者や氏子の物忌み*が要求されるところから，暗やみの祭儀が一般的であった。〔直江広治〕

くらよし　【倉吉(市)】　鳥取県中部の市。古く伯耆(ほうき)の国府・国分寺が置かれた。江戸時代初期は中村氏一万三千石の城下町で，のち鳥取池田藩の家老荒尾家の陣屋所在地となり，絣(かすり)や千歯こきの特産で知られた。1953年(昭和28)市制施行。人口52,000。竹田川と小鴨(おがも)川の合流点付近の倉吉平野と，国府(こう)川と小鴨川の中・下流流域の台地・丘陵地を占める。産業三大別人口比は21：28：51。明治中期以降発達した製糸業や紡績業を中心に，プロパン容器製造などの金属工業や農機具製造・醸造業・木工業などがあり，農村部では，酪農や二十世紀ナシが栽培されるほか，養蚕の集団化が進んでいる。鳥取市と米子(よなご)市の中間にあって，天神川流域と蒜山(ひるぜん)盆地(岡山県)に至る広い商圏をもつ。山陰本線上井(あげい)駅から分岐する倉吉線と国道179号線が通ずる。

クラヨーバ　[Craiova]　ルーマニア南部，ワラキア地方西部の都市。人口18万3,000(1972)。ドナウ川の支流ジュー川に沿い，塩や穀物が取引されるこの地方の商業中心地である。紡績・農業機械・家具・菓子などの工業も行なわれる。古代ローマの植民基地としてできた集落が起源であり，市街には16～18世紀に建てられた寺院が多く残っている。

くらら　【苦参】　双子葉植物・マメ科。山や野原にみられる多年草で群生する。茎

は直立し，高さ80～100cm。葉は羽状に細かく分かれ，10～18対。初夏，枝の先に淡黄色の蝶形花(ちょうけいか)を穂のようにつける。根をコルク層を除いて乾燥させたものは苦参(くじん)といい，漢方で解熱・利尿・駆虫に用いる。また，全草をせんじたものは，家畜の皮膚に寄生するこん虫や植物害虫の駆除に用いる。

クララ ［Clara］（1194～1253） キリスト教の聖女(祝日８月12日)・クララ修道会の創始者。イタリアのアッシジに生まれ，フランシスコ*の最初の女弟子(でし)となった。フリードリヒ２世の傭兵隊(ようへいたい)が侵入した際，祈りによって退却させたと伝えられている。

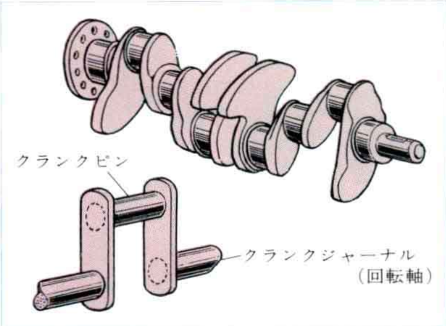
クラリネット ［clarinet］ １枚リードの木管楽器。音域が３オクターブをこえ，２枚リードの楽器よりもさまざまな音形を奏するのに適している。楽器そのものは，多くは木製で，そのほか，エボナイト・プラスチック・金属などでつくられている。大きさもさまざまであるが，最も多いのは変ロ管で，長２度高く記譜される移調楽器(→移調)である。そのほかこれよりも音の高いイ管や変ホ管もよく使われる。また，通常のものより１オクターブ低いバス-クラリネットも近代音楽でよく使われる。なおクラリネット属としては，このほかにバセット-ホルン・サクソフォーン*などが重要である。クラリネットのように１枚リードの楽器は，古くはエジプトでも使われていたが，オーボエのような２枚リードのものに比べるとその数は少ない。今日のものと直接に結びつくのは，1700年ごろドイツ人デンナー父子がつくったもので，高音トランペットのクラリーノに音が似ていたためクラリネットとよばれた。18世紀中ごろから，シュターミッツ・グルック・モーツァルトらにより積極的に使われだし，管弦楽にも不可欠な楽器となった。音色的にも他の楽器と調和しやすいため，これを含んだ室内楽も多い。速いパッセージが吹きやすいだけでなく，音量変化の幅があり，音高の安定がよく，また，音域による音色の変化があざやかなため，19世紀からは協奏曲の独奏楽器として使われた例はオーボエ以上に多い。 〔徳丸吉彦〕

クラリン ［Clarin］（1852～1901） スペインの小説家・批評家。本名レオポルド-アラス-イ-ウレーニャ。スペイン自然主義の代表的作家で，進歩的な批評家でもある。女主人公の破滅への心理をみごとに分析した《裁判官夫人》は代表作。ほかに短編小説多数がある。

クラルテ フランスの小説家アンリ-バルビュス(1873～1935)の小説(1919)。処女作《地獄》で人間の赤裸な姿に絶望した作者が，第１次世界大戦の体験を経て，戦争の脅威に対する人間の抵抗をヒューマニスティックに描いたもの。この作品以後，バル



クラリネット



クランク軸

ビュスは無産者階級の権力を擁護するため，雑誌《クラルテ》の発刊などいわゆるクラルテ運動を起こした。その国際的な運動は，日本では雑誌《種蒔(たねま)く人*》の創刊に影響を及ぼした。 〔池田公麿〕

クラーレ ［curare］ ツヅラフジ科・フジウツギ科などの植物に含まれるアルカロイド*の一種。黒紫色のエキスで，古くからブラジル・ペルーなどの土人が，矢毒に使っていた。運動神経と随意筋の接合点に作用し，筋肉を麻痺(まひ)させる。医薬品としてはエキス分を精製し，結晶化させ，塩酸塩として用いる。外科手術時の筋弛緩(しかん)剤として，また，リウマチ・骨折・舞踏病・パーキンソン症候群の筋弛緩に有効。副作用に呼吸麻痺がある。毒薬。〔中館正弘〕

クラレンドン ［1st Earl of Clarendon］（1609～1674） イギリスの政治家・歴史家。本名はエドワード-ハイド。はじめ弁護士となったが，1640年に下院議員に選ばれ，革新派から王党派に転じた。1645年のネーズビーの戦いののち，皇太子(のちのチャールズ２世*)に従って亡命し，《大反乱史》の著述に着手した。王政復古*後クラレンドン伯に叙せられ，政府の指導的人物として活躍し，非国教徒を迫害するための諸法律を制定した。これらはクラレンドン法典といわれる。しかし，宮廷や議会で彼に対する敵意が高まり，1667年フランスへ亡命した。 〔松下京子〕

クランクじく 【クランク軸】 往復運動を回転運動に変える(またはその逆)機械装置の一部品で，かぎ形に曲がった回転軸。圧縮機・蒸気機関・内燃機関などの往復動機関*に広く用いられ，連接棒によってピストンに結ばれる。

グラン-サン-ベルナール(峠) ［Grand Saint Bernard］ アルプス山脈の最高峰モンブラン山(4,810 m)東方のイタリアとスイスとの国境にある高度2,469 mの峠。イタリア名はサン-ベルナルディといい，日本では一般にサン-ベルナールとよんでいる。モンブランの南方のフランスとイタリアの国境には，小サン-ベルナール峠2,188 mがある。大サン-ベルナール峠は，スイスのローヌ川の谷にあるマルチニーから，イタリアのアオスタに通ずる交通上の要地で，ナポレオンが数万の兵を率いてここを越えたことは有名である。ローマ時代には山脈越えの要点としてすでに知られており，962年に建てられた修道院は旅行者の宿泊所として利用された。また，旅行者の救助に活動するセント-バーナード犬(サン-ベルナール犬)がこの地方の山村で飼われている。1964年この峠の南東にアルプス-トンネル(約5.8km)が開通したため，自動車はこの峠を利用しなくなった。 〔大石堪山〕

グランチャコ ［Gran Chaco］ 南アメリカ大陸中部の湿地の多い熱帯低地。パラグアイ川とその支流ピルコマヨ川・ベルメホ川流域にあたり，南緯18°から30°にわたっている。面積64万km²。北部はボリビアとパラグアイ，中央部と南部はアルゼンチン領。雨季には河川が氾濫(はんらん)するが，乾季には飲料水に事欠くほど降水がない。未開発地域で，経済的には価値がないとされているが，近年は粗放な農牧業が行なわれている。1932～1935年にかけて，北部の領有を巡る〈チャコ戦争〉がボリビアとパラグアイの間にひき起こされた。 〔大石堪山〕

グランデ(川) ⇨リオグランデ川

クーラント ［courante］ 16世紀に生まれ，17世紀に形がきまった舞曲の一。〈走る(クーリール)〉という意味の動詞に由来しているように，速く跳躍を含むのが特徴である。17世紀のうちに，音楽として様式化され，アルマンド*とともに組曲の重要な構成要素となった。形は二つに大別される。イタリア形(コレンテ)は速い３拍子で，連続的に流れていく。フランス形は多少おそめで，アクセントが移動して，リズム的な不安定さのおもしろみがある。

グラント ［Ulysses Simpson Grant］（1822～1885） アメリカの軍人。第18代大統領。在任1869～1877年。オハイオ州の生まれ。アメリカ-メキシコ戦争に参加し，南北戦争*には義勇軍を率いて参加。軍事的手腕をリンカーン*に認められ，1863年北部軍最高司令官に任命された。ビクスバーグ・リッチモンドに勝利を収め，バージニア州アポマトックスでリー将軍を降伏させて南

部軍を鎮圧，国民的英雄となる。1868年共和党急進派に推されて大統領に選出された。1872年再選。大統領としては無能で，産業資本家にあやつられ，金権政治・腐敗政治を招いた。〔折井一彦〕

グランド-オペラ ［grand opera］ 本来はフランス語のグラン-トペラであるが，英語として使われるときは，一般に大がかりなオペラをさす場合が多い。フランス語の場合は，定義がはっきりしていて，19世紀に形成され，オペラ-コミックと対をなすものをさす。オペラ-コミックが内容の如何(いかん)を問わず，会話の部分を含むものであるのに対して，グラン-トペラはせりふによる部分を含まない。内容的には，英語を題材にしたり，悲劇的であり，また叙事的であることが多い。代表的な例としては，ロッシーニの《ウィリアム-テル》，アレビーの《ユダヤ女》，マイエルベーアの《ユグノー教徒》や《予言者》，ベルリオーズの《カルタゴのトロヤ人》などがあげられる。これらの作品は今日あまり評判がよくないが，ワーグナーの《リエンチ》やベルディの《アイーダ》など，この伝統に従ったものもある。〔徳丸吉彦〕

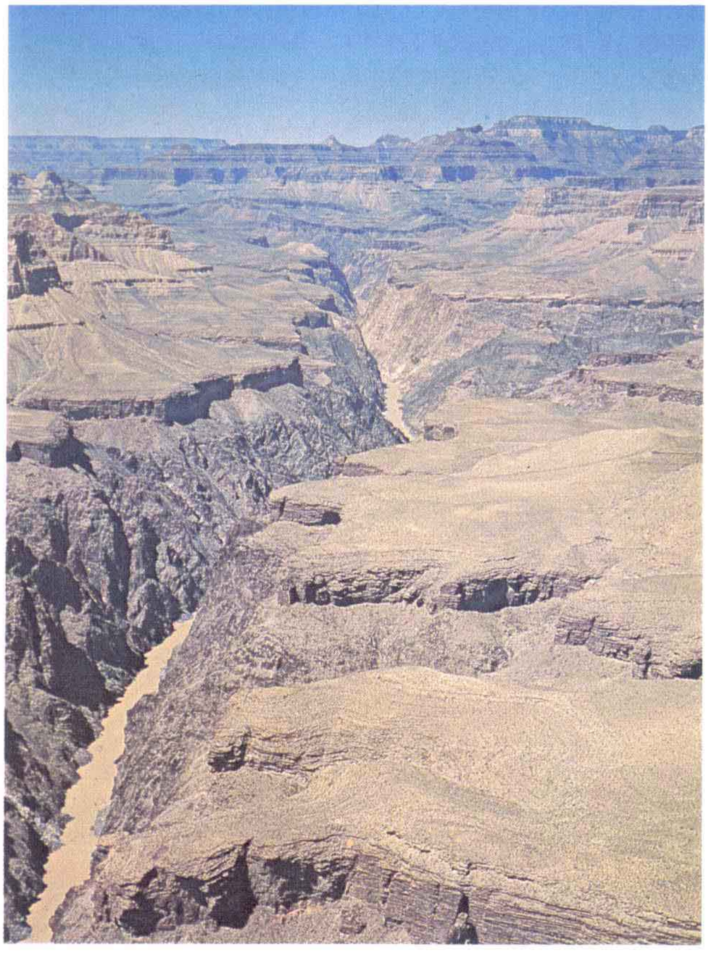
グランド-オール-オプリー ［Grand Ole Opry］ アメリカ最古の歴史をもつカントリー-ミュージック-ショー。テネシー州ナッシュビルのライマン公会堂で行なわれる。



グラント 南北戦争の激戦地ビクスバーグに残る同将軍の騎馬像



グランド-オール-オプリー ステージで歌うジョニー-キャッシュ



グランドキャニオン 谷壁に現われた地層は千古の地球の歴史を刻んでいる。峡谷の底にはコーヒーを流したような濁流が流れる

シカゴのWLS放送局の〈ナショナル-バーン-ダンス〉のプロデューサー，ジョージ-D-ヘイの企画に基づいて，1925年11月，WSM局からスタートしたのが始まりである。以来，現在まで，40数年という長い歴史と実績をもって，カントリー-アンド-ウェスタン界の大きな原動力となっている。このショーからハンク-ウィリアムズ*・ハンク-スノー*・ロイ-エイカフらのスターが誕生した。WSM局より毎週土曜日の夜7時30分～12時の4時間半にわたって放送され，テレビ番組としても全米に中継されて好評を博しており，ナッシュビルの名物として，全世界に知られている。毎年10月に，CMA（全米のカントリー-アンド-ウェスタン界の最高機関）の例会に合わせて，バースデー-セレブレーションを開催している。なお，このショーが公認しているものとして，〈東京グランド-オール-オプリー〉がある。〔和田誠司〕

グランドキャニオン（国立公園） ［Grand Canyon］ アメリカ合衆国南西部，アリゾナ州北部にある，コロラド川の侵食でできた雄大な峡谷。面積約2,600km²。1919年国立公園に指定された。峡谷の延長約350km，幅15～20km。コロラド川の水面からの高さは約1,500mに達する絶壁もある。峡谷の側壁には，最も古い地質時代に属する先カンブリア紀のカコウ岩や変成岩が下部の300mぐらいにみられ，その上には砂岩など現在までの各地質時代の岩層がほぼ水平に走っている。この地域は乾燥しているため，岩石が陽光に照らされて赤・茶・紫・黄・白・緑などあざやかな色彩の対比をみせている。サンタフェ鉄道が通じており，観光客も多い。〔大石堪山〕

グランドクーリー-ダム ［Grand Coulee Dam］ アメリカ合衆国北西，ワシントン州北東部にある多目的ダム。コロンビア川中流につくられた重力ダムで，高さ168m，長さ1,370m，貯水容積約780万m³。コロンビア川流域開発計画の一部として1933年に建設が始まり，1942年に完成した。このダムの建設方法は，この後の合衆国の大ダム建設の技術の先駆となったといわれている。洪水(こうずい)防止・灌漑(かんがい)・発電などを目的とし，発電所の出力は190万kW。ダム上流に人造湖F.D.ルーズベルト湖（全周230km）がある。〔大石堪山〕

グランドジョラス（山）［Grandes Jorasses］ スイス南西部，モンブランの北東方にそびえる山。ウォーカーピーク（4,208m）とウィンパーピーク（4,196m）のほかいくつかの峰よりなる。前者はイギリス人ウォーカーが1868年に，後者は同じくイギリスのウィンパーが1864年に初登頂し，それぞれ，その名が冠せられた。北壁（1,200m）はアイガー・マッターホーンとともに〈アルプスの三大北壁〉といわれ，容易に人を近づけなかったが，1938年イタリアのカシンが直


筑波


田辺


石鎚


雄花(森早生)


雌花(千代田)


クリタマバチによる被害

ク　リ

登を試みて以来，近年は日本人も多く成功している。〔大石堪山〕

グランドバンク　[Grand Bank]　カナダ東方，ニューファンドランド島南沖合いにある浅堆(せんたい)。大陸棚(たいりくだな)上のさらに浅い海底地形で，水深およそ50～150 m。北からのラブラドル海流，南からのメキシコ湾流が交流して世界の四大漁場の一つになり，タラの漁獲は世界一といわれる。

グランド-ピアノ　⇨ピアノ

グランドラピッズ　[Grand Rapids]　アメリカ合衆国ミシガン州西部の商工業都市。人口19万8,000(1970)。グランド川に臨み，家具製造業・農産加工業などが盛んである。

クランマー　[Thomas Crammer]　(1489～1556)　イギリスの宗教改革者。カンタベリー大司教で，イギリス国教会独立の功労者。ヘンリー８世*の離婚問題に関して王を支持し，ローマ教皇に抗して離婚を許可した。ローマ教皇の首位権を排除することに努め，ローマ教会との分離に協力。同王の没後，エドワード６世の摂政となり，《共同祈禱書(きとうしょ)》《42信仰箇条》を作成，イギリス国教会の基礎を固めた。これらには宗教改革思想の濃厚な反映がみられる。メアリ１世*即位後，女王が教皇との妥協を図ったため，反逆罪に問われて，焚刑(ふんけい)に処せられた。〔五十嵐誠・石井忠厚〕

くり　**【栗】**　双子葉植物・ブナ科・クリ属。山野によくみられる落葉高木。幹は直立し，高さ20mに達するものもある。樹皮は黒かっ色で，老木では深い裂け目ができる。葉は軟毛がまばらにはえ，長さ９～18cm，幅３～４cmの長楕円(ちょうだえん)形，あらい鋸歯(きょし)があり，長さ６～18mmの柄で互生する。雌雄同株，６月ごろ葉腋(ようえき)から黄白色で尾状の雄花穂を伸ばす。雌花は雄花穂の下部につき，３花ずつ集まってとげ状の鱗片(りんぺん)のある総包に包まれる。果実は総包が変化したいがに包まれ，生長したいがは４裂して１～３個の果実を現わす。果実は炭水化物に富み，美味である。

クリ属は，約10種が北半球の温帯に分布し，数多くの品種が育成されている。材は均質でかたく，保存に耐えるので家具や枕木などに利用されるが，主要な用途は食用に供することである。クリ属のおもな栽培種は次のとおりである。①日本グリ：日本全国および朝鮮半島南部にかけて原生しており，現在の栽培品種の原種である。②中国グリ：中国東北の南部から雲南省にかけて広く分布している。市販されている甘グリは，河北地方北部産の小粒なもの。③アメリカグリ：北アメリカ原産。東部に多い。④ヨーロッパグリ：ヨーロッパ南部から西部および北アフリカにかけて分布する。〔加藤僖重〕

【品種】日本でのクリの種類は多いが，第２次世界大戦前，岡山県・兵庫県で認められ，戦後急速に全国に広まったクリタマバチの被害を避ける適当な方法がないため，これに対して抵抗性のある品種が栽培されるようになった。現在のおもな栽培品種は，大阪原産で古くから日本グリの代表品種である銀寄せのほかに，豊多摩早生(とよたまわせ)(東京)・田尻(たじり)銀寄せ(大阪)・岸根(山口)・赤中(愛媛)・今北(兵庫)などがある。銀寄せは，果実は20～25g，扁円(へんえん)形で果皮は濃かっ色で光沢があり，外観・品質ともに良好。10月上旬に収穫。新品種としては筑波・利平グリ・森早生(わせ)・丹沢・伊吹(いぶき)などが知られている。筑波は岸根と芳養玉(はやたま)を交配したもので，果実は18～20g，短三角形で赤かっ色，果肉は淡黄で，甘味が多く品質優良。利平グリは，岐阜産の日本・中国自然交雑の一代雑種。果実は25gぐらい，扁円形で外観良好，甘味が強い。

【栽培】日本のクリは，古くから野生のシバグリが利用され，７世紀末の持統天皇の時代に栽培が奨励された記録がある。古くから山林での放任栽培が多い。クリは気候的に適応範囲が広く，栽培は秋田県以南から九州南部まで可能である。主産地は年間平均気温が12～15℃である地域に多く，茨城・熊本・愛媛・岡山の各県が知られている。土壌(どじょう)は，表土が深く有機質に富む肥沃地(ひよくち)で，弱酸性の排水良好なれき質ないし植壌土に適している。果樹園では高つぎ苗を植えるほうがよい。風媒花で自家不結実の傾向があるので，授粉品種を混植する必要がある。注意を要する病害に胴枯れ病があり，栽培の集約化とともに問題になっている。害虫はクリタマバチのほか，クスサン・クリノオオアブラムシ・クリシギゾウムシなどがある。クリタマバチの防除法は種々試みられたが効果が少なく，抵抗性のある品種を栽培することによって害を避けるが，この虫の加害性とともに抵抗性に変化がみられることに注意を要する。〔岩垣駛夫〕

くり　**【庫裡】**　庫裏・庫院・厨院(ちゅういん)・庖厨(ほうちゅう)ともいう。庫は穀物・財宝・器具などをたくわえる蔵をいい，裡(裏)は屋裏の意である。もとは寺院の台所で，本尊に供える食べ物や住僧の食べ物を調理する所であった。大寺院では大小２むねに分かれ，大庫裡は供えものを，小庫裡は住僧・客僧などの食べ物をととのえる所となっているが，普通の寺院においては１むねである。いまは仏殿などに対して，僧侶(そうりょ)の家族が居住する所をいう。〔京戸慈光〕

クーリー　**【苦力】**　外国人が旧中国やインドの不熟練労働者，特に荷かつぎ夫・鉱夫・車夫などをさしてよんだ名称。中国語で，もとヒンディー語やタミル語に起源をもつ語。19世紀中ごろ，欧米諸国では黒人奴隷解放が進み，結果として植民地の労働力不足をきたしたので，インド，つづいて中国から苦力を雇い，南アフリカ・西インド・南北アメリカ・オーストラリアなどに送った。やがて中国人苦力が非常に多くなり，のち中国人労働者を意味するようになった。雇い入れから輸送にいたるまで非人道的な扱いを受けることが多かった。〔衣川　強〕

クーリー　[Charles Horton Cooley]　(1864～1929)　アメリカの社会学者。アメリカ社会学会会長。彼が提出したく第１次

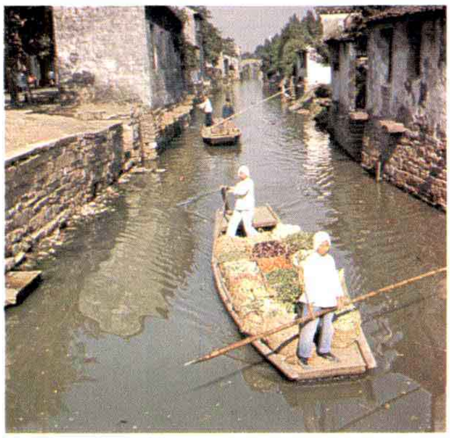
集団〉と〈鏡に映る自己〉の概念は広く採用された。前者は，家族・近隣集団のような直接的接触の行なわれる対面的集団で，個人がパーソナリティー*形成において最初に文化を内在化させる基礎的集団であるとした。個人と社会を統一的に把握(はあく)しようとした彼は，自己の体験の内省的・同情的参与から理論を導きだした。《人間性と社会秩序》《社会組織論》《社会過程論》の三部作がある。〔国近浩一〕

クリアストーリー ［clearstory］ 高窓・明層。教会堂のネイブ*両側最上部にある採光窓。ゴシック建築ではステンドグラスをはめ込む。ロマネスク後期大教会のネイブ側面の構成は，下層からアーケード*・トリビューン*・トリフォリウム*・クリアストーリーの順であるが，構造が発達したゴシックでは大開口部が取れるようになり，トリビューンが取り除かれ，さらに後期には一部でトリフォリウムも除かれて，アーケード上部は柱間のほとんどがクリアストーリーで占められた。〔渡辺保忠〕

グリアースン ［John Grierson］ (1898〜) イギリスの記録映画*の監督であり，プロデューサー・理論家である。1928年E・M・B(Empire Marketting Board)に映画による広報部門を設立，多くの監督を集めて制作活動を推進した。のち1933年にはG・P・O(General Post Office)に移ったが，彼のグループからは多くのすぐれた作品が生まれ，その影響は大きい。《流網船》などの作品がある。

クリアランス ［clearance］ 腎臓(じんぞう)から尿中に排泄(はいせつ)される尿中物質は，もともと血液の液状成分である血漿(けっしょう)に由来するものである。したがって，尿排泄量を血漿濃度あたりに表わすことができるはずである。いまある物質について尿中濃度をU，血漿中濃度をPとし，1分間の尿量をVとすると，UVはある物質の毎分排泄量である。そして，UV/Pは1分間に尿に排泄された量UVがP濃度の血漿何mlに由来したかを示すものである。このUV/Pの値をクリアランス(血漿浄化値)という。クリアランスの値は物質の排泄機構の種類によってそれぞれ異なるものであり，通常その物質名を前につけてクリアランスをよぶことになっている(例：クレアチニンクリアランス)。腎臓における各排泄機構の違いにより次のように分類される。①濾過(ろか)のみが行なわれるもの：イヌリン・クレアチニン。②濾過と分泌が行なわれるもの：パラアミノ馬尿酸・ダイオドラスト。③濾過と再吸収が行なわれるもの：ブドウ糖・尿素。④分泌のみのもの：アンモニア。〔平野修助〕

くりいろ 【栗色】 色名。熟したクリの実の皮のような色。わずかに赤みのある茶色で，栗皮茶・栗皮色・落栗色と同じ色である。ふつう，〈くりいろ〉とよばれる色には2通りがあり，いわゆるクリの実の色のほかに，皀色(くりいろ)という黒色系統の色がある。この二つは，まったく色相の異なる色であり，日本工業規格(JIS)にいうクリ色は栗色をいう。日本工業規格(JIS)慣用色名〈クリ色〉は，色相2.0YR，明度3.5，彩度4.0の色と規定されている。➔色



クリーク　中国，蘇州市内を流れるクリーク

くりいろど 【栗色土】 かっ色土*地帯よりも年間降雨量は多い(400〜500mm)が，チェルノーゼム地帯よりは少ない地帯に生成する土壌(どじょう)で，自然植生は草本。表層から50cm程度の場所に石灰の集積がみられる。表層の有機物量もかっ色土より多く，25cm程度の厚さの黒みがかった表層をもつ。

グリエール ［Reingol'd Moritsevich Glier］ (1875〜1956) ロシア・ソ連の作曲家。モスクワ音楽院でイッポリトフ-イワーノフ*らに作曲を学んだ。ベルリンに遊学ののち，キエフ音楽院・モスクワ音楽院の教授となり，ロシア国民音楽の伝統に根ざした民族的色彩の濃い作品を発表し，ソビエト音楽の建設に貢献した。また，ミヤスコフスキー・プロコフィエフらを育てたことでも知られる。

クリエンテス ［clientes］ 王政から共和政初期にあたるローマ最古期の半自由民的な隷属民。当時のローマは貴族・平民・クリエンテス・奴隷の4身分からなり，クリエンテスの保護者(パトローヌス)である貴族とは信義関係で結ばれ，貴族はクリエンテスのために法廷で弁護し，土地を貸し与えた。一方，クリエンテスは貴族のために耕作し，従軍し，身代金(みのしろきん)を支払わねばならなかった。共和政末期以降になると，クリエンテスは身分上の存在ではなく，保護者の食客的従者をさすようになった。〔高山高雄〕

くりかえしふごう 【くり返し符号】 ⇨句読点(くとうてん)

くりから 【倶利迦羅】 梵語(ぼんご)Kulika(クリカ)の音訳で，〈龍王(りゅうおう)〉の名。不動明王*の変化身とされ，磐石(ばんじゃく)の上に立つ剣を龍がのまんとする姿で現わされる。龍に代わって羂索(けんさく)を用いることもある。《倶利迦羅大龍勝外道伏陀羅尼経(だらにきょう)》に悪鬼邪執を降伏(ごうぶく)すると説かれる。わが国では江戸時代に背から腕や脚にかけて一面に不動明王あるいは上記の形相を彫り物にして，その勢威にあやかろうとする者が多く，〈くりからもんもん〉の名で知られる。地名に残るのはこれに対する信仰のなごりである。〔北条賢三〕

くりからとうげ 【倶利伽羅峠】 富山県小矢部市石動(いするぎ)と石川県津幡(つばた)町との境にあり，標高270m。旧北陸道の要衝の一つで，現在は国道8号線と北陸本線のトンネルがここを通っている。1183年(寿永2)木曾義仲(きそよしなか)が奇計を案じて平家の大軍を破ったといわれる倶利伽羅古戦場は峠のすぐ南にある。

くりからとうげのたたかい 【倶利伽羅峠の戦い】 礪波(となみ)山の戦いともいう。1183年(寿永2)5月，木曾義仲(きそよしなか)(➔源義仲*)軍が平通盛(みちもり)・知度(とものり)・行盛・経正(つねまさ)らを将とする平氏の追討軍を倶利伽羅峠*で破った夜戦。義仲軍が火牛の計を用いた奇襲攻撃によって平氏追討軍を壊滅させ，平氏に大打撃を与えた話は《源平盛衰記*》などで有名。

くりかわいろ 【栗皮色】 色名。熟したクリの実の皮のような色。わずかに赤みのある茶色。楊梅皮(ももかわ)の煎汁(せんじゅう)と鉄分およびあくを用いて染め出す。《源氏物語》にある落栗色は栗皮色と同じ色である。また，栗皮色は普通は単に栗色ともよばれる。しかし，皀色(くりいろ)は栗色とまったく異なる色で，古くは黒色をさし，のちにはわずかにかっ色をおびた黒色をさした。栗皮色よりやや赤みの色が鳶色(とびいろ)，やや黒みの色が焦茶である。〔武井邦彦〕

クリーク ［creek］ 人工的に掘った水路やみぞをいう。元来は小川のことをこうよんでいたが，一般には，自然の水路と人工の水路の両方を含めていう。灌漑(かんがい)水路・排水路・交通路として利用され，特に海岸や三角州(デルタ)などの低湿地に掘られることが多い。中華人民共和国の揚子江・珠江(しゅこう)のデルタでは縦横にクリークが走り，上海(シャンハイ)付近の水路は特に知られている。ほかにオランダのポールダーに，日本では九州の筑後(ちくご)川下流に発達している。〔大石堪山〕

グリーク ［Edvard Hagerup Grieg］ (1843〜1907) ノルウェーの作曲家。母からピアノの手ほどきを受け，作曲家オーレ-ブルのすすめでライプチヒ音楽院に留学し，ドイツ的な教育を受けて1862年に帰国した。その後スカンジナビア音楽の先駆者ニールス-ガーデに師事し，同年輩のリカルド-ノルトラークとともに国民音楽の樹立を図ったが，その友人の早逝(そうせい)により挫折(ざせつ)せざるを得なかった。1865年イタリアに行き，ここでリストと親交を結び，帰国後

の1868年に名高いピアノ協奏曲を完成，翌年発表した。1871年オスロに音楽協会を設立し，多くの作品を発表すると同時に指揮者としても活躍した。《ペール-ギュント*》はこの時期の作品である。1876年に国家から終身年金を受けた。〔向坂正久〕

クリケット [cricket] イギリス古来の国民的球技。11人からなるチームが2組みで行なう。審判は2人。競技方法はウイケット（3柱門）を相対して立て，その上にベイルズ（横木）を載せる。攻撃側はそれぞれのウイケット前に打者を送る。守備側はウイケットの一方に投手、他方に捕手を配置し，残りの9人は野手となる。投手がウイケットに向かって投げる球（コルクのしんを麻糸で巻き，牛皮で包む）を一方の打者がバット（平板に柄のついたもの）で打ち，打球が捕手に返され，ウイケットのベイルズが落とされるまで両打者がその位置を交換すれば得点となり，長打の場合はウイケット間を走って6点まで得点を追加できる。打球が直接野手に捕球される，投手の投球がベイルズを落とすなどのときは打者がアウトになり，11人全員がアウトになると攻守交替する。〔伊東春雄〕

くりけむし ⇨クスサン

グリコゲン [glycogen] $(C_6H_{10}O_5)_n$ 分子量が27万～350万の多糖類で，ブドウ糖（D-グルコース）の高分子重合体に相当する。ヨウ素反応ではかっ色を呈し，構造的にはかなり分枝構造をもっている。体内に吸収された単糖類から合成される。動物のほとんどあらゆる細胞に見られ，特に肝臓・筋肉に多い。動物界の貯蔵炭水化物で，植物界のデンプンにあたるので動物デンプンともいわれる。筋肉運動の原動力になっており，運動時や飢餓状態ではその貯蔵量は著しく減少する。

くりこし 【繰り越し】 繰り越すから転じた名詞。和服の長着・羽織・じゅばんなどのえり肩あきを，肩山から後ろに繰り下げる部分。繰り越しの寸法はふつう1～2cmであるが，抜きえもんに着る場合は特に多く繰り下げる。

くりこトンネル 【栗子トンネル】 福島～秋田間の国道13号線が福島・山形の県境で奥羽山脈を越える部分に設けられた道路トンネル。旧栗子トンネルは1936年（昭和11）に開通した長さ850mのものであったが，1961年から新しいトンネルの工事が進められて，第1栗子トンネル（2,376m）と第2栗子トンネル（2,675m）が1966年に開通。

くりこま 【栗駒（町）】 宮城県栗原郡に属し，宮城・岩手・秋田3県の境にそびえる栗駒山*に源を発し，東流して北上川に注ぐ迫（はさま）川の上流域を占め，北は岩手県に接する。1955年（昭和30）に岩ケ崎町・尾松村・鳥矢崎村・文字村・栗駒村および姫松村の一部が合併して誕生した。人口17,000。中心地区岩ケ崎は秋田への街道に沿い，谷口町として成立したが，元禄（げんろく）年間（1688～1703）に伊達（だて）家の家臣の中村日向守（ひゅうがのかみ）が館を構えて城下町として発達した。馬市も開かれ，石材や竹製品などの産がある。

くりこまこくていこうえん 【栗駒国定公園】 岩手・宮城・秋田の県境に近い栗駒山*（1,628m）を中心に，これらの3県にわたり，山形県の北東端を含む地域。面積771.3km²。1968年（昭和43）国定公園に指定された。栗駒山は須川岳（すかわだけ）ともいい，複雑な臼状（きゅうじょう）火山をなし，頂上はみごとな岩塊で，北方の1,126m高地の溶岩塊の中に須川温泉がある。焼石岳（1,548m）は横岳・獅子ケ鼻岳（ししがはなだけ）よりなり，溶岩塊の絶壁が美しい。駒ケ岳の西北のふもとにある夏油（げとう）温泉の石灰華は天然記念物に指定され，荒雄岳（984m）近くには，間欠温泉で有名な鬼首（おにこうべ）などの温泉がある。

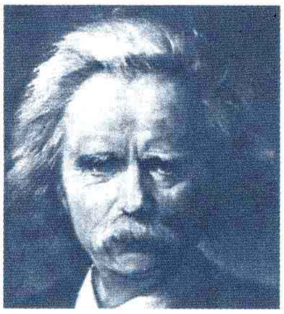
くりこまやま 【栗駒山】 須川岳（すかわだけ）ともよぶ。奥羽山脈の中央部，岩手・宮城・山形3県の県境にそびえ，標高1,628m。円錐（えんすい）形の二重式火山で，広大な山域はほとんど森林でおおわれている。宮城県側に五つの温泉（栗駒五湯），岩手県側に須川温泉があるが，交通は不便である。

くりこみりろん 【繰り込み理論】 電磁場の強さや電子の質量などの物理量は，場の自分自身または他の場との相互作用の結果として相互作用が存在しなかったときの値からずれるが，この変化した量を実験によって観測される量であるとして実験値で置き換える操作を〈繰り込み〉といい，たとえ変化した量が計算の結果無限大になるような無意味なものであっても，それを実験値で置き換えることによって理論を有限な意味のあるものにした理論を繰り込み理論という。量子電気力学*における無限大の困難を避けるために考え出され，1947年にベーテ*によって水素原子のエネルギー準位*のずれの説明に用いられて成功し，のちに朝永（ともなが）振一郎*・J.シュウィンガー・R.ファインマンらによって完成され，実験と非常によく一致する結果を与えることがわかった。〔高林武彦〕

グリゴーリエフ [Apllon Aleksandrovich Grigoriev] (1822～1864) ロシアの批評家・詩人。芸術作品は先験的・直観的なものであり，実生活とは無関係な法則に基づく批評基準が必要であると主張し，芸術は社会に奉仕すべきであるとする当時の批評界の大勢と対立した。主著に《我（わ）が文学的・知的遍歴》がある。

グリコール [glycol]

1狭い意味ではエチレングリコール*をさ



グリーク



クリケット



栗駒山 山頂付近の須川高原キャンプ場。北に続く峰づたいの焼石岳とともに，高山植物の群落が多く見られる

す。

[2]広い意味では同一分子内に二つのアルコール性水酸基をもつ化合物，すなわち二価アルコールの総称で，ジオールともいう。一般に中性の粘稠(ねんちゅう)な液体で甘味を有する。化学的にはアルコールと同様な性質を示すが，特有な性質としては，脱水反応を行なうと分子内で脱水して分子内エーテルを生成する。代表的なものとしてはエチレングリコール(エタンジオール)・プロピレングリコール(プロパン-1,2-ジオール)あるいはシクロヘキサン-1,2-ジオールなどがあげられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

グリゴロービチ [Dmitri Vasil'evich Grigorovich] (1822～1899) ロシアの小説家。農民の悲惨な生活を同情をこめて描いた作家で，《村》《ふしあわせ者アントン》は農奴制下の農村を描いたもので，ツルゲーネフ*の《猟人日記*》の先駆的作品といえる。

グリザイユ [Grisaille] 主として，絵画を灰色などの一色によって描く技法。色の濃淡・明暗で表現に立体感を与え写実的効果を示すので，室内の壁面装飾に利用される場合が多い。

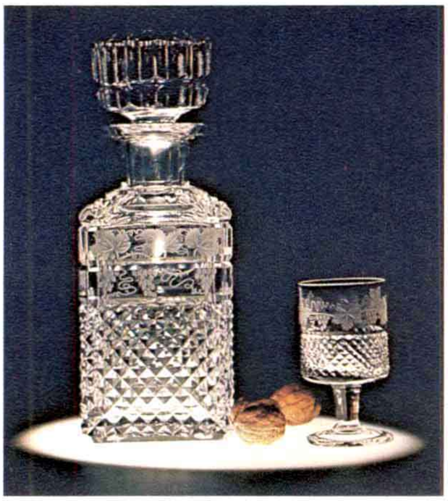
くりさわ 【栗沢(町)】 北海道，空知支庁南西部にあり，空知郡に属する。1949年(昭和24)町制施行。人口10,000。西部は石狩平野，中央部は久橹(くったり)丘陵，東部は夕張山地で，東は夕張市と，北は岩見沢市と接する。平野部には水田，丘陵部にはジャガイモやテンサイの畑が開け，幌向(ほろむい)川上流部の山地には万字鉱などの炭鉱がある。中心集落の栗沢は丘陵西縁にあり，室蘭(むろらん)本線・国道234号線がほぼ南北に縦断する。炭鉱は万字線で岩見沢と結ばれるが，最近の石炭不況のため，休廃坑が多い。

グリサンド [glissando] 音楽演奏用語。〈すべる〉を意味するフランス語に由来する。二つの音の間を音階的に音を速く奏して埋めることをいう。ピアノでは，指のつめを鍵盤(けんばん)上にすべらせて，3度・4度・6度・8度で平行して奏することもあり，ハープでもしばしば用いられる。現代音楽やジャズでしばしば用いられるバイオリンやトロンボーンで連続的に音を変えるのはポルタメントとよぶほうが正しい。

くりしぎぞうむし 【栗鴫象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。クリの果実の害虫。体長7～9mm。体の地色は全体赤かっ色で，灰黄色の鱗毛(りんもう)を密生し，鞘翅は灰黄色とかっ色の鱗毛からなる波状の不規則な斑紋(はんもん)を現わす。口器は吻状(ふんじょう)できわめて細長く，下方に湾曲し，途中から細長い触角が左右に生じる。鞘翅は細長い三角形を呈する。卵は乳白色，楕円(だえん)形で，長径1.5mm。9～10月にクリのいがに口吻で穴をあけ，産卵管を挿入(そうにゅう)して1個ずつ産卵する。約10日で幼虫が孵化(ふか)し，種実中をトンネル状に食害する。40日ほどで老熟して皮に穴をあけて脱出し，土中にもぐってさなぎとなる。日本全土のほか，朝鮮・シベリアなどに分布する。



グリス《ギターを持つピエロ》1925



クリスタルガラス　カット技法とグラビール技法併用のウイスキーセット

くりしますみこ 【栗島すみ子】 (1902～) 映画俳優・舞踊家。東京生まれ。幼少より芸能界にはいり，《虞美人草(ぐびじんそう)》で映画界にデビューした。長く娘役として活躍し，日本最初の本格的なスター*となった。監督池田義信(よしのぶ)と結婚し，《淑女は何を忘れたか》(1937)を最後に引退，邦舞水木流を継ぐ。

クリシュナ [Kṛṣṇa] 紀元前7世紀ごろ北インドの一部族に出た宗教指導者。おそらく実在の人物。死後まもなくみずからの信じた神と同一視され，さらには，インド教の主要神ビシュヌ*に比定され，現在に至るまで多くの信者をもつ主神のひとりとなった。長い伝承の間にさまざまな要素が付加されてその性格は多岐となり，異名も多い。その神話的伝記の中の各挿話(そうわ)，特に牛飼いの女たちと河中に戯れる話は，10世紀以降，インド芸術のモチーフとして盛んに用いられた。〔奈良康明〕

クリシュナ(川) [Krishna] キストナ(Kistna)川ともいう。インド中央部，デカン高原の西ゴーツ山脈から発し，ほぼ東に流れて，マスリパタムの南方でベンガル湾に注ぐ。全長1,290km。河口のデルタは米・ワタ・タバコの産地である。総合開発計画によってダムも建設されている。

グリシン [glycine] NH_2CH_2COOH 最も簡単な構造のアミノ酸で，多くの動物性タンパク質の構成成分であるが，植物性タンパク質にはほとんど含まれていない。生体内ではポルフィリン・プリンなどの生体成分の合成素材となるだけでなく，動物の肝臓においては有害物質とグリシンを結合させることによって解毒(グリシン抱合)を行なっている。

グリス [Juan Gris] (1887～1927) スペインの画家。1906年以降パリに定住。キュービスム*の運動にピカソ*らとともに参画し，パピエ・コレ*などの技法を採用，つねに指導的な役割を果たす。静力学的なその作品は，計算しつくされた構成のうちにも詩情をたたえている。

グリース [grease] 軸受けなどの潤滑に用いる半固体状の潤滑剤。鉱油あるいは混成油にせっけん類を混和し各種の添加剤を加えてつくる。温度が上がると溶解して液状になる。高荷重の軸受けや歯車，また手の届きにくい場所の滑動部分に用いられる。

クリスタルガラス [crystal glass] 結晶のように無色で透明なガラスをよぶこともあるが，狭い意味では，カット加工した工芸ガラスをいう。ふつう，反射率を高めるために酸化鉛を含むことが多いが，単に軟質ガラス*のソーダをカリで置き換えたものもある。鉄などの不純物の少ない原料を用いた無色でつやのよいものが望まれる。

クリスタルフルーツ [crystal fruit] 果実の貯蔵法の一。果実を砂糖づけしたもので，表面に結晶糖がついているのでこのようによばれる。クリスタルフルーツは，①クリスタルもの(アンゼリカ・ジンジャー・チェリー・ペアーなど)，②ピールものすなわち果皮を砂糖づけしたもの(オレンジ・レモン・ザボン・マスクメロンなど)がおもなものである。作り方は原果・果皮を塩づけにしたあと水洗し水煮・水洗・脱色・薄蜜煮(みつに)・つけこみを行なって仕上げ乾燥をする。主としてケーキのデコレーションに用いられるが，使用するときは表面の結晶糖を洗い落としてから任意の形に切って用い，またチェリーなどはつやをよくするた

め上等のシロップあるいはアラビアゴムの溶液を表面に塗る。〔泉　敬子〕

クリスチナ［Christina］（1626～1689）スウェーデン女王。在位1632～1654年。グスタフ-アドルフ*の娘。三十年戦争*を終結させるとともに，学芸を奨励し，首都ストックホルムに学者・芸術家を多数招いて文化的黄金時代をもたらした。退位後，カトリックに改宗した。

クリスチャニア［christiania］スキーの急速回転技術。滑走中に，スキーをそろえたまま高速度で滑降回転するもの。クリスチャニアは，ノルウェーの首府オスロの旧名で，競技スキーが発生したばかりのころ，そのころ行なわれていた回転技術テレマーク*よりも急速度で回転したり停止したりする技術をこの地方の人々が見せたところから，この名称が生まれた。現在のスキーではテレマークはすたれたが，クリスチャニアはその後研究が重ねられて，シュテム-クリスチャニア・ライネ-クリスチャニア・シェーレン-クリスチャニア・パラレル-クリスチャニアとなり，アルペン競技*の主要技術になっている。〔堀　浩〕

クリスチャン（4世）［Christian］（1577～1648）デンマーク国王兼ノルウェー国王。在位1588～1648年。国内の貴族勢力をおさえるとともに，商工業を振興させて重商主義を進め，また北海・バルト海の制覇(せいは)をめざし，着々と絶対主義体制を整えた。1624年には，首都クリスチャニア(現在のオスロ)を建設。しかし，三十年戦争*では，新教徒としてドイツに出兵してワレンシュタインに敗れ，また，スウェーデンとも海上覇権をめぐって争ったが敗北した。

クリスチャン-サイエンス［Christian Science］キリスト教の一団体。1879年，エディ夫人(1821～1910)によって創設され，ボストンを中心に発展し，現在世界各国で活動が行なわれている。すべての病は神を深く信頼するときいやされると説く。その背景には，物質は幻影にすぎず，精神のみが実在するという一種の世界観がある。夫人の著書《科学と健康》は聖書とともに経典の位置を占めており，また夕刊紙《クリスチャン-サイエンス-モニター*》を発行している。なお，キリスト教各派からは異端的とみられている。

クリスチャン-サイエンス-モニター［Christian Science Monitor］アメリカのクリスチャン-サイエンス教会の創始者M. B. エディ夫人によって1908年創刊された夕刊紙。ニュースのセンセーショナル化を避け，外信記事や読み物に重点を置き，論説は最終面に載せている。幅広い読者をもち，アメリカで数少ない全国紙として重視されている。発行部数は約21万3,000部(1970)。

クリスチャンサン［Christiansand, Kristiansand］ノルウェー最南端，スカゲラク海峡に臨む港市。人口52,000(1967)。オトラ川河口にあり，造船をはじめ，製粉・製材などの工業が盛ん。港は水産物の水揚げと木材の輸出で知られる。海岸は保養客でにぎわい，ヒルトスハルス(デンマーク)との間にはフェリーカーが就航している。1641年クリスチャン4世*によって建設されたのでこの名がある。1892年の大火で町の大部分を焼失したが，その後復興し，整然とした美観で知られる。〔梶川勇作〕



クリストフォルス　ケルン大聖堂

クリスチャン-ネーム［Christian name］キリスト教徒が洗礼の際に与えられる名。洗礼名・教名・霊名ともいう。ふつう聖人や聖書に登場する人物の名がつけられる。カトリック教会・聖公会で行なわれ，プロテスタント教会ではこれをつけない教派が多い。

クリスティ［Agatha Christie］（1891～1976）イギリスの女流推理小説家。処女作《スタイルズ荘の怪事件》以来，思索型の名探偵(たんてい)ポアロの活躍する作品など約70編の長編推理小説を発表。複雑な物語の展開の中でなぞ解きを進めていく本格物に長じ，《アクロイド殺人事件》《そして誰(だれ)もいなくなった》などの傑作を書いた。

クリストバル［Cristobal］パナマ運河のカリブ海沿岸のコロンの近くにある町。人口400(1950)。パナマ鉄道の管理局がある。第2次世界大戦中，アメリカ合衆国海軍はパナマ運河防備のため，この町に要塞(ようさい)を築いた。

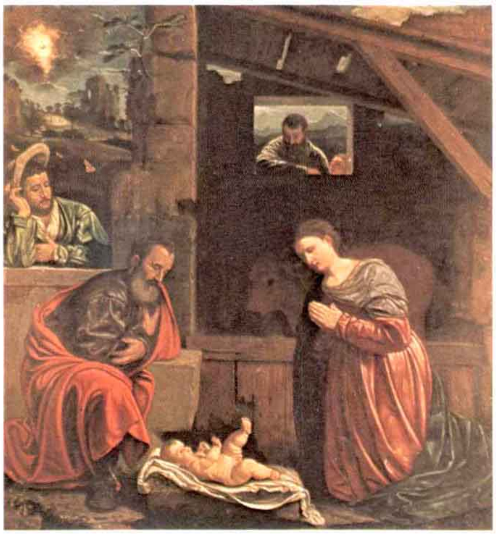
クリストフォルス［Christphorus］生没年不詳。キリスト教の聖人(祝日7月25日)。その名は〈キリストを背負う〉の意で，幼子キリストを背負って川を渡ったという伝説に由来する。その姿は中世から絵画・彫刻の題材として盛んに用いられてきた。今日，水夫・運転手などの守護者として崇拝されている。

クリスピ［Francesco Crispi］（1819～1901）イタリアの政治家。はじめマッチーニ派の志士としてイタリア統一戦争*に参加した。国家統一後は，王党左派の議員として活躍し，1887年～1891年・1893年～1896年の2度内閣を組織。国内で社会主義運動などを抑圧するとともに，対外政策を成功させて政権維持を図り，三国同盟の更新，イギリス・ドイツとの地中海協定の締結，トリポリ進出などを行なったが，エチオピア侵略に失敗して辞職した。

クリスマス［Christmas］キリスト降誕祭ともいう。〈キリストの祭り〉の意で，イエス-キリストの誕生を記念するキリスト教会最大の祭日。12月25日に行なわれ，24日はクリスマス-イブ(クリスマス前夜)とよばれる。キリスト生誕の物語は《新約聖書》の《マタイの福音書》や《ルカの福音書》に記されているが，月日については言及されていない。生年はヘロデ王の世の末であるからBC 4年ごろになる。12月はキリストの生地ユダヤでは雨季のため聖書に記述されている生誕の状況とはそぐわない。原始キリスト教では祝日はなく，東方正教会ではむしろ1月6日の〈公現祭*〉にキリストの誕生と洗礼を祝したことが知られており，西方教会(ローマ教会)では教父ヒッポリュトス(170年ごろ)が12月25日を降誕の日と称したが，正式にこの日を祝うようになったのは教皇ユリウス1世(在位337～352年)のとき以後である。その後東西教会の祝日交換がなされ，4世紀後半には各地で一般に祝されるようになった。クリスマスが12月25日に定められたのは，当時の異教の〈太陽祭〉にとってかわったものといわれる。太陽を祭る異教はキリスト教にとって強力な対抗者であった。その中心をなす祭りが1年の変わりめで，新しい光明と活動を準備するという考えがもとになった〈冬至〉であった。4世紀ごろ12月25日がその日として数えられたので，〈義の太陽〉であるキリストを太陽崇拝の習俗を利用してキリスト降誕を記念したものとみられる。原始キリスト教の指導者たちが農耕暦上の盛大な祭りにイエス-キリストの降誕を結びつけたのがクリスマスである。中世のクリスマスでは，教会の儀式と農神祭につきものの仮装やばか騒ぎが混同して行なわれ，カーニバル的要素も有して一種の混成的宗教行事であった。教会ではこの祝日に限り，司祭は深夜・早朝・午前の3回にわたってミサをあげることができる。これはローマ教皇のみがもっていたもので，4世紀ごろから教皇は深夜ミサをリベリアナ聖堂で，早朝ミサを聖アナスタシア聖堂で，午前のミサをサン-ピエトロ聖堂であげるのが例であった。キリストの生誕を祝う儀式はどの宗派でも教会でも荘重に行なわれ，キリスト教国では休日となっているが，スコッ



クリスマスは最も重要な教会行事の一つである。教会内部ははなやかに飾られる



キリストの降誕　サボルド　16世紀



クリスマス-カロルを歌う少年聖歌隊

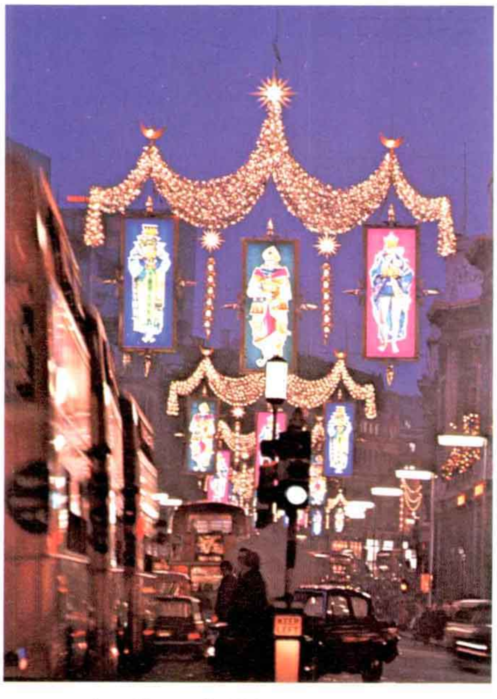


クリスマス-イブには親しい家を訪れ，プレゼントの交換など楽しいひとときを過ごす



クリスマスが近づくと，広場にはさまざまなデコレーションを売る店が並ぶ





ロンドン第一の商店街リージェント街を飾るクリスマス-デコレーション

トランドのピューリタン的な長老派のように特別な礼拝を行なわないものもあり，もちろん信徒もこの日を休日としないで，1月1日がクリスマスの代わりとなっている。〔五十嵐誠〕

クリスマス(島)［Christmas］ジャワ島南方420kmにあるインド洋上の島。オーストラリア領。面積160km²。密林におおわれ，海岸はサンゴ礁石灰岩の高いがけに囲まれている。1650年に発見されるまでは無人島であった。グアノ*の産地として知られ，マライ人がその採掘を行なっている。人口は3,000余で，その3分の2は華僑(かきょう)が占める。第2次世界大戦中，日本の占領時代に急速に発展した。

クリスマス(島)［Christmas］中部太平洋，ライン諸島にある太平洋最大のサンゴ環礁の島。面積578km²。人口370(1968)。主産物はココナッツ。1777年クックが発見し，1919年からギルバート諸島・エリス諸島とともにイギリスが統治している。イギリスは，この島へギルバート諸島の住民をコプラのプランテーション労働者として移住させた。航空基地として重要で，1962年(昭和37)に行なわれた核実験はわが国にも大きく報道された。〔大崎　晃〕

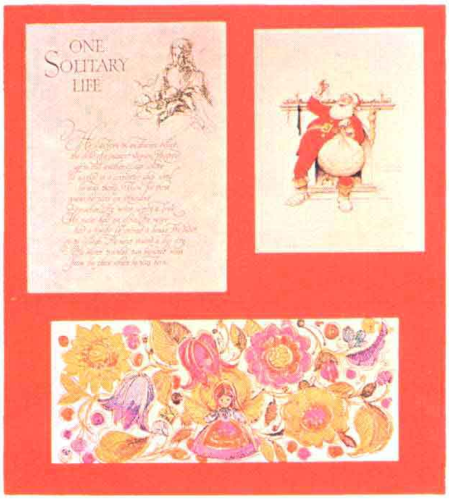
クリスマスおんがく【クリスマス音楽】広義には，クリスマスに関する内容をもつか，またはこの時期に好んで演奏される音楽をさし，狭義には，キリストの生誕を祝う礼拝用の音楽のみをさす。《ジングルベル》や《ホワイトクリスマス》は前者の例であり，カトリック教会での《キリスト降誕大祝日のためのミサ曲》，プロテスタント教会でのバッハの教会カンタータ《キリスト者よ，この日を銘記せよ》などは後者の例である。

クリスマス-カード［Christmas card］クリスマスを祝い，喜びを交換する美しいカード。イギリスの画家ホーズリー(1817～1903)が描いたものが最初とされ，1870年各国の郵便制度が定まって世界的に広がり，ますます盛んになっていった。

クリスマス-カロル　ディケンズ*の小説(1843)。クリスマス物語シリーズの第1作。けちでがんこなスクルージ老人が，クリスマス-イブの夢の中に友人の幽霊の導きで自分の過去・現在・未来の姿を見，一念発起して隣人愛にめざめるという寓話(ぐうわ)。

クリスマス-ツリー［Christmas tree］クリスマスを祝うため，モミやエゾマツの木に幼児キリストへのささげ物をつるして飾る。起源はイギリスのベネディクト会修道士ボニファチウス(672?～754)がドイツに伝道したとき，北欧神話の神オーディンに人間をカシの木につるしてささげた風習をやめさせるため始めたものという。

クリスマスローズ［Christmas rose］双子葉植物・キンポウゲ科。ヨーロッパ，西部アジア原産の多年草。明治の初めに日本にはいり，切り花・はち植えとして栽培さ



クリスマス-カード



クリスマスローズ　ヘレボルス-ニガー



クリタマバチ寄生したためにできた虫こぶの断面で，乳白色の幼虫が見られる

れる。高さ30cm内外。葉は根ぎわよりはえ，掌状複葉。花は直径6cmくらいで白色や紅紫色。花期は1～3月だが12月にも咲くのでこの名がある。

グリセオフルビン［griseofulvin］1939年イギリスのオックスフォードらによって真菌から分離された抗生物質。当時は細菌に対する抗菌性を示さなかったので注目されなかったが，その後の研究で人および動物の皮膚・毛髪・つめなどを侵す病原性糸状菌の発育を阻止することが認められた。現在，水虫・ぜにたむし・いんきんなどの治療に広く用いられている。在来の外用療法に対し，経口投与によって有効であることが特徴。まれに起こる副作用として，頭痛・胃腸障害があるが，内服を中止すると消失する。〔川村次良〕

グリセード［glissade］登山用語。スキーをはかず山ぐつのまま氷雪の斜面をすべって下降すること。急斜面では制動のためピッケル*を利用するのが普通。高度な習練を要し，安易な乱用は事故のもとになる。

グリセリド［glyceride］グリセリンの脂肪酸エステルの総称。グリセライドともいう。グリセリンの水酸基がエステル化された数によってモノグリセリド・ジグリセリドおよびトリグリセリドの3種に分類され，また，モノおよびジグリセリドにはエステル化の位置によってそれぞれ2種ずつ異性体が存在する。エステル結合する酸がすべて同一の場合は単一あるいは単純グリセリド，2種または3種の場合は混合グリセリドとよばれる。天然には高級脂肪酸エステルとして大部分が混合グリセリドの形で動植物の脂肪油中に見いだされる。➔油脂〔石戸良治・荒木洋之助〕

グリセリン［glycerin］グリセロール・1，2，3-プロパントリオール・リスリンともよばれる三価のアルコール。吸湿性のある無色のシロップ状液体で，ショ糖の約0.6倍に相当する甘みがある。脂肪酸エステルは脂肪油として動植物界に広く見いだされる。グリセリンはせっけんや脂肪酸の製造時に副生成物として得られるが，プロピレンから化学的に合成することもできる。そのニトロエステル，すなわちトリニトログリセリンはダイナマイトの原料として使われる。そのほか，溶剤・湿潤剤・浣腸(かんちょう)剤・粘滑剤・防凍剤などとして使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

CH_2OH
|
$CHOH$
|
CH_2OH

クリソストモス［Jōhannēs Crysostomos］(354ごろ～407)コンスタンチノープル大主教。説教者。クリソストモスは〈黄金の口〉の意。道徳的に峻厳(しゅんげん)であったので，皇帝アルカディウスの妃エウドクシアにより追放された。一度許されたが，再び追放され，小アジアで没。聖書の注解にすぐれ，《ロマ書》の注解は傑作とされる。ほかに《教職論》がある。

くりたけ【栗茸】担子菌類・モエギタケ科。秋に広葉樹の切り株・倒木・枯幹の上やその周辺に群生するきのこ。かさの径3～10cm。はじめ半球形に開き，のち扁平(へんぺい)に開く。表面はくりかっ色で中央部は濃かっ色となる。上に微細で白色の繊維をまとっている。茎の高さ5～10cm，径1cm内外。食用となる。➔きのこ

くりたまばち【栗没食子蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・タマバチ科。クリの害虫として知られる。体長2～3mm，黒色または黒かっ色。頭部は幅広く，短い。翅(はね)は透明で，前翅の翅脈はかっ色。腹部は頭胸部よりわずかに長く，表面はなめらかで強い光沢がある。卵は楕円(だえん)形で長径0.2mm内外，乳白色。一方の端に細い透明の柄がある。幼虫はうじ状で，乳白色。さなぎははじめ乳白色であるが，羽化直前のもの

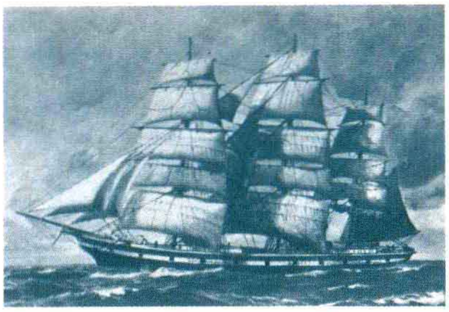
では黒色。年1回発生。冬は冬芽の内部で若齢幼虫態で越す。翌春，芽の生長とともに幼虫は成育し，4月ごろ芽は異常に膨大して紅色のこぶ状となり，小さい葉が多数生ずる。本種の寄生を受けた木は樹勢が衰え，実もならなくなる。幼虫は5月下旬から6月上旬にかけてさなぎになり，成虫は6月下旬から7月中旬に出現し，頂芽や腋芽(えきが)に数粒ずつかためて産卵する。本種は1941年(昭和16)に岡山県下ではじめて発見されたが，その後急速に各地に広がり，現在では群馬県以南の各地に発生している。被害の程度はクリの品種によって異なり，また品種の抵抗性も変化しているので注意を要する。〔鈴木邦雄〕

クリチバ［Curitiba］南アメリカ，ブラジル南部のパラナ州にある都市。人口48万3,000(1970)。ドイツ人・イタリア人・ポーランド人などの諸民族によって建設された新しい都市で，近年シリア人・日本人も居住している。コーヒーの集散地でブラジル陸軍の基地もある。

クリック［Francis Harry Compton Crick］(1916〜) イギリスの分子生物学者。ロンドン大学・ケンブリッジ大学で物理学を専攻，やがて生物学に転向。1953年，ケンブリッジのキャベンディシュ研究所で，J.D.ワトソンとともにDNAの構造の二重らせんモデルを提出，分子生物学の展開に一つの画期をつくった。1962年ノーベル医学生理学賞を，ワトソン・M.H.F.ウィルキンスとともに受賞。

クーリッジ［John Calvin Coolidge］(1872〜1933) アメリカの政治家。第30代大統領。在任1923〜1929年。アマースト大学卒業後，弁護士となる。のちマサチューセッツ州知事。1920年共和党から副大統領に当選し，1923年ハーディングの死で大統領に昇格，1924年再選された。在任中は自由放任の経済政策で〈クーリッジ景気〉を実現，1927・1928年には農産物の生産制限を目的とするマクナリー-ホーゲン法案を拒否し，行政簡素化と税率引き下げを主張した。対外的には孤立主義を原則としたが，不戦条約*・ドース案(対ドイツ賠償案)など国際平和の維持に努力した。清廉潔白な人がらで尊敬された。〔折井一彦〕

クーリッジ［William David Coolidge］(1873〜1975) アメリカの物理化学者。マサチューセッツのハドソンに生まれ，マサチューセッツ工科大学で学び，やがてその助教授となり，物理化学を講じたが，のちゼネラル-エレクトリック社にはいり，以後その研究所で仕事をした。1932年以降，同研究所長。タングステンに延性を与えることに成功してタングステン線をつくり，タングステン電球の実用化に成功し，また，熱陰極X線管(クーリッジ管)を作製してそれまでのガスX線管に替え，X線研究に貢献した。第2次世界大戦後，連合軍司令部の工業技術再編計画のため来日したことがある。〔藤村 淳〕



クリッパー



グリニッジ天文台

クーリッジかん［クーリッジ管］⇨X線管

クリッチュ［Karl Klic］(1841〜1926) ボヘミアの印刷技術者。化学を専攻し，写真や印刷術を研究した。イギリスの発明家タルボット(1800〜1877)が考案した銅版を塩化鉄液で腐食して写真凹版(おうはん)をつくる方法を改良し，1875年にカーボンティッシュ(顔料を混ぜた軟ゼラチンを薄紙に塗ったもの)を応用した写真凹版の製法を完成した。さらにこれを改良して，1890年ごろ網目式グラビアを完成し，高速度で美術的版画を作製することができるようになった。1895年イギリスに工場を設け，〈レンブラント凹版〉の名で印刷し，グラビア版の創始者とされている。➔グラビア印刷〔山崎俊雄〕

グリッド ⇨真空管

グリッドけんぱ［グリッド検波］⇨復調

グリッドバイアス ⇨真空管

クリッパー［clipper］1832年，アメリカでつくられたアン-マッキム号に始まって19世紀に活躍したシップ型の快速帆船で帆船黄金時代を出現させた船種。1847年ころから北アメリカ東岸を発し南アメリカを回って北アメリカ西岸に至る快速帆船が活躍し，カリフォルニア-クリッパー，またはホーン-クリッパーなどとよばれた。これと同じころイギリスでも船形の改良が行なわれ，特に船首は水切りがよくなってクリッパー型船首の起こりとなった。有名な船は，グレート-レパブリック号・スリーブラザーズ号・サーモフィラエ号・フライング-クラウド号・カッテー-サーク号などで，1日に363海里の航走記録もある。これらの船はロンドンに向かって中国からの茶(ティー-クリッパー)や，オーストラリアからの羊毛(ウール-クリッパー)などの輸送に従事し，互いに速力を競ったが，中でもティー-クリッパーの競走は激しく，1866年の競走では第3着までが16,000海里の航程を99日で走破したほどの接戦であった。〔飯島幸人〕

クリップス［Richard Stafford Cripps］(1889〜1952) イギリスの政治家。ロンドン大学卒業後弁護士となり，王室顧問弁護士を経て1931年以後下院議員に選ばれた。労働党左派に属し，1936年には，フランスやイタリアの経験を参考に，共産党を含む統一戦線(人民戦線)を主張した。1939年に労働党から除名されたが，駐ソ大使・航空機生産相を経て，1942年，第2次世界大戦にインドの協力を得るため特命使節として派遣された。戦後，労働党のアトリー内閣のもとで経済相・蔵相となり，経済再建に尽くした。〔松下京子〕

クリニック［clinic］一般には診療所のことをいうが，臨床医学全般や臨床講義をさしていうこともある。基礎医学に対応し，実際に病人の診断・治療，その他の処置をなすことを意味している。➔診療所 ➔臨床医学

グリニッジ［Greenwich］イギリス，ロンドンの南東約10kmのテムズ川南岸にあるロンドン大都市圏の住宅地区。人口22万8,000(1969)。1675年，テムズ川を見おろす高さ54mの丘にグリニッジ天文台*が建てられ，1884年の国際協定によって，ここを通る子午線が世界の標準時，経度の基準とされた。1953年天文台は南方80kmのサセックス州ハーストモンソーに移され，現在その跡は公園内の博物館となっている。

グリニッジじ［グリニッジ時］地球上の経度の原点であるイギリスのグリニッジにおける地方時*。グリニッジ時と東経λの地点における地方時Tとの間には

$$T = \text{グリニッジ時} + \lambda$$

という関係がある。

グリニッジしごせん［グリニッジ子午線］グリニッジ天文台(旧)の子午環を通る子午線。1884年これを経度0°とし基準にすることが国際的に定められ，世界時の原点とされた。本初子午線ともいう。

グリニッジてんもんだい［グリニッジ天文台］1675年，イギリスのチャールズ2世によって，ロンドン近郊グリニッジに，天体位置の精密観測を目的として設けられた天文台。経度0°で緯度は北緯51°28′38″。以後位置天文学の本家として，星の位置，時刻の測定，暦の編纂(へんさん)などを行なってきたが，19世紀中ごろから太陽観測など天体物理の研究も行なわれるようになった。第2次世界大戦後環境の悪化を避けてサセ

ックス州ハーストモンソーの古城に設備を移し，グリニッジの旧天文台は博物館に引き渡された。新天文台には口径91cm反射望遠鏡や子午環が新設され，1967年にはニュートンを記念してつくられた口径250cmの反射望遠鏡が完成した。〔守山史生〕

グリニッジひょうじゅんじ【グリニッジ標準時】 ⇨世界時

グリニッジビレッジ［Greenwich Village］アメリカ合衆国，ニューヨーク市マンハッタン区南部の，ワシントン広場を中心とする地区。ビレッジ(村)とよばれてはいるが，摩天楼に囲まれた異国的ふんい気の強い一角となっている。前衛的な作家や芸術家の居住地として有名で，最近はビート族のメッカとしても知られている。

グリニッジへいきんたいようじ【グリニッジ平均太陽時】 グリニッジ標準時・グリニッジ常用時・グリニッジ平均時・世界時ともいう。グリニッジにおける平均太陽時のこと。全世界の標準時の基本となっている。日本の標準時はグリニッジ標準時より9時間進んでいる。➔世界時

グリニャール［Victor François Auguste Grignard］(1871～1935)フランスの有機化学者。1901年グリニャール試薬を発見し，有機合成に貢献した。これによって，1912年にフランスのサバチェとともにノーベル化学賞を受けた。

グリニャールしやく【グリニャール試薬】 有機ハロゲン化合物を金属マグネシウムと無水エーテル中で反応させて得られる試薬。フランスの化学者グリニャールがはじめてつくって，これを各種の有機化合物の合成反応に利用したことからこの名がつけられた。この試薬を用いて合成できる有機化合物は炭化水素・一級アルコール・二級アルコール・三級アルコール，ケトン・カルボン酸・アセチレン誘導体など，きわめて多種にわたり，有機合成化学上きわめて重要である。〔石戸良治・荒木洋之助〕

くりのべしさん【繰り延べ資産】 本来は費用の性格をもつ支出であるが，期間損益計算の観点から当会計年度の費用として経理されずに，次期以降に資産として繰り延べられるものをいう。つまり，本来費用であるものを，貸借対照表の資産の部に計上して数期間にわたって順次費用として処理していくものである。これには，創立費・開業費・新株発行費・社債発行費・社債発行差金・開発費・試験研究費などがある。これらは，時間の経過とともに単純に費用化していく性質のものではなく，どの会計年度に費用として処理するかを明確に定められない。費用としての処理は，商法第286条，286条ノ2から5まで，287条および291条の規定に基づいてなされる。ただし，これらは本来的な資産ではなく，人為的・計算的に考えられた一時的な資産であるから，早期に費用として処理し，収益による回収を図る必要がある。〔山桝忠恕〕



クリノメーター

クリノメーター［clinometer］地層の走向・傾斜をはかる器械。傾斜儀ともいう。日本で考案されたもので，構造は簡単であるがきわめてすぐれている。方向を示すための磁石と磁石の軸のまわりに自由に回転しうる小さなおもりのついた針，気泡(きほう)水準器が長方形の板に取りつけられている。磁石の目盛りは，南北方向は板の長辺に平行に，東西は，真の東西と反対に刻まれているのが特徴である。地層の走向は，気泡が管の中央にくるようにして水平に保ちながら地層にあてて磁針の読みではかる。傾斜は，クリノメーターの側面を走向に直角の方向にあて，おもりの示す角度をはかって決める。近年はさらに改良して，鏡その他の付属品をつけたものも市販されている。〔平山　健〕

クリノリン［crinoline］ペチコートの一種。スカートを張らせるためには，何枚ものアンダースカートを重ねるが，それ以上の張りを保たせるために用いるもので，ちょうちん状やかご状に鯨骨・針金・テープなどでつくられる。極端にスカートを張らせる服が流行した19世紀中ごろに，ナポレオン3世の妃ラージュニーが使用したのがきっかけとなり当時の社交界に大流行をもたらしたといわれる。

くりはし【栗橋(町)】 埼玉県北東部にあり，北葛飾(きたかつしか)郡に属する。人口20,000。利根(とね)川に沿い，奥州街道の宿場町・渡船場，1・6の市が開かれる市場町として発達した。付近には水田が多い。現在は国道4号線が通じ，東北本線・東武鉄道日光線の栗橋駅がある。昔から利根川の洪水(こうずい)に悩まされ，1947年(昭和22)9月のカスリン台風では，北隣の北埼玉郡大利根村で堤防が決壊し，町は濁流中に孤立した。栗橋の地名は，慶長年間(1596～1615)に，下総(しもうさ)国栗橋村(現在の千葉県東葛飾郡関宿町の一部)からの移住民による開墾に由来する。1957年静・豊田2村を合併した。

くりはま【久里浜】 神奈川県の三浦半島東岸，浦賀水道に面した久里浜湾に臨む地区。もと三浦郡久里浜村で，1937年(昭和12)横須賀(よこすか)市に編入された。幕末の1853年(嘉永6)，アメリカの東インド艦隊司令官ペリーが上陸した地点として史上名高い。ペリーと幕府代表との会見場所に記念碑が立ち，7月14日の上陸日には〈黒船祭〉が行なわれる。かつては平作(ひらさく)川下流の砂浜海岸で沿岸漁業が営まれていたが，第2次世界大戦中に埋め立てが行なわれ，海軍基地として発展した。戦後は自衛隊や防衛大学校，在日アメリカ軍施設などが設定され，最近は東京電力の火力発電所(出力193万kW)や水産加工工場が埋め立て地に新設されて，久里浜工業地区が形成されている。国鉄横須賀線・京浜急行電鉄久里浜線が通じ，対岸の金谷(かなや)(千葉県)へフェリーボートが就航する。〔浅井得一〕

くりはらん【栗葉蘭】 シダ植物・ウラボシ科。暖地の谷間の陰湿地にはえる30～70cmの常緑シダ。根茎は長く伸び，葉をまばらにつける。葉は有柄の単葉，線状で全縁。胞子嚢(ほうしのう)群は包膜を欠き，球形で中央の主脈に1列につく。

クリーピング-インフレーション［creeping inflation］〈しのび寄るインフレーション〉ともいい，物価水準の上昇が徐々にではあるが，継続的に進行する状態をいう。➔インフレーション

クリープ［creep］材料の塑性域における時間遅れ変形現象の一つで，一定の荷重または応力のもとにひずみが長時間の経過につれて増大する現象。応力と温度が高くなるほど著しい。したがって，高温運転を行なうタービンの設計に際しては注意を払う必要がある。

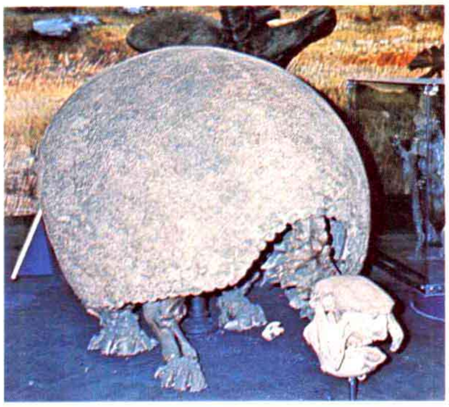
グリフ［Jacques Griffe］(1915～1967) フランスの服飾デザイナー。南フランスに生まれ，20歳でパリの洋装店にはいる。1946年に独立して店をもち，その後中堅の店として活躍，特にアメリカのバイヤーたちに高く評価された。作風はけれん味がなく機能的で，プリーツのテクニックをよく駆使した。

グリフィス［David Wark Griffith］(1875～1948) 初期アメリカ映画の代表的な監督。ジャーナリスト，詩人，金属工，巡回劇団の俳優などを経たのち，《ドリーの冒険》(1908)で映画監督としてデビュー。《国民の創生》《イントレランス》は映画史上画期的な作品で，クローズ-アップ・ロング-ショット・カット-バックなどの技法を駆使して，迫力ある叙事詩的世界をつくりだした。その斬新(ざんしん)な技法によるモンタージュは，のちの映画作家，特にエイゼンシュテインなどに大きな影響を与えた。〔波多野哲朗〕

クリプトコッカスしょう【クリプトコッカス症】 真菌の一種である，クリプトコッカス-ネオフォルマンスによって起こされる亜急性あるいは急性の感染症。肺・リンパ

腺(せん)・皮膚その他の臓器が冒されるが，この真菌は，髄膜・脳に親和性があり，髄膜炎の型をとることが多い。比較的まれな疾患で，わが国では1915年(大正4)にはじめて報告された。1950年(昭和25)ごろから増加の傾向があり，年平均10例くらいの報告がみられる。従来はよい治療法がなかったが，近年アンホテリシンBによる治療が好成績を示している。〔清水喜八郎〕

グリプトドン [glyptodon] 新大陸の第三紀始新世に現われ，その後絶滅した貧歯獣。アルマジロに似る。内骨格と外骨格はカメのように密接し，前者は後者をささえる。頭・胴・尾はみな骨板からなりたつ甲におおわれる。甲は動かぬように縫合線で結びつき，体長2m内外で，高さ1.5mに達する。しかし，甲には節がなく，からだを丸めて敵を防ぐことはできなかった。



グリプトドン

クリプトン [krypton] 周期律表第0族に属する希ガス類元素の一。記号Kr，原子番号36，原子量83.80。1898年ラムゼーおよびトラバースにより，液体空気を蒸発した残渣(ざんさ)から発見され，〈隠れたる〉のギリシア語にちなんで命名された。無色・無臭の不活性な気体。融点−156.6℃，沸点−152.9℃，密度3.708g/l。クリプトンの輝線スペクトルは，カドミウムの赤色スペクトル線に代わって，長さの標準に用いられている。〔古屋　弘〕

くりぶね【刳船】 丸太をくり抜いて中央部にくぼみをつくり，両端をとがらせた船。丸木舟ともいう。丸太1本では不安定なので，腕木を出し，その先に浮きをつけたものもある。1本の丸太でつくられたものを単材くり船，2本以上の丸太を継ぎ合わせてつくったものを複材くり船という。

クリーブランド [Cleveland] アメリカ合衆国オハイオ州北部，エリー湖南岸の大工業都市。人口75万，大クリーブランド206万4,000(1970)。オハイオ州第1位，合衆国第8位の都市で，スペリオル湖岸の鉄鉱石，オハイオ州北部の石炭，エリー湖岸の石灰岩を安価に得られる位置にあったことから工業が急速に発展した。鉄鋼・自動車・衣服・造船・石油精製・食品かんづめなどの工業が盛ん。市民の40%は合衆国以外の出身者かその子孫で，黒人も多い。1796年M.クリーブランド将軍によって土地測量が行なわれ，建設された。〔相村大彬〕

クリーブランド [Stephen Grover Cleveland] (1837〜1908) アメリカの政治家。第22・24代大統領。在任1885〜1889年・1893〜1897年。ニュージャージー州の生まれ。ニューヨーク州バッファロー市長，および州知事をつとめた。行政能力と公平さで，1884年南北戦争後はじめて民主党から大統領に当選。関税率の引き下げ，公務員制度改革の拡大，イギリスとの漁業紛争の解決に努力したが，関税・官吏任命問題で議会と対立し，南北戦争従軍者への恩給問題で国民の支持を失い，1888年落選。1892年再選。1893年恐慌に際し金本位制を支持し，シャーマン銀購入法を撤回し，銀貨自由鋳造に反対，党内自由銀貨鋳造派の非難を浴びた。外交面ではハワイの併合に反対し，ベネズエラへのイギリスの進出を阻止し，キューバ独立戦争では中立を堅持した。〔折井一彦〕

クリーブランドかんげんがくだん【クリーブランド管弦楽団】 アメリカの五大交響楽団の一。1918年にクリーブランド音楽芸術協会の専属交響楽団として創立された。初代の指揮者はニコライ-ソコロフで約15年，次いでロジンスキーが10年，さらにラインスドルフが4年その任にあたった。しかしこのオーケストラがアメリカ屈指の存在となったのは，1946年から常任指揮者となったジョージ-セルの功績であろう。緻密(ちみつ)なアンサンブルと透明で厚みのある響きで知られる。1970年に来日。〔向坂正久〕

クリーブランドざいばつ【クリーブランド財閥】 アメリカ八大財閥の一つで，シカゴ財閥*・ボストン財閥*とともに有力な地方財閥。その中心はクリーブランドにあり，クリーブランドクリッフス製鉄を中心に鉄鋼業などの重工業に支配力をもっている。19世紀の前半から産業資本家として勢力を広げ，19世紀後半アメリカ産業資本主義勃興(ぼっこう)の波に乗り企業合併を次々に行なった。その後三つのグループに分かれ，いずれも金融機関を中心に，メイザー系とハンナ系は北部の鉄鉱山や五大湖を中心に発展を遂げ，ヤング-イートン系は新興勢力として石油・ゴムその他の化学工業会社を傘下(さんか)に収めた。おもな企業は，ヤングスタウン-シート-アンド-チューブ・リパブリック製鋼・インランド製鋼・ホイリング製鋼などである。〔片岡一郎〕

クリボイログ [Krivoi Rog] ソビエト連邦西部，ウクライナ共和国の都市。ドニエプル川支流のイングレツ川に臨む。人口62万(1973)。世界的な鉄鉱産地の中心都市で，19世紀に鉱山が開かれてから発展した。冶金(やきん)・鉱山機械・コークスなどの工業が盛んである。第2次世界大戦中，ドイツ軍により鉱工業施設のほとんどを破壊されたが，戦後，いちはやく復興した。

クリボイログ(鉱山) [Krivoi Rog] ソビエト連邦西部のウクライナ共和国南部にあるソ連最大の鉄鉱山。その規模は，クリボイログ市を南北に貫き，幅2〜7km，全長約100kmに及び，鉄分含有量は46〜47%，推定埋蔵量は約10億t以上といわれる世界でも屈指の大鉄鉱床である。採掘方法もソ連では最も機械化されており，1881年に開発が始まり，第2次世界大戦中はドイツ軍に占領されて荒廃したが，戦後の5か年計画で復興された。中心都市のクリボイログ市は人口62万(1973)。東のドネツ炭田や南東のマンガン産地ニコポリとは鉄道で結ばれ，火力発電所とドニエプル川の水力発電所からの送電により，ドニエプル重工業地帯を形成し，製鉄・機械・金属加工などが盛んである。〔大石堪山〕

グリボエードフ [Aleksandr Sergeevich Griboedov] (1795〜1829) ロシアの劇作家。大学卒業後一時軍隊にはいったが，外務省に移り，外交官として活躍するかたわら戯曲を書き，《知恵の悲しみ》一作でロシア近代劇史に不朽の名をとどめた。《知恵の悲しみ》は，進歩的で理想家はだの青年と，頑迷(がんめい)無知な保守派の貴族官僚との衝突を描いた韻文の喜劇で，作者自身親交の深かったデカブリストに近い思想をもつ青年の怒りを描き出している。作者は公使としてペルシアに赴任してまもなく，暴徒によって虐殺された。〔北垣信行〕

グリマルディ [Francesco Maria Grimaldi] (1618〜1663) イタリアのイエズス会士で数学者・物理学者・天文学者。ボローニャで数学を教えながら光学を研究し，プリズム*による太陽スペクトル*を論じ，光の回折*や干渉*現象を報告している。また，色の問題に関連して色を物体の構造に帰するとともに，光の波動説の芽ばえともいえる見解を示し，光学研究上，先駆的役割を果たした。

くりまわし【繰り回し】 和服を仕立てなおすのに，傷やいたみの部分を，着たときに見えないところに置き替えたり，そでと身ごろを差し替えたりすること。

くりまんじゅう【栗饅頭】 くりあんまたは甘く煮含めたくり入りの白あんをはさんだ小判形の焼き菓子。砂糖に卵を混ぜてよくすり，柔らかく伸ばした水あめを少量加える。これに小麦粉をふるって加え，軽くこねてから小さくちぎってあんを包み，小判形に整える。表面につやを出させるために卵黄(みりん少々加える)をはけで塗り，オーブンで焼く。江戸中期にはくりあんを用いた蒸し物のまんじゅうであったという。

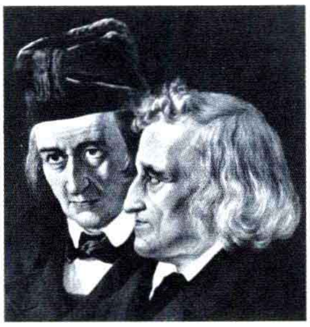
クリミア(半島) [Krym] クリム半島ともいう。ソ連南西部で，黒海に突き出す半島。面積26,000km^2。半島頸部(けいぶ)にペレコプ湾とアゾフ海の湾入が深くはいりこみ，島

状を呈する。北部は低平であるが，南部はヤイラ山脈が東西に走り山地になっている。この山地が冬季の寒気をさえぎるため，南部はソビエト連邦の代表的な保養地となり，ブドウやオレンジ・タバコなどの栽培も可能にしている。すでに紀元前にギリシア人の植民が行なわれ，黒海の北岸から東北方に広がっていたスキタイ人の国家とも交流があり，その高度な文化遺跡が数多く残っている。その後は地中海諸国の植民地となり，支配者もしばしば変わったが貿易により繁栄した。1783年，ロシア帝国領となったが，その南下策がしばしばトルコとの間に紛争をひき起こし，それにイギリス・フランスの植民政策がからんでこの半島が戦場になった。クリミア戦争*がこれである。住民はロシア人やウクライナ人が多いが，タタール人やギリシア人もみられる。おもな都市は，セバストポリ(海軍基地・造船業)・ヤルタ(保養地)・ケルチ(鉄山・製鉄)など。〔長津一郎〕

クリミアせんそう【クリミア戦争】1853～1856年，ロシアとトルコ・イギリス・フランス・サルデーニアの間で行なわれた東方問題の一環をなす戦争。当時ロシアがもっていたパレスチナの聖地管理権を，ナポレオン3世の要求によりトルコがフランスに返そうとしたことから，まずロシア・トルコ間に戦争がはじまり，次いでロシアの南下を恐れるイギリス・フランスなどがトルコを支援してロシアに宣戦した。戦争は，クリミア半島におけるロシアとイギリス・フランスのセバストポリ攻防戦が主体となり，1856年3月パリ条約*調印により終結した。その結果黒海は中立化され，ロシアは南下をはばまれて1861年農奴解放令*を発布するに至り，勝利を得たナポレオン3世は人気を高めて政権を強化した。この戦争はまたナイチンゲール*の救護活動でも有名である。〔大野慎一郎〕

クリミアてんもんだい【クリミア天文台】ソ連の天文台。クリミア半島の中央部，海抜700mの丘陵の上にある。口径125cmおよび260cmの反射望遠鏡・太陽塔望遠鏡など，新鋭の装置を備えた近代的な天文台。惑星*，特異星のスペクトルの研究，銀河系外星雲*などの微光天体の観測，太陽磁場の測定などに業績をあげている。

くりみが【栗実蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヒメハマキガ科。クリオオシンクイともいい，クリの害虫。成虫は暗灰色で，翅(はね)を広げた長さ15～21mm。前翅の中央部は青緑色で，外縁部に太い黒かっ色帯があり，後翅は淡黄色。年1回発生。本州・四国・九州のほかヨーロッパまで広く分布し，成虫は9月ごろ出現する。成虫はクリの果柄の基部やいがの近くの葉裏に産卵し，孵化(ふか)した幼虫はいがの割れ目や食入孔から果実に達し，内部をトンネル状に食害し，食入孔からふんを外部に出す。



グリム兄弟

クリム(半島) ⇨クリミア半島

クリーム [cream] 牛乳からとった，やや黄みがかった白色の脂肪。おもにバターやアイスクリームの原料として用いられる。バター製造には脂肪含量40%前後のもの，アイスクリームは約18～25%の薄いものを使用し，ケーキ用には脂肪分40～45%のものを用いる。このほか，ソース・スープの調理に用いたり，くだもの・紅茶・コーヒーなどに添える。

クリーム [cream] 基礎化粧品の一種。はだの洗浄・保護，またはだに栄養と潤いを与えるために用いる。オリーブ油・ステアリン酸・蜜蠟(みつろう)・ラノリン・流動パラフィン・ワセリンなどの油性成分と，グリセリン・プロピレングリコール・水などの水性成分とを乳化して製造したもの。使用目的から洗浄用クリーム(クレンジングクリーム)・栄養クリーム・マッサージクリーム・化粧下クリームに大別され，構成成分から親油性クリームと親水性クリームに分けられる。《親油性クリーム》コールドクリームで代表されるもので，クレンジングクリーム・栄養クリーム・マッサージクリームなどは，このクリーム成分をそれぞれの目的に合わせて配合し，その他の薬品を混入したものといえる。クレンジングクリームは，固形パラフィン・流動パラフィン・ワセリンを用いて皮膚からの吸収を避け，体温でとけて延びをよくするために，やや軟質に製造されている。栄養クリームは，動植物の油脂を主成分にして，それにビタミン・ホルモンなどの薬品をプラスしてある。マッサージクリームには少量のデンプン類とカゼインが添加されている。《親水性クリーム》バニシングクリームで代表されるもので，皮膚に塗ると吸収されるように消えていくので名づけられた。このクリームは皮膚に潤いを与え，化粧下クリームとして適している。〔メイ-ウシヤマ〕

クリームいろ【クリーム色】色名。牛乳から製したクリームのような色。明るい灰黄色。しかし，一般にはわずかに赤みのある淡黄色がクリーム色といわれている。日本工業規格(JIS)〈クリーム色〉は，色相5.5Y，明度8.5，彩度3.5の色と規定されている。➔色

クリムかんこく【クリム汗国】15～18世紀，クリミア半島のクバン河流域，アゾフ海沿岸，黒海沿岸を支配したモンゴル系の封建国家。これらの地域ははじめキプチャク汗国*に支配されていたが，1427年クリム汗ハジ-ギレイのもとに独立国家となり，15世紀末から16世紀にかけて最も栄えた。15世紀末オスマン-トルコの従属国になると，ロシアとの抗争が続いた。第1次ロシア-トルコ戦争*の結果クチュク-カイナルジ条約*が結ばれ，クリム汗国はトルコから独立したが，1783年エカテリナ2世*によりロシアに併合された。〔山県弘志〕

グリムきょうだい【グリム兄弟】ヤコブ(Jacob Grimm 1785～1863)とウィルヘルム(Wilhelm Grimm 1786～1859)の兄弟をいう。ともにドイツの言語学者。非常に仲がよく，助け合いながら偉大な功績を残した。〈グリム童話〉とよばれる《子どもと家庭のための童話》3巻(1812～1822)もふたりの編集により，兄弟の住むヘッセン州の民話を集め，形を整えて出版したもの。ドイツ童話の典型として各国語に訳され，広く読まれている。その中には，《ヘンゼルとグレーテル》《おおかみと7匹の子やぎ》《赤ずきん》《白雪姫*》など，有名なものが多い。晩年は，ともに《ドイツ語大辞典》の編集に従事し，1852年第1巻が出，第4巻からは歴代の学者たちに継承されて，最近ようやく完成した。〔松尾幸子〕

グリムスビー [Grimsby] イギリス，イングランド北東部，ハンバー川河口にある港市。人口97,000(1969)。イギリス最大の漁港で，ここで水揚げされる漁獲量はイギリス全国の3分の1を占める。1849年に開かれた大きなドックをもち，造船業も盛んである。第2次世界大戦後は重化学工業も興っている。

クリムト [Gustav Klimt] (1862～1918) オーストリアの画家。1898年，ウィーンにおける〈セセェッション*〉の創設会員となったが，1904年にこれを脱退。ユーゲント-シュティル(➔アール-ヌーボー)特有の平面的・装飾的傾向を備え，柔らかい色調の象徴的な絵を制作した。肖像・風景画には，具象的な描写に独自の点描的手法，切金*などの装飾的技法の使用が認められる。

クリームに【クリーム煮】日本では野菜類・魚貝類・鶏肉などをベシャメルソース(バターでいためた小麦粉を牛乳で伸ばしたクリーム状の白いソース)で煮た料理をいう。フランス料理名は〈……ア-ラ-クレーム〉で，この中にはベシャメルソースで煮たものと濃いクリームで煮たものとがある。野菜のクリーム煮は肉料理や魚料理のつけ合わせにするが，肉や魚貝類などを加えたものは独立した料理として扱うことが多い。さめると固まって味が落ちるので，熱いうちに供する。〔泉　敬子〕

くりもとじょうん【栗本鋤雲】(1822～1897) 政治家・新聞記者。本姓は喜多村。

幕医の栗本氏を継いだ。名は鯤(こん)。匏庵(ほうあん)または鋤雲は号。安芸守(あきのかみ)。はじめ幕医となったが，上司の忌諱(きい)に触れて蝦夷(えぞ)に移され，函館(はこだて)に10年いたが，1865年(慶応1)外国奉行(ぶぎょう)，1867年外国奉行兼箱館奉行になり，渡仏した。在任中フランス文化の移殖に努め，横須賀(よこすか)造船所を設立した。1872年(明治5)横浜毎日新聞にはいり，翌年郵便報知新聞の編集を主宰，才筆をふるった。遺著は《匏庵遺稿》に収録。〔岸野淳子〕

くりやがわのき【厨川柵】 岩手県盛岡市の北西，北上川の西岸にある平安時代の柵跡。前九年の役の終わりのころ，1062年(康平5)9月安倍貞任(あべのさだとう)・宗任(むねとう)兄弟が源頼義(よりよし)・義家父子をこの地に迎えて最後の抵抗を試みたところで，その跡は通称安倍館付近といわれていたが，いまはそれより南の北上川と雫石(しずくいし)川の合流点に近い大館跡をあてる説が有力である。

くりやがわはくそん【厨川白村】 (1880～1923) 英文学者・文芸評論家。京都の生まれ。本名辰夫(たつお)。東京帝国大学英文科を卒業後，京都帝国大学助教授などを経て，渡米，留学し，帰国後は教授となり，19世紀半ばから20世紀初めの欧米文芸思潮を紹介するとともに，《近代の恋愛観》などの著で文明批評にも地歩を占めた。

くりやま【栗山(町)】 北海道，空知支庁南西部にあり，夕張郡に属する。1949年(昭和24)町制施行。人口18,000。町域は馬追丘陵の東麓(とうろく)，夕張川流域の由仁(ゆに)低地から夕張山地にかけて広がり，東は夕張市に接し，夕張炭田の入り口にあたる。1888年(明治21)仙台(せんだい)藩士角田氏一族の開拓にはじまり，由仁低地は良質米の産地として知られる。また食品・木材・コンクリート・化学などの工場もあり，空知管内第1の工業地域をなしている。室蘭(むろらん)本線・国道234号線が南北に走り，これと交差して夕張市と江別市を結ぶ夕張鉄道が東西に通じている。



クリュニー修道院 修道院の入り口。背後の建物は同修道院第三寺院の大袖廊南部分



グリューネワルト
《聖アントワーヌの誘惑》
(イーゼンハイム祭壇画第三面右翼部分) 1511～1516
ウンターリンデン美術館蔵

クリヤンガ [Ion Creangă] (1837～1889) ルーマニアの民話作家。農村の小学校で教師をした体験から，創作民話に筆を染め，方言を駆使した民話《ハラプ-アラブ》《ダニーラ-プレペリャク》などを発表した。未完の自叙伝《幼年時代の思い出》には，モルドバの山村で自然児として成長する作者のおいたちが，ユーモラスな筆致で描かれている。

クリュイタンス [André Cluytens] (1905～1967) ベルギーに生まれ，フランスで活躍した指揮者。アントワープ音楽院を卒業後，1926年同地の王立歌劇場でデビュー，次いでブリュッセル歌劇場の指揮者となり，その後フランスに行き，ツールーズ・リヨン・ボルドーと転じて1946年にパリのオペラ-コミック座の音楽監督となった。翌年ミュンシュの後任としてパリ音楽院管弦楽団の指揮者となり，ヨーロッパ各地のオーケストラにも客演した。1964年パリ音楽院管弦楽団を率いて来日した。〔向坂正久〕

クリューガー [Stephanus Johannes Paulus Krüger] (1825～1904) ブール戦争当時のトランスバール共和国大統領。イギリスのトランスバール併合に反対して独立運動を指導し，1881年イギリス軍を破って独立を達成した。しかし，1902年ブール戦争に破れて共和国は再度併合されたため，列強の援助を求めたが失敗。スイスで客死した。

クリュチェフスク(山) [Klyutchevsk] ソビエト連邦，カムチャツカ半島中東部の典型的なコニーデ火山。ユーラシア大陸最高の活火山で，高度4,750m。噴火は1697年以降約60回を数え，近年は毎年噴火している。クリュチェフ火山ともよばれる。

クリュニーしゅうどういん【クリュニー修道院】 フランス東部のソーヌ-エ-ロアールにある旧ベネディクト会大修道院。910年アキタニア公ギヨームの援助で創建され，歴代の院長によって指導され，中世の教会改革に主導的な役割を果たした。盛時の教会堂は二つの翼廊を有した当時最大のもので，装飾も豪華をきわめ，その建築・絵画・彫刻はロマネスク美術を代表する作品群であった。会堂の一部のみが現存する。

グリューネワルト [Grünewald] (1470または1480～1528) 本名マティス-ナイ

タート-ゴタート。ドイツ-ルネサンス期の画家。ビルツブルクに生まれ，コルマルでマイスターとなり，マインツの宮廷画家として活躍，大きな折り畳み式の〈イーゼンハイムの祭壇画の十字架上のキリスト〉にみられるように，苦悩に満ちた写実主義を追求した。後期ゴシックの伝統が色濃く，同時代のデューラー*と好対照を示した。後年フランクフルトを経てハレに亡命し，同地で死去した。〔三木多聞〕

くりようじ【久里洋二】（1928〜　）文化学院美術科で油絵を学び，のち漫画家に転向。横山泰三*(たいぞう)に師事し，軽快なナンセンス漫画を開拓した。また，アニメーション実験スタジオを開設，国内・国外の映画祭で受賞した作品が多い。

クリル（列島）⇨千島列島

グリル［grill］ウシ・ヒツジ・子ウシ・子ヒツジ・家禽(かきん)・ブタ・魚などの肉を直火(じかび)であぶり焼きする料理。用いる材料により，油につけておいて焼く場合と粉をまぶして味を逃がさないように色づけて焼く場合などがあり，あとの場合は材料に一度火を通してから行なうことが多い。油揚げしたジャガイモ，その他水けの少ない野菜類を添え，ソースは酸味のきいたものを用いる。

クリルタイ［khuriltai］モンゴル語で〈集会〉の意。北アジアの遊牧国家で行なわれた部族会議。貴族・功臣・高級官僚らで構成され，可汗の選定および即位の行事，外国征伐の議定，法令の発布をはじめ国家的重要事項が議せられた。

グリルパルツァー［Franz Grillparzer］（1791〜1872）オーストリアの劇作家。冷静な理性の人であるとともに幻想におぼれやすく，生活の不遇，メッテルニヒ*の反動政治に苦しみ，近代的苦悩とゆううつな諦念(ていねん)に満ちた作品を書いた。運命悲劇《女祖先》，古典悲劇《サッポー》，厭世(えんせい)的人生観を託した三部作《金羊毛皮》，歴史悲劇《オットカル王の幸運と末路》などの劇作のほか，童話劇《夢の人生》，喜劇《欺くものに災いあれ》，小説《哀れな辻(つじ)音楽師*》，自伝がある。〔市村　仁〕

ぐりん【愚林】⇨中右記

グリーン［Thomas Hill Green］（1836〜1882）イギリスの哲学者。オックスフォード大学に学び，のちに同大学道徳哲学教授。イギリスの伝統的な自然主義・経験論を批判し，カント・ヘーゲルに傾倒。特にすべての実在を感覚からくるものとするヒュームの説はその前提となる自我を見落としているとし，思惟(しい)と思惟の対象はすべて絶対的な自我の自己実現にほかならないと説いた。倫理説として人間の行為はすべて絶対我が示す万人共有の善という究極の目的を動機としており，この目的追求が人格形成の道だと主張した。著書《倫理学序説》など。〔玉井　治〕



久里洋二《ケメ子のLOVE》



グリンカ

グリーン［John Richard Green］（1837〜1883）イギリスの歴史家。オックスフォードの生まれ。オックスフォード大学卒業後牧師となり，のち図書館に勤めた。オックスフォード派の歴史家のひとりで，中世史研究に従い，《イギリス国民小史》《イギリスの形成》《イギリスの征服》などを著わした。代表作《イギリス国民小史》はいきいきとした文体で国民生活の展開を描き，軍事や事件よりも人間と思想に重点をおいた著作で，イギリス人の共感を得て教養人必読の書とされ，学校の教科書にも使われた。〔兼岩正夫〕

グリーン［Julien Green］（1900〜　）フランスの小説家。孤独と窒息しそうな状況の中で，目に見えぬなにものかを求め続ける苦悩の人を描いて，人間存在の深淵(しんえん)を探るカトリック作家である。《真夜中》《モイラ》などの作品のほか，7巻にわたる《日記》では作家の内面と作家を取り巻く外部世界とが克明に描かれ，その代表作となっている。

グリーン［Graham Greene］（1904〜　）イギリスの小説家。1930年代の政治的激動期の影響を色濃く反映した作品をいくつか書いたのち，《権力と栄光》《事件の核心》《情事の終わり》の三大作で，世界的な名声を確立した。題材や手法の上で，コンラッド*の影響を深く受け，カトリックの立場から，さまざまな人間悪の問題を，実存主義的に描き上げるのを特色とする。一貫した図式として追う者と追われる者を鋭く描き，鮮烈な視覚的描写がそれを盛り上げている。ほかに戯曲・随筆も書いている。〔井内雄四郎〕

クリンカー［clinker］高熱により一部が融解して固まったかたいかたまり。セメントクリンカー・マグネシアクリンカー・ドロマイトクリンカーなどが工業上重要なクリンカーである。セメントクリンカーは，必要な割合に混ぜられた原料(石灰石・粘土・ケイ石・酸化鉄など)を，多くは長大なロータリーキルン*で一部が融解する程度に焼成して急冷したものであって，セッコウを混ぜ，微粉砕してセメントにする。マグネシアクリンカー・ドロマイトクリンカーは，主として耐火物の原料となるもので，マグネシアクリンカーは天然のマグネサイトあるいは海水から得られる水酸化マグネシウムを焼いて得られ，ドロマイトクリンカーは，天然のドロマイトを焼いて得られる。〔川久保正一郎〕

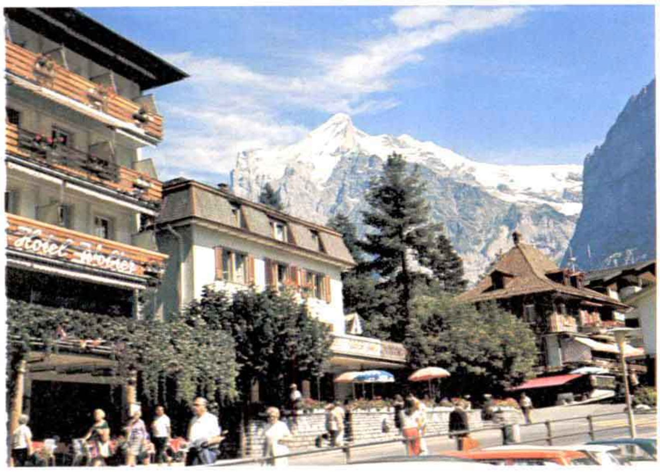
クリンガー［Friedrich Maximilian von Klinger］（1752〜1831）ドイツの小説家・劇作家。若きゲーテ*を中心とする文学運動に参加し，悲劇《双生児》《シュトルム-ウント-ドラング》によって有名となり，その文学運動は〈シュトルム-ウント-ドラング*〉とよばれた。のち，軍人としてロシアに住み，小説《ファウストの生涯(しょうがい)と行為と地獄おち》を書いた。この作品は，反抗的激情におぼれた初期の自己を批判し，不屈の意志による人生建設を主張している。〔市村　仁〕

クリンガー［Max Klinger］（1857〜1920）ドイツの画家・彫刻家。カールスルーエ・ベルリン，のちパリ・ローマに学ぶ。1893年以後はライプチヒで活躍。マレース*・ベックリン*の影響を，ユーゲント-シュティル(→アール-ヌーボー)ならびに印象主義的な要素と結合したその画風は，きわめて多面的な傾向，ことに新古典主義の特徴が顕著に認められ，彫刻にあっては古代の多色彩色の復興を試みて，ヒルデブラント*に相対している。《ベートーベン座像》はその代表作である。また，初期の銅版画は明白な自然主義的統一を示し，ドイツの最もすぐれた作品に数えられる。〔岸野悦子〕

グリンカ［Mikhail Ivanovich Glinka］（1804〜1857）ロシアの作曲家。国民音楽の祖と仰がれる。地主の子として恵まれた環境で育ち，11歳からピアノとバイオリンをひきはじめた。しかし音楽はあくまで趣味としてのわくをはめられて，ペテルブルク(現在のレニングラード)の高等師範学校に進み，卒業後しばらくして鉄道省に勤めた。学生時代にも音楽の勉強は続け，首都の社交界でプーシキンらと知り合って多くの刺激を受けた。1828年病気のため鉄道省をやめ，転地を兼ねて西ヨーロッパに旅行した。ベルリンでジークフリート-デーン



クリンソウ



グリンデルワルト　ホテルや商店などの屋根の向こうにベルナーオーバーランドの美しい山々が望まれる。正面に見えるのはウェッターホーン

に師事して作曲家としての方向を決め，1834年に帰国した。2年後ロシア国民音楽の最初の記念碑的作品，オペラ《イワン-スサーニン》を，さらに1842年《ルスランとリュドミラ》を発表した。グリンカはしばしば旅行し，旅先のベルリンで没した。彼の音楽は，ロシアでよりもヨーロッパでいちはやく評価された。　〔向坂正久〕

グリーンスボロ　［Greensboro］　アメリカ合衆国ノースカロライナ州の工業都市。人口14万4,000(1970)。綿・たばこ・肥料工業が盛んであり，州立の女子大学がある。

くりんそう　**【九輪草】**　双子葉植物・サクラソウ科。山の湿地にはえる多年草で，ときに観賞用として栽培される。大形で高さ80cmに達する。葉は根ぎわよりはえ，楕円(だえん)形で細かい鋸歯(きょし)がある。5～6月，茎の上部に数段に輪状に紅花をつける。北海道・本州・四国に分布する。

グリーンタフ　⇨緑色凝灰岩

グリンデルワルト　［Grindelwald］　スイス中央部，ベルン州インターラーケン東方14kmの町。人口13,240(1968)。ベルナーオーバーランドの海抜1,040mの高さにあり，ユングフラウ・メンヒ・アイガー・シュレックホーン・ウェッターホーンなどへの登山基地として知られる。スキーなどウインタースポーツの中心地としても有名で，多くの行楽客を集める。

グリーンピース　［green peas］　エンドウの未熟粒子で，アオエンドウのことをいう。美しい青色を呈し，タンパク質や糖分が多い。風味もよく色彩がきれいなので，料理用として広く愛用される。また，びんづめ・かんづめにして使用されている。

クリーン-ビル　［clean bill］　為替(かわせ)手形に船積み書類が添付されていない為替手形をいう。これに対し，船積み書類が添付されているものを荷為替手形*とよぶ。クリーン-ビルには荷為替手形のように担保が付帯していないから，別に十分な担保が



グリーンランド　東海岸の中央からやや南寄りに位置するアンマグサリックの港。湾内には流氷が浮かび，荒涼とした景観が広がる

提供されるか，または手形買い取り依頼者が高い信用を有する場合でなければ，銀行はクリーン-ビルの買い取りに応じない。

グリーンベイ　［Green Bay］　アメリカ合衆国ウィスコンシン州東部，ミシガン湖に臨むグリーン湾南端の港湾工業都市。人口88,000(1970)。航空機工業や製紙工業が特に盛んである。

グリーンベルト　［green belt］大都市周辺の無秩序な開発を防止するために都市の周囲を帯状に取り巻く緑地のこと。1944年，アーバー-クロンビーが立案した大ロンドン計画で大規模に取り入れられた。ロンドンでは1938年グリーンベルト法によって，土地の買収または非開発に対する補償金の支払いなどの法律的裏付けをして，グリーンベルトでの開発抑制の実効をあげている。しかし，大ロンドン計画に範をとった首都圏計画(東京)では，近郊地帯と称するグリーンベルトでの開発規制が弱く，1960年(昭和35)から1965年の間に，首都圏(→大都市圏)での増加人口の55%が近郊地帯内に住みついたというほどの激しい乱開発が進み，グリーンベルトとしての意味が失われ改定を余儀なくされた。〔竹内泰夫〕

グリンメルスハウゼン　［Hans Jakob Christoffel von Grimmelshausen］（1622?～1676）　ドイツの小説家。三十年戦争のころ貧しい家に生まれ，拡大する戦火の中で軍に捕われ，スウェーデン軍と皇帝軍の間を雑役夫・兵士として，苦しいが奔放な生活を送った。代表作《ジンプリチシムスの冒険(阿呆(あほう)物語)》は，そうした動乱期における民衆のしぶとい成長を描く〈ピカレスク小説*〉であり，ドイツのバロック期における教養小説でもある。　〔吉田　孚〕

グリーンランド　［Greenland］　北アメリカ大陸の北東方，北極海と大西洋の間にある世界最大の島。デンマーク領。面積は217万6,000km²で日本の6倍もあるが，人口は47,000(1969)にすぎない。北緯59°45′から北緯83°39′までに位置し，その大半が北極圏に属する。東はデンマーク海峡，西はバフィン湾・デービス海峡に面する。島の83%は厚い大陸氷におおわれ，氷の厚さは平均1,500m前後であるが，3,000mに及ぶものもあるといわれる。氷冠上に岩峰が突出しており，東岸には島の最高峰ギュンビヨルン山(3,750m)がそびえている。海岸の無氷部にはフィヨルド*が発達し，ここは低木を交えたツンドラ帯である。トナカイ・北極グマ・北極オオカミ・北極ギツネなどの寒帯動物や海鳥類も生息している。気候は海流の影響から西岸のほうがやや穏やかで，集落も主として西岸に多い。住民はエスキモーとヨーロッパ人，それに混血のグリーンランド人である。983年にノルマン人エリックが発見し，ノルマン人による植民はその後5世紀ほど続いた。以後忘れられていたが，16世紀になって再発見され，18世紀にはいってからはデンマーク人の植民が行なわれた。主要な集落は，行政の中心であるゴットホープのほかにイビヒトート・ウペルナビクなどが西岸にあり，東岸にはアンマグサリックがある。探検基地のユタ，軍事基地のチューレは北西岸にある。第2次世界大戦後，北極経由の航空中継地やNATO(北大西洋条約機構)の戦略基地となり，アメリカ人が多く居住している。イビヒトートのヒョウショウ石鉱山のほか，石炭・鉛を産し，南部のツンドラ帯では牧羊も行なっているが，産業の中心は水産である。タラ・オヒョウ・ニシンなど魚類は多いが，アザラシ・クジラはとりすぎて今日では減少している。　〔野間三郎〕

グルー　［Joseph Clark Grew］（1880～1965）　アメリカの外交官。ボストンの生まれ。ハーバード大学卒業後，国務省にはいる。デンマーク・スイス・トルコなどの大使を歴任ののち，1932年駐日大使となり，太平洋戦争勃発(ぼっぱつ)まで在職した。その後，国務長官特別補佐官・極東局局長，1944～

1945年には国務次官としてアメリカの対日政策を指導した。著書《東京だより》《滞日十年》など。

くるいざき【狂い咲き】 季節はずれに開花すること。サクラやフジなどによく見受けるが，花芽分化後に台風などで葉が落とされ，ホルモンのバランスが破れて，花芽の発育が促進されて起こる場合がある。あるいは早秋に低温が訪れ，その後に暖冬であった場合にも起こる。フジでは花芽分化直後につるを切ると，狂い咲きが起こる。これなどもつるを切ったことによって，ホルモンのバランスがくずれたものと思われる。〔小杉　清〕

クルイローフ［Ivan Andreyevich Krylov］（1769～1844） ロシアの寓話詩(ぐうわし)作家。若いころからいくつもの風刺雑誌を発行し，やがて寓話詩を数多くつくるようになり，ロシア随一の寓話詩作家となった。その作品の数は200編を越え，思想の民主性，用語の民衆性，鋭い風刺を特色としており，ユーモアに富んだその詩句の多くはロシアのことわざや慣用語にもなった。

クルーエ［Jean Clouet］（1485？～1540） フランスの画家。通称ジャネ。ブリュッセルの出身か。フランソワ-クルーエの父。フランス中世のミニアチュール，およびフランドルのプリミティブな作風に影響を受ける。ルイ12世およびフランソワ1世の宮廷画家となり，王侯貴族の肖像画を数多く描いた。

クルーエ［François Clouet］（1522？～1572） フランスの画家。ジャン-クルーエのむすこ。父の仕事を手伝いその画風を受け継いだ。フランソワ1世の宮廷画家となり，そののち数代の王に仕える。肖像画にすぐれ，ジャンとは異なって，頭部だけではなく胸部やコスチュームにも興味を示す。冷厳なまでの対象の観察と，色彩を犠牲にして得られた素描の精緻(せいち)さは，ホルバイン*にも比肩し，後代のフランス画家に多大な影響を与えている。

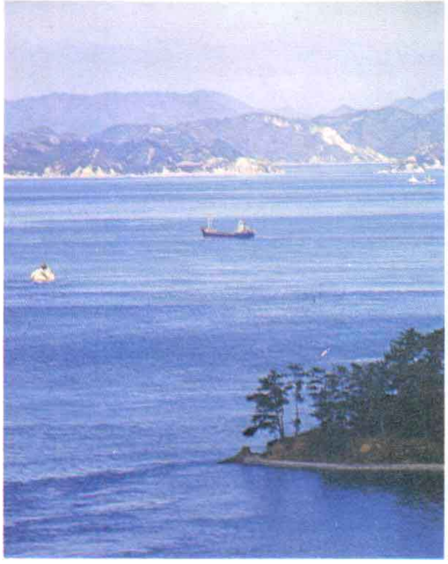
クールガージ［Coolgardie］ オーストラリア南西部の砂漠(さばく)の中にある鉱山町。人口約1,000。19世紀末に金鉱が発見され，これは北東にあるカルグーリ金山開発の要因となり，ゴールドラッシュの契機をつくった。オアシスをもたないため，飲料水などは西端のパースから水道を引いて使っている。

クールガージ(鉱山)［Coolgardie］ オーストラリア南西部，ウェストオーストラリア州にある鉱山で，すぐ東のカルグーリとともに，この地方の代表的な金鉱。1892年に発見されて繁栄したが，最近は産額が減っている。

グルカぞく【グルカ族】 グルカ朝(現ネパール王国)を創建した支配部族。グルカの名は，部族の支配者の故郷であるカトマンズ西方の小さな町に由来する。1768年マアラ王国を征服し現王朝の基礎をつくった。セポイの反乱*(1857)では積極的にイギリス軍を助けた。グルカ兵はその後もネパール国軍やイギリス領インド軍の精鋭として，第1次・第2次世界大戦に参加し，その勇猛なことは世界に名高い。農耕・牧畜に従事し，宗教はシャーマニズム的なものだったが，現在はヒンズーの影響が強い。



F．クルーエ《ダイアナの水浴》



来島海峡　四国本土側から見た海峡。島々が近くに迫り，船が行きかって，古くから瀬戸内海上交通の要衝であったことがうかがえる

クルガン［Kurgan］ ソビエト連邦ロシア共和国の都市。人口27万8,000(1973)。西シベリア南部，オビ川の支流トボル川の左岸にあり，オビ農業地帯の中心をなす。農産物加工のほか農業機械・自動車などの工業が行なわれる。市は17世紀中ごろロシアのシベリア開拓に伴って建設された。

グルクロンさん【グルクロン酸】 無色の結晶で，水によくとけ，若干酸味がある。グルコースの酸化によって生成し，種々の物質と結合しグルクロナイドとして自然界に産出する。植物界ではアラビアゴム・麦わらなどに，動物界ではヘパリン*・コンドロイチン硫酸*中に存在する。体内で有毒物質と結合し尿中に排出されるので，解毒作用がある。また新陳代謝を促進し，その欠乏は関節炎・神経痛の原因となるという。

グルコース［glucose］ 代表的なアルドヘキソースで，D型とL型があるが，天然にはD型が存在し，ブドウ糖といわれる。→ブドウ糖

クルージ［Cluj］ ルーマニア北西部，トランシルバニア地方にあるこの国第2の都市。人口20万5,000(1971)。12世紀にドイツの移住者がつくった町で，自動車・機械工業が盛んである。政治・文化の中心地であり，大学・植物園・美術館などの文化施設が多い。以前はハンガリー領で，住民の約2分の1がマジャール人で占められる。

くるしまかいきょう【来島海峡】 瀬戸内海の一海峡。愛媛県高縄(たかなわ)半島今治(いまばり)市と越智(おち)郡大島との間にあり，大島の南西端地蔵鼻以北をいう。燧灘(ひうちなだ)西口を扼(やく)し，潮流の最強流速は10.2ノットで，鳴門(なると)海峡とともに急潮をもって知られる。来島は今治市波止浜に近く，関ケ原の役*で西軍に味方して敗れた来島水軍の根拠地で，ほかに小島・馬島・中渡島・武志島などがあって，いくつかの水道に分かれる。来島・小島間を間ノ瀬戸(あいのせと)，小島・馬島間を西水道，馬島・中渡島間を中水道，武志島・大島間を東水道という。阪神(はんしん)と関門・別府を結ぶ主要航路で通船が多い。瀬戸内海国立公園に含まれる。〔山口恵一郎〕

くるしまよしひろ【久留島義太】（？～1757） 江戸時代の数学者。通称喜内・扇数と号した。独学で大成したという。奇行に富んでおり，酒を好み，酒を飲まねば藩主の前でも講義しなかったという。無限級数論，極大・極小，方陣(立体も含めて)などにも業績を残している。中でも行列式のラプラス展開，フェルマーの方程式 $x^2-ny^2=\pm 1$ の解法，整数論のオイラーの関数を示した業績は賞賛される。松永良弼(まつながりょうひつ)の親友である。〔下平和夫〕

グルジヤ(共和国)［Gruzinskaya S. S. R.］ ソビエト連邦を構成する共和国の一。カフカス地方にあり西は黒海に面し，南はトルコに接している。国内に，アブハズ・アジャール両自治共和国，南オセチア自治州を含む。面積69,700km²。人口492万3,000(1975)。主都トビリシ。

〔自然・住民〕国土は山がちで，その43％が森林であるが，北部の大カフカス山脈，南部の小カフカス山脈の間に黒海へ注ぐリオニ川，カスピ海に注ぐクラ川流域の平野がある。住民の大部分はこの流域に住み，ほとんどの都市もこの平野部に集中している。気候は温暖多雨で，海抜500m以下の平野部は亜熱帯性の気候を示し，黒海寄りの年降水量は3,000mmに近い。住民は独特の文化と古い歴史をもつグルジア人が64.3％を占めるほか，11％のアルメニア人，10％のロシア人，アゼルバイジャン人，オセチア人，アブハーズ人などがいる。

〔産業・経済〕黒海沿岸は茶・柑橘(かんきつ)類・キリ・タバコ・タケなどを産し保養地



グルーズ
《村の花嫁》 1761
ルーブル美術館蔵

として知られる。そのほかの地方も果実(特にブドウ)・絹などを産する。地下資源にも恵まれ，マンガン・石炭・石材の産出が多く，食品加工・織物などの軽工業のほかに，第2次世界大戦後は，金属・機械などの重工業も発展してきた。

〔政治・歴史〕さまざまな民族の移動，抗争の地であり，7世紀にはアラビアに，13世紀にはトルコに支配された。1878年ロシア領となり，1921年ソビエト政権が生まれ，1922年カフカス連邦に加わった。1936年以来，現在の体制となった。 〔斎藤晨二〕

クルス [Ramón de La Cruz] (1731～1794) スペインの劇作家。スペイン演劇の伝統を生かして，当時の庶民生活を写実的に描き，300編余のサイネーテ(韻文の笑劇)を書いた。代表作《マドリードの寄り合い》《夜のエル-プラード》など。

グルーズ [Jean Baptiste Greuze] (1725～1805) フランスの画家。リヨン・パリに学び，イタリアへの旅行の際に，その地の宗教画家の感化を受ける。1755年，サロンに出品した《家族に聖書を読み聞かせる祖父》で名声を得た。市民生活を題材に，道徳的教訓を甘い感傷で包む風俗画を描き，ディドロをはじめとする当時の啓蒙(けいもう)思想家に称賛された。代表作に《牛乳しぼりの娘》《村の花嫁》などがある。

クルスク [Kursk] ソビエト連邦，ロシア連邦共和国南部にある同名州の州都。ドニエプル川の支流セイム川に臨む。人口33万8,000(1973)。鉄道・高速自動車道など交通の要衝で，金属加工・機械・化学・建設資材・農産加工・縫製などの工業が盛んである。都市は9世紀に建設されたが，13世紀にタタールに破壊され廃墟(はいきょ)となった。その後16世紀に要塞(ようさい)として復興し，第2次世界大戦中はドイツ軍の占領下にあった。 〔斎藤晨二〕

グルタチオン [glutathione] 生物体に存在するトリペプチドの一種で，グルタミル-システィニル-グリシンの通称。GSHと略す。微生物・動植物組織に広く分布。水溶液は不安定で容易に酸化され，酸化型グルタチオン(GSSG)を生ずる。デヒドロアスコルビン酸(酸化型のアスコルビン酸)のアスコルビン酸への還元反応など，生体内の酸化還元反応に重要な役割を果たす。

グルタミン [glutamine] $H_2NCOCH_2CH_2CH(NH_2)COOH$ グルタミン酸のγ-モノアミド。植物，特に発芽植物中にアスパラギンとともに多く含まれる。タンパク質中のグルタミン酸の一部はこの形で存在する。生物における解毒機構の一つとして生成し，グリシン・オルニチンなどと同様に解毒作用も行なうと考えられる。

グルタミンさん 【グルタミン酸】 $HOOCCH_2CH_2CH(NH_2)COOH$ 酸性α-アミノ酸の一種。L-グルタミン酸はプロタミン以外のタンパク質中に広く分布し，特に穀類のタンパク質に多く含まれる。生体内ではアミノ基移転反応系の媒体として，アミノ酸の同化・異化に主要な役割を果たしている。動物ではカルバミルグルタミン酸として，オルニチン回路に関与している。また，グルタチオン・葉酸などの構成成分として生体内代謝に主要な役割を果たしている。グルタミン酸のα-モノナトリウム塩は化学調味料として使われる。〔代谷 康〕

グルタミンさんナトリウム 【グルタミン酸ナトリウム】 $NaOOCCH_2CH_2CH(NH_2)COOH$ タンパク質の構成アミノ酸として広く天然に存在しているL-グルタミン酸のモノナトリウム塩で，水溶性の中性塩である。1908年池田菊苗によりコンブのだしじるのうま味の本質がL-グルタミン酸であることが究明され，〈味の素(もと)〉〈旭味(あさひあじ)〉などの商品名で製品化されている。小麦や大豆などのタンパク質を加水分解するか，微生物を利用した発酵法や化学合成により得られたL-グルタミン酸をアルカリで中和して得られる。化学調味料として使われる。

クルチウス-ルーフス [Quintus Curtius Rufus] 生没年不詳。古代ローマの弁論家・歴史家。1世紀前半，クラウディウス帝時代に活躍した。歴史書《アレクサンドロス大王の事績について》10巻を書いた。大王を賛美し，劇的効果をねらってどんでん返しを入れたり，修辞的配慮を施すなど退屈させない。描写はいきいきとしている。文体はリウィウスに範をとり古典的である。

グルック [Christoph Willibald Gluck] (1714～1787) ドイツの作曲家。森林官の家に生まれた。ウィーンでイタリア-オペラを聞き，オペラ作曲家を志した。1737年から4年間，ミラノでサンマルチーニに師事。1741年27歳でオペラの第1作《アルタセルセ》をミラノで発表し，成功を収めた。1745年ロンドンに渡り，ヘンデルと会見。その後ウィーンに移り，フランス-オペラの作曲法を学ぶ。1762年《オルフェオとエウリディーチェ》を発表。それまでの型にはまったイタリア-オペラの様式を破り，一大改革を試みた画期的作品であった。彼の改革は，イタリア-オペラの歌手万能主義を廃し，作曲家の復権を図ったもので，音楽とことばの結びつきを密接にし，歌手の技巧の誇示を除き，オーケストラ・合唱の表現力を高め，序曲を劇全体と関連させることを意図していた。1774年，パリで《アウリスのイピゲニア》を初演し，パリじゅうの人気をさらった。さらに，当時のパリの音楽関係者をイタリア派とグルック派に分裂させ，いわゆる〈グルック-ピッチーニ論争〉をひき起こした。1780年ウィーンに帰り，静かに余生を送った。彼は18世紀最大のオペラ作曲家であり，イタリア・フランス・ドイツの各様式を備えた国際的オペラをつくり上げた。 〔寺田兼文〕

クルックス [Sir William Crookes] (1832～1919) イギリスの化学者・物理学者。オックスフォード大学のラドクリフ研究所員。はじめ化学分析に携わり，スペクトル分析から元素タリウムを発見(1861)し，原子量を測定した。また，ラジオメーターを発明し(1875)，気体分子の運動を確かめた。その後真空放電の研究に向かい，有名な羽車の実験を示した。さらに物体により陰極線に影ができることをみいだし，陰極線は物質粒子の流れと結論して物質の第4状態とよんだ。希土類の研究，スピンサリスコープの製作などの業績もある。他面，一時心霊現象の研究にふけり，また，人工ダイヤモンドの製造に熱中するなどの面もあった。 〔藤村 淳〕

クルックスかん 【クルックス管】 真空度が圧力0.1mmHg(水銀柱ミリメートル)程度以下の放電管。イギリスの化学者・物理学者クルックスが真空放電の実験を行なうのに，ガラス管の両端に1対の円板状電極を封入した放電管を用いたのでこの名がある。

クルップ ⇨クループ

クルップ [Alfred Krupp] (1812～1887) ドイツ最大の製鋼業者。世界有数の製鋼・兵器王国の基礎を築いたクルップ家の2代め。14歳で亡父の小さな鉄工場を継ぎ，30歳のとき〈るつぼ製鋼法〉を発明，鋼製大砲の製造を始めた。1847年には鋳鋼砲を製作，兵器工場としての発展の基礎を確立した。彼は良質の製品を高く売ることによって製品の信用を得，クルップ砲の優秀

性が国際的に認められるようになった。さらにドイツ軍兵器の納入を独占し，普仏戦争でクルップ砲はその威力を内外に誇示し，世界的兵器会社クルップの名を高めた。その後もベッセマー法・シーメンズ-マルタン法などの技術を積極的に導入，事業を拡大し，一大兵器鉄鋼コンツェルンを形成した。今日もクルップ社は世界最大の軍需会社の一つになっている。〔片岡一郎〕

クルップレンほう 【クルップレン法】 回転炉で粉鉄鉱石から直接金属鉄をつくる方法。鉄鉱石・燃料を混合したものを傾斜した炉に入れ，約600℃の予熱帯を通り，還元帯で600～1,000℃に還元する。最終のルッペ帯で約1,250℃に加熱し，半溶融状態のルッペ*をつくり，鉱滓*(こうさい)とともに炉外に出す。その後破砕・ふるい分け・磁選して粒鉄を得る。

グルテニン [glutenin] 単純タンパク質のグルテリン類の代表的な一種。穀類特にコムギのグルテン中に含まれる。水・中性塩溶液・アルコールに不溶。希酸・アルカリに可溶。グルタミン酸を多く含む。麩(ふ)やパンの製造に利用される。

グルテリン [glutelin] 穀類に含まれるタンパク質のうち，純水・中性塩溶液およびアルコールにとけず，うすい酸やアルカリ溶液にとけるタンパク質の総称。水と混ぜてこねると麩質(ふしつ)となり，麩やパンの製造に用いられる。代表的なものはコムギのグルテニン*であり，コムギ・オオムギ・イネの種子にはかなり多く含まれる。

グルテン [gluten] コムギの種子の主タンパク質で，ほぼ同量のグルテニン*とグリアジンよりなっている。水にはとけないが，水とこね混ぜると粘性の高い弾力性のあるかたまりとなり，麩(ふ)の原料となる。小麦粉を水でこね，布で包んで水中でもみ洗いすると，デンプンは外に出てグルテンが残る。

クルト [Ernst Kurth] (1886～1946) スイスの音楽美学者。1912年からベルン大学で活動し，1917年《線的対位法の基礎》でバッハを扱い，1920年には《ロマン派和声とワーグナーのトリスタンにおけるその危機》を発表した。そのほか，《ブルックナー》《音楽心理学》などでは音楽を自律的に把握(はあく)し，しかもその内部の力動性によって把握するというエネルギー学説に明確な形を与えた。音楽の生成過程を重視する立場は今後さらに影響を与えよう。

クルドじん 【クルド人】 東トルコ・北イラク・西北イラン・アルメニア共和国にまたがるクルディスタンに住むイラン系の民族。人口は約550万。多くはスンニー派のイスラム教徒。今日では農耕に従事しているが，かつては黒いテントで移動する遊牧がおもな生業であった。第1次世界大戦のころから独立の気運が高まり，特にイラクでは政府軍との内戦が続いている。



グルノーブル
グルノーブルのスキー場。瀟洒なロッジの前にはカフェテラスのはなやかな日よけが並んでいる

グルドベリ [Cato Maximilian Guldberg] (1836～1902) ノルウェーの数学者・化学者。クリスチャニア大学教授。義兄弟のワーゲ*とともに化学親和力，一定温度における反応速度に関する法則を発表し，これは質量作用の法則(グルドベリ・ワーゲの法則)とよばれている。この分子論および化学平衡に関する熱力学的研究は，ファントホッフ*により不均一系に適用され，希薄溶液理論の先駆をなし，化学反応速度論を系統だてるに至った。

クルトン [crouton] パンを薄切りにして好みの形や賽(さい)の目に切り，上質の油できつね色に揚げたり，バターでいためたもの。ポタージュやブイヤベースなどの浮き実に用いる。

グルニツキー [Nicolas Grunitzky] (1913～　) トーゴ共和国の政治家。フランスで教育を受け，第2次世界大戦中はド-ゴール派の地下運動に参加した。1955年トーゴ自治共和国政府の成立と同時に進歩トーゴ党党首として初代首相となる。1963年1月，義弟オリンピオ大統領がアメリカ合衆国と経済援助協定を結んだことから，北部親フランス派のクーデターが起こり，代わってグルニツキーが大統領に選出された。1967年，2度めのクーデターで軍により追放された。〔喜多迅鷹〕

クールノー [Antoine Augustin Cournot] (1801～1877) フランスの数学者・哲学者であり，確率論の研究家でもあった。彼は1838年に《富の理論の数学的原理に関する研究》を出版したが，この本は数理経済学を経済学へ組織的に適用した内容をもつ最初の論作であり，需要および供給を，関数または行動表として解釈した最初のものである。彼の供給寡占問題に関する理論は，いまなお広く重要なものとして知られる。それは独占企業における，利潤極大の条件は限界収入と限界費用が等しいと指摘したことであり，現在需要曲線上の供給者の利潤極大を示す点をクールノーの点とよんでいるのはこの理由による。のちにマーシャル*やワルラス*によってこの条件は独占企業だけではなく競争企業にもあてはまるものであると考えられ，彼の理論は競争市場における価格決定の理論へと発展していった。〔松浦　保〕

グルノーブル [Grenoble] フランス南東部，ドーフィネ地方の都市。人口16万2,000(1968)。ローヌ川の支流イゼール川に臨み，北にグランド-シャルトルーズ山塊がそびえる。アルプスの豊富な電力を利用したセメント・金属・製紙・電気冶金・手袋などの産業が盛ん。ローマ時代に建てられた町で，14世紀に創立された大学，13世紀に建てられたといわれるノートルダム大聖堂などがある。アルプスの観光基地として，また作家スタンダールの生地として知られ，1968年には冬季オリンピックが開催された。〔野間三郎〕

くるびょう 【佝僂病】 ビタミンDの欠乏による石灰新陳代謝障害。人工栄養児や衛生環境の悪い者に多く起こる。血液中の無機リンが減少し，重症ではカルシウムも減少する。O脚*・X脚*，脊柱(せきちゅう)後湾・側湾，後頭部の軟化，大泉門の閉鎖遅延などの変化を生じ，全身的には筋・靭帯(じんたい)の緊張低下，多汗・腹部膨満・胃腸障害などの症状が現われる。全身療法としてビタミンDの投与，日光浴を行ない，局所の変形に対しては副子*・手術による矯正(きょうせい)を行なう。〔玉城　緻〕

クループ [croup] 気管炎・気管支炎を伴う重篤な喉頭炎(こうとうえん)で，乳幼児にみられる。きわめて重篤な場合には，大量の繊維素性の浸出液を伴い，気管支の閉塞(へいそく)をきたす。呼吸困難やイヌがほえるようなせきをおもな症状とする。90％以上がウイルス感染によるものであり，RSウイルス・パラインフルエンザウイルスによるものが多い。有効な治療薬はいまだ確立されておらず，対症療法が主となる。

グループがくしゅう 【グループ学習】 集団を学習の組織とすることによって，集団思考の形成，自由と協力，責任などの態度を発展させようとした学習形態。アメリカで発達した方法で，わが国でも大正期の自由教育(→新教育運動)の中で分団学習という名称で試みられた歴史がある。第2次

世界大戦後は，共同学習という名のもとに社会教育の分野でも注目され，討議や実践を通じて集団が自主的に学習を進めていく方法として重視されている。〔中野　光〕

クループスカヤ　[Nadezhda Konstantinovna Krupskaya]　(1869～1939)ソ連の教育家，レーニン*夫人。早くから革命運動に参加し，革命後は特に教育問題・婦人問題の分野で指導的な役割を果たした。主著《国民教育と民主主義》のほか多くの論文・講演で共産主義教育の諸問題を追究した。ピオニール運動の創始者として著名。

グループ-ダイナミックス　[Group Dynamics]　集団力学ともいう。集団行動を研究する社会心理学の一分野。特に集団とその成員としての個人の関係に注目し，集団の場には，どのような力が働くか，どのような条件でその力は変化するか，といった問題を研究する。レヴィン*によって始められたが，死後，アメリカのマサチューセッツ工科大学を中心として研究が受け継がれてきている。近年，この成果を学校や工場などの現場に適応し，実際的な問題を解決していこうとする研究(アクション-リサーチ)が盛んになってきた。　〔斎藤幸一郎〕

クールベ　[Gustave Courbet]　(1819～1877)　フランスの画家。19世紀フランス写実主義絵画の指導者として知られる。1840年パリに移住し，ルーブル美術館所蔵のスペイン・オランダの巨匠の作品を手本に絵画の独習を始める。初期の作品，ことに自画像にはロマン主義的傾向が濃いが，やがて独自の写実主義へと発展し，1850年《オルナンの埋葬》を発表するに至る。彼はありのままの目に見えるさまを描こうとし，多く労働者の日常生活に題材を求めた。1855年開催のパリ万国博覧会では，〈写実主義(レアリスム)，G-クールベ〉のスローガンのもとに《アトリエの画家》その他の大作を展示。1871年パリ-コンミューンに関係して投獄されたが，翌年釈放され，のちにスイスへのがれて同地に没した。裸婦や風景画の秀作も多い。　〔松本芳夫〕

くるま　**【車】**　車輪(円形の物体)に心棒を取り付けて回転させる運搬装置の総称。車輪は轂(こしき)(ハブ)・輪縁(フェロー)・輻(や)(スポーク)の3部分からなり，轂と輪縁を輻で接続し，轂の中心を軸が通って他の部分と接続し回転機能を発揮する。しかし，車輪の回転には外からの力が必要で，それが人力から動物の力の利用に進み，さらに機械動力と変化して，運搬装置としての役割を高くした。外力としてのエネルギーの供給方法の進歩は，車輪そのものの進歩を促し，木製から金属製・ゴム製への変化を遂げ，現代生活に深く根を張っているとみられる。

〔原理〕〈車〉の利用は，基本的には水平に作用する力を連続的な回転運動に変えて，摩擦力を小さくする作用をもたせることにある。平面上の物体は静止摩擦力のために動かしにくいが，平面と物体の間に回転体(ころ)を入れることで静止摩擦力をころがり摩擦力に変えることができる。ころがり摩擦力は静止摩擦力の約1/100程度の小さい摩擦力ですむので，物体を動きやすくすることができる。しかし，この運動を続けていくためには，平面と物体の間に次々に〈ころ〉を入れていかなければならない。したがって，〈ころ〉を入れるエネルギーと〈ころ〉を回転するエネルギーの，二つの別個の外力を必要とする欠点が伴う。この不便さを取り除くため，物体と〈ころ〉とを一体にしたものが考えられ，〈ころ〉の改良として車輪の出現をみた。そして，〈ころ〉は車軸の両端に車輪をつけたものに変わっていった。この車輪の中心にある軸受けの摩擦を小さくするための玉軸受け(ボールベアリング)やころ軸受け(ローラーベアリング)などの原理は，現在も機械内部の摩擦を少なくするために広く利用されている。

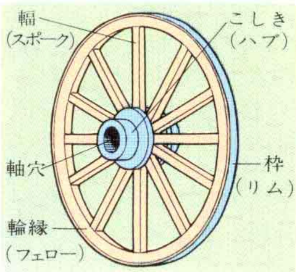
〔歴史〕車がどのようにして人間生活の中に登場してきたかは明確ではないが，次の二つの根拠が有力なものとなっている。①〈ころ〉と〈そり〉との合体でつくられたという説で，丸太を使った〈ころ〉は重く，かつ移動後に残されるという欠点があり，それを除くために，車軸と車輪の原型ができあがったとするものである。②太陽崇拝の民族が石器時代の昔から，輻のついた円盤を太陽になぞらえて崇拝していたことから生まれたとする宗教起源説である。車の発生がどのようなものであれ，〈ころ〉を荷台に結びつけて〈ころ〉がよく回転するようにし，より効果的に荷物を運搬するために車が誕生したことは事実であろう。丸太を輪切りにしたはじめての車(実体車輪)から，何枚かの板を組み合わせた車(合板車輪)を経て，外側に皮革さらに鉄わくをはめる車に進み，さらに現在の金属とゴムによる車の出現をみるのである。重くて操縦しにくい合板車輪から輻のある車の出現は，BC2000年以降とみられる。また四輪車と二輪車は古代からあったらしく，現代の車の利用と軌を同じくしていた。車が現われたのはBC4000年



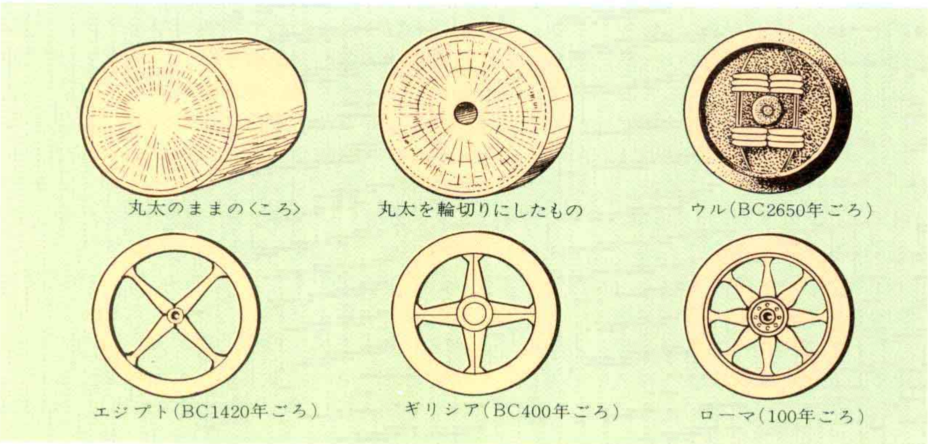
クールベ《泉》1868　ルーブル美術館蔵



ウルのスタンダードに描かれた車　紀元前27世紀



車の各部名称



車

ごろとみられるが，その形態がはっきりしているのはメソポタミアの古都ウル*から発掘されたＢＣ3300年ごろの戦車で，この戦車は丸太輪切り型の四輪車をウマに引かせたものである。エジプトでは，古王国時代（ＢＣ2700ごろ～ＢＣ2150ごろ）に〈ころ〉を運搬用としているが，車はＢＣ1400年代のアメンヘテプ２世の書記の墓に描かれたものが最初である。古代で車の生産技術が頂点に達したのはローマ時代で，左右に回転する前車軸をもち，車輪は轂から放射状に14本の細い輻をもち，熱で曲げたとねり材の外輪とは枘(ほぞ)でつながっている。タイヤの部分は溶接でつないだ鉄の薄板をはめこんである。古代中国では，周・秦・漢の時代にわたって二輪車を中心に発展をみせ，磁針計をつけた指南車や手押しの一輪車などがつくられていた。日本では《日本書紀》に400年代に天皇の乗る車をつくったと記録されているが，その形などは明らかでない。一般に荷車が登場するのは奈良時代以降で，平安時代ごろから貴族などが乗る二輪の御所車が普及した。近世になって大八車が，また明治時代に乗合馬車・人力車などが現われるが，現在では〈くるま〉といえば自動車*をさすようになっている。
〔吉羽和夫〕

くるまえび　【車蝦】　甲殻(こうかく)類・クルマエビ科。体長は通常20cm以下であるが，25cmほどになるものもある。体は淡い青かっ灰色の地に濃青かっ色のしまが，頭胸部では斜めに，腹部では横にはいる。北海道南部以南の沿岸から水深100ｍほどまでの砂底にすみ，特に東京湾以南の太平洋岸および九州西岸に多い。エビ類のうち最も美味といわれ，近時盛んに養殖されるようになった。体長10cmほどのものをサイマキということがある。➔エビ

くるまがい　【車貝】　軟体動物・腹足類・クルマガイ科の巻き貝。殻(から)は低い円錐(えんすい)形で殻径(かくけい)約６cm。かっ色地に黒かっ色のうずまき模様がある。本州中部からフィリピンまでの深さ約50ｍの細砂底にすむ。近縁種のコグルマガイ（ゴショグルマ）は殻径２cm内外で，前種に比べてうずまき模様があらい。

くるまばった　【車蝗虫】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・バッタ科。翅端までの体長40～57mm。前胸背の後縁は後方に向かって鋭く突出する。前翅の臀部(でんぶ)（静止態の背面にあたる）は濃緑色，他は暗かっ色で白色の斑紋(はんもん)が散在する。後翅は中央部に暗かっ色の横帯があり，その内側は黄色を呈する。日本全土のほか，アジア・アフリカの温帯から熱帯にかけて広く分布し，日本では各地の草原に普通にみられる。クルマバッタモドキは，本種にやや似ているが，やや小形で翅端までの体長32～45mm，前胸背にＸ字状の淡色線があり，前翅の臀部が淡かっ色または暗かっ色。

くるまびき　【車引】　⇨菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)

くるまゆり　【車百合】　単子葉植物・ユリ科の多年草。本州中部以北の亜高山帯の草原に普通にみられ，石灰岩地帯やジャモン岩地帯にもよく生育する。鱗茎(りんけい)は白色球形，鱗片の中部にくびれがあり，そこから離れやすい。茎は30～70cmで，中ほどに６～20枚の葉が輪生し，上部は数枚の葉が互生する。７～８月に茎頂に１～６個の花をつける。花被片には朱赤色や濃紫色の斑点(はんてん)がある。和名は葉が車輪状に生ずることからつけられた。〔横井朝子〕

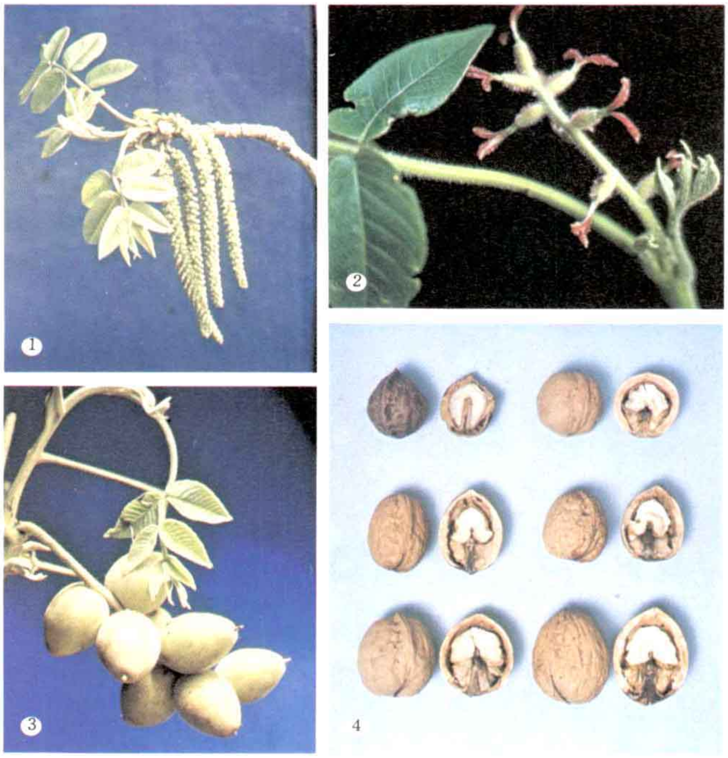
くるみ　【胡桃】　双子葉植物・クルミ科・クルミ属。北半球に15種，日本に３種分布する。落葉高木で，樹皮は灰かっ色，枝が太い。葉は奇数羽状複葉で互生する。雌雄同株，春さきに枝先の葉腋(ようえき)にひも状の雄花穂をつける。雌花穂は枝の先端に直立する。材はかたく，狂いがないので建材に使われる。果実は核内の子葉部が食べられる。野生種にオニグルミ・ヒメグルミがあり，古くから食用に供されている。オニグルミは川岸などにはえる落葉高木で，高さ20～25ｍに達する。葉は長さ50～80cmの羽状複葉で，９～21枚の小葉からなる。果実は直径３cmの球形で，星状毛におおわれ，秋季熟す。核はしわのある厚くてかたい２枚の殻片(かくへん)よりなり，中に50～60％の脂肪を含む子葉がある。ヒメグルミはオタフクグルミともいい，オニグルミによく似ているが，核が心臓形をなし，表面にしわがない。またテウチグルミは中国原産で殻(から)が薄くなめらかで，割れやすい。
〔加藤僖重〕

【栽培】わが国で現在最も多く栽培されているのは，ペルシアグルミとテウチグルミの間生種でシナノグルミとよばれ，長野県で育成されたものである。クルミは実生繁殖によることが多かったが，現在ではつぎ木も可能となったので，晩春・信鈴などの殻の薄い，肉詰まりの多い優良品種の苗木を定植する。雌雄異花で，そのうえ多くの個体では雌雄異熟なので，授粉品種を混植する必要がある。比較的冷涼な夏乾地帯に適し，高温多湿地帯では病害に弱い。土壌(どじょう)は適温で排水・通気のよい砂質壌土が適している。密生枝を間引き，樹冠内への陽光透射をよくする必要がある。
〔岩垣駛夫〕

くるみはむし　【胡桃金花虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。クルミヒラタハムシともいう。体長７～８mm。体はほぼ長方形で，きわめて扁平(へんぺい)であるが，産卵前の雌では腹部が著しく膨大する。青藍(せいらん)色ないし紫藍色で，前胸背板の両側



クルマユリ
茎の中ほどに葉が輪生し，花は強く下を向く



クルミ
①雄花　②雌花　③開花後１か月の結果状況（以上いずれもオニグルミ）　④クルミの核　（上列左）野生のオニグルミ　（上列右）テウチグルミ　（中列）ペルシアグルミ　（左）ブランケット　（右）ペニー　（下列）シナノグルミ　（左）信鈴　（右）清香

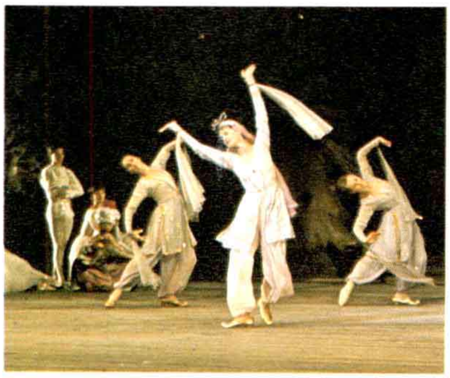
は黄かっ色。本州・四国のほか中国北部・シベリアなどに分布し，成虫は5〜8月に見られる。幼虫・成虫ともにクルミの葉を食害し，成虫態で越冬する。天敵としてはカメノコテントウが知られる。

くるみわりにんぎょう　【くるみ割り人形】　チャイコフスキー作曲のバレエ。2幕3場。《白鳥の湖》《眠れる森の美女》とともにチャイコフスキーの三大バレエに数えられる。ホフマンの童話をフランス語訳したものからマリウス-ペティパが脚色。1892年12月にマリンスキー劇場で初演された。このバレエから二つの演奏会用組曲が編曲されたが，8曲からなる第1組曲は特に有名である。第1部〈小さい序曲〉に始まり，第2部〈行進曲〉〈こんぺい糖の踊り〉〈トレパック〉〈アラビアの踊り〉〈中国の踊り〉〈あし笛の踊り〉，第3部〈花のワルツ〉に終わる。〔向坂正久〕

クルムホルン［Krummhorn］　木管楽器の一。主として16〜17世紀に好んで使われ，今日ではルネサンス音楽のために復元されたものが使われている。オーボエのように2枚リードをもつが，口を直接にリードにあてず，リードをキャップの中にしまい，キャップの中に口から空気を送って音を出す。音色はオルガンのように変化がない。音域はソプラノからグレート-バスまでいろいろあり，大きさも異なる。

くるめ　【久留米(市)】　福岡県南西部の市。江戸時代は有馬(ありま)氏二十一万石の城下町で，明治初期には久留米県，のち三潴(みずま)県の県庁がここにあった。1889年(明治22)市制施行。のち，1897年，第12旅団(のち第12師団)が置かれて軍都となる一方，ゴム工業が発達した。第2次世界大戦中，市域の3分の1を焼失し，戦後は筑後(ちくご)川の大水害で4分の1が罹災(りさい)したが，新生都市計画による復興を続けて商工業都市として発展してきている。人口21万3,000。市域は，筑紫(つくし)平野の中心部と南東方水縄(みのう)山地，洪積(こうせき)台地の高良(こうら)台を含み，中心市街は筑後川中流流域の沖積(ちゅうせき)地上に発達する。産業三大別人口比は10：26：64。周辺農村地帯では古くから久留米絣(がすり)の家内工業が行なわれ，市内には繊維関係の問屋が多い。近代工業では，地下たびから発展したゴム工業が主産業で，日本ゴム・日華ゴム・ブリヂストンタイヤの三大工場を中心として，自動車タイヤ・ゴムぐつ・運動ぐつなどがつくられる。久留米大学や石橋文化センター(美術館・体育館・プールなど)があって，筑後地方の学芸・文化の中心地となり，自衛隊幹部候補生学校や高良台のナイキ基地などの軍事基地もある。鹿児島本線と久大本線の分岐点で，国道3号線・209号線・210号線が集まる交通の要地である。篠山(ささやま)(久留米)城跡・水天宮(全国の総本社)・梅林寺(西国第1の禅林道場)・高良大社・高山彦九郎(ひこくろう)の墓など名所・史跡に富む。久留米絣・籃胎(らんたい)漆器やクルメツツジ(ミヤマキリシマの変種)が特産で，筑後川のエツの料理も有名。〔浅井得一〕

くるめがすり　【久留米絣】　久留米市を中心に，周辺の町村で織られている木綿絣(もめんがすり)の総称。1788年(天明8)井上(いのうえ)伝の創始と伝えられる。はじめは単純な霜降りや霰柄(あられがら)で〈お伝絣〉とよばれたが，その後多くの人々の創意・くふう・改良が加えられた。手くくりで絣糸をつくり，天然藍(あい)で糸を染め，手機で織るのが古法で，絵絣に特色を発揮してきた。1957年(昭和32)重要無形文化財に指定された。



くるみ割り人形　アラビアの踊り　レニングラード-バレエ団公演

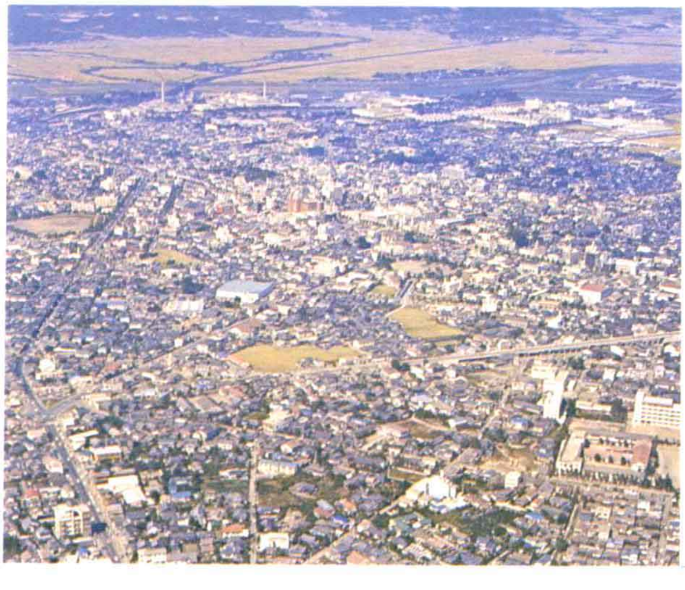
グールモン　［Rémy de Gourmont］(1858〜1915)　フランスの批評家・小説家。ノルマンジーの名門に生まれ，はじめパリの国立図書館に勤め，のち《メルキュール-ド-フランス》創刊に加わった。代表的な評論集《文学散歩》6巻は，豊富な教養と知性に基づくものであり，象徴主義への深い理解を示している。

クルレジャ　［Miroslav Krleza］(1893〜1981)　ユーゴスラビアのクロアチアの作家。作品は詩・小説・戯曲・批評と広い範囲にわたるが，テーマは共通して戦争反対を強く訴えるなど，社会的な問題に深い関心を寄せている。無政府主義的傾向の認められる《ペトリッツ-ケレンプクのバラード》は，過去のクロアチア人の苦難を描いた力強い叙情詩であるが，同時に現代への批判ともなっている。中・長編小説では，戦争の悲劇を描いた《クロアチアの神，マルス》や，ブルジョアジーの崩壊を描いた《フィリップ-ラチノビッチの帰還》などが知られ，戯曲には，《グレンバイ家の人びと》《ゴルゴダ》などがある。第1次・第2次世界大戦間には，ユーゴスラビアの進歩的な雑誌を出し，多数の文学・政治論文・エッセイで知られた。〔千野栄一〕

くるわ　【廓】　⇨遊郭

くるわことば　【廓言葉】　江戸時代の遊郭で，遊女などが使った独特のことば。里ことばともいう。江戸時代の初期に京都の島原に始まったが，のちに東に移って江戸吉原(よしわら)のことばとなったものが代表的。音韻は一般語と変わりないが，語彙(ごい)には遊郭特有な語があるほか，語法では丁寧・尊敬の意を表わす助動詞・補助動詞・動詞などに特色が著しい。そのうち〈あります〉を〈ありんす〉〈ありいす〉と言うのが有名。自称には〈わっち〉〈わちき〉など，客に対して〈ぬし〉が用いられた。遊女のお国なまりを隠すと同時に，一般語と違った，つやめかしいことばを使って客の遊蕩(ゆうとう)気分を満足させるものであった。〔西尾寅弥〕

くるわぶんしょう　【廓文章】　歌舞伎(かぶき)脚本。1幕2場の世話物。通称《吉田屋(よしだや)》。1808年(文化5)江戸中村座初演。1678年(延宝6)に死んだ大阪の名妓(めいぎ)夕霧を劇に仕組んだ，いわゆる夕霧劇で，その最初は死の翌年，《夕霧名残(なごり)の正月》として上演された。以来，浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎に数多く脚色されている。物語は勘当され，零落した紙子編み笠(がさ)姿の藤屋伊左衛門(いざえもん)と夕霧との再会を，正月間近い廓のふんい気の中に描出したもの。近



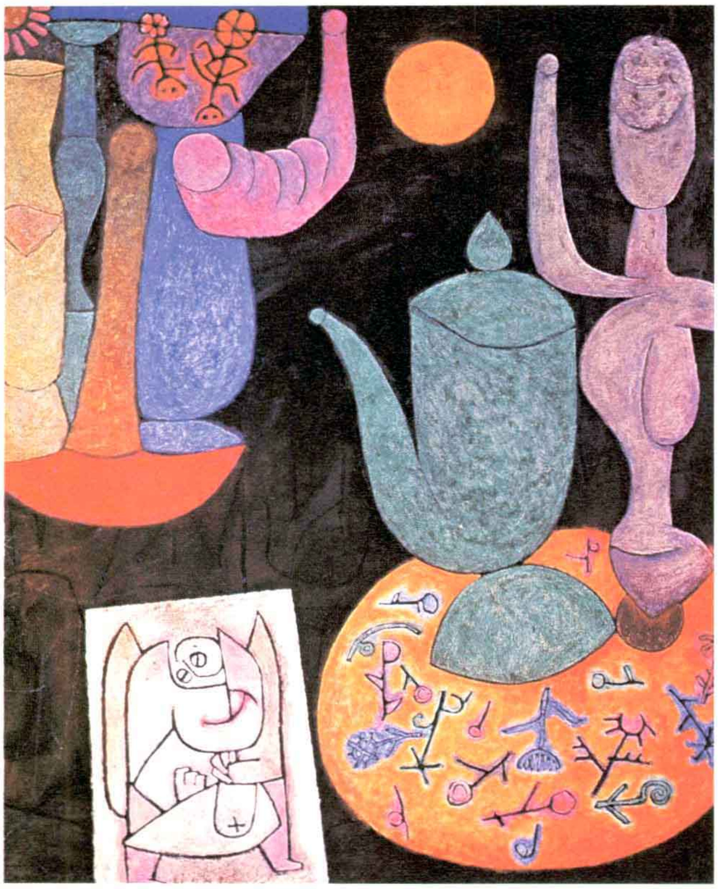
久留米市
南東上空から望んだ市の中心部。市街地の遠景はブリヂストンタイヤ工場とその社宅。その北側を流れるのが筑後川



廓 文 章 夕霧(中村扇雀)と伊左衛門(中村鴈治郎)



呉　市
南西側から見た呉港。手前は工業地区で，臨海製鉄所やその向こうに造船所が並ぶ。遠景正面が呉市の中心部で，背後の山は灰ケ峰(703m)



クレー
《静物》
クレー財団蔵

松門左衛門の《夕霧阿波(あわ)の鳴渡(なると)》の上巻〈吉田屋〉を原拠とする。〔前田慎一〕

グルントビー ［Nikorai Frederik Severin Grundtvig］（1783～1872）デンマークの牧師・詩人・歴史家・政治家。1825年《教会の答》を出版して国家の教会支配，合理主義神学の横行を激しく批判し，ルターの精神への復帰を主張した。このため7年間，説教を禁止された。また青少年の教育の重要性を強調し，国民高等学校の設立に貢献した。彼の努力は敗戦に苦しむ民心の動揺を静め，デンマークの復興と興隆に努め，〈国父〉とよばれる。また，彼の詩は賛美歌に多く採用されている。

グルントヘルシャフト ⇨荘園(しょうえん)

くれ ［呉(市)］ 広島県南部の市。1890年(明治23)海軍鎮守府の設置以来軍港として発展し，その後海軍工廠(こうしょう)や航空工廠も設けられて，海軍軍人・工員の町となった。1902年に市制を施行，人口も第2次世界大戦中は40万を越えたが，戦災で市街の大半を焼失し，戦後は生産都市・商工業都市として復興。人口23万5,000。市域は広島湾南東部の干拓地上に東西に長く発達し，背後に野呂(のろ)山(839m)・灰ケ峰(703m)などの山地が迫り，前面に江田島・能美(のうみ)島・倉橋島を臨み，その間に呉港を抱く。産業三大別人口比は2：41：57。呉港は天然の良港で，貿易港として栄える一方，海上自衛隊の基地となり，海上保安大学校も設置されている。もと戦艦大和(やまと)をはじめ多くの艦船をつくった海軍工廠跡には10万トン級以上の船舶をつくるNBC造船所がアメリカ資本によって経営され，造船工業が活発で，年間建造高は36万トンに達する。製鉄・パルプ・機械器具などの工場も多い。山陽本線海田市から分岐する呉線*が海岸を走って三原へ向かい，仁方(にがた)港と愛媛県堀江(ほりえ)との間には国鉄の仁堀連絡船航路が，松山市三津浜港へフェリーボートが通ずる。1961年(昭和36)音戸瀬戸(おんどのせと)に音戸大橋がかけられて倉橋島と結ばれ，江田島とはフェリーボートで連絡する。ナポリを思わせる海と山の自然美に恵まれ，音戸瀬戸や休山(やすみやま)連峰などの景勝地があり，野呂山と周辺の高原地帯は瀬戸内海の展望台として名高い。広大(ひろおお)川上流の二級峡には大小の滝と無数の甌穴(おうけつ)がある。特産は清酒，砥石(といし)，全国の80%を占める仁方のやすりなど。〔浅井得一〕

クレー ［clay］ 製紙原料などに用いられるカオリン*やパイロフィライト(粘土鉱物の一種，ロウ石*の主成分)の粉。製紙*の際には，添料すなわち有機物繊維の間を充填(じゅうてん)するためと，コーティングすなわち印刷に適した表面をつくるための塗被用として用いられる。ともに白色度すなわち反射率が高いこと，柔らかいこと，よく紙になじんで離れにくいことなどの性質が必要である。そのためにクレーを精製する過程で，水簸(すいひ)をくり返してセキエイなどのかたい粒を除き，薬品を用いて鉄分を除いて白色度を上げたりする。日本ではロウ石クレーが主であって，その産額は年約30万tである。外国では主としてカオリン系のクレーが用いられている。〔片山信夫〕

クレー ［Paul Klee］（1879～1940）スイスの画家。ベルリン近郊に生まれ，1898年からミュンヘンに学ぶ。1903年から一連の風刺的内容の銅版画を制作。1911年にマルク*・カンディンスキー*ら〈青騎士*〉の画家と知り合い，1912年の第2回展に参加。同年パリへ旅行，ドローネー*と会う。1914年チュニジアへ旅行，その風物によって色彩の世界にひきつけられる。1920年から1931年までバウハウス*の教授，1931年から1933年までジュッセルドルフ美術学校の教授

を勤めたが，ナチスの迫害によりベルリンへ移住し，ロカルノ-ムルラトに没した。その手法は多岐にわたっているが，めざすところは，線や色彩による画面の純粋な構成の過程において，対象の奥に潜む本質的・根源的なものを〈備えるようにする〉ことにあった。画面はしばしば幻想的であり，素朴(そぼく)な児童画の趣を呈してはいても空想の描出ではなく，その背後には，自然と人間さらには宇宙全体を見つめる透徹したまなざしがある。〔岸野悦子〕

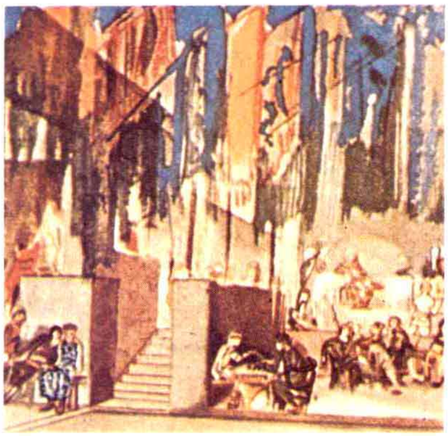
グレー［Thomas Gray］(1716～1771) イギリスの詩人。ケンブリッジ大学に学び，晩年母校の教授となった。歴史や古典を研究する一方，詩作に励み，有名な《田園墓畔哀歌》など，格調高く沈静な趣の作品を書き，古典主義からロマン主義へ至る過渡期の代表的詩人。

グレー［Charles Grey］(1764～1845) イギリスの政治家。1786年以後，下院議員となり，1792年中庸の改革派として選挙法改正をめざす民衆の組織をつくった。1806年に入閣して海相となり，のち上院に移った。1830年地主階級の支持のもとに首相となり，長年の主張であった議会改革に着手し，幾多の困難を経て1832年にこれを成立させた(第1次選挙法改正)。1834年，アイルランド自治問題にからんで辞職した。ピット(小)の対抗者だった。〔松下京子〕

グレー［Edward Grey］(1862～1933) イギリスの政治家・外交官。1885年より下院議員となり，1905年には自由党内閣の外相となった。帝国主義政策を推進したウィルヘルム2世の〈世界政策〉に対抗して，1906年のアルジェシラス会議*ではフランスの政策を支持して提携をいっそう強め，翌年イギリス-ロシア協商を成立させて三国協商*を完成した。さらに軍事協定によって，第1次世界大戦勃発(ぼっぱつ)前のイギリスの外交体制をつくる一方，バルカン戦争*の調停にあたったが失敗した。〔松下京子〕

グレア［glare］ 周囲が暗く目が暗さに慣れているとき，急に視野の中に輝度*の高いものやコントラストの強いものがはいると，ものが見えにくくなったり(視力障害)，不快感を生ずる。このような視知覚をグレアまたはまぶしさとよび，照明の良否を評価する。光源が視線の近くにあるとき，光源の見かけの面積が大きいほど，光源の数が多いほど著しい。グレアによる視力障害は特に交通災害に結びつき，快適と不快感の境界線をどのように評価するかについては近代照明のあり方の一つの話題として議論されている。〔中山忠巳〕

クレアシオン［creation］ フランス語で〈創造〉の意味であるが，特にシャンソンにおいて，ある歌手が一つの歌をはじめて歌って成功させることをさし，〈創唱〉と訳される。すなわち，歌手は作者と共同でその歌に生命を与えるものと考えられ，音



クレイグ《王位をうかがう者》(イプセン作)第2幕の舞台装置図

楽的に正確であることより，どのような解釈で，個性的な表現を行なうかが重要視される。第2次世界大戦前までは，一度創唱されたシャンソンを，創唱者以外の歌手が歌うことはほとんどなかった。〔永田文夫〕

クレアチン［creatine］ 動物の筋肉組織中にある一種のアミノ酸。白色の結晶で水にとけにくく苦味がある。小児・妊婦・筋肉疾患者の尿中に現われるが，正常な成人男子尿中には存在しないのが普通である。生体内ではリン酸と結合してクレアチンリン酸*として存在し，ATP*と協力して筋の収縮に関与する。すなわち，クレアチンリン酸はADPに作用してATPとし，自身はクレアチンにもどる。ATPは細胞エネルギー源となって筋収縮，または解糖の役目を果たすと再びADPとなる。クレアチンの生体内合成の原料はアルギニン・グリシン・メチオニンである。〔鈴木郁生〕

クレアチンりんさん【クレアチン燐酸】 ネコの筋肉から発見されたフォスファゲン(リン原質)の一種で，脊椎(せきつい)動物の筋肉中に広く分布する。クレアチンに高エネルギーのリン酸基が結合したもので，エネルギー貯蔵形態の一種であるが，ATP*とは異なってエネルギーを必要とする種々の反応に直接用いられることはない。筋収縮の直接のエネルギー源であるATPは，クレアチンリン酸キナーゼによってADP*とクレアチンリン酸とから嫌気(けんき)的に合成される。クレアチンリン酸は逆にATPの高エネルギーのリン酸基がクレアチンに転移することによって生ずるが，このATPは好気的に生じたものが使われる。

グレアム［Thomas Graham］(1805～1869) イギリスの化学者。ロンドン大学教授。はじめてコロイドと晶質とを区別して高分子化学への道を開く。1831年に液体の拡散に関するグレアムの法則*を発見した。1841年ロンドン化学会初代会長をつとめた。

グレアムのほうそく【グレアムの法則】 ①容器に入れられた気体が，小さい口から吹き出すとき，その速度が気体の密度の平方根に反比例するという法則。グレアムが1831年に発見した。容器内の圧力をP_1，外部の圧力をP_2，気体の密度をρとすると，噴流の速度Vは，$V=\sqrt{2(P_1-P_2)/\rho}$で与えられる。

②気体および液体の拡散の速さが，その分子量の平方根に反比例することを述べた法則。

クレイ［Henry Clay］(1777～1852) アメリカ合衆国の政治家。ケンタッキー州議会議長・連邦議会下院議長・国務長官などをつとめた。西部の銀行家・土地投機業者など保守派の利害を代弁し，北東部産業資本の要求する保護関税と西部開発を結合した〈アメリカ体制〉を提唱。大統領職への野望から南部の支持を必要としたため，北東部と南部の対立回避に努力し，ミズーリ協定*・〈妥協の関税〉〈1850年の妥協〉により国家的危機を救い，〈偉大なる妥協家〉とよばれた。北東部のウェブスター*，南部のカルフーン*とともに，西部出身の政治家として，19世紀前半のアメリカ政治に果たした役割は大きい。〔折井一彦〕

クレイグ［Edward Gordon Craig］(1872～1966) イギリスの舞台美術家・演出家。女優エレン-テリーの子で，俳優として活躍もしたが，のち舞台美術に転じた。色彩と明暗の交錯する独創的な装置・照明はたちまち世の注目を引き，1912年，モスクワ芸術座*に招かれ，《ハムレット*》上演に携わった。また，彼の演出家中心的演劇論は，世界各国の演出家に影響を与えた。

クレイステネス［Kleisthenes］ 生没年不詳。紀元前6世紀末に活躍したアテナイの政治家。名門アルクマイオン家の出身。僭主(せんしゅ)ヒッピアスの失脚後，民衆の支持を得て，スパルタと結んだ名門イサゴラスを倒して政権を握った。彼はそれまでの血統による貴族本位の4部族制を廃し，地域単位の平等な10部族制をとり，比例代表制に基づく市民代表機関を設けた。また，僭主の出現を防ぐためにオストラキスモス*を定め，毎年開かれる民会で追放者を決定するなど，その民主的改革はアテナイの民主政の基礎となった。〔高山高雄〕

クレイト ⇨アマガサヘビ

クレイトンはんトラストほう【クレイトン反トラスト法】 1914年に制定されたアメリカの独占禁止法。ウィルソン政権*の三大改革の一。シャーマン反トラスト法*制定以降の新しい独占形態の発展に対応して，独占発生の原因となる持株会社を制限し，価格差別・重役兼任を禁止した。また労働組合・農民組合を反トラスト法の制限規定から除外し，労働争議禁止命令の発行を制限，ストライキ・ピケ・ボイコットなどを合法化し，〈労働者のマグナ-カルタ〉と高く評価された。〔折井一彦〕

クレイン［Stephen Crane］(1871～1900) アメリカの小説家・詩人。大学在学

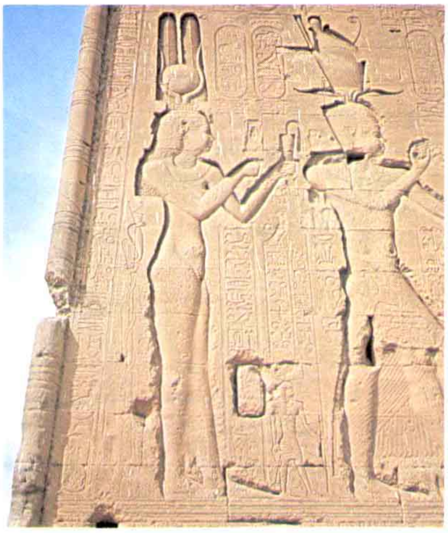
中より書きはじめた《街(まち)の女マギー*》は，都会の貧民街を描いて自然主義*の作風を示しているが，南北戦争を背景に名もない1兵卒の体験を描いた《赤い武功章》は心理描写にもすぐれ，代表作となった。また，《オープン-ボート》など短編の名手でもあり，のちの作家に大きな影響を与え，詩集《戦(いくさ)はやさし》などによって現代詩人としても知られる。

クレイン ［Hart Crane］（1899～1932）アメリカの詩人。富裕な商人の家に生まれたが，大学にはいらず，早くから詩人グループに加わった。T. S. エリオット*やホイットマン*・ランボー*らの影響を受け，処女詩集《白い建物》ののち，代表作《橋》によってアメリカの神話をだいたんな象徴的手法でうたいあげた。その後，南米旅行の帰路，自殺した。

クレオソート ［creosote］ ブナ・カシなどの木タールを蒸留して得られる無色ないし微黄色透明な油で，グアヤコール・クレゾールなど10種以上のフェノール誘導体の混合物。煙臭があり，舌を焼くような味がある。クレオソートの語源は新鮮に保つという意味で，古くは食品の保存に用いられていた。生理作用はフェノールに似ているが，抗菌力・殺菌力・防腐力のいずれもフェノールより劣り，毒性・刺激作用は弱い。また，若干の局所麻酔作用がある。古くから結核に対し効果があるといわれていたが，他の化学療法剤にすぐれたもののある今日では，この目的には全く用いない。一般に液剤・丸剤・カプセル剤として，去痰(きょたん)・歯科領域・皮膚病などの治療に使用する。大量に使用すると粘膜の刺激・腐食，めまい・けいれんなどを起こす。劇薬。 〔鈴木郁生〕

クレオソートゆ 【クレオソート油】 タールを蒸留して得られる中油以上の留分の混合物。ふつうは，中油以上の各留分からナフタリン・アントラセンなどを分離・回収したのち，これらの各留分を適当に混合して製品にしているが，ピッチ油などを混合することもある。沸点200℃以上。木材防腐剤・魚網染料・塗料・燃料などに使用されている。

クレオパトラ ［Kleopatra］（BC69～BC30） エジプトのプトレマイオス朝の女王。同名異人が7人いる。最も有名なものはクレオパトラ7世で，プトレマイオス朝最後の王。在位BC51～BC49年，BC48～BC30年。純粋のマケドニア系ギリシア人。17歳のとき，この王朝の慣例で，当時9歳の弟プトレマイオス13世と結婚して共同統治者となったが，弟である夫と仲が悪く，宮廷内も両派に分かれて争い，彼女は一時エジプトを追われた。たまたまポンペイウスを追ってエジプトに来たカエサル*にとりいってこれを自派に引き入れ，アレキサンドリアの市街戦ののち，弟を敗死させた。彼



クレオパトラ　デンデラ神殿浮き彫り



クレオメ



エル-グレコ 《オルガス伯の埋葬》 1586
聖トメ教会

女は高い教養と語学の才に恵まれ，美人ではなかったがその巧みな話術と魅力はローマの一武人であるカエサルをとりことし，1子カエサリオンを生んだ。カエサルが暗殺されたとき（BC44）彼女はローマ市に滞在していたが，急いでエジプトに帰り，末弟で共治者プトレマイオス14世を殺し，その代わりにカエサリオンを共同統治者にすえた。BC41年，カエサル暗殺者を掃討したアントニウス*は，キリキアのタルソスではじめてクレオパトラと会い，ここに世紀の恋が始まる。アントニウスはその後しばらくローマに帰り，オクタビアヌスらとの三頭政治を更新して，BC36年パルチア遠征のために東征したとき，再びクレオパトラとの恋情を燃やし，今度は正式に結婚して，ローマの領土の多くを勝手に彼女に贈った。こうしたやり方に対する批判がローマ市で高まったのを機に，オクタビアヌスはついに大軍を率いて東征し，BC31年クレオパトラ・アントニウス連合艦隊とアクチウム沖で会戦した。戦い半ばでクレオパトラが戦場を離脱し，アントニウスもこれを追ってエジプトに逃げ帰ったので，勝ったかもしれないこの海戦を失った。翌BC30年攻囲されたアレキサンドリアでまずアントニウスが自殺し，クレオパトラも生きたままローマ市でオクタビアヌスの凱旋(がいせん)行列の飾りとされる運命にあることを知ったとき，自殺した。毒蛇(どくじゃ)にかませて死んだ，と伝えられる。 〔弓削　達〕

クレオメ ［cleome］ 双子葉植物・フウチョウソウ科。セイヨウフウチョウソウともいう。熱帯アメリカの原産の一年草。明治の初めに日本にはいり，観賞用として栽培された。茎は高さ1m内外で，よく枝分かれし，粘りけのある毛をもつ。葉は互生し，5～7枚の小葉からなる掌状複葉。夏，茎の上部に多数の花が集まってつく。花色は紅紫色または白色，4本のおしべは長く突き出て美しい。

グレコ ［El Greco］（1541～1614） スペインの画家。本名ドメニコス-テオトコプーロス，エル-グレコはギリシア人の意で通称。イタリア時代の資料は乏しいが，1560年ごろにはベネチアに出て，晩年のティツィアーノ*に入門した。その後，パルマおよびローマへの旅行後，1577年ごろスペインのトレドに現われ，以後この地に定住した。フェリッペ2世の命でエスコリアル宮の礼拝堂のために描いた《御名の賛仰》と《聖マウリシウスの殉教》は非常にマニエリズモ*的な作品である。代表作《オルガス伯の埋葬》は，地上でのオルガス伯の埋葬場面と天国での新生の場面とをみごとに融合させている。作風の特色として，色彩の独特な使用と人体が異常に引き伸ばされていることがあげられる。神秘的な想像力は，グレコをヨーロッパ絵画史上まれにみる独創的な宗教画家にしている。〔島田紀夫〕

グレコ ［Emilio Greco］（1913～　） イタリアの彫刻家。第2次世界大戦中に軍務につきながらパレルモ美術学校に学び，戦後になってローマに定住，1946年に最初の個展を開き，成功を得た。その後ベネチア-ビエンナーレ展，パリ・アントワープ・ロンドンなどの野外彫刻展に出品。洗練された具象彫刻でマンズー*・ファッツィーニ

らとともに，戦後のいわゆるネオ-リアリズム彫刻家を代表している。

グレゴリウス　[Gregorius]　ローマ教皇。

1 1世(540ごろ～604)　在位590～604年。中世最初の教皇で，大教皇ともよばれる。ローマの貴族の出身。ベネディクト会士。教皇権の強化・拡大を図り，その物的基礎としての教皇領の経営，ゲルマン人への布教，聖職売買の禁止など教会内綱紀の粛正に手腕をふるった。また，今日グレゴリオ聖歌*として知られる教会聖歌の収集・整理を行なった。主著《イタリア教父の生涯(しょうがい)と奇跡および霊魂不滅に関する対話》はダンテ・アリオストらに影響を与えた。　〔石井忠厚〕

2 7世(1020ごろ～1085)　在位1073～1085年。中世盛期の教皇権全盛の基礎を築いた。トスカナ地方のシエナの農民の子として生まれた。本名はヒルデブラント。ベネディクト派修道士となり，教皇グレゴリウス6世に仕えたが，教皇がドイツへ追放されたため，それに同行した。帰国後枢機卿となり，歴代の教皇の下で事実上教皇庁の政策を指導した。教皇となってからはクリュニー修道院*の改革精神を受け継いで教会の改革に努め，聖職者の結婚や聖職売買を禁止し，教会への世俗権力の介入を排除した。彼の発布した〈教皇命令〉は教皇を地上における最高の権威としている。彼のこうした態度は，教会を自分の権力下に置こうとするドイツ皇帝ハインリヒ4世*と衝突し，聖職叙任権闘争*が起こり，教皇は皇帝を破門し，皇帝は教皇を廃位した。皇帝は1077年カノッサで教皇に謝罪した(→カノッサの屈辱)。その後ハインリヒ4世の立場は有利となり，教皇はローマを追われてノルマン人の首長ロバート-ギスカードの保護を受け，失意のうちに死んだ。　〔兼岩正夫〕

3 13世(1502～1585)　在位1572～1585年。北イタリアのボローニャの生まれ。反宗教改革運動を推し進めるとともに，ローマ教会内部の改革に努めた。またユリウス暦からグレゴリオ暦(太陽暦)に改めた。また天正遣欧使節*と接見した。

グレゴリウス(ナチアンツの)　[Gregorius Nazianzus]　(329ごろ～389)　東方正教会の教父。聖バシリウスとその弟グレゴリウス*(ニッサの)とともにカッパドキア三教父のひとり。アテナイで学び，故郷で司祭・司教となる。アリウス派*に抗して正統信仰の確立に努めた。またキリストの人性を制限して神性を強調するアポリナリオス(310ごろ～392ごろ)に反対して完全な人性を主張した。東ローマ大司教となるがまもなく辞任し，晩年は静かな隠遁(いんとん)生活を送った。雄弁，詩的才能に恵まれ，説教集・詩集など多数を残した。

グレゴリウス(ニッサの)　[Gregorius Nyssenus]　(331ごろ～396ごろ)　東方正教会の教父。兄の聖バシリウス，ナチアンツのグレゴリウス*とともにカッパドキアの三教父のひとり。修辞学の教師であったが，修道生活ののちニッサの司教となる。三位一体論に哲学的基礎づけを行なうなど，正統信仰の確立に貢献した。主著《大教理問答集》。



E.グレコ
《坐像》
1951
テート画廊



グレゴリウス(左)1世　(右)13世

グレゴリウス(ツールの)　[Gregorius Turonensis]　(540ごろ～594)　フランク王国の聖職者・歴史家。573年ツールの司教となる。メロビング朝の有力者として活躍した。主著《フランク民族史》(10巻)はメロビング朝についての重要な資料として知られる。なかに聖者伝・奇跡録が残っている。

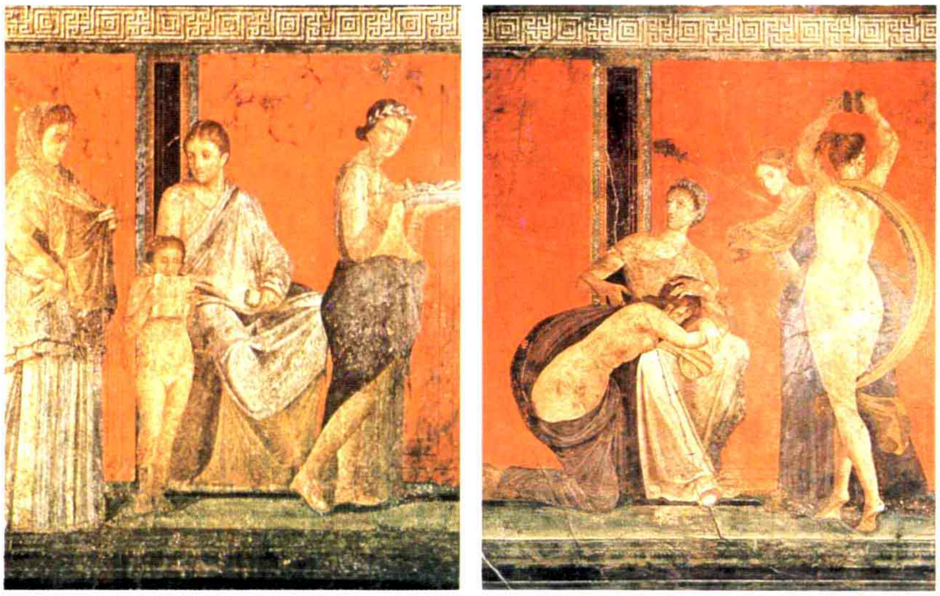
グレゴリオせいか　[グレゴリオ聖歌]　ローマ-カトリック教会の典礼で使用される単旋律の聖歌。ローマ教皇グレゴリウス1世によって6世紀末に基礎がつくられたとされるところからこの名がつけられたが，グレゴリウス1世の真の業績については明らかではない。現在歌われている聖歌の原型は，大部分，7世紀後半に大改革されたものが，ヨーロッパ全域に普及するにつれて，地方的なものと融合し，12世紀に至って一応完成されたとするのが定説である。その後，1570年のトリエント公会議では，聖歌についての規則が定められ，一般に公布された。19世紀後半になって，古来の聖歌を再検討し，昔の姿に復帰しようという試みがベネディクト会修道士たちの手によって始められ，1907年には，この研究の成果ともいうべきバチカン版の聖歌集が出版され，以後ほとんどの教会がこの方式に従うようになった。このバチカン版は，等価主義，つまりすべての音符を同じ長さで演奏するという方法によって書かれている。グレゴリオ聖歌の楽譜は，ネウマ*とよばれる特殊な形をした音符によって記譜されていて，これらの読み方をめぐって種々の論議があり，リズム論についてはまだ結論が出ていない。したがって，バチカン版による歌い方(ソレーム唱法)は一つの解釈であって，古い歌い方の再現ではなく，どのようなリズムで歌われたものであるかは，今日もなお不明である。旋律は8種の教会旋法に規則づけられた独特の旋律美をもち，歌詞はラテン語による。なお，典礼にあたっては，それぞれの用途に応じた聖歌が選ばれるが，ミサのための聖歌集《グラドゥアーレ》，聖務日課のための聖歌集《アンティフォナーレ》は重要。　〔吉田泰輔〕

グレゴリオれき　[グレゴリオ暦]　1582年2月24日にローマ教皇グレゴリウス13世*が制定した太陽暦*。現在世界中で広く用いられている。月名とその順序，1か月の日数はグレゴリオ暦以前のユリウス暦*とまったく同じである。ユリウス暦では1年の長さを365.25日にとったが，1太陽年との差0.0078日は130年間に約1日の差を生じることになる。このため，カエサル*の時代には3月25日にあった春分が，16世紀の終わりには3月11日になった。この差をなくすため，グレゴリウス13世は1582年10月5日より14日に至る10日を除き，春分を3月21日に定め，置閏(ちじゅん)法*を次のように改めた。西暦年数が4で割り切れる年はうるう年とするが，100で割り切れるときは平年にとどめ，さらに400で割り切れる場合はうるう年とする。これによって400年間に303回の平年と97回のうるう年が含まれ，1年の平均の長さは365.2425日となる。グレゴリオ暦1年の平均の長さと1太陽年との差は，1,900年で，0.0003日，3,900年には0.00042日としだいに増加していく。その結果1,900年から2,621年たつとグレゴリオ暦の日付と季節が1日だけずれることになる。

グレゴリオ暦はたいへんすぐれた暦であるが，その実施は宗教的な対立とも関連してきわめて徐々に行なわれた。イタリア・スペイン・ポルトガル・フランスなどのカトリック教国では1582年に直ちに実施されたが，ドイツやオランダなどの新教国では2世紀近くも採用が遅れた。またロシア・ギリシアおよびバルカン半島のギリシア正

教国では最後までユリウス暦を捨てず，グレゴリオ暦の採用に踏み切ったのは20世紀になってからである。日本では1873年(明治6)から太陽暦を用いたが，グレゴリオ暦に従ってうるう年を置くことが明示されたのは1898年である。➔暦　〔木下　宙〕

グレコ-ロマンびじゅつ　**【**グレコ-ロマン美術**】**　ヘレニスティック-ギリシア世界の影響のもとに，主としてローマでギリシア人によって制作された美術。彫刻では，紀元前2世紀はペルガモンのバロック様式の影響が強く，紀元前1世紀は古典復帰の動きによって，いわゆるネオ-アッチカ様式が流行し，パシテレス一派の古典期作品の模作が行なわれた。小アジア，ロードス派の影響もみられ，《フォルネーゼの牡牛(おうし)》《ラオコーン》などは代表的である。また，肖像彫刻は熱情的・写実的・古典主義的などの特徴をもち，エジプトや小アジアのレアリスムも影響を与えている。絵画の遺品は，牧歌的な神話的主題，カリカチュア，静物画・風景画的主題が好まれ，三次元的明暗法・遠近法による印象主義的空間表現が強まり，舞台芸術のもつ幻想的傾向に高まる。ポンペイの《秘儀の家》の壁画は最高傑作の一つである。　〔穴沢一夫〕



グレコ-ロマン美術　ポンペイ〈秘儀の家〉奥義授与の広間壁画部分

くれさかとうげ　**【**暮坂峠**】**　群馬県北西部，吾妻(あがつま)川流域の中之条町と六合(くに)村とを結ぶ峠で，標高1,086 m。三国山脈の支脈を越えており，峠の西側には暮坂牧場がある。

クレジット-カード　［credit card］　その所有者に対して，商品あるいはサービスを購入し，その支払いを将来に延期することを認める証明カード。銀行・ホテル・旅行機関・飲食店組合などが，信用できる人々に発行する。アメリカで発達したが，わが国にも急速に普及しつつある。

クレジット-ライン　⇨貸し付け限度額適用制度

クレシーのたたかい　**【**クレシーの戦い**】**　百年戦争*中の1346年に行なわれた最初の陸上の決戦。イギリス国王エドワード3世*とその子のエドワード黒太子*が率いる歩兵長弓隊は北フランスに上陸して，フランス国王フィリップ6世の率いる騎兵隊を破り，カレーを占領した。大軍をもって攻撃したフランスの封建騎士軍が農民を養成したイギリスの長弓兵に敗北したため，騎士の価値が動揺し，戦術の変化を招いた。

グレーシャー　［James Glaisher］（1809～1903）　イギリスの気象学者。1829年に20歳の若さでアイルランドの三角測量に従事，1833年にイギリスの天文学者エアリーの世話でケンブリッジ天文台の助手となったが，のちにグリニッジ天文台に移り，地磁気と気象の部門を担当した。1849年に新聞社・電信会社・鉄道会社と協力して数か所の観測所から気象観測の記録を集め，これを新聞に発表したが，これは気象通報の先駆をなすものである。また，1851年の大英博覧会のおりには，集めた気象通報を1枚の天気図に記入したものを石版刷りにし，1部1シリングで売った。1862年から4年の間はコックスウェルとともに気球に搭乗(とうじょう)して高層観測を行ない，そのときに11.3kmという上昇高度の記録をつくった。1850年には数人の人たちと協力してイギリス気象学会を創立し，1872年まで長年の間学会の書記をつとめた。　〔根本順吉〕

クレーしゃげき　**【**クレー射撃**】**　⇨射撃競技

グレシャムのほうそく　**【**グレシャムの法則**】**　イギリスの経済学者グレシャムの唱えた経済法則。〈悪貨は良貨を駆逐する〉という現象を定式化したもの。額面価値が同じで，素材価値が著しく異なった2種類の通貨が流通する場合，素材価値の高いほうの通貨(良貨)は利用価値があるため国外に流出したり，鋳つぶされて工芸用に用いられるなどして流通外に排除される。しかし，素材価値の低いほうの通貨(悪貨)は残り，悪貨のみが流通するようになる。

くれしゅうぞう　**【**呉秀三**】**（1865～1932）　精神病学者。江戸の安芸(あき)藩邸に生まれる。1890年(明治23)帝国大学医科大学を卒業，精神病学を専攻。1897年ドイツ・オーストリアに留学。1901年東京帝国大学医科大学教授となり，東京府巣鴨(すがも)病院長を兼ねる。日本の精神病学の発展に貢献したほか，日本文化史，特に医学史の研究を行なう。著書に《精神啓微》《精神病学集要》《シーボルト先生 その生涯(しょうがい)および功業》《箕作阮甫(みつくりげんぽ)》などがある。

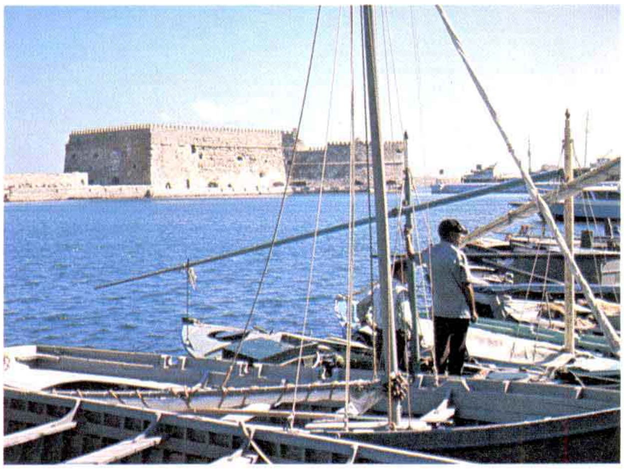
クレショフ　［Lev Kuleshov］（1899～1970）　ソビエトの映画監督・理論家。1922年に有名な実験工房を設立，映画表現に関する多くの実験を行なった。同じ男の顔のショットが，異なったショットと結合されることによって，違った表情を現わすという発見は，エイゼンシュテイン*などに大きな影響を与え，モンタージュ*理論の基礎となった。作品には《法によって》などがある。

クレスラン　［creslan］　ポリアクリルニトリル系の合成繊維の商標。アメリカン-シアナミド社が1951年にX-51の名で発表したものに，あとで命名したもの。

くれせん　**【**呉線**】**　山陽本線三原から呉を経て山陽本線海田市に至る国鉄路線で，営業キロ数87.0。1903年(明治36)呉軍港への連絡鉄道として海田市・呉間が開通し，さらに1935年(昭和10)に三原・呉間が開通した。三原・海田市間の内陸を走る山陽本線に対して海岸を走るが，勾配(こうばい)や曲線部分が多い。1970年(昭和45)10月に全線直流で電化された。

クレゾール　［cresol］　CH_3-C_6H_4-OH　フェノールのモノメチル誘導体で，オルト(o-)・メタ(m-)およびパラ(p-)の三異性体がある。単にクレゾールというときはこれらの3異性体の混合物をさす。コールタールに含まれており，水にはあまりとけない。フェノールの数倍の消毒力があるばかりでなく，毒性や腐食性が比較的少ない。クレゾール水(クレゾールを約1.5%含有)，あるいはクレゾールせっけん液*(クレゾールを約50%含有)として殺菌・消毒用に使われている。そのほか，起泡(きほう)剤・可塑剤，合成樹脂，あるいは有機化学薬品の合成原料にも使われる。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

クレゾールせっけんえき　**【**クレゾール石鹸液**】**　クレゾールを水に可溶化するため，せっけん液中にとかして製した消毒用薬液。黄かっ色～赤かっ色の粘性液で，クレゾール特有のにおいがある。クレゾールを50%含んでおり，使用にあたって1～3%水溶液として，伝染病の予防などの目的で，室の内外，衣服・手指，患者の排泄物(はいせつぶ



クレタ島
島の北岸中部にあるイラクリオンの港風景。古代エーゲ文明の遺跡が町の内外に多く残り，特にクノッソスの遺跡は有名である

っ)などの殺菌・消毒に用いる。

クレソン ⇨オランダガラシ

クレタ(島) [Creta, Crete] ギリシア南方の地中海に浮かぶ島で，古代文明発祥の地。クリート島ともいう。ギリシア領。面積8,306km^2。人口48万3,000(1961)。山がちで，最高部は約2,500m。温和な気候で，オリーブ・ブドウ・オレンジ・アーモンドなどを栽培し，チーズをつくる。また，鉄鉱石・セッコウ・石灰岩・褐炭(かったん)を産する。先史時代にすでに90の都市国家がこの島にあったといわれ，BC2000～BC1500年のクノッソス文明時代はこの島の最盛期であった。イギリスの考古学者A.J.エバンズによってはじめて発掘されて以来，考古学的・美術史的に貴重な数多くの遺品が出土した。それらの写実的な線画やほっそりした影像は，自然と表現の調和のとれたみごとな芸術とされている。以後ローマ帝国・サラセン・ベネチア・トルコの支配を経て，1898年のトルコ-ギリシア戦争後，ギリシア領となった。ギリシア中央政府に対する独立運動が続けられてきたが，そのたびに鎮圧されて今日に至っている。16世紀末の画家エル-グレコはこの島の出身である。 〔大崎 晃〕

グレーダー [grader] ブレード(土工板)を動かして路面・地面の仕上げをする機械。広場の整地仕上げ，道路の建設工事，砂利道の補修，除雪などを行なう。自走式のモーターグレーダーは，前輪2輪・後輪4輪の間に上下・左右・旋回動作のできるブレードが取り付けられ，車体の前進運動によって地面を任意の角度で削りとる。このほか，1台で掘削・積み込み・締め固め・整形を行なうもの，コンベアーベルトを備えて削った土を運び出すものなどがある。 〔神山幸弘〕

クレタびじゅつ 【クレタ美術】 ⇨ギリシア美術

クレタぶんめい 【クレタ文明】 ⇨エーゲ文明

クレチアン-ド-トロワ [Chrétien de Troyes] (1135ごろ～1190ごろ) フランス中世の韻文物語の作者。宮廷ふう騎士道



グレーダー

物語の最大の作家であり，おもに貴婦人の愛を得るために数々の冒険を企てる騎士をテーマに，《ランスロ》《イワン》など多くの作品を残した。その独特の描写・話術は，のちの小説に大きな影響を与えた。

グレチコ [Andrei Antonovich Grechko] (1903～) ソ連の軍人。1919年赤衛軍にはいり，1928年に共産党に入党。第2次世界大戦中は北カフカス，第1および第4ウクライナ方面軍で活躍し，ウクライナ・ポーランド・チェコスロバキア解放に参加した。キエフ軍管区司令官・ドイツ占領軍司令官を経て，1957年11月より国防相第1代理兼ソ連邦地上軍総司令官。1960～1967年ワルシャワ条約統一軍総司令官。1967年4月以降国防相。

クレチンびょう 【クレチン病】 先天性の甲状腺(こうじょうせん)発育不全などによって起こる病気。甲状腺ホルモン*の欠乏が胎生期から存在していると，心身の発育の抑制が起こり，精神活動不活発，便秘・腹部膨満・発育遅延などを示し，年齢が進むと，さらにこの特徴がはっきりしてくる。幼・小児になれば骨核の発現遅延，骨端線の異常などがみられ，四肢(しし)が躯幹(くかん)に比して短く，頭部が身体より大きく，扁平(へんぺい)な鼻，広い眼裂，厚く乾燥した皮膚，厚い口唇(こうしん)などによって特徴ある顔貌(がんぼう)を呈する。成人になっても幼児のような体格で，生殖器の発達も悪く，陰毛や腋毛(えきもう)ははえず，精神の発育も低能状態となる。原因は母体および生後のヨウ素不足，あるいは先天性の甲状腺ホルモン合成障害による。甲状腺機能検査により容易に診断され，甲状腺ホルモン治療を早期にはじめれば，正常に近い心身の発育がもたらされる。 〔清水直容〕

クレッチマー [Ernst Kretschmer] (1888～1964) ドイツの精神病学者。1926年マールブルク大学教授，1946年チュービンゲン大学教授。クレペリン*以来の病気の分類にあきたらず，精神症状を多元的・発生的に理解しようとした。《医学的心理学》はこうした立場から体験・表現・発動性などをとらえようとしている。さらに，《体格と性格》では，肥満型・細長型・闘士型などの体型と，循環気質・分裂気質・粘着気質などの気質型との対応を考え，そこに一定の法則のあることを発見し，ヨーロッパ精神医学に大きな足跡を残した。ほかにも，《敏感関係妄想(もうそう)》のようなすぐれた仕事がある。 〔岩井 寛〕

クレーデてんがん 【クレーデ点眼】 分娩(ぶんべん)直後に新生児に1～2%硝酸銀溶液の1滴を点眼する方法。分娩時母体性器内の淋(りん)菌その他の化膿(かのう)菌の感染による新生児膿漏眼を予防するために行なう。この予防的効果は顕著である。

グレート-アトランティック ⇨A&P

グレートコモロ(島) ⇨コモロ諸島

グレートサンデー(砂漠) [Great Sandy] オーストラリア北西部の砂漠(さばく)。東西約800km，南北約500km。北部では灌木(かんぼく)も見られるが，南へ行くほど雨は少なくなり，植生もほとんどなくなる。ギブソン砂漠・グレートビクトリア砂漠*と続くオーストラリア三大砂漠の最北部をなす。1873年，ウォーバートンの探検隊によってはじめて東西横断がなされた。また，アメリカ合衆国西部，オレゴン州の南部にも同名の砂漠があるが，大きさはこの砂漠の2分の1に満たない。 〔大石堪山〕

グレートスレーブ(湖) [Great Slave] カナダ北西部の氷河湖。北流するアサバスカ川の水を流入し，北極海に注ぐマッケンジー川の水源となっている。面積30,000km^2。湖水面は標高150m。水深は200mを越える所がある。結氷期間が長く，11～6月は航行できない。北岸のエローナイフ金山は有名。

グレートソルト(湖) [Great Salt] アメリカ合衆国西部，ユタ州のグレートベーズン*(大盆地)にある塩湖。面積約6,000km^2。最深は11mであるが平均水深は4mである。水面標高1,286m。季節による水位の上下がはなはだしく，減水期の面積は4,700km^2になる。地質時代の南北二つの大淡水湖が，その南の湖水が排水口を失って残ったものとされている。注入水が灌漑(かんがい)その他で減少したことなどから，塩分はしだ

いに増加して，一時死海*のそれを上回ったこともある。東岸はソルトレークシチー・オグデンなどの都市があって開けているが，西岸は，広大なグレートソルトレーク砂漠(さばく)があり開発は進まない。〔長津一郎〕

グレートデン ［great dane］ イヌの一品種で，ドイツおよびデンマーク産の大形犬。昔はイノシシ狩りに用いたが，現在は番犬。毛色により，ファウン(金色)・ハルクイン(白地に黒斑(こくはん))・ブリンドル(虎毛(とらげ))・ブラック・ブルーの５種がある。体高は71～77cmくらい。

グレートバリアリーフ ［Great Barrier Reef］ 大堡礁(ほしょう)ともいわれる。オーストラリア大陸北東岸沿いに連なる世界最大のサンゴ礁。延長2,000km。北はニューギニア島との間のトレス海峡(南緯8°)付近から，南はグレートサンデー島(南緯25°)付近にまで達する。南東貿易風の波を防ぐ自然の堤防をなし，大陸との間に20～50kmの静かな水面をつくるが，海が浅く，海底地形も複雑なために航路の発達が遅れた。サンゴ礁は観光開発が行なわれ，海底水族館などの観光施設も整ってきている。〔長津一郎〕



グレートバリアリーフ
白いサンゴの砂浜に縁どられた〈緑の小島(グリーンアイランド)〉。桟橋やホテルがあり，観光施設がよく整っている

グレートビクトリア(砂漠) ［Great Victoria］ オーストラリア南西部の砂漠(さばく)。東西約700km，高度150～300ｍ。不毛の砂漠であるが，南部には鹹湖(かんこ)が点在する。この砂漠中にある泉，グレートビクトリアースプリングは，1875年東西横断中のアーネスト・ジャイルスの探検隊が発見した。

グレートフォールズ ［Great Falls］ アメリカ合衆国モンタナ州中部の都市。人口55,000(1960)。ミズーリ川の支流グレートフォールズ川に臨み，豊富な電源(水力)を得られるところから，製銅・食肉・製粉などの工業が発達している。

グレートブリテン(島) ［Great Britain］ ヨーロッパ北西岸にあるイギリス諸島中最大の島。面積22万9,000km²。南はイギリス海峡でヨーロッパ本土に対し，東は北海，北は大西洋に面し，西は大西洋・ノース海峡・アイリッシュ海・セントジョージ海峡をはさんでアイルランドに対している。アイルランドの一部(北アイルランド)とともに，イギリスの主要部を構成し，行政的にはイングランド・ウェールズ・スコットランドに分かれる。➔イギリス
〔大崎　晃〕

グレートプレーンズ ［Great Plains］ 北アメリカ大陸中央部，ロッキー山脈の東麓(とうろく)から東へ広がる台地状の大平原。西縁は高度1,800ｍ前後であるが，東へ行くにしたがって低くなり，東縁では500ｍ程度となって中央平原に移行する。北はマッケンジー川上流部の北緯60°付近から，南は合衆国のテキサス州南部まで南北に長く延びる。乾燥した気候であるが，降水量は東へ行くほど多くなる。合衆国の重要な牧牛地域であり，放牧や小麦の栽培の行なわれる穀倉として，また石油・石炭の世界的な産地として知られる。〔野間三郎〕

グレートベア(湖) ［Great Bear］ カナダ北西部の氷河湖。面積31,000km²。最深137ｍ。水面標高103ｍ。マッケンジー川の支流グレートベア川がここから流出する。東岸のポートラジウム付近では，ウラン・銀鉱の開発が行なわれている。

グレートベースン ［Great Basin］ アメリカ合衆国西部，ワサッチ・シエラネバダ山脈間に広がる大盆地。ネバダ州の大半を占め，アイダホ・ユタ・カリフォルニアの各州にまたがる。面積52万km²。年降水量は300mmにすぎないためステップと砂漠地(さばくち)となり，グレートソルト湖*の東側で灌漑(かんがい)による農業が行なわれるほかは放牧地として利用されているにすぎない。東部にグレートソルトレーク砂漠，南部にモハーベ砂漠・デスバレー(死の谷)などがあり，複雑な地形を呈する。〔大石堪山〕

グレートヤーマス ［Great Yarmouth］ イギリスのイングランド東部，ノーフォーク州東端の港市。人口52,000(1967)。北海に臨み，世界的なニシン漁業の基地として知られる。造船・製粉業などの工業も行なわれ，周辺の海岸は海水浴場としても有名。古くからの漁港で，中世の建造物も残る。

クレトン ［cretonne］ 本来麻織物であるが，綿・人造繊維でもつくる。捺染(なっせん)織物の一種。生地はやや厚地で，大がらなプリント模様を表わしたものが多く，装飾用として掛け布・寝具・ベッドスプレッド*・カーテンなどに用いられる。

くれない 【紅】 色名。ごくわずかに紫みのある赤。本来は，紅花(べにばな)を用いた紅染めによる赤をいう。万葉の時代以来の古い色名であるが，染め方しだいでその色相は一定していない。紅染めのまえに下染めとして黄染めを行なうことがあるが，これは，正確には紅緋(べにひ)とよばれるべき色であろう。紅色(くれないいろ)よりも紅染めの濃い色を韓紅花(からくれない)といい，これは深紅(こきくれない)にあたる色である。また，紅色を薄くすると桃花色(ももいろ)となり，さらに薄くすると桃花鳥色・鴇色(ときいろ)となる。これら紅色の系統で最も薄い色が桜色である。

グレナダ ⇨ウィンドワード(諸島)

グレーハウンド ［greyhound］ イヌの一品種。本来はエジプト産の古い猟犬で，体がほっそりして速力が速いため，ドッグ-レースに用いられる。体高は66～68cmくらい。

くれはきゅうりょう 【呉羽丘陵】 呉羽山丘陵ともいう。富山平野の中央部に北北東に向かって突き出た標高80ｍ内外の丘陵地で，富山平野を東西に分けている。南東側は呉羽山断層崖(だんそうがい)(最高点城山145ｍ)で急斜面をなし，西側は波状の緩斜面が富山平野に続く。丘陵上はナシ・モモ・野菜が栽培される畑地が広がり，富山市の近郊農村地域となっている。

クレバス ［crevasse］ 氷河上にできた深い割れ目。ヨーロッパやヒマラヤの規模の大きな氷河では，深さ数十メートルのものも珍しくなく，登降にあたって危険な障害となる。氷河のない日本では，残雪期に現われる雪渓(せっけい)上の割れ目をいう。

クレパス ⇨クレヨン

クレバネット ［cravenette］ 防水加工した梳毛(そもう)織物の商標であったが，近来は一般名となっている。たて糸が密に織られ，多くは茶・グレーなどの無地または霜降りで，レーンコート・ダスターコート・背広服などに用いられる。化繊織物もある。

クレビヨン ［Crébillon］ 父クレビヨン(Prosper Jolyot de Crébillon, 1674～1762)は，コルネイユ・ラシーヌ以後，好んでグロテスクで血なまぐさい事件を扱った悲劇作家で，《エレクトル》ほかの代表作がある。むすこクレビヨン(Claude Prosper Jolyot de Crébillon, 1707～1777)は，上流社会の退廃的な風俗を大胆な筆致で描いた小説家で，代表作に《長椅子(ながいす)道徳的コント》がある。

クレープ ［crêpe］ 強撚(きょうねん)をかけた糸で織り，しぼ出し仕上げをして表面に縮みを現わした織物類の総称。綿・絹・ア

セテート・レーヨン・合成繊維などでつくられ，縮緬*(ちりめん)・クレープデシン・綿縮(めんちぢみ)などが代表的なものである。外観が複雑で色彩に深みがあり，装飾的効果がある。綿製のものは吸水性に富み，夏の衣料・はだ着などに用いられる。

クレフェルト ［Krefeld］ ドイツ西部，ノルトライン-ウェストファーレン州の工業都市。人口22万2,000(1973)。1373年に建設され，リンネル織りによる紡績業を行なってきたが，18世紀初頭フレデリック王より独占権を与えられてからは，ライン川の河港建設とあいまって絹織物の町として発展した。現在は化学繊維を中心とする近代的な紡績業を行なっている。1855年創立の繊維学校はよく知られる。

クレプシュドラ ［clepsydra］ 古代ギリシアの水時計。底にいくつかの小穴のあいた容器に水を満たし，流出する時間で時をはかった。裁判のおりの弁論時間の制限や，衛兵の交替時間を決めるために使用された。本来は水を井戸からくみ上げる台所用具であったが，ローマ時代には，笛と組み合わせた楽器にもなった。

クレブス ［Hans Adolf Krebs］ (1900～1981) ドイツに生まれ，イギリスで活躍した生化学者。ゲッチンゲン大学卒業後，カイザー-ウィルヘルム研究所などを経て，オックスフォード大学教授となった。1933年に尿素生成のオルニチン回路*を発見，1940年には，ブドウ糖の有機的分解の経路，つまりトリカルボン酸回路*の要点を明らかにした。トリカルボン酸回路は，彼の名をとって，しばしばクレブスの回路とよばれる。1953年ノーベル医学生理学賞受賞。

クレブスかいろ **［**クレブス回路**］** ⇨トリカルボン酸回路

クレープデシン ［crêpe de chine］ 本来，絹縮み織物であるが，近来は長繊維の化学繊維でもつくられている。比較的薄地の軽い生地で，白地のほか色ものの無地やプリント地などがあり，ドレス・ブラウス・ランジェリーなど装飾的衣料に広く用いられる。

クレーブのおくがた **［**クレーブの奥方**］** ラ-ファイエット夫人の小説(1678)。愛情のない結婚をしたクレーブ公の妻シャルトルが，舞踏会で知り合ったヌムール公と恋に陥り，夫にそのことを打ち明けるが，夫は嫉妬(しっと)のあまり死んでしまい，クレーブ夫人はヌムール公の求愛を拒み修道院で死ぬという物語。繊細な心理分析により，フランス心理小説の源流となった。

グレープフルーツ ［grapefruits］ 双子葉植物・ミカン科。18世紀初頭，西インド諸島のバルバドス島でスペイン貴族のドン-フィリップの庭園よりとれた種子がもとで出現した栽培種。最初，フロリダで栽培され，のちにカリフォルニア・オーストラリアへと広がった。日本へは1914年(大正3)にはいっている。ザボンに似るが，それよりも葉・花とも小さい。果実は扁円(へんえん)形の400gの大果で，5～6月熟す。外果皮・中果皮が薄く，内果皮は淡黄色多汁(たじゅう)で酸味がある。子房数12～14，種子は30個くらい。輪切りにして砂糖をかけたり，ジュースにしたりする。 〔加藤偉重〕



グレープフルーツ



クレマチス 庭園などに栽植されるカザグルマ



クレマンソー
マネー画
ルーブル美術館蔵



クレムリン モスクワのクレムリン宮殿

クレペリン ［Emil Kraepelin］(1856～1926) ドイツの精神医学者。近代精神医学の父といわれ，はじめて精神疾患の分類・体系化を試みた。内因性精神病*を早発性痴呆(ちほう)(→精神分裂病)と躁鬱病*(そううつびょう)の2ブロックに分けたのをはじめ，今日の精神病学の基礎概念は彼に負うところが多い。なお，彼の実験に基づく〈内田クレペリン精神検査*〉は作業検査の端緒を開いた。

クレペリンけんさ **［**クレペリン検査**］** ⇨内田クレペリン精神検査

クレポン ［crépon］ ややあらいしぼを現わした縮み織物。絹・レーヨンのほか，綿・毛・交織でもつくる。強撚糸(きょうねんし)を用いて織る方法と，苛性(かせい)ソーダで部分的に縮みを現わしてつくる方法がある。装飾的衣料に使われる。

クレマチス ［*Clematis*］ 双子葉植物・キンポウゲ科・クレマチス属の総称。約230種が含まれ，北半球の温帯に多く分布する。宿根草ないし木化したつる性植物。花弁を欠くが，4～8枚のがくが花弁状に見える。テッセン*やカザグルマ*はわが国で古くから栽培されていたが，近年，ヨーロッパで改良された園芸品種が多数紹介され，これらとの交雑による和製新品種も数多く作出された。花色は白・桃・紫などさまざま。2月につぎ木してふやす。 〔小杉 清〕

クレマン ［René Clément］ (1913～) フランスの映画監督。記録映画*から出発し，詩的な画面で戦争の罪悪を告発した《鉄路の闘(たたか)い》や《海の牙(きば)》の成功で地位を築いた。その後は社会的視野をふまえたメロドラマに野心の一端を示しえたが，初期の鋭さは失われた。作品に《禁じられた遊び》《しのび逢(あ)い》《太陽がいっぱい》など。

クレマンソー ［Georges Clemenceau］ (1841～1929) フランスの政治家。1876年下院議員となり，最左翼の急進派に属して，その破壊的演説により多くの内閣を倒し，〈トラ〉とよばれて恐れられた。ドレフュス事件*でも，ドレフュスを弁護して名声をあげた。1906年内閣を組織したが，ストライキを武力弾圧して社会党と対立した。第1次世界大戦中の1917年，再び首相となって勝利をもたらし，パリ講和会議ではフランスの全権として対ドイツ報復を唱え，アメリカのW.ウィルソン*と対立した。著書《勝利の偉大と悲惨》ほか。 〔大野慎一郎〕

クレムリン ［Kremlin］ ロシア語でクレムリといい，〈城塞(じょうさい)〉を意味する。封建時代にロシアの諸都市にクレムリンが

つくられ，クレムリン内には宮殿・官庁・大寺院など都市の中枢機関が集められた。最も有名なのはモスクワのクレムリンで，すでに12世紀半ば，木柵(もくさく)による城塞が築かれていたという。現在の壮大な規模は15世紀末，イワン3世による造営のとき画定し，さらに17世紀にほぼ現在の姿になった。ナポレオンがモスクワに遠征した際，クレムリンを破壊できなかったことは有名である。城壁内には，ウスペンスキー聖堂・アルハンゲリスコイ聖堂など伝統ある教会堂のほか，宮殿・政庁・兵営などがあり，中央には尖頭(せんとう)に赤い星のつけられたトロイツカヤ塔がある。

クレームるい【クレーム類】⇨リキュール

クレメンス(アレキサンドリアの)[Clemens Alexandrinus] (150ごろ〜216ごろ) ギリシアの神学者・教父。アテネに生まれたが，生涯(しょうがい)の大半をアレキサンドリアで過ごした。20歳ごろキリスト教に入信し，アレキサンドリアを訪れてパンタエヌスに師事した。彼はキリスト教とギリシア哲学の融合を図り，信仰と知識の統合を説いた。主著《ギリシア人への勧め(プロトレプチコス)》。

クレメンス [Clemens] ローマ教皇。

[1] 5世(1264〜1314) 在位1305〜1314年。フランス南部の出身。フランス国王フィリップ4世*に依存すること大きく，1309年教皇の座をローマから南フランスのアビニョンに移した。教皇のバビロン捕囚*のはじまりである。無力な教皇であったが，法学者として《クレメンス教令集》の編者である。

[2] 7世(1478〜1534) 在位1523〜1534年。メディチ家*の出身。教皇レオ10世の甥(おい)。カール5世*とフランソア1世との争いに関して前者と結ぶが，その勢力の強大化を恐れて離反し，フランス・フィレンツェ・ベネチア・ミラノと同盟。そのため彼は捕えられ，ローマは略奪のうきめにあった。のち和解してカール5世にボローニャで皇帝位を戴冠(たいかん)した。宗教改革運動にはまったく理解を欠き，適切な手を打てなかった。またイギリス国王ヘンリー8世*と対立し，イギリスの宗教改革をひき起こした。〔石井忠厚〕

クレメンツ [Frederic Edward Clements] (1874〜1945) アメリカの生態学者。オールバニに生まれ，ネブラスカ大学に学び，ミネソタ大学教授を経てカーネギー研究所所員となる。1905年，生物の共同体が個体の寄せ集めに還元できない体制的単位であるとする考え方を確立した。この考えを基礎として，1916年に，植物群落が発生し，発達し，極相に至るという遷移説を体系づけた。また，1929年にまとめられた植物の競争に関する研究によれば，その生活に必要なエネルギーおよび成育に必要な物質をめぐり，植物は相互に競争するという。単一極相説など彼の説の一部には批判も出ているが，20世紀の生態学にクレメンツが果たした役割は大きい。〔中村禎里〕

クレメンティ [Muzio Clementi] (1752〜1832) イタリアのピアニスト・作曲家。幼少から豊かな楽才を示し，12歳ですでにオラトリオを作曲，その天才ぶりを発揮した。その後ロンドンに渡って勉強を続け，同地でピアニスト，作曲家としてデビューし，大きな成功を収めた。数年間ロンドンでイタリア-オペラの指揮をしたのち，ヨーロッパへ演奏旅行に出かけ，ウィーンではモーツァルト*と競演した。旅行後20年間イギリスで指揮者・ピアニスト・教師として活動。晩年はロンドンに定住し，音楽出版，ピアノの製造事業に携わった。彼の作曲したピアノ-ソナタは少なくとも64曲はあり，ベートーベンのソナタに影響を与えた点で重要。また，練習曲《グラドゥス-アド-パルナッスム》は，近代ピアノ演奏技術の基礎を確立した。彼の門下からは，クラマー・モシュレスら多くのすぐれた演奏家が輩出した。〔寺田兼文〕

クレモナ [Cremona] イタリア北部，ミラノ市の南東75km，ポー川北岸にある都市。人口81,000(1969)。周辺農村の酪農製品などの集散や，菓子の生産地として知られ，またバイオリン生産も長い伝統がある。BC218年にローマ人によって建設され，中世には文芸の中心地として栄えた。12世紀に建設された大寺院や13世紀に建設された宮殿がある。

クレヨン [crayon] フランス語では鉛筆や鉛筆画をさすが，一般にはデッサンや描画に使われる商品名の〈クレヨン〉をさす。これは顔料に天然ろう・合成ろう・油脂・脂肪酸・パラフィン・樹脂などの媒剤を加えてつくられ，おもに児童の図画の学習の際に使用されてきた。軽く描くと薄く，強く描くと濃く色が出ても，重ね塗りができないなどという欠点をもつため，これを改良した軟質のクレパス(商品名)などがつくられている。

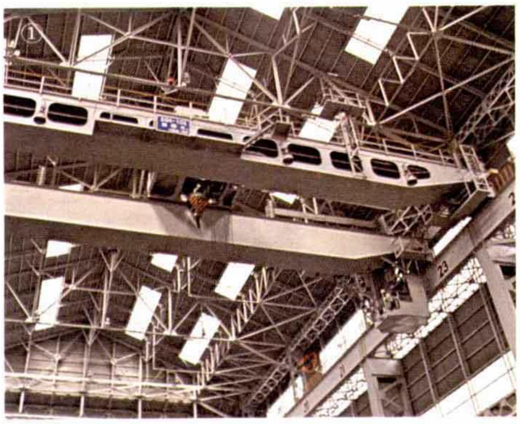
クレール [René Clair] (1898〜1981) フランスの映画監督。無声映画時代より独特の風刺と叙情で知られ，《巴里(パリ)の屋根の下》でトーキーの手法を完成。《巴里祭》はその主題歌とともにわが国でも親しまれた。一時フランスを離れ不調に陥ったが戦後は母国で再び成功，アカデミー-フランセーズ会員に選ばれた。《自由を我等に》《悪魔の美しさ》《夜ごとの美女》などが有名。

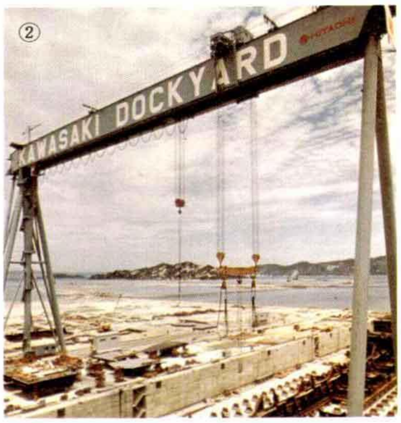
クレルモンこうかいぎ【クレルモン公会議】 フランス中部のクレルモンで開かれた宗教会議。通算7回行なわれたが，有名なのは1095年の十字軍*遠征を決めた会議である。教皇ウルバヌス2世*は聖地エルサレムをイスラム教徒から奪回するため，十字軍の結成を呼びかけ，遠征軍士には贖罪(しょくざい)，財産の保護などの特権を約束した。この結果，多くの十字軍士が参集し，1096年遠征の途についた。

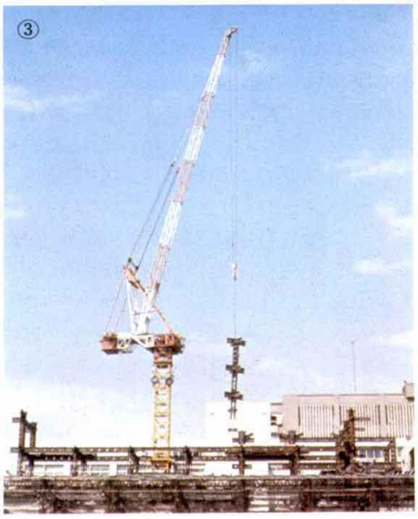
クレルモンフェラン [Clermont Ferrand] フランス中央部，オーベルニュ地方の美しい都市。人口14万9,000(1968)。ゴム工業が盛んで，タイヤ工場が多い。1731年クレルモンとモンフェランが合併して現在の名称になった。クレルモンは古代ローマ人が建てた町で，1095年のクレルモン公会議*で知られる。オーベルニュ地方の観光の中心となり，パスカル*の生地としても知られる。モンフェランは11世紀に建てられ，13世紀のゴシック寺院が残っている。〔梶川勇作〕

クレーロー [Alexis Claude Clairaut] (1713〜1765) フランスの数学者。12歳で学士院に論文を提出するほど早熟で，17歳のときには空間曲線の微分幾何に関する大論文を提出した。学士院会員は22歳以上という内規にもかかわらず18歳で会員となる。$y=xy'+f(y')$を解いた。これを〈クレーローの微分方程式〉という。積分因数・特異解などを示し，また地球の形状に関する研究もある。

クレーン [crane] 荷物を巻き上げる垂直運動と，走行・旋回などの水平運動を行ない，平面または立体的経路をたどって荷物を移動する装置。起重機ともいう。その運動は間欠的で方向性がなく，正逆どの方向でも操作や性能は変わらない。固定型もあるが，一般には場内に敷設されたレール上を走る。動力には電力が使われるが，道路や水上を移動するクレーンでは蒸気機関か内燃機関(主としてディーゼル機関)が使われる。重い荷物はフックにつけ，石炭・鉱石などのばら物はバケットでつかんで運ぶ。機体は鋼構造で，用途に応じて種々の形につくられ，名称も見方によって異なる。①天井クレーン：建物の長さ方向の両側にレールを設け，長い桁(けた)を走行させる。その桁の上にウインチをもったトロリーを横行させ荷物を運ぶ。工場・倉庫・置き場・機械組み立てなどに広く使われる。製鉄・製鋼所では重量物運搬のほか，製鋼工程に合致した特殊な機構をもった各種の製鋼クレーンが活躍している。②ジブクレーン：機体から斜めに腕(ジブ)を突き出したものと，水平梁(はり)を突き出したものとがある。前者はジブの先端で，後者は梁上にトロリーを横行させて荷物をつる。ジブ・水平梁は機体の中心軸のまわりを旋回する。㋑デリッククレーン：旋回する主柱の下端から斜柱を出し，これを主柱の頂部からロープで起伏させ，その先端で荷物をつる。重量物を扱う仮設備として使われる。㋺ころパス付きジブクレーン：旋回体が円形のころ道上のころでささえられ(多数の鋼球使用の新型もある)水平に旋回する。旋回体は倒れないようにおもりでつりあいを保つ。固定型は接岸荷役に，走行型は場内荷役に用いら











クレーン

①天井クレーン
②橋形クレーン
（ガントリークレーン）
③建築クレーン
④引き込みクレーン
⑤コンテナークレーン

れる。㋩引き込みクレーン：普通のジブは起伏すると，つり荷の高さが変わる。つり荷が水平に移動するように考案されたものを，引き込みクレーンという。作業能率がよいので埠頭(ふとう)荷役・造船・ばら物原料荷役に使われる。㋥建築クレーン：高い固定塔の上部にジブクレーンを載せた形式で，塔を継ぎ足して高くできる。クライミングクレーンともよばれ，高層ビル建築に用いられる。㋭鉄道クレーン：鉄道レール上を移動するもので，鉄道事故復旧用の大形機は，つり上げ荷重30～100tで救援クレーンとよばれる。㋬浮きクレーン：水面上の荷役用として箱船にジブをつけた作業船である。自走するものと，他船でえい航されるものがある。つり上げ荷重はジブ固定式で1,000t級。㋣自走クレーン：軌道なしで移動できるジブクレーン。移動式クレーンともいう。車輪付きで，場内の路面を移動するものをホイールクレーンという。つり上げ荷重1～24t。キャタピラで走るものを履帯クレーンとよぶ。これは土掘り用万能ショベルにクレーン用ジブを取り付けたもので不整地用。つり上げ荷重2～50t。トラックの車体にジブクレーンを装備したものをトラッククレーンといい，遠距離移動ができるので，各種建設工事・機器組み立て・災害復旧用に用いられる。③橋形クレーン：橋形桁を2本の腕でささえ，レール上を走行する。桁は脚より外に伸ばすことがあり，それを起伏させることもできる。トロリーは桁上を横行し，荷物を運ぶ。ジブクレーンを載せるものもある。別名ガントリークレーンとよばれる造船用のものにはつり上げ荷重300t，レールスパン100m以上の大形がある。石炭・鉱石置き場用はトランスポーターとよばれる。屋外での大量物扱い用・ばら物荷役用など用途が広い。④アンローダークレーン：船からバケットでばら物原料をつかんで陸揚げする専用クレーン。橋形クレーン式と引き込みクレーン式が多い。機内にホッパー・フィーダー・コンベヤーなどを設け，能率よく陸揚げする。能力は毎時2,000t級まで。⑤コンテナークレーン：コンテナー埠頭で海上コンテナーの陸揚げ・船積みを行なう専用クレーン。日本では1968年(昭和43)から使用。高脚の橋形クレーンで，水上に長く出した起伏桁上に，トロリーを走らせて荷役を行なう。トロリーの運動は桁上のウインチ室からロープで操作する。定格荷重は国際規格に合わせて30.5t。⑥ケーブルクレーン：相対する塔間に太いロープを張り，その上にトロリーを走らせて荷役を行なう装置。英米ではケーブルウエーとよぶ。一方の塔にウインチを設け，ロープで操作する。塔は固定形と走行形がある。広い地区内(300～600m)での重量物荷役に適し，ダム工事・橋架設・貯木場用。〔赤木　進〕

クレンザー [cleanser] 広くは金属・ガラスなどをみがくみがき粉一般のことであるが，現在ではふつう食器など主として台所器具類を洗いみがくのに用いる粉末清浄剤をいう。市販の家庭用クレンザーは，みがき粉(ふつう，珪藻土(けいそうど)・白亜・軽石・炭酸カルシウム・酒石酸などの混合粉末)に中性洗剤を加えたものである。また，トイレットクレンザー(洗面所・浴槽(よくそう)・便器などに使用)とよばれるものもある。

グレンジャーうんどう【グレンジャー運動】 19世紀後半アメリカ中西部・西部に展開された農民運動。1867年農民の生活改善のため，オリバー-ケリーが結成した農業保護団グレンジがその基盤となった。穀物不作や農産物価格の下落で発展し各地に支部が創設され，1873年恐慌で急速に拡大，1875年には支部20,000，会員数80万を数えた。1873年7月の大会で独占企業，特に鉄道への政治闘争が開始され，中西部諸州の議会の支配に成功。アイオワ・ミネソタ・イリノイ・ウィスコンシンの各州は鉄道運賃や穀物倉庫の規制立法，いわゆるグレンジ法を制定し，1876年その合憲性が最高裁判所で確認された。グレンジ法は民間企業に対する政府の最初の統制立法として重要であり，1887年連邦議会による州際通商法制定の契機となった。グレンジはこのほか，物資購入・農産物販売，低利の貸し付けなど

の共同組合運動を推進したが，失敗。運動は1880年代における企業側の反撃と経営の失敗で衰微した。農民がはじめて政治力を行使し，のちの農民同盟・グリーンバック党・人民党などの運動に大きな刺激を与えた点で重要である。〔折井一彦〕

ぐれんたい【愚連隊】一般に，親分・子分の結びつきをもたず，兄貴・舎弟の関係において形成され，その人間関係においても古い慣習をもたず，年齢的にも若い層からなる臨時編成的な，比較的に組織力の弱い反社会集団をいう。成人層からなるものと青少年層からなるものとがあるが，前者はやくざ*・香具師*(やし)に伍(ご)してつきあいを行なうもので，後者よりも上位の集団である。ふつう，愚連隊といえば青少年層の非行暴力団をさすことが多い。これは，①遊び仲間から移行した小暴力の非行集団，②番長・幹部・会員などの組織をもつ役割の分化した集団，③やくざ集団への指向，連係の強い集団，の3類型に分かれ，概して後者に至るほど組織化の度合いが高く，構造性も明確で，伝習型のやくざ集団に近くなっている。〔広瀬卓爾〕

グレンタンカー［graintanker］穀物をばら積みして輸送する船。

クレンペラー［Otto Klemperer］（1885～1973）ドイツの指揮者。フランクフルト音楽院を卒業後，ベルリンでフィッツナーに師事。1903年からオペラ指揮者となり，マーラー*の知遇を得てプラハのドイツ歌劇場やハンブルク歌劇場の指揮者となった。1924年ベルリン国立歌劇場指揮者として頭角を現わしたが，1933年，ナチスが政権獲得後は渡米し，ロサンゼルス-フィルハーモニー管弦楽団の指揮者となった。第2次世界大戦後はブダペスト歌劇場指揮者として復帰，以後客演指揮者として各地で活躍した。〔向坂正久〕

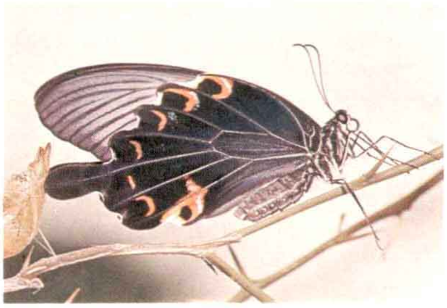
グレン-ミラー ⇨ミラー

グロ［Antoine Jean Gros］（1771～1835）フランスの画家。パリの生まれ。ダビッド*の門にはいり，のちルーベンス*に傾倒。《アルコラの戦いにおけるボナパルト》によってナポレオンに用いられ，歴史画・戦争画を多く描く。ロマン派から批判され，《ヘラクレスとディオメデス》発表後に自殺した。

くろあげは【黒揚羽】こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ90～120mm。体・翅ともにほとんど黒色，雄では後翅がやや紺色の光沢をおびる。尾状突起は比較的短い。前翅の各室間には濃黒色の縦条がある。後翅の裏面は黒色，外縁数室に橙黄(とうおう)色の半月紋がある。雄には後翅の前縁に白色の横斑(おうはん)があり，容易に雌と区別できる。雌は一般に雄よりも大形。暖地性の種で，本州・四国・九州・沖縄・朝鮮に分布する。各地に最も普通にみられる種類で，4月中旬から10月


クレンペラー


グロ《ヤッファのペスト病院》ルーブル美術館蔵


クロアゲハ　羽化直後で，翅がまだ弱々しい


クロアナバチ　巣をつくるクロアナバチ

ごろまで，寒地で2回，暖地では4回発生する。成虫は各種の花や路上の水たまりに好んで集まる。幼虫はカラタチ・サンショウ・ミカンなどの葉を食べる。まれに尾状突起を欠く個体がみられる。

くろあざびょう【黒あざ病】ナスなどの立ち枯れ病*と同じかびの一種によって起こるジャガイモなどの病気。これにかかると，ジャガイモのいもの表面にかっ色または黒色の菌核（菌糸が集まってつくるかたい塊状のもの）を生じ，病斑(びょうはん)はいもの外表面にかさぶた状のあざを形成する。菌核のついたいもを植えると，伸びてくる芽が侵されて枯れる。病原菌は土壌(どじょう)中または種イモについて越年し，また伝染する。輪作・種子消毒・土壌消毒などで発生を予防する。〔渡辺　実〕

クロアチア（共和国）［Croatia］ユーゴスラビア共和国連邦を構成する6共和国の一。面積は57,000km²で，ユーゴスラビア全国土の約4分の1を占める。人口437万4,000（1968推）。首都はザグレブ。ユーゴスラビアの北西部にあり，北西はスロバニア共和国に接し，北東はハンガリー国境，南はボスニア共和国に，西はアドリア海に面する。西部にジナル-アルプス山脈が海岸に平行して走り，東部はドナウ川の支流が形成する平野になっている。気候は地中海性気候で暖かく，農業が盛んである。ブドウ・麦・ジャガイモ・トウモロコシ・アサなどを産し，ぶどう酒の醸造も行なっている。ボーキサイト・鉄・石炭などの地下資源も豊かで，ザグレブ・リエーカ・ブロドなどの主要工業都市があり，ユーゴスラビアの中では工業生産高は最も高い。住民は，南スラブ系でカトリック教徒のクロアチア人が最も多く，ほかに少数のマジャール・イタリア人，それにギリシア正教徒のセルビア人がいる。この国は10世紀に建国されたが，12世紀にハンガリーの支配下にはいり，のち，トルコ・オーストリアに領有された。第1次世界大戦後は他の南スラブ族とともに王国をつくったが，セルビア人と反目を続け，1939年自治州，1946年人民共和国，1963年にユーゴスラビア連邦に加わった。〔野間三郎〕

くろあなばち【黒穴蜂】こん虫類・膜翅(まくし)目・ジガバチ科。体長25～30mm全体黒色で，灰白色の短毛がはえる。翅(はね)はかっ色をおびる。腹部は紡錘形でいくぶん扁平(へんぺい)，第1節は腹柄となり円錘(えんすい)形を呈する。腹部と脚には光沢がある。日本全土のほか，沖縄・台湾・中国・朝鮮をはじめアジア大陸の東南部・アフリカ・ニューギニア・オーストラリアなどに広く分布する。幼虫の食物として，キリギリス科のセスジツユムシ・ウマオイムシ・クサキリ・オガサワラクビキリバッタなどの幼虫・成虫を狩り，地中に穴を掘って営巣する。
➔カリュウドバチ

くろいし【黒石(市)】青森県中部の市。津軽氏支藩一万石の城下町であった黒石町が，1954年(昭和29)周辺4村を合併して市制を施行。人口42,000。津軽平野の南東隅

(なんとうぐう)，岩木川の支流浅瀬石(あせいし)川の渓口(けいこう)扇状地上に位置する。産業三大別人口比は37：20：43。周辺農業地帯の米・リンゴを集散し，県立の農業試験所とリンゴ試験所がある。県立自然公園黒石温泉郷があり，十和田八幡平(とわだはちまんたい)国立公園の西の玄関口にあたる。黒石線・弘南(こうなん)鉄道・国道102号線が通じ，東北縦貫自動車道路も予定されている。

くろいそ 【黒磯(市)】 栃木県北東部にあり，東北本線に沿って黒磯・東那須野(ひがしなすの)の２駅がある。1970年(昭和45)11月市制施行。人口47,000。産業三大別人口比は25：31：44。市域は東原とよばれる那須野原の東部から，福島県境の帝釈山地に及び，明治以後開拓された那須野原を中心に米作・タバコ栽培・酪農などが盛んで，農業人口は45％に達している。中心集落の黒磯は，1884年(明治17)東北本線の開通によってできた駅前集落で，北隣の那須町にある那須温泉の入り口としてにぎわい，最近は機械やゴムなどの工場が建設されている。市内にも北西部に板室温泉がある。国道４号線が市内を南北に走っている。

クロイツェル-ソナタ ［Kreutzer Sonate］ ベートーベン作曲のバイオリン-ソナタ第９番〈イ長調〉。３楽章からなる。はじめイギリスのバイオリン奏者ブリッジタワーにささげるために書かれ，初演も彼とベートーベンによって行なわれたが，のちにロドルフ-クロイツェル(1766～1831)にささげられて，この副題がついた。1803年の作で，ベートーベンの中期の傑作の一。

クロイドン ［Croydon］ イギリス，ロンドンの南14kmにある住宅都市。人口32万8,000(1967)。ロンドン大都市圏の一部で，製薬やテレビ受像機・時計製造も盛んである。第２次世界大戦前にはロンドン空港があり，大戦中は軍事基地として重要であったが，戦後空港はヒースロウに移された。

くろいはこ 【黒い箱】 ブラックボックス(black box)の訳語。1962年９月ロンドンで開かれた第10回パグウォッシュ会議で米・ソの学者６人により提案された自動記録式地震計のこと。これを封印して米・ソ両国内に設置し，互いに秘密核実験を抑止するのに役だてようとしたもの。

くろいわるいこう 【黒岩涙香】 (1862～1920) 新聞記者・翻訳家。本名周六。高知県の生まれ。慶応義塾(きじゅく)大学中退後，新聞記者となる。1892年(明治25)《万朝報(よろずちょうほう)》を発刊し，海外の推理・冒険・怪奇小説を翻案・連載，特色ある文体が涙香調として好評を博した。1902年には思想結社〈理想団〉を設立，内村鑑三(かんぞう)・幸徳秋水らを擁して社会浄化につとめた。評論に《天人論》，翻案小説に《鉄仮面》，デュマ(ペール)原作の《巌窟王(がんくつおう)》，ユゴー原作の《噫無情(ああむじょう)》などがある。

〔上笙一郎〕



クロガネモチ　果実は紅熟して美しく，鑑賞用に庭などに植えられる

くろうたどり 【黒歌鳥】 鳥類・ツグミ科。ツグミ大の鳥で，くちばしは黄色，雄は全身黒色，雌はかっ色。ヨーロッパから中央アジアを経て中国南部まで分布する。平地の庭園・公園の樹木や生けがきなどにも営巣し，さえずりが美しいので，ヨーロッパでは一般に親しまれている鳥である。英名はブラックバードというが，アメリカでこの名でよばれているのはまったく別のムクドリモドキ科の鳥である。

くろうど 【蔵人】 ⇨蔵人所

くろうどどころ 【蔵人所】 令外官(りょうげのかん)の一。810年(弘仁１)平城(へいぜい)上皇方に対して嵯峨(さが)天皇が朝廷側の機密を保つため，腹心の藤原冬嗣(ふゆつぐ)・巨勢野足(こせののたり)を蔵人頭(とう)に任命して重要文書を取り扱わせたことに始まる。その後常置となり，職員は，別当１人，頭２人，五位蔵人・六位蔵人など。中でも頭は天皇の信任深い人物が選ばれ，つねに側近にあって奏上・命令を取り次ぎ，勢力をふるった。頭２人のうち文官の頭は弁官を兼ねて頭の弁，武官の頭は近衛(このえ)中将を兼ねて頭の中将とよばれた。この設置により律令(りつりょう)制の少納言や侍従は職掌を奪われるに至った。明治維新後廃止された。なお，蔵人所の職員を蔵人といった。〔菊池礼子〕

くろうまものがたり 【黒馬物語】 イギリスの女流作家アンナ-シューウェルの童話(1877)。黒馬を主人公に，その一代記の形をとって，家畜に対する人間の非情な扱いを批判し，動物愛護運動のきっかけをつくった。

くろうめもどき 【黒梅擬】 双子葉植物・クロウメモドキ科。山地にはえる日本特産の落葉低木。高さ1.5～6.0ｍくらいになり，葉形や樹勢に多くの変異がある。葉は卵形で対生する。雌雄異株。５～６月ごろ葉腋(ようえき)に淡黄緑色の小花が束生する。果実は径６㎜ほどで球形，黒熟する。和名は果実がウメモドキに似ることによる。若葉はゆでて食用とし，果実を乾燥したものを鼠李子(そりし)といい，下剤とすることがある。近縁のものに，北アメリカに自生するカスカラサグダラがあり，この樹皮を乾燥したものは生薬のカスカラサグダラで，糖衣錠にして，常習便秘などの緩下剤とされる。

〔横井朝子〕

くろうりはむし 【黒瓜金花虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長６～７㎜。頭部・前胸部・腹部は黄色，鞘翅・脚などは黒色，背面には光沢がある。触角の長さは体長の半分を越える。本州・四国・九州などに分布し，主としてカラスウリを食害するが，その他のウリ類やときにミカン類の果実を食害することがある。

くろうんも 【黒雲母】 ⇨ウンモ

くろえ 【黒江】 和歌山県北西部，和歌浦湾の湾奥部にある黒江湾に臨む地区。海南市に属する。江戸時代から黒江塗の産地として名高く，市街には狭い路地をはさんでウルシとヒノキのかおりが交錯する小工場が立ち並び，伝統的な分業制の家内工業による漆器の産額は，石川県・福島県・香川県に次いで全国第４位を占める。黒江湾では最近埋め立てが進み，紀北臨海工業地帯が建設されている。紀勢本線・国道42号線(紀州街道)が通ずる。　〔浅井得一〕

くろえぬり 【黒江塗】 和歌山県海南市黒江を主産地とする漆器。1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が僧兵掃討のために根来塗(ねごろぬり)で知られる紀州根来寺を焼き打ちした際に，離散した僧徒がこの地方に定住して漆工を業としたことによると伝えられる。椀(わん)・膳(ぜん)などの日用漆器に良品が多く，春慶塗や蒔絵(まきえ)・沈金などもよくする。

くろおおあり 【黒大蟻】 こん虫類・膜翅(まくし)目・アリ科。働きアリは体長７～13㎜で，個体によって大きさは変化に富み，翅(はね)はない。体は黒色で，かっ色の微毛がはえ，胸部背面や腹部末端にはかっ色の剛毛がある。大形の個体では頭部・胸部がよく発達している。単眼はない。雌アリ(女王)は，体長17㎜内外，胸部が発達し，翅はかっ色をおび，かっ色の翅脈があり，単眼をもつ。雄アリは，体長11㎜内外，体は細長く，頭部は丸く，単眼・複眼ともに大きい。日本全土に普通に見られ，乾燥して陽のあたるところに営巣する。

くろがねもち 【黒鉄黐】 双子葉植物・モチノキ科。関東以西の暖地，中国・台湾に分布する常緑高木。高さ10ｍ。葉は互生し，広楕円(こうだえん)形で革質，光沢がある。雌雄異株。５月ごろ集散花序に淡紫色の小花を開く。果実は球形で紅熟し，美しいので観賞用とされる。樹皮はタンニンを含む。材はかたく緻密(ちみつ)で，狂いが少なく光沢があるため，細工物・くし・印材・そろばん玉などにする。

くろかび 【黒黴】 黒色のかびの総称でもあるが，クロコウジカビをさす場合が多い。コウジカビの一種で，アスペルギルス属(不完全菌)に属する。発酵食品・有機酸類・酵素剤の製造に利用される。



クロガヤ



黒川能　2月1日の夜，王祇祭の当番である上下の当屋のうち，下の当屋で演じられた《小鍛冶》。左の後ジテ稲荷明神が刀を鍛えているところ

くろかみ　【黒髪】　長唄(ながうた)・地歌・日本舞踊の曲名。作曲初世杵屋(きねや)佐吉，作詞初世桜田治助。1784年(天明4)初演の《大商蛭小島(おおあきないひるがこじま)》の二番目大切(おおぎり)に使われたメリヤス*曲。伊東祐親(いとうすけちか)の娘辰姫(たつひめ)が源頼朝(よりとも)への恋を北条政子(ほうじょうまさこ)に譲ったが，髪をすきながら嫉妬(しっと)にかられていく場面に用いた。これが上方で広まり，地歌にも残った。舞踊の手が各流でつけられている。

くろかみきり　【黒天牛】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長12～23mm。体は黒色で，脂肪性の光沢があり，体の腹面には黄かっ色の毛が密生する。頭部は横長でやや扁平(へんぺい)，前胸は球状。触角は太くて短く，数珠(じゅず)状。鞘翅は円筒状で，翅端は丸く，背面には2本の明瞭(めいりょう)な縦条が走る。成虫は6～9月に出現し，しばしば燈火に飛来する。幼虫は，アカマツ・スギ・ヒノキ・モミなどの樹幹や材木・朽ち木を食害する。

くろかめむし　⇨イネクロカメムシ

くろがも　【黒鴨】　鳥類・ガンカモ科。全長45～50cm，雄は全体に黒色で，上嘴(じょうし)の基部に橙黄(とうおう)色の隆起があり，雌は全体にかっ色。少数は北海道で繁殖する。冬季には湾内や荒磯(あらいそ)に普通にみられ，潜水しておもに貝類を食う。

くろがや　【黒茅】　腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫類・ハネガヤ科。高さ20cmほどの樹枝状の群体をつくる。全体が黒色。本州中部から九州までの深さ1～15mの海底の岩石などに付着する。

くろかわ　【黒皮】　鋳放し状態の鋳物の表皮のこと。鋳込みの際に速く凝固して，内部とは成分・組織ともに異なっていて，かたい。スケールや砂が固着していたりするので，切削加工の際には工具を摩損させないように，加工速度を落とす必要がある。

くろかわのう　【黒川能】　山形県東田川郡櫛引(くしびき)町黒川の農民によって伝えられ，春日(かすが)神社に奉仕する神事能。この地に能が土着したのは室町末期と推定され，元禄(げんろく)初年には衰微してほぼ現在に近い規模に至ったことが明らかである。能楽大成前の姿を伝えるものとは考えられないが，五流の能と関係を保ちながら，なおかつ様式・技法を別にする古態を色濃く残している。ほぼ世襲による能役者は現在100名程度で，上座・下座に分かれ，それぞれの座長に率いられる。540番の能を伝えるというが常用は100番程度，曲目は両座で2分されている。五流では絶えた曲の上演も多く，黒川能独自のものに《所仏則(ところぶっそく)の翁(おきな)》，少年の演ずる《大地踏(だいちふみ)》がある。神の能や鬼の能が好んで上演され，狂女物の類はまれである。各役は専業だがワキ方は独立せずシテ方から出，地謡は長老の役である。狂言は元禄ごろ断絶した時期があり，常用曲数は50程度で両座共有。2月1～2日の王祇(おうぎ)祭に《翁》つき五番立ての徹夜の演能を行なうほか，3月・5月・11月の例祭や，7月の羽黒山，8月の庄内(しょうない)神社での定期演能がある。

〔増田正造〕



グロキシニア

くろかわはるむら　【黒川春村】　(1799～1866)　江戸末期の国学者。江戸の人。独学で国学を学び，本居宣長*(もとおりのりなが)に私淑，また狩谷棭斎*(かりやえきさい)・伴信友*(ばんのぶとも)らと交わってその影響も受けた。学問は音韻学・文法・芸能・金石学など多岐にわたり，考証を得意とした。《音韻考証》《詞格用例》《碩鼠漫筆(せきそまんぴつ)》《詞八衢附考(ことばのやちまたふこう)》など，多くの著がある。

くろかわまより　【黒川真頼】　(1829～1906)　国学者・文学博士。桐生(きりゅう)の生まれ。幼にして博覧強記，黒川春村について国学を学んでその養子となる。1893年(明治26)東京帝国大学文科大学教授となり，東京美術学校・東京音楽学校の講師を兼務。全国宝物の取り調べ，正倉院御物の整理に関与し，帝室博物館の充実に尽力した。有職故実(ゆうそくこじつ)・時代風俗に詳しく，《黒川真頼全集》6巻がある。

くろぎ　【黒木(町)】　福岡県の西部，八女(やめ)郡の町。人口18,000。八女市の東に接する。1954年(昭和29)黒木町ほか4村が合併して生まれ，1957年に大淵(おおぶち)村を編入した。矢部(やべ)川中流の流域を占め，鹿児島本線の羽犬塚(はいぬづか)駅から分岐する矢部線の終点。米・麦・茶・ミカン・ブドウ・カキなどをつくり，乳牛を飼っている。旧黒木町は，中世には黒木氏猫尾(ねこお)城の城下町で，江戸時代には市場町として栄えた。天然記念物の〈黒木のフジ〉は，樹齢700年，花穂1mに達する。

くろきうり　【黒木売り】　⇨大原女(おはらめ)

グロキジウム　［glochidium］　二枚貝類・イシガイ科の貝の幼生で，有鉤子(ゆうこうし)ともいう。洗たくばさみのように開いた2枚の貝殻(かいがら)をもち，殻のまわりに鋭いつめがはえている。グロキジウムは親の貝のえらの内で育てられ，イシガイ類の殻の中に産卵するタナゴ類が，産卵のために近づくと親貝はグロキジウムを吹き出して，ひれなどにつける。グロキジウムは魚の上皮に包まれ，しばらくは寄生生活をしながら安全に育ってのち，脱落して水底の生活にはいる。

グロキシニア　［gloxinia］　双子葉植物・イワタバコ科。ブラジル原産の多年草。高温多湿を好み，観賞用として温室で栽培され，花屋でよく見かける。茎はごく短い。葉は少数出て，大きく卵円形で，表面はビロード状の毛でおおわれ，ひだが多い。夏に15cmくらいの花茎を出し，その先に鐘状の花を1花横向きにつける。花色は白・赤・紫色など。

くろき・しろき　【黒酒・白酒】　⇨新嘗(にいなめ)祭

くろぐされびょう【黒腐病】カンラン・ハナヤサイなどアブラナ科植物の主として葉に発生する病気。葉縁から黄かっ色の病斑(びょうはん)がくさび状にはいり,葉脈は黒かっ色に腐る。ダイコンの根では道管が黒変する。病原細菌は土中に生存し,種子にも長く生存する。

グログラン［grosgrain］細いたて糸に太いよこ糸をあらく織った絹または化学繊維の織り物。よこ糸はたて糸におおわれた太いよこうねとなっている。無地染めのものが多く,ドレス・コート・リボンなどに用いられる。

くろこう【黒鉱】わが国における銅・鉛・亜鉛の重要な鉱石。オウドウ鉱・センアエン鉱・ホウエン鉱・シメンドウ鉱・オウテッ鉱などからなる緻密(ちみつ)な鉱石で,センアエン鉱を含むことが比較的多く,そのために黒色を呈する。また,ジュウショウ石・セッコウを伴うこともこの鉱石の特徴である。この鉱石を含む鉱床を黒鉱鉱床(または黒物鉱床)といい,世界に類型が少ないが,日本には多数存在する。秋田県の小坂鉱山・花岡鉱山が代表例である。黒鉱鉱床は第三紀中新世に属する凝灰岩・ケツ岩中にあり,付近に流紋岩・プロピラヒトを伴う。また,黒鉱のほかにセキエイ質で多少オウテッ鉱・オウドウ鉱を含むケイ鉱,オウドウ鉱に富んだ黄鉱を伴っている。鉱体はしばしばセッコウに取り囲まれているが,ときにはセッコウが広く発達していて上記硫化物よりなる鉱石をほとんど産せず,セッコウを対象に稼行(かこう)している鉱山もある。島根県鰐淵(わにぶち)鉱山はその例である。鉱床は塊状または堆積(たいせき)の層に平行して層状を呈しており,下部は網状鉱床に移化することも多い。

黒鉱鉱床の成因には次の二つの説がある。①交替鉱床説:第三紀中新世の凝灰岩・ケツ岩の堆積後,流紋岩・変朽安山岩で代表される火山活動があった。この火山活動に関連して,マグマ*だまりから上昇した熱水溶液が凝灰岩・ケツ岩などにしみこみ,これらを交替して鉱石分を沈殿して鉱床を形成した。②海底噴気堆積鉱床説:第三紀中新世の海底で,流紋岩の火山から海中に放出された物質が,海底に堆積して鉱床を形成した。黒鉱鉱床に属する鉱山としては上記小坂・花岡・鰐淵のほか,北海道国富(くにとみ)鉱山・青森県上北鉱山,秋田県釈迦内(しゃかない)鉱山・古遠部(ふるとおべ)鉱山,山形県吉野(よしの)鉱山などがある。〔今井秀喜〕

くろこがね【黒金亀子】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体は長さ20mmほどの長卵形で,栗(くり)色ないし黒かっ色,やや鈍い光沢がある。頭部は小さく,鞘翅には明瞭(めいりょう)な縦隆起線がある。日本全土のほか,朝鮮・中国北部などに分布し,成虫はサクラ・リンゴ・ナシ・スギなどの葉を食害し,幼虫は苗木の根を食害する。



クロザル



黒沢明《どですかでん》演出中の黒沢監督(左)

ほぼ同じ地域に分布し,体長15〜18mmで前胸背板の点刻が大きいコクロコガネ,本州・朝鮮に分布し鞘翅に縦隆起線がないクロイロコガネ,本州・四国・九州・サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国に分布し,背面に光沢がなくビロード状を呈するオオクロコガネなど,近似種が多く,いずれも庭木や果樹の害虫である。

くろごきぶり【黒蜚蠊】こん虫類・直翅(ちょくし)目・ゴキブリ科。体長25〜30mm,翅長23〜25mm。全体光沢のある栗(くり)かっ色・頭部は背面からはほとんど見えない。前胸背はほぼ半円形であるが,後縁は後方に向かって丸みをおびる。触角は長く体長を越える。翅(はね)は油状の光沢が強く,翅端は尾端をわずかに越える。東京付近から奄美(あまみ)大島までに普通にみられる代表的な屋内害虫で,雑食性であらゆる食品を食べ,食品や食器の上などを歩きまわる衛生害虫である。

クロコダイル［crocodile］爬虫(はちゅう)類・ワニ科・クロコダイル亜科のワニの総称。東南アジア・アフリカ・熱帯アメリカおよびオーストラリア北部の熱帯地方の河川や海岸に分布。第4下顎歯(かがくし)は上顎の側面にあるみぞにはまるので,口を閉じても外から見え,第5上顎歯が最大。吻端(ふんたん)はとがり,体は大形。イリエワニは全長7mを越え,性質のあらいものが多く,大形動物を捕食するほか,ときには人をも襲う。ほかにナイルワニ・コビトワニ・アメリカワニなど3属12種が知られ,地域的に亜種に分けられる。卵性。→ワニ

〔松井孝爾〕

クロコディール［Krokodil］ソ連の絵入り社会風刺雑誌。クロコディールはワニの意。1922年6〜8月に《ラボーチャヤ-ガズェータ》(労働者新聞)の付録として12号まで発行されていたが,1922年8月27日号が独立したものとしての第1号。ソビエト社会の官僚主義,社会悪,好ましくない風潮などをするどく風刺し,それらをなくすため読者の注意を促そうという意図で発行されている。旬刊。

くろさぎ【黒鷺】鳥類・サギ科。全長60cm前後。全体に黒色の黒色型と白色型とがあるが,わが国に生息するもののほとんどは黒色型。海岸の磯(いそ)にすみ,本州中部以南で繁殖するが,数はあまり多くない。留鳥*。東南アジアから南洋諸島にかけて広く分布する。

くろざとう【黒砂糖】黒糖(こくとう)ともいう。旧式の小工場でつくられる粗製の黒色塊状の砂糖である。外観は悪いが特殊な風味があり,珍重される。かりん糖・ねじ棒・黒助などの駄菓子(だがし)類の原料。また,白砂糖に混ぜて〈黒ようかん〉をつくる。

くろざる【黒猿】哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。マカク属に近縁のサルでセレベス島にすむ。全身黒色,目の上の骨がよく発達し頭頂に毛房が立っているのが特徴。頭胴長60cm,尾は1〜2cm。小さな群れをつくる。雑食。生態は不明。

くろさわあきら【黒沢明】(1911〜　)映画監督。東京に生まれ,京華中学校卒業後,画家を志したが,中途で東宝に入社した。1943年(昭和18)《姿三四郎》でデビュー以来,そのダイナミックな力強い映像と真摯(しんし)な人間探究とで一作ごとに注目され,特に1950年の《羅生門(らしょうもん)》はベニス国際映画祭でグランプリを受賞し,日本映画が国際的に高く評価される最初のきっかけとなった。代表作には《我(わ)が青春に悔なし》《酔いどれ天使》《白痴》《生きる》《七人の侍》《生きものの記録》などがある。特に《生きる》は,その人道主義的な力強さにおいて日本映画史上の代表作の一つとされる。

〔佐藤忠男〕

くろさわじり【黒沢尻】岩手県北上盆地の中央部にある集落で,もとの和賀郡黒沢尻町が,1954年(昭和29)周辺6村を合併して北上市*の中心地区となった。平安時代末期には安倍(あべ)氏の黒沢尻柵(き)が築かれて前九年の役*の激戦地となり,江戸時代には奥州街道の宿駅,北上川舟運による物資の積み替え港として栄えた。

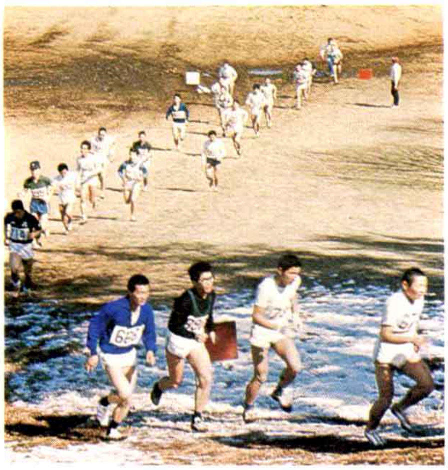
くろしお【黒潮】太平洋を西流する北赤道海流の延長で,日本海流ともいう。日本近海の代表的な暖流で,海水の色が特に濃紺であるところからこの名が出た。黒瀬川とよぶところもある。台湾の東岸沖から日本列島の南を北上し,季節によって相違は

あるが，銚子(ちょうし)沖から金華山沖のあたりで東へ流れを転じ，北太平洋をめぐって赤道に帰る。最大流速3～5ノット。日本近海の流れは，多分に親潮の勢力と関係がある。薩南(さつなん)諸島付近で支流が対馬(つしま)海流となって分岐し，九州の西から対馬海峡を経て日本海にはいり，日本海沿いに北上する。この流れは北海道の西岸に及び，日本海岸の気候に深い関係をもつが，本流は，近接した沿岸地域は別として，太平洋岸の気候に与える影響は少ない。プランクトンが少ないため魚族は豊富ではないが，寒流や沿岸水と接触したり，海底・海岸の変化地形に衝突したりしている所では漁場がつくられている。カツオは特に黒潮と縁が深く，水温20℃前後の上層を回遊している。〔長津一郎〕

くろしおいへん【黒潮異変】 黒潮の経路が通常の経路からはずれて大きく迂回(うかい)すること。この現象は古くから知られていたが，1934(昭和9)～1945年の約10年間，潮ノ岬(しおのみさき)南沖で大きく迂回した現象は特に注目された。これは，この時期に寒冷水の循環が強まったことが主因で，それに1934年の室戸台風などの異常気象が重なって，大きな冷水塊が出現したことによる。海流を変化させる原因は，十分に解明されてはいないが，気象条件(気圧・風・降水・蒸発など)の変化が大きく作用する。黒潮異変は漁業に大きな影響を与える。〔相原正彦〕

くろしじみ【黒小灰蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。アリと共生することで知られる。翅(はね)を広げた長さ30～35mm。翅表は暗かっ色で外縁はやや色が濃く，雄では暗紫色に光る。裏面は暗灰色で暗かっ色の斑紋(はんもん)が散在し，外縁に近く不鮮明な暗色帯がある。本州・四国・九州のほか，朝鮮・中国などに分布し，成虫は6月ごろから出現する。8月ごろ，親のチョウはクヌギ・コナラなどの樹上で生活するクワナケクダアブラムシと，そこを訪れるクロオオアリの存在を確かめたのち，小枝や葉裏などに1個ないし10数個を産卵する。孵化(ふか)した幼虫はアブラムシの分泌液をなめて成長し，3齢に達するとクロオオアリは幼虫をくわえて地中の巣に運び，口移しにえさを与えて保護する。10月ごろ成熟して5齢に達し，そのまま冬を越す。冬の間，虫は蜜腺(みっせん)から蜜を分泌し，アリはこれを食べる。幼虫は翌年の6～7月土中でさなぎとなり，やがて羽化する。本種のようにアリと共生する習性は同じシジミチョウ科のキマダラルリツバメなどにもみられるが，非常に珍しい。〔鈴木邦雄〕

くろじとうさん【黒字倒産】 帳簿上では利益があるにもかかわらず，資金不足のために給料が払えなくなったり，手形を期日に落とせなくなって倒産すること。おもに固定資産や売掛金への過大投資が，不況期の金融引き締めに影響されて資金不足となるのである。



クロスカントリー-レース

くろしま【黒島】 長崎県佐世保市に属し，市の西方海上にある。面積4.9km²，人口1,800。江戸時代には〈隠れキリシタン〉の島であったが，いまはカトリック教会に属し，中央にりっぱな天主堂があり，また1880年(明治13)に創立された女子修道院もある。地名は十字架のクロスに由来すると伝えられ，住民の85%がカトリック教徒である。全島が丘陵地で，畑作と漁業を営んでいる。

くろしま【黒島】 鹿児島県大島郡三島(みしま)村に属し，薩摩(さつま)半島南西端の坊津(ぼうのつ)から南西方40kmに位置する。面積6.8km²，人口約300。全島が森林でおおわれ，遠くから黒く見えるのでこの名がついたという。また竹林が多く，竹の実をねらってネズミが海を泳いで大挙来島したので，1955年(昭和30)にイタチを導入したところ，イタチがふえてニワトリも飼えなくなった。火山島で，最高点は櫓岳(やぐらだけ)(622m)。少しばかりの畑にサツマイモをつくり，貸付牛の放牧で生活する。平家の落ち武者と，その追討のために来島した源氏の武将大庭三郎家政が，仲好く住みついた所といわれ，祭りや踊りなどにその伝統が残っている。東に大里，西に片泊の2部落があるが，船舶が接岸できる港はなく，鹿児島市内に置かれている村役場から5日に1回回ってくる村営船もはしけで連絡する。医師はおらず，巡回診療にたよっている。唯一の鉄筋建造物である小中学校は台風のときの避難所を兼ねている。離島のため，第2次世界大戦の終戦を11月まで知らなかったという。〔浅井得一〕

くろしま【黒島】 沖縄，八重山諸島の島で，西表(いりおもて)島の東南東10kmにあるが，むしろ北東18kmの石垣(いしがき)島の石垣港との便が多い。西表島とともに竹富町に属する。低平な石灰岩の島で，面積13.7km²，人口約600。タマネギとアズキをつくり，ウシを飼っている。東部に東筋(あがりすじ)，北部に船着場の保里がある。

くろしまでんじ【黒島伝治】(1898～1943) 小説家。香川県小豆(しょうど)島の生まれ。早稲田(わせだ)大学予科の選科にはいったが，学業半ばに入隊，シベリアに送られた。後年の反戦文学の傑作《渦(うず)巻ける烏(からす)の群》などはこのときの体験による。1940年(昭和15)《二銭銅貨》によって《文芸戦線》の同人となり，農民作家として活躍するが，肺患にて病没した。作品に，発禁になった長編《武装せる市街》などがある。

くろシャツたい【黒シャツ隊】 ムッソリーニ指揮下のファシスト党の前衛行動隊。黒シャツはファシスト党員の制服。1920年末ごろ，国軍首脳の協力のもとに編成され，社会主義者・労働者を襲撃して暴力革命を推進した。1922年10月の〈ローマ進軍〉は特に有名。ファシスト政権成立後は国民兵に再編成された。

くろしょうじょう【黒猩々】 ⇨チンパンジー

くろしょうじょうばえ【黒猩々蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ショウジョウバエ科。体長2～3mm。黒色で，胸背には3本の不明瞭(ふめいりょう)な灰黒色の縦条がある。腹部背板は光沢のある黒色。家屋内やその周辺に多く，しばしば大発生する。キイロショウジョウバエとともに遺伝学の実験材料として知られている。

クロス［Charles Frederick Cross］(1855～1935) イギリスの有機化学者。主としてセルロースを研究。ロスコー(1833～1915)に学び，繊維の漂白からセルロースの分離・定量のための塩化法を発見。1892年ビスコース繊維を発見，製造特許を得，さらにセルロースのケトン構造説を発表した。1923年パーキンメダルを受けた。

グロス［gross］ 12ダースを1組として数えるときの単位。144個にあたる。

クローズ-アップ［close-up］ 映画・写真の用語。撮影の対象物の一部分を全体から切り離して大きく撮影すること。映画の場合には演劇と決定的に異なる表現手段の一つであり，グリフィスがこの手法を意識的に映画に取り込んだとされる。

グロースイッチ ⇨螢光燈(けいこうとう)

クロスカントリー-レース［cross country race］ 断郊競走ともいう。起伏に富んだ道路・野原・森などの弾力のある走路を選んで行なわれる競走。19世紀の後半にイギリスで発達し，1876年にロンドンで第1回イギリス選手権大会が行なわれた。競走の距離は，3～20km，または2～10マイル。日本では，一般8km以上，青年(18～20歳)10km以内，少年(16～18歳)5km以内，女子0.5～3kmとなっている。個人競技と団体競技とがあり，団体の場合には順位によって得点が与えられ，チームごとの合計点で勝負する。コースによって条件が異なるから記録は公認されない。欧米ではいまも

盛んだが，わが国では駅伝競走*のほうが盛んで，競走でなくトレーニングの種目として重要視されている。オリンピック競技としては，1912年のストックホルム大会から1924年のパリ大会まで行なわれ，現在は近代五種競技*で4kmのレースが行なわれている。〔伊東春雄〕

クロスステッチ　［cross stitch］　フランスししゅうの中の基礎縫いの一。東ローマ帝国で使用され，イタリアを経て北ヨーロッパ・西ヨーロッパで発達したといわれる。糸を×印状に交差させたステッチ*で，×印のくり返しで模様を表現する。単純なステッチのくり返しなので，下絵の構成，布地や配色糸の選び方，針目のあらさなどに新しい創意・くふうが必要である。使用する布地は，縦・横の布目の間隔が規則的で，縫い目が数えやすいものを選ぶ。〈下絵の描き方〉下絵は直接布には描かず，方眼紙に描いた模様を見て，布目を数えながら刺す。方眼紙の一つの目がクロスステッチの1単位にあたる。模様に要する布目の数と，方眼の目を合わせて下絵をつくる。1色で模様をつくるときは斜線で埋め，多色の糸を使用するときは記号を用いて下図をつくる。→区限ししゅう　〔山村あい子〕

くろすずめばち　【黒胡蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・スズメバチ科。ジバチ・スガレなどともいう。体長11～18mm。体は光沢の弱い黒色。複眼の後縁に沿った部分，胸部背面および腹部の各節後縁部などに黄白色の斑紋(はんもん)がある。頭部と胸部には長毛が密生する。日本全土のほか，朝鮮・中国北部に分布する。地中に穴をあけ，数層の巣盤からなる大形の巣をつくる。幼虫はよく肥大して脂肪に富み，食用として珍重され，長野県の名産として有名。

グロスター　［Gloucester］　イギリス，イングランド南西部の同名州の州都。人口91,000(1974)。ブリストル湾に注ぐセバーン川と運河で結ばれて漁業基地となり，化学・機械などの工業も行なわれている。イギリスの最も古い都市の一つで，市街にはローマ時代の土地区画の跡や，中世に建てられた寺院などが多い。1780年に開かれた日曜学校は，世界最初のものとされる。

グロスター　［Gloucester］　アメリカ合衆国マサチューセッツ州の漁港町。人口25,000(1960)。マサチューセッツ湾の北岸にあり，夏の避暑地となっている。

グロースターター　⇨螢光燈(けいこうとう)

クローズドショップ　［closed shop］　使用者がその従業員を採用する場合，労働組合の手を通して採用するか，あるいは労働組合員のみを採用する旨を定めた協定をいう。わが国では企業別組合*の形態が圧倒的に多いことから，クローズドショップは皆無に等しい。

クロストリジウム　［*Clostridium*］　クロストリジウム属の細菌の総称。大部分の種が嫌気(けんき)性で，一部のものが微好気的に発育し，芽胞をつくるグラム陽性桿(かん)菌。タンパク質・炭水化物を分解する酵素をもち，菌体外毒素を出す菌が多い。病原性のあるものに破傷風菌・ウェルシュ菌・ボツリヌス菌があり，非病原菌は土壌(どじょう)中や腸管内に広く存在する。



クロスステッチ　クッション



クロスビー　右はルイ-アームストロング

くろずな　【黒砂】　ブラックサンドともいう。地表の岩石・鉱石が風化分解し，風化に対し強くかつ重い鉱物が，流水または海水の流れによる淘汰(とうた)作用により残留・濃縮したもの。その鉱物としてはジテッ鉱・チタンテッ鉱・クロムテッ鉱・ザクロ石・ジルコン・モナズ石などで，シゼンキンを伴うこともある。一般に黒い鉱物が多いのでこの名がある。北海道内浦沿岸，朝鮮の西海岸，アメリカ合衆国のオレゴン州・カリフォルニア州の海岸などに存在する。〔今井秀喜〕

グロズヌイ　［Groznyi］　ソビエト連邦南西部，カフカス山脈北部にあるチェチノ-イングーシ自治共和国の主都。人口36万9,000(1973)。グロズヌイ油田*の中心で，石油精製・化学・機械などの工業が発達している。都市は1818年，ロシアのカフカス征服基地として建設された。1850年ごろ油田が発見されてから一躍発展した。

グロズヌイ(油田)　［Groznyi］　ソビエト連邦南西部のグロズヌイ市を中心に広がる油田。ソ連屈指の大油田で，1850年ごろに発見されてから次々と新油田を開き，年間500万～600万tを産しており，ドネツク炭田方面にパイプで送油している。主要油田にザテレチヌイ・マルゴベク・オクチブリスキーがある。

クロスビー　［Bing Crosby］　(1904～1977)　本名はハリー-リリス-クロスビー。アメリカのポピュラー歌手・映画俳優。ゴンザガ大学を中退して歌手生活にはいり，1927年，ポール-ホワイトマン楽団でボーカル-トリオのリズム-ボーイズとして好評を博したが，3年で退団。1931年にソロ歌手となり，レコード・放送・映画界の大スターとして現在に至る。マイクロフォンを使った今日の歌唱の基礎を築き，彼のソフトな暖かい歌声はクルーン唱法(小声でささやくの意)とよばれ，クルーナーの草分けとして，フランク-シナトラ・ペリー-コモをはじめとする多くの歌手に影響を与えた。《ホワイト-クリスマス》ほか，個人で最も多くのミリオン-ヒットを出している。1944年映画《わが道を行く》でアカデミー主演男優賞を受賞している。〔鈴木道子〕

グロスマン　［Vasili Semyonovich Grossman］　(1905～1964)　ソビエトの小説家。処女作《グリュッカウフ》は内戦時代の兵士に取材したもので，第2次世界大戦を描いた《人民は死なず》は抵抗文学として名高い。

くろずみきょう　【黒住教】　教派神道の一。教祖黒住宗忠(むねただ)(1780～1850)は備前(岡山県)の神官の出。1812年(文化9)父母の死後肺を病み，生死の境をさまよったが，病状をもちなおした1814年，太陽を拝して天命直授を受けた。アマテラスオオミカミは宇宙万物の育て神で，人の心はその分霊であるとみ，われを離れて一切を神にゆだねれば，天地とともに〈生き通し〉となり，永遠の生命，自他相愛・相生相栄の域に至ると説いた。7か条の日々の戒めと〈教の五事〉を勧める。1872年(明治5)黒住講社の結成，1876年神道黒住派として別派独立，1882年黒住教と改称した。公称信者61万，岡山県を中心に西日本に分布する。〔藤井正雄〕

クロスレート　［cross rate］　基準相場の対象とされた通貨と第三国通貨との間の為替(かわせ)相場。基準相場とクロスレートから種々の国の通貨との間の為替相場を決定することができる。わが国の基準相場は1ドル＝308円であるから，たとえば，ドルとポンドとの間の為替相場は，1ドル＝308円(基準相場)と1ポンド＝2.60ドル(クロスレート)とから，1ポンド＝308円×2.60571＝802.56円というように，円とポンドとの間の為替相場を決定することができる。このようにして算定された為替相場を裁定相場といい，各国通貨との間の為替相場は裁定相場として算出されることになる。アメリカとイギリスとの間の為替相場は世界の為替体系の中軸となっており，従来からクロスレートとして使用されることが多かったから，一

般にクロスレートというと，アメリカとイギリスとの間の為替相場を意味することが多い。➔外国為替相場　〔安井孝治〕

クロスワードパズル　[crossword puzzle]　文字によるなぞ解き遊びの一種。四角形のわくの中がさらに縦横の直線によっていくつにもくぎられてできたます目(黒く塗りつぶされたもの，文字のはいっているもの，空欄になっているものの３種に分かれる)のうちの空欄に，与えられたヒントに基づいて文字を入れ，縦横に連絡し合うことばをつくりあげる遊び。縦横15ずつのます目をもち，黒塗りの箇所は左右対称に配されるのが基本の形であるが，現在ではこれを変形したものが多い。クロスワードに似たもので文字や絵を用いたなぞ解きは，すでに19世紀の欧米の子どもの雑誌に現われているが，今日のクロスワードは，1913年ごろから《ニューヨーク-ワールド》紙の日曜版に掲載されたものに始まる。これは1924年にまとめて単行本として発行され，長期ベストセラーとなった。流行はアメリカからイギリスやカナダにも波及し，さらに他の国でもこれを載せない新聞や雑誌はないほどになった。日本では，1924年(大正13)から新聞・雑誌に現われるようになり，大正末期から昭和初期にかけて特に《サンデー毎日》誌上で大流行したが，大衆的人気を博すようになったのは第２次世界大戦後，主として各種の週刊誌が懸賞つきクイズにこれを用いてからである。　〔土屋　裕〕

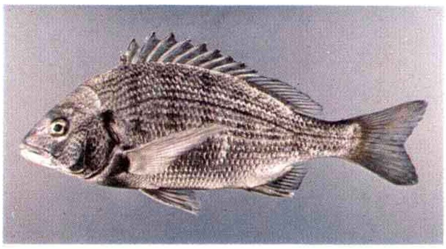
くろだい　【黒鯛】　硬骨魚類・タイ科。全長50cmほどになる海産魚。マダイ*によく似た形であるが，全身暗灰色で腹部は銀灰色。ごく若い間は全身銀色で，体側にはっきりしない暗灰色の横じまが数本はいっている。日本・朝鮮・中国に分布し，50m以下の浅い泥底(でいてい)にすみ，ときには河口・内湾などの淡水の混じった水域にもはいりこむ。10cm未満の幼魚は潮だまりにもよくはいる。美味で，つり味がよいので，つり師に喜ばれるが，警戒心が強くてなかなかつれず，また網にもかからない。なんでも食べる悪食家のため，地方によっては血を荒らすといって，妊産婦などに食べさせないところもあるが，旬(しゅん)の夏に洗いなどにすると美味。関東地方で小さいものをチンチン，関西ではチヌという。近縁のキチヌ(キビレ)は大きさも形もクロダイとほぼ同じだが，胸びれ・腹びれ・臀(しり)びれが黄色で見分けがつく。味は似ている。分布は広く，本州中部以南・西太平洋・インド洋に及ぶ。同じく近縁のヘダイは頭の輪郭が丸く，体色が青味をおびた銀灰色で，体側に多数の淡黄色の縦帯がある。全長40cmほど。本州中部以南・西太平洋・インド洋水域沿岸に広く分布する。クロダイよりも美味。　〔菅野　徹〕

くろダイヤ　【黒ダイヤ】　⇨カーボナード

くろだきよたか　【黒田清隆】　(1840～1900)　明治時代の政治家。旧名了介(りょうすけ)。幕末，薩摩(さつま)藩士として薩英戦争*・薩長連合*に従った。戊辰(ぼしん)戦争*の各戦線に従軍し，五稜郭(ごりょうかく)の戦い(➔函館(はこだて)戦争)では官軍を指揮して最後の旧幕軍を降伏させた。1870年(明治３)北海道開拓使次官，次いで陸軍中将となる。1875年には参議兼開拓長官となり，その建白によって樺太(からふと)千島交換条約*が実現した。同年江華島事件*が起こると特命全権として急派され，翌年日鮮修好条規*を締結した。創業期の北海道開拓には終始その中心であったが，1881年北海道開拓使官有物払い下げ事件*で世論の攻撃を受け，開拓使廃止に伴って長官を辞任，内閣顧問となった。1887年に第１次伊藤(いとう)内閣の農商務大臣，翌年薩摩藩閥の長老として第２代首相となり，大日本帝国憲法を発布した。黒田内閣は超然内閣(政党に基礎を置かず，官僚・貴族・軍閥などで組織した内閣)主義を掲げて議会に臨んだが，条約改正*に失敗して辞職。のち逓信大臣・枢密院議長を歴任し，また短期間首相臨時代理・臨時首相をつとめた。伯爵。　〔高崎徳次〕

くろだじょすい　【黒田如水】　⇨黒田孝高(よしたか)

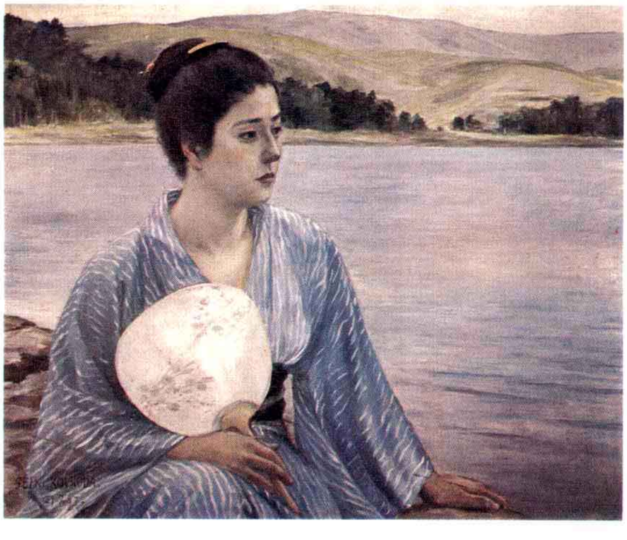
くろだすいざん　【畔田翠山】　(1792～1859)　江戸時代の本草学者。姓は源，名は伴存(ともあり)，通称は十兵衛(じゅうべえ)。和歌山に生まれ，小原桃洞(とうどう)に本草学を学んだのち，紀州藩の藩医となる。動物誌および植物誌に数多くの図譜を著わし，特に水産動植物に関して卓越した成果を収めた。



クロダイ

くろだせいき　【黒田清輝】　(1866～1924)　外光派(➔印象派)を移入して，近代洋画の父といわれる洋画家。鹿児島の生まれ。幼時に伯父(おじ)黒田清綱の養子となり，東京で外国語学校に学ぶ。1884年(明治17)法律を学ぶために渡仏したが，山本芳翠(ほうすい)らに勧められて絵画に転じ，R.コラン*について本格的に修学した。在仏時代には《読書》《朝妝(ちょうしょう)》がサロン*に入選。1893年帰国して，翌年久米桂一郎(くめけいいちろう)と画塾(がじゅく)天真道場を開設，翌々年の内国勧業博覧会で裸体画《朝妝》が物議をかもした。1896年東京美術学校に新設の西洋画科講師となり，その後教授として後進を指導。かたわら，1896年白馬会*を興し旧派と対立しながら洋画界を刷新し，以後の洋画の主流，官学派を形成することとなった。1900年パリ万国博覧会に《智(ち)・感・情》《湖畔》を出品。1912年以降は文展審査員・国民美術協会会頭などを歴任し，1920年(大正９)貴族院議員，1922年帝国美術院院長などの要職をつとめ，美術振興に尽力した。　〔陰里鉄郎〕

くろだそうどう　【黒田騒動】　筑前(ちくぜん)(福岡県)福岡藩*に起こったお家騒動*。1623年(元和９)黒田長政*(ながまさ)のあとを継いだ忠之(ただゆき)は，筆頭家老栗山大膳(くりやまだいぜん)ら先代以来の功臣を用いずに，みずから抜擢(ばってき)した倉八十太夫(やそだゆう)を重用し，幕府の忌諱(きい)に触れるような行動が多かった。これを憂えた大膳は諫書(かんしょ)を起草し，他の老臣も署名したが，対立はかえって深まった。1632年(寛永９)大膳は忠之に反逆の意志があると幕府に訴え出たが，訊問の結果逆意のないことが判明し，忠之は除封を免れた。大膳は南部家に預けられ，八十太夫は高野山に追放された。大膳が主君を訴えたのは，失政を口実に藩がとりつぶされることを恐れたためであるといわれ，大膳を忠臣とする考え方が有力で



黒田清輝　《湖畔》 1897
東京国立文化財研究所蔵

あるが，疑問の点が多い。

くろだながまさ【黒田長政】（1568～1623） 安土桃山・江戸初期の武将。孝高(よしたか)の子。父とともに豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，中国征伐，賤ケ岳(しずがたけ)の戦い，九州征伐などに功があった。1589年（天正17）家を継ぎ，豊前(ぶぜん)（大分県）中津十二万石を領した。文禄(ぶんろく)・慶長の役に出陣し，7年間各地に転戦。関ケ原の役では徳川方に属し，筑前(ちくぜん)（福岡県）五十二万石余を与えられ，福岡城主となり，福岡藩の基礎を確立した。大阪の陣にも出陣。〔善積美恵子〕

くろたねそう【黒種子草】 双子葉植物・キンポウゲ科。ヨーロッパの原産の一年草。徳川時代に日本にはいり，観賞用として栽培される。茎は高さ50cmくらいでよく枝分かれする。葉は羽状に細かく切れ込み糸状，光沢がある。夏，枝の先に青色または白色の2cmほどの花をつける。

くろだぶし【黒田節】 民謡の曲名。江戸時代に福岡藩士が好んで歌ったといわれる越天楽(えてんらく)今様。大正以後，一般庶民の酒席の歌として親しまれるようになった。《筑前今様》の別名もある。

くろたまむし【黒吉丁虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・タマムシ科。クロヒメタマムシともいう。体長14～23mm。体は光沢のある銅黒色で，ときに緑色をおび，腹部末端節の両側に赤色紋がある。鞘翅には9～10条の点刻列のある縦溝(じゅうこう)が走る。日本全土のほか台湾・朝鮮・中国北部・シベリア・ヨーロッパなどに広く分布し，いくつかの亜種に分けられている。幼虫は衰弱または枯死したアカマツ・クロマツなどの材部を食害し，成虫は7～9月に出現する。

くろだよしたか【黒田孝高】（1546～1604） 安土桃山時代の武将。職隆(もとたか)の子。通称官兵衛(かんべえ)。はじめ小寺氏を称し，のち黒田氏に復した。1577年（天正5）以来，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に仕え，その腹臣として中国征伐，山崎の戦い，賤ケ岳(しずがたけ)の戦い，九州征伐に従軍。1587年豊前(ぶぜん)（大分県）中津十二万石を与えられた。1589年子長政(ながまさ)に家を譲り，如水と号した。文禄(ぶんろく)・慶長の役に出陣。関ケ原の役では徳川方に属し，中津にいて九州の石田三成(みつなり)党を降した。これよりさき高山右近(うこん)の感化により，1583年受洗し，ドン-シメオンのキリスト教名をもつキリシタン大名。〔善積美恵子〕

グロチウス［Hugo Grotius］（1583～1645） 〈自然法の父〉〈国際法の祖〉とよばれるオランダの国際法学者。デルフトの名家の生まれ。宗教的紛争に巻き込まれ，急進的新教アルミニウス派指導者の嫌疑(けんぎ)で捕えられたが，かろうじてのがれ得た。のちスウェーデン政府のパリ駐在大使として外交官の経歴をもつ。ヨーロッパ各国を巻き込んだ三十年戦争の惨禍を目のあたりに目撃，これらの経験から宗教的・国家的対立を規制する自然法の超越的存在を主張し，国家間の戦争行為の限定，合理化による平和の維持・回復を説いた。また神の教えとしての中世自然法を理性の法としての自然法に転換し，人間の本性と意志的行為による秩序形成の途を思想的に準備して，啓蒙(けいもう)思想へ甚大(じんだい)な影響を与えた。しかし，その基本的立場はなお都市市民・貴族を背景にした中世身分社会的構造のわく内にあった。主著に《戦争と平和の法》がある。〔寺尾方孝〕



黒田長政　黒田長礼蔵



クロチョウガイ



黒　塚　寒々としたすすき原で，悪鬼にもどったシテ（3代目市川猿之助）は，僧たちに祈り伏せられる。演者の祖父猿翁初演のあたり役であった

クローチェ［Benedetto Croce］（1866～1952） イタリアの哲学者・歴史家。イタリア新ヘーゲル主義の代表者のひとり。1903年，雑誌《批評》をジェンチーレとともに発行。史的唯物論に反対して，精神を事物の本質とする観念論的立場を主張。歴史を精神の発展とする歴史哲学を展開した。政治家としても活躍し，1920年文部大臣をつとめたが，ファシズム時代は自由主義の立場を守って引退。第2次世界大戦後内閣副総理として自由党の実際上の指導者となった。主著《精神の哲学》《歴史の理論と歴史》。〔豊福英利〕

くろちく【黒竹】 単子葉植物・イネ科のタケ類。ハチクの変種で全体に小形。茎が翌年にしだいに黒色となる。美しいので観賞用とし，竹細工にも用いる。➔ハチク

くろちょうがい【黒蝶貝】 軟体動物二枚貝類・ウグイスガイ科。殻長(かくちょう)・殻高ともに14cmほど，殻幅4cmほどで，角ばった円形の貝。殻(から)は厚くかたく，内面に真珠光沢がある。志摩半島以南のインド・太平洋海域に産し，真珠養殖に用いられる。

くろづか【黒塚】

1 能の曲名。五番目物。作者不明。観世流では《安達原(あだちがはら)》という。安達が原の黒塚に鬼が住むという伝説に基づいたものという。山伏行慶の一行が安達が原で行き暮れて1軒の家を見つけ，1夜の宿を頼む。主人の老女は紡ぎ車を回しながら人の世のはかなさなどを語り，やがて夜が寒いからと裏山にたきぎを切りに出る。その間に閨(ねや)をけっしてのぞいてはいけないと言い残すが，山伏についてきた強力が中をのぞくと人の死骸(しがい)が積み上げてある。一行が逃げようとすると，老女は鬼の姿となって山伏に打ちかかる。山伏は法力で鬼女を退ける。前ジテは老女，後ジテは鬼女，ワキは山伏，間狂言(あいきょうげん)は閨を見る強力。前ジテは糸車の作り物で糸を紡ぐ所作，後ジテはワキの法力と戦うイノリの演技が見せ場である。歌舞伎(かぶき)に対する影響が大きい。〔長尾一雄〕

2 長唄(ながうた)・日本舞踊の曲名。木村富子作詞，4世杵屋(きねや)佐吉作曲。振り付けは花柳寿輔(はなやぎじゅすけ)。1939年（昭和14）初演。

クロッカス［crocus］ 単子葉植物・アヤメ科。ヨーロッパ原産の多年草。球根を秋に植えると3月ごろに開花する。花は6片で，花弁が癒着(ゆちゃく)して細長い筒状になっている。葉は線状で中脈が白い。種類や品種が多く，花色には黄・白・紫・斑(ふ)入りがあり，花壇・鉢植え・水栽培にする。耐寒性は強い。クロッカスはクロッカス属の総称でもあり，広義には薬用のサフランを含めて，地中海沿岸と西南アジアに約75

種が分布する。しかし，一般には春咲きの園芸種をクロッカスといい，サフランに対してハナサフランともいう。〔横井朝子〕

クロッキー　［croquis］　描法のうちの速写を意味するが，すばやく対象をつかみ，5～20分ぐらいの間に描かれる。基礎練習には人体を描くとよいが，動物その他であってもよい。短い時間に形態のバランスや動勢をつかむことが必要であり，単なる輪郭の再現ではなく面や肉づけを伴った対象の表現であることを忘れてはならない。単色で行なうのが普通である。

くろつぐみ　【黒鶫】　鳥類・ツグミ科。全長32cmほどで，雄はくちばしが黄色，腹は白地に黒色の斑点(はんてん)があり，他の部分は黒色。雌は上面がかっ色，下面が白色で，くびや胸部にはかっ色斑が多数ある。夏鳥として北海道・本州・四国に渡来し，だいたい1,000m 以下の低山帯で繁殖する。

クロッケー　フランスで生まれ英米で発達・普及した打球技。1897年に全英連盟ができ，しばらく年次選手権試合が行なわれていたが，現在では一般の人が家庭や公園でレクリエーションとして楽しむスポーツとなった。

〔競技方法〕おもに芝生(しばふ)で行なわれるが，コートの広さは自由。ふつう，九つの鉄門柱を設ける。木づちで木球を打ち，鉄門柱をくぐらせながら，出発柱→折り返し柱→ゴール(出発柱)までの得点と早さを競う。個人，またはペアで交互に打球する。ロケット(相手の木球をはじく)して相手の関門通過を妨害することができ，得点は門柱を通過するごとに1点となる。〔伊東春雄〕

グロッケンシュピール　⇨鉄琴

クロッシェ　［cloche］　つり鐘形の帽子。クラウンは深め，ブリムは下向きで比較的幅が狭い。婦人用としては16世紀ころから用いられ，わが国では大正時代に流行した。クラウンの高さ，ブリムのカーブなど流行により変化するが，全体的に落ち着いたふんい気のもので，年齢に関係なく広い範囲に用いられる。クロッシュともいう。

グロッス　［George Grosz］　(1893～1959)　ドイツの画家。ベルリンの生まれ。ドレスデンに学ぶ。ディクスの新即物主義*に傾倒し，第1次世界大戦後には当時の社会を辛辣(しんらつ)に風刺した素描を発表した。1932年ナチスの禍を避けて渡米。《街角(まちかど)》《支配階級の歴史》などによって巧みに政治批判を行なった。

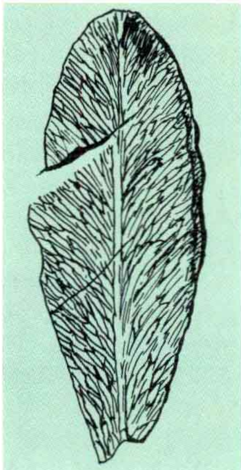
グロッソプテリス　［glossopteris］　古生代末に，グロッソプテリス植物群の代表として，インドおよび南半球のゴンドワナ大陸*に繁茂したソテツシダ。インド北方，オビ川・エニセイ川の上・中流，北シベリアなどのユーラシア大陸中央部にも，北方移動種と考えられるものが発見される。長さ30～40cmのへら状の単葉で，葉脈が正方形に近い規則正しい網目を呈する。この植




クロッカス
(左)ニガーボーイ
(右)園芸品種のラージエロー



グロッス《カップル》1934　ホイットニー美術館蔵



グロッソプテリス

物群は，ガンガモプテリス・ゴンニデウムなどを含み，シダ類から裸子植物への進化を示している。〔神戸信和〕

クロップシュトック　［Friedrich Gottlieb Klopstock］　(1724～1803)　ドイツの詩人。浅薄な形式偏重の合理主義に反旗をひるがえし，新鮮な感情のいぶきを吹き込んだ啓蒙(けいもう)期の詩人ではあるが，宗教感情を主としたところに時代的制約がある。ミルトンの《失楽園*》に触発されて歌った壮大な叙事詩《救世主》は，受難から昇天までのキリストを歌い，完成までに25年を要した代表作で，当時の詩壇に新風を吹き込んだ。また《頌歌(しょうか)》は，友情・愛・神・自然・祖国などを主題にしており，ドイツ語で歌われた最初の自由韻律の詩として重要視されるのみならず，いまでも広く一般に愛読されている。それら詩作上の試みは，のちの〈シュトルム-ウント-ドラング*〉の時代に影響を与えた。〔吉田　孚〕

くろつやむし　【黒艶虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・クロツヤムシ科の総称。体長15mm内外の小形種から，80mmに達する大形種まで含まれる。体は細長く，全体光沢のある黒色の種類が多い。触角は短く，末端の3節はくしの歯状。雌雄とも強大な大あごをもつ。鞘翅は腹部を完全におおい，強い縦溝(じゅうこう)が走る。幼虫は枯れ木や朽ち木などに生活し，後脚で一種の摩擦音を発し，その音によって雌成虫が食物を与えて養うことが知られている。全世界から約500種が知られ，熱帯から亜熱帯の雨量の多い地域の密林中に生活する種類が多い。日本にはオニクロツヤムシのみが産する。これは体長17～20mm，背面は強く膨隆し，光沢の強い黒色。頭部に1対の角状突起がある。前胸背板には微細な点刻が散在し，周縁は深い条溝で縁取られ，前部中央には1対の突起がある。四国・九州の主として山地帯に分布する。〔鈴木邦雄〕

くろつるばみいろ　【黒橡色】　色名。一般的には黒色と考えてよい。しかし，厳密にはわずかに青みのある，ごく暗い灰色をいう。橡はクヌギの古名で，クヌギの実を用いて鉄媒染によって染め出される。ふつう，上代に用いられた橡色は黒橡をさす。クヌギの実を用いてあく媒染によって染めた色が黄橡で，平安時代には黄橡を単に橡色と称した。

グローテウォール　［Otto Grotewohl］　(1894～1964)　ドイツ民主共和国(東ドイツ)の政治家。第2次世界大戦前，社会民主党の国会議員であったが，ナチス政権によ

って投獄された。第2次世界大戦後，東ドイツで社会民主党を再建してその書記長となった。1946年，同党を率いて共産党との合同を実現し，ドイツ社会主義統一党(SED)を組織して委員長となり，1949年ドイツ民主共和国の発足とともに初代首相に就任。

グロテスク ［grotesque］ 一般には〈怪奇的〉〈異様な〉の意味に用いられているが，本来は装飾模様の一種をさす美術用語である。イタリア語のグロテスコは，普通の絵ではふつりあいな場所を装飾する風変わりな意匠をいう。15世紀末，古代ローマの遺跡が発掘されたとき，地下に埋もれたグロッタ(洞穴(どうけつ))状の空間にみられたつる草のアラベスク，怪異な人物，空想的生物などの装飾文様が注目され，一種の怪奇趣味が流行した。ラファエロのバチカン宮の装飾模様などが有名である。芸術表現の概念としてはきわめて重要な要素の一つで，時代の変革期に爆発的に表面化する。美術では15～16世紀のピエロ-デ-コシモ*・ボッシュ*・ブリューゲル*・グリューネワルト*，19世紀のゴヤ*・ブレーク*・ドラクロア*・ルドン*・アンソール・ムンク*，20世紀のグロッス*・ノルデ*，さらにシュルレアリスムの諸作家などがあげられる。〔三木多聞〕

グローテフェント ［Georg Friedrich Grotefend］ (1775～1853) ドイツのオリエント学者。楔形(くさびがた)文字*の最初の解読者。ゲッチンゲン大学で古典を学び，高等学校の教師になった。古典語から東洋語の研究に移り，1802年にラテン語で書かれた論文《ペルセポリス碑文の解読報告を述べた楔形文字指針》をゲッチンゲン学士院に提出した。当時の学界はこれに対して冷淡であったが，のちにローリンソン*によってその正しさが認められ，アッシリア学*の基礎を築いた。〔兼岩正夫〕

クローデル ［Paul Claudel］ (1868～1955) フランスの詩人・劇作家。《真昼の分割》《マリアへのお告げ》《繻子(しゅす)の靴*(くつ)》など，宗教性の強い劇作で知られる。ランボー*の《イリュミナシオン*》によって啓示を受け，文学の方向を決定づけられた。象徴主義*と宇宙的規模のカトリック信仰に裏づけられた文学世界を展開し，詩への深い認識を語った《詩法》はその真髄を示している。外交官としても活躍し，日本にも1921年(大正10)から6年間大使として滞在した。〔池田公麿〕

くろてん 【黒貂】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。普通のテン*より尾が短く，耳が大きい。体長40cm，尾長14cmほどで，雌は雄より小さい。体色は淡かっ色から黒茶色までいろいろある。冬には足の裏がすっかり毛でおおわれる。ヨーロッパ北西部からシベリア・カムチャツカ・北海道などの森林にすみ，木登りがうまい。リスやネズミ，卵・果実などを食う。毛皮は良質で，暗色のものは陸産毛皮の最高級品とされる。



クロトン 飛葉

クロード ［Georges Claude］ (1870～1960) フランスの物理学者・化学者。ハーバー・ボッシュとは別にアンモニア合成法を発明した(クロード法)。また空気液化法を発明し，空気中から酸素・希ガスを分離する方法，ネオンなどを電球に応用する方法を発明した。第2次世界大戦中にナチスに協力したことから，戦後裁判を受け，禁錮刑(きんこけい)に処せられた。

グロートゥス ［Christian Johann Dietrich von Grotthuss］ (1785～1822) ドイツの化学者・物理学者。ナポリで水の電解実験を行ない，分子の電離についての考えを含む理論的考察を発表した。電気化学の開拓者。1820年，光化学反応について，感光物質によって吸収された光のみが光化学作用を起こすこと(グロートゥス-ドレーパーの法則，光化学第1法則)を発表した。

クロード-ロラン ⇨ロラン

クロトン ［croton］ 双子葉植物・トウダイグサ科の常緑低木。ヘンヨウボク・クロトンノキともいう。ジャワからオーストラリアに及ぶ地域の原産で，観葉植物にされる。葉は厚く革質，互生し，卵形から線形まで変異が多く，波状・らせん状にねじれたもの，中脈まで切れ込むもの，中央が主脈のみで再び先端に葉をつけるもの(飛葉)などがある。主脈と支脈に沿って，白・黄・赤の条や斑点(はんてん)がある。雌雄同株で，上部の葉脈に総状花序をつける。雄花は白色，雌花は無花片，果実は白色球形。さし木・取り木・実生でふやす。〔横井朝子〕

くろながおさむし 【黒長歩行虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体長32mm内外。全体黒色で，表面にはほとんど光沢がない。鞘翅は長楕円(ちょうだえん)形で，不明瞭(ふめいりょう)な低い点刻を連ねた隆起線がある。日本全土のほかサハリン(樺太(からふと))に分布し，地方的な変異が多く，一般に高山地帯に産するものは小形・細形となる傾向がある。

くろながたまむし 【黒長吉丁虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・タマムシ科。体長10～15mm。体は黒色で，わずかに藍(あい)色ないし緑色をおびる。鞘翅はきわめて短い暗灰色毛におおわれ，一面に微細な点刻を有する。幼虫はアカガシなどのブナ科植物を加害し，成虫は5月ごろから出現する。本種には3型が知られ，原型はわが国の本州・四国・九州および中国に，頭胸部が銅色をおびて鞘翅が銅緑色をおびる型が本州の北部と中部に，頭胸部があざやかな銅赤色で鞘翅の黒色な型が北海道・本州・対馬(つしま)や朝鮮・中国北部・東部シベリアに広く分布する。

くろなまず 【黒なまず】 癜風(でんぷう)の俗称で，ナマズのはだのような斑点(はんてん)を生ずるのでいう。癜風菌とよばれるかびの一種が皮膚に寄生して生ずる皮膚病。胸・背中・腋窩(えきか)・鼠蹊部(そけいぶ)・上腕に，米粒大からつめの甲大で，わずかにぬか状のものを伴う斑点を生ずる。色調は淡かっ色ないし暗かっ色の場合と，周囲の健常皮膚より淡色の場合とがある。鱗屑(りんせつ)から癜風菌が証明される。治療は抗白癬(はくせん)剤を外用するが，治癒(ちゆ)後当分色素脱失面を残すことがある。再発しやすい。〔田嶋公子〕

クロニクル ⇨年代記

クローニン ［Archibald Joseph Cronin］ (1896～1981) イギリスの小説家。グラスゴー大学の医学部を卒業後，臨時船医などを経たのち《帽子屋の城》で文壇に登場，以後《城砦(じょうさい)》など人道主義的な小説を発表し，世界的に多くの読者を集めた。緊迫感に満ちた筆致で人間の葛藤(かっとう)を描くことにすぐれ，代表作には自伝的な《青春の生きかた》をはじめ，《三つの愛》《人生の途上にて》などがある。

グローニンゲン ［Groningen］ オランダ北東部にある同名州の州都。人口17万1,000(1972)。穀物・家畜の取引が盛んな商業都市であり，化学・機械などの工業も盛んで，北東部地方の中心になっている。運河によって北海に通ずる。12世紀には十字軍*がここから船出した。1284年にハンザ同盟*都市となり，当時建設された聖マルチン教会が残っている。1614年に創立された大学もある。

クローネ ⇨樹冠

クローネ ［Krone］ デンマークおよびノルウェーの貨幣単位。補助単位はエーレで，1クローネは100エーレに等しい。為替(かわせ)平価は，デンマーク-クローネの場合は1アメリカ-ドル＝7.5クローネ，ノルウェー-クローネの場合は1アメリカ-ドル＝7.14286クローネである。

くろねこ 【黒猫】 ポー*の短編小説(1843)。悪のために悪を重ねていく人間の異常な心理を描いたもの。主人公が，飼っていた黒猫を発作的に殺し，さらに恐怖感から妻をも殺してしまい，その死体を壁に塗り込めるが，壁の中からの叫び声によって罪があばかれる。一人称形式と緻密(ちみつ)な描写によって読者に恐怖を与えるのに成功した。ポー初期の佳作。

クロネッカー ［Leopold Kronecker］ (1823～1891) ドイツの数学者。ベルリン

大学教授(1833)。裕福なユダヤ系の実業家の子として生まれた。大学卒業後は，実業家としてしばらく数学から遠ざかっていたが，代数的整数論と楕円(だえん)関数論との関連についての〈青春の夢〉と称される予想*を立てて登場した。これはのちに高木貞治*によって解決された。クロネッカーの記号などが示すように，代数学に多くの貢献をした。

クロノグラフ ［chronograph］ 時刻を示す普通の時計に，短時間を測定する装置の備わったもの。ボタン操作によって始動・停止およびゼロもどしができる1本以上の針をもち，測定時間の合計を記録する。時刻用目盛りのほかに脈搏(みゃくはく)・速度・回転数・距離などの測定用目盛りをもっている腕時計もある。なお，時刻を示さず時間だけをはかる時計は，タイマーまたはストップウォッチとよばれる。

クロノス ［Kronos］ ギリシア神話の神。ウラノス*とガイア*から生まれたティタン族の末子。父が生まれる子どもを次々にタルタロス*に閉じ込めたので，母にそそのかされて反乱を起こし，父の男根を切除して支配権を奪った。しかし，みずからもわが子に倒されるという予言を恐れ，生まれた子どもを飲み込んだので，末子ゼウス*に挑戦(ちょうせん)されて神々の王の座を明け渡した。妻は姉のレア。ふたりの間にはゼウスのほか，ヘラ・ポセイドン・ヘスチアらがある。ローマ人はサトゥルヌスと同一視した。〔松田　治〕

クロノメーター ［chronometer］ 本来は時計を意味するが，ふつう持ち運びできるきわめて精度の高い時計をいう。1714年イギリスのJ.タッカが精確な時計という意味で用いたのがはじまり。最近まで航海中の船舶が，その位置を見いだすために必要な標準時計として使用する特殊な脱進機を備えたマリン-クロノメーター(経線儀あるいは時辰儀(じしんぎ))をクロノメーターとよんでいたが，最近では可搬形水晶時計の出現，さらに小形の懐中時計・腕時計でも高い精度が得られるようになったため，時計の種類・等級・基準について国際的に統一を図り，公認の検定機関による試験に合格した可搬時計にこの名称を与えている。わが国においても日本クロノメーター検定協会が1969年(昭和44)設立され，3等級の検定を行なっている。〔元持邦之〕

クローバー ［clover］ 双子葉植物・マメ科。シロツメクサ・オランダゲンゲともいう　帰化植物としていたるところにはえる多年草。茎は長く地をはう。葉は丸い3小葉からなる。夏，葉のつけ根から枝を出し，その先に白色の蝶形花(ちょうけいか)を球状につける。江戸時代にオランダ人が日本へガラス器を運ぶとき，箱のすき間に詰めたのでツメクサの名がある。

くろはちじょう ［黒八丈］ 本来は伊豆(いず)諸島の八丈島に産する黒地に茶・黄・白格子柄(こうしがら)の絹織物で，単に黒八ともいう。八丈島では，シイの木の皮で茶に染めた糸を鉄分を含む泥土(でいど)につけて黒染としたので泥八(どろはち)ともいわれた。この黒染法にならって，かつて東京都西多摩郡五日市町付近を産地として織り出された黒無地絹織物も黒八と称され，産地名をとって五日市ともよばれた。黒八丈の名は1721年(享保6)の江戸呉服商の取り扱い品目の記録にみえているから，そのころにはすでにかなり生産されていたようである。江戸後期の洒落本(しゃれぼん)などには通人の下着や羽織に好んで用いられたようすが描かれている。明治期の五日市産の黒八は経(たて)糸を密に，緯(ぬき)糸を太くして，経畝(うね)を表わした平組織の手織絹織物であったが，近年はまったく生産されていない。現在の黒八は大部分細番手のガス糸を合成染料で染めた綿織物の工業製産品であるが，米沢では絹・人絹製品も織られている。丹前の掛けえりや男物着物のそで口，長じゅばんの半えりなどに使われている。〔北村哲郎〕

くろパン ［黒パン］ ライ麦粉を原料とする黒いパン。わが国では普通の小麦粉にライ麦粉と水と食塩を混ぜ，適温に保って自然発酵させてイーストを培養したものを加えて発酵を行なわせたのち焼いてつくる。普通のパンのように十分にはふくれていないが，味やかおりがよいので珍重される。なお，わが国では普通の小麦粉にカラメルや糖蜜(とうみつ)を加えて着色したものも黒パンとよんでいる。

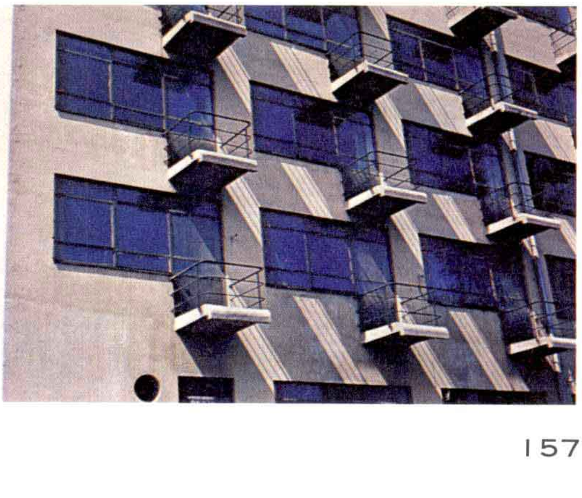


クローバー

グロピウス ［Walter Gropius］(1883～1969) 20世紀における最も卓越したドイツの建築家・工芸家。ベルリンの建築家の家庭に生まれた。1908年ベーレンス*の事務所でル-コルビュジエ*やミース-ファン-デル-ローエ*とともに働き，のち建築家・工業デザイナーとして独立。1919年ワイマールの美術学校と高等工芸学校の校長を命じられたが，州立バウハウス*として両者を統合した。1934年イギリスに亡命。1937年ハーバード大学の建築科教授としての招きを受けて渡米し，1945年以来はTACを主宰して多数の設計・計画案を作製した。彼は，産業革命以来急速に発達してきた資本主義社会の多様で複雑な建築空間に対する要求に，その機能と材料を合理的に展開して，明快な新しい近代的な表現を与えた。特に，機械による生産力の増大と生産技術の進歩とに早くから着目して，機械に対して否定的な態度をとる潮流とは反対に，それを基礎とし，それを駆使して過去の固定的な様式にとらわれることなく，要求されている機能を合理的に解決しうる表現を追求すると同時に，こうした方向の中に生活空間の創造の土台があるとした。この見地は民衆の社会生活の改良・変革運動とは結びつきが弱く，デザイン・建築の分野の内部にのみ限定されていたために，その面での実際的な成果は少ないが，資本主義社会の高揚期の建築課題への接近の中から，それをしのぎ，その前途への建築理念を暗示した功績と影響は大きく評価できる。代表的作品としては，近代建設の一つの里程標として著名なデッサウのバウハウス校舎や，それに至る初期のファグス製靴(せいか)工場，またハーバード大学大学院センター，西ベルリンの50,000人のための地域計画(グロピウスタウン)などがある。〔川田伸紘〕

クロービス ［Clovis］(465ごろ～511) フランク王国の初代国王。そのカトリックへの改宗はヨーロッパの形成を決定したとされる。481年に父キルデリックの死でサリー-フランク系の一支族の支配者となり，486年ローマ総督シャグリウスを破って北ガリアにフランク王国を建てた。フランク内部の反対勢力をおさえるとともにチューリ

グロピウス　デッサウのバウハウス校舎(部分)



ンゲン族・アレマンネン族を討った。この直後の496年，ランス司教レミギウスの手で部下3,000人余とともにカトリックに改宗した。これによりガロ-ローマ人はフランクに協力するようになった。507年ツールーズを都とするアリウス派の西ゴート国王アラリック2世をブイエの戦いで破り，南ガリアを支配下に入れた。ビザンチン帝国皇帝アナスタシウスは彼にコンスルの称号を送り，彼は皇帝とよばれたと伝えられる。その事績は6世紀のツール司教グレゴリウスの《歴史》10巻に記されているが，不明の点も少なくない。〔兼岩正夫〕

くろひめやま 【黒姫山】 長野県北西部，新潟県境近くにそびえ，標高2,053 m。円錐(えんすい)形の二重式死火山で，火口原には鏡池・大池などの火口原湖があり，山腹は森林におおわれている。北の妙高山，南の飯綱(いいづな)山・戸隠山とともに上信越高原国立公園の一部になっている。

くろビール 【黒ビール】 ⇨ビール

クローブ 丁子ともいう。テンニンカ科・チョウジ属のアロマチカという植物の花のつぼみをかわかして製した香料。アロマチカの原産地はモルッカ諸島で，現在は熱帯地方の各地で栽培され，東アフリカのザンジバル島・ペンバ島が世界最大の産地で，産額は合わせて世界の90%を占めている。食用の香料としては，塩味にも甘味にもよく，特に焼きりんご・ニシン料理のソースのかおりつけのほか，ケチャップ・ピクルス・リキュールなどにも用いられる。〔佐藤友太郎〕

グローフェ [Ferde Grofé] (1892～1972)アメリカの作曲家。ニューヨーク生まれ。ロサンゼルス交響楽団のビオラ奏者となり，のちジャズに転向した。1920年シンフォニック-ジャズの創始者として知られるポール-ホワイトマン(1890～1967)の楽団のピアノ奏者となる。この時期にガーシュイン*の《ラプソディ-イン-ブルー》のオーケストレーションを担当して好評を博し，1924年から作曲家として活躍した。代表作に，1931年ホワイトマンの楽団で初演された組曲《大峡谷》がある。

くろふじつぼ 【黒藤壺】 甲殻(こうかく)類・フジツボ科。殻(から)の直径・高さともに4 cmほどの大形のフジツボ。殻表は黒灰色で，縦走する隆起がある。本州北部から種子島(たねがしま)までに分布し，潮間帯低部の岩礁に普通にみられる。

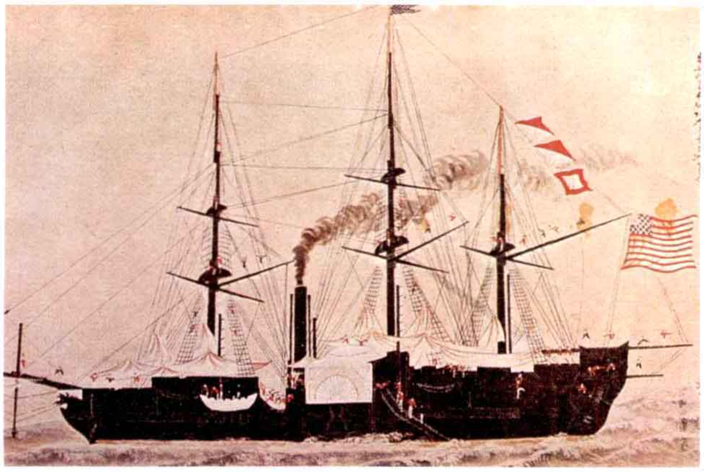
クロフツ [Freeman Wills Crofts] (1879～1957) イギリスの推理小説作家。もと鉄道技師であったが，1921年《樽(たる)》でデビュー，本格的ななぞときもの約40冊を書いた。その作風は，天才的な名探偵(めいたんてい)が鋭い直感で意外な解決を導くというのではなく，平凡な警察官が丹念に捜査するさまを克明に描いていくというじみなもので，アリバイ派という呼称を生んだ。代表作に《樽》のほか《フレンチ警部最大の事件》《クロイドン発12時30分》などがある。〔福田生雄〕

くろふね 【黒船】 近世初期，日本に来航した南蛮船や洋式の外国船のことで，船体を黒く塗っていたことからこの名でよばれた。幕末の外国軍艦の渡来以後は，黒船渡来は先進資本主義国である欧米列強のわが国への資本主義的侵略をも意味した。

グロブリン [globulin] タンパク質を溶解性の立場から分類したときの名称の一。一般に水に不溶または難溶，うすい塩類溶液には可溶なタンパク質をいう。卵グロブリン・血清グロブリンなどがある。➔タンパク質



クロービス



黒　船
1853年浦賀に来航した4隻のアメリカ軍艦のうちの1隻

くろべ 【榧】 裸子植物・ヒノキ科。ネズコともいう。深山・亜高山帯に自生する常緑高木。高さは20 mに達する。樹皮はかっ色ないし赤かっ色で光沢があり，薄片となってはげ落ちる。葉はアスナロ*に似ているが，それより小さいうろこ状葉で，下面が白くない。雌雄同株。5月，枝先に花をつけ，10月に楕円(だえん)形の球果ができる。材は建築材・器具材として重要である。

くろべ 【黒部(市)】 富山県北東部の市。中心市街の三日市は12世紀末以来の市場町で，北陸街道の重要駅であった。1954年(昭和29)桜井町と生地(いくじ)町が合併して市制施行。人口36,000。市域の大半は富山湾に注ぐ黒部川*下流南岸の扇状地上にあり，南には旧扇状地にあたる十二貫野の台地がある。海岸には砂丘地帯が発達し，その内側は低湿地となっている。産業三大別人口比は17：46：37。電気精錬・電気製塩・ファスナーなどの工場があり，付近は早場米・スイカの産地として知られる。生地港からは北洋への出漁船が多い。北陸本線・富山地方鉄道が通じ，国道8号線が市街をほぼ南北に縦貫する。宇奈月(うなづき)温泉や黒部渓谷(けいこく)の観光基地となっている。

くろべがわ 【黒部川】 富山県東部を流れ，日本海に注ぐ川。流程85km。中部山岳国立公園の中心部，富山・岐阜・長野3県の境をなす三ツ俣蓮華岳(みつまたれんげだけ)(2,841 m)と鷲羽岳(わしばだけ)(2,924 m)付近に水源があり，南北に並走する立山連峰と後立山(うしろたてやま)連峰の間を大峡谷をなして北流し，山間を出ると大扇状地をつくって日本海にはいる。黒部峡谷は古くから知られていたが，中流部の上廊下・下廊下とよばれる険しい谷は特別の熟練者以外は近づけない山の聖地とされていた。いまは富山地方鉄道の終点宇奈月から欅平(けやきだいら)まで関西電力黒部鉄道があり，下廊下までは容易に探勝できるようになって，沿岸に多い野趣あふれる温泉とともに観光客をひきつけている。水量が豊富で急流をなしているところから，大正時代から水力発電が行なわれていたが，1963年(昭和38)さらに上流に黒部ダム*がつくられ，人造湖黒部湖の水は黒部川第四発電所に導かれる。大町市(長野県)からダムまでの工事用道路も観光ルートに転用され，人煙まれといわれた黒部の秘境に観光客の感嘆の声が聞かれるようになった。下流の扇状地はこの川の氾濫(はんらん)や乱流で水害の多かったところであるが，いまは治水がいきとどき，広く田畑が分布して早場米と黒部スイカの産で知られている。〔長津一郎〕

くろべごろうだけ 【黒部五郎岳】 中ノ俣岳(なかのまただけ)ともいう。北アルプス中部，富山・岐阜県境にそびえ，標高2,840 m。黒

部川上流の最奥に位置し，北側は黒部川源流の深い谷を隔てて，雲ノ平と相対する。頂上付近には大きなカール*がある。

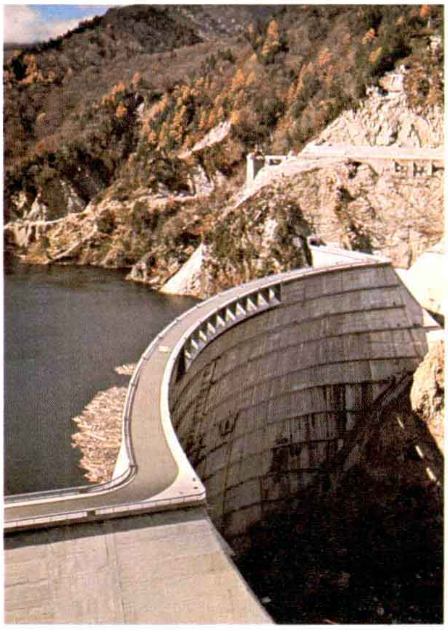
くろべダム 【黒部ダム】 富山県中新川郡立山町，黒部川上流の標高1,448mの地点に，1963年(昭和38)に関西電力がつくったアーチ式ダムで，高さ186m。日本第1位，世界第4位のダムで，総貯水量1億9,928万m³，水力発電を目的とする。堰堤(えんてい)の長さ492m，湖水の面積3.5km²，満水位標高1,448mである。ダムの下流約10kmのところにつくられている黒部川第4発電所は長さ120m，幅20m，高さ40m，最大出力25,800kWで，雪害防止と中部山岳国立公園の自然景観を守るために地下200mのところにつくられ，水は黒部トンネルで導かれている。なお，下流には仙人(せんにん)・小屋平・猫又(ねこまた)・愛本・合同などのダムと発電所がある。 〔木村東一郎〕

グローほうでん 【グロー放電】 ⇨気体放電

くろぼきん 【黒穂菌】 担子菌類・クロボキン目に属する菌の総称。イネ科植物につく病原菌で，黒穂菌・裸黒穂菌・生臭黒穂菌・桿(から)黒穂菌など約40属，700種がこれに含まれる。➔黒穂病

くろほしびょう 【黒星病】 リンゴ・ナシ・モモ・カキなど果樹類の病気。葉・若枝・果実に円形または楕円(だえん)形に黒色のすす状の胞子がつく。果実では病斑部(びょうはんぶ)がかたくなってくぼみ，表面に割れ目を生じて奇形となるか，あるいは落果する。病原菌は枝・落葉の病斑中に菌糸の形で越冬し，春，新葉の開くころに分生胞子をつくって飛散・伝染する。春の発芽前にPCP剤加用石灰イオウ合剤，落花後にボルドー液*・ダイセン*などを散布する。

クロポトキン ［Pyotr Alekseevich Kropotkin］ (1842～1921) ロシアの無政府主義者・地理学者。名門貴族の生まれ。1862年，士官としてイルクーツクに赴任した際，民主的改革をめざしたが成功せず，地理学の研究に専念した。のち無政府主義者としてナロードニキ*運動に参加し，1874年に逮捕・投獄された。このころからアナーキズムの著作を発表。バクーニン*らがインターナショナルを分裂させてつくったジュラ同盟(社会民主同盟)で活動し，ヨーロッパ各地の無政府主義運動を支援した。ロシア二月革命*でケレンスキー内閣が成立すると，ボリシェビキ*の立場，特にプロレタリア独裁に反対して活動したが，のち1920年に十月革命の歴史的意義を認めた。彼のアナーキズムは，スペンサーやコントの実証的な総合哲学の影響を受けており，〈相互扶助〉による無政府社会をめざしていたが，社会の歴史的発展を理解せず，マルクス主義の弁証法・階級闘争理論には反対の立場にあった。著書に《パンの略取》《一革命家の思い出》《相互扶助論》ほか多数あり，大杉栄*(おおすぎさかえ)・石川三四郎*らを通じて，その思想はわが国にも大きな影響を与えた。➔アナーキズム 〔山県弘志〕



黒部ダム わが国最高の堤高(186m)を誇るアーチ式ダムが美しい流線を描いてそそり立ち，巨大な造型美をつくり出している



クロマツ 若い枝の先に雌花がつく

くろほびょう 【黒穂病】 ムギ類・トウモロコシなどの穂の子房に黒い粉(黒穂菌の胞子)が充満し，黒穂となる病気。①ムギ裸黒穂病：子房から黒穂胞子が容易に飛散し，最後には穂の中軸のみが裸になって残る。本菌は開花期にめしべの柱頭から子房中に侵入し，菌糸の形で胚(はい)の中で休眠する。この保菌種子を翌年まくと，菌糸は植物の生長点付近で伸長し，穂の形成とともに黒穂胞子を生ずる。②ムギ堅黒穂病：子房中の胞子は銀白色の膜で包まれ，収穫時までは破れず飛散しない。③ムギ生臭黒穂病：病粒は緑色から茶かっ色に変わり，暗茶かっ色の胞子を充満するが，なかなか破れず飛散しない。病粒をつぶすと腐った魚のような生臭い悪臭がある。④ムギ桿(から)黒穂病：葉鞘(ようしょう)・葉身に縦に長く灰色から銀色の条を生じ，やがてその表皮が破れて黒穂胞子が現われる。⑤トウモロコシ黒穂病：子実が異常に肥大してこぶとなるので，おばけともいわれる。予防には，無病種子を採種し，ふろ湯浸・冷水温湯浸，水銀製剤による種子消毒を行なう。〔渡辺 実〕

くろほん 【黒本】 表紙が黒色の草双紙*の一種。1744年(延享1)ごろから江戸で出版され，青本*とともに赤本*に取って代わったが，同一作品が黒本・青本のそれぞれで刊行された例もある。さし絵・内容は赤本よりやや複雑になり，童話のほか浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)の翻案も多く，読者層は子どもから青少年にわたった。

クローマー ［Evelyn Baring Cromer］ (1841～1917) イギリスの植民地政治家。はじめ軍人であったが，インド総督秘書を経て，1883年にはエジプト駐在総領事となり，支配的権限をふるった。特にアラビ=パシャ*の乱を鎮圧するなど民族運動を抑圧する一方，賦役の廃止をはじめ封建的遺制の除去や財政の立て直し，灌漑(かんがい)施設の改善などの近代的改革に尽くし，イギリス植民政策の一範を示した。

クロマチック ［chromatic］ 西洋音楽用語。古代ギリシア音楽では，今日の半音に近い音程を含む4度のわく組みの種類を示す。今日では，半音の幅や半音階に関するものの形容として使われる。たとえばクロマチックな楽器とは，半音の幅で音が出せる楽器をいい，クロマチックな音階は，全音階ではなく，半音ずつ進行するものをいう。またクロマチック転調は，新しい音楽でよく使われる転調法の一つである。

くろまつ 【黒松】 裸子植物・マツ科。オマツともいう。海岸によくみられる常緑高木。高さ40m以上にも達する。樹皮は黒かっ色で亀甲(きっこう)形に深い裂け目ができる。葉は針形，長くてかたく，長さ10～15cm，2本が対になって基部はかっ色のさやでおおわれる。雌雄同株で，雌花は新しく出た枝の上端につき，雄花は下部に群生する。庭木・盆栽とされ，園芸品種も多い。材は建材・土木などに用いられている。➔マツ

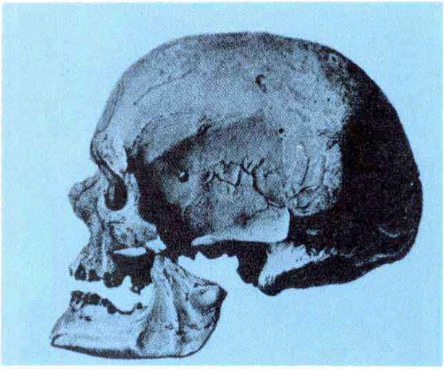
クロマトグラフィー ［chromatography］ 色素分析のこと。色素物質の分別吸着分離法。濾紙(ろし)上にインクなどを落とすと水だけが周囲に広がり，色素が中央に残る現象は古くから知られている。これはインクの成分の濾紙に対する吸着力の差によるものであり，この方法で色素の混合溶液を分析できる。1906年M.ツベットは吸着現象を利用し，葉緑素を石油エーテルに溶解して沈殿性炭酸カルシウムの粉末を詰めたガラス管中に通すと，各成分の吸着力の差によりいくつかの色層が得られることを示した。彼はこの色層をクロマトグラム，この吸着力の差によっていくつかの部分に分けていく方法をクロマトグラフィー(クロマトグラフ法)と名づけた。クロマトグラフィーは物質の分別移動差法の一種であり，その物質の分離の要因によって，次の二つに分類さ

れる。

①吸着クロマトグラフィー：吸着剤(固定相)に対する被吸着性の相違により物質の分離が起こるもので，この方法を用いる場合は吸着剤と溶媒の選択が主要な問題になり，その選択は現在までのところ経験によっている。無機陽イオンの混合溶液の分離にアルミナを用いる吸着クロマトグラフィーが有名である。②分配クロマトグラフィー：溶質の分離が，互いに混合しがたい二液相(固定相と移動相)間への分配率の相違によって起こる。たとえば，水を約50％含んだシリカゲルをカラムとよばれる管に詰め，これに試料溶液を入れておき，水と混ざらない溶媒(ブタノール＋クロロホルム)を流すと，〔ブタノール＋クロロホルム〕－水系に対して，試料中の各成分の示す分配率の相違によって各成分のカラム中を動く速さが異なり，分離が行なわれる(1941)。また，固定相と移動相の種類により，液体クロマトグラフィー・ガスクロマトグラフィー・ペーパークロマトグラフィーなどと分類されることもある。液体クロマトグラフィーのうち，移動相(展開剤)が液体で固定相が固定(吸着剤)であるものを液－固クロマトグラフィー，固定相も液体であるものを液－液クロマトグラフィーとよぶ。したがって，ツベットの行なった実験は液－固クロマトグラフィーであるし，要因による分類では吸着クロマトグラフィーである。また，マーチン・シングの実験は液－液クロマトグラフィーであり，分配クロマトグラフィーである。

ガスクロマトグラフィーはクロマトグラフィーの新分野で，最近特に発展してきたものである。液体クロマトグラフィーと根本的に異なる点は，移動相が液体でなく気体であることである。この展開剤に相当する気体を特にキャリアーガスという。ガスクロマトグラフィーは固定相の相違により，気－固クロマトグラフィー(吸着ガスクロマトグラフィー)と気－液クロマトグラフィー(分配ガスクロマトグラフィー)に分けられる。前者は無機ガスや低沸点の炭化水素ガスの分析に，後者は有機化合物一般の分析に適する。応用範囲は後者のほうがずっと広い。固定相として濾紙を用いるペーパークロマトグラフィーは，タンパク質の加水分解によって生じたアミノ酸の分析をはじめとして，有機酸・糖類・無機化合物などの分析にも適用される。〔三輪誠・野宮健司〕

クロマニヨンじん 【クロマニヨン人】 1868年，フランス南部，ドルドーニュ県のクロマニヨン洞窟(どうくつ)で発見され，その後ヨーロッパ各地，全北アフリカなどに出土する後期旧石器時代に生息した化石現生人類。たけが高く(180cm＜)脳頭蓋(のうとうがい)がよく発達し，骨盤の形態などから現代ヨーロッパ人の祖先とされる。オーリニャック文化*およびそれ以後の文化を伴う。



クロマニヨン人　頭骨



クロマメノキ

くろまめ 【黒豆】 黒ダイズともいい，ダイズの種皮の黒色のものをいう。〈まめに働く〉とか〈まめに育つ〉という意味で，古くから正月料理に煮豆として用いられてきた。皮の色素はアントシアン系色素のクリサンテミンで，鉄・スズなどの重金属とあうと錯塩をつくるから，鉄なべを用いたり鉄くぎを入れて煮ると美しい黒色が得られる。なお，黒豆の煮じるに熱湯を入れて飲むとせき止めの薬となり，また声がよくなるともいわれる。〔塩川ふみ〕

くろまめのき 【黒豆の木】 双子葉植物・ツツジ科の落葉小低木。北半球の寒帯に広く分布し，日本では北海道，本州中部以北の高山に自生。高さ6cmほどのものから150cmに達するものまであり，多く分枝し，小枝に葉を密生する。葉は互生し，楕円(だえん)形，長さ2cmほど。7月に枝端に2～3個の有柄の花をつける。花冠は淡紅色をおびた白色のつぼ形で，先は浅く5裂する。果実は径6mmほどの球形で，9月ごろ紫黒色に熟す。果実は生食したり，ジャムをつくったりする。軽井沢では果実をアサマブドウとよんでいる。

クロム ［chromium］ 周期率表第Ⅳ族に属する金属元素。記号Cr 原子番号24，原子量51.996。1797年フランスのボークランがシベリア産のベニエン鉱から未知金属の酸化物として発見した。銀白色の光沢があるかたい金属で，融点1,800℃，沸点2,600℃。常温では酸化されにくく，酸素中で燃焼して酸化第二クロム(Cr_2O_3)になる。クロム化合物が各種の色彩を示すことから，〈色〉を意味するギリシア語クロマにちなんで命名された。〔古屋　弘〕

クロムは酸やアルカリに強く，かたくてもろいが，高純度のものは板状や線状にも加工される。原鉱石は主としてクロム鉄鉱$FeO \cdot Cr_2O_3$で，これを硫酸中で加圧・加熱処理してクロムを溶解し，電解その他の方法によって金属クロムを製造する。常温脆性(ぜいせい)があるため，金属クロムそのままの形やクロム基合金の形では用いられないが，鋼材や耐火材の性能を著しく改善するほか，利用の範囲は広い。

まず，18-8ステンレス鋼などの耐食鋼・ニッケル-クロム系耐熱鋼・高速度鋼(クロム3.5～4.5％)・磁石鋼(クロム1～3％)などに盛んに用いられているほか，耐熱鋳鉄(クロム10～30％)の成分にもなっている。また非鉄金属素材としては，ニクロム線などの電熱材に常用されるほか，銅合金やアルミニウム合金の一部にも添加されて多量に使用されている。そのほかクロムを被覆する方法として，硬質クロムめっきなどが用いられているほか，クロムを鉄鋼中へ浸透させるクロマイジングもかなり行なわれている。また，クロム酸洗い液の形で防食処理に用いられる。

また，クロム-マグネシアれんが・マグネシアれんがとして，耐火材の分野で貢献している。前者は特にすぐれた特性が喜ばれ，塩基性平炉そのほかの冶金(やきん)用炉材として広く用いられている。後者は熱間荷重軟化温度や熱衝撃抵抗などの点で前者より劣っているが，石灰焼成炉などに用いられている。このほかクロムは，クロム-イエローその他の形で，塗料や染料としても用いられている。〔秋枝哲児〕

クロムイエロー ⇨黄鉛

クロムイエローいろ 【クロムイエロー色】 色名。クロムイエロー*に由来し，わずかに赤みのある黄色をいう。日本工業規格(JIS)慣用色名には〈クロムイエロー色〉と規定されている。➔色

グロムイコ ［Andrei Andreevich Gromyko］ (1909～　) ソ連の政治家・外交官。ミンスクの生まれ。1931年共産党に入党し，1936年から科学アカデミー経済研究所で研究に従ったが，1939年に外務省アメリカ部長となって以来，外交官として活躍。1943年リトビノフの後任として駐アメリカ大使兼キューバ公使となり，テヘラン会談・ヤルタ会談・ポツダム会談や第1回国連総会に参加した。外務次官・イギリス駐在大使などを経て，1957年以降外相をつとめ，その外交手腕は高く評価されている。1956年以降ソ連共産党中央委員である。

〔山県弘志〕

クロムウェル ［Thomas Cromwell］ (1485～1540) イギリスの政治家。若いころ大陸に渡ったが，やがてヨーク大司教ウルジーに見いだされて官職につき，1523

年下院議員となる。その後ヘンリー8世*に仕えて絶対君主権の確立に努めた。つねに国王の側近として行動し，1535年には全修道院を歴訪調査し，その解散のための準備を整えるなど，宗教改革の実現にも貢献した。行政機構の改革も推進し，官僚制形成への道を開いた。〔松下京子〕

クロムウェル [Oliver Cromwell] (1599～1658) イギリスの政治家・軍人。ジェントリー(郷紳階級)でピューリタン(清教徒)の家に生まれた。ケンブリッジ大学を中退し，ロンドンで法律を学ぶ。1628年下院議員となり，1640年の短期議会および長期議会では独立派のピューリタンとして活躍した。1642年のピューリタン革命*では鉄騎隊を編成して国王軍と戦い，ネーズビーの戦いで王党派を徹底的に破った。1648年王党派・長老派の内乱を鎮圧。長老派を議会から追放するとともに，1649年には国王チャールズ1世*を処刑して共和政の指導者となった。1653年には議会を解散させて護国卿(ごこくきょう)となり，軍事的独裁の道を進んだ。しかし，議会と軍隊の対立をおさえることができず，増大する国民の不満をかかえたまま病死した。〔松下京子〕

クロムウェル ユゴーの戯曲(1827)。5幕。実際に上演はされなかったが，その序文はロマン派演劇の宣言として有名。近代の人間の二元性に注目し，崇高とグロテスクの結合をうたい，自然を重んじ，古典劇のドラマツルギーを否定した。

クロムグリーン [chrome green] 黄鉛*と紺青*との混合物である緑色顔料。混合する割合によって種々の色ができる。被覆力・着色力はきわめて大きく，耐光性もかなりよいが，紺青を含有するためにアルカリに弱く，また黄鉛を含有するために硫化水素で黒変する。塗料・印刷インキ・絵の具・リノリウムなどに使用されるが，アルカリに弱いので水性塗料には使えない。

クロムこう 【クロム鋼】 鋼にクロムを添加したもの。クロムを加えることによってかたさを増し，衝撃値とくり返し荷重に対して抵抗力を増す。用途としてはクロムの含有量により分かれ，0.9～1.2%でボルト・ナット・軸類・カミソリ・引き抜きダイスなど，1～3%で永久磁石，13～16%でステンレス鋼，12～30%で耐熱合金などに使われる。

クロムさんこんえき 【クロム酸混液】 クロム酸洗浄液ともいう。重クロム酸カリウム飽和溶液と濃硫酸を混ぜたもので，混合比は種々ある。ガラス器具についた有機物の汚れをとかし去るのに用いる。衣服・皮膚を侵すので注意を要する。

クロムさんなまり 【クロム酸鉛】 $PbCrO_4$ 天然にはコウエン鉱となって産出する。クロム酸カリウム溶液に鉛塩溶液を加えると，黄色沈殿として得られる。被覆力の大きい顔料で，黄鉛あるいはクロムイエローといわれ，多量に生産されている。水にはとけないが，酸には溶解し，また熱にあうと分解する。製法や成分によって淡黄色からだいだい色まで各種のものが知られている。→黄鉛



T.クロムウェル ナショナル-ポートレート-ギャラリー蔵



O.クロムウェル ナショナル-ポートレート-ギャラリー蔵



グロメール《戦争》1926

クロムぞくげんそ 【クロム族元素】 周期律表第Ⅵ族に属する元素のうち，クロム・モリブデン・タングステンの3元素。原子番号は24・42・74で，遷移元素として密度・融点などが順次増加している。密度(g/ml 20℃)は，クロム7.188，モリブデン10.218，タングステン19.262，融点はクロム1,903℃，モリブデン2,620℃，タングステン3,370℃。化学的には類似の点が多く，原子価はクロムは＋2・3・6，モリブデンは＋2・3・4・5・6，タングステンは＋2・3・4・5・6で，クロムは3・6が安定，モリブデン・タングステンは6の化合物が最も安定である。〔古屋　弘〕

クロムてっこう 【クロム鉄鉱】 クロムの重要な原料鉱石。$FeO \cdot Cr_2O_3$ 等軸晶系。比重4.5，硬度5.5，劈開*(へきかい)はなく，条痕(じょうこん)はかっ色。金属ないし亜金属光沢を呈し，黒ないし黒かっ色。通常は非磁性であるが，磁鉄鉱分子を含有するものは微弱な磁性を示す。おもな産地はオーストラリアの東方海上にあるニューカレドニア島，アフリカのローデシア，トルコ・ソ連・フィリピンなどで，わが国では北海道に多い。

クロムバーミリオン [chrome vermillion] クロム酸鉛($PbCrO_4$)・モリブデン酸鉛($PbMoO_4$)・硫酸鉛($PbSO_4$)の混合結晶であるあざやかな赤橙(せきとう)色の顔料。モリブデートオレンジまたはモリブデートレッドともいう。重クロム酸ソーダとモリブデン酸ソーダを苛性(かせい)ソーダ溶液にとかした液に，硝酸鉛溶液を加えて，さらに硝酸酸性溶液中で沈殿させてつくる。すぐれた被覆力・着色力を有するが酸・アルカリに弱く，変色する。塗料・印刷インキ・プラスチックなどの着色に用いられる。〔品田　登〕

クロムめっき 表面をクロムで被覆する方法。クロム酸と硫酸とを主成分とするめっき浴を用いる電気めっきが普通で，装飾用と工業用とに分けられる。装飾用は下地に銅・ニッケルのめっきを施し，その上にきわめて薄いクロムめっきをする。工業用では中間めっきを特に行なわないで，クロムめっきの厚さを使用目的によって変化させるが，10～50 μにすることが多い。クロムめっきは，めっき浴の温度や電流密度によってめっき層の性質が著しく変化する。一般に，クロム酸100～150 g/l の浴で，浴温45～55℃，電流密度20～60 A/dm²(dm：デシメートル)で電解すると，光沢が良好でかたく，耐摩耗性のすぐれたものが得られる。〔上田重明〕

グロメール [Marcel Gromaire] (1892～1971) フランスの画家。はじめ法律を志したが，アカデミー-ド-ラ-パレットで絵画を学ぶ。代表作としては表現派ふうの作品《戦争》があり，タピスリー芸術の復興にも力を尽くした。

くろも 【黒藻】 単子葉植物・トチカガミ科の多年草。北海道を除く日本各地の池や沼に自生する水草。茎は細長く，30～60 cm。葉は線形で長さ1 cmほど，3～6枚が輪生する。全体に暗緑色。雌雄異株で，8～9月，葉のつけ根に花をつける。雄花は花時に母株から離れて水面に浮かぶ。雌

花は子房が長く伸び，水面で花を開く。雄花・雌花ともに淡紫色で3弁。水媒花。

くろもじ　【黒文字】 双子葉植物・クスノキ科の落葉低木。北海道南部から九州までの日本，中国の山野に自生する。高さ2～3m。枝はよく分枝して，樹皮はなめらかで緑色，ふつう黒斑(こくはん)がある。葉は互生し，狭楕円(きょうだえん)形。葉身は薄く，裏面は帯白色。雌雄異株。早春，葉よりも先に散形花序に淡黄緑色の小花を葉腋(ようえき)につける。果実は球形で10月ごろ黒熟し，液果となる。葉・茎にはクロモジ油という芳香のある油を含み，香水・せっけんに用いられる。材は緻密(ちみつ)で軽く，かさの柄などの細工に用いる。特に樹皮は一種の芳香があり，つまようじや大形ようじに用いる。〔横井朝子〕

くろやき　【黒焼き】 動植物などを素焼きの容器などに入れて密閉し，蒸し焼きにした薬物。イモリの黒焼きをほれ薬とするなど荒唐無稽(こうとうむけい)のものもあるが，〈外科倒し〉の別名で知られる伯州散は津蟹(しんかい)(モクズガニ)・反鼻(マムシ)・鹿角(ろっかく)(シカの角)の黒焼きを等分に混ぜたわが国固有の排膿(はいのう)薬であり，また男女の頭髪からつくった血余炭などは止血の効もすぐれ，専門医の間では現在でも賞用されている。〔三浦三郎〕

くろゆり　【黒百合】 単子葉植物・ユリ科の多年草。本州中部以北の高山に分布する高山植物。白色肉厚の鱗茎(りんけい)がある。茎は10～50cm。葉は茎の中ごろ以上に4～5枚が輪生し，上部に数枚が互生する。6～8月，茎頂に1個まれに2個の黒紫色の独特の臭気のある花をつける。ユリの名はあるが，ユリ属ではなくバイモ属である。

くろよんダム　【黒四ダム】⇨黒部(くろべ)ダム

クロラミン　[chloramine] アンモニアNH_3の水素Hを塩素Clで置換した化合物の総称としても用いられるが，ふつうクロラミン-T(ナトリウムパラトルエンスルフォクロラミンの商品名)をさすことが多い。クロラミン-Tは白色または微黄色の結晶で，塩素のようなにおいがあり，空気中で徐々に分解し，光によって変化する。殺菌・消毒・防腐作用があり，フェノールよりその作用は強い。皮膚・食器などの消毒に用い，内服してはならない。〔鈴木郁生〕

クロラムフェニコール　[chloramphenicol] 1947年アメリカのブルクホルダーらが南アメリカのベネズエラの土壌(どじょう)中から得た放線菌の産生する抗生物質。1948年抗生物質中で最初に合成された。市販名はクロロマイセチン。グラム陰性菌に対してペニシリンの7～36倍強力である。特にチフス・パラチフスの特効薬で，赤痢・大腸炎・百日ぜき・淋疾(りんしつ)にも有効であるほか，発疹(はっしん)チフスなどのリケッチア疾患やある種のウイルス性疾患にも効力



クロモジ　春，葉腋に小花が群がってつく



クロユリ

がある。〔川村次良〕

クロラール　[chloral] $Cl_3C \cdot CHO$ トリクロロアセトアルデヒドともいう。刺激臭のある無色油状の液体。エチルアルコールを塩素で酸化・塩素化して得られる。等モルの水を付加した泡水クロラールは刺激性のにおいがあり，やや苦く，催眠剤として使われるが，胃障害などの副作用を起こすことがある。

クロール　⇨水泳

クロルテトラサイクリン　[chlortetracycline] 1948年土壌(どじょう)放線菌の培養液中からアメリカのタッガーらによって発見された抗生物質。発見当初はオーレオマイシンとよばれた。発疹(はっしん)チフス・つつがむし病などのリケッチア感染症，麻疹・トラコーマなどのウイルス感染症，ペニシリン耐性菌を含む細菌感染症に有効であり，アメーバ赤痢にも効力がある。なお，抗菌作用を利用して魚類の新鮮度を維持し，発育促進作用を利用してニワトリ・ブタなどの飼料添加剤にも用いる。〔川村次良〕

クロルデン　[chlordane] 1954年アメリカで発見された農薬で，いわゆるドリン*剤のもとになるもの。神経毒であるが，人畜や魚類に対する毒性は比較的弱く，概して遅効性で残効の長い点でDDTによく似ている。イネドロオイムシ・サルハムシ・カブラハバチ・ケラ・ネアブラムシ・キリウジ・アリなどに有効。乳剤と粉剤がある。

クロルピクリン　[chloropycrin] クロラールなどに硝酸を作用させたり，ピクリン酸などに塩素を作用させると生じる水よりも重い液体。その蒸気は空気の5.7倍の重さをもち，粘膜を強く刺激するので，第1次世界大戦時にはドイツ軍が催涙性毒ガスとして使用した歴史がある。殺虫・殺菌の両作用があり，貯穀害虫・ネズミなどを駆除するために倉庫薫蒸剤として用いられたり，また，土壌(どじょう)中の病菌や線虫を消毒するために土の中に注入されたりして，その用途はかなり広い。

クロールほう　【クロール法】 アメリカの技師クロールが発明した靭性(じんせい)チタン製造法。ジルコニウム製造にも用いられる。密閉容器中でマグネシウムを溶融し，アルゴンなどの不活性ガスふんい気中で四塩化チタンを装入し，約900℃に加熱してスポンジチタンを得る。この反応式は次のとおりである。

$$TiCl_4 + 2Mg = Ti + 2MgCl_2$$

クロレラ　[chlorella] 緑藻(りょくそう)類・クロレラ科・クロレラ属の単細胞性の藻類の総称。細胞は5～10μの大きさで，球状あるいは楕円(だえん)形。繊毛はなく，運動性はないが，水中に浮遊して生活している。淡水産で，湖沼・河川・池・みぞなど，いたるところに自生している。金魚ばちの水が緑色になってくるのは，多くの場合クロレラがふえてきたことによるものである。またうすい海水にも適応できるので，河口付近にも見うけられる。無性的に増殖し，母細胞中に4個あるいは8個・16個・32個の自生胞子が生じ，母細胞外に放出され，1個の胞子は1個の個体に成長する。細胞内には葉緑体があり，高等顕化植物と同じ種類のクロロフィルa・クロロフィルb・カロチン・キサントフィルなどの色素や，酵素タンパク質・脂質を有し，光合成を行なう。クロレラ-ピレノイドサ・クロレラ-エリプソイデア・クロレラ-ブルガリスなどの種がよく知られている。

クロレラは緑色植物の中では最も繁殖力が強く，また取り扱いが容易であることから，光合成や細胞の発育生理の研究材料として古くから使われてきた。クロレラは太陽の光と空気中の二酸化炭素，少量の無機塩類によって増殖し，その藻体成分の約50%の良質タンパク質をつくることができる。このような特徴をもっているので，世界の急激な人口増加に伴う将来の食糧危機(特にタンパク質の不足)を解決するものとして，第2次世界大戦後その人工的大量培養や栄養学的研究が各国で進められている。大量培養法としては日本で開発された開放循環式屋外培養法が有名であるが，まだ品質や経済性の点でタンパク質源として供給できるまでには達していない。クロレラは光合成反応によって増殖する一方，光なしでも有機物の炭素源を利用して増殖することができるので，大容量タンクによる他養的純粋培養法も開発され，天候に左右されない工業的生産方法として期待されている。

藻体成分中のタンパク質はリジン・スレオニン・フェニルアラニン・アルギニンなどのアミノ酸に富み，栄養価が高い。タンパク質のほか，脂質，各種ビタミン，ミネラルも多い。これらの成分は培養条件によって大きく変動させることができ，たとえば藻体成分中約70～80％を脂肪としてたくわえることや，ビタミンB群，脂溶性ビタミンなども多量蓄積することができる。クロレラの大量培養研究の初期には，クロレラは細胞壁がかたくて消化が悪いといわれていたが，その後の製法の改良や品質の向上により，消化率も栄養価も良好となっている。現在は食品加工技術や風味の点などの研究が進められている。

飼料としてはタンパク質源としてのみならず，各種のビタミンなどの生理的活性物質の効果があり，特に養鶏・養魚・養蚕用人工飼料として価値が高いとみられる。また，微生物の生育を促進する各種の因子も含まれているので，乳酸菌の培養などに利用されている。クロレラの二酸化炭素を吸収して酸素を発生する性質を，汚水の浄化に利用することも研究されている。これは汚水中でクロレラと細菌を共生させて有機物を分解し，クロレラから発生した酸素によって浄化を行ない，同時に増殖したクロレラを収穫して飼料にしようという方法であり，アメリカで大規模な実験が進められている。さらに，この二酸化炭素を吸収して酸素を放出する性質と排出物を消費して栄養価の高いタンパク質をつくる性質を，宇宙船のような長期にわたる密閉系での物質循環に利用しようという試みもある。自然界の湖沼や養魚池などに自生したクロレラは，プランクトン性小動物や魚貝などの天然餌料(じりょう)となり，その成長に寄与すると同時に，水・空気を浄化して，動物がすみよい環境になるように働いている。〔遠藤　寛〕

クロロクルオリン　［chlorocruorin］　ケヤリなど環形動物の多毛類の血漿(けっしょう)中に含まれる緑色の血液色素*。ヘモグロビンのヘムと類似するヘムを含み，鉄1原子あたり酸素1分子を結合するが，酸素に対する親和性はヘモグロビンよりずっと低い。

クロロフィル　⇨葉緑素

クロロプレン　［chloroprene］　$CH_2CClCHCH_2$　2-クロル-1,3-ブタジエンともいう。無色揮発性の重合しやすい液体で，アセチレンからビニルアセチレンを経て合成される。光・熱・酸素によって容易に重合反応を起こす。重合体には数種類の形があり，合成ゴムとして重要なものが多い。特にクロロプレンを主成分とした共重合体には耐油性のすぐれた合成ゴムがあり，それらの原料として重要である。

クロロプロマジン　［chloropromazine］　フェノチアジン系の中枢神経抑制剤でトランキライザー*の一。少量で鎮静作用を呈し，大量になると睡眠を起こさせる。臨床上は塩酸クロロプロマジンとして内科領域で催眠作用および催眠剤・鎮静剤の効力増強，外科領域では麻酔準備・麻酔強化(冬眠麻酔)，精神科領域では自律神経障害・ノイローゼ・精神分裂症などの治療に用いる。白血球減少・口渇(こうかつ)・悪心(おしん)などの副作用がある。劇薬。





クワ
植え付け1年めの〈しんいちのせ〉(品種名)
(下)果実

クロロホルム　［chloroform］　$CHCl_3$　無色透明で，特異のにおいがある水より重い液体。味はわずかに甘く，揮発性がある。空気や日光で分解されて，有毒なホスゲンを生成するので，安定剤としてエチルアルコール0.5～1％を加え，着色びんに密封する。1847年シンプソンがはじめて全身麻酔剤として外科手術に用いたが，副作用が多いため今日はほとんど用いられない。外用として歯痛・神経痛に局所に，内用として吐気・胃痛などに用いる。劇薬。なお，溶剤として使用される。〔鈴木郁生〕

クロロマイセチン　⇨クロラムフェニコール

クーロン　［coulomb］　電荷，すなわち電気の量のMKS単位。記号C　距離1mを隔てて置かれた等量の電荷の間に，$c^2/10^7$ニュートン*の力が作用するような電荷の大きさを1クーロンとよぶ。ただし，$c=2.998\times10^8$メートル毎秒(光速)。1Aの電流が1秒間に運ぶ電気量にあたる。

クーロン　［Charles Augustin de Coulomb］　(1736～1806)　フランスの土木工学者・物理学者。アングレームの生まれ。幼少のころから数学の才能に恵まれ，のちに技術将校となり，軍務につきながら科学を研究し，科学アカデミー会員となった。フランス革命のおり辞職して帰郷したが，その後パリにもどってパリ大学総長となった。ねじりばかりの製作とそれを用いた精密測定で知られ，電気・磁気に関する有名な〈クーロンの法則*〉もその成果の一つである。〔藤村　淳〕

クロンシュタット　［Kronshtadt］　ソビエト連邦西部，レニングラード州の都市。レニングラード市の西，フィンランド湾奥のコトリン島にある。人口45,000(1965年推)。1703年ピョートル大帝によってペテルブルグ防衛の要塞(ようさい)として建設された。1905～1906年この地に起こった水兵・守備隊の反乱は，ロシア革命への一つの導火線となった。

クロンダイク　［Klondike］　カナダ北西端，ユーコン直轄州の中部，ユーコン川上流域の地方。面積2,000km²。19世紀末砂金が発見され，ゴールドラッシュによって主都ドーソンは人口20,000に達した。採金量は20世紀になって激減したが，現在もカナダ第1の産金地となっている。

クーロンのほうそく　【クーロンの法則】　二つの磁極，あるいは小さな帯電体・点電荷の間に働く力(クーロン力)は，その磁極または電気力の強さの相乗積に比例し，その間の距離の自乗に逆比例する。これをクーロンの法則という。たとえば，電気量q_1，q_2の2個の点電荷が，その間の距離をrとし，静止した状態にあるとすれば，このとき互いに働く力Fは，均質等方媒質(性質が場所・方向によらない一様な媒質)の中では，

$$F=\frac{q_1q_2}{4\pi\varepsilon_0\varepsilon_s r^2}$$

となる。ただし，ε_0は単位系で定まる定数で真空中の誘電率，ε_sはその媒質によって決まる定数(数値)で，比誘電率といわれる。Fは，もしq_1とq_2とが互いに異種の電荷であれば引力，同種ならば反発力(斥力)となる。q_1，q_2をクーロン*，rをメートルで表わすときは，$\varepsilon_0=10^7/c^2$($c=2.998\times10^8$メートル毎秒〔光速〕)，Fはニュートン*で示される。〔堀内和夫〕

クロンプトン　［Samuel Crompton］　(1753～1827)　イギリスの紡績機械発明家。小自作農を父とし，21歳のとき紡績機械の製作を志す。ハーグリーブズ*のジェニー機を改良して，1779年にモスリン車とよばれる紡績機械をつくった。その名はこの機械がインド特産のモスリンを駆逐したからである。のちにこの機械は広くミュールとよばれるようになった。ミュールとは雄ロバと雌ウマとの雑種であるラバのことで，この名はアークライト*の水力紡績機とジェニー紡績機とを混ぜたようなものであるところからきている。ミュール機は広く普及したが，彼は生涯(しょうがい)貧しかった。〔山崎俊雄〕

クーロンりょく　【クーロン力】　⇨クーロンの法則

くわ　【桑】　双子葉植物・クワ科の落葉高木で，栽培種をはじめその近縁のものを総称していう。主としてカイコのえさとして栽培されている。幹は直立分枝し，葉は互生する単葉で3～5裂するものが多い。雌雄異株または同株で，花は葉のつけ根近



く　わ

くにつき，花弁がなく，4枚のがく片がある。雄花には4本のおしべが，雌花には先端が2裂した花柱が1本ある。がく片のつけ根が肥大した液質の果実は，紫黒色に熟し，甘味があって食用になり，果実酒にも用いられる。根皮は生薬の桑白皮で，漢方では消炎，利尿・緩下剤として用いられる。

わが国には，ヤマグワ・ケグワ・シマグワ・ハチジョウグワの4種の野生種が知られている。ヤマグワは山地に自生し，葉は薄く光沢がほとんどない。ケグワの葉はヤマグワに似ているが浅い心臓形をなしている。シマグワは九州南部に自生し，葉は卵形に近く先端がとがっている。ハチジョウグワは伊豆(いず)七島に分布し，葉は厚く光沢がある。現在農家で栽培されている栽培種には，ヤマグワの改良種，中国に自生するカラヤマグワの改良種，中国中南部産のロソウなどがある。中でもロソウには4倍体のものが発見され，これと普通の2倍体のものとの交雑によってできた3倍体のものは品質がすぐれ，また収穫量も多い。

クワの繁殖には，種子をまいて実生苗をつくり，これを育てる場合もあるが，実生苗を台木としてつぎ木によって育てる場合が多く，取り木・さし木なども行なわれている。クワは桑園で栽培されるが，目的によって根刈り・中刈り・高刈りなどに仕立てられ，カイコの飼育方法に従って収穫される。クワの病気にはかびの寄生によって起こるものが多く，根に寄生する紋羽病は全国的に被害が大きい。幹に寄生する胴枯れ病は雪の多い地方に多く発生する。また，枝に寄生する芽枯れ病，葉に寄生する裏白渋病，および赤渋病などがある。病原体がまだ明らかにされていないものとしてクワ萎縮病(いしゅくびょう)・モザイク病がある。クワの害虫には，クワノメイガ・クワカイガラムシ・ヒメゾウムシ・クワゴマダラヒトリがおもなもので，そのほかに，クワカミキリ・クワエダシャク・キンケムシ・クワゾウムシ・クワノシントメタマバエなど種類が多い。防除法の一つとして殺虫剤



クワイ
水から引き揚げたクワイ

が使用されるが，残効性の高いものはカイコに悪影響を残すので，一般作物とは違って残効性が短いものを使う。〔赤井　弘〕

くわ　【鍬】　手用農具の一。最も古くからある農具と考えられるが，近年の技術革新に伴ってその役割は耕耘機*(こううんき)に移行している。構造的には，刃先と木製の柄の部分を鋭角の範囲で取り付けたものであるが，刃の形・重さと柄の取り付け方によって各種の用途に分けられる。

用途の面からみて，その種類は打ちぐわと引きぐわの二つに大別される。打ちぐわは開墾・土工用で，刃先部を高く振り上げて土中に深く打ち込み，前進作業を続けていく。それに対して引きぐわはうねづくり・除草・土寄せ・みぞさらいなどに使われ，すくい上げるようにして横に移動しながら用いられる。打ちぐわは刃の部分が重いほうがよく，また刃全体が鉄製(金ぐわ)であるが，引きぐわは木製の部分(風呂(ふろ))に鉄製の刃をはめこんで(風呂ぐわ・平ぐわ・並みぐわ・台ぐわとよばれる)軽くしている。また，引きぐわは刃と柄の角度が35°～40°でつくられているのに対し，打ちぐわは60°～80°をなしている。さらにこの両種の中間的なものとして，刃と柄の角度が45°～60°の打ち引きぐわもある。関東・東北地方の一部では，刃と柄の角度が145°前後の踏みぐわというのも使われている。

くわの使用は古く，オリエント時代や中国の原始農民にまでさかのぼることができ，その原型を石器時代の石斧*(せきふ)に求めることができる。次いで，刃の全体が石・木・鉄からできている石ぐわ・木ぐわ・鉄ぐわを経て，現在の木の部分に鉄の刃を取り付けた風呂ぐわ(引きぐわ・引き打ちぐわ)の誕生となる。わが国では弥生(やよい)文化時代にすでに木ぐわが使用されたが，一般的に普及したのは古墳時代後期である。同じ用途をもつ風呂ぐわも，使われる地方によって形態・よび名が少しずつ異なり，京ぐわ・尾州ぐわ・肥後ぐわ・天草ぐわなどをあげることができる。一方，金ぐわは唐ぐわ・株切りぐわ・窓ぐわ・上下ぐわなどに分けられている。〔吉羽和夫〕

くわい　【慈姑】　単子葉植物・オモダカ科。中国原産の水生の多年草。日本には古く渡来し，水田などで栽培される。根茎は短く，葉は根生して長い葉柄をもち，葉身は矢形。花穂はまれにしか出ないが，野生化したものはしばしば白色の円錐(えんすい)花序をつける。雄花は花序の先端に，雌花は下部につく。秋に株の基部から太い匍匐枝(ほふくし)が出て，先端に1個の淡い藍色(あいいろ)の塊茎を生ずる。これがくわい玉で，膜質の鱗片(りんぺん)におおわれ，先端にくちばし状の芽がある。くわい玉は食用とする。最も普通に栽培されるのはアオグワイで，塊茎は藍色である。吹田市付近のスイタクワイはマメグワイともいい，普通の半分くらいの大きさであるが，肉は緻密(ちみつ)で苦味はない。中国のものは肉が白く苦味があり，ハクグワイ・シナグワイといわれ，中国料理にも用いる。〔横井朝子〕

くわいしゅくびょう　【桑萎縮病】　クワの重要病害。株全体が萎縮し，葉は黄変・収縮して小さく奇形を呈し，わき芽が多く出る。枝は短小となり多数が叢生(そうせい)する。種子・土壌(どじょう)・汁液(じゅうえき)では伝染せず，つぎ木とこん虫(ヒシモンヨコバイ・ヒシモンモドキ)によって伝染する。病原体は従来ウイルスの一種と考えられてきたが，1967年，電子顕微鏡による罹病(りびょう)植物の解剖観察の結果，既知のウイルス粒子は見られずに，マイコプラズマ様微生物と思われる粒子が篩管(しかん)内に多数見られたこと，および抗生物質テトラサイクリン*の処置で本病が治療され，回復した植物中には上記の粒子が見られないことなどから，マイコプラズマ様微生物が病原であろうとされた。発病株の除去，媒介こん虫の駆除，苗木のテトラサイクリン処置，夏刈りを避けて春刈りすることなどで防除する。〔渡辺　実〕

クワイン　［Willard van Orman Quine］(1908～　)　アメリカの哲学者・論理学者。ハーバード大学教授。ラッセル・ホワイトヘッドの記号論理学*を学び，また論理実証主義*の中心的人物であるカルナップの影響

を強く受けたアメリカの最もすぐれた分析哲学者。しかし，その学説はカルナップ流の考え方と異なる点が多い。たとえば分析命題と総合命題の厳密な区別の否定など，論理実証主義に対する鋭い批判がみられる。彼の思想の根底にはアメリカに伝統的なプラグマチズム*の思想が強く働いている。主著《論理学的見地より》。〔寺中平治〕

くわえざん【加え算】⇨加法

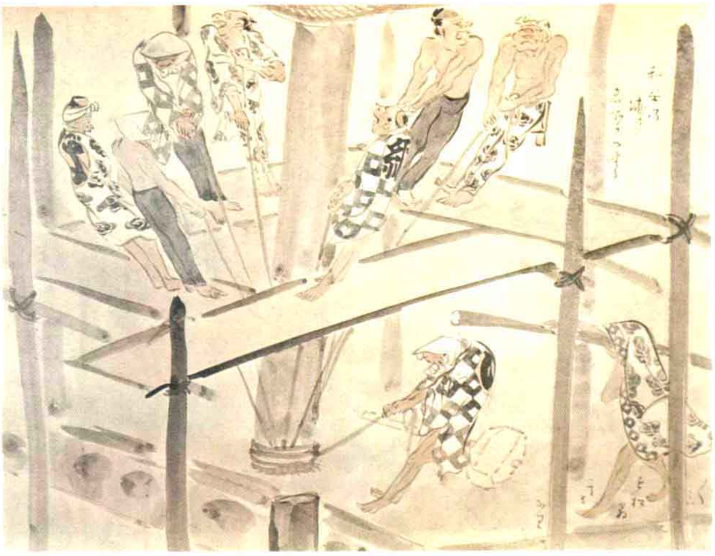
くわえだしゃく【桑枝尺蠖】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シャクガ科。翅(はね)を広げた長さは35～55mm。触角はくしの歯状。翅はかっ色で，暗色の細線を散布する。前翅の前縁は灰かっ色，中央部は広く暗かっ色をおびる。前翅の内横線および外横線は黒色で著しく斜めに傾く。後翅の外横線も黒色で，その内方は淡色，基部は暗色の細線が密に散布する。前後翅ともに縁毛は暗かっ色と淡い暗かっ色の斑(まだら)をなしている。日本全土のほか，東アジア一帯に広く分布する。幼虫はクワの葉を食害し，成虫は6～9月に出現する。

くわかいがらむし【桑介殻虫】こん虫類・半翅(はんし)目・マルカイガラムシ科。クワシロカイガラムシともいう。雌成虫は体長1.3mm内外，無翅・無脚で，ほぼ円形の白色ないし灰白色のロウ質の介殻をかぶる。雄成虫は体長0.7mm内外で橙赤(とうせき)色，1対の杓子(しゃくし)状の翅(はね)と3対の脚がある。日本全土のほか世界各地に広く分布し，雑食性。クワ・リンゴ・サクラ・モモ・ウメなどの枝幹に寄生し，口吻(こうふん)を樹皮下に差し込んで樹液を吸う。このため樹勢が衰えて発芽や開葉が遅れ，加害の激しいときには枝や樹木全体が枯れることもある。

くわがた【鍬形】兜*(かぶと)の前立物の一。金属または練革製で，形は備中(びっちゅう)ぐわに似せたとも，クワイの葉を側面から見た形をとったともいわれる。これを眉庇(まびさし)の上，角元(つのもと)に立てて威容をなした。鍬形の中央に金の龍頭(たつがしら)を配したのは，一軍の大将に限られた。

くわがたいし【鍬形石】古墳時代の副葬品*で腕飾りの一種。一見くわの形に似ているのでこの名がある。碧玉製(へきぎょくせい)で，中央から上部にかけて楕円(だえん)状の穴がくり抜かれている。テングニシなど大形巻き貝でつくられた弥生(やよい)文化期の腕輪が変形したものと推定されるが，用途は不明。前期古墳から1個または数個ずつ発見され，その分布も近畿(きんき)を中心に限られている。

くわがたけいさい【鍬形蕙斎】(1764～1824) 浮世絵師。江戸の生まれ。名は紹真(つぐざね)，俗称三二郎。北尾重政(しげまさ)の門人で，はじめは北尾政美(まさよし)と名のっていた。狩野(かのう)派*・土佐派*・琳(りん)派の各派をはじめ西洋画法にも通じ，浮世絵師にはまれな幅広い作域を示した。錦絵(にしきえ)では武者絵・浮絵*を得意とし，黄表紙のさし絵や《略画式》などの画譜を描いて版本界に活躍した。肉筆画に《近世職人尽絵詞(しょくにんづくしえことば)》がある。〔小林 忠〕



鍬形蕙斎 《近世職人尽絵詞，地つき》 東京国立博物館蔵



クワガタソウ





クワガタムシ (上)ノコギリクワガタの雄で，体長45mmほど (下)コクワガタの雄で体長35mmほど

くわがたそう【鍬形草】双子葉植物・ゴマノハグサ科。山の木陰のやや湿った所にはえる多年草。高さ15cmくらい。葉は対生で卵形。初夏，茎の上部に深く4裂した淡紅色の花を多数つける。和名は果実が兜(かぶと)の鍬形に似るため。

くわがたむし【鍬形虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・クワガタムシ科の総称。体の大きさは変化に富み，マダラクワガタのような体長5mm内外の微小種から大顎(おおあご)を除いた長さが70mmに達するような大形種まである。体は一般に長楕円(ちょうだえん)形で，黒色やかっ色のものが多く，表面なめらかで光沢が強く，全体堅固である。大顎は，雄では一般によく発達して大きく，前方に突出しているが，雌では小さい。しかし，小形の種類では大顎の発達が弱く，雌雄で同大の大顎のものがある。また雄では，幼虫時代の栄養状態の違いによって，体の大きさが著しく変化し，同一種でも一見別種のように見える種類がある。幼虫は一般に湿った枯れ木や朽ち木中に生活し，森林地帯に多い。成虫は春から夏にかけて多く出現し，好んで樹液に集まり，しばしば燈火にも飛来する。全世界の各地から約900種類が発見され，特に熱帯地方に種類が多い。日本には約20種類が分布しており，コクワガタ・ミヤマクワガタ・ノコギリクワガタ・オオクワガタ・ルリクワガタ・マダラクワガタなどが代表的な種である。なお，コクワガタを一名クワガタムシとよぶことがある。クワガタムシ類の雄は闘争性が強く，子どもの愛玩(あいがん)動物として古くから庶民に親しまれ，ホタルやスズムシ・キリギリスなどとともに，夏の風物詩として夜店や縁日などで，売られることもある。〔鈴木邦雄〕

くわかみきり【桑天牛】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科に属する甲虫の一種。体長32～44mm。体の地色は黒色で，黄灰色の微毛が密にはえる。触角は体長よりも長い。腹面には黄色の長毛が密生し，ビロード状の光沢がある。前胸には両側に1個の鋭い歯状突起があり，背面部に深い横じわ状の彫刻が多数ある。鞘翅は円筒状で，肩部の頂端に1個の小突起がある。北海道を除く日本全土に広く分布する普通種

で，成虫は6～8月に出現する。クワ・イチジク・ビワ・リンゴ・ヤナギ・ミカン類など多くの広葉樹に寄生する。幼虫は俗にテッポウムシとよばれ，樹幹に穴をあけて木質部を食害する。

くわきげんよく【桑木厳翼】(1874～1946) 哲学者。東京に生まれる。1896年(明治29)東京大学哲学科卒業。1899年第一高等学校教授となり，東京帝国大学助教授を経て,1906年京都帝国大学教授。1906～1909年欧米に留学。1914年(大正3)ケーベル*の後任として東京帝国大学に転じ，1935年(昭和10)まで在職した。1899年丁酉(ていゆう)倫理会に,1918年吉野(よしの)作造*らの黎明会(れいめいかい)に参加して文化主義を提唱した。哲学的には体系家としてよりも哲学史家としてすぐれており，新カント派的な文化哲学の立場から多数の啓蒙(けいもう)的著作や正確なカント解説書を公にし,広い視野から後進を指導した功績は大きい。著書《哲学概論》《哲学綱要》《カントと現代の哲学》《哲学及び哲学史研究》《倫理学の根本問題》《明治の哲学界》《哲学40年》など。〔中川 誠〕

くわくさ【桑草】双子葉植物・クワ科。道ばたや畑に多い一年草。茎は直立してまばらに分枝し，高さ30～80cm。葉は互生し，卵形で鈍鋸歯(どんきょし)がある。雌雄同株で雌花と雄花は混生する。花は淡緑色で小さい。

くわご【桑蚕蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・カイコガ科。体長12～23mm，翅(はね)を広げた長さ32～45mm。雌雄ともに触角はくしの歯状。体・翅ともに暗かっ色。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国に分布し，成虫は6～7月に出現する。幼虫はカイコに似るが，著しく暗かっ色をおび，クワの葉を食害する。繭は黄色で細長い。越冬は卵で行なう。本種はカイコガとの間に生殖能力のある雑種ができることから,〈生物学的種〉の概念を適用すれば両者は同種として扱われるべきである。養蚕地帯では，桑畑で成育したクワゴの雄が，蚕室内に飛来してカイコガの雌と雑交することも知られている。そのためカイコガはクワゴが人間によって絹糸を多量に採集するために飼育改良されたものであるという意見が有力である。しかし，現在のクワゴとカイコガとは，幼虫の行動などで顕著な相違もみられ，クワゴがカイコガの祖先であるという確証は見いだされていない。〔鈴木邦雄〕

くわこなかいがらむし【桑粉介殻虫】こん虫類・半翅(はんし)目・コナカイガラムシ科。雌成虫は体長3～4.5mm，体幅2～3mm，楕円(だえん)形で，黄かっ色ないし暗かっ色，白色のロウ質物をかぶる。体の周囲に17対の白色縁毛があるが，尾端の1対は著しく長く，体長の$\frac{1}{3}$～$\frac{2}{3}$に達する。本種の寄生を受けた植物はしばしばすす病*を併発し，果樹では果実の商品価値を低下させる。寄主植物にはナシ・クワ・リンゴ・カボチャなど多数が知られ，特に袋掛けを行なうナシ園ではしばしば大きな被害を受ける。本州・四国・九州などのほか，朝鮮・インド・北アメリカ・西インド諸島などに広く分布する。



クワクサ

くわごまだらひとり【桑胡麻斑燈蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヒトリガ科。形態や色彩は雌雄で著しく異なる。雄は体長16mm内外，翅(はね)を広げた長さは30mm内外。触角はくしの歯状。体・翅ともに暗かっ色。頭部腹面・腹部背面などは橙黄(とうおう)色。腹部の背面および側面にはおのおの1列の黒紋列がある。雌は体長20mm内外，翅を広げた長さは55mm内外。体・翅ともに白色。日本全土に分布し，成虫は8月ごろ出現する。幼虫はクワの巣虫ともよばれ，淡い黒色で長毛がはえ，淡黄色の斑点(はんてん)および同色の背線があり，金属光沢のある青色のこぶ状突起がある。クワ・ウメ・リンゴ・ナシなどの葉を食べる害虫。11月ごろ根ぎわや落ち葉の間に糸を張り，その中で群生して越冬する。

くわしたねんき【鍬下年季】江戸時代，新田畑開発の途中の一定期間のことをいう。その期間は通常3～5年間で，収穫が不十分であるという理由で租税を免除または軽減された。これは新田開発を保護・奨励するためで，年季明けの翌年に検地*をして石盛*を定めて村高に繰り入れたが，本田畑より低率であった。

くわしんとめたまばえ【桑芯留癭蠅】こん虫類・双翅(そうし)目・タマバエ科。体長1.5～2.0mm。体は細長く繊細で，ほぼ全体に淡黄かっ色であるが，生きているときは淡赤色をおびることが多い。頭部は小さく，複眼は明瞭(めいりょう)で黒色。触角はきわめて細長く，淡黄色。翅(はね)は幅広く，透明で，淡黄色の翅脈があり，中央から基方に近く不明瞭なやや暗色の一帯がある。平均棍(こん)は淡黄色。本州・四国・九州などに分布し，年6回発生をくり返す。幼虫は紡錘形で,白色のちに橙黄(とうおう)色。冬は繭中でさなぎで越す。成虫は6月ごろから出現し，クワの芽の小葉の間に数粒ずつ産卵し，2～3日で孵化(ふか)する。幼虫は新芽の生長点を加害し，芽は伸長が止まってついには枯死する。このため，クワの収葉量が著しく減少することがある。山間や樹陰・湿地など日照や通風の悪い桑園に多く発生する。〔鈴木邦雄〕

くわな【桑名(市)】三重県北東部の市。古くからの水陸交通の要地で，戦国時代に滝川一益(かずます)が城を築き，江戸時代には松平氏十万石の城下町，東海道の宿場町，〈七里の渡し〉で知られる熱田への渡し場として栄え，また，天明年間に創設された米市場は江戸・大阪の相場を左右するほどの勢いをもっていた。1937年(昭和12)市制施行。人口85,000。市域は伊勢(いせ)湾に注ぐ揖斐(いび)川河口の三角州上に発達し，関西本線のほか,近畿(きんき)日本鉄道名古屋線・同養老線・三重交通北勢線が集まり，国道1号線に沿う。産業三大別人口比は7：44：49。桑名鋳物の名で知られる鋳物工業は350年の伝統をもつが,現在は機械・紡織・金属などの工業が発達し，中京工業地帯の一環をなしている。揖斐川河口ではノリ・ハマグリを養殖し，名産の〈しぐれはまぐり〉は里謡《桑名の殿様》で広く知られる。

くわのめいが【桑野螟蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科。体長10mm内外，翅(はね)を広げた長さは20mm内外。前翅は白色，前縁は黄色，基部にかっ色の斜条がある。内横線と中横線は黒色に縁どられた黄色で，後縁で合一する。後翅は白色で，外方に幅広い黄色帯があり，その内側は黒条が走り，さらに中央に黒色帯がある。日本全土のほか，台湾・中国・インドなどに広く分布する。幼虫はクワノスキムシ・クワノハマキムシともばれ，クワの害虫である。葉裏に群生し，表皮だけを残して葉肉を食害する。3齢になると分散して葉の一部を折り曲げて糸でつづり，その中で葉脈だけを残して食害する。

くわもどき 双子葉植物・キク科。オオブタクサともいわれる一年草。花はブタクサ*によく似るが一まわり大きく，直径4～5mmで穂状に並ぶ。穂の先のほうに多数の雄花が並び,下方に雌花がつく。8～9月に黄色い花を開き,多くの花粉を出す。雄花・雌花とも下方に向いている。葉は対生し，普通は手のひら状に5裂に分かれるが，茎のもとのほうあるいは上方につく葉は3裂あるいは分裂しないものが多い。裂片の先は急にとがる。葉の縁には鋸歯(きょし)があり，両面ともざらつく。全体は円形で，長さ・幅ともに20～30cmに及び，葉柄は長い。茎は粗毛があって，高さ2mにも達し，直立する。

北アメリカ原産の帰化植物で,1943年(昭和18)ごろ日本にはいり,大都市とその周辺の荒地や川原にみられるようになったのは1955年前後である。このように，わが国にはいってからの経過はまだ日が浅いが，繁殖力が強く，早くも全国的に急激に広がり，草たけの高い大形の雑草としてきらわれて

いる。またブタクサと同様，体質によっては花粉の吸入によるアレルギー症の原因となるので，公害の一つとして最近にわかに問題視されている。〔渡嘉敷裕〕

クワリズミ ⇨アル-クワリズミ

くん【訓】〈和訓〉〈字訓〉〈よみ〉ともいう。〈音〉(→漢字音)に対するもので，漢字の訳語にあたる日本語がその漢字の読みとして固定したもの。〈山〉をヤマ，〈村〉をムラというように，1字1訓のものが多いが，〈喜〉〈歓〉〈悦〉をすべてヨロコブと読むように，一つの訓に二つ以上の漢字をあてたもの，〈生〉をイク・ウマル・ハエルと読むように1字に二つ以上の訓のあるもの，〈従兄弟〉をイトコと読むように2字以上を一つの訓に読むものなどもある。また，訓の種類には，〈山〉をヤマと読むような正訓のほか，〈吹雪〉をフブキと読む類の義訓，〈鳴海〉をナルミと読む類の約訓などがあり，古代には〈裳〉を助詞の〈も〉に用いるなど，意味を無視して同じ発音の日本語にあてた借訓もある。〔相原林司〕

クン［Béla Kun］(1886〜1939) ハンガリーの革命家・ジャーナリスト。トランシルバニアの大学卒業後ハンガリー社会民主党にはいり，新聞記者となる。1918年ハンガリー共産党を組織し，翌年社会民主党と提携して政権を握り，ハンガリー-ソビエト共和国を樹立した。しかし，連合国の圧力とルーマニア軍の武力干渉を受けて敗北し，オーストリアを経てソ連に亡命した。コミンテルン(→インターナショナル)執行委員として活躍したが，1939年トロツキスト(→トロツキズム)として処刑された。〔松沢　勝〕

ぐん【郡】 地方区画の名称。〈こおり〉とよみ，大化の改新*後定められた国・郡・里制の行政区画名として国の管下に置かれた。郡司*(ぐんじ)には地方豪族が任命され，中央から派遣された国司*の命令・監督を受けて郡の行政にあたった。平安中期以後は荘園*(しょうえん)の発達に伴い，行政区としての実を失ったが，郡名はなお中世・近世を通じて地域区画名として用いられた。1878年(明治11)の郡区町村編成法で，郡は行政区画となり，郡役所と官選の郡長が置かれ，郡内の町村を管轄した。1890年地方自治制度の一環として郡制が敷かれ，郡は不完全ながら自治体となった。しかし，府県と市町村との中間にあって郡存在の意義ははじめから薄く，1921年(大正10)郡制は廃止され，郡は単に地域区画名となった。第2次世界大戦後は都市化が進み，郡域は急速に農村地帯に局限された。〔高崎徳次〕

ぐん【群】 自然数 a，b に対して，加法 $a+b$ はいつでもできるが，その逆の減法 $a-b$ はできないこともある。すなわち，a，b に対して $a+x=b$ となる自然数 x が存在するとは限らない。次に，0から9までの整数の集合 $M=\{0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9\}$ で考えると，たとえば，$6+8$ はMの数でないから，Mでは通常の加法はできない。しかし，Mの2数 a，b に対して，$a+b$ の1の位の数字を $a \oplus b$ で表わすことにすると，$6 \oplus 8=4$ のように，この新しい演算 $\oplus$ は，Mのどの2数に対してもできる。また，その逆算もできる。すなわち，Mの2数 a，b に対して，$a \oplus x=b$ となる x がいつでも一つ定まる。たとえば，$7 \oplus x=2$ となる x は5である。集合Gにおいて，一つの演算 $a \circ b$ が定められ(すなわち，Gのどの2元 a，b に対しても $a \circ b$ で表わされるGの元が一つ定まり)，次の二つの性質があるとき，Gは群である。詳しくはGは $a \circ b$ を演算とする群であるという。

①結合法則：$(a \circ b) \circ c=a \circ (b \circ c)$ を満たす。

②Gのどの2元 a，b に対しても，$a \circ x=b$，$y \circ a=b$

となるGの元 x と y が一つずつ定まる。これより，Gの任意の元 a に対して $a \circ e=a$，$e \circ a=a$ となる単位元 e の存在することと，元 a に対して $a \circ a^{-1}=e$ となる a の逆元 a^{-1} の存在することがわかる。

自然数の全体は加法 $a+b$ を演算とする群ではないが，前記のMは $a \oplus b$ を演算とする群である。この例Mでは，交換法則 $a \oplus b=b \oplus a$ も成立するが，一般の群では，交換法則は成立しなくてもよい。交換法則がなりたつ群を可換群，または加群といい，演算を加法，単位元をゼロ元とよぶことが多い。

〔環〕前記Mの2数 a，b に対し，$a \times b$ の1の位の数字を $a \otimes b$ で表わすと，この $\otimes$ もMの演算となり，分配法則もなりたつ。一般に，$a \circ b$ を演算とする加群Gで，第2の演算 $a \ast b$ が定められて，結合法則と，分配法則 $a \ast (b \circ c)=(a \ast b) \circ (a \ast c)$，$(b \circ c) \ast a=(b \ast a) \circ (c \ast a)$ がなりたつとき，このGを環という。たとえば，整数全体の集合は，加法と乗法を演算とする環である。環では，第1の演算を加法，第2の演算を乗法ということが多い。

〔体〕環Kにおいて，ゼロ元(加法の単位元)を除くと，乗法についても群となるとき，このKを体という。特に，乗法についても交換法則が成立する体を可換体という。たとえば，有理数・実数・複素数の集合はそれぞれが可換体である。これらは元が数からなりたつので数体ともいう。〔小西勇雄〕

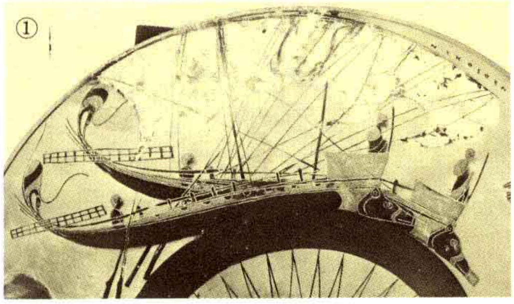
ぐんか【軍歌】 軍隊や国民一般の士気を鼓舞するのをおもな目的にしてつくられた歌。中には学校教材(唱歌)として採用されたものや，ちまたに広まって流行歌的存在となったものもある。日本で最も古い軍歌は1868年(明治1)の《宮さん宮さん》とされるが，洋楽的な軍歌は1885年の《抜刀隊の歌》が最初である。一般に軍歌が盛んに歌われるようになるのは日清(にっしん)戦争のころからで，《来(きた)れや来れ》《敵は幾万》《元寇(げんこう)》《婦人従軍歌》などがあいついでつくられ，いくつかは唱歌として教えられた。日露戦争時代には《軍艦マーチ》《橘(たちばな)中佐》《水師営の会見》《戦友》などがつくられ，それ以後にも《討匪行(とうひこう)》《海行かば》《愛国行進曲》など，数多くの軍歌がつくられた。これらの軍歌の中には国粋主義的なものだけでなく，反戦的な曲さえもあるが，いずれも時代の風潮を歌詞にも旋律にも濃厚にとどめている。

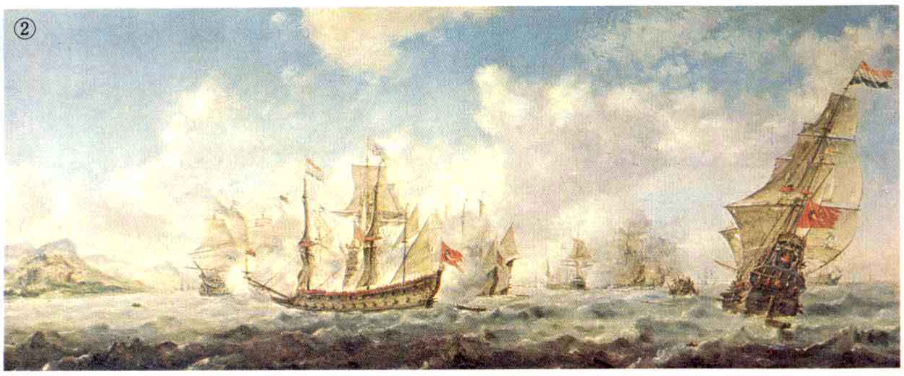
ぐんが【郡衙】 ⇨郡家

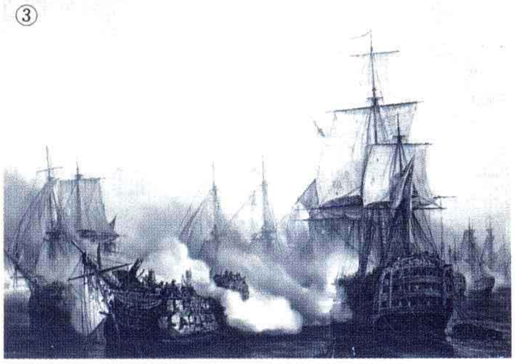
ぐんがくたい【軍楽隊】 軍隊における公式行事や戦闘において演奏する集団。その歴史は古く，古代ユダヤやローマですでに用いられ，中世では十字軍がイスラエルの軍楽隊を模倣している。15〜16世紀，絶対君主制が確立すると，常備軍の発達に従って，騎兵にはトランペットと太鼓，歩兵には笛と太鼓といった組み合わせが定まってきた。近代的な意味では，リュリが責任者であったルイ14世の軍楽隊，フリードリヒ大王の軍楽隊が重要で，ここでは旋律楽器がふえて，今日のような表現力に近づいた。1800年ごろには，トルコの軍楽隊がヨーロッパに影響を与え，トライアングル・シンバル・大太鼓などの使用を受け継いだ。19世紀，クラリネット・サクソフォーンなどの管楽器が改良されて安定度が増すと，木管楽器の多い軍楽隊が形成された。プロシアのビープレヒト，フランスのサックス，アメリカのギルモアやスーザらは，いずれも軍楽隊の歴史にのこる人物である。日本では，1869年(明治2)に薩摩(さつま)藩の軍楽隊がイギリス人フェントンから吹奏楽を学んでおり，以後，西洋音楽の輸入に軍楽隊の果たした役割は大きい。〔徳丸吉彦〕

ぐんかん【軍艦】 一般に海軍の戦闘用艦艇のことをさす。旧日本海軍では戦艦・航空母艦・巡洋艦・各種母艦・敷設艦・砲艦・海防艦などを軍艦とよび，駆逐艦や潜水艦以下の戦闘艦艇は軍艦とはいわなかった。したがって，一般に軍艦といわれるものは，海軍でいう艦艇を意味する場合が多い。戦闘用の船が歴史に現われたのは紀元前5世紀，ギリシアとペルシアが戦ったサラミスの海戦が最初で，紀元前後にかけてフェニキアやローマが軍船を盛んに建造した。また，中国では，三国時代(2世紀)に闘艦という大形の軍船が使われた。これらはいずれも帆とかいの併用であるが，操縦性を有利にするために戦闘中にはかいを主用した。帆走が技術の発達とともに主用されるようになったのは13〜14世紀からで，特に16世紀に大砲が主兵器となって戦闘距離が増し，敵艦を衝撃したり接舷(せつげん)して白兵戦を行なう機会が少なくなると，かいは使われなくなった。また，使用目的による艦種の分化が始まり，トラファルガルの海戦(1805)のころには，大形で重武装の砲戦を任務とす

軍　艦



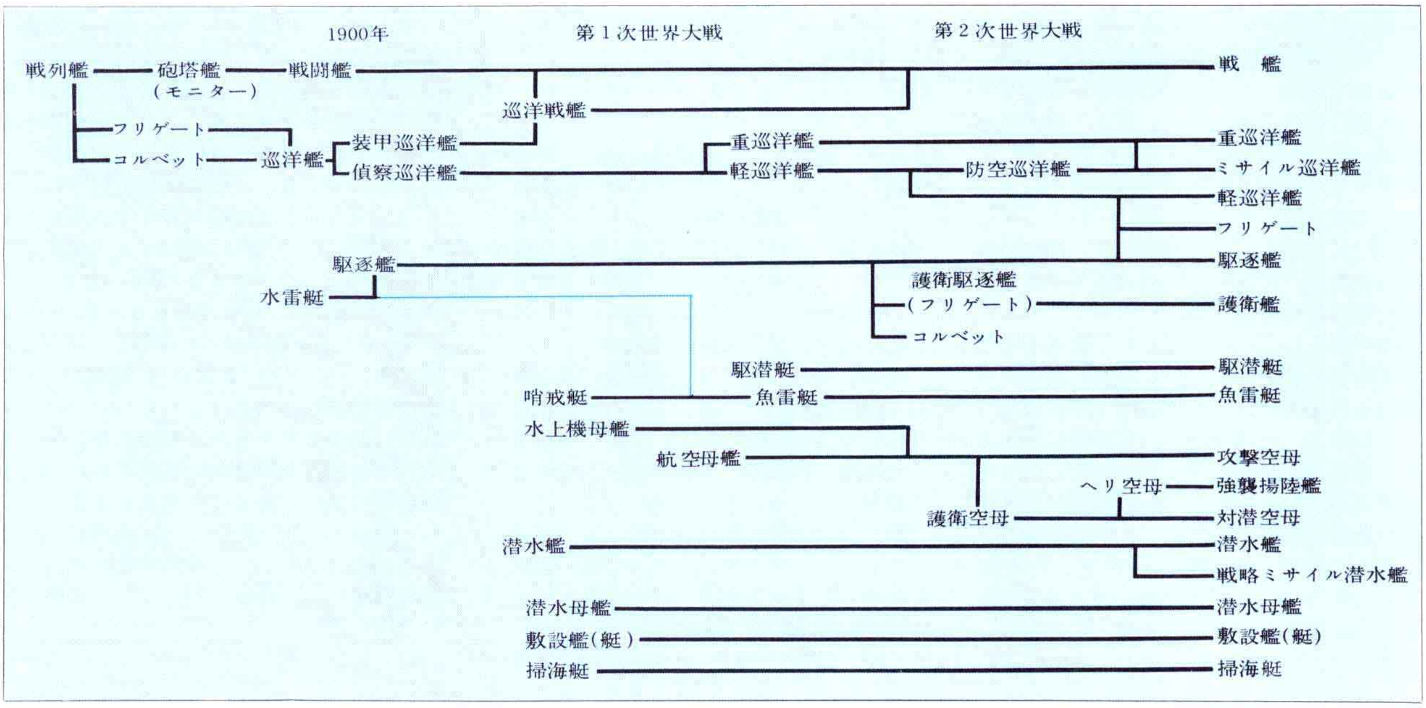








①サラミス海戦当時のギリシアの軍船。船首の衝角を敵船の横腹にぶつけた　②ダウンの海戦(1639)。戦闘距離の増していることがわかる　③トラファルガル沖海戦　④イギリスの大艦ドレッドノート(18,000トン)。20世紀初頭の代表的鋼船　⑤アメリカの戦艦ニュージャージー(45,000トン)。1942年に進水，翌年就役した



主要艦艇発達系統図

る戦列艦，小形快速の哨艦(しょうかん)・通報艦などが活躍した。19世紀の半ばには蒸気機関を備えた鉄製の軍艦が現われ，装甲と砲塔をもった戦艦や偵察(ていさつ)用の巡洋艦などが発達した。また，魚雷が発明されると水雷艇や駆逐艦が生まれ，1900年ごろから潜水艦が実用化されていった。第1次世界大戦にはいると航空機の発達とともに航空母艦が誕生し，第2次世界大戦に至って著しい進歩を遂げ，戦艦に代わって海洋の王者となった。また，潜水艦の発達も急速で，大戦後は原子力化によって戦略的に最も重要な艦種となりつつある。現代の海軍では航空母艦，潜水艦，対空・対潜の護衛艦が軍艦の代表とされる。〔藤井冬木〕

ぐんかんどり【軍艦鳥】①鳥類・グンカンドリ科の総称。熱帯海域の島に繁殖する大形海鳥。世界に5種が知られる。単位体重あたりの翼面積は鳥類中いちばん大きく，すぐれた飛行力をもっている。海鳥類を襲って追われた鳥が落とした食物を空中でくわえたり，トビウオや表面に浮いている生物を空中からくわえ取って食べる。繁殖期には，雄は第1卵が産出されるまで，赤い大きなのど袋をふくらませて雌にディスプレーをする。②グンカンドリ科の一種。台風のときなどにまれに日本海に渡来する。翼開長は2m前後。日本で記録されているもう一種のオオグンカンドリも台風時にまれに渡来する。〔浦本昌紀・安部直哉〕

ぐんかんマーチ【軍艦マーチ】日本の代表的軍歌。作詞は鳥山啓(ひらく)，作曲は海軍軍楽隊楽長の瀬戸口藤吉。〈守るも攻むるもくろがねの〉で始まる。最初は歌であったものを，マーチの形に整えて，1900年(明治33)に発表された。トリオ部分に《君が代》が使われており，海軍の公式行事だけでなく，広く使われた。

ぐんき【軍旗】日本陸軍で歩兵連隊・騎兵連隊の表章とする旗。旗面に旭日(きょくじつ)の状を描き，旗ざおの頭に黄色の菊花章をつけ，周囲に金モールで縁どりをした装飾がある。騎兵旗は歩兵旗より小形。1870年(明治3)，各藩旧来の旗印の使用を禁じ，天皇から陸軍御国旗が授けられたのがはじまりで，1874年正式に軍旗が制定された。軍旗は歩兵および騎兵連隊設立のとき，勅語とともに天皇から直接授けられたので，単に連隊の目じるしではなく，天皇のシンボルであり，連隊将兵の魂であるとしてたいせつにされた。西欧諸国でも，共和国成立以前の軍隊では軍旗の尊厳性が確立していて，軍旗の死守とか軍旗争奪戦などが行なわれたが，現在では部隊の目じるしという考えになっている。〔森田　哲〕

ぐんきしょ【軍機処】中国清朝(しんちょう)の中央政府の最高機関。正式には弁理軍機処という。雍正帝(ようせいてい)時代(1723～1735)ジュンガルとの戦いにあたって機密保持の必要から設けられたが，やがて独立の部局となり，戦争の継続と皇帝権の強化にしたがって皇帝側近の諮問機関となり，実質的に国政・軍事の最高審議機関となった。もとは臨時の非公式なものであったが，19世紀初めに法制化され，形式上でも中央の最高官庁となった。清末まで存続したが，1911年の官制改革で消滅。複数(約4人)の軍機大臣が職務を遂行した。〔衣川　強〕



グンカンドリ　繁殖期の雄はふくらんだ赤いのど袋が目だつ

ぐんきものがたり【軍記物語】合戦(かっせん)を中心とした史実による叙事文学。中世文学の一分野。その源流は平安期の《将門記(まさかどき)》《陸奥話記(むつわき)》，武人説話を収めた《今昔物語集(巻二十五)》にある。新興武士階級の人間像の造形を中心に，単なる合戦記に終わらず，浄土教的無常観・儒教的道義批判を交えながら，背後の歴史を描いている。《保元(ほうげん)物語》《平治物語》《平家物語》《太平記》が代表作。琵琶(びわ)法師・物語僧によって語られ，広く世間に受け入れられた。なお，室町期の《義経記》《曽我(そが)物語》はむしろ英雄伝記物語というべきであろう。〔信太　周〕

ぐんけ【郡家】〈こうりのみやけ〉〈ぐうけ〉とも読み，郡院・郡衙(ぐんが)ともいう。古代における郡司の政庁。大化改新後全国に設けられたものらしい。付近には正倉(しょうそう)(主倉庫)があり，郡家は郡の政治・経済の中心であった。

ぐんけい【群系】植物群系ともいう。気象条件や土壌(どじょう)などの無機的環境が比較的似た場所には，種類は違っていても似た生活形をもつ群落が出現する。生活形をもとに群落を分類したものが群系である。夏緑樹林・針葉樹林・高山草原・乾地草原・浮遊性植物プランクトン群系などはその例。群系をまとめて群系族といい，森林群系族・草原群系族などがある。

グンケル［Hermann Gunkel］(1862～1932)ドイツのプロテスタント神学者。ベルリン・ギーセン・ハレの各大学で教える。宗教史学派の学者として，《旧約聖書》の文学的形式の研究の第一人者である。主著《イスラエル文学》《旧約聖書におけるメルヘン》。

ぐんけんせいど【郡県制度】中国，秦(しん)の始皇帝のときから，中国全土に画一的に施行された地方制度。それ以前の封建制度に対するもの。郡と県とは春秋戦国時代から部分的には設けられ，県は諸侯みずからがいろいろの手段で獲得した直轄地で，これを増加することによって中央集権が図られた。郡は周辺部や辺境地方に新しく開拓された土地で，したがって地域も広かったから，やがてその下に県が分置されるようになったのである。秦は天下を統一すると全国を36郡に分けたといわれ，郡ごとに郡守・郡尉・郡監の3長官を置き，それぞれ民政・軍事・監察を分掌させた。郡の中は県に分け，郡の3長官に対応するものとして県令・県尉・県丞(けんじょう)が置かれた。この制度は漢に至って確立し，以後歴代の地方制度の根幹となった。漢では数郡をまとめた監察区域として州を置き，監察官を刺史といったが，州はしだいに細分化して郡と同様なものとなったので，隋(ずい)のとき郡を廃して州と県の2級制とした。唐の盛時である740年には州328，県1，573を数えた。一般に中国を400余州というのは北宋(ほくそう)時代のことである。州の上部組織として唐代には道，宋代には路が置かれ，元代から省となって今日に及ぶ。〔日比野丈夫〕

ぐんこう【軍港】海軍の根拠地として完備した重要基地。軍港は古来，艦船の収容保安や修理補給施設を設け，陸正面には要塞(ようさい)を築き，平時は担任沿岸地域を警備し，戦時には艦隊の根拠地となっていた。その後，航空機の発達に伴って防備施設の状況は著しく変化した。旧日本海軍は，横須賀(よこすか)・呉(くれ)・佐世保・舞鶴(まいづる)を軍港として鎮守府を置き，大湊(おおみなと)・徳山と澎湖(ほうこ)島の馬公，朝鮮の鎮海を要港(小規模の軍港)とした。→軍事基地

くんこがく【訓詁学】訓詁は文字の意味の注解のこと。前漢の経学が経世致用・大義微言を旨とする今文学であったのに対し，後漢になって古文のテキストが出てくると経書をその字義・名詞を精密に確定して読解する学風が起こった。実事求是ともいう。鄭玄(じょうげん)がその代表的学者である。なお，清朝(しんちょう)になって前代の宋(そう)・明(みん)の哲学的経学に対する批判として考証学が起こったが，それは漢代訓詁学への復帰の意味をもっていた。→儒学　→五経正義〔西　順蔵〕

ぐんこくしゅぎ【軍国主義】戦争とその準備が国民生活の中で最優位に立ち，政治・経済・社会・文化・教育などをこれに従属させようとする思想と行動様式をいう。本来は戦争・侵略の手段であるのが，手段とともに自己目的化するのが特徴である。日本では1938年(昭和13)成立した国家総動員法にみるように，国民の諸権利はまったく制約を受け，かつ極度な精神主義的傾向・形式主義・官僚主義をも生んだ。その特徴

は，まず軍隊自体にあり，皇軍の名のとおり，成立当初から国民のためであるよりもむしろ国民の要求を抑圧し，天皇制護持のための軍隊と存在づけられていた。日比谷(ひびや)焼き打ち事件・米騒動など一連の暴動や関東大震災など緊急事態への出動・鎮圧はその現われで，また1878年(明治11)以降確立した統帥権の独立は，天皇制護持の支柱として歴代内閣の命運をも握り，議会を無力化し，最終的には軍部ファシズムを成立させた。それは在郷軍人会，各種の右翼団体，財閥などによってもささえられたが，統帥権の独立は支配権力の一元的統合を困難にし，海・陸軍の対立，陸軍内部の皇道派・統制派の対立を生んだ。また，1882年の軍人勅諭発布以来，一貫して天皇制軍隊としての徹底した精神教育を行ない，この傾向は国民教化にも少なからぬ影響を与えた。したがって，軍隊内の家族温情主義・官僚主義・派閥主義・形式主義や閉鎖的傾向は，同時に当時の日本の社会形態でもあり，特に第2次世界大戦中この傾向は著しく国民生活を圧迫した。➔ファシズム　〔千野境子〕

ぐんこくせいど　【郡国制度】　中国，漢代の地方制度。周の封建制度と秦(しん)の郡県制度が組み合わさったもので，漢帝の直轄地は郡とし，さらに県に分かれ，ほかに王の支配する1郡ないし数郡の王国があった。これは秦の滅亡後再び王国の共存状態へもどったことに起因する。劉邦(りゅうほう)は異姓の王をとりつぶして劉氏一族に代えたが，中央政府と諸王との対立は呉楚(ごそ)七国の乱となった。乱後は漢王朝が事実上中央集権化に成功し，王は名目的支配にとどまったが，皇子を王に封ずることは漢末まで続いた。　〔大庭　脩〕

ぐんこん　【群婚】　⇨集団婚

ぐんざん　【群山】　クンサン　朝鮮，全羅北道(ぜんらほくどう)北西部の都市。人口115,000(1970年推)。もと錦江(きんこう)の河口に位置する一漁村であったが，1889年開港。潮汐(ちょうせき)の干満差が大きいので，浮桟橋(うきさんばし)を用いている。背後に灌漑(かんがい)施設の整備された朝鮮随一の米作地帯を控え，米の積み出し港として発展した。市内には米穀取引所・精米所・米穀倉庫などが立ち並んでいる。湖南線の支線群山線の終点でもある。　〔矢守一彦〕

ぐんし　【軍使】　対戦する一方の軍隊から相手側の軍隊に派遣される使者。たとえば一時戦闘中止を約束するとか，投降を勧告するなど，両軍関係事項を協議するものであり，外交使節ではない。ハーグ陸戦条約の規定によれば，軍使を派遣された側の軍隊は必ずしもこれを受諾する義務はない。なお，軍使は白旗を掲げ，従者を連れてもよい。また，軍情の探査や陰謀・宣伝などの背信行為のないかぎり，相手軍側の保護が受けられる。　〔森田　哲〕

ぐんじ　【郡司】　律令(りつりょう)制下，国司の下にあって郡内の政務を行なった地方行政官。大領・少領・主政・主帳の4等官よりなり，それらに相応した職分田(しきぶんでん)が給された。従来の国造(くにのみやつこ)などの地方豪族が世襲的に選出されたもので，終身官であることは国司と異なる。子弟を国学に入れ，のちには健児(こんでい)にするなど多くの特権を有し，名実ともに地方の中心勢力であった。

ぐんじえいせい　【軍事衛星】　軍事目的に使用される人工衛星。査察・通信を主としているが，近い将来攻撃用基地として報復戦力となりうるもの。現在までのところ，ほとんどがアメリカのもので，アトラス・アジェナDのブースターを使って偵察(ていさつ)衛星ミダス・サモスなどを打ち上げ，タイタン3Cを使って通信衛星を軌道に乗せている。また，ソ連のコスモス衛星の一部はこれにはいる。偵察衛星は地上の電子偵察や核実験の探知などに用いられ，通信衛星は世界各地に点在するアメリカ軍の基地相互や中央との直接通信の中継用として打ち上げられる。　〔藤井冬木〕

ぐんじえんじょ　【軍事援助】　交戦あるいは非交戦状態において，ある国が他国の軍事力増強を助けるために武器・軍事技術など物質的・経済的援助を与えることをいう。広義では兵力援助も含む。たとえば，北大西洋条約やワルシャワ条約では，締約国は武力攻撃を受けた場合，相互にいっさいの軍事的および他の援助を行なうと規定しており，これが一般的解釈となってきた。国際法規によれば，戦時には中立国は交戦国に対して戦争上の援助を行なってはならない規定であった。しかし，第2次世界大戦ではいろいろの変態が行なわれ，特にアメリカは参戦前から形式的中立を保ちつつ，連合国に対し実質的には軍事援助を実施した。大戦後アメリカはソ連陣営との抗争上，非共産主義諸国に対して経済・軍事・技術上の援助を行なってきた。1951年，アメリカは軍事援助を中心とする相互安全保障(MSA)を定めた。そこで，アメリカから軍事援助を受ける各国はMSAの規定により相互防衛援助協定を結んだ。1961年，アメリカはMSAに代わる対外援助法(FAA)により軍事援助と経済援助を行なっている。　〔森田　哲〕

ぐんじきち　【軍事基地】　⇨172ページ

ぐんじさいばん　【軍事裁判】　一般には一国の軍隊内で，軍事上の犯罪者を軍法会議にかけて裁くことをいう。やや特殊なものとしては，第2次世界大戦後に連合国によって行なわれた国際裁判があげられる。すなわち，大戦の終了とともに，連合国側の諸国は，ポツダム宣言第10条に基づき，日本およびドイツの戦争指導者を戦争犯罪人として，連合国が設けた軍事法廷においてこれを裁いた。東京の極東国際軍事裁判，ニュールンベルクの国際軍事裁判がそれである。なお，戦時中の捕虜虐待の罪に対しては，これとは別に，1945年の戦争犯罪者裁判規則によって，横浜とマニラに軍事委員会が設けられ，裁判が行なわれた。この裁判でも死刑を含めて多くの判決が下されている。さらに，占領下においては，占領軍に対する被占領国国民の犯罪行為も軍事法廷で裁かれる。1950年(昭和25)皇居前広場における人民決起大会(民主民族戦線東京準備会主催)後のデモの際，アメリカ軍人5名に暴行した容疑で，日本人8名が軍事裁判にかけられたのはその例である。　〔吹浦忠正〕

ぐんじしげただ　【郡司成忠】　(1860～1924)　明治時代の千島探検家。幕臣幸田成延(しげのぶ)の次男で，文学者幸田露伴の兄にあたる。海軍兵学寮(のちの海軍兵学校)出身で大尉になったが，北方領土をロシアの侵寇(しんこう)から守る必要を説き，1893年(明治26)北千島守備のため報効義会を設立した。水兵57人と7隻のボートで千島列島の最北端にあるシュムシュ島に渡り，探検と開発に努めた。日露戦争中は義勇艦隊を組織して活躍，海事国防思想の普及に努めた。明治におけるわが国の北方探検の第一人者とされる。　〔野間三郎〕

くんしゅ　【君主】　⇨君主制

ぐんしゅう　【群集】　生物群集と動物群集の2通りがある。

1生物群集はある環境の地域にすむすべての生物個体群をまとめて表現する場合，つまりその地域のすべて生物を表現するために用いられる。動物群と植物群とがそれぞれの生活に影響し合っている点から，これを生活共同体とみなして，生物群集の代わりに生物共同体と表現する人もある。森林・草原・砂漠(さばく)・地中・流水・湖沼・海洋の各生物群集がある。

2動物群集は生物群集のうちのすべての動物個体群を含むものとして使われる。植物の群落に相当する。動物群集は，植物群落の特徴や性格に対する直接・間接の依存が強く，植物を目じるしにして動物群集を区別することができる。森林・草原・海洋・湖沼などの区分けのほか，さらに細分して，針葉樹林の動物群集，夏緑樹林の動物群集などと細分することが可能である。　〔船越真樹〕

ぐんしゅうしんり　【群集心理】　群集のもつ特殊な心理状態あるいは行動様相をいう。群集は狭義の社会集団と異なって，一時的に共通の関心によってその場に集まってできる集団で，一過性，無組織，成員の無名性を特色とする。したがって，群集心理は，被暗示性に富み，軽信的・非知性的・無批判的・衝動的であることなどが特性としてあげられる。ちょっとした刺激によってモッブ(暴集)・パニック(乱集)に移行し，その成員は社会常識・理性的判断・個性を

失って防衛的にも攻撃的にも異常な群集行動をとりやすい。モッブは興奮して暴行を働くもので，放火・リンチ・虐殺にまでも及ぶ。野球場や競輪場などにおけるモッブの暴挙はこの例である。パニックは，劇場や競技場などで地震・火事などの突発事故やデマなどによって非理性的混乱行動を起こす群集をいう。群集には安定した地位や役割のないのが普通であるが，一過的な役割が醸成され，成員の中に群集行動の口火を切るリーダーの生まれることがあり，アジテーション・スローガン・声援などを群集に投げかけ，興奮状態を助長し，親近感を強化し，凝集性を高めて特定の方向に群集を誘導し，消極的な傍観者まで統一行動に巻き込む場合もある。このような群集の行動やその特殊な心理的影響は古くから学者の注目をひき，フランスのル-ボンは，前世紀末，民衆運動の高まりに恐怖を感じ，この問題をはじめて系統的に考察したが，以来，おもに危機的場面における人間の行動として研究されてきた。近年は，マスコミュニケーションの発達によって大衆が群衆化する傾向がさらに強まっているが，そのメカニズムはまだ十分に解明されていない。〔太田垣瑞一郎〕

ぐんしゅく【軍縮】 軍備縮小の略。軍備を縮小制限することにより，戦争発生の危険と可能性を少なくしようとすること。国際条約により軍縮を約定した実例は古くからあるが，1899年から開かれたハーグ平和会議*は多数国間の軍縮目的を達成できなかったけれども，その意義は大きい。その最終議定書は戦時法規として重要な内容を含み，戦争手段の人道化に寄与した。第1次世界大戦後の各講和条約は，敗戦国の軍縮をきびしく規定したが，これが国際連盟の規約となった。そのねらいは，国際的な全面軍縮の前提として，まずドイツの軍備制限をすることであった。しかし，戦勝国側の軍縮が進まぬうちにナチス-ドイツは1933年から軍備拡張にのり出したので，全面軍縮は失敗に終わった。しかし，この間に限定国間では，米英日3国間の海軍主力艦制限条約(1922，ワシントン)，同海軍補助艦制限条約(1930，ロンドン)，英独および米英仏の海軍制限条約(1936)などの軍縮条約が結ばれている。第2次世界大戦後の軍縮は，核軍備の制限禁止がその中心課題となったのは当然である。しかし，核保有国は相互の力の均衡，非核保有国に対する優越性の保持，条約履行に関する相互不信，極端な秘密主義などにより，交渉は容易に妥結するようすがみられない。軍縮交渉はまず国際連合を通じて始められた。1946年，軍備縮小規制のため安全保障理事会のもとに原子力委員会と通常軍備委員会が設けられ，次いで1952年には軍縮委員会を設けて検討を続けたが，具体的成果は得られなかった。一方，核保有国である米英ソ3国間でも交渉が続けられ，1963年8月，部分的核実験停止条約が結ばれた。しかし，その後の核保有国フランス・中国が条約に加入していないことに問題がある。国連では1960年以来核保有国の増加を防ぐため検討を続けていたが，1968年7月，米英ソ3国間の核拡散防止条約が調印された。だが，本条約を支持せぬ国々への拡散を防止できぬところに今後の課題がある。以上のほか，通常軍備の制限も重要になってきた。第2次世界大戦の敗戦国に対しては講和条約によって規制されたが，他の国々には規制がない。各地に起こる局地戦争や紛争が核戦争を誘発するおそれもある。したがって，実行不可能な全面軍縮に努力するよりは，段階的軍縮をとりまとめるほうが緊急性をおびてきている。➔軍備 ➔核実験停止会議 〔森田 哲〕

ぐんじゅしょう【軍需省】 1943年(昭和18)11月，日本の企画院*・商工省を統合して設けた省。第2次世界大戦の戦局悪化に対処して軍需，特に航空機生産の急速拡充をめざし，軍需行政の一元化を図ったものである。しかし，軍部の力が強くて自主的な生産計画の樹立・遂行ができず，陸海軍のぶんどり競争はついに調整できなかった。1945年9月廃止。

くんしゅせい【君主制】 一般的には，国の統一的支配者の血を継ぐ者が世襲的に一国の元首*として統治する形態をいう。イギリスのトマス-ペインは《コモン-センス》(1776)の中でイギリスの政体を批判して，〈すべての人間は，本来，平等なもの〉であるから，たとえだれであろうと〈自分の家族を，永久に，他の人々よりも永続的なすぐれた地位におく権利〉をもつことはできないと述べたように，君主制は非合理的な支配形態であるといわざるをえない。事実，今日，君主制を採用している国は急速に減少している。日本においては，第2次世界大戦前，君主制と共和制*の妥協的形態である立憲君主制*が採用されていたが，戦後，日本国憲法は天皇の位置を〈象徴*〉と規定し，いっさいの国政行為から切り離している。天皇制*は第2次世界大戦後においては，かつての君主制のなごりとして，戦後の支配体制を観念的に補強する役割を果たしているにすぎない。〔高橋彦博〕

くんしゅろん【君主論】 イタリア-ルネサンス時代の政治思想家マキアベリ*の主著。1532年刊行。当時の分裂・混乱したイタリアの状況を統一するため，強力な君主の出現を説き，またそのための君主の統治技術を述べている。ルネサンス精神の一面を代表して，現実的な政治思想を展開し，近代政治学の創始の書となった。しかし，君主は国家統治のためには手段を選ぶべきではないというマキアベリズムは，後世，権謀術数主義として利用され，また批判を受けた。

くんしょう【勲章】 国家に勲績功労のある者を表彰し，栄誉をたたえ，叙勲者に佩用(はいよう)させる記章。日本では1875年(明治8)ヨーロッパ諸国の勲章制度を取り入れ，4月，太政官(だじょうかん)布告54号により勲位8等を設け，各等に佩章をつける勲等賞牌(しょうはい)制度を制定した。1876年賞牌を勲章に改めて旭日章(きょくじつしょう)とし，同年大勲位菊花章，1877年には大勲位菊花大綬章(たいじゅしょう)が設けられた。1888年大勲位菊花章頸飾(けいしょく)，勲一等旭日大綬章の上の勲一等旭日桐花(とうか)大綬章，宝冠章・瑞宝章(ずいほうしょう)を追加した。また，勲等は勲功に対する順位として，1等から8等に区分し，その種類は旭日・宝冠・瑞宝の3種類，勲等に応じて勲章を授与し佩用する法を制定した。また，1890年には日本紀元2550年を記念して7級までの金鵄(きんし)勲章を制定，武功抜群の者に授与し，1937年(昭和12)文化勲章*を制定した。以上第2次世界大戦敗戦前までのわが国の勲章は，菊花章(偉勲のある者)・旭日章(勲功ある者)・宝冠章(婦人の勲功者)・瑞宝章(多年の功労者)・金鵄勲章・文化勲章であった。戦後は文化勲章を除き，一時運用を停止したが，1963年生存者叙勲復活の閣議決定，および1964年太平洋戦没者叙位叙勲基準・生存者叙勲基準の閣議決定がされ，勲章の授与を開始した。➔栄典 ➔褒賞(ほうしょう) ➔175ページ(写) 〔千野境子〕

くんじょう【薫蒸】 有毒ガスを用いて病害虫を防除する方法で，それに使用する薬剤を薫蒸剤と総称する。薫蒸は多くの場合，倉庫・果樹・土壌(どじょう)などに適用される。現在一般に使用されている薬剤としては臭化メチル剤・クロルピクリン剤・カーバム剤・青酸剤・酸化エチレン剤・リン化アルミニウム剤(ホストキシン)などであるが，多くは人畜に対しての毒性が強いので，取り扱いには特別の注意を要する。

ぐんじょう【群青】 明るくあざやかな青色顔料。ウルトラマリンともよばれる。昔は天然のルリ石を精製してつくっていたが，1928年に合成されるようになってから多量に使われるようになった。クレー*に珪藻土(けいそうど)・イオウ・ソーダ灰・還元剤(石炭・木炭)などを加えて焼成し，反応副生物の硫酸ナトリウムを水洗・除去し，湿式粉砕してつくる。分子構造には定説はなく，一つの化学式で表わすことはできず，一般に，$3NaAl \cdot SiO_4 \cdot Na_2S_2$，$2(Na_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2)Na_2S_2$ または $2(Al_2 \cdot Na_2 \cdot Si_3 \cdot O_{10})Na_2S_4$ などで表わされる。光・熱・アルカリにはきわめて強いが，酸には弱い。被覆力・着色力は非常に小さいので紺青*ほど使用されないが，白色顔料にわずか加えて青みをおびさせるためのブルーインク用として用いられる。塗料のほかにセメント・ゴム・プラスチックなどに用いられる。〔品田 登〕

軍事基地

目的の相違によって，攻撃基地・戦術基地・戦略基地・空軍基地・海軍基地・ミサイル基地・レーダー基地・補給（兵站(へいたん)）基地・通信基地などがある。

〈日本の基地問題〉 基地問題は，第2次世界大戦後日本の政治・経済・教育・文化などあらゆる分野に関連する重大問題となった。すなわち，連合国軍への基地提供・基地拡張，そのための強制接収，基地使用をめぐる事前協議，基地周辺の事故や風紀などの基地公害，基地返還，自衛隊への転用さらには基地と憲法問題など，基地に関連する問題は立法・行政・司法を通じて論争・紛糾の的となり，大きな問題となっている。

〈アメリカ軍基地の歴史〉 沖縄*は，1945年（昭和20）6月，沖縄戦の終わるとともに，アメリカ軍に占領され，基地拡張のための強制接収が行なわれた。さらに1952年4月28日発効した対日講和条約*第3条によって本土から分断されていたが，1971年6月15日に調印された返還協定により本土なみに扱われるようになった。他方本土では，1945年8月15日，ポツダム宣言*を受諾した結果，連合国軍が日本本土を占領し，占領軍による基地の強制接収が行なわれた。ポツダム宣言によれば，講和発効とともに占領軍は撤退し，基地は返還されるはずであった。けれども，対日講和条約とともに発効した日米安全保障条約*と，1960年に改定された新条約に基づき，依然としてアメリカ軍基地が置かれている。

〈全土基地方式〉 アメリカとイギリス，アメリカとフィリッピンなどの間に締結された基地貸与協定では，アメリカに提供すべき基地と地域が明示されている。これに反して安保条約では，そのような区域が明示されていないため，アメリカが要求し，日本政府が合意すれば，日本の全土を基地として提供できることになっている。このような基地提供の方式を全土基地方式という。この方式で提供された基地は，1952年の講和発効時には，件数にして2,824件，面積において1,353km²にも及んでいた。その後，アメリカのアジア戦略の変更やドル防衛などと関連して，基地は縮小され，1981年1月現在では，表-3の通りである。（防衛白書—1981年版）なお，沖縄県については，表4に示されるが，アメリカ軍が沖縄を重視していることが知られるのである。

〈基地の提供・返還手続き〉 基地の提供・返還は，行政協定*第25条に基づいて日米合同委員会で決定する。けれども，1952年2月28日の岡崎・ラスク交換公文によって，講和発効後90日を過ぎても合意に達しない場合は，アメリカが従来どおり使用できると定められた。そのため，日本政府が返還を希望しても，アメリカ政府がこれに応ぜず，1960年の安保条約改定期まで正式提供になっていない基地が多数存在した。そして，それらの基地は，新行政協定第2条1項によって，合意した基地とみなされた。なお，新行政協定第2条3項では，日本，アメリカのいずれか一方の要請があれば，取り決めの再検討を行なわねばならないことになり，さらに，アメリカが必要としなくなった基地は，直ちに日本に返還しなければならないことを定めている。また，アメリカ軍が一時的に使用しないときは，日本政府は，臨時にみずから使用するか，国民に使用させることが認められている。ただ，この場合には，アメリカ軍の使用にとって有害でないことが合意された場合に限られるなど，アメリカ軍の優先権が認められている。

〈基地の強制接収〉 日米合同委員会において，正式提供に決まった施設および区域が民有地である場合には，安保条約第6条に基づく日米行政協定の〈実施に伴う土地等の使用等に関する特別措置法〉によって強制的に収用できる。アメリカ空軍立川基地拡張反対をめぐる重大な問題になった砂川事件*は，この法律を使用したため起こった。

〈基地管理権〉 日米行政協定第3条は，アメリカの基地管理権を認めている。すなわち，アメリカは，施設および区域内において，その設定・運営・警護および管理のために必要なすべての措置をとることができるという権限がある。それに対して日本国政府は，アメリカの基地管理権を維持するため，また施設および区域の支持・警護および管理のために合衆国軍隊が施設および区域へ出入する際の便を図るため，アメリカ側から要請があったときは，合同委員会を通じて両政府間で協議のうえ，かつ関係法令の範囲内で必要な措置をとることが約束されている。さらに，日本国政府は，アメリカ軍が必要とする電気通信用電子装置に対する妨害を防止し，また除去するためのすべての合理的な措置をとることが約束されている。アメリカ原子力潜水艦寄港反対や野戦病院設置反対運動に対して日本の警察が出動したり，九州の板付基地周辺の石炭のボタ山が削られ，高層建築が制限され，立川基地反対派が立てた旗が航空法違反として撤去され，さらに，神奈川県上瀬谷にある通信基地周辺が電波制限区域の指定を受け，住民の螢光燈(けいこうとう)使用や農器具等の使用について制限・禁止を受けているのは，アメリカ軍の基地管理権と日本国政府の義務履行によるものである。さらに実際には東京上空にブルー14というアメリカ空軍専用の空域があって，民間機はその空域にはいることが許されず，そのため千葉県成田に新東京国際空港を設置せねばならないほど，さまざまな制約を受けているのが実情である。特に外国と比較して注目されるのは，たとえば，西ドイツでは，アメリカ軍の野戦病院や弾薬庫などの設置

表-1　防衛施設周辺の生活環境の整備等の主な施策と実施状況

目的		施策	具体的事業内容	実施件数等（昭和55年度）
障害の防止	騒音	防音工事の助成（住宅については，第1種区域内に限る）	小・中学校・幼稚園等教育施設，保育所・母子健康センター等社会福祉施設，病院・診療所等医療施設等 住宅	433件 16,614世帯
		移転補償等（第2種区域内に限る）	家屋の移転補償 土地の買い入れ 移転先地の整備	345戸 45万m² 3件
		緑地帯の整備（第3種区域内に限る）	植樹，草地造成等	33か所 160万m²
	騒音以外の障害	障害防止工事の助成	河川改修，用排水路，橋梁，ダム，砂防堤，洪水調節堰堤，給水施設，配水施設，テレビ放送共同受信設備	320件
			道路の新設，舗装，改良	191件
障害の緩和		民生安定施設の助成	農業用施設（圃場整備，畜産施設，園芸施設，定温倉庫，集出荷施設等） 漁業用施設（魚礁，荷さばき施設，冷蔵・製氷施設，加工施設，漁港等） 学習等供用施設（水泳プール，体育施設，保育用施設等），ごみ・し尿処理施設，消防用施設，公園緑地，公民館，図書館，老人福祉センター，養護老人ホーム，農民・漁民研修施設等	542件
影響の緩和		特定防衛施設周辺整備調整交付金の交付	特定防衛施設関連市町村に対する交付	110市町村
損失の補償		農林漁業経営上の損失の補償		20件

（注）　第1種区域：WECPNL（騒音基準）80以上の区域　第2種区域：第1種区域内で90以上の区域
　　　第3種区域：第2種区域内で95以上の区域

に関して，国内法で安全基準が定められ，その基準に従っているかどうかを調査するため，アメリカ軍基地への立ち入り調査権が認められている。ところが，日本ではこのような権限が認められず，基地周辺の地域住民に多くの不安を与えている。わずかに，地域住民の安全を保障する責任から，横浜市長が現地の基地司令官と交渉した結果，その安全性調査のため基地への立ち入りが例外的に行なわれているにすぎない。以上のように，アメリカ軍の基地管理権は日本では絶大であり，その実態は治外法権*的といいうる。

〈基地使用の事前協議〉 旧安保条約時代には，アメリカ軍の基地使用に対する日本国政府の発言権は認められていなかった。旧条約第1条では，極東*における国際の平和と安全の維持に寄与するためアメリカが必要と判断した場合には，日本政府の意思に関係なく，在日アメリカ軍基地を自由に使用することが認められており，アメリカ軍の行動いかんによって，日本が戦争に巻き込まれたり，国土が戦場化する危険があった。これについて，1959年3月砂川事件に関する東京地方裁判所の判決は，このような基地の提供を認めたことは，政府の行為によって，再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意して制定した日本国憲法の趣旨に反して許されない，と判示した。そのため，翌1960年1月19日岸信介*(のぶすけ)首相とハーター国務長官との間に，新条約第6条の実施に関して事前協議を行なうという交換公文が取りかわされた。すなわち，アメリカ軍の日本における配置と装備に重要な変更がある場合，および条約第5条に基づいて行なわれる以外の，日本国から行なわれる戦闘作戦行動のため基地を使用する場合には，日本国政府と事前協議をしなければならないことが約束された。この事前協議は，アメリカ軍の基地使用について，日本政府が抑制するためと説明されたが，新条約締結後事前協議は一度も行なわれたことがない。それだけでなく，アメリカ軍が日本に核兵器を持ちこむことは，装備と配備における重要な変更として，事前協議の対象になるが，核兵器を積んだアメリカ軍の艦船や航空機の一時寄港や通過は，事前協議の対象になるかどうかは明確にされず，その結果，事前協議制は有名無実にすぎないと批判されている。

〈基地と国民生活〉 アメリカ軍の基地の多くが，人口の密集する大都市周辺に置かれたため，基地の存在は地域住民に多くの影響を与えた。一面において，基地業務への日本人の雇用やアメリカの軍人・軍属，その家族の消費生活をまかなうなど，いわゆる基地経済によって地もとが経済的に潤うというプラスの面もあるが，その多くは国

表-2　返還後の利用計画(151基地)

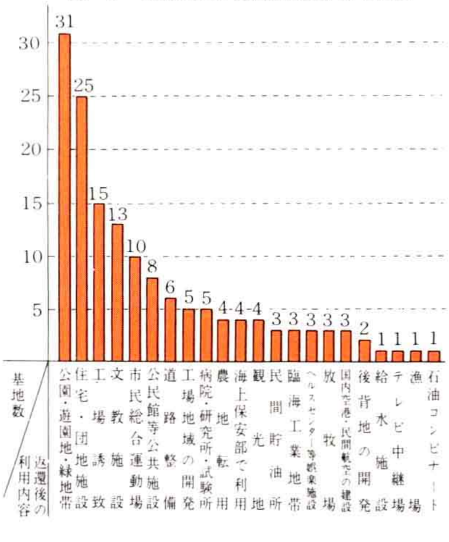


表-3　日本全土における防衛施設

	総面積	日本の総面積に占める比率
自衛隊	1,022km²	0.27%
在日米軍	482km²	0.13%

表-4　沖縄県における防衛施設

	総面積	沖縄県に占める比率
自衛隊	4 km²	0.16%
在日米軍	254km²	11.30%

民生活にマイナスの影響を与えている。第1に，広大な土地がアメリカ軍に占有されたことが，都市計画・住宅政策・地域づくりの障害になっており，また，固定資産税*の減収が地方財政の貧困化をもたらしている。横浜市では，基地があるための固定資産税の減収だけでも戦後総額2,000億円以上といわれ，また軍人の住宅地域・チャペルセンター，石油貯蔵庫・野戦病院・通信基地などが，都市計画の大きな障害になっているのはその一例である。後者については，住民と市当局による返還運動の結果，部分的解除が実現した。第2にジェット機の騒音や原子力潜水艦による海面の放射能汚染，軍事活動や訓練に伴う事故，軍人による犯罪，風紀の紊乱(びんらん)など，いわゆる基地公害があげられる。公明党が，1968年に行なった本土における基地調査によれば，公害の発生しているもの51基地(35.2%)，当面の都市計画に支障となっているもの36基地(24.8%)，地もとへの返還が要望されているもの90基地(62.0%)に及ぶ。また返還後の利用計画については，表-1のように公園・住宅など，もっぱら平和利用が計画されており，自衛隊転用など軍事利用計画はみられない。しかし，従来の経過は，表-2に示されるように，返還されたアメリカ軍基地の大部分は自衛隊に転用され，1981年には自衛隊基地の面積はアメリカ軍基地の2倍以上を占めている。そして返還が具体化された立川空軍基地については，政府の自衛隊転用の方針に対して，地もとの住民の約70%が反対し，そのなりゆきが注目されている。

〈政府の基地対策〉 このような事情から政府の基地対策は，「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」(1976年)にもとづき，防音工事や移転補償など，固有の基地対策だけでなく，体育館，図書館，老人ホームなど，本来的には，文部省や厚生省所管の教育・福祉事業にまで拡大されているのが注目される。なお，1980年に実施された基地周辺対策施策は，表-1のとおりである。(防衛白書　1981年度)

〈基地と憲法裁判問題〉 日本での基地問題は，外国と比較にならないほど大きな紛争の原因になった。そのことは，ワールド-ポルが行なった国際的世論調査において，アメリカ軍が基地をもつイギリス・フランス・イタリア・西ドイツ・オランダなどの諸国と比較して，基地反対の世論がいちばん多いのは日本となっていることにもうかがえる。その重要な理由は，一つにはポツダム宣言が講和条約発効時における全占領軍の撤退を定めたこと，二つには日本国憲法が戦争の破棄，軍備の禁止を規定し，それに基づいて制定ないし改定された法律では，軍事基地の存在を許していないからである。一例として，横須賀(よこすか)・舞鶴(まいづる)・呉(くれ)・佐世保の四つの軍港都市の軍用財産を4市に安く払い下げて，平和産業や文化施設に転換するための旧軍港市転換法(1950)，国防もしくは軍事に関する事業のため，国民の土地を強制的に使用・収用することを禁止した土地収容法の全面改正(1951)などがある。そのため基地問題は憲法問題となり，裁判事件に発展した。その中でおもなものは，アメリカ空軍立川基地立ち入りをめぐる刑事特別法違反事件と，板付空軍基地の返還訴訟である。前者は，東京地方裁判所においては，安保条約とアメリカ軍の駐留が憲法違反であるとして被告たちは無罪となったが，最高裁判所はこれらを合憲と判断し最終的には有罪となった。また後者では，福岡地方裁判所で地主に返還すべしという判決を下したが，最高裁判所では，その判決を否認し，国民にも条約厳守の義務があるとして原告*は敗訴した。さらに，大阪国際空港における騒音訴訟と関連して，横田，厚木，小牧など，アメリカ軍と自衛隊の空軍基地における騒音の差し止めを求める行政訴訟や，損害賠償を求める民事訴訟が提起されている。このように基地の存続か廃止かは，憲法の将来をどうするかにも関連して，今後も大きな問題として残ることが予想されている。

〔星野安三郎〕

ぐんじょういろ【群青色】 色名。天然顔料の群青のような色。わずかに紫みのある，あざやかな青色。天然群青は，藍銅鉱(らんどうこう)を粉末にした顔料で，日本画の岩絵の具として貴重である。非常に美しい瑠璃(るり)の青色であるが，高価なために，今日では人工的な合成により製されている。日光や風雨やアルカリに強いが，酸に侵されやすい。ウルトラマリン-ブルー(Ultramarine Blue)と同種である。日本工業規格(JIS)慣用色名〈群ジョウ色〉は，色相7.5PB，明度3.5，彩度10.5の色と規定されている。➔色　〔武井邦彦〕

くんしょうも【勲章藻】 緑藻(りょくそう)類・アミミドロ科・クンショウモ属。淡水のプランクトン中にみられ，4～128個の細胞が平面的に並んで径50～200μ のほぼ円形の群体をつくり，周縁細胞には突起がある。2べん毛の遊走子および配偶子を生ずる。

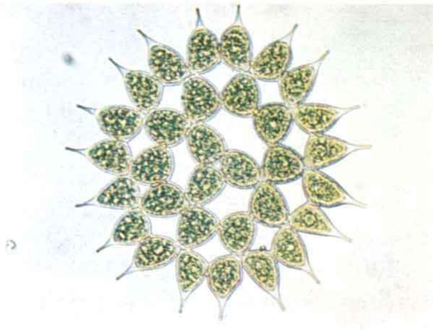
ぐんしょるいじゅう【群書類従】 塙(はなわ)保己一らによって編纂(へんさん)された古文献叢書(そうしょ)。古代から江戸時代に至る貴重な文献を収録している。正編は1779年(安永8)から41年を費やして1819年(文政2)に完成，1,270種の文献を収め，続編は1822年完成，2,103種の文献を収めている。神祇(じんぎ)・帝王・補任・楽譜・官職など25の部門に分類されている。

くんしらん【君子蘭】 単子葉植物・ヒガンバナ科。南アフリカ原産で，3種が知られる。無茎の多年草で多肉根があり，葉は長形常緑で，2縦列に生ずる。花期は春ないし初夏で，花茎を伸ばして黄赤色ないし緋紅(ひこう)色の花を散形花序につける。はち植え用として温室で栽培される。繁殖は株分けまたは実生による。

ぐんじんこうていじだい【軍人皇帝時代】 ローマ帝政末期の235～285年の間，軍人が皇帝を廃立した無秩序時代。アレクサンドロス-セウェルス没後から285年にディオクレチアヌス帝が即位するまでの50年間は，辺境守備の軍閥化した軍隊が指導者を皇帝に擁立した。18人の皇帝，共同統治者を加えて26人の皇帝中，天寿を全うしたのは2人のみで，暗殺された者が多い。在位の平均年数は2年で，その混乱ぶりがうかがえる。この時期に属州などに大土地所有者が台頭し，愛国心は失われてゲルマン傭兵(ようへい)が増加した。そのため国防力が弱化し，ササン朝ペルシアやゲルマンの侵入が激しくなった。〔高山高雄〕

ぐんじんちょくゆ【軍人勅諭】 1882年(明治15)1月4日，天皇から陸海軍人に与えた勅諭。明治政府は武士団を廃して徴兵制を実施したが，特に軍紀確立の必要を感じて〈軍人読法〉を，次いで〈軍人訓戒〉を制定した。しかし，さらに天皇制軍隊としての建軍精神，統帥権の独立，軍隊と政治との分離を明らかにするため，軍人勅諭の発布となった。天皇に対する絶対的忠節を要求するとともに，礼儀・信義・武勇・質素などについて述べている。これらは軍人精神として軍の精神強化に大きな力となったが，その反面，変革化する一般社会との矛盾，民衆と軍隊との離間なども生じた。〔森田　哲〕

クンスト［Jaap Kunst］(1891～1960) オランダの民族音楽学者。西洋外の音楽の研究を学問として確立するのに貢献し，比較音楽学からより視野の広い民族音楽学への移行を推進させた。当時オランダ領であった地域，たとえばジャワ島・バリ島などのインドネシアやニューギニアの芸術音楽・民俗音楽の研究が中心となっている。《民族音楽学》でこの学問の概説と膨大な文献資料の整理とを行なった。



クンショウモ



クンシラン
(左)シリビアーノビリス(クンシラン)　(右)シリビアーミニアタ(ウケザキクンシラン)

くんせい【燻製】 いったん塩づけにした魚・貝・獣鳥肉を，木材の不完全燃焼によって生じる燻煙にさらして乾燥した食品。原料として，サケ・マス・ニシン・タラ・カキなどの魚介類のほか，ウシ・ブタ・クジラ・ニワトリなどが使用される。燻材は硬質で脂肪分の少ないカシ・クヌギ・ナラ・カバノキ・カシワ・ケヤキがよく，マツやスギは不適当である。燻煙が原料の中に浸透して防腐力を与え，微生物の繁殖をおさえるので，貯蔵性を増すのみでなく，特有の香味を生じるので愛好される。製法に冷燻・温燻・液燻のほか，電気的作用を応用する電燻などがある。冷燻品は貯蔵性は高いがかたいので風味はやや劣り，温燻品は柔らかくて美味だが貯蔵性は劣る。現在わが国ではそれほど消費量は多くないが，欧米諸国では広く愛好されている。〔佐藤友太郎〕

ぐんせい【軍政】 軍事政権の略称。政治権力を掌握した軍隊によって行なわれる軍事行政をいう。権力はふつう武力によって掌握され，クーデターによって実現する場合が多い。体制変革をめざす革命政権ではなく，国内が政治的混乱に陥ったときその収拾を目的として樹立される。したがって，政治の不安定な後進国においてしばしばみられる。一般に軍政下においては選挙は行なわれない。

ぐんせん【軍扇】 いくさで用いられた扇。暑気を払い，軍勢を指揮し，さらに指物(さしもの)の役目をも果たした。源平時代からすでに戦陣で用いられ，室町時代には一定の形式ができあがった。表は赤地に日輪を金箔(きんぱく)押しとし，裏は空色地に月を銀箔でつける。長さは約36cmで，骨は黒塗りの12本。要(かなめ)に手貫緒(てぬきお)を通し，その色で身分の上下を区別した。昼は日の側，夜は月の側を表に向けて使うなどの故実があった。〔稲垣史生〕

ぐんぞう【群像】 月刊文芸雑誌。1946年(昭和21)10月創刊。講談社発行。第2次世界大戦後の文学ジャーナリズムの拡大による純文学の大衆小説化の傾向に対して警鐘を鳴らし，純文学の孤塁を守っている数少ない文芸雑誌の一つ。大岡昇平《武蔵野(むさしの)夫人》，武田泰淳(たけだたいじゅん)《風媒花》，中山義秀《咲庵(しょうあん)》，安岡章太郎《幕が下(お)りてから》，中野重治《甲乙丙丁》，中村光夫(みつお)《二葉亭(ふたばてい)四迷伝》，広津和郎(かずお)《年月のあしあと》などの創作・評論など数多い傑作・問題作を掲載している。〔源　五郎〕

ぐんぞく【軍属】 旧日本軍隊は軍人と非軍人とからなり，後者を軍属と称した。自衛隊の非制服職員に相当する。軍属は軍人を必要としない職，非軍人を必要とする職に配置され，陸海軍文官・雇員・傭人(ようにん)に区分された。陸海軍文官は官吏であり，普通文官・教官・技術官・法官・監獄官・通訳官・看護婦長である。雇員は官吏

➔178ページ



①大勲位菊花章　頸飾　　②勲一等宝冠章　左から綬・正章・副章　　③文化勲章



④勲一等瑞宝章
⑤勲一等旭日大綬章
⑥勲一等旭日桐花大綬章
⑦功一級金鵄勲章
⑧赤十字記章
⑨夜会勲章
⑩元帥記章
⑪1931年～1934年従軍記章
⑫支那事変従軍記章
⑬1914～20年戦役従軍記章
⑭陸軍大学校記章
⑮魚形水雷発射優等記章
⑯日本従軍記章・記念章
⑰傷痍記章
⑱緑綬褒章
⑲黄綬褒章
⑳朝鮮国勢調査記念章
㉑イギリス　ビクトリア勲章　頸飾
㉒デンマーク　ダネブロゲ勲章
㉓スウェーデン　北極星一等勲章
㉔スウェーデン　ワッサ勲章　頸飾
㉕アメリカ　レジオン－メリット一等勲章
㉖イタリア　アンノンシャード勲章　副章
㉗イギリス　セントマイケル－アンド－セントジョージ勲章　頸飾
㉘ポルトガル　一等勲章
㉙満州国　勲一位龍光大綬章
㉚ドイツ　メクレンフルヒグライフェン一等勲章
㉛清国　文虎一等勲章
㉜フランス　レジョン－ドヌール一等勲章
㉝中華民国　同光一等勲章
㉞ノルウェー　サン－オラフ勲章
㉟ギリシア　十字金鷲勲章
㊱セルビア　一等勲章
㊲オランダ　オランジナッソー一等勲章


21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37

に準じて公務に服し，下士官に相当する待遇を受けた。傭人は学校・司令部・諸機関が雇う労務者をいい，雑役・監守その他の労務に服する者であった。〔森田　哲〕

ぐんそくど【群速度】⇨波束

くんたい【裙帯】公家(くげ)の女子の正装の具。〈くたい〉ともいう。《年中行事絵巻》にみえる舞い姫姿は裙帯を着用した状態を示している。裳(も)の帯の余りを左右に寄せ,引いて飾りとしたものであろう。《北山抄》に〈其(その)製紫緑，半バ合スコト帳ノ組ノ如(こと)シ。両端形ヲ縫ヒ……〉と記されている。

ぐんたい【軍隊】⇨180ページ

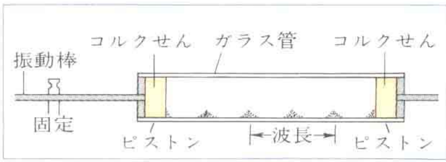
ぐんたい【群体】分裂または出芽によって生じた新個体が，親個体から離れず互いに体の一部分または外分泌物によってくっついている場合，この個体の集合を群体という。真の群体は各個体が，原形質により連結されており，外界の刺激に対する反応や栄養摂取上密接な関係にある。単に各個体が接着して群体を形成している場合は，偽群体といい，カキ・カメノテ・フジツボなどの例がある。群体を形成する動物は，原生動物・海綿動物・腔腸(こうちょう)動物のような原始的なものから，コケムシ類・ホヤ類にわたって多数知られ，そのほとんどは海産である。〔松本忠夫〕

ぐんだい【郡代】室町・戦国・江戸時代の職名。室町・戦国時代には畿内(きない)で1郡あるいは2郡をあずかる者を称した。郡邑(ぐんゆう)の代官の意で，警備・租税のことをつかさどった。江戸時代には幕府直轄地の民政をつかさどる地方代官を,諸藩も諸大名蔵入地の地方役人を郡代と称した。幕府の場合，地方代官のうち，管下地域の広大なもの，枢要の地にあるもの，大藩の近くにあるものなどを郡代と称した。徳川氏は1582年(天正10)甲斐(かい)(山梨県)に甲州郡代平岩七助を置いて，1590年徳川家康(いえやす)の関東打ち入り後，伊奈忠次(いなただつぐ)に関東諸代官を支配させて関東郡代とした。以来伊奈氏は代々世襲して相模(さがみ)(神奈川県)・武蔵(むさし)(埼玉県・神奈川県・東京都)・安房(あわ)・上総(かずさ)(ともに千葉県)・下総(しもうさ)(千葉県・茨城県)・上野(こうずけ)(群馬県)などを管し，他の郡代の上座に位した。ほかに美濃(みの)・飛騨(ひだ)(ともに岐阜県)・西国に置かれ，勘定奉行(ぶぎょう)に属し，地方・公事方(くじがた)に関することのほか，諸大名の城地授受,将軍の上洛(じょうらく)の警備などにもあたった。〔岡山泰四〕

ぐんだりみょうおう【軍荼利明王】明王の一。梵語名(ぼんごめい)はKuṇḍalī(クンダリー)。五大明王の一尊。《ヨーガ-クンダリー-ウパニシャッド》にシバ神のリンガ(陽根)に取り巻くシャクティ(性力)として蛇形(じゃけい)のものをさし，この合一相が最高の福祉の示現と説くのに始まる。《陀羅尼(だらに)集経》では全身青色，忿怒相(ふんぬそう)と八臂(はちひ)をもち，胸前に二赤蛇と二臂を置くと記される。曼荼羅(まんだら)では金剛界の降三世会(ごうざんぜえ)，胎蔵界の蘇悉地院(そしつじいん)・観音院・金剛手院に列する。この尊を信ずれば煩悩(ぼんのう)を洗い，万徳の芽を生じ，いっさいの魔障を遠離するといわれる。〔北条賢三〕



軍荼利明王　教王護国寺蔵



クントの実験

クンダン［kĕndang］ジャワおよびバリ島のガムラン音楽の楽器。両面太鼓が対になったもので，ガムラン音楽の合奏形態の中で，リズムと速度法に関して主導的立場をとる。

ぐんだん【軍団】律令(りつりょう)制下，諸国に設置された常備軍。兵部(ひょうぶ)省が管轄し，統率者には大毅(だいき)・小毅などがある。管内正丁(21歳以上60歳以下の男子)の3分の1が兵士として交替で勤務した。庸・雑徭(ぞうよう)は免除されたが，この中から衛士(えじ)・防人(さきもり)として徴発される者もあり，農民の重い負担となった。このため，兵ひとりを出せばその戸が滅びるとまでいわれ，逃亡が続出した。さらに管理者たる国司が軍兵を私役して公費を濫費したので改革を施したが,792年(延暦11)辺境要地を除いて廃止され，健児(こんでい)の制に改められた。〔星野良子〕

クンデラ［Milan Kundera］(1929～　)チェコスロバキアの小説家・詩人・劇作家。第2次世界大戦後，最良の小説として有名な《冗談》や，戯曲《鍵(かぎ)の持ち主たち》，短編集《笑うべき愛》などで知られる。戦後のチェコスロバキア文学において，いわゆる民主化の過程で果たした功績は大きく評価されている。

グンデール［gĕnder］ジャワおよびバリ島のガムラン音楽の楽器。薄い金属片を調律してひもで宙づりに並べ，これを打って音を出す。他のガムラン音楽の楽器よりも音域が広く，3～4オクターブに達する。音は小さいが，両手で違った旋律を奏しながら，合奏に対する装飾を施す。

くんてん【訓点】⇨漢文

クント［August Adolph Eduard Eberhard Kundt］(1839～1894) ドイツの物理学者。チューリヒ・ビュルツブルク・ストラスブール・ベルリン各大学の教授を歴任。音響学では固体中の音速を測定する〈クントの実験〉を考案(1866),光学では異常分散の現象を研究し，また磁気光学の研究にも業績を残した。

ぐんとう【群盗】シラー作の5幕の社会劇(1781)。シラーが学生時代から書きはじめ，卒業の年22歳で発表した処女作である。カールとフランツという兄弟の不和を中心に，封建制下の社会悪と人間の心理を描き出したもの。生硬な表現も多いが，当時のドイツ社会に対する憤激，社会革新への気概と若い情熱にあふれ，1782年の初演時には賛否両論の大反響をよび，ドイツ演劇史上の新時代を画した。〈シュトルム-ウント-ドラング〉の代表的作品の一つであり，日本でも数回上演され，久保栄(さかえ)らによる翻案もある。〔野島正城〕

くんどく【訓読】音読に対する語で，漢字を訓で読むことと，漢文を原形をくずさずに日本語に直訳して読むこと，の両方をいう。後者の場合多くは，音読みの漢字と訓読みの漢字とが混在する。また，原漢文と日本語とでは語順や語法が異なるので，反読(〈知新〉を新シキヲ知ルと読む類)や再読(〈将〉をマサニ……スと読む類)の必要が生じ，活用語尾や助詞などを補うことも必要になった。それらを明示したのが訓点(→漢文)である。訓読は平安初期から盛んに用いられ，日本本来の和文系とは異なる独特の文体として発達した。また，のちの記録体・書簡体・和漢混交文などを生むもとにもなっている。〔相原林司〕

クントのじっけん【クントの実験】クントが，管の中に閉じ込められた気体(気柱)の共鳴を利用して，気体中の音波の速度を測定するために行なった実験。直径3～4cm，長さ1m程度のガラス管中に石松子(ヒカゲノカズラの胞子)・コルク粉などのかわいた軽い粉末を入れ，両端の近くにそれぞれピストンをはめこむ。このうち一方のピストンには長さ1mぐらいの金属ま

たはガラスの棒を取り付け，その中央を固定する。この棒の端を，松やにをつけたなめしがわかアルコールを浸したもめんぎれでこすると，棒がその固有振動数で縦振動を起こし，ピストンの振動となってガラス管内の気柱を振動させる。もう一方のピストンにはハンドルをつけてその位置を変えられるようにし，これで気柱の長さ，すなわち固有振動数を変化させる。棒と気柱の固有振動数が一致すれば気柱は激しく振動し，管内に定在波が生ずる。この定在波は管中の細粉によって認めることができ，節と節あるいは腹と腹との間隔，すなわち波長が測定され，これから音波の速度が求められる。〔池谷和夫〕

グンドルフ［Friedrich Gundolf］（1880～1931）ドイツの文学史家・詩人。ゲオルゲの始めた《芸術草紙*》の協力者で，この雑誌に詩を発表した。代表作《ゲーテ論》は，ゲーテ*を創造的な力の統一像とみなし，根源的・絶対的な価値を永遠にもっている英雄として描いたもの。ほかに，《精神的運動年鑑》《ドイツ語におけるシェークスピア》を編集し，《シェークスピアとドイツ精神》などを著わした。

ぐんないちほう【郡内地方】山梨県の東部一帯の山地をいい，同県西部の甲府盆地一帯をさす国中または郡中に対する呼称である。江戸時代以降この地方の主要製品であった甲斐絹(かいき)を郡内甲斐絹または単に郡内といったりする。地域は南都留郡・北都留郡と大月・津留・富士吉田(ふじよしだ)の3市を含む相模(さがみ)川上流の桂(かつら)川流域で，富士川の本・支流流域の国中とはっきり区別できる。桂川河岸の段丘などを除けば，耕地となる平地に乏しく，かつてはトウモロコシを主食とし，養蚕を換金産業としていた。最近はもとからの夜具地に加えて化学繊維を主とする服裏地や洋がさ地なども織っており，全生産量の大半を占めている。また中央本線の電化，中央高速道路の開通に伴い，東京への通勤者の増加が目だっている。〔浅井得一〕

ぐんばい【軍配】軍扇*とともに軍勢を指揮し，ときには矢玉の防具にもなった武具。羽は皮に漆を塗り，またはよく鍛えた薄鉄でつくる。羽の中間に，木や鉄の柄をつけ，黒漆を塗るのが普通である。そして，片面に日月星辰(せいしん)などを描き，片面には日取りの図や潮の干満時などを書きつけて即座の軍略に備えた。軍配が軍扇から分かれて形をなしたのは戦国末期で，いまに残る有名なものに武田(たけだ)信玄遺愛の軍配，今川氏・豊臣(とよとみ)氏のものなどがある。江戸時代に兵学が興ると，いろいろな故実をつけて多くの形を生み出したが，その衰退とともにすたれ，現在はすもうや端午の節句*の飾り物に用いられるのみである。〔稲垣史生〕

ぐんばいひるがお【軍配昼顔】双子葉



軍　配
金箔軍配
毛利元道蔵



グンバイヒルガオ

植物・ヒルガオ科の多年草。熱帯や亜熱帯の海岸に多く，日本でも九州や四国の海岸などに見られる。茎は長く砂地の上をはい，よく枝分かれして一面に広がる。葉は光沢があり，円形で先がへこみ軍配状をしている。夏，葉のつけ根から伸びた枝に直径4cmほどのアサガオに似た紅紫色の花を2～3個つける。種子は海流に乗って運ばれるが，日本では寒くて越冬できない。ときに砂防用として使われる。

ぐんばいむし【軍配虫】こん虫類・半翅(はんし)目・グンバイムシ科の総称。カメムシの類で，中でもヒラタカメムシ科などに最も近縁である。体は小さく，体長が5mmを越える種類はほとんどない。全体扁平(へんぺい)で，頭部・前胸背板および半翅鞘(はんししょう)が網目状を呈し，きわめて特異な形状をしている。背面に奇妙な形の突起をもつ種類が少なくない。すべてが食植物性で，葉や茎に口吻(こうふん)を挿入(そうにゅう)して吸汁(きゅうじゅう)し，多数群生するときは寄生植物を枯死させることもある。全世界から約800種が発見され，日本にも約70種類が知られている。ナシの害虫として知られるナシグンバイ，キクの害虫であるキクグンバイ，シソ科植物のつぼみに嚢状(のうじょう)の虫こぶをつくるヒゲブトグンバイ，ツツジ類に寄生するツツジグンバイ，ナラ・クヌギなどに寄生するヒメグンバイ，アザミ類につくアザミグンバイなどが日本に分布する代表的な種類である。

ぐんばつ【軍閥】中国では傭兵*(ようへい)と従属関係にある家臣とを武力として地方的に割拠した軍人の一団をいう。1850年代の中国では清朝(しんちょう)の軍事機構は崩壊し，太平天国の軍隊の厳格な軍律とすぐれた編成と戦法に対抗するため，兵士の養成を地方有力者にゆだねた。そこで有力者は軍事・財政・行政をも掌握し，事実上地方長官のようにふるまったことに起源する。

日本では政府・議会から独立し，天皇に直隷して内政・外交・司法・警察に絶大な力をもった陸海軍上層部をさす名称。長の陸軍(山県(やまがた)・桂(かつら)・寺内)，薩(さつ)の海軍(西郷従道(つぐみち)・樺山資紀(かばやますけのり))とよばれ，薩摩・長州藩閥が絶対的な支配力をもった。1878年(明治11)の参謀本部の独立で本部長は天皇に直属して軍令事項を専管，1894年海軍軍令部の設置で統帥権*の独立は完成した。明治憲法発布後は軍事費の自由な増額は議会で阻止されたが，陸海軍編成および常備兵額の決定は軍の独立を保障した。その保障のもう一つの柱は軍部大臣現役武官制*で，軍の反対で軍部大臣の入閣を得られず流産・倒壊した内閣もある。軍備の拡張による対外侵略の先鋒(せんぽう)もまた軍閥であり，満州事変*もその陰謀でひき起こされた。財閥*との抱き合わせによる財力で政党をあやつり，巨大な機密費流用が盛んであった。軍閥は在郷軍人会*の強化，軍事教練の実施で内政の軍国主義*化の先兵でもあり，国内不安に乗じて暗殺・反乱も辞せず，また国内・植民地における憲兵警察による政治的自由の圧殺など，民主的権利の抑圧の機構となった。〔安達淑子〕

ぐんび【軍備】陸海空軍の兵力・兵器装備・軍事施設などの総称。一般には，①平時から存在する兵力・使用資材・設備，②戦時のために準備する予備兵力・貯蔵資材，戦争を目的とする設計物，③戦争時に組織する兵力，をいうが，特に平時軍備と戦時軍備を区別する説もある。

〈意義〉軍備はおもに侵略に対して国家の自衛を全うするためのものである。しかし，自衛だけでなく繁栄をも願う国家は，軍備を他国との勢力均衡を図る主要手段とし，時には対外示威のため，さらに外交政策の推進力として利用している。また，対内的には国家権力保持のために必要な面もある。軍備は国民生活と密接な関係をもつ。軍事費の増大と国民の税負担，軍需工業と生活必需品の生産，人的動員と労働力の調整，その他軍事機密・民間防衛など多くの問題がある。各国とも国民生活を著しく圧迫しない程度で，最も効率的な軍備をつくることに努力している。

〈変遷〉軍備は国策・国民性などにより異なるが，古来，武器の進歩と戦略戦術の発展とが相関関係をもって変遷し，これに応じた軍制が行なわれてきた。15世紀末のフランス砲兵，18世紀末の国民軍思想とナポレ

→181ページ

軍　隊

一般には陸・海・空の正規軍をいうが，正確な定義はない。広義には統制ある指揮のもとに軍事行動を行なう武装集団をいう。国際法上あるいは慣習上交戦権を有し，軍事力を行使できるものは，正規の陸・海・空軍および民兵・義勇兵，蜂起(ほうき)した人民，軍艦に変更された商船などで，責任者が指揮し，遠方から識別可能な標識をもち，公然と兵器を携行・装備して戦争法規を守ることができるものである。しかし，以上の定義にあてはまらない潜水艦・ゲリラ・便衣隊なども，国際法上の適否は別として，軍隊でないとはいえない。軍隊は国家またはその属する集団の防衛を主任務とするが，一方では対外政策遂行の強力な推進力ともなり，また国内治安の維持や災害の救護・復興などにも従事する。

〔歴史的変遷〕軍隊の様式や性格の歴史は，国家や社会組織の変遷，兵器の進歩および戦略・戦術の変化と相関関係をもつ。原始的社会では戦闘員と非戦闘員の区別はなく，老幼婦女子を含むすべてが戦闘員であり，特別の軍隊は存在しなかった。人類の生活がしだいに複雑化するにつれて仕事の分化が生じ，男子のみが主として戦闘に従事するようになり，次いで専門の職業的戦闘員が生まれた。その後，兵器および戦闘術の進歩と国家の強大化に伴って，純然たる職業的軍隊や傭兵(ようへい)も生じた。しかし，ギリシアなどの都市国家では，市民の資格を有する者はすべて，有事の際には防衛の任につく義務をもっていたという。強大なローマ帝国が出現すると，軍隊の性格は国民皆兵的なものから雇用的職業軍隊に変わり，国家の富強が進むにつれてその傾向を著しくしたが，これがローマ帝国衰退の一因とされている。10世紀ごろになると戦闘の主力は騎兵となり，武道にひいでた世襲的・職業的な騎士団の勢力は封建制度の大きなささえとなった。14～15世紀には大砲や小銃が出現し，その威力が増すにしたがって騎兵は無力となり，騎士団の勢力は衰えて，封建制度崩壊の因をなした。これに代わって強力な銃砲を装備した強大な軍隊をもつ中央集権的国家が誕生した。そのころ，軍隊の中核は職業軍人に率いられる傭兵であった。しかし，18世紀末のフランス革命を転機として，ヨーロッパ各国には国民に基礎を置き，外国人傭兵を交えない国民軍が生まれ，傭兵に比べて勇敢で忠誠心に富む精強な軍隊となった。フランスは1793年に徴兵令*を敷き，ナポレオンはこのような精兵を率いてヨーロッパ大陸を席捲(せっけん)した。ヨーロッパ諸国は，これにならって徴兵制を採用するものが多かったが，イギリスやアメリカは平時に大規模な陸軍を必要としなかったので，平時は志願兵制度によっていた。一方，人類は陸上から河川・湖沼へ，内海から外洋へとその活動の場を広げていくにつれて，そこを闘争の場としていった。また，それにつれて海上での軍事行動に適する海軍を建設するようになった。地中海方面では古くガレー船*が軍艦として使われたが，16世紀ごろから帆走航海術が進歩すると，レパントの海戦*などを契機として帆船による外洋海軍が生まれた。このガレー船・帆船時代までの海軍は海賊*と区別がつけにくく，私掠船(しりょうせん)のように戦時に敵国船を拿捕(だほ)することを国家から特許されたものもあった。一般にヨーロッパの海軍は王室が私有する傾向が強く，19世紀以降国民的軍隊が生じたのちも職業的色彩に富み，各国とも志願兵制度を主としていた。空軍は，第1次世界大戦後に航空機の軍事上の重要性が認められて生まれたもので，戦略爆撃が有効である反面それに対する防空を必要とするヨーロッパで，まず創設された。しかし，太平洋を舞台とする日米両国は空軍を独立させず，強力な航空母艦群を中心とする海軍航空部隊を保有し，太平洋戦争の主力となった。

第2次世界大戦の末期に出現した原子爆弾とジェット機は空軍優先時代をつくったが，特に水素爆弾と弾道ミサイルの出現は核保有国間に強い相互抑止関係を生じさせた(→核戦略)。この結果軍隊は，原則的には銃剣から核兵器までの陸・海・空にわたるあらゆる軍事力を必要とするようになった。さらに国際間の闘争にイデオロギーが優先する形態が生じると，核抑止力の効果とあいまって，制限戦争，ゲリラ戦*，宣戦を行なうことなしに戦闘状態にはいる不正規戦争，戦争でもなく平和でもない冷戦状態などが生まれ，各国はこれに適応する軍隊を必要とするようになった。ゲリラ戦・対ゲリラ戦を主任務とする特殊部隊のようなものはその一例である。

〔軍隊の特性〕軍隊が一般の国家機関と異なるところは，おおむね次のような点である。①強力な殺傷破壊力を有する統制ある集団である。②軍事力の行使にあたっては，国際法の許す範囲内において，戦争目的の達成に最も有効と考えられる殺傷・破壊が行なわれ，一般の国内法の制限を受けない。③したがって戦闘員に対しては，必要に応じて生命の犠牲が要求される。④戦機を逸せず戦力を効果的に発揮するためには，統制ある行動を必要とする。またときには，全体のために一部に対して苛酷(かこく)な犠牲が要求される。さらにこれらの要求から，命令に対する絶対服従が求められる。もちろん，時間的余裕があれば意見具申が認められ，また状況の変化に対しては命令に盲従することなく，任務達成のための独断専行が許されるのを一般とする。現在では，明らかに違法と考えられる命令に対しては不服従の責任があるとされている国もある。わが国においても，二・二六事件*で下士官の一部は処罰され，第2次世界大戦後の戦争裁判では，たとえ上官の命令によるものであっても，人道上の罪を免れなかった例が多い。しかし，その命令が正当か違法かを判断することは，下級者にははなはだ困難な場合が多く，戦時重罪である抗命罪に問われることも覚悟しなければならないので，この点については異論が多い。⑤以上のような特殊性から，軍紀・風紀の維持上，特別裁判所(軍法会議)の設置や軍刑法などの特別立法がなされるのが一般である。⑥また，以上のような特性から，軍の組織運用・統帥には一般の行政機関と異なり，いわゆる統帥権や統帥機構を必要とする。現在の民主国家では行政機関の首長が軍隊の総指揮官となるのが普通であるが，象徴的には依然として国家の元首が軍の最高司令官である国が多い。

〔アメリカとソ連の軍隊〕アメリカの建国は独立戦争によってかちとられたが，それはまったく人民が自発的に参加した民兵を基礎とするアメリカ軍の勝利によって得られた。そして，西部への発展もまた軍隊の保護のもとに行なわれた。したがってアメリカの軍隊は，歴史的に，人民に基礎を置く最も民主的な軍隊ということができよう。国民の軍隊に対する態度もまた親愛の情に満ちたものである。軍の指揮統帥権も，文民の長である大統領が三軍の総司令官としてこれを掌握している。国防長官および各軍長官は文官であり，統合各参謀長(議長および三軍参謀長)は名目上は大統領の最高幕僚であるが，実際上は国防長官の最高の専門的助言者であって，政治優先の原則が貫かれている。国会は宣戦や武力行使を承認する権限をもち，かつ予算の審議に関連して軍事全般をチェックする。もちろん，アメリカの軍隊も前述のような軍隊の特性をもっており，また世界最大の軍備を保有し，世界各地に配備されて広い範囲の軍事的責任をもつに至ったことから，その権限も膨大なものとなり，アメリカの社会・経済に及ぼす影響力は増大しているが，なお軍部による政治支配や軍国主義の台頭は考えられない。

ソ連軍は，ロシア国軍というよりはソ連共産党軍の性格が濃く，幹部の大部分は共産党員であり，部隊の末端まで政治将校が配員されている。歴史的には，ボリシェビキ革命の成功，ソ連邦の建国は赤軍の軍事力に負うところが多く，大祖国戦争(対独戦争)にはよくドイツ軍の侵攻に耐えて，アメリカの軍事援助のもとに反撃に転じ，

アメリカ・イギリス軍による第2戦線と相呼応して対ドイツ勝利をかちえた。ソ連軍の任務は，祖国の防衛ばかりでなく，社会主義国家内の体制の維持，共産主義革命の推進・援助にあたるという特色をもっている。第2次世界大戦後の東欧圏諸国の赤化解放，ハンガリー・チェコスロバキアなどの自由化に対する軍事的干渉はその任務の一端を示している。現在のソ連軍は戦略兵力においてアメリカと均衡を保ち，相互抑止の関係にある。地上軍はヨーロッパ・アジア両大陸において世界最強を誇っているが，最近は海軍力の増強も著しく，すでにアメリカに次いで世界第2位の勢力を保有して外洋へ進出しつつあり，その影響力は世界の各地に及んでいる。

〔日本の軍隊〕 日本の軍隊は神話の時代からおもに天皇の統率下にあったと伝えられる。平安時代以後，職業軍人である武家の手に移ったが，明治維新によって再び天皇の統率するところとなった。明治維新前後から欧米先進国の制度や兵器・技術・戦術を取り入れ，1873年(明治6)には徴兵制度(→兵役制度)を施行した。陸軍ははじめフランスに次いでドイツに，海軍ははじめオランダに次いでイギリスに範をとって建設された。明治政府は経済的繁栄を図ると同時に，わが国を取り巻く先進諸国に対する危機意識から強力な近代的軍備の必要を強調して富国強兵を国是とし，日清(にっしん)戦争・日露戦争によって清国およびロシアの南下を防止して国の安全を確保し，独立を維持しようとした。こうしてわが国は，アジア大陸に重大な政治的・軍事的・経済的な支配力をもつようになったが，幕府の再来を防ぐために明治憲法で統帥権を独立させたことがかえって軍部の政治関与を招き，積極的な大陸政策を強行することになった。その結果，満州事変から日中戦争・太平洋戦争へと大陸侵攻を拡大するに至ったが，第2次世界大戦の大敗をもって解散された。

1946年(昭和21)制定された日本国憲法*では，その第9条に〈陸海空軍その他の戦力は，これを保持しない。国の交戦権は，これを認めない〉と規定され，当時はまったく軍隊を保有していなかった。しかし，1950年朝鮮戦争が勃発(ぼっぱつ)すると，朝鮮に出動したアメリカ軍の空白を埋めるため，占領軍の命令によって75,000の警察予備隊が創設された。これが講和条約の調印，独立の回復後には保安隊となり，さらに1954年7月には陸・海・空の自衛隊が創設され，防衛庁*によって統轄されることになった。このような軍事力の増強に伴い，自衛隊の合憲性が特に憲法第9条と関連してさまざまに論議された。政府・与党は，自衛隊を防衛のための戦力とし，憲法第9条は自衛力の保持を禁止していないと主張し，野党や平和論者はこれを侵略に利用される危険な存在として，自衛隊違憲論を唱え続けている。現在の自衛隊は，陸・海・空の3軍に分かれ，陸上自衛隊は兵力18万名，13個師団編成，海上自衛隊は艦艇約15万6,000トン，対潜機約290機，航空自衛隊の航空機は約1,000機に達する。しかし，自衛隊違憲論は依然として跡を断たず，自衛隊員は軍人としての栄誉も特殊な地位も与えられず，身命をとして国を守る義務も明らかでなく，純粋な自衛戦争においても交戦権が認められていない。したがって現在の自衛隊は，外形上は軍隊であるが，真の軍隊とはいえない中途はんぱなものにすぎない。➔陸軍 ➔海軍 ➔空軍 ➔自衛隊

〔関野英夫〕

オンの殲滅(せんめつ)戦略，19世紀末の科学技術の進歩は軍備史上，画期的なものであった。次いで第1次世界大戦の結果，各国は将来戦は戦闘資材の補給戦・消耗戦になるだろうとの見通しから，平時における軍需品の貯蔵，工業動員の準備を最重要事項とみなして準備を整えた。ところが，ドイツは兵器技術の進歩により攻撃力は防御力にまさるとの判断から機動戦を準備し，第2次世界大戦初期の勝利を収めた。しかし，軍需品，特に新鋭兵器の大生産力をもつアメリカがイギリス・ソ連へ大量に補給し，かつ参戦するに及んで戦勢は逆転した。

〈傾向〉 ①第2次世界大戦後，世界各国の大部分はアメリカ・ソ連の二大陣営に分かれ，集団安全保障体制を進めた。各国の軍備も集団的軍事力に依存するとともに一種の国際的分業を行なった。たとえば，核・ミサイル軍備と通常軍備をもつことのできるのは米・ソ2国だけであり，その他の国は通常軍備を整え，軍事基地を提供している国もあった。しかし，現在ではフランスや中国が核開発に成功して独自の軍備をもとうとし，多くの国が中立・非同盟の方向に進む傾向にある。これらの国で問題になるのは，工業力の低い新興国では自国製の兵器をもつことができず，米・ソ両国の使い古した兵器のはけ口になっていることである。②核・ミサイルの攻撃力はその奇襲防止上，つねに即時応戦の準備を必要とする一方，核軍備そのものが戦争を抑止する重要な力となっている。③全面戦争抑制の傾向とは逆に，通常兵器による最大限の戦いをやっても核戦争にならないという判断から，通常軍備を拡大する傾向があり，局地紛争が全世界にわたり続発している。④ひんぱんな兵器の更新と軍隊の近代化は膨大な軍事費を必要とするため，軍備の量的増大よりも質的向上を企図するようになっている。⑤外国領土内にある軍事基地はおもに戦略上の必要に基づくものであるが，複雑な政治問題となっている。⑥戦場と銃後の危険度に濃淡がなく，民間防衛がますます重要となっているにかかわらず，国論の統一は困難で，特に階級的対立が軍備上の重要問題である。➔軍縮　〔森田　哲〕

ぐんぴ 【群飛】 動物が多数集団をなして飛行すること。バッタ・シロアリ・ミツバチなどのこん虫に多くみられる。生殖時期に交尾のために群飛するものがあり(交尾群飛)，蚊柱(かばしら)はその典型的な例である。生息密度が大きくなると群飛に入るものがあり(移動群飛)，バッタではワタリバッタ(飛蝗(ひこう))として古くから知られている。

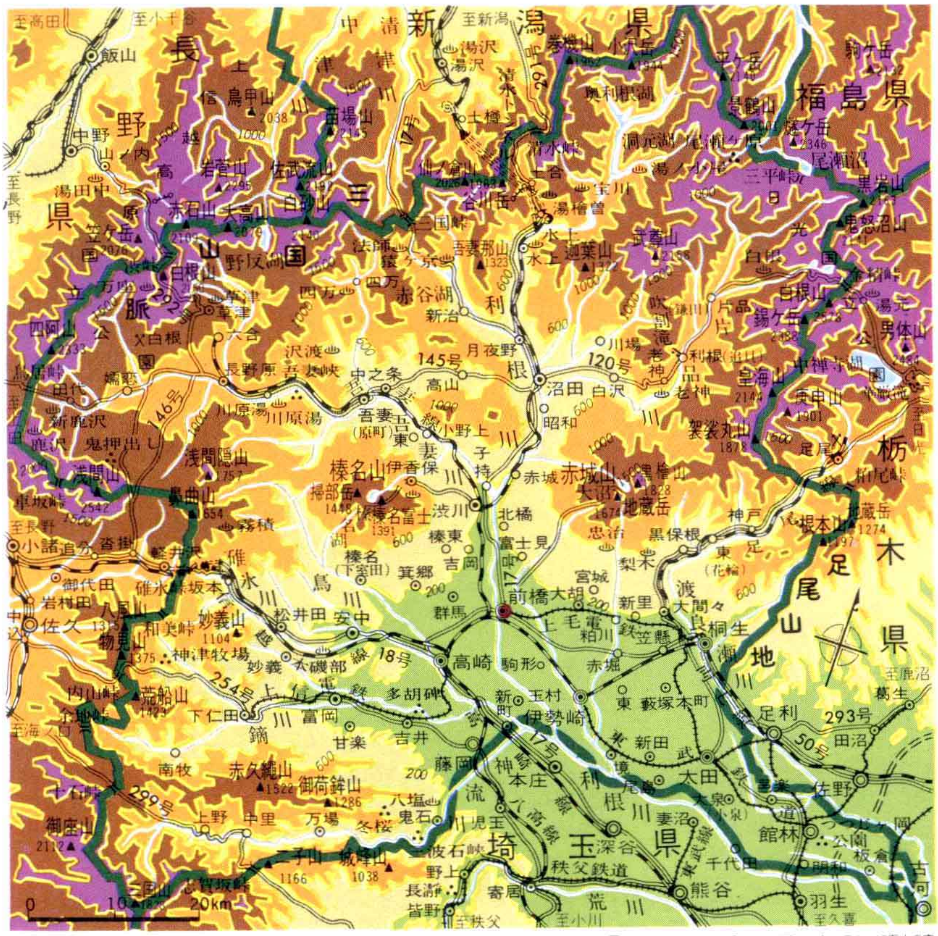
ぐんぴょう 【軍票】 戦争に際し，軍費調達のため政府や軍隊が占領地域で発行する紙幣。わが国では西南戦争で西郷軍が発行した〈西郷札〉がはじまり。日清(にっしん)戦争の際は計画だけに終わったが，日露戦争・第1次世界大戦・満州事変・日中戦争・太平洋戦争に際して，いずれも軍票が発行された。満州事変以後は現地の政府に貨幣を発行させる形態をとっている。

ぐんぷく 【軍服】 陸軍軍服のはじまりは，敵味方の区別，部隊・階級を表わす目じるしが目的であった。西欧では17世紀になってから国家が制式を統一し，生産・支給するようになった。当初は華美な服装を競ったが，しだいに実戦本位の目だたないものに変わった。海軍の軍服は，船舶乗員の服装から変化してきたものであるため，各国に共通したものがある。空軍のものも青色系統の服地を用い，陸軍と見分けやすくしている。日本では明治建軍の際，陸軍はフランスふう，海軍はイギリスふうを取り入れ，1877年(明治10)全軍的に統一した。その後いくたびか改正を重ね，儀式用・戦闘用・通常用などの服制を定めて整備された。

〔森田　哲〕

ぐんぶだいじんげんえきぶかんせい 【軍部大臣現役武官制】 陸・海軍大臣を現役の大将・中将に限定して任命する制度。1871年(明治4)兵部卿(ひょうぶきょう)の補任資格を本官少将以上としたのが最初である。その後陸・海軍官制の改革に伴って一時武官制を中断したが，その時期中も事実上文官出身の軍部大臣は出現しなかった。

さらに1900年，第2次山県(やまがた)内閣は軍部大臣現役武官制を定めた。その影響として，1912年(大正1)第2次西園寺(さいおんじ)内閣は，陸軍の師団増置案を認めなかったので上原陸相の単独辞職にあい，軍から現役武官の後任陸相を得られずして総辞職した。軍によるこの倒閣は大正デモクラシー*を迎えた世論の軍閥*攻撃となり，1913年第



群馬県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　港湾　漁港

１次山本内閣は世論緩和のため現役規定を削除，軍部大臣の任用資格を武官制のみとした。しかしその後も予備・後備の武官が軍部大臣に任用された例はなく，事実上現役武官の軍部大臣が続いた。1936年(昭和11)二・二六事件*後の政局を担当した広田内閣は，軍の要求により軍部大臣現役制を復活した。その結果1937年大命を受けた宇垣一成*(うがきかずしげ)の組閣工作は，現役武官の陸相を軍から得られず流産した。また1940年，米内(よない)内閣は陸軍の主張する日独伊(い)三国同盟*に反対であったため，単独辞職した畑陸相の後任補充を軍から拒否されて倒閣した。以上の経過の示すように，軍部大臣現役武官制は，軍の企てる倒閣の決定的手段として利用された。第２次世界大戦前の内閣は陸・海相の入閣または後任補充が得られないと不成立になったので，そのかぎを握る軍の政治進出・政治干渉となり，軍独裁の道が開かれた。　〔高崎徳次〕

クン-ブランカース　［Fanny Blankers Koen］（1918～　）オランダの女流陸上競技選手。1948年の第14回オリンピック-ロンドン大会で，女子100ｍ競走・200ｍ競走・80ｍ障害・400ｍリレーの４種目に優勝し，〈空飛ぶオランダ主婦〉とよばれて話題をさらった。1936年の第11回オリンピック-ベルリン大会にも参加し，走り高飛びで６位に入賞，結婚後も夫のコーチで競技生活を続け，1943～1951年の間に100ｍ競走に11秒５，80ｍ障害に11秒０，走り高飛びに１ｍ71，走り幅飛び５ｍ25，五種競技4,185点と五つの世界記録をつくった。1952年の第15回オリンピック-ヘルシンキ大会にも出場したが，敗血症の病後でふるわず，34歳で引退。20年間の競技生活でヨーロッパ選手権に５度優勝し，55のタイトルをとってオランダ市民最高の栄誉を受けた。　〔伊東春雄〕

ぐんぽうかいぎ　【軍法会議】　おもに軍人・軍属に関する刑事裁判を取り扱う特別裁判所。軍事裁判は軍の規律違反を厳重に取り締まり，軍機を保護するため，軍事刑法・普通刑法を問わず，通常裁判所とは別個に，犯罪審判を行なう。その対象は軍人・軍属以外にも及ぶことがある。日本では，明治憲法時代の法制である。裁判は判士である陸海軍将校と法務官である文官によって行なわれた。軍法会議は平時から常設され，戦時は必要に応じ地域・兵団を単位として特設された。　〔吹浦忠正〕

ぐんま　【群馬(県)】　関東地方の北西部にあり，北は新潟県・福島県，東は栃木県，南は埼玉県，西は長野県と接する内陸県。上野(こうずけ)全域を占め，面積6,355km²，人口185万1,000，人口密度は１km²あたり291人である。県花はレンゲツツジ，県木はクロマツ，県鳥はヤマドリ。県庁のある前橋以下11市と，12郡28町31村に分かれる。

〔自然〕県の形は，ツルが東へ向かって舞い立つ姿にたとえられる。関東平野の北端が県南東部まで延びているが，一般に山がちで平地に乏しい。ほぼ中央に，那須(なす)火山帯に属する赤城(あかぎ)山(1,828ｍ)・榛名(はるな)山(1,448ｍ)の両火山と妙義山(1,104ｍ)のいわゆる上毛三山が突き出して，平野部と山間部をくぎる。北から南にかけては，栃木県境に足尾山地，長野・新潟両県境に三国山脈が走る山岳地帯である。那須火山帯はこれらの山地と重なって，北部に武尊(ほたか)山(2,158ｍ)，栃木県境に白根(しらね)山(日光白根，2,578ｍ)，新潟県境に谷川岳(1,963ｍ)，長野県境に白根山(草津白根，2,150ｍ)・浅間山(2,542ｍ)などの火山を噴出させる。これらの地域は地形の変化に富み，山川湖沼の自然美がすぐれ，いたるところに豊富な温泉がわき出している。福島・新潟両県境の尾瀬ヶ原を含む北東部の地域は日光国立公園，北西部の新潟・長野両県境周辺部一帯は上信越高原国立公園に指定され，長野県にまたがる妙義荒船佐久高原国定公園とともに多くの観光客を集める。県下を流れる川はすべて利根(とね)川水系に属し，本流のほか渡良瀬(わたらせ)川・片品川・吾妻(あがつま)川・碓氷(うすい)川・鏑(かぶら)川などの支流がある。いずれも北西部の山地に発して深い谷を刻み，河岸段丘や扇状地を発達させ，南東部の関東平野に出て高さ15ｍ前後の沖積(ちゅうせき)低地をつくる。山間部には，利根川流域に沼田盆地，吾妻川流域に中之条盆地がある。気候は一般に表日本式気候であるが，海から遠く離れた山間部では内陸性気候を呈する。年平均気温は平地部で14℃を示すが，北部山地では８℃に低下，冬季は裏日本式気候の影響を受けて積雪が多い。平地部では，夏は雷雨が多く，冬から春にかけては乾燥し，上州名物といわれるからっ風が吹く。前橋市の１月の平均気温は2.4℃，８月25.3℃，年降水量は1,246mmである。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は17:38:45。古くから農業が主産業となり，明治以後は製糸業・絹工業などが興ったが，一般に近代工業は未発達である。県民分配所得は１人あたり121万7,000円で全国第21位，関東で６位である(1977)。〈農林水産業〉耕地面積は県域の18％にすぎず，水田と畑の割合はほぼ３：７で，水田は二毛作が多く，裏作に麦がつくられる。米の平年収量は水稲と陸稲を合わせて14万1,700ｔ(1973)で自給できず，新潟県などから移入する。麦の生産は全国第６位を占め，小麦・大麦をつくり，裸麦はほとんどない。そのほか，南部では野菜類・サツマイモ，北部ではダイズ・ジャガイモ・ソバ・トウモロコシなどが栽培され，野菜類は都市向けの商品作物となる。特産物に全国一の生産を誇る鏑川

上流の下仁田(しもにた)町を中心とするコンニャク，赤城山麓(さんろく)や榛名山麓のダイコン・ニンジン，冷涼気候を利用した浅間山麓や赤城山麓のキャベツ・ハクサイなどがある。桑畑が多く，養蚕が盛んで，平野部では春蚕(はるご)，山間部では春蚕・秋蚕に力を入れており，年間収繭量は全国一で22,000tに達するが，最近は衰退ぎみである。果樹の栽培では，榛名山南麓の榛名町のナシとモモ，沼田市や渋川市のリンゴがよく知られる。畜産業では，従来多く飼われた農耕馬がしだいに減少し，近年は乳牛・ブタ・ニワトリなどの飼育頭数が増加している。牛乳の生産は13万tで，約70%が東京方面へ移出される。林野面積は約41万7,000ヘクタールで県域のほぼ3分の2を占め，北部山地では建築材・木工用材・薪炭材などの産出が多い。これらの資源を利用して，前橋市や高崎市では，和風家具・建具・輸出木工品などをつくり，沼田市では輸出木工品・合板・家具などを産出する。林野副産物にはシイタケ・ナメコがあり，生シイタケの年間産出高は約2,300tで全国の首位を占める。内陸の水産業として各河川にアユ漁などがみられるほか，前橋付近では養蚕農家が副業としてさなぎを飼料にコイを飼っている。〈鉱工業〉主要鉱産物は鉄鉱・硫化鉱・イオウで，中でもイオウは年産13万8,000tを採掘して全国一である。渋川近くには軽石の産出が多く，全国生産の約70%を占め，軽量コンクリートの材料として京浜方面へ移出される。水力資源に恵まれ，発電所数約50，最大出力約60万kWに及ぶ全国屈指の発電県で，電力の大半は京浜工業地帯に送電される。工業面では，伝統的な家内工業に伊勢崎銘仙(いせさきめいせん)・桐生(きりゅう)あや織り・館林紬(たてばやしつむぎ)などがあるが，その生産量はしだいに減少し，輸出織物・洋反・メリヤスなどの近代的な繊維工業が発達している。前橋・高崎・富岡などの都市では，製糸と生絹製造が盛んである。食品工業では，下仁田町のコンニャク，高崎市の製粉，館林市のしょうゆ，前橋市の調味料などがよく知られている。そのほか，県下各地では渋川市の化学工業，安中市の合金，太田(おおた)市の自転車・スクーター・農機具・メリヤス・ボタンの製造，前橋・高崎・桐生・館林・伊勢崎各市の電気用機械器具，高崎市・館林市の鋳物工業など特色ある製造工業がみられる。また，1960年(昭和35)ごろから積極的な工場誘致が進められ，首都圏地域の恵まれた立地条件のもとに近代的工業地帯が形成されつつある。

〔交通・都市〕京浜の大消費地を控えて観光資源に富み，山がちの地形のわりには交通機関が発達している。裏日本との連絡網である信越本線が東西に，上越線が南北に走り，南部の高崎市は県下最大の交通の要地で，高崎線が上野駅から通じ，ここから信越本線が西に，上越線が北に向かって，裏日本と連絡している。また，高崎駅を基点として，両毛線・八高線・上毛電鉄などの各路線が関東北部地域の連絡網を形成する。県内各都市の連絡線としては足尾線・吾妻(あがつま)線があり，東武鉄道は観光地を縫い，上毛電鉄は前橋と桐生を結ぶ。バスは鉄道を補って，北部地区や前橋周辺によく発達している。道路網では，1959年に三国峠を越える国道17号線が開通し，裏日本の産業開発に大きな役割を果たしている。草津有料道路・志賀草津観光道路・金精(こんせい)道路・赤城有料道路・湯ノ小屋林道など，各地の観光道路の整備も進んでいる。県下の主要都市には，城下町・市場町・宿場町などから発達した前橋・高崎・伊勢崎・沼田・太田などの市があり，温泉地・観光地として開けた伊香保(いかほ)町・草津町などがある。沼田・館林・渋川・藤岡・富岡・安中は，1953年10月の町村合併促進法施行以降の新市である。

〔歴史〕旧石器時代の岩宿遺跡*をはじめ，石器時代の住居跡や貝塚(かいづか)が県下各地から発掘され，地域開発が古くから行なわれていたことが推定される。古代には毛野国(けぬのくに)に属したが，仁徳(にんとく)天皇のころ上毛野となり，大化改新後，上野国と改称，平安時代には地方の豪族が領主となって新田(にった)・多胡(たご)・三原などの荘園が発達し，また，ウマの産地として知られ，上野九牧が設けられた。中世には武士の所領が開発され，女堀(おんなぼり)・新田堀など多くの用水路が築かれ，養蚕・絹織物業などが発達した。戦国時代には北条(ほうじょう)・上杉(うえすぎ)・武田(たけだ)ら群雄の争奪の地となり，徳川家康(いえやす)が江戸に入城して幕藩体制を固めると，20余藩と400余の旗本(はたもと)領，20余の他国大名の飛び地などが置かれて複雑な行政機構となった。江戸時代には開田事業が進められて畑作・林産加工が開発され，幕府が街道や利根水運を整備してからは養蚕業や機業をはじめとして商工業が著しく発展し，主要街道筋に宿場町・市場町・城下町が開けた。1871年(明治4)の廃藩置県によって，前橋以下の9藩と岩鼻県を合わせた群馬県が生まれ，高崎に県庁が置かれた。1872年に県庁が前橋に移され，さらに入間(いるま)県(いまの埼玉県東部)と合併して熊谷(くまがや)県となり，県庁も熊谷に移った。その後も県域はたびたび変更され，県庁所在地も前橋・高崎と転々としたが，1876年に現在の県域が確定した。明治以後は，わが国最初の官営工業富岡製糸場*が設けられるなど，軽工業を中心に産業の近代化が進められた。〔浅井得一〕

ぐんまじけん【群馬事件】 貧農騒動と自由党員の政治運動とが結びついた最初の事件。1884年(明治17)5月群馬県の自由党員日比遜(ゆずる)・三浦桃之助らは貧民救済と政府打倒をめざし，農民3,000人余を率いて，妙義山麓(さんろく)に挙兵，当地の高利貸し業者宅と倉庫を襲って破壊し，松井田警察分署を占領した。さらに高崎の兵営襲撃を企図したが食糧欠乏と疲労のため失敗した。首謀者は逮捕され，裁判の結果，日比ら42名は強盗・放火・殺人などの罪名で2年から13年の懲役に処された。〔千野境子〕

ぐんまてつざん【群馬鉄山】 群馬県吾妻(あがつま)郡六合(くに)村の山中にある鉄山。鉱石はおもにカッテツ鉱で埋蔵量は200万tと推定される。1944年(昭和19)から鋼管鉱業の手で開発され，1960年ごろまでは釜石(かまいし)鉱山に次ぐわが国第2位の生産量をあげたが，その後衰退し，現在は閉鎖されている。

くんみんせいおん【訓民正音】 李氏(りし)朝鮮の世宗が15世紀に，学者を動員して創製した28個のハングル(朝鮮文字)およびそれを解説するとともに発布を宣言した書。大韓民国(だいかんみんこく)では1958年にこの書を国宝に指定した。➔ハングル

ぐんようき【軍用機】 軍隊で使用される航空機全般をさす。1794年，フランスの気球隊が偵察(ていさつ)用に気球を用いたのが最初とされている。その後100年近くはあまり大きな発達はなかったが，1903年，ライトが空気より重い飛行機の製作に成功すると，軍事面において急速に発達した。第1次世界大戦ではさっそく偵察用に用いられ，まもなく爆撃にも使われるようになった。これに対して偵察・爆撃を防ぐために，これを駆逐する戦闘機ができて，大戦末期には西部戦線上空ではなばなしい空中戦が演じられた。また，初期には主としてドイツの飛行船がロンドンやパリに対して戦略爆撃を行なった。この大戦で有効な兵器としての実用性を確立した軍用機は，大戦後も着実な進歩を続け，海上にも進出して王者戦艦の座を脅かしはじめた。1930年ころから，それまでの複葉・布張りの構造から，金属性・単葉・引き込み脚の近代的なものとなり，第2次世界大戦が始まると，陸上ではドイツ空軍が戦術攻撃や後方に対する戦略爆撃に圧倒的な威力を発揮し，太平洋においては日本の航空部隊によって，戦艦は主役の座を失い，海上における航空機の優越が立証された。連合国側でも空軍の大増強によってこれに圧迫を加え，さらにドイツでは大戦末期にV-1・V-2などのミサイルも開発した。そして，1945年，アメリカ軍のB29による原子爆弾の攻撃が広島・長崎に行なわれるに及んで，航空機は軍事上最も重要な戦略兵器となった。戦後のジェット機時代にはいってからの発達も著しく，その活動する範囲はますます複雑化し，活動する空間は広がりつつある。

〔軍用機の種類〕戦闘機(迎撃戦闘機・全天候迎撃戦闘機・艦上戦闘機・全天候艦上戦闘機・戦闘攻撃機・戦闘爆撃機)・爆撃機(戦略爆撃機：戦術爆撃機)・攻撃機(艦上攻撃







軍用機

①ロッキード YF-12A 長距離迎撃戦闘機。姉妹型のSR-71(長距離戦略偵察機)とともに，世界で唯一のマッハ3級実用機である ②ボーイング B-52F ストラスホートレス。代表的な長距離戦略爆撃機。A～H型まであり，B～Fは純爆撃用。G，Hはミサイル母機 ③NATO空軍の編隊飛行

機・COIN機)・偵察機(高々度偵察機・電子偵察機・写真偵察機)・観測機(気象観測機・地上観測機・観測攻撃機)・哨戒機(しょうかいき)(早期警戒機・対潜哨戒攻撃機・対潜哨戒攻撃飛行艇)・輸送機(戦略輸送機・戦術強襲輸送機・艦上輸送機・VIP機・空中給油機)・連絡機(指揮連絡機・地上支援協力機)・練習機(初級練習機・中級練習機・高等練習機・戦闘練習機・攻撃機)・雑用機(実験研究機・標的機・装備点検機)，以上固定翼機(可変翼機・VTOL機を含む)。ヘリコプター(輸送・攻撃・連絡・救難・対潜哨戒攻撃・DASH・実験・観測)・飛行船(対潜哨戒)・グライダー。〔藤井冬木〕

ぐんらく　**【群落】**　植物群落ともいう。生物群集を構成するすべての植物を意味し，いろいろな植物個体群が含まれる。しかし，似た環境のもとにあるため生活形も似ている植物が多い。動物の場合の群集*に相当する。優占の度合いや景観に重要な役割を果たしている指標植物*の名を冠して，ススキ群落，ミズナラ-コナラ群落という。長期間安定して存在する群落と一時的な群落とがあり，後者はやがて前者にとって代わられる。この変化を遷移とよび，群落の遷移は湖沼が陸化し陸上草原ができ，やがて森林が発達していく水質遷移と，岩質地が地衣類などの生育を経て草原化し森林をつくる乾質遷移の2系列に区別される。この到達点の群落(長期間持続する)を極相群落という。年間を通じてみると，荒地にはハルジョオン・ヒメジョオンの優占，次にヨモギ，さらにマツヨイグサなど，群落の変化をくり返し，これは季節的遷移とよばれている。〔船越真樹〕

くんれい　**【訓令】**　上級官庁が管轄下の下級官庁，その職員に対して職務上の事項に関して行なう指揮および命令。行政上の職務取り扱いの基準，法令解釈の統一を図るために発せられ，通達・告示とともに行政規則の一形式である。その拘束力は関係官庁のみに限られ一般国民には及ばない。狭義の法則ではなく行政規則であるから，訓令への違反は職務義務違反ではあっても，これをもって違法とすることはできない。
➔通達　➔政令　〔寺尾方孝〕

ぐんれいぶ　**【軍令部】**　日本海軍の軍令事務を統轄する中央機関で，陸軍の参謀本部に対するものである。その長官である軍令部総長は天皇の直接補佐者である。1893年(明治26)海軍軍令部(のち軍令部と改称)として海軍省から分離・独立した。戦時には大本営海軍部の主力となる。編制はしばしば改正されたが，第1ないし第3部を主体とし，作戦・防衛・海上護衛・軍備・動員・情報などの各課からなっていた。

くんろ　**【薫炉】**　⇨香炉

クーン-ローブざいばつ　**【クーン-ローブ財閥】**　20世紀初頭モルガン財閥*に次ぐ支配力をもったアメリカの金融財閥。1867年ユダヤ系ドイツ人クーンとローブによって創立されたクーン-ローブ商会を通じて，ドイツ金融資本流入に努め，鉄道に大量投資し，当時アメリカ鉄道界を支配していたモルガン財閥に対抗した。1890年から20世紀初頭にかけて，アメリカの主要鉄道は事実上この二大財閥に支配されていた。1935年にはペンシルベニア・ユニオン-パシフィックなど百数十の鉄道会社を傘下(さんか)に収め，一大鉄道王国を築いた。さらにその金融力にものをいわせて，ウェスタン-ユニオン電信電話会社・チェス-マンハッタン銀行を支配，一時はアメリカ八大財閥の一つにあげられた。その後，恐慌，鉄道の斜陽化，政府の鉄道規制強化などによりその支配力は低下し，第2次世界大戦後はロックフェラー財閥*・モルガン財閥などと提携，今日ではその勢力は著しく減退している。〔片岡一郎〕

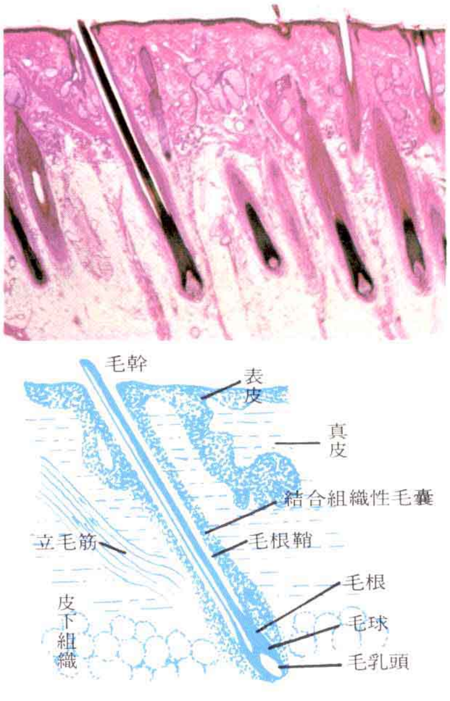
け

け【毛】 生物の表面にはえる糸状のものの総称。動物では哺乳(ほにゅう)類に，植物では高等植物にみられるが，両者はやや性質が異なる。

〔動物の毛〕 表皮が強靭(きょうじん)な角化物となったもので，皮膚を保護し，体温を保持し，さらに触覚をもつかさどる。通常，軟毛(綿毛)と粗毛の別があり，特に太くかたいものは剛毛(ブタ)，棘(とげ)(ハリネズミ・ヤマアラシ)などとよばれる。獣類の多くはその表皮が密生した毛(毛衣)でおおわれている。この毛衣は色彩が豊富で，個体を区別するほか，保護色・警戒色としての役目をもつものもある。また，ヒツジ・ラクダ・カシミヤヤギ・アンゴラウサギなどの毛は毛織物に，タヌキ・シカ・リス・イタチなどの毛は筆に，ブタ・ウマ・シカ・ウサギなどの毛ははけ・歯ブラシなどの材料になり，キツネ・ウサギ・シカ・クマなどの毛は毛皮に加工して保温・装飾に用いるなど，人間生活にも有用である。獣類のうち毛の少ないのはクジラ類・ゾウ・カバ・カイギュウなどであるが，これらも胎児時代にはわずかながら毛がある。また，霊長類ことにヒトでは顔面に著しく少なく，手足の末節背面，手掌・足底・口唇(こうしん)・陰茎・亀頭(きとう)・陰核・小陰唇には毛を生じない。

〔ヒトの毛〕 頭毛(かみのけ)・眉(まゆ)・睫毛(まつげ)・鬚毛(ひげ)・耳毛・鼻毛・腋毛(わきげ)・陰毛(かくしげ)・生毛(うぶげ)などに分類される。生毛以外はそれぞれある時期に達するとはえるので期毛という。この中で，眉毛・睫毛・鼻毛・耳毛など短く強靭なものを剛毛といい，長さは約0.5～1.5cmである。また，思春期に達してはえる腋毛・陰毛・鬚毛を性毛とよぶ。鬚毛は30～50cmに達する。頭毛は1か月に1.5～2.0cm伸び，1～1.5mにもなる。頭毛の数は日本人で約10万本，その他の毛は生毛を除いて約20,000本である。毛の寿命は，長いもので頭毛の2～4年，短いもので睫毛の3～5か月である。毛の多くは単生するが，頭毛のように2～9本が群生するものもある。群生する場合，その中の太いものを主毛，その他を副毛という。毛は体表に対して一定の角度をもってはえているので，そのために毛流ができる。毛流には，中心から放射状に走るもの，中心に向かって集合するもの，隣接毛の先端が左右に散ずるもの，逆に左右から集まるもの，うず状をなすものなどがある。毛流の特別なものが頭毛の毛渦(つむじ)である。つむじの数は一つのものが90.5%を占め，二つのものが7%，三つのものは2.5%という。その位置は，正中のものが21.5%，右寄りのものが49.4%，左寄りのものが21.9%である。また，右旋のものは左旋のものより10%多い。毛の皮質の細胞には色素があり，その量の多少と性質によって毛の色に差ができる。白髪(しらが)は色素の生産能力が減退し，毛の内部に空気のあわがはいることによってできる。

毛の形状には，直毛・波状毛・巻毛・縮毛・らせん毛などがある。毛の断面形状は，頭毛が楕円(だえん)形，鬚毛が円形・三角形，陰毛が腎臓(じんぞう)形・三角形などである。毛の構造は，皮膚の表面に現われている毛幹と皮膚の中に埋まっている毛根とからなる。毛幹の先端を毛尖(もうせん)という。毛根の下端は膨大して毛球をつくり，毛乳頭がこれにはいりこんでいる。毛根はまた，表皮および真皮が陥入した毛包によって包まれている。毛包には毛包腺(もうほうせん)が開口して皮脂を分泌する。さらに毛包には立毛筋という平滑筋*がついており，立毛筋が収縮すると毛包腺から皮脂が分泌されて毛を直立させ，皮膚に〈とりはだ〉が生じる。



毛　頭毛(ヒト)

毛の交換は胎生8か月の後期から始まって，たびたび起こる。交換にあたっては，まず毛球が角化し，毛乳頭から剝離(はくり)して皮膚の表面に向かって移動する。このころ毛乳頭から新しい乳頭毛がはえてくると，毛球は棍棒(こんぼう)状を呈して角化し，もはや栄養がとれなくなる。この状態になった毛を棍状毛という。棍状毛は毛包の途中まで上昇し，長くそこにとどまる。一方，棍状毛の下には毛球の萎縮(いしゅく)した外根鞘(がいこんしょう)があり，毛乳頭は上方に引き上げられる。古い毛が脱落するまえになると，毛乳頭は発育して再び深部に下がって毛栓(もうせん)をつくり，毛の発生と同様な過程で補充毛が生ずる。この新しい毛が古い毛の側方にはえると，古い毛は脱落して交換が行なわれる。

毛の異状には，その多少によって多毛症・無毛症などがある。多毛症には生毛の多い生毛性多毛症と，期毛の多い真性多毛症とがある。また，毛の数が正常より少ないものを稀毛症(きもうしょう)，毛のまったくはえないものを無毛症という。

〔植物の毛〕 植物学上では，表皮細胞から発生して突起状になったものを毛と総称する。同じ形態のものでも表皮以外の組織が加わった場合は毛状体といって区別するが，両者の区別は必ずしも明確ではない。

植物の毛は次のように分類される。①絨毛(じゅうもう)：単細胞の短毛で，サクラソウ・サンシキスミレなどの花弁の表面，ハス・サトイモの葉の表面に見られ，突起毛ともいう。②綿毛：単細胞で細長く，ワタの種子に付着する。③根毛：単細胞の毛で，若い根の表面に生じる。④鉤毛(こうもう)：ヤエ

ムグラなどの毛で，他物に付着するのに役だつ。⑤散布毛：タンポポの種子などの毛。綿毛と同構造であるが，多細胞毛。⑥剛毛：単細胞毛で，細胞膜にケイ酸や炭酸石灰を含み，かたい。ムクノキやナスの棘毛(きょくもう)がこれである。⑦腺毛：ムラサキツユクサの粘液毛，モンテンジクアオイの精油腺毛，ムシトリスミレの消化腺毛，インゲンマメの排水毛，ソラマメの密毛(みつもう)など，各種の物質を分泌する。単細胞または多細胞。⑧感覚毛：多細胞のものが多い。ムジナモでは基部と関節に短毛，その他に２～３個の細胞がつながっていて，他物が毛の先端に触れると，関節の部分が曲がったり伸びたりする。〔幡井勉・橋本長〕

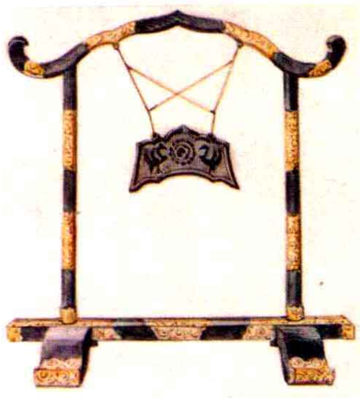
げ　**【偈】**　梵語(ぼんご)gāthā(ガーター)の音略で，諷頌(ふうじゅ)・偈頌などとも訳される。音節の数や長短の組み合わせによって構成された韻文体の歌謡・詩句。狭義には原始仏教聖典の編纂(へんさん)形態である九分教・十二部経の一つであって，韻文のみで記された教説である。散文の教説の次に重ねて韻文で説くゲーヤ(重頌)から区別されている。仏典に多く用いられる偈に，シローカ調・トリシュトゥブ調・アールヤー調などがある。広く経・律・論に現われ，仏徳の賛嘆，法理の説明に用いられる。〔塚本啓祥〕

げ　**【解】**　律令(りつりょう)時代の文書の一形式。下級の役所から上級の役所への上申文書のことで，下達文書である符*に対する。役所ばかりでなく，諸家・私人が出す文書もあり，平安中期以降になると，訴訟・請願・届けなど公的性質をおび，下から上に出す文書に広くこの形式が用いられた。正倉院文書には律令政府官人の請暇解・借銭解などが残されており，また，摂関時代の988年(永延２)尾張(おわり)(愛知県)の郡司・百姓らが国守藤原元命*(もとなが)の非法を訴えた解文は有名である。〔星野具子〕

ゲー　⇨ガイア

ケアード　[John Caird]　(1820～1898)　イギリスの神学者・哲学者。スコットランド生まれ。グラスゴー大学卒業後，長老派教会牧師・同大学神学教授・学長を歴任。新ヘーゲル学派に立つ。普遍的な精神こそあらゆる事物の実在性であるとし，さらにこの無限の精神(神)の存在は有限な精神(人)のもつ限界において証示されていると説く。主著《市民生活と宗教》《宗教哲学入門》《精神と物質》のほか，説教・講演集などがある。

ケアード　[Edward Caird]　(1835～1908)　イギリスの哲学者。ジョンの弟で，イギリス新ヘーゲル学派の指導者のひとり。グラスゴー大学・オックスフォード大学バリオル-カレッジに学ぶ。グラスゴー大学道徳哲学教授，バリオル-カレッジ校長を歴任。スコットランドの常識哲学とドイツ観念論の調和を試みた。思想史の面では，ドイツ観念論の諸原理を古代から近代に至るまでの哲学・神学に適用しようとした。主著《カントの批判哲学》《宗教の発展》など。〔玉井　治〕



磬

ケアリ　[Joyce Cary]　(1888～1957)　イギリスの小説家。アフリカ植民地の官吏生活を経たのち，小説を書きはじめた。《ミスター-ジョンソン》などのアフリカもの，喜びに満ちた子どもの世界を描く《子どもたちの家》のほか，登場人物３人の視点から，それぞれ画家と政治家の生き方を描写した二つの長編三部作《自分でも意外》《巡礼となる》《馬の口がら》と《恩寵(おんちょう)の囚人》《主にあらずば》《むしろ名誉を》が代表作。その作風は，イギリスの日常的な伝統を豊かに継承している。〔沢村　灌〕

けい　**【刑】**　⇨刑罰

けい　**【磬】**　石あるいは金属(青銅・鉄など)でできた打って鳴らす体鳴楽器*の一，および仏具。普通は〈へ〉の字形をしていて，音の高さを調律したものに穴をあけてつり下げる。古代中国の雅楽では，１組みに12個含むものと16個含むもの(編磬)とがあった。日本では寺社で使われている。

けい　**【系】**　地質系統区分の単位で，地質時代の区分〈紀*〉に対応する。大区分の〈界*〉を分けたものである。たとえば，第三紀の地層を第三系とよぶ。➜地質時代

ケイ　[John Kay]　(1704～1764)　イギリスの織布工・発明家。ランカシャーのベリの生まれ。杼(ひ)の製作に従事しているうちに飛び杼を発明し，1733年５月26日に特許を得た。それは，これまでの投げ杼の代わりに，杼をはじき出すのにばね仕掛けを利用したものである。飛び杼は布を織る速度を倍にし，広幅物を織れるようにした。しかし，この発明によって失業を恐れた織布工の反対にあい，また，襲撃されたので，彼はフランスへ逃げ延びた。飛び杼は1760年代に急速に普及し，産業革命を呼び起こした。〔山崎俊雄〕

ケイ　[Ellen Key]　(1849～1926)　スウェーデンの女流思想家。熱烈な女権論者として知られ，美の礼賛(らいさん)と個人主義を主唱して19世紀末のスウェーデン文学にも思想的に大きな影響を与えた。《人間》《生命の流れ》(３巻)《児童の世紀》などの著書がある。わが国では主として児童問題・婦人問題の思想家として知られている。

げいあみ　**【芸阿弥】**　(1431～1485)　室町時代の出家。名は真芸。父(真能)の跡を受けて将軍近侍の同朋衆(どうぼうしゅう)・唐物目利(からものめきき)として，また茶の湯・連歌など手広く芸道に携わった。作風は1481年(文明13)の《観瀑(かんばく)僧図》にみられるように，宋(そう)・元の名画を手本とする楷体(かいたい)的な筆法を得意にしている。その画風は，弟子(でし)の祥啓*によって鎌倉期へもたらされた。

けいあん　**【桂庵】**　⇨口入れ屋

けいあんおふれがき　**【慶安御触書】**　農民を対象に出された江戸幕府の法令。1649年(慶安２)諸国郷村に発せられ，全文32か条。封建支配の根幹である貢租を確保するため，年貢(ねんぐ)諸役・農耕方法・家庭生活など全般にわたり細かに農民を督励指導し，具体的に禁止事項を示している。すでに農民支配が確立した時期において，日常の農民生活をその末端に至るまで統制し，貢租の完納，農民の支配に万全を期したもので，常時の勤労と節約を命じているのが目だつ。〔高崎徳次〕

けいあんげんじゅ　**【桂庵玄樹】**　(1427～1508)　室町時代の臨済宗の僧。島陰と号した。周防(すおう)(山口県)の人。９歳で京都南禅寺に投じ，長じて内外の典籍や宋学(そうがく)に通じた。1467年(応仁１)勅により明(みん)に渡り，７年間とどまって朱子学を修め，帰朝後は石見(いわみ)(島根県)に隠棲(いんせい)した。のち九州を巡遊し，島津氏の厚遇を受け，四書の新注を刊刻し，江戸時代の朱子学勃興(ぼっこう)の基をなした。著書に《島陰漁唱》《桂庵和尚(おしょう)家法倭点(わてん)》がある。〔田中良昭〕

けいあんじけん　**【慶安事件】**　1651年(慶安４)由井正雪*・丸橋忠弥*(ちゅうや)を中心に，浪人が幕府の転覆を図った事件。３代将軍徳川家光(いえみつ)が没し，４代家綱が11歳で将軍になると，江戸市中には家光の代に多かった大名とりつぶしのために浪人があふれた。時勢に不満をもつこれら浪人たちは，これを機に蜂起(ほうき)して小石川の煙硝蔵に火を放つこと，江戸城・駿府(すんぷ)城の襲撃，久能山の御金蔵の略奪などを計画した。しかし陰謀は未然に発覚し，正雪は駿府で自殺，忠弥らは捕えられて処刑された。この事件を機に，武断主義的な幕政が文治主義的傾向をおびるようになった。〔善積美恵子〕

けいいぎ　**【経緯儀】**　天体や地物の方位角や高度を測定する器械。小望遠鏡をもち，方位角・高度をはかるための精密な目盛り環がついている。おもに経緯度の観測に用いられる。測量用のものは精度はある程度犠牲にして小形軽量につくられている。これをトランシット*という。

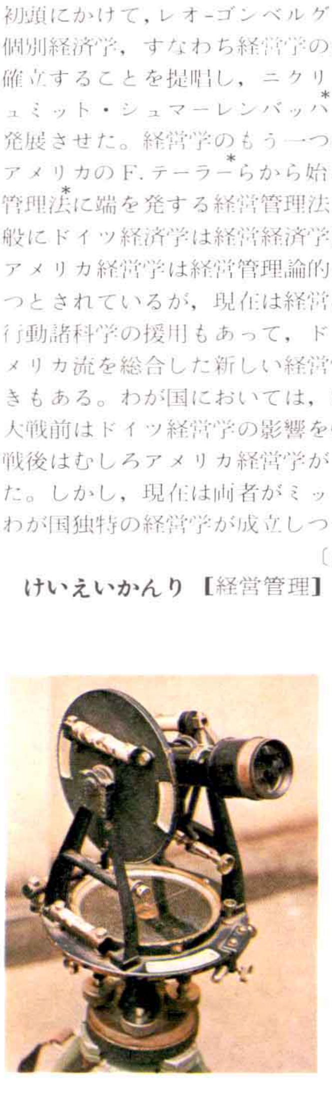
けいいんさつ　【軽印刷】　一般の印刷に対し，事務用印刷物を主とする印刷。かつてはこんにゃく版を使用する百写版印刷・謄写版印刷・タイプ謄写印刷などが主であったが，最近はベビーオフセット印刷機を使用する金属平版印刷，ゴム版・リノリウム版・樹脂版を使用するフレキソ印刷，さらに半導体を使用する電子写真印刷などが含まれるようになった。印刷機では，各版式とも小形のものが製作されている。

げいうんりん　【倪雲林】　⇨倪瓚(げいさん)

けいえいがく　【経営学】　人間の経済生活を研究する学問は，一般に広い意味で経済学とよばれている。このうち，経済生活を社会全体の観点もしくは国民全体の立場から考察するものは社会経済学あるいは国民経済学とよばれる。これに対し，経済生活を個々の企業や個々の家計といった個別経済の観点から考察するものを経営経済学という。そして，国民経済学を狭い意味で経済学とよぶのに対して，経営経済学を一般に経営学とよぶ。

経営学の一つの源泉はドイツ商業学である。この学問は商人のための学問という性格をもち，単なる商業に必要な知識の寄せ集めにすぎなかったが，19世紀から20世紀初頭にかけて，レオ-ゴンベルゲらがこれを個別経済学，すなわち経営学の体系として確立することを提唱し，ニクリッシュ・シュミット・シュマーレンバッハ*らがこれを発展させた。経営学のもう一つの源泉は，アメリカのF.テーラー*らから始まる科学的管理法*に端を発する経営管理法である。一般にドイツ経済学は経営経済学的な性格を，アメリカ経営学は経営管理論的な性格をもつとされているが，現在は経営科学の台頭，行動諸科学の援用もあって，ドイツ流・アメリカ流を総合した新しい経営学発展の動きもある。わが国においては，第２次世界大戦前はドイツ経営学の影響を強く受け，戦後はむしろアメリカ経営学が主流となった。しかし，現在は両者がミックスされてわが国独特の経営学が成立しつつある。　〔清水　晶〕

けいえいかんり　【経営管理】　⇨次ページ



経緯儀

けいえいきょうぎかい　【経営協議会】　労働者または労働組合による経営参加*の一形態。経営方針・生産・安全衛生ならびに労働条件などの経営上の諸問題について労使が協議する機関。その目標は，労使関係の改善によって労働者の欲求を満たし，労働意欲を高め，生産性向上を図ることにある。協議機関であるから，企業に従属するものではなく，労使対等の立場に立つ機関である。経営上の諸問題についての最終決定権は経営者側にあるとはいえ，決定過程において労働者の意見や要望を反映し，労使の納得に基づいた決定・実施がなされるのが望ましく，そのための機関である。実質的には経営上の諸問題の協議のみならず苦情処理を兼ねるものが多い。おもに労働協約*に基づき設置される。　〔清水　晶〕

けいえいけいかく　【経営計画】　企業が将来の変化を予想し，それに応じうるように経営の目標を定め，目標に沿った経営活動の計画を立てること。単に勘とか過去の経験によるのでは現在のような技術の進歩，社会の変化，あるいは市場の変動に応じた経営活動を行なうことは困難になってきており，つねにそれらの変化を予想し，それに応じうるような心構えと体制を整えておくことが経営に求められてきている。そのためには，各種の経営活動をどのように改善しなければならないか，その間に予想される困難はなにかという問題点を早急に打ち出し，その解決策として資金・人などあらゆる要素についての総合計画を立て，それを基にした経営活動が運営されることになる。　〔坂本　清〕

けいえいけん　【経営権】　経営権という固有の権利が法律上存在するのではなく，経営者が第２次世界大戦後の労働運動に押されて，そのときどきの状況に合わせてつくり出してきた歴史的政策概念である。終戦後，労働運動の勢力が強まるにつれて労働組合の経営参加*を排除することをねらって出され，また経営者側が就業規則*を一方的に改定する論理として使われた。1952年（昭和27）ごろは，争議行為を規制する論理に用いられ，さらに生産性向上運動の時期には，組合活動を規制するために使われた。最近では，管理運営権という形で団体交渉*規制の論理として具体化されてきている。このように，経営権は実態のないものでありながら，事実上は労働者の権利を制約する論理として使われ，事実そうした役割を具体的に果たしている。しかし，経営権は所有権と契約によってのみ生ずる約束であるから，その範囲・内容は労使の力関係によって決定される。　〔木元錦哉〕

けいえいこうがく　【経営工学】　⇨インダストリアル-エンジニアリング

けいえいさんか　【経営参加】　労働者あるいは労働組合が経営に参加すること。わが国には西ドイツにみられるような経営組織法などの法律がないため，その内容はすべて労働協約*によって決められる。経営参加の程度や範囲はさまざまで，その形態も経営協議会*や，労働力それ自体を出資と認める労働株*制度などいろいろである。なお，経営参加によって，経営の民主化・社会化を進めていこうとする考えと，経営参加は経営責任を分担することであるから，景気後退などの場合には，組合活動が鈍って労使協調思想に陥るので警戒すべきだとする考えがある。　〔木元錦哉〕

けいえいしゃ　【経営者】　経営活動の意思決定を下す企業の最高管理職能担当者。資本保有の観点から考察すると，資本を保有する所有経営者と資本を保有しない専門的経営者に分けることができる。ここで企業家との区別が問題となるが，企業家とは資本の保有者であると同時に企業の経営に直接的に関与し担当する実質的支配権をもつ者である。今日の株式会社制度では，株式の高度の分散による所有と経営の分離および組織の大規模化，生産技術の高度化，販売競争の激化などにより，高度の技術と知識を有する専門家が要請されるようになり，専門的経営者が重要視されるようになった。また，資本主義の発展に伴い，経営者の社会的・経済的責任は増大してきている。利潤動機から奉仕動機への経営理念の変化とともに，社会にとって有益な商品またはサービスを提供すること，さらに協働するすべての人々に満足を与えることが経営者に望まれている。　〔清水　晶〕

けいえいじょうほうシステム　【経営情報システム】　Management Information System　略称ＭＩＳ。経営管理者の意思決定に適切な企業内外の情報を，必要に応じて迅速かつ正確に提供しうる経営組織形態。経営は内外の変化に対応して，企業環境と相互作用を営みつつ，動的平衡の状態に到達しなければならない。今日のダイナミックに変化する環境に適切に対応するには，情報の把握(はあく)が必要不可欠である。そこで，コンピューターを使って情報の収集蓄積に中心的な役割を果たす情報システムが生み出され，企業の総合的管理のための経営システムのもとに統合化され，総合的な経営情報システムの確立をみる。なお，経営情報システムは経営統計学の中心的課題であり，情報理論の発展に大きく依存している。　〔清水　晶〕

けいえいぶんせき　【経営分析】　企業の経営成績の良否を計数的に判定すること。貸借対照表*・損益計算書*などの財務諸表*の内容を科学的に分析して経営の成績を判定する財務分析*と同一概念とする場合もある。しかし一般的には，財務諸表のみならず，さらに財務諸表以外の財務に関する必要な計数にまで拡大して分析の対象とする。したがって経営分析は財務分析よりも分析の範囲が拡大される。経営分析の方法として，

➔189ページ

経営管理

企業の経営活動を計画し，指揮し，統制することによって，その合目的的かつ合理的な遂行を図り，もって企業経営の維持・発展を達成するための機能をいう。現代の企業における経営活動は，少なくとも三つの局面から分析され，しかもそれらの諸要素が相互に組み合わされて，その全体が構成されている(図-1)。その第1は，経営の構成要素に関する活動という局面であって，この側面では人事活動と財務活動との二つに分類される。その第2は経営の目的遂行に関する活動という局面であって，この側面では販売活動，生産活動，および購買活動もしくは仕入れ活動の三つに分類される。その第3は経営の管理に関する活動という局面であって，この側面では経営政策もしくは意思決定*，経営管理，および経営実施の三つに分類される。もっとも，中小規模の企業にあっては，このうち経営政策と経営管理とを合わせて広義の経営管理として考えることもある。したがって，この場合には，さきに掲げた経営管理をもって狭義の経営管理とよぶことができるであろう。

〔経営活動〕このうち，経営の管理に関する活動という局面からみた経営活動について，さらに詳しく考察してみると，経営政策もしくは意思決定というのは，経営の進むべき方向についての基本的な方針を決定するとともに，またその結果に対して最終的な責任を負うところの活動である。

したがって，この活動は，通常，経営のトップ-マネジメント*を中心とする意思決定機関によってになわれているものである。

これに対して，狭義の経営管理というのは，決定された経営政策を実施に移すための準備・監督・統制などに関する活動である。いうまでもなく，経営の進むべき方向が決定されただけでは，直ちにそれを実施に移すことはできない。そのためには，いろいろの準備活動が必要であろうし，また実施の際に生じる支障を排除したり，齟齬(そご)を調整したりする活動が必要であろう。また実施の結果を記録したり，計算したり，分析したり，跡づけたりする活動も必要であろう。そして，これらの活動を総称して経営管理とよぶのであり，通常それは経営のミドル-マネジメントを中心とする経営管理機関によってになわれている。

さらに，経営実施というのは，広義もしくは狭義の経営管理の指導と統制のもとに，実際に業務を遂行していくことに関する経営活動である。たとえば生産活動でいえば，原材料を運搬したり，それを機械にかけて作業を行なったり，製品の個数を数えたりするというような経営活動である。したがって，これは作業実施と称されることもある。この活動は，通常，経営の作業員を中心とする作業実施機関によってになわれているものである。

〔経営管理システム〕経営管理は，経営活動を計画し，指揮し，統制するという過程をもって行なわれると述べたが，次にこのシステム(体系)を現代の経営の実際に即して具体的に観察してみると，一般に調査・計画設定・組織・指揮・記録計算・統制の六つのプロセスに区分される。

①調査：計画を設定するための基礎となるデータの収集と分析とに関する諸活動である。もちろん，計画は，経営管理者の勘や憶測やあて推量によって設定できないこともない。しかし，これではけっして作業者の十分な信頼を得られるものではなく，したがってまたその作業の実施を指導しうるものでもない。近代的な経営管理における計画は，つねに，あくまでも客観的な，かつ冷厳な事実をキャッチできるデータ，特に数字的なデータに基礎をおいて設定されるものでなければならない。そのような必要から，近代的な経営管理はまず経営活動の実情，経営環境の実情などについて客観的なデータを収集し，分析することから着手される。

②計画設定：状況記述の作成，目的の設定，達成目標の決定，プログラムの編成などの主要な活動が含まれる。狭義の経営管理における計画は，もとより経営政策において意思決定された方針に準拠するものであり，またそれを具体化するものでなければならない。その意味において計画は，経営実施を指導・統制することができるような具体的なもの，それもできるだけ，たとえば予算とか予定とかいうような数字で表わされたものでなければならない。したがってそれは，別の観点からすれば，数字で表わされた経営管理者の意思の表示であり，また命令であるといえる。

③組織：上のように設定された計画を遂行して実現に導くために，経営活動を多数の経営構成員ならびに経営関係者に分担させる諸活動である。

④指揮：上の計画に基づいて構成された組織の経営構成員ならびに経営関係者に対して，その実施について指揮し，命令し，指導することに関する諸活動。したがって，この指揮によって計画は実施に移される。指揮は経営における作業実施のイニシアチブとなるものである。

⑤記録計算：経営実施の結果を，所定のシステムに従って数字的データをもって記録・計算し，分析する活動。いわゆる会計や経営統計・経営分析などがもつ経営管理上における意味と役割とはここに見いだされる。最近におけるEDPS*の発達と普及は，さきに掲げた調査におけるデータ処理とともに，この記録計算におけるデータ処理について，その可能性と活用範囲とを非常に拡大し，高度化した。

⑥統制：上のように把握(はあく)された経営実施の結果に関する数字的データと，さきの計画設定において表示されている計画に関する数字とを対比し，批判するとともに，もしその間に差異があるときはその原因を究明し，今後における経営実施の督励，あるいはまた計画の修正を行なうなどの諸活動である。いわゆる予算差異分析*や標準差異分析が経営管理において重視されるのは，このような統制のための有力な手段となるからである。

経営管理に関する活動の内容はだいたい以上のようであり，経営管理プロセスまたは経営管理システムともいわれる(図-2)。なお，経営の構成要素および目的遂行に関する活動もしくは職能という点から経営管理の活動を考えるとき，それは次のような体系をもつ。①生産管理，②販売管理，③購買管理，④財務管理，⑤人事管理。現代の企業経営にあっては，その経営職能は多くの管理部門に分担され，各部門においてそれぞれの部門の経営活動が管理されている。

〔経営管理理論の発展〕経営管理は，テーラー*がテーラー-システムないし科学的管理法*を提唱して以来，アメリカをはじめ各国において，学問的研究の上からも，また経営実践の上からも大きな関心がもたれるようになり，今日に至っている。経営管理の思想とその理論に関する発展は，これを発展段階説的に分析すると次のようになる。①科学的管理法によるアプローチ，②経営組織的アプローチ，③経営目標によるアプローチ，④最近形成されつつある経営管理の一般理論によるアプローチ。

①科学的管理法によるアプローチ：19世紀末から20世紀初期の産業経済の発展に伴い，アメリカではパイオニア的工業経営者ならびに技師たちによってグループで生産活動を営む方式が発達してきた。しかし，それとともにその中に生じてきたむだと非能率とを排除しようと企業家が望んだことに，経営管理思想生成の起源を求めることができる。この内容は次の四つの要件に求められる。㋑実験，㋺作業標準の設定，㋩計画の設定，㊁設定された作業標準を多種の統制手段によって維持し，実現すること。この内容は，1920年代に，さらに次の四つの要件を加えて修正され，準備された。すなわち，ⓐ経営管理のための調査，ⓑ経営管理の標準の設定，ⓒ経営管理の統制手段の進歩，ⓓ経営管理者と作業者との協調である。この内容はその後さらに成長し，充実されて次の諸要件をも包括するようにな

る。すなわち，ⓘ作業の組織的分析，ⓘⓘ作業組織の構成の組織的研究，ⓘⓘⓘ制度的な努力と結果との組織的研究，ⓘⓥ経営管理者的ならびに企業経営者的経済学の発達，ⓥ経営者の社会的な地位と責任の問題，ⓥⓘ産業社会における人間関係と個人の地位の問題などである。

②経営組織的アプローチ：1930年代における経営管理の思想は，経営管理の仕事を行なうための機構として，経営組織の問題と非常に大きな関連をもつようになった。そこでは，経営政策と経営管理とが経営管理の仕事の中において区分される二つの部分として考えられるようになり，さらに経営組織は，その機構を通して割り当てられた仕事を遂行するための経営管理のメカニズムとして考えられるようになった。しかも，その機構こそは，反復的な作業の実施と，その統制のための網状組織であり，経営管理は作業がそこで適切に遂行されることを確保するための，運営上の統制を行なうことであるとされた。しかも，経営実施のレベルにおける作業については，その作業の実施の方法に関して，むだと非能率とを排除するために，依然として科学的管理法的なアプローチが適用された。この段階では，㋑経営活動の分業化の推進，㋺仕事の責任の割り当て，㋩規則的な観点からする機構の構成などの諸要件について，大きな関心がもたれた。

③経営目標によるアプローチ：1940年代における経営管理の思想は，経営全体としての，またはその中の一部門の目標を達成

図-1　企業における経営活動

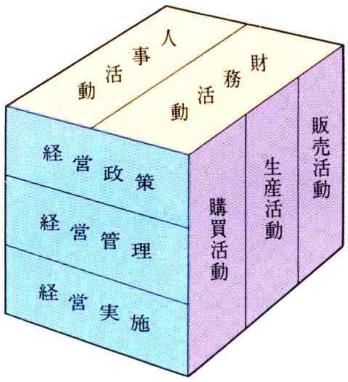
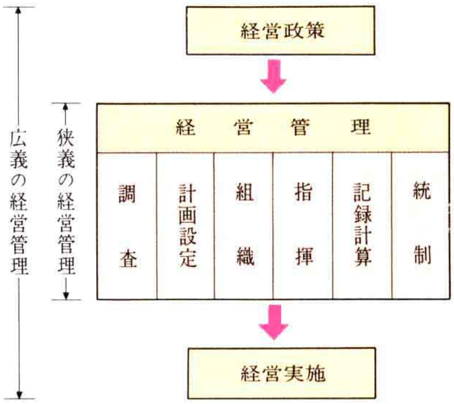


図-2　経営管理プロセス



するための一般的なアプローチの方法として，経営管理のプロセスのうちに展開された。その当時に至るまでは，経営管理といえば，生産活動や人事活動などに関連したものであるとされていたが，いまやそれは，販売活動や財務活動，全般管理活動などにも関連し，経営の目標とか，活動のプロセスとか，指導の原則とかいう観点から，経営管理が考えられるようになってきた。このようにして，経営管理を一つのプロセスとして考えるようになった結果，次のような新しい諸要件が，その主要な内容として取り上げられるようになった。㋑達成目標の設定，㋺思考と行動とを指導するものとしての政策の決定，㋩目標を達成するための計画の設定，㋥計画を実施に移すための組織の構成，㋭経営の構成員を計画実現に努力集中させるための指導と刺激，㋬作業実施の活動を計画と一致させるための統制などである。

④経営管理は初期においては個々の人間の活動を対象としていたが，20世紀前半になると，経営管理に関する思想は経営経済の活動を対象とするものへと発展していき，最近に至って経営管理のプロセスについての一般的概念という形で，それらが同一視され，また結合される程度にまで発展してきた。つまり，これまでの経営管理の思想の合成されたものとして，経営管理の一般理論が構成されるようになり，しかも諸種の隣接領域のもの，特に情報伝達やコンピューターなどによるシステムズ工学と結びついて，飛躍的な進歩と充実とを遂げつつある。〔清水　晶〕

比率法・指数法・趨勢(すうせい)法などがあるが，最も一般的な比率法を分類すると次のようになる。

①流動性分析

$$\text{当座比率}=\frac{\text{当座資産}}{\text{流動負債}}\times 100\%$$

$$\text{流動比率}=\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}\times 100\%$$

$$\text{固定比率}=\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}}\times 100\%$$

$$\text{固定長期適合率}=\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資本}+\text{長期負債}}\times 100\%$$

②安全性分析

$$\text{自己資本比率}=\frac{\text{自己資本}}{\text{総資本}}\times 100\%$$

$$\text{負債比率}=\frac{\text{負債}}{\text{自己資本}}\times 100\%$$

$$\text{適正利息比率}=\frac{\text{年間支払い利子}+\text{割引料}}{\text{平均借り入れ金残高(割引含む)}}\times 100\%$$

③収益性分析

$$\text{経営資本営業利益率}=\frac{\text{営業利益}}{\text{経営資本}}\times 100\%$$

$$\text{総資本純利益率}=\frac{\text{純利益}}{\text{総資本}}\times 100\%$$

$$\text{自己資本純利益率}=\frac{\text{純利益}}{\text{自己資本}}\times 100\%$$

$$\text{売上高純利益率}=\frac{\text{純利益}}{\text{売上高}}\times 100\%$$

〔清水　晶〕

けいえんいっし　【桂園一枝】　香川景樹*(かげき)の歌集。3巻。1828年(文政11)成立。1830(天保1)刊。四季，事につき時にふれたる，恋，雑，雑体(長歌・反歌・旋頭歌(せどうか)・俳諧歌(はいかいか))に分類し，所収歌983首。歌風は〈古今調〉で清新・優雅の風に富み，景樹が理想とした〈調べ〉と〈誠(まこと)〉の理念が具体的に示されている。特に〈事につき時にふれたる〉の部に秀歌が多い。

けいえんげき　【軽演劇】　大劇場演劇に対して名づけられた大衆的な小劇場芝居の総称。多くはこっけいで風刺に富み，娯楽的要素の強いもので，音楽喜劇・風刺喜劇からストリップショー・レビュー*までも含む。はじまりは，1923年(大正12)の関東大震災とその後の不況期で，生活苦にあえぐ大衆が新しい娯楽を求めたことによる。まず1929年(昭和4)浅草の水族館2階に〈カジノ-フォーリー〉，1931年新宿に〈ムーラン-ルージュ*〉，1933年浅草常盤座(ときわざ)に〈笑いの天国〉と，次々に芝居小屋が開かれ，歌舞伎(かぶき)を戯画化し，世相を茶化した笑劇などの上演で人気を集め，隆盛をきわめた。エノケン(榎本(えのもと)健一)・ロッパ(古川緑波(ろっぱ))・バンジュン(伴淳三郎(じゅんざぶろう))・シミキン(清水(しみず)金一)らの俳優，菊田一夫(かずお)・伊馬春部(いまはるべ)らの作家は，こうした中から生まれた。第2次世界大戦が始まると凋落(ちょうらく)の一途をたどり，戦後はストリップショーが圧倒的な人気を集めたほかは，衰退してしまった。現在，軽演劇関係の俳優や作家の多くは，ラジオ・テレビに活躍しているが，最近は復活のきざしもみられる。〔西尾邦夫〕

けいえんは　【桂園派】　江戸後期の歌人香川景樹*(かげき)一門の名称。景樹の家号を桂園と称したことによる。日常のことばを用い，あるがままの感情がおのずから調べになるように詠ぜよという景樹の主張は，江戸後期の歌壇に清新の感を与え，京都を中心に1,000人を越える門人を擁するに至

った。賀茂真淵*(かものまぶち)一派の万葉派に対し,《古今和歌集》の優雅を理想とする。景樹没後も熊谷直好*(くまがいなおよし)・八田知紀*(はったとものり)らによって明治初年まで歌壇の主要勢力をなした。〔渡辺守邦〕

けいおうぎじゅくだいがく【慶応義塾大学】1858年(安政5)福沢諭吉*が江戸築地鉄砲洲(つきじてっぽうず)の奥平藩中屋敷に設けた洋学塾に始まる私立大学。1868年(慶応4)芝の新銭座に移り,慶応義塾と称した。1871年(明治4)現在の三田に移り,1890年大学部を設立,1898年幼稚舎(小学校)・普通部(中学校)を合わせた一貫教育の体制をつくり,1920年(大正9)大学令による総合大学となった。文・法・経済・商・医・工学部と大学院のほか多くの研究所をもち,文・法・経済の各学部に通信教育部がある。学風は,自主的・実証的な伝統をもち,経済界・医学界をはじめとする各分野に多くの人材を送り出している。本部は東京都港区芝三田2丁目15番地。

けいおうていとでんてつ【京王帝都電鉄(株)】東京都西部で地方鉄道とバス路線を経営する交通企業体で,1948年(昭和23)東京急行電鉄から旧京王電気軌道と旧帝都電鉄の路線の譲渡を受け分離設立した。鉄道の営業キロ数は76,全線電化されている。京王線(新宿～京王八王子間ほか支線,1913～1926年京王電気軌道ほかにより開業),井の頭(いのかしら)線(渋谷(しぶや)～吉祥寺間,1933～1934年帝都電鉄により開業)の2線がある。〔青木栄一〕

けいおんがく【軽音楽】⇨ポピュラー音楽

けいおんき【警音器】歩行者や他の自動車などに自動車の接近を知らせ,注意させるための音を発する装置。クラクションまたはホーンともいう。法令(道路運送車両法保安基準)によって自動車には警音器の備え付けを義務づけ,その音の大きさは自動車の前方20mの位置で90～115ホンと定めている。ただし,最高速度毎時20km未満の自動車に備える場合は115ホン以下の適当な大きさでもよく,原動機付き自転車では音の大きさは規定されていない。方式には電気式と空気式がある。電気式は電磁石を応用して鉄片を振動させ,それに結合されたダイヤフラムの振動により音を発する。空気式は空気ブレーキを備えた大形トラックやバスに多く使用され,高圧空気で薄い金属のダイヤフラムを振動させる。音質を和らげるために振動数の異なる警音器を2～3個備え,和音を出すようにしたものもある。〔成田武男〕

けいか【珪華】鉱泉の化学的沈殿物で,含水ケイ酸($SiO_2 \cdot nH_2O$)よりなる温泉華。オパール*の一種で,長い間にしだいに結晶質に変わり,玉髄からセキエイへ変化していることがある。多孔質で,皮殻(ひかく)状・層状・鍾乳(しょうにゅう)状などをなす。青森県恐山・宮城県鬼首などにみられる。また,水中に生長しつつある植物の葉や茎を置き替え,印象化石をつくることがあり,箱根の宮ノ下温泉にその例を見ることができる。



ケイカイ石　福岡県三ノ岳産

けいか【荆軻】(?～BC227)中国,戦国時代の刺客。衛(河南省)の人で,読書・撃剣を好んだ。燕(えん)の太子丹に認められて秦(しん)の始皇帝の暗殺を命じられる。彼は秦の亡将樊於期(はんおき)の首と督亢(とくこう)(河北省)の地図を持って出発し,地図の中に隠した短刀で秦王を刺そうとしたが果たさず,ついに殺された。

けいか【恵果】(746～805)中国,唐代の密教僧。9歳から仏道に志し研鑽(けんさん)を積む。のちインドから訪れた密教僧不空三蔵について奥義を授かり,代宗(在位726～779年)の尊崇を受けて宮中の護持僧となり,長安の青龍(せいりゅう)寺に住したので,青龍寺和尚(おしょう)ともいわれる。次の徳宗・順宗からも尊敬を受けて〈三朝の国師〉と仰がれた。805年入唐(にっとう)した空海*に,青龍寺で密教の秘法をすべて授け,同年12月寂する。空海は勅によりその碑文を撰(せん)した。主著《十八契印》《灌頂(かんじょう)儀軌》。〔平井宥慶〕

げいか【猊下】高徳の僧に対する敬称で,猊座下の略。台下ともいう。猊座は獅子(しし)座で,本来仏・菩薩(ぼさつ)が座すべき所をいい,後世転じて一宗の高徳碩学(せきがく)の尊称に用いるようになった。ふつう各宗の管長*をよぶ尊称であるが,真宗では本願寺門主か,それに準ずる人に用いる。

けいかい【景戒】⇨日本霊異記(りょういき)

けいがい【荆芥】双子葉植物・シソ科。アリタソウともいう。中国北部の原産の一年草。中国では薬用植物として栽培される。茎は直立し,断面が四角で高さ60cmくらい,上部は枝分かれする。葉は対生し,羽状に深く切れ込み,裂片は3～6片で細い。夏,枝の先に淡紅色の小さな花を穂のようにつける。全体に強いかおりがあり,全草を乾燥したものを荆芥といって薬用とする。精油を1～2%含み,メントン(メントールのケトン体)を主成分とする。漢方では発汗・解熱・解毒薬として用いる。〔小清水義隆〕

けいかいしょく【警戒色】毒のあるきばや針をもつ,不快なにおいを放つ,食べると有毒など,他の生物にとって好ましくないような動物で,周囲から目だつように赤・青・黄などの色彩で体をいろどっているものがあり,この色彩を警戒色という。これは,攻撃や捕食を避けるための積極的適応と考えられている。ハチ,毒ヘビ,ある種のチョウ・ガ,スカンクなどが有名な例である。一方,無毒の動物が,これらの動物の警戒色をまねている例が知られるが,これを標識的擬態という。〔松本忠夫〕

けいかいせき【珪灰石】カルシウムケイ酸塩鉱物の一種。$CaSiO_3$ 三斜晶系。比重2.9～3.1,硬度4.5～5,劈開*(へきかい)完全,屈折率1.62～1.63。ふつう,白色の板状・短柱状・繊維状の結晶,または塊として,スカルン*中に産する。タイル・電気絶縁材・磁器材料などに用いられる。

けいがく【経学】儒教の経書*の学習・解釈・研究をいい,その歴史はとりもなおさず五経*の国定に始まる王朝時代の儒教史である。➔儒教　➔儒学　➔中国哲学

けいかくかかく【計画価格】社会主義社会において財貨につけられる価格。社会主義社会では生産手段の所有が社会化されていて,生産・流通・分配の諸関係が人間の意識的管理下に置かれ,全国民的な経済規模での計画経済*が成立する。ここでは,価格は計画経済を遂行する目的でつけられる。すなわち,計測された財貨の社会的需要量を充足するために,社会的投下労働量を最少かつ最適に配分することができるように各生産部門の〈資本〉効率の上昇をも考慮して,価格が計画的に設定される。この計画価格をめぐって価値価格説・生産価格説・最適価格説など幾多の論争が行なわれている。〔常盤政治〕

けいかくけいざい【計画経済】経済の無政府性を少なくし,資源を効率的に使うため,国家が国民経済のおもな部分を計画的に運営する経済をいう。先進資本主義国では1929年の世界恐慌*以来,資本主義の欠陥を修正していく政策が進み,現在では国民経済のかなりの部分が資本主義の性格を生かしながら計画的に運営されるようになった。イタリアではIRI*(産業復興公社)とENI*(炭化水素公社)という巨大な国家持ち株会社が各産業の事業会社を支配し,私企業と競争しながら国家の政策目標に基づいて計画的に機能している。フランスでは公企業*が私企業*と接触を密にして広く活動し,政府や社会団体が意見を調整し合う協調経済が行なわれている。一方,社会主義国では,生産手段を公有化することによって,経済の大半が計画的に運営されている。しかし,利潤追求に基づく経済の自動調整機能が認められないので,統制経済の弊害がみられ,最近では効率を高めるために市場理論の導入などの動きが出てきている。〔加藤　寛〕

けいかくぞうせん　【計画造船】　わが国の海運界は，太平洋戦争によって大部分の船を失ったうえ，戦時補償の打ち切りにあったため，蓄積資本や回収しうる資本のすべてを失ってしまった。そこで日本海運再建のために，所要資金の相当部分について政府資金を融資し，商船隊の再建を図る助成措置がとられることになった。これが計画造船であって，1947年(昭和22) 8月に第1次が実施されて以来1970年には第26次を迎えた。〔飯島幸人〕

けいかげき　【軽歌劇】　一般にオペラ的な形式をもちながら，軽い題材や処理方法の曲をさす。オッフェンバックによって開拓されたオペレッタ*からミュージカル*・ボードビル*までをさすことがある。浅草オペラ*はこの導入に功績がある。

けいかぼく　【珪化木】　地下に埋没した樹幹が，地下水その他の陸水中に含まれている二酸化ケイ素 SiO_2 ゲルの作用を受けて植物組織を全部ケイ酸(オパール*)で置換交替し，なお本来の木幹の組織を残すもの。ケイ化が完全に進行すると，かたいメノウになる。陸水中に多量の SiO_2 がゲルとして含有されるような状態は，多量の火山性物質が供給されたような場合に多い。福岡市北東部の名島海岸の帆柱石，筑豊(ちくほう)炭田に多い松岩なども一種のケイ化木である。また，岩手県二戸(にのへ)郡一戸(いちのへ)町根反(ねそり)の高さ 4 m，周辺 7 mに及ぶ大ケイ化木は天然記念物に指定されている。〔神戸信和〕

けいがん　【鶏眼】　⇨魚の目

けいがん　【珪岩】　ほとんどセキエイ*の砂粒ばかりでできた砂岩*が変成作用を受け，砂粒の間のすきまを新しいセキエイの沈殿物が埋め，全体として非常にかたく緻密(ちみつ)になった岩石。

けいかんしじん　【桂冠詩人】　イギリス王室から任命され，重要な国事に際して詩作を行なう詩人。実質的にはベン-ジョンソン*が最初の桂冠詩人であるが，公的にこの称号をはじめて受けたのはドライデン*で，ほかにワーズワース*・テニスンらがいる。

けいかんせき　【鶏冠石】　ヒ素の原料鉱物の一。AsS　単斜晶系。比重3.5～3.6，硬度1.5～2.0，劈開*(へきかい)は｛010｝に完全，紅色・透明の結晶。ルーマニア・イタリアなどによい結晶が産する。わが国では宮城県栗原(くりはら)郡栗駒(くりこま)町文字地区などから産し，花火原料などに用いられた。

けいかんてつどう　【京漢鉄道】　チンハン鉄道　現在の京広鉄道*の北半部，北京(ペキン)と武漢を結ぶ鉄道。全長1,220km。もと盧漢(ろかん)鉄道・北漢鉄道といい，国民政府時代には平漢鉄道ともいわれた。1897年に着工，1905年に全線完工した。その間，工事資金における政府・民間の投資が順調にいかず，フランス資本とロシアによる政治的援助のもとにできた大比銀行の資金援助を受けるなど，帝国主義列強による鉄道獲得のための借款供与競争の導火線となった。清朝(しんちょう)政府は公債発行とイギリス・フランス両国の借款とによって国有鉄道とした。さらに，この借款支払いのため，最後には1911年(明治44)日本の横浜正金銀行の借款に依存した。もともとロシアの侵略に対する国土防御という軍事的理由から計画されたものであったが，華北と華中を結ぶ縦貫鉄道としてきわめて大きな経済的価値をもつに至り，1957年，武漢における揚子江大鉄橋の完成によって粤漢(えっかん)鉄道と連絡し，北京～広州を結ぶ中国本土縦断鉄道が完成した。〔船越昭生〕

けいかんれっしょう　【頸管裂傷】　分娩(ぶんべん)に際して，外子宮口から子宮下端に至るまでの間に限局して起こる裂傷。表在性の小裂傷は分娩時に不可避のものであり，なんの障害もなくて自然に治癒(ちゆ)する。深在性の強度の裂傷は，しばしば高度の出血を伴い，母体の危険を招くことがある。裂傷は娩出力が強く，しかも頸管の抵抗が過度に強靭(きょうじん)なときに起こり，胎児の娩出とともに鮮血が持続する。直ちに縫合するのがよい。〔木川源則〕

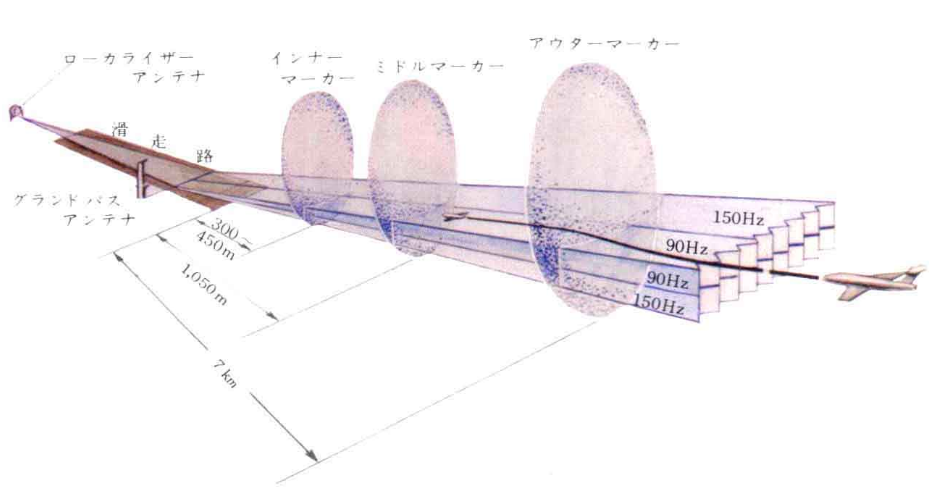


ケイカン石
アメリカ，
ネバダ州産

けいき　【計器】　長さ・温度・速度など，各種の量の大きさや状態を指示・記録・調節したり，さらに積算・警報したりする測定器。各種工業の製造過程において用いられる計器を工業計器，航空機に用いられる計器を航空計器，船舶の航海に用いられる計器を航海計器などとよぶこともある。

けいきちゃくりくそうち　【計器着陸装置】　電波誘導により航空機を正確に着陸コースに乗せる装置。航空機の着陸は高度の操縦技術を要するが，これを最も安全かつ確実に行なうために開発された。原理的には，地上のアンテナで空に電波の束を発射し，航空機はそれを伝わって進入し，向きや角度がその束からはずれると機上計器の指針が動くので，パイロットは直ちに適正な操舵(そうだ)をして，正確な着陸コースに機を乗せる方式である。さらに着陸路への進入だけでなく，着陸そのものを自動的に完全誘導する装置も開発された。これを自動着陸装置または全天候着陸装置といい，ロンドン空港での実用実験の成功が報じられたが，日本ではまだ使用に至っていない。〔藤井冬木〕

けいきどうこうしすう　【景気動向指数】　景気変動を敏感に反映する経済指標によって作成された指数で，景気予測*に用いられる。最も早くから用いられたものはハーバード法で，20数系列にわたる経済指標を先行指標・本指標・遅行指標の三つに分類し，3者の関係によって景気予測を行なった。1929年の世界恐慌*以来，その適中率はきわだって低下し，指標に改訂が行なわれ，株価・市中銀行負債勘定・商業手形割引率の指標が残された。ハーバード法は景気の質の予測にとどまり，量の予測にまで及ばなかった点，また，経済理論の裏づけがなか



計器着陸装置

景気動向指数

先行指数	本指標	遅行指標
①製造業所定外労働時間	①建築着工	①民間設備投資
②製造業入職率	②国内貨物輸送量	②原材料在庫指数
③鉱工業製品在庫率指数*	③新規求人数	③電信電話公社債利回り
④機械受注額	④輸入通関実績	④預金通貨回転率
⑤建設工事受注額	⑤稼動率指数	⑤全国銀行預貸率
⑥原材料在庫投資	⑥原材料消費指数	⑥製品在庫指数
⑦東証株価指数	⑦鉱工業生産指数	⑦単位労働コスト
⑧原材料卸売物価	⑧生産者出荷指数	
⑨輸入超過額		
⑩仕掛かり品在庫投資		

注）*は逆サイクル

ったことが欠点としてあげられる。第2次世界大戦後，アメリカの全国経済調査会(NBER)で考案されたディフュージョン-インデックス法(DI法)は，ハーバード法で分類したと同様に各種の経済系列を先行指標・本指標・遅行指標に分ける。わが国の経済企画庁で採用している系列は表のごとくである。これら25の系列につき季節変動を除去した指数を求め，それが前月の値より高い値を示したときは＋，低い値を示したときは－の符号をつける。そして，全系列中，何パーセントが＋の符号をとったかという比率を求める。この値が上から50%の値に接近するときは景気の山の時期に対応し，下から50%の値に接近するときは景気の谷の時期に対応している。しかし，これも量の予測として経済政策にどこまでデータを提供できるかということでは疑問がある。このほか，エール大学の経済研究所で考案されたナイーブ-モデル方式，ドイツの財政学者コルムによって考案されたコルム方式などがある。後者は景気予測というより経済計画としての性格が強く，経済企画庁が1960年(昭和35)に打ち出した所得倍増計画*はこれによる。現在，わが国では日本銀行が景気変動指数，経済企画庁が景気動向指数を発表している。〔鈴木諒一〕

けいきひこうほうしき【計器飛行方式】 計器飛行規則に従って行なわれる飛行方式。航空機が，機上に装備している計器および無線航行機器によって行なう飛行で，規則では有視界気象状態以外は計器飛行方式によらねばならないが，視界のよい有視界気象状態のもとにおいても計器飛行を選ぶことができる。計器飛行を行なう操縦士は計器飛行証明を受けていなければならない。

けいきへんどう【景気変動】 ⇨194ページ

ケイきゃく【K脚】 外反膝(がいはんしつ)・膝外反ともいう。一方の下肢(かし)が外方に凹(おう)の湾曲をしている状態をいう。先天性のものはまれで，くる病*，骨折，筋肉の異常(麻痺(まひ))，骨の発育異常，大傷瘢痕(はんこん)などが原因となる。歩行異常・関節障害・関節痛などの症状が現われる。治療としては，副子*固定，矯正(きょうせい)副子，ビタミンDの投与，手術などを行なう。

けいきょう【景教】 中国におけるネストリウス派*のキリスト教の名称。431年に異端と判定されたネストリウス派は東方への伝道におもむき，ペルシアを経て，635年(唐の太宗(たいそう)のとき)に阿羅本*(あらほん)らが長安に到達した。これが中国におけるキリスト教のはじまりである。唐代では，則天武后*のときを除いて皇帝に保護され，波斯(ペルシア)寺,のちには大秦(だいしん)寺(大秦は地中海東海岸およびその近辺をさしていったもの)と称する教会堂が各地に建てられ，その経典・教養書も漢訳されて，民心をとらえていた。その間の事情を伝えるものに長安の大秦寺の〈大秦景教流行中国碑〉がある。のち845年の武宗の会昌(かいしょう)年間に道教主義採用のため迫害を受けたが，宋(そう)代でも西北辺境には残存した。なお,〈景〉とは光明の意味である。〔西 順蔵〕

けいきよそく【景気予測】 過去における経済諸変量間の関数関係をとらえ，将来の景気を予測すること。資本主義経済と景気変動*とは密接不可分の関係にあり，過去において景気変動のために多くの企業がいたでを受け，国民経済にも多大の影響を与えることが少なくなかった。景気予測は，このような変動についての対策を講ずるため考え出されたもので，初期の方法としては，1910年代に考案されたハーバード方式をあげることができる。この段階における予測は，民間企業の必要から発生したものであり，政府自身がなんらかの対策を打ち出すために景気予測を行なう必要はなかった。しかし，1930年代の世界恐慌*は大量の失業者を生み出し，鉱工業の生産水準を急低下させ，自由競争に基づく民間経済の自動的回復がすでに不可能であることが認識され，政府は干渉主義に踏み切らざるをえず，公共投資による不況克服策を講ずるようになった。1933年のニュー-ディール政策*がこれであり，その理論的支柱となったものはケインズ*の一般理論であった。第2次世界大戦後，1950年代になると，資本主義諸国と共産圏諸国との経済競争が表面化し，資本主義諸国における経済成長*率の引き上げが問題となった。過度の成長率引き上げはインフレーションその他の経済成長のひずみを生ずることは明らかであるが，そのひずみを避け，しかも高度の成長を達成しようとする〈適正成長〉または〈安定成長〉の考え方が出てきた。こうして，経済諸変量間の関数関係をとらえ，適正な成長率を算出する景気予測の方法が要請されるようになった。景気予測には質の予測と量の予測とがある。前者はたとえば景気が好況に向かうか，それとも不況に向かうかといった方向の予測であり，初期のハーバード法などにみられる。量の予測とは景気変動の程度を問題にするものであり，最近では単なる質の予測にとどまらず，傾向値・季節変動・循環運動の3要因の連成による統計学的解析方法，理論経済学と統計学の結合の上に組み立てられた計量経済学的方法などにより，広範囲の分野における経済諸活動の量的予測に応用されている。計量経済学的予測には，①国民経済全体の動向を予測する巨視的動学分析，②産業間の均衡関係についてのデータを提供すべき産業連関分析*，③微視的経済理論の3部門がある。〔鈴木諒一〕

けいきんぞく【軽金属】 アルミニウム・マグネシウム・ベリリウム・チタンなど，比重の軽い金属の単体または合金。アルミニウムは，19世紀末に工業化されて以降急速に生産が増大している。特長としては，軽量，耐食性・塑性・加工性の良好なこと，電気および熱伝導度の高いことがあげられ，その成品は圧延品・鋳物・ダイカスト・鍛造品として広い用途をもっている。マグネシウムは，化学反応性が強く，一般に耐食性は不良であるが，軽量で強度・被削性などが良好である点を利用して，多くは合金として自動車・航空機・電気機器に使用されている。チタンは軽金属の中でも工業化の最も新しい分野で，その性質が強度・耐食性にすぐれ，しかも軽量であることを利用して，航空機・船舶をはじめとする多くの構造材料，化学工業用の耐食材料として需要を伸ばしている。〔草川隆次〕

けいきんぞくこうぎょう【軽金属工業】 軽金属*の精錬・加工を行なう工業。このうち，アルミニウムは，建築用・家庭用・運輸機械用をはじめとして広範囲の用途に利用されるので需要は最も多く，アルミニウム工業は第2次世界大戦前・大戦後を通じ，軽金属工業の中核として成長しつつある。

わが国のアルミニウム工業は，増大する需要にこたえて発展し，今日では57万t(1969)を越える生産をあげ，世界の第4位を占めている。しかし，アルミニウム精錬の原料であるボーキサイト*は赤道付近とソ連以外には多量に産出されず，わが国ではもっぱらインドネシア・オーストラリアからの輸入にたよっている。このため，業界ではボーキサイトの確保をめざし，精錬5社の共同出資でアルミニウム資源開発会社を設

立し，調査団をアフリカに派遣するなど，ボーキサイト鉱山の開発に大規模な投資が進められている。現在，世界のボーキサイト開発のほとんどは，アメリカのアルコア・レイノルズ・カイザー，カナダのアルキャンなどの国際巨大資本によって握られており，わが国のアルミニウム精錬メーカーも原料と加工技術面でこれらの巨大資本と提携している。すなわち，日本軽金属・住友化学はアルキャン，三菱(みつびし)化成はレイノルズ，昭和電工と新日本製鉄はカイザーと提携しており，アルミニウム地金市場はこれら5社による寡占状態にある。圧延加工メーカーも，これら5社の系列メーカーを中心としており，その数は約50社に上るが，精錬・加工メーカーとも国際的規模に比べてまだその規模は小であり，精錬・加工一貫化のための企業再編成が強く要請されている。

マグネシウムはチタン製造にもっぱら使用される重要な金属である。チタンは合金として航空・宇宙関係の材料に，またチタン酸バリウムは半導体として電子工業の分野に広く利用されており，マグネシウム工業・チタン工業ともども，今後の成長が期待されているが，わが国の生産量の大半はアメリカ向け輸出にあてられているのが現状である。〔原　豊〕

けいくじゃくせき　【珪孔雀石】　クリソコラともよぶ。含水銅ケイ酸塩の一種。銅鉱の分解生成物として銅鉱山の酸化帯に産する。$CuSiO_3 \cdot nH_2O$　非晶質。比重2.0〜2.8，硬度2〜4。化学成分は一定ではない。緑・青緑色・半透明で，皮殻(ひかく)または塊状として産する。ガラス光沢の同じ円状の割れ目をもつため，オパールに似た外観を呈し，トルコ石の代わりに飾り石に用いられることもある。

けいげき　【京劇】　⇨きょうげき

けいけつ　【経穴】　⇨経絡

けいけん　【経験】　人間は行動や感覚を通して外界との絶えざる交渉の内に生きている。この過程およびその結果得られたものを経験とよぶ。哲学では経験は知識との関係において特に問題とされる。経験が知識の源泉であることは事実であるが，経験を知識の唯一の源泉であるとするとき，これは一つの立場であって，経験論とよばれる。これに対し，①能動的・創造的知性も知識の源泉である，②経験のみでは知識の確実性は保証されず，知識は蓋然(がいぜん)的なものにとどまることを理由に，経験認識は理性認識に劣り，むしろ理性こそ知識の真の源泉であるという合理論の立場がある。カントは経験が知識の内容を与え，理性がそれに確実な形式を与えるとして，二つの立場を総合しようとした。しかし現代の哲学では，カントにおいてこの形式が先天的に決定され，固定されているとした点を批判し，多かれ少かれ，知性と経験の動的相互作用の上に，より確実でより豊かな知識へ向かう発展的運動をとらえようとする傾向を示している。〔石井忠厚〕



袿　袴

けいけんしゅぎ　【敬虔主義】　17世紀末から18世紀にかけてドイツのルター派教会内部で進められた改革運動。ピエティズムともいう。中心的な指導者はシュペナー・フランケらで，俗化した教会生活，〈知性〉重視のあり方に対して，敬虔な生活と〈心情〉を重んじた。宗教的個人主義を発展させ，カントやシュライエルマッハーらに影響を与えた。

けいけんひはんろん　【経験批判論】　ドイツの哲学者アベナリウスによって主唱された哲学説。彼は実証主義の立場から形而上学(けいじじょうがく)を否定し，経験の批判(分析)を通していっさいの形而上学的付加物を含まない〈純粋経験〉の世界を求め，これを認識の源泉とした。それは自然的世界ともいえるが，そこでは主観と客観，内界と外界，心的と物的などの区別は存在せず，そのような区別こそがわれわれの認識を誤りに導くものであるとされた。このアベナリウスの経験批判論の立場は，マッハの同様な考えと並んで，今日の分析哲学に大きな影響を与えたが，マルクス主義の立場からは観念論として批判された。〔寺中平治〕

けいけんろん　【経験論】　一般には，人間の知識の源泉をもっぱら経験に求め，理性の役割を最小限に評価する哲学の立場。合理論と対比して使われることが多い。中世には，この立場は〈以前に感覚のうちになかったものは知性のうちにない〉と定式化されたが，明確な自覚をもってこの立場を主張したのは，フランシス-ベーコン・ロック・バークリ・ヒュームらの17〜18世紀のイギリス経験論である。たとえばロックは，生まれたばかりの人間の心はなにも書かれていない白紙(タブラ-ラサ)のようなものであり，あとになって心に生じてくるすべての観念は，感覚経験や内部感覚から得られるものだと主張し，合理論の主張する生得観念を否定した。このイギリス経験論の傾向はイギリスの思想に長く影響を与え，19世紀には帰納法を集大成したJ.S.ミルを生み，さらにフランスのコンディヤックらの感覚論，ドイツのアベナリウスらの経験批判論などによって受け継がれた。20世紀にはいってこの傾向はさらにプラグマチズムや論理実証主義によって受け継がれ，発展させられた。プラグマチズムにおいては，従来経験が感覚と同一視され心理的に扱われてきたのに対し，デューイが経験を広い意味の実験と考えたことでもわかるとおり，経験が行動的に考えられるようになった。また論理実証主義においては，従来の経験論において論理学や数学の命題が非常に多くの実例に基づく帰納的一般化による経験命題として扱われることが多かったにもかかわらず，ヒュームの理性の真理と事実の真理という区分がさらに発展させられた。そして，論理学や数学の命題は経験によって真偽が決定される命題ではなく，言語の論理構造，つまり言語を支配している規約によって真偽が決定される分析命題であると規定され，それ以外のすべての有意味な(真偽決定可能な)命題は経験によって検証可能でなければならない，という形で経験論が強化された。〔米沢克夫〕

けいこ　【袿袴】　婦人和装の大礼服。〈うちきはかま〉ともいう。平安時代の〈袿姿(うちきすがた)〉と同じ形態で，袿と単(ひとえ)と紅の切り袴(はかま)からなり，宮中に参入の際や貴族の婚礼の式服などに用いた。1884年(明治17)9月皇后をはじめ，女官その他宮中の諸祭儀に参列する女子の服として制定され，1915年(大正4)7月24日皇室令第8号で改制され，同年11月大正天皇即位式で参列者に対して適用された。袿は，冬は唐綾(からあや)，夏は紗(しゃ)の二重織物を用い，文様は鳳凰(ほうおう)・小葵(こあおい)・三重襷(みえだすき)，色は二藍(ふたあい)・深紫である。〔河鰭実英〕

けいご　【敬語】　〈あのかたはお見えにならない〉〈あいつは来やがらない〉という二つの表現で，前者は話し手が第三者を敬って言っており，後者はさげすんで言っている，という違いはあっても，いずれも，話し手のなんらかの待遇のしかたを表わしている。このように，話し手が，聞き手や話に出てくる人などを，自分との関係において，上とみなすか下とみなすかというような，さまざまな待遇のしかたに応じて，適当なことばを用いて表現することを，〈待遇表現〉という。待遇表現には，尊敬表現・軽卑表現・親愛表現などの種類があるが，このうちの尊敬表現がすなわち敬語であって，聞き手や話の中に出てくる人について，尊敬やへりくだりの気持ちを表わす表現をいう。

〈種類〉　敬語は，ふつう尊敬語・謙譲語・ていねい語の3種類に類別することができる。①尊敬語：話の中に出てくる人(話相手である場合もあれば，第三者である場合もある)について尊敬の気持ちを表わすこ

→196ページ

景気変動

通常，工業国において発生する経済活動の周期的な変動をさす。一国の経済活動は，低い水準から高い水準に上昇したり，高い水準から低い水準に低下したり，また急速になったり，ゆっくりしたりしながら変動していく。しかも，同じ上り坂でも，途中にいくつものカーブがあるように，一国の経済活動水準にも大小さまざまのうねりが見いだされる。この経済活動における循環的な変動には，その局面に対応してそれぞれ名称が付されている(図-1)。

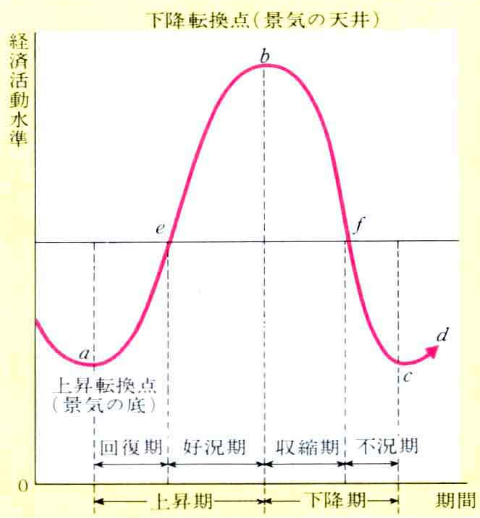
〔経済活動の循環的変動〕一国の経済活動水準はけっしてある水準を同じ振幅で上昇したり下降したりしているだけではなく，傾向としてはたえず上昇し続けている。図-2は日本の経済活動の動きを1963年(昭和38)から現在まで跡づけてみたものである。これは〈累積した景気動向指数*〉といわれているもので，日本の経済活動の動きを指数化し，グラフ化したものである。1963年から数えると，これまでの日本経済には五つの下り坂の局面と五つの上り坂の局面がみられる。そしてそれぞれの波の頂上が山(または天井)といわれ，波の底のほうが谷(または底)といわれている。それぞれの山から山まで，あるいは谷から谷までが一つの循環を形づくっている。それぞれの循環はそれぞれ異なった長さをもち，あるものは3年ぐらいの長さの循環を，あるものは5年以上の循環を示している。しかし，平均するとそれらはほぼ1年の下降期と3年の上昇期からなっている。もちろん，これはあくまでも平均的な長さで，これから生起してくるであろう循環も含めて，一つ一つの循環のすべてが下降期1年，上昇期3年という長さをもっているわけではない。しかし，ともかく下降期に比して上昇期がかなり長いというのがこれまでの景気変動の期間区分である。

このグラフは，日本経済の経済活動を代表すると思われるいくつかの経済指標を用いて作成されたものであるが，あらゆる経済活動がすべてこのような循環を示しているわけではない。また，あらゆる経済活動がここに示されていると同じ時期にその活動の山に達し，同じ時期に谷に達したというわけではない。あるものはこれよりも早く山に達し，早く谷に達している。また，ある経済活動はこれよりも遅れて山に達し，遅れて谷に達している。また，これよりも激しい上下の変動を示す経済活動もあれば，はるかになだらかな変動を示す経済活動がある。したがって，日本経済の動きを決めている数多くの経済活動のすべてがこれと同じ均一した循環変動をしていると考えてはならない。消費をとってみよう。これは重要な経済活動の一つではあるけれども，ほとんどこのような循環的な動きを示さない。日本の消費活動は特にそうかもしれないが，それはなだらかな傾斜をもった直線のような動きを示している。他の経済指標が上下の波動をくり返しているときに，消費活動はそれらとは関係なくかなり安定したペースで上昇し続ける。これに対し，鉱工業生産ははっきりと上昇下降の循環的変動を示している。その動きは，ほとんどこの図表と類似したものである。輸入もまた同じような動きを示し，その循環の長さや振幅は図表に示すものとほぼ同じである。しかし，民間企業の設備投資は循環的な変動を示すけれども，その投資が山に達する時点は図表に示されている時期より遅れており，谷に達する時点も遅れている。これと同じような動きを示すものに製造業における賃金コスト(生産物1単位あたりに含まれる賃金)がある。その変動の山と谷の時点は図表に示されているものよりも若干遅れている。これに対し，たとえば証券取引所における平均株価指数の動きは循環的な動きを示しているが，それが山に達する時点と谷に達する時点とは，それぞれ図表に示されているのよりも早い。この現象がしばしば株価の先見性といわれているものである。機械に対する受注額もかなり明瞭な循環的な変動を示しているが，平均株価指数と同じようにその山も谷も図におけるよりも早い。このように，数多くの経済活動はそれぞれ独自の動きを示しているけれども，循環的な変動を示すものがその多くを占めている。その中で全体の経済活動水準とほぼ一致して変動するものを一致系列とよび，それよりも早めに変動するもの，たとえば平均株価や機械受注額は先行系列とよばれる。また，民間企業の設備投資や単位労働費用などは遅行系列とよばれる。現実の経済現象を形づくっている数多くの経済活動は，それぞれ独自の変動のしかたを示しているにもかかわらず，それらが相互に関連し合い，全体として一つの循環的変動を形づくってくる。この循環的な変動現象が景気変動とよばれているのである。この経済活動水準の循環的な変動は，たえずその平均水準を高めながら上昇していく。経済活動水準が全体として上昇していく側面に着目するとき，これを経済成長とよぶ。現実の経済はたえず循環をくり返しながら成長し続けていく一つの変動過程である。循環しながら成長していくというこの経済活動の変動様式は日本にだけみられるものではない。同様のことは多くの先進工業国に見いだされる。もちろん国によって山から山まで，あるいは谷から谷までの時間の長さは異なり，山と谷の間の距離もまた異なる。しかし，それにもかかわらず，各国の経済は一様にこの循環的成長を経験している。

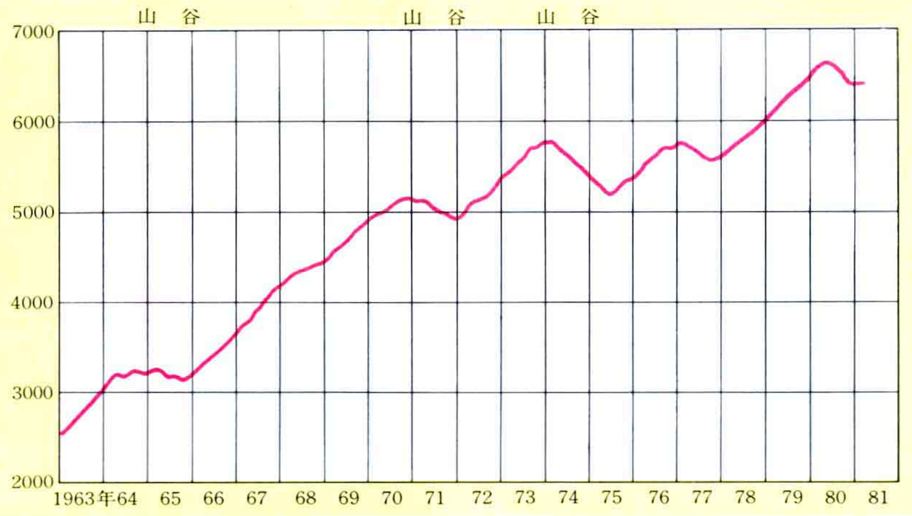
〔景気変動の種類〕ここで景気変動の種類について述べよう。さきの図表に示されるような変動が唯一の景気変動の型ではない。そのほかにも振幅や波長の異なった変動がある。その一つは主循環である。これはジュグラー循環ともよばれ，その平均期間が10年前後とみなされているものである。さらにその循環の波長が20年前後のものがある。これは建築循環あるいはクズネッツ循環といわれ，主循環とともに代表的な循環である。これに対し，さきの図表に示した4年前後の波長をもつ循環は小循環または在庫循環*とよばれている。さらに50年ないし60年の長期波動があるという見方があり，これはコンドラチェフの波といわれている。このように何種類もの循環が経済現象の中に検出されるが，その中で，現実の世界で最も身近でその存在を確認しうるものは在庫循環である。循環の局面は，拡張(または上昇)過程と収縮(または下降)過程の二つに分けられる。循環のいちばん高いところが山であり，いちばん低いところが谷である。天井付近は好況期を表わし，谷の付近は不況期を表わしている。

〔景気変動の原因〕それでは，一国の経済活動水準はなぜ周期的に変動するのであろうか。かつてはこれについていろいろな考え方が述べられた。たとえば，貨幣的理論は，このような周期的な操業度の変化の究極的原因を金融機関の貸し出しの変化に求める。過剰投資理論は，資本財部門が消費財部門よりも過大に拡大していくこと自体の中に原因があるという。さらに過少消費理論は，消費財生産能力の蓄積と消費財の購買力との間のギャップに原因を求める。楽観的期待と悲観的期待の交替が原因であるという心理的理論もある。これらの理論は，いずれも究極的な要因を金融機関の行動，資本財部門の拡大，消費支出の不足，人間心理の変化などに求める。しかし，現在の理論的分析はこのような意味における究極的な原因を示すことはせず，むしろ消費も投資も心理も，あるいは貨幣数量もそれぞれ相互にからみ合って，このような現象をひき起こすのであるという立場をとる。中でも消費*と投資*の役割は特に重要である。また，国際経済の網目の中に組み込まれている各国の景気変動は，それぞれ他の国で起こった景気変動とかなり明瞭な関係をもっているという立場から，輸出と輸入もまたそこで重要な役割を演ずる。

〔景気変動の過程〕一般的な景気変動の過程を述べよう。まず消費の拡大が生じたとする。それは生産水準を引き上げ，生産水準の上昇は設備不足をもたらし，投資の拡



図—1　景気変動循環図



図—2　景気動向指標(経済企画庁《日本経済指標》)

大を促す。投資の拡大は雇用の増大を導き，所得の増大をもたらす。所得の増大は消費の増加をひき起こし，それは生産水準を引き上げる。こうして，投資と消費は相互に相手を高め合いながら経済活動水準を高めていく。すなわち，国民経済という巨大な生産工場の操業水準は，この消費と投資の相互作用を通じて高められる。他方，消費の減少は生産の減少を招き，生産の減少は投資の減少を招き，その過程で雇用水準は下がり，所得は低下し，消費は減少する。こうして相互に消費と投資は減少する。国民経済の経済活動水準はこのようにして低下を続けることになる。

技術進歩に基づいて行なわれる投資やその社会で当然と考えられる最低消費水準の上昇は，たえず生産水準を引き上げていく圧力として作用する。このような投資を自律的投資とよぶ。技術的進歩の激しい社会では，生産量の変動とは関係なく行なわれる自律的な投資が活発となり，それがその経済の生産能力を拡大する。この拡大はいうまでもなくその経済の成長を意味している。こうして，国民経済という巨大な生産工場はたえずその生産設備を拡張しながら，しかも循環的な操業水準の変動を経験することになる。

活動水準が上昇から下降に転ずる点を下降転換点という。下降転換をひき起こす要因は二つ考えられる。一つは外部的な要因のために生産水準の上昇が阻止される場合である。たとえば，労働力の不足は生産の上昇を不可能にし，生産水準をそこにくぎづけにする。生産水準の上昇が阻止されるとき，労働時間の増大は停止し，したがって所得の増大も需要の増大もそこで阻止される。投資や消費は当然影響される。消費水準はそこで停滞するため，生産の拡大は必要とされず,既存設備の維持のための投資を別とすれば，技術進歩に基づく新設備への投資は0となる。こうして下降過程が始まる。労働力不足のほか，国際収支*の悪化も景気上昇を阻止する要因となる。その国民経済が外国と取引している場合，国内の経済活動水準が上昇すれば輸入は増大し，それが低下すれば輸入は減少する。したがって，その経済活動水準が過度に上昇する場合には輸入が輸出を上回り，対外支払い手段が不足する。こうして，国内の経済活動水準を引き下げざるをえなくなる。これと対象的に下降過程から上昇過程に転ずる点を上昇転換点とよんでいる。下降過程が永久に続くことは不可能である。国内に存在する基礎的な消費や技術進歩に基づく自律的投資のために，経済活動水準はある限度以下に下がることはできず，その限界にきたとき，回復過程にはいっていく。技術進歩に基づく投資の存在が経済に成長をもたらすため，ときには景気の上昇過程では経済活動の上昇率が高くなり，景気の下降過程にはいっても，経済活動の上昇率が低くなるだけで絶対水準そのものは低下しないということが起こる。

最後に財政支出に触れておく。財政支出があると，需要が増大し，生産増加を促進するので，不況期に財政支出が増加するならば下降を食い止めることができる。それとは逆に激しい景気上昇(景気過熱)期に財政支出が減少するならばその過熱をさますことができる。また金融機関が貸し出しをゆるめると購買力が増加して景気は刺激され，貸し出しを制限すると購買力が減少して景気は抑制される。したがって，不況を避けるためには財政支出の拡大政策と金融緩和政策が用いられ，過熱を避けるためには財政緊縮政策と金融引き締め政策が用いられる。景気の上下の変動幅を小さくしてスムーズな成長を実現することが景気政策の目標である。

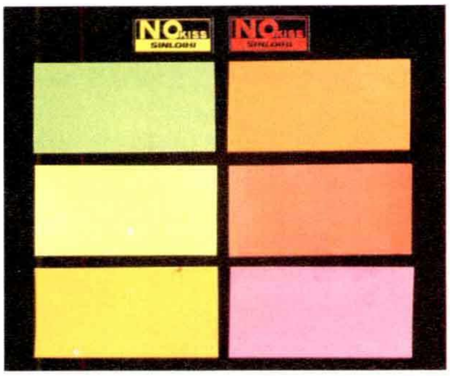
〔景気政策〕 このように景気変動の振幅を縮小してスムーズな成長をもたらすことが特に目標とされる理由はなんであろうか。それは景気変動によってその経済がこうむる周期的な損失を避けるためである。上昇過程はともかく，下降過程にはいると，生産はこれまでのように高い水準には維持されない。その結果どうしても設備の利用度が落ちてしまう。通常の場合，遊休設備が生じ，それとともに労働時間も減少することになる。一般的には失業が発生するであろう。一方に遊休設備があり，他方に失業があるという状態はけっして望ましいことではない。もし適当に有効需要*が増加するならば，その設備を用いて生産は増加させられる。そうすれば生産設備の遊休状態を消滅させ，失業をなくすことができるであろう。遊休設備があり，失業があるということは，その社会にとって大きい損失である。特に失業という問題は失業者自身にとっても大問題であり，その社会が失業保険金を支払ってすませる問題ではない。景気政策が必要とされる理由はそこにある。そのためには，景気が上昇過程にはいったとき，あまり早いスピードで生産が増大し，たちまち天井に突きあたるという事態を避けなければならないであろう。〈山高ければ谷深し〉ということばがあるが，景気変動にはそういう性質がある。下降過程が激しいときには，自律的投資までも行なわれなくなる。投資を行なう主体は人間であるから，下降過程が激しければ悲観的ムードがみなぎって，ますます経済を不況に追いやってしまう。これとは逆に上昇過程の勢いが早くなると，楽観的ムードがみなぎって，経済活動の上昇はますます激しいものとなる。財政政策と金融政策の適当な組み合わせによって，その景気変動の上下振幅を少なくし，なるべく安定した成長を図ることは景気政策の重要な任務なのである。

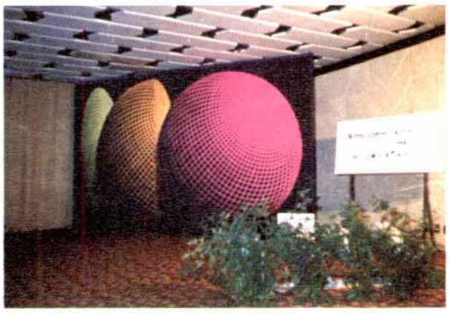
〔渡部福太郎〕

とば。当人(あなた・おにいさん)，その関係者や関係物(お子さま・お庭)，その動作・状態(召し上がる・お元気で)などについて用いられる。形の上からは次のように分けられる。㋑体言または体言に接頭語や接尾語のついたもの――あなた(さま)・このかた・そのかた・あのかた・どのかた・どなた・おとうさま・おにいさん・山田さん・先生・お子さま・お庭・お宅・ご本・ご病気，など。㋺用言または用言に接頭語のついたもの，その他特殊な言い方の用いられるもの――召し上がる・いらっしゃる・おっしゃる・お美しい・お元気で・ごりっぱに・お話しなさる・お書きくださる・ご視察になる，など。㋩助動詞――れる・られる。②謙譲語：話の中に出てくる人(自分である場合もあれば，第三者である場合もある)について，へりくだった気持ちを表わすことば。当人(わたくし)，その関係者や関係物(せがれ・拙宅)，その動作(伺う・申しあげる)などについて用いられる。㋑体言または体言に接尾語がついたもの――わたくし(ども)・てまえ(ども)・せがれ・愚息・拙宅・粗品，など。㋺用言，その他特殊な言い方の用いられるもの――伺う・申す・申しあげる・拝見する・さしあげる・参る・存ずる・お礼申す・お渡しいたす・見ていただく・お読みする，など。③ていねい語：話し手(書き手)が，聞き手(読み手)を尊敬する気持ちを表わすことば。①②のように，話の中に出てくる人についての敬語表現とは違って，聞き手(読み手)に対して直接に敬意を表わす言い方。㋑助動詞――ます・です。㋺〈ます〉を伴う，特にていねいな形――であります・でございます。なお，女性などが，上品に表現しようとして，〈お米・お塩・おコーヒー・お祭り・ご飯〉のように，接頭語をつけていうことばは，ていねい語の別の種類として扱われることもあり，また美化語として別扱いされることもある。

〈起源〉 古代の〈タブー(禁忌)〉の思想に基づくともいわれ，また，偉大なものへの賛美の気持ちがその源泉であったともいわれる。古くは，〈絶対敬語〉(特定の人物はいつも一定の敬語で待遇されるもので，アイヌ語や朝鮮語の敬語はこれ)が主流を占め，しだいに〈相対敬語〉(普通の敬語にみられるもので，同一人でも場合によって待遇のされ方が異なり，一定しない)が発達した。敬語の発達は，女性のていねいな言い方を好む性向に基づくところが多く，また，中世以降の封建的階級社会が敬語を複雑化する役割を演じた。さらに，近世・近代以降の商業主義によって，敬語は必要以上に用いられてきた。これからの敬語は，めいめいの基本的人格を尊重する相互尊敬の上に立って，なるべく平明・簡素な形で用いられることが望まれている。〔市川　孝〕

けいこう　【螢光】 石油に日光をあてると緑色に光って見える。これは太陽光線の色ではなく，太陽光線に刺激されてみずから出す光である。このようにある物体が外部の刺激によって発する一種の*ルミネッセンスのうち，あてられた刺激を取り除くと直ちに消える場合を螢光といい，なお光り続ける現象を*燐光(りんこう)という。螢光は低温になるにしたがって明るさが増していくが，燐光では暗くなる。螢光は気体・液体に多く，燐光は固体に多い。螢光を発するものを螢光体(螢光物質)といい，*螢光灯・テレビジョン・夜光塗料などに用いられるものは主として無機螢光物質であり，町の看板などに見られる螢光体は主として有機螢光物質である。無機螢光物質には，不純物を加えず化学的に純粋にするほど螢光を強く発するものと，マンガン・銀・銅・アンチモンなどの不純物を微量含むことによって著しくなるものとがある。螢光はストークスの*法則に従い，近紫外から可視全域にわたる連続*スペクトルの分布を示し，光色は螢光体の配合組成によって変化する。これらの螢光は照明に用いるほか，物質の鑑別・鑑識・探傷・探査・選別・微量分析や螢光顕微鏡・螢光塗料などに応用される。〔中山忠巳〕





螢　光　(上)螢光顔料を塗った色紙に，暗所でブラックライト(紫外線のみを出すランプ)を照射するとネオンのように輝く　(下)これを応用して，室内装飾などにも用いられつつある

けいこう　【挂甲】 各種の形をした鉄製あるいは皮製の小札(こざね)(たんざく形の鉄板)を皮ひもまたは組み糸でとじた鎧(よろい)。中国では乗馬の風とともに戦国時代からつくられたが，わが国には5世紀ごろ同じく乗馬用の鎧として朝鮮半島を経て伝えられた。以来，奈良時代から平安時代初期まで使われたが，のち大鎧に移っていった。挂甲は700～800枚の小札をつづって前でとじる。肩鎧・*草摺(くさずり)・*籠手(こて)・臑(すね)あても同様に小札でつづる。〔坪井清足〕

けいこう　【嵆康】（223～262）中国，魏晋(ぎしん)の文人。竹林の*七賢のひとり。*阮籍(げんせき)とともに当時名声高く，詩文ともにすぐれていたが，特に文章は論理鋭く，固定観念にとらわれぬ思想を表現している。魏から晋へ政権の交替した時期，権力者の忌諱(きい)に触れて処刑された。現在の詩文は魯迅(ろじん)の校訂した《嵆康集》に収録されている。

けいこういん　【慶光院】 三重県伊勢(いせ)市宇治浦田町にあった臨済宗の尼寺。戦国時代に創立され，公家(くげ)飛鳥井雅俊(あすかいまさとし)の娘守悦が開基。代々伊勢神宮の復興を志し，1551年(天文20)3世清順のとき募金によって宇治大橋を架橋し，その功によって後奈良天皇から住居に慶光院の院号が与えられた。院主は紫衣(しえ)着用の勅許を与えられた比丘尼(びくに)であり，伊勢上人(しょうにん)と称せられ，神宮をしのぐ権勢を有していた。徳川3代将軍家光(いえみつ)の側室お万の方が，慶光院院主から*大奥にはいったことは知られている。江戸幕府の保護を受けて公武の間に重んぜられたが，明治維新の*神仏分離とともに廃寺となった。〔毛利早公子〕

けいこうかんせん　【経口感染】 飲料や食物に付着混入した病原体が口から侵入しで感染する感染様式。赤痢・サルモネラ・チフス・腸炎ビブリオ・コレラなどの細菌性疾患，小児麻痺(まひ)などのウイルス病，回虫・蟯虫(ぎょうちゅう)などによる寄生虫病が典型的な例であるが，他の様式の感染をする病原体も経口感染が成立することが多い。なお，*ボツリヌス菌中毒などは食物中で菌が産生した毒素が口からはいって発症する。経口感染は大便とともに排出された病原体に汚染された水や食物によることが多く，ハエ・ゴキブリ・ネズミなどの役割も無視できない。〔和気　朗〕

けいこうぎょう　【軽工業】 重工業に対する語。一般に生産技術が複雑でなく，大がかりな機械や装置を必要としない工業。たとえば，天然繊維・雑貨・食料品・紙パルプ工業などをさす。➔重化学工業

けいごうきん　【軽合金】 アルミニウム・マグネシウム・チタンなどの軟金属に他の金属を添加した合金。比重が軽いため，航空機・自動車その他軽量を要する機械部品の材料として重要である。アルミニウム合金には，シルミン・ラウタル・Y合金・ローエッキス・ヒドロナリウム・ジュラルミン・アルドライなどが知られ，アルミニウム粉末からつくられるSAP(sintered aluminium product)も耐熱アルミニウム合金の一種である。熱処理によって合金を強化する時効処理法は，ジュラルミンの製造に用いられたのが最初である。マグネシウ

ム合金はアルミニウム合金よりはるかに軽く，ダウメタル・エレクトロンなどの合金がある。チタン合金は第2次世界大戦後急速に開発された合金で，鉄鋼なみの強度をもち，アルミニウム合金やマグネシウム合金よりはるかに高い耐熱性を備え，ジェットエンジン構造材や音速ジェット機の機体などに使用される。またチタン合金は耐食性にもすぐれ，多くの化学プラント機器材料として有用である。〔藤井康次〕

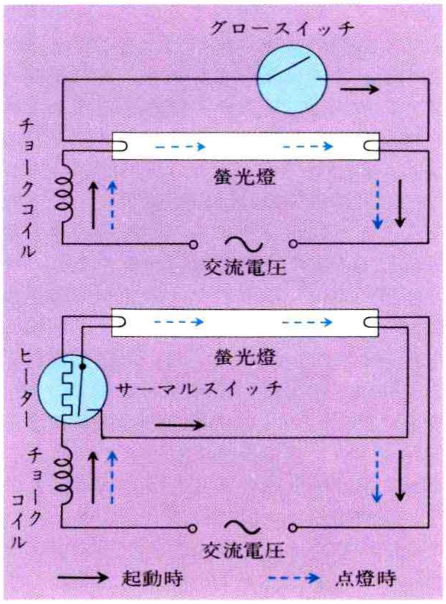
けいこうけんびきょう【螢光顕微鏡】おもに細菌学の領域で用いられる顕微鏡の一種。普通の光学顕微鏡に紫外線光源(一般に高圧水銀燈と紫外線透過フィルターの組み合わせ)と接眼部に目を保護するための紫外線除去フィルターを組み合わせて使用する。観察しようとする標本をあらかじめ螢光色素で染め，これに紫外線をあてると，標本は螢光を発して種々の色調に輝く物体が観察できる。螢光を発する物体はその形が小さくても識別が容易であるので，喀痰(かくたん)中の結核菌などの検出によく利用される。〔加藤定雄〕

けいこうしゅうらく【渓口集落】川が山地から平地へ出る所に発達した集落。谷口集落・谷口町ともいう。谷の出口には山地の産物と平野の物資との交換のために商業的機能をもった集落が発生し，山麓(さんろく)地方の経済上の中心となる。古くから定日市が開かれた場合も多い。関東山地東麓における荒川沿いの寄居(よりい)(埼玉県北部)，名栗(なぐり)川沿いの飯能(はんのう)(埼玉県南部)，多摩川沿いの青梅(おうめ)(東京都西部)，多摩川支流秋川沿いの五日市(東京都西部)，あるいは長野盆地の須坂(すざか)・中野(長野県北部)などはその例である。〔佐藤甚次郎〕

けいこうせい【傾光性】⇨傾性

けいこうせんりょう【螢光染料】螢光*を放射する能力のある染料。太陽光線などの紫外線を吸収し，その吸収エネルギーの一部を螢光として放出発光する現象を利用するもので，螢光増白剤と螢光染料の2種に大別される。螢光増白剤は繊維の白色度を増大させるもので，それ自身ほとんど無色であるが，紫〜青色の螢光を発することにより，紫〜青色が吸収される結果黄色みをおびて見える繊維の白色度を高めようとするものである。衣料用繊維のほか，紙・皮革・合成樹脂・せっけん・合成洗剤・化粧品などに広く使用され，急激に需要が増大した。繊維を着色するための染料ではないが，繊維に対する親和性について一般染料と同じように考えることができるので，螢光増白染料・螢光白色染料などともよばれる。螢光染料に属するものとしては，エオシンやローダミンが著名であり，これらは螢光増白剤と違ってそれ自身色のある染料であるうえに，螢光を発するので，著しく高い輝度をもつのが特徴。〔稲田正作〕

けいこうたい【螢光体】⇨螢光



螢光燈

けいこうてつどう【京広鉄道】チンコワン鉄道　中国本土を南北に縦貫する鉄道。首都北京(ペキン)と華南の広州を連絡し，全長約2,300km。北京〜漢口間の京漢鉄道*と武昌(ぶしょう)〜広州間の粤漢(えつかん)鉄道*が，1957年の長江大橋の完成によって貫通した。揚子江水運とともに，中国本土の東西と南北とを連絡する大幹線交通路である。

けいこうてんのう【景行天皇】生没年不詳。名は大足彦忍代別(おおたらしひこおしろわけ)。垂仁(すいにん)天皇の第3皇子。母は日葉酢媛(ひばすひめ)皇后。みずから熊襲(くまそ)を討ち，皇子ヤマトタケルノミコト*に熊襲・蝦夷(えぞ)を討たせた説話が〈記紀〉に伝えられる。大和(やまと)朝廷*勃興(ぼっこう)期にあたる4世紀前半の天皇とみられ，崇神(すじん)朝から景行朝にかけて統一事業に関する説話が集中している。陵墓は奈良県天理市の山辺道上陵(やまのべのみちのうえのみささぎ)で，初期の前方後円墳*。〔黛　弘道〕

けいこうとう【螢光燈】熱陰極をもつ低圧水銀放電燈の一種。細長い管の両端にバリウムあるいはストロンチウムの酸化物を被覆したタングステンの二重コイルフィラメントを備え，管内には少量の水銀(点燈中は約10^{-2}気圧)と放電開始を容易にするために，数ミリメートル(水銀柱)のアルゴンを封入する。管の内壁には1種または数種の螢光体を薄く均等に塗布して，水銀放電の発する2,537オングストロームの紫外線を可視光線に転換する。図は点燈回路の代表的なもので，放電安定用として直列にチョークコイル*(安定器)を入れ，さらに起動用スイッチとしてランプに並列にグロースイッチ(点燈管またはグロースターター)あるいはサーマルスイッチを入れる。これらはいずれもバイメタルを応用した自動点燈装置である。螢光燈の特長は，①高効率(白熱電球の2.5〜3.0倍)，②低輝度拡散性(光源が大きいためまぶしくなく，光が柔らかく，被照面に手暗がりを生じない)，③冷光性(同照度における放射熱は白熱電球の約4分の1)，④色光(有効に生み出すことができ，効率を白熱電球に比べると，青色で40倍，緑色で90倍，昼光色では25倍，白色では6倍)，⑤天然昼光に最も近似，⑥白熱電球に比べて消費電力3分の1，寿命5〜6倍である，⑦装飾的効果が大きい，などである。螢光燈の力率(電圧・電流の位相差の余弦)は約90%であるが，チョークコイルで点燈したときは力率60〜70%となる。力率改善のために1燈のときは螢光燈と並列にコンデンサーを入れ，85%ぐらいまで改善する。2燈1組みのときは進み回路・遅れ回路を組み合わせたフリッカレス回路で力率を95%以上に改善する。

電圧が1%変わると光束は1〜2%変わり，白熱電球の3%以上より少ない。寿命の点から電源電圧変動は6%以下が望ましい。〔田村康男〕

けいこうとりょう【螢光塗料】無機系または有機系螢光顔料を，透明性の大きいワニスと練り合わせた塗料。塗膜は短波長可視光線や紫外線などで刺激されて色を発し，その色彩の鮮明度・明視性が大きいため，装飾・広告・看板および安全標識などに使用される。螢光性顔料として，無機系には亜鉛・カドミウム・バリウムなどの硫化物，また，有機系にはローダミンタングステート・オーラミンタングステートレーキ・ソジウムレッドレーキCなどを主として用いる。硫化亜鉛・硫化亜鉛カドミウム系の螢光色は，青から緑色・黄色・だいだい色および赤色にわたり，また，2色を混合して白色をつくることができる。塗膜形成要素としては，顔料や染料を変質させず，耐候性・耐湿性のよいセルロース誘導体・アルキド樹脂・ビニル樹脂などが用いられる。〔鈴木荘司〕

けいこうひにんやく【経口避妊薬】避妊*を目的として飲む薬剤。ヒトに大量のプロゲステロン(黄体ホルモン)を与えると排卵が抑制される事実に基づき，少量の内服によって，強い黄体ホルモン作用を発揮する新しいステロイドホルモンが発見・合成され，経口避妊が可能となった。現在は多くの新しいホルモンが実用化されている。臨床上はエストロゲン製剤と併用される。100%に近い避妊効果があり，危険な副作用もほとんどないとされているが，まれには副作用が報告されている。〔木川源則〕

けいこうほうでんとう【螢光放電燈】⇨螢光燈

けいこくしゅう【経国集】淳和(じゅんな)天皇の勅命による20巻(現存6巻)の漢詩文集。827年(天長4)成立。撰者(せんじゃ)は良岑安世(よしみねのやすよ)ら。707年(慶雲4)から827年までの賦・詩・序・対策など1013(現

存253)を種類別・身分官職順に配列している。これ以前の勅撰集《凌雲集*(りょううんしゅう)》《文華秀麗集*》が詩のみであるのに対して，文章も入れて作品類もきわめて多いところから，平安時代初期漢詩文の集大成といえる。

けいこくたいてん　【経国大典】　朝鮮，李朝(りちょう)の法典。世祖の命でつくられた。吏典は官吏の職分，戸典は財政経済，礼典は礼儀書式，兵典は軍政，刑典は刑法，工典は土木建築と，それぞれに関する規定を内容とする六典によって構成されている。李氏朝鮮*の研究には貴重な資料である。

けいこくびだん　【経国美談】　矢野龍溪(りゅうけい)(1850～1931)作の政治小説。前・後編の2編よりなり，1883年(明治16)から1884年にかけて発表。前編では，BC382年ギリシアのテーベに内乱が起きたが，志士たちの努力で民主政治が回復するまで，後編では，テーベ軍が優勢なスパルタ軍の攻撃に対抗し，大勝利を得るまでを描く。なお龍溪は本名を文雄といい，豊後(ぶんご)(大分県)佐伯(さえき)藩士の家に生まれ，慶応義塾(ぎじゅく)に学び，大隈(おおくま)内閣の統計院幹事を経て改進党*の結成に参画し，のち松方内閣のもとで駐支公使などをつとめた。国会開設前後の斬新(ざんしん)的・改良的政策を主張する改進党の主張が盛り込まれている。〔池内輝雄〕

けいごと　【景事】　人形浄瑠璃(じょうるり)用語。〈節事(ふしごと)〉ともいう。義太夫節(ぎだゆうぶし)で，道行きなど叙景的で曲節を主とする部分をいう。歌舞伎(かぶき)でも，宝暦年間(1751～1763)のころ，京阪(けいはん)では，観客の気分をくつろがせるため，舞踊劇ふうの一幕を設けて景事とよんだ。今日では人形浄瑠璃の場合だけに用いられる。➔所作事

けいざい　【経済】　経済財を有効に利用し，人間の物質的欲望を満たそうとする行為，およびその生活をいう。経済という問題は，人間の歴史が始まって以来，人間の生活から切り離せないものであり，いつの時代にも存在するものであった。というのは，人間の欲望は限りがないのに対してその欲望を満たす手段が少ないために，それをどのように使えばよいかという問題は人間生活にとって最も基本的な問題であったからである。英語のエコノミーの語源は，ギリシア語のオイコノミア，〈家政〉という意味であることから，古代ギリシア・ローマ時代には家計を中心とした欲望を満たす方法としての家政という考え方が存在していたことがわかる。人間は限りない物質的欲望を満たそうとして行動するが，大部分の場合これを満たす手段が不足している。すなわち欲望充足手段(財あるいは資源)が希少である。

財には人間の欲望に比してその存在量がきわめて大きく，しかもそれがだれにも所有されず，それを獲得するのになんの犠牲も払う必要のない自由財と，その存在量が希少で，すでに所有者があり，それを獲得するためにはなんらかの犠牲を支払わなければならない経済財とがある。欲望充足の手段が自由財であるときは経済問題は生じない。経済現象は経済財が欲望充足の手段となるときにのみ生ずるのである。希少な経済財で人間の物質的欲望を満たそうとする経済行為は，限られた手段を無限の諸欲望の充足にいかに配分するかという選択的行動をすることにほかならない。選択的行動の基準は，希少な手段をもって最大の効果をあげること，あるいは最小限の犠牲によって与えられた欲望を達成することである。これを経済的合理性あるいは経済原則という。経済現象は人間の経済行為が集まった社会的現象である。社会の経済現象が形成されると，それは個々人の経済行為を制約する働きをするようになる。それは，社会の経済制度あるいは経済機構とよばれる秩序を形成する。このような秩序に従って行なわれる人間の経済行為，すなわち，生産・分配・消費・雇用などに関するその社会のしくみを経済組織という。〔藤枝省人〕

けいざいあんていきゅうげんそく　【経済安定九原則】　第2次世界大戦後，アメリカ政府が占領軍司令部を通して日本政府に指令した，経済安定達成計画。1948年(昭和23)12月に発表されたもので，当時米ソの冷戦，南北朝鮮の対立，そして中国における国民政府の劣勢など国際情勢が急変しつつあったため，アメリカは日本経済の復興・自立に積極的となり，対日経済援助と労働運動の強力な指導に乗り出した。すでに指摘されてきたアメリカ政府の方針をいっそう明確な形にしたもので，おもな目的は，経済の自立体制を築き，経済安定を図ることにあった。内容は，①財政の均衡，②徴税の促進，③融資制限，④賃金安定，⑤価格統制，⑥貿易・為替(かわせ)管理，⑦輸出振興，⑧生産増強，⑨食糧供出の促進などで，通貨価値の安定を中心にした経済安定策である。これは，それまでのインフレ政策に終止符を打ち，ドッジ-ライン*への布石となるものであった。〔原　豊〕

けいざいがいきょうせい　【経済外強制】　封建社会に特徴的な封建地代*の徴収方法。マルクスが使用した概念である。封建社会では，土地が領主によって領有されているとはいえ，事実上の土地所有者は直接生産者である耕作農民(農奴*)であり，農奴はその生産物を占取することができ，資本主義社会における賃労働者のように労働力を売る必要もなかった。このような封建的農民から領主が剰余労働である地代を取得するには，村落共同体的規制を基底とした封建的な支配・隷従関係に根拠をもつ経済外の強制力によらざるをえなかった。移住や職業選択の自由を認められず，土地に縛りつけられ，財産の所有，土地の自由な運営も許されなかった農民に対する経済外強制は，領主の軍事的家臣団による直接の強制力によって裏打ちされていた。封建地代は封建制の初期には，労働地代収取に示されているように，領主の直接的暴力として現われたが，しだいに封建的慣習体系に組み込まれるようになった。領主裁判権などは経済外強制の法的執行を保持するものにほかならない。〔常盤政治〕

けいざいがく　【経済学】　経済現象を研究対象とする学問。人間生活にとって，物質的欲望は重要な地位を占めている。人間の物質的欲望は限りがないが，それを満たす手段には限りがある。この限られた手段を経済財*というが，この財は限りない人間の物質的欲望を満たすには相対的に希少であり，それゆえに人間は希少な手段でどのようにして物質的欲望を満たすことができるかを考えなければならない。この人間の行為を一般に経済現象という。経済現象は人間の複雑な欲望充足のための経済財の選択行動，すなわち人間の経済行為ではあるが，これらの行動もその社会の一定の制度的条件あるいは経済組織に従って行なわれるものである。そこで経済学は，人間の経済行為ならびに経済組織を解明しようとするものであると言いかえることができる。より具体的には，〈経済学は，いかにして人間および社会が，貨幣を用いてあるいは用いないで各種財貨を継続的に生産するために希少な生産資源を使用するか，およびそれら財貨を現在と将来の消費のために社会における種々の人間と集団の間に分配するかについての研究である〉(サムエルソン*)ということができる。一般に個人と社会との関連を解明しようとするのは社会科学の課題であるが，経済学も社会科学に属する学問である。

経済学は研究領域と研究方法によって三つの部門に分かれる。第1は，経済現象の発達または変化を時間的順序において個別的・具体的に記述する経済史の部門である。第2は，経済現象を観察し，その間に存在する法則を明らかにする部門で，これを経済理論という。第3は，このようにして明らかにされた知識を実際の政策に応用する経済政策の部門である。また経済学は，その内容によっていろいろに分けることができる。まず経済行為を機能別にみると，生産論・交換論・分配論・消費論に分けることができる。また経済の静態面を取り扱う静態学と，時間的変化を織り込んだ動態面を取り扱う動態学に分けることもできる(➔経済静学・経済動学)。さらに国民経済を構成する個々人の経済行為を観察して，そこから消費・生産・交換および分配に関する法則を導く微視的経済学(➔微視的分析)と，国民経済における総計量としての経済的諸量の間の関係を観察して，社会全体の

経済的法則を明らかにする巨視的経済学(→巨視的分析)に分けることができる。

〔経済学説史〕経済学の学問体系が成立したのは近代社会にはいってからのことである。資本主義社会の成立と同時に，人間の経済行為は独立の研究分野として確立し，経済的合理性を研究する学問体系が生まれることになった。経済学の歴史はしばしば学派と結びつけて理解されることが多い。経済学成立以前の経済思想も含めて経済学の歴史的発展の過程を分類すると，およそ次のようになる。①古代・中世の経済思想，②重商主義，③重農主義，④古典学派，⑤マルクス主義経済学，⑥限界効用学派，⑦歴史学派，⑧制度学派，⑨ケインズ学派。これらの学派は互いに多岐にわたって影響し合っており，歴史的にははっきりとした関連をつけることは一般に困難であるが，各学派についての簡単な素描を行なえば以下のとおりである。

①古代・中世の経済思想：この時代の経済思想は独立したものではなく，政治・宗教に従属するものとしての存在であり，特に中世社会の特徴は荘園を中心とした封建的社会制度が支配していた。

②重商主義：15～16世紀以来の重商主義の発達は，絶対王制と結びついた特権的な商業活動が経済活動の中心をなしていたという時代的背景がある。ここでは，商業活動が経済的富の源泉と考えられた。

③重農主義：18世紀にはいると，重商主義の考え方に対して非難の目が向けられるようになった。当時のフランスの経済学者ケネーは《経済表》において，年々生産される農産物と工業製品が農民・地主・商工業者間にどのように分配されるかを問題にした。彼は価値の源泉を，当時隆盛をきわめていた特権的な商業活動にではなくて，農業活動に求めたのである。

④古典学派：イギリスの経済学者A. スミスを始祖とし，経済学を最初に体系化した学派である。スミスは《国富論》(1776)において，自由主義思想に基づいた生産活動の重要性を強調し，〈見えざる手〉とよぶ自由市場における価格機能の意義を高く評価した。古典学派はスミスに始まり，リカード・J. S. ミル・マルサスへと受け継がれている。

⑤マルクス主義経済学：18世紀後半に産業革命が進展するにしたがって，一方では資本主義経済制度を基盤とする経済活動がめざましく発達を遂げたが，他方では早くも1825年に先進資本主義国であるイギリスで最初の経済恐慌が発生し，階級対立の激化が顕著になり，資本主義固有の矛盾が表面化してきた。このような資本主義の現状をつぶさに分析したのがドイツのマルクスである。彼は1867年から1894年にかけて《資本論》を刊行し，ここにマルクスを中心としたマルクス主義経済学が誕生した。マルクスの研究はその後エンゲルス・レーニンへと継承された。

⑥限界効用学派：1870年代は経済学の発展にとって画期的な時期であった。その主役を演じたのはオーストリアのメンガー，イギリスのジェボンズ，フランスのワルラスであった。彼らは需要分析にとって最も重要な要素として効用を考え，財貨のもつ効用を中心とした理論を確立した。メンガーの理論はボエーム-バベルク・ビーザーのすぐれた門弟によって引き継がれ，彼らはオーストリア学派を形成した。この学派はその後シュンペーター・ミーゼス・ハイエク・ランゲらのウィーン学派と，ウィクセル・カッセル・ミュルダールらのスウェーデン学派に受け継がれた。ワルラスの一派はローザンヌ学派とよばれ，その理論は高弟のパレートに引き継がれている。一方，ジェボンズの影響はマーシャルを経てピグー・ケインズに引き継がれて現在に至っている。これらの後継者はケンブリッジ大学出身者であることから，ケンブリッジ学派とよばれる。彼らは，古典派の伝統を新時代の要求に合うように修正したことから，新古典学派ともよばれている。

⑦歴史学派：1840年代から20世紀の初めにかけて，ドイツを中心として形成された経済学の一派があった。これはリストを先駆者とし，ロッシャー・ヒルデブラント・クニース・シュモラーらの後継者が属する歴史学派である。この学派の思想は，経済現象は時代や国によって異なるから，個々の歴史的研究や統計的調査を主として行なうべきであるという点にあった。

⑧制度学派：歴史学派とほとんど同じ時期に，ドイツの歴史学派の影響を受けてアメリカに制度学派が形成された。19世紀の終わりごろ，アメリカに強力な独占組織が形成され，その結果農民や労働者階級と資本家階級との間の格差が著しくなり，社会矛盾が生ずるようになった。この矛盾を取り上げたのがこの学派である。この学派は主として各種の経済現象の実証的研究を行ない，のちにアメリカがケインズ経済学を取り入れる素地をつくった。ベブレン・コモンズ・ミッチェルの諸学者がこの学派に属している。

⑨ケインズ学派：これら諸学派の流れを取り入れて現代の経済理論の中心をなしているのは，ケインズの流れをくむケインズ学派であるといってよいだろう。ケインズ理論の意義は，価格の伸縮性によって完全雇用を実現しうるという古典学派の理論を否定し，むしろ雇用水準や実質的な国民所得水準が投資や財政支出の増加によって上昇する波及効果を問題にしたことにあった。現実的には，価格はむしろ硬直的であるというのがケインズの考え方である。さらに，貯蓄の増加は利子率の低下を通じて投資を増大させるという従来の考え方も否定され，逆に貯蓄意欲の増大は，それが投資に結びつかなければ，結局有効需要の水準を押し下げることになるという新しい考え方を明らかにしたのであった。なお，ケインズ以後の経済学の発展方向は，経済成長理論を中心とした経済変動理論としての特徴をもつものということができる。〔藤枝省人〕

けいざいきかくちょう【経済企画庁】総合的・長期的経済計画の策定・推進，関係官庁の経済施策に関連する政策の立案・総合的調整，経済動向の分析などを主要な任務とする国の行政機関。総理府の外局。第2次世界大戦後，日本経済再建の総合企画官庁として設置されていた経済安定本部が，1952年(昭和27)経済審議庁として発足したが，1955年現在の名称に改められた。長官には国務大臣があてられる。内部部局としては，長官官房のほかに，調整・国民生活・総合計画・総合開発・水資源・調査の6局，付属機関として経済研究所・経済審議会・国民生活審議会などがあり，毎年経済企画庁が発行する《経済白書》《国民生活白書》は日本経済・国民生活の動向を知る上で貴重な資料となっている。〔寺尾方孝〕

けいざいきょうりょく【経済協力】低開発国に対する経済援助・対外援助とまったく同義に用いられる場合も多いが，発展途上国に対する経済協力は，①資本不足と外貨不足を補うための借款の供与などの資本協力，②技術水準・人的能力の向上を促進し，あるいは技術不足を補うための技術協力，③輸出の増進を通じて外貨不足の緩和と産業発展を図るための貿易を通ずる経済協力に大別できるとして，やや広義に解釈する見解もある。最広義には，国と国との国際経済関係全般にわたるいわゆる経済統合をも含める考え方もある。また，低開発国との関係のみでなく，先進国間その他に対しても経済協力は当然存在するが，南北問題の登場以来，低開発国に対する経済協力が最も重要な課題となっている。→南北問題〔深海博明〕

けいざいきょうりょくかいはつきこう【経済協力開発機構】⇒OECD

けいざいけいさんろん【経済計算論】社会主義経済の合理的運営が可能かどうかに関し，特に価格機構の面から吟味する分析法。社会主義経済では，総労働は社会の欲求に応じ，財貨の生産に配分される。そこでは生産と消費は社会の意識下に置かれ，自由企業体制のように価格の形成を自然にゆだねることはない。このような社会における生産と消費が合理的に営まれているか否かを算定する経済計算論に関して，価格計算の根拠の有無をめぐってミーゼス・ハイエク・ランゲらの間で論争が行なわれた。

けいざいげんそく【経済原則】最小の費用をもって最大の収益をあげようとすること。人間の物質的欲望には限りがないと考えられる。しかし，大部分の財は人間の

欲望に比べてその存在量が希少であり，だれかによって占有されており，これらの経済*財を獲得するためにはなんらかの犠牲を支払わなければならない。したがって，人間は限られた手段をもって最大限の効果をあげるか，あるいは最小限の犠牲において与えられた目的を達成するか，そのいずれかの行動原理をとることになる。これを経済原則という。〔藤枝省人〕

けいざいしゃかいりじかい【経済社会理事会】 国際連*合の主要機関の一。総会のもとに，国連の国際協力の機能を担当する。経済的・社会的・文化的・教育的・衛生的事項，および人権と基本的自由の遵守を助長するための研究・報告を行ない，これを総会・加盟国・専門機関に勧告する。またこれらの事項についての条約案の作成，国際会議の召集，さらに専門機関と連携協定を結んでその活動を調整することなどが任務である。総会において3年の任期で選出される27の理事国で構成される。理事会の継続性を保つために毎年9か国ずつ改選され，再選は許されている。各理事国から1名の代表が選出される。なお，理事会は前記の任務達成のための補助機関として，人権委員会・麻薬委員会とエカフェ(アジア極東経済委員会)などの各地域経済委員会などを設けている。〔広部和也〕

けいざいじゅんかん【経済循環】 国民経済における財・用*役および貨幣の循環。国民経済は家*計と企*業という個別経済から構成されている。まず家計は生産要素の所有者であり，この要素用役を企業に供給して所得を確保する。一方，企業は購入した要素用役を結合して生産物を生産し，これを家計ならびに他の企業に供給する。こうして，家計と企業間には次のような各種の市場が成立する。すなわち，第1は生産要素用役市場であり，各種要素用役を供給しようとする家計とこれら要素用役を需要しようとする企業との間に成立する。第2は消費財市場で，消費*財を供給する企業とそれを需要する家計との間に成立する。第3は資本財市場で，資本*財を供給する企業とそれを需要する企業との間に成立する。第4は消費用役市場で，家計に対して消費用役を供給する家計と，これを需要する家計との間に成立する。これらの市場では，一方に財および用役の流れがあるのに対して，他方にはつねにそれと反対の方向に貨幣の流れがある。こうして，個別経済は市場で相互に結びつきながら，年々循環している。さらに国民経済全体としては，民間部門の経済循環に加えて，公的主体としての政府が存在し，政府・家計・企業の関係，および外国との関係を通じて複雑な循環がなりたっている。〔富田重夫〕

けいざいじん【経済人】 自己の最大の利益を求めて行動する経済主体のこと。ホモ-エコノミストともいう。人間の経済行為は物質的欲望を満たそうとする行動であるが，経済行*為が最小の費用で最大の利益を求める経済原*則に従って行なわれる場合，最も合理的な行動ということができる。イギリスの古典学*派の理論は，経済原則に従って完全に合理的な行動をする経済人を想定し，打ち立てられている。

けいざいせいがく・けいざいどうがく【経済静学・経済動学】 経済分析の方法上の一概念。経済静学と経済動学の区別は経済理論そのものによって決まる。前者は経済分析の中に時間の要素を含まない静止状態あるいは静態における理論である。静態での主要な問題は与件を固定化して経済諸量間の均衡値あるいは究極的な関係を求めることであるが，与件が変化すれば当然均衡値も変わることになる。この場合，ある与件が変化したために均衡値がまえとどのように異なるかを研究することを比較静学という。均衡分析が経済静学のおもな例である。これに対して後者の経済動学は経済諸量が時間の推移に伴ってどのように変化していくか，その変化の経路を研究することをおもな課題としている。したがって，動学では原因・結果の関係や，時のずれ，期待・予想・変化などといった時間を含む経済諸量間の関係を考えることになる。経済の変動過程を分析する景気循環論や経済成長論などは経済動学のおもな例である。〔藤枝省人〕

けいざいせいちょう【経済成長】 ⇨202ページ

けいざいそうごえんじょかいぎ【経済相互援助会議】 ⇨コメコン

けいざいだんたいれんごうかい【経済団体連合会】 略称経団連。〈経済界における各部門の連絡を図り，財政経済に関する内外の諸問題を研究して，経済界の公正なる意見をとりまとめ，その実現に努力し，もって国民経済の自立と健全なる発展を促進することを目的〉とした各種経済団体ならびに財界の連絡および意思結集のための組織。1946年(昭和21)8月に全国商工経済会・全国金融団体協議会・重要産業協議会・日本貿易団体協議会・商工組合中央会によって設立された。業種別団体と法人会員からなり，経済問題にかぎらず，内政・外交問題についての調査研究，財界の意見発表，政府・国会に対する政策建議などを活発に行なっており，財界の総本山とみなされている。〔原　豊〕

けいざいちりがく【経済地理学】 地理学の一分野で，生産・輸送・消費などすべての経済活動ないし経済現象の地域的な差異や類似性，分布や類型を分析し，その展開過程の法則を追求する学問。さらに経済活動の分野ごとに研究対象が細分化されて，工業地理学・農業地理学・交通地理学などと分けることもできる。学者によっては，人間の経済活動における種々の環境の影響を扱い，自然環境と経済現象との関係を研究すると規定したり，また立地論的立場から生産の配置に関する科学だとしたり，あるいは地域性を重視する経済地誌として確立しようとする立場もある。〔大石堪山〕

けいざいどうがく【経済動学】 ⇨経済静学・経済動学

けいざいとうごう【経済統合】 いくつかの独立国が集まって，国境をある程度撤廃し，貿易・生産要素移動の自由化や経済政策の調整・統一などにより一国の範囲を越えて大市場を形成し，経済発展を図ろうとする国際的政策措置。EEC*(ヨーロッパ経済共同体)に代表されるように，特に第2次世界大戦後顕著となった傾向である。統合の形態は，その程度に応じて五つの段階に区分される。①自由貿易地域：域内の数量制限，関税の撤廃による貿易の自由化。②関税同盟：域外共通関税の設定。③共同市場：域内生産要素移動の自由化。④経済同盟：加盟国間における経済政策のある程度の調整・統一。⑤完全経済統合：超国家機関が設立され，加盟諸国が一国化する。そのほかにも，低開発諸国間における経済開発共同体などの特殊な統合形態が考えられる。世界各地域に現存する経済統合の数は多いが，特にヨーロッパにおけるEEC・EFTA(ヨーロッパ自由貿易連*合)，ラテンアメリカにおけるLAFTA(ラテンアメリカ自由貿易連*合)・CACM(中米共同市場)などが注目される。現在までのところ，どの経済統合も地域的に限定されており，域外に対しては差別的，域内に対しては保護的な面が強いが，それが究極的には世界大の統合ないし世界大の自由化に結びつくのか，あるいはこれらの地域経済統合が併存して相互に抗争し合っていくのかということが，大きな問題として残されている。〔深海博明〕

けいざいとうせいほう【経済統制法】 自由放任の市場経済秩序に対して，これを修正し，あるいは新しい秩序をつくりあげるために規制を加える法律の総称。大企業の市場独占を排除するための独占禁止*法や，必然的に独占事業となる電気・ガス・鉄道などの企業の開廃業から価格までも規制する電気事業法・ガス事業法・鉄道営業法などや，米の買い入れ・販売を規制する食糧管理法，物価を統制する物価統制令などがこれである。〔松本治雄〕

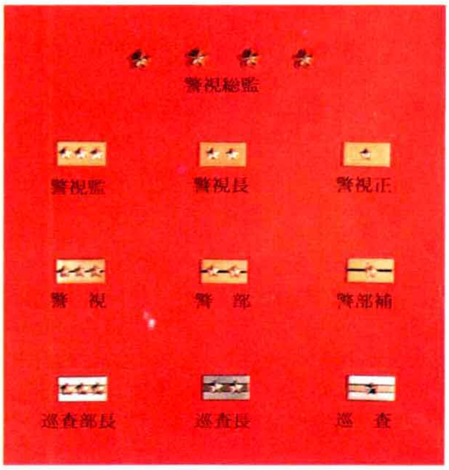
けいざいとうそう【経済闘争】 労働者が，賃金・労働時間その他の労働条件や生活条件などの経済的利益を守り，これを改善していくための労働組合の闘争。経済闘争は，労働運*動の出発点であるが，それは資本主義から生まれる諸結果についてたたかうものであって，その資本と賃労働の基本的関係に立ち向かう闘争ではない。しかし，労働運動は，経済闘争のわくを越えて反体制闘争になる要素をもっている。

けいざいどうゆうかい 【経済同友会】 第2次世界大戦後の日本経済の復興再建を図ろうと，1946年(昭和21)4月に，関東・関西および九州各地の若手中堅経営者有志80名によって設立された経済団体。この団体の目的は，経営技術者として戦後の日本経済の再建に寄与し，各自の経験と知識を国家の経済政策に反映させ，かつ各種経済団体との連絡・協力を密にしていこうとするもので，企業の社会的責任と経営者の役割の重要性が強調されている点が，他の経済団体とはやや異なっている。また，個人加入による会員制をとっている点に特徴がある。経済団体連合会*(経団連)・日本経営者団体連盟(日経連)・日本商工会議所*と並ぶ経済四団体の一。〔原　豊〕

けいざいはくしょ 【経済白書】 毎年1回，年の中ごろに経済企画庁が発表する年次経済報告書。1947年(昭和22)に経済安定本部が《経済現況の分析》を発表して以来，経済審議庁・経済企画庁(1955年以降)によって毎年作成されている。国民経済の立場から，貿易・鉱工業生産・企業活動・建設・交通通信・財政・金融・物価・労働・農業・国民生活などの各分野にわたって1年間の動きを総合的に分析し，今後の経済の動向と経済政策の方向を明らかにしたものである。政府はこのほかに部門別にいろいろな白書を発表しているが，《経済白書》はそれらを総合したもので，政府の経済政策の基調を示すものとして重要である。➔白書　〔藤枝省人〕

けいざいはってんだんかいせつ 【経済発展段階説】 経済生活の歴史を何段階かに時代区分し，普遍的な経済発展の法則を組み立てようとする経済学説。この考え方は古くは古典学派のスミス*にさかのぼることができるが，特に19世紀ドイツの歴史学派*の間で大きく取り上げられた。たとえば，リスト*は国民経済の発展段階を野蛮状態・牧畜状態・農業状態・農工状態・農工商状態に分け，各発展段階でとるべき経済政策も違うことを論じた。他方，マルクス*・エンゲルス*は史的唯物論の立場から経済発展の段階を考え，1930年代にはW. G. ホフマンが消費財対資本財の比率から，また，C. G. クラークは第1次産業・第2次産業・第3次産業という産業別の所得や労働力の構成によって経済発展の段階を考えようとした。

今日大きな影響力をもつ経済発展段階説は，マルクスとエンゲルスの唯物史観に基づく発展段階説とロストウ*の経済成長段階説である。マルクス経済学*では，物的生産力がある水準まで量的に発展すると，従来の生産関係との間に矛盾が生じ，発展した物的生産力に照応した生産様式が成立し，生産様式の変化は上部構造*をも含めた社会変化をもたらし，経済体制は原始共同体社会・奴隷制社会・封建制社会・資本主義社会・社会主義社会・共産主義社会と発展していくという弁証法的発展段階説をとっている。これに対してロストウは，マルクス主義経済学の段階理論に代わるものとして，発展段階を次の5段階に分ける説を提唱した。①伝統的社会：マルクス主義のいう封建制社会までの停滞的社会，②テイク-オフの先行条件期：急速な工業化を準備して中央集権国家が確立され，農業などの生産性が高まり，社会資本投資がなされる社会，③テイク-オフ期：貯蓄率ないし投資率が5〜10%以上となり，新しい工業が急速に発展して先導的部門となり，その利潤の大半が再投資され，着実な成長が可能となる段階，④成熟への前進期：国民所得の10〜20%が着実に投資され，新しい産業が次々と主導的部門となる段階，⑤高度大衆消費時代：社会の関心が生産から消費へ，供給から需要へ，さらに福祉問題へと移る段階。〔加藤　寛〕



警察官の階級章

けいざいひょう 【経済表】 重農主義*の創始者ケネー*が創案した経済循環表。生産階級(農業生産者)・地主階級・不生産階級(商工業者)の三つの階級間の流通・分配関係を媒介として，社会的再生産過程を表示している。大別して，原表(1758)・略表(1762)・範式(1767)の3種類があり，それぞれ基礎表と数種の応用表をもつ。原表は，地主階級の収入が生産的(農業部門)に多く支出されるか不生産的(工業製品)により多く支出されるかによって，全生産物の大小，したがって再生産の規模の大小が規定されることを示そうとしている。これは，農業労働だけを生産的と考えた重農主義の思想を端的に示している。略表は，原表で示された〈分配の結果〉の概要を示そうとしたものである。範式は，原表でできなかった〈社会的資本の再生産過程における全体的連関〉を表示したものである。経済表(特に範式)は，重農主義的な誤りを含んでいたとはいえ，社会的総資本の再生産過程を最初に表示したもので，マルクスの再生産表式*はこれを批判的に摂取して発展させたものといわれている。また，レオンチェフ*の産業連関表*(投入産出表)着想の源泉ともなったといわれる。〔常盤政治〕

けいざいブロック 【経済ブロック】 ⇨ブロック経済

けいざいほう 【経済法】 ⇨経済統制法

けいさく 【警策】 〈きょうさく〉ともいう。僧堂の中で修行者が座禅をするとき，惰気をいましめ，睡気をさますために用いる，扁平(へんぺい)・長方形の棒。長さ約140cm，上幅がやや広く5cmほど。指導の僧はこの策を持って僧堂内を巡り歩き，希望する者は合掌・低頭(ていとう)して策を受け，受け終わってまた鄭重(ていちょう)に合掌・低頭して謝すのを作法とする。早朝の読経(どきょう)や問答の際にも用いられる。

けいさつ 【警察】 ⇨206ページ

けいさつがっこう 【警察学校】 警察官を養成・訓練する学校。都道府県に置かれるものを都道府県警察学校，管区警察局に置かれるものを管区警察学校という。これらの上位に置かれるものが警察大学校である。都道府県警察学校は，新任の警察職員に対し，警察官として必要な教育訓練を行なう初任科(期間1年)を主とし，現職者の再訓練も行なっている。管区警察学校(北海道警察学校高等部を含む)は，原則として警部補以下の幹部職員に対して，幹部として必要な教育・訓練を行なっており，期間は6か月以下が多い。警察大学校は東京都中野区に置かれ，全国の警察職員に対して，上級幹部(警視・警部)として必要な教育・訓練を行なっている。本科・専攻科・専科・研究科・初任幹部科に分かれ，本科は1年で全員入寮制である。そのほか，付属機関として警察通信学校・特別捜査幹部研修所が設けられ，前者については通信職員，後者については捜査幹部の研修が行なわれている。〔井上公耳〕

けいさつかん 【警察官】 警察法2条(警察の責務)に規定する警察権限を行使する国家公務員および地方公務員。他の職員と区別するため制服・警察手帳・拳銃(けんじゅう)・警棒・手錠などが貸与されている。警察官は警察庁警察官と都道府県警察官に分かれており，前者については，原則として一般警察権限がないとされている。警察官の階級は，警視総監・警視監・警視長・警視正・警視・警部・警部補・巡査部長・巡査の9段階に分かれているが，最近巡査部長と巡査の間に巡査長が設けられた。しかしこれは階級でなく職名であるとされている。なお警察庁長官は階級のない警察官であるが，警察法上当然最高の地位にあるものとされている。〔井上公耳〕

けいさつかんしょくむしっこうほう 【警察官職務執行法】 警察官が職務を遂行するための権限・手段を定めた法律。1948年(昭和23)制定。略称警職法。警察法2条の警察責務として，①個人の生命・身体お

➔204ページ

経済成長

ときの経過とともに経済の規模が拡大していくことをいう。成長ということばは,元来,動植物が水・光・食料や肥料などを得て育ち,大きくなっていく現象をさす生物学上の用語である。経済現象においても,長期的には財貨・用役の量的な増加傾向がみられ,この現象があたかも生物学上の成長のようであるところから経済成長とよばれる。通常,一国の経済がある期間に発揮しうる総力の客観的指標として,国民総生産*(略称GNP)という概念が国際的に使用されているが,このGNPの増加率が経済成長率とよばれるものである。ある年のGNPをY_t,その前年のGNPをY_{t-1}とすれば,経済成長G_tは,

$$Gt=\frac{Y_t-Y_{t-1}}{Y_{t-1}}\times 100\ (\%)$$

によって表わされる。

さて,GNPは貨幣表示であるから,物価が上昇すれば成長率も大きくなる。物価の上昇の効果を含んだ成長率を名目成長率という。これに対し,ある年の国民総生産を前年の物価で評価して成長率を計算したものを実質成長率という。すなわち,実質成長率=名目成長率−物価上昇率である。一般に,単に成長率というときは,実質成長率をさす。人口が不変であれば,国民総生産の成長率は人口1人あたりの生産の成長率に等しいが,人口増加のときは両者は一致しない。生活水準が問題になるときには,1人あたりの生産(ないし所得)の成長率が重要になる。これらの間には,1人あたりの生産の成長率=総生産の成長率−人口の増加率の関係が成立する。もし人口増加率が高ければ,総生産の成長があっても1人あたりの生産の成長率は減少する。低開発国の問題はまさにこれである。

〔成長の要因〕経済成長は,一国の生産物に対する総需要と生産能力とが同程度に増大することから起こる。前者が後者より小さければ,生産物の売れ残りが出て不景気になってしまい,生産規模は縮小する。逆に,前者が後者を上回れば,生産資源(資本・労働)の一時的な不足のために後者が前者に追いつかず,ここに物価騰貴(インフレーション*)が生じて実質の成長は十分期待できなくなる。ところで,投資*・消費*・政府支出および海外純投資からなる総需要が十分にあるときは,経済成長の大きさを決めるのはもっぱら生産能力の増大の幅であり,さらに生産能力の増大の主要な要因としては,資本蓄積*,労働力の増加,技術進歩などの要因があげられる。資本蓄積がなされるには,投資需要と貯蓄供給の双方が必要である。この双方が高水準にあれば資本蓄積の水準も高くなる。その結果,第1に資本の限界生産力*はプラスだから生産能力は増大し,第2に,技術進歩は資本蓄積によって実現される場合が多いから,この面からも生産能力は増大する。労働力の増加は,労働人口の増大,個々の労働者の勤労意欲の増大による。労働力が増加すれば,労働の限界生産力はプラスだから生産能力は増大する。技術進歩は,単に科学上の発明ではなく,さらにそれらが企業化されることを意味する。技術進歩は,先見の明をもち,進取の精神をもつ企業家の多寡によって左右される。技術進歩は資本蓄積を伴う場合が多い。技術進歩が大ならば投資も大になるゆえんである。技術進歩は資本と労働の能率を高める結果,生産能力の増大につながる。

〔日本の経済成長〕日本経済の成長がいか

表-1　国民総生産(GNP)および1人あたり国民所得の推移　(単位:GNPは億ドル,1人あたり国民所得はドル)

GNP順位	1950			1955			1960			1965			1969		
	国名	GNP	1人あたり国民所得*	国名	GNP	1人あたり国民所得*	国名	GNP	1人あたり国民所得*	国名	GNP	1人あたり国民所得*	国名	GNP	1人あたり国民所得*
1	アメリカ	2 851	1 582①	アメリカ	3 917	1 961①	アメリカ	5 038	2 294①	アメリカ	6 849	2 900①	アメリカ	9 478	3 814 ①
2	イギリス	370	556⑩	イギリス	535	839⑩	西ドイツ	742	1 079⑩	西ドイツ	1 132	1 512⑧	日本	1 659	1 290 ⑯
3	フランス	274	499⑫	フランス	480	845⑨	イギリス	719	1 117⑨	イギリス	1 001	1 467⑩	西ドイツ	1 629	2 119 ⑥
4	西ドイツ	231	371⑯	西ドイツ	418	637⑮	フランス	604	1 014⑪	フランス	941	1 446⑫	フランス	1 306	1 963 ⑧
5	インド	219		カナダ	268	1 308②	日本	430	356㉓	日本	883	707㉑	イギリス	1 100	1 517 ⑬
6	カナダ	167	969②	日本	246	198㉝									
7	日本	109	123㊲												

注) * 1人あたり国民所得の○内の数字は順位を示す

国際連合《国民所得統計年鑑》(1969)

表-2　日米の付加価値格差

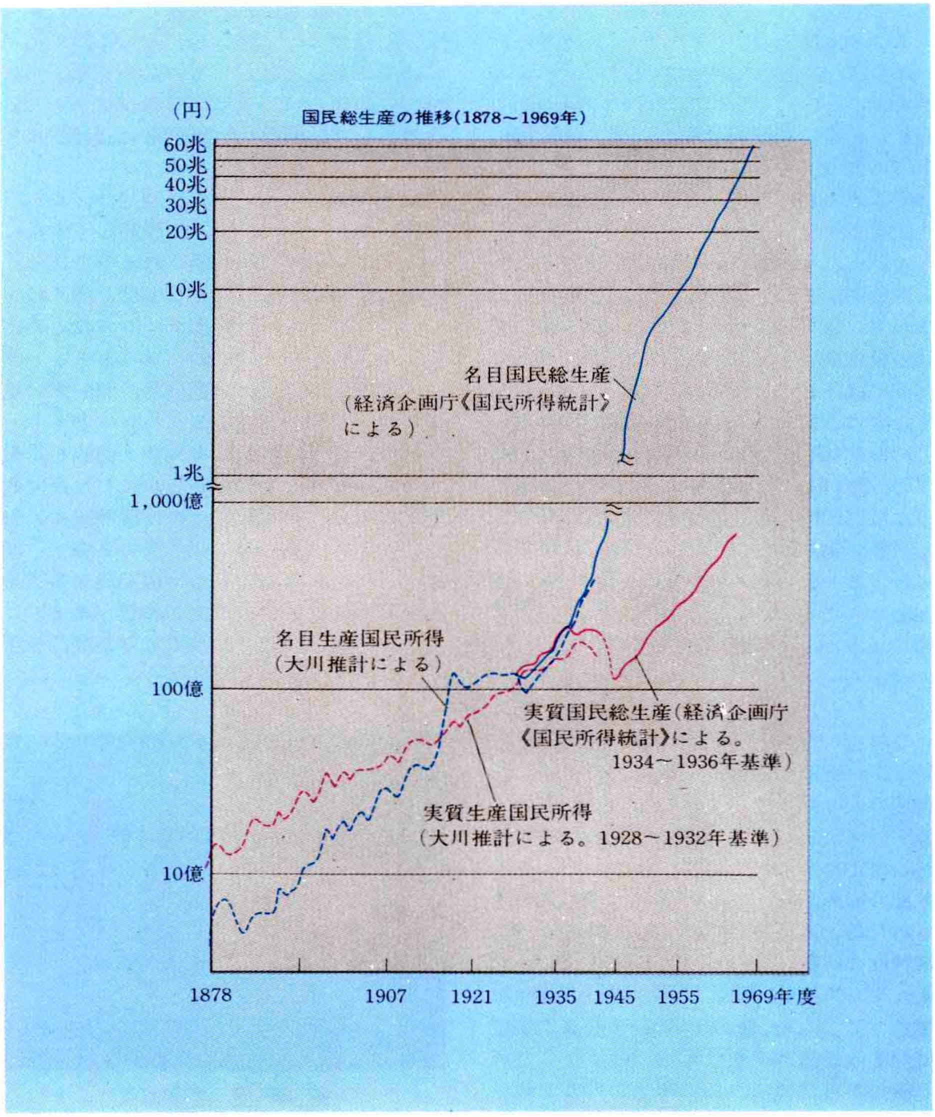
	国民総生産額			就業者数			労働生産性			国民総生産額格差の要因(日本の国民総生産の差を100としたときの比率)				
	①アメリカ(1966)	②日本(1967)	②/①	③アメリカ(1966)	④日本(1967)	④/③	⑤アメリカ(1966)	⑥日本(1967)	⑥/⑤	就業者数による差	生産性格差			両者がともに働いた分
											労働構成	業種生産性	両者がともに働いた分	
	億円	億円	%	千人	千人	%	千円/人	千円/人	%					
全産業	2708 280	453 031	17	79 610	49 200	62	3 402	921	27	12.5	2.5	48.4	3.2	33.4
農林水産業	90 360	42 606	47	4 440	10 360	233	2 036	411	20	△1.1	−	7.5	−	△4.3
鉱業	51 120	4 416	9	570	260	46	8 953	1 698	19	0.2	−	0.8	−	1.0
製造業	786 960	145 141	18	21 020	12 520	60	3 744	1 159	31	4.4	−	14.3	−	9.7
建設業	123 120	30 689	25	4 920	3 590	73	2 500	855	34	0.5	−	2.6	−	1.0
電気・ガス・水道業	62 640	9 650	15	1 100	310	28	5 684	3 113	55	1.1	−	0.4	−	0.9
商業	436 680	72 402	17	18 050	9 430	52	2 420	768	32	3.0	−	6.9	−	6.3
運輸・通信業	169 560	38 170	23	3 800	2 850	75	4 467	1 339	30	0.6	−	4.0	−	1.3
サービス業	987 840	109 957	11	25 710	9 880	38	3 842	1 113	29	7.8	−	12.0	−	19.2

1969年版《経済白書》

に急速なものであったかは，いまや世界周知のことであり，驚異の的となっている。もともと西欧先進諸国に比べて約１世紀も遅れて近代工業化の道を進むことになった日本経済は，明治の初期から今日に至るまできわめて高い成長率を保持し，危惧(きぐ)された高度成長率の鈍化も事実はこれを否定し，いまなお将来に対して強い成長力を持続する傾向にある。

第２次世界大戦前までの平均実質成長率は年率４～５％と推計されているが，戦後，とりわけ1955年(昭和30)までの復興期を過ぎてのちは年率10％を越える成長率を保持している。また，国民総生産の高い成長率とともに，1968年にはその絶対水準もアメリカに次いで自由世界の第２位の座につくことになった。しかし，このような事実にもかかわらず，国民１人あたりの所得となると，1970年現在においてなお16位にあり，アメリカの３分の１ぐらいにすぎない。これは，結局のところ日本における１人あたり生産性の低位によるものであり，これらの諸事実は表－１，表－２に示される。

さて，戦後の日本の成長率が高い理由は，資本蓄積・労働力・技術進歩の３点において有利であったことにある。まず資本蓄積について，日本の投資率が高いのは，新技術が外国から日本に次々に導入され，投資機会が拡大したこと，財閥解体*・農地改革*や労働組合の確立などの結果，所得分配が平等化し，国内市場が拡大して投資機会の存在したこと，さらに，これらを活用する主体的な企業能力の出現があったことなどである。この企業能力の出現は，企業間の激しい競争によって促進・助長された。また，日本の貯蓄率は従来からきわめて高い。これは，法人貯蓄率や政府貯蓄率が高いのに加えて，個人貯蓄率がきわだって高いことによる(可処分所得に対する貯蓄の割合は，アメリカが約10％であるのに対して，日本では約20％である)。次に労働力が豊富であった理由は，農林漁業などの低生産性部門に存在していた労働者を工業などの高生産性部門に活用できたこと，徴兵制度がないこと，また個々の労働者の教育水準が高く，転換能力もあることから，高生産部門への労働力の移行が容易であったことなどをあげることができる。技術進歩が著しかったのは，アメリカなどの先進国からの技術導入が容易であったこと，この技術導入を可能ならしめた激しい企業間の競争や企業能力があったこと，などによる。また，従来とかく急速な景気上昇に伴う輸入の増加，したがって国際収支*の悪化が成長を制約する隘路(あいろ)となっていたことを考えると，最近の輸出の進展，国際収支の好調は，この隘路要因を払拭(ふっしょく)するものとして成長の持続を可能にする要因となっている。



国民総生産の推移(1878～1969)

以上のような諸理由による日本の高度成長は，それがあまりにも急速であるために，かえって望ましくない成長のひずみといわれる諸現象を生じている。それは社会の一方には先進国にまさるとも劣らない近代化された技術と設備をもつ産業あるいは大企業が存在する反面，農業や中小企業にみられるような近代化の遅れが存在し，全体として不均衡な経済を生み出している。さらに，いきすぎた成長が異常な消費者物価の騰貴をもたらし，国民生活に圧迫と支障を与えていることは周知のとおりである。また，社会間接資本の拡充も高度成長に追いつかず，生産の隘路ともなり，また公害問題もその深刻化を増しつつある。今後は，このような不均衡な発展を排除ないし緩和しながら，経済の成長を成し遂げることが必要とされる。

〔経済成長の基本的傾向〕過去の経済史に照らしてみると，およそ経済が成長・発展を遂げる場合，そこに歴史的事実として若干の基本的傾向が存在することが示されている。まず第１に，資本の深化とよばれる傾向がある。すなわち，労働１単位あたりの資本ストックは歴史を通じて増加してきた。もちろんその間に，人口したがって労働力も増加したのであるが，それ以上に急速に資本の蓄積がなされたために，このような資本の深化の傾向が見受けられるのである。第２に以上のような資本の深化によって労働の生産性，つまり労働１単位あたりの生産力は増大し，その結果として労働の賃金率はきわめて顕在的に上昇を遂げたし，また現在も上昇しつづけている。第３の傾向として，資本が労働に比して増大した結果，本来ならば資本の限界生産力は労働のそれに比して低下し，そのために利子率あるいは利潤率の下落があるはずであるのが，事実は減退あるいは増大の傾向を示さず，それがほぼ不変にとどまっている。これはいうまでもなく技術進歩によると考えられる。すなわち技術が一定していれば低

落したであろうところの資本の限界生産力が，技術進歩によって引き上げられ，そのために歴史を通じて不変にとどまりえたのである。第4に，第1の傾向からして，資本・産出高比率，つまり生産物1単位あたり必要な資本量は増大するように推測されるが，これも第3の傾向と同じく，技術進歩によってさしたる変化を伴わなかった。これに対して，生産物1単位あたり必要な労働量は，労働の生産性の逆数であるから，確実に減少を遂げた。第5に，労働の賃金率は上昇し(第2の傾向)，資本の利子率は不変にとどまった(第3の傾向)が，その間に，資本の増加率は労働の増加率を上回った(第1の傾向)から，賃金率×労働量(労働の絶対的分け前)に対する利子率×資本量(資本の絶対的分け前)の比率(資本と労働の相対的分け前という)は，ほぼ不変にとどまった。これを分配率の歴史的不変性とよんでいる。第6の傾向として，貯蓄率つまり所得に対する貯蓄の割合(国民生産に占める投資の割合に等しい)は，景気の上昇局面において増大し，その下降局面において低下したけれども，各景気循環の好況の局面においてほぼ同じ水準にあった。換言すれば貯蓄率(＝投資率)は長期的には一定しているのである。

古来存在する幾多の成長理論は，これらの諸傾向をいかに納得的に説明しうるかによって，その価値が判断されるのである。経済成長に関する理論としては，古くはスミスやリカード，さらにマルクスなどの古典的な理論から，近代のハロッド・ドーマーの理論や，さらに最近の新古典学派*の成長理論などが有名である。ハロッド・ドーマーの理論は，長期的な需要と供給を均衡的に成長させる条件を明らかにした点で画期的であり，新古典学派の成長理論は，労働の完全雇用を一つの均衡条件と考え，成長率を決定するものとして供給側の要因を重視するところに方法上の特徴がある。

なお，経済発展ということばが経済成長に対して用いられることがある。この場合，経済発展というのは，人類の古代社会から現代に至るまでの経済組織あるいは経済体制の変化をも含む，きわめて長期にわたる経済の質的変化を意味する。これに対して経済成長というのは，それが国民所得の増加率を指標としていることに示されるように，ある一つの経済組織を前提として，そのもとでいろいろな経済諸量の傾向的な量的変化をさすのであって，経済発展に対してみれば，より短期の経済の動きをさしている。しかし，いわゆる景気循環・景気変動という概念が景気の一循環の諸局面を問題とするのに比べれば，経済成長は景気の数循環を含む，より長期の問題を考察するものである。かつてドイツの歴史学派*によって提唱された経済発展段階説や，近代のロストウの経済発展の移行過程に新しい視角を取り入れた〈離陸〉の理論などは，上の意味で経済発展の理論に属するものである。

〔富田重夫〕

よび財産の保護，②犯罪の予防，③犯罪の鎮圧，④犯罪の捜査，⑤被疑者の逮捕，⑥交通の取り締まり，⑦その他公安の維持，の7種に限定し，その権限行使の法的根拠として定められた。全文7条で，特に人権尊重の観点から，濫用の禁止(1条)が規定されたほか，職務質問(2条)，保護(3条)，避難などの措置(4条)，犯罪の予防制止(5条)，立ち入り(6条)，武器の使用(7条)を規定する。なお，暴力団犯罪・多数暴力事犯に対する予防制止や少年補導の手段などが不備であるために，1959年第30国会で改正案が上程されたが，不成立に終わった。➔警察

〔井上公正〕

けいさつきどうたい　【警察機動隊】 ⇨機動隊

けいさつきょうりょくしょう　【警察協力章】　警察部外の一般人が，①犯罪の予防・鎮圧または捜査，②被疑者の逮捕，③人命救助，④水火災その他の災害または変事における警戒・防護もしくは救護，⑤そのほか警察または警察職員に対する協力の五つについて特に顕著な功労があると認められた場合に，警察庁長官から授与される記章。

けいさつきんきゅうつうほうでんわ　【警察緊急通報電話】　⇨110番

けいさつくんこうしょう・こうろうしょう　【警察勲功章・功労章】　警察職員として特に抜群の功労があり，一般の模範になると認められた者に対し，警察庁長官より授与される表彰。1969年(昭和44)1月国家公安委員会規則の改正で，新たに設けられた。改正前の警察功労章は1954年の新警察制度発足以来13件贈られているが，いずれも殉職者であった。そこで生存者に対しても授与できるよう，警察功労章の上位に勲功章が設けられた。



警　察　犬　訓練風景

けいさつけん　【警察犬】　警察が犯罪捜査に使役するイヌ。主としてシェパードなどの西洋犬が用いられるが，土佐犬や秋田犬が使われることもある。警察犬の訓練は特別の技能を要するので，民間の警察犬訓練所がこれにあたり，捜査に必要な場合は借りあげて使用している。しかし，最近は都市における自動車の激増と道路の舗装のために警察犬の使用が困難になりつつある。このため，科学的ににおいを分類して識別する方法が研究されている。〔井上公正〕

けいさつこっか　【警察国家】　元来は，中世から近代への過渡期である絶対主義期に成立したヨーロッパ絶対王制国家の別称である。近代国家の前身である絶対主義国家は中央集権国家として成立してきたが，その国家においてはいっさいの行政作用は公共の福祉*や人民の幸福の増大を目的としていると考えられ，警察*の作用に近い意味のものであった。そのため，国家作用としての警察はいかなる法規にも拘束されないと考えられていた。警察国家では，近代国家としての法治国家や夜警国家*とは異なり，国家権力の恣意(しい)性やその強力な発動は正当なものであると考えられていた。しかし今日においては，警察国家は警察が権力者の手先として国民の生活のすみずみまでを監視し，国民の思想や社会運動を弾圧する一種の暗黒政治を意味するものとして用いられている。その意味で，秘密警察が置かれている国は警察国家の典型である。➔恐怖政治

〔西尾孝司〕

けいさつしょ　【警察署】　都道府県警察の警察活動の拠点として，地域住民と密着しながら警察事務を遂行する機関。1874年(明治7)屯所(とんしょ)に始まり，1881年警察署と改称された。各都道府県を区域に分け，各地域ごとに警察行政単位として設置され，その数は全国で約1,200，下部機構として派出所・駐在所がある。警察許可などの申請の窓口でもあり，被疑者の逮補・留置をも行なう。名称・位置は政令の定める基準によって条例*で定められている。通常，警察署長は警視の階級にある警察官であるが，大警察署の署長には警視正をもってあてられている。

〔井上公正〕

けいさつだいがっこう　【警察大学校】 ⇨警察学校

けいさつちょう　【警察庁】　警察法(1954)に基づいて設置された警察行政の中央機関。国家公安委員会*の管理のもとに置かれ，警察事務をつかさどる。その長を警察庁長官とし，国家公安委員会が内閣総理大臣の承認を得て任命する。警察庁は国の公安にかかわる警察運営，緊急事態に対処する計画と実施などをつかさどり，警察教養・警察通信・警察鑑識・犯罪統計および装備に関する事項を統轄する。そのほか警察行政に関

する調整を行なうことを任務として，都道府県警察本部を指揮監督する。内部部局として長官官房および警務・刑事・保安・交通・警備・通信の6局，付属機関として警察大学校・科学警察研究所*・皇宮警察本部が置かれている。地方機関として東北・関東・中部・近畿(きんき)・中国・四国・九州の7管区警察局，ならびに東京都警察通信部・北海道警察通信部がある。〔井上公耳〕

けいさつつうしん【警察通信】 警察庁*が社会の治安維持の目的で行なう有線・無線通信。有線施設としては磁石式・共電式各交換装置はもちろん，文書電送・写真電送その他いっせい指令装置がある。無線施設としては，無線電信・無線模写・全国いっせい放送，中波・短波および超短波による固定または移動無線電話・携帯用無線装置がある。これらの装置は全国的な観点から整備・運用する必要があるため，警察通信については警察庁の所掌事務とされ，警察通信職員はすべて国家公務員とされている。警察庁に通信局が，管区警察局および都道府県警察本部に通信部が置かれている。〔井上公耳〕

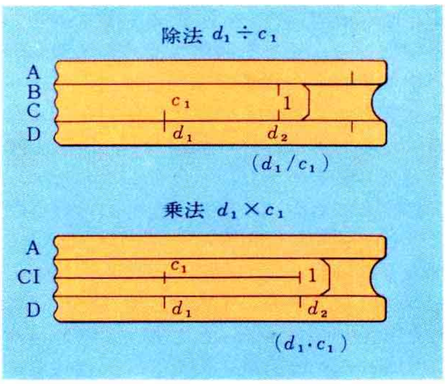
けいさつてちょう【警察手帳】 警察官の身分を証明する証票。警察官が古物商・質屋・キャバレーなどに職務上立ち入る場合や刑事訴訟法*に基づく職務を行なう場合は，相手方にこれを提示しなければならない。縦11cm，横6cmで，手配などの職務上必要な事がらが記載できる。1878年(明治11)に定められ，はじめは黒色であったが，現在はチョコレート色(警視庁では黒色)で，表紙に所属する都道府県警察名を金色で表示している。〔井上公耳〕

けいさん【計算】 定められた規則に従って数や式を処理すること，またはその過程。計算の基礎となるのは，加法・減法・乗法・除法の四則であるが，このほか，開平(平方根を求めること)・開立(立方根を求めること)などがある。計算の方法としては，暗算・珠算・筆算のほか，計算尺・計算図表・計算機を用いる方法などがある。特にコンピューターの著しい発達は，大量の計算を高速度で処理することを可能にし，その記憶機能とあいまって現代社会に大きな役割を果たしている。〔青柳雅計〕

けいさん【珪酸】 オルトケイ酸H_4SiO_4，メタケイ酸H_2SiO_3などの総称。これらは実在する多数のケイ酸塩から類推したもので，遊離のケイ酸として単離確認されたものはない。ケイ酸塩の水溶液には種々のケイ酸が存在すると思われるので，種々の条件によってその水溶液から得られる水和したゲルからケイ酸を単離する試みが古くから数多く行なわれてきたが，一定組成のものを得ることはむずかしい。たとえば四塩化ケイ素を処理して得られるものは，$3SiO_2 \cdot 2H_2O$，$2SiO_2 \cdot H_2O$，$3SiO_2 \cdot H_2O$の混合物といわれているが，X



倪瓚《漁荘秋霽図》1372 上海博物館蔵



計算尺 乗法と除法

線解析のデータもなく，はっきり決められていない。なお，酸化ケイ素SiO_2のことをケイ酸ということがある。➔ケイ酸塩〔三輪誠・玉野秀樹〕

けいざん【恵山】 ヘーサン 朝鮮最北部，両江道の主都。鴨緑江(おうりょっこう)上流の高地の中心都市で，いかだ流しの基地となる。全鮮随一の製材所をもち，家具・機械・亜麻紡績などの工業のほか，楽器類の特産がある。慈江道の中江とともに朝鮮の最寒地で，−42℃(1915)を記録したことがある。寒冷を利用したホップ・ジャガイモ・アマなどの農産物も多い。

げいさん【倪瓚】 (1301〜1374) 中国元末明(みん)初の山水画家。字(あざな)は元鎮，号は雲林。生来，潔癖・狷介(けんかい)な人がらで学問・芸術を愛好し，明初には召請されたが仕官せず，隠逸と放浪のうちに一生を送った。自然に親しみ，禅宗・道教に傾倒したことが作品にも反映し，簡素な描法の中に高い風韻が感じられる。好んで秋林・竹石・山水を描いたが遺品には小品が多い。

けいさんえん【珪酸塩】 ケイ素*は酸素に次いで多量に地殻(ちかく)中に存在する元素であるが，これらは多くの場合，酸化ケイ素SiO_2またはそれと他のものとの化合物の状態で産出する。これらの化合物は人工的にも得られ，天然のもの，人工のものを総称してケイ酸塩という。アルカリ-ケイ酸塩は水に可溶であるが，他のケイ酸塩は不溶のものが多い。天然に産出するチョウ石・カスミ石・カオリン・ウンモ・キ石など多くの岩石はケイ酸塩からなっている。セメント・ガラス・陶磁器や耐火物など，ケイ酸塩を原料あるいは製品とする工業をケイ酸塩工業という。合成ウンモ・合成ゼオライトなどの合成ケイ酸塩工業も近時盛んになっている。➔ケイ酸〔鈴木 篁〕

けいさんしつひりょう【珪酸質肥料】 可溶性のケイ酸を含む肥料。ケイ素*は作物中に比較的多く含まれ，特にイネ科植物に多いが，その生理作用はまだ明確ではない。ただ，水稲の倒伏防止・病害防除の役割を示すので，特に水稲の多収穫の際は大量に施用する必要がある。現在，日本独特の肥料であるケイ酸質肥料は各種の鉱滓(こうさい)を主体とし，ケイ酸石灰またはケイカルともよばれる。有効ケイ酸の含量20%以上，アルカリ度35%以上のものを肥料として扱っている。需要量は1968年(昭和43)では約100万t。〔早瀬達郎〕

けいさんじゃく【計算尺】 数の乗法・除法，平方・開平(平方根を求めること)さらには三角関数や対数などの計算を近似的に速く行なう計算器具の一種。ネピア*の発想になる対数を利用して1620年ごろにはじめてつくられ，その後改良が加えられた。現在のような形になったのは1840年ごろで，わが国に伝わったのは1894年(明治27)ごろである。

〔構造〕二つの固定尺，その間を動くすべり尺，および目盛りを合わせたり読んだりするためのカーソルからなっている。ふつう，固定尺はA尺とD尺とからなり，いずれも対数目盛り(➔対数)がつけられているが，A尺の長さの単位はD尺の2分の1になっているので，A尺の目盛りaとD尺の目盛りdとが合っているとき$\log a = 2\log d$，すなわち，$a = d^2$という関係がある。これを利用すれば平方と平方根を求めることができる。すべり尺は，用途によっていろいろな目盛りのものがあるが，乗除計算に使われるのはB尺・CI尺・C尺のついたものである。B尺・C尺にはそれぞれA尺・D尺と同じ目盛りがつけられ，CI尺にはC尺の目盛りを向きが反対になるようにつけてある。

〔乗除計算〕C尺を動かして，C尺の目盛

➔208ページ

警　　察

〔警察の意味〕 命令強制の方法によって一般国民の自由を制限することを主とする行政作用をいう。警察の目的は，社会公共の秩序を維持し，これを脅威する危害を鎮圧または予防しようとするところにある。積極的に国民の福利を増進し，社会文化の向上または経済生活の進歩を図るためにする行政は，命令強制の手段が用いられても警察作用に属しない。もとより，社会公共の福利を増進する作用と社会の危害を防止する作用とは相表裏するものといえよう。たとえば，国民の健康を増進するための施設は，第2次的には疾病(しっぺい)による危害を防止する作用に役だち，これと反対に，伝染病予防のための警察作用は一般国民の健康保持の基礎をなすものである。ここにおいて警察作用は，積極的な福利増進のための作用と並んで同一の対象に対して行なわれる場合が多いのである。道路または河川に対してなされる管理作用と警察作用は，併存して施行されるのである。

警察の任務は社会公共の秩序を維持することにある。この点から警察は，純然たる法律秩序(公法秩序を含む)の保持を目的とする民事裁判作用，すでに発生した犯罪に対する科刑を中心とする刑事裁判作用，社会目的ではなく外敵に対して国家の存在を防御することを目的とする国防作用などと区別される。警察の対象は人の作為・不作為*を主とする。社会公共の障害はこのような人の行動によって生ずることが多いからである。しかし，社会公共の障害は必ずしも人の行動によってのみ生ずるものではなく，震災・水災その他の自然界のできごとによっても同様の状態を生じることがある。この場合，警察はその原因に対して干与できないが，その結果として生ずる社会公共の障害をなるべく少なくするために作用するのである。社会公共の障害が人の行動によって招来される場合における公の秩序の意味は社会における人の行為規範であり，狭い意味の法秩序に限定されない。ただ，社会公共の秩序の障害は違法行為，特に犯罪行為によって起こされることが多いので，警察は犯罪行為を対象とする刑事作用と密接な関係を有するに至るのである。理論上，犯罪の発生を防止する作用は警察に属し，すでに行なわれた犯罪に対して行為者を捜査・逮捕し，これを処刑するのは刑事作為に属するものというべきであるが，実定法*上犯罪人の捜査・逮捕は警察が行なっている。この場合，刑事作用の一部が警察機関によって行なわれることになるが，法律上これを司法警察*と称し，一般の警察(→行政警察)と区別している。

警察は命令強制の方法により国民の自由を制限することをその作用の中心とする点において，権利の付与または制限を基礎とする経済行政の作用とは性質が異なる。警察許可の一種である営業許可のごときは営業権の基礎をなすのであるが，これは警察作用の間接的効果にすぎない。

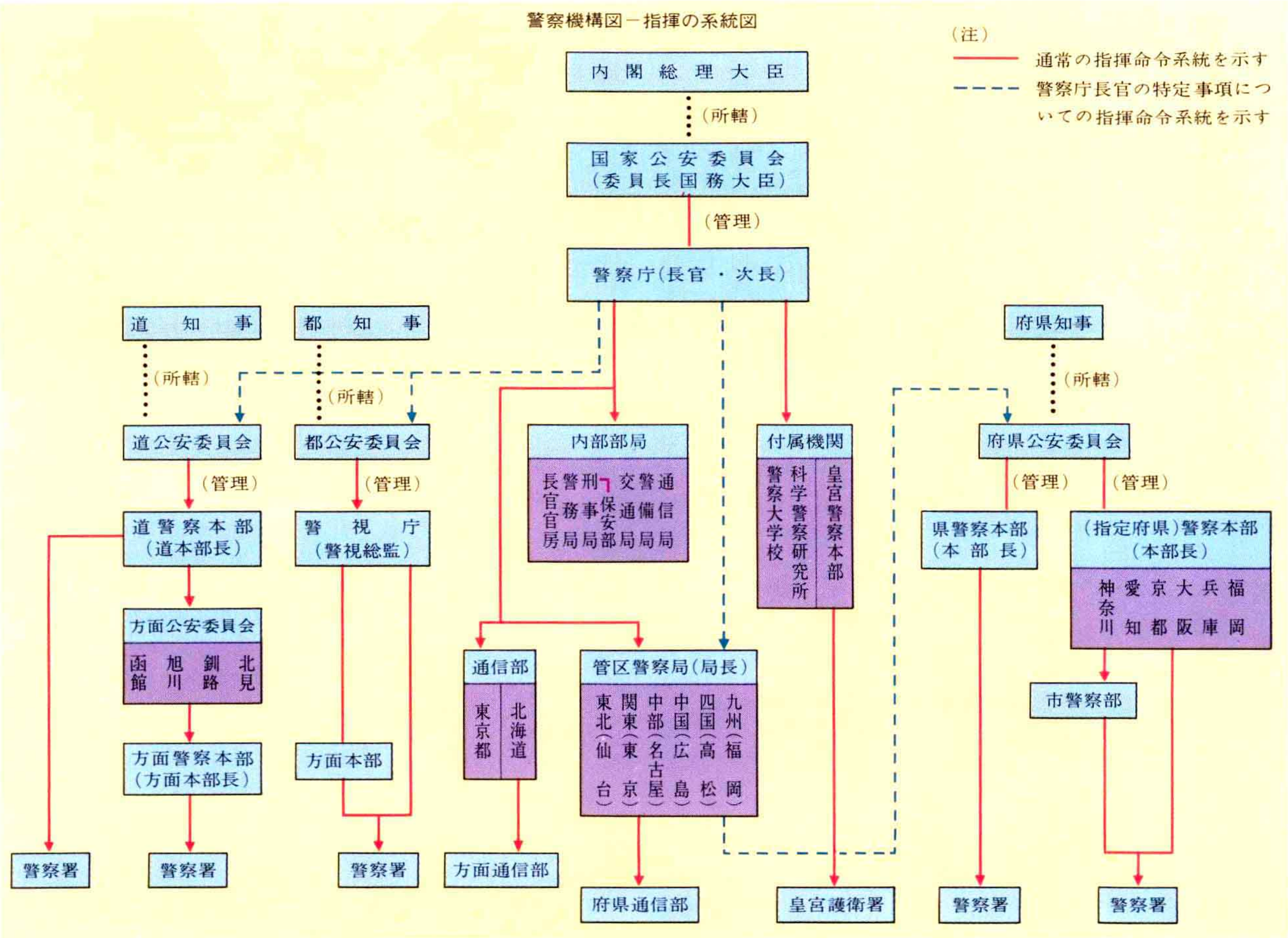
〔警察の変遷〕 警察作用の目的である社会公共の秩序の維持は，国防とともに国家の存続に欠くことができない第一義的作用ということができる。国家の構造が単純で，国家の作用が国内秩序にのみ注がれていた時代の国家を夜警国家*といい，警察その他の権力が国会を通じて国民を統制した国家を警察国家*とよんでいる。どの国家も，このような時代を経て法治国家(→法治主義)，さらには福祉国家へと発展してきた。しかし，同じ法治国家であっても，警察のあり方が時代によって異なることは免れない。警察は国家権力を中心とする作用であるから，国家権力に対抗する民主的勢力が強くなれば，警察の権力は縮小せざるをえないのである。こうした制度の著しい変遷を経たのがわが国の警察であった。

〔第2次世界大戦前のわが国の警察〕 戦前のわが国の警察は民衆のための警察ではなく，時の権力者に奉仕する警察であり，時の権力者は警察を利用して言論・集会の自由や思想の自由までも圧迫したのであった。警察がこのように国民に圧力を加えたのは，わが国における警察力が必要以上に強力なものであったからにほかならない。なにゆえにわが国の警察力が他の行政部門に比して強力な作用をなしていたかといえば，それは主として次の2点にあったものと思われる。その第1点は，警察に与えられた手段が強力であったことで，それは次の二つの面に表われていた。一つは法令の手段であって，明治憲法9条により警察命令は法律によらずして勅令*によって国民の権利・義務に関係ある事項を規律しえたのであった。もう一つは，警察が法令を執行しあるいは秩序を維持するための具体的手段として，各種の実力施行の方法を認められていたことである(行政執行法〔明治33年法律84号，昭和23年6月13日失効〕)。第2点は，警察組織が官僚的かつ強靭(きょうじん)で，さらに極度に中央集権的であったことである。集団が強力な力を行使するためには上命下従の徹底した組織が必要であるが，警察も特殊の身分をもつ官吏からなり，軍隊に類似した組織をもっていた。さらに警察権の所属についても，他国にはみられないほど中央集権主義で貫かれており，また，自治体はなんら警察権をもたなかった。

〔警察法の制定〕 戦前，わが国における警察が強力なものであっただけに，戦後の占領下においては，それが侵略戦争の推進力であったという誤解を受け，徹底的な弱体化が企図されたのである。この企図は，消極的には行政執行法の廃止，積極的には占領軍の指導による警察法(昭和23年法律196号。以下これを旧警察法と称する)の制定となって実現した。旧警察法は，現行憲法や教育基本法の例にならい，その基礎理念を明らかにした前文を設けていた。前文は，警察の終局の目的をもって〈個人と社会の責任の自覚を通じて人間の尊厳を最高度に確保し，個人の権利と自由を保護する〉にあるものとしたほか，地方自治の真義を推進し，民主的権威の組織をもって警察組織の中心理念とすべきことを定めていた。このような理念により，旧警察法は都市的市町村を単位とする自治体警察を運営の中心とする地方分権的警察と，公安委員会*を頂点とする警察の民主的改組を断行した。

〔警察の責務〕 現行警察法(昭和29年法律162号)は，警察の責務を〈個人の生命，身体及び財産の保護に任じ，犯罪の予防，鎮圧及び捜査，被疑者の逮捕，交通の取締その他公共の安全と秩序の維持に当ること〉(2条)にあるとする。〈警察の責務〉の意味は必ずしも明らかではないが，法学的にみれば実定法における警察の観念を明らかにしたものをいい，また内容的にみれば警察の消極性を明示し，さらに現行の警察が行政警察だけでなく司法警察をも包含している点が注目される。また同法が〈警察の活動は厳格に前項の範囲に限られるべきものであって(中略)いやしくも日本国憲法の保障する個人の権利及び自由の干渉にわたる等その権限を濫用することがあってはならない〉(2条2項)と規定したのも警察権行使の態度あるいはその限界を示すものといえよう。警察権の限界といえば，強権を誇った明治憲法時代においても，警察権に対する条理上の限界は，一般に学説として承認されただけでなく，立法および判例でもある程度容認されていたのであった。この限界は，警察がその作用の性質上臨機の措置をとる必要があるところから，また職権の行使にあたって認められる裁量権の範囲が広いことから，その裁量権について論じられたものである。その内容には，私生活不干与の原則，民事関係不干与の原則，比例の原則，警察責任の原則がこれに属する。この条理は，警察の作用の本質が変わらない以上今日でも妥当するものと思われる。

〔現行の警察組織〕 旧警察法は，市町村単位(市および人口5,000以上の市街的町村)の警察力を主力とするという極度に地方分権化した警察組織を創設したが，やがて当時の治安状態を顧みて改組が問題となり，町村は住民投票によって警察隊の保持を放棄し，国家警察にこれを任せる道を開くなどの措置が講じられた。そして，1954年には



第19国会において会期終了まぎわで出現した変則議決により，全面改正が行なわれることになった。現行警察法は旧警察法を全面的に改正したもので，まず，前文が削られ，法律の目的，警察の任務（責務），および服務の宣誓の3条からなる総則が置かれている。これらの規定の内容として注目すべきは，旧警察法が警察の地方分権を一つの指導理念としたのに反し，現行警察法はこれを明示せず，これに代えて能率的に任務を遂行することを警察組織の重要な要点として取り上げ，他方において警察の活動が厳格に法律の定める責務の範囲に限らるべきであると警告し，同時にその権限を行使するにあたっては，不偏不党・公平中正を旨とすべきことを強調している（2条2項）。現行警察法の内容上の特色を一言にしていえば，自治体警察および国家地方警察（国家警察）からなる二本建ての制度を廃して都道府県警察一本に統一し，これに多分に国家的性格を与え，またこれに少なからぬ国家の干与を認めるとともに，他面では警察に民主的性格を保持させるため，旧警察法と同様一般の官庁組織によらず，多少の改正を施して公安委員会制度を保存したことにあるといえよう。

【警察に関する国家機構】現行警察法は警察に対して国家的性格を付与することに重点を置くので，旧警察法に比して，これに関する国家機構は著しく強化されている。警察の中央機構の中枢をなすものは総理府の外局である国家公安委員会（→公安委員会）であり，その管理のもとに警察庁*が置かれている。

【都道府県警察】現行警察法は，市町村警察はもちろん，国家地方警察をも廃止して，都道府県警察に一本化した。この法律にいう都道府県警察は自治体警察といわれている。それは，都道府県警察が実働部隊をもち，それぞれの区域について警察の責務に任じ，その経費は当該都道府県が原則としてこれを支弁するからである。しかしこの警察は，国の治安にかかる事案の処理など警察の所掌事項について警察庁長官の指揮監察を受ける点などにおいて，多分に国家警察的性格を備えるものといえよう。都道府県警察は都道府県公安委員会がこれを管理し，この管理のもとに執行機関として道府県警察本部（東京都は警視庁*）が置かれる。現行制度における警察の主力をなすものは都道府県であるから，警察の国家的性格を濃化する政策に基づいて国家のこれに対する統制は相当強化されている。すなわち，執行機関の長である道府県本部長は国家公務員であり，国家公安委員会が道府県公安委員会の同意を得てこれを任免すること（首都警察の長である警視総監は国家公安委員会が都公安委員会の同意を得たうえで，内閣総理大臣の承認を得て任免する），高級職員である警視正以上の階級にある職員は国家公務員であること，その他の職員は身分は地方公務員であるが警察官の職名で統一され，また全国的に統一した階級制が敷かれているなどの事項は，人の面を通じての統制を示すものである。このように都道府県警察は多分に国家的性格を与えられながらも，いちおう独立した自治体警察であるたてまえをとっているから，都道府県の区域を越えて活動を必要とされる警察作用の本旨に顧みて，相互の関係を円滑にして警察権の発動を能率的なものとしなければならない。このため法律のとった措置は，都道府県警

察相互の援助要求（警察法60条）と管轄区域外における権限行使（警察法61条）である。

〔緊急事態の特別措置〕旧警察法では極度に地方分権化した警察制度を採用したので，警察力がとみに弱体化したため，騒乱その他緊急事態に対処する措置を必要とした。自治体警察制を基調としながらも，これに国家的性格を加えた現行制度の下においてもこの制度を継承している。緊急事態に処する特別措置の内容は，一言にしていえば緊急事態の鎮圧のために公安委員会による警察の民主的運営方式を停止し，一時的にわが国の全部または一部の警察を，内閣総理大臣およびその下にある警察庁の総統制下に置こうとするものである。その手続きは内閣総理大臣が〈大規模な災害又は騒乱その他の緊急事態に際して，治安の維持のため特に必要があると認めるとき〉に国家公安委員会の勧告に基づき，全国または一部の区域について緊急事態の布告をなすことに始まる。この布告は明治憲法時代の*戒厳の宣告にも比すべきものであり，布告が発せられると総理大臣はその緊急事態を収拾させるため必要な限度において，国家公安委員会を経ないで直接に警察庁長官を指揮監督できるのである。特別措置はこのような重大な事態に処する方式であるから，旧警察法時代以来まだ現実には施行されたことはない。

〔警察の手段〕従来警察に対し，一般国民に対する身体的拘束，防御上の制限をなす権限を与えた行政執行法は廃止されたが，警察官が警察法によって示された新たな警察の責務，すなわち〈国民の生命，および身体財産の保護〉や〈犯罪の予防，公共の維持〉および法令の執行などの職務を忠実に遂行するためには，ある程度の実力を施行することを許されなければならない。この見地から*警察官職務執行法（昭和23年法律136号，略称警職法）が制定されたのである。警職法により警察に与えられた手段は次のとおりである。①質問および同行要求：警察官は，異常な挙動その他周囲の事情から合理的に判断して，なんらかの犯罪を犯し，あるいは犯そうとしていると疑うに足る者などを停止させて質問できる。これは従来の不審尋問であるが，要件はきわめて厳重である。ただし，もしその場で質問することが本人に不利であるなどにおいては，派出所などに同行を求めることができる。②保護：警察官は，異常な挙動その他周囲の事情から合理的に判断して，精神錯乱または泥酔（でいすい）のため自己または他人の生命・身体または財産の危害を及ぼすおそれのある者，などを救護施設その他適当な場所に連れて行き，保護しなければならない。従来の保護検束に類するが，要件は厳重で事後の措置を濫用できないよう規定が設けられている。③避難などの措置：天災・火災などの場合，危険な事態があるときに処する人命救助などと関連する権限。④危険な行為の制止：警察官は犯罪がまさに行なわれようとするのを認めたときは，その予防のため関係者に必要な警告を発し，またもしその行為により人の生命，もしくは身体に危険が及び，または財産に重大な損害を受けるおそれがあり，急を要する場合においてはその行為を制止することができる。⑤立ち入り：警察官は人命・身体または財産に対し危害が切迫した場合において，その危害の予防，被害者救助などのため，やむをえないと認めたときは，他人の土地・建物または船車の中に立ち入ることができる。⑥武器の使用：警察官による実力施用の手段として最も強力なものは，いうまでもなく武器の使用である。戦前でも武器の使用については武器使用規定において厳重に制限されていたが，警職法はいっそうこれを制限したのである。すなわち，犯人の逮捕もしくは逃走の防止，自己または他人に対する防護，または公務執行に対する抵抗を抑止するため必要であると認める相当の理由のある場合において，その事態に応じて合理的と判断させる限度においてのみ武器の使用が許される。また発砲して人に危害を与えることが許されるのは刑法における*正当防衛および*緊急避難のほか，職務執行に際し抵抗を受け，その目的を達するのに他に手段がない場合に限られる。

以上の限度において，警職法は警察官に実力施用の手段を与えているが，濫用のおそれがないともいえないので，特に規定を設け，その濫用を戒めている（1条2項）。なお，警職法は，無類の弾圧法といわれた行政執行法の欠陥を是正する意味をもつだけに，警察権行使に際して認められる権力は弱く，現下の治安状況にかんがみ警察官の側からみれば，その機能を十分に発揮できないといわれるに至った。この見地から政府は，1958年の第30臨時国会で，これに対する改正案を提出したが，世論の激しい批難を加えられ撤回のやむなきに至った。

〔杉村章三郎〕

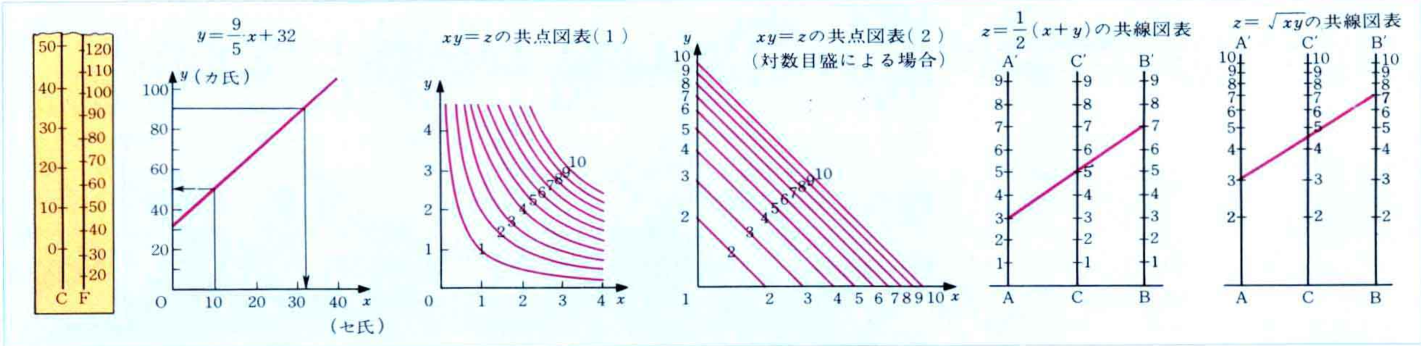
りc_1，c_2とD尺の目盛りd_1，d_2とがそれぞれ合ったとすれば，$\log c_2-\log c_1=\log d_2-\log d_1$で，したがって$c_2/c_1=d_2/d_1$すなわち$d_1/c_1=d_2/c_2$の関係がある。よって，$c_2=1$とすれば，$d_1/c_1=d_2$となる。実際に$d_1\div c_1$の除法を行なうには被除数$d_1$をD尺上にとり，C尺上の除数$c_1$をそれに合わせると，C尺の1に合うD尺の目盛り$d_2$が$d_1\div c_1$の商となる。乗法も，C尺とD尺を使って除法の逆として行なうこともできるが，最近では乗法にはCI尺とD尺を使うのが普通である。CI尺を動かして，CI尺の目盛りc_1，c_2とD尺の目盛りd_1，d_2とがそれぞれ合ったとすれば，$\log c_1-\log c_2=\log d_2-\log d_1$で，したがって$c_1/c_2=d_2/d_1$すなわち$c_1d_1=c_2d_2$の関係がある。よって，$c_2=1$とすれば，$d_1c_1=d_2$となる。実際に$d_1\times c_1$の乗法を行なうには，被乗数$d_1$をD尺上にとってCI尺上の乗数$c_1$をそれに合わせると，CI尺上の1に合うD尺の目盛りd_2が$d_1\times c_1$の積になる。〔菊池兵一〕

けいざんじょうきん【瑩山紹瑾】（1268～1325）鎌倉時代の曹洞宗（そうとうしゅう）の僧。*総持寺開山。おくり名は仏慈禅師・常済大師。越前（えちぜん）（福井県）の人。はじめ永平寺2世の*孤雲懐弉（えじょう）のもとで受戒し，のち臨済禅の人を尋ねたが，さらに永平寺3世*徹通義介の法を継いで，阿波（あわ）（徳島県）城満寺を開いた。さらに加賀（石川県）大乗寺の2世となり，のち能登（のと）の永光寺と総持寺を開いた。後醍醐（ごだいご）天皇の帰依を受け，*明峰素哲・*峨山韶碩（がさんじょうせき）をはじめとするすぐれた門人を輩出し，曹洞宗発展の基礎を築いた。著書《伝光録》ほか。〔田中良昭〕

けいさんずひょう【計算図表】 いろいろな計算を手軽に行なうための図表。最も簡単なものはセ氏とカ氏の目盛りが並行して刻んである温度計にみられ，この二重目盛りによって一方の値からそれに対応する他方の値の近似値が読み取れる。セ氏からカ氏への換算式$y=\frac{9}{5}x+32$のように，2変数の関係をグラフに表わすことによっても，計算図表が得られる。なお，換算などの計算に役だてるこのようなしくみを〈背合わせ尺〉という。

〔共点図表〕3変数についての計算図表の一つに共点図表がある。たとえば，$xy=z$の関係は，zのいろいろな値に対応して定まるx，yの関係をグラフに表わしてつくった直角双曲線の集合で表わされる。このとき，上の関係を満たすx，y，zの値の組は一つの双曲線と両軸に平行な2直線とが1点に会する点として求められるので，この直角双曲線の集合を$xy=z$の共点図表とよんでいる。一般に，3変数の共点図表は1変数のいろいろな値に対応して定まる他の2変数の関係をグラフに表わしてつくった曲線の集合からなる。また，上例の関係$xy=z$は，$\log x+\log y=\log z$と書き換えられるから，$\log x=X$，$\log y=Y$と置けば$X+Y=\log z$となる。したがって，両座標軸に対数目盛り（→対数）を目盛った全対数方眼紙を使えば，zのいろいろな値に対して傾きが-1の直線の集合に置き換えられる。

〔共線図表〕3変数の計算図表には，共点図表のほかに平行線の性質を利用した共線図表がある。いま，CをABの中点とし，AA′//BB′//CC′とするとき，一直線lがこ



計算図表

れらの直線と交わる点をそれぞれX，Y，Zとすると，AX＋BY＝2CZとなる。したがって，A，B，Cを始点にして同じ等分目盛りを3本の平行線につければ，一直線 l によって切られる3個の目盛りx，y，zの間には$x+y=2z$ という関係がなりたつ。このようにしてつくられた3本の平行線は $z=\frac{1}{2}(x+y)$すなわち2数x,yの相加平均を計算する共線図表である。この場合，3本の平行線に同じ対数目盛りをつければ，$\log x+\log y=2\log z$すなわち $z=\sqrt{xy}$ となるから，2数x,yの幾何平均*を計算する共線図表が得られる。また，CC′上の長さの単位を他の2直線の2分の1にして3直線に対数目盛りをつければ $z=xy$となるから，2数x，y の積を計算する共線図表が得られる。共線図表はノモグラムともいわれ，上例のほかに平行線間の距離をいろいろに変えたものや交わる3直線を利用するものなどがある。〔菊池兵一〕

けいさんナトリウム　【珪酸ナトリウム】
⇨水ガラス

けいさんほうそく　【計算法則】　計算*の基本的法則。ふつう，交換・結合・分配の3法則をさす。

加法の交換法則　$a+b=b+a$
乗法の交換法則　$ab=ba$
加法の結合法則　$(a+b)+c=a+(b+c)$
乗法の結合法則　$(ab)c=a(bc)$
分配法則　$a(b+c)=ab+ac$

普通は，a，b，c は数である場合についていうが，一般的にa，b，cが数でない集合の元で，演算が加法・乗法以外の演算である場合にも，同じ形の式で示される法則は上記の名でよばれる。〔青柳雅計〕

けいじ　【刑事】　①殺人罪・窃盗罪・行政犯など，その行為自体が反社会的・反道徳的とされる犯罪。民事*の対語。②私服で事件捜査をする専門の警察官，または捜査を専門とする刑事警察官の通称。明治初年の警察制度創設期には，各府県庁で探索方・取調方・捕亡吏などまちまちの名称でよばれていたが，やがて探偵(たんてい)に変わり，明治中期ころから刑事の語が使われるようになった。第2次世界大戦前は私服の捜査部長(デカ長)，巡査(デカ)を刑事と称したが，現在では捜査主任(警部・警部補)を含めて刑事とよんでいる。〔井上公耳〕

けいじ　【啓示】　神が人間に対して自己を示すこと。啓示宗教といわれるユダヤ教・キリスト教・イスラム教に広くみられるが，特にキリスト教では，神による世の創造の業(わざ)のような自然的啓示と，神の子イエス-キリストにおける特殊啓示(超自然的啓示)とに分けられる。なお,カトリックでは〈天啓〉という。

けいしきしゃかいがく　【形式社会学】　創始者はジンメル*。ウィーゼ*らによって発展させられた。初期の社会学，すなわち19世紀的総合社会学を批判し，あたかも幾何学が点・線・面によって構成されるように，上下関係・闘争・分業などの社会化の形式を対象とし，より厳密な特殊個別科学として社会学を確立しようとした。社会科学の専門化や理論的精緻(せいち)化の傾向と軌を一にするものである。しかし，のちに文化社会学*によってその非歴史的・非現実的性格が徹底的に批判された。〔国近浩一〕

けいしきしゅぎ　【形式主義】　一般に内容よりも形式を重視し，そこからものごとを考える立場または態度をいう。①哲学では，客観的な認識の妥当性を内容(経験)よりも先天的な形式(時間・空間・カテゴリー)に求めたカントの立場，さらには新カント派，特にリッケルトの哲学がこうよばれる。②倫理学では，道徳の根拠を実践理性によりうちたてられた無内容で形式的な道徳法則(定言命法)に求めるカントの立場をいう。③美学では，美の原理を感覚要素の結合関係にのみ求めるヘルバルトらの立場がこれにあたる。④数学基礎論では，直観主義・論理主義に対する立場。ヒルベルトに始まり，有限の立場(仮定的なものを入れず,具体的な対象について推論する立場)に立って，数学の本質をその体系の形式上の無矛盾性に求める立場。〔寺中平治〕

けいしき・ないよう　【形式・内容】　一般に形式は，空間的対象の場合は物の形を，思考の対象の場合は対象の各部分を，概念で秩序づけて一つの全体に統一する。外的形式は内的形式(構造)の表現である。内容は形式によって一つの全体に結合された多様なものである。美学では，内容は表現されるもの，形式はこれを表現するものであるが，芸術作品は両者の統一体であり，両者の相即不離の統一により成立する。アリストテレスやスコラ哲学の形而上(けいじじょう)学や自然哲学では，形式(形相*)は素材(質料*)に対して内的本質であり，外的形式の原因である。アリストテレスでは形相は物の完成態の原因となり，ストア派では種子的ロゴスは質料を統一する働き，またプロチノスでは内的形相は内的形成力となる。カントでは感覚に与えられる現象の多様なものが質料であり，これを総合統一する先天的なもの(直観形式つまり空間・時間とカテゴリー*)が形式である。マルクスは内容(生産力)が形式(生産方法)を決定するとする。しかし，形式と内容は同一事実の矛盾的表現であろう。〔中川　誠〕

けいしきはん　【形式犯】　実質犯*(結果犯)に対する用語で,実際に法益を侵害する結果が生じたり，また危険が発生しなくてもそれだけで犯罪となる行為。純正挙動犯ともいう。住居侵入罪*などがこれにあたる。

けいしきろんりがく　【形式論理学】　思考の意味内容を抽象して，その形式のみを取り扱う論理学。アリストテレスによって基礎を置かれ，ストア派を経て，中世のスコラ哲学の完成とともに体系的に整備された。これは伝統的形式論理学とよばれる。19世紀になって急速に発達してきた記号論理学*は思考の形式化をさらに徹底させたものであり，形式論理学の新しい形態であるといえる。ここで形式というのは，その中に一つ以上の変項(任意に代入可能な文字記号)を含む言語的形式であって,それになんらかの内容を代入することにより真または偽の命題を構成しうるようなもの，いいかえれば，命題のすべての可変的な要素を適当な記号で置き換えることによって得られる言語的わく組みといえる。たとえば〈すべての人間は動物である〉は，〈人間〉と〈動物〉を〈ダイヤモンド〉と〈宝石〉に置き換えると,〈すべてのダイヤモンドは宝石である〉という異なった命題になるが,その形式は不変である。それは〈すべてのSはPである〉と表わされる。問題になるのは個々の命

題の意味や真偽ではなく，その形式の構造である。したがって，命題の組織的集合である推理もこのような形式相互の関係においてのみ取り上げられる。たとえば〈すべての人間は動物である。ゆえにある動物は人間である〉は，それが〈すべてのＳはＰである〉と〈あるＰはＳである〉という二つの形式を正しく関係づけるものかどうかという点からのみ考察される。そして，このような形式がいかなる規則に従って組み合わされるとき妥当な推理が構成されるかを研究するのが，形式論理学の中心課題である。

〔石倉恒之〕

けいじさいばん　【刑事裁判】　刑事事件について，裁判所が法令の適用による判断によって事件を解決することをいう。刑事裁判をする権限は国家に独占的に帰属し，裁判所がこの権限を行使するよう憲法が定めている。刑法は犯罪と刑罰を定めているが，刑法だけではどのようにして事件を裁判するのか手続きが不明である。そこで，刑法を実現するために刑事裁判の手続きを定めた法令が必要となる。それが刑事訴訟法*であり，刑事訴訟規則である。

〔内田剛弘〕

けいじじょうかいが　【形而上絵画】　イタリア現代絵画の一流派。キリコ*が1910年から創始し，キリコがパリからイタリアに帰った1915年からカッラ*，少し遅れてモランディ*らにより流派として展開した。ほぼ同じ時期の未来派のダイナミズムに対する一つの反動ともみられる。キリコ自身がその作品を〈メタフィジカルな絵画〉と称したが，ドイツ-ローマン派やニーチェ・ショーペンハウアー・ワイニンガーらの刺激を受け，キュービスム*が否定した遠近法を固執し，孤独な隔絶された事物を精確に描写し，白日夢を思わせる時間が停止したような，幻覚と憂愁に満ちた神秘的な世界を追求し，シュルレアリスム*などの現代絵画に大きな影響を与えた。キリコの弟サボイは〈造形的な限界内における精神性の全的表現，すなわち事物の幻影的側面を表現する能力，つまりアイロニーである〉と述べている。

〔三木多聞〕

けいじじょうがく　【形而上学】　存在の普遍的原理を追究する学であり，存在するものやできごとについての究極の関係を問う学である。原語名〈メタフィシカ〉は，アリストテレス*の著作を編集する際に，ロドスのアンドロニコス（ＢＣ70年ごろ）が〈第一哲学〉を扱った著作を〈自然学のあとに（メタ-タ-フィシカ）〉置いたことに由来する。この〈あとに（メタ）〉がのちのスコラ哲学で〈越えて（トランス）〉の意味に転化され，自然的なものを越えて，その背後にあるものの学を意味するに至った。アリストテレスは第一哲学を〈第１の原因および原理の学〉と定義した。新プラトン主義者は形而上学の対象を，〈自然を越えたもの〉または自然の原因として〈自然の背後にあるもの〉，本来の現実であると考えた。したがって，形而上学は存在の究極の根拠，存在の本質と意味の学となる。形而上学は，①存在するものとしての存在するもの，つまり存在一般の学（→存在論），②世界の本質の学（宇宙論），③人間ごとに霊魂の学（哲学的人間学），④神の実存と本質の学（神学），⑤自由論に分かれる。形而上学は世界観の核心をなすものであり，また種々の世界観があることは，世界観の根拠が形而上学の諸問題の種々の解決方法に依存していることを示している。逆に形而上学の諸問題の解決方法は世界観の立脚点に依存しているのであるから，形而上学と世界観は分離できない。形而上学は今後も消滅することはないであろう。

〔中川　誠〕

けいじじょうがく　【形而上学】　アリストテレス*の代表的著作の一。原題は《タ-メタ-タ-フィシカ》で，一般にはラテン名の《メタフィシカ》で知られる。アリストテレスが〈第一哲学〉とよんで取り扱った諸問題に関する論文や講義草稿をまとめたもので，14巻よりなる。哲学の起源に関するものをはじめ，あらゆる存在の原理や存在を存在たらしめる原理・原因，質料*と形相*，およびその両者の関係など，プラトンのイデア論批判をふまえながら，広い領域にわたる諸問題の検討を試みている。さらにアリストテレスは，究極的な存在や運動の原因として〈不動の動者〉をあげているが，これは質料を含まない純粋形相として〈思惟(しい)の思惟〉ともいうべきものであるとし，〈神〉ともよんでいる。ここに形而上学が一般に，超自然的な永遠不変の存在や実体に関する哲学を意味するようになった理由がある。

〔本橋正義〕

けいじじょうはしじん　【形而上派詩人】　17世紀イギリスの詩人たちのうち，宮廷ふうでも市民階級ふうでもなく，批判精神と諧謔(かいぎゃく)性に満ちた鋭い第三者的視点を特徴とする詩人たちをいう。A.カウリー・ダン*・マーベルらが含まれ，当時の詩壇で特異な地位を占めた。S.ジョンソン*の《詩人伝》はその研究書でもあり，T.S.エリオット*以後は，フランス象徴主義の詩人たちとの関連も論じられている。

けいしそうかん　【警視総監】　警察官*の階級の最上位。警視庁*の長で，階級（官）と職が一致する一官一職である。外国も同様で，首都警察の長を他の警察の長より一段高い地位に置いて呼称したのに始まる。初代総監は鹿児島県人の大警視川路利良(かわじとしなが)。任免は国家公安委員会*が都公安委員会の同意を得たうえ，内閣総理大臣の承認を得て行なわれる。

けいじそしょう　【刑事訴訟】　刑罰権の具体的実現を訴訟*の形で行なう手続きをいう。刑法*はどのような行為が犯罪であるかということ（法律要件）と，これに対してどのような刑罰が科せられるか（法律効果）ということを抽象的・一般的に定めているにとどまり，これを個々の具体的事件についてあてはめるためには，捜査手続き・公判手続きおよび刑の執行手続きを必要とする。刑事訴訟とは，公訴*の提起によって手続きが開始され，訴える者（原告）と訴えられる者（被告）が手続きに関与し，当事者と無関係の第三者である裁判所*が，当事者の主張を聞いて拘束的判断を下す構造になっている。刑事訴訟において原告は国家機関としての検察官*であり，被告は被告人とよばれる。原告が国家機関であるという国家訴追主義は，近代国家において広く認められた制度である。

訴訟の構造は，原告・被告とこれらの当事者と無関係の第三者である裁判機関との３個の訴訟主体のあることを当然に予想しているが，訴訟の進行が主として裁判所の直接活動にゆだねられるか，それとも当事者の訴訟活動にゆだねられるかによって，職権訴訟と当事者訴訟を区別することができる。ドイツ・フランスなどでは職権訴訟が行なわれ，わが国の旧刑事訴訟法もこの類型に属していた。イギリス・アメリカなどでは当事者訴訟が行なわれており，わが国の現行刑事訴訟法もその影響を受けているということができる。

刑事訴訟法*も民事訴訟法*も訴訟的構造をとっているが，この二つの訴訟手続きがなにゆえに訴訟の形式をとっているかという問題は本質的に異なるものである。民事訴訟は私人間の紛争の法的・平和的解決を目的として存在しているもので，相争う双方の私人が手続きに参加しないで手続きを考えることはできない。したがって民事訴訟は本来的に訴訟の構造をもつのである。しかし刑事訴訟は，本質が争訟とか紛争の解決にあるのではなく，刑罰権の実現過程であり，検察官と被告人の間に利害の対立は存在しない。検察官によって代表される国家は被告人を含めて社会一般の法秩序維持を任務としており，被告人が実際に罪を犯したのであれば罰すべしとするのであって，他方被告人に有利な事情があればそれも示して考慮すべきことを求めるのである。したがって，検察官と被告人の間には民事訴訟におけるような基本的利害の対立があるわけではない。刑事訴訟がそれでも訴訟構造をとるのは，技術的・政策的配慮からである。さらに具体的にいえば，①被告人に対する保障的機能，②三権分立の思想の二つの要素を考えることができる。前者は真実発見のために被告人の人権がないがしろにされることから保護することを意味し，後者は権力の過度の集中から被告人の権利を守るために検察権と裁判権とを分けたのである。このように歴史的背景と政策的配慮から刑事手続きについても訴訟構造をとるに至ったものである。

〔内田剛弘〕

けいじそしょうほう【刑事訴訟法】 刑事訴訟法には二つの意味がある。実質的意味の刑事訴訟法は，犯罪を発見して刑罰を適用・実現する手続きを定めた法である。形式的意味における刑事訴訟法は，刑事訴訟法(1948年〔昭和23〕7月10日成立，1949年1月1日施行)をさしていう。実質的意味の刑事訴訟法の法律としての法源は，刑事訴訟法はもちろんのこと，刑事訴訟施行法・裁判所法・検察庁法・警察法・警察官職務執行法・陪審法などがあげられる。現行の刑事訴訟法は，公共の福祉と基本的人権の保障を全うしつつ，事案の真相を明らかにすることを目的としている。個人の基本的人権の尊重の意味は，①個人が無実の罪に陥らないよう手続きにおいて保障すること，②手続きそのものが人権蹂躙(じゅうりん)にならないように，刑事訴訟法で国家権力を制限することである。〔内田剛弘〕

けいしちょう【警視庁】 東京都の警察本部。1874年(明治7)1月司法省の警保寮にあった警察事務を内務省に移管したとき創設，3,000人の邏卒(らそつ)を置いたのに始まる。1947年(昭和22)の警察制度改正により，都公安委員会の管理のもとに23区の自治体警察となったが，1954年現在の警察法施行以後は都の警察本部として警察事務を処理している。その長を警視総監といい，補佐役として警視副総監が置かれている。総務・警務・刑事・交通・警備・公安・防犯・警らの8部があり，別に8方面本部と8機動隊がある。管下に93警察署を設け，警察官総数約39,000人を擁し，ロンドン警視庁(スコットランド-ヤード)・ニューヨーク警視庁よりも大きく，世界最大の警察である。〔井上公耳〕

けいしつ【形質】 生物個体の観察することのできる形態的・生理的・細胞学的・生化学的などのあらゆる特徴をいい，質的形質・量的形質・獲得形質に大別できる。①質的形質：それぞれが大きい作用をもつ一つまたは少数の遺伝子の働きによって生ずる形質をいい，エンドウの種子の丸いものとしわのよったもの，ヒトの色盲と正常というように，はっきりした二つの表現型に分けることができる。②量的形質：一つ一つがそれほど大きい作用をもっていない多くの遺伝子(ポリジーン，量遺伝子)の働きによって生ずる形質をいい，二つのはっきりした表現型に分かれないで，連続的な変異を示す。ヒトでは，身長・体重・知能，毛髪の色，皮膚の色などがある。③獲得形質：個体の発生の過程における環境の影響によって生じる形質で，遺伝的形質ではない。➔対立形質〔池田洋司〕

けいしつ【憩室】 消化管や尿路など，体内の管腔(かんこう)組織にみられる嚢状(のうじょう)の管壁拡張。内容が貯留して炎症などをくり返す場合には外科手術の対象となる。もちろん，憩室の存在がわかっている場合には，憩室炎の発生を予防するために種々の内科的治療が必要なことも少なくない。先天性のものと後天性のものがあり，前者の代表としては小腸終末部にみられるメッケル憩室が，後者の代表としては食道憩室があげられる。

メッケル憩室は胎生期の臍腸(せいちょう)間膜管が退化せずに残ったもので，回腸下部で回盲弁から口側約1.0mの部位に生じた憩室である。憩室炎を起こせば，悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・腹痛・体温上昇・白血球増多などの症状を起こし，腸閉塞(ちょうへいそく)を起こすこともある。食道憩室は，その発生機序から，結核に冒された気管分岐部リンパ腺(せん)が食道壁に癒着(ゆちゃく)し，のちに瘢痕(はんこん)性収縮を起こして食道壁が牽引(けんいん)されることによって発生する牽引性憩室，食道壁の抵抗減弱部位が食道の内圧によって膨出した内圧性憩室，食道壁が痙攣(けいれん)性の収縮を起こして一時的に出現する機能性憩室に分けられる。小さいうちは無症状であるが，大きくなるにしたがって嚥下(えんげ)障害・咳嗽(がいそう)発作・唾液(だえき)分泌過多・異物感などの症状が現われる。〔玉城 厳〕

けいしつじんるいがく【形質人類学】 ⇨自然人類学

けいしつてんかん【形質転換】 1944年アベリーらによって，莢膜(きょうまく)をもつ肺炎双球菌からDNA(デオキシリボ核酸)を取り出して莢膜をもたない肺炎双球菌に作用させると，莢膜をつくるようになることが明らかにされた。これは，遺伝的性質がDNAによって決められており，異なる菌のDNAとこれを受けた菌のDNAとの間に組み替えが起こって，上のような変化が起こるのである。このような現象を形質転換という。その後，肺炎双球菌のほか，かなり多種の細菌でも形質転換が起こることがわかってきた。形質転換がDNAによって起こるという発見は，DNAが遺伝的性質をになっているということに化学的な証拠を与えたことになり，非常に重要な発見といえよう。〔市川比良久〕

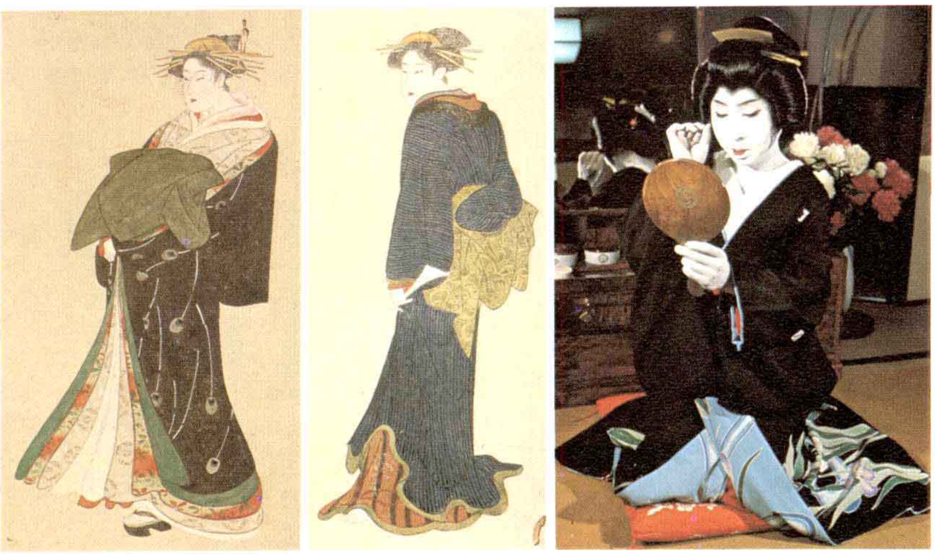
けいしつどうにゅう【形質導入】 細菌に感染して増殖するウイルスであるバクテリオファージ(略してファージという)には，強毒性のものと弱毒性のものとの2種類がある。弱毒性のファージのあるものは，感染した細菌で増殖する際に細菌のDNA(デオキシリボ核酸)の一部をファージ粒子の中に取り込んでしまう。このようなファージが別の細菌に感染すると，取り込んだ細菌のDNAと新たに感染した細菌のDNAとの間に組み替えが起こって，その細菌は遺伝的性質を変える結果となる。このような現象を形質導入とよんでいる。強毒性のファージは必ず感染した細菌を殺してしまうので，形質導入はみられない。形質導入にも特定の遺伝的性質のみを導入する場合と，細菌のDNAの部分を一様に導入する場合との2種類がある。この形質導入を用いた実験から遺伝子の配列・順序を精密に調べることができる。〔市川比良久〕

けいじどうしゃ【軽自動車】 自動車の大きさによる分類の一。二輪自動車では長さ2.5m，幅1.3m，高さ2.0m以下，二輪自動車以外では長さ3.0m，幅1.3m，高さ2.0m以下のものをいう。法令(道路運送車両法)によって，軽自動車原動機が内燃機関である場合には二輪自動車では250cc以下，その他は360cc以下でなくてはならないと定められている。軽自動車は，購入・維持しやすいように，税金・自動車損害賠償保険料が小型自動車に比べて非常に安いうえに，陸運局による自動車検査の対象からも除外されてきたが，車検に関しては1973年(昭和48)10月実施に入った。〔成田武男〕

けいじほしょう【刑事補償】 無罪・免訴・公訴棄却の裁判を受けた者または被疑者に対し，無罪について十分な理由があるとき，抑留・拘禁，刑の執行または拘置について国が行なう補償。裁判所が補償する必要ありと認めた場合は，1日につき400～1,000円の割合で補償額を決定する。死刑執行については，本人死亡による財産上の損失額に100万円を加算した範囲内で決定する。補償請求は本人はもちろん遺族もできる。補償額が低いため，近年引き上げの動きがある。なお，基本法として刑事補償法(1950年制定)がある。〔井上公耳〕

けいしゃ【珪砂】 ほとんど純粋のセキエイだけからなる砂。鉄分がFe_2O_3として0.1%以下のものは，ガラスの主原料として使用され，やや不純のものは鋳型をつくるのに用いられる。愛知県瀬戸地方や岐阜県東濃地方が主産地で，がいろめ粘土に伴って産出し，水洗いして粘土分を除いて使用している。かつて日本の板ガラスの主原料であったベトナムのカムラン湾のケイ砂は，海岸の砂丘として産出する。

げいしゃ【芸者】 宴席へ出て興を添える者。関西では芸子という。江戸時代の集娼(しゅうしょう)政策により，売春が法禁されたため，芸を表看板にして発生した。江戸では二つの発生源がある。一つは吉原(よしわら)で，芸のできない遊女に代わって演じる者で，これを吉原芸者といった。他の一つはしろうと出の茶屋女系で，振りそでを着て芝居茶屋や武家屋敷へ招かれて踊る。これを〈踊り子〉といい，江戸の町芸者の前身である。発生は，踊り子が天和(てんな)年間(1681～1683)，吉原芸者が1761年(宝暦11)で，踊り子のほうがかなり早い。踊り子はやがて寄り合い茶屋や涼み船で，踊るだけではなく，風紀を乱すようになった。幕府では集娼政策から何度も取り締まり，売色した者を吉原へ払い下げたりしたがたいしたききめはなく，深川・橘町(たちばなちょう)・両国・湯島・日本橋を中心にふえ，明和年間(1764～17

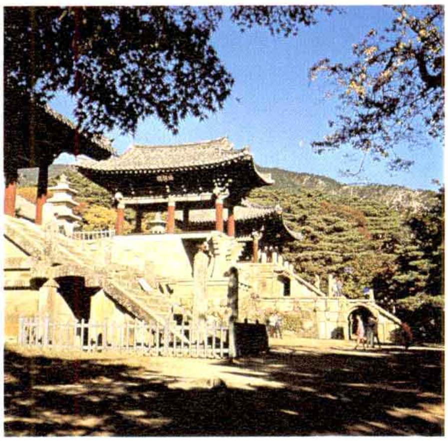


芸　者　(左)傾城　(中)廓芸者　山東京伝画　(右)《東京の昔話》の芸者姿
4世中村雀右衛門

71)ごろから町芸者とよばれた。すでに振りそではすたれて凝った座敷着の褄(つま)をとり，帯を長くたらす独特のスタイルが始まっている。ことに深川の芸者は，羽織を着用して素足のまま座敷に出たことから〈羽織芸者〉とよばれ，また江戸の東南にあたるので〈辰巳(たつみ)芸者〉ともいわれ，町芸者の本場となった。江戸の黄金時代の文化・文政年間(1804～1829)には，勃興(ぼっこう)した料理茶屋や待合化した船宿と結びついて，町芸者は江戸の花ともみられた。柳橋は吉原と深川の両方面へ通じ，両国の歓楽街を控えて，新たな芸者のまちとなった。このころ辰巳芸者の中に，幇間(ほうかん)(男娼)の向こうを張って若衆髷(わかしゅまげ)を結い，小吉・勝太郎・雛助(ひなすけ)など男名をつけた者が出た。現代へつながる芸者男名のはじまりである。

天保(てんぽう)改革は町芸者と料理茶屋を弾圧し，その結果，吉原芸者(廓(くるわ)芸者)の地位を高めた。彼女らは早くから検番*による統制を受け，自身も芸に励んでいたので，幕末には町芸者に代わり，江戸を代表する芸者にのし上がったが長くは続かず，幕末から明治へかけ，また町芸者に主座をとって代わられた。

1870年(明治3)明治政府は，芸者規則を制定して鑑札制に改めた。さらに，1873年芸者・娼妓(しょうぎ)の〈二枚鑑札〉を許したので，芸者の売色が公認され，いわゆる不見転(みずてん)芸者を輩出し，芸を売るという本来のあり方から大きく変化した。明治の中期にかけて，花柳界の中心は新橋へ移り，当時の高官要人の贔屓(ひいき)もあって，空前の芸者全盛時代となった。大正から昭和へかけて芸者は時代の変動にしたがって消長があり，一時はダンス芸者まで出現した。特に第2次世界大戦後は，島田髪は鬘(かつら)となり，左褄をとる姿はあまり見られなくなった。なお，傾城(太夫)は芸を売って対客したが，遊女*の最上位であって芸者ではない。　〔稲垣史生〕



慶　州　新羅王朝の歴史を伝える慶州の仏国寺。右の石段を上がった建物は正門の紫霞門で，その手前(写真中央)の建物は泛影楼

けいしゃぎ　【傾斜儀】　⇨クリノメーター

けいしゃせいさんほうしき　【傾斜生産方式】　第2次世界大戦直後，日本政府が実施した経済復興政策。1946年(昭和21)12月の〈鉄鋼・石炭の超重点的増産による経済危機突破根本方針〉決定に基づくもので，戦争直後の乏しい資金・資材・生活物資などを，超重点的に全産業の基礎物資である鉄鋼・石炭部門に傾斜投入し，鉄鋼・石炭の増産を実現したうえで，さらにそれを基礎として全部門の生産水準の上昇を図ろうとするものである。そのために，1947年1月，傾斜生産遂行のための資金調達を図る目的で復興金融金庫*が発足し，足かけ3年のうちにいちおうその目標を達成することができた。しかし，この政策は復興金融金庫の資金源をほとんど日銀信用でまかなったためにインフレーション*を促進する結果を招き，のちに強力なデフレ政策であるドッジ-ライン*を生む端緒をつくった。　〔原　豊〕

けいしゃりゅう　【傾斜流】　海水が風で海岸近くに吹き寄せられて堆積(たいせき)したりすることによって，海面に傾斜が起こると，海水中に圧力の分布をひき起こし，これにつりあうために海中の運動が起こる。この流れを傾斜流という。たとえば，緯度が35°の海で海面が水平面と0.1″傾斜すると約6cm/秒，0.5″傾斜すると約30cm/秒程度の流れが表面近くに発生することになる。

けいしゅう　【慶州】　キョンチュ　朝鮮南東部，慶尚(けいしょう)北道，大邱(たいきゅう)の東方60km，迎日湾に流れる兄山江の支流南川の侵食盆地に位置する。人口186,000(1966年推)。4世紀から10世紀まで600年間栄えた新羅(しらぎ)の王都で，南川に近い丘には月城跡・芬皇(ふんこう)寺・雁鴨池(がんおうち)などの史跡が多い。また，巨大な鳳皇台(ほうおうだい)・金冠塚(きんかんづか)などの王陵・古墳もあって，東方15kmの吐含山の仏国寺，その背後4kmの山頂に慶州石窟庵*(せっくつあん)などをもつ仏教美術の粋を集めた古都である。　〔矢守一彦〕

けいしゅうじけん　【恵州事件】　中国で義和団の乱の年(1900)に，興中会の首領孫文*が，同志と図って広東(カントン)省の恵州で革命の旗あげをしようとして失敗した事件。孫文は日本から武器を送り，故国の同志鄭士良(ていしりょう)らと挙兵を図ったが，日本政府の武器輸出打ち切り声明などがあって，武器の確保と日本の革命支援が不可能となり，軍隊は解散して失敗に終わった。革命進行の最困苦時代から革命風潮初盛時代への転換点に立つ事件である。　〔衣川　強〕

けいしゅうせっくつあん　【慶州石窟庵】　朝鮮，慶尚(けいしょう)北道慶州*の吐含山頂上近くにある石窟寺院。石を積み上げてつくった半ば人工的な石窟で，円形円蓋(えんがい)の内陣(高さ8.9m，径8.0m)は天井に蓮華(れんげ)文が浮き彫りされ，中央後ろ寄りに丸彫り丈六のシャカ像が座する。これを本尊として周壁に菩薩(ぼさつ)・仏弟子(でし)の姿が薄肉彫りに表わされ，その上方には小龕(しょうがん)があって維摩(ゆいま)などの丸彫りが置かれる。全体がカコウ岩からできており，柔和な姿態は盛唐彫刻を消化した新羅(しらぎ)の代表的作品である。　〔小谷仲男〕

けいしゅうよう　【邢州窯】　中国唐代に河北省邢州で焼かれた白磁の窯芸。陸羽の《茶経》の中に比較が論じられ，越州窯*とともに双璧(そうへき)をなしたとある。また，《唐国史補》では，端渓(たんけい)のすずりとともに天下の貴賤(きせん)があまねくこれを使用したともいう。さらに，唐末の段安節の《楽府雑録》は，かなりの程度の技術をうかがわせる記事を載せている。このように，文献では盛況のようすが知られるが，現在では窯

址(ようし)も不明で，その遺品も推定の段階を越えてはいない。一般には，淡黄色をおびた乳白色の温雅な白磁が想定されている。〔矢部良明〕

げいじゅつ【芸術】 芸術は，人間活動としての一般的性質と，芸術活動としての特殊な性質とをもっている。人間は〈労働を通して自己自身に到達する〉(ヘーゲル)動物である。ラテン語のアルスあるいはギリシア語のテクネーは，その際の技術すなわち生活に役だつものをつくる活動・能力ないし熟練した技術を意味している。古代ギリシアにおいては，芸術は模倣の技術一般と未分化であったと考えられるが，原始時代においても早期の芸術的表現の完成を発見することができる。これらの表現は美を意図しているのでなく，呪術(じゅじゅつ)的・魔術的効果により超自然をつくりだすことによって，現実の自然を支配しようとする〈模倣によるまぼろしの技術〉(G.トムソン)であったということができる。人間以外の動物は自己の生命を維持する直接的・自然的欲求にのみ支配されるが，人間は〈自然的欲求から自由で，あらゆる種類の尺度に合わせて生産することを知っている。また，いたるところでもちまえの尺度を対象にあてはめることを知っている。それゆえ，人間は美の法則にのっとっても形成する〉(マルクス)。初歩的な現実の科学的認識といえども，しだいに論理的な対象把握(はあく)に進むのに対し，芸術は魔術的な願望の充足という側面を内に包みつつ，人が自己の自然な衝動をおさえて人工的ではあるが，少なくとも外見上は直接的・感覚的性格を保持するものを創造し続けることによって，芸術的活動はしだいに独立・分化していく。

狭義の芸術は，多くの場合，美を意図的に生み出そうとする創造活動を意味するが，これは人間が美を意識する心持ちをもつことによって可能となる。R.G.コリングウッドは芸術の特殊な性質を単なる知覚や思考とは異なる想像に求め，その特性を理論的・実践的・情緒的という3側面からとらえている。まず理論的にいえば，知識・学問は客体の存在を前提するのに対して，芸術においては主体の想像によって，想像の中で客体が生まれる。このことから，虚構性が芸術の第1の特性といえる。さらに芸術においては，美しいものだけが想像されるという意味で実践的性質をもつ。醜も新しい美を生む可能性をもつとしても，〈醜く想像したとすれば，その人は対象を……半ば想像することで満足〉したのだから，想像したものが全一結合したものが美である。想像が全一的であることは，同時にそれが〈白熱化したものとして直覚的に感じられる〉という意味で芸術は情緒的である。このように，想像は小児や原始人の魔術的幻想をもちつづけ，前科学的思考形式に執着しているが，これは人間に統一的美的感覚が元来備わっていたことを意味せず，人間的に生成する目や耳がおのおの別な対象領域を開きながら，美的感覚を形成していくと考えられる。〔古賀信夫〕

げいじゅつきょういく【芸術教育】 20世紀初頭，ドイツで開かれた〈芸術教育会議〉(第1回1901年ドレスデン，第2回1903年ワイマール，第3回1905年ハンブルク)以降の教育用語。思想的にはすでに前世紀の後半，ラスキン*・ラングベーン・ランゲ*・リヒトバルク*らによって提唱されていた。すなわち，産業革命に基づく機械制大工業の生成発展，資本主義生産様式の確立，その結果としての諸種の制度・文化・思想・組織による人間主体の疎外現象の出現，またそれに見合うかぎりでの自然科学系・技術系教育が促進・偏重される事態，こうした事態のもとで，人間性発展をめざす教育は阻害されるようになった。芸術教育はこのような社会問題・教育問題の解決，つまり人間疎外の克服，人間性の回復と全面的発達を意図するもので，国民のための〈芸術による教育〉が提唱されるに至った。これは，芸術が社会の混乱・不安に対する安定と慰安として，また調和的・全体的人間の形成という点において有意義なことを意味する。芸術による情動の解放，感情の表出が人間の失われた主体性を回復する。すなわち，芸術は生産労働をはじめ，その他の肉体的・精神的労働を超越したところに生成し，人間の最も〈主体的〉な表現であり，調和であるということになる。したがって，〈芸術による教育〉は人間性の豊かな個性，調和のとれた人間の育成を可能にする。芸術とその教育についてのこのような考え方は，H.リードなどの思想にも共通する。だが，実際には，それは創造性の開発，あるいは情操教育の名のもとに手段化される。言いかえると，現代社会における人間疎外の根源へと迫っていくのではなく，むしろその本質を陰蔽(いんぺい)するように働く。〈芸術による教育〉といいながら，既成の芸術作品やいわゆる〈前衛芸術〉にみられる人間不在の芸術作品へ，いかにして容易にしかも早く興味をもたせ，その構成や技術を理解させるかに専念する教育が支配的なのである。そこには，芸術と芸術教育についてのブルジョア的立場と見解の限界が当然ある。現代の芸術とその教育は，社会発展の真のにない手による，民族的・民主的な芸術の創造活動，同時にその教育でなければならない。こうして，国民教育としての芸術教育に携わる者は，単なるその実践家というだけではなく，一面においては国民のための芸術家でもあることが当然要請されてくる。〔河口道朗〕

げいじゅつざ【芸術座】 〈第1次〉1913年(大正2)島村抱月*・松井須磨子*(すまこ)を中心に，中村吉蔵・沢田正二郎ら坪内逍遙(しょうよう)の文芸協会*出身者によって設立された劇団。抱月が脚色したトルストイの《復活》などの大衆劇で全国を巡演して名をあげる一方，実験的演劇を試み，演劇界に幅広い影響を与えた。1919年(大正8)須磨子の死により解散。〈第2次〉1924年水谷竹紫と義妹八重子を中心に，旧芸術座を継承して設立されたが，1935年(昭和10)竹紫の死により解散。〔大島　勉〕

げいじゅつさい【芸術祭】 文化庁主催の演劇・芸能などに関する行事。1946年(昭和21)秋に始まり，毎年10月と11月に行なわれ，主催は1968年に文部省から文化庁に移った。当初の目的は，〈すぐれた作品の公演発表をうながして，芸術の創造と進展に寄与する〉ことにあり，芸術祭執行委員会による自主公演も行なわれ，審査委員の推薦で，芸術祭賞・芸術祭奨励賞が贈られている。参加部門は演劇・舞踊など10部門からなる。

げいじゅつしじょうしゅぎ【芸術至上主義】 いわゆる〈ラール-プール-ラール〉(芸術のための芸術)をさすことが多い。フランスの哲学者クーザン*がはじめて用い，ゴーチエ*の小説《モーパン嬢*》で理論として認識され，文学の領域で主として発展をみた。しかしこの主張は，美や芸術に関する見解の相違によって種々の傾向が包含される。わが国では，明治末の自然主義文学以後に影響がみられた。

げいじゅつしんりがく【芸術心理学】 美術・音楽・演劇・文芸などあらゆる芸術分野を対象に人間の芸術行動に関する体系的な知識を提供する心理学の一領域。大きく創作と鑑賞の心理学に分けられる。歴史的には，19世紀の後半に，それまでの哲学を基礎とする〈上からの美学〉に対して，科学的で実証的な〈下からの美学〉を提唱したフェヒナーに始まる。その後，精神分析理論・ゲシュタルト心理学説などの援用を受けて急速な発展を遂げた。第2次世界大戦後は，芸術心理学的立場から音楽・絵画などを通じて精神障害者の治療に役だてる芸術療法も広く行なわれている。

げいじゅつそうし【芸術草紙】 ドイツの詩人ゲオルゲ*が，アウゲスト-クラインの協力を得て1892年に創刊した詩誌。ことばの本来の力を回復しようとした詩人が，その理念を実践すべく，少数の同志とともに始めた高踏的性格のもの。〈政治的・社会的なもののいっさいを排し，芸術，ことに詩と創作に奉仕すること〉を目標とした。ホーフマンスタール*・ウォルフスケール・クラーゲスらが集まった。

けいしょ【経書】 儒教の経典の総称。漢の武帝が国定した五経*のうち，《易経*》《詩経*》《尚書*(しょうしょ)》にはそれぞれ異なるテキストがあり，《礼》には《儀礼*(ぎらい)》《周礼(しゅらい)》《礼記(らいき)》の3種があり，《春秋》には《公羊伝(くようでん)》《穀梁伝(こくりょうでん)》《左氏伝》の3伝があり，学派によって依拠する

テキストを異にした。以上の合計を九経というが，すでに漢代には《論語》《孝経》が重視され，さらに《詩経》《書経》の文字解釈書である《爾雅(じが)》も取り上げられ，唐・宋(そう)には《孟子(もうし)》も注目されて，合計して十三経と称された。なお，朱子学の時代になると，四書が独自に1セットの経書とみなされた。➔経学　〔西　順蔵〕

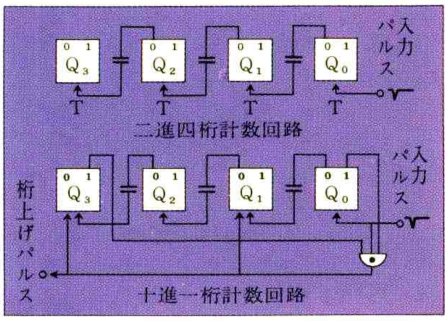
けいしょう【敬称】 敬意を表わすために，人の名などに添える接尾語(○○さん・○○くん，など)や接尾語的用法の名詞(○○先生・○○夫人，など)。種類は非常に多く，性による使い分け(男に〈くん〉，女に〈さん〉)や職業による使い分け(すもうとりの〈関〉や歌舞伎(かぶき)俳優の〈丈〉など)のみられることもある。《これからの敬語》(1952年，文部省発表)では，敬称を単純化する方向を示している。なお，敬語のうちの尊敬語を敬称とよぶことがある。　〔市川　孝〕

けいじょう【京城】 ⇨ソウル

けいしょういん【桂昌院】 (1624～1705) 五代将軍徳川綱吉(つなよし)の生母。京都の町家に生まれ，名は阿玉(おたま)。大奥に仕えたが，春日局(かすがのつぼね)の推挙によって3代将軍家光(いえみつ)の妾(しょう)となり，綱吉を生んだ。家光の命により，綱吉の勉学にはその幼時から心を用い，他日好学の将軍になる素地をつくった。家光の死後剃髪(ていはつ)して桂昌院の法号を称した。あつく仏道に帰依し，綱吉に勧めて護国寺・護持院など諸大寺を建立(こんりゅう)した。　〔高崎徳次〕

けいじょうじけん【京城事件】 1882年(明治15)の壬午(じんご)の変，1884年の甲申の変の総称。ともに朝鮮京城(ソウル)での排日暴動。1876年の日鮮修好条規による朝鮮開国で勢力が後退した守旧派大院君一派は，親日政策をとって日本式軍隊を創設した王妃閔妃(びんび)一派の打倒を計画し，1882年旧軍隊が反乱を起こして日本公使館を焼き打ちし，王宮に乱入したのに乗じ，閔妃一派を排斥した。日本および清(しん)は出兵し，清は閔政権を復活。以後閔派は保守・反日に転じ，日本と結ぶ独立派は退けられた。1884年独立党の金玉均らは日本の援助でクーデターを起こして事大党から政権を奪取したが，清軍の反撃で壊滅し，日本公使館は焼き打ちされ，日本守備隊・居留民の多くが殺傷された。翌年日清間で天津(てんしん)条約を締結し，両国は朝鮮から撤兵した。両事変で日本の立場は不利となり，その奪回計画が日清戦争へと発展する。〔千野境子〕

けいじょうとりひきしゅうし【経常取引収支】 国際収支のうち，経常的にくり返して発生する取引，または国民所得に直接影響を及ぼす取引。経常取引を構成する取引項目は，①商品，②用役(運輸・保険・海外旅行・投資収益，その他の用役)，③政府取引，④贈与，である。これらの項目に関する国際取引の結果として生じた外貨の受け取り額と外貨の支払い額との差額が経常取引収支で，受け取り額が支払い額を超過する場合は経常取引収支は黒字，逆の場合には赤字である。　〔安井孝治〕



計 数 回 路　フリップフロップを用いた計数回路

けいしょうはにわ【形象埴輪】 ⇨埴輪

けいしょくほう【警職法】 ⇨警察官職務執行法

けいしんとうのらん【敬神党の乱】 ⇨神風連の乱

けいず【系図】 家系を罫線で図示したもの。書式に上から下に書き継ぐ縦系図と右から左へ書き継ぐ横系図がある。仏教の法系，学芸の伝統なども系図の形式で示すことも広く行なわれた。藤原氏以下の諸氏の系図を南北朝末期に集大成した《尊卑分脈》は最も信頼すべき系図書である。江戸時代には幕府の計画による《寛永諸家系図伝》《寛政重修(ちょうしゅう)諸家譜》などが編集された。系図の古い部分には作為や伝説が多い。　〔菊池礼子〕

けいすう【係数】 単項式あるいは多項式の各項において，文字因数に対して数因数をいう。たとえば，$3x^2-4x+5$では，3，-4がそれぞれx^2，xの係数である。また，ある文字に着目したときには，その文字以外の因数全体をその文字の係数という。たとえば，$-5x^2y^2z$において，-5はx^2y^2zの係数で，$-5y^2$はx^2zの係数である。したがって，数因数はつねに文字の係数になる。

けいすうかいろ【計数回路】 パルス電圧のパルス数を数える電子回路。デカトロンのような特殊計数用放電管を用いたものとフリップフロップ(➔マルチバイブレーター)を用いたものとがあるが，後者のほうが速度が速く製作も容易である。フリップフロップは二進数1けたを記憶する機能をもっているから，これをn個並べてけた上の論理回路を付加すれば，二進nけたの計数回路になる。十進数を計数するには二進計数回路を変形すればよく，たとえば二進4けたの計数回路で各フリップフロップが十進数9に対応した1001にあるとき，次の入力パルスがはいればフリップフロップは0000にもどり，ほかに十進のけた上げパルスを出すようにすれば，これで十進1けたの計数回路になっている。　〔小原啓義〕

けいすうかん【計数管】 ⇨放射線計数管

けいすうそうち【計数装置】 物体の個数やくり返して起こる事象の数を数える装置。物体の個数を数えるには総重量と単体の重量とを機械式，または電子式に比較して指示するものが多い。くり返し事象の計数にも機械式と電子式とがある。機械式は十進数の1けたごとに10歯の歯車を置き，1事象ごとに最下位の歯車を10分の1回転させ，各歯車の回転角で計数値を十進表示する。電子式は事象が起こるつど電気パルスを発生し，このパルスを計数回路により計数し，計数回路の状態を放電管などを用いて表示する。きわめて精確な時間，またはその逆数である周波数をつくる水晶時計・原子時計などと電子式計数装置とを併用することにより，任意の時間，または周波数を高精度(10^{-6}～10^{-9})で測定できる。　〔小原啓義〕

けいせい【傾性】 屈性とともに植物の器官の屈曲運動の一。屈性と異なって運動の方向が刺激の方向とは無関係に起こり，運動器官の構造そのものによって運動が規定される。刺激の種類によって傾震性・傾光性・傾熱性・傾触性・傾化性などに分けられる。たとえばオジギソウに触れたり振動を与えたりすると葉が閉じるのは傾震性による。これは一種の膨圧運動と考えられている。

けいせいあさまがたけ【傾城浅間嶽】 歌舞伎(かぶき)脚本。初世中村七三郎作と伝えられる。1698年(元禄11)京都布袋屋(ほていや)座初演。元禄期の上方歌舞伎の代表作の一つで，信州浅間嶽の普賢菩薩(ぼさつ)開帳をあてこみ，120日間の興行記録をつくった。中心は傾城買いの〈やつし〉の和事にあるが，全体の構成は諏訪(すわ)家のお家騒動に仕立ててある。元禄歌舞伎に存在した趣向や見せ場がすべて含まれており，後代への影響がきわめて大きい。なお，日本舞踊の系列の一つである〈浅間物〉はこの狂言から派生したものである。　〔服部幸雄〕

けいせいあわのなると【傾城阿波鳴門】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。10段の時代物。近松半二らの合作。1767年(明和4)竹本座初演。阿波徳島の玉木家のお家騒動に，夕霧と伊左衛門(いざえもん)の情話，十郎兵衛(じゅうろべえ)・お弓夫婦の忠義をからませたもの。8段目の〈順礼唄(うた)の段〉がお鶴(つる)の哀れさで名高く，この段だけがしばしば演じられる。歌舞伎(かぶき)への移入は1790年(寛政2)で，江戸中村座初演。なお近松門左衛門の作品に同名の脚本がある。　〔前田慎一〕

けいせいいろじゃみせん【傾城色三味線】 江島其磧(きせき)作の浮世草子，1701年(元禄14)刊。京都島原・大阪新町・江戸吉原(よしわら)の遊女を紹介するとともに，ここを舞台にした好色生活を描いた。西鶴(さいかく)の好色物を模しながら，遊女評判記的な性格

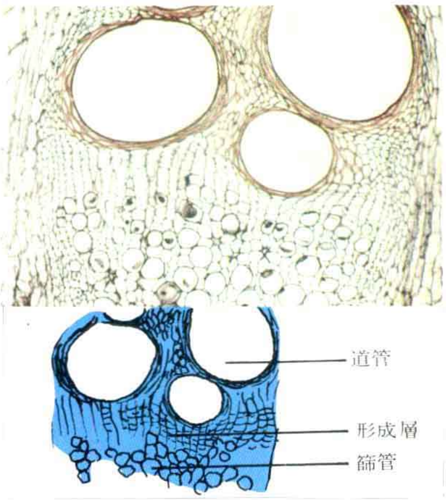
もあり，また，構成・趣向にくふうが凝らされているなど，八文字屋本*の先駆としての新傾向がみられる。〔前田慎一〕

けいせいげか【形成外科】先天性奇形や後天的に受けた身体部分の変形を治療して，できるだけ正常に近い状態にすることを目的とする診療科。従来も整形外科・皮膚科・耳鼻科等の外科系の各科で成形術として行なわれていたが，きわめて高度の専門的技術と知識を必要とするため，近年，世界各国で形成外科として独立するようになった。日本では1963年(昭和38)ごろから新しい診療科目として注目されている。形成外科が取り扱うものは次のようなものである。①先天性奇形：兎唇(としん)・口蓋裂(こうがいれつ)，小耳症および無耳症，尿道下裂・無膣(むちつ)症・血管腫(けっかんしゅ)・色素性母斑(ぼはん)など。②外傷による変形：創(特に顔面のもの)・骨折・熱傷・瘢痕(はんこん)・ケロイドなど。③手術による変形。④美容：美容整形とよばれているもので，隆鼻術・重瞼(じゅうけん)術・しわとり術・豊胸術など。〔田嶋公子〕

けいせいけん【形成権】権利者の一方的な意思表示*により，法律関係を発生・変更・消滅を生ぜしめうる権利をいう。契約の申し込みに対する承諾，法律行為の取り消し，契約の解除などのように，権利者の意思表示だけでその効果を生ずるものと，婚姻の取り消しや詐害行為*の取り消しのように，裁判所の判決によってはじめて効力を生ずるものとがある。支配権*・請求権*・などとともに，権利をその作用によって分類した場合の一種類である。→権利〔黒木三郎〕

けいせいそう【形成層】茎または根の維管束系の中の道管部と篩管部(しかんぶ)の間にある分裂組織で，分裂能力をもった1層の細胞群からなり，茎や根を肥大させる。輪状に発達し，細胞分裂をくり返して，茎の外と内に向かって，新しい篩管と道管の細胞をつくる。この新しくできた維管束を二次維管束といい，二次木部は材となり，二次篩部は靭皮(じんぴ)となる。裸子植物・双子葉類にはあるが，単子葉類とシダ植物にはふつう形成層はみられない。コルク細胞をつくるコルク形成層をも含める場合もあるが，通常は形成層といったときにはコルク形式層を含まない。→維管束

けいせいたい【形成体】編制原・オルガナイザーともいう。脊椎(せきつい)動物の初期発生において，胚(はい)のある部分が他の部分に影響してある組織に分化を起こし，みずからは決められた運命に従って発生するような部分をいう。両生類の原口背唇部(げんこうはいしんぶ)は，自身は脊索(せきさく)・体節・頭部中胚葉に分化するが，これが予定外胚葉に働きかけて中枢神経系の形成を誘導することがみられるので，形成体の働きをもつ中心的なものであり，このことからこれを第



形成層　カボチャの維管束で，木部と篩部の間に形成層がみられる



傾城反魂香　将監閑居の場　初世尾上辰之助の吃の又平　4世尾上菊之助のおとく

一次形成体という。さらに，このようにしてできた神経板の一部からできた眼杯がレンズを誘導することから，眼杯は二次形成体として働いていることになる。形成体の作用は，おそらくなんらかの化学物質の働きではないかと考えられ，種々な実験が試みられた結果，形成体の働きを示す物質がいくつか知られている。〔蒲原春一〕

けいせいでんてつ【京成電鉄(株)】東京都東部と千葉県北東部で地方鉄道とバス路線を経営する交通企業体。1909年(明治42)京成電気軌道として設立され，1945年(昭和20)現社名に改称。鉄道の営業キロ数82.5で全線電化されている。上野線(京成上野～京成成田間，1912～1933年開業)，押上線(押上～青砥(あおと)間，1912年開業)，千葉線(京成津田沼～京成千葉間，1921年開業)，金町線(京成高砂(たかさご)～京成金町間，1912～1913年開業)の4線がある。〔青木栄一〕

けいせいはんけつ【形成判決】既存の法律関係の変更，あるいは新たな法律関係の設定を宣言する判決。離婚訴訟(民法700条)・株主総会決議取消訴訟(商法247条)などのように，だれがどのようなとき訴えを起こせるかを法律で定めており，原告の主張を認める判決が確定すると形成力を生じ，その判決で宣言されたとおりの法律効果が発生する点に特徴がある。

けいせいはんごんこう【傾城反魂香】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。3段の時代物。近松門左衛門*(ちかまつもんざえもん)作。1708年(宝永5)竹本座で初演されたらしい。別称《吃又(どもまた)》。画家狩野元信(かのうもとのぶ)の出世譚(たん)に，どもりの又平伝説や反魂香伝説，歌舞伎(かぶき)で有名な名古屋山三(さんさ)の話などを折り込んだお家物*。奇抜な趣向，景事*の詞章のみごとさ，歌舞伎的色彩に富むあたり，傑作といえる。歌舞伎への移入は，1719年(享保4)大阪嵐(あらし)三五郎座初演。又平のどもりと妻お徳の弁舌が対照的で見どころである。〔前田慎一〕

けいせき【珪石】純粋なセキエイ*の固まり，またはほとんどセキエイのみからなる岩石で，工業用に利用されるもの。光学ガラス*・クリスタルガラス*およびセキエイガラス*などに用いられるものは白ケイ石とよばれ，不純分としての酸化第二鉄Fe_2O_3が0.01%以下であることを要求される。主としてペグマタイト*中のセキエイを精選して用いている。一般のガラスの原料にはケイ砂*を用いているが，静岡県伊豆(いず)半島の宇久須(うぐす)のケイ石のように，多孔質のケイ石を粉砕して用いる例もある。ケイ岩*やチャート*は，その組織によっては耐火れんが*原料や，ボールミル*の玉石または内張り用に使われる。またそれらが風化して軟化したものは，軟ケイ石とよばれ，セメント原料として大量に使用される。〔片山信夫〕

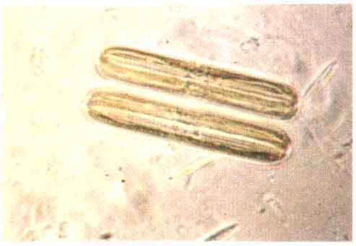
けいせん【係船】①船を岸壁や浮標に係留すること。②海運界が不況の際，船を動かすよりは止めておくほうが損失が少ないとき，運航を中止して長期間港に係留しておくこと。船舶安全法では，相当長期間係留する目的で乗組員の一部または全部を下船させ，もしくは属具や設備の一部を陸揚げした船をいう。

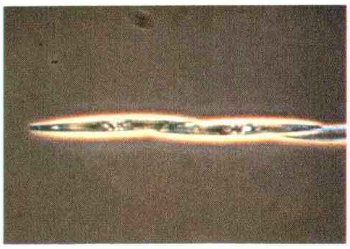
けいせんせき【珪線石】アルミニウムケイ酸塩鉱物の一種。コウチュウ石*・ランショウ石*と同質異像である。Al_2SiO_5　斜方晶系。比重3.2～3.3，硬度6.5～7.5，劈開*(へきかい)完全，屈折率1.65～1.68。結晶片岩・片麻岩などの変成岩中に，かっ色・灰色・オリーブ色の針状・繊維状の結晶または集合体として産する。特殊磁器の原料として用いる。

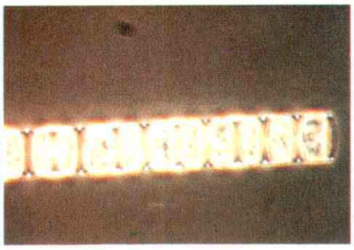
けいそ【珪素】周期律表第Ⅳ族に属する非金属元素。シリコンともいう。記号Si，原子番号14，原子量28.086。天然には単体としては存在しないが，化合物は種々の鉱物・岩石の成分として広く分布する。地球上における存在量は酸素に次ぎ第2位で，地殻(ちかく)中の元素の4分の1を占める。ケイ砂(SiO_2)を電気炉中で炭素により還元してつくる。得られるものはかっ色の粉末で無定形である。純粋なものは黒色の光沢あ

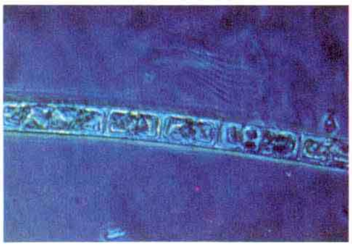
ケイソウ

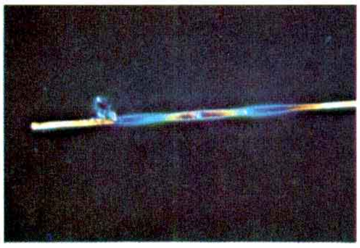

ナビキュラ

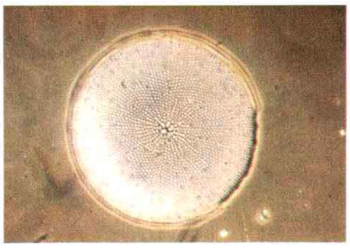

ピヌラリア

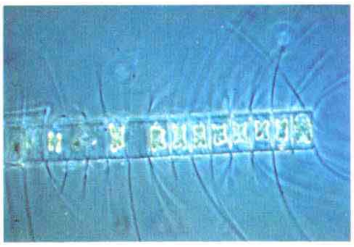

ニッツィア


スケルトネマ


メロシラ


シネドラ


コスキノディスクス


ケートセラス

淡　水　産　　　　海　水　産

る結晶で，モース硬度7，電気的に半導体に属し，トランジスターやダイオードにも，ゲルマニウムとともに用いられる。常温では安定であるが，強アルカリには水素を発生してケイ酸アルカリを生ずる。高温では酸素・窒素・ハロゲンと反応する。製鉄のとき脱酸素剤として用いられ，またケイ素鋼がつくられる。有機ケイ素化合物の重合体はシリコン樹脂として工業的に重要である。　〔古屋　弘〕

けいそう　**【珪藻】**　黄色植物・ケイ藻綱。黄色植物の他の群と多くの点で共通しているが，クロロフィルaとc，フコキサンチンを含むことでは褐色(かっしょく)植物との類縁をも示す。一方，黄色植物の中では，ケイ酸化が進み，休眠胞子だけでなく，普通の二殻(にかく)性の細胞壁も厚いケイ酸質で包まれる。細胞壁には細かい多様な模様の小孔がある。体制的には単細胞性であるが，しばしば群体をつくる。無性生殖は二分裂，有性生殖は接合または卵受精を行なう。淡水・海水に広く分布し，土壌(どじょう)・氷雪中にも分布するものがある。プランクトン生活・着生生活をし，他物上をはうこともある。海では植物プランクトンの大部分を占め，生物学的生産者として重要である。大量に堆積(たいせき)して化石化したものが珪藻土である。次のように分類される。

①羽状類：細胞壁は筆入れ状に組み合い，二輻(にふく)または左右相称。有性生殖はアメーバ状配偶子の接合による。オビケイソウ・ハネケイソウ・クサビケイソウなどがある。

②中心類：細胞壁は茶筒あるいはペトリざら状で，放射相称。有性生殖は卵とべん毛を1本もつ精子による。クモノスケイソウ・ツツガタケイソウ・ツノケイソウ・イトマキケイソウなどがある。

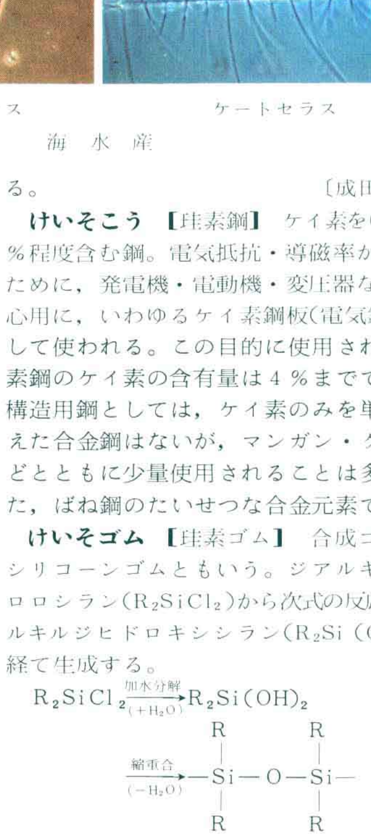
けいそう　**【形相】**　〈イデア〉または〈エイドス〉というギリシア語から訳された哲学用語。プラトンとその弟子(でし)アリストテレスによって，それぞれ独自な意味が与えられた。プラトンは，事物を事物たらしめる本質的実在をイデアとよび，思惟(しい)または理性によってのみ認識できる超感性的な存在であるとした。アリストテレスは，個々の事物は質料と形相よりできており，形相は可能態としての質料(素材)に形を与える働きをもって質料を実現・完成させるものであり，同時にそれは現実態・完成態であるとした。そして，その最も完全なものが質料を含まない純粋形相としての神であるとした。→質料　〔本橋正義〕

けいそうど　**【珪藻土】**　ケイ藻類の遺体が水底に堆積(たいせき)したもので，白色ないし桃色を呈する軟質岩石または土壌(どじょう)。成分の大部分はケイ酸SiO_2であり，純度の高いものでは95%に達する。熱の不良導体で耐酸性・吸収性などが高いために断熱剤・耐火材・吸着材・研磨材などのほか，爆発性液体の貯蔵体などに用いられる。オーストラリア・ドイツ・カナダ・アフリカに多産し，わが国では第三紀・第四紀の堆積岩中に発見されている。おもな産地は北海道・秋田県・宮城県・石川県・島根県・岡山県・大分県・鹿児島県など。　〔神戸信和〕

けいぞくし　**【継続歯】**　つぎ歯ともいう。崩壊した歯を補う方法の一。一般に，見た目にふれる前歯とか小臼歯(きゅうし)に用いられる。歯冠部を切断し，根の部分に維持装置のついた金属の支柱を差し込み，これに人工歯を継ぎたしたものなので，歯冠は崩壊していても，根が健全でなければならない。人工歯には陶材や合成樹脂を用いるが，天然歯と少しも変わらない外観を呈するので，むし歯でなくても，歯並びや歯の形・色などをなおしたいときにも応用されている。　〔成田令博〕

けいそこう　**【珪素鋼】**　ケイ素を0.5～4%程度含む鋼。電気抵抗・導磁率が大きいために，発電機・電動機・変圧器などの鉄心用に，いわゆるケイ素鋼板(電気鋼板)として使われる。この目的に使用されるケイ素鋼のケイ素の含有量は4%までである。構造用鋼としては，ケイ素のみを単独に加えた合金鋼はないが，マンガン・クロムなどとともに少量使用されることは多い。また，ばね鋼のたいせつな合金元素である。

けいそゴム　**【珪素ゴム】**　合成ゴムの一。シリコーンゴムともいう。ジアルキルジクロロシラン(R_2SiCl_2)から次式の反応でジアルキルジヒドロキシシラン($R_2Si(OH)_2$)を経て生成する。



Si：ケイ素　　O：酸素　　H_2O：水

Rはメチル基で，ときにはフェニル基のこともある。高分子主鎖が普通の合成ゴムと異なり，結合力の非常に強い$-Si-O-Si-$結合からなりたっているのが特徴である。加硫は過酸化ベンゾイルを用いて高温(～250℃)で行なわれ，充塡(じゅうてん)剤にはチタン白，亜鉛華その他高温に耐える材料が用いられる。ケイ素ゴムの最大の特長はその熱安定性にあり，－60～260℃の範囲で十分な弾性を示し，熱による劣化も少ない。耐油性・耐老化性・電気絶縁性もすぐれている。きわめて高価な材料であるため，高温(150℃以上)・低温(－50℃以下)での特性を生かし，特殊用途に利用されている。　〔伊藤　卓〕

けいそさいじき　**【荊楚歳時記】**　中国，

梁(りょう)・北周の政治家宗懍(そうりん)の著。1巻。荊州江陵(こうりょう)(湖北省江陵県)で生まれ育った著者が，当時，湖北・湖南省を中心とする地方で行なわれた年中行事をまとめたもの。隋(ずい)の杜公瞻(とこうせん)の注とともに庶民の実際生活や習俗を伝える。特に辟邪(へきじゃ)・辟病に関する風習の記録が多い。

けいそじゅし【珪素樹脂】⇨シリコーン樹脂

けいそじゅしとりょう【珪素樹脂塗料】⇨合成樹脂塗料

ケイタ［Modibo Keita］（1910～　）マリ共和国の政治家。急進的民族主義者。第2次世界大戦後独立運動を指導し，1960年スーダン共和国から独立してマリ連邦となった際，当時スーダン共和国首相の彼が大統領に選ばれた。その後セネガルが脱退してマリ共和国となり，同国大統領となる。1962年レーニン平和賞を受賞。経済再建と社会主義国家の建設にあたったが，1968年11月，陸軍のクーデターにより追放された。

けいたいがく【形態学】生物の形態の記述および形態のもつ法則性を研究する生物学の一分野。機能を研究することを目的とする生理学とともに，基本的な学問である。広義には細胞段階の形態を取り扱う細胞学や個体発生についての発生学をも含むが，狭い意味では内部構造を対象とする組織学・解剖学と器官の構造とその相互関係を対象とする器官学をいう。単なる記載にとどまらず，実験的手段を用いて形態発現の機構を解析するものを実験形態学という。〔蒲原春一〕

けいたいじ【経帯時】グリニッジ子午線から整数倍の時間だけ離れた子午線を基準として決められる標準時。すなわち，グリニッジ子午線をはさんで西経7°30′から東経7°30′の間の地域の標準時をグリニッジ標準時と同じくする。以下東西に経度にして15°ずつの子午線ではさまれる区域の標準時を，順に1時間ずつグリニッジ標準時より，東は早く西はおそいと定める。日本の中央標準時はグリニッジ標準時より9時間進んでいる経帯時である。〔木下　宙〕

けいたいしんりがく【形態心理学】⇨ゲシュタルト心理学

けいたいてんのう【継体天皇】6世紀前半ごろの天皇。名は男大迹(おおど)。応神天皇5世の孫。武烈天皇に皇嗣がなかったので，大伴金村(おおとものかなむら)により越前(えちぜん)(福井県)から迎えられて即位したという。当時，朝鮮半島における情勢はますますわが国に不利となり，国内でも九州に磐井(いわい)の乱が起こるなど，政情は安定しなかった。陵墓は大阪府の三島藍野(みしまあいの)陵。

げいたんき【鯨探機】クジラの動きを追跡するための機器。魚群探知機を横向きに使用した趣向のものである。すなわち，超音波を水平方向に発信させ，クジラの動きを知ろうとするもの。在来の捕鯨船では，船上から潜水する鯨の動きをみて，その遊泳方向などを見当づけて追尾していた。鯨探機は360°方向に発信でき，約4km程度の距離まで有効である。

契　沖



けいだんれん【経団連】⇨経済団体連合会

けいちつ【啓蟄】驚蟄とも書く。二十四気の一。太陽暦の3月5日ごろにあたる。太陽黄経は345°。啓蟄は〈冬ごもりしていた虫がはい出る〉の意で，このころになると冬眠からさめたヘビ・トカゲ・カエル・こん虫などを見かけるようになる。

けいちゅう【契沖】（1640～1701）近世初期の国学者。摂津(大阪府)尼崎(あまがさき)の人。真言宗の僧で円珠庵(えんじゅあん)と号した。学問が貴族や特定の家がら・身分にある者の世襲・伝授によって閉鎖的に独占されていること，仏教・儒教に従属させられていることなどの旧弊を退け，《万葉集》や平安文学などの古典研究に書誌学・本文批判・注釈・語学の方法を援用して，中世以来の因習から脱却した斬新(ざんしん)な学問体系を樹立し，国学の創始者と目される。歴史的かなづかいを確立した《和字正濫抄(しょうらんしょう)》は，鎌倉(かまくら)時代から尊奉されてきた定家かなづかいの誤りを科学的に訂正した，国語学史上の画期的研究である。また，水戸光圀(みとみつくに)の委嘱を受けて完成した《万葉代匠記》は，本居宣長(もとおりのりなが)の《古事記伝》と並んで近世注釈書の双璧(そうへき)と称される。ほかに，注釈書《厚顔抄》《古今余材抄》《勢語臆断(おくだん)》，随筆《河社(かわやしろ)》《円珠庵雑記》，歌集《漫吟集》などがある。〔渡辺守邦〕

けいちょう【計帳】大帳・大計帳ともいう。戸籍と並ぶ律令(りつりょう)制の基本帳簿。国司が毎年6月30日までに各戸の戸主に，戸内の口数・氏名・年齢・性別，容貌(ようぼう)上の特徴，課不課の別などを書いた手実(しゅじつ)を提出させ，これをまとめたもの。1通は国にとどめ，1通は大帳使にもたせて，8月30日までに太政官(だじょうかん)へ送った。調・庸の歳入や人口の増減を知るための台帳として国家財政上重要な役を果たしたが，9世紀ごろから戸籍を転載するなどしだいに乱れた。〔星野具子〕

けいちょうきんぎん【慶長金銀】1601年(慶長6)以降，元禄前期の改鋳まで，江戸幕府が発行した金銀通貨の総称。金貨には大判・小判・一分金，銀貨には丁銀・豆板銀がある。銀貨のうち大黒天像のみを打印したものは慶長大黒銀といわれている。金・銀通貨ともにそれぞれの含有する金・銀分が高く，良質であった。比価は金1両を銀50匁，銭4貫文と公定された。1694年(元禄7)通用停止となり，元禄金銀の鋳造のために回収された。➔貨幣(図)〔松尾　涼〕

けいちょうけんおうしせつ【慶長遣欧使節】江戸初期，伊達政宗(だてまさむね)がスペイン・イタリアに派遣した使節。スペイン領メキシコ(ノビスパン)との直接貿易が使節派遣の目的であった。正使は支倉常長(はせくらつねなが)(政宗の家臣)，副使はソテロ(フランシスコ会士)。1613年(慶長18)10月日本とスペインの通商条約の交渉，東北司教区設立のため，前々年来朝したビスカイノらを同行して陸奥(むつ)(宮城県)月の浦を出発。メキシコを経てマドリードに至り，1615年(元和1)1月フェリペ3世に，同年11月ローマで教皇パウロ5世に謁見した。一行はローマで大歓迎を受け，ローマ市民権を与えられたが，通商条約・司教区設立の交渉は不成立に終わった。1618年帰途につき，メキシコ・マニラを経て1620年仙台(せんだい)に帰着した。〔松尾　涼〕

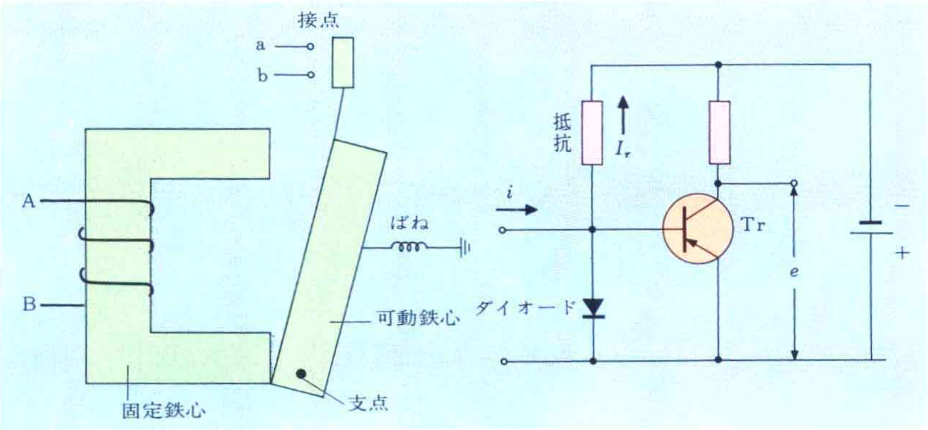
けいちょうけんもんしゅう【慶長見聞集】三浦浄心作の見聞記・随筆集。135編，10巻，1614年(慶長19)の自序がある。近世初期の江戸の風俗・人情を知るには貴重な資料である。三浦浄心(1565～1644)は北条氏政(ほうじょううじまさ)に仕えた武士で，北条氏滅亡後江戸に出て出家し，年記・随筆・名所案内記など著書が多い。

けいちょうちょくはん【慶長勅版】⇨勅版

けいちょうのえき【慶長の役】⇨文禄(ぶんろく)・慶長の役

ゲイツケル［Hugh Todd Naylor Gaitskell］（1906～1963）イギリスの政治家・経済学者。オックスフォード大学在学中，労働党に入党。ロンドン大学経済学部講師を経て，1945年に下院議員となった。第2次世界大戦後，アトリー内閣の燃料動力相・蔵相などを歴任した。1955年，アトリーを継いで党首に選出されたが，あいつぐ選挙で保守党に敗れて，党内対立を深めた。彼は国有化政策をゆるめるなど，党内右派の主張を代表した。〔松下京子〕

けいでんき【継電器】リレーともいう。電圧・電流・水位などが許容範囲の外に出た場合，これを検出し，警報を出したり所定のスイッチを開閉するきっかけをつくる装置。屋内配線・機械器具を保護し，火災予防・人命保護を図るため，過電流保護が



継　電　器　継電器の基本回路　左は，可動鉄片形の一例(プランジャー形)。端子AB間に交流または直流を流すと，可動鉄心が吸引され，端子ab間が閉じる
右は，静止形継電器の一例(レベル検出器)。本回路前段の出力電流 i が基準電流 I_r より大きくなるとTr(トランジスター)が遮断され，e に負の出力を生じるので，i のレベルを検知できる

最もたいせつであり，電気設備技術基準・内線工事基準に詳細な規定が設けられている。最近普及しつつある3相400V級配電(動力用)では従来に増して高度の保護が要求され，変圧器の内部故障検出のため差動継電器または電圧動作継電器を設け，主配電盤から引き出される各幹線の接地事故の早期発見と選択遮断(しゃだん)のため，各幹線に地絡継電器を設けることが推奨されている。給水または排水用ポンプの電動機回路では液面制御継電器が用いられる。
〔田村康男〕

けいと　【毛糸】　獣毛を原料として紡績した糸の総称。羊毛糸・山羊毛糸・らくだ毛糸・兎(と)毛糸など。〈種類〉羊毛糸は紡績方式に従って梳毛(そもう)糸・紡毛糸に分ける。前者は比較的長い羊毛をよく梳(くしけず)って平行に並べて撚(よ)りをかけたもの，後者は比較的短い羊毛を紡いだもの。梳毛糸は表面が平滑で光沢に富み，細めのかたい糸となり，紡毛糸は毛羽が多く太くふくらみのある糸となる。梳毛糸で織ったものが梳毛織物，紡毛糸のものが紡毛織物である。用途から織物用毛糸・編み物用毛糸に分類され，後者は手芸用の手編み毛糸が普及している。これはふつう梳毛糸で単糸4～8本を撚り合わせ，極細糸は20番手2子，中細糸は16～20番4子，太糸は9番手4子となっている。〈性能〉羊毛繊維の特性により，柔軟で弾力があり，触感がすぐれる。含気性の大きい製品がつくられ，装飾用・保温用に向けられる。洗たく操作によって縮充(フェルト化)する欠点がある。使用によって伸びきった毛糸は，蒸気で蒸すと羊毛の捲縮(けんしゅく)を回復してふくらみのある毛糸にもどる。漂白にはハイドロサルファイトを用いる。防虫が必要。　〔小川安朗〕

けいど　【経度】　地球のある地点を通る子午面*が旧グリニッジ天文台を通る子午面となす角度をその地点の経度という。グリニッジを経度0°とし，グリニッジより東にある地点の経度は東経，西にある地点の経度は西経で示す。恒星時*は春分点*の時角*であるから，天体観測によって恒星時を求め，経度のわかっている地点の恒星時と比較すれば，その地点の経度が決定される。



ケ イ ト ウ　多くの品種があり，花の形や草状によって分類されている

けいとう　【鶏頭】　双子葉植物・ヒユ科。熱帯アジアの原産の一年草で，古くから日本にはいり，園芸上いろいろな品種がある。茎は高さ90cmくらいになり，紅色をおびる。葉は細い卵形で先がとがる。夏～秋に茎の上部が平たくなり，その上に無数の小花を密につけ，ちょうどニワトリのとさかのようである。品種によって，赤・紅・黄・白などの花色があり美しい。

けいとう　【恵棟】　(1697～1758)　中国，清朝(しんちょう)の考証学者。江蘇(こうそ)省蘇州の人で，字(あざな)は定宇。家学を受け継いで後漢の経学を再興した。彼の学問を漢学*とよび，その学派を呉派という。代表作は《九経古義》。《古文尚書考(しょうしょこう)》《易漢学》は，宋(そう)・明(みん)の性理学*が依拠した経書の権威を文献学的に否定したものである。呉派には彼の弟子(でし)の王鳴声や銭大昕(せんたいきん)があり，後者は博学で，代表的著作に《十駕斎養新録(じゅうかさいようしんろく)》がある。
〔西　順蔵〕

けいとうじゅ　【系統樹】　ある一群の生物について，推定される系統発生*の過程を一つの樹状の図に表わしたもの。種々の方式があるが，通常，古い時代を下におく地質年代図の慣例に従って，年代を縦軸にとり，化石から知られる祖先生物を最下部において起点とし，そこから分岐発展したと考えられる系統を上向きの樹枝状の線で示すことが多い。もとはドイツの動物学者E.ヘッケル*が創案したもので(1866)，これがきわめて新鮮な試みであったため，生物学界に大きな刺激を与えた。しかし，再現不能の歴史的過程に関するものであるために，やがてその科学性に疑問がもたれるに至った。そのうえ，系統の起源・変異・地理的分布など，生物の進化史を構成する諸要素をそこに反映させることができないという事情もあり，系統樹が生物学に対してもつ意義は減少しつつある。しかし，古生物学や比較形態学の成果から推論される類縁関係を，仮定的に図示するのに便利なので，なおしばしば用いられる。　〔田隅本生〕

けいどうちかい　【傾動地塊】　地殻(ちかく)の一部が不均一な垂直運動を起こして傾いた地塊。多くの場合，緩傾斜の背面と急傾斜の前面(断層崖(だんそうがい))をもった地塊となる。アメリカのシエラネバダ山脈はその典型で大規模である。日本では四国山脈・九州山地・飛騨(ひだ)山脈・木曽(きそ)山脈，および房総半島の東南部などにその例がみられる。

けいとうはっせい　【系統発生】　宗族発生ともいう。生物のある種族またはグループが，太古の祖先以来世代を重ねるにつれて，形態的に変化してきた過程。進化*と同様の意味で使われることもあるが，本来の意義はそれより狭い。個体発生の語とともにE.ヘッケル*が創始したことばで，はじめ反復説*の唱道に用いられた。進化論の諸概念に基づいて，古生物学・比較解剖学・比較発生学などの方法によって研究され，推定される事がらである。そのため，同一の研究対象について，人により異なった考え方が出されることが多く，実証の不可能性ということがその研究の決定的な難点となっている。反復説の出現に刺激されて，系統発生の研究は一時盛んとなり，ひいては生物学全般の発展を促した。しかし，上記のような理由でその研究はしだいに行きづまり，生物学の中に占める地位は低下しつつあるが，進化学上の一般概念としての重要性はなおきわめて大きいといってよい。
〔田隅本生〕

けいとうぶんるいがく　【系統分類学】　分類学*の一分野。生物は代を重ね，長い進化*の道をたどって変化してきており，また その生物相互にいろいろの類縁関係をつくり出してきている。それを系統といい，生

物の分類においてもこの系統に一致した分類系が最も自然の姿を正しく現わしていると考えられ，この立場で行なわれる分類を系統分類という。しかし，今日系統について未知の事実が多いため，この分類による分類系はまだ不十分なものである。

〔横井朝子〕

けいどうみゃく　**【頸動脈】**　頸部より上方を養う血管。左の頸動脈は直接大動脈弓より，右は腕頭動脈を経て総頸動脈となって頸部を上行し，甲状軟骨上縁の高さで内外の頸動脈に分かれる。内頸動脈はおもに脳を養い，外頸動脈は顔面の皮膚・筋などを養う。総頸動脈の分岐部に頸動脈小体という米粒大のものがある。この部分で内頸動脈がふくれ，その壁に特殊な神経性の感受部位が存在している。ここに舌咽(ぜついん)神経の枝(減圧神経)が出ていて，反射的に血圧を調節している。

〔蟋井　勉〕

けいとくちん　**【景徳鎮】**　チントーチェン　中国，江西省北東部にある都市。唐代には昌南鎮(しょうなんちん)といわれたが，宋(そう)代に年号によって景徳と改めた。世界的に有名な陶器の産地で，昌江の沿岸5kmに及んで延びる市街には，窯が林立する。人口は約16万であるが，開窯期にあたる4月～11月には労働者と商人が集まって倍加する。陶土は，付近のものは採土しつくされ，現在は安徽(あんき)省の祁門(きもん)県から運ばれている。国営工場の建設も進められている。

➔次項　〔千田　稔〕

けいとくちんよう　**【景徳鎮窯】**　江西省北東部，景徳鎮における陶業。その起源は漢代にさかのぼるともいわれているが，南北朝時代の584年に宮殿用の陶楚(とうそ)を献上し，唐時代の武徳年間(620年)に白磁を焼いて名工が輩出したと伝わる。また，宋(そう)代には影青(いんちん)とよばれる鋭く精緻(せいち)な青白磁の窯(かま)として名をはせ，六朝に染め付け・釉裏紅(ゆうりこう)のいわゆる下絵付け磁器の焼成を始めて，明(みん)・清(しん)時代の繁栄の基礎を築いた。特に明の洪武帝(こうぶてい)に官窯が設けられて以来，中国陶磁の優品はほとんどこの窯の産となった。最も盛んだった明の後期には鎮の人口は50万に達し，官窯だけでも58基あったと伝えられている。清代に再び康熙帝(こうきてい)が官窯を設け，雍正(ようせい)・乾隆帝(けんりゅうてい)と続いて技術の粋を尽くした作品をつくった。

〔矢部良明〕

けいどふう　**【傾度風】**　大気中で等圧線が同心円形をなしているときに，気圧傾度が地球自転の転向力と遠心力の合力とつりあっているように吹く風。傾度風は等圧線に沿って吹き，中心が高気圧のときは時計回りに，低気圧のときは反時計回りになっている。実際の大気中でも台風などのように円形等圧線に近い場合には傾度風が卓越していることが知られている。

けいどへんか　**【経度変化】**　地球上の天文経度が，非常にわずかではあるがたえず変化している現象。経度変化は緯度変化と同様に主として極運動に起因しているが，それ以外にも大陸移動または鉛直線の変動によると思われるものなどが観測されている。

けいなん　**【荊南】**　中国，五代十国の一。南平国ともいう。始祖の高季興が後梁(こうりょう)によって荊南節度使に封ぜられてから宋(そう)に滅ぼされるまで，5主57年間(907～963)継受。江陵を都とし，湖北省南部を領したが，十国のうち最小で，四周列強の緩衝地帯として外交と貿易で国を維持した。

けいにく　**【鶏肉】**　⇨とりにく

けいニッケルこう　**【珪ニッケル鉱】**　ニッケルの鉱石の一。ニッケルジャモン石・ニッケルサポナイトなどの含水ニッケルケイ酸塩鉱物を主成分とするが，単一の鉱物でないことが多い。緑色ないし青緑色で，土状・塊状を呈し，ニッケルに富むカンラン岩の風化によって生ずる。ニューカレドニア島，インドネシアなどが主産地である。

げいのう　**【芸能】**　文芸・美術と並ぶ芸術の一種。すなわち，芸能とは〈あるとき，ある場所において，それを鑑賞しようとする人たちの前で，個人または団体が，その肉体および動きや音声などをおもな材料・手段としてその生活や経験を通じて感じとった美を表現しようとする芸術〉である。この意味の芸能は，音楽・舞踊・演劇の3種類に分けられる。芸能が，文芸や美術という他の種類の芸術と著しく異なる点は二つある。第1は，文芸や美術においては，作家・画家・彫刻家・工芸家・建築家というものが，自己の肉体以外の材料・手段を用いて美的なものを表現しようとするのに対し，芸能にあっては，芸能人が，自己の肉体をおもな材料・手段として美的なものを表現しようとすることである。第2は，文芸や美術にあっては，作品というものが完成してから鑑賞の対象とされるものであるのに対し，芸能においては，鑑賞者の前で，鑑賞者とともに作品をつくりあげていくものであるということである。したがって，文芸や美術にあっては，美的なものを表現した結果としての作品というものがあとに残り，それが鑑賞の対象となるものであるに対し，芸能においては，美的なものを表現している瞬間瞬間が鑑賞の対象となり，作品というものがあとに残らない。以上のように，芸能は，文芸や美術と異なり，あくまで鑑賞者を含む広い意味の舞台で完成されていく芸術であり，舞台を離れてはありえない芸術であり，舞台で表現した次の瞬間には消えてしまう芸術であるという点から，芸能のことを〈舞台芸術〉ともいう。

〔佐藤　薫〕



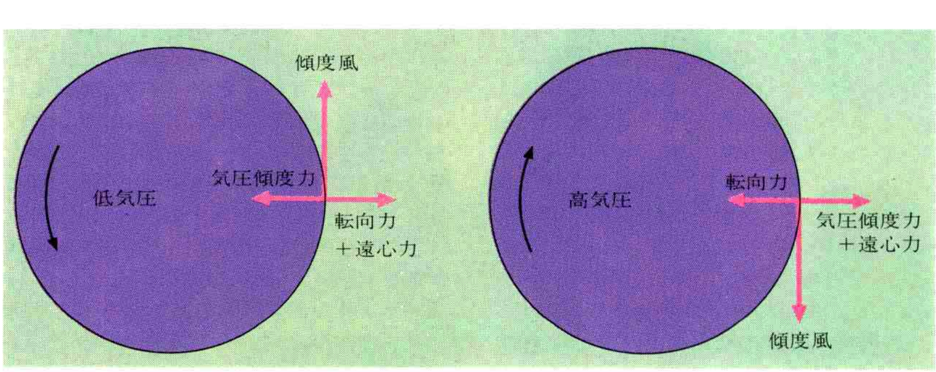
景徳鎮窯《青花龍文壺》中国，元時代　東京国立博物館蔵

けいば　**【競馬】**　⇨次ページ

けいはい　**【珪肺】**　塵肺症(じんはいしょう)の一。最も重要な職業病。遊離ケイ酸SiO_2の粉塵を吸入することによって起こる肺の慢性疾患で，きわめて徐々に進行し，やがて心肺機能の障害をきたして労働できなくなる。1955年(昭和30)に公布された〈珪肺等特別保護法〉の適用を受ける事業場は，1967年には24,657あり，粉塵作業に従事している者は451,848人，定期健康診断を受けた者144,187人，うち13,373人(9.3%)が塵肺症状があるとされた。珪肺発生のおそれのある産業としては金属鉱山・金属精錬所・炭鉱・土石採取業・鋳物業・窯業・機械工業などである。

症状の中で最も多いのは呼吸困難・せ

➔222ページ



傾度風　傾度風の発生原理

競　馬

定められた条件のもとでウマを競走させて，その勝負に賭(か)け合う競技。

【歴史】ウマを競走させる競技を楽しむようになったのは，人間がウマを家畜として利用しはじめたのとほぼ同じころと考えられ，その最古の記録はホメロスの《イリアス》(紀元前8世紀末)にみられる。しかし，競馬が今日のように賭け行為を伴う形態をとるようになったのは中世以降である。古くから王侯貴族のあいだで愛馬熱の強かったイギリスでは，12～13世紀ごろから，自己の生産し所有するウマの能力と騎手の騎乗能力とを競うために一定の金額を出し合い，それを賞金として競走させるという習慣が自然に生じ，一方，観衆もただ見るだけでなくその勝負に賭け合うようになった。16世紀になると専用施設としての競馬場が各地に出現し，1750年には有力者たちによるジョッキークラブが創立されてしだいに〈競馬の運営と監督についての中央統轄機関〉としての権威と権力を備えるようになり，また，ダービー創設(1780)の前後にあいついで，いわゆる4歳クラシック競走が誕生し，19世紀の初頭までにほぼ現在と同じ施行体系が確立した。こうしてイギリスに源を発した競馬は，18世紀ごろからフランス・アメリカをはじめとして漸次世界各国に広まった。各国の事情によって施行形態に若干の差異はあるが，ウマを競走させてその勝負に賭け合うことを本質とすることに変わりはない。現在，ソ連など社会主義諸国を含む70か国近くで実施されており，国際的に最も普遍性の高いスポーツとしての地位を獲得するに至った。また，はじめは一部特権階級の趣味として発生したものであるが，その後国際性が高まるにつれて大衆娯楽としての要素を増し，さらにその収益が政治組織機関の財源として重視されるようになったのが近年における世界的な傾向である。

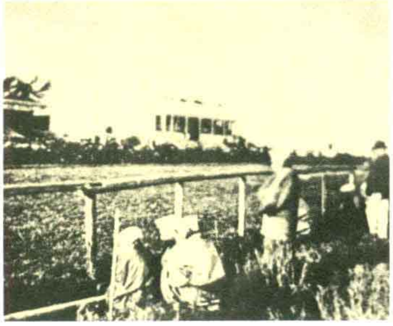
日本でも，2頭のウマに勝負を争わせ，勝者に禄(ろく)を授けるという行事がすでに8世紀の初頭に宮中で公事(くじ)として行なわれていた。《続日本紀(しょくにほんぎ)》に〈走馬〉，《枕草子(まくらのそうし)》に〈競馬*(くらべうま)〉の記述がそれぞれみられる。また，11世紀になると京都の上賀茂(かみかも)神社などにおいて神事としての競馬が行なわれるようになった(神事・公事競馬時代)。いわゆるイギリス式競馬がはじめて登場したのは1861年(文久1)に横浜居留の外国人の間においてであり，明治維新後の1888年(明治21)には馬券も発売されたが一般の日本人は関与できなかった(居留外人競馬時代)。しかし，1905年明治政府は，馬産奨励と馬種改良に競馬が有効だと認めて馬券発売黙許の措置を講じたため，翌年，まず東京の池上で日本人の手による最初の馬券発売を伴う競馬が実施され，続いて全国8か所でも行なわれて予想外の盛況を呈した(馬券黙許時代)。しかし反面，不正行為や不祥事件が続発し，その社会的弊害が新聞紙上などで糾弾され，また1908年に新刑法が施行されたこともあって，政府は同法の〈賭事と富籤(とみくじ)に関する罪〉を適用することをきめて，同年，通牒(つうちょう)により馬券発売を禁止した。政府は代わりに補助金を交付して競馬施行を奨励したけれども，馬券発売による収入がとだえた施行者側の財政難と観覧者の激減により，いわゆる補助金競馬は衰退の一途をたどった(補助金競馬時代)。この間，安田伊左衛門(いざえもん)ら競馬関係者や競走馬生産者らによって馬券発売許可の陳情が続けられ，その結果1923年(大正12)，前記の刑法適用を除外することとし，政府の規制のもとで馬券発売を法的に認めることをうたった競馬法が帝国議会を通過した。それにより札幌(さっぽろ)・函館(はこだて)・福島・新潟・東京・中山・横浜(日本レース)・京都・阪神(はんしん)・小倉・宮崎の各競馬倶楽部(クラブ)の手で馬券発売を伴う競馬が再開され，これが公認競馬の名のもとに以後順調な発展を遂げた(競馬クラブ時代)。その後，規模の拡大と業績の進展につれ各クラブ独自の施行には種々の不便が生じ，また運営管理に支障をきたす傾向が現われたため，1936年(昭和11)，法律改正により11の競馬クラブを統合して特殊法人日本競馬会が設立された。また，これよりさき1932年，イギリスのダービーに範をとった東京優駿(ゆうしゅん)競走が誕生するなど，今日にみられるような競走体系はこのころまでにほぼ固まった(日本競馬会時代)。第2次世界大戦中，競馬は一時中止されたが戦後まもなく復活した。しかし，従来のような組織による競馬施行は占領軍から独占禁止法に触れるものとされたため，1948年，日本競馬会が解散し，新たに制定された競馬法に基づいて組織・業務などすべて農林省(競馬部)に移管していわゆる国営競馬になった(国営競馬時代)。その後，競馬の民営移管を望む世論なども反映して1954年成立した日本中央競馬会法により，全額政府出資の特殊法人日本中央競馬会が設立され，それまでの国営競馬は，いわゆる中央競馬に移行した。こうして現在，日本中央競馬会は農林省などの監督を受け全国の10競馬場(札幌・函館・福島・新潟・中山・東京・中京・京都・阪神・小倉)において年間延べ日数，最高288日間の中央競馬を実施している(中央競馬時代)。

【サラブレッド】競馬の発祥地をイギリスだとする一つの理由に，同国がサラブレッドの発祥地であることがあげられる。東洋から輸入されたいわゆるアラブ種の牡馬(ぼば)とイギリス在来の牝馬(ひんば)とを根幹とし，競馬による能力検定を経て淘汰(とうた)をくり返し改良を重ねた結果，新しく誕生したのがサラブレッドという品種であるが，このことばを最初に活字にしたのは1806年の《スポーティング-マガジン》だといわれる。イギリスには古くからウマを駆(か)ってキツネを狩るスポーツが特に王侯貴族の間で人気があり，また石灰土壌(せっかいどじょう)に富む広大な放牧地に恵まれ，さらにリチャード2世らのように競馬に熱中して良馬の生産に腐心した国王が少なくなかったことなど有利な条件も多かった。しかし，サラブレッドの誕生に不可欠の役割を果たしたのは，競走成績を克明に記した《レーシングカレンダー》(1773年創刊)とウマの繁殖成績と血統を余すところなく収録した《ゼネラルスタッドブック》(1791年創刊)であろう。両親がともに既刊のスタッドブックに記載されていることがサラブレッドの条件とされており，このウマが別名〈純血種〉と称されるゆえんである。このイギリス原産のサラブレッドを輸入して競走馬を生産し，また競馬を施行する国ではそれぞれイギリスの様式にならって競走成績書と血統書を刊行し，サラブレッドの純血保持と能力の向上とを図っている。

わが国で本格的なサラブレッドの生産が開始されたのは1907年に小岩井農場がイギリスから牡馬1頭，牝馬20頭を輸入して以後とされている。その後競馬の隆盛とともに生産頭数も順調にふえ，特に第2次世界大戦後における増加率は大きく，1970年の生産頭数は前年より17％多い4,389頭であった(イギリスの年間生産頭数は約6,000頭，フランス3,000頭，アメリカ23,000頭)。なお，現在，日本中央競馬会が競馬成績公報(毎年)を，また軽種馬登録協会がサラブレッド血統書(4年ごと)をそれぞれ発行している。

【レースの種類】主要種目として平地・障害・繋駕(けいが)速歩の3競走あるが，日本では平地競走が圧倒的に多く，繋駕速歩競走は1968年限りで中止された。イギリスでもこれは実施していないが，ドイツ・フランス・ソ連の各国ではむしろ平地競走の回数を上回り，アメリカでも最近，同競走の伸びが著しい。平地競走を中心に分類すると，出走馬の品種ではサラブレッドが主流となっており，アラブは年々減少しつつある。次に年齢別には，3歳馬，4歳馬，4歳以上，5歳以上などに分類される。なおウマの年齢は，日本では生まれた年に1歳，外国では0歳とし以後毎年1月1日に1歳ずつ加算する。また，競走距離によるレースの分類として，平地競走にはだいたい1,000mから4,000mまでの各距離の競走があり，





(左)1830年代におけるイギリスの競馬風景図。ドンカスター競馬場　(右)1870年の根岸競馬場(横浜)《神奈川の写真誌—明治前期編》(有隣堂)から



日本における最大の障害競走(中山大障害)の難関である〈赤れんが〉飛越の瞬間





(左)大観衆を背に激闘の馬群　(右)ゴールめがけて突進するサラブレッド。鞍上の騎手のむちにも力がはいる

このうち1,400mぐらいまでを短距離，1,600m前後を中距離，それ以上を長距離とおおまかに区別し，それぞれの距離を得意とするウマをスプリンター・マイラー・ステイヤーと称するが，距離の長短についての素質は一般に遺伝するといわれる。さらに，出走馬の能力による分類として条件競走・オープン競走の別がある。前者は〈××万円以下〉のように過去の収得賞金額によりウマに出走制限を設けるもの，後者はこれより上級のウマでそのような制限のつかないものである。このうち特に賞金が高くファンの人気を集めるのが重賞競走と称するものであり，その最高峰として代表的な4歳馬が争う皐月賞(さつきしょう)(イギリスの2,000ギニーに相当)・東京優駿(同ダービー)・菊花賞(同セントレジャー)・桜花賞(同1,000ギニー)・優駿牝馬(同オークス)などのいわゆるクラッシック競走と，春・秋2回の天皇賞(5歳以上)，ファン投票などにより出走馬をきめる有馬(ありま)記念(4歳以上)があげられ，これらを総称して8大競走ともいう。最後に，出走馬に課する負担重量(騎手の体重に鞍(くら)などを加えたもの)による分類がある。ウマの年齢・性・走行距離などによりあらかじめ負担重量を定めたものが〈馬齢重量競走〉で，次にその競走だけ別に負担重量を定めたものを〈別定重量〉と称し，前記の8大競走もこれに属する。さらにハンデキャッパーが各馬の収得賞金額・持ち時計・脚質などを勘案し，出走する全馬に平等の勝機を与えるよう負担重量を按配(あんばい)したのが〈ハンデキャップ競走〉であり，重賞競走でこれに属するものに目黒記念などがある。なお，このような競走の種類と体系は外国においてもほぼ同様である。

〔勝馬投票〕競走するウマの勝負に賭ける行為がつまり勝馬投票であるが，中央競馬で現在発売している勝馬投票券(いわゆる馬券)は，1着馬を的中させる〈単勝式〉，2着馬(出走馬5～7頭の場合)または3着馬まで(8頭以上の場合)のいずれかを的中させる〈複勝式〉，および1，2着馬をその入着順位にかかわらず1組みとして(出走馬9頭以上の場合全体を八つのわくにまとめる)的中させる〈連勝複式〉の3種類である。馬券売上高のうち〈連勝複式〉の占める割合が圧倒的に多い(1969年は約94%)。なお，発売総額の近年における伸びはめざましく，1970年度の実績は前年度の26%増にあたる4,069億余円であった。なお，馬券の発売は当該競馬場のほか場外発売所およびその他の競馬場(8大競走などの場合)でも行なわれ，現在では場内・場外における発売額比率はほぼ半数になっている。払いもどし金の計算については，上記の各投票種類ごとに売上金額を集計し，それぞれの約25%に相当する金額を控除し，残りの約75%に相当する金額をそれぞれの的中者に配分する。

　次に勝馬投票による収益の使途については，発売総額から控除した約25%に相当する金額のうち，10%が国庫納付に，約6%が馬主への賞金など直接の競走経費に，そして残りの9%が競馬施行，施設の維持・管理などの経費に充当される。日本中央競馬会は前記のごとく発売総額の10%に相当する分と年度末に得た剰余金の2分の1にあたる金額を国庫に納付するが，政府はこれを畜産事業と社会福祉事業の振興(3：1の比率)に使用するよう義務づけられている。

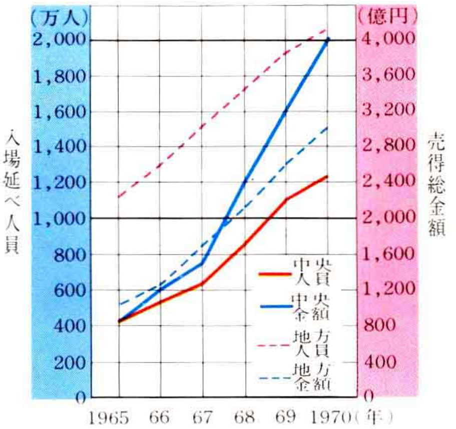
　競馬に伴う賭け行為は，はじめイギリスにおいて馬主どうしの賭けとしていわば自然発生的に起こったものであり，やがて観覧者どうしの賭けが発展するようになるとブックメーカーと称する専業者が登場し，各馬の配当率(オッズ)をあらかじめ掲げて客と賭けるようになった。現行のように，競馬施行者(または委託を受けた団体)が馬券を独占的に発売，各レースごとに集計したその合計額から定められた率の金額を控除し，残額を的中者に分配するという〈パリミュチエル方式〉が発明されたのは19世紀後半のフランスにおいてである。現在，日本をはじめアメリカ・フランスなど多くの国ではこの方式を採用して，ブックメーカーの存在を認めていない。しかし，両者を併用するイギリスではブックメーカーによるものが支配的である。また，馬券の種類も，外国には，何レースかの1着馬を続けて的中させる〈重勝式〉などいろいろなものがあ

り，控除率も各国一様ではない。なお，場外馬券の発売を禁止している国もあるが，アメリカでは最近それが許可され場外発売を開始した。

【馬主・調教師・騎手】 定められた手続きを経て日本中央競馬会から認可された馬主はおもに2歳時のウマを生産者から直接に，またはせり市で購入し，その馬名登録を済ませてから希望する調教師に預託し(預託料は，ウマの飼養料・調教料・装蹄料(そうていりょう)，馬丁の給与など含む)，競馬に出走させて賞金(ただし進上金として2割を差し引く)を施行者より受領する。賞金額は馬券の発売額の伸びにつれて年々増加し，1970年度のサラブレッド出走馬3,788頭の1頭あたり平均収得額は373万円余りであった。

調教師になるには，日本中央競馬会の実施する試験に合格して免許を受けねばならない。その免許期間は1か年である。調教師の数は現在全国で162人である(1971年3月)。馬主から預託を受けたウマを調教・管理して目標のレースに出走させるのが調教師の主要任務であり，その収入は馬主からの預託料の一部に含まれている調教料と，出走して入着した場合の進上金(賞金の10％)などである。

騎手(ジョッキーともいう)になるには，東京，馬事公苑(こうえん)の騎手養成所に入所して2年間の講習を受けるのと，調教師のもとで騎乗技術などを習得するのと二つの方法



公営競馬(中央競馬・地方競馬)の入場人員・売得金額　《中央競馬年鑑》(1970年版)

があるが，いずれも調教師の場合とほとんど同じような免許試験に合格しなければならず，免許期間も同じく1年である(1971年3月現在227人)。ほとんどの騎手はそれぞれ調教師と個別に騎乗契約を結んでおり，その収入は出走ごとに日本中央競馬会から支出する騎乗料と，調教師から受ける騎乗契約料と，進上金(賞金の5％)とからなる。厩舎(きゅうしゃ)でウマを飼育管理する馬丁は，調教師と雇用契約を結び，またその担当するウマが入賞した場合，進上金(賞金の5％)を受ける。

【中央競馬と地方競馬】 日本では1948年制定の競馬法に基づいて，上述の中央競馬とまったく組織体系を異にする地方競馬(公営競馬とも称する)の二つを現在実施しているが，地方競馬はもと祭典競馬や全国各地の畜産組合主催による共進会競馬に源を発したものであり，1923年制定の競馬法の対象にならず，そのため馬券発売が認められなかったが，1939年の軍馬資源保護法によりはじめて馬券の発売が許可され，さらに1948年の新競馬法によって現在の地方競馬体系が確立した。1970年には32競馬場において延べ2,176日の競馬を実施し，馬券の発売金額は合計3,078億余円に達した。近年における入場者数・馬券発売金額の増加は中央競馬同様に著しいものがある。地方競馬の施行者は都道府県および特に政府から指定を受けた市町村であるが，馬主登録・騎手免許などは地方競馬全国協会が行なう。競走種目には平地・障害のほか繋駕速歩，挽曳(ばんえい)などがあり，勝馬投票法などまったく中央競馬と同様であるが，収益の国庫納付制度はなく，その分は競馬を主催する地方自治体の収入になり，また発売金額の約1.2％が地方競馬全国協会へ交付され，畜産振興の助成にあてられる。なお，馬主は中央競馬と地方競馬の双方を兼ねることができるけれども，調教師・騎手については認められず，競走馬の交流にも大きな制限がある。　〔原田俊治〕

競馬の用語

上がり　ゴール前の4ハロン(800 m)または3ハロン(600 m)のこと。おおかたのレースは，ここでの展開で勝負が決まり，特にその所要タイムが重視される。

追いきり　そのレースのための仕上げの調教で，出走予定日の3または4日前に行なう。このときの(調教)タイムが勝ち馬検討の重要なデータとなる。

脚質　ウマには，スタート直後に先頭を奪いずっとそれを保持しようとするもの(先行)，レース途中で先頭に立ちそのまま逃げきって優勝するもの(逃げきり)，最終コーナーを過ぎてからゴールまでの直線で後方から一気に先頭に立って勝負するもの(追い込み)，直線で中団あたりから先頭に立つもの(差し脚)などの癖があり，これを脚質という。また，レース展開や相手馬により〈自在〉に脚質を変えるウマもいる。

三冠馬　4歳クラシック競走のうち牝馬しか出走できないものを除いた皐月賞・東京優駿・菊花賞の3競走全部に勝ったウマの称。イギリスで15頭，日本ではセントライト(1941)とシンザン(1964)。

ダート(コース)　芝を植えたものでなく，砂地の競走コース。中央競馬では芝コースが主体で，東京競馬場などのように両者を併用するところもある。それぞれのコースを得意とするウマがある。

ダービー　4歳クラシック競走の一。1780年にイギリスのダービー卿(きょう)により創設され，その後多くの国で同様の競走が実施されるようになった。イギリスや日本ではこれに最高賞金を支出し，人気も最高であるが，フランス・アメリカなどでは必ずしもそうではない。

抽選馬　日本中央競馬会がせりで2歳馬を購買し同会の施設において育成したものを3歳時の春，希望馬主に抽選で頒布(はんぷ)(価格は一律に購買価格の平均値)するもので，日本独得の制度である。出馬表や成績表などで馬名の頭に㊕の記号を付する。

馬体重量　現役のサラブレッドの体重は470kg前後が普通であるが，そのわずかの増減がウマのコンディションと関係があるとして，勝ち馬検討のデータに使われる。

馬場状態　乾燥してかたいものから降雨などによる軟弱な状態まで，その程度により馬場状態を〈良〉〈やや重〉〈重〉〈不良〉の4段階に分ける。それぞれの馬場を得意とするウマがあり，またその素質は一般に遺伝するといわれる。

き・胸痛で，肺結核を伴うことが多い。1960年に公布された〈じん肺法〉ではX線診断によって第1型から第4型に分類され，第3型では粉塵作業以外の作業につかせ，第4型は療養を要するとされている。予防法としては，粉塵の発生を防ぎ，空中への飛散を阻止して労働者が吸入しないようにすることが必要である。また，定期健康診断を励行して早期に発見し，職場転換その他適切な措置が必要である。肺結核の既往症のある者は粉塵作業に従事しないようにする。　〔金子義徳〕

けいばい　【競売】　〈きょうばい〉ともいう。強制執行*において，目的物の換価方法として民事訴訟法に従って債務者の動産または不動産を売却すること。売り主が多くの買い手にその価格のせり合いをさせ，最高価をつけた人に売る〈せり売り〉と同じ。一般の人が行なうものと，裁判所・税務署などの国家機関が行なう場合とがあり，国家機関が行なうものは〈公の競売〉という。

民事訴訟法に定めている〈強制〉競売，競売法に基づく担保権の実行(任意競売)，国税滞納処分などに用いられる。〔内田剛弘〕

けいばつ　【刑罰】　⇨次ページ

けいばつ　【閨閥】　妻の姻戚(いんせき)関係の勢力を中心とする私的な利益をよりどころとして結ばれた集団。近代化・合理化されたといわれる現代社会でも，いまだ古くからの家*と家との結びつきを社会生活においても重要視する傾向がある。そのため，開放された公的な主義・主張あるいは目的によって形成された集団とは異なり，この集団は必然的に封鎖性をもっている。このため，それが排他的な強い優越した力となって他の集団に作用する。また，私的利益を優先するという一義性をもっているため，この集団に所属する成員は公的な場面にさえもその勢力を及ぼす。政界・財界・学界などで，しばしばこの集団形成とみられるものがあり，その力は予想以上に大きな働きをすると思われる。〔斎藤昌男〕

けいはんざいほう　【軽犯罪法】　市民の日常生活における軽微な犯罪を取り締まるためにつくられた法律(1948)。たとえば，人のいない邸宅や建物・船舶などに理由なく潜んでいた者，刃物や鉄棒など他人を殺傷するために使用される器具を隠し持っていた者，働ける能力がありながら職業につく意志なく，決まった住居をもたないでうろうろしていた者，劇場や飲食店などの公共の娯楽場で入場者に対して，また公共の乗物の中で乗客に対して粗野または乱暴な言動で迷惑をかけた者，公務員の制止を聞かずに人声・楽器・ラジオなどの音を大きく出して近所に迷惑をかけた者，公務員にうその犯罪や災害の申し出をした者，質入れするときにうその氏名・住所・年齢を申し出て記載させた者，牛馬その他の動物を虐待した者，こじきをしたりこじきをさせた者，浴場や便所などをのぞき見した者，道路・公園などでたんつばを吐いたり立ち小便した者など，34項にわたる行為を取り締まっている。

違反した者は裁判によって拘留*または科料*に処せられるが，情状によりその刑を免除されたり，拘留と科料を併科されたりすることも定めている。この法律は運用次第では，国民の基本的人権*を侵害するおそれがあるので，国民の権利を不当に侵害したり，思想上の取り締まりなどに濫用してはならないことも第4条に明記されている。〔内田剛弘〕

けいはんしんきゅうこうでんてつ　【京阪神急行電鉄】　京都・大阪・神戸(こうべ)の3都市を結ぶ地方鉄道とその沿線のバス路線を経営する交通企業体。1973年(昭和48)阪急電鉄と社名改称。1907年(明治40)箕面(みのお)有馬(ありま)電気軌道として設立，のち阪神急行電鉄となり，1943年(昭和18)に表記の社名となった。沿線の宅地開発やターミナルデパートの経営など，大都市私鉄の副業経営のパイオニアとして知られている。鉄道の営業キロ数141.2で，全線が電化されている。主要路線には，神戸線(梅田～三宮間，1924～1936年阪神急行電鉄により開業)，宝塚(たからづか)線(梅田～宝塚間，1910年箕面有馬電気軌道により開業)，京都線(梅田～河原町間，1921～1963年新京阪鉄道その他により開業)などがある。〔青木栄一〕



京浜運河　横浜市鶴見区上空から川崎市方面を望んだ京浜運河。行きかう船も小さく見える。右手は扇島で，白い巨大な貯油槽が並ぶ

けいはんでんきてつどう　【京阪電気鉄道】　京都～大阪間を結ぶ地方鉄道とその沿線のバス路線を経営する交通企業体。1949年(昭和24)京阪神急行電鉄*から旧京阪電気鉄道路線の主要部の譲渡を受けて分離設立した。鉄道の営業キロ数89.2で，全線電化されている。主要路線には京阪本線(三条～淀屋橋(よどやばし)間，1910～1963年旧京阪電気鉄道その他により開業)，京津線(三条～浜大津間，1912～1925年京津電気軌道により開業)などがある。〔青木栄一〕

けいひ　【経費】　企業経営に欠くことができない費用の一部を構成する費目で，材料費・労務費と並んで重要である。直接経費・製造間接費・販売費・一般管理費に分類することができ，要素別にみれば，おもなものに減価償却費・福利厚生費・賃借料・保険料・修繕料・電力料・交際費・旅費交通費・租税公課などがある。

財政学上では，国の財政需要を満たすために要するいっさいの費用を意味する。したがって，国の歳出予算のことをさし，これには所管省別あるいは目的別などの分類がなされている。たとえば，所管省別分類では，省別→組織別→項別→目別→細目といったぐあいに，しだいに細かく分けられている。〔山桝忠恕・西野義彦〕

けいひえんじょ　【経費援助】　労働組合*の結成・運営の費用として，使用者から経済的援助を受けること。労働組合法はこのような援助を受ければ労働組合に該当しないとしている(同法2条2項)。また同法7条では労働組合の自主性が失われて御用組合*化するおそれがあるため，これを不当労働行為*として禁止している(3項)。ただし，御用組合化のおそれのない福利厚生施設への経費援助は弊害がないので認められる。

げいびけい　【猊鼻渓】　岩手県東磐井(ひがしいわい)郡東山町にある渓谷。北上川の支流，砂鉄川中流で，石灰岩の節理に沿った溶食や川の侵食によってできた高さ10～30 mの奇岩・絶壁が2 kmにわたって続き，1925年(大正14)天然記念物に指定された。大船渡線の陸中松川駅に近く，遊覧船で渓谷美を満喫することもできるので，観光客が多い。〈猊〉は獅子(しし)の意で，地名は渓谷の上流に突出した鍾乳石(しょうにゅうせき)が〈獅子が鼻〉とよばれることに由来しており，明治末年に東山町出身の漢学者佐藤猊巌に紹介されてから，広く一般に知られるようになった。〔味沢成吉〕

けいひこうき　【軽飛行機】　公式な基準はないが，一般に自家用や観光・スポーツ・連絡・測量・魚群探知などに用いられる単発・軽量の小形飛行機をいう。

けいびこうどう　【警備行動】　⇨防衛出動

げいびせん　【芸備線】　中国地方，伯備線備中神代(びっちゅうこうじろ)と山陽本線広島とを結ぶ国鉄路線で営業キロ数159.1。1936年(昭和11)全線開通。三次(みよし)・庄原(しょうばら)などの中国山地内の都市を通過し，木次線・福塩線とも結ぶ。

けいひんうんが　【京浜運河】　東京湾の横浜港と東京港とを結ぶ水路で，水深の浅い東京港への通路として東京湾の西岸沿いに設けられている。距離8 km，幅約500m，水深12mで，1920年(大正9)浅野総一郎によって着工された。運河に沿って扇島などの埋め立て地がつくられている。

けいひんきゅうこうでんてつ　【京浜急行電鉄】　東京都南部から三浦半島にわたる地域で地方鉄道，軌道とバス路線を経営する交通企業体。1948年(昭和23)に東京急行電鉄から旧京浜電気鉄道の路線の譲渡を受けて分離設立した。鉄道の営業キロ数83.8で，全線電化されている。主要路線には京浜本線(品川～浦賀間，1901～1930年京浜電気鉄道・湘南(しょうなん)電気鉄道により開業)，久里浜線(堀ノ内(ほりのうち)～三崎口間，1942～1975年開業)などがある。〔青木栄一〕

刑　罰

犯罪を犯した者に対して国家が加える法的制裁をいい，一定の利益の剝奪(はくだつ)を内容とする。刑罰の本質・目的については，従来，考え方の激しい対立があった。すなわち，罰すること自体に意義を認める絶対主義ないしは犯罪に対する反動として加えられる害悪が刑罰であるとする応報刑*論の立場と，犯罪の予防などの諸目的に奉仕する手段であることに刑罰の存在意義を見いだす相対主義ないしは犯人の教育・改善，社会の防衛などの目的を強く打ち出す目的刑(→教育刑)論の立場との対立であった。しかし，今日ではこのような極端な対立を解消しようとするのが世界的傾向であり，絶対主義・相対主義のそれぞれの主張を合一しようとする統合主義の考え方が妥当とされるに至っている。刑罰が犯罪者に加えられる国家的非難であるかぎり，犯罪との間に適正な均衡が保たれなければならないから，そのかぎりで，それは応報的性質をもつというべきであるが，刑罰は応報にとどまるものではなく，一般人の遵法精神を維持して犯罪を抑止する一般予防，および犯人の改善と再犯防止のための特別予防の目的に役だつものでなければならないというのである。

刑罰は，剝奪される利益の種類によって，生命刑*・身体刑・自由刑*・名誉刑・財産刑*に分かれる。このうち，日本の刑法によって認められているのは，生命刑たる死刑，自由刑たる懲役・禁錮(きんこ)・拘留，財産刑たる罰金・科料・没収だけである。死刑については，人道上または刑事政策的見地から廃止論が盛んであるが，全面的廃止は時期尚早(しょうそう)であるという意見がなお大勢を占めている。自由刑についても，懲役にだけ作業を科することに対する疑問から，禁錮を廃止することを内容とする自由刑単一化論や短期間の自由刑はかえって受刑者を悪化させるから廃止すべきであるとする短期自由刑廃止論などが主張されている。なお，犯罪を防止して社会の安全を維持するためには，刑罰だけでは不十分であるところから，刑罰を補い，またはこれに代わるものとして，保安処分*が必要とされる。現行の保安処分としては，売春婦に対する補導処分，少年に対する保護処分，精神障害者に対する措置などがあるが，現在進行中の刑法改正作業では，精神障害者に対する治療処分，各種中毒者に対する禁断処分の規定が予定されている。

〔刑罰の歴史〕〈西洋〉洋の東西を問わず，刑罰の歴史は人間の社会生活の歴史とともに始まるといえる。その意味は，人間が共同生活を営むかぎり社会規範が必要であり，この規範を遵守させるためには違反者に科せられるべき制裁が不可欠であるということである。西洋にあっても，他の古代民族におけると同様に，原始社会は法と宗教とが未分化であったため，刑罰はタブー*違反に対する神の怒りをしずめる作用を果たすものとして出発した。そして，タリオ(同害報復)の原理によってささえられた復讐刑(ふくしゅうけい)の時代が続いた。復讐は氏族間の血讐の形をとることが多く，氏族内部の個人的な復讐は禁じられたという。



ドイツの鉄娘(中世)。罪人をとげのある器物内に入れて処刑する道具

西洋における原始的刑罰制度の典型は，古代ゲルマン人の刑罰制度である。そこでは，あるジッペ(氏族団体)の一員が他のジッペの一員の生命・財産を害すると，ジッペ間にフェーデ(敵対関係)を生じて血讐がなされるというふうに，刑罰はジッペを単位として行なわれた。しかし，しだいにフェーデを回避するための努力がなされ，避難所の設置，被害者に対する賠償としての贖罪金(しょくざいきん)支払いによる和解制度などができた。また，反逆など人民全体に対する罪を犯した者に対しては，ジッペみずからが死刑・追放刑・没収刑を科した(平和喪失刑)。これが国家的刑罰の原型といえる。

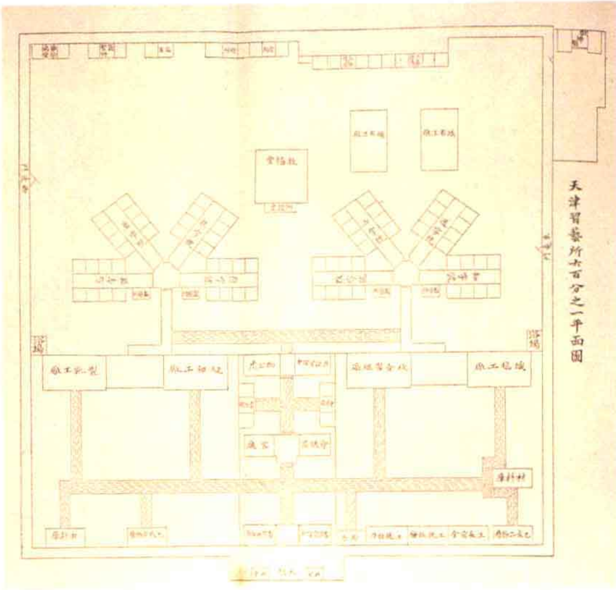
フランク王国の時代になると，国家的刑罰体系が発達し，ジッペを単位とする刑罰制度はしだいにその中に吸収されるに至った。刑罰の種類も多彩となり，多くの苛酷(かこく)な生命刑と身体刑が行なわれた。身体刑の特色はいわゆる反映刑で，たとえば偽誓者は手を切断され，神を冒瀆(ぼうとく)した者は舌を抜かれた。贖罪金も被害者側と国家との折半から，ついには国家の取り分のほうが多くなって罰金化し，さらに，刑罰の身分的差別(自由人と奴隷)がなされた。中世にあっても，生命刑・身体刑はますます残酷・多様化し，罰金刑はむしろ例外的となり，さらし・引き回しなどの名誉刑が現われた。また，刑罰の職業的身分による差別がみられた。ドイツのカロリナ刑法典(1532)における刑罰制度は，四つ裂き・火あぶり・水責めなどの死刑，耳・舌・指などの切断刑が認められ，中世の残虐な刑罰体系の総目録であったといわれる。

封建体制が崩壊して近代国家が形成されるとともに，啓蒙(けいもう)主義と自然法理念の影響のもとに，刑罰制度の近代化・合理化が進められた。フランス刑法典(1810)・バイエルン刑法典(1813)などを模範とする近代刑法典の制定，罪刑法定主義の原則の確立，刑法学の体系化など近代化の流れの中で，刑罰制度も中世以来の生命刑・身体刑を中心とする苛酷なものから，自由刑・財産刑を主体とするものへと変革を遂げたのである。〔高窪貞人〕

〈中国〉春秋時代の末期(紀元前5世紀)までを上代とよぶならば，この時代には死刑と肉刑(身体に傷をつける刑罰)が主要な刑罰であった。《書経》《周礼(しゅらい)》などの古典に，五刑と称して墨(いれずみ)・劓(ぎ)(はなきり)・剕(ひ)(刖(げつ))(あしきり)・宮(去勢)・大辟(たいへき)(死刑)の5種類の刑罰をあげている。なお上代の政治体制は，自立性をもった多数の小さな共同体の統合関係としてなりたっていたので，悪事をする仲間を共同体の外に放逐することが一種の刑罰として行なわれていた。それには，衆人が犠牲の血をくちびるに塗り，特定人物の罪状を唱え，一致してその人物との絶交を誓うという方法が用いられた。このような追放は，小さな共同体の閉鎖性の強かった古い時代にさかのぼるほどきびしい効果をもっていたものであり，ゲルマン法にいう平和喪失刑と類似したものであったと考えられる。社会からある成員を取り除くということは，追放に限らず，死刑・肉刑にも通ずる刑罰の原初的な理念であり，死刑はそれを直接的に実現することで，肉刑はそれをやや緩和した形で実現するものであった。肉刑を受けた者は廃人となり，あとに相続人がたてられた。つまり，肉刑の目的は社会的に葬る死を意味したものであり，肉体に加える傷はそのための刻印であった。受刑者は〈刑余の人〉といわれ，後宮の雑役や宮殿の門番などの賤役(せんえき)に使役させられて余生を終えたのである。要するに，上代の刑罰はいずれも致命的な効果をもつもので，いかなる行為がいかなる刑罰にあたるかもほとんど定まっていなかった。つまり刑罰は，共同体の存立そのものを危うくする者があれば，そのつど社会の外に葬り去るという非日常的な社会防衛手段として存在していたにすぎない。

春秋時代末期から戦国時代(紀元前4～





(左)枷号の刑(清代末期)
(右)天清習芸所平面図(1904年開所)

3世紀)にかけて官僚制的領域国家が出現し，やがて秦(しん)・漢朝が成立すると，ひとりの皇帝が官僚を通じて天下を支配する体制が確立した。この体制は，原理的には今世紀にはいって清朝(しんちょう)が滅びるまで変わることがなかった。このように官僚制が出現するに伴って，刑罰は国家の意志により，社会をよりよく秩序だてるための日常的な社会統制手段(行政の補助手段)という機能をもちはじめ，それにつれて，軽重を加減することのできる致命的でない性質の刑罰と，いかなる罪がいかなる刑にあたるかを成文化することの必要が生じてきた。このようにして，戦国時代には成文の刑法典がつくられるとともに，上代の肉刑から身体に傷をつけるという方法をやめ，また終身の賤役就労を一定年数に限ることで有期の強制労働刑の体系が発達した。漢代の刑罰には，死刑のほか，髡鉗城旦(こんけんじょうたん)・完城旦・鬼薪・白粲(はくさん)・隷臣妾(れいしんしょう)・司寇(しこう)・罰作など各種の労役刑と，軽い犯罪に対する罰金とがあった。各種の労役刑の奇妙な名称は，その由来はともかく，漢代では労役の種類を特定する意味を失い，ただ刑期の長短と髡(剃髪(ていはつ))と鉗(首かせ)を科するか否かが異なっていたにすぎない。これらの服役者を総称して徒といった。

漢から唐へかけて，徒ということばは刑罰の名称となり，労役刑は徒刑という名に一本化された。他面，徒刑と死刑の間に流刑が生じた。流刑とは故郷を遠く離れた地への強制移住と，移住地で執行される1～3年の徒刑とを組み合わせた刑罰であり，上代の追放とは本質的に異なっている。軽い犯罪に対しては，罰金に代わって身体を殴打する笞(ち)・杖(じょう)の刑が行なわれるようになり，こうして唐の五刑が成立した。

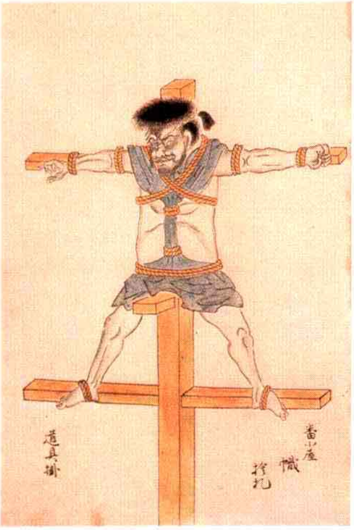
唐およびそれ以後の時代の五刑は上代のそれとは異なり，笞・杖・徒(ず)・流・死をいう。笞は10から10刻みに50まで，杖は60から10刻みに100まで，徒は1年から半年刻みに3年まで，流は2,000里(中国の1里は600m弱)から500里刻みに3,000里まで，死は執行方法によって絞と斬(ざん)に分けられ，あわせて五刑二十等を，あたかも一本のものさしに刻まれた目盛りとして，あらゆる犯罪の比重をはかろうとするのが唐代の刑法典である唐律のしくみであった。このように漢以来，強制労働刑が盛んに行なわれたが，服役者を収容する刑務所があったわけではなく，獄と称する牢屋(ろうや)はあったが，これは未決囚を入れて置く場所で懲役刑を執行する場所ではない。当時，奴婢*(ぬひ)や徭役*(ようえき)に徴発された人夫など，さまざまな形の強制的労働が日常的に行なわれていたので，受刑者も彼らの間にはいって使役されたのであろうと思われる。

宋(そう)代以降は，その経済的効率が低下したため，強制労働はしだいに行なわれなくなり，徒・流の刑も名は同じながらその実質は変わっていった。清代後半期になると，徒は駅逓に配して使役するというたてまえでありながら，実際には一つの省内において指定される別地におもむいて所定の年数をそこで自由に過ごすという有期の流謫(るたく)であった。流は，省境を越えた遠隔地への終身流謫で，唐制とは異なり強制労働を伴わない。明(みん)代以来，流の上に充軍という刑が設けられた。当初は軍隊に編入して屯田(とんでん)を耕させるものであったが，清代には実際上は流と異なるところのないものとなっている。なおその上に，清代には，発遣といって，新疆(しんきょう)省や満州への流謫の刑があり，これが死刑に次ぐ重刑であった。死刑は，明律以来，絞・斬の上に，凌遅処死(りょうちしょし)という生きながら身体を切り刻む酷刑が加わった。軽い罪に対しては，笞・杖に加えて，木製の首かせをはめて一定日数県庁の前庭などにさらし者にする枷号(かごう)が行なわれた。

清末になると法制近代化の一環として，西洋諸国や特に日本に範をとった近代的刑務所がつくられはじめた。当初これを習芸所といい，刑罰としてここに収容することを収所習芸(所に収めて芸を習わしむ)といった。凌遅処死を廃し，笞杖を罰金に代えるなどの措置と前後して，1903年に，発遣・充軍・流・徒の形を一定の基準によって収所習芸に読み替えることが決定され，以来その必要を満たすために全国に刑務所を建設することに大きな努力が注がれた。そのころ，社会事業家であり，わが国の監獄学の先駆者でもあった小河滋次郎(おがわしげじろう)(1863～1925)は清国政府に招聘(しょうへい)されて，監獄学の教授と刑務行政についての助言にあたった。行刑施設整備は，明末清初の制度改革で相当に成績をあげた分野であり，のちに南京(ナンキン)政府に司法顧問として招聘されたフランスの商法学者ジャン-エスカラ(1885～1955)によっても高く評価されている。〔滋賀秀三〕

〈日本〉 古代氏族社会においては，人間の生活はすべて神を中心に営まれており，法律も宗教も未分離の状態であったから，現今のような刑罰の観念はなかった。現在の犯罪にあたることばを〈つみ〉といったが，〈つみ〉は神の最も忌みきらうものをいい，広く悪事・悪行・病気・災厄・汚穢(おあい)などがそれであった。したがって，人が〈つみ〉を犯せば，神の怒りをこうむるものと考えられ，〈つみ〉を犯した者は〈はらい〉によってその〈けがれ〉を清めなければならなかった。〈はらい〉の方法には，水浴やつめ・髪などを切り捨てることによって身の〈けがれ〉を清める方法と，ウマ・太刀(たち)などを神前に供えて神の歓心をかう方法とがあった。〈はらい〉で罪人の身が清められない場合は，これを国外に放逐して，その〈けがれ〉を除去した。〈はらい〉の方法はいずれも，それを科せられた者に身体上・財産上の苦痛を与えたから，のちにはこの〈はらい〉が犯人懲戒のための刑罰と混同されるに至った。

大化改新以後，朝廷は積極的に唐の律令(りつりょう)を継ぎ，701年(大宝1)に大宝律令*が，718年(養老2)には養老律令*が編纂(へんさん)された。ここに，〈つみ〉に対して〈はらい〉を科するという日本固有の刑罰に代わって，中国流の刑罰が平安中期まで行なわれるようになった。律の刑罰は徳治政治の補助手段としてこれを用い，犯人を懲戒



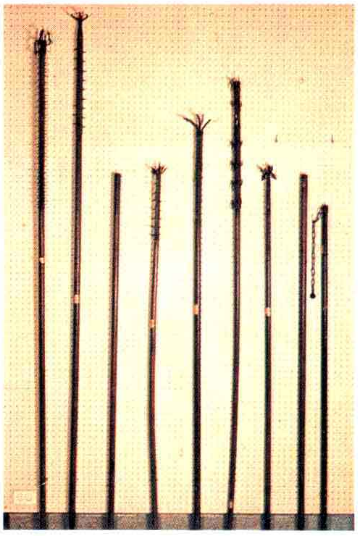
磔刑 《刑罪秘録》より



火焙刑 《刑罪秘録》より



鋸挽具 《刑罪秘録》より



責め具

してこれを改善させるという儒家流の特別予防的な目的をたてまえとする一方，〈刑は刑なきを期す〉〈殺をもって殺をとどむ〉という法家流の一般予防的な目的を併用した。刑罰の種類は唐律と同じく笞・杖・徒・流・死の五刑二十等で，整然とした体系を有した。また，〈刑は大夫に上せず〉という儒教思想から，支配階級である官吏や僧尼には閏刑*(じゅんけい)が認められ，庶民のように実刑を科されることのないように配慮された。平安中期以後は中国法系の律令法が衰退し，日本の国情に合った職権審理主義的な検非違使*(けびいし)庁の刑法が行なわれた。使庁の刑法は，律の刑法に比べて寛大であり，仏教思想の影響を受けて，死刑は350年近くも廃止された。

中世の武家法*は日本固有法と中国継受法との融合したものであるが，その刑罰の観念には前代の特別予防的な目的がなくなり，封建制度や封建道徳維持のための威嚇的・武断的・復讐的な性格が強く現われている。肉刑の出現はそれを証するものである。鎌倉時代には，死刑は斬の一種のみで，自由刑には遠流・追放・禁獄があり，財産刑には没収・過怠があった。特に所領の没収は，幕府法の中でも最も重要な地位を占め，流刑や追放刑は没収すべき所領のない御家人や郎従に対する換刑として科せられたものである。肉刑には火印・指切・片鬢剃(かたびんそり)があり，名誉刑には永不召仕・止出仕・勘当*などがあり，前者は地下身分に，後者は侍身分に科された。このように同一の犯罪であっても身分によって刑種が異なり，その刑罰体系は律のような整然としたものではなかった。室町幕府の刑罰も鎌倉幕府のそれをほぼ受け継ぐものである。戦国時代になると，人心の荒廃に伴って磔(はりつけ)・串刺(くしざし)・鋸挽(のこぎりびき)・車裂・火焙(ひあぶり)・釜煎(かまいり)・耳鼻そぎなどの残酷な刑罰が行なわれ，連座*・縁座*も広く適用され，武断的な喧嘩(けんか)両成敗*が天下の大法となった。

江戸時代の前期は中世の影響が強く，刑法も威嚇的・武断的であったが，中期ごろから儒教思想による特別予防的な思考がしだいに台頭し，旧悪免除や人足寄場*などの制度が生まれ，縁座・連座も大幅に制限されるに至った。しかし，一般予防的な考え方はまだ存在し，刑罰の適用にみられる身分主義は中世よりもさらに明確となり，武士や僧侶(そうりょ)は庶民と異なる刑罰を受けた。公事方御定書*(くじかたおさだめがき)にみられる刑種として，生命刑には鋸挽・火罪・磔・獄門・斬罪・死罪・下手人(利欲にかかわらない殺人にだけ科す斬首刑)が，自由刑には遠島・追放・閉門・逼塞(ひっそく)・遠慮・戸〆(とじめ)・手鎖・押込(おしこめ)・預(あずけ)が，身体刑には敲(たたき)・入れ墨*が，財産刑には闕所*(けっしょ)・過料が，身分刑には奴・非人手下・改易・一宗構が，名誉刑には役儀取上・叱(しかり)・隠居があった。また，当時は公刑主義が原則であったが，敵(かたき)討ち*・妻敵(めがたき)討ちなどの復讐が公認された。以上は幕府法によるものであるが，各藩においてもしだいにそれにならうようになった。

明治新政府による最初の法典は，1868年(明治1)制定の仮刑律であるが，本格的に編纂された刑法典は1870年の新律綱領*である。これは中国流の刑法典で，明清律を基にわが養老律・公事方御定書などを参考としたものである。したがって，その刑罰体系も笞・杖・徒・流・死の五刑からなり，士族や官吏には閏刑として謹慎・閉門などの特別の刑罰があった。近代的な罪刑法定主義はまだとられていなかったといえる。この新律綱領を修正増補したものが1873年に布告された改定律例*である。この法典にはフランス刑法の影響が認められ，刑罰は笞・杖を原則として廃し，笞・杖・徒・流の刑名はすべて懲役に代えられた。ここに明治初年以来の刑罰体系が改められ，自由刑が支配的となったのである。1880年には，従来から準備されていたボアソナード*起草のいわゆる旧刑法が編纂を完了し，翌1881年から施行された。この旧刑法は1810年のナポレオン刑法典を模範としたものであり，官僚にだけ頒布された従来の法典とは異なって，広く国民一般に布告されたわが国最初の近代的法典である。この法典にはフランス革命以来の近代的罪刑法定主義が宣言され，また，法律不遡及(ふそきゅう)の原則も規定された。犯罪はこれを分けて，重罪・軽罪・違警罪とし，刑罰は主刑と付加刑とに二分した。重罪の主刑は死刑・無期徒刑・有期徒刑・無期流刑・有期流刑・重懲役・軽懲役・重禁獄・軽禁獄で，軽罪の主刑は重禁錮・軽禁錮・罰金であり，付加刑は剝奪公権・停止公権・禁治産・監視・罰金・没収である。死刑は絞首のみであって，皇室に対する罪，国事犯，謀殺，若干の故殺，放火などのほかはこれを科さず，また，仮出獄*の制は本法典においてはじめて設けられ，一般に科刑は寛恕(かんじょ)な方針となった。

1907年に至って，政府は刑法改正案を議会に提出し，これが修正可決され同年施行された。これが現行の新刑法である。新刑法の刑罰は死刑・懲役・禁錮・罰金・拘留・科料を主刑とし，没収を付加刑としている。旧刑法がフランス法系であるのに対し，新刑法はドイツ法系であり，しかも当時西洋で台頭していた新派の刑法学の影響を受けて，主観主義的な傾向が強く，裁判官による刑の量定の範囲も，旧刑法に比べて非常に広いことが注目される。 〔小林 宏〕

けいひんこうぎょうちたい【京浜工業地帯】 東京(区部)・横浜・川崎の東京湾岸地区を中核として，東京都・神奈川県東部・千葉県西部・埼玉県南部に広がるわが国最大の工業地帯。明治以降，阪神(はんしん)に次ぐ工業地帯であったが，第２次世界大戦前後から阪神をしのぎ，現在工業生産額では全国の約30％を占めている。東京がわが国の政治・文化の中枢であり，また最大の人口集中地区であることは，資本・技術・労働力など工業の立地条件できわめて有利にしており，また横浜・東京などの港湾は原料・製品の海外・国内輸送に大きい機能を果たしている。工業生産の３分の２は重化学工業製品で，そのほか出版印刷・精密機械などの全国比が著しく高いのを特色とする。しかし近年，工業の過度の集中により，地盤沈下や工業用水・工業用地の不足，交通の渋滞，空気・河川水などの汚染・汚濁などの公害が急速に進んでいる。このため，最近は内陸および外延地区への工業地域の移動が顕著で，工業地帯の無計画・無秩序な発達を規制する方策の必要性が叫ばれている。〔高野　繁〕

けいひんどうろ【京浜道路】 東京・横浜間を結ぶ道路の通称で，第１・第２・第３京浜道路の３本がある。第１京浜道路は旧東海道と平行して，品川・川崎・鶴見(つるみ)などを経由する国道15号線をさし，第２京浜道路は五反田・馬込・新子安など内陸部を経由する国道１号線で1948年(昭和23)ごろ整備された。第３京浜道路は日本道路公団の建設した有料の自動車専用道路で，東京都世田谷(せたがや)区玉川野毛町から横浜市保土谷(ほどがや)区岡沢町に至る長さ16.6kmの区間をさし，1965年に開通した。〔青木栄一〕

けいふくきゅう【景福宮】 朝鮮のソウル(京城)にある李朝(りちょう)時代の王宮。14世紀末に創建されたが，現在のものは1870年の再建である。正殿は勤政殿といって国家の儀式が行なわれたところ。もとはその後方に国王や王妃の宮殿もあった。

けいぶりんぱせんけっかく【頸部リンパ腺結核】 結核*性の頸部リンパ腺炎。菌は上気道あるいは上部食道の粘膜から侵入することが多い。少・青年期に多くみられ，男女差はない。病理学的には増殖型と粟粒(ぞくりゅう)型に分けられる。後者は，結核菌によってつくられるアワ粒大～米粒大で灰白色または黄白色の結核結節が，リンパ節全体に散在するのに対し，前者はこれを肉眼でみることができない。両者とも二次的変化として乾酪化・化膿(かのう)・腺周囲炎などを起こす。症状は，顎(がく)下部・側頸部・頤(おとがい)下部・鎖骨上窩(じょうか)などのリンパ腺が１個または数個腫脹(しゅちょう)し，病変が進行すると腺周囲炎を起こし，またリンパ腺相互間に癒着(ゆちゃく)を起こして凹凸(おうとつ)不平，硬度不均等の大きな腫瘤(しゅりゅう)



景 福 宮　即位式や謁見が行なわれた勤政殿



ケイマフリ

(腺塊)を形成する。また，しだいに皮膚まで冒されて赤から紫色になり，ついには自潰(じかい)して難治の結核性瘻孔(ろうこう)または潰瘍(かいよう)となる。このような変化は皮膚腺病といわれる。経過はきわめて緩慢で，自然に治癒して消失することもあるが，繊維化してかたくなるか，ときには石灰化する。化学療法(ストレプトマイシン・パスなどの抗結核薬)，照射療法(放射線照射など)，摘出術などを行ない，膿瘍に対しては穿刺(せんし)・排膿を行ない，瘻孔・潰瘍をつくるものには掻爬(そうは)を行なう。〔玉城　巌〕

けいふん【鶏糞】 ニワトリの糞。わが国のニワトリの飼育羽数は約１億6,000万羽で，年間生鶏糞として500万t，乾燥鶏糞として150万t を排出すると推定されている。これらの鶏糞は生鶏糞として自家消費(樹園・畑用肥料)されるほか，天日乾燥や簡単な加熱乾燥をして流通している。鶏糞はニワトリの多数羽飼育による環境衛生上の問題として注目されているが，表のように比較的肥料成分の含有量が多く，肥料資源としての利用が重要視されている。〔早瀬達郎〕

鶏糞分析成績（平均値）

	水　分	窒　素	リン酸	カ　リ	土　砂
生	62.85	1.59	1.33	—	—
天日乾燥	14.94	2.73	4.30	2.11	5.67
火力乾燥	11.40	3.53	4.14	2.09	8.24

農林省名古屋肥料検査所資料

けいほう【刑法】 犯罪と刑罰について規定している法規はすべて刑法である。これを〈実質的意義の刑法〉という。この意味の刑法には，法律の名称にかかわらず，また内外国の刑法も昔の刑法も含まれる。しかし，ふつう刑法というときは，刑法という名称でよばれている法律，すなわち〈明治40年法律45号〉として公布，翌年10月１日から施行され，何回かの改正を経て現在も行なわれている法律(刑法典)を意味する。これを〈形式的意義の刑法〉という。〔野口恵三〕

けいぼう【警棒】 警察官装備品の一。職務を執行する際，危害を受けるおそれがある場合の防護および制圧に使用される。第２次世界大戦後，警察官の帯剣廃止に伴ってアメリカから移入された。制服で勤務する場合は必ず携行しなければならない。装備品として，ほかに拳銃*(けんじゅう)があるが，警棒は拳銃の使用に至らない程度の職務執行に用いられ，必要最小限度の使用が要請される。特に人を殺傷する目的のために使用する場合は，警察官職務執行法*７条に規定される危害条件が必要である。〔井上公耳〕

けいほうき【警報器】 ⇨火災報知器

けいほうてつどう【京包鉄道】 チンパオ鉄道　中国北部の鉄道。北京(ペキン)～包頭(パオトウ)間814kmを連絡する。もと京綏(けいすい)鉄道とよばれ，国民政府時代には平綏鉄道といわれた。1905年に着工し，1909年には張家口まで開通，1923年包頭まで完工した。この間，イギリスとロシアが敷設権の争奪を演じたが，清朝(しんちょう)は官営で建設を行なった。困難視された八達嶺(はったつれい)越えの険路も技師詹天佑(せんてんゆう)の発明した新技術の採用によって巧みにこれを完工し，当時採用した1.435ｍのゲージが，その後の中国の鉄道軌間の標準となるなど，幾多の鉄道建設上の方式をつくりあげた。沿線に産する石炭や，包頭を中心として生産される鉱工業製品の輸送のほか，内モンゴルに産する畜産物が東部に運ばれ，北京方面から穀物・日用品などが運ばれている。1956年には集寧からウランバートルに連絡する国際鉄道と接続し，1958年には包頭から黄河沿いにさかのぼって蘭州(らんしゅう)に達する包蘭鉄道が完成した。〔船越昭生〕

けいまふり 鳥類・ウミスズメ科。全長37cmほどの海鳥。夏羽は目のまわりと上嘴(じょうし)の基部は白色で他の部分は濃かっ色，冬羽は胸腹部は白色。あしは鮮赤色で，蹼(みずかき)がよく発達している。北海道・青森県・岩手県などの沿岸や島の岩壁で集団繁殖し，冬季も本州中部以北の海域にとどまっている。漁師はアカアシとよんでいる。

けいむしょ【刑務所】 自由刑*に処せられた者を収容して拘禁するための国の施設。監獄*の一種。未決囚を収容する拘置所*と異なる。法務省矯正(きょうせい)局管轄下で，全



京葉工業地帯
空から見た京葉工業地帯の一部。中景の接岸する船の右手一帯が千葉市の川崎製鉄。左手にはさらに沖合いに新しい埋め立てが始まっている

国に刑務所57，刑務支所17，少年刑務所9があり，別に精神病患者・長期療養者を収容する医療刑務所2，ハンセン病*患者を収容する医療刑務支所がある。受刑者は刑期・性別・年齢などにより，それぞれの刑務所に収容される。刑務所の任務は，受刑者の隔離という保安上の目的のほか，受刑者を教化・善導し，社会復帰を図ることにある。そのため，累進処遇の採用，刑務作業による勤労意欲の向上や技術取得，その他教育面に重点が注がれている。　〔井上公耳〕

けいもうしそう　【啓蒙思想】　18世紀に西ヨーロッパ，特にフランスで展開された，理性を尊重して旧思想を打破する思想。伝統宗教・絶対王政などを批判することから始まり，宗教的には理神論*，さらに無神論*の立場を，政治的には社会契約説*，あるいは〈法〉の重要性を主張した。歴史的にみれば，イギリスで種がまかれ，フランスで開花し，ドイツで標本にされたということができる。啓蒙思想は，17世紀にイギリス市民革命の渦中(かちゅう)で形成された。ロックがその代表的存在である。ロックは本国ではヒュームらによって継承される一方，アメリカ独立戦争の際にはフランクリンやペインに影響を与えた。さらにデカルトの合理論の伝統をもつフランスで，18世紀ボルテール・モンテスキューを通して影響し，百科全書派に至ってフランス革命の起爆剤となるまでに急進化された。ドイツでもレッシング・ライプニッツらの啓蒙思想家がいるが，その後進性のゆえに啓蒙専制君主という奇妙な存在を生み出した。カントに至っては観念の中で啓蒙思想を定式化したにすぎない。日本では，明治維新後まもなく明六社*を中心に集まった知識人たちが啓蒙思想家と目されている。特に福沢諭吉は代表的な存在である。　〔石井忠厚〕

けいもうせんせいくんしゅ　【啓蒙専制君主】　18世紀ヨーロッパの後進国に現われた開明的絶対君主。〈国王は国民の第一の下僕(げぼく)〉といったプロイセンのフリードリヒ2世*，オーストリアのヨゼフ2世*，ロシアのエカテリナ2世*らがその代表。啓蒙思想*の具体化をめざし，富国策として産業の育成，保護貿易の施行，農民の保護など社会の近代化に努めた。しかし，これら後進国においては封建勢力がなお強大で，啓蒙専制君主もこれと妥協せざるをえず，近代化も不徹底に終わった。　〔大野慎一郎〕

けいやく　【契約】　広義では2個以上の意思表示*の合致した法律行為をいい，物権*の変動を生じさせる物権契約(地上権*・抵当権*の設定，所有権*の移転契約など)や物権以外の権利の変動を生じさせる準物権契約(債権譲渡など)，さらには身分関係の変動を生じさせる身分的契約(婚姻(こんいん)・縁組みなど)などを含む。しかし，狭義では債権*の発生を目的とする債権契約をいう。債権契約とは，一定の債権関係の発生を目的として相対立する2個以上の意思表示の合致によって成立する法律行為のことであり，単独の意思表示によって成立する単独行為(遺言など)や目的の方向を同じくする意思表示の合致によって成立する合同行為(社団法人の設立など)とは区別される。契約はその当事者の目的とする債権内容により種々ある。民法は代表的な契約として売買・交換・贈与・消費貸借・使用貸借・賃貸借・雇用・請負・委任・寄託・組合・終身定期金・和解の13種について規定している。これを典型契約または有名契約という。しかし，契約自由の原則(➡近代私法の原則)のもとでは，公序良俗*や強行法規*に反しないかぎりどのような契約を定めてもよい。契約には民法に規定された有名契約のほかに無名契約や両者の性質を兼ねた混合契約がある。また，契約は当事者双方が相互に対価的意義のある債務を有するか否かによって双務契約と片務契約に，当事者双方が相互に対価的意義のある財産上の給付をなすか否かによって有償契約・無償契約に，当事者の合意のほか，物の引き渡しその他給付を要するか否かにより要物契約と諾成契約などに分類することができる。将来，一定の契約を締結する債務を成立させる契約を予約といい，将来締結する契約を本契約ともいう。なお，契約は私法上の契約のみでなく，公法上の契約(公務員の任命契約など)もある。　〔黒木三郎〕

けいやく　【契約】　キリスト教で神が恩恵として人との間に結んだ約束。神はイスラエルの民を選んでその繁栄を約し，民はモーゼの十戒*に代表される〈律法〉の遵守を義務として負った。これが〈旧約〉である。しかしやがて国家の滅亡などの民族的危機に直面して，〈律法〉の不履行によって契約は解消されたと解され，予言者エレミヤらによって新しい契約が待望されるに至った。そして，キリスト*を仲介者としてたてられたのが〈新約〉である。

けいやくじゆうのげんそく　【契約自由の原則】　⇨近代私法の原則

けいゆ　【軽油】　沸点約250〜350℃の石油製品。原油*の常圧蒸留によって得られる留出油中の最高沸点留分にあたり，通常これを水素化精製してイオウ分を除き製品とする。おもに大形トラック・大形バスなどの高速ディーゼル機関用燃料として使用される。また未精製の軽油留分は，重油*の粘度・凝固点などを調整するための調合剤として多量に使用される。このほか，原油の常圧蒸留残渣油(ざんさゆ)をさらに減圧蒸留して得られる重質軽油(減圧軽油という)は，おもに接触分解ガソリン*の製造原料に用いられる。　〔原　伸宜〕

げいゆ　【鯨油】　海獣油のうち最も重要なもの。ヒゲクジラ類，すなわちナガスクジラ・シロナガスクジラ・ザトウクジラ・イワシクジラなどの油は，一般魚油と同様に主成分はグリセライドで，一般魚油よりヨウ素価が低い。ハクジラ類，すなわちマッコウクジラ・ツチクジラなどの油の主成分はロウで，不鹸化物(ふけんかぶつ)を30〜40%含む。同じクジラでも体部位，すなわち皮・舌・内臓・骨などによって油の比重・屈折率・ヨウ素価・鹸化価を多少異にしている。ナガスクジラ・シロナガスクジラなどでは，皮・骨・内臓から煮取りまたは蒸煮法で採油する。ヒゲクジラの油は良質で，硬化油・マーガリンに使用され，またせっけん・製革用油・焼き入れ油などにも用いられる。　〔久保田穣〕

けいようこうぎょうちたい　【京葉工業地帯】　東京都の東部から東京湾岸沿いに，千葉県西部の市川・船橋・千葉・市原・君津などにわたる工業地域をさし，広義には京浜工業地帯*の一部に含まれる。第2次世界大戦後から京浜工業地帯の東の外延部として工業化が進み，製鉄・石油化学・造船・ガラス・金属・機械など重化学部門の大企業が進出し，また千葉工業港の整備などもあって，この地域の工業生産は急激に増大している。東京湾岸の埋め立てによる工場用地の造成が著しく，また将来は東京湾口の架橋による，東京湾岸の環状道路や鉄道の建設も計画されている。　〔高野　繁〕

けいようし　【形容詞】　品詞の一種。動

詞・形容動詞とともに用言に含められる。活用のある自立語で，単独で述語になることができる。この点，be動詞などを伴わなければ述語とはなりえない，英語などの形容詞とは異なる。形容詞は，意味の上では事物の性質・状態を表わす。形の上では口語の場合，言い切りの形(終止形)が〈い〉で終わり，〈よかろ(う)・よかっ(た)・よく(なる)・よい・よい(こと)・よけれ(ば)〉のように活用する。文語の形容詞は，終止形が〈し〉で終わる(〈よし・美し〉など)が，連用形が〈ーく〉となるもの(〈よく〉)をク活用，〈ーしく〉となるもの(〈美しく〉)をシク活用とよんで区別する。〔市川　孝〕

けいようしょくぶつ　【茎葉植物】 葉状植物に対比されるもので，茎葉体をもつ植物をいう。茎葉体とは，外形的には葉と茎が分化し，かつ維管束をもつ植物の体制をいう。茎葉植物は，1826年にオーストリアの植物学者エントリッヒャーが蘚類(せんるい)・シダ植物・種子植物をまとめたものと説明しているが，蘚類は維管束をもたないので，高度に発達した葉状植物と考えたほうが妥当である。このため，現在ではシダ植物と種子植物の総称である維管束植物という語と同義に用いられる。〔加藤僖重〕

けいようどうし　【形容動詞】 品詞の一種。動詞・形容詞とともに用言に含められる。活用のある自立語で，単独で述語になりうることや事物の性質・状態を表わすという点では形容詞と同様であるが，活用のしかたが動詞に似ているのでこの名でよばれる。口語の形容動詞は，言い切りの形(終止形)が〈だ〉で終わるが，文語の場合は〈なり〉で終わるもの(〈静かなり〉など)と〈たり〉で終わるもの(〈平然たり〉など)とがあり，前者を〈ナリ活用〉，後者を〈タリ活用〉とよぶ。口語の形容動詞では，〈静かだろ(う)・静かだっ(た)・静かで(ない)・静かに(なる)・静かだ・静かな(ところ)・静かなら(ば)〉のように活用する。形容動詞の語幹は形容詞の語幹より独立性が強い。学説によっては，形容動詞を認めず，体言と指定の助動詞とに分離して扱うことがある。形容動詞の成立については，たとえば〈静かに〉〈平然と〉などに動詞の〈あり〉が結びつき，それがつづまって〈静かなり〉〈平然たり〉となったと考えられている。〔市川　孝〕

けいようどうろ　【京葉道路】 東京～千葉を結ぶ，国道14号線のバイパスとして建設された有料の自動車専用道路で，日本道路公団が運営している。東京都江戸川区一之江から千葉市殿台町に至る全長26.4kmで，1960年(昭和35)に最初の部分が開通，1968年に全通した。日本道路公団の運営する道路のうちで最も交通量が多い。

げいよしょとう　【芸予諸島】 普通は，尾道(おのみち)と今治(いまばり)の間に連なる向島・因(いんの)島・高根島・生口(いくち)島・大三(おおみ)島・伯方(はかた)島・大島・大崎上島・大崎下島など，広島県(安芸(あき))と愛媛県(伊予(いよ))に属する島々をさすが，広島湾内の能美島や湾口の倉橋島などは含めていない。また，向島や因島は備後(びんご)(広島県)に属する。このあたりは瀬戸内海でも，比較的大きな島が最も密集している海域である。〔浅井得一〕

けいらく　【経絡】 中国医学の用語。元来は経脈と絡脈との総称であるが，後代では経脈のみをさす。経脈は気(生命エネルギー)の運動通路とされており，絡脈はこの経脈の支線および交差路をいう。身体に異常が生ずると，体表に違和部位が生ずる。この焦点を中国医学では経穴と名づけ，約360の固有な部位が発見された。経穴の一部は，現代の医学においても圧痛点として診断に用いられているが，中国の医学では診断ばかりではなく，治療の部位としてここに鍼灸(しんきゅう)を施している。経穴に鍼灸を行なってその作用方向を観察すると，ほぼ身体の長軸に沿って経穴を連結した線となる。この線が経脈である。

経脈は中国医学でいう五臓(心・肝・脾(ひ)・肺・腎(じん))，六腑(ろっぷ)(胃・小腸・大腸・胆・膀胱(ぼうこう)・三焦)と直接に関連していて，各臓腑から生産されるエネルギーが全身を循環しているとされている。この五臓六腑と関連している経脈を正経と称し，五臓六腑と関連していない経脈を奇経と名づけている。経脈を土台として，人体の病生理学・診断・治療を体系づけたのが，経絡説である。〔丸山昌朗〕

けいらん　【鶏卵】 ⇨卵

けいりし　【計理士】 計理士法(1927年法律第31号)によって定められた会計の職業的専門家。おもに決算報告書の作成，会計組織の立案および改善などの業務を行なう者であるが，公認会計士制度の発足に伴い，1948年(昭和23)にこの制度は廃止されている。現在この名称を使用している者は，それ以前に大蔵省に登録した者である。

けいりゅうねつ　【稽留熱】 39℃以上の体温が，日差1℃以内で持続する型の熱。肺炎・腸チフスの極期などでみられる熱型がこの典型である。しかし，近年は抗生物質などの使用で，これらの疾患でも典型的な熱型をとることが少なくなってきている。

ゲイ-リュサック ［Joséph Louis Gay-Lussac］(1778～1850) フランスの物理学者・化学者。ソルボンヌ大学教授。1802年に気体の熱膨張に関する法則を提出，1808年には気体反応の法則を確立した(➔ゲイ-リュサックの法則)。さらにシアン酸・ヨウ素を発見したほか，種々な有機化合物を合成し，分析法を改良した。1804年，気球で7,300mまで上昇し，大気成分・磁気などを測定した。また，工業的硫酸製造のためのゲイ-リュサック塔を創作するなど，多方面に貢献した。〔藤村　淳〕

ゲイ-リュサックとう　【ゲイ-リュサック塔】 鉛室式硫酸製造法において，最後の鉛室からくる窒素酸化物を回収するための塔。円筒状鉛張りの径3m，高さ10mぐらいの塔で，回収を完全にするためふつう2～3塔設けてある。

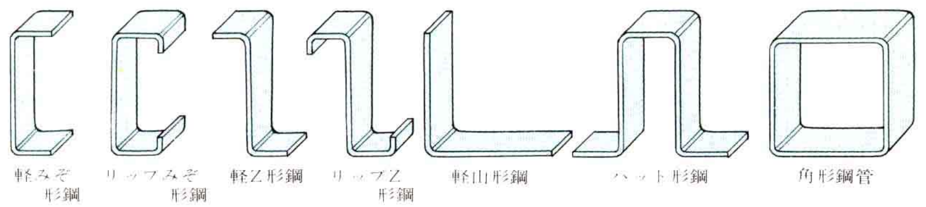
ゲイ-リュサックのほうそく　【ゲイ-リュサックの法則】 ゲイ-リュサックによって発見された気体の熱膨張ならびに気体反応の法則。

〔第1法則〕気体の熱膨張に関する法則。圧力が一定のとき，気体の熱膨張率は気体の種類によらないという法則。一般にはシャルルの法則とよばれる。➔シャルルの法則

〔第2法則〕気体反応の法則。反応物質・生成物質がともに気体であるような化学反応においては，反応気体・生成気体の体積の間に，同温・同圧のもとでは簡単な整数比がなりたつという法則である。これは，反応物質・生成物質の分子数の間の比は簡単な整数比であり，同温・同圧のもとでは単位体積あたりの気体の分子数は気体の種類によらず一定であるからである。たとえば，$2H_2+O_2 \rightarrow 2H_2O$ の反応では，水素・酸素・水蒸気の分子数比は2：1：2であるから，おのおのの気体の体積比は2：1：2となる。この法則は，ゲイ-リュサックがドイツの地理学者・自然科学者フンボルトとともにその端緒を見いだし，1808年にゲイ-リュサックが確立したものである。〔中野藤生〕

けいりょう　【計量】 長さ・体積・重さ(質量)などの量をはかること。量の大きさを正確に知ったり，客観的に表示したりするためには，単位量が精密に規定されていることと，計器が整えられていることが必要である。1885年(明治18)に日本がメートル条約に加入してから，度量衡法によって長さ(度)・体積(量)・重さ(衡)などいくつかの種類の量について単位が定められたが，科学技術の進歩によりこれだけでは不十分になり，1951年(昭和26)に現行の計量法が公布された。計量法では，1958年までの猶予期間をおいて，尺貫法・ヤード-ポンド法の使用を廃するとともに，基本単位として長さ・質量・時間・電流・温度・光度，誘導単位として面積・体積・速さ，加速度の大きさ，力の大きさ，圧力・仕事・工率・熱量・角度など，全部で69種類の量について単位を定めている。〔富田芳秀〕

けいりょう　【慶陵】 中国，遼(りょう)代の陵墓。内モンゴル自治区バリン左旗の岩山地下に造営された。東西に3基並び，東陵が第6代聖宗(1031年没)，中陵が第7代興宗(1055年没)，西陵が第8代道宗(1101年没)のもの。1939年(昭和14)の日本人の発掘調査によって，東陵から保存のよい壁画が発見され，当時の彩色豊かな人物，山水画の作風が明らかにされ，また中陵・西陵から出土した哀冊(あいさく)碑文(墓誌)は，契丹



軽 量 形 鋼

(きったん)文字*の研究の貴重な資料となった。墓は円蓋磚築室(えんがいせんちくしつ)の組み合わせからなる。

けいりょうかたこう　【軽量形鋼】　窓わくやプレハブ建築の骨材に見られるような軽い形鋼。鋼板や帯鋼を材料とし，常温で圧延成形してつくられる。これを分類すると，①構造用軽量形鋼，②ガードレール，③パンザーマスト，④コルゲートパイプ，⑤トレントシート，⑥サッシバー(建築物・車両の窓わく)またはサッシフレームなどになる。構造用軽量形鋼は単位重量あたりの断面性能が高く，建築・鉄道車両・車体・船舶用間仕切り・軽機械のフレームなどに使われる。パンザーマストは，保管・輸送・建柱が簡単で耐用年数も長く，屋外塔・送配電柱・通信線用柱に使われている。コルゲートパイプは排水用に，トレンチシートは埋め立て・干拓・河川工事などの仮土留め用に使われる。　〔長谷川正義〕

けいりょうカップ　【計量カップ】　目盛りのついたカップで，水や調味料・米・粉末などをはかるのに用いる。200ml のものが普通で，50mlごとに目盛りがついているが，800mlや1,000mlのものもある。金属製・プラスチック製がある。

けいりょうけいざいがく　【計量経済学】　仮説として設定された経済理論・モデルの実証を，統計的資料に基づき体系化した統計学的解析手法により行なう経済学の一領域。実証経済学ともよばれる。経済学は人間の経済活動という実際の経験の中から体系化された経済法則を導き出さなければならない。経験科学である経済学は単なる理論ではなく，仮設として定立された理論を実証という手段を通じてはじめて経験科学として確立したものといわなければならない。計量経済学はまさにこの理論の実証，あるいは経済現象からの理論の確立という，きわめて現実的な側面を取り扱う分野である。経済の諸現象はそれ自身個別の内容をもつものではあっても，そこからすべてに共通した経験法則を導くには，それらの諸現象を大数の法則としてとらえる必要がある。したがって統計学的解析手法がこの分野で果たす役割は非常に大きく，計量経済学の発展は第2次世界大戦後の推測統計学の発展に帰するところが大である。なお，最近のコンピューターの発達は分析・予測・計画の範囲を急速に広げている。　〔藤枝省人〕

けいりょうコンクリート　【軽量コンクリート】　普通コンクリート(見かけ比重2.2～2.4)よりも単位容積重量の小さい(見かけ比重1.85～2.00)コンクリート。軽い自然骨材，人工軽量骨材を用いるか，またはあわを混ぜるか発生させてつくったもので，その強度によって構造用軽量コンクリートと非構造用軽量コンクリートとに分ける。構造用は荷重を支持する部材に，非構造用は荷重を支持しない間仕切り壁などに用いる。天然軽量骨材は粒状の火山砂・火山礫(かざんれき)，塊状の浮石(抗火石)など，人工軽量骨材には膨張粘土・ケツ岩などの粘土類を焼成したもの，ヒル石・黒曜岩・真珠岩を焼成したものであるが，工業副産物の石炭から・膨張スラグなども利用できる。コンクリート中に多量のあわを入れて軽量化する方法には，セメント中のアルカリ成分と反応してあわを発生する発泡(はっぽう)剤を混入する方法と，空気中でつくったあわを混入する方法がある。一般に軽くなるにしたがって弱くなり，耐久性も劣る。吸湿性・吸音性がすぐれているので，建築物の内装などにはこの特長が利用される。　〔神山　一〕

けいりょうすう　【計量数】　二つの集合 $A=\{a, b, c\}$，$B=\{l, m, n\}$ の元の間には1対1の対応をつけることができる。このように，1対1に対応させることができる集合A，Bは対等であるといい，対等な集合を特徴づけるものを計量数という。有限集合の場合の計量数としては自然数が用いられ，元の個数にあたる。計量数は，順序数*に対するもので，集合数・基数・濃度などともいう。

けいりょうスプーン　【計量スプーン】　主として調味料をはかるスプーンで，ふつう15ml・5ml・2.5mlの三つがセットになっているが，30ml のものが加わったものもある。金属製・プラスチック製がある。

けいりょうほう　【計量法】　計量*の基準を定め，適正な計量の実施を確保し，これによって経済の発展や文化の向上に寄与することを目的として定められた法律。計量の基準に関しては，1891年(明治24)公布の度量衡法が約60年にわたって施行されてきたが，技術の進歩に伴って対象とすべき計量器の種類が多くなり，また計量器の製造販売などの事業に対する規制の方法も実状に沿わなくなったため，1951年(昭和26)に計量法が公布され，1952年3月1日から施行されて度量衡法は廃止された。

なお，計量器の検定検査の大部分および取り締まりのいっさいは，現在は地方自治体，または日本電気計器検査所によって実施されており，この分野での国の機関である通産省工業技術院計量研究所は，特殊な設備や高精度を要求される検定検査の一部分を担当するほかは，もっぱら計量技術の基礎的研究を任務としている。　〔増井敏郎〕

けいりん　【競輪】　プロ選手の自転車競走を対象にして，競馬*と同じように勝者投票券(車券)を発売する賭(か)けごと。自転車競技法という法律で公認されている。第2次世界大戦後の窮乏した地方財政，特に戦災都市の復興と荒廃した自転車産業の振興を図ることを目的として，1948年(昭和23)7月自転車競技法が成立し，11月小倉市(北九州市小倉区)で第1回の競輪が開催された。その後急速に発展し，いろいろな社会問題を起こしてその存廃を論議されたこともあったが，1975年1月現在で全国に競輪場の数が50，競輪を開催している都府県や市町村(施行者という)が264で，1974年には車券の売上額が年間約1兆905億円,入場者が延べ約4,600万人に達している。競輪は日本のほかデンマークにおいて1887年(明治20)以来行なわれているが，競輪場は4か所にすぎず，規模も小さく運営の方法も日本の競輪とはまったく異なる。

〔選手〕競輪の選手は1975年3月現在3,771名が日本自転車振興会に登録されている。競輪選手になるには，日本自転車振興会が運営している日本競輪学校に入校し，8か月の教育課程を終えて卒業したのち，登録選手資格検定に合格しなければならない。競輪学校の入学資格は，満17歳から24歳未満の日本に国籍を有し日本国内に居住する男子で，身体検査ならびに学力・技能および人物について行なわれる入学試験に合格した者となっている。競輪選手は現在毎年2・各100名程度が募集されているが,応募者が多くかなり狭い門になっている。日本競輪学校は静岡県修善寺(しゅぜんじ)町にあり，約16万m²の敷地に300人を同時に収容できる全寮制の完備した諸施設があり，競輪選手として必要な学科・実科・教養についてきびしい教育が行なわれる。

〔運営〕競輪は都道府県および自治大臣が指定した市町村が開催することができ，開催回数は月に1回，1回は6日，1日12レース以内と定められている。施行者は，競輪の開催にあたって全国を8ブロックに分け，ブロックごとに設立されている特殊法人自転車競技会に開催の実務を委託する。車券は単勝式・複勝式・連勝複式・連勝単式の4種が1枚100円・200円・1,000円で発売されているが，単勝式は1着になった選手を，複勝式は出走選手が5～7人のときは1着または2着になった選手を，8人以上

のときは１着・２着または３着になった選手を，連勝複式は着順に関係なく１着および２着になった選手を，連勝単式は１着および２着になった選手をその順序で的中した車券に対し，車券の種類ごとの売上額の75％を按分(あんぶん)して払いもどし金として支払うことになっている。

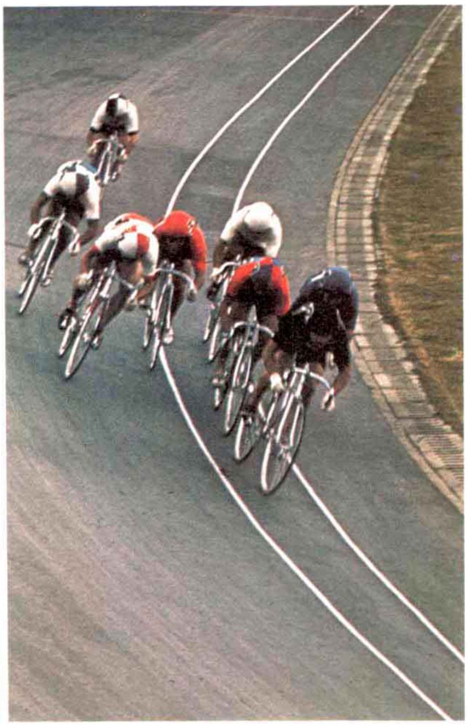
〔収益の使途〕払いもどし金を支払った残りの車券の売上額の25％は施行者の収入となるが，その中から選手の賞金，自転車競技会に実務を委託するための交付金など開催のための諸経費を支払い，また，法定されている一定率の交付金を日本自転車振興会に交付し，残りが施行者の総収益となる。施行者の純収益額は売上額によって多少の差はあるが，平均して車券の売上額の12％程度で，1973年までに総計約7,571億円となり，主として学校・住宅・病院その他公共施設の建設，道路などの改修，災害復旧などに使われている。日本自転車振興会に交付される金額は，一部の経費を除いて自転車その他機械産業の振興，スポーツ・社会福祉その他公益の増進などに使われていて，1973年までに総額約1,654億円に達している。〔倉茂貞助〕



スタートの瞬間



ゴール寸前の選手と，総立ちの観客



最終４コーナーの力走

競　輪

けいりん　**【桂林】**　コイリン　中国，広西チワン族自治区東北部にある都市。清(しん)代には桂林府臨桂県と称して，広西省の省都であった。珠江の支流桂江西岸に位置する。桂江と珠江の水運を利用して広州との間に交通・貿易が盛んに行なわれている。揚子江とは湘江(しょうこう)を経由して結ばれる。また，湘桂鉄道の沿線にもあたっており，毛皮・紙・絹織物などの工産物，米・綿花などの農産物の交易が盛んである。石灰岩の台地上にある景勝の地で，奇岩の突兀(とっこつ)する風景で知られる。〔千田　稔〕



桂　林　市街地の周辺には，石灰岩からなる突兀とした奇峰が立ち並び，南画に見るような景色が展開している

けいれつゆうし　**【系列融資】**　第２次世界大戦前の財閥系(三井・三菱(みつびし)・住友など)の銀行が，同系列の企業に資金を融資すること。その際，銀行は原材料の仕入れや製品の販売先などを同系列の取引先に指定する傾向が多い。これは戦前の財閥の金融資本のなごりであるとともに，新しい技術面での企業の集団化傾向が，高度成長における銀行の資金供給上の優位と結びついて現われたものである。

けいれん　**【痙攣】**　全身の筋または筋群の発作性収縮をいう。体が一定の姿勢を保ったり，運動したりするときは，体のいろいろな筋肉が共同して収縮したり弛緩(しかん)したりする。この運動は神経によって調節されており，この神経の調節がうまく行なわれなくなると，筋肉が収縮しすぎて伸びなくなったり，逆に伸びたままもとにもどらなくなったりする。痙攣には強直性(または緊張性)と間代性のものがある。強直性では筋がいっせいに収縮を起こし，特に伸筋の張力が強いため，四肢(しし)は伸びきって，首・背を後ろにのけぞらす。キニーネ中毒や破傷風菌毒素によって起こるのがこの型で，この痙攣で意識不明になるものを俗に〈ひきつけ〉という。間代性痙攣は拮抗筋(きっこうきん)が交互に収縮をくり返す場合で，手足を最初のうちは細かく，だんだん大きくふるわせる。中枢神経系の異常(てんかん・脳腫瘍(のうしゅよう)・ヒステリー)・伝染病，各種の中毒，内分泌異常などにおいてみられるものである。石炭酸中毒の痙攣がこの場合の典型である。痙攣を起こす疾患には急性で単発するものとして脳炎・ポリオ・脳出血などがあり，慢性で反復するものにヒステリー・てんかん・脳性小児麻痺(まひ)などがある。しかし，子どもによっては高熱の際，特に疫痢・はしかなどで痙攣を起こしやすい。痙攣には血液中のカルシウムの量が関係するといわれ，一般に痙攣を起こした人の血液中のカルシウム量は普通の人よりも少なくなっている。〔平野修助〕

げいろう　**【鯨蠟】**　マッコウクジラの頭部にあるロウ質の固形成分を精製したロウで，主成分はパルミチン酸セチル。真珠様光沢のある白色半透明の固体で，特異の臭気があり，光沢剤・化粧品などの原料として用いられる。

けいろうのひ　**【敬老の日】**　国民の祝日の一。９月15日。1966年(昭和41)〈国民の祝日に関する法律改正〉公布により，新しく祝日に加えられた。同法２条に，この祝日制定の趣旨として〈多年にわたり社会に尽くしてきた老人を敬愛し，長寿を祝う〉とるされている。第２次世界大戦後，特に老人層は社会環境の激変に恵まれない境遇にあったため，1951年９月15日社会福祉協議会開催の際，老人福祉を推進することを決議し，この日を〈としよりの日〉とすることを定めた。1963年老人福祉法の制定にあたって〈老人の日〉と改称，さらに〈敬老の日〉と改めて現在に至っている。〔高崎徳次〕

ケイロン　［Cheiron］　ギリシア神話でケンタウロスのひとり。父クロノスがその妻レアの嫉妬(しっと)を恐れ，ウマの姿を借りてオケアノスの娘ピリュラと交わったので，ケイロンは半人半馬に生まれついたという。野蛮なケンタウロスの中で例外的な賢者であり，心優しい老人である。ペリオン山中に住み，医術に長じ，アスクレピオス・アキレウス・イアソンらの英雄を養育した。のちに誤ってヘラクレスの毒矢を受け，あ

まりの苦痛に不死をプロメテウスに譲って死んだ。〔左中庸博〕

げいん【外印】太政官(だじょうかん)の印。印文は〈太政官印〉。〈天皇御璽〉を内印というのに対していう。延喜式(えんぎしき)(→延喜格式)に内外印の用法を細かく規定してあり，ふつう大事には内印を小事には外印を用いたが，内印の押捺(おうなつ)を請う手続きがめんどうなため，時代が下るにつれて外印の使用範囲が拡張された。

ケインズ［John Maynard Keynes］(1883〜1946) イギリスの経済学者。政治家・財政家，芸術の保護者でもある。ケンブリッジの生まれ。父はケンブリッジ大学の論理学および経済学の講師であったばかりでなく，キングス-カレッジの会計官でもあり，後期ビクトリア時代の文化を代表する知性に満ちた，すぐれたイギリス的風格の家庭環境であった。彼は，当時のイギリスの知性を代表する多分野の才能ある友人に恵まれ，特に父の友人である経済学者マーシャルの教えを強く受けた。ケンブリッジ大学卒業後インド省・大蔵省に勤め，そのかたわら《インドの通貨および金融》(1913)を著わすなど，はなばなしく活躍し，1919年に発表した《平和の経済的帰結》で一躍世の注目を浴びるようになった。

1930年にイギリスはケインズの猛烈な反対にもかかわらず，第1次世界大戦前の旧平価で金本位に復帰したため，さらに競争の激化した国際市場できわめて不利な立場に陥り，輸出は減退して深刻な不況に直面した。ケインズ理論を理解しようとする者には欠かすことのできない《貨幣論》(1930)はこの時代に書かれたものである。この本で彼は貨幣数量説を批判し，経済における貨幣の作用を貨幣方程式と貯蓄・投資理論の結合という形でとらえようとしたが，利子率決定の流動性選好理論と資本の限界効率の理論とを未分化のまま含んでいて，のちの経済均衡を完全雇用の状態として規定するという想定はまだここでは展開されない。1936年に発表した《雇用・利子および貨幣の一般理論》は，1930年代の世界的大不況期において，慢性的に存続する大量失業や資本設備の遊休化という事態を背景にして著わされたもので，現行の賃金率で働く意志をもちながら雇用の機会のない非自発的失業は，経済の有効需要の不足から生ずることを論証した。この理論を〈有効需要の原理〉という。このような失業を解消し，経済を完全雇用の状態に到達させるには，政府による積極的な財政金融政策によって有効需要を増大させることが必要であると主張された。ケインズのこの思想は世界的に大きな影響を与え，政策的には1930年代の世界恐慌時におけるアメリカのニューディール政策に代表される失業救済策が各国で採用されるようになった。理論的には個々の消費者，個々の企業，単一商品ないし用役を扱う微視的経済学が，国民所得・雇用水準を扱う巨視的経済学によって補完されることを意味した。こののち，この理論に基づくケインズ学派の人々によって景気循環理論と経済成長理論が構築され，近代経済学の発展に革命的意義をもたらした。



ケインズ



KH-4

➔次項 〔松浦 保〕

ケインズかくめい【ケインズ革命】J. M. ケインズが《雇用・利子および貨幣の一般理論》(1936)の中で展開した経済理論は，従来の古典派理論とは種々の点において異なり，きわめて革新的なものであったところから，後世の学者がこれをケインズ革命とよぶようになった。ケインズ理論の革新的な論点は，まず古典派理論が〈供給はそれみずからの需要をつくりだす〉といういわゆるセーの法則を仮定し，したがってただ一つの安定的な均衡は完全雇用均衡であると暗黙のうちに想定したのに対して，ケインズは過少雇用のもとでも均衡が成立すること，完全雇用均衡は無数の可能的な均衡のうちの特殊な一つの均衡にすぎないことを明らかにしたことである。過少雇用均衡の成立の根拠は，まず第1に古典派理論では労働の賃金率は伸縮的であり，したがって労働の供給過剰(失業)が存するならば，自動的に賃金率は下落して労働の需給を一致せしめ，たとえ非自発的失業が存在したとしてもそれは一時的なものでしかないと考えたのに対して，ケインズは労働者は主として貨幣賃金に関心をもち，これが現行水準以下に切り下げられることに対しては強力な反抗を示す傾向があるから，貨幣賃金率は下方に対して硬直的であるという現実的な想定をなし，この点から仮に現行賃金水準のもとで失業が存在するならば，自動的には賃金率は低下せず，したがって失業は消滅しないと考えた。

次に，古典派理論では利子は貯蓄に対する報酬であり，したがって利子率の調整によって貯蓄と投資を等しくすることができると考えたのに対して，ケインズは利子は貯蓄が債権のような形態をとる場合に，このような流動性を手放すことに対する報酬であるとして，流動性選好説という利子学説を説いた。そして特に利子率はけっして0にまでは低下せず，ある下限をもち，この低い水準においては流動性を保持しようとする選好が圧倒的になるであろうから，この低い利子率のもとで低い水準の投資に貯蓄を等しくするように所得が低下せざるをえず，完全雇用の所得水準以下の水準で貯蓄＝投資の均衡が成立すると考えたのである。

要するに，ケインズは労働市場における貨幣賃金率の下方硬直性と利子率の下限という硬直性を導入することによって，自動的に必ずしも完全雇用均衡が達成されえない可能性を明らかにし，かくて自由放任の終焉(しゅうえん)と，それに代わるべき政府の金融・財政政策によって完全雇用均衡を実現すべきことを提唱したのである。このケインズの経済思想の影響を受けて，彼の理論の拡充・発展を試みたサムエルソン・ハンセン・ヒックス・ハロッド・ロビンソンらの経済学者を称してケインズ学派という。〔富田重夫〕

けうきたい【稀有気体】⇨希ガス類元素

けうきんぞく【稀有金属】地球上に存在する量が比較的少ない元素を稀有元素といい，そのうち金属に相当するものを稀有金属という。しかし，古くはその量が僅少(きんしょう)であると考えられていたものでも，現在は産出量が増加しているものもあり，〈稀有〉の語があたらないものもある。周期律表第Ⅰ族のリチウム・ルビジウム・セシウム，第Ⅱ族のベリリウム，第Ⅲ族の希土類元素とガリウム・インジウム・タリウム・アクチニウム，第Ⅳ族のチタン・ジルコニウム・ハフニウム・トリウム・ゲルマニウム，第Ⅴ族のバナジウム・ニオブ・タンタル，第Ⅵ族のモリブデン・タングステン・セレン・テルル，第Ⅶ族のレニウム，第Ⅷ族の白金族などが稀有金属として取り扱われている。しかし，リチウム・チタン・ゲルマニウムなどは現在では相当大量に使用されている。〔古屋 弘〕

ケーエイチフォア［KH-4］川崎重工業の47G-3B型を改造して4人乗りとした小形ヘリコプター。1962年(昭和37)の初飛行以来150機以上生産し，日本の民間航空機の中で同一機種としては最も多く使用されている。エンジンはライカミング270馬力1基，主ローター直径11.32m，全長13.30m，最大速度169km/時，巡航速度140km/時

航続距離390km。

ケーエスこう【ＫＳ鋼】1916年(大正５)に，本多(ほんだ)光太郎*が発明した永久磁石鋼。コバルト30〜35%・タングステン６〜８%・クロム1.5〜３%・炭素0.8〜１%を含む合金鋼である。保磁力は200〜250エルステッド*で，当時のタングステン鋼・クロム鋼に比べて約３倍の強さであった。930〜970℃から油中焼き入れする，いわゆる焼き入れ硬化型磁石鋼である。その後1931年(昭和６)にＭＫ鋼*が発明されたが，さらに１年後ＭＫ鋼と同じ析出硬化によって保磁力を高めた新ＫＳ鋼がつくられている。これは保磁力が920エルステッドと非常にすぐれた磁石鋼で，コバルト20〜40%・ニッケル10〜25%・チタン10〜25%を含んでいる。〔長谷川正義〕

ケーエルエム［KLM］Koninklijke Luchtvaart Maatschappij, N.V. の略称。オランダ航空会社。半官半民の国際航空会社で，国内航空や航空写真を扱う子会社をもち，近年はホテル経営などの多角化にも手を染めている。1920年アムステルダム〜ロンドンに世界最初の定期航空路を開いたのがはじまりで，その後アムステルダム〜ハンブルク〜コペンハーゲン，さらには大西洋航路にも進出した。本社ハーグ。航空路延長キロ数365,690km，従業員数16,766(1975)。〔氏家　尚〕

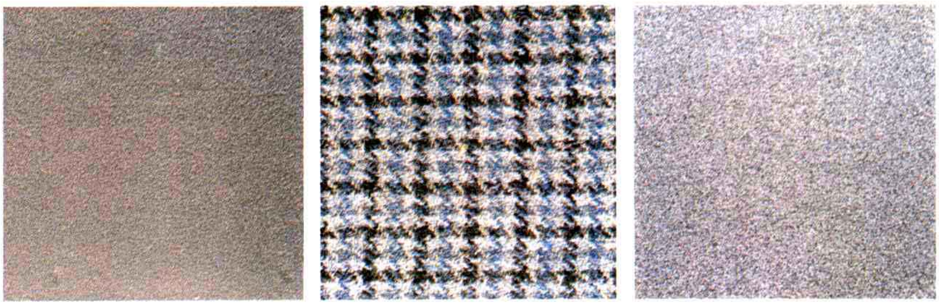
けおりもの【毛織物】羊毛その他の獣毛を原料とした織物の総称。

【歴史】獣毛を用いて毛糸*を紡ぎ，織物をつくることは，有史以前から世界各地の民族によって行なわれていた。古代のメソポタミア・エジプト・南アメリカなどでは，羊毛・ラマ毛などで衣料がつくられていたことが遺跡・遺物によって知られる。家畜としてヒツジが飼養されるようになってからもっぱら羊毛織物が織られ，ヒツジの産地であったスペイン・オランダ・イギリスなどで毛織物の生産が発達した。日本では古来毛織物に関係が乏しく，その生産の始まったのは明治維新以後で，官営の毛織物工場によって軍服・官服などの制服地を製造し，やがて民営の毛織物工業が発達したが，原毛は大部分を海外から輸入している。

【種類】毛織物は毛糸の種類に準じて梳毛(そもう)織物と紡毛織物に分けられる。①梳毛織物：ウーステッドとよばれ，梳毛糸で織られたもの。表面が平滑で織物組織が明瞭(めいりょう)に見え，光沢があり，薄地のものが多い。モスリン・サージ・ギャバジン・トロピカル・ポーラー・ウーステッドなど。②紡毛織物：紡毛糸を織ったもので，ウーレンといわれる。表面に毛羽立ちが多く，特に縮充(フェルト加工)して羊毛繊維をからみ合わせ，やや厚地のかたい織物に仕上げるもの，起毛仕上げのものなどがある。メルトン・ラシャ・ドスキン・ツィード・フラノ・ベロア・毛布など。



梳毛織物　(左)トロピカル　(中)ポーラー　(右)ウーステッド



紡毛織物　(左)ドスキン　(中)ツィード　(右)フラノ

毛 織 物

また，用途・がら模様・産地によって，次のような種別がある。用途による種別として，コーティング(紳士礼装上着地)・トラウザーリング(紳士礼装ズボン地)・ベスティング(チョッキ地)・スーティング(無地背広地)・ファンシースーティング(がら物背広地)・オーバーコーティング(外套地(がいとうじ))など。がら模様による種別として，タータンチェック・格子(こうし)・ストライプ・ヘリンボーン・バーズアイ・ピンヘッドなど。さらに，産地名による種別として，ベネシアン・スコッチ・サクソニー・アストラカン・オックスフォードなど。

【性能】一般に柔軟で触感良好，弾性・防しわ性が大で，ドレープ性(被服材料のたれ下がりの優雅な形状を現わしうる材料性状)がすぐれている。水はじきがよく，防汚性がある。染色性がよく，光沢が穏和。特に含気性が大で，保温性の優秀であることが特長である。縮充・起毛した紡毛織物はすぐれた保温性を発揮する。毛織物はこれらの性能によって装飾的効果と実用的価値をもつ。しかし，湿潤・摩擦・洗たく操作によって羊毛繊維がからみ合い，フェルト化して収縮する欠点がある。

【用途・取り扱い】衣料としては装飾的服地・礼装用服地に向けられ，特に紡毛織物は防寒衣料に用いられる。衣料以外には，その触感・弾性などが利用され，じゅうたん・モケット(いす張り地)・カーテンなど家具装飾にも使われる。取り扱い上特に注意を要するのは洗たくで，中性洗剤を用いて軽く押しつけ洗いするか，ドライクリーニングによるのが適当である。また，虫に食われるのを防ぐためにはナフタリン・樟脳(しょうのう)・パラジクロルベンゾールなどを入れて密封保存する。近来，虫に対する毒性物質を用いて防虫加工を施すことも行なわれている。大量の害虫の発生した場合は，密閉室内で四塩化炭素などを用いて薫蒸殺虫をする。〔小川安朗〕

ゲオルギウ-デジ［Gheorghe Gheorghiu-Dej］(1901〜1965) ルーマニアの政治家。17歳で労働運動に参加し，1930年共産党に入党。1933年の鉄道ストライキを指導して投獄されたが，1944年脱獄してファシズムからの解放闘争を指導した。第２次世界大戦後，共産党書記長となり，1948年には社共両党が結成した労働者党の書記長となる。その後，第１副首相，最高経済会議議長などを経て，1952年首相。1961年３月には国家評議会議長となるなど，党・政府・国家の最高責任者として活動した。なお，反チトー主義の代表的な活動家としても知られた。〔山県弘志〕

ゲオルゲ［Stefan George］(1868〜1933) ドイツの詩人。19世紀末から20世紀初めのヨーロッパの，ことばの退廃が募りゆく状況下にあって，ことばに本来の生命をよみがえらせ，文化形式の基礎となる力を回復させることを，ことばによる創造活動によって実践した。その作品は厳格な形式をめざす意思に貫かれている。代表的な詩集として，最も広く読まれた《魂の一年》，美による価値の誕生を構成的に示した《生の絨氈(じゅうたん)》，詩業の古典的完成を示す《第七輪》などがある。また，詩誌《芸術草紙*》を主宰して多くの詩人を育て，ホーフマンスタール*・リルケ*とともにドイツ近代詩の巨星とされている。〔助広　剛〕

げか【外科】おもに手術*によって治療を行なう医学の一分野。わが国では内科*に

対して外科といわれているが，ラテン語で外科を意味するchirurgiaは〈手の作業〉の意で，手術によって治療を行なう医学の一分野という程度の意味である。外科に関する治療の記載は古く，ヒッポクラテスらの書いたものもあるが，古くは理髪師とか金創医が長い経験から膿瘍(のうよう)の切開，脱臼(だっきゅう)・骨折の処置，四肢(しし)切断などをやっており，学問としての外科学はなかった。ルネサンスのころ，解剖や止血法の考案などとともにようやく外科学も治療医学の一翼を占めるようになったが，まだ地位は低いものであった。やがてリスターによる制腐法，さらには無菌法の発明，無痛法の発達などとともに，単に切ったり縫ったりすること以外に，治療面で学問として独自の地位を得るようになった。そして細分化の方向をとり，約半世紀以前から，整形外科・耳鼻科・産婦人科・眼科・泌尿器などが外科から独立していった。さらにレントゲン線の発見，輸血の進歩，特に第2次世界大戦後の近代麻酔法の確立，抗生物質の発見などとともに，身体のいずれの場所でもメスの届かないところはなくなり，同時に手術に際しても高度の技術が要求されるようになって，グループないしはチームをつくって研究を進める形態となってきた。そしてまた，主としてアメリカで行なわれていた実験外科学が，漸次臨床面に導入されるに及んで，外科学の研究分野もさらに細分化し，脳神経外科・胸部外科・麻酔科などがそれぞれ専門化して，おのおの独立する時代となっている。したがって今日では医師のひとりひとりが外科学に通暁するのは不可能であり，他方診療面では専門に偏しない一般外科医が要求されるといった現状である。この意味で治療医学として出発した外科学にとって高度の専門化は一種のジレンマといえよう。さらに新分野の開発，たとえば臓器移植などにおいて，単に生命の延長のみが目標でなく，道徳面における妥当性などが今後の外科学の課題となろう。〔三島好雄〕

けがき　**【毛牡蠣】**　⇨カキ

けがき　**【罫書き】**　工作物の一部または全部に仕上げを施すべき形を示すため，工作物に線を描く作業。線引きは，ふつう鋼製の細長い棒状のもので，先端を鋭くとがらせた工具で行なう。罫書き面が鋳はだや黒皮のままの場合には，線をはっきりさせるために，チョーク・青竹・胡粉(ごふん)・光明丹などを塗る。

けがに　**【毛蟹】**　節足動物・甲殻(こうかく)類・クリガニ科。甲らの幅10cmほどに達する大形の海産のカニ。甲らはほぼ円形，脚の長さは甲幅の1.5倍ほど。甲らは石灰化の度合いが低いので，薄く弱々しく，名の示すように，全体に毛のような棘(きょく)が密生する。全体灰かっ色。北海道沿岸，石川・福井両県沿岸，朝鮮東部海岸，千島，ベーリング海，アラスカ沿岸などに分布する。肉は美味で，北海道の味覚として親しまれている。➔カニ　〔菅野　徹〕

けかび　**【毛黴】**　藻菌(そうきん)類・ムコール属の総称。食品，動物の糞(ふん)，果実などによく発生する。匍匐(ほふく)菌糸は基物の表面を平面的に伸長し，のち，胞子嚢柄(ほうしのうへい)が直立し，その上に胞子嚢をつける。胞子嚢中には多数の胞子ができる。胞子嚢は破れて胞子が飛散するが，胞子嚢柄の先端に中軸が残る。有性生殖は配偶子嚢の接合によって接合子ができる。雌雄同株と雌雄異株のものがある。いろいろの醸造製品の製造に利用される。〔曽根田正己〕

けがれ　**【穢】**　清浄・神聖という観念に対する不浄にあたるものをいう。未開・古代社会の原始生活で特に重要な意味をもち，触れたり飲食するとかによって感染すると考えられていた。日本神話では罪悪を天津罪(あまつつみ)と国津罪とに分けているが，人民の社会秩序を乱す行為である国津罪は古代の穢とされていた。また，出産・疾病(しっぺい)・災い・死亡なども穢とされ，穢を除去し，社会生活を正常に保つことが必要とされた。祓*(はらえ)・禊*(みそぎ)・忌*などは，いずれも穢を除去することを目的としたものである。〔宮本袈裟雄〕

けがわ　**【毛皮】**　哺乳(ほにゅう)動物の柔毛のついた皮。毛皮を身にまとう習慣は，原始時代に狩猟生活をしていた未開人がからだの保護・保温の必要性から，はいだ毛皮をそのまま衣服として利用したのがはじまりで，現在でも北方民族には防寒衣料として実用品である。一方，古代エジプトでは神官が毛皮を身につけてその象徴としたり，ギリシア時代にも使用されていたが，それらは防寒よりむしろ階級・権威・象徴・気品のために用いられたものである。その後毛皮をなめす鞣製(じゅうせい)方法の発見から毛皮は人間生活に深くはいり，装飾用としては13世紀ごろから用いられたが，ファッション界に登場するのは19世紀後半のごく最近のことで，養殖毛皮が出回るようになってからはより一般的なものとなった。現在でも服飾上毛皮は防寒と装飾の二つの目的をもっている。すなわち防寒性は熱伝導率が他の被服材料より低く保温性が高いのを，装飾性はその光沢と色彩の美しさを利用したものである。用い方は気候差によって異なり，北方の国々では防寒実用品，温帯地方ではぜいたくなおしゃれ着としてコート・ケープ・ストールなどとし，財産の一つに数えられてもいる。毛皮がこのようにもてはやされるのは，①軽く柔らかなはだざわりがある，②保温力が高い，③光沢が美しく豪華な感じ，④耐久力がある，などの諸点であるが，一方，欠点として，湿気・虫・火に弱いので保存に注意する必要がある。

日本でも古くから毛皮を衣服用としていたが，気候の温暖なこと，梅雨期の湿気，なめし加工技術の遅れ，さらに仏教の影響により動物の殺傷を忌みきらったなどの理由からあまり多くの利用はなく，武士は権威・位の象徴として，庶民は猟師・きこりなどが防寒必要品として使っていたにすぎない。明治中期になって欧米文化とともに装飾毛皮がはいってきて一部の上流社会で用いられたが，第2次世界大戦後は関心がしだいに高まってきた。

〔製造法〕毛皮はなめし*・染色・縫製の3工程を経て美しい製品になる。動物の皮をはいだ加工前の皮を〈原皮〉，なめし加工をした皮を〈皮革〉という。原皮を長期間腐らせず変質しないようにして，つねに一定の柔らかい状態を保たせるためにはなめし加工を行なう。なめし方には，クロムなめし・ミョウバンなめし・タンニンなめし・油なめしなどいろいろな方法があるが，クロムなめしが代表的である。

なめしあがった毛皮は，自然色で使うのは別として染色を行なう。染める目的は，商品価値を上げる場合，毛皮のはぎ合わせのときに全体の色をそろえる場合，イミテーションをつくる場合などに行なわれる。媒染工程を経て染色が行なわれるが，毛皮染色に適するのは植物染料だけで，人造染料の中では現在主として酸化染料が使われているようである。染色後は縫製材料としての毛皮にするための仕上げをして美しい毛皮ができあがる。

〔手入れ・保存〕毛皮はていねいに手入れ・保存をしておくと非常に長もちするものである。使用中の手入れとしては，①毛を極端に折ったり，押えたり，摩擦したりしないこと，②湿気や乾燥に弱いので水気がついたときはよくふき取り，火や日光で急に乾燥させないこと，③ほこりは早めにブラシで落とすか軽く棒でたたいて落とす，④油気のよごれはベンジンをつけた柔らかい布で毛並みに沿ってふき取る，などがある。そのほか，ひどいよごれは専門家に任せるほうがよい。保管には金属性の容器でできているファーケースを用いるが，なければ茶箱・紙箱などでもよく，ゆったりとしまうこと。防虫剤は毛皮に直接触れないように入れて箱は密閉し，なるべく涼しい湿気のない所に保管する。コートなどの大きなものは布製の袋をかぶせてハンガーにつるし，洋服ダンスにかけておくほうがよい。

〔種類〕獣類の毛は大別すると，〈上毛〉〈下毛〉に分かれる。上毛は剛毛・刺毛ともいい，まっすぐで長くかたく，柔らかい下毛を保護し弾力性をもつ。また光沢があり色彩に富み，その動物の特徴ある毛並みをつくっている。下毛は綿毛ともよばれ，模様はなく単一色，密生して体温を保持する役目をしている。いずれも気候・季節に大いに左右され，毎年初冬に上毛が伸びて完成し，下毛が豊富になって冬毛となる。この最盛期は2～3週間で，この間の毛皮が最高と

される。温度の高い地域では，獣は体温保持に厚皮を必要とせず，したがって熱帯産の動物皮は保温用には向かない。一般に毛皮は成獣からとるが，産毛の多いカラクール系のヒツジ，中央アジア産のウマの幼獣は高級品とされている。また質に変わりはないが野生動物毛皮と養殖動物毛皮とがある。代表的な毛皮動物は，①野生：イタチ・ウサギ・リス・テン・タヌキ・ムササビ・クマ・キツネ・アストラカン・チンチラ・トラ・ヒョウ・オセロット・ラッコ・アザラシ・カンガルーなど，②養殖：ウサギ・ミンク・銀ギツネ・メンヨウなどである。

〔代表的な毛皮〕①ウサギ：柔らかで安価なため最も一般的な毛皮である。チンチラウサギや美しい模様のもの以外は染色して使われている。野生と養殖があるが，野生は毛足は長いが弱いので実用としては養殖より劣る。②キツネ：毛足が長く柔らかで，多く愛用されている。銀ギツネ・毒ギツネ・赤ギツネ・白ギツネ・黒ギツネ・灰色ギツネ・プラチナギツネなど種類が多く，用途もストール・カラー・コートなど広い。現在，毛皮用としてはほとんどが養殖されている。③ミンク：毛足の長さが理想的で，光沢が美しく，軽く，耐久力があり色が豊富，などから高級毛皮のうちで最も一般的な毛皮となっており，コートから小さなアクセサリーに至るまで用途は広い。ほとんどが養殖され，ダークミンク・パステルミンク・サファイアミンク・パールミンク・ホワイトミンクなど多くの色に分類されている。④チンチラ：毛は短く柔らかく銀ネズミ色で，ブルーがかったのが最高とされている。毛の弱いのが欠点であるが，現在ではミンクより高価。⑤アストラカン。

〔小池千枝〕

げかん　【外官】　律令(りつりょう)制における地方官。在京の官人を京官・内官というのに対して，大宰府(だざいふ)官人・国司・郡司などをいう。

ケーキ　⇒菓子

げき　【外記】　律令(りつりょう)制における官職。太政官(だじょうかん)の少納言の下にあって，中務省*(なかつかさしょう)の内記*の作成した詔勅を正し，上奏文をつくり，そのほか公文書を読み申し，文案を勘検して署名するなど，主典*(さかん)としての一般的任務にあたる。大外記・少外記各2名，その下に史生(ししょう)10名が属した。職務上，儒学・文事の才を必要としたので，のち大外記は清原・中原両家の世襲となり，少外記も両家の推挙によった。こうして外記が少納言を代表するようになり，左弁官・右弁官(→弁官)とともに太政官の3局として政事をつかさどるに至った。

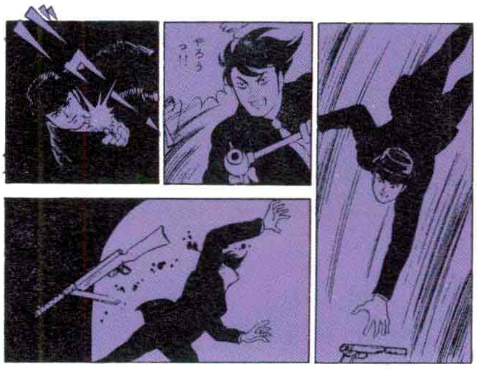
〔星野具子〕

げきが　【劇画】　漫画のうち，可笑性・空想性を排して写実性・心理描写を重視した物語漫画をいい，青少年を読者対象とする。1957年(昭和32)，関西地方で貸本屋向けの漫画単行本を描いていた辰巳(たつみ)ヨシヒロが自作を〈劇画工房〉作品とよんだことから，以後貸本漫画の多くを劇画と称した。1955～1956年の全盛期の貸本屋では，《影》など月刊誌形式の短編漫画集が単行本の形で多く読まれた。描法は省略・誇張よりは，むしろ手描きの痕跡(こんせき)を残した写実的なものに変わった。〈劇画工房〉には辰巳のほか，関西在住の佐藤まさあき・さいとうたかを・桜井昌一(しょういち)らが集まり，上京，短編誌《摩天楼》《少年山河》《無双》などを創刊・編集し，貸本漫画界に一時期を画した。さらに，つげ義春(よしはる)・小島剛夕(こうせき)・白土三平*・水木しげるら貸本漫画の作家たち，平田弘史(こうし)・旭丘(あさおか)光志・楠(くすのき)勝平・園田光慶(みつよし)ら新しく登場した作家が，劇画家として活躍。これらの作家たちの多くは，私的な体験や情念を表出したため，作品は残酷で暗欝(あんうつ)な表情をおび，いわゆるヒューマニズムには基づかなかったので，一部からは俗悪漫画として嫌悪(けんお)・非難された。しかし，作者と同質の精神的屈折をもつ青年層から愛読され，1960年代後半の漫画ブームの中で，週刊誌を舞台に主役を占めるに至った。

〔石子順造〕



白土三平　《忍者武芸帳》(影丸伝)　1959～1962
小学館版



佐藤まさあき　《黒い傷痕の男》　1961～1962
佐藤プロダクション版



平田弘史　《無頼剣に涙あり》魔像別冊　1961
日の丸文庫版

劇　画

げきざる　【外記猿】　長唄(ながうた)の曲名。本名題《外記節猿》。4世杵屋(きねや)三郎助(のちの10世杵屋六左衛門(ろくざえもん))作曲。外記節*の特徴を復活させる意図からつくられたといわれるが，外記節本来の旋律や語りがふんだんに出てくるわけではない。猿曳(さるひき)が呼ばれてサルを踊らせる筋で，にぎやかな気分の曲である。

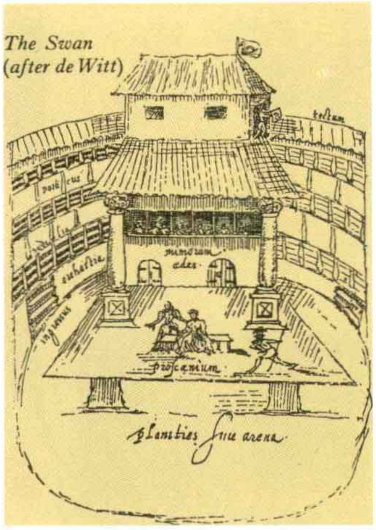
げきし　【劇詩】　戯曲の形式をとった詩。もと，戯曲はすべて韻文で書かれ，劇詩とは戯曲そのものであり，叙事詩・叙情詩と並んで詩のジャンルをなしていたが，近代以降散文劇が多く書かれるようになり，劇詩がすなわち戯曲をさすことはなくなった。しかし，18世紀のレッシング*の《賢者ナータン》やゲーテ*・シラー*の作品，さらに19世紀イギリスのバイロン*・ワーズワース*・キーツ*・シェリー*・テニソン*ら詩人の作品には，すぐれた劇詩が多い。日本では，北村透谷*(とうこく)の《蓬萊曲(ほうらいきょく)》が著名。なお，伝統的な韻文による劇詩に対し，T. S. エリオット*らの新しい韻文劇は詩劇*とよばれる。

〔田島　修〕

げきじょう　【劇場】　演劇またはこれに属する芸能の上演を目的とする建造物で，観客席と舞台*とからなる。洋の東西を問わず，演劇の原始時代または原始的演劇は劇場をもたず，その後自由な様式の時代を経て，現在のような劇場形態をとったのは比較的近代のことである。

〔西洋〕はじめて劇場がつくられたのは紀元前5世紀，ギリシア演劇*の最盛期のころである。ディオニュソスの祭礼に宗教的・国家的行事として催されたギリシア演劇*は，コロス*(舞唱団)の歌い踊る円形の場所オルケストラとそれを囲む観客席テアトロン(見る場所)とからなる劇場を生んだ。やがてコロスの中から俳優が生まれると，いくつかの役がらを受け持つ俳優が，扮装(ふんそう)を変えるためのスケネ(楽屋)が設けられ，





劇　場
(左)オリンピコ座　(右)シェークスピア演劇の時代のスワン座内部

これがオルケストラに接して舞台装置の役割を果たすこととなり，テアトロン(観客席)はオルケストラを中心に三方へ扇形に取り囲み，こうしてギリシア劇場の原型ができあがった。俳優が演技するスケネの前はプロスケニオンとよばれたが，ここにはやがてのちの〈舞台〉にあたるプラットフォーム式の卓が設けられた。国家的行事として演じられたギリシア演劇は観客数も多く，山腹や傾斜地など自然の地形を利用してすりばち状につくられた観客席は数万人を収容したといわれ，その直径は百数十メートルにも及んでいる。はじめは木造であったが，紀元前4世紀の中ごろには石造となり，現在でもアテネのディオニュソス劇場(→演劇(図))やエピダウロス劇場などの遺跡が残っている。ローマ時代になると，演劇は国家的・宗教的意義が失われて娯楽化したが，劇場形式はギリシアの模倣であった。ただギリシアのそれのように自然の地形の利用でなく，平地に石造りの巨大な観客席を建造した。またコロスがなくなったために不要となったオルケストラは半円に削られて舞台がこれに接し，観客席も半円形になり，観客席の最上段に達する高さとなったスケネには彫刻が施されて豪華な建造物となった。紀元前2世紀後半からはローマ以外の植民地にもこうした劇場がいくつかつくられたが，南フランスのオランジュや小アジアのアスペンドスにはいまなお当時の形態をとどめて残っている。ローマ帝国の衰退につれて古代劇の伝統はいったんとだえ，やがて中世演劇がヨーロッパ各地のキリスト教会の中から各種の宗教劇として発展していった。これは，はじめは教会や僧院の内部で僧侶(そうりょ)らによって演ぜられたが，やがて演技の場所は町の広場に移り，演劇もまた民衆の手によって世俗的となった。舞台は〈並列舞台〉とよばれるもので，必要な場面装置をしつらえた台をいくつか並べて舞台とした。ルネサンス期になると，イタリアを中心に古代劇復活の試みがなされ，王侯や貴族の邸内や中庭で行なわれたが，やがてローマの建築家ビトルビウスの著書《建築》が発見されると，恒久的な劇場建設の機運が高まった。1584年北イタリアのビチェンツァに建てられたオリンピコ座は現存最古の近世劇場である。ここでは，オルケストラは1/4弧ほどに減じ，観客席もこれに準じた弧状であるが，全体的にはローマ劇場を屋内に収めたようなものである。舞台は細長い長方形で，後ろの背景には当時発明された透視画法が応用されている。すなわち正面の壁に三つのアーケードがつくられ，そのおのおのを通して後方に斜めに延びる通路が遠近法による街路となって見透かされる。また，舞台の左右の壁にも一つずつ出入り口が設けられ，俳優はここから出入りして演技した。1619年オリンピコ座を参考としてパルマにつくられたファルネーゼ座ではオルケストラはU字形となり，観客席もこれに沿った階段式で，幅が狭くなった代わりに奥行きが長く延びた。舞台の変化も大きく，背景部の中央アーケードが幅を広げて舞台の前まで進出し，演技はアーケードの奥に見通される街路風景の中で行なわれるようになった。アーケードの縁は豪華な装飾が施され，舞台と観客席との間をはっきり分ける役目をし，近代におけるいわゆる額縁舞台(プロセニアム*)への出発を示すとともに，はじめて幕が用いられた。ファルネーゼ座で王侯・貴族の特別席とされたオルケストラは17世紀にはいると一般民衆に開放され，上流人士のためにはその周囲に仕切りをした桟敷席(さじきせき)が設けられ，やがてこれが2層・3層と積み重なって今日の劇場形式へとつながる。一方イギリスでは，16世紀後半シェークスピアによって代表されるエリザベス朝演劇の最盛期を迎えるが，その劇場形式はヨーロッパ大陸とは異なる独自のものであった。中世末の巡業劇団が使用した旅館の中庭がそのまま基本的構成となり，その一方に舞台がしつらえられて余地が観客席となった。劇場の形は円形や四角・八角形など種々の多角形で，いずれも屋根はかやぶきが多かった。舞台は観客席の中に突き出ており，前・後舞台と後舞台の上に重なる高舞台の3か所が用いられたが，背景装置はほとんどなく，せりふによる観客の場面想像力にたよった。17世紀中ごろピューリタンの圧迫によって停止されていた演劇は王政復古後に再開され，劇場は大陸の劇場形式を取り入れて屋内劇場となり，シェークスピア劇場形式はわずかにエプロン-ステージとして19世紀中ごろまでそのおもかげを残したにすぎない。20世紀にはいると，プロセニアムを撤廃して古代ギリシア・ローマのように劇場と観客を演劇全体の中に包み込もうというイギリスの演出家ゴードン-クレイグ(1872～1966)による劇場改革運動，また写実主義・自然主義の行き過ぎに対するドイツのイエスナー(1878～1945)の〈階段舞台〉やフランスのジャック-コポォ(1879～1949)によるヴィユー-コロンビエ座の〈常設舞台〉など，狭く固定された舞台を解放して客席との融合を図る試みがなされた。しかし，ヨーロッパ各地の劇場の多くは，その推移に多少の差があり，また科学・機械力の進歩による演出・構造の変化はあるが，結局はイタリアのルネサンス劇場形式を脱することなく，現在の劇場の基本的形態として続いている。

【東洋】東洋諸地域においては，独立した劇場を古くからもっていた国は少ない。それぞれの国の大都市には近代的様式の劇場があるが，その国本来の民俗的芸能が演ぜられる場所は昔からのままに野外や仮設舞台が多く，また上流階級のためとして宮廷のホールなどがこれにあてられている。古い歴史をもつ中国演劇では，宋(そう)代には臨時に設けられた仮設の演戯場が主であったが，元の時代には常設的な建物となった。舞台と観客席を一つの屋根でおおうようになった時期は明らかでないが，17世紀半ばにはすでに存在していた。

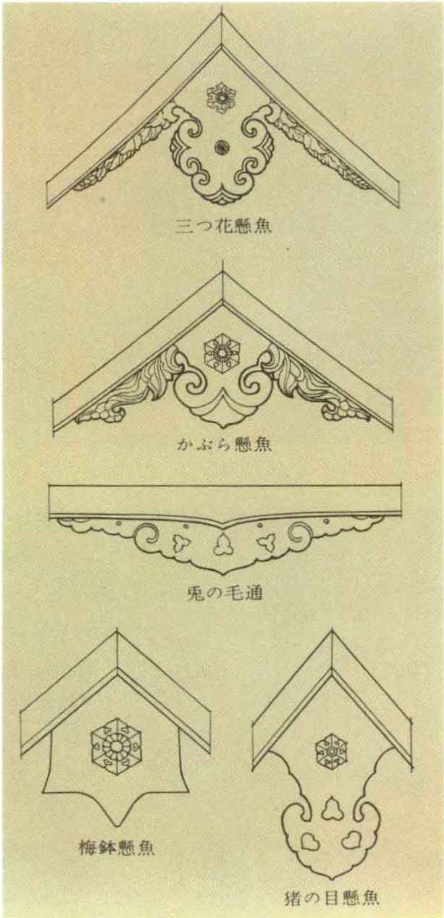
【日本】わが国ではじめて舞台がつくられたのは8世紀中ごろの舞楽においてである。神前や貴人の前で演ぜられたため，観客席は特に設けられず，観客は他の三方からこれを見物した。能の先行芸能である田楽・猿楽(さるがく)も寺社の境内で行なわれ，舞台は舞楽舞台の影響が残っていた。能舞台*はこれらを経てできたものだが，勧進能では入場料が徴収され，矢来にむしろや幕を張り巡らして劇場としての形態ができた。初期の歌舞伎(かぶき)や人形芝居の興行ではこの形式が踏襲され，やがて観客席の上にも屋根ができ，橋懸(はしがかり)に代わって花道*がつけられた。そして，享保(きょうほう)年間(1716～1736)には舞台・観客席をともにおおう全蓋(ぜんがい)式の劇場になった。1758年(宝暦8)狂言作者並木正三(しょうぞう)によって発明された回り舞台*は，その後の歌舞伎

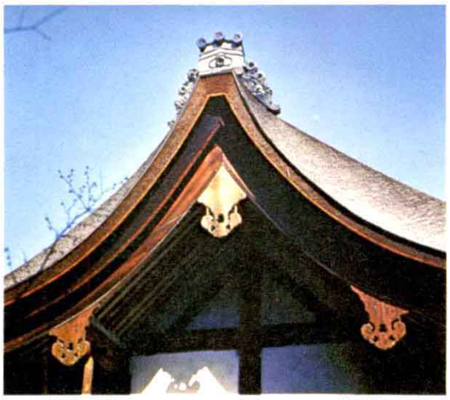
劇演出に大きな変化を与えた。明治期にはいると欧米文化の移入によって劇場にも改革が行なわれ，舞台を直線にして額縁舞台とし，観客席もいすにするなど，漸次洋風化した。1878年(明治11)の改築された守田座(もりたざ)や川上座(1896)・有楽座(1908)などがそうであるが，1911年に新築された帝国劇場は鉄筋コンクリート造りの完全な洋風劇場であった。関東大震災後に建てられた劇場はすべていす式を主としたが，歌舞伎劇場は観客の習慣から一部に桟敷(さじき)が残された。これら商業劇場に対して，明治末年に興った新劇上演のために築地(つきじ)小劇場が1924年(大正13)に建てられた。1954年には戦災で焼失した築地小劇場に代わって俳優座劇場が建設され，またビルの一部に設けられた小ホールが新劇上演の場として利用されている。なお，1966年には長年の懸案であった国立劇場が開場し，近代的機能を備えた大小二つの劇場を収容している。〔白川宣力〕

げきだん【劇団】 演劇の研究・上演を目的とする団体。日本では平安末期の田楽(でんがく)・猿楽(さるがく)芸人の職業組織〈座〉がそのはじまりとされ，以後，能・人形浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)なども座を結成して活動を行なった。ヨーロッパでは，ローマ時代に奴隷の俳優を使った劇団が存在したが，常設劇場と結びついて体裁を整えはじめるのは，ルネサンス期を経て17世紀ごろからである。コメディ-フランセーズはその典型といえる。さらに，19世紀末の近代劇運動の勃興(ぼっこう)とともに，ある種の主義主張をもった芸術的劇団も登場してきた。劇団の種類は目的・組織によって種々に分類されるが，大きく商業劇団と非商業劇団に分けられる。〔西尾邦夫〕

げきぶし【外記節】 江戸浄瑠璃(じょうるり)の中でも，はでで豪快な様式をもつ薩摩(さつま)浄雲の系統を引く古浄瑠璃の一。17世紀末に薩摩外記直政(なおまさ)が京都から江戸に下って語りはじめたので下り薩摩ともよばれている。この様式が大薩摩節に引き継がれ，さらに長唄(ながうた)の中に統合されたので，流派としては残存していない。長唄に《外記猿(げきざる)》《外記節石橋》など外記節の曲風をとどめているものがあり，河東節その他の三味線(しゃみせん)音楽では〈外記ガカリ〉という器楽的パターンがある。〔山口　修〕

げきやく【劇薬】 医薬品には薬理作用が激しいため，取り扱いに注意しないと危険を起こすものが多い。薬事法では，このような危険な医薬品を多くの学術上の基準によって取り上げ，その危険の程度の差から毒薬と劇薬とに分けて，医薬品ごとに指定している。一般に劇薬は毒薬より作用が強烈ではない。また薬事法は，このような医薬品について封印を開いて売ることの制限，手渡すときの手続きおよび年齢などの





懸　魚　新羅善新堂(大津市)

制限，貯蔵時の取り扱いなどを規制しており，違反すると処罰される。〔江本龍雄〕

げぎょ【懸魚】 切り妻屋根の左右の破風板(はふいた)が合するところや，破風板の途中で，つり下げたような形に取りつけた装飾。その位置は，棟木(むなぎ)や桁(けた)の先端が破風板と接するところで，水を吸収しやすい木口を風雨から保護すると同時に装飾化する目的で意匠された。切り妻や入母屋(いりもや)屋根の両端の三角形の部分は，この形式の建物の側面の見どころの一つで，記念性の濃い社寺建築では妻飾りとよばれて特に装飾的扱いが強いが，懸魚はこの妻飾りの重要な要素の一。形によって，かぶら懸魚・梅鉢(うめばち)懸魚・三つ花懸魚・猪(い)の目懸魚・兎の毛通(うのけどおし)(唐破風(からはふ)の中央の懸魚)などがある。〔渡辺保忠〕

げきりょく【撃力】 打撃や衝突などの際に物体間に働く力。打撃力ともいう。このような場合に物体が互いに接触する時間はきわめてわずかで，力の作用する時間もきわめて短い。しかし，力の大きさは非常に大きく，これを時間について積分した値，つまり力積は普通の力と同じように大きい。撃力は力の大きさや作用時間を直接問題とするより，力積を考えることが多い。

たとえば，飛んでくるボールを短い時間で受け止めると手が痛い。ボールの質量を m，速度を $\vec{v}$ とすれば，ボールの運動量は $m\vec{v}$ となり，これを受け止めるには，運動量の変化に等しい力積を加えねばならない。すなわち，$0-m\vec{v}=\vec{F}t$ (tは時間)である。力積 $\vec{F}t$ が一定であるから，力 F が小さくてすむためには時間 t を長くすればよい。したがって，手を手前に引きながら時間を長引かして受け止めると痛くない。また，高いところから飛び降りるとき，ひざをばねのように使うと痛くないのも同様である。野球のバットで球を打つとき，あるいはくぎを打つときの効果も力積で考えられる。

なお，撃力 F と同時に他の重力などの力 f が働く場合も，力積を考えるとき，ふつう $F>f$ なので，t がきわめて小さいことを考慮すれば $(F+f)t \fallingdotseq Ft$ とみなせるから，f は働かなかったものとしてよい。また，撃力が働いている間の物体の移動距離を0とみなしてよい。〔今淳治郎〕

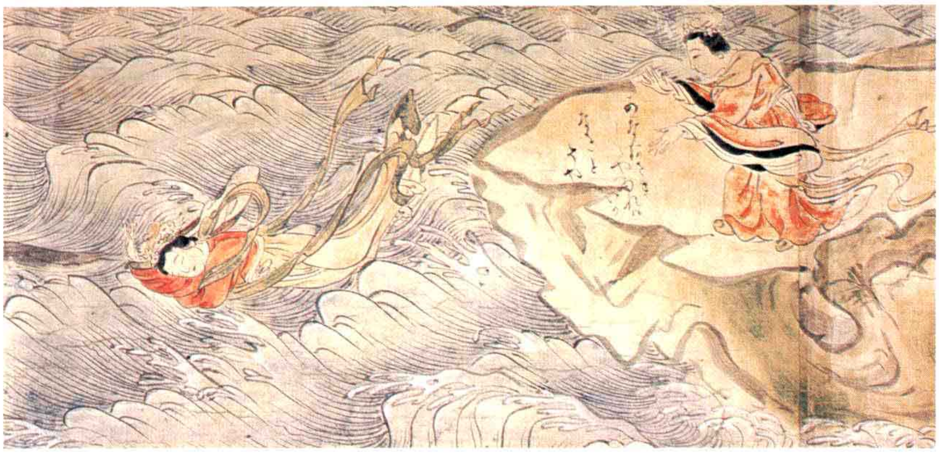
げくう【外宮】 ⇨伊勢(いせ)神宮

げくうしんとう【外宮神道】 ⇨度会(わたらい)神道

ケクレ [Friedrich August Kekule von Stradonitz] (1829～1896) ドイツの有機化学者。ギーセン大学に建築学を学ぶため入学したが，リービッヒの化学講義を聞いて化学に転じ，パリに留学してデュマに学び，ウルツやジェラールらに新しい化学の影響を受ける。ロンドンでは，ウィリアムソン・オドリングらと親交があった。反応と構造の研究から，炭素の四価性に基づく原子価論により，1858年炭素の鎖状結合理論を提出，さらに1866年にはベンゼンの構造に関する研究を発表し，環状構造を考え，翌年，六角形構造を彼の有機化学教科書にはじめて記した。こうして脂肪族(鎖状)と芳香族(環状)化合物の系統的分類の基礎が置かれ，異性体および反応の特異性が説明できるようになった。〔山下愛子〕

ケクロプス ⇨キュクロペス

げけつ【下血】 血液が肛門(こうもん)から出ること。潜血と異なり，肉眼的に出血を認める場合をいい，食道静脈瘤(しょくどうじょうみゃくりゅう)破裂・胃潰瘍(いかいよう)・胃癌(いがん)・十二指腸潰瘍・腸チフス・腸結核・赤痢・急性大腸炎・潰瘍性大腸炎・腸重積・直腸癌・痔核(じかく)・肛門裂傷などの際に認められる。上部



華厳縁起絵巻　〈義湘絵〉のうちの，義湘の船を追って投身する善妙と騒ぐ従者　高山寺蔵



華厳五十五所絵巻　断簡普賢菩薩　東京国立博物館蔵

消化管に出血源のある場合はタール状を呈するが，下部消化管出血の際は新鮮血を認める。➔血便

げこくじょう【下克上】 下の者が実力で上の者を押しのけてこれをしのぐという意味。建武中興ごろから南北朝・室町・戦国時代の社会相をさす。元弘(げんこう)の乱で鎌倉幕府が後醍醐(ごだいご)天皇を隠岐(おき)に流したことを〈下克上の至りなり〉といい，建武政権のもとで地方から上洛(じょうらく)した武士が公家(くげ)・貴族と交わり，わが物顔にふるまったありさまを〈下克上する成出者〉と称した。室町・戦国時代には，播磨(はりま)(兵庫県)の守護赤松満祐(みつすけ)が将軍足利義教(あしかがよしのり)を暗殺したり，応仁(おうにん)の乱後，細川氏が将軍を圧倒し，その細川氏もその臣三好長慶(みよしながよし)に倒され，さらに松永久秀(まつながひさひで)が三好氏に代わった例や，越前(えちぜん)(福井県)の朝倉氏，尾張(おわり)(愛知県)の織田氏が主家斯波(しば)氏に取って代わった例など，旧来の守護大名を倒して家臣や浪人が戦国大名に成長していった時代の風潮や農民の強訴・土一揆(つちいっき)などの一連の現象をいう。下克上はこの時代の社会構造の変化に伴って起こった身分や権力関係の変革の諸現象や時代の風潮である。〔鈴木英雄〕

けごんえんぎえまき【華厳縁起絵巻】 正しくは《華厳宗祖師絵伝》といい，新羅(しらぎ)華厳宗の開祖元暁(がんぎょう)・義湘(ぎしょう)の両大師の伝記を描いた鎌倉時代の絵巻。6巻からなり，もとは〈義湘伝〉4巻と〈元暁伝〉2巻に分かれていたが，現在は両伝が入り乱れ3巻ずつにつくられている。一方は，唐に渡った義湘と彼に思いを寄せる美女善妙の愛と献身の物語であり，他方は，元暁の本国での修行ぶり，王妃の病をなおす話などを説いている。全巻にわたって異国の風物を描き，画風も宋元画(そうげんが)の影響を受けて強い墨線に，淡泊ではあるが鮮明な彩色を用いて特色豊かである。詞(ことば)は高山寺の開祖明恵上人(しょうにん)の作，絵は上人と親しかった恵日房成忍とする説が強い。高山寺蔵の国宝。〔村重　寧〕

けごんきょう【華厳経】 大乗仏教の代表的経典の一。華厳宗成立の根本の経典。原型はナーガールジュナ(龍樹(りゅうじゅ))以前に成立したが，完成したのはかなりおそく，中央アジアのコータン(于闐(うてん))で編集されたといわれる。漢語に訳されたものに3種類ある。ブッダバドラ(仏駄跋陀羅)によって419～420年に訳されたものが《六十華厳》，シクシャーナンダ(実叉難陀)訳は《八十華厳》で，唐の武周朝の訳である。プラジュニャ(般若)訳は《四十華厳》で，8世紀後半の訳である。➔華厳宗〔鎌田茂雄〕

けごんごじゅうごしょえまき【華厳五十五所絵巻】《善財童子絵巻》ともいい，《華厳経》の〈入法界品(にゅうほっかいぼん)〉に取材した絵巻。善財童子が悟りの道を求めて55人の善知識(賢者)を歴訪する物語を描く。東大寺に1巻が伝わり，他の部分も諸家に分蔵されている。平安末期から鎌倉初期の制作と思われるが，作者は不詳。作風は全体に淡墨の柔らかい描線に淡彩を基調としているが，ときに用いた焦墨や濃い赤などがよく調和して，清楚(せいそ)な画趣を盛った珍しい一作である。なお，東大寺には同時期の作とみられる額装の〈五十四所絵〉も伝わっている。〔村重　寧〕

けごんじ【華厳寺】 ⇨谷汲(たにぐみ)観音

けごんじ【華厳寺】 中国山西省の五台山にあった寺。華厳宗第3祖法蔵(賢首大師)が5か所に建てた華厳寺の一。後漢の明帝(57～74)のとき五台山に建立された大孚霊鷲(だいふりょうじゅ)寺に始まると伝えられるが，北魏(ほくぎ)の文帝(220～225)時代に建てられた大孚図寺をその前身とするのが史実に近いと思われる。則天武后のとき，法蔵によって《八十華厳》の翻訳が完成したので大花園寺と改め，さらに大華厳寺と改めたという。また円仁(えんにん)の入山する約50年前，澄観が776～790年の間，この寺で華厳教学の註疏(ちゅうしょ)を著わしている。また安置されていた文殊菩薩(ぼさつ)像は霊験あらたかなことで，世に知られていたという。現在は廃絶。〔京戸慈光〕

けごんじ【華厳寺】 朝鮮全羅(ぜんら)南道の智異(ちい)山にある寺。禅教両宗大伽藍(がらん)大華厳寺ともいう。朝鮮三十一本山の一。544年の創建とされ，朝鮮有数の大建築を有する。善徳女王(632～646)のとき，元暁(がんぎょう)はここに海会堂を創建して《華厳経》を講じた。また文武王(661～680)のとき，義湘(ぎしょう)が海蔵殿で《華厳経》を講じた。定康王のとき(886)，賢俊が華厳経社をつくり，《華厳経》普及の中心地であったが，1593年兵火で焼失後，1630年碧巌(へきがん)・覚性などが再興して以来，禅宗の道場となり，1649年には孝宗王より禅宗大伽藍の号を賜わった。現在，新羅(しらぎ)時代の七層塔・石燈籠(いしどうろう)・華厳鏤刻(ろうこく)の片石が残っている。〔京戸慈光〕

けごんしゅう【華厳宗】 中国十三宗の一。《華厳経》を所依(しょえ)とする宗派。天台宗と並んで中国仏教の双璧(そうへき)をなす。中国，唐代の賢首(げんじゅ)大師法蔵によって大成された宗派。南北朝時代に《華厳経》やバスバンドゥ(世親)の《十地経論》が伝訳され，それについての研究を進めたのが地論宗である。この地論宗の系統を受けて，華厳宗の教理の基礎を築いたのが，第2祖智

儼(ごん)である。一方,《華厳経》を実践的立場から観法としてとらえたのが,華厳宗の開祖とされる杜順(とじゅん)であった。杜順の実践と,智儼の学問を継承し,華厳宗の教理を大成したのが第3祖法蔵である。その後,第4祖澄観・第5祖宗密が出たが,教勢ふるわず,やがて新興仏教の禅宗に吸収された。日本では法蔵の門人審祥が講経し,良弁(ろうべん)が東大寺によって華厳宗を広め,鎌倉時代に凝然や高弁が出て,中興した。現在東大寺を大本山とし,末寺約50寺をもつ。華厳宗の宗義は《華厳五教章》に説かれている。〔鎌田茂雄〕

けごんのたき　【華厳滝】　栃木県日光市にあり,日本屈指の名瀑(めいばく)として知られ,霧降滝・裏見滝とともに日光三名瀑の一つに数えられる。中禅寺湖から流出する大尻(おおじり)川が約700m東流して,大谷(だいや)川の渓谷(けいこく)に落ちる所に形成され,高さ約97m,幅約10mある。滝の壁の上部約50mは男体山の噴出した溶岩,下部の約50mは石英斑岩(はんがん)よりなり,壁の途中からは地下水の流出による幾筋もの滝ができ,十二滝とよばれている。深さ約20mの滝壺(たきつぼ)の奥には大きな空洞(くうどう)がある。かつては冬の渇水期には湖面の低下によって落水がとだえたが,いまではダムの完成によって1年じゅう滝を見ることができるようになり,また滝見台から滝壺まで約100mのエレベーターがある。滝から下流は大谷川となり,約2kmにわたる華厳渓谷は滝の後退によってつくられたものである。日光国立公園の一中心をなし,また1903年(明治36)当時の第一高等学校生藤村操が〈人生不可解〉と書き残して投身自殺してから,いまに至るまで自殺者があとを絶たないことでも知られている。〔味沢成吉〕

けさ　【袈裟】　比丘(びく)(→僧)の着用する衣服。梵語(ぼんご)kaṣāya(カシャーヤ)の音写で,壊色(えじき)(色)の意。比丘は信者から施された新衣を美しくない濁った色に染めて用いることに由来する。色については異説があるが,一般に木蘭(もくらん)・泥(どろ)・茜(あかね)の3色である。製法は長布を長短に切り,その布幅を継ぎ合わせて条布をつくり,それを何条か横に合わせ,できたものをその条数により何条と称する。袈裟の材質・形状・着用法などは律典に規定されている。元来,袈裟は三衣のことで,質素を旨としていたが,中国や日本では三衣を形式化し,変形したものがつくられ,布地や色彩もしだいに華麗になった。安陀会(あんだえ)は特に変形されて五条・畳五条・輪袈裟となり,欝多羅僧(うったらそう)は七条,僧伽梨(そうぎゃり)は九条である。〔大南龍昇〕

げざ　【下座】　歌舞伎(かぶき)の演出で,幕の開閉,人物の動きやせりふに合わせ,舞台効果をあげるために伴奏音楽を演奏する場所。その音楽を下座音楽というが,略して単に下座ともいう。舞台下手の〈黒御簾(くろみす)〉の中で演奏するのが原則で,三味線(しゃみせん)を主とし,必要に応じて唄(うた)や囃子(はやし)を添える。



華厳滝　日光の自然美の象徴として古くから知られ,日光国立公園の一中心。滝の落ちる壁面中段の安山岩の下から地下水が出て十二滝をつくっている



袈裟　タイの南方仏教僧の用いているカシャーヤの袈裟

げざい　【下剤】　瀉下(しゃげ)薬ともいう。腸内容を排泄(はいせつ)させるか,糞便(ふんべん)を柔軟にするのを目的とするときに用いる薬。中毒などで急激に腸内容を排泄させる必要がある場合には,少量で水様便が出る峻下剤(しゅんげざい)(ハズ油・ヤラッパなど)が用いられるが,これによって腹痛を伴うことがある。糞便を柔軟にして排泄させるには,かなり大量に使用して排泄させる軟下剤(流動パラフィン・寒天など)が用いられている。峻下剤と軟下剤の中間には緩下剤(硫酸マグネシウム・ひまし油・カスカラ)があり,量を多くすれば水様便に近くなり,少なくすれば軟便が得られる。機序の点から分ければ,吸収されない腸内容量の増加を図って排泄しやすくするもの(カルボキシメチルセルロース・寒天など),腸粘膜を刺激して出させるもの(フェノールフタレイン),腸運動を支配する神経に作用して腸管の運動を盛んにして排出させるもの(イオウなど)がある。〔伊藤隆太〕

げざおんがく　【下座音楽】　歌舞伎(かぶき)の伴奏音楽。下座の黒すだれの中で奏されるため,黒御簾(くろみす)音楽ともいわれる。舞踊の伴奏として舞台に並んで演奏する場合と異なり,幕明き,幕切れ,人物の出入の効果をはじめ,舞台で演じられている情景やせりふに対する修飾として演奏される。下座音楽の使用は18世紀初めにまでさかのぼることができるが,今日のように決定されたのは河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)(1816～1893)のころからといわれる。唄(うた)・三味線(しゃみせん)・囃子(はやし)により,囃子は通常の笛・小鼓・大鼓・太鼓のほか,大太鼓が重要になっている。発生的には能の囃子を基本にしているが,民俗音楽を含むさまざまなジャンルを取り入れて歌舞伎に固有な様式を形成している。今日では上記の楽器に楽太鼓・拍子木・鉦(しょう)などを加えて,70種を越えるものが使われ,それぞれ特定の機能に即して組み合わされて,パターン化されている。〔徳丸吉彦〕

げさく　【戯作】　江戸後期の小説・狂詩・狂文などの総称。和歌・漢詩文などの伝統文芸に対し,江戸後期知識人の趣味生活の余技として著述された軽い文芸の意。寛政の改革を境にして,前・後期に2分される。享保(きょうほう)年間(1716～1735),幕藩体制の整備と身分秩序の固定化に伴い,登用の道を阻止された知識人たちの中から,各種の趣味生活を充実させ,文芸に自己の志を託そうとする者が輩出し,マンネリズムに堕した小説界に進出,新しい文体を創造して読本を興し,洒落本(しゃれぼん)・黄表紙を生み出した。これが前期の戯作である。寛政の改革によって人材の登用が図られ,これらの知識人が文学を離れると,文業に従事することによって知識人として認められることを期待した町人や下級武士階級出身者がそのあとに進出し,戯作者を自称することを誇りとした。寛政の文教振興政策が読書人口を急増させ,戯作を職業とする生活を可能にしたが,それに伴って後期の戯作界は作品も大衆性を増し,低俗化をたどる結果となった。〔渡辺守邦〕

げさくにん　【下作人】　南北朝・室町時代,名主(みょうしゅ)から土地を借りて耕作する農民が,その耕作権を他の農民に与えた場合の現実の耕作権をもつ者。農民層の分解によって一定の土地に対する権利が名主職・作職・下作職に分化すると,従来の耕作権すなわち作職は,作職所有者の得分取得権を示すものとなり,下作職が現実の耕作権を示す。したがってこの場合下作人は,荘園年貢(しょうえんねんぐ),名主への加地子,作

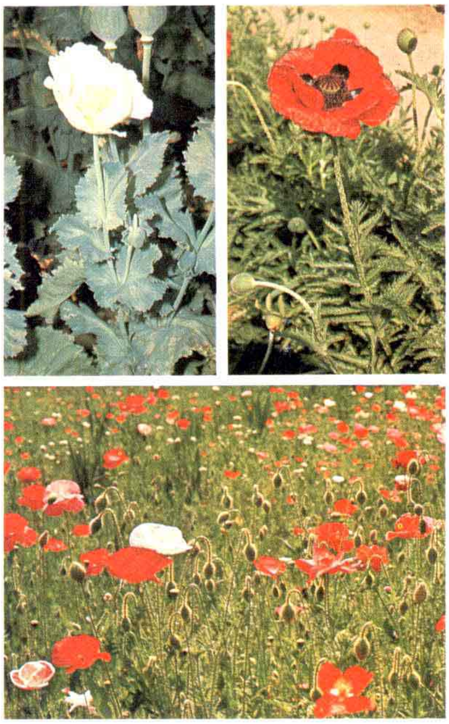
人に対する作人職得分を上納しなければならなかった。〔鈴木英雄〕

けさだすきもん【袈裟襷文】⇨銅鐸(どうたく)

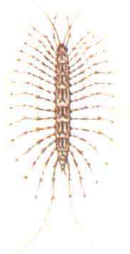
けし 双子葉植物・ケシ科。地中海地方東部原産の二年草。*あへんを採取する薬用植物で，ソムニフェルム種ともいう。高さ0.5～1.7m。葉は線状楕円(だえん)形で深い不規則な切れ込みがあり，帯白緑色で互生する。下部の葉は短い柄があるが，上部のものは無柄で，基部が広がって茎を抱く。5～6月ごろ4花弁からなる花をつける。花は開花前のつぼみの時期には下を向くが，開花のときに直立する。朝に開花し，夕方には散ってしまう一日花で，花色には白・紅・紫紅色などがある。おしべ多数，めしべ1本。子房は緑色で大きい倒卵形，頂は平たく，放射状の柱頭となる。花弁やおしべはすぐに落ちてしまうが，子房は肥大して径3cmほどのかっ色の朔果(さくか)となる。柱頭の基部に小孔があり，ここから白または黒色の種子を出し，風に吹かれて散らばる。種子は脂肪を多く含み，油原料としたり，食用にされる。未熟な果実は〈けし坊主〉とよばれ，傷つけると白色の乳液が出，これを集めて乾燥したものがあへんで，アルカロイドを10～25%含み，*モルヒネや*コディンの原料となる。あへんは小アジアではBC300年ごろから採集され，中国には7～8世紀，日本へは平安時代に渡来したと思われる。あへんは麻薬に指定されており，ケシを許可なく栽培することが禁じられている。このほか，セチゲルム種もあへんを含むため栽培に許可がいる(→麻薬)。

ケシ科は世界に30属500種が知られ，ほとんどのものが草本であるが，まれに低木のものもある。日本には，コマクサ属・キケマン属・タケニグサ属・クサノオウ属・オサバグサ属・ケシ属の6属約20種が分布する。葉は互生する単葉または複葉で，托葉(たくよう)はない。花は両性花で，花弁は4～6枚，まれに0枚。子房上位で，柱頭の基部に小孔があく。ケシ属は世界に50種が知られ，日本にはリシリヒナゲシだけが北海道の利尻(りしり)島に自生するが，あへんを含まない。このほかヨーロッパ原産の一年草であるヒナゲシがよく栽培されるが，やはりあへんを含まないので栽培許可はいらない。これは高さ30～70cm，全体にかたい毛がある。葉は細かく羽状に裂け，各裂片の先はとがって，茎の下部に集合して互生に着く。5～6月長い柄の先に，2枚のがく片に包まれた赤・紫色などの4弁花をつける。〔加藤僖重〕

ケージ［cage］ 一般に，給餌(きゅうじ)・給水おけを全面に取り付けた金属製のニワトリ飼育用のかごをいう。アメリカで始められたケージによる飼育の原型は，数個あるいは数十個連なった単飼ケージを，舎内の床上90cmぐらいの高さに1段，列状で宙づりにして，糞(ふん)を床面に落下堆積(たいせき)させる方式であるが，現在ではこれを2～3段に重ねたものもある。管理作業の省力化という面だけでなく，ニワトリの観察・産卵調査・闘争防止などにも好都合であり，衛生的で内外寄生虫の被害も少ないため，採卵用，特に大羽数飼育に広く採用されている。このほかにニワトリの飼育方式として〈平飼い〉〈バタリー飼育〉がある。平飼いは主として種鶏用・*ブロイラー用に採用されており，農家の庭先養鶏などの小規模飼育にもみられるが，一定面積あたりの収容羽数は少ない。一方，ケージ飼育とともにいわゆる立体飼いであるバタリー(おもに簀(す)の子などで床をつくったたなを数段重ねたもの)飼育は，地積の立体的な利用，建築費の節減，個体別の取り扱いが容易であるなどの利点から，一時採卵用に多く用いられていたが，ケージの出現で大羽数飼育ではまったく見られなくなった。〔大田正義〕



ケ　シ　(上左)1反の畑から1貫目のあへんが採れるという品種(一貫種)の花とけし坊主　(上右)ハカマオニゲシ。観賞用に植えられ，オニゲシとは花の下に葉状の包があることで区別される　(下)ヒナゲシの畑



ゲ　ジ

ケージ［John Cage］(1912～　) アメリカの作曲家。ロサンゼルスで生まれた。はじめピアニストを志したが，作曲家に転向し，H.カウエルや*シェーンベルクに師事し，シェーンベルクの影響が強いピアノの小品を作曲した。しかし1950年代から伝統的な音楽に対して正面から反発し，プリペアードピアノ(ピアノの弦に金属片や消しゴムなどをはさんで音色を変える)を創案したり，12台のラジオの受信器のための《幻想風景》(1951)や，ピアニストがピアノの前にすわるだけのピアノ曲《4分33秒》といった作品を発表した。これらはふつう〈偶然性の*音楽〉とか〈*不確定性の音楽〉とよばれ，*シュトックハウゼンなど，前衛作曲家に多大な影響を与えた。《沈黙》は彼の主著である。1962年に来日。〔船山　隆〕

げし【夏至】 二十四*気の一。陽暦の6月21日か22日ごろにあたる。この日太陽は*夏至点にあり，北半球では太陽の*南中高度が最も高く，昼の長さが1年じゅうで最も長い。しかし，日の出時刻が最も早い日や日没時刻が最もおそい日は，必ずしも夏至の日ではなく，*均時差のため，夏至の日より約1週間前後にずれる。気候としては，梅雨の最盛期なので，天候は定まらない。暖地では，このころから7月初めにかけてが田植え時。アジサイが咲く。

げし【下司】 *荘園(しょうえん)の現地にあって実際の荘務にあたる荘官の一。荘園領主の下にあって現地に在住しない上級の役人を上司とよぶのに対していう。在地の有力名主が任命される場合が多いが，荘園領主から派遣された者もあり，原則として世襲で，荘園の管理を総括して年貢(ねんぐ)・公事(くじ)・夫役などの徴収にあたり，荘園領主から給田・給名を与えられた。平安末期には武士化し，鎌倉幕府の成立によって御家人となる者も多かった。〔鈴木英雄〕

げじ【蚰蜒】 節足動物・唇脚(しんきゃく)綱・ゲジ目・ゲジ科。ゲジゲジともいう。体長25mm内外で，灰かっ色。15対の長い歩脚をもつ。本州以南に分布し，湿りけのある暗い場所にすむ。*ムカデに近縁で，小形の動物を食う肉食性の動物であるが，人にかみつくことはなく，無害。この仲間に，体長45mmに達するカマクラオオゲジやオオゲジがあり，本州以南の海岸や山地にすんでいる。

ゲージ［gauge］ 機械部品を製作する際に，製品の長さや形状の模範となるもの。製品とゲージを比較して製品の合否を決定したり，測定器の調整に用いたりする。大別して標準ゲージと*限界ゲージとがある。標準ゲージは測定の際の実際の寸法の基準となるものであり，限界ゲージは寸法の上限と下限との間に製品の寸法がはいっているか否かを判定するためのものである。標

準ゲージにはブロックゲージ*，測定機の検査に用いる棒ゲージ，角度の基準となる角度ゲージ，針金の直径をはかるための針金ゲージ，細いすきまの寸法を測るためのすきまゲージなどがある。〔森田　鈞〕

けしきすい　**【出尾虫】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ケシキスイ科の総称。微小ないし小形の種類が大部分を占め，少数ではあるが日本に産するヨツボシケシキスイのように体長12mm内外に達する大形種もある。体は幅広く，扁平(へんぺい)で，しばしば鞘翅が短く，背面から腹部の末端2節が見える。色彩はかっ色や黒色のものが多く，斑紋(はんもん)のある種類もある。頭部は比較的大形，複眼も大きく，触角は短く棍棒(こんぼう)状。前胸背板は一般に長さよりも幅が大きい。幼虫・成虫ともに大部分の種類は樹液や腐敗・発酵した果実の内部などに生活するが，キクイムシ類などの穿孔(せんこう)性の甲虫の孔道，アリ類の巣，枯木の樹皮下などに生活する種類や，花粉や生きた植物の組織に寄食する種類もある。全世界から 2,500 種以上が知られている。日本では約100種が発見されているが，あまり研究が進んでおらず，同定の困難な種類が多い。

〔鈴木邦雄〕

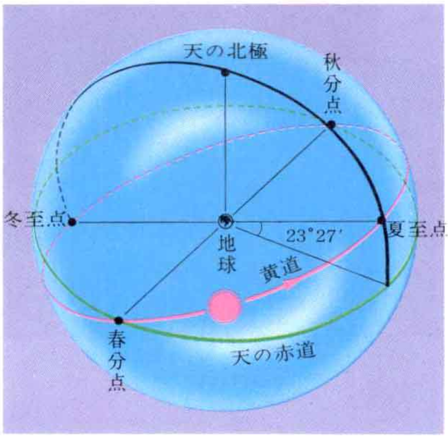
ゲジゲジ　⇨ゲジ

けしごま　**【芥子胡麻】**　ケシの種子をいう。微細であることが珍重されて，菓子や料理に古くから用いられている。干菓子の表面にまいたり，これをしんにして金平糖をつくったり，またイカ・貝などの焼き物，川魚のさしみなどにまぶして供したりする。なお，これから取れるけし油は味がよく食用になるほか，油絵の具やせっけん製造にも利用される。

けしゴム　**【消しゴム】**　紙面にしるされた鉛筆などの顔料を消し去るために用いる文房具。生ゴム*(天然ゴム*・合成ゴム*)と白サブスチチュート(塩化第一イオウと菜種油などの植物油とを混合したもの)を主原料とし，これに亜鉛華・ケイ石・炭酸カルシウム・鉱物油などを加えて練る。練られた生地を押し出し，あるいはプレスで成型し，さらに加熱成型する。形はふつう角形が多い。用途の上から，JIS(日本工業規格)では鉛筆用・インキ用・タイプライター用(研摩材を多量に配合)・両用消しゴム(インキ用と鉛筆用が半分ずつ接合)，鉛筆につける消しゴムの5種類に区分している。鉱物油のにおいのしないもの，表面がさらっとしたものが良質とされ，紙面にゴムの色素が残るようなものは劣質である。現在ではゴムをまったく用いず，塩化ビニル*樹脂と可塑剤を主としたプラスチック字消しがある。鮮明な着色ができ，香料による芳香性も容易で，消字率もすぐれているものもあるが，鉛筆の塗料を溶解したり，同質のプラスチック製品を溶解して付着したり，顔料が移行する欠点がある。



ケシキスイ　樹液をなめるヨツボシケシキスイ。上翅の四つの斑紋が目だつ。



夏至点



芥子人形



芥子坊

字消し用具としては，古くはサメ皮やパンが用いられていたが，1770年イギリスの化学者プリーストレーによって鉛筆の書き跡を消すのにゴムが有効であることが発見され，1772年にロンドンで売られた。これはその後フランスに紹介され，さらに全ヨーロッパへと伝わった。日本に渡来したのは江戸後期で，蘭学者(らんがくしゃ)などに愛用された。1886年(明治19)東京本所の土谷(つちや)ゴムではじめて製造され，大正の初期ごろから本格的に製造・販売されるようになった。〔ヒノデワシゴム工業(株)〕

げしてん　**【夏至点】**　黄道上の黄経90°，すなわち赤経6時，赤緯+23°27′の点。黄道上で赤道面からいちばん北へ離れている点である。現在ふたご座の中にあるが，歳差*のため黄道上を西に移動していく。

けしにんぎょう　**【芥子人形】**　きわめて小さくつくった人形。芥子粒のように小さいという意からこの名がある。小さいながら，つくりは普通の人形と変わらないところに特色がある。江戸後期に主として京都でつくられ，大いにもてはやされた。為永(ためなが)春水の《春告鳥(はるつげどり)》(1835)に，〈これは京都土産(みやげ)の芥子人形なり，近頃(ちかごろ)何にかぎらず，小細(ちいさき)が流行(はや)り，ひなの道具なれども，こまやかなるを愛することは，お娘御(むすめご)さんがたの御存知たるべし〉と述べられ，江戸で流行したことがわかる。〔北村哲郎〕

けしぼう　**【芥子坊】**　幼児の髪形の一。江戸時代後期ごろから，男・女とも生まれて7日めに胎髪をそる風が興ったが，その剃髪(ていはつ)から種々の髪風が生まれた。芥子坊はその一つで，頭上中央に毛を残して一束に結んだもので，ケシの実に似ているところからこの名がある。

ゲシュタポ　[Gestapo]　Geheime Staatspolizei(秘密国家警察)の略。1933年，ナチス*の政権獲得直後ゲーリング*によって設立された，政治犯・思想犯を秘密裏に探索する警察組織。ゲーペーウー*とともに悪名が高かった。最初は政敵の暗殺団として組織されたが，のち政治・思想警察に変わって暴力的弾圧を行ない，ついにはユダヤ人虐殺事件に一役をになった。1945年ドイツ敗北とともに消滅。

ゲシュタルトしんりがく　**【ゲシュタルト心理学】**　今世紀はじめにドイツで起こった心理学。ゲシュタルトとはドイツ語で形態・形式の意味であるが，この場合はむしろ構造・組織的全体・体制の意を含んでいる。この心理学のよる理論は，経験または行動の全体的特性を特に重視するもので，あらゆる心理過程は単に感覚や感情といった要素過程の烏合(うごう)的集合でも，また機械的結合によるものでもなく，それ自身一つの特性をもつ動的な構造物単位であることを説き，ブント*に代表される19世紀ドイツの要素心理学的モザイク観・機械論を







化　粧　(左上)歯黒道具　紀州徳川家豊姫の竹菱葵紋蒔絵婚礼調度の一部　(左下)パナマ原住民の祭日の化粧　(右)江戸時代の化粧風俗　鳥居清広　《化粧美人》　東京国立博物館蔵

排し，全体観・力学観の立場を強調した。ゲシュタルト心理学は1912年，ウェルトハイマー*が仮現運動*の研究をもとに理論を提起し，ケーラー・コフカ*・レウィン*らとともに一つの学派をなした。その影響は，知覚のみならず，社会心理学や学習・思考・発達など，心理学のすべての分野にみられ，ワトソンの行動主義*と並んで現代心理学の基礎を築いた。　〔古崎　敬〕

けしょう　**【化粧】**　人間の身体，特に顔を保護・装飾すること。化粧の起源は古く，旧石器時代の遺跡からすでに化粧用の顔料が出土し，新石器時代には，副葬品として多く発見されている。美への欲求が化粧のおもな理由だが，皮膚の保健・保護や社会的身分・所属集団・宗教的意味の表示などのほか，戦争の際に敵を威嚇するためにも行なわれる。古代には男女を問わず化粧した。美の標準は民族によって異なり，したがって化粧法も違うが，美の基礎に清潔をおくことはどの民族にも共通している。

現代の化粧方法のほとんどすべてが，古代に起源を求められる。下地クリームは，皮膚の乾燥や荒れを防ぐため，あるいは防虫のため，未開人が植物油や獣脂などを顔にすりこんだのがはじまりである。これに顔料を加えたものが，現代のいわゆるメーキャップ用化粧品の起源である。顔料としては石灰石・マンガン・木炭・赭土(しゃど)・植物原料が多く使われ，したがって色彩は赤・白・黒・青・緑が多く用いられた。特に赤色はほとんどの民族に最も好まれた色である。現代の棒状口紅と同じ形態のものが，先史時代の洞窟(どうくつ)遺跡から発見されている。顔料による顔の装飾を長く保とうとした試みが入れ墨である(→身体変工)。

歯に関しては，現代と同じく白く整った歯が尊ばれる場合が多かったが，ボルネオの部族は，日本のお歯黒のような黒い歯を好んだ。人工的な抜歯・変形，また穴をあけて宝石などをはめこむ例もみられる。

髪形は，変化に富んだ例が多くみられる。しかし手間のかかる髪形は，定住生活を行なう農耕民のものであり，移動生活を行なう遊牧民や採集狩猟民は素朴(そぼく)な型を好んだ。複雑な髪形を長く保つためには，獣脂・土，動物の糞(ふん)などが用いられた。染髪も赭土や植物性染料などを使って行なわれた。ひげの手入れ，ひげそり，マニキュアも古代から行なわれた化粧法である。

化粧は，古代の文化が，原形に近い形で受け継がれてきた例の一つといえる。

〔神谷美保子〕

第1次世界大戦以後の化粧は，特別の身分などを表わすものでなく，近代的な個性を表現するものになった。理想的な美は映画から創造された。グレタ-ガルボやマレーネ-ディートリヒの化粧は，1930年を象徴するだけでなく，その再現が1970年代にもみられる。ガルボのイメージは，鉛筆で描いた細いまゆと薄いくちびるであった。第2次世界大戦後もハリウッド映画の影響は大きかったが，テレビの普及に伴い，世界同時性の傾向が強くなった。たとえばビートルズの音楽を通じてヒッピーのインディアン-ルックが服装・髪形とともに流行した。シュルレアリスムの詩や美術も化粧に反映するようになった。前衛的なボディー・ペインティングや入れ墨の趣向も一部にはみられる。

現代の化粧を大別すると，自然な外見をつくる薄化粧と，芸術的な人工美をめざす化粧に分かれる。自然さを重んじる場合は，うぶ毛・まゆ・はえぎわなどにあまり手を加えずに，自然の陰影として生かし，化粧水ではだを整え，液状のメーキャップ化粧料で薄いベールをかけ，口紅をつけて仕上げる。人工的な化粧ではまゆやうぶ毛を始末して描きよく整える。ファンデーションによって地はだの色調を変え，アイシャドー・つけまつ毛・アイライナー・マスカラなどで目の化粧をする。まゆを描き，下のまつ毛も描き足し，あるいはつけまつ毛をする。ほおにブラシで色彩を加える。ほお紅を用いる場合もある。

化粧の色彩は流行によって変化し，〈ペール-ルック〉では，顔色を青白く，口紅も白っぽくして髪をふくらませる。日焼けしたブロンズ色のはだが流行になると，人工的にそばかすをつけて若さを目だたせることも行なわれる。コーヒー色の口紅は顔から赤を遠ざけたが，東洋ルック，あるいは古典的傾向がよみがえると，再び赤が用いられるといったぐあいである。現在のおもな化粧法には次のようなものがある。①光る化粧：油性化粧料を用いてはだに光沢を与え，真珠貝の細片を混合したアイシャドー・口紅・マニキュア料によってきらめいた外見をつくる。②立体化粧・修正化粧：濃淡二色のファンデーションを使って顔だちを立体的に見せ，欠点をカバーする。③ポイント化粧：美点を強調するため，くちびるや目だけに重点をおく。　〔新藤千恵〕

けしょうすい　**【化粧水】**　基礎化粧品の一種。皮膚を柔軟にし，潤いを与え，皮膚疾患から守りながら，健康で美しいはだを保つ。原料は水分・グリセリン・アルコール・脂肪酸などで，それぞれの目的に合わせて薬品などを添加して製造したもの。透明化粧水・粘液性化粧水・乳化性化粧水などがある。洗顔やマッサージのあとに用いると，はだを引き締め，きめ細かにする働きがあり，化粧下に用いて化粧くずれを防ぐ役目を果たす。また，日焼けしたはだや男性のひげそり後にもすぐれた働きをする。

〔メイ-ウシヤマ〕

けしょうせっけん　**【化粧石鹸】**　顔および身体の皮膚の汚れやあかを取り除くために用いる洗剤。高級油脂を原料として，ナトリウムで鹸化(けんか)させ，香料・着色料・刺激緩和剤・殺菌剤を配合して製造する。機械練りせっけん・わく練りせっけん・透明せっけん(アルコール・砂糖を配合)・軟せっけん・水せっけんなどの種類がある。BC3000年ごろ，やぎ脂と木炭を鹸化してつくられていたが，本格的には16世紀にはい

ってフランスでつくられ，わが国にはポルトガル人によって輸入され，シャボンとよばれた。1872年(明治5)はじめて日本でも製造されるようになった。〔メイ-ウシヤマ〕

けしょうひん 【化粧品】 化粧に用いる物品の総称，香粧品ともいう。化粧品の歴史は古く，古代エジプトの王がクジャク石の粉を油でとくのに用いたというパレットが残っているほか，ギリシア・ローマでも紅・おしろいがつくられていた。おしろいの原料はインド産の鉛白であった。中国では周時代(紀元前9世紀ごろ)に鉛粉が，秦(しん)時代(紀元前3世紀)に臙脂(えんじ)がつくられた。日本へは早くから朝鮮を経て輸入されたが，国産品ができたのは持統天皇(687〜696)のころである。明治以降，西欧からの舶来品に刺激されて，化粧品は近代化された。日本の化粧品工業は第2次世界大戦による中断はあったが，現在では戦前以上に発達し，消費量も増大している。

古くは，美しく見せるためだけのものであり，保健衛生上からの注意はまったく払われなかったが，現在では薬事法によって使用する原料の規制から使用目的・製造・販売・広告に至るまできびしく取り締まられている。

【種類】①皮膚用：㋑せっけんなどの洗浄料。㋺化粧水・乳液・アフターシェービングローション(男性ひげそり用)などの整肌料。㋩クリーム類*：マッサージ・クレンジング・化粧下・栄養を与えることなどを目的としたものがあり，タイプ別に分けるとコールド・バニシング・栄養クリームなど。㊁ファンデーション：おしろい分が加えられたもので，液状・クリーム状・棒状など。㋭おしろい：粉末・固形。㋬紅：口紅*：ほお紅など。口紅はおもに棒状だが，液状・クリーム状もある。㋣アイメークアップ用：アイシャドー・アイライナー・まゆ鉛筆・まゆ墨・マスカラなど。㋠美爪料(びそうりょう)：ネールエナメル。

②毛髪料：㋑洗髪料：液状・クリーム状などのシャンプー剤。㋺ヘアトニック*：養毛・殺菌を目的としたもの。㋩整髪料：髪の形を整えるためのもの。ヘアクリーム・ヘアオイル・ポマード・チック・ヘアスプレー・ヘアリンス・セットローション・コールドパーマネントウエーブ液。㊁染色・脱色剤：ヘアダイ・ブリーチ剤。㋭脱毛剤*：むだ毛を除くためのもの。無機性・有機性の薬効によるものと，物理的に脱毛するワックス状のものがある。

③芳香品：香水・オーデコロン・オードトワレット・練香水など。④入浴用：浴用香水・バスソルト・バスパウダー。⑤その他：タルカムパウダー・ベビーパウダー，汗止め・体臭止めのローションおよびクリーム，日焼け止めのローション・クリーム。漂白クリーム。美顔術用のクレイマスク・パック剤。〔新藤千恵〕



化粧回し 豪華な化粧回しを締めた幕内力士の土俵入り 蔵前国技館



ケショウヤナギ 白粉をつけた枝や葉が美しい

けしょうまわし 【化粧回し】 力士に用いる回しの一。回しには白無地絹地のけいこ回し，取り組みに用いる紺無地の締め込み(取り回し)，土俵入りにつける化粧回しがある。勝負用の回しと化粧回しが区別され始めたのは宝暦年間(1751〜1764)からといわれる。化粧回しはもと緞子(どんす)でつくり，かかえ主である諸侯の家紋を染め出したが，いまはラシャ地に力士の名や絵を金銀でししゅうしたものが多く，横綱用(3枚1組み)のものなどは100万円近くもかかる。〔小林 喬〕

けしょうやなぎ 【化粧柳】 双子葉植物・ヤナギ科の落葉高木。北海道・本州(上高地)，朝鮮・東シベリアの砂がちの川岸に分布。高さ15m，径1mくらいになる。葉は互生し，狭楕円(きょうだえん)形で鋸歯(きょし)がある。小枝や葉に白粉があり，美しいのでこの和名がある。雌雄異株で，初夏に4cmほどの尾状花穂を短枝上に下垂する。ヤナギに似た花をつけるが，蜜腺(みつせん)がなく風媒花。柱頭は二深裂し，花柱との間に節があって，あとで脱落する。果実は熟すと裂けて綿毛のある種子が出る。

けじらみ 【毛蝨】 こん虫類・シラミ目・ケジラミ科。体長1.5mm，体幅1mmほど。体はきわめて幅広く，両側に強大な脚を左右に伸長するため非常に横広がりに見え，ちょうどカニのような外見を示すためカニジラミの別名がある。前脚は中・後脚に比べて細く，つめも小さい。中脚と後脚はよく発達し，つめは短く鉤状(かぎじょう)に曲がっており，毛をつかむのに適している。腹部は第1から節が癒着(ゆちゃく)して一塊となる。第5〜8節の側縁に円錐(えんすい)形の突起があり，そこに数本の毛を生ずる。ヒトに寄生し，陰毛をはじめ，腋毛(わきげ)・あごひげ，まれにまゆ毛などに付着する。運動は不活発で，容易に移動しない。寄生部には猛烈なかゆみを伴った発疹(はっしん)を生ずる。

けしん 【化身】 仏・菩薩(ぼさつ)が本体(真身)とは別に出現させた仏の姿や変化身のこと。三身*の一。〈化〉とは信者の信仰に応じて，仏の姿を種々に化現・化作することで，作りなすとか，変形の意である。また，それを受け止めて感得するのは信仰の度合いに応じるから，応身ともいう。念仏の信者にとって，この世に来迎(らいごう)するのは，本質的には化身・化仏である。ブッダも人を導くために人の形をとってこの世に現われた化身といえる。なおキリスト教でいう受肉*(インカーネーション)は，神性がキリストという人間の肉体に宿ったことをいう。〔真野龍海〕

げじん 【外陣】 ⇨内陣

げじ*んみっきょう 【解深密経】 中国，唐の玄奘(げんじょう)の訳出した法相宗(ほっそうしゅう)の根本経典。5巻。全体を8章(品)に分け，仏教の冥想(めいそう)と座法，すなわち瑜伽(ゆが)(→ヨーガ)と，仏教の認識(唯識)を説き，正しい自己の観照と外界の認識によって，解脱に導かれるべきことを説く。経の名でよばれているが，内容は論，すなわち概論書または研究書に近い。異訳が漢訳中に3種伝えられ，チベット語訳も現存する。〔金岡秀友〕

下水道

下水とは，水洗便所や台所などから出る家庭下水，工場や事業所から排出される産業廃水など，不用になった水の総称で，この下水を発生源から集めて衛生的に処理するための施設，および雨水をすみやかに排除する施設を下水道という。下水道は，都市の動脈としての上水道(→水道)に対し静脈にたとえられる。下水道施設の大部分は地下に隠れているため，人々に省みられない存在であるが，本来大規模な施設と高度な技術が要求され，排除および処理に要する経費も大きい。一般にいわれる下水道は，地方公共団体が設ける公共下水道のほか，都市下水路，道路の付属物としての排水設備(私設下水道)などを含んでいる。人間が少数の集団で，生産性の低い生活をしているときには，排出される下水は少なく，またそれを生活場所から排除することも容易であり，土壌(どじょう)に浸透したり，川や海に流れ込んだりした下水は，自然浄化作用によって，やがてはきれいに浄化されてしまう。しかし，都市が巨大に成長し，盛んな活動を続けるようになると，下水量は著しく多くなり，海や川はだんだん汚濁されて，人間の生活環境は悪化されてくる。このため下水の適当な処理方法が必要になる。下水道が設けられると，人口の密な都市や工場地帯でも一般的な生活環境が向上し，その結果，消化器系伝染病などは大いに減少し，死亡率も低下する。下水道の具体的な効用は次のとおりである。①カやハエの発生を防ぐので，伝染病予防に大いに役だつ。②水洗便所が使えるので衛生的で快適な生活ができ，しかも屎尿(しにょう)の処分を根本的に解決することができる。③雨水を直ちに排除して，低地帯の浸水を防ぎ，水たまりをなくし，土地の有効な利用，道路の保全に役だつ。④下水が直接川へ流れ込むことがなくなるので，汚濁河川はきれいな流水に返り，水道水源も確保しやすくなる。⑤どぶ川が消えて暗渠(あんきょ)になり，その上部は道路などに活用されるので街路は美しく清潔になる。⑥工場地帯においては，浄化された下水が工業用水として利用されるので地下水のくみあげ抑制にも役だち，地盤沈下の防止に貢献できる。

〔沿革〕最古の記録としては，BC2500～BC1500年ごろにインダス川の下流に栄えた都市ハラッパの遺跡の中に，街路に沿ってふたつきの下水溝(げすいこう)がすでにつくられていたことが発見されている。紀元前数世紀のころには，バビロン・エルサレム・ローマなどに下水管がつくられていたといわれており，特にBC615年に建設されたローマの下水道は有名である。近代式下水道は，工業の発達とそれに伴う都市の膨張によって促進され，最初に上水道とともに下水道を整備したのはイギリスである。ロンドンでは，1831年のコレラの流行を契機として水洗便所の普及を図り，住宅から完全に屎尿を取り除き，他の下水とともに川に放流した。しかし，下水量の増加とともに河川汚濁が著しくなり，ロンドンでは1860年からテームズ川の両岸に川に沿って30kmの下水渠(遮集渠(しゃしゅうきょ))を設け，都市内の河川汚濁防止に努めた。パリの下水道もコレラ流行の結果つくられ，1833年にはじめて遮集渠を実行した。ハンブルクの下水道は，1842年の大火後の復興に便乗した形で建設され，1853～1875年に拡張された。しかし，これら初期のものは下水をすみやかに排除する目的のものであったため，河川の汚濁問題が各所でクローズアップされてきた。こうして，下水処理の問題が研究され，実施されるに至った。最初は，下水中の肥効成分を捨てたのではもったいないというので，下水を荒地に導いて処分した灌漑(かんがい)法で，1870年ごろからイギリスおよびヨーロッパ大陸で盛んに用いられた。次いで1890年ごろ，接触濾過(ろか)・散水濾床・腐敗槽(そう)がイギリスで発明され，さらに1907年にドイツでイムオフタンク(汚水・屎尿をためて腐敗させ，沈殿物と上澄み液とにする消化タンクの原始的なもの)が発明された。下水処理の一大転機をもたらしたのは，1914年イギリスで発明された活性汚泥(おでい)法で，それ以来下水処理といえばこれをさすほど普及した(→活性汚泥)。

日本では，昔から屎尿が肥料として利用されてきたため，これが下水とともに排出されることはなかった。したがって水路の汚濁程度は軽微であったため，上水道その他の公共施設に比較して発達が遅れていた。下水道施設の必要を痛感したのは，1877年(明治10)のコレラ大流行以後である。最初に下水道施設を設けたのは，1884～1885年東京の神田で，いわゆる神田下水の敷設である。次いで，大阪市・仙台(せんだい)市・名古屋市・広島市などで明治の終わりから大正にかけて敷設されていった。日本ではじめての下水処理場は，東京の三河島(みかわしま)下水処理場で，1923年(大正12)に大規模な散水濾床の運転が開始された。1958年(昭和33)には下水道法が制定され，公共下水道・都市下水路の設置，その他の管理の基準を

表-1　各国の下水道利用人口普及率(処理人口／総人口×100)

(建設省調)

国名	普及率(%)	国名	普及率(%)
アイルランド(1961)	50	スウェーデン(1976)	82
アメリカ(1968)	71	チェコスロバキア(1963)	51
イギリス(1976)	97	西ドイツ(1977)	88
イスラエル(1961)	90	ノルウェー(1964)	67
インド(1961)	6	フランス(1975)	43
オーストラリア(1963)	59	ユーゴスラビア(1961)	15
オーストリア(1973)	53	ルクセンブルグ(1960)	78
オランダ(1969)	90	フィンランド(1970)	53
カナダ(1971)	40	日本(1980)	30
スイス(1977)	75		

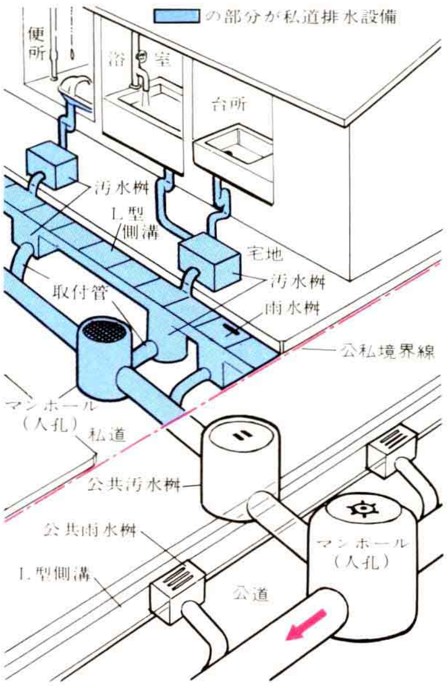
表-2　世界主要都市の下水道普及状況

国名	都市名	市街地面積(km²)	排水面積(km²)	普及率(%)
アメリカ(1964)	シカゴ広域圏	2 222	2 222	100
イギリス(1966)	マンチェスター	109	109	100
インド(1964)	ボンベイ	365	142	39
オーストラリア(1963)	キャンベラ	122	122	100
カナダ(1966)	オタワ	82	59	72
スイス(1966)	ジュネーブ	55	45	80
スウェーデン(1965)	ストックホルム	130	130	100
スペイン(1964)	マドリード	480	200	45
西ドイツ(1963)	ボン	20	15	77
日本(1980)	東京都	565	368	65
	札幌市	174	133	99
	千葉市	67	33	49
	福井市	20	11	54
	京都市	116	67	58

定めて下水道の整備を図り，都市の健全な発達および公衆衛生の向上を図っている。この法律では，公共下水道の設置・改築・修繕・維持その他の管理は市町村が行なうよう規定されている。

〔下水道の普及率〕下水道の普及は，上水道の普及とともに文化のバロメーターであり，文化都市における基本的条件の一つであるが，わが国の現状は諸外国に比して著しくたちおくれている。各国の下水道の普及率(利用人口÷総人口×100)は，表-1に示されているように，欧米諸国ではほとんどの国で50%を越えているが，わが国の普及率は30%にとどまっている。一方，都市別の普及率(排水面積÷市街地面積×100)を比較してみると(表-2)，欧米の主要都市では90～100であるのに対し，東京では65%である。しかし日本で最も下水道が普及している札幌市では99%と欧米の主要都市に比較して遜色がない。下水道は都市事業の性格上，その事業区域はその都市の行政区域を対象とするのが普通であるが，もはや一都市の下水道が完備されても環境衛生の向上は期せられない。地域的に隣接または介在する市町村の下水を総合的計画の下に処理して，土地の清潔と河海の清浄を図り，また上水道水源の安全を確保せねばならなくなってきた。そのため，数市町村を包含する広域下水道が必要になってきた。公共水域の水質保全のごときは，流域全体にかかわる問題であって，多摩川・淀(よど)川の汚濁の現状は如実に広域下水道の意義と必要性を示すものである。このように広域的行政の考え方は，下水道普及についても必要であり，約70か所の流域下水道が運転あるいは建設中であり，その投資効果を最大ならしめている。荒川左岸流域下水道，霞ヶ浦湖北流域下水道，寝屋川流域下水道などはその一例である。公共用水域の水質保全の観念がいちはやく発達した欧米においては，広域下水道の概念はすでに第1次世界大戦の前後に芽ばえ，実行された。シカゴ市の水道水源であるミシガン湖の水質汚濁防止を目的に下水道施設を建設した大シカゴ衛生庁は，広域下水道の典型である。

政府は，下水道整備緊急措置法によって，都市地域における著しい人口の増大および産業の発展に対処し，下水道の緊急かつ計画的な整備を促進するために，1967年に下水道整備5か年計画を定めた。この法律が制定される以前の1964年に第1次下水道整備計画が実施されていたため，1967年からの計画を第2次とし，それ以降5年ごとに5か年計画を定めてきた。第4次下水道整備5か年計画は，1976～1980年の間に下水道普及率を22.8%から40%まで高めることを目途にした。しかし実際には，1980年末の下水道普及率は30%にとどまった。第5次下水道整備5か年計画は，1985年までに普及率を30%から44%に高めるものである。



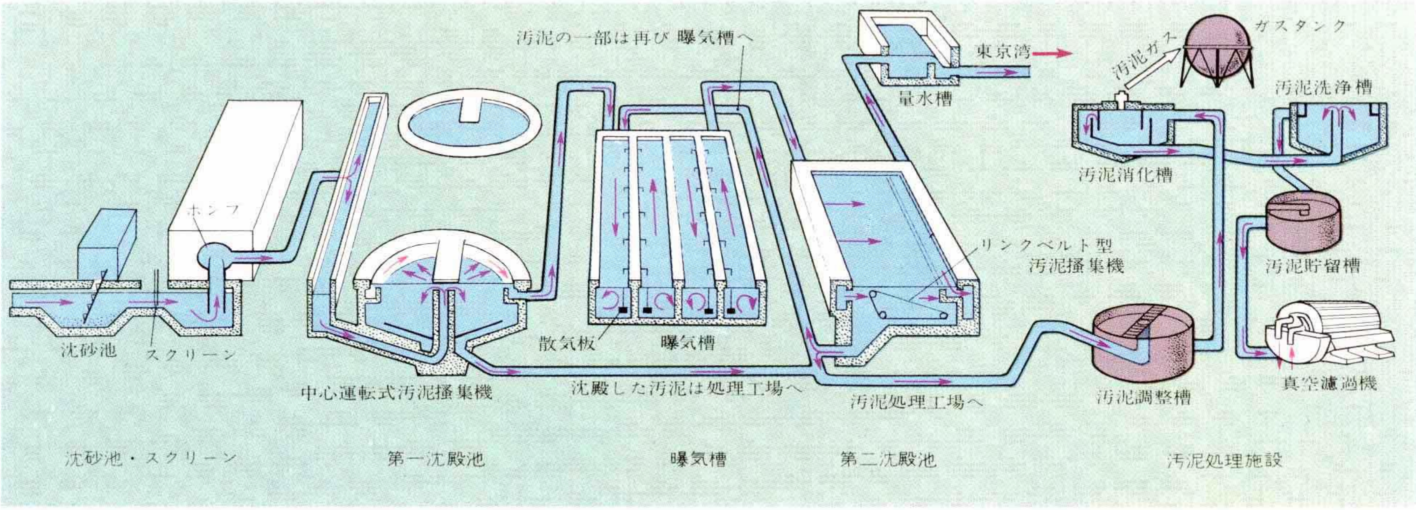
図－1　下水の排水設備(合流式)

〔下水の量と質〕家庭下水の量は，上水道の使用量とほぼ一致する。もちろん，使用された水道水は一部蒸発し，一部は地下に浸透するからそれだけ減るわけであるが，井戸水など水道以外の水が使われるために相殺されると考えてよい。水道の使用量は生活習慣や生活程度によって異なるが，日本の場合1日1人あたり100～450m^3である。なお，1日1人あたりの糞便(ふんべん)量は100g，尿量は1,200gである。水の使用量は日・時間によって著しく異なり，工場地帯では家庭下水よりも工場廃水のほうが多くなる。雨水は，全部ではないがかなりの量が下水渠にはいる。その量は，宅地・通路・公園など場所によって異なる。日本は雨に恵まれており，東京では平均年降水量1,400mmを記録し，特に5月から10月にかけて多く，1か月に100～200mmの雨が降る。

下水の水質は，住宅地・工場地帯によって異なるが，一般には次のとおりである。①有機性・無機性の物質が固形あるいは溶解の形で多量に存在し，特に有機物の量が多い。有機質の相対量であるBOD値は100～200ppmである。②病原菌や寄生虫卵が存在する可能性がある。大腸菌は，1ml中10万個以上存在している。③塩素イオンやアンモニアを多量に含む。④溶存酸素が欠乏しているので還元性が高い。⑤工場排水を含む場合には，酸・アルカリ・銅・シアン・クロムなどの有害成分が多くなる。⑥水質は天候・四季・時間・地域によってかなり変化する。→水質試験

〔下水の排除〕下水道は，排水設備と処理場に分けることができる。排水設備とは，各種排水をすみやかに下水幹線に排除し，付近の環境を汚染することなく処理場まで流送するのに必要な施設をいう。また，同時に雨水も水害を起こさぬように排除しなければならない。したがって，管渠は道路に敷設され，かつ暗渠にすることが多い。その方式には，雨水と汚水を同一の管渠で排除する合流式と，両者を別々の管渠で導く分流式とがある。合流式は1本の管渠であるために，分流式に比べると施工・維持管理が容易で，しかも経済的であるという長所がある。しかし，雨水が混合するために終末処理場の容量が大となり，また雨水が汚水の3～6倍以上になると，それ以上は管渠内の分流せきから河海に直接放流するので，放流水域を汚染させるなどの短所もある。公共下水道の管渠には，矩形渠(くけいきょ)・馬蹄形渠(ばていけいきょ)などがあり，大きさは直径23cmから数メートルに及ぶものまである。下水は，この中を勾配(こうばい)によって自然流下するが，地形によってはポンプでくみあげて下流に中継する必要がある。図-1に一例を示したように，住宅から出た各種廃水は汚水桝(おすいます)から私道排水設備(私設下水道)を通り，公道に敷設された公共下水道に排除される。また雨水は，雨水桝から管渠に排除される。管渠に付属する設備としてマンホール*がある。公共下水道の働きを著しく妨げたり，あるいは施設を損傷したりするおそれのある下水は，あらかじめ一定の基準よりきれいにしてから，下水道に流し込まなくてはならない。これに必要な設備は，除害施設とよばれている。一般家庭においてディスポーザーを使用すると，排水設備が詰まったり，下水渠内に腐敗性のごみが堆積(たいせき)したりするので，その使用は避けなければならない。

〔下水の処理〕下水幹線に流れ込んだ下水は下水処理場に運ばれ，そこで十分に浄化され河海に放流される。下水処理の過程は，従来予備処理(1次処理)と生物処理(2次処理)に大別されていたが，最近ではこれらの処理に高度処理(3次処理)が付加されることもある。予備処理は，沈砂池・スクリーン・第1沈殿池(最初沈殿池)までの処理をいい，主として下水中の固形の汚濁物質を除去することをいう。処理場に流入した下水は，まず沈砂池で土砂が取り除かれ，スクリーンで綿・紙などの大きなごみがすくい上げられる。次に，ポンプでくみあげて水位を高くしてから，第1沈殿池に導かれる。ここを1～1.5時間流過するうちに，下水中の浮遊物の30～60%が沈殿池の底部に沈殿する。第1沈殿池は水深3mほどで，底部に汚泥かき寄せ機が設けられている。



図－2　下水が浄化されるまで。東京都下水道局砂町処理場の処理工程で，ここでは1日に35万m^3の下水が処理されている

沈殿した汚泥は下水汚泥とよばれ，ポンプで汚泥処理装置へ圧送される。このように，予備処理は物理的な方法によって行なっている。高級処理とは，予備処理で除去できなかった浮遊性の汚濁物質と溶解している汚濁物質を除去することをいう。生物処理にはいろいろな方法があるが，おもに活性汚泥法と散水濾床法が採用されている。最近では，新しい処理法として，浸漬濾床法および回転円板法も使われている。

①活性汚泥法は第1沈殿池から流出した下水に活性汚泥*を加え，これに空気中の酸素を吹き込んで(これを曝気(ばっき)という)，下水中の汚濁物質を微生物の食物源として除去する処理法である。このプロセスは曝気槽とよばれるタンクの中で行なわれ，図-2に示されるように，数回路からなる水深3mくらいの細長いタンクを流過することによって浄化が進行する。空気の供給法には，機械攪拌(かくはん)式と散気式とがある。現在では，曝気槽の底部から散気板を通して空気を送風する散気式が採用されていることが多い。下水と活性汚泥の混合液を第2沈殿池(最終沈殿池)に導いて静置すると，活性汚泥はちょうど薄いみそしるを放置しておいたように沈殿する。したがって，上澄み水は透明になって放流される。第2沈殿池は水深3m程度で，底部に活性汚泥をかき寄せる機械が設備されている。ここで沈殿した活性汚泥の多くは曝気槽にもどされ(返送汚泥)，新しい下水の処理に使われるが，残りは余剰汚泥として汚泥処理装置に送られる。活性汚泥法にはいろいろの変法が開発されているが，浄化の原理はすべて同じである。標準法による場合では，活性汚泥の注入率は25%，曝気槽の滞留時間は5～8時間，第2沈殿池の滞留時間は2～3時間程度で，BOD除去率は90～95%程度である。この処理水が塩素消毒されて，工業用水源となっているところもある。

②散水濾床法：砕石を積んだ濾床(普通は深さ1.8m)に，間欠的または連続的に下水を散水し，砕石表面に生じた好気性微生物群に下水中の有機質を酸化・合成させて浄化する処理法である。一般には，送風を行なわなくても，砕石の間隙(かんげき)を大気と濾床の温度差によって空気が貫流するので好気的状態は維持される。砕石表面の微生物群は，周期的に砕石表面から剝離(はくり)して脱落汚泥になる。標準散水濾床法では，1日に1m^2の濾床に1.5～2.5m^3の下水を散水し，BOD除去率は90%程度期待できる。散水濾床を流出した下水は第2沈殿池で，脱落汚泥を沈殿させて放流される。

このように，生物処理は好気性微生物群の代謝作用を利用した方法である。活性汚泥法は，散水濾床法に比較して建設費が安く，浄化効率は高く，悪臭・ハエなどの発生もないなどの長所がある。しかし，維持管理費が高く，常時監視を必要とし，流入下水の質的・量的変化に弱く，また大量の汚泥が発生するなどの短所がある。下水の浄化の程度は下水の処理方法に応じてそれぞれ水質基準*が定められている。

〔汚泥の処理〕下水処理プロセスで発生した汚泥を，科学的・衛生的に脱水処分を行なうことを汚泥処理という。汚泥は腐敗性の有機質を多量に含み，病原菌や寄生虫卵を伴う可能性が大きいので，まず汚泥を消化槽とよばれる空気を遮断したタンクの中に導いて20～30日間滞留させる。一般に，タンクは37°C付近に加温し，適当に攪拌する。汚泥中の有機物は，嫌気(けんき)性細菌の働きにより液化されて低級の脂肪酸になり，さらにメタン菌の働きでガス化されてメタンや炭酸ガスになる。こうして，汚泥はガス・脱離液(消化槽の上澄み水)・消化汚泥(消化槽の沈殿物)に分かれ，容積を減少するのみならず，安定・無害化される。メタンガスはガスタンクに捕集し，消化槽を加温する燃料に使用する。脱離液は下水処理プロセスにもどし，下水といっしょに処理する。消化汚泥は，汚泥洗浄槽に導いてよく洗浄してから，凝集剤として石灰や鉄塩を注加して真空濾過機で脱水する。脱水された汚泥はスラッジケーキとよばれ，一般には埋め立て用として処分されるが，最近では焼却するところもある。中小規模の処理場においては，汚泥は処理場内に乾燥床を設けて乾燥し，農時に処分しているところもある。しかし，広大な敷地がいり，乾燥に時間がかかり，環境衛生上にも問題がある。

〔今後の問題点〕①下水道の普及率を欧米並みに近づけるには，現在の普及状況では数十年を要する。これでは，生活水準の向上や産業発展などによる排出汚水量の増大と質的悪化によって，公共水域の多くはどぶ川と化してしまう。したがって，下水道に対するいっそうの投資と市町村のわくを越えた流域下水道をさらに普及させなければならない。②一般の下水処理では，無機塩類はほとんど除去されない。したがって，リンや窒素などの栄養塩類はそのまま放流されてしまうので，自然水の富栄養化が促進され，水稲の徒長，河川・湖沼における藻類(そうるい)の異常発生が起こっている。このため，リンや窒素を除去する3次処理を可及的速やかに普及させなければならない。③活性汚泥法では，流入下水量の約1%程度の汚泥が発生する。大都市近郊では，脱水汚泥あるいは汚泥を焼却して残った灰の捨て場所がほとんどなくなってきているので，汚泥を海中処分しなければならなくなるであろう。④下水処理によって増殖した微生物体は，タンパク質を多量に含むので，これを有効に利用できれば下水処理は飛躍的に進展するであろう。　〔須藤隆一〕

ケーススタディ ［case study］ 事例研究ともいう。具体的事例について精密な調査・研究をすること。個人・集団・制度などの社会的単位の全生活過程，あるいはその一側面に関して，それが存在する社会的文脈の中で，個別事例について資料を収集し，多角的分析を試み，要素間の相互連関を明らかにすることである。この研究法は事例の代表性の問題や調査過程で研究者の主観がはいりやすい欠点があるため，大量的観察方法としての統計的方法と相補いつつ使用されるべきである。〔鶴見紀文〕

ケスタ ［cuesta］ 硬軟互層からなる傾斜地の軟層の侵食が進んで低くなり，硬層部が削り残されて，丘陵状に突き出し，地表面が洗たく板状になった地形。フランスのパリ盆地周辺，南イングランド，ソ連のウクライナ地方にみられる。

ケステン ［Hermann Kesten］ (1900～) ドイツの小説家。ナチス時代に亡命してアメリカ市民となった。機知と反語に富むその作品はモラルを追究するもので，《幸福な人々》《ゲルニカの子どもたち》《異国の神々》のほかスペイン三部作などがある。ほかに新旧ドイツ作家の著作集の編集や回想的な作家論の執筆もある。

ケストナー ［Erich Kästner］ (1899～1974) ドイツの詩人・小説家。貧しい皮職人の家に生まれ，ジャーナリストとして活躍，のちに作家活動に転じた。ナチス時代は焚書(ふんしょ)の厄(やく)にあって執筆を禁じられたが，亡命しなかった。第2次世界大戦後は，西ドイツ-ペンクラブの会長となった。新即物主義の代表的な傑作《ファービアン》のほかに，《エミールと探偵(たんてい)たち》その他の少年文学，戯曲《独裁者たちの学校》などがある。〔榎本重男〕

ケストラー ［Arthur Koestler］ (1905～) アメリカの小説家・ジャーナリスト。ハンガリーの生まれ。はじめドイツ系新聞の記者として活躍。やがてイギリスの新聞の特派員としてスペイン内乱を取材中，スパイ容疑でフランコ軍に逮捕され，その体験をもとに《スペインの遺書》《死との対話》を書いた。1938年に共産党を離れ，当時のソ連における粛清の恐るべき姿を描いた《真昼の暗黒》を発表，全世界の注目を浴びた。1951年アメリカに帰化。〔奥山康治〕

ゲスナー ［Conrad von Gesner］ (1516～1565) スイスの博物学者・医者。チューリヒに生まれ，ヨーロッパ各地で学んだのち，チューリヒ大学教授に就任。ペストの流行の際，医者として活躍したが，自分もペストとなって倒れた。動物および植物に関する百科事典的研究をはじめ，近代生物学誕生の足がかりをつくった功績は大きいが，彼の研究自体は体系的でなく，単純で記述的である。

けずりかけ 【削り掛け】 ヌルデ・ニワトコ・クルミ・ヤナギなどの木の枝を薄く細長く削り，花のようにちぢらせて巻き上げた祭具。紙が普及する以前は神体として広く用いられたが，いまは主として小正月のときに門口・神だな・神社などの飾り物として残っている。東日本では粟穂(あわぼ)・稗穂(ひえぼ)といって，小正月に削り掛けを，粟穂や稗穂に見たて庭前に立てる習慣がある。また，小正月の成木責め*に使う祝棒も，削り掛けとしてつくられることが多かった。〔山路勝彦〕

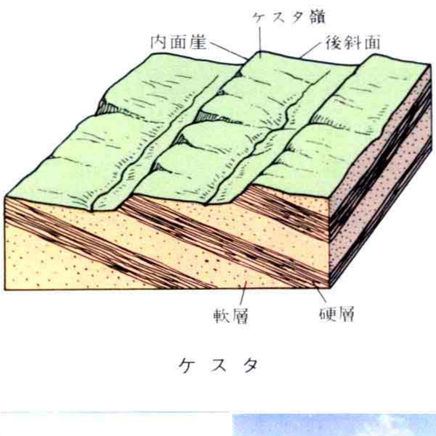
けずりぶし 【削り節】 カツオ・ソウダガツオ・サバ・イワシ・サンマなどの節を機械で薄く削って乾燥したもの。原料の良否によって品質に差があるが，一般に油やけを起こしやすい。しかし削らずにそのまま使用できる便利さから，業務用や家庭用として花がつおやだしに用いられる。

ケースワーク ［case work］ ソーシャル-ケースワークの略称。人間関係および社会関係において不適応症状をもつ個人または家庭を，主として面接を通じて再調整し，社会生活を快適に送れるように援助する過程で，社会事業方法論の一。これに携わる専門家をケースワーカーとよぶ。産業革命ののち，貧困者の救済運動の中から必要性が生まれ，20世紀にはいって心理学・社会学・精神医学などの発達によって科学的体系化が進んだ。1920年代，〈ケースワークの母〉とよばれるアメリカの社会事業家M.リッチモンドが出て，はじめて理論的に整理し体系づけた。現在，ケースワークは，公的扶助・家庭児童福祉・医療社会事業(病院・保健所)・教育相談・更生保護事業などの分野で活用され，その必要性は急速に高まっている。〔太田垣瑞一郎〕

ゲゼルシャフト ［Gesellschaft］ 利益社会と訳され，ゲマインシャフト*(共同社会)の対語。ドイツの社会学者テニエス*は，社会集団の成員の結合のあり方，およびその性質によってこの二つの対極的概念を設定し，あらゆる結合にもかかわらず本質的には分離している結合で，利害・関心に基づいて等価交換を前提とする観念的・機械的な形成物をゲゼルシャフトとした。そこでは，人々はつねに孤独で，すべての他者と緊張状態にあり，相互否定的態度にあるといえよう。これは選択意思(意思を含む思惟(しい))に基づくもので，大都市生活などがその例である。テニエスは，この対極的概念を静態的な社会結合の類型として用いただけではなくて，歴史的発展段階の類型としても用いている。すなわち，ゲマインシャフトからゲゼルシャフトへというのが彼の主張である。これはまた，すべてのものを歴史的見地に立って理解しようとする歴史主義と合理主義との対立を克服しようとした総合的立場でもある。〔国近浩一〕

けせんぬま 【気仙沼(市)】 宮城県北東端の市。1953年(昭和28)市制施行。人口69,000。三陸海岸に湾入する気仙沼湾*の沿岸部を占め，中心市街はリアス式湾奥部の気仙沼港周辺に発達する。産業三大別人口比は27：24：49。気仙沼港は遠洋・近海漁業の基地で，カツオ・マグロなどの水揚げが多く，日本有数の魚市場をもち，最近商港施設も整備された。湾内では，カキ・ノリの養殖が盛んで，アワビやウニも産し，ちくわなどの特産物がある。一関(いちのせき)市(岩手県)から東北本線と分かれる大船渡(おおふなと)線が市街北部を走り，海岸沿いに南へ走って本吉(もとよし)町へ通ずる気仙沼線を分岐する。

けせんぬまわん 【気仙沼湾】 宮城県北東部にある沈水性の湾入。鼎ケ浦(かなえがうら)ともいう。南に開き，東の唐桑(からくわ)半島



ケスタ



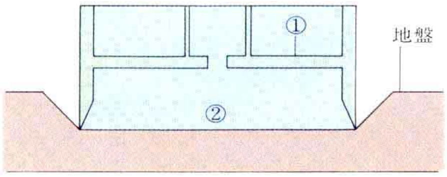
気仙沼湾
湾口の東にある大島から望んだ気仙沼港の遠望(左手)。手前の水路は大島瀬戸で，入り江の漁村は鶴浦の村落

先端の御崎(おさき)と西の岩井崎との間7kmを湾口とし，中央に大島があって，東西両湾に分かれている。主湾の西湾は奥行11km，湾首に鹿折(ししおり)川・大川が流入し，気仙沼市街と気仙沼港がある。西湾と東湾とが接続する湾奥の狭部を大島瀬戸といい，水深は30mである。湾内ではカキ・ノリの養殖が営まれ，また風光に恵まれて宮城県立自然公園となっているが，特に唐桑半島と大島および潮吹き岩とよばれる頂部の抜けた海食洞(かいしょくどう)のある岩井崎は，陸中海岸国立公園に指定されている。〔山口恵一郎〕

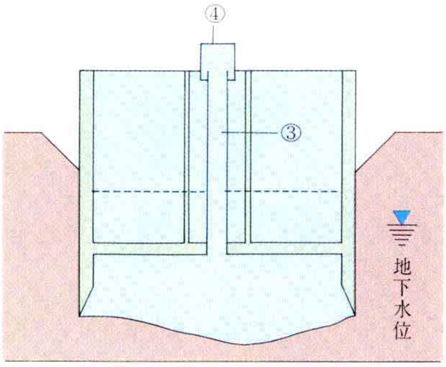
けぞり　**【毛剃】**　⇨博多小女郎浪枕(はかたこじょろうなみまくら)

ケーソンこうほう　**【ケーソン工法】**　構造物の基礎をつくる工法の一種。潜函(せんかん)工法ともいう。地盤が軟弱で，杭(くい)基礎やピア基礎では支持力や水平抵抗が不足する場合や，わき水が多くて開削工法(→地下鉄道)が困難な場合に用いる。まず地上に，河川中では築堤した上に筒状のケーソンをつくり，中の土砂を取り除きながらケーソンの自重，場合によってはその上に荷を載せて所定の支持層まで下げる。その後，ケーソン内はコンクリートなどで充塡(じゅうてん)して構造物の基礎を形成する。ケーソン内の土砂を掘る場合に，圧縮空気を用いて地下水を排除しながら掘るニューマチックケーソン工法*と，圧縮空気を使用しないオープンケーソン工法*の別がある。なお，特殊の使用例として地下鉄工事，港の防波堤，岸壁などの構築に用いられる場合がある。〔村上博智〕

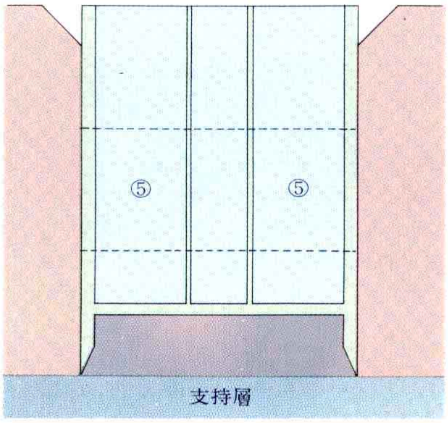
ケソンシチー　**［Quezoncity］**　フィリピンの首都。人口189万6,000(1973)。ルソン島南部のマニラの北東に隣接している。1938年から計画的都市として建設されはじめ，1948年からマニラの政府機関が移転を開始した。市名は初代大統領ケソンにちなみ，市の中央広場にはその記念塔がある。近年の人口増加は特に著しい。



地上または築堤上につくられたケーソン



送気しながら中の土を掘り沈下したケーソン



完成したケーソン

ケーソン工法　ニューマチックケーソン工法の施工順序。①床板　②作業室　③土砂の搬出，作業員出入り用シャフト　④ロック　⑤沈下させるときに荷重となる水を入れる室で，完成後はコンクリートを詰める



下　駄

ケーソンびょう　**【ケーソン病】**　潜函病(せんかんびょう)ともいう。高圧下で作業していた者が，急に圧力の低い状態に置かれたときに起こる障害。高圧下で体内にとけこんだ窒素ガスが低圧下で遊離し，身体各部に空気のあわが詰まるのが原因である。症状としては身体各部のかゆみや痛み，半身不随または全身不随を起こす。脳に起こると生命の危険がある。対策としては，まず第1に圧力を徐々に下げることで，通常1気圧を下げるのに20分以上かける必要があるとされている。また高圧下の作業時間を短くし，休憩時間を数多くとり，体内にとけこむガスの量を減少させることも必要であるし，圧力を下げてから比較的短時間に発症するので，減圧後適当な運動をさせて血液の循環をよくすることも必要である。なお，水中では10.36m深くなるにつれて1気圧ずつ上昇する。〔金子義徳〕

けた　**【桁】**

1家屋・橋などの構築物で，部材の曲げに抵抗する能力を利用して，荷重をささえる横架材。

2軸組み材の一。柱の最上部をつなぎ，小屋ばりを受ける横架材。垂木(たるき)を受ける桁を軒桁あるいは地回りといい，軒桁の下にあって建物の外周を固める目的のものを敷き桁，間仕切り壁の上にあるのを間仕切り桁という。ほかに旅桁・洞(ほら)桁・もや桁などがある。➔軸組み

げた　**【下駄】**　木製の台部に鼻緒を装置したはき物。古来，〈あしだ〉〈ぼくり〉〈げた〉の呼称があり，げたは平安時代に用いられたあしだ(足駄)に由来する。げたの歴史は古く，登呂(とろ)遺跡*から多数の田げたが出土されている。平安中期から鎌倉時代にはいると，《伴大納言絵詞*(えことば)》《石山寺縁起絵巻*》などに描かれている人物像から，げた(差し歯げた)は男・女とも，また少年や法師にもはかれていたことが知られる。げたが広く普及したのは江戸時代にはいってからで，足駄の〈駄〉の文字がはき物の通称となり，席駄は茶席にはくことから，げたは下にはくことからよばれたと考えられる。江戸初期には主としてたけの高い差し歯げたが用いられたが，庶民の経済力の向上に伴って元禄(げんろく)(1688～1704)のころには種類も多様となり，はでな女子の塗りげたが大流行し，色布や皮などの鼻緒が用いられた。明治以降，くつ*の流入によってげたは合わせ用いられたが，現在でも広く愛用されている。

〈種類〉歯の有無，歯の枚数，台部の構造，形態などによって分類される。台部に歯をつくらない無歯げた類には，竹げた・浜げた・ぽっくりげた・草履げたなどがある。台部に歯をつくる有歯げた類は，台部と歯がいっしょになっている連歯げたと台部に歯を入れる差し歯げたに分かれ，連歯げたには庭げた・駒(こま)げた・薩摩(さつま)げたな

ど，差し歯げたには後歯(あとば)げた・海苔(のり)げた・日和(ひより)げた・朴歯(ほおば)げた・高歯げた・釘木履(くぎぼくり)などがある。

〈材質〉軽さ・強さの点でキリが最適であるが，実用品としてスギ・クリ・ヒノキ・マツなどが使用されている。→はき物 〔合田 濤〕

けたあみ 【桁網】 桁やビームを用いて，網口を一定の形に保持する趣向の引き網の一種。打瀬網*と異なり，船を船首方向に前進させて網を引く。

げだい 【外題】 古文書学上の用語。解*・譲状*(ゆずりじょう)などの文書の余白(端の場合が多いが，奥・裏などの場合もある)に，その申し立てに対する指令を記すこと，およびその指令の文言をいう。鎌倉幕府においては嘉元(かげん)年間(1303～1305)以後の安堵*(あんど)はもっぱらこの外題によって行なわれた。これを一般に外題安堵とよんでいる。なお，書物の表紙に書いたその書名，演劇や語り物の題名をいうこともある。〔飯田悠紀子〕

けだし 【蹴出し】 ⇨すそよけ

けたじんじゃ 【気多神社】 石川県羽咋(はくい)市寺家(じけ)町にある。祭神は大己貴命(おおなむちのみこと)(→大国主神)あるいは天活玉命(あめのいくたまのみこと)ともいう。その創建は不詳であるが，古代における北陸の大社であると考えられ，能登(のと)の一宮*であった。摂社若宮社の本殿は《気多神社造営記》には1569年(永禄12)再興とあり，また社殿の梁(はり)に〈永禄十二己巳(つちのとみ)年三月畠山義綱(はたけやまよしつな)再建〉と墨書されている。社宝に《後奈良院宸翰(しんかん)紙本墨書女房奉書》1幅などがある。例祭は4月3日で，オオナムチノミコトの国土開発を記念する祝典追澄祭が行なわれる。12月16日午前4時から行なわれる鵜(う)祭りは，七尾市の北端にある鹿渡島(かどしま)部落で捕えたウを海岸で放つ神事で，ウは新潟県西頸城(にしくびき)郡能生(のう)町の海へ飛んでいくと伝えられている。〔佐野文哉〕

げだつ 【解脱】 本能的な心の欲望や迷いから解放され，迷いの苦しみを抜け出して自由になること。涅槃*(ねはん)とともに仏道の実践の究極を示すことばで，仏教でめざす究極の〈自由〉を強調したもの。のちに〈涅槃を名づけて解脱となす〉といい，仏教の理想の境地は理想の自由の世界であるとし，同義語のように扱ってもいる。日本では，妄執(もうしゅう)に取りつかれて浮かばれない死者の霊がその妄執を取り去ることもさすようになった。→悟り 〔石上善応〕

ケーターのふりこ 【ケーターの振り子】 ⇨加速度計

けたばし 【桁橋】 橋の本体が桁*構造になっている橋。丸木橋は最も簡単な桁橋である。桁は大別して充腹桁と骨組み桁とに分けられ，前者の代表はプレートガーダー*，後者の代表はトラス*桁である。さらにその支持方法によって単純桁・連続桁などに分けられ，特殊なものとしては連続桁の変種であるゲルバー桁がある。またアーチ橋*に分類されるものの中で，ランガー桁*やローゼ桁*などのように桁とアーチとの複合構造になっているものがある。充腹桁の断面形状は使用材料を最も有効に利用しうるように定められるが，鉄筋コンクリート*やプレストレストコンクリート*の場合にはT形や中空箱形，鋼桁(プレートガーダー)ではI形・中空箱形とすることが多く，またコンクリート床版と鋼桁とを合成して一体に働くようにした合成桁も多く用いられる。最近では桁自身を曲線状にした曲線桁橋や，多数の並列する主桁を横断方向にも横桁で連結して全体を一体的に働くようにしたこうし桁橋などが数多く架設されている。特殊な例としては，水路橋で水を通す鋼管自身を桁本体として用いたものもある。〔堀井健一郎〕

けちえん 【結縁】 仏道の縁を結ぶこと。衆生*が仏道修行のためにまず仏法僧の三宝に因縁*を結ぶこと。したがって，すぐに解脱して悟り*を得ることができなくとも，将来の得脱の因縁を取り結ぶこと。仏の説法の会座(えざ)にあって悟りを開くことはできなかったが，仏を見，仏の法を聞くことができて将来に得脱すべき因縁を結んだ人々を結縁衆という。日本では結縁のためとして，結縁灌頂(かんじょう)・結縁供養・結縁八講・結縁授戒などを行ない，その法会に多くの人人を参加させた。〔岡部和雄〕

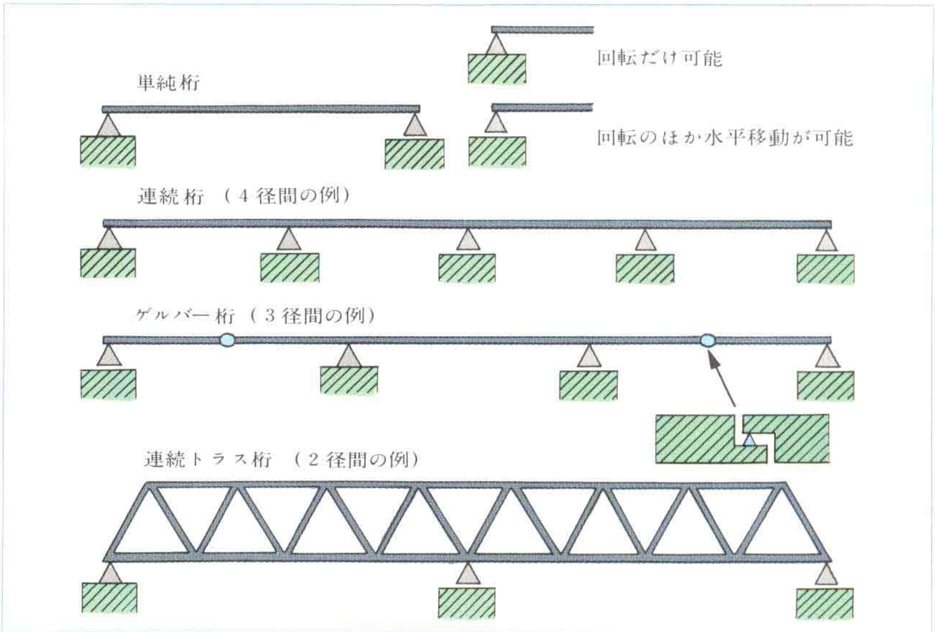


気多神社 拝殿

げちじょう 【下知状】 古文書の一様式。下位のものに対して用いられた命令書で，様式の上からは下文*(くだしぶみ)に類似しているが，本文中に上位のものの旨を承って出したものであるということを明記する点で異なる。鎌倉時代以後，武家の間で盛んに用いられたが，平安末期の寺院文書にもすでにこの様式の文書が数点みられる。

ゲチスバーグ 〔Gettysburg〕 アメリカ合衆国東部，ペンシルベニア州南部の都市。人口7,900(1960)。1863年7月，南北戦争で北軍の勝利を決定づけた古戦場で，またリンカーン大統領のゲチスバーグ演説で知られる。→次項

ゲチスバーグのたたかい 【ゲチスバーグの戦い】 南北戦争*で両軍の盛衰を決した最大の激戦。1863年，兵員や物資の不足など，西部戦線での不利な戦況を脱するために，リー*将軍指揮の南軍はゲチスバーグに進出，そこで7月1日から3日間にわたる激闘ののち，ついに北軍に大敗した。7月4日西部戦線の北軍グラント*将軍の大勝もあって，南北戦争における北軍の勝利は決定的となった。4か月後，リンカーン*大統領はこの地を国立墓地とする式典で，アメリカ建国の信条と万人の平等の原則に献身



桁 橋

した兵士をたたえ，〈人民の，人民による，人民のための政治を地上から絶滅させないこと〉を誓うゲチスバーグ演説を行なった。　〔折井一彦〕

けちみゃく　【血脈】　師から弟子(でし)へ教法や戒律が受け継がれるありさまを，人体中の血脈にたとえたもので，その相承を系図に書き表わしたものをもいう。平安時代の天台宗・真言宗や鎌倉時代の浄土宗・禅宗・日蓮宗(にちれんしゅう)などで重んじられ，今日に至っている。釈迦牟尼仏(しゃかむにぶつ)から現在の授者までの法系が記され，最後に受者の名がしるされる。これを正方形または長方形の紙に封入し，表に血脈と書いて三宝印を押し，裏には受者の法名を記す。これを死者(受者)の棺(かん)中に納める風習がある。➔師資相承　〔岡部和雄〕

ケチャップ　[ketchup]　ソースの一種。語源は中国語の〈コーチャップ〉で，〈塩蔵魚のしる〉の意から転じたものという。原料名をつけて，マッシュルームケチャップ・くるみケチャップ・トマトケチャップなどと区別するが，わが国では単にケチャップといえばトマトケチャップをさす。トマトを煮て裏ごししたのち濃縮し，香辛料・調味料を加えてつくる。なお，調味していないトマトのペーストをトマトピューレといい，これに食塩で軽く味つけしたものをトマトソースという。　〔佐藤友太郎〕

ケーちゅうかんし　【K中間子】　素粒子*の一。K^+，K^-，K^0，$\tilde{K}^0$の4種類が存在する。スピン*は0。K^+，K^-の質量は電子の質量の約966.6倍，K^0，$\tilde{K}^0$は電子の質量の約974.2倍である。K^-，$\tilde{K}^0$はそれぞれK^+，K^0の反粒子*で，核子*(陽子*・中性子*)に衝突させると強い相互作用を通じ，核子はπ中間子*を放出してΣ粒子またはΛ粒子に変化する。K^+は弱い相互作用により，平均寿命*約1.2×10^{-8}秒で$\mu^+\nu_\mu$(63～64%)，$\pi^+\pi^0$(21%)，$\pi^+\pi^+\pi^-$(5.5%)，$\mu^+\pi^0\nu_\mu$(3.4%)，$e^+\pi^0\nu_e$(5%)に崩壊する。さらにきわめてわずかではあるが，$\pi^+\pi^+e^-\tilde{\nu}_e$，$\pi^+\pi^-e^+\nu_e$，$e^+\nu_e$，$\pi^+\pi^0\gamma$，$\pi^+\pi^+\pi^-\gamma$などへも崩壊することが観測されている。$K^-$は$K^+$と同じ平均寿命をもって，$K^+$からの崩壊生成物をすべて反粒子にしたものへ$K^+$のときと同じ割合で崩壊する。中性K中間子は$K^0$と$\tilde{K}^0$の混合状態$K^0_S$，$K^0_L$から崩壊する。$K^0_S$は平均寿命，$0.9\times10^{-10}$秒，$\pi^+\pi^-$(68%)，$\pi^0\pi^0$(32%)に崩壊する。一方$K^0_L$は平均寿命$5.3\times10^{-8}$秒，$\pi^0\pi^0\pi^0$(約25%)，$\pi^+\pi^-\pi^0$(約12%)，$\pi^+\mu^-\nu_\mu$と$\pi^-\mu^+\tilde{\nu}_\mu$(合わせて約27%)，$\pi^+e^-\nu_e$と$\pi^-e^+\tilde{\nu}_e$(合わせて約35%)，$\pi^+\pi^-$(約0.5%)へ崩壊する。$K^0_L$が$\pi^+\pi^-\pi^0$と$\pi^+\pi^-$の2通りの崩壊様式をもつことは，$K^0_L$の崩壊に関与する相互作用が時間反転の不変性，つまり時間が逆に流れる仮想的な世界での法則がわれわれの世界の法則と同じであるという考えは，ある特殊な場合には満たされないことを示す。➔中間子　➔素粒子　〔大貫義郎〕

けつあつ　【血圧】　心臓が収縮することにより，押し出される血液が血管壁に及ぼす圧力。血圧は，心臓の血液排出力の強弱や血管における抵抗の大小によって左右される。前者は心室の収縮する力，伸びたり縮んだりする度合い，心臓に流れていく静脈血量，胸腔(きょうこう)内の圧力の大小によって決定され，後者は血管壁を支配する平滑筋の緊張度によって左右される血管径の大小や血管壁の弾力性，血液の粘度，血量の大小により決定される。心室が収縮して血液を排出するときに，血圧は最高値を示すが(最大血圧)，この高い血圧によってまわりの抵抗に打ち勝った血液は毛細血管を経て静脈系に流れてゆき，だんだん血圧が下がっていって，ちょうど末梢(まっしょう)部での抵抗と等しくなるまで低下する(最小血圧)。最大血圧・最小血圧の差から脈圧を知ることにより，体全体の心臓や血管系の状態を知ることができる。人間における血圧値は，年齢・性・身長・体重・体質・体位・季節・栄養・精神状態・測定法などにより影響される。身長・体重が増加するとともに血圧も上昇し，男子は女子より高い。過労しない程度に運動すれば血圧は上昇し，過労すると低くなる。季節では秋は高く，一日中では早朝最も低く，午後3時から7時に最高に達する。おおよそではあるが，通常の最大血圧は男子120mmHg(水銀柱ミリメートル)・女子112mmHg，最小血圧は男子80mmHg・女子76mmHgぐらいである。➔次項　〔平野修助〕

けつあつけい　【血圧計】　血圧*を測定する装置。一般にリバロッチ型の血圧計が使われる。これは，上腕に巻いた気嚢(きのう)に空気を送り出して上腕を圧迫し，手首の動脈の拍動がふれなくなったとき，上腕の動脈を聴診しながら圧力を下げていくと，気嚢の圧力が上腕動脈の圧力より小さくなった瞬間に拍動が聞こえはじめる。このときの付属の水銀柱の高さ(mmHg)で血圧を表わし，このときの血圧は最大血圧とよばれるものである。そのほかには，レックリングハウゼン血圧計・タイフス式携帯用測定器・プレッシュ式血圧脳波描写測定器などがあげられる。血圧は興奮・不安などで上昇するので，注意を要する。〔平野修助〕

けつあつこうかやく　【血圧降下薬】　⇨抗高血圧症薬

ケツァルコアトル　[Quetzalcoatl]　メキシコのアステカ族の神。人間にトウモロコシの栽培などの文化を授けたとされる。また，9世紀後半のトゥラ国に実在した人物の名でもある。彼は国内紛争に敗れてメキシコを追われた。1519年，スペインのコンキスタドレス*(征服者)コルテスが侵攻したとき，メキシコ人がケツァルコアトルの再来と信じたのは，後者の人物のほうである。

けつえき　【血液】　血管内にある赤色の液体で，有形成分である血球と無形成分である血漿(けっしょう)とからなる。両者の比率はだいたい，血球45%に対して血漿55%である。血液は血管内をたえず循環しており，総量は体重の約13分の1である。血液の色は赤血球中に含まれる血色素の性質により定まり，動脈血では鮮紅色，静脈血では暗赤色である。全血の比重は1.050～1.060，粘度は水の5～6倍，浸透圧は体温37.5℃として7.72気圧で，0.9%の食塩水のそれと同等である。血液 pH は7.3～7.45と弱アルカリ性を示す。

血液は，血管障害などで血管外に出ると固まり，血清*と血餅*(けっぺい)ができる。これは，フィブリンが有形成分をまとめて血餅にするからである。血液凝固*を阻止して試験管内で放置しておくと，有形成分が沈殿して血漿と分かれる。赤沈*はこの現象にほかならない。他人の血液どうしを混和すると，赤血球が凝集する場合としない場合とがある。これは血液型*の差異によるものであって，同一個人では正常の場合凝集は起こらない。

血液には赤血球・白血球・血小板があり，赤血球は血液1mm³中に平均500万(男性)～450万(女性)含まれる。白血球は血液1mm³中に4,000～9,000あり，顆粒球(かりゅうきゅう)・単球・リンパ球よりなる。血小板は1mm³中に20万～30万存在する。血漿は水が90%を占め，この中に血漿タンパク質*であるアルブミン・グロブリン・フィブリノーゲンを7～8%含むコロイド溶液である。このほか，無機塩類(0.85%)・糖分(0.1%)・脂肪，種々の窒素化合物，諸種のホルモンが含まれる。

【血液の機能】①ガス交換を行なう。酸素は血色素と結合して，酸化血色素となり，肺から各組織に送られ，組織で生じた炭酸ガスは血液中にそのまま，また化合物として移行し，肺から外に排出される。②ブドウ糖・アミノ酸・タンパク質・脂肪などの栄養源や，ホルモン・酵素などを体の各部に運ぶ。また，尿素・尿酸・クレアチニンなどの老廃物を運び，腎臓(じんぞう)から排泄(はいせつ)させる。③膠質(こうしつ)浸透圧を維持する。これはおもにアルブミンの働きによる。④緩衝系の存在により，血液反応をpH 7.3～7.45の間に調整する(➔緩衝作用)。⑤血液凝固因子および血小板の働きによって血液を凝固し，大量に出血するのを防止する。⑥感染などから生体を防御する働きをもつ。これは，免疫グロブリンによる液性免疫と顆粒球の食菌能，リンパ球の他細胞障害能などの細胞性免疫によってなされている。

血液異常には，血球成分・血液タンパク質の量的な減少・増加，および質的な異常がある。これは血液自体の異常で起こるほか，他の疾患に伴って二次的にも起こる。疾患としては，貧血*・多血症・白血病*・顆

表-1　血液型と凝集の関係

		血清中の凝集素			
		O型 (α, β)	A型 (β)	B型 (α)	AB型 (−)
赤血球中の凝集原	O型(−)	−	−	−	−
	A型(A)	+	−	+	−
	B型(B)	+	+	−	−
	AB型(AB)	+	+	+	−

表-2　両親の血液と子どもの血液型。親子鑑別にも利用され，たとえば母がA型で子がO型の場合,AB型の男が父親であると名のっても否定される

父 / 母	O型	A型	B型	AB型
O　型	O型	A型、O型	B型、O型	A型、B型
A　型	A型、O型	A型、O型	A型、B型、AB型、O型	A型、B型、AB型
B　型	B型、O型	A型、B型、AB型、O型	B型、O型	A型、B型、AB型
AB型	A型、B型	A型、B型、AB型	A型、B型、AB型	A型、B型、AB型

血液型

粒球減少症・血小板減少性紫斑病(しはんびょう)・血友病*・抗体欠乏症候群・骨髄腫(こつずいしゅ)・マクログロブリン血症などがあげられる。〔三好和夫〕

〔動物の血液〕 単細胞動物は体表で直接物質の交代をするため体液もないが，多細胞動物では細胞・組織の間を流動する体液がある。体液のうち血管の中を流れるものが血液で，無脊椎(むせきつい)動物でもミミズやゴカイなど閉鎖血管系をもつ種類は，血液とリンパ液が区別できる。開放血管系をもつ軟体動物・節足動物は血液とリンパ液の区別がなく，血リンパとよばれる。無脊椎動物の血液には，赤血球を含まぬものが多いが，種々の白血球をもっている。〔清原春一〕

けつえきがた 【血液型】 血球*はその抗原性によっていくつかの型に分類することができるが，その用いられる方式にしたがってそれぞれの血液型が決まる。おもなものとしては，ABO式・MN式・P式・Q式・E式・Rh式・ルーサーラン式・ケル式・ルイス式・ダフィ式・キッド式・ディエゴ式・Xg式などがある。

〈ABO式血液型〉 古典的でしかも最も代表的な血液型で，1901年ラントシュタイナー*によって発見された。ある人の血球と他の血清とを混ぜると凝集を起こすことがある。これは血球中の抗原(凝集原)と血清中の抗体(凝集素)の凝集反応*によるものである。つまり，凝集原にはA・Bがあり，凝集素にはα・βがあって，Aとα，Bとβの組み合わせに凝集が起こる。このことから血球中の凝集原によって次のような血液型に分けることができる。すなわち，凝集原AをもつA型，BをもつB型，A・BともにもつAB型，凝集原をもたぬO型の4型である。凝集素α・βは血清中で自己の血球を凝集しない組み合わせでもつ。すなわち，A型はβ，B型はα，AB型は凝集素をもたず，O型はα・βをもつ。わが国におけるO・A・B・AB型の分布は，それぞれ32・37・22・9％であり，白人のそれは39・43・12・6％である。

ABO式血液型の遺伝は常染色体性で，三つの複対立遺伝子O，A，Bによって決定される。A遺伝子とB遺伝子はO遺伝子に対して優性である。遺伝子型は，O型がOOのみ，A型がAAとAO，B型がBBとBO，AB型がABのみであり，メンデルの法則にしたがって遺伝する。抗原性の化学的本態は，ABO抗原の血清学的基本型としてH物質が存在し，これが合成の過程においてAまたはB遺伝子の作用のもとに，ある特殊の酵素が働いてH物質の活性基がAやB型物質に変換するものと考えられている。型物質特異性は，これらの各型物質に共通して存在するオリゴ糖鎖の非還元末端の構造の差によるものである。亜型としては普通のA，B型のA_1，B_1に対して抗原量がより少ないA_2やB_2などがある。日本人ではA型のほとんど全部がA_1であるが，白人では20％にA_2がみられる。

〈S式血液型〉 血液型物質が唾液(だえき)などの分泌液や体液中へ分泌することの有無に関するもので，分泌しているものをS型，しないものをs型といい，S型はs型に対して優性に遺伝する。日本人における頻度(ひんど)はS型が80％，s型が20％である。

〈Rh式血液型〉 ランドスタイナーとウィーナーによって1940年に発見された。アカゲザルの血球で免疫したウサギ血清中にヒト血球に対する凝集素を見いだし，この凝集素に対応するサルとヒトの両血球の共通抗原をRh因子と名づけた。抗Rh抗体で凝集される血液をRh陽性，されないものをRh陰性とした。白人のRh陽性の頻度は85％(陰性は15％)であるのに対し，日本人では陽性のものがほとんどで，陰性はわずかに0.5％前後にすぎない。フィッシャーとレースの説に従えば，Rh式血液型はC，D，E，c，d，eで示される六つの因子からなりたっており，これらの遺伝子相互には優劣はないが，D因子は免疫によって抗体を産生する能力が最も強く，したがってこの因子をもつ血液型を特にRh陽性，もたないものをRh陰性とよびならわしている。

近年，赤血球以外の白血球や血小板についても，互いに共通したあるいは独自の抗原が知られている。白血球については，1968年世界保健機構(WHO)の統一的なHLA(ヒト白血球抗原)分類法が提案され，現在はその1から13までの型が区別されている。

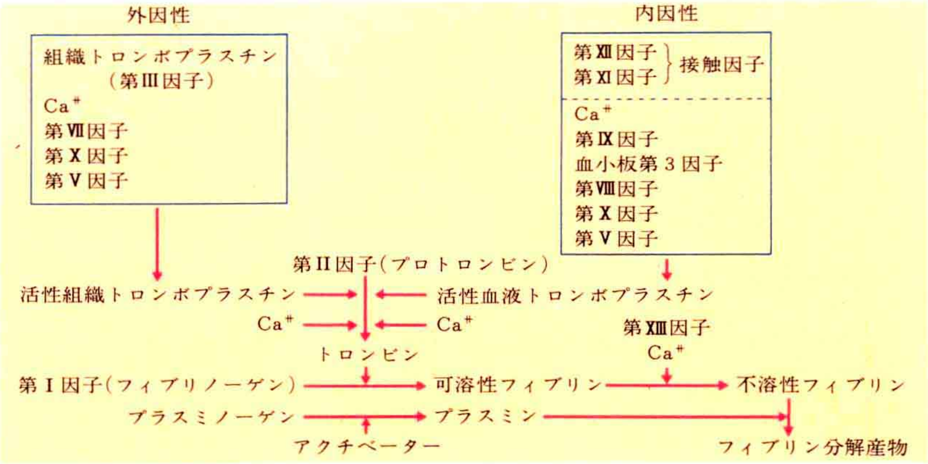
なお，血液型には赤血球・白血球・血小板による血球型のほかに，血清型がある。血清型は血球型とは無関係に，血清の抗原の別に基づいて分けられる。ハプトグロビン(Hp)型は，$α_2$グロブリン分画にあるHpに優劣関係のない1対の対立因子の組み合わせによる3型が区別される。Gm型はγ-グロブリン分画にあるGm因子の有無によるGm(a+)とGm(a−)があり，前者は優性遺伝する。そのほか，トランスフェリン(Tf)型・Gc型などが知られている。

血液型の医学への応用として，血液型が規則正しく遺伝するという事実に基づき，親子鑑別に利用されたり，また被害者の血液型と加害者の衣服などについている血液の型が一致するかといった犯罪捜査や個人識別にも利用される。輸血に際して，供血者と受血者の血液型を正しく判定することにより，受血者への不適合輸血の危険を防止することができる。産婦人科的に，母児間の血液型が異なるために流産が起こったり，新生児溶血性疾患(胎児赤芽球症・新生児重症黄疸(おうだん))が起こったりすることがある。これはRh陰性の母親が，Rh陽性の胎児を妊娠したために，母体内に抗Rh抗体がつくられ，これが胎盤を通して胎児に移行して胎児の血球を破壊した結果起こるもので，夫婦の血液型をあらかじめ知っておくと対策が立てられる。〔三好和夫〕

けつえきがたふてきごう 【血液型不適合】 ⇨血液型

けつえきがたふてきごうにんしん 【血液型不適合妊娠】 母親と胎児の血液型が合致していない妊娠をいう。不適合妊娠が臨床上問題となるのは，分娩(ぶんべん)後新生児に強い黄疸*(おうだん)が起こるからで，黄疸の程度が非常に強い場合には，死亡することもあり，死を免れても，小児期になって脳性小児麻痺(まひ)などの後障害が残ることがある。

母子間に血液型不適合があると，胎児の赤血球が胎盤を通って母親の血液中に移行し，抗体を産生させる。その抗体は胎盤を通って胎児にもどり，胎児の赤血球と反応してこれを破壊(溶血)し，その結果胎児の



血液凝固 血液凝固のしくみ

血液中のビリルビンが増加する。血液型は約40種類あるが，新生児に溶血を起こす(新生児溶血性疾患)血液型として重要なものは，ＡＢＯ式とRh式血液型である。理論的に数のうえの計算では，全妊娠例の約15％が血液型不適合であるが，新生児溶血性疾患を起こすのは，そのうちのごく一部で，ある統計ではだいたい新生児200人に１人の割合となっている。血液型不適合による新生児溶血性疾患で強い黄疸を起こしても，ビリルビンの増した黄色い血液を新鮮な血液と交換すれば新生児は助かる(→交換輸血)。新生児溶血性疾患の対策として重要なことは妊娠中に母親が血液の検査を受けることである。➔血液型　〔木川源則〕

けつえきぎょうこ　【血液凝固】 血液を生体から取り出してそのまま放置すると，健康正常人では５～15分後に流動性を失う。これを血液の凝固という。血液凝固に不可欠な物質として，国際血液凝固因子選定委員会によって承認されたものは，表に示すように凝固因子としてローマ数字をつけて整理されている。血液凝固の機序については多くの説があるが，一般には図のように考えられている。まず，血液凝固は活性トロンボプラスチンの生成から始まるが，これには生成過程の差より活性組織トロンボプラスチン(外因性トロンボプラスチン)と活性血液トロンボプラスチン(内因性トロンボプラスチン)がある。両者は，同じくII因子をトロンビンに転化させるが，異なった物質である。外因性トロンボプラスチンはIII因子(組織トロンボプラスチン)・VII因子・Ｘ因子・Ｖ因子・カルシウムによって生成される。内因性トロンボプラスチンはXII因子の活性化より始まり，XI因子(この両因子は血管内膜・ガラス・カオリン・セライト・ベントナイトなどの異物面との接触によって活性化されるため，接触因子ともよばれる)・IX因子・VIII因子・Ｘ因子・血小板第３因子・Ｖ因子・カルシウムの存在下で生成される。次いで活性トロンボプラスチン・カルシウムの存在下でII因子はトロンビンに転化し，トロンビン・XIII因子の存在下でＩ因子は不溶性の強力なフィブリンに転化して血液の凝固は完了する。凝固因子のうちいずれの一つでも先天性に欠乏(VIII因子の欠乏する血友病Ａ)または症候性に著明に低下(II因子の欠乏する新生児メレナ)したときは，血液凝固は障害される。フィブリンは血中プラスミノーゲンによって活性化された繊維素溶解酵素プラスミンの作用で溶解する(繊維素溶解現象)。〔三好和夫〕

血液凝固因子

I：	フィブリノーゲン
II：	プロトロンビン
III：	トロンボプラスチン
IV：	カルシウム
V：	安定因子，プロアクセリン
VI：	欠
VII：	不安定因子，プロコンバーチン
VIII：	抗血友病性グロブリン＝AHG
IX：	プラスマ　トロンボプラスチン　コンポーネント＝PTC
X：	プラウァー因子
XI：	プラスマ　トロンボプラスチン　アンチシーダント＝PTA
XII：	ハーゲマン因子＝HA
XIII：	フィブリン安定因子＝FSF

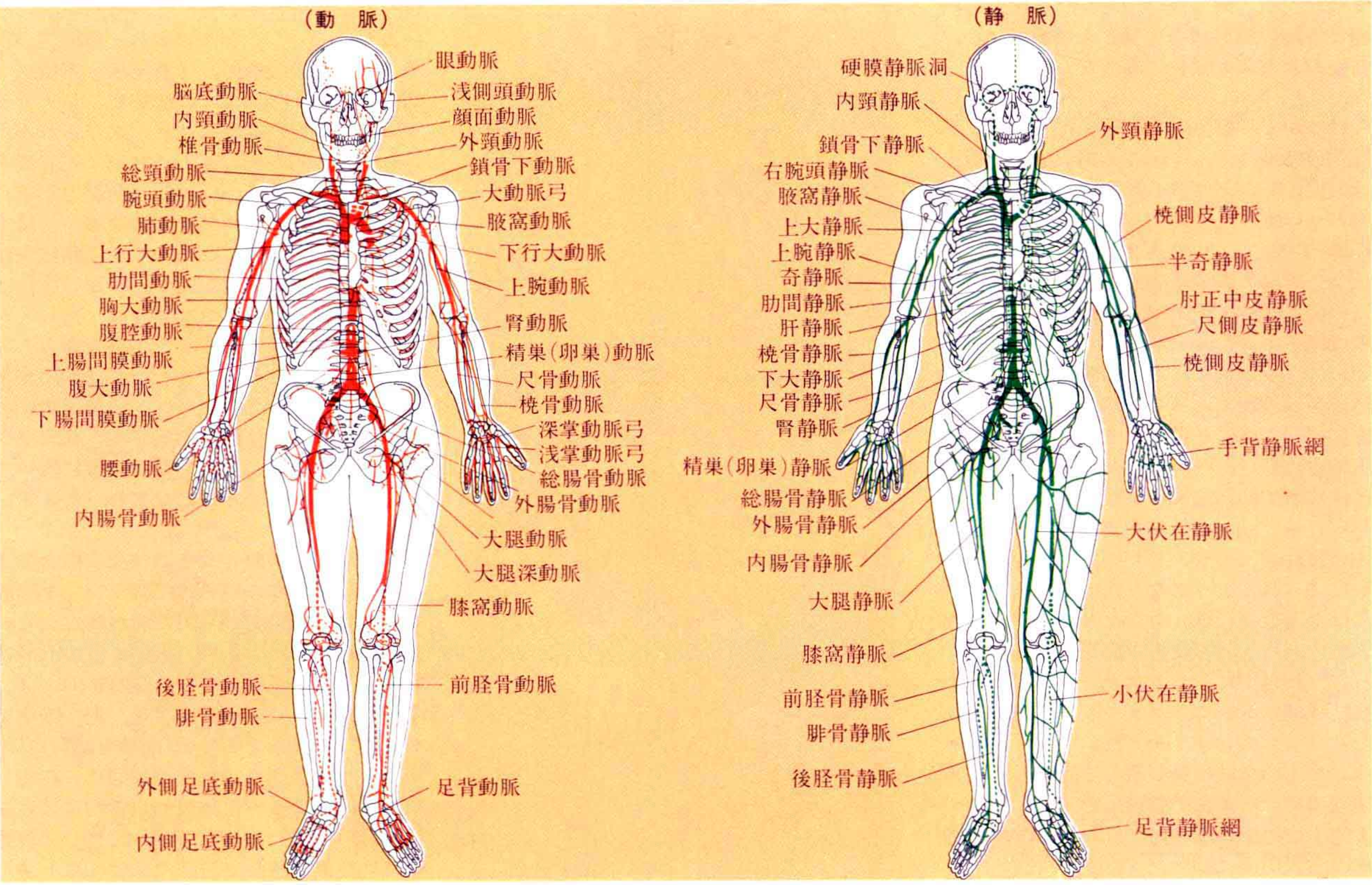
けつえきぎんこう　【血液銀行】 献血*や預血による血液を保存管理し，必要に応じてすみやかに供給する施設。1936年アメリカのシカゴ市に設立されたのがはじまりで，日本では1948年(昭和23)以来主要都市に設けられた。輸血*は出血性ショックに対してきわめて有効な治療法の一つであり，血液病，手術*などに際して繁用される。近年信頼できる血液保存方法が考案され，輸血に必要な血液を常時安全な状態で確保しておく必要性から血液銀行が設立された。供血された血液はごく少量の防腐剤・抗凝固剤を添加して低温で保存する。しかし，輸血による死亡(0.1～１％)，疾病(しっぺい)の感染(0.1～25％)，血液保存による汚染(２％)などの問題がある。〔佐野隆志〕

けつえきけんさ　【血液検査】 疾病(しっぺい)の診断・治療上血液を用いる検査。内容的には①赤沈(赤血球沈降速度*)の測定，②血色素量・赤血球数・白血球数とその細胞識別，血小板数およびそれら各血球の形態の検査，③出血時間・凝固時間と各種凝固因子の測定，④血液タンパク質・窒素化合物・糖質・脂質・水や電解質・酵素・ホルモンなどの諸成分の変動などの生化学的検査，⑤血液型・梅毒血清反応・Ｃ反応タンパク試験・赤血球寒冷凝集反応・クームス試験などの免疫学的検査，⑥細菌学的検査の血液培養による細菌の証明などがある。〔三好和夫〕

けつえきしきそ　【血液色素】 動物の血球または血漿(けっしょう)中に含まれ，酸素運搬能力をもつ色素タンパク質*の総称。血色素ということもある。金属を含む複合タンパク質で，酸素分圧の高いところ，特に肺やえらでは酸素と結合し，酸素分圧の低い組織内では酸素を放出する。呼吸色素として扱われることもある。代表的なものは脊椎(せきつい)動物のヘモグロビン*，無脊椎動物のエリスロクルオリン*，環形動物のヘモエリスリン*，軟体動物・節足動物のヘモシアニン*である。このほか，ホヤ類にバナジウムを含むヘムバナジンが，また，二枚貝の一種にはマンガンを含むピンナグロビンが発見されている。クロロクルオリン・ヘモエリスリン・ヘモシアニンはごくわずかの近接した動物群に見いだされるが，ヘモグロビンは動物分類に関係なく，動物界に広く分布している。血液色素が動物界にどのように分布しているかは，その生物と生活環境との関連においても，また進化学的な面からも興味がもたれ，研究されている。〔山崎博子〕

けつえきじゅんかん　【血液循環】 血液*が動物体内を一定方向に流動し循環すること。動物には開放血管系*のもの(節足動物・軟体動物・被嚢(ひのう)類)と閉鎖血管系*のものとがあるが，脊椎(せきつい)動物は後者に属し，肺呼吸型循環系と鰓(えら)呼吸型循環系に区別される。

〔肺呼吸型〕身体の中には血管*とリンパ管*がすみずみにまで分布し，それぞれ血液とリンパを循環させているので，この系統を循環器系とよぶ。血液の循環は心臓*を中心とする血管系によってなされる。心臓から血液を送り出す血管を動脈*，心臓に血液を送り返す血管を静脈*とよび，その間に毛細血管*があり，ここでガス交換，あるいは栄養・老廃物の受け渡しが営まれる。血液循環は大循環(体循環)と小循環(肺循環)に分かれるが，心臓を出た動脈血は大動脈を経て全身の組織細胞に酸素や栄養を与え，その組織細胞で代謝の結果できた静脈血(炭酸ガス・老廃物を含む)は大静脈となって心臓に返る。さらに右心房，右心室を経て肺*にはいり，炭酸ガスが肺胞の膜を介して放



血液循環

出されるとともに新鮮な空気から酸素を取り込み心臓にもどってくる。このような血液の循環の原理はハーベー*の著書《動物の心臓ならびに血液の運動に関する解剖学的論考》(1628)によって確立された。

〔鰓呼吸型〕鰓呼吸をする脊椎動物(円口類・魚類および両生類の幼生)では，心臓から出た血液は，咽頭部(いんとうぶ)の腹側にある腹行大動脈内を前進し，4対またはそれ以上に分岐した左右対称な入鰓(にゅうさい)動脈から鰓毛細管へ，そして出鰓動脈を経て，背正中線に沿って走る背行大動脈内を後進して，からだの各部の組織に達する。静脈血は主静脈に集められて腹面を前進し，腎門脈(じんもんみゃく)(→門脈)から腎臓を経て腎静脈および肝門脈から肝臓を経て肝静脈の血液をあわせて心臓にもどる。

〔幡井　勉・橋本　長〕

けつえきどく【血液毒】 体内に吸収されたのち主として血液，ことにその赤血球，あるいはヘモグロビンに作用を及ぼし，生体に中毒症状を起こさせる毒物または薬物。代表的なものは青酸・青酸カリウム・塩素酸カリウム・一酸化炭素である。青酸および青酸カリウムはヘモグロビンをシアンヘモグロビンにし，酵素作用を阻害する原形質毒で，塩素酸カリウムは赤血球を破壊し，ヘモグロビンをメトヘモグロビンに変化させるため内呼吸障害をきたし，さらに腎臓炎(じんぞうえん)を起こさせ，また尿量の減少をきたすこともある。一酸化炭素はヘモグロビンと結合して一酸化炭素ヘモグロビンを形成する。その結合能，すなわちヘモグロビンに対する親和力は酸素の200～300倍であり，血液中の一酸化炭素ヘモグロビン濃度は増加して，諸臓器は酸素の欠乏，組織呼吸の障害をきたし，死の原因となるものと考えられている。おおよその致死量は青酸0.05g，青酸カリウム0.15～0.25g，塩素酸カリウム15～30gで，一酸化炭素の場合は空気中に0.5～1.0%以上含まれる場合である。このほか，赤血球に作用して溶血を起こし，中毒性溶血性貧血の原因となるもの(フェニルヒドラジン・ベンゼン・パラアミノサリチル酸など)，造血組織・骨髄に作用して各種血球の生成を障害するものも，広義の血液毒と考えられている。

〔朝倉　了〕

けつえんしゅうだん【血縁集団】 血縁を契機として形成された社会集団。一定の地域に居住することによって成立する地縁集団*に対置される。親子・兄弟などの血族と，配偶者およびその血族からなる姻族とを含む。血族はまた，父系か母系かのような単系的血縁集団と，父系と母系の双方を含める非単系血縁集団ないし双系血縁集団とに類別される。このような血縁集団の最小の単位が家族*であり，比較的大きなものが氏族*である。しかし，血縁集団の形成は生物学的〈血〉によるだけではなく，統合の象徴としての〈血縁意識〉によって集団の凝集がなされる。また，同一地域に居住するという地縁も集団凝集の無視しえない条件の一つである。歴史的には，血縁集団の優越する時期から地縁集団の優越する時期へという段階区分も行なわれる。血縁集団がもっていた生活共同体(→コミュニティー)ないし生産の自給自足的単位としての積極的機能が失われるにしたがって，血縁集団のもつ社会的意味が失われ，代わって新しい価値理念によって，新しい集団形成がなされるようになる。

〔国近浩一〕

けつおう【桀王】 中国，夏の最後の王。徳を修めず，妃(きさき)妹喜の愛におぼれ，酒池肉林の楽にふけって民を苦しめたため，殷(いん)の湯王(とうおう)によって殺されたといわれる。殷の紂王*(ちゅうおう)とともに悪逆無道な天子の代表とされている。

けっかい【結界】 戒律の受持に関する比丘(びく)の過失を少なくするために，一定の地域を区画制限すること。制限された地域を界といい，これには3種ある。比丘が同一処に集合して布薩(ふさつ)などの行事を行なうために設けられた区画を摂僧界(しょうそうかい)といい，これには自然の区画と人為的な区画とがある。施物を分配する基準としての同一利養の区画を摂食界・摂衣界という。

また，堂塔・伽藍(がらん)の境界，仏堂内の内陣と外陣の境界にある欄をも結界といい，女性の立ち入り禁止の場所を女人結界という。〔塚本啓祥〕

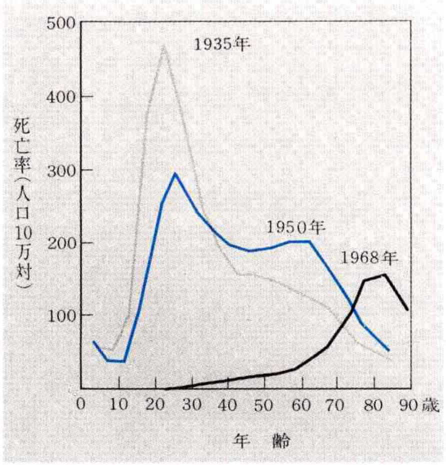
けっかく【結核】結核症ともいう。結核菌の感染によって起こる病気。その歴史は古く，10,000年前と推測される人骨に脊椎(せきつい)カリエスの病変が認められる。BC400年に，ヒッポクラテス*はすでに結核が伝染性疾患であることを確信しており，18世紀にはスペインで患者の使用した寝具類の焼却を命じた法令が出されている。1882年にはコッホ*によって結核菌が発見され，結核が伝染病であることが確立された。治療については，19世紀にすでに大気安静療法が始められ，わが国でも1889年(明治22)にはじめて結核療養所が開かれている。1908年カルメットおよびゲランはBCG*を発見。その後わが国でも，しだいに結核予防対策が立てられるようになり，1932年(昭和7)には患者数は最低となったが，第2次世界大戦の進行とともに再び急激に増加した。一方，1944年にワックスマン*は世界最初の抗結核薬ストレプトマイシンを発見，次いで，パラアミノサリチル酸(パス)・コンテベンなどの抗結核薬が続々と登場したため，1951年にはわが国の結核死亡率は，はじめて第1位の座を脳溢血(のういっけつ)など中枢神経の血管損傷に譲った。

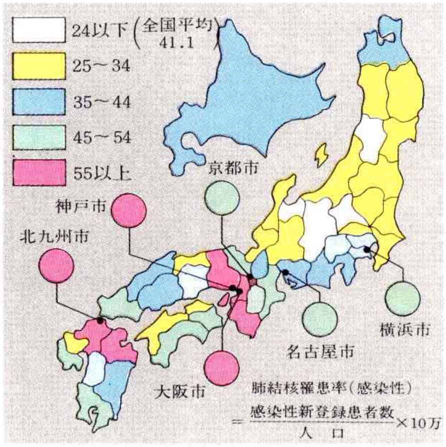
病原体である結核菌は放線菌類の一属で，細長い3μ程度の糸状の菌体が連なったり束になったりしていて，酸に抵抗性を示す抗酸性菌中の代表的なものである。結核菌には，ヒト型，ウシ型，トリ型，野ネズミ型の各種がある。このうちヒト型およびウシ型のみが人間に病原性を有するが，ウシ型の結核は少なく，日本ではウシ型菌による肺結核はみられていない。

結核罹患(りかん)臓器としては，肺のほか腸・腎(じん)・泌尿生殖器・骨・関節・髄膜・腹膜など，ほとんど全身にわたっているが，肺以外の臓器の結核は1〜2%にすぎない。菌の侵入経路としては肺が最も多いが，腸結核のように結核菌が消化管から侵入するものがある。また，腎・泌尿生殖器結核や頸部(けいぶ)リンパ腺(せん)結核などでは，それぞれの付近の粘膜から侵入する場合もあるが，侵入経路に関しては不明の点も多い。

〔肺結核〕結核死亡率は1941年以来著しく減少し，1951年には人口10万人あたり111人となったが，欧米主要国に比べればなお数倍ないしそれ以上の死亡率を示している。結核実態調査によれば，わが国の肺結核要医療者の総数は，1958年に304万人，1963年に203万人，1968年に153万人，要入院患者は1958年には86万人，1963年には46万人，1968年には37万人と推定されている。

〔感染と発病〕結核菌に感染しても必ずしも発病するとは限らない。特にBCG接種をすると，発病を抑制することはできる





結　核　(上)年齢別結核死亡率　(下)都道府県別感染肺結核罹患率　《結核の統計》(1970)

が，感染抑制の効果は期待できないなどのことから，感染と発病とは分けて考えるべきである。結核菌は，飛沫(ひまつ)または塵埃(じんあい)に乗って肺の表面に近い肺内の肺胞道ないし肺胞に達して定着すると，増殖を開始する。すると，まず異物性炎症が起こり，白血球・単球などがまわりに集まってきて異物結節をつくる。10〜20日間たつと，中心部に類上皮細胞・ラングハンス巨細胞，まわりにリンパ球・繊維芽細胞が集まり結核結節を形成する。肺胞に定着した菌の一部は，リンパの流れに乗って肺門リンパ腺に達し，同様の変化を起こす。以上が初回の感染にみられる現象であり，この感染を初感染とよぶ。このようにして形成される肺内の初感染巣と肺門リンパ腺の病巣は対をなすもので，初期変化群とよぶ。菌は結核結節中にいちおう封じ込まれるが，ここで，菌数および毒力と生体の防御力とのつりあいによって，初期変化群が繊維化して治癒(ちゆ)するか，組織の破壊が進行するかが定まってくる。初感染後4〜8週間で結核アレルギーが成立するが，その結核菌との関係が，結核の進展に大きく影響する。また，初感染後1年間における発病は，その後に比してはるかに多い。発病を促進し，結核への進展をひき起こす菌側の因子としては，菌量の多いこと，菌量が少なくても短期間にくり返しさらされること(濃厚感染)，菌の毒力の強いことがあげられ，個体側の因子では，心身の過労，栄養不良・不摂生・妊娠，硅肺(けいはい)などの塵肺症，ステロイドホルモンの長期使用などがあげられる。さらに，年齢からみると，乳児・思春期・高齢者に発病が多い。生体の防御力が不足の場合には，周囲の肺組織に進展し，滲出(しんしゅつ)性の炎症が起こって，乾酪化病巣となる。乾酪化病巣が非常に小さい場合は，繊維性の物質で包まれてしまい，封じ込みが完成することもあるが，小葉数個以上の病巣では包み込みが行なわれずに軟化が起こり，気管支内や血流内への排菌が始まって，いわゆる転移源を形成する。肺門リンパ腺の乾酪化は，肺内の初感染巣に比べて多く，完全治癒することはまれであるといわれる。

初感染が転移源となるのは次の場合である。①初感染巣の周囲に空洞(くうどう)を形成する，②初感染巣から出た菌が肺尖(はいせん)または鎖骨下部に転移し浸潤巣をつくる(初期浸潤)，③初感染巣から菌が血管内にはいり，粟粒(ぞくりゅう)結核症になる，④初感染巣が胸膜内に破れて胸膜炎(肋膜炎(ろくまくえん))を起こす。肺門リンパ腺が乾酪化・軟化して転移源となると，胸膜や気管内に破れるほか，リンパ腺が次々と冒され，ついに静脈角リンパ節に達して静脈内にはいると全身に菌が播種(はしゅ)される。菌量・回数と生体のアレルギーとの相互関係によって重症度は異なり，最も重い場合は結核性敗血症となり，全身に粟粒結核を生ずる。さらに局所的な粟粒結核，すなわち結核性髄膜炎・肺尖結核・骨結核・関節結核・泌尿生殖器結核・眼結核・皮膚結核・胸腹膜炎を起こす。肺内浸潤巣がある程度の大きさになると，乾酪化し，軟化しやすく，内容が気管支内に排出されて気管支と交通した空洞となる。空洞の内面には無数の結核菌があり，痰(たん)とともに結核菌を排出する。このような結核が開放性結核である。空洞の治癒機転としては，内腔(ないこう)が肉芽層で満たされて瘢痕(はんこん)となる場合，気管支との交通がなくなって菌を含む物質を包み込み石灰が沈着して治癒する場合，空洞が開放したまま無菌化して気管支上皮でおおわれ，いわゆる浄化空洞となって治癒する場合があり，これらは自然にはまれであるが抗結核薬による治療に際しては比較的よくみられる。

〔症状〕病気の広がりのわりには軽く，初回感染に際しては，約半数がかぜのような症状を呈するという。肺結核で最も多くみられる症状は，全身の違和感・倦怠感(けんたいかん)，疲れやすいこと，食欲不振，軽度の体重減少などであり，次いで午後から夕刻にかけての微熱，なかなかなおらないかぜ症状が次ぐ。喀血(かっけつ)・血痰は現在では少なく，胸痛・背痛は病変が肋膜に及んだとき

にのみみられる。

〔診断〕最も有力な手段は，いうまでもなく胸部X線写真である。しかし，X線写真で発見される異常陰影は病巣の病因を明らかにするものでなく，病歴・血沈・ツベルクリン反応などを参照して，結核か否か，また，活動性があるかどうかを決定しなければならない。ツベルクリンは結核菌培養基中より得るタンパク成分で，皮内に注射して48時間後に発赤・硬結の大きさを判定する(マントー反応)。もし本反応が陰性であれば，結核ではないといえる。また，ツベルクリン反応が陰性から陽性になったとき(陽転)は，最近感染が起こった事実を示すものであるから，約1年間は十分な注意が必要である。

〔治療〕病巣の性質，広がりを厳密に判断したうえで，内科的療法および外科療法を，患者が回復後復帰すべき生活など社会的因子を考慮しつつ組み合わせて行なう。古くから行なわれた安静臥床(がしょう)は現在でも価値を失ってはいない。食事はタンパク質・脂肪を多くし，炭水化物を少なくして，全体としては十分なカロリー(52kgの人で最低2,100Cal)をとらせる。抗結核薬を用いる際には，初回治療を徹底的に行なうことが最も必要で，まず，ストレプトマイシン・ヒドラジッド・パスのいわゆる一次薬からはじめ，漸次耐性が生じれば，サイクロセリン・カナマイシン・バイオマイシン・エチオナミド・カプレオマイシンなどに変えていく。抗結核薬が非常に奏効した場合も，菌が陰性化し，空洞が消失し，X線所見がまったく不変の状態となってから1年～1年半は服用を続ける。断続的あるいは短期間の服用は，外科療法・抗結核薬で根治できない，いわゆる難治肺結核の原因の約半数を占める。抗結核薬によって十分な効果を期待できない場合は，肺切除・外科的虚脱療法・空洞直達法などを予定しなければならないが，この場合も通常6か月前後の抗結核剤投与を行なう。なお糖尿病に合併した場合は，血糖の正常範囲内へのコントロールがまず必要である。

〔予防〕結核の予防は発病予防につきる。現在のわが国では，排菌のあると考えられる非入院肺結核患者は約20万人であり，特に都市部では感染を防止することは不可能に近い。大量の菌による感染あるいは濃厚感染後は発病が多いので，開放性結核患者との接触をできるだけ避け，やむをえぬ場合はマスクをつけ，衣類・手などをよく消毒する。もし，自然陽転した場合，すなわち初感染が起こった場合は，その後，イソニコチン酸ヒドラジドを，少なくとも1年間予防内服させる。BCG接種も発病防止効果がある。BCGは，13年間230代にわたる経代培養によって無毒化し，動物を通過させても毒力を回復しなくなったウシ型結核菌で，接種によって免疫を得ることができる。ただし，BCG接種の効果は2年以内にとどまるので，接種後1年に1回ツベルクリン反応を検査し，陰性となれば再接種を行なう必要がある。〔白石　透〕

けっかくきん　【結核菌】　結核の病原体。ヒトに結核を起こすのは主としてヒト型で，まれにウシ型がある。ほかにトリ型・ネズミ型があり，それぞれの宿主に対応する。直線あるいはやや曲がった運動性のない1～4μ×0.3～0.5μの桿菌(かんきん)で，莢膜(きょうまく)・べん毛・芽胞はなく，好気的条件で発育するが，培地上の発育はおそい。ある種のアニリン色素で染色すると，酸によって脱色されにくいため抗酸性をもつといわれるが，発育環境によってはその性質が弱化もしくは消失する。➔結核〔和気　朗〕

けっかくけっせつ　【結核結節】　結核菌による増殖性結核病変の基本型で，定型的なものは粟粒(ぞくりゅう)結節である。肉眼的には比較的明らかに境された灰白色，半透明の点状あるいは粟粒大の肉芽腫(にくがしゅ)で，中心部に乾酪化が生ずると黄色調を呈する。顕微鏡でみると，中心部は乾酪化巣，その周辺に類上皮細胞およびラングハンス巨細胞よりなる結核に特異な肉芽層がある。さらにその外層は，毛細血管・繊維芽細胞・リンパ球を主とする円形細胞などで形成される通常の肉芽組織層よりなるとされている。〔中原義行〕

けっかくせいずいまくえん【結核性髄膜炎】　結核菌*によって起こる髄膜*の炎症。他の結核病巣(多くは肺結核)から続発したり，全身の粟粒(ぞくりゅう)結核の一分症として起こる。各種の髄膜炎*中最も多く，幼少者・若年者がかかりやすい。初期には頭痛・倦怠感(けんたいかん)・ふきげんなどの前駆症状がみられ，次いで意識障害を認めるようになる。意識障害は漸次増強し，譫語(せんご)を発し，最後に昏睡(こんすい)に陥る。脳圧の亢進(こうしん)症状として，頭痛・嘔吐(おうと)・徐脈を認める。特有なのは，脳底の髄膜を侵されることが多いために，脳底の神経症状(顔筋麻痺(まひ)・顔面神経麻痺)が強いことである。髄液は水様透明で，透過光線を通してみると塵埃(じんあい)様の浮遊物がみられ，またリンパ球・タンパク量が多い。放置すると繊維素を析出し，その中に結核菌が認められる。治療としては絶対安静，病室は静かに暗くして外界からの刺激を避ける。脳圧の亢進が著しければ，腰椎穿刺(ようついせんし)によって髄液を排出する。抗結核剤(ストレプトマイシン・パス・イソニコチン酸ヒドラジド)が有効で，化学療法の発達によって救命することが可能となった。〔橋本信也〕

けっかくせいふくまくえん【結核性腹膜炎】　結核菌*によって起こる慢性の腹膜*の炎症。多くの場合，肺から腸間膜リンパ節にきてそれから起こるが，腸結核の潰瘍(かいよう)や女子性器結核に続発することもある。自覚症状としては，多くは38℃以下の発熱と悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・食欲不振があり，腹部膨満感・腹痛を伴う。また，便秘・下痢が長期間にわたってみられる。他覚的所見として，腹部膨隆・腹部圧痛・鼓腸・腹水貯留が認められる。ときに不正形の腫瘤(しゅりゅう)(癒着(ゆちゃく)した腸管)を触知する。腹水は漿液(しょうえき)性で，繊維素の析出が多く，また細胞はリンパ球の多いことなどが特徴的である。治療は，抗結核剤(ストレプトマイシン・パス・イソニコチン酸ヒドラジド)が効果があり，ほかに安静，新鮮な空気，栄養豊富な食事もたいせつである。鑑別すべき疾患として，腸結核*・癌性(がんせい)腹膜炎がある。〔橋本信也〕

げっかのいちぐん　【月下の一群】　堀口(ほりぐち)大学*の訳詩集。1925年(大正14)刊。フランス近代の詩人66人の作品340編を収録。上田敏の《海潮音*》や永井(ながい)荷風*の《珊瑚集(さんごしゅう)》とは違った新しい感覚が盛られ，原詩の持ち味を十分に生かした口語訳がすぐれている。ことにアポリネール*・コクトー*・ラディゲ*らの詩は昭和詩に大きな影響を与えた。

げっかのびじん　【月下美人】　双子葉植物・サボテン科。メキシコからブラジルにかけて自生しているカニサボテン属の一種で，花が美しく，観賞用に栽培される。茎は高さ1～3m，幹の基部は円柱形であるが，枝は平たく多肉である。6月ごろ花は茎の上部につき，白色で直径20cm余り，夕方開きはじめて夜中にはしぼんでしまう。花が白色で美しく，夜咲き，しかも短命なのでこの名がある。➔サボテン

けっかふざ　【結跏趺坐】　僧のすわり方の一。特に座禅*のときの坐法。跏は足の裏，趺は足の甲の意。まず右の足を左のももの上に安んじ，次に左の足を右のももの上に安んずる。さらに右の手を臍下(せいか)中央の足の上に安んじ，左の掌(たなごころ)を右の掌の上に安んじ，両の親指は向かい合ってあいささえ，正身端座することをいう。この座相は円満安座の相といわれ，身体は疲れず，身心安穏にして，魔王もこれを見て怖畏(ふい)するという。仏坐・如来坐・降魔坐(ごうまざ)などともいう。なお，一方の足だけを組むのを半跏趺坐という。〔田中良昭〕

けっかん　【血管】　血液*を流す管。動脈*・静脈*・毛細血管*に分かれる。動脈は心臓から血液を送り出す血管で，大循環ではこの中を酸素を多量に含む動脈血が流れ，小循環では炭酸ガスに富む静脈血が流れる。静脈は心臓に血液を送り返す血管で，大循環ではこの中を静脈血が流れ，小循環ではこの中に動脈血が流れる。毛細血管は動脈と静脈を末梢(まっしょう)でつないでいる。血管は一般に，結合組織性の外膜，平滑筋と弾性繊維からなる中膜，単層扁平(へんぺい)な内皮細胞でおおわれた内膜の3層からできているが，動脈では末梢部の血圧*に対抗するた

めに血管壁が厚く，弾力に富んでいる。静脈は血圧が0に近く，したがって動脈に比べて血管壁が薄い。静脈の血流は，その周囲の筋や動脈の血管の運動，内臓の運動などによるから，逆流を防ぐために静脈の内部には弁がある。この弁は上肢(じょうし)や下肢の静脈に特に多い。毛細血管壁は1層の内皮細胞からなり，管腔(かんこう)も小さく，血球がわずかに1列通過するくらいのものである。循環系の機能はこの毛細血管によってなされる。すなわち，肺*においては肺胞のまわりにある毛細血管によってガス交換が行なわれ，小腸*においては栄養の吸収が行なわれ，身体の末梢の各組織でも毛細血管との間にガス交換，栄養・老廃物の交換が行なわれる。血管を支配する神経は自律神経で，副交感神経は血管拡張にあずかり，交感神経は血管の運動神経ともよばれて血管の収縮にあずかる。動脈壁にコレステリン*が沈着すると，壁組織が硬化して正常の弾力を失う。これを動脈硬化症*という。〔幡井　勉〕

けつがん【頁岩】 堆積(たいせき)岩*の一種。ディ岩*は径16分の1mm以下の細かい砕屑物(さいせつぶつ)が堆積してできた岩石であるが，その多くは，堆積するときの水流の方向や流速のわずかな変化によって堆積物を構成する粒子の大きさが変化するため，非常に薄い層だけが均質になっている。そして，その上下の層との境ではげやすい。このような性質をもったディ岩をケツ岩とよぶ。

けっかんうんどうしんけい【血管運動神経】 自律神経*の一種。血管壁の平滑筋*を支配して血管の収縮・拡張をつかさどる。血管壁を収縮される血管収縮神経と，血管壁の緊張を弱める血管拡張神経の2種類がある。血管収縮神経は交感神経*に属し，血管拡張神経は副交感神経*に属する。このような拮抗(きっこう)する神経作用によって，血圧*を一定に維持したり，局所の血流量を調節したりする。皮膚の血管に分布するそれらは体温の調節にもあずかる。〔岩崎　稠〕

けっかんえん【血管炎】 動・静脈の炎症。動・静脈の走行に一致して疼痛(とうつう)・発赤・腫脹(しゅちょう)などがみられるが，一般に主幹動・静脈は深部組織内にあるので，体表から炎症症状を見いだすことは困難である。血管にこのような炎症があると，続発性の変化として動・静脈瘤(りゅう)や動・静脈閉塞(へいそく)が起こる。一般に動・静脈疾患は欧米では動脈硬化が原因とみなされるものが多いのに対して，わが国をはじめアジア諸国では血管炎によるものが多く，種々の面で注目されている。〔三島好雄〕

けっかんかくちょうやく【血管拡張薬】 血管を拡張する薬の総称。作用点から分けると，主として中枢神経に働いて血管を拡張させるものと，末梢(まっしょう)神経に作用するものとがあり，血管の部位によっても作用の強さが異なるものもある。全身の血管を同じように拡張するもの(亜硝酸アミル)が主であるが，最近では皮膚の末梢血管によく作用するもの，心臓の冠血管をよく拡張するものが現われるようになった。全身性にゆるやかに作用するものは抗高血圧薬として，作用は短いが末梢血管によく作用するものは末梢血管収縮による疾患(レーノー病)に，冠血管に作用するものは狭心症あるいは心筋梗塞症(こうそくしょう)の治療薬として用いられる。〔伊藤隆太〕



月　琴
武蔵野音楽大学
楽器博物館蔵

けっかんしゅ【血管腫】 血管*の異常発育による腫瘍(しゅよう)状の組織奇形。次の3種類に分けられる。①単純性血管腫：毛細血管または細い静脈が異常に増殖・拡張したもの。一般に鮮紅色を呈し，ガラス板で圧迫すると退色する。顔面・頸部(けいぶ)にみられる。②海綿状血管腫：海綿体と似た構造で，小血管が集合してできている。鮮紅色または紫藍(しらん)色を呈し，圧迫すると縮小し，圧迫をとるともとにもどる。肝・筋組織内に発生する。③蔓状(つるじょう)血管腫：厚い筋層をもった血管が多数新生して蔓状にからみあい，嚢状(のうじょう)に拡張している。動・静脈間に多数の支通がある。腫瘤(しゅりゅう)は拍動し，雑音を聞くことができる。顔面・頭部・前腕にみられる。治療法は乱切や電気焼灼(しょうしゃく)，小さいものに対しては電気分解ないしジアテルミー凝固(→ジアテルミー療法)，その他雪状炭酸あるいはラジウム照射などが有効である。蔓状血管腫に対しては外科的治療が行なわれる。〔玉城　敞〕

けっかんしゅうしゅくやく【血管収縮薬】 血管を収縮させる薬。アドレナリンのように血管を直接収縮させる(交感アミンとよばれる)もの，血管の交感神経末梢(まっしょう)からノルアドレナリンを遊離させるもの(タイラミン)，直接作用と遊離作用の混合したもの(エフェドリン)がある。このほかペプチドで血管を収縮させるもの(バゾプレッシン)もある。全身的に投与できるものは，ショックなどの血圧低下のときの昇降薬として，局所的には止血・鼻粘膜収縮などに用いられ，これには過クロール鉄のような収斂(しゅうれん)薬も用いる。〔伊藤隆太〕

けっきゅう【血球】 血液の有形成分である赤血球・白血球・血小板などの総称。血球の多くを占める赤血球は，平均直径7.5 μ，無核の中くぼみ円盤状で，血色素を含み，酸素の運搬に役だつ。血液1 mm^3 中に男子で約500万，女子で約450万含まれる。白血球は7～15 μの大きさで，有核，ほぼ円形で，血液1 mm^3 中7,000前後含まれ，好中球・好酸球・好塩基球・単球・リンパ球に分けられ，生体の防御機構に関与する。血小板は2～4 μの小片で，血液1 mm^3 中20万前後にあり，血液の凝固に大きな役割を占めている。→血液〔三好和夫〕

げっきん【月琴】 撥弦(はつげん)の弦鳴楽器*で，阮咸*(げんかん)から派生したもの。中国では主として16世紀(明(みん))以後，俗曲や芝居の伴奏用に使われた。日本では18世紀長崎に伝えられて，独奏用・合奏用として明清楽*(みんしんがく)に使われた。明治中ごろに流行したが，すぐにすたれた。楽器の構造は，円形の胴体に短い棹(さお)を取り付け，弦を4本張ってある。棹には13～14個のフレットがついている。べっこうのつめでひく。

げっけい【月経】 一定の周期をもって規則正しく反復する生理的子宮出血。英語のメンストルエイション，ドイツ語のメンストルアチオンなどからメンスといわれることが多い。14～15歳の思春期に始まり，45～50歳の閉経期に終わる。月経の第1日から次回の月経前日までの日数を周期といい，正常婦人では平均4週で，日本人の統計では25～38日の周期は正常と考えられている。月経の持続日数はふつう3～6日。月経前には粘液性帯下が増加し，月経が近づくにしたがってしだいに赤色をおび，ついに全血となる。第2～3日が最も多く，しだいに減少する。固有の臭気があり，流動性で凝固しない。多量で凝血が混ざるとか，鮮血の場合は異常である。排出される血液の全量は若い人で100cc前後，中年で50cc前後である。

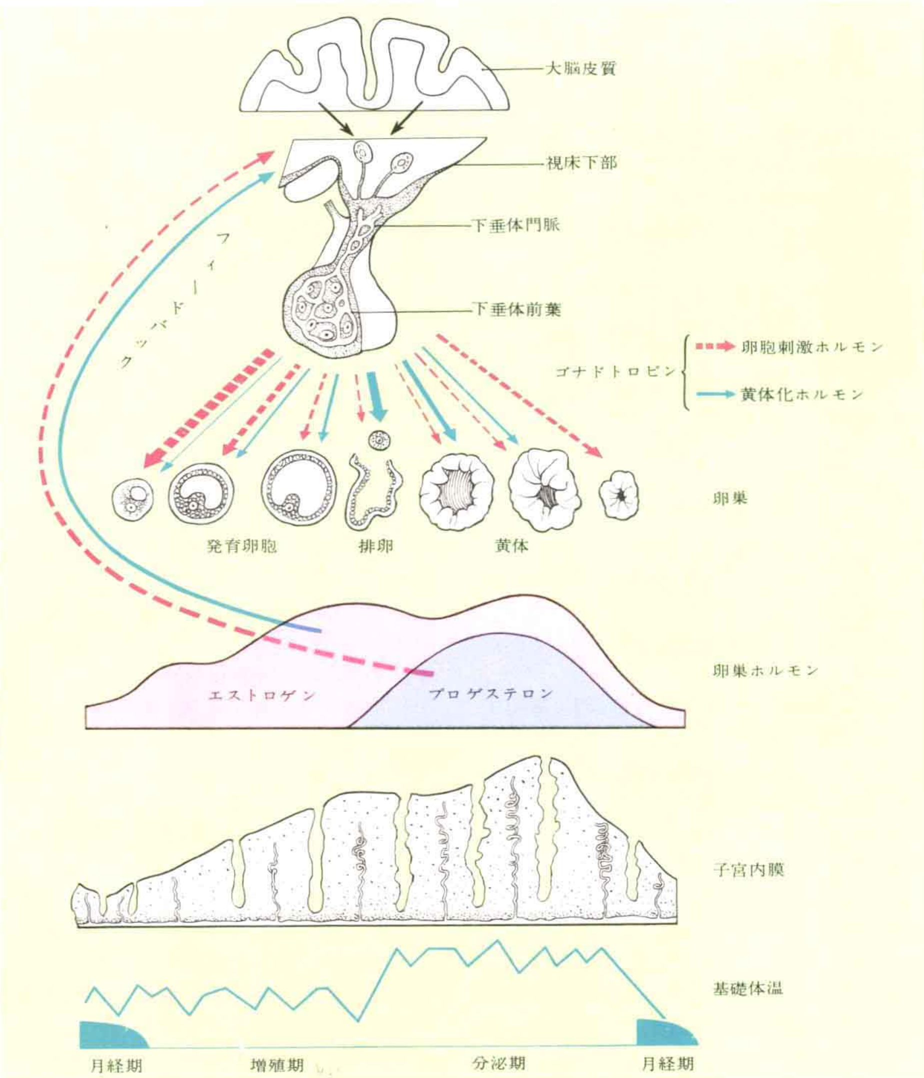
月経が起こるホルモン的機構は次のように考えられている。この機構に関与する器官は視床下部(脳の一部)・下垂体前葉・卵巣の三つである。月経周期の前半では，視床下部からの刺激をうけて下垂体前葉から卵胞刺激ホルモン(FSH)が分泌される。この作用で卵巣の卵胞は発育し，またエストロゲンも分泌される。エストロゲンは子宮内膜に働き，内膜は増殖して肥厚する(増殖期)。中間期になるとエストロゲンが視床下部に作用し，その結果下垂体前葉から黄体化ホルモン(LH)が多量に放出され，成熟卵胞が破れて排卵が起こる。排卵後の卵胞は黄体*となり，プロゲステロン・エストロゲンが分泌される。これらの作用によって子宮内膜の腺(せん)は大きく，かつ多くなり，粘液性分泌物が増し，内膜は妊卵の着床の準備状態に変わる(分泌期)。受胎しないと

黄体は退化し，プロゲステロン・エストロゲンは消失する。その結果，子宮内膜に特有ならせん状血管は収縮して組織の壊死(えし)が起こり，内膜は剝脱(はくだつ)し，これらが血液とともに子宮腔(しきゅうこう)内に排出される。これが月経である。この月経が周期的に規則正しくくり返されるためには視床下部・下垂体前葉・卵巣系が正常に働いていることが必要である。

月経中は心理的には不安で，精神的能力も減弱し，気分が悪く，能率が低下する。また，下腹部・腰部が重苦しい。これらの症状が強くなると月経困難症*とよばれる。また，月経前約10日くらいから体重増加・浮腫(ふしゅ)・全身違和・神経過敏・不眠・下腹部膨満感などの症状が出現し，月経開始とともに消失する異常状態を月経前緊張症*という。月経異常としては次のものがある。周期の異常として，①無月経：月経が発来する年齢になっても月経のないものを原発性無月経，それまで発来していた月経がある時期から閉止したものを続発性無月経という，②稀発(きはつ)月経：周期が36日以上のもの，③頻発(ひんぱつ)月経：周期が24日以内のもの，④無排卵月経：周期の長さは正常で，一見正常月経のようであるが，無排卵である非生理的周期，などがある。持続日数の異常として，過短月経(２日以内のもの)，過長月経(８日以上のもの)がある。また量の異常として過少月経・過多月経がある。これらの月経の異常は，視床下部・下垂体前葉・卵巣・子宮のうち，どの部位に障害があっても起こる。

月経をまったくの生理的現象として，月経時の摂生を軽視することはよくない。また月経時の生体を過度に異常なものとして病的取り扱いをすることも妥当でない。要は，性器局所および全身的諸変化の正しい認識に基づいて，摂生すべきである。全身的変化に対する摂生としては，身体および精神の安静を図ることがたいせつである。しかし，月経障害または出血のはなはだしいとき以外には就床する必要はない。局所の摂生としては，性器を清潔に保ち，無用な感染を予防することである。労働基準法第67条に〈使用者は生理日の就業が著しく困難な女子または生理に有害な業務に従事する女子が生理休暇を請求したときはそのものを就業させてはならない〉と規定して，月経時における女子労働者を保護している。この正当な運営には種々問題があるが，医学的には，生理休暇を真に必要とする者には積極的に治療を行ない，苦痛を最小にとどめる医学的管理がなされるべきであろう。

〔木川源則〕



月　経　性機能の周期変化。増殖期には卵胞刺激ホルモンにより卵胞が発育し，エストロゲンは増加して子宮内膜は肥厚する。排卵は基礎体温の低温相から高温相への移行期に行なわれる。分泌期には子宮粘膜は充血し腺組織も増殖する。プロゲステロンの増加は視床下部に影響して黄体化ホルモンの分泌を抑制し，黄体は退化して月経となる



ゲッケイジュ　雄花

げっけいかん　【月桂冠】　ゲッケイジュの枝葉を輪状に組み合わせた冠で，ギリシアのデルフォイ*のピティア競技会の優勝者に与えられた。ゲッケイジュはアポロンの聖木で，勝利と純潔を示し，体育のほか，詩・彫刻・音楽の優勝者にも与えられた。なお，オリンピック競技会の優勝者に対してはオリーブの葉の冠が与えられた。

げっけいこんなんしょう　【月経困難症】　ほぼ毎周期ごとに月経時に出現する不快症状で，そのため生活が著しく乱されたり仕事に支障をきたすようなものをいう。下腹痛あるいは腰痛などをはじめとする種々の不快症状がある。子宮内膜症・子宮筋腫(きんしゅ)などの器質性疾患を伴う器質性月経困難症と，器質性疾患の認められない機能性月経困難症とに分けられる。器質性のものには原因となる疾患の治療が，機能性のものには対症的療法が行なわれている。

〔木川源則〕

げっけいじゅ　【月桂樹】　双子葉植物・クスノキ科。ローレルともいう。地中海沿岸原産の常緑高木。日本には1905年(明治38)に渡来。高さ12mくらい，よく分枝し，小枝は緑色。葉は互生し，革質で深緑色の長楕円(ちょうだえん)形，葉縁は波を打つ。葉を傷つけると芳香がある。雌雄異株で，春に葉腋(ようえき)に黄色小花を密生する。果実は広楕円形で，10月ごろ黒紫色に熟する。葉は芳香性の揮発油である月桂油を含み，スパイスの一つとして香料やソースの原料に

用い，また料理の臭み抜きにもする。果実は健胃薬にされることがある。

げっけいしん【月経疹】月経前期から月経期にかけて発生する発疹。通常，月経期から月経後期にかけて消失する。しばしば小水疱(すいほう)が生ずる。その他紅斑(こうはん)・膨疹などが出現することもある。原因がはっきりしておらず，対症療法が行なわれている。

げっけいぜんきんちょうしょう【月経前緊張症】月経開始の10日前ぐらいから始まり，月経開始とともに，あるいは月経開始後まもなく消失する不快症状で，ほぼ毎周期ごとに出現し，そのためはなはだしく生活が乱される程度のものをいう。症状としては体重増加・浮腫(ふしゅ)・全身違和・神経過敏・不眠・下腹部膨満感・乳房痛などがある。また，消化器系や神経系の症状もしばしばみられる。症状に応じてそれを改善する治療を行なう。〔木川源則〕

けっけいもじ【楔形文字】⇨くさびがたもじ

けっこうかんせん【血行感染】体内において感染が広がる形式の一。体のある部分に菌が感染し，その菌が血流へ流れ込み，その結果，体の他の部分に転移病巣をつくる。腸チフス・急性結核症などが代表的な例である。➔感染

けつごうそしき【結合組織】結締組織・結合織ともいう。真皮・皮下，漿膜(しょうまく)や粘膜下，腱(けん)・筋膜，臓器の内部や臓器間など，全身の広い範囲に存在する組織。膠原(こうげん)繊維・弾性繊維・細網繊維のほか，種々の細胞がある。膠原繊維は煮ると膠(にかわ)もしくはゼラチンを生じる。弾性繊維は特に血管壁や肺などに多い。細網繊維は骨髄・脾臓(ひぞう)・リンパ節などの網状構造をつくり，造血にも関与する細網細胞とともに細網組織とよばれている。結合組織は単に支持結合という機械的な機能を果たすだけでなく，水分・電解質・栄養物の代謝調節の働きをするらしく，その役割が問いなおされている。なお近年，リウマチ*その他の結合組織病が注目されている。〔蟠井　勉〕

げっこうひょう【月行表】月は地球に最も近い天体で，天球上の位置の観測は昔から行なわれていたが，観測結果と一致する月の運動の理論式を導き出すことは非常にむずかしい問題であった。月の位置をかなり正確に予報できる理論式をはじめて求めたのは，デンマークの天文学者P.ハンセン(1795～1874)である。次いでアメリカ(イギリス生まれ)の天文学者E.W.ブラウン(1866～1938)は，約1,600個の三角級数で表わされ，角度の1,000分の1秒まで正しく計算できる理論式をつくった。彼は計算に便利な表を作成，1916年6巻に分けてエール大学から出版した。これを〈ブラウンの月行表〉といい，観測と非常によく合うので，1922年ごろから各国の天体暦のもととして採用された。しかし，1960年からはコンピューターを用いてブラウンの理論式から直接に計算している。〔木下　宙〕

けつごうほうそく【結合法則】⇨計算法則

ケッコーネン［Urho Kaleva Kekkonen］(1900～　) フィンランドの政治家。弁護士出身。農民党を組織し，1936年から国会議員となる。内相・法相を経て1950年に首相となり，1956年から大統領となった。ソ連と友好を保持しながら，1955年には国際連合に加盟し，1961年にはEFTA(ヨーロッパ自由貿易連合*)に参加して西欧陣営とも友好を図り，中立対策でフィンランドの再建に努めている。

けっこん【結婚】永続性のある夫婦関係の成立。通常，一組みの男女が物質的・精神的生活共同体を形成するということはきわめて私的な行為であるが，家族*を構成するという意味ですぐれて社会的行為となる。すなわち，家族は社会の最小の単位だからであるし，また既存の親族集団の中に組み込まれて血族的発展の契機となるからでもある。それゆえ，結婚という私的行為もその社会がもっている支配的家族制度*によって規制され，社会的承認を得る意味で一定の婚姻の儀式が行なわれる。血縁集団*の優越する社会においては，双方の親族*どうし，あるいは家*どうしの間での結縁という形をとる。第1次集団*の解体によって個人が優越する社会においては，社会的承認による慣習的規制よりもむしろ法的規制による保護と義務を位置づけようとする傾向を示す。歴史的に，あるいはそれぞれの社会によって結婚の形態に相違があるが，それを類型的に示せば次のようなものがあげられる。

夫婦の量的対比によって分類すれば，一夫一婦・一夫多妻・一妻多夫などの形態があり，配偶者の選択の範囲による分類では，自己の集団からのみ配偶者を選ぶ内婚制と，自己の集団から配偶者を選ぶのを禁止して他集団から選ぶ外婚制とがある。結婚した夫婦がどこに住むかによる区別としては，妻の実家あるいはその近くに住む母方居住(母居制)，夫の実家あるいはその近くに住む父方居住(父居制)，まったく新しい所に夫婦が独立する新設居住などがある。また家督相続*の点から，婿入り婚*(招婿婚または母処婚)と嫁入り婚*(娶嫁婚(しゅかこん)または父処婚)に類別される。夫婦は，結婚によって双方の親族体系の中に単位として新しく組み込まれるが，それはすでに存在するその血縁集団の地位と役割の体系に変更を生じさせ，その結果順応と緊張を生み出すこととなる。特に文化的生活様式が異なる場合，たとえば異なる宗教・人種・階級間の結縁が無意識のうちにせよ回避される傾向があるのは，適応の困難性を考慮するからである。まったく新しい新設居住であっても，親族体系への加入による順応と緊張は存在する。それゆえにこそ，血縁集団どうしの社会的承認の儀式を必要とする。結婚はまた，当事者の属する社会集団の経済的・政治的・社会的結合を媒介する役割を果たすので，比較的同等の階層または近接した階層間での結縁が行なわれる割合が高い。
➔婚姻　〔国近浩一〕

けっこんきねんび【結婚記念日】結婚式をあげた日を記念し，夫婦の健在を祝う儀式の日。19世紀の半ばごろのイギリスでは，5年(木)・15年(銅)・25年(銀)・50年(金)・60年(ダイヤモンド)の5回が記録されている(アメリカではダイヤモンド結婚記念日は75年め)。その後，1年(紙)・10年(スズ)・20年(陶器)・30年(真珠)などが加えられて12回になった。アメリカでは，宝石商などの宣伝もあって，その回数が著しく増加した。普通は銀婚式と金婚式が最もよく知られ，その名称にちなむ銀製品・金製品などの贈り物をして，盛大に祝われる。わが国では1894年(明治27)に明治天皇の〈大婚25年祝典〉が行なわれたのが最初といわれ，以来一般化してきた。〔中山和芳〕

けっこんけんさ【血痕検査】犯罪現場または事故現場にある種々の物体・凶器・着衣にみられる血痕または血痕類似の斑痕(はんこん)について検査すること。法医学的物体検査のうちで最も重要な検査で，また科学捜査法の第一歩であり，その結果が唯一の手がかりや証拠となることが多い。検査は次の順序で行なう。①斑痕付着の有無，②それが血痕であるかどうか，またその付着の形・状態(血球素・ヘマチン・ヘマトポルフィリンの証明)，③いかなる動物の血痕であるか，特に人血かどうか(血球素の抗原性には種属特異性と血液特異性が顕著なので，血球素沈降法による血清学的証明)，④血液型はなにか，⑤血液の出所の決定，⑥血痕の経過月数。

おもな検査方法は，②の場合はベンチジン試験・グアヤック試験・ルミノール法・マラカイト緑試験などによって血痕かどうかの予備試験を行ない，陽性のものについてはヘモグロモゲン結晶法・ヘミン結晶法・ヘマトポルフィリン法などを行なう。③の場合は顕微沈降反応・抗人ヘモグロビン沈降素血清反応・フィブリンプレート法などを行なう。④の場合は解離試験・型的二重結合反応・吸収試験など，生の血液とは異なる方法がある。また，着衣では着用者の分泌物・排泄物(はいせつぶつ)などによる汚染の影響を考慮し，必要に応じて出血量・出所(創傷部や月経血・喀血(かっけつ)・吐血・鼻出血などの区別)，血痕の古さなどの検査を行なう。〔朝倉　了〕

けっこんさぎ【結婚詐欺】結婚する意志もないのに結婚するものと誤信させ，相手方から結納金その他の金品または生活費

結婚式

















①神前結婚式　玉串捧奠　サカキの枝を神前にささげる
②仏前結婚式　寿珠授与　仏前の寿珠を，合掌した新郎・新婦の手にかけて与える道師
③家庭結婚式　立振舞　新婦方の親族に別れを告げる新婦
④祝辞を受ける新郎・新婦　台湾
⑤荘厳なふんい気をかもしだす教会結婚式　バルスガング教会　オーストリア
⑥式後の紙ふぶきの祝福を受ける新郎・新婦　ボリビア
⑦ヒンズー教の結婚式　インド
⑧上流家庭の結婚式　バリ島　インドネシア

などを交付させたり，財産上不法な利益を得ること。刑法上の詐欺罪*にあたれば10年以下の懲役。民法上でも，不法行為として損害賠償責任を負う(民法709条)。

けっこんしき　【結婚式】　結婚*に関する諸儀礼の一。諸儀礼には婚約式・結婚式・夫婦引見・披露宴(ひろうえん)があり，これらを祝言(しゅうげん)あるいは婚礼と称しているが，祝言も婚礼も儀礼の中心が結婚式にあるため，結婚式と同様に用いられている。

民法など婚姻*に関する厳格な法的規定のなかった当時の日本では，結婚式が社会的に承認された男女の夫婦関係の締結であり，そのため結婚当事者の親族だけでなく，村の諸組集団や若者組などが式の準備・執行・承認などの過程に参与していた。現在は役所へ婚姻届け*を出さなければ，結婚式をあげても社会的承認を得たことにはならず，婚姻届けさえ出せば式をあげる必然性はなくなっている。

結婚式とは夫婦関係締結の儀礼，夫婦の契りのしるしであり，数種類の方法がある。〈家庭結婚式〉日本で古くから行なわれてきた結婚式で，現在でも農山漁村に行なわれる。結婚式の場所は婚後の生活を開始する場所である。嫁入り婚の場合，婿方での祝言に先だち〈みたて〉〈立振舞(たちぶるまい)〉などと称し，嫁方の村人に嫁を披露する祝宴があり，婿方の親族が嫁迎えに嫁方へ行く。嫁はその後婿方の親族，嫁方の親族に付き添われ，行列をつくって婿方の式場へ行く。その際，嫁をウマの背に乗せたり，駕籠(かご)あるいは背負子(しょいこ)に乗せたりする地方が多かった。花嫁行列には若者組が介在する地方や酒宴ののちに食器を砕くなどのまじないを行なう地方もある。また，嫁が婿方の家の門口で行なう杯事は，〈のきばのさかずき〉〈かどさかずき〉〈むかえみず〉などとよばれて各地にみられ，杯事の相手は婿の母親，仲人*(なこうど)，婿の近親の女などである。また，嫁の婿家へのはいり方は，台所口やいろりのかどを回るなど，主婦の役割に関連した場所を通った。式場での杯事は，親族関係確認の重要な行事である。嫁方親族と婿との〈親類名のり〉，嫁と婿との〈夫婦杯(めおとさかずき)〉，嫁と婿の親との〈親子杯〉が丁重に行なわれる。その後，双方から祝言が述べられ，祝唄(いわいうた)が歌われ，宴会が催される。この宴会は夜を徹する地方が多く，共同飲食の場が夫婦の社会的承認の場であった。婿入り婚の場合も嫁入り婚と同様な手順があるが，嫁入りに比べて式は簡単である。婿入り婚では，儀礼の中心は嫁方の両親と義理の親子関係を締結することにあり，その儀礼も地方によってさまざまで一定しない。

農山漁村など家庭結婚式を行なう地方の結婚式の形態は，現在ではすこぶる都市の影響を受けており，嫁方での式もほとんど行なわれることなく，嫁迎えも形式的であ

る。嫁および嫁方の親族は自動車で婿方の家へ行き，嫁はそこで盛装して式場に至る。そのとき，仲人夫人は嫁を伴い，待女郎(まちじょろう)が婿のそばに嫁をすわらせる。元来は武家の儀式に行なわれていた〈三三九度の杯〉が婿と嫁の間でかわされ，仲人は《高砂(たかさご)》などのめでたい謡曲を歌い，祝言を述べる。その後記念撮影を行ない，披露宴に移る。そのとき，結婚当事者が紹介され，親類固めの杯が当事者の親族の間でかわされる。以前の丁重な杯事・送り迎え・祝事・祝唄に比べて，式は形式化・簡略化し，また従来の親子杯や親族・村人中心の儀礼から，夫婦杯，友人・知人中心の儀礼に変化している。

家庭結婚式が，地域社会ときわめて密接であったのに比べて，神前結婚式・仏前結婚式・教会結婚式・新式結婚式などは，結婚当事者中心の意向が強く反映して，当事者の友人・知人を多く招待して行なわれる結婚式であり，家庭結婚式にみられるみたて・嫁迎え・花嫁行列や門口での儀礼，村人・若者組の合力援助，嫁見せなどが欠落する。

《神前結婚式》 現在最も多く行なわれており，神官と介添え人の指導で参殿(奏楽)，修祓(しゅうふつ)の儀，祝詞(のりと)奏上，誓杯の儀，誓詞奏上，玉串捧奠(たまぐしほうてん)，二礼二拍手一礼，舞楽，親族杯の順に式が執行される。

《仏前結婚式》 参列者入堂，奏楽，新郎・新婦入堂，司婚者入堂，奏楽，敬白文(きょうびゃくもん)，寿珠(じゅず)授与，司婚の辞，焼香誓杯，奏楽，司婚者のあいさつ，合掌礼拝，司婚者退席，奏楽，一同退席，奏楽という式順で行なわれる。

《教会結婚式》 大きく分けてプロテスタントの式とカトリックの式とがある。原則として信者以外の者の挙式は認められなかったが，プロテスタント教会では信者か否かの規定はカトリックよりも厳格ではない。プロテスタントの式順は，ウエディングマーチの奏楽，新郎・新婦の入場，式辞，賛美歌，聖書朗読，祈禱(きとう)，誓約，祈禱，宣言，賛美歌，祈禱，奏楽，新郎・新婦退場となっている。カトリックによる場合は式次第がプロテスタントよりも厳格で，信者以外の者が教会で挙式することは原則として認められない。式順は，参列者入場，聖歌あるいはウエディングマーチの奏楽，新郎・証人の入場，新婦・介添え人の入場，結婚の祝別式，訓話，婚姻誓約，祝福，婚姻ミサ，聖祭，新郎・新婦の退場となり，そのあと別室で司祭・新郎・新婦・証人2人が誓約書に署名する。

《新式結婚式》 公民館結婚式ともいわれるように，式次第を宗教や司祭者にかかわりなく，公共施設を借りて簡単に挙式するのが特徴で，この形式による式がしだいに多くなりつつある。元来，日本では仏教・キリスト教・神道にかかわりなく結婚式が行なわれていたので，婚姻当事者の夫婦締結の社会的承認が行なえれば，挙式の場所の制約はそれほど必要としなかった。また，最近では式場が婚後の生活の場所であるという観念や原則が薄れたので，婚姻儀礼が機能分化し，婚姻当事者中心の儀礼となり，婚姻当事者の重視する社会関係が友人・知人に置かれているため，婚姻儀礼全体の変化に対応するものである。新式による式順は，参列者の会集，着席，地域の有力者，婚姻当事者の先輩などの司長入場，新郎・新婦の入場，仲人入場，婚姻届け署名，新郎・新婦の杯事，新郎・新婦の宣誓，参列者一同乾杯，写真撮影となるのが一般的である。新式結婚式は一定の慣習にのっとる必然性がなく，参列者や式執行者，あるいは婚姻当事者による式順のくふうや，奇抜なアイデアが盛り込まれることが多い。また，役所へ提出する婚姻届けへの署名を式執行の過程の中で行なうことなど，法律に適合した合理性をうかがうことができる。〔渡辺欣雄〕

けっこんじゅうごのよろこび 【結婚15のよろこび】 15世紀初めごろの，家庭・結婚を風刺したフランスの物語。作者不詳。ファブリオーや《バラ物語》《新百物語》とともに，後代フランス短編小説の一原型とされる。結婚につきまとう苦悩・悲惨・こっけいを具体的なエピソードのうちに描き出し，〈15のよろこび〉は実は〈15の苦しみ〉にほかならないと語る。

けっこんそうだんじょ 【結婚相談所】 結婚準備期および結婚生活に関する専門相談機関。結婚相談には大別して，①性生活に関するもの，②結婚生活における人間関係とその感情的次元の問題を扱うものの二つの流れがある。わが国では，1963年(昭和38)以後大都市を中心に，専門相談機関が10か所ほど設置された。相談にあたるカウンセラーの養成は，若干の専門相談機関および家庭裁判所で組織化されつつある。問題点は，①他のカウンセリングの場合と同様に，相談機関の設置そのものが経営上なりたちにくいこと，②現在の公私立の相談機関の終了時刻が多くは夕方5時であるところからその利用が容易でないこと，③専門カウンセラーの不足などである。また，現在の日本の結婚相談はほとんどが純粋な媒介機関であるところから，結婚前の心の準備，理解調整の相談といった類の結婚前のカウンセリングが相談所の進むべき方向として期待されている。〔広瀬卓爾〕

けっこんとどけ 【結婚届け】 ⇨婚姻届け

けっさい 【潔斎】 ⇨斎(いみ)

けっさん 【決算】 企業において1会計期間の終わりに資産・負債・資本によって財政状態を明らかにするために行なわれる手続き。仕訳によって記録・計算された企業におけるいっさいの取引を網羅(もうら)する元帳の勘定口座をそれぞれ整理し，費用・収益によってその期間中の経営成績を算定する。それはまた，各帳簿の締め切りによる当期と次期との記録・計算を明瞭(めいりょう)に区別する目的をも保持している。わが国の商法は毎年1回一定の時期に決算をなすべきことを規定している(商法33条)。決算の手続きは次のような順序で行なう。①決算予備手続き：試算表および棚卸表(たなおろしひょう)を作成し，整理を必要とする事項は決算整理記入を行なう，②決算本手続き：総勘定元帳の勘定口座の整理を行ない，費用・収益の諸勘定の残高を損益勘定に振り替えると同時に，純利益または純損失を計算し，その金額を資本金勘定に振り替えて，費用・収益および資産・負債・資本の諸勘定を締め切り，繰り越し試算を作成(英米式決算法)して仕訳帳を締め切る，③財務諸表の作成：損益計算書と貸借対照表を作成する。なお，決算締め切りには大陸式決算法と英米式決算法とがあり，前者は決算残高勘定を設け，いっさいの決算整理の記入は仕訳帳を通す方法であり，後者は決算残高勘定を設けないで元帳の中だけで行ない，仕訳帳を通さないのを原則とするが，損益計算の記入だけは仕訳帳を通す方法である。わが国では，大陸式決算法より英米式決算法が採用されている。〔山桝忠恕〕

国または地方公共団体において決算という場合には，毎会計年度の出納完結後，予算と収支実績とを対比して考査し，その結果作成された確定的計数を意味する。たとえば，国の決算は大蔵大臣によって作成されるが，その手続きはおよそ次のようになっている。まず，各省庁の長が歳入・歳出の決算報告書を作成して大蔵大臣に送付する。大蔵大臣はそれをもとに歳入・歳出決算をつくり，これを翌年度の11月30日までに会計検査院に送付する。会計検査院はこれを検査して検査報告書を作成し，さきの各種書類と合わせて通常国会に提出する。国会では両院の決算委員会が中心となって審議を行なう。決算についての国会の審議は，すでになされた収入・支出の効力を左右するものではなく，内閣の政治責任を問うためと解される。➔予算　〔西野義彦〕

けっしきそ 【血色素】 ⇨ヘモグロビン ⇨血液色素

けっしゃのじゆう 【結社の自由】 ⇨集会・結社の自由

けっしゅ 【血腫】 外傷や手術などで出血や小血管からの血液成分の逸脱が起こり，抵抗の少ない皮下組織や体腔(たいこう)などに血液や血漿(けっしょう)成分が貯留して腫瘤(しゅりゅう)を形成した状態。血腫の内容は自然に溶解して漸次吸収されるので，皮下組織に生じたものは放置しておいてもよいが，頭蓋(とうがい)内に生じたものは脳を圧迫して死に至ることがまれではない。また，動脈外傷のあとでは血腫の内腔が動脈内腔と直接に

交通していることがあり，拍動性血腫・動脈瘤を形成することがある。〔三島好雄〕

けっしょ【闕所】所領を没収すること，また領主の欠けた土地をいう。鎌倉時代・室町時代には，罪科によって幕府に没収された所領でまだ別人に賜わっていないところ。江戸時代には庶民の死罪・遠島・追放などに対する付加刑となり，最も重いものは田畑・家屋敷・家財の没収，次は田畑・家屋敷，軽いものでは田畑のみを没収された。なお大名や旗本(はたもと)などの所領没収は改易という。

けっしょう【血漿】血液から血球成分を除いた残りの液体成分で，血液の55％を占める。血液にクエン酸ナトリウムなどの凝固阻止剤を少量入れて遠心器にかけ，有形成分を沈殿させれば，上澄みとして得ることができる。正常人の循環血漿量は体重1kgにつきだいたい80mlである。血漿は黄みがかったほぼ中性の液体で，比重は1.030，8～9％の固形成分を含む。そのおもなものはタンパク質(血漿タンパク質)で，その他少量の炭水化物・脂質・非タンパク窒素分，および塩類などがあり，微量ながらビタミン・ホルモンなども含まれる。また，数々の血液凝固因子を含んでいる。血漿からフィブリンが除かれたものが血清である。
➔血液 〔三好和夫〕

けっしょう【結晶】固体物質を形成している原子・イオンあるいは分子が周期的規則性をもって配列しているとき，その物質を結晶質という。結晶質物質は，しばしば規則正しい多面体を示し，このような物質を結晶という。結晶は，構成原子・イオンの配列の規則性を反映した対称をもっている。

〔結晶の対称性〕結晶の物理的性質や形は，対称の要素に支配されている。結晶に現われる対称の要素は対称面・対称心・対称軸・回映軸であるが，これらの組み合わせによって32種類の組み合わせができる。すなわち，一つの結晶のもつ対称の組み合わせは，この32種類のどれか一つである。これを晶族という。32の晶族は6(または7)晶系に大別される。図中の等方状の結晶は立方(等軸)晶系に，その他のものは正方・六方・斜方・単斜・三斜などの晶系に属している。

〔結晶系・結晶軸〕結晶はある適当な条件で生成すると規則正しい多面体になる。この多面体の対称や種々の物理的性質は，晶系ごとに違った座標系をとると簡単に表わすことができる。この座標軸を結晶軸という。結晶軸は，軸の長さa, b, cおよび軸の角度α, β, γの六つによって決められる。

〔面角一定の法則〕2個体以上の同種結晶を比較すると，相対応する結晶面と結晶面の間の角度は，面の大きさ・形が異なっても一定である。これを面角一定の法則という。これは，結晶が外見上規則正しい形をしているだけでなく，内部構造にも一定の



結晶化ガラス 結晶化ガラスでつくった食器具

規則正しさをもっているからである。

〔結晶格子(こうし)〕結晶を構成する原子・イオンあるいは分子中の特別に選んだ点(同価点)を結ぶと，格子状の立体図形が得られる。これを結晶格子という。特に，合金でない純金属などにみられる簡単な結晶では，実際の結晶構造と結晶格子が同じようになることもある。結晶格子を対称の要素に従って幾何学的に分類すると14通りになる。これをブラベの空間格子という。

〔結晶構造〕結晶を構成する原子・イオンあるいは分子がどのように配列しているかをさして，結晶構造という。結晶構造には，純金属のように簡単なものから，高分子物質，特にタンパク質のような非常に複雑なものまで種々存在する。結晶構造を研究するときは，X線およびその他の粒子線の回折現象を利用する。結晶構造と結晶面の方向とは密接に関係がある。結晶構造中には，密に結合した原子を多数含む平面が種々の方向に存在し，これが結晶面の方向と一致する。また，原子が多数並んだ直線も種々の方向に存在し，この直線の方向が結晶の稜(りょう)の方向と一致する。

〔結晶構造と化学結合〕結晶内の原子は次のような性質の違った力で結合されている。①イオン結合：結晶を構成する原子が正負のイオンの形で存在し，互いに静電気力で安定に保たれている。このような結合をもった結晶をイオン結晶という。食塩の結晶はこの例である。②原子価結合：各原子がいわゆる共有結合によって結ばれているもので，硬度も高く，融点も非常に高い。ダイヤモンド・ケイ素・ゲルマニウムなどはこの例である。③金属結合：結晶中の原子は，正電荷をおびた金属イオンと，負電荷をおびた自由電子とからなっている。自由電子は結晶内を動き回り，このため電導性をもつ。金属はこの例である。④分子結合：主として有機化合物の結晶がこれに属し，結晶を構成する各分子はファン-デル-ワールス力(分子間力)によって結合している。4種類の化学結合中最も弱く，この結晶は硬度・融点ともに低い。

多くの鉱物の構成原子間の結合は，以上の純粋な型の中間の性質をもっている。たとえばケイ酸塩鉱物はイオン結合と共有結合との中間の性質，グラファイトなどは共有結合と金属結合の中間の性質をもっている。➔次ページ(図) 〔河原 昭〕

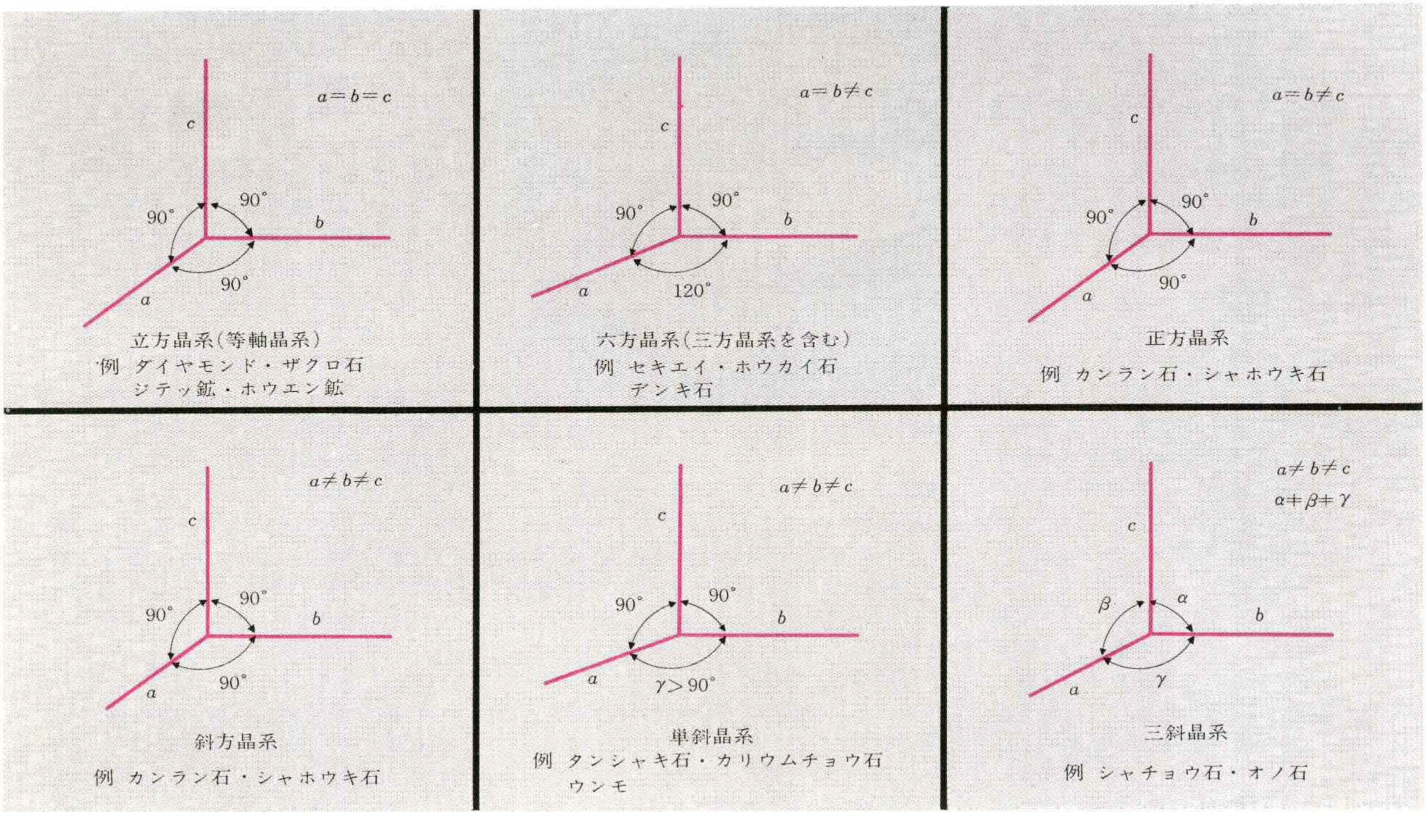
げっしょう【月照】(1813～1858) 江戸末期の尊王攘夷(じょうい)派の僧。忍介，のち忍向と称し，月照は号。京都清水寺成就院の住職。大阪の町医の家に生まれ，1827年(文政10)叔父(おじ)蔵海の室にはいって得度し，1835年(天保6)住職となる。加持・祈禱(きとう)に専念し，祈禱寺院の住職として公武と接触した。ペリー来航後の国情を憂え，住職を弟の信海に譲って国事に奔走し，梅田雲浜・頼三樹三郎(みきさぶろう)と結んで活躍した。西郷隆盛(たかもり)とともに，安政の大獄の危機をのがれて京都を脱出し，薩摩(さつま)(鹿児島県)にはいったが，隆盛の懸命の努力もむなしく藩にいれられず，隆盛とともに鹿児島湾に入水(じゅすい)。隆盛は助かったが，月照は絶命した。〔玉山成元〕

げっしょう【月性】(1817～1858) 江戸末期の西本願寺の僧。海防攘夷(じょうい)を主張した。字(あざな)は智円(ちえん)，号は清狂。周防(すおう)(山口県)の妙円寺に生まれ，15歳のとき九州におもむく。《西蕃紀伝(せいばんきでん)》を読んで，ポルトガルがキリスト教をもって他国を侵したことを知り，浄土真宗による海防護国を唱えて海防僧とよばれた。吉田(よしだ)松陰・梅田雲浜らと交わり，急進的な討幕を主張した。〈男児志を立てて……〉の詩は有名。その著《仏教護国論》は，没後本願寺の広如が刊行したものである。〔坂東性純〕

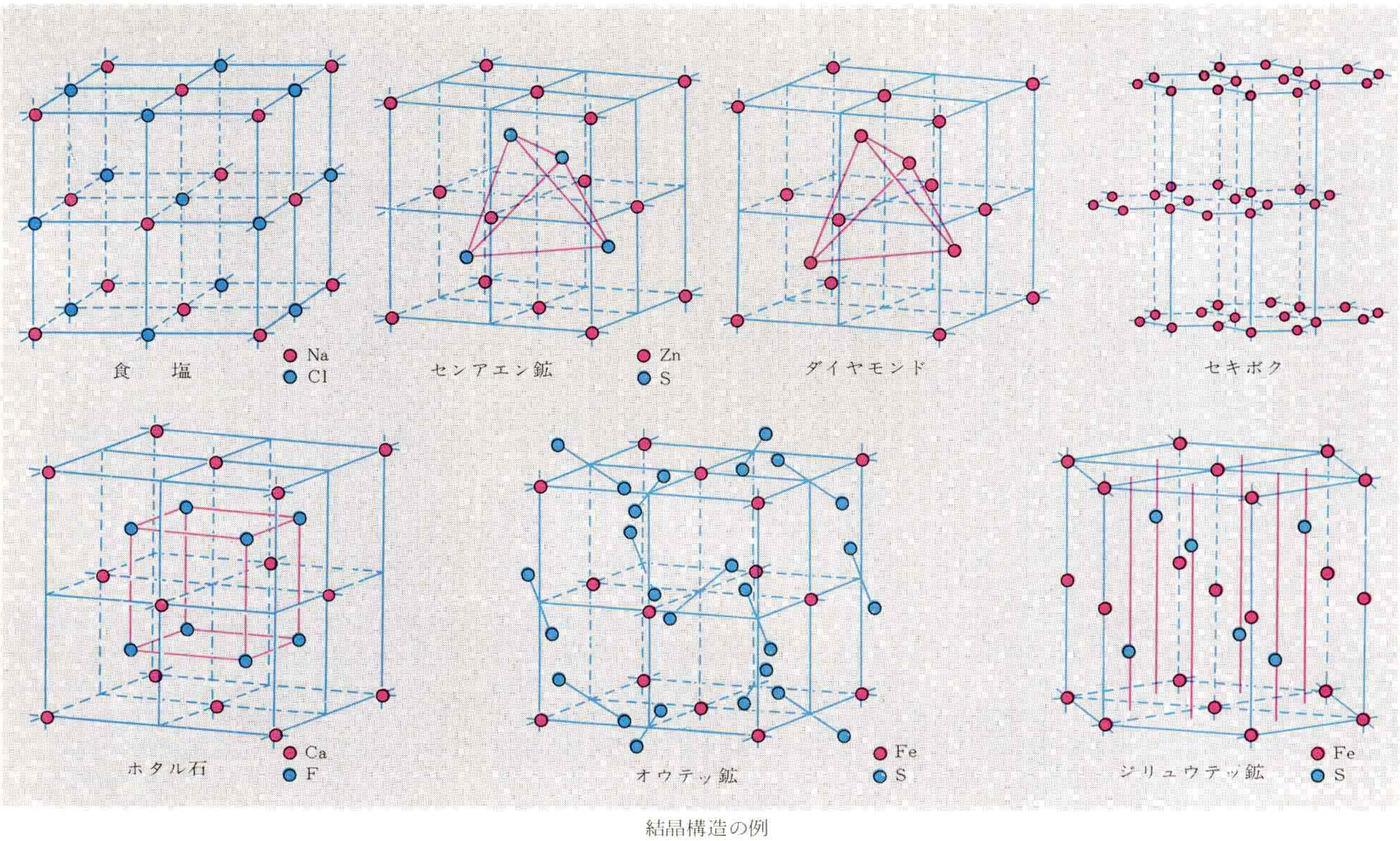
けっしょうかガラス【結晶化ガラス】一般に，酸化リチウム・酸化アルミニウム・二酸化ケイ素を主成分とする特殊組成のガラスで望みの形のものをつくり，その形をくずさずに，加熱処理によって全体を乳白色の微結晶の集合体に変えたもの。一見すると陶磁器のようであるが，機械的強度は陶磁器やもとのガラスよりはるかに大きく，熱膨張係数も0に近いから，耐熱性・強さの点できわめてすぐれている。透明なものもできる。1957年ごろアメリカで開発され，商品名をパイロセラムとよばれたが，現在では国産品もある。パーコレーター・すき焼きなべのようなじか火にかけられる食卓用器具に使用され，ロケットの先端部の材料などにも使われる。〔境野照雄〕

けっしょうじく【結晶軸】結晶面の位置を示すために，結晶内に想定された座標軸。立体的な物体の形を記載するには，互いに1点で交わる3本の直線を座標軸にすると最も便利であるように，結晶を記載するときにも，結晶の中心を通る3本または4本の直線を仮想して結晶面がこの直線を

結　晶



6種の結晶系における結晶軸の選び方



結晶構造の例

結晶系と結晶軸

	結晶軸 (a, b, c)	軸角 (α, β, γ)	軸率 ($a:1:c$)	実例
立方	$a=b=c$	$\alpha=\beta=\gamma=90°$	1:1:1	ザクロ石・オウテッ鉱
正方	$a=b\neq c$	$\alpha=\beta=\gamma=90°$	1:1:c	ジルコン・オウドウ鉱
六方	$a=b\neq c$	$\alpha=\beta=90°, \gamma=120°$	1:1:c	リョクチュウ石・セキエイ
斜方	$a\neq b\neq c$	$\alpha=\beta=\gamma=90°$	a:1:c	カンラン石・コウチュウ石
単斜	$a\neq b\neq c$	$\alpha=\gamma=90°, \beta\neq 90°$	a:1:c	クロウンモ・カクセン石
三斜	$a\neq b\neq c$	$\alpha\neq\beta\neq\gamma$	a:1:c	シャチョウ石・ランショウ石

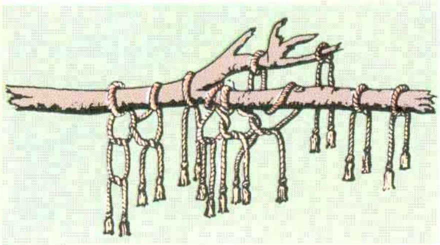
切り取る長さの比で結晶面を表わす。この直線が結晶軸である。結晶軸が3本のときは，前後(a軸)・左右(b軸)・上下(c軸)に置き，(+)(−)をつけて方向を区別する。4本のときには上下(c軸)，互いに120°で交わる3本の側軸(a_1, a_2, a_3)となる。➔晶系　〔加藤敏郎〕

けっしょうすい　【結晶水】　結晶中に含まれ，結晶構造形成に関係のある水。硫酸銅($CuSO_4 \cdot 5H_2O$)に含まれる水などは結晶水である。なお結晶中の水には，このほかに構造と直接関係のない吸着水が存在している。

けっしょうたんぱくしつ　【血漿蛋白質】　血漿のほぼ7％を占めるタンパク質で，主成分はアルブミン・グロブリンおよびフィブリノーゲンである。量的には，健康人でアルブミン4.0〜5.0g/dl，グロブリン2.0〜3.0g/dl，フィブリノーゲン0.2〜0.3g/dlである。アルブミンには膠浸圧(こうしんあつ)の保持，物質運搬の作用などがあり，グロブリンは体液免疫反応の主体で免疫グロブリンとよばれる。またフィブリノーゲンは血液凝固の第1因子である。血漿タンパク質は，近時，電気泳動法・免疫学的方法，またこの両者の組み合わせである免疫電気泳動法(この方法では正常血漿中に約30種類のタンパク質が同定される)などにより，容易にしかも詳細にとらえることができるようになり，正常時や諸種疾患時における知見が深められている。　〔三好和夫〕

けっしょうばん　【血小板】　血液有形成分の一つで，2〜4μぐらいの小円形物質である。セファリンに富み，出血に際して血管壁に粘着・凝集する機能をもち，また内部に血小板第3因子など少なくとも4種類の凝固因子をもっている。容易に破壊してフィブリン網の中心点となり，血液凝固に関与する。骨髄巨核球から産生され，正常人血中には1mm³中約20万〜30万存在し，血中寿命は約3〜5日とされる。血小板数が約10,000〜30,000以下に減少すると出血傾向を示す(本態性あるいは症候性血小板減少症)。血小板の質的異常としては，凝集異常である血小板無力症などの例が知られている。測定法は間接法としてフォニオ法，直接法としてリーズ-エッカー液を用いるものなどがある。➔血液　〔三好和夫〕

けっしょうへんがん　【結晶片岩】　片理が明瞭(めいりょう)で，造岩鉱物の結晶粒を肉眼で認めることができる程度に粗粒の変成岩。主として広域変成作用の産物で，たとえばディ岩質の岩石は，軽い変成度では粘板岩になるが，さらに変成度が進むにつれて千枚岩を経てウンモヘン岩になる。さらに高温高圧下でできた高度の変成岩では，ウンモヘン岩中にザクロ石・ランショウ石・ジュウジ石などの変斑晶(はんしょう)ができている。これらのウンモヘン岩は結晶片岩の代表的なものである。砂岩はセキエイ-アルバイト片岩になる。そして変成度が高くなると，セキエイとシャチョウ石およびカリチョウ石を含む結晶片岩となり，さらに高温高圧下では，片理が不明瞭となってグラニュライトになる。塩基性や中性の火山岩および凝灰岩類は緑色片岩とよばれる結晶片岩になる。また，これらによく伴うチャートは，種々のセキエイヘン岩になるが，その中には少量のコウレン石を含むために，美しい紅色のしまを呈するものがある。秩父長瀞(ちちぶながとろ)のコウレン石-セキエイヘン岩の露岩は，天然記念物に指定されている。一般に結晶片岩類は，水摩作用を受けると変化に富んだ外形を呈し，水石や庭石として観賞される。　〔片山信夫〕

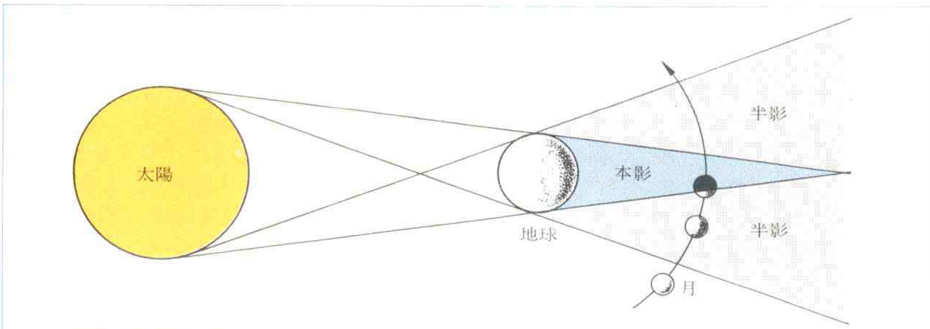


結縄文字

けつじょうもじ　【結縄文字】　なわの結び方などで事物の意味を表わす原始的な記録法。古代インカ族のキープは，なわやひもをいろいろの形に結び，結び目の数や配置，または色によっていろいろの意味を表示した。たとえば，黒い結びなわは死を，白は平和，赤は兵士または戦争，緑は穀物を意味し，また一重結びは十，二重結びは百，三重結びは千の位を示した。なお，アメリカ-インディアン(イロコイ族)は種々の貝殻(かいがら)をじゅず玉のように糸に通し，オーストラリア土人の間では棒に刻み目をつけて記憶の助けとしていた。〔庄司浅水〕

げっしょく　【月食】　太陽によって生ずる地球の本影の中に月がはいって，月面の全部または一部が隠される現象。すなわち月食は満月のときに起こる。しかし，地球の軌道と月の軌道は約5°9′傾いているので，満月のとき必ず月食が起こるとはかぎらない。月食が起こるためには日食のときと同様に，太陽が黄道と白道の交点あたりにきて満月にならなければならない。本影の半径は月の軌道上で月の直径の約2.6倍あるから，日食のときのような金環食は起こらない。日食では太陽は西側から欠けはじめるが，月食では月は東側から欠けはじめる。日食は地球上の限られた地域で短時間しか





月　食　1971年2月10日

見られないが，月食は月が地平線上に出ているかぎり広い地域で最大約3時間40分見られる。〔木下　宙〕

げっしるい【齧歯類】哺乳(ほにゅう)類・齧歯目の動物の俗称。哺乳類中で最も種類が多い。上下顎(がく)にある1対の門歯はのみ状で，エナメル質は前面にしかないが，無根で，終生伸び続ける。物をかむときは下顎を前後に動かす。犬歯はない。ニュージーランドを除く世界じゅうに広く分布するが，ニュージーランドにも人間とともにはいったため，現在では世界じゅうに分布するといってよい。次の3亜目に大別する。①リス亜目：ビーバー・リス・ポケットネズミ・トビウサギなど7科よりなる。②ネズミ亜目：キヌゲネズミ・ネズミ・ヤマネ・トビネズミなど9科よりなる。③ヤマアラシ亜目：ヤマアラシ・キノボリヤマアラシ・テンジクネズミ・カピバラ・パカ・チンチラなど16科よりなる。〔今泉吉典〕

けっせい【血清】血液を容器にとって放置すると，凝固して*血餅(けっぺい)となり，次いで上に黄色透明な液がたまる。この液を血清といい，*血漿(けっしょう)からフィブリンを除いたものである。正常人の血清総タンパク量は血液1 d*l*あたり7～8 gで，成分は電気泳動法によるとアルブミン58%，α_1－グロブリン4%，α_2－グロブリン8%，β－グロブリン12%，γ－グロブリン18%前後である。しかし，グラバールらの考案になる免疫電気泳動法では血清タンパク質は約30種のタンパク質に区別される。すなわち，アルブミン，各種免疫グロブリン(Ig) IgG，IgA，IgM(電気泳動法によるγ－グロブリンに相当する)のほか，トランスフェリン・セルロプラスミンなどの金属タンパク質，各種の脂質タンパク質，糖タンパク質などである。アルブミンには血液膠浸圧(こうしんあつ)保持やアミノ酸補給の栄養源的意味があり，医療用にも使用される。成人血清γ－グロブリン中には20種近い各種抗体が含まれており，麻疹(ましん)・百日ぜき・小児麻痺(まひ)などの予防や治療に免疫血清として用いられる。また，感染症などにかかったときには特別の抗体がふえる。そのほか，*抗原抗体反応に必要な補体や，血液型に関係する赤血球同種凝集素もこのグロブリンに属する。なお，血清中にはほかに脂肪・類脂体・糖質・ビタミン・ホルモン・酵素など数々の有機および無機の物質が含まれており，中にはタンパク質と結合した状態で存在するものもある。血清中のこれら成分はタンパク質を含めて，各種の疾患で特異な変動を示す。なお，別に血清型が知られており，おもなものとしてHp(ハプトグロビン)式・Gm式などの分類法がある。〔三好和夫〕

けつぜいいっき【血税一揆】徴兵反対一揆ともいう。1873年(明治6)*徴兵令実施に反対して起こった農民の*一揆。徴兵令は官吏・戸主などが兵役を免除されるなど封建的色彩が濃かった。太政官(だじょうかん)徴兵告諭文に〈生血を以(もっ)て国に報ず〉とあるところから，生血を取られるとの流言が飛び，一揆は主として凶作・物価騰貴の著しかった中国・四国・九州など西日本一帯に起こった。これらの一揆は単に徴兵制度反対のほかに義務教育・地租*改正などの反対，また年貢(ねんぐ)減免，物価の引き下げなどの要求と結合しているものが多かった。このような農民騒動は1877年ごろまで多数発生したが，政府は旧武士の臨時傭兵(ようへい)などにより鎮圧した。〔千野境子〕

けっせいかんえん【血清肝炎】輸血・注射などを行なった場合，血液中あるいは注射器具などに付着していたB型肝炎ウィルスが，体内に注入されることによってひき起こされる感染症。感染時から50～150日後に，軽い食思不振，吐き気，全身倦怠(けんたい)などを自覚することもあるが，一般には自覚症を欠き，*黄疸(おうだん)の発生によってはじめて発病が認められることが多い。この時期には，黄疸のほか，かゆみや全身倦怠感・食思不振などを訴える。*肝臓は炎症によって著明に腫大(しゅだい)し，圧痛が感じられる。また，かなりの例では*脾臓(ひぞう)も腫大が認められる。しかし，肝臓の機能はそれほど冒されない場合が多い。

これらの症状は，安静臥床(がしょう)，ブドウ糖・強肝剤・ビタミン剤の投与によって，比較的短月日の中に改善される。しかし，黄疸の消失にはかなりの日月を必要とする。また，重症例では副腎(ふくじん)皮質ホルモンの投与も併用される。〔佐藤恒久〕

けっせいそ【血青素】⇨ヘモシアニン

けっせいちゅうしゃ【血清注射】治療や予防のために*血清を注射することで，皮下・筋肉内・静脈内などに行なう。血清は，他人の血清，動物血清などが用いられる。➔次項　➔血清療法

けっせいびょう【血清病】動物血清(正常または免疫血清)注射のときに，過敏反応として現われる病気。注射量が多いほど顕著である。また，静脈内注射の方が皮下注射より，馬血清の方が牛血清より反応が顕著。これは注射された血清に対する抗体が体内でつくられ，*抗原抗体反応を起こすためである。現在は血清が精製されているので以前よりも少ない。初回注射では，数時間～21日(多くは7日前後)後に発熱・頭痛・全身倦怠(けんたい)とともに発疹(はっしん)(血清疹といい，多くは蕁麻疹(じんましん)様で瘙痒(そうよう)強く，注射部位にはじまり全身に広がる)と好酸球増多が必発で，ときにリンパ節腫脹(しゅちょう)・脾腫(ひしゅ)，筋ないし関節痛も現われるが，多くは3～4日で自然に消失する。再注射の場合は，前回注射との間隔によって発現時間が異なる。すなわち，7日以内のときは特別の症状は出現せず，10日以後3～6か月後に再注射したときは24時間以内に上記と同様の症状が現われる(即時型という)。3～6か月以上後に再注射したときは3～5日たって症状が出現する(促進型という)。このほか初回注射・再注射を問わず注射直後ないし30分以内に，呼吸困難・冷や汗・チアノーゼ・血圧低下・虚脱・意識消失が出現し，死亡することがある(アナフィラキシー反応)。もちろん適切な治療を早期に行なえば助かることが多く，初回注射でこの反応を起こすのは先天的な過敏症の人である。いずれにしても，これらの予防としては前もって脱感作の施行や過敏症の検査を行なっておく。➔次項〔大橋辰哉〕

けっせいりょうほう【血清療法】高度に免疫された多量の抗体を含む免疫血清を注射して，感染症を治療すること。毒素による感染症には抗毒素血清，細菌によるものには抗菌血清，ウイルスによるものには抗ウイルス血清がそれぞれ対応する。抗毒素血清はジフテリア・破傷風・ガス壊疽(えそ)・毒蛇(どくじゃ)咬傷(こうしょう)などに，抗菌血清は肺炎双球菌・炭疽菌・淋(りん)菌・チフス菌・赤痢菌・ペスト菌・百日咳(ひゃくにちぜき)菌などの感染に用いられる。これらの抗毒素・抗菌血清はウマ・ウシ・ウサギ・ヤギなどからつくる。抗ウイルス血清は麻疹(ましん)・風疹・痘瘡(とうそう)などに用いるが，同じ病気にかかって回復しかかっている人の血清や，また麻疹では成人の血清を用いる。一般的に血清療法は受動免疫のため速効性であるが，慢性の病気には無効である。また，早期に投与しないと無効のことが多い。抗生物質などによる化学療法とともに，原因療法の一つともいえるが，実際面ではむしろ治療的より予防的意味をもつことが多い。欠点は，動物血清を用いるときは*血清病などを起こすことである。最近は，γ－グロブリン注射などのように有効部分のみを用いようとする考えがある。〔大橋辰哉〕

けっせき【血石】ブラッドストーン。濃緑色の玉*髄中に赤い斑点(はんてん)が点々と含まれているもの。カフスボタンなどに使用される。インドのデカン高原が主産地。

けっせき【結石】なんらかの原因でからだの一部に形成される石状物。生じた臓器によって*歯石・*唾石(だせき)(唾液腺(だえきせん))，*胆石(胆嚢(たんのう)・胆管)，*尿石(腎臓(じんぞう)・尿管・膀胱(ぼうこう)・尿道)，*膵石(すいせき)(膵臓)，糞石(ふんせき)，臍石(さいせき)などとよばれる。これらのうち最も重要なのは胆石と尿石で，いずれもその主成分となる物質がなんらかの機転によってとけえない状態となり，析出されて形成される。

けっせつ【結節】周囲から比較的はっきりと区別される肥厚部で，皮膚病変の一。エンドウの種子ほどの大きさのものをいう。結節性*紅斑(こうはん)・結節性動脈周囲*炎などによるものがある。

けっせつせいこうはん【結節性紅斑】

主として思春期前後の女子の下腿(かたい)にエンドウ大ないし鶏卵大の軽く高まった紅斑を生じる皮膚病。押すとかたくて痛み，しばしば関節痛や発熱を伴う。数日から数週間で徐々に小さくなるとともに，色調も鮮紅色からしだいに暗色・紫かっ色となり消失する。化膿(かのう)して破れるようなことはほとんどない。原因として細菌アレルギーなどが考えられ，むし歯や扁桃腺(へんとうせん)炎があればその治療を行ない，安静にして消炎剤や血行をよくする薬剤を用いる。〔田嶋公子〕

けっせつせいどうみゃくしゅういえん【結節性動脈周囲炎】 血管，特に小動脈の壁およびその周囲に結節を伴う炎症を起こす病気。膠原病(こうげんびょう)に属する。原因は不明であるが，感染アレルギーや薬剤アレルギーと考えられる場合もある。発熱・関節痛・筋肉痛・多発性神経炎・腎炎(じんえん)・高血圧・心障害・胃腸障害・血沈促進・白血球増多など多彩な全身症状を伴う。皮膚には丘疹(きゅうしん)・紅斑(こうはん)・結節・紫斑などを生ずる。診断の確定には皮膚や腎臓の生検を必要とすることが多い。皮膚科または内科医の診療が必要である。〔田嶋公子〕

ゲッセマネ［Gethsemane］ ヘブライ語で〈油しぼり〉の意。エルサレム東方にあり，そのオリーブの樹園はイエス-キリストが好んで訪れた所。最後の祈りの場であり，ユダの裏切りによって捕えられた場でもある。

けっせん【血栓】 血管中を流れている血液が血管内で固まってかたまりとなったもの。原因としては，①血管内面の損傷，②血流の緩徐，③血液の変化などがある。動脈でも静脈でもでき，大きくなれば血管内を完全にふさいでしまい，その結果血流はその血栓より先へ流れていかなくなる。このために起こる病気を総称して血栓症といい，代表的なものに脳血栓症・心筋梗塞(こうそく)症がある。血栓は時期がたつと組織に包み込まれてかたくなり(器質化)，ときには石灰沈着がみられることもある。〔大橋辰哉〕

けっせんとうひょう【決選投票】 ⇨選挙

けつぞく【血族】 血のつながりを意識している者どうし，およびそのように法的に定められた者どうしをいい，前者を自然血族，後者を法定血族という。民法上定められた自然血族は6親等内までをいう。法定血族の代表的なものは養親子関係である。

けったん【血痰】 少量の血液を混じた喀痰(かくたん)。せきとともに喀出されること，血液が鮮紅色であることの2点で，消化管からの出血(吐血)と区別できる。肺結核・肺癌(はいがん)・気管支拡張症などの肺疾患では，小血管が気管支腔内(こうない)に破れて出ることが多い。また，肺炎・僧帽弁膜症では，血液が肺胞腔内にしみ出ることによって起こる。その他，激しいせきのために気管・気管支粘膜の損傷をきたして出ることもある。なお，大量の血液の喀出は喀血という。〔白石　透〕

けっちょう【結腸】 大腸のうち盲腸・直腸を除いた主体。初部は盲腸に，下端部は直腸につながる。結腸は上行結腸・横行結腸・下行結腸・S状結腸に区分される。このうち上行結腸および下行結腸は後腹壁に癒着(ゆちゃく)しているが，他は結腸間膜という膜状のものでつながっている。小腸との肉眼上での差異は，内腔(ないこう)が広いこと，縦走筋が3条に集約されてできた結腸紐(じゅう)および結腸膨起があることである。また，小腸の内容は液状・かゆ状であるのに反し，結腸では水分の吸収が行なわれて濃縮し，糞(ふん)を形成する。粘膜には粘液細胞が特に多く，糞の輸送を円滑にしている。大腸全般にわたって蠕動(ぜんどう)と分節運動がみられるが，摂食後には胃結腸反射といって，横行結腸以下S状結腸にわたって急激な蠕動が起こることが知られている。〔幡井　勉〕

げっちょうせき【月長石】 ⇨ムーンストーン

けっちん【血沈】 ⇨赤血球沈降速度

ゲッチンゲン［Göttingen］ 西ドイツの東部，ニーダーザクセン州にある学術都市。人口11万9,000(1973)。1737年創設のゲッチンゲン大学はドイツ学術の一中心である。産業は精密機械・電気器具・紡績・レンズ・楽器・ビールなどの工業がある。10世紀に興り，13世紀にはハンザ同盟に加わって商業都市として栄えた。

ゲッチンゲンしちきょうじゅじけん【ゲッチンゲン七教授事件】 1837年，ドイツのゲッチンゲン大学の7人の教授が，憲法改革に反対する抗議文を発し，王によって罷免された事件。七月革命の影響下に制定されていた自由主義的憲法をハノーバー王が無効と宣言したのに対し，歴史学者ダールマン・言語学者グリム兄弟らが反対したもので，メッテルニヒの抑圧にかかわらず発展し，ドイツ自由主義の前進を象徴する事件。〔松　俊夫〕

ゲッチンゲンせんげん【ゲッチンゲン宣言】 1957年4月12日，西ドイツの原子力科学者18人がゲッチンゲンで発した原子力平和利用の宣言。18人の中には4人のノーベル賞受賞者も含まれており，各国の科学者がこれを支持した。原子力兵器の製造・実験に参加しないこと，原子力の平和利用に協力することなどを宣言している。

ゲッチンゲンだいがく【ゲッチンゲン大学】 西ドイツのゲッチンゲンにある大学。1737年ゲオルク-オーガスト(のちイギリス王ジョージ2世)によって設立され，哲学の研究で名高く，また〈ゲッチンゲン七教授事件〉は有名。アメリカのエマーソン・ロングフェローらはここに学んだ。ハイネらによる新人文主義でも知られ，ドイツ最古の言語学研究所をもつ。現在，理・農・林・医・神・法・哲・経済の各学部がある。

ゲッツ［Stan Getz］(1927～　) アメリカのジャズ-テナーサックス奏者。ペンシルベニア州の出身。15歳からバンド生活にはいり，ケントンやグッドマンの楽団を経て1947年ウディ-ハーマン楽団に加わり，名をなした。ハーマン楽団による《初秋》や《サマー-シークエンス》では透明なトーンとクールなサウンドで評判となり，クール-ジャズの創始者のひとりとよばれる。1950年にはいると自分のコンボを結成して活躍。1962年にLP〈ジャズ-サンバ〉を吹き込み，ボサノバ-ブームに火をつけた。代表的レコードに〈クールの探求〉がある。〔岩浪洋三〕

けっていそしき【結締組織】 ⇨結合組織

けっていろん【決定論】 あらゆるできごとが，先行する諸原因によって完全に決定されているとする考え方。自然科学では，世界のあらゆる変化がある種の首尾一貫した因果相関性に支配されているとし，さらに倫理学では，人間の心の諸体験や意志行為のいっさいが必然的な因果相関性に支配されているとする。神学では，人間的意志や行為は徹頭徹尾神によって生ぜしめられ，決定されているとする。どの立場もいわゆる宿命論となり，この考えに立てば意志的行為はなく，しかも，アダムとイブの犯した罪は全知全能の神の配慮によるとされるため，原罪も否定される。〔豊福英利〕

けってき【闕腋】 そでつけから下のわきを縫わない衣服をいい，束帯姿の下着である。闕腋袍(けってきほう)ともいい，すそに襴(らん)という横裂(よこぎれ)をつけないのが特色。通常は後ろ身が身のたけ以上に仕立ててあり，六位以下のものは纔著(さいじゃく)といわれ，後ろ身は身のたけとなっていた。冬は闕腋の表を白色に，裏は古くは濃蘇芳(のうすおう)で江戸時代になると黒色になった。夏には公家(くげ)は蘇芳，殿上人は二藍(ふたあい)であった。〔河鰭実英〕

ゲットー［Ghetto］ ユダヤ人が強制的に集団居住させられた都市区画。1179年の第3回ラテラン公会議で，ユダヤ人とキリスト教徒との混在を禁止したことに始まるが，厳格に実施されるようになったのは16世紀の反宗教改革以後である。のちにはユダヤ人の自発的な集団居住地域もゲットーとよばれたが，中世のゲットーはその内部で自治を営んでいたとはいえ，周囲を城壁で囲まれ，狭い地域に過剰な人口が住み，外界との自由な交流が遮断(しゃだん)されていた。フランス革命のころからユダヤ人の解放が進むにつれて，この制度は崩壊に向かったが，東ヨーロッパでは20世紀まで続いた。なお，ナチス支配下に設けられたゲットーは，ユダヤ人虐殺のための強制収容所

として有名である。　〔桜木　庚〕

けっとう【血糖】 血液中に含まれるブドウ糖をいう。血糖量は，動物の種類および大小を問わずおよそ一定し，空腹時における値は約0.1%である。人間の全血（血液全体）については，空腹時平均0.09%で，もしこれが0.06%以下または0.12%以上であるときは病的となる。健康者でも食物摂取や精神感動・運動などによって多少は動揺するが，その変化は微細で，かつ一時的である。このように血糖量が一定不変の値を保っているのは，糖を支配する神経の調節作用によるもので，これを糖中枢という。糖中枢は，食物の摂取などで血糖量がふえると下げる働きをし，減少すると増加せしめる働きをもっている。　〔平野修助〕

けっとう【決闘】 あらかじめ定められた規則に基づいて，互いに合意した2人が，立会人のもとに同じ武器で闘争すること。具体的形態は民族や時代・地域によって異なっている。歴史的には大きく2種類に区分できる。一つは，裁判における立証手段としての決闘で，はじめゲルマン社会で行なわれていた形式に由来し，10～12世紀に全ヨーロッパに広まったものとされている。これは神裁の一種で，神は裁判の正当性を決闘の勝者に与えるとされた。しかし，無実の者が敗れるなどの弊害も起こり，13～14世紀にたびたび禁止令が出て衰えた。他の一つは，15世紀以降特に貴族の間に流行した形態で，名誉毀損(きそん)をめぐって行なわれた。一般に決闘用の武器は剣かピストルで，挑戦(ちょうせん)の方法としては片方の手袋を相手に投げつけ，相手がそれを拾えば挑戦に応じたものとみなされた。この名誉のための決闘も，個人的暴力として近代国家では禁止されていき，18世紀には衰退した。アメリカ西部開拓時代の決闘もこの影響を受けている。　〔桜木　庚〕

げっとう【月桃】 単子葉植物・ショウガ科の多年草。九州南部から沖縄・台湾・中国・インドシナ・インドに分布する。林内に自生し，高さ1～3mになり，カンナ*に似た草状を示す。茎頂に下垂する花序をつけ，白色で紅条のある花を総状につける。萼片(がくへん)は舟形で，縁はぎざぎざで黄と紅の筋がある。全体に香気がある。果実は広楕円(だえん)形で赤熟する。民間で種子を健胃剤とすることがある。この種を含むアルピニア属には，ほかにアオノクマタケラン・ハナミョウガ・フイリゲットウなどがある。栽培が容易で，暖地では露地植えにできる。観賞用とされ，切り花にも利用される。　〔横井朝子〕

けっとうとうろく【血統登録】 家畜の血統（ある個体の祖先から父母までの血縁関係）を明らかにするために，登録協会などの公共団体が血統を記録しておくこと。繁殖によって次代の家畜の生産力の向上を期待しうるようなよい遺伝的素質を確実にもっている繁殖用家畜を特に種畜というが，そのような家畜を選び出す（選抜）ための手段として，古くから能力・外貌(がいぼう)の審査とともに行なわれてきた。人の系図・戸籍に相当し，ウマでは競走馬のサラブレッドについて1791年から，ウシでは肉牛のショートホーンについて1822年から行なわれている。日本では，現在，乳牛・ブタ・和牛・メンヨウ・ヤギ・ウマについての血統登録が行なわれており，この登録をされたもののうち能力・外貌の審査の得点の高いものは特に高等登録をされる。家畜を血統登録するためには，個体を確実に識別することが必要であるが，その方法は家畜によって異なり，乳牛のホルスタインでは白黒の毛色による斑紋(はんもん)を，ブタ・メンヨウは耳につけた印（耳標）を，乳牛のジャージーとヤギでは耳に行なった入れ墨を用い，和牛では鼻紋（ウシの鼻にある人の指紋のような個体によって異なる模様）を採取して，個体識別が行なわれる。〔森田琢磨〕



ゲットウ　フイリゲットウ

【イヌの血統登録】イヌの近代的な血統登録は，1860年ごろからヨーロッパで盛んに行なわれるようになったが，犬種の純粋性の保持と能力および外貌の改良固定に果たした功績はすこぶる大きい。現在わが国ではイヌの血統登録に関する法律的な規制がないため，各種のイヌの団体がそれぞれ行なっている。そのため，登録を行なうにはまず自己の飼育する犬種のクラブまたは協会に入会して，そのメンバーにならなければ資格が得られない。

イヌの登録は，生後2～3か月の子イヌについて繁殖者が行なうのが普通で，登録には現存する1胎仔(たいし)を一括して登録する1胎仔登録と，1頭ずつ個々に登録する単独犬登録の2種がある。後者はイヌを輸入したときや，なんらかの理由によって1胎仔登録をしなかった場合に限られ，前者が一般的である。

また，登録の必要条件として，両親犬が所属団体の既登録犬であること，種雄犬の交配証明書を所持すること，繁殖者の犬舎号（人の名字に該当するケンネル-ネーム）が登録されていること，個々の子イヌに名まえを付することなどがあげられている。　〔大野淳一〕

けつにょう【血尿】 尿中に赤血球が認められるもの。肉眼的に認めうる場合（尿1*l*に1ml以上の血液があるとき）と，顕微鏡検査によってはじめて発見されるものとがある。腎(じん)糸球体からの漏出によるものは，腎炎の診断と経過の観察に最も重要である。そのほか腎・尿管・膀胱(ぼうこう)・尿道の炎症，腫瘍(しゅよう)・結石なども原因となるが特に腎梗塞(こうそく)・膠原(こうげん)病・腎腫瘍・腎結核などの発見の手がかりとなることがある。また，出血性素因が原因となることもある。　〔清水直容〕

けっぱん【血判】 起請文*(きしょうもん)や願文*・契状などの差し出し者が，誠意を強く表現するために，花押*の上に自分の指を突いて出た血を押したもの。初見は南北朝初期の1342年（興国3・康永1），菊池氏一族の連署起請文で，以後戦国時代に盛んに行なわれた。

げっぷ おくび・噯気(あいき)ともいう。食べすぎあるいは清涼飲料水を飲んだあとなどに，胃内からガスが食道を通って口腔(こうこう)へ上昇し，排出される現象。げっぷとともに酸味をもつ液が逆流してくるものを酸性おくびという。げっぷは各種の胃疾患・胃神経症などの一症状として現われるが，悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・胸焼け・上腹部痛などの症状を伴うことも多く，本症状だけでは鑑別診断上の意義は少ない。

げっぷはんばい【月賦販売】 ⇨割賦販売

けっぺい【血餅】 血液が凝固するときに生じる凝血塊で，析出したフィブリン網が血液の有形成分を包んだものである。血餅は時間の経過とともに退縮し，血清*を分離する。血餅退縮はおもに血小板*中にある物質によるものと考えられている。したがって血小板数が少なかったり，機能異常のあるときには，血餅退縮が悪い。血餅は続いて血中の繊維素溶解酵素プラスミンによってきわめて徐々に溶解されるが，プラスミンの異常増加があるときには崩壊が速い。　〔三好和夫〕

ゲッベルス［Joseph Paul Goebbels］（1897～1945） ドイツの政治家。1924年ナチス*党系の運動に加わり，ベルリンで活躍。ヒトラー*の片腕となり，宣伝相として巧妙なデマゴギーで報道や芸術を統制し，ナチスの宣伝に努めた。ユダヤ人迫害の最高指導者でもあった。最後までヒトラーに協力し，ベルリン陥落の直前に自殺した。

ケッヘルばんごう【ケッヘル番号】 ドイツの音楽学者ケッヘル（1800～1877）は，モーツァルトの作品を検討して年代別に主題目録を編纂(へんさん)したが，このときつくられた番号がモーツァルトの作品の識別に使用され，ケッヘル番号といわれている。

学問的裏付けをもつ主題目録の最初のものであり，1862年の初版以来多くの学者の手によって改訂され，現在では6版に至っている。

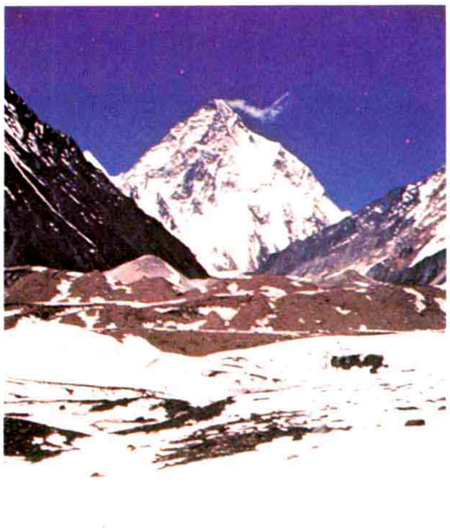
けつべん　【血便】　黒色調のタール様便や，赤色調の新鮮な血液混在を認める糞便(ふんべん)。タール様便は上部消化管出血，新鮮血混入は直腸・肛門(こうもん)などの下部よりの出血を意味する。血液が微量にしか存在しない場合には色調に変化はなく，化学的検査によって証明される。化学的検査としては，フェノールフタレン反応・オルトトルイジン反応・ベンチジン反応がある。これらはきわめて鋭敏であるが，痕跡(こんせき)的に存在する生理的な血液に対しても弱陽性を呈することがあるので，鋭敏さではやや劣るがグアヤック反応を併用し，この反応でも潜血反応が陽性ならば，病的と判定する。　〔後藤義隆〕

ケッペン　［Wladimir Köppen］（1846～1940）　ドイツの気象・気候学者。ロシアのペテルブルグ(現レニングラード)生まれ。ハイデルベルク大学・ライプチヒ大学で植物学を学んだが，その後気象学の研究に転向。1872年ペテルブルグの中央物理観測所に，1875～1918年にはハンブルクのドイツ海洋気象台に勤めた。その著《世界の気候》(1923)中で試みた植物分布を考慮した気候の分類は，今日でも広く用いられている。気象学雑誌を主宰し，気象・気候学の広汎(こうはん)な分野に業績をあげた。〔野間三郎〕

ケーツーーほう　【K_2峰】　西パキスタン北東部，カシミールと中国の新疆(しんきょう)ウイグル自治区との国境にある山。ゴドウィン-オースチン，ダプサンともいう。カラコルム山脈の最高峰で高度8,611m，エベレストに次ぐ世界第2位の高峰である。1954年A. デシオを隊長とするイタリア隊が初登頂に成功した。K_2峰周辺からゴドウィン-オースチン氷河，バルトロ氷河と続き，インダス川の支流であるシガール川の水源をなす。また，中国側に向かってはヤルカンド川の水源となり，タリム盆地のオアシスを涵養(かんよう)している。　〔野間三郎〕

けつまく　【結膜】　眼瞼(がんけん)の後面と角膜*を除く眼球の前面をおおっている上皮性の薄い粘膜。眼球と眼瞼とを結合するためこの名がある。眼瞼の後面の部分を眼瞼結膜(瞼結膜)，眼球の部分を眼球結膜(球結膜)といい，両者の移行部に円蓋(えんがい)結膜がある。➔目

けつまくえん　【結膜炎】　結膜*の炎症。カタル性結膜炎・濾胞(ろほう)性結膜炎・偽膜性結膜炎などがあり，特殊なものとしてトラコーマ*・はやり目*・膿漏眼*(のうろうがん)などがある。①カタル性結膜炎：急性と慢性のものがある。急性カタル性結膜炎は結膜が急に充血をきたして強く赤くなり，経過は短く，充血のほかにこれといった症状はない。慢性カタル性結膜炎も充血以外の症状はないが，充血はそれほど強くなく，経過は長い。②濾胞性結膜炎：急性と慢性があるが，通常は慢性で，カタル性結膜炎が長く経過しているうちに濾胞が発生したものである。濾胞はまぶたの裏側の深いところに発生するゴマ粒大半円球状の隆起で，ふつう多数発生する。主としてリンパ球の集まりで，リンパ腺(せん)に似たものである。これは学校の身体検査などで，結膜濾胞症*・トラコーマなどとの鑑別で問題となることがある。③偽膜性結膜炎：急性結膜炎で，まぶたの裏側に偽膜という薄い白膜ができ，これをはがすと出血するものである。偽膜は乳幼児や老人のはやり目・急性トラコーマ・細菌性の急性結膜炎など，急性の結膜炎の際にしばしばみられる。これらの結膜炎は細菌が原因となるものが最も多いが，機械的刺激・化学物質による刺激，放射線や熱によっても発病するものがある。治療はそれらの原因に応じて行なわれる。　〔氏原　弘〕



K_2峰　バルトロ氷河の十字路にあたるコンコルディアから望んだK_2峰(正面)の威容。この右手はブロードピーク(8,047m)に続く

けつまくろほうしょう　【結膜濾胞症】　結膜の深いところに濾胞が発生しているが，充血その他の炎症症状がまったくないもの。学童に多くみられるため，学校濾胞ともいわれる。炎症を起こしていないので治療の必要はなく，自然になおる。慢性濾胞性結膜炎と区別することが重要である。➔前項

けづめ　【距】　①雄のキジやニワトリのあしの後面にある先端がとがった突起。跗蹠骨(ふしょこつ)というあしの骨の突起が角質のさやに包まれたもので，攻撃の武器として用いられる。②こん虫の脛節(けいせつ)脚の第4肢節(しせつ)は，根もとのほうは細長いが末端に向かって太くなっており，ここに1～2対の突起がある。この突起を距ということがあるが，本来の距とは構造が異なっている。

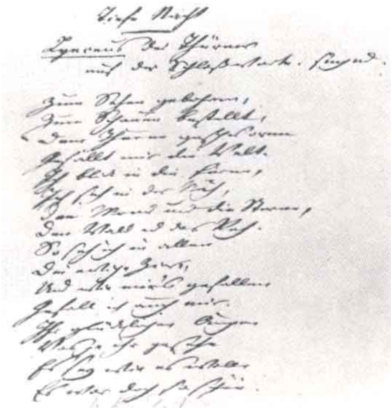
けつめいだんじけん　【血盟団事件】　1932年(昭和7)に起こった右翼*団体血盟団による暗殺事件。同年2月前蔵相井上準之助*が，また同年3月三井合名理事長団琢磨*(たくま)があいついで射殺された。血盟団は国家主義者である井上日召*が茨城県の農村青年を集めて結成，海軍将校らとも結び，〈一人一殺主義〉をもって政財界の要人20数名の暗殺を図った秘密結社である。日召が自首したためこの計画もふたりの暗殺のみで発覚，他の団員も逮捕された。社会不安に乗じて海軍側が蜂起(ほうき)した五・一五事件*とともに，急進ファシズム*台頭の象徴的事件であった。　〔千野境子〕

けつゆうびょう　【血友病】　出血性疾患の一つで，先天的に出血しやすい体質をいう。普通では出血しないようなごく軽い打撲(だぼく)などの外傷や，自然に止血するような小さな傷でも，容易に出血をきたし，しかも種々の止血法をもってしても止血できないのが特徴である。鼻出血・消化管出血，打撲後の皮下出血，関節出血などがよくみられ，痛みを伴うことが多い。出血したとき，血液を凝固させて止血する作用をなす因子が不足することが原因で，その因子が抗血友病性因子Aの場合は血友病A，Bのときは血友病Bという。この欠乏は先天的で，出血の多くは出生後6か月ごろからくり返しみられる。遺伝の形成は劣性の伴性遺伝*でほとんど男子だけに起こり，女子は遺伝運搬者となるだけで自身が血友病自体になることはまれである。もとは患者の60%が8歳以前に出血によって死亡したが，現在は新鮮血(保存血は不可)輸血，抗血友病グロブリンの投与，出血場所の処置(圧迫やトロンビン・トロンボプラスチンの使用)により，外傷や手術を受けずにすめば十分寿命をまっとうすることができるようになってきている。血友病に似た病気は数種類あり，血友病様疾患といわれているが，血友病Aが最も多く86%，Bは12%，その他は2%と少ない。➔出血性素因　〔大橋辰哉〕

げつようかんだん　【月曜閑談】　サント-ブーブ*の評論集，全15巻(1849～1861)。毎月曜に新聞《コンスティチューショネル》に連載されたところから，この表題が生まれた。批評の対象はきわめて多様で，あらゆる分野の思想や作品が軽妙な文体によって論じられている。《続月曜閑談》は全13巻(1863～1870)。

げつれい　【月齢】　新月*を基準にして，それより経過した時間を1日を単位にして表わしたもの。たとえば，新月ののち3日たった月(三日月*)は月齢3，5日12時間たった月は月齢5.5という。朔望(さくぼう)月*は約29.5日で正確に30日ではないから，満月は必ずしも月齢15の日に起こらない。また，







ゲーテ
(左)肖像
(中)《ファウスト》の自筆原稿
(右)《若きウェルテルの悩み》の舞台になった泉。フランクフルト近郊のウエッラールの町にあるゲーテの泉

朔望周期は一定不変ではないので，満月はいつも同じ月齢のとき起こるとはかぎらない。しかし，月齢によって月がだいたいどれくらい欠けているかを知ることができる。〔木下　宙〕

けつろ　**[結露]**　冬の朝に窓ガラスに水滴がついていたり，冷水のはいったコップの表面に水滴が付着していることがあるが，このような現象を結露という。寒い地方ではこの水滴がきれいな模様になってガラス面いっぱいに凍りついていることがある。窓ガラスの場合，水滴は必ず内側にできる。それは，室内の空気中に含まれている水蒸気が水滴となってガラス面に付着したものである。ガラス面の温度が外気によって低くなり，その付近の空気中に含まれる水蒸気量が過飽和となるため，余分の水蒸気は水滴となってしまう。たとえば，21℃の空気1kgは16gの水蒸気を含むことができるが，11℃の空気では8gしか含むことができない。したがって，21℃の室内空気が1kgあたり10gの水蒸気を含んでいるとすると，この空気が温度11℃のガラス窓面に触れると温度が下がり，10－8＝2(g)だけが水滴になってしまう。そして，ガラス面の温度が零下になれば，この水滴はすぐ凍ってしまうことになる。これを特に〈結霜〉という。結露は壁や天井にも起こり，あとになってしみが残ったり，水分が長時間付着したままの場合には，材料によっては，腐ったり，ぼろぼろになったりする。コンクリート建築では，外壁の内側表面で特に室のすみに結露したり，押し入れの中の壁面に結露してふとんや衣類がぬれてしまうことがある。結露を防ぐためには，壁に保温材を加えたりして，内側表面の温度が下がらないようにする必要がある。〔木村建一〕

ゲーテ　[Johann Wolfgang von Goethe]（1749～1832）ドイツの詩人・小説家・劇作家。古いゆいしょある自由商業都市フランクフルト-アム-マインに帝室評議員の子として生まれた。1765年からライプチヒ大学で法律を学んだが，当時一般の風潮であったロココふうの詩作に従事することが多かった。のち病を得て帰省。1770年，健康を回復してシュトラスブルク大学にはいり，専門課程を修了。この間思想家ヘルダーに出会い，彼を通じてドイツ的ゴシック精神，文学の母体としての民族文学への開眼を体験した。同時に，牧師の娘フリデリーケ-ブリオンとの恋がその詩魂を揺り動かし，ドイツ近代詩史に画期的な新風を吹き入れる数々の叙情詩の珠玉を生んだ。このころから1775年のワイマール移住までが，ゲーテの〈シュトルム-ウント-ドランク〉時代である。〈シュトルム-ウント-ドランク〉の運動は，18世紀前半の啓蒙(けいもう)主義の封建制打破の思想を受け継ぎながら，ドイツ的みじめさに影響されて心情的に感傷主義化された文学革新の運動である。若いゲーテはこの運動の代表的作家として活躍し，ドイツ中世の革命劇《ゲッツ》，書簡体小説《若きウェルテルの悩み》などを著わして完全にロココ趣味を脱却し，一世を風靡(ふうび)した。1775年11月ワイマール公カール-アウグストの招きに応じその地におもむいたが，はからずもそこがゲーテ終生の地となった。ゲーテは公の厚い信任を受け，まもなく政治の枢要に参画するようになり，社会全般の改革の理想の実現に邁進(まいしん)した。しかし，若き日の理想は啓蒙君主制の現実に直面してその実行は意のごとくならず，そのうえシュタイン夫人との恋愛関係は若きゲーテのシュトルム-ウント-ドランク的不羈(ふき)奔放な情熱を静め，古典的教養への道を開きはしたが，やがてその愛情は涸渇(こかつ)し，ゲーテは内外の行き詰まりに苦悩した。その苦悩を打開すべく，1786年イタリアへ逃避。この旅行においてゲーテは解放された自由を楽しみ，典雅な古代芸術の粋と明るい南欧の風土に接して古典主義芸術の真髄を把握(はあく)し，同時に自然研究においても新生面を開いた。この期間に《タッソー》《イフィゲーニエ》などの古典主義戯曲が完成した。イタリア旅行を終えた翌1789年フランス革命が勃発(ぼっぱつ)，この事件およびその後の経過は，ゲーテをしてますます内省的諦念(ていねん)の心境に沈潜せしめ，象徴的な作品の執筆に向かわせた。《親和力》《西東詩集》《ウィルヘルム-マイスター》《ファウスト》などである。その晩年は，寂寥(せきりょう)の中にも不断の努力を続け，普遍的な人間性を追究する〈世界文学〉について考察を深める一方，自叙伝《詩と真実》を完成し，《ファウスト(第2部)》を死の直前に脱稿した。〔大畑末吉〕

ゲデス　[Norman Bel Geddes]（1893～1958）アメリカのインダストリアル-デザイナー，インダストリアル-デザインの確立者。当初は舞台美術家として活躍したが，1927年，最初のインダストリアル-デザイン事務所の主宰者となった。1920年代に始まるアメリカの経済恐慌下で，生産主義から販売主義に移行する時代において，彼の仕事は大きく受け入れられたという。代表作としては，流線型機関車・空中レストラン・流線型リアエンジン自動車があげられ，ほかに《1960年の都市》と題する都市計画案がある。〔武井邦彦〕

ゲーデル　[Kurt Gödel]（1906～　）オーストリア生まれの数学者。ウィーン大学に学ぶ。現在プリンストン高等研究所教授。数学基礎論の重要な定理である〈合理系の不完全性〉を証明し，記号論理学の発展に大きな貢献をした。

ゲード　[Jules Guesde]（1845～1922）フランスの社会主義者。ジャーナリストとして社会運動に参加し，はじめ無政府主義者であったが，のちマルクス主義に転向，それに基づく集産主義の宣伝に努めるとともに，1880年フランスの最初の社会主義政党フランス労働党を結成した。その後下院議員となり，1905年には社会党の結成に参加したが，第1次世界大戦が始まると社会党を代表して入閣した。

げどう　**[外道]**　仏教を内道となし，仏教以外の諸宗教をいう。古代インドにおいては，ベーダの供犠(くぎ)を取り行なうバラモンと，ベーダの宗教・慣習を否定する革新的な思想家である沙門(しゃもん)との二つのグループがあった。仏教は後者の一派として興った。原始仏教聖典《沙門果経》には，ブッダ時代の6人の外道(→六師外道)とその思想を，また《梵網経(ぼんもうきょう)》には62種

の外道説(六十二見)を伝えている。なお，六派哲学などの仏教以外の学説・異端邪説をさすことがある。〔塚本啓祥〕

げどく【解毒】生体内に取り入れられた異物質を，生体に無害あるいは排泄(はいせつ)しやすい構造に変える生体の作用。生体の解毒機構は肝が最も大きい役割を占め，酸化・還元・加水分解のほかメチル化・アセチル化・グルクロン酸抱合・グリシン抱合・システイン抱合・オルニチン抱合・グルタミン抱合が行なわれる。肝以外の部分ではエーテル抱合が行なわれる。

げどくやく【解毒薬】有毒物質が生体内に取り入れられたとき，これを無害なものにする目的で使われる薬。有毒物質と直接化学反応を起こすことによって無害なものにする薬(BAL・EDTAなど)，生体の解毒機構の活性を高めて間接に作用するもの(チオ硫酸ソーダ・チオクト酸)，および薬理学的な拮抗(きっこう)によって毒物の作用をなくするもの(アトロピン・PAM)に分けられる。→前項

ケトグルタールさん【ケトグルタール酸】ケト酸の一。α-ケトグルタール酸が生体にとって最も重要で，グルタミン酸合成に用いられる。生体内ではトリカルボン酸回路の一員としてすべての生物の細胞呼吸に重要な役割を果たし，またポルフィリン*合成の素材となる。細菌の酸化発酵によって大量に合成することができる。

COOH
|
CO
|
CH_2CH_2COOH

ケトさん【ケト酸】ケトン酸，ケトカルボン酸ともいう。ケトンのカルボニル基(＞CO)とカルボン酸基(—COOH)とをもつ化合物の総称で，この二つの基がとなりあっているものをα-ケト酸といい，間に炭素が1個はいっているものをβ-ケト酸，順次γ-，δ-ケト酸という。これらの化合物は二つの官能基をもっているので，合成化学上の重要な原料である。特にβ-ケト酸は，二つの基の間にあるメチレンが活性で，特殊な反応性を示す。またγ-ケト酸は環化しやすい。〔石戸良治・荒木洋之助〕

ゲートル［gaiters］ひざ下から足首くらいまでをおおい，脚を保護して歩行を助ける機能をもつ，脚絆*(きゃはん)と同様のもの。厚地の布や皮革などでつくられ，わきでボタン・バックル・ひもで留めたり，土踏まずの下に回して留める。19世紀ごろには婦人ぐつとして流行したことがあり，さらにスパッツとよばれて脚部のおしゃれとして登場したりしている。わが国の軍隊が用いた巻きゲートルは，幅の狭い長布で脚部を巻くもので，現在でも登山や労働の際に用いられる。〔小池千枝〕

ケトン［ketone］カルボニル基(＞CO)に鎖状の炭化水素基，または芳香族炭化水素から水素1原子がとれたもの(アリル基)が2個付いた化合物の総称。2個とも鎖状炭化水素基の場合を脂肪族ケトンといい，少なくとも1個がアリル基の場合を芳香族ケトンという。また，2個の基が互いに結合して環状をなしている場合を環状ケトンという。低級の脂肪族ケトンは特有の臭気をもつ液体で，水や有機溶媒にわりあいよくとける。アセトン*は特に溶解性にすぐれ，有機溶媒として広く使われている。芳香族ケトンは一般に固体である。酸化に対して安定であるが，強く酸化するとカルボニル基の隣で開裂してカルボン酸になる。多くのカルボニル試薬と反応して各種の有機化合物を生じるので，化学的に重要な合成原料となる。たとえば，グリニャール試薬と反応して三級アルコールを生じる反応などがある。〔石戸良治・荒木洋之助〕



ケナガネズミ

ケトンさん【ケトン酸】⇨ケト酸

ケトンたい【ケトン体】アセトン体ともいう。脂肪酸の酸化によって生じるアセト酢酸およびβ-オキシ酪酸，アセトンの総称。正常な哺乳(ほにゅう)類の血中の総ケトン体の濃度はアセトンに換算して1mg/100mlを越えない。しかし，糖尿病患者ではケトン体が増量し，血液のpHが酸性側に傾いてアシドーシス(酸血症)を起こす。類似の軽い症状は，正常人でも脂質含量の高い食物を摂取したり，激しい運動を行なったときにみられるが，ケトン体は他の燃料に優先して利用され，pHは正常にもどる。〔原野友之〕

けながこなだに【毛長粉蟎】クモ形類・ダニ目・コナダニ科。微小なダニの一種で，体長0.5mm内外。体は乳白色で，ほぼ楕円(だえん)形。幼虫では3対，若虫・成虫では4対の脚があり，胴の後縁には6対の長毛がはえる。本種は日本に産するコナダニ類中最も普通の種類で，各種の貯蔵穀物をはじめ，チーズ・粉ミルク・菓子類・薬品などに発生し，ときに畳表に大発生して住民を驚かせたこともある。日本のほかヨーロッパや北アメリカなどに広く分布している。近縁のアシブトコナダニ(チーズダニ)は雄の第1脚が太く，ヨーロッパに広く分布し，日本でも貯穀類や菓子類にしばしば発生する。また砂糖やみそなどにつくサトウダニ，干魚製品に多いホシカダニ，小麦粉につくチビコナダニなどは最も普通にみられるコナダニである。そのほか，食品類にはホコリダニ類やコナダニ類を捕食して生活するツメダニ類・シラミダニ類・ドクダニ類などがみられるが，いずれも微小なため肉眼的に識別することは困難である。〔鈴木邦雄〕

けながねずみ【毛長鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科の大形のネズミ。体長25cm，尾長33cmほどで，尾の先端部3分の1は白色。体は赤かっ色。体上面の黒色の剛毛は長さ6cmに達することもある。奄美(あまみ)大島・徳之島・沖縄本島にのみ産する。樹上で生活し，こん虫・種子・果実などを食う。

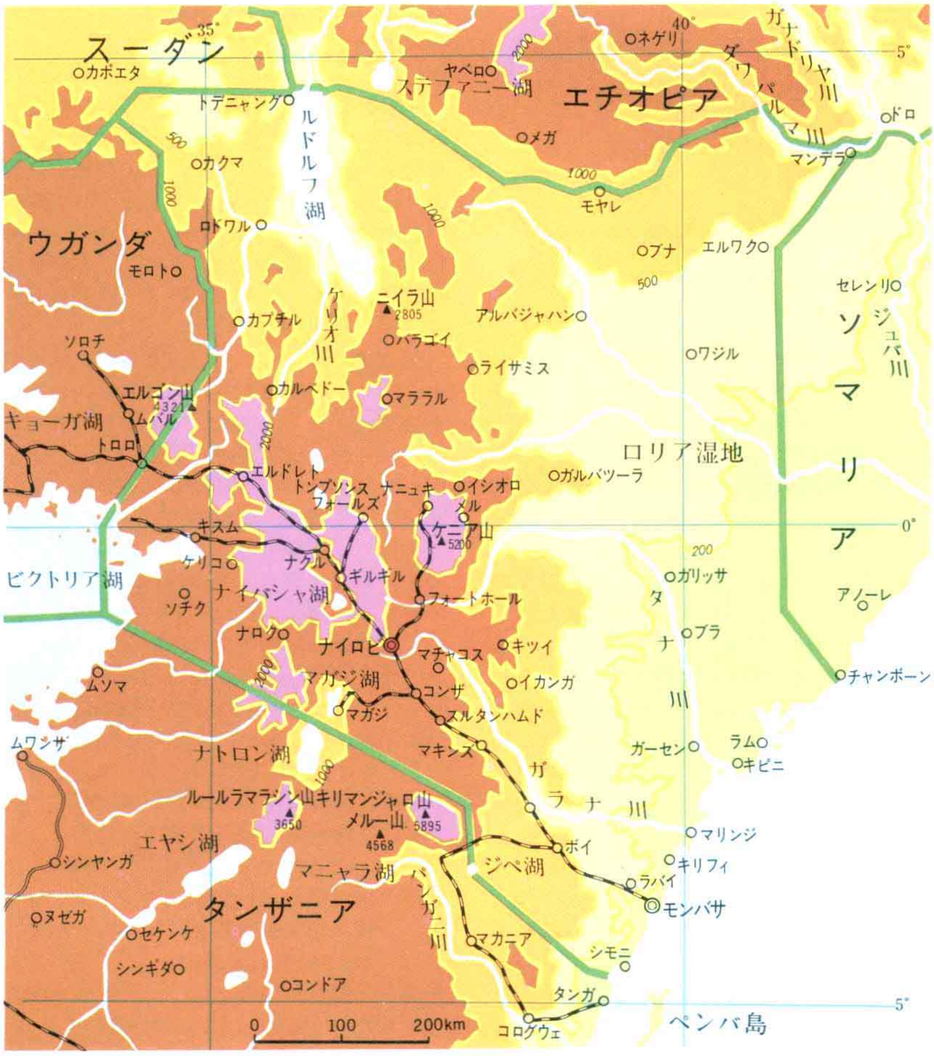
ケナフ［kenaf］双子葉植物・アオイ科の一年草。繊維をとるために栽培される。インド・イラン・東南アジアなどで多く栽培されるが，日本では富士山のふもとで試作された程度である。高さ2～4m。葉は掌状に深く裂け，長い葉柄がある。花は大きくなり，黄色の五弁花で，葉の付け根につく。高温を好み，生育期間中20℃以上が必要。茎の繊維はジュート*に似ているが白色で，荷造り用布やなわに利用される。

ケナン［George Frost Kennan］(1904～　)アメリカの外交官・評論家。ソ連・東欧問題の権威として知られる。プリンストン大学卒業後，国務省にはいり，主として東欧諸国の大使館・領事館に勤務。1947～1950年国務省政策企画部長をつとめ，トルーマン政府に〈封じ込め政策*〉を提案した。ソ連大使を経て，1953年以後プリンストン大学教授。現実主義外交の提唱者として，最近では共産圏内の分極化に伴う米ソ協調外交を主張している。〔折井一彦〕

ケニア(共和国)［Republic of Kenya］アフリカ大陸東部にあるイギリス連邦に属する共和国。面積58万2,000km²，人口1,532万(1979年推)。首都ナイロビ。

【自然・住民】赤道直下に位置し，国土の東部は砂漠(さばく)と草原の平野で，西部は高度平均3,000mのケニア高原である。高原の西に高度4,000m前後のアバデア山脈があり，アフリカ大陸第2の高山であるケニア山(5,200m)やエルゴン山(4,321m)がそびえている。高原の東はナイル川の谷から続く大構造谷の南端部が南北に走り，北にはルドルフ湖，南にマガジ湖がある。高原西部はナイル川の水源ビクトリア湖に向かって傾斜しており，この国で最も人口の多い地方になっている。東部は乾燥気候であるが，西部の高原では年2回の雨季(4～6月，10～12月)があり，年降水量も約1,000mm程度になる。住民はバンツー系のニグロを主とするアフリカ人が914万，インド人18万3,000，ヨーロッパ人49,000，アラビア人36,000といわれ，ほかに中国人も少数いる(1964)。アフリカ人は約80の部族に分かれ，高原部では粗放的な農業を営み，平野部では遊牧や半遊牧の生活をしている。

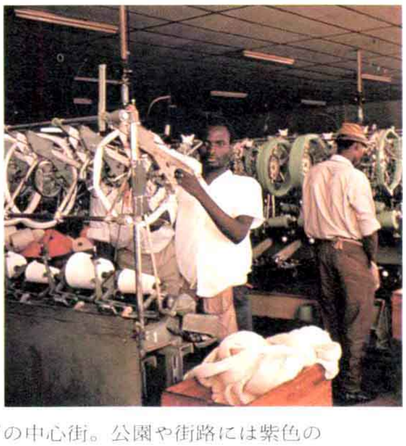
【産業・経済】人口の約85%が高原部に住み，開発も最も進んでいる。肥沃(ひよく)なビクトリア湖東部の高原などではヨーロッパ



ケ ニ ア

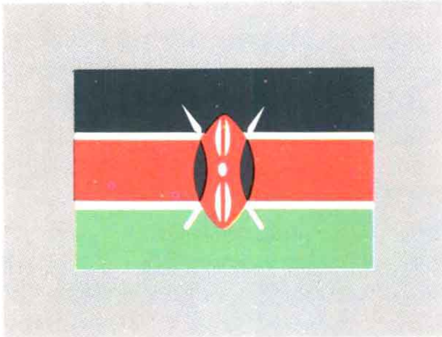
300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田





(左)近代的な高層ビルの立ち並ぶ首都ナイロビの中心街。公園や街路には紫色の花をつけたジャカランダが満開である　(右)ナイロビにある日本との合同出資による東レ工場の内部。現地の人たちが働いている

人による大規模なプランテーションが開かれ，コーヒー・トウモロコシ・茶・小麦・サイザルアサなどがつくられる。平野部ではおもにマサイ族による牧畜が行なわれ，乳製品は輸出されている。この国は南アフリカから北上してきたヨーロッパ移民の北限とみられる。また，アラビア人は北からナイル川に沿って来住し，海岸からはインド人や中国人が移住し，ともに主として商業に従事している。工業は農畜産物の加工がわずかに行なわれ，地下資源は未開発である。この国には各所に広大な国立自然動物公園があって，ライオン・ゾウ・キリンなどの野生動物が放し飼いにされており，



ケニアの国旗　1963年制定。黒は国民，赤は自由のための闘争，緑は農業と天然資源，白は統一と平和を表わし，中央の盾と槍は平和の守りの象徴である



ケ ニ ア 山　南西側のレナナ山方面から見たケニア山の主峰。約4,300mの地点にまで氷河がかかっている

ナイロビ郊外にも100km²に及ぶナイロビ公園がある。鉄道は，モンバサ港からナイロビを経てウガンダのカンパラに通ずる幹線鉄道をはじめ総延長2,000kmに達し，アフリカを縦断する道路がこの国の中央を走っている。

〔歴史・政治〕アラビア人・インド人は古くからこの国に進出していたが，1498年ヨーロッパ人としてははじめてポルトガルのバスコ-ダ-ガマが上陸した。ポルトガルやアラブ諸国の間でこの地をめぐる勢力争いが続いたが，19世紀にはいるとイギリス・ドイツも加わり，以後はこの両国の勢力争いの土地になった。1895年イギリスが領有を宣言したが，その後もここに住むアジア人連合が政治上の平等を要求して紛争が続いた。第2次世界大戦後は原住民による外国人排斥運動が盛んとなり，キクユ族に率いられた過激派のマウマウ団*がテロ活動を行なったため，イギリスの強い弾圧が加えられた。しかし，かえって民族運動は高揚し，1963年12月に独立が承認され，翌年共和国となった。元首は大統領，議会は上下両院の二院制で，1963年制定の憲法により上院と州の権限が強い。　〔小栗　宏〕

ケニア(山)　［Kenya］　アフリカ大陸東部，ケニアの中部にある海抜5,200mの火山。

タンザニアのキリマンジャロ山(5,895m)に次ぐアフリカ第2の高山である。赤道直下にあるが，万年雪をいただき,氷河は4,300mぐらいの地点まで降りている。3,300m以上は国立公園になっている。1899年，H.J.マッキンダーが初登頂した。

ケーニヒ [Karl Rudolf König] (1832～1901) ドイツの物理学者。音響学の研究で知られる。ケーニヒスベルクの生まれ。同地の大学を終えてパリに行き，音響に関する器械製作工場を起こして音響自記機を製作した。音の速度・波形，ドップラー効果，圧力炎などを研究した。

ケーニヒグレーツのたたかい 【ケーニヒグレーツの戦い】 1866年，プロイセン-オーストリア(普墺(ふおう))戦争の方向を決定づけた戦い。サドワの戦いともいう。モルトケに指導されたプロイセン軍がケーニヒグレーツ(現在のチェコスロバキア東部フラデツクラロベ)でオーストリア軍に致命的な打撃を与えた。この勝利に勢いを得て，プロイセン軍は一気にウィーンに迫り，オーストリアを降伏させた。

ケニヤッタ [Jomo Kenyatta] (1891ごろ～1978) ケニア共和国の政治家。イギリス・ソ連に留学したこともある。1920年代から，アフリカ人解放組織キクユ中央協会や，ケニア-アフリカ人同盟を指導して独立運動を展開した。1952年マウマウ団事件を指導したかどで逮捕され，北部砂漠(さばく)地帯に7年間投獄された。1960年結成のケニア-アフリカ民族同盟の党首となり，1962年5月から首相，1964年12月の共和国成立とともに初代大統領となった。〔喜多迅鷹〕

けにん 【家人】 律令(りつりょう)制下の賤民(せんみん)の一。相続財産の一部とみなされた。良民の3分の1の口分田(くぶんでん)を班給され，不課口(課役負担義務のない者)であることなどは奴婢(ぬひ)と同様だが，家族と生活して私業を営むことが許され，売買が禁止され，家族全員を駆使されることはなかった。しかし，家人の実例はほとんど知られていない。

げにん 【下人】 平安中期から明治に至るまで用いられた隷属民の呼称。所従・名子などと同じ階層。時代によって性格を変え，さまざまな形態があった。平安・鎌倉時代には貴族・社寺・荘園(しょうえん)内の武士・荘官・名主に隷属し，その直接経営地の耕作を行なうなど労働力を提供し，相続・売買・譲与の対象とされた。中世後期から自立的経営を行ない，独立化して身分的にも上昇した。江戸時代の農民の多くはそれである。〔星野良子〕

けぬき 【毛抜】 歌舞伎(かぶき)脚本。〈歌舞伎十八番〉の一。1742年(寛保2)大阪佐渡島長五郎座初演の《鳴神不動北山桜(なるかみふどうきたやまざくら)》のうちの1幕が独立したもの。主役の粂寺(くめでら)弾正を2世市川団十郎が荒事の様式で演じた。小野家の姫の頭髪がさかだつ奇病が天井裏に仕掛けた磁石の作用によることを，使者の弾正が毛抜きの踊ることから見抜き，お家乗っ取りをたくらむ奸臣(かんしん)を討って安泰を図るという単純な筋。古劇らしく，のんびりとユーモアのある作品である。〔服部幸雄〕



J.F.ケネディ

けぬきあわせ 【毛抜き合わせ】 裁縫用語。2枚の布を縫い合わせて表に返したとき，表布と裏布を少しの食い違いもなく毛抜きの先のように突き合わせること。両面を使用するリバーシブル仕立てなどに使われる。

ケネー [François Quesnay] (1694～1774) フランスの経済学者。経済学の体系化の出発は彼によってなされたとする説もある。中流の家庭に育ち，幼くして父を失ったため，外科医に弟子(でし)入りしてはとんど独学で勉強した。のち，ルイ15世の侍医となって貴族に列せられ，1752年には授爵によって領主になった。しかし，彼は宮廷生活には無関心で，ひたすら農業経済の問題に熱中し，当時ハーベーが人体の血液循環構造について論文を発表したことを知り，経済における循環構造を解明しようとして有名な《経済表》(1758)を著わした。

この著が成立した当時はフランスが非常な財政困難に陥り，復興政策を必要としている時期であった。《経済表》が直接に図示していることは，富の社会的総生産および分配の秩序であり,地主階級の取得する〈純生産物〉,すなわち彼らの所得の規則正しい回帰を中心命題とするもので，直接的には地主階級がその所得を生産階級と不生産階級とに均等に支出するならば，そしてあとの両階級もまたその手に入れたものを生産的支出・不生産的支出のどちらにもかたよらないで均等に行なうならば，前年と同じ規模の再生産が行なわれ，同じ割合の純生産物が次年度の地代として獲得されることを示したものである。《経済表》は難解であったため,彼はその後〈経済表範式〉を用いて解説し，その理解と発展に尽くした。この〈範式〉の成立によって，ケネーおよび彼の理論をくむ重農主義学派は発達の極に達したといえる。➔経済表 〔松浦 保〕

げねつやく 【解熱薬】 下熱薬とも書き，熱さましともいう。発熱した状態にあるとき，病的に興奮している温中枢を抑制して体温を降下させる薬。正常体温には変化を及ぼさない。通常，鎮痛作用あるいは消炎作用を伴うものが多い。サリチル酸剤(アスピリンなど)は解熱鎮痛薬で，感冒・リウマチなどに用いられる。アニリン系剤(フェナセチンなど)は解熱鎮痛薬で，アスピリンまたはアミノピリンやカフェインなどと配合してかぜ薬として用いられる。ピラゾロン系剤(アミノピリンなど)は解熱鎮痛薬で，一般熱性疾患の解熱薬，頭痛・歯痛などの鎮痛薬として用いられる。〔伊藤隆太〕

ケネディ [John Fitzgerald Kennedy] (1917～1963) アメリカの政治家。第35代大統領。在任1961～1963年。アイルランド系の名門の生まれ。ハーバード大学卒業後海軍に入隊して対日戦に従軍。1946年下院議員となり，1952年以後上院議員。1960年の大統領選挙では民主党から出馬し，史上最年少，カトリック信者としてはじめての大統領となる。内政面では〈ニューフロンティア〉政策を掲げ，経済発展・都市再開発・税制改革・農業対策・医療保護・人種差別廃止など，広範囲にわたって革新的・長期的計画を推進したが，議会の反対で期待された成果をあげえなかった。また，EECと接近し,〈ケネディ-ラウンド〉で知られるように貿易拡大にも努めた。外交面では,就任直後にキューバ侵入を援助して世界の非難を浴びたが，ラテンアメリカ諸国に対する〈進歩のための同盟〉,後進国援助の〈平和部隊〉を創設した。1962年のキューバ危機では海上封鎖によってキューバからのミサイル撤去に成功，1963年8月には部分的核実験停止条約を締結して世界の緊張緩和に貢献した。1963年11月，遊説中にテキサス州ダラスで暗殺された。➔ケネディ暗殺事件 〔折井一彦〕

ケネディ [Robert Francis Kennedy] (1925～1968) アメリカの政治家。ジョンの実弟。ハーバード大学卒業後海軍に入隊。一時，司法省にはいったが，1953年以降議会の調査委員会で不正労働行為を調査，有能な弁護士として有名になる。1960年の大統領選挙では事務長として兄を大統領に当選させ，1961年兄のもとで司法長官に就任，特に黒人の公民権保証に努力した。1964年上院議員に当選，民主党進歩派としてベトナム介入反対，中国への接近などを提唱，ジョンソン大統領と対立した。1968年6月，民主党大統領指名獲得運動のさなか，ロサンゼルスのホテルで暗殺された。➔次項 〔折井一彦〕

ケネディあんさつじけん 【ケネディ暗殺事件】

1 1963年11月22日，ケネディ大統領がアメリカ，テキサス州ダラスをパレード中狙撃(そげき)され，暗殺された事件。大統領暗殺事件としてはアメリカ史上4度め。容疑者

リー-オズワルドは事件直後逮捕されたが，2日後護送の途中ナイトクラブ経営者ジャック-ルビーに射殺された。1964年ウォーレン最高裁長官を委員長とする委員会の事件調査報告書《ウォーレン報告》が発表されたが，その結論となったオズワルド単独犯行説への疑念が多く，1967年1月ルビーも癌(がん)で死亡して，多くのなぞと異説が残っている。

[2] 1968年6月5日，ロサンゼルスのホテルで民主党大統領候補指名獲得運動中のロバート-ケネディ上院議員が射殺された事件。犯人はヨルダン移民サーハン-サーハンで，イスラエル支持のケネディ議員に対する憎しみが原因。同年4月のキング*牧師暗殺事件とともに，アメリカ社会の人種差別・暴力肯定の断面を露呈した事件。〔折井一彦〕

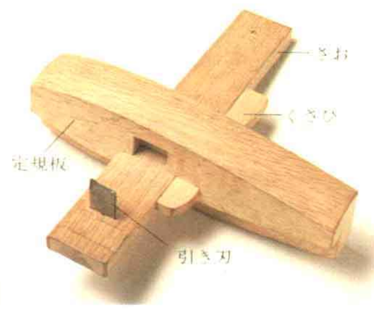
ケネディ-ラウンド ［Kennedy Round］ 1962年10月に成立した通商拡大法を背景として，ガット*において行なわれた大規模な関税一括引き下げ交渉をいう。この法案を成立させ，交渉の推進に努めたアメリカの第35代大統領ケネディにちなんで名づけられた。第2次世界大戦後，ガットの主催で行なわれた6回にわたる一般関税交渉のうち，これは最大規模のもので，1964年5月から開始され，1967年5月に妥結，54か国の調印をみた。譲許の対象品目も工業製品の多くを含み，関税平均引き下げ幅は，最初の目標の50%には及ばないが，約35%といわれ，1968年1月から5年間にわたり段階的に関税を下げていくことを取り決めた。このほか，反ダンピング協定や低開発国に2年間450万tの小麦その他粗粒穀物を援助することを決定した国際穀物協定なども成立した。〔深海博明〕

ゲノッセンシャフト ［Genossenschaft］ 協同体と訳す。支配・被支配の関係を含まない人為的・第2次的集団をさす概念で，ギールケ*によって用いられた社会学用語。自然発生的なゲマインシャフト*や人為的利害集団であるゲゼルシャフト*とも異なる。具体的には協同組合など。

ゲノム ［genom］ 生物の種はみな固有の基本数からなる染色体をもっており，これら染色体の中にはそれぞれの形質の発現に関係する遺伝子群が含まれている。このように，一つの完全な生活を行なうのに欠くことのできない最小限度の染色体群をゲノムという。生物のゲノム構成を明らかにし，種の起源・分化・類縁関係などを研究する方法をゲノム分析という。わが国の遺伝学者木原均(ひとし)が1930年から1940年にわたって確立した方法で，これによって現在のパンコムギがAABBDDという三つのゲノムからなる6倍体であること，そしてパンコムギが一粒系コムギ(ゲノムA)から生じた二粒系コムギ(ゲノムAB)とタルホコムギ(ゲノムD)からできあがったものであることが立証された。完全なゲノムから，ある特定の染色体を1本欠いた場合をモノソミー(一染色体植物)，1対を欠いたものをナリソミー(零染色体植物)，1本余分にもつものをトリソミー(三染色体植物)とよび，それぞれの染色体の遺伝的役割を研究するのに重要な役割を果たしている。〔北川 修〕



ゲバラ



罫引き



気比神宮 西参道入り口の大鳥居 四脚鳥居(両部鳥居)の最古例である

ケノン ［kenon］ ジャワのガムラン*音楽の楽器。分類上は体鳴楽器*に属する。青銅製のなべ形の中央に突起部をつけ，さかさにしてひもを張った上に置き，突起部をたたいて鳴らす。音階に従って5～7個のセットになっている。

けばえ 【毛蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ケバエ科の総称。小形ないし中形の種類が多く，体の色彩は黒色のものが多いが，暗白色や赤かっ色のものもあり，全体に毛が密生している。複眼は大きく，触角は短く数珠(じゅず)状。翅(はね)は大きく，顕著な縁紋がある。幼虫は頭部が大形で，よく発達した口器をもち，完全に無脚で，腐敗植物質や獣糞(じゅうふん)のほかイネ科植物や各種の野菜類の根を食害する。成虫はふつう3～7月に発生するが，早春にしばしば大発生することがある。全世界から約400種類が知られ，日本からはハグロケバエ・メスアカケバエなど40種内外が記録されている。

けはえぐすり 【毛生薬】 ⇨養毛剤

げばしょうぐん 【下馬将軍】 ⇨酒井忠清(ただきよ)

げばふだ 【下馬札】 皇宮・社寺などで，ウマ・駕籠(かご)などに乗って来る者に，その下馬・下乗の場所を指示する札。これを制度化したものを下馬下乗の制といい，すでに大宝律令*(りつりょう)に定められ，鎌倉時代以降は特に武士の作法として重んぜられた。1868年(明治1)には皇宮・官庁・社寺などを区別して制定されたが，現在ではいつしか自然消滅となった。

ゲバラ ［Ernesto Che Guevara］ (1928～1967) 中南米諸国で活動した革命家。アルゼンチンのロザリオに生まれた。1953年ブエノスアイレス大学医学部を卒業，同年中南米諸国を歴訪。途中，ボリビアで社会革命を目撃し，グアテマラではアルベンスの革命運動に身を投じた。1955年メキシコに亡命，カストロ*と知り合う。以後，カストロとともにキューバ革命*に挺身(ていしん)。革命成功後は工業相・国立銀行総裁などの要職につき，〈キューバ革命の頭脳〉として社会主義革命の貫徹に努めた。しかし，彼の工業化優先政策は経済危機を招来し，また，カストロ派の親ソ路線と必ずしも合致せず，1966年キューバを去った。のち，ボリビアでゲリラ戦の指導にあたったが，1967年10月政府軍との戦いで捕えられ，処刑された。著書《ゲリラ戦争》《ゲバラ日記》《革命の回想》など。〔松下 洋〕

けびいし 【検非違使】 弘仁(こうにん)年間(810～823)に設置された令外官*(りょうげのかん)。その役所を検非違使庁といい，別当(長官)以下佐(すけ)，大・少尉(じょう)，大・少志(さかん)の職員が定められ，衛門府(えもんふ)の役人が兼任した。主として京都の治安維持にあたり，のちには訴訟・裁判も扱い，弾正台*・刑部省*(ぎょうぶしょう)・京職*(きょうしき)などの仕事をも吸収して勢力があった。のち中央にならって諸国郡にも置かれたが，武士の台頭とともに有名無実となった。〔菊池礼子〕

けびき 【罫引き】 木材の面に線をつけ，または薄板を引き割るための道具。定規に差し込んだ〈さお〉の先に引き刃がついており，定規を材の側面にあてて，ずらしながら引き刃で線をつける。線をつけるための引き刃を〈筋罫引き〉という。薄板の場合はこの方法で材を割ることもでき，そのための引き刃は〈割り罫引き〉という。

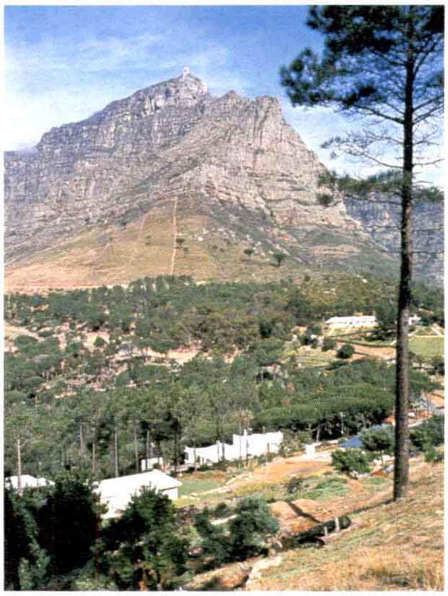
けひじんぐう 【気比神宮】 福井県敦賀(つるが)市曙(あけぼの)にある。古くは北陸第1の神社で，のち越前(えちぜん)の一宮となった。

主祭神は伊奢沙別命(いささわけのみこと)。ほかに日本武命(やまとたけるのみこと)・帯中津彦命(たらしなかつひこのみこと)(仲哀天皇)・息長帯姫命(おきながたらしひめのみこと)(神功(じんぐう)皇后)・誉田別命(ほんだわけのみこと)(応神天皇)・豊姫命(とよひめのみこと)(神功皇后の妹か)・武内宿祢命(たけのうちのすくねのみこと)を合祭する。《日本書紀》によれば，神功皇后の外祖アメノミヤリは，もたらした8種の宝物のうちに胆狭浅(いささ)という太刀(たち)があるところから，イササワケともよばれる。したがって，主祭神伊奢沙別命はアメノミヤリをいうのであろう。仲哀天皇は三韓(さんかん)・熊襲(くまそ)平定を当社に祈願し，また神功皇后も三韓征伐にあたって祈願している。社殿は第2次世界大戦で焼失したが，赤鳥居と俗称される木造の大鳥居(1645年建立)は戦災を免れ，重要文化財に指定されている。例祭は9月4日。〔佐野文哉〕

けびょう 【仮病】 偽って病気のふりをすることで，詐病ともいう。愁訴(自分で感ずる症状を訴えること)はあっても客観的な所見は乏しく，演技的である。仕事や学校を休んだり，周囲から同情を集めたり，利己心を満足させたりすることが目的で，義務やつらいことから免れようとする場合が多い。したがって，周囲からみてもはっきりわからないような症状，たとえば頭痛・頭重感・めまい・吐きけ・動悸(どうき)・腹痛・胸痛・倦怠感(けんたいかん)などの自覚的症状を訴えることが多い。〔佐野隆志〕

ケープ ［cape］ 肩から腕・背・前身ごろにかけておおう，そでのない外衣。たけはごく短いものからすそまでのものまであり，防寒と装飾を兼ね，古くは男女ともに用いていた。現在は婦人・子どもがおもにドレスの上に羽織ったり，コートに取りつけたりして用い，フードつきもある。そのほか，イブニングドレスの上に着るドレッシーなオペラケープ，リゾート用のビーチケープなどがある。BC3000年ごろのバビロニア地方に残る浮き彫りに，すでにケープ状の布を肩にかけているのがみられる。

ケープ(州) ［Cape］ アフリカ大陸南端，南アフリカ共和国の州。正称は喜望峰(Cape of Good Hope)州という。国の南部・西部にわたり，国土面積の59%を占めている。面積72万km²。人口約634万(1968)。州都ケープタウン。東部および南部をドラケンスバーグ山脈の山地が占め，北部および西部にかけて高原が展開している。気温は温暖だが内陸は雨量が少なく，喜望峰付近は地中海性気候である。農耕地は東部に多く，小麦・トウモロコシ・オート麦などを栽培し，特に小麦はこの国の産出量の大部分を占める。オランダ系白人(アフリカーナ)による大規模な果樹栽培も古くから盛んで，ブドウ・モモ・ミカンなどをヨーロッパへ輸出している。ポートエリザベス・ケープタウンには果物かんづめ工業が発達している。またここには第2次世界大戦後栽培が盛んになったたばこの工場もある。牧畜ではメンヨウが3,600万頭以上ステップ気候の高原で飼育され，オーストラリアに次ぐ大生産地になりつつある。そのほか，ウシ・ウマ・ヤギなども多い。鉱業はかつてダイヤモンド・マンガンの中心的産地であったが，現在では北東部のトランスバール州に及ばない。アフリカ大陸の中で最も早くヨーロッパ人が住みついた地域で，1814年にイギリス領となり，1910年の南アフリカ連邦の成立とともに，その一州となった。〔小栗　宏〕



ケープタウン　市街地の背後にそびえるテーブルーマウンテン。山頂はテーブル状に平たく，ふもとからケーブルカーが通じている

ケファリン ［kephalin］ 複合脂質のうちのリン脂質の一種。ほとんどの生物にみられ，動植物組織に含まれる脂質としてはレシチン*に次いで多い。エタノールに不溶で，構成脂肪酸の50%以上が不飽和のものである。動物では脳をはじめとする多くの組織に分布し，癌(がん)細胞などではその増加がみられる。ケファリンは，そのエタノールアミン残基のメチル化によってレシチンに変わるが，それ以外の生理的役割は不明である。➔脂肪

ケフェウスざ 【ケフェウス座】 北天の星座。はくちょう座とカシオペア座にはさまれて，銀河の中に五角形をつくる星が目じるし。この星座のδ星は有名な脈動変光星*で，5.37日の周期をもって4.1等から5.2等の間を変光しており，ケフェウス座δ型変光星*の代表とされる。

ケフェウスざデルタがたへんこうせい 【ケフェウス座δ型変光星】 周期1～50日程度で0.2～1.5等の変光範囲をもった脈動変光星*をいい，ケフェウス座のδ星がその代表。現在銀河系内に約500個見つかっている。この種の変光星では，変光周期の長いほど絶対光度が明るいという関係(光度・周期関係)があり，これを利用して，変光周期と見かけの明るさから距離を求めることができる。

ケープケネディ ［Cape Kennedy］ アメリカ合衆国南東部，フロリダ半島東岸の岬(みさき)。アメリカ航空宇宙局の宇宙ロケット基地があり，人工衛星や宇宙船の打ち上げが行なわれる。かつてケープカナベラルとよばれていたが，1963年故ケネディ大統領の名にちなんで改められた。

ケープコッド ［Cape Cod］ アメリカ合衆国大西洋岸，マサチューセッツ州南東部の岬(みさき)。コッドは〈タラ〉の意。岬は東に突出して北に曲がり，コッド湾をつくる。近海は陸棚(りくだな)が広がり，タラ漁が盛んなところから岬および湾の名になった。ボストンに近く，保養地としても有名。1620年メイフラワー号の清教徒の上陸地点はこの付近である。

ケープジョンソン(海淵) ［Cape Johnson］ フィリピン諸島の東沖を，ほぼ島に平行して南北に走るフィリピン海溝(かいこう)中央部の深点。深さ10,497m。1945年アメリカ合衆国の軍艦ケープジョンソンによって発見され，この名がある。

ケープタウン ［Cape Town］ アフリカ大陸南端，南アフリカ共和国ケープ州の州都。共和国の議会所在地(行政府はプレトリアにある)。人口69万1,000(1970)。喜望峰の西，テーブル湾に面する。1652年オランダの東インド会社が東洋航路の補給基地をここに建設した。アフリカ最大の貿易港で，この国の貿易額の約3分の2を扱っている。外国海空路交通の要地で，また，国内鉄道・航空路・自動車道路などの起点となっている。造船・機械などの工業がある。近年は日本との貿易上の関係が深い。1918年創立のケープタウン大学をはじめ，各種の文化施設があるが，すべて住民の約40%を占める白人のためのものという。〔小栗　宏〕

ケープてんもんだい 【ケープ天文台】 南アフリカ共和国のケープタウン郊外にある天文台。1820年に設立され，口径46cmおよび33cmの屈折望遠鏡，20cm子午環などを備え，恒星の位置や二重星の観測に貢献している。

ケープホーン ［Cape Horn］ 南アメリカ大陸最南端，フェゴ諸島中のホーン島にある岬(みさき)。ドレーク海峡に突き出す。付近の海域は偏西風のために波が高く，高さ400mに及ぶがけが迫り，航海上の難所である。1616年オランダ人ショーテンによって命名された。

ケプラー ［Johannes Kepler］ (1571～1630) ドイツの天文学者。南ドイツのビュルテンベルク公国のワイルデルシュタットの生まれ。幼時は不遇のうちに育ち，神学を学んだが，のちにコペルニクス*の地動説を知るに及んで天文学に転じた。1594年にはグラーツ大学で数学と天文学を講じたが，1599年に新教徒の迫害にあってグラー

ッを去り，1600年プラハでチコ-ブラーエ*の弟子(でし)となり，翌年ルドルフ２世の宮廷天文学者となった。ケプラーは早くから惑星の運動に興味をもっていたが，チコ-ブラーエの残した火星の観測結果を用いて惑星運動法則(→ケプラーの法則)を発見した。これらの法則を用いて作成した惑星の位置表は〈ルドルフ表〉といわれ，予報精度はそれまでのものよりは高いものであった。彼は占星術的な偏見にいくぶんとらわれたところはあったが，他方，非常に進んだ科学的な考えをもっており，理論的な研究のほか，貴重な観測も残した。それらのうち1604年のへび座新星の観測，３個のすい星の発見があり，また微積分法の萌芽(ほうが)となるような計算法の発明，雪の結晶の研究などもある。一生涯(いっしょうがい)病身で貧困であり，先妻との死別，幼児の病没などで家庭的には不幸であった。〔根本順吉〕

ケプラーしきぼうえんきょう 【ケプラー式望遠鏡】 ⇨望遠鏡

ケプラーのほうそく 【ケプラーの法則】 ドイツの天文学者ケプラー*が，チコ-ブラーエ*の残した膨大な観測資料から見いだした惑星の公転運動に関する三つの法則。1609年に第１・第２法則を，1619年に第３法則を発見した。

【第１法則】惑星の軌道は一平面内にあり，太陽を焦点とする楕円(だえん)である。

【第２法則】惑星と太陽を結ぶ線分が一定時間内に描く面積は一定である(面積速度保存の法則)。したがって，惑星の公転速度は，太陽に近いときほど速く動き，遠ざかるほどおそくなる。

【第３法則】惑星の公転周期の２乗は，楕円軌道の長半径(太陽からの平均距離)の３乗に比例する。

ケプラーの法則は，一つの惑星と太陽だけを考えたときにのみ厳密に成立する。しかし，惑星の質量は太陽の質量に比べて非常に小さいので，ケプラーの法則からのずれは微小である。この法則は，ニュートン*の万有引力の発見の先駆として重要である。また，この法則は，惑星に限らず，万有引力に支配される運動，たとえば人工衛星の運動にもそのまま適用する。〔木下　宙〕

ケーブル ［Clark Gable］（1901～1960） アメリカの映画俳優。アメリカ人の開拓精神を象徴するような精力的男性を演じ，長くスターの座を保って，ハリウッドの王様とよばれた。代表作は《或(あ)る夜の出来事》《風と共に去りぬ》《荒馬と女》など。

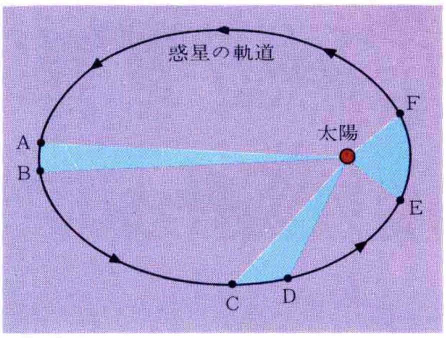
ケーブルカー ⇨鋼索鉄道

ケーブル-チェーン-ステッチ ［cable-chain-stitch］ ししゅうの針目の一種で，輪をつなぎ合わせたような鎖状のステッチ。主として線縫いに用いるが，組み合わせて面縫いに応用することもある。右から左へと刺していく。

ケプロン ［Horace Capron］（1804～



ケプラー



ケプラーの法則　第２法則



ケベック　セントローレンス川から見た市街の一部。左手の丘の上に建つフランスのシャトーふうの建物はシャトー-フロンテナク-ホテル

1885） アメリカの農学者。はじめ綿織物業に従事していたが，科学的農法に興味をいだき，イリノイ州でデボン種のウシの飼育を研究。南北戦争*に陸軍中佐として従軍し，1867年には農務長官となった。1871年，北海道開拓使顧問として来日，アメリカ式農法を取り入れて日本の農業の改革をめざし，また札幌(さっぽろ)農学校の教頭クラーク*，牧畜学のダン，鉄道技師クローフォードらの専門家を招いて北海道の開拓に大きく貢献した。〔折井一彦〕

ゲーペーウー ［GPU］ Obedinyonnoe Gosudarstvennoe Politicheskoe Upravlenieの略称。ソ連の国家政治保安部。十月革命の当初，反革命軍との闘争は革命軍事委員会がになったが，1917年12月にはチェカ(全ロシア反革命サボタージュ取り締まり非常委員会)が設けられた。国内戦の終結と平和建設への移行とともに，チェカはゲーペーウーに改組されたが，1923年ソビエト連邦の成立に伴って合同国家政治保安部となった。秘密警察的存在として認められたが，1934年に廃止され，その後国家保安機能はすべて全連邦内務人民委員部(内務省)に集中された。〔山県弘志〕

ケペシュ ［Gyorgy Kepes］（1906～　） ハンガリー生まれの造形研究家・デザイナー・映像作家。1930年から６年にわたって，ベルリンでモホリ-ナギ*に協力しながら，映画・舞台装置・展示デザイン・グラフィック-デザインの仕事をし，のち1937年アメリカに渡ってナギの主宰するシカゴ-デザイン研究所(ニュー-バウハウス)で造形教育にあたり，光と色彩部門の教育を担当した。1944年には《視覚言語》を著わしたが，その後も芸術と科学にわたる幅広い問題を理論的に追究した。1946年，マサチューセッツ工科大学のビジュアル-デザインの教授となる。〔武井邦彦〕

ケベック(州) ［Quebec］ カナダ東部の州。面積154万668km²。人口602万8,000(1971)。州都ケベック。カナダ最大の州で，西はハドソン湾・オンタリオ州，南はオンタリオ湖と合衆国の諸州，東はセントローレンス湾とラブラドル地方に接し，北はハドソン海峡に面している。全域の10分の９は先カンブリア系の楯状地(たてじょうち)に含まれる。湖沼と森林の多い地域で，パルプ材の生産はカナダの総生産の約50％に達し，全州中第１位である。セントローレンス川の低地では農牧業が発達し，ウシ・酪製品・ブタ・オート麦・大麦・ジャガイモ・果実などを生産している。金・銅・亜鉛・銀・クロム・モリブデン・アスベストなどの鉱産物も多く，近年はラブラドルとの境付近で鉄鉱石の開発が進んでいる。水力発電が盛んで，発電量は全カナダの48％に達し，工業ではパルプ・製紙・衣服・金属工業が活発である。17世紀初期からフランス系移民によって開拓されたところで，現在でも全人口の90％近くをフランス系住民が占め，英語のほかにフランス語が公用語として認められている。1867年発足のカナダ連邦加盟州の一。〔梠村大彬〕

ケベック ［Quebec］ カナダ東部，ケベック州の州都。人口18万6,000，大ケベック48万1,000(1971)。セントローレンス川の北岸，セントチャールズ川との合流点に発達した河港で，カナダで最も古い都市の一。セントローレンス川を隔てた対岸のリービスとはわずか1.6kmの距離にあり，ケベックの名もインディアンのことばで〈狭い〉を意味する。1608年，フランス人サミュエル-ド-シャンプレンによってダイヤモンド岬(みさき)のふもとに開拓地が開かれたのがこの町のはじまりで，17世紀のフランスの植民はここから始まった。1791～1841年は下カナダ州の州都，1867年からはカナダ連邦下のケベック州の州都となった。市街は山

手と下町の２地区に分かれて，山手はフロンテナク城(1823～1832年にかけて建てられた)を中心としたダイヤモンド岬の一画とその周辺地区，その北方の下町は商工業区となり，軽工業も活発である。合衆国以北唯一の城壁都市で，フロンテナク城はカナダ総督の夏の別荘地となっている。フランス系の住民が多く，カナダ式フランス語と，ところどころに見られる旧フランス文化が目をひく。ケベック港は家畜・材木・穀物の輸出港であり，付近には製材・織物工場が多い。〔相村大彬〕

ケベックかいだん　【ケベック会談】　第２次世界大戦中，連合国側の戦争指導のためにアメリカ大統領F. ルーズベルト，イギリス首相チャーチルらがカナダのケベックで行なった会談。1943年８月の第１回会談では，第２戦線としてノルマンジー上陸作戦を決めるとともに，東南アジア司令部設置などを討議した。1944年９月の第２回会談では，パリ解放のあとをうけて，ドイツに対する最終作戦と戦後処理の問題や，太平洋方面の作戦を討議した。

ケベックほう　【ケベック法】　1774年，イギリスが北アメリカ植民地に対して発した立法。アメリカ植民地人の西部進出を禁止した土地政策の一つで，王領カナダのケベック州の南境・西境をオハイオ川・ミシシッピ川まで拡大し，この地をイギリス人毛皮商人・インディアンのために保留した。また，同州の住民に信仰の自由を認め，フランス領時代の政治制度を復活させた。そのため，カトリック教徒の勢力拡大を恐れる植民地のプロテスタント，西部進出を阻止された土地投機業者，農民をおこらせ，アメリカ独立革命への気運を高めた。〔折井一彦〕

ケベード　［Francisco Gómez de Quevedo］（1580～1645）　スペインの作家。小説・詩・戯曲など広い分野に活躍した才人で，政治面でも波乱に富んだ生涯(しょうがい)を送り，傑出した剣客でもあった。作風の特色は厭人(えんじん)的な風刺と諧謔(かいぎゃく)で，その根底に奇想主義(奇怪な引用や故事を用いた文体)がある。代表作に悪者小説*の秀作《騙(かた)りの生涯》，ダンテの《神曲地獄編》にヒントを得たと思われる《夢》などがある。

ケーベル　［Raphael Koeber］（1848～1923）　ドイツの哲学者・音楽家。ロシアで生まれた。ロシアで音楽を，ドイツで哲学と文学を学ぶ。1893年(明治26)東京大学*教授となる。その古典的教養と高い人格とは学生に深い影響を与え，日本の学界に大きな感化を及ぼした。横浜で没す。著書《ケーベル博士随筆集》。

ゲベル　［Geber］　８世紀におけるアラビアの最も有名な錬金術*師。アラビア名はジャビル-イブン-ハイヤンというが，ゲベルの名でヨーロッパの錬金術師から尊敬された。クーファの薬種商を父とし，回教君主ハルン-アル-ラシッド*の宮廷付き錬金術師であったらしい。アラビア語で多数の錬金術書を著わしたが，おそらく大部分は彼の原作をあとで改訂・増補したものであろうとされている。

けぼり　【毛彫】　文字や文様を線刻する彫金技法の一つで，最も古く，また基本的な技法。三角にとがった鏨(たがね)を使用して連続した鋭い線が彫られ，毛髪のような細線の彫りが可能であることからこの名がある。わが国では，唐文化の影響を受けた奈良時代の金工品に毛彫の名品が多く，東大寺大仏の蓮弁(れんべん)や二月堂本尊光背の毛彫仏画は特に著名である。

ケーマ(高原)　【蓋馬】　朝鮮の北東部を占める山地。北は豆満江(とまんこう)と鴨緑江(おうりょっこう)によって限られ，咸鏡(かんきょう)北道・咸鏡南道・両江道・慈江道に広がる。起伏の小さい高度1,000～2,000mの玄武岩台地で，最高点は清津(せいしん)西方の冠帽峰(2,541m)。高原上の気候は夏は冷涼，冬は寒冷で産業は遅れていたが，第２次世界大戦後は集団農場で高地適作の農業が試みられている。

ゲマインシャフト　［Gemeinschaft］　テニエス*が用いた用語。共同社会と訳され，ゲゼルシャフト*(利益社会)の対語として用いる。あらゆる分離にもかかわらず本質的に結びついていて，信頼に満ちた親密な共同生活での実在的・有機的生命体をいう。本質意志(思惟(しい)を含む意志)によって結合された自然的な人々の意志の完全な統一体で，それはまた，個人に内在する統一体の意志や精神によって導かれる。血縁に基づく家族*，地縁に基づく村落*，友情に基づく中世的都市などがその例である。テニエスは，相互肯定的態度によって貫かれ，つねに有機的全体が部分に先行する歴史主義的社会類型を考えたのである。それゆえ，古きゲマインシャフトは新しきゲゼルシャフトに取って代わられることになる。〔国近浩一〕



ケマル - アタチュルク

けまり　【蹴鞠】　〈しゅうきく〉ともいう。皮製のまりをける遊びで，古くから宮廷の貴人などの間で行なわれたことからこの名がある屋外遊戯。通常６人あるいは８人が１組みとなり，しか皮の束帯・衣冠*・狩衣*(かりぎぬ)などの装束を着用して，しか皮２枚を球形に縫い合わせたまりを一定の作法に従って順次けり続ける。1,400年ほどまえ中国から伝わったものといわれ，鎌倉時代には全盛をきわめたがしだいにすたれ，現在では京都蹴鞠保存会・香川県金刀比羅宮(ことひらぐう)などで行なわれる。〔小林亥助〕

ケマル-アタチュルク　［Kemal Atatürk Mustafa］（1881～1938）　トルコ共和国の初代大統領。本名ムスタファ-ケマル。はじめケマル-パシャとよばれていたが，1934年議会によってアタチュルク(父なるトルコ人の意)の姓を贈られた。ギリシアのサロニカの生まれ。イスタンブール陸軍大学にはいったが学生運動に参加して騎兵連隊に出され，青年トルコ党*を支持したが，立憲制を主張してこれから離れた。第１次世界大戦で大佐に進んだが，敗北の結果全土が連合軍の占領体制に置かれたとき，屈辱的なセーブル条約を結んだ政府を否認してアンカラに新政府を樹立し，国民軍を組織して独立のために戦った。連合軍がこの新政権を承認し，あらためてローザンヌ条約を結んだのち，1922年にスルタン制を廃止し，1923年トルコ共和国の成立を宣言して初代大統領となったケマルは，中世的イスラム国家であったオスマン帝国が近代的な西欧的



蹴　鞠　室町時代になった《蹴鞠図屏風》六曲屏風一双のうち左隻　根津美術館蔵



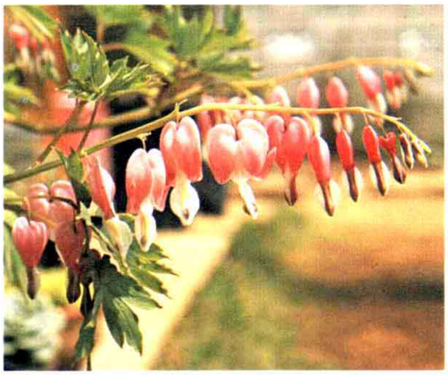
華　鬘
《牛皮華鬘》

な国家となるための諸改革を断行し，その死に至るまで3回にわたって大統領に選ばれた。〔斎藤淑子〕

けまん【華鬘】 仏殿を装飾する荘厳具(しょうごんぐ)の一。元来は花でつくった装身具の類をさし，インドで貴人に花輪をささげる風俗に由来している。わが国では《日本書紀》にみられる花縵(はなかずら)の記事が初見である。平安初期の文献に散見する華鬘代(けまんだい)の記事から推察して，すでにこのころには金銅・木製による代用華鬘がつくられていたと考えられる。うちわ形の内部に宝相華文*(ほうそうげもん)や蓮華文(れんげもん)を配し，中央に総角(あげまき)，下方に鈴形をつるのが通例である。おおむね金銅・牛皮・木を材料とするが，古くは糸・玉なども用いられた。遺品は，教王護国寺旧蔵の牛皮(ごひ)華鬘と中尊寺金色堂の金銅華鬘が著名で，いずれも宝相華文に迦陵頻伽(かりょうびんが)文*を配した平安後期の作とされ，国宝の指定がある。〔河田　貞〕

けまんそう【華鬘草】 双子葉植物・ケシ科。中国原産の多年草。古く日本にはいり，観賞用として栽培される。フジボタン・タイツリソウともいう。高さ30〜60cm。葉は羽状に切れ込みがあり，緑白色。4月ごろ，茎の上部に四花弁からなる淡紅色の花が1列にたれ下がって咲く。

ケミカルコントロール［chemical control］ 化学薬剤による植物の生育制御の意で，植物の生長調節物質をもって，積極的に作物を変革しようという目的で化学薬剤が応用される場合に用いる。1928年オランダのウェントがマカラスムギの幼植物を用い，暗室内でその子葉鞘(しょうしょう)の屈光現象を起こさせる物質を寒天に集めることに成功して以来(➞アベナテスト)，β-インドール酢酸(ヘテロオーキシン)が発見され，インドール酪酸*・α-ナフタレン酢酸，さらに2-4-D*(ホルモン系除草剤)が開発された。ジベレリンはわが国の藪田(やぶた)・住木らが精製，結晶化に成功し，ブドウの種子なし栽培などに応用されている。そのほか，



ケマンソウ



ケムシヒザラガイ

脱葉剤や細胞分裂促進機能をもつカイネチンなどが開発された。〔金木良三〕

ケミカルシューズ［chemical shoes］ 甲の部にビニルレザーや化学繊維などを，底部には合成ゴムを使ったくつ。化学製品の開発に伴い，風合い・つやが天然皮革のような素材も出回り，皮革のくつとの区別がつきにくくなってきている。もとはカッターシューズが大部分であったが，最近ではタウンシューズの分野にも広がっている。

ケミカルパルプ ⇨化学パルプ

ケミグランドパルプ［chemi-ground pulp］ 木材またはチップに薬液をしみこませてから，機械力で繊維をほぐして取り出したもの。歩どまりは85〜95%。製造法は使用する薬品によって冷ソーダ法・中性亜硫酸法などに分けられる。広葉樹材のパルプ化に適し，パルプの性質は半化学パルプより機械パルプに近く，板紙・新聞用紙・印刷用紙などの原料として広く用いられる。なお，チップ法によるものはケミメカニカルパルプともよばれる。➞パルプ〔香山　彊〕

けみほう【検見法】 江戸時代の貢租に関する制度。毛見法とも書き，〈けんみほう〉とも読む。当年の作柄を見て，その年の年貢額(ねんぐがく)を決める徴税法で，室町中期ごろから行なわれ，豊臣秀吉(とよとみひでよし)もこの方法で徴税を命じた。しかし，実施上の制度が整ったのは江戸時代になってからである。検見法に対する徴税法に定免法*がある。江戸幕府は享保(きょうほう)の改革*にあたって定免法を採用したが，実施にはこの二つの方法を巧妙に併用して，徴税の成績をあげた。検見法の実施には，検見役人が収穫前に管内の郷村(➞惣(そう))を巡回し，村役人立ち会いのうえで作柄を実地調査して，その年の年貢額を決めた。村内の数か所にわたり，抽出的に1坪(3.3m^2)ごとに稲を刈って，作柄を精査する坪刈*が規定となっていたが，実際には代官*が遠所から見回して決める代官遠見検見，村役人を呼び出して決める請免検見が多く行なわれた。そこに検見役人の裁量の余地が生じ，検見役人への贈賄が流行するようになった。しかし，豊凶の影響を切実に受ける一般農民には，定免法より検見法が迎えられた。明治維新後，地租改正*の完成で貢租制度とともに廃止された。〔高崎徳次〕

けむし【毛虫】 こん虫類・鱗翅(りんし)目の幼虫のうち，体が長く，体表に長短の毛が密生しているものの俗称。ドクガやイラガなどの幼虫が皮膚に炎症などを起こさせるため，一般に毛虫は有毒な害虫としてきらわれるが，実際にはそのようなものはごくわずかで，大部分が無害である。

けむしひざらがい 軟体動物・ヒザラガイ類・ケハダヒザラガイ科。体長7cm，体幅2cm，体高1cmほどで，ヒザラガイ類としては珍しく長楕円(ちょうだえん)形で細長い。名のように背面に短いとげが毛のように密生し，殻板(かくばん)は小さくて目だたない。北海道から九州まで分布し，潮間帯の岩礁に普通にみられる。➞ヒザラガイ

ゲームのりろん【ゲームの理論】 ゲームの特徴を取り入れた経済学理論。トランプ・碁・じゃんけんのようなゲームは，自分がこうすれば相手はこうするであろうから自分はこうするというように，たえず相手の出方を予想しながら自分の行為を決めていくところに特徴がある。1928年ハンガリーの数学者ノイマン*によってはじめて理論化され，1944年彼とウィーン学派の経済学者モルゲンシュテルンの共著によって経済学に一つの分野を確立した。ゲームの理論は，①利害の相対立する複数のプレーヤーがいる，②これらのプレーヤーはそれぞ

れ自分の利益を最大にしようとして行動する，③その利益は他のプレーヤーの行動にも依存する，などの点を特徴として戦略的対立の状態を解いていくもので，互いになるべく自分の犠牲を最小にし，利益の期待値がなるべく大きい結果が得られるように解こうとする。資本主義社会における，利害の対立する経済主体相互の関係を研究する際に取り入れられる。なお，この理論はオペレーションズ-リサーチ*にも応用されている。〔藤枝省人〕

けむり【煙】空気中に固体の微粒子が分散しているエーロゾル*の一種。種々の物質が燃焼して生成する反応生成物が凝集し，非常に細かい粒子として空気中に分散しているものであり，たとえば木材・石油・石炭などが燃焼するとき，不完全酸化によって生じた炭素原子が集合してできる炭素粒子，金属の酸化物(灰)や液体などの微粒子が空気中に浮遊している状態をいう。粒子の直径は0.01～5μ程度と考えられている。広義には，化学反応で生じた微粒子，機械的に微分化された粒子などが気体中に分散浮遊しているものも含める。

都会の住宅・工場・交通機関から放出される煙は大気を汚染するため，保健衛生上大きな問題となっている。また，濃度の大きい場合には光の透過を妨げるので，交通にも支障を生じる。大気の成層が安定で，上下の空気の移動が少ないときには，微粒子は沈降し，煙は大気の下層にたまって濃度が大きくなる。また，湿度の高いときには，スモッグ*を発生することもある。煙の害を防ぐには，生成した微粒子を大気中に放出しないことが最も望ましく，そのための集塵器(しゅうじんき)・濾過器(ろかき)などが考案されている。なお，非常信号や花火およびその他の目的で煙をつくるため，化学反応を利用して微粒子をつくる発煙剤がある。ときには着色煙をつくるため，色素が用いられることがある。〔水野俊彦〕

ケメニー［Zoltan Kemeny］(1907～1965) ルーマニア生まれの彫刻家。金属スクラップ・ワイヤー・くぎなどを構成し，大小のフォルムがくり返し増殖する特異な〈レリーフ絵画〉で注目され，1964年ベネチア-ビエンナーレで彫刻大賞を得た。

ケメロボ［Kemerovo］ソビエト連邦，西シベリア南部にある同名州の州都。旧名シチェグロフスク。人口42万5,000(1973)。オビ川の支流トミ川岸にある鉱工業都市で，1916年に建設され，第2次世界大戦中，工場の東方移動により発展した。クズバス工業地帯の一中心であり，石炭の採掘のほか，コークス・化学・機械などの工業が盛ん。

けものじらみ【獣虱】こん虫類・シラミ目・ケモノジラミ科の総称。各種の獣類に寄生し，多くの種類が知られている。特定の寄主にのみ寄生する種類が多く，家畜の害虫として有名な種類も多い。ウマジラミは3mmほどでウマ・ロバ・シマウマなどに，ウシジラミは2mmほどでウシに，ブタジラミは3～6mmでブタに，イヌジラミは2mmほどでイヌ・キツネ・ウサギなどに，ウシホソジラミは2.5mmほどでウシに，ヤギジラミは2mmほどでヤギに，ヒツジジラミは2mmほどでヒツジに寄生する。これらはいずれも世界共通種である。



ケヤキ 天然記念物に指定されている馬場大門(東京府中市)のケヤキ並木



ケヤリムシ



ケラ

けやき【欅】双子葉植物・ニレ科の落葉高木。日本・朝鮮・中国に分布し，並木・庭木などとして植えられる。高さ30m，径2mに達する。多く枝を出し，若枝には細毛がある。葉は互生し，卵形，表面はざらつき，側脈は羽状で8～18対。春，新葉といっしょに新枝の下部に淡黄緑色の小花を密生する。雌雄同株で花弁はない。果実は稜(りょう)のある平たい球形でかたい。小枝は冬に小果と枯れ葉をつけたまま母枝から離れて散る。材は強靭(きょうじん)で狂いが少なく，光沢・木理が美しいうえに腐りにくいため，柱などの建築材，船舶材・車両・楽器・家具などに利用される。〔横井朝子〕

けやりむし【毛槍虫】環形動物・多毛類・ケヤリ科。体は黄かっ色で，体幅10～15mm，全長10～20cm。えらはよく発達して冠状に頭部につき，紫かっ色あるいは濃紫かっ色と淡紫かっ色のまだら模様を呈する。体はつねに膜質で汚かっ色の筒状の棲管(せいかん)の中にあり，干潮線付近の岩のすき間に固着する。水中にあるときは，鰓冠(さいかん)を棲管の先端から外に花のように広げて美しい。本州中部以南，オーストラリア・紅海に及ぶ広い海域に分布する。近縁種のエラコ*は姿・色彩ともに似ているが，分布が北に片寄り，東北地方以北に産する。〔菅野　徹〕

げゆじょう【解由状】解由ともいう。奈良・平安時代に内官*・外官*の任期交替の際，前任者の在任中の事務が滞らず，不正のない旨を記して，後任者が前任者に交付する事務引き継ぎの文書。前任者は上司にこれを提出して任務を終了する。国司の解由は特に重要視された。前任者が義務不履行のときは，不与解由状を与えた。

けら【螻蛄】こん虫類・直翅(ちょくし)目・ケラ科。体は長さ3cmほどで，茶かっ色ないし黒かっ色。頭は円錐(えんすい)形に近く，黒色をおびる。前胸背は大きく，後縁は著しく丸みをおびる。腹部は比較的長く，背面の末端2節には両側から内方に向かう剛毛塊がある。前翅は腹部中央に達し，後翅は長く尾状で，腹部末端を越える。前脚は太く短く，大小の歯状の突起が多数あり，土を掘るのに適している。日本全土からアジアの熱帯地方・オーストラリア・ハワイ・アフリカなどに広く分布し，雑食性。オスは〈ジー〉と長く続けて鳴き，俗にミミズの鳴き声といわれる。雌も〈ジィジィ〉と短く発音するといわれている。ケラ科は全世界から約50種が知られているが，日本にはケラ1種を産するにすぎない。

ケラー［Gottfried Keller］(1819～1890) ドイツ系スイス人の作家。スイスのチューリヒに生まれ，はじめ画家を志望してドイツに留学したが，失敗して文学に転じ，再度ドイツに留学した。唯物論哲学者フォイエルバッハ*の影響を受け，現世主義的・写実主義的芸術観を確立。出世作は4巻の自伝的教養小説《緑のハインリヒ*》。ほかに《ゼルトビラの人々》《七つの伝説》《チューリヒ短編集》《寓詩(ぐうし)物語》などのすぐれた小説や，叙情詩・民主主義的政治詩などがある。〔中村浩三〕

ケラー［Helen Adams Keller］(1880～1968) アメリカの著述家・社会福祉事業家。アラバマ州の生まれ。幼時に盲目・聾唖(ろうあ)となり，アンナ-サリバンの献身的努力で社会生活に復帰した。1904年ラドクリフ大学を優等で卒業し，盲聾唖者として史上初の大学教育を完了した。以後アメリカ全土・世界各地を講演して歩き，〈光の天

使〉とよばれてその訪問は身体障害者に明るい希望を与えた。盲人福祉事業の発展に貢献，アメリカ盲人事業財団ヘレン-ケラー基金を創設。《自叙伝》ほか多くの著書がある。〔折井一彦〕

ケーラー ［Wolfgang Köhler］（1887～1967） ドイツの心理学者。ウェルトハイマー*・コフカ*とともにゲシュタルト心理学*の発展に寄与した。1912年から1935年までフランクフルト・ゲッチンゲン・ベルリンの諸大学で教鞭(きょうべん)を取り，その間，テネリフェ島の類人猿(るいじんえん)研究所に勤務(1913～1920)，その成果を《類人猿の知恵試験》にまとめ(1917)，機械論的学習説に反論して学習*理論に洞察(どうさつ)の概念を導いた。また知覚・記憶に関する論文において展開された場*理論・力学観は，その後の心理学に大きな影響を与えた。1935年ナチスに追われてアメリカに渡り，スワスモア一大学の客員教授となる。主著に《静止及び定常状態における物理的ゲシュタルト》，《心理学における力学観》などがある。〔古崎　敬〕

ゲラーシモフ ［Aleksandr Mikhailovich Gerasimov］(1881～1963) ソ連の画家。ロシア写実主義の伝統的作風に立ち，レーニンやスターリンの肖像画がある。〈人民芸術家〉の称号をもち，芸術アカデミー総裁として活躍。

ケラチン ［keratin］ 毛髪・羊毛・羽毛・角・つめ・ひづめなどに含まれる硬タンパク質*の総称。角質ともいう。これらの物質を熱有機溶媒，次いで熱水で抽出し，さらにタンパク質分解酵素によって随伴するタンパク質を除いて得られる。アミノ酸組成上の特徴はシスチン含量が多いことである。毛髪や羊毛を焼くとき出る臭気はこのシスチンに由来するものと考えられる。ペプチド鎖がシスチンの－S－S－結合で網状につながっていると考えられ，これが水などに不溶性の原因とみられる。しかし，－S－S－を切断するような試薬，たとえばアルカリ・過酸化水素・チオグリコール酸(コールド-パーマネントウエーブ液)・硫化ソーダ(脱毛剤)などには弱い。毛髪や羊毛の天然のままのケラチンをα－ケラチン，これに張力をかけて引き伸ばしたものをβ－ケラチンという。α－ケラチンでは，ポリペプチド鎖がコイル状のらせん構造をとっているが，β－ケラチンではポリペプチド鎖がまっすぐに伸長した構造をしていると考えられる。このα型とβ型の変化は可逆的で，β－ケラチンは張力を取り去ると自然に収縮してα－ケラチンにもどる。化学的処理によって一時的に毛髪をβ型にセットし，収縮できなくすることも可能であり，この原理を利用したのがコールド-パーマネントウエーブである。羊毛を水蒸気・アルカリ・銅アンモニア錯塩などで処理すると，もとの長さよりも短くなる超収



ゲラン　《マルクス-セクストゥスの帰還》ルーブル美術館蔵



ケリ　草原に枯れ草などで巣をつくる

縮の現象がみられる。皮膚や神経組織中にもケラチン様物質が含まれており，これはプソイドケラチンとよばれる。ケラチンは動物体の保護に役だつと考えられる。〔山崎博子〕

けらてつ 【鉧鉄】 たたら*炉によって砂鉄と木炭から直接製造された鋼。原料砂鉄は真砂小鉄(まさこがね)とよばれる砂鉄で，あらいケイ石以外の含有物が少ない。鉧は破砕選別されたのち，さらに精錬されて刀剣類の鍛造作製に用いられる。鉧鉄をつくることを鉧押(けらおし)という。

ゲラニオール ［geraniol］ テルペンアルコールの一種。$(CH_3)_2C=CHCH_2CH_2C(CH_3)=CHCH_2OH$ 天然には遊離またはエステル状で，植物精油中に広く分布し，ことにパルマローザ油に80～90%，ローズ油・ゼラニウム油中に40～50%，シトロネラ油に30～40%含有されている。天然精油から分離するか，シトラールを還元したりして得られる。甘い優雅なバラのかおりを有する無色の液体。香料として重要で，バラ系花精油・一般化粧品香料などに広く用いる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

けらましょとう 【慶良間諸島】 沖縄島の南西方洋上に点在する大小20余の島嶼(とうしょ)群。慶良間列島ともいう。面積最大(9 km²)の渡嘉敷(とかしき)島とその西側にある座間味島(8.5km²)との間に慶良間海峡があり，これを境にして東側の渡嘉敷・前島などの島々を前慶良間，西側の座間味島・阿嘉(あか)島・慶留間島・屋嘉比島などを後(くし)慶良間とよぶ。前慶良間は渡嘉敷村(人口759)，後慶良間は座間味村（人口766）を形成し，ともに島尻(しまじり)郡に属する。山がちで，住民は農漁業を主とし，ブタを飼っているが，かつては3,300あった人口も年々減少して，前島のように無人島になったものもある。1945年(昭和20) 3月26日，沖縄攻略を目的とするアメリカ軍は沖縄本島より前に座間味島・阿嘉島・慶留間島に上陸，翌27日，渡嘉敷島に上陸し，島民は日本軍と行動をともにして，降伏後の8月24日まで戦った。この戦闘中，両村あわせて約700名の老幼者の集団自決があり，その一部は軍の強制によるものであった。〔浅井得一〕

ケララ(州) ［Kerala］ インド共和国西南部，マラバル海岸に沿う州。面積38,800 km²。人口2,135万(1971)。州都トリバンドラム。海岸の直後を西ゴーツ山脈が走り，海岸沿いに狭長な平地が伸びている。気候は高温多湿で，年降水量は3,000mmを越える。位置上古くから東西交通の要地にあたり，バスコ-ダ-ガマの上陸したカリカット(現コジコーデ)やコーチンなどの都市が栄えた。キリスト教も早くから伝わり，インドで最もキリスト教徒の集中する地域で，ヨーロッパ文化の影響も強い。農業が主産業で，米・キャッサバ・ココヤシ・サトウキビ・コショウ・ゴムなどの栽培が盛ん。特に，コショウとゴムはインドの産出の大半を占める。ほかに漁業・鉱業も行なっている。この州はインドで最も住民の識字率が高く，文化も進んでおり，1957年の州議会選挙ではインドではじめて共産党が第一党となって内閣をつくったこともあり，進歩的な州として知られる。〔別技篤彦〕

ケラワック ［Jack Kerouac］（1922～ ） アメリカの小説家。作家になるまで種々の職業について放浪を重ね，それらの体験から《町と都会》《放浪》などを書き，ビート-ゼネレーション*の文学運動の代表的存在となった。画一的な生活に反逆し，自我の充足を求めて，新しい生活体験を放浪の中に探ろうとする《放浪》は，大きな反響をよんだ。ほかに《地下街の人々》などの小説や詩集がある。

ゲラン ［Pierre Narcisse Guérin］（1774～1833） フランスの画家。ダビッド*の競争相手であったルニョーの門から出，古典派画家のひとりに数えられる。ローマ賞を得てから描いた《マルクス-セクストゥスの帰還》で認められ，作品の主題には劇的な叙情を含むものが多い。門下にジェリコー*・ドラクロア*がいる。

けり 【鳧】 鳥類・チドリ科。全長35cmほどの大形のチドリ。くちばしは先半分は黒色で，基半分は橙黄(とうおう)色。脚は長く黄色。体部は白色・灰色・かっ色・黒色からなり，じみだが美しい。中国大陸および青森県から京都府まで数県の湿田・畑や川原の草地などで営巣するが，その数は多くない。この名は〈ケー・ケー〉とか〈キリッ・キリッ〉というその鳴き声に由来する。

ケーリ [Arthur Cayley] (1821～1895) イギリスの数学者。友人シルベスターと組んで，代数的不変式論を研究。楕円(だえん)関数論・解析幾何学・微分方程式論など，解析学全般にわたり業績を残した。

げり **[下痢]** 液状または液状に近い便を排泄(はいせつ)すること。通常その排便回数も増加する。大腸の蠕動(ぜんどう)運動亢進(こうしん)により，内容物の通過が早く，水分の吸収が十分行なわれないために起こり，腸管の疾患による原発性下痢と，他疾患の一症候として起こる続発性下痢とに分けられる。

原発性下痢のおもな原因をあげると，①細菌(細菌性赤痢・コレラ・サルモネラなど)・ウイルス・原虫・アメーバ(アメーバ赤痢など)・寄生虫などの病原体によるもの，②過食・過飲によるもの，③腸管アレルギーによるもの(牛乳・貝・卵・魚など)，④下剤・ヒ素・水銀・鉛などの化学的物質や腸石・胆石・異物などの刺激によるもの，などである。これらの原因では症状は急性症状を呈するが，腸結核・潰瘍(かいよう)性大腸炎・大腸癌(だいちょうがん)・リンパ肉芽腫(にくがしゅ)・腸梅毒などでは慢性下痢の症状を呈する。一方，続発性下痢は，肺炎・敗血症・尿毒症・糖尿病・心不全・白血病・胃癌・慢性胃炎・慢性膵炎(すいえん)・バセドー病・アジソン病・ペラグラなどの疾患の一症候としても現われる。このほか，精神的ショック・ノイローゼ・ヒステリーなどの場合にも下痢をきたす場合がある。

治療法はその原因に対して行なうのが先決である。また，食餌(しょくじ)療法や消化剤・吸着剤・収斂(しゅうれん)剤・鎮痙(ちんけい)剤などの薬物療法も併用する。下痢に伴う症状としては腹鳴・腹痛・膨満感などを訴えるが，下痢の激しい場合には，脱水症状を呈する。特に小児の場合には脱水症状をきたしやすいため，すみやかに医師にかかる必要がある。〔後藤義隆〕

ゲーリ [Gary] アメリカ合衆国インジアナ州，ミシガン湖南岸の工業都市。人口17万5,000(1970)。世界有数の大鉄鋼都市で，U.S.スチール社の鉄鋼工場がある。湖岸には巨大な溶鉱炉が立ち並び，市の上空はその煙でおおわれる。ゲーリ港は同社の所有で，鉄鉱石や石灰石の荷揚げを行なっている。外国人や帰化人(特にスラブ系)・黒人の多い都市である。

ゲリウス [Aulus Gellius] (123～165) 古代ローマの法律家・作家。ローマ生まれ。法律・修辞学を学び，さらにアテナイに遊学してプラトン哲学・アリストテレス哲学を学んだ。帰国後弁護士となる。代表作《アッチカの夜》20巻では法律・文法・歴史・伝記・テキスト校訂・文学批評など多岐にわたって討論する形式をとっている。原典をふんだんに引用しているので，資料としての価値も大きい。



ゲーリケ



ゲーリッグ

ゲーリケ [Otto von Guericke] (1602～1686) ドイツの物理学者。マグデブルクの門閥の家に生まれ，政治面でも活躍し，同市の市長も勤めた。自然科学では実験的方法を主張したひとりで，この考えから真空を調べ，空気ポンプの開発からはじめて真空がつくり出せることを示し，気圧計の製作も行なった。1654年大気の圧力の強さを示すために行なった〈マグデブルクの半球*〉の実験は有名である。その他，真空中での音や光の伝播(でんぱ)の考察，イオウ球を摩擦する起電機の製作などがある。

ゲーリッグ [Henry Louis Gehrig] (1903～1941) アメリカの名野球選手。1923年から1939年まで，ニューヨーク・ヤンキースの一塁手として活躍し，〈鉄人〉の愛称で親しまれた。1925年6月1日から1939年4月30日までの2,130試合に連続出場の記録をつくった。生涯(しょうがい)打率3割4分。本塁打494本。1939年小児麻痺(まひ)を病んで引退し，同年野球殿堂入り。背番号4はニューヨーク・ヤンキースの欠番となった。1934年，ベーブ・ルース*ら一行と来日した。〔鈴木美嶺〕

ゲリバラ(鉱山) ⇨エリバレ鉱山

けりぼり **[蹴彫]** 金工品の線刻技法の一。鏨(たがね)を金属に打ち込んで軽く浮かし，けりあげるように彫り進む手法で，描線は楔形(くさびがた)状の点を連ねた状態となる。わが国では平安時代に盛んに行なわれたが，繊細な感覚の金工品に優品が多い。

ゲリボル [Gelibolu] トルコ北西部にある港市。ガリポリともいう。人口16,000(1965)。ゲリボル半島の基部にあり，イスタンブールの南西210kmに位置する。エーゲ海からマルマラ海へ通ずるダーダネルス海峡に臨み，古来商業・軍事上の要地であった。紀元前5世紀，ギリシアの植民地ガリポリスとして起こり，ヘレニズム時代に商港として重きをなした。中世には商業都市として栄え，1204年からベネチア，13世紀中ごろからジェノバの支配下に置かれた。1354年，トルコがヨーロッパに進攻したとき，ヨーロッパで最初に占領された都市であった。1854年，クリミア戦争でイギリス・フランス連合軍に占領された。第1次世界大戦中の1915年，ハミルトン将軍指揮下のイギリス・フランス連合軍のガリポリ作戦で市街は破壊されたが，その後復旧した。〔大崎 晃〕

ゲリマンダー [gerrymander] 選挙区の設定で，自党にだけ有利になるよう不自然な形で区割りをすること。1812年，ゲリがアメリカのマサチューセッツ州知事時代，自党の民主共和党がこれを強行して，伝説上の怪獣サラマンダーの奇怪な姿に似た異様な形の選挙区をつくったのに対し，一漫画家がこれを風刺してゲリマンダーとよんだことに始まる。不公平な選挙区の割りふりは，結果的には選挙民の総意と利益に反することになる。〔溝口 潔〕

ゲリラせん **[ゲリラ戦]** 通常，敵軍の勢力圏内において，現地住民を主力とする武装団体あるいは潜入または残留した部隊などをもって，敵の作戦能力の低下あるいは士気の減殺などを図ることを主目的として行なう戦闘行動をいう。ゲリラは〈小戦闘〉を意味するスペイン語。ナポレオンの半島戦争*に際してスペイン国民が各地で反乱を起こし，ついにフランス軍を敗退させたので，その後一般に広く使われるようになった。ゲリラ戦の特色は，正規戦と異なり，その行動が神出鬼没，変幻自在であり，住民と深く結合していること，政治性が強いことである。したがって正規戦の場合，ゲリラ戦はその補助的役割を果たすが，武力革命の場合とか，植民地の解放戦争，強大な外国軍の侵略に対する抵抗などの場合，地域的にまた時期的にゲリラが主体となることがある。毛沢東はこれを革命戦略として体系づけ，8年に及ぶ抗日戦において戦略的遊撃戦を指導したことは著名である。➔不正規戦 ➔パルチザン戦〔森田 哲〕

ゲーリング [Reinhard Goering] (1887～1936) ドイツの劇作家。医学を学び，第1次世界大戦に軍医として従軍したが病気で倒れ，1917年簡潔で情熱的な叫喚劇《海戦》によって名声を博し，表現主義*の代表的戯曲とされる。ほかに《南極探検》などの戯曲や小説がある。

ゲーリング [Hermann Wilhelm Göring] (1893～1946) ドイツの政治家・空軍軍人。ナチス*に入党後ミュンヘン一揆(いっき)に参加，のち国会議員・国会議長となってナチス政権の成立に大きな役割を果たした。その後も要職を占め，ヒトラーの後継者として戦争を指導したが，第2次世界大戦末期に他の指導者と対立し，すべての

官職を奪われた。大戦後，戦犯として処刑される直前，服毒自殺した。

ゲーリンクス　[Arnold Geulincx]（1624～1669）オランダの哲学者。ベルギーのアンベルスの生まれ。オランダのルーバンに移り，同地の大学で哲学・神学を修め，1646年同大学教授，1665年ライデン大学教授となり，同地においてペストで死んだ。デカルト哲学に深く影響されたが，その二元論に対しては不満をもち，その理論的矛盾を解消するために心身の相互作用を否定して，神を唯一の原因とする機会原因論*を主張した。また，倫理学の上では神への絶対的服従を最高の徳と説いた。主著《倫理学》。〔石井忠厚〕

ケール　[Ker]　古代ギリシアの神話・伝説に現われる精霊。人間の死の運命を支配し，戦場で英雄たちに死をもたらしてその死体を引き裂き血を吸う。黒い色をし，翼と白い大きな歯と長く鋭いつめをもっていると考えられていた。ホメロスの《イリアス》においては，人間たちの死に至るまでの生そのものを支配する〈運命〉をも意味し，アキレウス*は，故国での長く幸福なケールよりも，戦場での短いが雄々しいケールを選んだとされている。〔黒田杏子〕

ゲル　[gel]　膠化体(こうかたい)ともいう。コロイド*物質の粒子が沈殿または凝結している状態をいい，粒子が液体中に分散している状態のゾル*に対していう。ゲル中の粒子は互いにつながって，三次元の網状構造またはハチの巣構造のような支持構造をつくり，液体をたくわえている。特にゼリーは弾性のある一様な分散体で，多量の液を含有することを特徴とする。たとえば，ゼラチンゼリーのように容器から取り出しても形を保っているものでも，95～99%の水を含有しており，ゼラチンはわずか1～5%である。ゲルが液を失い，かわいて固形化したものをキセロゲルといい，ゼラチンのシート，セロファン膜，かわいたアラビアゴム・寒天などがその例である。一般にカゼイン・ゼラチン・デンプンなどの親液性ゾルはゼリーをつくりやすい。

ゾルがゲルになる現象をゲル化といい，ゲル化を助けるものとして，①ゾルの温度を下げる(寒天溶液を冷やしてゼリーにする)，②ゾルに塩を加える(水酸化アルミニウムのゾルに適量の塩を加えるとゲルができる)，③溶液に他の溶媒を加える(エチルセルローズのベンゼン溶液に石油エーテルを加えるとゲル化を起こす)などがある。また，キセロゲルが液体を吸収して膨潤し，ゲル化する現象もある。さらに，ゲル化に伴う物理的性質の変化として，①ゲル化の始まる温度で冷却線に変化がある，②ゲル化が始まると散乱光の強さが急激に増加する，③粘度・剛性率が増す，などの現象がみられるものもある。〔水野俊彦〕

ケルカリア　[cercaria]　セルカリア・尾虫ともいう。吸虫*類のうち，肝吸虫や肝蛭(かんてつ)などの二生類の動物で，ミラキジウム・スポロキスト・レディアに続いて生じる幼生。レディアの体壁にある胚(はい)細胞が単為生殖的に発生したもので，長い尾と吸盤をもち，水中を泳いで水草などにつき，第2中間宿主にはいってメタケルカリアとなる。

ケルゲレン(諸島)　[Kerguelen]　インド洋上，南緯49°，東経70°にある火山群島。フランス領。デソレーション島のほか300余の小島からなり，総面積7,000km²。最高峰のロス山は1,893m。1772年フランスの探検家ケルゲレンによって発見され，1893年フランス領となった。年平均気温は4℃で，氷河におおわれた火山とフィヨルド*の発達した荒地にアザラシ・アシカ・ペンギンなどが生息している。1950年ポルト-フランス空港が建設された。〔大崎　晃〕

ゲルスドルフこう　【ゲルスドルフ鉱】　ニッケルおよびヒ素の原料鉱物。NiAsS等軸晶系。正六面体の劈開*(へきかい)はやや完全，硬度5.5，比重5.6～6.2。もろく，金属光沢を有し，銀白ないし鋼灰色で，条痕(じょうこん)は黒色。容易に分解して，表面が緑色の分解物におおわれる。

ケルセン　DDT*によく似た化学構造を有する化合物で，ハダニ類の卵・幼虫・成虫にすぐれた効力を示すため，園芸業者の間に広く普及している。一般にダニ類は殺ダニ剤に対して抵抗性がつきやすいといわれるが，ケルセンはその使用歴が長く，またDDTに近い薬剤でありながらハダニ類に対して特異的な効果を示す点で各方面から注目されている。

ケルゼン　[Hans Kelsen]（1881～1973）オーストリアの法哲学者・国際法学者。ウィーン大学教授の職をナチスに奪われてアメリカに亡命，カリフォルニア大学教授の職を最後にして引退。新カント派のマールブルク学派から影響を受け，法を政治的判断から離れて純粋に論理的にとらえるべきであることを主張したところから，純粋法学*の創始者として知られている。ほかに国際連合の研究など，多くの業績がある。

ゲルゼンキルヘン　[Gelsenkirchen]　西ドイツ西部，ノルトライン-ウェストファーレン地方にある工業都市。人口33万9,800(1973)。ルール炭田の中にあるヨーロッパ大陸最大の炭鉱都市である。19世紀半ばまで人口1,000人程度の小さな町であったが，炭田開発に伴って急速に発達し，1900年には人口40,000，1939年には31万となった。石炭のほか，鉄鋼・ガラス・化学工業が盛んである。

ケルチ　[Kerchi]　ソビエト連邦南西部，黒海に突き出すクリミア半島東端の都市。人口14万5,000(1973)。カムイシ・ブルの鉄鉱山と結んで鉄鉱コンビナートが建設され，冶金(やきん)・造船などの重工業が発展し，漁業も盛んである。紀元前5世紀にギリシア人によって建設された古い港市で，20世紀初めまでロシア南部の重要港湾として重きをなした。

ゲルツェン　[Aleksandr Ivanovich Gertsen]（1812～1870）ロシアの小説家・思想家・社会運動家。1840年代のロシア思想界にあって，急進的な西欧主義者としてスラブ主義に対抗した。唯物論的な哲学論文や小説《だれの罪か*》などにその主張がみられる。のち，1848年の革命の失敗を目撃して西欧世界に幻滅し，ロシア農村社会主義に傾いた。1852年以後はロンドンで〈自由ロシア印刷所〉を設立，オガリョーフ*とともに《鐘》紙などによって，ツァーリズム・農奴制批判の論陣を張った。ほかに自伝《過去と思索》などがある。〔藤家壮一〕

ケルトごは　【ケルト語派】　セルト語派ともいう。インド-ヨーロッパ語族*に属する一語派。使用者はおよそ300万人。イタリック語派と共通した特徴が多いため，イタロ-ケルト語派と総称する説もある。大陸ケルト語(古ケルト語またはゴール語)と島嶼(とうしょ)ケルト語に分けられ，前者は少しの碑文を残してローマ帝国の征服後に死滅し，後者はアイルランド語・スコットランド-ゲール語，ほとんど滅びつつあるマン島のマンクスを含むゲール語群とイギリスのウェールズ地方のウェールズ語，フランスのブルターニュ地方のブルトン語，また百数十年前に絶滅したイギリスのコーンウォール語を含むブルタニア語群とに分かれる。紀元前10世紀ごろには，イギリス・フランスのみならず，イベリア半島・イタリア半島の一部を経てギリシア・小アジアにまで及んだ言語であるが，現在は縮小された地域において使用者も激減している。ただし，アイルランド共和国では公用語はアイルランド語とし，その復興を図っている。〔崎山　理〕

ケルトじん　【ケルト人】　インド-ヨーロッパ語族の一。古代ヨーロッパの中部・西部に住んでいた。ギリシア人はケルト人，ローマ人はガリア人とよんだ。原住地は南東ドイツといわれるが，紀元前7～5世紀にはフランスを中心にヨーロッパ全域に住み，ブリタニアや北イタリアにまではいった。人種的特徴ははっきりしないが，ヨーロッパ初期鉄器時代のラ-テーヌ文化のにない手と考えられる。父権制の強い大家族制の社会で，農業・牧畜を得意とした。のちローマ人・ゲルマン人に支配されて衰えた。現在，アイルランドやウエールズ地方の人は，その子孫であるといわれる。〔高山高雄〕

ゲルトネルきん　【ゲルトネル菌】　⇨腸炎菌

ゲールトヒェン-トート-シント-ヤンス　[Geertgen tot Sint Jans]　1460年から1465年の間にライデンに生まれ，1495年以

前に28歳で死んだと伝えられるネーデルランドの画家。ハーレムで活躍。グース*の影響を受けたといわれるが，作品は細部描写に満ち，人間と自然に対して同等の強い関心を示している。〈死せるキリストへの哀悼〉〈洗礼者ヨハネの遺骨の火葬〉を表現した2点の板絵(ウィーン，美術史美術館所蔵)は確実な彼の作品と推定されている。


ゲールトヒェン-トート-シント-ヤンス《ラザロの復活》
ルーブル美術館蔵

ケルナー [Wilhelm Körner] (1839～1925) ドイツの有機化学者。ケクレ・カニッツァロに学ぶ。ミラノ農科大学応用化学教授。1869年キノリン・ピリジンの式を提出し，1874年実験的にベンゼン置換基の位置を決定する方法を見いだして，ベンゼン構造論に実験的証明を与えた。1887年アスパラギンを合成した。

ゲルニカ [Guernica] 1937年にピカソが制作したパリ万国博覧会のスペイン政府館のための大作。スペイン内乱の際，パリでヒトラーによるゲルニカ(バスク地方の町)爆撃の報を聞いたピカソは直ちにカンバスに向かい，怒りと抗議をこめてほぼ2か月を費やして完成した。黒・灰色・白を基調としたきびしい画面に，心理的・肉体的暴力のテーマが超現実主義的手法で描出され，戦争の恐怖を訴え，人間の生と死について考えさせる特筆すべき作品である。

〔古川俊英〕

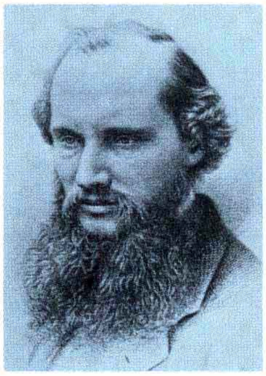

ゲルニカ
部分(左半)
ピカソ 1937

ケルビーニ [Luigi Cherubini] (1760～1842) イタリアの作曲家。6歳でチェンバロ奏者の父から音楽の手ほどきを受け，9歳で作曲の勉強を始めた。初期の作品は教会音楽であるが，1780年からオペラを作曲しはじめた。1788年パリに定住し，《ロドイスカ》《メディア》《水運び人》などのオペラで成功を収めた。これらの作品は19世紀のフランスで流行したグランド-オペラの先駆をなした。晩年はオペラに代わってすぐれた教会音楽を書いている。また1822年にはパリ音楽院の院長に就任し，約20年間指導者としての役割を果たした。ベートーベンは彼を高く評価し，オペラ《フィデリオ》は彼の影響を受けたといわれている。

〔寺田兼文〕

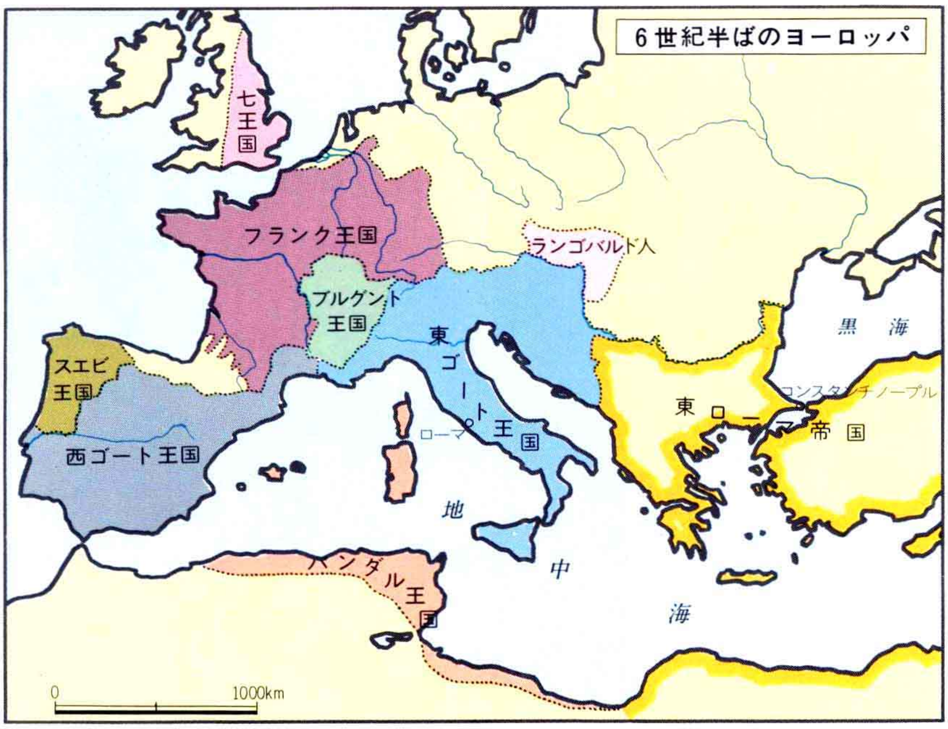
ケルビン [1st Baron Kelvin] (1824～1907) イギリスの物理学者。本名ウィリアム-トムソン。アイルランドのベルファストの生まれ。22歳でグラスゴー大学教授となり，のち総長となった。その間貴族に列せられケルビン卿(きょう)となる。19世紀後半のイギリス物理学界の大御所として多方面に活躍し，また世界最初の学生用実験室をつくるなどして多くの弟子(でし)を育て，物理学のみならずその応用部門，さらに工業技術の進歩に貢献，661もの論文・著書・発明品などで知られている。とりわけ熱学での貢献が著名で，熱力学第1法則・第2法則の定立に貢献し，ケルビン温度*(絶対温度)を導入し，また熱電気の研究，ジュール-トムソン効果*の発見などがある。電磁気学の研究や地球物理学への貢献も大きく，大西洋海底電線の敷設などの功績もある。

〔藤村　淳〕


ケルビン

ケルビンおんど 【ケルビン温度】 ケルビン*によって提唱された温度目盛り。絶対温度，熱力学的温度ともいう。記号°K 可逆サイクルが，温度T_1の高温熱源から熱量Q_1を吸収し，熱量Q_2を温度T_2の低温熱源へ放出するとき，その効率*ξは，

$$\xi=\frac{Q_1-Q_2}{Q_1}=\frac{T_1-T_2}{T_1}$$



ゲルマン人　東ゴート王テオドリックの死(526)当時のヨーロッパのゲルマン諸国家

と表わされる。したがって,

$$T_2=\frac{Q_2}{Q_1}T_1$$

という関係から,熱量Q_1,Q_2を測定すれば,T_1を規準として温度T_2を定めることができる。理想気体*の体積は,理論的には,セ氏温度目盛り(→温度)によれば,−273.16℃で0になる。この点を0度とし,単位目盛りをセ氏温度目盛りと等しくしたものを絶対温度目盛りという。先に述べた,熱力学的温度において,T_1として1気圧下の氷の溶解点を273.16度としたものに,まったく一致する。　〔中野藤生〕

ゲルフとう　【ゲルフ党】　中世半ば以降のイタリアの教皇派。ギベリン党*(皇帝派)と対立した。12〜13世紀から激化した神聖ローマ皇帝のイタリア進出に伴い,イタリアの都市間あるいは都市内部に勢力争いが起こり,新興市民を代表するゲルフ党は上流階級を中心とするギベリン党と対立した。特にフィレンツェなど都市大商人は,教皇庁と結んで経済的・政治的勢力を強化した。

ケルベロス　[Kerberos]　ギリシア神話で冥界(めいかい)の入り口を守る番犬。チュポンとエキドナとの子。50または100の頭をもち,〈声は青銅色〉であるというが,古典期には一般に頭が三つでヘビが群がってたてがみあるいは尾を形づくっていると表現される。ヘラクレスはハデスの許可を得てこのイヌを地上へ連れ出した。

ケルマデック(諸島)　[Kermadec]　ニュージーランドの北東にある小火山群島。ニュージーランド領。総面積34km²。最大の島はラウール島で,亜熱帯性の樹木が繁茂する。1827年ごろから捕鯨船の季節的基地として使用されたが,現在は通信中継地と気象観測所の関係者以外には住民はいない。なお,諸島の東側を諸島とほぼ平行して走るケルマデック海溝(かいこう)の最深点は9,427mに達する。

ゲルマニア　[Germania]　ローマ帝政時代の歴史家タキトゥス*の著書。北方ゲルマン人の各部族とその社会,さらに風俗・習慣などについて簡潔に描き,ゲルマン人の質朴(しつぼく)さとローマ人の退廃ぶりとを対比させて,ローマ人に警告を与えた。古代ゲルマン社会の研究に不可欠の史料である。

ゲルマニウム　[germanium]　周期律表第Ⅳ族に属する金属元素。記号Ge,原子番号32,原子量72.59。1885年ドイツの化学者ウィンクラーが銀鉱石アルジロダイトから発見し,母国のラテン名ゲルマニアにちなんで命名。1871年にメンデレーエフがエカケイ素と名づけ,その存在を予言していた元素である。灰白色のかたくてもろい結晶で,融点958.5℃,沸点2,700℃,比重5.35(20℃),モース硬度6.5。ケイ素とともに半導体*に属する。空気中では安定。600〜700℃に加熱すると酸化物GeO_2となる。化学的にはケイ素やスズに近似し,塩酸・希硫酸にはとけないが,濃硫酸には亜硫酸ガスを発生して溶解する。硝酸によって酸化ゲルマニウムを生じ,アルカリ溶液には溶解しない。半導体として電子機器に欠くことができない元素であり,工業的に生産されるようになったのは第2次世界大戦中からで,石炭のすすや石炭タール,亜鉛製錬の副産物中より取り出されている。いずれも酸化ゲルマニウムまたは塩化ゲルマニウムとし,水素か亜鉛を用いて還元して金属を得ている。半導体に利用する純粋な金属は99.999……%と,小数点以下9桁(けた)まで9が続くような最高の純度のものも得られている。半導体としてトランジスターやダイオードに利用され,真空管検波に取って代わりつつある。また,ゲルマニウムをガラス面に蒸着したものは赤外線の反射板として利用され,歯科用合金としての用途もある。　〔古屋　弘〕

ゲルマニウムせいりゅうき　【ゲルマニウム整流器】　⇨整流器

ゲルマニウム-ダイオード　⇨ダイオード

ゲルマンごは　【ゲルマン語派】　インド-ヨーロッパ語族*は,100を意味する単語を基準として,比較言語学的にケントゥム語群とサテム語群に分けられる。ゲルマン語はギリシア語・イタリア語・ケルト語などと並んでケントゥム語群に属するが,ゲルマン語はそれらの諸語と,第1次(ゲルマン)音韻推移をはじめとする多くの言語史上の相違によって区別される。BC2000年ごろ,スカンジナビアにゲルマン人の青銅文化圏が存在したが,BC1200〜BC800年東ポメルンへ,BC600年にエルベ川周辺へと移動する部落が目だち,さらにBC100年ごろからはバンダル族・ブルゲント族・ゴート族が東方へと進んで分離した。こうしてゲルマン語派は,北ゲルマン語群(デンマーク・スウェーデン・ノルウェー・アイスランド語),西ゲルマン語群(ドイツ・イギリス・フリースラント・オランダ・フラマン語),東ゲルマン語群(死滅したゴート・バンダル・ブルグント語)の三つの主要グループに分かれた。有力な資料として,4世紀に西ゴート族の司祭ウルフィラがギリシア語からゴート語に翻訳した《聖書》,同じころのスカンジナビアのルーン文字の碑文がある。　〔八木　浩〕

ケルマンシャー　[Kermanshah]　イラン西部の同名州の州都。人口23万9,000(1972年推)。カレー川の肥沃(ひよく)な谷間にあり,綿花・麦・豆類の集散地。古くからイラクへの通商,隊商路上の要地であった。周辺ではクルド族が遊牧を行なっている。

ゲルマンじん　【ゲルマン人】　インド-ヨーロッパ語族*の一派。チュートン人ともいう。中世以後,ヨーロッパの歴史をになった民族。ゲルマンの名はケルト語からきたものと考えられる。BC1200年ごろからバルト海周辺の地域に現われ,南方へ広がった。東ゲルマン人・西ゲルマン人・北ゲルマン人に3分され,さらに多くの部族に分けられる。各部族においては成年男子よりなる民会が最高の権力をもち,狩猟や牧畜以外に農業も行なわれたが,農法は粗放で何年かごとに移動しなければならなかった。土地は共有であったが,有力者はその勢力を増大していった。ローマ帝国へは紀元前2世紀末にキンブリ族・テウトネス族が,

また９年にはケルスキ族が武力をもって侵入したが，一方奴隷や農奴や兵隊としてもはいりこんだ。その中には最高司令官にまで昇進したスチリコ(359～408)のように，ローマ帝国の実権を握る有力者となった者もおり，ローマ帝国末期の軍隊は半ばゲルマン化していた。４世紀フン族の西進によってゲルマン人は大移動を開始し，ローマ領に侵入して建国した。東ゲルマン人はアフリカにバンダル王国，南ガリア(のちのスペイン)に西ゴート王国，スイス辺にブルグント王国，イタリアに東ゴート王国を建て，西ゲルマン人は北ガリアにフランク王国，イングランドにアングロ-サクソン諸王国(→七王国)を建てた。これらの国ではゲルマン人とローマ人がいっしょになってヨーロッパを形成していった。なお，ゲルマン人の風俗・習慣・社会などについては，ローマの歴史家タキトゥスの著書《ゲルマニア*》に簡潔に書かれている。〔兼岩正夫〕

ゲルマンほう【ゲルマン法】 ゲルマン人の古法。ゲルマン人の移動後に成立したゲルマン諸国家が，ローマ法*などの影響を受けて慣習法を成文化したもので，各部族の法典が残っている。ローマ法に比べて，民衆法・農民法の色彩が強く，また所属する部族民だけに関する法律である。その内容は，おもに刑法と訴訟法・相続法に関するものが多い。封建制度が成立したのちも種々の法典を残し，ローマ法とともにヨーロッパ近代国家の法制にも影響を与えた。〔高山高雄〕

ケールロイター［Joseph Gottlieb Koelreuter］(1733～1806) ドイツの植物学者。南ドイツのズルツに生まれ，ヨーロッパ各地で研究を続けたのち，1764年以降はカールスルーエ大学の博物学教授。植物雑種についての最初の実験的研究者で，メンデルの先駆者のひとりに数えられている。

ケルン［cairn］ 山頂や登山路に石を積み上げてつくった道標。元来は，登山者の迷いやすい登山路に指導標代わりにつくられたものであるが，やがて登頂記念の石積みともなった。



ケルン　別山頂上の硯ケ池，右方は残雪の真砂岳

ケルン［Köln］ 西ドイツ西部，ライン川に沿うノルトライン-ウェストファーレン最大の商工業都市。人口84万(1970年推)。フランス名はコローニュ。ライン川をまたぐ五つの橋と五つの河港をもち，鉄道交通の中心であり，東南15kmに空港がある。BC38年にローマ人によって建設された歴史をもつ古い町で，ハンザ同盟時代から商業都市として栄えた。機械・自動車・化学・石油化学などの工業も盛んで，オーデコロン(〈コローニュの水〉の意)はここの特産として知られる。また，中世以来学芸の中心であり，ケルン大学(1388年創立)や各種の高等教育機関，博物館・劇場・音楽堂がある。中世ドイツのゴシック建築の代表であるケルン大聖堂*は市の象徴とされている。第２次世界大戦によって市街の大半が破壊されたが，その後復興し，美しい町として知られる。〔野間三郎〕



ケルン大聖堂

ケルンだいせいどう【ケルン大聖堂】 ケルン市の象徴とされるドイツ-ゴシック最大のザンクト-ペーター聖堂。1248年ゲルハルトによって起工され，1322年内陣部が完成，回廊などの部分的な修改築はその後も長期間にわたって引き続き，すべての完成をみたのは1880年であった。形式は五廊，回廊は二重内陣式バシリカ式会堂で，外部の全長144 m，幅61 m，高さ61 m，回廊部の長さ157 m，正面双塔の高さは157 mを数える。

ゲレザ ⇨コロブス

ケレス［Ceres］ 小惑星第１号の名。1801年イタリアの天文学者ピアッチ*によって発見された。直径は約800 km，小惑星中で最も大きい。公転周期は4.6年，衝*における光度は7.4等。

ケレンスキー［Aleksandr Fyodrovich Kerenskii］(1881～1970) ロシアの政治家。ペテルブルグ大学卒業後弁護士となり，ドゥーマ*議員をつとめ，社会革命党内部では穏健派に属した。二月革命以後の臨時政府に入閣し，やがて首相となり，コルニーロフ*の反乱崩壊後は最高司令官を兼任した。彼は立憲民主党(カデット)と組んで大ブルジョアジーと地主の手に権力を維持しようとしたが，帝国主義戦争の継続や革命運動の弾圧のため，しだいに大衆から孤立した。十月革命の際には，反革命軍を指揮して政権奪回を図ったが失敗した。1918年以降，フランス・イギリス・アメリカの亡命先で反ソビエト宣伝に携わった。〔山県弘志〕

ゲレンデ［Gelände］ 一般に，スキー用語として用いられ，雪面を整備した走路とリフトなどの施設をもつスキー練習場をいう。登山用語としては，岩登りの練習場のこと。

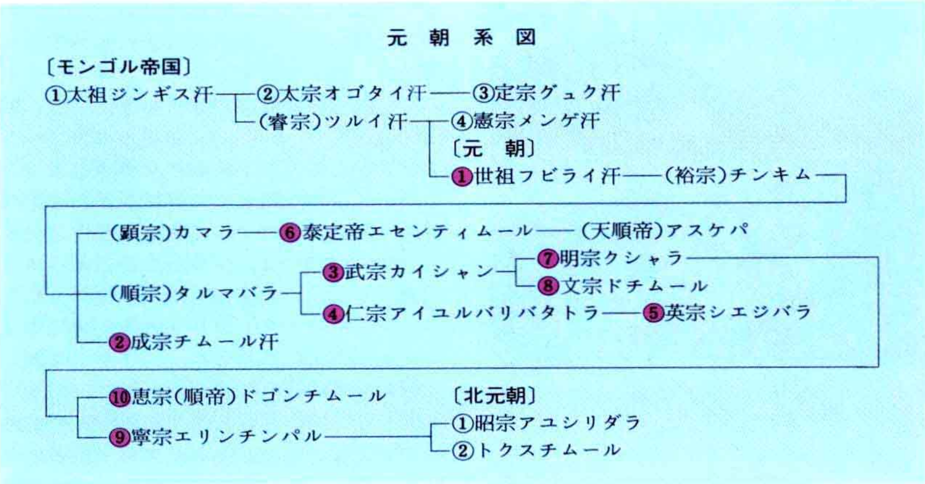
げろ【下呂(町)】 岐阜県益田(ました)郡に属し，県中西部の益田川流域にある町。人口16,000。1955年(昭和30)旧下呂町に周辺３村が合して発足した。かつては飛驒(ひだ)街道の宿場で，温泉も古くから知られていたが，国鉄高山線が開通してから特に温泉町として有名になった。

ケロイド［keloid］ 蟹足腫(かいそくしゅ)ともいう。主として外傷・手術創・火傷後あるいは不明の原因で皮膚表層の結合組織*が病的に増殖し，丘状あるいは小結節状にかたい腫瘍(しゅよう)として生じたもの。有色人種に多く，先天性素因が重視されている。治療としては，手術的切除および放射線療法がある。しかし，手術的に切除しても，その手術瘢痕(はんこん)から再発することが多い。

げろおんせん【下呂温泉】 岐阜県益田(ました)郡下呂町にあり，泉温62℃，泉質は単純硫化水素泉で，胃腸病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。益田川の渓谷(けいこく)に沿い，河床から温泉が湧出(ゆうしゅつ)している。集落は下呂駅付近と湯之島とに分かれ，旅館は50軒を越える。発見の歴史は古く，天暦年間(947～956)であると伝えられ，かつては薬師・白鷺(しらさぎ)の二つの共同浴場を中心とする湯治温泉であった。付近には下呂公園・千羽ケ滝・湯ケ淵(ふち)・中山七里などの景勝地があり，新緑や紅葉の季節には観光客でにぎわう。また，官公庁や会社の保養所などもあり，保養者も多い。交通は高山線下呂駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

ケロッグ-ブリアンじょうやく【ケロッグ-ブリアン条約】 ⇨不戦条約

けわたがも【毛綿鴨】 鳥類・ガンカモ科。世界に４種が知られ，いずれも北極圏近くで繁殖し，冬季もあまり南下しない。わが国にはコケワタガモとオオケワタガモがごくまれに北海道沿岸に渡来する。カモ類は一般に雌が自分の胸毛を巣材に使うが，この類の綿毛は特に上質で，防寒衣料の原料として採集されている。アイスランドで



はそのためにこの類の鳥を保護している。

けん　【県】　⇨都道府県

けん　【腱】　骨格筋(→筋肉)の補助機関の一。骨格筋と骨の連結部は，筋組織が直接骨につくのではなく，腱組織で付着している。たとえば，下腿(かたい)三頭筋の停止部は，強大なアキレス腱をもって足根の踵骨(しょうこつ)に付着している。筋と骨との付着部以外に筋腹のあるものでは中間腱でつながっている。腱は太い膠原(こうげん)繊維(→結合組織)からなるので弾力性には欠けるが，強靭(きょうじん)で力に耐えることができる。

ケーン　［khen］　ラオスの代表的楽器。自由リードの気鳴楽器。東アジアと東南アジアに分布する笙(しょう)の一形態。中国や日本の笙では17本の竹の筒が円を描くように配置されるのに対して，ケーンでは14本の筒が横に2列に並べられている。民謡や民俗舞踊の伴奏に使われるのは大形で，芸術音楽的合奏に対してはやや小さいものがある。音楽的機能は多様で，旋律楽器・リズム楽器・和声楽器のいずれの目的にも使い分けられている。　〔山口　修〕

げん　【弦】　⇨弧

げん　【元】　モンゴル民族が支配した中国の王朝(1271～1367)。国都は大都(北京(ペキン))と上都(開平)。モンゴル帝国第5代可汗(かかん)のフビライは，1271年ジンギス汗以来の大帝国の東部地域(中国・満州・モンゴル・チベット)に中国風統一国家を建設し，《易経》に基づいて元の国号をつけた。さらに，ベトナム・ビルマ・ジャワなどにも遠征軍を送って国威を示し，日本へも遠征して敗退した(文永・弘安(こうあん)の役)。フビライは35年の間に，モンゴル(遊牧)・中国(農耕)・西域(商業)の3要素を組み合わせた特異な国家体制を完成させた。少数異民族が多数の漢民族を支配した元代には，モンゴル人・色目人(西域人)・漢人(女真・契丹(きったん)および華北で彼らの支配下にあった中国人)・南人(蛮子・旧南宋人)の社会的身分規定が設けられた。元朝は中国的中央集権官僚制をしいたが，地方には10の行省とよばれる統治機関を置き，中央・地方の中・下級官庁には達魯花赤(ダルガチ)という監督官を設けて何重にも漢民族を締めあげた。これらの長官はモンゴル人・色目人が世襲的に独占した。前代に盛行した科挙はほとんど行なわれず，士大夫階級は抑圧され，胥吏(しょり)として元朝支配機構の末端に連なるか，市井に隠れ，雑劇の作者となったり庶民文化の育成にうさをはらした。人民は，軍・站(たん)・匠・民戸などに分けられ，そのまま社会的身分を表わした。元朝の支配力は揚子江の南北で異なった。それを代表するのが税制である。江北では，戸を単位として生糸・銀を課す科差と，壮丁の人数か土地所有高によって穀物を徴収する税糧の2本立てに対し，江南では宋(そう)以来の両税法が実施された。また，江南の大量な米穀が海路によって国都に送られたのもこの時代の特色である。一方，交鈔(こうしょう)(木換紙幣)が法定通貨として流通し，専売塩税・商税と組み合わすことによって価格維持がはかられたが，末期には破綻(はたん)を招いた。このほか，陸路・海路の整備された交通網を利用した貿易・商業も盛んで，マルコ・ポーロに代表される西方の商人もみられ，イスラムの科学技術が導入された。王朝の公用語としてはモンゴル文字・ウイグル文字が使われ，フビライの信奉したチベット僧パスパが制定したパスパ文字は有名。本来遊牧征服王朝である元朝内部には，モンゴルの伝統を守る保守派と中国化した進歩派が対立し，これに世襲の漢人有力者と色目人集団がからみあい，フビライの死後は勢力争いが絶えなかった。政権から締め出された南人や，特に西域人の圧政に苦しむ一般大衆は各地で反乱を起こし，民族闘争的色彩をおびつつ元王朝を打倒した。　〔梅原　郁〕

けんあい　【兼愛】　⇨墨子

げんあつじょうりゅう　【減圧蒸留】　蒸留装置内を大気圧以下の低圧(数mmHg〔水銀柱ミリメートル〕)に保ちながら行なう蒸留。原料液体のはいった丸底フラスコ・冷却管・受器を気密に連続し，受器側から真空ポンプで排気しながら行なう。通常，液体の沸騰を円滑に行なわせるため，液体のはいったフラスコの上部から液中に届く細管を挿入(そうにゅう)し，ここから空気を少量ずつ気泡(きほう)としてくぐらせる。一般に減圧下では液体の沸点は下がるから，沸点の高い液体の蒸留に用いられる。一般有機化学実験にしばしば用いられるほか，工業的には重油から機械油を製造する際に大規模に行なわれる。　〔志田正二〕

けんあんのしちし　【建安の七子】　中国，後漢の末，献帝の建安年間(196～220)に，曹操(そうそう)父子とともに文壇で名声があった人々。曹丕(そうひ)の《典論》によれば，孔融・陳琳(ちんりん)・王粲(おうさん)・徐幹・阮瑀(げんう)・応瑒(おうとう)・劉楨(りゅうてい)の7人をいう。

けんいざい　【健胃剤】　胃の運動や胃液・胃酸などの分泌を活発にして，胃の機能の亢進(こうしん)を図る薬。多くの薬物が配合されるが，それらは刺激性・芳香性・苦味性に3大別できる。内服すると，口腔(こうこう)を刺激して反射的に唾液(だえき)・胃液・膵液(すいえき)を分泌させる。また，胃壁・腸壁を直接刺激して腸液・膵液の分泌を促し，胃・腸管の運動を促進させて消化・吸収を助ける。刺激性健胃剤にはトウガラシ・ショウガ・コショウなど，芳香性健胃剤にはハッカ・チョウジ・ニッケイなど，苦味性健胃剤にはゲンチアナ・センブリ・リンドウなどがある。食物の消化を促進し，さらに腸内に異常発酵がある場合にこれをおさえるためなどには，酵素剤が用いられる。〔伊藤隆太〕

けんいしゅぎ　【権威主義】　①倫理学において，国家や宗教のような外的権威に道徳の基礎を置く学説。他律主義ともいわれる。②論理学において，他人の証言に基づく証明方法をいう。これは経験や理性による論証と対立する。権威主義は科学や哲学においてはもはや認められていないが，宗教においては啓示や伝統という形をとって存続している。政治的権威については民主主義の原理に合致しないと考えられるが，今日でもなおさまざまな形態が現存する。

けんいんじどうしゃ　【牽引自動車】　⇨トラクター

げんいんにおいてじゆうなこうい　【原因において自由な行為】　自分で責任能力のない状態をつくりだし，その状態を利用して犯罪を行なうこと。泥酔(でいすい)状態の犯罪は，刑法上罰せられないか，または刑が減軽されることがある(刑法39条)ので，わざと酒に酔って殺人などを行なうことをいう。犯罪行為のときには泥酔状態であっても，そういう状態をつくりだそうとした原因行為(酒を飲むなど)の当時には意思の自由も働き，責任能力はあったわけであるから，その原因行為自体を殺人実行行為であるとしてこれを処罰しようとするものである。　〔野口恵三〕

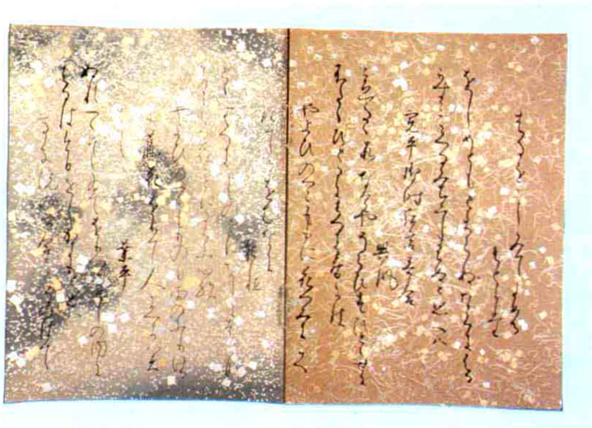
けんうん【絹雲】 絹積雲・絹層雲とともに最も高い所にでき，羽毛のように，あるいは絹糸のように筋のある薄い雲。巻雲とも書く。雲粒は細かい氷晶からできている。だいたい5,000～13,000mの高さに現われ，夏は高く，冬は低い。絹雲の形はまっすぐ伸びていることもあるが，かぎ状・うずまき形・放射状など数多くの形状を呈している。不連続線・雷雲・台風や冬の季節風の吹き出しなどのすぐ前に現われることが多い。➔雲 〔曲田光夫〕

げんえ【玄恵】（1300～1350） 室町時代の天台宗の僧。俗姓は藤原氏。字(あざな)は健叟(けんそう)，号は独清軒，洗心子。出家して比叡(ひえい)山に登り天台学を修めるが，特に朱子学に詳しく，後醍醐(ごだいご)天皇の侍講となる。また足利尊氏(あしかがたかうじ)・直義(ただよし)にも信任篤(あつ)く，《建武式目*》を是円らと制定する。現存の能狂言のうち約60番をつくったといわれ，また《太平記》の増補に関係したともいわれる。その他《庭訓(ていきん)往来》《喫茶往来》《十七条憲法注》なども彼の著といわれる。 〔京戸慈光〕

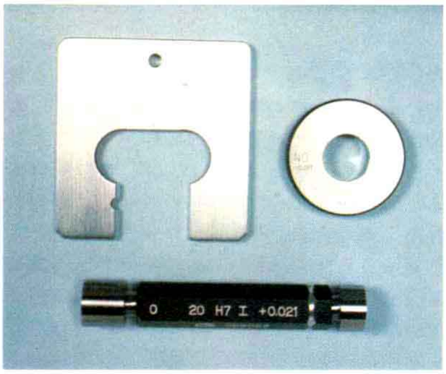
げんえいぼんこきんわかしゅう【元永本古今和歌集】 《古今和歌集》の古写本。序および20巻の完本では最も古い。巻上の巻末に〈元永三年七月廿四日〉とあるのでこの名がある。料紙は唐紙(からかみ)，金・銀の切箔(きりはく)，金の野毛を巻いている。線は流麗にして用筆に変化が多い。散らし書きがじょうずである。筆者は源俊頼(としより)といわれている。ほかに藤原定実を筆者とする説があるが，定実は1120年(元永3)7月24日まで生きていたかどうかわからない。国宝。 〔春名好重〕

けんえき【検疫】 わが国に常在しない伝染病について，その侵入を防ぐために海港・空港で検査し，必要な対策を実施することをいう。国際衛生規則によって，現在では，コレラ・ペスト・発疹(はっしん)チフス・痘瘡(とうそう)・黄熱・回帰熱が国際検疫伝染病に指定されている。検疫が行なわれているのは横浜・神戸(こうべ)をはじめとして59海港，空港としては東京・大阪・岩国・板付・鹿児島・奄美(あまみ)の6空港がある。検疫法の内容としては入港禁止・交通制限・診察・検査・措置・隔離，ネズミ族の駆除，検疫済証書の交付，航空機内のこん虫類の駆除などが含まれる。➔植物検疫 ➔動物検疫 〔金子義徳〕

けんえつ【検閲】 国家権力(行政権・警察権)が，文書その他表現の諸方法について，その内容を一方的に判断し，その発表の可否を決定し，あるいはすでに発表されたものを禁止すること。ふつう発表前にその内容について許可・不許可を決定するが，出版物がきわめて大量的となった今日では，事後に検閲して，行政権当局が配布なり発売なりを禁止する。第2次世界大戦前の日本，ナチス下のドイツ，ファッショ下のイタリアなどでは，きびしく国民の言論を統制した。日本国憲法は，国民の思想の自由，言論・出版その他すべての表現の自由を保障することが独立的な人格，自由な市民社会のための根本条件であるとして，これらの自由を保障し，特に検閲を禁じている(憲法21条)。 〔鈴木安蔵〕



元永本古今和歌集
伝源俊頼筆。上巻の巻2春歌下の一部分。金・銀の砂子・切箔・野毛を一面にまいてあり，非常に華麗である



限界ゲージ (上左)板はさみゲージ(軸用) (上右)リングゲージ(軸用) (下)円筒形プラグゲージ(穴用)

けんおうしせつ【遣欧使節】 ⇨天正遣欧使節 ⇨慶長遣欧使節 ⇨岩倉遣外使節

けんか【鹸化】 エステルを加水分解によって酸とアルコールに分解する反応で，エステル化の逆反応である。脂肪またはエステルに苛性(かせい)ソーダまたは無機酸を加えて加熱すると，すみやかに完全に鹸化される。鹸化を利用してせっけんが製造される。なお油またはロウ1gに含まれるエステルを鹸化するのに必要な苛性カリのミリグラム数を鹸化価という。

けんか【堅果】 クリなどの実のように，果皮が乾燥して薄く，木質で，種子とよく離れる果実をいう。➔果実

げんか【原価】 有形・無形の経済財の取得・造出あるいは販売のために犠牲にされたかまたはされる見込みの経済価値の貨幣評価額をいう。あるいは，財貨・用役を他の代替的用途にあてなかったことによって失われる見込み利益の測定額を意味することもある。前者の場合，財貨・用役の取得に伴って発生する原価は取得原価となり，取得した財貨・用役を利用するに伴って発生する原価は利用原価ないし消費原価となる。 〔山桝忠恕〕

げんかい【言海】 わが国最初の近代的国語辞典。大槻文彦*(おおつきふみひこ)著。1875年(明治8)，当時文部省に勤務していた著者が，日本辞書編集の官命を受けて起稿し，1891年4月に出版された。〈言海〉は佐藤誠実の命名。約60,000語を五十音順に配し，語彙(ごい)の性質や収録の方法および解説の方法についてはアメリカの《ウェブスター*の英語辞典》を範としている。明治の辞書としては画期的なものであり，1,002版の重版も記録的である。

げんかいゲージ【限界ゲージ】 機械部品を製作する際，指定どおりの寸法に正確に仕上げることは困難なので，許しうる最大寸法と最小寸法を決め，その間に製品の寸法がはいればよいとすることがある。製品の寸法が公差(最大寸法と最小寸法との差)の範囲にはいっているかどうかを検査するのに使用するゲージが限界ゲージである。①穴用限界ゲージ：穴の寸法を検査するためのもので，円筒形プラグゲージについていえば，検査しようとする穴の最大寸法と最小寸法につくられた二つの円筒形の部分からなり，最大寸法の部分を止まり側，最小寸法の部分を通り側という。検査する穴に通り側の円筒部がはいり，止まり側の円筒部がはいらなければ，その穴が規定の公差内にあることになる。ほかに平形プラグゲージ・板プラグゲージ・棒ゲージなどがある。②軸用限界ゲージ：軸の寸法を検査するためのもので，検査しようとする軸の最大寸法と最小寸法の間隔につくられた測定面をもち，最大寸法をもつほうを通り側，最小寸法をもつほうを止まり側という。検査しようとする軸が通り側の測定面の間を通り，止まり側の測定面の間は通らなければ，軸の寸法は規定の公差内にあることになる。なお最近では，写真のように最大寸法と最小寸法が同一側に組み合わされているものも普及している。リングゲージ・はさみゲージなどがある。なお限界ゲージは使用目的によって工作用ゲージと検査用ゲ



玄海国定公園
玄界灘の荒磯にそそり立つ奇勝〈芥屋大門〉。柱状節理の玄武岩が海食によって刻まれ，みごとな海食崖をつくっている

ージとに分類される。限界ゲージは，互換性を必要とする機械部品の大量生産には重要な役目をもっている。➔ゲージ
〔森田　鈞〕

げんがいけんびきょう　【限外顕微鏡】　普通の顕微鏡では見えない微粒子(限外微粒子)を特殊な照明装置を用いて観察することのできる顕微鏡。暗視野顕微鏡ともよばれる。普通の顕微鏡の分解能は0.3～0.4 μであるが，この装置では，その100分の１ぐらいのものまでその存在を知ることができる。照明装置により，スリット式と反射集光鏡式の２種がある。スリット式では光源にアークを用いることが多く，このアークの映像をスリット上に結ばせ，これを再び他のレンズ系で被検体に結ばせる。また，反射集光鏡式はカーディオイド-コンデンサー・パラボロイド-コンデンサーを用いるもので，薄膜の媒質を観察するのに適している。これらの照明装置では主として側方から照射するので，照明光が直接対物レンズにはいらず，微粒子による散乱光のみにより暗い視野の中に輝く点などとなって観察されるので，微粒子の存否，あるいは運動の確認などに利用される。➔顕微鏡
〔加藤定雄〕

げんかいこうよう　【限界効用】　人間が消費財から効用を獲得する場合，新たに付加される最終単位の効用をいう。財の総量に対する総効用を全部効用といい，数量の増加に伴って全部効用はふえる。この場合，１単位追加されることによって生ずる効用の増し分が，追加分の限界効用となる。一般に，財が人間の欲望を充足すればするほど，追加される１単位に対する効用，すなわち限界効用は逓減していく。これは，財の量の増加とともにしだいにより重要でない欲望が充足されるようになるからである。これを〈限界効用逓減の法則〉という。➔効用
〔藤枝省人〕

げんかいこうようがくは　【限界効用学派】　1870年代，メンガー・ジェボンズ・ワルラスらによって推進された限界効用理論の学派。限界概念とはある数量の微少な変化分を表わす概念で，経済的変化を経済変数の限界値の相互関係で示そうとする手法として限界分析が登場した。限界分析は近代経済学の主要な分析方法であり，限界分析による近代経済学の誕生を限界革命とよんでいる。労働ないしは生産費によって財の価値を説明しようとするそれ以前の古典派経済学に対して，この学派が財のもたらす効用に価値を求め，近代経済学の基礎を築いた点は高く評価される。しかし，この理論に致命的な欠陥は，この学派が効用を直接測定しうるものとし，それゆえに比較が可能であると考えた点である。効用はあくまで主観的意識をさすもので，直接測定しうるものではない。限界効用理論以降の近代経済学は，財のもつ主観的な効用を直接取り上げるのではなく，財に対する外面的な人間の態度から間接的に効用の大きさを問題にし，財そのものの客観的な分析を行なう方向に発展している。それはパレートによる消費者の財に対する選択理論として結実している。
〔藤枝省人〕

げんかいこくていこうえん　【玄海国定公園】　福岡県と佐賀県にまたがり，玄界灘(げんかいなだ)に面する北九州市若松区から東松浦半島東岸に至る海岸線と，大小多くの島島を含む。面積97.10km²。1956年(昭和31)国定公園に指定された。一般に美しい海岸であるが，特に遠賀(おんが)川の河口付近から糸島半島に至る一帯は突き出た岬(みさき)と砂漠に続く松原の景観が美しく，芥屋大門(けやのおおと)は海食崖(かいしょくがい)による岬である。東松浦半島の海岸線は出入に富み，唐津(からつ)湾奥の虹(にじ)ノ松原は有名である。大小の島々は火山岩島で，原生林の景観も見られる。
〔木村東一郎〕

げんかいじま　【玄界島】　福岡市に属し，面積1.2km²，人口960。博多(はかた)湾の入口を扼(やく)し，カコウ岩からなる島で，最高点は218 m。山頂近くまでよく耕され，かつては漁業も盛んであったが，港が小さいので大型漁船が使えず，最近は不況で人口の流出が目だつ。江戸時代には黒田藩の流刑地になっていた。

げんかいせいさんりょくせつ　【限界生産力説】　各生産要素価格の決定と所得の分配についての経済学説。L. ワルラスによれば，この学説は次の三命題からなりたっている。①自由競争は生産費を極小にする，②自由競争においては，各生産要素の報酬率は生産要素に関する限界生産力に等しい，③生産物(所得)の総量は生産要素の間に分配しつくされる。生産物の生産にはある一定の技術的関係が前提となる。この技術的関係を一般に生産関数という。具体的にはこの関数は生産物と各生産要素との間の関係をさすものである。限界生産力説で仮定する生産関数は一次同次の関数で，一次同次の生産関数には次の性質がある。生産物の価値を Y，労働量を L，資本設備を K とし，その他の生産要素が一定であるとすれば，

$$Y=\frac{\sigma Y}{\sigma L}L+\frac{\sigma Y}{\sigma K}K$$

となる。ここで $\frac{\sigma Y}{\sigma L}$，$\frac{\sigma Y}{\sigma K}$ はそれぞれ労働の限界生産力の価値，資本の限界生産力の価値を表わす。いま，生産要素のうち労働量のみが変化するならば，労働量１単位の増加によって得られる生産物の増加分，すなわち労働の限界生産力はしだいに逓減していく。また資本のみが変化するならば，同様にして資本の限界生産力はしだいに逓減する。自由競争では生産費が極小になるように生産することを要求されるから，労働の限界生産力が生産物で表わした賃金に，また資本の限界生産力が生産物で表わした利子にそれぞれ等しくなるまで拡大することになる。これを貨幣で表わせば，労働の限界生産力価値(労働の限界生産力×生産物の価格)が賃金に，資本の限界生産力価値(資本の限界生産力×生産物の価値)が利子に等しいことになる。生産関数が一次同次であると，

$$Y=w\cdot L+r\cdot K$$

がなりたつ。ただし，w は賃金，r は利子を表わす。したがって，生産物の価値はすべて労働と資本に分配されることになる。

この学説は所得の分配についての一つの有力な理論を明らかにしたかにみえたが，現実には生産市場は不完全競争であり，生産要素の組み合わせも短期にはかなり固定されている場合が多く，また生産要素の供給には一定の社会制度による制約があるなど，この説の仮定条件は現実的でないと批判されている。
〔藤枝省人〕

げんかいとうきゅう　【限界等級】　天体望遠鏡で観測可能な最も暗い星の等級。極限等級ともいう。望遠鏡にはいる星の光の量は口径の２乗に比例するから，口径の大きい望遠鏡ほど暗い星まで見え，限界等級はふえる。空の条件にも支配され，薄雲があったり周囲の空が明るい場合には

限界等級は小さくなる。空の条件のよい所では，眼視観測の場合，口径５cmの望遠鏡で約10等，口径20cmでは13等ぐらいである。写真観測の場合には，露出時間を長くすることによって，原理的には限界等級をいくらでも大きくすることができるが，実際には地球の大気自身がわずかながら発光している(夜光)ため，夜光の明るさより暗い天体の写真はとれない。地表で観測するかぎり，いくら望遠鏡の口径を大きくしても，限界等級を24等以上にすることは不可能である。〔磯部琇三〕



弦楽四重奏
左から第１バイオリン，第２バイオリン，チェロ，ビオラ　ハンガリー弦楽四重奏団

げんかいなだ　【玄界灘】　九州北部の日本海中に広がる海域。玄海灘とも書き，略して玄海ともいう。対馬(つしま)海峡・壱岐水道を西の限界とし，地ノ島と鐘ノ岬(みさき)を結ぶ線から東は響灘となる。海域は福岡・佐賀両県にまたがり，沿岸には地ノ島・大島・相ノ島・玄界島・姫島(以上福岡県)，神集(かしわ)島・小川島・加部島・加唐(かから)島(以上佐賀県)などや，福岡湾・唐津湾の湾入があり，また灘沖合には小呂島(おろしま)(福岡県)がある。文永・弘安(こうあん)の役のいわゆる神風で知られるように台風の進路にあたり，また風波の荒いことで知られ，特に冬の季節風の高波は著名である。水深50～60mの浅い大陸棚(たいりくだな)で，日本海流の分派である対馬暖流に洗われるため，ブリ・アジ・サバ・イカなどの魚族が豊富である。古くから朝鮮・大陸との重要な海上交通路をなし，沿岸は景勝地に恵まれて玄海国定公園に指定されている。〔山口恵一郎〕

げんかいはっこう　【限界発行】　⇨発券制度

げんかいぶんせき　【限界分析】　経済諸量の関係を限界値で表わし，それをもとにして経済分析をする理論。経済諸量には，総量・平均量・限界量の３種類の概念がある。たとえば，ある生産者が一定の設備で生産を行なうとき，生産に要した費用を総生産費，生産物１単位あたりの平均費用，生産物を追加１単位増加させるときの生産費の増し分，すなわち限界生産量＝限界費用に区別することができる。人間の経済行為では効用を極大にするか，あるいは利益を最大にすることは最も合理的な行動と考えられる。この極大化あるいは最大化の問題を考えるのに，限界分析は特に重要な役割を果たしている。たとえば，生産者の利益を最大にする生産量を考える場合，１単位生産量を増加したときに得られる収入の増し分(限界収入)と費用の増し分(限界費用)を比較し，限界収入＝限界費用となるように生産量を決めれば，利益は最大になる。これは限界分析の典型的なものである。この分析方法は，経済主体の個別的均衡を研究する上で不可欠である。➔限界革命〔藤枝省人〕

けんかいめん　【圏界面】　成層圏と対流圏の境。高さ10km前後のところまでは気温はだいたい一様な割合で下がるが，この範囲が対流圏で，その上から30～35kmまでの気温変化の少ない層が成層圏である。圏界面の高さはおもに緯度によって異なり，赤道では高く，高緯度では低い。また，夏高く，冬低い。➔大気

けんかいろん　【顕戒論】　天台宗の開祖最澄の著書。３巻５編。820年(弘仁11)成立。最澄は819年《天台法華宗(ほっけしゅう)年分度者回小向大式》(四条式)に上表文を付して比叡(ひえい)山に大乗戒壇を設立すべきことを奏請した。嵯峨(さが)天皇がこれを僧綱(そうごう)に諮問したところ，僧綱はこれを拒否して論駁(ろんばく)した。これに対して，最澄は本書で，大乗戒は経論に明示されていると強調し，新教団の設立を政府に訴えた。《山家学生式(さんげがくしょうしき)》とともに，天台宗成立の根本理論を展開した重要な著作。〔京戸慈光〕

げんかく　【幻覚】　刺激(対象)がないのに知覚が生ずることで，次のような種類がある。①幻聴：実際には音(声)がしないのに，頭の中へ直接，または耳を通して聞こえる。精神分裂病に特徴的で，意識は清明な場合が多い。②幻視：ネズミなどの小動物が天井のすみに見えたりする。アルコール中毒やLSDなどの幻覚剤を服用したときに多く現われ，意識は混濁している場合が多い。③幻臭：実際ににおわないのに，自分の身体から悪臭を発しているように感じる。思春期に多い。④幻味・幻触など。同じ幻覚がある場合でも，意識が明瞭(めいりょう)で，実際に存在するものと確信しているような場合は，精神分裂病のような，いわゆる内因性精神病に多く，逆に幻覚であるという意識(病識)をもっている場合は，感覚器の障害や，脳の器質的障害の場合が多い。後者を特に幻覚症とよぶことがある。なお，枯れ尾花を幽霊に見誤ったりする現象は錯覚とよばれるが，実際には区別のつけがたいことが多い。〔江本　弘〕

げんがくしじゅうそう　【弦楽四重奏】　室内楽の代表的形態。1750年ごろに成立した。第１バイオリン・第２バイオリン・ビオラ・チェロの４人による合奏をさすのが普通である。ハイドン・モーツァルト・ベートーベンの作品によって，この形態が作曲技法の開拓手段となり，最も丹念に作曲されることになった。これは，等質的な音色，広く均衡のとれた音域，そして古典的和声にかなった４声部のためである。ロマン派の時代や現代でもこの組み合わせのための曲が多く，演奏家も四重奏団を組んでこれに専念して活動することが多い。〔徳丸吉彦〕

げんかくはん　【幻覚犯】　錯覚犯・誤想犯ともいう。法律上罪とならない行為を，罪となると思って行なう行為をいう。たとえば，姦通(かんつう)は刑法上の犯罪でないのに犯罪となると誤信して姦通する場合などである。これには本来罰すべき刑法上の規定がない場合と，規定はあるが違法でない場合とがある。いずれも犯罪にならないことはもちろんである。

げんかけいさん　【原価計算】　製品１単位を生産するために要する原材料・労務費・経費を計算する手続き。一般的には，まず製品原価を構成する原価要素を費目別に分類・計算し，次にこれを部門別に配付し，最後にそれを製品別に集計する手続きを経る。原価計算の方式には，原価計算制度によるものと特殊原価調査によるものとがある。原価計算制度は企業の会計機構に編み込まれた統一的組織として常時継続的に実施されるもので，その目的は，①財務諸表の作成に必要な原価を集計すること，②予算編成・予算統制に必要な原価資料を提供すること，③原価管理に必要な原価資料を提供すること，などである。特殊原価調査というのは随時断片的に実施される統計的・技術的な計算であり，経営意思決定のための原価資料を提供するのが目的である。原価計算をその形態により，個別原価計算と総合原価計算，事後原価計算と事前原価計算，全部原価計算と部分原価計算というふうに区分することもできる。〔山桝忠恕〕

げんかしょうきゃく　【減価償却】　設備資産の価値の喪失部分を評価し，費用として各会計年度に資産価値を配分することをいう。価値の喪失には，自然の作用および資産の利用による摩滅ないしは減耗という物理的なものと，旧式化および経済的不適応化という機能的なものとがある。しかし，そのような価値喪失という事実は確認



喧 嘩 祭
兵庫県姫路市妻鹿神社の妻鹿喧嘩祭

しえても，それを具体的に確定数値をもって測定することは不可能なので，減価償却は，予測に基づく人為的な計算によって行なわれる。減価償却額の計算法には，ふつう次の二つの方法が用いられる。

①定額法：

$$償却年額=\frac{取得原価-残存価額}{耐用年数}$$

②定率法：償却年額＝帳簿価額×定率

$$定率=1-\sqrt[n]{\frac{残存価額}{取得原価}}$$

（nは耐用年数）

〔山桝忠恕〕

けんかしょくぶつ　【顕花植物】　*隠花植物に対する語で，花をつける植物体の総称。被子植物と裸子植物を含む。しかし花の定義が困難で，クラマゴケ属やヒカゲノカズラ属では胞子葉の集合した部分を花としていたりするので，むしろ種子の形成に基準が置かれ，種子植物という場合が多い。➔種子植物

げんがっき　【弦楽器】　慣例的に楽器を管楽器・弦楽器・打楽器と分けるときの3分類の一つで，マイヨン・ホルンボステル・ザックスによる科学的な5分類法による*弦鳴楽器とほぼ同じ。ただし，西洋音楽のごく日常的な使い方からすれば，バイオリン属のみをさしていうことが多い。もちろん厳密には，弦をもつ楽器はすべてこれに含まれる。さらに細かく分類するときは，演奏方法にしたがって，擦弦楽器（バイオリン・胡弓(こきゅう)など）・撥弦(はつげん)楽器（ギター・箏(そう)・三味線(しゃみせん)など）・打弦楽器（ピアノ・サントゥールなど）に分けられる。➔楽器　〔山口　修〕

けんかまつり　【喧嘩祭】　けんかや，それに似た喧騒のある騒ぎを特色とした祭礼。兵庫県姫路市妻鹿(めが)神社の妻鹿けんか祭，大分県宇佐市宇佐神宮の夏越(なごし)祭，岐阜県関市白山神社の倉知祭が有名である。みこしを互いにかち合わせ，押し合いなどして勝敗を競ったり，御輿(みこし)渡御の先頭争いに伴う壮烈なもみあいなどがある。これらみこしのけんかは一種の神意による



原　　器　通産省工業技術院計量研究所保管

〈御輿荒れ〉と考えられている。

けんかよつ　【けんか四つ】　⇨相撲(すもう)

けんかりょうせいばい　【喧嘩両成敗】　封建時代の刑法の一。けんか当事者双方を，理非を問わず断罪にすること。室町幕府がはじめて明文化し，戦国時代の*分国法にも載せられた。江戸時代になって法制上は消失したが，慣習としては残った。

けんがん　【検眼】　近視・遠視・乱視・老視などのある場合，*視力検査を行なって矯正(きょうせい)視力を見いだし，適正な度を決めること。医師がこれを行ない，眼鏡処方箋(しょうほうせん)が作成され，適正な眼鏡がつくられる。なお最近では，検眼の専門技術者である検眼師を公認する動きがあり，検眼師を養成する学校もできている。

げんかん　【阮咸】　リュート系の*弦鳴楽器。中国，唐代につくられた。竹林の七賢のひとり阮咸が琵琶(びわ)をたしなんだので，それにちなんで命名された。円形あるいは八角形の胴体に長い棹(さお)が取り付けられ，4弦を張る。棹から胴にかけて14個のフレットがついている。八角形の胴をもつものは明清(みんしん)時代の俗楽用のものともいわれる。日本に伝えられたのも八角形のもので，*明清楽に使われた。

げんき　【原器】　単位の大きさを表わす基準として用いられる物体。現在は，原器を用いて単位が定められている量は質量だけであり，その単位の名称はキログラムである。

歴史的な経過を述べれば，1875年（明治8）に成立したメートル条約によって，長さおよび質量の国際原器および各国用原器を作成することが定められ，これに基づいて実際に作成された国際メートル原器および国際キログラム原器各1個，各国用メートル原器および各国用キログラム原器各数十個が1889年の第1回国際度量衡総会によって承認されたのである。以来，国際原器はフランスのセーブルにある国際度量衡局に，また日本の原器は通商産業省工業技術院計量研究所に保管されている。

1960年（昭和35）の第11回国際度量衡総会において，長さの単位メートルは光の波長を基準とすることに改正されたので，メートル原器は原器としての地位を失い，現在はキログラム原器だけがその地位を保っている。なお，原器という語は，特定の領域（たとえば一つの企業体など）の内部において計量の基準として用いられる物体を意味することもある。　〔増井敏郎〕

げんぎ　【玄義】　奥義ともいう。本来，古代の密儀的宗教の用語で，その宗教独自の秘密の教理をさしたが，キリスト教神学では*三位一体のように，神によって啓示され，人間の悟性の把握(はあく)を越え，*聖霊の導きによる信仰以外にはそこに至る道のない真理，キリスト教の本質的教理をさす。

けんきせいきん　【嫌気性菌】　遊離酸素が存在すると有害に作用して増殖できない菌。*クロストリジウム属（破傷風菌・ボトリヌス菌など），バクテロイデス属の菌などがその例で，酸化還元電位は低く0.1ボルト以下の電位で増殖可能である。これらの菌は有気呼吸を行なわず，嫌気性発酵によってエネルギーを得る。その培養のためには遊離酸素との接触を断つか，チオグリコール酸・システインなど弱い還元剤や特殊の臓器片・糖・血液を加えたり，高層寒天にしたり，空気を置換したりする。〔和気　朗〕

けんぎゅうせい　【牽牛星】　⇨アルタイル

けんぎょう　【顕教】　⇨密教

けんぎょう　【建業】　⇨南京(ナンキン)

けんぎょう　【検校】　①寺社務の全体を監督する職掌。平安時代から高野山・熊野(くまの)三山・金峰山(きんぶせん)・石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)などに置かれた。②中世以降，盲人の官職名。盲人を僧官に擬し，その最上位の官職を検校と称するようになった。1783年（天明3）検校となった塙保己一(はなわほきいち)の名はよく知られている。③平安・鎌倉時代には，*荘園(しょうえん)の荘官にも検校の称があった。

けんぎょうのうか　【兼業農家】　世帯主ないし跡継ぎという農家の基幹的な労働力が，自家の農業経営のみでは労働の場を見

専業・兼業別農家数(旧分類)

	総農家数		専業	兼業農家		
				計	第1種(農業が主)	第2種(農業が従)
	千戸	%	%	%	%	%
1950	6 176	100.0	50.0	50.0	28.4	21.6
1955	6 076	100.0	35.0	65.0	37.6	27.4
1960	6 057	100.0	34.3	65.7	33.7	32.0
1965	5 665	100.0	21.5	78.5	36.8	41.8
1970	5 342	100.0	15.6	84.4	33.7	50.7

農林省統計調査部《世界農林業センサス結果概要》(1970)

いだせず，他産業の労働に従事して生計を維持している農家をいう。日本の旧来の農林統計上(旧分類方式)では，世帯員中に自家の農業以外の業に従事する者のいる世帯を兼業農家と規定し，そのうち，さらに農業への投下労働力が兼業労働力より大であるものを第1種兼業，他の業への投下労働力が大であるものを第2種兼業に分類している。わが国では，明治・大正年代に多くの小作・零細農家の労働力が家計維持を目的として，男子では炭焼き・大工・左官，ニシン漁業への出かせぎ(裏日本)，女子では製糸・紡績・織物，または各種の内職に従事していたが，資本主義の展開につれ雇用機会が増大し，通勤兼業という形態をとる〈職工農家〉が増加してきた。第2次世界大戦後の日本経済の成長は，さらに就業機会をふやすとともに，農工間所得格差の拡大を促すことによって，農家労働力の農外流出・兼業化を加速化し，1970年(昭和45)の農業センサスによれば，農家総数の約84%が兼業農家となっている。〔高山隆三〕

げんきょく【元曲】 中国，元代の戯曲のこと。正しくは元雑劇という。金代末期から元代初期のモンゴル時期(1206～1271)に発生した新しい演劇で，元代の至元・大徳年間(1265～1307)に盛行した。雑劇流行の理由は，元の世祖即位以来，都市の商業経済が繁栄し，都の大都(いまの北京(ペキン))がその中心になったこと，雑劇の作者の大半は下層民衆に近い知識人であり，民衆と同じく迫害を受け，民衆に共感をいだいたこと，支配階級であるモンゴル人が歌舞と戯曲を愛したことなどがあげられる。そのほかに戯曲自体の発展も原因の一つである。元雑劇は，北方の地方戯曲の院本と宋(そう)・金の古典的伝統の諸宮調という両者の結合した産物である。構造は必ず4の套曲(とうきょく)，または4の折(せつ)からなり，劇の運びの必要ある場合，1または2の小令か楔子(けっし)を冒頭または折と折の間に置く。雑劇の末尾は，2句・4句・8句の詩句で全体の情節をまとめ，内容を概括する。これを題目正名という。例外なく，ひとりの役者がはじめから終わりまで独唱する。唱詞は音楽上，厳格で複雑な要求があり，韻脚は一折一韻で通す。脚色すなわち役割は末・旦・浄・丑(ちゅう)に大別される。元曲の作者の創作活動は，大都を中心とした前期(約1251～1307)と，臨安(杭州(こうしゅう))に移った後期の2期に分けられる。前期は，関漢卿*(かんかんけい)・馬致遠*(ばちえん)・王実甫*(おうじっぽ)・白樸*(はくぼく)らの代表的作者が輩出した黄金時代であるが，後期は，漸次，衰微に向かう時代であった。〔今村与志雄〕

げんきょくせん【元曲選】 中国，元代の雑劇100種を集めた本。10巻。1615年，明(みん)の臧晋叔(ぞうしんしゅく)の編刊。100種のうち，6種は明代の人の作品で，24種は作者不明である。テキストに加筆しているが，選び方も校訂もよい。元曲研究上，標準的なテキストである。

げんきんかきとめ【現金書留】 ⇨書留郵便

げんくん【元勲】 明治維新にすぐれた功績をあげ，のち明治政府の中枢的存在となった政治家をいい，官職名ではない。元老*よりも語義は広く，西郷隆盛(たかもり)・木戸孝允(たかよし)・大久保利通(としみち)・伊藤博文(いとうひろぶみ)・山県有朋(やまがたありとも)・大山巌(いわお)・黒田清隆ら薩摩(さつま)・長州両藩出身者が多いが，のちには政党指導者となった大隈重信(おおくましげのぶ)・板垣(いたがき)退助らも含めることがある。

げんげ【翹揺】 ⇨レンゲソウ

げんげ 硬骨魚類・ゲンゲ科の総称。体は細長く側扁(そくへん)し，頭が大きくてしりすぼみになり，背びれ・尾びれ・しりびれがつながってウナギのひれの状態とよく似ている。胸びれは大きいが，腹びれはないかあっても痕跡(こんせき)的。クロゲンゲは，灰かっ色で，全長30cmほど，兵庫県以北の日本海と北海道，オホーツク海に分布する食用魚。シロゲンゲは，淡かっ色で，全長60cmほど，カリフォルニア・アラスカから，北海道・相模(さがみ)湾の深海に分布する。カンテンゲンゲは，白色半透明で，全長60cmほど，銚子(ちょうし)以北の太平洋の水深150～300mのあたりにすみ，底引き網などで捕獲され，かまぼこ原料にされる。このほか，数種が日本産として知られているが，数も少なく，重要な食用魚でもない。ただ，青灰色の地に，大きなH字形の特徴的なかっ色斑(はん)が体側に並ぶサラサガシ(キツネダラ)は，全長80cmほどで，島根県以北と金華山以北に分布し，美味。〔菅野 徹〕

げんけい【減刑】 ⇨恩赦

げんけい【原型】 洋裁用語。人体のある部位の寸法や体形および必要なゆとりを平面図化したもので，洋服製作の裁断の基礎になる。これをもとにして目的のデザインに応じてゆるみや切り替えを入れ，型紙*をつくる。平面的裁断には欠かすことができないが，人台または人体を直接使って服を裁つ場合には必要としない。婦人原型・男子原型・子ども原型があり，使用する身体の部位により身ごろ・そで・スカート・ズボンなどの原型に分けられる。〔小池千枝〕

げんけいしつ【原形質】 生物の細胞をつくっている基礎物質で，物質代謝・自己増殖・運動など，生命現象についてのいろいろな反応の場となる。1839年チェコのプルキニエが動物の卵細胞の物質に対して名づけた語である。水分を多く含み，タンパク質を主成分とし，脂質・炭水化物・核酸などからなり，半透明のコロイド状をしている。透明な周辺部のゲル状の部分と，半透明な顆粒(かりゅう)の多い中央部のゾル状の部分があり，ゾルとゲルの状態は可逆的である。核質と細胞質とに分けられるが，まわりは原形質膜*によって取り巻かれている。細胞質を原形質ということもある。植物細胞も動物細胞と本質的には同じで，原形質の塊からできていることが1846年ドイツのフォンモールによって認められた。原形質の一般的化学組成としては，水分85～90%，タンパク質7～10%，脂質2%，その他3%であるといわれているが，生物の種類や細胞・組織の種類によって大きな違いがある。〔高島文三〕

げんけいしつうんどう【原形質運動】 アメーバ運動・繊毛運動・べん毛運動・原形質流動*などの細胞内運動の総称。これらの運動はいずれも外観上の形式は異なるが，内的機構には共通な点がある。この運動を起こす本体は原形質*基質にあるアクトミオシン類似の収縮性タンパク質で，運動はATP*(アデノシン三リン酸)の作用により，タンパク質の分子状態が変化することによって起こると考えられる。ここに使われるエネルギー源としてのATPは呼吸によってではなく，おもに解糖*によって生成したものである。〔代谷 康〕

げんけいしつぶんり【原形質分離】 植物の細胞には細胞壁の内側に原形質膜(細胞膜)がある。溶液に浸すと，細胞壁は溶質・溶媒のいずれをも自由に通すことができるが，半透性の膜である原形質膜やトノプラヌト(液胞の膜)は溶媒だけを通して溶質を通過させない。このような性質をもつ細胞を，細胞の溶液の浸透圧よりも濃い液(高張液)につけておくと，浸透現象によって細胞内の水は原形質膜を通して細胞外へ出る。そのため細胞の膨圧が減り，容積も小さくなる。さらに脱水が続くと，原形質

はついに細胞壁から離れて，中央に固まってくる。これを原形質分離という。原形質分離を起こした細胞を細胞の浸透圧より薄い液（低張液）につけると，細胞は吸水してもとにもどる。この原形質分離は生きた細胞に起こる現象であるから，細胞の生死を判別するのに利用される。　〔代谷　康〕

げんけいしつまく　【原形質膜】　形質膜ともいい，原形*質の表面を取り囲んでいる薄膜。タンパク質と類脂質とからなる。光学顕微鏡では透明で見ることができないが，電子顕微鏡では動物細胞・植物細胞ともに75Åの薄膜として見られる。タンパク質からなると思われる電子密度の高い25Åの厚さの膜が内外２層あり，その中間に25Åの厚さの脂質からなると思われる電子密度の低い層がある。原形質膜は半透過性で，溶媒は通すが溶質は通さない。しかし，物質の種類によって透過性が異なる選択透過性をもっている。なお，原形質膜とはprotoplasmic membraneの訳語であるが，最近はこれをcell membrane（細胞膜・細胞質膜）ということが多くなっている。従来はセルロース性の膜であるcell wallを細胞膜と訳してきたが，これは細胞壁と訳されるようになっている。　〔高島文三〕

げんけいしつりゅうどう　【原形質流動】　細胞内部の細胞質基質が流動する現象。顕微鏡下では細胞質に含まれる顆粒（かりゅう）の動きで観察されるが，ときに色素体や核の動きが見られることもある。これはムラサキツユクサのおしべの毛，シャジクモの節間細胞，カナダモの葉など，液胞の発達した細胞では観察しやすい。流動の形式には循環・回転・往復などがある。

けんげき　【剣劇】　大衆演劇の一種。剣で斬（き）り合うことを興味の中心とする演劇・映画。俗にいうちゃんばら物。新国劇*の沢田正二郎*によって考案され，歌舞伎（かぶき）におけるタテ*の様式美に対し，剣と剣の闘争の写実的な緊迫力によって観客に快味を与えて人気を集め，大衆演劇の主流をなすようになった。《国定忠治》《月形半平太》などはその代表作である。派生的に大江美智子（みちこ）らの女剣劇ものちに生まれた。映画に与えた影響も大きく，阪東妻三郎（ばんどうつまさぶろう）・大河内（おおこうち）伝次郎らの剣劇映画俳優を輩出した。第２次世界大戦後の一時期急速に影を薄めたが，再び復活し，なお国民的娯楽としての人気を保っている。
➔時代劇映画　〔西尾邦夫〕

けんけつ　【献血】　健康な人が自己の血液を他人の輸血*用に無償で提供すること。外傷・手術などの際に輸血に用いる血液を地域住民が自給自足することをモットーとして，赤十字社・県立血液センターによりその地域の人々が健康なときに計画的に献血し，輸血の必要な患者に直ちに必要な血液を供給する献血システムがつくられている。日赤血液センターの発表によると，1968年


兼　好

（昭和143）７月現在で全国の必要血液量の90％が献血でまかなわれているという。一般にある地域で１年間に必要とする血液量は，その地域人口の約３％の人が献血することによりまかなわれるとされている。

献血の方法は日赤などの血液センターへ行って採血する母体採血，移動採血車による移動採血，職域などの団体採血で係員が出張して行なうオープン採血の３種がある。採血量は１人１回200 mlで，所要時間は約３分。献血は健康な成人であればだれでもできるが，採血した血液については梅毒血清反応検査と肝機能検査が行なわれ，合格したものが輸血に用いられている。
〔三島好雄〕

げんご　【言語】　⇨次ページ

けんこう　【建康】　⇨南京（ナンキン）

けんこう　【健康】　世界保健機構（WHO）は，〈健康とは肉体的・精神的・社会的に良好な状態にあることであって，単に病気がない，故障がないということだけではない〉と定義している。しかし現実の人々をみると，この定義はあくまで理想像で，健康とはわれわれのたえず求めてやまないものであるといえる。子どもの発育に関連しても，最近の肥満児の問題に関して，機能が伴わない発育は，ほんとうの発育ではないと反省されている。したがってわれわれが最も望む健康とは，必ずしも身体的活力や健康感にあふれた状態ではなく，また長生きするためのものでもなく，各人が自分の目的に到達するのに最も適した状態である，ということもできる。なにか一つの事項で健康をはかれるものはなく，地域や国の比較などで，たとえば寿命などが一つのものさしとして用いられるにすぎない。
〔金子義徳〕

けんこう　【兼好】（1283ごろ～1362ごろ）鎌倉末期から南北朝にかけての歌人。占部兼好（うらべかねよし）ともいい，また，吉田（よしだ）神社の社務職を継いだ家がらの出であるのと，出家後その名を音読したところから，吉田兼好（けんこう）ともよぶ。彼の伝記には不明の点が多く，青年時代，後二条天皇のもとに六位の蔵人（くろうど）（天皇の起居に仕え，宮中の儀式なども行なった）として仕えたが，30歳までには出家したという。出家後は修学院や比叡（ひえい）山の横川（よかわ）に住み，関東へも旅をし，この境涯（きょうがい）の中で《徒然草*（つれづれぐさ）》が執筆された。歌人としても二条為世*（ためよ）門下の〈和歌四天王*〉のひとりに数えられ，勅撰集*（ちょくせんしゅう）入集歌のほかに歌集《兼好法師集》を残している。
〔桑原博史〕

げんこう　【元寇】　⇨文永・弘安（こうあん）の役

げんこう　【原口】　多細胞動物の発生初期において，胞胚（ほうはい）期が終わると，胚表の一部が胚内にはいり込んで原腸胚となる。この陥入の起こる場所を原口という。原腸の外部への開口部であり，円形または曲線状の開口となることが多い。原口が将来成体の口となるものを先口動物*という。これに対して，将来成体の口が原口以外の部分から形成され，肛門（こうもん）が原口あるいは原口付近にできるものを後口動物*という。

けんこうかんり　【健康管理】　主として労働衛生で用いられる語。労働者の健康を守り，ひいては企業に寄与するために行なわれる管理で，健康診断・採用時健康診断・定期健康診断・臨時健康診断・結核管理・成人病管理・職業病管理・健康相談などが含まれる。➔健康　➔健康診断

けんこうこつ　【肩甲骨】　肩の背面にある三角形の扁平（へんぺい）な骨。三つの頂角のうち外側角は先がそぎとられたようになっており，ここに上腕骨と関節をつくる大きなくぼみ（関節窩（かんせつか））がある。このくぼみの前上方には，カラスのくちばしのように折れ曲がった烏口（うこう）突起が前外側に突出している。背面上部にはほぼ水平にはしる肩甲棘（きょく）という隆起があり，その外側端肩峰（けんぽう）の先端で鎖骨と連結する。肩甲骨は鎖骨とともに自由上肢骨（じょうしこつ）を体幹に連結していて，上肢帯とよばれる。
〔橋本　長〕

けんこうしんだん　【健康診断】　身体測定・機能検査・臨床検査の総合的な結果から健康状態を把握（はあく）すること。実際の健康診断の制度については，学校においては学校保健法により定期（４月）または臨時に学徒および教職員の健康診断が義務づけられている。結核予防法では，原則として全国民が年に１回定期の健康診断を受け，結核の早期発見を図ること，さらに必要に応じて定期外の健康診断を規定している。

学校保健法の定期健康診断項目は，幼児・生徒・学生に対しては，身長・体重・胸囲・座高・栄養・脊柱（せきちゅう）・胸郭・視力・色神および聴力，目・耳・鼻および咽頭（いんとう）・皮膚・歯牙（しが）・結核・寄生虫卵その他疾病（しっぺい）および異常について行ない，職員には身長・体重・視力・色神および聴力な

➔294ページ

言　語

人間に特有の音声記号の体系。実際に発音される音声のみならず，発音されない心的音声をも含む。多くの場合，文字を伴うが，文字をもたない言語も多い。言語を〈ことば〉ということもあるが，〈ことば〉は単語をさす場合もあり必ずしも同一ではない。言語学でいう言語は，人によりその定義のしかたが，細かい点で異なる。広い意味で動物にも言語があるとするものもある。しかし，動物の言語と人間の言語とは，次の点で根本的に異なる。①人間の言語は，音声が並んで音節をつくり，音節の集まりが語となり，語の集まりが文となる。また，その逆も可能である。しかし，動物に言語があるとしても，それは〈だめ！〉〈くれ！〉のような一語文的なもので，人間の言語のように有機的な相関関係のもとに立つ語と文とは存在しない。②動物の言語はその目前にある事がらに限って発せられるのに対し，人間の言語は，過去・未来のことも問題にでき，人の言っていることをさらに他の人に伝えることも，またうそをつくこともできる。人間の知識も言語によってたくわえられている面が大きい。③人間には先天的に言語習得の能力が備わり，成育した環境に行なわれている言語を後天的に習得するのであるが，動物の言語すなわち鳴き声は，単に本能的に発せられるものにしかすぎない。

人間の言語の起源・発生については，これまでも多くの憶説が出されたが，いずれも記号の体系である言語現象をすべて合理的に説明するには至らず，決定的な学説はまだない。1866年のパリ言語学会で，この問題について以後論ずるのを禁じたほどである。しかし，近年の科学の発展に伴ってこの分野にも新しい成果が期待されている。

〔言語の記号性〕言語における音声・文字は，それ自身ではなにも意味しない。それはたとえば，知らない外国語を聞いたときあるいはその文字を見たとき，それらを騒音や一種の模様としてしか知覚しえないことでもわかる。音声・文字には，それぞれに，一定の意味が習慣的・伝統的に付随しているからである。スイスの言語学者ソシュール*は，言語が〈表わされるもの〉と〈表わすもの〉との関係からなっていることを明らかにし，その両者の結合したものを〈記号〉とよんだ。この区別は以後の言語学の発展に与えた影響が大きい。デンマークの言語学者イェルムスレウは，その関係を〈内容形式〉〈表現形式〉とよびかえた。〈表わされるもの〉とは，人間の知覚・経験するすべての事物を含むいわゆる森羅万象(しんらばんしょう)である。それを言語化したものが音声・文字であるが，その方法は各言語においてまったく任意に選ばれ，そこに共通のルールはない。たとえば，事物としての〈木〉は，日本語で木〔ki〕，英語でtree〔tri：〕，フランス語でarbre〔arbr〕，ドイツ語でbaum〔baum〕，ロシア語で дерево〔dyérevo〕，中国語で木〔mù〕，インドネシア語でpohon〔pohon〕などのように表わされるが，その文字と音声とは，それぞれの言語において社会慣習上そのように決まっているにすぎない。ただ，自然発生的な音を描写した単語には，各言語において類似する場合が多い。擬声語や幼児の発音に由来する単語がそれである。しかし，arbreに対してスペイン語árbol，イタリア語alberoのような著しい類似がある場合，そこに歴史性を考える余地が起こり，比較言語学*が成立する。

言語は無限の連続体である世界を，有限個の要素に分割していることになるが，その要素が有限個であるからこそ，言語はその習得・使用が可能であるといえる。ただし，世界の分割のしかたは，各言語において必ずしも一致しない。たとえば，にじの色は，それ自身，連続的であるが，日本語・英語ではこれを7色に分類する。しかし，ローデシアのショナ語では3色に，リベリアのバサ語では2色にしか分けることができない。言語の記号性は，社会習慣の総体によって成立する。そしてそれは，ある時期における，ある一つの言語共同体ごとに確立されている。一見，それは法律・制度・慣習などとも共通した社会的制度であるかのようである。しかし，一方で言語を成立させているのは，人間の精神活動である。したがって言語は刻一刻と変化し，いわば乱れる方向へも向かう。それゆえ，どこまでを社会習慣上正しいとし，どこまでを誤りとするかの絶対的な基準はない。その速度に遅速はあっても，すべての言語は絶えず変化する。これは言語の使用者が人間であるかぎり避けることのできない宿命である。言語を静的・固定的にとらえようとするのは，研究・教育上の一種の便宜であるが，言語そのものはそのことによって少しも静止しはしない。

〔言語と思考〕〈表わされるもの〉と〈表わすもの〉の関係はまた，思考と言語との関係に置き替えられる。確かに，この間に密接な連係があることは事実である。しかし，近年，アメリカで聾唖者(ろうあしゃ)に思考があることが実験的に証明され，またソ連の心理学者ビゴツキーは，乳幼児にも思考が存在することを明らかにした。このように言語をもたない人間にも思考があるとすれば，言語と思考とは同時発生的なものではないことになる。ゆえに，ドイツの言語哲学者フンボルト*のように〈言語は思考の形式的機関である〉とのみいうことはできない。言語には思考を練磨(れんま)し，より高度の思考を導く大きな働きもあるが，一方で言語は思考を不完全にしか言い表わせず，ときには，まったく言語化できない思考のあることも，経験的に確かめられる。それは，思考には言語をあとに残して先に進んでいく面もあるからである。構造主義言語学では，言語と思考とは等しいと考える。表現形式は比較的容易に有限個の要素に分析できるのに比べて，内容形式のほうは分析が困難であるという理由による。最近の生成文法ではチョムスキー*がこの点を批判し，〈表層構造〉と〈深層構造〉とは別のもので，必ずしも同一である必要はないとするが，それは言語的過程においてのことであり，言語的過程と心的過程とは等しいとみる点で問題がある。

〔言語の成分〕同じ内容を表わすために発せられた音声も微細に観察すれば，人が異なるごとに，また同一人においても，各回ごとに違っている。同じ言語表現は，二度と存在しない。それにもかかわらず，言語によって過去のことが思い出され，未来のことが述べられ，人との間にコミュニケーションが成立する。それは言語をなりたたせている要素の間に共通した特徴があるからにほかならない。そのような特徴を静的に分析・抽出したものを，音声に関しては音素*という。また，その音素に付随して現われるアクセント・長さ・連接などは超分節音素とよばれる。これに対して内容形式と直接の関係をもつのが，形態素である。形態素には単語のみならず，活用・曲用の部分も含まれるが，これを事物の概念を示すものと文法的機能を示すものとに分け，前者を意義素とよび，後者にのみ形態素の名を与える考えもある。このように言語の表現形式を成立させている最も基本的な要素は，音素と形態素(意義素)である。さらに，形態素がどのように配列されて文となるかによって，構成要素という概念が生まれる。言語の記号は，有限個の要素が体系的・組織的に分布・結合していることになり，このような要素の体系は言語ごとに異なる。しかし，アメリカの言語学者ヤコブソンは，音響音声学的研究によって言語ごとに異なる音素よりもさらに下位的な特徴，すなわち，世界の言語に一般的・普遍的に適用されるような音声における12の弁別的特徴を提案した。この考えは，言語の普遍性を問題にする生成文法論者の大きな注目を集めた。

〔言語の類型〕日本語と英語とを比べても，その語彙(ごい)・語順はもとより文法も異なる。その文法的差異に着目したのが次のような古典的な言語の類型的分類法である。

①孤立語*：中国語・ベトナム語など。

②屈折語*：ラテン語・ドイツ語など。
③膠着語*(こうちゃくご)：トルコ語・日本語など。
④輯合語*(しゅうごうご)：エスキモー語・ギリヤーク語など。

この分類法は，19世紀初頭のドイツの言語学者シュレーゲルにすでにその考えがみられる。おおまかな文法的特徴を示すのに便利であるため，現在も便宜的に用いられているが，実際には，いずれの言語もこの中のいくつかの特徴をあわせもつのが普通であり，また，たとえば，現代英語はむしろ孤立語的であるが，古英語は屈折語的であったように，同じ言語も時代によって変化することもある。厳密にいってこのような分類法は，はなはだ不正確である。このほかにも，ドイツの言語学者フィンク，アメリカの言語学者サピアによる新たな分類法がある。最近，アメリカの言語学者グリーンバーグは，指数という概念による分類を試みている。それは，一語に含まれる形態素の数を調べてその総合指数を算出するもので，たとえば英語の〈The farmer kills the duckling.〉(農夫は子アヒルを殺す)という文では，5語に対して8個の形態素(farmerはfarmと-er, killsはkillと-s, ducklingはduckと-ling)があるから8/5＝1.6となる。このようにして英語の総合指数の平均値は1.68，エスキモー語は3.72，ベトナム語は1.06となることを発見し，この値によって階級順位をつける。しかし，言語の分類はこのような類型的方法のほかに，言語の系統によるものがあり，今日ではむしろこのほうがより一般的である。

〔言語の変化，世界の言語〕言語の変化は，

世界のおもな言語とその系統 (左端は古語，右端は現代語を示す。

- I インド-ヨーロッパ語族(印欧語族)
  - 1 ゲルマン語派
    - 東ゲルマン語群　ゴート語
    - 北ゲルマン語(北欧語)群
      - 古ノルド語——東部ノルド語{スウェーデン語／デンマーク語}
      - 古ノルド語——西部ノルド語{ノルウェー語／アイスランド語}
    - 西ゲルマン語群
      - 古高地ドイツ語——ドイツ語
      - 古低地ドイツ語——{オランダ語／フランドル語／アフリカーンス語}
      - 古英語——中英語——英語(アメリカ英語)
  - 2 イタリック語派
    - ラテン語——俗ラテン語——ロマンス諸語{ポルトガル語／スペイン語／フランス語／プロバンス語／イタリア語／ルーマニア語／レト-ロマン語}
    - オスク語
    - ウンブリア語
  - 3 バルト-スラブ語派
    - バルト語派
      - 古プロシア語
      - 古リトワニア語——リトワニア語
      - 古ラトビア語——ラトビア語
    - スラブ語派
      - 南スラブ語群　古教会スラブ語——マケドニア語；{ブルガリア語／セルボ-クロアティア語}
      - 西スラブ語群　古チェック語——チェック語；{スロバキア語／ポーランド語}
      - 東スラブ語群　古ロシア語——ロシア語(大ロシア語)；{白ロシア語／ウクライナ語(小ロシア語)}
  - 4 インド-イラン語派
    - インド語派
      - {ベーダ語——プラークリット語／サンスクリット(梵語)　パーリ語}——{ヒンディー語／ウルドゥー語／ベンガル語／マラーティー語／ヒマラヤ諸方言}
    - イラン語派
      - {古ペルシア語——パフレビ語／アベスタ語　ソグド語}——{ペルシア語／プシュトウ語／クルド語／バルチー語}
  - 5 ギリシア語
    - イオニア-アッティカ方言——共通ギリシア語(コイネー)——{文語ギリシア語／口語ギリシア語}
    - アルカディア-キプロス方言
    - アエオリア方言
    - ドーリア方言
  - 6 古アルメニア語——アルメニア語
  - 7 イリュリア語(?)——アルバニア語
  - 8 ケルト語派
    - 大陸ケルト語群　古ケルト語(ゴール語)
    - 島嶼ケルト語群——ゲール語{アイルランド語／マン島語}
    - 島嶼ケルト語群——ブリタニア語{ウェールズ語／ブルトン語}
  - 9 トカラ語
  - 10 ヒッタイト語
- II ハム-セム語族
  - 1 ハム語派
    - エジプト語——コプト語
    - ベルベル語
  - 2 セム語派
    - 東セム語群　アッカド語{アッシリア語／バビロニア語}
    - 西セム語群
      - 西北セム語{アラム語／カナン語{ヘブライ語——ヘブライ語／フェニキア語}}
      - 西南セム語{北(古典)アラビア語——アラビア語／南アラビア語／古典エチオピア語——アムハラ語}
- III ウラル語族
  - 1 フィン-ウゴル語派
    - フィン語群　古フィンランド語——フィンランド語；{エストニア語／カレリア語}
    - ウゴル語群　古ハンガリー語——ハンガリー語；オスティアク語
  - 2 サモイェード語派{ネネツ語／ガナサン語}
- IV アルタイ語族
  - 1 チュルク語群
    - 東部方言{アルタイ方言／ウイグル方言}
    - 西部方言{キルギス方言／ボルガ諸方言}
    - 中央アジア方言{カシュガル方言／チャガタイ方言}
    - 南部方言　古トルコ語——トルコ語(オスマンリー方言)；{トルコマン方言／コーカサス方言}
    - 突厥語・ウイグル語
  - 2 蒙古語群
    - 契丹語(?)——中期蒙古語——{カルムイク方言／ブリヤート方言／バルガ方言}

短い期間には感じられないが，ある期間ののちには，その差も大きくなり，ついに明らかに変化したことがわかる。言語の変化のしかたは各言語ごとに異なり，インドネシア語のように7～8世紀の文献語と現代語との間に語彙を除いてほとんど文法的相違のないものから，現代英語のように古英語から大きく変わった言語もある。今日のようにいろいろの種類のコミュニケーションが発達した時代では，英語・ロシア語・スペイン語などのような特に国際的な言語は，その使用者も多く，広域にわたるから，おのずと統一化を保つ努力もなされ，その変化もいくぶん抑制されることが考えられる。

世界の言語の正確な数はわからないが，2,500～3,500はまちがいないといわれる。それらの言語は，《旧約聖書》のバベルの塔の伝説にもかかわらず，もとは一つであったかどうかは不明である。しかし，比較言語学的方法によって世界の言語は，日本語を含めたいくつかの系統不明の言語とまだ試案的段階であるアメリカ-インディアン諸語*における語族を除き，およそ10の語族*に分類せられ，その中に多くの重要な言語が所属する。それぞれの言語は，さらにその内部に地域的な方言*，身分的・階級的な敬語*，社会的な隠語*，また文章語・口頭語，男性語・女性語*などをもつ場合が多い。

世界の共通語*は，いかなる人種にとっても平等かつ公平でなければならないという理想のもとに，国際語*を人工的につくる努力もいろいろと重ねられた。特にその中でもザメンホフ*が考案したエスペラント*は，最も有望であるといえる。➔言語学

〔崎山　理〕

古語の年代，資料の多少は一様でない）

3　ツングース語群
- {モンゴル語(ハルハ方言)／チャハル方言}
- 女真語(？)——満州語
- {ラムート方言／オロチョン方言／オロッコ方言}

4　古朝鮮語——中期朝鮮語——朝鮮語(？)

Ⅴ　ドラビダ語族
- 古タミル語——タミル語
- 古カナラ語——カナラ語
- 古テルグ語——テルグ語

Ⅵ　シナ-チベット語族

1　チベット-ビルマ語群
- 古チベット語——チベット語
- 中古ビルマ語——ビルマ語
- {レプチア語／カチン語}
- 西夏語(？)

2　漢語群
- 上古漢語——中古漢語——中世漢語——近代漢語——中国語(北京語)
- 中古漢語——{広東語／福建語／上海語／客家語}

3　タイ語群
- 古タイ語——タイ語
- {ラオス語／僮語}

Ⅶ　オーストロ-アジア語族(南亜語族)

1　東部語派　ベトナム語(？)

2　中部語派(モン-クメール語族)
- 古クメール語——カンボジア語
- {モン語／ニコバル諸島語／パラウン語／カシ語／サカイ語／チャム語}

3　ムンダー諸語　{ムンダーリー語／ヒマラヤ一部方言}

Ⅷ　マライ-ポリネシア語族(南島語族)

1　インドネシア語派
- 古マライ語——インドネシア語
- カウィ語(古ジャワ語)——ジャワ語
- {ホバ語／マカッサル語／タガログ語／ビサヤ語／高砂族諸言語／チャモロ語／パラオ語}

2　メラネシア語派　{トラック語／ビスマルク諸島諸言語／ソロモン諸島諸言語／フィジー語}

3　ポリネシア語派　{グリーニジ語／マオリ語／トンガ語／サモア語／タヒチ語／ハワイ語}

Ⅸ　アフリカ諸語

1　バンツー語族　{スワヒリ語／ガンダ語／ズールー語／ショーナ語}

2　コイン語族　{ホッテントット語／ブッシュマン語}

3　スーダン-ギニア諸語　{ハウサ語／ヨルバ語／マーサイ語}

Ⅹ　アメリカ-インディアン諸語

1　北アメリカ諸語　{アルゴンキン-ワカシ語族／エスキモー-アレウト語族／エスキモー語／ホカ-スー語族／ナ-デネ語族／ペヌティア語族／ウト-アズテック-タノ語族}

2　中央アメリカ諸語　{マヤ語族／トトナク語族／サポテク語族}

3　南アメリカ諸語　{アラワク語族／ケチュア語族／カリブ語族}

Ⅺ　孤立的言語
- バスク語
- 南・北コーカサス諸言語
- 極北諸言語
- アイヌ語
- ブルシャースキー語
- アンダマン諸島語
- ラティ語
- パプア諸言語
- オーストラリア原住民語
- タスマニア語(絶滅)
- 上古日本語—中古日本語—中世日本語—近世日本語—日本語

どの測定を省略できる。同法においては，定期のほかに就学の際に行なう就学時健康診断,伝染病や食中毒発生の際,あるいは卒業・風水害の際や，結核・寄生虫予防上必要なときに行なう臨時健康診断を定めている。結核予防法の定期健康診断は,事業所・事務所の勤労者ではその使用者が，学生・生徒・児童は学校長が，乳児院・保育所などの施設ではその施設長，それ以外の一般住民では市町村長がそれぞれ責任者であり，ツベルクリン反応・間接X線撮影を行なっている。定期外健康診断は，都道府県知事および政令市長が実施義務者となり，保健所で，結核患者家族や業態者に対して行なう。また，労働省では特殊健康診断を必要とする16種の有害な業務を定め，職業病対策の一環としている。〔金子義徳〕

けんこうしんだんしょ【健康診断書】 健康診断の結果に基づいて医師が医学的判断を証明するために作成する書類。入学・就職の際の書類として要求される場合が多いが，書式は裁判用書類を除いて法に決められたものではない。

けんこうそうだん【健康相談】 健康に異常があると思われる児童・生徒に対して毎月定期的に行なうもので，①健康診断*の結果，観察や指導が必要と考えられる者，②病気欠席の多い者，③自分で異常に気づいた者，④保護者が気づいて必要と認めた者，⑤学校の行事に際して必要と認められた者，などが対象となる。学校児童の場合は学校医・歯科医を中心として行なわれるが，労働衛生においては精神心理についてもその必要が大きいとされている。〔金子義徳〕

げんこうのらん【元弘の乱】 正中の変*失敗後，後醍醐(ごだいご)天皇*の再度の鎌倉幕府討伐計画によって起こされた政変。1331年(元弘1・元徳3)幕府討伐計画が六波羅(ろくはら)探題に察知されたため，天皇は笠置(かさぎ)城にこもって幕府軍と戦ったが,落城して敗走中捕われて隠岐(おき)(島根県)へ流された。これに呼応して挙兵した楠木正成(くすのきまさしげ)らも敗れ，幕府は後醍醐天皇を廃して光厳天皇*を立て年号を正慶と改めた。しかし，正成の再挙や隠岐を脱出した天皇に足利尊氏(あしかがたかうじ)・新田義貞(にったよしさだ)らの有力御家人が加勢したため1333年(元弘3・正慶2)鎌倉幕府は滅亡した。〔大三輪龍彦〕

げんこうはん【現行犯】 現に犯罪を実行している者，または現に犯罪を終わった者のこと。現行犯の逮捕は，急を要し，また人権侵害の危険もないので，逮捕状を必要とせず，警察官以外の者でも逮捕できる。現行犯とはいえないが，明らかに犯罪を実行し終わって間がないと認められ，しかも①犯人として追われているとき，②盗んだり奪ったりした品物を所持したり，犯罪のために使われたと思われる凶器などを持っているとき，③身体や衣類に犯罪のあとがありありと見られるとき，④問いかけられて逃げ出すとき，以上四つの条件にあてはまる場合は，準現行犯として現行犯とまったく同じに扱われる。民間人が現行犯人を逮捕した場合は，すみやかに司法警察職員に引き渡さなければならない。〔井上公耳〕

けんこうほけん【健康保険】 疾病(しっぺい)保険ともいわれ，疾病にかかった場合に，医療または医療費を給付し，さらに労働不能による所得の喪失を担保する保険。一般に今日では社会保障における医療保障として重要である。この場合，医療サービスを現物給付し，また，労働者が疾病の療養のための休業によって賃金が得られない場合に，賃金の一部を保障する休業給付が設けられている。しかし，狭義に健康保険とは，わが国で1922年(大正11)に制定され，その後1927年(昭和2)に全面施行された健康保険法による保険をいう。労働者の生活の安定と労働力の回復に寄与することを目的とし，原則として常時5人以上の従業員を使用する会社・工場・銀行・鉱山などの事業所に使用される従業員とその家族の業務外の疾病・負傷，死亡または分娩(ぶんべん)の保険事故に対し，所定の保険給付を行なう保険である。その保険者は政府または健康保険組合で，前者を政府管掌健康保険，後者を組合管掌健康保険とよぶ。これら健康保険運営は，保険料と国庫負担金でまかなわれている。→医療保険　→国民健康保険〔庭田範秋〕

げんごかいかく【言語改革】 ある言語の発音・文字・語法などの不統一・繁雑を除き，不備を補い，不便・不自由などをなくするために，それらの個々の一部または全部を改めること。国語改革ともいい，特に文字を改めるのを文字改革とよぶ。言語改革は，言語・文字を学びやすく，より正確に使いやすく，わかりやすく，より美しく，より感じよくするなどを目的とするので，言語改良・言語改善ともいい，その社会的な努力・実践は言語改革論，あるいは運動とよばれ，言語政策*によって具体化される。〔石黒　修〕

げんごがく【言語学】 言語に対する人間の思索は，人類の歴史とともに古いが，科学としての言語の学，すなわち言語学という名称がはじめて用いられたのは，19世紀初頭からであり，その方法論も主としてインド-ヨーロッパ諸言語の比較およびその言語の歴史の研究によってしだいに確立されてきた。特に，イギリスのW.ジョーンズ*が1786年に発表した論文において，梵語(ぼんご)・ギリシア語・ラテン語相互間の類似を指摘し，そこに共通の源があると考えたことは，以降の科学的な言語学の発達の発端となった。言語には人間の内的な精神活動と密接な関係を保ちつつ成立する一面がありながら，また一方では社会的習慣あるいは社会的事実・事物として人間が一定の限界以上に自由にすることができないいわば外在的・拘束的な性質もある。この言語の二面的本質をあらゆる手段・方向を通じて総合的に研究することをめざすのが,〈一般言語学〉とよばれる分野である。しかし言語におけるそのような社会習慣的特徴に主として重点を置き，その歴史と比較の研究を進めてきたのが，19世紀初頭から最近に至る言語学の主要な傾向であった。まず〈史的言語学〉は言語が事物として歴史の流れの上にその存在の意味をもつがゆえに成立する。言語相互間の比較により根源的な原初の言語的統一，すなわち共通原語を求め，言語の系統的関係を明らかにするのは史的言語学の一分科としての〈比較言語学〉である。〈言語社会学〉は言語を社会現象・社会集団との関係において取り扱う。史的・比較言語学にも役だつ場合が多い，言語の地理的分布を研究する〈言語地理学〉の分野もある。このように言語を社会的事実・事物としてながめる立場において，各時期ごとの言語要素の体系・相関関係を静態的に記述する〈共時言語学〉と動態的に言語の歴史的変化を跡づける〈通時言語学〉との区別を立て，前者をむしろ重視すべきことを，スイスのソシュール*は1916年《一般言語学講義》の中で提唱したが，この書の以後に与えた影響は大きい。19世紀の通時的な研究法に対して，20世紀は共時的な研究法が優勢となった時代といえる。アメリカではL.ブルームフィールド*を先駆者として〈構造言語学〉あるいは〈記述言語学〉の大きい発展をみた。また，言語の構造を研究する分野も音韻論・形態論・構文論・意味論などのように細分化された。一方，新しい自然科学的理論・装置は言語学にも適用され，〈数理言語学〉〈機械翻訳〉などの研究も進められている。しかし，数学的方式では簡単に律しえられない言語の精神活動的面があることも忘れてはならない。

言語の精神活動と直接関与する部分に注目したのは，ドイツのフンボルト*であり，その思潮は主としてドイツの言語学者にみられる。アメリカのE.サピアもこの傾向に属する。言語の構造を通じて民族の精神形態の特異性を求め，逆に言語構造にそのような特異性の発現をみようとする〈言語民族学〉があり，また言語を特に心理的活動の面から研究する〈言語心理学*〉も行なわれている。現在，アメリカのチョムスキー*による新しい言語理論〈生成(変形)文法〉は，これまでの構造言語学的方法では構文論の研究にも限界があるとし，フンボルト的言語理論の導入によってその解決を図ろうと試みる。しかし言語における人間の自由にしうる限界についての顧慮に欠ける点があるため，すでに新たな理論の発生を促している。〔崎山　理〕

げんこく【原告】 民事訴訟の手続きの中で特定の相手方(→被告)に対し，一定の

請求を第1審の裁判上に求める攻撃的当事者のことをいう。代理人によって訴訟を遂行することがしばしばあるが，訴訟の当事者としての原告・被告は本人としての個人または法人である。訴状には攻撃的当事者としての原告および防御的当事者としての被告が明記されているので明瞭(めいりょう)に知ることができる。なお，*控訴審では控訴人・被控訴人といわれ，*上告審では上告人・被上告人とよばれる。〔内田剛弘〕

けんこくきねんび　【建国記念日】　国民の祝日の一。2月11日。1966年の〈国民の祝日に関する法律〉改正の公布により，*敬老の日(9月15日)，および*体育の日(10月10日)とともに新たに国民の祝日に加えられた。特に，建国記念日となる日については，改正法中の付則に従い，建国記念日審議会を設置，その答申を得て，第1次佐藤内閣の政令により翌1967年から実施され，現在に至っている。建国記念日制定の趣旨は，同法文中に〈建国をしのび，国を愛する心を養う〉と記されていることによる。2月11日が旧祝祭日の*紀元節と同日であることから，建国記念日は紀元節の復活であるとして，言論界や文化・労働の諸団体が，その立法・公布・審議・発令の過程において強い反対を表明した。国会に上程された同改正法案も，野党の反対を押し切って強行採決が行なわれ，やっと通過を見るに至った。〔高崎徳次〕

げんごしょうがい　【言語障害】　感覚性または運動性の障害によって発声ができなくなったり，言語が緩徐になったり，断片的になったりすること。中枢性の障害による言語障害と，言語筋の完全または不全麻痺(まひ)による言語障害がある。前者は大脳皮質に障害がある場合で，後者は大脳皮質以下の舌下神経・迷走神経・副神経などの核あるいは伝導路に障害がある場合に起こる。臨床的には構語障害・音声障害・失語症が重要である。構語障害は運動過程の障害で，構音運動に関係のある口・くちびる・舌・歯・硬口蓋(こうこうがい)・軟口蓋・咽頭(いんとう)などの筋肉そのもの，あるいはそれを支配する諸神経の障害によって起こる。音声障害は中枢性または末梢(まっしょう)性神経障害で，声帯運動に異常がある場合に起こり，嗄声(させい)から失声に至るまで程度は種種である。失語症は，構語運動・聴力・知能などに障害がなく，言語構成過程の障害によって起こるもので，言語表現能力の中枢であるブローカの中枢と，感覚失語の中枢であるネッケルの中枢が関与する。失語症は，右ききの場合に左の脳球に問題があるように，きき手との関係が密接であると推定される。➔失語症　〔岩井　寛〕

げんごしんりがく　【言語心理学】　言語を対象とする心理学の一分野で，その課題は広範囲にわたる。①言語の本質と機能，②言語行動の習得，③音声の知覚，④意味，





ゲンゴロウ
(左)ゲンゴロウ
(右)上部のものがヒメゲンゴロウで体長10mmほど，下部のものがクロゲンゴロウで体長20mmほど

⑤言語と認知との関係，⑥言語行動の異常(吃音(きつおん)・失語症など)，⑦言語行動とパーソナリティーとの関係，⑧言語とマスコミュニケーション，などが主要なものとしてあげられる。研究にあたっては，心理学的知見だけでなく，情報理論・生成文法論・神経生理学・分析哲学などの知見の援用される傾向が近年特に著しい。このような傾向から，アメリカにおいては，言語を心理学を中心に関連諸科学から総合的に研究するサイコリングウイスティックス(心理言語学)とよばれる新しい学問が発展してきている。〔佐藤方哉〕

げんごせいさく　【言語政策】　教育上，学習負担を軽減し，教育内容の充実向上を図り，社会上，国民の言語生活の能率をあげ，文化水準を高めるために，ある言語・国語に対してとられる国家の政治上の方針・手段。その前提として民間の言語*改革の論議・運動があり，国家的な機関による調査・研究・審議などを経て決定し，実施される。日本では明治時代から教育上これに類する措置はとられてきたが，いわゆる言語政策は第2次世界大戦後に始まった。すなわち，*当用漢字とその音訓・字体，*現代かなづかいなどの制定がそれである。〔石黒　修〕

げんこつおしょう　【拳骨和尚】　⇨物外不遷(もつがいふせん)

げんごてつがく　【言語哲学】　〈言語の哲学〉と〈言語的哲学〉の二つに区別される。〈言語の哲学〉は，経済哲学とか政治哲学という言い方と同じように，言語についての原理論的な考察，たとえば言語の起源とか本質を人間の文化との関係において論じることなどを意味する。この分野の代表者に，K.フンボルトをはじめ，ソシュール・カッシーラー，さらにはチョムスキーらの言語学者や哲学者があげられる。〈言語的哲学〉は，哲学思想において言語が大きな役割を占めているところから，言語を中心的な手がかりとして哲学における問題を解明しようとする哲学で，今日の分析哲学がこれにあたる。分析哲学は言語分析(言語の意味や用法の明確化)をその哲学の方法とするが，そこには記号論理学のような形式(人工)言語を理想言語とする論理実証主義(ウィーン学団)と，日常言語の分析をその哲学の課題とするイギリスの日常言語学派(オックスフォード学派)の二つの行き方がある。〔寺中平治〕

げんごゆうぎ　【言語遊戯】　〈しり取り〉〈早口ことば〉〈しゃれ〉など，ことばのおもしろみを楽しむ遊び。〈ことば遊び〉ともいう。典型的なものは，発音の類似を利用する〈校正(後生)恐るべし〉〈妓(き)を見て寝ざるは情なきなり〉の類で，和歌の掛けことばや，江戸時代の地口・口合の系類である。多くは〈その手は桑名の焼き蛤(はまぐり)〉〈驚き桃の木山椒(さんしょ)の木〉のような語呂(ごろ)合わせの要素をもつ。また，これらになぞ解きの興味を盛り込んだのが，しゃれ・軽口・もじりとよばれる類で，〈竹に鶯(うぐいす)の木雀(きすずめ)(気違い)〉〈卵の川流れ(浮き浮きする)〉など。現代でも，〈立てばビヤだる，すわればたらい，歩く姿はガスタンク〉のように替え歌の手法として使われる。しり取りは〈ことばぐさり〉の一種で，現代の形のほか〈思う人思わぬ人の思う人〉のような畳語的なもの，〈いにしえの昔の武士の侍が馬から落ちて落馬して〉のような重語的なもの，〈なせばなるなさねばならぬ何事も〉のように韻を踏むことばぐさりもある。これらに早口ことばの要素が加わったのが〈生麦生米生卵〉の類である。早口ことばは〈舌もじり〉ともいわれ，歌舞伎(かぶき)十八番の一つ《外郎売(ういろううり)》のせりふが有名である。このほか〈ナツマデマツナ〉のように上から読んでも下から読んでも同じになる回文，あるいは〈小〔**ヲ**〕倉山峰〔**ミ**〕立ちならし鳴〔**ナ**〕く鹿(しか)の経〔**ヘ**〕にけむ秋を知〔**シ**〕る人ぞなし〈伊〔**イチ**〕勢 新〔**ニイ**〕潟 三〔**サン**〕河 信〔**シ**〕州 神〔**ゴ**〕戸〉のような物名(もな)読み込みもある。なお，文字を使った〈ロハ(只)〉〈糸し糸しと言う心(戀)〉〈一六銀行(質屋)〉の類は文字遊びといわれ，〈二つ文字〔**こ**〕牛の角文字〔**ひ**〕すぐな文字〔**し**〕ゆがみ文字〔**く**〕とぞ君はおぼゆる〉は傑作として知られる。〔田中章夫〕

げんごろう　【龍蝨】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゲンゴロウ科の総称およびそのうちの一種をいう。ゲンゴロウ科は大きな群で，全世界から2,000種類以上が知られ，種々の点で著しく変化に富む。体長2mm内外の小形種から45mm内外に達する大形種ま

である。体は楕円(だえん)形で扁平(へんぺい)，全体に堅固で，表面は光沢があり，なめらかで，点刻や縦溝(じゅうこう)がある。体の色彩は黒色・暗緑色・かっ色・青銅色・灰色などの種類が多い。頭部は幅広く，前胸に固着し，複眼はよく発達し，触角は短く糸状。口器は典型的な食肉型で，大あごは新月形で鋭く，体液の吸収に適している。翅(はね)はよく発達して飛ぶのに適し，鞘翅は腹部を完全におおっている。脚は水中を遊泳するのに適し，特に脛節(けいせつ)は短く扁平で，長毛を密生し，顕著な距棘(きょきょく)がある。跗節(ふせつ)は5節で長毛を密生し，雄では最初の3節は拡大され，雌を捕えるのに適した吸盤がある。幼虫は細長く，2対の単眼があり，大あごは長いかま状，頭部を下にして体を水表に保持する。一般に河川や池沼などに生活するが，温泉中に生活する種類や塩水中に生活するような種類もごく少数知られる。幼虫・成虫ともに完全な捕食性で，各種の水生こん虫の幼虫や成虫のほか，オタマジャクシや小魚などを食べる。成虫は夜間に新しい生活圏を求めて陸上を群飛し，しばしば燈火にも飛来する。また，長い期間を乾燥した陸上で過ごすこともでき，しばしば乾燥した池沼や川底などの石下に多数の個体が発見される。卵は水中の種々の物体上に個々にまたは卵塊として産下され，ときに水生植物の組織内にも産下される。約10の亜科に分類され，日本からは約60種類が知られている。ゲンゴロウは日本に産する最大の種で，体長35～40mm，背面は緑色をおびた黒色で，雌は光沢が鈍い。前胸背板の外縁，鞘翅の側縁，体の腹面，脚などは黄かっ色ないし赤かっ色。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国・シベリアなどに広く分布し，池沼に普通に見られる。そのほか，日本に産する代表的な種類には，コツブゲンゴロウ・ツブゲンゴロウ・ケシゲンゴロウ・チビゲンゴロウ・セスジゲンゴロウ・マメゲンゴロウ・ヒメゲンゴロウ・ハイイロゲンゴロウ・シマゲンゴロウ・ゲンゴロウモドキ・コガタノゲンゴロウなどがある。〔鈴木邦雄〕

げんごろうぶな ⇨フナ

けんさい【兼載】(1452～1510) 連歌師。猪苗代(いなわしろ)氏。初号宗春，別号耕閑軒。猪苗代の武家の出身。関東に滞在していた宗祇(そうぎ)・心敬に指導を受け，1475年(文明7)には京に上っている。38歳のとき，宗祇の跡を受けて北野会所奉行(ぶぎょう)連歌宗匠となり，1495年(明応4)には《新撰菟玖波集(しんせんつくばしゅう)》編纂(へんさん)に際し宗祇を助けた。しかし，このとき両者の間に不和を生じ，1498年以降関東に下り，古河の地に没した。《心敬僧都庭訓(ていきん)》《梅黄抄》《兼載雑談》などの連歌論書，句集《園塵(そののちり)》のほかに連歌論書などがある。〔奥野純一〕

げんざい【原罪】 キリスト教特有の概念。人類の父祖アダムの犯した罪のため，人間は生まれながらにして皆罪人であるとする。この表現の背後に人間の生得的な罪悪の傾向への洞察(どうさつ)がある。原罪説をはじめて唱えたのはパウロであり，それを継承発展したのがアウグスチヌスである。彼らは人間を原罪の事実において把握(はあく)し，人間の救済は，イエス-キリストに端的に象徴される神の恩寵(おんちょう)と，この恩寵の事実を信仰すること以外には不能であるとした。その後教会が多分に自力救済，あるいは功業による贖罪(しょくざい)を認める傾向を示すに至ったとき，宗教改革者ルターが再び人間の原罪性を強調し，信仰のみによって義とされると説いた。原罪の概念はキリスト教の本質的概念の一である。

げんさいききん【減債基金】 公債の信用と市価を維持するため，一定額の資金を一般会計や特別会計から繰り入れ，公債の利払い，公債の償還・借り換えなどを計画的に行なう目的で設けられる基金。わが国の国債整理基金特別会計はこの制度の一種である。国債整理基金特別会計は，一般会計・特別会計・政府関係機関からそれぞれが負担しなければならない公債費の繰り入れを受けて，国債・借入金および政府短期証券の元本の返済と利子支払いを一元的に行なっている。国債の償還財源については，①前年度における国債総額の1.6/100相当額を一般会計または特別会計から繰り入れるとともに，②一般会計決算剰余金の2分の1以上の繰り入れを行なうほか，③必要に応じて，予算措置による繰り入れを行なうことになっている。これは元本償還費であって，ほかに利子支払い費が繰り入れられる。〔西野義彦〕

けんざき【剣崎】 三浦半島南東端の岬(みさき)。神奈川県三浦市に属し，古くは〈つるぎざき〉とよばれていた。東京港の関門である浦賀水道の入り口にあたる重要な位置を占め，1871年(明治4)剣崎燈台がつくられ，その後1923年(大正12)の関東大震災のとき倒壊したが，1926年に改築，現在三浦半島最大の45万燭光(しょっこう)の2等燈台となっている。付近は高さ約30mの平らな隆起海食台地をなし，燈台下の荒磯(あらいそ)はクロダイなどのよいつり場で，観光地としても知られる。〔味沢成吉〕

けんさきいか【剣先烏賊】 軟体動物・頭足類・ジンドウイカ科。胴は細長い円錐(えんすい)形で，長さ35cmほど。ひれは大きく，ほぼひし形で，ヤリイカに似ているが，とがり方が少ない。本州中部から九州に分布する。肉は美味で生食され，するめは一番するめ・五島するめと称して珍重される。

けんさくかこう【研削加工】 砥粒(とりゅう)を結合剤で円板状・カップ状などに固めた砥石車を高速で回転させて，工作物の表面を削り取る加工方法。研削盤によって行なわれる。きわめてわずかずつ削り取るので，切削加工ではできないような精密仕上げをすることができるし，焼き入れ鋼・超硬合金・ガラスなど切削不可能な材料にも加工することができる。

げんさくどうぶつ【原索動物】 動物分類学上の一門で，擬索綱(ギボシムシの仲間)・尾索綱(ホヤ・サルパの仲間)・頭索綱(ナメクジウオの仲間)が含まれ，脊椎(せきつい)動物の祖先形に近いものと考えられている。少なくとも一生のある時期には脊索・鰓孔(さいこう)をもつなどの共通点があるが，擬索綱については脊索の存在に疑問があり，これを半索動物という別の門として扱うことがある。

けんさくのこうべんけん【検索の抗弁権】 債権者が主たる債務者(たとえば，甲が乙の債務を保証した場合，乙を主たる債務者という)に債務の履行を請求したにもかかわらずその履行がなされなかったならば，保証人に対して債務の履行を請求することになる。しかし，その際でも保証人は債権者に対して，主たる債務者の財産にさきに強制執行をなすべき旨を請求することができる。これを検索の抗弁権という(民法453条)。保証人がこのような抗弁権を行使するためには，主たる債務者に十分な財産があり，しかも強制執行をかけることが容易であることを証明しなければならない(民法453条)。もっとも，この場合債務者の財産は，債務全額を完済するだけの資力があることを要せず，その一部であってもかまわない。これによって，債権者はまず主たる債務者の財産について執行し，それでも完済を得られなかった場合に，はじめて保証人に残額債務の履行を請求できる。なお，保証人が検索の抗弁権を行使したにもかかわらず，債権者が主たる債務者に執行をなすことを怠り，そのためのちになって主たる債務者から全額の弁済を受けることができなくなってしまったときは，もしも直ちに執行していたならば弁済を得たであろうという範囲だけ保証人は保証債務を免れることができる(民法455条)。〔黒木三郎〕

けんさくばん【研削盤】 研削加工をするための工作機械。多くの場合，他の種類の工作機械である程度加工されたものに対して，いっそう精密な仕上げを施すために用いられる。したがって，研削盤の種類はきわめて多いが，おもなものは次のとおり。

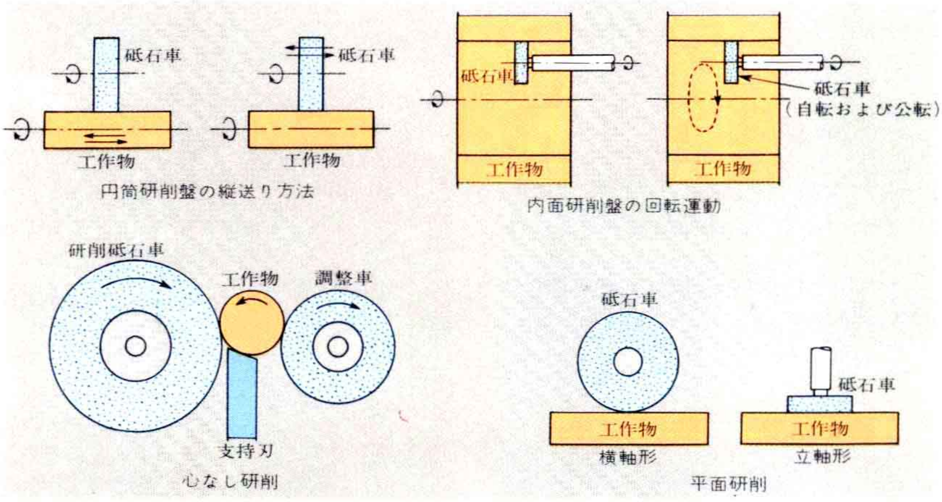
①円筒研削盤：主として円筒形工作物の外周を研削するためのもので，工作物を主軸台と心押し台との両センターでささえて回転し，これに砥石(といし)車をあてて研削をする。工作物を端から端まで研削するためには，普通は工作物を取り付けたテーブルを左右に移動して行なうが，大形のものでは砥石車を左右に移動できるようにしていることが多い。なお，円錐(えんすい)形の工作物の研削その他の加工もできるようにしたものを万能研削盤といっている。

②内面研削盤　穴の内面を研削するためのもので，小径の砥石車を長い砥石軸の先端に取り付けて回転させ，穴の中に入れて研削する。穴を端から端まで研削するために，工作物を移動させるもの，砥石車を移動させるもの，また丸い穴にするために工作物を回転させるもの，砥石車の軸を円形に運動させるものなどの多くの種類がある。

平面研削盤：平らな面を研削するためのもので，砥石車の軸が水平な横形と垂直な立形とがあり，前者は砥石車の円周面を用いて加工するもので精密研削に適し，後者は砥石車の端面を用いて加工するもので重研削に適している。

心なし研削盤：高速回転をする研削砥石車と低速回転をする調整車との間に円筒状の工作物を入れて研削するためのもので，センターを用いる必要がないから小物や中空の部品の研削に便利である。調整車としては，普通はゴム結合剤の砥石車を用いている。

以上のほか，工具研削盤・ねじ研削盤・歯車研削盤・ロール研削盤・クランク研削盤・ならい研削盤など種々のものがある。〔稲田重男〕



研削盤

けんさつかん　【検察官】　刑事訴訟法に定める手続きにより，犯罪の捜査および起訴(公訴の提起)を行なうとともに刑の執行を監督する国家機関。検事総長・次長検事・検事長・検事・副検事の5種の官名があり，いずれも厳重な資格要件を要する。検事は原則として司法試験合格後2年以上の習修を経て，副検事は一定の資格者の中から任命される。いずれも一定の身分保障がある。

けんさつかん　【検察官】　ゴーゴリの喜劇(1836)。5幕。いなか町の宿屋に泊まった都会のほら吹きの軽薄な青年フレスタコーフが，検察官とまちがわれたのをよいことに，汚職の発覚を恐れる市長や官吏の供応を受けてわいろをふところに逐電(ちくでん)したあと，ほんものの検察官が現われる。人物が個性化され，せりふは生彩を放ち，作者の辛辣(しんらつ)な風刺精神がみごとに結実したもので，肯定的人物がひとりもいない批判的リアリズムの傑作。〔北垣信行〕

けんさつじむかん　【検察事務官】　上司の命を受けて検察庁の事務をつかさどり，または検察官を補佐し，その指揮を受けて捜査を行なう職員をいう。検察行政事務(庶務・会計・記録)をつかさどる者と捜査に関する事務をつかさどる者に区別される。検察事務官は部外において職務を行なう際，被疑者など関係者から要求されたときは，身分証明票を示さねばならない。

けんさつしんさかい　【検察審査会】　検察官が行なった不起訴処分(起訴猶予を含む)が適当かどうかについて，民間から選出された者が審査する機関。各地方検察庁に一つ以上設置されている。公務員などを除く衆議院議員選挙権者の中から抽選で選ばれた11名で構成し(任期6か月)，過半数の会員からの申し立てによって審査が開かれる。審査結果は検事正および検察官適格審査会に通知するが，強制力はなく，検事正らはこれを参考に，起訴が妥当と考える場合は起訴の手続きを行なう。現行刑事訴訟法は，検察官に対して起訴独占主義(起訴権を検察官に限る)，起訴便宜主義(起訴・不起訴の裁量を検察官に任せる)を採用しているので，検察官の独善に陥りやすい危険が防止される。〔井上公耳〕

けんさつちょう　【検察庁】　法務省の所管で，検察官の行なう検察事務(犯罪の捜査，公訴の提起)を統轄する官署。1947年(昭和22)検察庁法に基づいて設置された。検察官のほか検察事務官・検察技官などの職員が置かれる。最高検察庁(東京)を頂点に，高等検察庁(札幌(さっぽろ)・仙台(せんだい)・東京・大阪・名古屋・広島・高松・福岡)，地方検察庁(県庁所在地のほか，特に北海道には釧路(くしろ)・旭川(あさひかわ)・函館(はこだて))，区検察庁があり，それぞれ最高裁判所・高等裁判所・地方裁判所・簡易裁判所に対応して置かれている。最高検察庁の長を検事総長，高等検察庁の長を検事長，地方検察庁の長を検事正，区検察庁の長を上席検察官という。〔井上公耳〕

けんさやく　【検査役】

1 会社の業務および財産状況に関して，取締役または発起人の処置および計算についての検査・報告を任務とする機関。その選任は裁判所によるものと，株主総会または創立総会によるものとに大別され，職務の範囲もそれぞれ異なる。

2 ➔すもう

けんざん　【剣山】　いけ花で花材を留めるのに用いる道具の一。鉛の盤に多くの針を並べたもので，明治時代に盛り花の花留めとしてくふうされ，特に一定の花形をもたない自由花で盛んに使用される。大きさ・形に種類が多く，花材や花器によって使い分ける。円形のものと月形のものを組み合わせた日月形や長方形の角形(大角)がよく使われるが，ほかに丸組み・千鳥形などがある。なお，剣山の針は曲がりやすいので，それをなおす道具として〈剣山直し〉がある。

げんざん　【元山】　ウォンサン　朝鮮半島北東部，江原道の北部，永興湾に臨む港市。1949年，咸鏡(かんきょう)南道から分離して江原道の軍事境界線以北の行政中心地となる。永興湾は南北から突き出した陸繋島(りくけいとう)に抱かれた良港で，湾内はさらに北の松田湾と元山湾に分かれる。元山港は1880年開港。市街は長徳山を背にした南北に長い美しい町並みで，近くの松濤園(しょうとうえん)は海水浴場・保養地として著名。朝鮮戦争で廃墟(はいきょ)と化したが，その後近代都市として復興し，大規模な造船所・鉄道工場のほか，機械・化学工場も多い。タイ・イワシなどの水産，リンゴなどの農産にも恵まれ，農業大学をはじめとする文教施設も多い。〔矢守一彦〕

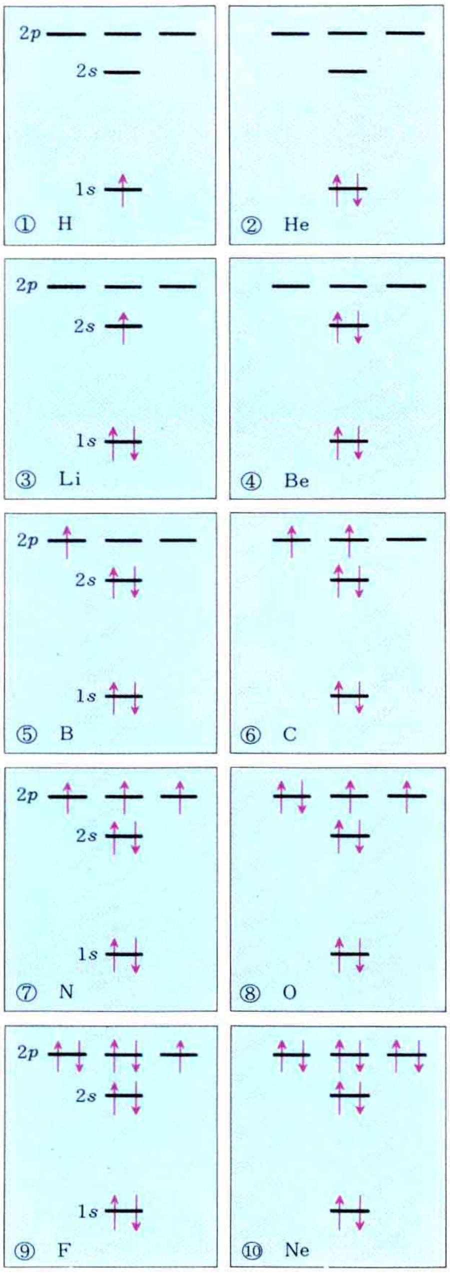
げんざんみ　【源三位】　⇨源頼政(よりまさ)

けんし　【繭糸】　⇨生糸

けんし　【犬歯】　哺乳(ほにゅう)類の歯の一種で，切歯のあとに続く1本ずつの歯。錐体(すいたい)状にとがり，最も長い。肉食動物ではよく発達して牙(きば)となり，草食動物では退化し，また欠くものがある。俗に糸切り歯とよばれるように，物をかみ切るのに適している。➔歯

けんし　【検視】　老衰や病気(自然死)以外の原因不明の死亡および事故死(不自然死)のうち，犯罪によって死亡したかどうかわからないもの(変死体)，または死亡原因が不自然死かどうかわからないもの(変死の疑いのある死体)を調べて，犯罪によるものかどうかを決める処分のこと。変死体や変死の疑いのある死体は，犯罪による場合が少なくないので，検視によって犯罪の発見と同時に証拠の確保が得られる。検視を行なうのは検察官・検察事務官・司法警察員である(刑事訴訟法229条)。〔井上公耳〕

けんし　【検死・検屍】　医師が検察官ま



原　子　図-1　いろいろな原子内の電子配置図

たは司法警察員の立ち会いのもとに死体を外表から検査して，個人識別・死後経過時間および病死か変死か，変死の場合は過失死か災害死か，また自殺か他殺かなどを明らかにすること。死体検案ともいう。その所見に基づいて死体検案書を作成しなければならない。東京都の区の存する区域，大阪市・京都市・横浜市・名古屋市・神戸(こうべ)市および北九州市の各大都市で，死体解剖保存法による監察医制度の敷かれている区域では，原則として監察医が行ない，その他の地域では一般医師が行なうこともある。外表からの検査のみでは死因その他を明らかにできないことが多いので，さらに行政解剖が，犯罪事件関係のものは司法解剖が行なわれる。　〔朝倉　了〕

けんじ　【検事】　⇨検察官

げんし　【原子】　物質を構成する基本的な要素。英語のアトム(atom)はギリシア語のアトモス(atomos)に由来し，〈分割できないもの〉の意味をもち，以前はこれ以上分割できないものと考えられていた。しかし，現在では中心の原子核とそのまわりの電子とからなりたつことがわかっており，またさらに原子核自身にも内部構造のあることが知られている。

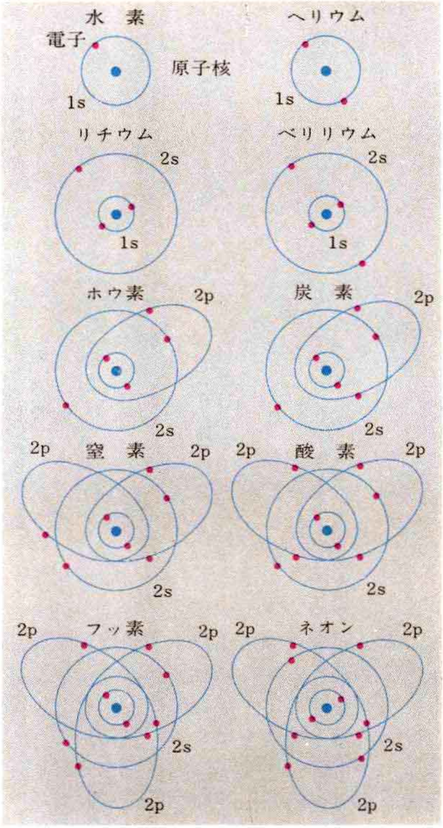


図-2　電子軌道の模式図

〔原子の状態〕古典論的には，原子核のまわりの電子の運動は太陽のまわりの惑星の運動にたとえられ，そのほうが直観的に理解しやすい。しかし，原子の場合は太陽系とは異なり，電子はかってな軌道をとったり，かってな値のエネルギーをもったりすることはできず，ある特別な軌道やエネルギーだけが可能である。量子力学的には，この電子の状態は特定の波動関数で与えられる。最も簡単な水素原子では，核外の電子は一つであり，その状態は四つの量子数といわれる数で指定される。それらは，主量子数n(＝1，2，3，……)，副量子数(方位量子数)l(＝0，1，2，……$n-1$)，磁気量子数m(＝$-l$，$-l+1$，……$l-1$，l)，スピン量子数s(＝±½)である。nは(水素以外でも)一般にエネルギーの値に直接関係し，通常nの異なる状態間には大きいエネルギー差がある。水素の場合，エネルギーEは$E=-2\pi^2\mu e^4/h^2n^2$で与えられる(μは，陽子と電子の質量をそれぞれM，mとしたとき$\mu=mM/(m+M)$，e＝電子の電荷，h＝プランク定数)。ほかの量子数は，このとき事実上エネルギーに関係しない。副量子数は古典的には軌道の形，量子論的には電子雲の形を決める数であるが，これはまた，原子核の周囲を回る電子のもつ角運動量の大きさを定める。水素以外の原子では，lの違いによりエネルギーに多少の差を生ずる。原子の状態はnにより大分けされ，lによりさらに細分される。l＝0，1，2，3，……の状態をそれぞれs状態，p状態，d状態，f状態といい，たとえば，n＝2，l＝1の状態は2p状態という。

磁気量子数mは，電子の軌道角運動量ベクトルのz成分を定めるもので，またスピン量子数は電子の一種の自転であるスピンの角運動量のz成分を定めるものである。

〔原子の構造〕核外に多くの電子をもつ原子の状態は，一般にきわめて複雑である。しかし，原則として上述のn, l, m, sで定まる多くの状態のうち，エネルギーの低いものから順々に〈パウリの排他原理〉に従って占められていくと考えられる。図の①は，水素原子を表わし，上向きのスピンの電子が1s状態に一つ存在する。ヘリウムには電子が二つあり，これらがともに1s状態にはいるには，スピンが互いに逆向きでなくてはならない(図の②)。一方の電子がエネルギーの高い状態に励起されれば，スピンは同じ向きになることができる。これをオルト-ヘリウムといい，逆向きのものをパラ-ヘリウムという。これらの間には通常遷移が起こらないので，あたかも2種類のヘリウムが存在するかのようにみえる。1sの二つの状態をK殻(かく)という。

図の③の原子リチウムでは，3番めの電子は1sにはいれず，2s状態にはいる。この電子は原子核より遠くにあるので，原子核から離れやすく，またほかの原子のスピンが逆の電子と対をつくって化合物をつくりやすい。これらはアルカリ金属の特徴である。次に，4番めの電子を追加すると，これはスピンが逆になって2s状態にはいり，ベリリウムとなる。さらに電子の数が増すと，これらはよりエネルギーの高い2p状態にはいっていく。2pにはm＝0，±1の三つの状態があり，スピンを考慮すれば六つの電子を収容できる。最初はスピンが，たとえば上向きのものだけ三つが，mの異なる状態にはいっていき，4番めの電子がはじめて同じmの状態にスピンが逆向きになってはいる(図の⑤～⑧)。このように，できるだけ異なったmの状態にまず電子のはいる傾向は，原子の構造を定めるうえにたいせつであって，フントの規則という。このため，炭素はスピンが平行な二つの不対電子を2p状態にもち，同様に窒素はすべて平行なスピンの3電子をもつ。2s，2pの八つの状態をまとめてL殻といい，その中の2sの2状態，2pの6状態をそれぞれL_1殻，L_2殻という。

L殻の8状態に電子が全部詰まった原子

はネオンで，ヘリウムと同じ不活性原子である。不活性なわけは，すべての電子のスピンが二つずつ対をなしており，化合結合にあずかる不対電子が存在しないからである。アルゴン・クリプトンなども同様である。

$n=3$より上には，$n=4$の$4s$，$4p$，$4d$，$4f$の状態が存在するわけであるが，あまり重くない原子では，nの大きい状態が高いエネルギーをもつとは限らず，たとえば$4s$状態は$3d$状態よりむしろ低い。したがって，スカンジウムからニッケルまでは，電子は$4s$状態をまず満たすことになり，$3d$の状態にあきが生ずる。このような元素は遷移元素とよばれる。これと似た現象は希土類元素にもみられる。

〔光とX線の放出〕水素原子の可能なエネルギー準位は，前述のような簡単な式で与えられる。アルカリ原子の場合も最外部の一電子だけを励起する場合に可能なエネルギー準位*は，似たような式となる。一般に，このような外側の電子が励起され，それより下の準位に落ちるときは光が放出され，原子スペクトル*として観測される。一般の多電子原子のエネルギー状態はきわめて複雑であるが，すべての電子の軌道角運動量の和，スピン角運動量の和，この二つの和，さらに核スピンなどで決まる。これらは理論的計算も可能であるが，スペクトルから推定することができる。原子に強力な電子が入射すると，最内部の$1s$状態などにある電子がたたき出され，その空所に外部の電子が落ち込み，その際非常に波長の短い電磁波が放出される。これがX線である。強力な放電中では，原子の核外電子が外側から次々とはぎとられ，高次のイオンを生じ，それの放出する光の波長はきわめて短く，軟X線の領域にはいるようになる。しかし，その発生の機構からみれば光学的スペクトルと考えられる。〔吉原邦夫〕

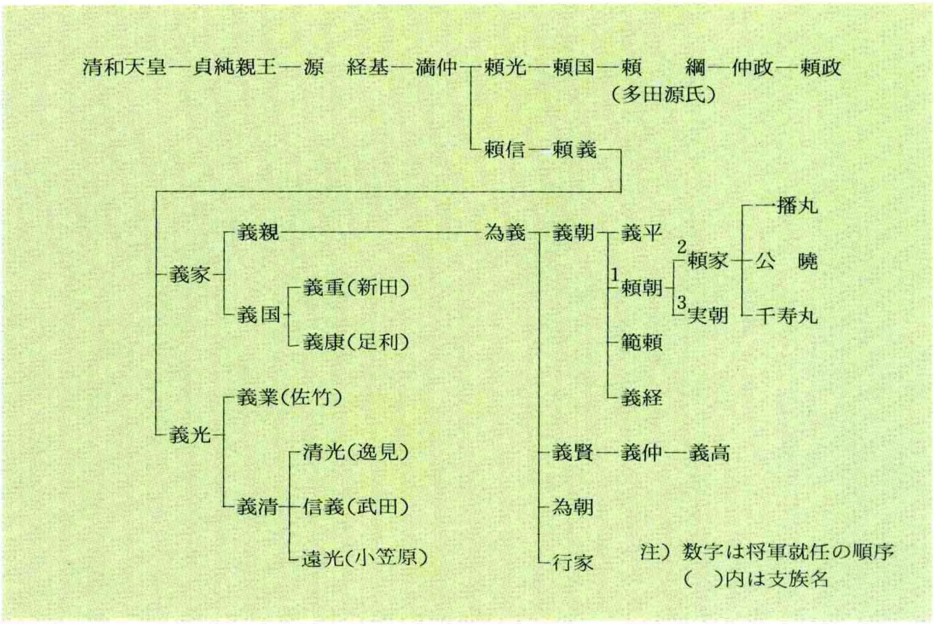
げんし【原紙】 加工紙*をつくる場合に素地となる紙の総称。このほか，たとえば箱・コップなどをつくるときのように，紙を加工して使う場合に，裁断前の紙を原紙とよぶことがある。

げんし【減資】 会社がその基金である資本を減少すること。減資には，営業の縮小などによって過剰となった財産を出資者に払いもどす有償減資(実質的減資)と，欠損を塡補(てんぽ)して将来の配当を可能にするために資本を減額し，財産額に一致させる無償減資(形式的減資)とがある。

げんじ【源氏】 皇族を臣籍に下す際に与えられる氏姓の代表的なもの。嵯峨(さが)に始まり淳和(じゅんな)・仁明(にんみょう)・文徳・清和・陽成・宇多・醍醐(だいご)・村上・花山らの諸源氏があり，中でも清和源氏・宇多源氏・村上源氏・花山源氏は，歴史上特に有名。

①清和源氏：清和天皇の孫経基(つねもと)に始まり，以後武家として発展した。はじめ摂津(大阪府・兵庫県)・大和(やまと)(奈良県)・河内(かわち)(大阪府)などに本拠をもったが，河内源氏の系統は平忠常(ただつね)の乱，前九年の役*，後三年の役*など東国に起こった反乱を鎮定する過程で東国にその勢力を扶植し，頼朝(よりとも)に至ってはじめて武家政権を実現した。新田(にった)氏や室町幕府を開設した足利(あしかが)氏もこの一族から出ている。

清和源氏略系図



②宇多源氏：宇多天皇の孫雅信(まさのぶ)・重信に始まる。ことに雅信の子孫は繁栄し，室町時代に勢力をふるった庭田氏，近江(おうみ)源氏として鎌倉時代以降に活躍した佐々木氏をはじめ，綾小路(あやこうじ)氏・大原氏・五辻(ごつじ)氏らを出した。

③村上源氏：村上天皇の孫師房(もろふさ)に始まり，以後公家(くげ)として中央政界に活躍し，院政時代初期には最も繁栄した。その子孫からは，清華家*の一つである久我(こが)をはじめ，土御門(つちみかど)・堀川(ほりかわ)・中院(なかのいん)・千種(ちぐさ)・北畠(きたばたけ)らの諸氏が出た。

④花山源氏：花山天皇の曾孫(そうそん)顕康(あきやす)に始まり，白川家を称して神祇(じんぎ)伯(神祇官の長)を世襲し，伯家または王家ともよばれた。〔飯田悠紀子〕

げんしうん【原子雲】 ⇨原爆雲

げんしエネルギー【原子エネルギー】 ⇨原子力

げんしか【原子価】 ある原子1個が水素原子のn個と結合して化合物をつくるとき，nをこの原子の原子価という。原子が直接水素と化合しないときは，これら両方と化合する原子をとり，これの原子価から間接に定める。閉殻(へいかく)(→電子殻)のほかに電子がいくつかある場合，その電子は比較的ゆるく原子に結びついているので，引き離されてイオンを生じたり，また他の原子と結合して化合物をつくったりしやすい。これを原子価電子という。〔吉原邦夫〕

げんしかく【原子核】 原子*の中心にある粒子。核ともいう。陽電荷をおび原子の質量のほとんど全部が集中しているが，その大きさは原子自身に比べてはるかに小さい。原子は原子核を中核としてそれを取り巻いて電子*が回っている構造の粒子である。

原子のこの構造が解明するまで種々の原子模型*が考えられた。原子核(atomic nucleus)という名はラザフォード*によって命名されたものである(1911)。彼は，自分の行なったα粒子散乱の実験結果を説明するのに，原子には中心に陽に帯電した球があり，その球内を電子が回っているとするケルビン*やJ.J.トムソン*の原子模型ではなく，太陽系のような構造であるとし，その中核を原子核とよんだ。これは，中心に質量の大きな陽電荷をもつ核があり，これを土星の輪のように電子が取り巻いていると考えた長岡半太郎*の原子模型に似ている。長岡やラザフォードの原子模型は，ボーア*が量子論*を取り入れて理論的に完全なものにしていった(1913)。さらに1932年にはコッククロフト*とウォルトン*が原子核の人工破壊に成功し，チャドウィック*は原子核内に中性子*が存在することを発見したのである。これらの知識に基づいて，イワネンコ*とハイゼンベルク*は，核自体も構造をもっており，陽子*と中性子*が集まって原子核をつくっていることを明らかにした。

原子核のもつ陽電荷の量は，陽子がもっている陽電荷の和，つまり電気素量*eの陽子数Z倍である。このZを原子番号*とよぶ。原子が電気的に中性なのは，核の陽電荷を打ち消すZ個の電子が取り巻いているからで，原子の化学的性質はだいたい電子の数で決まる。核内の陽子数Zと中性子数Nの

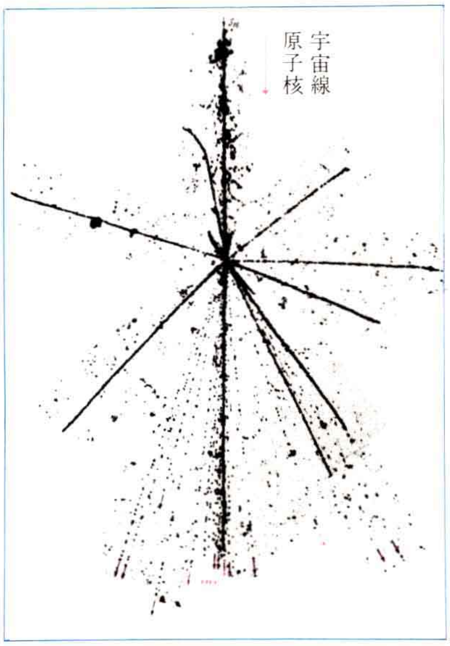
和$A(=Z+N)$を原子の質量数という。原子核の種類を表わす記号は元素記号の左肩または右肩に質量数Aをつけ，左下に原子番号Zをつける(例，炭素$^{12}_{6}C$，$_6C^{12}$)。

核の質量は陽子・中性子それぞれの質量の和より軽い。この差は核を構成するのに必要なエネルギーに関する量で，質量欠損または結合エネルギーといい，その大小は核子の結合の強弱を意味する。普通の核では核子1個あたりの結合エネルギーはだいたい8 MeV(メガエレクトロンボルト)である。核の質量を表わす一つの単位を原子質量単位(AMU)といい，炭素のアイソトープ(同位元素$^{12}_{6}C$)の質量の$1/12$を標準とする。1 AMU$=1.6591\times10^{-24}$g $=931.478$ MeV。

質量数Aの核の半径は$1.5\times A^{1/3}\times10^{-13}$cm，原子の大きさはだいたい$10^{-8}$cm程度である。核子がこのように狭い空間に閉じ込められているのは，核力という近距離(10^{-13}cm程度)で引力として作用する特殊な力によって互いに結ばれていることによる。しかし，核力は引力としてばかり作用するのでなく，ある場合には斥力としても作用することがわかっている。この核力についての完全な解明はまだなされていない。

原子核の種類は$Z=1$(水素)から103(ローレンシウム)まで，$A=1$から256までわかっている。そのうち，$Z=92$(ウラニウム)までは天然に産するが，それ以上の核はすべて人工の不安定な核である。アメリカ・ソ連ではさらに重い核の生成の研究がされている。Zが同じでAの異なる核は同じ元素に属し，アイソトープとよばれる。Aが同じでZが異なる核を同重核，ZもAも同じだが一方の核が他の準安定励起状態である核を核異性体とよぶ。核には安定なものと不安定なものがある。後者を放射性核といい，天然にあるものと人工のものとがあるが，いずれもα線・β線・γ線のどれかを放射するか，軌道電子を放出して別種の核に変換する。それぞれの過程をα崩壊・β崩壊・γ遷移・内部変換という。

核の物理的性質には，軽い核では核子の総数が重要な役割をし，重い核では陽子数Zと中性子数Nがそれぞれ関係してくる。同重核で陽子数と中性子数が入れ替わっている核を鏡像核という。これらは，結合エネルギーはほとんど等しく，励起準位のスペクトル構造が似ており，スピンは同じである。そして，Zの大きいほうの核は不安定で，非常に大きい確率で陽電子を放出して他の核に移る。陽子数・中性子数が2，8，14，20，28，50，82，126，152という特殊な核は特に安定で，これらの数を魔法の数とよぶ。また，Z，N，Aいずれかがこの数をもつ核を魔法核とよぶが，その性質は普通のものと非常に違っている。鉛の同位元素の一つ$^{208}_{82}Pb$は最もよい例で，$Z=82$，$N=126$という二重の魔法核である。普通の重い核は最初の励起準位が200KeV(キロエレクトロンボルト)以下のエネルギーであるが，^{208}Pbは2.6MeVであり，中性子捕獲では通常7 MeV程度励起されるが^{208}Pbは4 MeVにすぎない。



原子核乾板　宇宙線(イオウ原子核)が入射して原子核乾板中の原子核と衝突したところ。双方の原子核の破片が四方に飛び散り，さらに衝突によってつくられた約25個の中間子が，ほぼ宇宙線の入射の方向に放出されている

核を特徴づける物理量として，Z，N，A以外にスピン・統計・磁気モーメント・電気四極子モーメントなどがある。これらの核の性質は，核分光学や核反応の研究によって核のエネルギー準位や核力などとともに理論的・実験的に調べられている。実験に必要な装置のおもなものにサイクロトロン・バン-デ-グラーフがあり，もっと高エネルギーをつくるシンクロトロンなどの粒子加速器や，特殊なエレクトロニクスを利用した測定器類がある。

核のもつエネルギーは実社会の動力源として利用できる。一つは重い核が分裂する際に放出される形のもので，原子炉として原子力発電・原子力船など実用になっている。もう一つは核が融合するときに放出される形のもので，このほうは太陽などの恒星のエネルギー源としてよく知られているものであるが，人間が制御する形のものはまだ実現されておらず，世界各国で盛んに研究が進められている。　〔福井崇時〕

げんしかくかがく　【原子核化学】 ⇒核化学

げんしかくかんぱん　【原子核乾板】 放射線測定用の特殊な写真乾板。乳剤の部分が厚く，またその中に含まれる臭化銀の濃度が高いのが特徴で，電荷をもった放射線が通過するとその電離作用によって臭化銀が還元されて現像後に銀粒子が放射線の通った跡に沿って並び，これを顕微鏡で観察する。銀粒子は直径が1 μ 程度で，その単位長さあたりの数やその並び方により通過した放射線の電荷・質量・運動量などがわかる。通常の写真乾板は，特に電離度の大きい放射線にしか感じないが，1946年にイギリスのパウエルらが電離度の小さい放射線にも感じる乾板の開発に成功し，各種中間子の発見など輝かしい成果を収めて以来，すぐれた放射線測定器として認められるようになった。原子核乾板は現在宇宙線・原子核の研究に広く用いられており，特に高エネルギー放射線の原子核との相互作用の研究や宇宙線に含まれる各種原子核の存在比の測定などに有力な測定器として活用されている。　〔村山　喬〕

げんしかくけんきゅうじょ　【原子核研究所】 原子核・素粒子を中心的に研究するため，東京大学に付置されている共同利用研究施設。1953年(昭和28)に日本学術会議が〈重点的に巨大施設をもち研究者の自主組織による運営のもとに共同利用をし，かつ各大学との人事交流も盛んにする研究所の計画〉を政府に勧告，これに基づいて1955年に設立された。東京都田無市緑町にある。低エネルギー(化学を含む)・宇宙線・高エネルギー・理論の4研究部門があり，サイクロトロン・電子シンクロトロンの加速器や空気シャワー観測装置などを中心施設としている。　〔福井崇時〕

げんしかくこうがく　【原子核工学】 ⇒核工学

げんしかくじんこうへんかん　【原子核人工変換】 陽子などの粒子を使って人工的に原子核を変えること。ある種の原子核(天然放射性元素)はみずからα線やβ線を放出して別の原子核に変換している。陽子やα粒子を原子核にあてると，これらの粒子のエネルギーによってその原子核を別の原子核に変えることができる。

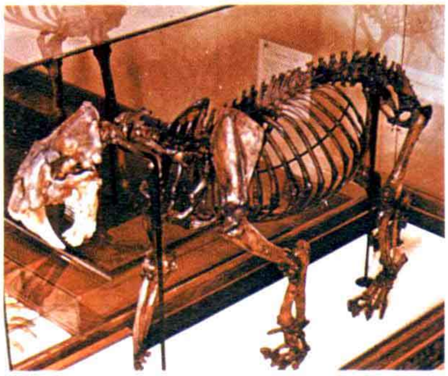
1919年ラザフォードは，窒素に放射性元素から出るα線をあてると陽子が飛び出す現象を見つけた。これは，$^{14}_{7}N$(窒素)$+\alpha\rightarrow^{17}_{8}O$(酸素)$+p$(陽子)という反応が起こってできた陽子である。彼はその実験で，真空にできる気密容器の中にα線源となる放射性物質を入れ，容器の一端に硫化亜鉛を塗った螢光板(けいこうばん)を置き，顕微鏡で螢光板のシンチレーション光が観測できる装置を使った。彼はこの容器に窒素ガスを詰め，α線源の位置を変えながら螢光板を観察して，α粒子の飛程以上に線源を螢光板から遠ざけても螢光板は螢光を発することを認めた。さらに，この容器に電場や磁場を加えて螢光の発し方を調べた。硫化亜鉛はα粒子だけではなく陽子でも発光することもわかったので，彼の観測した螢光板を発光させる粒子は陽子であるとし，窒素がα粒子によって変換されて酸素になると結論した。また，同じ方法でホウ素B・フッ素F・ナトリウムNa・アルミニウムAl・

リンPなどにα粒子をあてても陽子が飛び出すことがわかった。これら初期の原子核人工変換では放射性元素からのα線を使っているので，カリウムKより重い元素では原子核の電荷が増し，クーロン力による斥力のためにエネルギーが不足して変換は生じない。

コッククロフト*・ウォルトン*は，陽子を加速して原子核にあてるという実際上の人工原子核変換を実験した。これが原子核物理学の研究のはじまりである。このようにして起こさせる人工の原子核変換，つまり原子核反応*は，原子核そのものの構造や性質という基礎的な研究に直接の実験事実を提供し，加速器*という装置を主体とする核物理・素粒子物理の発展のいとぐちをつくった。その後種々の形式の加速器や原子炉*が建設され，電子・陽子・α粒子のみならず重い原子のイオンの加速や中性子も自由に使用できるようになり，原子核・素粒子の研究だけでなく，各種のアイソトープを製造するという応用にも範囲が広がった。

原子核人工変換でつくられる原子核のほとんどは天然には安定に存在しないもので，ラジオアイソトープ*（放射性同位元素）とよばれるものである。この方面の研究から次次と重い元素（地球上に天然に存在するいちばん重い元素はウラニウム）がつくりだされた結果，ネプツニウム系列という崩壊系列があることがわかり，元素の組成についての知識だけでなく宇宙の創成過程を考える手がかりにもなっている。現在人工的につくられたいちばん重い元素で確認されているものはローレンシウム（$^{257}_{103}$Lw）であるが，さらに重い元素をつくることも可能で，ソ連やアメリカでは盛んに研究されている。〔福井崇時〕

げんしかくねんりょう【原子核燃料】 原子炉で核分裂連鎖反応を起こしてエネルギーを発生させるための燃料。原子燃料または核燃料ともいう。熱中性子炉では天然ウラン・濃縮ウラン（ウラン235のウラン238に対する割合が天然ウランより多いもの）・プルトニウムなどが用いられる。法律的には原子力基本法およびそれに基づく政令によって定められており，天然ウラン・濃縮ウラン・減損ウラン（ウラン235のウラン238に対する比率が天然ウランに達しないもの）・トリウム・プルトニウム・ウラン233，およびそれらの化合物とされている。このうち，トリウムはそれ自身は直接には核燃料とはならないが，中性子*を吸ってβ崩壊をしてウラン233になるので核燃料親物質ともいうが，原子核燃料として取り扱われる。プルトニウムおよびウラン233は天然には存在せず，それぞれウラン238およびトリウム232が中性子を吸収してそれらがβ崩壊してできる。天然ウランを用いることができる原子炉は非均質炉*に限られる。濃縮ウランは濃縮度に応じていろいろの原子炉に用いることができるが，天然ウランから濃縮する技術がむずかしく，設備にもばくだいな費用が必要なため，わが国ではアメリカ以外の国から供給を受けることはむずかしい。これらの燃料の化学的な形態は硫酸ウラニルなどの溶液，金属棒あるいは酸化物の形にするなど，建設しようとする原子炉に応じて最も適した形態が選ばれている。石油・石炭など通常の燃料の燃焼は酸化現象であるが，原子核燃料の燃焼はこれと異なり，原子炉中の中性子を吸収し，核分裂を起こしてエネルギーを発生させることをいう。〔加藤敏郎〕



剣歯虎 スミロドン

げんしかくはかいそうち【原子核破壊装置】 ⇨粒子加速器

げんしかくぶつりがく【原子核物理学】 ⇨核物理学

げんしかくぶんれつ【原子核分裂】 ⇨原子力

げんしかくゆうごう【原子核融合】 ⇨核融合

げんしかでんし【原子価電子】 ⇨原子価

げんしきごう【原子記号】 ⇨元素記号

げんしきょうさんせい【原始共産制】 土地その他の基本的生産手段*が氏族制的共同体によって所有されている原始的な共同体をいう。原始社会*では，人々は共同体の一員としてのみ共同体の土地を利用でき，物資の獲得・生産・分配・消費を共同で行なう。この段階では，生産手段に対する私的所有は未発達であった。

げんしきょうどうたい【原始共同体】 社会発展段階区分の中で，私有財産制度*の発生するまえの社会形態。通常，共同体*というときは封建的共同体をさすことが多いので，これと区別している。モルガン*の《古代社会》によって体系的に示され，エンゲルス*の《家族・私有財産および国家の起原》によって発展させられた。労働手段が未発達な採集経済の中で，生産手段の共有はもちろん，生産・分配・消費も共同で行なわれる氏族*のような血縁共同体として存在したと考えられる。〔国近浩一〕

げんしキリストきょう【原始キリスト教】 イエス-キリストの死後，1世紀末まで，使徒ペトロ・パウロらが布教活動に従った使徒時代のキリスト教。また，ローマのクレメンス，アンチオキアのイグナチウスらの教父たちが活動した2世紀後半までの使徒模倣時代のキリスト教をもさす。この時期にキリスト教はエルサレムからギリシア・ローマに広まり，幾多の迫害にあいながらも，各地に教会が建てられ，キリスト教の基礎が築かれた。ディダケー*にこの時期の教徒の教え・実生活ぶりが記されている。

げんじけいた【源氏鶏太】（1912～） 小説家。本名田中富雄。富山市の生まれ。会社勤めのかたわら執筆活動を続け，1951年（昭和26）《英語屋さん》で直木賞を受賞。以後《三等重役》《御身》《停年退職》など，サラリーマンの悲喜劇をユーモラスな筆致で描いた作品が多い。

けんしこ【剣歯虎】 哺乳(ほにゅう)類のうち食肉目・ネコ科に属する絶滅動物。犬歯は牙(きば)状で，上顎(じょうがく)の第4小臼歯(しょうきゅうし)および下顎の第1大臼歯は発達して裂歯となり，外壁には3峰がある。新生代第三紀の始新世から第四紀の洪積世(こうせきせい)にわたって生存した。マカイロダス属は北半球の中新世から鮮新世，メガンセレオン属はユーラシア大陸の鮮新世，スミロドン属はアメリカの洪積世に栄えた。

げんしさい【元始祭】 宮中祭祀(さいし)の一。年始にあたり，天皇が皇位の元始と由来を祝し，国家・国民の繁栄を祈念する祭典。毎年1月3日宮中三殿*において行なわれる。この日天皇は束帯を着用，賢所*(かしこどころ)を参拝して御告文(おつげぶみ)を奏し，皇霊殿*，神殿の順に参拝する。1869年（明治2）明治天皇が八神，天神地祇(ちぎ)および歴代の皇霊を神祇官に祭り，翌年年初めにあたって皇位の元始と国家の繁栄を祈念したが，1872年以降この祭典を元始祭と称し，国の祭日とされた。第2次世界大戦後は宮中のみの祭祀となった。〔小林亥助〕

げんしじだい【原史時代】 先史時代*から歴史時代に移る過渡期の時代をさす。文献の有無を標準にして先史時代と歴史時代の区分が行なわれているが，その文献が文字のない時代のことを口伝の記録としてとどめている場合には，内容的には神話・伝承であって，史料としての客観性に乏しい。このような文献史料または断片的な文献史料しか残っていない時代の歴史は明確につかめないので，のちの歴史時代と区別して原史時代とよぶ。文献史料が不備な原史時代の研究にとって，考古学*は非常に重要な役割を果たしている。〔河原純之〕

げんししゃかい【原始社会】 一般的には，歴史以前の人類原初の社会と，地球上の僻地(へきち)でいまなお文明からかけ離れた低い段階の生活を営むいわゆる未開民族の社会との両者を含めてさすが，厳密には前者に限って用い，後者は未開社会*として区別する。原始社会は数十万年以上の時間を

包括し，狩猟・採集の獲得経済から牧畜・農耕の生産経済に至る諸段階を経過して文明の黎明(れいめい)に到達する。一般に国家的政治体制を欠き，血縁的紐帯(ちゅうたい)に基づく氏族共同体的規制が支配的で，文字や貨幣は使用されず，階級や貧富の差別も未発達で，自然崇拝的呪術(じゅじゅつ)が精神生活を大幅に規制していたことなどが特徴としてあげられる。しかし，19世紀末以来，進化論や伝播(でんぱ)主義的文化圏説などの立場から試みられた原始社会の再構成の諸仮説は，民族学・考古学の最近の実証的研究の進展に伴って，多くの点で修正が加えられている。〔竹村卓二〕

げんじじゅうにだん【源氏十二段】日本伝統音楽の曲名。別名《浄瑠璃(じょうるり)供養》。河東節・一中節の掛け合いで演奏されるもので，作詞は栄思，作曲は3世山彦(やまびこ)源四郎と3世山彦新次郎(のちの初世菅野(すがの)序遊)。牛若丸と浄瑠璃姫の話を扱っている。この曲に手を加えて，山田流箏曲(そうきょく)《源氏十二段浄瑠璃供養》と長唄(ながうた)《十二段》ができた。いずれも，器楽的なおもしろみがねらわれていて，掛け合い，楽の合い方，調弦の変え方などに特徴がある。〔山口　修〕

げんししゅうはすうひょうじゅんき【原子周波数標準器】他のスペクトル線の振動数を測定するために標準振動数を出す装置。現在，時間の単位は平均太陽日をもとにしているが，これは地球の公転の模様が変わればやはり変化するもので，永久に不変な正確なものではない。そこで，長さの単位をスペクトル線の波長に求めたように，時間の単位も適当なスペクトル線の振動数に基づいて定めることが考えられる。マイクロ波の範囲のスペクトルであれば，純電気的に振動数そのものの測定ができるので，このことは原理上可能である。

この考えに基づいて最初につくられた原子時計は，アンモニア分子の窒素の水素の面に対する二つの対称位置の間で生ずる共鳴による23,870MHz(メガヘルツ)のスペクトル線を用いたものである。この周波数の整数分の一，そのまた整数分の一，‥‥を電気的に求め，低い周波数にして同期モーターを回転させ，電気時計を動かすことができる。実際の方法は，もっと複雑であるが，以上のようにして永久に不変な時間を刻む時計をつくることが可能となった。セシウムの蒸気の9,192MHzのスペクトルを用いればさらに精確なものができるので，1964年の国際度量衡総会でこれを時間の単位に用いることが暫定的に決められた。〔吉原邦夫〕

げんししゅぎおんがく【原始主義音楽】20世紀前半の音楽上の傾向の一。特にストラビンスキーが1910年前後に作曲したバレエ音楽《火の鳥》《ペトルーシュカ》《春の祭典》に代表される。これは，絵画におけるフォービスムの出現と同じ基盤に立つもので，それまでの音楽のもつ静的な性格を，強烈な音色や音量変化と新しいリズム法によって大胆に変革しようとするものであった。

これが成立するためには，19世紀後半からしだいに盛んになりつつあった異国主義も力を与えているが，ただここでは，異国主義の対象は民謡や民族舞踊となり，これがより自然な力強さを与えた。ストラビンスキーの管弦楽法，大胆で精緻(せいち)なリズム組織は，プロコフィエフやバルトークらの同時代の作品に反映しているが，第2次世界大戦後にもその影響はのこっており，特にメシアンとジョリベに明らかである。しかし一般には，新しい民族主義・神秘主義・古典主義などの傾向に吸収されていった。〔徳丸吉彦〕

げんししゅとく【原始取得】承継取得に対する観念で，ある権利を他人の権利から引き継がないで自己独自の権限によって取得すること。家屋を新築してその所有権を取得するような場合や，無主物先占(民法239条)・遺失物拾得(民法240条)・時効取得(民法162条・163条)などである。

げんししろく【言志四録】江戸時代の儒学者，佐藤一斎の著書。42歳のときより40年間を費やした随筆集。《言志録》《言志後録》《言志晩録》《言志耋録(てつろく)》の4巻からなり，日常生活に役だつ格言・金言を盛り込んだ語録として貴重。彼の思想・信念が結晶したもの。漢文で記され，多くの短文からなる。西郷隆盛(たかもり)が《言志四録》中の101条を金科玉条としたのは有名。

げんしじんるい【原始人類】⇨原人

げんしすいそようせつ【原子水素溶接】水素分子H_2がアークの高熱によって原子状水素(H)に解離し，この原子状水素が溶接物の表面で冷却されて分子状の水素に再結合するときに放出する熱を利用し，水素ガス雰囲気(ふんいき)内で行なう溶接法。1926年アメリカのラングミヤーによって発見された原理をもとにしたものである。現在はほとんど使用されないが，工具鋼・軽金属・黄銅・青銅や溶融点の高い金属(たとえば，イリジウム・オスミウム・ロジウム・白金など)の溶接に用いられる。〔内田信邦〕

げんしスペクトル【原子スペクトル】原子がある定常状態からそれより下の別の定常状態に遷移するとき，そのエネルギー準位の差にあたるエネルギーが光量子として放出されてできるスペクトル。上の状態のエネルギーをE_m，下の状態のそれをE_nとすると，放出された光の振動数νは，$h\nu=E_m-E_n$(hはプランク定数)で与えられる(振動数条件)。通常これは線スペクトルであるが，上下どちらか，または両方の状態が連続である場合は連続スペクトルとなる。

最も簡単な場合は水素原子のスペクトルで，その中のバルマー系列は有名である。簡単な取り扱いでは，水素原子のエネルギー準位は主量子数nだけで決まるので，すべてのスペクトル線は二つの主量子数を指定すれば与えられる。アルカリ原子では，通常閉殻(へいかく)の電子は関係がなく，原子価電子一つだけが励起されて光を出すので，水素原子と似たスペクトルをもつが，スピンによるエネルギー差が無視できなくなり，準位が分裂するので，スペクトル線は接近した2本の線(二重線)になる。またいろいろな系列が重なり合うので，水素よりかなり複雑に見える。

電子が二つ以上の原子では，エネルギー準位が主量子数のみで決まらず，全軌道角運動量を表わす量子数L，全スピン角運動量の量子数S，全角運動量の量子数(内部量子数)Jが関係する。LとSとが与えられた場合，$L>S$ならばJの値は$(2S+1)$個可能となり，それらはエネルギーが少しずつ違うので，スペクトルには微細構造として現われる。

原子に外部から磁場をかけると，その磁気モーメントの方向によってエネルギーが異なり，エネルギー準位，したがってスペクトル線はさらに分裂する。これをゼーマン効果という。また，外部から電場をかけたときスペクトル線の分裂する現象をシュタルク効果といい，放電などで発する光のスペクトルの研究に重要である。さらに，原子の核がスピンおよび磁気モーメントをもつ場合，これと軌道電子による磁気モーメントとの相互作用のため，相対的な向きの違いによってエネルギー差を生じ，スペクトル線がさらに細かく分裂する。これが超微細構造といわれるものである。

スペクトル線の強度は，上の準位にある原子数N_m，単位時間に下の状態へ遷移する割合A_{mn}(遷移確率という)と，放出される光子のエネルギーとの積，$N_mA_{mn}h\nu$で与えられる。任意の2状態m,nをとるとほとんどの場合に$A_{mn}=0$で遷移は起こらず，$A_{mn}\neq 0$なのは特別の場合に限る。その条件を与えるのが選択則で，たとえば，内部量子数Jの変化ΔJが0，±1のとき遷移が可能である(ただし，$J=0\rightarrow J=0$の遷移は禁止)。そのほか$\Delta S=0$などの条件がある。ときに一般の選択則では禁止されているはずのスペクトル線が，なにかの事情で現われることがある。これを禁止線という。螢光燈(けいこうとう)に利用される水銀の2,537Å(オングストローム)の線，夜光・オーロラに現われる酸素の5,577Åの線は有名である。

原子のある励起状態から，その下にあるどんな状態にも遷移できないときには，この状態にある原子は長時間それに留まることになる。このような状態を準安定状態といい，他の原子・分子に衝突してはじめてエネルギーを失い，基底状態にもどる。ヘリウムの基底状態のすぐ上にこのような状態があり，ヘリウム・ネオンのレーザー

発振に重要な役目をする。〔吉原邦夫〕

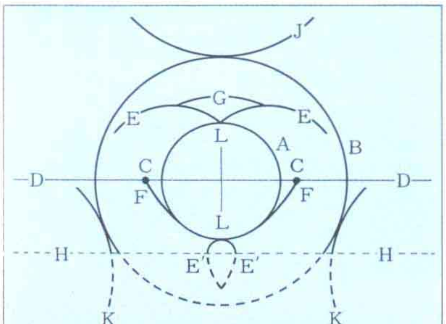
げんしせいぶつ【原始生物】地球上で最初に出現した生物の端初形態を意味する。生命が誕生する前段階として，まず水・メタン・アンモニアなどの無機化合物からアミノ酸などの含窒素有機化合物が生成され，さらにそれらからタンパク質や核酸のような巨大分子が生じた。しかし，タンパク質や核酸自体は生物ではなく，それらが一定の単位構造をつくりあげ，生命らしい機能を示してはじめて原始生物とよぶことができる。巨大分子の形成から原始生物の出現に至る中間段階についてはまだ定説がないが，オパーリンのコアセルベート説，フォックスのミクロスフェア説などが有力である。コアセルベートもミクロスフェアも，外囲との間に境界膜をもち，物質交代，成長と分裂などの現象を示す。しかし，それらが細胞構造をとらなければ，生命として定着しえなかったであろう。細胞構造の起源についても，さまざまな見解が提出されているが，まだ試論の域を出ない。〔中村禎里〕

げんしせつ【原子説】19世紀の初め，イギリスのドルトンによって唱えられた化学上の基礎学説。古代ギリシア時代から原子論はあったが，現在のような原子概念をつくりあげたのは，ドルトンである。彼は，ラボアジェの質量保存の法則，プルーストの定比例の法則，ドルトンの倍数比例の法則などは，各元素は一定の性質・質量をもった分割できない不変の粒子(原子)から構成されていると仮定すれば説明できると考えた。この説は，その後ゲイ-リュサック・アボガドロによって補足され，現在の分子・原子の概念が確立された。〔吉原邦夫〕

けんしせん【絹糸腺】鱗翅(りんし)目やトビケラ目(毛翅目)に属するこん虫の幼虫にある1対の外分泌腺で，絹糸を分泌する。下唇腺(かしんせん)とよばれる唾液腺(だえきせん)の変形したもので，細長い管状の腺であり，蛹化(ようか)直前のカイコでは，体の大部分を占めるという。なお絹糸(繭糸)は，タンパク質のフィブロインとセリシンの混ざったものが，下唇先端の吐糸口から分泌されて空気に触れてできるもので，幼虫の歩行の足がかり，繭や巣の材料，さなぎの固着などに用いられる。

げんしたんい【原子単位】原子に関する現象を取り扱うときに用いる単位系。原子の取り扱いでは，MKS単位系やCGS単位系ではかるとすべての量が非常に微小な量になってしまうので，別の単位系を使うほうが便利である。電子の質量 $m=9.1091\times10^{-31}$kg，電子の電荷の絶対値 $e=1.60210\times10^{-19}$クーロン，プランク定数 $h=6.6256\times10^{-34}$ジュール・秒を2πで割った値の三つをそれぞれ質量・電荷・作用の単位としたものを原子単位という。長さの単位





A：内暈，B：外暈，C：幻日，DD：幻日環，EE：上端切弧，E′E′：下端切弧，F：ローウイッツの弧，G：パリーの弧，HH：地平線，J：天頂環，K：切線弧，LL：太陽柱

幻　日　(上)地平線沿いに帯状にたなびいた絹層雲に現われた幻日(右方)。箱根駒ケ岳にて　(下)いろいろな暈

は，水素原子のボーア理論による最小の半径$h^2/4\pi^2me^2=5.28\times10^{-11}$mとなる。これによれば，$h=1$，$e=1$となり，速さの単位は$(h^2/me^2)/(h^3/me^4)=e^2/h$であるから，光速度は$c/(e^2/h)=137.3$となる。また，シュレーディンガーの方程式の係数なども簡単になり，扱いやすい。〔吉原邦夫〕

げんしつ【玄室】⇨石室

げんじつ【幻日】太陽からの視半径22°より外側の左右の位置に現われる光点。これは，大気中に浮かんでいる氷晶によって太陽光線が屈折してできる現象である暈(うん)の一つで，太陽高度の低いときに現われる。同じ成因でできるものとして，このほかに図に示すようないろいろの名称でよばれる太陽を中心にした光の線模様がある。

げんしどけい【原子時計】原子の発するマイクロ波の振動数を時間の基準として用いる時計。従来の時計は地球の自転を基準としているが，自転の周期は必ずしも一定ではなく，不正確さを免れなかった。しかし，原子の発するスペクトル線の波長は分子構造や原子構造によって決まる量であり，非常に正確で，外部条件に左右されることはない。このスペクトル線の周波数を電気的に変換し，低周波にして運転させる電気時計である。1949年アメリカの連邦標準局でアンモニア時計が完成した。これは，アンモニア分子の23.870MHz(メガヘルツ)のスペクトル線を用いたもので，精度は$1/2\times10^7$である。さらに，セシウム分子の9,192MHzのスペクトル線を用いるものもできた。研究室では100億分の1程度の精度のものもできているが，これは3,000年に1秒程度の誤差に相当する。〔加藤敏郎〕

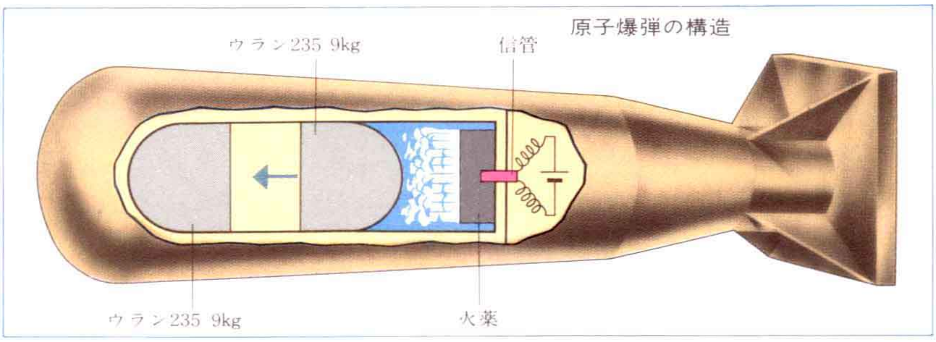
げんしてきちくせき【原始的蓄積】⇨本源的蓄積

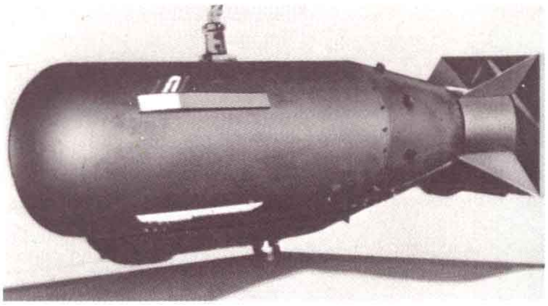
げんじな【源氏名】《源氏物語》54帖(じょう)の帖名からとった女の雅名。女官の場合は早蕨(さわらび)典侍・若菜掌侍などといったが，命婦以下につけることはない。武家もこれにならい，将軍・大名家の奥女中では空蝉(うつせみ)・蓬生(よもぎう)・浮舟(うきふね)など呼びやすいものを選んで名づけた。これも御目見(おめみえ)以上の高級女中に限り，御目見以下はお花・お園など〈おの字名〉であった。公武とも，名を聞いただけで身分がわかるようにしたものである。遊女もこれにまねて，太夫(たゆう)・格子(こうし)の高級遊女に限り，薄雪・初音・常夏(とこなつ)など優雅な名を選んでいる。この名によって過去を絶ち，新しい遊女としての価値を生み出そうとしたものであるが，いつか《源氏物語》にない名まえでも，本名以外の仮名は源氏名というようになった。〔稲垣史生〕

げんしねつ【原子熱】ある元素の1グラム原子を温度1℃高めるのに必要な熱量。比熱と原子量との積に等しい。単原子気体では運動エネルギーが，固体元素では原子の振動エネルギーがこの原子熱に寄与する。金属の場合は，古典統計力学では伝導電子も比熱に寄与するはずであるが，フェルミ-ディラック統計が適用されるためその寄与は無視でき，すべてほぼ6calとなる。➔デュロン-プティの法則

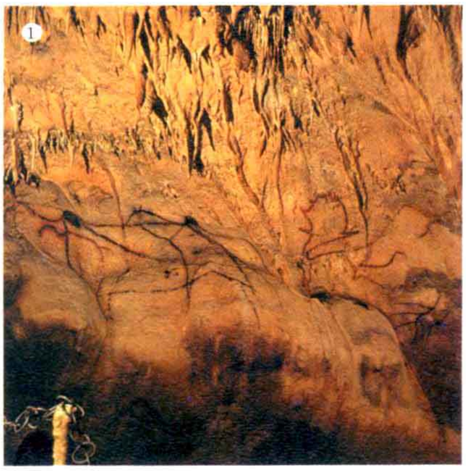
げんしねんりょう【原子燃料】⇨原子核燃料

げんしばくだん【原子爆弾】核分裂の際に放出される巨大なエネルギーを，大量破壊殺傷に利用するようにつくられた爆弾。その作用は，超高温の熱放射効果と，爆風による機械的破壊効果，および放射能効果などを総合したもので，残酷悲惨な破壊をもたらす。原子爆弾の分裂性物質には，ウラン235(^{235}U)やプルトニウム239(^{239}Pu)など重原子核をもつものを使用する。原子核を分裂させると大きなエネルギーを発生し，また条件によっては核分裂がねずみ算式に進行する(連鎖反応)。^{235}Uの原子核1個の核分裂では200MeV(メガエレクトロンボルト)というエネルギーを放出するから，一定量のウランの連鎖反応で生じるエネルギーは想像を越えるものがある。この連鎖反応を一瞬に進行させるのが原子爆弾である。原子爆弾とは通常航空機から投下されるものをいい，爆発力・使用目的により戦術原爆と大形原爆に分けられる。前者は広島型(TNT20,000t相当)以下のもので，戦闘爆撃機が対地攻撃に使用する小形原爆も

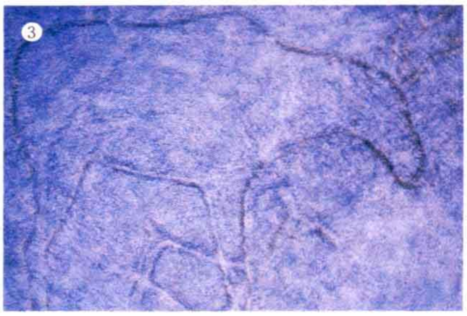




原子爆弾　(上)火薬の爆発により，二つに分けられたウラン235が一つになって臨界量に達し，核分裂を起こし爆発する　(下)広島に投下されたのと同型の原子爆弾







原始美術
①クーニャック洞窟奥洞左壁に線刻された動物
②浮き彫りのサンロック-ド-セールのヤギ
③スカンジナビアの岩に彫り込まれたウマ

これに属する(広島型の75%の破壊力をもつといわれる)。後者は広島型の6倍の破壊力をもつプルトニウム型原爆が標準とされ，これよりさらに巨大な破壊力を要する場合には核融合反応を利用した水素爆弾*にその役割を譲る。➔核兵器　〔藤井冬木〕

げんしばんごう　【原子番号】　元素の周期律表*の中で，ある元素が水素から数えて何番めにあるかを示す数。現在の原子模型*では核外の電子数(＝核内の陽子数)と一致する。はじめは原子量*の順に一致すると考えられていたが，特性X線の波長に関するモーズリーの法則が発見されて，それが必ずしも正しくないことがわかった。自然界に存在する元素では，ウラニウムが最大の原子番号92をもつ。

げんしびじゅつ　【原始美術】　原始人の美術。プリミチブ-アートともいう。先史人の美術と，現存未開人の美術とを含めて総称される。

〔先史人の美術〕①旧石器時代には，後期のオーリニャック・ソリュートレ・マドレーヌ各期を通じて，西は大西洋岸から東はシベリアのバイカル湖まで，北はドイツから南はシチリア島まで広範囲に分布する。特に，南フランスと北スペインのカンタブリア地方に遺跡が多いので，フランコ-カンタブリア美術ともいう。洞窟(どうくつ)壁画・岩陰浮彫・動産美術(丸彫りの裸婦小像などの小さな作品)の3種がある。ラスコー*やアルタミラ*の洞窟壁画が著名である。②中石器時代には，東スペインの岩面彩画(レバント美術)，スカンジナビア半島の岩面刻画(北極美術)がある。①と②は原始狩猟採集民の美術で，獲物である野生動物の捕獲や繁殖を願う呪術(じゅじゅつ)的な目的からつくられた。いずれも自然主義的な様式を有する。③新石器時代(一部の地域では青銅器時代を含む)には，サハラ砂漠(さばく)を中心とする北部アフリカの岩面彩画・刻画の大部分，エジプト・メソポタミア・ヨーロッパ，中国・日本などの土器・偶像・印章など，西ヨーロッパを中心にインド・インドネシアなど世界各地に広く分布する巨石記念物*(ドルメン・メンヒルなど)，アメリカ大陸の先コロンビアン美術がある。いずれも原始農耕民または牧畜民の美術である。ただ，北部アフリカの岩壁画の一部および南部アフリカのブッシュマン族の岩壁画は，狩猟採集生活を反映している。様式は地域によって異なるが，概して狩猟・牧畜民の美術は写実的で，農耕民のそれは象徴的ないし抽象的である。

〔現存未開人の美術〕これは仮面・人物像・動物像・楽器，舟と櫂(かい)，トーテム柱・ビーズ細工・樹皮絵画などに分かれるが，大部分は木製で，一部に石・布・皮・土・貝殻(かいがら)製のものがある。多くはアニミズム*などの儀式にまつわるもので，出生・思春期・結婚・死などの通過儀礼において用いられる。①アフリカ：古くから活発な美術活動が行なわれていたが，近代では主として木製の祖霊像や仮面がつくられる。一般に触覚的で，円筒的形式とあいまって，造形的堅牢(けんろう)さを示す。広く分布する様式に，眉(まゆ)の線の延長がハート形を呈して頬(ほお)がへこんだ〈ハート形〉の顔がある。絵画はドゴン族の岩壁画，ムデベレ族の塀(へい)や家の壁面装飾を除いては，あまり描かれていない。②オセアニア：この地域では，オーストラリアの岩壁画と樹皮絵画，メラネシア・ポリネシア・ミクロネシアの仮面や祖霊像が中心である。オセアニアは民族移動によって大陸からさまざまの影響を受けたため，その美術は種々の要素を内包する。一般に，色彩と幻想にあふれたものが多い。③北太平洋・アメリカ：狩猟・漁労・遊牧などによって生活する民族の美術で，皮や木製の用具が主である。エスキモーは木製の仮面・人像・動物像を彫刻し，西北沿岸のアメリカ-インディアンは独特のトーテム中心の動物図様に特色がある。➔黒人美術　〔木村重信〕

げんしぶつりがく　【原子物理学】　物質の究極を求めて研究している物理学の総称で，現代物理学の主要部門。原子・原子核・素粒子に関する研究，物質の性質をその構成粒子の基本性質から研究するというように，広い領域にまたがる微視的世界を取り扱い，その対象によって原子核物理・素粒子物理・物性物理・固体物理・半導体物理・超伝導物理などという。

〔原子論から原子物理学へ〕古代東洋思想に，宗教的・神話的ではあるが，物質の構

成についての原子論的思想の芽がみられる。古代ギリシアの哲学者は自然科学的学説として原子論を提唱した。19世紀になって原子の存在から物質構成のしくみがわかってくると，原子にはじまる物質の研究として原子物理学という学問が出発した。原子物理学の発展は，次のような経過をたどった。

①古代ギリシア時代から中世まで：古代ギリシアの自然哲学者たちは，〈すべての物質はそれ以上分割しえない単位からできている〉と考え，それをアトモス(分割できぬもの)と名づけた。この原子論では〈あらゆる自然現象はアトモス(原子)の離合集散より起こり，原子自体は永久不変〉とした。この思想は古代ローマの哲学者ルクレチウス*により受け継がれたが，中世になるとアリストテレス哲学以外はすべて異端思想であるとして原子論者は迫害された。なお，中世において教会や貴族の庇護(ひご)のもとで行なわれた錬金術*は知識として近代化学の芽となったが，それ自体は矛盾に満ちたものであった。

②ドルトン*の原子論の提唱：その後ルネサンスの到来により原子論思想が復活したが，近代科学としての形態で現われたのは19世紀初頭であった。ドルトンは，ラボアジェ*らが展開した定量的化学の知識や，J. L. プルースト*が見いだした〈定比例の法則〉など18世紀末の化学知識と彼自身行なった実験結果から原子量という概念に達し，化学における原子論を提唱した。さらにアボガドロ*が分子の概念を導入し，ドルトンの説は近代化学の基礎として確立された。やがて原子量や分子量が測定され，これに基づいてメンデレーエフ*は元素の周期律を組み立てた。

③放射能の発見：19世紀後半には気体分子運動論のように原子論は物理学の分野にも導入された。やがて原子はアトモスではなく，構造をもっているという事実が見つかった。電子の発見であり，放射能の発見である。この放射能についての研究は原子物理学の急激な発展を促した。

④原子構造の解明，原子核の発見：20世紀初頭ケルビン*やJ. J. トムソン*らは原子を球と考え，陽電気は球内に均一に分布し，電子もその球内をほぼ一様に回っていて電気的に中性となっているとした。長岡半太郎*は土星に似た構造を考え，中心に質量の大きな陽に帯電している球があり，電子はその球のまわりを回っているとした。ラザフォード*は，α線散乱の実験結果を説明するのに，太陽系に似た構造を考え，中心に原子の質量のほとんどが集中し，陽電気をおびる球があり，電子はそのまわりを遊星のように回っているとし，中心球を原子核と名づけた。プランク*は，熱放射エネルギーは連続の値ではなく，とびとびの値をとるという新しい不連続の概念を導入した。ボーア*は，この考えを原子に応用して，量子論という新しい理論を展開した。ボーアのこの理論は極微の世界を支配する法則に対する手がかりとなり，〈前期量子論〉とよばれている。

⑤中性子の発見と原子論の復活：チャドウィック*は中性子*を発見した。この事実を取り入れて，ハイゼンベルク*とイワネンコ*は原子核を陽子と中性子の集団だとした。原子が陽子・中性子・電子という3種類の粒子の集合体であるということは，これら三つの粒子をギリシア哲学の原子論でいう素単位体，つまりアトモスと考えてもよいので，原子論の復活を思わせた。

⑥粒子加速器の出現と原子核の人工変換：コッククロフト*とウォルトン*は，倍電圧整流方式で高電圧を発生し，イオンの加速に成功した。世界最初の粒子加速器*である。彼らは，陽子などを約60万Vに加速して原子核にあてると，その原子核が分割されて別の原子核になることを突き止めた。はじめての人工原子核変換であり，中世の錬金術師の夢が別の形で実現されたともいえる。核反応の研究はやがて盛んになり，また粒子加速器の改良や新開発がなされた。

⑦陽電子の発見：理論として形が整ってきた原子力学の知識から，ディラック*は電子についての概念を一新し，陽電気をおびる電子，反世界の粒子の存在を予言した。その後，陽電子は宇宙線中に発見されて量子力学の価値が認められ，また反粒子というわれわれの世界と反対の世界にある粒子が存在することも示され，後年反陽子・反中性子などいくつかの反粒子も発見された。

⑧中間子の発見と素粒子の人工生成：原子核の構造の研究から核力という特殊な力が考え出され，核力についての研究からそのような特殊な力の源となる場の量子化として中間子と名づけられた粒子の存在が湯川秀樹*(ひでき)により予言された。中間子はのちに宇宙線中に見いだされ，またパウエル*らはサイクロトロン*を使ってそれを人工的につくりだすことに成功し，π中間子→μ中間子→電子という崩壊過程を確かめた。やがて新粒子が次々と見つけられた。はじめのうちは発見された粒子はまったく目新しいものであったので〈新〉とよばれ，また素粒子だと思われた。しかし〈素〉という本来の意味のものとしてはあまりにも素粒子は多く見つかった。さらに，これら素粒子自体が構造をもっているとせねばならない事実もあり，よりいっそうの深い研究が必要となっている。

このようにたどってくると，物質の究極という概念は，物質の構成つまり原子→原子核→素粒子→？という階層的要素からなるとして認識せねばならないことがわかる。

〔原子物理学が取り扱っている領域―微視的世界―を支配している法則〕19世紀まではニュートン力学はあらゆる運動を支配する原則だと信じられていた。しかし，今世紀になって見いだされた事実，光のスペクトルは，原子内の電子の運動をニュートン力学で取り扱っては説明がつかぬものであった。プランクの見いだした熱放射エネルギーの不連続性も新しい概念で，それまで不連続なものとして知られていたのは電気量だけであった。さらにX線や放射能の発見は，それまでの物理学の概念や法則は改めねばならぬことを示唆した。

原子核の存在が確認されて原子の構造がわかると，ボーアはこの原子の性質を説明するためにプランクの考えを手がかりとして新しい法則，前期量子論を展開した。次に，その後明らかになった物質の二重性，粒子と波動の二重の性格に立脚したシュレーディンガー*らの波動力学，直接観測可能な量のみで記述すべきだとして実証主義を指導原理につくられたハイゼンベルクらのマトリックス力学，ボーアの相補原理などを統一して合理的な量子論がつくられた。この量子論の法則を扱う数学的方法を量子力学*とよんでいる。

また，量子力学は分子・原子の性質を説明するだけにとどまらず，化学結合力・電気伝導・磁性などの諸性質というように化学の分野を含む広い範囲の現象が説明されることがわかり，統計力学の知識と合わせて量子化学や物性物理学(物性論)が著しく発展した。一方量子論は，核構造や核反応などにも適用されてかなりの成果があった。核力の研究から中間子場が導入され，中間子の存在が予言されたことは有名である。関係する粒子が多いときは数学的に解く手段がない。

現在，素粒子にも量子論が適用されてはいるが，素粒子の内部にはどの程度この法則が通用するのか，あるいは別の新しい法則を必要とするのかは，今後の研究課題である。

〔原子物理学の社会への貢献〕原子物理学は，単に科学の分野にとどまらず，われわれの生活する社会に大きな貢献をしている。

①エネルギー源：核分裂・連鎖反応の研究から原子炉が建設され，原子核のもつエネルギーつまり原子力が利用できるようになった。原子力発電や原子力船がその例で，さらに工学的に応用範囲が広げられようとしている。瞬時に核エネルギーを放出する原子爆弾は，将来は治山治水などの土木工学に利用されるかもしれないが，現在では人類を破滅に導く武器である。われわれは英知を結集してその廃棄への努力を怠ってはならない。

もう一つの原子力である核融合も，残念ながらまず水素爆弾として登場した。しかし，平和的なエネルギー源とするべく，核融合の制御をめざして世界各国で盛んに研究されており，高温プラズマを磁界で閉じ込める方法が有望とされている。核融合は核分裂とは違って放射能灰をつくらず，燃

料の重水素は海水中に無尽蔵に含まれているので，その実現が待たれている。

②医学への応用：最もよく知られているのはＸ線であるが，ラジオアイソトープも広く用いられている。コバルト60やベータートロンなどを強力な線源とする照射によって悪性腫瘍(しゅよう)や癌(がん)組織破壊という直接的治療が行なわれるほか，臓器や器官の治療・検査にそれぞれ特別のアイソトープが使われている。最近では，原子炉の中性子や加速器からの荷電粒子を使う特殊な治療も実験的に研究されている。

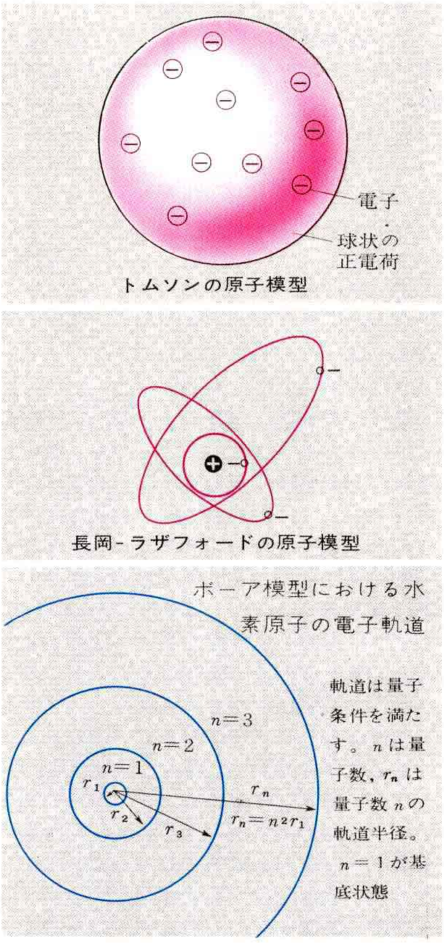
③工業・農業などへの応用：アイソトープがその主役。工業製品内部の亀裂(きれつ)などをα線やβ線を使って行なう非破壊検査は，造船・建築などの重工業からかんづめの内容積検査のように軽工業にも広く利用されている。また，トレーサー*として化学工業を中心にきわめて広範囲に用いられ，農産物の品種改良にはα線照射が行なわれる。

④その他：炭素14による年代測定は，地球科学ばかりでなく考古学にも利用されている。ゲルマニウムやシリコンは電子工学に不可欠のものである。電子顕微鏡は現在では日常的な装置となっている。メーザー*・レーザー*は通信工学に新機軸をもたらした。原子時計は時間の標準となる新しい原器でもある。〔福井崇時〕

げんしへいき【原子兵器】⇨原子爆弾 ⇨原子砲 ⇨核兵器

げんしほう【原子砲】榴弾砲*(りゅうだんほう)・無反動砲*などの弾丸を原子兵器化したもの。核兵器の多様化の趨勢(すうせい)の一端を示すもの。アメリカでは105mm榴弾砲などが原子砲化され，２人の歩兵で持ち運びできるロケット砲デイビー・クロケットがすでに実用化されている。

げんじぼたる【源氏螢】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ホタル科。体長12～18mm。体は黒色で，黒色毛を装う。前胸背板は桃色で，暗かっ色の十字紋がある。腹部末端の２節は黄白色，雌では後方の一節は赤色を呈する。複眼は大形で，その中間は縦にへこむ。触角は糸状。前胸背板の後縁角は後方に突出し，暗かっ色部を除いて黄色の毛がある。鞘翅には不明瞭(ふめいりょう)な４本の縦条が走る。本州・四国・九州に分布する。日本に産する最大のホタルで，成虫は５月下旬から６月下旬に出現する。幼虫は清流中に生活し，カワニナなどを食する。幼虫態で越冬し，翌春の５月上旬ごろ水辺の土中にもぐって室をつくり，その中でさなぎになる。卵・幼虫・さなぎ・成虫の全段階で発光する。成虫は夜間に群飛して発光し，交尾を行なう。古くから全国各地に名所があり，山梨・愛知・滋賀・山口などの各県にある発生地は天然記念物に指定されている。しかし，近年は農薬によって水中の生物が著しく減少し，ホタルも激減している。なお，ヘイケボタルは本種によく似ているが小形で，体長７～10mm，前胸背板の縦条は太く，ゲンジボタルのように十字状になることはない。出現期も遅く，７～９月に発生し，幼虫は汚水中や水田中などにも生活する。〔鈴木邦雄〕



原 子 模 型

げんしもけい【原子模型】原子内で電子と陽電気がどのように配置されているかを示した模型。デモクリトスの原子論*では，原子は不可分の粒子で，いろいろな形や大きさをもつという簡単な機械的なものであったが，20世紀の初めにいろいろな実験事実から電子の存在が確かめられてから，物質は電気をおびた粒子からなりたつと考えられるようになった。物質はふつう中性であるから，負電荷の電子を中和する正電荷がなければならない。これらの電荷が原子内でどう配置されているかが問題であるが，どんな模型にせよ，原子が安定であることと，原子の出すスペクトルなどの実験事実を説明できるものでなければならない。そのためには，静止した点電荷の集まりは不安定なことが静電気学の理論からわかっているから，大きさのある電荷を仮定するか，または運動している点電荷の系を考える必要がある。前者がJ.J.トムソン*の模型で，後者が長岡-ラザフォード*の模型である。トムソンは，ある大きさをもった球状の正電荷の中に電子が存在するものと考えた。このような原子は安定であることが示される。他方，長岡-ラザフォードの模型では，太陽系と同じように，中心の正電荷をもつ点状の核のまわりを電子が回っていると仮定する。この場合，電子はつねに電磁波を放出してエネルギーを失うから，系は安定でないはずである。ところが，α線を原子にぶつけて散乱させる実験の結果は，この模型でなくてはとうてい説明できないことが明らかになった。そこでボーア*は，安定性の矛盾を解決するために，量子条件というある条件を満たす軌道だけが安定であると仮定した。この条件と振動数条件（→原子スペクトル）とから，バルマー系列*の振動数を正しく導くことができる。また，ゾンマフェルト*は，この理論をさらに拡張・発展させ，多くの実験事実を理論的に説明することに成功したが，複雑な原子に対しては必ずしも満足すべき結果が得られなかった。もともと，量子条件というものがはなはだ技巧的であることを免れず，原子の性質の完全な説明は量子力学*を待たねばならないのである。

原子を量子力学的に取り扱う場合は，原子の模型としては長岡-ラザフォードのものをとり，ただ電子の行動は，古典力学・電磁気学を用いないで，量子力学の方程式を解いて得られる波動関数で記述する。〔吉原邦夫〕

げんじものがたり【源氏物語】平安期の物語。54帖(じょう)。紫式部*作。11世紀の女流文学の最高傑作として名高い。登場人物は500人に近く，主要人物と目されるものも30人を越える。４代の帝，70余年にわたる一大長編である。作者はこの巨大な虚構世界の中に，当時の宮廷貴族社会の実相とその社会に生きざるをえない男女の運命と心とを描ききった。

〔成立の事情〕紫式部が《源氏物語》を書き出したのは，夫藤原宣孝(のぶたか)の死んだ1001年（長保３）以降といわれる。そして1008年（寛弘５）ごろに，少なくとも一部分流布していたことは《紫式部日記*》からうかがえる。しかし，中宮彰子のもとに出仕する以前に54帖全体が完成していたか，宮仕え後も書き続け，それも晩年近くまでかかったかは不明である。また執筆の順序も，現在行なわれているとおりの順序か，のちに挿入(そうにゅう)した巻があるのか，これまた厳密には不明である。ただ後期挿入と疑われる巻をも含めて，54帖全体が必ずしも統一的・均質的とはいえず，主題と方法に深化・発展がみられるところから，執筆はあるいは長年月にわたり，作者の成長とともに書き継がれていったとみることもできよう。

《源氏物語》には，あらゆる先行の文学が取り入れられているが，けっして寄せ集めではない。和歌・歌謡・漢詩文・物語・日記・随筆といった先行諸作品の成果を吸収しつつ，しかも，取るべきは取り，捨てる

べきは捨てて，鋭く細心に選択している。作り物語のわくの中で出発しながら，人間の真実を追求する文学として物語の常套(じょうとう)を破り，〈螢(ほたる)〉の巻にみられる文学的自覚は全編にみなぎっている。この深い自覚が，1,000年以前の作品でありながら，永遠に読み続けられる生命を得た根源となっている。その流麗な文章は，和歌にのるリズムを伴って読者の耳に流れ入り，性格描写も自然描写も細部に至るほど光を放つ。人間を追求し，人間の真姿を描く，稀有(けう)な作品といえよう。また，《源氏物語》が後代に与えた影響ははかりしれない。これに続く物語類はもとより，和歌の世界にも深い影響を与えている。さらに，およそ後世の文化一般に貢献しており，その深く根強い生命力は今日まで脈々として流れ続けているといえる。

以下，《源氏物語》を3部に分け，その大要の中にこの作品の主題・方法をうかがう。

［第1部］光源氏の栄華。〈桐壺(きりつぼ)〉から〈藤裏葉〉までの33帖が第1部とよばれる。光源氏の誕生から準太上(だじょう)天皇に至るまでの無類の栄華を描くことが究極の主題である。主人公の両親の紹介，主人公光源氏の超人的美質，種々の予言とそれに則した筋の展開など，すべて昔物語的手法を継承した構想を基本としており，巻々の進展に伴って新しい創作意識が著しい。

低い身分にもかかわらず帝の寵愛(ちょうあい)を受け，周囲のねたみを買って早世した母桐壺更衣のおもかげを求めて，光源氏は継母藤壺を慕う。永遠の女性思慕はいかに燃えてもかなえられることはない。不倫ゆえに満たされえない恋の代償として次々と女性遍歴を重ねる一方，藤壺の姪(めい)若紫を得，ゆかりとして愛しいつくしむことになる。若紫を得たことは，現実の中で女性の理想性を具現することにはなったといえる。父帝膝下(しっか)のはなやかな青年期ののち，貴種流離譚(たん)を踏む須磨(すま)・明石(あかし)の流浪を経て，帰京後は政界の中枢として栄華の道をきわめるが，藤壺との罪の子冷泉帝(れいぜいてい)，六条御息所(みやすどころ)の娘秋好中宮，明石で見そめた明石君との間の姫君などの存在が栄達の背景となる。壮大な六条院造営は，夕顔の遺児玉鬘(たまかずら)をめぐる〈玉鬘十帖〉を中心に彼の栄華をみごとに象徴し，〈藤裏葉〉の華麗な終結に至る。昔物語の常套によりつつ，紫上にみるゆかりの設定，桐壺更衣・明石君などにみる苛酷(かこく)な身分制度に縛られた平安女性の苦悩の表出，貴族社会の政争の写出などは，古物語のわくを越えた新しい創造であった。しかし，あくまで外的事件によって動かされる主題が中核であり，人間の内面そのものに中心がすえられるのは，第2部にはいってからである。

［第2部］暗い家庭悲劇。〈若菜上〉から〈幻〉までの8帖が第2部である。朱雀院(すざくいん)の病に筆を起こし，以後第1部のめでたき終結とはまったく異質な，暗鬱(あんうつ)な世界が形成されることになる。光源氏の栄耀(えいよう)を語る第1部に比し，苦悩に満ちた人間存在の追求が第2部の課題である。出家した兄朱雀院の懇望で，光源氏はその鍾愛(しょうあい)の女三宮(おんなさんのみや)を正妻とする。女三宮もまた藤壺の姪であった。光源氏は，彼女にもまた紫のゆかりとしての憧憬(どうけい)をみたが，結果はむなしく，正妻の座を奪われた紫上は苦悩し，光源氏はあらためて紫上に対する自己の愛を確認する。光源氏の四十賀・皇孫誕生など，表面的には栄華の六条院も，すでに根深い内部矛盾をはらんでいた。紫上は病床に伏し，光源氏は紫上と女三宮との間にはさまれ，家庭は深刻な危機に陥る。その間隙(かんげき)を縫うように，久しく女三宮を思慕していた柏木(かしわぎ)が近づき，女三宮は身ごもる。光源氏は怒るが，藤壺との罪の現世における苛酷な応報に暗然と息を飲む。女三宮は罪の子薫(かおる)を生んで出家し，柏木も苦悶(くもん)のすえに世を去る。光源氏の家庭はきびしい破局に至るのである。そのあとの巻々は，いわばこのあと始末とみてよい。藤壺の形代(かたしろ)として出発した紫上に，ゆかりを脱却した永遠の女性としての確認を与えて，紫上なきあとに光源氏の人生のないことを語りつつ，第2部は終わる。すべては，人間心理の複雑なからみ合いと精細な心理表現により展開し，偶然性とか予言とかの昔物語的手法の介在する余地はない。苦悩する人間の内面心理を深く追求しようとする作者の創作方法の真価がみられるところである。

［第3部］〈宇治十帖〉の世界。第3部は〈匂宮(におうのみや)〉以下3帖で，第2部の物語の結末をいちおうつけ，光源氏の跡継ぎたち，薫と匂宮の成長のさまを語りつつ〈宇治十帖〉へと引き継ぐ。自己の出生の疑念をいだき続けてきた薫は，宇治八宮に私淑することで心を慰める。3年後，八宮の姫君大君(おおいきみ)・中君をかいま見て強く心をひかれる。八宮の死後，薫は大君に愛を訴えるが，結婚によるしあわせを信じきれない大君は強く拒む。そして，匂宮と妹中君との結婚の将来を案じるあまり死んでいく。京へ移った中君は，匂宮が夕霧の娘六君を迎えたため苦悩が深まり，薫に相談する。大君を忘れられぬ薫は中君へと心を寄せるが，困惑しきった中君は，異母妹浮舟(うきふね)が姉の大君に似ていると漏らす。薫は大君のゆかり，形代として浮舟を宇治へ住まわすが，匂宮もまた浮舟に情熱的な愛をささげる。沈着な薫の愛と匂宮の熱情に迷った浮舟は，ついに宇治川へ身を投ずる。しかし，横川(よかわ)の僧都の母と妹に救われ，小野で出家する。浮舟の生存を知った薫は，彼女に下山するようにと使いを出す。浮舟は，薫への愛や母・弟への強い思慕の情も絶ち，ひとり涙にくれる。第3部は第2部を引き継いではいるが，結婚による幸福を強く否定する大君，不安定な妻の座に苦悩する中君，ふたりの男の愛に迷い悩む浮舟の姉妹により，はなやかな世界の陰にある女性の真の苦悩を描くとともに，出家を真剣に考える薫や，いっさいの世俗的なものを強く拒否するに至る浮舟を描くことにより，さらに深い人間の生き方・あり方を暗示している。作品構成も第1部・第2部に比して，きわめて堅牢(けんろう)・緊密で，物語としても完成の域に達しているといえよう。

〔鈴木一雄・間野知子・沢田正子〕

げんじものがたりえまき【源氏物語絵巻】《源氏物語*》を題材とした絵巻。当初に何巻であったかは明らかでないが，現在



源氏物語（鎌倉本） 京都 陽明文庫



源氏物語絵巻 明月の夜，若い公達と冷泉院に参った源氏は，月明の中で管弦にふけりながら夜を明かす 五島美術館蔵

拳　銃



①コルト(アメリカ)，リボルバー，22口径　②ハーリントンリチャードソン(アメリカ)，リボルバー，22口径　③スミスウェッソン(アメリカ)，リボルバー，38口径　④スミスウェッソン(アメリカ)，リボルバー，32口径　⑤ワルサーPPK(ドイツ)，オートマチック，口径7.65mm　⑥モーゼル(ドイツ)，オートマチック，口径7.63mm　⑦コルトポリスポジティブ(アメリカ)，リボルバー，38口径　⑧メリマックデリンジャー(不詳)，単発式，口径10mm　⑨14年式(日本)，オートマチック，口径8mm　⑩ブローニングベストポケット(ベルギー)，オートマチック，口径6.35mm　⑪コルト1911年A1型(アメリカ)，オートマチック，45口径　⑫ルガー(ドイツ)，オートマチック，口径7.65mm

は徳川黎明(れいめい)会に3巻(43紙面，蓬生(よもぎう)・関屋・絵合(えあわせ)・柏木(かしわぎ)・横笛・竹河(たけかわ)・橋姫・早蕨(さわらび)・宿木(やどりぎ)・東屋(あずまや)などから詞16段と絵15図)，五島美術館に1巻(13紙面，鈴虫・夕霧・御法(みのり)などから詞4段と絵4図)が伝わり，いずれも国宝である。平安後期の制作とみられ，作者は詞書(ことばがき)が藤原伊房(これふさ)(1030～96)，絵が藤原隆能(たかよし)と伝えられるが確証はなく，実際には数人の手になったと思われる。宮廷内の生活を描き，同時代の《信貴山(しぎさん)縁起*》や《伴大納言絵詞*》と異なって静的な性格が強い。屋内描写は屋根を取り払って上方からながめた吹抜(ふきぬき)屋台*の法を用い，人物の顔は一様に引目鈎鼻(ひきめかぎはな)につくられて個性・表情に乏しい。画態は，濃彩を厚く塗り重ねた上に墨線で輪郭の描き起こしや顔の目鼻だちを入れる作絵(つくりえ)式を用いている。全巻にわたって濃麗な岩絵の具や金銀泥(きんぎんでい)を駆使し，切箔*(きりはく)・砂子・野毛など種々の技巧をこらした詞書の料紙とともに善美が尽くされ，絵巻物の最高傑作の名にふさわしい。大和絵(やまとえ)の一大典型とみられ，以後この傾向を追った作品も少なくない。　〔村重　寧〕

げんじものがたりたまのおぐし　【源氏物語玉の小櫛】　本居宣長*(もとおりのりなが)著。《源氏物語*》注釈書。9巻。1799年(寛政11)刊。巻1・2総説，巻3年立(としだて)，巻4校異，巻5以下摘注よりなる。多年の研究成果をもとに諸注を批判し，自説を示して詳細に及ぶ。特に巻1・2の研究理論・方法論は，研究史上画期的な名論として注目され，実利的・道徳的価値基準を排し，文芸が独自に有する価値基準に従うべきだとの主張は，〈物のあわれ〉論として知られる。　〔渡辺守邦〕

けんじゃのいし　【賢者の石】　〈哲学者の石〉ともいう。中世のアラビアの錬金術*者たちによって，卑金属を黄金に変えることのできる万能の材料であると考えられていた。これを発見するために，すべての物質をとかしたり，熱したり，混ぜたり，たたいたりした。17世紀になってボイル*が元素の概念を確立したので，賢者の石の夢は消えた。

げんしゅ　【原種】　育種学上の用語で，育成された品種のもつ優良な形質を保持するため，育成者によって，あるいは育種試験地に設けられた原種圃(げんしゅほ)において採種される種子をいう。原種は次に採種圃において増殖され，農家に配布されて栽培される。

げんしゅ　【元首】　対外的には国を代表しうる資格をもち，国内的にも最高の統治権能をもつ者ないしは国家機関をいう。共和制*においては大統領が，君主制*においては君主が元首とされるのが普通である。現在の日本においては，元首は天皇であるとする学説と，元首は内閣であるとする学説が対立しており，定説はない。これは，現在の日本の政体が君主制であるか共和制であるかという論議にかかわることであるといえる。

けんじゅう　【拳銃】　至近距離の戦闘，あるいは護身用に供する小形銃。ピストルともいう。片手で取り扱うことができ，引き金を引くごとに弾丸を発射する半自動式発射装置をもつ。弾数は6～10発で，使用距離5～50mが普通である。〈種類〉用途の上からは軍隊用・警察用・狩猟用・射撃競技用・信号用・護身用などに分けられ，構造上からはオートマチック(自動式拳銃)とリボルバー(回転式)に分けられる。オートマチックの場合は，ふつう銃床の内部が弾倉になっている。弾数が多く，操作が簡便で，迅速に行なわれる特徴をもつ。リボルバーは，いわゆる蓮根(れんこん)形の弾倉をもち，発射ごとにこの弾倉が回転して撃発可能位置をとる。操作に若干のめんどうがあるが，構造が簡単で故障が少なく，命中精度にすぐれている。口径の点から分けると，現用の拳銃は22～25口径(1口径は100分の1インチ)，32口径・38口径・45口径までがあるが，スポーツ用には22口径，軍用には45口径が多用され，警察用には32口径・38口径・45口径が使用される。

【歴史】1400年代に最初の拳銃様の火器(タッチ-ホール-ピストル)がつくられ，1460年にドイツ人メルツが火縄(ひなわ)式拳銃を，1517年にはドイツ人キーファスが輪転発火式拳銃(ホィール-ロック)を発明した。その後，拳銃は欧米で用いられていたが，1835年にアメリカの技術者コルトが金属雷管使用の輪胴をもった連発拳銃をはじめてつくり，今日の拳銃の基礎となった。その後も拳銃には幾多の改良が加えられたが，コルト拳銃工場で成功した互換性部品生産方式は，アメリカ式生産様式の出発点ともなり，諸精密工業発展のもととなったことは注目される。日本では鎖国のため，明治初期までは火縄式だけしか使われていない。最初の近代式拳銃は陸軍(明治)26年式(口径9mm)で，その後1914年に南部式，1925年にその改良型である(大正)14年式(口径8mm)がつくられ，最後に同口径の94式がつくられた。戦後は主として外国製の拳銃を用いており，刑事はコルトやブローニングの小形のもの，警察官はおもにSW(スミスウェッソン)の

45口径，自衛官は45口径オートマチック，入国管理官はベレッタ-オートマチック，鉄道公安官はSW 38口径リボルバー，麻薬取締官はコルト38口径リボルバーをそれぞれ主用している。〔藤井冬木〕

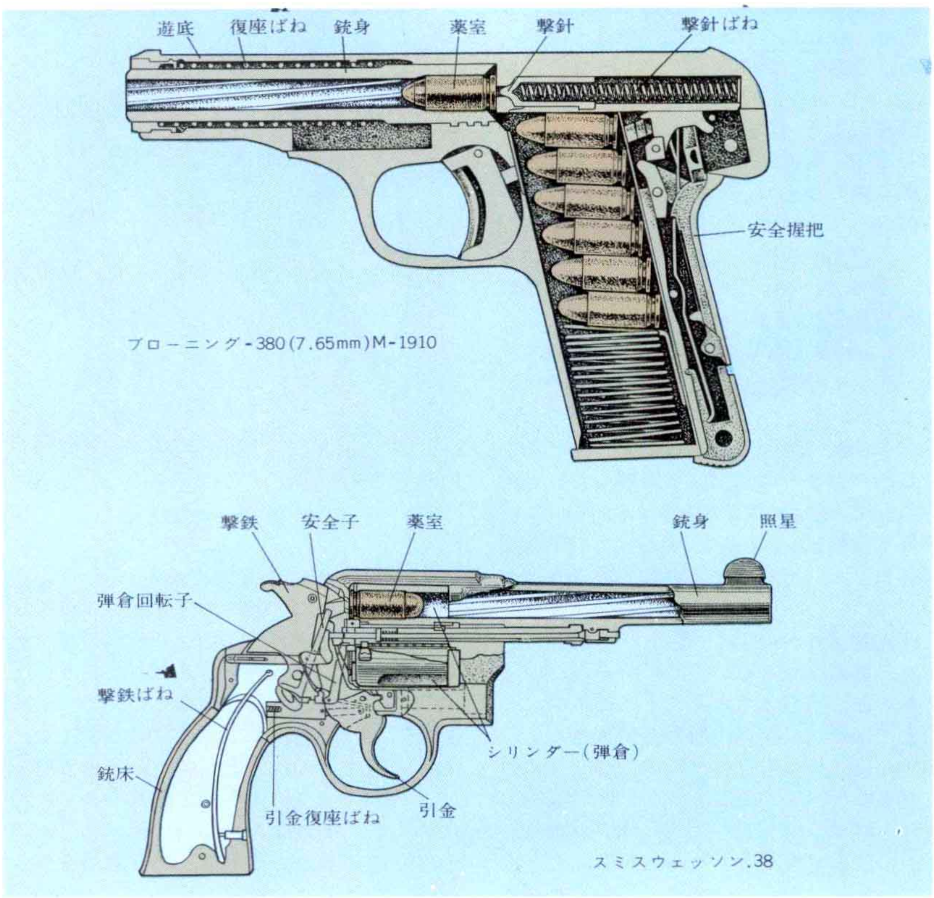
げんじゅうあんき【幻住庵記】芭蕉*(ばしょう)の俳文。1690年(元禄3)，《奥の細道*》の旅を終えて，4月から8月まで近江(おうみ)(滋賀県)石山の奥の国分山に庵住(あんじゅう)したときの作。幻住庵の紹介，入居の動機に筆を起こして四時の眺望(ちょうぼう)の叙述に及び，最後に〈たどりなき風雲に身を責め(中略)終(つい)に無能無才にして此(この)一筋に繋(つなが)る〉という人生観・俳諧観(はいかいかん)を述べる。俳文の範とすべく，初案・再案と数次の推敲(すいこう)を重ね《猿蓑*(さるみの)》に収めた。〔奥野純一〕

けんじゅがくは【犬儒学派】⇨キュニコス派

けんじゅつ【剣術】⇨剣道

けんしゅんもんいんちゅうなごんにっき【建春門院中納言日記】鎌倉初期の日記。《たまきはる》《健寿御前日記》ともいう。作者健寿御前は藤原俊成*(としなり)の娘で，弟藤原定家の日記《明月記》には〈健(たけ)御前〉としるしてある。40余年にわたる宮仕え生活，特に10代の大半を仕えた後白河院(ごしらかわいん)のきさき建春門院への思慕・追憶を記し，源平争乱期の人の命や時の転変のきびしさも織り込み，哀愁の色が濃い。

拳　銃



拳銃の構造

けんしょう【検証】裁判所が，争点である事実の判断のため，身体検査，死体の解剖，墳墓の発掘，物の損壊などを行なって，直接感覚をもって実験する証拠調べのこと。民事・刑事の裁判に行なわれる。五感で感知できるものであるならば，生物・無生物・有体物・無体物などすべて検証の対象となる。ただし次の場合の検証は制限される。日の出前または日没後の住所立ち入り(住居主または看守者の承諾を要する)，身体検査のための名誉保持，女子の身体検査(成人または医師の立ち会いを要する)など。身体検査のための召喚，出頭拒否の場合の勾引*(こういん)，および罰則については刑事訴訟法に規定されている(同法28〜142条)。なお，裁判所は，検証の補助として司法警察職員を用いることができる。〔井上公耳〕

けんしょう【検証】ある言明の真偽を観察や実験によって確定する手続き。その方法は，①問題の言明を前提とし，そこから導かれる結論をテストする方法，②それが導かれる可能な根拠をテストする方法，③それと対立する他の言明の検証に基づく間接的な方法に大別されるが，いずれにおいても言明の真は蓋然(がいぜん)的に確認されるにとどまる。①では，結論の偽はすなわち前提の偽であるが，結論の真は必ずしも前提の真とはならない。また，②は帰納*的論証で，前提が真であっても結論が偽となる可能性がつねにあるからである。ある言明を検証することが現在は技術的に不可能であっても，原理的には可能であり，自然法則に矛盾しない場合は検証可能であるとされる。〔石倉恒之〕

けんしょう【憲章】一般には〈おきて〉〈法則〉のことをいい，市民憲章・児童憲章のように用いられる。国際法上で用いる場合には，国際条約の呼称の一。国家間の合意である実質的意義の条約は種々の呼称でよばれるが，憲章は，そのうち，特に重要な国際組織の基本条約をよぶのに用いられるのが普通になっている。国際連合憲章・ILO(国際労働機構)憲章・ユネスコ憲章などがある。

けんしょう【顕昭】(1130?〜?)歌人・歌学者。藤原顕輔*(あきすけ)の養子で，六条家歌学の中心人物のひとり。幼時比叡(ひえい)山で修行し，のち阿闍梨(あじゃり)を経て1207年(承元1)法橋(ほっきょう)の位についた。古語や歌学，特に《万葉集》について広い知識をもち，多くの注釈書や歌学書を残した。みずから歌人として出席した《六百番歌合》の俊成判に対する不満を述べた《顕昭陳状》は特に有名である。

げんしょう【現象】一般的には意識に現われるもの，または心的・身体的に知覚されるものをいう。科学の対象となる具体的・直接的所与，精神や自我の活動以前の自然的事実，哲学的には〈本体〉に対するものをいう。ギリシア哲学においては，不動なイデア界に対して生成し消滅する世界を意味した。そして，イデア*すなわち〈本体〉が理性的認識の対象であるとすれば，現象は感性的認識の対象である。また，カント*にとって現象とは可能的経験の対象となるすべてのもの，すなわち時間・空間内に現われ，カテゴリー*によって統一される世界をさす。そのかぎりで〈本体〉または〈物自体*〉と対立するが，カント以前の形而上学と異なり，彼は〈物自体〉を認識不可能な超越的実在と考え，現象のみが認識可能であるとする。フッサール*にとっては，現象とは意識*に直接与えられるものをいうが，この場合の意識は心理学的意識ではなくて純粋意識であり，それの反省された意識体験が現象である。この意味での現象をありのままに記述するところに学的厳密性が得られるという。→現象学〔飯塚勝久〕

げんしょう【元昭】(1675〜1763)室町時代の黄檗宗(おうばくしゅう)の僧。字(あざな)を月海，号を売茶翁(ばいさおう)という。肥前(佐賀県)に生まれ，幼くして郷里の龍津寺(りゅうしんじ)に投じ，のち黄檗宗獨湛(どくたん)に謁し，さらに黄檗・臨済・曹洞(そうとう)の諸師を歴

訪して禅の修行に励んだ。郷里の龍津寺に帰って14年間監寺(かんす)をつとめたのち，京都に出て東山に通仙亭(つうせんてい)を設け，茶を煎(せん)じて売った。70歳で僧籍を離れ，以後は自適の生活を送った。著作に《詩偈(しげ)》1巻がある。〔田中良昭〕

げんじょう【玄奘】(600あるいは602～664)中国，唐代の僧。中国仏教における四大翻訳家のひとり。河南省の出身。仏教を原典から学ぶため，629年ひとり長安を出発し，天山北路を通ってアフガニスタンからインドにはいる。仏教を学んだのち各地の仏跡を訪問し，天山南路を通って645年に帰国した。仏像をはじめ650部の原典を持ち帰り，翻訳に従事した。彼の翻訳は原典に忠実で，特に新訳という。《大般若経(だいはんにゃきょう)》600巻，《瑜伽師地論(ゆがしじろん)》100巻をはじめ，数多くの翻訳経典を残した。彼の旅行記である《大唐西域記*》は当時のインドを知る資料として重要で，後世には《西遊記》の種本となったほどに広範な影響を及ぼした。〔石上善応〕

げんじょうかいふく【原状回復】 一般には，ある結果として生じている現在の状態をもとの状態にもどすことであるが，民法上ではこれを契約の解除の効果として，契約がはじめからなかったと同じ法律状態に返すことをいう(民法545条1項)。契約の解除の結果，それによって得た権利・義務がさかのぼって解消されたのだから，引き渡した物や受け取った代金などは相互に返還しなければならないわけである。受け取った代金には利子*もつけて返還しなければならない(民法545条2項)。これは解除によって法律上の原因を失ってしまうため，相互に給付されたものが不当利得*として返還されるものだと考えてよいから，原状回復義務は不当利得返還義務と同じ性質をもつといえる。➔解除権〔黒木三郎〕

げんしょうがく【現象学】 現象学ということばはフランスの数学者ランベールに由来するといわれているが，特別の意味をもつようになったのはドイツ観念論においてである。特にヘーゲル*の場合，現象学とは人間の意識が感性的経験から出発して絶対知へと至る運動の中での〈意識の精神的歴史〉を記述することである。彼の主著《精神現象学*》はそのような意味での現象学の書である。しかし，今日では，現象学ということばはふつうフッサール*の体系または方法，さらに彼の思想を出発点とする一連の哲学的運動をさす。フッサールの現象学は意識に直接与えられるものをありのままに記述し，〈事がらそのもの〉へ到達することをめざした。そのために彼は外部世界の存在に関するいっさいの判断を中止し，それを〈かっこ〉に入れる。これを先験的還元といい，そのあとに残る純粋意識が現象学の対象となる。さらに形相的還元によって純粋意識の本質へと至るが，それが〈意識はつねになにものかについての意識である〉という志向性の概念である。晩年のフッサールはこうした意識の内在論的立場から意識の発生的起源である知覚的経験へと立ちもどり，思考以前の世界への信仰を示している。ところで，現代の実存哲学が現象学と密接なかかわりをもつのは主としてその方法に対してであって，フッサールの体系そのものにではない。それゆえ，メルロ-ポンティ*が言っているように，現象学というものはフッサールの体系の文献的引用によって解明されるのではなく，現象学的方法によってのみ近づきうるのであり，われわれ自身にとっての現象学を問題にしなければならないのである。➔現象〔飯塚勝久〕



賢聖障子　仁和寺蔵

けんしょうこうこく【懸賞広告】 ある一定の行為をなした者に一定の報酬を与える旨を広告*の方法によって表示すること(民法529条)。尋ね人などによくみられる事例である。広告に定めた行為をなした者が数人いるときは，最初にその行為をなした者だけに報酬受領権がある(民法531条1項)。数人が同時にその行為をなした場合には各人平等割，もし分割できないものであったり，広告で報酬受領者を1人と限定したりしたときは抽選による(民法531条2項)。広告に別の分配方法を定めた場合はそれによる(民法531条3項)。広告によって指定した行為を成し遂げた者が出てこない間ならば，その広告を取り消せるが，その場合にはまえになした広告と同じ方法によらねばならない(民法530条1項)。甲新聞で広告したならば，甲新聞で取り消しの広告をしなければならない。それが不可能な場合，たとえば，甲新聞が廃刊になったときなどにおいては，別の方法によっても取り消すことができるが，その取り消しはこれを知っている者のみにしか効力を有しない(民法530条2項)。ただし，広告に取り消しをしないことを表示した場合はもちろん，指定行為をなす期間を定めた場合も取り消し権を放棄したと考えられるから，取り消しをなしえない(民法530条3項)。

また，優等懸賞広告といって，広告に指定した行為をなした者の中で優等者にのみ報酬を与えるという懸賞広告がある。懸賞論文などがそれで，この広告は必ず応募期間を定めなければならない(民法532条1項)。数人の応募者のうちから優等者を判定する者は，あらかじめ広告中に定めた者であるが，もし定めなかったときは広告主が判定する(民法532条2項)。応募者は判定に対して異議を述べることはできない(民法532条3項)。報酬の受領権者が数人出たときや分割不可能な場合には，懸賞広告の場合と同じ方法によって報酬を分配する(民法532条4項)。〔黒木三郎〕

けんしょうしつ【顕晶質】 ⇨潜晶質

けんじょうしょうじ【賢聖障子】 内裏(だいり)・紫宸殿*(ししんでん)に取り付けられた絹張りの障子。中国の賢人・聖人32人の肖像が描かれている。平安初期から行なわれ，時の中心的地位にある絵師が制作するのが慣例となっていた。遺品として，1644年(正保1)に紫宸殿から移建された仁和(にんな)寺*金堂の狩野孝信(かのうたかのぶ)による図が知られている。

けんしょうじょうぶつ【見性成仏】 禅の悟り*の別称。禅では，人間はだれでも生まれつき仏となるべき本性としての仏性*を備えているとし，座禅*という実践を通してその仏性にめざめ，それを実現することを〈悟り〉または〈見性成仏〉という。臨済禅では，この見性の手段として，師家といわれる指導者が修行者に公案*とよぶ課題を与え，修行者は公案をくふうし，これを透過することによって，段階的に〈悟り〉の境地に到達しうると説いている。〔田中良昭〕

げんしょうてんのう【元正天皇】(680～748) 在位715～724年。名は氷高(ひだか)。草壁皇子の皇女。文武天皇の姉。母は元明天皇。715年(霊亀1)母の譲位で即位し，皇太子(聖武(しょうむ)天皇)の成長まで在位した。この間，養老律令*(りつりょう)の選定，《日本書紀*》の完成，三世一身法*の発布がある。政権は藤原不比等(ふひと)・長屋王へと交替したが，律令政治はともかくもいちおうの安定期にあった。陵墓は奈良県奈保山西陵。

げんじょうらく【還城楽】 雅楽の曲名。左方(唐楽)に分類される。太食調(たいしきちょう)，中曲，古楽で，別名を《見蛇楽(けんだらく)》《還京楽》という。走り物の舞がつき，舞人は1人。中国西方の蛮人が好物のヘビを発見して狂喜するようすが描写されている。右方の舞がつくときもあるが，そのときは早只(はやただ)八拍子ではなく，夜多羅(やたら)拍子で奏される。

げんしょく【原色】 ⇨色

げんしょくきょういく【現職教育】 在職者に対して行なわれる教育で，職務に必

要な知識・技術の付与，態度の育成を目的とする。具体的には職員研修・従業員教育訓練というわく組みの中で行なわれる。最近では，緊急かつ最近の知識・技能を必要に応じて教育するというしかたから，長期的な展望に立って，態度養成をも含めて計画的・組織的に実施するようになった。

げんしょくばん　【原色版】　有色の原稿に用いられる凸版(とっぱん)の多色製版印刷。ふつう，マゼンタ・シアン・黄の3色に黒を1色加えて4色の凸版にする。色彩学の理論によれば，マゼンタ・シアン・黄の3色のインキの重ね合わせによって黒になるのであるが，実際には濃いセピアにしかならず，十分に原稿の色調を再現することはむずかしいので，墨版を加えて画調全体に深みと落ち着きを与える。➔印刷

げんしりょう　【原子量】　炭素原子 ^{12}C の質量を12.0000としたときの各元素の相対的な平均質量。平均というのは，同一元素中に含まれる同位元素のような種々の原子の質量の平均である。一つの同位元素ではほとんど整数値に近いが，完全に整数ではない。塩素のように自然界において同位元素が同じぐらい存在するときには，見かけ上整数値より著しくはずれることがある。なお，以前は酸素原子 ^{16}O の16.0000を基準としていた。

げんしりょく　【原子力】　⇨次ページ

げんしりょくいいんかい　【原子力委員会】　原子力*に関する国の行政管理機関。原子力の研究・開発・利用の基本政策の計画的遂行，およびその民主的運営を主たる任務とする。米・英・独・仏など各国に原子力の総合センターとしてあるが，わが国では1956年(昭和31)に発足，総理府*に所属する会議制の行政委員会として企画・審議・決定の権限を有する。構成は国務大臣(科学技術庁長官)を委員長とし，国会の同意を得て内閣総理大臣が任命する6名の委員からなる。任期は3年。　〔寺尾方孝〕

げんしりょくかんり　【原子力管理】　原子力*を平和的に利用するために管理すること。原子力は原子炉*によって動力として利用され，また放射性同位元素*の応用で人類に大きな貢献をしているが，一方，原子爆弾*や水素爆弾*などの形で人類を破滅に導く可能性もある。そこで，世界各国は条約を結んだり話し合いをしたりして原子力の平和利用を促進させるとともに，軍事的に用いることを規制しようとする態勢をつくる努力をしている。国際的には核拡散防止条約*などはその例である。わが国では原子力基本法で平和目的以外に原子力開発を行なうことは禁じられている。　〔加藤敏郎〕

げんしりょくきかん　【原子力機関】　原子力エンジンのこと。原子力をエンジン，特に船舶などの推進機関として用いた場合に次のような有利さがある。まず第1に少量の核燃料で2年ないし3年間は燃料の補給なしに高速運航できる。第2に大量の燃料を搭載(とうさい)する必要がないので船舶の空間を有効に利用できる。第3に酸素を必要としないので，潜水船に利用した場合，長時間潜水のまま高速で運航できる。エンジン用の原子炉は発電用原子炉に比べて原理的には特に異なる点はない。現在使用されているものは加圧水型軽水炉がおもなものである。しかし，船舶などの移動するものに積み込むためにいくつかの特性が要求される。まず，コンパクトで軽量でなければならず，動揺に対しても安定性がよく，また衝突などの事故に対しても炉心が破壊されないようにしなければならない。しかし一方，原子炉に必ず伴う放射線から乗組員を防護するために遮蔽(しゃへい)が必要であり，このために小形化に限度がある。このため，現在は自動車用などの小形のものは実現困難で，大形の船舶用として開発が進められている。アメリカおよびソ連には多数の原子力潜水艦があり，原子力船*としてはアメリカのサバンナ号，わが国のむつ号などが実用化されている。そのほかに大形の航空機のエンジンとしても利用することが考えられる。　〔加藤敏郎〕

げんしりょくきょうてい　【原子力協定】　原子力の平和利用を世界各国で促進するため，アメリカが濃縮ウラン*配分のために各国と結んでいる2国間協定。アメリカの原子力法(1954)に基づき大統領が締結する。俗称ウラン協定。現在26か国が締結している。

〔日米原子力協定〕正式には，〈原子力の非軍事的利用に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協力のための協定〉。濃縮ウラン受け入れの一般協定で，1955年(昭和30)11月14日に署名され，その後期限切れで，1968年2月に新協定が締結された。ウラン供給量のほか，原子力平和利用について，協力の範囲・条件・保障措置などについても定めている。　〔広部和也〕

げんしりょくけんきゅうじょ　【原子力研究所】　原子力*の開発およびその応用を研究するところ。世界の主要な国はすべて原子力研究所を持っている。わが国では1955年(昭和30年)，財団法人の日本原子力研究所が設立された。これは1956年に場所を茨城県那珂(なか)郡東海村に定め，組織を特殊法人に改組して研究活動を開始した。第1号の原子炉はアメリカから導入した湯沸かし型原子炉である。現在では大阪・高崎・大洗にも研究所を持っている。主要な業務は原子炉の開発と建設，ラジオアイソトープの製造とその利用法の研究，放射線の利用法の研究などである。特に動力炉の開発に関しては動力炉核燃料開発事業団と協力して基礎的研究や核燃料・核材料の試験の分野で重要な役割を果たしている。また核融合開発，原子炉の工学的安全性に関する研究も推進している。

げんしりょくこうくうぼかん　【原子力航空母艦】　原子炉*を推進機関の動力源として搭載(とうさい)した航空母艦*。現在のところアメリカ海軍のエンタープライズ*1隻だけであるが，1968年度予算で新艦の建造が決まっている。航空母艦に要求される条件の一つである高速による洋上機動の点は通常型航空母艦に比べてはるかに有利で，また燃料や煙路のスペースが不要のためそれだけ他の性能や収容力が増大する。ただし，建造費が高いのが難点で，エンタープライズのあと久しい間2番艦が建造されなかったのもその理由による。　〔藤井冬木〕

げんしりょくさんぎょう　【原子力産業】　原子核エネルギーの開発およびラジオアイソトープ*の利用に関連のある産業。これは従来の産業と異なるものではなく，むしろ密接に関連をもつものであるが，特に原子炉とか放射線とかの，いままでになかった知識や技術体系の開発と応用が必要な産業である。わが国ではおもな会社はすべてこれと関係があるといっても過言ではなく，各関連会社の間でグループをつくって互いに協力し合っている。各グループの中心的な会社は主として電機メーカーであり，原子炉の設計・建設，それに付属する重電機類の製作に活躍している。また，放射線測定用の計数管や付属電子機器の製造および開発も行なっている。しかし，各グループに参加している会社の職種はほとんど全産業分野にわたっている。たとえば，原子炉施設の建設のための建設土木，放射線防護のためのコンクリート，原子炉材料や燃料のために金属材料や鉱業，燃料などの精錬・精製のためのプラントメーカー，放射線利用による品質の改良を考える繊維会社，原子力船のための造船，放射線による食品の殺菌を計画する会社などから原子力事故の場合の保険会社，資金面のめんどうをみる銀行，さらには商事会社まで数多くの会社が関係している。　〔加藤敏郎〕

げんしりょくじだい　【原子力時代】　原子力が実用的に利用される時代。原子核の内部に存在するエネルギーはばくだいなもので，たとえば，物質1gが完全にエネルギーに変わったとすると 9×10^{20} エルグ*にもなり，これは石炭7,000tに相当する。1942年，フェルミ*がシカゴ大学で核分裂の連鎖反応に成功して原子核エネルギーを取り出すことが可能になり，さらにこれが原子爆弾の形ではじめて実用に供された。このエネルギーは爆弾として利用されるだけではなく，各種原子炉の開発によって新しい動力源として用いられるようになり，また副産物であるラジオアイソトープの利用によって新しい技術の進展が行なわれるようになった。このような巨大なエネルギーの開放に伴って人類の歴史が大きく変化しつつあり，特に原子爆弾は国際政治上の重要な課題になっている。　〔加藤敏郎〕

原 子 力

原子の結合状態の変化または核反応*に伴って発生するエネルギー。語の意味からは原子の状態変化に伴うエネルギー(たとえば化学反応のエネルギー)をさすほうがふさわしい。しかし，核反応に伴って発生するエネルギーはばくだいで，たとえばウランの核分裂の際に発生するエネルギーは同量の石炭の燃焼に比べて数百万倍にも達する。このために，通常原子力といえば核反応に伴うエネルギーをさし，狭義には原子炉*または原子爆弾*・水素爆弾*で発生するエネルギーをいうこともある。

〔核分裂と核融合*〕元素を構成する原子核の中でも比較的重い核，特にウラン235(^{235}U)やプルトニウム239(^{239}Pu)の原子核は，中性子*を吸収すると核内のエネルギーの状態が不安定になり，核分裂を起こして質量数が60ないし160の，たとえばイットリウムとかセシウムの原子核に分裂し，同時に通常2ないし3個の中性子が飛び出す。核分裂の起きるまえとあととでは全体の質量を比べると，分裂後は質量が減少する。これはアインシュタインの相対性理論*で説明されるように，エネルギーとなって放出されたのである。たとえば，^{235}Uが1回の核分裂で生ずるエネルギーは約200MeV(メガエレクトロンボルト)で，これは約3×10^{-11}ジュール*にあたり，1gのウランでは8.2×10^{10}ジュールにもなる。これは良質の石炭3tのエネルギーに相当する。このエネルギーは，①分裂片(核分裂生成物*)の運動エネルギー，②分裂片が放射線を放出して失うエネルギー，③中性子の運動エネルギー，④分裂のとき放出されるγ線のエネルギーの四つに分配される。

核分裂の際に放出される2～3個の中性子は，他の原子核に吸収されて第2・第3の核分裂を起こす。これを連鎖反応*という。このように最初に1個の核に核分裂を起こさせると，適当な条件さえあればその付近の核を次々と分裂させることができ，そのたびにエネルギーを生じ，最後には巨大なエネルギーが生ずる。この分裂の起きる速度を制御し，長期にわたって持続的にエネルギーを取り出しうるようにした装置が原子炉*である。このような核分裂の現象は1938年ドイツの化学者ハーンとシュトラスマンによって発見された。連鎖反応は1942年フェルミ*らによって実現され，原子核エネルギーを実用的に取り出すことが可能になった。

核分裂の機構は，理論的にはボーア*の液滴模型で説明されるように，原子核が中性子を吸収して自分自身の運動が活発になった結果，間延びして安定点を越してちぎれる現象とされている。中性子がウランの原子核の近くへ来たときにウラン核に吸収される割合(吸収断面積)は，中性子の速度がおそいほど大きい。したがって，連鎖反応を起こさせるために減速材を使って中性子を減速させるのが普通である。これが通常の原子炉である。それに対して，中性子を速いままで用いることも考えられている。これは原子爆弾で実現されており，また，将来の動力炉の形式とされている高速増殖炉として，平和利用の面でも有望視されている。おそい中性子で核分裂を起こすのはウランの中では^{235}Uだけで，これは天然ウランの中には0.7%しか存在しない。^{239}Puおよび^{233}Uもおそい中性子で核分裂を起こすが，これらはいずれも天然には存在せず，^{238}Uおよびトリウム232(^{232}Th)の中性子吸収でつくられる。速い中性子を用いれば，このほかに^{238}Uや^{232}Thなども核分裂を起こさせることができる。なお，分裂に際して出る中性子には，分裂直後に出るものとしばらく時間が経過してから出るものがある。あとで出るものは分裂片から出るものと考えられる。たとえば，分裂片の臭素87(^{87}Br)がβ崩壊してクリプトン87(^{87}Kr)をつくると，これが中性子を1個放出して^{86}Krになる。この^{87}Brのβ崩壊の半減期*は56秒であるので，中性子も遅れて出るのである。この遅れて出る中性子は原子炉の制御に重要な役割を果たす。

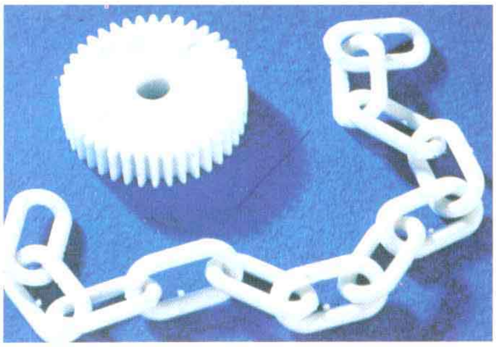
重い核の分裂と同様に，水素のような軽い核が融合してヘリウムをつくったときにも多量のエネルギーを発生する。これを核融合*という。この反応を起こさせるには，クーロンの反発力が核の間に働くので，軽い核を高速にして衝突させる必要がある。現在では，このエネルギーを与えるには熱的な方法を用いるのがよいとされ，世界各国で研究中である。この場合に必要な温度は1億度以上ともなり，この様な高温の水素(または重水素)ガスを保持することに技術的困難さがあり，まだ水素爆弾以外の利用方法は確立されていない。しかし，この核融合反応が実用になれば，海水中に無限に存在する水素からエネルギーが得られることになり，エネルギー問題も一挙に解決するのである。

〔ラジオアイソトープ*と放射線*〕自然界に安定に存在する原子核はその構成粒子である中性子と陽子の組み合わせが定まっており，この組み合わせからはずれる原子核は放射線を出して安定な核に変わろうとする。また，ときにはこの安定な核でもなにかの理由でエネルギーを吸収して内部運動が活発になることがあり，この余分なエネルギーを放出してもとの状態にもどろうとする。これらの放射線を出す元素をラジオアイソトープ(放射性同位元素)という。放射線の種類としては普通はα線・β線・γ線をいう(ほかに中性子線・X線なども含まれるが，ラジオアイソトープから出るものとしてはこの3種類を考えておけばよい)。α線はおもにラジウムやウランなどの重い原子核から出る放射線で，ヘリウムの原子核である。これは他のものに比べて重い荷電粒子なので，物質を透過する力は弱く，紙のようなものでも止まる。

α線が出ると核の陽子数と中性子数はそれぞれ2個減少する。β線は陽または陰の電子で，一般のラジオアイソトープはほとんどこれを出して変換する。陽電子が出る原子核の陽子は1個減少して中性子が1個増加し，陰電子が出るとその逆に陽子が1個増加して中性子が減少する。β線の透過力はα線よりは強いが，アルミニウムの板で止めることができる。γ線は電磁波で，一般にβ線を出したのちにγ線を出すことが多い。γ線が出ても陽子と中性子の数は変わらないが，核の内部エネルギーが変化する。γ線は透過力が強く，厚さ数センチメートルの鉛板でも通り抜けることがある。なお，放射線があたると物質の性質に変化が生じることが多い。このことや放射線の存在することなどを利用して，ラジオアイソトープは工業・医学その他各方面に用いられており，これも原子力の利用に含めて考えることが多い。

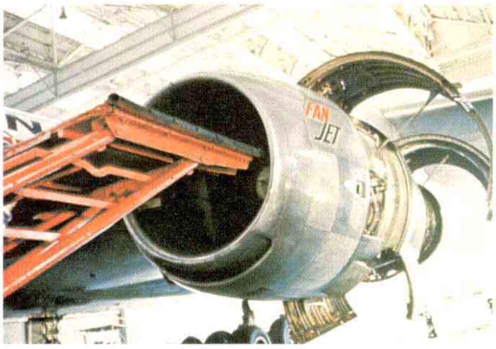
〔原子力の歴史〕原子の構造が問題になりだしたのは19世紀末からで，1896年にベクレル*が放射能を発見し，1898年にキュリー夫妻*がラジウムを発見した。今世紀にはいってからラザフォード*が1911年ごろにα粒子の金箔(きんぱく)による散乱の実験から今日考えられているような原子模型，すなわち原子核のまわりを電子が回っているような構造を考えた。これ以来，現在の原子核に関する知識が集積されはじめた。同様な模型は長岡半太郎*も考えていた。ラザフォードはさらにα線を窒素の原子核にあてる実験をして，酸素ができることを確かめた。これは，元素を人工的に変換できることを示すものであった。1932年チャドウィック*が中性子を発見し，ハイゼンベルク*はこれに基づいて原子核の内部は陽子と中性子とでできているとし，現在のような原子核の構造を明らかにした。1934年ジョリオ-キュリー夫妻*はアルミニウムにα線をあてて，はじめて人工のラジオアイソトープをつくることに成功した。すなわち，リンができたのである。それ以後は加速器の発明改良に伴って，われわれの原子核に関する知識は急速に増大した。1938年にはドイツのハーンとシュトラスマンが中性子をウランに吸収させて，人工ラジオアイソトープをつくる実験をしていたが，その生成物中にバリウムの存在を確認し，さらにテクネシウ



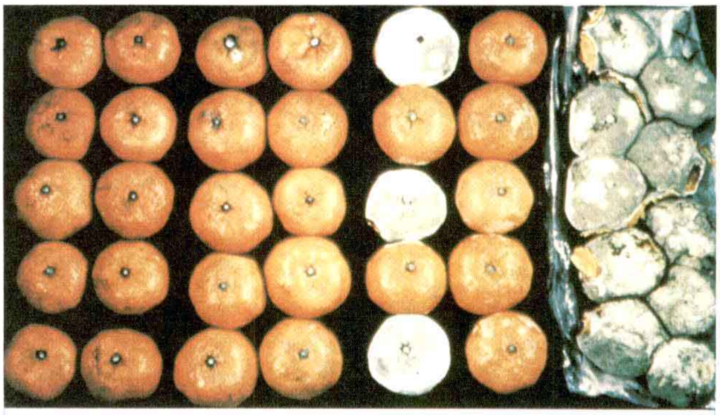


品質改良 プラスチック製品も放射線を照射することによって鉄よりもかたく熱にも強くすることができる

海底砂の移動調査 放射性スカンジウムガラス砂約1lを海底に投入し，船上から測定器を降ろして砂の移動を追跡する。苫小牧・鹿島，福島原子力発電所の港湾建設の基礎資料となった



非破壊検査 放射線を使って，仏像や金属製品などを，こわさずに内部を写真にとり検査することができる。写真は，イリジウムの放射線を使ってのジェットエンジンの内部検査しているところ



250　150　100　0キロラド

食品の殺菌・保存 放射線のもつ殺菌力は，食品の保存に有効である。写真は，表面にあらかじめかびを接種したミカンに，右側からそれぞれ0，100，150，250キロラド照射し，5℃，30日間放置したものである。100キロラドで明らかに効果が認められる

ムらしいものもあることで，核分裂の考えを発表するに至った。

1942月12月2日フェルミはアメリカのシカゴ大学で核分裂の連鎖反応を成功させ，原子核エネルギーを継続的に取り出すことを可能にし，現在の原子力時代の幕が開かれた。しかし，この原子核エネルギーがはじめて実用的規模で用いられたのは原子爆弾としてであった。すなわち，1945年7月16日にアメリカ合衆国ニューメキシコ州のアラモゴルドに近い砂漠(さばく)で世界最初の原爆実験が行なわれ，この実験が成功したことによりアメリカは同年8月，日本の広島と長崎に原爆を投下した。

第2次世界大戦後は種々の技術革命が行なわれたが，その中でも原子力の分野はめざましい発展を遂げた。戦争末期に登場した原子爆弾は当時の人々の想像を越える威力をもつことを示し，そのため各国は原子爆弾の所有を望んだ。当初はアメリカのみのもつ秘密であったが，1949年にソ連が原子爆弾を完成するに至り，原爆製造技術は1国のみの秘密ではなくなり，各国は競って開発研究を行ない，開発に成功した国は次々と爆発実験を行なった。しかし，このことは地球の大気汚染の問題など大きな社会的問題を引き起こした。1953年12月に，アメリカのアイゼンハワー*大統領は原子力の平和利用を提案し，1955年8月8日からジュネーブで第1回原子力平和利用国際会議*が開かれ，平和利用への国際協力の道が開かれた。さらに1957年には国際原子力機関*が発足して大規模に平和利用が推進されることとなった。一方，原子爆弾などの軍事目的への利用はその後水素爆弾が1952年にアメリカで，また1953年にソ連で完成して原水爆保有競争はいっそう激しくなったが，1963年には米英ソ3国が部分的核実験停止条約を結び，大気圏・水中における実験を停止し，以後平和への道を歩む努力を続けている。

〔原子力の利用と将来〕原子力の平和的利用は大別して2本の柱に分けられる。その一つは，ウランなどが核分裂を起こしたときに生ずるばくだいなエネルギーの利用で，他はラジオアイソトープの利用である。

核分裂エネルギーの利用は，現在原子力発電*の形で進められており，世界各国とも急激に発電計画が増大しつつある。核分裂エネルギー利用の利点は，燃料が少なくてすむことにあり，このことは発電用のみならず，船舶，とりわけ潜水艦にも有効で，原子力船*・原子力潜水艦*としてすでに就航をみている。原子力利用の他の面は，ラジオアイソトープである。これは，核エネルギーそのものの利用とはいいがたいが，ラジオアイソトープのもつ放射線の透過力を利用して，鋳物などの傷を調べたり，肥料に混ぜて植物内部から出る放射能を追跡(→トレーサー）して肥料の移動状況を調べるのに役だっている。また，放射線は物質の組織を破壊する力をもっているので，ラジウムの代わりに癌(がん)治療に用いられる。その他，殺菌・品種改良など多方面に利用されている。

原子力の将来性としては，世界的に諸工業の発達とともにエネルギーの需要も急速に増大しているおりから，発電炉に一度燃料を装填(そうてん)すると2～3年はそのまま補給不要な点，安定度が高いなどの理由により，原子力発電の比重はいっそう高まりつつある。一方，ラジオアイソトープの利用も医学・農業・工業などの各方面への利用が盛んであり，将来性は非常に有望と考えられる。〔加藤敏郎〕



原子力巡洋艦　ロングビーチ

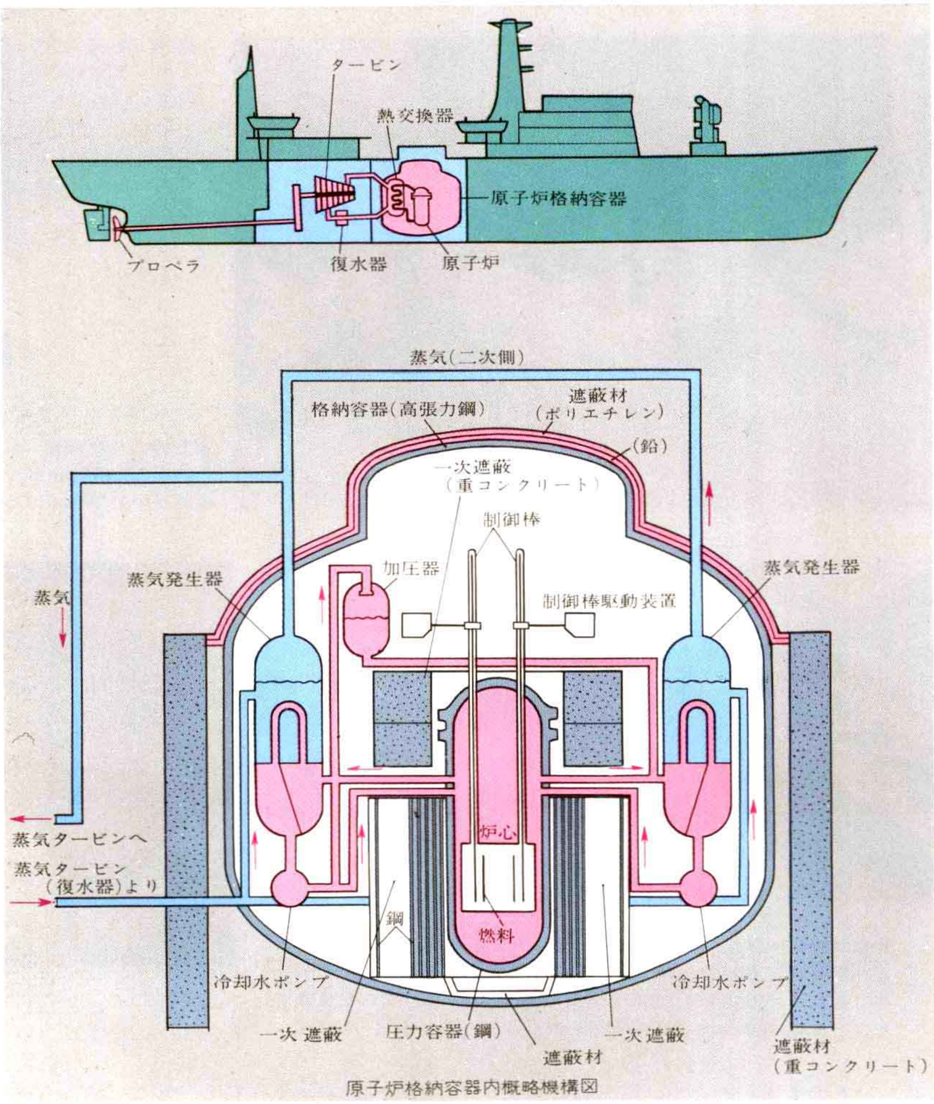


原子力船　オットー・ハーン号(西ドイツ)。原子力推進機関をもった鉱石運搬船。排水量25,812トン

げんしりょくじゅんようかん【原子力巡洋艦】 原子炉*を推進機関の動力源として搭載(とうさい)した巡洋艦。原子力航空母艦エンタープライズ*と同じくアメリカの原子力機動部隊の計画に基づいたもので，建造費が高いのと海軍の戦略方針の変更により，現在までのところロング-ビーチ*1隻しか建造されていない。1961年完成。この艦は設計時から誘導弾巡洋艦としてつくられたはじめての軍艦で，基準排水量14,200トン，加圧水冷却型原子炉2基，速力30.5ノット，対空ミサイルはタロス発射機1基，テリア発射機2基，対潜ミサイルはアスロック発射機1基をもつ。〔藤井冬木〕

げんしりょくせん【原子力船】 原子炉*を推進機関の動力源として搭載(とうさい)した船舶。現在のところでは従来のタービン船のボイラーの代わりに原子炉を用いるものと考えてさしつかえない。特徴としては核燃料*を用いるので燃料積載量が少なくてすみ，長い航続距離が得られること，出力が大きいので高速にできること，酸素の代わりに中性子*を用いるために潜水船を考えうることなどである。しかし一方，乗組員を原子炉の放射線から守ることを考慮しなければならないし，核分裂によってできる放射性の廃棄物の処理など問題も多く，現在のところ原子力船の経済性については疑問があるが，今後の技術の発達によってはしだいに有利になることが期待される。世界で最初の原子力船は1959年にソ連で完成されたレーニン号*で，これは砕氷船である。その後アメリカが1962年に原子力貨物船サバンナ号*を完成させた。日本も原子力船母港を青森県むつ市に定めて開発が進められ，1969年(昭和44)〈むつ*〉が進水した。これは当初海洋観測船の計画であったが，その後原子動力実験船に変更された。〔加藤敏郎〕

げんしりょくせんすいかん【原子力潜水艦】 原子炉*を推進機関の動力源として搭載(とうさい)した潜水艦。原子炉はそのエネルギーの発揮に空気(酸素)を必要とする燃焼を行なわないため，潜水中外気と遮断(しゃだん)される潜水艦の機関としては最も適性があり，舶用機関としてはじめて用いられたのが潜水艦だったのもうなずける。1954年に完成したアメリカのノーチラス*が最初のもので，水上をディーゼルで走り，水中を2次電池による貧弱な行動力しかもたない従来の通常型の潜水艦に比べて，飛躍的な水中性能と航続力とをもった。原子力機関は原子炉で発生した熱によって加圧された冷

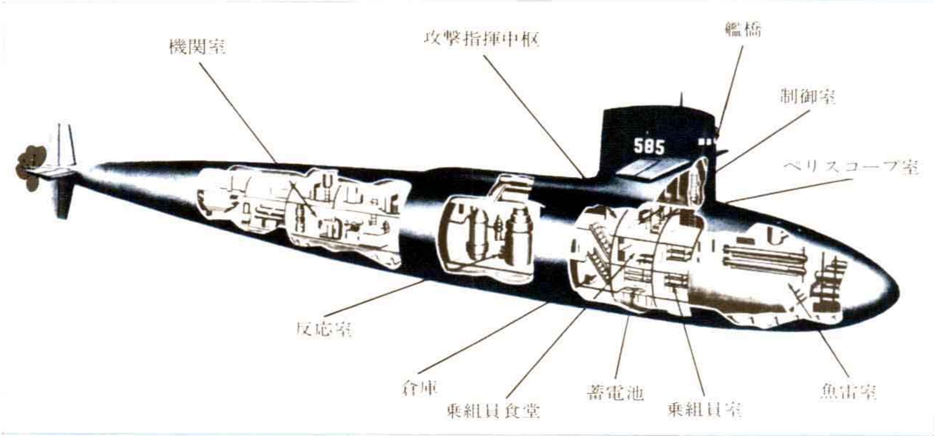


原子力船

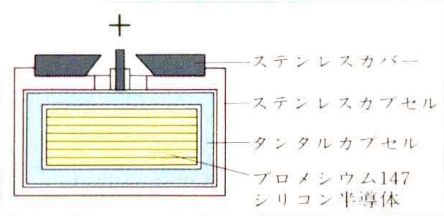
各国の原子力船の要因

船名(国名)	むつ(日本)	サバンナ号(アメリカ)	オットー・ハーン号(西ドイツ)	レーニン号(ソ連)	エンリコ・フェルミ号(イタリア)
船種	原子動力実験船	貨物船	鉱石運搬船	砕氷船	海軍補給船
全長(m)	130	181.6	171.8	134	174.9
満載排水量(トン)	10 400	21 850	25 812	16 000	18 000
最大出力(馬力)	10 000	22 000	11 000	44 000	22 000
速力(ノット)	16.5	21.5	15.75	18	約
建造費(億円)	約 56	約 138	約 50	—	約 72
完成時期(年)	1973	1962	1968	1959	1972





原子力潜水艦　(左)〈スカルピン〉(アメリカ)。基準排水量3,075トン。速力は20(水上)～30(水中)ノット。スキップジャッククラスの代表的なもの　(右)構造図(スキップジャッククラス)



原子力電池　構造断面図



原子力発電
東京電力福島原子力発電所。手前海岸から冷却水を取水する

却水(1次冷却水)を熱し，これが熱交換器のボイラー用水(2次冷却水)を蒸気にしてタービンを回すもので，アメリカの原子力潜水艦の第2艦シーウルフは加圧水の代わりにナトリウムを用いて冷却を行なった。アメリカ海軍は，1958年ノーチラスを使って潜航したまま北極点を通過，1960年にはスケートが海氷面に浮上，これらにより原子力潜水艦が北極海を行動し，ミサイルを発射できることを立証した。また同年中にトライトンは潜航したまま世界一周に成功したが，これは慣性航法装置・空気清浄装置などの発達に負うところ大で，潜水艦の戦略価値をこれまでとはまったく異なる大きなものにした。特に戦略ミサイルを搭載することで，戦略空軍と並んで有力な核抑止力となり，現在の軍艦の中で最も重要なものとなっている。最近ではアメリカ・ソ連の新造する潜水艦はすべて原子力潜水艦で，イギリス・フランスなども建造している。ソ連では1950年代後期にレニンスキー-コムソモールを就役させて以来，ミサイル潜水艦も含めて続々と建造しつつある。
〔藤井冬木〕

げんしりょくでんち【原子力電池】　原子力*をエネルギー源とする電池。原子電池ともいう。ラジオアイソトープ*から出るβ線*などの荷電粒子を集めて電源とする方法，熱電対の接点に放射線をあててその起電力を利用する方法などがある。アメリカでは人工衛星その他の特殊目的用に開発が進められている。たとえば，ストロンチウム90は寿命が長くβ線を出す。このβ線，すなわち電子をポリスチロールの薄膜に集めて起電力とする方法，スナップ計画がそれで，ストロンチウム90を用いて30Wの電力を起こすものが沿岸警備隊用として1964年4月にバルチモアの燈台に設置され，同じくストロンチウム90を用いたものが1962年2月に南極のアメリカ海軍気象観測所に設置された。またプルトニウム238を使った2.7Wのものがトランシット衛星に載せられて1961年に宇宙空間に打ち上げられた。なお，このほかにスナップ計画では小形の原子炉による発電も計画されている。わが国でも最近ストロンチウム90による9V，3Wの発電に成功し，国産人工衛星・無人気象観測所・航路標識燈用の電源として有望視されている。
〔加藤敏郎〕

げんしりょくはつでん【原子力発電】　原子力*を電気的エネルギーに変換することにより新しい動力源として利用すること。現在実用になっている方式は，原子炉で発生する熱エネルギーによって発電用タービンを回し，それによって電力を起こす方式である。そのほか，原子力をそのまま直接に電力に変えることも考えられるが，実現をみるに至らない。原子力発電の特徴としてあげられることは，原子炉燃料として少量のウランがあれば長期間燃料交換を必要としないことである。わが国のような工業国ではエネルギー需要は年々急増している。それに必要な発電用燃料の石油はほとんど外国に依存している。したがって，この輸送は重要な問題で，近い将来，このための油槽船(ゆそうせん)で日本じゅうの港が埋まるといわれている。また，石油は石油化学の材料としてほかに重要な用途がある。したがって，原子力をエネルギー源として利用することは急務となっている。しかし，原子力は新しい分野であり，技術的にいろいろな問題がある。中でも最も大きな問題は放射能*に関することである。まず第1に，原子炉自身から出る放射線*から従業員を守らなければならない。このために遮蔽(しゃへい)などの施設に多額の費用がかかるし，また核分裂*の結果できる放射性廃棄物の処理方法が問題である。これらの物質にはプルトニウム239のように再処理して燃料に用いうるもの，精製してラジオアイソトープ*として利用できるものもあるが，中にはまったく捨てなければならないものもある。しかし，それらはいずれも放射性なので，一般の人に危害を与えないような方法で処理しなければならず，そのための設備を必要とする。また，原子炉の材料，熱輸送の系統など，いずれも放射線による影響を考慮して選ばなければならない。原子力発電所の置かれる場所，取水および排水，気象条件などにより施設が付近住民の生活に影響を与えないように考慮することも必要である。このために原子力発電所は運転経費はやすいが建設費が高くつくとされ，従来の火力発電所に比べて経済性に多少問題があり，

一時開発の速度がにぶったことがある。しかし，技術の進歩に伴って建設費も低下したため原子力による発電コストも下がり，1965年(昭和40)ごろから再びクローズアップされ，原油の値上がりもあって，いまや最も経済的なエネルギー源となった。しかもこの発電コストは発電所の規模が大きくなるにつれて下がるので1基の出力が50万kWを超えるものが建設されている。

世界で最初の原子力発電所といわれるソ連のオブニンスクの発電所は1954年に送電を開始し，1956年の秋にはイギリスが天然ウランを燃料とし，減速材に黒鉛，冷却材に炭酸ガスを用いた実用規模のコールダーホール発電炉を建設して発電を開始した。その後，米ソをはじめ世界各国で原子力発電所の建設が盛んになり，1980年12月の資料によると，アメリカの原子力発電量は計画中を含めて17,000万kW以上にもなり，わが国でも1966年7月に茨城県東海村で日本原子力発電(株)のコールダーホール改良型発電炉が営業運転を開始し，その後各電力会社で原子力発電所が建設され1980年には出力合計1,500万kWに達する(表参照)。

発電用の動力炉の型は最初の実用発電炉が天然ウラン黒鉛減速のコールダーホール型であったが，その後アメリカで濃縮ウランを使うものが開発された。その一つは加圧水型原子炉である。これは濃縮ウランを燃料とし，冷却と減速の両方の役目をするものとして軽水を用いる。軽水には150気圧くらいの圧力をかけておくので，温度が350℃くらいまでは沸騰しない。したがって，この冷却水を取り出すと300℃以上にもなっている。この熱を熱交換器で第2次冷却水に与え，これを水蒸気にしてタービンに送り込む。この炉の特徴は，熱を高温の状態で取り出せること，1次冷却水は外部とは接触しないので燃料または核分裂生成物*による外部汚染のおそれの少ないこと，原子炉内で蒸気をつくらないので蒸気のあわによる原子炉の反応度の変化がないことなどである。一方，冷却系統を二重につくるなど，設備に費用がかかるなどの不利な点もある。第2の型の原子炉は沸騰水型で，これは1次冷却水を直接沸騰させる型のものである。燃料はやはり濃縮ウランであるが，冷却水にかける圧力はせいぜい50気圧くらいである。そのため冷却水は250℃くらいで沸騰し，この蒸気を直接タービンに送り込む。この炉は熱交換器が不要である。最大の難点は，原子炉内で蒸気のあわができるために内部の条件がつねに変動し，原子炉の制御がむずかしいことである。しかし，技術の進歩はこの制御を可能にするに至った。

日本の発電炉のうち，日本原子力発電(株)の東海発電所のものはコールダーホール改良型，同じく敦賀(つるが)発電所と東京電力の福島発電所は沸騰水型であり，関西電力の美浜(みはま)発電所のものは加圧水型である。

以上の発電炉はいずれも熱中性子炉*である。将来の動力炉としては，使用した燃料以上の燃料を同時に生産できる増殖炉*形式が望ましく，世界各国で開発中である。➔原子炉　〔加藤敏郎〕

げんしりょくへいわりようこくさいかいぎ　【原子力平和利用国際会議】　国際連合*の主催で，1955年8月8日から20日まで，スイスのジュネーブにおいて，原子物理学*者を含めた72か国代表を集めて開かれた原子力の平和利用についての国際会議。国際的協力のもとに原子力の平和的利用の方法を検討，特に原子力発電の開発その他，生物学・医学・放射線保護対策および原子力に関する基礎科学についての，より効果的な国際協力について討議したものである。第2回は1958年9月1日から13日まで，第3回は1964年8月31日から9月9日まで，いずれもジュネーブで開かれた。　〔広部和也〕

げんしりょくほけん　【原子力保険】　原子力危険から生ずる各種の損害の塡補(てんぽ)を目的とする保険の総称。通常は，陸上原子炉を対象とする原子力損害賠償責任保険と原子力財産保険および核燃料の輸送に伴う責任保険をいうが，現在わが国で大蔵省から認可を受けているのは原子力損害賠償責任保険だけである。これら原子力保険は，原子力の平和利用を可能にするための条件として重要な意味を有する。

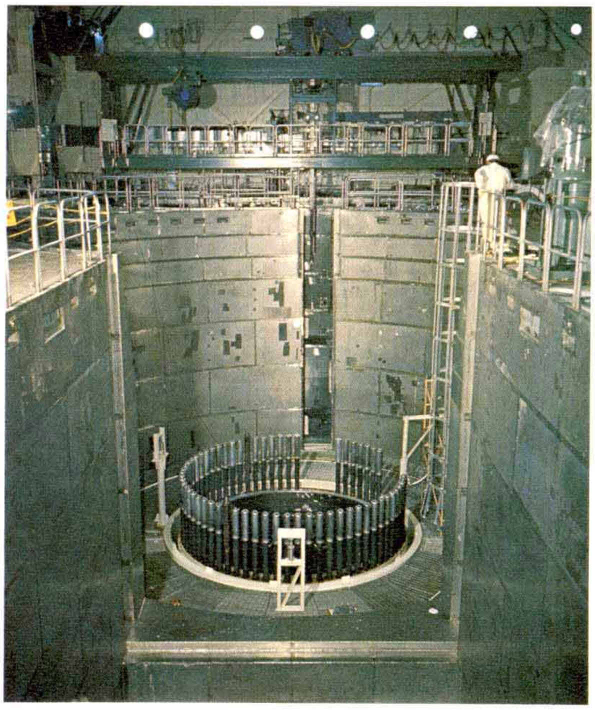
げんしりょくロケット　【原子力ロケット】　原子力を熱源とするロケット*。原子炉*でガスを加熱して噴射させる。化学ロケットでは熱とともにガスが発生して噴射するが，原子炉は熱を発生するだけであるから，原子ロケットは噴出するガスの材料を積まなければならない。原子力の出す熱は化学反応による熱の数百万倍であるが，原子炉の耐える温度は化学ロケットのそれと変わらないから，噴射ガスの温度も化学ロケット以上にすることはむずかしい。また，原子炉が重く，放射線の遮蔽膜(しゃへいまく)も必要なので，化学ロケットに比べて重いという欠点がある。ただ分子量最小の水素をそのまま噴射させることができるという利点(噴出ガスの速度，したがって比推力はガスの絶対温度を分子量で割ったものの平方根に比例する)のため，化学ロケットより性能が高い。アメリカでは1957年原子力ロケット開発のローバー計画が発足，まずロケット用の原子炉キウイが研究され，1961年からそれを用いたロケットエンジン〈ナーバ〉と原子力ロケット〈リフト〉を製作研究中で，完成すればサターン5型の第3段に用いることになっている。また，原子熱の直接利用として研究しているパルスロケットは，小形の原子爆弾の連続爆発によって水蒸気を加熱噴射させるもので，数万トンの宇宙船に適する。なお，イオンロケット*・プラズマロケット*・アークロケット(電極の間でアークを飛ばし，その熱で水素を加熱・噴出させるもの)も原子熱を用いるから，広義の原子力ロケットに属する。〔原田三夫〕

げんしりん　【原始林】　⇨原生林

げんしろ　【原子炉】　ウランなどの核分裂*を起こしやすい原子核に中性子を吸収させて，反応を制御しながら核分裂を連鎖的に行なわせる装置。

〔原理〕ウラン235(^{235}U)などのいわゆる核分裂性物質は，中性子を吸収して核分裂を起こす。このときに全体の質量が減少し，その代わりにエネルギーが生ずる。それと同時に2ないし3個の核分裂中性子が生まれ，これを別の核分裂性物質が吸収すれば再び核分裂を起こし，エネルギーが生まれる。ただし，核分裂中性子が別の核分裂性物質に吸収される割合は1よりも小さく，吸収されないまま体系の外へ飛び出したり，核分裂性物質以外のものに吸収されたりする。ところが，このウランなどの核分裂性物質と減速材*を適当に配置して核分裂中性子の速度を熱エネルギー程度まで落としていわゆる熱中性子*にしてやると，この中性子は核分裂性物質に吸収されやすくなり，核分裂の現象が非常に起こりやすくなる。その結果，1回の核分裂で出る2ないし3個の中性子のうち少なくとも1個が次の核分裂をひき起こし，一度核分裂が起きればあとは連続的に核分裂を起こし，エネルギーが継続的に生まれてくる。これがいわゆる連鎖反応*で，1942年(昭和17)12月2日にフェルミ*とそのグループがはじめてシカゴ大学で実現させた。この核分裂で生まれるエネルギーの総量は巨大で，1gのウラン全体が核分裂を起こすと8.2×10^{10}ジュールくらいのエネルギーが発生する。このような連鎖反応を持続させる装置が原子炉である。原子力の開発研究の進歩に伴って種々の改良が行なわれた。

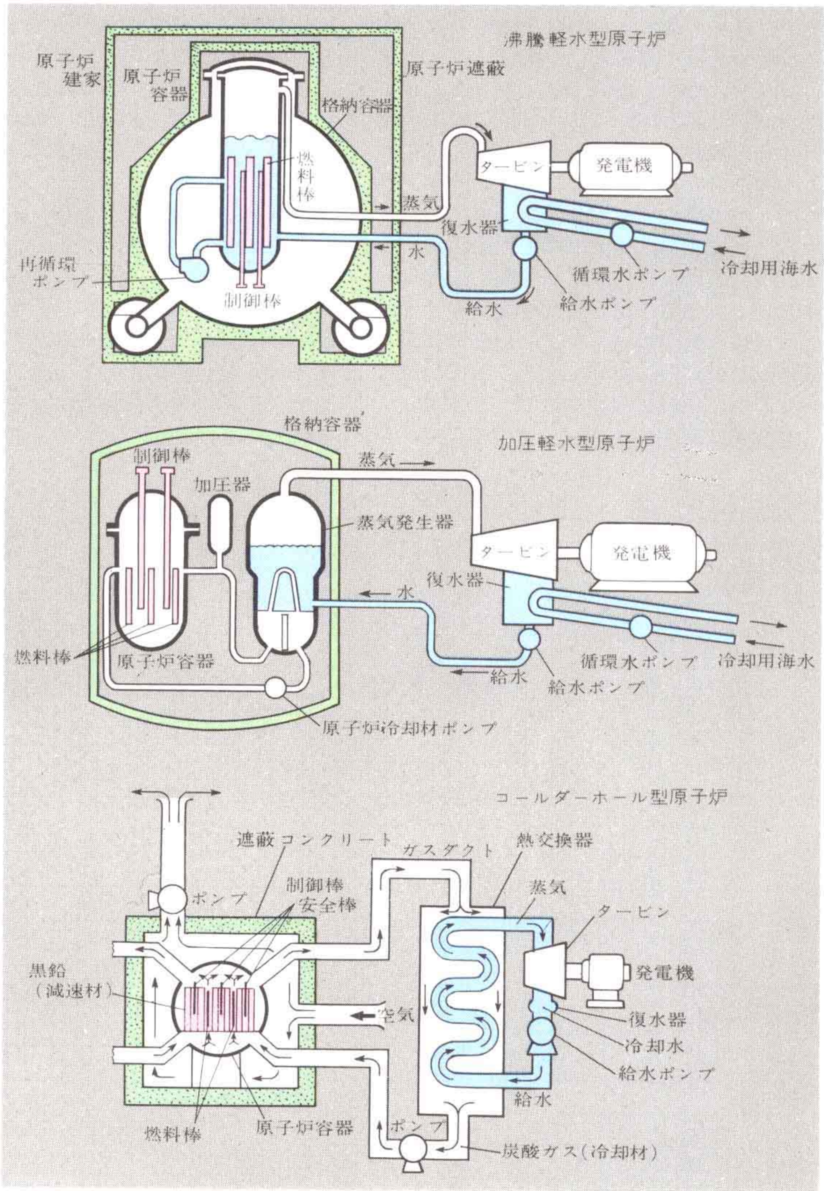
〔原子炉の構成〕原子炉を構成するおもなものは燃料体・減速材・制御棒*・冷却材・遮蔽材(しゃへいざい)などである。燃料体は原子核エネルギーを生み出すものであって，主として^{235}Uが使われるが，プルトニウム239(^{239}Pu)や^{233}Uも燃料体にはなりうる。この中で天然に得られるものは^{235}Uであるが，これも天然のウランの中には0.7％しか含まれていないので，ときにはこの割合を人工的に増加させていわゆる濃縮ウラン*として用いる。^{239}Puは^{238}Uが中性子を吸収してβ崩壊してできたものである。^{233}Uはトリウム232(^{232}Th)から同様にしてつくられる。燃料体の形状としては，金属の棒や板，酸化物あるいは硫酸ウラニルの溶液など，そのときの原子炉の形式に応じて適当なものを選んで用いる。使用量としてはあまり量が少ないと，核分裂中性子が次の核分裂を起こすまえに体系の外に出てしまって連鎖反応が続かないので，臨界量*が必要である。これは炉の形式・材料によって決まる量で



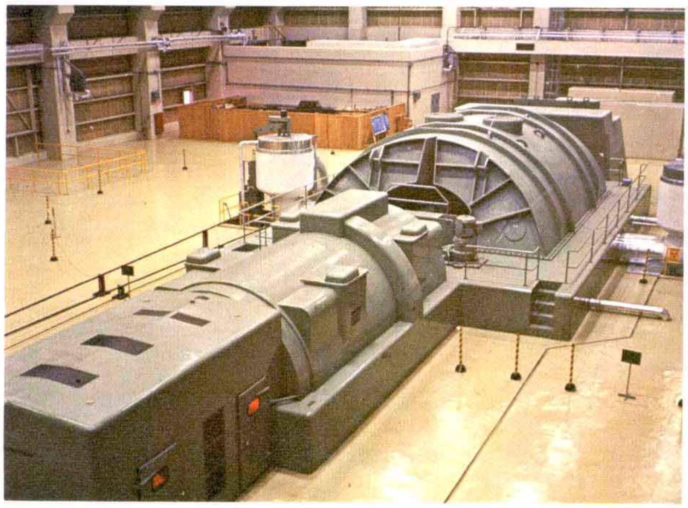
東京電力福島原子力発電所第１号炉(沸騰水型，電気出力46万kW)の炉心



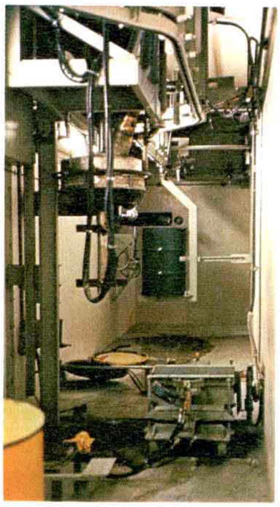
原子炉の制御室



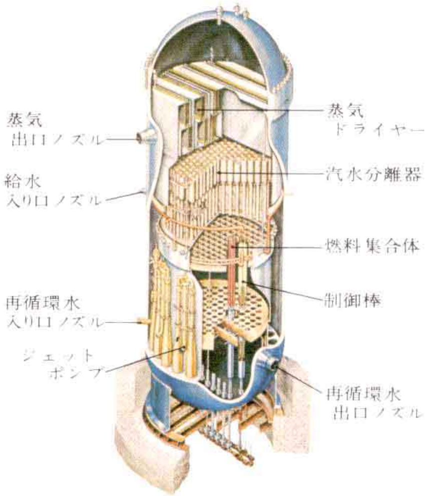
発電用原子炉の種類



日本原子力発電敦賀発電所のタービン発電機。タービン出力357,000kW，発電機容量420,000kVA



廃棄物処理場。ドラムかんに詰められる



断面構造図(沸騰水型)

ある。

減速材は，核分裂中性子のエネルギーを下げて別の燃料体に吸収されやすくするもので，軽水・重水*・黒鉛などを用いる(→重水)。原子炉内で発生した中性子はエネルギーが高く，平均 1 MeV(メガエレクトロンボルト)くらいである。しかし，次の核に吸収される割合はエネルギーが小さいほど大きくなるので，中性子のエネルギーを下げたほうが効果的である。そのために，原子炉内には核燃料とともに減速材を入れておく。核分裂で飛び出した核分裂中性子は，減速材中で何度も衝突して速度がおそくなり，最後は熱運動エネルギー程度になる。減速材は燃料体と混ぜて均一に分布させて用いたり，燃料体の間に並べたりする。

制御棒は原子炉のブレーキの役目をするもので，カドミウムやホウ素などの中性子を吸収しやすい物質でつくる。原子炉の燃料は通常必要量が全部原子炉内に挿入(そうにゅう)されている。この燃料を燃焼，すなわち核分裂を起こさせるには中性子を用いるが，この中性子の数は1回の核分裂あたり2ないし3個放出されるので，そのままではねずみ算的に増加して原子炉の出力は急激に増加し，ついには爆発する。そこで，制御棒を入れて核分裂に用いられる中性子の数を適当な数におさえて原子炉の出力を制御する。炉を停止するときは制御棒を炉内に入れ，起動するときは引き出す。炉内の燃料体からはわずかではあるが宇宙線*の影響や自発性核分裂によって中性子が出ている。また，炉内に放射性物質による中性子源をおくことも多い。これらの中性子は制御棒を引き出すことによって連鎖反応をはじめ，炉の出力が上昇する。出力が希望する大きさになったときに制御棒の位置を調節して原子炉をその出力で運転する。

冷却材は原子炉の内部を冷却するのに用いる。核分裂に伴って原子核エネルギー*が発生し，原子炉の内部は温度が高くなる。これを冷却するために，たえず冷却材を循環させる必要がある。冷却材はときには軽水または重水を用い，減速材として兼用することもあり，炭酸ガスなどを用いることもある。また高速増殖炉では，冷却材として液体ナトリウムが使用されている。動力炉の場合はこの冷却材が運び出す熱を利用してタービン用蒸気発生器を加熱する。

遮蔽材は，核分裂の際に発生する中性子や γ 線，または原子炉の中の放射性物質による γ 線や β 線などの放射線*が外部にもれないようにするものである。特に，運転員あるいは研究のためなどに原子炉周辺で働く人たちを放射線の危険から防ぐことは重要である。このために原子炉をコンクリートの壁で包んだり，原子炉の中心部を深いプールの中に置いたりして，外部に放射線をもらさないような設計がなされている。原子炉の遮蔽材としては，中性子に対する遮蔽効果が大きいこと，安価で成型しやすいことなどが特に要求される。通常はコンクリートを用いる場合が多い。

〔原子炉の特徴〕原子炉の特徴は，第1に少量の燃料から非常に大きなエネルギーが取り出せることである。エネルギー発生の割合を石炭と比較すると，たとえば10万kWの発電所の1年分の燃料は，石炭ならば約30万tを必要とするが，ウランならば100kgですむ。つまり，はるかに少量ですむので，輸送や燃料入れ替えの仕事が大幅に省けることになる。次に，酸素が不要であることも特徴である。このために，潜水艦や宇宙船のエンジンとしてきわめて有力である。その他，核分裂によってできるラジオアイソトープ*を理・工・農・医の各分野で利用し，新しい技術や学問の分野が発展できたり，原子炉内の中性子を核分裂以外に利用できることなども原子炉の特徴といえる。しかし，核分裂には放射線を伴い，また核分裂生成物*は強い放射能をもっており，これら人体に加えられる害を防ぐことは原子炉利用上の重大問題である。

〔原子炉の型式〕原子炉の型式は燃料体・減速材・冷却材などになにを選ぶかによって，また使用目的によっていろいろの型式が考えられる。均質炉*と非均質炉*という型式分類は燃料体と減速材の配置による型式分類である。均質炉は燃料体と減速材を一様に混ぜ合わせたものである。この型式の炉は理論計算を行ないやすく，構造も比較的簡単で安価であること，液体状燃料を循環させうること，燃料処理が連続的に行なえることなどの利点はあるが，天然ウラン

日本の動力炉一覧表(電気事業用)

(昭和55年9月末現在)

区分	設置者	発電所名	原子炉型式	認可出力(万kW)	運転開始年月日
運転中	日本原子力発電(株)	東海	GCR	16.6	41—7—25
	〃	東海第二	BWR	110.0	53—11—28
	〃	敦賀(1号)	〃	35.7	45—3—14
	東京電力(株)	福島第一原子力(1号)	〃	46.0	46—3—26
	〃	〃 (2号)	〃	78.4	49—7—18
	〃	〃 (3号)	〃	78.4	51—3—27
	〃	〃 (4号)	〃	78.4	53—10—12
	〃	〃 (5号)	〃	78.4	53—4—18
	〃	〃 (6号)	〃	110.0	54—10—24
	中部電力(株)	浜岡原子力(1号)	〃	54.0	51—3—17
	〃	〃 (2号)	〃	84.0	53—11—29
	関西電力(株)	美浜(1号)	PWR	34.0	45—11—28
	〃	〃 (2号)	〃	50.0	47—7—25
	〃	〃 (3号)	〃	82.6	51—12—1
	〃	高浜(1号)	〃	82.6	49—11—14
	〃	〃 (2号)	〃	82.6	50—11—14
	〃	大飯(1号)	〃	117.5	54—3—27
	〃	〃 (2号)	〃	117.5	54—12—5
	中国電力(株)	島根原子力	BWR	46.0	49—3—29
	四国電力(株)	伊方(1号)	PWR	56.6	52—9—30
	九州電力(株)	玄海原子力(1号)	〃	55.9	50—10—15
	小計		(21基)	1,495.2	
建設中	東北電力(株)	女川原子力	BWR	52.4	59—6(予定)
	東京電力(株)	福島第二原子力(1号)	〃	110.0	57—5(〃)
	〃	〃 (2号)	〃	110.0	59—1(〃)
	〃	〃 (3号)	〃	110.0	60—6(〃)
	〃	〃 (4号)	〃	110.0	60—12(〃)
	〃	柏崎・刈羽原子力(1号)	〃	110.0	60—10(〃)
	関西電力(株)	高浜(3号)	PWR	87.0	59—8(〃)
	〃	〃 (4号)	〃	87.0	60—2(〃)
	四国電力(株)	伊方(2号)	〃	56.6	57—3(〃)
	九州電力(株)	玄海原子力(2号)	〃	55.9	56—3(〃)
	〃	川内原子力(1号)	〃	89.0	59—7(〃)
	小計		(11基)	977.9	
建設準備中	日本原子力発電(株)	敦賀(2号)	PWR	116.0	61—3(〃)
	中部電力(株)	浜岡原子力(3号)	BWR	110.0	60—9(〃)
	九州電力(株)	川内原子力(2号)	PWR	89.0	61—3(〃)
	小計		(3基)	315.0	
合計			(35基)	2,788.1	

を燃料体とすると，核分裂に役に立たない^{238}Uによる中性子の吸収（共鳴吸収）を避けることなしに核分裂中性子を熱中性子にまで減速することはできないので，燃料体としては濃縮ウランを用いなければならない。この型式の炉の代表的なものは硫酸ウラニルを減速材の水にとかした沸騰水型原子炉で，日本原子力研究所*の1号炉もこの型である。非均質炉は核燃料を適当なかたまりにして減速材の中に置く。そして，核分裂中性子をできるだけ早く燃料の外，すなわち^{238}Uのない場所へ取り出して減速し，^{238}Uによって吸収を受けるエネルギー以下にしてから燃料体に送り返してやれば，無意味な中性子の損失を減らすことができる。したがって，この場合には天然ウランでも燃料として使用できるし，燃料と減速材の組み合わせや配置によって使用目的に最適な炉を設計することができる。わが国の発電1号炉である東海発電所の原子炉は天然ウランを用いて黒鉛で減速するコールダーホール改良型原子炉である。

用途別による型式分類によれば，研究炉と動力炉に分けられる。動力炉は核分裂エネルギーを発電のエネルギーに変換しうる炉のことであるが，この場合は多量の燃料を必要とする。特に，経済性の観点からは炉の出力が大きくなるほど有利とされているので，必然的に燃料使用量も多くなる。それに対して研究炉は，原子炉の設計運転に関する経験を積んだり，炉内の中性子を用いて材料の試験や物理化学の研究を行なったりするのに用いる。この場合は，連鎖反応が継続さえすれば動力として実用にならなくてもよい場合もあるので，燃料体も少量ですむことがある。

以上は，フェルミのシカゴパイル1号以来世界の大部分の炉に採用されてきた熱中性子炉である。このほかに，核分裂中性子をエネルギーが高いままで用いる高速中性子炉もある。高速増殖炉である。

〔動力炉〕発電炉として世界で最初に実用規模で運転がなされたのは，イギリスのコールダーホール発電所の原子炉である。わが国の発電用原子炉も，最初はこの型式のものが採用された。この原子炉は燃料に天然ウラン，減速材に黒鉛，冷却材には炭酸ガスを用いている。この型式の原子炉は開発の初期から経験が豊富であり，また燃料として天然ウランを用いるのでウラン濃縮の設備のない国でも容易に燃料を入手できる。しかし，天然ウランを用いるので燃料の必要量が増し，炉も大形になる。また，大きな地震などで黒鉛ブロックがくずれないような設計も必要となる。濃縮ウランを用いるものとしては，アメリカで開発された加圧水型原子炉と沸騰水型原子炉がある。これらの原子炉は，濃縮ウランの供給状況が好転したために，最近では世界各国で採用されている。加圧水型原子炉は燃料が濃縮ウランで，減速材と冷却材は兼用で軽水を使用している。この軽水には150気圧くらいの圧力が掛けてあり，この軽水によって原子炉内で発生した熱を外に取り出す。高圧が掛けてあるのでこの水は350℃くらいまでは沸騰しない。この熱を熱交換器で2次冷却水に与えてこれを高温の水蒸気に変えてタービンを動かす。この炉の特徴は，熱を高温の状態で取り出せるので熱効率がよいこと，1次冷却水の回路は閉回路になっているので1次冷却水中に生ずるかもしれない放射性物質が外部にもれるおそれの少ないこと，原子炉内で蒸気をつくらないので蒸気のあわによる原子炉の特性の変化がないことである。しかし，冷却系統を二重につくらねばならず，熱交換器も備えなければならない。沸騰水型は同じように燃料に濃縮ウランを用い，減速材と冷却材は兼用で軽水を用いるが，この軽水に掛ける圧力はせいぜい50気圧くらいである。そのため，冷却水は250℃くらいで沸騰する。この蒸気を直接タービンに送って発電を行なう。この原子炉の最大の難点は，炉内で蒸気が発生してあわができるため，原子炉の特性が変動して不安定になることである。しかし，技術の進歩はこの困難を克服した。この原子炉の特徴はいろいろあるが，まず熱交換器が不要であること，蒸気の気泡(きほう)の自然の浮力を利用すれば，冷却材の循環用ポンプの性能に対する要求も軽くなること，熱交換器での熱伝導もなくなるので熱効率がよいことなどである。わが国の発電2号炉である敦賀(つるが)発電所の原子炉は沸騰水型であり，関西電力の美浜(みはま)発電所の原子炉は加圧水型である。これらの炉型のほかに重水を減速材と冷却材に使用したキャンドゥー炉がある。カナダが開発した天然ウランを活用するための炉である。また，原子炉で発生するエネルギーを単に電力に変換して用いるのみでなく直接に高温の熱としても取り出し製鉄用，化学工業用などにも利用するための炉として多目的高温ガス炉がある。減速材として黒鉛，冷却材としてヘリウムガスを用いることによって摂氏1,000度の高温ガスを利用することが出来る。

〔高速増殖炉〕原子炉内では中性子が発生するので，この中性子を利用していろいろなことができる。この利用方法の中で最も特徴的なことは原子核燃料*の生産である。天然ウランには，核燃料として用いられる^{235}Uはわずか0.7％含まれるのみで，残りは中性子を吸収するが分裂はしない^{238}Uである。しかし，^{238}Uは中性子を吸収したあとにβ崩壊をして^{239}Puとなる。このプルトニウムは核分裂を起こしやすく，燃料として用いることができる。したがって，原子炉中に天然ウランまたは^{238}Uを多量に含んだ材料を置けば，核燃料の燃焼に伴い中性子が発生し，それが^{238}Uに飛び込んで新しい燃料をつくることになる。この場合，新しい燃料のほうを消費した燃料よりも多くつくることも可能で，そのような炉を増殖炉という。新燃料の量が消費燃料の量以下の場合は，その炉を転換炉という。原子炉が増殖炉として働くには，1個の消費中性子あたり2個以上の中性子が発生しなければならない。なぜならば，1個は原子炉の連鎖反応を持続させるために必要であり，残り1個が新しい燃料をつくるために用いられるからである。ところが，この条件を満たすには熱中性子炉では困難である。それは，中性子が燃料に吸収されたまま核分裂を起こさないこともあるからである。中性子を高速のままで用いると，中性子を吸収した核の内部運動は激しくなり，核分裂を起こす割合が大きくなって前記の条件が満たされる。このような原子炉を高速増殖炉という。この炉では中性子を高速のままで用いるので，中性子を燃料が吸収する割合が減少する欠点もある。したがって，炉心部分は高度に濃縮された燃料を用いなければならないが，その代わりに高温度で運転できる利点がある。ウラン資源を有効に利用するためには，ぜひとも高速増殖炉を開発しなければならない。わが国では国家的事業として動力炉核燃料開発事業団を1967年10月に設立して開発が行なわれている。なお，トリウムも同様にして^{233}Uに変換して核燃料として使用できる。

〔動力炉の研究開発〕原子力は将来の主要なエネルギーとなると考えられ世界各国で新しい型の動力炉の開発が行なわれ，わが国でも本格的な取組みを行なっている。従来の動力炉の型式で新燃料生産の比率をあげた新型転換炉と前述の高速増殖炉の開発が行なわれている。新型転換炉は電気出力16.5万kWの原型炉「ふげん」が1978年5月に臨界となり同年7月に初送電を行なった。高速増殖炉の実験炉「常陽」（熱出力5万kW）が1977年4月に臨界となり原型炉「もんじゅ」（電気出力30万kW）を開発するための技術と経験を蓄積している。ほかに多目的高温ガス炉の開発も進んでいる。➔原子力 ➔核分裂 ➔原子核燃料 ➔原子力船

げんしろえいせい　【原子炉衛星】 電力源として原子炉*を用いる人工衛星*。当初の人工衛星は化学電池や太陽電池を用いていたが，衛星が成長し，役目が多くなるにつれて使用電力が増大し，それらの電池ではまにあわなくなるので，アメリカ原子力委員会は1955年から軽量で出力の大きい原子力発電装置スナップの開発を進めている。まず，熱電対をラジオアイソトープの放射線で加熱して発電するスナップ3が航海衛星トランシットに試用されて好成績を示したが，出力が小さいので原子炉を用いる発電機が研究され，1959年スナップ2が完成した。その後も，出力の大きなものがつくられている（スナップ9A・スナップ10

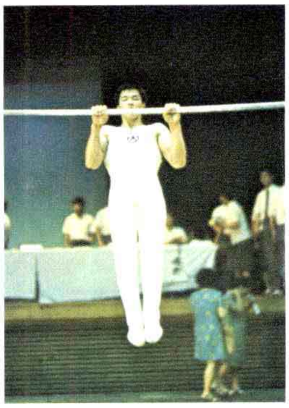
Aなど)。スナップにつけられる番号は動源によって区別され，熱電対を用いたものには奇数番号を，原子炉を用いたものには偶数番号をつける。〔原田三夫〕

げんしろん【原子論】 世界のいっさいの存在は，それ以上分割できないもの，すなわち原子(アトム)からなりたっているとする哲学説。原子論はあらゆる現象を原子の機械的運動によって説くところから，つねに唯物論*と結びついて発展した。原子論の最初の主張者は古代ギリシアのレウキッポス*とその弟子(でし)デモクリトス*である。彼らによれば，世界は空虚な空間と原子からなり，原子はたえず自己運動をしていて，その集合と離散によって世界のあらゆる事象や変化が生ずると説く。原子はアトム(〈不可分のもの〉の意)として極小の実在であり，すべて不生不滅，均質の充実体であるが，形や大きさ・重さなどが異なると考えられた。これはエピクロス*からルクレチウス*へと受け継がれ，古代原子論とよばれる。ルネサンス以後，自然科学の興隆とともに，ブルーノ・ガリレイらもこの原子論を採用し，さらに17世紀には，ガッサンディ*がエピクロスの原子論を復活させて，その後の流行を促した。〔本橋正義〕

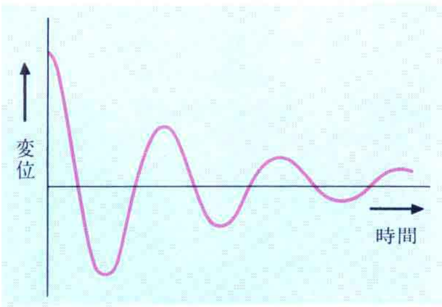
げんしん【元稹】(779〜831) 中国，唐代の詩人。白居易(はくきょい)の親友で，両者には詩文の贈答唱和が多く，詩の主張も同じで，当時，元白と称せられた。小説《会真記*》の著者。

げんしん【源信】(942〜1017) 平安時代の天台宗の僧。大和(やまと)(奈良県)葛城(かつらぎ)下郡当麻(たいま)の人。父は卜部正親(うらべまさちか)，母は清原氏。幼少のとき比叡山(ひえいざん)に登り，良源*に師事して天台宗の教学をはじめ広く仏教を学んだ。その修行中の話が《今昔物語》にある。985年(寛和1)少僧都の位を贈られたが，のちに栄名を避けて横川(よかわ)の恵心院(えしんいん)に住し，恵心僧都ともいわれる。《一乗要決》《観心(かんじん)略要集》などを著わして天台宗の教義高揚に努め，彼の教学を比叡山の檀那(だんな)院に住した同門の覚運(953〜1007)の檀那流に対し恵心流とよぶ。この反面，浄土信仰にも厚く，985年に撰述(せんじゅつ)した《往生要集*》は浄土教の聖典であり，日本に浄土信仰と念仏行が定着したのは本書に原因するとさえいわれ，後世浄土教の祖と仰がれるようになった。また，高野山の《聖衆来迎(しょうじゅらいごう)図》をはじめ，浄土教美術において源信作と伝えるものも多いが，真偽は不明である。〔佐藤成順〕

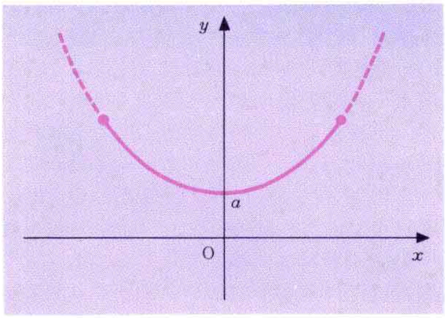
げんじん【原人】 1891〜1892年にジャワで発見されたピテカントロプス*，1927年に北京(ペキン)郊外の周口店で発見されたシナントロプス*，1935年および1938年に東アフリカのタンガニーカで発見されたアフリカントロプス*などが含まれ，中期洪積世(こうせきせい)(50万〜30万年前)に生息した化石人類*



懸　垂 1970年度世界体操選手権個人総合6位の本間選手演ずる懸垂



減衰振動



懸垂線

の総称。形態学的特徴は，身長165〜170cm，脳容量900〜1,100cc，眉上弓(びじょうきゅう)の発達が強く，突出の度合いは旧人*よりさらに強い。猿人(えんじん)*と旧人との中間の位置にある。伴う文化は，握斧(あくふ)・細石剝片(はくへん)の段階のもので，火の使用が認められる。

メガントロプス(ジャワ，ジュティス層)・モジョケルト(ジャワ，ジュティス層)・ハイデルベルク(マウエル)などの諸化石人類が含まれる。〔鈴木　尚〕

げんじんかん【原腎管】 高等動物の体内に寄生する扁形(へんけい)動物(ジストマ・条虫)や紐形(ひもがた)動物(ヒモムシ)などにみられる最も原始的な排泄(はいせつ)器官。管系は曲がりくねって分枝し，その枝の末端に炎(ほのお)細胞という細胞があり，これから管の内腔(ないこう)に向かって繊毛*の束が出ている。これが炎のように揺れ動くのでこの名がある。この細胞が体内の老廃物を摂取して管内に送り，体外にこれを捨てる。管系は体の左右に1対，または体の中央に一つあって，排出孔で体外に開口している。〔蟠井　勉〕

ケンシントン［Kensington］ イギリス，ロンドン市内の西部地区。テムズ川北岸にあたり，もと首都区の一。人口21万3,000(1967)。ケンシントン宮を中心にケンシントン公園・自然史博物館・科学博物館・ビクトリア博物館など由緒(ゆいしょ)ある建造物が多く，文教地区となっている。

けんすい【懸垂】 鉄棒・平行棒・つり輪運動の基本姿勢。器械体操*で，横木・鉄棒を両手または片手で握り，空中にぶらさがった状態をいい，手の握りには，順手・逆手・片逆手などの方法がある。順手を用いて，懸垂の姿勢から肘(ひじ)関節を屈曲させながら，あごが鉄棒の上に達するまで持ち上げ，肘関節を伸展させながらはじめにもどる懸垂腕屈伸運動は文部省のスポーツテストで12歳以上の男子運動能力テストの一つになっている。また10・11歳の男子と女子全部には低鉄棒を使い，足を地上につけて斜めにさがった斜め懸垂腕屈伸を行なわせている。〔伊東春雄〕

げんすい【元帥】 元帥府に列せられた陸海軍大将に与えられた称号。元帥府は1898年(明治31)天皇の軍事上の最高顧問府として設けられたが，元帥府としての特定の活動はなかった。元帥は他の大将のように退役することがないので，軍の長老として大きな発言力をもった。なお，外国では元帥を軍の最高階級として設けているところが多い。

けんずいし【遣隋使】 7世紀の初頭，聖徳(しょうとく)太子*が4回にわたって隋*に派遣した朝廷の使節。第1回は600年(推古8)に遣使したことが《隋書》にみえる。第2回は607年に小野妹子*(いもこ)が，翌年の第3回も妹子が隋使裴世清(はいせいせい)の帰国の際に派遣され，第4回は614年に犬上御田鍬(いぬがみのみたすき)が派遣されている。妹子の携えた国書が対等外交の立場でしるされているのは有名である。5世紀末以来絶えていた対中国外交は，ここにおいて再開され，また遣隋留学生・学問僧の派遣によって以後中国文化・制度の直接摂取の時代にはいった。高向玄理(たかむこのくろまろ)・僧旻(そうみん)・南淵請安(みなぶちのしょうあん)らは，帰朝後大化改新に寄与した。遣隋使の事業は遣唐使*に引き継がれた。〔柳雄太郎〕

げんすいしんどう【減衰振動】 時間の経過とともに振幅がしだいに減っていく振動。振り子の振動，ばね・発音体などの弾性振動は摩擦・抵抗のために，また電気振動はジュール熱*や電波の放射などのために減衰振動となる。減衰振動では，振動系のエネルギーは熱などの形で外へ放出され，外界からのエネルギーの供給がなければ，振動はやがて消滅する。

けんすいせん【懸垂線】 均質で太さが

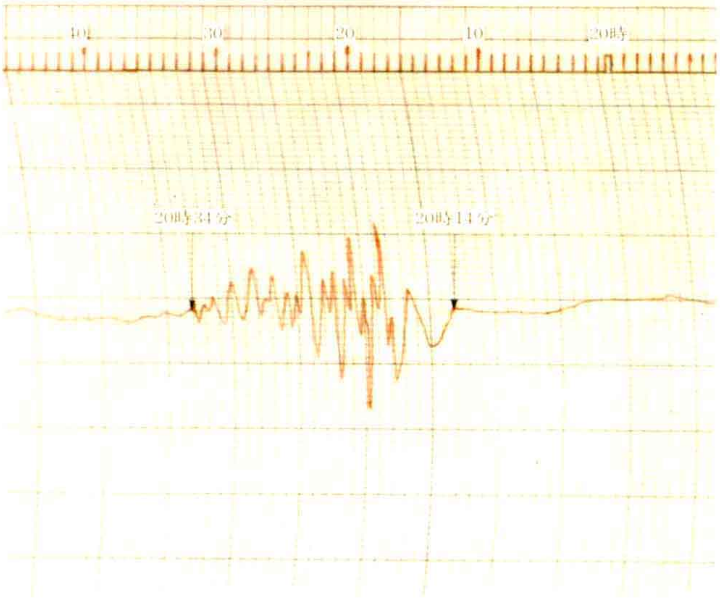
一様なひもの両端を固定して自然にたらしたとき，そのひものつくる曲線。カテナリーともいう。図のような位置に直交座標軸をとると，その方程式は

$$y=\frac{a}{2}\left(e^{\frac{x}{a}}+e^{-\frac{x}{a}}\right)$$

となり，aはy軸との交点を表わす。

けんすいてつどう【懸垂鉄道】⇨モノレール

げんすいばくきんしうんどう【原水爆禁止運動】 原子爆弾・水素爆弾などいっさいの核兵器*の実験・製造・保有・拡散・使用を全面的に禁止することをめざす世界的・大衆的な平和運動*。1954年(昭和29) 3月1日，ビキニ環礁付近で操業中の静岡県焼津(やいづ)市の漁船第五福龍丸(ふくりゅうまる)がアメリカの水爆実験による死の灰を浴び，のち死者を出すという事件は，広島・長崎の2度にわたる被爆経験をあらためて考えなおさせることとなり，ここに〈ノーモア-ヒロシマ〉〈ノーモア-ナガサキ〉の訴えをもって始められた。東京都杉並(すぎなみ)区の主婦たちによる署名運動はまたたく間に全国に波及し，1954年8月原水爆禁止署名全国協議会が結成され，翌年9月原水爆禁止日本協議会の成立をみるに至った。この間に集められた署名は全国で3,000万人を越え，1956年2月には衆・参両院で原水爆実験禁止の決議を満場一致で可決させた。これよりさき，1950年平和擁護世界大会委員会は〈ストックホルム-アピール*〉を採決し，原子兵器の禁止，そのための国際管理を提唱するとともに，最初に原子兵器を用いた政府は人類に対する犯罪行為であり，戦犯とみなされるべきことを警告したが，1955年6月ヘルシンキ世界平和大会が8月6日を平和のための世界行動日と決めたのを受け，日本における平和運動は，アインシュタイン・バートランド-ラッセル・ジョリオ-キュリーらも参加する世界の平和運動に合流して，1955年広島被災の8月6日，広島で第1回原水爆禁止世界大会を催し，以来，毎年世界平和運動の中心としての位置を占めている。しかし，原水爆・原子兵器の禁止が国際的緊張をはらんだ現実の政治的状況下で問題とされるので，運動の発達につれて政治の壁に突きあたらざるをえなかった。政党の政策・イデオロギーの違いが運動方針に反映し，核兵器禁止平和建設国民会議(略称核禁会議，自民党・民社党・同盟会議系)が分裂したのをはじめ，ソ連の水爆実験(1961)をめぐる〈平和の敵〉論争，部分的核実験禁止条約(1963)の評価でさらに対立が顕在化し，第10回大会以降は分裂のやむなきに至った。現在，原水爆禁止日本協議会(略称日本原水協，共産党・一部中立系)，原水爆日本国民会議(略称原水禁，社会党・日本労働組合総評議会系)に分かれ，国際的にも中ソ対立のあおりを受けて分岐が生じている。〔寺尾方孝〕



原水爆実験 微気圧計自動記録(東京管区気象台)に現われた中国水爆実験による空気振動(1970年10月14日)。発振時刻20時14分，最大振幅0.03ミリバール(1目盛りが0.002ミリバール)，周期3分，継続時間20分

げんすいばくじっけん【原水爆実験】原子爆弾・水素爆弾など核兵器の威力をためす実験。核実験ともいう。第2次世界大戦の末期，1945年(昭和20) 7月16日に，アメリカ合衆国ニューメキシコ州南部のアラモゴルドに近い砂漠(さばく)で成功した1発の原爆実験は，翌月の広島・長崎における原爆の使用とそれによる悲惨な戦禍をもたらした。第2次世界大戦が終わってからも，1946年6～7月のビキニ実験(アメリカ，2発)，1948年3～4月のエニウェトク実験(アメリカ，3発)，1949年8～9月のソ連による初実験と，原爆実験が続けられた。さらに1951年春にはエニウェトク環礁でアメリカによる初の水爆実験が行なわれたあと，アメリカ・ソ連による原水爆実験が毎年くり返され，二大強国による〈恐怖の均衡〉の象徴と化していった。一方，イギリスは1952年11月に，フランスは1960年2月に，また中国は1964年10月に，それぞれ第1回めの原爆実験を行ない，これら3国はいわゆる核保有国の仲間入りをするに至った。これに対して，原水爆そのものおよび原水爆実験に反対する運動が，日本をはじめ各国で盛んになり，民衆運動としては1950年の〈ストックホルム-アピール*〉の署名運動が総数約5億の署名を集めた。この運動は，朝鮮戦争における原爆使用を阻止する重大な要因となったが，その後もアメリカ・ソ連の原水爆実験が続けられたため，特に日本においては原水爆実験禁止運動*が盛んになり，これが世界各国の禁止運動をリードして今日に至っている。この状況と，国際政治の現実的条件とが複雑にからみ合って，1958年には核実験停止会議*がアメリカ・イギリス・ソ連によりジュネーブで開催され，アメリカとソ連の対立が続く中で1963年に至りようやく地下を除く大気圏外・水中での実験停止条約(部分核停条約*)が仮調印されるに至った(→核実験停止条約)。しかしながら，この条約にフランスと中国は加入しておらず，また西ドイツ・イスラエルなどによる原水爆研究が報じられる中で，原水爆とその実験の全面禁止の実現は，きわめて多難な前途を思わせるものがある。〔藤井冬木〕

げんすうぶんれつ【減数分裂】 体細胞において2倍性(2n)であった染色体数が，1倍性(n)になるための特殊な核分裂。ふつう，有性生殖を行なう生物で生殖細胞ができるときに行なわれ，成熟分裂・還元分裂ともいう。減数分裂を行なうことによって，受精してできた新個体は再び2nとなり，染色体数が代々変わることなく一定に保たれる。減数分裂は第1分裂と第2分裂の2回の有糸分裂が続いて起こり，ふつう第1分裂で染色体が半減される。この場合，第1分裂を異型核分裂，第2分裂を同型核分裂という。第1分裂と第2分裂とによって，1個の精母細胞(花粉母細胞)から4個の精子(花粉)が生じる。1個の卵母細胞からも4個の細胞が生じるが，そのうち3個は退化して1個の卵細胞となる。第1分裂の前期に相同染色体が接着(対合または接合という)して二価染色体になるが，このとき染色体に交叉(こうさ)が起こって染色体のつなぎ換えが行なわれると，染色体上に配列している遺伝子の組み換えが起こることとなる。これは染色体数が半減することとともに，減数分裂のもつ大きな意義の一つである。➔細胞分裂〔高島文三〕

ゲーンズボロ［Thomas Gainsborough］(1727～1788) イギリスの画家。1740年にロンドンに出て学び，のちに故郷のサフォーク州サドベリに帰るが，40歳を過ぎて再びロンドンに出，ロイヤル-アカデミーの会員となる。その肖像画はレイノルズ*に比肩し，バン-ダイク*の影響が著しい。ま



ゲーンズボロ《収穫の馬車》
1786　テート・ギャラリー

た，イギリス風景画の先駆者として，同郷のカンスタブルらに多くの影響を与えた。

げんせい【現世】⇨地質時代

げんぜい【減税】税の軽減をいい，一般に免税点・諸控除の引き上げや税率の引き下げを行なって，税負担の軽減を図ることをいう。諸控除の引き上げや税率の引き下げを行なった場合，全体としての税収入は減少するのが普通だが，ときにはそれほど減少しないか，かえって増加することもある。したがって，減税措置については，①税制上の減税と，②税収額上の減税とを分けて考えてみる必要がある。税制上の減税措置は，可処分所得を増加させ，消費を増加させて，結局当初予定した減税額の乗数倍だけ国民所得を新たに増加させることになる。そこで，軽減された税制のもとでの税収も，当初予定した額より大きくなり，税収面に現われた実際の減税額は当初予定した減税額よりも小さくなっている。さらに，物価上昇など減税以外の要因による名目所得の増大があれば，税制上の減税にもかかわらず，実際の税収は当然増大していくことになる。〔西野義彦〕

げんせいいでん【限性遺伝】遺伝子の発現がつねに片方の性にのみ限られる遺伝形式をいう。通常，性染色体(XY型ではおもにY染色体)上に位置する遺伝子により支配されるが，まれに常染色体上の遺伝子の働きによる場合もある。ヒトの限性遺伝の例として，耳毛過多症，蹼趾(ぼくし)(足指の間にみずかきに似たものができる)などがあるが，この形質はつねに男性に現われ，女性にはみられない。

けんせいかい【憲政会】大正時代の政党。1916年(大正5)立憲同志会を中心に中正会・公友倶楽部(くらぶ)の一部が合同して結成され，野党として官僚的な寺内内閣に臨んだ。総裁には同志会の加藤高明，総務には尾崎行雄・若槻(わかつき)礼次郎・浜口雄幸(おさち)・安達(あだち)謙蔵らが就任。元老否認，憲政の常道を主張し，結党直後は197の議席を占めて過半数を制したが，いわゆる〈苦節10年〉の長い野党時代が続き，党勢は下向した。1924年政友会・革新倶楽部と護憲三派を結成し，憲政擁護運動(第2次)の中心となって加藤高明を首班とする護憲三派内閣を実現した。翌年単独で第2次加藤内閣を組織したが，加藤首相病死によって第2次憲政会総裁になった若槻礼次郎が内閣を継承した。1927年若槻内閣総辞職後，党は政友本党と合同して立憲民政党となった。〔千野境子〕

けんせいかい【研精会】長唄(ながうた)の演奏団体。正しくは長唄研精会。1902年(明治35)に，唄の4世吉住(よしずみ)小三郎(現，吉住慈恭)と三味線(しゃみせん)の3世杵屋(きねや)六四郎(のちの2世稀音家(きねや)浄観)によって設立された。その目的は，舞台を離れて，演奏会形式で長唄を演奏することであり，またその形式にふさわしい新曲を作曲することであった。定期公演によって上流家庭に親しませたため，長唄への認識を改めさせ，品のよいものとして家にはいることを可能にした。作曲面では，半井(なからい)桃水や坪内逍遙(しょうよう)の協力を得て《鳥羽の恋塚(こいづか)》《紀文大尽》《鉢(はち)かつぎ姫》《神田祭》などがつくられた。また，小四郎・六四郎は1929年(昭和4)から東京音楽学校の長唄科を指導し，さらに楽譜の出版を盛んにしたことも，間接的には研精会と関係がある。1947年の400回公演以来，5世吉住小三郎，4世杵屋六四郎に受け継がれているが，現在は演奏会形式が一般化したため，特に目だった団体活動ではない。〔徳丸吉彦〕

げんせいじんるい【現生人類】ホモ-サピエンスに属し，クロマニヨン人および同時代の多様な種を直接の祖先とするもの。その発生は，第四氷期の時代，後期旧石器時代に出現し，すでに当時から人種差が認められる。すなわち，コーカソイドの原形であるクロマニヨン人，エスキモー・プロトモンゴロイドの祖先であるシャンスラード人，ニグロイドの原形としてのグリマルディ人があった。人口の増大，環境適応などによって各地方に分かれ，そこでそれぞれ発展し，生物的・社会的変異を生んだ。15世紀の大航海時代を境として，人種あるいは民族間の交流・混血が著しくなり，現生人種の分布図は大きく変化しつつある。〔鈴木　尚〕

げんせいだい【原生代】⇨先カンブリア代

けんせいとう【憲政党】明治時代の政党。1898年(明治31)6月板垣(いたがき)退助の自由党と大隈重信(おおくましげのぶ)の進歩党とが合同して結成された。両党は一致して第3次伊藤博文(いとうひろぶみ)内閣の増税案に反対し，議会解散後野党の不利を避けるため合同。議席の過半数を獲得して大隈重信を首相，板垣退助を内相とする日本最初の政党内閣(隈板(わいはん)内閣)を組織した。しかし10月に両派は分裂し，内閣も崩壊。旧自由党系は自派だけで憲政党を再組織(のち政友会)し，進歩党系は憲政本党を結成した。〔千野境子〕

げんせいどうぶつ【原生動物】動物分類学上の一門。原虫ともいい，単細胞の体をもつ動物群をいう。細胞は1個またはそれ以上の核と原形質からなり，原形質の分化による種々の細胞器官がある。細胞器官は，体が多くの細胞からなる後生動物の器官にあたるもので，繊毛・べん毛・仮足や消化をつかさどる食胞，排出をつかさどる収縮胞，色素体・ピレノイド・眼点などがある。生殖は，無性的には二分裂や出芽などによって行なわれ，有性的には交尾や接合によるが，雌雄性を現わすものは少ない。海陸を問わず地球上に広く分布し，種類ごとの分布も地理的な限界がない場合が多い。約30,000種を数えるが，わずかな例外を除いては顕微鏡的な大きさである。石灰質の外殻(がいかく)をもつものもあり，カンブリア紀以後現世まで化石が残っている。単細胞構造であるところから，体構造が最も簡単な動物とみなされて，従来から分類学上最も下等なものとされているが，後生動物に匹敵するような複雑な生理機能をもち，複雑な構造を体内に収めているので，必ずしも最も下等な動物と断定されるべきものでもない。後生動物が原生動物から生じたということは，一般的に認められてはいるが，むしろ長い進化の過程で，後生動物が細胞群の集まりによる組織・器官の発達の方向に進んだのに対し，原生動物は細胞内における機能・構造の分化の方向に進んだものであると考えられている。〔菅野　徹〕

けんせいほんとう【憲政本党】明治時代の政党。1898年(明治31)11月憲政党分裂後，旧進歩党系で結成した。党首は大隈重信(おおくましげのぶ)。都市商工業者を地盤に，少数野党として旧自由党系が再組織した憲政党(のち政友会)と対立した。党内の内紛が絶えず，1907年大隈は引退。脱党者があいついで党勢は衰退し，のち立憲国民党に吸収された。

けんせいようごうんどう【憲政擁護運

動】 護憲運動ともいう。明治憲法体制下，藩閥内閣に反対し，政党内閣による立憲政治擁護をめざした運動。
〔第1次〕1912年(大正1)第2次西園寺公望(さいおんじきんもち)内閣崩壊後，内大臣桂(かつら)太郎*が第3次内閣を組閣すると，政友会の尾崎行雄，国民党の犬養毅(つよし)らはこれに反対した。世論も憤激し，桂は天皇に助力を求めて議会を圧迫したが，運動はなお高揚した。内乱を恐れた桂内閣は組閣53日で総辞職。
〔第2次〕1924年清浦奎吾*(けいご)内閣が成立すると，特権官僚内閣打倒・憲政擁護を掲げて護憲三派(憲政会・政友会・革新倶楽部(くらぶ))の共同戦線が発足，普通選挙断行・貴族院改革・行政財政整理の運動を起こして国民の支持を獲得した。総選挙に勝利し，第1次加藤高明内閣(護憲三派内閣)を組織した。これは大正デモクラシー*の最後を飾る護憲運動の成果であった。〔千野境子〕

げんせいりん 【原生林】 原始林ともいう。天然林で，過去に計画的に伐採された経歴がなく，現存する樹種によって世代のくり返しが行なわれている森林。文明の発達した今日では，奥地林や特別に保護されている地域でしか見ることができない。

げんせき 【阮籍】 (210～263) 中国，魏晋(ぎしん)の文学者。竹林の七賢*のひとり。旧礼教に反抗し，人に対して好悪の情をあからさまに示したが，のち慎重な人生態度をとった。酒を愛し，沈酔したが，これも乱世において韜晦(とうかい)する手段であったともいわれる。文章も詩もともにすぐれているが，難解である。《詠懐詩》数十首が残っている。

けんせきうん 【絹積雲】 絹雲・絹層雲とともに最も高い所にでき，無数の小さい雲片が規則的に並んで，魚群やさざ波のように見える氷晶雲。巻積雲とも書く。日本付近ではだいたい5,000～13,000mの高さにでき，雲のない青空に発生することもあるが，絹雲や絹層雲がこの雲に変わったり，逆にこの雲から絹雲や絹層雲に変わったりする。見かけは高積雲と似ており，澄んだ青空に現われるとたいへん美しく，うろこ雲・さば雲・いわし雲などのよび名がある。なお，縁に緑やピンクの薄い色がついていることがあるが，これは太陽の光が雲の粒で回折されてできる現象で，彩雲*とよばれる。➔雲 〔曲田光夫〕

けんせつきかい 【建設機械】 水資源開発・農地開拓などの国土の開発のほか，道路・鉄道・港湾などの交通施設ならびにその他の土木事業および建築施工において用いられる建設工事施工用の機械類の総称。建設工事は掘削(くっさく)・浚渫(しゅんせつ)・盛り土・運搬などの土木作業が中心で，構築物・建築物の材料としても土砂・石材・セメント・木材・鋼材などを取り扱い，単一材の重量が大であるばかりでなく，使用量もきわめて多い。また，最近の労働力の減少と工事量の増大に伴って，少ない労働力で大工事量を消化し，しかも工期を短縮して経済的に仕上げ，なおかつ構造物の質を向上・均一ならしめるために機械化が要望されている。建設機械の出現は19世紀の産業革命以後で，1970年以降ワットの発明による蒸気機関を利用して杭(くい)打ち機・機関車・トラクターが出現し，19世紀末に電動機を動力源に利用，さらにガソリン-ジーゼルによる内燃機関の利用と動力源の利用とともに変化している。わが国では1897年(明治30)ごろから機械化が行なわれたが，第2次世界大戦後は各種機械の輸入があいつぎ，また国産化や新機種開発も進み，機械の大形化とともに小形で手軽に操作できるものが普及している。建設機械は多種にわたるが，おもなものは次のとおりである。①掘削機械：パワーショベル・トラッククレーン・バケットなど，②掘削・運搬機械：トラック・ブルドーザー・スクレーパー，③運搬機械：トラック・トレーラー・レッカー・ベルトコンベアー・クレーン・ウインチ・ホイスト，④積み込み機械：トラックショベル・ロッカーショベル・ショベルローダー，⑤基礎工事用機械：杭打ち機・杭抜き機・グラウトポンプ，⑥穿孔(せんこう)機械：ボーリングマシン・削岩機・アースドリル，⑦整地機械：モービルグレーダー・ロードローラー・タンピングローラー，⑧舗装機械：アスファルトプラント・アスファルトフィニッシャー・コンクリートプラント。そのほかにコンクリート関係機械・作業船・砕石選別機などがある。 〔神山幸弘〕









建設機械
①パワーショベル
②杭打ち機
③ブルドーザー
④振動ローラー

けんせつぎょう 【建設業】 建設工事を施行することを主とする事業。建設工事とは，建築物・土木施設などの新設・改修・移転をはじめ，土地・水路などの造成・改良，さらに機械装置の設置・解体・移転までをいう。したがって，建設業にはきわめて広範囲の事業が含まれるが，これらの建設工事の全体を扱うものを総合工事業，一部を専門的に扱うものを設備工事業・職別工事業と分類する。
建設業は，産業活動から日常生活にまで関係し，国民経済の規模の拡大に伴って発展していく。わが国の建設投資の伸びは著しく，国民総生産に対する比率は一貫して上昇しており，1969年(昭和44)度の建設投資額は12兆4,000億円に上り，国民総生産

に占める建設投資の比率は1960年の15%からいまや20%に相当している。

このような建設需要の増大に対応して，建設業の就業者は1960年の230万人から1969年には360万人に達し，他方建設大臣登録業者数は1960年の約3,000から1969年には約4,800に増大しているが，ここ数年は頭打ち状態にあり，中小零細建設業者の経営が必ずしも順調でないことを物語っている。これに対して，大規模な建築工事や巨大な土木工事を手がけるトップクラスの総合工事業者，たとえば年間施工高2,000億円を越す大林組*・鹿島(かじま)建設*・清水(しみず)建設*・大成建設*・竹中工務店*の大手5社をはじめとする大企業の地位はゆるぎがない。設備工事業は電気工事と管工事を手がけるものが主で，配線・暖冷房工事専門の大手のほか，日立製作所・東京芝浦電気などの巨大企業，三井・三菱(みつびし)などの大商社の進出が目だっている。職別工事業には，鉄骨・鉄筋・サッシ部門も含まれるが，その主要部分は大工・左官・鳶(とび)などの工事である。それゆえここでは，熟練労働者をいかにして確保するかが問題である。

建設業は本来，労働集約的な産業であり，労働力需給の逼迫(ひっぱく)は総合工事業・設備工事業にとっても重要な問題であることに変わりはない。これに対処して，建設工事のプレハブ化が進められているが，これが極度に進むと建設業と製造業の境界はなくなり，大手メーカーの建設業界への進出を促進する結果となる。この点で，大手建設業者の将来は必ずしも安泰とはいえず，激しい競争が展開される可能性はいっそう増大するものと予想される。➔住宅産業

〔原　豊〕

けんせつこうさい【建設公債】 ⇨公債

けんせつしょう【建設省】 建設行政をつかさどる国の中央行政機関。1948年(昭和23)建設院が昇格して省となった。国土計画・都市計画の調査・立案，土地の測量，区画整理，河川・道路・水道・下水道・運河の建設・管理などを主たる任務とし，建設大臣を長とする。内部部局として大臣官房のほか，計画・都市・河川・道路・住宅・営繕の6局，地方支分部局に地方建設局(全国8か所)，付属機関として国土地理院・土木研究所・建築研究所・建築大学校，各種の審議会がある。なお，首都高速道路公団・日本道路公団・日本住宅公団・住宅金融公庫などは建設省の管轄下にある。〔寺尾方孝〕

けんせつぼうせき【牽切紡績】 連続繊維の集束を引き切って不連続な繊維長からなる繊維束とし，縒(よ)りをかけて紡ぐ方式のこと。その方法によってパーロック式・コンバーター式・直紡式などがある。化学繊維のフィラメントをそのまま原料とし，混綿・打綿・梳綿(そめん)・練条などの短繊維紡績に必要な工程を省略して，直接に紡ぐことができることを特色とする。スパンレーヨン糸の製造に応用されることが多い。糸は収縮率のやや大であることが特色である。〔小川安朗〕

げんぜりやく【現世利益】 仏教で，死後に受けるべき利益を当益というのに対して，この世で受ける仏・菩薩(ぼさつ)の恵みや善行の果報をいう。《法華経(ほけきょう)》《金光明経》《薬師経》などの大乗経典に多く説かれている。密教では，現世祈禱(きとう)といって，病気や災難からのがれる息災法，国家・社会・個人の福利を増進する増益法，敵をのろい滅ぼす調伏法などの修法を行なう。浄土教では，念仏にはすべての徳が備わっているとして，この世で受ける念仏行者の利益が説かれているが，現世利益はそれを目的や手段とするものではなく，信仰によっておのずから与えられるべきものとみる。他の宗派でも一般に宗教性の低いものとみなしている。〔藤井正雄〕

げんせんかぜい【源泉課税】 ⇨源泉徴収

けんぜんざいせい【健全財政】 収支が均衡を保ち，かつそのときの経済活動の水準からみて妥当と思われる規模と内容をもった財政をいう。均衡財政*あるいは超均衡財政と同じ意味に用いられる場合もあるが，健全財政という場合には，さらに国民経済との関連で財政が規模・内容とも健全な状態にあるという意味を含んでいる。したがって，国民経済との関連が重視されるような形で用いられる場合には，収支の均衡ということは，それほど厳密な意味をもたなくなる。〔西野義彦〕

げんせんちょうしゅう【源泉徴収】 徴税の便宜上，本来の納税義務者が直接納税するという形をとらず，納税義務者に所得を支払うものがその支払いに際して税金相当額を天引き徴収し，これを一定期日までに国などに納付する制度をいう。源泉徴収制度は，納税義務者にとっては，債務の分割払いにより納税が容易になること，国などの課税主体にとっては，所得の把握(はあく)が確実で，徴収が確保されると同時に，徴税上の手数および費用が少なくてすむことなどの利点がある。現在，源泉徴収を行なっているおもなものは，①給与所得，②退職所得，③配当所得・利子所得，④原稿料・講演料など，⑤生命保険年金，などである。給与所得の源泉徴収については，原則としてその年最後の給与の支払いの際，各人の源泉徴収税額の合計額を，年間給与額に対して諸控除を適用して算出される正当な税額に調整し，その過不足額を清算する〈年末調整〉が行なわれる。年末調整の行なわれた給与については，ほかに50,000円以上の所得がある場合を除き，申告納税をする必要はない。〔西野義彦〕

げんそ【元素】 もと，それ以上どんな方法によっても2種以上のものに分解できない物質を意味し，すべての自然現象は，これらの物質の混合・離散によって生ずると考えられていた。しかし，原子の概念の確立した現在では，原子自身が素粒子によって構成されていることが明らかであり，また元素の人工変換によって上述のような定義はあいまいになったので，〈元素とは，ある特定の原子番号をもった1種類の原子よりなる物質である〉と定義する。

元素の概念は古くから存在したが，古代の中国・エジプト・ギリシア・インドにおいては，それらは実験的根拠のない思考だけに基づくものであった。ギリシアのターレス*が水を，エンペドクレス*が土・水・火・空気の四つを物質の基本的構成要素とする四元論を唱えたのはよく知られている。また，古代インドにおける地・水・火・風を4元素と考えた四大説，および五大説(地・水・火・風・空)も同じ考えに基づいたものである。中世では，錬金術*の流行とともに化学的知識がしだいに集積され，錬金術師の中には種々の実験に基づいて，水銀・イオウなどを元素とする者も現われたが，近代的な元素観に立ったものではなかった。17世紀になって，ボイル*がそれまでの考えを批判し，実験的な研究に基づいて元素を定めなくてはならないと主張した。すなわち，彼は，元素とはどんな実験的手段によってもそれ以上単純な要素に分けられない物質であるとした。こうして，17～18世紀には，定量的な化学分析の進歩とともに，元素が次々と確認されていき，ついに約30種が知られるようになった。

19世紀から20世紀にかけては，一方において原子論*の発展によって原子の概念が明確になり，他方において分光分析法や特性X線による分析法が進歩したことにより，数多くの元素が引き続き発見された。またさらに，核反応*によってつくられた人工元素がこれに加わって，現在では103種の元素が知られてる。これらのうち，天然に存在する元素は，原子番号43のテクネチウムを除く，原子番号1の水素から原子番号92のウランまで91種である。また，それ以外は人工元素である。

これらの元素は，性質の類似したものをまとめていくことによって分類することができる。そのおのおののグループを族という。族には，第0族から第Ⅷ族まであり，そのうち第Ⅰ族から第Ⅶ族までは，さらにそれぞれaおよびbの亜族に分けられている。第0族はヘリウム・ネオンなどの希ガスを含み，第Ⅰa族はナトリウムやカリウムなどのアルカリ金属を含むことはよく知られている。

以前には，元素は不生不滅で，宇宙の初めから存在したものと考えられていたが，最近の進歩した原子核物理学および天体物理学の成果によると，超高温状態にある恒星の内部において熱核反応により元素が合成されるのであって，その合成は現在もな

お進行中であるとされている。➔原子番号 ➔周期律表 〔吉原邦夫〕

けんそう【検層】 坑井(こうせい)内で地層の性質を連続的に測定し記録すること。この記録を柱状図とよぶ。地中の岩石の種類とその厚さ，地層の走向・傾斜の測定，油・ガス・水およびその他の鉱物資源の存在とそれらの生産性の推定など，直接観察できない地中の情報を得る手段として重要な技術である。測定方法により電気検層・放射能検層・音波検層・温度検層などに大別される。坑井ごとに上記のような諸情報が得られるほかに，多数の坑井の検層結果を対比することにより，広い地域にわたる地中での地層の連続状態，地質構造とその大きさ，断層の有無などを推定でき，地下資源の埋蔵量の算定などの資料を得ることができる。 〔田中彰一〕

げんそう【玄宗】 (685～762) 中国，唐の第6代皇帝。5代皇帝睿宗(えいそう)の三男，いみ名は隆基。710年，4代皇帝中宗を毒殺して実権を握ろうとした韋皇后(いこうごう)一味を誅滅(ちゅうめつ)し，睿宗を立てて皇太子となった。712年帝位につき，名臣姚崇(ようすう)・宋璟(そうえい)・張説らを用いて積極的に国家再建にのり出した。その成果は開元の治とたたえられ，開元に続く天宝の世とあわせて唐代で最もはなやかな時代を迎えた。しかし，財政の窮乏，対外政策の拡大，楊貴妃*(ようきひ)に代表される奢侈(しゃし)生活など，あらゆる面からの行き詰まりをきたし，ついに755年，安禄山*(あんろくざん)の反乱を招き，756年蜀(しょく)に都落ちして在位40年で第3子粛宗に位を譲った。長安の回復とともに上皇として都に帰ったが，粛宗と折り合いが悪く，幽閉同様の生活に憂死した。おくり名の明皇帝にちなみ明皇とよばれている。 〔藤善真澄〕

げんぞう【現像】 ⇨現像処理

けんそううん【絹層雲】 普通の雲の中では，絹雲・絹積雲とともに最も高い所にでき，ベール状や羽毛状の薄く広がった氷晶雲。巻層雲とも書く。日本付近ではだいたい5,000～13,000mぐらいの高さにでき，この雲があると太陽や月のまわりに〈かさ〉が現われ，このかさの有無が絹層雲を判断する上で有力な手がかりとなる。かさは気象学上では暈*(うん)といい，これが現われると天気が悪くなるといわれるのは，絹層雲は低気圧の中心近くや温暖前線の近くで気流がゆっくり上昇するときにできるためで，悪天の予想に役だつ雲である。また，暈ができても，その後悪天にならないことがあるのは，低気圧が進路を変えたり，急に弱まったりするためである。絹雲・絹積雲が融合したようにして絹層雲ができることがあり，高層雲が薄くなったり，積乱雲のかなとこ雲の部分が広がってできることもある。 〔曲田光夫〕

げんそうきょく【幻想曲】 イタリア語ファンタジアの訳語。音楽用語としては16世紀初めから使われたが，その意味するものは時代によってかなり異なっている。16世紀では，リュートやギターのほか鍵盤(けんばん)楽器のための曲にこの名が用いられている。17～18世紀では，バッハの《半音階幻想曲》やモーツァルトの作品にみられるように，即興的な要素が目だち，形式が自由になっている。19世紀にはいると，幻想的な性格が強い作品にこの名称が与えられた。これは小品の場合もあり，ソナタであるのに古典的なわく組みから逸脱しようとする曲(たとえばシューマン)の場合もある。また，19世紀から現代まで，オペラや民謡や他人の主題などを自由に接続したり，変奏・展開を行なう場合も，幻想曲の名称が使われる。オペラを材料にしたものはリストにあり，民謡や古い音楽によるものはボーン-ウィリアムスにある。 〔徳丸吉彦〕

げんそうこうきょうきょく【幻想交響曲】 ベルリオーズ*の交響曲。1830年に発表された標題交響曲で，初期ロマン派の代表作として知られている。5楽章からなり，それぞれ作曲者のつけた標題をもっている。第1楽章〈夢と情熱〉，第2楽章〈舞踏会〉，第3楽章〈野の風景〉，第4楽章〈断頭台への行進〉，第5楽章〈ワルプルギスの夜の夢〉。古典的な構成であるが，独特の楽器法によって幻想的な効果をあげ，今日でも最も多く演奏される曲目の一つである。 〔向坂正久〕

げんぞうしょり【現像処理】 露光ずみの写真感光材料にできた潜像を目に見える写真画像に変化させる化学処理。ふつう，現像に続いて画像を安定させるための定着の工程も含めて現像処理と総称する。

〔現像液と薬品〕現像は化学的にみればハロゲン化銀を金属銀に還元することで，この反応を起こす薬品を現像主薬という。作用の強さによってメトール(パラメチルアミノフェノール硫酸塩)やフェニドン(1フェニル3ピラゾリドン)などの急性現像主薬と，ハイドロキノン(パラジハイドロキシベンゼン)などの緩性現像主薬とがあり，この両者を併用する。メトールとハイドロキノンを使う処方をMQタイプ，フェニドンとハイドロキノンを使うものをPQタイプといい，どちらも現在，代表的な処方である。

現像主薬は，それだけでは反応が弱いので，促進剤を加えてアルカリ性溶液とし，還元力を強化する。また，現像液が酸化・疲労するのを防止するため，保恒剤を加える。フィルム*・乾板などのネガ用感光材料では弱アルカリ現像液を使うので，亜硫酸ナトリウムが促進剤と保恒剤を兼ねたり，メタホウ酸ナトリウムなどの弱い促進剤を使う。これに対して印画紙*用処方では炭酸ナトリウムなどの強アルカリの促進剤を加えるのが普通である。また，現像液が強力だったり，処理時間が長いと，感光材料には露光と無関係の金属銀(カブリ)を生ずる。このために臭化カリウムなどの抑制剤を加えてカブリを防止するが，これは印画紙用現像液には特にたいせつな薬品である。

〔現像の条件〕現像は化学反応なので，各種の条件で進行状態が変わる。現像の条件としては，処方の種類・処理時間・処理液温・攪拌(かくはん)の4項がある。①処方の種類：処方に含まれている現像主薬の性質と量，アルカリ度の強さによって軟調処方や硬調処方に分かれ，液の薄めぐあいによっても変化するので，目的に合った現像液を使い分ける必要がある。②処理時間：時間が長くなるにつれて金属銀は成長するので，時間延長をすれば感光材料の実効感光度を高める増感現像になるが，粒状性は悪化しやすい。反対に現像時間を短縮すれば微粒子現像になるが，実効感度は低下する。③処理液温：ほとんどの処方が20℃を基準としているが，実用上は18～24℃の範囲内にあれば，現像時間の調節で満足できる結果が得られる。もちろん液温が下がれば反応速度は小さくなるので時間を延長し，液温が上がれば反対に時間を短縮する。④攪拌：現像液は感光材料の膜面に触れると酸化して疲労するので，新鮮な液が膜面に触れるよう攪拌しなければならない。特に処理開始後30秒間は液がゼラチン内に浸透する時間なので，この間の攪拌条件は現像決定を大きく左右する。普通は連続的に攪拌する。

〔定着〕現像が希望の段階まで進行すれば，

代表的な現像液の処方

1．フィルム現像用(コダックD 76)

温湯(約50℃)	750cc
メトール	2g
無水亜硫酸ナトリウム	100g
ハイドロキノン	5g
ホウ砂	2g

＊水を加えて全量を1,000ccとする。

2．印画紙現像用(コダックD 72)

温湯(約50℃)	750cc
メトール	3g
無水亜硫酸ナトリウム	45g
ハイドロキノン	12g
炭酸ナトリウム1水塩	80g
臭化カリウム	2g

＊水を加えて全量を1,000ccとしたものを原液とし，原液1に対して水2の割合に薄めて使用する。

代表的な定着液の処方

フィルム・印画紙兼用(コダックF 5)

水	600cc
チオ硫酸ナトリウム	240g
無水亜硫酸ナトリウム	15g
氷酢酸	28cc
ホウ酸	7.5g
カリ明礬	15g

＊水を加えて全量を1,000ccとする。

感光材料を酸性液に移して，現像液のアルカリを中和させて現像を停止させる。停止浴の処方は氷酢酸1.5～2.0％液が多く用いられる。最後に定着液に入れて不使用分のハロゲン化銀を溶解し，乳剤内には金属銀の写真画像だけを残す。フィルム・乾板はこの処理が終わってはじめて支持体が透明になる。金属銀には作用せず，ハロゲン化銀だけを溶解する薬品としてチオ硫酸ナトリウム(ハイポ)が使用されるが，チオ硫酸アンモニウムを使えば迅速定着処方となる。この単ハイポ液でも定着の目的は達せられるが，ハイポは不安定な薬品で現像液の混入で分解しやすい。これを防止するためには酸性にすればいいが，酸によってもハイポが分解するので，亜硫酸ナトリウムと氷酢酸を加えて液内で亜硫酸をつくる。これが酸性定着処方である。さらにゼラチンが水や熱でゆるみ，傷がつきやすいので，カリ明礬(みょうばん)などの硬膜剤を入れる。これに対してもハイポは反応しやすく，ホウ酸などの緩衝剤を入れる必要がある。こうしてできる酸性硬膜定着処方が現在最もポピュラーな定着液である。

定着がすんだ感光材料の乳剤内や支持体には，まだ多量の定着液を含んでおり，このままに放置すればハイポの分解によってできるイオウ分が画像の変色の原因となる。そのため水洗を行ない，流水中に残存ハイポを溶解する。フィルム・乾板は30分，印画紙は1時間以上水洗する必要があるが，ハイポに作用して溶解しやすい形にする水洗促進剤もある。水洗の終わった感光材料は乾燥して，全現像処理は終了する。

実際の現像処理は処理液を入れる容器によって方法が変わってくる。古くから行なわれている平ざら(バット)現像は，現在でも印画紙や乾板に使用されている。しかしフィルムには傷やカブリの危険性が大きいので，タンク現像を採用するのが普通である。深タンクは平ざらと同じ方法で，容器が細長くなりフィルムがつり下げられるように変わっただけで，DP店などの大量に処理する場合に利用される。小形タンクはフィルムの巻き込みに暗室または交換袋を必要とするだけで，あとは明るいへやで液の注入・交換ができる。1回に処理できる本数は少ないが，軽便なうえに厳密な現像ができるので，アマチュアに広く使われている。大量処理を行なうには自動現像機が使用される。これにも型は何種類もあるが，暗室内の受け口にフィルムを装填(そうてん)すると，自動的にローラーで送られて現像・停止・定着・水洗・乾燥の一連の作業を約3分で終了するものもある。印画紙は現在でもまだ平ざら現像が多いが，フィルム同様に自動現像機にかける目的のロール印画紙もあり，サービス判の〈ジャンボ〉サイズなど量産プリントに使用される。この場合は乾燥後，1こまずつに切り放す裁断まで自動的に行なわれる。　〔新川幸信〕

けんぞうてんのう【顕宗天皇】 5世紀末の天皇。父は履中(りちゅう)天皇の皇子市辺押磐(いちのへのおしわ)皇子。名は弘計(おけ)。仁賢(にんけん)天皇の弟。父が雄略天皇に殺されると，兄弟は播磨(はりま)(兵庫県)に身を隠したが，清寧(せいねい)天皇に皇子がないために見いだされて皇子となり，天皇没後，兄皇太子の勧めで即位した。在位中さしたる治績は伝えられない。陵墓は奈良県北葛城(きたかつらぎ)郡の傍丘磐坏丘(かたおかのいわつきのおか)南陵。

げんそきごう【元素記号】 元素の種類を表わす記号。原子記号ともいう。元素名のラテン語またはギリシア語のかしら字またはかしら字とつづり字の中の適当な文字を組み合わせたもので表わす。この記号は，その元素の1原子または1グラム原子を表わす。同位体の種類を表示する場合は，この記号の左上にその質量数を添記する。➔元素

げんぞく【還俗】 僧籍にある者がもとの俗人にもどることで，帰俗ともいう。みずから離籍する者，戒律を破って宗派から破門される者，世間的な才能を認められて俗事を行なうために還俗する者などがあり，一宗の開祖でも法然・親鸞(しんらん)らのように弾圧を受けて一時的に俗名を与えられ，朝廷の命によって還俗させられる者などがある。律の規定では，戒を捨てれば還俗は自由にできるが，再び出家することは許されないという。　〔藤井正雄〕

げんそくざい【減速材】 ⇨原子炉

げんそくそうち【減速装置】 機械の回転数を減少させる装置。歯車・摩擦車・ベルト・チェーンなどが用いられる。いずれの場合も原動車に小さい直径の車を，従動車に大きい直径の車を用いる。回転数は車の直径に反比例するからである。減速比を変えるには車を取り変えなければならないが，連続的に回転数を変化させるには摩擦車やベルト車を利用した無段変速機が用いられる。

げんそぶんせき【元素分析】 物質の構成元素を同定し，その含有量または構成比を決定する操作。普通の化学分析のほか，発光および原子吸光スペクトル・質量スペクトル・クロマトグラフィー・X線分析などがある。狭義に有機物の分析のみをいう場合もある。

ケンソル［Censor］ 古代ローマの官職。監察官と訳される。BC443年またはBC435年に設置され，共和政末期まで存在した。BC445年ごろ平民が執政官*と同じ権力をもつ軍事的護民官*を選出する権利を獲得した。これに対し，貴族は執政官職からいくつかの職能を取り去り，平民の権利を実質的に低くしようとして，2名の貴族からなるケンソルを設けた。ケンソルは戸口調査(センサス)を行なって徴税・兵力動員のための戸籍簿を作成し，道徳取り締まり・公共物管理・請負事業取り締まりなど幅広い権限をもっていた。任期は5年だったが，のち18か月に短縮され，BC339年にはケンソルのひとりは必ずプレブス(平民)から選ぶことになった。　〔高山高雄〕

げんそんざい【現存在】 ドイツ語〈ダーザイン〉の訳語。ハイデッガー*の用いた基本的概念の一つで，自己と存在*一般についてなんらかの了解をもっている人間存在を意味する。他の存在者(事物存在・道具存在)と違って存在の意味を問うことのできる存在者であるから，究極的な存在をとらえるためにはまず現存在のあり方を分析しなければならない。それが現存在分析論である。現存在は存在への唯一の通路であり，存在へ向かって開かれている存在者である。このような現存在の本質が実存*といわれる。　〔飯塚勝久〕

げんそんざいぶんせき【現存在分析】 20世紀にはいって精神医学領域で発達した臨床的な人間学。フロイト*以後，精神分析*を実存哲学的にとらえなおすいくつかの動向が生まれた。つまり，それらは①ビンスワンガー*・ボス*のようなハイデッガー*の哲学に基礎をおく現存在分析，②サルトル*のいわゆる実存的精神分析，③サルトルの実存哲学に立脚した精神療法家フランクル*の実存分析，④精神医学者ツット・クーレンカンプらの了解的人間学，シュトルヒ・クンツらの哲学的人間学などである。これらの動向は次のような点で共通していた。すなわち①フロイトが確立した個人尊重的な生活史的・意味解釈的な方法による人間理解に立脚している。②しかも，フロイトがその基盤とした，19世紀的自然科学主義・生物学主義などを批判し，実存哲学的な人間観によって，精神分析を再構成しようとしている。③人間を多次元的・全人間的にとらえる方法論を提出している。そして中でも，現代の精神医学・精神分析学・臨床心理学の領域に最も大きな影響を与えたのが，現存在分析と実存分析である。

現存在分析は，現象学*の方法によって〈精神分析的現実〉を開示しようとするもので，スイスの精神医学者，ビンスワンガーが，1930年の《夢と実存》刊行ごろから提唱した立場である。ハイデッガーの哲学に基礎をおいてはいるが，あくまで精神医学的・臨床的・経験科学的である点で，ハイデッガーの《現存在分析論》と区別される。現存在とは，フッサール*の現象学的方法によって，現象を現象そのものとしてとらえることを通してその本質に至り，特定の視点や方法に規定された一面的な人間把握(はあく)を排し，全体的・包括的な人間把握をめざす。そして，このアプローチからとらえられる人間とは，〈我と汝(なんじ)〉の〈共同存在〉であり，自己の可能性を十全に実現することを求める〈可能存在〉であり，歴史的・発展的存在である。それゆえに，精神医学が対象

とする精神病理学的諸現象は，このような人間存在本来のあり方に即してその個性的な意味を問わねばならない。一方，ビンスワンガーとともに現存在分析の旗頭(はたがしら)であるボスは，ハイデッガーにその基礎をおくが，同時にフロイトの精神分析の治療的実践に内在していたすぐれた人間理解と，生物主義・自然科学主義・モデル主義などによってゆがめられたその理論構成の矛盾を批判的に分析し，フロイトの人間理解をフロイト自身以上に的確にありのままに明らかにしようとしている。以上の現存在分析に対し，フランクルは，人間を人生の意味充足を求める存在としてとらえ，その実存は，みずからその存在の意味を問い，明らかにしていく存在であると定義し，患者自身に，自己の責任性を自覚させ，人生の意味をあらためて問わせようとするロゴテラピーを提唱したが，これが実存分析とよばれるもので，現存在分析とは，基本的に同じ動向のものでありながら，独自の主張を含んでいるので，概念上は明確に区別して用いられるべきものである。〔小此木啓吾〕

げんだいおんがく 【現代音楽】 ⇨次ページ

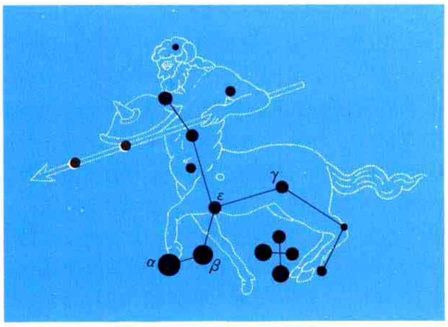
げんだいかなづかい 【現代かなづかい】 ⇨かなづかい

げんだいせい 【阮大鋮】 (1587？～1646) 中国，明(みん)末の戯曲作者。亡国の悲運の中で政界に活躍し，奸佞(かんねい)な人物といわれたが，文才あり，戯曲作者として有数の存在であった。作品9種のうち《春燈謎(しゅんとうめい)》《燕子箋(えんしせん)》が有名。

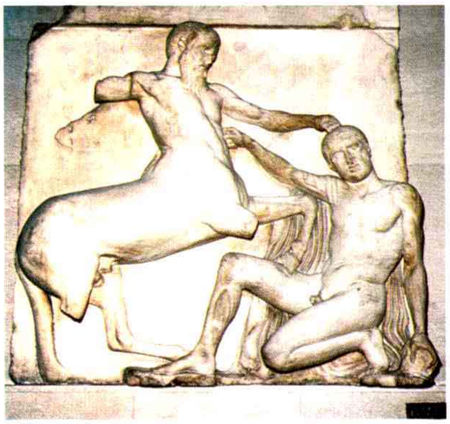
げんだいのえいゆう 【現代の英雄】 レールモントフ*の小説。異国情緒豊かなコーカサスを舞台に，繊細で豪胆，熱情的で冷徹，そして先天的な諦観(ていかん)をもつ青年貴族ペチョーリンの像が，五つの独立した物語がつながる中で浮き彫りされる。つねに瞬間の充実にかける早熟で純粋な青年像は，内面描写の深さによって，新鮮さをもって迫ってくる。

ケンタウルスざ 【ケンタウルス座】 うみへび座の南に広がる大きな星座。初夏の夕方，南の空の地平線上に低く見える。α星は光度0.1等，シリウス・カノープスに次いで全天第3の明るい星であるが，日本からは見えない。肉眼で見える星の中では最も地球に近く，4.3光年の距離にある。また，この星座には有名な球状星団*があって，日本では南中*時に地平線すれすれに見える。➔星座

ケンタウロス 〔Kentauros〕 ギリシア神話の怪物。上半身が人間，下半身が馬の姿をもっている。ヘラ女神に恋したイクシオン*と，ゼウスの手になる女神の形をした雲との間に生まれたという。彼らはラピタイ人の王ペイリトオスの結婚式に招かれたが，酒に酔って花嫁ヒッポダメイアや他の娘たちに襲いかかったので争いが起こり，



ケンタウルス座



ケンタウロス　パルテノンのフリーズ　大英博物館蔵

ペリオン山中のすみかから追い払われた。

げんたかんどう 【源太勘当】 ⇨ひらがな盛衰記

けんだくじゅうごう 【懸濁重合】 ラジカル重合の重合様式の一。サスペンジョン重合ともいう。油溶性のビニル系単量体を水に分散させた状態で，油溶性の開始剤(過酸化ベンゾイルなど)を用いてラジカル重合を行なわせると，重合は油滴内でのみ進行し，最終的には粒状の重合物が沈降する。生成重合体の形状から，粒状重合・パール重合ともよばれる。分散安定剤としてデンプン・ポリビニルアルコール・ポリアクリル酸塩などの有機物，あるいはタルク・炭酸マグネシウムなどの無機物が添加される。懸濁重合の特長は，生成重合体が上述のようにきれいな粒状で沈降するために後処理が容易なこと，水媒体中の微小部分ごとで塊状重合が行なわれることになるので重合熱の発散が容易であり，温度調節がしやすいことである。工業的な重合反応に適した方法なので，実際に塩化ビニル・スチレン・メタクリル酸メチルの重合に利用されている。➔高分子　➔プラスチック　〔伊藤　卓〕

ケンタッキー(州) 〔Kentucky〕 アメリカ合衆国，中東部の州。面積10万3,000km²，人口316万1,000(1970)。州都フランクフォート。1792年，合衆国の第15番めの州となる。州名はインディアンのことばで〈平野〉を意味し，最初はケンタッキー平地をさしてよんだものである。東部はアパラチア山脈の山麓(さんろく)部で400～1,000 mの山地となり，北の州境をオハイオ川が流れている。農業が最大の産業で，タバコの生産高はノースカロライナ州に次いで合衆国全州中第2位，ほかにトウモロコシ・小麦などを産する。鉱物資源にも恵まれ，石炭の第3位をはじめ，石油・天然ガスも豊富である。1944年，TVA*計画(テネシー川総合開発計画)によるケンタッキーダムが州西部を流れるテネシー川に完成し，ケンタッキー・バークリーの両人造湖ができた。アパラチア山脈以西の最初の開拓地で，18世紀半ばにイギリス人が，次いでフランス人がこの地を探検した。1775年からイギリス人が定住し，1783年のパリ条約で合衆国領となった。リンカーン大統領はこの州の出身。主要都市としてはルイビル・レキシントンなどがある。〔相村大彬〕

けんだま 【剣玉】 拳玉(けんだま)とも書く。15cmほどの棒の先端を剣形にとがらせ，他の端はちょこ形のくぼみをつけ，底に穴のあいた球をひもで結びつけた木製の玩具(がんぐ)。ひもに反動をつけながら球を剣の先に突き刺したり，ちょこ形のさらに入れたりして遊ぶ。江戸時代に酒席の座興として用いられたが，明治末期から子どもの玩具となり，大正初期に〈日月ボール〉という十字形に三つのさらをつけた剣玉が登場して人気を集めた。〔合田　濤〕

ケンダル 〔Edward Calvin Kendall〕 (1886～1972) アメリカの生化学者。パークデビス社で研究，のちメイヨー病院の教授。1915年ブタの甲状腺(こうじょうせん)からチロキシン*を分離した。また，グルタチオン*を結晶させて化学的性質を決定したほか，20年間副腎(ふくじん)皮質ホルモンについて研究し，種種の化合物を単離・同定し，コーチゾン*の部分合成に成功した。これらに対して1950年ノーベル医学生理学賞が与えられた。

けんだん 【検断】 中世，武家法*上の概念で，刑事犯人に対する検察・断罪のこと。さらに，六波羅(ろくはら)探題の検断職をもいい，刑事裁判を検断沙汰(さた)(→沙汰)といった。鎌倉・室町時代には両幕府の侍所・守護・地頭が検断権を分有したが，原則的には幕府の検断権は公家(くげ)領に及ばなかった。しかししだいに守護・地頭を通じて全国支配を実現し，室町時代には守護が国じゅうの検断権を独占して領主権を確立した。〔鹿野賀代子〕

げんたんいけいさん 【原単位計算】 生産の要素の単位価値を，各製品単位あたりの物財・用役の消耗量，あるいは物財・用役の消耗量あたりの製品量などの形で，物量的に測定・把握(はあく)する計算。生産管理上，問題点を直接的・具体的に指摘しうる利点があり，また原価計算の前提としても重要である。

現代音楽

現代音楽ということばはさまざまな意味で用いられている。最も広い場合には20世紀の音楽を総称し，最も狭い場合には1950年代以降の音楽をさし，その中間的なものとして第1次世界大戦から今日まで，あるいは第2次世界大戦から今日までとすることがある。このように分類が確定していないのは，19世紀以前に比べると，その後の短い期間に多くの音楽的事象が現われて，しかもその事象と事象の間が短いために，おもな傾向の交替というよりは，いくつかの傾向の共存という事態が生じがちだからでもある。しかし，いくら共存が盛んだからといって，19世紀ふうの作品まで現代音楽として扱うのは行き過ぎであろう。たとえば，ラフマニノフの有名な《ピアノ協奏曲第2番》(1901)やプッチーニの《蝶々(ちょうちょう)夫人》(1904)などは，19世紀に主調であった様式を使って書かれた20世紀の作品であるから，特殊な例と考えられる。

〔第1次世界大戦までの音楽〕 年代的にいって1890年ごろから1917年ごろまでの諸傾向は，今日の音楽状況の出発点と考えられる。それは，19世紀のロマン派音楽*のもっていた基本性格であり，構造上の支柱でもあった機能和声*法を，いくつかの方法で改革しようとするものであった。この時期のおもな傾向を，ドビュッシー・スクリャービン・シェーンベルク・ストラビンスキー・ルッソロの5人に代表される傾向から考えていくことにしよう。

印象主義とよばれるドビュッシーの方法は，機能和声法の体系ではきびしい連結法に規定された和音を，ちょうど象徴主義の詩の場合のように連結法の材料としてではなく，固有の響きをもった独立の要素として呈示するものであった。このために，同じ構成をもつ和音が平行して使われることが多くなり，5音音階，教会旋法，あるいは全音の幅だけでできている全音音階なども使われ，これも機能和声法の体系をこわしていった。音色の重視もこの方法の特徴である。スクリャービンも機能和声とは異なる体系をしだいに形成していった。彼の場合，全音音階や4度を積み重ねた合成和音によって楽曲が構成されていくが，彼はこのような音楽内部の構成法だけでなく，音と色彩の結びつきや音と視覚的・嗅覚(きゅうかく)的刺激との結びつきまでを考えた点で重要である。また，この時期のシェーンベルクの方法は，のちの12音技法とは区別され，当時の美術や文芸との類似から表現主義とよばれる。これはエクスプレッション(表現)ということばが，元来は果実のしるが袋の中から外へ出てくることを意味したように，印象とは逆に，芸術家の主観的な表出作用を重視するものである。したがって，表現主義の立場はどのような音楽様式にも成立しうるものであるが，20世紀の表現主義は他の傾向と同じように結果的に機能和声の崩壊を導き，次の時代が発展させることになる技法を呈示した。それは新しい興奮様式ともいうべき独特の運動性(音程の飛躍や方向転換)を前面に押し出した。また，旋律は断片と化し，かつて大きな集まりがになっていた意味を小さな音の集まりが受け持つようになる。表現的な意図から生まれた激しく微妙な音量変化法，あるいはシュプレッヒ-シュティンメとかシュプレッヒ-ゲザンクとよばれる，語るような歌い方(通常の歌にはない自由さが音高について許されることになる)なども，その後の現代音楽の方向を大きく定めた。ストラビンスキーの仕事は次の時期でも扱われるが，この時期としては《火の鳥》に始まる三大バレエ曲に現われた新しいリズム組織と，それを強化する激しい音量が重要である。これらの傾向はプロコフィエフやバルトークらにも共通する。イタリア人のルッソロ(1885～1947)はそれほど有名な音楽家ではない。しかし，彼がイタリアの詩人で未来派の創始者であるマリネッティの〈未来派宣言〉に共鳴して推し進めた音楽(騒音主義とよばれる)は，電車・自動車・群衆などのつくりだす騒音を音楽の構成要素にしようという点で，現代音楽の重要な出発点と考えられる。こうした動きに続いて，打楽器の積極的な使用や，バイオリンなどの通常行なわれない演奏法，さらにミュージック-コンクレート*(具体音楽)などが生まれてくる。

〔両大戦間の音楽〕 この時期は広い意味での現代音楽の中期にあたる。それはバロック時代の中期にも似て，初期のもっていた大胆さへの反動が出てきて，一種の古典的な安定を求める時期になっている。この傾向を新古典主義とよんでいる。フランスでは，プーランク・ミヨーらの〈六人組*〉が活躍する。彼らの主張はロマン主義はもとより，印象主義も表現主義もとらず，古典的な形式と調性感の復活を行なおうとするものであった。前の時期で激しさを打ち出していたストラビンスキーやプロコフィエフも，折衷的な方法で新古典的な作風を形成していった。また，こうした立場はモダニズムの否定という標語のもとで，全体主義化しつつあった当時の政治体制では助長されやすかったことも事実である。

新古典主義といっても，いくつかの傾向があるが，ここではそれらに共通するものを構成主義と考えておこう。構成主義は，音楽をそれが意味する音楽外のものや，それが果たす機能からは考えずに，要素の内的連関にしたがって考えていく立場である。〈六人組〉は，構成のわく組みとしては過去のものを取り上げ，しかし組み合わせは新しくしようとした。この時期の代表的な作曲家であるシェーンベルク・バルトーク・メシアンは，それぞれ異なってはいるが，新しい構成のわく組みを形成している。

シェーンベルクは表現主義の様式から12音技法とよばれるまったく新しい構成法を確立した。オクターブ中に含まれる12の音高を一定のセリー(音列)に配列して，そのセリーの原形を反行形，逆行形，逆行形の反行形に変形し，それぞれを12の音高に移調した合計48種の音列の集合を作曲の材料とする。これは機能和声法が過去に果たしたような構成上の機能をになうものであった(→12音音楽)。この技法はベルクやウェーベルンにも用いられ，特に極度に音を節制して冗長さを削り取ったウェーベルンの様式は，次の時代に大きな影響を与えた。ハンガリーのバルトークの場合は，彼が自国の民謡を収集・分析したり，また民謡を素材にした作品が広く親しまれているため，民族的な傾向の代表者のように考えられている。しかしこの時期の方法は，幾何学でいわれる黄金分割を作品の形式に応用したり，黄金分割を垂直的な音程関係に適用して独特の和音を構成するなど，シェーンベルクと同じ程度に構成主義の傾向を含んでいる。また，フランスのメシアンは〈移調の限られた旋法〉と名づけられた独特の音階をつくっただけでなく，非ヨーロッパ的なリズムを取り入れて，固有なリズム法の世界を形成した。なお，従来の西洋音楽における音程の最小単位は半音であったが，この時期にチェコスロバキアのアロイス-ハーバ(1893～　)は，4分音(半音の半分)，6分音などを組織的に使い始めている。彼には，直接的な後継者としてはみるべき人はいないが，電子音楽*の世界では，彼の使ったような細かい音程があたりまえになっている。

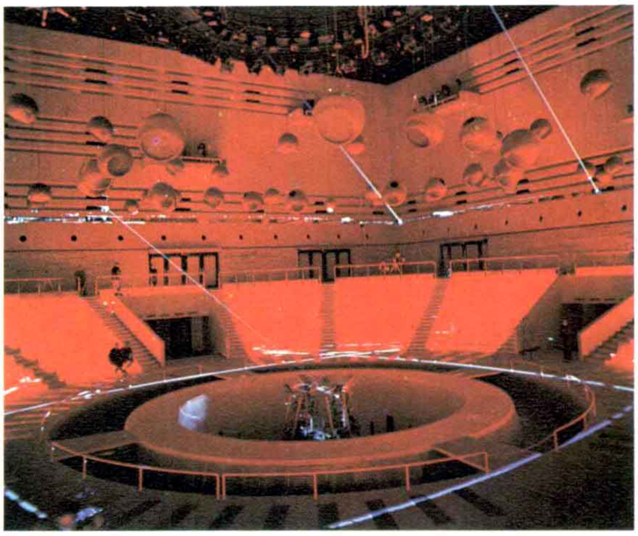
〔第2次世界大戦後の音楽〕 この時期は前の時期の音楽を総合しつつ継続することから始まった。12音技法のセリー*の考え方は広く普及し，そこからもっと緻密(ちみつ)な構成主義が起こってきた。それは，音の高さについての規定であった12音技法のセリーを，音の長さや音の強さ，あるいは演奏法にまで適用しようとするものである。この方法はメシアンによって始められ，ブーレーズやシュトックハウゼンらの若い世代に受け継がれていった。これは，音の諸特性の組み合わせを作曲家自身が規定しようとする点で，発想的には前の段階の合理主義的傾向の帰結である。

第2次世界大戦中に発展した電子工学は，戦後になって新しい音楽の誕生を可能にした。一つはミュージック-コンクレートで

あり，もう一つは電子音楽である。前者は外界に存在する音(たとえば機関車の音)を捜して，それを電気的に操作・合成するものであり，後者は電子工学的な装置によって音を合成し組織化するものである。現在では，独立したミュージック-コンクレートがつくられることはほとんどなく，電子音楽の中に組み込まれている。これらは新しい響きをつくりだしたし，またつくりだしつつある点で，楽器に束縛されていた過去の方法にはない広がりをもっている。

1950年代になると，新しい音楽観がしだいにはっきりした姿をみせはじめた。すでに1930年代から騒音と楽音の区別を取り除こうとしていたアメリカのケージは，《幻想風景第４番》(1951)において不確定性とか偶然性とよばれるものを音楽の中に導入した。それは易の方法によってラジオ放送の音を混ぜ合わせるもので，結果としてどのような音が出るかは，聴衆はもちろん，作曲家にも演奏者にもわからない。また《4分33秒》という作品では，ピアニストが舞台でピアノの前にすわってなにもひかずにじっとしている。ここで聴衆が聞くのは，人々のざわめきやホールの外の自動車の音かもしれない。ケージはこのように不確定性と結びつきながら，日常的な世界としての音楽に人々の注意を振り向けさせた。ケージの偶然性の音楽は1950年代にヨーロッパに紹介されたが，その反応や吸収のしかたはかなり合理的な構成主義によっていろどられている。ブーレーズはケージの偶然性を怠慢による偶然性と考え，作曲家としての責任を果たすためには，統制された偶然性として楽曲構成の中に組み込まなければならないと主張した。シュトックハウゼンの場合も，偶然性は構成された偶然性として姿をみせる。彼らの作品は，楽曲の要素の選択の間に偶然のはいる余地が設計されているので，作品の現われ方は毎回異なる。しかし，それらの現われ方が一つの集合をつくって，他の作品から区別されることは当然である(→偶然性の音楽)。

偶然性をたとえ構成技法と考えたにしても，これを受け入れることは，1960年代の音楽に新しい動きを与えずにはおかなかった。その一つは，演奏家に大きな役割を任せるという態度が強まったことである。もう一つはトーン-クラスター(音塊)の使用である。これは，音のかたまりを識別可能な個々の音の集まりとは考えずに，一つ一つには識別できないような音の密集したものとするところから生まれてくる。この方法はハンガリーのリゲティやポーランドのペンデレツキによって効果的に用いられている。作曲する側では，一つ一つの音の高さを細かくしるす場合もあるが，聞き手にとっては音塊として聞こえる。この方法



クセナキス作曲《ヒビキ-ハナ-マ》(1970)　インターメディアといわれる総合芸術の一種で，レーザー光線を用いて視覚にも訴える　日本万国博覧会　鉄鋼館

はそれまでのように音高をはっきり規定し，その把握(はあく)を聞き手に求めたのとは非常な違いである。天体にたとえれば，星雲を星を単位に考えようとしたことから，星雲そのものとしての性質の把握に進んだともいえるし，ニュートン的な古典力学で位置を規定する考え方から，統計力学的な発想に移ったともいえよう。今日の音楽では，トーン-クラスターの上下運動，グリッサンド，膨張や収縮がよく使われている。

〔新しい音楽観〕現代音楽はむずかしいということばがいまでもよく聞かれる。たしかに，セリーを全面的に適用した曲のような場合には，聞き方の生理的な情報処理能力を越えている作品もある。しかし多くの場合は，むずかしさは聴衆の経験が過去の音楽様式によっているからであり，また古い様式に適した聞き方で新しい作品に接するために生じている。したがって，これには音楽教育が大いに関係するため，西ドイツのように，作曲家が子供たちを自分たちの作品のわかる聴衆に教育することに熱心な国もある。

作曲家・演奏家・聴衆の間に新しい関係が提起されている点にも，現代音楽の特徴がある。音楽作品は，作曲家や演奏家がつくりだす物理的対象が聞き手によって認知されるときに成立すると考えてみよう。19世紀までは，音楽の物理的側面を作曲家ができるかぎり〈創造的に〉構成しようとしてきた。しかし今日では，不確定性を導入することによって，演奏者の大幅な参加が要請されている。たとえば，アメリカの作曲家ルーカス-フォス(1922～　)は作品をカメラにたとえている。人々にとってカメラの製作者は問題にはならず，どんな写真がとれたかということが重要だというのである。電子音楽の世界で，装置を会場に持ち込んで演奏するライブ-エレクトロニック-ミュージック(生の電子音楽)が盛んになったのもこの事情を反映している。即興演奏も独奏だけでなく，集団によって行なわれている。また，作曲家がすべてを自分の手でつくるという考えを捨てて，既製の作品を合成するコラージュを始めたのも，最も新しい傾向の一つである。これはポピュラー音楽にも共通する興味ある現象で，西洋の近代的な狭い創作意識とは異なるものである。過去の音楽では，作品は定められたわくに収められていたので，聞き手の仕事はそれをできるかぎり正確に，そしてだれでもが同じような体験になるように聞くことであった。しかし，シュトックハウゼンに代表される〈空間音楽〉の出現は，それをまず物理的に不可能にしてしまった。それは音楽のアスペクトの中に空間における音の方向や運動が加わったため，聞き手のいる場所によって，音楽が異なってしまうからである。これは，たとえば五つのスピーカーから音が出る場合もあるし，もっと大胆に一つの建物が空間音楽の場として設計されて，聞き手は歩きながら音を聞くという場合にもなる。またベルギーのプッスール(1929～　)のオペラ《あなたのファウスト》では，劇の進行が聴衆の投票によって決定されるしくみになっている。まさに聞き手である〈あなた〉の《ファウスト》なのである。さらに，上述のケージの場合は，聞き手は作曲家や演奏家が準備した物理的刺激によらずに，自分で日常性の中で音楽を体験することになる。ケージの思想は具体的な方法としてはまだ問題があるが，思想としてはきわめて重要なものを含んでいる。ケージの日常性の問題から，今日ではもう一つの新しい傾向が生まれている。それはインターメディアとよばれる総合芸術の一種である。聴覚的な刺激だけでなく，色彩や運動といった視覚的なものが混合される方式である。これによって聴覚のみによる構成主義が否定され，音楽が心的な距離をおいてながめられることをやめる可能性が生まれている。

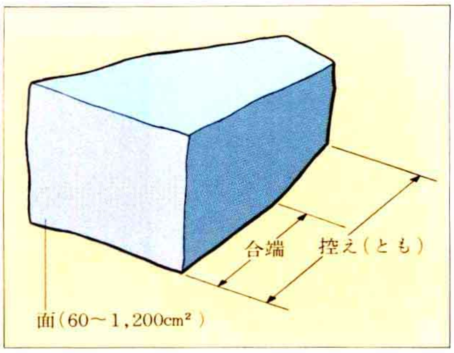
〔徳丸吉彦〕

けんち【検知】 間知とも書き，検尺ともいう。主として丸太の直径と長さをはかることをいう。一般に，直径は末口で皮なしの最小径を2cm刻みではかり，6m以上の長材は中央の径をはかる。長さは20cm単位ではかり，端数は切り捨てる。

けんち【検地】 貢租の基準を定めるために行なった土地調査。古代・中世を通じて支配のための土地調査は行なわれていたが，検地と公称されるようになったのは近世にはいってからである。すでに，今川・北条(ほうじょう)氏など強大な戦国大名や織田信長(のぶなが)も検地を実施していたが，その調査は農民側の提出する指出*(さしだし)をもとにしたものであった。それに対して，1582年(天正10)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が全国的に統一した基準を設けて実地調査を断行したのが，有名な太閤(たいこう)検地*である。秀吉は信長の遺業を継ぐとまもなく山城検地を開始し，引き続き太閤検地を強行した。検地によって田畑の面積は調査され，田畑はその品質に応じて4等級に分けられ，その面積と等級とを算出基準として収穫額を決定した。収穫額はすべて京枡*(きょうます)による石高*で表示された。これが石盛*(こくもり)である。従来の貫高*制から石高制に移ったので，これを天正の石直しともいう。行政単位となった郷村は石高で全村の収穫総額が公示され，その石高に租率を乗じた額が各郷村の貢納額となった。近世の知行制はこの農業生産額・貢納額の把握(はあく)の上に成立したのである。検地後は郷村単位に検地帳を作成し，一地一作職(しき)の政策に基づき自作農を登録して本百姓とした。本百姓は土地耕作権を世襲するとともに年貢(ねんぐ)・夫役の負担者として近世封建社会をささえる根幹となり，同時に中世土豪の在地権益は完全に否認されたので，各地で土豪勢力の一揆*(いっき)が起こった。しかし秀吉は武力でこれを徹底的に鎮圧した。

江戸幕府に継承された秀吉の検地政策は一定期間に完了しうる事業ではなく，また再調査も必要なので，近世を通じて永続的に各時期にわたって行なわれた。1726年(享保11)には新田検地条目が制定され，新田・隠田*も検地の対象となった。諸藩も自領の検地をしばしば行なったが，幕藩領とも検地の施行は農民に増税をもたらすことになり，多くの場合，百姓一揆*の動機となった。しかし検地は，刀狩り*と並んで，近世封建社会の創出の上に決定的な役割を果たした。〔高崎徳次〕

けんちいし【間知石】 石垣(いしがき)や護岸工事用の石材の一種。形は角錐(かくすい)に近く，底面はほぼ正方形。大きさはほぼ一定しており，高さは底面の1辺の1.5倍以上で，17個で約1tになる。底面を前面として積み上げる。カコウ岩*や安山岩*などの堅硬な材料が用いられる。



間知石

けんちく【建築】 自然のあるいは人工の材料で外殻(がいかく)をつくり，自然的外界にある領域を設定するところの人・物などの容器をいう。したがって，建築は三次元の空間を意味するのであるが，なんらの目的なしに構築されるものではない。すなわち，あらゆる建築は目的または機能を有し，それらが最もよく充足するように計画されねばならないが，その機能は単純なものは少なく，多くは複合的で，かつ重層的である。また，その外殻としての構造は風雨・寒暑などによく耐えうるものでなければならない。さらに容器内の空気を，その目的を充足するように機械設備を用いて人工的に調節することが必要なこともある。

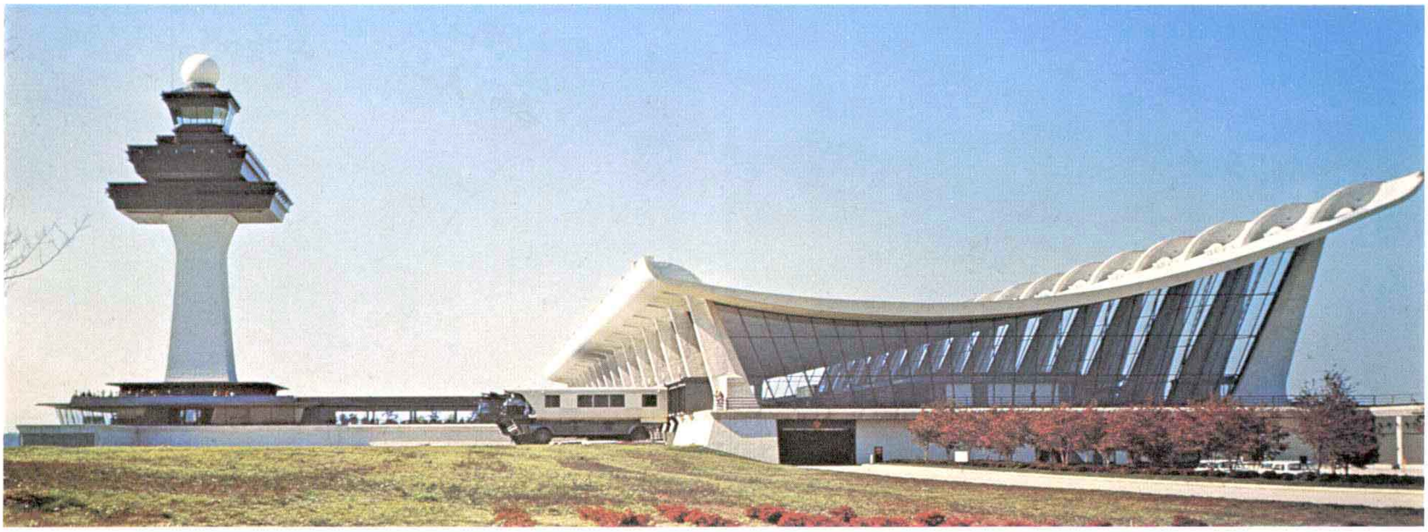
また，建築の外観なり内部の空間はおもに視覚・触覚を通じて知覚されるのであるから，そうした考慮も十分に払われねばならない。建築は特定の個人に属するもの，あるいは公共のものにかかわらず自然的外界のある領域を占有し，前述のように視覚によって知覚される面を有するものであり，その所有者ないし使用者のみにかかわり合うもののみでなく，同時に社会的性格をも有する。特に都市においては，その建築の社会的性格は重要である。建築がその構成要素である都市の美観論争や，私的建築の部分の公共への開放についての議論が広く行なわれるのは，これをよく物語るものといえよう。また最近においては，建築の容器としての概念は飛躍的に拡張され，その形成に物理的になんらかの形で参加するもの，いわば総体としての環境――メディアが建築と同一視される現象が指摘される。

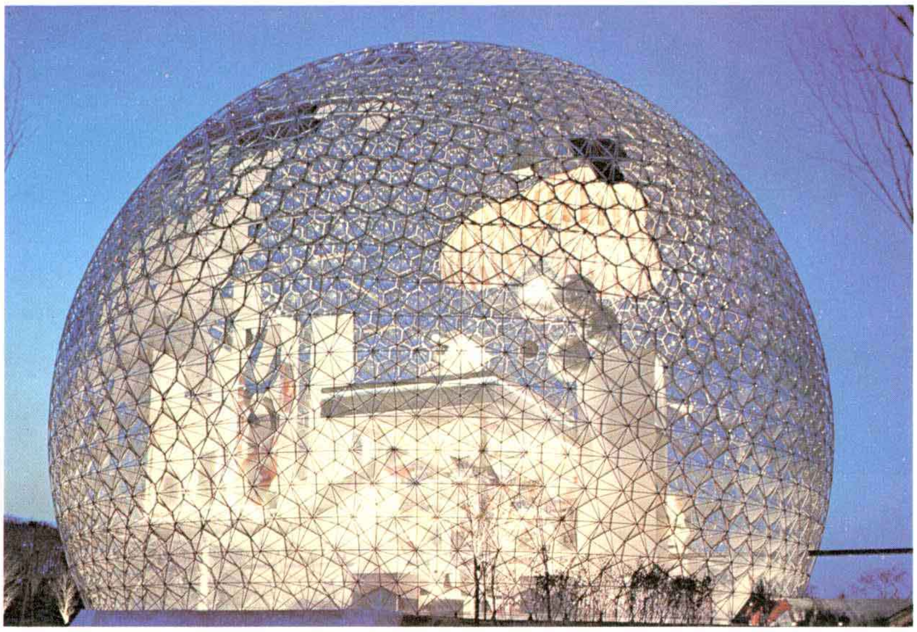
〔芸術としての建築〕一般に，ただ単に目的を安易な方法で充足させた通常の容器を〈建物〉といい，さらにそのうえに(おもに)視覚的に美的な考慮のもとに形成された容器を区別して〈建築〉と呼称することもあるように，建物は造形美術の一部門としての芸術たりうる。しかし，建築は造形美術の中でも特殊な分野であるといわねばならない。なぜならば，人・物の容器としての目的機能を有するからである。こうした事項の関連において，芸術としての建築についての思考はいろいろあげられるが，ここでそのいくつかの代表的なものを指摘してみる。

その一つは，建築の芸術性を，目的とは関連のない空間の形成だとするものである。この思想は古代エジプトの神殿などの建築にすでにみられ，ヨーロッパについていえば，古代ギリシア・ローマ時代から，ルネサンスを経て現代に至るまで続いており，空間を形成するフォルムの構成にその最大の関心が置かれ，そこに幾何学的法則性が支配的となっている。これらの思想になる建築は，幾何学的法則性によって空間が規定されているから，要求される目的・機能を充足させえないものが少なくなく，建築主(施主)が権力者であればその権力の象徴を表わすなど，建築家の恣意(しい)的意図のもとに計画される傾向にある。これと対極をなすものは，建築の要求される機能を忠実に空間としなければならないという思想である。たとえば，船舶・飛行機・機械などのいわゆる機能美を標榜(ひょうぼう)するものであるが，これに対してはいったい芸術の条件である創造者の主体性，世界観の表象はどこにあるのかという批判がある。しかし，19世紀末に生起したこうした思想は，それまでのまったく装飾に堕した様式主義的建築に革命的影響を及ぼし，これ以後近代建築の時代が始まったといってよい。芸術としての建築に対するこれらの両極の思想の中間をいくのが，建築はそのフォルムの構成と機能という両極が相互により内的に結びつけばつくほどより高い質となる，とするものである。これは，空間はそれ自体抽象的なものでありえず，また最も純粋な合理的フォルムでさえも完全にその目的のみからつくりだされたものではない。すなわち，形態における目的から解放されたものと合目的的なものとは，その両者が歴史的に密接しているのだから，完全には分離されないとする思想である。この思想は，目的とかかわり合った芸術としての建築を現代的にもいいあてたものといえよう。

〔建築の様式〕人・物などの容器としての建築はそれがある場所，また時代によって相違し，それぞれの特色を有する。それは容器の皮膜の作り方が風土・気候によって相違し，また，それをつくる材料も場所・時代の技術に規定されるからである。また各時代・場所によって相違する社会的・文化的・政治的条件，すなわち実体的には生活総体によって規定される。建築に課せられた要求によっても，さらに，それをつくる主体の意識によっても規定されるからである。したがって，建築の様式には時代の相違による様式と民族の相違による様式とがある。

〔建築の種類〕建築は，起源的には住むための容器，すなわち住居が考えられる。これは，原始時代から穴居住居・竪穴(たてあな)式住居・横穴式住居・杭上(こうじょう)住居などのあったことからわかる。いうまでもなく，苛酷(かこく)な自然条件に抗して人間生







ダレス空港　カテナリーのつり屋根で架構されている。曲線を主にした造形はいかにも空港の建築に似つかわしい。アメリカ，ワシントン　設計者 E.サーリネン

モントリオール万国博覧会のアメリカ館　フラーのドームは日本にもあるが，1967年の万国博覧会のパビリオンは特に有名で，その空間構築の技術は一記念碑となった。アメリカ，モントリオール　設計者 フラー



フォード財団本部ビル　オフィスビルの中に大きな吹き抜きをつくり，床に樹木を植えて内外から観賞できる庭がつくられている。アメリカ，ニューヨーク　設計者 ケビンローチ



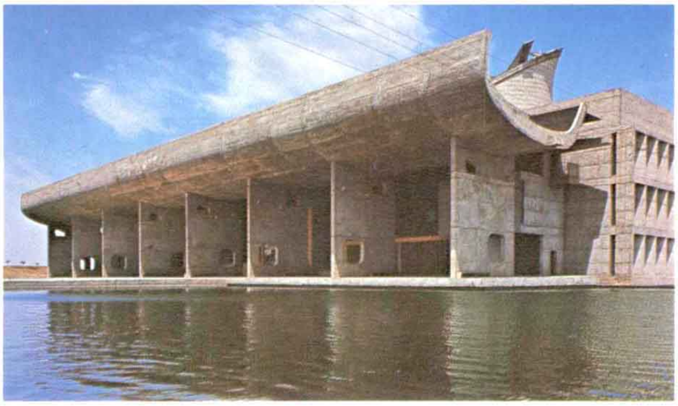
ストックホルム庁舎　新古典主義に属するが，北欧の建築はこの作品あたりから発展の離陸を始めた。スウェーデン，ストックホルム　設計者 エストベルヒ





860レーク-ショア-ドライブ-アパート　ミシガン湖畔にある。鉄とガラスの結晶体をつくる建築家といわれた作者の初期の代表作である。アメリカ，シカゴ　設計者 ミース-ファン-デル-ローエ





チャンディガール議事堂　ル-コルビュジエは，この議事堂の設計をはじめ，都市の全体を計画し，世界の現代建築に大きく寄与した。インド，チャンディガール　設計者 ル-コルビュジエ

活を維持する保護皮膜的容器としての建築である。時代が進んで農耕時代には余剰食糧の生産が可能となり，それを保存する倉庫が発生した。またその余剰食糧を基盤として，農業以外の職業に専門に従事する者が出現した。これらの職業の発生，すなわち分業の進展が建築の急速かつ広範な分化を促すもととなった。すなわち，生産民を知恵や力でもって統括し管理する者，ないしはそれらの機関の建物(神殿・宮殿・兵舎など)や，各分業をともにする建物(店舗・工房など)がしだいに発生した。その後，古代ギリシア・ローマにみられるような，市民の公共的生活の場としてのアゴラ(集会場)・劇場なども発生した。これらは，人間生活を維持する保護皮膜的容器としての建築というより，社会を維持するうえでの各社会的機能を充足させるための建築といえる。これは，それ自体変化する政治的・社会的・文化的諸条件に規定される生活総体の複雑化とともに，建築も分化することを意味している。したがって，ヨーロッパにおいては，18世紀に生じた産業革命を契機に，建築の分化が急激にまた広範囲に生じたことは当然である。物質の生産，流通体系の拡充に伴い，それらの目的に充足させる各種の建築が生起した。すなわち工場建築・停車場・事務所・銀行・郵便局などがそれである。

　その後，現在まで建築の分化はたえず進行しているが現代においては新しい種類の建築の発生というよりは，一方では従来あった機能のうちのある特殊化する機能の要素を満足させるための特殊な目的建築と，他方では急速に変化する社会が要求する各社会体系の再整備による機能の総合に応じた建築の発生の傾向が指摘されよう。そして，最近では建築の分化の要因である建築の機能と建築との関係が再検討される傾向が指摘される。たとえば，病院建築についていえば，患者の受付・診断・治療，医者の研究・教育などの複雑な機能の処理に応用される近代的科学技術の成果と建築空間との関係などについて研究が進められている。事務所建築については，最近ドイツを中心に事務所内での情報の流れと，そこで働く人の心理的分析をもとにした新しい視点からの研究がされつつある。学校建築についても同様で，教育に科学的方法を取り入れたり，教育心理学の成果を応用することが，従来の学校建築の再検討を迫らないはずはないからである。〔武　基雄〕

けんちくきじゅんほう【建築基準法】建築物の敷地・構造・設備および用途に関する最低の基準を定めて，国民の生命・健康・財産の保護を図り，公共の福祉の増進に資することを目的とする法律。1950年(昭和25)設定。以前は1919年(大正８)制定の〈市街地建築物法〉によっていたが，これは法の規制を主として建築という〈物〉にかけ，かつ命令に委託していた。これに対して建築基準法は，建築物の最低基準を法自体において定めると同時に，物をつくりだす建築技術者，つまり設計者・建設業者という〈人〉に対しても〈建築士法〉と〈建築業法〉を別法で制定し，技能上の資格や業務などに対して規制が定められてある。

　しかし最近は技術の革新によって，高層建築やプレハブ建築が盛んになるとともに，新建材や機器類が発達してくるにしたがい，これまでの法令だけでは適用しがたくなった。また一方では都市化の進行に伴って，大都市周辺にスプロール現象が起こり，市街地の無秩序な発展や自然の破壊など，住環境の悪化がもたらされた。このためにも法の改正が必要となり，1970年，施行令とともに大幅に改められることとなった。改正の要点としては，①総則関係においては，これまで弱いといわれていた執行体制の整備拡充と，違反建築物に対する是正や処分などの措置を強化したこと，②建築物の構造設備においては，内装制限に関する基準の適用範囲を拡充するなど，基準を向上させたこと，③都市計画区域内については，用途地域の新設変更をはじめ，住居地域の保全，容積制限の全面適用，建蔽率(けんぺいりつ)の合理化，日照権などに対する建築物の高さの制限など，都市環境の改善に改正が加えられている。また，自治体の実情を生かした運営や，住民の自発的協力を促す指導，および公聴会の開催などによる住民の意見を反映させるなど，法の民主的な運営が強められている。〔武　基雄〕

けんちくし【建築士】建築士法(1950)によって定められた建築技術者の資格称号。１級と２級とがあり，それぞれ建築の設計と工事監理に関する知識や技能についての国家試験に合格して登録したものに与えられる。建築士の受験資格は，それぞれ最終卒業学校の等級や課程と，卒業後の経験年数によって決められる。たとえば，１級建築士は大学(短大を除く)で建築または土木の課程を修め，卒業後建築に関して２年以上の実務の経験を有するものとなっている。また建築士の設計あるいは工事監理をする建築物は，それぞれの資格によってしてはならない種別が定められている。〔武　基雄〕

けんちくほうき【建築法規】建築に関する法令の規定で，建築基準法および同施行令をはじめ，建築士法・建設業法などがこれにあたり，現在わが国では建築関係の法規は50余ある。これらは主として①建築物自体の規制に関するもの，②建築物の維持管理に関するもの，③建築の業法に関するもの，その他がある。またこれらは個個の建物について適正を期そうとする，いわゆる単体規定のものと，関連する建物相互間の問題，または都市計画的な立場からの規制を考える集団規定のものとがある。

　建築基準法はその両者を合わせたいわゆる実体規定をもっていると同時に，その目的を達成させるための行政上の制度規定がある。建築基準法施行令その他がそれである。建築法規はこのような規定による拘束力をもっているけれども，法の違反に対しては，罰則が軽く，また立ち入り検査や呼び出し尋問などの警察権はない。〔武　基雄〕

ケンチャやし【ケンチャ椰子】単子葉植物・ヤシ科。カレーヤシともいう。オーストラリアの南東，タスマン海にあるロードハウ島の特産で，1872年にヨーロッパにはいり，日本には明治末年に渡来した温室性常緑高木。幹はなめらかで高さ４～５ｍくらいになる。葉は羽状複葉で２～３ｍ，やや赤みをおびる。肉穂花序は60～90cmになる。はち植えは２ｍくらいまでが最も優美。

けんちゅう【絹紬】繭紬・絹綢とも書く。*サクサンの繭からとった糸を経緯に用いた生織後練の平織物。薄手の普通品を絹紬またはポンジーといい，やや厚手の優良品は絹緞(けんどん)とよばれ，ともに中国山東省が主産地であった。絹紬は薄茶または薄クリーム色で，ところどころに節のあるのが特徴。はだざわりはさらっとして，冷たい。わが国では1879年(明治12)サクサン繭を山東省から輸入して，信濃(しなの)地方や千葉・愛媛・茨城などの諸県で飼育し，糸をとったが，大部分は中国からの輸入糸を用い，福井・石川・岐阜の各県で織られ，おもに着尺裏・ふとん・兵児帯(へこおび)・洋傘(ようがさ)・婦人服地に用いられてきた。なお，*シャンタンはサクサン糸を用いた練織物である。〔北村哲郎〕

けんちゅう【検注】*荘園(しょうえん)制下の国衙(こくが)領や荘園において，*国司や*領家から使いを派遣して行なった土地調査。定期的に行なう正検と特別に損亡(そんもう)などを調べる臨時の内検の２種がある。正検では総田数のほか，定田(年貢公事納入地)，除田(年貢公事(ねんぐくじ)免除地)などの田数を確定し，総田数からこれらを差し引いた定田数(年貢公事の負担地)を定めた。検注の方法は時代や地域によって異なり，検注の結果を記す検注帳も検注目録・検田帳・検田目録・正検取帳・田数帳・名寄帳(なよせちょう)などとよばれた。〔鈴木英雄〕

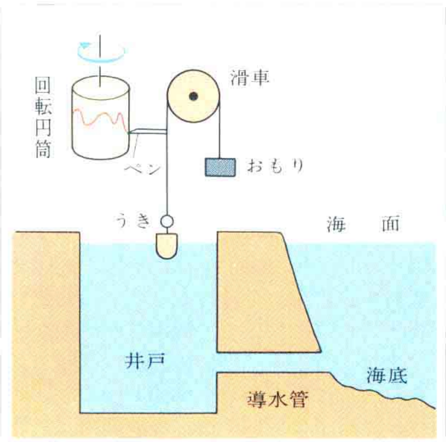
げんちゅうせいしっかん【原虫性疾患】人畜に病気を起こす原虫は多種あるが，根足虫類(赤痢*アメーバ類)，鞭毛虫(べんもうちゅう)類(*トリパノソーマ・膣(ちつ)トリコモナスなど)，胞子虫類(*マラリア・*トキソプラズマなど)，繊毛虫類(大腸バランチジウム)の４綱に分けられる。原生動物の大きさはさまざまであるが，寄生性のものは概して小さく，顕微鏡的である。①根足虫類・赤痢アメーバ１種のみがヒトに病原性を有し，栄養型は二分裂によって増殖するほか，条件に応じて嚢子(のうし)となり，成熟嚢子が感

染性を有する。②鞭毛虫類・トリパノゾーマがアフリカ嗜眠病(しみんびょう)や中南米にみられるシャガス病，リーシュマニアがカラ-アザール・東洋腫瘤(しゅりゅう)・ブラジル・リーシュマニア症の，トリコモナス類が膣トリコモス症の，腸ギアルジアがギアルジア症などの病原体である。トリパノゾーマやリーシュマニアの類では中間宿主を必要とする。③胞子虫類：マラリア原虫がマラリアの，トキソプラズマがトキソプラズマ症の病原体となる。マラリア原虫はこん虫を中間宿主とし，終宿主との間で有性・無性世代をくり返すのが特色である。④繊毛虫類：大腸バランチジウム1種が，ヒトに病原性を有する。比較的大形で大きさ100μ以上のものもしばしばみられ，大核と小核の2個の核をもつ。感染型は嚢子である。ブタの大腸バランチジウムと非常によく似ており，その異同が問題となっている。〔山本　久〕

げんちょう【原腸】後生動物の発生においては，胞胚(ほうはい)期の姿の段階(原腸胚・嚢胚(のうはい)では陥入などの方法によって内外2層の壁をもつようになる。このとき内外の層によって形成される腔壁(こうへき)，またはその内腔(原腸腔)を原腸とよぶ。原腸を構成する胚葉は内胚葉で，これから腸管が形成されるが，中胚葉を含むこともあり，この場合は脊索(せきさく)・体節なども生じる。

げんちょう【阮朝】ベトナムの最後の王朝(1802～1945)。順化(ユエ)を都とし，国号は越南(ベトナム)。1802年阮福映によって興され，次の明命(ミンマン)帝のときには中国の清朝(しんちょう)にならった中央集権的な専制君主制を確立し，カンボジア・ラオスの一部を含む大帝国を形成した。しかし，鎖国政策に加えてキリスト教を弾圧したため，フランスの侵略を受けて1883年にはその保護国とされ，第2次世界大戦後の1945年バオダイ(保大)帝の退位によって阮朝は終わった。〔勝村哲也〕

けんちょうき【検潮器】潮汐(ちょうせき)の干満を測定する器械。最も簡単なものは検潮柱で，波の静かな海中に目盛りを記入した木柱を垂直に立て海面の位置を読み取るものであるが，波などによる読み取りの不正確などのために，長期間の検潮には向かない。自記式で長期検潮に使用されるものに，浮標式と水圧式の2種類がある。①浮標式：海面にうきを浮かべ，その上下を回転ドラムに縮めて自記記録させるもので，風や波などによる短周期の振動を除くために，井戸を掘り海とパイプで連結する。ケルビン式・フース式などがある。②水圧式：海面の上下動によって海底の圧力が変化するのを陸上に設置した検潮器に伝えて自記させるもの。海底につり鐘形の円筒やゴム袋などで，中の空気が受ける水圧を測定する。深さは，200mくらいまでに使用されている。沖合いの検潮は，一般に困難で，精度がよくない。〔相原正彦〕



検潮器　潮汐と検潮器の関係


建長寺　山門

けんちょうじ【建長寺】神奈川県鎌倉市山ノ内にある臨済宗建長寺派の大本山。山号は巨福(こふく)山。鎌倉五山の第1位。開基は北条時頼(ほうじょうときより)，開山は宋(そう)僧蘭溪道隆(らんけいどうりゅう)(大覚禅師)。1249年(建長1)に着工(建長3年説もある)し，1253年落成したわが国最初の禅宗専門道場であった。1315年(正和4)の炎上によって当初の建造物は滅びたが，現在，総門・山門・仏殿・法堂がほぼ一直線上に並ぶ禅宗様伽藍(がらん)配置のおもかげをとどめている。総門は方丈とともに，1944年(昭和19)に京都般舟三昧院(さんまいいん)から移建。山門は1763年(宝暦13)再興。かたわらの鐘楼には，1255年物部重光(もののべしげみつ)鋳造の巨鐘(国宝)がかかっている。1646年(正保3)唐門とともに静岡県久能(くのう)山徳川家霊廟(れいびょう)から移した仏殿内には，室町時代の巨像木造地蔵菩薩(ぼさつ)座像を本尊として祭るほか，千手観音像・伽藍神像五軀(く)など鎌倉時代の木造像が安置されている。法堂は1814年(文化11)再建。方丈背後の庭は江戸時代の改修が目だつが，鎌倉では代表的な庭園で名勝に指定されている。〔毛利早公子〕

けんちょうじぶね【建長寺船】正しくは建長寺造営料唐船という。鎌倉時代，1315年(正和4)に炎上した建長寺造営の費用調達のため，1325年(正中2)幕府が元に渡航させた商船。元と貿易して得た利益をあてようとしたもので，幕府が渡航の時期などを決め，途中の警固も行なった。のちの天龍(てんりゅう)寺船の先駆をなす。

けんちょうじょ【検潮所】潮汐(ちょうせき)を観測する場所。海岸付近につくられた建物の中に検潮器を置いて観測する。一般に，検潮所は，波や潮流の激しい場所や，河川の影響を受ける所は避けてつくられている。

げんちょうひし【元朝秘史】モンゴルの歴史書《モンゴルの秘史》の漢訳名。作者不詳。モンゴル部族の起源・説話，ジンギス汗からオゴタイ汗に至る史料が書かれている。原文はモンゴル語・ウイグル語で書かれ，モンゴル史研究の根本史料であるとともに，すぐれた文学作品でもある。明(みん)初に漢訳され，正集10巻，続集2巻となった。

けんちん【巻煎】中国から伝えられた料理で，ケンチエンがなまったもの。巻繊・捲蒸などとも書く。油でいためたせん切りの野菜(ダイコン・ゴボウ・ニンジン・シイタケなど)とくずした豆腐を湯葉で巻き，蒸すか油で揚げたもの。しっぽく料理に用いた。また，白焼きした魚とゆでたエビをほぐして，いためた野菜といっしょに薄焼き卵で巻き，油で揚げたものをもいう。

げんていいんし【限定因子】生物の生理現象や反応などに関係している内外の諸因子(温度・光・水分や細胞内の酵素量など)のうち，ある一つの因子がわずかに増減してもその現象や反応が進行しなくなるなど，決定的な影響を受け，一方，他の諸因子の多少の増減はほとんど影響を与えないとき，この決定的因子を限定因子という。たとえば光合成において，光の強さがわずかに増減するとこれに伴って光合成量が増減し，一方，二酸化炭素濃度や温度は多少増減しても光合成量に影響を与えないとき，光が光合成の限定因子となる。〔吉田精一〕

けんていきょうかしょ【検定教科書】⇨教科書

げんていしょうにん【限定承認】⇨相続

げんていばん【限定版】普通に発行される無制限版に対して，あらかじめ一定の小部数に限って印刷する出版物。ふつう，500部以下であるが，ときには1,000部・2,000部などの部数のこともある。限定の所在を示すため，標題紙の裏か奥付などに〈本書は何部を限って印刷し，本書はその何番である〉と，印刷部数を明記して記番する場合が多い。海外には書物愛好家を対象とする限定版専門の出版社もある。➔豪華版

けんでんき【検電器】①電流・電荷・電位の有無を検査する測定器の総称。静電式・放電式，定位傾度を利用したもの，ネオン管式などがある。②ブリッジ法・電位差計法など零位法の測定において，平衡が得られたことを確かめるために用いる測定

器。各種検流計・受話器・検波器などがある。③特に，静電気の検出を行なう測定器。通常用いられるものは，2枚のアルミニウム箔(はく)または金箔を金属棒の先に重ねてつるしたもので，箔の帯電による静電的反発力を利用して，物体の帯電状態を調べる。〔堀内和夫〕

けんでんし【検田使】 律令(りつりょう)制下，国司*や領家*が土地調整のために派遣した使者。荘園*(しょうえん)制の進展につれて不輸租の特権をもつ荘園が増大すると，国司は検田使を派遣して厳重に検注*を実施し，新田の摘発などによってきびしく課税した。このため，荘園領主は荘園内に検田使がはいるのを拒否する権利をとりつけた。これが不入権である。その後荘園領主はみずから使いを派遣して検注を行なったが，この使いも検田使という。〔鈴木英雄〕

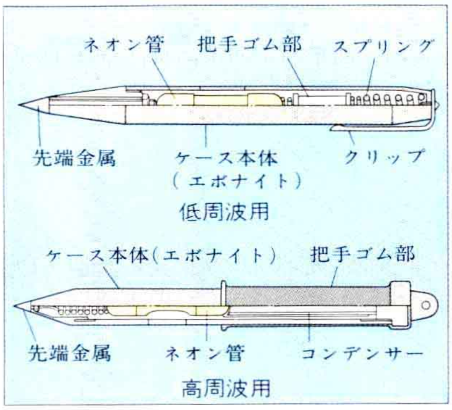
げんてんしょう【元典章】 中国，元代の法律書。正しくは《大元聖政国朝典章》。本集60巻，新集不分巻。江西の民間で公刊(1321～1322)。六部*(りくぶ)のそれぞれに応ずる6部門を中心として法規・判例10部門に分類・配列され，元代の法制・社会・経済史料として重要。白話やモンゴル語直訳などの特異な文体を交える。通行本には誤脱が多い。

ケント(州)［Kent］ イギリスのイングランド南東部，ロンドンの南東部からドーバー海峡沿岸に広がる州。面積3,950km²。人口144万1,000(1974)，州都メードストン。南東部の海岸付近と北部テムズ川入り江沿いをのぞく大半の地域は白亜紀層の200～250mの丘陵になっている。園芸農業やホップ栽培が盛んで，南東部の海岸地域ではヒツジの飼育が行なわれている。東部のケント炭田は510km²の広さがあり，1913年に開発が始まった。テムズ川沿いでは，製紙・機械・化学工業などが盛んである。かつての七王国*の一つであるケント王国の地で，イギリスの宗教の中心であるカンタベリは，その首都であった。海岸地方は〈白い崖(がけ)〉と海水浴場で名高いドーバーをはじめ，ロチェスター・チャタムなどの諸港がある。〔梶川勇作〕

けんど【剣奴】 グラディアトルともいう。ローマ時代にコロセウム*などの闘技場で市民の娯楽のため，剣などの武器を持って互いに決闘をさせられた捕虜(ほりょ)・犯罪人または売買された奴隷の闘技者。闘技は帝政時代が最盛期で，トラヤヌス帝*時代には剣奴が10,000人もおり，剣奴養成の学校もできた。きわめて血生臭いものであったので，キリスト教の普及とともに404年廃止された。なお，BC73年のスパルタクス*の乱は剣奴による反乱である。

けんとう【拳闘】 ⇨ボクシング

けんどう【剣道】 刀剣をふるって敵を倒す術技。古代には撃刀(たちかき)，室町中期までは太刀(たち)打ち，以後江戸初期までは



検電器 ネオン検電器の構造

兵法(ひょうほう)・刀術・刀法・剣法などといい，その後明治末期までは剣術・撃剣と称した。剣道の語が用いられ，この名が普遍定着したのは大正末期である。内容も時代とともに変遷し，はじめは単なる剣技だったが，江戸中期には儒教や武士道理念と結びついて著しく文理的・精神的要素を加え，単なる〈術〉から道義源としての〈道〉にまで昇華し，人格陶冶(とうや)の有効な手段となった。しかし，第2次世界大戦後は精神面を失い，現在は近代スポーツの格技の一つとなっている。

〔歴史〕剣道の時代的変遷は，次の3段階に分けられる。①室町初期までの発生時代：剣術は古墳時代，金属製刀剣の伝来によって始まる。《日本書紀》に崇神(すじん)天皇*の皇子豊城入彦命(とよきいりひこのみこと)が，〈夢に八たび撃刀するのを見た〉とある。源平合戦には，それまでの名誉の象徴であった長大な平造りの直刀からそりのある彎刀(わんとう)に変わり，軽くてよく切れる日本刀が出現した。しかしこのころはまだ騎馬戦が主力で，太刀打ちより弓馬の技が重んじられたが，文永・弘安(こうあん)の役では武士の集団戦闘の強みを知らされた。②戦国末期までの隆盛時代：応仁(おうにん)の乱のときは，従来の戦闘方法を一変し，それまでの騎馬による個人戦闘に代わって，足軽による集団徒歩戦闘が主力となった。勢い刀槍(とうそう)が主要兵器となり，剣術が武士の表芸となった。はじめは粗暴な戦場剣法であったが，乱世の深刻化とともに，武士は常在戦場の心得が必要となったため，護身用にも剣技が求められ，将軍・大名もその習得に励んだ。これは荒っぽい戦場剣法とは違い，甲冑*(かっちゅう)も着けない1対1の剣法であったから，高度の技術を必要とし，また自然に体系化して諸流派を生んだ。その源流に，天真正伝神道(新当)流・神陰流・中条流の3流派がある。天真正伝神道流は室町中期，下総(しもうさ)(千葉県)香取郡飯篠(いいざさ)村の飯篠長威斎*(ちょういさい)(？～1488)が創始，一門から諸岡(もろおか)一羽が出て一羽流を立て，その門弟根岸兎角(とかく)が微塵(みじん)流を開いた。同じく長威斎の門弟に塚原(つかはら)土佐守(とさのかみ)があり，その子に塚原卜伝*(ぼくでん)がいて当流を学んだ。神陰流は鵜戸(うど)神宮に参籠(さんろう)して影流を創始した愛洲惟孝(あいすいこう)(1452～1538)の子，小七郎の門人上泉伊勢守*(かみいずみいせのかみ)が創始，のち神後伊豆守へ引き継がれる。伊勢守の門下から疋田(ひきた)文五郎・柳生宗厳(やぎゅうむねよし)・丸女(目)蔵人佐(くらんどのすけ)(蔵人頭(くらんどのかみ))らの逸材が出て，それぞれ疋田流・柳生新影流・心貫流を立てた。柳生新影流は柳生宗矩*(むねのり)・同十兵衛へと引き継がれ，十兵衛のとき柳生流と改め，徳川将軍の御家流として長く栄えた。また塚原卜伝は上泉伊勢守に師事し，その極意を得て卜伝流を開いた。次に中条流は僧慈音に始まり，門下の中条兵庫助(兵庫頭)によって創始された。兵庫助は前2者とほぼ同時代の人，当流から富田(とだ)流の祖富田九郎右衛門(くろうえもん)，鐘捲(かねまき)流の祖鐘捲自斎(じさい)が出，さらに一刀流の祖伊藤一刀斎*が出て一刀流の繁栄を招く。③江戸末期までの完成時代：以上のほかに江戸初期には，宮本武蔵*(むさし)の二天流，東郷肥前守の示現流など独創的な流派が生まれた。その他，京には吉岡(よしおか)憲法*の吉岡流があり，前後して斎藤伝鬼の天道流(天流)，中条流に発する一放流，大野将監(しょうげん)の鞍馬(くらま)流，小田孝朝(たかとも)の小田流，東下野守元治の神明無想東流，石田伊豆守の無明流があり，さらに念流・東軍流・天心独名流・心貫流・諏訪(すわ)流などが世に聞こえた。最盛期にこれら流派は200以上にも上ったが，中でも一刀流の嫡流小野派一刀流，神陰流を伝える柳生流が最も栄えた。正徳年間(1711～1715)には直(じき)心影流の長沼四郎左衛門が，面・籠手(こて)・胴などの防具を使用し，従来の型を主にしたけいこから，竹刀*(しない)による実戦式けいこに改め，おいおいこれが他流へも普及し今日みる剣道の形式をなして，内容的にも著しく変革した。戦乱期を遠く隔たるにしたがい，剣術に儒教やそれに結びついた武士道の実践道徳が加味され，精神的な自己修練の方途へ変質していった。そして，敵を倒すという本来の目的が薄れ，華美で形式的なものとなった。しかし幕末の動乱期には，直心影流男谷(おだに)精一郎が幕府の講武所*で武芸全体の再興に努めて成果をおさめた。また北辰(ほくしん)一刀流千葉周作*の玄武館，神道無念流斎藤弥九郎*(やくろう)の練兵館，やや遅れて鏡新(心)明智(めいち)流桃井春蔵*の士学館などの進歩的な町道場が出現し，剣術に新しいいぶきを吹き込んだ。〔稲垣史生〕

〔現代剣道の芽ばえ〕明治維新の大業による社会の大変革は，武士の指導的役割を消滅し，急激なる西洋文化の輸入は武道の思想的支柱ともいうべき文武両道論をくずし，

剣　道



試　　合（1969年度第17回全日本剣道選手権大会　東京　武道館）



八双の構え(左)と脇構え(右)



上段の構え

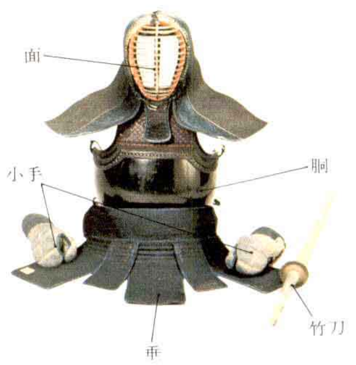


中段の構え



下段の構え

防　具



脱刀令や廃刀令の太政官布告によって武道家の生活も一変せざるをえなくなった。彼らは窮迫した生活の維持と，道の存続のために〈撃剣興行〉を計画したが，一時的な成功にすぎなかった。1877年(明治10)の西南戦争での警視庁抜刀隊の活躍はまず警察官の剣道を復活せしめ，後世の警察剣道の礎を築いた。明治中期は，初年以来続いた欧米追従主義から離れた日本的な覚醒(かくせい)の時代で，尚武(しょうぶ)の精神は尊ばれ，武道は盛んになった。このような社会的背景によって1895年大日本武徳会*が創立され，剣道家の優遇，指導者の養成，練習場(武徳殿)の建設を行なって，大いに奨励に努めた。

学校に武道が採用されたのは1911年である。それまでの剣道は技術を中心にした武術・武芸の性格が強く，剣道の名称も剣術・撃剣などを用いていたが，しだいに術の精神化が唱えられ，武術から武道への教育的性格が強まるようになった。

〔剣道の近代化〕武徳会によって指導されていた剣道は，封建的な思想を背景に武術を中心にしていたが，大正年代から民主的な思想を背景としたスポーツ的形態で行なうようになった。そのにない手は学生剣道であった。学生は学生相互の親睦(しんぼく)と技術の交流のために組織をつくり，多くの試合や指導講習会などを開いて学生剣道の普及に努め，武徳会の専門家的な行き方に対してアマチュアとしての立場をとって活躍した。昭和初期，前後3回にわたって行なわれた御前試合は，専門家たちとアマチュアが一堂に会した今日の試合規則，審判規則の基をなすものでスポーツ様式の試合として，ここに剣道の近代化が始まった。しかし，剣道の近代化も第2次世界大戦によって様相が一変し，再び実戦的な剣道が登場してきた。当時武道の主管者であった厚生省が出した戦技武道や文部省の作成した《闘力錬成》を見てもわかるように，斬撃(ざんげき)技術を中心にした素朴(そぼく)な古武道剣法によって実戦的に野外で訓練させられた。

〔現代剣道の成立と国際化〕終戦直後，軍国主義に協力したという理由で禁止されていた武道も，駐留軍の日本武道に対する理解と朝鮮戦争以後のわが国の国際的位置の変化によって，1953年(昭和28)以後武道は次々に解除になった。特に敗戦によって急激に変化した社会の変動に伴って生じた児童の体位に関する欠陥は剣道の指導によって効果的な成果をあげ，以後少年・少女の剣道が盛んになった。

1964年のオリンピック東京大会を契機として日本武道に対する内外の関心が高まり，1967年国際親善大会を東京で開催して成果をあげ，1970年同じく東京で第1回国際剣道選手権大会を開催し，17か国の参加を得てはなばなしく試合を展開したが，その機会を利して国際剣道連盟(IKF)を結成し，次回の開催国をアメリカに決めた。このようにして，剣道は国際的ひのき舞台に第一歩を踏み出した。

剣道は武術的要素を多く含んでいるが，現在では純然たる武芸・武術ではなく，人間教育を目的とした日本的生育運動の一つとして考えられ，次のような特性をもっている。①敏捷(びんしょう)性と巧知性を含む体力の育成。②正しい姿勢の育成。③注意力の集中と決断力の育成。④責任感と自主的精神の育成。⑤礼儀を重んじ，相手を尊重する態度の育成。⑥健康・安全の態度の育成などである。

〔試合規則と審判規定〕規則や規定はすべてその統括団体である全日本剣道連盟が制定している規則・規定に準拠して行なわれている。試合場は，最長11m，最短9mの境界線をもうけて，そのなかで実施する。

その形は正方形・長方形のいずれでもよい。用具は剣道具・竹刀とも一定の規格があり，特に竹刀の場合はこれに反すると反則になる。試合は3本勝負を原則とし，制限時間内に2本先取したほうを勝ちとする。制限時間内に勝負が決まらない場合は延長戦を行ない1本を先取した者を勝ちとする。試合時間は5分を基準とし，延長戦は3分を基準とする。

審判員または相手の人格を無視するような行動をなした場合，このとき負けとして退場を命ぜられる。〈場外，不法な押し出し，突き出し，足搦(あしがら)み，組み討ち，中柄に柄を入れる，暴力的な打突，鍔(つば)より先の部分を握る，其(そ)の他公正を害する行為〉などの反則を3回犯した場合は相手方に1本与える。異議の申し立ては本規則の実施に関して疑義のある場合はできるが，判定に対してはできない。

主審1名，副審2名の判定に対して同一権限をもつ3人制を用いる。有効打突の成立は2人以上のあり，2人が棄権して1人がありの表示のあった場合。不成立は2人以上のなし，3人が異なった表示をした場合である。表示はありの場合(旗を斜め上方)，なしの場合(両旗を前で振る)，棄権の場合(旗を前で交差)の3種である。その他試合の進行についてはそれぞれの宣告と表示があって同時に行なわれる。また3人の審判のほかに線審があって場外の事実有無について判定をする。

剣道の内容の中に日本剣道形がある。この形は武徳会が創立する際に各流派を結合して形剣道から試合剣道に移行する際の基本形として制定したもので，太刀7本・小太刀3本からなりたっており，打太刀と仕太刀の二者によって行なわれる。

〔中野八十二〕

げんとう【舷燈】船燈の一種。船は夜間，船橋の左舷に赤燈を，右舷に青燈を，互いに反対舷から見えないように，船首から112°30′の範囲を照らすように掲げなければならない。これによって，夜間に行き会う船どうしが相手船のだいたいの針路を知ることができる。海上衝突予防法によって相手船の針路を避けなければならない側の船(避航の義務のある船)からは，接近してくる相手船の赤燈が見えるのが普通であり，危険信号と一致して便利である。この場合，針路を保つ側の船(避航義務のない船)からは相手船の青燈が見え，安全信号と一致する。〔飯島幸人〕

げんとうき【幻燈機】⇨スライド

げんどうき【原動機】⇨内燃機関

げんどうきつきじてんしゃ【原動機付き自転車】総排気量125cc以下あるいは定格の出力1.0kW以下の原動機を有し，陸上を自由に走ることのできるものと法令で定めている二輪車。バイクモーターとモーターバイクの名でよばれ，前者は自転車に原動機を装着したもの，後者は専用の車体に原動機を架装したものである。総排気量が50cc以下あるいは定格出力600W以下のものを第1種原動機付き自転車，その他のものを第2種原動機付き自転車とよんでいる。

〔成田武男〕



堅頭類　エリオプス

けんとうし【遣唐使】遣隋使(けんずいし)の事業を引き継ぎ，7世紀から9世紀にかけて朝廷から唐へ派遣された使節。唐帝国の制度・文化を輸入すること，唐を中心とする東アジアの国際情勢を把握(はあく)することなどをおもな目的とした。前後19回の任命があり，そのうち実際に使節が渡唐したのは15回。7世紀末の天武・持統朝に一時中絶したが，大宝令(たいほうりょう)の制定直後，702年(大宝2)の遣唐使からは規模が拡大し制度も整えられた。使節は大使・副使・判官(じょう)・録事の4等官からなり，ときには執節使・押使が大使の上に任命され，史生(ししょう)以下の職員・乗組員，それに留学生・学問僧などを含め，一行は多いときには500～600人に及んだ。唐文化輸入の上で留学生・学問僧の果たした役割は大きく，吉備真備(きびのまきび)・玄昉(げんぼう)・最澄・空海などは著名である。航路ははじめ壱岐(いき)・対馬(つしま)から朝鮮の西側を北上し，黄海を横断して山東半島に上陸する北路がとられたが，朝鮮半島における新羅(しらぎ)が脅威となったため，8世紀以降は五島列島から東シナ海を横断して揚子江付近へ上陸する南路がとられた。894年(寛平6)安史の乱後，唐の国内が乱れたこと，私貿易が盛んになって多大の出費・犠牲を伴う使節の派遣が必要でなくなったことなどの理由から，菅原道真(すがわらみちざね)の建議によって廃止された

〔柳雄太郎〕

けんとうるい【堅頭類】化石として出る両生類の一目。現在のサンショウウオの形に似ていて，頭部は骨板によって保護されており，頭骨は初期のものは細めで高いが，後期のものは太く扁平(へんぺい)で魚類の頭骨に似る。歯は象牙(ぞうげ)質が複雑に屈曲し，脊椎骨(せきついこつ)構造には種々の形がある。デボン紀後期から三畳紀にかけて栄え，三畳紀末に絶滅した。その進化には種々の段階がみられ，大きさもまちまちである。三畳紀後期の大形種は巨大。石炭紀・二畳紀・三畳紀などに一般に産出するものは4本の足で歩き，淡水中あるいは陸上の沼地にすんだ。ノルウェーのスピッツベルゲン諸島の海成三畳系からは豊富に産出するが，外洋にも進出したと考えられる。巨大型は両生類・魚類・甲殻(こうかく)類などを捕食したようであり，こん虫類なども食ったようである。初期のものや三畳紀のものが水生であることは注目に値する。陸上動物の祖先として進化史上重要な一群である。

〔神戸信和〕

ケントし【ケント紙】画用紙の一種で，緻密(ちみつ)・純白の上質紙。一般品は化学パルプを原料とし，表面を粗に仕上げてある。イギリスのケント地方でつくられたところからこのよび名があり，画用紙のほか，製図用紙・名刺用紙としても使われる。

けんとづか【間斗束】⇨中備(なかぞなえ)

ケントン［Stan Kenton］(1912～　)アメリカのジャズ作曲家・バンドリーダー・ピアニスト。カンサス州の生まれ。1941年に自分の楽団を結成し，1943年以降ダイナミックなサウンドとモダンなハーモニーを用いた演奏で，ウディ-ハーマン楽団とともにプログレッシブ-ジャズ(進歩的ジャズ)を推進，その指導者のひとりとなった。ピート-ルゴロらの優秀な編曲者とリー-コニッツらの名独奏者を擁して音楽的にも人気の点でも成功を収めたが，1960年代にはいってからやや創作力に衰えが目だつ。代表的演奏に《リズムの芸術》《南京豆(ナンキンまめ)売り》などがある。〔岩浪洋三〕

けんないき【建内記】正しくは〈建聖院内府記〉という。内大臣万里小路時房(までのこうじときふさ)(1394～1457)(死後建聖院内府とよばれる)の日記。1428年(正長1)から1447年(文安4)にわたるが，欠失の部分も多い。記述は公家(くげ)社会のことだけでなく，一般社会事象にも強い関心を示している。《大日本古記録》に収録。

げんなえんぶ【元和偃武】日本史の用語。徳川政権が，大阪城に拠(よ)る豊臣(とよとみ)氏を滅ぼした結果，戦国時代から続いた戦乱がまったく静まり，平和の時代になったこと。1615年(元和1)大阪の陣の戦勝で，江戸幕府は完全に全国支配の体制を確立し，その後世界史上まれにみる二百数十年の太平の世が続いた。なお，偃は〈やめる〉または〈やすめる〉の意で，偃武は戦乱が終結したことを意味し，《書経》を出典にしている。

〔高崎徳次〕

けんにょ【顕如】(1543～1592)本願寺第11世。諱(いみな)は光佐。第10世証如の長子として石山本願寺に生まれ，12歳で得度，住職となる。石山の地を織田信長(のぶなが)に求められて拒み，1570年(元亀1)から1580年(天正8)まで信長と戦火を交えたが，正親町(おおぎまち)天皇の命により和睦，大阪を退いて紀州鷺森(さぎのもり)(和歌山県和歌山市)に移る。信長の死後，大阪天満(てんま)に帰ったが，やがて秀吉(ひでよし)から京都七条堀川(ほりかわ)の現在地に寺地の寄進を受け，そこに移った。〔坂東性純〕

けんにんじ【建仁寺】 京都市東山区にある臨済宗建仁寺派の本山。京都五山*の一。山号は東山。本尊は釈迦如来(しゃかにょらい)。1202年(建仁2)源頼家(よりいえ)が寄進した土地に，宋(そう)から帰国した栄西*が百丈山大智寿聖禅寺(江西省)にのっとって建立(こんりゅう)した京都最初の禅寺。はじめ比叡(ひえい)山延暦(えんりゃく)寺の異議により，禅のほか真言・止観の2院を置き，真言・天台・禅三宗兼学の寺としていたが，1265年(文永2)宋僧蘭溪道隆(らんけいどうりゅう)(大覚禅師)が来住してから純粋の禅宗寺院となった。鎌倉末期に五山に列せられたのちはその一中心として栄え，五山文学*の中心となった。数度の火災にあい，たびたび造営されたが，1552年(天文21)細川晴元(はるもと)の兵火のために全焼した。のち天正年間(1573～1591)安芸(あき)(広島県)の安国寺恵瓊(えけい)はその荒廃を惜しんで方丈*を移建し，また東福寺茶堂を移して仏殿とした。現在のものはみなその後の再建である。俵屋宗達*の《風神雷神図屏風(びょうぶ)》(国宝)を蔵する。〔毛利早公子〕

げんのうしんしょう【源翁心昭】(1326～1396) 室町時代の曹洞(そうとう)宗の僧。号は空外。おくり名は能照法王禅師。越後(えちご)(新潟県)の人。姓は源氏。5歳で陸上寺の童子となり，16歳で得度，19歳で峨山紹碩*(がさんじょうせき)に謁し，その法を継いだ。のち伯耆(ほうき)(鳥取県)の退休寺に住し，さらに下野(しもつけ)(栃木県)に泉溪(せんけい)寺，会津(福島県)に慶徳寺を開き，また会津の慈眼(じげん)寺に迎えられてこれを示現寺と改めた。下野那須野(なすの)の殺生石(せっしょうせき)を偈頌(げじゅ)で破し，名声を高めた。〔田中良昭〕

げんのしょうこ【現証拠】 双子葉植物・フウロソウ科。道ばたや野原に普通にみられる多年草。ミコシグサともいう。茎はよく枝分かれし，横に広がり，長さ50cm。葉は掌状に3～5裂し，毛が多い。夏，枝の先にウメの花に似た径1.5cmほどの白・紅紫・淡紅色の5弁の花をつける。果実は円柱形で長さ1～2cm，成熟すると5裂して，種子をはじき，船のいかりのような形になる。開花直前に根を除いて植物全体を乾燥させたものはタンニンを多く含み，煎(せん)じて下痢止め・整腸剤として用いられ，民間薬として有名である。飲むとすぐ効果が現われるので〈現の証拠〉と称するという。

けんぱ【検波】 ⇨復調

けんばい【剣舞】 風流(ふりゅう)系，特に念仏踊り*の列に属する民俗芸能。風流系のものはすべてそうであるが，剣舞も人間の生活を脅かす天災・地変は，政治や戦争の犠牲となって非業の死を遂げた人たちの魂(御霊(ごりょう))のたたりだとして，これをしずめるために，鬼の面をつけた者数人が，念仏を唱えながら，金剛杖(こんごうづえ)と剣をもって激しく踊るものである。盆(→盂蘭盆会(うらぼんえ))などに各戸を巡回して踊る。現在では岩手県一帯に行なわれている。なお，剣舞*(けんぶ)は，これとは別。〔佐藤 薫〕



建仁寺 仏殿



ゲンノショウコ

げんばくうん【原爆雲】 原水爆の爆発時に発生するきのこ状の雲。原子雲ともいう。原水爆はメガトン級の爆発を起こすために，周囲数キロメートル以内のものを粉砕して吹き飛ばす。それと同時に大気に一種の真空状態をつくり出し，この真空が粉砕した岩石・水蒸気その他のちりを吸い上げる。この吸い上げる高さは地上数十キロメートルの成層圏と対流圏の境にまで達し，そこでちりの上昇速度が鈍って四方に広がり出してきのこ状の雲になる。この雲は原水爆爆発に特有のもので象徴的でさえあるが，内部には放射性をおびたちりを多量に含み，気流はこのちりを広範囲にまき散らす。原水爆が空中爆発であっても，衝撃波*が地上の岩石を粉砕するので，この雲は地上から立ちのぼる。〔加藤敏郎〕

げんばくししゅう【原爆詩集】 峠三吉(1917～1953)の詩集。1951年(昭和26)刊。広島で被爆し，以後原爆症に苦しみながら，原水爆反対運動を続けた詩人の，その災禍を訴え，告発する表現は鋭い。

げんばくしょう【原爆症】 原子爆弾症の略称。原子爆弾*の爆発によって被害を受けた者が，他の放射線障害*と様相の異なる症状を表わす病気。1945年(昭和20)8月広島・長崎における被爆によるものが最も有名。原子爆弾の特徴は，ふつう爆弾のもつ機械的作用のほかに熱作用および，X線*をはじめとして原子核変換の際に放射されるα粒子*・β粒子*・γ粒子*・中性子*・陽子*などが含まれる放射線(電離性放射線)をもつことである。重篤な熱傷および外傷を受けた者は2週間以内に死亡，この時期以後はこの放射線障害が原因となって諸症状を起こす。造血臓器は放射線に最も感受性の高い臓器であるため，急性期には骨髄像・血液像に大きな変化がみられ，全身に高度の不快・脱力感・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・口渇(こうかつ)・食欲不振・頭痛・睡眠障害などの症状が現われる。亜急性期には，脱毛・発熱・出血・口内症状・壊疽(えそ)・粘血便などが現われ，出血性素因*はこの時期に著明である。さらに進むと生殖器・内分泌腺(ないぶんぴせん)，他の内臓諸器の機能低下が起こる。治療としては，薬物治療・造血組織細胞の移植，人工放射能物質による内部照射に対する治療，などがある。〔竹内直子〕

けんばん【検番】 遊里で芸者*を取り締まる機関。見番とも書く。吉原(よしわら)芸者の数がふえると，売色で遊女の領域を侵す者があり，1779年(安永8)遊女屋の大黒屋正六が，その取り締まりのため設けたのが検番である。対象は女芸者のほか，幇間(ほうかん)といわれる男芸者を含め，そのとき人数を100人と限った。当時の検番規則では，芸者の髪飾りはくし1枚，かんざし2～3本と決めて目だたないようにし，また組合をつくって，客と情交する者は密告するように仕向けた。そのかいあって吉原は，長く遊女*と芸者が，それぞれの領域を守って両立した。しかし，その後，検番はただ芸者にかかった口を取り次ぎ，その送迎をする事務所にすぎなくなった。役員と手代が詰めていて，壁に掛けた芸者の名札を操作し，せいぜい玉代を計算するのがおもな仕事になった。〔稲垣史生〕

けんばんがっき【鍵盤楽器】 空気を送ったり弦を打ったりする楽器の発音運動に演奏者(人間)が直接手を下すのではなく，メカニックなくふうを凝らして，鍵(キー)を通じて間接的に音を出す楽器の総称。外面的な特徴と力伝導装置の点から便宜的に分類されたもので，科学的な楽器分類によるものではない。鍵の並んだものが鍵盤(キーボード)である。科学的分類にしたがえば次の3種類になる。①気鳴楽器*：オルガン・ハーモニウム(リード-オルガン)・アコーディオン・リーガルなど。②弦鳴楽器*：ピアノ・クラビコード・ハープシコード(チェンバロ)・大正琴・ハーディ-ガーディなど。③体鳴楽器*：チェレスタ・グロッケンシュピール(鉄琴)・ダルシトーン・クラビシリンダー(グラス-ハーモニカ)・カリヨン(組鐘)など。なお，新しいものでは，電子オルガンが電鳴楽器*として分類される。鍵盤に携わる演奏者の身体の部分はたいていの場合は手(マニュアル)であるが，オルガンなどの場合のように足(ペダル)を使うこ

ともある。また，鍵盤に準ずるボタン式のものもあり，気鳴楽器のコンセルティーナ・バンドネオンがある。〔山口　修〕

けんびきょう【顕微鏡】 対物レンズと接眼レンズを組み合わせて，肉眼では見られない微細構造を拡大して見る装置。

〔歴史〕ヨーロッパの各国がそれぞれ自国の発明家の優先権を主張して明らかでないが，1590年ごろオランダのZ.ヤンセンが発明したといわれる。これは，対物レンズに凸(とつ)レンズ，接眼レンズに凹(おう)レンズを用いたもので，別に照明装置を用いないで観察するものである。その後R.フックが改良，レーウェンフックが系統的に顕微鏡による研究を行ない，やがて色消し対物レンズおよび２枚組み合わせの接眼レンズが発明され，さらに1864年ツァイス*が本格的な顕微鏡の製作を始めた。わが国には宝暦年間(1751〜1763)に渡来したが，現在ではドイツとともに世界の市場に大きく進出している。

〔構造〕顕微鏡には多数の種類があり，構造も簡単でないが，光学的装置と器機的装置に大別することができる。光学的装置は光線の性質を利用して被検体の拡大像を正しく結ばせる部分であり，対物レンズ・接眼レンズおよび照明装置(反射鏡・コンデンサー・絞りなど)からなる。器機的装置は鏡脚・鏡柱・鏡筒・載物台・対物転換器などからなっている。

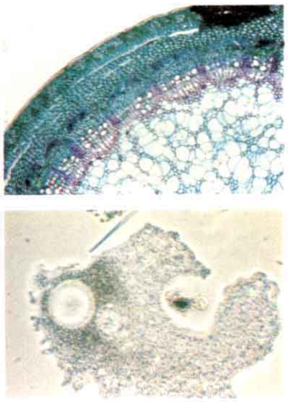
〔原理〕焦点距離の短い対物レンズL_0の前側焦点付近に置かれた物体Oの拡大した実像O′を，接眼レンズL_eによって虫めがね*と同じ原理でさらに拡大してみる。顕微鏡の総合倍率は，対物レンズの倍率をβ_0，接眼レンズの倍率をβ_eとするとき，β_0とβ_eの積で与えられる。それぞれの倍率β_0，β_eは，対物レンズの焦点距離をf_0とし，物体が前側焦点F_0の前方Zにあり，その像が後側焦点F_0'の後方Dにあるとすれば，$\beta_0=f_0/Z=D/f_0$となる。また，接眼レンズによる像が明視の距離*D_0にできているとし，接眼レンズの焦点距離をf_eとすると $\beta_e=D_0/f_e$ である。Dを光学的筒長といい，対物レンズはこの一定値に対して収差が補正してある。一般に対物レンズは４倍・10倍・40倍・100倍など，接眼レンズは５倍・７倍・15倍・20倍などがあり，組み合わせの総合倍率は20〜2,000倍程度。実際のレンズ構成もきわめて複雑で，高倍率顕微鏡の対物レンズには10個ものレンズが組み合わされているし，また顕微鏡写真撮影用として，特に像面の平均度をよくするために同心レンズを組み入れたプランオブジェクティブとか，反射系を用いた反射対物鏡など，特殊な対物レンズもある。

〔分解能*〕顕微鏡の分解能は対物レンズの性能および照明条件によって決まる。一般に対物レンズの軸上付近の収差は非常に小さく，主として回折現象の程度を決める開口数ＮＡを考えればよい。対物レンズの開口数NA_0は，入射する光線が光軸となす角の最大値をu，物体のある部分の屈折率をnとするとき，$NA_0=n\sin u$で与えられ，コンデンサーの開口数と等しく設定されたとき，顕微鏡の分解能εは，使用波長をλとすると，$\varepsilon=0.61\lambda/NA_0$となる。これをレーリーリミットとよぶ。空気中では$n=1$であるが，高屈折率の液体，たとえばグリセリン・セダーオイル・モノブロムナフタリンなどで標本ガラスと対物レンズとの間を満たしてやればＮＡは大きくなり，分解能は向上する。このようなものを液浸系とよび，一般に空気中で用いるのを乾燥系とよぶ。さらに液体として，標本ガラスの屈折率と等しいものを選び，標本ガラスと液体の境界面における内面反射を減少させて像のコントラストを高めることがあり，これを均等液浸という。

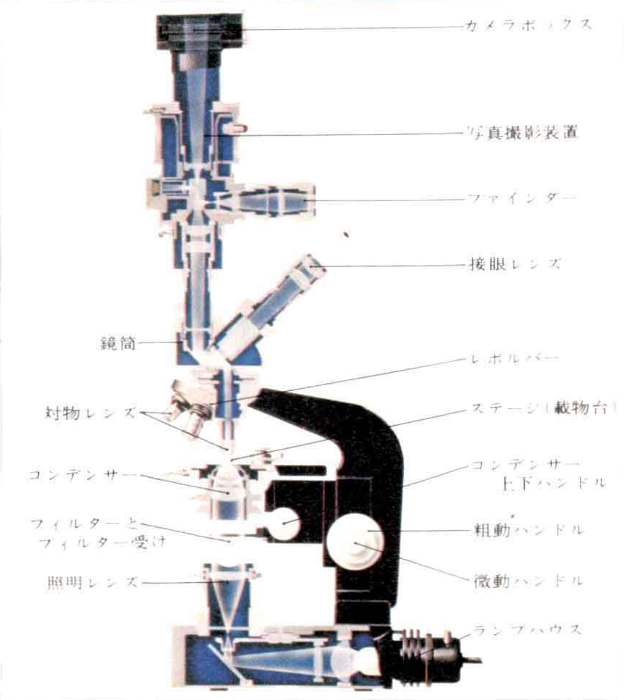
〔種類〕観察する目的に応じ各種の顕微鏡が開発されているが，最もよく用いられているのは生物顕微鏡で，照明装置一式を内蔵した形式のものもある。金属顕微鏡は金属材料の組織など不透明物体の表面の観察に利用し，工具顕微鏡は精密部品の測定などを行なうものであるが，生物顕微鏡との相違は主として照明法と対物レンズの設計が異なる程度で，本質的な差はない。位相差顕微鏡は生きた細胞・組織など無色透明でただ屈折率が異なるにすぎない部分が多いものの観察に用いられ，屈折率が異なるに従って光路差が異なる点に着目し，これを明暗の差に変換して識別できるようにしたものである。干渉顕微鏡は，干渉*法によって微小物体の光学的厚みまたは表面の凹凸を光の強度・干渉色・干渉縞*(じま)の変形に変換して観察するものである。その他，限外顕微鏡*・偏光顕微鏡・紫外線顕微鏡・赤外線顕微鏡などがあり，最近では光を利用する代わりに電子線を利用する電子顕微鏡*，工業用テレビジョンと結合させたテレビジョン顕微鏡やフライングスポット顕微鏡，さらに集積回路*の作成に用いられるマスクアライメントスコープなどが開発されている。また最近は，宇宙工学の発達に伴って超高温にさらされる金属材料の研究とか，冷凍食品その他の低温物の研究のために，超高温顕微鏡・低温顕微鏡が開発されている。〔加藤定雄〕

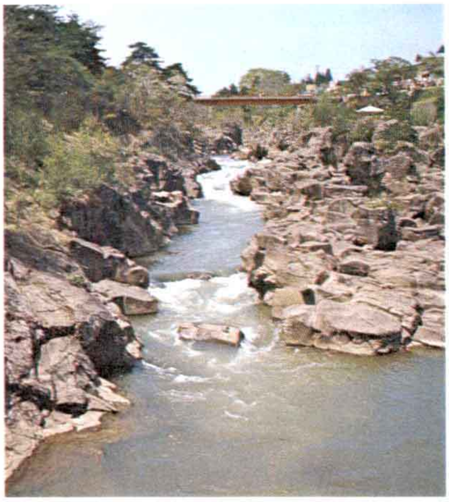
げんびけい【厳美渓】 岩手県南部，一関市厳美町に属し，市街地から西へ約９kmの所にある。奥羽山脈中の栗駒(くりこま)山(須

顕　微　鏡



顕微鏡写真
(左上)バラの茎の断面(×16)
(左下)アメーバ。仮足を伸ばしているのがわかる。左方の白い円形は収縮胞で，その右方の黒っぽい円形のものが核(×100)





厳美渓 石英安山岩を刻む磐井川の景勝。一関市からの県道に沿うため交通の便がよい。橋の右手に観光バスやみやげ物屋が見える

川岳(すかわだけ), 1,628m)に源をもつ北上川支流の磐井(いわい)川中流が石英安山岩地帯をうがって形成した約2kmに及ぶ渓谷で，四十八滝をはじめ奇勝に富み，1927年(昭和2)名勝天然記念物に指定され，また須川焼石郷自然公園にも指定されている。

けんぶ 【剣舞】 刀をかざし，みずからのあるいは他の詩吟*に合わせて舞う芸能。神楽(かぐら)や民俗舞踊の〈剣の舞〉とは別で，安政年間(1854～1859)，江戸の昌平黌(しょうへいこう)の学生が酔いにまかせて頼山陽の詩などを吟じつつ舞ったのがはじまりといわれる。1873年(明治6)ごろ，旧幕臣榊原(さかきばら)健吉らの剣士がほら貝を吹いて客を呼び，剣道を見せる撃剣興行の演目の一つに取り入れられ，日清(にっしん)・日露の戦争後には全国的に流行した。舞の動作に剣道の型が混ぜられており，はかまをつけ，白はちまき・白だすきなどをして演ずる。神道(しんとう)流・武生流・弥生(やよい)流・至心流などの流派がある。なお，剣舞*(けんばい)はこれとは別。〔呉 政男〕

ケンプ [Wilhelm Kempff] (1895～) ドイツのピアニスト。すぐれた音楽家を父にもって生まれ，ポツダムのビクトリア音楽院で学んだのち，ベルリン高等音楽学校で作曲をカーン，ピアノをバルトに師事し，両科目でメンデルスゾーン賞を受けて1917年に卒業した。在学中にピアニストとしてデビュー，特にベートーベンひきとしての名声を得た。作曲家として，また教育者としても足跡を残している。第2次世界大戦前1回，戦後4回来日。〔向坂正久〕

げんぶがん 【玄武岩】 火成岩の一。火山岩*のうち最も分布の広いもので，塩基性岩*に属する。新鮮な破面は黒っぽくて，一般に石基にもガラスは少ない。特殊なものを除けば，カルクアルカリ岩*系の玄武岩とアルカリ岩*系のカンラン石玄武岩とに大別される。カルクアルカリ岩系の玄武岩はトレイトまたは台地玄武岩ともよばれており，割れ目噴火による溶岩流が幾枚も重なり合って，広い溶岩台地をつくっている例が多い。インドのデカン台地はその代表的な例であるが，その台地の溶岩類の厚さは平均600mぐらいで，最大3,000mに達し，全溶岩の占める体積は数十万立方キロメートルに及んでいる。このように大量な溶岩の化学組成や鉱物組成がほぼ均質であるばかりでなく，世界各地に分布しているいろいろな地質時代の溶岩台地の玄武岩がみなほぼ同質である。このような事実から，溶岩台地を構成しているこの種の玄武岩は，カルクアルカリ岩系の火山岩類の本源になっているマグマ*から直接固化したものと考えられている。造山帯*の玄武岩もこの系統のものが主である。台地玄武岩は，斑晶*(はんしょう)としてカンラン石を含まないか，あるいは含んでもきわめて少量である。そのかわりに，一般に2種のキ石*を含んでいる。オージャイトとピジョンキ石またはシソキ石とである。台地玄武岩の平均化学組成は，二酸化ケイ素SiO_2 50%，酸化アルミニウムAl_2O_3 13%，酸化鉄($FeO+Fe_2O_3$) 13%，酸化マグネシウムMgO 5%，酸化カルシウムCaO 10%，酸化ナトリウムNa_2O 3%，酸化カリウムK_2O 1%その他である。アルカリ岩系のカンラン石玄武岩も，化学組成の上では大きな違いはなく，CaOとSiO_2が1～2%少なく，Al_2O_3が1～2%多い程度である。玄武岩の溶岩は粘性が比較的低いので，谷に沿って遠方までよく流れる。また揮発分が比較的少ないので，中心部は緻密(ちみつ)な岩石となり，柱状節理*がよく発達する。玄武洞*(げんぶどう)などでそのみごとな例がみられる。石材・砕石として広く利用されている。〔片山信夫〕



ケンブリッジ(イギリス) キングス-カレッジの建物。市内には中世ごろに建てられた壮麗な礼拝堂など，すぐれた建築物が多い

げんぷく 【元服】 古来の風習として明治初年まで慣行されてきた男子の成人式。加冠ともいう。12歳ごろから16歳ごろまでの間に行なわれるのが普通で，この式で男子は冠をつけ，衣服を改め，髪を結った。公家(くげ)の間では加冠の儀式が中心で，本人の頭に冠を加える役には高位者が選ばれた。律令(りつりょう)制時代から元服後には叙位され貴族*に列せられた。武士社会でも烏帽子*(えぼし)をつける烏帽子着が元服の表徴的な儀式で，その役に選ばれた烏帽子親と本人との間には父子に準ずる関係が結ばれた。戦国の世のころから一般武士の間に前頭部の頭髪をそる露頂の風が広まり，また着帽が儀礼上必要でなくなると，元服は前髪をそり落とすだけの儀式となった。庶民の間でも武士の形式にならった元服が行なわれ，1872年(明治5)断髪令*が出るまで続いた。〔高崎徳次〕

げんふくえい 【阮福映】 (1762～1820) ベトナム阮朝*の初代皇帝。世祖(せいそ)，嘉隆(ジャロン)帝。16～18世紀にベトナム南半を領した阮氏の一族。宣教師ピニョー-ドゥ-ベエーヌおよびフランス人義勇軍の援助を受け，タイソン党を滅ぼして国土を統一，1802年帝位につく。翌年国号を越南(ベトナム)と定め，中国の清朝(しんちょう)にならって制度を整え，皇越律令(りつりょう)を発布した。対外的には清朝を重んじ，フランス人・キリスト教に寛大であった。

げんぶつきゅうよ 【現物給与】 賃金を通貨以外の物品とか企業直営店や指定店で通用する金券などで支払うこと。19世紀のイギリスや第2次世界大戦前のわが国の鉱山などに多くみられ，トラック-システムとよばれる。戦後現物給与は，賃金の引き下げや労働者の足止めの手段となるので禁止された(労働基準法24条)。ただし，法令もしくは労働協約*に別段の定めをしたときは例外として認めている。

げんぶつしゅっし 【現物出資】 会社の設立または新株発行の際，現金以外の財産をもって出資すること。現物出資となりうる財産は，土地・建物はもちろんのこと，債権・特許権(→特許法)・商標権(→商標法)その他金銭的価値のあるものであれば，特に制限はない。現物出資については，その評価を過大にして現物出資者を不当に利得させ，逆に他の株主，会社債権者に不利益をこうむらせるおそれがあるために，会社設立のときには，変態設立事項(危険なる約束)として，その旨を定款*や株式申込証などに記載しなければならない(商法168条・175条)。取締役は裁判所に検査役*選任の請求をなし，検査役が現物出資の当否を検査する(商法173条)など厳格な規制がされている。新株発行の際の現物出資もほぼ設立の場合と同様の規制があるが，現物出資者に渡す株式数が発行済み株式総数の20分の1を越えないときは，検査役の検査は必要でない(商法280条ノ8)。〔松本治雄〕

げんぶどう 【玄武洞】 兵庫県豊岡(とよおか)市北部に位置する玄武岩*の洞窟(どうくつ)で，柱状節理*の大きな石柱がみられ，最大のものは高さ70mもあって天然記念物に指定されている。玄武洞を中央にして右に青龍洞(せいりゅうどう)，左に朱雀洞(すざくどう)がある。山陰本線玄武洞駅からは渡し船，豊岡駅からはバスの便がある。城崎(きのさき)温泉に近く，訪れる観光客が多い。

ケンブリッジ [Cambridge] イギリスのイングランド東部，ロンドンの北方約80kmにある学術都市。人口10万4,000(1974)。古くは農産物の市場町として栄えたが，今日ではオックスフォードとともに，イギリスの二大大学の一つであるケンブリッジ大学*の所在地として知られている。10世紀に建造された聖ベネディクト教会をはじめ，中世の建造物も多い。

ケンブリッジ [Cambridge] アメリカ合衆国東部，マサチューセッツ州ボストン市西郊の都市。人口10万(1970)。1636年に創立された，合衆国で最も古いハーバード大学や，1861年創立のマサチューセッツ工

科大学などをもつ学術都市である。また，1640年に合衆国で最初に印刷機械がすえつけられて以来の印刷・出版業はこの都市第1の工業で，全国的に知られており，機械・ガラス・紙器などの工業も盛んである。都市は1630年に建設され，1636年まではニュータウンとよばれた。〔相村大彬〕

ケンブリッジがくは　【ケンブリッジ学派】 ⇨新古典学派

ケンブリッジだいがく　【ケンブリッジ大学】 イギリスのケンブリッジにある私立大学。起源は12世紀の地方学校だが，13世紀の初めから盛んになり，1226年国王・法王の認可を得て大学となり，パリ大学*にならって組織を定めた。宗教改革時にはその拠点としても知られ，オックスフォード大学*と名声を競うようになった。近代以降は科学研究でも知られ，ニュートン*による物理学の研究もここでなされている。現在28のカレッジ(全寮制の学寮)があり，それぞれのカレッジは独立した自治体として，大学本部により管轄されている。

ケンブリッジてんもんだい　【ケンブリッジ天文台】 イギリス，ケンブリッジ大学付属の天文台。1820年創立され，口径64cm屈折望遠鏡・43cmシュミットカメラ・太陽望遠鏡などを備え，天体物理学の研究に輝かしい伝統をもっている。

ケンプール　[kempur]　ジャワおよびバリのガムラン音楽*の楽器。分類上は体鳴楽器*に属する。ゴングをやや小さくしたものが，1～5個セットされている。青銅製で，木のわくにつり下げられ，ゴングの補助として使われる。

げんぶんいっち　【言文一致】 従来，漢文・雅文・和漢混淆(こんこう)体などで書かれていた文章を，話しことばに近づけようとする主張・運動およびその文体。近代日本人の思想・感情を的確に表現しようとする文体革新運動の中で取り上げられた。幕末から明治にかけて前島密*(ひそか)・西周*(あまね)・物集(もずめ)高見・田口卯吉*(うきち)ら，洋学者・啓蒙(けいもう)思想家・国学者による提唱があり，文学者によって意識的な試みが始まる。明治20年代初頭の二葉亭(ふたばてい)四迷*の翻訳《あひびき》，山田美妙*の《夏木立》などである。さらに明治30年代の尾崎紅葉*の〈である〉調の完成や正岡子規*らの写生文の提唱を経て，明治40年代のいわゆる自然主義文学の作家らによって近代的な言文一致がなり，その文体も完成をみた。教育面でも1904年(明治37)の国定《尋常小学読本》が口語体を取り入れ，また新聞記事も1921年(大正10)ごろから口語体となり，言文一致は一般的なものとなった。〔小泉浩一郎〕

げんぶんきんぎん　【元文金銀】 真文字金銀ともいう。1736年(元文1)から1818年(文政1)まで享保(きょうほう)金銀(1714年〔正徳4〕から江戸幕府が鋳造)を改鋳して江戸幕府が発行した金貨・銀貨の総称。小判金・一分判金・丁銀・豆板銀などをさす。品位は江戸時代の金貨・銀貨のほぼ中位。改鋳の目的は，出目(でめ)(品位差による収入)による財政収入の増加，米価や諸物価の調整を図るためともいわれる。〔相村大彬〕



源平時代　《源平合戦図屏風》(部分)赤間神宮蔵

けんぺい　【憲兵】 旧日本陸軍の一兵科。陸軍大臣の管轄下にあっておもに国軍全般の軍事警察業務を行なったが，行政警察・司法警察の一部をも担当したので，関係事項については海軍大臣・司法大臣・内務大臣の指揮を受けた。憲兵制度は1881年(明治14)主として軍内秩序の維持，外部に対する軍の保安を目的として設けられた。その後，しだいに拡張されて補助憲兵(他兵科の下士官兵から選抜)を加え，全国市町村にまで配置されて，一般警察と並び社会の公安維持，思想取り締まりの面にまで活動を広げるようになった。朝鮮総督府や東条内閣は憲兵政治とまでいわれた。〔森田　哲〕

けんぺいしせつ　【遣米使節】 ⇨万延元年遣米使節

げんぺいじだい　【源平時代】 武家の棟梁(とうりょう)であった源氏*・平氏*が並び称された時代，あるいは狭義に源平合戦の時代，すなわち治承・寿永の内乱期(1180～1185)をいう。平忠常*(ただつね)の乱，前九年の役*，後三年の役*を通じ，源頼信(よりのぶ)・頼義(よりよし)・義家の3代にわたって源氏が武名をあげたが，平正盛(まさもり)が白河院(しらかわいん)の登用を受けてから平氏が台頭しはじめ，1108年(天仁1)にはじめて源平両氏が並び称された。以後院*と結びついた平氏がしだいに源氏を圧倒し，保元の乱*に続いて起こった平治の乱*で平清盛が源義朝(よしとも)を破ってからは平氏の全盛時代となった。しかし，平氏が中央政界で専横化・貴族化するに従って，地方武士をはじめ院・寺社・貴族らがこれと反目するようになり，以仁王*(もちひとおう)の挙兵を契機として諸国の源氏が蜂起(ほうき)した。その中で源氏の嫡流と認められた頼朝がしだいにこれらの諸源氏を従えて，ついに平氏を都から追い，一の谷の戦い*・屋島の戦い*を経て，壇ノ浦の戦い*で平氏一門を全滅させた。〔飯田悠紀子〕

げんぺいじょうすいき　【源平盛衰記】 軍記物語。48巻。〈げんぺいせいすいき〉ともいう。《平家物語*》の異本の一で，源平の争乱を描く。鎌倉時代中期から後期にかけての成立と推定され，作者は未詳。読み物としての興味を中心に，頼朝(よりとも)蜂起(ほうき)をはじめとする源氏関係の記事や院宣・宣旨の類(たぐい)，傍系説話などが目だつ。記事の矛盾・重複もあって全体的に粗硬であり，《平家物語》に比べて文学的価値は劣るが，〈殿下乗合(てんかののりあい)〉など記録類によるる史実どおりの改作もあり，江戸前期に徳川光圀*(みつくに)が修史事業の一環として《平家物語》を検討した際に，《平家物語》異本中最も詳細・正確とされ，底本に用いて《参考源平盛衰記》をつくった。《源平盛衰記》に題材を求めた後代の作品には，能・幸若*・御伽草子(おとぎぞうし)・浄瑠璃(じょうるり)・草双紙など数が多い。〔信太　周〕

げんぺいぬのびきのたき　【源平布引滝】 浄瑠璃(じょうるり)作品または歌舞伎(かぶき)の狂言名。1749(寛延2)大阪竹本座*で人形浄瑠璃*として初演。並木千柳・三好松洛(みよししょうらく)の合作。《源平盛衰記》《平家物語》に題材をとった5段の時代物。通称《布引滝》《実盛物語》など。平家の禄(ろく)を食(は)みながら故主源氏に忠誠を尽くす実盛(さねもり)の苦衷を表わす3段目の切れが特に有名で，歌舞伎でもこの場だけがしばしば上演される。いわゆる〈さばき役〉の典型としての実盛の演技と〈物語〉の雄弁術にその生命がある。〔服部幸雄〕

けんぺいりつ　【建蔽率】 建築物による土地利用度を表わす尺度。建築面積の敷地面積に対する割合。土地面積の取り方によって総建蔽率と純建蔽率とに分けられる。総建蔽率は敷地面積と周辺の通路面積などの合計，すなわち全土地面積に対する割合で，純建蔽率は敷地面積に対する割合である。建築基準法でいう建蔽率は純建蔽率をさし，同法により制限される。その率は格一ではなく住居地域・準工業地域・工業地域・商業地域などによって異なる。

けんべん　【検便】 一般に糞便(ふんべん)から主として寄生虫卵や原虫嚢子(のうし)の検出

を目的として行なわれる検査をいう。また，腸内の病原性細菌類の検出の目的で糞便を採取する場合も，しばしば検便とよばれている。寄生虫類の検出を目的とする検便には目的に応じて種々の方法があるが，原理的には少量の糞便を適当なスライドグラスに載せ，カバーグラスをかけて顕微鏡で検査する(直接塗抹標本)。しかし，寄生虫の卵は回虫*のようにきわめて多数排出されるものばかりでなく，鉤虫*(こうちゅう)などのように少数しか排出しないものもあるので，このような場合は糞便量を多くした標本をつくったり(セロファン厚層塗抹(とまつ)法)，卵を濃縮したり(比重差を利用した浮遊法，遠心力を利用した遠心沈殿法)して検査の精度を高めている。寄生虫によって特殊な検査法を必要とすることもある。たとえば，蟯虫*(ぎょうちゅう)では産卵は肛門(こうもん)周辺で行なわれるため，スコッチテープ法という特別な検査法を必要とするし，糞線虫*などのように幼虫が糞便内に出て来るものは幼虫を水中に遊出させて検査しなくてはならない。また，条虫*のある種のものは卵でなく片節のまま糞便に出て来るし，肺吸虫では喀痰(かったん)内にも虫卵が見いだされるなどするため，検査目的に応じてくふうがなされている。わが国では寄生虫撲滅をめざして各地に保健所や寄生虫予防協会があり，学校や地区集団が集団検便・集団駆虫を行なってきており，過去10年間で東京・横浜などの大都市では回虫寄生率は数十パーセントから1パーセント以下に減少した。検便を受ける際は，指頭大ほどの新鮮な糞便を適当な容器に入れ，乾燥を避けて検査所に送ることが望ましい。〔山本　久〕

けんぽう　【憲法】　⇨344ページ

けんぽう　【拳法】　⇨少林寺拳法

げんぼう　【玄昉】　(？～746)　奈良時代の僧。義淵*(ぎえん)から法相(ほっそう)の教義を学び，唐の都長安に留学して智周(ちしゅう)に学び，その才徳を認められる。在留20年ののち735年(天平7)帰朝。持ち帰った仏典5,000余巻と仏像は勅命によって奈良興福寺に収蔵された。彼の伝えた法相教義は法相宗としては第4伝で，〈北寺伝〉といわれる。皇室の厚い庇護(ひご)によって宮廷に権力を得たが，周囲にねたまれて筑紫(つくし)(福岡県)の観世音寺に追われ，不遇のうちに入寂した。〔佐藤成順〕

げんぽう　【減法】　加法*の逆演算。引き算ともいう。記号－を用いる。3－2＝1のとき，3を被減数，2を減数，1すなわち減法の結果を差という。整数の集合｛…，－2，－1，0，1，2，…｝において，2整数の差は必ず整数となる。これを，整数の集合は減法について閉じているという。減法においては，$a-b$と$b-a$は異なり，交換法則は成立しない。また，$(a-b)-c$と$a-(b-c)$は異なり，結合法則も成立しない。〔青柳雅計〕

けんぽうかいぎ　【憲法会議】　⇨憲法制定会議

けんぽうかいせい　【憲法改正】　憲法*(典)の条文を書き改めて憲法を変えること。旧条文が廃止されて，新しい条文が効力をもつようになる。憲法は，国家の基本法で最高法規でもあるから，イギリスを除く諸国では，普通の法律よりも慎重な手続きによって改正されることになっている。日本国憲法では，国会両院それぞれの3分の2以上の特別多数決で改正案が可決されたうえで，さらに国民投票*に付され，その過半数の賛成を必要とする。改正のほかに，憲法変遷といわれるものがあるが，形式的に前述のような手続きがとられずに，政府の解釈，裁判所の判決，また立法，その他政府の運用で憲法の条文の実際の内容が変えられていくことをいう。〈立法改憲〉〈解釈改憲〉などともいわれるが，憲法改正とは憲法の定めている正式の手続きによって憲法を改めることであるから，正しい用語例ではない。〔鈴木安蔵〕

けんぽうきねんび　【憲法記念日】　国民の祝日の一。5月3日。1948年(昭和23)〈国民の祝日に関する法律〉公布により，翌1949年から実施されて現在に至っている。5月3日を憲法記念日に定めたのは，同法律第2条の条文に〈日本国憲法の施行を記念し，国の成長を期待する〉とあるように，1947年5月3日に日本国憲法*が実施されたことによる。

げんぽうこんしょく　【減法混色】　⇨混色　⇨色

けんぽうさいばんしょ　【憲法裁判所】　抽象的には法令の違憲性を審査できる権限をもつ裁判所*である。具体的事件が発生しなくても，政府や議員などの一定の出訴権者の訴えをもって裁判が開始され，法令等の憲法適合性と憲法解釈の統一を図ることを任務としている。西ドイツ・オーストリアなどヨーロッパ大陸の諸国に存在しており，国と諸邦その他諸機関の間の権限争議の裁決を権限としているものや，個人の権利保護を目的とする憲法訴願を管轄しているものもある。〔大須賀明〕

けんぽうし　【絹紡糸】　絹の短繊維を紡績した糸。紡績絹糸・スパンシルクともいう。繭毛羽・不良繭などを原料とし，絹紡式の紡績工程で糸にする。精練の程度によって半練り・七分練り・本練りの3種があり，加工法によって無ガス糸・ガス糸の別がある。生糸と異なった味があり，服地・縫い糸・和服地・富士絹などに用いられる。

けんぽうじゅうしちじょう　【憲法十七条】　⇨十七条憲法

けんぼうしょう　【健忘症】　限られた一定期間の記憶を追想できないこと。定型的には，粗大な外力が突然に脳に及んだとき，特に意識障害*のあとに起こる。一定時間内の追想の欠損が完全な場合を〈全健忘〉，一部，追想可能な場合を〈部分健忘〉とよぶ。障害を受けた時点より以前にさかのぼって忘れてしまう〈逆行性健忘〉は脳震盪(のうしんとう)・脳卒中・縊死蘇生(いしそせい)・一酸化炭素中毒，てんかんのもうろう状態のあとなどに定型的にみられる。健忘はまた，心因性に起こることもあり，戦場で戦友の爆死を見たり，その他の強い心的打撃を受けて意識を失うと，のちになって思い出せなくなる。フロイト*はこれを抑圧の機制で説明しているが，一般に不快なこと，苦痛なこと，つごうの悪いことは忘れやすい。さらに，〈追想健忘〉として追想が質的に変容される場合があり，例として，周囲のけしきや自己の状態などのすべてを，過去に見たり体験したりしたことがあるという印象をもち，しかもその印象が事実と一致していない既視現象がある。〔松田健身〕

けんぼうすい　【腱紡錘】　腱*の緊張を感知する知覚神経の終末装置。紡錘状をなす腱繊維の束に，知覚神経がまつわりついて終わっている。筋紡錘*とともに筋肉の収縮状態を知って，その筋肉および関連のある他の筋肉の運動を調節する。

けんぽうせいていかいぎ　【憲法制定会議】　憲法*の制定を目的として特別に設けられる会議。今日ではこの目的のために特別に選出される議会がこれにあたる場合が多いが，通常の議会がこの任務を課せられる場合もある。アメリカ合衆国の憲法制定会議(1787)，フランスの憲法制定国民議会(1789)などはその典型であるが，既存の憲法などには拘束されず，憲法制定権力の意思に基づいて，自由に憲法制定作業を行なう会議である。

けんぽうちょうさかい　【憲法調査会】　1956年(昭和31)設置され，1964年に最終報告書を内閣および国会に提出した内閣の諮問機関。社会党議員や改憲反対の法学者が参加を拒否したことから，委員のほぼ全員が改憲論者によって占められた。拒否の理由は，同会が日本の再軍備などのために憲法改正*を準備するものだと考えられたためであったが，世論の批判もあり，改正案をつくることまでには至らなかった。

げんほうていしき　【元方程式】　⇨次元

けんぽうもんだいけんきゅうかい　【憲法問題研究会】　憲法調査会*の改憲の意図と方向を憂慮して，平和・民主・人権の3原理を基礎に憲法問題を広範に研究し，その成果を国民各層に提供することを目的として，1958年(昭和33)結成された団体。実際には憲法記念日*の講演などを行なうにとどまっている。なお，憲法学会では改憲反対を強く志向する全国憲法研究会(中堅)・憲法理論研究会(若手)が重要な憲法問題に対する活発な批判を続けている。

けんぽなし　双子葉植物・クロウメモドキ科。山野にはえる落葉高木。日本・朝鮮・中国に分布する。高さ17mほどになり，樹

皮は灰かっ色で鱗片(りんぺん)状に薄くはがれる。葉は互生し，有柄，広卵形で，縁に鋸歯(きょし)がある。7月ごろ，枝先に散房花序に淡緑色の小花を密生する。果実は肉質に太くなった花序の枝の先に短い柄で付着し，球形で紫黒色に熟し，冬には肉質の部分は枝とともに脱落する。これは甘味があって食べられる。材は粗軟で工作しやすく，狂いも少なく，木目が美しいので，装飾建材・洋家具・彫刻材などに用いる。〔横井朝子〕

げんまい【玄米】 もみ米からもみがらを取り去ったままで精白しない米。黒米ともいう。白米に対して黒米のことばが出たのは平安朝の初期以来であるから，それ以前はすべて玄米食であったとみてよい。また，当時の白米食は一部の貴族階級に限定されており，武士以下の玄米食は江戸初期まで伝わっている。白米に比べて貯蔵性がよく，タンパク質・脂肪・ビタミン類が多く含まれているが，普通のたき方では消化はかなり悪い。→米　〔佐藤友太郎〕

げんまいちゃ【玄米茶】 玄米を蒸して日に干し，いったのちに番茶またはほうじ茶に混ぜて特殊な香味を出した茶。

けんまざい【研摩材】 いろいろな材料をすり減らしたり，みがいたりするのに用いるかたい物質。すり減らしを主とする研削材とみがきを主とする琢摩材(たくまざい)とに分かれる。研削材に用いられる天然品には，ダイヤモンド*・コランダム*・エメリー(コランダムとジテツ鉱*との密雑したもの)・ザクロ石*などがあり，人工研削材としては，溶融アルミナ・炭化ケイ素などが主である。琢摩材としては，粘土類・微晶質シリカ・酸化鉄・酸化クロム・アルミナなどの水簸(すいひ)物などが用いられる。〔片山信夫〕

けんまふしかこう【研摩布紙加工】 溶融アルミナ・炭化ケイ素・エメリー・ガーネット・ケイ石などの研摩材を，接着剤によって布や紙に塗付して，シート・ロール・ベルト・ディスクなどの形状にしたものを，各種のサンダーとよぶ機械にかけて，金属・木材・皮革などの表面を研摩仕上げする加工方法。

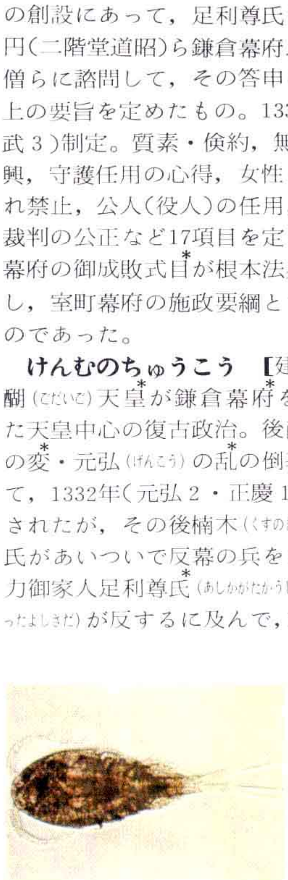
けんみじんこ【剣微塵子】 節足動物・甲殻(こうかく)類・キクロプス科の総称であるが，特に淡水産のキクロプス属などをさすことが多い。ミジンコ*に似ているが，2本の尾がツバメのように長く伸びている。キンギョなどの養殖の際に餌(え)として利用されるが，魚類は一般にケンミジンコより，ミジンコのほうを好む。海産の種類も多い。

けんみんせん【遣明船】 勘合船ともいう。室町時代に日本から明に向けて出された使節船。1371年(建徳2・応安4)征西将軍が僧祖来を使節として明に送ったのをはじめとする。1401年(応永8)将軍足利義満(あしかがよしみつ)は僧祖阿(そあ)と博多(はかた)の商人肥富をつかわし，翌年明使を伴って帰国した。以後もたびたび使船を送ったが，その際に出された明への国書に〈日本国王臣源〉と書いて世の非難を受けたため，将軍義持は明と断交した。しかし義教(よしのり)の時代に復交して，10年に1貢，船数3，乗組員100〜200人が取り決められ，勘合貿易*が再開されて，1547年(天文16)まで続いた。〔大三輪龍彦〕

けんむいらいついか【建武以来追加】 建武式目追加ともいう。室町幕府の法例集。1巻。鎌倉幕府の制定した御成敗式目*を室町幕府も基本法としたが，必要に応じて単行法令を定めてこれを補足した。これは1338年(延元3・暦応1)から1520年(永正17)までに出された追加法令210条を集録したもので，南北朝・室町両時代の政治・経済・社会などを研究する上の重要な史料である。

けんむしきもく【建武式目】 室町幕府の創設にあって，足利尊氏(あしかがたかうじ)が是円(二階堂道昭)ら鎌倉幕府以来の老臣・学僧らに諮問して，その答申に基づいて施政上の要旨を定めたもの。1336年(延元1・建武3)制定。質素・倹約，無尽銭・土倉の振興，守護任用の心得，女性・禅律僧の口入れ禁止，公人(役人)の任用，わいろの禁止，裁判の公正など17項目を定めている。鎌倉幕府の御成敗式目*が根本法典であるのに対し，室町幕府の施政要綱とでもいうべきものであった。〔大三輪龍彦〕

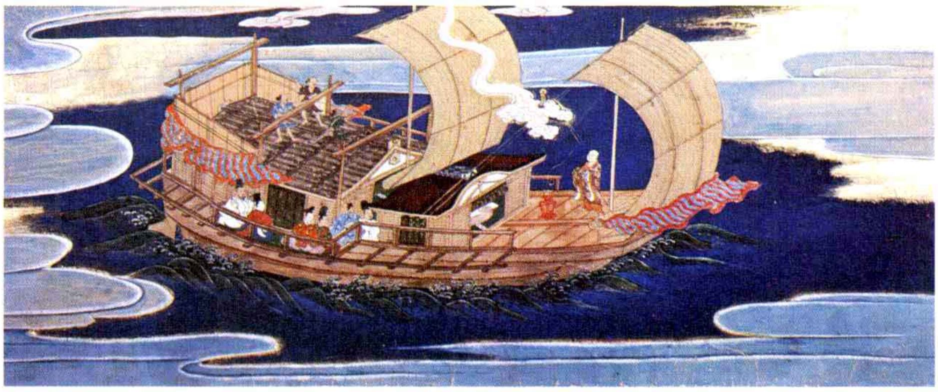
けんむのちゅうこう【建武中興】 後醍醐(ごだいご)天皇*が鎌倉幕府*を倒して実現した天皇中心の復古政治。後醍醐天皇は正中の変*・元弘(げんこう)の乱*の倒幕計画に失敗して，1332年(元弘2・正慶1)隠岐(おき)に流されたが，その後楠木(くすのき)・名和・赤松氏があいついで反幕の兵をあげ，さらに有力御家人足利尊氏*(あしかがたかうじ)・新田義貞*(にったよしさだ)が反するに及んで，1333年5月鎌倉幕府は滅亡。直ちに隠岐から帰京した後醍醐天皇は幕府の立てた光厳(こうげん)天皇*を退け，摂政・関白を廃して，天皇親政を開始した。中央には記録所・雑訴決断所*・恩賞方*・武者所*などを設置し，地方には国司・守護を併置して，公家(くげ)・武士の別なく要職に採用して公武一統を方針とした。地方統治には特に陸奥(むつ)将軍府・鎌倉将軍府を置き，陸奥には皇子の義良(のりなが)親王と北畠顕家*(きたばたけあきいえ)を，鎌倉には皇子の成良親王と足利直義*(ただよし)を派遣し，翌1334年建武と改元した。〈建武中興〉の称はこれに由来する。しかし，古代王政を範とする新政は現実性を欠き，武士の期待を裏切る点が多く，まず恩賞をめぐって公武の対立を生じ，また武士が重大な関心を寄せていた所領の係争についても雑訴決断所はその訴訟を公平適正に処理することができなかった。そのほか，朝令暮改の一貫しない政令，大内裏造営による増税などもあって，武士階級はこの親政に不満をもつに至り，中先代の乱*を契機として1335年尊氏がそむき，わずか2年半でこの親政は崩壊した。ここに南北朝時代*を迎えるに至った。〔高崎徳次〕



ケンミジンコ

げんめいがっき【弦鳴楽器】 楽器の科学的分類法による五大分類の一。基本的な発音原理としては弦あるいは弦に相当するものの振動によるもので，ふつう弦楽器*とよばれるものに相当する。→楽器

げんめいてんのう【元明天皇】(661〜721) 在位707〜715年。名は阿閇(あえ)。天智(てんち)天皇の皇女。母は蘇我(そが)石川麻呂(まろ)の娘姪娘(めいのいらつめ)，草壁皇子の妃(きさき)。文武・元正天皇の母。707年(慶雲4)文武天皇没後即位して，孫の首(おびと)皇子(聖武天皇)の成長を待ったが，715年(霊亀1)老年を理由に娘の元正天皇に譲位した。この間708年武蔵(むさし)(埼玉県)から純度の高い銅が貢上されて和銅と改元，わが国最初の貨幣和同開珎*(かいほう)を鋳造した。710年(和銅3)平城(へいせい)遷都が行なわれ，国土の経営も盛んであった。712年に《古事記》，翌年《風土記(ふどき)》が編纂(へんさん)された。陵墓は奈良市奈保山東陵。〔黛　弘道〕



遣明船《真如堂縁起絵巻》 真正極楽寺蔵

憲　法

〔憲法ということばの意義〕家憲とか，官憲とか，憲兵などという用語例からもわかるように，〈憲〉にはおきてとか則(のっと)るという意味と，重要とか基本という意味とがあり，そのため明治以来の近代法制成立の過程で，憲法という文字が，法律の中でも特に基本的・根源的な法，すなわち一国の基本法をさすことばとして使われるようになった。しかし聖徳(しょうとく)太子の十七条憲法*は重要なおきてではあるが，必ずしも国家の基本法ではない。明治初年にはまた国憲という用語法もあったが，国憲ということばは，大日本帝国憲法*施行と同時に発布された教育勅語*の中にも用いられており，それは普通の法律である国法と区別して，国の基本法をさすものであった。外国語では，Constitution(英・仏)，Verfassung(独)という。もっともことばの使い方に若干ニュアンスの違いがあって，コンスティテューションのほうは，単純に法的規範だけでなく，国の体制全体を含む意味をもっている。ドイツ語でもKonstitutionという文字は，憲法の意味に使われることもあるが，本来，体質とか構造とかいう意味がある。法律的に考えると，憲法というのは，いっさいの国家作用の基本を定めた法である。たとえば，泥棒(どろぼう)をした者が10年以下の懲役という重い刑に処せられるのは，そういうことを刑法という法律で決めているからであるが，法律であらかじめ刑を決めておくこと(→罪刑法定主義)を要求しているのも，また法律は国会*が制定するということ(憲法によっては国王の裁可が必要だとしているものもある)を決めているのも，すべて憲法である。いわば憲法は，国家作用の根拠や限界や方針を定めているのである。このことは，およそ国家のあるところ，必ず憲法がなければならないということを意味している。

原始時代，ひとりの酋長(しゅうちょう)や王が全権を握り，その命令のままに人民を支配していたところでは，罪刑法定主義も国会による立法手続きも，憲法に規定されていたわけではないが，それでも憲法はあったし，また憲法がなければ国家があったとはいえないのである。その憲法はきわめて簡単なもので，たとえば，国王の命ずることはすべての人民を拘束する，というような1か条の条文があるだけでもよい。しかし，近代になって憲法制定の要求が起こってきたのは，このような簡単な憲法を求める運動でなかったことはもちろんである。それは，憲法の内容として，①政治構造上の一定の原理を要求するとともに，②そのような政治構造に基づいて行なわれる国家作用に一定の限界を定めることを要求したのである。このうちの①，すなわち政治構造上の原理というのは，基本的には三権分立*の原理である。ひとりの支配者がいっさいの権力*をその手に握っていたのでは，その権力は必ず腐敗する。そこにはいわゆる〈封建制度の悦楽〉という支配者ひとりの楽しみはあるけれども，その陰で人民の多数は苦しみ嘆かざるをえない。そして，そのような腐敗が人民の反抗をひき起こすこととなり，典型的な形としてはフランス革命のような激動を生み出した。権力を区分してこれを立法・司法・行政の3権とし，その一つずつが別個の機関の手に与えられるようにするのが，権力分立(→三権分立)の基本原理である。しかし，これにはさらに二つの付随的原理がある。その一つは国会優位の原則であり，その二は司法権独立の原則である。国会は国民の選挙によって選ばれた国民代表の機関であり，その制定する法律は行政作用・司法作用の基準となる。国民主権主義の原理，民主主義の原理が，そこに具体化されている。しかし，他方において司法権の独立は保障され，司法権をつかさどる裁判官は法と良心のみに従って公正な裁判をすることが期待され，そのために特に裁判官の身分は保障されていて，本人の同意なしに報酬が減額されたり，その地位を奪われたりすることはない。次に②の，国家作用に限界を設けることは，主として国民の基本的人権*の保障という形をとるが，日本国憲法のように，国権の活動としての戦争を放棄するというようなものもある。

〔政府の形態〕政府の形態にはいくつかの種類がある。どの類型の政府形態をとっているかによって，憲法や国家をいくつかの種類に分類することができる。いちばん古い分類の方式は，憲法上，最高の支配権を与えられているものがひとりの自然人か複数の人々かによって，これを君主制*と共和制*とに分け，後者はさらにそれら複数の人人が，国民の大多数であるか，あるいは一部少数の者であるかによって，民主制と寡頭制*(かとうせい)とに分ける方法である。近代以前の国家では，この区別は十分な理由をもっていた。第1に，たったひとりの自然人が支配の全権をもっているという政府形態が現実に存在したし，第2に，貴族制という形で寡頭制がとられている場合もあったからである。①しかし，民主主義の思想が発達してきた近代の諸国では，君主制や寡頭制はしだいに排除されて，今日ではこれらの政府形態はなんらかの形で民主制の原理を取り入れなくては存在しえなくなっている。このことは，現実にこれら三つの政府形態を相互に明確に区分することを困難にしている。たとえばイギリスは現代における典型的な君主国である。そこには国王(現在では女王)があるし，この地位は世襲的に同一血統に属する子孫によって受け継がれている。しかもイギリス国王は，あたかも政治の全権を握っているかのようにみえ，実際にも国王は最高の国家作用である法律制定の最後の手続きとして裁可を行なう権限をもっている。けれども，これはたてまえとしてそうなっているだけで，実際の慣行としては，アン*女王以来ほとんど300年近くの間，この権限はまったく行使されたことはない。言い替えれば，憲法上のたてまえは君主が法律の裁可権という最高の権限をもっているのに，政治の実際では君主は国民の代表である国会の制定した法律をそのままの形で認めることによって，形式的には君主制であるが，実質的には民主制という姿をとっているのである。日本国憲法(1946年11月3日公布，1947年5月3日施行)の定めている天皇制*は，イギリスの君主制よりもっと君主制的色彩の薄いものである。憲法第1条は〈天皇は，日本国の象徴であり日本国民統合の象徴であって，この地位は，主権の存する日本国民の総意に基づく〉と定めているから，このことは日本の政治の基本形態が，明治憲法の君主主権主義から国民主権主義に変わったことを示している。そうして第4条はさらに天皇の権能を定めて〈天皇は，この憲法の定める国事に関する行為のみを行ない，国政に関する権能を有しない〉としているから，日本の政治形態は君主主義を弱めて，民主主義を強化しようとしているものであることがわかる。ただ，それならば日本は共和国かというと，それには躊躇(ちゅうちょ)を感ずる人が多いであろう。いわば君主主義と民主主義の混合形態のようなものが存在しているところに現代の特徴がある。②第2の問題は，民主主義のあり方である。もちろんどの国でも，すべての国民がひとり残らず政治に参加するということはない。未成年者であるとか，禁治産者であるとか，正常な政治判断をもちえないと考えられる者は政治参加を認められない。また社会主義国家は，社会主義建設を目標とすると唱え，旧経済制度上の支配者であった資本家・地主などの階級を政治参加から排除しようとする。彼らを排除した残余の階級が勤労人民であるという考え方から，このような政治を人民民主主義*とよぶのが通例である。㋑民主主義，あるいは民主主義によって制約された君主主義の諸憲法では，権力の分立に基礎を置いた制度を設けることが多い。たとえばアメリカの憲法がそれで，大統領は国会と同じく直接に国民に選ばれるが，国会との間には直接の関係はなく，大統領は行政権を，国会は立法権を与えられている。国会には大統領の不信任決議権はなく，大

統領の閣員である各行政部長官は国会議員でない者から選ばれ，また原則として大統領は国会の解散権も召集権ももたない。しかもこの三権分立原理の結論の一つとして，司法権はひとり独立であるばかりでなく，みずからの権限行使の上で必要があれば，法律が憲法に違反しているかどうかを審査する権限をもっている。回これに反してイギリスの憲法は，いわゆる国会主権主義をとり，議院内閣制*を原則としている。議院内閣制のもとでは，議員が国民によって選挙されるということを中心に，議院が議員の間から内閣総理大臣とその閣僚を選任するという制度がとられている。したがって，もし議院が内閣を信任しないという場合には不信任決議をすることができ，また政府は衆議院の解散をすることができる。日本国憲法は，基本的にはイギリス型の議院内閣制を採用したけれども，アメリカ型の制度をも適宜採用しているので，そのことを定めた各種条文の解釈運用には，イギリス型とアメリカ型との各規定やそれぞれの歴史的背景を明らかにするとともに，日本の現代的課題に最も適合する解釈をとらなければならない。

〔基本的人権の保障〕 近代憲法の第2の構成要素は，国家権力に一定の限界を定めていることで，これを国民の立場からいえば，国民の権利が国家権力によってほしいままに侵害されることがないように，国民の基本的人権を保障することの要求である。近代憲法がつくられるようになった一つの理由は，近代以前の専制君主がほしいままに人権を侵害したからで，そのためイギリス・フランス・アメリカなどの革命のとき，人権宣言*の文書が次々とつくられた。その一つである1789年のフランスの人権宣言の第16条には，〈権利の保障が確保されず，権力の分立が規定されないすべての社会は，憲法をもつものとはいえない〉という規定がある。このことは，ここで述べた二つの要素が近代憲法の基本的な内容であることをよく示している。基本的人権の保障の態様を，日本国憲法と明治憲法との比較で示してみると，二つの点が問題になる。その第1は保障の広さということ，その第2は保障の強さということである。①第1の保障の広さは，明治憲法の第二章〈臣民権利義務〉のところに設けられた条文の数は14か条(その中には義務や保障の例外を定めたものもある)であるのに対して，日本国憲法第三章〈国民の権利および義務〉のところには31か条の条文があり，数だけからいっても倍以上になっている。その中で特に注目すべきものは次の二つである。第1は，人身の自由の保障がすこぶる詳細に定められていることで，これは歴史的に専制政治の特徴であった罪なき者の牢獄(ろうごく)への監禁とか，暴力*による身体への拷問*などからの解放を意味する。このことは国民の権利保障という面からいえば重要な成果ではあるが，秩序の維持という面からいうと問題がないではない。たとえば日本国憲法第38条は〈何人も，自己に不利益な供述を強要されない〉として，被疑者・被告人のいわゆる黙秘権*を保障している。もちろん自白を強要することは許されないが，黙秘を勧めるような形になること，あるいは黙秘権の濫用になることも適当ではない。ただ，方向としては従来個人の自由があまりにも侵害されていたので，このような広範囲の保障が憲法に定められることになったのである。第2の種類の新しい権利は，いわゆる社会権の保障である。その代表的なものは，第25条の〈すべて国民は，健康的文化的な最低限度の生活を営む権利を有する〉といういわゆる生存権*の保障であり，また第28条の勤労者の団結権・団体行動権の保障である。ただ前者については，生活保護受給権に関するいわゆる朝日事件の判決があり，最高裁判所が〈何が健康で文化的な最低限度の生活であるかの認定判断は，いちおう，厚生大臣の合目的的な裁量にまかされており，その判断は，……直ちに違法の問題を生ずることはない〉といっていることに注意しなければならない(最高裁昭和42年5月24日，大法廷判決)。後者については，公務員はこの権利を享有しないものとしてよいかどうかが問題として議論されている。②日本国憲法の人権保障の第2の特色は，保障の強さである。明治憲法の規定によれば，国民の権利保障は憲法に定められていたにもかかわらず，実際にはそれらの規定はすべて〈法律の範囲内において〉という制限つきであった。したがって，たとえば言論の自由が保障されていても，それは法律をもってしさえすればどのように制限することも可能であり，実際にもそのような法律はたくさんあった。これでは，人権の保障はただ行政権による侵害から守られるだけで，国家権力全体の侵害から守られるわけではない。したがってそれは基本的人権の保障とはいえない。日本国憲法はこの点について根本的な改革を行なったもので，それらの権利は，たとえ法律をもってしても侵害することができないのである。このことは，憲法に違反する法律が制定された場合に，国民はそのことを主張して救済を受けることができることを意味する。

〔違憲立法審査権〕 日本国憲法第81条は，〈最高裁判所は，一切の法律，命令，規則又は処分が憲法に適合するかしないかを決定する権限を有する終審裁判所である〉と定めている。この規定の前提となっているのは，憲法が国の最高法規であり，その条規に違反する法律・命令その他の国家行為は効力を有しないという原則である。憲法第98条はこのことを明示的に規定した。そこで問題は，法律その他が憲法に違反するかどうかをだれが判断するかで，これについてはいくつかの方式が考えられる。その第1は，この判断をする権限を国会自身に与えること，第2は，特にそのために憲法裁判所などの機関を設けること，第3は，司法裁判所にこの権限を与えることである。第1の方式は，近代立憲主義の憲法でしばしば採用されているところであり，明治憲法もだいたいそうであった。そこには，国民の選挙によって選ばれた国会議員を信頼することが正しいという考え方が基礎にある。けれども，国会だけを信頼することもできないような政治状況のもとでは，これは国民の権利の十分な保障にならない。実質的には，国民は憲法上保障された権利をもつのでなく，単に法律によらなければ侵害されない権利をもつのにすぎない。もちろん国会主権の原則をとるイギリスのような国では，この制度はむしろ当然である。そこではもともと憲法と法律との区別がなく，どちらも同じ手続きで制定される。ただ内容的に憲法的意味をもつ法律については，その制定に先だって，衆議院を解散し，総選挙を行なって，民意を確かめるのが，イギリスなどの慣習である。このことは，歴史的に国会が民意にささえられて十分に発達し，国民の国会に対する信頼が強く，国会優位の原則が実際上確立している国では意味のあることである。これに反して，そのような歴史的な条件の熟していない国では，憲法保障の制度としては不完全である。第2の方式として，違憲審査のため特別の機関を設けるという制度がある。たとえば西ドイツ憲法(1949)は連邦憲法裁判所を，フランス第五共和国憲法(1958)は憲法評議会を設けている。これらの機関はその構成や権限については差異があるが，要するに憲法問題について公権的な判断を下す権限を与えられた特殊の機関である。しかし，性質上個々の国民が違憲問題を争うことを本質とした制度ではない。ところが第3の方式は，個々の国民が自分の権利の保護のために，通常の司法裁判所で訴訟の当事者となっているときに，法令なり処分なりが憲法に違反しているということを主張することを認めるので，その意味では国民の基本権保障を目的とするものといえるのである。ただし，この制度にもいくつかの問題がある。第1は，最高裁判所の裁判官の数はきわめて少なく(たとえば日本では15人，アメリカでは9人)，それらの人々の多数決で国会の多数が可決制定した法律を違憲無効とするのであるから，それが無制限に行なわれることは必ずしも適当でない。そこで，制度の本質や裁判所自身の自制によって，

けんぽう

違憲審査権に限界が認められている。第1は，違憲の判決の効果であるが，これは明文の規定はないけれども，違憲であるという判断は裁判所の判決の中で示されるのであるから，その判決の当事者にのみ効果を生じ，一般的な効果を生ずることはない。たとえば，甲が自分に租税を賦課する根拠となった税法の違憲を主張し，裁判所がそれを認めて既納の税額の返還を命じたとしても，その結果行政権は当然に他の納税者にも税を返還する義務を負うものではない。それらの人々はいちいち訴訟をしなければ税は返還されない。もちろんこれは理論上のことで，実際には行政権は少なくとも判決を尊重して税の徴収を停止するし，国会はこの法律を廃止するか，あるいは適憲と信ずる改正法律を制定するであろう。第2の限界は，裁判所はもし政治的問題がそこに存在していると認めれば，これを審査しない。政治的問題というのはアメリカの概念であるが，同様のことをフランスでは統治行為という。基地拡張問題に伴ういわゆる砂川事件*では，最高裁判所は，〈本件安全保障条約……の内容が違憲なりや否やの法的判断は，その条約を締結した内閣およびこれを承認した国会の高度の政治的ないし自由裁量的判断と表裏をなす点がすくなくない〉ので，それは〈純司法的機能をその使命とする司法裁判所の審査には，原則としてなじまない性質のもの〉である（昭和34年12月16日，最高裁大法廷判決）とした。したがって問題は，内閣と国会とで処理されるべきで，裁判所はこれには介入しないのである。ただ，これはあくまで裁判所の自制の問題であるから，たとえば選挙区の定員と有権者数との比較のように，古くはこれを政治的問題としながら（C.V.グリーン，1946年），のちには同じ種類の問題を審理した（B.V.カー，1962年）アメリカの例を考慮しなければならない。要するにそれは裁判所が自制するのが適当であるかどうかという判断に立っているのである。〔鵜飼信成〕

けんやくれい　【倹約令】　江戸幕府が武士・町人・農民に倹約を命じた政令。倹約の励行については幕府初期の法令にもみえるが，中期以後は商業経済の発達から幕藩財政の悪化，一般経済生活の窮迫が顕著になり，封建体制の維持上きびしい倹約令が発せられるようになった。享保(きょうほう)・寛政・天保の三大改革の倹約令は有名であるが，その他の時期にも発令されている。天保の改革*では，一般消費生活の細部にわたって禁令を定め，多くの違反者を処罰した。〔高崎徳次〕

げんやだな　【玄冶店】　⇨与話情浮名横櫛(よわなさけうきなのよこぐし)

げんゆ　【原油】　地下から産出した状態の未精製の石油*。赤かっ色ないし黒かっ色の粘稠(ねんちゅう)な液体で，比重0.8～1.0。主成分は各種炭化水素の混合物で，不純物としてイオウ・窒素・酸素などの各化合物を含み，これらの不純物は高沸点留分ほど含有量が多い。炭化水素のうち，特にパラフィン系炭化水素を主成分とするパラフィン基原油は比重が比較的小さく，ロウ分を多く含む。またナフテン系炭化水素を主成分とするナフテン基原油は比重が比較的大きく，一般にアスファルト分を多く含む。アスファルト分の特に多いものは，アスファルト基原油ともいわれる。実際にはこれらの中間的な性状の原油が多く，これらは中間基または混合基原油とよばれる。アメリカのペンシルベニア原油，中東地方の各原油はパラフィン基，アメリカのガルフコースト原油，ソ連のバクー原油はナフテン基，アメリカのミドコンチネント原油は中間基原油として代表的なものである。わが国では新潟県・秋田県・山形県地方で原油を産出するが，その量は少なく，石油需要の99%以上は輸入原油の精製によっている。〔原　伸宜〕

けんゆうしゃ　【硯友社】　1885年（明治18）2月，尾崎紅葉・山田美妙・石橋思案・丸岡九華らが創設した文学結社。機関誌《我楽多文庫*》を発刊した。その後巌谷小波(いわやさざなみ)・川上眉山(びざん)・広津柳浪らを加え，明治文壇の一大結社に成長（美妙は退会）した。さらに，1890年代には新たに泉鏡花・小栗(おぐり)風葉・徳田秋声などが紅葉門下となり，全盛期には200名近い勢力となった。初期の江戸文学の模倣から西欧文学の感化を受け，風俗描写を中心に展開する浪漫的な傾向をもった。その後はしだいに内面的なものの追求に向かったが，概して趣味的文学観を基調とし，1903年紅葉の死とともに完全に解体した。〔金子　博〕



建　窯〈曜変天目茶碗〉　五島美術館蔵

けんよう　【建窯】　中国，福建省水吉鎮で宋(そう)代に焼かれた窯芸。宋代に抹茶(まっちゃ)の喫茶法が流行し，建窯ではもっぱら飲用のためのいわゆる建盞(けんさん)を焼いた。形姿はいずれの作例もほとんど類似し，鉄胎とよばれる黒かっ色の土を用いて，わずかに削り込んだ高台，すっぽん口とよばれる口縁を絞った口作りなどに特色があり，器表にかけた鉄質の漆黒の厚い釉(うわぐすり)が焼成中に変化して各種の作風を生んだ。わが国ではこれらを曜変天目・油滴天目・禾(のぎ)天目・灰被兎毫盞(はいかつぎとごうさん)天目などに分類しているが，天目茶碗の称を得たのは，浙江(せっこう)省天目山の禅寺に留学した日本僧が持ち帰って以来と伝わる。〔矢部良明〕

げんようしゃ　【玄洋社】　明治時代の超国家主義団体。1879年（明治12）平岡浩太郎(こうたろう)・箱田六輔(ろくすけ)・頭山満*(みつる)ら福岡藩の不平没落士族が創立した向陽社を1881年改称したもの。国権と民権を合わせて主張する政治結社として出発したが，しだいに自由民権運動*から離れて国権主義的団体となった。超国家主義・大陸侵略を推進し，日清(にっしん)・日露戦争などに裏面的に協力した。黒龍会*(こくりゅうかい)・大日本国粋会*・関東国粋会はこの系統に属する。1946年（昭和21）右翼団体解散命令により解散。〔千野境子〕

けんり　【権利】　一定の利益を享受するために認められた法律その他の法規上の資格。権利は，神から与えられたものでもなければ，国家法によって新たに創造されたものでもなく，個々人の利益の主張がそれを否定しようとする力との抗争を経たのち，その力を破って貫徹された場合に社会現象として発生し，政治権力がこれを認めることによってはじめて生ずるものである。公法上の権利（選挙権*や裁判権*など）と私法上の権利とに分けられる。また，私法上の権利はその目的とする内容により，財産権*・人格権*・身分権*および社員権*に，さらに権利の作用によって支配権*・請求権*・形成権*に分けられる。権利の主体となりうる者は自然人*および法人*である。なお，権利の行使については，かつてこれを絶対的自由とすることを理想としていたが，資本主義の発展に伴うもろもろの内在的矛盾の増大・激化により，これに制限を加えるようになってきている。➔権利の濫用〔黒木三郎〕

けんりかぶ　【権利株】　会社の成立前，または新株発行の効力発生前の株式。つまり，株式引受人（新株の申し込みをした者）がもっている権利をいう。会社設立の際に株式を引き受けた者は，会社が成立したときから株主に，また会社成立後新株を発行する場合に新株を引き受けた者は，払い込

み期日の翌日から株主になるが，この株主になるであろう権利を権利株という。この権利株の譲渡もよく行なわれているが，会社との関係でもこの自由譲渡性を認めることは，投機を助長して会社の基礎を危うくするおそれがあるので，権利株の譲渡は会社に対しては効力を生じない(商法190条)。したがって権利株の譲渡は，譲渡人・譲受人間では有効であるが，譲受人は会社に対して権利株を譲り受けたということを主張できないばかりか，会社もこれを認めることはできない。つまり，当初の株式引受人を株主としなければならないと考えられている。発起人・取締役の権利株の譲渡に対しては，投機の弊を助長するといった観点から，譲渡をした発起人・取締役は過料に処せられる(商法490条2項)。なお1966年(昭和41)の改正で，会社が株主に新株引受権を与えて新株を発行するときは，定款・取締役会もしくは株主総会で決めれば，新株引受権(権利株の一種)の譲渡もできることとなった。ただし株主以外の第三者が新株引受権をもつときは認められない(商法280条ノ2の1項6号)。〔松本治雄〕

けんりきん 【権利金】 主として借地契約または借家契約の締結に際し，賃借人から賃貸人に支払われる金銭のこと。その内容により，①老舗権(しにせけん)・営業権などの対価としての性質をもつもの，②地代・家賃の前払いの性質をもつもの，③借地権・借家権の対価としての性質をもつものの3種類に大別できる。権利金の授受がなされた場合問題となるのは，契約終了期にそれを返還すべきものであるか否か，賃借権は譲渡できるかということである。権利金が②の性質をもつ場合にはいずれも問題にならないと考えてもよいが，①と③の意味をもつ場合には問題となりうる。従来の判例によると，どのような名称(たとえば権利金・保証金・礼金など)を使ったかというだけでなく，賃貸借契約の目的・期間あるいは契約地代・家賃の額などを基準として，どのような性質をもつ権利金であるかを決定することにしている。もっとも，地代家賃統制令の適用のある1950年(昭和25)7月11日以前に新築された延べ坪30坪以下の建物については，敷金のほかはどのような名義のものであるにせよこの種の金銭をとってはならないと規定されている。〔黒木三郎〕

けんりじち 【権利質】 財産権を目的とする質権をいう(民法362条1項)。元来，質権は物(有体物)について認められ利用されてきたが，各種の権利が1個の財産権として経済上重要な意味をもつにつれて，権利を質に入れることも認められるようになった。権利質は金融取引などに利用され，質権の種類では最も発達している。権利質は，目的物が権利であるということ以外は他の質権と同じであるから，それらの規定が準用される(民法362条2項)。質権の目的となる財産権は譲渡可能な権利にかぎり，普通債権・株式・不動産物権・無体財産権などがあるが，このうち所有権・占有権・地役権などは，その権利の性質からして権利質の目的とはなりえないし，鉱業権・漁業権などは国家の政策上質権の目的とすることが禁止されている。権利質の成立要件はその種類によって異なるが，債権は債権証書の交付，株式は株券の交付，地上権・永小作権などは目的不動産の引き渡し，無体財産権は登録である。対抗要件は，たとえば記名社債は社債原簿に質入れを記入すること，不動産物権は登記すること，特許権は登録することなどである。なお権利質は，動産質のように目的物を取り上げて弁済を強制確保しようとする心理的な圧力効果には欠けるが，優先弁済の効力が簡易な換価性にあることに利点も見いだしうる。〔黒木三郎〕

けんりしょうてん 【権利章典】 1689年に制定されたイギリス憲政史上重要な法律。名誉革命の善後策として，議会はオレンジ公ウィリアムとその妻メアリの共同統治を認め，その条件として〈権利宣言〉を両者に承認させた。この宣言をもとに公布されたのが権利章典である。これは古来の権利と自由を確認したもので，法律の作成・停止，金銭の徴収および常備軍の維持はいずれも議会の承認を必要とすること，選挙，言論の自由などを定めている。さらに，王位は必ず新教徒たる者が継承することを強調している。ここに，1世紀近くにわたる国王と議会の争いは結末を告げ，王権に対する議会の優位が確立された。〔松下京子〕

けんりせいがん 【権利請願】 1628年，イギリス議会がチャールズ1世に提出した請願書。イギリス人の伝統的な自由と権利を主張したもので，そのおもな内容は，①課税などには議会の同意を必要とすること，②不法な逮捕・監禁の禁止，③軍隊の民家での宿泊の禁止，④一般人民の刑罰に対する軍法の適用の禁止などであった。マグナ・カルタ・権利章典とともにイギリス憲法の最も重要な文書。

けんりせんげん 【権利宣言】 人間または国民の各種の自由または基本的権利を認め，これを保護する一連の規定をいう。最初の成文憲法であるアメリカ合衆国諸州(バージニア・ペンシルベニアなど)の憲法にはすべて権利宣言があり，これは1789年フランス革命のもとで成立した人権宣言にも引き継がれている。今日ではソ連や日本の憲法にもみられるように，一般に〈権利〉とともに〈義務〉についても規定されている。なお，狭義にはイギリスの権利章典をいう。

けんりとうそう 【権利闘争】 人間らしく生きる権利を守り，これを維持・拡大していくための闘争。憲法に保障されている団結権・団体交渉権，あるいは労働組合法上の組合活動の権利などに対する攻撃・侵害が行なわれることに抵抗して起こされる。団体交渉要求の闘争，不当人事反対の闘争など。

けんりのうりょく 【権利能力】 権利の主体となることのできる地位または資格をいう。人格といわれる場合もある。権利主体は，その権利を実現する場においては反面において義務者としても現われるのであるから，権利能力は同時に義務能力を含むと考えられる。権利能力を有する者は自然人と法人である。自然人については，生まれながらにして平等な権利能力を取得するというのが近代市民社会成立の前提となっている。わが民法はこれを〈私権ノ享有ハ出生ニ始マル〉と規定している(民法1条ノ3)。もっとも，外国人の権利能力については条約や法令によって制限される場合がある(民法2条)。権利能力の終期は死亡によってのみ消滅する。法人もまた自然人と同じく法によって権利主体となる資格が認められており，それは設立手続きの完了に始まる。ただし自然人とは異なり，その性質・目的，また法令によって権利能力に制限を受ける場合がある。権利能力の終期は清算手続きの完了によってであり，解散した法人でも清算手続きが完了しない間は法人とみなされる(民法73条)。〔黒木三郎〕

けんりのためのとうそう 【権利のための闘争】 ⇒イェーリング

けんりのらんよう 【権利の濫用】 権利の絶対的自由を理想とする個人主義的な近代市民法は，資本制経済の発展に伴う矛盾と弊害の拡大・激化によってしだいに修正を加えられるに至った。その結果，権利の範囲が公共の福祉というわく内に限定され(民法1条1項)，しかも権利の行使は信義誠実になされなければならないことが義務づけられた(民法1条2項)。したがって，これらに違反する権利の行使は権利の濫用とされ，禁止されている(民法1条3項)。権利の濫用は法律の保護を受けないばかりでなく，不法行為による損害賠償を負ったり，権利そのものの剝奪(はくだつ)を受けることもある。しかし，いかなる場合が権利の濫用であるかは定かではない。判例によると，次のような場合などがこれにあたるとしている。養親が養女に芸妓(げいぎ)の見習いを強要すること，鉄道会社が鉄道敷設に適当な注意を払わなかったためにゆいしょある名木を枯死させたこと，本人にはなんの利益にもならないのに隣地の所有者へのいやがらせのため高層建築をすること。〔黒木三郎〕

けんりゅう 【剣竜】 爬虫(はちゅう)類に属する恐竜類の一種。ステゴザウルスが代表例。草食性・四脚性で，体長は4～9m。背の2列の大骨板は皮膚が発達したもので，頭部から尾に及ぶ。これは，行動が緩慢だったので，他の肉食性・二脚性の恐竜類から身を守るため発達したものと考えられている。頭はきわめて小さい。アメリカのコロラド州・ワイオミング州，イギリスのノ

ーサンプトンシャーなどのジュラ紀後期の地層から産出する。

けんりゅうガラス【乾隆ガラス】中国，清朝(しんちょう)の乾隆帝時代に発展したガラス製品。遺品にはつぼ・はち・さら・杯・瓶(へい)・香炉・すずり・文鎮・印材・燭台(しょくだい)などがあり，形も変化に富んでいる。成形技法も，型に吹き込んだり，型に流し込んだり，彫刻を施すなど，多様な技術をみせ，また色ガラスも多彩にわたり，色調もひときわ鮮明である。

けんりゅうけい【検流計】ブリッジ法・電位差計法など零位法の測定において，平衡が得られたことを確かめるために用いる，きわめて微小な電流または電圧を検出する計器。ガルバノメーターともいう。直流用と交流用とがある。直流用としては，可動磁針型・可動コイル型，電気量を測定する衝撃検流計があり，交流用としては，測定器の固有振動周波数と回路電流の周波数とを共振させて用いる振動検流計，さらに反照形・指針形などがある。

けんりゅうてい【乾隆帝】(1711～1799) 中国，清朝(しんちょう)第6代の皇帝。高宗ともいう。1735年即位，60年間在位ののち，1795年嘉慶帝(かけいてい)に位を譲り上皇となった。その時代は康熙帝(こうきてい)・雍正帝(ようせいてい)のあとを受けて清の極盛期にあたり，帝みずから〈十全の功〉を誇ったように版図は最大となった。すなわち，天山北路のジュンガル部，南路の回部，四川(しせん)の大・小金川，ネパールのグルカ族*を平定し，台湾の林爽文(りんそうぶん)の乱を鎮定し，ビルマ・ベトナムを服属させた。また，学術を奨励し，学者を優遇して《四庫全書*》など多くの書物を編纂(へんさん)させたが，一方排満思想をきびしく弾圧した。帝は強大な国力を背景に豪奢(ごうしゃ)な生活を送ったが，晩年には奸臣(かんしん)を重用し，政治の腐敗を招くもとをつくった。〔谷口規矩雄〕

げんりょうたん【原料炭】一般的にコークスの原料となる石炭。コークスをつくるためには粘結性と鉱物質の含量の少ないことが要求される。粘結性とは石炭を加熱すると溶融して流動性をおび，冷却すると粒が粘着して一つの固まりとなり，発生するガスにより多孔質となる性質をいい，このような性質を有するのは無煙炭に近い瀝青炭(れきせいたん)である。したがって，原料炭の分析値は固定炭素50～70%，燃料比1～3.1，発熱量8,000～8,500kcal/kgである。ヨーロッパ・アメリカなどの石炭紀の石炭には原料炭が多いが，わが国にはあまり産しない。なお広義には工業の原料となる石炭すべてをいう場合がある。➔石炭

〔今井秀喜〕

けんりょく【権力】ふつう，国家権力・政治権力の意味で使われてきたことば。英語の〈パワー〉〈オーソリティー〉，ドイツ語の〈ゲバルト〉などがこれに対応するが，これらは同時に〈権威〉の意味を含んでいるし，またゲバルトは〈実力〉〈暴力*〉にあたる。権威は，精神的な尊敬を受けるように高い強い地位・能力を示すのに使われるのに対し，実力・暴力は，物理的・身体的な強い力で相手をおさえつける場合に用いられるのが普通である。



剣　龍　ステゴザウルス



乾隆ガラス　蓋付き赤色飾壺　18世紀

国家権力・政治権力の本質は，国家*という人間の集団的・共同的な法形態において，すべての人々(国民)に対して強制することのできる力，その領域(領土)内で最も強い支配・命令・統制の力で憲法や法律で，そのことが認められているものをさしている。もちろん近代民主国家では，封建国家や古代国家の場合のように，君主や諸侯の支配・統制が一方的に(国民の参加なり承認なりなしに)行なわれるということはない。国家権力が，なにを，どのように国民に命じ，あるいは強制しうるかということは，国会*で審議され，憲法や法律で基本的に定められており，国家権力の発動が憲法や法律に反すると考えるときは，国民はこれを争うこともできる。また国家権力は，主権者国民のためにいろいろな配慮をし，政策を行ない，国民のために正しい秩序を守るべきものとされている。しかし同時に，定められた法に基づいてなされる国家権力の活動は，たとえそれに国民のうちの幾人かが不服で反対しても強制され，あえて反対する場合には警察*や裁判*を通じて制裁される。すなわち国家権力は，国民の承認・協力に基づくものであると同時に，場合によってはいかに国民の反対が大きくとも，それをおさえて強制し，制裁することのできる強い力であることを特色とする。これが国家以外の他の生活形態におけるのと違う点である。たとえば，会社・大衆・文化団体その他市民の間での組織では，いやなら脱退することもできるし，またその職場・団体の規律を破ったときも，免職・退学・除名以上の制裁を受けることはない。ところが国家の統制に服しないと，懲役・罰金という制裁があり，またわれわれは，いやだといっても，国家から脱退することができない。このようなきびしい，包括的な内容の力が，国家権力の特色である。しかし，古代や中世の専制政治*のもとにおけるのとは違って，近代の民主国家では，一方的な権力だけの支配は認められず，国民の合意・協力・尊敬のない権力は長続きできず，さらに，権力は国民自身のもの(国民主権)という考えが広まってきているため，国家権力の基礎はもはや単なる強い力ではなく，国家の信頼にあるというように考えられ，国家権力を表わすことばとして，オーソリティー(権威)という語さえ用いられているのである。学者ちは，以上の事態について，国家権力の本質を認めつつも，同時に権力が長い間続く条件として，国民の承認・信頼，また制裁を受けることに対する保身の心構え(ときには恐怖)，権力に対する積極的な共鳴(ときには崇拝・あこがれ)などをあげている。

国家権力以外の関係についていえば，上述のような国家に特別な強制・制裁の点を別とすれば，広く共通して認められる条件がある。日常の職場，諸学校，あるいは政党や労働組合その他の諸団体においても，指揮・命令と受命・服従の関係がなければ，それらの集団・組織は存続しない。この関係を支配・被支配の一つの形態だとみる政治学者は，これをガバメントとしてとらえ，国家は〈公的ガバメント〉であり，会社その他は〈私的ガバメント〉だとする(英・米の学者に多い見解)。そこでは，指導・命令・組織する者と，指導され，協力し，服従する者との永続的な関係が存立し，それが一つの権力を成立させるとする。指導する者は，人々の服従・協力を有効にするために人々の意志を十分くみ取り，その利益を生かし，信頼をつなぐように努力する。また人々の服従を有効に保つために，指導者を飾りたて権威づける。しかしまた，一般の人々が服従しないときは，それなりに制裁を加えることによって抵抗をおさえる。こうした関係では，国家権力も同じであるとするのであるが，こうした共通性にもかかわらず，国家権力の特色はやはり認めなければならない。警察や軍隊*や裁判所・刑

務所までもっているのは国家だけである。

権力は，単なる実力・暴力とは違うとされている。すなわち，すでに述べたように，民主社会では憲法・法律によって正当な権力として承認されないかぎり国家権力は活動できないし，一般の団体においても，当然に，団体員の人権を無視するような関係は許されない。しかし今日の国家権力についてすらも(一般の私的団体においてはさらに多く)，しばしば国民の人権を踏みにじるような，あるいは国民の少なくない部分の激しい反対にさらされるような権力行使，命令・服従の状態が生ずる。そこで，国家権力の本質は実力・暴力だというような批判も出されるのである。

民主社会・憲法国家においては，このような事態が発生しないように，また防止ないし救済しうるように，いろいろな方法がくふうされている。市民の表現・言論・集会・結社の自由が広く確立され，国家権力に対する批判がつねに行なわれること，政党の活動や選挙を通じて支配の位置につく者が交替すること，各人の人権侵害が裁判を通じて救済されることなどである。ファシズム独裁は，このような憲法体制を破壊し，一党独裁とテロリズムの併用によって支配しようとしたもので，ここでは権利は，紛れもなく暴力の性格をあらわにした。権力の民主化，権力の本質をなしている実力の合法化，正当な発動に対する国民の人権感覚・政治意識の高まりこそが必要である。〔鈴木安蔵〕

けんりょくせいじ【権力政治】 力による政治をいう。憲法国家にあっても，多数党を背景として，一般市民の要求，特に反対派・革命派の主張を無視して強行される一党独裁的な政治についていわれる。また国家間の関係においても，軍事力を背景にして他国の国家意思に圧力を加える場合にいわれる。

けんりょくぶんりゅう【権力分立】 ⇨三権分立

けんれい【県令】 1871年(明治4)7月廃藩置県の実施に伴い，各県(3府72県)に置かれた長官。1886年7月地方官官制により廃止され，知事と改称した。なお，江戸時代に代官を中国式に県令といった。

けんれいもんいん【建礼門院】 ⇨平徳子

けんれいもんいんうきょうのだいぶ【建礼門院右京大夫】 歌人。生没年未詳。父は能書家藤原伊行(これゆき)，母は箏(そう)の名手夕霧。1173年(承安3)ごろから建礼門院に仕えて右京大夫とよばれて，平資盛(すけもり)との恋愛などはなやかな宮廷生活を送るが，平家一族の滅亡後は過去を追慕しつつ，静かに70年余の生涯(しょうがい)を終わった。《建礼門院右京大夫集》は，長文の詞書(ことばがき)と359首の歌によって自叙伝的に構成した私家集で，建礼門院を中心とするはなやかな宮廷生活の思い出を背景に，悲恋や源平争乱に巻き込まれたひとりの女性の悲愴(ひそう)な生涯を描く。〔石埜敬子〕



兼六園　園内の中央にある霞ヶ池と池畔にある徽軫燈籠。この燈籠を取り入れた池のながめは，兼六園の代表的風景とされている

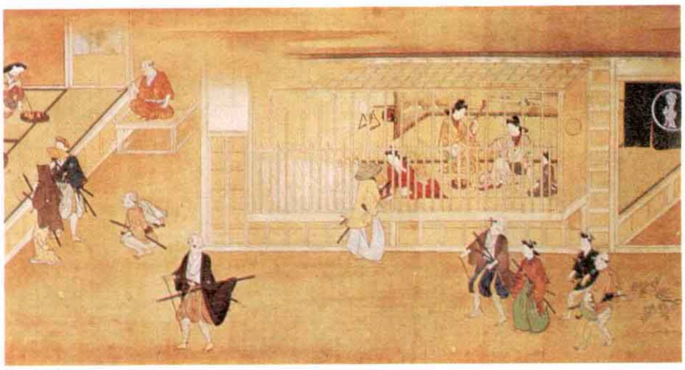
けんれんはん【牽連犯】 ある犯罪の手段または結果である行為が別の罪名に触れる場合をいう。たとえば他人の住居に侵入して物を盗む場合は，住居侵入罪と窃盗罪との牽連犯となる。牽連犯は一罪としてその最も重い刑をもって処断され(刑法54条1項)，この例では窃盗罪の刑で処断される。

げんろう【元老】 明治後期から昭和前期まで，天皇から特別に優遇され，法令によらぬ超憲法的存在として内閣の目付け役にあった重臣。1889年(明治22)黒田清隆(きよたか)・伊藤博文(いとうひろぶみ)に元勲優遇の勅諚(ちょくじょう)が出て以来，山県有朋(やまがたありとも)・松方正義(まさよし)・井上馨(かおる)・西郷従道(つぐみち)・大山巌(いわお)・桂(かつら)太郎・西園寺公望(さいおんじきんもち)の9名をさし，多くは総理大臣の経験者で，西園寺以外は長州・薩摩(さつま)藩の出身であった。天皇の最高顧問として，特に後継内閣首班の決定に関与し強力な発言力をもった。1940年(昭和15)西園寺が次期首相の推薦を辞退して多年の慣行が破れ，以後後継内閣首班の決定は内大臣の責任となった。〔千野境子〕

げんろういん【元老院】 民会・政務官とともに，古代ローマ国家の国制上の最も重要な機関。ラテン語senatusの訳。王政時代には王の諮問機関であり，また王が後継者を指名しないで死亡したとき，正式の王の決定まで元老院議員が交替で〈中間王〉をつとめた。このほか，王の提案した民会議決も元老院の承認によってはじめて発効した。元老院議員となる者は，その名のとおりはじめは高齢者(senex)で，王の指名により，共和政期にはいると執政官(コンスル)の指名によった。そののち紀元前3世紀末，国家最高官職(政務官)を経た者が議員となるようになったため，元老院は特別の規定がないにもかかわらず，任期1年の政務官に対する強力な指導助言によって，事実上国政を強く左右した。議員の中では貴族(パトリキ)身分の議員がさまざまな特権をもって特に有力であったが，全体として議員の権威は大きく，議員はすべて幅広の緋色(ひいろ)の縁取りをした上衣と赤皮のくつを着用して身分的標識とした。このような大きな権威の反面，元老院の許可なくイタリア外に旅行できないとか，国家との請負契約や貿易可能な大きな船舶の所有を禁ずるなどの制限も法によって加えられた。議員数は王政時代に100名から300名に増加され，その後この定員は守られたが，共和政末期になりスラがこれを600名に増加，さらにカエサルが自己の党派を多数元老院に送り込んで900名としたため，その権威はかえって失墜した。初代皇帝アウグストゥスはこれを600名に減員し，元老院議員就任資格を血統・財産額・官職経歴にわたりきびしく定めて元老院の権威を高め，それを尊重する態度をとった。しかし他面，紀元前4世紀末以来元老院議員任免権をもっていた戸口調査官(ケンソル)の職にみずからつき，しだいに元老院の独立権限を削減し，元首(皇帝)の監督下にこれを置いた。その後，帝政期を通じて皇帝権限の増大に反比例して元老院の政治的地位は低下したが，それでも235年に至るまでは帝位継承の形式的承認権を失わなかった。4世紀にはいると新都コンスタンチノープルにも元老院が設置され，ローマのそれの議員数も2,000名に達し，政治的には前者はまったく東の皇帝の下に立ち，後者はローマ市においてのみ若干の機能を保持するにすぎなかったが，社会的には大土地所有者の集団として帝国内に隠然たる実力を保ち，異教的古典学芸の擁護者として文化的にも大きな役割を果たした。しかし，彼らが反皇帝に結集して決起した392～394年のエウゲニウス(およびアルボガスト)の乱がテオドシウス1世に鎮圧されて，彼らの歴史的役割はほとんど終わった。〈ローマ元老院〉についての最後の言及は，580年である。〔弓削　達〕

けんろくえん【兼六園】 石川県金沢市にある面積約10万m^2の庭園で，水戸偕楽園(みとかいらくえん)・岡山後楽園とともに日本三名園の一つになっている。作庭は延宝年間(1673～1681)といわれ，松平定信(さだのぶ)が宋(そう)代の洛陽(らくよう)の《名園記》に基づき，広大・幽邃(ゆうすい)・人力・蒼古(そうこ)・水泉・眺望(ちょうぼう)の6要素を兼ね備えた名園であるとたたえ，兼六の名を贈ったといわれる。近江(おうみ)八景になぞらえた霞ケ池(かすみがいけ)や書院造りの成巽閣(せいそんかく)がある。

げんろくきんぎん【元禄金銀】 元字金銀ともいう。1695年(元禄8)から1710年(宝永7)の間に江戸幕府が慶長金銀を改鋳して，発行した金貨・銀貨の総称。金貨に大判・小判・一分判金・二朱金，銀貨に丁銀・豆板



元禄時代
菱川師宣の《風俗図巻》として知られる《北楼及演劇図巻》に見る遊廓風俗



元禄忠臣蔵
細川屋敷詰番詰所　左より　堀内伝右衛門の8世市川中車　磯貝十郎左衛門の3世市川猿之助　おみのの2世中村扇雀　大石内蔵助の8世松本幸四郎

銀がある。銀貨のうち大黒天の像を打印したものを元禄大黒銀という。慶長金銀・享保(きょうほう)金銀に比べて品位は劣る。勘定奉行(ぶぎょう)荻原重秀(おぎわらしげひで)の建議で，幕府の財政難打解，商業発展による金銀通貨の需要増加，金銀産出量の減退に対処するために改鋳したもの。幕府はこれによりばくだいな利益を得た。世に元禄の悪鋳と称され，インフレを招いた。元禄金は1717年(享保2)，元禄銀は1722年通用を禁止された。〔松尾　涼〕

げんろくじだい　【元禄時代】　江戸中期，5代将軍徳川綱吉(つなよし)の治世で，元禄年間(1688～1703)を中心とした時期。幕藩体制の基礎が固まり，文治主義の時代といわれているが，その初期は強大な権力をもつ専制政治が行なわれ，きびしい大名政策からしばしば除封・減封が行なわれ，むしろ武断主義の時代とも考えられる。朱子学の官学化は，封建秩序の理論的裏づけをなし，その権力の強化は，将軍の絶大な信頼をになった側用人(そばようにん)柳沢吉保(よしやす)らの幕政支配のささえとなり，〈天和(てんな)の治〉ともいわれたが，生類憐(あわれ)みの令の施行によって，幕政は理性を失った虐政に陥った。また幕府財政の悪化により，その欠乏を補うために行なわれた貨幣改鋳は，その出目(品質を低下させることで生じる利益)によって幕府は大きな利益を得たが，物価の変動が激しく，民衆も武士も窮乏したため，新井白石以来きびしく非難されてきた。しかし，拡大した経済体制下にあった元禄時代では，それに見合うだけの社会の通貨量をふやす必要もあったし，またそれによって経済を円滑に運転させることになるわけであるから，むしろ社会経済の発展に即応した政策であるともいえる。一方，農民生活が豊かとなったことを基盤とした庶民経済の拡大と生活水準の向上は，衣食生活が豪奢(ごうしゃ)華麗となり，元禄文化のにない手といわれる新興町人たちはこの上げ潮に乗って出て，学問・文化の上に広く反映し，元禄初年のころほぼ頂点に達した。しかし，文化史上でいわれる元禄時代をよく吟味してみると，必ずしも歴史上での元禄時代と一致しないものがある。すなわち元禄文化を代表するといわれる作家・画家たちをみても，井原西鶴(さいかく)・松尾芭蕉(ばしょう)・菱川師宣(ひしかわもろのぶ)らは，むしろ元禄以前かその初年であり，近松門左衛門(もんざえもん)・尾形光琳(こうりん)らは，それよりあとの新井白石の時代に活躍した人たちであることなど，元禄時代研究に残された問題も多い。〔岡山泰四〕

げんろくそで　【元禄袖】　和服そでの一種。たもとが半径10～15cmの大きな丸みをもつ30～40cmの短いそで。振り八つがあく。明治後期に元禄調の復古が提唱され，元禄時代に流行した丸そで(そでだけ・たもとは現在の元禄そでに同じ。振り八つはない)を模したもの。寝間着，女物・子ども物の長着・羽織のふだん着に用いられる。

げんろくちゅうしんぐら　【元禄忠臣蔵】　歌舞伎(かぶき)脚本。19幕。真山青果作。1934年(昭和9)東京歌舞伎座で最終編《大石最後の一日》(2幕4場)を初演，好評のため翌年から1940年にかけて全編を連続上演した。史実に立脚し，作者独自の解釈を加えた新しい忠臣蔵を書こうとした力作で，主君浅野内匠頭(たくみのかみ)の復讐(ふくしゅう)を企てる大石内蔵助(くらのすけ)らの苦悩が克明な心理描写によって表現される。《仮名手本忠臣蔵》とともに忠臣蔵作品の最高傑作で新歌舞伎の代表作でもある。〔西尾邦夫〕

げんろくはなみおどり　【元禄花見踊】　長唄(ながうた)の曲名。《元禄踊》とも《花見踊》とも略称される。1878年(明治11)3世杵屋(きねや)正次郎作曲，竹柴瓢助(ひょうすけ)作詞。上野に花見に来た武士・町人・遊女らがきらびやかに踊るという設定で，元禄時代の風俗を浮世絵風に楽舞で描いたものである。明るい二上がりの前弾(まえびき)，〈早渡り〉〈半あげ〉という囃子(はやし)，クドキ，合方，囃子といった構成法をとり，一時的にではあるが3拍子があるので珍しいものである。〔山口　修〕

げんろくぶんがく　【元禄文学】　近世文学の時代区分の一。元禄年間(1688～1703)を中心とした前後約60年間の文学をいう。上方文学とほぼ同義であるが，必ずしも上方のみに限定されず，近世後期の文学と対比される。その一般的特徴は〈町人の文学〉であることにある。町人層は近世にはいって拡大充実した新興階級で，特に商業経済に生活の基盤があり，現実主義・合理主義的な理念によってささえられていたが，元禄期は町人層の発展の頂点に達した時期である。この期の文学を代表するものは浮世草子の井原西鶴(さいかく)，浄瑠璃(じょうるり)の近松門左衛門(もんざえもん)，俳諧(はいかい)の芭蕉(ばしょう)である。西鶴は町人の感覚によって町人を中心とした生活の種々相を描き，新しい人間主義的な写実文学を創造した。近松は浄瑠璃という大衆演劇の中で，人間に対する細やかな愛情と共感を表現し，独自の演劇芸術論を創造した。芭蕉は日本の伝統的美感を基礎に，それに近世的な特色を融合させて俳諧の文芸性を確立した。また幕府の政治思想である儒学(朱子学)に対して，日本古代の精神を追究しようとしたのが契沖(けいちゅう)をはじめとする国学であり，これも元禄文学の特徴の一端をなす。従来一部の人々のみが享受していた文学を，かつてない多数の作者と読者を生むまでに範囲を広げ，現実的な生活を再現させようとした点で注目される。〔小池正胤〕

げんろんのじゆう　【言論の自由】　人が意見・思想を発表する自由。思想の自由はそれを発表する手段を不可欠とするから両者は相関的であり，さらに出版の自由と合わせて言論・出版の自由といわれる。また，近年は映画・演劇・テレビ・ラジオなどのマス-メディアが発達したため，これらすべての意見・思想の媒体を含めて表現の自由と称されることが多い。明治憲法下ではいちおう認められてはいたものの，治安立法や検閲制定によって制限が加えられていたが，日本国憲法(21条)は公共の福祉に反しないかぎり言論・出版その他いっさいの自由を保障している。〔寺尾方孝〕

こ

こ　【弧】　曲線の一部分。特に，曲線が円の場合には円弧，放物線の場合には放物線弧などという。円の場合には，周上の2点A，Bによって円周が二つの弧に分けられるが，長いほうを優弧，短いほうを劣弧という。円の半径を r，中心角を $\theta°$ とすれば，この中心角に対する弧の長さ l は $l = \pi r\theta/180$ となる。また，弧の両端を結ぶ線分をこの弧に対する弦といい，弧とそれに対する弦とで囲まれた図形を弓形という。

こ　【胡】　中国人が万里の長城*の外に居住する異民族をよんだ語。秦(しん)・漢時代にはもっぱら匈奴*(きょうど)をさし，胡(匈奴)の東にいた民族を東胡とよんだ。東胡は匈奴の冒頓単于*(ぼくとつぜんう)に討たれ，これに服従した。魏(ぎ)・晋(しん)時代以後になると，胡は西域人一般をさすようになった。隋(ずい)・唐時代には，突厥(とっくつ)・ウイグルなどの北方遊牧民族はもとより，西トルキスタンのイラン系民族も胡とよばれたが，特にソグド人*をさす場合が多い。〔若松　寛〕

ご　【呉】

1 中国古代の国名(？～BC473)。周の文王の叔父(おじ)の太伯が，自分の継ぐべき周の家督を弟に譲って南方に走り，揚子江の下流に建てたとされる。春秋時代，寿夢(じゅぼう)が位につくころから国力を伸ばし，北方の晋(しん)と結んで揚子江中流の楚(そ)と対抗する。諸樊(しょはん)のとき姑蘇(こそ)(江蘇省蘇州)に都を置く。闔廬(こうりょ)(闔閭)は伍子胥(ごししょ)を得てさらに国力を強めたが，南方に台頭した越に背後を脅かされるようになる。闔廬のあとを継いだ夫差*が北方に軍を進めている間に越王勾践*(こうせん)の軍が侵入して滅亡した。

2 中国の王朝(222～280)。帝室は呉郡富春(浙江(せっこう)省富陽県)の孫氏。後漢の末，黄巾(こうきん)の乱*が起こると，揚子江の北に赴任していた孫堅が，無頼遊侠(ゆうきょう)の徒を集めて一軍を編成し，各地に勇名をはせた。堅の死後，子の孫策が軍を引き継いで揚子江を渡り，江南デルタ一帯を制圧して独立への地盤を固めた。その死後，弟の孫権*は赤壁の戦い*で曹操*(そうそう)の南下を阻止し，独立体制を固めていったが，魏(ぎ)・蜀(しょく)があいついで独立すると，これに対抗して独立し(222)，国を呉と称した。漢民族による南方開発がこれによって本格的に進められたのであるが，孫権が死ぬと(252)，王位継承をめぐる孫氏一族の争いや，将軍の間の確執によって統制が破れ，やがて魏にとって代わった晋によって滅ぼされた(280)。

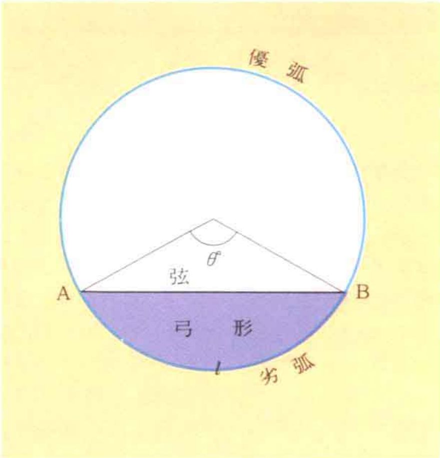
3 (619～621)　中国，隋(ずい)末の群雄のひとり李子通(りしつう)が江都に拠(よ)って建てた国。

4 中国，隋末の群雄のひとり杜伏威(とふくい)は唐の天下統一の過程で唐から呉王の爵を受けたため，彼の支配下にあった丹陽を中心とする江淮(こうわい)一帯を呉国とよぶ。623年，杜伏威が唐に入朝しているるすに部下の輔公祏(ほこうせき)が自立して宋(そう)と称したが，唐に併合された。

5　→五代十国

6 元末の群雄，張士誠が建てた国(1363～1367)。

7 元末の群雄，明朝(みんちょう)初代皇帝朱元璋(しゅげんしょう)が建てた国(1364～1368)。



弧



ゴア中心都市パンジムの町の露天市場。地面に敷いた布の上にトウモロコシを広げて客を呼んでいる

ゴア　［Goa］　インド共和国，西海岸中部にある港市。面積3,701km²。人口79万5,000(1971)。15世紀中ごろバーマニ王朝時代に建設されたが，1510年ポルトガルに占領され，以来ディウ・ダマン地域とともにポルトガル領となり，そのアジア貿易，イエズス会伝道の拠点となった。インドは1947年の独立に際して自国への返還を求めたが，ポルトガルが応じなかったため1955年には大規模なゴア解放闘争を行なった。1961年インド軍はここに進駐して武力解放を行ない，インド政府の直轄領とした。住民は大部分がインド人で，カトリック教徒が約半分を占めている。豊富な鉄鉱石とマンガンの埋蔵があり，日本へも積み出している。マルマガオが主要港である。ヤシの果皮の繊維皮の織物，製塩なども行なわれている。〔別技篤彦〕

ごあいさんこう　【五愛三好】　中華人民共和国で，青少年のモラルを表わす標語。五愛は〈祖国・人民・労働・科学を愛し，公共財産を愛護する〉こと(1949年，暫定憲法の性質をもつ《共同綱領》における国民公徳の規定による)をいい，三好は〈からだを鍛え，しっかり学習し，社会活動に励もう〉(原語では，〈身体好，学習好，工作好〉で，1953年の青年団第2回代表大会における毛沢東のことば)をいう。毛沢東は，新教育方針として〈知育・徳育・体育に全面発達した勤労者の養成〉(1957年2月)を提起したが，五愛三好のモラルは，共産主義建設を見通して，集団主義精神をわかりやすい表現で説いたものといえよう。政治思想抜き，書物偏重の知育を批判し，青少年の健康留意が毛沢東の教育思想の特徴であって，学習

者の主体性・自律性を尊重するのがその基本である。➔因材施教　〔斎藤秋男〕

こあおいもん【小葵文】ゼニアオイを文様化したものとされるが，確証はない。最も代表的な有職文(ゆうそくもん)で，ほとんどの装束の地文として，または単独に用いる。現代用いられるものはすっかり形がくずれているが，室町時代に製作された熊野(くまの)速玉大社の神服に織り出されたものは最も古格なものである。

こあおはなむぐり【小青花潜】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長10～15mm，体幅5.5～9mm。本州・四国・九州のほか，アジアのほとんど全域とカナダなどに分布し，日本においてはミカンその他の甘橘(かんきつ)類の害虫。体色は変異が著しく，暗緑色・銅かっ色・黒かっ色などいろいろだが，いずれも鞘翅に数個の小さい白色斑紋(はんもん)がある。年1回の発生で，幼虫で越冬し，5月ごろから成虫が出現する。

コア-カリキュラム ⇨カリキュラム

こアジアしょぞく【古アジア諸族】古シベリア諸族ともいう。極東シベリアを中心に分布する少数民族群の総称。チュクチ族*・コリヤーク族*・アリュトル・ケレク・イテリメン(カムチャダール)・ユカギール族*・ケト・ニブフ(ギリヤーク)・エスキモー*などがそれである。アジア部では総人口27,000，アラスカ・カナダ・グリーンランドのエスキモーは43,000に達する。系統・発生的には相互に密接な関係がないのに，このようにひとまとめによばれるのは次のような仮説に基づいている。原初のシベリア先住民は，トルコ・モンゴル系民族の侵入により同化されたり，北アメリカへ移住したりで，今日みるような細分状態になったということである。人種的にはモンゴロイド*の特徴が強く，狩猟・漁労を主とする。〔田中克彦〕

こあじさい【小紫陽花】双子葉植物・ユキノシタ科。山地にはえる落葉低木で，高さ1～2m。枝は細く紫色をおびるが，新しい枝は緑色で，まばらに毛がある。葉は膜質で対生し，倒卵形ないし広楕円(こうだえん)形で長さ5～8cm，上半分にはあらい鋸歯(きょし)があるが下半分は鋸歯がなく全縁，表面にはまばらに毛がある。6月ごろ，枝先に多数の淡青紫色の小さな花を散房状につける。花は両性花で，花弁・がくともに5個，おしべは10本。アジサイの仲間であるが装飾花はまったくない。果実は広卵形で3mmほど，上部には3本の花柱が残る。関東以西の本州および四国に分布する。

こあじさし【小鯵刺】鳥類・カモメ科。翼開長50cmほどで，頭上は黒色，他の部分は灰色と白色。小魚を主食とし，魚を見つけると，上空からねらいを定めて突っ込みはさみとる。初夏に南方から渡来し，本州の海岸の砂礫地(されきち)や川原で繁殖する。➔アジサシ



小葵文　紫緯白小葵文浮織唐文神服(部分)　熊野速玉大社蔵



コアラ　愛らしい目と姿はおもちゃのクマを思わせる

コアセルベーション［coacervation］親水コロイド，特に高分子溶液やコロイド電解質が，ある条件のもとで凝結すると，コロイドに富む液相とコロイドに乏しい液相に分離する現象がみられる。この現象をコアセルベーションといい，コロイドに富む液相をコアセルベートという。コアセルベーションは，コロイド濃度が高く，コロイド粒子の電荷の符号が異なる2種のコロイド溶液が混合されると，電荷は中和されるが脱水が完全に行なわれないために起こると考えられており，濃厚で暖かいゼラチン溶液とアラビアゴム溶液を混ぜたときなどにみられる。また，タンパク質や生体物質を含む系でもよく観察されるため，生物学的に重要な意義をもつものと考えられ，特にオパーリンによれば，生命の発生の第一段階としてコアセルベーションが大きな意義をもっているという。〔水野俊彦〕

コアラ［koala］哺乳(ほにゅう)類・有袋目・クスクス科。コモリグマ・キノボリグマともいう。体長70cmほどで，尾はほとんどなく痕跡(こんせき)的。子グマに似る。耳は大きく毛が厚くはえ，口先には毛がない。毛は羊毛状で上面は暗灰かっ色，下面は淡い。オーストラリア南東部のユーカリの森林に，ふつう単独ですみ，ユーカリの葉や芽を食べ，ユーカリの葉がないと生きていけない。樹上で生活し，性質は温和で，動作は緩慢。毛皮獣として乱獲されたため近年生息数が減少し，厳重に保護されている。➔有袋類　〔今泉吉典〕

コアントロ ⇨リキュール

こい【鯉】硬骨魚類・コイ科。体は長楕円(ちょうだえん)形で，腹面は水平に近い。口は，吻端(ふんたん)下面にあってほぼ水平に位置し，上顎(じょうがく)から長短2対のひげが出ている。環境によって多少の違いはあるが，背面は青みをおびた黒色，体側は黄色をおびた白色。うろこは大きい。体長は普通60cmどまりであるが，まれに1mを越す。なお，野生のものと養殖されているものとでは体形・体色にやや違いが生じ，野生のものは体高がやや低く(細長い)，体色には黄色みが強い。アジア・ヨーロッパの温帯部淡水系に広く分布し，北アメリカにも移植されて野生化している。分布の中心は中央アジアとみなされている。日本でもほぼ全土に分布するが，養殖が盛んに行なわれているので，天然分布と移植による分布の区別がつけにくい。河川の上流域を除く淡水系の全域にすみ，底生動物・底生藻(そう)類などを食う。貝類を特に好み，コイ科魚類に特有な咽頭(いんとう)にある臼歯(きゅうし)状の咽頭歯で殻(から)を割って食べる。

日本では5～7月にヨシ・マコモなどの水面に近い部分に卵を産みつける。天然水域では，1年で10cm，5年で40cmほどになり，養魚池では，1年で20cm，3年で40cmに達する。世界各地で，食用としていろいろな品種が人工的につくられている。ドイツのカワゴイ(革鯉)は，体高が著しく高く，体はまったくうろこを欠き，成長は早い。同じくドイツでつくられた大形のうろこを体の一部に残しているカガミゴイ(鏡鯉)は，日本にも移殖されている。いずれの国でも重要な食用魚であり，特に中国料理では，丸揚げに甘酢あんを掛けたものなどに調理されて珍重される。日本では，洗いや鯉こく(コイのみそしる)などにして喜ばれる。養殖はふつう水田・池などで行なわれる。わが国では，海に遠い長野県・群馬県などで盛んであり，流水を利用した超過密飼育法で，水面1m²から，重さにして230kg，200～300匹のコイを育てる。

コイは観賞用としても古くから飼われており，中国や日本でいろいろな品種がつくり出されてきた。中国の品種では全身が赤いヒゴイや黄色のキゴイなどがあり，日本産の品種はニシキゴイ(錦鯉，カワリゴイ・イロゴイ・ハナゴイなどともいう)と総称され，新潟地方の名産となっている。新潟地方のコイ飼育は，17世紀の初めごろに始まり，文化・文政(1804～1829)のころには，すでに交配によって斑紋(はんもん)のあるものがつくりだされている。明治初年には，青み

コ　イ















①フナとはひげの有無で容易に区別できるニシキゴイ　②大正三色　③紅白　④緋写　⑤黄金　⑥秋翠　⑦昭和三色

をおびたもの(アサギ)，黒地に黄斑のあるもの(キウツリ)などが生じ，その後多数の品種がつくられ，現在は約20品種を数える。ニシキゴイは愛好者が多く，すぐれたものは驚くほど高価に取引される。コイはフナによく似ているが，フナには口ひげがないので区別がつく。中国では，黄河にすむコイが春に川をさかのぼり，他の魚の遡上(そじょう)をはばむ龍門峡(りゅうもんきょう)の急流をも登りきって龍になったという伝説(登龍門の伝説)があり，日本に伝わってコイの滝登りとして画題などにもなっている。コイは生命力が強く，ぬらした新聞紙にくるんでおくだけで，かなりの時間の輸送に耐えるほどであるが，もともと急流にはすまぬので，滝を登ることはない。〔菅野　徹〕

こい【故意】 悪いこと，法律に触れることを知りながらあえて行なう行為をいう。
【刑法上の故意】犯意ともいう。不注意のために，知らずに違法な結果をひき起こしてしまう過失*とは区別されている。刑法は〈罪を犯す意なき行為は罰せず〉(同法38条1項)と規定して，故意による犯罪を罰し，条項の例外として過失犯を罰することとしている。たとえば，焼き払ってやろうと思って家に火をつければ，故意犯として放火罪になるが，たばこの火の不始末で火事を出したときは，過失犯としての失火罪となる。故意の認定については次の三つの点が問題となる。①認識の範囲：たとえば，窃盗罪の故意としては，単に他人のさいふであるという事実を知ればよいのか，他人のさいふを盗むことは悪いことだということまで知らなければならないか，つまり事実の認識だけでよいのか，違法の認識まで必要かという問題がある。通説は，刑事犯*(自然犯)については事実の認識だけでよいが，法定犯*(行政犯)については違法の認識まで必要であるとしている。②認識の程度：故意には，㋑明確に相手を定めて殺人を決意する場合(確定的故意)，㋺群集に爆弾を投げ込んだらだれかにあたるだろうという場合(概括的故意)，㋩甲乙2人のうちどちらかひとりを殺すつもりで発砲する場合(択一的故意)，㋥殺すつもりはないが，ことによれば弾丸があたるかもしれないという程度の気持ちで発砲する場合(未必の故意*)がある。これらはいずれも故意犯として処罰される。③錯誤*：たとえば，甲を仇敵(きゅうてき)乙とまちがって殺害した場合(事実の錯誤)，または法律上禁止されていることを許されていると信じて法規に違反する場合(法律の錯誤)に，なお故意の責任を追求できるかの問題である。通説は，事実の錯誤は故意の成立に影響がないが，法律の錯誤については故意は成立しないとしている。〔野口恵三〕

【民法上の故意】不法行為*による損害賠償の責任については，原則的に過失責任主義をとっているため，故意か過失かによって不法行為者の民事責任に区別を生じない(民法709条)。もちろん，無過失であることが立証されれば不法行為の責任を免れうるが，故意すなわち自己の行為の結果を当然予測し，かつみずから認容したとしても，それによって民事上の責任が重くなることはない。ただ，実際には被害者側が加害者の責任を追求する場合に，加害者側の故意か過失かでその態度は変わるであろうし，また被害者に過失があれば相殺によって不法行為の責任は軽減される。〔黒木三郎〕

ごい【語彙】 一つのまとまりとしてとらえられた，単語*の集まり。観点の取り方によって，英語の語彙，平安時代の語彙，万葉語彙，近松語彙，京都方言の語彙，物理学の語彙，建築の語彙，といったようにさまざまの語彙が考えられる。また，個人については理解語彙と表現語彙(前者のほうが大きい)が考えられ，学習などの目標には基本語彙が考えられる。個人の成長段階に応じては，幼年語彙・児童語彙・成年語彙などが考えられよう。なお，〈ゲバルトという語彙は…〉のように，一つ一つの単語をさして語彙ということもあるが，これは誤用である。語彙について体系的に記述・説明するのが語彙論で，言語研究の一分科をなす。しかし，語彙の体系は複雑であり，研究の歴史も浅いので，語彙論の研究は音韻論・文法論よりも著しく遅れている。〔西尾寅弥〕

ごい【五井】 千葉県中西部，東京湾に臨む新興工業地区。明治以後，市原郡五井町となり，1963年(昭和38)，市原・姉崎(あねさき)・志津・三和の4町と合併して，市原市の中心市街となった。養老川の三角州上にあり，江戸時代には木更津街道の宿場町で，ノリと貝の浅海養殖が行なわれた。最近は，東京湾の埋め立て地の造成によって形成された京葉工業地帯*の一部として，大企業が多く進出し，活気を呈している。房総西線五井駅から小湊(こみなと)鉄道を分岐し，国道16号線(東京環状線)が通じ，対岸の川崎市との間にフェリーボートが就航する。〔浅井得一〕

こいかわはるまち【恋川春町】(1744～1789) 江戸中期の黄表紙*・洒落本*(しゃれぼん)作者，狂歌師。本名倉橋格，狂歌の号は酒上不埒(さけのうえのふらち)。駿河(するが)(静岡県)小島藩士。江戸小石川春日(かすが)町に住み，はじめ浮世絵*を学んだが，草双紙を書きはじめ，《金々先生栄華夢*(えいがのゆめ)》によって黒

本・青本が黄表紙に移るきっかけをつくった。《鸚鵡返文武二道(おうむがえしぶんぶのふたみち)》が幕府政治の風刺と誤解され，執筆をやめた。

こいこく　【鯉濃】　コイの濃醤汁(こくしょうじる)の略。濃醤汁とは濃いめにつくったみそしるをいう。コイを使ったしるはすでに《徒然草(つれづれぐさ)》に鯉のあつものとして見られ，室町時代はコイの煮物，江戸時代にはコイのしるといい，〈こいこくしょう〉というようになったのは江戸末期ごろからである。うろこをつけたまま内臓とも筒切りにし，酒を入れたみそしるで長時間煮込み，吸い口に粉ざんしょうを振る。みそしるで長く煮ることによって魚臭を消し，肉が締まって味もよく，小骨がやわらかくなる。うろこをつけたまま使用するのは，うろこに含まれるコラーゲンがとけ出してゼラチン化し，しるにこくを与えるためである。　〔塩川ふみ〕

ごいさぎ　【五位鷺】　鳥類・サギ科。全長60cm弱，背面は青緑色，翼上面は灰色，下面は白色。後頭部から長い白色の飾り羽が2～3本出ている。幼鳥は全体にかっ色で黄かっ色の斑条(はんじょう)があり，星五位とよばれている。九州・四国・本州のマツ林やタケ林などで集団繁殖し，多くのものが日本で越冬するが，フィリピンなどに渡るものもある。夜行性で日中は林内に休んでおり，夕方〈グワ，グワ〉と鳴き合って飛び立ち，水辺にたたずんで，太く長いくちばしで魚をつかみとって食べる。育雛(いくすう)期の成鳥と幼鳥は，日中活動することもまれでない。醍醐(だいご)天皇がこの鳥に対して五位の位を与えたということにより，この名がある。　〔浦本昌紀・安部直哉〕

こいしかわ　【小石川】　東京都文京区の中央を占める地区。広くはもと小石川区全域，狭義には小石川1～5丁目の地区をさす。もとの区域の大半は武蔵野(むさしの)台地の末端，小石川台上にあり，北部にある護国寺付近には江戸時代から門前町が発達した。台地の南縁には徳川家康(いえやす)の生母を葬った伝通院があり，重要文化財指定の銅鐘や千姫の墓がある。富坂から下は神田川に沿う低地帯で，国電水道橋駅付近には後楽園があり，特別史跡ならびに特別名勝に指定されている。この旧後楽園の敷地の大半は野球場や競輪場・遊園地などの施設をもつ後楽園スタジアムとして，都民の行楽地になっている。北西部の大塚(おおつか)地区には東京教育大学・お茶の水女子大学などがあり，もとの本郷区にある東京大学とともに文京区という新区名の起こりとなった。また江戸幕府の薬草園跡は，東京大学付属の小石川植物園となり，一般に公開されている。　〔浅井得一〕

こいしかわしょくぶつえん　【小石川植物園】　東京都文京区白山にある東京大学理学部付属の植物園。1684年（貞享1）上州館林(たてばやし)藩主であったころの徳川綱吉(つなよし)の下屋敷を，幕府が薬草園としたもの。1877年（明治10）東京大学の所属となり，現在広さ約16ヘクタールのところにアジア産の樹木・草木類2,000種を栽培し，温室には熱帯・亜熱帯の植物1,000種がある。植物の標本や薬草園当時の遺跡とともに武蔵野(むさしの)のおもかげを忍ばせる自然景観を残している。　〔菊池万雄〕



ゴイサギ



ゴイシシジミ



小泉八雲

ごいししじみ　【碁石小灰蝶】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ25mm内外。翅の表面は一様に黒かっ色，裏面は前後翅とも純白色の地に多数の黒色斑紋(はんもん)がやや不規則な5縦列をなして散布する。日本に産する唯一の食虫性のチョウで，幼虫時代にはササやタケ類につくタケノアブラムシなどを捕食して成育し，成虫となってからも花蜜(はなみつ)を求めることなく，アブラムシの分泌物をなめて生活する。幼虫が完全な肉食性のチョウは世界的にも珍しく，本種のほかにはアメリカやアフリカから同じシジミチョウ科の数種が知られているのみである。5月中旬ごろから10月にかけて3～5回発生をくり返し，幼虫で越冬する。日本全土のほか，台湾・朝鮮・中国・ビルマ・タイ・スマトラ・ジャワ・インドなどに広く分布する。卵・幼虫・さなぎともに，アブラムシの分泌する白色のロウ物質におおわれて白い。分布は局地的であるが，しばしばタケの林やササヤブに群生する。　〔鈴木邦雄〕

こいずみしんぞう　【小泉信三】（1888～1966）　経済学者。東京都の生まれ。1910年（明治43）慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業。1933年（昭和8）から1947年まで母校の塾長をつとめる。1943年学士院会員。第2次世界大戦末期の東京空襲で重傷を負った。戦後東宮御教育参与として皇太子の学問・修養上の指導にあたり，欧米外遊にも従い，特に皇太子妃選考に強い発言権をもった。また，文教審議会委員として戦後の教育行政全般にも参与した。戦後のおもな学問上の仕事は，《マルクス死後50年》の著書でマルクス主義排撃の先鋒(せんぽう)となったことである。1959年文化勲章を受けた。　〔安達淑子〕

こいずみちかし　【古泉千樫】（1886～1927）　歌人。千葉県の生まれ。1904年（明治37）伊藤左千夫(いとうさちお)に認められ門下となり，1908年の《アララギ》創刊に加わった。晩年は同誌から離れ，1924年（大正13）《日光》の創刊に際して同人となる。歌風はすなおで温雅，潤いのある情趣に富む。歌集に《川のほとり》《屋上の土》《青牛集》がある。

こいずみまこと　【小泉丹】　（1882～1952）　生物学者・科学啓蒙家(けいもうか)。東京大学動物学科卒業後，伝染病研究所・台湾総督府研究所を経て，1924年（大正13）慶応義塾(ぎじゅく)大学医学部教授。専攻は回虫に関する研究で，その成果は《回虫の研究》（1944）に集成されている。しかし，彼の名をいっそう著名にしているのは，進化論についての研究，生物学史における業績，および科学啓蒙家としての貢献であろう。

こいずみやくも　【小泉八雲】（1850～1904）　文芸評論家・小説家。本名ラフカディオ＝ハーン。ギリシア生まれのイギリス人。1890年（明治23）《ハーパー》誌の通信員として来日，やがて松江中学に赴任，松江藩士の娘節子と結婚，のち日本に帰化。第五高等学校を経て東京大学講師となり，《人生と文学》《英文学史》などで東西文化の特質や文学論を論じた。創作《怪談》をはじめ，《東の国より》《心》などの著書がある。

ゴイセン　［Geusen］〈こじき〉の意味。1566年，ネーデルラントに対するスペインの圧政に反対して，新教徒を中心とする貴族や市民が同盟を結び，スペインの総督に請願を行なった際，この同盟に対して総督の家臣がけいべつしてよんだことばから生まれた。この同盟はきびしい弾圧を受けたが，彼らの運動はオランダ独立戦争のきっかけをつくった。

こいそくにあき　【小磯国昭】（1880～1950）　陸軍軍人・政治家。山形県出身。陸軍大学校卒業。1932年（昭和7）陸軍次官，1935年朝鮮軍司令官などを経て，1938年大将。1939年平沼内閣，1940年米内(よない)内閣の拓相をつとめた。第2次世界大戦末期の1944年

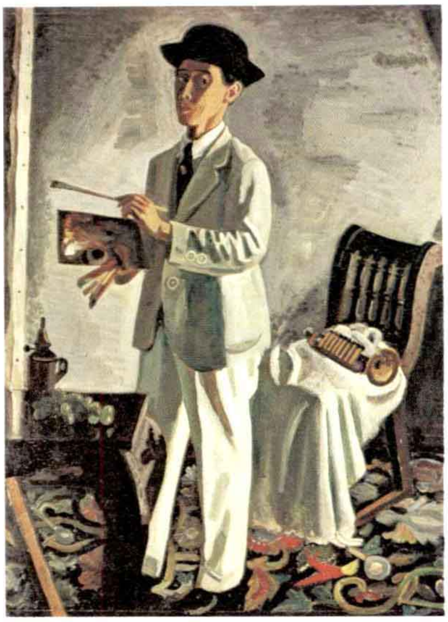
7月，東条内閣のあとを受けて首相となったが，破局的な戦況のうちにも軍部の本土決戦論に引きずられて終戦の見通しを欠き，1945年4月日ソ中立条約の期限不延長の通告を受けて辞職し，鈴木内閣と交替した。戦後A級戦犯として終身刑に処され，巣鴨(すがも)刑務所において服役中病死した。

ごいちごじけん【五・一五事件】 1932年(昭和7)5月15日，海軍青年将校が中心となって企てたクーデター。青年将校のうちの急進派は，特権階級・財閥・政党の打倒など国家主義的改革をめざし，1932年春に起こった血盟団事件が失敗すると，愛郷塾(あいきょうじゅく)の農村青年や大川周明らの右翼団体と結んでクーデターを計画し，5月15日海軍将校を中心に約30名が手榴弾(しゅりゅうだん)・拳銃(けんじゅう)を武器に，首相官邸・警視庁・政友会本部・日本銀行などを襲撃した。首相官邸には白昼海陸軍将校9名が侵入して〈話せばわかる〉と制する犬養毅(いぬかいつよし)首相を〈問答無用〉の一言で射殺して自首した。事件後斎藤実(まこと)挙国一致内閣が成立し，政党内閣は終焉(しゅうえん)した。首謀者たちは処刑されて事件は落着したが，この事件はのちに軍部が政治に進出するきっかけとなった。〔千野境子〕

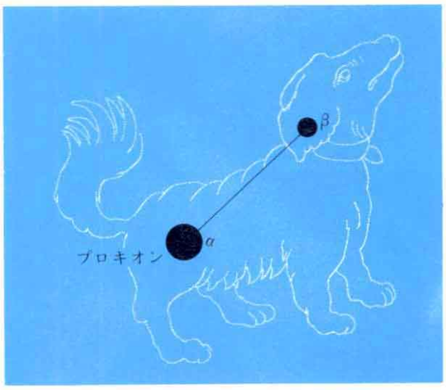
ごいちじょうてんのう【後一条天皇】(1008～1036) 在位1016～1036年。名は敦成(あつひら)。一条天皇の第2皇子。母は上東門院藤原彰子(藤原道長の長女)。1011年(寛弘8)立太子，1016年(長和5)九歳で即位。在位中は外祖父道長が摂政となった。陵墓は京都府菩提樹院陵(ぼだいじゅいんりょう)。

こいでならしげ【小出楢重】(1887～1931) 洋画家。大阪の生まれ。1906年(明治39)東京美術学校日本画科に入学，翌年洋画科に転じ，1914年(大正3)卒業。1919年《Nの家族》ほかを二科展に出品して受賞した。初期には岸田劉生(りゅうせい)の影響を受けたが，フランスに滞在して以後は流麗な筆触，さえた色調，上方的な粘っこさをもった作風の静物・裸婦などの作品を制作。とりわけ，デフォルメされた独特の裸婦像は有名である。1924年，他の関西在住二科会員と信濃橋(しなのばし)洋画研究所を創設し，関西洋画界発展に寄与した。軽妙な随筆をよくし，挿図(そうず)・ガラス絵の制作もある。代表作として《少女於梅(おうめ)像》《帽子を冠(かぶ)れる自画像》《裸婦結髪》《支那(しな)寝台の裸婦》などがあげられる。〔陰里鉄郎〕

コイテル［Volcher Coiter］(1543～1576) 解剖学者・動物学者。オランダのグローニンゲンに生まれ，イタリアのパドバなど各地で学んだのち，ドイツのニュルンベルクに住む。比較解剖学を独立した研究分野に成長させた功労者であるとともに，ルネサンス期における実験生物学の第一人者でもあり，特に心臓に関する動物実験においては，ハーベーの先駆者として重要な位置を占める。



小出楢重《帽子を冠れる自画像》1924 ブリヂストン美術館蔵



こいぬ座



鯉幟 五月空に泳ぐ鯉幟。武者絵の幟の上に𢌞が見える。長野県上田市

こいにょうぼうそめわけたづな【恋女房染分手綱】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。13段の時代物で，吉田冠子・三好松洛(みよししょうらく)合作。1751年(宝暦1)竹本座初演。通称《重の井(しげのい)子別れ》。近松門左衛門(もんざえもん)の《丹波与作待夜の小室節》を改作したもので，10段目の〈道中双六(すごろく)・重の井子別れ〉は特に名高い。歌舞伎(かぶき)移入は同年秋で，江戸中村座初演。

こいぬざ【小犬座】 天の川をはさんで，オリオン座・おおいぬ座の反対側に位置する小さな星座。冬の南天にかかる。➜星座

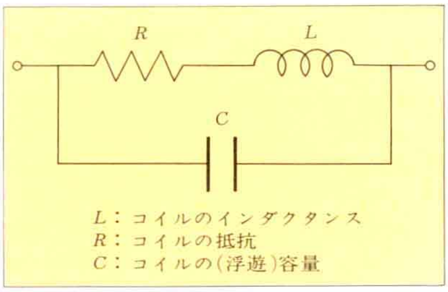
コイネー ⇨ギリシア語

こいのぼり【鯉幟】 端午の節供に庭先に立てる飾り。コイの滝登りは中国の故事から立身出世の象徴とされた。そのことから江戸初期に端午の節供ののぼりに武者絵と並んでコイも描かれた。江戸中期になると，𢌞(まねき)(のぼりの上の横木につける小旗)が小さな紙のコイに変わり，のち大きくなって独立して立てられ，明治時代にはのぼりがしだいにすたれて，鯉のぼり・吹き流しの現在の形の上に真鯉(黒)，下にやや小さな緋鯉(ひごい)(赤)を立てるようになった。

こいはまじゅつし【恋は魔術師】 ファリャ作曲のバレエ曲。スペインのアンダルシア地方の伝説に基づいてつくられ，1915年4月15日マドリードで発表。独唱を伴うオーケストラが郷土色豊かな音楽を提供している。《三角帽子》とともにファリャの代表作とされ，13曲からなる演奏会用組曲でいっそう親しまれている。組曲中の〈火祭りの踊り〉はピアノにも編曲されて，多くのピアニストに好んで取り上げられている。

こいびきゃくやまとおうらい【恋飛脚大和往来】 歌舞伎(かぶき)脚本。2幕の世話物で，1796年(寛政8)大阪角(かど)の芝居初演。通称《梅川忠兵衛(ちゅうべえ)》《新口村(にのくちむら)》など。近松門左衛門作の浄瑠璃(じょうるり)《冥途(めいど)の飛脚》と，紀海音によるその改作《傾城三度笠(けいせいさんどがさ)》をもとに生まれた《けいせい恋飛脚》が歌舞伎に移されて改題されたもの。技巧が目だち，原作の詩趣と人情味は失われた。筋は，遊女梅川と忠兵衛が公金の封印を切ってお尋ね者となり，雪中を故郷新口村に行き，忠兵衛の父親に会うが，ついに捕われる，というもの。本作は浄瑠璃に逆輸入された。〔前田慎一〕

コイル［coil］ 導線を輪状，あるいは平面らせん状などの適当な形に巻いたもので，電気回路の構成要素。線輪ともいう。コイルに電流を流すと，電流に鎖交する磁力線が電流の強さに応じて変化する。そのとき，電磁誘導により電流の変化を妨げるような起電力を生ずる。この現象を利用した電気回路の例は多いが，それらはほとんどインダクタンス L を与える目的でコイルを用いている。磁性体または鉄を中心にして巻いたものと，そうでないものとがあり，前者は磁心(または鉄心)コイル，後者は空心コイルとよばれる。コイルの等価回路を示すと図のようになる。図の中で浮遊容量 C はコイルの中の各部分の間にはいってきてしまう静電容量で，分布抵抗 R とともにコイルの特性を悪くする原因となっている。この C を減らすために種々のコイルの巻き



コ イ ル　コイルの等価回路

方があり，また漏れ磁束を少なくするためにトロイダルコイルなどの巻き方がある。〔堀内和夫〕

こいわいのうじょう　【小岩井農場】　岩手県盛岡市の西方，岩手山(2,041 m)南麓(なんろく)にある農場で，行政上は岩手郡雫石(しずくいし)町に属する。日本最大の民間農場で，面積2,600ヘクタール。1891年(明治24)に日本鉄道株式会社の小野義真(よしまさ)，三菱(みつびし)財閥の岩崎弥太郎(やたろう)，日本の鉄道の創始者井上勝(まさる)らにより，森林や畑地を合わせもつ大農場式牧場として創設，3者のかしら文字をとって命名された。第2次世界大戦までは馬産地として有名であったが，戦後はホルスタイン種の乳牛をはじめ，メンヨウ・ブタ・ニワトリ・シチメンチョウなどの飼育に重点が置かれ，ダイズ・燕麦(えんばく)・ライ麦・ジャガイモなどの飼料を大規模な機械化耕作によってつくっている。現在は東京に本社をもつ小岩井農牧株式会社が経営しており，花壇・レストハウス・ジンギスカン料理などの施設を備えた小岩井遊園地も設置された。盛岡から田沢湖線が通じ，盛岡市民の保養行楽地となっているが，日本全国，あるいは外国からの見学者も多い。〔浅井得一〕

こいわしくじら　【小鰯鯨】　哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・ナガスクジラ科。ヒゲクジラ類の小形のクジラ。全長7mほどで，9mに達するものはまれ。体上面は灰黒色，下面は白い。胸鰭(むなびれ)の上面に白帯がある。各海洋に広く分布し，オキアミなどの小甲殻(こうかく)類やイワシなどの魚類を食う。生息数は減少傾向にある。

こいん　【古印】　中国の周・秦(しん)の古鉨(こじ)，漢・魏(ぎ)・六朝(りくちょう)の印章の総称。中国の印章の最古のものとしては殷墟*(いんきょ)から発掘された殷鉨三方があるが，まだ印章の体裁をなさず用途も明らかでない。今日古印とよぶのは戦国時代の鉢印をはじめとする。官吏がこれを佩帯(はいたい)して公私の簡牘(かんとく)を封印するのに用いた。秦代に印制が定められ，漢代に及んでさらにその制度が発達して，天子・諸王・百官のそれぞれに印文とその字体，印の寸法と印材(金・銀・銅)，鈕式(ちゅうしき)，佩帯するときの印綬(いんじゅ)の色など，細部にわたって規定され，その習慣は六朝に及んだ。古印の鑑賞・閲玩(えつがん)・収集は宋(そう)代に始まり，明(みん)・清(しん)以降，最も盛大になった。➔印章〔中田勇次郎〕



小岩井農場　乳牛が草をはむ初夏ののどかな牧場風景。ポプラの木立ちのかなたには，まだ残雪の山はだが見られる



古　印(原寸×½)



コインブラ　モンデゴ川に臨む斜面に開けた町並み。旧市街には石畳を敷いた坂道が多い

ゴーイング-コンサーン　[going concern]　無限事業体または継続事業体ともいう。現代の企業は，多数の労働者を雇用し，長期的耐用年数を有する諸設備を用いて，継続的に商品生産を行なうことを目的としている。企業会計は，この企業実体の体質である経済活動の数期限性を前提としてなりたっている。

コインバトール　[Coimbatore]　インド共和国南部，タミル・ナドゥ州の都市。人口143万3,000(1971)。ニルギリ山地の南斜面にあり，ノイル川に沿う。東海岸のマドラスと西海岸のケララ州を鉄道道路で結ぶ交通の要地である。綿工業の中心で，南インドのマンチェスターともよばれ，多数の綿紡績工場をはじめ，レーヨン・セメント・肥料・機械などの工場がある。また化学工業などもあり，さらに重工業化を進めている。付近には18世紀に建てられたプルール-パゴダの史跡がある。〔別技篤彦〕

コインブラ　[Coimbra]　ポルトガル中西部，モンデゴ川に沿った商業都市。人口46,000(1960)。ローマ時代に起源をもち，12～14世紀にはこの国の首都であった。周辺で産する小麦・オリーブ・ぶどう酒などを集散し，陶磁器・皮細工なども行なわれている。1290年創立の大学があって，同国の文化・教育の一中心をなし，城跡・修道院など旧跡の多い観光地でもある。

こう　【鋼】　⇨はがね

こう　【項】　⇨多項式

こう　【香】　主として薫香に用いられる固型香料の称。伽羅(きゃら)・白檀(びゃくだん)・丁字などの草根木皮，乳香・安息香などの樹脂，麝香(じゃこう)・龍涎香(りゅうぜんこう)などの動物の分泌物から製する。

香の発見はパミール高原のヒンズー族に始まるといわれ，インドにもたらされて，その香気の精神浄化作用が仏教方面に愛用された。仏前にたく〈焼香〉，粉末にして僧侶(そうりょ)が身に塗抹(とまつ)する〈塗香(ずこう)〉などがそれである。香はインドからさらにエジプトや中国に伝えられた。エジプトからはヨーロッパの各地に広まり，神前を清める撒香(さっこう)などのほか社交用としても需要が増加し，形も練香から使いやすい香水へと変化していった。一方，中国を経て6世紀ごろ日本に伝来した香は，当初やはり仏教関係におもに用いられた。その伝統

は今日まで〈供香(そなえこう)〉〈焼香〉などの形で存続している。近世以後は線香・印香などの代用品も現われた。これとは別に香の実用的な用途が8世紀ごろから宮廷貴族の間に起こった。香を室内にたき，さらに衣服にたきしめる〈空薫物(そらだきもの)〉の風習がそれである。このように用途が広がるにつれて，香も香木の細片をそのまま使用するものからしだいに各人の好みに応じて調製されるようになった。これが練香で，沈や白檀を粉末にし，麝香など動物質の香を混ぜて梅肉やはちみつで練り固めたものである。衣服に香をたきしめる習慣は12世紀ごろから武士の社会にも及び，出陣に際して甲冑(かっちゅう)に香木をたきしめるのがたしなみとされた。さらに18世紀ごろにはこの風習が一般庶民の間にも普及し，そで香炉・掛香・におい袋などが考案された。これらのあるものは今日にも伝えられているが，明治以後はヨーロッパふうの香水が主流を占めるようになっている。

香はまた，10世紀以後，趣味の世界にも登場する。〈薫物合わせ〉がそれで，当時宮廷貴族階級の室内遊戯であった合わせ物(歌合わせ・根合わせなど)の一種として盛行をみた。2種の薫物をたき，そのかおりの良否を競うもので，それがくり返し行なわれるようになって伽羅・羅国・真那賀(まなか)・真那蛮(まなばん)・寸門陀羅(すもたら)・佐曾羅(さそら)の6香木を用いる〈六種薫物合わせ〉というような名称でよばれるに至った。14世紀ごろからは練香ではなく香木を用いるようになり，香合わせとよばれる。その香が特に選ばれた名香であれば名香合わせと称せられた。また同じころ，組香という遊戯が考案された。これは一つの文学的主題のもとに2種以上の香木を聞き分けて(かぎわけて)その適中を競うもので，《源氏物語》にちなむ〈源氏香〉などはその代表的なものである。➔香道　〔三条西公正〕

こう　【講】 宗教上・経済上の目的を達成するために，同志で結成される集団。宗教講と経済講に大別される。宗教講は同じ信仰をもつ者が寄り合って構成され，その性質から仏教講，神道講，民間信仰の講などに区別される。仏教講は仏教各派が教団拡張のためにつくった壇徒組織に講の名を付したもので，浄土真宗における報恩講，日蓮宗(にちれんしゅう)における題目講・身延講などがある。神社講は神社と氏子あるいは信徒との関係から結ばれるもので，伊勢講(いせこう)・金毘羅講(こんぴらこう)などがある。民間信仰に深い根を降ろした講は村落の地域集団ごとに成立しているもので，富士講・秋葉講・戸隠講・古峰講(こぶこう)などは個人の信仰に根ざしている。農村においての講は村組を単位とし，加入は半ば強制的で義務的拘束性を伴うものが多い。山の神講，田の神講などがそれで，村寄り合い*を田の神講とよんでいるところもある。関東北部の十二講は山の神講であるが，それには部落全員が参加して，山仕事の安全や五穀豊穣(ほうじょう)を祈る。また，二十三夜講・庚申講(こうしんこう)・甲子講など，それぞれ該当する日におこもり*をして会食する講もある。一方，講が発達するにつれて，講の維持費などの財源とするために金を積み立てるようになってきたが，もっぱら経済的な立場で結合する講ができた。頼母子講*(たのもしこう)・蒲団講(ふとんこう)・無尽講*などがそれである。

〔山路勝彦〕

香　香木



こう　【孝】 儒教*の徳目の一。儒教道徳の根幹は家族制度であり，その根本は父子関係であるが，孝の徳は子の父に対する一方的で絶対的な恭順の規範である。なお，父子と並んで君臣・夫婦が〈三綱〉とよばれて中国における道徳秩序の基本とされ，孝子・忠臣・貞婦は人間の模範であった。日本では，家父長制の確立した17～18世紀に孝の徳が強調されるようになり，明治になってからは忠と並んで国民一般に強要されるようになった。➔孝経　➔五倫

〔西　順蔵〕

こう　【劫】 〈ごう〉ともいう。梵語(ぼんご) kalpa(カルパ)の音写，劫波の略称。非常に長い時間のこと。一説には，40里四方の石を，100年めごとに1度ずつ薄い衣で払って，ついにその石が磨滅してなくなるような長い時間を1劫と数える。このたとえを盤石劫といい，ほかに芥子劫(けしこう)・塵点劫(じんてんこう)というたとえもある。億劫(おっこう)はたいへん長い時間を意味するが，転じて，煩わしく気が進まない状態を億劫(おっくう)というようになった。　〔石上善応〕

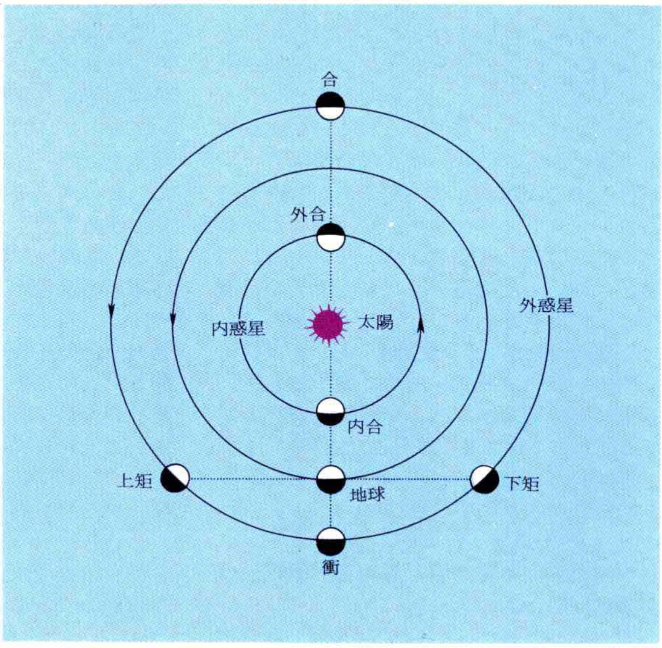
ごう　【合】 ①尺貫法の面積の単位。1歩(坪)の10分の1で，0.3306 m^2 にあたる。②尺貫法の体積の単位。1升の10分の1で，180.39 ml にあたる。

ごう　【合】 地球から見て惑星が太陽と同じ方向にあるときをいう。内惑星(水星・金星)については，太陽・惑星・地球の順に並ぶときを内合*といい，惑星・太陽・地球の順に並んだときを外合*という。➔衝

ごう　【郷】 令制*(りょうせい)における古代行政区画の末端単位。大宝令では国・郡*・里*制であったが，715年(霊亀1)郷里制*が敷かれて里を郷に改め，郷の下に里が置かれた。しかし，740年(天平12)ごろこの制が廃されたため郷が再び行政末端区画となった。律令体制が解体すると，郷の名称は在地の集落と結合し，中世村落の区画名として他の種々の呼称のうち最も広く行なわれた。太閤(たいこう)検地*以後村落は村とよばれるようになって郷名はすたれたが，なお幕藩の公文書をはじめ，一般においても村落のことを郷村と称した。　〔高崎徳次〕

ごう　【業】 仏教やインド思想で用いられることばで，〈行為〉の意。梵語(ぼんご) karman(カルマン)の訳。人間の行為を時間的因果関係としてとらえていくとき，行為の結果が一種の潜勢力となって存続し，未来に働くと考えられる。その力を業という。

合



一つの行為は必ず善悪・苦楽の果報をもたらすという思想が業思想であり，これが輪廻*(りんね)の思想を生み，現世のみでなく，過去世と来世にまでわたって業が説かれることとなった。原始仏教には，業感縁起という十二縁起説を三世にわたって説明する教説がある。大乗仏教の唯識派では，業の体を阿頼耶識*(あらやしき)とし，種子(潜勢力)の相続によって説明した。仏教における業の問題は重要であり，各宗派ともそれぞれの立場から取り扱っているが，禅宗よりも浄土真宗などが，教学の中で重要視している。そのほか業については，身(しん)・口(く)・意(い)の三業とか，個人の業を意味する不共業(ふぐうごう)，個人と社会いっさいを含めた共業などの分類がある。〔鎌田茂雄〕

こうあえんこう【紅亜鉛鉱】ベニアエン鉱ともいう。ZnO　ふつうマンガンを数パーセント程度含む。六方晶系，硬度4，密度5.66～5.69。純粋なものは白色，天然のものはマンガンを含むため，オレンジ色ないし深紅色を呈する。産出のまれな鉱物であるが，アメリカの一部の鉱山で多産し，亜鉛鉱石として採掘されている。



コウアエン鉱　アメリカ，ニュージャージー州産　赤色部分：コウアエン鉱　緑色部分：ケイアエン鉱　黒色部分：フランクリンテッ鉱

ごうあちちゅうかい【豪亜地中海】オーストラリア大陸とアジア大陸南東部にはさまれた海域。アラフラ海・バンダ海・フロレス海・ジャワ海・セレベス海・南シナ海一帯を総称していう。欧亜・豪亜の連絡航路にあたり，海上交通が活発である。水産資源は豊かであるが，開発は遅れている。

こうあつ【光圧】⇨光

こうあつさんそりょうほう【高圧酸素療法】高圧酸素によって患者を治療する方法。この療法は，血液が接する気体中の酸素分圧を高めることによって，血中のヘモグロビン*が飽和されていても酸素は血液に溶解し，その溶解量は気体の酸素分圧に比例すること，および溶解している酸素はすべて組織で利用されることの二つの理論に基づいている。気密のタンクに酸素を満たし，通常，1.5～3kg/cm²程度で30分～2時間加圧する。適応症として一酸化炭素の中毒，脳・四肢(しし)などの循環障害・嫌気(けんき)性菌感染症(ガス壊疽(えそ)・破傷風)・出血ショック・アレルギー性疾患などがあげられている。副作用として酸素中毒が問題とされ，また爆発を起こしやすいので操作には慎重を要する。〔三島好雄〕

こうあつせん【高圧線】正しくは高圧配電線といい，低圧配電線に対する名称。電気設備技術基準では，配電電圧を次の3種に区分している。①低圧：直流750V以下，交流600V以下のもの。②高圧：低圧の限度を越え，7,000V以下のもの(3,300V，6,600V)。③特別高圧：7,000Vを越えるもの。わが国の配電用変電所から出る配電電圧は普通高圧級である。

こうあつそうでん【高圧送電】高い電圧で電力を送ること。電線という導体内のオーム損はI^2R(Iは電流の実効値，Rは抵抗)であるため，長距離・大電力の送電ではRとIの両方が大きくなり，この送電損失は無視しえない。Rが定まっているとすれば，Iを減らす必要がある。電力Wは$W=V\cdot I\cdot\cos\varphi$($\cos\varphi$=交流送電の力率)，$W=V\cdot I$(直流)で示されるとおり電圧・電流の積であるから，同一電力を送る場合でも，電圧を2倍に上げると電流は2分の1で済む。したがってオーム損は4分の1に減る。電圧が高くなるとコロナ損など他の損失は増すが，オーム損に比べれば小さい。上述の理由で，高圧送電が多く採用されている。送電標準電圧は11，22，33，(66，77)，110，(154，187)，(220，275)kV，と定められている。ここで，(　)内の値は一地域においてはいずれか一方を採用せよということである。現在，架空送電線*には500kVのものもあり，都市の高圧送配電に使われるようになった地中ケーブルの電圧も技術の進歩とともに高くなっており，外国では380kVで運転している例がある。〔田村康男〕

こうあつたい【高圧帯】大気中で高気圧が帯状に広がっている所。中緯度では，特に夏季に高気圧が地球を一周して取り巻いており，中緯度高圧帯を形成している。日本付近の小笠原(おがさわら)高気圧*はその一部で，夏の天気を大きく支配する。

こうあつやく【降圧薬】⇨抗高血圧症薬

こうあみは【幸阿弥派】室町時代以降，将軍家の蒔絵師(まきえし)と蒔絵に主導的役割を果たした流派。足利義政(あしかがよしまさ)に仕えた幸阿弥道長(1410～1478)を初代とし，代々宮廷の即位調度や幕府の用命に応じて蒔絵の優品を製作した。その手腕により豊臣秀吉(とよとみひでよし)から天下一の朱印を拝領した六代長清(1529～1603)，京都高台寺霊屋に銘を残す高台寺蒔絵*の手法を生み出した七代長晏(なかずみ)(1569～1610)，徳川家光(いえみつ)の娘千代姫の婚礼調度(現在徳川美術館蔵の初音蒔絵厨子棚(はつねまきえずしだな)など一式)をしつらえた10代長重(ながしげ)(1599～1651)らは特に著名である。各種の蒔絵技法を巧みに併用した豪華な趣の作品に特色がある。〔河田　貞〕

こうあん【公案】元来は公府の案牘(あんとく)，すなわち政府の公式布告をさしたが，これが禅宗に採用されて，すぐれた禅僧の悟り*の因縁や言行を意味することとなり，さらに学人修行の標準，学人指導の手段として用いられた。それは，政府の公式布告には何人も犯すことのできない威厳と権威があるように，禅の修行者にとって古人の言行録には絶対の権威があるとみなされたからである。公案は，達磨*(だるま)の禅法の中にもその萌芽(ほうが)がみられるが，禅宗で広く一般に活用されるようになったのは唐代以後で，禅宗で多くつくられた禅僧の言行録である語録は，いずれも公案集である。一般には1,700則の公案があるといわれ，公案禅は南宋(なんそう)時代に隆盛をきわめた。〔田中良昭〕

こうあんいいんかい【公安委員会】警察を運営・管理する機関として，第2次世界大戦後欧米制度を移入して設けられた合議制の行政機関。戦前の内務大臣による警察運営の独裁的権限を排し，公正かつ民主的運営を図るため，1947年(昭和22)の警察法によって設けられた。その後幾度か改正され，現行の警察法(1954)では中央に内閣総理大臣所轄のもとの国家公安委員会，地方に都道府県知事所轄のもとの都道府県公安委員会，北海道に方面(函館(はこだて)・旭川(あさひかわ)・釧路(くしろ)・北見)公安委員会を置いている。

〔国家公安委員会〕総理府の外局。国の公安に関する警察を運営し，警察教養・犯罪鑑識・犯罪統計・警察装備および警察通信，その他警察行政の調整をつかさどり，それらの任務を遂行するため，警察庁*を管理するとともに都道府県の警視正以上の警察官の任命を行なう。国家公安委員長は国務大臣をもってあて，委員は5人，内閣総理大臣が国会の承認を得て任命する。任期は5年。委員が心身の故障のため職務がとれない場合，職務上の義務違反その他委員たるに適しない非行があると認める場合，同一政党に3人以上委員が所属した場合においては2人を越える員数の委員について，内閣総理大臣は国会の承認を得て罷免する。

〔都道府県公安委員会〕東京都および指定府県(神奈川県・愛知県・兵庫県・大阪府・福岡県)にあっては5人，その他の府県にあっては3人の委員をもって構成する。委員は，都道府県議会の被選挙権を有する者で，任命前5年間に警察または検察の前歴がない者のうちから，都道府県知事が都道府県議会の同意を得て任命する。指定府県委員の2人は，指定市の議会の被選挙権を有する者のうちから市長が市議会の同意を得て推薦した者を任命する。任期は3年。委員の任命にあたっては，そのうち2人以上(都

および指定府県にあっては3人以上)が同一政党に所属する者であってはならない。委員が当該都道府県議会または市議会(指定市推薦の者)の被選挙権を失った場合，心身の故障で職務がとれない場合，義務違反など委員たるに適しない非行があると認める場合，委員のうち2人以上が同一政党に所属するに至った場合は1人を越える員数の委員について，都道府県知事は都道府県議会の同意を得て罷免する。みずから公安委員会規則を制定し，都道府県警察を管理するとともに，刀剣類の所持許可，自動車運転の免許，質屋，古物および風俗営業などの許可を行ない，あわせて国家公安委員会が行なう警視正以上の警察官の任免についての同意権をもっている。
〔方面公安委員会〕道知事が道議会の同意を得て任命する3人の委員で組織され，任期は3年。〔寺尾方孝〕

こうあんいいんかい【公安委員会】フランス革命中の1793年春，戦争と反革命勢力の反乱のために革命が危機に陥ったとき，国民公会*により創設され，革命フランスの防衛と治安維持について最高の権限があたえられた革命指導機関。7月ジャコバン党の支配下に置かれてからは，革命政府の行政の中核として，経済統制・土地解放・徴兵制施行など革命的政策を強力に推し進め，また恐怖政治*の支柱ともなった。テルミドールの反動*以後は反動派の掌握するところとなり，1795年廃止された。〔大野慎一郎〕

こうあんがっせん【弘安合戦】⇨秋田城介(じょうのすけ)の乱

こうあんこく【孔安国】中国，前漢代の学者。曲阜(きょくふ)(山東省)の人。孔子11世の子孫。字(あざな)は子国。魯詩を申公に，《尚書(しょうしょ)》《書経》を伏生に学ぶ。当時孔子の旧宅から科斗文とよばれる特殊な字体で書かれた《尚書》《論語》《孝経》などが出た。彼はこれを読み解き，詔を受けて書伝をつくり，都尉朝・司馬遷に教えた。古文学*はこれから始まっている。

こうあんじょうれい【公安条例】地方公共団体において，その地域の公安を保つために，公道および公会堂・劇場などの公開された場所における集会，または集団示威運動の取り締まりを目的とした条例*の通称。1947年(昭和22)大阪市で制定されたのを最初とする。公安委員会*の事前許可制・条件付許可制をめぐって，公安条例が憲法21条(集会，集団示威運動の自由)に反するものでないかとの違憲論争が激しく起こった。下級審では1951年の京都地方裁判所と1958年の東京地方裁判所の違憲判決があったが，1954年の新潟県公安条例の合憲と1960年の東京都公安条例の合憲の最高裁判所の判決があり，この論争は終結した。〔井上公耳〕

こうあんちょうさちょう【公安調査庁】法務省の外局。総務・調査第1・調査第2の各部と，付属機関として公安調査庁研修所，地方支分部局として全国八か所の公安調査局，府県庁所在地などに地方公安調査局が置かれている。主要な職掌は，破壊活動を行なった団体に対する規制のための調査活動，公安審査委員会(法務省の外局の一つで，審査・決定の事務をつかさどる行政委員会)に対して破壊主義的と認められる団体の活動規制・解散を請求することで，破壊活動防止法*に規定されている。その前身は法務庁特別審査局であり，第2次世界大戦後の民主化政策の一環をなしたが，のち左翼団体の活動を対象とするようになり，1952年(昭和27)破防法制定とともに公安調査庁になった。〔寺尾方孝〕



コ ウ イ カ

こうあんてんのう【孝安天皇】名は日本足彦国押人尊(やまとたらしひこくにおしひとのみこと)。孝昭天皇の第2皇子。母は世襲足媛(よそたらしひめ)。室秋津島宮(むろのあきつしまのみや)を皇居とし，押媛(おしひめ)を皇后として孝霊天皇を生む。陵墓は奈良県御所(ごせ)市の玉手丘上(たまてのおかのえ)陵。実在かどうかは疑わしい。

こうあんのえき【弘安の役】⇨文永・弘安の役

こうあんれい【興安嶺】シンアンリン山脈 中国，内モンゴルから中国東北部に延びる大山脈。内モンゴル自治区の北部からほぼ南北方向に走る大興安嶺と，黒龍江(こくりゅうこう)省の北部を北西～南東方向に走る小興安嶺とからなる。大興安嶺は，中生代後半から第三紀にかけての造山運動の結果生じたもので，高度1,000～2,000m，長さ1,500kmに達する。全山系が針葉樹林におおわれ，中華人民共和国成立後は計画的な植林・伐採が行なわれている。小興安嶺は東興安嶺ともいわれ，高度1,000m前後の丘陵性の山地で，繁茂する針葉樹林をもとにして伊春に大々的な製材業などが興っている。また，石炭などの地下資源も多い。〔千田　稔〕

こうい【黄緯】天球上のある1点と黄道との間の角距離。天体の位置を表現する黄道座標系*の要素で，地球上の緯度に対応する。天体が黄道より北にあるとき黄緯は正，南にあるときは負とし，0°から90°まではかる。太陽系内の天体の黄緯は，いずれも小さい。

こうい【更衣】平安時代の天皇の妾(しょう)の一。本来は天皇が衣を変える場所をさし，のちそこに仕える女官をいうようになり，さらに妾の名称となった。女御*(にょうご)に次ぎ四位または五位で，中には女御に進んだ者もあった。

こういか【甲烏賊】軟体動物・頭足類・コウイカ科。胴は長さ18cm，幅9cmほどの楕円(だえん)形で，その全縁に幅の狭いひれがついている。胴の内部に舟形の厚い石灰質の甲があるので，この名を得た。この甲の先端は，胴の先端からわずかに針状に突出する。東京付近ではマイカ，ところによってはミズイカ・ハリイカともいう。生時の雄の背面には暗かっ色のさざなみ状横じまが著しいが，雌にはそれがない。腹面は淡かっ色で，目の縁は淡紅色。本州の中部以南，四国・九州・南朝鮮に普通にみられ，分布は北オーストラリアに及ぶ。5～6月に内湾にはいり，のりひびやアマモ*などに産卵する。寿命はほぼ1年といわれる。厚い甲をもつイカであるコウイカ類のうち，わが国では最も普通のものであるが，美味で，産業上重要な種類である。なお，コウイカ科のうち，コウイカなどを含むセピア属の墨からは，かつて，黒かっ色のセピア顔料がとられた。〔菅野　徹〕

こういきぎょうせい【広域行政】従来の地方行政地域を一体的に対象とするか，またはそれらを統合して行なわれる地方行政をいう。近年，地方自治体の行政単位を都道府県・市町村として行なわれてきた従来の方法では，産業の発達，都市の高度化，交通の発達などによって，解決や処理が困難になっていたため，この方法が考えられるようになった。①いくつかの都道府県にまたがる立法的措置を講じることによって解決する方法。たとえば，近年具体化された首都圏整備法・近畿(きんき)圏整備法のように，一定の問題を処理する権限を法律により集中させること。②従来の行政単位の改廃をも含めて行政区画を統合・再編成する方法。最近しばしば主張される道州論や府県合併論はこれである。しかし，行政の便宜のために行なわれる広域行政は，結果として地方公共団体の自治権を侵すおそれもあり，問題を残している。〔寺尾方孝〕

こういきじけんそうさ【広域事件捜査】全国または数府県にまたがって行なわれる旅行犯捜査のこと。府県警察間の緊密な協力が特に必要なため，警察庁・管区警察局が捜査資料を検討し，捜査指揮を行なう。このため，警察庁・管区警察局に旅行犯手口係を置き，旅行犯の割り出しを行なっている。警察庁が制定実施した〈広域重要事件特別捜査要綱〉(1964)に指定された事件については，関係府県警察間で捜査の調整を行なうとともに，必要に応じて捜査を指揮している。指定が発せられると各府県警察は協力し，総力をあげて捜査するしくみとなっている。〔井上公耳〕

ごういぎじろく【合意議事録】条約*交渉の過程において，一定事項に関して交渉

当事国の間で合意がまとまったような場合につくられるもので，それ以後の交渉について拘束的意味をもつ。また，条約に付属して，その解釈などについても設けられることがあり，形式的には条約ではないが，条約と同様に拘束的意味をもち，尊重しなければならない。

こういきはん 【行為規範】 一般に，社会構成員が国民として，あるいは集団のメンバーとして，いかなる行動をなすべきか，なすべきでないか，またなしうるかを定める準則。日常の生活を規律する道徳や習慣にも多くの行為規範があるが，主として法学の上で用いられることばである。法は，国家権力によって制定もしくは裁可され，その適用が国家権力によって保障されるこの種の準則である。

倫理学で目的論と対立すると考えられる義務論の立場をとる者にみられる考えで，倫理的な行為が善を実現するために必ず従わねばならない基準のこと。〈人はつねに真実を語るべきである〉のように，一般に〈なすべきである(ない)〉という形で表現される。これらの基準は個別的な状況から帰納的に導き出されるものではなく，逆に個別的な判断を基礎づけるものであるといわれる。たとえば，カントは行為の道徳価値は行為の結果に依存するのではなく，人間すべてに妥当する法則によって規定されねばならないと説く。S.クラーク・リード・W.D.ロス・カント・ジョセフ-バトラーらが主唱者といえよう。〔影山日出哉・玉井　治〕

こういきへんせいさよう 【広域変成作用】 ⇨変成作用

こういしょう 【後遺症】 病気の急性症状がいちおう治まったあとに引き続き長く残る機能障害をいう。脳血管障害(脳出血・脳軟化症)のあとにみられる麻痺(まひ)，頭部外傷後のてんかん(症候性てんかん)，一酸化炭素中毒後の精神神経障害，小児麻痺後の手肢(しゅし)の発育機能障害，やけどのあとの瘢痕(はんこん)形成による運動障害，脳炎後の精神障害，脊髄損傷後の麻痺やしびれ感などである。後遺症を理学的に治療し，少しでも機能回復を図ろうとするのがリハビリテーションである。マッサージ・運動練習・温浴療法・超短波療法などが主として行なわれている。〔佐野隆志〕

こういどていあつたい 【高緯度低圧帯】 緯度60°付近にできる極前線とよばれる不連続面付近の低圧帯をいい，亜寒帯低気圧帯ともよばれる。北半球では南半球ほど連続的に現われない。

こういのうりょく 【行為能力】 法律行為を単独で完全になしうる能力をいう。その前提として，自己の行為の意味や結果を判断しうる精神的能力(意思能力)を必要とする。民法は，行為能力に欠ける者を一定の基準のもとに形式的・画一的に無能力者として定め，これらの者の財産上の保護を図るために，このような者が法律行為をなすには法定代理人の同意を必要とするとし，同意を得ずに単独でなした法律行為は取り消しうるものとしている。無能力者に該当するのは，未成年者・禁治産者・準禁治産者である。もっとも，行為能力は財産法上の行為に関する規定で，身分法上の行為に関しては明文の規定がないかぎり適用されない。身分法上の行為(婚姻・縁組みなど)に関しては，無能力者であっても意思能力を有するかぎり，単独で完全に有効な法律行為をなすことができる。また，旧民法では妻について無能力制度を定めていたが，現在の民法は夫婦平等の原則上これを廃止した。〔黒木三郎〕

こういろ 【香色】 わずかに赤みのある，明るい灰黄色。本来は，香木を用いて媒染剤なしで染めだされた色で，普通はチョウジの花のつぼみの煎汁(せんじゅう)を用いる。鉄分やあくを媒染剤として用いると，香色よりもやや濃い丁子(ちょうじ)色となる。クリーム色は香色をやや薄くしたような色である。香色は平安時代に生じた色名で，おもに袈裟(けさ)などの染色に用いられた。

こういん 【勾引】 被告人や証人を一定の場所に連行して身がらを抑留する強制処分の一。被告人らが召喚に応じないとき，または出頭命令・同行命令に応じないときは，裁判所または裁判官が裁判所の発する勾引状によって行なう。その効力は24時間を限度とし，その間に勾留状が発せられないときは釈放しなければならない(→勾留)。被告人以外では証人および身体検査を受ける者に対しても行なわれるが，この場合はつねに召喚を前提とし，召喚に応じない場合にはじめて勾引することができる。〔井上公耳〕

こういん 【広韻】 中国，北宋(ほくそう)の戚倫(せきりん)らが勅を受けて編した韻書。1008年成立。平(ひょう)・上・去・入の4声に分けて計5巻，20,000余字を含む。平声は〈東〉(ung・iung)に始まって〈凡〉(iem)に終わり，入声(にっしょう)は〈屋〉(uk・iuk)に始まって〈法〉(iep)に終わる。4声合わせて206韻。各韻の中では同音字を一括して○印でくぎってある。その体系は《切韻》(602年，陸法言ら編)と基本的には同じで，隋(ずい)・唐の中古漢語を知るには欠かせない資料である。《広韻》の206韻を改廃合併して宋・金・元の中世漢語の体系に近づけたのが，金の科挙用に編集された《壬子(じんし)礼部韻略》の107韻(または106韻)で，近世の詩人たちが作詩のよりどころとした《詩韻》は，これのことである。〔藤堂明保〕

こうう 【項羽】 (BC232～BC202) 中国，秦(しん)末に劉邦(りゅうほう)と覇権(はけん)を争った部将。名を籍といい羽は字(あざな)。戦国楚(そ)の名門の出で，幼少のころから武勇人にすぐれていた。BC209年，陳勝(ちんしょう)の反乱のあとを受けて，叔父(おじ)の項梁(こうりょう)とともに会稽(かいけい)に兵をあげ，2年後には秦都咸陽(かんよう)を攻略して秦を滅ぼし，西楚の覇王と名のって指導権を握った。しかし，やがて劉邦は項羽に不満をいだく諸侯を糾合して反旗をひるがえし，その後5年間両者は死闘をくり返したが，武勇一徹な彼はしだいに老獪(ろうかい)な劉邦に押され，ついに四面楚歌のうちに垓下(がいか)で敗死した。〔永田英正〕

こうウマイヤちょう 【後ウマイヤ朝】 ウマイヤ朝がアッバス朝に滅ぼされたあと，その一族が，756年，イベリア半島のコルドバを都にしてたてた王朝。西カリフ国ともいう。その後ノルマン人やフランク王国の侵攻を撃退し，北辺のキリスト教系のアラゴン王国やカスチリア王国をおさえ，アブドゥル-ラマーン3世(在位912～961年)の時代にイベリア半島に覇権(はけん)を確立した。そのころ商工業の発展も著しく，コルドバを中心にイスラム文化が栄え，ヨーロッパに対するイスラム文化の影響も主としてこの地を通じて行なわれた。その後11世紀にはいって急速に衰え，地方勢力の反乱の中で1031年滅亡した。なおイベリア半島のイスラム勢力は，1492年スペインによるグラナダ陥落まで残った。〔大野慎一郎〕

こううんき 【耕耘機】 わが国で独特の進歩をした，すぐれた整地用農用機械の一。従来，田起こしまたは畑起こしには耕起・砕土の2工程を必要とし，耕起にはプラウや犂(すき)を用い，砕土には各種ハローやまぐわが使われてきた。耕耘機はこの2工程の作業を1工程ですませるものである。大正末期に岡山県の児島(こじま)湾干拓地と石川・富山両県地区で別々に考案されたもので，形式にはロータリー式・クランク式・スクリュー式の3種があり，1950年(昭和25)ごろまでは3種類が共存していたが，今日ではロータリー式だけとなっている。ロータリー式は，動力で駆動される横軸に多数の耕耘づめを取り付け，このつめで土を掘り，砕く。一般に，重く締まった水田の土を比較的少ない動力で能率よく耕すことができる。従来この種の機械は4～10馬力の小形専用機として発達してきたのであるが，乗用トラクターの普及に伴って，トラクター付属装置としても使用されるようになってきた。

なお，耕耘機の一種に，ティラーといわれるものがある。これは，わが国で発明された耕耘機とは異なり，ローターと称する別種の耕耘機で耕す機械である。アメリカで発明されたものであるが，わが国で独特な改良が加えられて発達し，超小形の特長を発揮して小規模農家用として広く普及している。〔田原虎次〕

こうえいきぎょうきんゆうこうこ 【公営企業金融公庫】 地方公営企業(→公益事業)に長期・低利の資金の融資をするために設立された政府金融機関。1957年(昭和32)設



公　園　(左)富士箱根伊豆国立公園　(中)ロンドンのキュー-ガーデンズ　(右)アメリカのアリゾナ州北部にあるグランドキャニオン国立公園

立。政府保証の公営企業債券を発行して民間資金を吸収し，これを地方公営企業に貸し付ける。

こうえいじゅうたく　【公営住宅】　地方公共団体がその住民のために国から補助を受け，建設・賃貸・管理する住宅をいう。第１種公営住宅と第２種公営住宅，および母子住宅と福祉住宅とに区別されている。入居資格は公営住宅法に基づき，収入の額その他の条件によって決定される。

こうえいたつ　【孔穎達】　⇨くようたつ

こうえいへい　【紅衛兵】　中国で，文化大革命*の初期，学生・生徒が組織したグループ。1966年６月，北京(ペキン)の清華大学付属中学(初級・高級，すなわち日本の中学・高等学校を含む６年制)の生徒が，学校当局の反動的傾向を批判して行動を起こした際につくったグループを，彼ら自身が紅衛兵と名づけた。６月24日付けで彼らの張り出した最初の壁新聞が紅衛兵第１号の宣言であった。その後，全国各地の学校にさまざまな名称を名のるグループが生まれたが，８月18日北京の天安門広場に毛沢東主席が臨席して100万人集会が開かれ，以後革命的青少年グループを，それぞれの固有名称を越えて紅衛兵とよぶことが一般化した。1966年夏・秋のころ，彼らの〈四旧〉(古い思想・文化・風俗・習慣)打倒の社会的行動は世界に喧伝(けんでん)されたが，1967年春，前後してそれぞれの学校に復帰した。→造反有理　〔斎藤秋男〕

こうえきじぎょう　【公益事業】　公衆の日常生活にとって不可欠の財またはサービスを普遍的に供給する事業で，広域にわたって均等に便宜を与えるという固有の条件から，その財またはサービスが独占的な状態の下に提供されるものをいう。これには，運輸事業，郵便・電信・電話の事業，水道・電気・ガス供給の事業，さらに医療や公衆衛生の事業などが含まれる。その性質上，国家や地方公共団体による直営や公社経営のものが多く，私企業に担当させる場合でも国家の強い規制を受ける。〔加藤　寛〕

こうえきしちや　【公益質屋】　⇨質屋

こうえきじょうけん　【交易条件】　〈輸出商品価格÷輸入商品価格〉の比で表わされた相対価格，つまり国際交換比率のこと。輸出商品１単位と交換に何単位の輸入商品を取得できるかを測定する数値であるが，実際には，輸出商品も輸入商品も多数存在するので，〈輸出物価指数÷輸入物価指数〉の比率をとって，その変化で交易条件の変化を表わす。交易条件は，商品の輸出入貿易から生じる利益と密接に結びついた指標で，それが相対的に上昇したとき，交易条件は自国に有利化したといい，逆に下落したとき，不利化したという。もちろん，交易条件も相対価格にほかならず，一般の商品価格と同じように需給の大きさに依存し，理論的には輸出供給曲線と輸入需要曲線とが一致する均衡点に決定されるものと考えられる。交易条件がどこに決まるかは，世界全体としてみた国際分業*の成果としての利益の分けまえに，自国がどのくらいあずかることができるか，つまり自国に帰属する貿易利益の分けまえに影響してくる。現在，南北問題*の一つとして，交易条件が発展途上諸国に不利化する傾向があるという問題がクローズアップされているが，その場合など貿易利益の分けまえが，既存の国際分業体制の下においては発展途上諸国の側に不利になりつつある証左として利用されている。〔福島義久〕

こうえきほうじん　【公益法人】　⇨法人

こうえつ　【光悦】　⇨本阿弥(ほんあみ)光悦

こうえつぼん　【光悦本】　⇨嵯峨本(さがぼん)

こうえん　【後燕】　⇨燕[2]

こうえん　【公園】　観賞や休養などの静的なレクリエーション*から，運動や遊戯などの動的なレクリエーションまで，市民の広い範囲の戸外レクリエーションのために，国や地方公共団体が設定・管理する場所を公園という。

このように一定の土地が保留されるので，公園はまた，災害防止，避難救護，都市環境の改善などにも役だつもので，広く一般に無料で公開されるのが原則である。日本においては，公園は都市公園と自然公園の２種類がある。前者は1956年(昭和31)に制定された都市公園法(法律第79号)に基づいて都市計画区域内に設置されたものであり，後者は1957年に制定された自然公園法(法律161号)に基づいて指定された国立公園・国定公園・都道府県立自然公園である。

〔歴史〕西欧において，一般庶民のレクリエーションの場ともいうべきものは，古くギリシアのアゴラ，ローマのフォーラムなどの広場や王侯・貴族の大庭園が公衆に開放されたものなど，いろいろの形で現われていた。公園の名に値するものが現われてきたのは19世紀以降のことであり，王侯や貴族の私有の庭園や狩猟場が，市民の要求によって一般に開放されてパブリック-パークとよばれた。封建制度の崩壊によって私園は公園として市民のものになったのである。しかし，公園はこのような過去の遺産に基づくものでなく，市民のレクリエーションや都市の景観のために，最初から都市の構成要素として計画的に設けられたものである。ニューヨークのセントラルパークがその最初で，これを契機として各国で計画的に公園が設置されるようになった。しかもこれらの公園は，都市の発展や交通機関，特に自動車の発達によって市内だけでなく周辺地をも含めた広域圏について，その配置や相互連結を図る広域公園系統として設けられるようになったのである。

日本で，法令に基づく公園が設けられるようになったのは，1873年(明治６)の太政官(だじょうかん)布告〈社寺其他(そのた)名区勝跡ヲ

公園ト定ムルノ件〉によるもので，この年には上野・浅草・芝・深川・飛鳥(あすか)山(以上東京府)，常磐(茨城県)，住吉(すみよし)・浜寺(以上大阪府)，厳島(いつくしま)・鞆(とも)(以上広島県)，高知(高知県)などが開設された。その後各地に公園が設けられるようになったが，いずれも寺社の境内や名所・旧跡・藩主の庭園など，すぐに公園として役だつものであったり，すでに公園的に利用されていたものであった。最初から計画してつくられた本格的な公園の開設は，1903年の日比谷(ひびや)公園をはじめとする。ただし，明治の初期に，横浜や札幌(さっぽろ)に外人の影響によって最初から公園としてつくられたものがあるが，これは日本人の都市生活上の必要からつくられたものではなく，例外的なものと考えられよう。その後欧米の例にならって，都市計画的な観点から大小の公園を都市内に総合的に計画し，公園系統を設定しようという動きがでてきた。計画どおりに実現しなかったとはいいながら，1889年に告示された東京市区改正設計は，わが国における公園系統設定に関する最初のものであり，その後の各地の公園の発達に大きな影響を与えたものとして特筆すべきものである。先に述べた日比谷公園もこれによるものである。大正から昭和にかけて，その後の公園の発展に大きな影響を与えたできごとは，明治神宮の内・外苑(がいえん)の築造と関東大震災復興都市計画による公園の造成である。前者はそのデザインにおいて西欧の模倣から脱し，また各種の運動競技施設を集めて総合運動公園を形造ったものであり，後者は平時の保健・休養のための公園が変災時においては防火・避難・救護の場所として都市構成上重要なものであることが認識され，公園の発達に大きく役だった。満州事変から第２次世界大戦時までは公園の発展も低調であったが，都市公園法，次いで1931年に制定された国立公園法を全面的に改めた自然公園法が1957年に制定され，これによって日本の公園行政体系が確立されたのである。

〔都市公園〕 日本で都市公園というのは，地方公共団体が都市計画区域内に設置する公園や緑地を称している(都市公園法２条)。ここにいう緑地とは，広義には建築物でおおわれない空地で，厚生・保安・生産・教学などの目的で設けられるものをさし，したがって公園ばかりでなく，動物園・植物園・道路・墓地・社寺境内・畑・森林などまでを含んでいる。

一般に公園といわれるものには，次のようなものがある。①児童公園：14～15歳以

表-1 国立公園　(単位：ヘクタール，1973年３月，環境庁調べ)

公園名	指定年月日	面積(海域を除く)	関係都道府県名	公園名	指定年月日	面積(海域を除く)	関係都道府県名
知床	1964. 6. 1	41,375	北海道	白山	1962. 11. 12	47,402	富山・石川・福井・岐阜
阿寒	1934. 12. 4	87,498	北海道	伊勢志摩	1946. 11. 20	52,036	三重
大雪山	1934. 12. 4	231,929	北海道	吉野熊野	1936. 2. 1	55,936	三重・奈良・和歌山
支笏洞爺	1949. 5. 16	98,660	北海道	山陰海岸	1963. 7. 15	8,995.9	京都・兵庫・鳥取
十和田八幡平	1936. 2. 1	83,351	青森・秋田・岩手	大山隠岐	1936. 2. 1	31,927	鳥取・岡山・島根
陸中海岸	1955. 5. 2	11,584	岩手・宮城	瀬戸内海	1934. 3. 16	65,929.9	和歌山・兵庫・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛・福岡・大分
磐梯朝日	1950. 9. 5	189,661	山形・福島・新潟				
日光	1934. 12. 4	140,698.1	福島・栃木・群馬・新潟				
上信越高原	1949. 9. 7	188,915	群馬・新潟・長野	足摺宇和海	1972. 11. 10	10,906.5	高知・愛媛
秩父多摩	1950. 7. 10	121,600	埼玉・東京・山梨・長野	阿蘇	1934. 12. 4	73,060	熊本・大分
小笠原	1972. 10. 16	6,433.7	東京	雲仙天草	1934. 3. 16	25,665.2	長崎・熊本・鹿児島
富士箱根伊豆	1936. 2. 1	122,309	神奈川・山梨・静岡・東京	西海	1955. 3. 16	24,324	長崎
中部山岳	1934. 12. 4	169,768	新潟・富山・長野・岐阜	霧島屋久	1934. 3. 16	55,231	宮崎・鹿児島
南アルプス	1964. 6. 1	35,798.8	長野・山梨・静岡	西表	1972. 5. 15	12,506	沖縄
							計1,991,577.8　(国土面積の約5.28％)

表-2 国定公園　(単位：ヘクタール，1974年２月，環境庁調べ)

利尻礼文	1965. 7. 10	16,703	北海道	室生赤目青山	1970. 12. 28	26,308	三重・奈良
網走	1958. 7. 1	37,412	北海道	琵琶湖	1950. 7. 24	90,674	滋賀・京都
ニセコ積丹小樽海岸	1963. 7. 24	19,338	北海道	明治の森箕面	1967. 12. 11	962.6	大阪
大沼	1958. 7. 1	9,469	北海道	大和青垣	1970. 12. 28	5,742.2	奈良
下北半島	1968. 7. 22	18,703.6	青森	金剛生駒	1958. 4. 10	15,624.6	大阪・奈良
男鹿	1973. 5. 15	8,156.3	秋田	高野龍神	1967. 3. 23	19,213	奈良・和歌山
栗駒	1968. 7. 22	77,137	岩手・宮城・秋田・山形	氷ノ山後山那岐山	1969. 4. 10	40,507.2	兵庫・岡山・鳥取
鳥海	1963. 7. 24	28,513	秋田・山形	比婆道後帝釈	1963. 7. 24	7,808	鳥取・島根・広島
蔵王	1963. 8. 8	40,089	山形・宮城	西中国山地	1969. 1. 10	28,553	島根・広島・山口
佐渡弥彦	1950. 7. 27	27,305	新潟	北長門海岸	1955. 11. 1	8,030	山口
越後三山只見	1973. 5. 15	86,129	新潟・福島	秋吉台	1955. 11. 1	4,534	山口
水郷筑波	1959. 3. 3	35,301.9	茨城・千葉	剣山	1964. 3. 3	21,197	徳島・高知
南房総	1958. 8. 1	5,670	千葉	室戸阿南海岸	1964. 6. 1	7,216	徳島・高知
明治の森高尾	1967. 12. 11	769.7	東京	石鎚	1955. 11. 1	10,683	愛媛・高知
丹沢大山	1965. 3. 25	26,345	神奈川	北九州	1972. 10. 16	8,249	福岡
能登半島	1968. 5. 1	9,789.8	富山・石川	玄海	1956. 6. 1	11,137.5	福岡・佐賀・長崎
越前加賀海岸	1968. 5. 1	9,785.2	石川・福井	壱岐対馬	1968. 7. 22	12,625	長崎
妙義荒船佐久高原	1969. 4. 10	13,123.4	群馬・長野	耶馬日田英彦山	1950. 7. 29	85,154	福岡・熊本・大分
八ケ岳中信高原	1964. 6. 1	39,857	長野・山梨	日豊海岸	1974. 2. 15	8,506	大分・宮崎
天龍奥三河	1969. 1. 10	25,367.8	長野・静岡・愛知	祖母傾	1965. 3. 25	22,000	大分・宮崎
揖斐関ケ原養老	1970. 12. 28	18,920	岐阜	日南海岸	1955. 6. 1	4,643	宮崎・鹿児島
飛騨木曾川	1964. 3. 3	15,280	岐阜・愛知	奄美群島	1974. 2. 15	7,861	鹿児島
三河湾	1958. 4. 10	8,197.8	愛知	沖縄海岸	1972. 5. 15	6,701	沖縄
愛知高原	1970. 12. 28	21,721	愛知	沖縄戦跡	1972. 5. 15	3,083.1	沖縄
若狭湾	1955. 6. 1	21,862	福井・京都				
鈴鹿	1968. 7. 22	29,300.4	三重・滋賀				
							計1,117,730.2　(国土面積の約2.97％)

下の子どものための公園で，子どもを交通禍から守り，安全な遊び場を与えて，保健や社会性の涵養(かんよう)を目的とするものである。ぶらんこ・すべり台・砂場などの遊戯施設の設置が義務づけられているが，児童公園に必要なものは，むしろ指導員であって，これに人を得れば児童の心身の発達に大きな影響を与えることができる。②近隣公園：付近に住む市民の利用を目的として設けられるもので，徒歩で利用し得る範囲にあることが必要である。休養や慰楽をおもな目的とするものと，運動をおもな目的とするものがある。③運動公園：各種の公式ゲームを行ないうるような競技施設をもった公園で，単に競技施設を集めたものではなくて，植栽その他によって全体に風致的配慮を加えたものである。必ずしも市街地内に設ける必要はない。明治神宮外苑や駒沢(こまざわ)公園は運動公園のすぐれた例である。④普通公園：市民の大多数または市民全体の利用を目的として設けられるもので，休養や慰楽などの静的レクリエーションだけでなく，動的なレクリエーションも行ないうるものである。都心部に位置するもの，すなわち中央公園はこの普通公園の特殊な型であり，その都市の住民だけでなく，通勤者や業務旅行者にも利用される。⑤風致公園：丘陵・森林・原野・河川・湖沼・海岸など自然の風景のすぐれた場所に設ける公園で，そこに設けられる施設はできるだけ自然らしいものが望まれる。井の頭(がしら)公園(東京都)・奈良公園(奈良県)・嵐山(あらしやま)公園(京都府)などはこの例である。都市公園は市民に利用されやすくなければならない。そのため，利用目的に応じた種類の公園が適切な位置に配置されている必要がある。都市公園法では住民1人あたりの都市公園面積は6m²以上(市街地住民1人あたり3m²以上)，児童公園では誘致距離250m，敷地面積0.25ヘクタール，近隣公園では誘致距離500m，敷地面積2ヘクタールを標準としている。普通公園・運動公園・風致公園については，特に標準を設けていないが，容易に利用できるような配置で，公園の機能を十分に発揮できるような面積であることを定めている。しかし，このような基準は，当時の実情からそれほど困難なしに実施しうるように考慮して定められたもので，理想的な基準というものではない。アメリカでは1人あたり約40m²，イギリスでは約28m²，ドイツでは20～30m²という数字からみても，日本の基準はいかに低いものであるかがわかる。しかし，市街区域は古くから都市として開けたところで，必要な公園面積を確保することは困難な場合が多い。したがって，単一の都市を対象とした局地的な緑地計画ではなく，いくつかの都市を含む広域都市緑地計画，あるいは地方緑地計画的な観点から公園緑地の種類や配置を検討しなければならない。

〔自然公園〕すぐれた自然の風景地の自然景観の保護と利用をはかるために，国または地方公共団体が，区域を定めて経営管理する公園をいう。わが国においては，自然公園法によって，国立公園・国定公園・都道府県立自然公園の3種類に分かれている。都市公園と異なり，自然公園内の土地は，大部分は国または地方公共団体が所有せず，法的に地域を指定する地域性をとっている。したがって，公園区域内であっても林業・発電・鉱業などの一般産業が行なわれるために，公園の保護や利用の面でいろいろの問題をひきおこしている。

自然公園は次の二つの場合から生まれたと考えられる。①都市の発展とともに発生したものである。交通機関の発達，都市住民の自然へのあこがれが都市の大規模化につれますます切実になったこと，保健衛生上，自然に親しむことが広く行なわれるようになったこと，などによって郊外の風景地が風致公園や自然公園へと移り変わった。②都市と直接の関連がないもので，産業革命以後の機械文明の発展によって各地の自然が急速に失われていったが，これに対して，自然保護や郷土保護の観点からすぐれた自然の風景地を人為的な変化から守り，自然の状態を永久に保護して，永久に公衆の野外レクリエーションの場にしようとする考えから生まれた。世界で最初の例は，アメリカのヨセミテ溪谷(けいこく)とマリポサの巨樹林を含む地域が1865年にカリフォルニア州立公園に指定されたものであり，これは後年ヨセミテ国立公園となった。国立公園制度はアメリカで発生し，これが各国に広まったものであるが，世界の国立公園として最初のエローストン国立公園*もこの自然保護思想に基づくものである。

〔国立公園〕日本の代表的な風景地を国が指定し，管理する自然公園である。国立公園法によって1934年3月に瀬戸内海・雲仙(うんぜん)・霧島の3公園が最初に指定された。その後国立公園法が改訂されて自然公園法となるに及んで，自然公園の行政体系が確立され，26の国立公園が指定されている(1973年3月末日現在)。国立公園の自然景観を保護するために，国立公園区域を特別保護地区・特別地域・普通地域に分けて，それぞれの地域での各種の制限や禁止事項を定めたり，また利用を促進するために施設を集団的に整備する集団施設地区や，個々の利用施設の位置を定めたりして，保護と利用の両面の調整を図っている。国立公園に指定されている地域は国土面積の約5.28%を占めている。

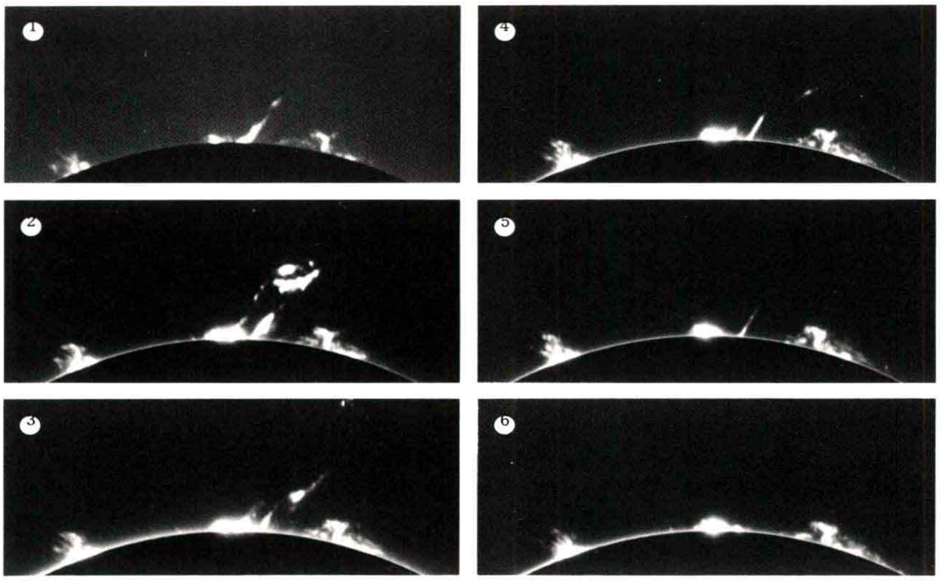
〔国定公園〕国定公園は国立公園に準ずるすぐれた自然の風景地に設置されるが，該当する都道府県の申し出によって環境庁長官が指定，管理は該当の都道府県知事が行なうところが国立公園と異なる。景観保護の各種の制限や利用促進のための施設の位置の設定などは，国立公園と同じように行なわれる。国立公園と国定公園の風景の優劣を決めるのは実際問題としてきわめて困難であるが，国定公園はむしろ国民の野外レクリエーション地としての性格が強く，大都市に近接したところでは，自然景観は特に傑出していなくても，レクリエーション地としての価値に重きを置いて指定される傾向がある。国定公園は50地域が指定され，国土面積の約2.97%にあたる(1974年2月15日現在)。

〔都道府県立自然公園〕自然公園法に基づいて都道府県が制定する条例によって，知事が指定管理する自然公園である。都道府県立公園には，先に述べた太政官布告によってできた営造物としての公園がいまも府県立公園として残っているものと，上記自然公園法に基づく地域性の公園とがあるが，大部分は後者が占めている。国立公園や国定公園と異なり，特別保護地区を欠くが，これは，特別保護地区に相当するほどすぐれた自然景観地であれば国立公園または国定公園に指定され，国が管理すべきものと考えられるからであろう。都道府県立自然公園は，住民が野外レクリエーションを行なう魅力のある地域が指定されるもので，必ずしも国立公園や国定公園のような大面積である必要はなく，むしろ，野外レクリエーションのための適切な配置がたいせつである。都道府県立自然公園は全国で289地域が指定されており，国土面積の約5.34%にあたっている(1974年3月末日現在)。

〔奈良茂雄〕

こうえん【硬鉛】鉛とアンチモン(6%程度)の合金。圧延機で板にする。この板はX線および放射線を通しにくいのでこれらの遮蔽材(しゃへいざい)に用い，また耐酸性が強いので硫酸工業などの化学工業における装置の材料として広く用いられる。

こうえん【紅炎】太陽の縁に見える炎状のもの。プロミネンスともいう。このガスの主成分である水素原子が波長6,563オングストロームの光を強く発しているので，赤色に見える。温度は約4,000℃。紅炎には，全体の形がほとんど変わらない静かな紅炎と，動きの活発な紅炎とがある。静かな紅炎は，はじめその活動領域に現われ，しだいに大きくなり，黒点が消えたあとまでも見えている。寿命が数か月のものもある。高さ数万～10万km，長さ10万～50万kmである。活動的な紅炎は，黒点群の近くに出現することが多い。爆発的に秒速約500kmの速さでコロナの中に打ち上げられるもの，コロナから雨が降るように落下するもの，横方向に引かれているような動きをするものなどさまざまである。これらの運動は，磁場の影響を受けているのであろう。紅炎が太陽面上に現われると，背景の太陽光を吸収し，水素H_2の単色像では紅炎のところが暗くなる。これを暗条*という。➔太陽



紅　炎　1970年9月2日に観測された紅炎の変化。乗鞍コロナ観測所撮影
①7時20分　②7時38分　③7時39分　④7時42分　⑤7時50分　⑥7時55分

➔太陽分光写真儀　〔日江井栄二郎〕

こうえん　【講演】　聴衆に向かってある題目(演題)について話すこと。演説*との違いは，①自己の主義・主張を訴えるというよりも，学問や専門知識について解説や批判を行ないながら，聴衆の認識を促したり，問題を提起したりすることに主眼が置かれる，②写真・図表・物品などを提示することもまれでない，③質疑応答が行なわれることが多い，④話しぶりや身ぶりが比較的穏やかであるなどの諸点で，広い意味での教育的要素が強い。　〔芳賀　綏〕

こうえん　【後燕】　⇨燕②

こうえんきん　【好塩菌】　発育・増殖に数パーセント以上の食塩の存在を必要とする菌の総称。海水細菌の多くはこの性状をもち，培地中の食塩量10％以下では増殖しない。なお，好塩菌には含まれないが，3％の食塩濃度を至適とする腸炎ビブリオは，魚介類を生食する際に経口的に腸管にはいって食中毒を起こし，病原性好塩菌とよばれている。

こうえんしょうやく　【抗炎症薬】　⇨消炎薬

ゴウオン　［Gowon Yacubu］（1934～　）ナイジェリア連邦共和国の最高軍事評議会長(元首)。北部州で主力のハウサ族でない少数部族の出身。1954年入隊，ガーナの将校養成学校を経てイギリスのサンドハースト陸軍士官学校を卒業。国連コンゴ派遣軍でナイジェリア部隊を指揮，1963年大佐。1966年1月，イロンシ将軍のクーデターに参加し，最高軍事評議会委員，参謀総長となり，1966年7月，みずからクーデターを起こし，イロンシ将軍を倒して現職についた。

こうおんかんりゅう　【高温乾留】　石炭を1,000～1,200℃の高温で乾留*して，コークス・石炭ガス・コールタールなどを製造する方法。単に石炭の乾留ということもある。製鉄・鋳物・カーバイド製造などに用いるコークスの製造を目的とする(コークス工業)場合と，都市ガス・アンモニア合成用原料ガスなどの製造を目的とする(都市ガス工業・石炭ガス工業)場合とで，使用する石炭の種類や配合の割合，副生するガスの処理方法などが異なる。たとえば，コークス工業では揮発分の少ない強粘結性の瀝青炭(れきせいたん)，都市ガス工業では揮発分の多い強粘結性の瀝青炭がおもに用いられる。普通はコークス炉で行なわれ，得られるコークス炉ガス中のタールやガス液(アンモニアが含まれる)を分離し，さらにガスを吸収液で洗浄してベンゼン類を捕集したのち，燃料として自家消費するほか，都市ガス・アンモニア合成用ガスなどに使用する。　〔寺沢誠司〕

こうおんけい　【高温計】　高温度の測定に用いる温度計。次のような種類がある。①抵抗温度計：電気抵抗が温度によって変化することを利用したもので，温度変化する抵抗線とその抵抗測定器からなる。白金抵抗温度計は，－260～630℃程度の温度を測定できる。②熱電対温度計：熱起電力を利用した温度計。熱電対*として，白金一白金-ロジウムを用いたものは0～1,600℃，イリジウム－イリジウム-ロジウムを用いたものは0～2,300℃の温度を測定できる。③輻射(ふくしゃ)高温計：高温度の物体が出す熱放射のエネルギーを測定することによって，その物体の温度を知るもの。たとえば，光電管温度計は光のエネルギーを電流に変えて，その電流の大きさから温度を知るものである。④光高温計*：高温物体の輝度*と標準ランプの輝度を比較して，その物体の温度を測定するもの。クルクバウム-ホルボルン高温計はその一つである。輻射高温計・光高温計は特に高温に用いられる。　〔中野藤生〕

こうおんしょうがい　【構音障害】　舌・唇(くちびる)・口蓋(こうがい)・咽頭(いんとう)など，発声に必要な器官の形態・位置・筋肉の障害によって発語がうまく行なわれない状態。なお，筋肉の障害はそれを支配する末梢(まっしょう)神経・脳神経，小脳または錐体(すいたい)外路系の障害によっても起こる。

こうおんどうぶつ　【恒温動物】　定温動物・温血動物ともいい，変温動物(冷血動物)に対する語。外界の温度の変化にかかわらず，ほぼ一定の体温を維持する動物である。哺乳(ほにゅう)類と鳥類がこれに属し，動物の種類やからだの部位，さらに活動状態によっても多少違うが，体温はおよそ36～43℃の間にある。この温度は多くの酵素の最適温度とほぼ一致していて，物質代謝に最上の状態を保っている。したがってこのような動物は地理的分布も広く，1年を通じて活動できる。　〔蒲原春一〕

こうか　【硬貨】　鋳貨ともいう。金属貨幣*に一定の形状・品質・刻印を与えて流通に便利にしたもので，軟貨*に対していう。現在では補助貨幣*が主で，小額取引に用いられる。現在わが国で発行されている硬貨は全部政府通貨で，1,000円・100円・50円・10円・5円・1円の6種類。なお，国際通貨の面で金と交換できる国の通貨，およびそれらの国の通貨と交換できる諸国の通貨を硬貨という場合がある。

こうが　【黄河】　ホワン川。中国で揚子江に次ぐ第2の大河。全長4,670km，流域面積98万km²。古くは単に川といえばこの川をさしたが，川の水の色からこの名が生じた。水源はもとは青海省の星宿会といわれたが，中華人民共和国成立後の調査によって同省のセホラタホツォ山であることが明らかにされた。青海省をいったん南東に流れてから北東に転じ，甘粛省・寧夏回族自治区を経て内モンゴル自治区にはいり，オルドスの北辺を回って陝西(せんせい)省・山西省の省境を南下する。華山に突きあたってから東に方向を変え，三門峡を出て孟県(もうけん)を過ぎると華北の大平原にはいる。現在の河道は河南省の開封(かいほう)東方から東北に向かい，山東省北部の利津県(りしんけん)付近で渤海(ぼっかい)に注いでいる。陝西・山西・甘粛の諸省では，特に黄土層(➔レス)が発達しているので，無定河・汾水(ふんすい)・渭水(いすい)・洛水(らくすい)・沁水(しんすい)などの支流によって多量の黄土が運び込まれ，流水は文字どおり黄濁色を呈する。その泥土(でいど)は下流に堆積(たいせき)し，さらに押し流されて河口に三角州を形成する。河水中の黄土含有量は50％に上るといわれるだけに，平原地帯にはいると沈殿して河床が高くなり，雨季にはたびたび大氾濫(はんらん)を起こして河道を変えた。山東半島を中にはさんで北

は天津(てんしん)付近，南は淮河(わいが)に至る地域は黄河の氾濫原で，有史以来すでに大規模な河道変遷が7度も記録される。したがって，黄河が中国の人民に与えた損害ははかりしれぬものがあるが，一方，黄河によってつくられた肥沃(ひよく)な黄土地帯には早くから農業が発達し，黄河文明の生まれる温床となった。しかし，〈黄河を治める者は中国を治めることができる〉といわれるほど黄河の治水は難事業であり，歴代の政府はこれに力を注いできたが，まだ完全に黄河を治めるに至っていない。中華人民共和国では，上流における黄土流出の防止，ダムの築造による水量の調節など，積極的な水利建設を進めてきた。現在三門峡ダムの建設計画が進められており，この大工事が完成すれば，発電・灌漑(かんがい)・航運など各方面に画期的な開発が行なわれるものと期待されている。〔日比野丈夫〕

こうか 【甲賀(町)】 滋賀県甲賀郡の町。人口12,000。県南部の丘陵地帯にあり，1955年(昭和30)大原など3村が合併発足した。草津線に沿う。重粘土地帯のため，米の単作と酪農で営農してきたが，近年土地改良が進んでいる。大原地区には製薬工場が多く，古くから売薬行商従事者が多い。

こうかあぶ 【後架虻】 こん虫類・双翅(そうし)目・ミズアブ科。大形，黒色のアブ。体長13～30mm，細長く，腹部の第2節は乳白色。翅(はね)は大きく，煤色(すすいろ)。脚は細長く黒色。日本全国のほか，朝鮮・中国・台湾などに分布する。幼虫は汚物や汚水中に生活し，成虫もごみためや便所の周辺を好んで飛びまわる。衛生害虫。駆除には，発生源であるごみためや便所などを清潔に保ち，殺虫剤を散布する。

こうかい 【鋼塊】 各種の製鋼炉で溶製された溶鋼をいったん取鍋(とりべ)に受け，次いで鋳型に注入して適当の大きさに凝固させたかたまり。インゴットともいう。断面の形状・鋳込み法・鋼質などにより上注ぎ・下注ぎ・リムド・キルドなどに分類される。鋼塊は，鍛造・圧延などの工程を経て成形されて鋼材製品に加工されるため，その良否は製品の品質に大きく影響する。鋼塊に生ずる欠陥のおもなものに，気泡(きほう)・収縮管・偏析・非金属介在物および亀裂(きれつ)などがある。〔草川隆次〕

こうかい 【公海】 領海*を除くすべての海域をいい，国際法上いかなる国家も排他的に領有したり支配することができない。これを〈公海自由の原則〉という。この原則はグロチウスの《自由海論》(1609)によって理論的基礎が与えられて以後しだいに認められ，現在では国際法の重要な原則となっている。その結果，いかなる国・国民も自由に使用でき，これを公海使用の自由という。その内容は，航行・漁業・上空飛行や海底電線・パイプラインの敷設，軍事演習の自由を含むが，公海秩序維持のため，海賊行為の取り締まり，各国の自国船に対する管轄権行使・国旗審査・追跡権などが各国に認められている。しかし，近年は科学技術の発達によって漁業資源の減少や海底資源の開発が問題となり，1958年のジュネーブ海洋法国際会議で〈公海に関する条約〉とともに〈漁業および公海の生物資源の保存に関する条約〉〈大陸棚(たいりくだな)に関する条約〉が採択された。〔原田政洸〕

こうかい 【更改】 債務の要素を変更することによって新債務を成立させ，旧債務を消滅させる契約のこと(民法513条1項)。これには次の三つの場合がある。①条件つきの債務を無条件にしたり，無条件の債務に条件をつけたり，条件の内容を変更したりする場合(民法513条2項)，②債務者が交替する場合(民法514条)，③債権者が交替する場合(民法515条)である。民法は，債務の履行に代えて為替(かわせ)手形*を発行することも更改とみているが(民法513条2項)，それは誤りで，正しくは代物弁済*だとされている。更改は，債権譲渡*および債務の引受*が認められなかった時代にはこれに代わる方法として重要な意義をもっていたが，債権譲渡，債務の引受，あるいは内容変更契約が認められている近代法の下ではそのもつ意義はほとんど失われた。なお，更改は旧債務を消滅させて新債務を成立させるのであるから，旧債務に伴った抗弁権・保証・担保などもことごとく消滅すべきであるが，民法は特例を設けて担保権を新債務にそのまま移転することを認めている(民法518条)。〔黒木三郎〕

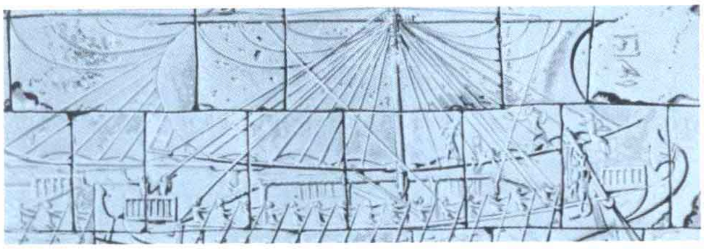
こうかい 【叩解】 紙を抄(す)くためにあらかじめ原料のパルプ繊維に与える機械的処理。具体的には，水に分散した繊維に対して，二つのバー(刃)の間で打ったり，切断したりする力を加える。前者の作用で，繊維は組織がゆるんで柔軟となり，また繊維の表面に枝分かれが生じ，その結果，紙抄きの際に繊維どうしがからみ合いやすくなる。同時に，繊維相互の接触(すなわち結合)面積が大きくなり，紙力が強く緻密(ちみつ)な紙が得られるようになる。一方，繊維の切断は，抄紙機*の金網上での脱水の速度を調節するのに役だち，その結果均一なシートをつくりやすくする。前記二つの作用のいずれを強めるかにより，またそれぞれの強さを適当に調節することによって，紙の性質を変える。〔角祐一郎〕

こうかい 【航海】 船で海上を航行すること。そのための技術を航海術あるいは航法*という。

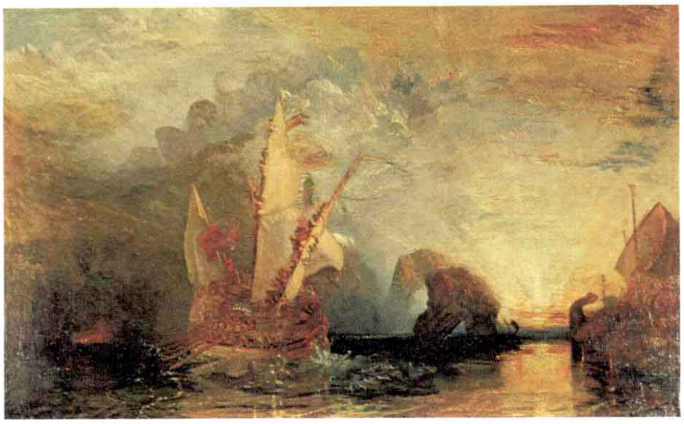
人間が水上を渡った歴史は古く，その形跡を求めれば第四紀洪積世(こうせきせい)のころ，すなわちＢＣ50000年の末期ごろ，アジアの北半からヨーロッパにかけ栄えた骨角器文化のころのもので，すでにもりやつり針などが確認されている。その時代に用いられた船は，船の形をしていたとは考えられず，木片・流木につかまりながら足を動かして泳ぐ程度のものであったり，さらに進歩したとしても，細枝やアシをたばねてつくった葦船(あしぶね)であったと考えられる。文献による歴史をたどれば，いまから4,000～5,000年前にさかのぼるのが限度であるが，ナイル川の流域やチグリス・ユーフラテス両川の流域，地中海や黒海の沿岸，ドナウ川流域・黄河流域などに文化の跡がみられることは，すでに人間と水とのつながりがあったことを物語っている。発掘物などを通じた初期の航海の歴史は船の歴史と一致せざるをえないが，最も古いものはエジプトで発掘された花びんに描かれた船で，これはパピルスでつくられたＢＣ5000年以前のものと考えられている。伝説による船の物語は，すでに《旧約聖書 創世記》の第6章第7節以下にノアの箱舟について記されているが，ユーフラテス河口付近に起きた大がかりな大洪水はＢＣ5000年ごろからと推定されているので，そのころすでに船の使用があったと想像される。

エジプト王朝が確立されてのちは，船による物の運搬はきわめて大きな役割を果たした。第3王朝に始まるピラミッド建設などにそのことがみられる。しかし，海洋を大形船で航海した記録となると，BC1500年ごろ，ハトシェプスト女王によるエジプトからプント(ソマリア半島)までの航海が最初といえる。そのもようはテーベにある女王の神殿の壁に刻まれた碑文と彫刻から知られるが，大形船5隻により，プントから香木・象牙(ぞうげ)・金やヒョウの毛皮などとともに土人の子どもたちも運んでいることがわかる。太古の航海の記録としてはホメロスの雄大な叙事詩《オデュッセイア》がある。BC1175～BC1165年ごろ，トロヤ戦争に勝ったギリシアの勇将オデュッセウスが故郷へ帰還する航海について，そのありさまをうたったこの詩は，現在ではある程度真実性を認められている。BC613～BC611年には，フェニキア人がエジプトのネコ2世の命を受けて，アフリカ一周をしたとされている。〈彼らは太陽を右手に見た〉と記録されていることは，真昼の太陽を右手に見ながら，すなわち南緯の地で西へ向かって，航海したということの証拠であるとされている。BC470年には，カルタゴ人ハンノが大艦隊を率いてゴリラのいる〈火の土地〉へ行ったと碑文に記録されているが，これはアフリカ西岸の航海を意味している。BC338年ごろ，マッサリア(マルセイユ)の人ピテアスは，故郷からジブラルタルを抜け，スペイン・フランス沿岸を北上して北海にはいり，スカンジナビア半島に達したと信じられている。《新約聖書 使徒の働き》の第27章にはパウロの航海の記録があり，ＢＣ61年の地中海における航海のもようがつぶさに述べられている。1世紀半ばに，ヒッパロスがインド洋のモンスーンを利用し

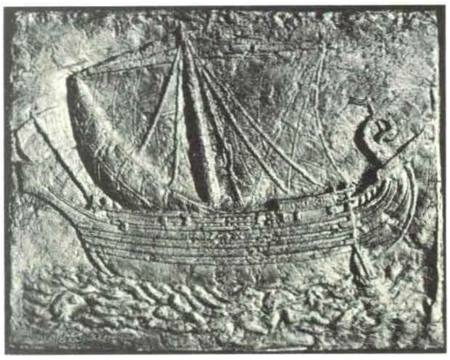
航　海



ハトシェプスト女王のプントへの航海



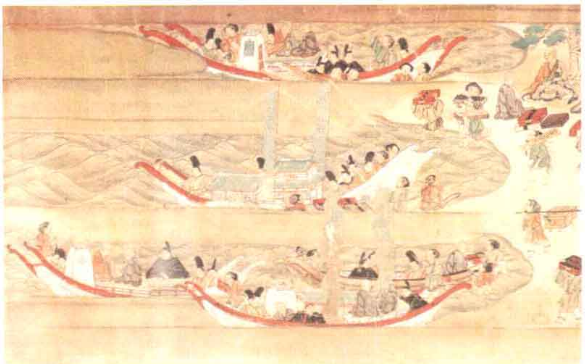
《ポリペモスをあざけるオデュッセウス》ターナー作





(左)フェニキアの艦隊。石棺の部分(ヘレニズム後期文化)(右)羅針儀や天文観測儀などを操作する船員たち(16世紀後半)





(左)コロンブスが乗船したサンタ-マリア号の復元(スペインのバルセロナ埠頭)
(右)《鑑真和上東征絵伝》(部分)　遣唐使の船に分乗する一行

て，陸の見えない大洋の航海を行ない，紅海からインド洋を経てインドに到達したのが，大洋航海の最初の記録だとされている。

東洋では，《史記》にBC219年に徐市(じょふつ)が男女数千人を連れ，秦(しん)の始皇帝の命を受けて不老不死の霊薬を求めて蓬莱(ほうらい)山に行ったとある。一方，日本の熊野(くまの)の新宮には彼が来たという伝説や彼の墓と称するものが残っており，付近には秦姓(はたせい)を名のる者が多いなど，符合する点もあって，そのころから黄海や日本海の航海が行なわれていたことが想像される。600年以後は遣隋使(けんずいし)が，続いて遣唐使が送られ，約300年にわたって危険ながら勇敢な航海が行なわれた。文字をもたぬポリネシア人たち太平洋民族の航海については想像の域を出ないが，あの広い太平洋の小さな島々に至るまで，いたるところに人間が住んでいたということは，西洋人としてはじめてこれらの島々を発見したクック*の航海よりも何千年もまえから，独特の方法で航海が行なわれていたことを物語る。

8世紀から10世紀にかけて，北方ゲルマン族のノルマン人たちは，バイキング*として恐れられる海賊的な活躍をした。彼らの一部は982年にアメリカを発見したとみられているが，これはコロンブス*より510年もまえの話である。1096年から1270年ごろにかけて行なわれた大規模な十字軍遠征によって，ヨーロッパ人はアラビアの文化に接したが，そのころアラビア人は，ヨーロッパ人よりははるかに進んだ技術をもって，インド洋やアフリカ沿岸を航海していた。彼らの技術に刺激されてヨーロッパの航海技術も発達し，地理上の大発見への気運がかもし出された。その最大の推進役は，ポルトガルのヘンリー航海王(エンリケ*)で，1419年から彼は本格的な航海と発見の研究を開始した。その指導を経て，アフリカ南端を回ってインドへ到達する道が着々と開かれた。1488年にはバーソロミュー-ディアスが喜望峰を発見，1498年にバスコ-ダ-ガマがインド航路を開くに至って，ヘンリーの夢は実現された。一方，イタリア人コロンブスはスペインのイサベル女王の援助を受けて，1492年に新大陸の一部を発見，さらに1519～1522年にはポルトガル人マゼランの世界一周航海が行なわれ，地球が球であることがはじめて確認された。1570年ごろからはイギリスの海賊ドレークが活躍を始め，続いてダンピアやモルガンらの海賊行為を経てイギリスが海上に覇権(はけん)をもつに至り，クックの1768～1780年までの調査航海によって，300年にわたるヨーロッパ人の発見航海には終止符が打たれた。その後は機械船の発明を経て，近代的な航海へと様相が変わってきた。➔大航海時代

〔茂在寅男〕

こうかい【江界】カンキェ　朝鮮北部，慈江道(1949年もとの平安北道の北東部と咸鏡(かんきょう)南道の一部を合わせて新設した道)の主都。鴨緑江(おうりょっこう)の支流禿魯江(とくろこう)の右岸の要害の地にあり，李朝(りちょう)時代には鎮営が置かれた。第2次世界大戦前は山間の地方町であったが，江界・禿魯江発電所の電力，付近の鉱産(黒鉛・石炭・銅・亜鉛)・林産によって急速に工業化が進み，大小50余の工場がある。ダイズ・アワ・木材の集散も盛んで，教員大学や獣医・畜産大学などの教育機関も整えられている。

〔矢守一彦〕

こうかい【紅海】アラビア半島とアフリカ大陸北東部との間にはさまれた狭長な海域。インド洋の付属海の一つで，延長2,300km，幅270km。面積43万8,000km²。南はバブエルマンデブ海峡からアデン湾・アラビア海に通じ，北はスエズ運河を経て地中

海に通ずる。北端でシナイ半島が南に突き出し，東にアカバ湾，西にスエズ湾を分けている。アフリカ東部より北上する大地溝帯(ちこうたい)の一部をなし，平均水深は500mに満たないが，中央部では2,000mを越す所がある。紅海の名は，藍藻(らんそう)のトリコデスニウムによって，ときに海水が赤変することから名づけられた。海水の蒸発が盛んで塩分が高く，北端のスエズ運河付近はペルシア湾と並ぶ濃度を示す。古くは，地中海の諸地域とアジア南部諸国との交通路として栄えたが，アフリカ南端を経由する航路の開発で一時衰え，スエズ運河の開通により再び活気を取りもどした。しかし，漁業は未発達で，沿岸港市の開発も遅れている。〔長津一郎〕

こうかい　【黄海】　ホワンハイ　朝鮮半島と中国との間にはさまれた太平洋の縁海。黄河が運ぶ黄土によって海水が黄濁しているのでこの名がある。南は東シナ海に続き，北部は東の遼東(りょうとう)半島と西の山東半島により境されて渤海(ぼっかい)となる。平均深度は44m。浅海であるため，特に底引き網による漁業，製塩が盛んに行なわれる。流入する河川には揚子江・黄河・白河・遼河・鴨緑江(おうりょっこう)・大同江・漢江などがあり，沿岸には，中国側に威海・煙台(えんたい)・青島(チンタオ)・旅大，朝鮮側に仁川(じんせん)・群山・南浦(なんぽ)などの港湾都市が発達する。〔千田　稔〕

こうがい　【公害】　⇨次ページ

こうがい　【鉱害】　鉱山の操業によって発生する公害*。鉱害には次のようなものがある。

①地盤沈下：地下の鉱物を採掘したために，地表が陥没して農地や人家が使用不能になることがある。炭鉱地帯に多くみられ，福岡県の筑豊(ちくほう)地方では明治の末から大きな社会問題となっている。

②廃石の堆積(たいせき)場での崩壊：坑内からのずり*，選鉱場の廃石，精錬所の廃滓(はいさい)を，谷間にダムをつくって捨てたり，平地にずり山をつくって堆積したりしたとき，大雨・地震・地盤沈下などが原因となって，ダムが決壊したり，ずり山の一部が地すべりを起こしたりして，下流の農地や人家に被害を与えることがある。

③鉱水による鉱害：主として金属鉱山で，有害な元素あるいは化合物を含む水が，坑内の鉱床や坑外の廃石堆積場から流出して河水に混入し，下流地域の農作物・水産物や人命に危害を及ぼすことがある。わが国では1890年(明治23)ごろから社会問題となった渡良瀬(わたらせ)川の鉱毒事件が有名である。

④鉱煙による鉱害：坑内から有害ガスを発生することはほとんどなく，主として精錬所の排煙中に含まれる亜硫酸ガスによる。わが国では，近代的な銅精錬が盛んになった1887年ごろから森林や農作物の枯死が問題になった。〔西松裕一〕



こうがい　(上)両端に金蒔絵で模様を描いたツルの脛骨製　(中・下)斑を利用して左右均斉模様を現わしたべっ甲製



中央新聞
號外
大正十年十一月四日發行
原總理大臣刺さる
近畿大會に赴く途中東京驛で
書生體の男短刀で左肺を刺す
原内閣總理大臣は京都に開かる丶政友會近畿大會に赴くべく四日午後七時三十分東京驛發列車にて關西に赴くべく東京驛に至り驛長室より改札口に赴かんとする際群衆中より突如飛出の給を着した書生體の男現はれ隠し持ちたる短刀様の兇器を持つて首相の左肺部を突き逃走を企てたが直ちに逮捕され首相は驛長室に收容應急手當を施したが生命危篤である

号外

こうがい　【笄】　女性の髪飾りの一。もとは髪をかき上げる棒状の具をいい，男女ともに用いたが，江戸時代から日本髪の飾りとなった。はじめはこれで髪を巻いてまげをつくり，実用的なものであったが，のちには飾りとして発達した。まげの大きさにより長・短がある。中央の部分はまげの中に隠れるのでおもに無地とし，両端に装飾を施すものが多い。材料はべっこう・蒔絵(まきえ)・象牙(ぞうげ)・金属など，くしとそろいのものもある。〔橋本澄子〕

ごうかい　【剛塊】　クラトンまたはクラトーゲンともいう。造山帯に囲まれた大陸内部の安定した地塊。カンブリア紀から現在までほとんど造山運動を受けておらず，造陸的なゆるやかな昇降運動を広い範囲にわたって受けたのみと思われる。わずかに浅海性の堆積物(たいせきぶつ)でおおわれる所もあるが，長い間の侵食で広大な高原や平地として基盤が露出し，楯状地*(たてじょうち)となっている所が多い。

ごうがい　【号外】　新聞社が締め切り後に重要なニュースが起こったとき，それを速報するため臨時に発行する報道印刷物。外国ではエキストラといっている。日本では1876年(明治9)10月29日づけの《朝野新聞*》が，熊本の神風連の乱*や秋月の乱*を速報し，はじめて号外の文字を使った。その号外に〈本日弊社は休暇なれども九州地方穏かならざるにより，特に看客の為(ため)に近報を掲載し号外の一紙を発兌(はつだ)す〉と前書しているが，号外の性質をよく表現している。号外の語が使われる以前は別段板あるいは付録という用語が使われていた。現在では，テレビ・ラジオによって臨時ニュースを聴視できるため，号外の必要性は薄れつつある。〔飯田良明〕

こうかいえいせい　【航海衛星】　海上の船舶や飛行機が，その位置を直ちに正確に決定するのに役だつ電波を発射する人工衛星*。航海衛星からはたえず一定周波数の電波を出しており，またその軌道・高さも発表されているので，船舶は電波を受信して自船の位置を割り出すことができ，しかも天候・昼夜のいかんにかかわらず精密に決定することができる。アメリカは，1960年この種の衛星の第1号としてトランシット1Bを，続けて同じく2Aを打ち上げた。〔原田三夫〕

こうかいかいせん　【黄海海戦】

[1]1894年(明治27)9月17日，日本と清(しん)国の主力艦隊の戦闘。清国は5隻損失，日本側は無傷で大勝し，日本は制海権を確立した。➔日清戦争

[2]1904年8月10日，日本とロシアの主力艦隊の戦闘。双方多数損失したが，戦略的には日本の勝利であった。➔日露戦争

こうかいぎ　【公会議】　⇨宗教会議

こうかいけいき　【航海計器】　船舶が安全確実にしかも能率的に航行するために，正確な船位と針路を決定し，また危険を事前に察知し，それに対する処置を行なうために用いる計測・制御機器の総称。磁気コンパス・ジャイロコンパス・測深儀・測程儀・望遠鏡・六分儀・クロノメーター・オートパイロット・レーダー・ロラン・デッカ・無線方位測定機など，多くの種類がある。

こうがいこ　【興凱湖】　シンカイ湖　中国東北部とソビエト連邦の国境にまたがる湖。ウラジオストク北方180kmにある。面積3,792km²。楕円(だえん)形を呈し，南北約88km，東西約44km，最大深度8.2m，平均深度4.2m。1860年のロシア・清(しん)の境界条約によって湖の北部4分の1を清領とし，その他をロシア領として今日に及んでいる。興凱湖は中国名で，ソ連ではハンカ湖とよんでいる。南部・西部に流入河川があり，北部からはアムール川の支流ウスリー川が流出する。冬期は結氷するが，コイ・チョウザメなどの漁獲がある。〔千田　稔〕

こうがいざい　【公害罪】　⇨公害

こうかいし　【航海士】　船長を補佐する甲板部士官で，船舶職員法に定められた海技従事者国家試験に合格して，その免許を受けた者。日本の現行法では，種類として甲種・乙種・丙種の3種があり，甲・乙に対してはそれぞれに一等航海士・二等航海士・三等航海士の別がある。一等航海士は副船長のような役目をもち，積荷全般の監督，船内規律の維持などを担当し，二等航海士は航海計器・船位測定・水路日誌など航海に関する全般的事項と郵便物に関する事項についての責任者である。三等航海士

➔370ページ

公害

〔公害の概念〕公害の概念を明らかにしようとする試みはいくつかなされているが，広く認められている定義は，わが国の公害問題に関する古典とされている《恐るべき公害》(1964)の中で，庄司(しょうじ)光・宮本憲一によってなされている。庄司らは，公害を〈資本主義生産関係に付随して発生する社会的災害〉と定義し，〈それは，資本主義的企業・個人経営の無計画な国土・資源の利用と社会資本の不足，都市計画の失敗を原因として発生し，農民・市民の生産や生活を妨害する災害である。したがって，公害は階級対立のあらわれである。加害者は主として資本家階級であり，被害者は主として農民・労働者階級である〉とした。また都留重人も，〈公害の概念規定そのものが実は体制の問題と無縁には行ないえない〉として，主として経済の側面から，〈公害とは，①技術進歩がますます生産の社会的性格を強めつつある段階において，したがって一経済主体の外部から受ける影響が大きく，それが外部に与える影響も大きい段階において，②経済主体の私企業的な自主自責の原則を貫くかぎり，③集積の便すなわち外部経済を利用しようとする積極的動機もてつだって，集積傾向はおのずから強まることだし，④外部に及ぼす悪影響は，最少限の防除が行なわれるだけで，周辺地域に集積して，量の質への転化を生むが，⑤その結果については，個々の経済主体との因果的結びつきが実証困難な場合が多くて，個々の経済主体は責めをのがれ，⑥《外部》すなわち通常は不特定多数の企業ないし個人，例外的には特定の企業ないし個人に対し，実害を生む事態〉と定義している。

公害が資本主義生産関係に起因するものとする上記の定義は，今日わが国が世界的な公害先進国である理由を正しく指摘したものである。しかし，資本主義体制のもとで公害が激化していることと同時に，社会主義国においても公害的な現象としての環境破壊が発生していることも現実の姿なのであり，公害と環境破壊との関係を明らかにする規定が必要とされている。すなわち，公害を庄司らのように定義する場合には，それが正しい定義であるがゆえにも，環境破壊の概念を明確にしなければならない。

単純な生態学的観点からみれば，社会的人間の行為はすべて環境破壊とならざるをえない。人類と社会の形成以後，人類の生存は，それが社会的人類の生存として社会的生産を基礎としている以上，環境破壊を伴ってきたといいうる。しかし，今日において環境破壊があらためて問題となっているのは，こうした人類の生産活動に伴う環境破壊が，ついに人類の存在そのものをも脅かすものとなってきたことによっているのであり，環境破壊とは，人類の生存による環境の変化が人類の生存を脅かす場合をさすものと考えなければならない。こうした環境破壊について注意を促した最初の人物はエンゲルス*である。エンゲルスは《イギリスにおける労働者階級の状態》(1845)において，〈資本主義生産関係に付随して発生する社会的災害〉すなわち〈公害〉について指摘している。さらに《自然の弁証法》に含まれている一手稿《猿(さる)が人間になるさいの労働の役割》(1876年ごろ執筆)において，〈われわれ人間が自然に対してかちえた勝利にあまり得意になりすぎることはやめよう。そうした勝利のたびごとに，自然はわれわれに復讐(ふくしゅう)する。なるほど，どの勝利もはじめはわれわれの予期したとおりの結果をもたらしはする。しかし二次的・三次的には，それはまったく違った，予想もしなかった作用を生じ，それらは往往にして最初の結果そのものをも帳消しにしてしまうことさえある〉ことを指摘し，〈われわれが自然を支配するのは，ある征服者がよそのある民族を支配するとか，なにか自然の外にあるものが自然を支配するといったぐあいに支配するのではなく，……われわれは肉と血と脳髄ごとことごとく自然のものであり，自然のただなかにあるのだということ，そして自然に対するわれわれの支配はすべて，他のあらゆる被造物にもましてわれわれが自然の法則を認識し，それらの法則を正しく適用しうるという点にある〉と述べた。

こうした自然の復讐をもたらす環境破壊が，特定の生産関係のみに固有の問題であるとすることはできない。すなわち，環境破壊は社会と自然の普遍的な矛盾の一形態である。そして，資本主義生産関係のもとでは，あらゆる社会に普遍的な社会的生産過程が労働過程でありながら価値増殖過程となるように，環境破壊が公害となるのである。

〔公害の分類〕公害の分類は，分類の目的によって大きく左右されるが，最も基本的には，①生産に原因をもつ産業公害，②消費に原因をもつ都市公害，③政治的・法律的上部構造に原因をもつ権力公害に区分される。しかし一般には，大気汚染*・水質汚濁*・騒音*・振動*・地盤沈下*・土壌(どじょう)汚染など，〈公害対策基本法〉にあげられている現象面からの分類が行なわれている。こうした自然的な現象面からの分類は，公害がすでに発生している場合の対策にとってはいちおう有効であるが，公害はそもそも社会的現象であるから，公害を根源で防止する立場からは不十分なものである。

生産に原因をもつ産業公害は，生産の第1の目的が利潤であることによってひき起こされる。すなわち，利潤獲得に直結しない支出は私的企業においては節約されざるをえないという原則のもとで，公害防止の技術的対策が節約されるために生じるのである。消費に原因をもつ都市公害は，国や地方自治体が企業の利益を住民の利益に優先させ，企業の外部経済に寄与する社会資本を住民のための社会資本に対して優先させることから生じている。権力公害は〈警察・司法・軍事・行政などの国家権力の行使そのものから生まれる生産・生活妨害〉(宮本憲一)であり，その最大のものは，沖縄の公害において典型的にみられるように，軍事基地によるものである。

したがって，公害が三つに区分できるとしても，その共通の根源が資本主義生産関係そのものであることは明らかである。そして，今日のわが国においては以下にみられるように産業公害が最も激烈である。

〔公害の歴史と現状〕公害の歴史は資本主義の歴史とともに古いが，これはわが国においても真実である。有名な足尾鉱毒事件*は1877年(明治10)に古河市兵衛(ふるかわいちべえ)が経営を開始した直後に始まり，都市における最初の公害問題とされる明治10年代後半の大阪市内煤煙(ばいえん)問題も，大阪紡績の操業開始と時を同じくする。第2次世界大戦前の都市における公害問題は消費によるものではなく，都会地に建設された工場や火力発電所による産業公害が中心であった。こうした産業公害を防止しようとする社会的運動は，明治末期～昭和初期に一定の高まりをみせたが，日本の軍国主義化が進展する過程でしだいに消滅し，〈煤煙は空襲を受けにくくする〉などという暴論が公然と登場するに至った。

しかし，鉱業による農業の破壊という形態をとったいわゆる〈鉱害*〉問題は，足尾鉱毒事件の苦い教訓の中から，大正期において一定の前進をかちとり，その成果の一部を今日に伝えている。冶金(やきん)産業，特に銅製錬業は，その製錬過程において膨大な亜硫酸ガスを放出して農業に全滅的被害を与え，また採鉱・選鉱の過程と廃棄物から流出する金属塩類はいわゆる鉱毒水として稲作に大きな影響を与える。別子銅山の煙害事件は1910年(明治43)～1939年(昭和14)の10次にわたる被害者補償を〈住友〉より獲得し，また製錬所の亜硫酸ガス放出を画期的に減少させた。また，日立鉱山・小坂鉱山などにおいても煙害が農業の破滅的破壊をもたらしたため，大正期には佐賀関製錬所や秋田県吉乃(よしの)鉱山付属の中央製錬所計画のように，設置以前に農民を中心とした公害予防運動が生まれ，後者ではその建設が中止された。今日の公害防止の技術的対策の多くはこの時期に生み出されたもの

である。また大正時代の中期以後，農民の運動も計画的・組織的なものとなり，大正末期の秋田県小坂鉱山煙害争議や尾去沢(おさりざわ)鉱山の労働争議では，日本農民組合に組織された被害者農民と全日本鉱夫総連合の労働者が提携して運動を進めた。

戦前の公害問題は，大正の末期から昭和の初めにかけて，都市問題・社会問題として注目されるようにはなったが，戦前の社会的情勢の中でしだいに〈問題〉であることをやめた。こうして公害そのものが深刻化していったとしても，戦後まで再び大きな問題となることはなかったのである。

戦後の，とりわけ1960年代以降の公害は，戦前とは比較にならないほどの重化学工業の発展によって激化し，多様化している。そして戦後の最大の特徴は，日本資本主義の国家独占資本主義的性格のいっそうの強化に対応して，政府の諸政策によって公害が激化してきたことである。今日の公害の激化に大きな役割を果たしたものが，企業本位の地域開発であり，高度経済成長政策であったことは一般に認められているところである。1950年の国土開発法の制定以後，全国各地の無計画な地域開発は全国の各地に汚染源をまき散らす効果をもたらした。すなわち，この地域開発は全国の各地とも大規模臨海工業地帯への企業誘致であり，その企業は石油化学と鉄鋼を中心とした公害発生企業だったのである。この意味で，わが国で最初の石油化学コンビナートである三重県四日市の公害問題は，戦後を代表する公害であり，1960年代以降の地域開発の進展は第2・第3の四日市を全国各地につくりだした。

また，重化学工業を中心とした経済の高度成長に伴って，生産の廃棄物は多様化するとともに量的にも増大し，有毒物質による環境の汚染が絶望的なまでに進行しつつあることが指摘される。石油産業によってガソリンへの混入が続けられている鉛は，道路沿いの住民の体内に蓄積され，亜鉛生産量の増大に不可避的に伴うカドミウム汚染も全国のどこにでもある現象となり，農薬やPCB(ポリ塩化ビフェニル)などの化学薬品による汚染も全日本をおおっている。1970年は，こうした状況がいちどきに明らかにされ，国民の反公害意識が大きく前進したという点で最も特記すべき年であるといえる。

地域開発政策と高度成長政策のもとで，全国のいたるところで公害が発生するようになったと同時に，大都市でも新しい公害が発生している。1970年夏に東京杉並(すぎなみ)区を中心にして大きな被害を出して注目を集めた光化学スモッグ*は，年を追って多発の方向をたどっているが，これは工場地帯からの亜硫酸ガスとともに，自動車の排





(左)足尾鉱山の排毒は山野を荒廃させ，農民たちの生存をも脅かした。小口一郎《人命に及ぶ被害》(明治文献刊《野に叫ぶ人々》所収) (右)製紙工場の排水路と化した潤井川。茶色のパルプ廃液と白濁した製紙廃液を田子ノ浦へと運ぶ

気ガスを原因とする硫酸ミストとオキシダント*によるものである。光化学スモッグは，都市交通体系の不備という条件のもとでのモータリゼーションに根本的原因をもっており，1970年代の都市における典型的な公害であるといえる。

こうしてわが国では，公害を〈社会的殺人〉とよぶことさえ，さしたる誇張ではないという事態が生まれているのである。その悲惨さにおいて並ぶものはない水俣病(みなまたびょう)・イタイイタイ病*の二つとも，わが国においてのみ発生しているという事実が，なによりも雄弁にこのことを物語っている。そして，亜硫酸ガスを主体とした大気汚染によって発病する呼吸器病もまた，四日市や川崎などにおいて多くの人命を奪っているのである。(→大気汚染)。

1970年代以降において最大の公害問題は放射能による汚染である。現在まで，人間が放射能を制御するためにもっている技術的方法は，①それが広がらないように閉じ込めておくこと，②自然減衰を利用することだけである。したがって，原水爆が使用されなくとも，電力その他のエネルギー生産に核反応が応用された場合でも，同時に生じる大量の放射能の害をどのように防ぐかは重大な問題である。人類はその発生以来，天然に存在する微量の放射能の中で進化して今日に至ったのであるが，核分裂の発見以後のきわめて短期間に恐るべき大量の人工放射能をつくりだしたのであり，100万年と推定される人類進化の歴史に比較すれば，30年というのは極端に短い期間にすぎない。この短い期間に遺伝的環境に十分な影響を及ぼしうる量の放射能が地球上にばらまかれてしまったなら，人類の将来に悪影響が生ずることは明らかであり，この潜在的危険性は日ごとに増大しているのである。

〔公害法と行政および裁判〕1970年の国民の反公害意識の高揚は，〈公害国会〉とよばれる第64臨時国会(11月25日～12月18日)において14の公害関係法を成立させ，わが国は〈法律の形としては世界でも最も整った法制が一貫した体系づけでできた国〉とさえいわれている。そして，公害行政は，公害対策基本法を中心とした公害関係法に基づいて環境庁(1971年7月1日設置)を中心として行なわれるたてまえとなった。しかし事実においては残念ながら，わが国の公害法と行政は一貫した加害者保護が続けられてきた。

1884年，東京府知事芳川顕正(よしかわあきまさ)は東京の〈市区改正〉に関する建議において，〈道路，橋梁(きょうりょう)，河川ハ本ナリ，水道，家屋，下水ハ末ナリ〉としているが，こうした産業優先の思想は明治以降100年の国家的方針であった。行政当局の基本方針はつねに企業の発展を第一と考えるものであり，そこから，多くの公害事件において，行政が加害者である企業と一体化して被害者をさらに窮地におとしいれるようなことが生まれてきたのである。

公害法と公害行政の主要な目標は，公害を未然に防止するとともに，公害が発生した場合には被害者を救済し，加害者を制裁し，可能な場合には原状回復を行なうことであるはずである。いうまでもなく，公害対策の最善の方向は予防なのであるが，わが国のように公害の激化している国においては，すでに発生した公害における救済と制裁がきわめて大きな意味をもたざるをえない。すなわち〈発生してしまった公害について責任の所在が明確にされ，被害者に対する救済がしっかりとなされることが，じつは公害法にとっての出発点〉(清水誠)であり，公害行政の原点であるということができる。〈公害国会〉において成立した〈人の健康に係(かか)わる公害犯罪の処罰に関する法律(公害罪法)〉は，もともとこうした立場からのものであったはずであるが，その制裁は〈二年以下の懲役もしくは禁錮(きんこ)又は二百万円以下の罰金〉というきわめて軽微なものにとどまっている。しかも，法制審議会による法案要綱では公衆の生命また



イタイイタイ病裁判一審で原告勝訴（1971年6月30日）

は身体に〈危険を及ぼすおそれのある状態を生じさせた者〉が処罰の対象となっていたのに対して，政府は〈危険を生じさせた者〉と変更して国会に提出し，決定したのである。もともと，公害は企業の利潤第一主義から生まれたものであるのだから，200万円払えばすむということになってはとうてい公害防止の役にたたないのである。企業への経済的制裁に大きな役割を果たすと考えられている制度が，加害者の側に法律上の〈過失〉がなかったとした場合にも損害賠償の義務は免れないとする〈無過失責任〉の制度である。しかし，〈最も整った法制〉をつくりあげたといわれる〈公害国会〉においては，準備されながらも財界の圧力によってついに提案されなかったのである。

公害関係法の多くは公害の発生を未然に防止する公害規制行政のための法律であるが，具体的にどのような規制をするのかは大部分が政令に任され，この政令において定められる諸基準は，過去の実例からみるかぎりは企業に有利に決められているということができる。そして，公害規制行政そのものはといえば，東邦亜鉛安中製錬所無認可操業事件や石原産業事件にみられるように，工場を直接に監督すべき官庁が法を破ってまで企業の保護のみを優先してきたのである。1971年7月1日以降は，新設された環境庁を中心とした公害行政が行なわれるのであるが，過去の実績からみるかぎりは，国の公害行政には多くを期待できないともいいうるであろう。

むしろ，過去の公害行政の実績からみるかぎりでは，地方自治体の行政こそ公害行政の中心といいうる。地方自治体は中央政府の地域的執行機関であるという性格とともに，住民の利益を代表するという性格をももっており，公害問題において自治体がどのような姿勢をとるかはきわめて重要である。この点で，1960年代後半から地方自治体とその条例が公害の防止において大きな役割を果たしはじめたことは大きな意義をもっている。また，東京都の公害防止条例をはじめとする地方自治体の条例は，事実経過としても法律に先行して，住民のための公害行政をつくりあげてきたのであり，公害被害者への医療費補償の制度もまた，国や県の無策という中で，四日市市によって開始され，全国に広がったのである。地方自治体がほんとうに住民の立場に立つとすれば，公害を未然に防止することも部分的には可能であり，また，わずかとはいえ，被害者の負担を軽減することができるのである。加害者保護の公害行政が，住民の生命と生活を保護する行政へと転換するためには，究極的には大資本の政府から勤労国民の政府へという政治的変革が必要であるが，地方自治体の公害規制権限を強化し，それを監視する住民運動というものによって，まだまだ多くのことをなしうるのである。

加害者の責任を十分に追求しえない今日の公害行政のもとでは，被害者はみずから訴訟を提起し，加害者と対決せざるをえない。裁判によって加害者の責任を明確にし，制裁を行なうという方法は，1967年に訴訟が提起された新潟水俣病裁判によって始められ，四日市公害，イタイイタイ病，熊本水俣病の裁判と合わせ，ふつう四大公害訴訟とよばれる。四大公害訴訟のうち，イタイイタイ病裁判は鉱山保安法が無過失責任の制度を取り入れているので因果関係のみが争点となっているが，他の公害訴訟については，民法第707条の〈故意又ハ過失ニ因リテ他人ノ権利ヲ侵害シタル者ハ之（これ）ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス〉によって加害者の故意または過失を被害者が証明しなければならないという点で，大きな困難がある。公害発生源の企業はけっしてみずからの過失を認めようとしないだけではなく，故意や過失の存在を証明する諸資料を公開しないのであり，過失の存在を証明するという裁判上の技術的困難は，公害で痛めつけられた被害者の仕事としておしつけられているのである。

裁判の上で被害者におしつけられる大きな困難には，因果関係をめぐる際限のない議論がある。公害裁判において問題となる因果関係とは，本来加害者の行為（有害物質の排出など）によって被害が生じたのかどうかということに尽きるわけであり，自然科学の問題としてすべてが解明されるという意味での因果関係ではない。そして，自然科学的な因果のメカニズムを明らかにしうる能力は，生産設備と科学者を雇用する財力を所有する企業の側にこそあるのであって，加害者が明らかなメカニズムについてさえ異論を唱えて，企業の利益のみを図っているという状態のもとでは，自然科学の問題としてすべてを明らかにすることには大きな困難がある。さらに，一般的には，被害の原因となる汚染物質は複数であり，汚染源もまた複数の企業にわたり，この場合にはメカニズムの自然科学的解明はいっそう困難である。したがって，公害裁判における因果関係の立証とは，加害者の行為が存在しなければ被害が発生しなかったということさえ明らかになればよいとしなければならない。

1971年6月30日，イタイイタイ病裁判の第1審判決が下され，被害者の全面的勝訴となったが，これは日本の公害史上における歴史的な1ページであった。日本国憲法第12条が〈この憲法が国民に保障する自由及び権利は，国民の不断の努力によって，これを保持しなければならない〉と明示しているように，住民運動をはじめとする〈国民の不断の努力〉によってのみ，公害行政を国民のものへと転換することが可能となるのである。〔加藤邦興〕

は一等航海士を補佐して航海の業務に携わり，あわせて医療関係も担当するのが習慣である。〔飯島幸人〕

こうかいしじょうそうさ【公開市場操作】 中央銀行*が公開市場で，政府短期証券*をはじめとする各種の証券を売買することによって，銀行の支払い準備金に影響を与え，これによって通貨の供給量，市場利子率を調整するものである。売買の相手方は銀行である場合もあり，個人または機関投資家である場合もあるが，いずれにしても中央銀行との間で代金が受け払いされるから，銀行の保有する支払い準備金に増減が起こる。金融引き締めのためには中央銀行が公開市場で証券を売ると，銀行の過剰準備金が吸収され，金融は引き締められる。あるいは，支払い準備金が不足する状態となって，市中銀行は中央銀行の貸し出しに依存することになり，公定歩合*政策が有効になる。また金融を緩和する場合には，中央銀行は公開市場から証券を買い入れて，

銀行の支払い準備金を増加させる。

この場合，証券市場の価格がこれによって左右されるので，市場金利を直接に調整する目的でも行なわれる。ビルズ-オンリーといって，売買の対象は短期証券のみに限るべきだという主張もあるが，最近では反対意見が有力である。ことに，公定歩合政策は短期金利に影響を与えるが，長期金利には直接には影響を与えない。公開市場操作によれば，長期債券を売買することによって，長期金利を直接に左右することができる。またオペレーション-ツウィストといって，短期債券と長期債券の一方の購入と他方の売却を同時に行ない，短期金利と長期金利を逆の方向に動かすことも試みられた。わが国も日本銀行が公債・債券類の売買操作を行なっているが，公社債市場が完全に発達していないため，公開市場での売買ではなく，銀行との間の相対売買であって，公開市場操作という条件が十分ではない。〔小泉　明〕

こうがいしどう　【校外指導】　児童・生徒を対象とした学校外における指導。指導者がだれであるかによって三つに大別される。①直接に学校・教師が指導にあたる遠足・夏季施設・修学旅行などの〈校外学校行事〉。②学校と家庭，あるいは地域が協力して指導にあたるPTA主催の子ども会・花火大会など。③指導者が学校の管理外にある青少年団の活動，宗教関係の機関が指導する活動などである。指導内容には，校外生活の正しいルールを身につけさせたり，社会見学や子ども図書館の運営などを通して積極的に教育効果を期待する面と，児童・生徒の非行化防止・交通事故対策など，子どもを保護する消極面とがある。〔福井幸雄〕

こうかいしゅぎ　【公開主義】　訴訟*の審理・判決の内容を一般国民に傍聴させる国家の方針。秘密審理主義に対する。権力者の圧力を排し裁判手続を国民の監視下に置き，公正な裁判を確保するために設けられた自由主義国家の原則。憲法は〈裁判の対審および判決は，公開の法廷でこれを行なう〉(憲法82条1項)と規定し，さらに被告人の〈公開裁判を受ける権利〉を保障している(憲法37条1項)。ただし，裁判内容が公序良俗を害するおそれがある場合は，裁判官の全員一致の意見で非公開とすることを認めている。しかしこの場合でも，判決の言い渡しについては必ず公開しなければならない。また，政治犯罪，出版に関する犯罪および憲法に規定する基本的人権*が問題とされる事件については，この例外は認められない。➔裁判　〔井上公耳〕

こうかいじゅつ　【航海術】　⇨航法

こうかいじょうれい　【航海条例】　イギリスが自国の海運業・産業・貿易の保護育成のために発布した貿易を規制する法律。狭義には1651年O.クロムウェル*が発布した航海条例をさす。14世紀後半以来，外国の船舶を排除しようとする条例はくり返し発布されてきたが，1651年の条例ではイギリスおよびその植民地の商品の輸出入はイギリス船または取引国の船に限るとされた。その直接的目的はオランダ仲介貿易の覇権(はけん)を倒すことにあった。そのため，翌年第1次イギリス-オランダ戦争*が起こった。〔松下京子〕

こうかいどう　【公会堂】　一般市民が主体者となり，講演会・会議・映画会・音楽会などの多人数の集会を行なう公共施設。地方公共団体が所有・管理する。日本では，古い時代から〈会所〉という集会の場をもっており，江戸時代には，名主などの特定の人の集会の場として〈町会所〉が設けられていた。明治になって，公民教育の立場上から大衆集会の必要性が強調されて，それは公会堂あるいは集会所として各所に普及した。中之島公会堂(1919)，日比谷(ひびや)公会堂(1929)などの建設がそれである。しかし，これらの公会堂が真に一般市民のものとなったのは第2次世界大戦後のことである。そして公民館運動の影響により，教育委員会所有の公民館*に切り替えられたものがあり，また，種々の近代的設備が完備されて名称を文化センター・市民会館などと変えたものもある。〔斎藤昌男〕

こうかいどおうのひ　【広開土王碑】　朝鮮，高句麗(こうくり)第19代の国岡上広開土境平安好太王(略して，広開土王・好太王という)の陵側に，414年に建てられた頌徳碑(しょうとくひ)。1882年に発掘され，現在中国吉林省輯安(しょうあん)県城外にある。高さ約6.2mの方柱形で，4面に約1,800字が隷書で刻され，内1,000字の判読が可能で，日韓(にっかん)文献の欠を補う貴重な資料である。碑文によれば，広開土王は西北は燕(えん)と，南は百済(くだら)およびその背後の倭(わ)(日本)と対決し，404年から407年の間に帯方地方に進んだ倭軍を迎撃壊滅させた。〔大庭　脩〕

こうかいにっし　【航海日誌】　航海・停泊中に起こったすべてのできごとなどを記録する日誌。一般にログブックといわれ，船用航海日誌と公用航海日誌とがある。船用航海日誌は，毎日の気象状況，機関回転数，清水と燃料の状況，針路，船位，著名物標，航海状況，航海・停泊中の作業，来賓者，発着港名，発着日時など，航海・停泊を問わず自船に関係ある事項はいっさいを記録しておく書類である。公用航海日誌は，船員法第18条により船内に備えておかなければならないもので，遭難，他船の救助，船内での死亡・出生，懲戒，労働争議，各種操練などに関する事項を書くことが規定され，管海官庁(海運局)に提出して，検閲とともに証認を受けなければならない。〔飯島幸人〕

こうがいはれつしょう　【口蓋破裂症】　胎生期に顔面縫合線の癒合(ゆごう)不全が原因で，新生児の口蓋(口腔(こうこう)の上壁)が破裂し，口腔と鼻腔とが直接通じている状態。その大部分が兎唇*(としん)と口蓋破裂である。原因としては，家族性に30～40％以上の高率で出現する遺伝的因子が最も大きな役割を演じている。次に母体妊娠中のウィルス性疾患・栄養障害・放射線・機械的障害などによる外的因子が発生の原因と考えられるが，最近では催奇形物質が問題となっている。症状は吸乳力不全による栄養障害と言語障害である。すなわち，授乳時にミルクが鼻腔へ回って窒息しそうになったり，乳首が口唇に密着しないので空気が漏れてミルクを吸引することができなかったり，空気が鼻腔から直接抜けてしまうので発音がはっきりしなくなる。治療の最終目的は，満足すべき言語機能をつくり，正常な社会活動を可能にすることである。このためには，手術あるいは，プロテアーゼ*の適用により生理的・解剖的欠陥を修復して言語治療を行なうことである。手術は言語機能の治療に最も有利で，かつ顎(がく)変形をきたさない2～5歳くらいの間に行なわれる。〔清水淑郎〕

こうがいびる　【笄蛭】　扁形(へんけい)動物・渦虫(うずむし)類・コウガイビル科の総称。やや扁平で細長い体をもち，外形はヒルに似るが類縁関係は薄い。頭部が半月葉状に広がり，それに続いてやや細くなった頸部(けいぶ)がある。多数の単眼が，頭部を中心にほぼ全身に分布する。陸上の石の下など湿りけのあるところにすみ，頭部を左右に振りながら，腹面にある歩帯ではう。口は腹面の中央部にある。わが国で最も普通にみられるのは，全体ビロード様黒色で，全長10cm余りになるクロイロコウガイビルで，人家の庭などでもみられる。

こうかいれき　【航海暦】　天文航法を行なうために必要な天体の位置やその他の計算に必要なデータを提供するために編集された暦の総称。わが国では天測暦と天測略暦が海上保安庁水路部から発行されている。天測暦は遠洋または近海区域に就航する船舶を対象とするもので，六分儀*による観測が可能な天体，すなわち太陽，月，惑星4個，および2等星以上の恒星45個を選び，世界時を基準としてこれら天体の赤道座標と，北極星の緯度の毎日の値，北極星の方位角表，日出没表・月出没表などが集録されている。天測略暦は小形船および航空機を対象とするもので，天測暦と編纂(へんさん)方式は同様であるが，精度を落として簡便にできている。主要海運国では各国独自の航海暦を発行しており，英語で〈ノーティカル-アルマナック〉といわれるのは天測暦と大同小異である。〔飯島幸人〕

こうかいれんしゅうせん　【航海練習船】　商船乗組員になる課程を学習している学生が，航海・機関などの実習をするために用いられる船。わが国では，運輸省航海訓練

所所属の船が運航しており，日本丸・海王丸の2帆船と，北斗丸・大成丸・銀河丸・進徳丸・青雲丸の汽船がある。

こうかがく　**【光化学】**　光の作用で起こる化学変化およびこれに関連する諸事項を対象とする化学の一分野。水素と塩素の混合物に日光を照射すると，急速に結合して塩化水素を生成することは，19世紀初めから知られていた。しかし，光化学が近代的様相を整えたのは比較的新しく，1930年ごろからである。光化学反応では，まず分子が光量子のエネルギーを吸収して，いったん反応性に富んだ中間生成物をつくり（初期過程），次いでこれら中間生成物が種々の化学反応を行なったすえ，最終生成物をつくる（後続過程）と考えられている。光としてはおもに可視光線と紫外線が用いられる。光化学反応の効率は1個の光量子の吸収によって化学変化を起こした分子数で表わし，これを量子収量という。量子収量は一般に1前後の値であるが，前記の塩素-水素結合反応では10万に及び，連鎖反応であることを示す。化学反応の種類からみて，光結合（光合成）反応・光分解・光異性化・光重合・光酸化などがある。最近は複雑な有機化合物を対象とする有機光化学が盛んになっている。光化学の工業的利用の最大のものは写真であるが，最近はわが国での発明によるナイロン原料の光化学的製造，その他有機合成反応に応用されている。自然界における植物の炭酸同化作用は最も大規模な光化学反応である。　〔志田正二〕

こうかがくスモッグ　**【光化学スモッグ】**　石油系燃料の排ガス（主として自動車の排気ガス）からの反応性に富む炭化水素（芳香族炭化水素・オレフィン系炭化水素）と窒素酸化物（一酸化窒素NO，二酸化窒素 NO_2）が大気中に蓄積され，それに太陽光線中の紫外線が照射されたとき，その光エネルギーによって起こる光化学反応によって発生するスモッグをいう。1940年ごろ，ロサンゼルスにおいてはじめて発生がみられ，亜硫酸ガスと煤塵（ばいじん）による通常のスモッグと区別してロサンゼルス型スモッグともよばれた。

その発生は気象条件が重要な因子となる。たとえば，風速が弱ったり，気温の逆転が起こって逆転層が形成されたりして炭化水素と窒素酸化物が大気中に拡散されず，その濃度が高いところに晴天の強烈な光線があたると発生しやすくなる。光化学スモッグの主成分をオキシダント*といい，約90%以上のオゾンと0.6%程度のパーオキシアシルナイトレイト（PAN），主として二酸化窒素である窒素酸化物によって構成される。このことから，光化学スモッグによる影響は主としてオゾンによるものと推測されている。光化学スモッグによる植物被害は，ロサンゼルスでは年間800万ドル以上にのぼり，農業関係者に重大な打撃を与えてきた。



航海練習船　運輸省航海訓練所所属〈日本丸〉

オキシダントの植物に対して与える影響は，その酸化作用による葉緑素の破壊，同化作用の抑制，物質代謝の阻害，酵素作用の阻害などにあり，植物の葉は灰白あるいはかっ色の斑点（はんてん）を生じる。オキシダントに敏感な植物はタバコ・ブドウ・トウモロコシ・ミカンなどであり，0.03ppmのオゾンに8時間曝露（ばくろ）するとすでに被害を受けることが報告されている。ゴムや織物類・染料類に対しても，その不飽和炭素結合部をオキシダントが攻撃して，ひび割れを生じさせたり，繊維をもろくさせたり，色素の脱色をさせたりする。この感受性は不飽和炭素結合部の数に比例して高くなっている。

オゾンは紫外線量の多い海岸や山岳地帯に多いことから，オゾンが存在すると健康によいと考えられてきた。しかし，このことは空気中の還元性汚染物質の酸化に対して，オゾンのような酸化性物質がまだ完全に消費されずに残っている状態にあるという意味であり，汚染物質が少なく，空気がきれいであることの指標として利用されているのにすぎない。オゾンの人間に対する急性的影響は，臭気の不快さ，口・鼻・のどの粘膜のかわき，目の刺激，頭痛などから，肺機能の低下，肺充血，肺水腫（はいすいしゅ）までに及んでいる。オゾンは水に対する溶解度が小さいため，上気道（鼻・のど・気管）で吸収されることなく，肺の奥深く侵入して肺胞上皮や毛細血管などを侵すが，一般に0.02～0.05ppmで臭気が知覚され，上気道の粘膜の乾燥も0.1ppmを越えたレベルで始まると報告されている。また，0.6～0.8ppmのオゾンを2時間吸入すると気道の抵抗性が高まり，肺の拡散能力が減少するが，9ppmのレベルでは数か月後までも完全に回復しないような肺充血や肺水腫などの重症状態をつくりだす。動物実験においても，オゾンを吸入させると肺の構造タンパク質（コラーゲンなど）が変性したり，肺の酵素の活性低下を生じさせたりする。さらに，肺胞内のマクロファージ（生体内にはいってきた異物などをとりこんで消化してしまう細胞）の減少とその食作用の低下が報告されている。つまり，病原性細菌を吸入させた場合，オゾンに曝露させなかった動物に比較して感染に対する抵抗力が弱まって病気にかかりやすくなり，また死亡率の増加が生じる。これらのことから，光化学スモッグによるオキシダントの影響が推察される。　〔鈴木孝人〕

こうがく　**【工学】**　自然現象をつぶさに観察し，その現象を必要とする精度の範囲内でできるかぎり単純な方程式で近似的に表現し，その方程式を解いてその現象の時間空間的の挙動を関数形として表現することによってその現象の性質を解析し，これから一般的の法則を見いだして，新しい実用的な造形的技術を開発すること。

すなわち，工学は現象の解析にとどまる理学と異なり，あくまでも実用的でかつ造形的技術を開発するものである。工学は，また，単なる技術*とも異なり，現象を解析して実験式化する操作が含まれている。したがって，科学技術という概念とは似ているが異なる範疇（はんちゅう）にはいるものである。

現代の工学の基礎をなしているおもな学問体系は，力学・流体力学・弾性力学・光学・熱力学・化学・電気磁気学・量子力学・核物理学などであって，これらから派生している工学の分野は，大別して機械工学・電気工学・電子工学・化学工学・建築工学・土木工学・資源工学・原子力工学などである。　〔伊藤　毅〕

こうがく　**【光学】**　光に関する現象を研究し，これを統一的に基本原理から説明する物理学の一部門。大きく分けて幾何光学と物理光学がある。しかし，最近では特に物理光学*の内容が増大したので，光と物質との相互作用や，光の放出・吸収に関する分野を物性光学とし，干渉*・回折*などの光の波動的側面のみを扱う分野を波動光学として独立させるべきだとの意見もある。ほかに光のスペクトルを研究する分光学*がある。古代からルネサンスまでは，幾何光学が光学のほとんどすべてであったが，17世紀にニュートン*やホイヘンス*が出て，光の干渉・回折・複屈折・色などの研究が行なわれ，同時に光の粒子説・波動説の対立する理論が提出されて，物理光学が急速に発展した。19世紀になってヤング*やフレネル*の研究で波動説が確立されたが，はじめはまだエーテルの弾性波として取り扱われ，多くの矛盾を解決できなかった。マックスウエル*の電磁気学の完成とともに，光の電磁波説が生まれ，すべての古典的光学現象が統一的に説明できるようになった。20世紀にはいって，黒体放射，光電効果，スペクトル線の起源など，古典電磁気学のわくをはみ出す現象が次々と発見され，光学の理論もしばらく混乱に陥ったが，量子力学の発展によってこれらの困難は解決され，現在は量子論的光学ですべての光学現象が正しく解明されると考えてよい。➔光　〔吉原邦夫〕

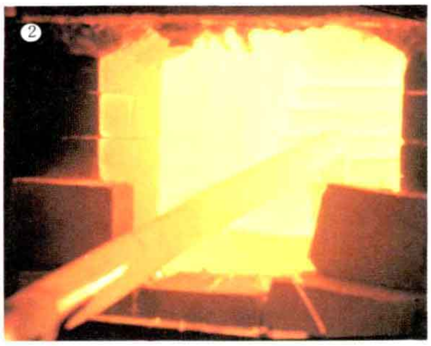
こうがくいせいたい　**【光学異性体】**　⇨立体異性体

こうかくえん 【口角炎】 口角糜爛症(びらんしょう)ともいい，また俗にからすの灸(きゅう)ともいう。口の両角が赤くただれて浅い亀裂(きれつ)を生じ，痛みのため口が開きにくくなる疾患。栄養障害やビタミンB_2の欠乏によるものは舌炎や角膜炎を伴うことが多く，高単位のビタミンB_2が有効。乳幼児や抗生物質を連用した場合，また，衰弱した成人の口角にカンジダ菌が寄生して生じたものは白い小斑点(はんてん)ができ，口腔(こうこう)や舌にも同様の病変が見られる。これからはカンジタ菌が証明され，鵞口瘡(がこうそう)ともよばれ，局所にピオクタニンの塗布が行なわれる。 〔田嶋公子〕

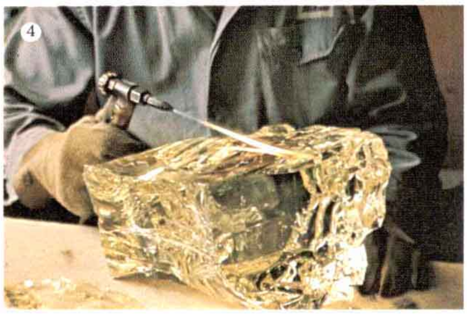
こうがくガラス 【光学ガラス】 プリズム・レンズなどに用いられるガラス。屈折率・分散能などの光学定数の値によって分類すると200種以上に上る。あわ・脈理その他の異物がなくて均質なこと，無色で透明度の高いことが要求される。歴史的には低屈折率・低分散のものをクラウン-ガラス*，高屈折率・高分散のものをフリント-ガラスとよび，後者には酸化鉛が含まれていた。その後，高屈折率・低分散のものも開発され，しだいに品種がふえた。このように種類の多いのは，高級なレンズ系をつくる場合に異種のガラスのレンズを組み合わせて色収差・球面収差その他の像の欠点を除く必要があるためで，口径比1：2のカメラのレンズでは6種類くらいのガラスを用いるのが普通である。➔ガラス 〔境野照雄〕

光学ガラス ①るつぼに原料を入れ溶融する ②均質にするために十分に撹拌する ③常温まで冷却したガラス塊をるつぼとともに割って取り出す ④ガラス塊のあわ・脈理などの欠点部分を除く

①


②


③


④


こうがくきかい 【光学器械】 直進・反射・屈折・干渉など，光学現象を利用して，レンズ・プリズム・反射鏡などの光学部品により構成され，生理眼の能力を助けたり，光学現象の具体的観察あるいは測定などを行なわせる目的で使用される器械や装置の総称。物体の映像を利用して，視力を補助するものとして接眼鏡(ルーペ)・顕微鏡・望遠鏡・双眼鏡など，像を記録するものに写真機・撮影機など，像を再現するために映写機などがある。また，測量用器械にトランシット・六分儀・カセトメーター・経緯儀など，理化学用器械には分光器・光度計・屈折計・干渉計・偏光計・比色計など多数の種類がある。光学器械の発達は，特にレンズ系の設計製造技術によるところが大で，新しい光学ガラスの開発とあいまって，すぐれた光学器械がつくられるようになり，電子工学の発達と組み合わされてその分野は多岐にわたっている。第2次世界大戦後，わが国における光学器械の技術的発展はめざましく，特にカメラなどは世界的に優秀性を認められるようになった。 〔加藤定雄〕

こうがくきょり 【光学距離】 絶対屈折率*がnの媒質中を光線が長さlだけ通過したとき，nlを光学距離という。光の波長は絶対屈折率に逆比例するので，同じ長さでも，その中に含まれる波の数は媒質によって異なる。これは，同じ距離でも光学的な効果の違うことを意味する。光学距離は光の干渉現象を取り扱うとき重要である。干渉による波の強め合いは，二つの光線の通ってきた道筋の光路の差で決まり，幾何学的な長さの差で決まるのではないからである。 〔吉原邦夫〕

こうがくじ 【向岳寺】 山梨県塩山市にある臨済宗向岳寺派の大本山。1380年(天授6・康暦2)抜隊(ばっすい)得勝が庵住(あんじょう)して向岳庵と称したのに始まる。武田(たけだ)氏に保護され，1547年(天文16)武田晴信(はるのぶ)の尽力によって紫衣(しえ)勅許の出世道場となり，向岳寺と改めた。1782年(天明2)火災で大半を焼失したが，蘭溪(らんけい)道隆賛の《達磨図(だるまず)》(国宝)や《抜隊頂相》などがある。

こうかくそしき 【厚角組織】 植物の細胞で，細胞壁の角の部分だけが特に肥厚しているものを厚角細胞といい，それからなる組織を厚角組織という。草本性双子葉植物の茎や葉柄の表皮のすぐ下の皮層の外側に多くみられ，器官の折れ曲がりに抵抗する機械組織である。細胞は生細胞で細胞壁は木化していない。これとよく似た厚膜細胞は死細胞で，細胞壁全体が等しく肥厚し，木化しており，膜孔があって，厚角組織と同様に機械組織をなしている。

こうかくてんのう 【光格天皇】 (1771～1840) 在位1780～1817年。名は兼仁(ともひと)。閑院宮典仁(すけひと)親王の第6皇子。1788年(天明8)，父に太上(だじょう)天皇(➔上皇)の尊号を奉ろうとしたが，老中松平定信(さだのぶ)の反対で実現しなかった。陵墓は京都市の後月輪陵。➔尊号事件

こうかくびらんしょう 【口角糜爛症】 ⇨口角炎

こうかくるい 【甲殻類】 節足動物の一綱。体は頭・胸・腹の3部に分かれ，かつ体節構造を示す。頭と胸の一部または全部が融合して，頭胸部を形成することもある。頭部に第1触角・第2触角・大顎(おおあご)・第1小顎・第2小顎の5対の付属肢(ふぞくし)を備え，胸部の付属肢は摂食用の顎脚と運動用の胸肢となり，胸肢の一部が歩行用の歩脚となることもある。腹部付属肢は，2枚の葉状構造を示す遊泳脚となる。フジツボなどの大形種では石灰質，ミジンコなどの小形種ではキチン質の外骨格で体表をおおう。成体は1対の複眼，幼生は単眼(ノープリウス眼)を備える。呼吸は体表・腹肢またはえらで行ない，排泄(はいせつ)は鰓腺(さいせん)と第2触角の左右に1対備わる触角腺(しょっかくせん)(緑腺)とによる。甲殻類の形態は非常な多様性を示し，甲殻類全体に共通する性質としては，2対の触角をもつということ以外には，ほとんどなにもない。生殖法はミジンコなどの淡水産のものに単為生殖をするものがあるが，ほとんどは有性生殖で，卵の発生は複雑な変態過程を経過する。

甲殻類は高山山頂から深海底まで地球上のほとんどあらゆる場所に生活し，カジキシラミ・イカリムシ・フクロムシなどのように寄生生活をするものや，フジツボ・カメノテなどのように固着生活をするものも少なくないが，大多数は泳ぐ，はう，はねるなどの運動方法による自由生活を送る。大多数は水生で，ワラジムシ・オカダンゴムシなどの陸上生活をするものもわずかながらある。ウミホタル・サクラエビなどのように発光するものもある。大きさは甲殻類中の最大種で全長3mに及ぶタカアシガニから，体長1mm程度のミジンコのような小形のものまで，あらゆる大きさにわたっている。カンブリア紀以後に化石が現われ

る。現生種は約25,000。カニ・ヤドカリ・エビ・オキアミ・ワレカラ・シャコ・アミ・ミジンコ・コペポーダ・フジツボなどが含まれる。直接人間の食用となるものも多いが，人間にとって間接的ながら魚類・海獣類・クジラ類などのえさとして，重要な役割を果たすものが多い。〔菅野　徹〕

こうがけ【甲掛け】手・足の甲部に掛ける布製品。旅行や労働に際して，手・足の保護やどろよけに用いる。足の甲には，足底を取り去ったたびのような形の甲掛けを使用し，わらじのひもですり傷がつくのを防いでいる。江戸時代の旅装として武士は紺のたびを用いたが，庶民はおもに甲掛けを用いることが流行した。古くは皮やアサでつくったが江戸時代から紺もめんを使い，まわりに紺糸を刺して補強した。なお，〈はんぞこ〉とよばれるたびの前半分の形のものも甲掛けの一種である。手の甲にかけるものは手甲*(てっこう)とよばれる。〔合田　濤〕

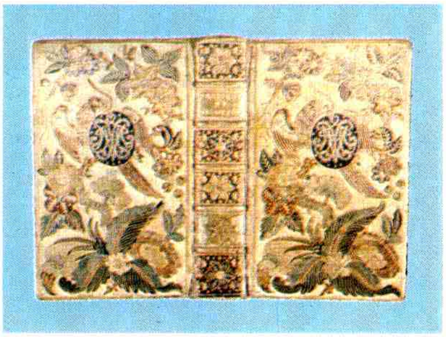
こうがさぶろう【甲賀三郎】信州(長野県)諏訪(すわ)地方を中心に分布している伝説上の人物。ふたりの兄の悪意によって蓼科(たてしな)山中の深い穴に閉じ込められた甲賀三郎は，久しい年月の間，地底の国々を回歴したのち，大蛇(だいじゃ)の姿となって生国に帰り，最後には諏訪大明神として祭られたという筋のもの。近江(おうみ)(滋賀県)・常陸(ひたち)(茨城県)などにも散在しているこの伝説には，次の二つの主題がある。①末弟である三郎が困難を克服して最後に成功する点では昔話に多い兄弟話*と関連している。②人が蛇体となって水神に祭られるということは，十和田湖の八郎をはじめとして各地に数例ある八郎大明神の伝説などと関連している。〔山路勝彦〕

こうがさぶろう【甲賀三郎】(1893～1945) 小説家。本名春田能為。滋賀県の生まれ。東京大学工学部卒。論理的興味を主にした作品が多く，本格派推理小説作家の代表的存在。代表作に《琥珀(こはく)のパイプ》《姿なき怪盗》《支倉(はせくら)事件》がある。

こうかじょうやく【江華条約】⇨日鮮修好条規

こうかてつどう【高架鉄道】大都市で，多数の車両を高速度でひんぱんに運転する必要上，また道路との平面交差を避けるために，地上高く構築した鉄道。構造には盛り土式のものと高架橋とがある。

こうかとう【江華島】カンホワ島　朝鮮半島中西部，京畿(けいき)道の漢江河口にある島。面積293km²。人口約15万(推定)。落照山など300～500mの丘陵地と，周辺の沖積地(ちゅうせきち)よりなる。中心集落の江華は，古来京城四鎮の一つとされる要衝であり，高麗(こうらい)時代から江華とよばれ，県が置かれた。1232年，蒙古軍(もうこぐん)侵入の際は都を開城からここに移して江都と称し，以後約30年間高麗の首都となった。高麗版大蔵経は，このころ，ここでつくられた。李朝(りちょう)時代には都護府が置かれ，史庫が設けられ，1627年，清(しん)軍の侵入の際には王の避難所になったことがある。そののち，19世紀後半には列強との紛争の地となり，1866年フランス艦隊に，1871年アメリカ合衆国艦隊に占領され，1875年には日本との間に江華島事件*が起こり，翌年，江華条約(日鮮修好条規*)が調印された。〔船越昭生〕



豪華版　フランス-モザイク装丁。中国ふうの図案を取り入れている。1750年ごろ

こうかとうじけん【江華島事件】1875年(明治8)9月，日本軍艦雲揚が江華島*付近で砲撃を受けた事件。朝鮮との開国交渉が進展しないため武力挑発(ちょうはつ)を計画した日本は，航路測量を名目に示威演習で故意に領海*に侵犯した。そのため朝鮮側の砲撃を受けたのがこの事件である。事件を機に翌年日本は黒田清隆(きよたか)らを全権として朝鮮に派遣し，日鮮修好条規*を調印させた。朝鮮は清(しん)国側の圧力もあってやむなく開国し，日本はここに朝鮮侵略の第一歩を開始した。〔千野境子〕

こうがはん【甲賀藩】⇨三上藩

ごうかばん【豪華版】出版物のうち，特に出版部数を少なく限定し，装丁・用紙などを豪華にしたもの。フランスの〈エディシオン-ド-リュクス〉は，部数を限定し，用紙・活字・さし絵・印刷を入念に選んだものだが，一般に紙装の略装本とし，本装丁は読者の趣向に任せることが多い。なお，イギリスやフランスには読者の趣向に応じ，ときには宝石などをちりばめた手工的美術製本を生み出す技術者がいる。➔限定版

こうかびょう【硬化病】糸状菌の寄生によるカイコの病気の総称。この病気にかかると死体が硬化する。病原である糸状菌は10種類以上知られており，おもなものは白殭病(はくきょうびょう)・緑殭病・黄殭病・黒殭病・こうじかび病などである。病原体の胞子はカイコの皮膚から感染して体内で増殖し，脂肪体・マルピーギ管・絹糸腺(けんしせん)その他の主要器官を冒す。消毒にはホルマリン，高度さらし粉およびセレサン石灰などを用いる。〔赤井　弘〕

こうがぶんめい【黄河文明】中国の黄河中・下流域に発達した古代文明。エジプト・メソポタミア・インドのそれとともに，古代世界における四大文明の一つに数えられる。中国の黄土(➔レス)の成因は，オルドスの黄河氾濫原(はんらんげん)に堆積(たいせき)した土砂が洪積世(こうせきせい)の乾燥期に西北風によって各地に運ばれたものであり，これはすでに数万年もまえのことである。いったんこうしてできあがった黄土は，黄河やその支流によって下流に運ばれ，次成黄土の大平原を形成した。したがって，シナントロプスの時代はもちろん，それに続く旧石器時代にはまだ中国に黄土は存在していなかったのである。一般に，黄河文明はこの黄土層の上に発展した新石器文化をさし，黄土文明ともいわれる。黄土は均一な微粒子からなり，肥沃(ひよく)で水分を吸収しやすく耕作に適しているところから，中国の農業はまず黄土地帯に発生した。この新石器の農耕文化を代表するのが，黄河中流にまず発達した彩陶文化と，遅れてその末期に下流から東部海岸地方にかけて興った黒陶文化である。

彩陶文化はBC3000年ごろから1世紀半ばかり続いたもので，最初の発見地である河南省澠池(べんち)県の仰韶(ぎょうしょう)村の名をとって仰韶文化ともいう(➔仰韶遺跡)。赤かっ色の胎土に紫や黒で幾何学紋などを描いた素焼きの土器を特徴とし，これは，すでに農業が盛んに行なわれていたことを示す。新中国になって発掘された陝西(せんせい)省の西安に近い半坡(はんぱ)村では，かなり大きな村落と住宅跡が発見されている。彩陶文化の末期にその継続として東方に興った黒陶文化は，黒色でやや光沢のある陶器を特色とし，その最初の発見地が山東省の済南に近い龍山鎮(りゅうざんちん)であるところから龍山文化*ともいわれる。そこには土築の城壁の跡もあり，黒陶の中には青銅器の原型とみられるもののあること，卜占(ぼくせん)に使ったウシやシカの骨が発見されたことから，殷(いん)に直接先行する文化であるという見方が強く，黒陶文化こそ伝説の夏王朝ではないかという仮説も提出された。中国最古の歴史王朝である殷は，この彩陶・黒陶文化の基礎の上に青銅文化を発展させたもので，黄河の中・下流域にわたってその文化を拡充させた。周は殷のあとを受けてさらにこれを発展させ，いっそう広い地域に浸透させた。しかし，紀元後も数世紀にわたって中国文化の中心地は黄河流域であり，その根幹は黄河文明であった。それが時代とともに南に進み周辺にも広がったのであり，中国の歴史は黄河文明の発展史であるといえる。〔日比野丈夫〕

こうがもの【甲賀者】甲賀衆・甲賀組ともいう。近江(おうみ)(滋賀県)甲賀郡の士。鎌倉時代から地侍として活動し，戦国時代には守護佐々木氏に従って戦功があった。中世以来，山中氏らを中心に強固な結合を保ち，江戸時代には館地を保有し，侍

分としての特権を認められていた。伊賀者(いがもの)とともに忍者として有名であるが，詳細は不明。

こうかゆ　【硬化油】　動物性あるいは植物性脂肪油を水素添加して得られる白色の固形脂肪。かすかに特異の臭気と緩和な味をもち，溶融すると透明な液体になる。原料油としては，廉価な魚油のほかに鯨油・大豆油・綿実油などを使用し，これらの成分である不飽和脂肪酸グリセリドを，還元ニッケル触媒を用いて約180℃で水素添加を行ない，飽和脂肪酸グリセリドとする。せっけん・マーガリン・ろうそく・軟膏(なんこう)・化粧品・光沢剤の製造に用いられる。〔岡部平八郎〕

こうかろん　【黄禍論】　19世紀末，ドイツ皇帝ウィルヘルム2世が唱えはじめた黄色人種排斥論。ヨーロッパ文明に対する黄色人種の脅威に対して，白人を中心とする諸国が一致して対抗すべきだというもの。独・仏・露の日本に対する三国干渉はその最も露骨な政治的な現われであるが，アメリカ合衆国・メキシコ・オーストラリアなどにおける東洋人移民の排斥などもこの思想の別な現われであり，後者の場合には東洋人に対する蔑視(べっし)・偏見とも結びついている。〔鈴木二郎〕

ごうがわ　【江川】　江ノ川ともいう。広島県東北部山地の水を集め，中国山地を横谷をなして横断し，島根県中央部の江津市で日本海に注ぐ。流程206km。三次(みよし)盆地で馬洗川・西城川・神野瀬(かんのせ)川・可愛(えの)川などが合流するので，三次は水郷とよばれ，春秋に現われる〈霧の海〉は有名である。古くから山陽・山陰を結ぶ水路として利用され，三次・粕淵(かすぶち)(邑智(おおち)町)・川本や河口の江津は河港として発達した。〔長津一郎〕

こうかん　【後漢】

1　→漢1

2 中国，五代の一王朝(947～950)。劉知遠(りゅうちえん)(高祖)・承祐(しょうゆう)(隠帝)の2代。国都は開封。劉知遠は突厥(とっくつ)族沙陀(さだ)部の出身で，後唐の明宗に仕え，後晋(こうしん)時代には太原を支配していた。後晋末の混乱に乗じて即位したが，わずか4年で部下の有力者郭威に国を奪われた。北漢はその一族が建てた国。

こうかん　【交換】

1 異なった経済主体間の財の取引をいう。経済社会の生産構造が複雑になってくると，そこに働く人々はある特定の仕事に従事するようになり，社会的分業が成立する。このような経済社会では各人の専業によって生まれた財貨はある特定の用途をもつものに限られ，人間の経済生活に必要な財貨は交換によって獲得されることになる。交換という手段は分業体制が発達している社会には必要不可欠なものであり，交換は諸財のもつ使用価値を交換価値に変換することであるから，価値の伝達を表わすことになる。交換には物々交換と，貨幣その他の価値尺度を媒介とした間接交換とがある。市場は交換が行なわれる場であるが，社会的分業の発達した社会における市場は物々交換よりもある客観的価値尺度(貨幣)が交換の中心的役割をになうようになる。〔藤枝省人〕

2 当事者双方が互いに金銭以外の財産権を移転する契約をいう(民法586条)。双方が金銭以外の財産権を移転する点で，当事者の一方が金銭を給付する売買と異なる。しかし，交換は有償契約であるから売買の規定がそのまま準用される(民法559条)。〔黒木三郎〕

こうかん　【鋼管】　鋼製の管。一般に極軟鋼(炭素含有量0.15％以下)ないし軟鋼程度の炭素鋼でつくられるが，ニッケル・クロム・タングステンあるいはモリブデンなどを含む合金でつくるものもある。製造法と仕上がり形状によって継ぎ目なし鋼管と鍛接・溶接鋼管に大別される。前者は，鋼塊あるいは鋼片をロールまたはプレスにかけて穴あけした中空の粗材を，さらに圧延あるいは押し抜き作業によって引き延ばしたもの。後者は，帯鋼または鋼板を曲げて，鍛接または溶接によって継ぎ目を接合したものである。また，加工が加熱して行なわれるか常温で行なわれるかによって熱間仕上げ鋼管と冷間仕上げ鋼管に分けられる。用途としては，配管用・ボイラー用・化学用・油井用・構造用・輸送用・電線保護用・高圧容器用など。〔長谷川正義〕

こうがん　【睾丸】　精子形成と男性ホルモン生成の器官。長く医学用語としても用いられてきたが，近年生物学用語の精巣に統一された。ただし睾丸炎・副睾丸炎という名称が臨床ではいまなお使用されている。→精巣

ごうかん　【合巻】　草双紙(くさぞうし)の一種で，黄表紙から発展したもの。名称は，作品の長編化に伴って，従来の3冊1部単位から何冊もとじ合わせて出版されたことに由来する。式亭(しきてい)三馬の《雷太郎強悪物語(いかずちたろうごくあくものがたり)》(1806)以後，明治初年まで続いた。その作風は，黄表紙の洒落(しゃれ)・滑稽(こっけい)・うがちを主とするものから，かたき討ちを主題とした長編小説的構成へと変わり，文章・さし絵ともに緻密(ちみつ)となった。代表作としては，歌舞伎(かぶき)の趣向を借りた柳亭種彦(たねひこ)の《偐紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)》があげられる。〔小池正胤〕



合　巻
柳亭種彦著《偐紫田舎源氏》のとびら絵

こうがんえん　【睾丸炎】　睾丸の炎症。比較的まれな病気で，細菌が血管・リンパ管・輸精管を通じて上行性に睾丸に到来して起こる。一般的なブドウ状球菌や大腸菌などで生ずることは非常に少なく，思春期以降に流行性耳下腺炎(じかせんえん)(おたふくかぜ)になると併発することがある。睾丸組織の浮腫(ふしゅ)と陰嚢(いんのう)水腫のために精管が圧迫されて萎縮(いしゅく)し，不妊症(無精子症)となることがある。

こうかんかち　【交換価値】　資本主義社会において商品は，人間の欲望充足に役だつ使用価値をもつだけでなく，それと引き換えにさまざまの他の商品と交換できる値うちをもつ。この値うちが交換価値である。たとえば，10kgの米は x 量ののり，y 量の茶，z 量のくつなどと，さまざまな比率で他の諸商品と交換することができる。このように，米が多様な交換価値をもっていることは，それぞれの諸交換価値がその背後に相互に相等しいものをもっているということを意味している。この〈相等しいもの〉とは，それぞれの商品の使用価値とは別個の，無差別の人間労働力の支出が凝結したものとしての〈価値〉である。この価値が交換価値の本質であり，交換価値は価値の現象形態である。価格は交換価値を貨幣で表わしたものにほかならない。→価値形態〔常盤政治〕

こうかんこん　【交換婚】　おもに未開社会にみられる婚姻制度の一形態。厳密には姉妹交換婚という。未開社会における婚姻は経済的な機能と密接に結びついており，花婿・花嫁双方の家族・親族を満足させる婚姻の要件のさまざまな形態が存在する。最も一般的なものは婚資といわれ，花婿とその身内から結婚に際して花嫁とその身内に送られる財貨である。婚資に代わって，あるいは婚資を補うものとして姉妹を相互に交換し合うのが姉妹交換婚である。〔森部　一〕

ごうかんざい　【強姦罪】　13歳以上の婦女を暴行や脅迫によって姦淫(かんいん)(性交)する罪。相手が13歳未満の女子であれば，暴行・脅迫によらなくても強姦罪が成立する(刑法177条)。性交を目的としない場合は強制猥褻(わいせつ)罪に該当する。刑は2年以上の有期懲役で，未遂も罰せられる(刑法179条)。この罪は被害者側の告訴によって処罰されるが(刑法180条)，2人以上現場で共同して強姦したとき(刑法180条2項)，強姦の際に打撲傷などの傷害を与えたり，死亡

させた場合(刑法181条)は，告訴がなくても処罰される。暴行や脅迫が相手の反抗を抑圧する程度のものであったり，相手の明示・黙示の承諾がある場合は(和姦)本罪を構成しない。相手が泥酔(でいすい)・昏睡(こんすい)・病気などで心神喪失または抵抗不能の状態であれば，暴行・脅迫を用いずに姦淫しても，準強姦罪(刑法178条)として本罪と同じに罰せられる。〔野口恵三〕

こうがんしゅよう【睾丸腫瘍】 睾丸に生ずる腫瘍の総称。悪性のものが多く，この大部分は精子をつくっている精上皮細胞から発生する。セミノーマ・胎生癌(がん)・奇形癌・絨毛(じゅうもう)上皮癌，あるいはそれらの混合したものなどはいずれも悪性で，早期に腹膜の後方にあるリンパ腺(せん)へ転移する。症状としては，睾丸にかたいはれものを触れたり，睾丸自体が大きくなるので気づく。6か月以上放置すると，手術しても手遅れになる。〔大黒田和生〕

こうかんしんけい【交感神経】 内臓・血管などに分布し，個体および種族維持のために必要な機能を無意識かつ反射的に調節する神経。副交感神経とともに自律神経系を構成し，通常，副交感神経とは拮抗(きっこう)的な働きをしている。たとえば，交感神経は心臓の拍動を促進させるのに対し，副交感神経はこれを緩徐にさせ，腸管の運動や腺の分泌に関しては前者は抑制的に，後者は促進的に働いている。交感神経は胸腰系，副交感神経は頭仙(とうせん)系といわれるが，これはそれぞれのノイロン*が前者の場合は胸髄と腰髄の側柱(→脊髄(せきずい))にあるのに反し，後者の場合は間脳を除く脳幹(→脳)と仙髄の側柱から始まるからである。なお，両神経ともに中枢は視床(→脳)の下部にある。➔自律神経系〔幡井　勉〕

こうかんせいがんえん【交感性眼炎】 受傷眼から健康な他眼に転移する眼内の炎症。片眼の穿孔創(せんこうそう)や手術創後にまぶしさ・流涙・視力障害などを伴うブドウ膜(虹彩(こうさい)・毛様体・脈絡膜の総称)の炎症を起こしてくると，受傷後約1～2か月後，健康な他眼にも同種の炎症を見るようになる。この際の受傷眼を起交感眼，誘発された他眼を被交感眼とよぶ。病状が進行すると，瀰漫(びまん)性脈絡網膜炎・視神経炎・網膜剝離(はくり)・緑内障・白内障などを併発して，ついには失明することが多い。そのほか全身症状として頭痛・嘔気(おうき)・耳鳴・難聴・毛髪白変などがあげられる。原因には，ウィルス説・アレルギー説・結核説などがあるが不明である。治療は受傷眼のブドウ膜炎に対する薬物療法を主とするが，2～3週後になお炎症が去らぬ場合には，他眼に対する予防的意味で，受傷眼摘出を行なうのが望ましい。〔納富教雄〕

こうかんそうごさよう【交換相互作用】 二つの原子間に生ずる相互作用。二つの原子*が数オングストローム程度の距離まで接近すると，それぞれの原子に所属していた電子*はどの電子がどの原子に所属するといったような区別を失い，二つの原子のまわりをいっしょに回ることによってこの二つの原子を結びつける場合がある。たとえば，2個の水素原子が，2個の電子を共有することによって1個の水素分子をつくるのはこの場合にあたる。二つの原子に共有される二つの電子のスピン磁気モーメントが互いに平行であるか反平行であるかによって，全体としてのエネルギーが違い，二つの原子のエネルギー差は交換積分とよばれる量で表わされる。この交換積分が，交換相互作用の大きさを表わしている。交換相互作用の本性は，量子力学*によらねば説明できない。強磁性体*に原子の磁気モーメントが全部平行になって自発磁化が現われることがあるのも，この相互作用によっている。〔中野藤生〕

こうかんちく【公館地区】 都市において中枢的機能を果たす地区で，市役所・議事堂・裁判所などの諸官公庁や図書館・公会堂その他の文化的諸施設が集中している地域をさす。これらの諸施設は，その公共的性格や都市美上の配慮から，一定の地域に集中して設けられることが多い。

こうかんちょう【紅冠鳥】

1 鳥類・ホオジロ科。ブラジル・アルゼンチンなどに分布する小鳥で，ブンチョウよりもやや大きく，顔・頸部(けいぶ)・頭部は鮮紅色で，後方に伸びる冠毛がある。下面は白色，背面は灰色で，あっさりした配色を示す。

2 ホオジロ科のうちアメリカ大陸にのみ分布する一亜科の総称。主として熱帯産。北アメリカ産のショウジョウコウカンチョウ(カージナル)は全身紅色で美しく，庭にも来るのでよく知られている。〔安部直哉・浦本昌紀〕

こうかんちょうかいぎ【公館長会議】 日本の在外公館*の長の会議。西欧とか中近東などの一部地域のそれぞれの公館の長(大使・公使)が集まり，また外務省からも一定数の担当官を派遣して，日本とそれぞれの地域の諸国との政治・経済・経済協力・文化・啓発などの諸問題について意見や情報の交換を行なうものである。各地域ごとに少なくとも年1回開かれる。

こうかんぶんごう【交換分合】 分散している農地を一か所に集め，管理能率を高めるための処置で，土地改良法の一部。農業経営を合理化し，農業生産力を発展させるために，権原に基づき耕作の業務を営む者2人以上が，耕作の目的に供している農地を含む一定の農地を定めて，農地に関する権利並びにその農地の利用上必要な土地に関する権利，農業施設に関する権利，および水の使用に関する権利を相互に交換または分割・合併する。この際，その農地について所有権・地上権・永小作権・質権・貸借権または使用貸借による権利を有する者の2分の1以上の同意を得なければならない。土地の生産条件が異なるため多くの困難を伴う場合が多い。〔金木良三〕

こうかんほうそく【交換法則】 ⇨計算法則

こうがんやく【抗癌薬】 ⇨制癌物質

こうかんゆけつ【交換輸血】 おもに赤芽細胞*増多症による重症の新生児黄疸*(おうだん)の際に行なわれる輸血*。脱血しながら同時に輸血する方法と，脱血した分だけ置換する方法があり，新生児の頭部の縦走洞(じゅうそうどう)などから脱血し，他の静脈より新鮮なRh^-(→Rh式血液型)の血液を輸注する。あるいは新生児の全血液をRh^-の新鮮血と置換する。最近，重症肝不全ことに肝性昏睡(こんすい)の際にも交換輸血が行なわれている。〔三島好雄〕

こうき【口器】 節足動物の口の周囲にあり，食物の摂取と咀嚼(そしゃく)に用いられる。こん虫では3対の口肢(こうし)と1個の上唇(じょうしん)を総称する。典型的な口器は上唇・両上顎(じょうがく)(大腮(たいさい))・両下顎(小腮)・下唇よりなっている。機能の点からみれば，基本となる口器は嚙咬(しこう)口器であるが，そのほか舐食(ししょく)口器・吸吮(きゅうせん)口器・螫刺(せきし)口器などがある。甲殻(こうかく)類や多足類では不対の上唇，1対の大顎，1対の第1小顎と第2小顎が口器となり，高等な軟甲類や多足類ではこれに何対かの顎脚が加わっている。クモ類には口器とよばれるものはなく，剣尾類の口器は胸脚基部の内突起が口の周囲を取り巻いたものをいう。こん虫の中でも，カゲロウやガなどのように生存時間の短い成虫などでは口器は退化している。〔蒲原春一〕

こうき【紅旗】 中国共産党*中央委員会の機関誌。半月刊。1958年6月1日北京(ペキン)で創刊。創刊号の発行部数は760万余。創刊以来，陳伯達が編集長。〈イデオロギーの戦線でのたたかいを十分に，全面的に，深く突っこんで展開する〉ための理論誌である。なお，中国語以外にモンゴル語・チベット語・ウイグル語・朝鮮語版もある。

こうきあつ【高気圧】 大気中で，周囲に比較して気圧の高い所。温暖高気圧*・寒冷高気圧*・移動性高気圧*に大別される。温暖高気圧は，力学的原因によってできる背の高い高気圧で，周囲に比べて気温が高く，上空まで高気圧になっている。小笠原(おがさわら)高気圧*はその例。寒冷高気圧は，冬季に大陸が冷却するため，地表に接触する空気が冷やされてできるもので，地上では高気圧でも上空では高気圧が消えている背の低い高気圧である。シベリア高気圧*はその代表的な例。以上二つの高気圧はあまり移動しないが，低気圧と同じように移動する高気圧がある。大きさは上の二つに比べて小さく，楕円(だえん)形のものが多い。この種のものを移動性高気圧*といい，シベリア高気

圧などからちぎれるようにしてできるものと，偏西風の波動に伴うものとがある。高気圧におおわれた地域は風が弱く，天気がよいのが普通であるが，移動性高気圧の周辺ではあまり天気がよくない。〔曲田光夫〕

こうきいんしょうは　【後期印象派】 ⇨印象派

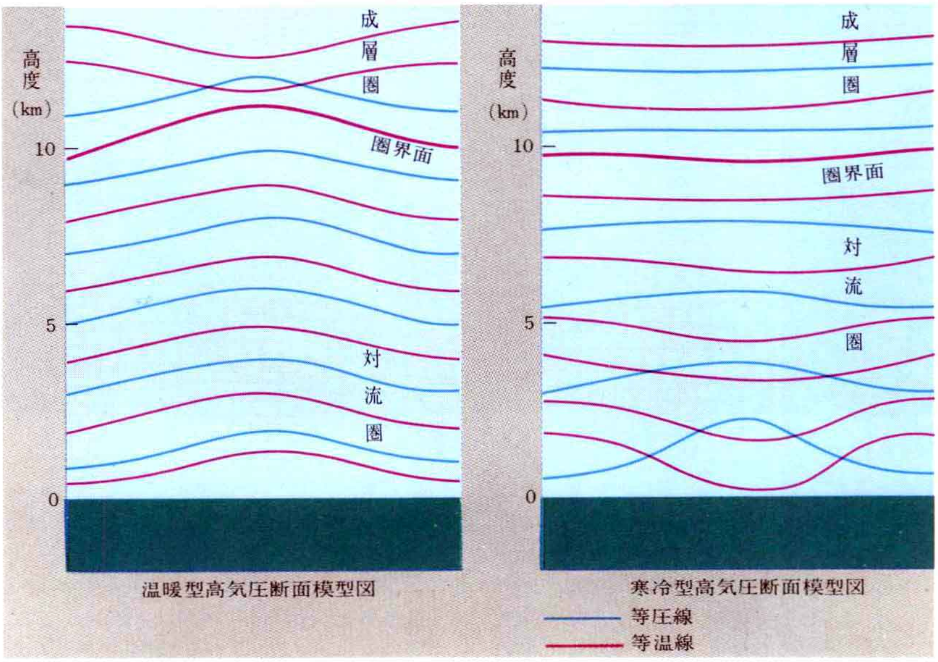
こうきかせいさよう　【後期火成作用】 マグマが固結する際，マグマの大部分（90％以上）を構成する不揮発成分から火成岩が生成され，残液として揮発成分が集中する。したがって，火成岩を生成したマグマ固結の末期において，気成作用・熱水作用などが起こる。これらの作用を総称して後期火成作用といい，これから鉱床が生成される。

こうきぎょう　【公企業】 国家または地方公共団体が資本金を全額出資している公有企業をいう。公有公営の行政企業，公有私営の会社形態をとる企業，公共企業体などがある。全体的な社会・経済活動に必要であっても，私企業では企業採算が困難でその進出が期待できないような事業を担当し，私的独占の弊害の発生を防ぎ，国家や地方公共団体の財源を供給する機能をもつ。なお，最近は公企業においても経営合理化のために独立採算制ないし企業性を導入する傾向にある。〔加藤　寛〕

こうきじてん　【康熙字典】 中国，清朝（しんちょう）の張玉書らが康熙帝の命によって編した字書。1710年成立，1716年勅定本刊行。明（みん）の張自烈の《正字通》の前例を参考にして全12集（各集3巻），214の部首を設け，部首・部中ともに筆画順に配列してある。各字の下に《唐韻》《集韻》《韻会》《洪武（こうぶ）正韻》などの反切をつけ，次に訓解・別音・別義・古音などを付する。典拠を引用して考証した際には案語をつけ，また字ごとに古体・別体・俗字・誤字などを示した。のち，王引之（おういんし）が2,000余か条の訂正を加え，中国にも日本にも版本は多い。収録字は40,000を越え，旧型式の実用向き字書としてはとりわけ精密なものである。〔藤堂明保〕

こうぎしょ　【公議所】 明治政府の立法機関。1869年（明治2）各藩推薦の貢士（議事官）対策所（下局の改称）が廃止されたあと，諸藩の執政・参政の中から公議人（任期4年，2年ごとに半数改選）を選出して設置された。定例会議を開き，政府諮問事項を審議し，議員も議案提出権をもっていた。4か月で集議院と改称され，議員の提案権はなくなり，議題は太政官（だじょうかん）諮問事項に限定された。

こうきしん　【好奇心】 もっと知りたい，近づきたいという願望を起こさせる内的動機。驚き・疑問・期待などから発し，それによって，探究の行動が活発になる。近年この作用を教育・学習に活用しようとする試みがなされている。



高 気 圧

ごうぎせい　【合議制】 広くは，多数の協議をもって機関の方針・結論を決定する制度。個人の独裁的決定を防ぎ，官僚主義化の危険を防ぐ目的で設置されるが，行政の政治的中位性を確保することが特に必要な場合にのみ採用される。ほとんどの裁判所，各種の委員会がこの例である。

こうきせいきん　【好気性菌】 遊離酸素の供給がなければ増殖できない菌をいう。厳密な意味での好気性菌は少なく，多くは嫌気（けんき）状態でも発育がやや遅れる程度の通性嫌気性菌である。ともに0.3〜0.4Vくらいの酸化還元電位で増殖し，チトクロム系酵素・カタラーゼを有して酸素呼吸を行なう。代表的好気性菌に結核菌がある。

こうきちゅうとうきょういく　【後期中等教育】 義務教育（中学校）修了後の15〜18歳の青少年を対象とする高校教育・勤労青少年教育の総称。1960年（昭和35）ごろから使われはじめた。今世紀初頭以来，欧米諸国においては義務教育年限を延長して，それまでは〈すべてのものに中等教育を〉というスローガンが，〈すべてのものに完全な中等教育を〉へと発展した。これは，社会一般の高度の教育要求と，技術革新に伴う時代の新しい質の労働への転換に見合う教育として，一般的・基礎的学力を重視する傾向にささえられたものである。第2次世界大戦後，わが国の新学制（六三制）はほぼ同様の理想をめざして発足したが，1959年経済審議会の答申による国民所得倍増計画の一環として，後期中等教育の構想が出された。これは，1966年に中央教育審議会が答申した〈後期中等教育の拡充整備について〉に継承され，中等教育のわくを学校教育に限らず，高校のほか各種学校・会社教育などの分野での青少年教育全体を後期中等教育の中に含めている。しかし，そこでは，後期中等教育の理念が明らかにされず，その目的・性格・教育内容・教育課程についての明確さを欠き，未解決の問題を内包している。〔赤司政雄・浜田陽太郎〕

こうきてい　【康熙帝】（1654〜1722） 中国，清朝（しんちょう）第4代の皇帝。聖祖ともいう。康熙は年号。1661年即位し，61年間在位した。この間三藩の乱を平定し，台湾の鄭（てい）氏を滅ぼし，アムール地方に進出したロシア人を駆逐してネルチンスク条約を結び，ジュンガル部と戦って外蒙古（もうこ）や青海・チベットを服属させるなど輝かしい武功をたて，中国全土を確実に掌握するとともに，その領土を拡大した。一方，内政でも黄河の治水や漕運（そううん）の整備に努めるとともに学問を奨励し，《古今図書集成》や《康熙字典》の編纂（へんさん）など文化事業をも起こした。また，イエズス会宣教師を用いて西洋科学を伝えさせ，彼らに全国を測量させて〈皇輿（こうよ）全覧図〉をつくるなど積極的な政策を推進し，清朝の確固たる基礎を築いた。〔谷口規矩雄〕

こうきゅう　【光球】 太陽の光り輝いて見える表面。太陽は全体が温度の高いガスのかたまりで，中心から外側に向かって密度・温度・圧力などの物理的状態が徐々に移り変わっているため，地球の表面のようにはっきりした境界はない。われわれが太陽の表面と見ている光球も，実は厚さが数百キロメートルのガスの層である。光球を構成しているガスの温度は約5,000℃，密度は地表上の空気の数百分の1以下にすぎない。黒点や粒状斑（りゅうじょうはん）は光球に現われる現象である。〔守山史生〕

こうきゅうアルコール　【高級アルコール】 分子量が大きなアルコールの総称。炭



皇　居

素数6個以上のものをよぶことが多い。抹香(まっこう)鯨油・いるか油・鯨ロウ・ラノリン・蜜(みつ)ロウ・カルナウバロウの油脂やロウの主成分として動植物界に見いだされる。多くは脂肪酸とのエステルとして含まれ，前記の油脂やロウを加水分解して得られる。中性の物質で，炭素数や不飽和度により液体から固体まであるが，ロウ状のものが多い。軟膏(なんこう)基剤・化粧品・洗浄剤・乳化剤・光沢剤などの原料とし，可塑剤として使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

こうきゅうしぼうさん　【高級脂肪酸】 脂肪酸(カルボン酸)のうち含有炭素数の多いものの総称。グリセリンや高級アルコールとともに油脂やロウを形成，動植物界に広く分布する。これら動植物に存在する脂肪酸の炭素数は4～36で，偶数である。常温で固体状の脂肪には，カプリン酸・ラウリン酸・パルミチン酸・ステアリン酸などを中心とした飽和高級脂肪酸が多く含まれている。常温で液体状の脂肪油には，オレイン酸・リノール酸・リノレン酸・いわし酸などの不飽和高級脂肪酸が多く含まれている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

こうきょ　【皇居】 天皇の住居のある所。1868年(明治1)10月13日明治天皇は京都から江戸に行幸，江戸城を皇居と定め，東京城と称した。1873年皇居が焼失し，一時赤坂離宮を仮皇居と定めてここに移ったが，1889年皇居内に再建された宮殿に移り，皇居を宮城と称することとなった。1945年(昭和20)5月宮殿は戦災で焼失し，宮内庁の一部を仮宮殿にあてて，両陛下の仮住居を吹上御苑(ふきあげ)内の御文庫に移した。1948年以降宮城の名称は廃止され，再び皇居とよばれるようになった。1961年御文庫に接した吹上御所が完成すると，両陛下の住居をこちらに移し現在に至っている。1967年10月新宮殿が完成し，仮宮殿で行なわれていた公式の儀式，祝宴場は翌年4月から新宮殿で行なわれるようになった。

東京都千代田区のほぼ中央に位置し，面積約115万m²で，天皇・皇后両陛下の住居〈吹上御所〉のある吹上御苑，諸儀の行なわれる新宮殿のある西の丸および皇居東御苑のある東地区に分かれている。なお，皇居東御苑(約21万m²)は特に宮中行事に支障のないかぎり，一般に公開されている。〔小林亥助〕

こうきょ　【康居】 中国，漢・魏(ぎ)代の史書にみえる，シル川下流域を本拠としたトルコ系遊牧民族およびその国。東西通商路の要点を占めたため，早くから有名であった。12世紀にキプチャク汗国に滅ぼされたペチェネグ族はその後身である。

こうきょう　【好況】 景気変動の一局面として，事業が活況を呈し，労働の雇用量がふえ，経済が繁栄している状態をいう。好況の時期には，一般に産出量・雇用量は高水準にあり，物価・金利・賃金は上昇の傾向をもち，有価証券の価格も騰貴し，信用の拡張がみられる。➔景気変動

こうきょう　【黄教】 14世紀末にツォンカパが開宗したチベット仏教(ラマ教)のゲールクパ派のこと。黄帽派ともいう。それまでのラマ教各派の僧徒が紅色地の法帽を着用したのに対し，仏教の戒律の象徴である黄色の帽子を用いたことに由来する名称で，旧教諸派を総括して紅教または紅帽派とよぶのに対する。教理上，ゲールクパ派はカーダンパ派開祖アティーシャの教学の伝統を継承するもので，厳格な顕教学修を必須(ひっす)とし，その基礎があってこそ密教の正しい履修が得られるとする。16世紀後半からモンゴルに伝わり，17世紀半ばにはモンゴルの黄教化に成功した。またチベット本土では，第5代ダライ-ラマのときラサ地方を中心勢力とした土侯サンゲギャムツォを摂政に用い，モンゴルのホショット部の長グシ汗と結んで紅教各派を駆逐圧倒し，宗教・政治の主権を掌握した。なお黄教には，ラサを本拠とするダライ-ラマと，シガツェのタシルンポ寺のパンチェン-ラマを首長とする二大法系がある。〔金子良太〕

こうきょう　【孝経】 経書の一。儒教倫理の根本をなす孝について説いている。1巻。弟子(てし)の曾子(そうし)が門下の問いに答えたことばを，孔子が記録した形をとっているが，実は漢代になってからの作成とも考えられる。〈孝は百行の本〉という考えに基づき，天子・諸侯・大夫・士・庶民という階層秩序の存在を前提として，これを安定し保持するための心得として孝を説いている。中国では唐の太宗の《御注孝経》が有名。日本でも，明治・大正時代まで推賞された。〔西　順蔵〕

こうぎょう　【工業】 原料あるいは人の手を加えた半成品を加工して，さらに有用なものをつくり出す産業を総称していう。

〔分類〕工業はきわめて広い概念であるから，その範疇(はんちゅう)には多数の部門が含まれる。これを大別すると，財貨の生産に必要なものを生産する生産財産業と，消費財を生産する消費財産業に分けることができるし，また比較的重量の大きい財貨およびその生産に巨大な設備を要する財貨を生産する重化学工業(ときには化学工業を除いて重工業とすることもある)と，これに比べて軽量かつ小規模の設備を要する財貨を生産する軽工業に分けることもできる。生産財産業や重化学工業部門に属するのは，一般に金属工業・機械工業・化学工業などで，消費財産業や軽工業部門に属するのは繊維工業・食料品工業・雑貨工業などである。しかし，機械工業部門の中の自動車工業のように，重化学工業部門と消費財部門にまたがるものもあるので，この区別は絶対的なものではない。このように工業には，簡単な食品加工業から科学の粋を集めたロケット工業に至るまで，さまざまな技術段階の工業を含んでいる。

〔歴史〕工業発展の最初の段階は農業の余暇を利用する中世の家内的手工業であり，その後資本主義の初期における工場制手工業(マニュファクチュア)を経て，やがて18世紀の産業革命以降，機械と労働者とを用いる工場制工業となって現在の近代的工業が発展した。➔技術革新

日本においても，農村の手工業は鎌倉・室町時代になると都市に発展し，江戸末期には工場制手工業がわずかながら発達するが，工場制工業が導入されて工業化が進むのは，明治時代にはいってからである。

後進的な社会が近代化される過程では，政治・経済・社会面で大きな変化が生ずる。このうち，経済面のおもな変化は工業の発展であり，これを一般に工業化とよんでいる。工業化が進むにつれ，重化学工業の占める割合は，軽工業の占める割合に比べて増大していく傾向がある。これを重化学工業化あるいは重工業化という。

わが国の工業は，明治維新後，まず紡績工業を中心とした軽工業が成立したが，日清(にっしん)・日露戦争の間に誕生した重工業はその後も着実に伸び，軍需産業の発展に伴って，1940年ごろには軽工業よりも大きな比重を占めるようになった。重化学工業の割合は，敗戦によって一時減退するが，昭和30年代の高度成長期に再び増大し，現在では世界の先進工業国と並んで重化学工

図-1　列国の工業生産指数の推移

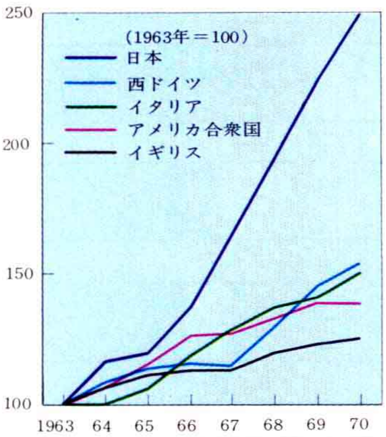


図-2　列国の産業別就業人口割合(15歳以上)
《ILO年鑑》(1969)

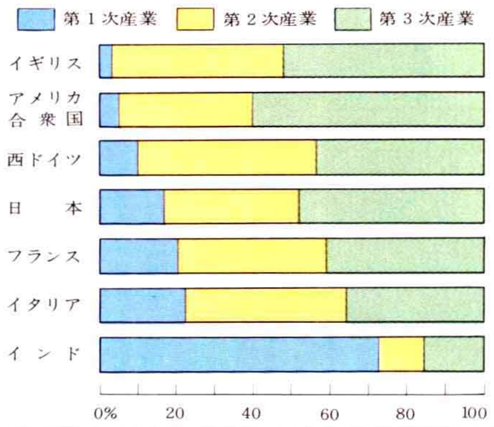
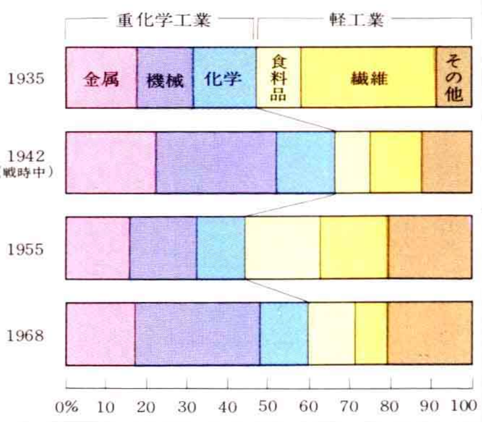


図-3　わが国の出荷額による産業構成
(1935年は従業者5人以上，他は全工場調査)



工　業

業化率は60%に達している。

現在，世界の先進工業国では全産業に占める工業生産の割合はほぼ30～40%の高さにあり，農業生産の割合は日本を除いて5%以下の水準に低下している。わが国の工業生産の割合は39.3%，農業生産の割合は8.8%(1969)であり，産業構造は高度化しつつあるとはいえ，先進諸国に比してまだ農業生産の割合が高い。工業部門内では，わが国は他の先進諸国とともに重化学工業の比重は軽工業のそれを凌駕(りょうが)しており，そのうち特に機械工業の比重が半ば以上を占めている。〔原　豊〕

こうぎょう【鉱業】 鉱物・石油・天然ガスなどの地下資源の試掘・採掘ならびにこれに付随した選鉱・選炭・製錬などの事業を営む産業。地下資源の種類によって金属鉱業*・非金属鉱業・石炭鉱業*・石油鉱業*・天然ガス鉱業に分かれる。鉱業は農業・水産業・製造業と並ぶ最も基礎的な産業であり，膨張する工業生産をささえる原料鉱物や石油・天然ガス・石炭，あるいは放射能鉱物などのエネルギー鉱物生産のため，今日では特に重要な産業の一つと考えられている。しかし，地下資源の賦存状態は国によって異なるため，鉱業の規模や構造は工業発展の段階を必ずしも反映しない。元来わが国は，鉱物資源の種類は多いがその量に乏しく，工業原料やエネルギー資源の多くは海外からの輸入に負っているため，鉱業生産のもつ比重はそれほど高くない。加えて，鉱業生産中に大きな比重を占めてきた石炭鉱業が，石炭から石油へのエネルギー革命の進展によって停滞の様相を濃くしているために，近年は鉱業生産は全産業生産額の11%程度を占めるにすぎず，ほとんど成長していない。鉱業雇用者数もまた1958年(昭和33)の45万人から，1970年には20万人に著減している。もっとも，この傾向は先進工業国に多かれ少なかれ共通の現象である。

現在，アメリカ・カナダ・ソ連・南アフリカ共和国などが特に鉱業の盛んな諸国であるが，他のアフリカの諸国，オーストラリア，チリ・ボリビアなど南米諸国にも，新しい鉱床が次々と発見されて盛んに開発が行なわれている。ペルシア湾沿岸諸国やサハラ砂漠(さばく)地方，南米のベネズエラなどでは石油の大鉱床が発見されて，国費の大部分をその鉱産税によってまかなっている。

〔歴史〕 鉱業の歴史は人類の文明とともに始まった。有史以前の鉱業は，石鏃(せきぞく)・石斧(せきふ)をつくるために石片を採取し，美しい飾り玉をつくりだすことであったろう。《旧約聖書》の時代にはすでに銅を採掘した鉱山のあったことが知られているが，青銅器・鉄器の時代とともに鉱業はますます重

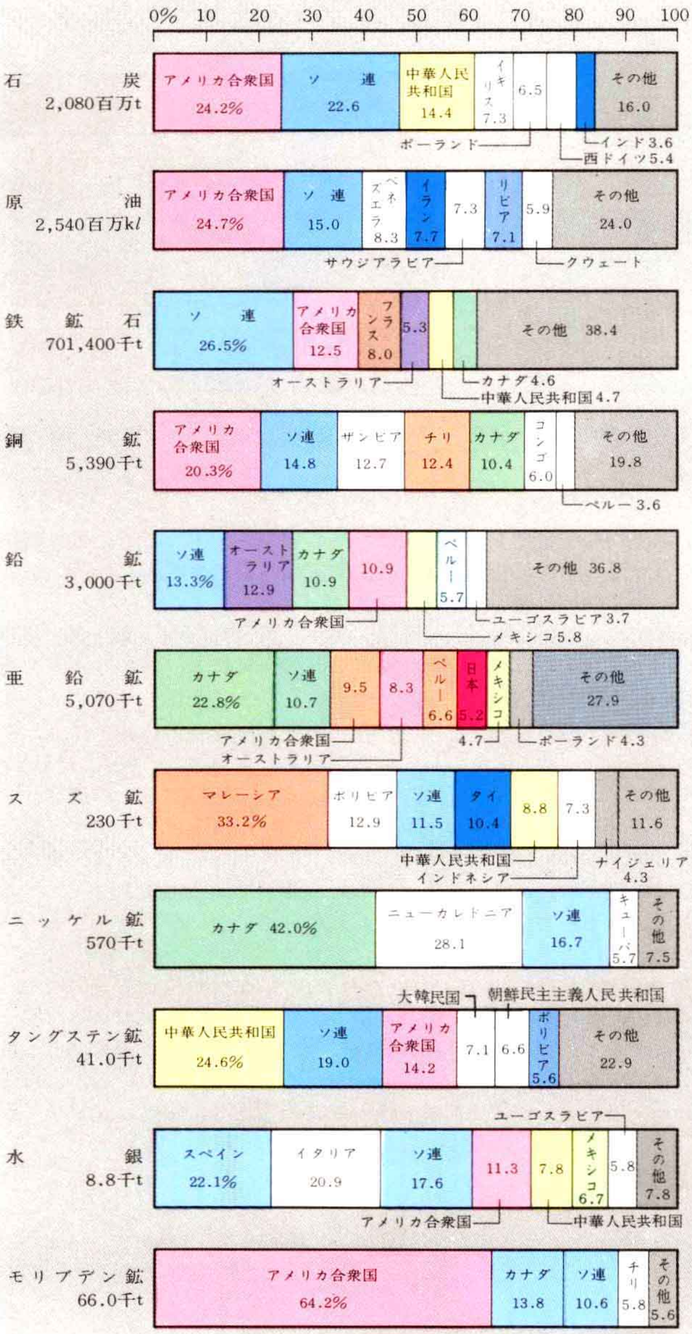
表-1　わが国の鉱産物生産高

	単位	戦前 1937	1967	1968	1969		単位	戦前 1937	1967	1968	1969
石　炭	千t	45 258	47 482	46 568	44 690	マンガン鉱					
亜　炭	〃	121	336	335	251	二酸化マンガン	t	} 89 777	14 536	3 189	2 221
原　油	千kl	393	876	869	875	金属マンガン鉱	〃		324 454	309 107	298 590
天然ガス	千m³	53 114	1 889 718	2 056 296	2 205 602	モリブデン鉱	〃	4	482	518	491
金　鉱	kg	18 717	7 869	7 419	7 667	チタン鉱	〃	—	6 771	5 871	4 066
銀　鉱	〃	320 026	335 907	332 586	336 264	ホタル石	〃	—	15 305	12 864	12 761
銅　鉱	t	67 268	117 847	119 932	121 124	ジュウショウ石	〃	3 998	37 572	59 105	62 148
鉛　鉱	〃	9 980	63 476	62 873	63 460	黒　鉛	〃	1 897	1 715	1 489	1 726
亜鉛鉱	〃	44 919	262 679	264 344	269 415	耐火粘土	〃	383 666	1 092 880	1 055 249	1 106 626
スズ鉱	〃	—	1 185	945	742	石　綿	〃	—	24 528	22 294	20 998
アンチモン鉱	〃	—	58	19	5	セッコウ	〃	45 168	584 231	562 556	562 451
水銀鉱	〃	—	159	175	193	ケイ石	千t	—	4 075	5 333	6 228
硫化鉱	千t	1 929	4 528	4 472	4 469	石灰石	〃	11 220	81 719	91 528	103 204
鉄　鉱	〃	602	1 087	1 059	955	ケイ砂	〃	—	3 332	3 689	3 868
砂　鉄	〃	13	1 126	1 113	899	ドロマイト	〃	—	2 144	2 221	2 355
精製イオウ	t	238 148	254 393	260 528	203 940	アプライト	t	—	321 134	351 048	427 795
回収イオウ*	〃	—	62 087	75 558	143 746	ロウ石	〃	—	1 250 562	1 546 826	1 656 754
クロム鉱	〃	43 119	45 232	27 891	29 782	カッ石	〃	—	129 822	149 369	154 030
タングステン鉱	〃	48	691	941	1 091	カオリン	〃	—	150 287	169 718	193 808

注)　*印回収イオウは化学工業の副産物・重油脱硫・排煙脱硫などによる生産である

通商産業省《本邦鉱業の趨勢》《鉱業統計月報》による

図-1　世界の主要鉱産物産出国と産出量(1968)



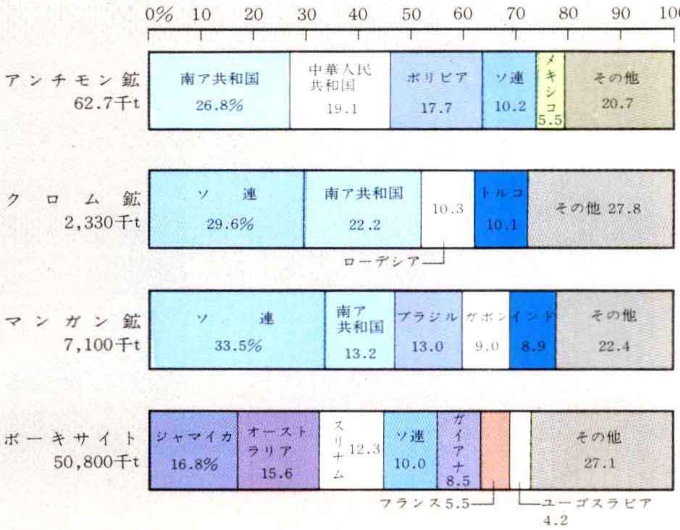


図-2　各種鉱産物の輸入依存度(1969)

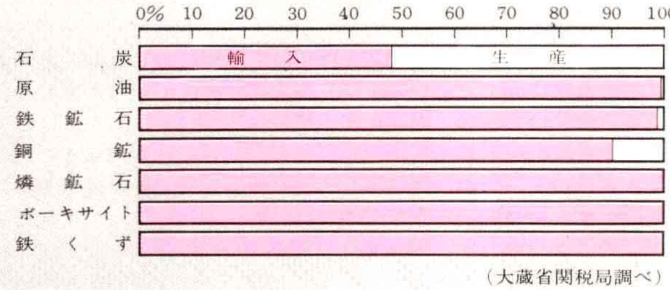
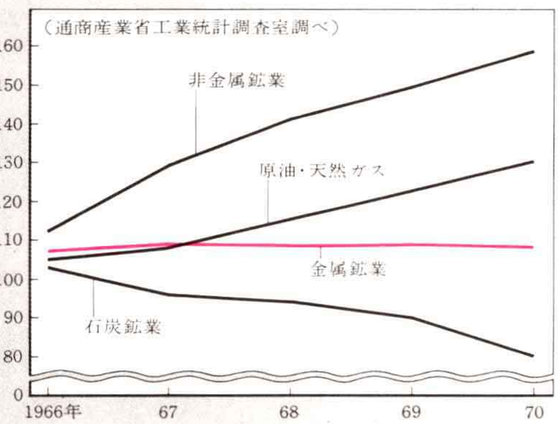


図-3　わが国の鉱業生産指数(1965年=100)



鉱　業

要な産業となった。今日の機械文明はイギリスにおける産業革命*に端を発するが，それも石炭鉱業・鉄鉱業を中心に興ったといってよい。

わが国の鉱業生産は，世界的にみればわずかであるが，国土の狭小なわりには鉱物資源に恵まれているということができ，その種類もきわめて多い。採掘の歴史も古く，奈良時代には各地で金・銀・銅・スズ・鉄・水銀などが採掘されていたことが，各地の《風土記(ふどき)》の記録などから知られる。中世以後の大名たちはそれぞれ鉱山を興して，これを奨励した。徳川幕府も佐渡・生野などの鉱山を天領として，大いに鉱産に励んでいる。わが国の近代鉱業は明治維新前後の西洋文明の導入によるものであるが，明治中期から大正期にかけて政府の保護・育成のもとに大いにふるった。そして，この鉱業を中心に近代工業の基礎がつくられたといってもいいすぎではない。住友(別子：銅)・三井(三池：石炭，神岡：鉛・亜鉛)・三菱(みつびし)(高島：石炭，佐渡：金)をはじめとして，日立(日立：銅)・古河(ふるかわ)(足尾：銅)・藤田(小坂：銅)など多くの財閥に鉱業が集中していった。大正時代には足尾・別子・日立などの銅が盛んに採掘され，アメリカに次いで世界第2位の産銅国となるに至った。その後第2次世界大戦末に至るまで，わが国の鉱業は満州・朝鮮に及んだが，それら植民地を戦争で失い，戦時中の乱掘で国内の諸鉱山は著しく疲弊した。戦後，石炭の大増産，硫酸原料としての硫化鉄の増産などによってしだいに立ち直りをみせ，今日では，石炭鉱業はふるわないが，非鉄金属鉱業は秋田県を中心とした黒鉱*鉱床(銅・鉛・亜鉛)の発見もあり，原鉱石確保のために海外の既存鉱山の開発を鋭意推進するなど，活発な動きを示している。セメント原料としての石灰石など，非金属鉱物を採掘している非金属鉱業もまた，大いに活発である。〔山口梅太郎・原豊〕

こうぎょういけん【興業意見】 明治初

期，農商務省農商務局長前田正名*(まさな)を主任として編纂(へんさん)された全国各地の産業調査書。松方財政(→松方正義(まさよし))のきびしい影響下にある農業経営の実態を調査，農業の振興を図るため3年余にわたって全国の老農を集めて農談会を開き，勧業諮問会を催し，旧藩時代の産業の調査，各種の農工商統計，資料，士族帰農の状況，農地の移動，物価変動，地租改正*後の農家経営などにわたって多くの資料を得て編纂された。1884年(明治17)第1回が完成したが翌年前田が非職となったため編纂は中止された。原本30巻。〔安達淑子〕

こうぎょうえん【工業塩】⇨塩

こうきょうがくだん【交響楽団】管弦楽*を演奏する団体。管弦楽団と名のる場合もある。近代的な交響楽団が社会制度として確立したのは19世紀にはいってからで，それまで楽団は宮廷やオペラ劇場に所属しており，入場料を払えば階級を問わずに聞かせるということは一般化していなかった。その意味では，1842年にオペラの作曲家オットー-ニコライがウィーンで有志を集め，練習を積んでベートーベンの交響曲を演奏したことは画期的なことであり，これがウィーン-フィルハーモニー管弦楽団の出発点となった。その後はヨーロッパ各地に同種のものができたり，古くからあるものの機能が改善されたりして今日に至っている。現在は，演奏会中心のもの，オペラ劇場に所属するもののほか，放送のためのものや，レコード録音のためのものまでできている。経済的には自立的なものが少なくなり，国や地方公共団体，あるいは放送局に所属するか，そこから援助を受けているものが多い。日本でも，1925年から職業的な団体が生まれ，歴史の古いＮＨＫ交響楽団をはじめとして，東京だけで6団体が活動しており，そのほか，大阪・京都・高崎・札幌(さっぽろ)などでも活発な活動を行なっている。〔徳丸吉彦〕

こうきょうきぎょうたい【公共企業体】国家または地方公共団体の所有する公企業*のうち，公法上の法人*または特殊法人として独立性を与えられ，その経営が国家または地方公共団体の行政から独立した経営体をいう。広い意味では公社*・公団*から株式会社*形態をとる企業まで含まれる。しかし，わが国では公共企業体等労働関係法*に規定されている日本国有鉄道*・日本専売公社*・日本電信電話公社*の三公社をさす。

こうきょうきぎょうたいとうろうどういいんかい【公共企業体等労働委員会】略称公労委。公共企業体*の三公社(国鉄・電電公社・専売公社)および国の経営する五現業(郵政・林野・印刷・造幣・アルコール専売)の労働組合と使用者の紛争を斡旋(あっせん)・調停・仲裁するために公共企業体等労働関係法*に基づいて設置された合議制*の機関。労働省の外局。三公社五現業*の職員は公労法の制定により団体交渉権の制限，争議行為の禁止など，一般企業とは特殊な事情のもとに置かれているため，この委員会が設けられた。公益委員*5人，使用者側委員3人，労働者側委員3人をもって組織され，任期は2年で再任することができる。委員会を代表する会長は公益委員のうちから委員の選挙によって決められる。おもな任務は，不当労働行為*の申し立てがあったとき，委員会は事実調査，審問，事実の認定ならびに必要な命令を下すことができる。紛争の発生にあたっては，会長の指名によって組織される調停委員会*(公益委員・使用者側委員・労働者委員各3名)，仲裁委員会(公益委員5ないし3名)によって調停・仲裁を行なう。仲裁委員会の裁定には労使双方とも服さなければならない。〔寺尾方孝〕

こうきょうきぎょうたいとうろうどうかんけいほう【公共企業体等労働関係法】略称公労法。公共企業体*および国の経営する企業に従事する職員の労働関係について定めた法律。日本国有鉄道と日本専売公社の2公社に働く職員の労働関係を規律するために1948年(昭和23)制定されたが，1952年の改正によって日本電信電話公社と国家公務員のうち現業に携わるものの一部，すなわち郵政・林野・印刷・造幣・アルコール専売の5現業の職員が公労法の適用下に置かれることになった。その後1956年再び公労法の改正が行なわれ，日々雇い入れられる者を除く公共企業体の臨時雇は公労法の適用を受けることとし，団体交渉*の手続きが改められ，公共企業体等労働委員会*(公労委)を設けるなど，かなり変革が加えられた。公労法のおもな内容は次のとおりである。①公共企業体職員の労働組合結成・加入などの自由を規定し，オープンショップ*制を強制しているなど，労働者の団結権*が制限されている。なお，旧公労法は，管理職などの団結を禁止し，逆締めつけ*の規定を置いていた(旧公労法4条)が，ILO*87号条約批准に伴って，1965年廃止された。②団体交渉をする権利について特異な制度を設けている。㋑団体交渉の対象から管理・運営に関する事項を除外し，団体交渉の範囲と労働協約*締結の範囲を制限している。㋺交渉委員制度を設けている。③いっさいの争議行為を禁止し，争議行為をした職員は解雇される。④公共企業体等労働委員会*の設置，強制調停・強制仲裁などの紛争調停手続きを定め，裁定に対して，当事者は最終的決定としてこれに服従しなければならない。なお，公労法については，同法の適用を受ける労働者の労働関係も，民間労働者と同様に労働組合法*・労働関係調整法*によるべきであり，公労法の憲法違反と不当性を指摘する見解もある。〔木元錦哉〕

こうきょうきぎょうたいとうろうどうくみあいきょうぎかい【公共企業体等労働組合協議会】略称公労協。三公社五現業*の労働組合(国労・全逓・全電通・全林野・動労・全専売・全印刷・全造幣・アルコール専売)の9単位産業別組合(単産)の連絡協議機関。1953年(昭和28)結成され，日本官公庁労働組合協議会*(官公労)の中心的役割を果たしている。

こうきょうきょく【交響曲】18世紀から現代に至る管弦楽曲の代表的な分野。英語のシンフォニーはギリシア語のシュンポーニア(音の一致・調和)に由来し，のち合奏をさすために使われるようになったのであろう。16世紀末のイタリアの作曲家ジョバンニ-ガブリエリは，声と楽器の協働する作品にこの語を用いており，17世紀初頭のモンテベルディにみられるように，オペラにおいて使われる器楽合奏の折り返しにもこの名称が用いられている。アレッサンドロ-スカルラッティに代表されるバロック時代のナポリ楽派のオペラでは，急～緩～急の順序で交替するオペラ序曲がシンフォニアの名でよばれていた。これは二つのグループを必要とするコンチェルト(→協奏曲)とは異なり，等質的なアンサンブルによるもので，のちの交響曲の重要な先祖と考えられる。1740年ごろから，ヨーロッパ各地で，新しい和声的な体系による古典派的な傾向が生まれた。ウィーン楽派，シュターミッツに代表されるマンハイム楽派の音楽家たち，あるいはクリスチャン-バッハらが古典的な交響曲の形成に大きな貢献をなした。それは，弦楽合奏を主体として，そこに管楽器を少しずつ加えるという方法であった。このように，交響曲の発展と管弦楽の編成はつねに結びついている。また楽曲の形式からみれば，急～緩～急の3楽章にメヌエット*を加えて4楽章にしたのもこのころからである。こうしたわく組みに対して，新しく興ったソナタ形式*を積極的に用い，一曲の中に統一を与えたのがハイドンである。以後の交響曲はソナタ形式を最も主要な構成法にしていったため，ハイドンの方法が典型とみなされるようになった。ベートーベンは媒体としての管弦楽の変革を行ない，また第3楽章のメヌエットの代わりにスケルツォ*を使いはじめた。ロマン派の交響曲の歴史で重要なのは，ベルリオーズが《幻想交響曲》で使った固定楽想の方法である。これは一つの楽想(主題)によって楽曲全体の統一を図ろうとするもので，リストやリヒアルト-シュトラウスに大きな影響を与えた。交響曲は19世紀には大規模なものになっていったが，20世紀にはいると，シェーンベルクやウェーベルンにみられるように，規模も小さく，編成も小さなものを使う傾向が生まれてきている。

なお，交響曲と協奏曲の中間的な形態として，協奏交響曲(サンフォニー-コンセルタント)がある。これは，18世紀後半から19世紀初めにかけて盛んだったもので，協奏曲のように三つの楽章からなるが，木管・

弦・ハープなど，独奏者が複数のものである。ハイドン・モーツァルトによってもつくられ，ベートーベンのピアノ・バイオリン・チェロのための三重協奏曲も実質的にはこの分野に属する。〔徳丸吉彦〕

こうぎょうけいき【工業計器】計測器*のうち，工業の生産過程における変量の計測あるいは自動化に使用されるように製作された計器。工業計器は，信頼性と再現性にすぐれ，応答も速く，十分な精度をもつと同時に，使用環境(高温・低温・振動・雰囲気(ふんいき)ガスなど)に耐えるような構造になっていなければならない。

こうぎょうけいそく【工業計測】各種工業における変量の計測技術，自動化技術，計測結果の処理，計測器の管理などを含めた工学技術。計測対象となる変量としては，長さ・角度・時間・力・回転数・動力・圧力・レベル・流量・温度・湿度・濃度・pHなどが代表的なものである。

こうぎょうけん【鉱業権】鉱区*において，登録*を受けた鉱物を採掘し，取得する権利(鉱業法5条)。試掘権*と採掘権の2種があり，ともに物権*とみなされて不動産に関する規定が準用される(鉱業法12条)。抵当権*および租鉱権*の目的となることはできるが，相続その他の一般承継・譲渡・滞納処分・強制執行の目的となるほか，権利の目的となることができない(鉱業法13条)。ただし，試掘権については抵当権および租鉱権の目的とすることもできない。鉱業権者となりうる者は，条約に別段の定めがないかぎり日本人または日本国法人であり(鉱業法17条)，これらの者が通商産業局長に出願して許可を受けることによって鉱業権を取得する(鉱業法21条)。同一鉱区に対する鉱業権の出願者が2人以上いる場合は，願書の発送の日付順で，発送日が同一のときはくじで優先権者を決定する(鉱業法27条)。鉱業権の権利内容の変動は，これを鉱業原簿へ登録しなければ効力を生じない(鉱業法59条)。〔黒木三郎〕

こうぎょうげんりょうこうぶつ【工業原料鉱物】冶金*(やきん)以外の工業の原料になる鉱物。その中で量的に最も大きな需要があるのは石灰石で，日本での年産6,000万tを越えている。主として窯業原料*となるもののほか，硫酸原料となるリュウカテッ鉱*，リン酸肥料原料になるリン鉱*，カリ肥料原料になるカリ鉱*などが重要なものである。

こうぎょうこう【工業港】⇨港

こうぎょうざいりょう【工業材料】工業的な生産に用いられる素材物質の総称で，広範な品種にわたっている。これには，いろいろな天然産物が含まれているばかりでなく，さまざまな中間加工品も含まれる。一つの産業にとっての最終製品が，他の産業部門で原料として扱われる場合も多い。空気や水もしばしば重要な工業材料となっている。工業材料は大別して，動物質物質・植物質物質・鉱物質物質に分けられるが，それらの複合物質のことも多い。また，工業材料であるためには入手可能であり，経済性を伴っていることが必要であるため，歴史的に出現して消滅したり，地域的な使用に限定される場合もある。たとえば，酸素工業の発達によって安価な酸素が大量に得られるようになったので，酸素吹き製鋼法などが開発され，酸素は重要な製鉄原料となった。一方，製鋼現場で多量に用いられていた石炭は，重油や電力の発達に伴って工業原料としての価値を急速に失った。また放射性物質が今後の熱源として注目されつつある。

工業材料には直接素材となるものと，素材加工に用いられるものとがある。例を製鉄工業にとると，鉄鉱石は主要な素材原料であり，マンガン鉱石や石灰石なども直接的な製鉄素材といえるが，コークスは鉄鉱石を溶融・還元するためのもので，鉄鋼の素材ではない。原料炭は，鉄の素材ではないが，コークスの素材である。さらに，銑鉄は製銑部門では製品であるが，製鋼部門では原料であり，各種圧延品は製鉄所では製品であるが，加工部門では原材料として扱われる。〔秋枝哲児〕

こうきょうし【交響詩】19～20世紀の管弦楽曲の一。交響曲*とは異なり，音楽外的な世界との連関を示そうとした作品で，単一楽章でつくられている場合が多い。これは19世紀の思潮と関係が深いが，直接的には19世紀中ごろに，詩ともっと密接な関係を音楽に与えるという着想でリストが作曲したものが出発点となっている。彼はユーゴーの《山上でききしもの》，バイロンの《タッソー》，ラマルティーヌの《詩的冥想(めいそう)》によった《前奏曲(レ-プレリュード)》などによって，この試みの可能性を広く知らせた。そして，音楽外的な対象は文芸に限られることなく，絵画や自然の風物，あるいは歴史的な事件までが含まれるようになった。文芸以外の場合は，当時盛んになりはじめた国民主義と結びついて，スメタナの《わが祖国》を代表に，ボロディンの《中央アジアの平原にて》，あるいは20世紀にはいって，ボーン-ウィリアムズの《ロンドン交響曲》などが生まれた。こうした型には，レスピーギの《ローマの松》などの三部作，あるいはグローフェの《グランド-キャニオン》なども含まれる。一方，文芸との関連をもつものでは，チャイコフスキーの《ロメオとジュリエット》や《フランチェスカ-ダ-リミニ》，サン-サーンスの《オンフォールの紡ぎ車》やフランクの作品，さらに有名なものではゲーテによったデュカの《魔法使いの弟子(でし)》などがあげられる。

交響詩の歴史の上でさまざまな傾向を最も大胆に示したのはリヒアルト-シュトラウスである。彼は，《ティル-オイレンシュピーゲルの愉快ないたずら》や《ドン-キホーテ》では物語性を中心に，また《アルプス交響曲》では外界の描写を中心にして，巧みな管弦楽法を駆使し，交響詩を完成した。これらがこのジャンルの最後の段階で，ドビュッシーの《牧神の午後への前奏曲》やシェーンベルクの《浄(きよ)められた夜》では，物語性と音との細かな対応が目だたなくなっている。以上のように，交響詩は標題音楽の一形態である。すべての標題音楽のジャンルがそうであるように，そこに結びつけられている音楽外の事象は，カッコウの鳴き声を短3度の下降音形で表わす場合のように強く慣習化している場合を除けば，多くは曲名や作曲家のつけた説明によらざるをえない。そのため，解釈があいまいになることが多い。また，それらの作品の価値がその表示しているものによってではなく，それを表示する方法にも関係して左右されるので，音楽構造の把握(はあく)も必要である。現代では，音楽を音楽に固有な構造として把握するのが普通になったため，交響詩はほとんど作曲されていない。〔徳丸吉彦〕

こうきょうじぎょう【公共事業】国あるいは地方公共団体などが，公共の福祉*のために行なう事業をいう。営利を目的とせず，その費用は国や地方公共団体から公共事業費として支弁される。近代国家においては公共事業の種類は多様になり，その事業規模も拡大している。公共事業には，道路・橋・港湾・運河・治山・治水・海岸防御・灌漑(かんがい)・土地造成などの天然資源開発保全事業，清掃・上下水道などの環境衛生事業，養老院・孤児院・母子寮・病療院などの厚生福祉事業，住宅政策としての公営住宅事業，国公立の学校・図書館・美術館・博物館・動植物園・公園・運動場などの文化教育事業などがある。なお，それらの管理運営の組織として，公社・公団・営団・公庫・事業団などがある。〔鶴見紀文〕

こうきょうしょくぎょうあんていしょ【公共職業安定所】1947年(昭和22)職業安定法によって設けられた政府の無料公的職業紹介機関。略して職安ともいう。労働大臣の管理下に属し，所長は都道府県知事の指揮監督を受ける。職業紹介・職業指導，失業保険の支給，その他職業安定法の目的を達成するために必要な事がらを行なう。職業紹介にあたって，例外を除き，いかなる求人・求職の申し込みも受理しなければならず，求職者に対して労働条件を明示しなければならない。また，労働争議に対して中立の立場を維持するため，ストライキ*中またはロックアウト*中の事業所に求職者を紹介してはならない。職業指導については，身体に障害のある者，新たに職業につこうとする者，特別の指導を必要とする者に対して行なわなければならない。〔木元錦哉〕

こうぎょうしょゆうけん【工業所有権】特許権・実用新案権・商標権・意匠権の総称。これらの権利は，排他的・独占的な支

配権を内容とするのでこのような総称でよばれ，別個，独特の権利としての取り扱いを受けている。これに著作権*を含めたものを無体財産権*という。

こうきょうしんしょうやく【抗狭心症薬】狭心症*発作の予防または治療に用いられる薬物。主として血管拡張作用を有するもの(ニトログリセリンなど)が使われるが，狭心症は心因性の可能性もあるので，精神安定薬(ブロム塩など)が併用される。最近は，血管拡張作用も冠血管に選択性の強いものや，心筋が低酸素状態に耐えるように作用するものなどが開発されている。

こうぎょうちいき【工業地域】⇨次項

こうぎょうちたい【工業地帯】工業が集中して存在している地域をいい，さらにおのおのの種類の工業があげる生産額の程度によって，化学工業地帯・繊維工業地帯，あるいは重化学工業地帯・軽工業地帯に区別することもある。またその位置によって，臨海工業地帯・内陸工業地帯の二つに分けることもできる。工業の立地が局地的に集中して工業地帯を形成するのは，原料・動力・労働力の供給や交通輸送条件に制約されるためである。さらに，工業が分業化・専門化していく傾向のため業種間の連携が必要となり，工業集中の利益が働くことにも一因がある。また実際には，このほかにそれぞれの地域の歴史的条件もかなり影響してくる。

世界の主要な工業地帯には，イギリスのロンドンを中心とする南東地域とバーミンガムを中心とするミッドランド，北フランスからベルギーを経て西ドイツ西部に至る地帯，アメリカ合衆国のニューイングランド地方・五大湖南岸地方・中部大西洋沿岸地帯などがある。わが国では，京浜・阪神(はんしん)・中京・北九州の四大工業地帯を中心とした太平洋ベルト地帯*に形成されている。なお，最近は工業の立地が工業地帯周辺の田園地域などに著しく拡散していく傾向にあり，工業地帯に代わって工業地域とよばれることが多い。〔大石堪山〕

こうぎょうちゅうどく【工業中毒】工業で用いられる種々の原料・製品，および製造の過程で発生する物質が原因となって起こる健康障害。それらの物質は呼吸器・消化器・皮膚から侵入し，同じ物質でも侵入方法の違いで障害を受ける部位や病状が異なり，毒物によって症状がまちまちである。わが国に最も多いのは，鉛製錬場・蓄電池作業場・活字作業などに発生する鉛中毒，水銀鉱山や水銀を用いる計器工場・電解作業場などに発生する水銀中毒，クロムメッキ場のクロム中毒，マンガン鉱山のマンガン中毒，黄リンを製造したり殺鼠(さっそ)薬を製造する工場でのリン中毒，トンネル内作業・溶鉱炉などでの一酸化炭素中毒，パラチオンなどの農薬による有機リン製剤中毒，ベンジン・ベンゾール・アルコールその他の有機溶剤による中毒などがおもなものである。

急性中毒は症状がすぐでるので対策も立てやすいが，慢性中毒は長期間のうちに少しずつ症状が現われてくるので注意を怠りがちである。したがって，工業中毒にかかるおそれのある職場にある場合は，定期健康診断を必ず受け，保護具を用いる。もちろん，中毒の危険をなくするための作業方法の改善や，予防薬の投与などは必要な処置である。〔金子義徳〕

こうぎょうデザイン【工業デザイン】⇨インダストリアル-デザイン

こうきょうとうし【公共投資】広義には政府による資本形成のすべてをさすが，狭義には，日本国有鉄道・日本電信電話公社のような企業会計による一部の投資を除いて修正した行政投資，すなわち政府事業会計のうちの上下水道・港湾整備・宅地造成部門と，企業会計のうちの住宅公団・道路公団その他を含むものに限る。行政投資のうち大きな部分を占めるのは，公共事業*である。また，この行政投資の蓄積額は社会資本*といわれる。それゆえ，公共投資は社会資本に対する年々の追加分ということができる。経済における政府の役割が増大するにつれて公共投資の比重は増大する。だが，急速な経済成長が民間設備投資の盛行によって実現したわが国では，一般会計歳出に占める公共事業関係費は他の主要経費と比べて最も大きい割合を占めるが，民間設備投資からみればなお大きくたちおくれており，そのために，社会資本にいっそうの充実を要求する声が高い。公共投資は社会資本の蓄積を増すほかに，その支出の増減や繰り延べ・繰り上げによって景気拡大や景気抑制という経済的効果を生むから，景気安定政策の重要な手段として利用されることが多い。さらに，公共投資は産業基盤の強化に向けることもできるし，生活基盤の拡充に向けることもできるから，公共投資の配分のあり方は非常に重要な意味をもっている。〔原　豊〕

こうきょうのふくし【公共の福祉】各人の基本的人権*が，よりよく，より調和的に実現された状態をさす。公共の福祉ということばは，第1次世界大戦ののち，ことに第2次世界大戦以後，各国の憲法その他の法律で，一般的福祉，公共の利益などのことばとともに，それまでの個人の自由と財産権*の不可侵を主要原理とした法体制を，広く国民全体の福祉・利益と調和させるために用いられるようになったものである。日本国憲法は大日本帝国憲法*とは異なり，国民の人間としての尊厳，個人としての尊重，各人の基本的人権の保障を根本原理としているから，国家の安寧秩序のためとして個人の自由・権利を抑圧することを許さない。したがって，公共の福祉を名として，個人の諸権利をみだりに制限すべきではない。ただ，ある特定の個人の権利行使が他の人々の権利行使と衝突した場合，それらを調整する必要がある。この場合，それぞれの権利行使の範囲・形態をどのように定めるかの基準としては，できるだけ相互の権利が正当に保障されること，その結果，人々の権利がよく調和されて，全体としてその社会が人権尊重を基礎とした法秩序を形成することがめざされなければならない。公共の福祉とは，人権を一方的におさえるための超越的な基準ではない。〔鈴木安蔵〕

こうぎょうぼき【工業簿記】製造業を営む工企業において適用される簿記法。工企業では商企業と異なり，原料材を購入し，それを企業内部で加工して販売するため，加工段階における労働力や機械の消費の記録などに重点を置かざるをえない。そこで，それらを浮き彫りにしつつ，組織的・秩序的に把握(はあく)し，経済活動ないしは資本運動を継続的に記録・計算・整理するために案出された簿記である。工企業の外部活動(購買活動・販売活動)を記録・計算する営業簿記と，内部活動(購買活動と販売活動との中間に位置する生産活動)を記録・計算する経済簿記とに分類される。前者は商業簿記と，後者は原価計算*とそれぞれ関係があり，この両者の有機的結合の上になりたつ簿記が工業簿記である。➔簿記〔山桝忠恕〕

こうぎょうようすい【工業用水】産業用水(農業用水・水産用水・鉱業用水・防火用水など)の一種であって，工業において生産に必要とする用水。工業の業種によっては水量の確保は絶対な要件で，場合によっては水の還元を行ない水の再使用を図っている。水質については，それぞれ工業の種類によって異なり，また工場内での用途によって種々の水質が要求されている。たとえば，雑用水はあまり良質のものでなくてもよく，地表水・地下水はもちろん海水なども利用されているが，冷却用水は低水温が望まれ，またスライム(管内面に沈積した生物に起因する寒天状物質)の発生防止およ

公共投資公共事業関係費の推移

	1966年度	1967年度	1968年度	1969年度	1970年度	1971年度
一般会計支出(億円)	44 771	52 034	59 173	69 309	79 498	94 143
公共事業関係費(億円)	8 836	10 180	10 656	12 028	14 099	16 656
公共事業関係費の一般会計歳出に占める割合(%)	19.79	19.56	18.01	17.35	17.73	17.69

び管の腐食防止などの処置を要する。ボイラー用水や清涼飲料水は，きわめて良好な水質が必要とされ，またパルプ製造用水・製糸用水・染色用水なども溶解性物質の少ない水が要求され，醸造用水にはカルシウムを比較的多く含むものが好まれるなど，用途によってははなはだしく差がある。それゆえ，水質の改善は，それぞれの工場において行なわれているのが通例である。なお，工業の発展に従って用水量が増加しているが，これをすべて地下水に求めると地盤沈下*をきたすおそれがあるので，その防止を目的として都道府県や都市において工業用水道が設けられて用水の円滑な供給が行なわれている。〔武田登作〕

こうぎょうようテレビジョン【工業用テレビジョン】⇨テレビジョン

こうきょうようり【公教要理】⇨教理問答書

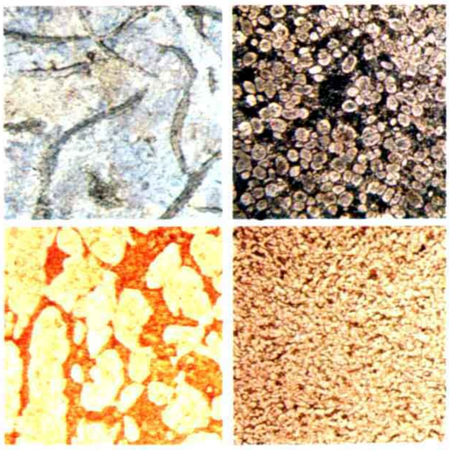
こうぎょうりっち【工業立地】⇨産業立地

こうきょうりょうきん【公共料金】国民生活に密接な関係のある財貨サービスで，その料金の決定・変更に中央政府・地方政府が関与しうる価格をいう。現在，これらの財貨サービスの値上げの際に政府機関(臨時物価対策閣僚協議会)で討議しなければならない重要な公共料金としては，たばこ，国立学校の授業料，社会保険医療報酬，消費者米価，電力電燈料金，公営水道料金，国鉄運賃，大手私鉄・地下鉄運賃，七大都市のガス・市電・バス・タクシー料金，全国的な規模のトラック貨物運賃と通運料金，郵便・電報・電話料金などがある。また値上げの際に，各省庁が認可する公共料金としては，運転免許試験など各種試験の手数料や国有施設の使用料，公営住宅家賃・高速道路料金など600以上の種類がある。このうち国民生活に特に密接な関係をもつものは，前記の公共料金である。1965年(昭和40)基準の全国消費者物価指数には，うるち米(配給)・もち米(配給)・食塩・家賃(公営)・水道料・電気料金・ガス代・診察料・入浴料・清掃料・市(都)電運賃・私鉄運賃・国鉄運賃・バス代・郵便料・電報料・通話料・タクシー代・授業料(国立大学・公立高校)・放送受信料・たばこが含まれ，そのウエートは10,000分の1,950である。したがって，公共料金の1％の値上がりは消費者物価をおよそ0.2％あげることになる。しかし，公共料金の値上がりは，他の品目に波及する傾向が強く，実質的な物価上昇への寄与率は他のものよりはるかに大きいと考えられる。〔原　豊〕

こうぎょく【硬玉】⇨ヒスイ

こうぎょく【黄玉】⇨トパズ

こうぎょくちょう【紅玉鳥】鳥類・キンパラ科。アフリカ西部原産の飼い鳥。一般にはルビーとよばれる。わが国には大正時代に輸入された。全身が深紅色でベニスズメに似ているが，少し小さい。非常に活発に飛びまわる。観賞用にはなるべく広い箱に入れるのがよい。禽舎(きんしゃ)に飼えば繁殖も期待できる。



合　金　各種合金組織の顕微鏡写真。(上左)ねずみ鋳鉄(×210)　(上右)ダイカストした亜鉛合金(×210)　(下左)真鍮(×300)　(下右)アルミニウム青銅(×50)

こうぎょくてんのう【皇極天皇】(594？～661) 在位642～645年。父は敏達(びだつ)天皇の孫茅渟王(ちぬのおう)。母は吉備(きび)姫王。はじめ用明天皇の孫高向王(たかむこおう)に嫁し，漢(あや)皇子を生み，のち叔父(おじ)舒明(じょめい)天皇の皇后となって中大兄(なかのおおえ)皇子(天智(てんち)天皇)・間人(はしひと)皇女・大海人(おおあま)皇子(天武天皇)を生む。舒明天皇の没後即位したが，645年(大化1)蘇我(そが)氏誅滅(ちゅうめつ)を機に皇位を弟軽(かる)皇子(孝徳天皇)に譲った。654年孝徳天皇の没後重祚(じゅうそ)。これが斉明(さいめい)天皇である(在位655～661)。皇太子中大兄皇子を中心に大化改新*を推進し，658年(斉明4)蝦夷(えぞ)地へ阿倍比羅夫(あべのひらふ)を派遣して北征，また同年孝徳天皇の遺児有間皇子を謀叛(むほん)のかどで処刑。661年百済*(くだら)救援のため親征して筑紫(つくし)(福岡県)朝倉宮に下ったが，同年現地で没した。➔斉明天皇〔黛　弘道〕

こうきロマンは【後期ロマン派】⇨ロマン派音楽

こうきん【口琴】世界的に分布する玩具(がんぐ)あるいは楽器で，体鳴楽器*あるいは体鳴的リード楽器に分類される。金属あるいは竹でできたものが多い。わくの間に平たくて細長い板状のものを片端を固定して設置し，固定してないほうの端を指ではじいて鳴らすか，わくに結びつけたひもを引いて鳴らす。それだけでは音が小さいので，わくをくちびるあるいは歯に軽くあてたり，息を吹きかけたりして音を拡大するのが普通である。〔山口　修〕

ごうきん【合金】1種類以上の他元素を含有している金属の総称。実際には3種類以上の金属で構成されている場合が多く，2元素・3元素・4元素の合金などとよばれる。また，主体金属によって鉄合金・銅合金・軽合金などに分類され，たとえば鋼やフェロアロイは鉄合金，真鍮(しんちゅう)や砲金は銅合金，ジュラルミンやY合金(アルミニウム合金の一つで超ジュラルミンともいうべき性質をもつ)は軽合金*に属する。このほか，さまざまな種類の特殊合金がそれぞれの用途に基づいてつくられている。

合金の組織状態には，不規則置換型・規則置換型・侵入型の固溶体*と，金属間化合物*および混合相(分離層)がある。A・B両金属からなる合金の場合，A・Bの原子半径・原子価がだいたい同じ程度で，結晶格子(こうし)も同じであれば，全組成範囲にわたって両金属の固溶体がつくられる。この際，同種間よりもA・B間の結びつきが強い場合には規則型固溶体となるが両原子が似ている場合には不規則置換型となる。しかし規則格子は低温でのみ安定で，高温では不安定になるため不規則格子に変わる。このときの温度(転移点)を規則-不規則変態温度とよぶ。溶質原子の半径が溶媒原子の半径よりも著しく小さい場合には，溶質原子が溶媒金属の結晶格子空隙(くうげき)に入り込む。これが侵入型固溶体で，オーステナイト鋼はその一例である。金属間化合物はA・Bの原子価が著しく違う場合などに生じる。A・Bが互いに反発し合う場合には，両者の集合体の混合物となる。

合金系の面から考えると，一般的には固溶体合金・共晶合金・包晶合金・偏晶合金などで構成されており，これらの諸相が複雑に組み合わさっているため，成分元素の数が増すにつれて構成の複雑さも増す。したがって，合金の性質は多様であり，合金成分の混合割合がその合金の性状を決定するとはかぎらない。たとえば，非磁性であるマンガン・銅・アルミニウムの合金が強磁性を示し，さびやすい鉄とクロムとの合金がさびにくくなり，柔軟なアルミニウムと銅の合金が著しい硬度をもつなどはその例である。〔秋枝哲児〕

ごうきんこう【合金鋼】鋼にある特有の性質(強靱(きょうじん)性・耐食性・耐熱性・磁性など)をもたせるために，ケイ素・マンガン・クロム・ニッケルその他の合金元素を1種または2種以上含有させた鋼。合金元素の含有量によって低合金鋼と高合金鋼とに分けられる。

ごうきんてつ【合金鉄】⇨フェロアロイ

こうきんのらん【黄巾の乱】中国，後漢末に黄巾(巾はきれ)を身につけた叛徒(はんと)が各地に群起した内乱。後漢の中期以後，外戚(がいせき)と宦官(かんがん)，さらに宦官と官僚との抗争が続く間に，地方では豪族の土地兼併とあいつぐ天災による生活の不安定のため，民衆は宗教に精神の安定を求めた。この機運に乗じ，巫呪(ふじゅ)によって病気の治療をするという太平道が張陵*によって唱えられ，張角*によって広められると，信

徒は急増して河北・山東から揚子江(ようすこう)流域まで数十万人に達し，さらに政治的な秘密結社に発展，184年36万の軍がいっせいに蜂起(ほうき)して反乱を起こした。乱は皇甫嵩(こうほすう)や曹操(そうそう)によって比較的短時日でいちおう平定されたが，余党は10年以上も反乱を続け，後漢崩壊の直接の原因となるとともに，漢末群雄割拠の一因ともなった。〔米田賢次郎〕

こうきんのらん【紅巾の乱】中国の元末，白蓮(びゃくれん)教の教徒によって起こされた宗教的農民反乱。教徒が紅巾で頭を包んで印としたので紅巾の賊ともいう。白蓮教の創立者韓山童(かんざんどう)は布教活動によって河北を中心に勢力を得ていたが，1351年彼が元朝に捕えられると，教徒はその子林児を奉じて江北で挙兵した。各地の教徒や農民もこれに応じて反乱に参加したのでその勢力はたちまち華北・華中に拡大し，元朝の中国支配を動揺させるに至った。なお，明朝(みんちょう)の始祖朱元璋(しゅげんしょう)は紅巾軍から身を起こした。〔谷口規矩雄〕

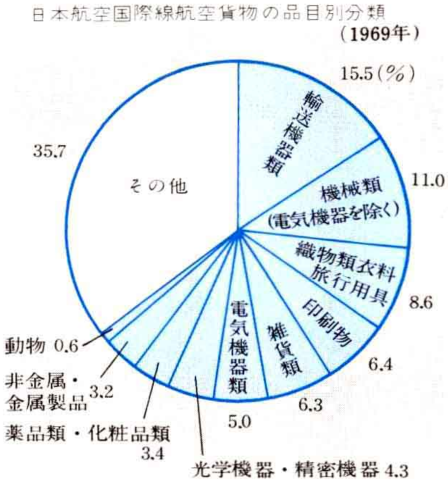
こうく【鉱区】鉱物の採掘，すなわち鉱山の活動の行なわれる区域。わが国では，鉱業法によって〈法律によって定められた鉱物を採掘する権利を行使するために登録を受けた一定の土地の区域〉と定義されている。採掘鉱区・試掘鉱区・租鉱区などの区別がある。

こうぐ【工具】物を加工し製作するときに用いる道具や刃物などの総称。用途によって組み立て用工具・切削用工具・測定用工具などがあり，作業の種類によって鍛造作業用工具・鋳造作業用工具などと区別することもあり，また工作物の材質によって金工用工具・木工用工具などということもある。なお，人間が手に持って使用するものを手工具，機械に取り付けて使用するものを機械用工具などということもある。おもなものは次のとおりである。

①木工用工具：のこぎり・のみ・かんな・きり・つちなど。②金工用工具：金切りのこ・金切りはさみ・やすり・タップ・ダイス・ペンチなど。③鍛造用工具：金敷・つち・はし(やっとこ)・へし類・たがね・ポンチなど。④鋳造用工具：つき棒・へらなど。⑤溶接用工具：トーチ・溶接棒ホルダーなど。⑥鍛圧機械用工具：ダイス型・プレス型・板抜き型・線引きダイスなど。⑦工作機械用工具：バイト・フライス・ドリル・リーマ・ブローチ・歯切りカッターなど。⑧組み立て用工具：ドライバー・スパナ・レンチ・ハンマーなど。⑨検査用工具：限界ゲージ・トスカン・直定規など。⑩測定用工具：ノギス・マイクロメーター・ダイヤルゲージなど。〔稲田重男〕

こうくう【口腔】⇨こうこう

こうくう【公空】空のうち領空*以外の部分。公海*の上部空間で，公海と同じく自由な空間である。なお，宇宙空間が公空と



航空貨物輸送

同じ性質のものであるか否かについては問題があってまだ決定されない。

こうくううちゅうきょく【航空宇宙局】National Aeronautics and Space Administration。略称NASA。アメリカ政府の一機関。軍関係以外の航空関係の研究，宇宙関係の研究と開発を担当している。本部はワシントンにある。前身の航空諮問委員会(National Advisory Committee for Aeronautics，略称NACA)は1915年設立され，1958年NASAに改編された。NACAの時代から，研究成果は原則として公開主義をとっているから，アメリカ国内はもちろん，世界各国の航空宇宙工学の発展に大きく貢献している。1969年7月21日の月面着陸を頂点とするアポロ計画*の推進機関として有名である。所属機関に有人宇宙飛行局・宇宙科学応用局・高等技術研究局・追跡データ取得局があり，有人宇宙飛行局にはマーシャル宇宙飛行センター・有人宇宙機センター・ケネディ宇宙センターが，宇宙科学応用局にはゴダード宇宙飛行センター・ジェット推進研究所が，高等技術研究局にはエームス研究センター・ラングレー研究センター・ルイス研究センター・電子工学研究センターなどがある。〔中口 博〕

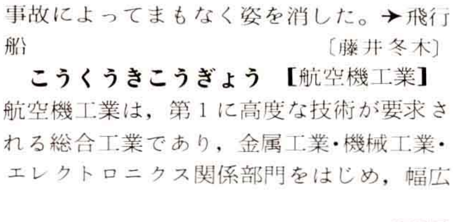
こうくうかもつゆそう【航空貨物輸送】航空機による貨物の輸送。現状としては，国内航空の発達しているアメリカにおいても1967年の都市間貨物輸送のうち航空機によるものはわずか0.01%，欧米間において0.5%にすぎない。しかし，世界の航空貨物輸送の伸び率は平均1年あたり20%にも上る。航空貨物の品目としては，近年，輸送機器類・機械類などのある程度の重量物が対象になってきている。将来は，巨人貨物機の開発，コンピューターの使用，貨物ターミナルの建設，コンテナーの採用などを含む地上における貨物取り扱いの迅速化により，全体の輸送時間の短縮と運賃の低減による取り扱い量の増大が見込まれているが，一方，海上の高速コンテナー輸送との激しい競争が予想されている。〔谷 洋五〕

こうくうき【航空機】大気を利用して空中を飛行する乗り物。空を飛ぶという人類の願望は有史以前から神話や寓話(ぐうわ)の中で語られ，またルネサンス時代のレオナルド-ダ-ビンチやそれ以前の中国において，成功はしなかったが，ある程度具体性をもった空飛ぶ道具の物語を残している。自然科学と機械文明の発達も，この望みを実現させるために長い年月を必要とした。人間が空を飛ぶことに成功したのは，1783年フランスの発明家モンゴルフィエ兄弟が，気球の下で火をたいてその上昇気流を利用して浮揚したのが最初で，空気より軽い航空機はいちおう成功した。しかし，もっと早く自由に飛ぶためには，動力を備えた空気より重い飛行機が必要だった。この研究は19世紀を通じて行なわれたが，所要の部門の理論や技術が未熟で，特に軽量で高出力の効率のよいエンジンが得られなかったことによって，いずれも失敗に終わった。しかし19世紀の末期には，ドイツの航空技術者リリエンタール*らのグライダーの研究によって空気力学や構造上の理論が実用的なものに到達し，自動車用に開発された小形ガソリンエンジンは飛行機用エンジンとして希望がもてるまでになっていた。

1903年，アメリカのライト*兄弟は，ラングリーの研究や自分たちのグライダーの成果を取り入れたエンジン付きの機体を製作し，12月17日世界ではじめての動力飛行に成功した。こうして，空気より重い飛行機はその発展の歩みを開始し，第1次世界大戦までにいちおう実用性を確立した。➔飛行機

一方，飛行船も軽量なエンジンの発達と，軽金属を主体とする船体構造の改良によって，当時としては飛行機に比べてはるかに安全で搭載量(とうさいりょう)の大きい航空機となり，ドイツおよびアメリカを中心にはなばなしく活躍した。しかし，飛行船は元来船体が大きくて高速が出せず，悪天候に弱い欠点があり，大形船のたび重なる爆発

航空機の分類



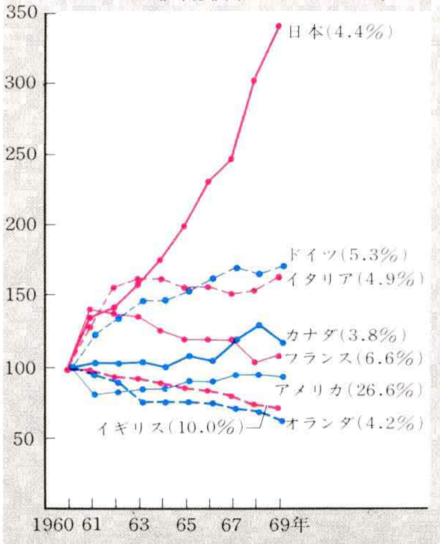
事故によってまもなく姿を消した。➔飛行船〔藤井冬木〕

こうくうきこうぎょう【航空機工業】航空機工業は，第1に高度な技術が要求される総合工業であり，金属工業・機械工業・エレクトロニクス関係部門をはじめ，幅広

い関連産業の上になりたっている。第2に，軍需の比重が高く，輸出適格商品でもあるが，新型機種の開発には長い期間と巨額の資金が必要なので，各国政府は航空機工業に対して資金面その他の数多くの強力な援助を与え，国策産業として助成に努めている。わが国の航空機工業は昭和の初期から陸海軍の援助の下に育成され，第2次世界大戦に至るまでに急速な発展を遂げたが，敗戦によって航空機生産も研究もともに禁止され，生産・研究が再開されたのは1952年(昭和27)4月であった。この間に世界の航空機工業は，プロペラ機時代からジェット機時代へと革命的な進歩を遂げていた。したがって，自衛隊発足を契機として復興したわが国の航空機工業は，アメリカ軍用機の修理からアメリカ航空機工業との技術提携によるライセンス生産によって，ジェット機の国産化へまでに発展してきたが，世界の先端技術はすでにマッハ3の戦闘機・ジャンボ-ジェット機・SSTを開発中であり，わが国のたちおくれは大きいものがある。しかしわが国が独自に開発した機種に，T-1Aジェット練習機・YS-11中型ターボプロップ輸送機・MU-2多用途機があり，特にYS-11機は，1959年6月，政府・民間の共同出資によって設立された日本航空機製造のもとに，三菱(みつびし)重工業・川崎航空機工業・富士重工業・新明和工業・日本飛行機・昭和飛行機が分担・製造し，すでに量産体制にはいり，輸出も好調である。しかし世界の先端技術との格差を縮小していくには，もっと長期的な開発計画と強力な政府援助を必要としよう。〔原　豊〕

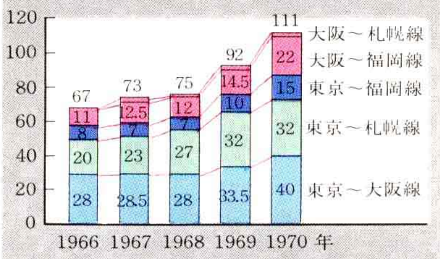
こうくうきしょう【航空気象】航空につごうのよい気象状態または航空に障害となる気象現象など，航空に関係のある気象。航空機の急速な発達によって，下層の気象現象のみならず，しだいに高層の気象の解析が必要となり，特にジェット機の飛行のためには200ミリバール面(高度約11km)の解析が必要である。航空気象のためには，普通の気象観測のほかに，有視界飛行気象状態から天気が悪化して計器飛行気象状態になったようなときには，飛行機の離着陸のために観測者は管制塔から視程・滑走路視程の観測を行なうことが必要である。計器飛行か目視飛行かの決定にあたって特に重要なものは，シーリング(雲底高度)と視程の観測値である。そのために，シーリングを連続自記観測できるシーロメーター，視程を連続自記観測できるトランスミソメーターなどが用いられている。また，航空のための天気予報として，飛行場予報と航空路予報がある。飛行場予報では，風向・風速・天気・雲量・雲形・雲底高度・雲頂高度，上層の風向・風速，飛行場上空の着氷現象やタービュレンス(7,000m以上の高層にみられる悪気流)などの予報が行なわれる。航空路予報は，国際飛行場の気象機関の間

図-1　世界の国際航空に占める主要国のシェアの推移(有償トンキロシェア)

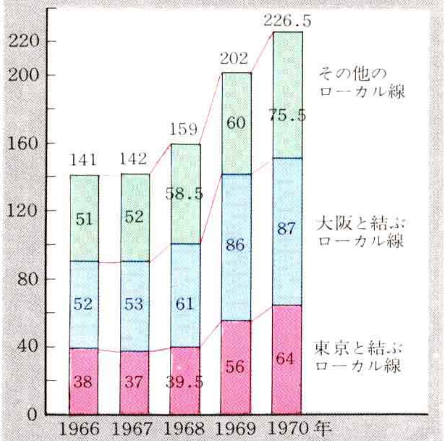


注)①(　)内は1969年のシェアでICAO推定実績による
②1960年を100とする指数
③ICAO Digest of Statisticsにより作成

(便数)　図-2　国内線便数の推移



便数(往復/1日)　ローカル線



注)①各年とも6月1日現在
②便数は免許路線に応じて算出
③郵便専用便を除く
④0.5便は週3往復を意味する

航空業

で協定してなされている。渡洋航空の飛行計画にあたって重要なのは，気象上最も経済的な航空路を決定することである。その意味で，航空路予報のもつ意義は大きい。一方，離着陸ならびに飛行にあたって障害となる気象現象としては，雲・霧・タービュレンス・雷雨・着氷などがあげられる。〔曲田光夫〕

こうくうきしょうだい【航空気象台】航空機の安全な飛行を確保するために，気象上の諸問題を扱う気象台。航空機の離着陸に必要な空港周辺の気象状態，および航路に沿う気象状態についての情報を定期的に流したり，飛行中のパイロットからの要求により管制塔を通じて連絡がとられる。わが国では東京航空地方気象台(東京国際空港内)のほか，各空港に航空測候所または気象台分室がある。

こうくうきひょうしききごう【航空機標識記号】航空機の国籍・登録番号などを表示するために主翼面と尾翼面あるいは胴体につけられる記号。航空機は国籍記号と登録記号を連記して表示することになっており，日本では国籍記号〈JA〉を使い，登録記号は4桁(けた)のアラビア数字を使っている。おもな国の国籍記号は，

カナダCF	西ドイツD	フランスF
イタリア　I	インドVT	アメリカN
イギリス　G	オーストラリアVH	

登録記号は，主として数字が用いられているが，アルファベットを使っている国もある。〔谷　洋五〕

こうくうぎょう【航空業】航空機を利用して旅客・貨物を運送する事業。定期航空輸送事業と不定期航空輸送事業とがある。航空輸送の経営に重要な影響を与える諸条件には，使用機材・路線構成・輸送需要などがある。近年，航空輸送は急速に拡大している。貿易の拡大，所得水準の向上に伴う観光ブーム，さらに空路網の充実と航空機の大形化・高速化によって，この傾向は今後も持続するものと考えられており，これにしたがって航空会社の使用機材も大量輸送ジェット機になってきている。すなわち，250人の旅客を運ぶDC-8-60シリーズ，1969年に導入されたボーイング-747，さらにマクダネル-ダグラス社の設計したDC-10，ロッキード社が製造するL-1011などのエアバスが実現すれば大空港だけでなく小空港でも大量輸送が可能になる。一方，1970年代の後半にはマッハ数2を越える超速度輸送機が出現し，飛行時間は従来の半分に短縮されるだろう。したがって，今後に残る問題は将来予想される膨大な貨客量を取り扱うための地上施設と，単に飛行速度の増大でなく旅行(輸送)時間全体の短縮のためのシステムの開発である。

【わが国の航空業】1965年(昭和40)国内線旅客数は約500万人，国際線旅客数は約43万人にすぎなかったが，1975年には，国内線1億2,000万人，国際線4,000万人に達するものと予想されている(運輸政策懇談会)。

航空業界を代表するのは半官半民の特殊会社，日本航空(株)である。日本航空は国際線を独占的に運営し，太平洋線・大西洋線・北回りヨーロッパ線(モスクワ線含む)・南回りヨーロッパ線・東南アジア線に乗り入れている。しかし，国際的にみると，日

本航空の規模はまだ小さく，1969年の世界国際航空に占める割合は，有償トンキロにおいて4.4％，旅客人キロにおいて4.1％，貨物トンキロにおいて5.0％にすぎない。国内線は，日本航空のほか，全日本空輸（全日空）と東亜国内航空によって運行されているが，1969年以降，路線の増設とあいまって観光ブームにより旅客運送は急激に拡大している。

以上の航空輸送事業のほか，航空機を使用して操縦訓練・薬剤散布・写真撮影・広告宣伝・調査視察・建設協力などを行なう航空機使用事業と，小口貨物の荷主を集めて低い運賃の大口貨物に仕立てる航空貨物混載業があるが，これらの事業に従事しているもののすべては中小企業で，前者が52社（1970年6月1日現在），後者が22社となっている。これらの事業者は企業体質が脆弱（ぜいじゃく）であり，事故発生率も高いから，安全性確保と経営合理化のための企業統合の必要性が強調されている。

急速に拡大していく航空需要によって航空業の将来は明るいが，ジャンボ機のごとき大形機の運行増大に伴う乗員確保，空港整備問題から，さらに騒音・排気ガスなどの公害問題が新しく起こっており，早急な解決が求められている。そのうえ，国内線においては国鉄新幹線網の充実に伴って，運賃・サービス面の改善に力を入れなくてはならず，また国際線では海外航空会社の乗り入れが増大するであろうから，内外ともに航空業界の競争激化は必定とみられる。〔原　豊〕

こうぐうけいさつ【皇宮警察】警察庁*の付属機関で，天皇・皇后・皇太子その他皇族の護衛，皇居・御所などの警備をつかさどる。皇居内に本部を置き，警務・警備の2部に分けて，管下に4護衛署を設けている。一般警察官に相当する皇宮護衛官の権限は，警備する施設内に限られている。警察官と同様に警視監以下八つの階級名が用いられ，官名の上に〈皇宮〉の名を付して一般警察官と区別している。

こうくうこうがい【航空公害】航空機による騒音と大気汚染などが，主として飛行場周辺の住民に与える害。騒音は，離着陸または整備に伴う試運転の際にエンジンもしくは補助動力装置から発するものと，航空機が超音速で飛行する際に生ずる衝撃波*によるソニックブームといわれるものに分けることができる。騒音に対する対策としては，許容される水準以下の場合に限り騒音証明を政府が出し，これがないと事実上飛行できないようにすること，飛行場の周辺に騒音量の監視所を設けること，夜間の離陸を制限すること，飛行場周辺で騒音が著しいと予想される区域に対しては，防音設備を施すための補償を国が行なうこと，そのような区域には建築制限を行なうことなどがあげられている。大気汚染では，主としてジェットエンジンの排気が問題となる。ジェットエンジンの排気ガスの中には非常に有毒な成分は含まれていないが，大量の煙の放出は好ましくないので，最近ではジェットエンジンの燃焼器を設計・開発する段階で排気煙を減少させるように考慮が払われるようになった。〔谷　洋五〕

こうくうこうがく【航空工学】航空機および航空原動機に関する工学。航空機に関する工学は，航空機全体としての運動を取り扱う飛行力学・空気力学・構造力学・航空機器学・制御工学・人間工学およびそれらの総合の上に立つ航空機設計学などの諸分科よりなる。航空原動機に関する工学は，熱力学・燃焼工学・空気力学・機械力学・潤滑工学・航空機器学・制御工学，およびそれらの総合の上に立つ航空原動機設計学などの諸分科よりなる。〔中口　博〕

こうくうこうつうかんせい【航空交通管制】航空機の衝突事故を防止し，空の交通の規律ある流れを促進・維持することを目的とする業務。そのあらましを代表的な飛行により説明すれば以下のとおりである。運航管理者が準備し，機長が同意した飛行計画は空港の航務課に提出され，管制区管制部は航空路上の交通の状況などを勘案して管制許可を与える。エンジンを始動する前後に，管制塔の飛行場管制所に無線電話で連絡し，地上滑走の許可を得て滑走路端まで進み，離陸の許可を得る。離陸滑走中または離陸直後，空港周辺を受け持つ進入管制所の管理下に移り，機長からの位置通報，または航空路監視レーダーに基づいて航空路上の管制が行なわれ，必要により管制許可の内容が変更される。国際民間航空機関では，広範囲の飛行情報区（FIR）を設けて，センターより飛行情報業務および警急業務を行なっている。航空機が目的飛行場の近くに達すると，その管理は再び管制塔進入管制官に移り，空港監視レーダーによって管制塔内の航空機の管制が行なわれ，さらに空港への進入の誘導が行なわれる。着陸に際しては，精測進入レーダーを用いて操縦を援助し，着陸後は飛行場管制所が地上滑走を指示する。〔谷　洋五〕

こうくうさくせん【航空作戦】航空戦力の空中・対地上・対海上における運用をいう。最近では，航空機だけでなくミサイルや人工衛星などを含めて，宇宙空間の軍事的利用というような広義の解釈も行なわれている。航空作戦の特質は，①急襲的に開始され，その第一撃の成果がその後のあらゆる作戦に大きな影響を与える，②活動範囲が地域的にも高度的にも広大である，③科学技術的基盤が重要な要素を占めるので，単に量をもって質を補うことができない，④攻撃優位の基礎の上に攻防のバランスを保持することが必要である，⑤消耗は短時間に行なわれるが，その建設には長期間を要する，⑥天候・気象の影響を受けることが大きい，などの点にある。

〔航空作戦の分類〕一般に運用の見地から，戦略航空作戦・戦術航空作戦・本土防空作戦に大別するが，戦略的・戦術的空輸の部を抽出して空輸作戦とし，4区分とすることもある。①戦略航空作戦：直接敵の政治・経済の中枢など戦力源を破壊する作戦である。すなわち，敵の戦争遂行能力または意志を破砕するために，敵の軍事・産業・政治・経済上の組織を破壊したり，または士気を崩壊させることを目的とするもので，戦略爆撃のほか，戦略偵察（ていさつ），戦略空輸，戦略ミサイルの使用などの諸行動を含む。これには一般に長期間にわたるばくだいな努力を必要とするが，その効果は緩徐で遅効的である。②戦術航空作戦：通常，戦域における統合作戦に寄与するよう，陸上・海上部隊と協同する。航空部隊の役割は，制空権（航空優勢）の獲得，敵部隊の移動阻止，陸上海上部隊の直接支援，戦術偵察，戦術空輸などである。本作戦の特質は，戦闘の様相や目標の選定が複雑であるから，航空部隊の運用には特に柔軟さが必要であること，敵の軍事力に対して直接的・即効的な効果が期待できることなどである。③本土防空作戦：本土に対する敵航空機などの攻撃効果を減少させるために行なう防勢作戦である。防空作戦*には積極防空と消極防空があり，航空戦力は積極防空の主役である。しかし，航空攻撃は威力が絶大であるから，防空には一瞬の油断も許されない。適時の情報と迅速な対処行動が必要である。しかも敵の攻撃から完全に免れることは困難であるから，防護目標の全周に縦深の防御手段を整えることが必要とされる。➔空軍　➔爆撃　〔森田　哲〕

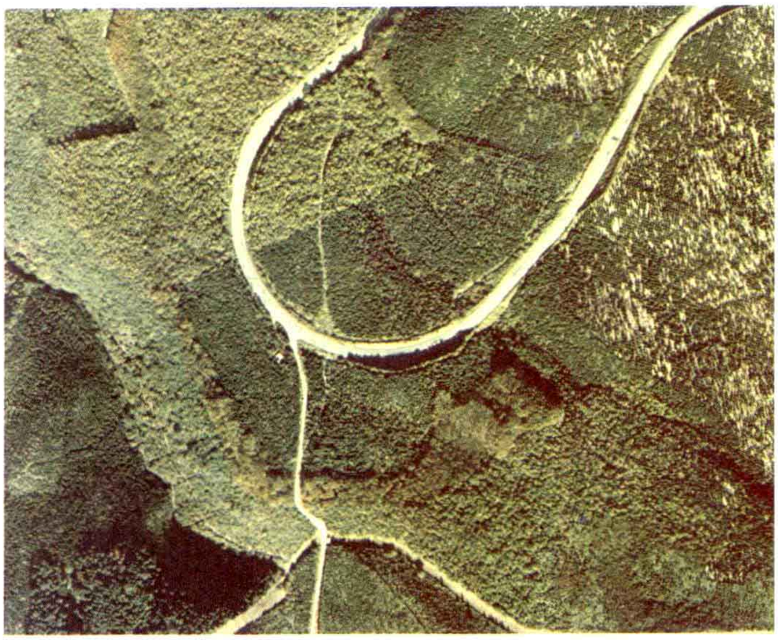
こうくうじえいたい【航空自衛隊】⇨自衛隊

こうくうしゃしん【航空写真】航空機を使用して空から撮影した写真。測量や地図の製作，都市計画の資料として用いられるほか，動物の生息数や生態などの写真から，自然保護の資料や遺跡の発掘など微視的な方法では得られない考古学的な資料を得たり，軍事偵察（ていさつ）など，多方面に利用される。➔次ページ（写）

こうくうしょうがいとう【航空障害燈】空港の周辺および航空路上で安全な航行の妨げになるような物件に取り付けられる燈火。赤色不動光で，光度は10カンデラ*以上。空港周辺では水平面（飛行場内の基準標高から45mの高さに位置する水平面）以上に突出した物件，および滑走路の延長上および両側に設けられた進入表面，転移表面に近接した特に危険な物件に設ける。航空路上では，60m以上の高さをもち，特に必要と認められる物件に設ける。〔谷　洋五〕

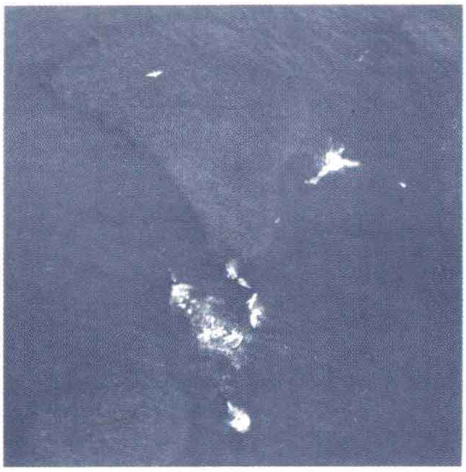
こうくうしんりがく【航空心理学】航空機搭乗員（とうじょういん）の防護・保健衛生・訓練教育・選抜，使用者に合致した航空機な

航空写真





(左)測量のための航空写真(斜め写真)　(右)左の写真から起こした地図(中伊豆)







(左)サバ群とイルカ(相模湾)　(中)水中のイワシ群。白い点は漁船(鳥取県福部沖)　(右)風蓮湖湿原。水路に沿った所から植生の変化するのがわかる

らびに機器の設計などの問題について，特に心理学的側面から研究する心理学の一部門。組織的な研究が始まったのは第1次世界大戦期におけるイギリス陸軍の航空事故調査からといわれるが，最近ではさらに宇宙ロケットの問題が登場し，この部門の研究はさらに重要度を加えた。これを宇宙心理学として，航空心理学と分離して扱う場合もある。現在，パイロットは世界的に人員不足であり，その教育・訓練にはばくだいな費用を要するうえ，航空機はますます高速化・大形化しつつあるので，各国において，軍部・民間ともに航空心理学に寄せる期待は大きいが，アメリカにおいてさえ，航空心理学の専攻者の数は少なく，その充実が望まれている。　〔印東太郎〕

こうくうとうか　【航空燈火】　航空機の存在を表示する燈火，および航空機の一部または地上を照明する燈火。前者が航空燈であり，後者には，着陸の際に出して滑走路を照らしかつ管制塔との連絡にも使用する着陸燈や，翼前縁やエンジンの空気入口を照らして着氷などを調べるために使用する翼照明燈がある。

こうくうとうだい　【航空燈台】　夜間または昼間でも気象状態の悪いときに航空機の航行を援助するための施設。航空路燈台・地標航空燈台・危険航空燈台の種類がある。航空路燈台は，航空路上の1点を示すための燈火で，白色と赤色の閃光(せんこう)を出す。地標航空燈台は，特定の1点を示す燈火で，白色の閃光燈である。危険航空燈台は，航空機に特に危険を及ぼすおそれがある区域を示すために設置され，赤色の閃光を出す。

こうくうにっし　【航空日誌】　航空機の飛行に関する記録をするための日誌。航空法*により，航空機の使用者は定められた日誌を備え，少なくとも航空機の国籍および登録番号・年月日・出発地・到着地・出発時間・到着時間・飛行時間，飛行の種類，乗組員の姓名および職務割りを記し，場合によっては事件・視認所見を記して責任者の署名を行なうことが義務づけられている。航空会社で実際に用いられているものには，ほかに飛行中の機体の状態，燃料および潤滑油，整備に関する記録などが記入されるようになっている。　〔谷　洋五〕

こうくうびょう　【航空病】　航空環境*や航空条件に伴って起こるからだの異常の総称。低圧・酸素欠乏・加速度・振動・騒音および精神不安などによる影響があげられる。航空機が気圧調節装置を施さずに高空を飛ぶと，低圧・酸素欠乏などが起こって，体液中に溶解していたガスが遊出したり膨張したりする。また耳管*の狭窄(きょうさく)，胸腹腔(きょうふくこう)中のガスの膨張や貯留(ちょりゅう)などが起こって，耳鳴・耳痛・頭痛や胸

部圧迫感・腹部膨満感などの症状が現われたり，中耳炎(航空中耳炎)にかかりやすくなる。さらに，組織への酸素の供給が不足するにつれて，組織の機能が低下しはじめ，頭痛・倦怠感(けんたいかん)・動悸(どうき)・眠気などの症状が現われ，しだいに神経の働きも侵されて精神症状が発現するようになる。高度30,000フィート(約10万m)では45～70秒以内に意識を失うとされている。その他，航空機が高空を飛ぶための精神不安や航空機の騒音振動は疲労を早め，精神不安を助長する。航空機旅行には心疾患・肺機能障害を有する者，強い貧血患者および新生児・高年者は注意を要する。〔佐野隆志〕

こうくうほあんしせつ【航空保安施設】航空機の航行安全を確保するために必要な援助施設の総称。航行用と着陸用に大別できる。航行用援助施設には，地上標識や航空燈台のような無線施設以外のものと，航空機に方位を知らせるNDB局(無指向性無線標識施設)・VOR局(超短波全方向式無線標識施設)，距離を知らせるDME局(距離測定用施設)，方向と距離を知らせるTACAN局，航空路監視レーダーなどの無線施設がある。着陸用援助施設には，飛行場燈火・滑走路標識のように電波を利用しないものと，管制官に航空機の方向と距離を知らせる空港監視レーダー，着陸降下の状態を知らせる精測進入レーダー，計器着陸用のローカライザー・グライドパス・マーカーなどの無線



航空母艦 アメリカの攻撃型航空母艦「アメリカ」。キティホーク級 基準排水量60,300トン。速力35ノット。1965年就役

施設がある。〔谷 洋五〕

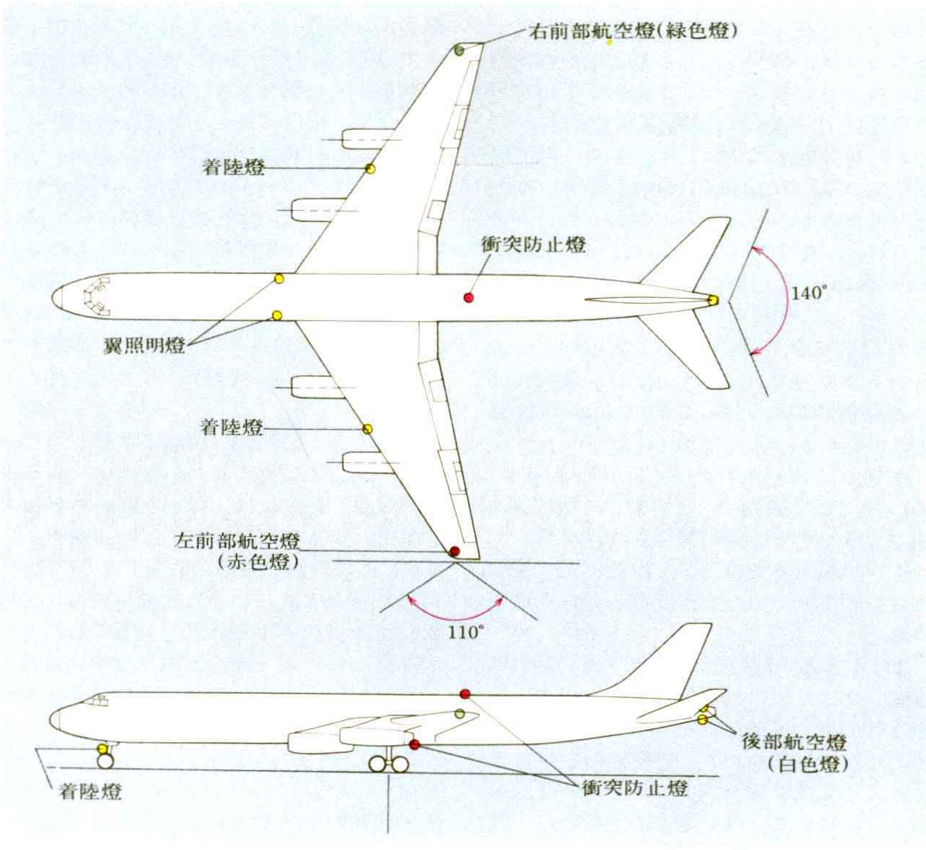
こうくうほう【航空法】航空の安全・運航・運送に関する国際法および国内法をいう。国際的には，

1909年 国際起草委員会
1919年 国際航空条約(パリ条約)
1929年 国際航空運送に関する条約(ワルソー条約)
1933年 航空機による損害と無過失責任，有限責任ならびに強制保険に関する国際的法規を作成することを決定(ローマ条約)
1944年 民間航空に関する規制(シカゴ条約)

のような立法が進められた。一方，国内的には，これらに相応して各国で立法措置が進められ，わが国においては，1952年(昭和27)にあらためて航空機の航行の安全の確保と航空事業の秩序の確立とを目的として，〈航空法および航空法施行令，航空法施行規則〉が制定されている。〔谷 洋五〕

こうくうぼかん【航空母艦】航空機を搭載(とうさい)し，甲板上に発着させる軍艦。略して空母とよぶ。第2次世界大戦以降，動く航空基地として海軍の作戦上最も重要な艦種となっている。飛行機を艦上から発着させる試みから出発した空母の歴史は，1910年から始まり，第1次世界大戦中にイギリスが軽巡洋戦艦フューリアス(22,000トン)を改造して飛行甲板を張り，1918年に対独作戦に使って成功したことで実用期にはいった。日本やアメリカも艦隊空軍の育成をはじめ，1922年(大正11)に竣工(しゅんこう)した日本の鳳翔(ほうしょう)(7,470トン)は最初から空母として建造された世界ではじめてのものである。また，ワシントン会議*によって建造中の主力艦各2隻を空母として完成させることになった日本とアメリカは，戦力的にも実績の上からも先進国イギリスをしのぐことになり，以後第2次世界大戦の終了まで空母の建造を競うことになった。このうち巡洋戦艦を改装したアメリカのレキシントンとサラトガ(33,000トン)は，性能・構造の両面で非常に進歩的なもので，その影響は今日のアメリカ空母にまで及んでいる。しかし，当時このような大形艦は飛行機の性能からも不必要と考えられ，条約による制限もあって中・小形空母の建造に力が傾けられた。アメリカのヨークタウン型(20,000トン)，日本の蒼龍(そうりゅう)(16,000トン)などは実用的な中型空母で，特にイギリスのアーク-ロイヤル(22,000トン)は装甲や艤装(ぎそう)などの面でイギリス空母の基礎となり，のちのドイツやイタリアの空母に与えた影響は大きい。このころから大・中形を正規空母，小形を軽空母とする分化が起こった。また，第2次世界大戦が始まると，船団護衛や航空機の運搬のために商船の船体を利用した護衛空母がアメリカやイギリスで多数建造された。また，太平洋においては空母の優位が戦局を左右することになり，日本とアメリカの建艦競争は一段と激しくなった。日本は蒼龍型の，アメリカはヨークタウン型の拡大改良型を多数建造した。特に，アメリカのエセックス型(27,000～29,000トン)は戦後にわたって24隻がつくられ，現在でも改装されて盛んに活躍している。

第2次世界大戦後は艦上機のジェット化によってさらに大形化に向かい，アメリカでは戦略爆撃機の搭載のために，1955年以降は超大形空母フォレスタル型(60,000～64,000トン)が建造され，1962年には初の原子力空母エンタープライズ*(75,700トン)が竣工した。また，戦後ますます進歩する潜水艦に対しては，対潜ヘリコプターを専門に搭載したヘリ空母が護衛空母を転用し



航空燈火

て使われたが，機動性や装備のすぐれた固定翼機も必要となって，旧式化した正規空母をこれにあてるようになっている。空母の戦力は，固有の火力や防御力よりも搭載する艦上機に負うもので，構造や艤装上から航空機の運用能力にすぐれていることを第一とし，戦術的な行動力や武装に重点を置くほかの艦艇とは大いに異なっている。〔藤井冬木〕

こうくうほけん 【航空保険】 航空機に関する事故によってひき起こされる損害を塡補(てんぽ)することを目的とする保険の総称。この保険は，航空機が空中にあると地上または水上にあるとを問わず，およそ航空機の使用・利用・管理・製造・修理などに関連して生ずるいっさいの危険を対象とする。それゆえ，航空保険には機体とその搭載(とうさい)運送貨物などの財物に対する保険と，他人に対する損害賠償責任の保険，ならびに乗客や乗員などの搭乗者の生命・身体の傷害に対する保険とがある。〔庭田範秋〕

こうくうむせん 【航空無線】 航空機の航行のための，電波を用いた装置またはシステム。通信用と航法用に分類される。通信用には，近距離用の超短波と遠距離用の短波とがあり，前者は空港の近くで管制塔との通信などに用いられ，後者は洋上で飛行情報や気象情報を得るのに使用する。航法用には，航空路に沿った無線標識局の方向を捜すために使用する自動方向探知機，超短波全方向式無線標識局の方向と距離を知るのに用いられるVOR受信装置および距離測定装置，洋上飛行において航空機の位置を知るためのロラン*装置，航空機の着陸の際，着陸コースを電波で示す計器着陸装置，高度を精密に示す電波高度計，雨雲や地形を知るのに用いられる気象レーダー，航空機の対地速度やこれを積分して飛行距離や航空路からのずれを知ることのできるドップラーレーダーなどがある。最近は，人工衛星を基準・中継物とする航法および通信も開発されている。〔谷　洋五〕

こうくうゆうびん 【航空郵便】 航空機によって運ばれる郵便。通常，特別料金が定められている。航空郵便は，郵政省・航空会社間で郵便物運送委託法に準拠した契約を結び，郵便局から引き渡される郵袋に納められた郵便物を指定された局へ航空機で運送して引き渡す。外国郵便の場合は，名あて国の郵政官庁へ引き渡される。国際間の郵便業務の運営は，国際連合の専門機関である万国郵便連合が連絡・諮問にあたっている。航空会社は，航空郵便物の受け渡し・積み降ろしをすべての貨物に優先して取り扱わねばならず，他の旅客・貨物の搭乗(とうじょう)のため積み残してはならない義務をもつ。➔エログラム　〔谷　洋五〕

こうくうようすいしんそうち 【航空用推進装置】 航空機用の推進装置は，装置が軽量小形で，燃料消費率が小さく(したがって熱効率が高く)，燃料が安価で貯蔵や取り扱いが容易でなくてはならない。そのために，航空用原動機は今日までのところ，例外なく内燃機関が用いられ，一部の例外を除けば石油系の炭化水素(ガソリンまたは軽油)を燃料とし，空気中の酸素を利用する空気呼吸機関である。1940年代まではガソリンまたはディーゼル-エンジン，すなわちレシプロ-エンジン*とプロペラの組み合わせが独占的に用いられたが，1940年代の後半から実用化されたタービン-エンジンの種々な形式が急速に広まって，今日では用途に応じて多様な使い分けが行なわれている。低速の小形機用としてはレシプロ-プロップが多く，65馬力ないし350馬力程度の列形空冷のエンジンが使用される。速度600km/時程度までの低速中形機用としては500馬力ないし4,000馬力程度のターボプロップ-エンジン*が用いられており，より小馬力の領域でもレシプロ-エンジンにとって代わる傾向にある。速度600km/時以上マッハ3程度までの広い範囲にわたってターボジェット-エンジンおよびターボファン-エンジンが使用されており，最も遅れて開発されたターボファン-エンジンは今後さらに発展すると思われる。今日製造されているターボジェットおよびターボファン-エンジンの推力は1基あたり400kgから30,000kg程度の範囲にわたっている。マッハ4ないし5以上ではラムジェット-エンジン*またはこれとターボジェット-エンジンとの合いの子であるターボ-ラムジェット-エンジンが考えられる。

酸素の存在しないような超高空を飛行するためには，燃料とともに酸化剤を航空機内に携える化学ロケットを使用するのが一つの方法で，NASA*の極超音速実験機X-15など特殊な機体については，すでに実用化されている。また，同様な領域に使用する可能性のあるものとして原子力エンジンが考えられる。原子力エンジンは，出力重量比が極端に低い原子炉の現状では問題にならないが，人工衛星の空飛ぶ射出台といった特殊目的の航空機用として実用化される日がくるかもしれない。なお，狭義には推進装置ではないが，VTOL*用の浮揚装置としてリフトジェットあるいはリフトファンがある。ロールスロイス社が先鞭(せんべん)をつけたこの装置は，まず推力対重量比を極力大きくする方向に開発され，すでにエンジンの裸重量では20：1程度にまで達し，ついで騒音低下の方向へ改良が向けられている。〔中口　博〕

こうくうろ 【航空路】 航空機を安全に運航させるために，気象状態や地形および非常時の不時着地などを考慮して，政府が定めた空中通路をいう。航空路の設定にあたっては気象状態や地形などを十分に調べねばならないことはいうまでもないが，同時に地上の航空保安施設の利用を考慮する必要がある。特に航空無線標識施設は，航空機に位置や方位を知らせ，航空機はこの標識に沿って進めば迷うことなく目的地に達することができる。航空路はこの航空無線標識施設を結ぶ線をいい，施設を管理する政府が地図で告示する。航空路は地上の無線施設の種類によりカラー航空路・ビクター航空路の2種に分けられている。カラー航空路(たとえば，緑の4番(G4)というように色と番号で名まえをつけている)は，NDB局(無指向性無線標識施設)をつないでいく航空路で，日本や東南アジア方面ではこのカラー航空路を用いているが，欧米諸国はビクター航空路が主力である。ビクター航空路はVOR局(超短波全方向式無線標識施設)を結ぶ航空路で，距離測定装置を併設して航空機に標識局の方向と距離を知らせる。航空機は必ずしも航空路を通る必要はないが，多くの航空機が集中する空港付近や定期路線のように交通管制を必要とする地域では定められた航空路上を飛行しなければならない。〔谷　洋五〕

こうぐこう 【工具鋼】 各種工具や計測器具などに用いる鋼。化学成分および物理的性能上から炭素工具鋼*・高速度鋼*および合金工具鋼に大別され，合金工具鋼はさらに切削用鋼・耐衝撃用鋼・耐摩不変形用鋼・熱間加工用鋼に分けられる。切削用鋼は炭素量が比較的多く，タングステン・クロムおよび少量のバナジウムを含み，炭化物形成により硬度が増し，耐摩耗性の付与により切れ味が増すために，バイト・タップ・カッターなどに広く使われる。耐衝撃用鋼は靭性(じんせい)の大きいことが第1条件で，炭素量を低下させ，焼き入れたままで靭性を与えた鋼である。たがね・ポンチ・鑿岩(さくがん)機用ピストンなどに使われる。耐摩不変形用鋼は高炭素でマンガン・クロム・モリブデン・タングステン・バナジウムを含み，かたい炭化物形成によって高い硬度とすぐれた耐摩耗性を有するもので，ゲージ・ダイスなどに使われる。熱間加工用鋼は長時間高熱にさらされるので，軟化変形せず，耐摩耗性を有するという条件下で，鍛圧機用工具・線引きダイスなどに使われる。〔長谷川正義〕

ごうくら 【郷倉】 郷蔵とも書く。江戸時代，郷村に設置された年貢米(ねんぐまい)保管用の穀倉。初期には年貢米を幕府や諸藩の倉に納入するまでの一時的保管倉庫であったが，中期以降は幕藩の備荒貯蓄(➔荒政)用にも利用された。さらに備米蔵などの備荒貯蓄を目的とする郷倉も設置され，その米は貸し付け用・非常救済用に用いられた。多くは村役人宅に付置され，村役人がこれを管理した。

こうくり 【高句麗】 古代朝鮮三国(新羅*(しらぎ)・百済*(くだら)とともに)の一つで，南満州・北朝鮮を領有した。日本では〈高麗(こま)〉とよんだ。高句麗族は南ツングース族で，紀元前1世紀ごろ東北部の南部に原始的部

族国家を形成したと推定されている。2世紀末，鴨緑江(おうりょっこう)中流の通溝(つうこう)に王都を築き，その後国力が発展して遼東(りょうとう)を攻めたが，漢*・魏*(ぎ)や遼東の太守公孫度の反撃を受けたため，朝鮮半島にその進出を転ずるようになった。313年には長く中国王朝の郡県となっていた楽浪・帯方の２郡を滅ぼして北鮮一帯を領土とした。好太王の治世(392～412)には国勢はさらに伸張して南鮮の新羅(しらぎ)・百済(くだら)２国を侵略し，南鮮支配をめぐって日本とたびたび交戦した史実が現在する好太王碑(→広開土王碑)に記されている。好太王はまた北方の扶余国を滅ぼし，遼東に進出して，広開土王と称せられた。次の長寿王は427年北鮮の平壌(へいじょう)に遷都,南下を進めて新羅・百済を圧迫したのち，高句麗の極盛期を迎えた。そののち，中国を統一した隋(ずい)の高句麗遠征にはよく国土を防衛して隋軍を大敗させ，次の唐の攻撃をも敗った。しかし，唐の高宗は新羅と連合してまず百済を滅ぼし(660)，668年高句麗国内の政争を利用してついに平壌を陥落し，ここに東アジアの雄国として長い歴史を続けた高句麗は滅亡した。高句麗は飛鳥(あすか)時代よりわが国と国交を結び,僧曇徴(どんちょう)をはじめその来朝者が先進文化を伝えて，飛鳥文化*の創成に貢献した。滅亡後は多数の亡命者がわが国に帰化し，おもに関東地方に配置された。➔高麗氏　〔高崎徳次〕

こうぐん【紅軍】 中国共産党*の軍隊。1927年，南昌蜂起(なんしょうほうき)のとき，中国共産党は，労農紅軍を創設した。抗日戦争の時期には八路軍*・新四軍*に改編され，人民解放戦争の時期には，中国人民解放軍と改称された。狭義には八路軍・新四軍改編までを紅軍という。独自の建軍原則と作戦原則をもつ，まったく新しい型の革命軍隊である。

こうけ【高家】 江戸幕府の職名。幕府の儀式・典礼に関することをつかさどった。1608年(慶長13)徳川家康(いえやす)が大沢・吉良(きら)の両家を任じたのが最初で，そののち増加して26家に及んだ。高家とは名族を意味し，世襲で老中支配に属し，役高千五百石を給せられた。家禄(かろく)は筆頭の大沢家も三千五百石にすぎなかったが，営中席次は芙蓉間詰(ふようのまづめ)で，官位・格式はいずれも大名に準じた。江戸城中の諸礼式をはじめ，勅使の接待，朝廷への使，日光・伊勢(いせ)名代など多くの所役を諸家の間でつとめた。江戸に常住し，平日は交代で１人ずつ営中に当直した。非職の高家を表高家，臨時に高家に任ぜられるものを一代高家といった。　〔高崎徳次〕

こうけい【黄経】 天球上のある一点を通って黄道と直交する大円が黄道と交わる点と春分点との間の角距離。天体の位置を表現する黄道座標系*の要素で,地球上の経度に対応する。黄経は春分点から東向きにはかる。地球を天球の中心に置いたときの黄経を地心黄経，太陽を天球の中心に置いた黄経を日心黄経という。黄経は，地平座標系*の方位角・高度のように，観測する場所・時間によって変化しない。➔黄道座標　➔黄緯　〔木下　宙〕

こうけい【鎬京】 中国，西周の都。周の武王が殷(いん)を滅ぼしたのち，BC1120年ごろに建設され，BC770年平王が洛邑(らくゆう)に都を移すまで栄えた。現在の陝西(せんせい)省西安県にあった。

こうけい【高啓】 (1336～1374) 中国，明(みん)代初期の詩人。元末の動乱を避け，呉淞江(ウースンこう)に沿う青丘に閑居したので高青丘ともいう。性格が豪放剛直で，官僚生活の拘束をきらい，明の朱元璋(しゅげんしょう)に召し出されたが，その意にさからい，腰斬(ようざん)の刑に処せられた。李白(りはく)に似た詩風で，明代の詩人の代表的存在。《青丘子歌》がよく知られている。

こうげい【工芸】 〔工芸の意味〕一般に，美学上の純粋美術に対して応用美術といわれるものをいう。絵画・彫刻のような純粋美術は，原始社会において呪術(じゅじゅつ)的な意味をもっていたが，社会の分化・発展とともに比較的近代になって鑑賞用の純粋美術として独立した。それ以前は，絵画も彫刻もほとんどが実用目的と結びついていた。すなわち，信仰対象の創作とか装飾効果をあげるために，彫刻や絵画の技術があった。たとえば，大和絵*(やまとえ)は，12～13世紀の貴族の住居であった寝殿造の襖(ふすま)や屏風(びょうぶ)などに描かれたが，その内容は四季のけしきや名所風景に当時の生活を織り込んだもので，鑑賞の対象としてよりも建築装飾としての働きのほうが強かった。日本の絵画が，鑑賞芸術としての地位を得たのは14～15世紀のことである。当初は押板(おしいた)の壁に仏画が掛けられていたが，やがて，押板が床の間に変わると，花鳥山水が掛けられるようになった。工芸は，美の表現を目的とする絵画・彫刻と異なり実用的要素が含まれており，人間生活に密接な関係をもつもので，美と用，すなわちみたときの美的快感と生活用具としての機能性，つまり美しく使いやすいことが要求される。人間社会は複雑であり，美的観念も一様ではないので，用途に適した機能美を強く要求されることもあるし，材質を強調する場合もあり，加工・加飾がもたらす美を求めることもあり，用途・時代・社会などによって重点の置き方が変化する。

〔工芸の形態〕産業革命*以来，機械が発達してくると，それまで手仕事によってつくられていた人間の生活用具が，機械によって短時間に多量のものが正確につくられるようになった。しかし，機械による工業生産でも生活用具の美意識の問題が重点であり，インダストリアル-デザイン*が必要になってきた。このように，現代の工芸は，工業的意義を多く含んだ〈産業工芸〉，手仕事の盛んであった過去に民衆の日常用具として使用された雑器で，しかも地方的特色のある民具を，今日の民衆の日常用具に応用しようとする〈民芸*〉，一品制作の最も美術的な〈美術工芸〉の３種に大別される。

〔工芸の分類〕過去の工芸は，生活用具を生産する全領域を占めており，手と手道具によってつくられていた。今日の工芸では，手道具が機械化され，手と手道具による工芸はきわめて特殊なものとなった。しかし，領域のせばまった今日の工芸においてその範囲は広く，実用的な雑具から鑑賞的な工芸品まである。技術面からは完全に手によるものもあり，機械化されたものもある。材質的には金工・漆工・陶工・木工・竹工・石工・皮革工・染織などの呼称が一般に使用されている。ここで金工に例をとって，技術的な面からさらに細分すると，成形の技法には大別して鋳金と鍛金がある。鋳金は溶かした金属を鋳型に注入して器物をつくる方法で，中空の器物をつくるには雌型(外型)と雄型(中型(なかご))を必要とし，鋳型をつくる方法にも種々の技法がある。鍛金は金属を加熱して柔らかくし，槌(つち)で打ち延展・曲折させて成形する技法である。金属を加飾する技法としては彫金・象嵌(ぞうがん)・鍍金(ときん)などがある。

〔日本工芸の歴史〕①仏教伝来以前：わが国で工芸が著しく発展するようになったのは，６世紀中葉の仏教伝来以後であるが，仏教伝来以前にもかなりの技術と造形的表現をもっていた。日本の工芸の発生は縄文(じょうもん)式土器がつくられた時代から始まるが，この時代は数千年も続いた。紀元前１～２世紀ごろ，大陸から農耕の技術をもった文化が日本に流入し，弥生(やよい)式とよばれる土器がつくられ，大陸から青銅器の文化，続いて鉄器の文化がはいってきた。特に，この時代につくられた銅鐸(どうたく)は，日本独特の意匠になり注目されるものである。４～６世紀には国家組織も整い，大きな墳墓がつくられた古墳時代になる。古墳時代後期には，中国六朝(りくちょう)・朝鮮の影響を受けた工芸技術が著しく進歩をした。金属器では鏡の製作が盛んになり，装身具もすぐれたものがつくられている。また，鉄の武器類もつくられた。窯業は大陸から新しい技術の須恵器(すえき)がもたらされた。一方，土器も土師器(はじき)に変わり，土師部(はじべ)のような専業的な民部も形成され，単純・簡明な表現の埴輪(はにわ)をつくった。

②飛鳥(あすか)時代：仏教伝来から大化改新までの飛鳥時代には，仏教は朝廷や国民の間に広く信奉されるようになり，それに伴って，寺院や仏像・仏器・仏具が盛んにつくられた。この結果造形美術の発達を促し，建築物の内外や仏器類の装飾に進んだ技法と表現がみられる。

③奈良時代：大化改新から平安遷都に至

工　芸

金　工



①



②



③



④



⑤



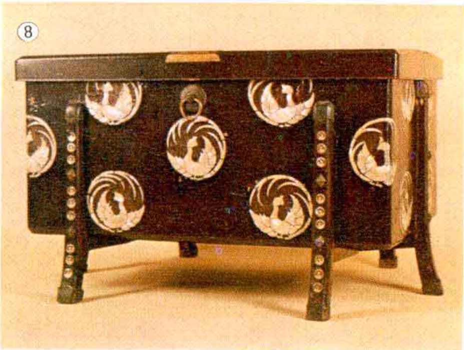
⑥

① 《梵鐘》 飛天・獅子の装飾文が付され，形姿・鋳技にすぐれた平安中期の遺品　平等院蔵　② 《鋳銅梅竹文透釣燈籠》 室町時代　東京国立博物館蔵　③ 《桐竹文鏡》 桃山時代(1588)　東京国立博物館蔵　④ 《袈裟襷文銅鐸》 江戸時代に讃岐(香川県)から出土したと伝わり，身の斜格子文で画された各区内に狩猟図などが線画で鋳出されている　5 《遠山五匹馬図釜》 古芦屋　室町時代　東京国立博物館蔵　⑥ 《金銅透彫冠》 奈良時代　東京国立博物館蔵

漆　工



⑦



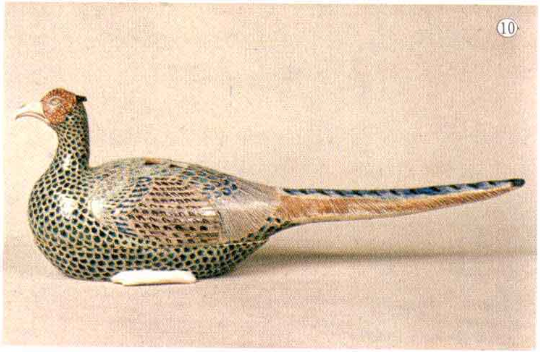
⑧

⑦ 《舟橋蒔絵硯箱》 本阿弥光悦の作になり，ふたの甲面に銀板くり抜きの文字で〈東路のさの丶(舟橋)かけて濃ミ思(ひ)わたるを知(る)人ぞなき〉と散らし書きにはりつける　東京国立博物館蔵　⑧ 《鳳凰丸文螺鈿唐櫃》 室町時代　東京国立博物館蔵

陶　磁



⑨



⑩



⑪

⑨ 《秋草文壺》 平安時代，常滑窯が製作地と思われ，中に火葬骨が納められていた　慶応義塾大学蔵　⑩ 《色絵雉子香炉》 野々村仁清　江戸時代　石川県美術館蔵　⑪ 《色絵雉子香炉》 野々村仁清　江戸時代

るまで，朝廷は仏教の興隆に力を注いだため，仏教関係の建築や美術工芸が飛躍的な発展を示した。また，宮廷や貴族の需要に応ずる工芸も大陸からの優秀な技術の導入によって進歩した。この時代の工芸技法は，正倉院に収められている宝物によって知ることができる。正倉院の宝物は聖武(しょうむ)天皇の御遺愛品，大仏開眼供養に用いられたものを中心にした10,000点に及ぶものであり，その種類も多く，調度・文房具・遊戯具・儀式具・仏具・楽器・武器・服飾など広い範囲にわたる。これらのほとんどは唐様式のものである。

④平安時代：平安遷都から約4世紀の間の平安時代には，従来摂取してきた外来文化を基礎として日本的なものを発達させた時代であり，藤原氏を中心とする貴族の文化がその中心となっている。建築では寝殿造という純日本的な様式が完成し，飲食具・燈火具など生活用具も純日本ふうの様式をもつようになった。また，貴族の間に浄土信仰が広まって，各地に阿弥陀堂(あみだどう)が建てられたが，宇治平等院*の鳳凰堂(ほうおうどう)もその一つである。これらの阿弥陀堂は，極楽浄土をしのばせるために，堂宇の内外にはさまざまの工芸技術が用いられた。これらの工芸品には繊細な感覚を重んじる貴族的な美意識が反映されて，やさしく穏やかな情緒あふれる表現がみられる。

⑤鎌倉時代：鎌倉時代は，工芸の上では平安時代の伝統を受け継いだが，武家の世とて，武家の気分を反映して雄健な傾向をおびてきた。工芸品も伝統的な表現形式の上に一種の力強さが加わった。器物の形なども強さや張りのある姿となり，情緒的な面が失われ写実的となった。武家社会のため当然刀剣とその外装，甲冑(かっちゅう)・馬具などの武器・武具をつくる工芸技術も発達した。また，この時代の初めに中国から伝来した禅宗*が，その後の日本文化に及ぼした影響は大きい。中国文化の影響は工芸史上にもみられるようになるが，尾張(おわり)(愛知県)の瀬戸で宋(そう)ふうの焼き物が焼かれるようになったのは注目される。

⑥室町時代：この時代の工芸の特色は，禅宗の影響がはっきりしてきたことである。当時の禅僧や武家の間では中国の器物が大いに愛好され，座敷飾りや贈答品として用いられた。これらの工芸品は，大陸との貿易などによって伝来したもので，当時の工芸の技術あるいは文様，鑑賞上に多くの影響を与えた。また，この時代には茶道が盛んになり，必然的に茶器製作などの工芸の発達を促した。

⑦桃山時代：この時代は新興武士・町人階級の建設的なたくましい生活意欲を基盤とし，工芸の分野においても豪快・華麗，そして広壮な城郭・邸宅の盛んな造営によって得た自由で活気に満ちたはなやかな世界を展開し，工芸史上画期的な時代となった。特に，漆工(→漆工芸)の蒔絵*(まきえ)による調度品や染織*の衣装類ははなやかで大胆な文様が多い。華麗な工芸品がつくられた反面，利休により侘茶*(わびちゃ)が大成され，それに伴う工芸が盛んになった。特に，陶芸(→陶磁)において著しいものがあり，楽焼*・志野*・織部陶*などが生まれた。また，この時代にはヨーロッパ文化との接触があり，工芸の世界にも多くの影響を与え，新しい技法や文様を生みだし，特に異国人の指導・注文による漆器も製作された。

⑧江戸時代：江戸時代の工芸は250年余の泰平の世に，町人階級の躍進的な発展に伴い，めざましい展開を示した。工芸の中でも特に陶芸と染織の展開はみるべきものがある。陶芸においては磁器絵が完成され，各地に多数の窯(かま)がつくられた。一方，染織工芸もこの時代の好みを反映してめざましい展開を示し，今日の染織工芸の基礎をつくった。しかし，徳川幕府が封建制度を強化するにつれて，工芸もしだいに型にはまり形式化していった。江戸中期以後，工芸は質的発展はみられないが，量産的な発展はめざましく，興隆する町人の文化的欲望を対象にして，工芸は贅(ぜい)を尽くし，技巧の精緻(せいち)を誇った。江戸末期には工芸は玩弄(がんろう)趣味に陥ってしまったが，なんといっても工芸が普遍化したのはこの時代である。また，一方では形式や技巧に陥らない作家が現われ，地方諸藩の殖産奨励によって異色ある地方的産業工芸が生まれた。なお，近世において特異な発展をみせたものに民芸品がある。民芸品は農民たちが，自家用につくった日常生活用具，あるいは副業的につくりだした工芸品，または専門の工人がごく小範囲の地方民衆を対象に生産した工芸品をさすものであるが，地方の特色を強く表わしている。民芸品は，都市文化を背景として発達した工芸品とは違ったものとなり，素朴(そぼく)で健康的な美しさがある。

⑨近代：明治維新後，日本の工芸は一時混乱の時代を迎えるが，ヨーロッパ文化の流入に伴い，工芸界は，洋風化された衣食住の生活用具に外来の技術と材料を取り入れた。また，ヨーロッパ諸国で開かれた万国博覧会も工芸を発展させる一因となった。大正時代にはいると，第1次世界大戦がもたらした好景気によって，量産的・産業的な工芸が盛んになるとともに，鑑賞本位の一品制作の工芸にもすぐれた作家が現われ，各分野で活躍した。大正末には，鑑賞本位の工芸に対し民衆生活に密着した工芸・民芸運動が盛んになった。第2次世界大戦後には産業工芸，クラフト(→クラフト-デザイン)，新しい立場の装飾を求める工芸，伝統の精神と技法をとうとぶ工芸など多彩な動きがみられるが，これを工芸の上にどのように表わすかは，今後の工芸作家の芸術意識の問題である。〔香取忠彦〕

ごうけい　【豪渓】　岡山県南部，総社(そうじゃ)市と北隣の上房郡賀陽(かよう)町にまたがる渓谷。高梁(たかはし)川支流の槇谷(まきだに)川が節理の発達したカコウ岩地域をうがってつくった渓谷で，絶壁や奇岩が多く，新緑や紅葉の時期には多くの観光客を集める。かつて雪舟も訪れたといわれている。

こうげいが　【巧芸画】　複製画の一種。コロタイプ*印刷の上に，木版または筆で色を加えるという手法をとるので，原画にきわめて忠実な複製が得られる。先年焼失した法隆寺金堂壁画の復元はこの技法によっている。すなわち，原寸大のコロタイプ版写真を特殊な紙に焼き付け，壁画の模写や原色版写真などを参考にして彩色するという方法がとられている。

こうげいさくもつ　【工芸作物】　特用作物ともいい，作物体の一部あるいは収穫物が工芸原料に供される農作物をいう。用途により，繊維料・デンプン料・油料・嗜好(しこう)料・香辛料・芳香油料・染料・糖料・薬用料などに分けられ，6,000種以上に上る。

こうけいしつ　【後形質】　原形質*が物質代謝の結果つくったものの総称。貯蔵物質・老廃物・細胞内含有物がそれであり，細胞壁・細胞液・色素・デンプン粒・脂肪粒その他の細胞内貯蔵物質などが含まれる。

こうけいひ　【口径比】　⇨写真レンズ

こうけいらいのらん　【洪景来の乱】　朝鮮，李朝(りちょう)の1811年末，平安道地方に起こった農民反乱。指導者洪景来は平安南道龍岡(りゅうこう)郡の土豪出身で，祖は李朝に仕えた名家であったが，事に連座し没落した。彼は没落官人の出身として政府に不満をいだき，地方の不平官人や窮乏農民を集めて蜂起(ほうき)した。農民軍は規律厳格で，貧民の支持を得，政府軍を悩ませたが半年で鎮圧され，景来も戦死した。

ごうけしだい　【江家次第】　〈江次第〉ともいう。大江匡房(まさふさ)が関白藤原師通(もろみち)の求めに応じ，平安後期の朝儀を記した有職(ゆうそく)故実の書。後世諸儀式の参考書として珍重された。原本は21巻。16・21の2巻は現存しない。

こうけち　【纐纈】　⇨絞染

こうけつあつ　【高血圧】　最高血圧がつねに150mmHg以上，最低血圧が90mmHg以上の心臓血管系の状態をいう。血圧は，健康人でも高年になるにしたがって上昇していくが，高血圧は種々の疾患によって惹起(じゃっき)される病的状態である。原因疾患を列記すれば次のとおりである。①腎性(じんせい)高血圧：慢性腎炎・萎縮腎(いしゅくじん)などに伴うものである。これらの疾患では，腎血流量が減少することによって，腎臓からレニンという血圧上昇作用を有する物質が産生され，腎臓の機能が障害され，循環血流量，血中のナトリウムイオンの濃度の増大などによって，血圧が上昇する。②本態性高血圧症：原因は明らかではない

が，心臓の働きや血管の収縮・弛緩(しかん)を調節している自律神経系が不安定であること，細動脈を収縮させる副腎皮質ホルモン(ノルアドレナリン)や循環血液量を増大させる作用のある副腎皮質ホルモン(アルドステロン)などの分泌過剰，腎性因子(レニン)の分泌過剰，ストレスによる自律神経系への影響などの原因によって，血圧が上昇すると考えられている。③副腎性高血圧：かっ色細胞腫(さいぼうしゅ)・クッシング症候群・原発性アルドステロン症などの疾患では，アドレナリン・ノルアドレナリン・グルココルチコイド・アルドステロンなどの分泌過剰によって，細動脈の収縮あるいは血流量の増大によって，昇圧する。④妊娠中毒症：胎盤から分泌されるプロゲステロン・エストロゲンによって血液量が増加し，昇圧する。以上のような疾患によって生じた高血圧の症状は，頭痛・肩こり・めまいや手足のしびれ，息切れ・不整脈・便泌などがみられる。他覚的には，血圧が高いため脈拍は緊張亢進(こうしん)し，心臓は肥大し，やがて心機能が低下して(→心不全)心臓喘息(ぜんそく)が起こることがある。尿タンパクは腎疾患・妊娠中毒症の場合にみられる。高血圧が長年持続すると，脳の疾患としては脳動脈硬化症・脳出血・脳軟化症など，心臓の疾患としては狭心症・心筋梗塞(こうそく)・心臓喘息など，腎臓の疾患としては腎硬化症・萎縮腎・尿毒症などに進展し，不幸な転機をとるようになる。これらの予防としては，高血圧が認められたなら，その原因疾患を診断して，その疾患の治療を行なうことが肝要である。➔血圧　〔佐藤恒久〕

こうけつあつせいがんてい　【高血圧性眼底】　腎炎(じんえん)や糖尿病などの他疾患を伴わず，高血圧症(→高血圧)のみが原因で起こる網膜の変状。高血圧症からくる動脈硬化(動脈壁が肥厚・硬化して弾力性が失われた状態)を知る上で直接透見できる眼底所見は，眼科のみならず内科的にも重要な意味をもつ。1939年キースおよびワグナーはその眼底病変を次のように分類した。高血圧病の初期にはなにも変化がないが(キース-ワグナー1度)，さらに進むと網膜に出血や白斑(はくはん)(脂肪・類脂肪などの沈着物)が現われ，全身的にも心臓・腎臓などに変化が起こってくる(キース-ワグナー3度)。末期になると眼底の視神経乳頭に浮腫(ふしゅ)が現われる(キース-ワグナー4度)。治療は高血圧病の一般療法に準ずる。〔氏原　弘〕

こうけっかくやく　【抗結核薬】　結核症の治療に用いられる薬。ストレプトマイシン・カナマイシンのように，大部分のものは試験管内はもちろん生体内においても抗菌作用を有するが，菌の代謝および生体に及ぼす作用によって生体の抵抗力を上昇させてなおらせるもの(高級脂肪酸)もある。一般に，感染の初期ほど有効である。抗菌作用を有するものでも，それぞれの生体に対する作用の違いに応じて治療像が異なる。たとえば，パスやイソニコチン酸ヒドラジドとストレプトマイシンの治療像はそれぞれ異なる。〔伊藤隆太〕

年齢	男性		女性	
	最高血圧	最低血圧	最高血圧	最低血圧
10	102mmHg	64mmHg	98mmHg	62mmHg
15	114	70	110	68
20	120	75	114	71
25	121	76	115	72
30	123	77	116	73
35	125	79	118	75
40	127	82	122	77
45	131	84	126	80
50	135	86	131	82
55	143	88	138	86
60	145	89	145	90

各年齢層の血圧平均値（渡辺）

高　血　圧

こうけん　【後見】　未成年者に親権を行なう者がないとき，禁治産の宣告(→禁治産者)があったとき，また親権者が財産管理権を有しないとき，これらの者の身分上および財産上の事務を行なうこと。後見する機関としては，後見人・後見監督人・家庭裁判所があるが，家庭裁判所がつねに後見人を監督するので後見監督人は必須(ひっす)の機関ではない。後見人には，①親権を行ないうる者の遺言による指定後見人(民法839条)，②禁治産の宣告を受けた者の配偶者のなる法定後見人(民法840条)，③指定後見人・法定後見人がないときに家庭裁判所が決める選定後見人(民法841条)の3種がある。後見監督人には，①後見人を指定しうる者の遺言による指定後見監督人(民法848条)と，②指定後見監督人がいないときに必要によって家庭裁判所が決める選定後見監督人(民法849条)との2種がある。

後見の事務は，未成年者に行なわれる場合は親権と同一内容である監護教育の権利義務や財産の管理で(親権者が管理権を有しないときは財産の管理のみ)，禁治産者に行なわれる場合は療養看護と財産管理である(民法857・858条)。もっとも，未成年者を懲戒場に入れたり，営業を許可したり，またその取り消し・制限をするときに，後見監督人があるときにはその同意を要するし，禁治産者を精神病院などに入れるには家庭裁判所の許可を得なければならない(民法857・858条)。後見は，未成年者が成年者となったとき，禁治産の宣告が取り消されたとき，その他後見すべき原因のなくなったときに終了する。後見が終了すると，後見人は原則として2か月以内に財産管理を終えなければならない(民法870条)。その際，後見監督人があるときにはその立ち会いのもとに行なわれることが必要である(民法871条)。なお，後見には委任・親権の規定が準用される(民法869条)。〔黒木三郎〕

こうけん　【後見】　能・狂言で，舞台後方の後見座(→能舞台)に控えて演技上のさまざまの世話をする役目。能では2人または3人，狂言では必要な場合だけ1人がこの座につく。演者の衣装を舞台で着替えさせたり，乱れをなおしたり，また舞台上の事故の処理，道具や作り物の出し入れなどをおもな仕事とする。ワキ・囃子方(はやしかた)・間狂言(あいきょうげん)にも場合によって後見がつく。なお，歌舞伎(かぶき)・日本舞踊でも後見がつく。

こうげん　【高原】　周囲から一段と高くなった表面起伏の小さい台地状の地形。一般に造陸運動による土地の隆起で生じるが，溶岩流によって表面が平らになったアメリカ合衆国のコロンビア高原のような例もある。地質の内部構造は簡単で，古い，かたい地層でできていることが多く，深成岩や変成岩の結晶質岩石，水平の溶岩層・堆積(たいせき)岩層などでできている。

周囲の地形との関係から，山間高原・山麓(さんろく)高原・卓状高原に分けられる。①山間高原：山脈の間にはさまれているもので，中国のチベット高原とタリム盆地，アメリカ合衆国のコロンビア高原とグレートベーズン(大盆地)などがある。山脈でさえぎられて乾燥しており，集落は水を求めて周縁山地の山麓にできる。ただし，熱帯では気温の高くない高原は居住に適し，南アメリカのアンデス地方ではインカ帝国を成立させた。②山麓高原：山脈と平野または海との中間にあり，小規模のものが多く，わが国の三河(みかわ)高原や中国高原，アルゼンチンのパタゴニア高原がある。③卓状高原：大陸高原ともよばれ，周囲が低地または海であるものをいい，アラビア・スペイン・インドなどの半島やオーストラリア，南極などに分布し，アフリカ大陸はきわめて大きな卓状高原である。

湿潤気候の地域では，侵食が進んで谷の発達がよく，乾燥気候の地域では，谷が発達せず平坦(へいたん)な表面が広く残るが，谷がつくられるとアメリカ合衆国のコロラド峡谷のような急崖(きゅうがい)をつくる。日本の高原では，深い谷が刻まれやすく，谷には滝が多く，また山間高原では山脈で囲まれて交通の便が悪いので開発の遅れた地域になっていることが多い。〔小栗　宏〕

こうげん　【抗原】　生体に刺激を加えて抗体の産生を促すとともに，抗体と特異的に反応する物質をいう。抗原となりうるための条件としては，まずなによりもそれがその生体にとって異種(非自己)のものであること，また抗原分子がある一定の大きさ以上のものであり，その構造にある程度以上の複雑さをもっており，さらにはそれら

の構造が容易に変化しないようなある強さ以上の剛直性をもっていることが必要とされている。抗原となりうるものとしては，タンパク質・多糖類・脂質・核酸，あるいはこれらの複合体などがある。自然界に存在する抗原を自然抗原といい，アゾ色素などをタンパク質と結合させて人工的に抗原性を与えたような抗原を人工抗原という。また，それ自体では抗体の産生を促し得ないが，抗体と結びつく能力をもつものを不完全抗原といい，両方の性質をもつ完全抗原と区別することもある。なお，抗原分子上でその抗原の特異性を規定している部分は，特に抗原決定基とよばれて重視される。〔清水不二雄〕

こうげんこうたいはんのう【抗原抗体反応】 抗原と抗体が特異的に反応して結合する現象。反応の場を大きく生体内と生体外(試験管内)に分けてみると，生体内での反応については，従来病原体(抗原)に対して特異抗体が存在することによって疾患から免れることができるという，生体にとっては有利な感染防御という立場で考えられてきた。しかしその後，抗体の存在がむしろ生体にとって不利であり，病変を生ずる場合も多いことがわかってきた。すなわち過敏症(アレルギー反応)といわれるものと，自己免疫病と総括されるものがこれにあたる。過敏症には即時反応と遅延型反応があり，前者に属するものとして各種アナフィラキシー，ショック，喘息(ぜんそく)，枯草熱，鼻炎，じんましんなどのアトピー，血清病などがあり，遅延型反応に属するものとしてはツベルクリン反応を代表とする各種の細菌感染(梅毒・ブルセラ症・野兎病(やとびょう)など)，薬剤皮膚炎，同種動物における移植免疫などが考えられている。自己免疫病についてはまだ定説はなく，遅延型反応に属するものとして考える者もいる。生体がなんらかの原因で自己の体構成成分に対して抗体をつくり，この抗体に由来する抗原抗体反応が抗原である構成成分の傷害をもたらすとされている。現在，慢性甲状腺(こうじょうせん)炎・溶血性貧血などをその代表として，原因不明の慢性疾患をこの立場から究明しようとの試みが数多い。生体内の抗原抗体反応を考える場合，反応に参加する抗原は単一なものとは限らないであろうし，抗体も場合によって血清抗体であったり，細胞性抗体であったりする。さらに血流中の他の成分(補体その他)もその反応に参加するであろう。加えて反応の場も，体液中・細胞・器官など多種多様にわたるのであろうから，生体外の反応に比べて著しく複雑な形をとる。

生体外の抗原抗体反応については，現在知られている反応様式に沈降反応・凝集反応・補体結合反応・溶解反応・中和反応・免疫粘着反応などがある。抗原と抗体の結合の基本的な機構はどの反応においても(生体内をも含めて)本質的に同じだと考えられる。上記のように反応の様式が異なるのは，おもに抗原の性質，物理的状態，抗原決定基の数，抗体の型などによると考えられる。たとえば，細菌・赤血球などの粒子状抗原の場合は凝集反応，血清タンパク質などの可溶性抗原の場合は沈降反応，毒素・ウィルスなどの場合は中和反応といったような反応様式をとる。抗原と抗体の結合を支配する条件としては，一般に抗原と抗体の量比・pH・塩濃度・反応時間・反応温度などが考えられる。また，抗原と抗体の結合はある程度可逆的なものとされており，その間に働く結合力はファンデルワールス力・クーロン力・水素結合などが考えられている。特に沈降反応や凝集反応などでは，この反応は２段階に分けて考えられており，最初の１次結合はきわめて速く，0°Cでもほとんど瞬間的(秒の単位)に完了するが，第２段階として沈降または凝集反応として観察されるには適当な温度および比較的長い時間(数分から数日)が必要とされることが多い。

以上の抗原抗体反応は臨床的に種々の疾患の予防・診断・治療に応用され，さらにその特異性・鋭敏性によって，多くの生体物質の検出や同定にも利用されている。また抗体に螢光(けいこう)色素を結合させて抗原の存在部位を知る螢光抗体法も，抗原抗体反応の特異性・鋭敏性・迅速性を利用したもので，応用範囲が広い。〔清水不二雄〕

こうげんさい【公現祭】 キリスト教の祭日。顕現祝日・顕現日ともいう。クリスマスの12日後である１月６日に行なわれる。３世紀ごろに始まり，はじめはキリストの受洗を祝う日であったが，のちに東方の異邦の３博士の姿を借りてキリストがその栄光を異教徒に顕現したことを記念する祝日となった。

こうけんし【寇謙之】(？～448) 中国，北魏(ほくぎ)時代の道士。河北省の豪族の出で，国定正統道教としての天師道の制定者である。太上老君(神格化された老子)から秘伝の訓戒と天師(道教の教主)の伝を授かったと自称して北魏の太武帝に取り入り，その臣の崔浩(さいこう)と提携して北魏を道教国家に仕立て，446年に廃仏政策を行なわせた。その間，神仙術(しんせんじゅつ)・呪術(じゅじゅつ)のほかに讖緯説(しんいせつ)を加味し，さらに仏教の教義・教理を取り入れて，国教としての道教を整備した。〔西　順蔵〕

こうけん・しけん【公権・私権】 公法関係において有する権利を公権といい，私法関係において有する権利を私権という。前者には，国家および地方公共団体が権利主体として有する警察権・課税権・刑罰権などと，国民の個々が権利主体として有する参政権，教育を受ける権利，各種の自由権などがある。公権は公共性の強い権利であるから，国民は純財産法的なものを除きこれを自由に譲渡したり，放棄することはできない。後者は，財産権・人格権・身分権および社員権などがこれに属し，直接的には権利の主体である個人の利益を保護するために認められたものであるが，つねに公共の福祉に適合するように行使しなければならない点で公共性も有している。〔黒木三郎〕

こうけんてんのう【孝謙天皇】(718～770年) 在位749～758年。名は阿倍(あべ)。聖武(しょうむ)天皇の第１皇女で，母は光明皇后。738年(天平10)立太子。女性として初の皇太子であった。在位中は母后が後見して実権を握り，藤原仲麻呂(なかまろ)がその信任を得てしだいに勢力を伸ばした。758年(天平宝字２)，淳仁(じゅんにん)天皇に譲位。光明皇太后が没すると，しだいに仲麻呂・淳仁天皇と対立して道鏡を寵愛(ちょうあい)し，762年には天皇の大権を削って天下の大事はみずから行ない，764年仲麻呂の乱を機に淳仁天皇を淡路(兵庫県)に移して重祚(じゅうそ)した。これが称徳天皇である(在位764～770年)。やがて道鏡は太政(だじょう)大臣禅師となり，法王の位を授けられ，法臣・法参議などの僧侶(そうりょ)が任命されて僧侶勢力が貴族を圧倒したが，天皇が没すると道鏡は下野(しもつけ)(栃木県)の薬師寺へ追放され，代わって光仁天皇が藤原氏の手で擁立された。〔筧　弘道〕

こうげんてんのう【孝元天皇】 名は大日本根子彦国牽尊(おおやまとねこひこくにくるのみこと)。孝霊天皇の太子。母は細媛命(くわしひめのみこと)。欝色謎命(うつしこめのみこと)を皇后として開化天皇を産む。軽(かる)の境原宮を皇居とする。陵墓は奈良県剣池嶋上(つるぎのいけのしまのうえ)陵。その実在性は薄い。

こうげんびょう【膠原病】 人体の結合組織の細胞間に存在する基質と繊維が変性を起こす疾患に対する総称。エリテマトーデス・強皮症・皮膚筋炎・結節性動脈炎・リウマチ様関節炎がその代表的なものである。原因としては，アレルギーによる生体反応の変化が考えられているが，抗原に関しては不明である。症状は皮膚発疹(はっしん)・関節痛・発熱など多彩である。

こうこ【公庫】 全額政府出資の金融機関。国民経済の弱体な部門への長期・低利の資金の融資を主眼とする。1971年(昭和46)６月現在，中小企業金融公庫・国民金融公庫・農林漁業金融公庫・住宅金融公庫・公営企業金融公庫・中小企業信用保険公庫・医療金融公庫・北海道東北開発公庫・環境衛生金融公庫の９公庫がある。

こうご【口語】 日常の談話に用いる言語。文語の対。ただし，一般には近代の言文一致運動以後の，談話語に基礎を置いた文章語をも含めて口語という。すなわち，現代の生活語というほどの意味である。現在標準的な口語とされるのは，東京の山の手のことばをもとにした，いわゆる共通語

である。口語の文章が口語文であるが，これは部分的には文章語独特の要素が加わっていて，話しことばそのままではない。

こうごいし 【神護石】 神籠石とも書く。延々数キロメートルにわたり，約1m³の四角い切り石を山腹に巡らした古墳時代後期の山城。最近の調査によって，列石の上に土塁を築いていたこと，谷の水を外に抜く水門があったこと，城門が構えられていたことが明らかとなった。内部は未調査で，城としての構築物がどのようであったかわからないが，類似した山城は朝鮮の三国時代*に数多く見られる。山頂から前に開けた平野に向かって斜めに列石を連ねる九州型（8か所）と，山頂をはち巻き形に水平に近く巡らせる瀬戸内型（2か所）の2種がある。福岡県久留米(くるめ)市の高良(こうら)山のものが大規模で古くから知られ，同県山門(やまと)郡瀬高町の女山(ぞやま)がこれに次ぐ。東は福岡県京都(みやこ)郡の御所ガ谷から，西は佐賀県小城(おぎ)郡小城町のおつぼ山まで点在し，山口県田布施町には瀬戸内型の岩城(いわき)山がある。香川県坂出市の城山は列石の代わりに車道のある特殊形である。

〔坪井清足〕

こうこう 【口腔】 医学用語では〈こうくう〉と読む。口の中の空間をいうが，消化管の門戸であり，気道*の一部にもなり，人間生活に必要な諸機能を営むうえで重要な場所である。範囲としては，両側はほお，前方はくちびる，上方は口蓋(こうがい)，下方は口腔底で囲まれた部分であり，後方は口蓋垂で咽頭*(いんとう)へ移行している。上下の歯のかみ合わせによって二つに境せられ，歯より外側のほおとくちびるとの間の空間を口腔前庭，内側の大きな空間を固有口腔といい，歯以外の部分は口腔粘膜でおおわれている。口腔の機能としては，食物の摂取・味覚・咀嚼(そしゃく)・消化とその嚥下(えんげ)作用，発音の構成がおもなものであるが，これらの機能を果たすためには，さらに歯・舌・唾液腺(だえきせん)・咀嚼筋などの存在および働きを必要とする。〔成田令博〕

こうこう 【硬鋼】 炭素鋼*の一。炭素含有量0.4～0.6%程度のものをさす。かたく，靭性(じんせい)にも富むので，レール・工具・弾丸などに使われる。

こうこう 【黄興】 ホワンシン (1874～1916) 中国の革命家。辛亥(しんがい)革命*三尊の一。湖南省の人。原名は軫(しん)。字(あざな)は慶午・克強。日本に留学して東京で国民教育会を組織し，また長沙(ちょうさ)で華興会を組織した。中国革命同盟会では副総理として孫文を助け，多くの武装蜂起(ほうき)を指導した。南京(ナンキン)臨時政府の陸軍総長となったが，第二革命に敗れてアメリカに亡命し，1916年帰国後死亡。

こうごう 【皇后】 天皇の配偶者で，古くは〈きさき〉〈きさい〉の宮などと称せれた。令*制(りょうせい)では皇族のうちから冊立(さくりつ)



香　合《交趾柘榴香合》五島美術館蔵

(皇后になること)することになっていたが，聖武(しょうむ)天皇が藤原不比等(ふひと)の娘光明子(→光明皇后)を皇后にしてからは，皇族以外からも冊立されるようになった。旧例では立后の儀式を経てのち皇后を称したが，1889年(明治22)制定された皇室典範*では，皇太子妃は皇太子の皇位継承に伴い自動的に皇后となり，皇位継承後結婚したときだけ皇后冊立が行なわれると定められた。1946年(昭和21)制定された皇室典範では，立后は皇族会議を経ることが必要となった。先帝の皇后は皇太后*，先々帝の皇后は皇太皇后と称せられる。皇后に関する事務事項は宮内庁侍従職が所管している。

〔高崎徳次〕

こうごう 【香合】 茶の湯で香を入れて使用する小形の合子(ごうす)。習慣的に，練香(ねりこう)には陶磁器，香木には漆器の香合を用いる。本来，小形の合子を見立てて香合としたものが多く，香合を意識的に創作したのは江戸初期からと推測される。漆芸・陶芸，砂張(さはり)・象牙(ぞうげ)・貝などによる香合がある。

こうごう 【咬合】 顎(あご)を閉じたときに生じる上下の歯の接触状態をいう。歯のかみ合わせは年齢とともに変わり，また人種によっても，個人によっても差がみられるが，上の歯が下の歯を軽くおおうようなかみ方が最も多いので，これが一般に正常咬合とされる。永久歯ではいちばんはじめにはえてくる上下第1大臼歯(きゅうし)の位置が基準になる。しかし，この正常といわれるかみ合わせでも，上の歯並びが下の歯並びをおおう程度がひどくなると，上顎(じょうがく)前突といって，いわゆる出っ歯となる。逆に，下の歯並び全体が，上の歯並びより前に出ると，反対咬合(下顎前突)となり，上下の前歯が先端と先端でかみ合うような場合は切端咬合といっている。また，左右いずれかにかみ合わせがずれる交差咬合，かみ合わせても臼歯だけが接触し，前歯はまったくかみ合わさらない開咬というかみ合わせもある。その他，個々の歯の位置の異常による不正咬合などもあってさまざまである。いずれの場合もよくかめて，発音障害がなく，歯の機能が十分であればよい。審美的な面から矯正(きょうせい)の必要が生じてくることもある。このような不正咬合の原因としては，遺伝，顎の発育異常，歯の数・形・位置の異常，乳歯が早く抜け落ちた場合といつまでも抜けずに残っている場合，乳幼児期における長期のゴム乳首の常用，指しゃぶりのくせ，口呼吸などが関係する。人が歯をかみ合わせたときの力は，測定方法や個人により差が多いが，ふつう切歯で15kg(最大58kg)，大臼歯で40kg(最大118kg)くらい出るという。イヌが骨をかみ砕くときは，165kgの力が働くという。〔成田令博〕

こうこうがん 【口腔癌】 口の中にできる癌*の総称。統計によるとヒトの癌のうち3%内外を占め，男性が女性の2～3倍の発生率を示している。組織学的にみると扁平(へんぺい)上皮癌が最も多い。口の中のあらゆる場所に発生するといってよいが，日本では上顎癌(じょうがくがん)が最も多く，アメリカ・イギリスでは口唇癌(こうしんがん)・舌癌が最も多いように，かなり人種的な差がみられる。これは食物・喫煙・風習などと関係があるともみられている。口の中はたえず機械的・化学的・温度的な刺激を受けている場所でもあり，虫歯や義歯の鋭縁なども発癌の誘因となりうる。治療法は，他の癌の場合と変わりがなく，化学療法(抗腫瘍(しゅよう)薬による治療)・放射線療法・外科手術がおもなもので，これらの単独または2～3の併用によって行なわれている。

〔成田令博〕

こうこうぎょうせいさんしすう 【鉱工業生産指数】 鉱工業の全般的な生産力の変化を示す指数。ある年を基準時とし，基準時における個々の財の生産量を100とおいて，比較時の生産量を基準時の生産量で割って100倍し，個別生産指数をつくる。この各財の生産量の変化率に，基準時における付加価値額または生産金額を乗じ，これらを合計したものを分子とし，分母には基準時における付加価値額または生産金額の合計をとる。これは重要商品の生産量の増大を強調するためウエートをつけようとするラスパイレス式*の加重算術平均方式で，基準時における付加価値額または生産金額の大

口　腔　癌　　発生部位は国によって大きな差がある

報　告　者	上顎	下顎	舌	頬	口底	唇	その他	計
上　野（日本）	273	122	84	27	24	5	16	551例
レーン（アメリカ）	53	39	99	47	46	113		397
レドリー（イギリス）	40	54	225	136	59	160		774

表-1　鉱工業生産指数採用品目　（昭和50年基準）

銑鉄	鉄骨	酸化チタン	綿織物
粗鋼	橋りょう	ベンゾール	毛織物
普通鋼	軽金属製品	ポリエチレン	絹織物
亜鉛メッキ鋼板	汎用内燃機関	合成ゴム	合成繊維織物
銑鉄鋳物	ボイラー	フィルム	靴下
鍛鋼品	トラクター	医薬品	外衣
電気銅	化学機械	パルプ	自動車タイヤ
アルミニウム	電気冷蔵庫	洋紙	ゴム靴
アルミ圧延製品	電話機	板紙	日用品・雑貨
伸銅製品	乗用車	合成繊維	皮靴
銅電線ケーブル	鋼船	生糸	椅子類
軽合金鋳物	時計	綿糸	ピアノ
ダイカスト	セメント	毛糸	万年筆

表-2　通産省工業製品生産指数類別表

（昭和50年基準）

	品目数	ウエイト	1980年の値
鉱工業	522	10 000	142.5
鉱業	10	72	99.7
製造業	512	9 928	142.8
鉄鋼業	25	660	124.8
非鉄金属	16	195	143.5
金属製品	37	505	132.5
機械工業	199	3 724	174.0
窯業・土石	22	575	132.3
化学工業	79	954	144.7
石油・石炭製品	12	294	101.2
紙・パルプ	14	349	131.0
繊維	33	897	107.1
木材・木製品	4	294	100.7
食料品・タバコ	31	899	107.5
その他	40	584	135.9

なるものの生産量の変動が強調される。鉱工業生産指数は景気動向などの経済変動を敏感に反映するので，経済政策のためのデータを得るという見地からも毎月作成される。わが国の現行主要鉱工業生産指数は通商産業省の作成によるもので，財の生産のみにかかわるものを鉱工業生産指数といい，これにガス・電気などの公益事業を加えたものを産業総合指数とよんでいる。指数の作成にあたって理論上はすべての財の生産量の変化を求めることが望ましいが，実際問題としては表-1の品目が選定されている。通産省の鉱工業生産指数の歴史は物価指数*に比べると新しく，1931～1933年（昭和6～8）の基準，製造業25品目，鉱業6品目のラスパイレス式の加重算術平均であった。当時においてはウエート総量440に対し，機械器具67，生糸40，電気39，石炭37，綿織物35，綿糸30などがウエートの大きな品目であり，当時における産業構造が軽工業中心であった事実を反映している。第2次世界大戦後は一時，経済安定本部*の指数が広く用いられていた。通産省指数としては，1950年5月から1946年基準の指数が作成されたが，その後5年おきに改訂されている。これは多くの新商品が出現し，品目の選定をやりなおす必要があること，またラスパイレス式を採用しているため相対価格の変化などによって起こるウエートの非現実化を避けるためである。現行指数は1975年基準の付加価値ウエートによるラスパイレス式で，品目数とウエートは表-2のごとくである。なお，現在ではこれに付随して，生産者出荷指数（1953年より），生産者製品在庫指数（1950年より），原材料在庫指数（1950年より）などの指数が作成されている。〔鈴木諒一〕

こうこうくいき【航行区域】 航海の安全を保つために，船の大小・構造および設備などの能力に応じて，航行しうることが定められている区域で，船舶安全法および同施行規則によって規制されている。それによると航行区域は次の四つに大別される。①平水区域：湖・川・港内および特定の湾内などの区域。②沿海区域：わが国およびそれに付属する特定の島から20海里（約37km）以内の区域と，朝鮮海峡・宗谷（そうや）海峡などの特定の区域。③近海区域：東経94～175°，南緯11°～北緯63°の線で囲まれた区域。④遠洋区域：すべての海面を含む区域。〔飯島幸人〕

こうこうげか【口腔外科】 歯科学の分野で外科的処理を行なう専門科名。歯の抜去，歯肉その他の部分の切開手術，顎（あご）の中にできた腫瘍（しゅよう）などの摘出手術などが行なわれる。一般の外科*と異なる点は，おもな病気の場所が狭い口の中であること，歯や骨のかたい組織を対象としていることなどである。顎の一部や全部を切り取らねばならない口腔癌*（がん）の手術も行なわれるし，口蓋（こうがい）破裂・兎唇*（としん）（みつくち）などや，下顎（かがく）のひどく突出して矯正（きょうせい）では治療できない人の顎の整形手術も行なう。〔菊池　進〕

こうこうけつあつしょうやく【抗高血圧症薬】 高血圧症の血圧上昇度を下げる薬。古くは血管拡張薬あるいは降圧薬（血圧降下作用のある薬）をさした。しかしこれらの薬は，正常な状態における血圧も下げるため低血圧を招くことがあり，高血圧症の原因的治療とはならないものが多い。高血圧症の治療は安静と食塩制限が主体であって，抗高血圧症薬は正常に近い血圧を維持させて高血圧に伴う血管の事故率を低下させ，生存率を上昇させる補助手段であるが，副作用も免れえないため，医師による管理が必要である。現在，高血圧の症状発現には交感神経が大きな役目をもつと考えられており，したがってこれに拮抗する作用をもつ交感神経遮断薬（しゃだんやく）のうち，抗遊離薬（交感神経末梢（まっしょう）からのノルアドレナリン遊離を抑制する薬），枯渇薬（こかつやく）（交感神経末梢からノルアドレナリンを減少させる薬），代謝拮抗薬（交感神経末梢のノルアドレナリン合成をおさえる薬），神経節遮断薬のほか，利尿性降圧薬・抗利尿ホルモンなどの高血圧症の昇圧状態を持続的に降下させるものが多く，対症治療薬として用いられる。〔伊藤隆太〕

こうこうさ【光行差】 光の速度が有限なために，観測者が運動していると天体の見かけの位置が天球上の真の位置よりずれて観測される現象。観測者の運動方向と垂直な方向に天体がある場合，このずれは最大となる。地球の自転に伴う日周光行差は，赤道上の観測者に対して最も大きい。また，公転に伴う年周光行差は，黄道の極の方向にある星が最大で，この場合星は1年周期で半径20".5（これを光行差定数という）の円を天球上に描く。星が黄道の極からずれると，長軸が20".5の楕円（だえん）（光行差楕円）上を動く。〔磯部琇三〕

こうこうざい【硬膏剤】 皮膚にはって用いる外用剤。普通の状態ではかたいが，少し加温すると軟化して粘着性をもつ。一般に，樹脂に油脂を加えた基剤または絆創膏（ばんそうこう）基剤に医薬品を加えて加温し，よく練り，紙・布・プラスチックフィルムなどの上に延ばして製する。スピル膏・ピック膏などがこれに属する。

こうごうせい【光合成】 生物が光のエネルギーを用いて炭酸固定を行ない，炭水化物を合成すること。光合成を行なう生物は緑色植物と一部の特殊な細菌（光合成細菌）で，動物や大部分の微生物は，これらの光合成生物の生産する有機物を利用して生存している。このように地球上の生物は，ごく一部の化学合成細菌を除いて，すべてが直接・間接に太陽エネルギーを用いて生命を維持していることになる。地球の表面は太陽からの輻射（ふくしゃ）エネルギーを毎年約5.5×10^{23}cal受けており，そのうちの約3分の2が光合成その他に使われるが，これは地表1cm²あたりに換算すると約67,000calに相当する。一方，全地球上の年間光合成量は1cm²あたり33calで，利用効率は2,000分の1にすぎず，また植物の生育している地域の面積だけについて補正を行なっても，数パーセントの効率である。光合成によって，1年間に大気中の二酸化炭素の炭素2,000億tが炭水化物*に変えられる。この光合成量は，人間が1年間に生産する工業製品の約100倍に達する。こうして生産され

た有機物は，動植物の呼吸などによって分解され，再び二酸化炭素となって大気中に還元される。

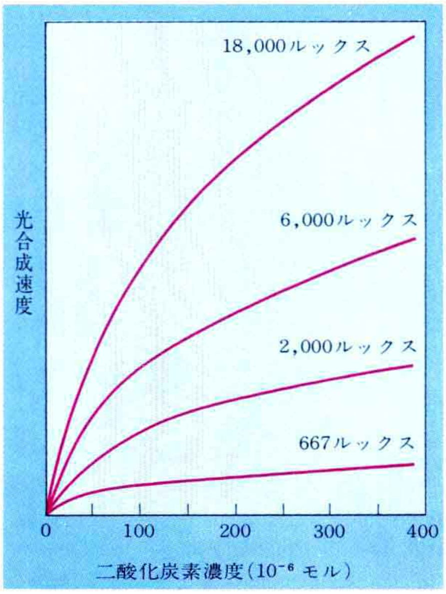
【緑色植物の光合成】緑色植物は二酸化炭素と水から光のエネルギーを用いて炭水化物を合成し，この際水分子中の酸素原子が酸素ガスとなって放出される。この反応は全体として次の式で表わすことができる。

$$\underset{\text{二酸化炭素}}{CO_2}+\underset{\text{水}}{2H_2O}\xrightarrow{\text{光のエネルギー}}\underset{\text{炭水化物}}{(CH_2O)}+\underset{\text{酸素}}{O_2}+\underset{\text{水}}{H_2O}$$

光合成に用いられる空気中の二酸化炭素は，葉や茎の表面にある気孔からはいって，細胞間隙(かんげき)を通って拡散し，葉緑体をもった緑色細胞に達する。そして，細胞内の水にとけて重炭酸イオンとなり，光合成に用いられる。光合成で発生する酸素は，葉肉細胞の表面から細胞間隙を通って気孔から外へ放出される。

葉における光合成をすみやかに進めるためには，適当量の光のエネルギー・水・温度および二酸化炭素濃度が必要であり，また光合成産物がすみやかに光合成器官から運び去られる必要がある。光が弱くなると光合成速進はしだいに減少し，ある光量になると，光合成による二酸化炭素の吸収量と呼吸による二酸化炭素の放出量が等しくなり，見かけ上のガス交換がみられなくなる。このときの光の強さを補償点*といい，植物が生長するためには少なくともこれより強い光が必要である。光の強さがある程度以上に強くなると，光合成速度は光の強さと無関係となり，このときは二酸化炭素濃度や温度が光合成速度を左右するようになる(➞限定因子)。

光合成の過程は，光のエネルギーが化学エネルギーに変換される光化学反応の過程(明反応*)と，ここに生成した化学エネルギーを用いて炭酸固定を行なって炭水化物を生成する酵素化学反応過程(暗反応)の二つに大別される。明反応では光が光化学的な作用を起こすために，最初に同化色素に吸収される。緑色植物の葉緑体中には，光合成に関与する同化色素としてクロロフィルaのほかに，クロロフィルb・c・d・eや，カロチノイド・フィコビリンなどの色素が光合成の補助色素として存在している。光合成において二つの光化学系が存在し，光化学系Iは同化色素としてクロロフィルaを大量に，補助色素を少量含む。光化学系IIは比較的小量のクロロフィルaのほかに大量の補助色素を含んでいる。葉緑体にあたった光の輻射エネルギーは，同化色素の励起をもたらし，光化学系Iの光励起した色素分子のエネルギーは，NADP*の光還元とチトクローム系の光酸化とを行ない，光化学系IIの励起色素分子のエネルギーは水を酸化して酸素を発生し，チトクロームの光還元にあずかる。この両者の間には，一連の酸化還元反応が連なって進み，ミトコンドリアの場合と同様のATPの生成(光リン酸化反応)が起こるといわれている。この結果，明反応においては光のエネルギーはATP・NADPH₂のような化学エネルギーに変えられ，酸素が発生する。これに続く暗反応においてNADPH₂とATPを用いて炭酸還元が行なわれる。この炭酸固定の径路はカルビン回路*として知られる循環過程で，6分子の炭酸が還元されて1分子の六炭糖を生成するためにはNADPH₂ 12分子とATP18分子を必要とする(➞暗反応)。光合成の過程で吸収される二酸化炭素に対する発生する酸素の量比(O_2／CO_2，光合成商とよばれる)は多くの植物において1にきわめて近く，光合成産物が主として炭水化物であることを示している。



光合成　光合成速度と二酸化炭素濃度・光量の関係。二酸化炭素濃度の高いほど，また光量が大きいほど光合成速度は大きくなる



黄公望　《富春山居図巻》部分　1350　国立故宮博物院蔵

【細菌の光合成】光合成細菌には大別して緑色細菌と紅色細菌があるが，この区別は主として紅色細菌が大量のカロチノイドを含むことに基づいている。光合成細菌は細胞内に特殊に分化した構造の光合成器官をもち，その中にバクテリオクロロフィルとよばれる同化色素を含んでいる。細菌の光合成が緑色植物の光合成と顕著に相違する点は，酸素の発生がなく，水素・二硫化水素などの水素供与体を外から与えねばならぬこと，遠赤外光が光合成に利用されるなどの点である。細菌の場合も明反応でATPとNADH₂(細菌はNAD*の光還元を行ない，NADPの還元は行なわない)の生成が起こり，暗反応に利用される点では緑色植物と類似している。➞葉緑体

〔吉田精一〕

こうこうてん　【降交点】　⇨交点

こうこうてんのう　【光孝天皇】　(830～887)　在位884～887年。名は時康(ときやす)。仁明(にんみょう)天皇の第3皇子。母は藤原沢子。即位前すでに一品(いっぽん)に叙され，中務卿(なかつかさきょう)・式部卿・大宰帥(だざいのそち)，また常陸(ひたち)(茨城県)・上野(こうずけ)(群馬県)の太守などを歴任。884年(元慶8)太政(だじょう)大臣藤原基経*(もとつね)に擁立され，陽成天皇に代わって皇位についた。即位とともに，基経に万政を領行させ，事実上関白*の政治が始められた。在位中地方政治の振粛に努めたが，わずか3年余で没した。世に小松帝という。陵墓は京都市後田邑(のちのたむら)陵。

〔鯱　弘道〕

こうこうどうぶつ　【後口動物】　新口動物ともいう。多細胞動物のうち，卵が調整卵で，放射型の卵割を行ない，中胚葉(ちゅうはいよう)が内胚葉から生じ，完全な体腔(たいこう)を有する動物群。成体の口が，原口*に由来せず，別に口陥から形成され，原口は閉じてしまう。毛顎(もうがく)・有鬚(ゆうしゅ)・半索・棘皮(きょくひ)・原索・脊椎(せきつい)の各動物門がこれに属する。

こうこうぼう　【黄公望】　(1269～1354)　中国元代の画家。呉鎮*・倪瓚*(げいさん)・王蒙*(おうもう)とともに元末四大家のひとり。字(あざな)は子久，号に大痴道人などがある。幼少から聡明(そうめい)で百家の学や諸芸に通じ，一時は官についたが，のち江南地方に隠遁(いんとん)した。画ははじめ趙孟頫(ちょうもうふ)についたが，董源*(とうげん)・巨然*を学び，米芾(べいふつ)・高克恭(こうこくきょう)をも取り入れた。居住した土地に近い虞山(ぐさん)や，隠棲(いんせい)の地の富春山を画題にしたものが多く，簡素であるが，蒼古(そうこ)の風韻にひいでたといわれる。浅絳(せんこう)色(薄赤)を用いた筆勢雄偉な作品の自然描写は理知的である。四大家のうち後世に及ぼした影響は最も大きく，明(みん)末から清(しん)初にかけては黄公望を祖とした南宗画家が圧倒的に多い。遺作に《富春山居図巻》《天地赤壁図》などがある。

〔中島純司〕

こうこうやきゅう　【高校野球】　日本高等学校野球連盟が統轄する野球。夏の全国高等学校野球選手権大会と，春の選抜高等学校野球大会とが同連盟の主要行事である。夏の選手権大会は1915年(大正4)，朝日新聞社の提案で誕生，春の選抜大会は1924年毎日新聞社の発案で始まった。両大会とも，当時の中等野球連盟と両新聞社の共催という形で発展してきたが，戦後学制改革に

伴って中等野球連盟は高校野球連盟となり，中等野球の名称が高校野球に変わった。夏の大会が高校選手権となったのは1948年(昭和23)の同大会(通算第30回)からで，春の大会は同年の第20回大会からである。春・夏の会場はいずれも甲子園球場で，このため高校野球を春の甲子園大会，夏の甲子園大会ともよんでいる。

夏の大会での連続優勝記録は1931・1932・1933年(第17・18・19回大会)中京商(現中京高)の3年連続が最高。春の大会には2年連続優勝の記録はない。春と夏に連続したのは，作新学院(春第34回大会，夏第44回大会，1962年)と中京商(春第38回大会，夏第48回大会，1966年)の2校だけである。〔鈴木美嶺〕

こうこがく【考古学】 過去の人類が残したあらゆる地質的遺物を通じて，人類の歴史を研究する学問。人類の歴史を研究する学問には，考古学のほかにも文献(古文書)学・民俗学・民族学などをあげることができるが，これらはいずれも歴史学の技術的な分科学であり，研究の素材や手段は異なっても，歴史法則をきわめるという共通の目的をもっている。

近代的な科学としての考古学は18世紀のヨーロッパで始まったが，19世紀になって飛躍的な発展を遂げて本格的な発掘調査が各地で行なわれ，その方法も確立していった。日本では1877年(明治10)にモースが大森貝塚(かいづか)を発掘して以来，ヨーロッパ考古学の方法が順次導入されて発達を続けてきたが，その歴史は浅い。遺跡・遺物を研究対象とする考古学にとって最も基本的な作業は，遺跡調査と遺物調査とであり，わけてもそれらの調査を通じて，遺跡・遺物に時間的位置を与えることである。遺跡調査によって遺跡に時間的位置を与える方法としては層位学があり，また遺物調査の場合には形式学が最も有効である。このほかに，放射性炭素による年代測定法・年輪法など，遺跡・遺物に直接年代を与える方法も考案されているが，まだ実用には至っていない。考古学の研究には，隣接諸科学との連係がたいせつである。民俗学・民族学・文献学・地理学・言語学はもちろん，自然科学の分野でも，たとえば人類学・生物学・地質学などと関連があり，最近では特に物理・化学の応用も盛んに行なわれている。一口に考古学といっても，その研究分野はいくつにも分かれている。研究対象となる時代によって大別すれば，先史考古学と歴史考古学とに分かれ，それをさらに細分することもある。また，調査対象となる地域別に分けると，ヨーロッパ考古学・アメリカ考古学・東洋考古学・日本考古学となり，さらに細かく，たとえばエジプト考古学・エーゲ考古学などの細分も行なわれている。このほか特殊分野としては，聖書考古学・仏教考古学・神道考古学などもある。考古学の研究対象は，腐朽せずに残された遺跡・遺物に限られている。したがって，過去の人類社会における精神生活の側面はとらえがたいという制約をもっている。しかし，考古学が単に遺跡・遺物の現象観察にとどまらず，物の背後に隠された歴史的諸関係を進んで明らかにすることが必要であり，そのためには正しい方法論(史観)をもたなければならない。〔田辺純之〕

こうこがふ【考古画譜】 明治期に刊行された日本古画の作品目録。黒川春村の遺著を古川躬行(みゆき)が書き継ぎ，のち黒川真頼(まより)が校訂を加えたもの。作品記述を主体とした日本絵画史研究の基礎資料として，《古画備考》《扶桑名画伝》とともにその先駆的意義は今日にあっても名高い。

こうこく【広告】 ⇨次ページ

こうこく【抗告】

1 刑事訴訟法においては，決定に対する上訴のことをいう。

2 民事訴訟法においては，判決以外の決定，および命令に対して不服のある被告・弁護士・検察官が上級裁判所に判断を求める上訴のことをいう。この場合は，一般抗告と特別抗告の2種がある。①一般抗告：さらに通常抗告と即時抗告とに分かれ，通常抗告は，即時抗告の場合を除いて，広く裁判所の決定について許される。即時抗告は，特に法律に規定ある場合にのみ認められる。たとえば，裁判所書記官に対する忌避申し立てを却下する決定，証人に対する不出頭の場合，宣誓・証言を拒んだ場合の過料の言い渡しの決定などである。即時抗告の提起期間は決定後3日以内と定められ，抗告期間中は執行停止の効力を有するのが特色である。②特別抗告：刑事訴訟法上，本来不服の申し立てのできない決定や命令について，憲法違反や判例違反がある場合に，最高裁判所に抗告することが認められているもの。提起期日は5日とされ即時抗告と異なり，執行停止の効力を生じない。〔井上公耳〕

こうこくじ【興国寺】 和歌山県日高郡由良(ゆら)町にある臨済宗法燈(ほっとう)派の本山。山号は鷲峰山(わしみねさん)。1227年(安貞1)3代将軍源実朝(さねとも)の近臣葛山景倫(くずやまかげみち)(願性)が主君の菩提(ぼだい)を弔うために建立(こんりゅう)した西方寺を，1254年(建長6)宋(そう)から帰国した法燈国師覚心が開山となり興国寺と改称。以後虚無僧(こむそう)の本寺となった。戦国時代兵火にかかり一時衰えたが，のち浅野幸長(ゆきなが)が修理し，臨済宗法燈派の中心として栄えた。10月13日の開山忌には尺八合奏が行なわれる。〔藤本昌子〕

こうこくだいりてん【広告代理店】 各種広告活動やそれに関連したマーケティング諸問題に熟練した専門家集団によって構成されている企業組織。広告代理店はその顧客である広告主と広告媒体(新聞・ラジオ・テレビその他)の間に介在して，広告主のために広告を作成し，調整し，そして実施することを主要な職能としている。また，これらの職能を果たすために，各種調査をはじめとしていろいろな活動が営まれている。広告代理店の報酬は一般にコミッション-システムが伝統的に用いられている。これによると代理店は，広告主が支払う媒体使用料の15%を手数料として広告媒体によって支払われる。広告主と代理店との関係において，次の2点が守られねばならない。①代理店はその製品が直接競争関係にある両社の広告を扱わない。②広告主は同一製品の広告に二つの代理店を利用しない。➔広告〔清水　晶〕

こうごしょうがい【構語障害】 ⇨言語障害

こうこしんぶん【江湖新聞】 1868年(慶応4)4月3日創刊された佐幕派の新聞。旧幕臣福地桜痴が主宰して江戸で発行されたが，佐幕的傾向が強かったため，同年5月22日づけ第22集かぎりで発行を禁止された。同名の新聞に，三宅雪嶺(みやけせつれい)を主筆として1890年(明治23)2月創刊されたものがある。

こうこつ【硬骨】 軟骨魚類を除く脊椎(せきつい)動物の内骨格を構成する骨の一種。軟骨に対する。硬骨は軟骨にリン酸カルシウムや炭酸カルシウムが沈着してできるか，結合組織が骨化(➔化骨)してできる。➔骨

こうこつぎょるい【硬骨魚類】 体内にかたい骨をもつ魚をいい，軟骨魚類(サメ・エイなど)とともに，魚類を二分している。分類学的には，硬骨魚類・軟骨魚類ともに脊椎(せきつい)動物門の一綱として扱われる。

硬骨魚類の最も著しい特徴は，内部骨格の石灰化(硬骨化)が進んでいることである。体形の基本は紡錘形であるが，アジ・タイなどのように側扁(そくへん)するものやコチ・アンコウなどのように縦扁するものも多く，その程度もさまざまである。一方，体が延長するものもあり，それらが組み合わさって，全体としては変化に富んだ体形を示す。体表にうろこをかぶることが多い。口は多くのものでは頭の先端に開くが，まれに下面に開く。眼は頭の側面にある。吻(ふん)の側面に左右2対，まれに1対の外鼻孔を開く。えらはえらぶたでおおわれ，左右1対の開口をもつ。消化管は食道・胃・腸に分かれ，チョウザメのように腸にらせん弁のあるものもある。多くは消化管の背方にうきぶくろをもつ。体側や頭部体表に側線が発達するものが多い。雌雄異体を原則とし，多くは体外受精の卵生であるが，胎生のものもある。幼生から著しい変態を経ずに成魚になるが，幼魚の形態が成魚と大いに異なっている場合もあり，ギス・ウナギなどのレプトセファルス幼生，イットウダイ類のリンキクチス幼生，チョウチョウウオ類のトリクチス幼生，ニザダイ類のアクロヌ

➔402ページ

広　　告

広告についての研究は，これまで社会学・経済学・心理学，さらにマーケティングの各領域で扱われ，それぞれのアプローチで成果をあげてきたが，近年，マーケティングからの広告研究がめざましい。そこでは，広告はダイナミックな企業活動の一環としての広告活動としてとらえられている。

広告の定義を明確にするまえに類似用語について明らかにする必要がある。アドバタイズメントは広告活動の一部によって制作される広告物ないし広告メッセージそのものを意味している。パブリシティーは，広告と同じように各種媒体を通じて大衆に企業やその製品に関する情報を伝えるが，その情報は，情報のニュース性に関する媒体側の判断によって取捨選択されるため，無料であるところが広告とは大きく異なり，このため広告のように計画・管理することができない。さらに，宣伝は，古くはキリスト教の教宣活動に，また近年では，軍事的・政治的宣伝活動に関して使用されてきたもので，教義・信条・主義・主張などの党派的・偏向的見解の普及を目的としている。このようなことから，宣伝は企業利益を目的とする広告とは異なっている。なおこれとは別に，広告を宣伝の下に包括しようとする見解もある。

広告とはなにかを明確にする定義については，前に述べたようにいろいろな視点からそれがとらえられるため，これまで多様な定義が下されている。それらの上からいくつかを示してみると，①広告は商品ないしサービスの販売を直接・間接に援助することを目的としたあらゆる形態の大衆告知である。②広告は商品ないしサービスに注意を喚起させるあらゆるものである。③広告は商品ないしサービスについて情報を与えたり，影響を与える目的で，特定の大衆に向けられる視聴覚的性質の諸活動から構成されている。④広告は潜在顧客に商品ないしサービスを知らせ，そして彼らの態度に影響を与える諸活動からなっている。⑤広告は特定のスポンサーによるアイデア，商品ないしサービスについてのあらゆる有料形態の非人間的な提示および促進である。

このような定義は枚挙にいとまないが，⑤の定義はアメリカ-マーケティング協会の用語定義委員会によって与えられたもので，最も広く一般に受け入れられているといえる。ここで〈非人間的〉とは，非個人的を意味するのではなく，潜在顧客と直接対面してメッセージを与える販売員以外の手段を意味している。

〔分類〕広告はその目的によっていろいろな方法で分類することができる。これらの方法のいくつかをあげると，たとえば広告主の企業形態によるもの，広告地域によるもの，広告視聴者によるもの，需要タイプによるもの，訴求タイプによるもの，使用媒体によるものなどがある。ここでは，代表的な分類を列挙してみよう。

①広告視聴者による分類：消費者広告は，広告主とは関係なく，個人ないし家庭の消費を目的として，購買する最終消費者に向けられるあらゆる広告である。産業使用者広告は，原材料・機械・設備品・補給品・組み立て部品などの産業財を使用する購買者の間に需要を喚起しようとする製造業者や販売業者によって行なわれる広告である。この広告は広告媒体としておもに業界誌などを利用する。取引先広告は，製造業者が自社の製品を卸売業者や小売業者に在庫・販売するように刺激する広告である。最後に専門者広告は，最終消費者や使用者の利用する製品について，専門家の推薦・説明・処方を必要とする製造業者や販売業者の広告である。たとえば，薬品や建築材の製造業者は，個人的な薬品入用者や建設業者に対して，医師や建築家の専門的な説明や推薦を意図した広告を専門誌や一般広告媒体に広告している。

②需要タイプによる分類：特定製品に対する需要の発達程度にしたがって，需要タイプを基本的需要と選択的需要とに区別することができる。前者の需要増大を意図する広告は基本的需要広告とよばれる。これは特定製品種類(たとえば牛乳とか自動車一般)の需要創造を目的とするため，多くの場合，同業者組合や協力的な産業グループによって行なわれる。これに対して後者は，基本的需要が増加してから，選択的需要が高まるころあいを図って自社ブランドを強調するので，選択的需要広告とよばれる。

③広告反応による分類：広告視聴者からある直接的な反応を求める広告は直接反応広告であり，郵送広告のようにその読者にすぐ商品を注文するように誘因を与えたり，商品見本をクーポンで求めさせたりする広告がこの種の広告である。これに対して間接反応広告は，その読者が購入決定をするとき，自社ブランドへ踏み切らせるような好ましいブランド-イメージや意見，さらに態度をもたせることを目的としている。

④製品広告と企業広告：多くの広告は，それが消費財であろうと産業財であろうと，ある製品ないしブランドの売上高を増加するために行なわれる。かかる目的を有する広告は製品広告という。他の広告は顕在および潜在顧客，さらに一般大衆に対してその企業全体の好ましい態度を確立させようとするもので，企業広告とよばれている。これは企業の伝統や業績，従業員の熟練，すぐれた研究などを強調することによって，当該企業に対する好意を醸成する。この企業広告は，一般に公共奉仕広告・ＰＲ広告・愛顧広告に３分類されている。

以上に示された広告の分類は相互排他的な関係にはなく，多くは相互に重複している。ここに一つの全国的なテレビ-ネットワークを利用して，新製品の広告キャンペーンを展開する製造業者の広告があるとすると，これは消費者・選択的需要・間接反応・製品(全国地域向け・テレビ媒体)広告として表わすことができる。

〔広告活動〕広告プログラムが計画・実施される過程をながめることによって，広告活動全体を知ることができよう。それらの過程に不可欠な活動を段階別にとらえると，次のように配列できる。①目的の明確化，②広告対象の決定，③訴求の決定，④広告物の準備と効果の検定，⑤媒体の選択，⑥広告予算の設定，⑦諸活動の調整。

①目的の明確化：すべての広告プログラムは最初にその目的を明示することから始まる。広告の一般目的といった場合，それは顧客に製品をはじめて購入させ，それをいっそうひんぱんに使用させ，いっそう多量に購入させ，購買期間を長期化させる誘因を与えることによって，その企業の売り上げおよび利益の水準向上に貢献することであるといえる。このような一般目的が個々のプログラムに設定されることもあるが，多くの場合，競争条件や許容資金などの内・外諸条件との関連でいっそう個別的な目的になるはずである。たとえば，既存製品や新製品の特徴・価格・性能の伝達，ブランドの認識・選好・愛顧の形成，サービス・信頼性・研究力に関する名声の確保，既存製品の新しい利用方法の伝達，企業イメージの創造などである。このような広告目的は，トータル-マーケティングの観点から，マーケティング目的→プロモーション目的→広告目的の脈絡から導き出される。

②広告対象の決定：次に当該製品の潜在的・顕在的使用者の数や所在地域，さらに購買慣習や動機までを明らかにして，広告対象を決める。伝統的に消費者は〈だれがなにを，どのような目的で，いくらで，そしてどの店で購入するか〉という観察可能なデータのみから考えられてきたが，近年〈なぜ購入するのか〉に関する情報が不可避的に重要となっている。それは，広告に不可欠な視聴者の観点をより深く示す情報だからである。この段階は特に次の訴求の決定，媒体の選択に基礎を与える。

③訴求の決定：広告は人間の基本的欲求を創造することはできないが，それら欲求に適切な訴求を与えることによって潜在的欲求を活発化させたり，多くの製品を使用するような欲望を刺激したり，ある製品の使用によって満足するように影響を及ぼすこ



①



②



③



④

①1895年11月25日大阪毎日新聞掲載広告　明治初期には，文明開化とともにはいってきた物珍しい品々が当時の人々の関心をよび，舶来の生活品の広告がめだった。その後商工業のめざましい発展と印刷技術の進歩によって，広告活動も活発化し，近代的なポスターが出現するようになった。②明治末期から大正初期に流行したアール-ヌーボーの様式を取り入れた作品(1911)。③美人画ポスターの一。わが国ではじめてのヌードポスターとして評判をよんだ(1922)。④第1次世界大戦後のインフレ下のドイツに手をさしのべようと，ドイツ美術界に図案を懸賞募集し，当選した作品(1924)。

とができる。効果的な訴求を決定するためには，まず広告される製品，さらに製品の個々の性質が顧客のどのような動因・動機，たとえば健康・慰安・安全・愛情・名誉を満足させることができるのかを決定しなければならない。また，購買者だけを対象とした訴求だけでなく，購買に影響を与える人々の訴求をも考慮に入れる必要がある。主婦の購買決定の大部分はその家族や隣人，その他の集団に強く影響されている。主婦が購買代理人ともよばれる由来はこの事実からきている。

④広告物の準備と効果の検定：広告物の準備過程にはコピーの作成，イラストレーションの決定，レイアウトの決定が含まれる。コピーの内容について広・狭二義があるが，一般的にはことばないし活字で表現される部分をさしている。したがって，それは見出しと本文の両方を含んでいる。見出しは，イラストレーションとともに読者の注意をひくためにある。本文は，多くの場合広告内容の主要部分をなしているが，ときにはイラストレーションに従属することもある。それらの関係は，コピーを中心にするか絵を中心にするかを決めるフォーマットの相違による。コピーは内容的側面で，イラストレーションは視覚的側面でそれぞれの役割をになっている。そして，両者の相互補完作用による相乗効果を期待するためにレイアウトが行なわれる。構成単位となる見出し・本文・イラストレーション・製品名・会社名は，レイアウトによって一定のスペース内で効果的に機能するように設計・配備されることになる。

広告物が準備されると，次にそれはテストを受ける。事前テストは，広告物の効果を測定して，その改善点をあらかじめ決めるために行なわれる。そのテストには重要なポイントを定めたチェック-リストや消費者パネル，クーポン-テストなどの調査方法が用いられる。事前テストと並んで事後テストがある。これは広告物の吸引力を確認し，それの将来の改善に役だつ情報を得るために行なわれる。事前テストとほぼ同様な調査方法が用いられるが，新聞・雑誌の広告物に関しては各種再生法を用いるリーダーシップ調査が普及している。広告物を改善するための一貫した情報を獲得するには，事前テスト・事後テストの一方だけでは不十分であるため，両者の併用が必要である。

⑤媒体の選択：広告媒体は広告メッセージを潜在顧客に伝達する手段ないし送信機関である。媒体の種類とその使用状況については図-1に示されている。いずれの媒体もただ一つだけでは広告主の意図する潜在顧客全体に到達することができないため，多くの場合はいくつかの媒体の組み合わせを利用して，それぞれの媒体に異なった力点を与えた広告メッセージを流している。それぞれの媒体は個々の広告主の立場からみると，それぞれ特徴・利点・弱点を有しているので，媒体の選択に関して一概に論ずることはできない。選択に際して考慮されるおもな要因として，㋑製品，㋺広告計画の目的，㋩潜在市場，㋥当該製品の流通範囲とその性格，㋭メッセージないし訴求のタイプ，㋬予算，㋣競争会社の状況，㋠媒体の特徴，その他があげられる。

⑥広告予算の設定：広告予算の設定に際して，マーケティング計画，顧客の密集度，製品の普及度，製品の収益性・売上高，流通経路・単位価格，競争企業の戦略・商圏，一般経済動向などの諸要因を全般的に考慮する必要がある。しかし，実際の多くの予算設定ではごく限られた要因しか用いられ

表-1　日本経済の成長と日本の広告費

	国民総生産		日本の広告費		国民総生産に対する広告費の割合(%)
	国民総生産(億円)	対前年比(%)	日本の広告費(億円)	対前年比(%)	
1962	216 595	109.1	2 435	115.4	1.2
1963	255 759	118.1	2 982	122.5	1.2
1964	295 305	115.5	3 491	117.1	1.2
1965	326 504	110.6	3 440	98.5	1.1
1966	381 179	116.7	3 831	111.4	1.0
1967	448 015	117.5	4 594	119.9	1.0
1968	527 882	117.8	5 321	115.8	1.0
1969	624 336	118.3	6 328	118.9	1.0

注）　国民総生産は経済企画庁《国民所得統計年報》(1971)による
《電通広告年鑑》(1970)

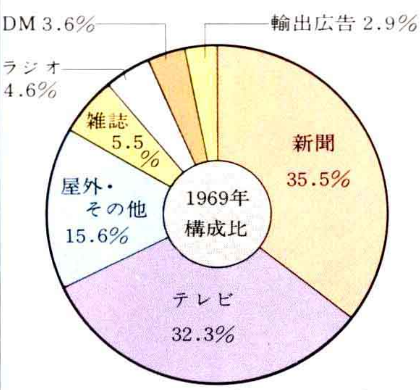
ていない。広告予算の設定方法に関する各種の研究は，これまでに20余種類にわたる方法が採用されてきたことを報告しているが，基本的には売上高百分率法・競争平準法・目的一課業法の3方法に集約されよう。

⑦諸活動の調整：広告はマーケティング・プログラムの一要素にすぎない。広告は，顧客が欲求し，適切なデザイン・包装・価格が用意され，そして正しく選択された取引チャネルで販売される製品と結合してはじめて最善の効果をもたらす。また，広告の側では，広告活動があらかじめ注意深く計画され，適切な訴求が準備され，正しい媒体タイプが選択され，妥当な予算が計上され，また多くの場合，それが継続的に使用されないかぎり，製造業者や販売業者の販売プログラムに貢献しないだろう。したがって最終段階の諸活動の調整では，広告がマーケティング目標実現のために他のマーケティング諸活動と総合調整され，そし

表-2　業種別広告費(1969)

	広告費(千万円)	対前年伸び率(%)	寄与率(%)
薬品・医療品	4 000	13.1	6.0
化粧品	3 261	7.1	2.8
出版	2 021	11.0	2.6
食料・嗜好品	7 816	7.9	7.5
金融・保険	3 218	48.1	13.6
機械器具	10 150	16.0	18.1
衣料用繊維品	1 049	4.8	0.6
雑品	2 650	16.0	4.8
百貨店	1 442	14.8	2.4
興行	1 053	6.9	0.9
交通・運輸	944	27.6	2.6
その他	11 706	33.6	38.1
合計	49 310	18.5	100.0

《電通広告年鑑》(1970)



《電通広告年鑑》(1969)

図-1　媒体別広告費(1969)

てそこから期待される役割に従って，広告諸活動が最善に機能するように調整される。

【広告主と広告代理店】広告の制作と普及を専門とする広告産業は，今日多くの広告組織によって構成されている。その主要な組織は広告主・広告代理店*・各種広告媒体である。これに加えて，この分野で不可欠の活動をしているアーチスト・写真家・印刷会社・調査会社などが含まれる。広告主は，彼らの製品の販売を促進する広告やその他の活動に対して料金を支払う企業である。広告媒体は新聞・テレビ・ラジオその他によって構成されており，広告が各種形態で大衆に提示されるすべてのコミュニケーション手段を含んでいる。広告代理店は，彼らの依頼人である広告主のために広告の準備と実施に全面的に奉仕する企業である。広告やマーケティングの諸側面に通じた専門家によって構成される代理店は，広告主・広告媒体，その他の企業から独立しているため，広告依頼者の諸問題に対してたえず客観的な観点から有効なサービスと助言を与えることが可能なのである。その専門的なサービスとしては，広告主の製品ないしサービスの研究，顕在および潜在市場の分析，流通・販売の諸要因とそれらの操作方法に関する知識の提供，利用可能なすべての媒体に関する知識の提供，広告計画案の作成・提示・実施，広告主の販売活動への協力などがあげられる。

広告主と代理店は前項で示された広告活動を介して緊密な関係を有しているが，広告の計画と実施が必ず代理店に全面的に委託されるわけではない。それが広告主の内部組織である広告部門によってなされたり，広告主と代理店が協力したり，代理店だけに全面的責任をゆだねる場合もある。いずれのパターンを採用するかは，広告主の広告部門の規模，企業目的，製品種類，市場の規模とその性質，広告業務の性質などの要因によって決定されるのである。広告主が広告の計画と実施について代理店を利用する理由は，代理店にゆだねたほうがいっそう効果的な広告を製作できるとする考えと，費用・労力が比較的かからないという事実に基づいている。その理由を構成する要因として次の諸点が考えられる。①内部部門に比較して外部の代理店のほうがいっそう客観的で，独立的である。②それゆえ，広告への新鮮なアプローチが可能である。③いろいろな分野の多くの仕事からすぐれた経験と知識が得られ，洗練された効果をもたらす。④取引として仕事に取り組むため，動機づけの上で差がある。⑤高度に熟練した専門家集団を集結できる。最後にもう一つの大きな要因は，ある企業が自社の広告に不満となった場合，自社の広告部門を改廃するよりも，代理店を変更することのほうが容易だからである。　〔清水　晶〕

ルス幼生などが有名である。カレイ類も，幼魚では他の魚類に似た体形をしている。トビウオ類やマンボウなどでも幼魚と成魚の形態には著しい差がある。幼魚と成魚とで，体の色彩・斑紋(はんもん)が異なる場合も多く，特にイシダイ・カンダイ・テンス・キンチャクダイ・サザナミヤッコなどで著しい。硬骨魚類は種類が多く，地球上のほとんどあらゆる水界に生息し，その生活様式も変異に富んでいる。よく泳ぐもの，底にじっとしているもの，群をなすもの，単独行動のもの，プランクトン食のもの，魚食性のものなど，さまざまである。

硬骨魚類の先祖については，明らかでないが，シルリア紀末に現われ，のちに絶滅した棘魚(きょくぎょ)類(アカンソージス綱)であろうといわれている。硬骨魚綱は，①条鰭(じょうき)亜綱(真口亜綱)，②腕鰭亜綱(ポリプテルスなどを含む)，③肺魚亜綱，④総鰭亜綱(シーラカンスを含む)の4亜綱に分けられるが，②～④の3亜綱は地質時代に栄えた古い型の魚類で現生種は少なく，今日みられる硬骨魚類のほとんどは，条鰭亜綱に属している。条鰭亜綱はさらにパレオニカス類・軟質類・全骨類・真骨類の4上目に分けられる。パレオニカス上目は化石種だけ，軟質上目にはチョウザメ・ヘラチョウザメ，全骨上目にはレピドステウス(ガーパイク)・アミアを含むが，いずれも二畳紀ないし白亜紀に栄えたが，いまでは衰微した群であり，現在の地球上で繁栄している硬骨魚類のほとんどが真骨上目に属している。硬骨魚類の4亜綱は古生代オルドビス紀にはすでに分離し，その後それぞれ別の進化の道をたどったものと考えられている。そのうち，条鰭亜綱ははじめ軟質類が繁栄したが，三畳紀末に衰え，軟質類の派生子孫である全骨類に取って代わられた。全骨類も白亜紀初期を頂点としてしだいに衰え，やがて派生子孫である真骨類に取って代わられた。真骨類は白亜紀を通じて爆発的な進化を遂げ，今日もなお，衰えのようすをみせていない。真骨類は，はじめ海水中に生じたが，その後淡水にも浸入し，始新世には，今日みられる主要な群(科)がほとんど出そろった。なお，真骨上目内各群の類縁関係については異説が多く定説がないが，だいたいサケ・イワシ・コイなどが最も原始的で，メダカ・トビウオなどは中間的，タイ・メバル・カレイ・フグ・アンコウなどは，進化の進んだものとみなされている。

硬骨魚類各群の現生種類は，総鰭亜綱1，肺魚亜綱5，腕鰭亜綱11，条鰭亜綱約16,000といわれ，条鰭亜綱のうち軟質上目には，チョウザメ類約24種，ヘラチョウザメ類2種を含み，全骨上目にはアミア1種とレピ

ソステウス類約8種を数える。→魚類
〔菅野　徹〕

こうこつもじ【甲骨文字】紀元前15〜紀元前13世紀の間，黄河の下流デルタに栄えた中国最古の王朝殷(いん)では，王や巫(みこ)が日用万般の事がらを占って決めた。占いには獣骨や亀(かめ)の甲らを用い，焼き火ばしを押しあてて生じる割れ目の形を見て吉凶を判じ，立ち会った巫や史(記録係)がその内容を小刀で刻んで保存しておいた。19世紀の末，河南省安陽県の殷墟(いんきょ)からそれが発見され，今日までにおびただしい甲骨の断片が発掘された。その文字を亀甲(きっこう)獣骨文字，略して甲骨文字(契文ともいう)という。発見された字の種類は約3,500，そのうち約1,200字が解読され，漢字の原形が明らかとなった。大部分が象形文字であるが，かなりの数の会意文字と少数の形声文字が含まれている。〔藤堂明保〕



丙子卜
韋貞
我不
其受
年

丙子の日に卜(うらな)った。韋(みこの名)が貞(き)いた。われわれはそれ年(みのり)を受けざるかと。

甲骨文字

こうごねんじゃく【庚午年籍】670年(天智9)につくられた戸籍。大化改新以来，全国的規模で作製されはじめての完備した戸籍で，太宝令(たいほうりょう)には特別に永久保存すべきことが規定されており，氏姓・身分をただす基本台帳としてしばしば利用された。奈良時代以降も保存に努めたことが史料で知られるが今日には伝わらない。

こうごのかくしん【甲午の革新】1894年(明治27，朝鮮李(り)太王31，甲午)に日本が朝鮮政府を威圧して行なわせた内政改革。同年の東学党の乱平定を理由に朝鮮に出兵した日本軍は，京城(ソウル)にはいり，朝鮮政界に圧力を加えつつ，大院君一派と結んで内政改革を断行し，新しい官吏登用法，公私奴婢(ぬひ)の戸籍の廃止，人身売買の禁止，拷問の禁止など多数の議案を議決した。これは，朝鮮に近代的制度を確立することをめざしたものであったが，この対鮮威圧外交が導火線となって日清(にっしん)戦争となった。なお，戦後は三国干渉によって朝鮮政界における日本の勢力が後退したため，革新は挫折(ざせつ)した。〔千野境子〕

こうごぶんぽう【口語文法】口語の文法。文語文法の対。一般には，現代の共通語の口語文の文法をさす。口語文は話しことばをもとにした書きことばで，明治の言文一致運動以後しだいに形成されてきたもの。したがって，〈行っちゃった〉〈そうじゃない〉のような話しことば独自の現象は，一般の口語文法ではほとんど扱わない。なお，特に話しことばの文法を音声口語法，方言の文法を方言文法として扱うこともある。〔市川　孝〕

こうごんてんのう【光厳天皇】(1313〜1364)　持明院統の天皇。後伏見天皇の第1皇子。名は量仁(かずひと)。1326年(嘉暦1)後醍醐(ごだいご)天皇の皇太子となり，1331年(元弘1)の元弘(げんこう)の乱に際して，北条(ほうじょう)高時によって擁立されたが，1333年(元弘3・正慶2)北条氏の滅亡とともに後醍醐天皇によって退位させられた。1336年(延元1・建武3)，弟の光明天皇が足利尊氏(あしかがたかうじ)によって立てられるに及んで院政を行ない，北朝を創立した。和漢儒仏の学を修め，《元弘二年正月記》《光厳院御即位記》《光厳院御集》などを著わした。陵墓は京都府北桑田郡山国陵。〔大三輪龍彦〕

こうさ【公差】⇨数列

こうさ【交叉】同一染色体に位置する遺伝子は，減数分裂において互いに連鎖を示すが，その結びつきはたびたび破られることがある。これは，相同染色体が対合した際，その相同部分を互いに交換するために起こる。その現象を交叉といい，それによって遺伝子の組み換えが行なわれる。交叉の機構についてはキアズマ型説(一面説)・二面説・半ねじれ説・新キアズマ型説・新二面説があるが結論はまだ出ていない(→キアズマ)。遺伝子の組み換えの程度をパーセントで表わした数値を遺伝子の交叉価または組み換え価といい，連鎖関係にある二つの遺伝子間の染色体上の距離の大小を示す。交叉価が大きいときにはその距離は大で連鎖関係は弱く，交叉価が小さいときにはその逆のことがいえる。〔池田洋司〕

こうさ【公差】機械部品の寸法を，決められた寸法に正確に仕上げるのは非常に困難なので，最大寸法と最小寸法を決め，その間に製品の寸法がはいっていればよいとする場合がある。この最大寸法と最小寸法との差を公差という。製品がこの公差の範囲にはいっているかどうかを検査するのに限界ゲージを用いる。

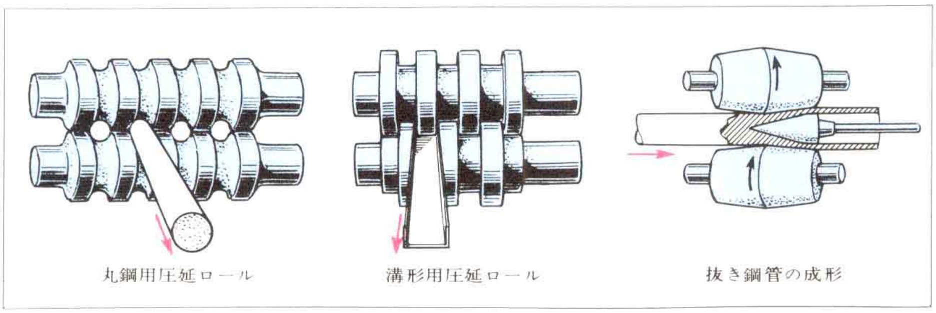
こうさ【較差】たとえば，1日のうちで最高気温と最低気温との差を気温の日較差という。同じように月較差・年較差などを定義することができ，他の諸量についても同様である。

こうさ【黄砂】春の空気の乾燥している時期に，中国大陸の黄土地帯の黄土が風に吹き上げられて飛来して来るもの。主として寒冷前線に伴う突風によるもので，前線の動きに沿って流されるが，わが国まで来るものでも西日本止まりで，東日本までは影響しない。拡散と自然落下によって到達する高さもだいたい4km以下である。

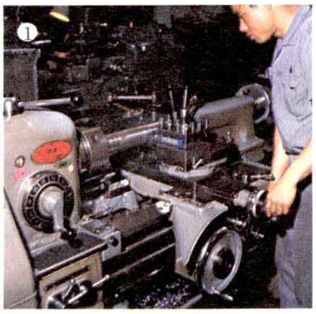
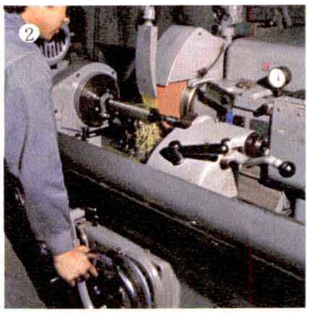
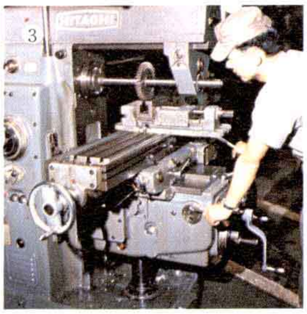
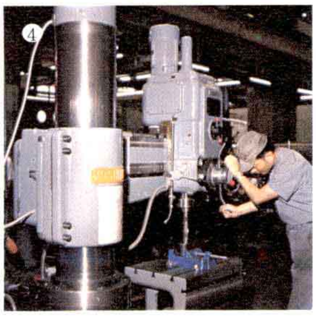
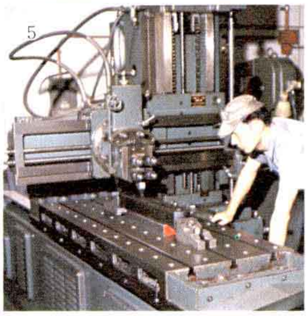
こうさい【虹彩】眼球の最前部にある円盤状の薄い膜。その中央部に円形の瞳孔(どうこう)がある。虹彩は角膜をとおして見え，その色調は含まれる色素(メラニン)の量によってさまざまであり，同一人種内でも個人差はあるが，人種間の差はきわめて大きい。→目

こうさい【公債】国や地方公共団体が財政上の必要から行なう資金の借り入れによって生ずる債務，あるいはその際に発行される債券。資本主義の初期には公債は不生産的消費であり，インフレーションの危険性があると考えられたが，その後ドイツでは建設公債(生産公債)を是認する立場が強まった。さらに1930年代にはケインズによって赤字公債が有効需要を造出する有効な不況対策であるとして，積極的に主張された。現在でもこの説を支持する者は多いが，国民経済に及ぼす公債発行の経済的作用は複雑であるため，個々の場合については具体的に検討する必要がある。公債の種類は，広義には国債，地方債，政府特殊機関債，公社・公団債などに分かれるが，狭義には国債と地方債をさす。また，募集される場所によって内国債と外国債，使途によって赤字公債(非生産公債)と建設公債などに分かれ，その他特殊なものとして政府が現金の支出の代わりに交付する交付公債や，政府が償還の義務を負わない永久公債などがある。わが国の国債は短期国債(政府短期証券)と長期国債に分かれ，短期国債は大蔵省証券・外国為替(かわせ)証券・食料証券などの満期1年以内のものであり，長期国債は満期5年から20年までのものであるが，現在発行されているものは7年6分半利付きの国債である。また，地方債は都道府県市町村などが発行するもので，公募地方債と政府・金融機関の引き受ける地方債とに分かれる。→起債市場　→公社債
〔速水　保〕

こうさい【鉱滓】金属製錬において，鉱石中のガス成分以外の夾雑物(きょうざつぶつ)・未還元金属酸化物などが溶剤と結合・溶融し，溶融金属の表面に浮上・分離したもの。非鉄製錬では鍰(からみ)という。製鉄において，溶鉱炉内で生成された鉱滓は炉床温度を保持し，銑鉄の成分調整を行なうものであるから，吹製する銑鉄の種類，装入物中の夾雑物の多少などによって，鉱滓の成分・塩基度(塩基性成分/酸性成分)を調整する必要がある。溶鉱炉滓の成分は，だいたい二酸化ケイ素31〜37%，酸化アルミニウム8〜16%，酸化カルシウム40〜50%，酸化マグネシウム1〜6%，酸化鉄1%である。副産物として，鉱滓れんが・鉱滓セメント・鉱滓ガラス・鉱滓綿などに利用される。〔草川隆次〕



鋼　材

工作機械

①旋盤
②研削盤
③横型フライス盤
④ラジアルボール盤
⑤平削り盤

こうざい 【鋼材】 鋼塊*を圧延・押し出し・引き抜きなどの加工によって板状・条状・管状・線状にしたもの。形状により鋼板*・条鋼*・鋼管*・鋼線・外輪などに分類される。鍛造した鋼や鋳造した鋼を含める場合もある。鋼材は使用される条件によって性質が決められる。建造物・車両・船舶などに用いられるときには，鋼の強さ・かたさ・伸びの機械的性質が重要で，強度が高ければ重量軽減ができる。また，構造物によっては衝撃値や疲労強度が問題となる。最近は溶接構造物が多いため，継ぎ手部分の安全性などを考慮した溶接性も重要な問題となる。熱間や冷間で鍛造・圧延・引き抜き・プレスなどの加工成形をしたり，切削仕上げなどをして使用する場合もあるので加工性の問題もある。また熱処理を施して材質を改良する方法もとられる。

〔長谷川正義〕

こうさいえん 【虹彩炎】 虹彩*に起こる炎症。発病すると目は充血し，角膜*と虹彩の間にある前房に混濁を生じ，視力が低下する。すすんでくると疼痛(とうつう)が多くなる。最悪の場合には緑内障*などを起こして失明する。原因としては結核・梅毒・リウマチや細菌またはウイルスの感染，アレルギーなどがあるが，原因不明の場合が多い。原因療法のほか，対症療法・安静安眠などの全身療法，合併症に対する治療などを行なう。

〔氏原　弘〕

こうさいてつどう 【膠済鉄道】 チャオチー鉄道 中国，華北地方東部の鉄道。青島(チンタオ)～済南間393kmにわたる。1896年の膠州湾租借条約に基づき，ドイツ銀行団の独占投資機関である徳華鉄路公司によって1904年に建設され，以後同社が管理運営を行なった。その目的は，山東省の主要都市とこの地方の大炭田(博山・淄川(しせん)など)を連結し，ドイツの中国進出の足がかりとすることにあった。1913年にはこの鉄道の延長敷設権も獲得している。しかし，第1次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)によって日本軍がこの地域に進出し，この鉄道を接収して運営した。ワシントン会議の結果，1922年には中華民国に返還されたが，中国はその代償として鉄道収入を担保として補償金を日本に支払うことになった。のち国民党北伐の際の日本の山東出兵はこの財源確保が一つの理由となっている。近年は藍煙(らんえん)鉄道(藍村～煙台)と接続するようになった。

〔船越昭生〕

こうさいひ 【交際費】 企業において，得意先・仕入れ先・役員・株主，その他事業に関係のある者などに対して行なう，接待・供応・慰安・贈答などのために支出する費用。接待費・機密費の名称でもよばれる。しかし，従業員の慰安のための費用，カレンダー・手帳などを贈与するための費用は通常含めない。税務上は一定金額まで損金に算入されるが，公正の原則からそれ以上は課税の対象となる。原価性は正常な範囲に限られ，製造間接費もしくは販売費・一般管理費として処理されている。

〔山桝忠恕〕

こうさいるい 【後鰓類】 軟体動物・腹足綱に属する後鰓亜綱をいう。巻き貝の仲間ではあるが，貝がらは一般に薄くて退化傾向にあり(カメガイ・アメフラシ・キセワタ・タマノミドリガイなど)，貝がらがまったく消失しているもの(アオウミウシ・ムカデメリベなどのいわゆる裸鰓類)も多い。えらが心臓の後方に位置しているのが名の由来であるが，えらを失って体表で呼吸するもの，皮膚の突起が，2次的にえらに変化しているものもある。雌雄同体。古生代の石炭紀前期以後に化石が現われ，現生種は約10,000に及ぶが，バイカル湖産のアンキロドリス－バイカレンシスを除きすべて海産である。

こうさくきかい 【工作機械】 広義には切削・研削・剪断(せんだん)・鍛造・圧延などいろいろな方法によって金属・木材その他の材料を加工し，ある形をつくり出す機械のことをいう。したがって，この場合は蒸気ハンマー・圧延機械・線引き機械・プレス機械・木工用機械なども含まれるわけであるが，普通は金属を切削または研削，すなわち切りくずを出しながら加工する機械だけをさすことが多い。なお，この工作機械でつくり出されるものは多くの場合，軸・ねじ・歯車・シリンダー・ピストンなどの機械部品であるので，工作機械とは機械をつくる機械であるといわれることもある。

工作機械の種類は非常に多いが，代表的なものの名称とその加工方法をあげると，工作物を回転させておいて，これにバイトをあてて削る仕事をする旋盤*，ドリルを回転させながら送り込んで穴をあけるボール盤*，バイトを回転させて穴をくり広げる中ぐり盤*，フライスを回転させておいて，これに工作物をあてて表面を削るフライス盤*，バイトを往復運動させて工作物の表面を削る形削り盤*，砥石車(といしぐるま)を高速回転させて工作物の表面を精密に仕上げる研削盤*があり，このほか，のこ盤・ブローチ盤・ラップ盤・歯切盤などいろいろのものがある。

なお，これらの工作機械の中で，一般的な作業をするものを汎用(はんよう)工作機械，これに対して特定の作業をするものを単能工作機械または専用工作機械といっている。また，1台の工作機械で穴あけ・中ぐり・フライス削りなどのいろいろの加工のできるものは複合工作機械とよばれており，数台の専用工作機と工作物の移送装置とを

組み合わせて連続的に加工をするようにしたものにトランスファーマシン*がある。その他，テープやカードに記録された指令によって自動的に加工をする数値制御工作機械*やマシニングセンター*も最近は急速に開発されてきている。　〔稲田重男〕

こうさくてつどう【鋼索鉄道】 いわゆるケーブルカーのことで，車両をロープに緊結し，山上の巻き上げ機を使用して運転する鉄道。山岳交通機関の代表的なもので歴史も古い。旅客用の鋼索鉄道は，1830年世界ではじめてスイスに建設された。わが国では奈良県生駒(いこま)山のものが最初で，現在営業中のものは32路線27.6kmである。1971年(昭和46)に開通した立山黒部の鋼索鉄道は，全線地下式というわが国はじめてのもので，高低差359m，斜長704mである。　〔宍塚正幸〕

こうざせい【講座制】 大学において，教育・研究を行なうために，学部構成要素としての学科目ごとに置かれる教員組織。一講座には専任の担当教授を中心に助教授・助手が配される。旧帝国大学では厳密に組織されていたが，第2次世界大戦後の大学令では，学科目制をたてまえとし，講座制を敷くこともできると定められた。近年，講座制は総合的な教育・研究の推進を妨げるとして，その封鎖性が批判されている。

こうさつ【絞殺】 ⇨絞死

こうさつ【高札】 掟書(おきてがき)・禁令，犯罪人の罪状などを一般に知らせるために，交通の多い町の辻(つじ)や市場など人目のつく場所に高く掲げて建てられた掲示板。横長のひのき・杉材(すぎざい)などを用い，かな交じり文で書いてある。中世末期から行なわれたが江戸時代が最も盛んで，高札を掲げる場所を高札場といい，江戸では日本橋以下6か所の大高札場のほか35か所の高札場があった。農村では街道の宿場，渡船場，村の名主宅前などに建てられた。1870年(明治3)の太政官(だじょうかん)高札が最後で，以後廃止になった。　〔岡山泰四〕

こうざついくしゅ【交雑育種】 現在最も広く用いられている育種方法で，互いに異なる遺伝形質をもついくつかの親品種を人為的に交雑させて，その子孫から優良な品種を育成しようとするものである。たとえば，収量は少ないが耐病性が強い品種と，収量は多いが耐病性が弱い品種を組み合わせると，その子孫から収量が多く，しかも耐病性も強い品種を得ることが期待される。また，単に両親の長所を組み合わせるだけでなく，両親のいずれにもまさる子孫を得ることも可能である。　〔山川邦雄〕

こうざん【鉱山】 地殻(ちかく)中に存在する有用鉱物*を採取する作業，すなわち採鉱の行なわれる場所。世界のあらゆる地域に分布しているといってよいが，金・鉄・亜鉛などの金属鉱物を採取するものと，石炭・石灰石などの非金属を採取するものとに分かれる。石油や天然ガスを採取する油井も広い意味の鉱山と考えてよい。

鉱床の性質や採掘の方法・規模あるいは地域的な特殊性などによって鉱山はいろいろな形態をとる。地表近くに存在する鉱床を採掘するためには露天掘りが行なわれることが多いが，地下深くに存在する鉱床を対象とする場合には，立て坑や斜坑，あるいは通洞(つうどう)とよばれる横坑によって鉱床に到達し，鉱石を採掘しなくてはならない。露天掘り鉱山としてはビンガム(アメリカ，銅)・チュキカマタ(チリ，銅)などが世界有数の大鉱山であるが，キルナ(スウェーデン，鉄)・クレイトン(カナダ，ニッケル・銅)などの鉱山は坑内掘りの大鉱山である。以上述べた例は，いずれも1日に数万トンの鉱石を採掘する大規模な鉱山であるが，一方では，個人的に細々と稼行(かこう)されているような鉱山もある。また，地表下3,000mにも達する深いところで鉱石を採掘している鉱山もあり，海底下の鉱床を採掘している鉱山もある。海岸や海岸近くの海底の砂鉱床を対象としている鉱山も数多く知られている。鉱山という名称からは山の中にあるように思われるが，必ずしもそればかりではない。ただ一般に，都会地などから離れ，人跡まれな地域に開発されているために，鉱山を中心とした一つの社会が形成される例は多い。

鉱山の作業は大きく分けると，探査・採鉱(採炭)・選鉱(選炭)となるが，さらに精錬も含まれる。探査は，鉱床を発見してその性質や規模を調査する作業であり，採鉱は鉱床を合理的に開発して鉱石を採掘する作業である。採掘された鉱石は，そのままでは有用成分のほかに多くの不要な成分を含むのが普通であるから，それらを取り除いて品位を高めるため，精錬などの作業に渡す以前に鉱石処理を行なう。この作業を選鉱とよび，精錬は有用鉱物から金属を取り出すための工程である。今日ではどの作業も機械化され合理化されていて，職場の環境の整備にはつねに十分な注意が払われている。鉱山を開発し経営する産業は，鉱山業あるいは鉱業*とよばれるが，つねに文明とともにあったといってよい。非常に古い時代の鉱山は石鏃(せきぞく)や石斧(せきふ)をつくるための石片を採取する場所であり，また美しい石の産出するところであった。そ



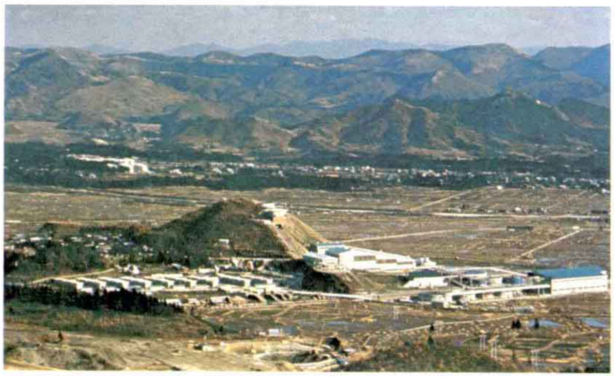
鋼索鉄道　箱根登山鉄道鋼索線(強羅～早雲山)



高　札

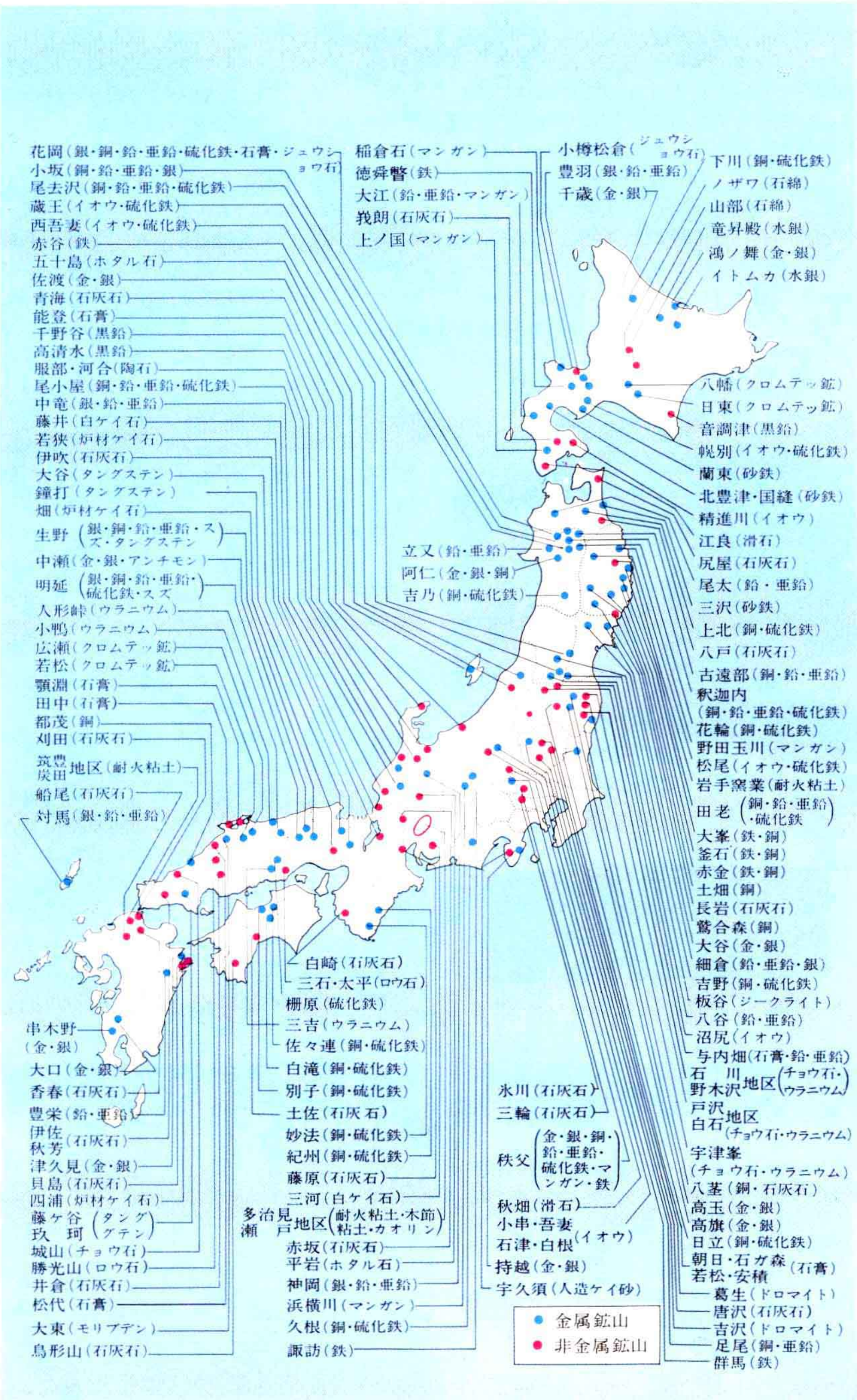
鉱　山







(上)ビンガム鉱山。世界最大の銅鉱山で露天掘りが行なわれている。アメリカ，ユタ州
(下左)松峰黒鉱鉱床(秋田県，同和鉱業)の坑外全景。ここで銅・亜鉛・鉛などの選鉱・精鉱が行なわれ，精錬所へ送鉱される
(下右)リュウカテッ鉱のワゴンドリルによる穴あけ。このあと穴に爆薬を詰めて発破をかける(同和鉱業柵原鉱業所)



鉱　山　分布図

の後文明の発達につれて，金・銀・青銅・鉄などの原料となる金属鉱床が鉱山として開発されるようになった。長い歴史の間には，鉱山はそれぞれ盛衰をくり返し，ある場合には鉱山をめぐる争いもしばしば行なわれた。今日の大工業国の多くは活発な鉱業にささえられており，あらゆる金属やその他の工業原料，あるいは石炭・石油・放射能鉱物などのエネルギー原料を自国や海外の鉱山から受けている。

〔わが国の鉱山〕 わが国は，国土の狭少なわりには豊かな鉱産物に恵まれているといってよく，かつては世界の産銅国の一つであったこともあるほどであった。今日では大部分の鉱産物を海外に仰いではいるが，いまなお数多くの鉱山が活発に生産を続けている。鉱山はその鉱床を採掘してしまえば寿命を終えるのが普通であるが，新しい鉱床の発見や技術の進歩で再び繁栄を取りもどすことも多く，佐渡(新潟県，金・銀)・別子(愛媛県，銅)のように数百年も続いて活動している鉱山や，花岡(秋田県，銅・鉛・亜鉛)のように，ごく最近に開発された鉱山もある。鴻ノ舞(こうのまい)(北海道，金・銀)，尾去沢(秋田県，銅・鉛・亜鉛)，細倉(宮城県，鉛・亜鉛)・日立(茨城県，銅)，釜石(かまいし)(岩手県，銅・鉄)，足尾(栃木県，銅・亜鉛)，神岡(岐阜県，鉛・亜鉛)，生野・明延(兵庫県，銅・スズ)，柵原(やなはら)(岡山県，硫化鉱)などが，わが国の代表的な鉱山といってよいであろう。石炭や石灰石もわが国の重要な鉱産物であるし，石油や天然ガスも採取されている。

〔山口梅太郎〕

こうさんかざい 【抗酸化剤】 油脂などの自動酸化を防止する性質をもつ物質。酸化防止剤，防酸化剤ともいう。食用油・薬用油，その他油脂製品に微量添加して，その酸敗を防ぐのに用いられる。なお，抗酸化剤として，ポリフェノール・芳香族アミノなどがあるが，毒性の点から食用油にはフェノール系のものが用いられ，日本では法的にグヤク脂・沿食子酸プロピルエステル・沿食子酸イソアミルエステルなど数種しか許可されていない。〔岡部平八郎〕

こうざんきこう 【高山気候】 高い山地の気候をいう。高山は高さと地表形態の複雑さから特殊な気候型を示す。山地の気温は一般に高度100 mについて0.4～0.7℃の割合で低減し，降雨も著しく多い。また天気の攪乱(かくらん)現象による影響が強く現われるため，天気が変わりやすい。しかし，熱帯地方の高山では，平地に比べて居住に

モデル大気における気圧・気温・密度の高度分布

高度(km)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
気圧(mb)	1013.25	898.71	794.9	700.99	616.29	540.07	471.65	410.46	355.82	307.24	264.19
気温(℃)	15.0	8.5	2.0	−4.5	−11.0	−17.5	−24.0	−30.5	−37.0	−43.5	−50.0
密度(kg/m³)	1.2255	1.1120	1.0068	0.9094	0.8193	0.7363	0.6598	0.5896	0.5252	0.4664	0.4127

適し，都市や農耕地が発達して人口密度も高い。

こうざんきしょう【高山気象】高い山では低地とは異なる気象状態を呈するので，それを高山気象とよんでいる。高山気象の特徴は，気圧・気温・密度が低地に比べて低いことである。低地の生活に慣れている人が，高い山に登って高山病*にかかるのは，主として低い気圧，低い密度が原因である。さらに高山気象のもう一つの特徴は，低地では考えられないほど，気象の変動が激しいということである。これは，気圧・気温・密度が低いことと，地形ならびに地表面の影響が加わって起こるもので，登山家にとって特に重要である。表はモデル大気における気温・気圧・密度の高度分布である。〔曲田光夫〕

こうざんこく【黄山谷】⇨黄庭堅

こうさんじ【耕三寺】広島県豊田(とよた)郡瀬戸田町に属する生口(いくち)島にあり，この土地の出身者金本耕三によって，1936年(昭和11)から1945年にかけて建てられた寺。堂宇は，法隆寺の中門・夢殿，奈良新薬師寺の本堂，大阪四天王寺の金堂，京都日野法界寺の阿弥陀(あみだ)堂，平等院鳳凰(ほうおう)堂，石山寺の多宝塔など，すべてわが国の古建築を模し，〈今日光〉の名がある。寺宝に三重県神宮寺旧蔵の釈迦如来(しゃかにょらい)，興福寺旧蔵の持国天像，快慶作の阿弥陀如来像があり，ほかに中国・朝鮮・日本の古美術品および明治から現代に及ぶ絵画・彫刻・工芸品の収蔵がある。〔永井信一〕

こうざんじ【高山寺】京都市右京区梅ケ畑栂尾(とがのお)町にある真言宗御室(おむろ)派の別格本山。寺伝によると，奈良時代末の774年(宝亀5)に開創して神願寺都賀尾(とがのお)坊と称したが，814年(弘仁5)栂尾十無尽院と改めた。その後平安期末に高雄神護寺の別所となり，鎌倉初期に明恵上人(しょうにん)によって復興，寺運はさらに栄えたが，応仁(おうにん)の乱のあとは主要な堂塔を焼失，1224年(元仁1)賀茂(かも)の別所より移建した石水院のみが災禍を免れて今日に至っている。石水院(国宝)は，もと後鳥羽(ことば)院の御学問所であった寝殿造りの住宅ふうの建築で，上人在世中住房として用いられ，その一隅(いちぐう)を禅堂となして春日(かすが)・住吉(すみよし)両明神を祭った。寺宝には奈良時代の薬師如来坐像をはじめ，平安期の《仏眼仏母画像》《鳥獣戯画》，鎌倉期の《明恵上人画像》《華厳縁起絵巻*》など国宝や重要文化財に指定されている優品が多い。また，秋はもみじの名所として名高い。〔永井信一〕

こうざんしょくぶつ【高山植物】森林限界*より上の高山帯に生育する植物。生育の不可能な冬期が長く，生育期間は2～3か月ないしそれ以下に限られ，夏の生育期にも気象条件は急激に変化する。また，日中は強い光を受け，夜間は低温となり，氷結する場合もある。このような環境下の植物は，背が低く，節間の短い，地表にはうような形をもつものが多い。多くは多年生の植物で，葉は小さくて厚く，茎や葉に比べて根の発達が著しい。これらは耐寒性・耐乾性の強い植物種の外見に見られる特徴である。また，低温下での生育や生長と関連する栄養塩吸収・光合成・呼吸などの生理的な面にも特有のものがある。高山草原(お花畑*)を形成し，夏，一時に芽を吹き開花する。このような植物群系を高山植物群系という。赤道下アフリカのキリマンジャロ山では標高3,200m以上，わが国中部で2,500m以上，北海道で1,000m以上に見られ，高緯度になるとともに分布は低地にまで及ぶ。それぞれ地域的に離れて生育し，その地域の特有種が見られるが，わが国の高山帯と高緯度のツンドラなどの平地に共通して見られるものもある。高山植物には，ガンコウラン・イワウメ・チョウノスケソウ・シコタンソウ・ハクサンフウロ・イワカガミ・イワイチョウ・ミヤマウスユキソウ・ツガザクラ・ウルップソウ・タカネタンポポ・クロユリ・コマクサなどが含まれる。➔次ページ(写)〔船越真樹〕



高 山 寺　石水院(五所堂)

こうさんせいきん【抗酸性菌】細菌をアニリン系色素のある種のもので染色したのち，酸で脱色しても脱色されないものをいう。ヒト型・ウシ型・トリ型・ネズミ型の結核菌やヘビ・キンギョなど冷血動物の寄生ミコバクテリウム，および癩菌(らいきん)・鼠癩(ねずみらい)菌・恥垢(ちこう)菌などミコバクテリウム属の細菌が含まれる。このうちヒトに病原性のない菌を非病原性結核菌とよび，ヒトの肺に結核菌と似た病変を起こして生物学的性状において結核菌と区別される菌を非定型抗酸菌とよぶ。〔和気　朗〕

こうさんせいせんしょく【抗酸性染色】抗酸菌*を鑑別するための細菌染色法。多くの方法が考案されているが，ふつう用いられるのは螢光(けいこう)法とチール-ネルゼン法である。前者は，ロダミンとオーラミンもしくはオーラミンのみを用いて染色し，螢光顕微鏡で観察するものであるが，低倍率で鏡検でき，検出率が高い。後者は，5％石炭酸水にフクシンをとかした液で染色したのち，95％エチルアルコールに1～5％の塩酸もしくは硝酸を加えた脱色剤を用いて脱色するもので，抗酸菌はふつう脱色されないので判別できる。

こうざんぞく【高山族】⇨高砂(たかさご)族

こうざんたい【高山帯】森林限界*より上部で，恒雪帯下限の雪線までの地帯をいい，植物景観およびその分布にも基づいて決められる。この地帯は，低温・低圧・多雨・多雪・強風で，気候条件は生物にとってきわめてきびしい。高山帯特有の動植物が生育するが，一般に種類数は多くない。日本中部山岳では2,500m以上であり，各種の高山植物およびカモシカ・ライチョウ・タカネヒカゲ・クモマツマキチョウなどの高山動物が知られている。

こうざんちょう【高山蝶】森林限界*以上の高地にすむチョウ。日本では本州の高地にタカネキマダラセセリ・ミヤマシロチョウ・ミヤマモンキチョウ・クモマツマキチョウ・ヤリガタケシジミ・オオイチモンジ・コヒオドシ・タカネヒカゲ・ベニヒカゲ・クモマベニヒカゲがいる。北海道ではウスバキチョウ・カラフトルリシジミ・アサヒヒョウモン・クモマベニヒカゲ・ダイセツタカネヒカゲなどを高山チョウとよんでいる。

こうざんびょう【高山病】通常10,000～20,000フィート(約3,000～約6,000m)以上の高い山に登ったとき起こるからだの変調をいう。気圧*の低下と酸素の欠乏および過労が原因となって，全身倦怠感(けんたいかん)・頭重感・気力喪失・思考力減退・食思不振・悪心(おしん)(吐きけ)，めまい，手足の震えなどの症状を起こす。高山病は，個人差が大きく，また訓練によるなれによってある程度防止することができる。治療は酸素吸入*が最もよく，安静を保ち過労を避けながらゆっくり下山させるのがよい。〔佐野隆志〕

こうざんほあん【鉱山保安】鉱山で働く人々の安全を守り，鉱物資源を保全すること。鉱山の作業は多くの場合地下作業であるため，特別な危険が多い。また，鉱物資源は本来，国民共通の財産であって，一個人・一会社のものではないので，人為的な原因によって採掘不能になることを避けねばならない。そのために鉱山保安法という特別な法律が制定されている。また，いろいろな災害を防ぐために鉱山保安規則という詳細な規則を守ることが義務づけられている。鉱山で起こる災害のうち重要なものは，落盤・出水・坑内火災・自然発火・ガス爆発・炭塵(たんじん)爆発，および運搬や発破に伴う事故などである。これらの災害

➔410ページ

高 山 植 物



シナノキンバイ・コバイケイ　　白馬小蓮華山



ハクサンチドリ



イワオウギ



キヌガサソウ



オヤマノエンドウ



ミヤマクワガタ



チシマギキョウ



シモツケソウ



キバナノコマノツメ



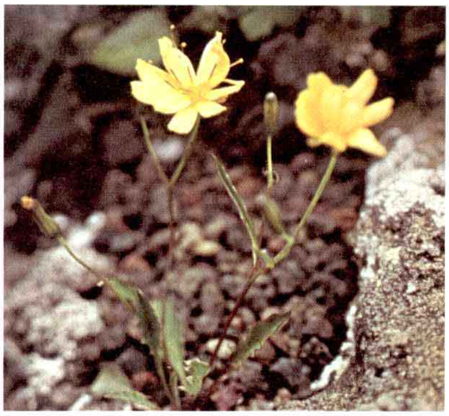
エゾノツガザクラ



イワベンケイ



シロウマアサツキ



タカネニガナ



タカネバラ



ネムロシオガマ



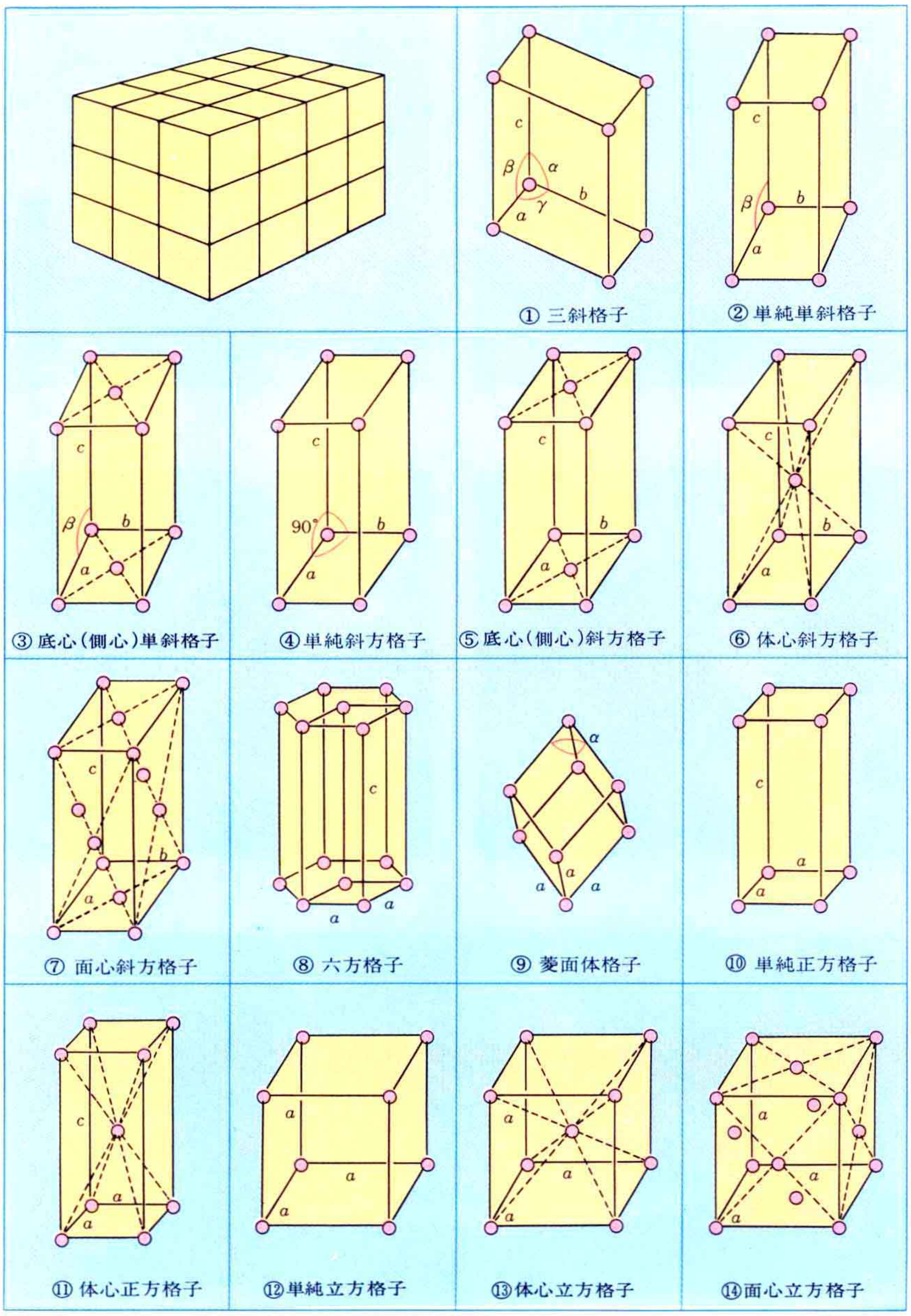
タカネツメクサ



キバナシャクナゲと旭岳



ヒメシャジン



格　子

や事故の防止ももちろん重要であるが，そのほかに人間の健康を害することがないように，通気を改善して空気中の有害ガスを除去し，散水その他によって粉塵の発生を防ぐこと，さらには鉱害の防止も鉱山保安の重要な側面である。　〔西松裕一〕

こうざんほあんほう　【鉱山保安法】 鉱山労働者に対する危害を防止するため，労働基準法の安全衛生の特則を定めた法律。1949年(昭和24)施行。総則(1章)ほか保安(2章)・監督(3章)・罰則(4章)からなる。保安について，鉱山保安上最も重要な事項を列記して〈そのため必要な措置〉を講ずることを鉱業権者の義務としている(4条)。三井三池の大爆発など大型労働災害が次々と生じたため，鉱業所長の責任の強化，労働者自身による監視の必要性から，1964年改正され，労働組合ないし労働者が推薦する保安監督員補佐制度がつくられた(15条2・4項)。　〔木元錦哉〕

こうし　【交子】 中国，宋(そう)代，四川(しせん)で使用された紙幣。世界最古の紙幣として有名。四川では元来鉄銭が使用されていたが，重くて取引に不便なため，富商が組合をつくって手形を発行し，これを交子と名づけて流通させたことに始まる。のち政府が兌換(だかん)準備金を用意して手形を発行してからは純然たる紙幣となった。

こうし　【格子】

1 結晶格子。結晶は，理想的には原子を上下・左右・前後の三方向に規則正しく積み上げたもの，または原子を使ってつくった三次元の連続模様とみなされる。この連続模様のくり返しの単位は，一般に平行六面体で，これを単位細胞とよぶ。各単位細胞をそれぞれ一つの点で代表させると，この代表点の集まりは三次元的に規則正しく並んでいる。この代表点(格子点)の集まりを空間格子とよぶ。単位細胞の三つの稜(りょう)と各稜の間の角($a, b, c; \alpha, \beta, \gamma$)を格子定数とよぶ。空間格子は，対称性の見地から14種(図の①〜⑭)に分類され，その名称は次のとおりである。三斜格子($a, b, c; \alpha, \beta, \gamma$)，単純および側心の単斜格子($a, b, c$; 90°, β, 90°)，単純・側心・体心および面心の斜方格子(a, b, c; 90°, 90°, 90°)，六方格子(a, a, c; 90°, 90°, 120°)，菱面体(りょうめんたい)格子($a, a, a; \alpha, \alpha, \alpha$)，単純および体心の正方格子($a, a, c$; 90°, 90°, 90°)，単純・体心および面心の立方格子(a, a, a; 90°, 90°, 90°)。単純・側心・体心，および面心の格子は単位細胞内にそれぞれ1，2，2，および4個の格子点を含む。実際には，結晶中に各種の格子欠陥がある。また，結晶の各原子はその平衡位置のまわりで振動しており，この振動の振幅は高温になるほど大きくなる。これを格子振動とよぶ。結晶内の各原子の振動は互いにまったく独立ではなく，結晶を伝わる各種の型の，いろいろの波長の振動の波を重ね合わせたものとみなされる。　〔飼沼芳郎〕

2 →グリッド

こうし　【公使】 正確には特命全権公使という。第2階級の外交使節(→外交官)。本国政府を代表して外国に駐在し，国際交渉や在留自国民の保護などにあたる。着任の際は本国政府の信任状を相手国の元首に奉呈し，その同意(アグレマン)を得なければならない。従来は，大使・公使・弁理公使・代理公使の4階級が認められていたが，1961年の〈外交関係に関するウィーン条約〉において弁理公使を廃止して3階級とした。ただし，これらは，儀礼的な席次・呼称が異なるだけで，その職務や待遇について差異はない。最近では代理公使はほとんど用いられない。外交使節が病気や不在の間に設けられる臨時代理公使は，信任状による正規の外交使節でない。　〔広部和也〕

こうし　【光子】 光波あるいは電磁波の量子で，そのスピンは$h/2\pi$(hはプランク定数)を単位として1。フォトンまたは光量子ともいう。質量や荷電はもたないが，波長λおよび振動数νの光子は，真空中の光速度をcとして，$h\nu$のエネルギーをもち，その進行方向に$h\nu/c=h/\lambda$の運動量をもつ。真空中では安定であるが，高エネルギー(100万eV$=1.6\times10^{-6}$エルグ以上)で原子核の近くを通るときには，1対の電子と陽電子に変わることができる。すべての荷電粒子と等しい強さで互いに作用しあい，この強さ

は荷電粒子と光子の結合定数とよばれる量$e^2/2\pi hc$（＝1/137）ではかられる。eは電子の電荷，cは光の速度。➔素粒子 ➔量子力学 ➔量子電気力学

こうし【絞死】 頸部(けいぶ)に索条またはそれに類するものをかけ，自己の体重以外の力が直接加わって首が絞められ，死に至ったもの。その力が他人の力であれば他殺(この場合に絞殺とよばれる)，自己の力ならば自殺，またそれ以外の機転で起こる場合は過失死となる。この際頸部の圧迫によって，頸部気管・血管・神経の障害が関連してその死因を形成するが，絞死は縊死*(いし)と異なり，頸部に作用する力が不平均で，かつ弱いために，死への経過は縊死の場合よりも長びく。機序としては次のようなものがあげられる。①気管の圧迫：喉頭(こうとう)は後方に圧迫されるが完全に閉鎖することはまれであり，窒息の経過が長びく。②頸部静脈の圧迫：総頸静脈は完全に閉塞(へいそく)するが，動脈は狭くなっても完全閉鎖することは少なく，椎骨(ついこつ)動脈は閉塞されないことが多い。したがって頭部には多少血液が供給されるが，心臓への還流が阻止され，顔面・頭部の鬱血浮腫(うっけつふしゅ)が強く，溢血点も高度に出現する。③上喉頭神経の刺激，頸動脈洞(けいどうみゃくどう)の圧迫など。〔朝倉　了〕

こうし【孔子】（BC551～BC479）中国古代の思想家，儒教の教祖。名は丘，字(あざな)は仲尼(ちゅうじ)。〈子〉は先生の意。宋(そう)国からの亡命貴族の子孫として魯(ろ)国の昌平郷(しょうへいきょう)（山東省曲阜(きょくふ)）に生まれたという。貧窮の中から下級官吏となり，やがて魯の定公に登用され司寇(しこう)（大臣の位）となった。彼は周公(魯の国祖で，周王朝の体制確立者)を慕い，周公の定めた〈礼*〉，すなわち家族主義に基づく天下・国家の秩序・道徳を理想として，これを魯国に回復しようと努力したが，当時(春秋時代の末期)においてそれはすでに幻想にすぎず，魯の実力者であった3王族(三桓(さんかん))の権力を打破できず，失敗に終わった。50歳を過ぎた孔子は，その理想を他国の王公によって天下に実現しようと遊説の旅に出たが，敬遠され，迫害さえされた。しかしその間，彼の学徳を慕い集まる学徒の教育に従事し，古代からの伝承を整理して《詩経》《尚書(しょうしょ)》(《書経》)などとして経典化し，これらを実現する人物の養成に努めた。こうして中国最初の民間学団が形成され，学派ができた。その学徒はすべて3,000人，すぐれた者72人と称されたが，中でも四科十哲といって，〈徳行〉の顔淵(がんえん)・閔子騫(びんしけん)・冉伯牛(ぜんはくぎゅう)・仲弓，〈言語〉の宰我・子貢，〈政事〉の冉有・子路，〈文学〉の子游(しゆう)・子夏が伝えられている。また曾参(そうしん)（曾子）・有若も有名である。

孔子の教えは規範としての礼と心術としての仁*を中心とするもので，それは《論語*》に伝えられているという。そしてこれは，弟子(でし)たちからさらに孟子(もうし)・荀子(じゅんし)らによって発展させられて儒教とよばれるに至った。儒教は漢代以後，中国王朝国家の正統教学に指定されて中国の政治・道徳・学術を2,000年間にわたって支配した。孔子はのちに(大成至聖)文宣王の名を贈られ，生地の曲阜をはじめとして各地に孔子廟(こうしびょう)が建てられて，天子・地方長官による祭り(釈奠(せきてん))が行なわれた。徳川幕府によって建てられた江戸湯島の聖堂はわが国における孔子廟の一つである。孔子の教えは中国だけでなく，その周辺の朝鮮・日本・安南でも国家的な支配的教学となった。こうして孔子は早くから聖人とよばれ，のちには世界の四聖のひとりに数えられるに至った。➔儒教〔西　順蔵〕



孔　子　明滅亡に際し長崎に亡命した儒者朱舜水がもたらした銅像。大正年間に宮中に献上されたが，関東大震災で湯島聖堂の孔子像が焼失し，1935年復興したとき下賜された。斯文会蔵

こうじ【麴】 米・大麦・ダイズなどにコウジカビを繁殖させたもの。中国・朝鮮から伝来したもので歴史は古く，すでに延喜式(えんぎしき)に出ているが，そのときには〈糵〉と書かれており，〈かびたち〉の転音したものという。繁殖するコウジカビの分泌する酵素を利用するためつくられるが，用途によって，米こうじ(清酒・甘酒用)・しょうゆこうじ・みそこうじ・泡盛(あわもり)こうじなどに分けられる。またコウジカビの種類によって，黄こうじ・黒こうじ・紅こうじなどの別がある。目的やコウジカビの種類によって主原料は異なり，たとえば清酒・甘酒・みそなどのこうじには米，しょうゆの場合にはダイズあるいはダイズと小麦，溜(たまり)・豆みそではダイズ，麦みそでは大麦の原料とする。またアルコールの製造や酵素剤の製造の際にもこうじが用いられるが，この際には麩(ふすま)やぬかを原料とする。

こうじの生産する酵素の中で利用されるおもなものは，デンプンを分解するアミラーゼとタンパク質を分解するプロテアーゼなどである。〔佐藤友太郎〕

ごうし【合祀】 単数または複数の祭神を，ある神社へ合わせ祭ること。その際に行なう祭りを合祀祭という。特に明治末年から第2次世界大戦終結にかけて，ゆいしょ不明，または維持困難な小社を廃止して，その祭神を他社に合祀することが，神社整理と称して全国にわたり盛んに行なわれた。その場合に，合祀先の神社との関係から，本殿合祀・境内合祀などの形態がみられる。

ごうし【郷士】 江戸時代，農村に居住していた武士。幕藩体制は兵農分離*を原則とし，武士を城下に集めて居住させたが，なお郷士を藩制上存置していた藩もあった。郷士は総称で，地士・郷侍その他の名でよばれ，その性格や形態も地域により多様であった。原初的な郷士としては，本来の土着武士や前領主の遺臣たちを在郷させ，軍事的役割を負わせた場合があげられ，藩は彼らを通じて領内の郷村を掌握しようとした。一般に，郷士制度は兵農分離の徹底しなかった後進地域に多くみられるが，特に薩摩(さつま)藩のように九州征伐*で領地の削減を受けたため，大部分の藩士を在郷させ，独特の郷士制度を設けて藩の封建支配を強化した例もある。また，藩政の方針に従い，新田開発*に功労があった農民で苗字(みょうじ)帯刀*を許された者，城下武士で帰農した者も郷士となった。郷士の身分は一般に低かったが，富力をたくわえた者が多く，幕末には郷士層から多数の尊王攘夷派(じょういは)の志士を出した。〔高崎徳次〕

こうしえん【甲子園】 兵庫県西宮(にしのみや)市鳴尾地区南西部，大阪湾に臨む地区。高校野球の主競技場である甲子園球場*の所在地として知られる。1922年(大正11)以来，阪神(はんしん)電鉄が各種競技場や遊園地を設置した。また，海岸よりの浜甲子園には武庫川の改修工事によって廃された分流のあとに高級住宅街が発達し，第2次世界大戦後は甲子園団地がつくられた。阪神電鉄が通じ，国道2号線をはじめ，多くの道路が阪神間を連絡していて，交通は至便である。〔浅井得一〕

こうしえんきゅうじょう【甲子園球場】 兵庫県西宮(にしのみや)市のレクリエーション地区甲子園*にある野球場。正しくは阪神(はんしん)甲子園球場という。1924年(大正13)に阪神電鉄によって開設され，この年が甲子(きのえね)にあたるのでこの名がつけられた。ホームベースから両翼までの距離91m，センターまで118m。収容人員61,000人。照明塔6基。春・夏の高校野球選手権大会の主競技場で，高校野球のメッカとされている。プ

ロ野球阪神タイガースの本拠地球場でもある。〔鈴木美嶺〕

ごうしがいしゃ【合資会社】 責任の無限な無限責任社員と，出資額を限度とする有限責任社員とによって構成される営利法人(→法人)。合名会社の中に有限責任社員を加えた形である。社員間の人的結合の色彩が強く，組合としての性格をもつ。有限責任社員の出資は財産出資に限られ，その責任は出資額を限度とする(商法157条)。有限責任社員は，会社業務を執行したり，会社を代表する権利はないが(商法156条)，営業年度の終わりに，会社の業務および財産の状況を検査するなど監視権はある(商法153条)。有限責任社員の持ち分の譲渡には，無限責任社員全員の同意が必要であるが，他の有限責任社員の同意は必要でない(商法154条)。無限責任社員が存在していることから，商法は，合名会社に関する多くの規定を合資会社にも準用している。〔松本治雄〕

こうしかくめい【甲子革命】 古代中国人の王朝交替説。易姓革命の一。漢代から流行した讖緯説(しんいせつ)によってつくられたもので，甲子の年に革令・革政あるいは革命が行なわれるとの説。辛酉(しんゆう)革命説もある。

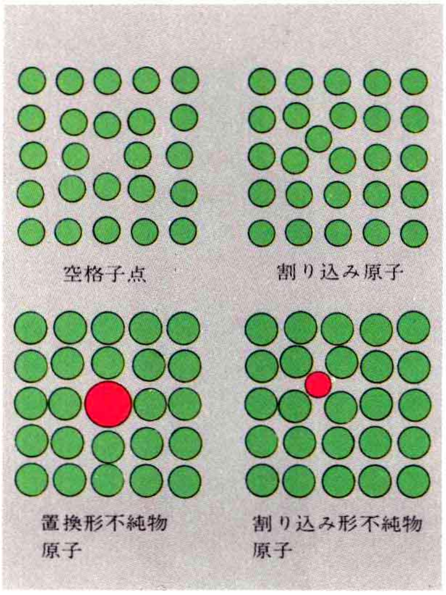
こうじかび【麹黴】 かびの一群で，日本酒・甘酒・しょうゆ・みそなどの醸造，アミラーゼやクエン酸の生成などに利用する工業上重要な種類を多く含む。コウジカビの分布はきわめて広く，分生胞子が飛散し，適当な場所に付着発芽して匍匐(ほふく)菌糸を生ずる。この菌糸から分生子柄が直立する。分生子柄は頂端が頭状となり，その上に分生子梗(こう)ができ，先に分生子が連鎖状にできる。胞子の色は白色・緑色・かっ色・黒色などさまざまである。無性生殖のみ知られているものは不完全菌類，有性生殖(子嚢(しのう)胞子)が発見されているものは子嚢菌類に属する。そのうちのニホンコウジカビのみをコウジカビという場合もある。〔曾根田正己〕

こうしかん【公使館】 公使が駐在国にあってその職務を遂行する事務所。公使館は不可侵であり，接受国の官憲が立ち入る場合には公使の同意が必要である。また，館邸内部の財産は特別の保護を受ける。ただし館邸において犯罪人を庇護(ひご)することと(→庇護権)は許されない。

こうしき【公式】 数量関係や計算の方法を，一般に文字を用いて表わした式。必要に応じて数値や式をそれにあてはめて手軽に計算ができるようにしたもの。たとえば，複利計算による元利合計は，元金と利率と期間から，

$$元利合計＝元金×(1＋利率)^{期間}$$

を用いて求められ，ある数の平方の差は，$a^2-b^2=(a+b)(a-b)$によって求めることができる。



格子欠陥

こうしきしゅぎ【公式主義】 特定の立場ないしは教条に固執するあまり，情勢の推移や諸条件の違いを無視し，それらを考慮できない柔軟性を欠いた考え方ないしは思想をいう。創造的思想と対比される。マルクス主義に関して用いられる場合が多く，マルクス主義を固定的に解釈して社会の発展の中でとらえなおすことをせず，つねに一定の公式からしか社会を解釈することができないような場合をさす。しかし，公式主義という非難のもとにマルクス主義の本質をゆがめるような主張がなされることもある。〔西尾孝司〕

こうじく【光軸】 ⇨レンズ

こうしけっかん【格子欠陥】 結晶格子の乱れ。現実の結晶内の原子は完全に規則的に配列しているわけではなく，格子構造の乱れ，すなわち格子欠陥が存在する。格子欠陥には，空格子点・割り込み原子・不純物原子など一点のまわりに集中している欠陥，刃状転位・らせん転位のような線状の欠陥，結晶粒の境界や結晶表面のような面状の欠陥がある。格子振動を結晶の全体積に広がった欠陥とみなすこともできる。固体の物理的性質のうちかなり多くのものは格子欠陥に起因する。金属の強度，金属や半導体の電気伝導，強磁性体の磁気的性質，イオン結晶の着色現象などは格子欠陥の多少により著しく影響を受ける。また，蒸気相からの結晶の急速な成長もらせん転位の存在によるものである。〔飼沼芳郎〕

こうじさいこく【公示催告】 手形などの有価証券を紛失した場合，最終所持人の申し立てにより簡易裁判所がこの失効を宣告し，失った者に資格を回復させる手続きを公示催告手続きといい，その裁判所の公告をもってする催告を公示催告という。裁判所は除権判決の重要な事項を官報または公報に掲載して公告するように定められている(民事訴訟法773条)。

こうししょう【黄視症】 色視症の一。黄視症は，本来正常色にあるべき外界を黄色として自覚するのでこの名がある。ときには疲労後にもみられることがあるが，顕著な例では，駆虫剤のサントニンによる中毒がある。服用当初は紫色に，やがて外界を一様に黄色として知覚するようになる。原因はまだ究明されてはいないが，疲労からくる刺激物質やサントニンが紫色をつかさどる網膜の機能を一時的に亢進(こうしん)させ，のちに麻痺(まひ)に導くからであろうと考えられている。〔納富教雄〕

こうししんどう【格子振動】 ⇨格子

こうしたい【黄氏体】 黄氏の画体。徐氏体に対していい，中国花鳥画の画体を二分する。五代蜀(しょく)の画家黄筌(こうせん)によって創始され，おもに画院の伝統となった。明瞭(めいりょう)な輪郭線と濃彩を特徴とする装飾的な写生画体の，いわゆる鉤勒塡彩(こうろくてんさい)の画法であり，富貴(ふき)の体といわれた。これに対して徐氏体は野逸と評された。

こうしつ【膠質】 ⇨コロイド

こうしつ【皇室】 天皇および皇族の総称。皇族とは，皇后・太皇太后・皇太后・親王・親王妃・内親王・王・王妃および女王をいう。明治憲法が天皇制絶対主義の法的確立として制定されると，皇室に関する法律も，議会や臣民の干渉をまったく許さないものとして，1889年(明治22)皇室典範によって再編成された。ここにおいては古来認められた女帝は姿を消し，明治絶対主義のイデオロギー的な支柱である家族制度の考え方によって，天皇は皇族に対し家長権を認められ，日本は皇室を中心とする一大家族国家であるとする虚構が宣伝教育された。第2次世界大戦後，皇室は再編成され，日本国憲法において〈天皇は日本国の象徴であり日本国民統合の象徴〉と規定された。皇室典範は法律の一種にすぎないものとなり，皇室は議会と国民の統制下に置かれ，若干の例外を除いては国民と平等の取り扱いを受けるようになった。今日においては皇族も法律・命令の適用を国民と同様に受けるが，皇室典範・皇室経済法などにおいて，一般国民と異なる制約を受ける。これは憲法14条の〈法の下の平等〉の原則に対する例外となるから，市民社会のもとにおける大衆天皇制下の皇室は，他の関係においてはできうるかぎり市民と平等の取り扱いを受けることが，その政治的利用を避けるためにも望ましいとされている。

〈身分の取得と離脱〉 皇族の身分の取得原因は出生による先天的原因のほかに，現在の美智子(みちこ)皇太子妃の場合のように，一般の女子が皇族妃となる後天的原因による場合もある。また，皇族が身分を離れて一般国民となることは明治憲法下の皇室典範の

場合よりも現在さらに広められ，1947年(昭和22)には大正天皇の直宮(じきみや)である秩父(ちちぶ)・高松・三笠(みかさ)以外の宮家はすでに皇族の身分を離れて一般国民とまったく同様の地位に置かれた。皇族が身分を離れる場合として，現行皇室典範は次の場合を認めている。①本人の自由意思による場合，②皇室会議の議による場合，③婚姻による場合，④夫または尊族の身分の離脱を伴う場合，⑤離婚による場合。

《皇室の権利義務》 資格や権利には次のものがある。①皇位継承の資格(皇室典範1条・2条)。②摂政となる資格。③陛下・殿下などの敬称を受ける権利(皇室典範23条)。④費用の国庫支弁を受ける権利。今日，天皇に対して，国庫は国民最高の高額所得者なみ(税引きを税込みに換算)の内廷費(いわばサラリー)を支払い，そのほかに宮廷費・皇宮警察費など数十億円を支出している。皇族に対しても皇室経済法によって，年金や一時金が支払われている。年金の定額は皇室経済法施行法で定めるが，1964年には500万円を超過し，1965年に620万円と年々増加している。⑤摂政在任中の皇族は刑事事件について訴追されない。一方，義務のおもなものには次の事項がある。①皇族男子の婚姻は皇室会議の議を経ることを要する。また皇族は養子をすることができない。②財産上の特別の制限に服する義務。財産の授受については憲法8条によって国会の議決を必要とするとされており，皇室の経済については国民の監視・統制を受けることが示されている。〔針生誠吉〕

こうしつえんかビニルじゅし【硬質塩化ビニル樹脂】 ⇨塩化ビニル樹脂

こうしつかいぎ【皇室会議】 皇位継承の順序の変更，皇族身分の離脱，摂政の設置など，皇室に関係ある一般的事項を審議するために設けられた機関。組織および活動については皇室典範5章に規定されている。明治憲法下では，皇室の事務は国務大臣の責任の範囲外に置かれ，皇室会議は国会や一般国民の介入を許さないものとされていたが，今日においては，内閣総理大臣を議長とし，衆・参両議院の正副議長・最高裁判所長官などにより構成され，国民が皇室を統制する場となっている。〔針生誠吉〕

こうしつガラス【硬質ガラス】 軟質ガラス(ソーダ石灰ガラス)に相対するガラス。高温で軟質ガラスよりかたいところからこの名がある。アルカリの比較的少ないホウケイ酸ガラスで，低膨張係数($30 \sim 50 \times 10^{-7}$/cm℃)，化学薬品に抵抗性の高いこと，電気的特性がすぐれているなどの特徴をもち，耐熱ガラスやビーカー・フラスコなどの理化学用器，経年変化の少ない温度計ガラス，薬品を入れるアンプル，自動車のシールドビームなど広い用途をもっている。これよりさらに低い熱膨張係数と高い耐熱性をもつものに，アルミノケイ酸塩ガラスがあり，超耐熱ガラスとよばれている。➔ガラス〔境野照雄〕

こうじづけ【麹漬け】 塩づけした材料を米こうじの床につけ込んだもの。米こうじにみりん・砂糖などを加えれば風味はいっそうよくなる。甘味濃厚なつけ物であるが，長期の貯蔵にはたえない。ダイコン・カブ・ハクサイ・ナスなどの野菜や魚が用いられるが，ダイコンのべったらづけ，にしんのこうじづけ(北海道)，はたはたずし(秋田)などが代表的である。

こうしつさいし【皇室祭祀】 宮中三殿において行なわれる神道(しんとう)の形式による皇室の祭典。内廷における組織として掌典職があり，掌典長・掌典・内掌典などの職員(内廷職員)が皇室の祭祀のことをつかさどっている。恒例の祭祀は1908年(明治41)公布の皇室祭祀令(旧皇室令)によって定められており，大祭と小祭に区別されている。〈大祭〉には元始祭，春秋二季の皇霊祭と神殿祭・神武天皇祭・秋季皇霊祭・同神殿祭・神嘗(かんなめ)祭・新嘗(にいなめ)祭・先帝祭，先帝以前三代の式年祭，先后の式年祭があり，〈小祭〉には，四方拝・歳旦(さいたん)祭・祈年祭・天長祭・明治天皇例祭・賢所御神楽(みかぐら)先帝以前三代の例祭，先后の例祭がある。祭典に際しては，天皇および皇族方が御拝礼になる。なお，このほか国家または皇室の大事に際しても臨時に祭典が行なわれる。〔小林亥助〕

こうしつじき【硬質磁器】 ⇨陶磁器

こうしつてんぱん【皇室典範】 皇室事務に関する最高法規。旧皇室典範は1889年(明治22)制定され，大日本帝国憲法とともに最高の成文法であった。第2次世界大戦後旧皇室典範は廃止され，日本国憲法と同時に1947年(昭和22)施行された。5章37条。皇位継承とその順位，摂政，即位の礼，陵墓および皇室会議などについて規定している。大日本帝国憲法下では，皇室は一般国民の外にある超越的存在であり，したがって，皇室典範も大日本帝国憲法と並ぶ権威をもつものとして，帝国議会の干渉を許さず，皇室自治の原則が貫かれていた。しかし，現在の日本国憲法下における皇室典範は通常の法律の一種となり，皇室は国会と国民の統制下に置かれている。関係法令に皇統譜令・皇室経済法などがある。➔皇室〔針生誠吉〕

こうじのげんそく【公示の原則】 権利の存在や変動について，第三者がそれを認識しうるように，一定の外形を伴わなければならないとする原則。自動車を買ったり，土地を買ったり，あるいはその土地に抵当権を設定するなど，物権はひんぱんな取引の対象となるが，その場合，物権は排他性をもつ独占的な支配権であるために，第三者に不測の損害を与えたり，取引の安全を害する危険性が大きい。これを防止するために設けられたものである。民法では動産については引き渡し(民法178条)，不動産については登記(民法177条)を公示方法として採用しているが，そのほか慣習法上の明認方法も判例によって認められている。この公示方法が権利の変動にどのような意味をもつかについては次の二つの考え方がある。①成立要件主義といわれるもので，公示方法を用いることが権利関係の効力発生の要件であるとするもの。これを欠くと，当事者間でさえ権利関係はなんら生じないとする考え方である。②対抗要件主義といわれるもので，公示方法は単に第三者に対する対抗要件であって，当事者間においては意思表示のみで権利関係の効力が生ずるという考え方である。わが民法では後者の対抗要件主義を採用している(民法176～178条)。しかし，その法的取り扱いは一定しているわけではなく，たとえば動産は現実の引き渡しの方法以外に，簡易の引き渡し，占有改定，さしずによる引き渡しといわれる方法などによっても同じ効力をもつ(民法182～184条)。なお，婚姻の届け出(民法739条)，債権譲渡の通知または承諾(民法467条)，法人設立の登記(民法45条)などはいずれもこの原則の現われであり，公示の原則は物権のみにとどまらない。〔黒木三郎〕

こうしびょう【孔子廟】 ⇨孔子

こうじほうていしき【高次方程式】 整方程式 $a_0x^n+a_1x^{n-1}+\cdots\cdots+a_{n-1}x+a_n=0$ ($a_0\neq0$)においては，$n=1, 2, 3, \cdots$ に従って，それぞれ，一次方程式・二次方程式・三次方程式……とよばれるが，このうち三次以上の方程式を総称して高次方程式という。四次方程式までは加減乗除および冪根(べきこん)をとることによって解ける。このことを代数的に解けるという。五次以上の方程式は，一般には代数的に解けないことがガロアによって19世紀の初めに証明された。しかし，n次方程式は重根をその重複度だけ重複して数えれば，ちょうどn個の根をもつことが知られている。これを代数学の基本定理という。〔菊池兵一〕

こうじま【幸島】 〈こしま〉ともいう。宮崎県南東部，串間(くしま)市の市木地区石波海岸から約300m沖にある周囲およそ4kmの無人島で，最高点は113m。約300種の亜熱帯植物が茂り，全島が天然記念物に指定されている。ニホンザルの生息地としても知られ，1949年(昭和24)から京都大学動物学教室が，地元民の応援を得てサルの生態の研究を始め，1952年に餌(え)づけに成功した。約60匹のサルが6の家系に分かれ，サルの中には，えさのイモを海水で洗って食べたり，砂泥じりの麦を海水の中でより分けたりするなど，興味ある観察が報告されている。〔浅井得一〕

こうじまち【麹町】 東京都千代田区の西部一帯をいう。皇居を含み，もとは独立した区であったが，1947年(昭和22)に神田区と合併して千代田区をつくった。武蔵野

(むさしの)台地の末端，麴町台上に位置し，台地の北東端の九段坂によって神田地区と接する。平安時代末期までは隅田(すみだ)川以東は一面の海で，当時の麴町台は海上に突出した岬(みさき)の形状をなしていたと推定される。皇居を中心として，永田(ながた)町・霞が関(かすみがせき)などに国会議事堂や諸官庁などが集まり，丸ノ内や大手町には日本の代表的な商社や銀行がビジネス街を形成して，日本の政治・経済の中心的位置を占めている。地名の由来は，このあたりに麴屋が多かったとも，小路からきているとも，国府のあった府中への道筋という意味の国府路がなまったともいわれる。〔浅井得一〕

こうしもん【格子文】 幾何学的文様の一。縦横の直線から構成されている点から，格子縞(じま)とよんでもよい。多くの種類があるが，能装束に多く用いられるものは，縦横それぞれの線の幅の変化の妙といい，配色の趣の深さといい，いわゆる渋さのあふれた構成に，日本の文様の底に流れる美感が余すところなく盛られた好もしい文様を形成している。

こうしゃ【向斜】 ⇨褶曲(しゅうきょく)

こうしゃ【公社】 公共の目的のため，国家の出資により法律で設立された企業体。公共企業体ともいい，公企業の一形態。日本では日本電信電話公社・日本専売公社・日本国有鉄道がそれである。公企業の公共性に自立性を加え，その経済的機能の民主化，経営の能率的・合理的運営を主眼としている。第1次世界大戦後アメリカで発達した政府会社(たとえばTVAなど)やイギリスのパブリック-コーポレーションはその典型であり，公共性の強い重要な企業を公社化する傾向は，現在各国でみられる。公社は法律上独立した法人で独立採算制をとるが，実質的には行政機関の一種である。経営の重要な問題については関係主務大臣の監督を受ける。またその職員には，団体交渉権の制限，争議行為の禁止など大きな制約が加えられており，問題となっている。第2次世界大戦後アメリカの例にならって設けられたわが国の公社は歴史も浅く，財政上，会計検査院の会計検査を受けるなど独立採算制の原則が十分に確立せず，自立性は弱い。なお，同じく政府の全額出資による公法上の法人でも公団や公庫は独立採算制をとらず，公社とは区別される。なお，日本交通公社は私企業(私法上の法人)であり，公社とは関係がない。〔寺尾方孝〕

こうしゃさい【公社債】 公債と社債の総称。狭義には公債のうち公社・公団・公庫などの政府関係機関の発行する債券をさしていう。後者の意味での公社債には，鉄道債券(日本国有鉄道)・電信電話債券(日本電信電話公社)・北海道東北開発債券(北海道東北開発公庫)・公営企業債券(公営企業金融公庫)・中小企業債券(中小企業金融公庫)・住宅債券(日本住宅公団)・道路債券(日本道路公団)がある。これらの公社債の大部分と，さらに一部の政府出資の会社の社債とは政府によって元利の支払いが保証されており，政府保証債とよばれている。〔速水 保〕



高射砲 陸上自衛隊75mm高射砲M51。スカイ-スイパーともいわれる。最大射程13,500m



杭州 市郊外，西湖人民公社梅家塢の茶生産大隊による茶摘み風景。豊富な労働力を動員し，はさみを使わず手摘みで収穫している

こうしゃほう【高射砲】 航空機を撃墜するのに用いる中・小口径火砲。第1次世界大戦前，1912年にドイツ軍が75mm野砲を改造してこの用途にあてたのに始まる。火砲としての高射砲の特性は，初速が大きいこと，方向射界と射角が大であること，方向・高低の照準操作が容易であること，航空機の未来位置算定に対して修正をすみやかに照準具に伝えられること，発射間隔が短いことなどがあげられている。移動式と固定式とがあり，旧日本海軍では高角砲と称した。現在では，航空機の高速化に伴い，測的・給弾機構が自動化し，高速化されている。〔藤井冬木〕

こうしゅう【公衆】 20世紀初頭タルドによって提出された概念。ル-ボンの群集(群衆)に対する概念。新聞を媒体とする問題関心によって凝集する非組織集団で，理性的な世論のにない手として印刷・通信・交通の発達によってささえられたが，その後のマスコミュニケーションの発達と社会の巨大化・機能化・流動化は，操作される大衆を生み出した。このようにして，一種の理想像ではあった公衆は消滅した。➔大衆

こうしゅう【口臭】 口腔(こうこう)および呼気にある悪臭で，口内悪臭・口気悪臭ともいう。幼児期では，ほとんど感じられないが，成人では健康体でも多少とも存在するのが普通である。口腔疾患(種々の口内炎・咽頭炎(いんとうえん)・舌炎・扁桃炎(へんとうえん)・扁桃周囲膿瘍(のうよう)・口腔底蜂巣織炎(ほうそうしきえん)など)，歯牙(しが)疾患(虫歯・歯槽膿漏(しそうのうろう))，口腔咽頭の悪性腫瘍などの腐敗性病変に伴って生ずることが多い。しかし，いわゆる〈息が臭い〉という場合は，これらの疾患のほかに，鼻副鼻腔疾患(副鼻腔炎など)，消化器系疾患(胃炎など)，呼吸器系疾患(気管・気管支炎など)との関連が考えられる。治療法としては，原因となる病気をなおすこと，口腔内を清潔にするためにうがい・口内錠服用などを行なう。〔清水淑郎〕

こうしゅう【後周】 中国，五代最後の王朝(951～960)。郭威(太祖)・柴栄(さいえい)(世宗)・宗訓(恭帝)の3代。国都は開封。後漢の実力者郭威は軍隊の擁立を受けて帝位についた。彼を継承した養子柴栄は五代第1の名君と称され，契丹(きったん)・南唐を圧倒し，軍制改革，税制や田制の整備，廃仏などの諸政策を行ない，着々と全国統一・中央集権化をめざした。若くして死んだ柴栄の野望は部下の趙匡胤(ちょうきょういん)(宋(そう)の建国者)の手で成し遂げられた。

こうしゅう【公州】 コンチュ 朝鮮，忠清南道，錦江(きんこう)中流南岸の都市。人口22,000(1962年推)。475～538年の間百済(くだら)の都が置かれ，当時は熊津(ゆうしん)と称したが，高麗(こうらい)の太祖により現名に改められた。日韓(にっかん)併合初期には道庁も置かれたが，京釜(けいふ)線からそれたため，1932年道庁も大田(たいでん)に移され，その後は一地方都市になった。

こうしゅう【光州】 クワンチュ 朝鮮，全羅(ぜんら)南道の道庁所在地。人口49万4,000(1970年推)。栄山江の支流光州川の扇頂部に発達した古くからの集落で，三国時代から地方政治の中心地であった。広石台・燈心寺などの史跡・名所も多く，風光明媚(めいび)で〈森の都〉ともよばれる。米・麦のほか，カキ・ナシ・ブドウなどの果実の栽培も盛んである。綿花や繭の産も多く，工業用水に恵まれているので，繊維工業のほか醸造業なども行なわれる。全南大学・朝鮮大学などの教育機関もある。〔矢守一彦〕

こうしゅう【杭州】 ハンチョウ 中国，浙江(せっこう)省の省都。銭塘江(せんとうこう)の下流に近く，杭州湾頭に位置する。人口70万(1972推)。1127年金に追われた宋(そう)はここに都を置き，臨安府(りんあんふ)と称した。同省の政治・経済の中心地で，茶・米・綿花・薬材・生糸・絹織物などの集散地。銭塘江の本・支流は水路として盛んに利用され，また江南運河によって揚子江と直結。滬杭(ここう)鉄道・浙贛(せっかん)鉄道が本市で交会し，

また自動車道路が四方に延びて，交通上の位置は重要である。市の西方の西湖は観光地として知られる。〔千田　稔〕

こうしゅう【広州】コワンチョウ　中国広東(カントン)省の省都。華南最大の都市で別名羊城。人口約200万(1972年推)。秦(しん)代，始皇帝の嶺南(れいなん)征服以後，南海郡の主都番禺(ばんぐ)が置かれ(BC214)，漢の武帝時代に至って完全に漢民族の支配下にはいった。広州の名は，三国・呉の時代に始まり，唐・宋(そう)を経て元では広州路，明(みん)・清(しん)では広州府の中心であった。1935年中央直轄市広州市となり，1954年省轄市となった。古くから南海貿易の中心地となり，唐・北宋時代にはアラビア人の来航者も多く，中国第1の貿易港であったが，南宋時代には泉州に繁栄を奪われた。しかし明代末，ヨーロッパ人の来航とともに重視され，1557年にマカオを占領したポルトガルは広州貿易を独占した。次いでオランダ・イギリスが続き，1685年の粤(えつ)海関開設による広東十三行の貿易が行なわれ，1757年には広州だけが唯一の貿易港として公許された。阿片(あへん)戦争後，1842年の南京(ナンキン)条約によって商埠地(しょうふち)となり，1862年には租界もつくられたが，同時に開港した上海(シャンハイ)やイギリスに割譲された香港(ホンコン)が繁栄するとともに，その地位は奪われた。市街は西江・東江・北江の合流する珠江(しゅこう)デルタ北端の両岸にわたり，旧域・西関・南関・東関・河南・沙面の6区からなる。旧域は1921年に城壁を撤去した近代的な官庁街，西・南・東関は新市街，河南は珠江南岸に臨み，中州の沙面はもと租界地になっていた。貿易港としては上海・天津(てんしん)に次ぎ，生糸・絹織物・柑橘(かんきつ)類・工芸品を輸出し，食料品・衣料・日用品・雑貨・燃料などを輸入しており，香港との貿易がその大部分を占める。また交通の要地で，西江・北江・東江の水運によって形成された後背地は，広東・広西・貴州の3省はもとより，それらの支流を経由して江西・湖南両省にも及び，近年では広州を中心とする自動車道路の発達も著しい。鉄道は南北縦貫鉄道の京広鉄路(北京(ペキン)～広州)，広三(広州～三水)・広九(広州～九龍(きゅうりゅう))鉄路がある。従来，商業だけが著しく発達していた交易都市で，工業は絹織物・漆器・銅器・扇・象牙(ぞうげ)彫刻などの伝統工業があったにすぎなかったが，近年は紡織・製紙・ゴムなどの軽工業やセメント・金属加工・機械器具・造船などの工業も急速に発展している。また，華南最大の漁業基地でもあり，近年，整備拡充された黄浦(こうほ)港には10,000トン以上の大形船の入港が可能となり，これまで香港を経由していた貨物を広州で積み降ろすことができるようになった。

華南地方の文化の中心地で，中国科学院分院，中山・暨南(きなん)の両大学，華南工学院・師範学院などの研究機関・高等教育機関があり，博物館・体育場・中山記念堂などの諸施設も整備されている。また，黄花岡(こうかこう)七十二烈士の墓・広州公社烈士陵園・農民運動講習所など，革命運動の遺跡も少なくない。〔船越昭生〕



広　州　珠江には水上生活者蛋民の舟が多い。近年は陸に住居をもつ者も多くなってきた

こうしゅうえいせい【公衆衛生】アメリカの公衆衛生学者C.E.A.ウィンスローの定義によれば，〈公衆衛生とは，臨床医学に対応する医学の分野で，疾病(しっぺい)を予防し，健康を増進するための自然科学的・社会科学的原理をきわめる科学であり，またこれを生活共同体の組織の協力によって公衆に適用し，公衆をして肉体的・精神的・社会的に健康ならしめる方法を講ずる技術である〉としている。

集団生活・社会生活を営む人間の社会において，個人の力では防ぎきれない疾病に対する問題は古くから存在している。したがって公衆衛生の起源も古く，古代エジプトの排水・灌漑(かんがい)用の溝渠(こうきょ)の作成，ローマ時代の建築にみられる排水・方位・位置への注意は，すでに為政者が衛生問題に対する配慮をもっていたものとみられている。しかし，現在の公衆衛生のもつ近代的意味での民衆の健康が考え出されたのは18世紀の産業革命以後といわれる。産業の発達，都市人口の拡大は労働者の非衛生的な生活を生み，交通の発達とともに伝染病の流行をきたし，健康に種々の問題を起こした。これに対処するべく環境衛生の研究が起こり，さらに伝染病予防の科学的方法が打ち出された。多くの先進国においては20世紀初頭にすでにこれを解決し，現在公衆衛生の中心問題としては老人病の予防，母子保健問題，あるいはさらに進んで社会福祉問題へと発展している。

日本で公衆衛生が考えられたのは明治初年であるが，この際にはもっぱら伝染病予防にその重点がおかれ，環境衛生対策は遅れがちであった。そのため，本格的な意味での公衆衛生の確立は第2次大戦後の急激な産業の発展とともに起こったといえよう。現在なお人口問題・母子問題・老人問題，さらに進展を続ける産業による公害など，肉体的問題のみにとどまらず，複雑な社会構造の中で公衆衛生のもつ問題もさらに複雑化している。現在，公衆衛生活動の先端には保健所が存在しており，また医学教育体系の中では1946年(昭和21)に衛生学講座から独立して公衆衛生の講座が設けられた。〔金子義徳〕

こうしゅうかいどう【甲州街道】五街道の一。甲州道中ともいう。江戸を起点にして甲府(山梨県)に達する道路で，内藤新宿から石和(いさわ)まで38宿が設けられた。さらに甲府以西韮崎(にらさき)から上諏訪(かみすわ)までの6宿を加えて，下諏訪で中山道(なかせんどう)に合流するまでをさす場合もある。甲府は江戸防備の重要拠点であったので，軍事上要路としての使命をになっていた。地勢が険しいのと沿道に幕領が多かったので，参勤交代にこの街道を利用する大名は数家にすぎなかった。そのため宿駅は発達せず，数宿で1宿の宿駅業務を負担する間(あい)の宿も少なくなかった。小仏峠には関所が置かれていた。〔高崎徳次〕

こうじゅうごう【光重合】光のエネルギーでビニル化合物の重合反応を開始させ，重合体を生成させる方法。非増感光重合と増感光重合の2種がある。前者は単量体に光を照射するだけで重合を起こさせるものであり，後者は単量体に増感剤を添加しておき，それに光を照射して，増感剤の光分解で生ずるラジカルを開始種として重合反応を起こさせるものである。光源としては白熱燈などの可視光線を用いる場合もあるが，水銀燈による紫外線のほうがエネルギーが大きいのでよく使われる。増感剤にはカルボニル化合物・アゾ化合物・イオウ化合物・金属蒸気などが使われる。光重合の第1の特徴は，照射光量と開始種ラジカル濃度とが正比例することで，そのために実験室における基礎的な重合反応の研究に適した方法である。また，低温での重合が可能なことも大きな特徴で，光重合により低温で生成した塩化ビニル樹脂は特異な立体構造をもち，物性的にも興味のあるものである。→高分子　→高分子化学　→重合〔伊藤　卓〕

こうしゅうせい【光周性】1日の日照時間の長短，すなわち日中と夜との相対的な長さに対する植物の反応をいう。植物では特に開花が光周作用と関係があり，その性質によりだいたい次の3種類に分類される。①短日植物：1日の日照時間が一定の長さ以下の場合のみ開花するもので，キク・コスモス・ダイズなどがある。②長日植物：1日の日照時間がある長さ以上になったときはじめて開花する植物で，ホウレンソウ・ムクゲ・イノンドなどが含まれる。③中性植物：日照時間に関係なく開花する植物で，トマト・カタバミ・キュウリなどが含まれ



公衆電話 電話ボックス(左)日本 (右)ローマ



公衆電話のいろいろ。左からスイス・イギリス・アメリカ・カナダ

る。植物では開花以外に，栄養器官の形態や生長，落葉，色素の形成などにも光周性がみられることがある。なお，こん虫類・魚類・鳥類など各種の動物の発育や性的成熟および休眠にも日照時間の長短が影響することが知られている。〔南川隆雄〕

こうしゅうぜん【洪秀全】(1814～1864) 中国，清(しん)末の革命家。広東(カントン)省の人。客家*(はっか)の出身。科挙*に3回失敗して病臥(びょうが)中，自分を天の命ずる救世者と確信し，イエス-キリストの弟であるとした。《原道救世訓》などを著わして布教し，同志と拝上帝会を組織した。1850年末，広西省金田村に蜂起(ほうき)し，国号を太平天国，みずからを天王と称した。北進して南京(ナンキン)(天京)に都し，清朝を脅かしたが，しだいに現実から逃避して狂信に堕し，天京失陥の直前に服毒自殺した。→太平天国 〔狭間直樹〕

こうしゅうでんわ【公衆電話】 街頭その他，公衆の利用しやすい場所に設置される電話。固定的なものに普通公衆電話・委託公衆電話・局内公衆電話・農村公衆電話が，運行中の交通機関内に設置されるものとして列車公衆電話・船舶公衆電話などがある。おもなものは次のとおりである。

①普通公衆電話：青電話ともいい，電話ボックスに収容されたもの。24時間中利用できるので利用価値は高いが，ボックス用地確保が困難なことといたずらなどによる故障の比較的多いことが欠点である。赤色小形の緊急呼び出し器が併備されていて，警察・消防への非常連絡は硬貨なしでも可能。ダイヤル市外通話のできる大形青電話は，1968年(昭和43)12月から設置が開始された。

②委託公衆電話：いわゆる赤電話のこと。電話局が特定の人に通話管理を委託しており，ダイヤル式の場合の100番通話や警察・消防への連絡などにはその管理人にかぎを操作してもらう。1953年8月東京駅ホームなどに赤色電話機(形は一般電話機と同じもの)を設置したのがはじめで，現在のような硬貨投入式赤電話はその翌年東京新宿に初登場した。利用しやすく設置も容易なため，設置個数が飛躍的に伸びた。ただ，管理人の休日・閉店などのために24時間利用ができないことが問題で，これを解消するためプラスチック製無人キャビネット型の設置も行なわれている。直接ダイヤル市外通話のかけられる大形赤電話は1966年6月設置が開始された。

③列車公衆電話：運行中の列車内の乗客が一般の電話と通話するための公衆電話で，1957年10月近畿(きんき)日本鉄道の大阪～中川間特急への試用が最初である。現在，近鉄特急(通話先大阪・名古屋)と東海道新幹線(通話先東京・大阪・名古屋・横浜・京都)で利用されている。通話を伝える方法は，通話を高周波に乗せ，鉄道沿線の裸線に誘導させる誘導方式(近鉄で利用)と，列車から無線を利用して基地局に送る無線方式(国鉄で利用)の二つがある。

〔歴史〕1890年(明治23)わが国の電話交換業務が開始されたのと同時に，東京15か所の電信局内と横浜電話交換局内の計16か所に電話所が設置され，一般市民のための通話機関としたのが公衆電話のはじまりである。当時1通話は5分間で，料金は市内5銭，市外通話15銭だった。公衆電話が街頭に進出したのは1900年9月，新橋駅・上野駅の各構内に設置され，次いで同年10月京橋そばに六角錐(ろっかくすい)形ボックスに収容したものが登場し，その後逐次全国各所に普及した。はじめ公衆電話は〈自動電話〉とよばれ，〈公衆電話〉と改称されたのは1925年(大正14)10月以降である。公衆電話の本格的増設は日本電信電話公社発足後特に力が注がれ，1970年3月末の全国総個数は約40万個(人口1,000人あたり約4個)になっている。騒音の激しい空港・駅ホームなどに適した騒音用公衆電話も1969年10月から設置された。公衆電話に硬貨を投入する方法は街頭進出時から始められ，第2次世界大戦後の硬貨不足などの理由で，1948年から赤電話普及までの間用いられた信用式公衆電話(通話時に利用者が自発的に紙幣を料金箱に投入する方法のもので，料金を投入せず通話する人が激増したので廃止された)の時期を除き，今日まで続けられている。

〔硬貨投入式の原理〕硬貨投入式公衆電話機は料金を入れる時期によって前納式と後納式とに大別されるが，わが国ではすべて前納式を採用している。すなわち，電話機内に電流が逆方向に反転したときに動作する継電器を取り付け，反転電流が流れれば継電器動作によって連動するレバーが動いて硬貨を落とし込むしくみとし，市内通話の場合は通話先が応答した際反転電流が流れる方式としている。また，大形公衆電話でのダイヤル市外通話の場合は，通話先市外地により一定秒数ごとに出る電気信号を反転電流として継電器に送って動作させ，それによってあらかじめ投入された硬貨を1枚ずつ落とし込むとともに，硬貨がなくなれば次の硬貨投入を催促する音を出す方式となっている。

〔3分打ち切り〕公衆電話での長話によって順番を待つ人々が迷惑を受け，その解決策を要望する世論が高まったので，日本電信電話公社は1969年秋の公衆電気通信法改正を機に，1970年初めから公衆電話での市内通話を若干の例外を除き，3分間で自動的に打ち切ることとした。

〔ピンク電話〕機体が薄桃色のためこのようによばれる。ダイヤルに特殊装置をつけ，最初に0を回すとそのあとのダイヤルが無効になるしくみと，10円硬貨の投入機構を備えた電話機。ダイヤル市外通話区間が拡大したため，商店・喫茶店などの一般電話を他人に貸した場合，市外通話料金を受け取りそこなう例が多かったので，無断でダ

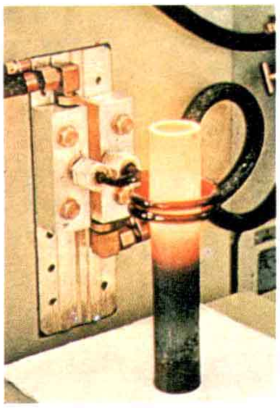
イヤル市外通話のできない電話機への要望が強まり，それにこたえて1959年実用化された。厳密には一般加入電話であって，公衆電話ではない。　〔滝　誠〕

こうしゅうは【高周波】 商用周波数(50Hz(ヘルツ*)，60Hz)より高い周波数。電動力・電熱応用では，人絹用ポット電動機を120～160Hzの周波数をもつ電源で駆動する。また，高周波加熱*には高周波誘導加熱と高周波誘電加熱がある。前者は，1000～10^6Hzの高周波磁界によって金属のような良導体を渦(うず)電流損およびヒステリシス損*で発熱させ，後者は電気的絶縁物を数メガヘルツ以上の高周波電界による誘電体損で発熱させる。なお無線電信電話では，30kHz(キロヘルツ)以下をVLF(very low frequencyの略称，はなはだ低い周波数)，30kHz～300kHzをLF，300kHz～3,000kHzをMF(medium frequency，中間の周波数)，3,000kHz～30,000kHzをHF(high frequency，高い周波数)とよぶ。さらにこの上にVHF*・UHF*・EHFの等級がある。➔電磁波　〔田村康男〕

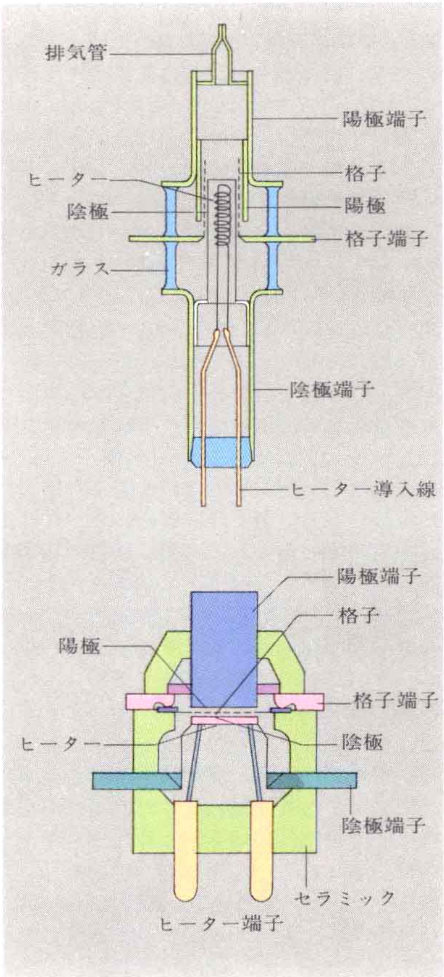
こうしゅうはかねつ【高周波加熱】 高周波の電場・磁場を用いた加熱方式。高周波磁場の中に，被加熱体として導電性物体を置くと，導体中には起電力が誘起され，渦(うず)電流*が流れる。この電流と導体の抵抗により発生した熱を利用するもので，金属の溶融・熱処理などに用いられる。これは間接的に被加熱体だけを加熱することができるので真空炉の中で用いられ，高純度の冶金(やきん)精製などに用いられる。また，周波数が高いほど，渦電流が被加熱体の表面に集まるため，鋼材の焼き入れ・局部加熱などに適している。急速加熱ができること，スケール(酸化によるさび)の生成が少ないこと，自動作業が可能であるなどの特徴がある。　〔長谷川正義〕

こうしゅうはしんくうかん【高周波真空管】 数百メガヘルツ以上の高周波領域で安定な増幅作用が行なわれるようにつくられた真空管。一般の負格子管は周波数が高くなると性能が低下し，ついには増幅機能を失う。これは，主として電子走行時間(陰極を出た電子が格子の位置まで到達するのに要する時間)，リード線のインダクタンス*，電極の静電容量などが，高周波の場合には無視できなくなるためである。これらの値を減少させる簡単な対策は寸法を小さくすることであり，エーコン管*がこの例である。また，リード線のインダクタンスを積極的に減少させるように考えられたものに，板極管(燈台管)・ペンシル管・スタック管などがある。これらと原理の異なるものに，クライストロン*および進行波管*があり，これらは，電子ビームの速度変調作用を利用した高周波真空管である。　〔伊藤糾次〕

こうしゅうはぞうふくき【高周波増幅器】 ⇨増幅



高周波加熱



高周波真空管　(上)ペンシル管の構造　(下)スタック管の構造

こうしゅうはっと【甲州法度】 ⇨信玄家法

こうしゅうはほうでん【高周波放電】 ⇨気体放電

こうしゅうはミシン【高周波ミシン】 塩化ビニル*など熱によって軟化しやすいシートを重ねて接合するのに，高周波加熱*を利用した接合機。外部から熱を加える方法に比較して，接合した部分の外側が熱でとけないのできれいに仕上がる。シートをロール状の電極間にはさんで，連続的に送りながら接着する。

こうしゅうはやきいれ【高周波焼き入れ】 高周波電流を通す誘導加熱*コイルの中に鋼部品を入れ，その表面層のみを短時間900℃前後に加熱したのち，適当な方法で急冷して焼き入れする操作。

こうしゅうはりょうほう【高周波療法】 周波数10,000ヘルツ以上の交流電流を利用する治療法で，主として温熱療法の一つとして行なわれている。周波数が異なると，その生体に及ぼす作用が異なり，利用のしかたも違ってくる。周波数の小さい順にマイクロウエーブ療法*・超短波療法*・ジアテルミー療法・ダルリンバール療法があるが，現在ではあとの二つはほとんど用いられていない。

こうしゅうわん【膠州湾】 チャオチョウ湾　中国，山東半島の南岸，黄海に面する湾で，湾口に青島(チンタオ)が位置する。湾の幅32km，奥行き24km，面積約500km²。天然の良港で，1898年ドイツの租借地となって以来港湾施設などがつくられ，ドイツの東洋経営の根拠地となった。1914年(大正3)日本軍が占領したが，1922年中国に返還された。

こうしゅうわん【杭州湾】 ハンチョウ湾　中国，浙江(せっこう)省北東部にある湾入。湾口の幅96km，奥行きは112kmに達し，ほぼ三角形を呈する。銭塘江(せんとうこう)が運搬して堆積(たいせき)する土砂のために遠浅で，最深部でも数メートルにすぎない。したがって，港は発達しないが，9mという干満の差を利用して製塩業が盛んである。湾奥に，浙江省の省都で同省の政治・経済の中心地である杭州が開ける。

こうしゅうわん【広州湾】 コワンチョウ湾　中国南部，雷州半島頸部(けいぶ)東岸の湾。1900年の清仏(しんふつ)条約*によりフランスが租借したところで，もとは仏領インドシナ総督の管轄に属した。フランスはこの地を中国経営の根拠地にしようと努力したが，大きな成果を得ず，1946年，第2次世界大戦後返還されるに至った。湾は湾口の東海島によって南北2水道に分けられる。南水道は浅海で汽船は通れないが，北水道は水深が大で良好な港湾地を形成し，東南アジアとの重要な貿易港となっている。　〔千田　稔〕

こうしゅく【拘縮】 一般に活動電位を伴わず，持続の長い，伝播(でんぱ)しない筋肉の収縮をいい，原則的には可逆的な収縮のみをいう。関節運動が制限された状態を呈し，酸やアルカリをはじめ，ベラトリン・カフェイン・ニコチン・クロロホルムなどで起こる。早期のうちに薬物で除去すれば回復するが，長時間を経過すると回復不可能となり，硬直に陥る。関節運動を制限した原因の所在によって，皮膚性(たとえば火傷瘢痕(はんこん))・筋性・神経性・腱性(けんせい)などに分類されている。〔平野修助〕

こうじゅほうしょう【紅綬褒章】⇨褒章

こうしゅやく【抗酒薬】アルコール慢性中毒の治療薬。アンタビューズ*がこれにあたる。アルコールは体内でアルコールデヒドロゲナーゼという酵素によってアセトアルデヒドとなり，これがさらに酵素アルデヒドデヒドロゲナーゼによって酸化される。アンタビュースは，このアルデヒドデヒドロゲナーゼの作用を阻害するため，少量のアルコールを飲んでもアセトアルデヒドからさきに酸化が進まず，それが体内に蓄積して嘔気(おうき)・嘔吐・頭痛などの悪酔い症状が現われる。この作用を利用して酒が飲みたくなくなるようにする。〔伊藤隆太〕

こうしゅれい【公主嶺】コンチュリン　中国東北部，吉林省の都市。長春の南西約60kmに位置する。長大鉄道の沿線にあり，ダイズ・コウリャン(高粱)などの農産物の集散地である。また軍事上の要地でもあり，20世紀初頭ロシアは鉄道付属地として同市内に約660ヘクタールを所有し，北部に官衙(かんが)・住宅，南部に商業地を配した。

こうしゅん【恒春】ホンチュン　台湾南端の都市。人口31,000(1965)。旧名瑯璠(ろうきょう)。現在は屏東(へいとう)県に属するが，もとは独立の県で，1875年(光緒1)に県城となった。東西南北に城門を備えた約3kmにわたる城郭がつくられていたが，日本統治時代に大部分が取りこわされた。林業試験場があり，4km南の大板埒(だいはんらつ)は沿岸航路の停泊地である。恒春の地名は，その気候が〈四時春のごとく〉であるところからつけられた。〔船越昭生〕

こうじゅんしゃ【交詢社】1880年(明治13)発足した実業家の社交クラブ。知識の交換，世務の諮詢(しじゅん)を目的とした《交詢雑誌》を発行した。福沢諭吉*を中心に，慶応義塾(ぎじゅく)出身，三井・三菱(みつびし)系ブルジョアジーを会員の主体とした。当初は藩閥打破の政治組織を目的とし，1881年改進党系の〈私擬憲法案〉を発表したこともあったが，本来の社交クラブの域を出ず，明治14年の政変*以後は実業家クラブとしての性格を強め，現在に及んでいる。

〔千野境子〕

こうじょ【興除】岡山県児島(こじま)郡にあった，児島湾の干拓地の旧村名。1971年(昭和46)岡山市編入。干拓は文政年間(1818～1829)から始まっているが，農民は小作慣行をもって耕地を1か所に集め，家は道路沿いに散居させた。これを背景に，1924年(大正13)の旱魃(かんばつ)を動力揚水機で脱してから急速に機械化が進み，機械化農村として全国的に著名となった。

こうしょう【高昌】⇨トルファン

こうしょう【交鈔】中国，宋(そう)・金・元・明(みん)代に発行された紙幣。宋代にはじめて発行され，地方により交子・会子などとよばれた。金・元では交鈔，明では宝鈔または鈔といった。特に元では主要通貨となり，兌換(だかん)も行なわれたので全国的によく流通し，信用度も高かった。しかし，元末には宮廷の奢侈(しゃし)や軍費の増大などで乱発したためインフレを招き，経済は混乱した。明も元の制度を受け継いで紙幣を発行したが，はじめから不換紙幣であり，その上乱発を重ねたので，まもなくすたれた。〔谷口規矩雄〕

こうしょう【公娼】公認の遊女。鎌倉時代に遊君別当をおいて取り締まり，室町時代には傾城局(けいせいのつぼね)を設けて遊女に課税したが，ともに幕府が公認したものとはいいがたい。1585年(天正13)，豊臣秀吉(とよとみひでよし)が大阪三郷に遊女町を許し，さらに1589年(天正17)京都柳の馬場に公許したのが公娼のはじめである。江戸では1617年(元和3)，吉原*(よしわら)が許された。創設に際して幕府は，遊女の外出を禁じ，不審な客があれば通報することを命じている。これは取り締まり上，色町を一定の区域内に限って，風紀と治安に役だてた巧みな集娼(しゅうしょう)政策であり，この定められた区域を廓(くるわ)(遊廓)といった。つづいて，駿河(するが)(静岡県)の弥勒(みろく)町，長崎丸山寄合町，泉州(大阪府)堺(さかい)の北高州町などが公認されている。一般に公娼の高級なる者を遊女*・傾城といい，下級なる者を女郎といった。また太夫*(たゆう)・格子(こうし)・新造・散茶・埋茶などは，公娼につけられた等級である。遊女は前借金によって楼主と雇用関係にあるが，実際は前借の利子と服飾費のため，永遠に借金に縛られるしくみであった。公娼といっても公儀上からなんの保護もなく，奴隷と変わるところがなかった。このため廓を〈苦界〉といい，遊女を〈憂(う)き河竹(かわたけ)の身〉といった。その点，拘束のない私娼のほうが，まだ苦痛は軽かったといえる。明治に至って，従来の公娼地はそのまま再公認され，また宿場*や岡場所*など準公娼地も新しく公認され，その数を増した。1872年(明治5)娼妓(しょうぎ)解放令が出されてからは，公娼の苛酷(かこく)な雇用関係を脱し，妓楼のへやを借りて商売する形となった。同時に鑑札制に改められ，人権無視の等級も解消した。明治中ごろから起こった廃娼運動は救世軍や婦人矯風(きょうふう)会の手で進められ，1919年の議会にもかけられたが実現しなかった。第2次世界大戦後，それらの運動の積み重ねによって1956年(昭和31)売春防止法*が成立し，1958年施行され，公娼はようやく姿を消した。〔稲垣史生〕

こうしょう【鉱床】地殻(ちかく)中に有用元素が集中していて，現在採掘の対象となっているか，将来採掘される見込みのある部分。すなわち，鉱石*が地殻に集中して存在する部分。地殻を構成する元素の主要なものは，酸素・ケイ素・アルミニウム・鉄・カルシウム・ナトリウム・カリウム・マグネシウムの8元素で，これで地殻の全成分の98.59%を占める。これに対して，有用元素の地殻における存在比はきわめて少なく，たとえば，金は0.0000001%，銅は0.005%程度である。この程度の量しか存在しない元素が地殻に一様に分布していたのでは，人間がこれを取り出して利用することは不可能である。しかし幸いにもこれらの有用元素の多くは地殻の局部に集中して存在する。鉱床を分類する際，元素の種類によって金鉱床・銀鉱床・鉄鉱床などと分ける場合もあり，採掘方法に関連して形の上から塊状鉱床・層状鉱床・脈状鉱床などと分けることもある。また，鉱床の成因によって，マグマ成鉱床・非マグマ成鉱床と分類する場合もある。以下，成因上からの分類について説明する。

【マグマ成鉱床】マグマ*の固結に深い関係を有する鉱床である。マグマははじめ1,000℃前後の溶融状態にあり，大部分は不揮発性物質であるが，少量(10%以下)の揮発性物質を含む。不揮発性の物質が固結し，鉱物およびその集合である岩石を晶出するにつれ，残液はしだいに揮発性物質に富んでくる。多くの有用金属元素は揮発性物質とともに残液中に残るが，固結の初期にマグマから鉱物として分離し，なんらかの原因でこれが集中して鉱床を形成することがある。これを正マグマ鉱床という。クロム鉱床・チタン鉄鉱床・白金鉱床などはこれに属する。

マグマの温度が600～500℃くらいになると，揮発成分に富んだケイ酸およびアルミナ質の残液となり，これがすでに固結した火成岩または周辺の岩石の割れ目にはいりこみ，ペグマタイト*となる。このペグマタイト中にはタンタリウム・ベリリウムその他の希元素鉱物を含むことが多く，これをペグマタイト鉱床という。さらに温度が下がって500～400℃ぐらいになると，残液はますます揮発成分(大部分は水)が多くなり，蒸気圧も高く，水の臨界温度より高い気体あるいは液体の状態で存在する。このような残液から生じた鉱床を気成鉱床*という。この残液が岩石の割れ目にはいって鉱物を沈殿させたものを気成鉱脈といい，これが周辺の石灰岩と反応し，いわゆるスカルン*鉱物とともに鉱石が沈殿すると高熱交代鉱床*となる。この型に属する鉱床にはスズ・銅・鉄・モリブデンその他多くの金属鉱床がある。さらに温度が下がって400℃以下になると，残液の揮発成分はさらに増加するが，温度降下の影響で蒸気圧は低くなり，熱水溶液となる。この熱水溶液から生じた鉱床を熱水鉱床といい，これに属する鉱床には金・銀・銅・亜鉛その他種類が多い。

【非マグマ成鉱床】マグマの固結に無関係なものをいう。たとえば，ある有用成分が水中に沈殿したものはこれに属し，世界の鉄鉱石の大部分はこの種の鉄鉱床から産す

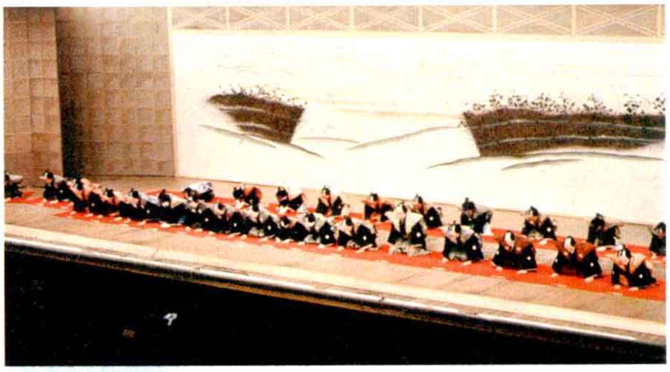
る。石炭や石油の鉱床もこれに属し，これらを堆積成(たいせきせい)鉱床という。また，岩石中に含まれた有用成分が風化による化学反応によって他の成分が流失した結果相対的に集中し，品質が高くなり，かつ処理しやすくなって鉱床を形成することがある。これを風化残留鉱床という。アルミニウム資源であるボーキサイト鉱床はこれに属する。また岩石鉱石が風化し，その中の分解しにくくしかも重い鉱物が集中することがある。風化した岩石や鉱石の直上にこのような鉱物が存在すれば風化残留鉱床であり，流されて川底・海浜などに堆積すれば砂鉱床である。シゼンキン・ジテッ鉱(鉄鉱物)・チタンテッ鉱(鉄チタン鉱物)・スズ石(スズ鉱物)などは風化残留鉱床，または砂鉱床となりうる。〔今井秀喜〕

こうしょう【咬傷】ヒトや動物にかまれることによって起こる傷。これらはしばしば特殊な感染症や中毒を起こす。こぶしで顔面をなぐられ，歯にあたって傷ができると，ヒトの口腔(こうこう)内には種々の細菌がはいるのでときには重篤な感染を起こす。治療法は原因となった動物によって考慮されるべきである。イヌによる咬傷では，そのイヌが狂犬病に罹患(りかん)しているかいなかが問題で，傷の処置と同時にイヌの検査も必要である。毒蛇(どくじゃ)にかまれた場合には毒素が全身に回らないように，直ちに傷の中枢部を縛り，口で毒素を吸い出す。血清療法も重要である。〔三島好雄〕

こうしょう【康尚】平安時代の仏師で，定朝の父にあたるといわれる。生没年不詳。確実な遺品は残っていないが，10世紀末から藤原道長をはじめとして朝廷や貴族の注文によって造仏に従事した。記録に現われた初期の彼の事績は，991年(正暦2)の祇陀林(ぎだりん)寺の釈迦(しゃか)像，同じころの霊山院釈迦堂の本尊などである。998年(長徳4)土佐講師，のち近江(おうみ)講師に任ぜられ，1018年(寛仁2)近江(滋賀県)関寺に5丈の弥勒(みろく)像，翌々年には定朝はじめ一門の弟子(でし)を率いて，道長の発願による法成寺無量寺院の丈六仏9体をつくりあげた。定朝の木寄せ法(→寄せ木造り)にも大きな影響を与えたと思われる。〔永井信一〕

こうしょう【康勝】鎌倉時代の仏師。生没年不詳。運慶の四男で父の作風を受け継ぐが，特にその写実的な傾向を穏やかに処理している。遺品には飛鳥仏(あすかぶつ)を模した法隆寺金堂西の間安置の金銅阿弥陀(あみだ)如来座像(光背銘1232年〔貞永1〕供養)，東寺御影堂の北面に安置される弘法(こうぼう)大師像(《東宝記》によれば，1233年〔天福1〕作)，および六波羅蜜(ろくはらみつ)寺の空也上人(くうやしょうにん)像がある。

こうしょう【洪昇】(？～1704) 中国，清(しん)代の戯曲作家。孔尚任(こうしょうじん)と並び称せられる崑曲(こんきょく)の作者であったが，一生不遇で，舟遊びのとき酒に酔い，水に落ちて死んだ。現存作品《長生殿》が代表作。



口　上
6世尾上菊五郎23回忌追善

こうじょう【口上】演劇で，俳優が舞台の上から，観客に報告や披露(ひろう)をすること。歌舞伎(かぶき)では俳優の改名・初舞台・追悼などの際に行なわれ，特に口上のため1幕設ける場合と，開幕中に演技を一時中止して行なう場合がある。

こうじょう【定考】〈じょうこう〉と読まず倒読するのが慣例。平安時代六位以下の下級官吏任用の一形式。勤務成績により，毎年式部・兵部(ひょうぶ)両省が文武官を選考して太政官(だじょうかん)に上申し，太政官において官位の昇進を決定すること，また，その儀式。毎年8月11日に行なわれた。

こうじょうい【鉤状胃】緊張している場合の正常な胃の形。胃は食道側の噴門と十二指腸側の幽門においてある程度固定されているが，胃の中央部は比較的移動性が大きく，胃壁の筋肉の緊張状態，周囲の臓器や体位によって形が異なってくる。鉤状胃は，立った姿勢でバリウムを十分に飲ませてX線学的検査をするとき，それがちょうどつり針のような形を示す。この際胃は正中線の左側をやや右側に傾いて下降し，胃底部はへその上下4～5cmの範囲で鋭角に湾曲して正中線を横切り，右上方に向かって幽門に達する。X線学的に胃の正常な形として，このほかにウシの角に似た形を示す牛角形胃とよばれるものがあり，肥満の人にみられることが多い。〔佐野隆志〕

こうじょうかおく【杭上家屋】⇨杭上住居

こうしょうがく【考証学】中国，清朝(しんちょう)学術の主たる学風で，考拠学ともいう。明(みん)末の経学の空疎な観念論に対する反省から，清初には経書・史書を政治・道徳に役だつ実学として読む学風が起こり，その方法として文字・名詞を正確に理解しようという文献学的な努力がなされた。清初の顧炎武・黄宗羲(こうそうぎ)らがそれであるが，清朝中期になるとこの方法そのものが学術の目的となった。これが考証学であり，したがって学問の目的性は失われがちであった。閻若璩(えんじゃくきょ)ののち，はじめは後漢の訓詁学(くんこがく)を絶対視した恵棟(けいとう)や銭大昕(せんたいきん)らの康熙(こうき)・乾隆(けんりゅう)時代(1662～1796)の漢学(呉派)から，やがていっそう科学的な方法をとった戴震(たいしん)に始まる段玉裁らの皖(かん)派が乾隆・嘉慶(かけい)時代(1736～1821)に花開き，その伝統は清朝の危機に処して起こった公羊(くよう)学派の時代にも絶えなかった。なお，日本の江戸時代にも，正統の朱子学に対する批判として考証学の学風が起こった。太田錦城(おおたきんじょう)・海保漁村・松崎慊堂(まつざきこうどう)らがそれであるが，その源流は古学派である。〔西　順蔵〕

こうじょうかん【興譲館】出羽(でわ)(山形県)米沢(よねざわ)藩の藩校。1697年(元禄10)藩主上杉綱憲(うえすぎつなのり)が聖堂(孔子廟(こうしびょう))を営み，そのかたわらに学校を建てたのがはじまりである。のち衰えて私塾(しじゅく)化したが，1776年(安永5)上杉治憲(はるのり)が復興，興譲館と命名し，藩儒2名を置いてその管理・指導にあたらせた。また江戸から細井平洲が招かれて，学事の諮問に応じ講義を行なった。その後種々の変遷や盛衰を経たが，全国の藩校の中でもその名が知られた。明治維新後大いに洋学を採用して制度を整えたが，学制頒布により廃校となった。〔高崎徳次〕

こうしょうき【孔祥熙】(1881～1967) 中国の買弁官僚資本家。蒋(しょう)・宋(そう)・陳(ちん)家と並んで四大家族を構成する。山西省の人。アメリカ留学生。南京(ナンキン)国民政府成立後，財政部長・行政院長・中央銀行総裁などを歴任し，同時に銀行・会社・工場・土地を多数支配して巨富を築いたが，人民解放軍の進撃のまえに台湾へ逃亡した。

こうしょうじ【興正寺】京都市下京区堀川(ほりかわ)通りにある浄土真宗興正寺派の本山。1320年(元応2)了源が山科(やましな)に建立(こんりゅう)し，本願寺3世覚如により興正寺と命名された。のちに渋谷に移って仏光寺と改名。仏光寺派の宗勢は一時本願寺を圧したが，1482年(文明14)14世経豪は本願寺8世蓮如(れんにょ)の門に投じ，仏光寺派を離れて，山科の旧地に興正寺を再建した。1532年(天文1)法華一揆(ほっけいっき)で本願寺が焼き打ちされて大阪に移った際は，当寺もこれに同行した。1535年本願寺一家衆になり，1569年(永禄12)には正親町(おおぎまち)天皇から門跡(もんぜき)の号を受け，本願寺脇(わき)門跡を称した。1591年(天正19)現在地に

移転。1876年(明治9)独立して興正寺派を公称することとなった。なお現在の堂宇は1911年再建されたものである。〔高崎徳次〕

こうしょうじ【興聖寺】京都府宇治市宇治山田にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。1227年(安貞1)中国から帰朝した道元*が開創して第1代の住持となり，その間に《正法眼蔵*》(前半46巻)を著わした。わが国最古の禅宗寺院である。道元はのちに永平寺*に移り，当寺も戦乱のために兵火にあって寺運は衰退したが，1649年(慶安2)淀(よど)城主永井尚政(ながいなおまさ)が再興して今日に至っている。宇治川に臨み，平等院と相対し，朝日山を景観に取り入れた周囲の自然の風景は詩情をそそる。〔永井信一〕

ごうしょうじ【豪摂寺】福井県武生(たけふ)市清水頭にある浄土真宗出雲路(いずもじ)派本山。真宗の宗祖親鸞*(しんらん)が洛北(らくほく)の出雲路に1233年(天福1)に一宇を草創したのが最初。3世善入が同寺を相続し，復興したとき寺名を豪摂寺と称した。のち越前(えちぜん)(福井県)に移り，変遷を経て1340年(興国1・暦応3)に同国水越に寺域を定めたころから寺運が栄えた。戦国時代兵火のため焼けたが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)から寺領の寄進を受けて現在地に移った。後陽成天皇の勅願所・青蓮院*(しょうれんいん)の院家となり，近世を通じ大いに繁栄した。明治維新後真宗寺院として独立したが，1877年(明治10)付属の建物を残し本堂以下諸堂が炎上した。その後漸次再建されて旧に復し，現在は広大な境内と本堂・大師堂・書院・客殿・奥殿・経蔵・鐘楼・宝庫など諸建築が整い，盛観を呈している。〔高崎徳次〕

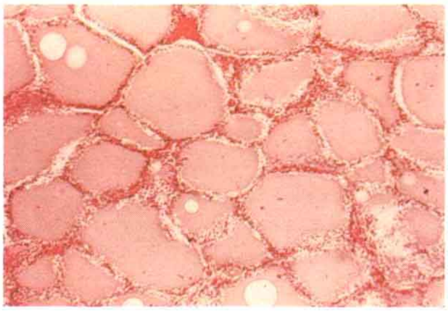
こうじょうじゅうきょ【杭上住居】杭上家屋ともいう。ヨーロッパのアルプスを中心とする地域で，湖沼や川の岸に建てた先史時代*の住居形式。数十軒で集落を構成しており，1957年現在，300近い集落跡が発見されている(スイス162，ドイツ42，イタリア40，フランス33，オーストリア15)。新石器時代*・青銅器時代*に属するものが多い。旧説では，水上に立ち並ぶ高床建物と解釈され，水中に立てたくいによって，丸太を横に並べた台をささえ，この台の上に建てたものといわれた。しかし現在では，のちの水面上昇による水没を考え，本来は岸の湿潤な地面上に丸太を敷き並べて床とし，その上に建てたとする説が強い。くいの働きは，壁がせり出すのを防ぐためともいう。杭上住居の研究は，1853・1854年の異常旱魃(かんばつ)の際に，スイスの湖の水面が著しく下がって，湖底に無数のくいが林立して現われたことによって始まった。ばくだいな量の遺物が発見され，ことに，普通には残らない木製品・繊維製品も豊富で，石斧(せきふ)も柄がついたまま出土するなど，先史時代についての知見を飛躍的に進める新事実が続出した。動植物遺体・花粉の研究は，往時の食生活・生活循環の実態を明らかにした。こうして杭上住居の研究は，それまでおぼろげにしかわからなかった先史時代の〈村〉の生活を鮮明にとらえることに成功して，19世紀半ばの学会を活気づけ，また，考古学知識の普及に貢献した。〔佐原　信〕

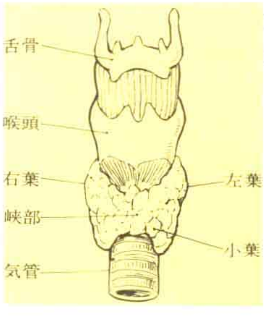


興聖寺



杭上住居





甲状腺（ヒト）
顕微鏡写真(×30)

こうしょうじん【孔尚任】(1648～1718) 中国，清(しん)代の戯曲作家・詩人。山東省曲阜(きょくふ)の出身で，孔子の子孫という。康熙帝(こうきてい)が曲阜に来て孔子を祭ったとき見いだされ，国子監博士となり，やがて江南に派遣されて治水事業に従事した。官界の内幕を知り，滅んだ明(みん)の遺臣と会い，人生体験を深めたことが，傑作《桃花扇*(とうかせん)》に結実したといえる。1702年帰郷し，以後隠遁(いんとん)生活を送った。

こうじょうせいしゅこうぎょう【工場制手工業】⇨マニュファクチュア

こうじょうせん【甲状腺】喉頭*(こうとう)の下，気管*の両側にあってホルモンを分泌する内分泌腺*。上部は左右の両葉に分かれているが，下部は甲状腺峡によってつながっており，さらにここから正中線上に錐体葉(すいたいよう)が上方に伸びている。甲状腺は舌の後方の口腔(こうこう)粘膜の上皮が陥入してできたもので，その構造は腺細胞が球状に並び，内に腔をもつ多数の小胞でできている。おのおのの腺細胞は内腔に向かって甲状腺ホルモン*を分泌する。この際脳下垂体から分泌される甲状腺刺激ホルモン*の調整を受ける。甲状腺の分泌物は一時小胞内にためられたのち，毛細血管に放出される。甲状腺ホルモンは全身の代謝を促進させる働きをもっている。分泌が過剰になるとバセドー病*をひき起こし，幼時の分泌不足は矮人症*(わいじんしょう)をひき起こし，知能も低下するが，成人では粘液水腫(すいしゅ)(→甲状腺機能低下症)となる。〔幡井　勉〕

こうじょうせんえん【甲状腺炎】甲状腺*の炎症の総称。化膿(かのう)性の急性甲状腺炎は少なく，亜急性および慢性甲状腺炎が多い。亜急性甲状腺炎は，ウイルスによるという考え方が多い。症状としては，疼痛(とうつう)のはなはだしい甲状腺の腫脹(しゅちょう)，耳介部への放散痛，血沈の著しい促進，ヨードの甲状腺への摂取率が著しく低下するなどの特徴がある。しばしば再発するが予後はよい。慢性甲状腺炎は甲状腺組織に対する自家抗体により，甲状腺の破壊と繊維の増加を伴う疾患で橋本病ともよばれる。甲状腺腫はかたく，しばしば甲状腺癌(がん)が疑われるが，甲状腺構成成分に対する抗体が患者の血液中に発見されるので識別できる。また，ガンマ－グロブリン*の増加を伴うことが多い。症例によっては甲状腺の機能低下を示し，成人の粘液水腫*(→甲状腺機能低下症)の原因の一つにもなる。〔清水直容〕

こうじょうせんがん【甲状腺癌】甲状腺*に発生する癌。大部分は甲状腺腫*(こうじょうせんしゅ)を主訴とするのみで自覚症状はない。組織学的には乳頭状癌・濾胞(ろほう)状癌・アミロイド充実癌・髄様癌・未分化癌に分かれる。他の癌と異なり，一般に予後がよく，20年以上の経過を示すものが多い。発生頻度(ひんど)は全人口の0.1%，結節状に触れる甲状腺腫の1%，癌死亡者の0.4%である。

こうじょうせんきのうこうしんしょう【甲状腺機能亢進症】甲状腺ホルモン*の過

剰によって，代謝亢進を示す疾患群。主症状は発汗・体重減少・動悸(どうき)・精神興奮・微熱などで，代表的な疾患にバセドー病がある。基礎代謝率測定，血中タンパク結合性ヨード，放射性ヨード(^{131}I)の甲状腺への摂取率によって診断される。➔バセドー病

こうじょうせんきのうていかしょう【甲状腺機能低下症】甲状腺ホルモンの欠乏した疾病(しっぺい)。主として一次的な甲状腺ホルモンの障害で起こり，下垂体ホルモンの欠乏による二次的なものもあるが，これはごくまれである。小児期に多くみられるのは大部分が先天性のクレチン病とよばれるものである。

成人にみられるものの大部分は，甲状腺自体の病変のために発生してくる疾病で，粘液水腫(すいしゅ)とよばれている。

こうじょうせんしげきホルモン【甲状腺刺激ホルモン】脳下垂体前葉から分泌されるホルモンで，TSH(thyroid stimulating hormone)と略称される。その作用は甲状腺ホルモンのチロキシンの分泌を促す。すなわち血液中のチロキシン量が少なくなると，それによりTSHの分泌が調節される。

こうじょうせんしゅ【甲状腺腫】甲状腺の腫大した状態をいい，特定の疾患をさすのでなく，単純性甲状腺腫・甲状腺機能亢進症(こうしんしょう)・慢性甲状腺炎・亜急性甲状腺炎・甲状腺腺腫・甲状腺癌(がん)などの総称。疾患によって甲状腺の硬度，大きさ，表面の性状に特徴があり，ある程度はさわっただけで鑑別がつく。

こうじょうせんホルモン【甲状腺ホルモン】甲状腺から分泌されるホルモン。チロキシンとトリヨードチロニンの2種があり，それらの作用には差異はないが，前者は後者の3～5倍強い。無機ヨード(➔ヨウ素)が摂取されると，胃腸管から吸収されて血液中にはいって甲状腺に取り込まれ，チロシンと結合してモノヨードチロシンとディヨードチロシンがつくられ，さらにこれらが縮合してチロキシン・トリヨードチロニンがつくられ，甲状腺濾胞(ろほう)の中にこれら4者がコロイドとしてたくわえられる。次いでタンパク分解酵素が作用して血中にチロキシン・トリヨードチロニンが分泌される。甲状腺ホルモンの合成，分泌の調節は下垂体の前葉から出る甲状腺刺激ホルモン(TSH)によって行なわれるが，甲状腺刺激ホルモンの下垂体からの分泌は血中の甲状腺ホルモン量により調節される。甲状腺ホルモンの働きとしては，成長促進作用，体温調節作用，中枢神経(脳・脊髄(せきずい))に対する作用，心臓血管系に対する作用，エネルギー代謝に対する作用，乳汁(にゅうじゅう)分泌に対する作用，タンパク質・糖質・脂質・ビタミン・水代謝に対する作用などがあげられる。〔斎藤　浩〕

こうしょうてんのう【孝昭天皇】歴代天皇第五代目の天皇。生没年不詳。名は観松彦香殖稲尊(みまつひこかえしねのみこと)。父は懿徳(いとく)天皇。母は天豊津媛命(あまとよつひめのみこと)。掖上池心(わきのかみのいけこころ)宮に皇居を定め，世襲足媛(よそたらしひめ)を皇后として孝安天皇を産む。陵墓は奈良県御所(ごせ)市の掖上博多山上(わきのかみのはかたのやまのへ)陵。その実在性は薄い。

こうしょうにん【公証人】家屋の売買，金銭の貸借など，主として民事問題で，当事者およびその関係人の嘱託によって法律行為その他私権に関する事実についての公正証書の作成，私署証書(私文書)に認証を与える権限を有する者をいう(公証人法1条)。一定試験に合格した者，裁判官・検察官・弁護士の有資格者などから法務大臣が任命する。公証人は法務大臣が指定した法務局または地方法務局のいずれかに所属し，その管轄区域に公証人役場を設けなければならない。手数料・旅費・日当は，公証人手数料規則に定めがある。〔内田剛弘〕

こうじょうのつき【荒城の月】1901年(明治34)に土井晩翠(ばんすい)作詞，滝廉太郎作曲で発表された歌曲。明治時代の西洋音楽ふう日本歌曲の代表作として広く親しまれてきた。短調，4分の4拍子，8小節の有節歌曲で，8小節がAABAにまとめられている。

こうしょうぶんげい【口承文芸】文字の力を借りずに，口から耳へと伝えられてきた民間の文芸をいう。〈文学〉といえば，一般的に文字によって表現されたものを想像するが，フランスのポール-セビヨは《民俗学―口承文芸と民俗誌学》(1913)によって，そうした文学のほかに口から耳へと語り伝えられる文芸のあることを説いた。セビヨは口承文芸の中に，説話・伝説・民謡・なぞ・唱えごとの5項目を含ませている。

民俗学の研究範囲は国によって多少異なるが，いずれも口承文芸を含んでいる点では共通しており，ヨーロッパでは口承文芸を中心に民俗学が発達してきたといってよいほどである。日本民俗学では，口承文芸の内容として，命名と新語および新句法，ことわざ・なぞ・唱えごと・童唄(わらべうた)・民謡・語り物・昔話(民話)・伝説などの諸項目を含ませている。

文字による文学は，まず文化の中心である都市において有識階級のもとに起こったが，それとは別に一般庶民の間には文字の出現以前に，文字以外の文芸があって，両者は互いに交渉し合ってきたが，口承文芸はいきいきとした生命をもち，時代によりまた話者・聴衆の文芸能力によって，変化しあるいは伝播(でんぱ)して枝葉を茂らせながら現在に至っている。しかし，変化するとはいっても，そこには一定の方向があった。すなわち，口承文芸はつねに多数の聴衆の参加を前提とし，話者といえどもある一定の範囲以上に聴衆の感覚から出ることができなかったばかりでなく，むしろ聴衆の感じを理解し，聴衆に代わって語ることによって聴衆の拍手を得たのである。口承文芸が記録された文学と区別される大きな相違は，この話者と聴衆との関係であった。こうした話者と聴衆との間の約束のもとに，口承文芸は一定の方向に徐々に変化してきているが，その変化の各段階は地域的にさまざまな差異となって，現在もなお各地に伝承されているわけである。

民俗学で口承文芸を取り上げる場合，明らかにしようとする対象は文学とは異なる。すなわち，口承文芸のうちに民族の文芸能力を見いだそうとするし，固有の信仰や社会的背景が重要な観点になってくる。〔直江広治〕

こうしょうへい【紅小兵】中国で，文化大革命の中で新設された小学生の組織。1967年2月，中国共産党が小学校の授業再開に関する通知の中で〈小学生は紅小兵を組織することができる〉と指示したことによって，従来の少年先鋒隊(せんぽうたい)は廃止され，紅小兵が各地の小学校に組織されるようになった。地域・学校・家庭を結ぶ，〈革命精神〉培養の組織である。隊員には，文化大革命初期に活動した紅衛兵の，いわば弟妹たちという自負があるといわれる。1968年以後，紅小兵の隊活動の中心は〈闘私批修〉(私心とたたかい，修正主義を批判する)に置かれている。➔共産主義青年団〔斎藤秋男〕

こうじょうへいさ【工場閉鎖】⇨ロックアウト

こうじょうほう【工場法】工場制度の成立・発展に伴い，婦人・年少労働者の長時間労働などの労働条件の劣悪化が社会問題となったため，労働者保護を目的に各国で制定された法律。わが国の工場法は，1911年(明治44)議会を通過したが，1916年(大正5)9月までその施行は延期されていた。それも，〈常時15人以上の職工を使用する〉工場にのみ適用され，深夜業の禁止など重要な点が骨抜きにされて，一般労働者の保護規定にはほど遠いものであった。これに対処して第2次世界大戦後労働基準法が制定された。〔木元美代子〕

こうしょ・かいかん【公所・会館】中国で，同業の商人や工人の組合であるギルドが中心となって設立した建物。公所・会館のほか公館・行館・祠(し)などともよばれた。清(しん)代に盛んにつくられたが，設立の母体は各種各様で，同郷関係によるものが最も多く，同郷人の相互扶助にも活用された。

こうしょく【後蜀】中国，五代十国の一(934～965)。孟知祥(もうちしょう)・昶(ちょう)の2代。成都を国都とし四川を領有。後唐の荘宗は925年前蜀を滅ぼし，腹心の孟知祥を節度使として統治させた。荘宗末期の政

変で知祥は反旗を翻し，数年後独立，宋(そう)に滅ぼされるまで勢力を保った。製紙・絹織物などの産業開発に留意し，印刷・絵画などの文化にも見るべきものがある。

こうしょく【交織】2種以上の繊維の異なる糸で織ること。縦糸と横糸を異なる糸で織ったもの，縦糸または横糸のそれぞれに異なる糸を交ぜて織ったものなどがある。綿麻交織・絹人絹交織・綿スフ交織・毛化繊交織・化繊相互交織など。交織物はそれぞれの糸の特性が発揮されて特異な性状をもった製品がつくられる。ただし，取り扱いにはいずれの糸をも害さないように注意することが必要である。

こうしょく【后稷】中国，周朝の伝説的な始祖。名は棄。農業の神。母親の姜原(きょうげん)が巨人の足跡を踏んではらんだといわれる。堯*(ぎょう)によって農師に，舜(しゅん)によって稷(しょく)(穀物)を后(つかさど)る役につけられ，そのため后稷とよばれる。邰(たい)(陝西(せんせい)省)の地に封ぜられた。

こうしょく【更埴(市)】長野県北部の市。江戸時代，北国街道の宿場町であった屋代(やしろ)と稲荷山(いなりやま)の両町を中心に1959年(昭和34)市制施行。人口36,000。市名はもと更級(さらしな)と埴科(はにしな)の両郡にわたって市域が形成されたことにちなむ。長野盆地の南端，千曲(ちくま)川流域に沿い，信越本線・篠ノ井(しののい)線と国道18号線が通ずる。産業三大別人口比は21：40：39。屋代地区には食品・木工・機械部品，稲荷山地区にはメリヤスなどの工場がある。農村地域では米のほか，切り花・アンズなどの特産がある。篠ノ井線の姨捨(おばすて)駅付近は〈田毎(たごと)の月〉の風光美と姥捨山伝説*で知られる。

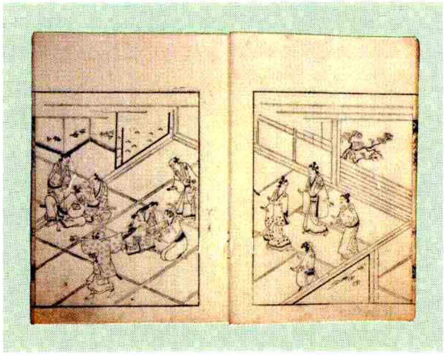
こうしょくいちだいおとこ【好色一代男】江戸前期の浮世草子*。西鶴*(さいかく)の初作。主人公世之介(よのすけ)(浮世之介)が7歳で恋を知り，60歳で女護ヶ島に出帆するまでの好色愛欲の生活を54章に分けて描く。恋愛や性欲が非道徳視されていた時代に，それらをやや誇張して取り上げた現実主義的な態度は，近世初期の大阪町人の考え方の象徴でもあり，同時代と後世に与えた影響は非常に大きかった。

こうしょくいちだいおんな【好色一代女】江戸前期の浮世草子*。西鶴*(さいかく)初期の作。好色の果てに出家した老女が，ふたりの青年に一生を回想して語る構成で，京都の貧乏公卿(くげ)の娘が遊女・大名の妾(しょう)・下等の売女(ばいた)など男性遍歴の果てに宗教生活にはいるまでを描く。封建時代の女性と意志・理性・道徳を無視して人間を動かす性欲を主題としたもので，《好色一代男*》とは対照的な作品である。

こうしょくごにんおんな【好色五人女】江戸前期の浮世草子*。西鶴*(さいかく)初期の作。当時評判のお夏清十郎・樽屋(たるや)おせん・おさん茂右衛門(もえもん)・八百屋(やおや)お七・



好色一代男



好色五人女

おまん源五兵衛(げんごべえ)などの恋愛事件を素材にした。女性はすべて町人の出で，おまん源五兵衛を除いてはみな悲劇で終わる。封建時代の道徳・制度がいかに恋愛や人間性を圧迫したかを如実に描いている。

こうしょくじんしゅ【黄色人種】⇒モンゴロイド

こうしょくせんきょほう【公職選挙法】1950年(昭和25)衆議院議員・参議院議員ならびに地方公共団体の議会の議員および長の選挙*について定められた総合的・統一的法律。選挙権・被選挙権・選挙区・投票・選挙人名簿・選挙争訟および罰則・選挙運動・選挙管理など選挙に関するすべてを規定している。制定以来，部分的な改正は何度か行なわれたが，1962年大改正が行なわれた。これによって選挙運動での買収は抑制され，棄権防止が強化されたが，その反面，取り締まりの面のみが強調されて，有権者は著しく受動的な選挙観に傾斜しているといわれている。〔溝口　潔〕

こうしょくついほうれい【公職追放令】第2次世界大戦後，在日占領軍が日本の民主化を目的として実施した，軍国主義指導者の公職からの追放令。この場合，公職とは国会・地方議会の議員，官庁・地方公共団体の職員ばかりでなく，特定会社・報道機関の職員などを含んでいる。1946年(昭和21)1月4日連合軍最高司令部(GHQ)の覚書により，日本政府は就職禁止・退官・退職などに関する勅令など一連の追放令を制定・実施した。覚書該当者の範囲は同年の内務省令第1号で決められ，A項戦争犯罪人・B項職業軍人以下7種に分類された。1952年対日講和条約*発効とともに追放令は廃止され，覚書該当指定も無効となった。なおA項からG項までの追放者は21万余人，そのうち1952年まで追放が解除されなかった者は8,710名であった。〔安達淑子〕

こうしょくぶんがく【好色文学】いわゆる女色(男色)による描写を主とした文芸作品。西洋・東洋を問わず古来から存在し，性愛・情事が叙述の中心を占めてはいても，恋愛教化や人間の真実追究という命題が執拗(しつよう)に探られている。当然，猥褻(わいせつ)文書(ポルノグラフィー)や糞便(ふんべん)文学(スカトロジー)とは区別されなければならず，人間の性本能にかかわる美意識に貫かれた表現が提出されなければならない。西洋において好色を描いた作品は数多い。ローマの詩人であったオビディウスの手になった《愛の技術》3巻は，遊戯的・官能的であったがために皇帝の不興を買い，自身は異土に追放されたという。また，中世フランスの小咄(こばなし)(ファブリオー*)は性にまつわる笑話集であるが，のちのボッカチョによる《デカメロン*》などの祖型とみなされ，イギリスのチョーサーの《カンタベリー物語*》などに引き継がれる。最も盛んであったのは18世紀のフランスである。山師カザノバ*が現われ，確かな社会風俗の描写もさりながら，好色小説ともてはやされた《危険な関係》のラクロ*，《美徳の不幸》《悪徳の栄え》などのサド*がいる。東洋においては，中国漢代の《雑事秘辛》が嚆矢(こうし)とされるが，明(みん)代の《中国通俗小説書目》に《如意君伝》《痴婆子伝》などの好色小説8種があげられている。清(しん)代には《肉蒲団(にくぶとん)》がある。わが国においての例は中世末から近世に至って多い。古代にあっても性に関する記述はあるが，文学とはいいえない。注目されるのは室町時代一休*の《狂雲集》《続狂雲集》である。近世に至ってはじめて〈好色本〉として一括される散文が輩出する。《きのふはけふの物語》，安楽庵(あんらくあん)策伝*の《醒睡笑(せいすいしょう)》に始まり，《たきつけ》《もえくゐ》《けしすみ》の色道の枠を説く3巻，〈好色〉を冠した西鶴*(さいかく)の諸作である。

こうじょりょうぞく【公序良俗】公の秩序，善良の風俗を略した用語。抽象的な概念ではあるが，その時代の社会的状態に応じて，一般に守らなければならない社会道徳のことを意味する。このような抽象的・一般的な内容をもつ規定を一般条項という。公序良俗に反する行為は無効であることはいずれの時代，いずれの国でも法制上認めるところであるが，個人主義を指導理念とする法制下においては例外的規定としての意味しかもたなかった。しかし，今日では，〈公共の福祉*〉とともに〈公序良俗〉はすべての法律体系を支配する最高原則であると考えられている。わが国の民法でも

90条において公序良俗に違反する法律行為は無効であることを規定している。いかなる場合が公序良俗の違反となるかについては多種多様で，たとえば，人倫に反する行為(妾(めかけ)関係を結ぶ契約など)，正義の観念に反する行為(競争入札における談合行為など)，著しく射倖(しゃこう)的な行為(賭博(とばく)契約など)，個人の自由を拘束する行為(芸娼妓(げいしょうぎ)契約など)，他人の困難・無知・軽率に乗じて不当な利を得ようとする暴利行為などがあげられる。ただし，公序良俗に反する法律行為によって相手方にある物を給付してしまった場合，受益者である相手方だけに違反行為があったことが認められないかぎり，給付者は無効を主張して，給付した物を取りもどすことはできない(民法708条)。〔黒木三郎〕

こうしロケット 【光子ロケット】 光の反作用で推進するロケット。光は光量子*の集合であるから，光が飛び出すときには反作用が起こり，しかも光の速度は毎秒30万kmだから，粒子の質量は微小でも高速が得られることになる。しかし，宇宙船の動力に必要な強力な光は，いまのところ出すことができない。➔ロケット

こうしん 【庚申】 道教的信仰に基づく行事である庚申(かのえさる)の日に祭る神。中国の道教には，この日に体内の三尸(さんし)という虫が天に上って，人間の罪過を訴えるという信仰があり，それが日本において青面金剛の信仰と一つになり，庚申信仰が生まれた。《庚申経》と称する経典に基づき，庚申信仰は民間に広まり，庚申待ちや庚申講という行事が行なわれ，各地に庚申塔が建つに至った。

こうしん 【更新】 ある存続期間を定めた契約において，その期間が満了したにもかかわらず契約関係をさらに継続させることをいう。これには当事者の約定によるものと，法律の規定によるものとがある。後者はさらに，更新がなされたものと推定する民法上の黙示の更新制度と，一定の事実が存在する場合には，当然更新がなされたものとみなす特別法上の更新制度がある(借地法4・6・7条，借家法2条，農地法19条)。〔黒木三郎〕

こうしん 【後秦】 中国，五胡(ごこ)十六国の一。羌(きょう)族の姚萇(ようちょう)が，長安(陝西(せんせい)省)を中心として386年に建てた国。西は後涼を滅ぼし，東は洛陽(らくよう)(河南省)をおとしいれて北魏(ほくぎ)と対抗したが，417年劉裕*(りゅうゆう)の北伐*により滅ぶ。

こうしん 【後晋】 中国，五代の一王朝(936～946)。石敬瑭(せきけいとう)(高祖)・重貴(出帝)の2代。国都は開封。石敬瑭は突厥沙陀部(とっくつさだぶ)の出身で，後唐明宗の武将として勢力をたくわえた。当時，北辺に強大化しつつあった契丹(きったん)と結び，燕雲(えんうん)十六州*の割譲などを条件に援助を受け，後唐を滅ぼした。敬瑭の死後，内乱と契丹外交の失敗により崩壊した。

こうじん 【荒神】 一般には屋内の火所に祭られる火の神・火伏せの神である三宝荒神をさすが，西日本に信仰される荒神はこれとは別種で，屋外に祭られ，屋敷神・同族神・部落神としての性格をもっている。また，中国山脈の南北地域では牛馬の守護神としての荒神信仰が盛んである。これら複雑な信仰内容をもつ荒神に共通する点は，荒々しく，たたりやすいという性格である。現在の荒神信仰は，おそらく中世以降の陰陽師(おんみょうじ)・祈禱師(きとうし)の関与や，山伏*・行者の活躍の結果で，荒神という名称をはやらせ，荒神信仰を複雑なものにしたのも彼らであろう。〔直江広治〕

ごうしん 【郷紳】 ⇨ジェントルマン

こうしんえん 【口唇炎】 くちびるにみられる限局性の炎症。細菌による感染，外傷，薬品・食品・化粧品などによるアレルギー，光線や放射線による影響や，全身的な病気の一つの症状として現われる場合など，各種の原因で起こる。症状は口唇部の発赤と腫張(しゅちょう)がおもなもので，抗生物質の内服や塗布，抗アレルギー剤・抗炎症剤・副腎(ふくじん)皮質ホルモン・ビタミンなどの投与により治療を行なう。

こうしんきょく 【行進曲】 兵隊など，多勢の人間を同時に行進させるための音楽。〈マーチ〉ともいう。その行進が葬儀の目的をもつ場合の葬送行進曲のようにテンポのおそいものもあれば，元気のよい速いものまでさまざまである。拍子は2拍子か4拍子が普通で，まれに6拍子のこともある。形式的には，メヌエットとトリオの組み合わせを受け継ぎ，行進曲主部の間に旋律的な性格をもったトリオが挿入(そうにゅう)されることが多い。西洋では16世紀までさかのぼることができ，初期の例では〈バッタリーヤ(戦い)〉と題され，特定の様式をもつものが多い。バロックのオペラでも式典的な場でよく使われた。18～19世紀にはディベルティメント*に組み込まれたり，ピアノ曲で使われたりしている。1800年ごろ，トルコの軍楽がヨーロッパに導入され，特殊な楽器編成によるトルコ行進曲を生むことになった。以後の軍楽隊はスーザの作品を含めて多くの行進曲をレパートリーとしている。➔軍楽隊〔徳丸吉彦〕

こうしんこく 【後進国】 ⇨低開発国

こうしんざん 【庚申山】 栃木県西部，群馬県境近くにあり，標高1,901m。渡良瀬(わたらせ)川の上流部に位置し，関東有数の庚申信仰の地として知られ，江戸時代には栄えた。北西にそびえる皇海(すかい)山は庚申山の奥ノ院にあたり，庚申参詣(さんけい)の盛んなころにはそこまで道路が開かれていた。東の備前楯(びぜんだて)山には足尾銅山の鉱床がある。

こうしんそう 【庚申草】 双子葉植物・タヌキモ科。日光付近の高山の岩壁にまれにはえる多年草。食虫植物で，ムシトリスミレの仲間である。葉は長さ7～15mmで根ぎわからはえ，粘液を出す腺毛(せんもう)があり，虫をとらえる。夏，高さ3～8cmの茎の先に淡紫色の花が咲く。

こうしんとうし 【更新投資】 一定の耐用年数を経た資本設備を新設備と取り替えるために行なう投資。設備がまだ耐用年数に達していない場合でも，技術進歩を取り入れた新設備に取り替えたほうがいっそう有利であれば，この設備はすでに経済的耐用年数に達したとして更新される。これを設備の陳腐化あるいは廃用という。設備がほぼ一定の耐用年数ののちに更新され，しかもある年に大量の投資が集中して行なわれると，耐用年数を経た年に再び大量の更新投資が行なわれることになる。住宅や船舶にその例がみられる。こうした更新投資の波は景気循環の原因となる場合がある。〔富田重夫〕

こうしんのげんそく 【公信の原則】 真実の権利者でない者が，あたかも権利者らしい外観を呈している場合，その外形を信頼して物権取引をした者は保護されなければならないという原則のこと。なぜならば，相手がほんとうの権利者かどうかを正確に調べる方法はないし，外形を信頼してなされた取引が無効になるのでは，取引の安全を著しく害することになるからである。わが国の民法では占有*にこの公信力を認め，動産の即時取得の制度を規定している(民法192条)。さらに，手形(手形法16条)・小切手(小切手法21条)・株券(商法229条)などについての占有には一般動産よりも強い公信力を認めている。表見代理*の制度の規定もこの原則の現われである(民法109条以下)。しかし，登記*については公信力を認めていない。したがって，登記を信頼して不動産売買などの取引をしても，登記が真実の権利関係と一致しなければその取引は保護されないことに注意を要する。〔黒木三郎〕

こうしんのへん 【甲申の変】 1884年，2年前の壬午(じんご)の変(➔京城事件)に続いて起こった朝鮮の政変。独立党*の金玉均らは朝鮮における清(しん)の勢力排除を企てる日本の援助を受けて，閔(びん)一派の事大党*から政権を奪取したが，2日後には閔妃の要請を受けた清国軍の反撃によって独立党は壊滅した。日本公使館も破壊されて，金らは日本に亡命した。翌年日清間に天津(てんしん)条約*が成立し，朝鮮における清の政治的地位が強化されて日本は後退した。〔千野境子〕

こうしんばら 【庚申薔薇】 双子葉植物・バラ科。中国原産の常緑低木で，観賞用に庭園に植えられる。チョウシュン(長春)ともいう。枝は緑色で直立し，白い髄が多く，三角形のとげがある。葉は互生し，奇数羽状複葉で，小葉は楕円(だえん)形で鋭鋸歯(えいきょし)がある。若葉は紅紫色。花は枝先に1～

数個つき，濃紅色または紅色で，一重または八重咲き。花期は一定しないが，5月に最もよく咲く。偽果*は球形で，赤熱する。

こうしんりょう　【香辛料】　一般に，食味を引き立てたり異臭を消したりして食欲を増進させるため，また消化液の分泌を促すなどのため，食品に添加する香料や辛味物質。英語でスパイスという。多くは植物の種子・葉茎・根塊・花蕾（からい）などが用いられる。有史以前から用いられ，肉食の多いヨーロッパでは腐敗しやすい肉の異臭を消すために欠かせないものであった。しかし15世紀になると，東南アジア産の香辛料は，はるばる送られてきた陸路をオスマン-トルコ帝国の進出で妨げられ，入手が困難になった。そのため，香辛料を求めてアジアへの航路発見熱が高まり，また香辛料の争いによっていくつかの戦争が起きたり，植民地が開発されるなど，歴史上・地理上にも大きな影響を与えた。香辛料は，18世紀末まで産地が極限されていたが，かなり広範囲に生産されるようになった現在でも特産物的傾向が強く，一般に高価なものが多い。わが国では，料理は材料の自然の味を生かすことが多いので，西洋のように香辛料はあまり用いられなかった。従来の日本料理に用いられてきたものは中国から渡ってきたものが多く，明治にはいって西洋の香辛料もはいってきたが，これらが一般家庭に広く使用されはじめたのは第２次世界大戦以後である。

香辛料は天然香辛料と混合香辛料の二つに大別される。前者にはオールスパイス*・ウイキョウ・カシア・キャラウェー・クローブ（チョウジ）・シナモン（肉桂*（にっけい））・ジンジャー（ショウガ）・パプリカ（赤トウガラシ）・ナツメグ*・パセリ・ペッパー（コショウ）・ミント・メース（ニクズク）・ローレル（月桂葉）などがあるが，わが国には薬味として和ガラシ・ゴマ・ワサビ・トウガラシ・サンショウ・シソ・ミョウガなど独特のものがあり，また海草のノリ・アオノリも用いられる。混合香辛料としては，カレー粉・チリ粉・七色とうがらし*・ラー油*などがある。　〔佐藤友太郎〕

こうしんりょく　【向心力】　円運動*をする物体に円の中心に向かって働く力。求心力ともいう。物体が円運動を続けるためには，たえず円の中心に向けて運動の方向を変えさせようとする力が働いていなければならない。これが向心力で，その大きさは，

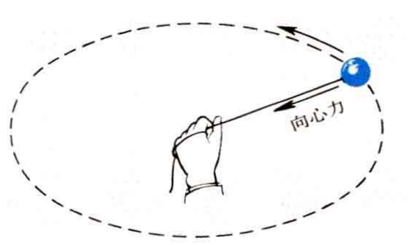
$$\frac{(\text{物体の質量})\times(\text{物体の速さ})^2}{(\text{円の半径})}$$

に等しい。糸に結んだ物体が円運動をする場合は，糸の張力が向心力として働く。線路のカーブでは，車両に働く重力とレールが車両に及ぼす抗力との合力が向心力として働く。質量mの人工衛星が地上hの高さの円軌道を回るためには〔向心力〕＝〔万有引力〕となるような速度vを与えればよい。すなわち，

$$m\frac{v^2}{R+h}=G\frac{mM}{(R+h)^2}$$

$$\therefore v=\sqrt{\frac{GM}{R+h}}=\sqrt{\frac{gR^2}{R+h}}$$

である。ただし，M，Rはそれぞれ地球の質量および半径である。　〔今淳治郎〕



向心力　ひもの先端に結びつけたおもりに円を描かせるとき，ひもの張力が向心力として作用する

こうず　【構図】　コンポジションともいう。絵画で，線・色・形などの組み合わせによる画面全体の統一をいう。構図には，比例・調和・シンメトリー・リズム・遠近法・明暗法などがあるが，構図を重要視するようになったのはルネサンス以後である。特に，科学的遠近法への関心が高まった西洋では，大別して二つの方法がとられた。直角に交わる水平線・垂直線，円錐（えんすい）形を基本とする構図法と，対角線・うずまき線，流動する形態，明暗対比を基調とする構図法とである。この二つは，絵画表現のいわゆる主流として19世紀まで続くが，近代では物の大小による奥行きの表現やクラシック様式・バロック様式の法則的な構図を否定する。そして，みずからの造形手段に即して画面を構成するため，線の配置，色の配分，形の大きさ，およびそれらの組み合わせが構図決定上の主要素となる。セザンヌ*の作品がよい例である。

〔子安三喜男〕

こうすい　【降水】　大気中の水蒸気が，雨・雪・みぞれ・ひょう・あられ・露・霜など凝結や昇華の過程を通して，地上に水分をもたらす現象の総称。

こうすい　【硬水】　カルシウム・マグネシウムなどの塩類を比較的多く溶解含有する水。炭酸水素カルシウム$Ca(HCO_3)_2$，炭酸水素マグネシウム$Mg(HCO_3)_2$などを含むものは煮沸すれば炭酸塩として沈殿除去できるので一時硬水といい，硫酸カルシウムや硫酸マグネシウムを含むものはこの方法では除去できないので永久硬水という。水に含まれるカルシウムイオンCa^{2+}やマグネシウムイオンMg^{2+}は，せっけん液に接触すると不溶性の金属せっけんをつくり，洗浄工程に支障をきたす。また，ボイラー・熱交換器などのスケール*付着の原因となるので，これを除去する必要がある。この操作を硬水の軟化という。硬水を軟化するには，蒸発法・沈殿法（石灰を加えて沈殿させる）・イオン交換法（イオン交換樹脂を使ってCa^{2+}，Mg^{2+}をNa^+で置き換える）・イオン封鎖法（ある種のリン酸塩を加え，Ca^{2+}やMg^{2+}が沈殿しないようにする）など，各種の方法がある。　〔鈴木　篁〕

こうすい　【香水】　植物性香料・動物性香料・合成香料を適当に混合調合し，アルコールにとかしたもので，においを楽しむのに用いられる。アルコールに対する賦香率は15～25%である。そのにおいから花香香水と幻想香水との二つに大別される。花香香水は天然の花のかおりを漂わせる香水で，天然花精油が主原料のジャスミン香水やローズ香水などと，合成香料が主体のヘリオトロープ香水などがある。幻想香水とは，調香する人が花以外の天然物（木・宝石など），音楽・情緒・人名・地名・乗り物・恋愛など，自分のイメージをにおいに表現しようとして，50～100種類もの香料を少量ずつ混ぜてつくるもので，現在市場に出ているものにタブー（禁じられたおきて）・ボール-ド-ニュイ（夜間飛行）・シャネル№5・パリ・ミス-ディオール・ロール（金）・インティメート（親愛な）など多数ある。

〈原料〉　大別して天然香料と合成香料とがあり，天然香料はさらに植物性香料と動物性香料とに分類される。植物性香料は植物の花や葉や果皮などからとれ，動物性香料は龍涎香*（りゅうぜんこう）・麝香*（じゃこう）・霊猫香（れいびょうこう）・海狸香（かいりこう）などがある。合成香料は非常に多くの種類があり，テレビン油・天然精油・ヒマシ油・コールタール留分が主原料である（→香料　→合成香料）。

〈製造〉　多種多様の香料を配合して，純度が95度以上の純粋な無臭のアルコールにとかし，銅またはステンレス製の容器に入れて地下室などの冷暗所に置き長い時間貯蔵する。短期間ではアルコールと香料がよくなじまないために，あまりよい香気はしないが，一般に半年から１年間ぐらい自然熟成させると非常に優雅な香気をもつようになってくる。最近では超短波または極超短波を利用して，短時間でその効果があがるように研究され，利用されている。

〔岡部平八郎〕

香水は，最も感覚的なもので，自己の満足以上に他の人の思い出に残る効能をもっているものである。本場のフランスでは，〈ミツコ〉で知られるゲランなどの専門店をはじめ，高級服飾店が服のイメージに合った香水を売り出している。シャネルの〈シャネル№5〉，ディオールの〈ディオリッシモ〉などはエレガントなかおりで長い間愛用されてきたが，新しい香水はスポーティーなものが多く，サンローランの〈Y〉などは甘さのほとんどないものである。

香水を選ぶときは，ほんの少量を手首の内側につけ，しばらく置き，アルコールのかおりが飛んだあとで残り香をかいでみる。



香　水　①ジバンシー　②ランバン　③キャロン　④ダナ　⑤シャネル　⑥ピニー　⑦イブ-サンローラン　⑧フィリップ-ベネ　⑨グレ

よい香水は香気が高く，持続性に富んでいる。香水ははだにとけあって第2の体臭をつくるが，あくまで趣味的・ふんいき的なものだから，自分の個性・服装・気分にあったものを選びたい。色でいえば黄色や緑色は若向き，茶色は中年向きであり，また動物性香料の混じったものは誘惑的・幽幻的で中年向きとされる。

香水は高価でもあり，かおりは実際につけてみないとわからないものであるから，慣れない人の場合は，はじめに香水と同じかおりをもつオーデコロン*や親しみやすい花の単体のかおりのものを求めるのもよい方法である。清純で高貴な〈ミュゲ（スズラン）〉や〈マーガレット〉，ぜいたくなかおりのブルガリヤン-ローズとジャスミンを中心に調香したジャン-パトウの〈ジョイ〉などが好まれているが，一般に，苔(こけ)や木の皮などのかおりは渋く，柑橘(かんきつ)類のかおりはさわやかである。

香水をつけるときは，必ず香水吹きで霧にして，耳の後ろ，みぞおち，ひざやひじの内側など，脈の打つところに一吹きする。ハンカチにつけてハンドバッグにしのばせておくのもよい。いやなにおいを消そうとしてつけると逆効果なので，清潔なはだにつけたい。なお，香水やオーデコロンをあらわなはだにつけて海水浴や直射日光に触れると，はだにシミをつくるので注意を要する。なお，香水は揮発しやすいので，小びんを求め，光線のあたらない場所に保存する。〔新藤千恵〕

こうずい　【洪水】 台風・低気圧・梅雨前線・雷雨などの降雨や雪どけによって起こる水害。主として河川が氾濫(はんらん)するために起こり，堤防の構築によってある程度防ぐことができる。わが国では，6～10月の梅雨ならびに台風の期間に多く発生し，日本の南西部から北東部へとしだいに移っていくが，水害の回数は南西日本ほど多い。雪どけによる洪水は深雪地方に限られ，北陸地方や北海道の河川に沿って多くみられる。また，山岳地方に豪雨がある場合には，山の斜面に沿ってどろ水と流木の流出が起こり，山麓(さんろく)の人家に多大の被害を与えることがある。これを山津波という。

洪水予報には降雨の予報が前提であるが，実際には河川の水位の予報が重要になる。河川の氾濫の条件は，それぞれの河川の大きさ・土質・堤防などの状態によって異なり，その予報のためには降水量と水位との関係を調べておく必要がある。降水量ならびに水位の予報のためには，刻々の状況が迅速に適当な場所に集められるような観測ならびに通報体制がとられることが先決である。わが国の降雨予報についていえば，集中豪雨*のような局地的な強雨については，その体制が十分でなく，河川については，水力発電所などがあるところでは水位・水量についての監視体制がある程度とられているが，全体としてはまだ不十分である。〔曲田光夫〕

こうずいでんせつ　【洪水伝説】 世界の終末を語る伝説の一。神の怒りによって大洪水がひき起こされ，それをのがれた1人あるいは数人の人間が新たな人類の祖となるという形が典型的なものである。《旧約聖書》の〈ノアの箱舟〉はその代表例であり，類型はギリシア・西アジアをはじめ，世界各地に分布している。東南アジアには兄妹2人が生き残るという神話が多く分布し，沖縄にもみられる。わが国のイザナギ・イザナミの国造り神話は，この形の神話の痕跡(こんせき)をとどめているとみる説がある。中国にも多くの洪水伝説があるが，これらには，西欧のそれと違い，神罰という要素はあまりみられない。〔神谷美保子〕

こうすいりょう　【降水量】 降水*が地上に一様にたまったと仮定して，その深さをミリメートル単位で表わした水量。雪・ひょう・あられが雨量計*にはいったときは，湯でとかしてその深さをはかり，湯の量を差し引いて降水量とする。雨は層状の雲からはわりあいに一様な強さで降るが，積乱雲の場合にはにわか雨の性質が強く，急に強くなったりやんだりする。また，同じ雨の降り方でも，その雨量ははかる時間に比例して多くなるわけではない。雨の降り方と雨量との間には次のような関係がある。

雨の降り方	1時間雨量 (mm)	24時間雨量 (mm)
微　雨	1 未満	5 未満
小　雨	1～5	5～20
並　雨	5～10	20～50
大　雨	10～20	50～100
豪　雨	20以上	100 以上

これは，雨が降ったりやんだりする状況が時間的に変動することによる。強い雨ほど狭い地域に集中する傾向があり，いわゆる集中豪雨*がそれである。わが国で顕著な降水量が現われるのは，6～7月の梅雨時，夏から秋にかけての台風期，冬季日本海沿岸の降雪である。なお，大雨の記録としては，1957年（昭和32）7月25日の長崎県諫早(いさはや)の豪雨（1日雨量1,109mm）がある。また，1時間雨量では，1944年10月17日高知県清水(しみず)の157mmが最高。〔曲田光夫〕

こうずけ　【上野(国)】 群馬県の旧国名。上毛野(かみつけぬ)の略。上州。東山道に属する。古く毛野国といい，のちこれを上下に分けて上毛野・下毛野とし，さらに国名を2字と定めるに及び上野・下野(しもつけ)と表記した。平安初期，上総(かずさ)（千葉県）・常陸(ひたち)（茨城県）とともに親王任国とし，太守を置いた。鎌倉時代に比企・安達(あだち)・北条(ほうじょう)の諸氏に次いで新田氏が，室町時代に上杉(うえすぎ)（山内）氏が守護となったが，上杉氏は戦国時代に至って衰え，北条氏康(うじやす)に追われて越後(えちご)（新潟県）に奔走した。その後，上杉・武田(たけだ)・北条の3氏がこの地に争ったが，1582年（天正10）織田信長(のぶなが)が一時支配し，さらに北条氏を経て，1590年徳川氏の領するところとなり，以後諸臣を各地に分封して明治に至った。1876年（明治9）現在の群馬県が成立。〔黛　弘道〕

こうせい　【校正】 印刷工程で製版されたもののためし刷り（ゲラ刷り・校正刷りともいう）により，原稿どおりにできているかどうかを調べ，その誤りを訂正する作業をいう。活版印刷では文字または組み方・体裁などの，絵画・写真などの印刷ではその濃淡色調の誤りを正す。それぞれ定められた校正記号を用い，厳密正確に行なう。初校・再校・三校と回数に応じて称せられ，校了になって印刷に付せられるが，最終校正でなお誤りが残って，印刷所の責任で訂正する場合のことを責任校了（略して責了）という。執筆者の行なう著者校正，印刷所で行なう内校があり，二刷り以後のために行なわれる鉛版校正・象眼校正などがある。印刷所に出向いて行なうのを出張校正という。校正のしかたには〈引き合わせ校正〉〈読み合わせ校正〉〈素読み〉などがある。〔杉山元一〕

こうせい 【荒政】 農業生産を中心とする社会において,天災による人民の飢饉*(ききん)を救済する政策のこと。凶作の原因の除去,貯穀,救荒作物の栽培を中心施策とする。貯穀としては,古代から屯倉*(みやけ)・義倉*の制があり,奈良時代には常平倉*などを設置して米価を調節して民生を安定させ,平安時代にも不動倉・不動穀の制があった。中世にはみるべき策はないが,江戸時代になると政治安定のため荒政が整備され,備荒・軍事の目的で幕藩ともに城詰め米を常備した。郷村・都市でも備荒のために郷倉*や三倉(社倉・義倉・常平倉)を設けて貯穀し,米価調節のための一時的な囲い米*(囲籾(かこいもみ))も救荒に利用された。また,幕府・諸藩は草木などの代用食物の利用法を教え,中期からは救荒用作物として甘藷(かんしょ)の栽培を奨励した。凶荒に際しては,破免(減税)・夫食(ふじき)貸し(食物貸与)・棄捐(きえん)(貸与の返還免除)・種貸し・肥料貸し・延売買を行ない,領主からの救米や民間の富豪の寄付による金穀の施与を行ない,飢民を救済した。〔松尾　涼〕

こうせい 【恒星】 太陽のように自身で光を放っている星。惑星*や衛星*などと違って,天球上の互いの位置の変化が目につかないところから恒星の名がついた。ふつう星といえば恒星をさすことが多い。以下この項では星を恒星の意味に使う。

〔明るさと数〕恒星の明るさは千差万別であるが,その光度は等級で示される。1等星は6等星に比べて100倍明るく,1等級の差は約2.5倍の明るさの比に対応している。空の条件のよいときには肉眼で6等星まで見えるが,その数は全天で4,800個。このうち地平線付近から下の星は見えないので,一度に見える数はせいぜい2,000個止まりである。望遠鏡を用いると,口径の大きくなるにつれて見える星の数は飛躍的にふえる。10等より明るい星の数は約30万,15等までは3,000万,アメリカのパロマ山天文台の口径5mの望遠鏡で観測できる限界の23等まで含めると10億以上の恒星が見えるとされている。光源の明るさは距離の2乗に反比例するから,同じ強さの光を放っている星でもわれわれから遠方にあれば暗く見える。そこで,すべての恒星が32.6光年の距離にあるとしたときの等級を絶対等級*とよび,恒星の真の明るさを示す基準にしている。太陽は近いために非常に明るく輝いているが,絶対等級で表わすと4.7等にすぎず,シリウス(実視等級−1.6等,絶対等級1.4等)に比べて3等以上も暗いことになる。

〔距離〕恒星の距離は年周視差*の測定によって求められる。地球は半径約1億5,000万kmの軌道を公転しているから,半年を隔てて約3億km離れた2点から星を見ると,見かけの方向がわずかに異なる。この見かけの方向の差,すなわち太陽と地球の位置から見た恒星の方向の差,すなわち年周視差をはかれば,地球・太陽間の距離を基線とする三角測量ができるわけである。恒星の年周視差は最も近いケンタウルス座α星の伴星(プロクシマ星)で0.75″にすぎないから,その観測は非常にむずかしく,はじめて測定に成功したのはドイツのベッセル*,イギリスのT.ヘンダーソン(1798〜1844),ロシアのF.W.ストルーベ(1793〜1864)で,1838年のことである。年周視差が1″になる距離を1パーセクといい,天体の距離をはかる単位にしている。距離と年周視差は反比例するから,視差がp''なら距離は$1/p$パーセクである。またパーセクと光年の関係は1パーセク=3.26光年で与えられる。年周視差測定の限界は0.01″程度であるから,およそ300光年以上の遠方にある恒星の距離を直接三角測量で求めることはできない。現在までに年周視差が測定されている恒星の数は10,000個たらずにすぎない。年周視差がはかれない遠方の恒星の距離を知るには,スペクトルを観測してスペクトル型から絶対等級を知り,実視等級と比較する方法がとられ,ケフェウス座δ型変光星や星団型変光星の場合には変光のようすから絶対等級を求めて実視等級と比較する方法が利用されている。

〔色と温度〕恒星は,青白く輝いているもの,赤みをおびて見えるものなど,微妙な色の違いをもっている。これは表面の温度に対応しており,3,000°Kぐらいでは赤っぽく,温度が高くなるにつれ,だいだいから黄(6,000°K)・白(10,000°K),そして青白(20,000°K)へと移っていく。恒星の光をスペクトルに分けたときに現われる吸収線の見え方から定められるスペクトル型も星の表面温度と関係しているから,星の色はスペクトル型と密接な関係にある。

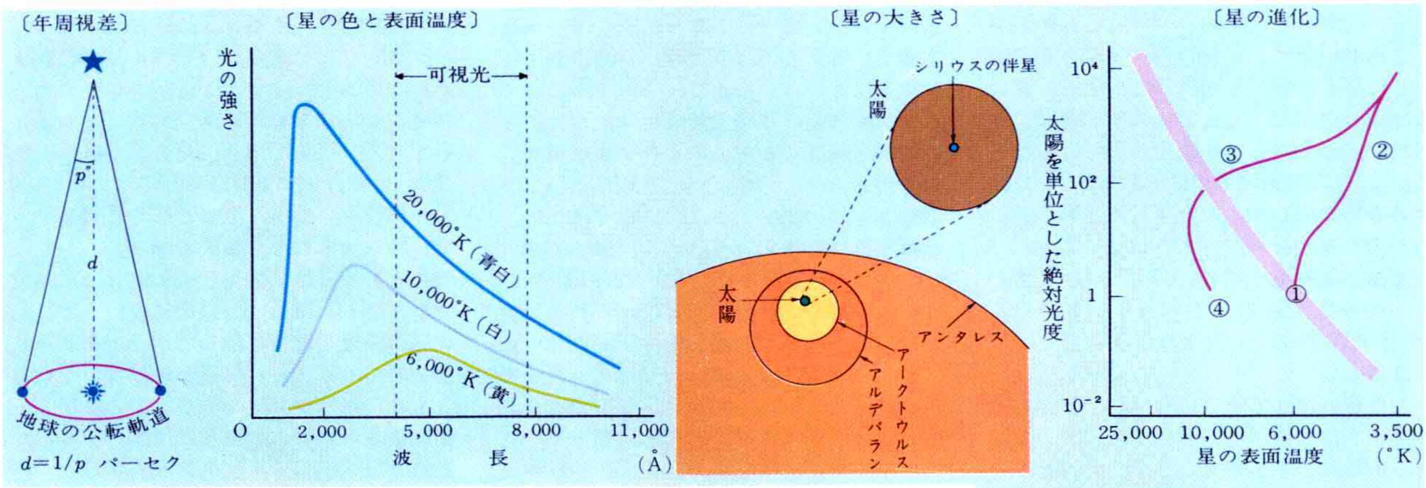
〔大きさ〕太陽を除いた他の恒星は,どんな大望遠鏡を用いても,大きさを認めることはできない。そこで,恒星の直径を求めるには次のような方法が利用される。①星までの距離が知れて絶対等級がわかれば,星の全表面から放射される全エネルギーが求められる。一方,星の色(またはスペクトル型)から星の表面温度がわかり,星の表面の単位面積から放射されるエネルギーの量が推定される。両者の比をとれば,星の表面積,したがって直径が求められる。②食変光星*を観測して食が続いている時間を測定すれば,軌道の大きさと星の大きさの比がわかる。一方,スペクトル線のドップラー効果*を調べて軌道速度を求めれば,軌道の大きさ,したがって星の大きさも算出される。③特に直径が大きく,しかも近距離にある恒星については,星の両端からくる光の干渉を利用して視直径を測定することができる。この場合,ほんとうの大きさを知るためには,距離を知らなければならない。これらの方法によって求められた恒星の大きさは,太陽を単位として大は1,000を越えるものから1/100程度のものまで,非常に広い範囲にわたっている。

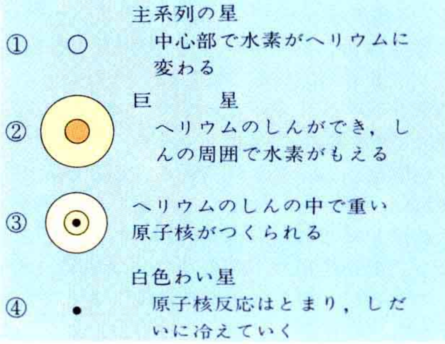
〔質量〕星の質量は,他の恒星との間に働く力学的な関係を通してしか求めることができないので,質量を直接知ることが可能なのは連星*に限られている。連星は二つの星が共通重心のまわりに公転運動をしているので,ケプラーの第3法則により,周期・軌道半径の観測から,二つの星の質量の和が求められる。さらに,共通重心に対するそれぞれの恒星の距離の比から二つの星の質量の比が得られる。こうして導かれた星の質量は,太陽を単位として,0.1から50くらいの範囲に分布している。

〔運動〕恒星の名にみられるように,昔は天球上に固定していて,位置が変わらないものと考えられていたが,厳密にいえば恒星といえども,ごくわずかながら天球上を動いている。ただその変化があまりにも小さいので,人間の一生程度の時間では認めがたいのである。天球上の恒星の運動を固有運動というが,すべての星はめいめいかってな固有運動をもっている。固有運動は1年に星が動いた角度(年周視差・光行差*・歳差*・章動*など,地球の運動による恒星の見かけの運動は除く)で表わす。いままでに知られている固有運動のいちばん大きな星はバーナード星で1年に10.30″動くが,他の大部分の星は0.1″/年以下である。また,恒星は空間を運動しているから,固有運動と同時に直角方向(われわれに近づくか遠ざかるか)の運動も存在する。この視線方向の運動は視線速度(km/秒)で表わし,恒星のスペクトル線のドップラー効果によって測定される。ふつう恒星の視線速度は毎秒数〜数十キロメートル程度であるが,中には300km/秒以上のものもある。

〔進化〕恒星は星間物質から生まれる。広大な宇宙の空間に漂っているガスや微小な固体粒子がたまたま濃く集まった領域は,重力の働きでまわりの星間物質を引き寄せ,しだいに大きなかたまりに成長する。このかたまり(原始星)は,たとえば太陽程度の質量をもっていても,半径は非常に大きく,また温度もきわめて低い。しかし,原始星が自身の重力で収縮すると内部の温度はしだいに高くなり,ついには中心部で水素をヘリウムに変える核融合反応を起こして,多量のエネルギーを発生する。こうして,強い光を放つようになると収縮は止まり,安定な主系列星*として輝く。ヘルツシュプルング-ラッセル図*の主系列上で左上に位置しているものほど,原始星になったときの質量が大きい。太陽をはじめ,われわれの見る恒星の大部分は主系列星で,星はその一生の大部分を主系列の状態で経過する。しかし,時間が十分たつと,星の中心部には水素が少なくなり,燃えかすのヘリウムを主成分とするしんができて,エネルギーを発生する領域がしんの周囲に移っていく。こ

恒　星





のヘリウムのしんが大きくなるにつれて星の大きさや明るさはしだいに増加し，主系列星から巨星へと進化する。ただ,明るくなる割合以上に星の表面積がふえていくので，表面温度は下がり，星の色は赤みをおびてくる。巨星時代の終わりには，中心部の温度はますます上昇して，燃えかすであったヘリウムのしん自体が新たな燃料になり，核融合反応を起こし，エネルギーを発生して炭素・酸素・ネオン……などと重い原子核をつくるようになる。そして最後には，表層の物質を吹き飛ばして星間物質にもどし，中心部のしんだけが暗い白色わい星として残る。これが現在の知識から考えられる星の一生である。

恒星は，その構成物質を消費してエネルギーを発生しているから，エネルギー源は質量に比例する。一方,エネルギー消費の割合，すなわち星の明るさは質量のほぼ3乗に比例することが知られているから，質量の大きい恒星ほど光を放ち続ける寿命は短い(→スペクトル型)。太陽はあと50億年以上も主系列にとどまっていると考えられるが，O型やB型の明るく質量の大きい星は，生まれてから主系列を離れるまでに100万年ぐらいしかかからない。寿命が100万年程度の恒星が現在観測されていることは，これらの星が生まれてからまだ100万年は経過してないことを意味する。太陽は現在までに少なくとも50億年は光を放ち続けてきたと推定されるから，いまわれわれの見ているO型・B型の星は，太陽よりずっとあとにつくられたものであり，宇宙の中では恒星はたえず新しく生まれているのである。〔守山史生〕

こうせい【向性】ユングに始まる性格の概念で，心的エネルギー(リビドー)の方向が外に向くか内に向くかによって性格が外向性・内向性の両気質に区別されるというもの。すなわち，心的エネルギーが主として外部に向かい，外部の刺激に影響されやすい傾向をもつ人を外向型とよび，情緒の表出が活発で決断が早い，自分を外部に表現しようとする，行動的・社交的・饒舌(じょうぜつ)であるなどの特徴を示す。一方，心的エネルギーが内面に向かい,関心が自己に集中する傾向をもつ人を内向型といい，内気で控えめ,思慮深い,実行力に乏しい,口数が少ない，話すよりも文章で表現するなどの特徴を示す。ユングは精神機能を〈感覚〉〈感情〉〈思考〉〈直感〉の四つに分け，それぞれに外向・内向を関連づけているが，すべての人はこの二つの傾向をともにもっており，その一方が比較的優勢になったときに内向型または外向型となる。この側面から性格傾向をとらえる検査を向性検査という。〔原野彰子〕

こうせい【甲西(町)】滋賀県甲賀(こうか)郡の町。人口23,000。郡の北西，野州(やす)川流域を占める農業地であるが，国道1号線・名神高速道路が通じて，最近では工場の進出，住宅団地の造成がみられる。

こうせい【江青】チャンチン（?～）中国共産党主席毛沢東の夫人。山東省出身で，はじめ上海(シャンハイ)で映画女優をしていたが，日中戦争が始まると延安におもむき，1939年，毛沢東と結婚した。1964年，京劇の現代化に尽力，1966年からの文化大革命では，いわゆる造反派の指導者のひとりとして活躍した。

ごうせいあい【合成藍】⇨インジゴ

ごうせいかがく【合成化学】元素あるいは簡単な化合物から有用な複雑な化合物をつくることを目的とする化学で，応用化学の重要な一つの分野である。水素と窒素からのアンモニアの合成，ベンゼンから出発して何段階かの化学的処理を経てナイロンをつくること，アセチレンと塩化水素からのポリ塩化ビニルの合成などがその例である。合成繊維・合成ゴム・合成樹脂・合成肥料はもちろん，染料・医薬・農薬の大部分は合成化学の産物である。〔志田正二〕

こうせいきゅう【高青丘】⇨高啓

こうせいきょく【交声曲】⇨カンタータ

こうせいけいかい【皇清経解】中国，清朝(しんちょう)の考証学者による経書の解釈書を集大成したもので，阮元(げんげん)(1764～1849)の編集。180余種，380冊。《学海堂経解》ともいう。のち，王先謙が補って《皇清経解続編》209種，320冊を編集した。

こうせいけいざいがく【厚生経済学】福祉や厚生を政策の目的として，その達成のための手段や判断基準を分析する経済学。ケンブリッジ学派のピグーは1人あたりの国民所得分配分の成長・平等・安定が達成されるほど，社会全体の厚生が増大するという厚生経済学の基本命題を導き出した。国民経済の福祉を達成するには，経済の政策を実行するものがそれぞれの経済的現象が社会的厚生をどの程度増大させるかについての評価体系をもっていることが必要である。その評価関数を〈社会的厚生関数〉という。その後，この厚生という概念について多くの研究がなされたが，いずれも価値判断にかかわる問題を含むことから多くの論争を生むことになった。〔加藤　寛〕

こうせいげかん【硬性下疳】第1期梅毒の局所症状。梅毒の原因であるスピロヘータが侵入すると，局所に無痛性のかた

いしこりができる。有痛性の軟性下疳*に対応して，硬性下疳と称している。このしこりは数週で自然に消褪(しょうたい)し，次いで局所リンパ腺(せん)が腫脹(しゅちょう)する。➔梅毒

こうせいげつ【恒星月】月がある定まった恒星の位置から出発して天球を１周し，再び同じ位置にくるまでに要する時間。恒星月は天の一定方向を起点とするものであるから，この時間は月が地球のまわりを公転する周期を表わす。１恒星月の平均の値は，

27.3216610日＝27日７時43分11.51秒

である。この値は1900.0年における値であって一定ではなく，年々4×10^{-7}日，いいかえれば250万年に１日の割合で１恒星月は短くなっている。〔木下　宙〕

こうせいけってい【更正決定】民事の判決に明白な過誤や不適当な表現がある場合，それを訂正・補充してより完全なものにする裁判所の決定をいう。当事者の住所・氏名に誤字があったり，目的物件の所在地・容量にまちがいがある場合に行なわれる。当事者の申し立てによっても，裁判所の職権によってもできるが，判決を下した裁判所が行なうこととされている。更正決定があれば，判決と一体をなして最初から更正されたとおりの判決が言い渡されたことになる。更正決定に不服の場合には即時抗告*ができるが，更正決定を理由なしとして却下した決定に対しては抗告できない。〔内田剛弘〕

こうせいけんぽう【硬性憲法】通常の法律は，国会の定足数を満たした会議で，出席議員の過半数の賛成で成立するが，憲法改正*は，その重要性から特別に扱われるのが普通である。ソ連その他の社会主義諸国では議員の３分の２以上の特別多数法により，アメリカでは全連邦構成州邦の州会の４分の３以上の承認か，４分の３の州邦の州憲法会議の承認によって成立するが，わが国では国会での可決後，国民投票*に付せられる。その他，フランス・イタリア・ベルギーなどでも，かなり慎重な手続きを定めている。このような改正方法の憲法を硬性憲法という。しかし，イギリスにはイギリス憲法という憲法典はなく，したがって憲法と考えられる事項も通常の法律や慣行で決められていて，特に改正についての手続きも他の諸国のように慎重ではない。これを軟性憲法という。〔鈴木安蔵〕

ごうせいこうりょう【合成香料】天然の香料の有香成分を合成して，これを混合調合してつくる天然香料の代用品。合成香料として最初のものは，1834年ミッチェルリッヒ*が合成したニトロベンゼン*である。化合物の種類により，炭化水素類・アルコール類・フェノールおよびフェノールエーテル類・エステル類・ケトン類・アルデヒド類・ラクトンおよびオキシド類・酸類・ハロゲン化合物類・窒素化合物類などに分類される。主として，次のような方法で製造される。①天然香料と香気が似ているものをほかの原料からつくる，②天然香料の芳香成分を分析し，構造を調べてそれと同じものを合成する。有香成分として合成される物質には，ヘリオトロープ香を有するヘリオトロピン(ピペロナール)・クローバー香をもつサリチル酸アミル・ネロリー油，ジャスミンの有香成分であるアンスラニル酸メチル，バラなどの花精油調合のためのシンナミルアルコール・フェニルエチルアルコールなど1,000種以上もあるが，これらをいかに混合調合しても天然の香りは香調できない。なお，動物性香料の香りをもつものとしてジャコウの有香成分のムスコンなどがある。これらの合成香料は，香水・化粧品・せっけん・飲料・菓子などに用いられる。〔岡部平八郎〕

ごうせいゴム【合成ゴム】化学的に合成され，天然ゴム*と化学構造または性質の類似する物質。天然ゴムの代替品となることを目的とした汎用(はんよう)ゴムと，耐熱性・耐油性その他，天然ゴムに欠けている特定の性質を加味させた特殊目的ゴムとがある。いずれも分子量の小さい化合物(低分子化合物)を重合*させて得た高分子化合物*で，低分子化合物の種類と重合方法の差異によって，種類はきわめて多彩である。

〔歴史〕加硫*法の発見(1839)によって確立されたゴム工業は，20世紀にはいって，自動車の急速な普及に伴って，そのタイヤ原料としてめざましい発展を遂げた。それとともに，東南アジアを中心とする栽培ゴム樹による天然ゴムの生産は活況を呈したが，これらは大部分イギリスの独占するところであった。そのため，他の国ではゴム工業の飛躍的な発展につれて，原料供給の問題が深刻になってきた。特に，第１次世界大戦中，天然ゴムの供給ルートを断ち切られ，この問題がいっそう深刻になったドイツでは，1914年ついに合成ゴムの工業化に成功した。これはカルシウムカーバイドを原料として合成された２,３-ジメチルブタジエンを重合して得られるもので，メチルゴムとよばれたがこの合成ゴム第１号は現在では姿を消している。

一般的に，合成ゴムの開発には二つの系列がある。一つは天然ゴムの組成に関する研究の結果に基づいて化学的組成類似物質の合成を試みるもので，他の一つは天然ゴムの物理的・化学的性質の研究から，それらを再現，または改良しうる合成物質の探索である。天然ゴムがイソプレンの重

$$\begin{array}{l} \qquad\quad\ CH_2 \\ \qquad\qquad | \\ CH_2=CH-C=CH_2 \end{array}$$

(イソプレン)

合成ゴムの種類

分類	ゴム名	略称	代表的商品名	特性
汎用ゴム	ブナゴム		ブナ85，SKB	
	スチレン-ブタジエンゴム	SBR，GR－S	ブナS，ハイカーOS	
	イソプレンゴム	IR	カリフレックス	ステレオゴム
	ブタジエンゴム	BR	シス-4	ステレオゴム
準汎用ゴム	クロロプレンゴム	CR，GR－M	ネオプレン	耐油・耐候
	ニトリルゴム	NBR，GR－A	ブナN，ハイカーOR	耐油・耐老化
	多硫化系合成ゴム	GR－P	チオコール	耐油
	ブチルゴム	IIR，GR－I	ブチル	耐候・電気絶縁性・低ガス透過性
	エチレン-プロピレンゴム	EPR，(EPT)	C－23	ステレオゴム 耐老化・耐オゾン・耐酸化・耐薬品・耐水
	エチレン-酢酸ビニルゴム			耐老化・低ガス透過性
	ポリエーテルゴム		ダイナジェン	耐オゾン・耐候
特殊目的ゴム	ウレタンゴム		アジプレン，ネオタン ブルコラン	原料・製法により多様
	クロルスルホン化ポリエチレン		ハイパロン	耐オゾン・低ガス透過性・屈曲性
	アクリルゴム	ABR	ハイカーPA，バイラム	耐熱・耐油・耐老化
	ケイ素ゴム		シラスチック	耐熱・耐寒
	フッ素ゴム		ケル-Fエラストマー，バイトン-A	耐熱・耐油・耐薬品
	ニトロソゴム		ポリFBA	耐熱・耐寒・耐溶剤

合体を主成分とすることは1860年に見いだされていたので，合成ゴムの開発も最初は以下のような第1の系列でもっぱら進められた。

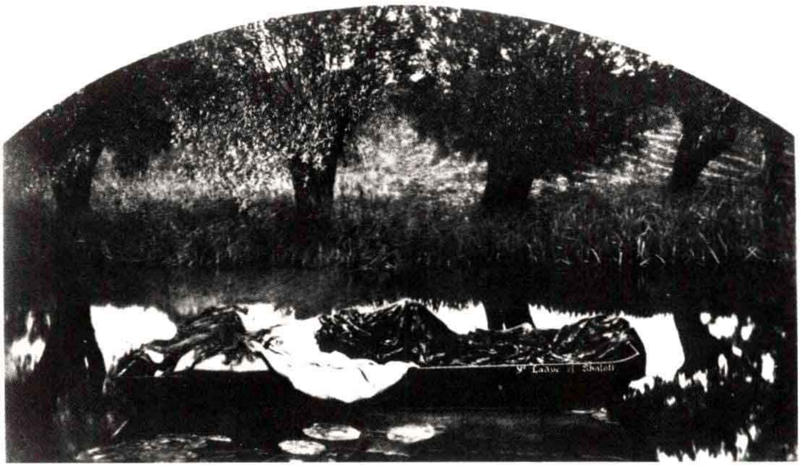
$CH_2=CH-CH=CH_2$
（ブタジエン）

$CH_2=C(Cl)-CH=CH_2$
（クロロプレン）

イソプレンの重合がうまくいかないので，類似の二重結合を分子内に2個有する化合物として，ブタジエン・クロロプレンなどの重合がまず注目された。前述のメチルゴムもこの系列に属し，第1次世界大戦後ドイツで発表されたブナゴムはブタジエンの重合体である。現在，汎用ゴムとして圧倒的な生産量を誇るＳＢＲ*もブタジエンとスチレンの共重合*体で，すでに1933年にソ連でＳＫＢが，1934年にドイツでブナＳが，第2次世界大戦中にはアメリカでGR-Sがそれぞれ工業化されている。クロロプレンゴムの生産は1932年のアメリカでのネオプレンが最初である。第1の系列では主として汎用ゴムの開発が中心になるが，その発展途上にドイツのチグラーによって開発され，1954年にイタリアの化学者ナッタによって発表された触媒によるオレフィン類の立体規則性重合の発見は画期的である。これによって，天然ゴムとまったく同じ組成・立体構造をもつシス-1,4-ポリイソプレンの合成も可能になり，ただちに工業化された。これがステレオゴム*の最初で，引き続きチグラー-ナッタ触媒や，金属リチウムなどを開始剤とした立体規則性重合で新しいステレオゴムが次々に出現した。一方，第2の系列に属するものとしては，1934年ドイツで生産開始されたＮＢＲ*を筆頭に，最近ではエチレン-酢酸ビニルゴム・ポリエーテルゴムなどの準汎用ゴム，フッ素ゴム・ニトロソゴムなどの特殊目的ゴムが続々と登場している。

わが国においては，第2次世界大戦中，必要に迫られて少量生産されたりしてはいたが，本格的な工業化は，1959年に日本合成ゴムでつくられたＳＢＲが最初で，1962～1963年にはクロロプレンゴムの生産が電気化学工業・昭和ネオプレンであいついで開始された。ステレオゴムとしては，シス-1,4-ポリブタジエンが1963年ごろから数社で生産されている。現在，以上の3種にＮＢＲ(1959年，日本ゼオンが最初に製造)を加えた4種が大規模に生産されている。

【種類・性質・用途】適用範囲により，汎用・準汎用，および特殊目的ゴムがある。前二者は多くの点で天然ゴムに類似し，代替品になりうる。特にステレオゴムでは，構成分子鎖の立体構造まで天然ゴムに類似しているので，きわめてよく似た性質を示すが，局部的な結合方法のわずかな相違が物性面に反映されることも多い。一般的には，大荷重のかかる大形運搬車や航空機のタイヤ，大きい弾性の必要な防震ゴムには合成ゴムより天然ゴムのほうがすぐれている。耐熱性・耐寒性・耐油性・耐摩耗性・耐候性・耐老化性などの特殊目的には，その性質を特にねらった合成ゴムのほうがすぐれているのは当然である。〔伊藤　卓〕



合成写真　ロビンソン《臨終》1858

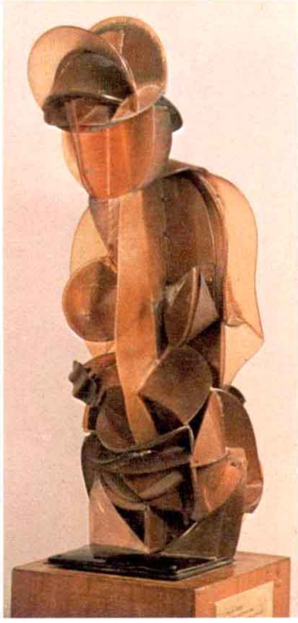
こうせいじ【恒星時】　地球の春分点に対する自転運動をもとにして定めた時間。春分点の時角*で定義される。一般に，子午線と天の赤道が交わる点と春分点の間の角度を西向きにはかり，その角度を，360°を24時間とする単位系で表わしたものを恒星時という。すなわち，恒星日*の24分の1にあたる。春分点が南中した時刻がその地点の恒星時の0時である。春分点は恒星系に固定したものではなく，わずかではあるが，天球上を変動している。この変動している春分点によって定まる恒星時を視恒星時（または真恒星時）という。また，この変動の中から周期的なものを取り除いた仮想の春分点を平均春分点とよび，この平均春分点によって定まる恒星時を平均恒星時という。真恒星時と平均恒星時の差は最大1秒に達することがある。➔天文時〔木下　宙〕

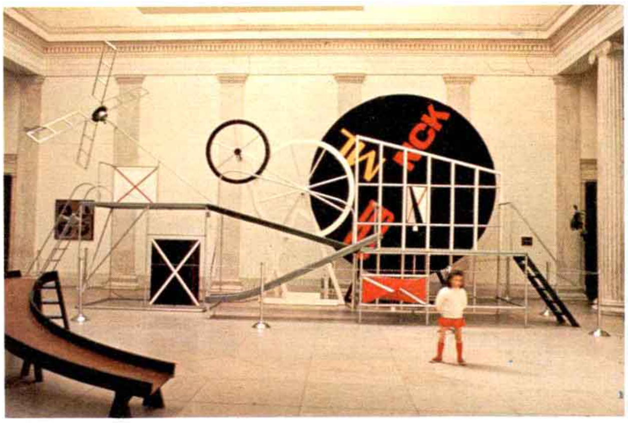
ごうせいし【合成紙】　合成高分子をおもな基材とし，なんらかの方法で紙のような性質をもつように製造したもの。木材繊維からつくる紙の最大の特徴は，白く不透明なこと，多孔質であるためにあらゆる印刷方式に適することである。合成紙の場合，これらの性質を付与するために次のような製法がとられる。①合成繊維をからみ合わせてシートをつくる。②発泡（はっぽう）剤を利用して，内部に無数の微小な気泡（きほう）を含んだフィルムをつくる。③白色顔料を混ぜ込んだフィルムをつくる。④フィルムの表面を薬品で処理して表面に多孔層をつくる。⑤フィルムの表面に白色顔料を付着させる。印刷用紙として最良の合成紙は，④または⑤により製造されているが，この場合縦・横に延伸したフィルムを素材に用いると，物理的性質をさらに紙に近づけることができる。現在のところ，木材繊維を基材とする紙に対し，単位重量あたりで約4倍程度の製造コストになるが，設備の改良，石油化学の発展などで，1980年ごろには1.5倍程度まで下がると予想されており，特に耐湿(水)性などの特徴を生かした製品への利用が期待される。〔角祐一郎〕

こうせいじつ【恒星日】　地球の春分点に対する自転周期の平均値。いいかえれば春分点に対する地球の自転周期である。平均太陽*は1年(1太陽年*)の間に365.2422回南中するのに対して，春分点はそれよりも1回多く南中するので，1恒星日は1平均太陽日*よりも平均太陽時で3分55.91秒だけ短い。また，春分点は歳差によって1年に55.26″東から西へ移動しているので，天球上の恒星系に対する地球の自転周期は春分点に対する自転周期より約0.008秒だけ長い。➔平均太陽日　➔真太陽日〔木下　宙〕

ごうせいしゃしん【合成写真】　近代以前の絵画の寓意（ぐうい）的な物語り性に範をとり，その構図も模倣することによって，写真が美術と並ぶ芸術としての地歩を獲得することができると考えた一群の写真家が，19世紀中葉のヨーロッパで，手工芸的な精緻（せいち）さで組み立てたコンビネーション-プリンティングを主としてさす。雲のない空の風景写真に精彩を加えるために，別に雲だけのネガを用意し，あたかも1回の露光で撮影したように見えるように，もとの風景写真に雲を巧妙に焼き込むというのが基本的な技法である。代表的作品には，イギリスのW.L.プライスの《書斎のドンキホーテ》(1855)，30枚以上のネガを合成したO.G.レイランダーの《人生の二つの道》(1857)や，5枚のネガから作画したH.P.ロビンソンの《臨終》(1858)など，芝居がかったものがある。現在では，進歩した印刷製版の段階で，特にカラーによる種々の試みがみられる。➔モンタージュ〔平野　久〕

ごうせいしゅ【合成酒】　合成清酒ともいう。日本酒に類似した酒を，米以外の材料で合成してつくるもの。材料はアルコールを主として，ブドウ糖・水あめ・乳酸・コハク酸・グルタミン酸ソーダ・食塩・硫酸ソーダ・硫酸苦土・酸性リン酸カリ・アラニ





ポポバ《ステージ－モデル》

ペブスナー《トルソ》1924〜1926 ニューヨ
ニューヨーク近代美術館蔵

構成主義

ンなどで，それに酒のもろみを少量加えて風味をよくする。第2次世界大戦後，原料の米が不足したころ，清酒に代わって生産が伸びたが，現在はやや不振である。

こうせいしゅぎ【構成主義】ロシアの前衛芸術運動。第1次世界大戦の前後にモスクワに興り，タトリン*を中心にロドチェンコ・ガボ*・ペブスナーらが参加。1917年のロシア革命後には美術界の主流となり，〈現実の物を現実の空間に!〉を標榜(ひょうぼう)して，非有機的・物理的素材(鉄・石・ガラスなど)の開発と，それによる新しい空間の構成をめざした。これは，未来派*やシュプレマチスム*の理念を受け継ぎ，また，革命の理念である唯物論的思想を強く反映したものであった。なお，この運動は，造形芸術の根本的な質的転換を志向・企図したが，1921年に分裂してガボ・ペブスナーらが去り，タトリンらの活動もソビエト政府の文化政策の変更によって1930年以降はまったく停止するに至った。しかし，その芸術理念はモンドリアン*らの新造形主義にも影響を及ぼしている。〔松久勝利〕

ごうせいじゅし【合成樹脂】⇨プラスチック

ごうせいじゅしとりょう【合成樹脂塗料】合成樹脂を有機溶剤や水に溶解または分散し，あるいは粉末とし，一般にはこれに顔料*などを加えてつくった塗料の総称。現在の塗料の大半を占める。合成樹脂は主として次の3通りの使い方で塗膜形成要素として用いる。①単独。②繊維素誘導体と混合。③油または他の樹脂と混合または変性。おもな合成樹脂塗料は次のとおりである。

〈アクリル樹脂塗料〉アクリル酸・メタアクリル酸のエステルを主体とし，単独ないし相互間あるいは他のモノマーや樹脂との共重合*体を塗膜形成要素とする塗料。塗膜は一般にかたく，透明性・光沢保持性・保色性が大きく，耐汚染性・耐水性・耐アルカリ性および耐候性にすぐれている。溶剤型・水溶型およびエマルジョン型があり，また，熱可塑型(アクリルラッカー)と熱硬化型に大別される。アクリルラッカーは車両・自動車・産業機械・木工などの塗装に，熱硬化型は光沢保持性・耐汚染性などにすぐれ，自動車・家庭電気器具の塗装などに用いる。

〈アミノ樹脂塗料〉メラミンや尿素などのアミノ化合物のホルムアルデヒド縮合物を，低級アルコールで変性したアミノ樹脂を用いた塗料。常温乾燥型と加熱乾燥型がある。常温乾燥型塗料は一般に酸硬化型で，その代表的なものはメラミン樹脂塗料・尿素樹脂塗料である。これらはメラミンまたは尿素樹脂70〜60%，短油性アルキド樹脂30〜40%からなる基剤に，酸性硬化剤を使用直前に2〜10%混合して用いる。速乾性で塗膜は肉持ちがよく，かたくて光沢に富み，木工透明塗装などに用いられる。加熱乾燥型は，可塑化能力の大きいもの，またはアミノ樹脂の官能基と反応して強靭(きょうじん)な塗膜を形成する樹脂とアミノ樹脂とを組み合わせたものが用いられる。代表的なものはアルキド樹脂と組み合わせたアミノアルキド樹脂塗料である。組成はアミノ樹脂40%以下，アルキド樹脂60%以上からなり，アミノ樹脂としてはおもにブタノール変性メラミン樹脂が，アルキド樹脂としては未反応の水酸基を適当に残した不乾性油変性短油性あるいは半乾性油変性中油性アルキド樹脂が用途に応じて用いられる。塗膜はかたく，光沢に富み，耐溶剤性・耐水性・耐候性がすぐれている。これらは焼き付け塗料として広範囲の用途に使われ，特に家庭用電気器具および自動車の塗装には多量に用いられている。

〈アルキド樹脂塗料〉アルキド樹脂を塗膜形成要素とする塗料。塗料用アルキド樹脂は多塩基酸と多価アルコールの縮合物を脂肪油(酸)で変性した油変性型のほか，各種合成樹脂や天然樹脂・ビニル単量体*などで変性した樹脂で，樹脂の構成原料・変性剤により所望の性能のものが得られる。常温乾燥型と加熱硬化型がある。常乾型は金属塩乾燥剤を用いて酸化重合で乾燥し，その塗膜は油性塗料に比べて乾燥性・かたさ・付着性・耐化学薬品性および耐候性などが数段すぐれている。建築・橋梁(きょうりょう)・船舶および工業製品の上塗り用および下塗り用として広く用いられる。加熱硬化型はアミノ樹脂塗料参照。

〈エポキシ樹脂塗料〉1分子中にエポキシ基を2個以上有するエポキシ樹脂，一般にはビスフェノールAとエピクロルヒドリンの反応物を塗膜形成要素とする塗料。塗膜は靭性(じんせい)に富み，かたく，特に付着性・耐化学薬品性にすぐれ，防食用・船舶用・建築用およびかん用その他工業用機器などの下塗りおよび上塗りに広く用いる。

〈塩化ビニル樹脂塗料〉塩化ビニルを基体とした重合体を塗膜形成要素とする塗料。ゾル塗料，エマルジョン塗料などがある。塗膜は一般に耐薬品性・耐水性・耐油性がすぐれ，耐化学薬品用・かん用・船底塗料およびコンクリート用塗装などに用いる。

〈ケイ素樹脂塗料〉ケイ素樹脂を塗膜形成要素とする塗料。ポリシロキサンあるいはこれと他の合成樹脂を混合または共縮合した樹脂を用いる。焼き付け塗膜は耐熱性をはじめ耐水性・電気絶縁性・耐候性・耐薬品性にすぐれているので，耐熱用・耐寒用・プレコート用・絶縁用などの塗料として用いる。

〈フェノール樹脂塗料〉フェノール樹脂を塗膜形成要素とする塗料。熱可塑性油溶形フェノール樹脂を用いたものが多く，乾性油と混合したものの焼き付け塗膜は乾燥性・耐水性・耐薬品性がすぐれ，船舶用・車両用の下塗り用および上塗り用，耐薬品塗料などに用いる。

〈フッ素樹脂塗料〉ポリフッ化ビニリデン・フッ化ビニル樹脂を溶媒に分散した塗料。焼き付け塗膜は強靭で耐候性がきわめてすぐれ，また，耐寒・耐熱および耐薬品性にもすぐれている。建材用アルミ板・鋼板・トタン板のプレコート用，耐薬品塗料として需要が伸びつつあるが価格が高い。

〈不飽和ポリエステル樹脂塗料〉α-β不飽和二塩基酸とグリコール類を主体とした重縮合物を，スチレンなどのビニル単量体に溶解した塗料。重合触媒と促進剤を加えて硬化させるが，塗膜表面の硬化障害を防ぐためパラフィンワックスなどを加える。塗膜は表面硬度・平滑性にすぐれ，目やせ・肉やせが生じにくい。ワニスとして木工塗装に広く用いられ，また，体質顔料を塗り

込み，パテおよびサーフェーサーなど下地用塗料に用いる。

〈ポリウレタン樹脂塗料〉 ウレタン結合を塗膜形成要素として含んだ塗料。ウレタン結合を塗料中に含むものと，塗膜形成過程で遊離イソシアネート基が活性水素化合物または空気中の水分と反応して生成するものとがある。塗膜は耐摩耗性・たわみ性・耐候性および耐薬品性にすぐれ，車両・木工・建材・プラスチックなどの塗装に用いる。塗膜の黄変が欠点であるが，改良品も市販されている。〔鈴木荘司〕

こうせいしょう【厚生省】 社会福祉・社会保障・公衆衛生に関する事務を取り扱う国の中央行政機関。厚生大臣がその長。1938年(昭和13)内務省から分離し，国家行政組織法*(1948年，法律第120号)により設置された。内部部局に大臣官房のほか公衆衛生・環境衛生・医務・薬務・国立公園・社会・児童家庭・保険・年金・引揚援護の各局，外局には社会保険庁があり，また，人口問題研究所・国立栄養研究所・国立病院・国立身体障害者更生指導所・社会保険審査会・食品衛生調査会などの試験所・研究所・調査会を付属機関としてもつ。地方支分部局として各地の地方医務局・麻薬取締官事務所がある。〔寺尾方孝〕

こうせいしょう【江西省】 チヤンシー省 中国，揚子江中流南岸の省。面積16万4,800 km^2。人口2,300万(1972年推)。2省轄市(南昌(なんしょう)・景徳鎮)，2管理局(廬山(ろざん)，井岡山(せいこうざん))，7専区に分かれ，5市，80県を統括する。省都は南昌。省のほぼ中央を贛江(かんこう)が北流して鄱陽湖(はようこ)に注ぎ，揚子江に流入する。気候は温暖で，降水量も豊かなため，スギ・クスノキなどの林産物が多く，米・茶・チョマなどの産も豊富である。西華山のタングステン，萍郷(ひょうきょう)の石炭，九江の鉄鉱，鄱陽湖周辺の陶土など地下資源にも恵まれる。この陶土を利用した景徳鎮の陶磁器工業は著名な伝統工業であり，中華人民共和国成立後は南昌・九江などで紡績・化学・機械などの近代工業も行なわれている。古来，贛江をさかのぼり，大庾嶺(だいゆれい)を越えて広東(カントン)省に至る峠道は，南北交通の幹線路として有名であった。現在，揚子江・贛江本支流の水運は盛んに行なわれている。鉄道交通は浙贛(せっかん)鉄道(杭州(こうしゅう)～株州(しゅしゅう))・南潯(なんじん)鉄道(南昌～九江)・鷹厦(ようか)鉄道(鷹潭(ようたん)～厦門(アモイ))によって行なわれ，鉄道による沿海地方への連絡も可能となっている。南西部の井岡山は，1927年南昌暴動失敗後の中国共産党の革命根拠地として知られ，福建省境に近い瑞金(ずいきん)は1929～1934年の間，中国共産党指導部の根拠地となっていた。〔船越昭生〕

こうせいしょうしょ【公正証書】 広義には公務員がその権限に基づいて適法に作成した証書のことであるが，一般には公証人*が法律行為その他私権に関する事実について作成した証書をいう(公証人法1条)。金銭の貸借，抵当権の設定，遺言などに関するものや，会社の定款の認証などがその例である。公証人のつくる公正証書でも，公証人法など法律の定める要件を備えない場合は公正証書の効力を生じない。公証人が聴取または目撃した状況その他を証書に記載し，公証人および列席者が各自署名捺印(なついん)をすれば強度の証拠力をもち，またある種の公正証書(民事訴訟法559条3号)は債務名義*と認められ，執行力を有する。〔内田剛弘〕

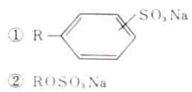
こうせいしんりがく【構成心理学】 意識を分析してその構成要素を抽出し，要素の複合として人間の行動および意識過程を説明しようとする心理学。内観によって経験をとらえ，それらを詳細に記述する方法がとられる。この学派の代表者ティチェナー*は，心的要素として，感覚・表象・感情の3要素を取り出している。

こうせいせつ【後成説】 生物の発生において，はじめ単純な状態であったものがしだいに複雑な状態へと発展し，新たにいろいろな構造ができてくるという考え方で，最初から備わっているものが展開していくとする前成説*に対する。すでにギリシア時代，アリストテレスは一種の後成説的な見解をもっていたが，17～18世紀ごろは前成説が優勢となり，19世紀にはいって実験発生学の分野が進むにつれて後成説的な立場に立つ考えが強くなっている。〔蒲原春一〕

ごうせいせんい【合成繊維】 化学繊維の一グループで，重合高分子から製造される繊維。再生繊維・半合成繊維が天然の繊維状物質を原料とするのに対し，粗原料として石炭・石油・天然ガスを用いる。これら粗原料から得られる化学薬品を化合させて単量体*をつくり，これを重合させて高分子多量体を形づくり，さらに溶解または溶融して繊維を紡出する。高分子物質は鎖状の分子で原料薬品の種類に応じ数多い繊維がつくりだされるが，その中で繊維として使用に適する条件を備えたものが実用化されている。生成の形式や原料によって，ポリアミド系(ナイロン*)・ポリビニルアルコール系(ビニロン*)・ポリ塩化ビニリデン系(ビニリデン*)・ポリ塩化ビニル*系・ポリエステル*系・ポリアクリルニトリル系(アクリル*)・ポリエチレン*系・ポリプロピレン*系・ポリウレタン*系(スパンデックス)などの種類が生産されている。

合成繊維に共通な特性としては，一般に比重が小で軽いこと，吸水性が低く，中にはまったく吸水しないものもあること，耐熱性が低いこと，弾力に富むこと，強度が大で摩耗に耐えること，虫やかびに侵されないことなどがあげられる。これらの特性が利用されて，単独純製品として用いられる以外に，多くの場合に天然繊維・レーヨン類などと混用されて特長を発揮し，互いに欠点を補い合って用途に適する製品をつくっている。衣料としては，しわがつきにくく，収縮せず，形がくずれず，取り扱いが簡単であるために活用されやすい。強度が大で耐久性に富むために，漁網・綱索・機械用品・屋外用品・化学工業資材・電気工業用品などの特殊の用途に向けられて需要が多い。したがって，近来その生産量は急増して他の化学繊維と接近しつつあり，今後なお発達していくものと予測されている。〔小川安朗〕

ごうせいせんざい【合成洗剤】 せっけん以外の洗浄剤の総称。



主として石油化学製品を原料として合成され，いずれも界面活性剤*の一つである。せっけんは，主原料が食用油脂と競合したり，また硬水中では金属せっけんを生じ，酸性水中では加水分解していずれも洗浄能力を欠くなどの弱点をもつが，これをカバーしうるものとして，第2次世界大戦以後，合成洗剤の需要は世界的に伸展している。

合成界面活性剤ならどれも合成洗剤となりうるわけであるが，原料供給・価格・性能の面で，最も有利なアルキルベンゼンスルホン酸のナトリウム塩がいちばん普通に使われ，そのほかに，高級アルコールの硫酸エステル塩も用いられる。これらは，いずれもアニオン界面活性剤であるが，非イオン活性剤が用いられることもある。せっけんが高級脂肪酸RCOOH(Rはアルキル基)と強アルカリNaOHの塩なので，その水溶液はアルカリ性を呈するのに対して，合成洗剤は本質的には中性なので，中性洗剤とよぶこともある。わが国でも1959年(昭和34)ごろから合成洗剤の生産は急速に伸び，現在は，化粧せっけん以外はほとんど家庭用・工業用とも合成洗剤に置き換えられ，台所用の食器・野菜の洗浄という新しい洗浄剤の用途も開拓された。一方，その急速な進展に伴って，洗剤廃液の蓄積による水質汚濁という新しい公害が問題になった。せっけんと違って合成洗剤は化学的のみならず生物学的にも安定で，微生物による腐敗・分解がすみやかに起こらないためである。これに対しては，アルキル基に直鎖状のものを用いることで問題解決が図られている。このような生分解性合成洗剤をソフト洗剤とよぶ。〔伊藤　卓〕

ごうせいせんりょう【合成染料】⇒染料

こうせいどうぶつ【後生動物】 原生動物(単細胞動物)を除くすべての動物をいう。したがって後生動物は多細胞よりなる動物である。これらの細胞は単に集合しているだけではなく，2層または3層の胚葉(はいよう)に配列されて種々分化し，組織をつくるので，胚葉動物・組織動物ともよばれる。生殖は有性生殖を基本とする。中生動物*・

側生動物*(海綿動物門)を除く残りを，真正後正動物とよぶ。

こうせいとりひきいいんかい【公正取引委員会】 1947年(昭和22)に制定された独占禁止法*に基づき，その実施・運営のために設けられた委員会。アメリカの連邦取引委員会に相当するが，わが国の公正取引委員会のほうがより広範な権限を付与されている。法律・経済の専門家からなる5名の委員によって構成され，委員は国会の同意の下に内閣総理大臣が任命し，その任期は5年である。市場の独占的支配を意図するような価格および生産数量についての協定(カルテル*)，差別価格などの不正競争，株式取得・役員兼任・合併などの独占禁止法違反行為を監視し，是正することをその任務とする。そのため，外部からの提訴または委員会みずからの調査によって違反事実を調査し，一定の審査手続きを経て行政上の適当な措置をとることができる。その任務の性質から委員の身分は保障されており，特に調査および審査について必要と認める場合には種々の強制処分を行なう権限を有している。しかし，その活動のよりどころである独占禁止法自体が1953年の改正によって不況カルテル*や合理化カルテル*を認めるようになり，競争会社の株式保有や役員の兼任に対する制限を緩和するようになってきている。また，経済の効率化を図り，国際競争力を強化するために，企業の集中・合併が産業界の要請によって進められており，新日本製鉄*にみられるような大形の合併も認められてきている。〔加藤　寛〕

こうせいねん【恒星年】 太陽が天球上のある一定の恒星の位置から出発して再び同じ位置にくるまでに要する時間。恒星年は，天球上の一定方向を起点としてはかるものであるから，地球が太陽のまわりを公転する周期を表わしている。1恒星年の平均の値は365.25636042平均太陽日である。この値は1900.0年における値であって一定ではなく，他の惑星の影響により100年間に1.1×10^{-7}平均太陽日，言い替えれば10,000年で約1秒だけ1恒星年は長くなる。1恒星年は1太陽年より約20分24秒長い。〔木下　宙〕

こうせいねんきんききん【厚生年金基金】 ⇨調整年金

こうせいねんきんほけん【厚生年金保険】 一般労働者の老齢・廃疾・死亡などの場合に，保険給付として年金あるいは一時金を支給し，労働者とその遺族の生活の安定，福祉の向上に寄与することを目的とする制度。社会保険*制度の一つであり，1941年(昭和16)制定の労働者年金保険法(1954年，厚生年金保険法と改められる)によって始められた。事業主体は政府であり，会社・工場・商店・鉱山などの事業所で常時5人以上の従業員を使用する被用者は，すべてこの保険に加入することを義務づけられている。5人以下または法律で強制適用外とされている事業でも，都道府県知事の認可を受けて適用事業所となったところに使用されているものは，この保険に加入できる。国庫は予算の範囲内で事務費を負担し，また給付費の15%，坑内夫については20%を負担する。基本年金額は次の算式による。

(400円×被保険者期間月数)＋(平均標準報酬月額×10/1,000×被保険者期間月数)

従来から給付水準が低く，生活保護の意義が少ないうえに，最近は老人問題が社会問題として注目を浴びるようになり，厚生年金保険の整備と改善が要望されている。また，インフレーションに基づく貨幣価値の低下が大きな障害をもたらしている。➔国民年金〔庭田範秋〕

ごうせいのすけ【郷誠之助】(1865～1942) 明治・大正・昭和3代にわたる財界人。岐阜県の生まれ。東京大学・ハイデルベルク大学で法学を学び，一時農商務省に勤めたが，1895年(明治28)財界入りを決意して日本運輸会社社長に就任，1911年には東京株式取引所理事長となり，13年間その改革に努めた。その後多くの企業合併の斡旋(あっせん)，不振企業の建て直しに力を尽くし，財界世話役として手腕を発揮，日本商工会議所会頭をはじめ各種財団の会長を歴任した。第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)とともに内閣参議をつとめ，戦時経済体制の形成に従事した。〔片岡一郎〕

ごうせいひかく【合成皮革】 化学的につくり出された皮革類似物質。外見と機械的性質だけが天然皮革に似ているものを擬革*(いわゆるレザー)というのに対し，天然皮革のいちばんの特性である吸湿性・透湿性を備えたものをいう。最初に登場したのはナイロン系合成皮革で，その後ウレタン系合成皮革の出現により一段と天然皮革に近いものとなった。

〈ナイロン系合成皮革〉1960年(昭和35)に日本で開発されたもので，ナイロンを塩化カルシウムのはいったメタノールにとかし，これを布または不織布上に塗布，乾燥後水洗いをすると残存する塩化カルシウムが抽出除去されて微細多孔が生ずるという方式がとられる。この連続微多孔によって通気性が生じたということ以外，本質的には擬革と変わるところはないが，表面強度を多少犠牲にしても外見や感触を重視する製品に使用され，その生産量も多い。

〈ウレタン系合成皮革〉1963年，アメリカのデュポン社ではじめて発表され，一歩遅れてわが国でも1965年に数社から発表されたもので，現在，紳士用ぐつの甲革の代替品となりうる唯一の合成皮革といえる。従来の擬革が，布・不織布などの基材に合成樹脂を塗布または張り合わせたにすぎないのに対し，これは，皮の三次元的構成を基材・合成樹脂の巧妙な組み合わせで再現した点が大きく異なる。デュポン社はこの種の性質をもつ新素材をポロメリック材料と命名し，くつ用のものをコルファムという商品名で発表した。ポリエステルの不織布にニードルパンチ(細かい穴)を施し，熱水処理で収縮させたものを基材とし，これにポリウレタンの溶液をしみ込ませてから溶剤を抽出して微多孔性とし，その上に織物・微多孔性ポリウレタンスポンジを重ねてからアクリル樹脂の塗装を施したものである。

元来，原皮の8割以上を輸入に依存しているわが国では，特に合成皮革に対する要求が強く，開発・生産の発展は世界的に著しい。〔伊藤　卓〕

こうせいぶっしつ【抗生物質】 広義には微生物その他生物から得られ，生活細胞の発育その他の機能を阻止する物質をいう。1941年アメリカのワックスマンによって，微生物が産生し，微生物の発育その他の機能を阻止する物質を抗生物質とよぶとアメリカ細菌学会に提案され，1945年ごろから広く使われることになった。その後，高等植物および動物の組織から得られる物質で，微生物の発育を阻止する物質や，微生物の培養液から得られる腫瘍(しゅよう)細胞を阻止する物質も抗生物質とよばれるようになった。抗生とは2種の生物が互いに拮抗的に働き，相手の発育・生存を阻止することをいい，ともに利益をもたらしあう共生に対する用語である。微生物相互間の拮抗現象は，すでに1876年チンダルがヒツジの

抗生物質

抗グラム陽性菌	ペニシリン・バシトラシン・ノボビオシン	抗結核菌	ストレプトマイシン・バイオマイシン・サイクロセリン・カナマイシン
抗グラム陽性菌および抗リケッチア	エリスロマイシン・カルボマイシン・スピラマイシン・コリスチン	抗かび	ナイス・タチン・バリオチン・グリセオフルビン
抗グラム陰性菌	ポリミキシン・コリスチン	抗かびおよび抗原虫	トリコマイシン
抗グラム陽性菌および陰性菌	ストレプトマイシン・クロラムフェニコール・テトラサイクリン類・フラジオマイシン・オーレオマイシン・セファロスポリンC	抗腫瘍	アクチノマイシン・ザルコマイシン・アザセリン・ミトマイシン・ブレオマイシン

肉汁(にくじゅう)中の青かびについて，また翌年パスツールが培養液中の炭疽(たんそ)菌について観察した報告がある。しかし，近代抗生物質の研究のはじまりはフローリーらのペニシリンの再発見であるといわれる。すなわち，1929年フレミングは一つの青かびがグラム陽性菌を阻止する物質を産生することを発見したが，治療薬にするまでの研究は行なわれなかった。その後1938年からフローリーらによってペニシリンの抽出および単離が試みられ，1941年にはじめて細菌感染に強力な治療効果が確認された。これが誘因となり有効な抗生物質を発見しようとする研究が急速な進歩を遂げた。現在までに1,000種以上の抗生物質が発見され，そのうち数十種類が医学的治療に利用されるほか，発育促進剤として飼料に添加し，魚類や野菜の新鮮度の維持や農薬として植物病の予防と治療にも使用されている。しかし，抗生物質は必須(ひっす)の化学療法薬となった反面，その使用頻度(ひんど)や投与量の増大が，耐性菌の発現や副作用による事故などを起こしていることに注目しなければならない。最初耐性が認められたのは，ストレプトマイシンに対する結核菌であり，テラマイシン類やクロラムフェニコールに対する赤痢菌などがある。特にペニシリンに対するブドウ状球菌の耐性は強いことが知られている。このため，これら耐性菌に有効な抗生物質が開発されるとともに，他の化学療法薬を併用するなど，効果的投与法も研究されている。次に副作用としては，ペニシリンに特に多くみられるアレルギーやアナフラキシー，これに伴うショックなどがある。その他，ストレプトマイシン・カナマイシンの難聴などの神経障害，各種のものにみられるビタミンB_2欠乏症，広い抗菌スペクトルのものを経口的投与したときに起こる菌交代現象，特にモリニア症のカンジダは肺・肝臓などに感染して致命的なときもある。また，最近奇型児や血液障害の問題でも注目されている。現在の研究目標は，癌(がん)などの抗腫瘍性抗生物質，および日本脳炎・天然痘・狂犬病などの抗小型ウィルス性抗生物質の発見に向けられている。〔川村次良〕

こうせいほご【更生保護】 犯罪を犯した者の社会復帰を促進するために行政官庁によって行なわれる援助措置をいう。この措置を定めた法律を犯罪者予防更生法といい，1949年(昭和24)に制定・施行された。この法律の目的は，犯罪を犯した者の改善および更生を助け，恩赦の適正な運用を図り，仮釈放その他の関係事項の管理について公正妥当な制度を定め，犯罪予防の活動を助長し，もって社会を保護し，個人および公共の福祉を増進することをねらっている。更生保護を取り扱う国家機関としては，法務大臣が衆・参両議院の同意を得て任命する5人の委員をもって構成する中央更生保護審査会と，3人ないし12人以下の委員をもって構成する地方更生保護委員会ならびに保護観察所などがある。中央更生保護委員会の重要な職務は，①法務大臣に対して，特赦，特定の者への減刑，刑の執行の免除または特定の者に対する復権の実施について申し出ること，②地方更生保護委員会の決定について審査・裁決することなどである。また地方更生保護委員会の重要な職務は，刑期満了前に服役中の者を仮釈放したり仮出場させたりすることである。〔内田剛弘〕

こうせいようけん【構成要件】 ある行為が犯罪として処罰されるためには，まず刑法の規定にあてはまることが第1の要件である(➔罪刑法定主義)。なにが犯罪であるかは法律上特に規定された一定の行為類型によって決められる。この行為類型が構成要件であり，犯罪であるためには構成要件に該当することがまず第1の要件である。たとえば〈あき巣ねらい〉の行為は，まず，〈ゆえなく人の住居に侵入し……〉という刑法130条の構成要件にあてはまるとともに，〈他人の財物を窃取し……〉という刑法235条の構成要件にもあてはまる。この場合，住居侵入罪のように，侵入行為があればそれだけで構成要件に全部あてはまる場合を〈構成要件を充足する〉といい，このような構成要件を挙動犯(形式犯)という。これに対し，窃盗罪の構成要件は財物を盗み取るという結果まで規定しているから，家人に発見されて物も取らずに逃げ出した場合は，構成要件の一部にあてはまるだけである。このように，構成要件が行為とその結果まで規定している場合を結果犯(実質犯)という。一部にあてはまる場合を〈構成要件に該当する〉といい，未遂が問題となる。➔犯罪〔野口恵三〕

こうせき【鉱石】 利益をもって採掘・製錬をすることができる鉱物，あるいは鉱物の集合体。狭義には金属鉱物に限定している。鉱石には，ふつう無用な鉱物が混じっており，これを脈石という。

こうせき【黄石】 ホワンシー 中国，湖北省南東部の揚子江右岸にある新興鉱工業都市。人口約30万(推定)。旧名石灰窰(せっかいよう)。もとは大冶(だいや)県に属していたが，中華人民共和国になってから市制を敷いた。石灰の産出地として知られ，華新水泥(セメント)公司など大規模なセメント工場がある。西方約25kmに大冶鉄山があり，市と結ぶ鉄道・道路は整備されており，華中鉄鉱公司などの製鉄工場も建設されている。黄石港は市の北方4kmにあり，大形船も停泊でき，鉄鉱石・綿花などを積み出す。〔船越昭生〕

こうせきうん【高積雲】 雲片が規則的に並んで，絹積雲に似ているが，絹積雲より低い2,000～6,000mぐらいの高さにできる水滴と氷晶の混合から形成されている雲。この雲のできる高さは気温0℃以下になっているが，過冷却状態にあって水滴のままでいるものがある。絹積雲と同じように，薄い高積雲には彩雲ができ，また太陽や月のまわりに暈(うん)をつくることがある。高積雲は上層雲と並んで低気圧や前線の接近を示す場合がある。また，上空の風が強いとレンズ雲になることが多く，強い風が山岳にぶつかると，風下側にレンズ雲をつくりやすい。➔雲〔曲田光夫〕

こうせきけんぱき【鉱石検波器】 検波器として用いる半導体ダイオードの俗称。もと，ホウエン鉱・オウテッ鉱などの天然鉱石を検波器として使用したのでこの名があるが，カーボランダム・シリコンなどの人工の結晶物なども使われる。➔鉱石ラジオ

こうせきせい【洪積世】 新生代第四紀を2分して，その前半の時代。更新世・最新世ともいう。➔地質時代

こうせきラジオ【鉱石ラジオ】 高周波同調回路とダイオード検波回路だけからできており，増幅器を含まないラジオ受信機。もとダイオード検波器を鉱石検波器といったのでこの名が残っている。送信所の近くのような強電界強度の地域でないと受信できない。また，検波器が高周波同調回路の負荷になるのでQ(共振回路の共振の鋭さを表わす値)を高くとることができず，異なった放送局を分離する特性が悪い。

こうせつ【交接】 ⇨性交

こうせっこう【硬石膏】 セッコウの結晶水のないもの。$CaSO_4$ 斜方晶系，比重2.93，硬度3。セッコウやガンエンに伴って産する。現在のところセメント原料として一部で利用されるほかに用途がない。

こうせつこうりしじょう【公設小売市場】 地方公共団体・公益法人が経営し，各種の商品を陳列・売却する市場をいう。わが国における最初の設立は，1918年(大正7年)に第1次世界大戦の影響を受けて物価が騰貴し，全国的に米騒動が生じたときに設けられた米の廉売所である。主として食料品を中心に，適正価格で売ることを目的としている。市場の営業成績は出店している業者の能力に依存するため，その選択は資産状態・業種・経験などの観点から慎重に考慮され，かつ十分な監督が行なわれている。〔清水 晶〕

こうせつへいや【江浙平野】 チャンチョー平野 中国東部，浙江省・江蘇(こうそ)省を中心とする揚子江下流部の沖積(ちゅうせき)平野。デルタ部分，特に太湖周辺は大部分10m以下の低湿地で，水郷景観を呈し，灌漑(かんがい)水路網が発達している。華中の経済活動の中枢部で，米作を中心とした中国の穀倉地帯を形成し，古くから〈江浙実らば天下飢えず〉とまでいわれる。上海(シャンハイ)・蘇州・杭州(こうしゅう)などの都市が発達し，絹織物を主とする繊維工業，化学・機械などの重化

学工業の発展も著しい。〔千田　稔〕

こうせつれっとうじょうちゅう　【広節裂頭条虫】　扁形（へんけい）動物・条虫綱に属する寄生虫。世界各地に広く分布する。わが国では北海道・北陸・利根（とね）川流域などに多いとされているが，近年は著しく減少した。成虫は長さ10mにも達するものがあり，体節は数千にも及ぶ。体幅は最も広い部分で1.5cm以上。頭節は棍棒（こんぼう）状で長さ２～３mm，背腹両面に深い吸溝（きゅうこう）がある。このためミゾサナダの別名がある。卵は楕円（だえん）形で一端に蓋（ふた）があり，水中で発育し，体表に多数の繊毛がある幼虫コラシジウムとなって泳ぎ出る。コラシジウムは第１中間宿主のケンミジンコに取り込まれ，プロセルコイドという幼虫になる。第２中間宿主のマス・サケなどにケンミジンコとともに取り込まれ，その筋肉内で長さ数センチの白いひも状の幼生プレロセルコイドとなる。これらの魚肉を不完全な調理で食べると感染し，プレロセルコイドは小腸上部で成虫となる。感染後４週間ほどで産卵を始める。感染による症状は，貧血（裂頭条虫性貧血）や消化器障害など。治療はアテブリンやビチオノールなどが著効がある。予防は第２中間宿主であるサケ・マスなどの生食を避けることである。〔山本　久〕

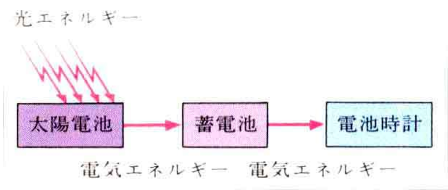
こうせん　【光線】　⇨光

こうせん　【鉱泉】　⇨温泉

こうせん　【香煎】　〈こがし〉ともいう。米・大麦・ハダカムギなどをいって粉末にしたもの。これに種々の香気成分を混ぜることもある。甘味または塩味をつけてそのまま食べたり，熱湯を入れてゆがいて食べる。麦類を原料としたものを，特に麦粉菓子といい，いり粉・はったい粉ともよぶ地方もある。

こうせん　【工船】　船内に漁獲物の加工・製造設備をもち，自船に所属する漁船がとった魚類を受け取って加工・製造し，さらに貯蔵する船。多くは冷凍・冷蔵設備ももっている。また，多くは母船も兼用していて，所属船に食糧・燃料・清水などを供給する。漁獲物の種類により，カニ工船・サケ－マス工船・クジラ工船・ニシン工船・フィッシュ－ミール工船などがある。

こうせん　【勾践】　（？～BC465）　中国，春秋時代の越の君主。在位，BC496～BC465年。父の允常（いんじょう）以来，越は北方の呉と対抗関係にあったが，勾践が越王となると積極的に呉に戦いをいどんだ。いったん呉王の夫差*に敗北すると，賢臣范蠡（はんれい）の策に従い，会稽（かいけい）山に臥薪嘗胆（がしんしょうたん）して富国強兵を図り，BC473年，ついに呉を破って，会稽の恥をそそいだ。のち，北に軍を進め，淮水（わいすい）を越えて斉（せい）や晋（しん）の諸侯と徐州で会盟し，周の王室からも伯（諸侯の統率者）と認められ，覇王（はおう）と称された。〔小南一郎〕



光線時計　構造原理図

こうせん　【黄筌】　（？～965）　中国，五代の蜀（しょく）の宮廷画家。字（あざな）は要叔（ようしゅく）。後蜀宮廷の翰林待詔（かんりんたいしょう），のち少府監，如京副使。唐末の刁光胤（ちょうこういん）を師として花鳥画を学び，明瞭（めいりょう）な輪郭線を用いた色彩豊かな装飾画体である黄氏体*をつくり出し，以後はこれが画院の伝統となった。同時代の徐熙*（じょき）が創始した没骨*（もっこつ）の画体は徐氏体*といわれ，両者が中国の花鳥画風を二分する潮流となった。黄筌の子黄居寀（こうきょさい）も画家で，宋朝（そうちょう）の画院に黄筌風を伝えた。〔中島純司〕

こうせんけん　【交戦権】　①自国の領土が他国の急迫不正の武力攻撃によって侵害された場合に，それを自国の軍事力による戦闘行為で排除できる権利。日本国憲法９条はこれを否認している。②国際法上一般に認められている交戦国の権利。すなわち，俘虜（ふりょ）の取り扱いや船舶の臨検・拿捕（だほ）や占領地行政についての権利をいう。

こうせんでんわ　【光線電話】　搬送波として光を用い，これを適当に音声で変調して伝送することによって達成する電話。指向性が強く，主として軍用などの近距離の秘密通信に用いられる。

こうせんどけい　【光線時計】　太陽電池*を電源とした電池時計。光電時計ともいう。1955年，スイスのパテック－フィリップ社が開発したもので，基本的には電池時計と太陽電池とを組み合わせたものである。太陽電池で光エネルギーを電気エネルギーに変換して，これを蓄電池に蓄積し，この蓄電池によって電池時計を動かす。したがって，電池交換の必要もなく，一定量の光があれば半永久的に動き続けることができる。

こうせんりょうほう　【光線療法】　光線を利用する治療法。光線は波長によって種種の異なる生理作用を示すが，ふつう光線療法では紫外線・赤外線が用いられ，皮膚疾患や疼痛（とうつう）を伴う疾患の治療などに行なわれる。この発生装置には，ふつう水銀燈・ソックスランプ・ミニン燈などが使われている。

こうそ　【酵素】　⇨436ページ

こうそ　【公訴】　検察官が裁判所に対して，特定の犯罪事実について特定の被告人の有罪判決を求める意思表示をいう。刑事訴訟法では公訴は検察官だけがこれを行なうことができるという原則を定めている（247条）。公訴の提起は，検察官が対応する裁判所に対して起訴状を提出してこれを行なわなければならないとされている。民事事件の訴え*に対する。

こうそ　【控訴】　第１審で不利益な判決を受けた当事者が，これを不服として上級裁判所にその取り消しを求めること（➡上訴）。現行法上，控訴裁判所はつねに高等裁判所であって，地方裁判所・家庭裁判所・簡易裁判所の判決から申し立てられる。したがって，内乱罪のように第１審が高等裁判所管轄の場合には控訴はなく，上告*のみである。控訴には第１審判決後14日以内に行なうことを要し，控訴趣意書にその理由を記載して行なう。控訴裁判所は，審理の結果控訴理由のない場合は控訴棄却の判決をし，理由のあるときは原判決を破棄のうえ，差しもどし*（原裁判所）・移送（他の裁判所）の判決を行なう。なお控訴裁判所は，訴訟記録や取り調べた証拠によって直ちに判決を下すことができる（➡破棄自判）。〔井上公耳〕

こうそ　【高祖】　中国で，一般に創業の帝をいう。漢の高祖劉邦（りゅうほう）のほか，南朝宋（そう）の劉裕，梁（りょう）の蕭衍（しょうえん），陳の陳覇先（ちんはせん），北周の宇文邕（うぶんよう）はみな高祖武帝，後魏（こうぎ）の拓跋宏（たくばつこう）を高祖孝文帝，北斉（ほくせい）の高歓を高祖神武帝，隋（ずい）の楊堅（ようけん）を高祖文帝，唐の李淵*（りえん）を高祖神堯帝（しんぎょうてい）という。➔次項

こうそ　【高祖】　中国，前漢初代の皇帝。在位BC206～BC195年。姓は劉（りゅう），名は邦。江蘇（こうそ）省の中産の農家の生まれ。陳勝・呉広らの反乱を見て項羽*らとともに討秦（しん）の兵をあげ，他にさきがけて咸陽（かんよう）を落としたが，項羽は約にそむいてこの地を与えず，漢中王に封ぜられた。以後，蕭何*（しょうか）・韓信*（かんしん）・張良*の三傑を率いて戦った５年間にわたる〈楚漢の争い〉の結果，ついに項羽を破って天下を統一した。彼の統治策は，封建制と郡県制を併用して秦の急激な改革を和らげ，租税を軽減し，異姓の諸侯を漸次一族に置きかえるなど，後世の手本となるところが多く，創業の手本とされる。しかし，その生涯（しょうがい）を伝える《史記》《漢書》は漢代に記せられたもので，伝説的要素も多く加わっている点に注意が必要である。〔米田賢次郎〕

こうぞ　【楮】　双子葉植物・クワ科。本州・四国・九州の山野に自生する落葉低木。高さ５ｍくらいになり，長い枝を出し，樹皮はかっ色。葉は互生し，卵形で鋸歯（きょし）があり，若木のものは３～５裂する。春，葉が伸びると同時に開花する。雌雄同株で，雄花は穂になって若枝の基部につき，雌花は同一の枝の葉腋（ようえき）に小花が球形に集まってつく。６月ごろ，雌の花序が熟してイチゴのような赤い液果になる。製紙原料として，田畑の縁に栽培され，年々根ぎわ

から刈り取るので，栽培されているものは枝分かれが少なく，太くならず，高さも2mほどにしかならない。コウゾの繊維はガンピ・ミツマタのものよりもよくからみあい，美濃紙(みのがみ)・程村紙(ほどむらし)・西の内紙などの和紙の原料にされている。
〔横井朝子〕

ごうそ【強訴】嗷訴とも書く。徒党を組んで訴えること。古くは寺院の僧兵，神社の神人(じにん)が大挙して朝廷に訴えたことをいった。延暦(えんりゃく)寺の衆徒が日吉(ひえ)神社の神輿(しんよ)を，興福寺の衆徒が春日(かすが)大社の神木を奉じて強訴したことは有名。寺社の強訴は平安中期から院政時代に特に激しかった。これとは別に，中世・近世を通じて農民が年貢(ねんぐ)減免などの要求を掲げて荘園(しょうえん)領主に，次いで封建領主に強訴することがしだいに起こり，逃散(ちょうさん)・一揆(いっき)とともに領主に対する最も強い抵抗手段とされていた。
〔菊池礼子〕

こうそう【高宗】帝王の廟号(びょうごう)の一。殷(いん)の武丁を高宗というが，南斉(なんせい)の明帝(みんてい)蕭鸞(しょうらん)，陳の孝宣帝陳頊(ちんぎょく)，後魏(こうぎ)の文成帝拓跋濬(たくばつしゅん)，唐の3世李治，南宋(なんそう)初世の趙構(ちょうこう)，清(しん)の6世乾隆帝(けんりゅうてい)・高句麗(こうくり)の2・3世王瞰(おうてつ)，ベトナム李朝の7世龍翰(りゅうかん)らはいずれも高宗とよぶ。➝乾隆帝

こうそう【鉱層】堆積(たいせき)作用によって生じた鉱床。堆積岩と同じように層状をなす。有用成分を含んだ水が陸地から海や湖に流入し，または有用な成分を含んだ水が河川として流動中に化学反応または特殊なバクテリアの作用(生化学反応)によって有用成分が鉱物質として沈殿し，のちに土砂をかぶって鉱層となる。海水が蒸発して塩類を沈殿したのち土砂をかぶったもの，水の淘汰(とうた)作用によって砂鉱を生じ，これがのちに土砂をかぶったものもある。ヨーロッパ中部からイギリスにかけて発展する鉄の鉱層，ドイツのスタッスフルト付近のガンエン層は代表的な鉱層で，わが国には重要な鉱層は発見されていない。
〔今井秀喜〕

こうぞう【構造】数学的な一つの体系の特徴を決定するいくつかの条件。たとえば，数についての種々の性質は，数の集合と大小・和・積などの基本的概念とそれらについての何個かの基本的性質から導き出される。また，平面上の図形の性質についても同じことがいえる。このような基礎となる集合と，それについての概念と，それらの間の基本的関係をその数学的体系の構造(数学的構造)という。

こうぞういせいたい【構造異性体】同一の分子式からなるが，性質が異なるものを互いに異性体という。構造式が異なる構造異性体と，分子式も構造式も同じである



コウゾ　果実は甘味があり，食べられる

が配置の異なる立体異性体とがある。すなわち，構造異性体は二次元的な記述によって互いに区別でき，立体異性体は三次元的な記述によってのみ互いに区別できるものである。構造異性体は次のものに分けられる。①連鎖異性：炭素原子のつながり方が異なるもの。例：ノルマルブタン(CH_3-CH_2-CH_2-CH_3)とイソブタン($\begin{matrix}CH_3\\CH_3\end{matrix}$>CH-$CH_3$)。②位置異性：炭素原子の連なり方は同じであるが，置換基の位置が異なるもの。例：ノルマルプロピルアルコール(CH_3-CH_2-CH_2-OH)とイソプロピルアルコール(CH_3-CH(OH)CH_3)。③核異性：環式化合物で核に結合している置換基の位置が異なるもの。例：オルト-キシレン・メタ-キシレン・パラ-キシレン。④メタ異性：二重または三重結合の位置が異なるもの。例：α-ブチレン(CH_2=CH-CH_2-CH_3)，β-ブチレン(CH_3-CH=CH-CH_3)とイソブチレン(CH_2=C(CH_3)$_2$)。⑤メタメリー：原子団の違いによるもの。例：エチルアルコール(CH_3-CH_2-OH)とジメチルエーテル(CH_3-O-CH_3)。➔立体異性体
〔三輪　誠・海津洋行〕

こうそううん【高層雲】曇りガラスを通したように，太陽がぼんやりわかる程度に灰色がかって空一面に広がっている雲。高層雲の頂は6,000～13,000mぐらいに達して氷晶雲になっているが，雲底は2,000～6,000mで水滴からできている。薄い高層雲は厚い絹層雲に似ているが，高層雲には暈(うん)ができない。層雲も高層雲に似ているが，層雲はもっとずっと低い所にできる。高層雲は上層の空気が一様にゆっくり上昇するときに発生し，低気圧や前線の接近を教えることがある。そして絹層雲が厚くなったり，高積雲がくっつき合ったり，乱層雲が薄くなって高層雲に変わることがある。この雲の下面には，こぶのようなものが見えることがある。また，雨や雪が筋状になって落下していることがあるが，これらは途中で蒸発して尾流雲となっていることが多い。➔雲
〔曲田光夫〕

こうぞうかいかくろん【構造改革論】社会主義革命以前にも，独占資本とたたかうことによって社会主義をめざす経済的諸改革を実現することが可能であり，それゆえ社会主義政党はそのような経済的諸改革を実現するためにたたかわなければならないとする一種の社会主義革命論。最大の特徴は，革命によって資本主義的国家権力を打倒しなくても，社会主義を構成する経済的諸改革が可能であるとするところにある。トリアッチによって体系化され，構造改革は発達した資本主義諸国における社会主義革命路線の重要な構成部分であるとされた。日本においては，1960年(昭和35)前後から特に日本社会党の一部に受容され，その影響力をもつようになった。わが国における構造改革論に対しては，イタリアのような共産党優位の状態が存在しないかぎり，改良主義であり，修正主義であるとする批判がある。➔マルクス主義
〔西尾孝司〕

こうそうぎ【黄宗羲】(1610～1695)中国，明(みん)末清(しん)初の思想家。浙江(せっこう)省余姚(よよう)県出身。字(あざな)は太沖(たいちゅう)，号は梨洲(りしゅう)。父黄尊素は，東林党の名士で獄死した。明王朝の滅亡後，郷里の子弟数百人を糾合して満州の侵略に抵抗したが敗れ，以後清王朝には仕えることなく著述に従事した。著書は，哲学・歴史・文学など各方面にわたるが，中国最初の本格的な哲学史である《明儒学案》，一種の人権宣言ともいわれる《明夷待訪録(めいいたいほうろく)》が有名で，後者は，清末に革新的な政治運動の宣伝パンフレットとしても用いられた。
〔小野和子〕

こうそうきしょう【高層気象】高層大気中に起こる気象現象。高層大気中には，下層ではみられない次のような現象がある。①電離層：高度60km以上の高層大気中には，空気分子が電離して，自由電子密度の大きい層が何層か存在する。このような層は総称して電離層とよばれ，電波を吸収したり反射したりして，球状の地球表面を電波が遠距離まで伝播(でんぱ)するのを助ける。②夜光・オーロラ：高度70kmから1,000kmの範囲にわたって発光気体があって，月の出ない夜間でも多少の明るさをもたらす。夜光は地球上のいたるところにあるが，オーロラは極地方の夜空をいろどる美しい光で，太陽活動と密接な関係があるとされている。③真珠母雲・夜光雲：いずれも高緯度地方にみられ，真珠母雲は20数kmの高度に現われる緑赤色のレンズ状の雲，夜光雲は日出前および日没後数時間以内に70～90kmの高度に現われる絹雲に似た銀色の雲であるが，成因はよくわかっていない。④音波の異常伝播：爆発・砲声などのような大きい音でも，普通は60～80kmぐらいで聞こえなくなるが，100～400kmの遠距離で再び聞こえることがある。これは，音波が高層大気に伝播し，屈折して再び地上に達したものと考えられる。このような異常伝播は高層大気の温度に関係し，異常伝播の観測から逆に温度分布を求めることもできる。
〔曲田光夫〕

酵　素

生体内で合成され，触媒作用をもつ高分子物質。実際には，単純タンパク質あるいはタンパク質とほかの低分子の補助的成分との複合体である。生体内での種々の化学的変化のほとんどは，酵素によって触媒される酵素反応(酵素化学的変化)である。

〔発見と研究の歴史〕酵素作用について最初に重要な実験を行なったのは，イタリアのレオミュール(1713)とスパランツァーニ(1783)の２人である。彼らはタカの食べた肉をしばらくのちに吐き出させ，肉がとけていることを観察した。続いてキルヒホッフ(1814)は，発芽したオオムギ(麦芽)から水で抽出した溶液が，デンプンの分解(糖化)に効果のあることを示した。この溶液中の物質はベイヤンとペルソー(1833)によって白い無定形の固体として取り出され，〈ジアスターゼ〉と命名されたが，これは今日アミラーゼとよばれる酵素である。一方，1835年には，ベルツェリウスが発酵現象と化学触媒を比較して，この現象が触媒的過程であることを示した。パスツールは，自然界に多くみられる発酵や腐敗の現象が酵母などの微生物の働きで生じることを示したが，それをひき起こす成分を生体外に抽出することには成功しなかった。このような事実から，当時２種類の酵素が考えられた。一つは可溶的で生体外に抽出可能なもの，他の一つは生体が生きていることと不可分で，生体の外に抽出することによりその能力を失うものである。現在酵素に対して用いられるエンチーム(エンザイム)という語は，この間の用語の混乱を避けるために，1878年キューネが前者に対して用いることを提唱したのに始まる。しかし，1897年になって，ブフナーがビール酵母の細胞を破壊して発酵を起こさせる物質(彼はこれをチマーゼと名づけた)を抽出することに成功した。チマーゼは異なった多くの酵素を含むものではあったが，とにかくこれによって，後者もまた能力を失わずに生体から切り離しうること，言い換えれば〈エンチーム〉であることが明らかになった。このことによって生命に対する生気論的態度は打ち砕かれ，今日の酵素の概念が基本的に確立されたといえる。

〔一般的性質〕一般にタンパク質に共通な性質は同時にすべての酵素に共通で，分子量・等電点・アミノ酸組成など，触媒能以外の点では，酵素タンパクと一般的なタンパクとを区別しうる特別な差異は見いだされていない。

化学反応において，高エネルギー物質から低エネルギー物質への変化は自然に進む。しかし，この場合もある特定量を越えるエ

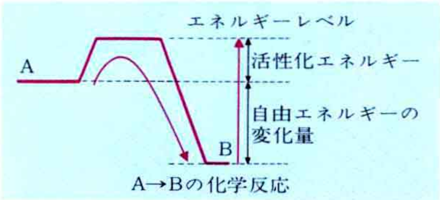


図-1

ネルギーが必要であり，これを活性化エネルギーという(図-１)。加熱によって反応が促進されるのは活性化エネルギーが供給されることによる。触媒はこの特定量を小さくする働きをもつもので，反応によって消費されることはないが，反応速度を著しく促進する。一般に，酵素反応の活性化エネルギーは，その反応が酵素なしに進行する場合に比べてはるかに小さく，その値は20 kcal以下の場合が普通である。

〔酵素の精製〕生体内の無数の反応は，それぞれ特定の酵素によって触媒される。こうした酵素の個々の性質を知るには，できるかぎり目的の酵素を単離して調べる必要がある。単離する過程を精製とよび，目的の酵素が触媒する化学反応をめやすとし，タンパク質としての性質を利用して行なう。

まず，ある現象に対応する化学変化(または化合物)を捜し出し，それを触媒する酵素の存在を予測する。次に細胞を破壊し，細胞内容物を抽出する。これには摩砕・凍結乾燥，音波，さらに加水分解酵素や薬物添加などによる分解などの方法がとられる。この粗酵素溶液からは，分画精製(塩析・遠心・吸着など)・等電沈殿・電気泳動・クロマトグラフィーなどの方法によって分離・精製されるが，実際にはこれらの中から目的の酵素に適した方法を組み合わせて，くり返し行なうのが普通である。こうして得られた酵素の純度は，その特質を利用したいろいろな方法(酵素の純度が上がるとタンパク量あたりの比活性が大きくなり，一定値をとるようになることを利用した生物活性試験など)によって測定されるが，電気泳動や遠心力による沈降パターンが単一になるかどうかで判断することが多い。特に，ある種の酵素は結晶として取り出すことに成功している。

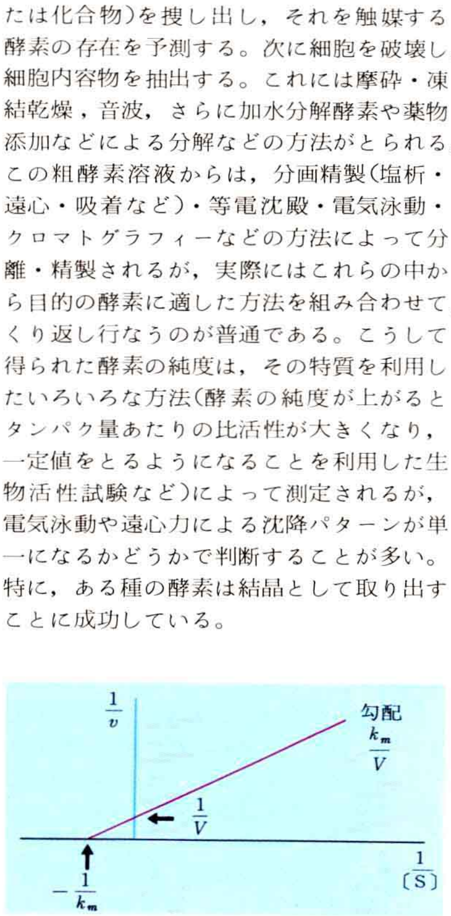


図-2

〔酵素反応〕①温度とpHの影響：酵素の性質には化学触媒の一般的性質にタンパク質の性質が加味されるため，温度が高くなれば触媒作用は増す(化学触媒の性質)が，ある温度以上になると変性して固まる(タンパク質の性質)。熱に対する安定性は酵素によって異なるが，熱変性を起こすことには変わりなく，多くは不可逆的に触媒能を失う。またタンパク質は両性イオンであるから，溶液のpHによって荷電が変わり，その立体構造に大きな変化を与え，触媒能にも影響する。その酵素の触媒能に最適の温度・pHを至適温度・至適pHとよぶ。特に至適pHは，一般には中性付近にあるが，極端にはずれる酵素(ペプシンなど)もあり，また温度によって同一酵素の至適pHに変動がみられる。細胞内のpHはほぼ中性付近にあるので，酵素によって至適pHが異なる現象を説明するのに，細胞内に局部的にpHの異なった部域が点在するという説もある。

②酵素反応の速度と反応阻害：酵素の働きは特定の化学反応の触媒であるから，反応を促進するが，その平衡状態を変えたり，平衡から遠ざかる方向に反応を進ませたりすることはない。酵素反応は，一般的には酵素と基質(酵素によって変化を受ける物質)の濃度・pH・温度・溶液の組成などの諸要素によってその速度を支配される。また基質濃度を増していくと，ある点から反応速度が一定となり，さらに増すと，酵素によっては速度が低下する。これを基質阻害というが，これは基質にも至適濃度が存在することを示す。また，この〈反応速度が一定となる〉ことから，酵素は触媒作用を行なうまえに基質と結合すると考えられる。これは次の式で表わされる。

$$\mathrm{E}+\mathrm{S}\underset{k_2}{\overset{k_1}{\rightleftarrows}}\mathrm{ES}\underset{k_4}{\overset{k_3}{\rightleftarrows}}\mathrm{E}+\mathrm{P}$$

E：酵素，S：基質，ES：酵素基質化合物，P：生成物，k_1，k_2，k_3，k_4：反応速度定数。k_4は他に比べて非常に小さい。

この式から，Sの濃度が高く，ESの濃度が一定に保たれるときは，Pの生成速度は一定に保たれることがわかる。この速度が最大速度(V)である，酵素反応の速度は

$$v=\frac{V〔\mathrm{S}〕}{Km+〔\mathrm{S}〕}$$ (ミハエリス-メンテンの式)

で表わされる。〔S〕はその物質の濃度を表わす。

$Km\left(=\frac{〔\mathrm{E}〕〔\mathrm{S}〕}{〔\mathrm{ES}〕}=\frac{k_2+k_3}{k_1}\right)$はミハエリス定数とよばれ，〔ES〕のみかけの解離定数である。上式の逆数をとると次のようになり，

$$\frac{1}{v}=\frac{Km}{V〔\mathrm{S}〕}+\frac{1}{V}$$ (ラインウェーバー-ブルクの式)

$1/v$と$1/〔\mathrm{S}〕$の関係をグラフにすると直線が得られ，これからVとKmは計算しうる(図-

2）。この式の前提となっているES化合物の存在はいくつかの酵素で直接証明されている。

さらに酵素反応の機構は阻害物質を使っても調べられている。基質に類縁の化合物を同時に加えた場合，酵素はこの物質とも結合するために，目的とする反応の速度は低下する。この現象を拮抗(きっこう)阻害という。この場合，反応速度は低下するが，最大速度や平衡には変わりがない。これに対して，酵素の立体構造が変えられてしまうような変化を非拮抗的阻害といい，これを受けた酵素は触媒作用に必要な構造をとれなくなる。ヨードや水銀の化合物で酵素タンパク質のSH基を修飾した場合，またタンパク質のもつ金属をキレート剤で奪った場合などは非拮抗的阻害の例である。

【補酵素(助酵素)】複合タンパク質からなる酵素で，その機能を現わすために不可欠である補助的な低分子化合物をいうが，狭義にはタンパク質部分との結合が比較的弱いものをさし，緊密な結合状態にあるもの(配合族)と区別する。タンパク質部分(アポ酵素)も補酵素も単独では触媒能力をもたず，両者が結合してはじめて機能を発揮する。補酵素はビタミンとの関連が深く，ビタミンそのもの，またはその派生物である場合も少なくない。生体内の化学反応は，基本的にはエネルギーの授受を行なうが，補酵素はこの間に働く。たとえば乳酸脱水素酵素は，

$$\underset{\text{乳酸}}{CH_3CH(OH)COOH} + NAD^+ \rightleftarrows \underset{\text{焦性ブドウ酸}}{CH_3COCOOH} + NADH + H^+$$

の反応を，またアルコール脱水素酵素は，

$$\underset{\text{アセトアルデヒド}}{CH_3CHO} + NADH + H^+ \rightleftarrows \underset{\text{エチルアルコール}}{CH_3CH_2OH} + NAD^+$$

の反応を触媒する。補酵素NAD^+(NAD：ニコチン酸アミドアデニンジヌクレオチド)は水素を受け取って必要とするところへ運び再びNAD^+へもどる。これは図-3のように示される。ここでXが酸素であれば水を生じる。実際，このような酸化還元系でNADHを水まで酸化して，ATP*(アデノシン三リン酸)を生成するミトコンドリアが存在するが，これはNADH自体がエネルギーをもっていることを示す。このように，補酵素は結局いろいろな形をとるエネルギーの授受をとりもつ。その理由の一つは，化学反応の種類によって必要とするエネルギーの形が異なるからであり，同時にこのことは酵素の基質に対する特異性とあいまって触媒する化学反応をより限定することにも役だっている。たとえば，前図のように$A \rightarrow A_1 \rightarrow A_2 \cdots$の系と$X \rightarrow XH_2$の系が共軛(きょうやく)しているとき，$E_3$の働きが止まると，$X \rightarrow XH_2$の系に影響し，$CH_2$は還元されたままとなる。このため$AH_2$は酸化されなくなり，$A \rightarrow A_1 \rightarrow A_2 \cdots$の反応も停止することになる。このような場合，補酵素があらゆる反応に共通であれば，互いに生理的関係がある系は別として，これとはかなり縁の薄い系まで影響を受けることになり，生体は混乱をきたすであろう。補酵素は基質と同じように酵素の触媒作用を受けて変化するが，共軛した系の間を回転しているため微量ですむ。

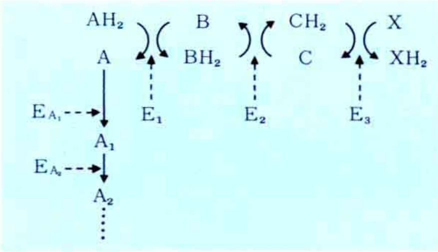


図-3

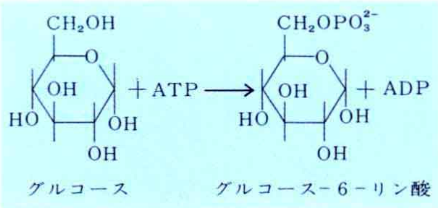


図-4

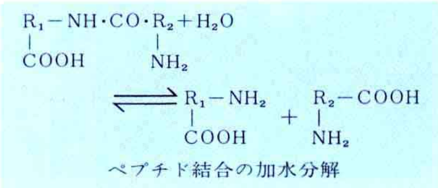


図-5

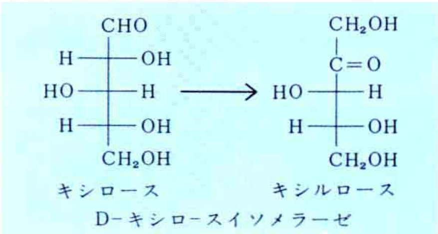


図-6

【基質特異性・反応特異性】酵素の触媒作用の最大の特徴は，特定の化合物の特定の反応に限って作用することで，これを酵素の特異性という。その幅はそれぞれの酵素によって異なるが，無数にある基質や化学反応の種類に比較するときわめて狭い。ウレアーゼは1種類の化合物(尿素)しか基質としないし，エステラーゼはエステル結合を加水分解するだけである。この場合基質特異性に着目すると，エステラーゼはエステル結合をもつ広範囲の基質に作用するからウレアーゼに比べて特異性は低い。しかし反応特異性でみると，トリプシンがペプチド結合だけでなく，アミドやエステル結合をも分解するのに比べて特異性は高い。一般的な化学触媒と異なり，酵素は特異性がきわめて高いため，種類も数多く必要となる。しかしそれゆえに生物の代謝は秩序を保ち，かつ特定の系を作動させたり止めたりすることも可能となる。

【分類】①酸化還元酵素：基質間の電子，または水素の授受を触媒する酵素。水素あるいは電子の供与体の特性によって小群に分けられ，さらにそれぞれが受容体の特性によって分類される。最も種類の多い酵素群である。

②転移酵素：$D\text{-}X + A \rightleftarrows D + A\text{-}X$の反応を触媒する酵素群。D-Xは供与体，Aは受容体，A-X，Dは反応生成物。Xは転移の対象となる原子団で，たとえばヘキソキナーゼの触媒によるブドウ糖のリン酸化ではリン酸基にあたる(図-4)。Xが水素または電子であればそのまま①に相当する。この群はさらに転移する原子団の特徴によって小群に分類される。

③加水分解酵素：生体内で加水分解を触媒するもので，本質的には転移酵素である。②の式でD-Xを水，Dを水素とすると，Xは水酸基に相当する。このうち一方がAへ，さらにAの一部が他方へ転移するのでAの分解を伴う。ペプチド結合の分解がその例である(図-5)。加水分解反応が転移反応と異なる点は，転移反応では供与体の結合エネルギーが保持されるのに対し，加水分解では放出されることである。この群は加水分解を受ける化学結合の型によって小群に分類される。消化酵素のほとんどがここに分類される。

④リアーゼ：原子団を非加水分解的に取り除く酵素。炭素骨格との結合部を切り離すのが特徴で，あとに二重結合を残す。アミノ酸からアンモニアをはずす脱窒素酵素はこれに分類される。はずされる原子団の型によって小群に分類される(図-6)。

⑤異性化酵素：基質の化学式は変化しないが，構造に変化を与える酵素。構造変化の特性によってさらに分類される。

⑥リガーゼ：2種類の分子の結合を触媒。このときATPの開裂によるエネルギーの供給を伴うこともある。二つの分子が結合するときの結合の型によりさらに分類される。

【調節】生体における酵素の働きは無秩序ではない。細胞内にも細胞間にも調節があり，そのための複雑な機構が存在する。生体内部での多くの反応は連なって系をなしている。つまり，ある酵素の生成物がほかの酵素の基質となっている場合も多い。このため各酵素の触媒能力や量に著しい差異があると，系の機能に影響が生じる。このような多くの系が存在し，それぞれの系の酵素の性質が異なり，基質の量が変動する

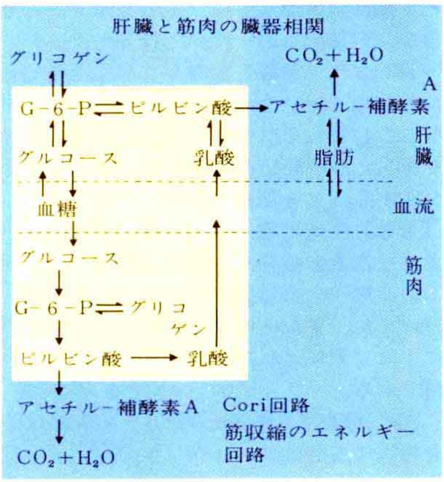


図-7

だけでも受動的な調節となっている。しかし生体内では，より積極的な調節が行なわれている。たとえば，系をなしている酵素群は細胞中にばらばらに存在するより，ある程度固まっていたほうが機能的である。酸素呼吸を行なう生物のほとんどがミトコンドリア顆粒(かりゅう)をもち，その膜に炭水化物を二酸化炭素と水までに酸化する酵素群を反応順に配列している。また遺伝に関して重要な役割を果たす核の中には，遺伝に関連した化学反応を触媒する酵素が多種類含まれている。さらに細胞質中には数種の酵素の結合した複合酵素がみられ，反応がすべて終了するまで基質はそれぞれの酵素の間をたらい回しにされる。これらはいずれも酵素の局在を示す例である。同様なことは臓器レベルにもみられる。ある臓器にはあっても別の臓器には存在しない酵素があり，また同じ基質の同じ化学反応を触媒する酵素でも，臓器によって，，至適pHやタンパク質としての性質のいくつかが異なっていることがある。これをイソ酵素というが，臓器に合った調節が行なわれていることを示している(図-7)。

今日では，さらに複雑で積極的な調節例が見いだされつつある。

①アロステリック効果：グリコゲンを分解してエネルギーを得る呼吸系で，グリコゲンの分解・合成の調節の要点はホスホリラーゼとPFK(ホスホフラクトキナーゼ)にある(図-8)。ホスホリラーゼはATP・UDPG(ウリジン二リン酸グルコース)・G-6-P(グルコース-6-リン酸)のいずれかが蓄積されると酵素活性が低下し，AMP(アデノシン一リン酸)・無機リン酸では逆に高まる。これは解糖*系やトリカルボン酸(TCA)回路のエネルギー生産量の増減が，酵素活性の抑制・促進をひき起こすことを意味する。PFKもTCA回路のクエン酸によって阻害される。これもエネルギー生産量の増大に対応した現象で，G-6-Pの蓄積を招くため，ホスホリラーゼ活性は抑制される。この現象をアロステリック効果といい，これを示す酵素は促進・抑制の効果をもつ化合物と結合する部位をもち，その立体構造を変化させている。こうした例はアミノ酸合成系や核酸合成系などにみられる。核酸にはピリミジンとプリンの2種類の化合物が含まれているが，ピリミジン合成系はピリミジン自体によって阻害され，プリンによって阻害が取り除かれる。つまり，プリンの量に見合うピリミジンが多すぎない範囲で準備される(図-9，10)。

②ホルモンと酵素作用：ホルモンと酵素の関係は複雑であるが，ホルモンの作用は結局酵素の働きで実現されるといえる。逆にホルモンは酵素作用を調節すると考えられるが，その方法は次のような場合が考えられる。㋑酵素に直接作用する。㋺酵素の合成量を調節する。㋩原形質膜の透過性を変化させて細胞内の環境を変え，㋑㋺に影響する。㋥ホルモンが原形質膜に到達すると，そこで伝達物質が合成され，これが㋑または㋺を行なう。このうち㋺㋩の場合は間接的には観察されているが，直接確認されたのは㋥の場合のうちの伝達物質が㋑を実現する例だけである。グリコゲンの分解はホスホリラーゼ(ホスホリラーゼb 2分子から生じたホスホリラーゼa 1分子)によって触媒される。さらにこの反応はホスホリラーゼbキナーゼにより触媒される。しかもこの酵素自身不活性型があり，肝臓では活性型へ移行するためにサイクリック-3'，5'-AMPを必要とする。サイクリックAMPが伝達物質で，たとえばエピネフリン(アドレナリン)が肝臓に働くと，原形質膜のアデニルシクラーゼがATPから合成される。一方，筋肉では，その作用は神経刺激で調節されており，ホスホリラーゼbキナーゼの活性化はサイクリックAMPの影響を受けないようになっている。サイクリックAMPは脂肪の代謝や膜透過をになっている酵素にも影響を与えている(図-11)。

③遺伝と酵素：酵素は細胞中でつねに分解・合成が続けられているが，この合成量を調節することにより化学反応の調節も行なわれる。合成に際し，酵素のアミノ酸配列を記憶しているのがDNA*であり，これが調節の重要な役割を果たすと考えられるが，調節機構全体については解明されていない。大腸菌が乳糖中で分泌するラクターゼ(乳糖により誘導・合成されたと考えられ，誘導酵素・適応酵素などとよばれる)などはDNAによる調節の例とされる。さらに，高等生物で卵から生体への発生段階で，パターンが極端に変わったり，特別な発生段階だけに現われる酵素などが観察されており，同じように考えられている。

【進化と系統】大腸菌が乳糖を分解するの

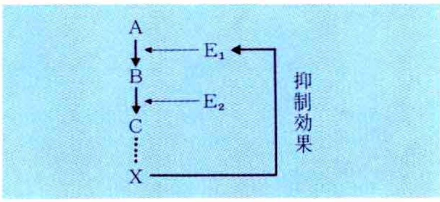


図-8

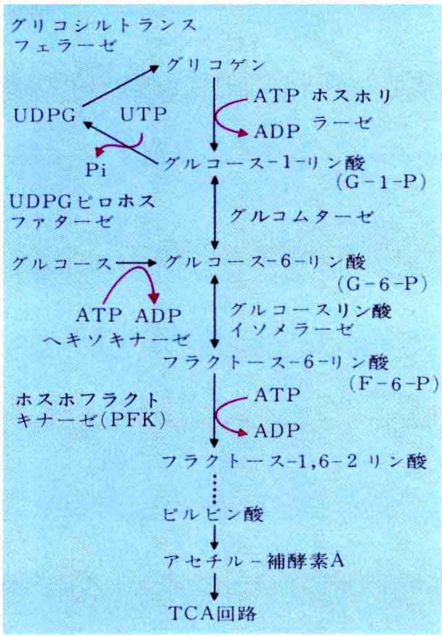


図-9

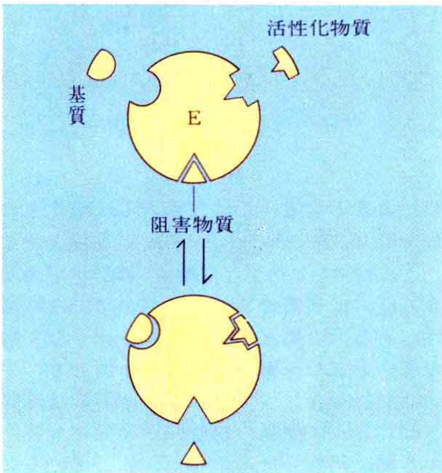


図-10

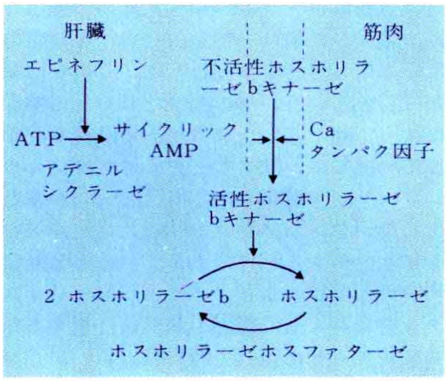


図-11

も，幼児が母乳の乳糖を分解するのも同一の酵素ラクターゼであり，パン酵母のミトコンドリアと高等植物のそれはほとんど同じ機能をもつ。このように酵素レベルでみるかぎり，生体には高等と下等との区別はないようにみえるが，ここにも進化の跡を通しての差異が存在する。たとえば，哺乳(ほにゅう)類のPFKは種々のヌクレオチド三リン酸で阻害を受けるが，大腸菌・酵母ではATPによってのみ受ける。これを取り除く物質は酵母・大腸菌ではAMPのみであるのに，哺乳類ではサイクリックAMP・CMP(シチジン一リン酸)などが有効である。これは，多細胞生物ではホルモンなどによる組織間の連絡をもとに調節が行なわれるのに対し，直接外界の影響を受ける単細胞生物ではそれなりの調節機構を必要とすることを示している。また同じ触媒作用をもつ酵素も，種間で比較するとアミノ酸配列の相違が見いだされており，突然変異と関連して研究が進められている。さらに，多くの微生物の代謝経路を比較すると，酵素系も進化を経て順次組み立てられてきたことがわかる。現在では，酵素をもたない生物の存在は考えられていない。〔原野友之〕

チトクロームCのアミノ酸配列順序の比較

ヘム原子団との結合に関与している部分の比較　種間に共通のアミノ酸がみられるのはそれが結合に不可欠だからで，その部分が他のアミノ酸へ突然変異を起こしたものは生存できずに消滅したと考えられている

種名	アミノ酸配列順序						
	13	14	15	16	17	18	19
ヒトのチトクロームC	lys	cys	ser	glN	cys	his	thr
ウマのチトクロームC	lys	cys	ala	glN	cys	his	thr
マグロのチトクロームC	lys	cys	ala	glN	cys	his	thr
酵母のチトクロームC	arg	cys	glu	leu	cys	his	thr
*紅色イオウ菌のタンパク質	lys	cys	ser	glN	cys	his	thr
*緑濃菌のチトクローム551	gly	cys	val	ala	cys	his	ala

注)　①lys：リジン　cys：シスチン　ser：セリン　ala：アラニン　his：ヒスチジン　Thr：スレオニン　val：バリン　arg：アルギニン　glu：グルタミン酸　glN：グルタミン　leu：ロイシン

②*印　細菌のチトクロームCとよばれるもの，原形質膜と結合していてミトコンドリアをもたない

こうそうきしょうだい　【高層気象台】　高層気象の観測，観測器ならびに観測法の開発，高層気象の解析などを扱う気象台。わが国では茨城県矢田部(やたべ)町館野(たての)にあるが，ロケット観測，気象衛星観測など近代測器の発展とともに高層気象台のあり方も変わりつつある。

こうぞうこうがく　【構造工学】　構造物が外から力を受けたときどのようにみずからをささえるか，また，どのように変形するかを研究し，最も安全かつ経済的な構造物をつくろうとする学問。構造物は自分自身の重さはもちろんのこと，その使用目的に応じた外からの力を地盤に伝えて安全性を保つとともに，経済的なものでなくてはならない。そのためには，その構造物をつくる材料の特性に応じたじょうずな構造方法をとらなければならない。〔村上博智〕

こうぞうこうろ　【康蔵公路】　カンツァン道路　中国，四川省西部とチベット自治区を連絡する自動車道路。四川省西部の雅安から同省の康定・甘孜(かんし)を経てチベット自治区の江達・昌都(しょうと)を過ぎ，チベット自治区の行政の中心地ラサに至る。全路程2,271km。なおこの公路は，西方のシガツェを経由してシッキムに至る道路や，シガツェから西に向かってサンゲーカバを経由して新疆(しんきょう)ウイグル自治区のカルガリクに至る道路と連絡する。

〔船越昭生〕

こうぞうじ　【高蔵寺】　宮城県角田市高倉字寺前にある天台宗の寺院。819年(弘仁10)徳一が開基し，1178年(治承2)藤原秀衡(ひでひら)によって再建されたと伝えられる。現在の阿弥陀堂(あみだどう)(重要文化財)と本尊の阿弥陀如来坐像(重要文化財)はともにこのころの作と考えられ，この地方における阿弥陀信仰の盛んであったことを示す貴重な遺構である。

こうぞうしき　【構造式】　化合物を構成している各原子が，分子内でどのように結合しあっているかを図式的に表わした式。元素記号を使って，原子と原子の結合は価標と称する線で示される。平面構造式で区別できない化合物は，立体構造式や投影式で表わす。

こうぞうしゅぎ　【構造主義】　人間科学において，対象を一定の要素に分け，その要素の連関を一つの系にまとめ，さらに系相互の関係を仮説的なモデルを用いて把握(はあく)することによって，有機的全体としての対象を説明しようとする最近の思想的傾向をいう。こうした研究方法は，20世紀のはじめに成立したソシュールの一般言語学にその源を求めることができる。一般言語学は歴史的諸言語の比較や，それらの起源・伝播(でんぱ)を研究する従来の言語学の態度を排し，人間的事実としての言語の本質を定義しようとする。トルベツコイやヤコブソンの音韻論はこのようなソシュールの影響を受けている。彼らの研究によって，言語学的記号は〈意味されるもの(メッセージ)〉と〈意味するもの(コード)〉との関係を確立するものであること，われわれは無意識的に言語伝達の機構に従っていること，ある言語はさまざまなメッセージが一定の法則に従わねばならない一つの系であることなどが明らかになった。こうした言語構造の分析は，単に言語学に対してだけでなく，人間社会の組織の研究に対しても有効性をもつと考えられる。たとえば，経済的な交換や女性の交換(結婚制度)などは，より普遍的な言語学的交換から解釈することができる。こうした観点から，新しい民族学と人類学は従来の歴史主義的観念を退け，機能主義的・構造主義的立場をとった。未開社会についてのレビー-ストロースの研究はその代表的なものである。こうした傾向は他の諸科学にも拡大され，近年特にフランスにおいて隆盛をみるようになった。たとえば，精神分析学のラカン，社会学のロラン-バルト，哲学のフーコー・アルチュセールらの名をあげることができる。

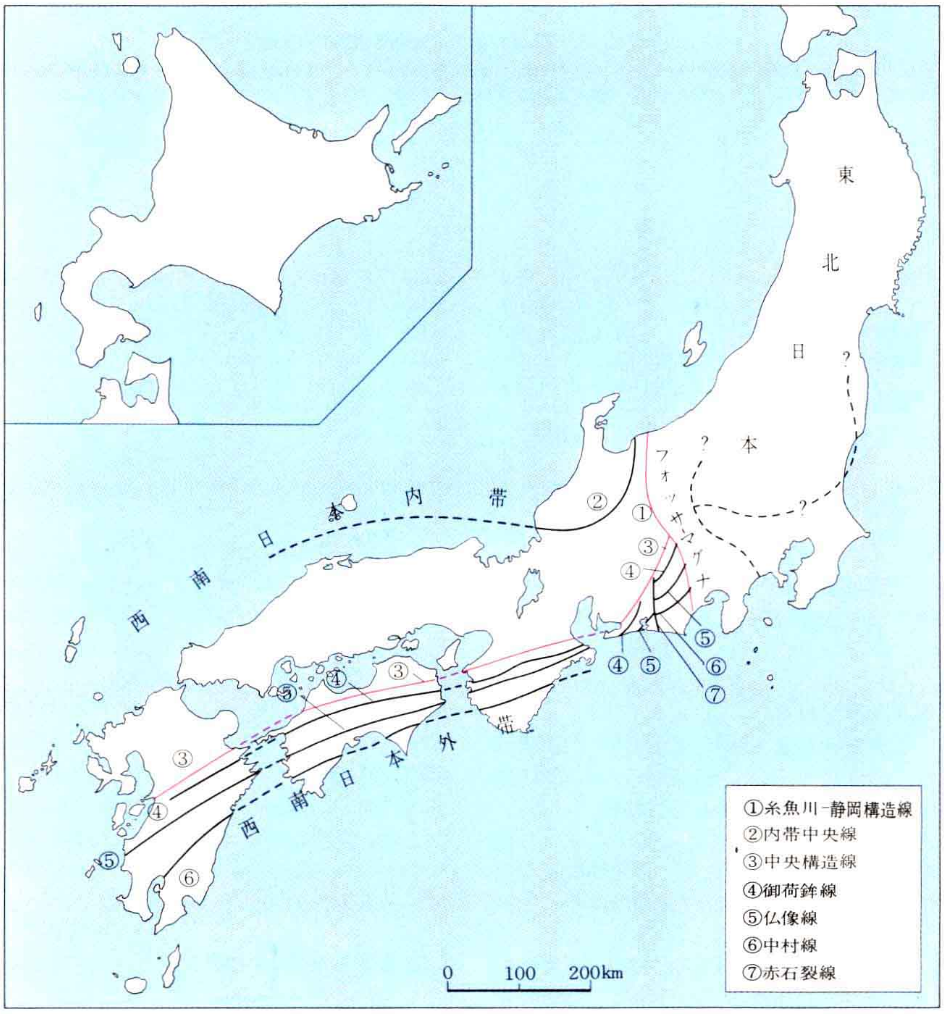
〔飯塚勝久〕

こうぞうせん　【構造線】　地質構造の違う2地域の境界線となっている大規模な断層をいう。中央構造線*・糸魚川(いといがわ)-静岡構造線*などがその例である。➔次ページ(図)

こうぞうだに　【構造谷】　断層が存在することに関係してできた谷。断層に沿って生じた断層谷，二つの断層の間が落ち込んで生じた地溝*(ちこう)なども構造谷である。

こうぞうちけい　【構造地形】　地球の内部に原因をもつ褶曲(しゅうきょく)作用・断層作用・火山活動などの地殻(ちかく)変動によってつくられた地形。地殻の運動によって地表には海陸の分布，山脈や谷のあり方などに変化を生じ，それが地形に現われていることがある。このような地形は，その地域の地質構造になんらかの形で関係をもって生じたものである。

こうぞうてきしつぎょう　【構造的失業】　全般的な総需要の不足によって生ずる失業とは異なり，拡張的財政金融政策によって総需要のみを拡大しても，賃金や物価水準の上昇を招くだけで失業率を下げることができない類の失業をいう。若年層・老年層・文盲層・少数集団や窮乏地区の住民および技術革新による脱落者などにみられる適当な技能の欠如，その地域上の所在，その態度などに原因する失業である。実際問題としては，構造的失業と非構造的失業とを厳密に区別することはむずかしいが，



構造線 日本のおもな構造線

この種の失業を解消するには，全般的な総需要の拡張を図ると同時に，労働力の職業的訓練や再配置によって労働の流動性を高めたり，さらに雇用斡旋(あっせん)機関や労働市場の組織の改善を図ることが必要である。〔富田重夫〕

こうそうのらん【黄巣の乱】中国，四川(しせん)省を除いてほとんど全中国を戦乱に巻き込み，唐朝の貴族官僚支配に決定的打撃を与えた大反乱(875～884)。山東省で塩の闇(やみ)商人であった黄巣が，同業の王仙芝*(おうせんし)の反乱に呼応して立ち上がり，各地を流寇(るこう)するうちに雪だるま式に勢力を拡大し，広州をもおとしいれ，880年には都の長安を占領，僖宗(きそう)を蜀(しょく)に亡命させた。みずから帝位につき，国を大斉(たいせい)と号したが，部将の朱温が唐朝に下ったこともあり，沙陀(さだ)族の李克用(りこくよう)に破られて敗死した。〔礪波 護〕

こうぞうばいかん【光増倍管】電子が金属または半導体*の表面に衝突すると，その刺激によって新たに電子が飛び出す(二次電子放射)。この電子が二つ以上ならば，それらをさらに別の金属面に次々に衝突させることによりますます多くの電子が得られるから，最初の微弱な電流の高度の増幅が可能となる。光電管の内部にこのような二次電子放射面を多数適当な位置に配置し，最初陰極面から飛び出した光電子による電流が増幅されるようにしたものが光増倍管である。その増幅度は10^6程度に達し，ほかに増幅器を必要とせず，応答が速く，雑音を少なくできるので，微弱光の測定に広く用いられている。〔吉原邦夫〕

こうぞうへいや【構造平野】⇨平野

こうぞうようこう【構造用鋼】圧延や押し出しによってつくられた板状，または棒状の鋼材。薄板・厚板のほか，断面がL形・I形・H形・U形，その他種々の形のものが使われる。一般に炭素量は低く(0.25%以下)，そのため溶接性がよい。鋼材の大半は構造用鋼であり，橋梁(きょうりょう)・建築・造船・車両などに広く用いられる。なお，熱処理して使用する炭素量の高い(0.3%以上)鋼材は機械構造用鋼といい，精錬されたギルド鋼*である。〔長谷川正義〕

こうぞうりきがく【構造力学】材料力学*を基礎として，構造物およびその構造物を構成する部材の内力や変形を解析する学問分野。構造物とは，部材の集合体で外力に耐えるものをさし，建築物・機械などすべて構造物である。材料力学があくまでも材料内部の応力*やひずみ*を解析していくのと異なり，構造力学は構造物について材料力学によって求められたものを積み重ねて，構造物全体を一つの系(システム)として把握(はあく)する。材料力学は半ば完成された学問といえるが，構造力学は構造物個々について解析しなければならない性質のものであるから，近年，構造物がより大形化・多様化・複雑化されている中で，構造力学自体もいっそう複雑化し，研究も進められている。〔山根雅巳〕

こうそうるい【紅藻類】植物分類学上の一門。光合成植物の一群で，かなり孤立した系統上にある。クロロフィルはaのほかdを含み，光合成補助色素は赤色のフィコエリスリンや青色のフィコシアニンを含むこと，光合成産物が紅藻デンプンであること，生活史のどの時期にもべん毛細胞を生じないこと，生卵器が受精毛をもち，受精卵は母体を離れずそれに寄生する世代を形成することなどが特徴である。一方，フィコシアニンなどのフィコビリン色素は，紅藻の祖先を藍藻(らんそう)に求めうる根拠となる。べん毛細胞のない点，受精毛のある生卵器をもち，受精後直接または間接に胞子を形成する点は子嚢(しのう)菌類に似ており，両者の類縁関係が示されている。体制は単細胞から分枝糸状体までであるが，分枝糸状体全体が多量の寒天質で包まれて偽柔組織を形成する。ほとんどが海産で，まれに淡水産のものがある。《分類》①原始紅藻類：有性生殖の直後に減数分裂して果胞子をつくる。チノリモ・ウシケノリ・アサクサノリなど。②真正紅藻類：受精卵は造胞糸を形成し，その上に果胞子を生ずる。ウミゾウメン目(ウミゾウメン・カワモズクなど)・テングサ目(マクサ・ユイキリなど)カクレイト目(サンゴモ・ムカデノリ・フノリなど)・スギノリ目(キリンサイ・トサカノリ・ツノマタ・オゴノリ)・ダルス目(ダルス・フシツナギなど)・イギス目(エゴノリ・マクリ・フジマツモなど)。

こうそかがく【酵素化学】酵素*および酵素反応を化学的あるいは物理化学的方法を用いて研究する学問。酵素の生物学的作用を解明するうえに基本となる知識を与える。生体から特定酵素の分離精製，精製酵素の一般的性度の調査，酵素反応機構の解析などを通して生化学・細菌学・微生物学・遺伝学・農学・薬学・医学などとも関連し，広範な研究分野が含まれる。

こうそく【光束】単位時間あたりに通過する光の量。人の目に光感を与える可視範囲の放射束の目の感度を基準として測ったもので，単位にはルーメン*が用いられる。なお，光束を秒または時などの時間的な光の量として取り扱うときは光量といい，ルーメン-秒あるいはルーメン-時とよんでいる。

こうぞく【皇族】⇨皇室

こうそくきりゅう【高速気流】 高速度で流れる気流。気流の速度 V と音の速さ a との比をマッハ数 M という($M=V/a$)。マッハ数が0.3以上になると，気体の圧縮性を無視できなくなる。この程度以上に速い気流を高速気流という。$M<1$ の気流を亜音速流といい，物体の影響は拡散的に伝播(でんぱ)し，流れは楕円(だえん)形の偏微分方程式で表わされる。$M>1$ の気流を超音速流といい，物体の影響は波動的に伝播し，流れは双曲形の偏微分方程式で表わされる。$0.85<M<1$ の範囲では物体のまわりに局部的な超音速領域ができ，衝撃波*を発生して複雑な流れになる。また，$1<M<1.4$ の範囲では物体直前に局部的亜音速領域を発生することが多く，流れは複雑になる。このように，亜音速と超音速領域の混在する $0.85<M<1.4$ の範囲の流れを遷音速流という。〔内田茂男〕

こうそくけい【光束計】 球形光束計ともいい，光源の全光束を直接測定するもの。球形の内面に拡散性白色塗料を塗り，球壁の一部に小さい測光窓をあけ，窓には完全拡散に近い乳色(オパール)ガラスをはめこむ。球の中心に全光束既知の光源と未知の光源とを交互に入れ，光源からの直射光が測光窓に達しないように遮光(しゃこう)して乳色ガラスの輝度を測定する。輝度は光源の光束に比例するので，未知光源の全光源を知ることができる。〔中山忠巳〕

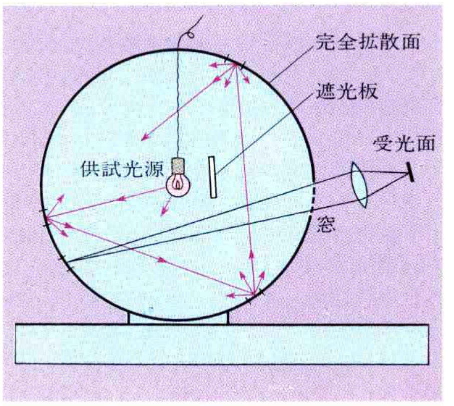
こうそくしょう【梗塞症】 硬塞症とも書く。吻合枝*(ふんごうし)をもたない小動脈または終末動脈が，急激にしかも永続的に閉塞されたとき，その末梢(まっしょう)流域に起こる限局性壊死*(えし)。血管の閉塞は栓塞(せんそく)や血栓によることが多く，壊死巣は血管の支配領域に一致し，三角形もしくは楔形(くさびがた)をしている。梗塞は二つに区別され，貧血性壊死巣で白色を呈するのを貧血性梗塞または白色梗塞とよび，出血性変化が加わったものを出血性梗塞または赤色梗塞とよぶ。腎臓(じんぞう)・脾臓(ひぞう)では典型的な楔状梗塞像，肺臓では出血性梗塞像，脳では軟化像を呈する。〔小坂井守〕

こうぞくしょうぐん【皇族将軍】 ⇨親王将軍

こうそくど【光速度】 ⇨光

こうそくどうろ【高速道路】 ⇨次ページ

こうそくどこう【高速度鋼】 1900年にアメリカのテイラーとホワイトによってつくり出された切削用工具材料。タングステン・クロム・バナジウムなどを含んだ一種の合金工具鋼である。のちにはコバルトを入れたものもつくられるようになった。かたさや摩耗抵抗が大きく，特に高温度になってもかたさが低下しないので高速度切削に適し，バイト・フライス・ドリルなどに用いられている。なお，英語のハイスピード-スチールを略して，俗にハイスと称している。〔稲田重男〕



光束計　ウルブリヒト球の原理

こうそくどさつえい【高速度撮影】 ⇨スローモーション撮影

こうそくどせい【高速度星】 太陽の近傍にあって，太陽との相対速度が65km/秒以上の恒星の総称。銀河系内の大部分の恒星は，銀河面に沿って銀河系中心の周囲を公転しているが，高速度星はこの銀河回転に加わっていない星で，銀河面に対してさまざまな傾きをもった細長い楕円(だえん)軌道上を運動している。また，高速度星は球状星団*に属する星と同じように種族*IIの天体で，銀河回転に参加している種族Iの星よりずっと古い時代に生まれたものである。〔磯部琇三〕

こうそくはっさんど【光束発散度】 光を発する面の明るさの程度を示すもので，単位面積あたりの光束*すなわち光束密度をいう。照度*はある面に入射する光束密度，すなわち光源(二次光源を含む)から発散する光束密度にあたる。しかし，光束発散度は光を受けている面の性質に関係する。単位としては，わが国では1m²あたり1ルーメン*を1ラドルクスとし，欧米では1平方フートあたり1ルーメンを1フートランバートという単位を用いている。〔中山忠巳〕

ごうぞくやしきむら【豪族屋敷村】 中世に成立した村落の一つで，地方の小豪族の屋敷が中核となって形成された集落。日本の集落を発生的に分類した場合の一形態である。ほぼ方形の屋敷のまわりには濠(ほり)を巡らし，その内側には土居(土塁)を築いて，郭内や郭外に下人・隷属民を居住させた。環濠(かんごう)のあったことから堀ノ内(ほりのうち)という地名が生まれ，いまもその名でよばれているものがある。

こうそざい【酵素剤】 酵素を利用した医薬品。酵素は古くから医薬品として用いられていたが，最近は高純度の酵素が多く得られるようになったので，その適応の範囲も広がり，治療用のみでなく診断用にも使われている。以下に酵素薬を薬効別に分類する。①消化薬：古くからジアスターゼ(アミラーゼ)を主体として用いられてきたが，最近ではタンパク質・脂肪分解酵素(ペプシン・パンクレアチンなど)も製剤化され，これらを重層錠とした総合消化酵素剤も用いられている。消化酵素剤は経口投与により使用する。②消炎薬：消炎酵素剤は近年発展した分野で，副腎(ふくじん)皮質ホルモン*のような副作用が少ないので注目を浴びている。一般に壊死(えし)組織・膿(のう)などを融解し，局所浮腫(ふしゅ)・圧迫を除き，組織の清浄化，疼痛(とうつう)の軽減などによって炎症組織を改善する。ペプシン・トリプシン・キモトリプシン・ストレプトキナーゼ・α-アミラーゼ・ブロメライン・パパイン・リゾチームなどが実用化されている。③血液凝固阻止薬：トロンビンはフィブリノーゲンをフィブリンに変える酵素であり，止血の目的で局所に適用される。④血圧降下薬：カリジンは血圧降下・血管拡張作用があるので，高血圧症・循環器系疾患に適用される。⑤その他：狭心症・肺気腫・一酸化炭素中毒などにチトクロームC，また浸出性分泌物の粘度を低下させたり，組織への薬物の吸収を速める目的でヒアルロニダーゼが用いられる。

酵素剤は酵素がタンパク質であるため，つねに抗原性が問題となり，そのため高い純度のものが要求される。投与方法・適応症の選択には細心の注意が必要である。〔鈴木郁生〕

こうそしょう【江蘇省】 チャンスー省 中国東部，揚子江下流の省。面積10万2,200km²。人口4,800万(1972年推)。省都は南京(ナンキン)。7省轄市(南京・無錫(むしゃく)・常州・蘇州・南通・徐州・連雲港)・7専区に分かれ，4市・63県を統括する。低平な沖積(ちゅうせき)平野が多く，北部で小麦，南部で米，揚子江デルタ地帯では綿花の産が多く，太湖周辺の地域では養蚕が盛んである。淮河(わいが)以北の沿海一帯は淮北塩の生産地として名高い。工業は，無錫・南通の製粉・紡織，無錫・蘇州の絹織物などのほか，電機・機械・化学などの近代工業も盛んに行なわれ，また各地に伝統的な工業も少なくない。交通は古来揚子江・大運河航運を幹線とする水路網によって行なわれてきた。鉄道は滬寧(こねい)鉄道(南京～上海(シャンハイ))・滬杭(ここう)鉄道(上海～杭州)などがあり，北部では沿海地方の連雲港から隴海(ろうかい)鉄道によって西北地方の蘭州(らんしゅう)に達し，徐州で天津(てんしん)より南京に通ずる津浦(しんぽ)鉄道と連絡する。なお，1968年，揚子江にかけられた南京大橋の完成によって，滬寧・津浦両鉄道が連絡された。沿岸は連雲港を除いて良港に乏しく，本省の物資の大部分は上海を通して移輸出入される。従来大洪水(こうずい)をくり返していた淮河は，中華人民共和国になって大改修が施され，蘇北灌漑総渠(かんがいそうきょ)によって黄海に導かれるようになり，これによって大運河をはじめ，淮河本・支流の多くの河川も河道が安定するようになった。〔船越昭生〕

高速道路

自動車が安全に高速で走れるようにつくられた自動車専用道路。高速自動車国道。

【高速道路の整備とその意義】交通体系の近代化は，国の経済・文化の発展に大いに寄与し，先進国はつねに進歩的交通方法を活用していることは歴史的な観点からも明らかである。交通体系近代化の歴史は前世紀の初め船舶・鉄道の交通革命で始まり，今世紀にはいって自動車・航空機が導入され，さらにその高速化により，道路と空との新しい大きな交通革命が行なわれつつある。つい最近まで，わが国は世界の文化国家の中で奇跡的というほど道路整備のなされていない国といわれていた。その理由は明治時代になるまでに，欧米諸国のような道路遺産が全然なかったこと，およびわが国の急峻(きゅうしゅん)な地形に基づく道路建設のコストが非常に割高になること，また道路政策や経済力の貧困さにあったといえよう。しかし，近年一般道路の整備が進むにつれて道路交通は驚異的な発展を遂げ(表-1)，わが国の自動車保有台数は年々増加し，1985年(昭和60)には3,500万台に達すると予想されている。この自動車時代に対応して，わが国も遅ればせながら高速道路時代のあけぼのを迎え，名神高速道路*を皮切りに東名高速道路*・中央自動車道富士吉田線・中国縦貫自動車道・九州縦貫自動車道などが建設され，これから続々と新しい高速道路がつくられていく。わが国の高速道路は現在663km(1971)にすぎないが，1985年までには表-2および図のような路線が完成し，合計7,600kmに達し，わが国の全土は高速道路網で結ばれるようになる。比較のために欧米諸国の高速道路の現況と計画を表-3に示した。

高速道路の経済効果は生産・輸送計画の合理化，資源価値の上昇，工場地帯の分散，都市人口の分散，流通過程の合理化，市場圏の拡大などの面にわたる。このような経済効果の背景にあるのが，時間距離の大幅な短縮で，輸送コストの引き下げと市場の拡大が可能となる。高速道路を利用すれば物資を早く，大量にかつ長距離を輸送できるので，企業は距離とコストの関係で手が届かなかった資源を遠い市場に出せるようになる。したがって，一般市民の側からみれば，大都市に密集しないで，かなり離れた田園地帯に住むことができることになる。高速道路による交通条件の改善は企業の立地範囲を拡大し，広い用地，豊富な労働力，原料や工業用水の便をかなり自由に選べるので，いままで問題にされなかった地域も十分にその価値を用うるようになる。農業においても東京・大阪などの大都市の台所と直結できるようになり，近郊型農業への転換が多くなろう。

高速道路による時間距離の短縮は人間生活にとっても大きな意味をもっていて，高速道路沿線に都市の分散が生ずる。すでにアメリカでは高速道路を中心とする都市づくりが進んでおり，わが国でも同じ現象が現われてきている。過密地域から高速道路沿線の田園地域への移動は，工場の地方分散にはじまって人間の動きを派生し，ついには都市の分散も起こすようになる。この

表-1 道路種類別および代表的路線の12時間自動車交通量(単位 台)

道路種類・路線名	1962年度	1965年度	1968年度
元 1 級 国 道	3 209	5 285	7 967
元 2 級 国 道	1 166	1 972	3 018
一 般 国 道 計	2 118	3 506	5 493
主 要 地 方 道	1 063	1 557	2 390
1 号 東 京 ～ 大 阪	13 013	16 764	20 103
2 号 大阪 ～ 北九州	6 465	10 280	14 509
3 号 北九州 ～ 鹿児島	4 175	7 628	10 955
4 号 東 京 ～ 青 森	3 495	6 279	9 707
5 号 函 館 ～ 札 幌	1 856	2 880	4 379

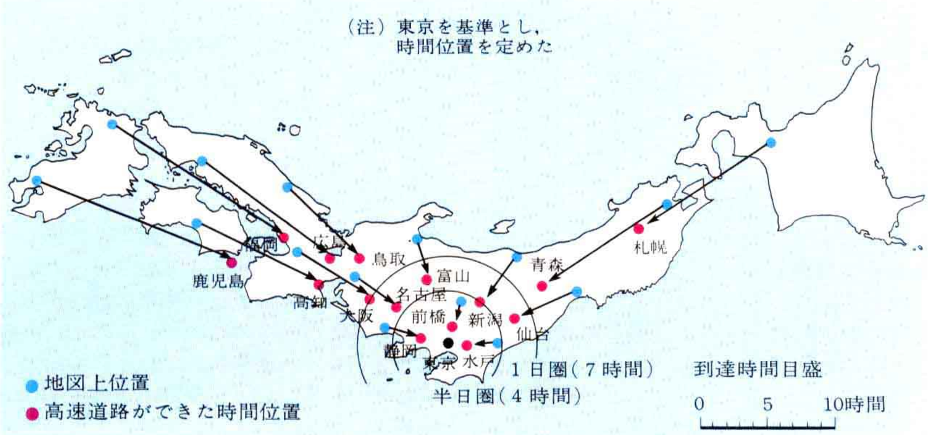
(注) 1958・1962年度は自動2輪車を含み，1965・1968年度は含んでいない。

表-3 高速道路の現況と計画(単位 km)

国 名	供用中		計画	
	延長	年月現在	延長	目標年次
アメリカ	47 421	1970. 1	65 970	1975
イギリス	998	1970. 1	1 600	1975
フランス	1 305	1970. 1	2 300	1975
西ドイツ	4 110	1970. 1	4 450	1972
イタリア	3 502	1970. 1	5 862	1973
日 本	663	1971. 7	1 900	1974

表-2 国土開発幹線自動車道路線一覧表(1969年度末現在) (単位 km)

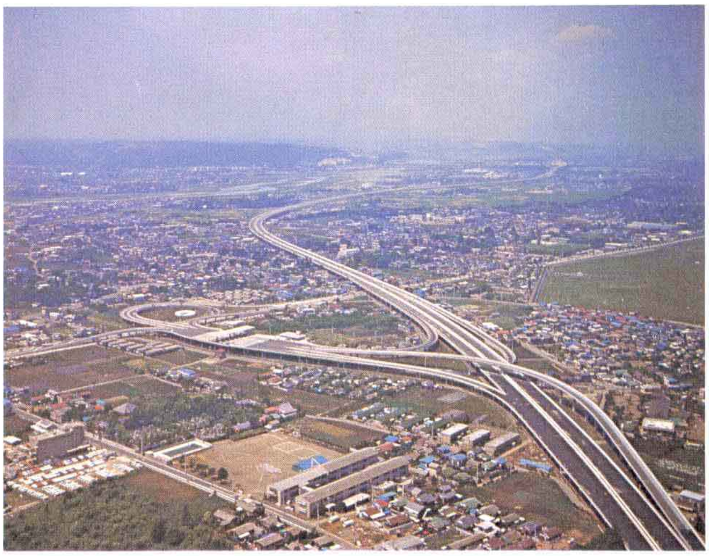
路線名		起点	終点	路線名		起点	終点
北海道縦貫自動車道		函館市	稚内市	東海北陸自動車道		一宮市	砺波市
北海道横断自動車道	釧路線	小樽市	釧路市	近畿自動車道	伊勢線	名古屋市	伊勢市
〃	北見線	小樽市	北見市	〃	名古屋・大阪線	名古屋市	吹田市
東北縦貫自動車道	青森線	東京都	青森市	〃	和歌山線	松原市	海南市
〃	八戸線	東京都	八戸市	〃	舞鶴線	吹田市	舞鶴市
東北横断自動車道	秋田線	北上市	秋田市	中国縦貫自動車道		吹田市	下関市
〃	酒田線	仙台市	酒田市	山陽自動車道		吹田市	山口市
〃	平・新潟線	いわき市	新潟市	中国横断自動車道	岡山・米子線	岡山市	境港市
関越自動車道	新潟線	東京都	新潟市	〃	広島・浜田線	広島市	浜田市
〃	上越線	東京都	上越市	四国縦貫自動車道		徳島市	大洲市
常磐自動車道		東京都	いわき市	四国横断自動車道		高松市	須崎市
東関東自動車道	木更津線	東京都	木更津市	九州縦貫自動車道	鹿児島線	北九州市	鹿児島市
〃	鹿島線	東京都	鹿島町	〃	宮崎線	北九州市	宮崎市
中央自動車道	富士吉田線	東京都	富士吉田市	九州横断自動車道		長崎市	大分市
〃	西宮線	東京都	西宮市	(国土開発幹線自動車道以外のもの)			
〃	長野線	東京都	長野市	関門自動車道		下関市	北九州市
東海自動車道		東京都	小牧市	新東京国際空港線		成田市	新空港
北陸自動車道		新潟市	米原町				



高速道路の整備による自動車到達時間の短縮



東名高速道路酒匂川架橋



中央高速道路調布インターチェンジ



ニューヨーク～バッファロー間を走る高速道路(アメリカ)



ストックホルム市街を走る高速道路(スウェーデン)



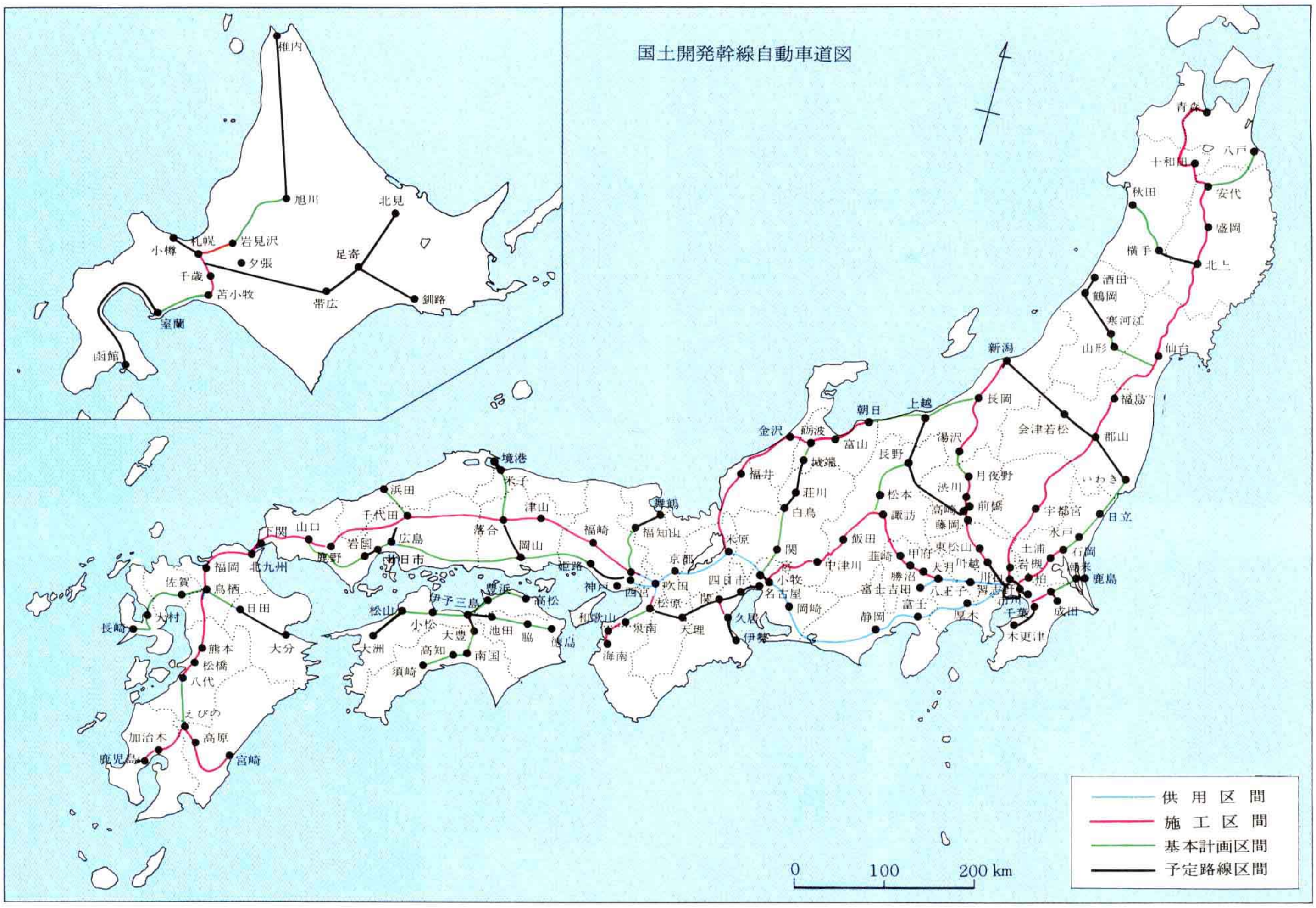
ロサンゼルス市内の高速道路立体交差(アメリカ)

ような都市人口の高速道路沿線への流出と都市の分散化は，しだいに地方都市の環境を整備し，地方都市に人材を定着させ，さらに大都市と地方との格差を解消して国全体の産業や文化を向上させる大きな役割を果たすことになろう。今後しだいに国民全体の所得が増せば，各自がそれぞれ自動車をもつようになり，従来の生活様式も屋内でのだんらんから郊外での開放的なリクリエーションを主とする傾向に変化していく。かくして高速道路は産業道路の性格のほかに美しい自然の景観を楽しみながらドライブができる観光道路の性格を合わせもつことも要求される。

未来社会を語るには高速道路ぬきでは不可能である。どこへでも自由に行動できる自動車は個性を求める人間心理に密着した魅力的な道具で，今後著しい増加が必然的に生ずるからである。都市はすべて高速道路で結ばれ，立体化・重層化した道路網がつくられる。鉄道の場合と同様に高速道路も速度によっていくつかに分類され，さらに乗用車用と貨物車用の区別も行なわれることになろう。また，自動車の構造も大きく変化し，道路と自動車内部の両方に備えつけられた装置で，自由自在に動く，快適で疲労度の少ない高速リモコン方式のものと，短距離向きの低速で軽便なものの二つの型式が主になるといわれている。

このようなこれからの高速道路時代に向かう中でいちばん困る問題は建設費が欧米に比べて数倍高いことである。イタリアとフランスの建設費が世界で最も安く1km当たり約2億円であるのに対して，わが国では名神高速道路で1kmあたり6億円，東名高速道路では10億円にもなっている。このように建設費が割高になる原因には，①用地費が非常に高いこと，②人口密度が高く交差道路や水路がきわめて多数あり，道路を地表面よりはるかに高く，または低くするための高架部や土工費が高くなること，③急峻な地形の場所が多いため，橋梁(きょうりょう)やトンネルなど建設費がかさむこと，などがその理由としてあげられる。建設費が高いということは通行料金に反映して欧米の約3倍にもなり，高速道路の利用効果にかなりのマイナスとなる。このように，建設費および通行料金ともに高いので，高速道路はわが国の最適地を通るルートに建設し，その効果が十分に上がるものにしなければ，経済・文化の両面の改善向上の基礎となる交通革命上にもつ高速道路の意義は薄れてしまう。

【構造】自動車が高速にかつ安全で快適な走行ができるように他の道路や鉄道とはすべて立体交差として，インターチェンジ*のみから自動車の出入りが許されている。また，幅3m以上の中央分離帯を設置して往復車線を分離し，対向車による種々の障害を取り除く。高速道路の設計速度は，わが国では地形に応じて毎時80kmから120kmが用いられているが，欧米諸国もほぼこの値に近い。都市の高速道路では50kmないし80km程度である。道路の線形は平面形・縦断形とも曲率・勾配(こうばい)がゆるやかで，運転者に錯覚を与えないように細心の配慮がな



されている。また,曲線部には円曲線のほかにクロソイド曲線(自動車が一定の速度で走りながら一定の角度でハンドルを切っていくときに，自然に描く一種のらせん曲線)を多く活用して，運転の円滑化と線形の変化を図って快適性を高めるようにしている。東名高速道路では，直線部分が全体のわずか5％で，その他は円とクロソイド曲線のなめらかな連続したカーブにして，単調になりがちな高速道路運転に適度な刺激を与え，さらに自然の地形にマッチさせて建設費の縮小化にも役だてている。

高速道路の横断形は中心線から外側に向かって中央分離帯，次に側帯・車道・側帯・路肩となっており，往復4車線道路で総幅員25m程度である。このような横断形は盛り土・切り土部および高架・橋梁・トンネル部を通じ，一貫して同じものであることが望ましいが，トンネル部は特に建設費が高いので，路肩部をつくらず，全幅員をそれだけ減少させることが多い。高速道路では走行する車線上に障害物が全然ないことが必要条件になるので，故障車などの待避できる路肩部の設置が望ましいことはいうまでもない。車道は追い越しができるように2車線以上とし,一車線幅は3.6m前後である。側帯は幅0.75m程度,路肩は2.5～3m程度を必要とする。都市内高速道路は用地および経済的な理由から上記のものより車線幅・路肩幅・中央分離帯などが狭くなるのが普通で，首都高速道路では1車線は3.25m，路肩0.7m，側帯0.4m，中央分離帯は0.8mにとっている。

高速道路への出入りに用いられるインターチェンジは交通サービスと交通経済上の観点から，都市内の高速道路は用地と交通技術上の観点から設置位置を決定することが多い。高速道路は自由に駐車することが許されず，また，一般に長距離の通行をするために使用されるので，道路に付帯した休憩施設としてサービスエリアは平均間隔50数キロメートルごとに設置し，パーキングエリアは平均間隔25kmごとに設置する。サービスエリアは車の手入れ，給油・修理・食事・休息のための施設を備えたもので，一般に風景の美しい所を選んでつくられる。また，パーキングエリアは売店と便所程度しかない小規模な休憩施設をいう。インターチェンジ・サービスエリア・パーキングエリアは高速道路本線から自動車の出入りが多く，構造が複雑なので安全と利用の万全を期すために照明を行なう。このほか，線形や気象条件の悪い区間，およびトンネルも同様に照明を行ない，特にトンネル内は出入り口で明るさが急変しないような配慮がされており，かつ光の反射がよいように路面を白色系に仕上げてある。また，車の転落するおそれのある盛り土部などの区間には防護だなを設けて事故防止を図っている。

高速道路は，開通後の大規模な補修が困難であるため，高速走行上大きな障害と危険につながる不等沈下による下りや凹凸(おうとつ)が生じないように基礎工事を十分に行なうことが必要である。わが国では軟弱地盤地区が多いので，沈下防止のための基礎工事には多大の費用と工期を要する。特に軟弱地盤上に設ける盛り土上の道路などは，開通後の沈下量をできるだけ少なくするために深くサンドドレーンなどを打ち込み，かつ余分の載荷重を載せて圧密沈下*を促進するなどの工法を用いている。また，盛り土自体の圧縮量を小さくするため，他の盛り土工事より数段入念な締め固め規準のもとに行なっている。舗装は，高速で安全な走行ができ，かつ経済性・耐久性にすぐれた構造とし，厚さは50cm以上でアスファルト舗装を主体としている。〔森　麟〕

こうぞりな　【毛蓮菜】　双子葉植物・キク科。山や野原に普通にあるキク科の二年草。全体にかっ色の毛があり，高さ30～90cm。葉は先がとがり，縁に鋸歯(きょし)がある。夏，茎の先にタンポポに似た黄色の径2cmほどの頭花をつける。

ごうそん　【郷村】　⇨惣*(そう)

ごうそんせい　【郷村制】　室町時代に形成された村落の体制。荘園*(しょうえん)制のもとでは自然集落である村落は一つのまとまった政治的・経済的単位ではなく，個々ばらばらに支配されていたが，荘園制の崩壊に伴って村落は一つのまとまった政治・経済体となり，自治的な運営を行なうようになった。このような自治的組織を惣*(そう)といい，乙名(おとな)・年寄り・沙汰人(さたにん)などとよばれる指導者のもとで村民の寄り合いが開かれ，灌漑(かんがい)用水・入会(いりあい)の管理をはじめとする生活全般にわたって自治的運営が行なわれた。このような村落は畿内(きない)では南北朝時代から発達し，荘園制の崩壊と打ち続く戦乱による村民の防衛の必要からしだいに遠隔地に及んでいった。土一揆(つちいっき)もこのような村落を基盤として起こった。その後，戦国大名による領国支配の確立によって，村落は領国支配の単位に組み込まれ，豊臣秀吉(とよとみひでよし)の太閤(たいこう)検地*・刀狩り*・身分統制などの諸政策を通じて村落の自治組織は大名の村落支配の組織に転化され，江戸時代の幕藩体制*のもとで制度化されていった。〔鈴木英雄〕

こうそんりょうし　【公孫龍子】　中国の諸子百家*のうち，名家(詭弁(きべん)学派)に属する公孫龍(BC325～？)の著と伝えられる。書中で事物の具体性を，ことば＝観念の中に解消して，〈白馬は馬にあらず〉〈堅く白い石とはもともと堅と白と石との三である〉などという詭弁をもてあそんだが，概念分析を明確にした功績はあった。

こうた　【小唄】　江戸末期から明治初期に端歌(はうた)から独立した三味線(しゃみせん)歌曲。名まえどおり小規模な曲をレパートリーとするため，現代に至るまで広く流行してきた。江戸で始まったので〈江戸小唄〉ともいい，また速度の特徴から〈早間小唄〉といわれるものもある。歌詞の内容は粋(いき)なもの，風刺的なもの，こっけいなものなどで，表現はニュアンスに富んでいる。三味線が音楽的な主導権をもち，撥(ばち)を用いない爪弾(つまびき)が本来のものである〔山口　修〕

こうた　【小歌】　日本歌謡の一。平安時代の俗歌，室町時代の《閑吟集》などに現われる流行歌謡，謡曲の中で俗謡を素材とした部分，そして狂言の中で〈狂言謡〉あるいは〈狂言小歌〉とよばれるものなどをさすのが普通である。《琴歌譜》に収録されている和琴(わごん)伴奏のものが今日みられるものの最古のものである。



コウゾリナ

こうたい　【小謡】　謡曲の中の短い一節を抜き出して独吟すること。《高砂*(たかさご)》の〈四海波……〉はその例。祝言・歓送・追善などのとき，その席にふさわしい小謡をうたう風習は各地に残る。江戸時代には小謡本がおびただしく刊行され，寺子屋の教科書として用いられるほどの流行をみた。

こうたい　【抗体】　抗原*が生体に作用したとき体内で生成され，その通常はその抗原にのみ特異的に反応する物質。それがどのような形で存在するかによって体液性抗体と細胞性抗体に分けられる。①体液性抗体：抗体産生細胞から分泌されて体液中に移行したもので，物理化学的には血清グロブリンに属し，特に免疫グロブリンとよばれる一群のタンパク質である。免疫グロブリンには，現在までにIgG・IgM・IgA・IgE・IgDの5種類が知られている。IgG・IgAは主として形質細胞により，IgMはリンパ細網細胞系の細胞によって産出されると考えられている。どうして特異的な抗体が産出されてくるかに関しては，抗原の存在とその直接の影響を重んずる指令説と，抗体産生細胞側の運命づけを重んずる選択説とがある。②細胞性抗体：抗体が細胞中か細胞表面に存在している場合をさす。この抗体は，遅延型アレルギーあるいは移植免疫などで重要な役割をになっていると考えられている。〔清水不二雄〕

ごうたい　【剛体】　力を加えてもまったく変形しない理想的な仮想の物体。物体に働く力のつりあいや物体の運動を調べる際に物体そのものの変形まで考慮に入れると問題が複雑になってしまうが，物体が剛体ならば取り扱いが容易になる。実在の物体はすべて力を加えると程度の差はあるが必ず変形する。しかし，金属・岩石などの固体は変形がきわめてわずかなので，剛体とみなしても大きな誤りはない場合が多い。剛体の運動やつりあいを論ずるのが剛体の力学である。剛体の運動は，その重心*の運動と重心のまわりでの回転運動に分けて考えることができる。重心の運動は，剛体の全質量に等しい質量の質点が重心の位置にあると考え，剛体に作用する力がそのままその質点に作用したときのその質点の運動に等しい。また，重心のまわりの回転運動は，剛体の重心のまわりの角運動量*の時間微分が外力のモーメント*の和に等しいという関係から求めることができる。外力の和がゼロで，しかも外力のモーメントの和がゼロとなるときは，剛体はつりあいを保つ。〔有山正孝〕

こうだいいん　【高台院】　(1549～1624)　豊臣秀吉(とよとみひでよし)の正室。名は禰(ねね)。杉原(すぎはら)定利(さだとし)の次女で，尾張(愛知県)の領主織田家の弓衆であった浅野長勝の養女となり，秀吉に嫁した。秀吉が織田氏の下士であったころから妻として内助の功を積み，のち秀吉の関白*就任により北政所(きたのまんどころ)と称せられた。1588年(天正16)従一位。その温和な性格は武将たちの信望を集めた。秀吉の死後尼となり，大阪城を去って京都に幽居して仏道に余生を送ったが，1603年(慶長8)高台院号の勅許があった。徳川家康(いえやす)は高台寺*を建てて住まわせ，大阪の役後養老料として一万六千石を与えた。死後高台寺に葬られた。〔高崎徳次〕

こうたいおうのひ　【好太王碑】　⇨広開土王碑

こうたいきんしょう　【交代菌症】　⇨菌交代症

こうたいごう　【皇太后】　先天皇の皇后*で天皇の生母。国母ともいう。令*制(りょうせい)ではじめて明文化され，天皇の生母で皇后の位にあった者を称した。しかし実際には天皇即位後皇后の位に上らなかった生母を尊称して皇太后としたり，また，生母ではない先帝の皇后を特に皇太后としたりするなど諸例が生じた。現在は天皇崩御後その皇后は皇太后となり，皇族としての順位は皇后の下になる。

こうたいこうしょう　【交代鉱床】　成因による鉱床*の分類の一。有用元素を含む鉱化流動体(鉱化ガス，または鉱液)が，地殻(ちかく)の割れ目を上昇中，置換しやすい岩石に遭遇すると，これを置換して塊状・レンズ状・パイプ状・層状の鉱床を形成する。これを交代鉱床という。交代鉱床は高熱(温)交代鉱床*と狭義の交代鉱床(単純交代鉱床)とに分類される。高熱交代鉱床はスカルン*鉱物を伴っている。この場合は，高温の気成作用が鉱床の生成に関与している。狭義の交代鉱床はスカルン鉱物を伴わず，熱水作用によって生成する。交代鉱床という場合，後者をさす場合が多い。岐阜県神岡鉱山・岩手県釜石(かまいし)鉱山は高熱交代鉱床で，栃木県足尾鉱山の塊状鉱床は単純交代鉱床である。〔今井秀喜〕

こうたいさよう　【交代作用】　鉱物や岩石の成分の一部がとけ出して逃げるとともに，それに代わる成分がはいってきて新しい組成の鉱物や岩石に変わる作用。この際，一般に容積は変わらない。堆積(たいせき)岩*の続成作用*や変成作用*に伴ってしばしば交代作用が行なわれている。また，交代作用の結果いろいろな鉱床が生まれることもあり，

これを交代鉱床*とよんでいる。

こうたいし【皇太子】 天皇の位を継ぐべく定められた皇子。古くは，ひつぎのみこ・もうけのみや・東宮・春宮(とうぐう)などと称せられた。古来から皇子が皇太子になるのが原則であったが，必ずしも皇子に限らず，皇族(→皇室)のうちから選ばれる例も多かった。また立太子の儀式を経てのちはじめて皇嗣の地位が決定されたが，早世のためばかりではなく，政争で皇太子が廃せられた史例もいくつかある。1889年(明治22)皇室典範*制定以後は，皇太子には皇長子がなり，皇長子は生まれながらにして皇太子であることが明文化された。現皇太子が1952年(昭和27)立太子の礼をあげられたのは皇嗣であることを内外に知らせる儀式といえよう。皇太子の住居は東宮御所で，東宮職が置かれている。〔高崎徳次〕

こうだいじ【高台寺】 京都市東山区下河原通八坂鳥居前下ル下河原町にある臨済宗建仁(けんにん)寺派の寺院。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の死後，正室北政所(きたのまんどころ)(のち高台院*)は仏門にはいって京都に幽居していたが，1605年(慶長10)徳川家康(いえやす)は酒井忠世(さかいただよ)・土井利勝(としかつ)に命じて現在地に伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)させ，菩提寺(ぼだいじ)とした。さらに寺町の康徳寺を移建して塔頭(たっちゅう)とし，本寺を高台寺と称した。その後伽藍の大半は焼失，開山堂(重要文化財)と秀吉・北政所の霊屋(たまや)(重要文化財)と表門のみがもとの建築である。霊屋の須弥壇(しゅみだん)・厨子(ずし)のとびらなどに施された蒔絵(まきえ)は桃山漆芸の粋を語るもので，高台寺蒔絵*として有名。なお，東山を背景にした小堀(こぼり)遠州作の庭園は京都名園の一つで，伏見城から移されたとされる時雨亭*(しぐれてい)・傘亭*(からかさてい)などの茶室がある。〔永井信一〕

こうたいしき【交代式】 ⇒対称式

こうたいしき【交替式】 律令(りつりょう)制下，新旧官人交替の際の事務引き継ぎ・責任規定に関する細則を集成したもので，3回編集された。①延暦(えんりゃく)交替式：803年(延暦22)成立。菅原真道(すがわらのまみち)らの撰(せん)で国司*の交替だけを規定したもの。②貞観(じょうがん)交替式：868年(貞観10)成立。選者不明。延暦交替式を補訂し，さらに京官の交替に関する事項を載せたもの。上巻は現在伝わらない。③延喜(えんぎ)交替式：921年(延喜21)成立。藤原清貫(きよつら)らが，貞観交替式の不備を補い条文を整理したもの。〔菊池礼子〕

こうだいじまきえ【高台寺蒔絵】 蒔絵様式。京都市東山の高台寺*霊屋(たまや)の厨子(ずし)のとびらや須弥壇(しゅみだん)・調度類の蒔絵装飾にちなんで，同類の蒔絵手法になるものを総称する。従来の複雑な蒔絵法によらず，蒔放し・針書き・絵梨地(えなしじ)など簡明な技法と対比の妙を生かした文様法によって，華麗な装飾効果をあげたところに特色がある。➔幸阿弥(こうあみ)派



高台寺蒔絵 《秋草蒔絵箱》蓋表 東京国立博物館蔵



コウタケ

こうたいよく【後退翼】 飛行機の翼の平面形において，翼幅方向の軸線が翼端に向かうにつれて後退している翼。飛行機の速度が音速に近づくと，遷音速流れの発生に伴うふぐあいが現われてくる。これらふぐあいの発生をできるだけ高い飛行速度まで遅らせるために採用される形状であり，1930年代の中ごろドイツの流体力学者ブーゼマンが提唱した。後退角が翼のつけ根で大きく，翼端に向かうにつれて小さくなるように連続的に変わっている翼を三日月翼(クレッセント-ウィング)という。〔中口 博〕

こうたいよりあい【交代寄合】 江戸幕府の職員組織名。非職で高禄(こうろく)の旗本(はたもと)によって構成されていた寄合組に所属したが，譜代ではなく，幕府と特別な縁故をもつ門閥武士で，一万石未満の封地を有し，隔年に参勤交代*の義務をもった。老中支配下に置かれ，身分・格式は大名に準じた。在府中の勤務として諸門警備など若干の所役はあったが，課金はなかった。菅沼(すがぬま)氏七千石を筆頭とする御礼衆のほか那須衆(なすしゅう)・美濃衆(みのしゅう)・三河衆(みかわしゅう)・信濃衆(しなのしゅう)を加えて計30余家に及んだ。〔高崎徳次〕

こうたく【光沢】 物体にあたった光を正反射する程度を示す物理的な属性。物体表面の心理的属性を光沢感またはつやという。光沢は，鉱物の肉眼鑑定に役だつことがあり，鉱物の表面からの反射光の性質をいう。鉱物の光沢を金属光沢と非金属光沢とに大別する。前者は本質的に不透明な鉱物にみられるもので，新鮮なオウテッ鉱*などがその例である。非金属光沢は，さらに次のように細分される。①金剛光沢：屈折率が高い。透明鉱物に特有のもので，ダイヤモンド*がその例である。②ガラス光沢：屈折率がやや低い透明鉱物に特有のもので，セキエイ*がその例である。③樹脂光沢：やや柔らかい鉱物にしばしばみられるもので，イオウなどが好例である。④真珠光沢：完全な劈開*(へきかい)に沿ってきわめて薄い層が幾重にも重なった構造ができる場合に現われるもので，一つの鉱物でも特に完全劈開面の方向にかぎってみられる。ウンモ*などがその例である。⑤絹糸光沢：細い繊維が集まった構造に伴って現われ，アスベスト*がその例である。〔片山信夫〕

こうたくこ【洪沢湖】 ホンツォー湖 中国の東部，江蘇(こうそ)・安徽(あんき)両省にまたがる大湖。もとは，汴河(べんが)の南端と淮河(わいが)との連絡点に位置する小湖であったが，1194年に黄河が南流して淮河の下流に流入した結果，面積が著しく拡大した。1853年に至り黄河が北流すると，淮河の全水量を受け入れることとなり，直接海への出口もふさがれてしまったので，この地方はたびたび水害に見舞われた。したがって淮河の治水は中国の重要な課題であったが，中華人民共和国成立後，海に向かって170kmの蘇北灌漑総渠(かんがいそうきょ)を開き，水量を調節するとともに，周辺にも配分して水田を灌漑することとなった。〔日比野丈夫〕

こうたけ【革茸】 担子菌類・イボタケ科。夏または秋季に広葉樹林の地上に群生し，食用として尊ばれるきのこ。高さは10～20cm，傘(かさ)の径は10～30cmぐらいで，不整型のじょうご形をしており，表面に粗大な鱗片(りんぺん)をもつている。はじめは淡紅色，のち黒かっ色となる。

ごうだてんのう【後宇多天皇】 (1267～1324) 在位1274～1287年。名は世仁(よひと)。亀山(かめやま)天皇の第2皇子。母は京極院藤原佶子(きっし)。天皇譲位後，伏見・後伏見両天皇と持明院統*が続いたため，幕府を追責して両統迭立*(てつりつ)を行なわせた。皇子後二条天皇の在位中8年間と後醍醐(ごだいご)天皇の初政3年間に院政を行なったが，1321年(元亨1)白河(しらかわ)上皇以来の院政を廃止して，後醍醐天皇の親政にゆだねた。好学の天皇で，1307年(徳治2)出家ののちは，密教の研究，仏道の修行に励んだ。《新後撰(しんごせん)和歌集》はその院宣によって藤原為世(ためよ)が選集したものである。陵墓は京都市の蓮華峰寺(れんげぶじ)陵。〔鹿野賀代子〕

こうだろはん【幸田露伴】 (1867～1947) 小説家・劇作家。江戸神田の生まれ。本名成行(しげゆき)。別号に蝸牛庵(かぎゅうあん)など。逓信省の電信修技学校を卒業後，電信技手として北海道に赴任し，業務のかたわら漢文学・仏典の素養を深めたが，技手生活にあきたらず職を捨てて帰京。西鶴*(さいかく)などの江戸文学に親しみ，創作を志して1889年(明治22)に処女作《露団々》，出世作



幸田露伴

《風流仏》を発表，尾崎紅葉*と並称される新進作家としての地位を確立した。《対髑髏(どくろ)》《五重塔*》などの特異な作風の短編小説，《風流微塵蔵(みじんぞう)》《天(そら)うつ浪(なみ)》などの構想雄大な大作があり，それらの作風には浪漫主義的・理想主義的傾向と，東洋的超脱の思想の合一がみられる。日露戦争以後は文壇を離れ，史伝や研究・考証に没頭し，史伝の代表作《運命》《連環記》，評釈の《芭蕉(ばしょう)俳句研究》《芭蕉七部集評釈》などの偉業を成し遂げた。弟に千島の開拓者郡司成忠*(しげただ)，妹に音楽家安藤こう*があり，小説家幸田文(あや)は次女。

〔木村幸雄〕

こうだん　【講談】　日本特有の話芸の一種。講談という名称は明治以後のもので，それ以前は講釈とよばれた。これは講義読釈，つまり書籍を平易に解釈して話すことを意味した。17世紀初頭，生活に窮した浪人やお伽衆(ときのしゅう)が，路傍や盛り場などで《太平記*》などを読んで，投げ銭を受けたのがはじまりとされ，〈太平記読み〉〈辻(つじ)軍談〉などとよばれた。1700年(元禄13)，名和長年の子孫と名のる名和清左衛門(せいざえもん)が江戸浅草見付御門わきに太平記講釈場を創始，同じころ堺(さかい)町に赤松青龍軒(せいりゅうけん)も出て江戸講釈が始まった。以後，神田伯龍子・深井志道軒らが出たが，1757年(宝暦7)馬場文耕*とその弟子(でし)森川馬谷が出るに至って寄席(よせ)講談の形式が確立し，新しい面を加えた。文耕の世話物がそれである。馬谷は前座を使い，講釈場の看板やビラを考案し，定席を整備して政談物を始めた。馬谷以後，寛政(1789～1801)から幕末にかけては江戸講談の全盛期で，多くの名人が現われた。伊東(いとう)・松林・貞山・神田・田辺(たなべ)各派が，いずれも得意の題材をもって登場し，馬谷の後継者東流斎馬琴は，それまでの棒読み形式を対話中心の写実的演出にあらためて人気を得た。桃林亭(とうりんてい)東玉は，馬琴の演出法を追求して写実に徹し，軍記物を得意とした伊東燕晋(えんしん)はこれと対照的に講釈の古格を守った。そのほか，貞山派の祖となり侠客物(きょうかくもの)を読んだ錦城斎(きんじょうさい)典山，その門下の一龍斎貞山，燕晋と釈界の双璧(そうへき)とうたわれた田辺南鶴(なんかく)，その門下で義士伝を得意とする南窓らがいた。神田伯山*は神田派の祖といわれるが，これは伯山によって神田派が全盛を迎えたからである。その後，天保(てんぽう)の改革で席や読み物を制限されていったんは不振となった講談界もしだいに復活し，品位ある読み口の1世伊東燕凌(えんりょう)，初世松林伯円*，世話物の石川一夢の幕末三名誉や，巾着切(きんちゃくきり)文車と異名をとった一立斎文車などが現われた。

江戸時代末から明治にかけての第一人者は2世松林伯円で，白浪物(しらなみもの)を得意としたころから〈泥棒(どろぼう)伯円〉といわれたが，のちに翻案物や実録物によって新境地を開拓して〈演史家伯円〉とよばれるようになり，明治天皇の御前講演をつとめたこともある。伯円に次いで明治時代に活躍したのは《百猫伝(ひゃくびょうでん)》の桃川如燕，武家物の3世貞山，世話物の邑井一(むらいはじめ)，侠客物の3世伯山，軍談のノンノン南龍，旭堂(あさひどう)派の祖で軍談の南麟(なんりん)，修羅場(しゅらば)読みの名人小金井蘆洲(ろしゅう)，世話物の伊東陵潮，軍談の宝井馬琴*，つづいて世話物の一立斎文慶，硬軟いずれも巧みな5世貞山と3世伯円，世話物の真龍斎貞水，新講談の伊藤痴遊*ら多士済々で隆盛をきわめ，1905年(明治38)には講談研究会もできた。しかし，大正以後は，映画やレビューにおされて衰退し，数少なくなった名人も次々に没して講談界は支柱を失っていった。現在，講談の定席は上野本牧亭(ほんもくてい)だけになり，講談界は一大転換期にあたっているといえよう。〔興津　要〕



光弾性　(上)上端1点，下端2点に力を加える　(中)上端・下端2点に力を加える　(下)二つの円板を接触させて力を加える

こうだん　【公団】　公共的性質をもつ事業を能率的に行なうため，政府の全額出資によって設けられた特別法人。経営の能率化のため，国とは別個の法人として経営の独自性は認められているが，本来的には国の行政機関であり，独立採算制をとる公社*とは異なる。第2次世界大戦中および戦後の統制経済のおり，物資の需給や価格調整の目的で設けられていた食糧配給公団・産業復興公団などは1951年(昭和26)までに廃止され，その後日本住宅公団・愛知用水公団(のちに水資源開発公団に統合)・首都高速道路公団などが設けられた。〔寺尾方孝〕

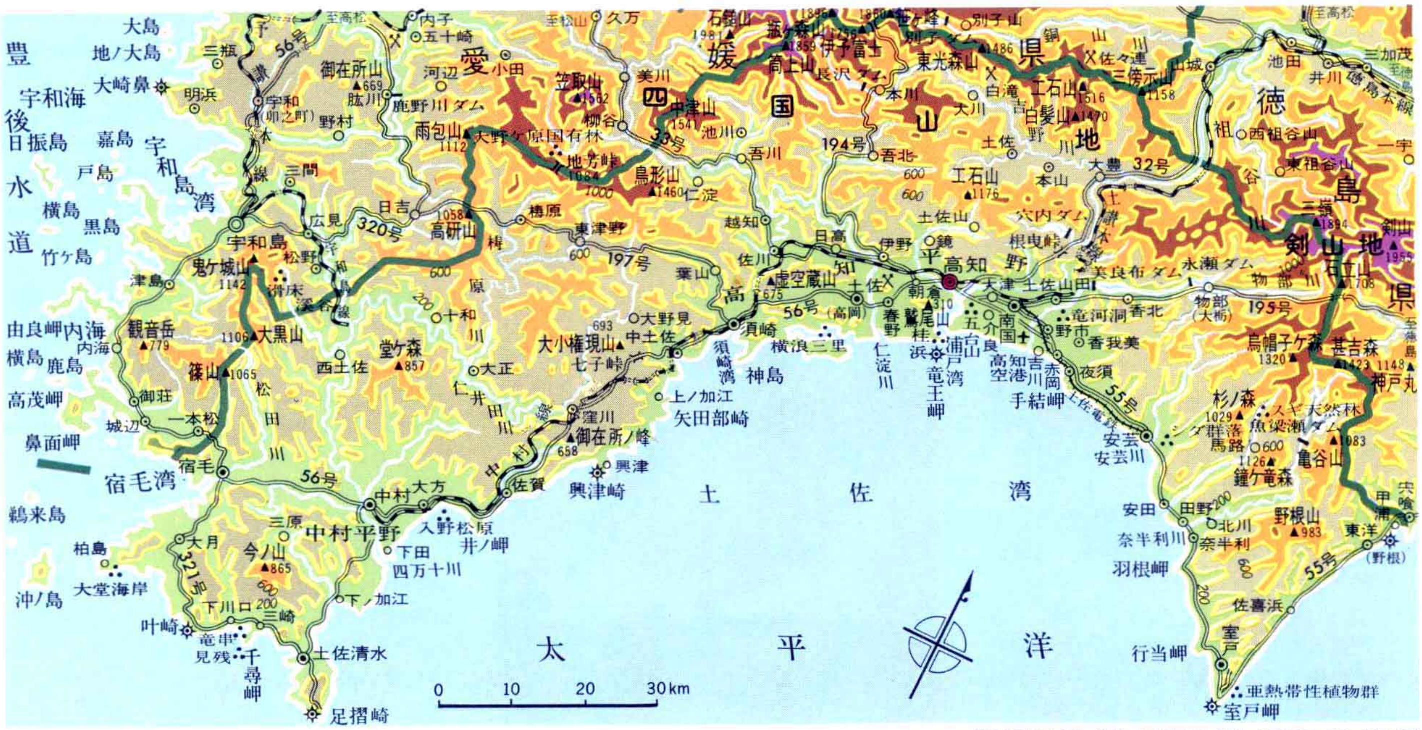
こうたんさい　【降誕祭】　⇨クリスマス

こうだんしゃ　【講談社】　1909年(明治42)2月11日〈大日本雄弁会〉の名称のもとに野間清治(1878～1938)によって創立された出版社。ためになる雑誌《雄弁》に始まり，翌年11月〈講談社〉という別名によって刊行された，おもしろい雑誌《講談社倶楽部(くらぶ)》の成功により出版業の軌道に乗ることとなった。以後〈おもしろくためになる〉というキャッチフレーズは，1925年(大正14)1月発行の《キング》を筆頭とする〈講談社文化〉のキーシンボルとして庶民に親しまれ，出版界のみならず日本のジャーナリズム史に大きな足跡を残している。　〔前納弘武〕

こうだんしゃかいしゅぎ　【講壇社会主義】　19世紀後半，ドイツのワーグナー・シュモラーらの新歴史学派経済学者の主張した社会改良主義論。彼らは国家権力による労働者の保護を説き，社会政策学会を設立してビスマルク*の政策に協力した。この名称は，古典派経済学者が彼らの主張を教壇の講義にすぎないと皮肉ったことに始まり，のち一般に使われるようになった。

ごうだんしょう　【江談抄】　平安時代の説話集。大江匡房*(まさふさ)の談話を藤原実兼(さねかね)が筆記したと伝わる。成立は《中右記*》の記事から1104～1108年(長治1～天仁1)と推定される。漢詩文・儒学に関する逸話が多く，文章は記録体の漢文にときおりかなを交えている。《宇治拾遺物語*》以下の中世説話集に素材を提供しているが，特に《古今著聞集*》への影響は注目される。

こうだんせい　【光弾性】　等方性の透明物体に力を加えてゆがみを起こすと，それが結晶と同じく光学的に異方性となる現象。1816年にイギリスの物理学者ブルースターが見いだした。直交ニコル*の間に透明な合成樹脂などを入れると，力を加えない場合は光が通らないが，ゆがみが生ずるとそれに対応した干渉じまが見えるようになる。この事実を利用すると，複雑な形の物体にいろいろな力が加えられたときのゆがみの模様を，複雑な計算をしないでも推定することができる。この種の学問を光弾性学とい



高知県

い，構造物などの強度を知るうえに重要である。〔吉原邦夫〕

こうたんぱくしつ【硬蛋白質】 水・塩類溶液・有機溶媒などすべての中性溶媒にとけない単純タンパク質*の一群の総称。不溶性という物理的類似性から一群として扱うが，化学的にはまったく異なったタンパク質を含む。濃い酸やアルカリにはとけるが，このときには構造の変化を伴うと考えられる。動物界において保護的な役目を果たすタンパク質とみられるが，植物界には存在しない。代表的なものとしては，コラーゲン*・ケラチン*・エラスチン*・フィブロイン*がある。〔山崎博子〕

こうち【耕地】 土地に労力を加え，作物を栽培することを目的とする土地をいい，田・畑・樹園地（果樹園・茶園など）をさす。農地法でいう農地に該当し，宅地，放牧を目的とする山林，荒地，水路用地，永久農道などと合わせて農用地とよばれる。

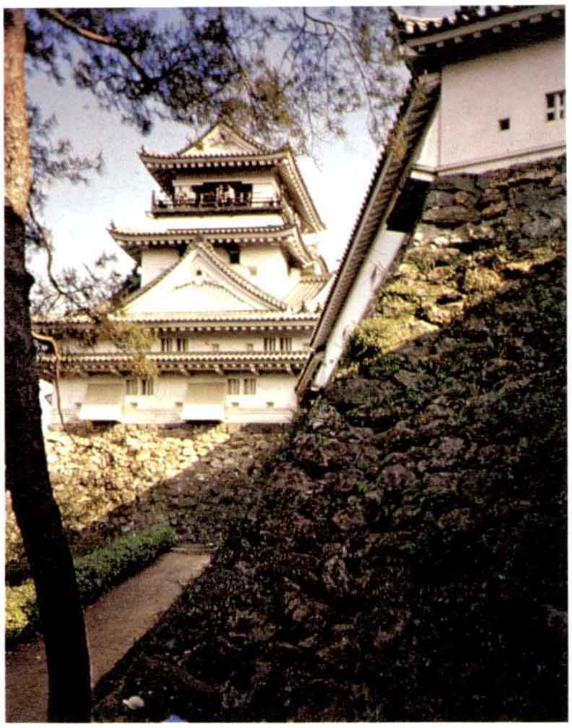
こうち【高知(県)】 四国地方の南半部を占める県。南は太平洋に面し，北東は徳島県，北西は愛媛県と境を接する。土佐の全域を占め，面積は7,106km²で四国4県中最大であるが，人口は84万1,000で少なく，人口密度は1km²あたり118人である。県花はヤマモモ，県木はヤナセスギ，県鳥はヤイロチョウ。県庁のある高知以下9市と7郡25町19村に分かれる。

〔自然〕南は土佐湾を囲んで，室戸岬(むろとざき)から足摺崎(あしずりざき)まで延長400kmに及ぶ長い海岸線が弧を描き，沿岸部には県下最大の高知平野を中心に，東に安芸(あき)，西南に中村などの小平野が点在する。これらの平地と川沿いや河口の低地を合わせても，平地の総面積は約300km²にすぎない。室戸・足摺の両岬付近は海岸段丘が発達し，土佐湾奥と宿毛(すくも)湾岸は沈降して複雑なリアス式海岸を呈する。沿岸一帯には愛媛県にまたがる足摺国定公園，徳島県にまたがる室戸阿南(あなん)海岸国定公園などの景勝地に富み，各地に亜熱帯植物が自生して，珍しい景観がみられる。その他の大半は四国山地で，愛媛県境には県下最高の瓶ケ森(かめがもり)山(1,896m)や笹ケ峰(ささがみね)(1,860m)をはじめとする1,500m以上の山々が連なって四国の脊梁(せきりょう)山地を形成し，一部は石鎚(いしづち)国定公園に属している。これらの山地から流れ出る河川には，東から奈半利(なはり)川・安芸川・物部(ものべ)川・仁淀(によど)川・四万十(しまんと)川などがあり，いずれも南流して土佐湾へ注ぐ。また，四国最長の吉野(よしの)川は，瓶ケ森付近に源流をもち，県北に広大な流域をつくって東流し，四国山地を横切って徳島県にはいり，紀伊(きい)水道に注いでいる。〈南国土佐〉とよばれるように，沿岸を流れる黒潮*(日本海流)と四国山地をついたてとして南に開いた地勢との影響を受けて一般に高温多雨で，表日本太平洋式の海岸性気候を呈する。高知市の年平均気温は15.8℃，年平均降水量は2,646mmに達し，東部の奈半利川上流の魚梁瀬(やなせ)付近は年平均3,925mmの県下最多雨地である。脊梁山地には短期間積雪がみられる所もあるが，高知市で雪が降るのは，1年に平均して1日である。季節風の影響を受けて，11月から3月にかけては北西風が多く，4月から10月にかけては南風・南東風が吹く。日本を襲う台風の23%は高知県に上陸し，その比率は全国最高である。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は20：25：55。農林水産業を主産業とし，近代工業は未発達で，県民分配所得は1人あたり112万4,000円，全国34位と低い。《農林水産業》山がちのために耕地面積は581km²で県域の8.3%にすぎず，耕地は分散し，傾斜地が多く，農家の経営規模は小さい。水田と畑の割合はほぼ2：1で米作を主体とするが，米の平年収量は11万5,000tで自給できない。畑作ではハダカムギ・小麦や，サツマイモ・サトウキビ・野菜・果実などがつくられている。江戸時代の中ごろから高知平野の東部にあたる香長平野を中心に行なわれた米の二期作は，昭和初期の最盛期に比べれば作付面積が半減しているが，温暖な海岸地帯にビニルハウスを設けて行なわれる野菜の促成栽培とともに，暖地農業の特徴を生かし，台風の被害を避けるのに役だっている。野菜の促成栽培ではトマト・キュウリ・サヤエンドウ・ナス(以上2～4月)，カボチャ(5～6月)，スイカ(6～7月)などの園芸作物が多く，最近はバナナ・パイナップル・パパイアなどの熱帯果樹も栽培されて，年間総生産高11万5,000tのうち約60%を京阪神(けいはんしん)地方に出荷する。養蚕の歴史は古いが，近年は衰えている。畜産業ではウシ・ウマの飼育が多く，最近はブタ・ニワトリも増加した。特別天然記念物のオナガドリ(→長尾鶏)が愛玩(あいがん)用として南国市篠原(しのはら)を中心に飼われているが，その数はしだいに減少している。林野面積は県域の84%を占め，そのうち22%が国有林である。気候・地質に恵まれて樹木の生長が早く，全国でも有数の林業県となり，素材生産量は年間113万4,000m³，林産生産







高知県　(左上)高知平野の水稲の二期作　穂の垂れた稲田と田植えを終えて間もない稲田とが対照的である。高知平野東部の南国市付近　(左下)中村市　四万十川河口の下田にある魚市場。黒潮でとれた生きのいいカツオが並んでいる　(右)高知城　高知市街中央の孤立丘陵高坂山頂にある。一帯は公園で市民の行楽地となり，そのまわりは官庁街となっている

額は200億円に達する。樹種はスギ・ヒノキ・モミ・ツガなどの針葉樹が多く，魚梁瀬の国有林は日本有数の天然美林で〈千本杉(すぎ)〉の景観が名高く，長岡郡大豊(おおとよ)村杉の大スギは特別天然記念物に指定されている。山間部農村の副業としては，和紙の原料となるコウゾ・ミツマタがおもに切り畑(焼き畑の一種)で栽培される。土佐炭の名で阪神地区へ移出されてきた木炭は，生産量は岩手県に次ぐ全国第2位を占めるが，需要減のために最近はしだいに減っている。黒潮が沖を流れて暖流性の魚類が多く，県民の海への発展性が強いために，水産業は昔から盛んである。遠洋漁業・沿岸漁業によってマグロ・カツオ・ブリ・サバ・イワシ・アジなどを漁獲するほか，ハマチ・アユなどの養殖漁業も行なわれる。室戸市や土佐清水(とさしみず)市は遠洋漁業の基地となり，須崎(すさき)市や土佐市の宇佐では沿岸漁業や養殖業・水産加工業が行なわれ，各地にかつお節の特産がある。《鉱工業》おもな地下資源は石灰岩で，その埋蔵量は35億t(全国一)に及び，銅・硫化鉄・マンガン・鉄・ケイ石なども少量を産出する。豊富な水流を利用した水力発電は，発電所数50を数え，最大出力は45万kWに達し，四国の水力発電の50％以上を供給する。最近はさらに電源開発が進み，吉野川・那賀(なか)川の上流に大規模なダムがつくられている。近代工業は，高知市で石灰岩を原料とするセメント工業が行なわれるほか，県内資源を利用した製糸・製材・打ち刃物などの軽工業が各地で行なわれるが，工業製品の年間出荷は830億円で，全国都道府県別では44位と低い。家内工業としては，土佐市・高知市・吾川(あがわ)郡伊野(いの)町周辺で400年の伝統をもつ和紙製造が行なわれており，謄写原紙や夏帽子用原紙などは日本一の生産量を誇っている。手すき紙は障子紙・美術紙など，機械すき紙はちり紙・薄葉紙などがおもで，海外へも輸出される。藩政時代から特産として知られるサンゴ細工は，高知市・宿毛市などが主産地で，足摺崎近海をはじめ，沖縄・八丈島からも採集される材料を加工してアメリカ・フランス・西ドイツなどへ輸出し，年産約4億円に達する。〔交通・都市〕山がちのため，鉄道の発達が遅れ，土讃(どさん)本線は1934年(昭和9)にようやく高知平野に通じたが，愛媛県や海岸沿いに徳島県と結ぶ鉄道はまだ全通していない。主要道路としては高知市を中心に国道32号線・33号線が県域をほぼ南北に走って高松・松山の両市に通じ，太平洋沿岸部には国道55号線・56号線が走って徳島・松山の両市に達する。これらの道路を利用して定期バス路線があり，トラック運輸も比較的整備されている。将来は高松から須崎に至る四国横断自動車道が建設される予定である。海運は古くから発達し，高知市から阪神地方への定期航路が通じ，南西部には足摺航路(高知～土佐清水)・宿毛湾航路がある。航空路としては，南国市に高知空港があり，徳島～大阪間を結んでいる。人口密集地域は太平洋に沿う海岸平野にあり，高知平野には県総人口の約50％，40万人が集まる。県の行政・商業の中心をなす高知市を除き，宿毛・中村・安芸・土佐清水・須崎・土佐・室戸・南国の8市はいずれも1953年の町村合併促進法施行以降の新市で，農業都市の南国市，漁業都市の土佐清水市・室戸市以外は地方物資を集散する商業都市としての機能が強い。1969年5月，新都市計画法に基づく高知広域都市計画事業が発足して，高知市を中心に，南国市と土佐山田・伊野・大津・介良(けら)・春野などの周辺町村が都市区域に指定された。

〔歴史〕中央の歴史と関係が薄く，古い文献に乏しいが，西部に縄文(じょうもん)式遺跡が，東部に弥生(やよい)式遺跡があり，宿毛貝塚(かいづか)と龍河洞(りゅうがどう)遺跡が知られている。古墳時代以後は高知平野が歴史の主要舞台となり，王朝期の国司，戦国時代の長宗我部(ちょうそかべ)氏，江戸時代の山内(やまのうち)氏の築いた政治体制はすべてこの平野が中心であった。大和(やまと)国家成立のころには土佐・波多の2国であったが，《日本書紀》の684年(天武天皇13年)の条に土佐の大地震の記録がある。大化改新後，幡多(はた)・吾川・土佐・安芸の4郡が，平安時代初期には高岡・長岡・香美(かみ)の3郡が設けられ，国府は長岡に置かれた。《土佐日記》の著者紀貫之(きのつらゆき)は来任国司のうちで名高い。724年(神亀1)流刑の制が定められて遠流の地となり，承久の乱ののちに土御門(つちみかど)上皇がみずから望んで移ったことが知られる。平安時代には空海が巡回したのを契機に，四国八十八か所の霊場が生まれた。平安時代以後，多くの荘園(しょうえん)が出現し，鎌倉時代末期には北条(ほうじょう)氏の統一するところとなったが，その後，細川氏が四国を統治し，その一族細川頼益(よります)が香美郡に城を築いて，土佐全体を支配した。応仁(おうにん)の乱から戦国時代にかけては，長宗我部・山田・吉良(きら)など，いわゆる7族が各地に割拠していた。当時京都にいた一条教房(のりふさ)が応仁の乱の兵火を避けて，その子房家とともに自家の荘園幡多郡に下野し，7族は房家を国司として中村に封じた。以後，一条氏は5代93年間土佐を統治し，中村に京都を模した直交式道路をつくり，都の文化の移植を図って，いわゆる〈一条文化〉を開いたが，1581年(天正9)長宗我部元親(もとちか)に追放された。関ケ原の役後，山内一豊(かずとよ)が高知城にはいって土佐二十万二千石の藩主となって以来，江戸時代を通じ，16代にわたって統治していた。幕末には，山内豊信(とよしげ)が公武合体論を唱えて徳川慶喜(よしのぶ)に大政を奉還させたが，その家臣にも坂本龍馬(りょうま)・中岡慎太郎・岩崎弥太郎(やたろう)・板垣(いたがき)退助ら，明治維新の前後に活躍した人材が多く出た。1871年(明治

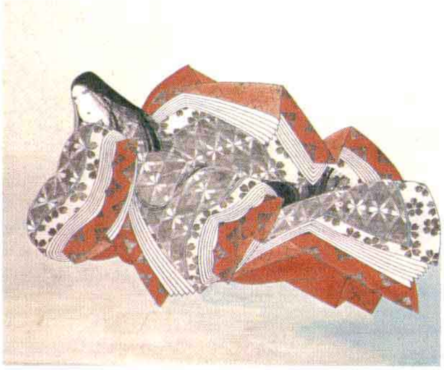


高知市　五台山の山頂から見た高知市の概観。左手の水路は市内を流れる鏡川。川の右側が市の中心部

4)の廃藩置県に際して高知県となり，1876年には徳島県と合わせて名東(みょうどう)県とよばれたが，1880年に分離して，再び高知県となり，県庁を高知市に置いて現在に至っている。〔浅井得一〕

こうち【高知(市)】高知県の中央部に位置する県庁のある市。戦国時代には大高坂とよばれ，長宗我部(ちょうそかべ)氏の築城後，1603年(慶長8)に山内一豊(やまのうちかずとよ)が入国して藩政を敷き，明治維新まで山内氏二十万二千石の城下町となった。1880年(明治13)高知県が成立して以来，県庁所在地となり，1889年市制施行。1945年(昭和20)の空襲と，翌年末の南海地震によって市街の大半を失ったが，木材が豊富なため復興も早く，すぐに近代都市として生まれ変わった。人口29万7,000。浦戸湾によって太平洋に面し，鏡川下流のおぼれ谷に発達した市街地は四方に延びて，広大な市域を形成する。産業三大別人口比は5：23：72。県の政治・経済・文化・厚生・娯楽など，すべての面で中心都市となり，消費都市的性格がきわめて強い。土讃(どさん)本線が通じ，国道32号線・33号線・55号線・56号線・194号線・195号線が集まる。高知大学・高知女子大学がある。景勝地や史跡に富み，五台山公園からのながめは浦戸湾随一であり，山腹の竹林寺は四国八十八か所霊場の一つである。浦戸湾は土佐八景の一つに数えられる景勝地で，中でも南部種崎の外海は白砂青松の打ち続く千松(せんしょう)公園となり，その対岸の龍頭崎(りゅうずざき)には坂本龍馬(りょうま)の銅像が太平洋を眼下にして立っている。この海岸は桂浜(かつらはま)とよばれ，月の名所として名高い。市域内のミカドアゲハおよびその生息地は特別天然記念物に指定されている。〔浅井得一〕

こうちぎ【小袿】平安後期以降，宮中の女子の正装(女房装束)に次ぐ準礼装。普通の衣(きぬ)より小形につくった表衣で，女房装束から唐衣(からぎぬ)と裳(も)を略し，男子の衣冠に相当するものである。近世になると，小袿のえり・おくみ・すそ・そで口などの裏地の端を表に返し，表地に縁どってくける。この縁どった部分を〈おめり〉と称し，このおめりと表地との間に中倍(なかべ)という色変わりの絹裂(きぬぎれ)を加えて三重に仕立てた。〔河鰭実英〕



小　袿

こうちこうみん【公地公民】土地・人民の私有を否認する律令(りつりょう)制の原則。大化改新で，皇室の屯倉(みやけ)・子代(こしろ)および豪族の田荘(たどころ)・部曲(かきべ)を廃してすべて国家の土地・人民とし，公地公民の大方針を定めた。公民は貴族と賤民(せんみん)を除く一般国民で，班田(→班田収授法)を給せられ，租(→租税)・庸・調を負担した。唐の制度にならった新政で，天皇を中心とする中央集権国家がつくりあげられたが，奈良時代には三世一身法や墾田永代私有法で土地の私有が許されるようになり，この原則はくずれた。〔高崎徳次〕

こうちしゃ【行地社】日本のファシズム進展に強い影響を及ぼした右翼団体。猶存社解散後，大川周明は社会教育研究所(のちの大学寮)をつくり，国家社会主義を信奉する青年闘士を養成したが，陸海軍青年将校の参加者も多かった。1925年(大正14)，大川は大学寮を廃し，同志とともに行地社を創立した。〈則天行地〉の成語から，則天とは理想の把握(はあく)，行地とは理想の実現であるとし，行地を社名とした。総務委員長は大川，主事は満川亀太郎(かめたろう)。専門委員は安岡正篤(やすおかせいとく)・笠木良明(かさぎよしあき)・西田税。綱領としては，まず〈維新日本の建設〉を掲げ，国家社会主義およびアジア主義の思想を鮮明に表明した。やがて神武会へ発展するが，軍人将校と密接な交渉をもった最初の右翼思想結社として，日本ファシズム運動史上重要な契機をつくった。この結社で影響を受けた軍人の中から，五・一五事件の参加者が出た。〔高崎徳次〕

こうちしょ【拘置所】未決囚(判決が確定していない者)・死刑囚を拘禁するための国の施設。法務省矯正(きょうせい)局の管轄下で，全国7拘置所，93拘置支所がある。未決囚はすべて勾留状(こうりゅうじょう)によって自由を拘束されている者であるが，その中に起訴前の被疑者と起訴後の刑事被告人の別があり，原則として，前者は10日以内，後者は2か月以内拘禁される。また法律の定める範囲で期間が更新される場合がある。刑務所と異なり，主として未決の者が対象になるので強制労働はなく，衣類・寝具・食物の自弁が認められ，外部との通信・面接も受刑者に比べて寛大である。拘留期間の満了や拘留期間中であっても，保釈によって拘置所から出所できる。また，懲役・禁錮(きんこ)の刑が確定すれば刑務所に移される。〔井上公耳〕

こうちせい【向地性】⇨屈性

こうちせいり【耕地整理】農業生産を高めるため，その基盤である土地および水利権などの合理化を図る目的で行なう耕地の区画整理(耕うん能率を高めるため一筆面積を増加し，畦畔(けいはん)などを取り除き，その形を整える)や交換分合，農地の集団化を行なうこと。わが国では明治維新以降の米穀市場の拡大に伴い，小作米の増額および小作料の引き上げを目的として地主の主導によって，1899年(明治32)耕地整理法が制定された。それは単純な区画整理事業を目的とするものであったが，1909年の法改正により耕地整理の事業主体は法人格をもつ耕地整理組合となり，補助金や融資が受けやすくなり，おもに水田の灌漑(かんがい)排水工事が行なわれるようになった。事業が完了すると水利組合に転じ，用水を維持・管理するのが普通であったが，1949年(昭和24)の土地改良法により工事と維持・管理は土地改良区に統一されるようになった。1965年の事業面積は国営灌漑排水27,000ヘクタール，都道府県営灌漑排水35,000ヘクタール，団体営区画整理20,000ヘクタールにすぎず，農業構造改善上も土地基盤の整備が急務となっている。〔高山隆三〕

こうちだに【香落渓】三重県名張市南部，名張川支流の青蓮寺(しょうれんじ)川が室生(むろう)火山群による柱状節理の発達した安山岩にうがった約12kmの渓谷(けいこく)。奥香落と口香落に分かれるが，一般には口香落をさす。奇岩や飛瀑(ひばく)に富み，新緑や紅葉のころは特に美しく，赤目一志峡県立自然公園の一部になっている。

こうちへいや【高知平野】高知県中央部に広がる沖積(ちゅうせき)平野で，三つの平野に分けられる。東部の物部(ものべ)川下流は

香長平野ともよばれ，物部川のつくった扇状地からなり，地下水面が低いため，乾田には米の二期作のほか，裏作に野菜の促成栽培やタバコがつくられている。南国市から高知市までは，高知市を中心とした狭義の高知平野で，北は四国山地に続く山々，南と西は真如寺山・鷲尾(わしお)山に続く山山に接する。ここはかつて海であったが，国分川・舟入川・鏡川などの堆積(たいせき)作用によって陸化したもので，現在，これらの川は土佐湾から深く入り込んでいる浦戸湾に注いでいる。平野のあちこちにみられる小高い丘は，かつての島のなごりである。この地域は地下水面が浅く，低湿地が多いため，集落は平野周辺の山のふもとや，平野内に散在する丘のふもとに集まっている。西部の仁淀(によど)川下流は仁淀平野ともよばれ，スイカをはじめとする園芸農業が盛んで，仁淀川右岸に土佐市がある。東西に走る土讃(どさん)本線が交通の中心である。

〔味沢成吉〕

こうちゃ【紅茶】 チャの葉を発酵させてつくったもので，緑茶*と同じ原料から製法を変えてつくることができるが，今日ではそれぞれに適した品種がある。

〔沿革〕紅茶は中国を起源とするが，愛好され出したのはヨーロッパにおいてであり，パリへは1648年に，ロンドンへは1650年ごろにオランダ東インド会社によって伝えられたといわれる。最初は上流階級の嗜好品(しこうひん)であったが，1657年ごろから市販されはじめたのにつれて広まり，1750年ごろになると緑茶に代わって消費されるようになった。1823年にインドのアッサム地方で中国のものとは異なった種であるチャが発見され，1834年ごろから栽培されるようになった。このアッサム種が紅茶に適したことから，インド・セイロンが世界の大産地となった。特に1890年以来，T. リプトンはセイロンでアッサム種による茶園を経営して優良品を大量生産したため，それまで茶の製造を独占していた中国は打撃を受け，世界市場から姿を消すようになった。なお，ダージリン地方には高地産の紅茶が生産され，アッサム紅茶と違う風味をもち，ダージリン-フレーバーとして珍重されている。日本においても明治初年からいくらか生産され，第2次世界大戦後アッサム種と中国種の雑種による紅茶がつくられてから生産が本格化した。

〔製法〕新芽の2葉くらいまでを摘み，これを網だなに薄く広げて約18時間徐々に水分を蒸発させてしおらせ，揉捻機(じゅうねんき)で1.5時間ほど強くもむと，茶葉は酸化が進んで浅緑色となる。これをふるいで大小に分け，発酵室で約3時間ほど発酵させる。茶葉にはこの段階まで熱を加えていないため酵素の活性が保たれており，発酵によって茶葉はしだいに黄みを増し，ついには黒赤かっ色を呈し，芳香を発するようになる。その浸出液は美しい赤色と芳香と渋みをもった飲料となる。

〔成分と入れ方〕発酵中に大きな変化を受けるものはタンニンで，大部分がテアフラビン・テアルビジンなどの色素類に変わり，クロロフィルは失われ，カロチノイドやアントシアンなどの色素は酸化してほとんどなくなる。紅茶の香気はオクチルアルコール・シトロネロール・リナロール・ゲラニオール・フェニルエチルアルコールなどの成分による。緑茶と同じくカフェインを含み，軽い興奮刺激作用があり，疲労をいやす。そのほかに，ニコチン酸・ビタミンB_1・ビタミンB_2・パントテン酸のようなビタミンB群を含んでいる。

紅茶をいれるには，暖めたポットに茶さじ1杯半(1人まえ)の割合で茶葉を入れ，わき立った熱湯を注ぎ，ふたをして3～4分置く。こし器でこしながらカップにつぎ，適当に砂糖とミルクなどを加える。最近はティーバッグの使用がふえているが，これは1人分2.0～2.5gを紙袋に入れたもので，湯を入れたカップ中に浸して用いる。

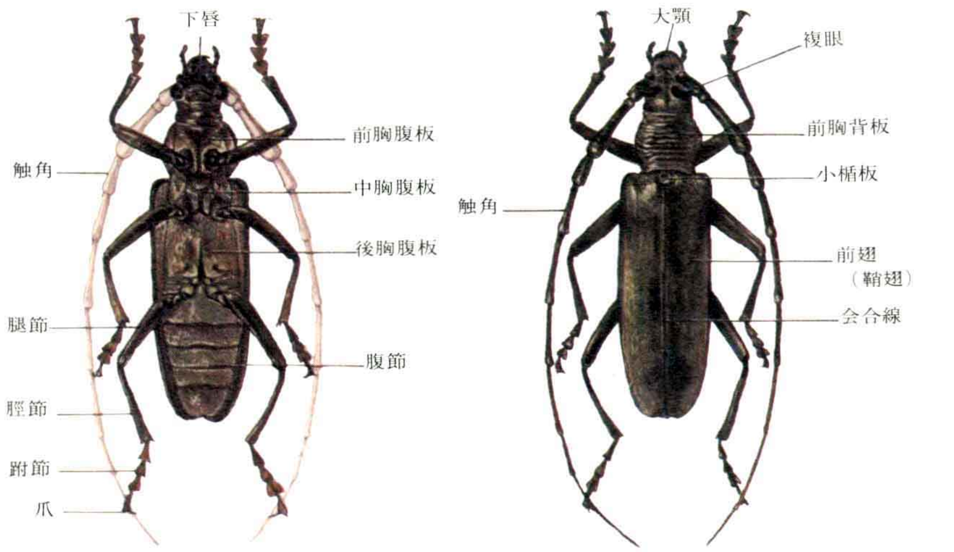
〔大石貞男〕

こうちやき【交趾焼】 明(みん)末から清(しん)にかけて，中国南部で焼かれた三彩釉(さんさいゆう)の軟陶。交趾(こうし)は漢の武帝が南越国を平定してベトナムのトンキン-デルタ地方に交趾郡を置いて以来，中国でベトナム人の国をさすが，日本ではこれをベトナム産だと思ったことからこの名がある。特に茶人に喜ばれたのは，黄・緑・紫の三色釉を配合したいわゆる型物香合(かたものこうごう)の類で，日本の陶工にも模倣された。

こうちゃくご【膠着語】 言語の形態的構造による古典的分類法の一。独立的な実質的意味を表わす語と独立できない文法的機能を表わす語とが別個に存在し，それらは互いに連接(膠着)して屈折語*の語に相当する単位をつくる言語。したがって，膠着語は屈折語と孤立語*との中間的性格をもつといえる。日本語*・朝鮮語*・アルタイ語族*の言語はその代表とされる。たとえば，〈わたしは本を読む〉において〈わたし〉〈本〉のような名詞的要素に独立できない〈は〉〈を〉(いわゆる〈てにをは〉)が膠着している。後者のような要素は接辞ともよばれる。屈接語のような語形変化もなく，語順も孤立語の場合ほどの重要性をもたないから，〈本をわたしは読む〉ということもできる。ただし，接辞の位置は固定的で自由に動かすことはできない。動詞については膠着語的でない点が認められ，〈読む〉の活用において，〈読ま(ない)〉〈読み(ます)〉〈読む・読め(ば)〉〈読め〉のすべてにわたる完全な独立性はないにしろ，それぞれは異なった文法的機能を表わし，そこに現われる母音交替はむしろ屈折語的な現象ですらある。〔崎山 理〕

こうちやまとなおざむらい【河内山と直侍】⇨ 天衣紛上野初花(くもにまごううえののはつはな)

こうちゅう【甲虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目の総称。この類はこん虫の中ばかりでなく，全動物中で最も多くの種類を含んでおり，今日までに全世界から30万種以上が知られ，150以上の科に分類されている。また，毎年多数の種類が新しく発見されている。日本にも8,000種以上が知られ，将来は10,000種を越えるものと思われる。このように，非常に大きい群であるため，体の大きさや体の構造，生活習性・生活場所など種々の点できわめて著しい多様性を示し，分類もはなはだむずかしい。体の大きさは，ムクゲキノコムシ科のある種のように体長0.25mm内外の微小種から，アフリカのゴライアスコガネムシのように体長125mmに達する大形種まである。体の形状も変化に富み，長卵形のもの，細長いもの，円筒形のもの，扁平(へんぺい)形のものなどがある。この種は，体の表面が一様に硬化しており，特に1対の前翅が多少ともかたい革質になっていることが最も著しい特徴で，このためにこの種の前翅は特に鞘翅とよばれる。鞘翅も群によってきわめて変化に富み，ハネカクシ科・デオキノコムシ科・ケシキスイ科などのように非常に短く，そのために腹部の後端部が露出しているものや，ホタル科のある種のようにまったく退化して消失しているものもある。ゾウムシ類やオサムシ類のように，非常に硬化の程度の著しいものから，ジョウカイボン科・カミキリモドキ科のようにあまり硬化していないものまである。また，鞘翅に種々の形状の突起をもつものも少なくない。一般に鞘翅は，静止時には左右のものが体の背面で一直線に合わさって，いわゆる会合線をなす。後翅は膜質で薄く，鞘翅よりも大きく，静止時には鞘翅の下にそれぞれの群に特有の方法で小さくたたみこまれ，飛ぶときは鞘翅よりもはるかに長く開いて伸びる。後翅には，ふつう数本ないし10数本の翅脈があり，その数や脈の分枝の状態などは群によってほぼ一定であるため，しばしば分類上の特徴として用いられる。また，後翅はときに退化しているものがあり，完全に消失しているものも少なくない。頭部は普通は短いが，ときには多少とも突出するものがある。特に，ゾウムシ上科では，多くの種類が明瞭(めいりょう)な吻(ふん)をなし，その先端に口器がある。頭部は，口器の位置によって下口式(口器が頭部の下方に位置する)と前口式(口器が頭部の前方に位置する)の2型に区別される。口器は完全な咀嚼口(そしゃくこう)で，一般に強大な大顎(おおあご)をもっている。眼はふつう発達した複眼だけをもつが，ほかに単眼をもっているものもある。寄生生活をするものや，木や種子の中のような暗所，洞穴(どうけつ)のような暗黒の世界に生活するものでは，複眼は種々の程度に退化したり，ときには完全に消失しているものが多い(複眼の退化しているものでは，感覚毛が著し



甲　虫　ヤマカミキリの体制図

く発達しているのが普通である）。胸部は前・中・後胸の３部分からなるが，前胸が中胸と癒合(ゆごう)しないで自由であることは，この類の主要な特徴である。前胸背板は大きく，つねに明瞭であるが，中胸背板はその一部分である小循板(しょうじゅんばん)が鞘翅の基部に現われるだけで，大部分は後胸背板とともに鞘翅によって完全におおわれている。脚は，基部から基節・腿節(たいせつ)・脛節(けいせつ)・跗節(ふせつ)の各部分からなる。腹部の腹面には，一般に５～６節の腹板が認められ，鞘翅を除けば背面には７～９節の背板が認められる。雄の腹部に付属する交尾器は，種によって比較的一定の特徴をもつ。甲虫も他のこん虫と同じように，雄に比べて雌のほうが一般に大きい。しかし，カミキリムシ科・ヒゲナガゾウムシ科などでは雄の触角が雌のよりも長く，クワガタムシ科の大部分は，雄のほうが強大な大顎をもつ。さらにコガネムシ科のある群やゴミムシダマシ科のある種では，雄の頭部に特有の突起を生ずる。

甲虫は一般に完全変態をして，卵・幼虫・さなぎ・成虫の各時代がはっきり区別できる。卵は，土中をはじめとして樹木の枝幹・葉・茎・花，動物の糞(ふん)・死体など種々の場所に産下される。幼虫の形状は群によってきわめて変化に富むが，ナガコムシ型とウジムシ型の２型に大別することができる。前者は，体が細長く，よく発達した脚があって活動に適し，捕食性で活発に動き回って餌(え)をあさり，原始的な型と考えられている。後者は，植物体の上や腐敗物の中などに半寄生的な生活をして，特に食物を求めて動き回る必要のないことから生じてきたものと考えられ，大部分の幼虫はこの型に属する。幼虫の習性は，その形態の多様さに応じてきわめて多様である。さなぎは一般に裸蛹(らよう)で，淡色で薄い外皮に包まれている。多くのものは土中に土室をつくってその中でさなぎになるが，寄主植物の組織中でさなぎになるものも多い。また，繭をつくり，その中でさなぎとなるものも少なくない。

生活様式はきわめて変化に富むが，陸生のもの，半水生のもの，水生のものに三大別できる。半水生・水生のものでは，淡水に生活するものと海水（塩水）を好むものとがある。陸生のものの中には，草木の上でそれらの葉や茎を食べるもの，花に集まるもの，地上を歩行して食物をあさるもの，土中で生活するもの，木や草に穴をあけてその中で生活するもの，キノコ類を食べるもの，ハチ類やアリ類・シロアリ類の巣の中や鳥類の巣の中などに寄生するもの，哺乳(ほにゅう)類の皮膚に寄生するもの，他のこん虫類の体に寄生するものなどがある。半水生のものは，水の上や水中を泳いだり，泥土(でいど)の中や水草の茎の中にもぐるものなどがある。甲虫には全生涯(しょうがい)を通じて水生のものはなく，多くは幼虫時代のみを水中で生活する。

鞘翅目がこん虫類の中で占める位置や起源については，学者によって意見が異なるが，鱗翅(りんし)目（チョウ・ガの類）と膜翅目（ハチ・アリの類）の間に置かれることが多い。起源については，直翅目のゴキブリ類に近縁の祖先型を想定する説もあるが，近年の研究では脈翅目のセンブリ類に近縁のものを祖先的に想定する説が有力になりつつある。化石として発見されるもののうち最も古いものは，現生のナガヒラタムシ科に近縁のもので，古生代の二畳紀（約２億年前）の地層から得られている。鞘翅目は，前述のようにきわめて多様かつ大きな群であるため，特定の群は別として，全体的には研究が遅れている。　〔鈴木邦雄〕

こうちゅう　【鉤虫】　線形動物・線虫綱・鉤虫科の寄生虫の総称で，十二指腸虫ともいう。ヒトに寄生するものは５種ほどが知られているが，そのうちズビニ鉤虫は亜熱帯・温帯地方に広く分布し，アメリカ鉤虫はどちらかといえば熱帯地方に多い。この２種はわが国にも分布しており，農村地帯に特に多くみられ，現在でも30％以上の寄生率を示す地域も少なくない。ズビニ鉤虫は山間地や丘陵地帯に，アメリカ鉤虫は平野部に比較的多く，病害性はズビニ鉤虫のほうが強いといわれる。体長はいずれも10mm内外。口腔(こうこう)は深い半球状で，開口部に２対の歯牙(しが)または歯板がある。雄には交接嚢(のう)がある。卵は楕円(だえん)形で，50～60μ×35～40μ。卵殻(らんかく)は薄く，無色。卵は糞便(ふんべん)とともに排出され，夏期にはすみやかに分裂をくり返して数日で孵化(ふか)する。孵化した幼虫は外界で一度脱皮して感染型幼虫となり，湿った土壌(どじょう)や野菜の中などに潜む。この幼虫は，条件が好適であると数か月間生存できるという。

幼虫は経口的あるいは経皮的に感染する。経口感染の場合，口からはいった幼虫の多くは小腸上部で成虫となる。経皮感染の場合，畑仕事などで皮膚から侵入した幼虫は血流やリンパ流によって肺に達し，さらに気管支を経て腸に移行するといわれている。

鉤虫の感染によって起こる鉤虫症の症状は，①幼虫の経皮感染の際に起こる皮膚炎（肥かぶれ・肥まけ），②幼虫の移行によって起こる咳発作(せきほっさ)・胸痛・気管支炎症状など，③成虫寄生によって起こる貧血を主とした症状，などが単独あるいは合併してみられる。咳発作や皮膚炎などはアレルギーが関与しているともいわれる。鉤虫症は青壮年の農業専従者に多い。治療にはアルコパール・オーミン・四塩化エチレンなどを用いる。予防は糞便の合理的な処理，野菜類の洗浄，手指の洗浄，集団検便・集団駆虫，農村衛生教育などがあげられる。

なお，若菜病といわれるものは，初秋のころ一夜づけを食べることによって起こる強い喘息(ぜんそく)性発作で，これは幼虫の体内移行によって起こる。　〔山本　久〕

こうちゅうかい　【興中会】　中国における最初の近代的な革命的秘密結社。1894年11月，孫文*がハワイで創設し，翌年２月香港(ホンコン)で拡大・改組した。会の主旨は，〈韃虜(だつりょ)を駆除し，中華を回復し，合衆政府を創立する〉との入会誓詞に尽きる。広州蜂起(ほうき)・恵州蜂起などを計画・実行し，のち中国革命同盟会*に発展的解消を遂げた。

こうちゅうせき　【紅柱石】　アルミニウムケイ酸塩鉱物の一種。ケイセン石*・ランショウ石*と同質異像，より低温・低圧の条件でできる。Al_2SiO_5　斜方晶系。比重3.1～3.2，硬度6.5～7.5，劈開*(へきかい)明らか，屈折率1.63～1.66。桃色・灰色・かっ色，半透明の柱状結晶として，変成作用を受けた粘板岩またはまれにペグマタイト*中に産する。特殊耐火磁器の原料または飾り石に

用いられる。

こうちょう【候鳥】⇨渡り鳥

こうちょう【後趙】中国，五胡(ごこ)十六国の一。匈奴(きょうど)の別種である羯(けつ)族の指導者石勒(せきろく)が，319年河北省の襄国(じょうこく)で建てた国。子の石虎(せきこ)は軍事的手腕をもって華北統一に成功するが，残虐な天子として有名である。石虎の死後，漢人冉閔(ぜんびん)の反乱で，351年に滅んだ。

こうちょうかい【公聴会】国および地方公共団体その他の機関がその権限に属する一定の事項を決定するについて，広く利害関係人・学識経験者その他の者に出席を求め，その意見を聞く公開会議。そのねらいは，広く民意を政治・行政に反映させたり，あるいは利害関係人の利益を保護し，公正な決定をしたりするところにある。法令に基づいて開かれる公聴会には，①国の両院または地方議会の委員会によって開かれるもの，②国または地方公共団体の行政機関によって行なわれるものがある。国会の両院委員会において〈総予算および重要な歳入法案〉(国会法51条)を審議する場合は必ず開かなければならないが，その他は任意的である。地方議会における公聴会は委員会がこれを開き，任意的と義務的の両者があり，国会とほぼ同じである(地方自治法109・110条)。そのほか民意反映のための行政機関による公聴会があり，これは法規の制定に関する公聴会(労働基準法113条)とその他の事項に関する公聴会とに分けられる。いずれも，国会・地方議会の場合と同じように，あるいは義務的に，あるいは任意的に公聴会を開かなければならないとしている。〔吉田善明〕

こうちょうじゅうにせん【皇朝十二銭】奈良・平安時代，律令(りつりょう)政府が鋳造・発行した12種類の銅銭の総称。708年(和銅1)鋳造の和同開珎*(わどうかいほう)に始まり，958年(天徳2)の乾元大宝(けんげんたいほう)までの12種類。鋳造を担当した鋳銭司(じゅせんし)は山城(京都府)，周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)などに置かれた。畿内(きない)とその周辺を中心に流通した。

こうちょうどうぶつ【腔腸動物】動物分類学上の一門。ヒドラ・クラゲ・イソギンチャク・サンゴなどを含み，多細胞の動物門の中では海綿動物に次ぐ下等な動物群と考えられている。体は内外二葉の胚葉(はいよう)からなり，両胚葉の間を中膠(ちゅうこう)(間充ゲル)が満たしている。体制の基本型は，遊泳生活に適したクラゲ型と，クラゲ型が倒立して水底に定着した形をして固着生活に適したポリプ型(ヒドラ型)とがある。種類によって，この両型ともをもつものと，どちらか一方しかもたないものとがある。内胚葉に囲まれて胃腔があるが，これには胃腸と体腔の区別がないので，腔腸とよばれる。すべてが肉食性で，口からはいったえさは腔腸表面から分泌される消化液でとかされて吸収される。腔腸表面には微小なえさを直接とりこむ細胞もある。肛門(こうもん)はなく，未消化のえさは口から吐き出される。呼吸は体表，特に腔腸表面で行なわれる。中枢神経系はなく，体表に散在する周辺神経系だけがある。浮遊性のものには眼点と平衡点がある。普通は雌雄異体で有性生殖をするが，無性生殖も盛んである。淡水性のものを除いては，卵は胞胚となり，プラヌラ幼生を経て定着し，ポリプ型を生じ，それからクラゲ型を出芽する。典型的な世代交代であるが，例外も多い。触手には腔腸動物に特有の刺胞とよばれる特別の細胞があり，えさや敵に麻痺(まひ)性の毒液を注入する。この毒はときに非常に強力で，人間を死に至らしめることさえある。クダクラゲ類・サンゴ類のように群体をつくるものがある。サンゴ類は角質や石灰質の骨格を形成する。すべてが水生で，淡水産のものは少なく，ほとんど海産であり，沿岸・遠洋・深海のいずれにも生息する。クラゲの一部に食用となるものがあり，サンゴが装飾用に使われるほか，直接人間に有用なものはない。カンブリア紀以後化石が知られ，現生種は約10,000種。〔菅野　徹〕

こうちょうは【高調波】正弦波*でない周期的な波は，実はその波と同じ振動数およびその整数倍の振動数をもつ多くの正弦波が重なり合ったものである。この場合に，振動数の最も小さい正弦波を基本波，それ以外のものを高調波という。基本波のn倍の振動数の正弦波を第n次高調波という。

こうちょうりょく【抗張力】材料の強さを示す数値の一。引っ張り試験において，物体に生じる応力*が降伏点*を越えると塑性変形*を生じて応力・ひずみは増加し，最大応力に達したのち局部的収縮を起こして試片は破断する。その最大応力値を抗張力あるいは引っ張り強さといい，材料の機械的性質中最も重要なものである。

こうちょく【硬直】筋自体の崩壊を伴う非可逆性の変化で，筋肉はかたくなり死滅する。熱による熱硬直，水による水硬直，死亡によって起こる死後硬直がある。熱硬直は40〜60℃で起こり，タンパク質の凝固に起因する。水硬直は筋肉を水中に入れると，浸透圧によって水が筋肉にはいるために起こる。死後硬直はグリコゲンの分解によって乳酸が蓄積し，乳酸タンパクとなって膨潤し，水を吸引するために起こるといわれる。〔平野修助〕

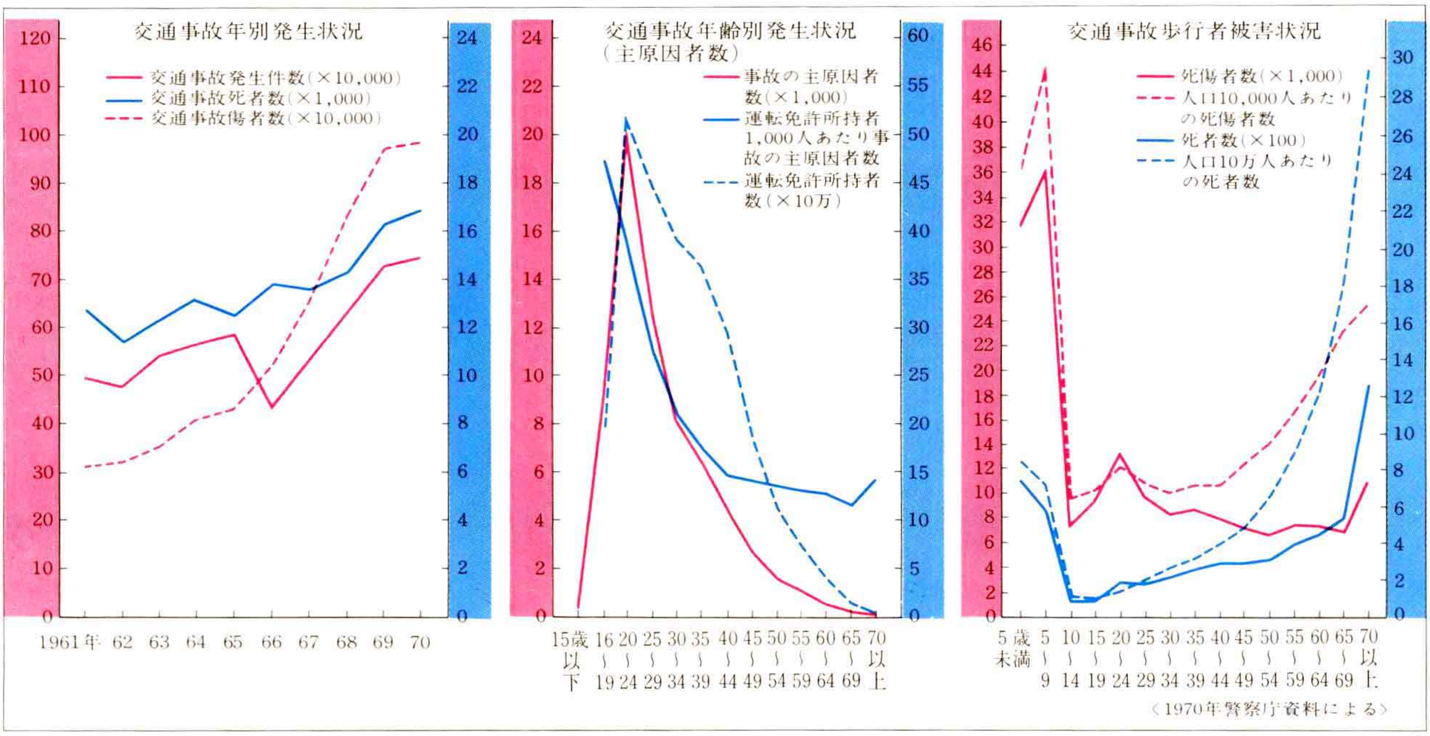
こうちょてい【光緒帝】(1871〜1908)中国，清朝(しんちょう)第11代の皇帝。徳宗ともいう。光緒は年号。1874年4歳で即位し，西太后*(せいたいこう)が摂政した。親政ののちも実権はなく，つねに西太后におさえられた。治世中には清仏戦争や日清戦争が起こり，対外危機が続いた。また，1898年には康有為*(こうゆうい)らを用いて戊戌(ぼじゅつ)の変法*を実行したが失敗し，幽閉されて病没した。

こうちりようりつ【耕地利用率】農作物作付け延べ面積を耕地面積計で除したもの。たとえば1967年(昭和42)のイネの作付け延べ面積は326万3,000ヘクタールであり，耕地面積計は593万8,000ヘクタールであるから，イネの耕地利用率は55%となる。また，全農作物作付け延べ面積は711万1,000ヘクタールであるから，その利用率は119.8%となる。

こうづ【国府津】神奈川県小田原市東端の地区。もと，足柄下郡国府津町で，1954年(昭和29)小田原市に編入された。相模(さがみ)湾に迫る大磯(おおいそ)丘陵の南西端の海岸段丘上に古くから発達した集落で，相模の国府が国府町(いまの大磯町の一部)に設置されたとき，その外港として利用されたのでこの名がある。江戸時代には東海道の宿場町であった。1887年(明治20)に東海道本線が通じ，さらに本線が山北・御殿場(ごてんば)を経て西へ延びた際に機関区が設けられ，1925年(大正14)には支線熱海(あたみ)線が相模湾沿いに小田原から熱海へ通じたため，箱根・伊豆(いず)方面への玄関口としてにぎわった。しかし，1934年に丹那(たんな)トンネルが完成して，東海道の本・支線が入れ替わると，箱根・伊豆方面への旅客は乗り換えの必要がなくなって，交通上の重要性が薄れ，小田原にその繁栄を奪われた。いまは東海道本線・御殿場線の分岐点で，沿岸漁業の一中心地をなし，ミカンの産地として知られる。〔浅井得一〕

ごうつ【江津(市)】島根県中部の市。江戸時代に江(ごう)川河口の港であった江津町を中心に，1954年(昭和29)，都野津町ほか7村を合わせて市制施行。人口29,000。日本海に注ぐ江川の下流流域付近の砂丘地帯に立地する。産業三大別人口比は15:38:47。水田は南部の台地面の侵食谷にわずかにみられる程度で，サツマイモなどの畑作が多い。江川の水資源を利用して日本レーヨン・山陽パルプなどの大工場による新興工業地帯が形成され，石見(いわみ)臨海地帯総合開発計画が進んでいる。在来工業としては海岸部に産する良質の陶土を利用した石州瓦(せきしゅうがわら)・石見陶器がある。山陰本線と三江(さんこう)北線の分岐点で，国道9号線・261号線が通ずる。有福地区の温泉観光の開発も進んでいる。

こうつうけいさつ【交通警察】交通の危険を防止し，交通の安全と円滑化を図るための規制および取り締まりの警察作用をいう。そのうち，陸上交通の規制・指導・取り締まりなど道路交通法*に規定するものは警察の所管とされ，その他の陸上交通規制(道路運送法・道路運送車両法など)，海上および航空における交通警察は，運輸省の所管とされている。警察の行なう交通警察は，①交通安全思想を普及し，交通秩序を維持・確立しようとする安全教育，②交通違反者の取り締まり，③交通安全と交通規制のた



交　通　事　故

めの施設の設置および管理，交通整理などの技術的活動に分かれ，これを交通警察の3原則という。交通警察は，第2次世界大戦後急速に膨張したもので，戦前は警察部保安課の係にすぎなかったものが，現在は各都道府県警察本部に交通部が置かれ，刑事警察と並んで警察の最も重要な業務となっている。〔井上公且〕

こうつうじこ【交通事故】広い意味では自動車・汽車・電車・船舶・航空機などの交通機関によって人の生命・身体または財産などに損害をもたらすいっさいの事故をいうが，このうち発生件数が非常に多く，日常生活に最も関係の深いのは，道路上において自動車・原動機付き自転車その他の車両によってひきおこされる道路交通事故であり，一般に交通事故という場合にはこれをさすことが多い。ここでも道路交通事故を扱う。

交通事故そのものは，古くからあったが，日本において，社会問題として注目を集めだしたのは1950年代の後半からである。特に，1959年(昭和34)に交通事故による年間死者数がはじめて10,000人を越したころから深刻化してきた。その後，交通事故は年々増加し，1970年中には年間死者数が16,752人，負傷者数が981,096人となって，100万人に近い交通事故の犠牲者を記録した。

〔事故の傾向〕1970年における交通事故の傾向をみると，次のような点が特徴としてあげられる。①モータリゼーションの地方部への浸透や人間の生活圏の拡大に伴って，交通事故の増加傾向は東京都・大阪府など大都市をかかえた地域よりも，その周辺部や地方部において著しい。②マイカー時代を反映して，通勤・通学やレジャーのドライブなどマイカー族としての運転中に交通事故を起こすことが多く，マイカーによる事故が全体の半数以上を占めている。③若い年齢層の運転者による交通事故が多く，10代・20代の青少年運転者による交通事故が全体の約6割を占めている。④幼児と老人の交通事故による被害者が目だち，特に3～5歳の幼児と60歳以上の老人は，歩行中に交通事故にあう率が著しく多い。

〔事故発生時の処置〕交通事故を起こした自動車など車両の運転者・車掌その他の乗務員は，直ちに車両の運転を停止して，負傷者があれば救護し，道路上に危険な物や交通の妨害となる物があれば，これを取り除くなど道路上の危険を防止する措置をとるとともに，現場にいる警察官または近くの警察署や派出所に交通事故発生の日時，場所，死傷者の数，負傷や物の損壊の程度などを報告する義務がある。この義務を怠ると〈ひきにげ〉として重い刑罰を科せられることになる。

〔責任〕交通事故を起こした運転者は，道路交通法や刑法の規定に従って刑罰(懲役・禁固・罰金・科料)を科せられるほか，運転免許の取り消しや効力の停止などの行政処分を受ける。また，交通事故によって人を死傷させたり物を損壊させたりして他人に損害を与えた場合には，これについての損害賠償をする義務がある。〔竹村健二〕

こうつうはくぶつかん【交通博物館】1921年(大正10)10月14日，鉄道開通50年記念事業として東京駅北口に鉄道博物館として開設された。現在は場所を東京の神田(かんだ)に移し，名まえも交通博物館と改め，国鉄管理，日本交通公社経営の下に鉄道・船舶・自動車・航空など各種交通機関の実物・模型・資料を収集・展示している。そのほか，映画ホール・図書室も併設されていて，資料の数は約55,000点，入館者数は年間約52万人(1967)である。また，小・中学生を対象に少年工作教室を開講したり，交通知識の相談にも応じている。大阪にある交通科学館は姉妹館である。〔成田武男〕

こうづしま【神津島】東京都伊豆(いず)諸島中の1島で，伊豆七島の中では利島*(としま)に次いで小さく，面積18.5km²。新島*の南南西14kmに位置し，東に唯苗(ただなえ)島(祇苗島)，西南西に恩馳(おんばせ)島の岩礁がある。大島支庁神津島村として1島1村をなし，1935年(昭和10)には2,700あった人口は，漸減して現在は2,300。ヒョウタン型の火山島で，最高峰の天上山(574m)は眺望(ちょうぼう)がよく，また神津沢という伊豆諸島中最大の水流の水源でもあり，島は早くから簡易水道が普及している。集落は南西部の高処(たかうど)山西斜面にあり，前浜の港には下田～神津島～新島～大島の定期船が日曜日を除いて毎日寄港する。農林業と漁業が主産業で，自給用の陸稲・サツマイモをつくり，カツオ・トビウオ・ムロアジ・テングサをとって，東京・下田・三崎(三浦市)へ出荷している。また最近の観光ブームで民宿が急増し，島の重要な収入源となっており，道路はよく舗装されている。〔浅井得一〕

こうづぼくじょう【神津牧場】群馬県南西部，長野県境に接する物見山(1,375m)のふもとにある牧場。行政上は甘楽(かんら)郡下仁田(しもにた)町に属する。面積約5km²，海抜1,100m内外の高原地帯で，夏は気候冷涼

な行楽地となる。1887年(明治20)神津邦太郎(くにたろう)が創設，当時わが国で珍しいジャージー種の乳牛を放牧して，牛乳を軽井沢へ，バターを東京へ出荷した。いまは乳牛のほか，ウマ・ヒツジも飼育している。周辺一帯は妙義荒船佐久高原国定公園の域内に含まれ，北に八風山(1,315m)，南に荒船山(1,423m)がそびえ，軽井沢～八風山～神津牧場～荒船山を結ぶハイキングコースが名高く，キャンプ村やガーデンハウスがある。上信電鉄の下仁田駅から牧場登り口までバスの便がある。〔浅井得一〕

こうてい　**【黄帝】**　中国古代の伝説上の帝王。五帝の一。姓は公孫，名は軒轅(けんえん)。暴逆な蚩尤(しゆう)との戦いに勝ち，帝位につく。黄帝以後の帝王・漢民族はその子孫と考えられ，倉頡(そうけつ)の文字をはじめ多くの事物の起源も彼の時代にあるとされた。黄帝伝説は，戦国時代に斉(せい)を中心に発展し，のちには道教・神仙(しんせん)思想と結びついた。

こうていえき　**【口蹄疫】**　主としてウシが侵されるウイルス病。他の反芻獣(はんすうじゅう)も感染する。高熱で始まり，食欲・反芻・乳量ともに減少し，口粘膜にダイズ大の水疱(すいほう)を生じ，次いでそれが破れてただれるのが特徴である。経過中に蹄冠部・趾間(しかん)にも水疱を生じるのでこの病名がつけられている。死亡率は低いが，子ウシや非流行地のウシでは死亡率は高い。現在わが国には発病をみないが，発病した家畜は殺処分される。

こうていかんり　**【工程管理】**　生産計画に基づいた，製造活動の計画・実施・統制の一連の管理をいう。原材料から製品までの製造活動の時間的管理を対象とした直接的管理方式で，コストの最低化を目的とする。工程管理は工程計画と工程統制に大別される。工程計画では最初に作業工程およびその順序，原材料・機械・作業員の手配などをまとめ，手順表と指導票をつくったうえ，作業日程を決定する日程計画を作成する。さらに製造に着手したのちは生産活動の進展を管理し，統制する。〔清水　晶〕

こうていきょうそうきょく　**【皇帝協奏曲】**　ベートーベン作曲のピアノ協奏曲第5番変ホ長調の愛称。作品番号73。1809年ウィーンで演奏された際，フランスの士官が〈これこそ協奏曲中の皇帝だ〉と言ったのでこの名がついたという。全3楽章の堂々たる構成の作品で，いかにもその名にふさわしい。ピアノ協奏曲の歴史の上でもその大きさと内容の点で抜群のものであるが，今日この曲がこれほどまでに有名になったのは，〈皇帝〉という副題のもつ力も大きいようである。〔向坂正久〕

こうていけん　**【黄庭堅】**　(1045～1105)中国，宋(そう)代の詩人。字(あざな)は魯直(ろちょく)。号は山谷道人，涪翁(ふうおう)。洪州分寧(こうしゅうぶんねい)(江蘇(こうそ)省)の人。1067年の



神津牧場　ヒツジの群れる牧場の一隅。正面に荒船山が迫り，玄武岩からなる溶岩台地の急崖がそそり立つ

進士。1072年北京(ぺきん)国子監教授となり，秘書省にはいり集賢校理に至ったが，1094年，章惇(しょうじゅん)・蔡卞(さいべん)に排斥されて涪州に左遷され，次いで黔州(きんしゅう)(四川省)・戎州(四川省)・宜州(広西省)に流されて没した。蘇軾(そしょく)の門に遊び，秦観(しんかん)・張耒・晁補之(ちょうほし)とともに蘇門の四学士と称せられる。詩に長じ，陶淵明*(とうえんめい)を宗とし，杜甫*(とほ)の詩風に学んで，通俗性を排斥して破格の用法を取り入れた。彼の詩風をのちに江西詩派といい，後世その詩を学ぶ者が多かった。書は顔真卿*(がんしんけい)をたっとび，晩年，晋人(しんじん)の超越絶塵(ぜつじん)の境を慕って草書三昧(さんまい)にはいった。《黄山谷詩集》《予章黄先生文集》がある。〔中田勇次郎〕

こうていすうはい　**【皇帝崇拝】**　古代ローマで皇帝を神として崇拝すること。オリエント・ヘレニズムの君主礼拝を起源とする。元来，ローマでは神人崇拝の慣習はなく，独裁者カエサル*も神とよばれることを好まなかったが，アウグストゥス*以後の皇帝が積極的に国民に崇拝を強制した。帝国保持の手段とされ，崇拝拒否は謀反(むほん)罪とされ，そのため皇帝よりも神を崇拝したキリスト教徒が迫害された。

こうていだいけい　**【黄帝内経】**　中国の古医書。3世紀に皇甫謐(こうほひつ)が編述した《甲乙経(こうおつきょう)》の序文によれば，《漢書芸文志》の医経に記されている《黄帝内経》はのちに2部に分けられ，《鍼経(しんきょう)》(現在の《霊枢》，鍼灸(しんきゅう)を中心とする医書)，《素問》(病理学を主とする医書)として伝承されている。その証拠には《黄帝内経》は18巻であり，《鍼経》と《素問》の巻数を合したものも18巻であると説明して，《素問》と《鍼経》の合冊本を《黄帝内経》と断じた。この説は現在に至るまでいちおう承認されている。しかし，これら2書の内容を検討してみると，製作年度や編述者の態度および目的がまったく相違して，同一の著とはとうてい考えられない。しかし，《漢書芸文志》中にある《黄帝内経》18巻，《黄帝外経》37巻は，ともに陰陽五行説の理念に従って展開された医学書と考えられ，《素問》および《鍼経》の医学も陰陽五行説によっているため，《黄帝内経》は，これら2書の母体と考えられる。〔丸山昌朗〕

こうていぶあい　**【公定歩合】**　中央銀行が銀行その他の市中金融機関に貸し出しを行なうときの金利であり，これを変更することによって中央銀行は通貨の供給量を調節する。わが国では日本銀行が一定の条件を備えた商業手形(→手形)，すなわち再割引適格手形を再割引する場合の割引歩合，また担保適格と認める手形・証券を担保として貸し付ける場合の貸し付け歩合を公定歩合という。わが国では輸出貿易手形などについて特に優遇している。

銀行その他市中金融機関は，預金に対して一定の支払い準備金を現金あるいはそれと等しい中央銀行預金でもっているが，全額準備制ではなく部分準備制をとっているのであるから，ときには不足することがある。その場合は中央銀行で割り引いた商業手形の再割引，あるいはそれを担保とする貸し付けなどの形式で貸し出しをあおぐ。したがって，中央銀行は公定歩合を上げ下げして，銀行に対する貸し出しをゆるめたり，引き締めたりして銀行の支払い準備金の増減を調節し，ひいてはその貸し出し量を調整する。

したがって公定歩合の変節によって資金需給はゆるめられたり，引き締められたりするから，その他の金利も追随して変動する傾向がある。イギリスでは慣行として，公定歩合の変動に銀行の諸金利を連動させる制度になっている。このような意味で公定歩合は一国の金利の基準である。〔小泉　明〕

こうていペンギン　**【皇帝ペンギン】**　鳥類・ペンギン科。王様ペンギンとともにペンギン類中で大形のものであるが，本種のほうがやや大きく，身長1.2m，体重45kgに達する。厳寒期中，南極大陸の海岸線より50～120kmも内陸で集団繁殖する。雌は，1卵を産むと抱卵は雄に任せて，体力の消耗の回復にはるか遠方の海域に出ていく。雄は，卵を両脚の間に載せ，下腹部に包み込んで立ったまま厳寒中を約62日間抱卵して孵化(ふか)させる。この抱卵日数は鳥類中いちばん長い。このころ，体力を回復した雌は，体重約1kgになった雛(ひな)への食物(おもに魚類)を喉袋(のどぶくろ)にたくわえて帰ってくる。雄は繁殖地に向かう移動をはじめて以来3～4か月間も絶食しているので，体重は初めの65～70%に減少しており，今度は雄が海域に体力の回復に出かける。以後，両親で育雛(いくすう)し，南極大陸に春がきて氷が退く時期に，親鳥と幼鳥は海域に出て生活する。まさに，南極大陸の鳥というにふさわしい鳥である。〔浦本昌紀・安部直哉〕

こうてき【高適】（？～765）中国，唐代の詩人。契丹(きったん)や安禄山(あんろくさん)，吐蕃(とばん)などの戦いに従軍し，辺塞(へんさい)の風光や戦争に題材をとった作品が多い。《燕歌行(えんかこう)》は辺塞の生活を多面的に描き，広く伝唱されている。詩集に《高常侍集》がある。

こうてきふじょせいど【公的扶助制度】⇨社会保障

こうてつはいかにきたえられたか【鋼鉄はいかに鍛えられたか】オストロフスキー*の長編小説。1932～1934年の作。ソビエトの国内戦での重傷と失明という肉体の障害を，不屈の意志で克服して，自分を共産主義者として鍛え，ついに小説を書きあげるに至る青年を描く。自伝的小説で，共産主義者の理想像を描いたものとして，ソビエト現代文学の一典型といえよう。

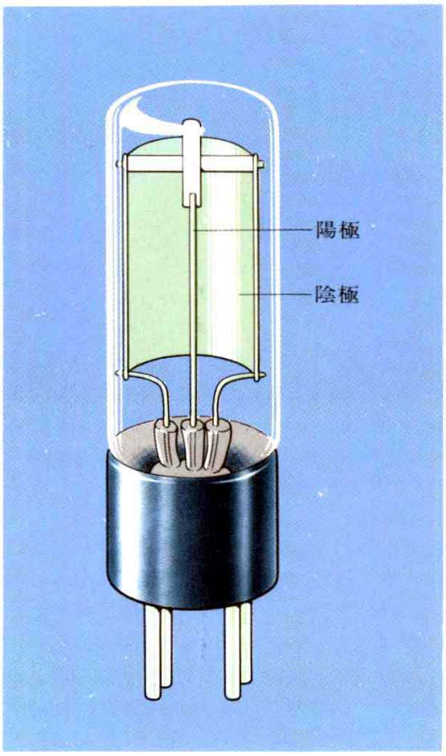
こうてん【公転】天体が他の天体のまわりを周期的に巡る運動。①惑星が太陽のまわりを，②衛星が惑星のまわりを，③月や人工衛星が地球のまわりを，④恒星が他の恒星のまわりを巡る運動がこれである。天体が二つだけの場合には厳密にケプラーの法則*がなりたつが，他の天体の影響を受けるときには，法則からずれて複雑な運動になる。

こうてん【交点】天体の軌道が基準面と交わる点。天体が基準面を南から北へ通る点を昇交点，北から南へよぎる点を降交点という。基準面としては天体が惑星のときには黄道面，衛星のときには惑星の赤道面または軌道面が選ばれる。たとえば，月では基準面としては黄道面(地球の軌道面)，人工衛星では地球の赤道面が採用されている。交点は空間に固定されたものではなく，他の天体や惑星の赤道面におけるふくらみなどの影響を受けて，ゆっくりと動いていく。たとえば，月の交点(すなわち白道と黄道との交点)は約18.6年の周期で黄道上を1周する。〔木下　宙〕

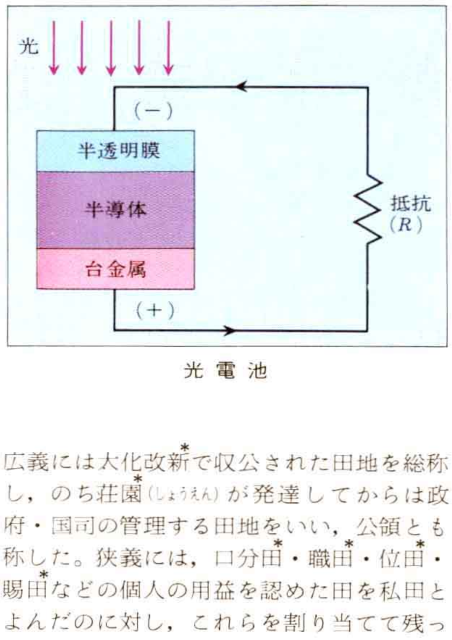
こうでん【香奠】香典とも書く。人の死亡に際して親類や近隣の者が贈る金品。金銭経済の発達する以前，死者の出た際に親類縁者が食料をもちより，死者とともに共同飲食したことに始まる。死者に対して金品・食料を供えることは親類縁者間の義理*とされ葬式がはなやかなものとなるにつれて葬費を分担する意味になった。一般に香奠返しは仏式において四十九日の忌み*明けまでに行なう。

こうでん【功田】〈くでん〉とも読む。律令(りつりょう)制下，勲功ある人に施与された田地。不輸租田。功績により大・上・中・下の4等級に分けられる。大功田は永世子孫に伝え，上功田は曽孫(そうそん)まで，中功田は孫まで，下功田は子に伝えることを許された。

こうでん【公田】〈くでん〉とも読む。令制(りょうせい)下の田地についての法的名称。



光 電 管 光が陰極(光電面)にあたると，光電面から光電子が放出され，光電子は陽極に到達して電子流を生ずる



光 電 池

広義には大化改新*で収公された田地を総称し，のち荘園*(しょうえん)が発達してからは政府・国司の管理する田地をいい，公領とも称した。狭義には，口分田*・職田*・位田*・賜田*などの個人の用益を認めた田を私田とよんだのに対し，これらを割り当てて残った国家管理の田地を公田と称し，また乗田ともよんだ。国司が管理し，1年を限って公民に賃租(小作)させ，その地子*を収めて太政官*(だじょうかん)に送り雑用にあてた。〔高崎徳次〕

こうでんかん【光電管】光電効果*を利用して光の強さを測定する2極真空管の一種。真空にしたガラスなどのバルブの内面に適当な金属または半導体*の薄膜を付着させて陰極とし，バルブの中央に正電圧をかけた陽極を置く。光が陰極面に入射すると，これから電子が飛び出して陽極に集まるので光電流を生ずる。この電流は陽極電圧が十分高ければ光の強さに比例し，また応答が速いので光の測定器としてすぐれている。陰極面としては，紫から紫外部にかけて感度の高いアンチモン・セシウム合金，または全体としては感度は低いが約1 μの赤外線にまで感ずる銀とセシウムの複合膜が最もよく使用される。〔吉原邦夫〕

こうてんげつ【交点月】月が白道*上の昇交点を通り過ぎてから再び同じ昇交点に来るのに要する時間。1交点月の平均値は27.212220日＝27日5時5分35.8秒である。昇交点は18.613年の周期で東から西へ黄道上を1周するから，対恒星周期(恒星月*)より約2時間37分36秒だけ短い。➔交点

こうでんこうか【光電効果】紫外線*やX線*のような波長の短い光で金属の表面を照らすと，そこから電子が飛び出してくる現象。このとき飛び出す電子を光電子という。1887年ヘルツ*によって発見され，1905年アインシュタイン*によってその理論的説明が与えられた。この現象の基本的な性質をあげると，①単色光で照らしたとき，その波長が物質によって定まったある波長より短い場合にだけ電子が飛び出し，②飛び出す電子の個数は，照らした光の強さに比例してふえ，③各電子のエネルギーは照らした光の強さには無関係で，その波長が短いほど(あるいは振動数が大きいほど)大きくなる。これらの諸性質は，光のエネルギーが，波動論でいわれるように連続的に空間に分布するのではなく，エネルギー量子という不連続的なかたまりとして存在すると考えることによって説明することができ，光の粒子としての側面を示すものである。
➔光増倍管　➔光電管　➔光電池

〔高林武彦〕

こうでんし【光電子】⇨光電効果

こうてんしゅうき【公転周期】天体が軌道を1回公転するのに要する時間。対恒星公転周期ともいう。惑星の公転周期 T と軌道半長径 a の間には T^2/a^3 ＝一定という関係がある(ケプラーの法則*)。地球の公転周期は約365.25日，月の公転周期は約27.32日である。

こうてんそくど【公転速度】天体が公転軌道上を運動する速度。軌道速度ともいう。軌道が円であれば公転速度は一定であるが，軌道が楕円(だえん)であればケプラーの法則*に従い，考える天体がそのまわりを巡る他の天体にいちばん近いとき最も早く，いちばん遠いとき最もおそい。地球の平均の公転速度は約30km／秒，月の平均の公転速度は約1km／秒である。

こうでんち【光電池】光エネルギーを電気エネルギーに変換する電池の一種。台となる金属の上に半導体*の薄膜を置き，それにきわめて薄い金網または金属薄膜でできた半透明の膜をかぶせた構造をもっている。半導体に光があたると，光エネルギーに

よって半導体中の自由電荷が増加し，これが半導体と金属薄膜または金網の膜の間にあらかじめ存在している電位差のために集められ，同一方向に流れることによって起電力を生じ，電流が流れる。

光電池の代表的な種類としては，半導体にセレンSe，半透明膜に金または銀，台金属に鉄を用いたセレン光電池と，半導体に亜酸化銅Cu_2O，半透明膜に鉛，台金属に銅を用いた亜酸化銅光電池とがある。両者とも理論的には外部の抵抗Rが0であるならば，電流の大きさ(アンペア)は光の強度(ルックス)に正比例するが，実際の回路には抵抗Rがあるため，ある光の強度を越えると正比例の関係がそこなわれて電流は飽和してくる。カメラの露出計，赤外線写真などで光の強さを測定する計器をはじめ，人工衛星の太陽電池*にいたるまで広く利用されている。〔堀内和夫〕

こうど【硬度】⇨硬(かた)さ

こうど【紅土】⇨ラテライト

こうど【黄土】⇨おうど

こうど【光度】光源の明るさを表わすとき，その強さを問題にするときの用語で，ある方向の単位立体角に含まれている光束*数で光源全体としての明るさを表わす量を光度といい，カンデラ*という単位をもって表わす。すなわち，立体角ω内に光束Fを放射しているとき，その方向の光度Iは，$I=dF/d\omega$で与えられる。天体にも使用される。

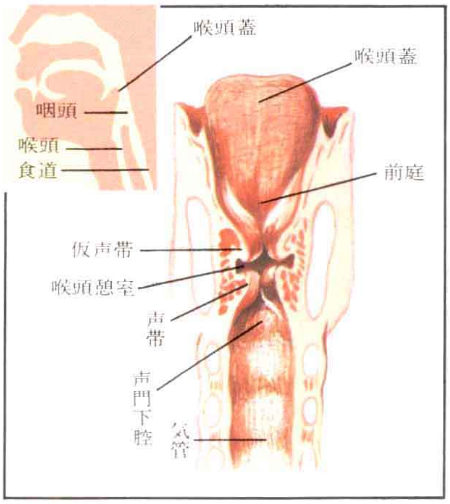
こうど【高度】天体と観測者とを結ぶ直線と地平線とのなす角度。すなわち天体の地平線からの高さを表わす角度であって，地平線上にある星の高度は0°，天頂にある星の高度は90°である。方位角*とともに天球上の天体の位置を表わすのに用いられる。日周運動によって星の高度は変化し，真南を通過するとき，すなわち南中するとき最も高くなる。➔地平座標

こうとう【喉頭】気管*の上端，咽頭*(いんとう)の下端にある呼吸器*の一部で，発声器としての役割をも果たしている。成人では第4～第6頸椎*(けいつい)の高さにあり，その中央部は男性では特に著しく突出して喉頭隆起(のど仏)をつくる。甲状軟骨・輪状軟骨・披裂(ひれつ)軟骨・喉頭蓋(こうとうがい)軟骨などの多くの喉頭軟骨の壁が内部の喉頭腔(こうとうこう)を取り囲んでいるが，軟骨*は互いに関節や靭帯*(じんたい)で結合され，これに多くの喉頭筋がついている。喉頭筋は声門の開閉，声帯*の緊張・弛緩(しかん)，喉頭口の開閉などをつかさどり，上・下の喉頭神経によって支配されているが，この神経が冒されると声がしわがれる。喉頭の入り口である喉頭口の前壁に喉頭蓋があり，粘膜下に喉頭蓋軟骨がある。喉頭は物をのみこむときに反射的に上方に上がり，このとき喉頭蓋が喉頭口をふさいで飲食物が中にはいらないようにしている。喉頭腔には1対の声帯があって，この両者の間を声門裂という。

なお，喉頭は鳥類では発達せず，発声装置はない。両生類・哺乳(ほにゅう)類では発達して複雑な構造の声帯を有する。〔幡井　勉〕

こうとう【勾当】もっぱらその事にあたる者の意。諸大寺にあっては三綱(さんごう)(上座・寺主・都維那(ついな))の下に所司と総称される僧職が置かれ，別当*の指揮を受けて庶務雑事をつかさどった。また，摂関家(➔摂家)で別当の下にあって事務を処理した家司(けいし)や，盲人の官名として検校*(けんぎょう)に次ぎ座頭*の上に位したものをいった。平安時代には大蔵省の率分所や記録所にもこの職名がみえる。

こうとう【後唐】中国，五代の一王朝(923～936)。李存勗(りそんきょく)(荘宗(しょうそう))・嗣源(明宗)・従厚(閔帝(びんてい))・従珂(じゅうか)(廃帝)の4代。都は洛陽(らくよう)。始祖李克用*は突厥沙陀部(とっくつさだぶ)の出身で，唐末太原の節度使となり，河南の朱全忠*と争った。彼の子存勗は後梁(こうりょう)を滅ぼし，陝西(せんせい)・四川を合わせて唐と称したが，宦官*(かんがん)・側近政治を行なって軍隊の反乱を招き，義子嗣源に殺された。嗣源は内治に努めていちおうの成果をあげたが，従厚を経て従珂のとき，契丹(きったん)と結んだ嗣源の女婿石敬瑭(せきけいとう)に国を奪われた(➔後晋(こうしん))。〔梅原　郁〕



喉　頭

こうとう【江東(区)】東京都23特別区の一。都の南東部に位置する。南は東京湾に臨み，北は墨田(すみだ)区，東は荒川放水路を隔てて江戸川区，西は隅田(すみだ)川を隔てて中央区と接する。1947年(昭和22)深川・城東の2区が合併して成立した。面積30.23 km²。人口35万4,000。区名は隅田川の東岸に位置することにちなみ，別に江東区とよぶ際には隅田川と江戸川の間の墨田・足立・葛飾(かつしか)・江戸川の各区域にまたがる広い沖積(ちゅうせき)低地をさすことがある。区域は隅田川と旧中川・荒川放水路にはさまれた三角州地帯の南部を占め，東京湾岸には埋め立て地が広がる。竪(たて)川・小名木(おなぎ)川・大横川・横十間川の運河が縦横に通じ，江戸時代には，南部の木場*地区が埋め立てられ，幕府から材木問屋の貯木場に指定された。明治以降，機械・化学などの近代工業が発達して江東工業地帯が形成され，京浜工業地帯*の一中心となっている。南東部の砂町・大島地区では地表面が海面下にある沖積地が多く，最近は，工場の地下水くみ上げなどに起因する地盤沈下が著しい。総武本線・東武鉄道が北部を走り，亀戸(かめいど)付近には中心商店街やバスターミナルが形成される。南部には営団地下鉄東西線が走って，千葉県域と都心部を結ぶ。隅田川に近い清澄公園は，もと久世大和守(やまとのかみ)の下屋敷跡につくられた岩崎家の別邸で，いまは都の有料公園である。〔浅井得一〕

こうどう【講堂】寺院において，経典を講説したり法を説いたりする建物。堂内に本尊を安置し，講師は多く本尊に向かい，礼盤(らいばん)にすわって講説する。俗衆は左右に分座して聴聞する。禅宗の寺院では，法堂(はっとう)といい，伽藍*(がらん)の中心であり，本尊は安置せず，講師が壇上のいすにすわって説法する。代表的なものに，唐招提(とうしょうだい)寺・法隆寺東院伝法堂・法隆寺西院・広隆寺，また延暦(えんりゃく)寺の大講堂などがある。➔伽藍配置〔京戸慈光〕

講　堂　法隆寺西院講堂　法相・三論・律・真言の四宗兼学の道場として多くの僧が学んだ



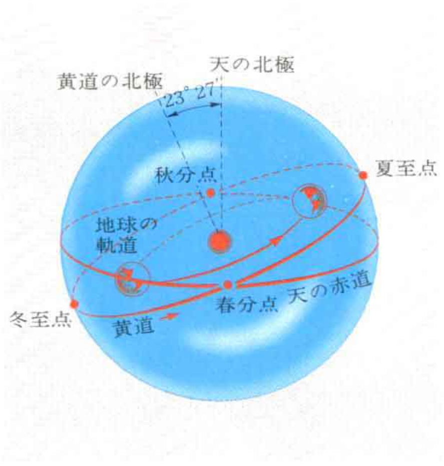
こうどう【坑道】地下につくられた道のことであるが，地下の鉱床*を採掘する鉱山にとっては，鉱床に達するための通路，開発のための道路である。水平に近くつくられたものを坑道とよぶのが普通であるが，垂直につくられた立坑や斜坑も坑道である。坑道は，それぞれの目的に応じた構造をもち，必要な施設が整備される。数百トンもの鉱石を満載した列車が通る大規模なものから，人ひとりがやっと通行できる程度のものまである。それぞれの機能や位置などを冠してよばれることが多い。たとえば，機能上から主要運搬坑道・排水坑道・通気立坑・ベルト斜坑，位置の上から300 mレベル坑道・中央立坑，規模の上から複線坑道，などである。〔山口梅太郎〕

こうどう【黄道】地球の中心からみて，天球上を太陽が動く道すじ。いいかえれば，太陽のまわりを公転している地球の軌道面が，天球と交わってつくる大円のこと。太陽は黄道上を西から東へ1年で1周する。黄道を含む平面を黄道面といい，理論的に最も安定していて，黄道座標系*において規準面として採用されている。しかし，この黄道面も他の惑星の摂動*によってわずかではあるが変動している。黄道は赤道と23°27′傾いて交わり，その交点を春分点*・秋分点*という。〔木下　宙〕

こうどう【香道】香*をたき，これを鑑賞する芸道の一分野。したがって香道では香味の鑑賞を主要な問題とし，それを遂行するために，香のたき方・保存法などを考究する。そして香道の終極の目的は，香気を媒介としての人間形成に置かれている。香そのものに日本人が心を魅せられたのは，おそらく10世紀ごろまでさかのぼるが，香道の成立は早くとも15世紀の後半以後で，芸道として整備されたのは，おそらく17世紀以来のことであろう。道として整備されるに伴って流派が生まれた。三条西実隆(さねたか)の流れをくむ者を御家流，志野宗信の教えを伝える者を志野流とよぶ。

香道は本来香木の放つ香気を鑑賞することに重点が置かれるので，香木の産地によってそれぞれにおいが異なることをきわめて，六国の建を定め，あるいはにおいの特徴を五味によって識別するなどの方法が考案された。また炷香(ちゅうこう)に際しては，香気の最上の状態をつくるために，銀葉(隔火)の使用を試み，香の種類にしたがって火味(ひあじ)を定めるなどの研究が進められている。そのための手段として，鑑賞香・香合・組香などが行なわれる。それら万般の研究が行なわれる場所を香筵(こうえん)(香席)という。香筵は12人程度の人員で構成され，普通は組香によって炷香を楽しみながら研究がなされるしくみとなっている。〔三条西公正〕

こうどう【行動】一般に，動物や人間の起こす自体の変化のうち，外部から観察



黄　道





香　道　(上)香席　(下)江戸時代の香道具(神崎連子氏蔵)　①十種香箱　②本香盤　③聞香炉　④香筋建　⑤火道具(香筋・香匙・火筋・灰押・銀葉鋏・羽箒・鶯)　⑥香重合　⑦札筒　⑧炭団入　⑨香札　⑩折居

できるものをさす。重力や圧力などの外的な力によって受動的に起こされる反応ではなく，外部からの刺激・作用によって喚起される場合でも，生物体が能動的に起こす反応をいう。筋肉の運動に基づく身体的行動のほか，言語による表現や表情，動作など精神活動を伴うものも含む。

ごうどう【合同】①2個の平面図形F，F′を平行移動・回転・裏返しおよびそれらの組み合わせの運動によって重ね合わすことができるとき，FとF′は合同であるといい，F≡F′と書く。特に裏返しの運動なしに重ねられるときは〈直接に合同〉，裏返しの運動なしには重ねられないときは〈裏返し合同〉という。たとえば，点対称な図形は直接に合同であり，線対称な図形は裏返し合同である。②空間図形の場合には，空間内の変形を伴わない移動でまったく同じ場所を占有することのできる2個の図形を合同であるという。また，両手の手袋のように一方を裏返すことによって他方と合同になるような場合には，裏返し合同であるという。③整数論では，2個の整数 a，b について $a-b$ が m で割り切れるとき，a と b とは m を法として合同であるといい，$a\equiv b \pmod{m}$ と書く。この式を合同式とよぶ。〔菊池兵一〕

こうどううよく【行動右翼】⇨右翼

こうとううんどうまひ【喉頭運動麻痺】喉頭*の筋肉が麻痺して運動が鈍くなる状態をいう。病因によって，筋性麻痺と神経性麻痺とに大別される。

①筋性麻痺：喉頭炎*の炎症が声帯筋に及んで，特に内筋麻痺として起こる。職業的にみて，教師・歌手・政治家など，声の酷使によっても起こる。症状は，声が疲れやすく，長続きせず，調子や強さが不安定で，また声が弱くなり，声がれ(嗄声(させい))となる。治療は，慢性喉頭炎(→喉頭炎)をなおし，無理な発声を避けることが重要である。

②神経性麻痺：大脳性および延髄性の中枢性麻痺と末梢(まっしょう)性麻痺に分けられる。中枢性麻痺は，ほとんどが重篤な全身的疾患の喉頭にあらわれた一症状で，麻痺のみをなおすことは困難である。末梢性麻痺は臨床的に多く，特に反回神経麻痺はしばしばみられる。これは，反回神経(迷走神経*)から分かれて，左側は大動脈，右側は鎖骨下動脈を前方から後方に回り，胸腔(きょうこう)にはいり気管支および心膜の後を経て気管と食道の間のみぞを上行して，喉頭に到着する神経)が種々の障害を受けて起こる麻痺である。原因には，頸部(けいぶ)の外傷や手術による損傷，動脈瘤(どうみゃくりゅう)，甲状腺・縦隔洞(じゅうかくどう)・食道などの腫脹，急性伝染病の合併症および薬物による中毒性神経炎などがあげられるが，原因不明のものも多い。症状は，初期は発声も正常で，呼吸障害も少ないが，激しい運動のときには呼吸困難を生じる。声はかすれ，にごり，非常に努力して話し，疲れやすく，強いせきも声門が閉じないために不能である。さらに進行するとまったく声が出なくなる。急性伝染病や中毒性神経炎によるものは，その原因疾患とともにほとんど治癒(ちゆ)する。ビタミン B_1 剤の大量療法など保存的に経過をみて，自然治癒が期待できないときは，手術的に麻痺した声帯を整復することである。〔清水淑郎〕

こうとうえん【喉頭炎】喉頭*に起こる炎症の総称で，急性炎症と慢性炎症に分けられる。①急性炎症：㋑感冒に伴っておこるカタル性炎症(→カタル)が鼻腔(びこう)や咽頭(いんとう)から喉頭にかけて炎症を起こす急性カタル性喉頭炎，㋺特にはしか流行時に小児に起こる限局性の声門下喉頭炎(別名仮声クループ)，㋩気道と食道とを区別している喉頭蓋(こうとうがい)にのみ炎症を起こす急性喉頭蓋炎，㋥両側の仮声帯(→声帯)

に発赤腫脹(しゅちょう)が強く，声帯の側部をおおってしまう急性仮声帯炎，㋭炎症が強く，化膿(かのう)して粘膜下の結合組織*層に及ぶ喉頭膿瘍(のうよう)・喉頭丹毒・喉頭蜂窠織炎(ほうかしきえん)，㋬ジフテリア桿菌(かんきん)によって起こる急性伝染性疾患である喉頭ジフテリアなどである。②慢性炎症：㋑急性炎症の反復罹患(りかん)，急性炎症が刺激となって長く喉頭に作用するときなどにおこる急性カタル性喉頭炎から移行した慢性カタル性喉頭炎，㋺謡人結節*，㋩仮声帯の部分に限って肥厚や腫脹をきたす仮声肥厚症，㋥喉頭の粘膜上皮の増殖肥厚を起こす喉頭鞏皮症(きょうひしょう)，その他喉頭室脱出症・乾燥性喉炎。なお，特殊炎症として喉頭結核*・喉頭梅毒・喉頭真菌症などがある。症状としては，おのおのの疾患によって特徴があるが，一般には嗄声(させい)，嚥下痛(えんかつう)，呼吸困難，せき，発熱，喉頭部の異物感，掻痒感(そうようかん)などがある。治療は，安静を保ち，原因となるものを除去すること，喉頭にアドレナリンなどの注入，抗生物質の注射または内服を行なう。呼吸困難が強ければ，ときに気管切開することもある。

〔清水淑郎〕

こうとうがっこう 【高等学校】〈中学校における教育の基礎の上に，心身の発達に応じて，高等教育および専門教育を施すことを目的とする〉(学校教育法41条)という趣旨の教育機関。入学資格は，中学校卒業者あるいはそれと同等以上の学力があると認められる者となっているが，実際には中学校卒業の15(16)～18(19)歳の年齢層に対しての後期中等教育の中核である。おもに普通教育を行なうが，職業教育・専門教育も行なわれ，学科には普通科以外に農業・工業・商業・水産・家庭・衛生看護などの各科がある。教育課程には，全日制課程以外におもに勤労青少年を対象にした定時制課程・通信制課程があり，さらにその両者の方法を合わせて，週2～3日登校して不足分を通信教育で履習するところの，定通併修課程も設けられている。修業年数は全日制で3年以上，定時制で4年以上である。全日制・定時制課程とも卒業には80単位(昭和57年度改定)以上の履習が必要とされている。1単位とは，単位時間を50分として，1年35単位時間の授業を受け，満足できる成績を得たものに認定される。

第2次世界大戦以前における高等学校(旧制)は，1894年(明治27)の高等学校令によって設立され，高等教育機関として専門学科の教授を目的としていたが，実質は帝国大学入学のための予備段階であった。戦後，旧制高等学校の大部分は新制大学の教養学部・文理学部に移管された。現行の高等学校(新制)は1947年(昭和22)の学校教育法に基づき，六・三・三制の最終段階として設立され，多くは旧制の中等学校が母体である。発足当初は，①小学区制，②男女共学制，③総合制(一校に普通科・職業科を併置し，選択制とする)を理念としていたが，しだいにこの理念にいういわゆる〈高校三原則〉はくずれた。

今日，高等学校入学者数は全国平均で中卒者の94%(1980)にも達し，準義務教育化したともいえる。その結果，高等学校は大学進学のための予備校と化す一方，現行の教育内容を消化できない多数の生徒が存在するようになり，さらに産業界における技術革新に伴う多様な労働力の必要性と若年労働力の不足という社会情勢の中で，産業界の要請によりその教育に対して全面的な改革が行なわれようとしている。1966年，中央教育審議会が文部大臣に対して〈後期中等教育の拡充整備について〉の答申を行ない，高等学校の多様化方針が出された。その骨子は，生徒の適性・能力・進路に対応して高等学校の学科・教育内容・教育方法を再検討し，産業界の必要に応じて教育内容の多様化を図ろうとし，定通併修制度の拡大，企業の操業に対応した授業形態〈多部制〉の奨励，企業内教育の一部を高等学校の単位に認める〈連携制度〉の拡充などが実施された。このような高校多様化政策に対しては，産業界の要請をうのみにしたものであり，生徒に充実した青年期を保障しないという批判があった。ところが70年代経済成長が沈静し，また高校進学率90%という事態の中で，極端な学力差，学校不適応による非行化など多くの問題が顕在化し，これに対応して文部省は「ゆとりある，しかも充実した学校生活の実現」を目標に新指導要領(1982)を発表した。〔福井幸雄〕

こうとうがん 【喉頭癌】 喉頭*に発生する癌*。発生原因は不明だが，遺伝的関係，音声の酷使，喫煙，乳嘴腫(にゅうししゅ)・角化症やロイコプラキーという前癌状態*からの発生などが考えられる。全悪性腫瘍*(しゅよう)の約4%を占め，耳鼻咽喉科領域では上顎癌(じょうがくがん)，食道癌とともに最も多い癌種である。男女の比は10対1で，男性に圧倒的に多い。癌型分類は諸家によって異なるが，一般に喉頭の内部に限局している場合を内癌，外部に出てくるようになったものを外癌といっている。症状は発生部位や侵襲範囲によって異なるが，声帯(声門部)のものでは発声時にのどが疲労しやすく，長期にわたるがんこな嗄声*(させい)があり，かわいたせきが出る。声門下腔(かこう)のものでは呼吸困難がある。また，外癌では，異物感・嚥下(えんか)困難・嚥下痛がある。喉頭癌は，他の癌と異なり，早期に他の組織へ転移することが少ないので，早期発見は予防ないし治療に最もたいせつである。比較的声を多く使う人が長期(2～3か月)にわたって声がれがなおらないときなど，専門家の適切な治療を受ければほとんど100%近い治癒(ちゆ)を得られる。この場合，癌が米粒の3分の1くらいの大きさであっても発見が可能である。治療法としては，手術的療法と放射線療法とがあり，また最近は種々の抗癌剤の注射をそれらに併用する場合が多い。手術的療法には喉頭部分切除と全摘出とがあるが，部分的切除は癌組織が残るので，現在は全摘出を多く用いている。その場合，気管を切開して，喉頭より下のほうに穴をあけ，その穴から呼吸するようになるから声が出なくなり，摘出後の声音療法が必要である。すなわち，人工喉頭を用いたり，食道発声(空気を飲み込んでおいて声を出す)の方法によって話をすることができる。放射線療法には，X線・ラジウム・コバルト60・ラドン・リニアック・ベータートロンなどが用いられている。しかし，ごく限局された初期の癌だけに有効であるにすぎないから，最近は，まずある程度の放射線照射を行なってから喉頭全摘出術を行なう三者併用療法が治癒成績がよいとされ，盛んに行なわれている。〔清水淑郎〕

卒業者数・進学率・就職率

区分	卒業者数	A 進学者	B 教育訓練機関等入学者	就職者	無業者	死亡・不詳	(再掲) A・Bのうち就職している者		進学率	就職率
							Aのうち	Bのうち		
	人	人	人	人	人	人	人	人	%	%
1978年3月	1 607 183	1 502 562	45 195	46 729	11 982	715	20 470	3 437	93.5	4.4
1979年3月	1 635 460	1 536 659	42 773	43 780	11 700	548	18 822	2 577	94.0	4.0
(男)	837 325	778 770	25 622	26 361	6 266	306	9 280	696	93.0	4.3
(女)	798 135	757 889	17 151	17 419	5 434	242	9 542	1 881	95.0	3.6

文部省〈学校基本調査〉による

高等学校生徒(本科)の学科別在籍状況 (1,000人)

区分	計	普通科	農業科	工業科	商業科	水産科	家庭科	その他の学科
生徒数(1,000人)	4 616	3 150	174	475	576	18	164	32
構成比(%)	100.0	68.2	3.8	10.2	12.5	0.4	3.6	0.7

文部省〈学校基本調査〉による

こうどうかん【講道館】 1882年(明治15)5月，嘉納(かのう)治五郎が柔道の発達・普及を図り，心身ともに健全な国民の育成に資することを目的として，東京の下谷(したや)区北稲荷(きたいなり)町の永昌(えいしょう)寺内に開いた道場，またその団体。講道館柔道が各学校・警察などに普及し，塾生(じゅくせい)・門弟が増加するにつれて数か所を移転，1893年12月に下富坂に100畳敷きの道場が完成して，いわゆる下富坂時代の隆昌期にはいる。1906年には増築されて200畳敷き以上の大道場となり，1909年に法人組織となった。その後1934年(昭和9)には水道橋に新道場が完成して移ったが，第2次世界大戦後文京区春日(かすが)町に国際柔道会館を含む現在の道場の建設が進められ，1958年に開館した。

1912年に修行の進歩に応じて段位を与え3段級制が定められた。また，1920年(大正9)には無段者はけいこ着に白帯を，有段者は黒帯を締めることが定められたが，これは現在は初～5段は黒，6～8段は紅白，9・10段は紅となっている。1975年3月までの入門者総数は103万9,647人(うち女子4,243人外国人26,415人)，また1974年末までの有段者数は86万5,260人に及んでいる。〔藤岡　端〕

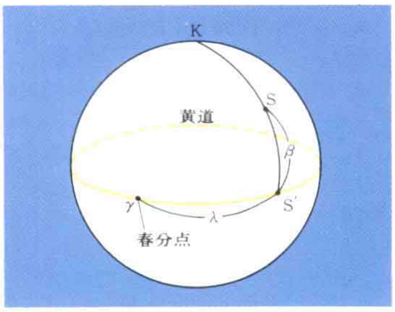
こうどうかん【弘道館】 江戸時代，水戸(みと)藩主徳川斉昭(なりあき)が設立した藩校。1834年(天保5)計画し，1839年着工，1841年青山延于(のぶゆき)・会沢安(正志斎)を総裁として仮開館したが，安政の大獄のため一時停頓(ていとん)し，1857年(安政4)に至り本開館した。文武2館に分かれ，文館では経書の句読，習礼・歌学・医学・天文・数学・音楽などを，武館では兵学・軍用・剣術・槍術(そうじゅつ)・居合・薙刀(なぎなた)・柄大刀・柔術・砲術などを教授した。斉昭の《弘道館記》，藤田東湖の《弘道館記述義》に基づく尊王攘夷(じょうい)の思想を鼓吹するとともに，実用主義の立場から洋学の技術をも摂取せしめた。藩士の子弟は，10歳になると文武師範の家塾(かじゅく)で句読・書礼などを学び，弘道館では15歳から40歳までの者が教育を受けた。なお同名の藩校が，佐賀藩・福山藩・彦根(ひこね)藩・茂木藩(もと谷田部藩)にあった。〔岡山泰四〕

こうとうきょういく【高等教育】 中等教育またはそれと同等の課程を経て，相当程度の知識をもつ者に与えられる教育。わが国では，大学(大学院を含む)・短期大学・高等専門学校などにおいて授けられる教育をさす。ふつう，高等教育の機関は，社会・産業の指導者養成のための専門的な職業教育を施し，かつ学問研究を行なうという二つの機能をもつ。

こうどうきょうだん【孝道教団】 岡野正道・貴美子夫妻が，1936年(昭和11)に霊友会から離れて創設した新興宗教。天台宗の僧籍をもち，《法華経(ほけきょう)》を新解釈して熟益正法を開顕した統理正道の〈理〉と，身をもっての苦行から霊能を得た副統理貴美子の〈感〉とが一組みとなって展開された。現代は日蓮(にちれん)が種をまいてから，その種子が花を開き，実を結んで熟する〈熟益〉の時代にあたっているから，天台宗の〈理〉と日蓮宗の〈事〉とを融合した理事円融の熟益正法，すなわち〈みのる法華経〉を行じ，信仰しなければならないといい，その実践として祖先・父母・子孫の〈縦の孝道〉と，一切衆生に慈悲を及ぼす〈横の孝道〉という縦横十文字の孝道を説く。国際交流で知られる。公称信者42万。〔藤井正雄〕



講道館　全景



黄道座標

こうどうくっしんき【坑道掘進機】 ⇨トンネル掘進機

こうとうけっかく【喉頭結核】 喉頭部の結核をいい，結核性喉頭炎ともいう。ほとんどが気管内感染によって肺結核に続発するが，血行性によるものもある。症状は，嗄声(させい)・乾燥感・嚥下痛(えんかつう)・呼吸困難などであり，声帯および喉頭壁に粘膜下の結核性浸潤，結核性潰瘍(かいよう)形成，喉頭軟骨膜炎を生じる。近年は，化学療法剤の発達によって著しく減少している。治療は，肺結核の一般療法，すなわちストレプトマイシン・パスなどを使用すると容易に治癒(ちゆ)するようになった。〔清水淑郎〕

こうどうこう【黄道光】 日没後の西空，あるいは日の出前の東空に，黄道に沿って分布する淡い光。頂は細いが地平線に近づくほど幅が広くなり，輪郭はぼんやりして周囲の空にとけこんでいる。日本では，地平線に対する黄道の傾きが大きくなる春の夕方か秋の明け方がみえやすい。黄道光の正体は，黄道面に集中して漂っている固体微粒子(宇宙塵(じん))が，太陽の光を散乱して輝いている姿である。

ごうどうこうい【合同行為】 内容と方向を同じくする2個以上の意思表示の合致によって成立する行為。社団法人の設立行為などがそれで，単独行為・契約に対する概念である。すなわち，2個以上の意思表示を要する点で単独行為と区別され，意思表示が各当事者にとって同一方向の経済的意義を有する点で契約と区別される。

ごうとうざい【強盗罪】 暴行または脅迫によって他人の財物を奪い取る罪(刑法236条1項)，また同様の方法で財産上の利益を得たり，他人にその利益を得させることによって成立する罪(同条2項)をいう。人を縛ったり，短刀を突きつけたりして金品を取ったり，労務を提供させたりする罪である。暴行・脅迫は相手方の反抗を抑圧する程度のものであることを要し，その程度にまで達しない場合は恐喝(きょうかつ)罪が成立する。刑は5年以上の懲役，未遂・予備(犯行の準備)も罰せられる(刑法243・237条)。なお，昏酔(こんすい)させて財物を盗んだとき(昏酔強盗)，盗んだ物を取りもどされまいとしたりして暴行・脅迫の挙に出たとき(事後強盗)(刑法238・239条)として，強盗罪と同じ刑で処罰される(準強盗)。なお，強盗犯人が人を傷つけたり，死亡させたりすると刑が加重され(強盗傷人は7年以上の懲役，強盗致死は死刑または無期懲役)，強盗犯人が婦女を強姦(ごうかん)したときは7年以上の懲役，その結果，婦女を死亡させると死刑または無期懲役に処せられる(刑法240・241条)。いずれも未遂の場合も罰せられる(刑法243条)。〔野口恵三〕

こうとうさいばんしょ【高等裁判所】 裁判所法(1947年施行)に定める下級裁判所のうちの最上級裁判所。現在，全国に8か所(東京・大阪・名古屋・広島・福岡・仙台(せんだい)・札幌(さっぽろ)・高松)に設置されている。高等裁判所の権限は，①民事訴訟では，地方裁判所の第一審判決である事件の控訴，地方裁判所の第二審判決である事件の上告についての裁判権，②刑事訴訟では他の下級裁判所の第一審判決に対する控訴，そのほか他の下級裁判所の決定・命令に対する抗告についての裁判権である。なお例外的に，高等裁判所を第一審として審判するように定められている事件，たとえば内乱罪その他の法律によって定められている行政事件については，独自の裁判権をもつ。事件の審判は3人の裁判官による合議体で行なうのが原則である。〔野口恵三〕

こうどうざひょう【黄道座標】 天体の位置を表現する天球座標系の一。基準面として黄道面，基準方向として春分点の方向を選ぶ。黄道の極(K)と天球上の一点S

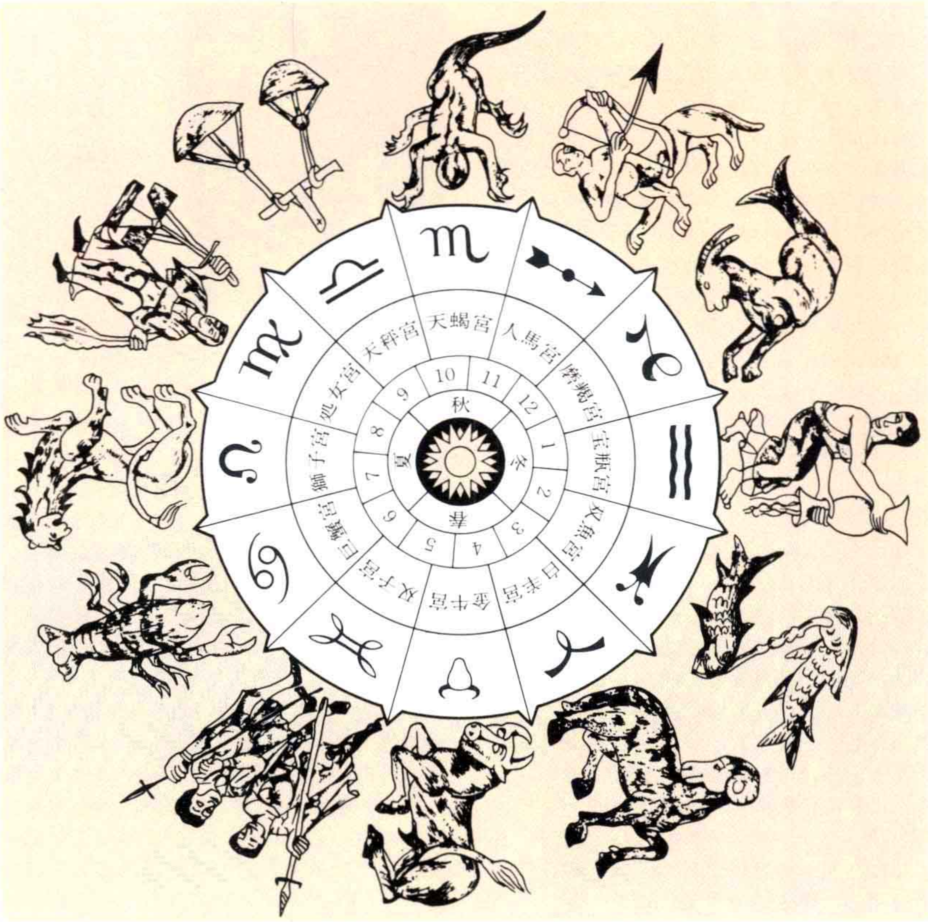
を通る大円が黄道と交わる点をS'とすると，春分点(γ)からS'までの角距離γS'を黄経(λ)，SS'を黄緯(β)という。黄経・黄緯は地球上の経度・緯度に対応し，(λ，β)で天球上の任意の点の位置を指定できる。黄道座標は，地平座標のように場所・時間によって変化しないので，惑星など太陽系の天体の運動を表現するのに適している。しかし，歳差*によって春分点が移動するので，特定の時期の春分点の位置を基準点にしている。➔赤道座標　➔地平座標

〔木下　宙〕

こうとうしき　【恒等式】　文字に任意の数を代入してなりたつ等式。たとえば，$a(a+b)=a^2+ab$はa，bにどんな値を代入しても成立するから，恒等式である。一般に，x についての整式$a_0x^n+a_1x^{n-1}+\cdots\cdots+a_n=0$が恒等式であるための必要十分条件は，$a_0=a_1=\cdots\cdots=a_n=0$となることである。

こうどうじゅうにきゅう　【黄道十二宮】　黄道を南北に8°あるいは9°の帯状の部分をつくり，春分点を基準にして黄道に沿って12等分した天球上の区画。古代オリエント世界では太陽が天球上の宮殿を月ごとに移っていくと考え，黄道を30°ごとの区間に分けてそこに含まれる星座にちなんだ十二宮をつくった。名まえをあげると，白羊宮(おひつじ座)・金牛宮(おうし座)・双子宮(ふたご座)・巨蟹宮(きょかいきゅう)(かに座)・獅子宮(ししきゅう)(しし座)・処女宮(おとめきゅう)(おとめ座)・天秤宮(てんびんきゅう)(てんびん座)・天蝎宮(てんかつきゅう)(さそり座)・人馬宮(いて座)・磨羯宮(まかつきゅう)(やぎ座)・宝瓶宮(ほうへいきゅう)(みずがめ座)・双魚宮(うお座)で，かっこの中の星座は十二宮のつくられた約2,000年前そこにあった星座である。歳差*のため現在では春分点はうお座に移り，星座と黄道十二宮は一つずつずれたが，春分点のことを昔ながらに白羊宮の原点とよぶことがある。

〔守山史生〕



黄道十二宮　十二宮図　外側は星座の絵姿で，そのすぐ内側の記号はそれぞれのシンボルマークである。月の数は，その星座に太陽が位置する月を示す

こうとうしゅぎ　【口頭主義】　原告・被告，債権者・債務者などの当事者や，裁判所がする弁論・証拠調べなどの訴訟行為が口頭でなされることを要する主義。書面主義に対する。1806年のフランス民事訴訟法典以来，口頭主義が支配的である。口頭主義は，陳述が新鮮で印象的で，紛争の争点をつかみやすく，審理が活況を呈するという便宜があるとされる。わが国の民事訴訟法は必要的口頭弁論の制度を採用し(125条1項)，準備手続きも口頭の申述を基本としている(250条)。しかし，その反面で口頭主義は陳述や聴取に抜ける点が出たり，複雑な事案では書面で出したほうが明確になることがあるので，審判の基本となるたいせつな訴訟行為については，書面によることを要求される場合もある。➔口頭弁論

〔内田剛弘〕

こうどうしゅぎ　【行動主義】　1913年，ワトソン*によって提唱された現代心理学の一つの立場。意識を内観的方法によってとらえていた従来の心理学に反対し，客観的観察の可能な〈行動〉を心理学の対象とすべきであると主張した。彼は行動を刺激の関数としてとらえ，刺激－反応(S－R)のメカニズムに重点を置き，S－R関係の最も単純なものを反射とする。複雑な行動は，要素としてのS－R機制の複合された条件反射であるとの原理を適用した。行動主義は，科学的心理学の樹立に大いに貢献し，アメリカ心理学の主流となって今日に至っているが，ワトソンの主張はそのままは継承されず，SとRの間にO(有機体)を取り入れ，Oの特性が刺激と反応の関係を左右するとする考えが台頭した。これを新行動主義という。

〔吉田俊郎〕

こうどうしゅぎぶんがく　【行動主義文学】　文芸用語。1933年(昭和8)から翌年にかけて，紀伊国屋(きのくにや)書店発行の文芸雑誌《行動》におもに主張された文学運動。小松清・舟橋聖一*・春山行夫*(ゆきお)・阿部知二*(あべともじ)らが唱導者で，これに青野季吉*(すえきち)・窪川鶴次郎(くぼかわつるじろう)らの同調もあった。ジイド・マルロー・サン＝テグジュペリらの作品にみられる行動的ヒューマニズムの影響を受け，能動主義ともよばれ，当時の左翼運動の退潮期に際し，芸術派の立場から自発的・意志的な自由を強く主張した。作品活動にはみるべきものは少ない。

〔金子　博〕

こうとうしょ　【紅頭嶼】　ホントウシュイ　蘭嶼(らんしょ)ともいう。台湾南端の鵞鑾鼻(がらんび)東方海上約80kmにある小島で，面積47km²，周囲38.4km。主として火山岩からなり，沿岸はいたるところ絶壁をなしている。住民はヤミ族で，農業に従事し，また巧みに船をあやつって遠海の漁業も営む。

こうとうせんもんがっこう　【高等専門学校】　主として技術教育を行なう教育機関。1961年(昭和36)の学校教育法の改正によって成立，その背景には産業界からの強い要請があったとされる。入学資格は，中学卒業あるいはこれと同等以上の学力ある者とされ，工業系は5年，商船系は5年6か月を就学年限としている。学科は，工業系が機械工学・電気工学・工業化学・土木工学・建築工学・金属工学など，商船系が航海・機関となっている。1971年現在の校数は，国立(工業47，商船5)・公立(工業4)・私立(工業7)の合計63，1970年現在の学生数は，国立33,091(女子617)，公立3,919(女子47)，私立7,304(女子9)の合計44,314(女子673)である。

〔福井幸雄〕

こうとうちゅうるい　【鉤頭虫類】　袋形動物の一綱。体は円筒形または長い紡錘形。

吻(ふん)と短い頸部(けいぶ)および軀幹(くかん)とからなり，吻には下方に曲がった鉤(かぎ)が列生しており，吻は体内に引き込むことができる。すべてが寄生生活を行なうため消化器はなく，体腔(たいこう)内のおもな器官は生殖器である。雌雄異体であり，体内受精で，受精卵のままかあるいは孵化(ふか)した幼虫を産む。成体は，脊椎(せきつい)動物の消化管に吻の鉤をひっかけてしっかりとつき，薄いクチクラ質の表皮を通じて養分を横取りする。卵・幼虫は寄生主の糞(ふん)とともに外界に排出され，甲殻(こうかく)類・こん虫類・魚類・カエルなどに食われ，それらを中間宿主として寄生する。これらの中間宿主が脊椎動物に食われると，それを最終宿主とする。約400種を数え，淡水魚・海産魚・鳥類・哺乳(ほにゅう)類などを最終宿主とする。体長1mm程度の種類が多いが，ネズミに寄生するものは20cmほど，ブタのものは60cmに及ぶ。本来，人間に寄生するものはないが，ブタのものが誤ってはいりこむことがある。袋形動物の他の諸綱との相違を重視して，鉤頭動物門として独立の門に扱われることも多い。〔菅野　徹〕

こうとうは【高踏派】 19世紀後半，フランス詩壇に興隆した流派。パルナシアンの訳語。ロマン派の無抑制な自己陶酔や俗悪な社会性への反動として，芸術の純粋性を擁護し，理知的で彫刻的な詩の創造を目標とした。ルコント-ド-リール*を中心に1866年から3度《現代高踏派詩集》を刊行したが，きわめて入念な彫琢(ちょうたく)のせいか全般に流麗さに乏しく，やがて，詩に音楽的流動性を求める象徴主義*に取って代わられた。なお日本では，自然主義全盛の時流に超然として〈余裕〉〈あそび〉の文学を唱えた，明治40年代初頭の夏目漱石*(そうせき)・森鷗外*(おうがい)らの傾向をさす。〔山口佳巳〕

こうどうは【皇道派】 旧日本陸軍の一派閥。満州事変後，反宇垣(うがき)派(→宇垣一成)の真崎甚三郎(じんざぶろう)・荒木貞夫(さだお)らを中心に形成され，その天皇主義強調から皇道派とよばれた。1932年(昭和7)荒木の陸相就任後勢力を拡大し，林銑十郎(せんじゅうろう)・永田(ながた)鉄山らの統制派*と対立，林陸相による真崎の教育総監罷免事件は両派の対立を激化させた。のち，相沢事件*，続いてこの事件に激発されて皇道派の青年将校らが二・二六事件を起こしたが，以後統制派を中心とする粛軍人事で勢力は一掃された。〔千野境子〕

こうどうびじゅつきょうかい【行動美術協会】 美術団体。1945年(昭和20)11月創立。1945年8月，その前年に解散した二科会*の再結成に際し，主張を異にした旧二科会会員榎倉(えのくら)省吾・古家新・伊谷(いや)賢蔵・柏原(かしわばら)覚太郎・小出卓二・向井潤吉・高井卓二・田辺(たなべ)三重松・田中忠雄ら9名によって結成された。以来，毎年9月に公募展を開いて現在に至る。絵画・



幸徳秋水

彫刻の2部よりなる。

こうとうふ【皇統譜】 天皇および皇族(→皇室)の身分に関する事項を登録する公定簿。皇室典範に〈天皇及び皇族の身分に関する事項は，これを皇統譜に登録する〉と定めてあり，これに基づいて皇統譜令(政令)が定められ，取り扱いおよび登載事項が規定されている。皇統譜は大統譜と皇族譜に分けられ，前者は天皇・皇后，後者はその他の皇族のそれぞれ身分に関する事項を登録する。

こうとうべんむかん【高等弁務官】 被保護国・従属国・被占領国などへ派遣され，条約*の締結，外交交渉など通常は外交使節の行なう職務を担当する機関。外交使節の特権に近いものをもつ。正規の外交使節を交換している国の間では置かれることはない。イギリス連邦の諸国間では，正規の外交使節の交換を行なわず，高等弁務官を相互に派遣している。沖縄については，1957年(昭和32)7月1日からアメリカ合衆国大統領の行政命令により高等弁務官が派遣された。〔広部和也〕

こうとうべんろん【口頭弁論】 民事訴訟における当事者(原告・被告，債権者・債務者)の言い分を，公開法廷で裁判所がきく手続きをいう。審理し判決を下すべき裁判所が，みずから当事者双方を同時に口頭で審理する方式で，次の四つの原則がある。①双方審尋主義，②口頭審理主義，③直接(審議)主義，④公開主義。口頭弁論には，裁判所が必ず口頭弁論で審理しなければならない必要的口頭弁論と，裁判所の裁量によって開くことのできる任意的口頭弁論の二つがある。口頭弁論が実務上も確実に行なわれているかというと必ずしもそうではなく，書面主義に傾いている現実がある。➔口頭主義〔内田剛弘〕

こうとうほういん【高等法院】 フランスの王政時代の機関。はじめカペー朝*のもとで不定期に開かれた宮廷会議であったが，しだいに定期的に開かれるようになり，その司法権が強化，確立されて高等法院とよばれるようになった。15～16世紀の王権伸張期には国王を支持していたが，17世紀にはいると貴族の特権を擁護して絶対王権に抵抗するようになり，その法令登録権を利用してしばしば国王を苦しめた。リシュリュー*の時代は一時彼に押えられていたが，その死後マザランに反抗し，フロンドの乱*の中心となった。18世紀にも王権に反抗する法服貴族の牙城(がじょう)となり，チュルゴー・ネッケルの財政改革に反対して三部会開催への道をひらき，結果的には王権を弱めてフランス革命への契機をつくりだした。〔大野慎一郎〕

こうどうりょうほう【行動療法】 イギリスの心理学者アイゼンクによってまとめられ，提唱された心理療法の一。無意識の抑圧を重視する従来の精神分析学的心理療法に対する批判から出発したもので，症状自体を条件づけによって学習されたものとみなし，治療は，その消去に向けられる。科学的源流は大別して二つあり，パブロフ*の反射学の系統およびソーンダイク*に始まる学習理論の系統である。おもに，恐怖症・夜尿症・吃音(きつおん)・チックなどの身体症状を伴う神経症に適応される。〔片山義郎〕

ごうどうろうどうくみあい【合同労働組合】 略称合同労組。一企業一組合の形式にとらわれず，同一地域の労働者，あるいは同一親企業の下請け工場労働者が，一つに組織されてつくられた労働組合。わが国の労働組合運動は，大中企業の労働組合が中心であったが，1955年(昭和30)ころから，低賃金・過重労働に苦しむ中小零細企業労働者の組織化の重要性が叫ばれ，合同労組が誕生した。通常，個人加入の形式をとっており，全国的組織として全国一般労働組合・全国一般労働組合連盟・全日本中小企業労働組合総連合がある。〔木元錦哉〕

こうどかせいひりょう【高度化成肥料】 肥料の3要素である窒素・リン酸・カリのうちの2成分以上を含み，その成分合計量が30%を越える肥料をいう。近年その生産量・需要量がともに増大している。この傾向はアンモニア・リン酸の製造設備の大形化でますます強まると考えられる。これに伴って肥料はより高度化すると予想される。

こうとくじけん【幸徳事件】 ⇨大逆事件

こうとくしゅうすい【幸徳秋水】 (1871～1911) 社会主義思想家。名は伝次郎。高知県出身。少年時代から自由民権運動*に加わり，郷土の先輩中江兆民*(ちょうみん)の書生となって影響を受けた。のち《万朝報*》の論説記者として活躍。1897年(明治30)ころから社会主義に転換，1898年社会主義研究会にはいり，日本社会民主党を創立したが即日禁止された。1903年，堺利彦*(さかいとしひこ)らと平民社を結成して，週刊《平民新聞*》を発刊。日露戦争に反対し，同新聞の筆禍事件で入獄。1905年アメリカに渡ってアナーキズム*に傾き，1906年帰国後直接行動論を唱えた。1910年大逆事件*の首謀者とみなされて検挙され，翌年絞首刑となった。〔岸野淳子〕

こうとくてい【康徳帝】 ⇨溥儀(ふぎ)

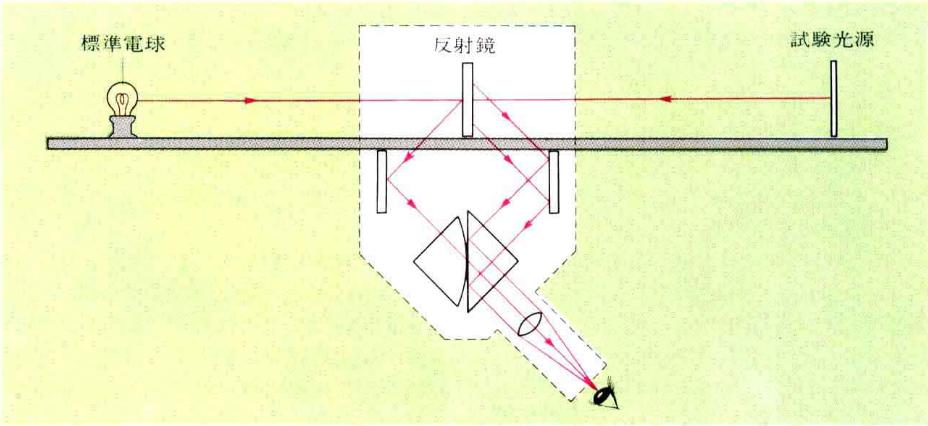
こうとくてんのう【孝徳天皇】 (596？～654) 敏達(びだつ)天皇の曾孫(そうそん)。茅渟(ちぬ)王の子，皇極天皇の同母弟で有間皇子

の父。名は軽(かる)皇子。蘇我(そが)氏誅滅(ちゅうめつ)後，姉皇極天皇のあとを受けて即位し，年号を大化とした。次いで大化改新*を行なったが，実権は皇太子中大兄(なかのおおえ)皇子*・内大臣藤原鎌足(かまたり)*らにあった。晩年は中大兄皇子と不和になり，失意のうちに死去。陵墓は大阪府の大阪磯長(しなが)陵。

こうとくほんせん　【高徳本線】 四国の高松と徳島を結ぶ国鉄路線で，営業キロ数74.8。1916年(大正5)に佐古～池谷間が最初に開通し，1935年(昭和10)に全線開業した。四国循環鉄道の一部を形成する。

こうどけい　【光度計】 光度*を測定するときに使用されるもので，測光器の一。一般には，長形光度形(測光ベンチ)といわれるものが用いられる。長さ3～5mの2本の平行かつ水平の棒のベンチ上に光度計頭部と光源とを載せて自由にすべるようにしたもので，標準電球*または比較燈と供試電球とを両側においてその中間にある光度計頭部で測定平衡をとり，距離の逆二乗法則によって計算する。光度計頭部にはふつうルンマ-ブロジュン頭部が用いられるが，ほかにブンゼン頭部・リッチ頭部などがある。測光平衡のとり方には両者の輝度を等しくとる等輝形と，対比で判断する対比形とがあり，その求め方には直接法と置換法とがある。光の分光分布の異なる異色測光には交照光度計が一般に用いられる。これは輝度と色とが異なる二つの光を交互に見るとき，その周波数が適当なところになると色のちらつきがまず消えて輝度のちらつきだけが残る。さらに輝度が等しくなるとちらつきが消えるという目の生理現象を利用するもので，上記リッチ頭部は長形光度計の場合に使用する異色測光用光度計頭部である。分光光度計はモノクロメーターと称する光をスペクトルに分けて単色光*を出す装置と受光器類を目的・用途に応じて組み合わせ，試料の分光反射率・分光透過率あるいは光源の比分光エネルギー分布などを測定するように開発されたもので，ベックマン形が有名。実験室的なものから各波長に対して自記させる自記分光光度計に至るまで，さまざまな種類があり，その測光方式も多岐にわたっている。たとえば自記分光光度計と積分計算器とを一体にして設計された，分光反射(透過)率曲線を自記させ，色の三刺激値を計算印字させるカラーコンピューターなどもつくられ，これを用いると可視波長域全体の曲線を書くのに2～3分しかかからない。〔中山忠巳〕

こうどけい　【高度計】 地表面あるいは海面からの高さを測る計器。次の2種類がある。①気圧高度計：高度と気圧の間の一定の法則を利用する。原理はアネロイド気圧計(→圧力計)と同じで，目盛りは気圧の代わりに高度が目盛ってある。簡便だが精度はあまり高くない。②電波高度計：絶対高度計ともいう。航空機から地表面に向かって電波を送り，送波と反射波との位相差を用いてはかる。気温・気圧の影響はほとんどなく精度は高い。



光 度 計　長形光度計の原理図

こうどけい　【硬度計】 物体のかたさをはかる装置。かたさを明確に定義することはできないが，実際には次のような硬度計，およびそれによる試験法が用いられている。

①モースの硬度計*：鉱物を互いにひっかいて，鉱物のかたさを決める。最も古い方法。

②ブリネル硬度計：金属のかたさを決める方法。試験片の表面に，直径10mmの焼き入れをした鋼の球を載せ，300～500kg重の外力(多くは油圧による)を10秒前後かけて押し込み，できたくぼみの直径をはかってその面積を求め，くぼみの単位面積あたりの平均圧力を求める。

③ロックウェル硬度計：②の方法を改良してかたいものでも測定できるようにしたもの。押し込み器に直径16分の1インチ(1インチ＝2.54cm)の鋼の球，または円錐(えんすい)形のダイヤモンドを用いる。圧力をかけたときに何ミリメートル押し込まれたかでかたさを表わす。

④ビッカース硬度計：押し込み器にダイヤモンドでできた頂角が136°の四角錐を用いて，柔らかなものからかたいものまで広い範囲にわたってはかれるようにしたもの。

⑤クヌープ硬度計：押し込み器に，ビッカース硬度計の場合よりもっと頂角が大きく横に伸びた四角錐形のダイヤモンドを用いて，ガラスとかダイヤモンドのようなきわめてもろい物体のかたさをも測定できるようにしたもの。

⑥ショア硬度計：先端にダイヤモンドの球をつけた約4gの重さのおもりを約25cmの高さから落下させ，そのはね上がりの高さでかたさを決めるもの。〔加藤敏郎〕

こうないえん　【口内炎】 口腔*(こうこう)粘膜全体に起こる炎症。歯齦(しぎん)部・舌・口唇(こうしん)の炎症はそれぞれ歯齦炎・舌炎・口唇炎とよび，一般に口内炎とは区別する。原因は，機械的刺激(歯牙(しが)・義歯)，化学的刺激(化学薬品)，温熱，水銀中毒，全身衰弱(ことにビタミン欠乏)，血液性の疾患，細菌・ウイルス・真菌などの感染があげられる。病型によって，カタル性口内炎・アフタ性口内炎・潰瘍(かいよう)性口内炎・壊疽(えそ)性口内炎(水癌(すいがん))などに分けられ，それぞれの症状は次のとおりである。①カタル性口内炎：口腔粘膜全般が赤くふくれ，唾液(だえき)が多くなって灼熱感(しゃくねつかん)があり，酸性または塩からい食事がしみるようになる。②アフタ性口内炎：最も多い口内炎で，口唇の内面，歯肉・舌・頬部(きょうぶ)・口蓋粘膜などに，アフタとよばれる直径2～3mmの浅い円形の潰瘍ができる。痛みが強く，熱感を伴う。③潰瘍性口内炎：高熱が出て，歯肉・舌・口蓋(こうがい)粘膜に水泡(すいほう)を形成し，次いで大小形状不定の潰瘍となり，灰白色の偽膜をかぶり，はがすと出血するようになる。痛みがはなはだしい。④壊疽性口内炎(水癌)：カタル性口内炎の症状に次いで突然高熱を発し，頬部粘膜ことに耳下腺(じかせん)開口部，歯肉などに蒼白(そうはく)赤色の斑点(はんてん)ができ，これがたちまち暗赤色から暗黒色になり，壊疽に陥り，やがて頬のほうへ穿孔(せんこう)をつくる。全身の状態は重篤で，大部分は死亡する。口内炎全般の治療法としては，酒・タバコその他刺激性の食物を避け，うがい・薬剤塗布(潰瘍には3～5％硝酸銀塗布など)，ビタミン剤や抗生物質の服用，副腎(ふくじん)皮質ホルモンの併用などを行なう。〔清水淑郎〕

こうないろうどう　【坑内労働】 炭坑・鉱山・油坑などの内部での労働。坑内は危険・有害な環境であり，労働の内容も重筋肉労働であるため，労働基準法は，坑内労働に従事する労働者を保護するために，坑内労働の禁止・制限を定めている。すなわち①使用者は，満18歳に満たない者または女子を坑内で労働させてはならない(64条)。②労働者が坑口にはいった時刻から坑口を出た時刻までの時間と休憩時間とを含めて労働時間とみなす(38条2項)。ただし，いっせい休憩と自由利用(34条2・3項)に関する規定の適用はない。③坑内労働は，時

間外協定をした場合も，１日について２時間を越えてはならない(36条ただし書き)。〔木元美代子〕

こうなご【小女子】⇨イカナゴ

こうなん【興南】⇨咸興(かんこう)

こうなん【江南(市)】愛知県北西部の市。古くからの商業地で，明治中期以降生糸と絹織物の生産が興った古知野町を中心に，布袋(ほてい)町・宮田町・草井村が合併して1954年(昭和29)市制施行。人口92,000。市域は木曽(きそ)川の南岸，尾張(おわり)平野の北端部を占めており，南の名古屋市と約15km離れる。産業三大別人口比は５：51：44。古知野地区では人絹・スフなどの化繊工業が盛んで，カーテン地・テーブルセンター地・いす張り地などのインテリア-デザイン用織物の生産は全国の約40％を占める。また，名古屋近郊の農業地としてアスパラガス・温室花卉(かき)やモモ・ナシなどの果樹が栽培される。名古屋鉄道犬山線によって名古屋市・犬山市と連絡し，最近は名古屋の住宅衛星都市化の傾向が強い。〔浅井得一〕

こうなんこく【広南国】16～18世紀に，ベトナムの南半を領有した国。1558年，阮潢(げんこう)が黎朝(れいちょう)から順化(ユエ)地方の統治をゆだねられたことに始まり，しだいに広南，コーチシナ地方にまで勢力を拡大し，名目的には黎朝の支配下にあったが，実質的には独立国となる。1775年タイソン党の乱によって滅んだが，阮福映によって阮朝として再興した。

こうにちみんぞくとういつせんせん【抗日民族統一戦線】1935年(昭和10)末から1936年にかけて，中国人民が日本帝国主義の侵略に抵抗するために起こした政治運動。1935年８月１日，〈長征〉途上の中国共産党が出したアピール(八・一宣言)や12月の華北の学生運動(十二・九運動)に刺激された上海(シャンハイ)の知識人・民族資本家たちが国民党の統治下で，12月27日，救国会を組織した。1936年には各地に救国会が組織され，５月31日には上海で無党派の知識人を中心に，全国各界救国連合会が成立した。国民党は，外敵に抵抗するより国内統一が先決だとして，共産党討伐・内戦政策をとっていたから，運動はまず蒋介石(しょうかいせき)に政策を転換させ，内戦停止・一致抗日を実行させることにあった。1936年12月，西安事件で蒋はこれを約束，1937年９月に至って国共両党が協力を誓う抗日統一戦線が成立した。統一戦線の実質が保たれたのはほぼ1938年いっぱいであって，1940年代にはいると国民党は中共軍攻撃を強め，新四軍事件(1941年１月)を契機に事実上崩壊した。〔斎藤秋男〕

こうにほんぶんてん【広日本文典】大槻文彦(おおつきふみひこ)著の文法書。1897年(明治30)刊。著者は，国語辞典《言海》の編集にあたり，単語の文法上の所属を決定する根拠を示す必要上，巻頭に組織的な文法を〈語法指南〉として載せた。それを増訂して１冊にまとめたもの。大別して文字・単語・文章の３編からなる。当時の作文の規範である中古語を対象とし，実用性を中心に考えたものであるが，西洋の文法を参考にした折衷文典として以後の文法研究の範となった。

こうにんかいけいし【公認会計士】1948年(昭和23)制定の公認会計士法によって，それまでの計理士に代わって制度化された会計の職業専門家。他人の求めに応じて，報酬を得て財務書類の監査または証明をするほか，財務書類の調製，財務に関する調査もしくは立案，財務に関する相談に応ずることなどを業とする。公認会計士がなす財務諸表監査は投資家などの外部利害関係者の保護を目的とするものであるから，特殊の知識と一定水準以上の経験技能をもつと同時に，その業務の重要性から特に独立性が要請される。そこで多くの国では，一定の資格を備える者についてのみ，その名称を使用することを許可し，かつ被監査会社との間に利害関係のないことを要求している。わが国でも原則として第１次・第２次・第３次の国家試験に合格した者で，大蔵省に登録した者に限りこの名称が与えられる。また，利害関係の有無の判定基準も詳細に定められている。〔山桝忠恕〕

こうにんぎしき【弘仁儀式】三代儀式(弘仁・貞観(じょうがん)・延喜の各儀式)の一。嵯峨(さが)天皇の弘仁年間(810～823)につくられ，朝廷の恒例・臨時の儀式を規定したもの。践祚大嘗祭(せんそだいじょうさい)に始まり，即位・立太子・年中行事・臨時の儀式の順に記載され，10巻あったことが知られる。今日編目だけが伝えられている。

こうにんきゃくしき【弘仁格式】三代格式の一。格は10巻。式は40巻。桓武(かんむ)天皇の末年に編集が開始されたが，天皇の死によって中断し，嵯峨(さが)天皇のときに再開され，藤原冬嗣(ふゆつぐ)らによって820年(弘仁11)完成した。格は大宝律令(りつりょう)の制定から819年までに出された詔勅・太政官符(だじょうかんぷ)を集め，直ちに施行されたらしい。式は各官庁ごとに政務上の細則を集めたものだが，不備のためすぐには施行されず，修正されて，830年(天長７)施行，さらに840年(承和７)にも改正・施行されている。〔菊池礼子〕

こうにんきろく【公認記録】競技を統制する団体に公認された記録のこと。陸上競技でいえば，第１種公認競技場で行なわれた公式競技会で出され，国際陸上競技連盟または連盟に加入している団体(わが国では日本陸上競技連盟)が公認した記録。なお競技は，陸連が認めた審判員が立ち会い，陸連が検定した公認の用器具を用い，競技物は登記・登録をすませたもので，プログラムに種目と氏名が明記されている，といった条件が満たされていなければならない。公認記録には，世界記録・日本記録・日本国際記録・大会記録などの種類がある。陸上競技で世界記録の公認される種目は，男子56，女子25，日本記録の公認される種目は，男子19，女子11である。国際陸連が主催する競技会(オリンピック大会，またはアジア大会などの地域競技会)や日本陸連が主催する競技会(日本選手権大会など)では，新記録が出たときは世界記録・日本記録として直ちに公認されるが，その他の場合は天候・気温・風向・風速・気圧・予選記録を添えて記録の公認を申請し，国際陸連・日本陸連の審査を経て公認される。水泳・スケートなど，記録を公平に比較できる競技種目では，陸上競技にならって記録の公認をしている。なお，野球・サッカー・バスケットボールなどで，公認記録員によって作成されるスコアなどは公認記録とよばれる。〔伊東春雄〕

こうにん・じょうがんじだい【弘仁・貞観時代】弘仁は嵯峨(さが)天皇，貞観は清和天皇の代の年号。おもに文化史・美術史で用いる時代区分。平安時代を２期に分け，前半約100年を弘仁・貞観時代，後半を藤原時代という。政治的には，藤原北家が他氏を排斥して政治的優位をほぼ確立した時代である。文化の面では，前代に引き続き唐文化の影響を強く受けたが，奈良時代よりも消化力が豊かになり，摂取のしかたにわが国独自の態度がみられるようになった点が注目される。仏教界に最澄・空海が現われて，天台・真言両宗を開立し，密教が流行するとともに，密教美術が隆盛をきわめた。一方，漢詩文が貴族の社会に歓迎され，多くの文人・学者が輩出し，《凌雲集(りょううんしゅう)》《経国集》《文化秀麗集》などが編集された。〔菊池礼子〕

こうにんてんのう【光仁天皇】(709～781) 天智(てんち)天皇の孫，志貴親王の子。母は紀橡姫(きのとちひめ)。名は白壁。770年(宝亀１)称徳天皇没後，藤原永手(ながて)らに擁立されて即位。道鏡を下野(しもつけ)(栃木県)の薬師寺に追放し，鋭意律令(りつりょう)政治の再建に努めたが，781年(天応１)老齢のゆえに桓武(かんむ)天皇に譲位し，のち没した。陵墓は奈良県田原東陵。

こうねつこうたいこうしょう【高熱交代鉱床】火成岩，ときにカコウ岩質深成岩が，水成岩，特に石灰岩を貫く場合にその接触部に生じた鉱床。高温交代鉱床，または接触交代鉱床ともいう。マグマが冷却してカコウ岩またはそれに近い岩石を形成する過程において，残液は数百度に達し，ガス状態として存在する。これが周囲の岩石の割れ目を通じて上昇し，石灰岩その他炭酸塩よりなる岩石に遭遇すると，直ちに反応してトウキ石・デンキ石・ザクロ石・ケイカイ石・リョクレン石などの鉱物の集合を形成する。この鉱物群をスカルン鉱物

といい，ジテッ鉱*・セキテッ鉱*・オウドウ鉱*・センアエン鉱*・ホウエン鉱*などの鉱石鉱物はスカルン鉱物体の中に存在する。このような鉱床を高熱交代鉱床という。〔今井秀喜〕

こうねつひ【光熱費】 家計費目の一つで，ガス・電気・石油・石炭などの燈火・燃料に支払う費用。家計簿の多くは光熱水道料として上下水道料金を含んでいる。支出割合は消費支出の5％くらいが標準であるが，地域差・季節差がある。近年電気器具の普及などで消費量も増加し，季節差は少なくなりつつある。年間で光熱費予算を立て，毎月の差額を管理したり，一定額を銀行振り込みにするのが予算管理上，楽である。〔青木淑子〕

こうねん【光年】 天文学上で用いられる距離の単位。秒速30万kmの光が1年かかって到達する距離を1光年という。恒星その他太陽系外の天体の距離を示すときに用いる。他の単位との換算表を下に示す。

こうねんきしょうがい【更年期障害】 女性において，成熟期から老年期への移行期を更年期といい，卵巣機能の老化による内分泌環境の動揺するこのころ(50歳前後)を中心に，その前後を通じて現われる自律神経の不安定を主とする症候群をいう。体質によって，かなりの個体差がある。卵巣の老化が引き金となり，視床下部・下垂体・卵巣系の変調を起こし，これが自律神経の失調に通ずるものと理解されている。

症状は血管運動神経症状(熱感・のぼせ・冷え症・心悸亢進(しんきこうしん)など)，精神神経症状(頭痛・めまい・不眠・耳鳴り・いらだち・不安感・ゆううつなど)，知覚神経症状(しびれ感・掻痒感(そうようかん)など)，運動器症状(腰痛・関節痛・肩こりなど)，泌尿器症状(頻尿(ひんにょう)・排尿痛など)，消化器症状(便秘・下痢・鼓腸など)，そのほか疲労感・肥満など多彩である。しかもこれらの訴えは単一でなく複雑で，また移動することを特徴としている。治療にはホルモン療法が多く用いられる。卵胞ホルモンは有効であるが，長期にわたると子宮出血を起こすから注意しなければならない。また，男性ホルモンもしばしば用いられる。また，更年期障害は複雑なため，精神面の療法を必要とすることがあり，精神安定剤・ビタミンなども利用されている。〔木川源則〕

こうのいけけ【鴻池家】 江戸・明治時代の大阪の巨商。始祖山中新六幸元(ゆきもと)は山中鹿之助*(しかのすけ)の子。摂津(大阪府)鴻池村に居住。幸元の醸造業をはじめ，清酒醸造法を発明し，江戸にまで販路を拡大して巨利を得た。幸元の子正成(初代・善右衛門(ぜんえもん))のとき，海運業・両替商を開始。大名貸し*を行なって，十人両替(大阪の両替商を支配するための機関)の一員となった。之宗(ゆきむね)(2代善右衛門)のときには32藩と取引して，掛屋*・蔵元*として諸藩の金融・財政を管理した。宗利(3代善右衛門)のとき，鴻池新田(現在の大阪府河内(かわち)市の北部)を開発，酒造業を廃して両替商を専業とした。以後，諸藩の特権金融資本として幕末に至り，維新後，新政府に数回にわたって財政援助を行なったことは有名。〔松尾　涼〕


コウノトリ

ごうのうら【郷ノ浦(町)】 長崎県壱岐(いき)郡の町。人口15,000。壱岐島の南西部を占める。1955年(昭和30)に，武生水(むしょうず)町ほか5村が合併して生まれた。武生水地区の郷ノ浦には壱岐支庁があって，島の行政・経済・文化の中心となり，毎年5月の定期市には，島じゅうの人が集まる。郷ノ浦港は天然の良港で，博多(はかた)・唐津(からつ)への定期便が出ている。漁業が盛んで，真珠の養殖が行なわれ，海士(あま)の部落もある。台地はよく耕され，また和牛が飼われている。

こうのしま【神島】 岡山県南西部，笠岡(かさおか)市に属する島。笠岡諸島または備中諸島の一部で，面積は片島・高島・大飛島・小飛島などの多数の属島を含めて19.1km²，人口8,000。もとは内浦とよばれる北部の神島内村と，外浦とよばれる南部の神島外村とに分かれていた。内浦は果樹の栽培やモガイ・クルマエビ・フグの養殖が行なわれる半農半漁村で，外浦には化学肥料・硫酸をつくる神島化学の工場がある。本土との間はフェリーボートで連絡しているが，1970年(昭和45)に横島瀬戸に神島大橋が完成した。横島瀬戸から片島，本土の金浦(こううら)にかけた浅海は，天然記念物のカブトガニ*の生息地として知られる。➔笠岡〔浅井得一〕

こうのす【鴻巣(市)】 埼玉県中東部の市。江戸時代には中山道(なかせんどう)から日光裏街道が分岐する重要な宿駅で，4・9の日の市場町でもあった。1954年(昭和29)市制施行。人口156,000。市域は大宮台地北端と荒川沿岸および元荒川沿岸の低地を含み，中心市街は台地上に発達する。産業三大別人口比は12:39:49。江戸末期以来〈鴻巣雛(こうのすびな)〉とよばれる雛人形の特産があり，近代工業としては製糸・織物・機械の工場が多い。高崎線に沿い，国道17号線(中山道)・大宮バイパスが通ずる。市街北東の元荒川自然堤防上に国立農事試験場があり，全国の農業技術研究の中心地となっている。馬室(まむろ)地区には将軍塚(しょうぐんづか)をはじめとする古墳群があり，埴輪(はにわ)を焼いたかま跡，中山道の一里塚も残っている。

こうのだい【国府台】 千葉県市川市の北西部，高さ約20mのがけで江戸川の低地に臨む下総台地の末端地区。古代に下総(しもうさ)の国府が置かれ，戦国時代には安房(あわ)の里見氏と相模(さがみ)の北条(ほうじょう)氏との戦場となった。縄文(じょうもん)時代の大貝塚(おおかいづか)として有名な堀之内貝塚，国分寺礎石・曹洞宗(そうとうしゅう)総寧寺，《万葉集》に載せられた山部赤人らの歌で有名な説話の娘真間手児奈の霊堂など，名所史跡に富む。第2次世界大戦終了まで陸軍の野戦砲兵隊などの施設が置かれたが，戦後は住宅地や学校区に転用され，日本医科大学・東京医科歯科大学・千葉商科大学・和洋女子大学や国立病院がある。江戸川に臨む里見公園はサクラの名所として有名。〔浅井得一〕

こうのとり【鸛】 鳥類・コウノトリ科の総称およびそのうちの一種をいう。この科の鳥はオセアニアと北アメリカ大陸の北部を除く温帯から熱帯に分布し，世界中に17種が知られる。コウノトリ目の他の科のものとの相違点は，鳴管がないこと，頭の掃除に用いると考えられている足指にあるくし状の一連の小突起がないことなどである。一般に湿地や沼に生息し，樹上で営巣する。主食は種々の水生生物・こん虫類・爬虫(はちゅう)類などであるが，ハゲコウ*類のように大形獣の死肉を食うものもある。ハゲコウ類・クラハシコウなど，日本産のコウノトリとはきわめて異なる異様な形態のものもある。

コウノトリ科の一種であるコウノトリは，ヨーロッパ・アフリカ・中近東から，中国・朝鮮・日本にかけて分布し，3亜種からなる。そのうちの1亜種は現在，兵庫県豊岡市にわずか数羽が生息するだけとなり，保護されている。東部アジアと日本に分布す

光　年　光年と他の単位との換算表

km	天文単位	光　年	パーセク
1	6.69×10^{-9}	1.06×10^{-13}	3.24×10^{-14}
1.50×10^{8}	1	1.58×10^{-5}	4.85×10^{-6}
9.46×10^{12}	6.33×10^{4}	1	0.307
3.08×10^{13}	2.06×10^{5}	3.26	1



鴻ノ舞鉱山
緑の原始林に切り開かれた山はだが痛々しい。上方の谷沿いに見えるのは鉱業所住宅



向　拝　奈良市西大寺金堂の向拝

るものが最も大きく，大形のツルくらいの立派な鳥である。翼の大部分は黒色，他の部分は白色，くちばしは黒色，脚は暗赤色，翼開長は2mに近い。生息適地の減少や，食物を通しての農薬の体内蓄積の害，生息数の減少による近親交配の害などにより，日本産のコウノトリは絶滅に瀕(ひん)している。コウノトリ科のナベコウはきわめてまれにわが国に渡来する。〔安部直哉〕

こうのひろなか【河野広中】(1849～1923) 政治家。自由民権運動の指導者。福島県出身。J.S.ミルの著書を読んで自由民権思想を得，1873年(明治6)民会を興し，福島県を中心とする東北民権運動の指導者となり，国会開設請願運動では東日本の代表となった。1881年福島県会議長となり，県令三島通庸(みちつね)と衝突，1882年福島事件に連座して入獄したが，1889年憲法発布の大赦で出獄。第1回衆議院選挙で当選し，自由党幹部として活躍した。のち伊藤博文(いとうひろぶみ)と接近して，1897年自由党を脱党，のち憲政党に参加し，隈板(わいはん)内閣を成立させた。同党分裂後は憲政本党に所属，1903年衆議院議長，1914年(大正3)第2次大隈(おおくま)内閣の農商務相，晩年は普通選挙運動に尽力した。〔岸野淳子〕

こうのまいこうざん【鴻ノ舞鉱山】北海道北東部，紋別市にある日本一の金・銀鉱山で，全国産金高の19%を占める。1915年(大正4)に発見され，現在は住友金属鉱山が経営する。平均品位は金1tあたり5.8g，銀同じく97gで，鉱石は全泥青(ぜんでいせい)化精錬法により1日670tを処理し，別子鉱業所新居浜電気精錬工場に送られている。

こうのもろなお【高師直】(?～1351) 南北朝時代の武将。足利(あしかが)氏の筆頭家臣である執事を世襲した。元弘(げんこう)の乱には足利尊氏(たかうじ)に従って転戦，建武中興政府では雑訴決断所の衆となり，幕府が開かれてからは，将軍家の執事として権勢をきわめた。しばしば幕軍を率いて南朝軍と戦い，北畠顕家(きたばたけあきいえ)・楠木正行(くすのきまさつら)を敗死させた。1349年(正平4・貞和5)足利義詮(よしあきら)を擁立して執事となり，足利直義(ただよし)・上杉重能(うえすぎしげよし)と対立，そのため諸将は分裂して尊氏・直義兄弟の抗争となった。師直は尊氏に強請して重能を殺し，直義を出家させたが，1351年(正平6・観応2)直義党の将士に敗れ，出家して帰順。帰京の途中武庫川(兵庫県)で重能の養子上杉能憲(よしのり)に殺された。〔高崎徳次〕

こうのもろふゆ【高師冬】(?～1351) 南北朝時代の武将。高師直のいとこ，のちその養子となった。足利尊氏(あしかがたかうじ)が幕府を開設すると東国へ派遣され，幕府方の主将として関東各地で南朝勢力と転戦し，戦功をたてた。1338年(延元3・暦応1)には西上する北畠顕家(きたばたけあきいえ)の大軍を美濃(みの)(岐阜県)青野原に迎え撃ち，その後関東の平定に努め，上杉憲顕(うえすぎのりあき)とともに足利基氏を盛り立てて関東管領の基礎を固めた。しかし，足利尊氏・直義(ただよし)兄弟が不和となると，直義に応ずる上杉氏ら関東諸将に離反され，甲斐(かい)(山梨県)で自殺した。〔高崎徳次〕

こうのもろやす【高師泰】(?～1351) 南北朝時代の武将。高師直の弟。1333年(元弘3・正慶2)足利尊氏(あしかがたかうじ)の挙兵に従って戦功があり，建武中興には侍所となった。尊氏が新政に反旗をあげ，南北朝の争乱にはいると，終始幕軍の主将として各地で転戦し，師直とともに尊氏の直属兵団長としての面目を発揮した。その長い戦歴の中では北国征討軍を率いて新田義貞(にったよしさだ)軍を敗り，四条畷(しじょうなわて)の戦いで楠木正行(くすのきまさつら)を敗死させた。1351年(正平6・観応2)尊氏・直義(ただよし)兄弟不和の責任を問われて，師直ら一族とともに武庫川(兵庫県)で直義方将士の手にかかり謀殺された。〔高崎徳次〕

こうは【光波】⇨光

こうはい【向拝】〈ごはい〉ともいう。仏堂・社殿の入り口の階段上に張り出したひさしの部分で，階隠(はしがくし)としてつけたもの。参詣者(さんけいしゃ)の礼拝をするところである。左右の向拝柱で屋根をささえ，海老虹梁(えびこうりょう)で本建物とつなぐ。なお，仏堂・社殿の前後に向拝があるときは，背後のものを後拝，前面のものを前拝という。

こうはい【光背】仏像の背後にあって光明を表わすもの。後光ともいう。仏三十二相の一つである身光相では，仏身から一丈の光を発するとあることによる。彫刻や画像に表わされる普通の光背は，頭光と挙身光の2種である。頭光は仏の頭部から発する光を表わし，挙身光は仏の全身から発する光を意味する。頭光には蓮華(れんげ)をあしらったものや宝珠形をしたもの，同心円式に単純な形をしたものなどがあり，挙身光は頭光と身光の二つの部分からなったものや，舟形光背とよぶ(一説に蓮弁の形ともいう)細長い形のものもある。板光背は板をはぎあわせて彩色の文様をつけた特殊な光背で，代表的な遺例に室生寺金堂本尊の光背がある。飛天光は光背の周縁に飛天を透彫りにしてあしらったもので，古くから例がある。不動明王の光背は火炎と迦楼羅(かるら)(仏典の中の想像上の鳥)を表わしたもので，深紅の色を施す。なお，15世紀以前のキリスト教美術において，聖像を取り巻く光線をさしていうこともある。

こうはい【交配】動植物を掛け合わせること。交雑ともいう。×の記号で表わすことが多い。たとえば，正常〔+〕雌と白眼〔W〕雄の交配は，〔+〕♀×〔W〕♂のように表わす。育種学・生物学などで目的とする交配を行なうときには，それ以前に他の個体と交配していない材料を用いることが必要である。

こうばい【勾配】⇨傾き

こうばい【勾配】生物体の部分または全体で，たとえば頭と尾を連ねるというようなある軸を考え，その一端から他端に向かうもの，ある一点から周辺に向かって放射状になっているものなど，特定の物質の含有量や生化学的活性度，生理学的な変化などが一定の割合で増減しているような関係を勾配という。このように量的な勾配の差異の存在することは，発生学の面で重要な意義をもつもので，動物の初期発生で重要な現象を規定する量である形態形成の潜在能力という概念と結びついて，発生過程の発現を説明する重要な手がかりの一つで

もある。〔蒲原春一〕

こうばいいろ【紅梅色】色名。紅梅の花のような色。わずかに紫みのある，薄い赤色。ごくわずかに藍(あい)を含んだ紅で，染色方法も紅染めと藍染めとによる。同じく紅と藍とで染めた色に，桔梗(ききょう)・二藍・藤(ふじ)・牡丹(ぼたん)などがあるが，いずれも紅梅色より藍み(青み)の多い色である。古くは桃色の濃い色を，のちに紫紅色を紅梅色とよんだという。今日では，紅梅色は桃色よりもごくわずかに彩度が低い色と考えられ，ほとんど同一の色とみられている。日本工業規格(JIS)慣用色名〈紅梅色〉は，色相2.5R，明度6.5，彩度7.5の色と規定されている。➔色〔武井邦彦〕

こうばいおり【紅梅織】勾配織(こうばいおり)・高配織とも書く。経(たて)糸あるいは緯(ぬき)糸，または経緯ともに太さの異なる2種以上の糸を用いて平織とし，布面の一部に畝(うね)を織り出した織物。すっきりした縞(しま)や乱れた縞を織り出したものもあるが，格子(こうし)にした〈四つ紅梅・四つ入り紅梅〉とよばれるものが最も一般的である。絹・綿両方があるが，現在織られているのはほとんど綿紅梅である。愛知県・静岡県が産地。夏物着尺地であるが，多くは中形・小紋柄を染めた浴衣(ゆかた)に用いられている。〔北村哲郎〕

こうばいかんり【購買管理】企業の生産に必要な質と量の資材または用役を，所要期日までに可能最低原価で外部から購入・入手することが購買の業務であり，購買活動の管理を購買管理という。購買管理は購買の調査・計画と購買の実施・統制に分けられる。購買調査では自社の資材・用役の需要量，市場の動向，購買先の実態などを調査・分析する。購買計画では購買調査の結果に基づいて，購買先の選択，購入時期・数量・価格・支払い条件などに関する計画をつくる。常備品の購入方法の代表的なものに，定期発注方式と定量発注方式がある。購買の実施と統制の段階には，購買契約締結・納入品検収・代金支払いなどの諸活動がある。➔資材管理〔清水　晶〕

こうばいこん【購買婚】結婚の成立条件として，夫となるべき男とその家族が妻となるべき女の家族や親族に代償として金品を贈与する形式。ひとりの女が嫁に出ることによって女の家族や親族はその働き手をひとり失い，彼女を養育した手間は損失となる。このような損失を，夫方からの家畜・日用品・農具・祭礼具・通貨などの給付によって補うことを目的としている。代償は必ずしも金品である必要はなく，夫となるべき男が妻の家で一定期間働くという，労働奉仕による場合もしばしば見られる。〔大岩　碩〕

こうはいしっち【後背湿地】沖積(ちゅうせき)平野では，河道の両側に洪水(こうずい)時の氾濫(はんらん)によって砂などの粗粒物質が堆積(たいせき)し，自然堤防とよばれる堤防状の微高地ができる。しかし，洪水時にあふれた水は自然堤防を越えてもとの河道にもどることができず，そこにたまって，湿地または湖沼となる。これを後背湿地という。河道が何回も移動したところでは，自然堤防と後背湿地が交互に幾条もできる。また，隆起海岸では沿岸の内側が排水不良となって湿地を形成することがあり，これも後背湿地とよぶことがある。わが国の後背湿地はミルト*・粘土などの細粒物質でおおわれ，排水が悪く，北海道のような寒冷地では植物の遺骸(いがい)の分解が悪いために泥炭*(でいたん)が発達している。〔桑原正見〕

こうばいすう【公倍数】二つ以上の整数に共通な倍数。ただし，0はどんな整数に対してもその倍数であるが，公倍数を考えるときには，ふつう除外する。たとえば，

2の倍数＝{2, 4, ⑥, 8, 10, ⑫, 14, ……}

3の倍数＝{3, ⑥, 9, ⑫, 15, ……}

であるから，2と3の公倍数は{6, 12, ……}である。これは，2と3の最小公倍数6の倍数の集合である。三つ以上の数の公倍数も同様に考える。また，整式についても公倍数が考えられる。〔青柳雅計〕

こうばいせんく【紅梅千句】俳諧(はいかい)連句。1652年(承応1)，近江(おうみ)(滋賀県)坂本の医師有馬友仙(ゆうせん)が俳諧の指導を受けるため，貞徳*・貞室*・季吟*ら貞門の中心人物を招いてつくり，1655年(明暦1)に刊行されている。千句第1の〈紅梅やかの銀公のからころも〉の貞徳発句からこの名がある。梅・花・郭公(かっこう)などの題による百韻10巻からなり，貞門の代表的作品として名高い。

こうばいどうき【購買動機】商品ないしサービスを購入させるようにしむける要因。種々の側面から分類されるが，おもに次のようなものがある。①一次的動機と選択的動機：前者は，のどがかわいたのでジュースを買うというように，ある商品の必要性に気づいて生ずる動機。後者は，ジュースの中でもグレープジュースを買うというように，特定の商品を選ぶときに作用する動機。②情緒的動機と合理的動機：前者は，人がもっているから自分も買うというように，競合・同調性・威信・変化を求める動機。後者は，品質がよく安いから買うというような，経済性・信頼性・便宜性の観点から生ずる動機。③愛顧動機：特定のブランドや商店をひいきにして購入させるような動機。商品またはサービスの購入にあたって以上のような種々の動機が作用するわけであるが，購入対象によってその作用のしかたには強弱があり，異なる。〔清水　晶〕

こうばいりょくへいかせつ【購買力平価説】G.カッセル*が1922年に《1914年後の貨幣および外国為替(かわせ)》で展開した為替相場決定の理論。2国間の為替相場は，2国の貨幣がそれぞれの国においてもつ購買力の比率，したがって2国のそれぞれにおける一般物価水準の比率によって決定される。さらに貿易の均衡状態から出発して，その後2国それぞれにおいて貨幣流通量が変動して一般物価水準が変化したとするならば，2国間の新しい為替相場は，出発点の均衡状態における為替相場に2国で発生した一般物価水準の変化率の商を乗じたものに等しくなる。関係2国のそれぞれにおける貨幣の購買力の比率，したがって一般物価水準の比率に一致する為替相場を購買力平価という。現実の為替相場は，一時的には購買力平価から離反することもあるが，購買力平価は，現実の為替相場がつねにそこに帰着しようとする均衡点である。

第1次世界大戦後の世界の通貨価値および為替相場の激動期に，カッセルは上述のように現実の為替相場がつねに帰着しようとする均衡為替相場を説明する理論として購買力平価説を提唱したのだが，この理論には多くの欠点が認められ，実質的な要因の変化を考慮するときにはまったく成立しない。〔安井孝治〕

こうはつがしゅし【光発芽種子】発芽の際に光を必要とする種子で，タバコ・マツヨイグサ・カゼクサ・レタスなどの種子がこれに属する。タバコ・レタスなどの種子の発芽が赤色光で促進され，近赤外光で阻害されることから，フィトクローム*系が光発芽に関係していることが明らかとなっている。これに対し，暗黒下で発芽が促進される種子で，光によって発芽が抑制されるものを暗発芽種子といい，クロタネソウ・カボチャ・ケイトウ・ヒユ科の種子などがこれに属する。〔吉田精一〕

こうはん【公判】裁判官・被告人・弁護人・検察官などの訴訟関係当事者が，公訴*事実に基づいて，公開された法廷で証拠調べを行なうこと。わが国では，公判中心主義(事件の審理は公判廷でしなければならないとする原則)，当事者主義(検察官・被告人がそれぞれ証拠を集め，証拠調べをし，裁判官が判断する)を採用している。公判は，公判準備である検察官の起訴状提出，起訴状謄本の被告人送達，弁護人選任，公判期日の指定などが終わりしだい開かれる。〔井上公耳〕

こうはん【紅斑】皮膚が限局性に紅色を呈する皮膚病の症状の一。ガラス板で圧迫すると局所は褪色(たいしょく)してみえ，圧迫を去れば復色する。真皮上層の毛細血管の拡張・充血によるもの(大部分は炎症性で，麻疹*(ましん)や猩紅熱*(しょうこうねつ)にみられる)と血管の新生によるもの(単純性血管腫(けっかんしゅ)など)がある。なお，真皮上層の毛細血管が持続性に拡張し，血紅色の細線や細網を呈するものは毛細管拡張という。

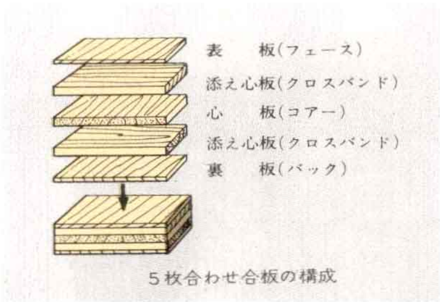
こうはん【鋼板】鋼塊を熱間または冷間で圧延して板状にした鋼材。鋼板を板厚

で分類する場合，板厚6mm以上を厚板，3～6mmを中板，3mm未満を薄板という。厚板はボイラー・圧力容器・造船のほか，車両・重機械・構築物・橋梁(きょうりょう)・化学機械などに用いられ，用途によって多くの種類がある。薄板も普通鋼板からステンレス鋼板に至るまで，多種多様にわたっている。製造方法から分類すると，熱間圧延薄鋼板と冷間圧延薄鋼板(冷延鋼板)とに分けられる。炭素鋼薄板は車両・自動車・電気機器・家庭器具などに広く使われる。特別のものとして電気用のケイ素鋼板があり，モーター，高圧器用の電気鉄板として知られている。ステンレス鋼板も車両・化学装置・台所器具などに広い用途がある。また，たとえばブリキ板・トタン板などのように，めっきおよび塗装を施した薄板もすべて鋼板に含まれる。〔長谷川正義〕

こうばん【交番】 派出所・駐在所を含めて交番という。警察署から巡査が派出して勤務する場所を巡査派出所といい，巡査がつねに駐在して勤務する場所を巡査駐在所という。巡査派出所は1874年(明治7)1月，警視庁屯所(とんしょ)に巡査交番所を設けたのに始まり，交番という名称が生まれた。巡査駐在所は1881年，巡査在勤所を設けたのに始まる。派出所は交替勤務で，2人以上の配置であり，駐在所は1人勤務で常駐である点が異なる。〔井上公耳〕

ごうはん【合板】 単板*(ベニヤ)を数枚(ふつう，3，5，7枚)重ね，接着剤で張り合わせ，高温下でプレスして1枚の板に成形したもの。各単板はその繊維方向を互いに直交させ，奇数枚合わせてつくられる。多く，表板(フェース)・添え心板(クロスバンド)・心板(コアー)・裏板(バック)から構成される。合板の長所は，①各単板の繊維方向が交互に直交しているので，普通の単材と違って，縦・横2方向の強度が同じである，②単板は薄いので，安価に多量に得られ，また木目の美しい質のよい材料を表板に使い，悪い材料を心板に使えるので経済的である，③節・腐れなどの木材の傷による短所をなくし，均質な板材を得られる，④重量のわりに強度が大きい，⑤狂いや割裂を起こしにくい，などである。フェノール樹脂*系接着剤を使用したものは耐水性は非常にすぐれており，一類合板と称している。二類合板はユリア樹脂*系接着剤を使用したもので，一類より耐水性は劣る。特殊合板には，表面にプラスチック・紙・布・金属薄板などを張ったオーバーレイ合板，心板に発泡(はっぽう)ポリスチレンなどの軽い材料を用いた軽量合板のほか，防火合板・ランバーコアー合板・2枚合わせ合板など種々のものがある。➔サンドイッチ板 〔難波蓮太郎〕

こうはんいんさつ【孔版印刷】 画線の部分はインキが浸透して押し出され，非画線の部分のインキが浸透しないようにつく



合　板



強飯式　栃木県日光市輪王寺の強飯式。山伏姿の強飯僧が頂戴人に口上を述べ，飯を強いている

られたステンシルの版を使用して，裏側からインキを押し出して行なう印刷。謄写版印刷・シルクスクリーン印刷などを総称したもので，印刷画線は盛り上がった厚いインキ層になる。ステンシルは，多孔質の強靭(きょうじん)な紙または絹布に，ロウ，油性のゼラチン質，重クロム酸コロイドなどの塗皮膜をつくったものである。鉄筆とやすり，タイプ印字，写真製版などの手段でつくられる。事務用文章・ポスターなどの一般印刷のほか，蛍光(けいこう)インキの印刷，ビニル・ポリエチレンへの印刷，タオルやタイル・ガラスなどへの印刷にも利用されている。〔長野昌隆〕

ごうはんしき【強飯式】 ご飯を大きなわんに盛って客に強いて食べさせる式。各地にその風習があるが，特に有名なのは栃木県日光市輪王寺の強飯式である。毎年5月2日に同寺の三仏堂で行なわれ，〈日光責め〉ともいわれる。これは山伏姿の強飯僧が黒塗りのわんに飯を盛り上げて，裃(かみしも)姿でかしこまっている頂戴人(ちょうだいにん)に向かって，激しい口調で口上を述べたてて，飯と菜を強いる。食物を強いる形は，根本的には神供を人間もいただくことによって，神と人間との間に深いつながりが生ずるという考え方に基づいている。〔直江広治〕

こうはんせいろうそう【紅斑性狼瘡】 エリテマトーデスともいう。皮膚に紅斑*のできる膠原病*(こうげんびょう)の一種。皮膚限局性の慢性円板状型と，重い全身症状を伴う全身型に大別され，その間に移行型がある。遺伝性の抗体産生能の異常を基盤として，種々の誘因(紫外線・感染症・妊娠・出産・薬剤アレルギー・精神的ストレスなど)が加わって発症すると考えられている。慢性円板状型では，おもに顔面に紅斑を生じ，白い鱗屑(りんせつ)が固着，色素沈着・色素脱失・瘢痕(はんこん)・毛囊性(もうのうせい)角化があり，その形は鼻根部を中心に蝶形(ちょうけい)を呈することが多い。全身型では顔面の蝶形紅斑と手足の凍瘡様(とうそうよう)病変が主であるが，全身に紅斑を生じたり，顔面が丹毒様にはれることがある。発熱，全身倦怠感(けんたいかん)，貧血，腎炎(じんえん)，心臓の変化，神経症状などを伴う。赤血球沈降速度・白血球数・抗核抗体・LE現象・リウマチ反応・腎機能・病変部の組織検査がたいせつで，長期の療養を要する。〔田嶋公子〕

こうひ【公比】 ⇨数列

こうひ【口碑】 ⇨口承文芸

こうび【交尾】 交接または性交ともいう。体内受精をする動物で，雌雄の個体(雌雄同体の動物では2個体)が体を接触させ，生殖口を互いに密着させるか，雄の生殖器である陰茎を雌の生殖器に挿入(そうにゅう)して，精子を直接雌の体内に移行させる行為をいう。カエルの雌雄が繁殖期に行なう行為は体外受精なので抱接であり，真の交尾ではない。交尾のために特に交尾器官が発達して，その目的を容易にするような動物が広い範囲にわたってみられる。なお，動物には一定の時期に限って交尾を行なう種類が多く，この時期を交尾期という。成熟した動物では，雌雄のホルモンの影響で繁殖期間に発情するが，これが動物に交尾の衝動を起こす生理状態である。〔蒲原春一〕

ごうひ【合肥】 ホーフェイ　中国，安徽(あんき)省の省都。旧名は廬州(ろしゅう)。清(しん)代の廬州府城であり，南に巣湖を控える。小汽船が巣湖から揚子江に通じ，淮南(わいなん)鉄道の沿線に沿う。また公路(幹線道路)は浦口から本市を経て河南省に通じる。中華人民共和国となってから，鋼鉄・機械・化学などの重工業や紡織などを行なう工業都市として発展してきた。

こうヒスタミンやく【抗ヒスタミン薬】 生体内でヒスタミン*の作用と拮抗(きっこう)する薬物。ヒスタミンは生体内で組織と結合して病的な作用を起こすが，主としてこれとせり合って組織との結合を阻害させることによって抗ヒスタミン作用を表わす。臨床的には感冒のほか，じんましん・枯草熱などのアレルギー性疾患に用いられるが，アレルギー性疾患の原因がヒスタミンによるものばかりではないため，すべてのアレルギー性疾患に有効とはかぎらない。また抗ヒスタミン薬には抗ヒスタミン作用のほか，抗アセチルコリン作用・抗アドレナリ

ン作用・局所麻酔作用があり，その強さは薬物ごとに異なる。ことに中枢作用として起こる眠気・全身倦怠感(けんたいかん)・吐き気などは副作用と考えられる。〔伊藤隆太〕

こうひニッケルこう 【紅砒ニッケル鉱】 ニッケルの原料鉱石の一。NiAs 六方晶系，比重7.3～7.7，硬度5～5.5，条痕(じょうこん)色は黒かっ色。不透明。金属光沢を呈し，銅赤色であるが，さびれば暗灰色になる。世界のニッケル鉱床から広く産する。

こうびるい 【広鼻類】 ⇨霊長類

こうひん 【公賓】 外国の王族・大臣・特別使節，およびこれに準ずる人で，国際的儀礼上，相当の待遇を要すると閣議が認めた政府の賓客。自衛隊の観閲，国歌吹奏などの儀礼をもって出迎える。

こうふ 【公布】 法律および政令などを一般人が知りうる状態に置くこと。近代立憲主義国家の成文法は，公布して国法を一般国民に知らせ，その後に施行することが原則となっている。公布は通常，官報その他の公の定期刊行物によってなされる。法律および政令は，国会と内閣の意思によって確定され，公布によって施行されうる状態に置かれる。日本国憲法は，憲法改正・法律・政令および条約の公布を天皇の形式的権能に属させている。なお，地方公共団体の条例はその長が公布することになっている。〔針生誠吉〕

こうふ 【甲府(市)】 山梨県の中央部に位置する県庁のある市。古くは甲斐(かい)の国府が置かれて府中とよばれ，1519年(永正16)に武田(たけだ)信玄の父信虎(のぶとら)が躑躅ケ崎(つつじがさき)城，のち舞鶴(まいづる)城を築いて以来，城下町として，また甲州街道の宿場町として発達した。江戸時代初期には柳沢吉保(よしやす)が統治して現在の市の基礎を築き，その後幕府の天領となって代官政治が行なわれ，また甲府城守衛のために甲府勤番が置かれた。1889年(明治22)市制施行。人口19万9,000。市域は甲府盆地のほぼ中心部を占め，北半は相川扇状地，南半は荒川・釜無(かまなし)川の沖積(ちゅうせき)地上に広がる。産業三大別人口比は6：31：63。東郊の山麓(さんろく)斜面にはブドウ畑が広がって，勝沼に次ぐ県下第2の生産を誇り，ブドウ酒醸造も行なわれる。甲府駅近くは県庁をはじめとする官庁街で，北側は文教地区・住宅地区となっている。南郊には工場誘致によって化学・精密機械などの工場が建設されている。なお，在来工業に水晶細工・印伝皮細工がある。中央本線・身延(みのぶ)線の分岐点で，国道20号線(甲州街道)・137号線・140号線などが集まり，バス路線は静岡市・小諸(こもろ)市方面にまで延びている。1965年(昭和40)首都圏整備区域に編入されて，軽工業を中心とする新しい都市づくりが進められているが，中央本線の複線化や中央高速道路の開通によって市勢の発展が今後さらに期待され，隣接町村を合併した30万都市実現の構想もある。北に秩父(ちちぶ)多摩，南に富士箱根伊豆(いず)，西に南アルプスの3国立公園を控え，市内には湯村・甲府・積翠寺(せきすいじ)などの温泉があり，湯村温泉は昇仙峡(しょうせんきょう)の入り口にあたる。重要文化財の善光寺をはじめ，武田氏にちなむ史跡・社寺が多く，観光都市の性格も強い。〔浅井得一〕



甲府市
市内の甲府城跡から北を望んだ甲府市中心部の概観。遠景の山々は昇仙峡を経て金峰山方面へと続く

こうふうかい 【光風会】 美術団体。1912年(明治45)3月創立。前年3月に解散した白馬会の後身として，黒田清輝の教えを受けた旧白馬会会員中沢弘光(ひろみつ)・山本森之助・三宅克巳(みやけかつみ)・杉浦非水・岡野栄・小林鐘吉・跡見泰(やすし)の発起で創立され，同年6月上野竹之台陳列館で第1回展を開催。穏健な作風の官展系作家の団体として外光派の画風を引き継ぎ，毎年春に公募展を開いて現在に至る。絵画・工芸の2部よりなる。

こうぶがったい 【公武合体】 幕末期に公家(くげ)(朝廷)と武家(幕府)が提携して，難局を打開しようとした政策。1860年(万延1)桜田門外の変後，老中久世広周(ひろちか)・安藤信正(のぶまさ)が幕政を担当，一橋慶喜(よしのぶ)(徳川慶喜)や薩摩(さつま)・越前(えちぜん)・土佐・宇和島の諸藩と結んで公武合体を進めた。公武合体派は弱体化した幕府を朝廷の権威と雄藩の実力とで補強し，それによって欧米諸国の外圧にあたり，下層から盛り上がった尊王攘夷(じょうい)運動に対決しようとした。そのため孝明天皇の皇妹和宮(かずのみや)と将軍徳川家茂(いえもち)との結婚問題を画策し，その実現に成功。こうした気運の中に雄藩の政治進出が顕著となり，各藩は国事周旋を通じて政治的指導権を得ようとした。文久3年8月18日の政変で尊攘派勢力を京都から一掃したのち，公武合体派は雄藩連合の参預会議で政局にあたったが，諸藩の協調は破れ，わずか2か月で解体した。すでに西南雄藩の中には，幕藩体制を突き破って絶対主義をめざす急進派が藩論を制するようになった。薩摩藩は薩長同盟・討幕運動へと踏み切り，土佐藩は公議政体・大政奉還への動きを進めた。公武合体運動は，これらの運動へと分裂しながら消滅した。〔高崎徳次〕

こうふく 【幸福】 一般に人間のさまざまな欲求が充足された状態をいう。この欲求の内容の意味づけのしかたに応じて多様な形をとる。歴史的にみると，古代では万物が追求している〈徳にかなった活動〉が幸福(エウダイモニア)であるというアリストテレスの定義，平静な霊魂の状態を理想とするエピクロス派のアタラクシアやストア派の主張する自然との調和した生活を意味するアパテイアなどがあげられる。中世には神による罪からの救済，人と神との神秘的な合一の経験が至福とされた。近代においてはJ.S.ミルやベンサムの功利主義が追求する心理的ないし精神的快楽がおもなものである。現代には特に幸福を主題とする思想はみられない。しかし，幸福を求めることが意志の自然なあり方であるかぎり，人間はなんらかの形で幸福とはなにかと問い続けねばならない。幸福を選びとる基準は各人の人生観・世界観によって決定されるのであるから，単に視野を現世に限って，目前の幸福を追い求めるだけでは真の幸福を見いだすことはできないと考えられる。〔玉井 治〕

ごうぶく 【降伏】 ⇨調伏

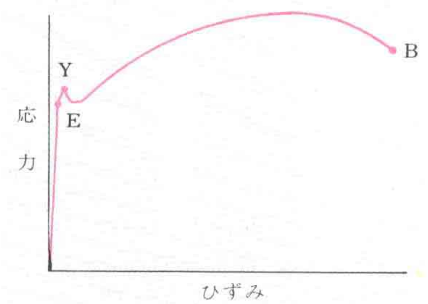
こうふくかい 【光復会】 中国，清(しん)末における浙江(せっこう)派の革命的秘密結社。1904年冬，蔡元培(さいげんばい)を会長として上海(シャンハイ)で設立された。光復とは中国の栄光を回復するとの意であり，国粋主義的性格が強い。のちの中国革命同盟会の母体の一つとなったが，会そのものは解散せず，章炳麟(しょうへいりん)を中心に同盟会主流の孫文派と内紛を起こすことも多かった。

こうふくじ 【興福寺】 奈良市登大路町にある法相宗の大本山。藤原鎌足(かまたり)の病の平癒(へいゆ)を祈って，夫人の鏡女王が京都府山科(やましな)に堂宇を建立(こんりゅう)し，山階(やましな)寺と称したのが始まりで，673年(天武天皇1)都が飛鳥浄御原(あすかのきよみはら)に移されるに伴って大和(やまと)(奈良県)の高市に移り，寺名も厩坂(うまやさか)寺と改められたが，平城遷都後現在地に移建，興福寺とよぶようになった。藤原家が勢力を得るにつ

れて寺運も隆昌(りゅうしょう)し，僧兵を置き，春日(かすが)*大社の実権をも握って，事あるごとに神木をくり出して強訴するという暴挙もあって〈奈良法師〉と恐れられた。その後，1180年(治承4)平家と対立して東大寺とともに*平重衡(しげひら)に焼かれ，伽藍(がらん)の大部分を失った。鎌倉期におもな堂塔の復興をみ，また1411年(応永18)・1717年(享保2)その他の火災で堂塔を失ったが，そのつど復興を重ね，現在の建築では北円堂(国宝，1210年建立)と三重塔(国宝，1143年建立)以外は近世以後の建立である。猿沢池(さるさわのいけ)に美しい影を映す五重塔(国宝)は，その隣の東金堂(国宝)とともに室町期の和様建築の代表的なものである。食堂跡に建てられた国宝館の国宝には，1937年(昭和12)東金堂の須弥壇(しゅみだん)下から発見された旧山田寺本寺の《銅造仏頭》，もと西金堂の釈迦(しゃか)の眷属(けんぞく)として安置されてあった《乾漆十大弟子(でし)立像》，平安前期の《木造四天王立像》，藤原時代の《板彫十二神将立像》，鎌倉肖像彫刻の名作運慶作の《木造無著菩薩(ぼさつ)世親菩薩立像》，運慶の息康弁作の《木造天燈鬼龍燈鬼(りゅうとうき)立像》(以上いずれも国宝)など，白鳳(はくほう)から鎌倉に至る彫刻の数々が陳列されている。その他，絵画・工芸・書跡関係にも貴重な品が多く，古代から近世に至る奈良文化の歩みを物語っている。なお，南円堂には康慶作の《木造不空羂索(けんさく)観音坐像》《木造法相六祖坐像》，北円堂には運慶作の《木造弥勒仏(みろくぶつ)坐像》(以上いずれも国宝)が安置してある。〔永井信一〕



興福寺 八角円堂で四面に板扉を構え，連子窓のある北円堂



降伏点 応力とひずみの関係を示す応力－ひずみ図。E：弾性限度，Y：降伏点，B：破断点

こうふくてん【降伏点】 物体にかかる荷重をしだいに増して弾性限度を越すある応力の値に達すると，応力のわずかの増加または増加することなく，ひずみが急激に増加する。この現象を材料の降伏といい，このときの応力を降伏点または降伏反応という。軟鋼など多結晶組織をもつ材料は明瞭(めいりょう)な降伏点をもつが，銅やアルミニウムなどは明瞭に現われないため，0.2％の永久ひずみを生ずる応力を降伏点とみなし，これを耐力とよんで区別することがある。
→弾性 〔山根雅巳〕

こうふくなおうじ【幸福な王子】 ワイ*ルドの童話集(1888)。幸福な王子の銅像が，自分の身を飾る宝石を貧しい人々に届けるよう，ツバメに頼み，やがて銅像はこわされてツバメも死ぬが，両者の魂は天国に昇るという物語。表題作品のほかに《ナイチンゲールと薔薇(ばら)》《わがままな巨人》などを含む。当時の功利主義・物質主義に対する批判がこめられ，愛の尊さを美しい文体で語っている。

こうふこうさい【交付公債】 補償・救済・援護・出資などを目的として，金銭に替えて*公債を交付する場合の公債をいう。一般に公債の発行は，経費にあてるべき資金の獲得を目的としているが，この交付公債の場合には，これによって経費の支出を免れることがその目的となっている。農地改革のとき旧地主に交付された農地証券，軍人軍属の遺家族に交付された遺族国債などがそれである。

こうぶしょ【講武所】 1854年(安政1)幕府が設けた武芸練習所。旗本(はたもと)の子弟に剣術・砲術・槍術(そうじゅつ)・水泳などを教授した。はじめは築地鉄砲洲(てっぽうず)，のちに神田小川町から越中島へと移った。銃隊調練や軍艦の操縦など，しだいに近代化され，旧式武芸の教授は廃された。1866年(慶応2)陸軍所の設置によって廃止。教授に直心影流の剣客男谷(おだに)精一郎や高島秋帆・勝海舟らがいた。

こうぶしょう【工部省】 1870年(明治3)*殖産興業政策推進のため設けられた工業育成の中央官庁。工学・勧工・鉱山・鉄道・土木・燈台・造船・電信・製鉄などを統轄。各種官営模範事業の経営，御雇外人技師の招聘(しょうへい)，近代技術の習得，さらに民間産業の保護育成に努め，日本資本主義の発展に寄与した。1880年ごろから同省の主要所管であった官営事業が漸次民間に払い下げられることになり，1885年内閣制度創設を機に廃止された。〔千野境子〕

こうぶだいがっこう【工部大学校】 東京大学工学部の前身。明治維新政府の工業政策は*工部省を中心に展開され，その教育機関として，1871年(明治4)工学寮が設置された。しかし工業化政策にとっては不十分なものであったため，工業技術の専門教育機関として1877年1月に工部大学校に改組された。教授陣は教頭のヘンリー＝ダイエルをはじめ，イギリスの若い研究者が担当した。イギリス・フランスの各技術教育の長所をとった6年制のカリキュラムを組み，1886年に帝国大学工科大学に改組されるまで，合計213名の卒業生を送り出した。〔加藤邦興〕

こうぶつ【公物】 国または公共団体などの行政主体が直接に公の目的に使用し，公法上の地位を有する物。河川，道路，海面，公の建物などがその例である。その種類は，①公共用物と公用物の区別があり，前者は道路などの公共の用に供するもの，後者は官庁の建物など公共団体自身が使用するものである。②自然公物と人工公物の区別があり，前者は河川・海・湖など，後者は橋梁(きょうりょう)・道路，公の建物などである。③国有・公有公物と私有公物の区別があり，公物の帰属主体による区分である。法的な特色としては，公物に対して私権を設定・行使するにあたっては，必要な範囲で否定もしくは制限されることがある。またその管理権は公共団体に属するため，公物は強制*執行・*収用・課税の対象とはならない。〔寺尾方孝〕

こうぶつ【鉱物】 最も広義に使う場合には，動物・植物以外の天然物をすべて鉱物という。また，人工品でも有機化合物以外のものは，鉱物質であるという。しかし，専門用語としての鉱物は，天然に産する純粋な物質のことである。純粋というのは，その物質のどの部分をとってもみな一様な化学組成と物性とをもっていることをいう。一般には，さらに狭義に用いられることが多い。その場合は，気圏や水圏を除き，地球ならば主として*地殻(ちかく)・*マントル，それに*隕石(いんせき)や月などを構成している純粋物質のことである。このように鉱物の範囲を限定すると，*シゼンスイギンのような少数の例外を除いて，ほとんどの鉱物は*結晶になっている。独立した種と認められる鉱物は，すでに2,000種を越え，さらに毎年20～30種の新鉱物が発見されつつある。独立した鉱物種はそれぞれ一定の化学組成・結晶構造・比重および固有の物性をもっている。一定の化学組成といっても，ある範囲内では置換が自由に行なわれ，それに伴う結晶構造・比重・物性などの変動も狭い範囲の連続的変化にとどまる。このような範囲内では一つの種として扱われる。ときには，化学組成が広範囲にわたって連続的に変化し，*固溶体の系列をつくることもまれではない。たとえば，Mg_2SiO_4とFe_2SiO_4との間に完全に連続的な固溶体が存在するが，この系列全体を*カンラン石系として一括して扱うとともに，マグネシウムMgの編

成分に近いものにはクドカンラン石，鉄Feの編成分に近いものにはテツカンラン石の種名を与えている。

これらの鉱物は，化学組成の特徴に従って分類されるが，大部分の鉱物は元素鉱物・硫化鉱物・酸化鉱物・ハロゲン化鉱物・炭酸塩鉱物・硫酸塩鉱物・リン酸塩鉱物・ケイ酸塩鉱物の８系統に分類され，さらに化学成分の置換性，結晶構造の類似性，固溶体関係などを考慮に入れて，いくつかの族がつくられている場合もある。

鉱物を金属鉱物と非金属鉱物とに大別することがある。この場合の金属鉱物とは，光沢*が金属光沢で不透明な鉱物をさし，その他の鉱物を非金属鉱物という。両者は光学的な研究手段を異にする。すなわち，金属鉱物では一面をよくみがきあげて，それを反射顕微鏡で調べる。非金属鉱物では薄片*をつくり，それを偏光顕微鏡で調べる。鉱物の中で美しいものは宝石*や飾り石*として利用される。そのほかに，それぞれの鉱物がもっている特性が利用されている例は少なくない。たとえば，硬度が高いことを利用する例としては，研摩材*としてのダイヤモンド*やザクロ石*などがあり，電気絶縁性と薄い膜にはげる性質とを利用する例としてウンモ*がある。アスベスト*は断熱材としてのほか，その繊維状構造による強靭(きょうじん)性のため，セメントに混ぜていろいろな建材をつくるのに用いられる。濾過(ろか)・吸着材としては，ケイソウ土*や酸性白土*類が，また紙・織物・ゴムなどの充塡材(じゅうてんざい)としては，ロウ石*・カオリン*などからつくられた粉材*が用いられる。ボーリング用泥水(でいすい)をつくるにはベントナイト*が主として用いられ，必要に応じてジュウショウ石*などを混ぜる。水晶振動子の材料や分子ふるい用のフッ石*などは，天然産では規格に合わないことが多いので，主として人工結晶が用いられているが，一方，酸素分離用のフッ石のように天然産のほうが適している場合もある。

鉱物の利用を量的にみれば，鉱物をそのまま利用する場合よりも，鉱物を処理して得られた製品を利用する場合のほうが多い。大別すれば金属原料と工業原料鉱物*とになる。金属原料には，鉄鋼原料として鉄鉱*，マンガン鉱*・クロム鉱*・ニッケル鉱*・タングステン鉱*・バナジウム鉱*などが，非鉄重金属原料として銅鉱*・亜鉛鉱*・鉛鉱*・スズ鉱*・アンチモン鉱*・ビスマス鉱*などが，貴金属原料として金鉱*および銀鉱*が，軽金属原料としてアルミニウム鉱*・チタニウム鉱*・ベリリウム鉱*・リチウム鉱*などがある。なお，別に原子炉燃料の原料としてのウラン鉱*がある。〔片山信夫〕

こうぶつせいせんりょう【鉱物性染料】⇨染料

こうぶつせんい【鉱物繊維】天然繊維*のうち植物・動物繊維に対して鉱物質の繊維。その主要なものはアスベスト(石綿)。これはジャモン岩・カクセン岩などが繊維状となったもので，その成分は二酸化ケイ素と酸化マグネシウムで，アルカリには抵抗性があるが酸には侵されやすい。耐火性があるので防火服・耐熱材・電気絶縁材・スレート材などに利用されている。



高 芙 蓉

こうぶてい【光武帝】(BC６〜AC57) 中国，後漢朝の始祖。名は劉秀(りゅうしゅう)。光武帝はおくり名。その家系は前漢景帝から出たといい，南陽郡(河南省南西部)の豪族であった。実直な人がらで信望があり，王莽*(おうもう)の失政に対し豪族軍を率いて挙兵，25年帝位につく。新の制度を廃して漢制を復活し，軍備の縮小，行政機構の簡素化，帝権の強化によって後漢王朝の基礎を築いた。また，王莽のそこなった周辺諸民族との関係の回復に努めた。57年倭奴国(わのなのこく)に印綬*(いんじゅ)を授けたことがある。〔大庭 脩〕

こうぶてい【洪武帝】(1328〜1398) 中国，明(みん)の初代皇帝。明の太祖ともいう。朱元璋(しゅげんしょう)。安徽(あんき)省の貧農出身。僧となり元末の乱に紅巾軍(こうきんぐん)に加わり，各地で元軍を破り自立。1368年南京(ナンキン)で即位，年号を洪武とした。元軍を追って北上，大都(北京)を攻略し，中国を統一した。漢民族国家の基礎を定め，君主独裁制を強化，モンゴル・満州・甘粛・雲南まで討伐を進めた。

こうふぼんち【甲府盆地】山梨県の中央にあり，西は南アルプスの前山に，北から東にかけては秩父(ちちぶ)山地をはじめとする関東山地の山々に，南は御坂(みさか)山地に限られる。北東から御手洗(みたらし)川・荒川を集めて笛吹川が盆地南部を南西流し，また北西から塩川・御勅使(みだい)川などを集めて釜無(かまなし)川が盆地西部を南流している。笛吹川と釜無川は南西の鰍沢(かじかざわ)付近で合流して富士川になるが，盆地には，これら周囲の山地から流入する河川によって多くの扇状地が形成されている。盆地床は八ヶ岳やその南東の茅ヶ岳(かやがたけ)から噴出した火山岩の上を河川の堆積物(たいせきぶつ)が厚くおおっており，豊かな水田地帯になっている。盆地では，かつて養蚕が盛んであったが，養蚕の衰退とともに古い歴史をもつブドウ栽培が普及し，昭和のはじめに新しい品種が導入されて以来現在の基礎が築かれ，第２次世界大戦後は勝沼*を中心に，扇状地面を越えて周辺山地の斜面にまで栽培面積を拡大して著しい発展をみせている。また，明治の末に盆地東部の一宮で始められたモモの栽培も現在盛んに行なわれ，ほかにサクランボ・カキ・ナシ・メロンなどの栽培も盛んである。中央本線の電化，中央高速道路の開通などによる交通網の整備により，京浜地方との結びつきがいっそう強まった。盆地の中北部には山梨県の中心都市甲府市がある。〔味沢成吉〕

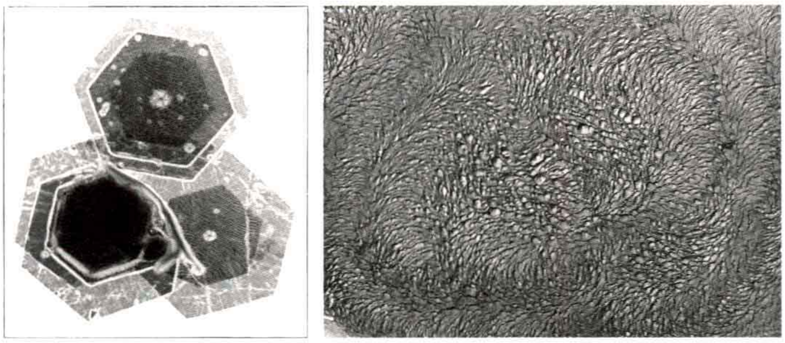
こうふよう【高芙蓉】(1722〜1784) 江戸時代中期の篆刻家(てんこくか)。通称は大島逸記，名は孟彪(もうひょう)，甲斐(かい)(山梨県)の高梨(たかなし)郡に生まれたので高と称した。京都に出て，儒学・金石学・篆刻を学び，篆刻を盛んにした。書および絵もじょうずであった。

こうふん【興奮】生体が刺激に反応して生体独特の働きを現わすこと。一般に刺激とは外界のいろいろの条件の変化をいい，刺激のないところに興奮は存在しない。刺激によって興奮するような生活体の能力を興奮性といい，弱い刺激に対して応じうるものほどその生活体の興奮性は大であるという。たとえば筋肉では，刺激を受けると異化作用を促進する。この異化作用である化学的変化によって遊離されたエネルギーの一部は，筋肉の物理的変化をきたし，収縮となって現われる。他の一部は，温熱のエネルギーなどとなる。

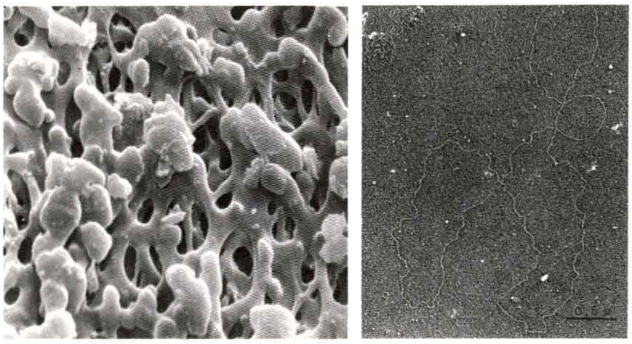
こうぶんいん【弘文院】９世紀初頭に設けられた和気(わけ)氏の大学別曹*(べっそう)。和気清麻呂(きよまろ)の子広世が父の遺志を継いで，大学の南にある私宅を弘文院と名づけ，数千巻の書を収めて和気氏子弟の勉学の場とした。９世紀末まで存続。大学別曹として最初のものである。

こうぶんかい【光分解】光の作用による化学的物質の分解。酸素の分解によるオゾンの生成およびその逆の反応，ヨウ化水素の水素とヨウ素への分解，アンモニアの水素と窒素への分解，アセトンやアセトアルデヒド蒸気の分解，水溶液中ではシュウ酸や有機色素の分解などが代表的な例である。気体ハロゲンや写真乳剤に使われるハロゲン化銀のように可視光線で容易に分解するものもあるが，一般には紫外線の作用による場合が多い。実生活面で医薬や食品を暗かっ色のびんに入れたり，暗所に保存するよう指示されるのは有効成分の日光による光分解を防ぐためである。また，直射日光による繊維製品の強度低下，衣類やプラスチック類の変退色も染料や顔料の光分解の結果である。〔志田正二〕

こうぶんし【高分子】一般に，有機・無機を問わず，化合物の分子量は，それを構成している全原子の原子量の総和として表わされる。たとえば，エチレン$CH_2=CH_2$

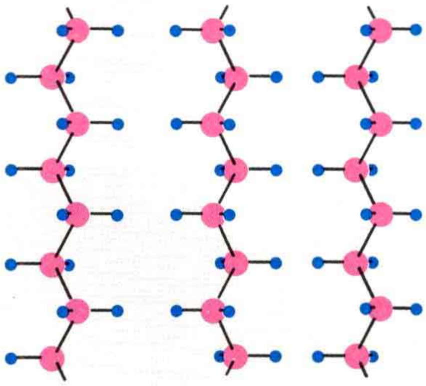


高分子 (左)ポリオキシメチレンの単結晶。板状の結晶の重なりが顕著に見える(×3,000) (右)ポリエチレンの表面(×1,100)



(左)ミクロフィルター(×1,200) (右)λファージより抽出したデオキシリボ核酸(×12,000)

では，炭素Cの原子量が12.01，水素Hの原子量は1.01だからその分子量は12.01×2＋1.01×4＝28.06ということになる。高分子ということばは，本来，分子量が大きいという意味で用いられる。分子量がおよそ10,000より大きい化合物を高分子化合物とよび，約50万種存在するといわれる一般の低分子化合物と区別する。一方，高分子化合物の略称として単に高分子という場合がある。したがって，高分子ということばを，分子のある状態を示すことばと考えるより，ある種の物質に対してつけられたことばと解するほうがわかりやすい。高分子の概念が出現したのは比較的最近で，1920年代にドイツの化学者シュタウディンガー*一派が天然ゴム・セルロースなどについて提唱したのが最初である。高分子化合物は，一般の低分子化合物ほど種類は多くはないが，われわれの身のまわりにその例は多く，衣食住と密接な関係にある。石や土，金属または結晶状低分子化合物を除いて，およそ形をなしているものはすべて高分子化合物であるといっても過言ではない。もちろん，衣食住を利用する側の人間をはじめとするあらゆる生物も構成要素の大部分が高分子化合物であることはいうまでもない。これら天然高分子化合物に加えて，近年，合成ゴム*・合成繊維*・合成樹脂*などの発明・発展に及んで高分子を扱う学問としての高分子化学*・高分子物理学，および高分子工業の重要性はますます増大しつつある。



高分子 ポリエチレン鎖の構造。赤-炭素，青-水素

表-1 高分子化合物の分類とその例

分類		例
天然高分子化合物	無機高分子化合物	アスベスト・ウンモなど
	有機高分子化合物	セルロース・天然ゴム・タンパク質など
合成高分子化合物	無機高分子化合物	ガラス・ケイ素樹脂・ケイ素ゴムなど
	有機高分子化合物	合成ゴム・合成繊維・合成樹脂など

〈種類〉 天然高分子化合物と合成高分子化合物の2種に大別される。これらはおのおの無機高分子化合物と有機高分子化合物とに分類される。表-1にそれぞれの代表的な例を示した。

この中で，近年飛躍的に発展しているのは有機合成高分子の領域である。天然物が，それ自体高分子化合物として天然に存在するのに対して，合成高分子化合物は，もともと分子量の低い化合物から，重合*という操作を経て合成されるものである。また，有機高分子化合物とは，分子鎖を形づくっている骨格に炭素原子Cが必ず存在するものをさし，骨格が炭素以外の原子ばかりからなりたつものを無機高分子化合物という。

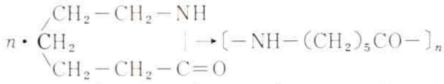
〈製法〉 合成高分子化合物をつくるには，その構成単位となるべき低分子化合物(単量体)をまずつくり，次にそれを化学反応によって無数につないで巨大な分子量をもった高分子鎖に変える。この化学反応を高分子生成反応あるいは重合反応とよび，その種類も多いが，現在，工業的に重要なものを表-2に示した。これらはいずれも合成ゴム・合成繊維・合成樹脂工業の骨格をなす化学反応である。

連鎖重合反応とは，単量体が連鎖的に付加反応をくり返すことによって単量体と同一組成の高分子化合物を生成する反応で，炭素どうしの二重結合C＝Cを有する化合物，

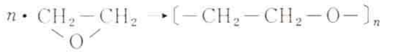
表-2 高分子生成反応の種類

分類	細分	反応例	生成高分子の例
連鎖重合反応	付加重合反応	$n\cdot CH_2=CHX \longrightarrow [-CH_2-CH(X)-]_n$	ポリ塩化ビニル・ポリエチレン・ポリスチレン・ポリアクリロニトリル・ポリメタクリレート・ステレオゴムなど
	開環重合反応	$n\cdot\overline{(CH_2)_x\ O} \longrightarrow [-(CH_2)_x-O-]_n$	ポリエチレングリコール・ライクラ 6-ナイロン
逐次重合反応	重縮合反応	$n\cdot HO(CH_2)_xCOOH \longrightarrow HO[-(CH_2)_xCOO-]_nH+(n-1)H_2O$ $n\cdot H_2N(CH_2)_xCOOH \longrightarrow H[-NH(CH_2)_xCO-]_nOH+(n-1)H_2O$	6,6-ナイロン ポリエステル
	重付加反応	$n\,O{=}C{=}N-(CH_2)_6-N{=}C{=}O + n\,HO-(CH_2)_4-OH \longrightarrow [-C(=O)-HN(CH_2)_6NH-C(=O)-O-(CH_2)_4-O-]_n$	ポリウレタン・ポリ尿素

たとえばオレフィン($RC=CR'$)・ビニル化合物($H_2C=CHX$)・ビニリデン化合物($CH_2=CXX'$)(R, R′は水素を含めたアルキル基, X, X′はハロゲン・酸素原子・窒素原子などを含む置換基)の重合がこれに属する。連鎖反応をひき起こすために重合開始剤を添加するのが普通で, その種類によってラジカル重合・アニオン重合・カチオン重合・配位重合などに分類される。逐次重合反応は, 他の置換基と反応することのできる基(官能基という)を分子内に2個有する化合物を単量体として, それらの官能基どうしの反応を段階的に行なわせながら高分子化合物を生成する反応である。官能基どうしの反応で新しい分子間の結合をつくるに際して, 水(H_2O)のような小さい分子を逐次放出しながら進行していくのを重縮合反応, 反応によって放出するものがなく, 単に付加反応が逐次くり返されていくのを重付加反応という。開環重合にはε-カプロラクタムから6-ナイロンを合成する反応にみられる逐次反応型のものと, エチレンオキシドからポリエチレングリコールを生成する反応における連鎖重合反応型の両方がある。



(ε－カプロラクタム)　　(6-ナイロン)



(エチレンオキシド)(ポリエチレングリコール)

〈性質〉 高分子化合物の最大の特徴がその巨大な分子量にあることはいうまでもないが, 高分子化合物の分子量は必ずしもある特定の物質について定まった値をもつのではなく, 重合方法や条件の選択によってある程度任意に, 広範囲に変えうる。しかも, 高分子化合物は一般に, 分子量の見地からは不均一であって, 種々の分子量をもつ分子鎖の混合物としてなりたっていると考えられる。このことは, 高分子化合物の多分子性とよばれ, その特異な性質に大きく寄与している。したがって, 高分子化合物の分子量はあくまでも平均分子量を意味する。なお, 高分子化合物の平均分子量の大きさを表わす尺度に, 平均して何個の単量体が結合して分子鎖ができあがっているか, その数を数える方法(平均重合度とよぶ)もある。各種溶剤に対する溶解性は相当する低分子化合物に比べて一般的に低いが, これは分子量自体が大きいという理由以外に, 長い分子鎖が適度にからみ合って複雑な三次元構造をとっているためでもある。また, 同じ理由で, 低分子化合物を精製する方法としてよく用いられる蒸留・昇華・再結晶などの各操作が不可能で, 特に精製の必要なときには再沈殿という方法を用いる。高分子化合物はそれを構成する単量体の種類や重合方法または重合体の構造によってゴム状弾性を示したり, 熱可塑性になったり, 熱硬化性になったり, きわめて多彩な性質を示す。➔プラスチック　〔伊藤　卓〕

こうぶんしかがく　【高分子化学】 高分子*を化学的見地に立って扱う学問。高分子化学に対して, 高分子の物理的構造と性質との関係を扱う学問領域に高分子物理学がある。高分子が学問の一分野として軌道に乗ったのは比較的最近のことで, 1920年代にドイツの化学者シュタウディンガー*が, 天然のセルロース・ゴムなどについて鎖状高分子の概念(多数の低分子化合物が互いに結合し, きわめて長い高分子量の鎖状の化合物からなりたっているとする考え方)を提出して以来である。今日でいう高分子化合物が, 有機低分子化合物から合成されることは, 1830年代からぼつぼつ認められてはいたが, その構造などはもちろん明らかではなかった。その後20世紀初頭には, セルロースの分子構造について, 低分子説を主張するアメリカの化学者マークなどと, 高分子説を主張するシュタウディンガーとの有名な論争があり, 結局1927年に至ってシュタウディンガー一派の高分子合成の系統的な研究が実を結んで, 高分子鎖の概念が確立された。その後の発展はめざましく, 新しい高分子化合物の開発はもとより, 高分子の生成・分解の機構, 高分子の化学反応などの研究が豊富になされてきた。いまや, 学問的に化学の最も重要な分野の一つであるのみならず, 高分子化学工業は, その急速な発展とともに, 化学工業の一大支柱をになうものでもある。　〔伊藤　卓〕

こうぶんしかごうぶつ　【高分子化合物】 ⇨高分子

こうぶんしょかん　【公文書館】 正式名称は国立公文書館。明治以来の政府各官庁の公文書類は, 従来各省庁別に保管されていたが, これらをまとめて保存するために設けられた。1964年(昭和39)4月の閣議了解により皇居北の丸に建設, 1971年3月完成。今後の公文書もいっさいここに保存される。

こうぶんてい　【孝文帝】 (467～499) 中国, 北魏(ほくぎ)第6代の皇帝。在位471～499年。北魏中興の英主。祖母馮太后(ふたいこう)の執政下に班禄(はんろく)制・三長制・均田制を実施し, 戸籍を作成した。親政後は鮮卑の卑俗な風俗を憎み, 華化政策を断行。494年都を平城から洛陽(らくよう)に移し, 胡服(こふく)・胡語の使用を禁止し, みずから姓を元と改めた。帝室のもとに漢人・北族両貴族の融合を行なって北朝貴族政治を完成した。

こうふんでんどう　【興奮伝導】 細胞が刺激を受け取って興奮しうる性質を被刺激性という。いまこの性質をもった形体の一部に興奮が起こると, そこでは隣接する非興奮部に対して, 刺激として作用する事態が生起する。その結果, 隣接の非興奮部にも興奮が惹起(じゃっき)される。この現象が次次と連鎖的にくり返されて, 興奮は細胞全体に広がる。これを興奮伝導という。もっぱら興奮伝導の働きをする神経繊維や筋繊維では, 興奮伝導に関して次の3原則が成立する。①神経繊維や筋繊維の1点を刺激すると, 興奮はその点から始まって両方向に伝導する。これを両方向性伝導という。②神経繊維や筋繊維のうちのある一つが興奮しても, その興奮は他の繊維にはけっして乗り移らない。これを絶縁性伝導という。③等興奮系においては, 繊維の太さが一定ならば, 伝導速度は伝導中に変化しない。これを不減衰伝導という。　〔平野修助〕

こうぶんてんのう　【弘文天皇】 (648～672) 天智(てんち)天皇第1皇子。大友皇子・伊賀皇子ともいう。母は伊賀采女(いがのうねめ)宅子娘(やかこのいらつめ)。父天皇に愛され, 671年(天智10)太政(だじょう)大臣となったが, 同年末天皇がなくなると近江(おうみ)朝廷の主宰者となる。翌年大海人(おおあま)皇子と皇位を争って壬申(じんしん)の乱*で敗死したため即位の確証はないが, 明治に至り歴代天皇に加え, 第39代弘文天皇とおくり名された。陵墓も滋賀県長等山前(ながらのやまさき)陵を新たに指定した。文才にすぐれ, 御製の漢詩がわが国最初の漢詩集《懐風藻(かいふうそう)》の巻頭に収められている。　〔黛　弘道〕

こうふんやく　【興奮薬】 ⇨気つけ薬

こうべ　【神戸(市)】 兵庫県南東部に位置する県庁のある市。わが国七大都市の一つで, 横浜と並ぶ国際貿易都市でもある。シアトル・マルセイユ・リオデジャネイロとは姉妹都市の関係にある。奈良時代にはすでに, 大輪田泊(おおわだのとまり)とよばれる瀬戸内海の重要な港となり, 1173年(承安3)平清盛(きよもり)によって修築工事が行なわれた。鎌倉時代以後は兵庫津とよばれ, 明(みん)・朝鮮・琉球(りゅうきゅう)との貿易が活発で, 豊臣秀吉(とよとみひでよし)が大阪城を築いたころには, その外港として栄えていた。1868年(明治1)兵庫津東方の神戸浦が外国船出入港に指定されて, ここに神戸港が開かれた。1889年市制施行, のち須磨(すま)・灘(なだ)・垂水(たるみ)方面に市域を広げ, 第2次世界大戦後は六甲山地北側の山間地, 明石(あかし)北方の農村, 東の御影(みかげ)・魚崎などの住宅地帯を合併した。現在では, 東灘区・灘区・葺合(ふきあい)区・生田(いくた)区・兵庫区・長田区・須磨区・垂水区・北区の9区に分かれる。人口は明治の初めは約25,000, 市制施行当時は約13万5,000であったが, 1939年(昭和14)に100万を突破した。第2次世界大戦中に市街地の約60%を焼失, 一時人口も38万に減ったが, 戦後の復興や市域拡張によって現在では134万6,000に達している。また, 背後の六甲山地を削って住宅地とし, 土はベルトコンベアーで海へ運んで埋め立てに使うという工事を盛んに進めているが, 中でも神戸港の沖合い2kmの地点に建設中の人工島〈ポートアイランド〉は, 420万m²の広さをもち, 1970年からは一部使用可能と



神戸市主要部





神 戸 市 (上)摩耶埠頭上空から，生田・須磨方面を望んだ神戸市の中心部。摩耶埠頭と新港埠頭を結ぶ赤い摩耶大橋の右手の港湾に面する工場は川崎製鉄と神戸製鋼所 (下)神戸は古くからの異国情緒をもつ町。写真は，山の手の閑静な住宅街に建つイスラム教寺院。背後は諏訪山公園

なり，1981年に完成の予定である。神戸という地名は，いまの神戸港付近に生田神社に奉仕する神戸(かんべ)が居住していたことによる。

市域は，六甲山地の南のふもとの複合扇状地上に，大阪湾に沿って東西に細長く伸びる。産業三大別人口比は2：33：65。臨海地帯は阪神(はんしん)工業地帯の一部を形成し，造船・鉄鋼・ゴム・食料品などの大工場が多い。山の手は住宅地帯で，住宅団地が多く，海岸との中間部に商店街があって，古い伝統をもつ元町通と新興の三宮(さんのみや)センター街が有名である。鉄道や道路は，地形の関係上海岸に平行して走る東西方向のものが基幹となり，東海道本線と山陽本線が神戸駅で結び，山陽新幹線も六甲などの長大なトンネルを含めて，昭和47年3月開通した。海岸部に阪神電鉄，山の手に京阪神急行電鉄，その中間に阪神国道線が走って大阪と結び，姫路には山陽電鉄，有馬(ありま)・三田・小野には神戸電鉄が通ずる。また，名神高速道路や国道2号線・43号線・171号線・174号線・250号線も市域内に通じ，淡路(あわじ)島を経て四国へ通ずる道路計画や明石海峡の架橋計画も進んでいる。海上交通は神戸港を基点とし，国外のほか国内では九州・四国方面への定期航路が出ている。おもな名所旧跡としては，須磨・舞子の白砂青松の海岸風景が古くから名高く，一ノ谷・生田などの源平の古戦場や，湊川(みなとがわ)の戦跡などがあり，また有馬温泉も広く知られている。瀬戸内海国立公園*に属する六甲山地一帯は，自然美と神戸の夜景に代表される六甲山・摩耶(まや)山の展望美に加えて，スケート場・ゴルフ場・キャンプ場などの施設をもち，関西のレクリエー

ションセンターになっている。文教施設としては，神戸大学*・神戸商船大学・神戸商科大学・神戸市立外国語大学・甲南大学・神戸女学院大学などがあり，また神戸海洋気象台，東洋一の須磨水族館，日本一の規模をもつ六甲山地の森林植物園，美術館などがある。〔浅井得一〕

こうへい【工兵】陸軍の一兵科。西欧諸国では17世紀の中ごろ以降に逐次独立した兵科となった。工兵の活躍分野は兵器の進歩に伴い広くなっている。その特色は築城・渡河・坑道・鉄道・通信などに関する技術的能力をもち，天然・人為の障害を排除して全般の作戦に寄与することである。日本軍の工兵は野戦工兵・鉄道兵・電信兵に分かれ，野戦工兵は師団の工兵連隊・独立工兵連(大)隊などを編成していた。➔兵科

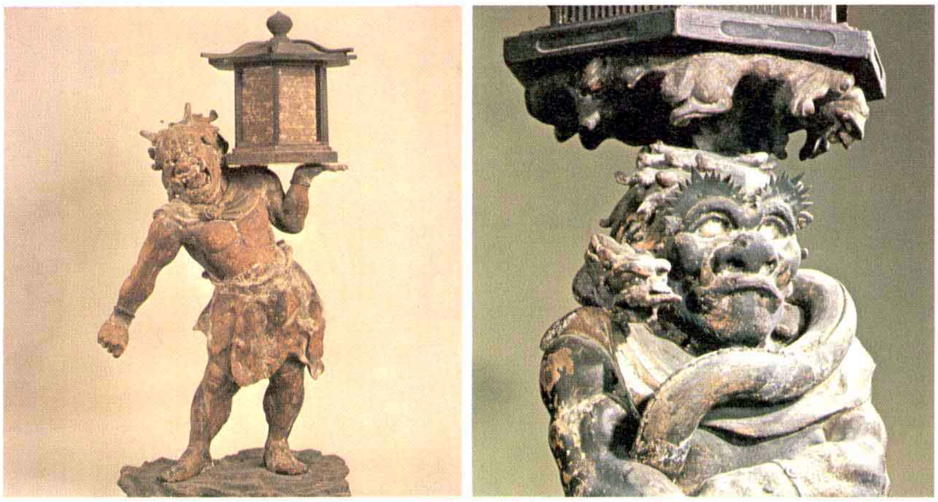
こうべしんぶん【神戸新聞】神戸市で発行されている地方新聞。1898年(明治31)2月11日創刊。1931年(昭和6)7月大阪時事新報社，京都日日新聞社との3社が合併して，三都合同新聞社を設立したが，その後1936年に至り，他の2社を分離してもとの神戸新聞にもどり，現在に至る。発行部数は朝刊約43万7,000部(1980)。

こうべせいこうしょ【神戸製鋼所(株)】大手鉄鋼メーカーの一。1911年(明治44)設立の鉄鋼・機械・軽合金総合メーカーで，各種金属・機械プラント類まで扱う多角経営は鉄鋼一貫メーカーの中でも異色である。宇宙開発ロケット・超音速旅客機などに使われる耐熱・耐食に強いチタン金属の生産を誇りとする。また，船舶のプロペラ・クランク軸の供給でも同社がトップを占めている。1970年(昭和45)8月兵庫県加古川市に大形高炉を建設，3号炉が1978年2月完成した。本社神戸。資本金1,012億8,400万円，年間売上高1兆247億2,600万円，従業員数31,061(1980年9月)。

こうべだいがく【神戸大学】1949年(昭和24)国立学校設置法により，神戸経済大学を母体に神戸工業専門学校・姫路高等学校・兵庫師範学校・兵庫青年師範学校などを包括して設立された国立第一期校。1966年，県立兵庫農科大学を農学部として併合，現在，法・経済・経営・文・理・工・教育・医・農の各学部と教養部が置かれている。本部は神戸市灘(なだ)区六甲台町。

こうべつ【皇別】氏族の分類の一。神別*・蕃別(ばんべつ)(帰化人系氏族)の対で，氏族をその事実上，あるいは伝承上の出自によって類別する語。神武天皇以降の皇裔(こうえい)と称する氏族をいう。平安初期の《新撰姓氏録*(しんせんしょうじろく)》は335氏の名をあげている。

こうべでんきてつどう【神戸電気鉄道】兵庫県東南部で地方鉄道とバス路線を経営する交通企業。1926年(昭和1)神戸有馬(ありま)電気鉄道として設立，神有三木電気鉄道を経て，1949年現社名となった。鉄道の営業



康　弁《木造天燈鬼龍燈鬼立像》写真右の龍燈鬼像内納入の紙片に〈建保三年卯月廿六日法橋康弁作〉とある　興福寺蔵

キロ数63.6，全線電化されている。有馬線(湊(みなと)川～有馬温泉，1928年神戸有馬電気鉄道により開業)，三田線(有馬口～三田，1928年神戸有馬電気鉄道により開業)，粟生(あお)線(鈴蘭台(すずらんだい)～粟生，1936～1952年三木電気鉄道，神戸電気鉄道により開業)の3線からなる。〔青木栄一〕

こうべん【高弁】(1173～1232) 鎌倉初期の華厳宗(けごんしゅう)の僧。明恵上人(しょうにん)と称する。貞慶(じょうけい)らとともに戒律復興を叫んだ鎌倉旧仏教の一方の雄。はじめ華厳や密教を学び，のち紀伊(きい)(和歌山県)の白上山で苦行して修行を完成。栄西*に禅を学んだというが明確でない。後鳥羽(ごとば)上皇から京都郊外，高雄の栂尾山(とがのおさん)を賜わり，復興して高山寺*と称し，華厳復興の根本道場とした。法然の浄土教批判を行ない，《摧邪輪(ざいじゃりん)》を著わした。《華厳唯心義釈》をはじめ，仏光三昧(さんまい)観の修法についての華厳密教に関する著書が多い。《阿留辺幾夜宇和(あるべきようわ)》は日本思想史上重要である。〔鎌田茂雄〕

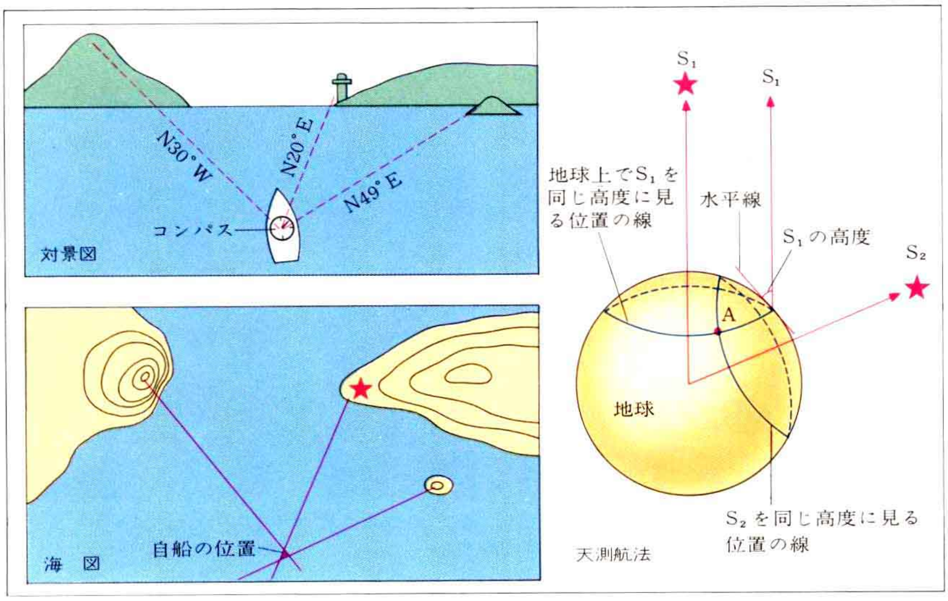
こうべん【康弁】鎌倉時代の仏師。運慶*の三男。生没年は不明であるが，はじめは父のもとで建久年中(1190～1198)の東寺講堂の仏像修理や，1208年(承元2)から始められた興福寺北円堂の造仏に従事している。しかし，遺品のうえでは興福寺の〈龍燈鬼(りゅうとうき)・天燈鬼〉が知られるのみである。運慶の正統を継ぎながら，ユーモラスでしかも力のこもった新しい作風を生み出した功績は大きいが，彼一代で終わって作風を発展させなかったのは，日本彫刻のために惜しまれる。〔永井信一〕

ごうべんか【合弁花】双子葉植物のうち，花弁が互いに癒合(ゆごう)しているものを合弁花植物といい，その花を合弁花という。進化的には対応する離弁花植物よりも高等とされており，キク科・キキョウ科・ゴマノハグサ科・シソ科・リンドウ科・サクラソウ科などが含まれる。花の形としては漏斗形・管形・つり鐘形・車形・唇形(しんけい)などがある。

ごうべんがいしゃ【合弁会社】外国資本と国内資本との共同出資によって設立される会社をいう。外国資本による直接投資の一形態である。外国企業の経営に直接的に参加したり，外国で直接的に企業を経営したりする直接投資は，受け入れ国側からみれば国内企業が外国企業によって圧迫・支配される危険があるので，警戒されることが多い。合弁会社方式はその打開策でもある。経済の国際化が進むにつれて世界的に普及してきている。〔加藤　寛〕

こうへんさいぼう【孔辺細胞】気孔・水孔を構成する細胞で，表皮細胞の分化したもの。細胞内圧の変化によって気孔の開度が調節される。➔気孔

こうぼ【酵母】イーストともいう。単細胞の栄養体をもつ菌類の一群。分類学上は子囊菌(しのうきん)類に属するものが多く，一般には出芽法によって増殖するが，ときには子囊胞子のできるものや分裂によってふえるものもある。地中・水中に生活しているもののほか，ブドウなどの果皮や樹木の出液の中に生育している。発酵力が強く，糖を分解してアルコールと二酸化炭素にするので，発酵工業上非常に重要な菌である。昔から野生酵母を利用して酒の醸造が行なわれてきたが，現在品種改良が行なわれて，日本酒酵母・ぶどう酒酵母・ビール酵母などにいろいろの品種がある。また，パン酵母もビール酵母に近い系統の酵母で，パンの製造に用いられる。酵母は一般にその細胞内にタンパク質・脂質・核酸を多く含み，特にリボ核酸の抽出に利用される。また，インベルターゼ・カタラーゼなど多くの酵素が強いので，酵素標品の製造や消化剤などの酵素製剤に用いられる。このほかビタミン類，特にビタミンB群を多く含むので，薬用や栄養剤として利用され，またグルタチオン・ATP*など生化学研究のための重要



航　法　海上航法のいろいろ。天測航法ではS_1とS_2による位置の交点として船位が与えられる

な物質の製造にも利用される。酵母を用いたアルコール発酵の研究が今世紀前半の生化学発展の重要な契機となった。➔発酵
〔吉田精一〕

こうほう　**【公法】**　国または地方公共団体と私人との法律関係を規定する法の総称。憲法・行政法・刑法・刑事訴訟法などが含まれる。私法*に対する。公法・私法の区別の基準には定説がないが次の諸説がある。①利益説：法の目的が私益にあるか公益にあるかによって私・公法を区別する。②主体説：法主体の少なくとも一方が国家であるような法律関係を規定するか，私人間の法律関係を規定するかによる区別。③法律関係説：国家と国民との権力服従関係を規定するか，私人間の平等関係を規定するかによる区別。元来，公法は私人間の行為に優越する特別な地位を認めようとするものであって，大陸系の法体系・法理論から発生したものである。英米法ではこの区別はない。ドイツ法治主義の影響を強く受けた第2次世界大戦前のわが国では，官僚主義的な性質の濃い法律関係説的公法理論が広く行なわれたが，戦後は英米法的法制度の導入によりこの区別の重要性は薄れた。
〔寺尾方孝〕

こうほう　**【広報】**　public relationsの訳語で一般的にPRと略される。個人あるいは組織体がその方針・事実に関する知識や見解を公衆に伝え，公衆に判断の資料を与えると同時に公衆の意見を聞き，公衆との信頼関係をつくりだし，目的の実現しやすい状況をつくりだす諸活動をいう。PRなる用語は19世紀末から20世紀初頭にかけてアメリカの実業界において使われだし，宣伝*とは区別して〈正しい情報を公衆に隠すことなく伝える〉ことを基本方針とした。

さらに1930年代の大恐慌，ニューディール時代にはいって，アメリカ社会の危機的状況を打開するため，従来の〈知らせる〉という姿勢から〈公衆に聞く〉必要に迫られた。こうした歴史的背景をもつPRが第2次世界大戦後，民主主義社会をめざす日本にはなばなしく取り入れられた。政府・自治体と公衆との相互理解なくしては行政事務は円滑に進まないし，公衆の欲求・不満を政策に反映しえないということから，行政面において最初取り入れられたPRは，やがて民間企業においても使われはじめ，今日のPR全盛の時代を招来した。企業は自社の商品を消費者に知らせるだけでなく，市場調査などによって消費者の意見や欲求を知り，さらにすぐれた新しい商品をつくりだそうとする。行政体においても企業体においても，つねに良好な広報活動が行なわれていないと，政治不信・企業不信が生まれてくる。
〔飯田良明〕

こうほう　**【航法】**　海上航法・海中航法・航空航法・宇宙航法をさすが，一般的には海上航法・航空航法をさし，船舶・航空機を目的地に安全に到達させるための方法。学問としてみた場合は，航海学とか航空学とかいわれるが，これは船舶あるいは航空機を地球上の一点から目的地へ安全かつ能率的に航行させる技術であって，広義に解釈すれば，運用学・力学・気象学などまで含めて，航行に関係あるすべての技術と考えなければならないが，学問体系としては一般に狭義に解釈して，地物や天体あるいは電波を利用する観測その他の方法によって船舶や航空機の位置を決定し，航路の計画を立てる学問としている。

〔海上航法〕海上航法では，航路および進むべき針路の選定，自船の所在位置の算出などが主体であり，次のような航法がある。

〈地文航法〉天体を用いずに地物および地球諸元を用いて行なう航法。これは次のように大別される。①沿岸航法：船舶が陸岸に近接して，これを視界内に保って航海する場合の航法。地物や航路標識などを目標として利用する。これにより船がある線上のどこにいるというような点の軌跡，すなわち位置線を求め，2本以上の交点をもって船位とする。位置線の求め方には，㋑方位によるもの，㋺水平距離によるもの，㋩測角によるもの，㊁水深によるもの，などがある。②推測航法：大洋航海において，陸上物標はもちろん，天体や電波を利用しない場合で，三角法利用の計算のみにより，既知位置からの針路・航程を要素として現在船位を求め，次の針路の決定を行なう航法。その計算法には平面航法・中分(ちゅうぶん)緯度航法・漸長緯度航法などがあり，得た船位を推測船位という。③大圏航法：地球上の2地点間の最短距離である大圏を求めて航海する方法。

〈天文航法〉天体を観測して船位を求める航法。これには刻々移動する天体の観測をするため，正確な時計と測角器が必要である。このために使われているのがクロノメーター*あるいは水晶時計*と六分儀*(セクスタント)である。天測位置は推測位置と違って精度が高い。しかし，雲などがあると観測不能であり，連続的に位置を出すことができず，かつ観測・計算に時間がかかる。

〈電子航法〉電子技術を利用する航法。次のようなものがあり，視界不良の場合でも利用できるのが特徴である。①電波航法：電波の定速性・直進性または反射性などを利用して船位を求めたり針路を決定したりする航法の総称。㋑方位測定方式。無線方位測定機(ADF)・コンソル・レイマーク・トランスポンダ・トーキングビーコンなどの利用。㋺距離差測定方式。2局で対をなす送信局からの電波の到着時間差をはかって双曲線の位置線を求める方式。ロラン・デッカ・オメガなどの利用。㋩反射測定方式。電波の反射を利用する方式。レーダーの利用など。②人工衛星航法：すでに求めた時々刻々の人工衛星の位置を基準として船舶の位置を求める方法。③慣性航法：船内自蔵の感知計器である加速度計を利用して，船舶の移動を力学的に感知し，積算し，その絶対移動量を知り船位を示させる方法。④その他：水中における超音波の反響を利用して，水中レーダーともいうべきソナー*を利用するもの，光増幅の技術を利用するレーザーレーダーなどが開発されつつあり，航法のあり方はさらに分野を広げつつある。
〔茂在寅男〕

〔航空航法〕航空航法には，洋上のように地上の援助施設が遠く離れている区間の遠距離航法，地上援助施設の区間が短い近距離航法，空港への着陸航法がある。①遠距離航法：天測航法・ロラン航法・自蔵航法がある。㋑天測航法。航空士が天体を観測して航空機の位置を求める方法。㋺ロラン航法。地上のロラン局からの信号を受信し

て航空機の位置を求める方法であるが，信号受信の可能地域が限られ，時間帯や空中状態によって受信状態が左右される。㋺自蔵航法。地上航法援助設備を利用しないで航空機の位置を知る航法で，ドップラー-レーダー装置を使う方法と慣性航法装置を使う方法がある。ドップラー-レーダー装置は，航空機が発射した電波が地表からはね返ってくるときのドップラー効果*を利用して，速度や風により流された方向を知り，これらの情報を電子計算機で計算して航空機の位置を連続して調べるものである。慣性航法装置は，慣性力を利用し，時々刻々に変わる速度・方向を計算し自動的に航空機の位置を知るものである。②近距離航法：地上無線標識施設を利用する方法。自動方向探知機を使用する方法と，VOR受信装置を使用する方法とがある。③着陸航法：空港への着陸航法には，計器着陸方式(ILS方式)と地上管制進入方式(GCA方式)による方法がある。㋑計器着陸方式。操縦士が計器をみながら自分の判断で操縦する方法。地上の施設からは航空機の左右位置を指示する電波(ローカライザー)，上下位置・降下角を指示する電波(グライドパス)，滑走路からの距離・目標となる電波(ファンマーカー・コンパスロケーター)が発信され，これが機上の計器に指示される。㋺地上管制進入方式。地上の管制官が監視用レーダー・精測進入レーダーをみながら誘導する方法。操縦士は無線電話で管制官の指示を受けながら操縦する。〔谷　洋五〕

こうほういき　【侯方域】　(1718～1754)　中国，明(みん)末清(しん)初の東林党*の文人。明末の北京(ペキン)で，方以智(ほういち)・冒襄(しょうじょう)・陳貞慧(ちんていけい)らと四公子と称された。号は雪苑(せつえん)。河南省商邱(しょうきゅう)出身。政治生活は不遇であったが，詩・古文に文名が高い。著書に《壮悔堂文集》。

こうぼうしば　【弘法芝】　単子葉植物・カヤツリグサ科。海岸の砂地にはえる多年草。高さ10～25cm。根茎は砂中を横走し長い。葉は数枚ずつ根生し，かたい。6～7月に花茎を出し3～5個の小穂をつける。上部の2～3個の小穂は雄性で赤血色。下部は雌性。

こうほう・しほう　【公法・私法】　従来は，制定法を公法と私法とに区分していた。しかしその区別の基準はあいまいで，学説にも定説はない。たとえば国家生活に関する法を公法といい，市民生活に関する法を私法という場合もあり，また公益に関する法を公法，私益に関する法を私法といい，両者を区別する場合もある。法体系では，公法体系には，憲法・行政法・刑法・税法・訴訟法・国際法などを入れ，私法体系には，民法・商法などを入れて説明がなされる場合が多い。しかし，日本が国民主権の国となったこと，また社会生活の複雑化に伴い，ますます両者の明確な区別は困難となり，

コウボウシバ





コウボウムギ　鹿児島県吹上浜の群落

なお社会生活の維持のために国家が政策的に配慮する関係の法も多く出現するようになり，これを両者とさらに区別して〈社会法〉とよび，その法体系に労働法・経済法・教育法などを入れることが考えられるようになっている。しかし依然として，公法の語は，しばしば憲法および行政法のみをさすのに用いられている場合がある。〔永井憲一〕

こうぼうしみず　【弘法清水】　旅の高僧を親切にもてなしたら湧泉(ゆうせん)を得，不親切にしたらその反対に泉が止められたという筋の伝説。全国的に広く分布していた。旅僧を弘法大師(空海*)と伝える例が多く，地方によっては伝教大師(最澄*)・蓮如上人*(れんにょしょうにん)となっており，いくつかの類型がある。①旅僧に水を求められた女性が遠くからくんで与えると，感謝した僧がつえを突き立てたところから泉がわきはじめ，村人も恩恵に浴した。②女が泉でダイコンを洗っていると旅僧が来たが，女は不親切なため僧はつえを突いて泉を止めた。この種の伝説では善行と悪行の結果が教訓的に説かれていて，社会生活での水の重要性と旅人をたいせつにする異郷人歓待の思想とが背景となって成立していると考えられている。〔山路勝彦〕

こうぼうだいし　【弘法大師】　⇨空海

こうぼうは　【黄帽派】　⇨黄教

こうぼうは　【紅帽派】　チベット仏教(ラマ教*)を旧教・新教に大別したときの呼称で，7世紀に仏教が受容されて以降14世紀までに成立した諸宗派を総称して紅帽派(シャマルパ派)という。これは旧教宗派に所属する僧徒がみな紅色地の法帽を着用したことに由来する。旧教のおもな宗派には，①吐蕃(とばん)王朝時代にチベット中央部で密教を伝えたパドマサンババを始祖とするニンマパ派，②11世紀半ばにチベットに招請されて仏教再興のため活躍したアティーシャ*を開祖とするカダンパ派，③同時代にビクラマシーラ寺でナロパに師事して密教を修めたマルパが開宗したカーギュパ派，④11世紀末コンコンチョクゲルポが開宗したサキャパ派などがある。後代にこれら主流法燈から分立した有力宗派は多数あるが，ことにカーギュパ派系統に多い。しかし，ツォンカパ*が14世紀末に仏教改革のため結集した僧団ゲールクパ派(黄帽派)(→黄教)はアティーシャ教学の伝統を継いだものである。〔金子良太〕

こうぼうむぎ　【弘法麦】　単子葉植物・カヤツリグサ科。フデクサともいう。海岸の砂地に群生する多年草。根茎は紫黒色，木質で長く横走し，節から葉や花茎を伸ばす。雌雄異株で，4～6月に花茎を伸ばし，大形の穂状の花序をつける。

こうぼきん　【酵母菌】　⇨酵母

こうぼく　【香木】　⇨香*

こうぼく　【高木】　以前は喬木(きょうぼく)といわれた。樹木を高さによって区別する語で，低木*の対語である。ふつう生育して3～5mに達するものを亜高木，それ以上のものを高木といっている。高木は幹が1本の場合が多く，枝や葉が茂っている部分である樹冠は幹とはっきり区別できる。一般に高林を形成して用材とされるものが多いが，薪炭材などのために低林に仕立てるものもある。高木・低木は樹種によって決まるが，ネズ・ツバキなどのように積雪地・高山・やせ地など環境の悪い所では低木状になるものもある。〔川名　明〕

こうぼく　【坑木】　鉱山などの地下の作業で使用される木材の総称。特に梁(はり)や柱に用いられる柱材のみをさす場合もある。採掘によってできる空洞(くうどう)を維持し，作業の安全を確保するための支保*作業に主として使われるが，はしごやへや囲いなどにも使われる。近年では，良質で安価な木材が入手しにくくなったこと，木材のもたない特性を有することなどから，コンクリート材や鉄材なども使われるようになってきた。〔山口梅太郎〕

こうほこう　【黄浦江】　ホワンプー川　中国，江蘇(こうそ)省の南東部の川。揚子江の一支流。江蘇省南部の太湖の水を受け，南東流して上海(シャンハイ)にはいり，市街の東部で呉淞江(ウースンこう)と合し，揚子江に注いでいる。古くは直接海に注いでいたが，揚子江デルタの発達によって河流が変化し，その一支流となった。河口部三角州付近の潮汐(ちょうせき)作用のため，上海の旧租界前の船着

き場に大形汽船を着けることができる。

こうほじょうやく 【黄埔条約】 中国，広州黄埔で1844年に調印された中国とフランスの条約。阿片(あへん)戦争のあと，イギリスは南京(ナンキン)条約を締結したが，アメリカ・フランスもこれに便乗して，それぞれ望厦(ぼうか)条約・黄埔条約を締結した。これらの条約は，一方的な最恵国待遇条款・領事裁判権・関税協定を含む，中国にとっては屈辱的な不平等条約であった。

こうほね 【河骨】 双子葉植物・スイレン科。カワホネともいう。小川や池などにみられる多年生の水草。根茎は太く地中をはい，一端から多くの葉を出す。水中にある葉は薄く細長く海藻(かいそう)状。水面にある葉は長楕円(ちょうだえん)形で厚く，長さ20～30cm，基部は矢じり形。夏，水上に突き出た花柄に直径4cmほどの黄色の五弁花をつける。根茎を乾燥したものを川骨(せんこつ)といい，漢方では，強壮剤・止血剤として用いられる。この仲間に花の小さいネムロコウホネなどがある。

こうぼねがい 【河骨貝】 軟体動物・二枚貝類・コウボネガイ科。殻長(かくちょう)3cm，殻高・殻幅とも2cmほどの黄白色の貝で，本州以南の西南太平洋水域に広く分布する。水深50～200mの砂の海底にすむ。

こうま 【黄麻】 双子葉植物・シナノキ科。ツナソともいう。茎の繊維はジュートといい，袋・梱包(こんぽう)材料などに用いられる。➔ツナソ

こうま 【好摩】 岩手県北西部，北上川とその支流松川が合流する沖積(ちゅうせき)地上にあり，行政上は岩手郡玉山村に属する。東北本線から花輪線が分岐する交通の要地で，松尾鉱山の鉱石積み出し駅となる好摩駅は好摩ケ原とよばれる台地の東端にある。北上川の対岸南方には石川啄木(たくぼく)の生地である渋民(しぶたみ)部落があり，啄木の歌〈霧深き好摩の原の停車場の朝の虫こそすずろなりけり〉は地域の景観をよく表わしている。農村地帯であるが，駅付近に合板工場があり，最近は盛岡市の近郊住宅地化して通勤者が増加している。 〔浅井得一〕

ごうま 【降魔】 仏教用語で，悪魔を降伏(ごうぶく)すること。釈迦(しゃか)八相(ブッダ一代の経歴8種)の第5とされる。仏伝によると，ブッダが6年の苦行ののち，菩提樹(ぼだいじゅ)の下に座して静かに瞑想(めいそう)し，悟りを完成しようとしていたとき，欲界の第6天が，悪魔の姿を借りて現われ，誘惑したり，脅迫したり，あらゆる手段を尽くしてブッダの悟りを妨害したが，ブッダはそれらをことごとく退散させたという。こののち，ブッダは成道したと伝えられている。 〔田中良昭〕

こうまくかけっしゅ 【硬膜下血腫】 主として頭部外傷により，硬膜の下で軟膜の上に血腫を生じたもの。蜘蛛膜(くもまく)下出血と異なり，髄液は必ずしも血性ではない。まれにはアルコール中毒・伝染病・老人性疾患にみられることもある。側頭・頭頂部に最も多く出現し，脳実質が圧迫され，脱落症状が頭痛とともに徐々に出現し，脳腫瘍(のうしゅよう)と誤られることがある。血管造影・エコー脳波などによって診断を確定し，手術的に根治することが可能である。 〔井形昭弘〕



コウホネ



コウボネガイ

こうマンガンこう 【硬マンガン鉱】 ⇨マンガン鉱

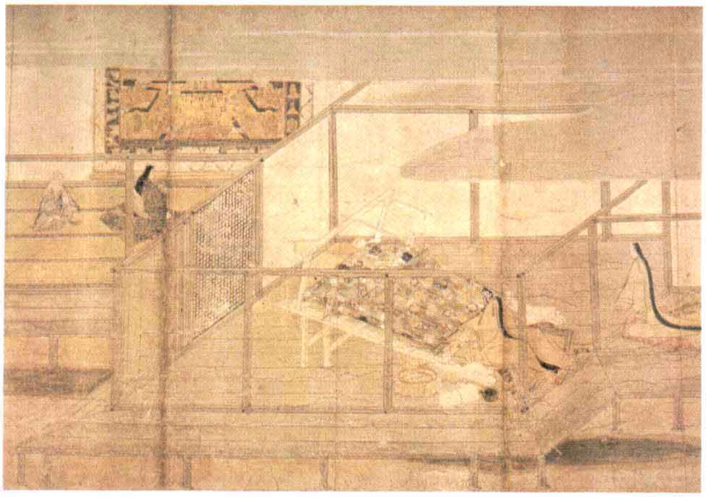
こうまんじかい 【紅卍字会】 中国の社会事業団体。宗教結社〈道院〉に付設された，災害の救済を目的とする機関。本部を山東省済南に置き，1922年に結成され，日本の大本教(おおもときょう)とも結んで一時盛んであった。国民政府はその活動を禁止し，中華人民共和国も禁止した。

こうみせん 【小海線】 中央本線小淵沢(こぶちざわ)と信越本線小諸(こもろ)間を結ぶ国鉄路線で営業キロ数78.9。1915年(大正4)小諸～羽黒下間が建設され，1935年(昭和10)に全線が開業した。八ケ岳東麓(とうろく)を通過し，野辺山駅付近は海抜1,374mで，わが国鉄道の最高地点であり，高原鉄道と愛称される。

こうみゃく 【鉱脈】 地殻(ちかく)の割れ目(断層など)を満たした鉱床。多くの場合板状を呈する。その大部分はマグマから発散した鉱化流動体(鉱化ガスまたは鉱液)が岩石の割れ目に沿って上昇中，鉱物を晶出して割れ目を満たしたものである。生成する場所によって深成鉱脈・中深成鉱脈・浅成鉱脈に分類される。深成鉱脈は地下深い所で高温・高圧のもとに生成されたもので，浅成鉱脈は地表近くで低温・低圧のもとに生成され，中深成鉱脈はその中間に属する。これに属する鉱種として金銀鉱脈・銅鉱脈・鉛鉱脈・亜鉛鉱脈・スズ鉱脈・タングステン鉱脈・モリブデン鉱脈・水銀鉱脈・アンチモン鉱脈などがある。北海道鴻ノ舞(こうのまい)鉱山・新潟県佐渡鉱山は代表的金銀鉱脈，秋田県尾去沢鉱山は代表的銅鉱脈で，いずれも浅成鉱脈に属する。 〔今井秀喜〕

こうみょうこうごう 【光明皇后】 (701～760) 聖武(しょうむ)天皇の皇后。父は右大臣藤原不比等(ふひと)，母は橘(たちばな)三千代。本名は安宿媛(あすかべひめ)。716年(霊亀2)皇太子妃となり，718年(養老2)阿倍(あべ)内親王(孝謙天皇)を生む。729年(天平1)長屋王の変後，人臣出身はじめての皇后となる。749年(天平勝宝1)天皇が孝謙天皇に譲位ののちはもっぱら大権をとり，甥(おい)の藤原仲麻呂(なかまろ)(恵美(えみ)押勝)を重用したが，756年夫聖武上皇を失い，上皇の遺愛品を東大寺に寄進した。これが現在の正倉院御物である。奈良市佐保山東陵に葬る。 〔松尾　涼〕

こうみょうじ 【光明寺】 神奈川県鎌倉市乱橋材木座にある浄土宗大本山。1240年(仁治1)執権北条経時(ほうじょうつねとき)が然阿(ねんあ)良忠を開山として佐介谷(さすけがやつ)に蓮華寺(れんげじ)を建立(こんりゅう)，1243年(寛元1)現在の地に移建して寺号を光明寺と改めた。寺宝に《紙本著色当麻曼茶羅(たいままんだら)縁起》(国宝)《浄土五祖絵伝》の絵巻を



光明寺　寺宝の《当麻曼茶羅縁起》下巻　曼茶羅を織る観音の化した貴女と老女の説明を受ける姫君

はじめ,《当麻曼荼羅図》《十八羅漢及僧像》など多くの重要文化財があり，子院の蓮乗院には〈正安元年大仏師播磨法橋(はりまほっきょう)宗円造之〉の銘を有する阿弥陀如来立像がある。〔永井信一〕

こうみょうじ 【光明寺】 京都府乙訓(おとくに)郡長岡町大字粟生(あおう)にある浄土宗西山派総本山。報恩山念仏三昧院(さんまいいん)とも称し，1198年(建久9)熊谷直実(くまがいなおざね)が開創して法然を迎えた。上人(しょうにん)は一時故郷に帰ったが，直実没後は遺骨を本寺に納め，上人が開山となった。1227年(嘉禄3)山門の衆徒が法然の大谷の廟所(ごびょうしょ)をあばこうとしたため,門弟がひそかに上人の死体を太秦(うずまさ)の来迎院に移し，1228年(安貞2)さらにこの寺に移安して廟所をつくった。本堂の南にある釈迦堂(しゃかどう)に安置された釈迦如来は，頰焼(ほおやき)釈迦またはお鉢(はち)の釈迦とよばれ，一般の信仰を集めている。〔永井信一〕

こうみょうたん 【光明丹】 ⇨鉛丹

こうみょうてんのう 【光明天皇】(1321〜1380) 北朝第2代の天皇。名は豊仁(とよひと)。後伏見天皇の第2皇子。1336年(延元1・建武3)足利尊氏(あしかがたかうじ)に擁立されて即位した。在位12年。退位後は院政を行なった。1351年(正平6・観応2)尊氏が南朝と講和して北朝が廃されたのを嘆き，出家生活にはいったが，のち北朝方の他の上皇とともに賀名生(あのう)(奈良県)・金剛寺(大阪府)に幽閉された。1355年(正平10・文和4)尊氏軍が京都回復をしたので帰京した。陵墓は京都市伏見区桃山町泰長老にある大光明寺陵。〔高崎徳次〕

こうみょうにっぽう 【光明日報】 北京(ペキン)で発行されている中国の日刊新聞。中国には共産党のほかに，民主党派とよばれる政党・政派があるが，この新聞はこれらのグループの合同機関紙である。中国民主同盟をはじめとする各グループは，民族資本家を基盤とする学者・ジャーナリストなど自由職業人をおもな構成分子としている事情があって，学芸欄・文化界報道に特徴がある。1949年創刊。

こうみん 【公民】 国または地方公共団体の政治に参与する資格を有する国民をいう。つまり選挙権・被選挙権を有し，または公務につくことによって積極的に政治に参加する権利・資格を有する国民のこと。広くは市民ということばと重なり合う場合が多いが，公民という場合は国政に参加する側面を特にさすものといえる。日本の旧市制・町村制では，住民のうち一定の資格を有する者のみを公民と称し，市町村の公務につく権利と義務を負っていたが，日本国憲法の制定とともに廃止され，現在の地方自治法では等しく住民として参政権をもつことになった。〔寺尾方孝〕

こうみんかん 【公民館】 社会教育の必要性の強調および要請によって，第2次世界大戦後に市町村により設置された施設。その目的は,社会教育法(1949)の20条に〈地域住民のために，実生活に即する教育，学術および文化に関する各種の事業を行ないもって住民の教養の向上，健康の増進，情操の純化を図り，生活文化の振興，社会福祉の増進に寄与すること〉とされている。公民館は市町村または公益法人のみが設置できる。その運営は教育委員会の任命を受けた館長・主事その他必要職員が行なう。公民館が行なっている事業のおもなものは，青年学級・婦人学級の実施，定期講座の開設，討論会・講習会・講演会・実習会・展示会などの開催，体育・レクリエーションなどの集会の開催，また各種の団体・機関との連絡を図り，施設を住民の集会その他の公共的利用に供することである。なお，営利を目的とする事業や特定の政治活動・宗教活動を行なうことを禁止している(社会教育法23条)。〔斎藤昌男〕

こうみんきょういく 【公民教育】 近代国家における市民育成のための教育。わが国では普通選挙との関連で，昭和初期に師範学校・中学校などに教科として公民科が設けられ，第2次世界大戦中は修身科として非常な制約を受けた。戦後あらためて公民教育の必要と内容が問われ，独立教科としては設置せず，社会科の中で合わせてその識見を養うとの方針がとられた。もともと市民教育は，学校教育・社会教育双方の分野で行なわれ，階級性を越えた民主社会の構成員たる市民育成を理想とするが，公民教育ということばには，支配者による秩序維持のための思想教育という，国家主義的内容をこめて解釈される傾向がある。〔赤司政雄〕

こうみんけん 【公民権】 国や地方公共団体の政治(選挙・直接請求など)に公民として参加できる権利。参政権ともいう。公職選挙法に違反した者は公民権停止の処分を受けることがある。

こうむいん 【公務員】 国および地方公共団体に勤務する者をさす。前者に勤務するものを国家公務員，後者に勤務するものを地方公務員という。憲法15条は〈すべての公務員は全体の奉仕者であって一部の奉仕者ではない〉と定めて，公務員は〈公僕(こうぼく)〉たらねばならないとしている。公務員には一般職と特別職の区別があり，特別職は国家公務員法および地方公務員法の適用を受けない。特別職のおもなものには，国家公務員では，内閣総理大臣・国務大臣・内閣官房長官・総理府総務長官・政務次官・宮内庁長官・大使・公使・特使・日本学士院会員，裁判官および裁判所職員，国会職員・議員秘書などがあり，地方公務員では，都道府県知事・市町村長などがある。公務員は，法令および上司の命令に従う義務，職務に専念する義務，職務上の秘密を守る義務などが課せられている。また，民間の営利企業の役職を兼ねたり，みずから営利企業を営んだりすることはできない。公務員は憲法で保障されている労働者のストライキ権を奪われており，そのために公務員の給与改定は人事院および人事委員会の勧告によって行なわれる。〔西尾孝司〕

こうむしっこうぼうがいざい 【公務執行妨害罪】 公務員がその職務を行なっている際に，暴行や脅迫を加えてその執行を妨害する罪(刑法95条)。たとえば，税務署員が調査に来たとき，腕ずくで妨害するとこの罪になる。公務員の身体に触れなくても，周囲で机をたたいたりして妨害しても暴行になる。公務員に傷を負わせたりすると，公務執行妨害罪と同時に暴行罪が成立する。職務の執行の範囲は広く，差し押え・逮捕というような強制的な職務ばかりでなく，役所の会議室での会議，書類の運搬なども〈職務の執行〉にあたる。ただし，職務行為は適法なものでなければならない。また公務員が職務を行なわない以前に暴行・脅迫を加えて，ある処分をさせなかったり，あるいはむりにある処分をさせると職務強要罪(同条2項)が成立する。刑は3年以下の懲役または禁錮(きんこ)。〔野口恵三〕

こうめ 【小梅】 双子葉植物・バラ科・サクラ属のウメの一変種。果樹として栽培され，果実は小さい。古くから山梨県はコウメ産地として著名。コウメの梅干しは品がよく，シソ葉を用いない梅干しもつくられる。甲州最小や新品種の龍峡(りゅうきょう)小梅など良品種がある。➔梅

ごうめいがいしゃ 【合名会社】 無限責任社員のみで構成されている会社。社員全員が，会社の債務について直接連帯して無限の責任を負い(商法80条)，この無限責任に対応して各社員が会社の業務を執行し，会社を代表することとなっている(商法70・76条)。このように,各社員の人的結合が重視され，かつ無限責任を負っているので，その出資は財産出資のほかに信用出資・労務出資も認められている点が，株式会社など物的会社との大きな相違点である。したがって社員の持ち分の譲渡も自由でなく，他の社員の承諾がなければ持ち分を譲渡することはできない(商法73条)。社員が無限責任を負うので会社債権者の保護にも欠けるところがないため，その設立手続きも，非常に簡単で，2人以上の社員が定款を作成し,設立登記をすれば会社は成立する(商法57・62条)。清算についても，法定清算のほか任意清算も認められている(商法17条)。合名会社は，株式会社と対照的な会社で，いわゆる人的会社の典型である。〔松本治雄〕

こうめいてんのう 【孝明天皇】(1831〜1866) 在位1846〜1866。名は統仁(おさひと)。仁孝(にんこう)天皇の第4皇子。母は新待賢門院藤原雅子(なおこ)。1846年(弘化3)海防を厳重にすべしとの勅書を幕府に下し，以後

攘夷(じょうい)の立場からしばしば勅書を幕府に下した。安政五か国条約*には反対して勅許を与えなかったが，尊攘派の討幕運動*にも反対した。公武合体*策を推進し，皇妹和宮(かずのみや)を14代将軍徳川家茂(いえもち)に降嫁させた。1866年(慶応2)疱瘡(ほうそう)で急逝(きゅうせい)したため，毒殺説も生じた。皇子である明治天皇が即位するとともに維新へと時局は急転した。陵墓は京都市の後月輪(つきのわ)東山陵。〔松尾　涼〕

こうめいとう【公明党】日蓮(にちれん)正宗の創価学会*を母体とする宗教政党。1956年(昭和31)の参議院議員選挙での政治進出以降，1950年代後半を通じて政界浄化・公明選挙の旗印を掲げ，地方議会・参議院で徐々に議席を確保していった。1961年公明政治連盟を結成，1964年11月公政連を発展させてわが国ではじめての宗教政党，公明党が結成された。〈中道政治〉を目標に政教一致主義が色濃く流れている。地方選挙・参議院選挙，また衆議院選挙でも毎回着実に大量の票を伸ばしている。近代社会では宗教と政治との分離を自明としており，この点日本の宗教には珍しく，非妥協的な創価学会の志向と，政治の場での相対性を求められる公明党との一体化は，さまざまな問題を含んでいる。最近，世論に顧みて，公明党と創価学会との分離を決定し，宗教と政治との混合を避けることとした。〔溝口　潔〕

こうもくてん【広目天】⇨四天王

こうもり【蝙蝠】哺乳(ほにゅう)類・翼手目の総称。前肢(ぜんし)は翼に変化し，上腕骨および第3～5指は著しく長く，飛膜を張っている。第1指(親指)は翼から離れ，大きなかぎづめがある。第2指にもつめがあることが多い。胸骨には龍骨(りゅうこつ)突起が発達し，翼を打つ強大な胸筋が付着する。後肢は小さく，足には鋭い5本のつめがあり，これで岩などに懸垂する。食虫目に近縁で，歯はこれに似る。乳頭はわきの下に1対ある。おもに熱帯・亜熱帯に分布するが，少数のものは寒冷地の森林限界にまですむ。オオコウモリは果実，アメリカのウオクイコウモリは魚，南アジアのアラコウモリは他種のコウモリを食用とし，南アメリカのバンパイア(チスイコウモリ)は動物の生血を吸うが，他の多くはハエ・ガ・ユスリカ・甲虫などのこん虫をふつう飛びながら捕食する。飛び方は鳥類と同じだが，滑空をほとんどしない。オヒキコウモリの飛行速度は鳥類の最高速者アマツバメに劣らない。また，ハチドリのように空中に静止することもできる。飛ぶのも巧みで，飛ぶときは声帯から約48,000サイクルの超音波を毎秒数十回出し，これらの反射を耳でとらえ，障害物を避ける。そのため耳は異常に発達し，大きな耳珠をもつものが多い。種類によっては，鳥類のように季節に応じて南北に渡りをする。温帯産の種類は，冬は木のほら穴や岩穴に多数集まって冬眠する。秋に交尾して，精液は雌の体内に春まで保たれ，春に排卵と受精が行なわれる。子は初夏にふつう1～2匹生まれ，先の鋭い後方に曲がった乳歯で母親の胸の毛にかみつき，飛ぶときも，しっかり親に抱きついている。〔今泉吉典〕





コウモリ　(上)キクガシラコウモリ　体長7cmほどでこん虫類を食べる　(下)アブラコウモリ　体長4.5cmほどで以前は都会でもよく見かけた



コウモリカズラ

こうもり【蝙蝠】ヨハン-シュトラウス*2世の作曲したオペレッタ。ベネディクスの喜劇を台本化したものに作曲したもので，1874年4月5日にウィーンで初演された。登場人物はアイゼンシュタイン(テノール)・ロザリンダ(ソプラノ)・アルフレッド(テノール)・ファルケ博士(バリトン)・アデーレ(ソプラノ)などで，オーストリアの湯治場を舞台にしている。ワルツやポルカをふんだんに使って，ウィーンふうオペレッタの代表作らしい味わいをもつ。〔向坂正久〕

こうもりが【蝙蝠蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・コウモリガ科。体長35～45mm，翅(はね)を広げた長さ80～90mm。触角は短く，口吻(こうふん)はない。体・翅ともにかっ色，前翅の前縁から翅の中央にかけて黄かっ色の大きい三角紋がある。日本全国のほか，中国北部やアムール川流域地方などに分布する。幼虫はクサギ・キリなどの樹幹に侵入して加害する。成虫は，8～9月ごろに出現する。コウモリガ科は，鱗翅目(チョウとガの類)中，コバネガ科とともに原始的な特徴をもち，全世界に約200種が知られ，南半球に多く，オーストラリアには翅を広げた長さが175mmに達する種もある。日本には，本種のほかに，キマダラコウモリ・シロテンコウモリなど数種が分布している。〔鈴木邦雄〕

こうもりかずら【蝙蝠葛】双子葉植物・ツヅラフジ科。山地にはえる落葉性の木本性つる植物。茎は長く伸び，他物に巻きつく。葉は互生し，心臓形で浅く波打ち，長さ・幅ともに5～15cm。雌雄異株。夏，葉のつけ根に淡黄色の小花を多数つける。果実は球形で，直径6mmほどで黒熟する。葉の形がコウモリに似るのでこの名がある。

こうもりしだ　シダ植物・オシダ科。アジアの熱帯に広く分布する常緑性の小形シダ。日本でも種子島(たねがしま)・屋久島などにまれに産する。根茎は長くはい，葉はかたく，3羽片からなる。葉柄は長く，基部に鱗片(りんぺん)がある。羽片の基部はくさび形～浅い心臓形，頭部は先がとがり，葉脈に細毛がある。胞子嚢(ほうしのう)群は脈によって長く伸び，包膜はない。

こうもりそう【蝙蝠草】双子葉植物・キク科。山地の林下にはえる多年草。茎は直立し，高さ40～100cm。葉は互生し，三角状矛(ほこ)形で，縁に鋸歯(きょし)がある。秋に茎の上部に紫色をおびた細長い頭花を多数つける。

こうもりばえ【蝙蝠蠅】こん虫類・双翅(そうし)目・コウモリバエ科。体長3mm内外，体は一様に淡黄かっ色で，全身に剛毛を密生する。頭部が小さく，複眼も退化して小さい。翅(はね)はよく発達し，半透明でかっ色をおびる。本州・四国・九州などに分布し，ユビナガコウモリなどに寄生する。また，中国からアジアの熱帯地方にかけて広く分布する。

こうもりらん【蝙蝠蘭】シダ植物・ウラボシ科。ビカクシダともいう。ニューカレドニア・北部オーストラリアなどに分布する常緑の着生シダ。地面をおおうように出る腎臓(じんぞう)形の葉と，長さ20～100cmで2～3回分岐するくさび形の葉の2型がある。観賞用に栽培される。

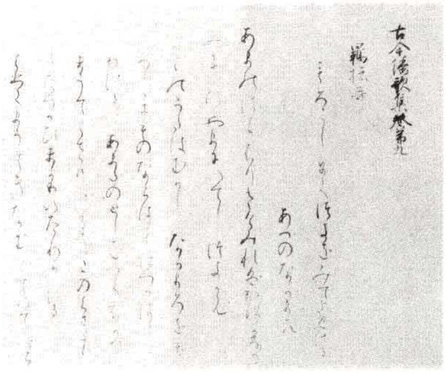
こうもん【肛門】直腸*が会陰部を貫いて外界に開口するところ。直腸下部の粘膜下には上直腸静脈(門脈系)と中直腸静脈(内腸骨静脈系)との吻合(ふんごう)によってできる直腸静脈叢(そう)があり，これが鬱血(うっけつ)を起こす場合を内痔核(ないじかく)(→痔核)という。また，それより下部の粘膜・皮膚との移行部の痔帯の下層には下直腸静脈の枝が分布し，同様に静脈叢をつくっている。これが鬱血を起こす場合を外痔核という。直腸の壁を構成する2層の平滑筋*のうち，内層にある輪走筋を内肛門括約筋といい，

さらにその外側を輪状に取り巻く横紋筋*性の外肛門括約筋とともに平素は肛門は閉ざされている。内肛門括約筋は自律神経の支配を受け，外肛門括約筋は脊髄(せきずい)神経の支配を受けている。前者は不随意的に，後者は随意的に働くので，直腸に糞便(ふんべん)がたまると反射的に便意を催すが，後者の働きによって意識的におさえることができる。なお，肛門の病気には以上のほかに痔裂*(切れ痔)・痔瘻*(じろう)などがある。〔幡井　勉〕

ごうもん【拷問】 直接的には，被疑者および被告人に対し肉体的苦痛を加えて権力*の側のいうままに自白*させる残虐な行為をいう。間接的には，このような虐待，加害の脅迫を加えて自白を強要することをもいう。いずれの国家でも，近代憲法国家の成立以前には，公然とあらゆる肉体的加害が官憲によって行使された。明治初年のわが国の刑事法では，拷問をなすことが法定の公然たる手段として用いられた。これは，いかに証拠が明らかであっても，本人の自白がなければ有罪判決を下しえないという当時の裁判観念にもよる。〈自白は証拠の王〉とされて，拷問が行なわれた。しかし人道に反するこのような考え方は，刑事法からも退けられ，わが国でも1879年(明治12)拷問禁止が定められた。しかし明治憲法体制の下では，しばしば警察官や憲兵による拷問がくり返され，このために命を失った被告人・被疑者すらあった。日本国憲法は，このことに顧みて〈公務員による拷問〉は〈絶対にこれを禁ずる〉(36条)とした。しかしなお，第2次世界大戦後も完全になくなったとはいえない状態である。〔鈴木安蔵〕

こうもんしきうんが【閘門式運河】 閘門(運河やドックで船を通過させるために，水位の高差をならす装置)をもつ運河。高差のある2地点を結ぶ運河では，勾配(こうばい)のために適当な水深を保つことができない。そこで運河を階段状に仕上げ，各区分末端にせきを設けて水深を保つ。したがって，せきの上下流側に水位差ができるので，このせきに閘門を付設して船を上下させる。有名なのはパナマ運河*である。なお，自然河川でも可航部分にせき，すなわち閘門を設けているものが多い。〔米元卓介〕

こうもんしゅういえん【肛門周囲炎】 直腸*や肛門*周囲組織の炎症。結核菌・大腸菌・アメーバ赤痢・第4性病の感染，外傷，放射線療法後，抗生物質長期服用後あるいはアレルギー*によって起こる。急性のものは，初期には粘膜に発赤・腫脹(しゅちょう)がみられ，しばしば肛門周囲膿瘍(のうよう)に移動する。慢性化するとかたく繊維状となって，狭窄(きょうさく)をきたすことがある。ごく初期のものは化学療法のみで治癒(ちゆ)させることができ，膿瘍を形成した場合は切開する。狭窄をきたした場合，機械的に拡張したり，または手術的に拡張する。〔三島好雄〕



高野切　第1種。《古今集》巻9　伝紀貫之筆

こうもんしゅういのうよう【肛門周囲膿瘍】 肛門*・直腸*周囲にみられる膿瘍。肛門挙筋の上または下に生ずる。通常直腸窩(ちょくちょうか)の炎症として始まり，ここから肛門・直腸周囲組織に波及する。歩行・排便などのときに痛みを訴え，また悪感(おかん)・戦慄(せんりつ)を伴う発熱，しぶり・頻尿(ひんにょう)・腰痛などの症状をみる場合もある。膿の貯留が明らかなものでは切開排膿を必要とする。ただし化膿菌による膿瘍は切開排膿すれば多くは治癒(ちゆ)するが，ときには痔瘻*(じろう)となる。結核性のものは切開しても多くは痔瘻となる。〔三島好雄〕

こうもんそうようしょう【肛門瘙痒症】 肛門部の瘙痒感のみを主症状とする症候。不眠の原因となることがある。小児ではギョウチュウ*感染の際にみられ，成人ではほかに食物によるアレルギー*，糸状菌*感染などによるものがあるが，一般に原因の不明なことが多い。ギョウチュウに対しては駆虫薬の投与を行ない，肛門部に水銀軟膏(なんこう)を塗布する。神経性の瘙痒症に対しては水銀燈照射・軟膏・リゾール浴・暗示療法などを行なう。〔三島好雄〕

こうもんのかい【鴻門の会】 中国，秦(しん)・漢交替期における劇的な場面。《史記*》の力強い名文で有名。漢の高祖*劉邦(りゅうほう)は，秦に反乱を起こした諸勢力に先んじて秦都咸陽(かんよう)にはいると，函谷関(かんこくかん)を固めて独立の意志を示した。あとから到着した項羽*は，大軍をもって関を破り，劉邦の本陣に迫った。両者の仲立ちをする者があって鴻門(陝西(せんせい)省臨潼(りんどう)県)で講和の宴会がもたれた。この宴会で項羽のほこ先をそらせた劉邦は，僻地(へきち)に退いて勢力を養い，やがて項羽を打ち破ることになる。〔小南一郎〕

こうもんのじってつ【孔門の十哲】 ⇨孔子

こうや【空也】 ⇨くうや

こうや【紺屋】 こんや・紺掻(こんかき)ともいう。本来は紺染職人をさし，別に紅師(くれないし)(紅染職人)・紫師(紫染職人)があり，これらを総称して染師・染物屋などといった。しかし，紺染が広く行なわれたので，のちに染物職人を代表する呼称になった。上代の官制では織部司(おりべのつかさ)・内染司に属した。平安時代には染殿の女房に移り，以来紺屋は女が多かったが江戸時代になるとしだいに男の職人となった。

こうやぎれ【高野切】《古今集*》の古写本およびその断簡。最も古い写本であるばかりでなく，かなの古筆のうちで最もすぐれている。近世の初め，巻9の巻首が紀伊(きい)(和歌山県)の高野山にあったので〈高野切〉という。巻子本*。筆者は紀貫之*(きのつらゆき)といわれているが，巻1・9・20は一筆で〈第1種〉といわれ，巻2・3・5・8は一筆で〈第2種〉といわれ，巻18・19は一筆で〈第3種〉といわれている。巻5・8・20の3巻は完本で国宝，そのほかはすべて断簡である。3種とも字形はよく整っているが，書風はそれぞれ違う。書写年代は11世紀の中ごろである。〔春名好重〕

こうやく【膏薬】 膏剤の俗称。軟膏剤・硬膏剤などの総称で，樹脂・脂肪・脂肪油・脂肪様物質などからできている基剤に，医薬品を加えて製造した，固形または半固形の外用薬剤。皮膚に直接に密着させ，皮膚から医薬品を吸収させたり，皮膚の保護・痛み・かゆみ止め，皮膚の病原菌を殺すなどの目的で治療を行なうときに用いる。特に目に用いるものに眼軟膏がある。漢方薬には，薬用植物エキスよりつくった内服膏剤がある。〔江本龍雄〕

こうやくすう【公約数】 二つ以上の整数に共通な約数。たとえば，12の約数＝{1，2，3，4，6，12}，18の約数＝{1，2，3，6，9，18}であるから，12と18の公約数は{1，2，3，6}である。公約数は，最大公約数(この例では6)の約数である。三つ以上の数の公約数も同様に考える。また，整式についても公約数が考えられる。

こうやぐち【高野口(町)】 和歌山県伊都(いと)郡の町で，和歌山線・国道24号線に沿う。人口17,000。紀ノ川中流域北岸にある織物の町で，小規模な工場が多いが，シール・パイル・メリヤスなどを生産し，特にシールは紀ノ川沿いの他の町村にも影響を与えている。ほかにミカンの生産もあり，製材業も盛んである。

こうやさん【高野山】 和歌山県北東部，紀伊(きい)山地の北西部を占める長峰山地の東部にあり，陣ケ峰(1,106m)・楊柳(ようりゅう)山(1,009m)・弁天岳などに囲まれた一帯をさす。ほぼ中央の東西5km，南北3km，標高約900mの平坦地(へいたんち)が山頂で，ここに高野山真言宗の総本山金剛峯寺(こんごうぶじ)を中心に120余の寺院，50の宿坊をはじめ，大学・図書館・病院を擁する門前集落高野町がある。付近の山林は古くから寺領として保護され，広大な美林が広がっている。大阪から南海電鉄高野線が山麓(さんろく)まで通じ，さらにケーブルカーで山頂に達するが，現在はほかに有料道路高野山道が



高野山
うっそうと茂る木立ちの間に高野町が開ける。朝もやの立つ中に，根本大塔などの寺院のいらかが見え隠れする

ある。高野龍神(りゅうじん)国定公園*の一部となっている。 ➜金剛峯寺　〔高野　繁〕

こうやどうふ 【高野豆腐】 ⇨凍り豆腐

こうやばん 【高野版】 鎌倉時代の初めから，高野山およびその門流寺院で開版されたものの総称。厚手の鳥の子紙*に両面印刷をし，粘葉(でっちょう)とじとした。1247年(宝治1)刊の宋版(そうはん)復刻本《論語集註(ちゅう)》全10巻は，わが国外典開版の緒を開いたものとして知られ，1321年(元亨1)刊の《黒谷上人(しょうにん)語燈録》全7巻は，刊行年代のはっきりした最古のひらがな交じりの版本として著名である。ちなみに高野版の多くは，1521年(大永1)の大火で焼失し，現存するものがきわめて少ない。しかし，高野版について5種の開版書籍目録が現存し，これには書名・開版者名・帖数(じょうすう)・丁数，料紙や装丁の品別，価格，経師への注文の規定などが記載され，わが国開版史上きわめて貴重な資料となっている。〔庄司浅水〕

こうやひじり 【高野聖】 中世から近世にわたり高野山の弘法(こうぼう)大師信仰を広めるため，全国に布教・募金活動を行なった僧をいう。古代末期，浄土信仰のため諸寺院から静寂の地に移り住み，在地の庶人を教化した僧を遁世聖(とんせいひじり)と称したが，高野山の遁世聖が高野聖である。しかし中世にはいると浄土教*系の新仏教が発展し，新仏教に対抗する教理や教団をもたなかった高野聖は，高野山を根拠に，全国に旅立って説教をした。説教のほか高野山への勧進*と称して募金を行ない，高野納骨・高野参詣の勧誘や宿坊斡旋*(あっせん)にも従事した。全国各地に弘法大師伝説が流布しているのはその布教活動によるものとされ，布教者としての貢献は大きかった。しかしその数が激増するにつれ世俗化がはなはだしくなり，勧進のかたわら物品を販売したり宿泊の強要をしたりなどその行為が世人からうとんぜられるようになった。近世にはいってからも，高野山内では聖方として一勢力をなしていたが，回国遊行する高野聖たちは一般にこじき視されるまでその地位が転落した。〔高崎徳次〕

コウヤマキ



こうやひじり 【高野聖】 泉鏡花の短編小説。1900年(明治33)《新小説》に所載。高野山の旅僧が若いときに経験した怪異談を，越前敦賀(えちぜんつるが)の旅籠(はたご)で，もうひとりの若い僧〈私〉に語る形式で書かれている。僧は，飛驒(ひだ)から信州へ抜ける山中で，旅の男をもてあそんで獣に変えてしまう神通力をもった美女に出会うが，その誘惑からようやく免れるという浪漫的・神秘的色彩の濃い作品。美しい魔女は，鏡花の崇拝する女性像の極致とみられる。〔池内輝雄〕

こうやぼうき 【高野箒】 双子葉植物・キク科。関東以西の日本，中国に分布し，日あたりのよい疎林の下などに多い落葉低木。高さ50～100cm，枝や幹は細い。一年枝につく葉は互生し，卵形。二年枝には細長い葉が3～5枚束生する。二年枝の葉は秋に枯れる。秋，二年枝の先に頭上花をつける。花は管状花で白色，5深裂し，裂片はそり返る。果実は密に毛がはえ，先端には赤かっ色の冠毛がある。高野山で，枝を集めてほうきにするのでこの名がある。〔横井朝子〕

こうやまき 【高野槇】 裸子植物・スギ科。中部山岳・紀伊(きい)半島・四国・九州などに分布する日本特産の常緑針葉高木。庭木としても植えられる。葉は長さ10～20cm，幅3mmほど，2本の針状葉が合着して1本になったもので，断面に2本の維管束がある。枝の先に短枝が20～40密生し，その上に1本ずつ葉が出るが，輪生葉のようにみえる。雌雄同株。3～4月，雄花は枝先に集まって咲き，雌花は単独で枝先に咲く。材はふろおけ・船材に用いる。〔加藤僖重〕

こうやりゅうじんこくていこうえん 【高野龍神国定公園】 和歌山県と奈良県にまたがり，高野山(985m)・水ヶ峰(1,128m)・白口峰(1,110m)・伯母子(おばこ)岳(1,342m)・護摩壇(ごまだん)山(1,370m)などの高峰を含む。面積192.13km^2。1967年(昭和42)国定公園に指定され，森林の公園で名高い。高野山の頂は平らな高原で，真言宗高野派の総本山金剛峯(こんごうぶ)寺がある。また，コウヤマキ*の美林は有名である。

こうやわらび 【高野蕨】 シダ植物・ウラボシ科。野原や湿地にはえる小形の落葉性多年草。根茎を伸ばし，その上に葉を伸ばす。裸葉(栄養葉)と胞子葉の別があり，裸葉は明緑色で1回羽状で5～10対の羽片からなり，柔らかく，有柄である。胞子葉は秋に同じ根茎上に生じ，2回羽状複葉で羽片は球形，茶かっ色の小羽片の中に胞子嚢(のう)群がある。

ごうゆう 【合有】 一つの物を多数の者が共同して所有する場合の一形態。共有*と総有*の中間に位する。すなわち，各共同所有者はその共同所有財産について独自の持ち分を有するが，その共同所有財産が共同所有者全体の一定の目的に利用されなければならないため，その持ち分を自由に処分したり，あるいは持ち分の分割請求をなしえないとする所有形態である。共同の目的が達成されたならば，持ち分権の譲渡も分割請求も自由になしうることになる。組合財産(民法668条)や共同相続人における相続財産(民法898条)などの共同所有形態は合有であるとされている。なお，信託法では，受託者が数人あるときには信託財産はその合有とすると明文で規定している(信託法24条)。〔黒木三郎〕

こうゆうい 【康有為】 (1858～1927) 中国，清(しん)末の思想家で，変法自強運動*の指導者。広東(カントン)省南海の人。公羊学(くようがく)の立場に立ち，大同社会(一種のユートピア)への発展を構想した。しばしば上書して光緒帝*(こうちょてい)の知遇を得，君主立憲，国会の開設などを意図したが，戊戌(ぼじゅつ)の変法*は保守派の反撃によって失敗に終わり，海外に亡命，以後思想的にも後退した。

こうゆうりん 【公有林】 地方公共団体の所有する森林。わが国森林の12%を占め，都道府県有林107万ヘクタール，市町村有林134万ヘクタール，財産区有林56万ヘクタールが存在する。利用形態としては，公共団体直轄のものと地元住民の利用に供されるものとがある。

こうよう 【黄葉】 ⇨次項

こうよう 【紅葉】 秋に葉が紅色に変わる現象。黄色に変わる現象を黄葉という。

紅葉はカエデ類などに著しく，原因は葉の細胞液にアントシアン*などの紅色色素(フロバフェン)が蓄積するためである。この色素生成の一つの条件として葉柄の基部に離層ができ，糖の移動が妨げられて葉に蓄積することが考えられている。木の枝を環状除皮して糖の移動を妨げると，人工的に紅葉させることができる。これに対して黄葉は，葉緑体のクロロフィルが秋の落葉前に分解する結果，葉の中に残されたカロチノイド系の黄色色素が目だつためであり，イチョウなどに著しい。〔吉田精一〕

こうよう【効用】特定の財が人間の欲望を満たす力をいう。人間の経済行為は結局において欲望の充足にあると考えられるから，一般に財はこの欲望充足のための手段とみなされ，各人の欲望充足の程度，すなわち効用によってその財は評価される。これは各人のその財に対する主観的評価に基づくものであるから，直接各人の効用を測定することは不可能であり，また同一の人間の異時点間の効用も客観的に測定不可能であるという性質をもっている。→限界効用→限界効用学派〔藤枝省人〕

こうよう【衡陽】ホンヤン 中国，湖南省南部の都市。耒水(らいすい)と湘江(しょうこう)の合流地点に位置し，京広鉄道(北京(ペキン)～広州)と湘桂(しょうけい)鉄道(衡陽～友誼関(ゆうぎかん))がここで出会う。小汽船は夏季にはここまで通じ，水陸交通の結節点となっている。米をはじめ，麻・かや・網・綿糸・綿布などの産がある。近年は農業機械・器具などを生産する工業都市として発展してきた。北方の衡山は名勝の地として知られ，四大書院の一つに数えられる石鼓(せきこ)書院などの旧跡もある。〔千田 稔〕

こうようご【公用語】国家が公式に定め，公文書に使用する言語。歴史的・政治的・民族的理由によって必ずしも1国家1公用語とはかぎらず，また土着語が公用語であるともかぎらない。スイスではドイツ語・フランス語・イタリア語の3言語が公用語であり，またかつてのインドシナ3国におけるフランス語のように，被支配国には支配国の公用語がおのずと適用された。近代の独立国家の誕生とともに，公用語も有力な土着語が採用される傾向にあるが，公用語とされなかった土着語を話す人々の反感が国家内の政治的内紛の原因となることも多い。たとえば，ウルドゥー語を公用語とする東西パキスタンではベンガル語を土着語とする東パキスタン側の根強い不信感があることなど，その一例である。〔崎山 理〕

こうようざん【広葉杉】裸子植物・スギ科。中国原産の常緑針葉高木で，神社や寺院に植えられている。高さ30m，直径60～70cmに達するものがある。葉は披針(ひしん)形で先がとがり，かたくて表面に光沢があり，枝に2列になって密生する。雌雄同株で，雄花は楕円(だえん)状で多数集まって枝先に，雌花は卵形で単独で枝先につく。



コウヨウザン



コウライウグイス

こうようじゅ【広葉樹】針葉樹*に対する名称で，被子植物のうちあまりかたくない広い葉をもつ樹木をいう。冬，落葉する落葉広葉樹(ブナ・ウメ・サクラなどが含まれ，夏緑林を形成する)と落葉しない常緑広葉樹(ツバキ・アラカシ・シイ・クスなどが含まれ，照葉樹林を形成する)がある。前者は温帯から寒帯に分布し，後者は熱帯から暖帯に分布している。

こうようじゅりん【硬葉樹林】温帯の海洋性気候の地域に発達する植物群系。この地域は，夏に降雨量が少なく乾燥し，冬は比較的低温であり，耐乾質の強い常緑の木本植物(硬葉樹)が繁る。木は背が低く，枝がこみあって出ており，幹は太く，厚いコルク層をもつ。葉は小形で，含水量が小さくかわいているためかたい。わが国では瀬戸内海沿岸や中南部太平洋岸にわずかにみられる。地中海沿岸にはコルクガシ・オリーブ・ビャクシン・マツ・ナギイカダなどの典型的な硬葉樹林が発達している。オーストラリアのユーカリ林もこれに属する。特に乾燥のひどい地域では，硬葉樹に混じってサボテンや鱗茎(りんけい)をもつ耐乾質の強い草本が生育する。〔船越真樹〕

こうようしょくぶつ【硬葉植物】耐乾質の強いかたい葉をもつ植物の総称。葉は含水量が小さく，かわいている。オリーブ・ユーカリ・コルクガシなどの常緑樹は，地中海・オーストラリア沿岸部で硬葉樹林*を形成する。内陸の乾燥地(プレーリー・ステップ・パンパ)ではイネ科の草本植物を中心とする草原をつくる。

こうようちょう【紅葉鳥】鳥類・キンパラ科。アフリカの全土に分布する。わが国には古くから輸入されているが，繁殖の記録は少ない。ジュウシマツ*よりやや大きく，繁殖期には雄は背面かっ色で，ほおは黒色，頭部と胸は桃紅色になる。非繁殖期はヒバリ*に似る。巣をつくることが好きで，巣材さえあれば球状の巣をつくるといわれる。おとなしい鳥で，他鳥との同居もする。

こうよぜんらんず【皇輿全覧図】中国全土にわたる最初の実測地図。清(しん)の聖祖康熙帝(こうきてい)時代の作。宣教師ブベやレジスらが9年間にわたって実測し，1708年に完成させたもので，雍正帝(ようせいてい)のときに印刷して大臣たちに配った。のち高宗のときにも改訂を加え，《内府地図》あるいは《中外一統輿図》の名で刊行され，最近に至るまで権威を保った。原図が康熙年間にフランスに送られ，ダンビルによって銅版に復刻されて世界に知られた。

こうらい【高麗】10世紀の初めから14世紀末まで続いた朝鮮の王朝。建国者王建(太祖)は松嶽(しょうがく)郡(開城)出身の軍人で，新羅*(しらぎ)末期の混乱に乗じ，918年独立。開城を都として国名を高麗と称した。935年新羅を合併し，翌年全半島を統一。中央集権的官僚国家をつくり，11世紀には全盛期を出現した。しかし官僚が貴族化すると，対抗勢力として起こった武人に政権が移った。1231年には元の侵入を受け，第23代高宗は開城を捨て江華島に避難したが，連年の侵入に屈して1238年ついに降服。以後は完全な元の属国となり，1274年および1281年の元の日本遠征(→文永・弘安(こうあん)の役)には人員・物資を徴発されて先導役をつとめた。14世紀になると倭寇(わこう)のためにに国土はさらに荒廃した。元が滅んで明(みん)が成立すると，旧体制維持の保守派と明への接近をはかる進歩派とが対立し，1392年親明政策を掲げる李成桂(りせいけい)が李朝*を立てた。高麗では国初から仏教をもって思想を統一したが，元の支配下では朱子学が輸入されて国定の学問となった。美術工芸では陶磁器が最もすぐれており，ことに高麗青磁が名高い。〔日比野丈夫〕

こうらいうぐいす【高麗鶯】鳥類・コウライウグイス科の鳥の総称およびそのうちの一種をいう。旧世界の熱帯を中心に分布し，28種があり，温帯に繁殖分布するものは渡りをする。大きさはムクドリ級のものが大半で，黄色と黒色の羽毛をもつものが多い。樹の上層部でおもに生活し，枝の叉状(さじょう)部にハンモック型のつり巣を掛ける特徴がある。

コウライウグイス科の一種であるコウライウグイスは中国では黄鳥ともいい，中国東北部・朝鮮で繁殖するムクドリ大の鳥で，翼と尾の大部分は黒色，眼部から後頭部にかけて黒色帯があり，他の部分はあざやかな黄色。少数が対馬(つしま)・日本海沿岸を渡りの途中に通過する。〔安部直哉〕

こうらいきじ【高麗雉】鳥類・キジ科。朝鮮から移入されたキジ*の亜種で，キジと同大。雄のくびに白色の首環状の羽毛があり，それより上部は青緑色，下面と背面は黄かっ色。雌は全体にじみな黄かっ色。日本産のキジが天然分布していなかった北海道に移殖されたものは，以後そこでよく繁殖し，現在では，局地的に数多く生息している。

こうらいしば【高麗芝】単子葉植物・イネ科。暖地にはえる多年草。庭園・公園などの芝生(しばふ)をつくるのに用いる。シバよりも葉が繊細で，柔らかく，土をはう。日あたりのよい所や暖地でよく繁殖。➔シバ

こうらいずきょう【高麗図経】中国，宋(そう)の徐兢(じょきょう)の高麗*での見聞視察記。正しくは《宣和奉使(せんなほうし)高麗図経》という。1123年徐兢は宋の国使路允迪(ろいんてき)の随員として高麗に行き，都の開城滞在中に記録，翌1124年まとめあげた。図はなくなったが，当時の高麗事情に対する外国人の観察として非常にすぐれている。

こうらいちゃわん【高麗茶碗】朝鮮で焼かれた茶碗類の総称。室町後期に侘(わび)の意識を求めたいわゆる侘茶に好尚(こうしょう)が移ると，茶人は朝鮮の茶碗に着眼して高い評価を与えた。遺品には高麗時代のものは少なく，大部分は李朝(りちょう)にはいってからつくられているが，当時かの地を高麗と称したことからこの名がある。作品は，文禄(ぶんろく)・慶長の役以前は，日常の雑器として焼かれた碗類を茶碗に見立てたものが主流で，役以後はわが国の茶人の好みで，注文によって茶碗としてつくられたものに中心が移ったが，日本人が南部の釜山(ふさん)で焼いた対州茶碗もある。窯跡は判然としていないが，慶尚道(けいしょうどう)・全羅道(ぜんらどう)を中心におもに南朝鮮で焼かれたと推測され，形体・素地・釉(うわぐすり)・作風などから江戸初期の茶人によって名づけられたさまざまの呼称がある。➔井戸茶碗　〔矢部良明〕

ごうらおんせん【強羅温泉】神奈川県足柄下郡箱根町にある温泉で，泉温47～70℃。泉質は硫化水素・セッコウ含有リョクバン泉で，皮膚病・神経痛・リウマチによいといわれる。早雲山の東斜面の標高600mに位置し，大涌谷(おおわくだに)から引き湯している温泉郷である。ここから早雲山へはケーブルカーが通じている。付近には箱根自然博物館・強羅公園・箱根美術館があり，会社の保養所や別荘も多い。また，毎年8月中旬に催される大文字焼きは有名。小田原から箱根登山鉄道が通じ，バスの便もある。〔木村東一郎〕

こうらくえん【後楽園】東京都文京区にある純日本式の庭園。総面積68,900m²。1629年(寛永6)水戸(みと)初代藩主徳川頼房(よりふさ)が将軍徳川家光(いえみつ)から与えられた土地に別邸を建て，2代光圀(みつくに)が手を加えて後楽園と名づけた。園内各所に日本や中国の名勝地になぞらえた川・滝・島などを配している。現在庭園は東京都の管理になっているが，付近には後楽園球場*や遊園地をはじめとする大衆娯楽センターもある。〔菊池万雄〕



コウライキジ



高麗茶碗《有楽井戸》東京国立博物館蔵



後楽園(岡山)　園内の築山〈唯心山〉から沢ノ池島茶屋を見たけしき。正面奥の方には，美しく手入れされた茶園が見える



高　欄　長谷寺

こうらくえん【後楽園】岡山県岡山市にある日本三名園の一つ。江戸時代に藩主池田綱政(つなまさ)が家臣津田永忠に命じて築造したもので1686年(貞享3)起工，1700年(元禄13)竣工(しゅんこう)の14年間を要した遠州流回遊式の日本庭園。総面積約115,000m²。園内に引かれた流れは四つの池を回流し，池畔には延養亭(えんようてい)・望湖閣・廉池軒(れんちけん)などがある。旭(あさひ)川をはさんで岡山城の対岸に設けられ，はじめは茶屋屋敷といったがのちに後園，1871年(明治4)後楽園と改称した。現在は県営で公開されている。〔菊池万雄〕

こうらくえんきゅうじょう【後楽園球場】東京都文京区春日(かすが)町，もとの後楽園*の一隅(いちぐう)にある日本の代表的野球場。1937年(昭和12)9月11日，株式会社後楽園スタジアムの手で開設された。本塁から両翼までの距離90m，中堅まで120m。収容人員50,000人。照明塔は8基。プロ野球の読売ジャイアンツ・日本ハムの本拠地球場で，ロッテオリオンズの準フランチャイズだが，本格的な賃貸球場としてわが国ではユニークな存在。夏には年中行事として，都市対抗野球が行なわれている。

こうらなめくじ【甲羅蛞蝓】軟体動物・腹足類・コウラナメクジ科。淡黄色の地に暗かっ色の雲状紋があり，体長7cmに及ぶ。外観はナメクジに似ているが，体の前端近くの背上に長楕円(ちょうだえん)形で外套膜(がいとうまく)に包まれた笠形(かさがた)の透明な殻(から)がある。ヨーロッパ原産であるが世界じゅうに広がり，日本でもほぼ全土に分布し，主として都会の台所にすむ。なお，わが国にはこれの近縁種が3～4種はいりこんでいる。

こうらん【高欄】社寺建築様式の技法でつくられた手すり。勾欄とも書く。縁・廊下・階段・仏壇・橋梁(きょうりょう)などにつけられる。下から地覆・平桁(ひらげた)・架木(ほこぎ)の3本の水平材と，これをささえる束(つか)などからなる。すみのところで3本の水平材が組まれ，先端が水平に突き出るのを組高欄といい，そのうち架木の先端に上方へのそりをつけたものを刎高欄(はねこうらん)，高欄のすみや端に擬宝珠柱(ぎぼしばしら)を立てたものを擬宝珠高欄，階段に立てたものを登り高欄という。〔渡辺保忠〕

こうり【行李】つづら*の一種で，ヤナギ・タケなどで編んだ長方形のかぶせぶたつきの容器。コリヤナギの小枝で編んだ柳行李と竹を編んだ竹行李の2種がある。古くから用いられ，正倉院にも行李の前身をなす白葛箱(しろつづらばこ)や柳箱がみられる。旅行に衣類や雑物を入れて携行するのに便利であったため，庶民の衣料運搬具・貯蔵具として江戸時代以後一般に普及した。

こうり【公理】数学において，一つの理論の基礎となる命題。数学は，定義を与えないいくつかの用語についての若干の命

題を真であると仮定し，これだけを基礎として，形式的に推論を進めるものである。数学に対するこの立場を公理主義といい，ドイツの数学者ヒルベルト*がはじめて唱えて以来，現代数学を支配する思想となっている。〈公理系の性格〉公理は，それが真理であるかどうかということは，数学では問題にしない。いわば，単なる仮定ともみられるので，公理系(一連の公理の集まり)から導かれた一つの理論が正当であるかどうかということは，その公理系の無矛盾性による。その公理系から，互いに反対の内容を意味する命題をけっして導き出すことができないならば，その公理系は無矛盾であるという。公理系の性格としては，無矛盾性のほかに，理論構成に必要なすべての公理が述べられていること(完全性)，一つの公理がその公理系の他の諸公理からは導けないこと，換言すればむだな公理はないこと(独立性)，などが問題となる。〈公理の例〉(ペアノの公理)自然数のすべての性質は，〈1，自然数，後者〉の三つのことばを無定義術語として，次の公理系から導かれることを，イタリアの数学者ペアノ*が示した。

①1は自然数である。

②自然数aに対して，ただ一つの後者a^+が自然数の中に存在する。

③1を後者とする自然数は存在しない。

④$a^+ = b^+$ ならば $a = b$

⑤自然数の集合が，1を含み，aを含めば，その後者a^+をも含むとする。そのとき，この集合はすべての自然数を含む。→数学的帰納法 〔青柳雅計〕

ごうりかカルテル【合理化カルテル】コストの切り下げを目的として結ばれた独占的な企業間協定，またはそれに基づく水平的な企業間の結合をさしていう。わが国では1953年(昭和28)2月の独占禁止法*緩和により，適用除外カルテルとして不況カルテル*とともに認められた。利潤割り当てカルテル・注文割り当てカルテル・生産割り当てカルテルなどがあり，割り当てカルテルともよばれる。加盟企業に対して企業の基本的な活動自体を割り当てるカルテル中央機関(一般にシンジケート*とよばれる)をもつ。→カルテル 〔加藤 寛〕

こうりがし【高利貸し】高利をむさぼって金を貸すこと，またはそれを業とする者をいう。金銭を目的とする消費貸借上の利息*については利息制限法によってその最高限が定められている(利息制限法1条)。契約による利息が法定の利息計算よりも超過すれば，その超過した部分については無効である。しかし経済生活の不安定なときには，これら利息制限法に違反する特約で金銭の貸し借りをするのがむしろ普通となる。しかし，相手方の困難・無知・軽率に乗じてなされた高利貸し契約は，公序良俗*に反するから無効である(民法90条)。→利息制限法 〔黒木三郎〕

ごうりきはん【強力犯】暴行を用いる犯罪の総称。知能犯*に対して用いられる。刑法には，暴行罪*・逮捕罪・監禁罪*・傷害罪*をはじめ恐喝(きょうかつ)罪*・強盗罪*などがあり，いずれも人の身体に対し殴打などの有形力を行使するのが特徴。特別法として暴力行為等処罰に関する法律があり，暴力団などの集団的暴力行為や，常習的暴力行為を刑法の刑よりも重く，かつ広範囲に処罰することにしている。その他銃砲刀剣類所持等取締法などがある。〔野口恵三〕

こうりしゅぎ【功利主義】すべての事物や人間行為をその効用や利益によって評価しようとする思想。18世紀から19世紀にかけてイギリスにおいて影響力をもった。ベンサム*・J.S.ミル*に代表される。事物や人間行為の効用と利益が大きければ大きいほど,それは倫理的にもより正しいものとされる。人間の幸福(利益)の積極的追求を奨励する思想である。このような功利主義的思考は現代のプラグマチズム*(実用主義)に大きな影響を与えた。それは事物を〈機能〉の側面において評価しようとするものであり，悪の効用を認める点が最大の特徴であるといえる。ベンサムによれば，人間行為の第一原理は〈最大幸福原理〉であり，人はつねに自己の〈最大幸福〉を求めて活動するものである。それゆえ人が自己の〈最大幸福〉を求めて自由に活動できる社会が最高に理想的な社会となる。そのような社会は競争によって自己の利益を増大することのできる競争社会であり，個人主義*の貫徹されている社会である。それは，いわゆる近代ブルジョア社会にほかならなかった。功利主義は，人間を調和の体系としてとらえつつ，身体的強弱を除けばその能力において人間はほぼ平等であるとする，人間平等観をとっていた。このため競争こそが最高の幸福追求手段であると考えられたのである。その意味で功利主義は典型的なブルジョア思想であるといえる。功利主義は個人の自由な経済活動を最重要視したため，国家*を〈必要悪〉であるとしつつ最大限のレッセ-フェール*(自由放任主義)を主張した。近代ブルジョア社会論の最大の特徴は放任と競争による調和の実現を前提としており，それは合理主義的な人間観に基づいて主張されたものであった。→合理主義〔西尾孝司〕

ごうりしゅぎ【合理主義】16世紀から18世紀にかけて近代ヨーロッパにおいて自然科学とともに形成された思考方法。中世における蒙昧(もうまい)な宗教や迷信*を打破し，自然を法則において認識しようとする近代自然科学とともに形成され，発展した。自然観・人間観・社会観を構成し，人間をあくまでも理性的存在であると考え，人間を理性*という法則においてとらえようとするものである。その場合，理性とは人間の論理的思考能力ないしは算術的計算能力を意味する。合理主義においては人間は本能や一時的な感情的衝動によって行動するものとは考えられず，あくまでも理性的な計算によって行動するものと考えられている。そのような人々の単なる集合体にすぎないと考えられた社会も合理的体系としてとらえられ，自然や人間と同じく社会は調和体としてとらえられた。自然科学における近代合理主義は〈自動機械〉に象徴される。〈機械〉とは法則的に自動回転し，最もムダの少ない効率と能率のよい体系だからである。合理主義はそのような〈機械〉をモデルとして近代的人間像をつくりあげた。そこでは人間は〈機械〉と考えられている。人間は〈理性機械〉と考えられているのである。それは人間の思考と行為からいっさいの非合理的なものを排除し，人間を合理性の貫徹体系と考えている。そしてそのような考え方は社会観にも適用され，社会は整合的な機械体と考えられた。それはレッセ-フェール*(自由放任主義)の思想的根拠を提供したのである。合理主義は近代精神の核心となるものであり，近代的思考とは合理的思考にほかならない。近代的人間像は勃興(ぼっこう)しつつあった産業のにない手である〈経済人〉をモデルにして構成されたが,〈経済人〉の精神こそ合理主義精神の典型であった。それは最少の費用で最大の利益をあげようとする資本主義的合理性にほかならなかった。近代合理主義は資本主義の精神として結実するのである。→功利主義 〔西尾孝司〕

こうりしょう【小売商】最終の消費者に向けて直接に販売することをその主なる営業活動とする売買業者をいう。小売商は,商品を仕入れ，それを最終の消費者に販売することによって，三つの効用，すなわち，所有の移転による効用，場所の移転による効用，時間の調節による効用を発揮する。小売商の形態はいろいろの観点から分類できるが，いくつかの分類基準を次にあげておく。①消費者との接触の方法からみた分類：㋑店舗販売店(自分の店をもっているもの，売り場を賃借しているもの),㋺通信販売店，㋩戸別訪問販売店。②取り扱い商品の種類からみた分類:㋑単種品店(これはさらに商品の種類別に分類される),㋺複種品店(よろず店・多種品店・百貨店*・通信販売店,その他の複種品店)。③提供するサービスの程度からみた分類：㋑完全サービス店，㋺限定サービス店(現金持ち帰り店)，㋩セルフサービス店。④所有関係からみた分類：㋑単独小売店(それらが任意に結びついたボランタリー-チェーン*および協同組織を含む)，㋺チェーンストア，㋩消費生活協同組合，㊁メーカー直販店，㊭官庁および会社の購買部。〔清水 晶〕

ごうりせい【郷里制】律令(りつりょう)時代の地方行政制度。大宝律令では国・郡*・里*の3段階で地方行政制度が定められたが,

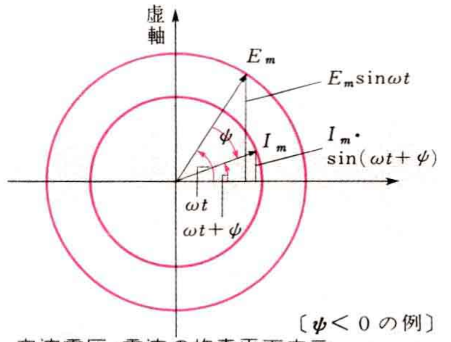
715年(霊亀1)里が郷*に改められ，郷の下に二，三の里が新しく置かれることになった。すなわち国・郡・郷・里の4段階になったが，この改正は唐の州・県・郷・里制にならったものとみられている。郷は法制上50戸を単位として構成されているが，里はどのような基準で設けられたか明らかでない。郷には郷長，里には里正が置かれて末端の地方行政事務にあたった。徴税をはじめ国民支配を強化するために郷里制の設置となったとする見解がある。740年(天平12)を境にして里制は文献から姿を消している。以後，里は距離の単位，条里制*の一区画を意味することとなった。〔高崎徳次〕

こうりつ【工率】⇨仕事

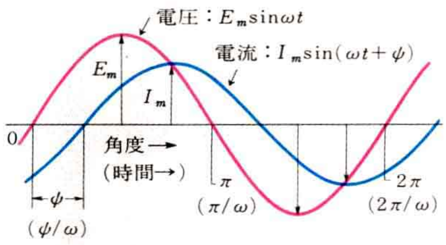
こうりつ【効率】機械のする有効仕事とこれに供給したエネルギーとの比。この比はつねに1よりも小さく，実際にはパーセントで表わすことが多い。熱機関の場合は，高温熱源から熱を吸収し，低温熱源へ熱を放出し，その差を仕事に変える。この場合の効率ηは，温度T_1の高温熱源からQ_1の熱を吸収し，温度T_2の低温熱源へQ_2の熱を放出し，仕事Wを外界に与えると，$\eta=W/Q_1$で表わされる。サイクルが可逆的である場合は，温度T_1，T_2のみに依存し，サイクルを実現する手段にも，また用いられる作業物質にも無関係に一定であることが知られている。さらに任意のサイクルの中で最大の効率をもつことが熱力学第1・第2法則*より示される。また逆に最大効率は可逆サイクルによってのみ得られる。そのとき，効率は，温度としてケルビン温度を用いると，$\eta=(Q_1-Q_2)/Q_1=(T_1-T_2)/T_2$である。しかし，実際の熱機関は，いろいろの損失が加わるために，一般に効率は低く，蒸気機関で最高15%，蒸気タービン・内燃機関で40%ぐらいである。電動機では90%以上のものもある。〔中野藤生〕

こうりつてきようせい【高率適用制】第2次世界大戦後，日本銀行が資金の超過需要を制限するために設けた罰則制度。市中銀行に対する手形貸し付けが一定額を越えると，その超過額に対して公定歩合*より高い利率を適用する。第1次高率適用と第2次高率適用の2段階に分けて実施されていたが，1962年(昭和37)金融正常化政策の一環として，高率適用制は廃止され，貸付限度額適用制度*に改められた。

こうりぶっかしすう【小売り物価指数】経済指標の一種。小売り段階の物価水準の変動をはかるための指数で流通過程における貨幣価値の変動を表わす。小売り物価指数は日常生活において重要なウエートを占める商品について，毎月の小売り市場における価格を調査し，その指数の作成によって，小売り物価変動の状況を明らかにすることを目的とするもので，産業経済の動向に関する資料の一つとなる。指数計算に用いる算式は各品目別指数の固定ウエートによる加重算術平均式。1968年(昭和43)3月までは日本銀行が東京小売り物価指数を，1970年3月までは日本商工会議所が全国小売り物価指数を発表していたが，現在は全国主要都市ごとに各地の商工会議所によって，各地域ごとの小売り物価指数が集計されている。代表的なものは東京商工会議所の東京小売り物価指数で，調査品目は202，ウエートは1964年《商業統計表》の小売り販売をもととしている。価格の基準時は1965年。



交流電圧・電流の複素平面表示



交流電圧・電流の基本波形

交　流　交流電圧・電流の表示

こうりゃん【高粱】単子葉植物・イネ科。中国北部原産の一年生栽培植物。モロコシの仲間であるが，小穂の第1穎(えい)の全面に細い脈がある点で区別できる。穎果を食用とするほか，酒をつくるのに用いられる。モロコシは高さ2～3mに達する一年草で，葉は長さ50～60cm，幅6cmで，先はたれ下がり，基部は鞘(さや)となる。8～9月，茎頂に花茎を出して多数の小穂をつける。穎果を食用とする。茎に糖分を含んでいるサトウモロコシや，花穂の枝が長く伸びてホウキのようになるホウキモロコシなど種々の品種がある。

こうりゅう【交流】流れの方向が周期的に時間とともに変化する電流。交番電流の略称。交流には正弦波交流とひずみ波交流がある。前者は電圧・電流の波形が$e=E_m\sin\omega t$，$i=I_m\sin(\omega t+\phi)$で表わされるように，時間とともに正弦波状に変わっていく。E_m，I_mを電圧・電流の最大値，ωを基本角周波数($\omega/2\pi=f$=周波数)，ϕを電圧と電流の位相差という。ある負荷に交流電圧eを印加したときに，電流iが流れ込んだとすれば，電力消費の瞬時値は$e\cdot i$，平均値は$\frac{1}{2}E_m\cdot I_m\cos\phi=(E_m/\sqrt{2})\cdot(I_m/\sqrt{2})\cos\phi$ワット。$E=E_m/\sqrt{2}$，$I=I_m/\sqrt{2}$はそれぞれの実効値，$\phi$を力率角，$\cos\phi$を力率とよぶ。また，$E\cdot I\sin\phi$を無効電力(バール)，$E\cdot I$を皮相電力(VA)という。

交流電流の流れにくさを表わす尺度にインピーダンス*があり，次のように定義される。$\dot{Z}=\dot{E}/\dot{I}\equiv R+jX$。$j=\sqrt{-1}$(虚数)，$R$を抵抗，$X$をリアクタンス*という。インピーダンスの逆数をアドミタンス*という。

交流には単相交流*・3相交流*・多相交流があり，いずれも変圧器によって電圧の昇降が容易である点が直流にまさっている。また，3相以上の多相交流は回転磁界を容易につくることができるので，誘導電動機・同期電動機などに利用され，電動力応用の基本をなしている。現在，電力会社で実施している自動周波数制御*によって周波数が安定しているので，回転磁界の速度も安定し，交流電動機で回されるセメントミル・給水ポンプの効率も高く保たれる。

基本周波数の整数倍の周波数をもつ交流を高調波といい，ひずみ波交流は，理論上，直流と周波数の異なる多くの正弦波交流の集まりとみることができる。〔田村康男〕

こうりゅう【勾留】被告人または被疑者が住所不定であったり，逃走のおそれ，証拠湮滅のおそれがあったりする場合や裁判所または裁判官が被告人・被疑者を監獄*(代用監獄である警察留置場を含む)に留置しておく強制処分のこと(刑事訴訟法60条)をいう。勾留の手続きには勾留状の発布が必要であり，起訴前の勾留状は検察官が請求することとされている。勾留は，逮捕*・勾引*などの強制処分よりも期間が長いため，

東京小売り物価大分類指数表　　1965年＝100.0

	総平均	食料品	繊維品	建材家具	燃料	機械器具	雑　品
ウエート	1 000.0	421.0	209.6	108.5	26.3	68.8	165.8
調査品目数	202品	95品	28品	13品	7品	16品	43品
1966年	103.4	104.8	102.3	104.0	97.4	97.6	104.4
1967年	105.7	106.8	104.8	110.9	97.3	98.6	105.6
1968年	108.1	112.2	102.3	114.3	98.8	99.0	106.6
1969年	111.2	114.6	105.0	117.1	98.9	98.3	113.8
1970年	116.1	119.3	110.1	120.8	101.6	99.4	121.8
1971年	118.9	122.0	114.3	119.7	108.8	100.3	125.8

東京商工会議所《東京小売物価動向》(1971年12月)

濫用されるおそれがある。このため，保釈制度および勾留期間を設けて制限している。前者は被告人らの請求によるもので，特定の場合を除き保釈を認めざるをえない制度(権利保釈)である。後者は，被告人(起訴後)については原則として2か月で，必要により1か月の延長が認められる。被疑者については，原則として10日，最大限20日である。勾留された期間は実質的には刑期と同じであるので，判決確定のときに刑期に算入され，その分だけ刑の執行が免ぜられる。なお，勾留は有罪確定前の場合であるから，1日以上30日未満の間，犯罪人を拘留場に拘置する拘留(刑法16条)とは異なる。〔井上公耳〕

こうりゅう【拘留】拘留場に1日以上30日未満拘禁する刑のこと(刑法16条)。主として軽犯罪法に違反した者に科せられる。拘留場(監獄の一種)に留置するのがたてまえだが，実際は代用監獄である警察留置場に拘禁される場合が多い。このことは，受刑者の改善に役だたないのみか悪化させるおそれすらあり，問題である。

こうりゅうじ【広隆寺】京都市右京区太秦(うずまさ)蜂岡(はちおか)町にある真言宗の大本山。太秦寺・秦公(はたのきみ)寺・蜂岡寺・川勝寺などの異称がある。603年(推古11)秦河勝(はたのかわかつ)が聖徳太子から仏像を賜わり，それを安置するため，622年建立(こんりゅう)したと伝えられる。現在の寺地に移ったのは平安遷都前後と推定されているが，旧寺地は紙屋川右岸にあり，同地方に繁栄していた秦氏の本拠地にあった。818年(弘仁9)・1150年(久安6)の両度にわたって火災で焼失，そのたびに再興されたが，鎌倉時代以降はしだいに寺運は沈滞に向かった。飛鳥(あすか)時代の〈弥勒菩薩(みろくぼさつ)半跏像(はんかぞう)〉ほか19の国宝と49の重要文化財を蔵する。毎年10月12日夜に行なわれる牛祭は有名。〔高崎徳次〕



広隆寺　講堂の一部

こうりゅうせいりゅうしでんどうき【交流整流子電動機】⇨電動機

こうりゅうでんききかんしゃ【交流電気機関車】外部から交流を受け入れて電動機を駆動する機関車。電流供給方式には，低周波単相，三相交流，商用周波単相交流方式があるが，わが国では商用周波単相交流方式が採用されている。また，電気機関車の面からもいろいろな方式があるが，一般的なものは直接式と整流器式である。直接式機関車とは駆動電動機として単相交流直巻整流子電動機を使用するもので，電力変換装置を経ず直接架線から得た電圧を主変圧器で降圧して使用するから，整流装置が必要でなく車体構造が簡単になるが，電動機の保守がむずかしく，粘着性が乏しいため，現在国鉄では採用していない。整流器式機関車は架線電圧を主変圧器で降圧してから整流器で直流に整流し，直流電動機を駆動するものである。整流器にははじめのころは水銀整流器が使われていたが，近年，半導体に関する技術の進歩によってシリコン整流器が実用化されるようになり，現在ではこの方式のものが主流を占めている。〔三宅　良〕

こうりゅうでんどうき【交流電動機】⇨電動機

こうりゅうはつでんき【交流発電機】⇨発電機

こうりょう【香料】芳香性があり，嗅覚(きゅうかく)を刺激して快感を与えるもの。酒・飲食物に添加されたり，衣服・身体につけるものとして古くから用いられ，4,000〜5,000年前から使用されている。

〔種類〕香料には大別して天然香料と合成香料とがあり，天然香料はさらに植物性香料と動物性香料とに分類される。植物性香料は植物の花・葉・果実・果皮・材・樹皮・根などからとれるもので，ラベンダー油・ジャスミン花油・ローズ油・ヘリオトロープ油・苦扁桃油(くへんとうゆ)・サッサフラス油・イランイラン油・サイム油・アニス油・丁字油・肉桂油(にっけいゆ)(カシア油)・薄荷油(ペパーミント油)・ベルガモット油・ネロリ油・ローズマリー油・オレンジ油・レモン油など多種類ある。動物性香料には，麝香(じゃこう)(ムスク)・龍涎香(りゅうぜんこう)(アンバーグリス)・霊猫香(れいびょうこう)(シベット)・海里香(カストリウム)などがある。麝香は，チベット・インド・ネパールなどにすむジャコウジカの下腹部の腺嚢(せんのう)中にあるゴマ粒ぐらいの黒色物質で，これをアルコールで浸出して得られる薄茶色の液をジャコウチンキという。龍涎香は，マッコウクジラの腸内に生ずる病的排泄物(はいせつぶつ)である。霊猫香は，アフリカ・ジャワ・スマトラ産のジャコウネコの雌雄の肛門(こうもん)近くにある分泌腺から出る分泌物である。海里香は，シベリア・カナダなどにすむビーバーの雌雄の生殖腺近くにあるナシ状の香嚢を乾燥したものである。合成香料は天然香料の有香成分を分析したりして，その化学構造を調べて，その成分を合成したり，その香気と同じ物質をつくり混合調合してつくる人工香料で，一般には天然香料に劣る(→合成香料)。

〔製法〕花や葉の精油の最も重要な用途として香料があるが，その精油および動物香料の製造方法には，浸出法・圧搾法・水蒸気蒸留法・抽出法・吸収法の五つがあり，吸収法には温吸収法(マセラシオン法)・冷吸収法(アンフルラージュ法)とがある。浸出法は植物性に対してはバニラ豆・トンカ豆，動物性に対してはジャコウジカ・ジャコウネコ・ビーバー・マッコウクジラから香料をとるとき使用される。圧搾法はベルガモット・レモン・オレンジなどの柑橘(かんきつ)類の果皮を圧搾してつくる精油の製造に，水蒸気蒸留法は揮発性芳香油を水蒸気蒸留によって分離する方法で，熱処理に弱いジャスミン花油・ツベローズ花油(月下香油)以外の植物の種子・花・葉などから香料を取り出す場合に用いられる。抽出法は石油エーテル・クロロホルム・ベンゾールなどの有機溶剤を用いて，花から花精油を抽出する方法。温吸収法は精製したヘットやラードを少し加熱して，芳香をもつ花類を入れて脂肪に芳香油を吸収させてアルコールなどで分離する。冷吸収法は植物をヘットやラードに接触させて芳香油を吸収させ，これをアルコールにとかし，抽出液を凍らせてアルコールに可溶性のグリセリドを除去する。

〔用途〕香水・化粧品・せっけんなどが主だが，香料の種類によっていろいろある。たとえば，優雅な香りのジャスミン油は高級香料に，ラベンダー油は化粧品香料(特に主として男性用のローション・オーデコロン)に，丁字油は医薬品・化粧品および食料品香料として，ベルガモット油は化粧品・食品・タバコ香料に，ショウノウ油は除虫防臭剤に，バイオレット油・龍涎香は高級香料に用いる。〔桜井俊男〕

こうりょう【綱領】政治団体や労働組合・社会団体などが，その依拠する立場や目的・方針・理念などを示したもの。特に政党は大衆の支持の上にその指導をする立場にあることから，基本綱領をもつことが要求される。政党は一定の政治的な性格を課されており，政党自体の進むべき道，運動の方向を明瞭(めいりょう)かつ具体的に表わさなければならない。したがって，綱領は政党を構成する党員に対する規律的な精神をも意味している。また，選挙に対する政策と基本的姿勢を明示するため，政党は政治の約束ごと(公約)を発表する。しかし，選挙の票集めのためのものにとどまることが多く，政策を遂行する与党側にその破棄が目だちやすい。社会主義政党の綱領づくりはおもにその指導者や一部の理論家たちによる理念と現実の状況判断をもとにした作製の形をとるが，綱領そのものはあくまでも客観的な指導方針の下に示される。保守政党は現状維持をめざすので，みるべき理論的な綱領をもたないことが多い。社会主義政党，特に共産党は，高度に理論的な綱

領をもつのを普通とする。〔溝口 潔〕

こうりょう【江陵】チャンリン 中国，湖北省南部の都市。揚子江の左岸に位置する。春秋時代の楚(そ)国の都，郢(えい)が北方に開け，ここに渚宮(しょきゅう)が営まれた。漢時代よりは江陵県，唐・宋(そう)時代には江陵府，元時代には中興路の主都とされ，明(みん)・清(しん)の荆州(けいしゅう)府江陵県城となる。米・綿花の集散地として周辺地域の中心的位置を占め，また〈荆州どんす〉の産地としても知られる。

こうりょう【後涼】中国，五胡(ごこ)十六国の一。氐(てい)族の指導者呂光(りょこう)が，386年に甘粛省の姑臧(こぞう)に建てた国。403年後秦(こうしん)に滅ぼされた。

こうりょう【後梁】中国，五代の最初の王朝(907～923)。太祖朱温(朱全忠*)・友珪(ゆうけい)・友貞(末帝)の3代。国都は開封。黄巣(こうそう)の乱*のときの部将朱全忠は唐に帰順して開封の節度使となったが，907年唐を滅ぼして独立した。太原の李克用(りこくよう)や揚州の楊行密(ようこうみつ)らと抗争をくり返したが，次子友珪に殺され，友珪を殺した友貞も李存勗(りそんきょく)(李克用の子)に滅ぼされた。

こうりょう【広陵(町)】奈良県北葛城(きたかつらぎ)郡の町。人口18,000。奈良盆地南西部にあり，その東部平地は農村地帯であるが，西部は馬見丘陵にかかり，ため池の多いことと，巨大な巣山古墳を含む馬見古墳群で知られている。またこの地区ではくつした製造業が盛んで，全国生産の四分の一に達する。

こうりょうし【光量子】⇨光子

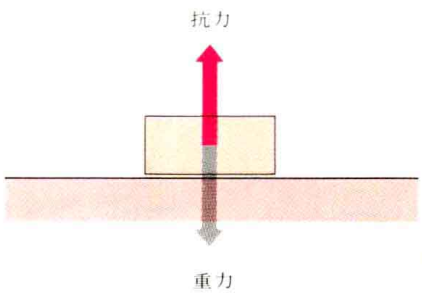
こうりょうしょとう【香料諸島】⇨モルッカ諸島

こうりょうわん【広梁湾】コワンリヤン湾 北朝鮮西部，黄海に臨む大同江口北岸にある湾。沿岸の年雨量約800mm，夏季は高温乾燥で遠浅のため，天日塩田が発達している。湾口は狭いが，湾入は深く，約8kmに及んでいる。

こうりょく【抗力】物体を床の上に置いたり壁にたてかけたりすると物体は床や壁に力を及ぼすが，同時に反作用として床や壁から力を受ける。この力を抗力という。抗力と重力*とがつりあって物体は静止する。また，物体が一つの曲線や面に沿って運動する場合，その曲線や面から力を受ける。この力も抗力という。特に，曲線や面に垂直な成分を垂直抗力とよぶが，それを単に抗力とよぶ場合もある。抗力は物体の運動のようす，物体に働いている他の力，接触面での摩擦の有無などによって変化する。たとえば，曲線を通過する電車は，その曲線の半径，電車の重さと速さに応じた抗力を線路から受ける。なお，流体の中を運動する物体に働く抵抗のことを抗力と呼ぶこともある。〔有山正孝〕

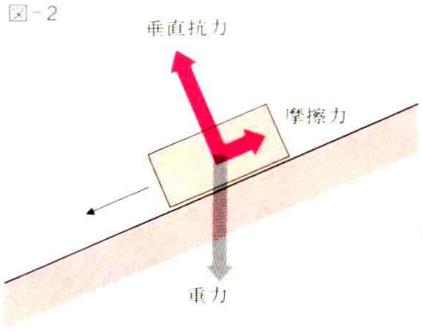
ごうりょく【合力】⇨力

図-1



水平面上に置かれた物体に働く抗力

図-2



摩擦のある斜面をすべり落ちる物体に働く抗力

抗　力

ごうりろん【合理論】理性*はそれだけで客観的真理に到達するに十分であって，感覚的経験は不要あるいは障害ですらあるとする立場。理性主義ともいい，経験論*に対立して用いられる。認識の起源を理性そのものに内在する観念に求め，知識はそれらの生得的・明証的原理から演繹(えんえき)的方法によって必然的に導き出されるとする。なによりも知識の確実性ということを重視するところに特色がある。また，数学と密接に関係し，ユークリッドの《ストイケイア*》はその精神と表現の形式において合理論者の理想であった。

哲学史上，合理論の立場をはじめて明確に打ち出したのはプラトンで，そのイデア論・想起説に端的に現われている。プラトン主義は古代末期・中世を通じて影響を与え，その反映は新プラトン派はむろん，〈啓示〉を〈理性〉に優先させるアウグスチヌス・ボエチウス・アンセルムスらにもうかがうことができる。ルネサンスを経て，コペルニクス・ケプラー・ガリレオらの数学的自然学の成功は17世紀に合理論の最盛期をもたらした。これがいわゆるデカルト・スピノザ・ライプニッツらの大陸合理論とよばれるものである。カントは合理論と経験論との総合を企てて批判哲学*を形成したが，実験的直観と先験的カテゴリーの説において合理論的色彩を濃厚に残している。しかし，ここでいちおうの合理論の終止符が打たれていることも否めない。ヘーゲルに至っては汎理性(はんりせい)主義とでもいうべきで，数学的方法の軽視など伝統的合理論に位置づけるのは疑問である。むしろフレーゲ・ペアノ・ホワイヘッド・ラッセルらの数学の論理学化にライプニッツの〈普遍数学〉の理念が継承されている。〔石井忠厚〕

こうりん【紅燐】⇨リン

こうりんぎょるい【硬鱗魚類】チョウザメ・ポリプテルスなど，硬鱗をもつ下等な硬骨魚類のかつての呼称。硬鱗は真皮内に生じた骨板の表面が，厚くかたいほうろう状物質(ガイノン)でおおわれて形成されたうろこである。系統上かなりかけ離れたいくつかの群に現われるところから，今日ではこの呼称はほとんど用いられない。

こうれいさい【皇霊祭】宮中祭祀(さいし)の一。歴代天皇ならびに皇族の御霊(みたま)を祭る祭典で，毎年春分の日および秋分の日に皇霊殿*において行なわれる。従来，歴代天皇を祭る祭典はそれぞれの天皇の崩御の日に行なわれていたが，1878年(明治11)新たに春秋二期祭を設け，歴代天皇および皇后以下の各皇族の霊を合祭することとなった。春分の日に行なわれる祭典を春季皇霊祭，秋分の日に行なわれる祭典を秋季皇霊祭と称する。なお，第2次世界大戦前はこの日を祭日として国で祝ったが，現在では宮中でのみ行なわれる。〔小林亥助〕

こうれいちさいばい【高冷地栽培】夏の暑さに弱い野菜類を平地で夏つくると，生育が悪く良質の生産物をうることができない。そこで北海道や長野県のように夏季の気温が低く，特に夜の気温が下がる所で，これらの野菜をつくることを高冷地栽培といっている。盛夏のころから初秋にかけて，キャベツ・レタス・トマト・セロリのような野菜が，いわゆる高冷地野菜として市場に出回るが，これは高冷地栽培によって生産されたものである。〔松本正雄〕

こうれいでん【皇霊殿】宮中三殿*のうちの一。歴代の天皇および皇后以下の各皇族の御霊(みたま)を合祀(ごうし)する御殿で，吹上御苑(ぎょえん)の南方にある。毎年，春分の日・秋分の日に皇霊祭*が行なわれる。なお，天皇および皇族のみたまは崩御または薨去(こうきょ)になった1年後にすべて皇霊殿に合祀される。

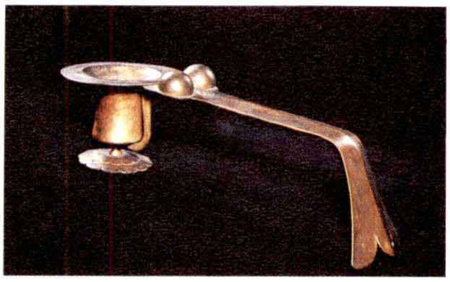
こうれいてんのう【孝霊天皇】生没年不詳。名は大日本根子彦太瓊尊(おおやまとねこひこふとにのみこと)。孝安天皇の皇子。母は皇后押媛(おしひめ)。黒田廬戸宮(いおどのみや)を都とし，細媛(くわしひめ)を皇后として孝元天皇を産む。陵墓は奈良県北葛城(きたかつらぎ)郡王寺町片丘馬坂陵。その実在性は薄い。

こうれんせき【紅簾石】カルシウム・マンガンの含水アルミナケイ酸塩。リョクレン石*と密接な関係にあり，造岩鉱物の一つ。$Ca_2(Mn, Fe, Al)_2AlO \cdot OH(Si_2O_7)(SiO_4)$ 単斜晶系。比重3.4～3.5，硬度6，劈開*(へきかい)完全，屈折率1.73～1.83。紫赤色の柱状，または粒状結晶として変成岩中

に産する。わが国では三波川変成帯*中にコウレン片岩の主成分鉱物として産し，埼玉県長瀞(ながとろ)産のものは天然記念物に指定されている。飾り石として用いられることがある。〔加藤敏郎〕

こうろ【香炉】香*をたく容器。古くインドにおいて薫香の例はあり，仏教経典にも仏前献香の儀が説かれているので，仏具としての起源は古い。金・銀・金銅・青銅などの金属製のほか，陶製・白磁・青磁などがあり，まれに瑠璃(るり)・木製もある。形式は居香炉・柄香炉・釣(つり)香炉に大別され，居香炉には博山炉・火舎香炉・金山寺香炉・蛸足(たこあし)香炉が含まれ，仏具のみに使用される柄香炉には，柄の先端をカササギの尾のように曲げた鵲尾(じゃくび)，柄先に獅子(しし)形のおもしをつけた獅子鎮形，香炉の部分を蓮華(れんげ)に見立てて柄を茎状につくる蓮華形などがある。法隆寺献納宝物中の鵲尾柄香炉は飛鳥(あすか)時代の作で，わが国最古の遺例である。〔河田　貞〕

香席で使用するものは，特に聞香炉(ききこうろ)といって九谷焼や染め付けをしたものが多く，その多くは煙返(けむりがえし)がない。また，窠(か)型をした蒔絵(まきえ)の火取香炉は，もっぱら火を運ぶために使用される。これも，古くはその中で香木をたいていたものであった。〔三条西公正〕





香　炉　(上)《鵲尾柄香炉》(法隆寺献納宝物)東京国立博物館蔵　(下)聞香炉



紅楼夢
林黛玉
《紅楼夢図詠》
(改琦)から

こうろ【高炉】鉄鉱石から銑鉄をつくるための大規模なとっくり状の炉。鼓風炉・溶鉱炉などともよばれる。鉄板で外側をつくり，耐火物で内張りする。量産によるコスト低下をめざして，最近つくられる高炉は著しく大きくなった。高炉に装入される製鉄原料は，鉄鉱石・コークス・石灰石などであって，高炉の下部周辺の送風羽口から加熱空気を吹き込み，炭素によって酸化鉄を還元し，溶解状態で銑鉄を出銑口から流し出す。銑鉄1tあたり鉄鉱石約1.5t，コークス0.4～0.5tを使用する。加熱空気だけでなく燃料として重油を吹き込み，鉄鉱石粉末に石灰石を混ぜた焼結鉱を使用するようになったのは最近の進歩である。1969年(昭和44)末現在，世界最大の高炉は日本鋼管福山製鉄所第3高炉で，炉床径11.8m・高さ92m・内容積3,016m³，日産能力7,000tに達した。わが国で稼動(かどう)している高炉は60基，そのうち内容積2,500m³以上のもの9基を数える。〔川久保正一郎〕

こうろ【航路】航海学上厳密な意味においては，航海の実施にあたって，船がその上を進行するように選定された連続した対地進路，またはすでに船が進航してきた対地進路と定義される。しかし，一般的には船が常時往来する水路のことをいう。船にとっては航路は陸上の道のように固定したものではないが，昔からの長い年月にわたる経験と近代の研究の結果，最も経済的で安全であるような水路ができて，ある港からある港に行くのに通常の船はその航路を通航するのが普通である。航路はいろいろの観点から名まえがつけられるが，次のようなものがある。

①行政的なもの：平水航路・沿海航路・近海航路・遠洋航路など。②経済的なもの：幹線航路(太平洋航路・ヨーロッパ航路など)と支線航路。③経営的なもの：定期航路と不定期航路。④船の種類によるもの：汽船航路と帆船航路，あるいは高速船航路と低速船航路。⑤輸送対象によるもの：貨物船航路と客船航路。〔飯島幸人〕

こうろう【黄老】⇨道教

こうろうい【公労委】⇨公共企業体等労働委員会

こうろうきょう【公労協】⇨公共企業体等労働組合協議会

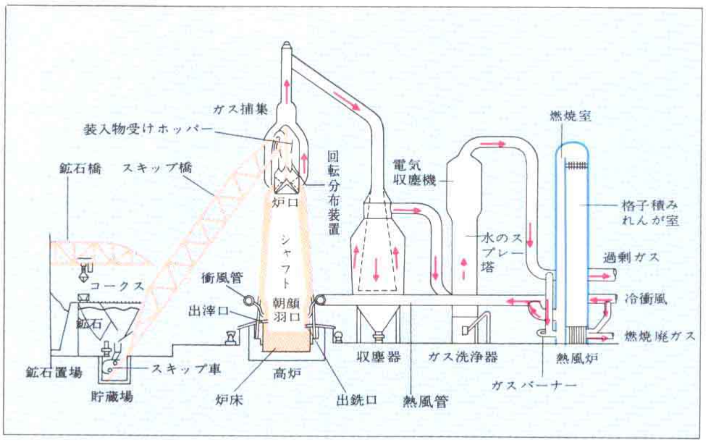
こうろうほう【公労法】⇨公共企業体等労働関係法

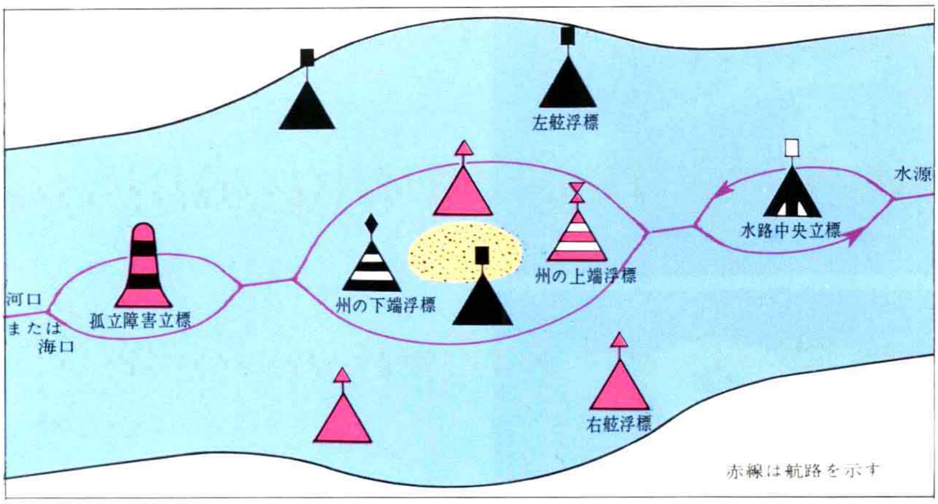
こうろうむ【紅楼夢】中国，清(しん)代の長編小説。全120回。うち前80回は曹雪芹(そうせつきん)(1719？～1763)の原作。後40回は高鶚(こうがく)の続作。曹雪芹は漢人で，満州貴族の待遇を受けた名家の出だが，家運傾き，晩年は落魄(らくはく)した。小説の内容は，都の石頭城に栄華を誇る賈(か)家の少年賈宝玉とそれを取り巻く林黛玉(りんたいぎょく)・薛宝釵(せつほうさ)ら12人の美少女たちとの感情生活を軸として，貴族の家庭生活の明暗・盛衰を丹念にたどったもので，人物の心理描写も詳しく，近代性を備えている。曹雪芹は未完のまま死去し，のち高鶚が続作した。中国で広く読まれ，いまでも近代リアリズム文学の先駆として高く評価されている。〔今村与志雄〕

こうろかん【鴻臚館】律令(りつりょう)時代に外国使節接待のために設けられた施設。唐の鴻臚寺にならったもの。大宰府(だざいふ)・難波(なにわ)(大阪府)および京にあった。起源

高　炉
(左)日本鋼管(株)福山製鉄所第3・第4高炉
(右)断面図







航路標識

は明らかでないが，その前身にあたるものは大化改新以前からあったらしい。10世紀渤海(ぼっかい)が滅び，外国との交渉が絶えると廃滅した。

こうろく【鉤勒】鉤勒とも書き，東洋画の描写技法の一。描写する対象の輪郭を細線でくくることをいう。これに対して輪郭をとらない描法を没骨*(もっこつ)という。鉤勒線はおもに墨線で，その間に色彩を入れることが多い。黄氏体の花鳥画の鉤勒填彩(てんさい)はその代表的な技法である。

こうろしんごう【航路信号】航行中の汽船が，他船を視野の内にみて，互いに海上衝突予防法に従ってその針路を変えようとするときに行なう汽笛信号。針路信号ともいう。次のような方法がある。①短音1回：自船は針路を右に転ずる。②短音2回：自船は針路を左に転ずる。③短音3回：自船は機関を後進にかける。

こうろぜん【黄櫨染】色名。にぶい黄赤色。ハゼおよびスオウの煎汁(せんじゅう)を用い，あくおよび酢を媒染剤として染めた色。820年(弘仁11)に天皇の袍*(ほう)の色として制定されたが，これは中国における天子の赭黄(しゃおう)の袍の影響を受けていると思われる。天皇の晴れの束帯である黄櫨染御袍は，時代によって多少の変化はしたが，現在なお続いている。

こうろひょうしき【航路標識】船舶の安全航行の援助のための燈光・形象・彩色・音響・電波などの手段による人為的施設。日本では海上保安庁が管理をしている。航路標識は，夜標・昼標・霧信号・電波標識および特殊信号に大別される。①夜標：燈火によってその位置を示すもので昼標をも兼ねているが，燈台・燈柱・燈船・燈標・導燈・副燈などがある。②昼標：昼間，船位の測定に利用され，暗礁・浅瀬その他の危険物を警戒させて航路を指導するもので，形状と彩色で所在を標示する。これには，立標・陸標・浮標・導標・みおじるしなどがある。③霧信号：霧・雪その他によって視界不良で陸影や燈火がみえないときに，音を出して信号所の位置を付近航行の船舶に警告するもので，燈台その他の航路標識に付設される場合が多い。④電波標識：電波による航行援助方式で，中波によって電波の到来方位を測定するための中波無線標識局，マイクロ波を発射して方位信号を与えるマイクロ波標識局，その他ロラン局・デッカ局・オメガ局などがある。⑤特殊信号：狭水道などにおいて，特定の信号規程によって船舶の衝突を防止するために船舶の動静を通報する船舶通報信号と，潮流が強くて航行困難な海峡などで，潮流の状況を船舶に通報する潮流信号がある。〔飯島幸人〕

こうろほう【香炉峰】中国，江西省の廬山(ろざん)北部の一峰。山頂に近く岩石が突出して香炉のようにみえるのでこの名がある。白楽天が江州の司馬*に左遷されて山麓(さんろく)にすみ，香炉峰の雪やその付近にあった遺愛寺の鐘などは，彼の詩によまれて特に名高い。

こうわかまい【幸若舞】能の系統に属する民俗芸能の一種。舞々(まいまい)などともよばれた。室町時代，越前(えちぜん)(福井県)の桃井幸若丸直詮(なおあきら)が，草子ものに節をつけて歌ったのでこの名がある。歌の詞章を〈舞の本〉というが，舞の本の内容は《平家物語》《源平盛衰記》《曾我(そが)物語》などから取材した平板な物語である。舞も，烏帽子(えぼし)・直垂(ひたたれ)姿の舞人が，笛・小鼓・太鼓などを伴奏として，歌いながら前進したり後退したり，足拍子を踏んだりする程度の単純なものであるが，その曲調が勇壮活発で男性的であったため戦国の武人に愛され，織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)などの支持者を得ることもできた。江戸時代にはいってからも，幸若丸の子孫は越前に住み，幕府の保護を受けつつ芸を伝えたが，明治維新とともに滅び，現在は，その宗流である大江の幸若舞が福岡県山門(やまと)郡瀬高町大江に遺存しているにすぎない。しかし，幸若舞が謡曲や浄瑠璃(じょうるり)に与えた影響は大きく，大江の幸若舞も芸能史的には生きた貴重な資料である。〔佐藤　薫〕

こうわじょうやく【講和条約】⇨平和条約

こうわん【港湾】⇨港

こうわんろうどうほう【港湾労働法】港湾労働者(港湾内で船の貨物の積み降ろし作業を行なう労働者)の雇用の安定と福祉の増進をはかり，その労働力を確保することを目的とする法律。第2次世界大戦前後を通じて，港湾労働の雇用関係が前近代的であることや船舶の入航あるいは天候に左右される就労の不規則なことから，港湾労働者の雇用の恒常化，低賃金・封建的身分制度からの解放などが社会問題となり，1965年(昭和40)制定された。おもな内容は，港湾労働者の登録制の実施(6条以下)，雇用は公共職業安定所の紹介を原則とすること(16条)，雇用調整手当の支給(30条)，退職金共済制度(56条)などである。〔木元美代子〕

ごうん【五蘊】仏教用語で，人間の生存や外界の存在を構成する五つの要素。五陰(ごおん)ともいう。すなわち，①物質的なもので，人間の肉体や感覚器官や外界の色・形のある〈色蘊〉，②心が対象と接触して苦や楽を感受する〈受蘊〉，③姿を把握(はあく)して男女などの区別を表象する〈想蘊〉，④志向や動機づけの作用で，貪(むさぼ)りや瞋(いか)りなどの働きの〈行蘊〉，⑤見たり聞いたりする心の働きで，対象を認識する作用の〈識蘊〉をいう。仏教では，この五つがかりに和合することによって人間の生存やすべての存在がなりたち，その存在は常に変化すると説き，主体的・実体的な〈我〉を認めない。これを五蘊仮和合(けわごう)・五蘊皆空といい，この世を常住不変と誤認すると苦しみが生まれるという。〔小沢憲珠〕

こうんえじょう【孤雲懐奘】(1198～1280)　鎌倉初期の曹洞宗(そうとうしゅう)の僧。永平寺2世。藤原為道(ためみち)の曽孫(そうそん)。京都に生まれる。幼くして比叡(ひえい)山横川(よかわ)の円能に仕え，21歳で具足戒を受け，止観・法相(ほっそう)・倶舎(くしゃ)・成実・三論などの教学を学んだが，学問仏教の無益を悟り，覚晏*(かくあん)について禅を学んだ。たまたま道元*の帰朝を聞き，建仁(けんにん)寺に行って所懐を呈したが弟子(でし)となることを許されず，1234年(文暦1)再び深草に訪れて弟子となり，1235年(嘉禎1)菩薩戒*(ぼさつかい)を受け，さらに参究を重ねて印可*を与えられた。以後つねに師に従い，師の永平寺建立(こんりゅう)に尽くした。1253年(建長5)道元の退院に際し，師命によって永平寺2世につき，1267年(文永4)席を徹通義介*に譲るまで学人の指導にあたった。著作には，道元の弟子たちへの教訓集である《正法眼蔵随聞記》や《懐奘録》などがある。〔田中良昭〕

こえ【声】 動物の喉頭(こうとう)付近の発音器によって生じる音。動物の叫び声や鳴き声の本来の目的は，敵をおどしたり，異性をいざない寄せたりするためのものである。カエルは鳴嚢(めいのう)で単純ながらある種の振動音を出し，鳥類は鳴管を，哺乳(ほにゅう)類は声帯を発声器官として変化に富んだ声を出す。声帯の運動や声帯の間隙(かんげき)の広さの変化は，喉頭軟骨の運動とこれを動かす喉頭筋の働きによる。声は，ある圧力のもとに気管から流れ出る空気を，声帯の振動によって周期的に遮断(しゃだん)することによって出される。声もまた通常の音と同様に，強弱・高低・音色の三つの性質がある。声の強弱は呼気圧(普通140～200mm Hg)の大小により，ささやきのときは30mm Hg程度である。呼気圧が同じでも共鳴腔(きょうめいこう)の形によって，共鳴および反響の程度が異なるため，大きい声を出すときは口を広く開く必要がある。声の高低は，声帯緊張度に応ずる振動数による。緊張が高くなると呼気圧も強くしなければならない。したがって，高い声を弱く出すことは困難である。成人と小児の声の高さの相違は主として声帯の長さであるが，男女の相違はむしろ緊張の差である。音色は，声帯の形よりも共鳴腔の形によって支配される。音色の区別として地声と裏声とがある。地声は普通の発声法による声である。裏声は声門を開いたまま声帯を収縮させず，前筋の緊張だけを変化させる発声法の声で，歌舞伎(かぶき)などの女方やヨーデルなどの声がこれである。発声運動の調整は，大脳皮質にある言語中枢の働きによって営まれている。➔声帯 〔平野修助〕

ごえいか【御詠歌】 巡礼歌ともいうように，巡礼*が和歌などに節をつけて唱える詠嘆歌。最も古くは，西国三十三所観音霊場を巡拝するときに唱えたものをいい，花山上皇の作と伝えられ，各所に1首ずつある。以後，これを模倣したものがいくつもつくられ，近世にはその曲節によってさまざまな流派もできた。多くは鈴(れい)や鉦鼓(しょうこ)に合わせて唱え，悲哀な調子をおびている。歌詞は仏や祖師の行跡をたたえるものが多い。〔平井有慶〕

ごえいかん【護衛艦】 艦隊や船団を潜水艦や飛行機の攻撃から守る小形艦艇。第2次世界大戦中の護衛駆逐艦やフリゲートから発達した。戦後に現われたフリゲートや駆逐艦が，艦隊に随伴したりハンターキラー＝グループ(対潜掃討撃滅部隊)を編成するのに比べて小形・劣速で，輸送船団の護衛を主任務としている。しかし，海上自衛隊では両者の区別はなく，すべて護衛艦とよんでいる。

こえがわり【声変わり】 男子が生後13～15歳の思春期に達するころに，第2次性徴として現われる現象の一。性ホルモンの影響によって喉頭(こうとう)が急激に発育するため，声帯緊張の急激な低下が起こり，声の調子は約1オクターブ下がる。



護衛艦 海上自衛隊所属〈きくづき〉 3,050トン


コエビソウ


コエンドロ 花と果実


コオイムシ 背中に産みつけられた卵は孵化しかけている

こえぞいたち ⇨イイズナ

ごえつ【呉越】 中国，五代十国*の一(907～978)。唐の鎮海・鎮東節度使銭鏐(せんりゅう)が唐の滅亡とともに自立して建国した。その領域は浙江(せっこう)を中心とする江南の主要地域を占め，五代にあっては経済的・文化的にすぐれたものをもっていた。5主72年で宋(そう)に降伏。

こえびそう【小海老草】 双子葉植物・キツネノマゴ科。ベロペロネともいい，メキシコ原産の常緑の低木状草本。ふつう温室で栽培され，観賞用にはち植えや切り花にされる。茎は半つる性で，先のとがった卵形の葉をつける。花は白色の細長い筒状で，下唇弁(かしんべん)に紫色の斑点(はんてん)があり，赤かっ色の苞(ほう)が重なり合って美しい。四季咲き性であるが，春によく咲く。ふつう刺し芽によってふやす。

コーエン［Hermann Cohen］(1842～1918) ドイツの哲学者。マールブルク大学教授。新カント派の一派であるマールブルク派*の創始者である。カントの研究ですぐれ，カント哲学の中心であるア＝プリオーリ(先天的)の概念を心理学的・主観的な解釈から解き放し，認識のしかたにおける根源的なものとしてとらえる画期的な解釈を行なった。また，カント哲学を数学・自然科学の認識論的基礎づけとする立場を確立し，彼自身の哲学もここから発展して，カント的な直観と思考，受動性と自発性という二元論の立場を克服し，純粋なものからする一元論の哲学を体系化し，その範囲は論理学・倫理学・美学に及んだ。主著《純粋認識の論理学》。〔寺中平治〕

ごえんどろ ポルトガル語コエントロの転訛(てんか)。英語ではコリアンダーという。双子葉植物・セリ科。地中海地方東部原産の越年草。茎は直立してまばらに分枝し，高さ20～80cm。葉は薄く，特有の臭気があり，上部に白色の小花が集まって咲く。果実は球形で径3～5mm。ヨーロッパでは果実を健胃・駆風薬として用いたり，ソースの香辛料にする。日本でも香辛料・薬用として，まれに栽培される。

こえんぶ【顧炎武】(1613～1682) 中国，江蘇(こうそ)省崑山(こんざん)の人。字(あざな)は寧人，号は亭林(ていりん)。黄宗羲(こうそうぎ)・王船山と並んで〈明(みん)末清(しん)初の学〉の代表者。満州族の清朝が明朝を滅ぼしたとき，抵抗運動をし，のち一生清朝に仕えなかった。宋*(そう)・明の思想・学術の観念的煩瑣(はんさ)こそ亡国の原因だと考え，経世実用の学を志して，実証による批判的歴史学，音韻研究に基づく実証的経学を創始した。《日知録*》《天下郡国利病書》《音学五書》などがそれで，ほかに《亭林文集》がある。清朝の考証学*はその実証的側面を発展させたものである。〔西 順蔵〕

ごえんゆうてんのう【後円融天皇】(1358～1393) 北朝*第5代の天皇。名は緒仁(おひと)。在位1371～1382年。後光厳(ごこうごん)天皇の第2皇子。母は崇賢門院藤原仲子。南朝*は長慶天皇の時代でふるわず，北朝を奉ずる将軍足利義満(あしかがよしみつ)のもとに南北朝の争乱はようやく収拾期へ向かった。陵墓は京都市の深草北陵。

こおいむし【子負虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・タガメ科。春の産卵期に雌が雄の

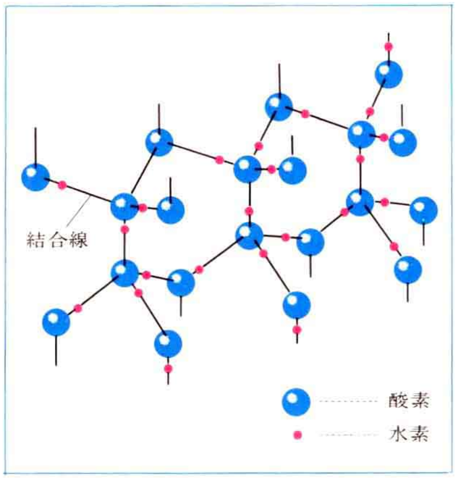
背上に産卵し，雄は卵が孵化(ふか)するまで多数の卵を背負う奇習があることからこの名があり，この期間中雄は飛ぶことができない。体長18～20㎜，体は扁平(へんぺい)で暗黄かっ色。頭部は短く，前方に突出している。複眼は光沢のある暗かっ色で大きい。上翅はほとんど腹端に達し，網目状の脈がある。前脚は小魚や小形のこん虫を捕えるのに適し，中・後脚は脛節(けいせつ)と跗節(ふせつ)の内側に多数の長毛が密生して泳ぐのに適している。本州・四国・九州に普通にみられる種で，池地や水田などに多い。水草中や水辺の枯草の下などに成虫で越冬する。〔鈴木邦雄〕

ごおうじんじゃ【護王神社】京都市上京区烏丸(からすま)下長者町にある。和気清麻呂(わけのきよまろ)を主神に，その姉広虫，および藤原百川(ももかわ)とその兄永手(ながて)を合祭する。はじめ，清麻呂の墓がある神護寺境内に霊廟(れいびょう)として祭られていたが，勤王思想の高揚した幕末，1851年(嘉永4)に正一位の神階を受け，1886年(明治19)現在の地に移祭された。例祭は4月5日。

ごおうほういん【牛王宝院】牛玉宝印とも書く。危難よけの護符*の一種。牛王を尊主になぞらえ釈迦(しゃか)をこれにあてた密教信仰に由来する。社寺でこの文字を印した護符を発行し，民間において門戸にはったり，所持することによって，田の虫よけ・大風よけ・豊穣(ほうじょう)祈願などのため現在も行なわれている。なお，その裏面に起請文*(きしょうもん)を記入するのに用いたので，起請紙ともよばれた。熊野三山(和歌山県)・八坂神社(京都)・東大寺二月堂(奈良)・金剛峯(こんごうぶ)寺(和歌山県)などのものが有名である。〔渡辺欣雄〕

こおにたびらこ【小鬼田平子】双子葉植物・キク科。タビラコともいう。水田に多くはえる越年草。根はゴボウ状で，羽状に切れ込みのある葉を根ぎわから多数出す。早春，高さ10㎝ほどの茎を数本出し，先に小形の黄色い頭花を数個つける。頭花は舌状花よりなる。若葉は食用となる。春の七草*のホトケノザは本種をさすとされている。

こおり【氷】水が固体になったもの。氷を構成する2種類の原子のうち，酸素原子は規則正しい配列をしている。各酸素原子は，それを中心に包むような四面体の各頂点に一つずつ計4個の酸素原子によって囲まれており，さらにこの4個の酸素原子のおのおのがまた4個の酸素原子によって囲まれている，というような結晶構造をしている。一方，水素原子は中央の酸素原子とそのまわりにある4個の酸素原子とを結ぶ線上に1個ずつ存在している。水素原子は，2個の酸素原子によって共有されており，また各酸素原子のまわりには4個の水素原子がいるというぐあいになっているので，水素原子は酸素原子の数の2倍になっている。2個の酸素原子間での水素原子の



氷　構造図。一つの酸素原子の隣の酸素原子は必ず4個あり，それらが正四面体をつくる。すなわち一つの酸素原子から4本の結合線が出ており，結合線上に水素原子が1個ずつのる

安定位置は2か所あって，しかも各酸素原子のまわりにある4個の水素原子のうち2個だけが，その酸素原子に近い方の安定位置にくるようになっているので，水素原子の配置の仕方にはいくとおりもあることになる。氷は1気圧のもとでは0℃で水になるが(融解熱79.65cal/g)，圧力が高くなるにしたがって氷が融解する温度は下がるので，0℃よりも低い温度で氷が融解する場合がある。たとえば氷柱に載せた物体が氷の中にめり込むのは，物体が載っている部分に圧力がよけいにかかって氷が融解するためであり，氷の上を滑走することができるのも融解してできた水が潤滑油の役目をするからである。水が氷になるとき，体積が膨張するので氷の比重は1より小さく(0℃，1気圧で0.917g/cm³)，氷は水に浮く。〔中野藤生〕

こおり【桑折(町)】福島県伊達(だて)郡にある町で，福島市の北に位置する。人口15,000。かつて奥州街道(陸前街道)の宿駅で，羽州街道はここから分かれ小坂峠を越えて七ヶ宿に通じていた。古くは桑島と称したが，伊達家の祖先の中村氏がこの地に移って桑折と改名したと伝えられる。江戸時代は幕府領で，陣屋が置かれていた。現在は製糸業が行なわれ，東北本線が通じ，同郡の阿武隈(あぶくま)川以西地域の中心。

こおりあられ【氷あられ】白色で不透明な氷の粒に，落下中に衝突した水滴がそのまま薄く氷結したか，または，氷の粒が一部融解してその水が氷結して薄い氷の層をつくったもの。驟雨(しゅうう)性降水として積乱雲から降ってくる。多くの場合球形で，径は約2～5㎜である。5㎜以上になると雹*(ひょう)になる。

こおりざとう【氷砂糖】氷糖(ひょうとう)ともいう。砂糖*のうちで最も純粋なもので，結晶体の大形な砂糖。高級の精製糖を70%以上の濃度にし，浅い器に入れて50～70℃に加温した密閉室中に約2週間置くと，巨大な結晶ができる。これを乾燥させてから砕いて製品とする。そのまま菓子として食べたり，果実酒*をつくるときなどに用いる。

こおりどうふ【凍り豆腐】豆腐を凍結乾燥したもの。もと紀州(和歌山県)高野山の宿坊でつくりはじめたといい，高野豆腐の別名がある。また武田(たけだ)信玄らが兵糧(ひょうろう)として考えついたものともいい，豆腐を冬の夜の低温下に凍らせてつくるので，凍(しみ)豆腐ともいわれる。最近ではほとんど冷凍機を使用して人工冷凍してつくっている。おもな産地は長野・兵庫・大阪などの諸府県で，消費は関西地方が多い。タンパク質50%，脂肪25%を含み，消化もよく貯蔵性のある食品。一般的な調理法は薄味にした煮含めで，ほかに茶わん蒸しやすしの具に使う。〔佐藤友太郎〕

こおりぶぎょう【郡奉行】中世・近世において郷村の民政を担当した役職。室町中期以降大名領の形式に伴い，諸大名が領国政治を行なうために設けた。江戸幕府では勘定奉行*に属し，数か国にまたがる幕府直轄領を支配，庶政一般をつかさどったが，その職務は郡代*と類似し，貞享(じょうきょう)年間(1684～1687)ごろ廃されたようである。諸藩では家老の下に設置され，領内の行政にあたり，幕末まで存続した。

こおりみず【氷水】明治のころから夏の飲み物として親しまれている。細かく削った氷に甘露果汁(かじゅう)シロップなどや煮あずきなどをかけた飲み物。氷は仁徳(にんとく)天皇のころにすでに氷室に貯蔵され，平安時代には諸国に氷室を設けて夏季に使うための氷を貯蔵した。氷水としてあまずらのしるをかけたりして用いたらしい。江戸末期ごろ，削り氷(ひ)にきな粉や砂糖をかけて食べ，暑さを避けたことが記されている。

こおりやま【郡山(市)】福島県中部の市。江戸時代は奥州街道の宿場町で，二本松藩の陣屋が置かれていた。明治以降，西方の安積(あさか)台地が旧士族によって開墾され，安積疏水(そすい)が完成し，猪苗代湖(いなわしろこ)の電源開発が進むにつれて多くの工場が建設され，急速に発展した。1924年(大正13)市制施行。人口28万1,000。市域は郡山盆地*の一部と周辺丘陵地を含み，中心市街は阿武隈(あぶくま)川中流流域の氾濫原(はんらんげん)低地に発達する。産業三大別人口比は19：28：53。紡績・化学・機械・金属などの近代工業の発達する東北一の近代工業都市で，1964年(昭和39)に新産業都市に指定された。周辺山地には高玉・熱海(あたみ)・高旗の各鉱山があって，金・銀を産出する。東北本線・磐越(ばんえつ)東線・磐越西線・水郡線が集まり，国鉄の大操車場がある。国道4号線が市街を南北に縦貫し，49号線がこれと交差して県南のバス路線の中心となる。会津・裏磐梯(ばんだい)観光の玄関口にあたり，磐梯熱海温泉をはじめ，開成山公園・如宝寺・

三森ラインなどの観光地があり，浄土松公園を中心に〈子どもの村〉も建設されている。

こおりやまぼんち【郡山盆地】 福島県中央部，阿武隈(あぶくま)川の中流部にあり，東は阿武隈山地，西は安達太良(あだたら)山および川桁(かわげた)・額取(がくとり)の地塁に限られる。北の本宮盆地，南の須賀川(すかがわ)盆地まで含んでいうこともある。五百川をはじめとする阿武隈川に流入するいくすじもの川によって細分されたいくつもの台地からなり，これらの台地は原とよばれて，旧藩士によって開拓が進められたが，1881年(明治14)の安積(あさか)疏水の完成によって急速に開田された。盆地の中央を南北に東北本線が走り，郡山市から磐越東・西線と水郡線が分岐している。〔味沢成吉〕

こおろぎ【蟋蟀】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科の総称。バッタ・キリギリス・カマドウマ・ケラなどとともに跳躍亜目を構成する。コオロギ科には，いわゆるコオロギ類のほかに，スズムシ・マツムシ・カンタン・カネタタキなどが含まれ，約10の亜科に分類される。全世界に1,200種以上が知られ，特に温帯から熱帯にかけて種類が多く，日本にも約40種が分布している。コオロギ科は，キリギリス科に最も近縁で，長い糸状の触角をもち，雌は外部に突出した長いやり状の産卵管をもつ。雄は上翅の摩擦によって発音するが，翅(はね)がまったく退化して発音しない種類も多い。聴覚器官は脛節(けいせつ)の基部の両側にある。卵はふつう地中に産卵されるが，樹上棲(じゅじょうせい)の種では小枝の心部に産卵するものもある。若虫の脱皮回数は少なくとも5回以上。大部分の種類は雑食性で，野菜類やウリ類・果実類などの害虫も多い。地上棲の種類が多く，畑や水田の土中に穴を掘って，その中に生活するもの，乾燥した草原に生活するもの，木材下や枯れ葉中に生活するものなど，生活場所は種類によって異なり，カンタンのように樹上や薮(やぶ)内に生活している種類もある。春季に出現する種類もあるが，大部分の種は夏から秋にかけて発生する。中国やわが国では鳴く虫として飼育され，親しまれている種類も多い。

日本に分布する代表的なコオロギ類としては，次のものがある。①エンマコオロギ：本州以南東洋区に広く分布し，体長20～26mm，かっ色ないし黒色で，8月上旬から出現し，〈コロコロ……〉と連続的に発音する。②ツヅレサセコオロギ：本州・四国・九州に分布し，体長17～21mm，全体黒かっ色で，8月中旬ごろから出現し，〈リ・リ・リ・リ……〉と短く間をおいて断続的に発音する。③カマドコオロギ：全世界に広く分布し，体長18～20mm，淡い黄かっ色で，屋内に生活し，〈チリチリ……〉と連続的に発音する。④ミツカドコオロギ：本州の畑や草原に多く，体長18～20mm・かっ色ないし黒かっ色で，〈チ・チ・チ……〉と鋭く4～5音ずつ続けて発音する。〔鈴木邦雄〕

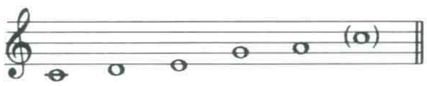


コオロギ (左)エンマコオロギ (中)ミツカドコオロギ (右)ツヅレサセコオロギの若虫

ごおん【五音】 ⇨五声

ごおん【御恩】 主君が臣下に対して与える有形・無形すべての恩恵。荘園*(しょうえん)制では本所*・領家*が御恩として預所職や下司職に任命し，武家社会では所領の給与がおもなものであった。御恩に対するものが奉公であり，所領を媒介とする御恩と奉公は封建的主従関係の理念であった。➔奉公

ごおんおんかい【五音音階】 音楽理論用語。ペンタトニックともいう。特に音高関係から使われている音が五つだけ認められるものをさす。最も普通にきかれるのは，いわゆるヨナ抜き音階で長音階の第4音・第7音を抜いたドレミソラ(ド)で，五音音階といえば，これをさすことが多い。しかし，理論的にも実際にも他に五音音階はある。中には全体の音域がオクターブに至らないもの，音程が半音・全音・微小音を含むものなどがあり，特に東洋に多い。〔山口 修〕



コカ ⇨コカノキ

こが【古河(市)】 茨城県西端の市。室町時代に関東管領(かんれい)足利成氏(あしかがしげうじ)が古河城を築いて古河公方(くぼう)を称してから発展し，江戸時代は土井氏七万石の城下町，また，奥州・日光両街道の追分宿，渡良瀬(わたらせ)川の河港であった。明治以後は旧士族が古河同志社を創立して製糸・紡績業を興し，糸の町として知られた。1950年(昭和25)市制施行。人口57,000。利根(とね)川との合流点に近い渡良瀬川の東岸，関東構造盆地底のほぼ中央部，標高15～20mの台地上に位置する。産業三大別人口比は4：41：55。商工業が盛んで，製糸・紡績・電気機器・工作機械などの工場が多い。東北本線・東武鉄道日光線が交わり，国道4号線が通ずる交通の要地で，近年は東京の衛星都市化が進んでいる。西郊の古河城跡周辺は渡良瀬川遊水池をはじめ沼や水路の多い水郷で，カモの狩猟地，ヘラブナのつり漁場として知られる。

こが【古賀(町)】 福岡県粕屋(かすや)郡の町。人口34,000。玄界灘(げんかいなだ)に面し，海岸には砂丘列がある。1955年(昭和30)に古賀町ほか2か村が合併して生まれた。もともと農村地帯で，ミカンの栽培，酪農などが行なわれているが，福岡市に近いので，鹿児島本線古賀駅付近や国道3号線沿いに食品・製紙・機械などの工場の進出が著しい。1965～1970年の人口増加率は13.7%。

ごかい【沙蚕】 環形動物・多毛類・ゴカイ科。体長5～12cm，体幅は足を除いて約4mm。体は多くの環節からなり，その数70～130。淡紅色ないし黄紅色であるが，生殖期には緑色をおびる。2対の眼がある。海辺の淡水の注ぐ泥中(でいちゅう)に好んで生息し，日本全土に分布するが，特に太平洋岸に多い。冬季12月～1月の大潮のころの夜間に，水面近くを群泳して生殖を行なう。つり餌(え)として最も普通に用いられる。エゾゴカイ・イソゴカイなど近似の種もつり餌として賞用され，特に区別をつけずに，おしなべてゴカイと総称されることも多い。〔菅野 徹〕

ごかい【五戒】 仏教教団において，男女の在家信者が守るべき5種の戒。優婆塞戒(うばそくかい)ともいう。①不殺生戒(ふせっしょうかい)(生きものを殺さない)，②不偸盗戒(ふちゅうとうかい)(盗みをしない)，③不邪淫戒(ふじゃいんかい)(正常な夫婦関係にそむいた性行為をしない)，④不妄語戒(ふもうごかい)(うそをつかない)，⑤不飲酒戒(酒を飲まない)の五つをいう。この戒に類似したものはマヌ法典*やジャイナ教の戒律にも説かれている。➔十戒

こかいがわ【小貝川】 栃木県東南部，南那須(みなみなす)村あたりに発し，南下して茨城県にはいり，下館(しもだて)市南東部で支流五行川を合わせて水田地帯をさらに南下し，千葉県境の利根(とね)町で利根川に合流する。流程114km余。鬼怒(きぬ)川とほぼ平行して流れ，両川にはさまれた下流の低地は出水のたびに水害が起こるので，利根川との合流点のつけかえが計画されている。

こがいし【顧愷之】(344？～405？) 中国，東晋(とうしん)の画家。字(あざな)は長康，号は虎頭(ことう)。官は散騎常侍。呉の曹不興(そうふこう)と晋初の衛協の画風を継いで人物画・山水画を描く。蚕糸のような太細のないすみやかで流麗な線と濃厚な彩色に特徴があり，中国における人物画の第一人者としての評価を受けている。大英博物館の《女史箴図(じょししんず)》1巻の作者と伝えられる。➔次ページ(写)

こがいっさく【古賀逸策】(1899～) 電気工学者。佐賀県の生まれ。東京工業大学・東京大学教授。高性能水晶振動子を開



顧愷之《女史箴図》(模本)のうち〈化粧図〉 7世紀 大英博物館蔵

発して無線工業に貢献，さらに精度の高い水晶時計を実用化した。日本学士院賞(1948)・文化勲章(1963)を受賞。

ごかいどう 【五街道】 江戸時代，江戸の中心日本橋を起点にして諸方に通じた五つの幹線道路。東海道・中山道(なかせんどう)・甲州街道・日光街道・奥州街道のこと。幕府の道中奉行が管理し，参勤交代など公用旅行者の便をはかるため設けられたが，商業経済の発達につれて一般旅行者も盛んに利用した。なお，各街道には2里(約8km)～3里の間に1宿ずつ置き，荷物の輸送・書状の継送・宿泊などの施設が設けられた。東海道は品川～大津の53次，中山道は板橋～守山(もりやま)の67次(草津で東海道に合する)，甲州街道は内藤新宿～上諏訪(かみすわ)の44次(下諏訪で中山道に合する)，日光街道は千住(せんじゅ)～宇都宮～鉢石(はちいし)の21宿，奥州街道は千住～宇都宮の間は日光街道と同じで，それより北に向かって白河(しらかわ)(福島県)に至った。各街道には関所が置かれ，治安警備のため旅行者の検査を行なった。 〔高崎徳次〕

コカイン [cocaine] コカノキの葉に含まれるアルカロイド。抽出法によって製造され，通常，塩酸コカインとして局所麻酔などに用いられる。白色結晶で味は苦く，舌を麻痺(まひ)させる。中枢神経興奮作用があり，これを粘膜に用いると知覚神経を麻痺させ，その作用は15～30分続く。眼科・耳鼻科などで使用され，ときに軟膏(なんこう)に加える。習慣性があるので麻薬に指定されている。➔次項

コカインちゅうどく 【コカイン中毒】 コカインによる中毒をいう。急性と慢性の中毒型があり，コカインの中毒量は0.1g，致死量は1.0g。急性中毒は大量使用によって起こり，中枢神経系が侵され，不安とひどい興奮・幻覚・散瞳(さんどう)・失神がみられる。重症になると，呼吸困難や虚脱を起こして死亡することがある。経過が速く，死亡は通常30分以内に起こるので，約2～3時間経過すれば危険は去ったものとみなされる。慢性中毒はコカインの持続使用により起こり，モルヒネ中毒に似ているが，脱力・体重減少が著しく，精神的荒廃・性格の激しい変化などのほか，特有なコカイン幻覚症がみられる。コカイン性鼻カタルの場合，鼻中隔穿孔(かくせんこう)を起こすこともある。いずれも，治療は入院して即時禁断を行なうのが最善で，モルヒネ中毒よりは禁断現象を切り抜けやすい。➔麻薬 〔朝倉 了〕

こがき 【小書き】 能の特殊演出。曲目の左わきに小さく書き添えるところからいう。曲のねらいが強調され，あるいは変化する。能面・扮装(ふんそう)・作り物・囃子(はやし)から登場人物や脚本や曲名まで変わることがある。普段はないまったく別の場面が加わる場合さえある。《船弁慶》を例にとれば，〈重キ前後ノ替エ〉はシテ方の小書で，前段の序之舞(じょのまい)が省かれ，後ジテの装束は白一色となり，演技と囃子の緩急が激しくなる。〈船中ノ語リ〉はワキ方の小書で，船頭の所望でワキの弁慶が一の谷の合戦談を語る。別の脚本が挿入(そうにゅう)されるわけである。〈早装束〉〈船唄(ふなうた)〉は間狂言(あいきょうげん)に関する小書。鏡ノ間から船を持ち出す一瞬に扮装を貸し，船をこぎながら船歌をうたう演技が加わる。小書は能の演出様式が固定した江戸中期以降に整理制定されたものらしく，各流各役に約600種の小書が伝えられている。小書による演出は常よりも重く扱われる。狂言にもごくまれにだが小書による演出がある。 〔増田正造〕

ごがく 【五岳】 五行思想(➔五行説)の影響のもとにつくられた，中国の信仰上の五つの名山。漢代では東岳泰山(山東省)・中岳嵩山(すうざん)(河南省)・南岳灊山(せんざん)(安徽(あんき)省)・西岳華山(陝西(せんせい)省)・北岳恒山(河南省)と定められたが，漢文化の拡大に伴い南岳は湖南の衡山に，北岳は山西の恒山に移された。現在いずれも道教の祠廟(しびょう)があり，民間信仰の中心地をなしている。

こがくは 【古学派】 江戸時代の儒学・漢学の流派の一。既成の官学に対する鋭い批判から生まれた。朱子学や陽明学の煩雑な考証解釈を退け，直接孔子・孟子(もうし)の原典によって儒教本来の精神を究めようとした。寛文のころ(1661～1672)江戸の山鹿(やまが)素行が提唱し，ほぼ同時に京都の伊藤(いとう)仁斎，やや遅れて江戸の荻生徂徠(おぎゅうそらい)がそれぞれ一派をなした。共通の特徴は，なによりもいきいきとした日常的現実的な把握(はあく)に基づく有用実益の学であろうとしたことで，経験的知識を重視し，時代・制度・文化の変遷に対する歴史的理解の必要を説き，道徳も観念的静観的なものではなく，具体的実践的なものであるべきだとして，その普遍妥当性を強調した。特に仁斎学(古義学派)は孔子の《論語》にみえる〈仁〉を強調して道徳的傾向を示したが，徂徠学(古文辞学派)は道徳のみならず広く政治経済方面にも及び，古文辞を尊重して文学的傾向を示した。また賀茂真淵(かものまぶち)・本居宣長(もとおりのりなが)らの国学においても，みずからの古道論を〈古学(いにしえまなび)〉と称し，事実，徂徠学とも研究の態度や方法のうえで著しい共通性をもっている。 〔小田 博〕

こがくぼう 【古河公方】 鎌倉公方の後身。永享(えいきょう)の乱で滅ぼされた鎌倉公方足利持氏(あしかがもちうじ)の遺子成氏(しげうじ)が1449年(宝徳1)上杉房定(うえすぎふささだ)ら関東将士に迎えられて鎌倉公方の後継者となったが，それに反対する関東将士と武力衝突が起こり，成氏は下総(しもうさ)古河(茨城県)に走った。幕府はそれに対抗させるため将軍足利義政(よしまさ)の弟政知(まさとも)を伊豆(いず)の堀越(ほりこし)(静岡県)に東下させ，堀越公方としたので，成氏は古河公方と称するようになった。その後争乱の続いた関東にあって，成氏のあと政氏・高基・晴氏・義氏と5代の公方が続いた。政氏とその子高基・義明とは父子兄弟互いに不和で，公方の勢力は分裂して衰えた。高基が家を継ぎ，小田原の北条(ほうじょう)氏と和を結んだが，その子晴氏は北条氏綱・氏康(うじやす)と歴代戦って破れ，北条氏の勢威に服した。失意のうちにも晴氏・義氏はなお公方としての格式を保っていたが，義氏は嗣子なくして1583(天正11)没し，古河公方は断絶した。 〔高崎徳次〕

ごかこくじょうやく 【五か国条約】 ⇨安政の五か国条約

ごかこくつうしょうじょうやく 【五か国通商条約】 ⇨安政の五か国条約

コカ-コーラ [The Coca-Cola Corp.] 世界の清涼飲料市場を独占するアメリカの食品会社。炭酸入りの清涼飲料コカ-コーラは，1886年にアトランタの薬剤師ジョン-ペンバートンによって生み出されたもので，いまもってその原液は秘密にされている。第2次世界大戦中には軍需品としてアメリカ国防省の指定を受け，輸送・工場建設に特別の処置がとられ，戦場の拡大とともに世界各地に普及していった。現在世界130余国に進出，あらゆる地域の人々に飲まれている。日本への進出は1956年(昭和31)末の原液輸入の一部自由化に始まり，現在日本コカ-コーラ(株)の下に16のボトリング(びんづめ)会社が組織され，日本の清涼飲料市場の80%を支配している。最近はコカ-コーラ単一主義から脱却し，ソフト-ドリンク〈ファンタ〉・コーヒー・紅茶などに分野を広げ，総合食品会社への転換を図っている。また公害防止産業へも進出するもようである。 〔氏家 尚〕

コーカサス(山脈) ⇨カフカス山脈

コーカサスじんしゅ 【コーカサス人種】 ⇨コーカソイド

こかじ 【小鍛冶】 能の曲名。作者不明。五番目物。一条天皇のとき，天皇に夢のお告げがあって，三条小鍛冶宗近(むねちか)に剣(つるぎ)をつくらせるため，勅使橘(たちばな)道成が出向くが，宗近には相槌(あいづち)(刀鍛冶の助手)がいない。しかし稲荷(いなり)明神に参拝した宗近の前に不思議な童子が現われて，ヤマトタケルノミコトの草薙剣(くさなぎのつるぎ)のことを語り，必ず力添えをすると言って消え去る。宗近が祭壇をつくり，神々を祭って待つうち，稲荷の神は神体を現わして舞働きを舞い，宗近の相槌をつとめ，打ちあがった小狐丸(こぎつねまる)という剣を勅使にささげて去っていく。シテは童子—神体(キツネの精の姿をしている)。ワキは宗近。ワキヅレは道成。間狂言(あいきょうげん)は所の者。なお，長唄(ながうた)《小鍛冶》はこの曲によっている。〔長尾一雄〕

ごかじょうのごせいもん 【五箇条の御誓文】 1868年(慶応4)3月14日，王政復古*による新政府成立で示された親政基本方針。〈広ク会議ヲ興シ，万機公論ニ決スヘシ〉など5か条からなる。新政権は諸侯の結束を固めるため，内に公議世論を尊重(内容は列藩会議)，外に開国和親の方針を打ち出し，天皇が天神地祇(ちぎ)に誓う形式で発表したもの。由利公正(きみまさ)・福岡孝弟(たかちか)が原案を起草し，木戸孝允*(たかよし)が修正した。抽象的文章で具体的施策はその後の課題として残ったが，その新鮮さで天皇政府に諸侯・藩士・民衆をひきつけ，薩摩(さつま)・長州藩中心の雄藩連合政権の協力体制を強化した。〔千野境子〕

ごかしょわん 【五ケ所湾】 三重県度会(わたらい)郡南勢町南部の複雑な湾入。東の田曾岬(たそみさき)と西の止ノ鼻(とどまりのはな)との間約3kmを湾口とし，北への奥行およそ7.5km，多くの支湾をもつ沈水性リアス海岸をなしている。湾奥は大きく東部の五ケ所浦，中部の船越浦，西部の迫間浦(はさまうら)に3分される。湾口には東側に宿と田曾，西側に相賀浦(おうかうら)，中部に礫浦(さざらうら)・迫間浦・中津浜浦，湾奥に船越，南勢町の中心五ケ所(浦)などがあり，各地を結んで定期船が運航している。温暖で，特に奥まった支湾の静かなところは養殖真珠の避寒地として利用されるとともに，真珠およびその母貝の養殖も盛んである。湾内は風光に恵まれ，楓江(ふうこう)湾または単に楓江という異称もあり，伊勢(いせ)志摩国立公園の一部に指定されている。〔山口恵一郎〕

こがしらあわふき 【小頭泡吹】 こん虫類・半翅(はんし)目・コガシラアワフキ科。翅端までの体長8mmほどで，セミを小さくしたような形をしている。体はかっ色，個体によって濃淡は変化が多く，ときに著しく暗色のことがある。上翅は細長く，かっ色であるが，先端部は著しく赤かっ色をおびる。体の下面はほぼ黒かっ色。日本全土にみられる種類で，ヤナギ類などに多い。燈火にもよく飛来する。



五ケ所湾
左側は中津浜浦，右側の湾奥は五ケ所浦。海面には真珠貝養殖のいかだが並び，白い作業船が往来している

こがしらみずむし 【小頭水虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガシラミズムシ科。体長3.5mm内外。暗黄色ないし黄かっ色で光沢がある。頭は小さく，点刻を装い，複眼は大きい。触角は糸状で，小楯板(しょうじゅんばん)はない。鞘翅には各10条の大きい点刻縦列がある。日本全土に分布し，池沼や水田などにみられ，燈火にもよく飛来する。コガシラミズムシ科は全世界から100種内外が知られ，日本には10種ほどが知られている。

ごかしわばらてんのう 【後柏原天皇】 (1464〜1526) 名は勝仁(かつひと)。在位1500〜1526年。後土御門(つちみかど)天皇の第1皇子。母は源朝子。全国的に戦乱の世となり，皇室が最も衰えた時代で，践祚(せんそ)後22年を経た1522年(大永2)やっと即位式をあげた。歌集に《柏玉集(はくぎょくしゅう)》，日記に《後柏原天皇宸記(しんき)》がある。陵墓は京都市の深草北陵。

ごかせがわ 【五ケ瀬川】 宮崎県北部，九州山地に源を発し，東南流して日向灘(ひゅうがなだ)に注ぐ。流程103km。途中に五つの瀬をもつといわれ，この名がついた。上流部は峡谷をなし，ことに高千穂町付近では，厚い阿蘇(あそ)溶岩流に約4kmにわたって深い谷をうがつ。この峡谷は高千穂峡として知られ，建国の神話も伝承されている。下流で大瀬川の分流を生じ，それがまた合流するが，この2川間の沖積(ちゅうせき)面に，豊富な水力発電と工業用水を利用した工業都市延岡市が開ける。アユの柵漁(さくりょう)は有名。〔長津一郎〕

コーカソイド ［Caucasoid］ 中〜高身長，狭〜中頭，直毛または波状毛，薄青〜黒かっ色の目，高鼻，白い皮膚色などの特徴をもつ人種。ヨーロッパ人種ともいう。そのおもなものは以下のとおりである。

①北方人種：スウェーデン中部・ノルウェー東部・イギリス・北ドイツ・北オランダ・ポーランド・デンマークなどに分布する。高身長，長頭，ブロンドの波状毛，白色の皮膚をもつ典型的コーカソイド。②アルプス人種：フランス中部・スイス・北イタリア・南ドイツ・ボヘミア・ハンガリー・ポーランドなど，中部・東部ヨーロッパに分布する。中身長(164cm)，短頭(85〜87cm)，広顔，かっ色の毛髪，白い皮膚などの特徴をもつ。③東方人種：北ロシア・バルト海諸国・ドイツ北部・シベリア西部に分布する。中身長，短頭，広顔，突出する頬骨(きょうこつ)，ブロンドの波状毛などの特徴をもつ。④ディナール人種：アドリア海周辺に分布する。高身長(170cm)，短頭(85〜86cm)，かっ色の目と毛髪などの特徴をもつ。⑤地中海人種：地中海周辺に分布し，地方的変異が多い。中身長，中頭，鼻すじが通っているほかは，コーカソイドに共通の特徴をもつ。〔鈴木　尚〕

こかた 【子方】 能および狂言で変声期前の少年が演じるきまりになっている役，またそれを演じる少年役者。能では実際の少年・少女，天皇，特定の人物(たとえば《安宅*(あたか)》《舟弁慶*》などの源義経(よしつね))など，狂言では少年・サル・ウシ・ウマなどに扮(ふん)する。

こがたあかいえか 【小形赤家蚊】 こん虫類・双翅(そうし)目・カ科。アカイエカ*によく似るが，小さく，吻(ふん)の中央に白帯がある点で区別できる。日本脳炎*の媒介種として重要。幼虫は水田などに多数発生し，7月にきわめて多い。ウシ・ウマ・ブタなどの大動物を好んで吸血するが，ヒトをも襲う。夜間に吸血活動を行ない，日中は野外の草むらに潜んでいる。水田など広大な水域に発生するため，完全な駆除がむずかしい。長期間有効な浮遊粒剤型の殺虫剤の開発が進められている。➔カ〔鈴木　猛〕

こがたえいが 【小型映画】 フィルムの幅が35ミリのふつうの映画(スタンダード映画)を基準にして，それよりフィルム幅の狭い映画をいい，16ミリ映画・8ミリ映画などを示す総称。これに対して，フィルム幅の広い70ミリ映画・シネラマなどを大型映画ないしワイド-スクリーン*という。スタンダード映画は一般劇場用映画として歴史も古く，今日でもなお主流ではあるが，小型映画はおもに非劇場用映画として多目的に利用され，いまでは映像文化の中心的な

位置を占めつつある。16ミリ映画は，35ミリ映画より20年ほど遅れて1923年アメリカで開発され，その後特に第2次世界大戦中に軍事的な目的から技術的な改良が飛躍的に進んで，おもにニュース映画用・記録映画用としてフィルム運搬上の便利さ，機材とその操作の軽便さが買われて普及した。戦後は，磁気録音によるトーキー*化もあって，教育映画・宣伝映画のジャンルでの利用が活発になり，最近はテレビ放映用の映画として全面的に採用されるに及んで，一挙にその需要は増大している。16ミリ映画の最大の利点は，まずその製作コストの低廉さにあり，しかも8ミリ映画とは違って大勢の観衆を前にしての上映が可能な点にある。一方8ミリ映画はさらに低廉であるが，上映の面では16ミリ映画に遠く及ばない。しかし，小型映画の特色を典型的にもっているのは8ミリ映画で，16ミリのフィルムの片側半分を往復撮影し，現像後にこれを縦断してつなぐ方法から始まった(1932)。この方式は，フィルムの1コマの縦横のサイズが16ミリの2分の1で，フィルム送りのパーフォレーションの穴が2倍になっていることからダブル-エイトあるいはレギュラーとよばれる。したがって画面の面積は16ミリ-フィルムの4分の1になる。ただダブル-エイトは，撮影時にフィルムをかけかえて逆転しなければならず，また画面が小さいために映像が鮮度を欠く。この欠点を克服するために，1960年代にはいって日本でシングル-エイトが，アメリカでスーパー-エイトが発明された。これらはともにダブル-エイトのパーフォレーションの穴を細長くすることによって，画面をダブル-エイトの150％程度にまで拡大し，画面に鮮明度を与え，加えて往復撮影のわずらわしさを克服しようとするものであった。こうして，一部愛好者のものであった8ミリ映画は，1960年代に家庭映画として広く一般に普及しはじめた。さらに，8ミリ映画のトーキー化も可能になりつつある。映画は今日，大型映画と小型映画との間で分極化が進みつつあり，小型映画はその多様性をいかしてさまざまな形の表現方法を気軽にこなせるので，芸術的な実験精神が芽ばえ，スタンダード映画の商業的な制約が克服されようとしている。　〔波多野哲朗〕

こがたじどうしゃ　【小型自動車】　自動車の大きさによる分類の一つで，道路運送車両法*に次のように定められている。自動車の大きさが全長3mをこえ4.7m以下，全幅1.3mをこえ1.7m以下，全高2m以下のもの。内燃機関(ディーゼル-エンジン除く)を有するものはその総排気量*が361～2,000ccのものをいう。➔自動車

こがたじょうちゅう　【小形条虫】　⇨矮小(わいしょう)条虫

こかつじばん　【古活字版】　わが国の開版は奈良時代に始まり，平安・鎌倉・南北朝・室町時代を経て桃山時代までは，すべて中国の影響を受けて，木版刷りで行なわれていたが，その後文禄(ぶんろく)・慶長の役によって朝鮮からもたらされた銅活字版の影響を受けて活字版が起こった。わが国の活字版は，たとえば駿河版*(するがばん)のように銅活字版のものも一部にはあるが，おおむね木活字を用いた。しかし，活字版は，寛永年代後半(1640年代)をもって一応の終止符を打ち，書肆版(しょしばん)の発生とともに再び木版刷りが復活する。その間の活字版を，わが国では特に古活字版とよんで，学者も愛書家も版本の形態美・稀覯(きこう)性を高く評価し，珍重している。古活字版の研究書としては，川瀬一馬(かずま)博士の恩賜賞受賞作《古活字版之研究》全2巻(1937年刊)がある。　〔庄司浅水〕



五月人形《神功皇后，武内宿禰，侍者》西沢笛畝玩具研究所蔵



ゴーカート

こがつにんぎょう　【五月人形】　端午の節句*に飾る人形。古くは幟(のぼり)・吹散(ふきちり)・菖蒲兜(しょうぶかぶと)・毛槍(けやり)・薙刀(なぎなた)などを家の門口にさくをつくって立て並べて飾ったが，やがて操り芝居の人形を模した武者人形を加えるようになった。江戸中期には，こうした外飾りだけでなく，内庭・縁側・店先などにも人形を飾るようになったが，後期には外飾りは幟や吹流しだけになり，庭先の人形もすたれ，座敷にやや小振りにした幟や毛槍・袋槍・薙刀・台笠(だいがさ)・立傘(たてがさ)・纒(まとい)・吹流しなどを框(かまち)に立て，その前に人形や甲冑(かっちゅう)を飾るようになった。人形の種類は武者・唐子(からこ)・猩々(しょうじょう)などさまざまであったが，歴史に残る剛勇な人物に取材した武者人形が最も多かったようである。そのうち特に喜ばれたのは出陣する勇姿を表わした神功(じんぐう)皇后と幼い応仁(おうじん)天皇を抱く武内宿禰(たけのうちのすくね)および旗持(はたもち)を組みにした人形であったが，その他義経(よしつね)に弁慶，曾我(そが)兄弟，鍾馗(しょうき)や関羽，坂田金時，八幡太郎(はちまんたろう)義家，楠正成(くすのきまさしげ)・正行(まさつら)，加藤清正などが多くつくられた。これらの人形は第2次世界大戦前まで引き続いてつくられてきたが，戦後は兜や鎧(よろい)が主になり，人形は見かけられなくなった。　〔北村哲郎〕

ゴーカート　[go-Cart]　鉄・アルミニウム製パイプのフレームに4個の車輪を取り付け，バイクモーター程度の2サイクル空冷エンジンを搭載(とうさい)した非常に簡単な構造の四輪車。懸架スプリングもなく，フレームなども露出していて，カート(懸架スプリングのない小さな馬車)にイメージが似ていることからこの名がある。ゴーカートレースや運転練習・遊園地などで使用されている。

こがねい　【小金井(市)】　東京都中部の市。1958年(昭和33)市制施行。人口99,000。市域は武蔵野(むさしの)台地上にあり，中央から南寄りを東西に走る段丘崖(だんきゅうがい)によって，上下2段の段丘に分かれる。がけ下の湧泉帯(ゆうせんたい)を巡って小金井本村・貫井(ぬくい)本村などの古い集落があり，台地上は江戸中期に玉川上水の開発によってできた新田集落である。産業三大別人口比は1：29：70。大正末期に中央線に電車が運転されるようになってから東京の住宅衛星都市として開けた。東京学芸大学・東京農工大学工学部・法政大学工学部・郵政省電波研究所など，学園や研究施設も多く進出している。玉川上水の堤6kmの間にある2,000～3,000本のサクラは江戸時代以来の名勝として知られているが，最近は自動車の排気ガスで枯死するものが多い。北部の都立小金井自然公園は武蔵野のおもかげを残し，武蔵野郷土館がある。南隣の府中市にまたがって都営多摩(たま)霊園がある。

こがねいきみこ　【小金井喜美子】　(1870～1956)　翻訳家・小説家。島根県の生まれ。一ツ橋女学校卒。森鷗外*(おうがい)の妹で小金井良精の妻。《於面影(おもかげ)》収録の《ミニヨン》《わが星》《あしの曲》，レールモントフ*の《浴泉記》などの翻訳があり，その文才は若松賤子*(しずこ)と並び称された。その後も《スバル*》《青鞜(せいとう)》に小説を発表。鷗外を回想した《森鷗外の系族》《鷗外の思ひ出》がある。

こがねいよしきよ　【小金井良精】　(1858～1944)　解剖学者・人類学者。越後(えちご)(新潟県)長岡の生まれ。1880年(明治13)東京大学医学部(第1次)を卒業。同年ドイツ

へ留学し，解剖学・組織学を学ぶ。1885年に帰国し，東京大学で日本人としてはじめての系統解剖学の講義を行ない，1886年に教授となる。1893年日本解剖学会を創設し，同年帝国大学医科大学学長となる。北海道へ渡ってアイヌ民族の人類学的研究を行ない，1904～1905年に《アイヌ族の研究》を著わした。また，日本の石器時代人の研究を行ない，日本の石器時代人はアイヌであるという説(アイヌ説)を立てた。〔大島蘭三郎〕

こがねづかこふん　【黄金塚古墳】　大阪府和泉(いずみ)市上代町にある古墳。信太(しのだ)山丘陵の端に築かれた前方後円墳*で，第2次世界大戦後発掘調査された。後円部に三つの粘土槨*(かく)がつくられ，残存している木片から槨ごとにコウヤマキの木棺が収められていたことがわかった。中央槨からは景初3年(239)の紀年銘のある神獣鏡をはじめ，各種の鏡・玉・剣などが出土し，東・西槨からも多くの副葬品が発見された。

こがねまる　【こがね丸】　巌谷小波*(いわやさざなみ)作の少年読み物。近代的な創作児童文学の先駆的作品で，1891年(明治24)博文館の〈少年文学叢書(そうしょ)〉の第1冊として刊行，当時のジャーナリズムに一大旋風を巻き起こした。物語は，こがね丸というイヌが，猟犬鷲郎(わしろう)の協力で父のかたきのトラの金眸(きんぼう)とキツネの聴水を討つというもの。世評は，少年独自の文学をめざした新しさを高く評価する一方，文語体で書かれ，古風な仇(あだ)討ち話を内容としている点に批判が集まった。〔岡田純也〕

こがねむし　【金亀子】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科の総称。またはそのうちの一種をいう。体長17～23mm，体幅10～15mm。体は卵形で，体表面の全体に著しく強い光沢がある。金属緑色かやや赤紫光沢の混じった緑色の個体が多いが，まれに赤紫色のものや青みをおびたもの，紫黒色のものなどがある。頭部は比較的大きく，前胸背板は幅が長さの2倍ほどである。鞘翅は幅広く，長さは前胸背板の約2.5倍，表面には小点刻の列がある。日本全土のほか，朝鮮・中国・東シベリア・台湾・ビルマなどに広く分布する。成虫は6～8月に出現し，種々の広葉樹の葉を食害する。幼虫は俗に〈根切り虫〉といわれ，土中で農作物や樹木の根などを食害する。

コガネムシ科は，非常に大きな科で，全世界から30,000種以上が発見され，多くの亜科に分類されている。代表的な亜科には，コガネムシ亜科・マグソコガネムシ亜科・センチコガネムシ亜科・コフキコガネムシ亜科・キンコガネムシ亜科(スジコガネムシ亜科ともいう)・カブトムシ亜科・ハナモグリ亜科・クロツヤムシ亜科などがある。体の大きさ・形態・色彩・生活習性などはきわめて変化に富んでいる。体の大きさは，マグソコガネムシ亜科のある種のように，体長2mm内外の微小種から，アフリカ産のゴライアスコガネムシのように体長125mm，体幅50mmに達する大形種まである。形態もきわめて変化に富み，カブトムシ類やマグソコガネムシ類のように頭部や胸部に巨大な角や種々の形状の突起をもつものや，テナガコガネムシ類のように前脚が著しく伸長したものなどもある。食性から分類すると，マグソコガネムシ亜科・センチコガネムシ亜科などの食糞(しょくふん)群と，カブトムシ亜科・コフキコガネムシ亜科・ハナモグリ亜科などの食葉群とに二大別される。食糞群に属するものは，獣類の糞やその他種々の腐敗物に集まり，また土中に穴を掘って糞塊をたくわえ，これを幼虫の食物とする。中でも，糞塊を玉にして運搬する奇習をもつタマオシコガネムシ類の生活は，ファーブルの《昆虫記》によってよく知られている。なお，タマオシコガネムシ類は，古代エジプトでスカラベ*とよばれ，聖なる虫としてあがめられた。食葉群は，カブトムシ亜科・ハナモグリ亜科のように，幼虫時代は朽ち木や腐植物質を食べ，成虫時代は樹液や花に集まるものと，コフキコガネムシ亜科・スジコガネムシ亜科のように，幼虫時代には生きた植物の葉や根を食べ，成虫時代にも種々の農作物や樹木などの生きた葉を食べるものの2群に分けられる。後者には，農林業上の大害虫として著名なものも少なくない。〔鈴木邦雄〕

表紙





口絵

こがね丸

こがねむし　【黄金虫】　ポー*の推理短編小説の傑作。1843年の作。アメリカ合衆国の大西洋岸の島に住むある人物が，羊皮紙に書かれた海賊キッドの暗号文を，緻密(ちみつ)な推理によって解読し，財産を掘りあてるという話。黄金色の甲虫(かぶとむし)を巧みに使って，神秘的な効果を盛り上げている。

コカのき　【コカの木】　双子葉植物・コカノキ科の低木。ペルー・ボリビア原産で薬用植物として栽培され，熱帯地方の高地の湿度の高いところによく育つ。高さ1～2mくらい，茎は紫かっ色。葉は互生し，柔らかく黄緑色，全縁で主脈の両側に1本ずつ縦の線がある。初夏に，前年伸びた枝の葉の落ちた跡に数個の黄緑色の小花を群生。果実は楕円(だえん)形で赤熟し，1個の種子がある。葉をかわかしたものをコカといい，局所麻酔薬となるアルカロイドの一種コカイン*を多く含む。➔次ページ(写)
〔横井朝子〕



マメコガネ



ヤマトアオドウガネ



ヒメスジコガネ



ツヤコガネ

コガネムシ

こかのしょう【五家荘】五箇荘とも書く。熊本県の中央部，宮崎県境を画する九州山地内の山間集落で，行政上は八代(やつしろ)郡泉村に属する。地名は，球磨(くま)川の支流川辺(かわべ)川の水源部に散在する久連子(くれこ)・椎原(しいばる)・仁田尾(にたお)・樅木(もみき)・葉木の旧5村が江戸時代に天草代官所が支配する五大庄屋(しょうや)の下で，五家荘とよばれたことに由来する。富山県の五箇山*，徳島県の祖谷*(いや)とともに，日本の三大秘境に数えられる僻地(へきち)で，その成立については，平氏の落ち武者部落，菅原道真(すがわらみちざね)の子孫，木地屋集落，隠田(おんでん)集落など，いろいろな説がある。地域の大半は深い峡谷に隔てられた1,000m以上の高地で，集落や耕地は急峻(きゅうしゅん)な山地の中腹に点在する。住民は木庭(こば)という焼き畑耕作によって，ヒエ・アワ・トウモロコシ・ソバ・麦・豆類などをつくり，自給的な生活を営んできた。最近は川辺川のダム工事や林道の開通につれて開発が進み，かつて焼き畑に利用された広葉樹林はパルプ材や用材に切り出され，林業労働やダム工事などから得る労賃が住民の重要な収入源となっている。〔浅井得一〕

こがはるえ【古賀春江】(1895～1933) 洋画家。福岡県久留米(くるめ)市の生まれ。本名良昌(りょうしょう)，春江は通称。1913年(大正2)上京して太平洋画会研究所・日本水彩画研究所に入所，石井柏亭(はくてい)に師事。1915年僧籍に入り，翌年宗教大学(のち大正大学)に入学，かたわら水彩画を発表，1918年退学，翌年から二科展に出品したが，病を得て一時帰郷。表現主義などの新興美術に関心を寄せ，1922年の再度の上京の際には中川紀元*らと集団〈アクション〉を結成，前衛美術運動を始める。川端康成(かわばたやすなり)らとの交友もあり，1927年(昭和2)ごろにはクレー*の影響を受け，次いでシュルレアリスムへ移行した。代表作に，《埋葬》《素朴(そぼく)な月夜》《煙火》《窓外の化粧》などがある。〔陰里鉄郎〕

こがびこう【古画備考】江戸末期になった大部の日本画家辞典。朝岡興禎(おきさだ)(1800～1856)が嘉永年間(1848～1854)に脱稿して，1905年(明治38)に太田(おおた)謹が増訂を加えて刊行した4冊本が流布している。文献・作品の両面にわたって幅広く資料を集成し，近代美術史学の発達に大きく寄与した古典的名著である。



コカノキ　花と果実



古賀春江《素朴な月夜》1929　ブリヂストン美術館蔵



コガマ

こかべ【小壁】壁の部分の名称。戸・窓の上下にあり，幅が狭く横に細長い壁。和風建築では，内法長押(うちのりなげし)・かもいと天井との間の壁をいう。縦に細長い壁(脇羽目(わきばめ))と区別される。

こがま【小蒲】単子葉植物・ガマ科。本州中部以西の古池や浅い水中にはえ，ガマ*に似ているがやや小形の多年草。葉も細く，花穂も小さい。7～8月に花穂をつけ，長さ10～20cm，上半に雄花，下半に雌花がつく。雌花部は熟すると赤かっ色の円柱状となり，切り花にも利用される。

こがまさお【古賀政男】(1904～1978) 歌謡曲*の作曲家。福岡県の生まれ。明治大学商学部在学中から同校のマンドリン-クラブで活動し，卒業後日本コロムビアの専属となって，古賀メロディーとよばれる一連の歌謡曲を発表し続けた。昭和初期の《影を慕ひて》《キャンプ小唄(こうた)》《酒は涙か溜息(ためいき)か》《丘を越えて》などで日本の歌謡曲の方向をかなり定めたといえる。第2次世界大戦中の《誰(たれ)か故郷を想(おも)はざる》，戦後の《湯の町エレジー》などのヒット曲でも，単純な骨組みによる歌いやすさをもち，それに小節を加えるという方法がとられている。〔徳丸吉彦〕

ごかめやまてんのう【後亀山天皇】(?～1424) 南朝*最後の天皇(第4代)。名は熙成(あきなり)。後村上天皇の皇子で，1383年(弘和3・永徳3)兄の長慶天皇から皇位を譲られた。当時南朝は不振で，3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)の提示した和議条件を受諾し，1392年(元中9・明徳3)京都へ還幸，退位して神器を北朝の後小松天皇に渡し，太上天皇の尊号を受けた。ここに南北朝合体が実現したが，義満の死後幕府側に和議条件履行の誠意がみられず，退位後の生活も意に満たぬことが多かったので，1410年(応永17)京都を出発して吉野(よしの)に走った。一時南朝の再興を志したがならず，1416年幕府の要請に応じて帰京した。陵墓は京都市右京区嵯峨(さが)鳥居本小坂町の嵯峨小倉陵。〔高崎徳次〕

こがも【小鴨】鳥類・ガンカモ科。全長約38cmの小形のカモ。ユーラシア大陸の中北部で繁殖するが，北海道・本州でも少数が繁殖している。冬季は各地の湖池や公園の池などに多数みられる。人になれやすく，公園の池でよく餌(え)付けされ，親しまれている。→カモ

ごかやま【五箇山】五ケ山とも書く。富山県南西部，岐阜県境に近い山岳地帯に散在する約70の集落の総称で，行政上は東礪波(ひがしとなみ)郡に属し，平・上平・利賀(とが)の3村に分かれる。地名の起原は，庄(しょう)



五箇山
雪に閉ざされた五箇山の集落。独特のかやぶき切り妻合掌造りの民家も，近年は少なくなりつつある

川の本・支流に深く刻まれた上梨(かみなし)谷・下梨谷・赤尾谷・小谷(おたん)・利賀谷の5渓谷(けいこく)があることにちなむという。集落の成立については，木曽義仲(きそよしなか)が平氏の軍勢を撃破した倶利伽羅(くりから)峠に近いことから，山地の裏側の飛騨(ひだ)の白川郷とともに，平氏の落ち武者部落と伝えられている。江戸時代には前田藩の重罪人の流刑地となり，また，煙硝(えんしょう)(有煙火薬)の製造地でもあった。古来，畑でヒエ・アワをつくり，炭焼きや養蚕で生計を立てていた。風雪に耐えるために，大きなかやぶき屋根を急傾斜させた切妻合掌造りの民家が点在して独特の景観をみせ，明治時代まではこの屋根の下で数世代にわたる大家族が共同生活を営んできた。250年の歴史をもつ西赤尾部落の岩崎家では，かつて40～50人の家族が同居していたといわれる。大正末期以来庄川の電源開発が進んで，閉鎖的な山村のおもかげは薄れ，しだいに観光地化が進んでいる。しかし，冬は積雪のために陸の孤島化し，年々離村者が増加している。〔浅井得一〕

こがら　【小雀】　鳥類・シジュウカラ科。全長13cmほどのシジュウカラより少し小形の小鳥で，頭上とくびは黒色，翼・尾は灰かっ色，他の部分は白っぽい。ユーラシア大陸北部に分布し，日本では本州と四国の亜高山帯の森林に生息して，自然樹洞(じゅどう)や自分で掘った巣穴で繁殖する。北海道でも少数が繁殖している。冬季には平地の森林にも降りてくる。冬の森で，この鳥のしわがれ声の〈ジィージィ，ジェージェージェー〉という地鳴きを聞くのは趣がある。

こかわ　【粉河(町)】　和歌山県那賀(なが)郡の町。人口18,000。紀ノ川中流にあり，和歌山線・国道24号線が通る。1955年(昭和30)西国巡礼札所の粉河寺*の門前町である旧粉河町を中心に5町村が合併した。この一帯は県下有数のミカン産地で，紀ノ川両岸の山腹や段丘上にはミカン園が多い。

こかわでら　【粉河寺】　和歌山県那賀(なが)郡粉河町にある粉河観音宗の寺。施恩寺ともいう。西国33か所観音第3番の札所。770年(宝亀1)大伴孔子古(くじこ)の創建と伝える。もと天台宗に属し，貴族・民衆の信仰を得て栄えたが，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の根来(ねごろ)寺征伐のとき兵火により焼失した。その後復興されたが，再三火災にあい，現在の諸堂宇は江戸初期のものである。本尊千手観音の霊験を描いた《粉河寺縁起絵巻*》(国宝)を蔵する。〔藤本昌子〕

こかわでらえんぎえまき　【粉河寺縁起絵巻】　粉河寺*開基の由来と霊験譚(れいげんたん)を説いた千手観音にまつわる二つの説話からなる絵巻物。1巻。同寺所蔵。かつて火災にあい，巻首の詞書(ことばがき)・絵を失い，また巻中の上下に波状の焼痕(しょうこん)をとどめている。画風は暢達(ちょうたつ)な描線を生かし，彩色はときには濃彩を用いるが全般に淡泊である。鎌倉初期の制作とみられ《信貴山縁起*》に次ぐ縁起絵巻の秀作とされる。



粉河寺縁起絵巻　娘の病気をなおした不思議な童子をたずねると，その草庵には千手観音像があった　粉河寺蔵



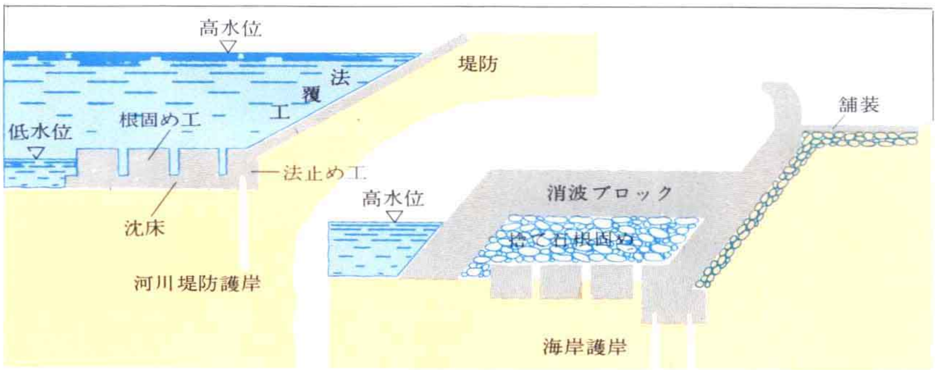
コーガン

コーガン　［Leonid Borisovich Kogan］(1924～　)　ソ連のバイオリン奏者。モスクワ音楽院に学び，在学中の1947年にプラハの青年音楽コンクールに優勝して注目され，翌年卒業。1951年にブリュッセルのエリザベート国際コンクールに優勝して，一躍世界的なバイオリン奏者となった。すでに3度来日し，多くのファンをもっている。

ごかん　【後漢】　⇨漢1

ごがん　【護岸】　海・川の岸や堤防が，水によって破壊されないように保護する工作物。河川堤防ではその斜面(法面(のりめん))に法覆工を施す。これはシバを植え，コンクリートを張り，ブロックや蛇籠(じゃかご)を置くなどする。法先にはこの法面がくずれないように法止め工を施す。これは土台・杭(くい)打ち・矢板工などである。さらに法先前面の川底を保護するために根固め工を施す。これには捨て石・沈床・蛇籠などが使われる。海岸護岸は前面の波圧，後面からの土圧に耐える石がき状あるいは擁壁*状の構造物で，この本体の上部には波が越えないよう胸壁あるいは波返しを設け，本体前面には捨て石や各種ブロックで根固め工を施す。護岸は岸に密着した構造物であるが，前面水中に設置する水制*工と組み合わせることが多い。〔米元卓介〕

ごかん・ごび　【語幹・語尾】　単語を構成する要素。用言には活用があり，語形がいろいろに変化するが，その変化する部分を活用語尾または語尾といい，変化しない部分を語幹という。たとえば〈読む〉は，〈ヨマない・ヨミます・ヨンだ・ヨム・ヨメば・ヨモう〉などと活用するが，このうち，変化しない部分の〈ヨ〉が語幹であり，変化する部分の〈マ・ミ・ン・ム・メ・モ〉が語尾である。〈用いる〉という動詞(上一段活用)では，〈モチイない・モチイます・モチイル・モチイレば・モチイロ(・ヨ)〉となって，〈モチ



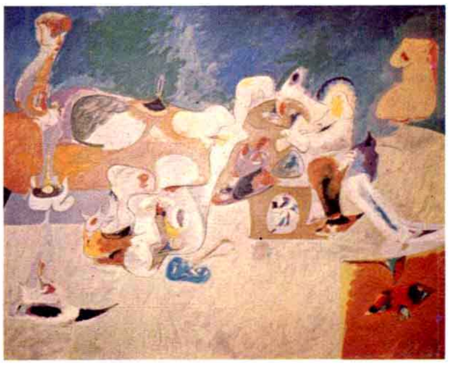
護　岸　構造図

イ〉という部分は変化しないが，〈モチイ—ない，モチイ—ます〉という連なり方を，〈ヨマ—ない，ヨミ—ます〉などの連なり方と対応させて考えて，〈モチ〉を語幹，〈イ・イル・イレ・イロ（・ヨ）〉を語尾と考える。同様な考え方は，上一段活用・下一段活用の動詞の全般に適用される。ただし，〈着る・煮る・見る〉（上一段活用），〈得る・出る・寝る〉（下一段活用）などでは語幹・語尾の区別がつかない。また，〈来る〉（カ行変格活用），〈する〉（サ行変格活用）も語幹・語尾の区別がつかない。形容詞・形容動詞では語幹の独立性が強く，ことに後者の語幹は体言と区別をつけにくいものもある。助動詞も活用するが，語幹と語尾の区別をしないのが普通である。〔市川　孝〕

ごかんじょ　【後漢書】　中国の正史の一。120巻。本紀10巻と列伝80巻は南朝宋（そう）の范曄（はんよう）の撰（せん）。志30巻は西晋（せいしん）の司馬彪（しばひょう）撰の《続漢書*》をそのまま充当している。後漢の歴史を記すが，六朝（りくちょう）的史観が反映しているのが特色。《史記》《漢書》《三国志》とともに〈前四史〉とよばれ，わが国でも古くから読まれた。

こかんしれん　【虎関師錬】　（1278～1346）　南北朝時代の臨済宗の僧。京都の人。俗姓は藤原氏。通称を海蔵和尚（おしょう），おくり名を本覚国師という。10歳のとき比叡（ひえい）山で出家し，のち南禅寺の規庵（きあん）祖円その他について，内外の学を修めた。1313年（正和2）嵯峨（さが）に寓居（ぐうきょ）して後伏見天皇の帰依を受け，名著《元亨釈書（げんこうしゃくしょ）》30巻を奉じた。1324年（正中1）円通寺に住し，さらに東福寺・南禅寺に転じ，1346（正平1，貞和2）寂した。《済北集》20巻，《仏語心論》など著作が多い。〔田中良昭〕

ごかんせい　【互換性】　軸と穴のようにはまり合う機械部品において，おのおのの寸法の限界（これを寸法公差という）を決めておけば，軸と穴の数がいくらあっても，



ゴーキー《耕作と歌II》1946　シカゴ美術研究所蔵

どの軸をとってもどの穴にもはめ合わすことができる。このような性質を互換性という。

こかんせつ　【股関節】　骨盤の側壁をつくる寛骨*と大腿骨（だいたいこつ）との間でつくられる関節*。臼状（きゅうじょう）の関節で大腿骨の骨頭が臼状の寛骨臼に深く入り込んでいる。したがって，肩関節よりも脱臼は起こりにくいが運動は制限される。先天性股関節脱臼*は，新生児200人に1人の割合であり，女子に比較的多い。脱臼があると脱臼側の下肢（かし）が短くみえる。歩行開始が遅れ，また歩きはじめても上体を左右に振るようになる。早期に脱臼をなおせば，歩行障害を残さない。〔幡井　勉〕

コーカンドかんこく　【コーカンド汗国】　中央アジアのフェルガナ盆地に存在した封建国家。18世紀初頭ウズベク族によりコーカンドを中心に建国された。ブハラ汗国*から分立し，アリム汗（在位1800～1809年）のときに全盛であった。住民はタジクおよびウズベク族・キプチャク族・キルギス族などからなり，土地の大部分は汗および大貴族が所有した。タシケントを中心に中国・ブハラ・ロシアなどの間の中継貿易が盛んに行なわれた。しかし，間断ない内乱とブハラ汗国との抗争で徐々に弱まり，1875年ロシアの従属下にはいり，翌年フェルガナ州として編入された。〔山県弘志〕

こかんやぜんう　【呼韓邪単于】　⇨王昭君

こき　【古稀】　⇨賀の祝い

ゴーキー　［Arshile Gorky］　（1904～1948）　画家。アルメニア生まれ。1920年にアメリカに移住し，はじめは主としてキュビスムの影響下にあったが，第2次世界大戦中にブルトン*・タンギー*らと知り合い，幻想的なフォルムが自由に錯綜（さくそう）する表現主義的抽象画に転じた。その生涯（しょうがい）は不幸が続き，ついには自殺に終わった。

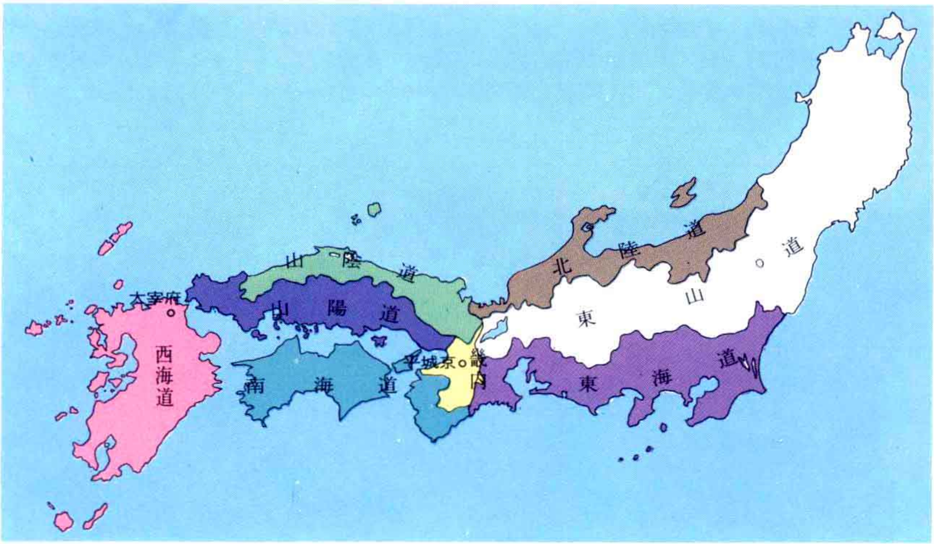
こぎく　【小菊】　小菊紙の略称。➜懐紙

こきこう　【古気候】　地球上の現在の気候に対して，過去の時代（一般に地質時代を意味するが，歴史時代を含むこともある）の気候状態。古気候の状態と原因・変遷を研究する学問を古気候学という。古気候の状態はそれぞれの時代の古生物，極移動と岩石残留磁気，氷河地形と氷河期堆積物（たいせきぶつ），花粉分析，雪線変化，海洋堆積物，放射性物質による年代測定，考古学，年輪，河川の水位変化の研究などによってしだいに明らかにされてきた〔神戸信和〕

ごきさい　【呉熙載】　（1799～1870）　中国，清（しん）代の文人。名は廷颺（ていよう），字（あざな）は熙載，のち譲之と改めた。号は晩学居士。江蘇（こうそ）儀徴の人。包世臣に書法を学び，よく師法を遵守し，包氏が清朝第一と推称した鄧石如*（とうせきじょ）を敬慕し，特に篆隷（てんれい）に長じた。篆刻*にも長じ，また鄧派の新風を開いた。《師慎軒印譜》がある。

ごきしちどう　【五畿七道】　律令（りつりょう）制下における地方行政区画の統合的名称。令*制では全国を数十か国に区画していたが，そのうち都の近くの数か国を畿内とし，他の国は諸国としてこれを七道に分けた。畿内ははじめ大和（やまと）・摂津・河内（かわち）・山背（のち山城）の4か国であったが，757年（天平宝字1）和泉（いずみ）を設置してから五畿と称した。現在の奈良県・大阪府および京都府南半にあたる。七道は山陽・東海・東山・北陸・山陰・南海・西海の各道で，京都から各道へはそれぞれ放射状に官道が設けられ，各道の国府*を連絡した。五畿から七道へ出る境界には軍事・警備上の関所*が置かれた。五畿は民政上特別の配慮が加えられ，七道のうち9国2島（対馬（つしま）・壱岐（いき））からなる西海道（九州地方）は大宰府*（だざいふ）に統管された。〔高崎徳次〕

こぎって　【小切手】　振出人が，支払人である銀行に対して，一定額の金銭の支払いを依頼する形式の有価証券*。現金による支払いは，まちがいが生じやすいし，危険でもあるため，振出人が特定の銀行に当座預金口座を開設し，小切手金の支払いを依



五畿七道　720年現在

頼する趣旨の小切手契約を結び，支払いの相手方に小切手を振り出し，現金の支払いをするという形式で取引上広く利用されている。現金の授受に代わる支払いの用具として用いられているものである。しかも普通の小切手は，持参人払い(無記名式)の形で振り出されるし，その譲渡は，小切手を交付するだけでできるので，小切手を受け取った者は，さらにこれを自分の債務の支払いのために他の人に交付できるといった利点もある。このように小切手は支払いの用具として利用されるものなので，すべて一覧払い(支払い呈示のあったときに支払われるもの)であり(小切手法28条)，支払い呈示期間も国内で振り出されかつ支払われるべきものは，10日間といったようにきわめて短くなっている(小切手法29条)。もっとも，支払い呈示期間を経過したとしても，振出人が支払い委託を取り消さないかぎり支払われる(小切手法32条)。小切手が，支払いの用具から手形*と同じような信用証券化されて利用されるのを防止するため，その引き受けや支払人の裏書*などは禁止されている(小切手法4・15条)。その反面支払いを確実にするために，支払人は銀行でなければならないことになっている(小切手法3条)。小切手は，手形と並んで厳格な要式証券*・文言証券*・無因証券*である。〔松本治雄〕

ごきづる【合器蔓】 双子葉植物・ウリ科。暖かい地方の水辺にはえる一年生つる草。茎は長さ2mくらいになり，巻きひげで他物にからむ。葉は三角状で基部は心臓形，縁に鋸歯(きょし)がある。雌雄同株。夏の終わりから秋にかけて，葉のつけ根に多数の黄緑色の小花をつける。果実は楕円(だえん)形でぶらさがり，熟すと中央部に裂け目ができ，下半分がふたのように離れ，2個の種子が出る。

こきでん【弘徽殿】 平安時代の皇居の一殿。清涼殿*の北にあって東面し，麗景殿に相対したところにある。後宮の一つで女御(にょうご)などの居所として用いられた。

コギト 文芸雑誌。1932年(昭和7)3月に創刊され，1944年9月に終刊。通巻141号。編集兼発行人は肥下恒夫(つねお)。これによった保田(やすだ)与重郎*・亀井(かめい)勝一郎*・芳賀檀(はがまゆみ)・山岸外史らは旧《日本浪曼派*(にほんろうまんは)》同人であり，プロレタリア文学の衰退を受けて，古典への浪漫的憧憬(どうけい)を歌いあげた。その熱烈な民族主義は，第2次世界大戦中の狂信的国粋主義の波に乗り，時代に迎えられた。

こぎどう【古義堂】 江戸中期の儒学者伊藤(いとう)仁斎*の私塾(しじゅく)。1662年(寛文2)仁斎36歳のとき，京都に大地震があり，しばらく隠棲(いんせい)していた松下町から堀川(ほりかわ)の生家に帰って開いた塾。堀川塾ともいう。主として《論語》《孟子(もうし)》《中庸》を講じ，ゼミナール形式の〈同志会〉を設



クロゴキブリ



ワモンゴキブリ

ゴキブリ

けて指導にあたった。講義は延享年間(1744～1747)に喪により中断しただけで，40余年にわたって続けられ，門弟は3,000人といわれる。〔小田　博〕

こきはし【扱箸】 江戸前期に使われていた，イネ・ムギの脱穀用農具。〈こばし〉ともよばれた。2本の竹あるいは木の棒の間に，イネ・ムギをはさんでこき落とした。江戸中期ごろには千歯こき*が出現したためしだいにすたれていった。各地の農村にみられる収穫祝いの〈こばしあげ〉は，扱箸を使用した当時のなごりである。

ごきぶり【蜚蠊】 こん虫類・直翅(ちょくし)目・ゴキブリ亜目の総称。俗にアブラムシともいう。世界の両極地方を除く各地から2,000種以上が知られ，熱帯地方に多く，温帯地方には少ない。わが国からは5科，約20種が知られている。ゴキブリ類は，現在のこん虫類の中では最も長い歴史をもち，2億5,000万年以上昔の古生代石炭紀にはすでに出現しており，現在に至るまで，その形態は大きな変化をしていない。一般に体は幅広く扁平(へんぺい)で，前胸部が大きく，頭部は上からは見えない。色彩は，一般にかっ色または黒かっ色で，油脂状の光沢のある種類が多い。不完全変態をし，卵はカマキリなどと同様卵鞘(らんしょう)内に納められるが胎生の種類もある。幼虫(若虫)は翅(はね)がなく，5～9回の脱皮を行なったのち成虫になる。成虫は脚が発達しており，疾走性で暗所を好む種類が多いが，朽ち木に生活する種類や渓流性の種類もある。成虫は有翅の種が多いが，無翅の種もある。1世代の期間は短いものでも数か月，長いものでは5年にも及ぶものがある。

家住性のゴキブリは4～5種にすぎず，重要な種類としてはチャバネゴキブリ・クロゴキブリ・ヤマトゴキブリ・ワモンゴキブリなどがある。ゴキブリ類には群居性の種があり，若齢幼虫で特に著しい。一般に夜間活動性で，昼間は温度が高く，狭く暗い場所に潜み，屋内では台所周辺に多い。低温に弱く，関東以北では冬の常温で越冬できない。雑食性で，人間の食品はなんでも食べるが，かわいた糞便(ふんべん)，衣服類，壁紙，書籍の糊(のり)などを食う。食品や食器の上を歩き回わったり排糞するため，赤痢菌などの消化器系の伝染病菌を伝播(でんぱ)し，小児麻痺(まひ)のウイルスなども伝播するといわれる。飲食営業施設にはチャバネゴキブリが多く，木造住宅にはクロゴキブリ・ヤマトゴキブリが多い。駆除には殺虫剤を生息場所の周辺に散布したり，燻煙(くんえん)剤を用いるが，わが国のチャバネゴキブリは大部分のものが塩素系殺虫剤に抵抗性があり，スミチオン・ダイアジノン・バイテックス・DDVPなどの有機リン剤系殺虫剤が有効である。〔鈴木猛・鈴木邦雄〕

ごぎゃく【五逆】 仏教で説く五つの重罪で，この行為を犯した者は無間地獄におちるといわれ，五無間業・五不救罪ともいう。五逆の内容には種々の異説があるが，代表的なものは小乗の五逆で，①父を殺す，②母を殺す，③阿羅漢*(あらかん)を殺す，④仏のおからだを傷つけ血を流す，⑤教団の統一を乱すの五つをいう。①②は恩にそむき，③④⑤は福徳にそむくとされ，この中で最も罪の重いのは第五とされる。仏典中の人物で，五逆を犯した者としてデーバダッタ*(提婆達多)が有名である。〔大南龍昇〕

ゴーギャン［Paul Gauguin］(1848～1903) フランスの画家。パリの生まれ。父の死後6年間の船員生活ののちにパリの株式仲買事務所にはいって10年間を過ごした。この間にピサロ*と知り合い，絵を描きはじめ，1876年サロンに入選。しだいに芸術に没頭し，1883年画業に専念するため勤務を辞した。1880年初頭には色彩の取り扱いに独自性をみせたが，1884年・1885年の個展には絵が売れず，しだいに貧困に陥った。1886年最初のブルターニュ旅行。1888年2月ブルターニュのポンタブマンでベルナール*らに出会い，〈サンテティスム〉(総合主義，印象派の色調分割・並列の技法に対して，ナビ派*がその総合という意味で用いた技法・理念)運動を起こす。この年に描かれた《天使と格闘するヤコブ》において，ゴーギャンは色面を輪郭線で囲んだが，この手法がエマイユ-クロアゾンネ(いわゆる七宝焼)の技法と類似しているところから，彼自身これを〈クロアゾニスム〉とよび，それ以来この語はサンテティスムの同義語として用いられた。1888年アルルにゴッホを訪れて2か月を過ごしたが，この訪問は彼らの友情を悲惨な結末へと導く。1889年ポンタブマンにもどり，のちルプールデュに移る。ここで，彼の芸術はその究極的な簡潔化された形式を獲得するが，それは強烈な色彩を伴っていた。1891年6月から1893年7月までタヒチ島に滞在，原始的な自然と原住民の女たちに素朴(そぼく)さと活気に満ちた健康さを見いだす。その後はいったんパリにもどって，1895年7月再びタヒチに渡り，



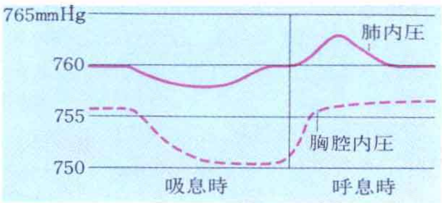
ゴーギャン
《五月のタヒチ》
1891
グッゲンハイム美術館蔵

1901年マルケサス諸島のラ-ドミニク島に移ったが，病気や官憲との争いに悩まされるうちに死んだ。最後の作品はブルターニュの雪げしき。〔岸野悦子〕

こきゅう【胡弓】江戸時代から使われている日本の擦弦楽器。構造は三味線(しゃみせん)を小形にしたもので，ひざの間にはさんで立て，右手に持った弓でひく。弦の数は3本が多いが，4本のものもある。弓でひくために，箏(そう)や三味線よりも，音高の持続と音高の連続的な変化とが効果的に行なわれやすい。したがって，リズムを柔軟に動かす旋律楽器としての特徴が強い。楽曲としては，胡弓独自のための本曲が個個の流派で10曲以上伝承されている。また，今日，箏・三弦・尺八によって行なわれる三曲合奏は，明治以前は尺八の代わりに胡弓が使われていた。〔徳丸吉彦〕

こきゅう【呼吸】一般に，生物が生きていくために酸素を費消し，二酸化炭素を排出することをいう。しかし，生物は必ずしも好気的なものばかりではなく，嫌気(けんき)的(無気的)に生きているものもかなりある。これらは微生物に多く，たとえば酵母菌はブドウ糖からアルコールに至る無気的分解によって生じたエネルギーを利用して生存している(無気呼吸)。高等生物の呼吸は一般に好気的で，その呼吸は細胞および体全体(特に呼吸器)の2段階に分けることができる。細胞段階の呼吸は，栄養素が化学的な分解を受け，最後に酸素を利用して水になる過程で，この際ＡＴＰ*の生産がある(→解糖　→トリカルボン酸回路　→ミトコンドリア)。

ここでは主として体全体における呼吸について話を進める。扁平(へんぺい)で運動の緩漫な下等動物では，呼吸量もそれほど大きくないため，体表から体内へと空気が拡散していけば，その中の酸素を消費することだけで十分な運動ができる(皮膚呼吸)。しかし，動物がしだいに進化して大形になり，体表に比して体積が大きくなると，体内まで酸素が到達するのには拡散だけではまかないきれなくなる。そこで，一方では体液中に呼吸色素が出現し，これが酸素とゆるい結合をして必要な場所まで運んでいき，酸素を放つ。これと同時に，体液が体のすみずみまで十分に行き渡るようにポンプの役目をするもの，つまり心臓がしだいに形成された。心臓はしだいに高等な構造をもつように進化するが，呼吸の中でいちばんたいせつな点は，動物が皮膚呼吸を依然として保存しながら呼吸器官を発展させた点である。呼吸器は動物の種類によって構造が多様であるが，基本的には空気との接触面が大きく，ガス交換が容易になっている。代表的なものは，水生動物のえら*と陸上の脊椎(せきつい)動物の肺*である。えらは表皮の一部がたくさんのひだとなってできたもので，内部には毛細管の分布が非常に密にあり，水に接する膜はほとんど単分子膜に近いほど薄く，水中溶存酸素を取り入れるのに都合がよくできている。肺の原始形は魚の浮きぶくろであり，特に肺魚のそれは血管の分布がよく，夏眠の際はそこで肺呼吸のようなものを行ない，雨期まで待つ。カエルではこのただの袋のような形態から進化して，しだいに細分化された小室(肺胞)に分かれ，血管の供給もさらに激しくなり，空気との接触が深まる。ヒトでは肺胞の分化が一段と高まるとともに空気との接触が多いため，乾燥の害を防ぐ必要からか厚い粘膜でおおわれるようになる。皮膚呼吸も呼吸の中でかなり重要な役割をしており，ヒトでは体表全体を数分間ふさいでしまえば死に至るといわれている。こん虫類の呼吸器は特殊で，表皮が体内に落ち込んで管となり，これがさらに細かく枝分かれして，体内深く組織中にまではいりこんでおり，空気はここまではいってきて組織と直接ガス交換を行なう。



呼　吸　呼息時と吸息時の圧力の変化。吸息時には，横隔膜が沈下し肋骨が挙上することによって，胸腔内の圧が下がり，肺に空気が流れ込む

	酸　素	二酸化炭素	窒　素
吸　気	20.94%	0.03%	79.03%
呼　気	16.44%	3.84%	79.03%

表－1　呼吸によるガスの組成変化

	吸 気	呼 気	肺胞気	静脈血	動脈血
酸　素	158.2	116.2	100	40	95
二酸化炭素	0.3	28.5	40	46	40
窒　素	596.5	568.3	573	573	573
水蒸気	5.0	47.0	47	47	47
計	760	760	760	706	755

表－2　呼気・吸気の分圧(mm Hg)。吸気が肺内にはいると，肺内には換気されない気体が残っているため，それぞれの気体の分圧に変化が起こる。この肺胞気と静脈血の分圧の差によって気体の拡散が起こり，ガス交換が行なわれる

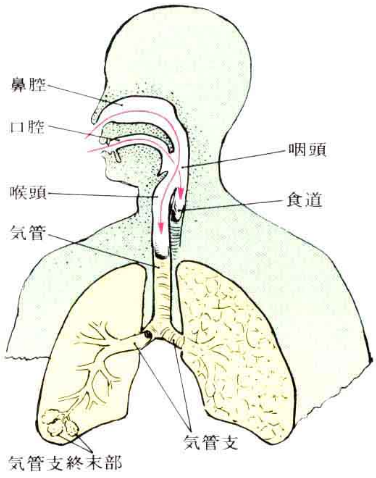
【呼吸色素】動物は体液中に酸素を溶存させて運ぶだけでなく，可逆的に酸素と結合する色素をもっている。すなわち空気と接触すると酸素で飽和され，酸素分圧の低い細胞に到達すると酸素を遊離させる役目をもっている。動物によって種々の色素があり，色にも赤(ヘモグロビン)・緑(クロロクルオリン)・紫(ヘムエリスリン)・青(ヘモシアニン)などがあるが，すべてが重金属をもった一種の金属錯化合物である。イカ・タコ類の体液は無色のため，呼吸色素がないようであるが，空中に放置すると青くなり，銅を含むヘモシアニンを含むことがわかる。最もよくみられる色素はヘモグロビンである。昔，アリストテレスは体液をすべてこのヘモグロビンと考え，分類のしかたとして有血動物と無血動物に分けたため，ミミズのようなものまで高級な仲間に入れられた。この色素の分布はきわめて不規則で，ミミズなどでは体液中にとけている状態であるが，ヒトでは赤血球の中にあり，ヒトのほうが酸素を運ぶ能力が多大である。ヘモグロビンが酸素を運ぶとき，その鉄は二価でなければならず三価のメトヘモグロビンは運搬能力はない。〔井坂三郎〕

こきゅううんどう【呼吸運動】動物が酸素を取り入れる運動。水生の動物は一般にえらを用いて呼吸をするが，水中溶存酸素量はそれほど大きくはないので，たえず新鮮な水をえらに送らねばならない。たとえば魚では水をたえず飲み込み，これをえらを通じて送り出す。しかし前述の理由から，あまり激しい持続的な運動ができない。

のが特徴である。陸上生活者は空気を呼吸しているので，その点では利点が多く，激しい運動のできる種類も多い。ヒトの呼吸器である肺*は弾性があるが，それ自身では伸縮運動ができない。肺と胸壁との間には液のはいっている狭いすきまがある。ここは大気圧よりも圧が低く，肺は胸壁によくついている。吸気の際は横隔膜が下がるとともに外肋間筋(がいろくかんきん)などが収縮するため，胸腔(きょうこう)が広がるとともに，上述の内液の圧がさらに下がり肺は広がって空気がはいりこむ。逆の過程をたどれば空気が追い出されることになる。安静時の吸気量はだいたい500cm^3であるが，最大限(肺活量)はふつう3,500cm^3である。呼吸運動の中枢は延髄にあり，ここの興奮が横隔膜神経や肋間神経を通して横隔膜や肋骨の筋肉に伝えられ，収縮を起こさせる。中枢は血中の炭酸ガス量によって大きく興奮するから，血液中の炭酸ガスが多くなると当然呼吸運動も激しくなる。〔井坂三郎〕

こきゅうき【呼吸器】 外呼吸のため特に分化した器官。原生動物・腔腸(こうちょう)動物(クラゲ・イソギンチャク)などでは，水中にとけている酸素が体表から体内に自由に拡散し，体内に生じた二酸化炭素も体表から外部に拡散して呼吸を行なう。体の構造が複雑になったミミズの類でも特別な呼吸器官はもたず，体表に豊富に分布する血管の中を流れる血液と外界との間で，上皮を通してガス交換をする。脊椎(せきつい)動物でも皮膚でかなりの量のガス交換が行なわれる。カエルがその例である。ドジョウなどは腸壁の上皮を通しての呼吸も行なっている(→腸呼吸)。水中で生活する環形動物・軟体動物・甲殻(こうかく)類・魚類などにはえら*があり，体表に突出したひだによって水との接触面積を広くし，水中の酸素が体内に拡散する能率を高めている。えらには血管が豊富に分布している。肺魚は体内のうきぶくろ*に血管が発達していて，乾燥期にはうきぶくろの中の酸素が血管中に拡散し，また血液中の二酸化炭素はうきぶくろの中に拡散して呼吸を行なう。こん虫では，体内に気管が発達しており，これは体側に開いて気門*となって外界を通じている。クモ類では腹部に書肺という呼吸器官があり，腹部の開口部を通じて外界と連絡している。陸上で空気中の酸素をとり入れる動物は肺*で呼吸する。カエルのように肋骨(ろっこつ)をもたない動物は，口腔(こうこう)がポンプのような役目をして，口腔内圧を変えることによって呼吸をする。

哺乳(ほにゅう)動物では鼻腔・咽頭(いんとう)・喉頭(こうとう)・気管・気管支などが高度に分化した呼吸器系を構成している。これら呼吸器系は単に気道*としての役割だけでなく，鼻腔には嗅覚(きゅうかく)上皮があって嗅覚機関をもち，さらに副鼻腔・眼窩(がんか)(鼻涙管)と交通するほか，喉頭*は発声機能を関与している。本来の呼吸(ガス交換)は呼吸器系の最終部にあたる肺胞(→肺)で行なわれる。〔幡井勉・橋本長〕



呼吸器 ヒトの呼吸器

こきゅうこうそ【呼吸酵素】 生体内における酸化還元反応(呼吸)にあずかる酵素の総称。脱水素酵素*・酸化酵素*・トリカルボン酸回路*を構成する各種の酵素，チトクローム*系まで包括していう場合が多い。➔呼吸 ➔酵素

こきゅうこんなん【呼吸困難】 自然に呼吸できない自覚症状の一。急性と慢性の別があり，軽いものから窒息死に至る重症のものまである。また起因する疾患により，肺性・心臓性・代謝性・神経筋性・心因性などに大別される。原因としては，血中化学成分の変化，不完全な換気，循環障害，自覚的な感受性の増大など諸説があるが，現在なお不明の点が多い。治療はそれぞれの基礎疾患に対する適切な処置が前提となるが，大別して体位保持，薬剤治療，酸素吸入，補助呼吸器の使用，異物摘出，気管切開などの外科的療法，刺激の除去などがある。〔森成 元〕

こきゅうしきそ【呼吸色素】 酸素と可逆的に結合して酸素の運搬体または貯蔵体として働く物質。多くの場合，有色の化合物である。ヘモグロビンはその一例で，酸素分圧の高い肺で酸素と結合し，血流にはいって分圧の低い細胞に到達して酸素を放つ。酸素と結合したヘモグロビン(オキシヘモグロビン)は赤色が強い。脊椎(せきつい)動物のヘモグロビンは血球中に存在しているが，無脊椎動物の呼吸色素(ヘモシアニン・クロロクルオリン)およびミミズのヘモグロビンなどは血漿(けっしょう)中にとけた形になっている。〔井坂三郎〕

こきゅうしょう【呼吸商】 生物の呼吸のとき，酸素の消費と同時に生ずる炭酸ガスの発生の量的比をいう。普通RQ(respiratory quotient)と略す。$CO_2/O_2=RQ$ それぞれの栄養物が酸化されるときの理論的なRQは計算されており，炭水化物は1，脂肪は0.7，タンパクは0.8である。したがって，RQを知ればその生物がどのような食物をとっているかがわかる。しかし，生物は一種の食物しかとっていないということはなく，また，炭酸ガスが他の経路で発生することがしばしばあるから，実際にはそのように簡単には計算されない。〔井坂三郎〕

ごきょう【五経】 儒教*の5種の経典。儒教の発展の過程で，その教義の典拠として整理・形成された。漢の初めには《易経*》《書経*》《詩経*》《礼記*(らいき)》《楽経*》《春秋左氏伝*》の六経(りくけい)(または六芸)があげられたが，のち《楽経》は滅びた。BC136年漢の武帝が官学の講座に五経博士を任命して以後，中国歴代王朝の国家的思想統制の基準となった。

ごきょう【五教】 中国仏教において，説かれた形式・内容などから経典を5種類に分類して体系化したもの。教典の分類は南北朝時代に最も多く行なわれ，宋(そう)の慧観(えかん)・法雲は有相教・無相教・抑揚教・同帰教・常住教の五教を説き，天台宗では五時八教*を，華厳宗(けごんしゅう)では五教十宗*を説いた。日本仏教においても，融通念仏宗では人天教・小乗教・漸教・頓教(とんきょう)・円教の五教をたてるが，これは華厳宗の五教に基づいている。〔鎌田茂雄〕

ごきょう【護教】 教えを守ること。仏教では，インド以来多くの護教家が現われ，論敵と論難をかわして仏教を弁護し，発展させてきた。各派の論師と活発に論争したナーガールジュナ*(龍樹(りゅうじゅ))や，その弟子(でし)アーリヤ-デーバ(聖提婆(だいば))はその代表的なものであろう。中国・日本においても，儒学・道教・国学の人と論争した護教家は数多く出た。なお，政治力・軍事力をもって仏教に外護を加えることも護教といえよう。〔金岡秀友〕

ごぎょう【御行】 正しくはオギョウといい，春の七草の一。キク科のハハコグサの別名。➔ハハコグサ

ごぎょうえき【五行易】 ⇨易

ごきょうじっしゅう【五教十宗】 中国，華厳宗(けごんしゅう)の教典分類法。五教とは小乗教・始教・終教・頓教(とんぎょう)・円教をいう。①小乗教：《阿含経(あごんぎょう)》の説で，四諦(したい)・十二因縁を説くもの。②始教：空始教と相始教とに分かれ，空始教では《般若経(はんにゃぎょう)》の空*，相始教では《解深密経(げじんみっきょう)》の阿頼耶識*(あらやしき)縁起を説く。③終教：《大乗起信論》の説で，真如*(しんにょ)という不変的存在を説く。④頓教：《維摩経(ゆいまぎょう)》の教説に基づき直ちに悟りに入ることを説く。⑤円教：《華厳経》の教説で，最高の教えを説くもの。十宗は五教の第1の小乗教の中を6種に分類し，残りの四教に対応する四宗を加えて十宗としたもの。我法倶有宗(がほうぐうしゅう)・法有我無宗(ほううがむ

（しゅう）・法無去来宗（ほうむこらいしゅう）・現通仮実宗（げんつうけじつしゅう）・俗妄真実宗（ぞくもうしんじつしゅう）・諸法但名宗（しょほうたんみょうしゅう）は，主観と客観，物と心との関係から分類したもので，一切皆空宗（いっさいかいくうしゅう）は空始教，真徳不空宗は終教，相想倶絶宗（そうそうぐぜつしゅう）は頓教，円明倶徳宗（えんみょうぐとくしゅう）は円教にそれぞれ対応する。五教十宗は智儼（ちごん）が創設し，華厳宗第３祖法蔵が完成した。〔鎌田茂雄〕

ごきょうせいぎ【五経正義】 中国，唐の太宗が孔穎達（くようだつ）らに選定させた国定教科書。180巻。五経のおのおのは必ずしも１種でなく，またそのおのおのに対して，漢・魏（ぎ）代に多種の注解が書かれ，さらに六朝（りくちょう）時代には仏教学の影響もあって注解をさらに解釈した〈義疏（ぎそ）〉が多様に試みられた。《五経正義》選定の意図は，これらの経典・注解・解釈の多様化に対し，これを整理統一して思想の国家的統制の基準をつくることにあった。実際，朱子学が国定教学となるまで，この書は科挙の規準とされ，中国の支配層・官僚の頭脳にたたきこまれたのである。➔経学〔西　順蔵〕

ごぎょうせつ【五行説】 古代中国で説かれた，世界を形成する五要素は木・火・土・金・水であるという説。戦国時代末期の鄒衍（すうえん）は，五行は天道の循環の順序であり，のちのものが先行するものに勝つと考えて，この五行相勝説によって王朝交替（革命）を説明した。のちに五行相生説が説かれ，王朝交替は前後王朝の和解的な継承関係だとされた。五行は，同時に並存して事物を形成する側面と，時間的に継起して事物の変化をもたらす側面とをもつが，これが漢代の経学において陰陽（いんよう）説と結合して，陰陽のいっそう複雑な展開の形であるとされ，ここに陰陽五行説がつくられた。これは，自然と人事に共通の範疇（はんちゅう）であり，陰陽五行を共通にしていることによって自然と人事とは互いに関連影響しあい，全体として天道の運行に支配されている，という恣意（しい）的・迷信的な現存体制絶対化の思想となった。〔西　順蔵〕

こきょく【古曲】 日本音楽用語で，ごく普通の意味では，ある曲種のレパートリーの中で作曲年代の古いものをばく然とさし，新曲に対比される。特殊な意味としては，日本伝統音楽のうち河東節・一中節・薗八節（そのはちぶし）（宮薗節）の３派の浄瑠璃（じょうるり）（語り物），さらに歌い物では荻江節（おぎえぶし）を加えていう。これら４流派に共通なことは，衰えかけてはいるがそのじみな様式が一部の人々の根強い支持を得ていることである。〔山口　修〕

コキール［coquille］ 原意はフランス語のホタテガイ。ホタテガイの貝殻（かいがら）またはその形をした容器に盛られた料理をいい，器のまま食卓に供する。鶏肉や魚貝類・エビ・カニなどを材料とし，白ソースで調味して焼き付け料理にする場合と，あらかじめ料理したものを冷製にして盛る場合とある。ふつう夕食用だが昼食にも用いられ，焼き付け料理にしたものは温前菜としても用いられる。



胡　琴　手前は弓　藤井有鄰館蔵



こぎん　（左）西こぎんきもの　弘前以西でつくられるもので肩に太いしま，その下に細い２本のしまを配する　（右）こぎん模様

こきん【胡琴】 中国の擦弦の弦鳴楽器。中国読みではフーチン。日本の胡弓と関連がある。立てて奏するもので，弦の数は２弦と４弦とがある。弓は弦と弦の間に挿入（そうにゅう）されていて，前後に押し引きして擦奏する。元朝（13世紀）以後，演劇や民間の楽曲と結びついてさまざまに使われた。

こぎん 江戸末期，東北地方に生まれたもので，古くは〈こぎの〉〈こぎぬ〉〈こいの〉とよばれた腰までの短い着物の名称であったが，しだいに布の補強のため，白のもめん糸で刺し子にした仕事着をいうようになった。刺し子はのちに，実用の域を越え，装飾模様に発展し，こぎん刺しとよばれるようになった。津軽地方に精巧なものがある。

こぎん模様は，平織りの糸沿いにたて糸を規則的にすくい，１目ずつ左または右にずらして刺す場合に自然に生み出される幾何学的模様で，民芸調を離れて洗練された美しさと変化がある。模様の構成は，数十種の簡単な単位模様を組み合わせ，それを囲む斜線の流れで連続させるもので，斜線の流れによって無限の変化がつくり出される。単位模様にはそれぞれ自然界の事物になぞらえて〈フクベ〉（ひょうたん）・〈猫（ねこ）のマナグ〉（猫の目）・〈テコナ〉（蝶（ちょう））・〈クルビカラ〉（クルミ殻（から））などの名称でよばれるが，いずれもだれかの思いつきによってつけられたものが多く，場所や年代によって必ずしも一定していない。〔田村彰三・山村あい子〕

こきんいきょくしゅう【古今夷曲集】 江戸前期の狂歌集。10巻。1666年（寛文６）刊。編者生白堂行風は松永（まつなが）貞徳の門人で，生没年未詳。古今の文献に記載された全狂歌を集成し，《古今和歌集》にならって四季・神祇（じんぎ）・離別・羇旅（きりょ）・恋・雑・釈教に部立て分けをした選集で収録作者は241名，狂歌数は1,500余首を数える。行風は本書に漏れた狂歌を集成して《後撰（ごせん）夷曲集》をも編集した。なお，〈夷曲〉とは狂歌をいう。

コーキングざい【コーキング材】 建築物で，ボード間の目地部分，サッシまわりなどに水密性・気密性を与えるために詰める材料。コーキングとは本来船板のすきまにまいはだを詰め込んで漏水を防ぐことを意味している。シーリング材と目的は同じであるが，一般に油性のものをさし，JIS（日本工業規格）A 5751に規定されている。油性コーキング材は，展色材として樹脂や油を用い，石綿や炭酸カルシウムなどの鉱物質材料を混ぜ，ペースト状にしてあり，一般に灰色である。コーキングガン用とへら用があり，また夏用と冬用で柔らかさが異なる。〔難波蓮太郎〕

こきんぐみ【古今組】 箏曲（そうきょく）のレパートリーの一。《古今和歌集》の歌を題材に，吉沢検校（よしざわけんぎょう）（1801～1872）が作曲した《千鳥の曲》《春の曲》《夏の曲》《秋の曲》《冬の曲》の５曲をいう。光崎（みつざき）検校の影響を受け，三味線（しゃみせん）から離れた純箏曲をつくる意図から生まれたもので，雅楽にヒントを得て考案された半音なしの古今調子でつくられている。その点で，復古主義あるいは新古典主義などといわれることがある。〔山口　修〕

こきんちょう【胡錦鳥】 鳥類・キンパラ科。オーストラリア北部から西北部に分布し，飼い鳥として愛玩（あいがん）される。羽色の美しいことではフィンチ中随一で，英名をゴールデン-フィンチという。わが国には明治時代から輸入されているが，繁殖に成功したのは大正になってからである。現在みられる鳥はわが国で繁殖したもので，最近ではカナリアと同様輸出している。寒さに弱く，冬季保温の必要がある。赤コキンチョウ・黒コキンチョウ・黄金コキンチョウの３種類がある。〔石島芳郎〕

こきんでんじゅ【古今伝授】 《古今和歌集》中の難解な部分の解釈を，師が弟子（でし）に伝えることをいい，主として中世に行なわれた。内容は，たとえば〈呼子鳥〉とはどういう鳥かとか，〈相生（あいおい）の松〉とはどんな松かといった，たわいないことが多いが，それを各流派が秘儀視したため，歌道の権威という面からはある特別な意味が生じた。極端な《古今和歌集》尊重のふうの

一つの現われといえよう。

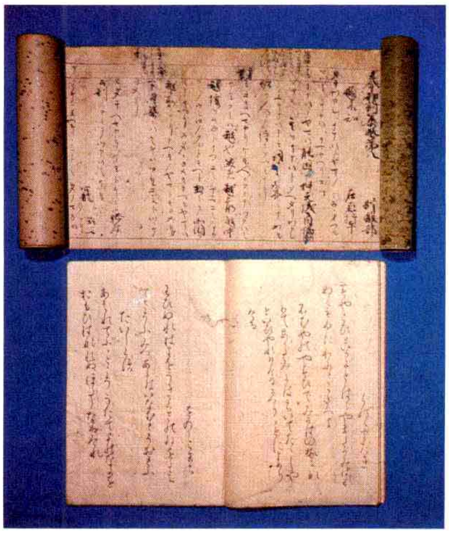
こきんわかしゅう 【古今和歌集】 醍醐(だいご)天皇の勅命によって撰進(せんしん)された，最初の勅撰和歌集。20巻。歌数は1,100首余。選者は紀友則*(とものり)・紀貫之*(つらゆき)・凡河内躬恒*(おおしこうちのみつね)・壬生忠岑*(みぶのただみね)。成立時期については，序文にしるされている延喜5年4月18日を集が完成して天皇に奏覧した日付とみて905年(延喜5)とする説，選者らに編集の勅命が下った日付とみて実際にできあがったのは913～914年とする説などがある。

《万葉集*》以後，《古今和歌集》成立に至るまでの1世紀半は，ふつう国風暗黒の時代とよばれ，和歌は漢詩文の隆盛に押されてはなはだしく衰退し，漢詩文の教養にあずからない女性や下級官人，都鄙(とひ)の庶民などの間で私的に細々とよみ継がれているにすぎなかった。しかし，9世紀後半にはようやく復活のきざしがみえはじめ，醍醐天皇の父帝宇多天皇の御代(みよ)になってからは歌合(うたあわせ)があいつぎ，和歌再興の基盤は急速に整っていった。こうした背景の中で新たに勅撰の和歌集が企てられ，《古今和歌集》が出現したのである。

《古今和歌集》には和文で書かれた仮名序と，漢文で書かれた真名序とがあり，仮名序は紀貫之，真名序は紀長谷雄(はせお)の子淑望(よしもち)の作と伝えられている。両序ともに，それまでにすでに一流の文芸として認められていた漢詩文と同等の地位を和歌にも与えようとする意欲にあふれた内容のものであり，本格的歌論の最初のものとして以後の歌論に多くの影響を与えた。

歌集としての組織は，春(上・下)・夏・秋(上・下)・冬・賀・離別・羇旅(きりょ)・物名(もののな)・恋(1～5)・哀傷・雑(上・下)・雑体・大歌所御歌の各部立からなり，四季部・恋部を軸に緊密な構成が図られている。部立の内部においても，たとえば春の部ならば立春に始まり，ヤナギ・ウメ・サクラ・フジ・ヤマブキなどと続いてゆく春に終わるなど，季節の移り変わりに従った歌の配列がなされており，細部にわたって選者の美意識の反映が認められる。

〈古今〉という名称は，《万葉集》以後の古い歌と，撰集当時の新しい歌とを集めたという意である。収められた歌を時代別に大別すると，比較的古い時代の作が多いよみ人知らずの歌，次に六歌仙*(ろっかせん)の歌，最も新しい選者時代の歌と3分することができる。中心となる選者時代の歌は，総じて繊細優美で，知的な技巧を用いた作品が多い。いわゆる万葉ふうとは異なり，対象を一度頭の中で理屈として納得し，その上で感動を理知的・間接的に表出しようとする傾向が強い。雪を花にまがい，雨を涙に見たてるといった比喩(ひゆ)や，自然物を人間に見たてる擬人法も好まれた。また，枕詞(まくらことば)や序詞に加え，懸詞(かけことば)や縁語が多用されるようになった。〔平田喜信〕



古今和歌集　(上)鎌倉時代末期に書き写されたかたかな本(部分)　(下)藤原行成の真跡本を江戸時代末期に伴信友が書き写した，紀貫之らの奉勅編(部分)　大東急記念文庫蔵

こきんわかろくじょう 【古今和歌六帖】 平安中期の類題和歌集。編者は源順*(したがう)か兼明(かねあきら)親王と推定されているが，詳しくは不明。成立は《後撰(ごせん)和歌集*》以降《拾遺和歌集*》以前か。歌数4,370首のうち《万葉集*》《古今和歌集*》《後撰和歌集*》の歌が半数以上を占める。その和歌は《宇津保物語》《落窪(おちくぼ)物語》《源氏物語》《蜻蛉(かげろう)日記》《枕草子(まくらのそうし)》などに数多く引用されている。

こく 【石】 ①尺貫法の体積または容積の単位。100升つまり180.39 *l* にあたる。②木材や石材の体積の単位。1石は10立方尺(縦・横1尺，長さ1丈)にあたる。③船の積み荷の体積をはかるのに用いた単位。1石は10立方尺にあたる。船の大きさを表わすのにも使われた。

コーク [Cork] アイルランドの南西海岸，リー川河口にある都市。人口12万8,000(1971)。7世紀に修道院が建てられたのが町のはじまりで，ベルファスト・ダブリンとともに古くからアイルランドの中心地となってきた。公園・聖堂，石造りの民家などのある美しい町で，皮革・繊維・醸造・造船業が盛んである。コーク湾の奥にあり，農・水産物の輸出を行なう。

コーク [Edward Coke] (1552～1634) イギリスの法学者。法務長官・判事・下院議長などを歴任。コモン-ロー*の熱烈な支持者として，教会・王権などに対しコモン-ロー裁判所の優位を主張して戦った。1628年の権利請願*は彼の起草による。

こくいこう 【国意考】 賀茂真淵(かものまぶち)の著書。1巻。1765～1769年(明和2～6)ごろ成立。書意・文意・語意・歌意と並ぶ〈五意考〉の一つで，その最後の著。日本の底流をなす思想を探り，古代精神にその理想を見いだして賛美し，儒・仏，特に儒教を排斥した。そのため儒教側から強い反論があいつぎ，いわゆる国意考論争をひき起こした。一見荒い大胆な論であるが，鋭い精細な洞察(どうさつ)もみられる。復古国学の先駆的書物として，また国学の宣明書として影響は大きく，いまでもその価値を失っていない。〔小笠原春夫〕

ごくいん 【極印】 江戸時代の焼き印の一種で次のようなものがある。①金貨・銀貨の表裏に，ほんものであることを証明するため，キリ・キクなどの文様や人名・地名・数字などを打ち刻んだもの。金貨は金座*の後藤家，銀貨は銀座*の大黒常是家で打った。②幕府・諸藩が領内産出の材木に押した焼き印。③川船・海船・大八車・かごなど交通機関に官許のしるしとして打った印。江戸と関八州の川船で江戸府内に乗り入れるものには，通行許可のしるしとして川船改所(極印船改所)で打った。④チョウセンニンジン専売の目的でニンジン自体にも極印を打った。〔松尾　涼〕

こくいんじょう 【黒印状】 近世，大名・旗本(はたもと)が社寺に領地を寄進するときに出した寄進状をいう。朱印状*に対する語。江戸幕府が土地所有権やそのほかの特権を許可するときには朱印状を発行したが，特に朱印地という場合は，幕府が社寺に寄進した領地をさした。大名・旗本が社寺領を寄進する場合には，その寄進状に黒印を押したのでこれを黒印状，その寄進地を黒印地といった。朱印地と黒印地を合わせ有する社寺もあった。〔高崎徳次〕

こくう 【穀雨】 二十四気*の一。太陽暦の4月20日ごろにあたる。太陽黄経は30°。名のとおり，暖かい雨に農作物や草木の若芽はどんどん伸びていく。晴れた日の日中には上着を脱ぐようになる。

こくう 【虚空】 普化尺八の曲名。虚空簾(こくうじ)ともいう。《霧海篪》《虚鈴》とともに三虚鈴あるいは古伝三曲とよばれる重要な曲である。本来宗教的・経典的な意味が与えられているが，純粋に音楽的に味わっても名曲である。比較的はなやかな旋律，多様な音強法が目だつ。なお，琴古流尺八に黒沢琴古の編曲した《虚空鈴慕》がある。

こくうぞうぼさつ 【虚空蔵菩薩】 菩薩の一。虚空のごとく不壊・最勝の徳と無量の法宝を包蔵するとされる。《虚空蔵経》に，変化身によって衆生を教化し，悟りに導く福徳・知恵の菩薩と説かれる。曼荼羅*(まんだら)では金剛界十六尊の一，胎蔵界虚空蔵院の主尊に列する。形相は肉色，宝蓮華(ほうれんげ)に座して五智(ごち)の宝冠をいただき，右手に知恵を表わす宝剣，左手に福徳を示す蓮華と宝珠を持つ。絵画・彫刻の名品が多い。なお，この菩薩を主尊とする行法は求聞持法(ぐもんじほう)とよばれ，頭脳を明快にし，記憶力を増大するものとされている。

→次ページ(写)　〔北条賢三〕

こくえいきぎょう　【国営企業】　国家が資本の全額を出資し，直接に経営を行なう企業。そこでは経営者も従業員もすべて公務員である。しかし，完全に国家の統制の下にあるものと，ある程度まで国家から経営の独立性を認められているものとがある。後者においては，一定の範囲内で経営上の選択の余地があり，弾力性をもった予算執行も考慮されている。企業経営の効率化のために，今日では後者の比重が高まってきている。〔加藤　寛〕

こくえん　【黒鉛】　⇨石墨

こくえんこうしょう　【黒鉛鉱床】　黒鉛（セキボク）鉱床の多くは，先カンブリア代の片麻岩・結晶片岩中またはこれらに貫入したペグマタイト中に脈状・レンズ状・結晶状に産する。主産国は朝鮮半島・オーストリアで，わが国では飛驒（ひだ）片麻岩中に産する。

こくか　【穀果】　⇨穎果（えいか）

こくが　【国衙】　律令（りつりょう）制下，国司が管内を統治するために置いた政庁。国府の市街の中央北方に一区画をなし，その中に大帳所・朝集所・調所・政所（まんどころ）・税所（さいしょ）などの事務所がある。そこに勤める役人を在庁官人といった。

こくがかい　【国画会】　美術団体。1928年（昭和３）７月の結成。1918年（大正７），小野竹喬（ちくきょう）・土田麦僊（ばくせん）・村上華岳・野長瀬晩花・榊原（さかきばら）紫峰の５名は，文展を離れて国画創作協会を設立，東京・京都で協会展を開いたが，1926年に梅原龍三郎（りゅうざぶろう）・川島理一郎を迎えて第２部（洋画）を，翌年に富本憲吉・金子九平次を加えて工芸部・彫刻部を設けた。1928年になって第１部（日本画）は団体としての使命を果たしたとして協会を解散したが，第２部は存続して国画会と改称，梅原・川島・富本・金子・大橋幸吉・山脇（やまわき）信徳の旧会員に高村光太郎・椿貞雄（つばきさだお）・河野（こうの）通勢が加わり，翌年に最初の公募展を第４回国画会展として開催。以来，毎春公募展を開いて現在に至る。絵画・彫刻・版画・工芸・写真の５部からなる。〔匠　秀夫〕

こくがく　【国学】　国学という語には，①大宝令で大学寮と併称される場合で，制度としての国学（→次項），②日本に関する学問の総称で，広義の国学，③純粋に日本的なものを究明する学問で，近世に確立された国学の三義がある。①と②の中間的意味での使用例に，禅僧虎関（こかん）師錬の〈梵学（ぼんがく）ナホ彼ノ如（ごと）シ況（いわん）ヤ国学ヲヤ，国学トハ芸術ナリ〉などがある。この芸術とは六芸四術の意で元来経書の学問のことであるが，ここでは朝廷の諸儀典故の学をさし，梵学に対して国学とよんだ。②の代表例は近世の村田春海（はるみ）で，彼は国学を学びながらみずから，国史実録，律令典故，古語の解釈などの学問を総称して〈和学〉と定義した。これは広義の国学と解されている。ただし，等しくこの和学的内容を含みながら，これに一本の背骨的精神を通し，独自の主張を有する学問として樹立をみたのは③の場合で，現今国学というときは，これを意味する。この例の初見は荷田春満（あずままろ）が幕府に上申した《創学校啓》で，その中で〈国学ノ講ゼザルコト実ニ六百年〉と漢学偏重を歎き，国学の創建を訴えた。この国学とは古代のままの意味でなく，〈神皇の教え〉〈皇国の学〉〈古道〉のことで，この意味での〈国家の学〉であった。これを端緒として賀茂真淵（かものまぶち）・本居宣長（もとおりのりなが）・平田篤胤（あつたね）らがあいついで現われ，この精神・学問を継承発展し，当時から〈国学の大人（うし）〉と敬称されて多くの門人が輩出し，近世の思想学問の一大潮流をなした。《万葉集》および諸歌集，《祝詞（のりと）》《古事記》《日本書紀》その他の古典の研究が大きく結実し，今日になお多大の影響を及ぼしている。その根本に大人たちのわが神々への深い崇敬，神の道への強い信念の存することを見のがすことはできない。国学者には，神々の本姿，天皇の意義，日本の〈神（かん）ながらの道〉を明らかにし宣揚するという志が一貫してみられる。このため，漢学である儒教を激しく排斥し，いくたの論争・対立を巻き起こしたが，その内実は日本人はまず日本の古典，道を知り，儒学や外来の学問はそのあとで学ぶべきものとの意味であった。しかし，排斥が急なために偏狭であるとの非難も多く受けた。その精神，研究内容に即し，国学者みずからは〈古道〉〈神ノ道〉〈古学〉〈本学〉などと名づけるが，国学とはこれらの総称である。国学は明治維新の際の思想的一原動力となったが，明治維新以降は文明開化に伴ってヨーロッパの学問の波に押され衰退した。現在，おもに国文学（和学）の面で継承発展の途をたどり，日本的精神，神の道としての面では大きな問題をかかえたまま現代的思索の道にはいっているとみられる。〔小笠原春夫〕


虚空蔵菩薩　《蓮華虚空蔵菩薩像》　神護寺蔵

こくがく　【国学】　大宝令（→大宝律令）によって国々に設けられた教育機関。首都の大学寮が中央政府の上級官吏の子弟の教育を目標としたのに対し，地方官庁に勤める下級官吏と庶民の子弟を対象とした。したがって，規模も小さく教官は２名，生徒は20～60名程度であった。全国58か国にわたって設けられた延喜年間（901～922）の末ごろから，大学寮に先だって衰えた。

こくがくいんだいがく　【国学院大学】　私立大学。1882年（明治15）に設立された皇典講究所（神職の養成を目的とした）を母体とし，1890年国学院，1906年国学院大学と改称，1920年（大正９）大学令による大学となった。現在は学校法人として文・法・経済の３学部（一・二部制）と大学院，神道研修部のほか，付属高等学校などがある。本部は，東京都渋谷（しぶや）区東４丁目10番28号。

こくぎかん　【国技館】　⇨相撲（すもう）

こくくじら　【克鯨】　哺乳（ほにゅう）類・クジラ目・コククジラ科。全長13.5ｍほどのヒゲクジラで，全身灰色～青灰色。背びれはなく，背の正中線に山脈状にこぶが連なる。北太平洋から北氷洋に分布し，おもに小甲殻（こうかく）類を食う。南方へ回遊するが，沖縄（おきなわ）諸島以南には下がらない。→クジラ

こくぐんせい　【国郡制】　大化改新で定められ，律令（りつりょう）制下に行なわれた地方行政区画の制。大化前代には国造（くにのみやつこ）・県主（あがたぬし）が地方を統治していたが，国郡制では全国を国・郡に区画し，国の下に郡を置いて，中央集権国家の支配機構を整えた。国司には中央豪族が派遣され，郡司には地方豪族が選用されて，国司の命令・監督のもとに郡の行政をつかさどった。大宝令では，国を大・上・中・下の四等に，郡を大・上・中・下・小の五等に分けた。国司は守（かみ）・介（すけ）・掾（じょう）・目（さかん），郡司は大領（こおりのみやつこ）・少領（すけのみやつこ）・主政（まつりごとひと）・主帳（ふみひと）の四等官があった。平安中期以降，律令体制の崩壊，荘園（しょうえん）の発展に伴って有名無実となった。〔高崎徳次〕

こくご　【国語】　①その国で公用語として認められている言語。すなわち，それによって法律や公文書が書かれ，議会や裁判所で用いられ，また国民一般の言語教育が行なわれる言語がその国の国語である。すなわちイギリスでは英語が，フランスではフランス語が国語で，日本では日本語が国語である。ただし，一つの国に二つ以上の有力な言語が使用されている場合には，インドネシアのように憲法の規定によってインドネシア語が国語となっている例もあり，ベルギーのようにフランス語とオランダ語と二つの言語を国語としている例もある。

②日本語のこと。特に，日本語の語彙（ごい）のうちで，漢語・外来語に対して，固有

の和語をさすこともある(→日本語)。

③学校教育における教科の一(→国語教育)。

こくごう 【黒郷】 ⇨ブラックカントリー

こくごかいかく 【国語改革】 ⇨言語改革

こくごがく 【国語学】 日本語を研究の対象とする学問の一分野。日本語学とほぼ同義であるが，日本語学の場合は外国人による研究も含まれるのに対し，国語学は日本人が日本語を自国語として研究する学問を意味する。つまり，日本語学は英語学・フランス語学……などと並ぶが，国語学は外国語学に対する称として用いられる。いずれにもせよ，国語学も言語学の一種であり，一般言語学からその原理を借用し，一般言語学には個別的な例を提供する。ただし，国語学の場合は，歴史的に日本文学と密接な関係にあるのが特徴である。

国語学の研究事項は多種多様であるが，そのおもなものは次のとおりである。①各時代・各方言・各段層における音韻・文法・語彙(ごい)・文字などのそれぞれについて研究するもの。②日本語全般についてその特質を研究するもの。③二つまたはそれ以上の時代の日本語を対象とし，その間の差異や変遷過程を研究するもの。④二つまたはそれ以上の方言についてその地理的分布を研究するもの。⑤音韻と文学，音韻と文法など二つ以上の分野を総合的に研究するもの。⑥他の言語あるいは他の文化現象とあわせて，日本語の系統や他の言語との交渉を研究するもの。⑦日本人の心理と国語との関係を研究するもの。⑧国語の日本文学に及ぼした影響を研究するもの。

このほかに，研究方法で分けると実験国語学・計量国語学のようなものもあり，また，国語改良の研究，国語教育の研究，国語振興の研究，諸種の言語技術の研究など，特定目的の研究もある。 〔金田一春彦〕

こくごきょういく 【国語教育】 教育の一部門で，おもに児童・生徒を対象に国語を使用する上の技術や心構え，国語で書かれた文学作品を享受する方法などを教えるもの。わが国の学校教育では国語科として行なわれている。学習の素材は，小・中学校ではほぼ現代語の文章・作品に限られ，高等学校では現代国語・古典甲・古典乙などの名称が示すように，現代語の文章のほかに古代語の文章や訓読された漢文*の作品を古典として取り上げる。また学習内容としては，読む・書く・話す・聞く，の4分野が立てられており，これらの活動を通じて国語使用の能力を円満に向上させることが要請されている。なお，毛筆・硬筆による書写も，小学校では〈書写〉，中学校では〈習字〉の名でそれぞれ国語科の中に織り込まれている。 〔相原林司〕

こくごこくじもんだい 【国語国字問題】 ⇨次ページ

こくごしんぎかい 【国語審議会】 1949年(昭和24)文部省設置法によって設置され，国語の改善，国語教育の振興およびローマ字に関する事項を調査・審議し，これらに関して必要と認める事項を文部大臣および関係大臣に建議する機関。これは官制による国語調査委員会(1902～1913)，臨時国語調査会(1921～1934)，国語審議会(1934～1949)のあとを受けたものである。当用漢字*・現代かなづかい*などは，国語審議会の決定した案を政府が取り上げて公布したものである。 〔石黒　修〕

こくごせいさく 【国語政策】 ⇨言語政策

こくさい 【国債】 ⇨公債

こくさいうちゅうくうかんけんきゅういいんかい 【国際宇宙空間研究委員会】 Committee on Space Research 略称コスパー。国際科学連合協議会の主催する委員会で，宇宙空間に関する研究の国際的連絡機関。南極観測や人工衛星打ち上げで実績をあげた国際地球観測年*の終わる直前の1958年(昭和33)11月に発足した。毎年，シンポジウムが開催され，研究報告は議事録として出版される。

こくさいうちゅうこうこうれんめい 【国際宇宙航行連盟】 International Astronautical Federation 略称IAF。世界諸国の宇宙航行に関する会の協力と相互連絡のために設けられた宇宙科学の国際的研究機関。パリに事務局がある。宇宙航行の研究会は，1927年ドイツに，第2次世界大戦後は諸国に続々と誕生し，1951年には10か国に及び，同年これらが連盟を結成した。付属機関に国際宇宙航行学アカデミーと国際宇宙法学会がある。 〔原田三夫〕

こくさいうんが 【国際運河】 条約*によって，すべての国の船舶の自由通航に開放されている運河*。公海*と公海を結ぶ国際交通の要路にあたる運河は，その使用を領域国の自由にさせず，すべての国の船舶の通航の自由を保障する必要がある。現在国際化されている運河は，スエズ運河*・パナマ運河*・キール運河*の三つである。

こくさいえんげききょうかい 【国際演劇協会】 The International Theatre Institute 略称ITI。演劇の国際的交流を促進するための組織で，1948年，ユネスコの要請で結成された。日本は1951年(昭和26)に加盟。加盟国は52，準加盟国33(1968年現在)。

こくさいオリンピックいいんかい 【国際オリンピック委員会】 International Olympic Committee 略称IOC。オリンピック競技大会*を主催し，オリンピック運動を推進する団体。1894年6月23日，パリ大学のソルボンヌ講堂で設立された。〈アマチュア原則の研究と普及のためのパリ国際会議〉とよばれた会議の第8議題〈オリンピック競技大会の復興に関していかにすれば復興できるか〉の結論として生まれたものである。その組織は以下のとおりである。

①会長：デミトリウス-ビケラス(上記会議のオリンピック競技大会に関する特別委員会委員長)が初代会長となり，クーベルタンは事務局長に就任した。これは，オリンピック競技大会開催国の委員がIOC会長となるべきであるとの提案が入れられ，1896年の第1回大会がギリシアのアテネで開催されることになったからである。アテネ大会後，ビケラスは第2回大会開催地がパリであるため直ちにクーベルタンにその席を譲った。その後種々の曲折があり，実際にクーベルタンが会長を勇退したのは1925年であった。現在，会長は委員によって互選され，任期8年，その後は4年間留任できることになっている。②副会長：3名，任期は4年(任期満了後4年を経ればさらに1期再任されうる)。③理事会：会長・3副会長・5理事で構成。④委員：1896年第1回IOC会議では会長以下15名。翌年ドイツ委員が加えられたのでアテネ大会時には16名。クーベルタンは当初の委員にオリンピック運動に献身する人々を選任した。委員は，委員会から各国に派遣された大使であり，国際的視野に立ち，経済的にも政治的にも全く拘束されない人々であるとされている。オリンピック憲章*は委員に対し，たとえ自国あるいは自分の関係する競技団体の利益に反することがあっても，オリンピック運動の利益を支持することを期待している。任期は終身。ただし，1966年以後選任された委員は72歳を定年とし，1国から2名を限度とするようになった。

第2次世界大戦後新たに加盟した国内オリンピック委員会*(NOC)が多数あるので，改めてオリンピック運動に対する理解を深める努力が続けられている。憲章は，IOCがNOCの加盟を認めることは，IOCがその国からIOC委員を選任する義務を伴うものでないとしている。それぞれの国の代表をIOC委員に選任することは，必然的に委員

IOC歴代会長

代	人名	国名	在任期間
1	ビケラス	ギリシア	1894～1896
2	クーベルタン	フランス	1896～1925
3	ラツール	ベルギー	1925～1942
4	エドストローム	スウェーデン	1946～1952
5	ブランデージ	アメリカ	1952～1972
6	キラニン	イギリス	1972～1980
7	サマランチ	スペイン	1980～

日本のIOC歴代委員

人名	在任期間	人名	在任期間
嘉納治五郎	1909～1938	高石真五郎	1939～1967
岸　清一	1924～1933	永井松三	1939～1950
杉村陽太郎	1933～1936	東　龍太郎	1950～1968
副島道正	1934～1948	竹田恒徳	1967～
徳川家達	1936～1939	清川正二	1969～

国語国字問題

国語・国字の機能を果たすうえで，どのような障害や抵抗があるか，そして，国語・国字をどのように改善していくかの問題。国字国語問題，あるいは単に国語問題，または国字問題といって両者を含めることもあり，広く言語問題とよぶこともある。国語国字問題は，国語・国字の複雑・不統一があり，あるいは感じられる場合に発生するもので，国語・国字に対する文化的意義，さらには国民的自覚や外国語との比較などが誘因となることが多く，これには，国語生活の不便・不利，国語教育の向上がその動機となっていることが普通である。そして，社会生活・学校教育という立場から発生し，国語生活を国語・国字の整理・統一，合理化・平易化によって効果的にし，教育上の負担を軽くすることを考え，この目的を達成するための論議・努力・活動が国語国字論であり，国語国字運動(単に国語運動)である。国語国字問題として論議され，国語・国字の機能を果たすのに障害や抵抗となるものを除き，改善しようとする国語国字運動の方策を国家の政策として決定し，教育上に実施させ，社会に普及させるのが国語政策(→言語政策)である。論議・運動・調査・研究は民間の個人や団体で行なわれるが，政策を実施するには，政府として調査・研究・審議・実施の機関が必要である。日本では従来文部省が主としてこれにあたり，調査・研究は主として国立国語研究所*，審議決定は国語審議会*が行なっている。

国語国字問題の歴史は，ふつう1866年(慶応2)12月，前島密*(ひそか)が徳川慶喜(よしのぶ)に建白した〈漢字御廃止之儀〉に始まるといわれ，これはいわゆる漢字廃止論で，その後ローマ字やかな専用論が現われ，明治20年代(1887〜1896)には言文一致*運動が起こった。さらにかなづかい*の問題なども論議され，運動が展開されたが，言文一致を除くほとんどは，かな・ローマ字・漢字廃止など，文字や表記の問題で，言語政策として実施されたものも国字関係のものである。しかし，国語国字問題は国語・国字の全般にわたるもので，次のようなことがある。

①発音
　㋑アクセント　㋺標準音・なまり　㋩外来音　㊁イントネーションなど
②文字
　㋑ひらがな(字体，専用)
　㋺かたかな(字体，専用)
　㋩漢字(制限〈字数〉，音訓，字体，廃止)
　㊁ローマ字(つづり方，専用)
　㋭表記
　　正書法*，かなづかい　送りがな*，長音・拗音(ようおん)・促音の書き表わし方，分かち書き，句読点とその使い方，縦書き・横書き
③語
　㋑同音異義語——ことばなおし(言い替え)
　㋺和語
　㋩漢語
　㊁外来語——外国語
　㋭新語・流行語・俗語——古語
　㋬口語語彙(ごい)・文語語彙・基本語彙
　㋣専門用語(術語・職業語)
　㋠造語
　　結合語(合成語)，派生語
④語法(文法)
　㋑術語の統一
　㋺品詞
　㋩文章法
　㊁文体——口語体・文語体
　㋭共通語・標準語・方言
　㋬敬語・卑語
　㋣女性語

そして，以上のそれぞれに関連していろいろな問題がある。たとえば，漢字制限にも漢字を音読だけに用いる漢字音訓専用論がある。文字についても，ひらがな・かたかな・ローマ字のほか，新字論(部分的にそれらを採用するもの，全面的なもの)がある。

国語国字問題に対しては，積極的・消極的，あるいは進歩的・保守的によって，部分的，または全面的な改良・改善，改革論，現状維持論や運動がある。さらに，森有礼*(ありのり)によって1872年(明治5)に考えられたと伝えられる英語採用論や，第2次世界大戦後の外国語採用論のような暴論もあったし，漢字制限やかなづかい改定に対する反対や復古的な主張もある。また，外国語・外来語を排撃する国粋的な国語純化論や運動もある。近ごろ新聞などでは，国語国字問題を文字を中心として，進歩派を表音派，保守派を表意派とよぶことも行なわれている。

国語国字問題は，国語政策によって解決され，国語教育は国語政策によって改善されるが，いっぽう，国語国字問題は国語政策によらなくて，国語教育の適切な方法，指導技術の改善によって解決されるものもある。国語国字問題は国語政策や国語教育によってだんだん解決されるし，解決することが望ましいが，国語・国字が使われるかぎり，なくなるものでなく，解決されるいっぽう，次々に新しい問題が発生するものである。〔石黒　修〕

会に政治問題を持ち込むこととなり，1896年以来興隆の一途を歩んできたオリンピック運動の破滅をきたすことにもなりかねないからである。1981年8月現在のIOC加盟NOCは147で，投票権を持つIOC委員は83名。総会は年1回，オリンピック年のみ，冬・夏2回開催。理事会は年に数回開催される。また現在は，IOCの中に，①国際オリンピック・アカデミー，②参加資格，③文化，④財務，⑤医事，⑥報道，⑦プログラム，⑧オリンピック・ソリダリティー，⑨テレビジョン，⑩三者合同，⑪ギリシア——の11の専門委員会が設置されている。このほか一時期中断されていたIOC，IF，NOCが一堂に集まって討議するオリンピック・コングレスが1973年に復活し，今後は8年ごとに開催されることになっている。さらにIOCとIFとの合同会議は年に1回，NOCとの合同会議は2年ごとに開催されている。IOC本部は，スイスのローザンヌに置かれている。〔伊藤　公〕

こくさいおんせいきごう【国際音声記号】 ⇨音声記号

こくさいかいうんかいぎしょ【国際海運会議所】 正規に組織された各国の民間船主代表の団体を会員とする国際組織。船主の利益増進を主目的とし，政策立案，国際審議会への参加，国際的な意見交換などを行なう。1921年に設立。1948年までは国際海運同盟と称した。日本船主協会は1957年(昭和32)にこれに加盟。海運に対する二重課税の相互免除とか国際船腹安定計画などにおいて成果をあげている。

こくさいかいうんれんめい【国際海運連盟】 国際的に結成された船主団体。1909年に設立され，日本船主協会は1957年(昭和32)にこれに加盟している。海運業に関係ある幅広い問題について互いに意見の交換を行ない，ILO*(国際労働機構)の合同海事委員会では船主側として活躍している。

こくさいかいはつきょうかい【国際開発協会】 International Development Association 略称IDA。第二世界銀行ともよばれる。1961年2月に低開発諸国の経済開発の促進，生活水準の向上を図る目的で発足した開発資金の融資機関。国際復興開発銀行*(世界銀行)の開発目的を推進し補充する役割をもつ。加盟国は104か国(1970年5月現在)で援助国(先進国18か国)と被援助国(低開発国86か国)に分けられる。当初の資本金は10億ドルで，出資割り当て額は世界銀行のそれに比例して決定。援助資金は借款の形式で融資され，通常融資期間は50年間で，10年間すえ置き，次の10年間は毎年元本の1％，残りの30年間は元本の3％ずつ返済されることになっている。金利はまったく徴収されず，手数料として0.75％が徴収される。世界銀行とは異なって融資条件がきわめて緩和されており，従来か

らの世界銀行の欠陥を補足して，低開発諸国の開発に重要な役割をもつ。〔安井孝治〕

こくさいかいはつきょく【国際開発局】Agency for International Development 略称AID。アメリカ合衆国大統領J.ケネディ*が新しい対外援助法に基づいて設置した対外援助機関。1961年11月5日発足。在来の国際協力局(ICA)，開発借款基金(DLF)，平和のための食糧計画などの旧海外援助機関をすべて吸収・統合し，国務省に新設された。アメリカの対外援助を一元的に処理するための機関であり，大統領と国務長官に直属する。〔広部和也〕

こくさいかせん【国際河川】条約*によって，国際交通のために，外国船舶の通航に開放された河川。河川は内水であるから，領域国の排他的な支配の下にあり，その国の許可なしに外国船舶は通航できない。しかし，船舶の通航可能な河川がいくつかの国の領域にまたがって貫流しているような場合には，国際交通のために国際化されることが歴史的にも早くから行なわれ，関係国が条約を結んで共同管理を行なう。ドナウ川・ライン川・エルベ川・オーデル川など。国際河川に関する一般条約として〈国際的利害関係を有する可航水路に関する条約〉(1921年，一名バルセロナ条約)がある。〔広部和也〕

こくさいカルテル【国際カルテル】2か国以上の企業が参加して生産量・販売量・価格・販路条件などについて結ばれる協定をいう。特にダンピングなどの国際間の破壊的競争を防止し，価格を維持することを目的に互いの販売地域の割り当てを行なうことが多い。通常は明示的に結ばれてはいないが，国際石油カルテル(→国際石油会社)・ニトレックス(肥料)・鉄鋼などをはじめとしてニッケル・銅などの金属類や電気製品・人絹・染料など，国際的に規格化されたすべての商品分野に存在しているといわれる。〔深海博明〕

こくさいかんしゅうほう【国際慣習法】⇨国際法

こくさいきょうぎれんめい【国際競技連盟】International Sports Federation 略称IF。スポーツ界では多くの競技が各種目ごとに国際団体を結成しているが，オリンピック競技大会での開催種目は国際オリンピック委員会*(IOC)に公認された国際陸上競技連盟・国際水泳連盟など26の国際競技連盟が技術的に主管する。

こくさいきょうさんしゅぎうんどう【国際共産主義運動】各国の共産主義*政党が国際的な連係をもって共産主義運動を推進し，全世界に共産主義社会を建設しようとする政治運動。1848年マルクス*・エンゲルス*は《共産党宣言*》を出版して，当時の科学的社会主義*に明確な指導理念を与え，続いてマルクスはその政治理念を実現するため，1864年第1インターナショナル(国際労働者協会)をロンドンに組織したが，これは1876年に解散した。次いでエンゲルスの提唱により，1889年第2インターナショナル(国際社会党)がパリに設立された。しかし，当時は資本主義*・ナショナリズム*が急速に発展していたこと，各国の労働者に階級意識・国際的連帯感・反戦意識などが発達していなかったことなどの理由で，ヨーロッパの各国共産党は進んで第1次世界大戦に参画し，1914年第2インターナショナルは崩壊した。第1次世界大戦中にロシア革命*が起こってソビエト政府が樹立されたことは，国際共産主義運動に大きな基盤を与え，1919年に第3インターナショナル(コミンテルン)が結成された。しかしこの組織も，第2次世界大戦にあたって，連合国間の相互協力や提携促進の必要が説かれたため，1943年解散した。第2次世界大戦後は，きびしい東西対立の中にあって，1947年コミンフォルム(共産党・労働者党情報局)が結成された。コミンフォルムはその成立直後，ナショナリズム的偏向を理由にしてチトー*の指導するユーゴスラビア共産党を除名している。しかしそのコミンフォルムも，1951年スターリン*が没し，1956年ソ連共産党第20回大会においてフルシチョフ*がスターリン批判を行なうに至ってついに解散した。その後，ポーランドの暴動，ハンガリー動乱*(いずれも1956年)におけるソ連の干渉，さらに1968年8月チェコスロバキアに対するソ連軍・東欧軍の侵入(→チェコ事件)など，東欧諸国に対する一連のソビエトの介入は，いずれも国際共産主義を旗印にしたものであった。一方，トリアッチ*書記長の率いるイタリア共産党は，構造改革路線(→構造改革論)を提唱し，フランス共産党との論争を経て，1959年ヨーロッパ17か国共産党宣言を発するに至った。また，1950年代後半からは中ソ両国間の対立がしだいに激化した(→中ソ論争)。このような情勢のもとで，1969年ソ連は世界共産党会議をモスクワに開催したが，アジアの各国をはじめ不参加の国も多く，かえって各国共産党の分裂を印象づける結果に終わった。近年，アルバニア・ルーマニア・ユーゴスラビア・朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)・中国・日本・ベトナム民主共和国(北ベトナム)などの共産党は，自主独立路線を求めてソ連の指導を避けようとする傾向も強く，かつては一枚岩の団結を誇った国際共産主義運動も，現在は多極化の時代を迎えている。➔インターナショナル〔吹浦忠正〕

こくさいきょうどうかいようかんそく【国際協同海洋観測】各国の協力による海洋の協同観測。海洋についての科学的諸知識の増加と，これに関連した環境・漁業，船舶の航行，海洋資源などの科学的観測，調査，開発を目標としている。これまでにも，北太平洋協同調査(NORPAC)(1955)，赤道太平洋協同調査(EQUAPAC)(1956)，国際地球観測年*(IGY)(1957～1958)，国際インド洋協同調査(IIOE)(1959～1965)，熱帯大西洋協同調査(ICITA)(1963～1965)などがある。また，日本を中心にした黒潮協

国際競技連盟(IF)

略称・創立年	名称	本部所在地
IAAF(1912)	国際陸上競技連盟 (組織化は1913年)	ロンドン(イギリス)
FISA(1892)	国際漕艇連盟	モントルー(スイス)
FINA(1908)	国際水泳連盟	大阪(日本)
UIPM(1948)	国際近代五種競技連合	ストックホルム(スウェーデン)
ISU(1892)	国際スケート連盟	ダボス(スイス)
FIS(1924)	国際スキー連盟	ベルン(スイス)
UIT(1907)	国際射撃連合	ウィスバーデン(ドイツ)
FITA(1931)	国際アーチェリー連盟	ロンドン
FIVB(1947)	国際バレーボール連盟	パリ(フランス)
IYRU(1907)	国際ヨット連盟	ロンドン
FIJ(IJF)(1965)	国際柔道連盟	パリ
FIBA(1932)	国際バスケットボール連盟	ミュンヘン(ドイツ)
FIBT(1923)	国際ボブスレー・トボガニング連盟	ミラノ(イタリア)
AIBA(1924)	国際アマチュア・ボクシング連盟	ロンドン
FIC(1924)	国際カヌー連盟	ストックホルム
UCI(1900)	国際アマチュア自転車競技連盟	パリ
FEI(1921)	国際馬術連盟	ブリュッセル(ベルギー)
FIE(1913)	国際フェンシング連盟	パリ
FIFA(1904)	国際蹴球連盟	チューリヒ(スイス)
FIG(1881)	国際体操連盟	ジュネーブ(スイス)
FIHC(1920)	国際ウエートリフティング連盟	トウィックナム(イギリス)
FIH(1928)	国際ハンドボール連盟	バーゼル(スイス)
FIHG(1923)	国際ホッケー連盟	ブリュッセル
LIHG(1908)	国際アイスホッケー・リーグ	ロンドン
FIL(1957)	国際リュージュ連盟	ロッテンマン(オーストリア)
FILA(1921)	国際アマチュア・レスリング連盟	ローザンヌ(スイス)

同調査もある。

こくさいキリストきょうだいがく【国際基督教大学】1953年(昭和28)キリスト教精神に基づき，神と人に奉仕する人材の養成を目標に，内外のキリスト者の努力によって開設された。日本人学生だけでなく，アジア・アフリカ諸国をはじめ，アメリカ・ヨーロッパからの留学生も多く，文字どおり国際的な大学として今日に及んでいる。新入生は最初，人文・社会・自然科学・語学科のいずれかに分けられ，教育学志望者は第２学年末に選考によって転科を認める制度をとっている。1957年から大学院を開設，教育学・行政学の各研究科がある。付属研究施設として，教育，社会科学，キリスト教と文化の各研究所が設けられている。略称ICU。所在地は東京都三鷹(みたか)市大沢３の10。

こくさいきんゆうこうしゃ【国際金融公社】International Finance Corporation 略称IFC。1956年７月に設立された国際的投資機関。低開発国の民間企業に対して投資を行なうのがその主目的であり，投資に際しては政府保証を必要とせず，コマーシャル-ベースに立っている点が特徴である。国際復興開発銀行*(世界銀行)と密接な関係を保ちながら，世界銀行の活動を補足する役割を演じている。授権資本は１億ドル,応募資本額は9,800万ドル以上に達し，1971年３月現在加盟国も世界95か国に及ぶ。わが国の出資額は276万9,000ドルで，全体の2.87％である。〔安井孝治〕

こくさいくうこう【国際空港】⇨空港

こくさいぐんじさいばん【国際軍事裁判】第２次世界大戦後，連合国(アメリカ・イギリス・フランス・ソ連)政府によってドイツの戦争指導者が戦争犯罪人として審理された裁判。1945年11月20日から翌年10月１日まで西ドイツのニュルンベルクにおいて実施されたので，〈ニュルンベルク裁判〉ともいう。起訴理由は，共同の計画と謀議，平和に対する罪，戦時犯罪，人道に対する罪の４点で，連合国政府はゲーリング*以下24名を起訴した。1946年10月１日，裁判所は侵略戦争を重大なる国際犯罪*であるとして，ゲーリング以下12名に絞首刑，ヘス*以下３名に終身刑，フォン-シーラッハ以下４名に有期刑の判決を下し，同月16日絞首刑が執行された。ゲーリングはその前日自殺した。なお日本の戦争指導者に対する軍事裁判は極東国際軍事裁判*とよばれる。〔吹浦忠正〕

こくさいけいざいがく【国際経済学】国民経済相互の経済的関連を明らかにし，対外経済取引がどのような経済法則の下で行なわれ，経済活動とどのような関連をもっているかを分析しようとする学問。19世紀初頭の古典学派経済学から発展し，第２次世界大戦前は外国貿易論とよばれていた。今日では商品貿易のみならず労働・資本のような生産要素の国際間の移動をも含めてその対象を広げ，国際間の価格体系や経済活動水準の関連を研究するようになり，その名称を代えた。〔白石　孝〕

こくさいけいさつぐん【国際警察軍】国家の侵略行為，平和に対する脅威，平和の破壊など，国際社会一般の利益を侵害する行為を防止あるいは鎮圧するための国際連合指揮下の軍隊。本来の国連軍*とは異なり，軍隊ではあるが警察的性格をもち，主として中立諸国から提供された兵力で組織され，関係国の同意のもとにのみ派遣される。朝鮮戦争*の際のいわゆる国連軍も実質は国際警察軍である。〔広部和也〕

こくさいけいじけいさつきこう【国際刑事警察機構】International Criminal Police Organization 略称ICPO,インターポールともいう。麻薬の密貿易，通貨の偽造行使，手形・小切手による詐欺などの国際的犯罪の防止のため設立され，加盟国98か国(1968)。1952年(昭和27)９月わが国も加盟した。加盟国相互間の捜査共助，情報の交換，犯罪の手配などがおもな仕事であって，犯人の逮捕などの強制捜査を行なう機関ではない。現在，本部はパリにあり，国際犯罪*に関する資料の収集をつかさどっている。1914年(大正３)モナコで第１回会議が開かれ，1967年10月には京都で第36回会議が開催された。〔井上公耳〕

こくさいけっさいぎんこう【国際決済銀行】Bank for International Settlements 略称BIS。1930年にスイスのバーゼルに設立された国際銀行。公称資本金５億スイス金フランで，４分の１が払い込みずみ。資本金の大部分(約55％)はアメリカ・イギリス・フランス・ベルギー・ドイツ・イタリアおよび日本が引き受けた。第１次世界大戦後のドイツの賠償問題を処理する目的で設立され，主要業務は賠償金の受領および関係各国への配分であったが，ヨーロッパ各国中央銀行に対する貸し付け，国際取引の振替決済，金取引などの業務をも行なった。その後ドイツが賠償支払いを停止し，各国も金本位制度*を離脱するに至ったので，この銀行の重要性は著しく減退した。しかし，第２次世界大戦後，マーシャル-プラン*のもとにアメリカのヨーロッパ援助計画が実施されると，ヨーロッパにおける決済代理機関となり，次いでヨーロッパ支払い同盟*の業務代行機関となり，現在ではヨーロッパ通貨協定*の業務代行機関として活動している。さらに最近では，国際金融協調の推進に伴ってますます重要な役割を演じており，ポンド安定のためには対イギリス借款の供与，ドル安定のためにはアメリカ財務省またはニューヨーク連邦準備銀行との間にスワップ協定*などを締結している。なお，わが国の出資金は第２次世界大戦後返還され，1964年(昭和39)からオブザーバーとして参加，1970年１月出資額250万ドルをもって再加盟した。〔安井孝治〕

こくさいげんしりょくきかん【国際原子力機関】International Atomic Energy Agency 略称IAEA。1957年７月29日国際原子力機関憲章に基づいて発足した原子力の平和利用促進のための国際機関。原子力の平和利用を促進し，世界における保健と繁栄に貢献させ，特に低開発地域における生活水準の向上を最大の目的とする。おもな任務は，原子力平和利用のための研究開発と実用化を奨励すること，物資・役務・設備および施設を提供すること，科学上・技術上の情報交換を促進して科学者・専門家の交換や訓練を奨励すること，保障措置をとること，などである。国際連合の専門機関ではないが，その機能は経済的のみならず平和維持の分野にも及び,国際連合と密接な関係をもっている。機関は総会・理事会・事務局の三つからなる。本部はウィーン。加盟国103か国(1970)。日本は当初から加盟している。〔広部和也〕

こくさいけんちく【国際建築】1920～1930年ごろの近代建築*の主要な様式で，現代の建築様式の基本をなす。グロピウス*が1925年に発刊したバウハウス*叢書(そうしょ)の中の〈国際建築〉という表題からきたといわれる。彼はこの中で地方的な個々の建築や，個性的な表現主義建築に対し，〈国際主義〉建築を主張した。すなわち〈近代社会では材料・技術・機能が共通なものとなるはずであり，したがって建築形態は必然的に国際的に共通な形をとる〉というもので，材料はコンクリート・鉄・ガラスなど地方性をもたない普遍的な工業生産物を使用し，形態はそれまでの装飾的な様式から脱却した，単純な直方体の組み合わせを追求し，近代建築の一つの共通様式〈国際様式〉を創造した。しかし，この様式が成立するには，材料を供給するための工業生産が発達していることを前提としており，新材料の供給が容易でない国や，北欧のように木材を豊富に産出する国では，当時はまだ一つの試みでしかなかった。また工業生産の進んだ国でも，彼らの主張する建築部品の工場生産化(プレハブリケーション)は未来のありかたを予言したもので，実験的段階にとどまっていた。国際建築は，このように未来の仮定の上に立つ理論・様式であるが，1930年ごろには近代建築の主流としての地位を確立し，一つの頂点に達した。同じころから地方主義や民族主義などの反国際主義が台頭し，国際主義建築は一時圧迫を受けたが，その後各国の工業生産・風土性・国民性などに適応した形をとりながら一般化し，近代建築様式の本流となった。〔渡辺保忠〕

こくさいご【国際語】世界の共通語として，いかなる国語を話している人にとっても不公平とならないような言語。現代の日常語はいずれもその資格をもたず，古代

のギリシア語*・ラテン語*などの古典語も構造が複雑で学習が困難なうえ，現代的表現にも不向きである。そこで，17世紀以降その目的に沿って合理的・人工的に言語をつくるいくつかの試みが行なわれたが，いままでの言語とまったく無関係に，単に論理的にのみつくろうとしたものは，いずれも実用に適さず失敗した。それで，世界的に広く行なわれているいくつかの言語の共通点をとり，不規則をなくしてつくられたのがエスペラントである。なお，エスペラント以前にもボラピュク，エスペラント以後にもイド・オクチデンタル・ノビアル・インテルリンガなど多くの計画が現われたが，現在，実際に活動しているのは，エスペラントのみである。➔エスペラント
〔川崎直一〕

こくさいこうくううんそうきょうかい 【国際航空運送協会】 International Air Transport Association 略称IATA(イアタ)。1945年結成された世界各国の民間定期航空会社の団体。安全・確実で経済的な航空輸送の発展，航空による貿易の促進，これらに関する諸問題の研究と協力などを目的とする。国際航空運賃の決定や会社間の運賃貸借の決済を行なう。日本から日本航空株式会社が1952年(昭和27)2月正会員となった。会員数101(1968)。

こくさいこうほう 【国際公法】 ⇨国際法

こくさいこうむいん 【国際公務員】 国際組織の事務局を構成する事務局長とその下でもっぱら事務的任務に従事する職員。意思決定の実質的権限をもつものではないが，国際組織の経常的で広汎(こうはん)な活動をささえるものとして重要な役割を果たし，事務局長などの行動や発言が世界的な影響力をもつことも少なくない。たとえば，国際連合の事務局には数千の人々が働いており，各専門機関その他の国際機関の職員も含めれば数万にも及ぶであろうし，国連事務総長の影響力が大きいことはよく知られている。国際公務員はいずれかの国籍をもつものではあるが，まったく個人的な資格で任用されるのであり，その国際組織に対してのみ責任を有するもので，加盟国がこれら職員に対して圧力をかけたりすることは禁じられている。国際公務員には，その職務遂行の機能的な見地から一定の特権が認められる。〔広部和也〕

こくさいこくもつきょうてい 【国際穀物協定】 ⇨国際小麦協定

こくさいコーヒーきょうてい 【国際コーヒー協定】 International Coffee Agreement 略称ICA。世界のコーヒーの価格および需給の安定化と長期的均衡を目的として設立された国際商品協定。1962年に協定が結ばれ，1963年12月に発効。期間満了とともに現行の1968年10月発効の協定に引き継がれた。有効期間は5年。主要な輸出入国のほとんどが参加し，年度別の輸出割り当てと安定価格帯を設け，価格の変動に応じて輸出量を自動的に調整し，価格の安定を図ることになっている。1968年協定には，生産目標の設定，生産統制・生産転換を促進するための多角化基金，非参加国からの輸入制限等に関する規定がつけ加えられた。本部ロンドン，加盟国61か国(1971年7月末現在)，日本は1964年(昭和39)に加盟。〔深海博明〕

こくさいこむぎきょうてい 【国際小麦協定】 International Wheat Agreement 略称IWA。1949年3月発足した小麦の価格安定を意図する国際協定が，1967年5月にケネディ-ラウンド*の妥結により発展的に改定され，1968年7月に国際穀物協定として発効され，3年の有効期間の終了とともに1971年7月国際小麦協定として再発足した。従来の小麦貿易規約のほか，先進国が大量の穀物援助を低開発国に与えるという食糧援助規約が付加されている。国際小麦協定は第2次世界大戦前(1933)にも結ばれており，小麦貿易規約では取引の安定化を図るため一定の安定価格帯を設け，輸出入国ともにその価格帯内で取引することを義務づけられている。本部はロンドンで理事会などがあり，わが国を含め主要輸出入国45か国(輸出国11か国，輸入国34か国〔EECが双方に加入〕)(1971年7月現在)が加盟している。〔深海博明〕

こくさいゴムけんきゅうかい 【国際ゴム研究会】 International Rubber Study Group 略称IRSG。ゴム市場の調査や需給に関する勧告などを行なう国際調査機関。第2次世界大戦前，ゴム市況の低迷と下落を救う目的でいわゆる国際ゴム協定が存在していたが，戦後はこの国際ゴム研究会だけが存続する。1944年8月に設立が決定され，天然ゴム・人造ゴムの市場全般について，需給見通し・統計作成などを行ない，協議している。本部はロンドンで理事会があり，主要なゴムの輸出入国が参加している。日本は1952年(昭和27)に加盟。

こくさいさいばん 【国際裁判】 国際間の紛争を平和的に解決するため，第三者の立場にある裁判所が，原則として国際法*を規範として，事件を審理し，裁決を下す裁判。古代中国や古代ギリシアの都市国家においてもみられ，国際法の規定に情理と政治的配慮を加味した仲裁裁判*の形をとって，近代までも続いた。ただし，これらは，紛争の起こるたびごとに裁判所を設けるという個別的な裁判機構で，恒常的なものではなかった。1901年ハーグ平和会議*の決定に基づき，わが国を含む50余国が参加して，常設裁判所が同地に設けられたが，常設といっても本質的にはそれまでのものと大差はなかった。第1次世界大戦後の1920年に，国際連盟のもとでハーグに常設司法裁判所が設けられ，仲裁裁判と並んで司法的な解決方法が国際裁判にも登場した。この裁判所は，第2次世界大戦に至るまでに30の判決を下し，27の勧告的意見を発表した。第2次世界大戦後は国際連合のもとに国際司法裁判所*が設置され，今日に至っている。

国際裁判においては，紛争の当事国はその判決に対して法的拘束を受けるが，国際間においては強制力をもつ公権力が存在しないので，紛争を国際裁判に付託するかどうかは当事国の意志によって決まる。この際，当事国が互いに同意して裁判が成立するには二つの場合がある。第1は，特定の紛争について，そのつど裁判に付するか否か合意を求める任意的裁判であり，他は，一定の範囲内で包括的に国際裁判所の裁判権*を受託することを宣言し，紛争が生じたときは必ず裁判に付するという意志をあらかじめ表明しておく義務的裁判である。したがって，一般には，一方の当事国が一方的に他の当事国を国際裁判所に訴えても，それだけで国際裁判が開始されることはない。〔吹浦忠正〕

こくさいさいばんじょうやく 【国際裁判条約】 国際紛争を裁判に付託すべきことを約束する条約*をいう。従来は，国際裁判*といえば仲裁裁判*であったため，国際裁判条約は仲裁裁判条約とよばれることが多かったが，司法裁判や，また，裁判調停条約(一つの条約の中で，一定の紛争を裁判に，他の一定の紛争を調停に付託すべきことを約束する条約)も含まれる。国際裁判条約には，多数の国が参加する一般条約と2国間で結ばれる個別条約がある。前者に属するものとして，国際紛争平和処理条約や国際司法裁判所規程などがある。〔広部和也〕

こくさいさとうきょうてい 【国際砂糖協定】 International Sugar Agreement 略称ISA。砂糖の輸出入価格の安定と需給の調整を目的とする国際商品協定。国際砂糖協定の歴史は古く，第1次世界大戦前(1902)までさかのぼることができる。第2次世界大戦後は，1953・1958年に協定が結ばれたが，1962年のキューバ危機をはさんで砂糖市場の混乱が続いたため死文化し，国際砂糖理事会という機構だけ存在していた。1968年10月，ジュネーブの国連貿易開発会議主催の国際砂糖会議で協定が結ばれ，1969年6月に正式発効した。有効期間は5年。年度別に各国の輸出割り当てを決め，安定価格帯(1ポンド最高5.25セント〜最低3.25セント)を設け，市場価格の動きに応じ輸出量を増減させ，価格の安定を図ろうとしている。執行機関は理事会，本部はロンドンにあり，加盟国は45か国(1970年1月現在)。日本は1954年(昭和29)に加盟している。

こくさいしほう 【国際私法】 国際的な私法上の問題(渉外的私法関係)を解決するのにどの国の法律を適用するべきかを指定する法律。各国の私法の内容が必ずしも同一ではないので，国際間の具体的な私法上

の問題(たとえば，日本人とアメリカ人との間の契約の締結，結婚，離婚など)については相互の法律が抵触する場合がある。これを解決するための法律が国際私法であって，抵触法ともよばれる。また，国際私法は，問題を解決するために，それぞれよるべき国内私法を規定するだけで，それ自体直接に私法関係を規律するものではないので，間接法でもある。渉外的私法関係を規定するため，あたかも国際法*のような名称でよばれるが，国際法ではない。また，国際私法は条約*が特に規定する場合を除いて各国が任意に定めることができ，したがってその内容も国によって異なる。わが国の法規では，1898年(明治31)制定の法例第3条以下，および手形法88条以下，小切手法76条以下が国際私法の規定である。〔吹浦忠正〕

こくさいしほうさいばんしょ【国際司法裁判所】 常設的国際的司法裁判所のはじめは，1922年の国際連盟規約に基づき設立された常設国際司法裁判所であるが，第2次世界大戦後これを引き継いだのが国際司法裁判所である。国際連合*の主要機関の一つであり，また国連の重要な司法機関でもある。裁判手続きや構成については国際司法裁判所規定があり，国際連合憲章と一体をなしている(14章)。国連加盟国は当然裁判所規定の当事国となるが，非加盟国でも，安全保障理事会*の勧告に基づいて，総会の決定する条件で当事国になれる。裁判官は，一定の候補者を，国連総会および安全保障理事会が別個に選挙して選ぶ。

裁判所は国籍を異にする15人の裁判官によって構成される。裁判官となる人は，徳望が高く，その国で最高の司法官に任じられるに必要な資格をもっているか，国際法*にたんのうな名のある法律家でなければならない。また，世界の主要な文明形態，および主要法系が代表されるように留意しなければならない。任期は9年。裁判の当事者になれるのは国家だけであるが，国際組織は勧告的意見を求めることはできる。国際間の法律的紛争についてのみ裁判され，政治的紛争は裁判できない。また国内問題についても管轄権がない。国内裁判所のように強制的管轄権はないから，あらかじめ裁判に付託することに同意しなければ裁判義務は生じない。判決は出席した裁判官の多数決で決定され，その当事国に対して，その特定の事件についてのみ拘束力をもつ。裁判所は，国連の機関やその他の国際組織の要請によって，法律問題の勧告的意見を与えることもできる。所在地はオランダのハーグ，当事国は128(1969)。日本は1954年(昭和29)当事国となった。〔広部和也〕

こくさいしゃかいしゅぎしゃかいぎいいんかい【国際社会主義者会議委員会】 ⇨コミスコ

こくさいジャーナリストきこう【国際ジャーナリスト機構】 International Organization of Journalists 略称IOJ。言論の自由を守り，ジャーナリズムの提携と向上を図るため，1946年6月，アメリカ・イギリス・ソ連など19か国がコペンハーゲンに集まって創設。自由・正確・誠実な報道によって平和を維持し，ジャーナリストの良心に基づいてペンをとる権利を守ることを目的とする国際的機構。協力委員会・執行委員会・書記局よりなる。本部はチェコスロバキアのプラハ。〔広部和也〕

こくさいしゅうし【国際収支】 ある一定期間中(通常1か年)における国の対外取引を会計学の原則に従って記録したもの。対外経済活動の状況や対外的な資金の移動，外貨準備*の変化を示すものである。国際収支が正確に記録されるようになったのは第2次世界大戦後といってよく，1948年に，国際通貨基金(IMF*)がその統計作成の原理と形式を統一するように各国に勧告したことに始まり，その後もその方式の改善をみつつ今日に及んでいる。IMF方式といわれるのがそれである。国際収支は経常勘定と資本勘定とに分けられ，前者には商品およびサービス取引と資金の一方的供与(贈与や賠償など)のような移転取引*が含まれ,後者には短期・長期および政府・民間の資本取引が記録されている(➞経常取引収支,➞資本取引収支)。記録方法は複式簿記の原理を採用し，各取引は必ず貸方・借方双方に記録され，請求権の発生，資金の受授，資産や負債の増減が明らかにされている。国際収支は形式的には会計学的につねに均衡しているが，一国にとってはこの国際収支がどのようなしかたでバランスを保っているかが，今日，国内均衡とともに，経済政策上での重要な指標となっている。国際収支の均衡を意味する国際均衡についてはさまざまな見解があるが，ふつう経常取引収支*と長期資本収支とを合計した基礎的収支*に注目し，これが均衡していれば国際収支は均衡しているとみる。経常取引収支と長期資本収支との差額が短期資本の流入と金の売却などによって調整されている場合は，国際収支が不均衡あるいは不足しているという。〔白石　孝〕

こくさいじゆうろうどうくみあいれんめい【国際自由労働組合連盟】 International Confederation of Free Trade Unions 略称国際自由労連(ICFTU)。1947年のマーシャル-プラン*をめぐる争いから，世界労働組合連盟*を脱退したアメリカのCIO*やイギリス・オランダの組合が中心となって，1949年末にロンドンで結成された国際労働組合組織。その基本とするところは，自由にして民主的な労働組合運動を守ることであり，反共をスローガンに改良主義*・労使協調主義の立場をとっている。そのため，社会主義国の労働組合を労働組合組織と認めず，資本主義社会の反共・改良主義の労働組合のみを結成し，世界労働組合連合*(世界労連)やその傘下(さんか)の組合と統一行動をとること，交流することを拒否している。本部はベルギーのブリュッセル。組織人員は1967年10月現在6,300万人。〔木元錦哉〕

こくさいじゆうろうれん【国際自由労連】 ⇨国際自由労働組合連盟

こくさいしゅぎ【国際主義】 ⇨インターナショナル

こくさいしょうぎょうかいぎしょ【国際商業会議所】 International Chamber of Commerce 略称ICC。1920年6月にパリで設立された各国実業家の連絡調整の国際経済団体。商工業一般の国際的促進と調和の確保のため，各国商工会議所や実業家の連絡提携，貿易関係の円滑化などを目的とする。各国の経済団体が正会員，各国内の事業会社や個人商社が準会員。いわゆるA級の国際民間団体として国際連合とも関係を有する。総会(議決機関)・理事会(執行機関)・本部(パリ)・各国内委員会で組織される。加盟国42か国(1969)。日本は1949年(昭和24)に再加入。〔広部和也〕

こくさいしょうひんきょうてい【国際商品協定】 International Commodity Agreement 国際的に大量に取引される一次産品*の過激な短期的価格変動を阻止するため，輸出入国双方が，価格・数量，価格操作のための在庫量などについて結ぶ国際協定で，現在,国際小麦協定・国際砂糖協定・国際錫(すず)協定*・国際コーヒー協定，および国際オリーブ油協定の五つがある。ただし，最後の国際オリーブ油協定は，価格や輸出割り当ての規定をもたず，競争の公平と消費増加のための協力を目的としたもので，本来の国際商品協定としては疑問が残る。最近，南北問題*の進展に伴い，低開発国側は国際商品協定に当初の短期価格変動に対する救済措置といった目的以上のものを期待し，積極的な経済開発のための措置として活用しようとしている。すなわち，国際商品協定を一次産品の傾向的価格低下に対処し，長期的構造的安定を図るための手段として，長期的価格安定ないし価格引き上げを求め,先進国の市場開放(数量制限の撤廃,輸入目標の設定)と先進輸入国の生産の調整，消費拡大の保証をも協定に含めることを要求しており，今後の南北問題のゆくえいかんによって，国際商品協定の性格に若干の変化が生ずることもありえよう。〔深海博明〕

こくさいしんごう【国際信号】 船どうしが互いに視界内にあって交信するときに用いられ，国際信号法によって行なわれる信号。国際信号の種類は次のとおりである。

①旗旒(きりゅう)信号：国際信号旗*によって行なう信号。②発光信号：国際モールス符号を使用し，探照信号燈または点滅信号燈の点滅，または隠顕して行なう。③音響信号：国際モールス符号を使用し，音響によ

って行なう。④手旗信号(セマホア信号)：手旗あるいはセマホア信号装置を用いて行なう。　〔飯島幸人〕

こくさいしんごうき　【国際信号旗】 国際信号に用いる旗。アルファベットや数字などを表わす旗を組み合わせて種々の信号をするのに用いられる。旗はAからZまで26枚，0～9までの数字旗10枚，代表旗3枚，回答旗1枚の計40枚よりなる。これらの旗を組み合わせてつづる意味は万国共通であって，国際通信書によってその文字の意味を解読する。たとえば〈G〉は〈私は水先人がほしい〉であり，〈NC〉は〈われ遭難しつつあり，直ちに救助を求む〉という意味である。　〔飯島幸人〕

こくさいしんぶんはっこうしゃきょうかい　【国際新聞発行者協会】 Fédération Internationale des Editeurs de Journaux et Publications　略称FIEJ。ユネスコ憲章*の精神にのっとり1945年6月に世界各国の新聞発行者団体が集まって結成された国際的団体。1948年6月パリで第1回総会が開かれた。日本は1952年(昭和27)に日本新聞協会が加盟。アメリカ・イギリスなど23か国の協会が加盟している(1968)。

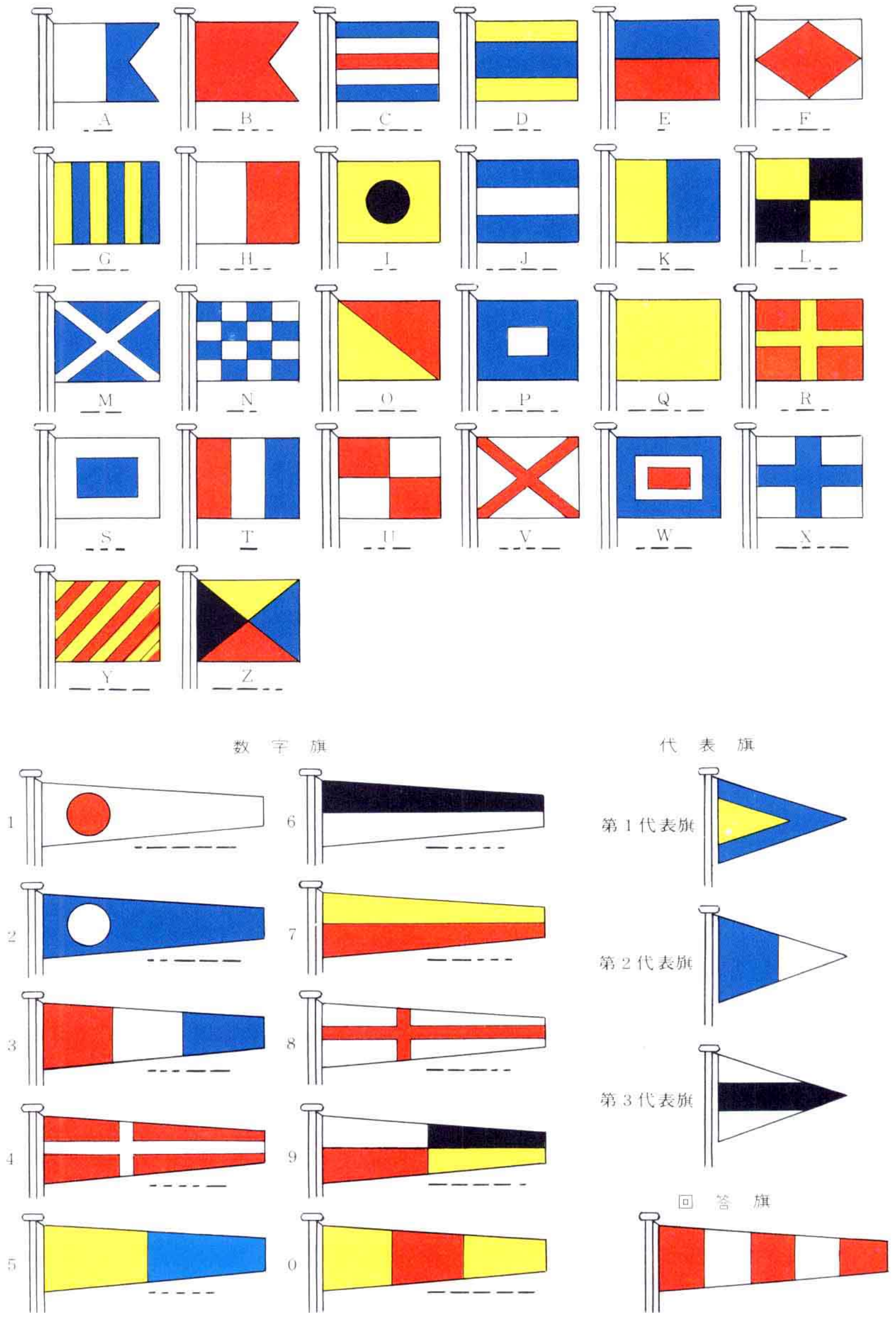
こくさいしんぶんへんしゅうしゃきょうかい　【国際新聞編集者協会】 International Press Institute　略称IPI。新聞の編集幹部が個人の資格で参加する国際的団体。1951年5月に結成され，翌年5月パリで第1回の総会が開かれた。この団体は新聞の自由の推進と擁護，ジャーナリスト間の理解，諸国間における正確で均衡のとれたニュースの自由な交流の促進などの目的達成をめざしている。加盟国56か国(1969)。日本は当初から加盟。

こくさいすずきょうてい　【国際錫協定】 International Tin Agreement　略称ITA。第1次世界大戦後の生産者協定を受け継ぎ，1956年7月に発足した国際商品協定。現行のものは1966年7月に発効した第3次協定で，有効期間は5年である。スズの輸出入国間の需要調整と価格安定とを目的とし，国際錫理事会が任命する管理官が緩衝在庫を保有し，安定価格帯(1ロングトン最高1,200ポンド～最低1,000ポンド)を設置し，市況の状況に応じ売買を行なう。この緩衝在庫制度は，需給調整・価格安定に有効な手段であるが，価格下落の場合は，輸出国への輸出割り当てと緩衝在庫の買い入れによって効果をもちうるが，価格の暴騰に対しては，在庫の放出がつきれば対処できなくなる。1961年以降この協定が一時的に休止状態に追い込まれたのはこのためである。本部はロンドンにあり，日本は1961年(昭和36)に加盟している。　〔深海博明〕

こくさいせいじ　【国際政治】 国際社会において，国家権力(軍事力・経済力その他を含めた国力)や政治理念をもとに展開される政治。強制的な公権力を欠く国際社会においては，各国家の間で国家権力がしばしば激しく対立・衝突し，国際社会の安定も主として権力関係の平衡によってようやく維持されてきた。この国際政治を安定させるために，洋の東西を問わず，古代から用いられてきたのが勢力均衡政策である。しかし，各国家がそれぞれ自国に有利な状態での均衡をめざし，かつ国家権力そのものが不可測性の強いものであるため，おのおのの国家はつねに自国の権力を高めようとして，同盟*その他の方策によって，国家間の協力体制を築きあげた。歴史上，軍事力・経済力を拡充して自国権力の強大化をはかる一方，相手国，ないし相手側国家群の権力を弱体化するため，強大な民族国家の成立を妨げたり，第三国に対してその中立*維持を働きかけたりした例も多い。

第1次世界大戦後，アメリカのウィルソン大統領らの提唱によって，国際政治に理想主義とよばれる一連の政策が推進された。国際平和維持機構の設立，国際裁判*機構の拡充，民族自決運動(→民族自決主義)の擁護，民族国家の成立などがそれである。しかし，理想主義は終局的に国家間の対立を解消するに至らず，人類は再度世界大戦をひき起こした。

第2次世界大戦後の国際政治の特徴は，政治思想上の対立，すなわち，ソ連を中心とする社会主義国家群と，アメリカを中心とする自由主義国家群との間に〈冷戦〉とい



国際信号旗

う形で厳しい対立がみられたことである。しかし，1960年代にはいって，西欧経済の完全な復興を背景に生じた自由主義諸国間の力関係の多様化(フランスの北大西洋条約機構*からの離脱やドイツの経済発展など)，またイデオロギーと国家利益の相互矛盾に基づく社会主義国家間の多様化(中ソの対立，東欧の自由化運動，ベトナム戦争を契機とする北ベトナムの自主路線など)が決定的となり，今日の国際政治は戦後の分極化の時代から多極化の時代へと移行しつつある。さらに一方では中華人民共和国を国際連合*その他の国際社会へ復帰させ，それによって国際間の平和を維持・促進させようとする考え方，また権力政治を肯定しながら相互の国家利益を尊重し合うというルールも国際政治の条理として考慮されつつある。一方，先進工業国と発展途上にある国との間の経済格差の大きなことが，国際社会の平和の維持や人類の進歩発展に大きな障害になっているとされ，その格差是正が1960年代にようやく国際政治の現実の課題とされるようになった。その結果，国連貿易開発会議*・OECD*・IMF*など国際的な経済機構が整備され，いまや，経済の均衡と資源の公正な分配が国際政治を安定させる重大な要因となりつつある。〔吹浦忠正〕

こくさいせいぶつがくじぎょうけいかく【国際生物学事業計画】⇨IBP

こくさいせきじゅうじ【国際赤十字】⇨赤十字

こくさいせきじゅうじじょうやく【国際赤十字条約】⇨赤十字

こくさいせきにん【国際責任】⇨国家責任

こくさいせきゆがいしゃ【国際石油会社】世界の石油業界を支配する七大石油会社をいう。これら大資本は寡占体制を確立し，世界の石油生産の6割強を占有し，生産量・販売量・価格・販路などについて国際カルテル*を形成している。七大石油会社とは，①スタンダード-オイル(ニュージャージー)，②ガルフオイル，③スタンダード-オイル-オブ-カリフォルニア，④テキサコ，⑤ソコニー-モビル-オイル，⑥ロイヤル-ダッチ-シェル-グループ，⑦ブリティッシュ-ペトロリウム*(BP)で，①～⑤はアメリカ系会社であり，⑥と⑦はイギリス系会社である。〔深海博明〕

こくさいたいようきょくしょうきかんそくねん【国際太陽極小期観測年】International Quiet Sun Year　略称IQSY。国際学術連合の企画の下に，太陽活動の極小期にあたる1964～1965年の2年間，世界の71か国が協力して行なった協同観測事業。観測項目は気象・地磁気・オーロラ・夜光・電離層・太陽活動・宇宙線にわたり，地球周辺の空間状態とそれと太陽活動との関係が研究された。

こくさいたんいけい【国際単位系】国によってまちまちの単位を用いては不便なので，1960年の国際度量衡総会で取り決められた国際的な単位系。基本単位としては，長さにメートル，質量にキログラム，時間に秒，電流にアンペア，温度にケルビン度，光度にカンデラを用い，補助単位として平面角にラジアン，立体角にステラジアンが設けられ，そのほか27の誘導単位が定められた。わが国の計量法の単位もこれに従っている。

こくさいちきゅうかんそくきょうりょく【国際地球観測協力】全地球，または地球の広範囲にわたる現象の観測に世界各国が協力すること。気象・海洋・地震・火山・重力・地磁気・電離層などの地球物理学的現象の観測が主である。たとえば，国際地球観測年*・国際協同海洋観測*など，期間・場所・参加国などは異なるが何回か実施され，それによって地球に関する知識や学問の急速な進歩がみられた。

こくさいちきゅうかんそくねん【国際地球観測年】もと極年*とよばれ，第3回からこの名称でよばれることになった。第3回は太陽活動の最盛期1957年7月1日から翌年12月31日まで，46か国が参加し，地球上に置かれた約4,000の地点で，気象・地磁気・オーロラ・電離層・夜光・太陽・宇宙線・経緯度・氷河・海洋・地震・重力および地球潮汐(ちきゅうちょうせき)・放射能の13項目にわたり観測し，地球ならびに宇宙空間を調査・研究した。

こくさいちゅうさいさいばん【国際仲裁裁判】⇨仲裁裁判

こくさいちょうてい【国際調停】国際紛争の平和的処理方法の一。独立の第三者が紛争当事国の主張の調和を図り，適当な解決案を当事国に勧告して，紛争を解決しようとするもの。事実を審査し明確にすることによって解決を図る審査の制度が発展したもので，第1次世界大戦後一般化した。調停は通常2国間条約で設けられることが多いが，多数国条約で成立することもある。調停をなす第三者は，紛争の当事国から独立した機関であって，国際調停委員会や国際連合*のような国際組織である。調停委員会の構成や手続きは，個々の条約で決まるが，だいたい次のようである。①委員会は常設的であることを原則とし，ふつう5人の委員で構成される。②紛争の付託は当事国の合意によるが，合意のない場合は当事国の一方の請求でなすこともできる。③委員会は事実問題だけでなく，法律問題も含めてあらゆる観点から紛争の内容を審査し，場合によっては解決条件を提示する。④委員会の報告書には当事国を拘束する効力はなく，紛争解決条件を提示した場合も，裁判判決のような法的拘束力をもたない。〔広部和也〕

こくさいつうか【国際通貨】⇨516ページ

こくさいつうかききん【国際通貨基金】⇨IMF

こくさいでんきつうしんれんごう【国際電気通信連合】International Telecommunication Union　略称ITU。1865年に創設された万国電信連合の後身として，1932年の国際電気通信条約により設立され，1947年改正(1949年1月実施)の同条約により国際連合*の専門機関の一つとなった。電信・電話・ラジオなどの電波を国際的に組織し規制して，各国の電気通信を円滑に行なうことを目的としている。管理理事会，連合事務局と国際周波数登録委員会などの諸委員会とから構成される。加盟国137(1970)。日本は1949年に再加盟した。本部はジュネーブ。〔広部和也〕

こくさいでんしんでんわ【国際電信電話(株)】略称KDD。わが国海外通信の独占会社。1953年(昭和28)3月国際電信電話株式会社法により電信電話公社の国際通信部門の業務を引き継いで発足。国際電報・国際電話・国際写真電報・国際放送中継などを主要業務とする。ニューヨーク・ジュネーブなどに海外事務所をもつほか国内主要都市に国際電話局を開設している。茨城県多賀郡十王町の宇宙通信実験所ではPMC衛星通信の実験を始め，1969年4月には山口衛星通信所を開局，インド洋上の衛星通信を始めるなど宇宙通信に積極的である。アメリカ・カナダ・韓国(かんこく)とのテレックス自動化も実施され，国際情報化の波に乗って事業は順調である。IC(高密度)メモリーの開発など技術開発にも積極的に取り組んでいる。資本金165億円，年間営業収入1,412億900万円，従業員数6,244(1980年9月)。

こくさいなんみんきかん【国際難民機関】International Refugee Organization　略称IRO。国際連合*の専門機関の一。国際難民機関憲章(1946)に基づき，18か国によって批准された。第2次世界大戦の避難民，ナチスやファシストによる追放者，その他の亡命者などの保護・救済を目的とし，帰国・身分証明・登録・看護・援助，法律的および政治的保護，輸送・再定住などの業務を行なった。総会・執行理事会・事務局からなり，本部はジュネーブにあった。1951年6月末でいちおうの任務を終了し，1952年廃止され，残務は国際連合難民高等弁務官事務所に引き継いだ。〔広部和也〕

こくさいはんざい【国際犯罪】一般には犯罪行為またはその影響が国際的な関連をもつものをいい，個人による犯罪と国家による犯罪とに大別される。個人による犯罪では，海賊行為・人身売買・麻薬取引などが条約*や慣習によって諸国家に共通の犯罪とされるが，その他，〈犯罪人引き渡し条約〉に基づいて国際的な捜査や逮捕の行なわれるものをはじめ，たとえ条約がなくても，犯罪の場所や規模，犯人の逃走経路などが国際間に及ぶものは国際犯罪とされ

る。近年，国際関係が緊密になるに伴い，個人による一定の行為が国際社会全体の法益を侵すとみなされる場合は，従来国内法に準拠して処罰されていたものまで，国際的な規模で処罰しようとする風潮が強くなってきた。第2次世界大戦後，ドイツおよび日本の戦争指導者に対して連合国側が行なった国際裁判で，平和に対する罪，人道に対する罪が処罰の対象とされたのはそのあらわれといえる。さらに1948年の国際連合第3回総会において採択された〈集団殺害罪の防止および処罰に関する条約〉(ジェノサイド条約)は，国民・人種・民族や宗教上の集団を迫害・殺害(ジェノサイド)する集団殺害を，〈国際連合の精神と目的とに反し，文明世界によって罪悪と認められた国際犯罪〉として規定し，国際刑事裁判所の審理・処罰を予定している。

国家の一定行為による国際犯罪については，まだ明確な規定がない。しかし，第1次世界大戦後の国際政治における理想主義的傾向の高まりの中で，不戦条約などによって戦争およびその手段が一般に制限を受けるようになり，国家が戦争を開始すること自体，一つの違法行為とみなされる傾向が生じてきた。特に侵略戦争は国家による重大な国際犯罪とされている。〔吹浦忠正〕

こくさいひょうじゅんかきこう【国際標準化機構】 International Standardization Organization 略称ISO。1947年に国連の諮問機関として設立。国際取引や国際交流の円滑化・促進を目的とし，国際的に統一された規格の制定，必要に応じて加盟国へ国際的な共通規格の制定・規格統一化のための勧告を行なっている。本部はスイスのジュネーブにあり，日本は1952年(昭和27)に加盟している。第2次世界大戦前に存在していた万国規格統一協会を受け継ぐ機関である。加入国数54，団体54(1971年7月現在)。〔深海博明〕

こくさいふじんデー【国際婦人デー】 毎年3月8日。婦人の解放と生活権の擁護のために，平和で幸福な社会を建設することを目的として国際的に行なわれる婦人の日。1904年3月8日，ニューヨークの婦人労働者が参政権を要求して集会を開いたのを記念したもので，1910年の国際社会主義者会議で決められた。

こくさいふっこうかいはつぎんこう【国際復興開発銀行】 International Bank for Reconstruction and Development 略称IBRD。世界銀行ともいう。世界経済の復興開発を促進させる目的で，ブレトン・ウッズ協定に基づき国際通貨基金(IMF)とともに設立された国際金融機関。1946年6月に業務を開始している。資本金は当初は100億ドルであり，1958年10月に210億ドルに増額された。加盟国は国際通貨基金の加盟国と同一であり，各加盟国の出資額(株式引き受け額)は，ほぼ国際通貨基金の割り当て額に比例して決定されている。主要業務は融資で，これには復興資金の融資と開発資金の融資とがある。各加盟国の政府のみならず，民間の企業もこの銀行から融資を受けることができるが，後者の場合には，当該加盟国政府の支払い保証が必要条件となっている。銀行は，直接貸し付けまたは貸し付け参加，通常の私的投資に対する保証を行なうが，これらの貸し付けおよび保証には一定の限度が設けられており，残高合計が銀行の応募資本額・準備金・剰余金の合計を超過することは認められない。国際復興開発銀行は，設立以後現在までの実績は必ずしも満足なものではなく，これを補充するものとして1960年に国際開発協会(いわゆる第二世界銀行)が設立されるに至った。〔安井孝治〕

こくさいふほうこういせきにん【国際不法行為責任】 ⇨国家責任

こくさいぶんかしんこうかい【国際文化振興会】 1934年(昭和9)，国際間の文化交流を目的に創設されたわが国独自の組織。財団法人。総裁高松宮，会長岸信介(のぶすけ)元首相。また現職首相が名誉会長，文相・外相が名誉副会長となっている。1962年以来，ローマに日本文化会館を設立・運営しているほか，東京に本部，京都に支部をもち，さらに，ニューヨーク・ロンドンに事務所を開設し，各地で展覧会・演奏会・講演会などの催し物を開催している。また人的・物的交流を盛んにし，日本文化の海外紹介を通じて，世界の国々の友好・親善に寄与している。〔吹浦忠正〕

こくさいぶんぎょう【国際分業】 国際間に形成される分業関係。国民経済相互間では資源の配在状態，技術水準，生産能力，消費趣向，商品に対する選好のしかた，購買力，所得水準などに相違があるため，国によって生産費に差が生じ，その結果，国際分業という現象が現われる。この原理を最初に明らかにしたのがリカードの比較生産費原理である。国際分業には垂直的分業と水平的分業の型がある。垂直的分業とは最終生産物と原材料の貿易取引にみられる経済発展段階の異なった国際間の分業をいう。水平的分業は先進国間の重化学工業品を中心とした貿易にみられる国際分業で，今日では先進国間貿易にみられるように水平的分業が盛んである。〔白石　孝〕

こくさいほう【国際法】 国際社会の法。国際私法に対し国際公法ともいう。原則として，国家間の関係を規律するが，個人や国際組織も一定の範囲で国際法の主体となりうる。国際法は，最初，近代主権国家の並存するヨーロッパ国家体制を規律する法として出現した。16世紀から18世紀にかけて，国際法は，国家の実行とともにグロチウスら多くのすぐれた学者や思想家の力によって形成された。19世紀の後半になって，国際社会の緊密化を背景に飛躍的に発展し，かつてのヨーロッパ国際体制の法から量的にも質的にもその範囲を広げていった。その後，国際連盟・国際連合を経て展開を遂げ，現代において国際法の役割はますます重要なものとなっている。このように，国際法は歴史的に形成されてきた法であり，主権国家を基盤としているため，国際社会の分権的な性格を反映し，国内法に比べて構造的にかなり異なった特徴をもっている。国際社会には，国内社会のような統一的立法機関がない。国際法の制定はすべて国家の合意によって行なわれる。国際法の成立形式には条約と国際社会の慣行を基礎とする国際慣習法があるが，すべての国家を拘束する国際法は，慣習法の形態でしか存在せず，条約は当事国のみを拘束する。このため，国際社会一般に妥当する法が慣習法であることから，内容が不明瞭(ふめいりょう)で確定的でない。また，国際社会の裁判機関も国内社会のそれとは異なり，国家の合意を前提としてのみ機能するものであるため，大きな限界がある。法の侵害に対する制裁手段についても同様で，国際社会には，警察や軍隊のような公権力を背景として法を執行するための組織化がなされていない。このため，国際法が法であるかいなかに疑問が提示されるが，国際法は原始的な法であるということができる。また，国際法の発展も組織化の方向へ向かっている。〔広部和也〕

こくさいぼうえききかん【国際貿易機関】 International Trade Organization 略称ITO。1948年3月24日，ハバナ会議で採択された国際貿易機関憲章(ハバナ憲章)で設立される予定であったが，実現されなかった。その理念はブレトン-ウッズ体制(→ブレトンウッズ協定)と同じく，貿易障害や差別待遇を除去して，自由貿易を盛んにし，各国の生活水準を引き上げ，完全雇用と経済的・社会的進歩の諸条件を達成することを目的とする。IMF(国際通貨基金)・国際復興開発銀行(世界銀行)とともに第2次世界大戦後の国際経済機構の支柱と考えられていた。〔広部和也〕

こくさいほうそう【国際放送】 外国で受信されることを目的として行なわれる放送。国際放送はその国の実情を諸外国に伝えて相互理解を深め，文化の交流に役だてることに最大の目的がある。したがって，国際放送の運営は世界中ほとんどの国において，民間によらず政府の直轄かまたは政府の財政支出による特殊の公共団体によって行なわれている。

現在日本ではNHKが放送法・国際放送番組基準および政府の実施命令によって〈ラジオジャパン〉の名で国際理解と親善および産業貿易の振興に寄与することを基本方針として実施している。日本の国際放送は1935年(昭和10)6月に，日本語と英語で，1日1時間，太平洋沿岸，ハワイ方面に放

→518ページへ

国際通貨

【国際通貨の条件】国際間に商品やサービス，あるいは資本が取引されると，それに伴って支払いが必要になるが，各国の通貨はそれぞれ国民通貨であって，一般的にはその通用力は国家主権の及ぶ範囲内に限られる。したがって国際間の取引を決済するためには国際通貨が必要である。しかし，国際通貨としては今日まで金が用いられ，それに次ぐものとしてポンドやドルのような，主要国の通貨いわゆる基軸通貨が用いられてきた。ポンドやドルが使用されたのは，究極にはそれが金との交換が保証されており，金と等しいものであったからという理由によるが，最近ではその金との関係は断たれ，それぞれの背景にある国民経済の生産力にささえられているといってよいであろう。

国際通貨は，その機能から，取引通貨と準備通貨に分けられる。取引通貨というのは，流通手段として機能する通貨であって，国際間の商品サービスの売買の媒介に使われる。国内通貨と同様に，流通手段は必ずしも金である必要はなく，信用通貨でよい。すなわち，ポンドやドルのように金の裏づけがなくても生産力の裏づけのある基軸通貨が使用される。ところが準備通貨は，後日の支払いの必要のために，価値を保蔵する手段として保有されるので，究極的には金が選好されてきた。しかし，基軸通貨が金の裏づけを欠いても，その価値の安定が保持されているかぎりは，準備通貨として用いられるであろう。その信認が失われた場合は，忌避されることになるだろう。国内通貨は金属貨幣から信用貨幣へと発達してきたが，国際通貨は今日もなお，この発達の過程にある。

【貨幣制度の発達】生産手段の私有と社会的分業を前提とする社会では，生産者は相互に余剰生産物を交換する。交換がくり返されると，生産物は商品として生産されることになり，商品交換の行なわれる度合いが増すのにつれて，一定の商品が貨幣に選ばれ，商品の交換はそれを媒介として行なわれることになる。無数の商品が全面的に交換されるためには，諸商品の価値を統一的に表現するような共通の価値尺度である商品，すなわち貨幣商品を必要とする。これが商品貨幣の発端である。すべての商品の価値はこの貨幣をもって表現され，このように価値尺度および交換手段の機能を果たす商品が貨幣となる。歴史上，さまざまな商品が貨幣の役割を果たしてきたが，金・銀の素材的な性質が最も貨幣に適していた。

貴金属貨幣は地金のまま貨幣として流通したのであるが，交換のつど，試金と秤量(ひょうりょう)を必要としたからその手数を省くために，地金に品位と重量を保証する刻印を打つようになり，貴金属は鋳貨という形態をとることになった。これによって秤量貨幣は計数貨幣となり，このことは貨幣の発展に重要な意味をもった。なぜならやがて貨幣鋳造権は国家主権の独占するところとなったのである。そして国家によって価格標準が定められ，本位鋳貨による支払いの最終性が宣言されたのである。ところがそれはその国家権力の及ぶ範囲に限られるのは自明の理であるから，その鋳貨は国民通貨となるのである。

しかしながら商品生産が発達し，商品が国境を越えて取引されるようになると，その決済のために国際通貨が必要になる。この場合には各国の鋳貨は，それぞれの品位・重量にしたがって，地金として機能するのである。すなわち一つの国民経済の内部では，国民通貨として通用していた鋳貨が，国際間ではもとの地金の形態に帰って通用するのである。国際取引においては，商品輸送は国内取引の場合よりも，より多くの時間のかかるのが普通であるから，国際通貨は購買手段としてよりも支払い手段として機能する。対外決済の手段といわれるのはそのためである。ところで国内では本位貨幣としての貴金属の鋳貨ばかりでなく，補助貨幣・政府紙幣・銀行券，あるいは銀行預金などが流通しているが，ここではこれを広い意味での信用貨幣とよぶことにしたい。

国際取引においても信用貨幣が発達しつつある。その第1は外国為替(かわせ)手形*である。一般に為替というのは隔地間の支払いを同一地の支払いに振り替えて現金の輸送を省略させるしくみである。そして外国為替手形には，両国通貨の為替相場による換算という問題がそれに付け加わる。外国為替手形は他の手形と同じく短期の債務証書であり，その特質は対外債務を対内債務に振り替えることによって外国への国際通貨の支払いを節減するところにある。たとえば日本の輸出商Aがアメリカの輸入商Bに債権をもち，他方ではアメリカの輸出商Cは日本の輸入商Dに債権をもつとする。この場合AはBあての取り立て手形を振り出して，日本の甲銀行で割り引き，CはDあての取り立て手形をアメリカの乙銀行で割り引く。そして甲銀行と乙銀行の間で債権と債務が相殺され，相殺されるかぎりでは国際通貨の支払いは節約される。しかし外国為替手形譲渡は，手形名義人，特に支払人の支払い能力について，外国人の場合に十分な情報が得られないから制約があり，銀行の信用状の発行や，手形引き受けなどが必要になる。また債権・債務の相殺は相手国別に行なうことが必要であり，ここにも制約がある。

しかしポンド手形とかドル手形のように，特定の国の貨幣建ての手形をあらゆる国が対外決済に使うようになると，この制約が打開される。すなわち2国間で清算しなければならない諸債務が，共通のポンド債務あるいはドル債務に転換することによって，多角的相殺が可能になるのである。この場合に，ポンド手形やドル手形は国際的支払いを可能にする国際通貨となったのである。このような段階になると，ポンド預金あるいはドル預金もまた国際通貨となる。これらの手形を銀行で割り引いて金を入手し，それを他国に支払う代わりに，割引金額をそのまま銀行に預金し，その預金を他国の勘定に振り替えることができる。そこでロンドンやニューヨークの銀行における外国人の預金残高は，国際通貨として機能する。したがって預金の振替をさしずする銀行小切手が外国為替手形と同様に取り扱われる。さらにイギリス短期政府証券やアメリカ短期政府証券もこれに準じて取り扱われる。

国際通貨としては，このように金，次いでポンドやドルが用いられてきた。金はいうまでもなく，本源的な貨幣であり，ポンドやドルの手形・預金・短期政府証券などは短期債務証書である。そして，ポンドやドルが金と兌換(だかん)されていたころはこれらの短期債務証書は究極的には金の代用物であった。

【金本位制度の変遷】イギリスは1816年に金本位制法を施行して金単本位制を採用し，次いで1844年にイングランド銀行法を制定し，銀行券発行の中央銀行への集中とその金兌換制を確立した。1870年ごろからヨーロッパ大陸諸国もこれに追随し，19世紀末には日本やアメリカもこれに加わって，第1次世界大戦勃発(ぼっぱつ)まで国際金本位制の時代が続いた。この時代の唯一の国際通貨はいうまでもなく，金であった。そして金本位制が国際的に普及したのは，ある意味では先進国イギリスとの貿易・金融関係を円滑にするために対イギリス為替相場の安定を図って，各国はイギリスの通貨制度に追随したのであるから，国際信用通貨としてイギリスのポンドが広く用いられ，ポンドによって多角的決済が行なわれた。それはイングランド銀行によってポンドの金兌換が維持されたこととともに，世界貿易の中心であり，金融市場が整備・発達していたことによっている。

第1次世界大戦の勃発によって，各国の金本位制は停止され，戦後経済再建のために金本位制に復帰して，通貨価値の安定を図ることが目標とされたが，インフレーションが進行していたため実現困難であった。そこで1922年ジェノア会議は金本位国通貨

の為替を，金地金の代わりに準備として保有し，それを決済に使用する金為替本位制を採用して金の使用を節約することを提唱した。アメリカは1919年に金本位制に復帰し，1925年にイギリスも金地金本位制をとったので，ドルとポンドは金と等しい金為替として，国際通貨として使用された。しかしその後国際通貨体制は混乱を重ね，世界経済は萎縮(いしゅく)したので第２次世界大戦後,世界経済の再建にあたって1944年に国際通貨基金協定が成立し，国際貿易の自由な拡大を目標にして，IMF*(国際通貨基金)を設立し為替相場の安定と，多角的支払い制度の樹立を図り，加盟国の出資による基金を国際収支の逆調国に利用させることを取り決めた。

〔ＩＭＦ体制〕ＩＭＦの発足に伴い，各加盟国通貨の平価は〈共通尺度たる金により，または1944年７月１日現在の量目および純分を有するアメリカ-ドルにより表示する〉と決められ，それは純金１オンス＝35ドルのドルであり，言い替えれば１ドルが純金３分の１オンスすなわち0.888671ｇに等しい場合のドルである。そしてアメリカは1934年の金準備法に基づいて，外国の中央銀行はじめ外国の公的機関に対して１オンス＝35ドルで，金を無制限に売却してきた。ただしアメリカおよび諸外国の一般市民に対しては，金を売却しない。しかし1954年にはロンドンで金の自由市場が開かれ，1958年にはヨーロッパ主要諸国の交換性が回復された。そこでアメリカの市民に対して金兌換は行なわれないが，ドルの海外持ち出しは自由であるからアメリカ市民はロンドン市場で金を自由に買うことができた。そして1961年の金プール協定(→金プール制)によってロンドン市場で金の価格が上がり，ロンドン・ニューヨーク向けの金輸送費を越えて騰貴すると，アメリカは他の協定参加国と共同して，イングランド銀行*を通じて金を売り，自由市場の金価格*を公定相場１オンス＝35ドルに安定させようとした。1968年３月の金の二重価格制によって停止されるまで，こうして金とドルの兌換が直接あるいは間接に維持されたもので，金為替本位制がとられていた，とみられる。

第２次世界大戦後のIMF体制はこのような金ドル体制にのっとったものであり，金為替本位制であった。世界貿易が発達するにつれて国際通貨の必要量も増加するのであるが，戦後の世界で金の生産量の増加率は世界貿易の増加率に及ばなかった。その不足を埋めるのはドルであった。ところがドルが外国に供給されるのは，アメリカ国際収支の赤字によるものである。アメリカは貿易収支を中心とする経常収支は黒字であって，それを上回る海外援助や民間資本輸出によって国際収支の赤字を提供してきたのである。戦後の初期は，アメリカの金保有高は巨額であり，かつ諸国は生産力が低下していてアメリカの物資に対する需要は旺盛(おうせい)であり,いわゆるドル不足の時代であった。ところが1958年の西欧主要諸国の通貨の交換性回復はそれらの国々の生産力が回復したことを告げるものであり，このころからアメリカの経常収支の黒字幅は縮小し，それにもかかわらず世界の政治経済の状況からアメリカの海外軍事支出や資本輸出の増加は持続したから，アメリカの国際収支の赤字は続いた。

こうして国際通貨は金のみではまかなうことはできないのであるが，それをドルによって補うことにも問題が生じてきた。ドルが増加することは，アメリカの国際収支の赤字が続くことが前提であり，それは各国の保有するドルの価値に対する信認を低下させるからである。そこで特別引き出し権(special drawing rights)すなわちSDR*という新しい流動資産をつくりだすことになった。1968年５月末IMF総務会が採択した決議によってこの創設は確定した。1969年秋のIMFの総会で第１回の発動が決議され，1970，1971，1972年の１月１日にそれぞれ35億ドル・30億ドル・30億ドルずつの配布が決定された。これはIMF加盟国の出資割り当て額に応じて配分されるが，あらかじめ出資を要せず，しかしまたその使用は国際収支の赤字を決済するために，配分されたSDRを引き渡して交換可能通貨を入手し，それで赤字を支払うというように規定されている。SDRを使用した国は借り入れ通貨で返済して70％までは復元しなくてはならない。したがって，債務証書でもあるが，ある限度までは最終支払い手段でもある。

ところでアメリカ-ドルの需要はそれによってアメリカの物資やサービスが購入できるというだけではなく，直接あるいは間接に金に１オンス＝35ドルという確定した価格で交換されるという信頼に基づいていた。ところが,SDRの創出のころしだいに各国の保有するドル残高が増加し，アメリカの保有する金準備高に接近し，これを越えようとするに至って，ドルの信認は低下し，これを早く金に交換しようという予想による投機の動きによって,いわゆるゴールド-ラッシュが起こり，その対策として，1968年３月，今後，各国中央銀行は市場に金を売却もせず，購入もせず，そして相互の取引には１オンス＝35ドルの価格を堅持し，他方では，自由市場での金の価格はその需給関係による騰落のままに任せることとなった。このようにしてドルと金との関係は遮断(しゃだん)されたのである。

〔IMFの改革〕このような事態でIMFの改革という問題が重要な課題となっている。第１には金本位制の復帰を主張する論者がある。それは今日のドルの過剰はアメリカが基軸通貨国である特権を利用して，国際収支の赤字にもかかわらず，これを引き締めようとする金融節度をもたなかった結果であるとし，金本位制に復帰すれば各国は平等に金融節度を守ることになるという。そして，累積しているポンドやドル残高の清算のために，金価格の引き上げを主張する。アメリカには漸次，金を国際通貨の座から追放することを主張する論者もある。しかしヨーロッパには，SDRの過大の創出を危惧(きぐ)する論者もあり，金価値保証を設定しており，かつ南アフリカ共和国の産金国としての要求もあって，南アフリカ共和国の新産金はある条件つきでIMFに買い入れることが認められた。また第２には，IMF体制は固定為替相場制*をとり，基礎的不均衡調節のためにその変更を認めているが，それが円滑に運用されていない実情からして為替相場を自由に変動させる方式あるいはまた固定為替相場を捨てるのではないが変動幅の拡大とか，為替平価の小刻みの調整によって，今日の硬直性を弾力化して国際収支の調整をより迅速にしようとする意見も有力である。また第３に，トリフィンのように世界中央銀行を創設し，各国がそこに勘定を設けて国際収支を預託し，その振替によって国際支払いを決済することを主張する案もある。これらの改革案が実現しないうちに，アメリカの国際収支の赤字はますます慢性化し，国際通貨としてのドルの地位は悪化したため，1971年８月ニクソンはドル防衛のため８項目の方針を発表し，わずかに残っていた金とドルの連係，すなわち外国の中央銀行など公的機関に対しては１オンス＝35ドルで金を売却するという公約を暫定的に停止し，かつ輸入品に対して10％の課徴金をかけることを発表した。これは実質的にはドルの平価切り下げに等しいが前にも述べたように，IMFの体制はアメリカ-ドルを基準単位として規定されているので，アメリカ-ドルの切り下げには手続き上困難が多く，このような手段をとり，国際収支の黒字国，特に日本に対して為替平価の切り上げを強要したものとみられる。国際通貨体制はこれによって大きな衝撃を受け，わが国ははじめは円平価の維持に努めたがついに８月27日，変動為替相場制*への移行を声明した。十か国蔵相会議*・IMFなどの場で多角的な平価調整の合意が成立すれば再び新しい平価のもとに固定為替相場制に復するであろうが，もし合意が得られなければしばらくは変動為替相場制が続くことになるだろう。完全な変動為替相場制の場合は別として，貨幣当局が為替市場に介入する場合には国際通貨の保有を要する。〔小泉　明〕

送したのが最初であった。最盛時の1944年11月には24か国語で1日延べ32時間35分，世界の13方面に国際放送を流した。しかし第2次世界大戦終結とともに，1945年9月連合軍総司令部(GHQ)によって中止された。そして1949年7月には解除となり，1952年2月再び日本語と英語で1日5時間5方面に放送をはじめ，現在は23か国語で1日36時間30分の放送を行なっている。国際放送は一般向放送と地域別放送とに分けられ，一般向放送は全世界の人口を対象として，日本語と英語でニュースや時事解説を毎正時30分，1日24回(1968年度は13時間30分であった)放送し，地域別放送は一般向放送と並行して特定の地域にその地域の国語でニュースばかりでなく，種々のインフォメーション番組や音楽番組も放送している(1968年度は1日23時間であった)。

イギリスにおいてはBBC*(イギリス放送協会)が海外植民地自治領に向けて英語ニュースを送ったエンパイア-サービスがBBC国際放送の最初である。なお1965年にワールドサービスと改称した。アメリカの国際放送VOA*(アメリカの声)は大統領直属のアメリカ文化情報交換局の1部門として運営されている。ソ連のモスクワ放送*はソビエト国家放送委員会が管理運営している。なお，近年はアメリカやソ連などの人工通信衛星*を使っての国際テレビ宇宙中継が盛んになってきている。〔飯田良明〕

こくさいほうそうきこう 【国際放送機構】 Organisation Internationale de Radiodiffusion et Télévision 略称OIRT。1946年6月共産圏20か国，25団体を会員として結成された国際組織。加盟諸団体の連絡，情報の交換，放送界の利益の全面的擁護，国際協力による問題の解決，放送の発展のための研究を目的とする。本部はチェコスロバキアのプラハ。加盟国間の国際中継(インタービジョン)の運営を行ない，ユーロービジョン*と相互中継も行なう。〔飯田良明〕

こくさいほげいとりしまりじょうやく 【国際捕鯨取締条約】 捕鯨の国際的取り締まりに関する条約。1946年，イギリス・ノルウェー・アメリカなどの関係15か国が，ワシントンで開かれた国際捕鯨会議でつくったもの。日本は1951年(昭和26)加盟。加盟国は14(1971)，捕鯨取締規則の作成，クジラに関する情報および統計の収集・分析を行なう国際捕鯨委員会を設け，毎年会議を開き，翌年の漁期・漁区・捕獲頭数などを定め，いっせいに出漁して，捕獲数を競う捕鯨オリンピック方式をとった。1960年以降は，実績に応じた割り当て方式がとられるようになった。〔広部和也〕

こくさいほごちょう 【国際保護鳥】 個体数が非常に減少して絶滅のおそれがあるために，国際鳥類保護会議において，特に保護の必要があるとして指定された鳥類。1960年の会議で，次の13種があげられた。カリフォルニア-コンドル(アメリカ)・マリアナ-ツカツクリ(マリアナ諸島)・ハワイガン(ハワイ)・カグー(ニューカレドニア)・バライロガモ(インド)・キジインコ(オーストラリア)・ハシジロキツツキ(キューバ)・バミューダ-シロハラミズナギドリ(バミューダ諸島)・エスキモーシャクシギ(アメリカ)・アメリカシロヅル(アメリカ)・アホウドリ(日本)・トキ(日本)・フクロオウム(ニュージーランド)このほかにも指定に価する鳥が多いが，現在指定されているのは以上である。〔浦本昌紀〕

こくさいみほんいち 【国際見本市】 産業と貿易の国際的発展を図る目的で，内外の特産や製品を一場に展示し，即売的取引を行なう臨時の見本市場をいう。各国の最新商品が大規模に集められ比較展観ができるので，経済・文化を国際的に交流させる上に大きな役目を果たしている。東ドイツのライプチヒで行なわれる見本市は，歴史的にも規模の上でも国際的に有名である。わが国では1953年(昭和28)大阪で第1回の国際見本市が開かれ，以後隔年に大阪・東京で交互に開催されている。〔上坂酉三〕

こくさいみんかんこうくうきかん 【国際民間航空機関】 International Civil Aviation Organization 略称ICAO(イカオ)。1944年12月7日成立した国際民間航空協定(シカゴ協定)に基づいて1947年設立された国際連合の専門機関の一。国際民間航空の安全と発達を図ることを目的とし，航空路・飛行場・航空営業，物資の輸送，その他の航空上の便宜について規制するための常設的機構である。総会・理事会・事務局・航空委員会・航空輸送委員会よりなる。本部はカナダのモントリオール。加盟国120(1971)。日本は1953年(昭和28)に加盟。〔広部和也〕

こくさいゆうびんきょく 【国際郵便局】 ⇨郵便局

こくさいようもうけんきゅうかい 【国際羊毛研究会】 International Wool Study Group 略称IWSG。1947年の国際羊毛会議で設立を決定し，政府間機関として発足した。羊毛に関する生産・需給の調整などを研究し，羊毛の消費奨励策について加盟国に勧告を行なうことを目的とする。日本は1952年(昭和27)に加盟している。本部はロンドンにあり，総会・事務局などがある。なお，本研究会と類似した機関である国際羊毛事務局(IWS：International Wool Secretariat)は，1937年，オーストラリア・ニュージーランド・南アフリカ共和国の牧羊業者が羊毛需要促進のためにロンドンに設立したもの。

こくさいりゅうどうせい 【国際流動性】 国際的流動資産そのものを意味する場合と，国際的流動状態を意味する場合とがある。国際的流動資産とは，各国の政府・中央銀行が対外決済準備として保有しうるような国際的な短期流動資産のことであり，現在では，金・アメリカ-ドル・IMFゴールド-トランシュ*などがそれである。この意味から国際流動性とは，各国の対外決済準備の総体であるといえる。この流動性が国際的に十分に供給されていくかどうかが，国際流動性を問題とする際の主要な論点である。現在，各国が為替(かわせ)相場を維持し，国際貿易および決済の自由を促進し世界経済の成長を実現するには，国際流動性の十分な供給が保証されなければならない。国際流動性の供給が十分でなければ，各国は為替相場の維持が困難になり，対外的には，貿易統制や為替管理が行なわれ，また対内的には信用制限政策が強化されるようなことになって世界経済の成長が阻害されることになる。従来，国際流動性の適正量を，世界貿易量・物価水準・経済成長率というような特定の数量を基準として測定しようとする試みがしばしば行なわれてきた。しかし，国際流動性の適正量を測定することは，ほとんど不可能である。実際には世界経済の一般的情勢の推移からみて事後的に判断されうるにすぎず，世界経済における貿易統制あるいは為替管理の導入傾向，IMFからの借り入れ増加傾向，中央銀行間信用供与に対する倦怠(けんたい)傾向，各国内の信用制限の強化傾向などが一般化してきたときに国際流動性が不足していると判断されるわけである。1960年以降アメリカの国際収支均衡化政策が推進され，ドル防衛策がとられるようになったことから国際流動性不足の発生を主張する説が一般に支持されるようになった。このため，予想される不足に対処するために多くの提案が発表されてきたが，結局IMF特別引き出し権(SDR*)を創出するということでこの問題のいちおうの解決が図られた。〔安井孝治〕

こくさいれんごう 【国際連合】 ⇨520ページ

こくさいれんめい 【国際連盟】 第1次世界大戦後，世界平和の維持をおもな使命として結成された国際機構。1918年イギリス政府の命を受けたフィリモア男爵を委員長とする委員会が，国際的組織を創設して国際間の平和を維持しようと提案したのがもとになり，これにアメリカ大統領ウィルソンの草案を合わせて，国際連盟機構結成の案が1919年パリ平和会議*に提出され，審議，決定をみた。正式の発足は1920年1月20日である。

連盟は，全加盟国が出席する総会，常任理事国若干と総会で選出される非常任理事国とで組織される理事会，および事務局からなり，その下に多くの補助機関(阿片(あへん)委員会など)や常設の国際司法裁判所・国際労働機関などの外郭機関を伴っていた。連盟のおもな任務は，①世界平和の維持，②経済的・社会的・文化的諸問題に関する

国際協力の促進，③未開発地域の統治(委任統治)の実施であった。連盟発足の当初，アメリカ・イギリス・フランス・イタリアおよび日本が常任理事国に予定されていたが，提案国のアメリカが自国内で孤立主義の風潮が強まったために加盟できなかったのは大きなマイナスになった。また，議決方法が満場一致を原則としたこと，加盟各国に対する強制力がなかったこと，さらに敗戦国ドイツに正当な評価と地位を与えなかったためにドイツが連盟を無視，あるいは軽視したことなどが原因となって，国際連盟はしだいに無力化した。加えて1933年(昭和8)日本の脱退などもあり，まもなく勃発(はっぱつ)した第2次世界大戦の混乱の中で連盟は事実上崩壊した。連盟の正式解散は，国際連合*の発足(1946年1月)したあと，1946年4月に開かれた総会の決議による。〔吹浦忠正〕

こくさいろうどうきかん【国際労働機関】⇨ILO

こくさいろうどうけんしょう【国際労働憲章】ILO*(国際労働機関)の構成組織を定めた規則。1919年成立のベルサイユ条約*第13編(労働編)をさす。世界の平和は社会正義を基礎とするという大原則のもとに，労働は商品でないこと，適正な賃金，8時間労働制，男女同一賃金など労働者の権利と利益の向上を規定している。憲章は，国際連合の成立に伴って改正され，1944年のフィラデルフィア宣言*を付属書として加え，現在に至っている。

こくさいろうどうほう【国際労働法】ILO*(国際労働機関)によって採択されている国際労働条約や勧告を中心として，多数の国に妥当する労働法。第1次世界大戦後，戦争が起こる理由の一つは，一部の国々の労働者が安く使われ，そのために国際市場で不公正競争が生じるためであるとし，戦争反対の意識とあいまって，低劣な労働条件をなくすための国際的努力の必要が叫ばれた。国際労働立法は，このような背景から，労働者の人間らしい生活の保障という人道的な要請と国家間の公正な経済競争の維持という観点に基づいて，その二つの要求が複雑にからみ合って成立をみたものである。ILO成立の発想は，労働立法の国際的統一の必要性を説いた19世紀初頭のロバート-オーエン*やダニエル-ル-グランの思想にみることができる。彼らの思想は，急速な資本主義化による資本家の労働者酷使に対する人道主義から出たものであるが，当時は顧みられなかった。1900年のパリ博覧会を契機に，ようやく国際労働立法の必要が認識され，各国の政治家や専門家を連ねた国際労働立法協会設立の決定がなされ，1906年，ベルリン国際外交会議においては，同協会の努力により〈白燐(はくりん)マッチ製造禁止〉〈婦人夜業禁止〉の2条約が採択された。なお，同協会は，〈年少者夜業禁止〉〈年少・婦人労働者10時間労働制〉条約の採択に努力したが，第1次世界大戦で中断された。戦後，ベルサイユ条約*は，労働者は商品でなく人間であることを承認し，男女同一賃金，8時間労働制などの労働条件の基本原則や結社の自由などを宣言し，政府・資本家・労働組合の3者の代表よりなるILOの設置を規定した。1919年第1回ILO総会で採択された産前・産後・深夜における婦人の使用制限に関する条約(3号・4号)，児童の最低年齢・深夜業禁止に関する条約(5号・6号)などにみられるように，第2次世界大戦前は，労働保護法を中心としていた。第2次世界大戦後は，母性保護に関する条約(103号)，社会保障の最低基準に関する条約(102号)，結社の自由および団結権の擁護に関する条約(87号)，団結権および団体交渉権についての原則の適用に関する条約(98号)，強制労働の廃止に関する条約(105号)など一連の条約にみられるように，生命と団結権の国際基準の設立に努力している。ILOを中心とする国際労働法は，各国における労働立法の方向に大きな影響を及ぼしている。〔木元錦哉〕



コ ク サ ギ

こくさぎ【小臭木】双子葉植物・ミカン科。本州・四国・九州の山野の林下に自生する落葉低木。高さ2m内外でよく分枝する。葉は互生し，倒卵形で，表面は光沢があり，脈上と裏面に毛がある。雌雄異株。4月ごろ葉がまだ小さいうちに，葉腋(ようえき)に黄緑色の小花をつける。雄花は総状花序に，雌花は1花つく。果実はゆがんだ楕円(だえん)形で，四つに裂開し，かたい内果皮の反転により種子をはね飛ばす。和名は，葉にクサギのような臭気があり，小木であることによる。〔横井朝子〕

コクサッキーびょう【コクサッキー病】1856年フィンゼンによってはじめて記載された疾患で，1947年ダルドルフらにより病原体であるコクサッキーウイルスが分離された。発病は急で，悪寒(おかん)・発熱とともに強い筋肉痛を訴える。筋肉痛は横隔膜付近に特に強く，心窩部(しんかぶ)・前胸部・側胸部に疼痛(とうつう)を訴える。呼吸やくさめに際して激痛を伴う。熱は1～2日で下がるが，再発することも多い。一般に温暖期に多くみられ，流行することもある。治療法は特になく，対症療法として鎮痛剤を投与する。〔清水喜八郎〕

こくさんせんばい【国産専売】江戸時代，諸藩が財政収入をあげる目的で領内の特定産物の販売を独占して藩営とする経済政策・産業政策をいい，専売仕法ともいう。貨幣経済の進展によって窮乏した藩の財政を再建するために，特に中期以降盛んに行なわれ，藩自体が領内の国産品を買い上げて独占販売することで貨幣を得て藩の財源を補充した。瀬戸内海を巡る西日本を中心に全国で60藩以上で実施された。各藩の専売品では仙台(せんだい)藩の米・塩，金沢藩の塩，会津藩のロウ，萩(はぎ)藩の紙・ロウ，松江藩のチョウセンニンジン，徳島藩の藍(あい)，鹿児島藩の黒糖などが有名である。領内での国産品生産は奨励されるとともに強い統制を受け，自由取引は禁止された。この国産専売のために諸藩に国産方・国産会所・物産会所*などの役所が置かれ，生産物は藩の生産独占・直接的購入・間接的購入の3形態によって藩に集められた。販売の形態は，領内配給の独占，領外移出の独占，領内配給・領外移出の独占の3種があり，特に領外移出の独占を重視し，独占した国産品は大阪・江戸などの中央市場で換金され，おもに藩主の江戸での生活に費やされた。〔松尾　涼〕

こくし【黒子】⇨ほくろ

こくし【国師】①律令(りつりょう)制下，諸国に置かれた僧官名。国司*とともにその部内における僧尼の管理，寺領財物の監督にあたり，経論の講説や法務に携わった。国分寺*創設以後は国分寺の僧のうちから任命されるようになった。はじめは各国に1名ずつ置かれたが，783年(延暦2)からは大国・上国には大国師1名と小国師1名，中国・小国には国師1名が定員となり，その後任期6年と定められた。795年名称を講師と改めた。

②中世以降，天皇の師となり，国家の師表となる高僧に朝廷から贈られた称号。1312年(正和1)東福寺の開山円爾(えんに)弁円の没後，聖一国師を追賜したのが最初。1346年(正平1・貞和2)には天龍(てんりゅう)寺の開山夢窓疎石*に正覚国師とする生前の賜号があった。その後多く禅僧がこの賜号にあずかっている。〔高崎徳次〕

こくし【国司】大化改新後から律令(りつりょう)制時代を通じ，中央から各国に派遣された地方行政官。守(かみ)・介(すけ)・掾(じょう)・目(さかん)の四等官からなっていたが，大国・上国・中国・小国の等級によって定員に相違があった。任国に赴任し，任期中国衙*(こくが)にあって各郡の郡司*を監督し，一般行政・裁判・治安・軍事をつかさどった。行政にあたってはつねに中央の監督・指令を受け，中央との緊密な連絡を保ちながら，地方民の掌握に努めた。任期は大宝令では

➔523ページへ

国際連合

The United Nations Organization 略称国連，UNO。1945年国際連合憲章(略称国連憲章)に基づき国際連盟に代わって設けられた国際機構。本部はニューヨーク。

〔誕生〕 有名無実となっていた国際連盟に代わる新しい国際機構を設けようという考えは，第2次世界大戦の初期からあった。その第1歩は，アメリカ・イギリス両国首脳によって宣言された大西洋憲章(1941)で，日本が参戦したのち，これにソ連のほか23か国が加わって連合国共同宣言(1942)として発表された。それがはじめて公式に決定されたのは，1943年10月にモスクワで開かれたアメリカ・イギリス・ソ連の3国外相会議で，のち中華民国も加わった〈一般安全保障問題に関する四国宣言〉(→モスクワ宣言)であった。それは，〈なるべく短期間に国際機構の設置の必要を認める右の諸国は，大小を問わず，この機関の成員となることができる〉と明示された。この年9月にはイタリアが降伏し，戦局の見通しがかなりはっきりするにつれて国際機構設置案は具体性をおび，翌1944年8月から10月にかけて，ワシントン郊外のダンバートン-オークスでアメリカ・イギリスはソ連と，また別個に中華民国との間で会議を開催，現在の国連憲章にほぼ近い，いわば憲章の原案ともいうべき〈一般国際機構の設立に関する提案〉(→ダンバートン-オークス会議)を採択した。ソ連と中華民国とが会議に同席しなかったのは，異なる敵を相手としているという理由からであった。こうして国連の青写真ができあがったものの，重要な点で決定に至らなかったものもあった。それは安全保障理事会(略称安保理事会)の表決方法や今日の信託統治の問題などである。これらは，翌1945年2月に三国首脳会議(→ヤルタ会談)で決定された。国際政治からみてこの会談の重要性は，ドイツ降伏後90日以内にソ連が対日戦に参加するという〈ヤルタの密約〉が結ばれたこと，安保理事会における常任理事国(アメリカ・イギリス・ソ連・中国・フランス)のいわゆる拒否権と信託統治制度の採用が原則的に承認されたことである。ダンバートン-オークス会議における提案とヤルタ会談の決定との技術的調整が行なわれたのち，上記の5か国が当時の連合国であった45か国をサンフランシスコに招いて，この年4月から6月にかけて国際会議を開催し，原案に多少の修正を加えて，6月26日に現在の国連憲章が参加50か国全部によって調印された。この50か国にポーランドを加えた51か国を国連の原加盟国という。なお当時ポーランドは二つの政府に分裂していたので，統一政府の成立後



国際連合旗 国際連合旗は1947年の第2回国連総会で制定された。北極を中心に描いた世界地図にオリーブの枝を配し，国連が世界平和の維持を目的とすることを表わす。その使用に関しては，他の旗より同等以上の大きさでつねに上位に掲げるべきこと，縦横比は2：3または3：5または併用する国旗と同比率にするなどの規程がある

原加盟国に加えるという了解がまとまっており，この年10月に参加した。国連憲章は必要な批准を経て，10月24日に発効し，それと同時に国連は成立した。そして正式に活動を開始したのは，第1回総会がロンドンで開かれた1946年1月10日からである。1975年12月末日現在，国連を構成する国の数は144か国(アジア19，中近東16，アフリカ47，米州29，西ヨーロッパ18，東ヨーロッパ11，オセアニア4)である。なお，わが国が加入したのは1956年12月であった。

〔目的と原則〕 国連憲章は，前文と111か条からなり，国連の憲法にあたるもので，国連の目的・原則・組織・活動などについて定めている。国連の目的として，憲章は四つのことをあげている(第1条)が，そのうち次の二つが最も重要な目的である。

第1に，国際間の平和および安全を維持することである。国連が国際平和維持機構として設立されたことからいっても，これが国連の最も重要な目的であることはいうまでもない。第2の重要な目的は，国際協力を達成することである。詳しくいえば，経済的・社会的・文化的・人道的な国際問題の解決のために，また，人権と基本的自由の尊重を促進するために，国際的に協力することである。広く，紛争の諸原因を除去し，人間性の尊重に基礎をおく世界の建設をめざしている。以上の二つが国連の目的の主軸を形成するが，そのほかに人民の同権と自決の原則の尊重を基礎とした諸国間の友好関係を発展させること，世界平和を強化するために他の適当な措置をとること，また国連がこれらの共通の目的の達成にあたって，諸国の行動を調和するための中心となることが定められている。あとの二つは，目的とはされてはいるが，はじめの二大目的を達成するための基本的な方法に関して述べたということのほうが適切であろう。国連憲章は，これらの目的を達成するに際して，国連そのものと加盟国とが，ともに従わなければならない次の7原則を掲げている(第2条)。

①国連は，加盟国の主権平等の原則を基礎としている。②加盟国は，憲章に基づく義務を誠実に履行しなければならない。③加盟国は，国際紛争を平和的手段によって解決しなければならない。④加盟国は，武力による威嚇や武力の行使を慎まなければならない。⑤加盟国は，国連がとる行動について国連にあらゆる援助を与え，また国連の行動(防止行動にせよ，強制行動にせよ)の対象となっている国には援助を与えてはならない。⑥国連は，平和と安全のために，非加盟国がこれらの原則に従って行動することを求めるよう努力する。⑦国連は，原則として，加盟国の国内問題に干渉しない。

このうち②③④⑤は加盟国の守るべき原則であるが，②は条約の加盟国にとっては当然の事がらであり，最も重要な原則はそのほかの三つである。このことはわが国が国連に加盟する以前に締結した対日講和条約(1952年4月28日発効)の第5条で，特にこの三つをわが国の守るべき義務と規定されたことからみても知られよう。③について詳しくいえば，加盟国はその国際紛争を平和的手段によって，国際平和と安全ならびに正義を危うくしないようなやり方で解決しなければならないということである。④は，加盟国が他国との関係で武力の威嚇や武力行使をしてはならないということである。そうした行動は，他国の領土保全や政治的独立に向かってとってはならないし，国連の目的とそぐわない方法でなされてはならない。一見して，③は平和的手段をとれといい，④は武力の威嚇や行使をしてはならないといっているので，同じことをいっているようにみられるが，両者の相違を見分けるためには，国際連盟の場合を思い起こしたい。国際連盟は，ある〈特定の戦争〉を禁止したために，他方に〈許容された戦争を生み出してしまった。国連では，これこれの戦争を禁止するというやり方をとらずに，包括的・一般的にすべての武力の威嚇と行使を禁止している。憲章で〈戦争〉という語が用いられているのは，前文の〈戦争の惨害〉のほかには，〈第2次世界大戦〉という固有名詞に限られる。また，国際連盟では〈戦争に至らない武力行使〉に関する考え方があいまいであり，これを不戦条約(1928)で補おうとしたが，なお問題が残った。平和的手段とは戦時でない時期に行なわれるすべての手段を含むと解される余地もあったからである。ここに，平和的手段による国際紛争の解決ばかりでなく，武力の威





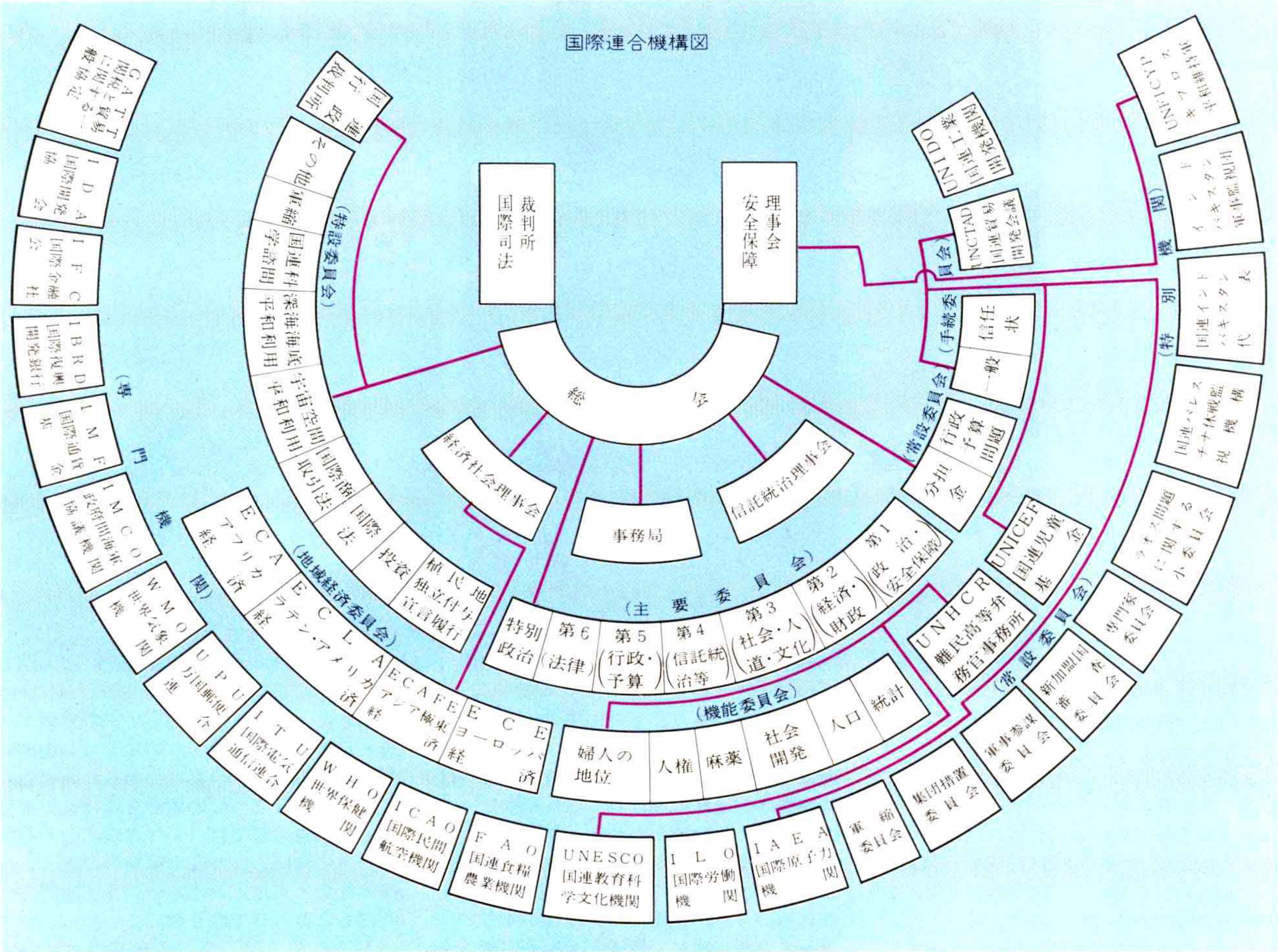
国際連合　(左)国連安保理事会　(右)イースト河畔にある国連事務局

嚇や行使を特に禁止した積極的な意味がある。⑤はまさしく，集団安全保障*機構とされる国連の本質について規定した原則で，制裁を効果的にするためのものである。この原則が正確に実現されれば，国連という組織と各加盟国との関係は，国際社会と比べて格段の秩序をもつ国内社会における政府と被治者の関係に近くなる。要は，国連でこの原則をどのように具体化しているかにかかっている，といわなければならない。

このように憲章が〈原則〉として掲げているもののほかに，憲章のバックボーンを形成し，国連を動かしている重要な原則として，大国優位の原則，または大国一致の原則をあげなければならない。すでに国連の誕生の歴史について述べたように，この組織はアメリカ・イギリス・ソ連のリーダーシップのもとに組織され，これら3国の戦争中の協力関係を土台にフランス・中国などの戦勝国を加えて，その実力によって第2次世界大戦後の平和維持にあたろうとしたものである。したがって，国連が第1の目的としているのは前述のとおり平和と安全の維持であるが，これについて主要な責任をもつのは安保理事会であり，この安保理事会の決定は，常任理事国である5大国の同意投票を必要とする。国連では，一般的には，表決にあたって多数決制度を採用しているが，安保理事会における5大国の投票だけは例外である。つまり，これらの国々は，自国の意に反して決定に縛られることがない(→拒否権)。

以上の原則にも，憲章の規定の上でいくつかの例外があり，また国際政治の現実の動きの中でも，例外が生み出された。まず憲章で武力不行使の例外とされているのは，国連自体が違法な国に対して強制措置をとる場合と，加盟国が自衛権*に基づいて行動する場合である。この例外規定は，国際政治の現状に関して，自衛権の名のもとに最大限に用いられ，国連自体をゆるがすまでになっている。次に，集団安全保障の働きを具体化しているかどうかという問題は，なによりも憲章が加盟国の同意をもとにして強制措置にあたる軍隊(→国連軍)を創設しようとしたために(つまり，強制措置への協力を自動的に発動しようとした考え方が生かされていない)，さらに〈冷たい戦争*〉の開始とともに米ソ両国の間に国連軍創設のための一致がみられないため挫折(ざせつ)した。こうした状況の中で，国連の中心的な機関であるべき安保理事会は十分な活動をすることができず，そのためにその働きの一部を総会に移そうという動きが現われてきている。

〔機関〕国連は六つの主要機関からなっている。一つの総会と三つの理事会，国際司法裁判所*と事務局がそれである。この中で，形式上最高の地位を占めるのは総会である。前述のように，実質的に最も重要なのは安保理事会である。国際連盟で総会と理事会がほとんど同一の任務と権限を与えられていたのとは異なって，国連では，総会と安保理事会に異なった任務と権限が与えられた。これは国連の運営を，実力をもつ大国，そしてその協力によって行なおうとしたものである。さらに，機構の上で国際連盟と国連とが根本的に異なっているのは，国際連盟では理事会は一つだけであったのに対して，国連では三つの理事会を設けたことである。国際連盟では，一つの理事会が平和と安全の維持という安全保障の問題も，経済・社会・文化上の協力という国際協力の問題も，合わせて取り扱っていた。これに対して国連では，三つの理事会に権限を配分している。安全保障の問題のために安保理事会が，国際協力の問題のために経済社会理事会*が，信託統治の問題のために信託統治理事会*が，それぞれ設けられた。これは，以上の三つの問題がかなり性質をことにし，とりわけ第1の問題とその他の問題が性質をことにするからである。安全保障の問題は非常に重大な政治問題である。各国の有力な政治家が処理することを必要とし，そのために急速かつ大胆な行動がとられねばならない。これに反して，国際協力の問題は，終局的には政治問題につながるにしても，主として技術的なものである。周到な研究と綿密な計画が必要であり，急速よりも着実，大胆さよりも慎重さが必要とされる。信託統治についても，ほとんど同じことがいえる。その結果として，これらの問題を取り扱う機関としても，構成や手続きの上で，おのずから差異が出てくる。安全保障の機関としては，主として大国の有力な代表者で構成し，人数も少ないほうが決定の迅速さを確保できよう。国際協力の機関としては，必ずしも大国中心である必要はない。国の大小を問わず，その道の



専門家で組織し，政治問題の渦中(かちゅう)に巻き込まれないほうが望ましい。信託統治も，戦略地区を除いて一般的には安全保障とはまったく別の範疇(はんちゅう)にはいる。こうしてみれば，安全保障・国際協力・信託統治について，これを取り扱う機関を別々にしたことには，相当な理由がある。この点で，国際連盟に比べて大きな特色をもっている。このほかに，国際連盟ではILO*(国際労働機構)を機構の中心においていたのに対して，国連では，総会の提携機関である専門機関に組み入れた点，若干の相違がみられる。いうまでもなく，こうした主要な機関を補佐するものとして，多くの委員会が設けられている。憲章で規定されたものも，国連運営の実際の必要から設けられたものもある。国際問題が非常に多角的に，複雑になるにしたがって，こうした委員会の役割はいっそう重要性を増した。

事務局は，1人の事務総長とこの機構が必要とする他の職員とからなる。事務局は国連の議事・運営を組み立てるが，問題によってはかなり解決の方法が異なってくることもある。このことは，歴代の事務総長の役割に関して，主導性をもって問題解決にあたるべきか，あくまでも受け身で対応すべきかについて，米ソ間で激しい論争がかわされたことからもうかがい知ることができよう。そうした意味で事務局の役割は軽視できない。国際司法裁判所*は，形式上は国連の中にある機関であるが，その性質上当然他の機関と異なった関係に立ち，実質的に独立の機関としての地位を占める。

〔理念と現実〕国連は，第2次世界大戦中における連合国，特にアメリカ・イギリス・ソ連という3大国の〈戦争中の協力〉を土台として，これを戦後も維持することを前提としてつくられた。この3大国の協力が継続しさえすれば，第2次世界大戦中の敵国が再侵略の野望をもってもこれを粉砕することができるし，国際連盟創設以来人類の夢だった超国家組織としての国際組織の確立も，またこれを礎石として世界国家を創設することも可能だと考えられていた。そこに繰り広げられていたのは，ばら色の理念であり，理想像であった。それゆえ，国連の基礎を築いたモスクワ会談からの帰途，当時のアメリカ国務長官コーデル-ハル(1871～1955)は〈新しい国際機構(国連)は，権力政治の終焉(しゅうえん)と新しい国際協力時代のあけぼのを意味するものである〉と宣言した。また1946年に，ときのイギリスの国務大臣であり，1959年にノーベル平和賞を受賞したノエルベーカー(1889～　)は，下院で，〈イギリスは権力政治を抹殺(まっさつ)するために，国連の諸機関を利用する決意をもっている〉と語った。前述した国連の〈原則〉も，こうした理念にのっとって規定された。ところが，戦後まもなく始まった〈冷たい戦争〉を中心とした国際政治の現実は，こうした理念的なものを遠い将来の映像として写し出す結果となってしまった。つまり，理念的なものをできうるかぎり現実化しようとする方向とはまったく逆の方向がたどられてしまった。別のことばでいえば，国連理念の〈形骸(けいがい)化〉の軌跡が，国連20数年の歴史であったといえよう。

ここに述べられたことを文字どおりに解するならば，国連こそ権力政治の代替物だ

ということになるであろう。しかし，誤ってならないことは，国際社会の構造的性格が権力政治といえないこともないのであって，当然国連はこの土台の上に打ち立てられているということである。その基盤が，その上に打ち立てられた集団安全保障体制によって徐々に性格を変えるということはあるであろう。そしてその基盤が根本的に変革され，国際社会の利益社会的構成が完全に共同体的構成に変革されるまでは，基本的な権力政治構造は変わることがないのである。権力政治から集団安全保障体制へといったコーデル－ハル式の表現は正確ではなく，権力政治構造を土台とした国際社会という舞台の上で，勢力均衡(同盟方式)から集団安全保障体制への移行が企図されたといったほうが正しい。それゆえ，集団安全保障体制(国連)の存在にもかかわらず，同盟の性格をもった地域的安全保障体制なるものが頭をもたげることにもなるので，このような点を思えば，国際連盟より格段の組織化を示した国連といえども，なお基本的な点において国家中心的思考から脱却しきっていないということが指摘される。それは，なお超国家的な組織ではなく，その名のとおり，国際的な，国家が形成している組織である。その反面，理念としては国連が提示しなかった問題ではあったが，現実政治の展開につれて，いやおうなしに国連が緊急の課題として直面せざるをえなかった問題もある。〈核〉を中心とした軍縮の問題である。

1945年6月にサンフランシスコ会議で国連憲章が採択されたとき，アメリカの原子爆弾の実験はまだ成功していなかった。原子爆弾が広島・長崎に投下されたのは，それから1か月余を経てからであった。つまり，国連の土台となる国連憲章がつくられたのは原子爆弾の存在以前であった。原子爆弾の出現は，国連の軍縮に対する態度を基本的に変えてしまった。国連では，国際連盟が軍縮をなすべき緊急課題としたのとは違って，チャーチル首相が〈国連はきばをもつべきだ〉と語ったことに示されるように，5大国の武力によって戦後の平和と安全の維持にあたろうという考え方が強かった。こうした考え方を基調としているから，〈軍備縮小および軍備規制〉は，総会の審議事項として，平和と安全の維持についての協力という総会の一般的任務に付随的に示されていたのにとどまった(憲章第11条)。この基調を決定的に変革させたのが核の出現であった。1970年代が〈軍縮の10年〉とされているゆえんである。〔寺沢　一〕

6年であったが，のち特殊の国を除いては4年となった。職務給として，職田・事力があったが，のち公廨稲(くがいとう)(→公廨田)の制が設けられてからその収入は多額に上った。中央からは按察使(あぜち)・勘解由使(かげゆし)などが，国司を監督するために派遣された。平安中期以降，律令制が弛緩(しかん)すると地方政治も変質するようになった。不輸・不入の特権を掲げて国司の行政介入を拒否する荘園(しょうえん)が国内に乱立し，一方国衙領もすでに班田制は行なわれなくなって，構造的には荘園に等しくなった。定額の租税を中央に送れば，そのほかの剰余の収入を取得できたので，国司の職を利権視する風潮が官界に生じた。遙任の風や知行国の制が一般化すると，実際には留守所(るすどころ)の在庁官人や，知行主の代理人である目代が国司の職務を任国で代行した。こうして，地方政治は在庁官人ら土豪たちの手にゆだねられ，彼らを中心に地方の武士勢力は急速に成長した。1185年(文治1)鎌倉幕府が守護・地頭(じとう)の設置権を朝廷から得るに及んで，留守所の機能は薄弱化し，国司の制は有名無実となった。1333年(元弘3・正慶2)後醍醐(ごだいご)天皇は鎌倉幕府を打倒して，国ごとに守護とともに併置して，国司の制の復活をはかったが，その実をあげることなく，建武中興は短期で崩壊した。〔高崎徳次〕

こくじ　【告示】　行政機関が指定・決定などの処分を一般国民に公示する必要がある場合にとられる行政措置の一形式。形式上は行政権の意思表示にとどまるが，実質上は国民の権利・義務に影響を与える立法行為としての性質をもつことがある。

こくじ　【国字】　日本でつくられた漢字。《新撰字鏡(しんせんじきょう)》(900年ごろ)の〈小学篇〉に約400の奇妙な漢字が収録されており，少なくともその一部は国字であるから，その起源は古い。さらに，鎌倉～江戸時代の間にも特異なものが加わった。造字の方法は次の三つに分類できる。

①会意文字式：峠(とうげ)・裃(かみしも)・辻(つじ)・枠(わく)・枡(ます)・榊(さかき)・鰯(いわし)・鮗(このしろ)・鱈(たら)・鯱(しゃち)・鳰(にお)・丼(どんぶり)など。

②形声文字式：鯰(なまず)(中国では鮎 ネン)・鱒(ます)(キの音を表わす)。

③合音式：槙(まき)(〈眞＝ま〉〈木＝き〉を合わせる)。〔藤堂明保〕

こくじこうい　【国事行為】　国家機関としての天皇が，憲法上の制約に従って，形式的・儀礼的に行なう行為をいう。憲法4条に天皇は国の政治を実際に決定し，影響を与える行為を行なう権能をもたないことを規定している。これは6条・7条の行為を行なう場合も，それは単に他の国家機関がすでに決定したものを形式的に外部に表示するにすぎないことを意味すると解されている。したがって，天皇は国の政治に関して実際の権能をもたず，すべて内閣の助言と承認を必要とし，内閣がその責任を負うことになっている。この点，通常の立憲君主と天皇とは異なる。ここから，天皇を君主制の君主ではないとする考え方もある。〔針生誠吉〕

コクシジウムしょう　【コクシジウム症】　病原体はコクシジウムで，胞子虫綱に属す原生動物の一種。主としてニワトリ・ウサギに被害が多く，ウシ・ヒツジ・ヤギ・ブタ・イヌ・ネコなどにも感染する。特に幼齢のものが，高度の下痢と血便のため栄養障害を起こし衰弱死亡する。コクシジウムは糞便(ふんべん)から土壌(どじょう)中にはいると長く伝染原となり撲滅は困難である。ニワトリでは生後1か月前後にかかりやすく，概して梅雨期に多発する傾向がある。ウサギもほぼ同様で，特に雨にぬれた草の給与で感染するものが多い。治療は困難であるが，予防法はほぼ完成されている。〔岡田十九郎〕

こくしょくかやく　【黒色火薬】　ショウ酸カリウム60～80%，イオウ10～20%，木炭10～20%の混合物よりなる火薬で，中世にイギリス・ドイツまたは中国で発明されたといわれている。威力は小さいが長期間の貯蔵にも安定であり，数世紀にわたり使用されてきた。現在でも鉱山用・狩猟用・導火線心薬などに使われる。炭化度の低いかっ色炭を用いたものは，特にかっ色火薬という。

こくしょくじんしゅ　【黒色人種】　⇨ニグロイド

こくしょくど　【黒色土】　一般に，数10cm以上の黒色の表層をもつ土壌(どじょう)をいう。黒い色は腐植の集積によるもので，植生は草本。年間降雨量1,000mm以上の地帯に多くみられる。なお，火山灰を母材とするものも黒色の腐植の集積が著しく，アンド(暗土)土壌とよばれることがある。〈くろぼく〉もこれに類する土壌である。

こくしょくにょうしょう　【黒色尿症】　⇨アルカプトン尿症

こくしょくびょう　【黒色病】　⇨カラーアザール

こくじんこうじょうきょうかい　【黒人向上協会】　⇨全国黒人向上協議会

こくじんびじゅつ　【黒人美術】　ニグロの美術の総称。アフリカでは非常に古くから活発な美術活動が行なわれていたが，ニグロの制作したものでは次のようなものがある。①先史時代に属するものには，サハラ地域の岩壁画の一部(丸い頭部をもつ人物像に特色がある絵画で，BC3500年以前の狩猟時代のもの)，スーダンのクシュ帝国の神殿・宮殿・ピラミッドや石の彫刻と浮き彫りあるいは金属工芸(BC700～AD350)，



石像　エシエ（ナイジェリア）



土面　サオ文化（チャド）



仮面　バヤカ族（コンゴ）

黒人美術

ナイジェリアのノク文化のテラコッタ製人像彫刻(BC500〜AD200)などがある。②王朝美術には，ガーナ・マリ・ソンライ・ハウサ・ボルヌ・イフェ・ベニン・ダオメー・アシャンティ・モノモタパなど，諸古王国の建築・彫刻・工芸がある。特に，失蝋(しつろう)法によって鋳造されたイフェやベニンの青銅および真鍮(しんちゅう)彫刻は，きわめてリアリスチックな様式をもち，巧みな技術と高い芸術性できわだつ。ジンバブウェを中心とするモノモタパの石造建築は，規模の壮大さで注目される。③近代および現代の美術は，仮面や祖霊像に代表される儀式用の木製彫刻が主であるが，一部に石や金属製のものもある(ナイジェリアのヌペ族やエコイ族)。これらの黒人美術は，キュービスムなどに少なからぬ影響を及ぼし，世界の現代美術の展開に大きく寄与した。〔木村重信〕

こくじんぶんがく【黒人文学】 一般にはアメリアのニグロの文学をさし，黒人種に属する芸術家による黒人登場人物ないしは黒人問題を扱った文学というのが狭義ではあるが最も一般的な定義である。しかし，黒人に関係ある事がらのみを必ずしも扱うとは限らない傾向もあるので，黒人文学という限定的なよび方はやがては消滅するものと思われる。また地理的にみれば，アメリカが質・量ともに豊富であるが，アフリカ・西インド諸島・フランス・イギリスなどにもあり，内容も多岐である。

アメリカにおける黒人文学の発祥は奴隷制時代にまでさかのぼるが，アメリカ文学の主流に黒人作家が進出しはじめたのは第2次世界大戦後の現象である。その特色は，黒人種独特の感性，民話・民謡などの民俗的要素，人種問題や政治・社会問題への強い関心などである。アメリカでは，ライト・ヒューズ・エリソン・ボールドウィン・デュボア・ハイムズらが，アフリカではテュツオーラ・エイブラハムズ・ムファレレらが代表的な作家として知られている。〔浜本武雄〕

こくじんもんだい【黒人問題】 黒人(ニグロイド)の地位や権利をめぐる社会問題。一般には，黒人に対して白人が行なっている人種差別の問題，特にアメリカ合衆国南部を中心とする同国の人種問題，および南アフリカ共和国・ローデシア・ポルトガル領アフリカ植民地(アンゴラ・モザンビーク)など南部アフリカ地方における人種対立問題をさす。

アメリカ合衆国の黒人問題は，いわばこの国の建国以来の社会問題であり，19世紀中葉の南北戦争(1861〜1865)は黒人奴隷の使用を続ける南部諸州とこれを解放した北部諸州との対立から起こったもので，戦中の1863年リンカーンによって奴隷解放宣言が発せられた。しかし，黒人に対する差別は，公民権・交通機関・教育機関・遊興施設など，アメリカ社会の各方面で現在もなお存在しており，これを法律的に容認している州も多い。第2次世界大戦後は，アフリカなどにおける黒人国家の独立に刺激されて，アメリカの黒人の間にも経済力の差や被差別意識を克服しようとする動きが高まり，黒人の指導者も現われて，大規模な差別撤廃運動が行なわれてきた。1954年アメリカ最高裁判所は，公立学校における黒人分離教育を禁止する旨の判決を下した。しかし，1957年のリトルロック高校事件(黒人の入学に対する白人の妨害)や1962年のミシシッピ大学事件(同上)，1963年のエバース暗殺やワシントン行進(黒人のデモ)，1871年以来のあいつぐKKK(クー-クラックス-クラン)による暴力事件，そしてノーベル平和賞を受けた黒人指導者キング牧師が暗殺された事件など，差別撤廃を叫ぶ黒人とこれを抑圧しようとする一部白人との対立は，幾度か流血の惨事をくり返している。全国有色人種向上協会(NAACP)その他の平和団体が差別撤廃に立ち上がり，ケネディ大統領の特別教書(1964)が発表されるなど，アメリカはこの問題の解決に力を入れており，法律上の差別はしだいに除去されつつあるが，根本的な解決への見通しはいまもなお立っておらず，アメリカ社会の最大の恥部とされている。一方，南アフリカでは，ローデシア・アンゴラ・南西アフリカ・モザンビークなどに民族解放戦線があり，人種差別を強行する南アフリカ共和国・ポルトガル・ローデシア各国の現政権に対して武力ゲリラ闘争を続けている。

➔ブラック-パワー　〔吹浦忠正〕

こくじんれいか【黒人霊歌】 西アフリカから北アフリカに奴隷として移住してきた黒人の歌う宗教歌謡。歌詞内容は神への信仰，苛酷(かこく)な人生に対する嘆き，来世への期待など悲哀感をこめたものが多い。音楽的な特徴は，アフリカ的な複雑なリズム，5音音階，幅の広いビブラート，多様な音強法，音頭(おんど)形式などで，アフリカ的音楽基盤に立ちながら，賛美歌などの要素も取り入れている。

コークス［Koks］ 石炭の高温乾留で得られる多孔質の炭素質燃料。主成分は炭素であるが，相当量(6〜18%)の灰分と少量(2%以下)の揮発分を含む。元素分析値はおよそ炭素80〜92%，水素1〜1.5%，窒素0.5〜0.9%，酸素0.4〜0.8%。発熱量は6,200〜7,800kcal/kg。現在，大部分のコークスはコークス炉で製造されており，溶鉱炉用・鋳物用・非鉄金属製錬用・ガス化用・カーバイド用・一般燃料用などと用途によって区別されている。粘結炭を用いて製造されるが，その収率は大約70%。強度が要求される溶鉱炉用コークスには強粘結炭を約半分混ぜて原料炭とし，強度のほかに緻密(ちみつ)さが要求される鋳物用コークスには強粘結炭と無煙炭などを配合したものが原料炭として使用される。非鉄金属製錬用のものはこれらほど要求はきびしくなく，ガス化用では気孔率がたいせつであり，カーバイド用では灰分・イオウ・リンの量が少ないことが要求される。〔寺沢誠司〕

こくすいしゅぎ【国粋主義】 みずからの国家の伝統・特質・文化などを他国に比するもののないすぐれたものと信じ，その価値を至上として，いっさいの他の立場・主張を排斥する政治的・社会的運動についていわれる。近代のナショナリズムの一つの退廃的な形態である。明治10年代の日本では，明治維新のときの尊王攘夷(じょうい)の思想を受け継いで，文明開化・欧化主義の

風潮に反対して主張されたし，明治中期・後期に至ると，民主主義・社会主義の運動に対する保守・反動勢力の主張として強調されたが，その内容の多くは，日本の文化・国家・民族の特質の冷静な科学的考察に基づくものではなく，主張者たちの保守的・前近代的な立場からの狭い見解であって，しばしば右翼やファシズム運動とも結びついた。〔鈴木安蔵〕

コークスひ【コークス比】 溶鉱炉で製造された銑鉄1tあたりに消費されたコークス量。溶鉱炉の操業成績を示す尺度として用いられ，コークス比が小さいほどよい。現在，わが国のコークス比は0.45〜0.60の範囲にあり，コークス品質の向上，鉱石の予備処理，焼結鉱の使用などにより低下させることができる。

コークスろ【コークス炉】 石炭を乾留してコークスを得る炉。化学工業の発展に伴い，副産物回収式の大形炉が用いられるようになっている。炉の形式は，炭化室に挿入(そうにゅう)された石炭の加熱方式の相違により多種類に分類される。炭化室の大きさは幅400〜450mm，高さ3,500〜4,000mm，長さは約13mで，1,100〜1,200℃ で16〜17時間乾留する。

こくぜい【国税】 国が徴収する税金のこと。これに対し，都道府県または市町村が徴収する税金を地方税という。国税には，所得税・法人税・相続税・贈与税・酒税・砂糖消費税・揮発油税・石油ガス税・物品税・トランプ類税・入場税・通行税・有価証券取引税・取引所税・日本銀行券発行税・印紙税・登録免許税・関税・とん税がある。このほか，国税として徴収されるが直ちに地方へ配付されるものに，地方道路税・特別とん税がある(→地方交付税)。わが国の国税のおおもとをなしているのは所得税と法人税で，両者の合計は国税全体の6割を占めている。〔西野義彦〕

こくせいじ【国清寺】 中国，浙江(せっこう)省台州府の天台山仏隴(ぶつろう)峰南麓(なんろく)にある寺。中国天台宗の根本道場である。晋(しん)王広(のち隋(ずい)の煬帝(ようだい))は，天台山に隠棲(いんせい)して修禅・思索のすえ中国仏教独自の教学を打ち立てた智顗(ちぎ)に深く帰依し，その遺志に基づいて寺を建て，〈寺建たば国清(す)まん〉との言に基づいて国清寺と名づけたという。この寺には最澄・義真をはじめ，円載・円珍・成尋・俊芿(しゅんじょう)・重源(ちょうげん)・栄西ら，日本の留学僧が巡拝し，天台教義を受け，また典籍を将来した。〔京戸慈光〕

こくぜいちょう【国税庁】 内国税(関税・とん税・特別とん税以外の国税)の賦課・徴収をつかさどる行政機関。大蔵省の外局。1949年(昭和24)大蔵省主税局から内国税徴収現業部分が分離独立して庁となった。おもな任務は内国税の賦課・徴収のほか税理士試験，税理士の登録・監督，酒類の製造・販売業の免許など。組織は官房・直税・関税徴税・調査査察の各局からなり，地方支分部局として国税局，その下に税務署が各地に置かれている。〔寺尾方孝〕

こくせいちょうさ【国勢調査】 おもに行政上の目的から行なう人口センサス。古くは古代エジプト，紀元前の中国でも行なわれたが，実質的な国勢調査が行なわれるようになったのは18世紀末から19世紀初めにかけてであり，先進国に統計局が置かれたのは19世紀初期のことである。各国が統計調査としての設計のもとに行なったものでは，アメリカが1790年，イギリスが1801年，オランダが1821年，デンマークが1835年，ベルギーが1848年である。

日本においては大化改新ごろ，この種の調査が行なわれたとされている。しかし，実質的な国勢調査が行なわれるようになったのはけっして古いことではない。すなわち，第1回の国勢調査は1920年(大正9)10月1日施行され，以後5年ごとに行なわれている。国勢調査は国の行政の基礎的資料となるばかりでなく，最も信頼度の高い全国統計であるため，社会・経済関係の研究者にとっても貴重な資料となっている。国勢調査は全数調査の形式をとり，統計的方法を主体として，調査対象として考えられたすべての個人を一つ一つ網羅(もうら)的に調査するものであり，人口・国籍・性別・年齢・世帯人員・配偶関係・就業など人口センサスに用いられる。人口現象はもともと社会現象であるから，人口センサスは人口現象をとらえて分析し，社会的事実を認識するとともに，社会生活向上の手段となるものである。

しかし，1970年の国勢調査の際に被調査者からプライバシーを守りたいという要請があり，新たに問題となった。以前からプライバシーと調査のかねあいをめぐってさまざまな論議がなされてはいたが，プライバシー意識の高まりとともに，調査内容そのものが複雑・詳細にわたってきたため，うその申告がなされるという傾向が現われてきているということが指摘されている。したがって，調査方法と調査内容の検討が必要とされる。〔斎藤昌男〕

こくせいちょうさけん【国政調査権】 国会が国権の最高機関として立法その他の憲法上の権限を行使するため，国政に関して調査を行なう権限。衆・参両議院には国政に関する調査を行ない，これに関して証人の出頭および証言ならびに記録の提出を要求する権限が認められている(憲法62条)。国政調査権は，立法権・予算審議権・行政監督権などとともに国会の主要な権能である。特に，問題になるのは司法権の独立との関係である。一般的にはその限界として，現に行なわれている裁判事件の介入はもちろん，司法権の固有の領域，たとえば裁判の内容(確定判決をも含む)に立ち入った批判，裁判官の法廷指揮に関する司法手続きの調査，係争中の事件に関する司法上の文書の提出は許されていない。〔吉田善明〕

こくせき【国籍】 ある個人がある国の国民たる地位をいう。人を特定の国に結びつけている第1次的な法的連結であり，人は国籍によって特定の国に属し，その国の構成員となる。国はその国内法によって，だれにその国籍を与えるかを自由に決定することができる。国籍取得の原因として種々の事情があげられるが，最も一般的なのは出生を原因とするものである。これについては出生地主義と血統主義があり，前者は，自国で生まれた者はその父母の国籍のいかんを問わず自国籍を与える場合であり，後者は，親の国籍をその子に与える場合である。もっとも，それぞれの国内法はこの範囲で多様であり，典型的にいずれかの立場をとる国は少ない。未成年の子は，親が外国に帰化したとき，その国の国籍を取得するのが一般である。結婚による国籍の取得については，従来は夫婦同一国籍の立場が支配的であったが，最近では，夫婦独立国籍の原則が一般的になっている。また，出生その他の事情で国籍を得た者が，みずからの意思に基づく申請によって他国の国籍を取得することが認められ，この手続きを帰化という。国によってその国籍法をことにする結果，1人の個人が二つ以上の国籍をもったり(重国籍)，どこの国の国籍ももたない(無国籍)という場合が生ずる。これを国籍の衝突(または抵触)といい，個人の利益の保護がなされなかったり，国家間の紛争の原因にもなりかねないので，これらの国籍衝突の不便を緩和するためにいくつかの条約がある。〔広部和也〕

こくせんべんごにん【国選弁護人】 刑事裁判の被告人のために国家が選んだ弁護人をいう。弁護人は，被告人みずから選択して依頼する私選弁護人が原則であるが，被告人が貧困その他の理由で選任できない場合は，被告人の請求により国が弁護人をつける(刑事訴訟法36条)。そのほか被告人の申し出がないときでも，被告人が未成年者，70歳以上の者，その他必要と認められる場合は，裁判所は職権で弁護人をつけることができる。また一定の重要事件の場合，弁護人の立ち会いがなければ開廷できないため，裁判長は職権で弁護人を選任しなければならない。国選弁護人は，定められた日当・報酬・実費弁償を国から受ける。〔井上公耳〕

こくせんやかっせん【国性爺合戦】 義太夫(ぎだゆう)節の曲名。5段の時代物で近松門左衛門(もんざえもん)作。1715年(正徳5)竹本座初演。明朝(みんちょう)の滅亡の際に，明臣鄭成功(ていせいこう)がわが国に援助を要請した史実に基づき，中国人と日本人との混血児和藤内が明朝回復に活躍する物語。規模雄大で異国情緒にあふれた舞台が人気をよび，



国性爺合戦
甘輝館　1883年新富座にて上演　左より　甘輝の4世中村芝翫　和藤内の初世市川左団次　和藤内母の9世市川団十郎　錦祥女の初世坂東家橘

17か月間の興行記録をつくった。歌舞伎(かぶき)へは1年後(享保1)の秋に移され，京都都万太夫座初演。和藤内は*荒事の典型となった。〔前田慎一〕

こくそ　【告訴】　犯罪の被害者，その法定代理人そのほか告訴権者(配偶者・親族など)が，犯罪事実のあったことを検察官または司法警察員に告げて，同時に訴追を求める意思表明のこと(刑事訴訟法230条以下)。歴史的には古代の被害者訴追主義のなごりといわれる。検察官は告訴があった場合，必ず*起訴しなければならない制約があるわけでなく，捜査した結果起訴するにたる事実がある場合にのみ起訴する(→起訴便宜主義)。しかし，親告*罪(強姦(ごうかん)罪など)については告訴がなければ起訴ができないので，起訴便宜主義の例外となっている。告訴については，告訴不可分の原則の適用がある。すなわち，1個の犯罪の一部についてだけ告訴またはその取り消しがあれば，その効力は犯罪全体に及び，また共犯者のうち1人についてだけ告訴またはその取り消しがあっても，その効力は共犯者全体に及ぶとされている。→告発　〔井上公旺〕

こくそう　【国葬】　国家に対する功労者の死に国が公式の儀式として国費で行なう葬儀。1926年(大正15)の国葬令の制定がこれにあたる。現在は法制上の明文はない。過去，伊藤博文(いとうひろぶみ)・山県有朋(やまがたありとも)・岩倉具視(ともみ)らの政治家または財界・皇族関係者がこれに準じた扱いを受けた。国葬がおもに国家上層部の人たちを対象としている点に問題が残り，国民のために真に貢献した人の死への共感を表わす葬儀も必要であるといわれる。〔溝口　潔〕

こくぞうむし　【穀象虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。口吻(こうふん)を除いた体長2.3～2.5mm，体は光沢のある赤かっ色ないし黒かっ色。各鞘翅の肩部に近くと後方にそれぞれ1個の黄色の斑紋(はんもん)がある。頭は小さい。口吻は細長いが，基部は急に太まり，口吻基部の側方下面から触角が出ている。前胸背板は幅よりも長さのほうが大きく，前方に向かって急に細まり，表面はあらい点刻が密である。鞘翅は前胸背板と同じ幅で，粗大な点刻からなる縦溝(じゅうこう)がある。本種は全世界に分布し，イネ・ムギ・アワ・トウモロコシなどの



コクゾウムシ

穀粒をはじめ，これらの加工物である乾麺(かんめん)・ビスケットなどの貯蔵食品を食害する害虫として知られ，倉庫内では1年じゅう活動する。近縁のグラナリアコクゾウは，体は一様に黄かっ色ないし暗かっ色であり，同じく貯蔵穀類の害虫として知られる。〔鈴木邦雄〕

ごぐそく　【五具足】　仏教で，仏前に飾る五つの仏具。香炉・燭台(しょくだい)・花瓶(けびょう)を三具足というが，燭台・花瓶を各一対にして五具足という。仏前の机の中央に香炉(火舎)，その左右に燭台，さらにその両端に花瓶を置くのが一般的である。香や花や燈明を供養するのはインド以来のことであるが，机上に形を決めて置くようになったのは後世である。

こくたい　【黒体】　熱放射体の理想的なものとして仮定されたもので，これに注がれるすべての放射エネルギーを完全に吸収し，ある一定温度ではすべての波長において最大の熱放射をする物体。実験的には，放射を通さないような空洞(くうどう)の壁をある決まった温度で保っておき，その壁に全面積に比べて非常に小さい窓をあけてやれば，その小窓から出てくる放射が黒体放射ということになり，普通磁器でつくり電気的に熱する。黒体放射に関する諸法則を確かめたり，高温計の目盛りを定めるときの標準に用いられたりする。黒体がある温度のときの色度が光源などの色度に等しいとき，そのときの絶対温度を色温度といって光源の色を表わすのに用いる。〔中山忠巳〕

こくたい　【国体】　国家の主*権がどこにあるかという基準を示した国家の組織形態をさすことば。主権の運用を表わす政*体と区別される。国体という語は，もともと天皇*制を美化・合理化するための観念であったが，それを憲法学に用いたため，多くの混乱をもたらした。教育勅*語の制定以後は国体論を基礎づける〈国体の精華〉なる語で勅語精神を高揚させた。第2次世界大戦中はさらに万世一系の天皇の統治にすべてをゆだねる国体思想が中核を占めた。そして現人神(あらひとがみ)としての天皇の神秘化・絶対化を軸にした国体教育を徹底させ，教育勅語や国定修身教科書はもとより，軍人勅*諭その他の設定やさまざまな組織を通じて教化を図った。戦後天皇*制が否定されたことで国体観念はいちおう破壊されたとみるが，自衛隊の出現・強化，破壊活動防止法，教育二法案，教科書の検定制度の復活など，一連の逆コースの風潮は，再びそうした上からの国家統制の危険をはらんでいるといえる。こうした道をはばむには，広く国民各自の批判的精神や自主的結社を必要とする。〔溝口　潔〕

こくたいじ　【国泰寺】　富山県高岡市太田(おおた)にある臨済宗国泰寺派の本山。鎌倉末期，慈雲妙意が東松寺として二上山に創建した。1327年(嘉暦2)後醍醐(ごだいご)天皇から勅願所の綸旨(りんじ)を賜わり，寺号も国泰寺と改称した。応仁(おうにん)の乱で兵火をこうむり荒廃したが，1546年(天文15)後奈良天皇の勅によって雪庭祝陽が再興し，天正年間(1573～1591)現在地に移転した。一時，臨済宗相国寺派に属したが，1879年(明治12)に独立した。〔藤本昌子〕

こくだいのう　【石代納】　江戸時代，幕府・諸藩が田畑などの年貢(ねんぐ)を米納の代わりに金納する方法をいう。交通上米納が不便であるとか，地味が不適のため米の生産が乏しいとか，畑租として米の収穫前に徴税するなどの場合にこの方法がとられた。また不作のとき農民側から特にこの方法を願い出ることもあった。貢租のうち金納をする割合はさまざまであったが，関東では畑租のみ銭納とし，米2石5斗に対し永楽*銭1貫の割合で納めさせた。関西では田畑の年貢の3分の1を銀納とし，米・銀の換算率についてはその土地の上米相場によることにして，それに増銀をつけるのが普通であった。貨幣経済の発達に従い，石代納が盛んに行なわれるようになり，蔵入米の減少を招いたので，幕府は1777年(安永6)以後石代納を制限した。〔高崎徳次〕

こくたいめいちょううんどう　【国体明徴運動】　*右翼と軍部が起こした美濃部(みのべ)達吉の天皇機関*説排撃運動。1935年(昭和10)貴族院の一部議員が口火を切り，それまで憲法学説として一般化していた天皇機関説を国体破壊の思想として美濃部の処罰を要求するとともに，万邦無比の日本の国*体を明らかにせよと要求，岡田啓介(けいすけ)内閣の倒閣運動を図った。軍も天皇統帥権を絶対化しようとして，同学説を排撃する〈国体明徴の声明〉を発表した。政府は軍部におされて2度も国体明徴の声明を発表，美

濃部の《憲法撮要》など3著の発禁と改訂を命じた。美濃部は起訴猶予となったが，貴族院議員を辞任。軍部の内政への強力な干渉と自由主義思想・立憲思想への抑圧はファシズム*への道を開いた。〔千野境子〕

こくだか【石高】太閤(たいこう)検地*によって定められた公定の土地生産高の表示方式。土地の広狭を町・反・畝(せ)・歩で定めたうえ，屋敷・田畑の等級別(上・中・下・下々田の4種類)に従い，その土地の収穫見積もり額を石・斗・升の量目で算出して，石高で表わした。石高がその土地の標準生産額として定められ，それに租率を乗じると年貢高(ねんぐだか)となった。近世知行制度において，武士の知行地は石高によって与えられた。

なお，中世以来からの貫高*制から石高制に改めたことを石直しという。貫高制は年貢収納量を基礎にして，領主がその領地の広さを表わした方法であるが，土地面積や収穫額の調査を実際に経ていないので，石高制とその算定の基礎が違っていた。石高制になったことによって，領主は土地・領民の支配を確実にし，近世の中央集権的封建制度が確立することとなった。石直しは天正年間(1573～1591)に進められたので，天正の石直しとよばれる。〔高崎徳次〕

こくたに【古九谷】⇨九谷焼

こくたん【黒檀】双子葉植物・カキノキ科。インド南部・セイロン原産の常緑高木。幹は直立し，枝に粗毛がある。葉は互生し，革質，楕円(だえん)形。雌雄同株で，雄花は集散花序に3～12花が群生し，雌花は葉腋(ようえき)に1花がつき，花冠は白色。果実は楕円形で2cmほど。辺材は灰色に黒条があり，心材は黒色・堅硬緻密(ちみつ)で，みがくと光沢が美しく，装飾建材・家具・器具材・楽器などに用いられる。

こくちょう【黒鳥・黒白鳥】鳥類・ガンカモ科。各地の公園の池によく飼育されているくちばしが赤く，くびの細長い大形の黒い鳥。翼の一部分は白色であるが，浮いている姿勢ではまったく見えない。オーストラリアとタスマニア島を原生息地とする白鳥類の一種で，飼育しやすく，ほとんど渡りをしないので，コブハクチョウなどとともに世界各国に移殖されて繁殖している。

こくちょう【国鳥】それぞれの国を代表する鳥。その決め方は国によっていろいろである。古いものではアメリカ合衆国(ハクトウワシ，1782年)，グアテマラ(ケツァール，1871年)，ビルマ(マクジャク，1940年)，日本(キジ，1947年)などがある。1960年に国際鳥類保護会議で他の国々も国鳥を定めるようにとの決議がなされ，現在までにイギリス(ロビン)・オランダ(ヘラサギ)・デンマーク(ヒバリ)・セイロン(セイロンヤケイ)など，約20か国が国鳥を決定している。

ごくちょうおんそくき【極超音速機】マッハ3程度の超音速旅客機(SST)の次の



コクチョウ

世代の旅客機として考えられているマッハ6ないし8(7,500km/時前後)の飛行機。すでにNASA*の実験機X-15によって実験が進められているが，このような高速飛行を続けるためには，空気と機体との摩擦によって生ずる高温度に耐える機体の構造材料および冷却の問題をはじめ，発動機の形式や燃料も現用のものとはまったく違った構想のものとしなくてはならないなど，解明を要する問題が多い。飛行方法も，現在の飛行機が本質的には地表面から一定の高度を保って飛ぶ方式であるのに対し，ICBM*のような弾道飛行に近いものか，または濃密な大気の外縁で水切り石のようにスキップをくり返す方式などが考えられている。〔中口　博〕

ごくちょうおんそくくうきりきがく【極超音速空気力学】空気の速度が音速の数倍以上あるような高速気流*の極限状態の力学。超音速流中にある物体の先端からは衝撃波*を生じ，この波の後方で流れは変形を受ける。衝撃波が弱いとき，その傾斜角μは流速をV，音速をaとすると，$\sin\mu=a/V$で与えられる。極超音速流は，気流のマッハ数$M=V/a\geqq 5$とたいへん大きいので，波の傾斜角μは小さく，ほとんど表面に接するほどである。表面には粘性の影響を強く受ける境界層があって衝撃波はこれと干渉するので，解析は容易ではない。しかし，マッハ数が高くなると衝撃波は物体表面に付着すると仮定することができ，ニュートン流の考えが適用される。この場合，流れは直進して物体表面に衝突し，以後表面に接して流れるものとするのである。このとき，物体表面に垂直な方向の運動量が0となることから，圧力や空気力が計算される。地球を回る人工衛星軌道から帰還時に大気中へ再突入するとき，宇宙船の速度はマッハ15に達する。衝撃波後方の絶対温度は前方の45倍で，大気の温度を200°Kとすると9,000°Kにもなる。これは太陽の表面温度に匹敵する高温である。このような高温空気は理想気体ではなく，構成分子が解離した原子を含み，実在気体効果を考慮しなければならない。極超音速空気力学は，高エネルギーをもつ空気の流れを扱うので高温状態をつくることが多く，物性変化を伴う空気流の力学といえる。〔内田茂男〕

ごくちょうたんぱりょうほう【極超短波療法】⇨マイクロウェーブ療法

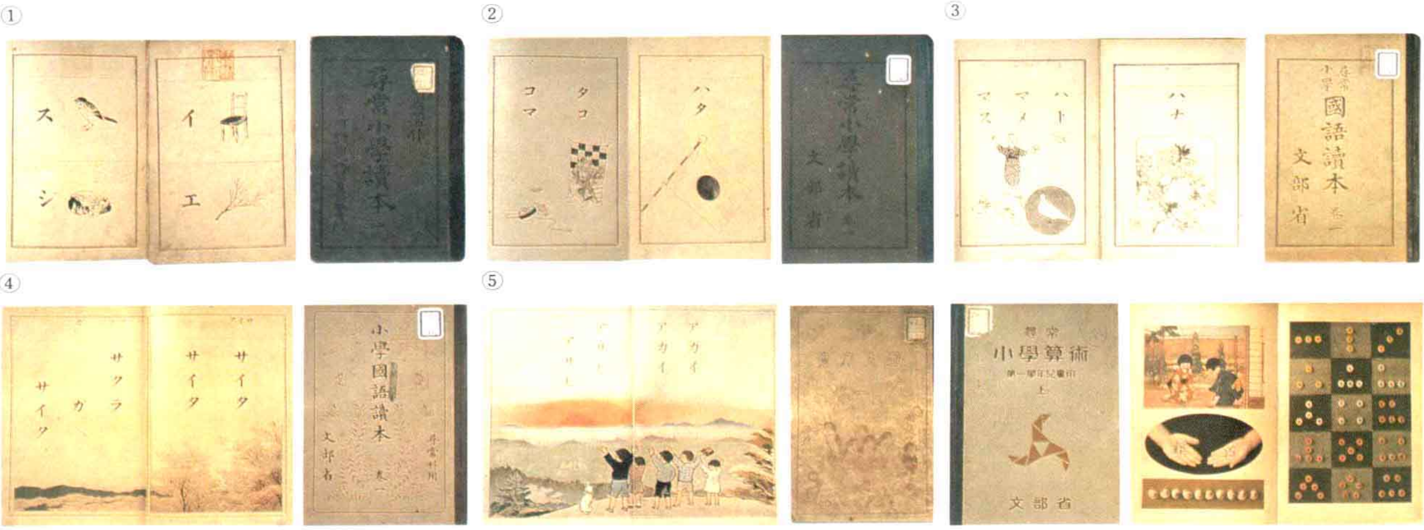
こくていきょうかしょ【国定教科書】政府機関(文部省)が著作し，教育内容を一律に定め，全国にその使用を強制した教科書。わが国では，明治初頭の近代学校の発足にあたって，文部省編纂(へんさん)の教科書もあったが，多くは民間の任意な編集・出版と教師の自由な選択に任せられていた。のち，開申(届け出)制度・認可制度としだいに国家統制を強めていったが，このため，近世庶民教育に根をもつ往来物*や啓蒙書(けいもうしょ)の類は教科書界から姿を消した。特に1886年(明治19)検定制度をとり，文部省の定める詳細で厳重な基準に合致した教科書を使用してもよいとした。明治30年代にはいり，近代学校制度の整備・拡充とともに，国民思想の統一を図る目的から，教科書の国定化が考えられるようになり，帝国議会でもしばしば審議された。たまたま1902年，出版者と教科用図書審査委員との贈収賄をめぐっての大規模な摘発検挙，いわゆる〈教科書疑獄事件〉が起こり，これを直接の契機に，1904年から小学校教科書の国定制度が実現された。

国定教科書は，こののち5回にわたって大きな修正が施されているが，第1回は，1907年である。義務教育年限の4か年から6か年への延長によるものであるが，日露戦争直後で，国家主義の色彩が強化された点も見のがせない。特に歴史教科書で，南北朝正閏(せいじゅん)問題にこたえ，〈南北朝〉を〈吉野(よしの)の朝廷〉と改めたのは著名である(→南北朝正閏論)。第2回は1918年(大正7)で，児童中心主義の新教育思想を取り入れている。第3回は1932年(昭和7)に着手したもので，一方では世界的な教育思潮に基づき，表紙を明るく，色刷りのさし絵を多くするなど，子どもの興味や能力に注意を払っている。しかし，満州事変以後のファシズム化の傾向をとらえて，教材内容の国家主義化は一段と推し進められている。第4回は，1941年，国民学校用に修正されたもので，算数や理科に進歩がみられるものの，全体としては，超国家主義に色どられ，軍事教材にあふれている。第5回は，第2次世界大戦直後の1947年から実施されたもので，各科とも暫定教科書の性質をもっている。他方，教育の自由化に基づく新検定制度の準備が進められ，1949年から実施されるに及んで，国定教科書はしだいに姿を消した。➔教科書 ➔次ページ(写)〔石川松太郎〕

こくていこうえん【国定公園】⇨公園

こくてつろうどうくみあい【国鉄労働組合】⇨日本国有鉄道労働組合

こくてん【黒点】太陽面上に現われる黒い斑点(はんてん)。典型的な黒点は中心が特



国定教科書　小学校の国語教科書（１年用）　①尋常小学読本（国定第１期，イエ－スシ本，明治37）　②尋常小学読本（国定第２期，ハタ－タコ本，明治43）　③尋常小学国語読本（国定第３期，ハナ－ハト本，大正７）　④小学国語読本（国定第４期本，サクラ本，昭和８）　⑤ヨミカタ（国定第５期本，アサヒ本，昭和16）　　小学校の算数教科書（１年用）　尋常小学算術（１年生用としては初めての算数教科書，色刷りで，〈集合〉の概念がとり入れられた。昭和10）

に黒く，そのまわりを薄黒い部分が囲んでいる。黒い部分を暗部，薄黒い部分を半暗部とよび，半暗部には放射状の筋が見える。直径は小さいもので数百キロメートル，大きいものは10万kmにも及んでいる。出現初期の黒点は単独で小さいが，５～10日後には局部的な領域に多くの黒点が集まって黒点群となり，20～70日間出現している。太陽面に現われる黒点の数は約11年を周期として変わる。黒点には強い磁場があり，小さな黒点で100ガウス*，大きな黒点で4,000ガウスもある。光球*の下にある対流層に磁場があると，熱い気流の上昇が妨げられ，盛んに上昇気流が起こっている光球に比べて熱が運び込まれにくい。そのために暗く見えるのが黒点であるが，実際には約4,300°Kの高温である。

黒点群は西側のグループ（先行黒点）と東側のグループ（後続黒点）に分けられる。磁場については，①先行部と後続部とは極性が逆，②太陽の北半球と南半球では先行部の極性が逆，③北半球だけを考えても11年前の周期とは極性が逆，などの性質がある。

太陽面上に観測される黒点の数は，使用した望遠鏡や観測者によって異なる。世界じゅうで観測されている黒点数を統一するため，スイスの天文学者 R.ウォルフ（1816～1893）は，（黒点相対数）＝$k(10g+f)$で求めることを提案し，今日，一般に使われている。ここでgは黒点群の数，fは黒点の総数，kは観測した望遠鏡や観測者によって定まっている定数である。単独で小さな黒点は見のがしやすいが，黒点群は世界じゅうの観測による違いは少なく，gに10倍の重みを置こうという考えである。太陽の縁近くの黒点は観測しにくく，また，われわれの見ることができる太陽の半球面でのみ数えているので，黒点相対数の日々の値は変化するが，月平均や年平均をとると，太陽の活



黒　点



コクトー

動をよく表わすといえる。

黒点は太陽活動の中で，最も代表的なものである。プラージュ*・紅炎*・フレア*など彩層*内の諸現象も黒点の付近で発生する場合が多く，また黒点が多く出現する時期のほうがこれら諸現象や頻度（ひんど）が大きい。さらに，黒点の上空のコロナ*には，しばしば高温・高密度のガス雲（コロナ-コンデンセーション）が発生し，電波やＸ線の源となっている。こうして黒点の消長は，太陽からの紫外線・Ｘ線・プラズマ*流などの強度の変化に関係があり，地球磁気圏内の諸現象（デリンジャー現象*・磁気嵐*（じきあらし）・電離層嵐*・オーロラ*など）発生の指標となる。なお，黒点相対数と地球上における気候の変化などの相関の研究は，古来多く行なわれているが，それらの因果関係についてはまだわかっていないことが多い。➔太陽

〔日江井栄二郎〕

コクトー　[Jean Cocteau]　(1889～1963)　フランスの詩人。詩のみならず，小説・戯曲・映画，さらにデッサンやジャズにも才能を示した。ディアギレフ*・ピカソ*・アポリネールらの前衛芸術家と親交を結び，新しい芸術を敏感に感得して，都会的で機知に富んだ鋭い作品を書き，ことばの道化師，芸術の曲芸師といわれた。その大胆で変転自在な綱渡り的活動の下には，早くから死と虚無への恐怖があり，不可視な神秘性を逆説に満ちた想像力により，またあらゆる芸術の様式を駆使することで開示しようと努めた。彼にとって詩神は同時に死神であり，それが課す試練によって流れる血，魂の汗が詩であり，芸術は宗教的なものであると考えた。代表作は，詩《平調曲》《はりつけ》，小説《ポトマック》《恐るべき子どもたち*》《山師トマ》，戯曲《地獄の機械》，映画《美女と野獣》《オルフェの遺言》など。

〔森　英樹〕

こくとう　【黒陶】　中国先史時代，彩陶*に次いで現われる黒色磨研（まけん）の土器。山東省龍山鎮城子崖（りゅうざんちんじょうしがい）の黒陶が名高く，黒陶系文化を龍山文化ともいう。壺（つぼ）・椀（わん）・高杯（たかつき）・簋（き）・鼎（てい）があり，器形の上から殷周（いんしゅう）青銅器とのつながりも認められる。

こくどう　【国道】　国が路線を決定し，主として国の費用で建設・管理・運営する全国的な幹線道路。国道は法令によりその路線が指定される。道路法によって区別された高速自動車国道と一般国道の２種類がある。①高速自動車国道：自動車の高速交通を目的とした道路で，全国的な自動車交通網の中心部分にあたり，政治・経済・文化の上で特に重要な地域を連絡する。現在

15路線，2,985kmが指定されており，このうち東名高速道路*・名神高速道路*と中央自動車道*吉田(よしだ)線の約622kmが供用されている。予定されている路線を含めると総延長は約7,600kmとなる(→高速道路)。②一般国道：高速自動車国道と合わせて全国的な幹線道路網を構成する道路で，国土を縦横断または循環して，都道府県庁所在地およびその他の重要な都市を連絡する。一般国道は現在222路線である。〔森　麟〕

こくどかいはつかんせんじどうしゃどう【国土開発幹線自動車道】 1957年(昭和32年)，国土の普遍的な開発を図り，画期的な産業立地振興および国民生活領域の拡大に資するため，全国に高速自動車交通網を整備，これと関連して新都市・新農村の建設の促進などを図るため，国土開発縦貫自動車道建設法が制定された。その後，本法をはじめとして定められた13路線約5,000kmは，幹線自動車道網の将来像を明らかにし，その建設を計画的に行なうために，1966年7月国土開発縦貫自動車道建設法を全面改正し，国土開発幹線自動車道建設法と名を改め，新たな路線を追加し，32路線約7,600kmの計画とした。➔高速道路

こくどかいふくうんどう【国土回復運動】 711年以後イベリア半島を支配したイスラム教徒に対する，スペインの国土再征服の民族運動。イスラム教徒の半島征服後，まず西北辺の西ゴート貴族が国土回復運動を起こし，その中からレオン王国*・カスチリア王国*が独立した。東北部でも同じころナバラ王国*やアラゴン王国*が独立した。はじめ自由農民層の農地獲得や貴族の不毛地開拓により推進されたが，やがて都市中産層が参加して13世紀から本格化した。13世紀には，カスチリア王国は西スペインを，アラゴン王国は東スペインを征服し，14世紀にはグラナダ王国を残すのみとなった。1469年アラゴン王子フェルナンド*とカスチリア王女イサベル*との結婚によりスペイン王国成立の基礎が形成されたのち，1492年グラナダをおとしいれて国土回復運動は終結した。〔大野慎一郎〕

こくどきほんず【国土基本図】 ⇨地図

こくどそうごうかいはつ【国土総合開発】 ⇨次ページ

こくどたい【黒土帯】 温帯から熱帯の半乾燥地帯に存在する黒土の分布地域をさす。ここは無機成分の豊富な草原で，植物の枯死後地表にその成分が残留し，また適当に湿度も高く気温も高いので，母材の分解も腐植の生成も十分に行なわれるが，溶脱と腐植の分解が過度でないため土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)である。この名はソ連のウクライナを中心とする地方に黒土の一種であるチェルノーゼムが広くみられることから，この種土壌の分布地域に用いられるようになった。東部ヨーロッパのほか，北アメリカの中央大平原，南アメリカのパンパ，アフリカの亜熱帯草原，オーストラリア東部，インド北部，中央アジアなどに分布し，穀倉地帯を形成している。〔小栗　宏〕

こくどちりいん【国土地理院】 国土の測量および地図の調整ならびに，これに付帯する業務をつかさどることを目的として設けられた国立の機関で，建設省に所属する。測量の面では，日本全国にわたる三角点や水準点の測量を行ない，地図作成・国土計画・学術調査の資料にも供する。また地磁気・重力の測定，人工衛星の観測も行なっている。地図作成の面では，日本全国にわたる5万分の1地形図，20万分の1地勢図を発行し，ほかに国際100万分の1，50万分の1地方図，20万分の1県別図などがあり，現在全国にわたって25,000分の1地形図を作成中である。特殊地図としては，土地条件図・土地利用図・湖沼図があり，これらの地図作成のため，空中写真の撮影，写真地図の作成も行なっている。また測量法に基づく，測量士の国家試験や測量計画への助言も行なっている。〔小栗　宏〕

こくないえん【国内塩】 ⇨塩

こくないオリンピックいいんかい【国内オリンピック委員会】 National Olympic Committee　略称NOC。オリンピック競技大会への参加を目的として，国内の各種アマチュア-スポーツ団体を統制する機関。この委員会だけが，オリンピック競技大会へ競技者の参加申し込みをすることができる。オリンピック憲章による国家または地理的区域(たとえば香港(ホンコン)など)内に，オリンピック種目を統制している国際競技連盟*(IF)に加盟している五つ以上の国内競技連盟(NF)からなる統制機関が組織され，その活動を国際オリンピック委員会*(IOC)に承認されてはじめて，NOCとしての資格ができる。NOCの構成・任務・権限などは，オリンピック憲章に規定されている。〔藤岡　端〕

こくないしょう【黒内障】 俗に黒そこひともいう。眼底その他の眼球所見になんらの変化を認めないにもかかわらず，視力の消失をきたしている状態。器質性および非器質性疾患があり，前者は，眼球以外の視神経その他の中枢を侵されるものとして，胎生時に発生する先天性黒内障，腎炎(じんえん)の経過中に起こる尿毒症性黒内障，妊娠・分娩(ぶんべん)・産褥(さんじょく)時にときとしてみられる子癇(しかん)性黒内障などがある。後者には，心因性機能性疾患であるヒステリー性黒内障がある。なおこのほか，遺伝的疾患である家族性黒内障性痴呆(ちほう)，網膜膠腫(こうしゅ)の際の黒内障性猫眼(びょうがん)などもあるが，いずれも眼底に病変を認めることが多いので，厳密な意味での黒内障とはいいがたい。治療は先天性のもののほかは原因療法によっている。➔そこひ〔納富教雄〕

こくないほう【国内法】 国内においてのみ適用される法のこと。国家間の関係を規律する国際法*に対する。国内法と国際法の関係については，国内法優位説・国際法優位説があるが，いずれが強い効力をもつかは各国の憲法が定める。日本国憲法は〈条約及び確立された国際法規は，これを誠実に遵守する〉(98条)と明示し，国内法に対する国際法の地位を高く認めている。

こくにょうしょう【黒尿症】 ⇨アルカプトン尿症

こくにん【国人】 ⇨国衆(くにしゅう)

こくぬすと【穀盗】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コクヌスト科の総称またはそのうちの一種をいう。コクヌストはヒラタコメムシともいい，体長6～10mm。体は長楕円(ちょうだえん)形で扁平(へんぺい)，栗色(くりいろ)ないし赤かっ色。前胸背板は長さよりも幅のほうが大きく，前縁角は突出してとがる。鞘翅には各7条の点刻溝(こう)が走る。世界共通種で，貯蔵穀類の害虫として知られているが，雑食性で他の貯穀害虫を捕食することが知られている。コクヌスト科は全世界で700種内外が知られ，大部分の種は捕食性で，樹皮下やごみくず・キノコ類・貯穀類などに生活する。幼虫はほぼ円筒形で，強い口器とよく発達した脚をもち，活発に活動する。日本には，コクヌストのほか，オオコクヌストなど10種内外が産する。〔鈴木邦雄〕

こくぬすともどき【擬穀盗】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゴミムシダマシ科。体長3～4mm，体は細長く扁平(へんぺい)，全体赤かっ色でほとんど光沢がなく，背面に毛はない。頭部は小さく，微小の点刻が密にある。触角は短く，末端に向かって太まり，特に末端の3節は大きい。前胸背板は頭部よりも明らかに幅広く，両側はゆるやかな丸みをおび，中央部が最も幅広い。鞘翅は前胸背板とほぼ同幅で細長く，点刻のある縦溝(じゅうこう)がある。世界各地に広く分布し，貯蔵穀類の害虫として知られる。またしばしば生物学上の実験材料として使われている。〔鈴木邦雄〕

こくはく【告白】 古代末期キリスト教の最大の教父アウグスチヌス*の著。全13巻。司教になった42～43歳から45～46歳にかけて書かれた。数々の罪と迷妄(めいもう)におちた著者が，天地を創造し支配する神のあわれみに導かれてキリストを信じ，神のふところに安らうまでの自己の魂の遍歴のさまを告白するとともに，神の愛と救いの御業(みわざ)の栄光を賛美した書(原題confessionesには〈賛美〉の意もある)。この書は一個のキリスト者の魂の霊的形成の自伝であるばかりでなく，広く人類の人間性の形成はいかにあるべきかを如実に示し，万人の魂の内省に訴えるものをもっている。全体は2部に分けられる。第1部(第1～第8巻)は，第1～第4巻で幼少年時代の罪，青年時代の友人関係，女性関係，母への裏切り，

➔532ページ

国土総合開発

第２次世界大戦後，各国でそれぞれの国土開発計画が実施されたが，わが国では1950年(昭和25)に公布された国土総合開発法によって，国土開発計画は大きく前進することになった。その第１条によれば，〈国土の自然的条件を考慮して，経済・社会・文化などに関する施策の総合的見地から，国土を総合的に利用し，開発し，および保全し，ならびに産業立地の適正化を図り，あわせて社会福祉の向上に資する〉ことと規定され，きわめて包括的な形で列挙されている。すなわち，第１条では，国土の開発利用・産業立地・社会福祉向上の問題が取り上げられている。しかし地域開発の主内容となっている工業化は住民福祉向上のための一つの手段でしかないから，社会福祉ないし住民福祉向上の問題は，総合開発の究極の目標を示すもので，前２者に並記されるべきものではない。

国土総合開発は，全国総合開発計画・都府県総合開発計画・地方総合開発計画・特定地域開発計画の４種からなり，そのほかに北海道総合開発法が特別法として制定をみた。これらは主として，後進地域を開発し，国土保全・電源開発・食糧増産・工業立地の整備をその目標とするものであった。そのうちはじめに具体化したものは，特定地域開発と北海道および都府県開発であった。地方開発計画があいついで策定されたのは1956年以後のことに属する。そして全国総合開発計画に至っては，1962年10月になってはじめて成案をみた。

【全国総合開発計画】 全国総合開発計画は，戦後10数年に及ぶ各種の開発経験から生み出された反省の産物である。これは，従来の全域開発方式から拠点開発方式への移行を意味するものであり，1960年12月に公にされた国民所得倍増計画に対応し，それを補強する意味で策定されたものである。すなわち，倍増計画で打ち出された，いわゆる〈太平洋ベルト地域構想〉を受け継ぎながら，同時に後進地域の住民感情をも考慮に入れて，地域的課題についての改善を行なったものということができる。この計画では，日本経済の内外の基調が大きく変化したことを認め，〈わが国経済が産業構造の高度化，人口動態の変化，貿易為替(かわせ)の自由化など内外経済の変化に対応しながら……高度成長の過程において露呈された重要かつ緊迫した地域的課題の解決〉にその重点が置かれている。ここにいう地域的課題とは，第１に，既成大工業地帯において隘路(あいろ)が一段と激化し，産業の過度集中が集積の利益以上に密集の弊害をもたらし，いわゆる過大都市問題をひき起こしていること，第２に，高生産性地域と低生産性地域との間の生産性の開きが大きくなり，いわゆる地域格差をもたらしたということである。いってみれば，過密の弊害を除去し，地域格差を是正することが，この計画で地域的課題といわれるものの内容である。

全国総合開発計画では，全国を過密地域(京浜・阪神(はんしん)・北九州・名古屋)，整備地域(関東・東海・近畿(きんき)・北陸)，開発地域(北海道・東北・中国・四国・九州)の三つに分け，過密地域では過度集中の予防と再開発を図って工業の分散を行ない，整備地域では産業基盤を整備して工場受け入れの態勢を整え，さらに開発地域には，いくつかの戦略的な拠点を定めて周辺の地域に開発の波及効果を及ぼし，それによって格差是正を図ろうとするものであった。これは拠点開発方式とよばれている。大規模な開発拠点としては，工業開発拠点と地方開発拠点が考えられた。前者は主として大規模な工業などの集積をもたせることによって，周辺の開発を促進する役割をもち，後者は大規模な外部経済の集積をもたせることによって，東京・大阪・名古屋のもつ外部経済の集積が利用しにくい地域の飛躍的な発展を可能にする中枢主導的な役割をもたせようとするものである。新産業都市*は前者に対応し，地方開発都市は後者に対応する。なお政府は工業整備特別地区として６地区を指定したが，これはほぼ新産業都市と同じ取り扱いを受けることになっている。

【社会開発計画の構想】 1964年ごろから，社会開発問題が論議されるようになった。社会開発ということばは，経済開発ということばに対置されて使われはじめたのであるが，もともとは国連において，特に低開発諸国の開発のために問題とされたものである。日本において，この用語が公式的にはじめて使われたのは，人口問題審議会が出した意見書においてである。この意見書によれば，〈経済開発とは，工業を中心とする各種産業の経済的面での開発をいい，社会開発とは，都市・農村・住宅・交通・保健・医療・公衆衛生・環境衛生・社会福祉・教育などの社会面での開発〉をいい，〈経済開発の直接の目的が生産および所得の増大であるのに対し，社会開発は，直接人間の能力と福祉の向上を図ろうとするものである〉とされている。なお〈社会開発はそれ自体独自の価値と必要性を有するものであるが，同時に経済開発を実施する条件を整備し，また，経済開発の結果発生する摩擦を除去することなどによって，経済開発を有効・円滑にすすめる手段ともなる〉と付け加えている。

地域開発の目的が住民福祉の向上にある以上，人間の主体性や社会的側面に対して，十分な考慮を払うのは当然である。しかしこれまでの地域開発は，ともすれば狭い工業化主義に偏するきらいがあり，それに対する反省が，最近時において起こりかけてきているというのが現状である。地域開発が工業化と都市化の過程を意味するものである以上，それを促進する場合に直面する既存の障害を取り除き，また開発に伴って生ずる各種の経済社会問題を未然に防ぎ，あるいは解決するものでなければ十分とはいえない。かりに経済開発が経済の進歩を主内容とし，また社会開発が社会の安定ないし福祉の向上を主内容とするならば，安定と進歩とが手を携えて実現する条件を，各地域の成長段階や特性に応じて求めることこそ，地域開発の理念を明らかにする場合に忘れてならぬ問題であろう。

【新全国総合開発計画】 昭和30年代に経験した地域経済の構造変化は，工業化と並んで都市化を促進したが，それだけ都市開発の必要性を高めた。都市化とは，都市に住む人口比率が高まり，また都市的なものの考え方や，都市的生活様式が，全国的に拡散浸透していくことを意味する。都市に向かっての人口集中は世界的な傾向であるが，昭和30年代の動きをみると，三大都市圏へ

新全国総合開発計画に基づく地域区分

ブロック名	性格 ①	性格 ②	性格 ③
北海道圏	地方圏		食糧供給基地
東北圏	地方圏～大都市周辺圏		食糧供給基地
首都圏	大都市圏	京浜・京葉地区	
中部圏	大都市圏～大都市中間圏	東海地区	
近畿圏	大都市圏	京阪神地区	
中四国圏	地方圏～大都市中間圏	瀬戸内地区	
九州圏	地方圏	北九州地区	食糧供給基地

注）①は，各ブロックの全国における位置づけを示すものである
②は，既成工業集積地区を示すものである
③は，今後新たに形成される大規模な食糧供給基地を示すものである

の集中と，拠点性をもった地方中堅都市への集中が顕著である。したがって，今後は，このような基本動向をふまえて，安全で健康で効率が高く，また，それぞれの発展段階や特性に応じて，個性豊かな都市づくりに努力する必要がある。

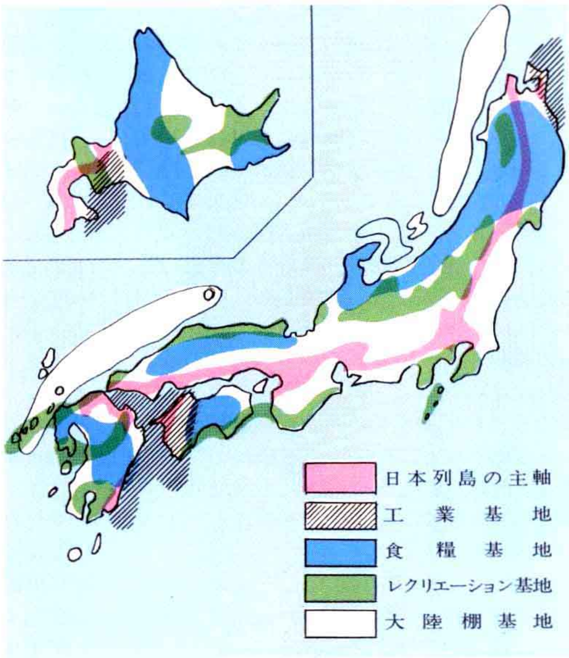
このような事情を背景にして，政府は1969年5月に〈新全国総合開発計画〉を閣議決定した。これは，情報化社会といわれる新しい未来社会への転換期を迎えた今日において，今後長期にわたる国民の活動の基礎をなす国土開発の方向を示すものであり，巨大化する社会資本を，先行的・先導的・効果的に投下するための基礎計画である。同時にそれは，民間の投資活動に対して，指導的・誘導的役割を果たすものである。その基本的考え方は，第1に，大都市に中枢管理機能を集中させ，工業などの産業開発は極力地方に分散させること，第2は，これまでの府県ごとの割拠主義的な地域開発主義をやめ，日本列島を一つの単位として開発し，地域の単位としては，北海道・東北・首都圏・中部圏・近畿圏・中国および四国・九州の7ブロックを考える。第3に，開発方式については，従来からとってきた拠点開発方式の成果をふまえながら，特に新幹線高速鉄道・国土幹線自動車道・自動電話などの交通・通信網および情報産業の整備・育成を図り，そのネットワークを日本列島に張り巡らし，これによって大都市と地方都市，地方都市と僻地(へきち)を有機的に結び，均衡のとれた国土全体の利用と開発をめざすものである。現在，日本列島は三大都市圏を中心とする求心的構造をもっているが，このような都市集中は，過去1世紀にわたる都市と鉄道・道路網の建設を基礎に形成されたものであった。昭和30年代の高度成長は，この形態の上に，さらに諸機能が累積する形で進められた。しかしその反面，局部的な高密度地域では過密問題が，低密度地域では過疎問題がもち上がり，地域間にさまざまな格差を生じた。ここに過疎地域とは，人口が急激に減少したために，社会生活を営むことが困難になった地域をさす。このような高密度社会がかかえる問題に対処するために，情報化・高速化をいっそう促進し，長期にわたって，この人間と自然との調和を図り，特に自然を恒久的に保存・保護する必要がある。

新計画の中で注目すべきは，大規模開発プロジェクトを開発の戦略として取り上げていることである。高速鉄道新幹線・高速道路をはじめ，伊勢(いせ)湾環状高速鉄道，本土と四国を結ぶ架橋，本土と北海道を結ぶトンネルなどは，大規模開発プロジェクトの典型的なものである。この計画では，農林水産業・工業・流通・観光などのうち，特に重大な影響をもつと認められる大規模産業開発プロジェクトについては，具体的な構想をつくる。それによって，開発の遅れた低密度地域の高度な開発の始動条件をつくり，あわせて大都市などの高密度地域の開発をしやすくする効果を期待するものである。1985年の国民総生産は1965年の4～5倍にあたる140兆円(1965年価格)の水準に達し，ますます国際化・大形化・広域化・都市化が進行するものと予想され，公共投資のわくも大幅に増大する。この計画を実り豊かにするためには，このような高所得から得られる経済余剰を，先行的・先導的・効率的に投資することが必要である。

なお，過疎問題に対しては，主として産業振興のための公共投資のみに依存していた従来の施策の方向を再検討し，効率的な産業開発や観光開発を進めることが可能な地域は，その地域の特性に応じて積極的な開発を進め，集落の再編成を含めての生活環境条件の向上のための施策を講ずることになっている。また，地域格差是正問題については，1人あたり生産所得の格差よりもむしろ生活水準の格差，特に社会的生活環境水準の格差を重視して，地方の中核都市の社会的環境整備を図るとともに，周辺地域の生活環境も地方の中核都市と一体となって，一定の水準を保持しうるような施策が必要だとしている。いずれにしても，新計画は，拠点と拠点とを結ぶ交通・通信体系を強化することを重点的に考えている。

〔開発理念の諸形態〕 戦後4分の1世紀に及ぶ日本の開発経験を省みて，そこで取り上げられている開発理念を類型化してみると，次のようになる。①敗戦によって失った国土と増大する人口問題に対処するため，食糧増産，地下資源の開発，水力発電の建設を中心とする資源開発を行なって，人口を吸収すべきである。②国土の保全と利用を図り，産業立地の適正化と産業基盤，特に工業立地造成を中心とする工業基盤の造成を図るべきである。③高度成長によって特に問題化した過密都市の再開発と地域格差の是正および山林過疎地域対策を図るべきである。すなわち，過密・過疎の是正と格差の是正を図るべきである。④国際化時代・情報化時代および都市化時代に対処するために，中枢管理機能や情報・交通などのネットワークを整備し，各地域の特性を生かした自主的・効率的な大規模プロジェクトを計画し，高密度社会に対応した拠点の整備と開発を行なうべきである。

以上に掲げた四つの理念は，戦後における日本経済の復興・自立・安定成長，高密度・高福祉社会の建設という歴史的課題の推移に対応しているのであるが，現状においては，この四つの理念が重なり合っている。たとえば，資源開発思想は特定地域や低開発地域になお根強く残っており，政治的には地域格差の是正という形で運動が行なわれている。また企業の側では，いわゆる太平洋ベルト地帯構想にみられるように，工業基盤の造成を重視し，また都市の住民は過密の是正を緊急の問題としている。さらにまた，財源不足に悩む地方自治体は，企業誘致による固定資産税の確保，開発に随伴する中央政府からの財政資金の導入に期待し，これに地方選挙の利害がからんで，しばしば地域エゴイズムが開発理念の確立を妨げるように作用している。企業エゴイズムが，民間投資と公共投資との整合を妨げたことも事実であるが，それだけにまた，開発理念の吟味と整序が必要であることを



新全国総合開発計画に基づく国土総合開発計画

示している。各地域の経済成長段階はまちまちであり，また住民の意識もそれに対応して異なっている。したがって，開発政策の重点や戦略も当然異なりうる。すなわち，経済発展がすでに軌道に乗りはじめている地域では，産業基盤を造成して隘路の発生を防ぎ，いっそうの発展を図ることが必要であろうし，また特に遅れた地域では，防災の施設や教育・福祉施設を整備し，物心両面にわたって，経済発展の基礎を固め，同時に労働力の移動を含めて，社会全体の流動性を高めることが重要であろう。それは社会改造のプログラムを内包するものでなければなるまい。さらにまた，既成大工業地帯では，公害防止と隘路の打開が緊急の課題になるが，同時に工業分散と都市再開発が促進されるような条件をつくることが必要であろう。

このような検討を行なったうえで，はじめに掲げた四つの理念をふり返ってみると，第1の食糧増産型は終戦直後の経済復興期，すなわち緊急事態の時期に対応し，第2の工業基盤造成型は，サンフランシスコ条約締結時の経済自立期に対応し，そして第3の過密・過疎の是正と格差是正の要求は，1960年以降の高度成長期にほぼ対応している。さらにまた第4の理念は，国際化・情報化・都市化の時代における日本列島の再編成期に対応している。

〔日本列島の将来像〕 日本人の圧倒的な大部分が，将来，都市に住むことは明らかである。しかし，それがどのような地域配置の姿を示すかについては種々の見方がある。

その第1は，〈東京一眼レフ論〉ともいうべきものである。それは，東京経済圏のもつ人口吸引力の強さに注目して，第2位の大阪経済圏を大きく引き離しつつあるという現実から，今後いっそうこの傾向が促進され，特にハイタレントは東京に集中するだろうというのである。そして，東京はその整備を怠っているから，過密的症状を呈しているとするのである。東京は日本全体のうち，人口は1割を占め，工業出荷額はおよそ2割，銀行の預金貸し出しの残高は4割，大学生は5割，財界のハイタレントは6割を占めている。人間の身体でいえば，頭脳にあたる部分は圧倒的に東京に集中している。しかし，東京が規模の拡大に対して十分な管理能力をもっているかどうか，また災害に対して東京が対応しうるかどうかに問題がある。したがって，都市機能の近代化を図り，その入れ替えを促進することが重要である。

第2は，〈東海道メガロポリス論〉である。これは第1の事実を確認したうえで，東京から大阪に至る帯状の都市の連携に着目し，それが将来において，日本およびアジアの頭脳センターになるだろうというのである。今後，情報処理がますます重要性をもつようになるから，都市の効率を問題にするかぎり，東海道メガロポリスの形成は，日本経済全体の国際競争力をいっそう高めることになろう。

第3の見方は，〈拠点形成論〉ともよぶべきものである。それは，東京メトロポリスの北上エネルギーと，東海道メガロポリスの西進エネルギーに注目する。つまり，東海道メガロポリスの形成を認めたうえで，さらにこれを東と西に延長し，東京と大阪の競合関係を促進しながら，北は仙台(せんだい)から南は福岡に至る太平洋岸に，地方的な中堅都市を中心に，人口と産業の集積が進むものと想定する。また北海道や日本海岸や内陸部においても，それぞれ個性をもった大拠点・中拠点・小拠点が形成され，すぐれた交通および通信体系のもとに，都市と集落の再編成が進行するという見方である。中堅都市の役割は，まず第1に中枢管理機能の集積によって，周辺地域の発展を促進し，それによって既存の工業地帯からオーバーフローしてくる企業を受け入れることである。第2は，周辺の過疎地帯の住民に対して，山から町に降りてくる場合にこれを受け入れ，彼らに職場と都市的便益を提供することである。このように，中堅都市は二つの任務をもっている。なお中小都市や戦略的な拠点性をもった集落も，日常生活圏の拠点として，これに準ずる役割を果たすことになろう。

都市は経済的動機を満たすだけでなく，人間的動機を満たすものでなければならない。地域開発の究極のねらいとする豊かな社会の形成とは，単に所得や富がふえるだけでなく，同時に心も豊かになり，外部世界に向かって幸福を広げることでなければならない。〔伊藤善一〕

マニ教*への長年の盲信，占星術への関心など，さまざまな道徳的・知的な迷いが語られる。第5巻でマニ教からの離脱，司教アンブロシウス*との出会いによるカトリック信仰への目ざめ，第6～第7巻では新プラトン派*の書物によって神の本性や悪の起源や永遠のことばの神性についての真の理解の道が開かれ，聖書によって永遠のことばの受肉としてのキリストの信仰が深まったことが語られる。第8巻の霊肉の激しい葛藤(かっとう)のすえパウロのことばを読んで突如回心*が訪れたくだりは第1部のピークをなしている。第2部(第9～第13巻)は受洗し回心した者の立場で告白(賛美)が行なわれる。第9巻の母モニカとの神秘的な体験とその直後の母の死は第2部の基点となる。第10巻で司教としての現在の心境を告白する二つの意図が語られている。第11～第13巻は特に神学的部分とよばれ，《旧約聖書 創世記》第1章についての著者独自の比喩(ひゆ)・霊的な解釈がみられる。〈神の永遠をみている〉これらの巻の中で語られる時間論(第11巻第14～第28章)は時間を意識の3様相としてとらえた画期的な解釈として有名である。〔村治能就〕

こくはくろく 【告白録】 ルソー*の自叙伝。1765年から1770年にかけて執筆された。前半では，不幸な幼年期から青年期を通じての放浪生活，後半では，《エミール*》発禁以後の権力の迫害下の暗い逃亡生活が，部分的にはやや誇張されつつも，赤裸々に語られる。美しい自然描写を交えながらの徹底した自己省察の書であり，すぐれた文学作品として後世のロマン主義文学や近代小説に多大の影響を及ぼした。

こくはつ 【告発】 第三者が犯罪事実を捜査機関(司法警察職員・検察官・検察事務官)に告げて，捜査および処罰を求める意思表明のこと。告訴*と異なり，告訴権者(犯罪の被害者，その法定代理人など)以外はだれでも告発できるが，特に公務員は，その職務遂行の際，犯罪を発見した場合は，告発しなければならない義務を負っている。告発は，単に捜査を促す手段で，起訴*の要件ではない。例外として独占禁止法違反・税法違反などがある。〔井上公耳〕

こくはんびょう 【黒斑病】 ナシでは二十世紀の重要病害で，果実には黒色・円形，くぼんだ病斑ができ，その上に黒いかび(分生胞子)がはえる。幼果は病斑面に割れ目を生じ，成果は軟化して落果する。葉や新しい枝にも円形または不正形の黒い病斑を生じ，その表面に輪紋ができる。本菌は病枝・病葉に菌糸の形で越冬し，翌春に胞子で伝染する。サツマイモでは芋の貯蔵中に病勢が進み，黒色・円形の病斑を生ずる。病斑部周辺は苦味と臭気が強い。〔渡辺　実〕

こくひしょう 【黒皮症】 全身あるいは相当の広さの皮膚が色素沈着のためにかっ色・黒かっ色あるいは紫灰色を呈する疾患。局所的・全身的要因で起こり，それに紫外線の影響が加わるものもあって，原因は非常に複雑である。リール黒皮症が代表的で，これは女子顔面黒皮症・戦争黒皮症(第1次世界大戦後，敗戦国の婦人に多くみられたことからこの名がある)ともいう。女子に多いが男子にもみられる。額・こめかみ・ほお・側頸部(そくけいぶ)などに，はじめかゆみの強い紅斑*(こうはん)を生じ，数週間のうちに網状のきたない灰黒色の色素沈着を起こし，表面にわずかの鱗屑(りんせつ)が付着する。ときどき赤くなり，むずがゆくなることをくり返すうちに，しだいに黒くなる。自律神経系・内分泌系その他の異常によって素因が形成されたところに，感光性物質を含有

する化粧品などの使用により発生すると考えられている。刺激となる化粧品をやめて，日光にあたらないようにし，皮膚科医の診療を受ける。治療は長期間を要する。〔田嶋公子〕

こくひん【国賓】外国の元首・国王・首相など，国家の賓客のこと。皇室および政府から待遇され，国の費用で接待する。自衛隊の観閲，国歌吹奏などの儀礼をもって，皇族や政府高官が出迎える。

こくふ【国富】ふつう，特定の一時点においてその国に存在する総資本および自然資源の価値の総計を意味する。国民資本とよばれることもあり，国民所得を生み出す源泉である。しかし，自然資源の価値の算定は実際は非常に困難であり，特に再生産可能な富と限定されて経済学で用いられる場合もある。これは実物資本の存在量を意味し，年々の財貨およびサービスのフローである国民所得のうち，貯蓄され，資本形成されたものが新たに国富(国民資本)に付け加えられる。国内の債権・債務は国全体としては互いに相殺されてしまうが，開放体系で考える場合は，実物資本の国内存在量に対外債権を加え，さらに対外債務を差し引かねばならない。また，わが国の国富統計では土地は国富に算定されない。〔富田重夫〕

こくふ【国府】律令(りつりょう)制下の国司の執務所の所在地。諸国ごとに国内統治の便，交通上の要点ということなどを考慮して位置が定められた。したがって諸国の条里制施行地域と一致することが多く，方八町の区画をなし，付近に国分寺や総社などを設けるのが原則で，現在各地に府中・府内・国分などゆかりの地名を残している。

こくぶ【国分(市)】鹿児島県中部の市。奈良時代は大隅(おおすみ)の国府が置かれた。1604年(慶長9)に島津義久(よしひさ)が築城，タバコの栽培を奨励して以来，国分タバコの名は全国に知られた。1955年(昭和30)市制施行。人口36,000。市域は鹿児島湾北岸，新川下流の沖積(ちゅうせき)平野部を占め，産業三大別人口比30：24：46。米・タバコをはじめ，野菜苗の栽培が盛んで，ブタ・和牛も飼育される。日豊本線に沿い，国道10号線の貫通する交通の要地であり，近年は鹿児島の近郊都市的性格を強めている。また，日豊本線から分かれる国分新線が1971年完成の予定である。国分寺跡は史跡に指定されている。

こくふいせき【国府遺跡】大阪府藤井寺市国府にある旧石器時代から奈良時代までの複合遺跡。名まえのとおり河内(かわち)の国府のあった所であろうが，その遺跡はまったく判明しない。石川の左岸の洪積(こうせき)台地の先端に位置し，地表下1mほどの洪積層中から旧石器，地表下60cmほどからは80体ばかりの縄文(じょうもん)時代と一部弥生(やよい)時代の人骨が発掘されたことで有名。



国 分 寺　武蔵国分寺跡

これらの出土地は同時に飛鳥(あすか)時代・奈良時代の寺院跡でもある。〔坪井清足〕

こくぶせいがい【国分青厓】(1857～1944)漢詩人。宮城県の生まれ。本名高胤(たかたね)，別号太白(たいはく)山人。司法省法律学校に学ぶかたわら漢詩を習い，新聞〈日本〉に入社してのち，漢詩の時事風刺で評判を得た。その後政教社社長となり，《日本及日本人》に漢詩を発表，名声を高めた。大正・昭和を通じて斯道(しどう)の第一人者とされる。詩集に《詩董狐(しとうこ)》がある。

こくぶんじ【国分寺】奈良時代，国ごとに設置された官寺。741年(天平13)聖武(しょうむ)天皇は当時政治不安と凶作・疫病が続いたので，仏教の国家鎮護の力によって国土安泰と五穀豊穣(ほうじょう)を図ろうと，各国に国分寺・国分尼寺を建立(こんりゅう)する詔を発布した。国分寺は僧寺で，七重塔を造成し，《金光明最勝王経》10部と，別に天皇書写の《金字最勝王経》1部を安置した。各寺には20僧を置き，封戸(ふこ)50戸・水田10町を施入した。同時に各国に国分尼寺を設置し，《法華経(ほけきょう)》10巻が各寺ごとに安置され，10尼を定員とし，各寺には水田10町が施入された。僧寺を〈金光明四天王護国之寺〉，尼寺を〈法華滅罪之寺〉と称した。国分寺建立の勅願には，唐が738年，開元・龍興(りゅうこう)の2寺を各郡に設置した影響があるとされているが，中央集権体制を強化しようとする政治的意図と，仏教思想とが融合した天皇の理想が強く発揮されている。寺域は各国の国府に近く定められ，僧寺は1辺2町(約218m)の正方形の場合が多い。僧寺と尼寺との間の距離は1km内外が普通で，国司がその創設・管理にあたった。発願とともに政府は出挙(すいこ)利稲20,000束を造国分寺料として支出し，一般民の寄進も奨励したが，はじめは十分に進捗(しんちょく)せず，政府の督励により宝亀(ほうき)年間(770～779)に全国の大部分に建立された。伽藍(がらん)の設計は全国ほぼ共通で，僧寺の場合，南大門・金堂・塔・講堂・鐘楼・僧房・食堂からなり，金堂には金銅丈六の釈迦(しゃか)像とその周囲に四天王像が安置された。

各寺院の財政・法務一般については，各寺のうちから任命された国師がつかさどった。平安中期以後，律令(りつりょう)制が衰退すると，国家の経済的補助は停止され，官寺の性質から有力な檀越(だんえつ)をもたなかったので，本来の経営は困難となり，寺領を権門(官位が高く権勢のある家がら)に寄進してその保護を仰ぐようになった。その間尼寺の多くは廃絶したようである。さらに中世以降は武士勢力に寺領を侵食されるようになり，漸次有力寺院の末寺になるか，廃絶するかの道をたどった。現在，各地には国分寺または国分の地名を残し，廃寺となった場合も礎石・古瓦(こが)などが残り，その遺跡が史跡に指定されているものはほぼ30国に達している。〔高崎徳次〕

こくぶんじ【国分寺(市)】東京都の中央部にある市。古くは武蔵(むさし)の国分寺があり，国府の置かれていた府中とともにこの地域の政治・文化の中心地であった。1964年(昭和39)市制施行。人口88,000。市域の北方は武蔵野台地で，台地の末端から恋ケ窪(こいがくぼ)などの泉がわき出ており，ここを水源とする野川の谷は古くから開けたが，台地上に新田集落が開発されたのは江戸時代中期以後のことである。産業三大別人口比は2：27：71。大正末期に中央線に電車が運転されて以来，東京の住宅衛星都市として発展し，特に関東大震災や第2次世界大戦を契機に人口が飛躍的に増加している。中央線国分寺駅から西武鉄道多摩湖線・国分寺線を分岐する。金堂・講堂・七重塔などの礎石の残る国分寺跡は駅の南西2km余の畑の中にあり，史跡に指定される。東京経済大学や国鉄の鉄道技術研究所・中央鉄道学園・日立製作所中央研究所などがある。

こくへいしゃ【国幣社】⇨官国幣社

こくべつしき【告別式】転任・退職などのときに別れを告げる儀式が葬儀に転用されて，棺前での宗教儀礼ののち，死者の霊前に別れを告げる儀式をいう。会葬者が多い場合に，便宜上宗教儀礼を葬儀式とし，会葬者が順次焼香礼拝するのを告別式として分けたことに始まったものであろう。すでに密葬後になされることの多い斎場での葬儀告別式は別として，一般には，出棺を前にして近親縁者が最後の別れを惜しんで棺にくぎを打ち，一般会葬者が門口に整列して出棺を見送る儀式をいう。➔会葬〔藤井正雄〕

こくほう【国宝】日本に保存されている美術品・建造物，歴史上の遺品のうち，国民の宝とするにふさわしいと評価された文化遺産に対し，国家がその保護のため与えた資格。1897年(明治30)公布の古社寺保存法で，すぐれた有形文化財のうち，まず社寺の宝物・建造物が公的に保護されるようになったが，1929年(昭和4)国宝保存法施行の際，広く一般の文化遺品から国宝を

国　防

国を脅威から守ること，すなわち自由と独立を守り，国に対する潜在的脅威を顕在化することを防ぎ，直接・間接の侵略が起こったならば，これを排除して国の安全を守ることをいう。

〔国防観の変遷〕20世紀初頭までは，国防はいわゆる狭義の国防を意味し，主として軍事的手段をもってする防衛に限られた。しかし第1次世界大戦ころから大国の工業力は発達し，国民的軍隊や国家機構の強化は，単に第一線兵力の破壊や常備軍の撃滅だけでは，戦争の勝敗は決せられなくなった。そこで国の総力を武力戦に結集する総動員戦争が行なわれるようになり，国防観念もそれに相応するものとなった。さらに銃後の工業力，国民の戦意が戦争を決する重大な要因となるにしたがい，国の総力，すなわち政治・外交・経済・思想・文化・情報宣伝などあらゆる手段をもって敵の戦意をくじき，戦争目的を達成しようとする総力戦時代となるに伴って，国防は国のあらゆる力をあげて国の安全に寄与する広義の国防となった。狭義の国防，すなわち主として軍事力をもってする国防は防衛という場合が多い。

さらに第2次世界大戦後，イデオロギーと政治経済体制の対立に基づく冷戦，すなわち戦争にもあらず平和にもあらずという情勢のもとで，武力による戦争状態が存在していなくても，内外からする思想的ないし政治的浸透に対する防衛，すなわち間接侵略*に対して，主として政治的手段をもってする防衛が国防上の大きな部分を占めるようになった。また，1950年代以後，核兵器*とその発射運搬体系の進歩によって，国防の第一目的は戦争の抑止にあるようになった。都市に対して大破壊殺傷力をもつ熱核兵器(水素爆弾*)の出現，途中ではほとんど撃墜されることのない弾道ミサイルの実戦化，および先制攻撃を受けても破壊されることなく十分に残存しうる地下基地や原子力潜水艦基地体系の実現などによって，米ソ間の核攻撃の全面的交換は，どちらが先に攻撃を行なっても，米・ソとも1億内外の死者を出し，工業力の大部分は破壊され，当分の間国家としての存在を抹殺(まっさつ)されてしまうことが予想されるようになった。ABM(ミサイル迎撃ミサイル)の出現も，攻撃用ミサイルにおける防御突破装置(PEN AID)や多弾頭(MRV)の出現により効果が減殺され，攻撃用ミサイルの精度の向上や多目標弾頭(MIRV)の出現による先制第一撃による報復第二撃能力撃滅の可能性も，対ミサイル早期警戒方式の進歩や即時反撃能力をもつミサイル体系，機動力と隠密(おんみつ)性をもつ潜水艦ミサイル体系の配備によって，共倒れ性は確実となりつつあり，予想される将来にわたって変わらないであろう。この結果，このような戦争がひとたび勃発(ぼっぱつ)してしまえば，もはや国防の目的は達成できないので，国防の第一目的は戦争の抑止に置かれるようになった。

〔集団防衛〕第2次世界大戦後，全世界的国際安全保障機構である国際連合が発足し，従来の国防観念に大きな変革を及ぼすかと思われた。しかし，現実的には全世界に共通する世界観・利害，そして正義は必ずしも存在せず，戦後まもなく，自由・共産両陣営に分裂し，国際連合の全世界的安全保障の機能は半身不随化するに至った。ソ連は1948年までの間に東欧・バルカン方面に勢力を拡張して共産ブロックを建設し，西欧諸国を脅威するようになった。当時西欧諸国は戦争の災害から十分回復しておらず，これに対抗しえなかったので，アメリカと結びNATO*(北大西洋条約機構)を結成した。これは国連憲章の地域的・個別的集団保障の規定に基づくもので，その後数多くの集団保障体制が生まれた。そのほとんどがアメリカまたはソ連を中心とするもので，いわゆる世界の両極化の情勢をつくりだした。核兵器体系の発達は2超大国をおのおの旗がしらとする両極化に拍車をかけた。しかし，この2超大国間の共倒れの予想を前提とする相互抑止関係は，米ソ平和共存的傾向をもたらし，この結果は同盟国に対する団結ないし保障力の弱化をきたし，核技術



国防総省

指定するようになった。第2次世界大戦後の1950年新たに文化財保護法*が公布され，従来の国宝を重要文化財*に改め，特にその中から文化的価値の高いものを文化財保護委員会が国宝に指定することとなった。なお，無形文化財も指定され，芸能・工芸などで特にすぐれた伝統的技能を体得している無形文化財保持者を認定している。➔文化財　〔高崎徳次〕

こくぼうかいぎ　【国防会議】　日本の国防に関する重要事項を審議する機関で1956年(昭和31)内閣に設けられた。内閣総理大臣は次の事項については国防会議にはからなければならない。①国防の基本方針，②防衛計画の大綱，③前号の計画に関連する産業などの調整計画の大綱，④防衛出動*の可否，⑤その他内閣総理大臣が必要と認める国防に関する重要事項。国防会議の構成は法律で定められる。内閣総理大臣を議長とし，特に指定された国務大臣・外務大臣・大蔵大臣・防衛庁長官・経済企画庁長官を議員とする。国防会議には幹事会および事務局があるが，弱体である。現在までに国防の基本方針，各防衛力整備計画，次期戦闘機の整備などを決定した。〔森田　哲〕

こくぼうしょう　【国防省】　陸・海・空三軍を統轄する中央官省をさす。もとは各国とも陸軍省・海軍省をもっていたが，航空の発達に伴い空軍独立の気運が生ずる一方，これらを統合調整する必要に迫られ，しだいに国防大臣の下に国防省を設ける国が多くなった。国防大臣は通常軍事に関する補佐機関として三軍行政長官や参謀総長，その他次官以下所要の部局を有する。

こくぼうせいふ　【国防政府】　プロイセン-フランス戦争*中の1870年9月，ナポレオン3世*の降伏直後にパリにつくられた臨時政府。ガンベッタ*らを中心としたパリ市民の共和政宣言を背景に，プロイセン軍に対して祖国とパリ防衛の任を負った。しかし，上層市民を地盤とした国防政府は，パリ市民の共和政体確立と抵抗・抗戦の要求をおさえて，翌1871年1月ビスマルク*と休戦条約を結んだ。同年2月，ボルドーに国民議会が成立してその任を終えた。

〔大野真一郎〕

こくぼうそうしょう　【国防総省】　陸・海・空三軍を統合したアメリカの最高軍事機関。1947年の国家安全保障法改正により，

の普及は核の拡散の傾向を生じ，若干の多極化の傾向を生じさせている。このような第２次世界大戦後の集団保障の考え方は，国防観念にも大きな変化を生じさせ，核のバランスのもとでの柔軟反応体制，原則的にはあらゆる種類の兵力を必要とさせる戦略体制が要求されるため，戦略的に重要な地位にある国は一国単独で国防を全うすることはきわめて困難となり，国情に応じて各同盟国が異なった部分(兵力の種類)を分担する平時から統一組織のもとにあるNATO軍のようなものも編成されるようになった。しかしまた，その戦略的地位を巧みに利用して，大国の力のバランスの上に非同盟を国防の基本方針とする国もある。いずれにしても第２次世界大戦後の国防観は，思想的・政治的因子がきわめて強いことが大きな特徴である。

〔国防の意義〕国防とは，なにからなにを守るのか，脅威は実在するのか，それはどのようなもので，いずれの国からくるのか，その脅威に対して国際的な保障に全面的に依存するか，自衛力と集団保障によるべきか，武装中立でいくべきか，など多くの考え方がある。特に戦後の日本では，国民の考え方に分裂的な傾向がある。その思想的・政治的立場を異にすれば，〈なにからなにを守るか〉という根本問題で正反対の意見が生ずるのは当然であり，完全な国民的合意が得られないのもいたしかたのないところである。

国防の第一目的が戦争の防止にあることは昔もいまも変わらない。〈戦わずして敵を屈する〉ことが〈善の善なるもの〉という考え方は，それを表わしている。しかし，この考え方は核時代における〈抑止〉の概念とは異なるように思われる。〈抑止〉とは，相手の先制第一撃に対する報復の潜在性によって，攻撃を抑制阻止することであって，政治的・戦略的攻勢において，敵をして戦わずに屈伏させるような意味は含まれていない。前述の孫子のことばには，軍事力の威圧ないし脅威によって政治目的を達成しようという場合も含まれると解される。このような目的が国防に含まれるかどうか，問題となる。国連憲章・不戦条約および日本国憲法*は，このような手段，または国策遂行の手段としての武力の行使を禁じており，このような観点からは，このような行為は国防の範囲から逸脱していると考えるべきであろう。ただし，いずれが侵略者であり，なにが自衛行為かは，単に軍事力使用の先後，使用の場所(領土の内か外か)ということだけでは判定が困難であり，集団保障体制のもと，あるいは間接侵略に関連する武力行使においては，さらに複雑でいずれが侵略者であるか判定が不可能な場合が多い。したがって国防の意義も，狭い意味の自衛の範囲に限ることはできないものと考えられる。

〔国防方針・国防政策〕国防に関する基本的な方針や政策は，国策遂行上起こりうべき脅威に対処するために，国際情勢，関連各国の対外政策，国力・軍事力や，自国の戦略的地位・総合的国力などを総力戦的見地から検討して定められる。しかしまた，国防上適当と考えられない国策は修正を要することもありうるであろう。理想のみにとらわれて，国防上の現実を無視した場合，国の安全を危うくすることは歴史上に多くの例がみられるところである。

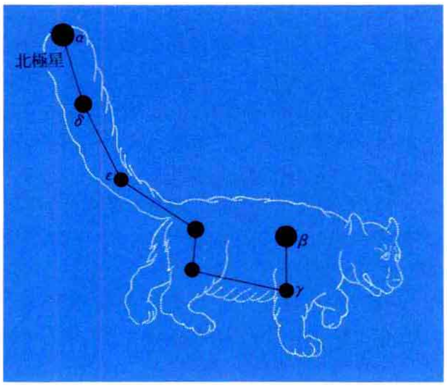
〔国防機構〕国防の方針や計画の大綱を審議決定し，戦時には戦争指導に任ずる機関がまず必要である。アメリカの国家安全保障会議*，わが国の国防会議*，イギリスの国防委員会などがその例である。わが国の国防会議*は，国防に関する重要事項の審議機関として内閣に置かれる。

アメリカの国家安全保障会議は，大統領が議長で，委員には副大統領・国務長官・国防長官・国防動員本部長などがあたり，財務長官・予算局長が指名によって出席することがある。統合参謀長会議議長・CIA長官などが陪席する。アイゼンハワー大統領時代には大いに活用され，国の安全保障に関して，軍および政府機関の協調を図り，大統領を補佐した。ケネディおよびジョンソン大統領時代には，ほとんど利用されなかったが，ニクソン大統領は再び活用してきた。　〔関野英夫〕

従来分立していた三軍を統合して，防衛機能の一元化による能率向上を目的に創立された。陸軍・海軍・空軍三省・統合参謀本部・軍事参謀院・軍需委員会・研究開発委員会からなる。1958年に機構改革を行ない，三軍最高司令官である大統領の下で，国防長官が統合参謀本部を指揮するよう指揮系統を一本化した。なお，ワシントン郊外のポトマック河畔にある同省の建物が五角形をしていることから，ペンタゴンと通称される。　〔原田政洸〕

こくぼうふじんかい　**【国防婦人会】**　⇨大日本国防婦人会

こぐまざ　**【小熊座】**　北天の星座。北極星を柄の先にして，７個の星が小さなひしゃくの形に並んでいるのが目じるし。明るい星は少ない。北極星は天の北極の近くにあるので，昔から方角を知る星として有名であるが，正確には天の北極から約１°離れている。➔星座



こ ぐ ま 座

こくみん　**【国民】**　普通には，一定の領土的基礎に立ち，歴史的な共同体験をもった，政治的に統一の組織を有する人々の集まりをさす。法的には，一定の国家の国籍*を有する者をいう。国民という概念が生まれたのは，中世の封建的な身分体制の打破により，市民階級が政治の上に現われてからである。わが国では日本国憲法*で国民が主権者であることをはっきりと規定したが，大日本帝国憲法では天皇の臣民にすぎなかった。元来，国民ということばは政治の上できわめて流動的であり，たとえば，第２次世界大戦前では軍国主義的な国家の行き方に反対する者すべてを，非国民とよんで規制した。けれどもいまの国民はみずからの手によって自由に自分たちの方向を選ぶ権利をもった存在であるといわれ，このことは民族自決権と合わせて重要である。➔市民　〔溝口　潔〕

こくみんかいぎは　**【国民会議派】**　インド最大の政党。党員1,100万人といわれ，インド政界の中で巨大な位置を占めている。1885年創設。ガンジー*・ネルー*らの指導のもとに独立運動を行ない，独立以来政権を保持している。かつては，労働者・農民・知識人などを包含し，独立後は資本家・地主も含めて，党人の思想も右から左まで幅広いが，中印国境紛争*を境に，右派勢力の伸長が目だつ。特にネルーの死(1964年５月)以後，ネルー時代の非同盟中立・社会主義政策に代わって，親米・右寄りの路線をたどってきた。ところが，1967年２月の総選挙で，中央議会の議席が364から278に，地方では８州を会議派以外の政権に譲るなど大きく後退し，その後，ガンジー首相が，銀行国有化，原材料輸入の国営化，土地改革，中小企業の育成などの左傾路線を打ち出すに及んで，現在(1969年11月)では完全な分裂状態にある。　〔広部和也〕

こくみんがくは　**【国民楽派】**　19世紀後半から20世紀初頭にかけて興った音楽の傾向の一。ドイツ・オーストリアの器楽様式やイタリア-オペラの様式を，国際的な音楽語法とはみなさず，民族独自の語法を形成しようとしたもので，当時の政治・産業上の国民主義と密接な関係にあるところか

ら，国民主義的音楽や各国のこの種の傾向を総称して国民楽派とよぶ。

ロシアの場合は，1830年代のグリンカのオペラに始まり，1860年代・1870年代の五人組の活動まで受け継がれている。チェコスロバキアは1860年代のスメタナのオペラ《売られた花嫁》や1870年代の交響詩《わが祖国》に始まり，ドボルザーク・スークらもこの傾向を代表する。ポーランドの場合は，主としてフランスで活躍したショパンをこの派に含めず，むしろ，民俗的な舞曲をもっとむきだしに用いたモニューシュコ(1819～1872)が代表とされる。他の国は多少おそめにこの傾向が強くなった。スペインでは，その独自の民謡や民俗舞曲が国民楽派的であるところに，音楽の近代化という手段としても使われ，アルベニス・グラナドス・ファリャの国民楽派の作品を生み出した。北欧では，ノルウェーのグリーク，フィンランドのシベリウス，デンマークのスウェンデン・ニールセンらの作品に，程度の差はあれ，国民主義的傾向がみられる。イギリスでは，エルガーやボーン-ウィリアムズが19世紀までにはなかった真にイギリス的な作品を民族と結びついて形成した。同じようなことは，ルーマニアのエネスコ，ハンガリーのバルトークとコダーイにも指摘できるが，バルトークとコダーイ，あるいはブラジルのビラ-ロボス，メキシコのチャベスらは，直接的に現代音楽の語法に関連しているので，国民楽派に入れないこともある。なお，アメリカの場合は，黒人やインディアンの音楽にとどまらず，ジャズを使用したもの(たとえばガーシュイン)もこの楽派に含めることができる。

現代でも国民楽派の発想はある程度はのこっているが，最初の半世紀の間に急激に衰えた。その理由としては，民族音楽の研究が進むと同時に，現代音楽の語法が19世紀的な旋律やリズムの折衷を許さなくなったことがあげられよう。また，音楽作品の価値が民族性の有無と無関係であるという音楽観が強くなったことも，容易な国民楽派の形成を許さなくなったのである。しかし，国民楽派は多くの傑作を生み，音楽様式を多様化し，各民族に近代的な音響像を親しませた功績は大きい。〔徳丸吉彦〕

こくみんかくめい 【国民革命】 中国，第1次国共合作期(1924～1927)における反帝反封建革命。1924年1月，孫文は連ソ・連共・労農援助の三大政策に基づいて中国国民党を改組し，国共合作を断行した。同年6月の黄埔(こうほ)軍官学校設立など，北伐の準備は着々と進められた。孫文の死後，国民党の右派は広東(カントン)の国民政府を離れたが，1925年7月に北伐が開始された。労農運動，とりわけ農民運動の高揚のまえに，北伐軍は破竹の勢いで進撃し，数か月で揚子江流域にまで進出した。翌年1月，国民政府は武漢に移った。革命の急速かつ深刻な進展に恐怖した帝国主義と買弁資本家は，4月12日蔣介石(しょうかいせき)に上海(シャンハイ)クーデターを起こさせた。武漢の国民党左派・共産党は蔣介石に対抗したが，7月には左派も反革命に移行し，共産党と明確に分裂した。陳独秀の指導する共産党はこの状況に対処できず，国民革命は頓挫(とんざ)した。なお，その後蔣介石は国民党の指導権を握り，1928年6月北京(ペキン)を占領してその統一支配を確立した。〔狭間直樹〕

こくみんがっこう 【国民学校】 1938年(昭和13)に教育審議会が決定した〈国民学校ニ関スル要綱〉に従って，1941年国民学校令が公布され，同年4月から1947年に学校教育法が公布されるまで行なわれた小学校の名称。国民学校令第1条は〈国民学校ハ皇国ノ道ニ則(のっと)リテ普通教育ヲ施シ国民ノ基礎的錬成ヲ為(な)スヲ以テ目的トス〉と規定し，そこではやや合科的な教育課程の考え方を試み，心身を一体とした教育を行ない，学校を〈皇国民錬成の道場〉とするという方針がとられた。また，国民学校は初等科6年と高等科2年を修業年限とし，高等科の義務教育化を図ったが，実現はしなかった。〔赤司政雄〕

こくみんぎかい 【国民議会】 フランス革命初期の1789年6月，特権身分議員と対立して三部会から分離・独立した第三身分議員が，自分たちこそ国民を代表するものとして成立を宣言した議会。テニスコートの誓いを経て特権身分議員も合流し，7月，〈憲法制定国民議会〉と改称した。1791年の新憲法成立によって解散するまで，革命の指導機関となった。その後この名称は，プロイセン-フランス戦争後や第四・第五共和制の議会にも用いられた。〔大野真一郎〕

こくみんきゅうかむら 【国民休暇村】 産業構造の変化と人口の都市集中化がもたらす国民の精神的緊張を緩和することを目的とした，健康で低廉な保健休養施設。宿泊設備だけでなく，健全なスポーツ・娯楽施設などを併置している。わが国では，1956年(昭和31)に発足した。国民宿舎が評判よいところから，1961年厚生省が計画，裏磐梯(うらばんだい)・南房総・乗鞍(のりくら)・加太・友ケ島など全国に29か所を設置(1975年3月現在)，人気を集めている。〔広瀬卓爾〕

こくみんきょうどうとう 【国民協同党】 1947年(昭和22)，協同民主党(進歩派)と国民党(保守派)の合体で結成。資本主義の修正と協同主義をスローガンに，保守・革新の中道をめざしたが，同年の総選挙後，少数党に転落した。片山哲内閣には三木武夫(たけお)らが入閣。旧協同民主党系と旧国民系とは足並みそろわず，勢力を漸減して，1950年日本民主党と合同して国民民主党となった。

こくみんきんゆうこうこ 【国民金融公庫】 中小企業金融公庫・商工組合中央金庫と同じく中小企業相手の政府系金融機関。第2次世界大戦前の庶民金庫と恩給金庫を受け継いで，1949年(昭和24)政府全額出資で設立。銀行その他の一般金融機関から融資を受けることが困難な小口の事業に貸し付ける。普通貸し付けのほかに，恩給担保貸し付けや更生資金貸し付けなども行なう。

こくみんぐん 【国民軍】 フランス革命時代，ブルジョアジーによって設立された自衛軍。国民衛兵・ブルジョア衛兵ともいう。はじめは有産市民・地主層の出身者に限って編成され，反貴族・反民衆の立場をとってブルジョア革命を推進したが，革命の進展に伴って一般国民も組み込まれ，おもに治安維持にあたった。1871年のパリ-コンミューンでは中心になって活動し，コンミューンの崩壊に伴い解体した。

こくみんけんこうほけん 【国民健康保険】 健康保険法や国家公務員共済組合法などの適用を受けない一般国民のため，加入が義務づけられている健康保険制度。1958年(昭和33)制定の国民健康保険法に基づくもので，これにより国民皆保険制度が完成した。国民健康保険は現在市町村の事業として運営されることを原則とし，おもに農民・自営業者・無職者などの一般市町村民の疾病(しっぺい)・負傷・死亡・分娩(ぶんべん)の際の出費の増大を補うことを目的とする。市町村は必要な費用にあてるため，保険料または国民健康保険税を徴収する。事務費は主として国庫負担によりまかなわれるが，療養の給付に要する費用の一部は，その給付を受ける者に負担させることができる。その負担割合は通例世帯主の場合は3割，世帯員の場合は5割で，それ以下のところもある。制定以来，給付率などに関して随時改正されてきたが，財政悪化・赤字問題にたえず悩まされて，保健財政の健全化が強く要望されている。〔庭田範秋〕

こくみんこうかい 【国民公会】 フランス革命中の1792年9月から1795年10月まで存在した議会。1792年8月10日に立法議会が崩壊したのち，9月21日，普通選挙により成立。まず王政を廃止し，共和政を宣言した。はじめジロンド党の支配下にあったが，革命の急激な進展に伴って山岳党が台頭し，1793年1月ルイ16世の処刑を決定した。ジロンド党が経済危機や革命の危機に対処できずに没落したため，1793年5月～6月以降，山岳党が国民公会を掌握することになり，ジャコバン党独裁の時代が到来した。この間，公安委員会の主導のもとに，統制経済・集団徴兵・農業革命の諸法を採決して革命的政策を推進した。また，実施には至らなかったが社会民主主義的なモンタニャール憲法(1793年憲法)を制定する一方，嫌疑者(けんぎしゃ)法を可決して恐怖政治の一翼をになった。しかし，1794年7月，テルミドールの反動によってロベスピエール派が倒されると，国民公会はブルジョア中間派・ジロンド党・山岳党右派の支配するところ

となった。この時期にはジャコバン党体制の撤廃が進められた。1795年，革命的民主主義と独裁を防止する新憲法が制定されて総裁政府が成立したのに伴い，10月，解散を宣言した。〔大野慎一郎〕

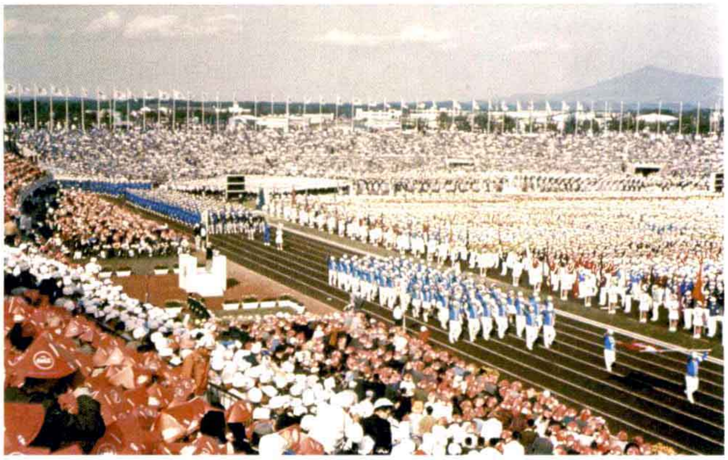
こくみんしゃ【国民車】 通産省自動車課のまとめた国民車育成要綱案，いわゆる国民車構想が1955年(昭和30) 5月に発表され，これを目標としてつくられた自動車。この国民車構想は，①最高速度100km/時以上，乗車定員4人，燃料消費率30km/l 以上，②月産2,000台の場合で販売価格は25万円以下でなければならない，したがって，エンジンは総排気量350～500ccを適当とする，③通産大臣はこの条件を示し，自動車会社に試作をすることを奨励する，通産省は，これらの試作車をテストしたうえ量産化するにふさわしい1車種を選定し育成する，というものであった。この発表は自動車業界に大きな波紋を投げ，1960年4月三菱(みつびし)500，同年5月スバル450，1961年6月トヨタパブリカがそれぞれ発表された。当時の1人あたり国民所得が16万3,500円であったのに対し，各社の国民車は40万円弱の値段であったため，まだ庶民には手の届かないものであったが，乗用車普及への足がかりとなった。一方，ドイツにおいてもオーストリアの技師ポルシェに国民車の設計製作を命じた。その諸元は最高速度100km/時，4～5人乗り，燃料消費率14km/l，最終価格1,000マルク，エンジンの冷却方式は空冷というものであった。1938年この構想のもとに空冷4気筒1,200cc，最高速度112km/時のフォルクスワーゲン1号車が完成した。〔成田武男〕

こくみんじゆうとう【国民自由党】 1867年，プロイセンの進歩党右派を中心に結成されたドイツの政党。ブルジョアジーを地盤とし自由主義的政策を掲げながらも，ビスマルク*のドイツ統一を支持。ドイツ帝国の成立後もビスマルクの与党として第1党を占めたが，ビスマルクが保護関税政策を採用したことから，1879年，左派が分離し，党勢はしだいに退潮した。しかし議会では，保守党とともに与党的立場をとりつづけた。1918年のドイツ革命*によって党は左派・右派・中央派の3派に分解し，そのうち中央派がシュトレーゼマン*のもとに人民党を結成した。〔松　俊夫〕

こくみんしゅくしゃ【国民宿舎】 地方自治体が厚生年金保険*・国民健康保険*の積立金の還元融資で，観光地につくった簡易宿泊施設。本来は，厚生年金の被保険者とその家族を対象とした保養施設だが一般にも公開されている。1956年(昭和31)発足。

こくみんしょとく【国民所得】 ⇨次ページ

こくみんしんさ【国民審査】 国民が一定の公務員や立法を直接に審査する直接民主主義的な制度。わが国では憲法79条で最高裁判所の裁判官にこの制度が定められており，任命後最初の衆議院議員の総選挙の際に行なわれ，その後10年ごとにくり返される。従来はリコール(国民罷免)本来の機能を果たしていないが，最高裁判所の裁判官の人事が内閣により決定されることから両者が同質化し，違憲立法審査権*が有効な機能を果たさなくなることを批判する重要な役割をもっている。〔大須賀明〕



国民体育大会
昭和45年度第25回岩手大会の入場式

こくみんしんぶん【国民新聞】 1890年(明治23) 2月，徳富蘇峰*(そほう)（猪一郎(いいちろう)）が創刊した日刊新聞。明治後期以後における有力新聞の一つで，大新聞と小新聞の中間をめざして編集され，蘇峰は創刊から1926年(大正15) 3月まで社長として名実ともに同紙を主宰した。関東大震災の打撃で衰微に向かい，1942年(昭和17)10月《都新聞》と合併，現在の《東京新聞》となった。

こくみんせいしんさっこうしょうしょ【国民精神作興詔書】 1923年(大正12)発布された詔書。直接には同年の関東大震災の人心不安を機縁に，国民精神の振起を意図した。綱紀粛正・質実剛健・忠孝義勇・博愛共存により，国家興隆と民族の安寧，社会福祉を図る旨を内容とした。

こくみんせいとう【国民政党】 名目的には国民すべてが同一の利益をめざすという前提に立ち，国民各層に広くその支持を求める政党。階級政党*と対比される。実質的にはどの政党も特定の階級的基盤をもち，その利益を表現しようとするかぎりで階級政党と考えられる。ただ，議会制度のもとではいかなる政党も，国民全体のより広い層からの支持を必要とするため，国民的利益の代表たらんことを標榜(ひょうぼう)する。特に社会民主主義政党が共産党と対立する意味でも用いる。〔溝口　潔〕

こくみんせいふ【国民政府】 1927年，中国南京(ナンキン)にできた蔣介石*(しょうかいせき)を首班とする政府。国民党の指導のもとに，孫文*のいう憲政期実現まで，革命の推進にあたった。正式の名称は，中華民国国民政府。ふつう3期に分けて考えられている。第1期：1925年7月1日はじめて広東(カントン)に樹立され，それまで広東に勢力を限定されていたのが，北伐*の進展とともに勢力を拡大していく軍政期。第2期：1928年2月，蔣介石の反共クーデター，国民党左派と共産党との分裂などを経て，南京で国民政府を再編・樹立し，抗日戦争中は重慶に本拠地を移し，第2次世界大戦の終結とともに南京にもどり，1949年2月共産党が南京を攻略して，台湾へのがれるまで。第3期：台湾の台北を本拠地として現在に至るまで。中国全土を統一した国民政府は1928年5月政府機関を整備し，行政・立法・司法・考試・監察の5院を設け，内政・外交・軍政・財政などの10部門を置いた。孫文の建国方略に従い，北伐の完了によって事実上軍政期は終わったが，国民に政権行使の能力がないという理由から，政権は国民党が，治権は国民政府が担当し，議会は開かれず，国民党大会が議会に代わって決定権を行使し，国民党の独裁が行なわれた。共産党と分離し，軍閥や帝国主義と妥協していったため，革命的性格は薄れ，内紛が絶えず，腐敗が進行して，国民の支持を失った。現在の台湾の国民政府は蔣介石直系の何応欽*(かおうきん)・陳誠らの軍人と高級官僚が中心をなしており，たよりとするところは，膨大な軍隊とアメリカの援助である。〔衣川　強〕

こくみんそうせいさん【国民総生産】 国民所得*概念の一つで，粗国民所得，GNP (gross national productの略称)の名でよばれている。1国における一定期間内に生産された最終的な消費財と最終的な資本財(在庫増加，機械設備の拡大)の総計額で，市場価格で評価される。国民総生産から生産に使用された建物や設備の減価償却分を差し引いたものを国民純生産(NNP：net national product)という。一般に国民総生産は国民純生産に比して算定しやすいので，経済指標として最もよく利用される。
➔国民所得〔富田重夫〕

こくみんたいいくたいかい【国民体育大会】 略称国体。スポーツの振興・普及・発展とアマチュアリズム*の高揚を目的とし，
➔540ページ

国民所得

一国で1年間に新たに生産されたものの総額。厳密には，その国の人々が労働や土地・資本などの生産要素を使って，1年間に生産する財貨およびサービスの流れの総計を貨幣で表わしたものである。国民所得の概念は，実際的にはかなり多義的に用いられている。第1は，われわれがしばしば新聞紙上でみかける国民総生産*(GNP，gross national product)という意味に使われる場合である。GNPとはその年に新たに生産された財貨・サービスの総額から，その生産のために必要とした原材料費の総額を差し引いたものである。第2に，国民所得といった場合，国民純生産*(NNP，net national product)という意味に使われる場合がある。これは，国民総生産から減価償却費(その生産に使用された建物・機械などの消耗額)を差し引いたものである。さらに，第3の意味での国民所得は，要素費用および利潤の合計としての国民所得とよばれるもので，NNPからさらに間接税*を差し引いたものである。これが狭義の意味での国民所得である。

国民所得という概念は，経済の総合的な把握(はあく)をめざす巨視的理論(→巨視的分析)の中で最も中心的な概念である。この国民所得をはじめ，巨視的理論で用いられる諸概念，たとえば，消費・貯蓄・投資・所得といったものは，個別的な家計や企業を経済主体としてその行動原理に基づいて組み立てられる微視的理論のそれとは大いに性格をことにしている。巨視的理論においては，消費にしても，人々がそれぞれの目的で消費した消費の合計とか，所得にしても各人の所得の合計とかいったような，社会全体に関する統計的・確率的な集計概念といった性格をもっている。このことは国民所得を知る上でだいじなことである。

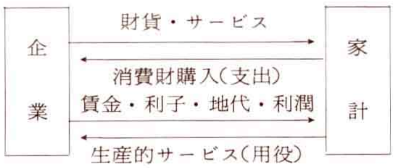


図-1

〔経済の循環と国民所得の測定方法〕いま，問題を簡単化するために，政府もなく，貿易もなく，さらに純投資や純貯蓄もない経済を考える。図-1において，経済活動の指標である国民所得は，測定される二つの方法をもつ。その第1は，生産物の流れに注目することによる方法である。各年ごとに家計は，財やサービス(人間の用役)を消費する。それに対して企業は，これらの消費財・サービスと交換に貨幣を支払う。このような単純な経済においては，これらの消費のために使われた金額を合計することによって国民所得を求めることができる。そして，図-1の上の部分を，生産の面からみて測定した場合の国民所得を特に生産国民所得といい，家計の支払いという面からみて測定された場合を支出国民所得という。これは同じものを両側面からみたものであるから当然等しいはずである。国民所得測定の第2の方法は，生産要素費用(賃金*・利子*・地代*)および利潤*に注目することによる方法である。図-1の下の部分をみればわかるように，企業は家計に，賃金・利子・地代および利潤を支払っている。この賃金・利子・地代・利潤の総計すなわち労働*・資本*・土地*という生産要素の費用と調整項目である利潤の総計を求めることによって国民所得を測定することができる。そしてこのような側面から，いかなる生産要素に，どのくらいの分けまえがあるかというふうに国民所得をみた場合，それを特に，分配国民所得*とよんでいる。ここで注意を喚起しておかなければならないことは，利潤という項目である。これは図-1の下半部の生産要素費用および利潤による方法が上半部の財貨・サービスの流れによる方法とちょうど等しい大きさをもたらすのに必要な差額として定義されていることである。利潤をこのように定義すれば，必然的に生産国民所得＝支出国民所得＝分配国民所得となるのは明らかであろう。これを所得の三面等価の原則という。

次に，国民所得の実際の測定にあたって注意を要するのは，二重計算の回避ということである。このことを，一つの例をもって説明してみよう。いま，消費者に45円で売られるパンがあるとする。そしてこのパンが消費者の手もとに届くまでには，原料の小麦は農民が製粉業者に5円で納入し，製粉業者は小麦粉をパン製造業者に15円で売り，パン製造業者は小売店に25円で売っている過程があったものとしよう。そしてこの過程が1年間で完了するものとする。国民所得計算をする際に，もし計算者が小麦の価格からパンの価格まで全部計算に入れたら，5＋15＋25＋45＝90となって，実はその年に生産されたほんとうの価値より

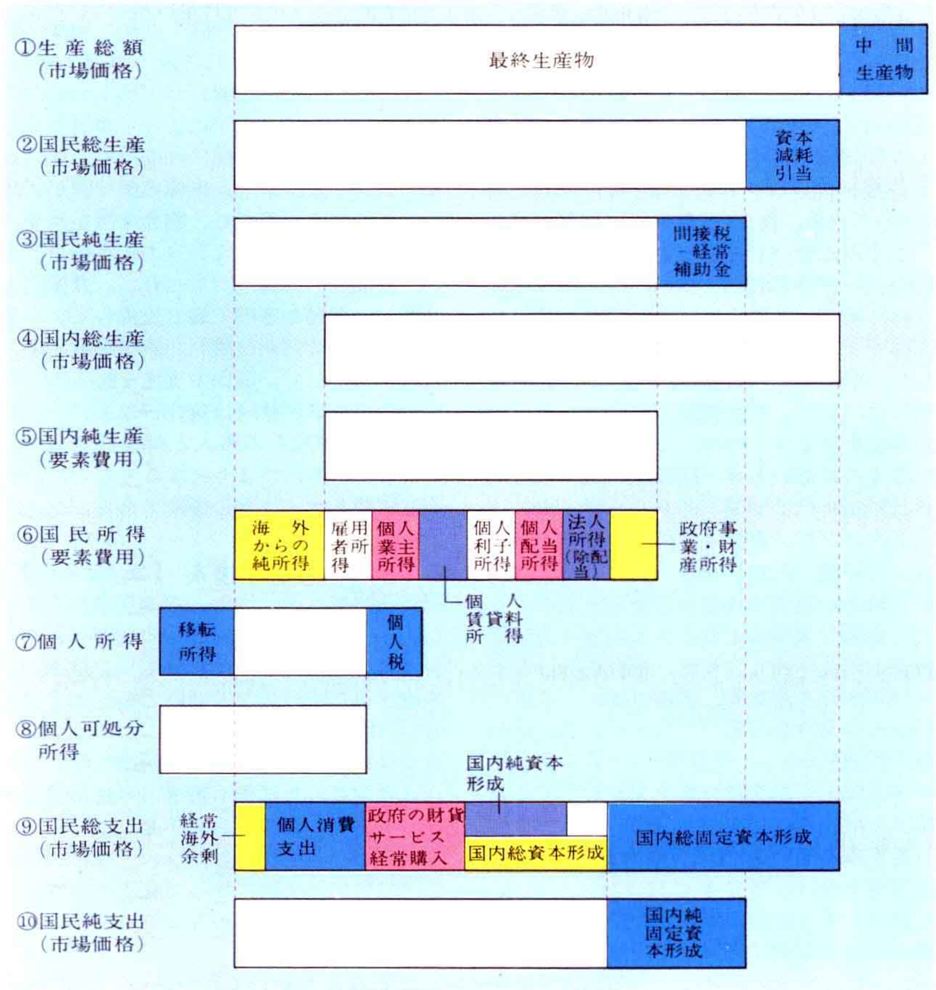


図-2　国民所得統計の構成

はるかに大きくなってしまう。なぜならば，生産したほんとうの価値とはそれぞれの人が生み出した価値の合計と考えなければならない。それぞれの業者が生み出す価値を付加価値*という。したがって，付加価値の合計として国民所得を考えなければならない。この例では，農民は5円で製粉業者に小麦を売ったのであるから農民の生み出した価値は5円である。製粉業者は5円で小麦を買い，15円でパン製造業者に売ったのであるから，15－5＝10で10円の価値を生み出したことになる。同様にしてパン製造業者は，10円の価値を生み出し，小売り商人は20円の価値を生み出したことになるから，付加価値の合計は5＋10＋10＋20＝45(円)となり，それはとりもなおさず消費者に売られた値段にほかならない。

ある年の間に企業から消費者に売られた

表-1　国民総生産と総支出勘定

（単位　10億円）

項目＼年度	1966	1967	1968	1969	対前年度増加率(%) 1966	1967	1968	1969	構成比(%) 1966	1967	1968	1969
国民所得（要素費用表示の国民純生産）	30 326.4	35 913.9	42 467.0	49 319.3	16.7	18.4	18.2	16.1	79.6	80.2	80.4	79.0
資本減耗引き当て	4 959.9	5 844.3	6 952.5	8 479.9	18.2	17.8	19.0	22.0	13.0	13.0	13.2	13.6
間接税	2 825.4	3 356.1	4 015.1	4 739.3	13.2	18.8	19.6	18.0	7.4	7.5	7.6	7.6
（控除）経費補助金	327.8	415.3	467.2	634.1	56.3	26.7	12.5	35.7	−0.9	−0.9	−0.9	−1.0
統計上の不突合	333.9	102.5	− 179.2	528.9	74.4	−69.3	−274.8	−395.1	0.9	0.2	−0.3	0.8
市場価格表示の国民総生産	38 117.9	44 801.5	52 788.2	62 433.3	16.7	17.5	17.8	18.3	100.0	100.0	100.0	100.0
個人消費支出	20 948.2	23 892.6	27 440.0	31 690.6	13.4	14.1	14.8	15.5	55.0	53.3	52.0	50.8
政府の財貨サービス経常購入	3 413.5	3 862.3	4 394.3	5 126.3	12.4	13.1	13.8	16.7	9.0	8.6	8.3	8.2
国内総固定資本形成	11 997.1	14 860.7	17 939.1	22 251.1	21.0	23.9	20.7	24.0	31.5	33.2	34.0	35.6
在庫品増加	1 343.6	2 235.4	2 423.2	2 556.8	64.6	66.4	8.4	5.5	3.5	5.0	4.6	4.1
輸出と海外からの所得	4 246.6	4 619.9	5 812.4	7 179.0	15.3	8.8	25.8	23.5	11.1	10.3	11.0	11.5
（控除）輸入と海外への所得	3 831.1	4 669.4	5 220.9	6 370.5	17.1	21.9	11.8	22.0	10.1	10.4	9.9	10.2
市場価格表示の国民総支出	38 117.9	44 801.5	52 788.2	62 433.3	16.7	17.5	17.8	18.3	100.0	100.0	100.0	100.0

表-2　国民所得分配勘定

（単位　10億円）

項目＼年度	1966	1967	1968	1969	対前年度増加率(%) 1966	1967	1968	1969	構成比(%) 1966	1967	1968	1969
雇用者所得	16 921.8	19 625.6	22 836.9	26 993.4	15.1	16.0	16.4	18.2	55.8	54.6	53.8	54.7
個人業主所得	6 823.4	8 124.0	9 445.5	10 342.3	12.6	19.1	16.3	9.5	22.5	22.6	22.2	21.0
個人の財産所得	3 422.9	3 922.7	4 534.2	5 302.0	15.0	14.6	15.6	16.9	11.3	10.9	10.7	10.8
法人企業から個人への移転	48.2	62.2	69.7	92.7	8.5	29.2	12.0	33.0	0.2	0.2	0.2	0.2
法人税および税外負担	1 363.6	1 763.6	2 145.7	2 691.5	11.3	29.3	21.7	25.4	4.5	4.9	5.1	5.5
法人留保	1 718.3	2 413.9	3 522.1	3 888.5	76.7	40.5	45.9	10.4	5.7	6.7	8.3	7.9
政府の事業所得および財産所得	297.1	362.1	396.9	600.2	49.9	21.9	9.6	51.2	1.0	1.0	0.9	1.2
（控除）一般政府負債利子	163.8	225.9	320.0	388.5	48.6	37.9	41.7	21.4	0.5	0.6	0.8	0.8
（控除）消費者負債利子	105.1	134.4	163.9	202.8	21.0	27.9	21.9	23.7	0.3	0.4	0.4	0.4
要素費用表示の国民所得	30 326.4	35 913.9	42 467.0	49 319.3	16.7	18.4	18.2	16.1	100.0	100.0	100.0	100.0
国民所得（要素費用表示の国民純生産）	30 326.4	35 913.9	42 467.0	49 319.3	16.7	18.4	18.2	16.1	100.0	100.0	100.0	100.0
要素費用表示の国民所得	30 326.4	35 913.9	42 467.0	49 319.3	16.7	18.4	18.2	16.1	100.0	100.0	100.0	100.0
法人所得	3 603.7	4 755.3	6334.9	7 355.2	34.0	32.0	33.2	16.1	11.9	13.2	14.9	14.9

表-3　個人勘定

（単位　10億円）

項目＼年度	1966	1967	1968	1969	対前年度増加率(%) 1966	1967	1968	1969	構成比(%) 1966	1967	1968	1969
個人消費支出	20 948.2	23 892.6	27 440.0	31 690.6	13.4	14.1	14.8	15.5	72.7	71.2	70.3	70.2
個人税および税外負担	1 500.2	1 742.7	2 137.2	2 596.8	11.5	16.2	22.6	21.5	5.2	5.2	5.5	5.8
社会保険に対する負担	1 359.7	1 609.6	1 868.7	2 224.2	19.1	18.4	16.1	19.0	4.7	4.8	4.8	4.9
個人から政府へのその他の移転	437.0	496.2	584.1	636.7	11.8	13.5	17.7	9.0	1.5	1.5	1.5	1.4
個人から海外への移転	30.1	34.1	36.1	39.7	49.8	13.2	5.9	10.0	0.1	0.1	0.1	0.1
個人貯蓄	4 546.3	5 803.6	6 961.5	7 959.6	19.9	27.7	20.0	14.3	15.8	17.3	17.8	17.6
個人所得の処分	28 821.5	33 578.8	39 027.8	45 147.7	14.6	16.5	16.2	15.7	100.0	100.0	100.0	100.0
雇用者所得	16 921.8	19 625.6	22 836.9	26 993.4	15.1	16.0	16.4	18.2	58.7	58.4	58.5	59.8
個人業主所得	6 823.4	8 124.0	9 445.5	10 342.3	12.6	19.1	16.3	9.5	23.7	24.2	24.2	22.9
個人の財産所得	3 422.9	3 922.7	4 534.2	5 302.0	15.0	14.6	15.6	16.9	11.9	11.7	11.6	11.7
法人企業から個人への移転	48.2	62.2	69.7	92.7	8.5	29.2	12.0	33.0	0.2	0.2	0.2	0.2
（控除）消費者負債利子	105.1	134.4	163.9	202.8	21.0	27.9	21.9	23.7	0.4	0.4	0.4	0.4
政府から個人への移転	1 686.5	1 953.7	2 279.5	2 590.6	16.6	15.8	16.7	13.7	5.9	5.8	5.8	5.7
海外から個人への移転	23.8	24.9	25.9	29.4	10.4	4.8	3.9	13.5	0.1	0.1	0.1	0.1
個人所得	28 821.5	33 578.8	39 027.8	45 147.7	14.6	16.5	16.2	15.7	100.0	100.0	100.0	100.0
個人可処分所得	25 494.5	29 696.2	34 401.6	39 650.2	14.5	16.5	15.8	15.3	88.5	88.4	88.1	87.8

経済企画庁《国民所得統計年報》(1971年版)

か，あるいはその年の終わりに企業の手もとに残っている生産物(これは投資を意味するのでここでは考慮に入れない)を最終生産物といい，１年間に企業から企業へと売り渡される産物は中間生産物というが，この用語を用いれば国民所得とは，中間生産物を計算に入れず，最終生産物の合計であるということができる。前の説明からもわかるように，それはまたその年の付加価値の合計でもある。

さていままでは，国民所得の測定のしかたについて，問題を簡単化するために，政府もなく，貿易もなく，さらに投資や貯蓄もない経済を考えてきたが，これからその限定を一つずつはずして考えていってみよう。まず投資について述べよう。いままでは，人々が消費だけをする場合を考えてきたが，現実の社会では人々はしばしばその所得の一部分を純貯蓄，あるいは純投資にあてようとする。したがって社会全体の需要の中には，消費だけでなく投資も含まれていなければならない。このように考えると国民所得(Ｙ)は消費(Ｃ)＋投資(Ｉ)ということができる。

次に考えなければならないことは，政府の存在である。これまで，個々人の消費の集合として消費というものを考えてきたが，消費には，政府の消費が含まれることを忘れてはならない。したがって，国民所得に，公務員に支払う賃金とか，民間からの財貨・サービスの購入を計上しなければならない。これを政府の財貨・サービスの購入といい，これをＧで示すと，国民所得(Ｙ)は，消費(Ｃ)＋投資(Ｉ)＋政府の財貨・サービスの購入(Ｇ)で表わせることになる。

ここで問題となるのは，移転支払いといわれるものと租税についてである。移転支払いとは，いわゆる所得再分配とよばれる経済活動で，所得が個人と個人の間，あるいは企業および政府と個人間で移転することである。たとえば個人間の贈与や遺産，企業の懸賞金，あるいは政府の福祉年金などがそうである。そして政府の移転支払いは，それが財貨およびサービスに対する政府支出でないから国民所得には含めない。

次に租税の取り扱いであるが，ＮＮＰをＣ＋Ｉ＋Ｇとして計算する生産物の流れによる方法を採用するにあたっては，租税について別に注意する必要はない。しかし，例の経済循環の図の下半部の生産要素の費用および利潤によりNNPを得ようとする場合には租税を考慮に入れなければならない。租税のうち直接税は賃金・利子・地代・利潤のうちに含まれているが，間接税は含まれていないからである。

さらに国民所得を考える場合に貿易を考慮に入れなければならない。貿易を考慮に入れた場合国民所得に計上されるのは，〔輸出と海外からの所得(X)〕－〔輸入と海外への所得(Ｅ)〕で，この差額を純輸出とよべば，国民所得(Ｙ)は，消費(Ｃ)＋投資(Ｉ)＋政府の財貨・サービス購入(Ｇ)＋純輸出(Ｘ－Ｅ)で示される。これが最終的な意味での国民所得である。

なお，国民所得に関連して個人所得および可処分所得*という概念がある。個人所得とはNNPから法人純貯蓄(社内留保)を引き，政府の移転支払いを加えたものである。また可処分所得とは，個人や家族の手もとに実際にはいって思うままに処分できる所得で，ＮＮＰからすべての租税と法人純貯蓄を引き，そのうえに政府の移転支払いを加えたものである。そして，これは支出の際に消費と貯蓄に分かれる。消費関数*における所得はこれをさしている。

以上に定義したような国民所得に関する諸概念を日本の国民所得統計によって具体的に把握するために，前ページの諸表が参照されよう。

最初に述べたように，国民所得の水準は一国経済全体の活動水準を示す重要な指標であり，したがってこの国民所得の水準がどのようなメカニズムにしたがって決定されるかを明らかにすることが経済学の一つの大きな課題になる。これはいわゆるマクロ経済学(国民所得分析)の中心問題を構成する。ケインズの《雇用・利子および貨幣の一般理論》における有効需要の原理*はまさにこの問題に対する解答であり，今日においてもその基本的原理は経済学の共通財産ともなっている。またこの所得水準決定の理論は，ひいては高いあるいは低い活動水準に応ずるインフレーションあるいはデフレーションがどうして生ずるかを明らかにすることになり，したがってまたそれに対する具体的な経済政策の提示を可能にしたのである。さらにこの理論を基礎にして，国民所得水準が時間を通じて変動する現象，すなわち景気変動*に関する理論やこの水準の趨勢(すうせい)的増大を意味する経済成長に関する理論が，ケインズ理論の動学化として発展してきたのである。　〔富田重夫〕

あわせて国民生活を明るくするために開かれる，わが国で最も大規模な総合競技大会。日本体育協会*・文部省・開催都道府県の共催。大会の前身である明治神宮大会は，明治神宮の造営にあたって，外苑(がいえん)に陸上競技場その他の施設がつくられたのを記念して1925年(大正14)に創設され，第２次世界大戦まで毎年開かれた。当時，11月３日(明治天皇誕生日)が体育デーとされ，地方予選を勝ち抜いてきた選手が晴れの舞台でわざを競って，わが国のスポーツの向上・普及に大きな役割を果たした。国体は，第２次世界大戦後これを引き継ぎ，発展させたものであるが，神宮大会の神事奉仕的な性格と国の富国強兵策に沿った運営をやめ，民主的な文化活動として再発足させたところに大きな相違がある。第１回大会は，1946年(昭和21)，京都を中心に西宮(にしのみや)・大阪・橿原(かしはら)で5,377人の選手が食糧を持参して開かれた。その後，水泳競技を中心とした夏季大会，スキー・スケートを中心とした冬季大会，その他のスポーツを総合した秋季大会に分かれ，毎年開催地を変えて開かれており，1970年の長崎国体を終えた段階で25回を数えている。地方自治体の財政負担が年々増加するため，何度か開催があやぶまれながら，地方開催の原則が貫かれてきた。第１回・第７回・第８回大会が広域にまたがって開かれたので，すでに都道府県の過半数が国体を開いたことになる。表彰制度には数度の変更があったが，第３回大会から採用された都道府県対抗の形式はそのまま続けられ，男女総合優勝には天皇杯，女子総合優勝には皇后杯が贈られている。

国体がスポーツ復興のきっかけをつくり，今日の隆盛をみる原動力となってきたことや，特に地方スポーツの振興に大きな力となってきたことは事実であるが，同時に，回を重ねるにつれて，開催地の決定方法，開催規模の拡充，開催地選手団の強化のために転々と所属を変えるジプシー選手の出現など，アマチュア-スポーツの健全な育成と教育への悪影響について批判されている。　〔伊東春雄〕

こくみんとうひょう【国民投票】　直接民主制*の一制度。レファレンダム，人民投票ともいい，議員その他公務員の選挙以外の事がらについて国民全体が行なう投票。スイス・アメリカのそれが著名。特にアメリカでは立法機関ないし代表民主制一般への強い批判に発したものである。領土変更，指導者の決定などの場合は特にプレビシットという。日本国憲法においては，憲法改正についての国民投票，最高裁判所裁判官に対する国民審査*，また公選の地方公共団体の首長に対するリコール*(国民罷免)，条例改廃請求権，不当な地方行政に対する請求権など直接民主制を規定している(直接請求*)。直接民主制は国民に積極的な国政参加の機会と，政治的自覚を促す意味からも重要である。　〔溝口　潔〕

こくみんどうめい【国民同盟】　1932年(昭和７)に結成されたファッショ的政党。経済恐慌・満州事変などの緊迫する政局にあたり，第２次若槻(わかつき)礼次郎内閣の協調外交・緊縮政策を否定した。ファッショ強化をねらう立憲民政党の安達(あだち)謙蔵内相が，同内閣の退陣を意図，総辞職後脱党

し，軍部と結んで結成した。1938年中野正剛は東方会*を結成し分裂，1940年解党し，大政翼賛会*へ吸収された。

こくみんねんきん【国民年金】 自営業者・農民・零細企業従業員などの，他の公的年金制度の適用を受けない国民一般に対し，老齢・廃疾・死亡の事故について給付を行ない，生活の安定を図ることを目的とする制度。1959年(昭和34)11月制定の国民年金法に基づくもので，保険料の負担を伴う醵出制(きょしゅつせい)年金を基本とし，醵出制年金を受けられない者に対しては，保険料の負担を必要としない無醵出制の福祉年金の制度が設けられている。両者とも政府が管掌する。醵出制年金には老齢年金・通算老齢年金・母子年金・準母子年金・遺児年金・寡婦年金・障害年金・死亡一時金の8種がある。日本国内に住居を有する20歳以上60歳未満の国民で，他の公的年金制度の適用を受けていない者がこれにはいり，さらに厚生年金保険や船員保険などの被用者年金制度の加入者の配偶者，学生などは任意に加入できる。保険料は定額保険料が月450円，ほかに1970年10月に設けられた任意加入の所得比例制の所得比例保険料が月350円である。生活扶助受給者など保険料負担能力のない者は免除される。毎年度保険料収入総額の2分の1相当，ならびに事務費全額を国庫が負担する。無醵出制年金には，老齢福祉年金・障害福祉年金・母子福祉年金・準母子福祉年金の4種があり，全額国庫負担で支給される。ただし，一定の所得以下であるなど，受給資格に各種の制限がある(1972年4月現在)。〔庭田範秋〕

こくみんのしゅくじつ【国民の祝日】 国民がこぞって祝い，感謝し，または記念する日として法律で定めた祝日。第2次世界大戦前も法律で祝祭日が定められていたが，戦後日本の民主化に伴い，祝日も国民を中心にして制定されることになった。1948年(昭和23)7月20日〈国民の祝日に関する法律〉が公布され，旧祝祭日が廃されて次の祝日が定められた。元旦*(1月1日)・成人の日*(1月15日)・春分の日*(春分*)・天皇誕生日*(4月29日)・憲法記念日(5月3日)・こどもの日*(5月5日)・秋分の日*(秋分*)・文化の日*(11月3日)・勤労感謝の日*(11月23日)。その後1966年の改正で新たに建国記念日*(2月11日)・敬老の日*(9月15日)・体育の日*(10月10日)が加えられ，現在に至っている。〔高崎徳次〕

こくみんのとも【国民之友】 1887年(明治20)2月，徳富猪一郎(いいちろう)(蘇峰(そほう))の民友社*から発行された月刊総合雑誌。アメリカの雑誌《ネーション》に範をとり，政治・経済・文学に関して平民主義を標榜(ひょうぼう)，国粋主義を代表する《日本人*》に対抗した。1898年9月からは《国民新聞*》に統合されたが，大正時代に開花する総合雑誌時代の先駆をなした。

こくみんびょう【国民病】 その国で非常に罹患(りかん)の多い疾患，あるいは他国と比較して発生の多い疾患をいい，一定の定義をもった名称ではない。日本ではかつて結核・寄生虫症・トラコーマがそれであった。結核は1950年(昭和25)まで死因順位の首位を占め，亡国病とまでいわれていたこと，寄生虫は人肥を使う農業方法に由来して虫卵保有率が著しく高く，これによる障害が続出して他国に類をみられなかったこと，さらにトラコーマに関しては特に住生活に関連してその蔓延度(まんえんど)が著しかったことが理由であろう。また，近視・むし歯・性病を加えて考える人もあった。現在では結核・寄生虫・トラコーマは減少し，これに代わって西欧と同じく成人病に属する疾患が国民病となりつつある。イギリスでは，過去にスモッグによって紫外線量が不足することに起因するくる病*がイギリス病と称され，北欧においても同じように，くる病が国民病と考えられた。〔金子義徳〕

こくみんぶんがく【国民文学】 文芸用語。一つには，第2次世界大戦下，《日本浪曼派*》の復古運動がしだいに国粋的になる中で，浅野晃(あきら)・保田(やすだ)与重郎*・亀井(かめい)勝一郎*・林房雄*(ふさお)らが提唱した運動をいう。これとは別に，第2次世界大戦後1951年(昭和26)ごろから，サンフランシスコ講和条約*の調印を通して，日本の植民地化という危機意識が自覚され，明治以来の日本文学の反省と真に国民のための文学創造が求められ，竹内好*(よしみ)の《亡国の歌》などを皮切りに，1952年には小田切秀雄*(ひでお)・野間宏*(ひろし)・杉浦明平*(すぎうらみんぺい)らの参加による国民文学論争が起こった。この問題は今日までも引き続いているが，その中で，明治の二葉亭(ふたばてい)四迷*から北村透谷*・石川啄木*(たくぼく)に至る文学のうちに国民文学の端緒をみようと主張されてもいる。〔金子 博〕

こくむだいじん【国務大臣】 内閣総理大臣とともに内閣*を構成するメンバー。人数は18名以内と定められている(内閣法2条1項)。内閣総理大臣により任命され，その過半数は国会議員の中から選任され，天皇の認証を受けるが，その内閣の存続中でも内閣総理大臣により罷免されることがある。国務大臣という語は，次の三つの異なった意味に使用される場合があり，その用語は統一されていない。①内閣総理大臣を含む内閣の構成員の全員をさす場合，②内閣総理大臣を除く，その他の内閣の構成員をさす場合，③行政官庁の長の任務にあたらない，いわゆる無任所大臣をさす場合がある。ただし実際には，国務大臣は，その大部分が内閣総理大臣の命により行政機構の各省の主任の大臣となり，それぞれ所管の行政事務を分担管理する。その場合に，通称〈省名大臣〉，たとえば，大蔵省担当の国務大臣は〈大蔵大臣〉という。〔永井憲一〕

こくめんのしょう【国免荘】 律令(りつりょう)時代，官省符荘*に対して，国司の免判のみによって不輸権を得た荘園*。官省符荘では官省符に記載された田地についてのみ不輸権を認められていたが，新開田は国司の徴税の対象とされ，国司の免判を得なければ不輸の地とはならなかった。この国司の権限が拡大されて，官省符を得ずに国司の免判だけで不輸権が成立する荘園ができた。これを国免荘といった。➔不輸・不入

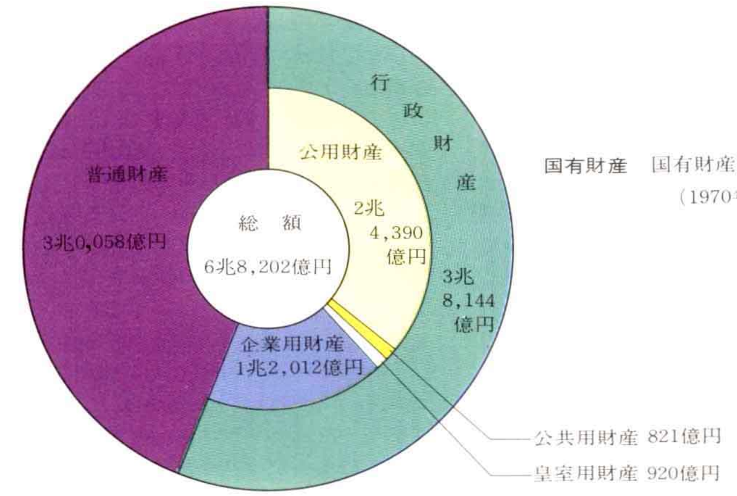
こくもつ【穀物】 穀類を生成するイネ科の作物をいう。イネ・ムギ類(オオムギ・コムギ・エンバク・ライムギなど)・アワ・キビ・トウモロコシなどの作物である。タデ科ではあるがソバを加えることもあり，豆類(ダイズ・アズキ・エンドウなど)を含むこともあるが，この場合は穀菽(こくしゅく)類というほうが正しい。

こくもつかいがん【穀物海岸】 ⇨胡椒(こしょう)海岸

こくもつかんそうき【穀物乾燥機】 収穫した多水分の穀物を貯蔵可能な程度に乾燥するために使う機械。自然通風式と強制通風式・加熱式・常温式などの形式があるが，今日では加熱強制通風式が多い。近年イネの収穫期は早期化し，自然乾燥によると，残暑の強い条件では胴割れ米その他品質不良の米が出やすい。また地域によっては雨のため自然乾燥できない所もある。さらに，コンバイン収穫による多量の生もみ処理など，天日乾燥だけにたよることには無理が多くなった。そこで，農作業の機械化の進展と同時に乾燥機の必要性も増大してきた。今日では容量500～600 l の小形のものから，容量1,800l以上の大形のものなど，構造も簡易なものから自動制御式の高級なものまで，多種多様なものが市販されている。〔田原虎次〕

こくもつほう【穀物法】 穀物特に小麦の輸出入に規制を加えたイギリスの法律。14世紀後半以来くり返して発布されたが，1815年のものが特に有名。これは，ナポレオン戦争終結後のイギリス経済の不況から地主・農業資本家を保護するため，一定価格以下の穀物の輸入を禁止したもので，1828年には小麦価格の変動に応じて関税を増減する法が制定された。これらの法は穀物価格の騰貴を招いたため，都市住民や工場労働者，商工業者の反対を受け，1839年に，コブデン*・ブライト*が中心となって反穀物法同盟を組織し，世論を高めた。地主勢力はこれに抵抗したが，自由党が議会で反対運動を推し進めたため，1846年保守党のピール内閣のときに廃止された。これによりイギリスは自由貿易へ進んでいった。〔松下京子〕

こくもり【石盛】 斗代ともいう。太閤(たいこう)検地*以降年貢高(ねんぐだか)を定めるため用いられた方法で，反あたり収穫率の



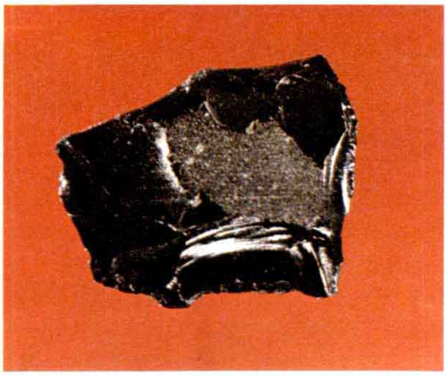
国有財産　国有財産の分類別現在額（1970年3月31日現在）

こと。検地で公定された屋敷・田畑はその品質により，上田・中田・下田・下々田の4等級に分けられ，それぞれの平均収穫量は，上田の数か所を坪刈することによって算定された。もし反あたり1石5斗であればその上田の石盛は15で，中田以下1等級下がるごとに2を差し引いた。つまり上田が15ならば中田は13，下田は11，下々田は9とする。しかし，一般には坪刈を行なわず，地味の相違その他の事情を考慮して検地奉行(ぶぎょう)が定めた。畑の場合は上畑を下田なみとした。土地の標準生産額を定めるには，等級別に田畑の総反数を出し，そのそれぞれに石盛を乗じた総合計から石高を算出した。石高に租率を乗じると年貢額となった。〔高崎徳次〕

ごくもん【獄門】江戸時代の刑名。死刑の一。牢(ろう)内で首打ち役が犯罪者の首を打ち落とし，小塚原(こづかっぱら)または鈴ケ森の刑場で切り首を獄門台に載せてさらす。さらし日数は原則として3日2夜，のち取り捨てる。追いはぎ，主人の妻と密通した男，毒薬売り，関所をよけて山越えした者，贋秤(にせはかり)・贋枡(にせます)の製造者などに適用した。

こくゆうざいさん【国有財産】広義には国の所有するいっさいの資産をさす。国有財産法ではもっと狭い範囲に限定され，国の仕事に直接つながりのある行政財産と，それ以外の普通財産とに分けられる。行政財産はさらに，公用財産・公共用財産・皇室用財産・企業用財産に分けられる。公用財産のおもなものは，国立学校等文教施設・防衛関係施設であり，企業用財産とは，国有林野事業・郵政事業などの財産である。また普通財産の大半は，公社・公団・公庫など政府系金融機関への出資金である。〔西野義彦〕

こくゆうりん【国有林】国有地の森林。国有林は約800万ヘクタールで，国の全林野面積の3割にあたり，その森林蓄積は9億m^3で全森林蓄積の5割を占め，また年伐採量



コクヨウ石　島根県隠岐郡西郷町産

が全森林の年伐採量の3割となっている。国有林の蓄積率の高さは民有林に比較して奥地天然林(老齢林)が多いためである。わが国の森林資源と，木材生産の維持および国土保全の上で果たすべき役割は重要である。国有林には国立大学の演習林など農林省林野庁以外の官庁で所管されるものも含まれているが，わずか20万ヘクタールほどで，ほとんどが農林省林野庁の所管となっている。国有林野法・国有林野事業特別会計法の適用を受けるのは農林省林野庁の所管の国有林に限定される。以下，農林省林野庁所管の国有林について述べる。

1947年(昭和22)のいわゆる林政統一によって，従来内務省で所管する北海道所在の国有林と，皇室用財産として宮内省で管理する御料林が，それまで都府県所在の国有林だけを所管してきた農林省に統合されて現在に至っている。国有林野の事業は1947年以降特別会計のもとで公企業の一種として行なわれ，郵政事業・造幣局などとともに五現業の一つとなっている。国有林の管理経営は，農林省林野庁の下で14営林局およびその下部機関である300余の営林署によって行なわれている。国有林所在の地元経済の振興対策として，貸し付け・使用・共用林野・部分林などの制度がある。〔野々村豊〕

こくようせき【黒曜石】黒色または墨色透明なガラスを主体とする岩石。酸性岩に属し，1%以下の水分を含んでいる。多孔質の流紋岩溶岩または軽石に漸移することが多い。日本の先史時代には，矢じりの材料として広く用いられた。その主産地は長野県の和田峠であった。

こくら【小倉】福岡県北九州市の南部，関門海峡に臨む区。東は門司(もじ)区，西は戸畑区・八幡(やはた)区に接し，市の中心的位置を占める。面積小倉北区39.29km²，小倉南区168.63km²。人口小倉北区21万4,000，小倉南区17万7,000。1900年(明治33)市制施行，1963年(昭和38)北九州5市の合併により小倉区となり，1974年(昭和49)南北二区に分区設置。区域は，北は響灘(ひびきなだ)上の藍(あい)島・馬島，南は直方(のうがた)市・田川郡との境の福智(ふくち)山山頂と行橋市との境の平尾台，東は周防灘(すおうなだ)沿岸まで広がり，市制施行当時の面積2.31km²の約100倍に膨張した。1608年(慶長13)，細川忠興(ただおき)が勝山城(小倉城)を築き，1632年(寛永9)以来小笠原(おがさわら)氏十五万石の城下町として発達した。幕末には長州の奇兵隊・報国隊と戦って城を焼き，一時衰微したが，1871年に西海道鎮台が置かれて以来，軍都として復興，1898年には陸軍12師団，1933年には造兵廠(しょう)が置かれた。一方，明治中期以降筑豊(ちくほう)炭田・八幡(やわた)製鉄所などを背景とする近代的な商工業都市として繁栄した。第2次世界大戦後は多くの軍事施設が閉鎖打撃を受けたが，朝鮮戦争以来の復興はめざましく，いまは商工業都市として戦前をしのぐ発展を遂げている。工業面では，響灘沿岸の埋め立て地や紫川流域に鉄鋼・金属・化学の大工場が立地し，パルプ・木材・木製品・電機・窯業など工場も多い。商業の中心地区は国鉄小倉駅に近い魚町・京町で，デパート・専門店が多く集まり，県下の商圏を福岡市と2分している。東の大坂町は金融街で，その周辺に住宅街が発達，最近その範囲を郊外へと広げている。また，山陽新幹線の小倉駅が，1975年(昭和50)開通して北九州市の新都心としての発展が期待されている。学術・文化の諸施設も多く，九州歯科大学・北九州大学や，朝日新聞・毎日新聞の西部本社，NHK・RKB・KBCの各放送局がある。陸上交通では，鹿児島本線・日豊本線・日田彦山(ひたひこさん)線や国道3号線・10号線など，九州における東西縦走の主要路線が集まる。10,000トン級の大形船舶が接岸する小倉港からは四国・阪神(はんしん)への定期旅客航路が通じ，南東部の曽根(そね)飛行場(北九州空港)からは東京・大阪や宇部(うべ)・広島・松山・大分・福岡へ定期航空便が通ずる。勝山城は1958年に天守閣が復元され，近くにかつて師団の軍医部長として在任した森鴎外(おうがい)の記念碑がある。年中行事としては八坂神社の大祭〈太鼓祇園(たいこぎおん)〉(7

月10～12日)が名高い。南部のカルスト地形の平尾台は天然記念物に指定され，筑豊県立自然公園に含まれる。〔浅井得一〕

こくらおり【小倉織】 地厚な木綿(もめん)織物の一。小笠原(おがさわら)藩の城下町豊前(ぶぜん)小倉(北九州市小倉区)で創始され，平組織のものと4枚綾(あや)組織になるものとがある。古くは，主として帯地・袴(はかま)地として織られ，江戸時代には武士の実用袴として，明治・大正期には書生の袴として需要が多かった。また，明治20年代(1887～1896)からは洋服地にも用いられ，紺と白の霜降(しもふり)小倉や黒小倉は第2次世界大戦前には学生服の生地として代表的なものであった。岡山・広島・埼玉・愛知・静岡・大阪・和歌山の各府県で生産され，オーストラリアやインド・中国方面にも輸出されていた。〔北村哲郎〕

ごくらく【極楽】 阿弥陀仏*(あみだぶつ)の住む浄土。極楽国土・安養(あんにょう)世界・西方浄土などともいう。《阿弥陀経*》によると，西方十万億仏土を越えて極楽があり，阿弥陀仏がいまも説法している。そこには苦はなく楽のみあるので，極楽という。その国土は七宝などで飾られ，すべての功徳が備わっている。人は，阿弥陀仏の名号を聞き，念仏を唱えれば極楽に生まれ，悟り*を開いて寿命も無量である。それは《無量寿経*》に説くように，仏がそのようになるように願を立て，仏国をつくられたからである。諸仏にはそれぞれ仏国土があるが，極楽とよばれ，多大の信仰を集めているものはない。極楽に生まれるひとは，仏知を疑わず往生を願う者で，化生といって，極楽のハスの中に直ちに生まれるという。しかし，疑いをもつ者は胎生といって，極楽の宮殿に蓮華(れんげ)に包まれたまま，500年を経てはじめて仏に会うという区別があり，疑なき信のたいせつなことを教えている。〔真野龍海〕



極楽寺　大五輪石塔



ゴクラクチョウカ
ストレリチア
-レジネ

ごくらくじ【極楽寺】 鎌倉市極楽寺町にある真言律宗の寺院。縁起によれば，1259年(正元1)北条重時(ほうじょうしげとき)を開基，忍性*(にんしょう)を開山として創建されたといわれる。忍性は西大寺の叡尊*(えいそん)の教えを受け，律宗の復興に努めて実践的な宗教活動を行なった。本尊はいわゆる清涼寺式釈迦(しゃか)如来像で，墨書により1297年(永仁5)の作であることがわかる。また，十大弟子(でし)像はその中の阿難(あなん)尊者と伝える像の銘により，1268年(文永5)の作と知られる。寺の裏山の大五輪石塔は忍性の墓で忍性塔とよばれ，石造美術としてすぐれている。〔永井信一〕

ごくらくちょう【極楽鳥】 ⇨フウチョウ

ごくらくちょうか【極楽鳥花】 単子葉植物・バショウ科の多年草。ストレリチア属に属し，ストレリチアともいわれる。南アフリカ喜望峰原産。高さ1～2mになり，茎は土中にあって短く外に出ない。葉は革質で40cmくらいの長楕円(ちょうだえん)形で，葉柄は葉身の2～3倍の長さで根ぎわから群生する。花は約15cmの仏炎包に包まれ，その中から1花ずつが咲き出る。がくが黄橙(おうとう)色で舌状花弁は青紫色。耐寒性が弱く，温室内で越冬させる。実生後5年くらいで花をつける。切り花にし，またはち植えで観賞する。花をつけたようすが美しく，英語でbird of paradise flowerといわれる。〔横井朝子〕

こくらはん【小倉藩】 豊前(ぶぜん)小倉(福岡県北九州市小倉区)を城下町とした藩。関ケ原の役後細川忠興(ただおき)が三十九万九千石の領主として封ぜられたが，1632年(寛永9)肥後(熊本県)に転封後，譜代大名の小笠原忠真(おがさわらただざね)が播磨(はりま)(兵庫県)明石(あかし)から入封。近世を通じて10代，240年間にわたり世襲した。藩領は豊前六郡で，十五万石。支藩に小倉新田(にった)藩一万石があった。幕末には佐幕の立場を取り，1866年(慶応2)の第2次長州征伐*に際しては幕軍の本営が置かれたが，長州藩兵の攻撃を受け，小倉城を放棄して領内の香原に藩庁を移した。香原藩・豊津藩を経て，1871年(明治4)廃藩置県となった。〔高崎徳次〕

{
  "before_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTQuemlw",
    "filename_decoded": "40439094.zip",
    "filesize": 229963449,
    "md5": "9780151bdea84e355dfb77c5ddaed855",
    "header_md5": "c929dda6bb74217400aaaf6545d7fc9a",
    "sha1": "915c8668a4201f7a5e76b256b76cf93070484bd4",
    "sha256": "2b63a726c8b0498edb94e9d669906f8e94b6aab3a454a8ab02990addc9351f4a",
    "crc32": 2478785385,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 239168139,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 2867136000
  },
  "after_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkwOTQuemlw",
    "filename_decoded": "40439094.zip",
    "filesize": 229749946,
    "md5": "8622352fb71c3fb67c02457a672f19b1",
    "header_md5": "9cd11d100accf0c2d877aabdb7853aa0",
    "sha1": "59ae9e505f749620dc37f3738ea73c899f0da8cc",
    "sha256": "88a533d110299e3b50eb2441ac78ff2c01dab156134af8eb54ab1534ca947d44",
    "crc32": 769498187,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 239157575,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 543,
    "pdg_main_pages_max": 543,
    "total_pages": 547,
    "total_pixels": 3597072000
  },
  "pdf_generation_missing_pages": false
}